

授業コード	11C11		
授業科目名	演習I (L1)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品の研究 諸君が自分自身で自分自身のための研究テーマを見つけ出す手助けをしたいと思っている。そうしたゼミを目指す。作品を〈読む〉ための基礎体力作りを続けると同時に、〈読む〉楽しみも見出そう。
到達目標	日本文学・日本文化について、自らの視点で論じる力を習得すること。
講義方法	参加者各自の発表、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。 適宜、講義もおこない、また、重要な先行研究についての輪読もおこなう。
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。
成績評価	各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。
講義構成	○『万葉集』について ○『万葉集』の歌群を読む実例(廣川が発表する) ○参加者各自の担当箇所での発表、および、参加者間の討議。 ※論文を読解するトレーニングも随時おこなうので安心されたい。 ※資料の集め方、論文の書き方についても指導する。 ※関係故地への実地踏査もおこなう予定。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『萬葉集』(おうふう)
参考書・資料	適宜、紹介する。
担当者から一言	2年生の諸君、作品を〈読む〉ことの「楽しさ」を共に見出そう。また、〈読む〉ための「深さ」というものも共に味わおう。

授業コード	11C12		
授業科目名	演習I (L2)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他随時研究室に掲示		

講義の内容	古典文学を研究するために必要な基礎知識や手続き、見るべき参考文献の検索や入手方法などについて、『枕草子』を教材として学ぶ。
到達目標	古典文学の基礎的な研究方法を身につけること。
講義方法	担当者による教材の概説、演習の方法の解説の後、受講者各自が一段ずつ担当して調べてきたことを報告し、全員で討議する。
準備学習	発表準備は最低二週間前に始めること。
成績評価	出席を重視する(欠席4回以上の場合はその時点で「不可」の評価をつける)。平常の勉学態度と、期末のレポートによって評価する。また、報告担当に当たっていた当日、よんどころない事情以外で欠席した場合も「不可」とする。事情などがある場合は、予め相談すること。
講義構成	1、演習の方法――実際に担当者が行ってみるので、それを参考にしつつ、一年次で習得した「基礎演習」を思い出して各自演習を行う。 2、担当者が一人一時限を用いて発表を行う。それについて、受講者が質問やコメントをする。 3、まとめ

教科書	岩波文庫『枕草子』。 必ず授業までに購入しておくこと
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。
担当者から一言	授業中は積極的に発言し、わからないことは遠慮なく質問すること。この授業では、一年次では知らなかった書籍を大量に調べることになるので、共同研究室のガイダンスも行う。 必ず第一回目から出席しないと演習は出来ないので注意すること。一回目に来なかった受講者に特別に補習をすることはしない。
その他	各自が発表する際のレジメは、予め受講者と教員の分をコピーしておくこと。コピー代は自分持ちとする。コピーカードの残り枚数をよく確認し、適宜補充しておくこと。
ホームページタイトル	HPはなし。

授業コード	11C13		
授業科目名	演習I (L3)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日昼休み、その他随時		

講義の内容	自分で研究テーマを見つけ、調査研究を行い、口頭発表し、論文にまとめます。これらの作業を自立して行えるように、近現代の女性作家が書いた短編小説を教材にして、基礎から指導します。そして各自、作品をとりあげて発表し、討議します。 随時読書会を行い、各自が作品を読んだ意見を発表し、討議して、作品を読む力を高めます。
到達目標	課題の発見、分析、論証、発表、質疑応答が、自立しておこなえること。自分の意見と人の意見との比較検討ができること。
講義方法	一人ずつ調査、分析、論証をして、口頭発表をおこない、質疑応答します。作品を読んできて、全員で討議します。
準備学習	作品を事前に読んで授業にのぞむこと。
成績評価	出席、発表、討議、レポート等によって評価します。特に出席、発表を重視します。
講義構成	1 女性文学を学ぶとは 2 演習の方法 3 口頭発表 4 レポート・論文の書き方 5 読書会
教科書	今井泰子、藪禎子他編『短編 女性文学 近代』(おうふう、2520円)
参考書・資料	適宜プリントを配布します。
講義関連事項	特になし

担当者から一言	授業の性格上、出席を重視しますので、遅刻欠席をしないよう注意すること。
その他	特になし
ホームページタイトル	なし

授業コード	11C14		
授業科目名	演習I (L4)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		

配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜12時30分～13時		

講義の内容	小品文学(＊2000～4000字の随想・掌編小説・散文詩など)を素材にして作品研究の基本を学ぶ。 ①最初に、作品を一つか二つ選び、問題点の発見、作業課題の設定、資料の調査方法などについて具体的に実例を示す。 ②各自が一つ作品を選び、問題点、作業課題、研究課題を考え、作業課題シートに記入し提出する。 ③作業課題シートに基づいて調査研究した成果をもとに、口頭発表を行う。発表の際は、必ず資料を準備する。
到達目標	問題点の発見や、資料調査の方法を実地に身につけることを目標としたい。 見て読みやすく、効率よく論点が整理されている資料を作成できる力も養いたい。
講義方法	発表を中心に、参加者全員で討議しながら進める。
準備学習	研究発表テーマについては、ふだんから十分準備をして、よく練った発表をおこなえるように努力してほしい。
成績評価	口頭発表、期末レポート、出席等によって評価する。
講義構成	○小品文学の概略について講義する。 ○研究発表のシミュレーションとして、いくつか作品を選び見本を示す。 ○研究発表資料の作成法、資料収集や調査の方法について指導する。 ○研究課題を決め、作業課題シートを作成する。 ○作業課題シートに基づいて、研究をすすめ、資料を作成した上で口頭発表を行う。口頭発表の際には全員で質疑をかさねて内容を検討する。 ○発表をもとに期末レポートを作成する。
教科書	『明治大正小品選』(おうふう 2100円)
参考書・資料	適宜、指示する。
講義関連事項	特になし。

担当者から一言	発表資料や配付資料を保存するファイルを準備すること。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	11C15		
授業科目名	演習I (L5)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	文学作品における「対象との同一化」がテーマです。「対象」とは簡単に言うと、支えになってくれる存在です。精神分析でいう前エディプス期の内的対象関係のモデルを参考に、近代から現代の日本文学を中心にした多ジャンルの芸術作品から材料を探し、登場人物の同一化や同一性(アイデンティティ)の揺らぎを検討します。
到達目標	文学作品における「対象との同一化」について発表や討議を行い、人間と言葉との関わりについて理解を深める。
講義方法	課題として選んだ作品を分担して精読する作業と、各自の関心に沿って選んだ作品の研究発表を平行して行います。はじめは例として映画を取り上げたりします。 課題作品: 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』、村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』 後期のはじめには、早期幼児期の内的対象関係について概観します。
準備学習	課題作品を読んでくる。発表を準備する。
成績評価	普段のゼミ発表やコメントなどで評価します。
講義構成	1.『チャーリーとチョコレート工場』(映画) ウォンカや子供達の性格に注意して観る。 2.課題作品の精読と各自の発表

	後期 1. ウィニコット、対象関係論、自己心理学などの理論を学ぶ。 2. 課題作品の精読と各自の発表
教科書	村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』上下(新潮文庫) 教科書売場や生協で。
担当者から一言	自分が関心をもっていることをゼミの中に遠慮なく出してください。

授業コード	11C17		
授業科目名	演習I (J2)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	方言の社会言語学的研究 地域差・年齢差・性差に注目し、方言の動態について臨地面接調査を実施、その結果を分析する。学年末には資料集を作成する。 1年間の演習を通して、卒業研究につながるような研究テーマ(方言に限らず、広く現代日本語から)を各自で考える。
到達目標	方言研究の方法を学び、実地に調査を行ない、それらの結果をまとめるための方法を身につける。
講義方法	前期: 方言研究について講義形式で概説する 夏期休暇: 3・4年生と合同で、方言調査(単位取得のためには参加必須)を行なう 後期: 方言調査の結果について発表
準備学習	各自に割り当てられた発表担当項目の準備、および、毎時終了時に提示される課題。
成績評価	総合的に評価する。 夏期休暇の方言調査への参加は必須。
講義構成	前期: 方言概説 言語地図・グロットグラムの作成と読みとり 方言調査法 夏期休暇: 3・4年生と合同で、方言調査を行なう 2010年度は岡山～広島方面で調査を行なう予定。(調査対象地域については変更の可能性もある) この調査への参加は、単位取得のためには必須である。 後期: 調査項目を分担担当し、調査結果を報告し、検討する。 調査結果はグロットグラムの形にまとめる。 学年末にはグロットグラム集を作成する。
教科書	使用しない。
参考書・資料	随時配付・紹介する。
講義関連事項	2年次配当の日本語学科目・言語学概論を同時に履修すること。

授業コード	11C18		
授業科目名	演習I (J3)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		

オフィスアワー	木曜日14:40～16:10
講義の内容	日常使われる文をもとに、日本語のさまざまな文法的事象について考察する。分析の基礎となる用例収集をどう行うか、参考図書にどのようにあたるか等、研究の基礎となることがらを学ぶ。外国人への日本語教育における文法についても考える。
到達目標	日本語文法の諸領域に関してどのような問題があるか、その概略を知る。
講義方法	教科書の問題について、順に担当を決めて演習参加者に発表を行ってもらい、全体で討議を進める。必要に応じ、そのテーマを外国人向け日本語教科書でどう扱っているか調べる。
準備学習	日本語文法の基礎を知っておく。発表担当者は、取り上げるテーマに関して問題点を整理し配付資料を作成する。担当者以外も、疑問点をまとめておくこと。
成績評価	日常の演習への参加状況、及び、学年末のレポート。
講義構成	次のようなテーマのほか、必要に応じて他のテーマを補いながら進める。 (1)品詞 (2)格助詞 (3)受身・使役 (4)動詞の自他 (5)コ・ソ・ア (6)ハとガ (7)授受動詞 (8)アスペクト (9)待遇表現 (10)接頭辞 (11)呼称 (12)慣用句 (13)複合動詞
教科書	加藤重広・吉田朋彦著『日本語を知るための51題』(研究社)
参考書・資料	授業中に指示する。
講義関連事項	「日本語文法論ⅠⅡ」ほか、日本語学に関連する科目。
担当者から一言	積極的に授業に参加して、自分自身で興味ある研究テーマを見つけ出すことを期待します。
その他	日常触れる日本語表現に敏感になってください。
ホームページタイトル	

授業コード	11C21		
授業科目名	演習Ⅱ (L1)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品の研究 作品を分析し、そのプレゼンテーションをおこなうテクニックを身に付けることを目標としている。諸君が自分自身で自分自身のための研究テーマを見つけ出す手助けをしたいと思っている。
到達目標	日本文学・日本文化について自らの視点で分析し得る力の、いっそうの習得を目指す。
講義方法	参加者各自の発表、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。 適宜、講義もおこなう。また、重要な先行研究についての輪読もおこなう。さらに、関係故地への実地踏査も予定している。
準備学習	昨年度の演習Ⅰで得た知見を、各自でさらに広め深めておくこと。
成績評価	各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。
講義構成	○『万葉集』の作品を読む実例(廣川が発表する)。 ○参加者各自の担当箇所での発表、および、参加者間の討議。 ※論文を読解するトレーニングも随時おこなうので安心されたい。 ※資料の集め方、論文の書き方についても指導する。 ※関係故地への実地踏査もおこなう予定。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『萬葉集』(おうふう)
参考書・資料	適宜、紹介する。
担当者から一言	3年生の諸君、自分自身の研究テーマを見出す場として本ゼミを活用してほしい。 作品を〈読む〉ことの「楽しさ」を共に見出そう。また、〈読む〉ための「深さ」というものも共に味わおう。

授業コード	11C22		
授業科目名	演習Ⅱ (L2)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	演習Ⅰでの成果をふまえて、古典文学のさらに発展した研究方法を学ぶ。教材は室町時代の御伽草子「小町さうし」である。これは女性の嫉妬をめぐる物語である。
到達目標	古典文学研究の応用を身につけること。
講義方法	御伽草子についての概説、演習の見本を担当者が行った後、受講者各自の発表とそれに対する討議を行う。
準備学習	発表準備は最低二週間前に始めること。
成績評価	出席点(出席を重視する。4回以上欠席した者は単位を認定しない)。平常の勉学態度、並びに期末のレポートによって評価する。
講義構成	1, 御伽草子概説、「小町さうし」と中世の女性について 2, 演習の見本(担当者が発表の見本を行う) 3, 受講者による演習発表と討議 4, まとめ
教科書	授業中にコピーを配布する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	「小町さうし」は現代人の注釈がない作品であるので、翻刻、校合、といった基礎作業に始まり、各自が注をつけて読み解いてゆくことを行う。非常に手がかかるので、甘くみないこと。演習の準備はおおむね二週間前から始めること。数日では絶対できないと断言しておく。 なお、各自の発表については積極的に質問や発言をすること。これも「受講態度」として評価の対象とする。
担当者から一言	一度注意されたことは二度目から覚えること。共同研究室や図書館を活用すること。

授業コード	11C23		
授業科目名	演習Ⅱ (L3)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	2年生で習得した作品分析の基礎をふまえ、卒業研究を視野に入れながら演習をすすめます。前期は国木田独歩の作品を扱い、注釈研究を試みつつ、作品分析へとつなげていきます。後期は、各自が選んだ作品について、調査、研究します。また、研究発表と並行して、随時読書会も行い、各自が意見感想を出し合いながら、読解力を高めていきます。
到達目標	文献を調査し、作品を分析し、論証し、発表することができる。適切な質疑応答ができる。作品を細部まで読み込み、自分の意見と人の意見を比較検討することができる。
講義方法	各自が調査・研究を行い、口頭発表して質疑応答をおこないます。また、同じ作品を読んできて、感想・意見を出し合い、討議をおこないます。
準備学習	口頭発表に向けて、十分な準備をおこなうこと。取り上げられる作品を事前に読んで授業にのぞむこと
成績評価	出席・発表・討議・レポート等によって評価します。特に出席、発表を重視します。

講義構成	・注釈研究 ・作品分析 ・論文読解 ・読書会
教科書	『明治の文学 第22巻 国木田独歩』筑摩書房 ¥2400+税
参考書・資料	授業中に随時紹介します。
講義関連事項	なし

担当者から一言	出席を重視しますので遅刻欠席のないように注意すること。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	11C24		
授業科目名	演習II (L4)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜12時30分～13時		

講義の内容	イメージと文学のかかわりについて考察する。 イメージ(絵画などの視覚表現)と文学がかかわりあって、表現されている事例を取り上げて研究する。 挿絵や装幀はもちろんのこと、文学作品の画像化(映画、マンガ、アニメーションなど)、美術と文学の相互交流なども視野に含めて、文化のひろがりの中で、文学のもつ意味を再考してみたい。 研究の枠組には、次のようなものがある。 ●小説の中の絵画 ●画家の登場する小説 ●挿絵や装釘と文学のかかわり ●詩歌や小説など文学表現のイメージ ●文学作品の画像化(コミック化・映画化)
到達目標	イメージと文学のかかわりという視点に立って、ひろがりのある場から、文学をとらえなす。文学やイメージと、現実社会とのかかわりという面にも注目して、研究をおこなう。
講義方法	いくつかの事例研究を提示した後、受講学生自身が各自でテーマを選び、作業課題シートを作成した上で、資料をもとに口頭発表を行う。
準備学習	充実した研究発表が行えるように、ふだんから研究、調査を積み重ねるようにつとめること。
成績評価	口頭発表、期末レポート、出席等によって評価する。
講義構成	○文学とイメージの交流、挿画と装幀、文学の画像化などの研究事例のサンプルを提示する。 ○各自の研究課題を決める。 ○作業課題を確定する。 ○研究発表を行い、討議する。
教科書	プリント教材使用。発表対象の作品については別途指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。

担当者から一言	自分自身でテーマを見つけ、資料を読み込み、情報を整理して、問題設定し、それを解決するプロセスを大切にしよう。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	11C25
-------	-------

授業科目名	演習Ⅱ (L5)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	文学作品における「対象との同一化」がテーマ。「対象」とは簡単に言うと、支えになってくれる存在です。精神分析という前エディプス期の内的対象関係のモデルを参考に、近代から現代の日本文学を中心にした多ジャンルの芸術作品から材料を探し、登場人物の同一化や同一性(アイデンティティ)の揺らぎを検討します。そのことで現代の社会に生きている自分自身について考えたいと思います。
到達目標	文学作品における「対象との同一化」について発表や討議を行い、人間と言葉との関わりについて理解を深める。
講義方法	課題として選んだ作品を分担して精読する作業と、各自の関心に沿って選んだ作品の研究発表を平行して行います。はじめは例として映画を取り上げたりします。 課題作品: 宮部みゆき『ブレイブ・ストーリー』、村上春樹『海辺のカフカ』
準備学習	課題作品を読んでくる。発表を準備する。
成績評価	普段のゼミ発表やコメントなどで評価します。
講義構成	前期 1.導入 2.研究発表と課題作品の精読 後期 1.研究発表と課題作品の精読
教科書	宮部みゆき『ブレイブ・ストーリー』上中下(角川文庫)、村上春樹『海辺のカフカ』上下(新潮文庫) 教科書売場や生協で。
担当者から一言	3年になると、そろそろ就職関係のガイダンスなども増えてきますが、それと平行して文学やその他のジャンルの作品について、考察を深めていきたいと思います。しっかりやりましょう。

授業コード	11C26		
授業科目名	演習Ⅱ (J1)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日4時間目・水曜2時間目、その他適宜。なるべく前もって連絡すること		

講義の内容	文学作品、および各種言語資料を日本語学的に研究する方法を説明する。 受講生は、実際に各自で、小説、詩、歌謡曲の歌詞、マンガのセリフ、広告のことば、新聞記事、ブログなどのどれかの分野の任意の日本語資料を選び、具体的に調べる。
到達目標	レポートの作成。研究課題の設定。
講義方法	作品分析の実習、および各自の口頭発表 前期はグループ学習も可とする。 後期はなるべく個人で発表する。
準備学習	日本語資料について 広く読んでおくこと
成績評価	発表とレポートによる。

講義構成	テキストにより、文章・文体についての国語学的な調べ方を学ぶ。 日本の近代現代、古典の文学作品や、各種の非文学的言語資料について、国語学的な側面から調べて考察する。 必要に応じ、文学的研究、歴史学的研究も参考にし、文化、民俗、環境などとの関係も考えながら調べを進めたい
教科書	授業開始時に伝える予定
参考書・資料	甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室 大阪府立図書館、兵庫県立図書館などにはやく慣れておくこと。
講義関連事項	なるべく3年次終了までに卒業論文の研究対象を見つけるよう望まれる。
担当者から一言	多読、濫読、精読、読、読、…… 解答を見つけるための学習だけでなく、 課題を見つけるための学習も行いたい。
その他	欠席する場合は、あらかじめメールなどの方法で連絡すること。

授業コード	11C27		
授業科目名	演習Ⅱ (J2)		
担当者名	都染直也 (ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜1限)、後期(水曜1限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	方言の社会言語学的研究 地域差・年齢差・性差に注目し、方言の動態について臨地面接調査を実施し、その結果を分析する。学年末には資料集を作成する。
到達目標	4年次での卒業論文作成に向けての具体的な研究課題を定め、その課題の研究方法を身につける。
講義方法	前期: 方言研究の諸問題を講義する 夏期休暇: 2・4年生と合同で方言調査を行なう 後期: 方言調査の結果について発表
準備学習	各自に与えられた発表課題の作成、他の発表者の発表課題に対する準備など、毎時終了時に指示する。
成績評価	総合的に評価する。夏期休暇の方言調査への参加は必須。
講義構成	前期: 主要な方言研究者、方言研究書について、分担を決め、報告を行なう。 夏期休暇: 2・4年生と合同で方言調査を行なう。 2010年度は岡山～広島方面で調査を行なう予定。(調査地域は変更の可能性もある) 後期: 調査項目を分担担当し、調査結果を報告し、検討する。 調査結果はグロットグラムの形にまとめる。 学年末にはグロットグラム集を作成する。
教科書	使用しない。
参考書・資料	随時紹介・配付する。
講義関連事項	1・2年次配当の日本語学科科目で未履修の科目を併せて履修すること。

授業コード	11C28
-------	-------

授業科目名	演習Ⅱ (J3)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	日本語に関する論文を精読する。担当者を決めて、論文の内容について発表を行ってもらう。論文のテーマは、日本語の文法に関するものだけでなく、ことばの意味に関わるものや、さらに、社会言語学的なものも扱う予定である。		
到達目標	研究論文の形式について知る。自身の卒業論文のテーマを見つけ出す。		
講義方法	その日の発表者を中心に、全体で討議をしながら進める。		
準備学習	扱う論文を前もって読み、議論の中心点や疑問点について整理しておく。		
成績評価	平常の授業への参加状況と、学年末のレポート。		
講義構成	次のようなテーマに関する論文を順に精読する。 (1)受身・使役について (2)授受表現について (3)コ・ソ・アについて (4)複合辞について (5)自動詞・他動詞について (6)副詞について (7)擬音語・擬態語について (8)待遇表現について (9)人物呼称について (10)フォリナー・トークについて		
教科書	印刷物を配布する。		
参考書・資料	授業中に指示する。		
講義関連事項	日本語学・日本語教育に関わる他の科目。		
担当者から一言	さまざまな論文に触れるなかで、自分自身の卒業論文のテーマを見つけ出してください。		
その他	積極的な参加を望みます。		

授業コード	11M11		
授業科目名	演習Ⅲ (L1)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習Ⅱ担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品の研究 作品を分析し、そのプレゼンテーションをおこなうテクニックを身に付けることを目標としている。諸君が自分自身で自分自身のための研究テーマを見つけ出す手助けをしたいと思っている。		
到達目標	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品の研究において、自らの視点から論じることができること。		
講義方法	参加者各自の発表、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。適宜、講義もおこなう。また、重要な先行研究についての輪読もおこなう。さらに、関係故地への実地踏査も予定している。		
準備学習	参加者各自が選んだ、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品について、読解を深めておくこと。		
成績評価	各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。		
講義構成	○『万葉集』の作品を読む実例(廣川が発表する)。 ○参加者各自の担当箇所の発表、および、参加者間の討議。 ※論文を読解するトレーニングも随時おこなうので安心されたい。 ※資料の集め方、論文の書き方についても指導する。 ※関係故地への実地踏査もおこなう予定。		
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『万葉集』(おうふう)		

参考書・資料	適宜、紹介する。
担当者から一言	4年生の諸君、自分自身の研究テーマを見出す場として本ゼミを活用してほしい。 作品を〈読む〉ことの「楽しさ」を共に見出そう。また、〈読む〉ための「深さ」というものも共に味わおう。 3年生の良き手本となるよう頑張ってください。

授業コード	11M12		
授業科目名	演習Ⅲ (L2)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜3限)、後期(木曜3限)
特記事項	演習Ⅱ担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	演習Ⅰでの成果をふまえて、古典文学のさらに発展した研究方法を学ぶ。教材は室町時代の御伽草子「小町さうし」である。これは女性の嫉妬をめぐる物語である。
到達目標	古典文学研究の応用を身につけること。
講義方法	御伽草子についての概説、演習の見本を担当者が行った後、受講者各自の発表とそれに対する討議を行う。
準備学習	発表準備は最低二週間前に始めること。
成績評価	出席点(出席を重視する。4回以上欠席した者は単位を認定しない)。平常の勉学態度、並びに期末のレポートによって評価する。
講義構成	1, 御伽草子概説、「小町さうし」と中世の女性について 2, 演習の見本(担当者が発表の見本を行う) 3, 受講者による演習発表と討議 4, まとめ
教科書	授業中にコピーを配布する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	「小町さうし」は現代人の注釈がない作品であるので、翻刻、校合、といった基礎作業に始まり、各自が注をつけて読み解いてゆくことを行う。非常に手がかかるので、甘くみないこと。演習の準備はおおむね二週間前から始めること。数日では絶対できないと断言しておく。 なお、各自の発表については積極的に質問や発言をすること。これも「受講態度」として評価の対象とする。
担当者から一言	一度注意されたことは二度目から覚えること。共同研究室や図書館を活用すること。

授業コード	11M13		
授業科目名	演習Ⅲ (L3)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	演習Ⅱ担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	2、3年生で習得した作品分析の基礎をふまえ、卒業研究を視野に入れながら演習をすすめます。 前期は国木田独歩の作品を扱い、注釈研究を試みつつ、作品分析へとつなげていきます。 後期は、各自が選んだ作品について、調査、研究します。 また、研究発表と並行して、随時読書会も行い、各自が意見感想を出し合いながら、読解力を高めていきます。
到達目標	文献を調査し、作品を分析し、論証し、発表することができる。適切な質疑応答ができる。作品を細部まで読み込み、自分の意見と人の意見を比較検討することができる。

講義方法	各自が調査・研究を行い、口頭発表して質疑応答をおこないます。また、同じ作品を読んできて、感想・意見を出し合い、討議をおこないます。
準備学習	口頭発表に向けて、十分な準備をおこなうこと。取り上げられる作品を事前に読んで授業にのぞむこと
成績評価	出席・発表・討議・レポート等によって評価します。特に出席、発表を重視します。
講義構成	・注釈研究 ・作品分析 ・論文読解 ・読書会
教科書	『明治の文学 第22巻 国木田独歩』筑摩書房 ¥2400+税
参考書・資料	授業中に随時紹介します。
講義関連事項	なし
担当者から一言	出席を重視しますので遅刻欠席のないように注意すること。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	11M14		
授業科目名	演習Ⅲ (L4)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	演習Ⅱ担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	金曜12時30分～13時		

講義の内容	イメージと文学のかかわりについて考察する。 イメージ(絵画などの視覚表現)と文学がかかわりあって、表現されている事例を取り上げて研究する。 挿絵や装幀はもちろんのこと、文学作品の画像化(映画、マンガ、アニメーションなど)、美術と文学の相互交流なども視野に含めて、文化のひろがりの中で、文学のもつ意味を再考してみたい。 研究の枠組には、次のようなものがある。 ●小説の中の絵画 ●画家の登場する小説 ●挿絵や装釘と文学のかかわり ●詩歌や小説など文学表現のイメージ ●文学作品の画像化(コミック化・映画化)
到達目標	イメージと文学のかかわりという視点に立って、ひろがりのある場から、文学をとらえなす。文学やイメージと、現実社会とのかかわりという面にも注目して、研究をおこなう。
講義方法	いくつかの事例研究を提示した後、受講学生自身が各自でテーマを選び、作業課題シートを作成した上で、資料をもとに口頭発表を行う。
準備学習	充実した研究発表が行えるように、ふだんから研究、調査を積み重ねるようにつとめること。
成績評価	口頭発表、期末レポート、出席等によって評価する。
講義構成	○文学とイメージの交流、挿画と装幀、文学の画像化などの研究事例のサンプルを提示する。 ○各自の研究課題を決める。 ○作業課題を確定する。 ○研究発表を行い、討議する。
教科書	プリント教材使用。発表対象の作品については別途指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。

担当者から一言	自分自身でテーマを見つけ、資料を読み込み、情報を整理して、問題設定し、それを解決するプロセスを大切にしよう。
その他	特になし。

ホームページタイトル	なし。
------------	-----

授業コード	11M15		
授業科目名	演習Ⅲ (L5)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)
特記事項	演習Ⅱ担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	文学作品における「対象との同一化」がテーマ。「対象」とは簡単に言うと、支えになってくれる存在です。精神分析でいう前エディプス期の内的対象関係のモデルを参考に、近代から現代の日本文学を中心にした多ジャンルの芸術作品から材料を探し、登場人物の同一化や同一性(アイデンティティ)の揺らぎを検討します。そのことで現代の社会に生きている自分自身について考えたいと思います。
到達目標	文学作品における「対象との同一化」について発表や討議を行い、人間と言葉との関わりについて理解を深める。
講義方法	課題として選んだ作品を分担して精読する作業と、各自の関心に沿って選んだ作品の研究発表を平行して行います。はじめは例として映画を取り上げたりします。 課題作品: 宮部みゆき『ブレイブ・ストーリー』、村上春樹『海辺のカフカ』
準備学習	課題作品を読んでくる。発表を準備する。
成績評価	普段のゼミ発表やコメントなどで評価します。
講義構成	前期 1.導入 2.研究発表と課題作品の精読 後期 1.研究発表と課題作品の精読
教科書	宮部みゆき『ブレイブ・ストーリー』上中下(角川文庫)、村上春樹『海辺のカフカ』上下(新潮文庫) 教科書売場や生協で。
担当者から一言	3年になると、そろそろ就職関係のガイダンスなども増えてきますが、それと平行して文学やその他のジャンルの作品について、考察を深めていきたいと思います。しっかりやりましょう。

授業コード	11M16		
授業科目名	演習Ⅲ (J1)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	演習Ⅱ担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	前もって予約すること		

講義の内容	各種言語資料の日本語学的研究。 文学作品、および各種言語資料を日本語学的に研究する方法を説明する。 受講生は、実際に各自で、小説、詩、歌謡曲の歌詞、マンガのセリフ、広告のことば、新聞記事、ブログなどのどれかの分野の任意の日本語資料を選び、具体的に調べる
到達目標	自身で設定した課題をもとに レポートもしくは研究論文を書く。
講義方法	各自の口頭発表を主とする 発表は自分の設定したテーマによって行う
準備学習	日本語資料の分析と考察

成績評価	発表による
講義構成	研究発表と研究についての相談 3年生の発表も併行して行われるので、適宜、助言・質問などをするよう望まれる。
教科書	各自で研究材料を設定し、それに関する諸資料を集める。
参考書・資料	授業の中で適宜、紹介する。

授業コード	11M17		
授業科目名	演習Ⅲ (J2)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜1限)、後期(水曜1限)
特記事項	演習Ⅱ担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	方言の社会言語学的研究 地域差・年齢差・性差に注目し、方言の動態について臨地面接調査を実施し、その結果を分析する。学年末には資料集を作成する。
到達目標	これまでに習得してきた知識・技能を卒業論文に活かせるようレベルアップを図る。
講義方法	前期: 方言研究の諸問題を講義する 夏期休暇: 2・3年生と合同で方言調査を行なう 後期: 方言調査の結果について発表
準備学習	各自に割り当てられた発表課題以外に、毎時終了時に課題を提示する。
成績評価	総合的に評価する。夏期休暇の方言調査への参加は必須。
講義構成	前期: 主要な方言研究者、方言研究書について、分担を決め、報告する。 夏期休暇: 2・3年生と合同で方言調査を行なう。 2010年度は岡山～広島で調査を行なう予定。(調査地域変更もありうる) 後期: 調査項目を分担担当し、調査結果を報告し、検討する。 調査結果はグロットグラムの形にまとめる。 学年末にはグロットグラム集を作成する。
教科書	使用しない。
参考書・資料	随時紹介・配付する。
講義関連事項	1・2年次配当の日本語学科目・言語学概論で未履修の科目を併せて履修すること。

担当者から一言	受講登録に際しては、担当者の指示を受けること。
---------	-------------------------

授業コード	11M18		
授業科目名	演習Ⅲ (J3)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	演習Ⅱ担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	日本語に関する論文を精読する。担当者を決めて、論文の内容について発表を行ってもらう。論文のテーマは、日本語の文法に関するものだけでなく、ことばの意味に関わるものや、さらに、社会言語学的なものも扱う予定
-------	--

	である。
到達目標	受講者自身の卒業論文のテーマを見つけ、論文という形式に慣れる。
講義方法	その日の発表者を中心に、全体で討議をしながら進める。
準備学習	扱う論文を前もって読み、議論の中心点、疑問点等を整理しておく。
成績評価	平常の授業への参加状況と、学年末のレポート。
講義構成	次のようなテーマに関する論文を順に精読する。 (1)受身・使役について (2)授受表現について (3)コ・ソ・アについて (4)複合辞について (5)自動詞・他動詞について (6)副詞について (7)擬音語・擬態語について (8)待遇表現について (9)人物呼称について (10)フォリナー・トークについて
教科書	印刷物を配布する。
参考書・資料	授業中に指示する。
講義関連事項	日本語学・日本語教育に関わる他の科目。
担当者から一言	本科目は4年次生のうち希望者が、3年次生の演習Ⅱと一緒に参加して、選択科目として履修するものです。
その他	履修者は事前に担当教員に相談してください。

授業コード	11094		
授業科目名	関西のことばと文学（後）		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)、渡邊順子(ワタナベ ジュンコ)、安井寿枝(ヤスイ カズエ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	講義の前後、 その他適宜。なるべく前もって連絡すること		

講義の内容	関西のことばが使用されている各種の文学作品等に親しみ、関西方言への関心を深める。 関西の方言について考えることによって、日本の言語、文化等への理解を深める。 関西に関わりのある文学作品に親しむことで、日本文学への関心を深める。 関西と関係の深い俳人たちやその作品、阪神大震災に関する俳句などについて鑑賞する。
到達目標	関西の言語や文化について理解を深める。
講義方法	適宜、プリントを配布し、講義スタイルで行う。プリント資料により、学習を深めてほしい。 メモを取る習慣をつけること。 関西に関連する文学作品などを紹介してゆく。 あわせて、大阪、神戸、京都など関西の諸方言について紹介する。 言語、文学、風土、文化などについて、ともに考えて行きたい。
準備学習	日頃、自分たちの使っている言葉について自省してみる。
成績評価	出席状況とレポートによる。 担当教員ごとにレポートを課す。 レポートは締め切り日時厳守。
講義構成	1 担当、安井寿枝 6回 文学作品のなかの阪神間 山崎豊子とその作品について 谷崎潤一郎『細雪』と山崎豊子『女系家族』の比較 2 担当、渡辺順子 3回 「はんなりしゃんと〜」橋本多佳子・桂信子他(女性俳人たちと作品) 「あたらしものずきの気風」日野草城・西東三鬼・山口誓子(男性俳人たちと作品) 阪神大震災と神戸(俳句の震災関連作品を通して) 3 担当、小谷博泰 4回ないし5回

	灰谷健次郎、野坂昭如、田辺聖子などの文学作品と関西方言 関西方言の音韻、語法、語彙 この他に地域連携科目としての学外からの講師による講演が1回加わる見込みである。
教科書	適宜、プリントを配布する。
参考書・資料	順次、授業において紹介してゆく。 資料は、その気になって意識すれば、ふんだんに存在する。 関西方言の話者にとっては、自分がしゃべることば、思ったり 考えたりすることばじたいが関西のことばである。 CDなどの視聴覚資料を講義にまじえて紹介することがある。
講義関連事項	上方落語、映画、漫画、流行歌等、小説以外にも関西のことばが使われる作品は多いので、 関心の対象を広く持ってほしい。 CM、インターネットの掲示板、ケータイ・メールなどにも、関西のことばは使われる。
担当者から一言	解答を見つけるための学習だけでなく、 課題を見つけるための学習も行いたい。

授業コード	11018		
授業科目名	漢文学Ia（前）		
担当者名	周防朋子（スホウ トモコ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	中国古典文学を読むための基礎を身につける。なお、中国思想史及び文学史についても解説したい。漢詩を中心に講義を進めるが、漢文についても触れる予定である。
到達目標	漢詩の規則を理解し、漢詩と日本文学との関係を理解することができる。
講義方法	テキストに従って講義を進め、適宜資料を配布する。(但し、学生を指名して訓読やコメントを求めることがある)
準備学習	日頃から漢和辞典を使って、言葉の意味を調べるようにすること。
成績評価	定期試験〔70%〕、平常点(授業態度、出席等)〔30%〕。
講義構成	1 漢詩の規則 2 陶淵明の詩 3 李白の詩 4 杜甫の詩 5 白居易『白氏文集』 6 日本の漢詩文 以上のテーマについて、1～数時間をあてて講義する。 なお、受講生の希望や教員の判断により、順序を変更することがある。
教科書	松浦友久 『漢詩 -美の在りか-』 岩波新書
参考書・資料	授業中に適宜指示する。

担当者から一言	厳しく指導するが、ある程度漢文がよめるように指導するのでついてくること。 なお、授業中配布した資料は、再配布しない。 4回以上欠席した者の単位は不可とする。
その他	授業中、はなはだしい私語で周囲に迷惑をかけた場合は退出を命じる。携帯電話は電源を切ってかばんの中に しまうこと。病気等の場合を除いて、授業中の飲食は禁止し、飲料などを机の上に置かないようにしてほしい。化 粧品などの授業に関係ないものを授業中に取り出した場合も退出を命ずる

授業コード	11019
授業科目名	漢文学Ib (後)
担当者名	周防朋子(スホウ トモコ)

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
講義の内容	中国古典文学を読むための基礎を身につける。中国思想史、及び文学史についても解説したい。本講義では、漢文を中心に講義を進めるが、漢詩についても触れる予定である。		
到達目標	諸子百家について理解し、日本文学との関係が理解することができる。		
講義方法	テキストに従って講義を進め、適宜資料を配布する。(但し、学生を指名して訓読やコメントを求めることがある)		
準備学習	日頃から漢和辞典を使って、言葉の意味を調べるようにすること。		
成績評価	定期試験〔70%〕、平常点(授業態度、出席等)〔30%〕。		
講義構成	1 漢文の訓読について 2 儒家の思想 3 道家の思想 4 法家の思想 5 唐詩 6 白居易『白氏文集』 7 日本の漢詩文 以上のテーマについて、1～数時間をあてて講義する。 なお、受講生の希望や教員の判断により、順序を変更することがある。		
教科書	松浦友久『漢詩 -美の在りか-』 岩波新書		
参考書・資料	授業中に適宜指示する。		
担当者から一言	厳しく指導するが、ある程度漢文がよめるように指導するのでついてくること。 なお、授業中に配布した資料は、再配布しない。 4回以上欠席した者の単位は不可とする。		
その他	授業中、はなはだしい私語で周囲に迷惑をかけた場合は退出を命じる。携帯電話は電源を切ってかばんの中に入れておくこと。病気等の場合を除いて、授業中の飲食は禁止し、飲料などを机の上に置かないようにしてほしい。化粧品などの授業に関係ないものを授業中に取り出した場合も退出を命ずる		

授業コード	11020		
授業科目名	漢文学IIa (前)		
担当者名	本間洋一(ホンマ ヨウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
講義の内容	六朝時代に記録された短篇の怪異物語を読み楽しみながら、漢文の訓読・解釈の力を涵養し、作品の背景にある考え方などを明らかにするとともに日本との違いなどについても考えてみたい。		
到達目標	1.漢字に対する知識と理解を高めることができる。 2.漢文の基本的な語法を修得し、読解力を高めることができる。		
講義方法	講読(講義)が中心となるが部分的に指名して訓読や現代語訳をしてもらうこともあるでしょう。		
準備学習	1.テキストの予習や復習につとめてください。 2.授業で採り上げる参考図書に親しんでください。		
成績評価	前期末に行う試験の結果に出席状況を加味して評価します。		
講義構成	方術と異聞に関わる逸話を読む。 1.六朝志怪小説の世界 2.美女とは？・巨大な猿(麗娟他) 3.術師の能力(徐光他) 4.術師と権力者(1)左慈 5.術師と権力者(2)左慈 6.仙人に気に入られた男(1)壺公 7.仙人に気に入られた男(2)壺公 8.仙人に気に入られた男(3)壺公 9.仙人に気に入られた男(4)壺公 10.予言(韓友・由拳姫)		

	11.首を飛ばす・異星人(落頭民他) 12.漢武帝と李夫人(1)―愛の妄執― 13.漢武帝と李夫人(2)―愛の妄執― 14.謎解き(費孝先) 15.定期試験
教科書	本間洋一編『中国古小説選』(和泉書院) ¥1500

授業コード	11021		
授業科目名	漢文学IIb（後）		
担当者名	本間洋一（ホンマ ヨウイチ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	唐の時代に創作された小説を読みながら、漢文の訓読・解釈力を高めるとともに、作品の背景や構造などについても理解を深めよう。
到達目標	1.漢字に対する知識と理解を高めることができる。 2.漢文の基本的な語法を修得し、読解力を高めることができる。
講義方法	講義が中心となりますが、時には指名して訓読や現代語訳をしていただくこともあるでしょう。
準備学習	1.テキストの予習や復習につとめてください。 2.授業で採り上げる参考図書に親しんでください。
成績評価	後期末に試験を実施し、その結果と出席状況などを加味し評価します。
講義構成	恋愛譚を読み。 1.唐代伝奇小説の世界 2.恋の発端(「雀護」1) 3.恋の悩み(「雀護」2) 4.幼なじみの恋(「無双伝」1) 5.恋するゆえの孤独(「無双伝」2) 6.運命の争乱(「無双伝」3) 7.都からの脱出(「無双伝」4) 8.乱後のめぐり合い(「無双伝」5) 9.無双の思慕(「無双伝」6) 10.チャンス(「無双伝」7) 11.無双からの手紙(「無双伝」8) 12.無多奪還作戦(「無双伝」9) 13.古生の智謀(「無双伝」10) 14.辛苦の果てに(「無双伝」11) 15.定期試験
教科書	本間洋一編『中国古小説選』(和泉書院) ¥1500

授業コード	11A11		
授業科目名	基礎演習I (N1)(前)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日4時間目・水曜2時間目、その他適宜。		

講義の内容	この授業では、大学のさまざまな授業、特に2年次から始まる演習(ゼミ)で必要とされる、基礎的で一般的な「学習方法」について学びます。大学の授業、特にゼミは、今まで皆さんが受けてきた授業とは、大きく異なります。ゼミでの発表は、単に本に書いてあることを報告するだけで終わるというものではありません。図書館などで
-------	--

	テーマに沿った情報を探ることが大切なのはもちろんですが、大学ではさらにその先に、調べた内容を整理して自分なりの考えをまとめ、それをプリントを作って発表したり、レポートの形にまとめたりするという作業があります。こうした一連のプロセスに必要な基本的なことから、20人程度のクラスで学び、大学で学ぶ心構えを身につけてもらうというのが、この基礎演習という授業です。
到達目標	他者に対して自らの考えを正確に伝えることができる能力を身に付けること。
講義方法	下記教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせます。レポートや論文の決まりや書き方、ゼミで発表するとき配るレジュメ(資料)の作り方、パワーポイントなどを使った発表の仕方を学びます。
準備学習	講義構成で示している教科書の第0講から第6講の部分にひととおり目を通しておくこと。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価します。なお、出席を重視します。
講義構成	前期科目である「基礎演習Ⅰ」は、下記教科書の第6講までをあつかいます。 第0講 この本で伝えたいこと:大学で何を学ぶのか 第1講 ノートの取り方1:大学の多様な授業スタイル 第2講 ノートの取り方2:役立つノートとは 第3講 テキストの読み方:より深い読解のために 第4講 要約の仕方:内容本意でまとめる 第5講 さちんと考える方法:自分の意見を言うために 第6講 図書館の利用:図書館探索と資料の検索
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)
担当者から一言	今後の学習の基礎となる授業ですから、しっかり取り組んでください。

授業コード	11A12		
授業科目名	基礎演習I (N2)(前)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜12時30分～13時		

講義の内容	「基礎演習」では、大学のさまざまな授業、特に2年次から始まる「演習」で必要とされる、基礎的で一般的な「学習方法」について学ぶ。 大学の授業、特に「演習」科目では、自主的な学習態度が重視される。「演習」での研究発表は、単に書物の内容をまとめて報告するだけでは十分ではない。図書館などでテーマに沿った情報を探することは大切ではあるが、さらに重要なのは、調べた内容を整理して自分なりの考えをまとめ、資料を作成して口頭発表したり、レポートの形にまとめたりするという作業である。自主的に考え、自らの思考を表現するために必要な事項を、20人程度のクラスで実践的に理解し、大学で学ぶための基本的な学習能力を身につけることが、「基礎演習」の目標である。 教材は、専門領域(たとえば近代日本文学)にかかわりがあるものも取り入れて、学問のおもしろさの一端を知れる機会としたい。
到達目標	大学で学ぶための基礎的な技能を身につける。
講義方法	下記教科書の内容にもとづいて進める。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を行う。ノートの取り方、本の情報のつかみ方、要約や発表の仕方などを学ぶ。同時に甲南大学の図書館で、各種データベースや検索エンジンを使って情報を検索する方法のガイダンスも実施する。
準備学習	設定したテーマについて、関心を持ち、自主的に情報・知識を得るよう努力すること。 ネットに依存せずに、書物の検索方法を身につけるよう心がけること。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価する。なお、出席を重視する。
講義構成	前期科目である「基礎演習Ⅰ」は、下記教科書の第6講までをあつかう。 第0講 この本で伝えたいこと:大学で何を学ぶのか 第1講 ノートの取り方1:大学の多様な授業スタイル 第2講 ノートの取り方2:役立つノートとは 第3講 テキストの読み方:より深い読解のために

	第4講 要約の仕方:内容本意でまとめる 第5講 きちん考える方法:自分の意見を言うために 第6講 図書館の利用:図書館探索と資料の検索
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。

担当者から一言	各自ファイル等を準備して、配布プリントなどを整理し、演習時にはかならず持参すること。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	11A13		
授業科目名	基礎演習I (N3)(前)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日・金曜日昼休み(12:20:~12:50) (学生の希望する時間との調整により他の曜日時間でも可)		

講義の内容	大学生活への期待に胸をふくらませている新入生の皆さん、大学の講義は、これまで皆さんが受けてきた授業とは、そのあり方自体が大きく異なっています。大学での学修を意義あるものにするためには、受動的な学習態度から能動的な学習態度への切り替えが、ぜひとも必要です。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、そうした切り替えを円滑に行い、専門領域での学修が支障なくおこなえるように、皆さんを導くために設定されています。 「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、20名前後のクラスで、ノートの取り方、情報の整理法や検索法、さまざまな文章の読解の技術、要約の方法、自分独自の考え方の創造、レポートや論文の書き方など、理解や表現の基礎的な力をきたえることを目標としています。 技術だけを鍛錬するのではなく、基礎演習における課題実習をこなしていくことをとおして、専門領域につながる文章の読解力や、表現力を身につけることも重視しています。ことばによって理解し、ことばによって表現することは、人間力の基本です。同時にそれは、日本語日本文学科の学修の基本に深くかかわっています。また、さらにそれは、実社会で生きてゆくための基本的な力でもあります。 課題をこなすうちに、日本語日本文学の専門分野の一端に触れられるような工夫もしたいと考えています。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」が、きびしくも楽しい、充実した修練の場となることを願っています。 大学では、〈新たな知の世界〉が皆さんを待っています。その〈知〉を自らの糧とできるよう、この「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を活用してください。
到達目標	大学での学習方法に慣れ、各自の専門とする分野の学習が順調に進むよう必要な知識・方法を身につける。
講義方法	教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせます。ノート取りの方法、読解の技術、発想法の訓練等を中心にして、図書館ガイダンスも織り込み、各種データベース、検索エンジンなどの使い方を習得し、情報収集能力を磨きます。 小レポートや課題が適宜課され、実践の中で、理解し、表現する力を向上させます。 毎時間全員に発言の機会を与えるので、常に積極的な態度で臨んでください。
準備学習	毎回終了時に、次回への課題を提示します。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価します。なお、出席を重視します。
講義構成	「基礎演習Ⅰ」では、教科書の第6講までをあつかいます。 第0講 4/6:この本で伝えたいこと:大学で何を学ぶのか? 第1講 4/13:ノートの取り方1:大学の多様な授業スタイル 第2講 4/20:ノートの取り方2:役立つノートとは 第3講 4/27,5/11,18:テキストの読み方:より深い読解のために 第4講 5/25,6/1:要約の仕方:内容本位でまとめる 第5講 6/8,15,22:きちん考える方法:自分の意見を言うために 第6講 6/29,7/6:図書館の利用:図書館探索と資料のまとめ 7/13: (上記日程は変更することがあります)
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)

参考書・資料	適宜、紹介します。
講義関連事項	教科書は第一週(4月10日)から使用するので、事前に購入しておくこと。
担当者から一言	・高校までの、「クラス担任による授業」のような位置づけです。 授業内容はもちろんのこと、学生と教員のコミュニケーションを大切にしたいと思います。 ・資料を整理するA4サイズのファイルを準備してください。 ・教材を工夫して、日本語・日本文学の世界のおもしろさを伝えたいと思います。
その他	担当者連絡先 tsuzome@center.konan-u.ac.jp

授業コード	11A14		
授業科目名	基礎演習I (N4)(前)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この授業では、大学のさまざまな授業、特に2年次から始まる演習(ゼミ)で必要とされる、基礎的で一般的な「学習方法」について学びます。大学の授業、特にゼミは、今まで皆さんが受けてきた授業とは、大きく異なります。ゼミでの発表は、単に本に書いてあることを報告するだけで終わるというものではありません。図書館などでテーマに沿った情報を探することが大切なのはもちろんですが、大学ではさらにその先に、調べた内容を整理して自分なりの考えをまとめ、それをプリントを作って発表したり、レポートの形にまとめたりするという作業があります。こうした一連のプロセスに必要な基本的なことから、20人程度のクラスで学び、大学で学ぶ心構えを身につけてもらおうというのが、この基礎演習という授業です。		
到達目標	他者に対して自らの考えを正確に伝えることができる能力を身に付けること。		
講義方法	下記教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせます。ノートの取り方、本の情報のつかみ方、要約や発表の仕方などを学びます。同時に甲南大学の図書館で、各種データベースや検索エンジンを使って情報を検索する方法のガイダンスも行います。		
準備学習	講義構成で示した教科書の第0講から第6講の部分にひととおり目を通しておくこと。		
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価します。なお、出席を重視します。		
講義構成	前期科目である「基礎演習 I」は、下記教科書の第6講までをあつかいます。 第0講 この本で伝えたいこと: 大学で何を学ぶのか 第1講 ノートの取り方1: 大学の多様な授業スタイル 第2講 ノートの取り方2: 役立つノートとは 第3講 テキストの読み方: より深い読解のために 第4講 要約の仕方: 内容本意でまとめる 第5講 きちんと考える方法: 自分の意見を言うために 第6講 図書館の利用: 図書館探索と資料の検索		
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)		
参考書・資料	適宜、紹介します。		
担当者から一言	「実り」のある大学生生活にするために、ともに頑張って行きましょう。		

授業コード	11A21		
授業科目名	基礎演習II (N1)(後)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	大学生活への期待に胸をふくらませている新入生の皆さん、大学の講義は、これまで皆さんが受けてきた授業とは、そのあり方自体が大きく異なっています。大学での学修を意義あるものにするためには、受動的な学習態度から能動的な学習態度への切り替えが、ぜひとも必要です。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、そうした切り替えを円滑に行い、専門領域での学修が支障なくおこなえるように、皆さんを導くために設定されています。 「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、20名前後のクラスで、ノートの取り方、情報の整理法や検索法、さまざまな文章の読解の技術、要約の方法、自分独自の考え方の創造、レポートや論文の書き方など、理解や表現の基礎的な力をきたえることを目標としています。 技術だけを鍛錬するのではなく、基礎演習における課題実習をこなしていくことをとおして、専門領域につながる文章の読解力や、表現力を身につけることも重視しています。言葉によって理解し、言葉によって表現することは、人間力の基本です。同時にそれは、日本語日本文学科の学修の基本に深くかかわっています。また、さらにそれは、実社会で生きてゆくための基本的な力でもあります。 課題をこなすうちに、日本語日本文学の専門分野の一端に触れられるような工夫もしたいと考えています。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」が、きびしくも楽しい、充実した修練の場となることを願っています。 大学では、〈新たな知の世界〉が皆さんを待っています。その〈知〉を自らの糧とできるよう、この「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を活用してください。
到達目標	大学の授業に関する基礎的なスキルを身につけること。
講義方法	下記教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせます。レポートや論文の作成法、レジュメ(資料)の作成法、口頭発表の仕方を中心にして、ワープロの高度な活用法、パワーポイントなどについても学び、表現の方法を学びます。 小レポートや課題が適宜課され、実践の中で、理解し、表現する力を向上させます。
準備学習	あらかじめ教科書を熟読しておくこと。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価します。なお、出席を重視します(欠席が基だしい場合は単位修得が危ぶまれますから注意してください)。また、課題提出も怠らないようにしてください。
講義構成	後期科目である「基礎演習Ⅱ」は、下記教科書の第7講から第10講までをあつかいます。 第7講 レポート・論文の書き方1:基本編 第8講 レポート・論文の書き方2:内容編 第9講 レジュメの作り方:発表のための資料 第10講 ゼミ発表の仕方:聞く気にさせる話し方
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)
参考書・資料	適宜、紹介します。
担当者から一言	今後、日本文学(近代、古典)、日本語学のいずれを中心に勉強するにしても、必ず知っておくべき基礎的なことを身につける授業ですので、欠席しないよう注意してください。なお、担当者は中世文学が専門なのでその関係の話題が多くなるかも知れませんが、偏りが無いよう配慮します。

授業コード	11A22		
授業科目名	基礎演習Ⅱ (N2)(後)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	授業終了後、その他随時		

講義の内容	講義の内容・目的 この授業では、大学のさまざまな授業、特に2年次から始まる演習(ゼミ)で必要とされる、基礎的で一般的な「学習方法」について学びます。大学の授業、特にゼミは、今まで皆さんが受けてきた授業とは、大きく異なります。ゼミでの発表は、単に本に書いてあることを報告するだけで終わるというものではありません。図書館などでテーマに沿った情報を探ることが大切なのはもちろんですが、大学ではさらにその先に、調べた内容を整理して自分なりの考えをまとめ、それをプリントを作って発表したり、レポートの形にまとめたりするという作業があります。こうした一連のプロセスに必要な基本的なことがらを、20人程度のクラスで学び、大学で学ぶ心構えを身につけてもらおうというのが、この基礎演習という授業です。
到達目標	他者に対して自らの考えを正確に伝えることができる能力を身に付けること。
講義方法	下記教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせ

	せます。レポートや論文の決まりや書き方、ゼミで発表するとき配るレジュメ(資料)の作り方、パワーポイントなどを使った発表の仕方を学びます。
準備学習	講義構成で示している教科書の第7講から第10講の部分にひととおり目を通しておくこと。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート・口頭発表によって評価します。なお、出席を重視します。
講義構成	後期科目である「基礎演習Ⅱ」は、下記教科書の第7講から第10項までをあつかいます。 第7講 レポート・論文の書き方1: 基本編 第8講 レポート・論文の書き方2: 内容編 第9講 レジュメの作り方: 発表のための資料 第10講 ゼミ発表の仕方: 聞く気にさせる話し方
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)
参考書・資料	授業中に紹介します。
講義関連事項	なし
担当者から一言	口頭発表の経験を積んでもらいます。人前で話すことは誰でも緊張しますが、伝えたいという気持ちを持つことと、慣れることが大切です。出席を重視しますので、遅刻欠席のないように注意すること。特に自分の発表予定の日は必ず発表すること。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	11A23		
授業科目名	基礎演習II (N3)(後)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	この授業では、大学のさまざまな授業、特に2年次から始まる演習(ゼミ)で必要とされる、基礎的で一般的な学習の方法について学びます。大学の授業、特にゼミは、今まで皆さんが受けてきた授業とは大きく異なります。ゼミでの発表は、単に本に書いてあることを報告するだけで終わるというものではありません。図書館などでテーマに沿った情報を探ることが大切なのはもちろんですが、大学ではさらにその先に、調べた内容を整理して自分なりの考えをまとめ、プリントを作って発表したり、レポートの形にまとめたりするという作業があります。こうした一連のプロセスに必要な基礎的なことがらを、20人程度のクラスで学び、大学で学ぶ心構えを身につけてもらおうというのが、この基礎演習という授業です。
到達目標	他者に対して自らの考えを正確に伝えることができる能力を身に付けること。
講義方法	下記教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせます。レポートや論文の作成法、レジュメ(資料)の作成法、口頭発表の仕方を中心にして、パワーポイントなどについても学び、表現の方法を学びます。
準備学習	講義構成で示している教科書の第7講から第10講の部分にひととおり目を通しておくこと。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価します。なお、出席を重視します。
講義構成	後期科目である「基礎演習Ⅱ」は、下記教科書の第7講から第10講までを扱います。 第7講 レポート・論文の書き方1: 基本編 第8講 レポート・論文の書き方2: 内容編 第9講 レジュメの作り方: 発表のための資料 第10講 ゼミ発表の仕方: 聞く気にさせる話し方
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)

授業コード	11A24		
授業科目名	基礎演習Ⅱ (N4)(後)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		

講義の内容	この授業では、大学のさまざまな授業、特に2年次から始まる演習(ゼミ)で必要とされる、基礎的で一般的な学習の方法について学びます。大学の授業、特にゼミは、今まで皆さんが受けてきた授業とは大きく異なります。ゼミでの発表は、単に本に書いてあることを報告するだけで終わるというものではありません。図書館などでテーマに沿った情報を探すことが大切なのはもちろんですが、大学ではさらにその先に、調べた内容を整理して自分なりの考えをまとめ、プリントを作って発表したり、レポートの形にまとめたりするという作業があります。こうした一連のプロセスに必要な基礎的なことがらを、20人程度のクラスで学び、大学で学ぶ心構えを身につけてもらおうというのが、この基礎演習という授業です。		
到達目標	他者に対して自らの考えを正確に伝えることができる能力を身に付けること。		
講義方法	下記教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせます。レポートや論文の作成法、レジュメ(資料)の作成法、口頭発表の仕方を中心にして、パワーポイントなどについても学び、表現の方法を学びます。		
準備学習	講義構成で示している教科書の第7講から第10講の部分にひととおり目を通しておくこと。		
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価します。なお、出席を重視します。		
講義構成	後期科目である「基礎演習Ⅱ」は、下記教科書の第7講から第10講までを扱います。 第7講 レポート・論文の書き方1:基本編 第8講 レポート・論文の書き方2:内容編 第9講 レジュメの作り方:発表のための資料 第10講 ゼミ発表の仕方:聞く気にさせる話し方		
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版－充実した大学生活をおくるために－』(北大路書房)		

授業コード	11037		
授業科目名	近世文学研究(近世文学特殊講義)(後)		
担当者名	富田志津子(トミタ シヅコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	昨年度に引き続き、松尾芭蕉の『奥の細道』を読む。 テキストは、影印本を用い、変体仮名を解説する。語彙、事項、時代背景、などを考察しながら、文と句を解釈し、鑑賞する。 昨年度の続きで、今年度は「松島」から始める。		
到達目標	近世文学に親しみ、芭蕉の作品の本質を知る。 また、変体仮名の解説にも熟達する。		
講義方法	講義形式。ただし、変体仮名解説は、学生にあてるので、予習しておく必要がある。 受講人数によっては、担当を決めて、学生の調査・発表形式にすることもある。		
準備学習	授業予定の箇所を、変体仮名で読んでおく。できれば、ノートに翻字し、分からない字をチェックする。 変体仮名解説は、学生にあてて読ませるので、前もって調べておくこと。		
成績評価	期末試験、ただし試験も出席も重視する。		
講義構成	1, 導入 2, 松島 3, 松島 4, 石巻 5, 平泉 6, 尿前の関 7, 尾花沢 8, 立石寺		

	9, 最上川 10, 羽黒 11, 羽黒 12, 酒田 13, 象潟 14, まとめ
教科書	上野洋三編『影印 奥の細道 付参考図集』(和泉書院)
参考書・資料	なし
講義関連事項	なし
担当者から一言	必ず、予習をして、授業を受けて欲しい。
その他	なし

授業コード	11032		
授業科目名	近世文学講読I（前）		
担当者名	森田雅也（モリタ マサヤ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	『西鶴諸国はなし』巻1と巻2を読む。講義の目的は二つである。一つはテキストに影印本を使用することによって、変体仮名に慣れさせること。また、一つは解釈を検討することによって、当時の読みを再現し、読者の作品受容の在り方を捉え、その上で受講者各自に作品の文芸性について考えさせる。
到達目標	変体仮名の字母(元字)の修得。変体仮名の翻字。近世文学の時代背景の理解。
講義方法	講読形式
準備学習	基本的には本文の字母調べ。授業において随時指示する。
成績評価	出席点20%試験あるいはレポート80%で総合的に評価する。
講義構成	以下の章を読む。 1. 『西鶴諸国はなし』と上方 2. 変体仮名と序① 3. 変体仮名と序② 4. 巻1の5「不思議の足音」 5. 巻1の5「不思議の足音」 6. 巻1の5「不思議の足音」 7. 巻1の7「狐四天王」 8. 巻1の7「狐四天王」 9. 巻1の7「狐四天王」 10. 巻2の1「姿の飛のり物」 11. 巻2の1「姿の飛のり物」 12. 巻2の1「姿の飛のり物」 13. 巻2の5「夢路の風車」 14. 巻2の5「夢路の風車」 15. 総説
教科書	森田雅也編著『西鶴諸国はなし』(和泉書院) ¥1,800 『仮名変体集』(新典社) ¥350
参考書・資料	随時
講義関連事項	上方・幽霊・妖怪
担当者から一言	テキストの文字は読みやすく、変体仮名は一ヶ月もあれば読めるようになります。幽霊・妖怪の話が怖い人は受講しないように。
その他	質問は授業後かm-morita@kwansei.ac.jp

授業コード	11033
-------	-------

授業科目名	近世文学講読II (後)		
担当者名	森田雅也(モリタ マサヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	『西鶴諸国はなし』巻4を読む。講義の目的は二つである。一つはテキストに影印本を使用することによって、変体仮名に慣れさせること。また、一つは解釈を検討することによって、当時の読みを再現し、読者の作品受容の在り方を捉え、その上で受講者各自に作品の文芸性について考えさせる。		
到達目標	変体仮名の字母(元字)の修得。変体仮名の翻字。近世文学の時代背景の理解。		
講義方法	講読形式		
準備学習	基本的には本文の字母調べ。授業において随時指示する。		
成績評価	出席点20%試験あるいはレポート80%で総合的に評価する。		
講義構成	以下の章を読む。 1. 『西鶴諸国はなし』と上方 2. 『西鶴諸国はなし』と百物語① 3. 『西鶴諸国はなし』と百物語② 4. 巻4の3「命に替はる鼻の先」 5. 巻4の3「命に替はる鼻の先」 6. 巻4の3「命に替はる鼻の先」 7. 巻4の4「驚くは三十七度」 8. 巻4の4「驚くは三十七度」 9. 巻4の5「夢に京より戻る」 10. 巻4の5「夢に京より戻る」 11. 巻4の6「力なしの大仏」 12. 巻4の6「力なしの大仏」 13. 巻4の7「恋のちらし紋」 14. 巻4の7「恋のちらし紋」 15. 総説		
教科書	森田雅也編著『西鶴諸国はなし』(和泉書院) ¥1,800 『仮名変体集』(新典社) ¥350		
参考書・資料	随時		
講義関連事項	上方・幽霊・妖怪		
担当者から一言	テキストの文字は読みやすく、変体仮名は一ヶ月もあれば読めるようになります。幽霊・妖怪の話が怖い人は受講しないように。		
その他	質問は授業後かm-morita@kwansei.ac.jp		

授業コード	11046		
授業科目名	近代文学研究(近代文学特殊講義)(前)		
担当者名	権藤愛順(ゴンドウ アイジュン)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	明治末年の耽美主義文学を学びます。 明治42(1909)年、文芸雑誌「スバル」が刊行されました。雑誌「スバル」に集った青年文学者たちは、西欧世紀末の耽美主義・象徴主義・印象主義などの影響を受けつつ、日本に新しい表現の土壌を拓きました。 耽美主義文学は、西欧の文芸作品はもとより、絵画表現なども積極的に摂取し、実に多様な表現や、ものの見方を文芸の世界にもたらしました。 講義では、毎回実作品を共に読み、明治世紀末の耽美主義文学の多様性を学ぶことを目的としています。文学表現だけではなく、絵画や音楽、明治末年の都市、そこに花咲いた文化なども取り込みながら耽美派の世界を楽しみましょう。		
到達目標	近代日本文学の多様な表現を知る。		

	文学だけでなく、文学の世界と連動した他分野の様々な表現を身につける。 日本だけではなく、19世紀末のヨーロッパの文学・思想の世界を知る。
講義方法	講義形式。作品に対する意見を求める場合もある。
準備学習	毎回授業終了時に、次回までの課題を配付します。配付された作品は、授業準備として必ず読んでくる事を望みます。
成績評価	出席及びレポート
講義構成	1) 近代耽美主義文学の概要 2) 森鷗外『青年』と世紀末思想 3) 森鷗外「麻睡」と人間の心の世界 4) 印象主義と文学—木下杢太郎を中心に— 5) 本質へと向かう旅—明治末年の追憶文学— 6) 五感の交響—北原白秋の詩を読む— 7) 耽美派とアール・ヌーヴォー 8) 癒しの室内から都市の楽しみへ—耽美派と都市表現Ⅰ 銀座— 9) 塔から見下ろす都市と貧民の街—耽美派と都市表現Ⅱ 浅草— 10) 悪魔主義の誕生—谷崎潤一郎の登場—
教科書	なし。授業中にプリントを配布する。
参考書・資料	なし。授業中にプリントを配布する。
講義関連事項	特になし
担当者から一言	明治末年の耽美主義文学は、20代前半の青年たちが中心となった文学運動です。 小説や詩を読むだけではなく、様々な視覚あるいは聴覚表現なども合わせて共に味わいましょう。
その他	特になし

授業コード	11038		
授業科目名	近代文学講読I（前）		
担当者名	田口道昭（タグチ ミチアキ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	与謝野晶子の短歌を読む。「その子二十櫛に流るる黒髪のおごりの春のうつくしかな」や「やは肌のあつき血潮にふれも見でさびしからずや道を説く君」で知られる与謝野晶子は、古典的な和歌から近代短歌へとジャンルの更新に大きな役割を果たした歌人である。この講義では、与謝野晶子の歌のキーワードとなる言葉を中心に、第一歌集『みだれ髪』をはじめ、代表的な歌を分析、鑑賞する。また、古典和歌や晶子以降の女性歌人にも触れる。
到達目標	近代の女性が表現したものが何であったかを知るとともに、短歌の解釈と鑑賞を通じて、日本文学や日本語に対する感性を磨く。
講義方法	講義は、与謝野晶子の短歌一つ一つの表現に注釈を加えて、読み解いていくと同時に、古典和歌や晶子以降の歌人たちの歌との比較のなかからその特質を明らかにしていきたい。
準備学習	授業で取り上げる短歌について、まず自分なりに理解し、鑑賞すること。
成績評価	積極的な出席(20%)及び定期試験(80%)によって評価する。出席は、毎回とる。遅刻3回を欠席1回としてカウントする。筆記試験は授業で取り上げた内容についての的確に理解できているかどうかを評価する。
講義構成	第1回 与謝野晶子紹介 第2回 キーワード(以下同じ)・春 第3回 恋 第4回 髪 第5回 性 第6回 仏教 第7回 先達 第8回 花 第9回 星

	第10回 友 第11回 京都 第12回 旅 第13回 故郷・母 第14回 家族・生活 第15回 まとめ 受講者の理解度、関心度に応じて、授業計画が変更になることもある。
教科書	資料を配布する。
参考書・資料	適宜指示する。

授業コード	11039		
授業科目名	近代文学講読II（後）		
担当者名	田口道昭（タグチ ミチアキ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	正岡子規とその周辺について考える。子規といえば、「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」などの俳句や「くれなゐの二尺のびたる薔薇の芽の針やはらかに春雨の降る」などの短歌をはじめ、近代の俳句や短歌の革新や「写生文」を主張して、近代的な新しい文章を作る上でも大きな役割を果たしたことで知られる。この講義では、子規の作品を鑑賞するとともに、子規とその周辺を探りつつ、子規が文学史上に果たした意義について考えてみたい。
到達目標	正岡子規の仕事を検討することを通して、近代の短歌や俳句、文章の革新とはどのようなものであったか、考えることができる。また、短歌や俳句の鑑賞を通じて、日本文学や日本語に対する感性を磨くことができる。
講義方法	講義は、一つ一つの作品の表現に注釈を加えて、読み解いていくと同時に、古典和歌や晶子以降の歌人たちの歌との比較のなかからその特質を明らかにしていきたい。
準備学習	授業で取り上げる俳句や短歌について、まず自分なりに理解し、鑑賞すること。
成績評価	積極的な出席(20%)及び定期試験(80%)によって評価する。出席は毎回出席とする。遅刻3回を欠席1回としてカウントする。筆記試験は授業で取り上げた内容についての確に理解できているかどうかを評価する。
講義構成	第1回 はじめに・正岡子規について 第2回 子規と芭蕉 第3回 子規と蕪村 第4回 子規と古今集・紀貫之 第5回 子規と源実朝 第6回 子規と万葉集 第7回 子規の周辺の人々(1) 第8回 子規の周辺の人々(2) 第9回 子規と高浜虚子 第10回 子規と長塚節 第11回 子規と伊藤左千夫・長塚節 第12回 子規と斎藤茂吉 第13回 映像の中の正岡子規 第14回 子規と夏目漱石 第15回 まとめ 受講者の理解度、関心度に応じて、授業計画が変更になることもある。
教科書	資料を配布する。
参考書・資料	適宜指示する。

授業コード	11040		
授業科目名	近代文学講読Ⅲ（前）		
担当者名	太田路枝(オオタ ミチエ)		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
講義の内容	明治、大正期の文学作品を精読します。精読とは、ストーリーの展開を楽しむ一般的な読書とは異なり、細部に注意を払い、一語一句あますことなく確認しながら丁寧に読むことです。また、作品の背景を念頭におき、時を経た2010年の視点から作品を分析します。 泉鏡花、樋口一葉、夏目漱石、森鷗外の作品を扱います。		
到達目標	明治・大正期の文学作品を研究対象として読み、オリジナリティのある解釈ができるようになることを目指します。		
講義方法	講義を中心とします。発言や小レポートで意見を求めることもあります。また、映像化された作品を鑑賞する機会をもうけます。		
準備学習	最低限、講義で扱う作品に目を通しておきましょう。次回の授業までに課題を与える場合もあります。		
成績評価	平常点(講義への取り組み・小レポート等)とレポートによって評価します。		
講義構成	泉鏡花「外科室」 樋口一葉「にごりえ」 夏目漱石「夢十夜」 森鷗外「高瀬舟」 一つの作品に、二回から四回の講義をあてる予定です。		
教科書	なし。プリントを配布します。		
参考書・資料	講義中に指示します。		
担当者から一言	文学の世界を通して、少し昔の日本を愉しみましょう。		

授業コード	11041		
授業科目名	近代文学講読Ⅳ(後)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	一葉の文学 ―「女と女」の関係を軸として― 樋口一葉の生涯は、短く激しいものでした。そして、一葉の小説には、社会における格差の問題、恋の苦悩、家族の問題などが追及されており、この世に生きる人々の様々な苦しみ、美しい文体で描かれています。こういった問題をとらえながら、今年度は特に、一葉の小説に描かれた、「女と女」の間にある格差や抑圧の問題を軸として考えていきます。		
到達目標	樋口一葉の生涯と作品を学び、一人の作家の世界を総合的にとらえ、考察することができること		
講義方法	教科書の他、写真や映像、朗読テープなど、視聴覚教材も用います。随時、意見や感想などを書いたり発表したりしてもらいます。それらも成績に加味する予定です。教科書や、配布するプリントなどをよく読んでおくこと。		
準備学習	教科書を読んでおくことが望ましい。		
成績評価	レポート(50%)、提出物・出席・授業態度等(50%)によって評価します。3分の2以上の出席をしなければ成績を評価しません。		
講義構成	(1) 樋口一葉の生涯 (2) 「大つごもり」(明治27年12月) (3) 初期作品の世界―「大つごもり」まで― (4) 「たけくらべ」(明治28年1月) (5) 晩年の作品―「うらむらさき」(明治29年2月)と「われから」(明治29年5月)― (6) 一葉の日記 ※各テーマ、1～3回の講義をあてる予定です。都合により内容を一部変更することもあります。		
教科書	樋口一葉・岡田八千代校註『たけくらべ・にごりえ』(角川文庫クラシックス 昭和43年7月初版)		
参考書・資料	教科書にない作品については、プリントを配布します。参考文献は授業中に紹介します。		
講義関連事項	特になし		

担当者から一言	一葉の作品は、擬古文で書かれているため少し読みにくいと感じるかもしれません。しかし、注釈を見ながら声に出して読めば、十分理解できるでしょう。言葉の壁を越えたところにある豊かな世界を見つけてください。
その他	特になし
ホームページタイトル	特になし

授業コード	11F11		
授業科目名	研究演習 (L1)(後)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	卒業研究をより実りのあるものにするための実践的演習。 日本上代文学の諸作品について、どのような切り口から分析することができるのかを、参加者全員で共に考えて行きたい。		
到達目標	一昨年度の演習Ⅰ、昨年度の演習Ⅱ、それぞれにおいて得た知見を、各自で広め深めておくこと。		
講義方法	参加者各自の発表、および、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。		
準備学習	各自が見出した研究テーマを見直しておくこと。		
成績評価	参加者各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。		
講義構成	参加者各自が卒業研究で扱う内容についての発表をおこない、その発表について具体的に指導する。また、参加者も有効な提言をするように努める。 適宜、資料の集め方、論文の書き方についても指導する。		
教科書	この演習を円滑に運営すべく、適宜プリントを配布する。		
参考書・資料	適宜、紹介する。		
担当者から一言	4年生の諸君、卒業論文を納得いく形で仕上げるために、共に頑張ろう。		

授業コード	11F12		
授業科目名	研究演習 (L2)(後)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み、そのほかは随時研究室に掲示		

講義の内容	古代から中世(テーマによっては近世も含む)の散文文学や文学と宗教、文学と絵画などのテーマで卒業論文を作成する受講者を指導する。		
到達目標	卒業論文を提出すること。		
講義方法	前期には授業が設定されていないが、 1. 卒論題目決定の際、 2. 夏期休業前の相談、 3. 夏期休業後の報告、 の3点については、必ず担当者にあらかじめアポイントメントをとった上で相談すること。メールでもよい。 後期にはテーマごとに数人ずつ班を組み、田中貴子研究室にて面談する。質問等があれば随時メールで受け付ける。メールアドレスは受講者のみに知らせる。		

準備学習	適宜指示する。
成績評価	日常の勉学態度、ならびに提出された卒業論文によって評価する。
講義構成	「講義方法」の項目を参照のこと。 前期の相談時期については担当者の研究室ドアに掲示するので必ず確認すること。また、アポイントメントの取り方についても掲示するので、四月初旬には確認すること。 おおまかなスケジュールは以下の通り。 1, 四月から五月初旬にかけて→題目決定 2, 夏期休業前→夏期休業中に行うべき作業や読むべきものについての指示。 3, 夏期休業後(九月末)→夏期休業中の進捗状況の報告。 4, 10～11月→適宜相談。ひたすら調べ、書くこと。 5, 12月末→下書き完成をめどとする。 6, 1月→提出(提出のための注意事項が掲示されるので確認すること) 7, 2月→口頭試問 8, 3月→合格の場合のみ、晴れて卒業認定！
教科書	石原千秋『大学生の論文執筆法』ちくま新書。 必ず各自購入し、あらかじめ読んでおくこと。引用のしかた、注の書き方などが丁寧に記述してある。こうしたことについては、授業での講義はしない。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	卒業論文に関する参考文献のデータなどを記すノート等を用意しておくこと。
担当者から一言	就職活動などで多忙であると思うが、卒業論文は後期からやれば間に合うなどという安易な気持ちは捨てること。必ず、前期から取り組むように。

授業コード	11F13		
授業科目名	研究演習 (L3)(後)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	授業終了後等		

講義の内容	卒業論文のテーマを決定し、受講者の報告、口頭発表を中心に指導を行います。
到達目標	必要な手順をふんで、報告を行いながら、卒業論文を完成できること。
講義方法	卒業論文のテーマに関する報告・発表を中心とし、関連する文献、作品も読む。
準備学習	資料調査、参考文献の精読、発表内容の文章化等
成績評価	出席、卒論への取り組み方、発表などを総合的に判断する。
講義構成	・卒業論文の構成の検討 ・報告 ・口頭発表
教科書	授業開始時に伝える。
参考書・資料	授業の中で紹介する。
担当者から一言	前期から随時指導します。必ず前期から取り組み、進めていくこと。

授業コード	11F14		
授業科目名	研究演習 (L4)(後)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次	4年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜12時30分～13時		
講義の内容	4年間の勉学の集大成としての卒業研究(卒業論文)作成に必要な実践的知識を講義するとともに、受講者の研究テーマについての中間報告を中心に進める。 それぞれの研究テーマについて、受講者全員が関心を持って、切磋琢磨しながら論文を完成することができるようにしたい。		
到達目標	卒業研究の作成に必要な実践的知識を身につける。		
講義方法	論文作成に必要な知識を伝えるとともに、受講者が研究テーマについて中間報告を行う。		
準備学習	卒業研究に必要な文献を収集し、ノートを取り、問題点、研究テーマを明確に把握できるようにふだんから研鑽を怠らないようにつとめる。		
成績評価	出席および、中間報告(発表)によって行う。		
講義構成	1卒業論文のアウトラインの検討 2中間報告(1回目) 3中間報告(2回目) 4卒業論文の書式等の指導 * 講義開始までに各自、卒業論文のアウトライン(目次案、および内容の概略)を示せるように準備しておくこと。 * 中間報告の際は、資料を準備すること。		
教科書	なし。		
参考書・資料	適宜指示する。		
講義関連事項	特になし。		
担当者から一言	「研究演習」開始までにテーマを明確にして、資料収集等準備作業に取り組むこと。		
その他	特になし。		
ホームページタイトル	なし。		

授業コード	11F15		
授業科目名	研究演習 (L5)(後)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	卒業論文のテーマを決め、形式・内容について指導します。		
到達目標	卒業論文を完成させる。		
講義方法	各自の卒業論文のテーマに関する発表が中心。参考のために、課題作品の精読も平行して続けます。		
準備学習	論文の構想をまとめ、発表の準備をする。		
成績評価	出席と発表		
講義構成	出席者に応じて変化する。		
教科書	特になし		

授業コード	11F16
-------	-------

授業科目名	研究演習 (J1)(後)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日3限、火曜日4限・水曜2限、その他適宜。なるべく前もって連絡すること		

講義の内容	文学作品、および各種言語資料の国語学的研究
到達目標	論文の作成
講義方法	作品分析の実習、および各自の口頭発表
準備学習	夏休みの課題としてのレポート提出
成績評価	発表とレポートによる。
講義構成	テキストにより、文章・文体についての国語学的な調べ方を学ぶ。 日本の近代現代、古典の文学作品や、各種の非文学的言語資料について、国語学的な側面から調べて考察する。 必要に応じ、文学的研究、歴史学的研究も参考にし、文化、民俗、環境などとの関係も考えながら調べを進めたい
教科書	授業開始時に伝える予定
参考書・資料	甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室 大阪府立図書館、兵庫県立図書館などにはやく慣れておくこと。
講義関連事項	11月の中ごろまでに卒業論文の下書きの段階に入るよう、 12月中旬には一応の下書きを仕上げるよう望まれる。 そのためには、9月末までに、夏休みの宿題として、中間報告をまとめておくこと。

担当者から一言	映画、まんが、CM、ケータイ、掲示板、アニメなど、 ことばがあれば、それを「ことば」と意識すれば、何でも 日本語学の研究資料となる。
その他	欠席する場合は、あらかじめメールなどの方法で連絡すること。

授業コード	11F17		
授業科目名	研究演習 (J2)(後)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日 昼休み		

講義の内容	卒業研究(卒業論文)作成のための全体指導および個別指導を行なう。 卒業研究のための調査(資料収集)等は、この演習が始まる(後期開始)までに終えておくこと。 したがって、調査に関する指導は、前期中にオフィスアワーや、別途指示する時間に行なう。
到達目標	各自の選んだ課題に沿って、卒業研究を完成させる。
講義方法	論文作成指導。
準備学習	毎時、個人ごとに、次回までに準備しておくべき課題を提示する。

成績評価	総合的に評価する。
講義構成	各個人・グループの、調査・研究の進捗状況に応じて、相談を受け、アドバイスをする。
教科書	使用しない。
参考書・資料	随時紹介・配付する。
講義関連事項	日本語学科目で未履修のものがあれば併せて受講すること。

授業コード	11F18		
授業科目名	研究演習 (J3)(後)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	卒業論文作成のために、テーマの設定の仕方、先行研究参照の仕方、論文の執筆方法等を学ぶ。
到達目標	卒業論文の形式について学び、各自のテーマをもとに論文を執筆する。
講義方法	演習参加者が各自の卒業論文テーマに沿って発表を行い、全体で討議する。
準備学習	演習Ⅰ、演習Ⅱで扱った、日本語に関する諸問題の中から、自身の卒業論文のテーマを設定し、関連する先行研究について調べておく。
成績評価	演習への参加状況(発表内容、出席状況を含む)。
講義構成	過去二年間にわたって演習で考えた以下のようなテーマを発展させて扱う予定。 (1)複合格助詞について (2)副詞について (3)擬音語・擬態語について (4)類義表現について (5)敬語について (6)慣用句について (7)ことばの変化について 以上のテーマに限らず、各人の興味に沿ったテーマを扱う。
教科書	プリント資料
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学に関する科目。

担当者から一言	卒業論文についての相談は随時受けますので、E-mailで日時を相談してください。
その他	他の履修者の発表からも自分の研究に対するヒントを見つけてください。

授業コード	11069		
授業科目名	言語学概論I(前)		
担当者名	久後貴行(クゴ タカユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	普段何気なく使っていることばですが、よく見るとそこに驚くべき仕組みを見いだすことができます。この授業では、ことばとはどのようなものか、そしてことばについて考察する言語学とは何なのかについて学びます。例は主に日本語や英語を用いますが、そのような個別の言語に限定されない、ことば一般に当てはまる概念や考え方を扱います。
到達目標	日本語や英語などの個々の言語にそれぞれ文法はありますが、それらをより高所から眺めた、ことば一般に広く当てはまる概念や考え方を学びます。さまざまなことばに見られる多様性、そして多様性の中にも観察される一貫性を発見することになるでしょう。
講義方法	主に講義形式で、教科書に沿って、ポイントを整理しながら進めて行きます。時には教科書にはない練習問題も解きながら進める予定です。
準備学習	特に何かの語学を専攻している必要はありませんが、一見身近で当たり前のように思える言語現象をきちんと

	考察するという粘り強さは必要です。 毎回、教科書10ページ程度進みますので、その箇所は熟読して出席して下さい。
成績評価	定期試験70%、授業内での積極的関与度30% 10回以上授業に出席しなければ、成績評価しません。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回～第4回 言語学の基本概念 第5回～第7回 語の構造 第8回～第11回 文の構造 第12回～第14回 語の意味 第15回 試験
教科書	『言語学[第2版]』、風間喜代三他著、東京大学出版会
担当者から一言	言語学はことばという非常に身近な対象を、同じことばによって説明しようという学問分野です。時に難しいところもありますが、言語学以外の問題を考えるためのヒントもたくさん含まれています。好奇心旺盛な方の参加を期待しています。

授業コード	11070		
授業科目名	言語学概論II(後)		
担当者名	久後貴行(クゴ タカユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	普段何気なく使っていることばですが、よく見るとそこに驚くべき仕組みを見いだすことができます。この授業では、ことばとはどのようなものか、そしてことばについて考察する言語学とは何なのかについて学びます。例は主に日本語や英語を用いますが、そのような個別の言語に限定されない、ことば一般に当てはまる概念や考え方を扱います。
到達目標	日本語や英語などの個々の言語にそれぞれ文法はありますが、それらをより高所から眺めた、ことば一般に広く当てはまる概念や考え方を学びます。さまざまなことばに見られる多様性、そして多様性の中にも観察される一貫性を発見することになるでしょう。
講義方法	主に講義形式で、教科書に沿って、ポイントを整理しながら進めて行きます。時には教科書にはない練習問題も解きながら進める予定です。
準備学習	特に何かの語学を専攻している必要はありませんが、一見身近で当たり前のように思える言語現象をきちんと考察するという粘り強さは必要です。 毎回、教科書10ページ程度進みますので、その箇所は熟読して出席して下さい。
成績評価	定期試験70%、授業内での積極的関与度30% 10回以上授業に出席しなければ、成績評価しません。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回～第4回 文の意味 第5回～第7回 言語の多様性 第8回～第10回 言語の変化 第11回～第14回 言語の音 第15回 試験
教科書	『言語学[第2版]』、風間喜代三他著、東京大学出版会
担当者から一言	言語学はことばという非常に身近な対象を、同じことばによって説明しようという学問分野です。時に難しいところもありますが、言語学以外の問題を考えるためのヒントもたくさん含まれています。好奇心旺盛な方の参加を期待しています。

授業コード	11063		
授業科目名	現代日本語研究I（前）		
担当者名	吉岡鎮香(ヨシオカ シズカ)		
配当年次	2年次	単位数	2

担当者から一言	普段の日常使っている言葉を見つめ直すことにより、日本語の中の多様性に気付き、その多様性を客観的データを用いて整理していける力を養ってほしい。
---------	--

授業コード	11047		
授業科目名	現代文学研究(現代文学特殊講義)(後)		
担当者名	諸岡知徳(モロオカ トモノリ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	なし		

講義の内容	現在では物語と声は切り離せないものだといえる。物語とはその字義通り、近代以前には声に出して語るという行為と分かち難く結びついてきた。近代に入って文学の世界では音読から黙読へという受容の変容があり、物語ということばが概念的なものとなっていった。近代化のメディアの拡大が音声文化から文字文化への移行を加速させたともいえよう。ただ、演劇や大衆芸能では物語と声の関係は続いていた。さらに、トーキー映画の登場によって、映画などのマスメディアは、そうした大衆文化の文脈を継承しつつ、近代の物語と声とを結びつける、大きな役割を果たしたといえる。声を伴うマスメディアの影響は、テレビという形で戦後も継続されて、普及した。こうした文化的な歴史の流れのなかで、声と物語の関係について、さまざまな問題を考えていきたい。
到達目標	音・声がさまざまな物語と結びつき、独自の表現をもつこと、および音・声と物語の結びつきがどのようにして可能になったのか、について理解を深めること。
講義方法	授業形式での講義(パワーポイント使用)。講義は時間通りに始めるので、遅刻はしないこと。
準備学習	特になし。日頃からさまざまなメディアにおける音・声に関心をもっておくこと。
成績評価	成績評価は2度のレポートを主にして(60%程度)、出席状況・受講態度など(40%程度)を参照する。レポートの提出日時、課題は講義時に連絡する。
講義構成	テーマ : 物語の声／声の物語 取り上げる内容は、以下に記す通り。 ① 小説、詩など ② コミック ③ 映画 ④ テレビドラマ ⑤ アニメ 以上の項目について、物語と声の関する諸問題を中心に講義を行う予定。
教科書	必要時に随時プリントを配布する。
参考書・資料	必要がある場合は、講義中に指示する。
講義関連事項	特になし

担当者から一言	各講義の内容は関連することが多いため、欠席が多いと内容の理解に支障が出ることがある。なるべく欠席しないように心掛けてください。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	11042		
授業科目名	現代文学講読I(前)		
担当者名	岩見幸恵(イワミ サチエ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	村上春樹の短篇小説集『東京奇譚集』を中心に取り上げる。作家の経歴、作品の事件的背景、引用、地図等について考察し、最新作『1Q84』やその他の短篇小説集と比較する。
-------	---

到達目標	日本近代文学・現代文学に限らず文学・芸術全般において優れた読者・鑑賞者となる。
講義方法	授業方式で講義を行なう。最初は作家の伝記的問題を検討し、その後に作品集及び収録作品の梗概を把握。その後ディテールについて論じる。
準備学習	シラバスに記した作品集の中の何れか1作品以上を読むこと。また第一印象を大事にするためにメモを残すこと。
成績評価	期末試験(40%)、レポート(40%)、出席率(20%)によって総合的に評価する。10回以上授業に出席しなければ成績を評価しない。
講義構成	1、オリエンテーション 2、作者の伝記 3、短篇集の構成 4、『螢、納屋を焼く・その他の短編』 5、『神の子どもたちはみな踊る』 6、『象の消滅』 7、『めくらやなぎと眠る女』 8、『東京奇譚集』①「遇然の旅人」 9、『東京奇譚集』②「ハナレイ・ベイ」 10、『東京奇譚集』③「どこであれそれが見つかりそうな場所で」 11、『東京奇譚集』④「日々移動する腎臓のかたちをした石」 12、『東京奇譚集』⑤「品川猿」 13、連作としての意味 14、『1Q84』について 15、まとめ
教科書	村上春樹『東京奇譚集』(新潮文庫、420円)
参考書・資料	作品に関する研究書と論文。
講義関連事項	適宜プリントを配布する。授業に繰り返し使用するので、各自ファイリングし毎回持参すること。
担当者から一言	提出物は自ら学習した証です。確実に提出すること。

授業コード	11043		
授業科目名	現代文学講読Ⅱ（後）		
担当者名	田中雅史（タナカ マサシ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	「庭」をあつかった作品を比較検討することで、近現代の作品を作家や作品別ではなくテーマやイメージを手がかりに読む読み方の実践に触れることが目的です。そのプロセスを通して、文学研究と精神分析の関連も考えていきたいと思います。何らかの精神分析の理論的なモデルに当てはめるといより、個々のイメージの豊かさを探求することを心がけようと思います。扱う作品は、現実とは違う異世界へ入っていくというパターンのものが中心です。ただの異世界ではない。我々の心の中とリンクしているような世界です。そこで主人公らは外的な様々な行動や事件を経験するだけでなく、それよりもむしろ心理的な様々な感情の揺れに動かされます。作品の一部あるいは全体を読みながら、そのような点を考えていきます。
到達目標	大学で文学作品を読むという作業がどのようなものかを理解する。
講義方法	いくつかの作品を順に扱います。その週にやる部分について、出席者に意見を求め、それにコメントを加えています。必要に応じ、パワーポイントやプリントで解説します。
準備学習	授業で読む作品を精読し、コメントを考える。
成績評価	レポートを中心に、出席、授業中のコメント等を加味
講義構成	1. 庭をあつかった短編 ポー「アルンハイムの庭」、佐藤春夫「西班牙犬の家」など 2. 梨木香歩『裏庭』 3. 村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』第1部 こうした作品を中心に、他の作品も随時プリントなどで配布する予定です。
教科書	梨木香歩『裏庭』(新潮文庫) 村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』第1部、泥棒かささぎ編(新潮文庫)

授業コード	11044		
授業科目名	現代文学講読Ⅲ（前）		
担当者名	重松恵美（シゲマツ エミ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	「現代文学におけるユーモア」 ユーモアのある文学作品は、私たちの生活を豊かなものにします。辛さ苦しさの中にも、ユーモアは見出されます。ユーモアは一体どこから生まれてくるのか。現代の小説およびエッセイを読みながら考えてみましょう。		
到達目標	1. 読解力（各論） 作品をていねいに読み、理解する。 2. 思考力（各論） 作品について、受講生一人一人が考える。 3. 文章力（各論） 作品について考えたことを、レポートにまとめる。 4. 思索力（総論） 現代社会における文学の意義について考察する。		
講義方法	講義（作品解説）とレポート執筆 ＊レポートについて 授業時間中にレポート執筆の時間をとります。 レポートの執筆途中に授業終了時間を迎えた人、および、レポート執筆日（全5回）に欠席した人は、自宅等で書き上げて、後日提出してください。 ＊テキストについて 『モノレールねこ』『イン・ザ・プール』『とっても不幸な幸運』の3冊はテキスト指定（要購入）。その他の作品はプリント配布です。		
準備学習	授業の予習復習として、授業時間以外にも作品を読む時間をつくるように心がけてください。読書の習慣がない人は、毎日15分、週に2時間（毎日10ページ、週に短編を1～2編）を目標にして、日々の生活の中に読書の時間を組み込んでください。 テキスト3冊はいずれも短編連作で読みやすいものです。3冊とも入手し、学期末までに読了してください。		
成績評価	レポート15点×5回、小レポート1点×10回、出席1点×15回		
講義構成	第1～2回 香月日輪（こうづき・ひのわ）『妖怪アパートの幽雅な日常 1』2003年 第3～4回 田中啓文（たなか・ひろふみ）『ハナシがちがう！ 笑酔亭梅寿謎解晰』2004年 第5～7回 加納朋子（かのう・ともこ）『モノレールねこ』2006年 第8～10回 奥田英朗（おくだ・ひでお）『イン・ザ・プール』2002年 第11～13回 畠中恵（はたけなか・めぐみ）『とっても不幸な幸運』2005年 第14～15回 高野秀行（たかの・ひでゆき）『怪魚ウモッカ格闘記 インドへの道』2007年		
教科書	加納朋子『モノレールねこ』文春文庫、税込530円 奥田英朗『イン・ザ・プール』文春文庫、税込530円 畠中恵『とっても不幸な幸運』双葉文庫、税込619円		
参考書・資料	香月日輪『妖怪アパートの幽雅な日常 1』講談社文庫 田中啓文『ハナシがちがう！ 笑酔亭梅寿謎解晰』集英社文庫 高野秀行『怪魚ウモッカ格闘記』集英社文庫		
担当者から一言	現代文学とは、有体に言えば私たちの娯楽です。そして、現代文学を楽しく味わうことで、活字に日々親しむようになり、あらゆる学問の基礎となる読書の習慣を身につければ、これは一生の財産です。この授業を通じて、皆さんの日々の生活に何らかの変化が訪れることを期待しています。		

授業コード	11045		
授業科目名	現代文学講読Ⅳ（後）		
担当者名	重松恵美（シゲマツ エミ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	「長編小説濫読」 現代小説の楽しみといえば、時間を忘れ、寝食を忘れて、長編小説をむさぼり読む！ これに尽きるのではない		
-------	--	--	--

	でしょうか？ 読者を夢中にさせる長編小説の魅力に迫ってみたいと思います。
到達目標	1. 読解力(各論) 作品をていねいに読み、理解する。 2. 思考力(各論) 作品について、受講生一人一人が考える。 3. 文章力(各論) 作品について考えたことを、レポートにまとめる。 4. 思索力(総論) 人間にとって文学とは一体何なのかを追究する。
講義方法	講義(作品解説)とレポート執筆 1. レポートおよび小レポートについて 授業時間中にレポートもしくは小レポート執筆の時間をとります。 レポート(全3回)の執筆途中に授業終了時間を迎えた人、および、レポート執筆日に欠席した人は、自宅等で書き上げて、後日提出してください。 2. テキストについて 授業ではプリントを配布し、各作品について幾つかの場面を紹介・解説します。全受講生に共通のテキスト購入はありません。ただし、対象作品のうち1作品を各自選んで入手し、その作品については授業時間外に通読してください。 3. 最終レポートについて 最終レポートは、各自が読了した作品と、配布プリント、授業ノート、国語辞典等を持ち込んでの論述試験とします。 なお、この授業におけるすべてのレポートは、講義(教員による解説)のまとめではなく、受講生各自の意見表明であることに留意してください。
準備学習	授業の予習復習として、授業時間以外に作品を読む時間を確保してください。 『グイン・サーガ』『傭兵ピエール(全2冊)』『新・三銃士(全2冊)』『夢は荒れ地を』『闇の子供たち』のいずれかを入手し、学期末までに読了してください。『グイン・サーガ』については、ハヤカワ文庫1～16巻もしくは新装版全8巻で読了とみなします。
成績評価	レポート20点×3回、小レポート1点×10回、最終レポート15点、出席1点×15回
講義構成	第1～3回 栗本薫(くりもと・かおる)『グイン・サーガ』全130巻＋外伝21巻 1979～2009年 第4～7回 佐藤賢一(さとう・けんいち)『傭兵ピエール』上下巻、1996年 第8回 藤本ひとみ(ふじもと・ひとみ)[原作 A・デュマ]『新・三銃士 ダルタニャンとミラディ』少年編、青年編、2008年 第9～12回 船戸与一(ふなと・よいち)『夢は荒れ地を』2003年 第13回 梁石日(ヤンソギル)『闇の子供たち』2002年 第14回 レポートの書き方についての解説と、最終レポートの執筆 第15回 関連作品(映像資料含む)紹介
教科書	指定テキスト(受講生全員購入)なし。参考書5点のうち任意の1点を入手(購入)すること。 なお、出版社の在庫状況(9月時点)により一部作品を変更する場合があります。
参考書・資料	栗本薫『グイン・サーガ』ハヤカワ文庫、1～16巻各巻609円(税込) 栗本薫『グイン・サーガ』早川書房(新装版)、全8巻各巻945円(税込) 佐藤賢一『傭兵ピエール』集英社文庫、上巻740円(税込)、下巻680円(税込) 藤本ひとみ、原作A・デュマ『新・三銃士 ダルタニャンとミラディ』講談社文庫、少年編840円(税込)、青年編660円(税込) 船戸与一『夢は荒れ地を』文春文庫、939円(税込) 梁石日『闇の子供たち』幻冬社文庫、720円(税込)
担当者から一言	前期授業で活字の魅力に目覚めた方や、長編小説の骨太な魅力に挑戦してみたい方を募集します。いわゆる斜め読みのスピード重視の読書法と、気になる場면을繰り返し読み込む緻密な読書法を併用して、作品への理解を深めてください。高度な日本語力と深い思索力を身につけたい皆さんの、半年間の自己鍛錬を支援する授業です。

授業コード	11092		
授業科目名	国語科教材研究(後)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	金曜12時30分～13時		

講義の内容	中学校高学年の「国語」、高等学校の「国語総合」を基準にしながら、国語教材の意味と価値について考察する。教材と歴史状況、「国語」領域の拡大、評論教材の研究、文学教育と文学理論、作文教育の可能性などの
-------	--

	視点から、国語教材のあり方について理論的にとらえることを中心としたい。 国語教材の意味を多面的に考察するとともに、教材を自主的に創造することができる力を養いたい。
到達目標	「国語」科の教材の多様性について学ぶ。 自主的な教材作りに取り組むことによって、教材化のプロセスを追体験する。
講義方法	各テーマごとに、配付資料をもとに講義を行う。
準備学習	教材に関連する問題について広く関心を持ち、広角度の読書をこころがけること。
成績評価	期末レポート、出席等によって行う。
講義構成	1 教材と社会 ドーデー『最後の授業』をめぐって 2 「国語」の拡張とメディア・リテラシー 3 表現教育の可能性 4 文学理論と文学教育 5 評論教材の研究 6 文法と古典 *それぞれの項目について2～3回程度の講義を行う。
教科書	配布プリントを使用する。
参考書・資料	講義時、プリント等で指示する。
講義関連事項	特になし。
担当者から一言	○受講学生は第1回目の講義にかならず出席すること。 ○講義で紹介する書物をたくさん読んでほしい。
その他	特になし。

授業コード	11093		
授業科目名	国語教育研究（前）		
担当者名	橘 幸男（タチバナ ユキオ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	在室しているかぎり、いつでもどうぞ。		

講義の内容	中学校・高等学校の教員には、生徒を指導するための見識と、温かい心と、具体的な指導技術が強く求められており、その力を養成しないで教員になるわけにはいかない。この講義では、中学校・高等学校の国語教育を取り巻く諸課題について実践的に考えるとともに、国や府県の教育の動向、求められている教員像、教員の具体的な任務内容等について広範囲に学習することによって、教壇に立つ者としての適応力を磨く。 この科目は、学習指導案の作成・検討、模擬授業(50分間の授業およびテーマ別のミニ授業)、事例研究などの要素を取り入れて、教育実習や教職生活を円滑にスタートできるようにすることを目指すので、全回にわたって出席する意欲のある者に限って受講を認める。 なお、この科目は「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」の履修・修得を終えた者の方が履修効果が上がるであろうことを付け加えておく。
到達目標	①中学校または高等学校の国語科を効果的に指導する実践力を身につける。 ②教員採用試験を克服し、実際に教壇に立つことができるようにするための力を高める。
講義方法	講義、模擬授業、討論、事例研究などによって構成する。
準備学習	自分の研鑽・実践を振り返り、国語教育に関する自己の課題を認識し、それを文章にまとめておくこと。 中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領の解説編(国語科)を読み返しておくこと。(高等学校編は、発行された後に行うこと。) 教育に関するニュースを新聞などから収集しておくこと。
成績評価	出席状況、演習課題・レポート、試験等により総合的に評価する。
講義構成	受講者数に応じて、各回の内容構成や所要時間数が異なるが、最終的には次のような内容を網羅するものとする。 ①求められている国語科教員像と、生徒に対する指導のあり方 ②国語科教員の任務と、必要な資質の育成

	③国語科教員の理解力(読む力、聞く力)の深化 ④国語科教員の表現力(書く力、話す力)の深化 ⑤国語教育の指導法の特徴と問題点 ⑥国語教育の指導過程と授業構成 ⑦国語科の教材研究のあり方 ⑧国語科の教材開発への取り組み ⑨指導の工夫とその成果(授業構成に関して) ⑩指導の工夫とその成果(発問・板書に関して) ⑪学習指導要領の検討と指導実践への取り組み ⑫国や府県の教育の動向と、国語教育の諸課題 なお、必要に応じて、随時、教育に関するニュース等を取り入れる。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領解説・国語編」(東洋館出版社、144円) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説・国語編」(発行所・価格ともに未詳。発行されしだい購入すること) 中学校および高等学校国語科の検定済み教科書(出版社名は問わない)
参考書・資料	資料は、ほぼ毎回到わたって配布する。 その他の参考書・資料は、講義の中で紹介・指示をする。
講義関連事項	欠席連絡・面談予約などは、tatibana@center.konan-u.ac.jp へ。
担当者から一言	毎時間、受講生全員が実践的な活動をできるようにする。受講者は4年次生が望ましい。

授業コード	11048		
授業科目名	古典と現代I(後)		
担当者名	権藤愛順(ゴンドウ アイジュン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	古典作品とそれを題材にした作品を読んでいます。 文学表現に留まらず、能や映画を鑑賞しながら、古典作品を様々な側面から分析していきます。 表現の世界には、どのような普遍的なものがあり、受け継がれ、あるいは変容してきたのかを学びます。 古典と現代だけに留まらず、古典と西洋芸術との結びつきによって、いかに表現の世界が深まったのかなど、視野を広げて豊かな世界を学びましょう。
到達目標	古典と近現代文学がいかにしてつながり、変容してきたのかを知る。 文学を読み、日本の文化の深層に流れるものを感じる。 能などを鑑賞することで、古典の世界やその表現を肌で感じ、日本独自の表現技法や意味を知る。
講義方法	講義形式ですが、毎回作品を読んだ感想を各自に質問します。 授業には、能の鑑賞、また、作品を題材とした映画鑑賞の時間があります。
準備学習	授業で取り上げる作品はテキストを購入し、授業までに読了しておくことを望みます。 簡単に手に入らない教材については、事前にコピーを配付します。
成績評価	出席とレポート。とくにレポートを重視します。
講義構成	①能「道成寺」鑑賞 ②郡虎彦「道成寺」を読む ―嫉妬に狂う女たちはいかに表現されたか― ③「道成寺」と西洋の出会い ―恐怖はどのようにして表現されたか― ④芥川龍之介「藪の中」を読む ―物語の謎は解けるか?― ⑤芥川龍之介「藪の中」を読む ―なぜ“夫”が殺されるのか― ⑥黒澤明「羅生門」鑑賞 ⑦男の恋のいろいろ ―谷崎潤一郎『少将滋幹の母』、芥川龍之介『好色』など― ⑧日本文学に描かれた〈母〉―谷崎潤一郎『母を恋ふる記』、折口信夫「身毒丸」など―
教科書	谷崎潤一郎『少将滋幹の母』 谷崎潤一郎『母を恋ふる記』 芥川龍之介『藪の中・好色』

授業コード	11049		
授業科目名	古典と現代II(後)		
担当者名	西山 克(ニシヤマ マサル)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	「怪異」「予知夢」をキーワードに、日本の中世・近世社会に生み出された古典を読み解き、その現代社会への影響をさぐる。たとえば『太平記』諸本には多くの怪異が語られ、怨霊の動きが書きとめられている。また『春日権現験記絵』には諸階層の夢が絵画化されている。さらには、中世社会を理解するための一級史料である古記録・古文書のなかにも、怪異や夢の記録が膨大な量で残っている。中世や近世を生きた人々にとって、怪異や予知夢は現実的な対応を必要とするものであった。その文芸への反映として古典を捉え、現代社会との関係を考えてみる。		
到達目標	前近代社会と近現代社会の「精神」を対照させながら捉えることで、時間の異文化についての認識を深める。		
講義方法	パワーポイントを活用しながら、またレジメを活用しながら、講義を進める。		
準備学習	どのような史資料を使用するかは初回の講義で解説するので、図書館や研究室で確認しておくことが望ましい。		
成績評価	授業への積極的な関与と提出されたレポートで総合的に判断する。		
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回～8回 中世の怪異の記録を読む 第9回～12回 中世の夢の記録を読む 第13～14回 近世社会から近現代へ		
教科書	特に指定はしない。		
参考書・資料	東アジア怪異学会編『怪異学の可能性』(角川書店)		

担当者から一言	重要なのは好奇心。
---------	-----------

授業コード	11088		
授業科目名	ことばの研究(前)		
担当者名	佐竹久仁子(サタケ クニコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	「ことばとジェンダー」がテーマです。基礎的な知識として、日本の「女性語」研究や英語圏と日本の「ことばと性差」研究の流れをまず紹介したうえで、近年の「ことばとジェンダー」研究において課題とされている具体的なトピックをいくつかとりあげます。 講義をととして「女であること／男であること」とことば、また、ジェンダーに関する知識やイメージとことばはどのようにかかわっているのかという問題を考えます。		
到達目標	1. 「ことばとジェンダー」の関係を考えるための知識を身につける。 2. 身近な言語使用や言語表現からこの問題に関するテーマを見つけることができるようになる。		
講義方法	前半は主に教科書の内容に解説を加えるかたちで講義をおこないます。後半は、講義のほかに各自が見つけたテーマの発表と議論をまじえてすすめていきます。		
準備学習	授業の進行にあわせて教科書を読んで予習しておいてください。		
成績評価	レポート(60%)、課題提出2回(20%)、発表(20%)によって評価します。		
講義構成	第1回 講義の内容や方針の説明 第2回～第3回 日本の「女性語」研究 第4回 ジェンダーと表現 第5回 英語圏の「言語とジェンダー」研究の出发点 第6回 社会言語学の「性差」研究 第7回～第8回 異性間と同性間の会話分析 第9回～第11回 近年の「ことばとジェンダー」研究の視点／発表		

	第12回 「女ことば／男ことば」規範と「役割語」／発表 第13回～第15回 「女ことば／男ことば」概念の歴史／発表
教科書	中村桃子2001『ことばとジェンダー』勁草書房 ISBN4-326-65247-0
参考書・資料	講義中に紹介します。
担当者から一言	質問、議論を歓迎します。

授業コード	11087		
授業科目名	こどもの文学・文化（前）		
担当者名	畠山兆子（ハタケヤマ チョウコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	日本のアニメーション番組史を踏まえて、子ども時代から見なれた映像を、自覚的に見直すことによって、「なにを見てきたのか」、「見せられてきたのか」を考える。メディア・ミックスの進んだ今日の日本社会で、「見る物語」の構造を知ることが重要であり、本講義では、意識的な視聴者を育てることを目的とする。また、日本製アニメーション番組の海外文化摩擦についても考える。
到達目標	意識的な映像の視聴者となること
講義方法	映像を使った講義が中心となる。
準備学習	日常的なテレビ視聴を意識すること
成績評価	授業中の提出物・出席を含む（40％）、課題レポート（60％）を総合して評価する。
講義構成	1 「見る」とは何か 2 テレビアニメーション史前史 漫画映画 3 アニメーション番組史 4 番組の検討（1）「鉄腕アトム」 5 番組の検討（2）「ドラえもん」 6 番組の検討（3）「ポケットモンスター」 7 番組の検討（4）「名探偵コナン」 8 海外文化摩擦 フィリピンの場合 9 メディア・ミックス戦略 10 キャラクター受容
教科書	畠山兆子・松山雅子『新版 物語の放送形態論』世界思想社 定価1800円＋税
講義関連事項	「メディア・リテラシー」の講義において、画像、映像の作り手体験ができます。関心のある人は、受講ください。
担当者から一言	古いアニメーション番組や、めったにみられない珍しい映像を見られます。また、受講生のテレビ番組に対する見方が変わることを期待して講義をしています。

授業コード	11061		
授業科目名	社会言語学I（前）		
担当者名	西尾純二（ニシオ ジュンジ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	世界的に見ても日本語は方言差の大きい言語であるといわれている。しかし、そもそも方言とは何なのだろう。この講義では、まず「方言とは何か」を考えることから始める。そのために、テキストの中でも、方言に関するケースを中心に扱う。日本の方言が、どのようにして生まれ現在に至るのか。方言の誕生や変化は、私たちの日常生活のあり方と関わっている。ことばを無機質な研究対象として捉えるのではなく、自分の生活とのかかわりの中で観察できるセンスを身に付けてほしい。
到達目標	言語地図から言語変化のプロセスや地域的分布の特徴を読み取ることができるようになる。
講義方法	テキストに添った形での講義であるが、テキストの内容をきっかけにレジュメを配布して、講義を深めていきます

	す。また、受講生にはたくさん質問をします。
準備学習	テキストで使用される事例は、受講者の母方言でない場合が多い。テキストを事前に読んでおいて、自分の方言に当てはめて問題意識を持つておくことが望ましい。
成績評価	出席・受講態度:30% 期末レポート:70% 毎回出席をとります。
講義構成	1. イントロダクション 2. 堺・南大阪のことば(テキスト外) 3-4. 東の方言・西の方言(ケース7) 5-6. 新しい方言・古い方言(ケース9) 7-8. 方言のイメージ(ケース6) 9-10. 方言と共通語(ケース10) 11-12. 日本語の方言・アメリカ英語の方言(テキスト外) 13-14. 街の中のことば—日本の言語景観—(テキスト外) 15. 総括 理解度に応じて進行速度を調整する。
教科書	上野智子ほか編(2005)『ケーススタディ 日本語のバラエティ』おうふう
参考書・資料	講義内で随時紹介します。 テキストのほかに配布資料がA4またはA3で15～25枚程度あります。 配布資料が多いという意見がありますが、決してそうは思いません。 ファイルなどに整理していくとよいでしょう。
講義関連事項	社会言語学Ⅱ(後) に内容が接続します。
担当者から一言	授業もコミュニケーションの一形態です。ともによい授業を作っていきましょう。
URL	http://www.lc.osakafu-u.ac.jp/staff/nishio/jn_index.html

授業コード	11062		
授業科目名	社会言語学Ⅱ(後)		
担当者名	西尾純二(ニシオ ジュンジ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
講義の内容	日本語のバラエティは方言だけではない。男ことば・女ことば、若者語、幼児語、話しことば・書きことば・メールのことば、接客のことば、上品なことば・下品なことば……。様々な生活シーンには、それぞれに特徴ある日本語が用意されている。そして、その特徴ある日本語を私たちは通常、無意識に使用している。その無意識の日本語を意識化して観察することで、日本語という言語のどのような特徴が見えてくるであろうか。ある言語の特徴は、音声・文字・文法などのいくつかの観点から説明できる。ここでは、ことばの多様性という観点から日本語の特徴を考えていきたい。		
到達目標	1. 日常の言語生活の中に、問題意識を持つことができるようになる。 2. 問題意識を持った言語事象についての実態を把握するためのリサーチをプランすることができるようになる。		
講義方法	テキストに添った形での講義であるが、テキストの内容をきっかけにレジュメを配布して、講義内容を深めていきます。また、受講生にはたくさん質問をします。		
準備学習	日常の言語生活を注意深く観察してください。 とくに、テキストで紹介しているテーマに関して、自分の身の回りに存在する注目すべき言語事象を書きとめておくことが期末レポート作成の助けになるでしょう。		
成績評価	出席・受講態度:30% 期末レポート:70% 毎回出席をとります。		
講義構成	1. イントロダクション 2-7. . . 日本語の社会的位相 女のことば 男のことば(ケース1) 若者ことば キャンパスことば(ケース4) 8-12. . 心理的位相		

	ことばの切りかえ(ケース11) 忌避することば・慶弔のことば(ケース14) 12-14. 様式的位相 メール・ネットのことば(ケース20) テレビの方言(テキスト外) 15 総括&レポート課題についてのレクチャー
教科書	上野智子ほか編(2005)『ケーススタディ 日本語のバラエティ』おうふう
参考書・資料	講義内で随時紹介します。 テキストのほかに配布資料がA4またはA3で15～25枚程度あります。 配布資料が多いという意見がありますが、決してそうは思いません。 ファイルなどに整理していくとよいでしょう。
講義関連事項	社会言語学 I と関係が深い講義です。
担当者から一言	様々なケースの解説の中に、社会言語学の様々な理論が紹介されます。聞き逃しのないように！ そして、期末レポートの課題にしっかりと応用できるようにしてください。
URL	http://www.lc.osakafu-u.ac.jp/staff/nishio/jn_index.html

授業コード	11034		
授業科目名	上代文学研究(上代文学特殊講義)(前)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	日本上代文学の『万葉集』に載る作品を読むことをとおして、日本の文化についての知見を広めそして深めるための実践的な講義。古典作品を深く読む楽しさも味わってほしい。 今期は、『万葉集』の第三期の歌人、大伴旅人と山上憶良の作品を読む。
到達目標	3年次および4年次の学生を対象とした本講義としては、日本語および日本文学についての論点を自らの力で見出すことができることを、到達目標に据える。
講義方法	毎回配付するプリントに基づいて講義する。ひとつひとつの作品を丁寧に解説し、また、写本の複製本やデジタルカメラの画像なども示しながら、分かりやすい形で進めていく。
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。
成績評価	定期試験の成績に拠る。
講義構成	○「筑紫文学圏」について 大伴旅人について 山上憶良について 旅人と憶良 ○「筑紫文学圏」の作品について 大伴旅人の作品を(読む) 山上憶良の作品を(読む)
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『萬葉集』(おうふう)
参考書・資料	講義の進行に合わせて、適宜紹介する。

担当者から一言	作品を(読む)ことの「楽しさ」を共に見出そう。そして日本文化についての知見を共に広め深めよう。
---------	---

授業コード	11026		
授業科目名	上代文学講読I（前）		
担当者名	阪口由佳（サカグチ ユカ）		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
講義の内容	上代文学とは、まさに誕生期の文学である。遡りうる最も古い文学作品である『古事記』の表記や内容を知ること、それ以後に記された作品を理解する上でも必要なことであろう。当授業では『古事記』に収められている物語を読み解いてゆく。前期では『古事記』の中巻、初代の神武天皇から応神天皇までを読む。		
到達目標	『古事記』中・下巻に収められている物語を読み、そのストーリーを知る。上代の文章に触れ、読解力を伸ばし、書き手の工夫を感じとる力を身につける。		
講義方法	講義形式だが、「聞くだけ」ではなく、積極的な姿勢で受講してほしい。		
準備学習	テキストとプリントを復習する。		
成績評価	定期試験(50%)、授業中に行う小テスト(30%)、出席点・日常点(20%)によって評価する。		
講義構成	I 『古事記』の概説 1 『古事記』へのアプローチ 2 『古事記』の成立と文体 3 『古事記』の構成と主題 II 『古事記』の講読 1 神武天皇①—神から天皇へ 2 神武天皇②—開化天皇まで 3 崇神天皇—三輪山伝説 4 垂仁天皇—もの言わぬ御子 5 景行天皇—ヤマトタケル① 6 景行天皇—ヤマトタケル② 7 仲哀天皇—神功皇后 8 応神天皇—后妃と御子 9 応神天皇—天之日矛 10 応神天皇—秋山の神と春山の神		
教科書	特になし。プリントを配布する。 ただし『古事記』の本文は基本的に西宮一民『古事記 修訂版』(おうふう 平成十二年)に拠る。		
参考書・資料	適宜授業中に紹介する。		
担当者から一言	『古事記』はすべて漢字で書かれていながら漢文ではないという難しさがあり、それゆえ独学ではなかなか読みづらいものがあるかと思います。この授業をきっかけに、『古事記』に親しみ、その難しさをおもしろさに変えてもらえればと願っています。 『古事記』は一つのストーリーがきちんと構成されており、登場人物も生き生きと描写されています。時代を超えて共通するところを「感じ」、古代的なところを「知り」ながら、ともに『古事記』の世界を楽しめるような授業にしたいと思います。		

授業コード	11027		
授業科目名	上代文学講読II(後)		
担当者名	阪口由佳(サカグチ ユカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
講義の内容	上代文学とは、まさに誕生期の文学である。遡りうる最も古い文学作品である『古事記』の表記や内容を知ること、それ以後に記された作品を理解する上でも必要なことであろう。当授業では『古事記』に収められている物語を読み解いてゆく。後期では『古事記』の下巻、仁徳天皇から推古天皇までを読む。		
到達目標	『古事記』中・下巻に収められている物語を読み、そのストーリーを知る。上代の文章に触れ、読解力を伸ばし、書き手の工夫を感じとる力を身につける。		
講義方法	講義形式だが、「聞くだけ」ではなく、積極的な姿勢で受講してほしい。		
準備学習	テキストとプリントを復習する。		
成績評価	定期試験(50%)、授業中に行う小テスト(30%)、出席点・日常点(20%)によって評価する。		
講義構成	I 『古事記』の概説 1 『古事記』へのアプローチ 2 『古事記』の成立と文体		

	3 『古事記』の構成と主題 Ⅱ 『古事記』の講読 1 仁徳天皇① 2 仁徳天皇② 3 履中・反正天皇 4 允恭天皇 5 安康天皇 6 雄略天皇① 7 雄略天皇② 8 清寧天皇 9 顕宗・仁賢天皇 10 まとめ
教科書	特になし。プリントを配布する。 ただし『古事記』の本文は基本的に西宮 一民『古事記 修訂版』(おうふう 平成十二年)に拠る。
参考書・資料	適宜授業中に紹介する。
担当者から一言	『古事記』はすべて漢字で書かれていながら漢文ではないという難しさがあり、それゆえ独学ではなかなか読みづらいものがあるかと思います。この授業をきっかけに、『古事記』に親しみ、その難しさをおもしろさに変えてもらえればと願っています。 『古事記』は一つのストーリーがきちんと構成されており、登場人物も生き生きと描写されています。時代を超えて共通するところを「感じ」、古代的なところを「知り」ながら、ともに『古事記』の世界を楽しめるような授業にしたいと思います。

授業コード	11096		
授業科目名	書道		
担当者名	本間洋一(ホンマ ヨウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)

講義の内容	毛筆書道の基本を身につけよう。対象とする書体は、楷書・行書・草書・隸書・かな・の五書体です。
到達目標	楷・行・草・隸・仮名連綿といった書体の基本的な筆づかいを会得し、文字表現に生かすことができる。
講義方法	実質実習形態となります。担当者の作成した資料(実物大の手本も配布)に基づき、半紙に臨書作品を書いていただき、添削を経た上で清書して提出してもらいます。
準備学習	担当教員作成のプリント(初回講義時に配布)で授業の進度の説明を行うので、事前に練習するなど意欲を高めておくのが望ましい。
成績評価	毎回の出席が原則である。提出された作品により評価します。
講義構成	4月 楷書の基本「孔子廟堂碑」 5月 同上「九成宮」「雁塔聖教序」 6月 同上 顔真卿の書 7月 行書の基本「蘭亭序」 9月 同上 10月 草書の基本 11月 隸書の基本 12月～1月 かなの基本
教科書	担当者作成の資料を配布します(無料)。
担当者から一言	作品を毎回必ず提出してもらいます。これが評価の対象になりますので、出席する事が何より大切とお考え下さい。

授業コード	11009
授業科目名	卒業研究
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)、木股知史(キマタ サトシ)、中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)、都染直也(ツゾメ ナ

	オヤ)、田中雅史(タナカ マサシ)、田中貴子(タナカ タカコ)、廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)、塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	指導教員による。		

講義の内容	日本語日本文学科の学生としてそれぞれの指導教員の演習Ⅰ、演習Ⅱで学んできたことをもとに、各自のテーマに沿った内容で論文をまとめる。		
到達目標	甲南大学文学部日本語日本文学科は、次の4つの力を有する学生に学士号を授与すると定めている。 (1) 教養ある社会人として、社会貢献や社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、現代社会の発展に貢献できる学生 (2) 人間と文化に関する教養について基礎的な知識と常識を有する学生 (3) 日本語および日本文学に関して基本的な学識を修得している学生 (4) 社会生活をおくる上で必要な能力を有する学生。特に、他者とのコミュニケーションに際して自己の意見を分かりやすく相手に説明する意志と能力を有し、かつその手段を活用できる能力を有すること、並びに、事象を論理的に考察して問題を発見し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有すること 本「卒業研究」は、論文をまとめて本学科の卒業生として学士号を得て行くことを目指す科目である。よって、本「卒業研究」の到達目標も、上記の(1)～(4)の条件を十分満たすこと、と設定する。		
講義方法	指導教員の指示による。(講義科目ではない)		
準備学習	それぞれの指導教員の演習Ⅰ、演習Ⅱで培って来た研究方法に基づき、卒業研究論文をまとめることができるための学習を進めておくこと。		
成績評価	提出された論文を、主査(指導教員)と副査(学科内教員)の2名で査読し、2月に口頭試問をとりおこなう。そのうえで、「担当者名」欄に記されている教員全員によって審査し評価する。		
講義構成	自主的に年間の研究計画を立て、継続して研究を進める。 学生自身が具体的かつ独自の論点を準備し、積極的に指導教員の指導を受ける。指導教員は、その独自の論点の精度を上げるべく、指導する。 学生が所属するそれぞれのゼミによって、それぞれ特色ある学習・研究の態勢を取っている。 (講義科目ではない)		
教科書	指導教員の指示による。		
参考書・資料	適宜、指導する。		
講義関連事項	指導教員と適宜連絡を取るように。		

担当者から一言	大学4年間のすべての結晶である卒業研究を素晴らしいものとするために、努力を惜しまないでほしい。
---------	---

授業コード	11071		
授業科目名	対照言語学Ⅰ(後)		
担当者名	張 麟声(チョウ リンセイ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	この授業では、対照言語学を言語研究のための対照言語学と言語教育のための対照言語学の2種類に分け、それぞれの研究方法や研究の現状について講義する。		
到達目標	この授業を通して、対照言語学の概要を知り、その研究方法の基礎を身につける。		
講義方法	教員による講義、及びと学生の発表の両方で実施する。		
準備学習	授業中に指示する。		
成績評価	平素の学習状況、レポート等によって総合的に評価する。		
講義構成	1. 対照言語学と個別言語学 2. 対照言語学と比較言語学 3. 日本語をめぐる比較言語学的研究の歴史と現状 (1) 4. 日本語をめぐる比較言語学的研究の歴史と現状(2) 5. 二種類の対照言語学 6. 日本における対照言語学の流れ 7. 言語研究のための対照言語学的研究(1)主題マーカ―を例に<1> 8. 言語研究のための対照言語学的研究(2)主題マーカ―を例に<2> 9. 言語研究のための対照言語学的研究(3)同類を表す副助詞を例に 10.		

	言語研究のための対照言語学的研究(4)動詞の自他と使役の関係を例に 11. 言語教育のための対照言語学的研究(1)テンスとアスペクトを例に<1> 12. 言語教育のための対照言語学的研究(2)テンスとアスペクトを例に<2> 13. 言語研究のための対照言語学的研究(3)テンスとアスペクトを例に 14. 対照言語学の基本的手順 15. まとめ
教科書	プリントを使用する。
参考書・資料	張麟声著『日本語教育のための誤用分析——中国語話者の母語干渉20例』スリーエーネットワーク
講義関連事項	授業中に指示する。
担当者から一言	この授業を通して、常に目を世界に向けることに慣れよう。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。
URL	http://www.lc.osakafu-u.ac.jp/staff/zhang/lin_index.htm

授業コード	11072		
授業科目名	対照言語学II (前)		
担当者名	金 美善(キム ミソン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限

講義の内容	韓国語は日本語と統語構造が類似していることから日本語母語話者にとってもっとも学びやすい言語であるとされます。しかし、音韻構造や待遇表現など日本語との相違点が目立つ言語でもあります。この授業では、新聞記事、ドラマの台詞、コリアンポップの歌詞、学校教科書など様々な韓国語の文を日本語に訳しながら、両言語の構造的特徴について対照を行います。なお、文体や言い回しなどの面にも注目して両言語の類似点や相違点を具体的に触れていきます。
到達目標	他言語(朝鮮語)を通して日本語を客観的に観察する力を養っていきます。
講義方法	講義形式と演習形式を並行して行います(ただし、受講者の人数によって変更あり)。
準備学習	韓国語の基礎的知識(ハングルが読める程度でもよい)が必要です。
成績評価	出席状況、分担発表、レポートを総合して評価します。
講義構成	1回目 オリエンテーション(4回目～10回目の分析対象の設定) 2回目 対照言語学概論 1 3回目 対照言語学概論 2 4回目～10回目 日韓両言語の構造分析 11回目～13回目 分担発表 14回目 まとめ
教科書	プリントを配布します。
参考書・資料	韓日辞書

授業コード	11035		
授業科目名	中古文学研究(中古文学特殊講義)(前)		
担当者名	井上新子(イノウエ シンコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限

講義の内容	平安後期から末期にかけて制作されたと考えられる十編の短編物語と一断章とから成る『堤中納言物語』の所収各編をとりあげ、各物語の性格と平安後期物語の特質について考える。当該物語集に収められた各編は、機知や笑い、アイロニーなど、多様な性格を有している。本講義では、物語の表現の形成と詩歌の関わりの問題・物語の人物像の形成をめぐる問題・物語の読みの多様性といった問題をとりあげ、論じる。平安後期という史的
-------	--

	空間において、『源氏物語』という大きな遺産を継承し、各編がどのような独自の切り口によって新たな物語世界を拓いていったのか、その具体的様相をながめてみたい。なお、平安後期物語の特質を見つめることを核とするので、『狭衣物語』へも眼を向け、あわせて論じることとする。
到達目標	『堤中納言物語』所収各編の内容と特質を理解する。各自の関心に応じ、各編について調査・考察し、レポートをまとめる。
講義方法	一編につき、読解と作品論とをあわせた数回の講義を考えている。作品の性格の追究にあたっては、各編の特質をふまえ、回ごとにいくつかの視点を用意しながら、分析を試みる。抽出した特質については、『狭衣物語』との共通性も視野に入れ、文学史上での相対化をも目指したい。最終回には、十編に共通する性質について見通しを述べてみたい。基本的には講義形式であるが、時折受講者に質問をすることもある。
準備学習	教科書の予習、教科書・授業プリント類の復習。
成績評価	出席状況(15%)・授業の最後に出す小課題への取り組み(20%)・レポートの成績(65%)を勘案し、総合的に評価する。なお、レポート未提出の場合、「欠席」と評価する。
講義構成	第1回 『堤中納言物語』についての概説(成立・作者・編者・参考文献等) 第2回 「ほどほどの懸想」を読む(1) 本文読解・前 第3回 「ほどほどの懸想」を読む(2) 本文読解・後 第4回 「ほどほどの懸想」を読む(3) 物語の表現の形成と詩歌 第5回 「逢坂越えぬ権中納言」を読む(1) 本文読解・前 第6回 「逢坂越えぬ権中納言」を読む(2) 本文読解・後 第7回 「逢坂越えぬ権中納言」を読む(3) 男主人公と史的空間 第8回 「逢坂越えぬ権中納言」を読む(4) 薫・狭衣から鎌倉王朝物語の男君たちへ 第9回 「虫めづる姫君」を読む(1) 本文読解・前 第10回 「虫めづる姫君」を読む(2) 本文読解・中 第11回 「虫めづる姫君」を読む(3) 本文読解・後 第12回 「虫めづる姫君」を読む(4) 笑われる女の系譜・体制の中の異端者 第13回 「虫めづる姫君」を読む(5) かぐや姫の系譜・女の生への批評 第14回 『堤中納言物語』各編の特質 第15回 まとめ
教科書	池田利夫訳・注 笠間文庫『堤中納言物語』(笠間書院、1575円)
参考書・資料	適宜、講義の中で紹介する。
講義関連事項	受講の際、教科書持参は必須。分析の前提として、当該物語の理解が不可欠なので、なるべく当日扱う一編を前もって読んできて欲しい。
担当者から一言	『源氏物語』の達成を経て出現した後期物語の巧緻な世界を楽しみ、平安文化の広がりのおもしろさをながめてみたい。
その他	時間があれば、『堤中納言物語』や『狭衣物語』以外の物語における試みとの関連性についても、なるべく言及したい。

授業コード	11028		
授業科目名	中古文学講読I（前）		
担当者名	井上新子（イノウエ シンコ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	『源氏物語』夕霧巻(前半)を読む。当該巻は『源氏物語』第二部に位置し、鈴虫巻に続く巻である。夫・柏木に先立たれた朱雀院の皇女・落葉の宮に、故柏木の親友・夕霧が思いを寄せる。その恋の進展がもたらす様々な波紋が、詳細に語り取られた巻となっている。当該巻の前半部分を対象とする。平安時代の作品を解説する上での基礎知識を確認しつつ、本文を読みすすめる。何が話題として選択され、どこに焦点をあてて、いかに語られているのか、という点に留意しながら、物語本文を分析したい。登場人物の人物造型の考察、語りの有り様の分析、引用の分析等を通じて、精緻に構築された物語世界を鑑賞する。また、「国宝源氏物語絵巻」夕霧図が現存するので、当該図についても物語の展開に即してあわせて考察してみたい。
到達目標	(1) 平安時代の歴史的・文化的環境を理解しながら、物語の本文を読解する。 (2) 『源氏物語』の特質について、理解を深める。
講義方法	巻頭から、毎回数頁ずつ読みすすめる。本文を解釈し、いくつかの問題をとりあげながら、鑑賞を深めたい。基本的に講義形式であるが、時折受講者に質問をすることもある。

準備学習	教科書の予習、教科書・授業プリント類の復習。
成績評価	出席状況(15%)・毎回の授業の最後に出す小課題への取り組み(20%)・レポートの成績(65%)を勘案し、総合的に評価する。なお、レポート未提出の場合、「欠席」と評価する。
講義構成	第1回 『源氏物語』についての概説 成立・作者・物語文学史上の位置等の諸問題。参考書の紹介と、物語冒頭桐壺巻から夕霧巻にいたる直前までの物語の流れの解説とを行う。 第2回～第14回 教科書の輪読及び考察 夕霧巻巻頭から数頁ずつ本文を区切り、語釈及び解釈、これをもとにした解説を行いながら、読みすすめる。さらにその回の本文の内容に応じ、登場人物・語り・文化的及び歴史的背景・和歌の機能といった諸問題を取りあげ、考察したい。なお、対象とする範囲は、教科書160頁7行目までとする。また、「国宝源氏物語絵巻」の絵が現存する箇所については、これらもあわせて鑑賞する。 第15回 まとめ 夕霧巻(前半)をまとめ、『源氏物語』の特質の一端についても、言及したい。
教科書	阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男 校注・訳 古典セレクション『源氏物語』11(小学館、定価1680円)
参考書・資料	鈴木一雄監修・伊井春樹編集 国文学「解釈と鑑賞」別冊『源氏物語の鑑賞と基礎知識』夕霧(至文堂)。他は、適宜講義の中で紹介する。
講義関連事項	受講の際、教科書持参は必須。参考書は自由。

担当者から一言	『源氏物語』の緻密な表現の世界を堪能することを、第一の主眼としたい。
その他	時間があれば、他の王朝物語との影響関係についても言及したい。

授業コード	11029		
授業科目名	中古文学講読II（後）		
担当者名	井上新子（イノウエ シンコ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	『源氏物語』夕霧巻(後半)を読む。当該巻は『源氏物語』第二部に位置し、鈴虫巻に続く巻である。夫・柏木に先立たれた朱雀院の皇女・落葉の宮に、故柏木の親友・夕霧が思いを寄せる。その恋の進展がもたらす様々な波紋が、詳細に語り取られた巻となっている。当該巻の後半部分を対象とする。平安時代の作品を解説する上での基礎知識を確認しつつ、本文を読みすすめる。何が話題として選択され、どこに焦点をあてて、いかに語られているのか、という点に留意しながら、物語本文を分析したい。登場人物の人物造型の考察、語りの有り様の分析、引用の分析等を通じて、精緻に構築された物語世界を鑑賞する。
到達目標	(1) 平安時代の歴史的・文化的環境を理解しながら、物語の本文を読解する。 (2) 『源氏物語』の特質について、理解を深める。
講義方法	夕霧巻後半部分を読む。毎回数頁ずつ読みすすめる。本文を解釈し、いくつかの問題を取りあげながら、鑑賞を深めたい。基本的に講義形式であるが、時折受講者に質問をすることもある。
準備学習	教科書の予習、教科書・授業プリント類の復習。
成績評価	出席状況(15%)・毎回の授業の最後に出す小課題への取り組み(20%)・レポートの成績(65%)を勘案し、総合的に評価する。なお、レポート未提出の場合、「欠席」と評価する。
講義構成	第1回 『源氏物語』についての概説と夕霧巻前半部分の内容の紹介 成立・作者・物語文学史上の位置等の諸問題。参考書の紹介と、物語冒頭桐壺巻から夕霧巻後半部分にいたる直前までの物語の流れの解説とを行う。 第2回～第14回 教科書の輪読及び考察 夕霧巻後半部分(160頁8行目)から数頁ずつ本文を区切り、語釈及び解釈、これをもとにした解説を行いながら、読みすすめる。さらにその回の本文の内容に応じ、登場人物・語り・文化的及び歴史的背景・和歌の機能といった諸問題を取りあげ、考察したい。なお、対象とする範囲は、教科書160頁8行目から巻末までとする。 第15回 まとめ 夕霧巻(後半)をまとめ、『源氏物語』の特質の一端についても、言及したい。
教科書	阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男 校注・訳 古典セレクション『源氏物語』11(小学館、定価1680円)
参考書・資料	鈴木一雄監修・伊井春樹編集 国文学「解釈と鑑賞」別冊『源氏物語の鑑賞と基礎知識』夕霧(至文堂)。他は、適宜講義の中で紹介する。

講義関連事項	受講の際、教科書持参は必須。参考書は自由。
担当者から一言	『源氏物語』の緻密な表現の世界を堪能することを、第一の主眼としたい。
その他	時間があれば、他の王朝物語との影響関係についても言及したい。

授業コード	11036		
授業科目名	中世文学研究(中世文学特殊講義)(前)		
担当者名	佐藤愛弓(サトウ アユミ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	説話文学にはさまざまな研究方法がある。この授業では、説話作品をその研究方法とともに紹介し、それによってどのようなことが明らかになるのか解説する。
到達目標	授業で紹介した4つの研究手法を参考にして、それぞれが具体的に説話作品を分析し、期末レポートにまとめる。
講義方法	講義
準備学習	とくになし。
成績評価	期末レポート85%、平常点15% (但し全授業数の3分の1を欠席した場合は、期末レポートの提出を認めません)
講義構成	1 オリエンテーション 2 【研究方法その一】同話、類話と詳細に比較する。 3 『今昔物語集』の蟬丸説話 4 蟬丸説話の変遷 5 【研究方法その二】資料の性質から考える。 6 袈裟功德説話の構造 7 袈裟曼荼羅について 8 【研究方法その三】歴史資料に関連記事をさがす。 9 真夜中の殺害事件 10 被害者を調べる。 11 加害者を調べる。 12 事件の顛末 13 【研究方法その四】前後の話から考える。 14 空飛ぶ亀の話 15 亀の正体
教科書	授業中にプリントを配布します。

授業コード	11030		
授業科目名	中世文学講読I（前）		
担当者名	二本松泰子(ニホンマツ ヤスコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	中世は、貴族の社会が衰えを見せ始め、武士の台頭が始まる時代です。平清盛が率いた平家政権から源頼朝の率いる鎌倉幕府へと世の中が大きく変動します。その平家と源氏の戦いの顛末を描いたのが『平家物語』です。『平家物語』は、平家と源氏の戦いを中心に、平安末期から鎌倉初期にかけての武士や貴族たちの様子を描きます。それは、歴史的事実を記録しただけでなく、ときにはあえて史実を離れた叙述を選び、さまざまな説話を散りばめたりもします。そうして、歴史的事実(史実)だけでは描ききれない、社会の深層を紡ぎ出します。この授業では、『平家物語』の中から、「生田の森合戦」や「一の谷合戦」など神戸を舞台とする巻第9を扱います。軍記物語について、実感を伴った理解を目指してください。
到達目標	中世軍記物語の本質を理解し、作品の成立を支えた当時の社会や文化の実相を認識することができる。
講義方法	『平家物語』巻第9を1回の授業ごとに1章段ずつ取り上げ、その章段の背景や研究史、問題点、研究課題などを

	詳しく解説しながら、物語を読み進めます。 テキストの本文のほかにも、担当者が用意する資料や視聴覚教材を併用してゆきます。
準備学習	『平家物語』巻第9の内容について、簡単なあらすじを理解しておいてください。
成績評価	①授業実施回数の3分の2以上の出席。(50点) ②最終授業日に実施する試験。(50点) ※試験は授業内容に基づいた論述問題を出題します。授業を正しく理解していれば基準点に達することができるように設定します。 授業への積極的な取り組み(質疑応答、討議への積極的参加など)は臨時加点の対象として高く評価します。欠席や遅刻の過多、消極的姿勢(質疑に応じないなど)、不真面目な態度などは厳しく減点の対象とします。
講義構成	第1週目 『平家物語』の概説 第2週目 「三草合戦」 第3週目 「老馬」 第4週目 「一二之懸」 第5週目 「二度之懸」 第6週目 「坂落」 第7週目 「越中前司最期」 第8週目 「忠教最期」 第9週目 「重衡生捕」 第10週目 「敦盛最期」 第11週目 「知章最期」 第12週目 「落足」 第13週目 「小宰相身投」 第14週目 『平家物語』と神戸 第15週目 試験
教科書	『平家物語 下』(新日本古典文学大系45、梶原正昭・山下宏明校注、1993年10月、岩波書店)
参考書・資料	國文學一解釈と教材の研究 2002年10月号 學燈社 あなたが読む平家物語 有精堂出版 アエラ・ムックー平家物語がわかる。 朝日新聞社
担当者から一言	高等学校で学習する程度の古文単語、文語文法、日本文学史の知識は必要最低条件となります。「文学好き」や「読書好き」であることにとどまらない広い意識を望みます。
ホームページタイトル	鷹書研究会
URL	http://takasyoken.exblog.jp/

授業コード	11031		
授業科目名	中世文学講読II（後）		
担当者名	二本松泰子(ニホンマツ ヤスコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	中世は、貴族の社会が衰えを見せ始め、武士の台頭が始まる時代です。平清盛が率いた平家政権から源頼朝の率いる鎌倉幕府へと世の中が大きく変動します。その平家と源氏の戦いの顛末を描いたのが『平家物語』です。『平家物語』は、平家と源氏の戦いを中心に、平安末期から鎌倉初期にかけての武士や貴族たちの様子を描きます。それは、歴史的事実を記録しただけでなく、ときにはあえて史実を離れた叙述を選び、さまざまな説話を散りばめたりもします。そして、歴史的事実(史実)だけでは描ききれない、社会の深層を紡ぎ出します。この授業では、『平家物語』の中から、木曾義仲の活躍を描く巻第7を扱います。北陸路を突き進む木曾義仲。迎え討つ平家軍。北陸地方で繰り広げられた合戦を中心に、物語の叙述を支えた背景を考察します。時代の転換期を描こうとしたこの作品の意義と価値について学んでください。
到達目標	中世軍記物語の本質を理解し、作品の成立を支えた当時の社会や文化の実相を認識することができる。
講義方法	『平家物語』巻第7を1回の授業ごとに1章段ずつ取り上げ、その章段の背景や研究史、問題点、研究課題などを詳しく解説しながら、物語を読み進めます。 テキストの本文のほかにも、担当者が用意する資料や視聴覚教材を併用してゆきます。

準備学習	『平家物語』巻第7の内容について、簡単なあらすじを理解しておいてください。
成績評価	①授業実施回数の3分の2以上の出席。(50点) ②最終授業日に実施する試験。(50点) ※試験は授業内容に基づいた論述問題を出題します。授業を正しく理解していれば基準点に達することができるよう設定します。 授業への積極的な取り組み(質疑応答、討議への積極的参加など)は臨時加点の対象として高く評価します。欠席や遅刻の過多、消極的姿勢(質疑に応じないなど)、不真面目な態度などは厳しく減点の対象とします。
講義構成	第1週目 『平家物語』の概説 第2週目 「火打合戦」 第3週目 「願書」 第4週目 「倶利伽羅落」 第5週目 「篠原合戦」 第6週目 「真盛」 第7週目 「還亡」 第8週目 「主上都落」 第9週目 「維盛都落」 第10週目 「忠教都落」 第11週目 「経正都落」 第12週目 「一門都落」 第13週目 「福原落」 第14週目 平家一門と神戸 第15週目 試験
教科書	『平家物語 下』(新日本古典文学大系45、梶原正昭・山下宏明校注、1993年10月、岩波書店)
参考書・資料	国文学一解釈と教材の研究 2002年10月号 學燈社 あなたが読む平家物語 有精堂出版 アエラ・ムックー平家物語がわかる。 朝日新聞社

担当者から一言	高等学校で学習する程度の古文単語、文語文法、日本文学史の知識は必要最低条件となります。「文学好き」や「読書好き」であることにとどまらない広い意識を望みます。
ホームページタイトル	鷹書研究会
URL	http://takasyoken.exblog.jp/

授業コード	11057		
授業科目名	日本語音声学I(前)		
担当者名	郡 史郎(コオリ シロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限

講義の内容	音声を使わなければしゃべることはできない。そしてその使い方ひとつで様々なニュアンスや感情が表現できる。 この講義では、しゃべる道具としての音声のしくみとその効果的な使い方について解説する。これを知ることは日本語の研究や教育に欠かせない。 前期ではまず全体像を提示した後、子音と母音について解説する。
到達目標	・自分や他者の発音の特徴を分析し論評できる技能を身につけること。 ・じょうずなしゃべり方、わかりやすい話し方をするための基礎知識を得ること。 ・日本語学習者に適切なアドバイスを行えるための基礎知識を得ること。
講義方法	教科書にもとづいた講義を基本とするが、授業中に提示する音声の聞き取りや分析を受講者が行い(おおむね毎回)、それについて意見交換する。
準備学習	・日本語能力以外、特別な知識は前提としない。 ・日常生活で自分の発音や他人の発音に注意するよう心がけること。
成績評価	期末試験(5割)、2回(予定)の小テスト(2割)、出席および授業での課題への取り組み度(3割)
講義構成	以下の順序で行う予定であるが、スケジュールは状況により変更することがある。

	第1回 導入 第2回 五十音図とそのしくみ 第3回 話しことばと音 第4回 五十音図の限界(かなで書けない音・かなに表れない発音) 第5回 音と文字(かな)の関係 第6回 アクセント・イントネーション 第7-8回 もっといろいろな音(様々な言語音とその分類) 第9回 発音のしくみ(音声生理) 第10-12回 日本語の子音 第13回 日本語の母音 第14回 まとめ 第15回 テスト
教科書	「日本語教育能力検定に合格するための音声23」 アルク
参考書・資料	田中真一・窪蘭晴夫『日本語の発音教室—理論と練習』くろしお出版, 1999年 ISBN 978-4874241769

授業コード	11058		
授業科目名	日本語音声学Ⅱ(後)		
担当者名	郡 史郎(コオリ シロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限

講義の内容	音声を使わなければしゃべることはできない。そしてその使い方ひとつで様々なニュアンスや感情が表現できる。 この講義では、しゃべる道具としての音声のしくみとその効果的な使い方について解説する。これを知ることは日本語の研究や教育に欠かせない。 後期ではアクセント、イントネーション、リズムを主にとりあげるが、音声の理論的研究の手法や音声教育についても解説する。
到達目標	・自分や他者の発音の特徴を分析し論評できる技能を身につけること。 ・じょうずなしゃべり方、わかりやすい話し方をするための基礎知識を得ること。 ・日本語学習者に適切なアドバイスを行えるための基礎知識を得ること。
講義方法	教科書にもとづいた講義を基本とするが、授業中に提示する音声の聞き取りや分析を受講者が行い(おおむね毎回)、それについて意見交換する。
準備学習	・日本語能力以外、特別な知識は前提としない。 ・日常生活で自分の発音や他人の発音に注意するよう心がけること。
成績評価	期末試験(5割)、2回(予定)の小テスト(2割)、出席および授業での課題への取り組み度(3割)
講義構成	以下の順序で行う予定であるが、スケジュールは状況により変更することがありえる。 第1回 導入 第2-4回 イントネーション 第5回 音を目で見る 第6-9回 アクセント 第10回 音節とリズム 第11回 音韻論 第12-13回 音声教育・じょうずなしゃべり方 第14回 まとめ 第15回 テスト
教科書	「日本語教育能力検定に合格するための音声23」 アルク
参考書・資料	田中真一・窪蘭晴夫『日本語の発音教室—理論と練習』くろしお出版, 1999年 ISBN 978-4874241769

授業コード	11003
-------	-------

授業科目名	日本語学概論I (前)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	金曜日昼休み(都染研究室)		

講義の内容	この講義の目的は、多くの学生にとっての母語である日本語を客観的に観察し、そのしくみや働きに関する基礎知識を習得することである。 音声・音韻、文字・表記など日本語のしくみ(構造・体系)について概説し、各分野における問題点やそれらに対する諸説を通して、日本語学的な見方・考え方を紹介する。
到達目標	方言をはじめとする日常の言語生活における諸問題を、日本語がどのように機能しているのかという観点から分析的に考える習慣を身につけ、的確な日本語運用能力を高めるようにしたい。
講義方法	・教科書を使用して講義をすすめるので講義には必ず持参すること。 その他、関連資料は適宜配布する。 ・講義では、具体的な言語資料として、日常生活に密着したものを紹介してゆく。 ・確認テストを実施し、講義内容の理解度をみる。 ・小レポートを課し、専門分野の文献に触れる機会を設ける。
準備学習	毎回終了時に次回講義への準備課題を提示する。
成績評価	・出席確認は毎時間行なう。 ・小レポート・小テストの他に前期末筆記試験を実施する。 ・単位取得のためには、2/3以上の出席を必要とする。 ・3年次以上の再履修者は、1週目もしくは2週目のオフィスアワーに担当者の研究室へ来て個別ガイダンスを受けること。
講義構成	・講義概要説明、総論(1回) ・音声・音韻(7回) ・語彙(3回) ・意味(3回) 上記の講義回数は変更になる場合がある
教科書	『現代日本語学入門』 荻野綱男編 明治書院 ・過年度の教科書とは異なるので注意すること。 ・教科書は1回目の講義から使用するので、各自準備しておくこと。 ・後期(日本語学概論Ⅱ)も同じ教科書を使用する。
参考書・資料	参考書:講義中に紹介する。 資 料:随時プリント等を配布する。
講義関連事項	日本語教育に関心のある学生は「日本語教育概論」を併せて受講すること。

担当者から一言	・あらかじめ予定されている休講の場合、翌週(もしくは同じ週)の火曜日5時限に補講を行なう。 ・担当者の急病など、授業当日の朝に休講が決定した場合、休講掲示とともに課題を掲示するので、指示に従うこと。 ・3年次以上の再履修者は、1週目もしくは2週目のオフィスアワーに担当者の研究室へ来て個別ガイダンスを受けること。
その他	・担当者e-mailアドレス tsuzome@center.konan-u.ac.jp

授業コード	11004		
授業科目名	日本語学概論Ⅱ (後)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	金曜日昼休み(都染研究室)		

講義の内容	この講義の目的は、多くの学生にとっての母語である日本語を客観的に観察し、そのしくみや働きに関する基礎知識を習得することである。 音声・音韻、文字・表記など日本語のしくみ(構造・体系)について概説し、各分野における問題点やそれらに
-------	---

	対する諸説を通して、日本語学的な見方・考え方を紹介する。
到達目標	方言をはじめとする日常の言語生活における諸問題を、日本語がどのように機能しているのかという観点から分析的に考える習慣を身につけ、的確な日本語運用能力を高めるようにしたい。
講義方法	・教科書を使用して講義をすすめるので講義には必ず持参すること。 ・その他、関連資料は適宜配布する。 ・講義では、具体的な言語資料として、日常生活に密着したものを紹介してゆく。 ・確認テストを実施し、講義内容の理解度をみる。 ・小レポートを課し、専門分野の文献に触れる機会を設ける。
準備学習	毎回終了時に次回講義への準備課題を提示する。
成績評価	・出席確認は毎時間行なう。 ・小レポート・小テストの他に前期末筆記試験を実施する。 ・単位取得のためには、2/3以上の出席を必要とする。 ・3年次以上の再履修者は、1週目もしくは2週目のオフィスアワーに担当者の研究室へ来て個別ガイダンスを受けること。
講義構成	・方言と共通語(4回) ・社会言語学(1回) ・文字と表記(4回) ・敬語(2回) ・文法(3回) 上記の講義回数は変更になる場合がある
教科書	『現代日本語学入門』 荻野綱男編 明治書院 ・過年度の教科書とは異なるので注意すること。 ・教科書は1回目の講義から使用するので、各自準備しておくこと。 ・前期(日本語学概論Ⅰ)と同じ教科書を使用する。
参考書・資料	参考書: 講義中に紹介する。 資料: 随時プリント等を配布する。
講義関連事項	日本語教育に関心のある学生は「日本語教育概論」を併せて受講すること。
担当者から一言	・あらかじめ予定されている休講の場合、翌週(もしくは同じ週)の火曜日5時限に補講を行なう。 ・担当者の急病など、授業当日の朝に休講が決定した場合、休講掲示とともに課題を掲示するので、指示に従うこと。 ・3年次以上の再履修者は、1週目もしくは2週目のオフィスアワーに担当者の研究室へ来て個別ガイダンスを受けること。
その他	・担当者e-mailアドレス tsuzome@center.konan-u.ac.jp

授業コード	11065		
授業科目名	日本語学特殊講義I（後）		
担当者名	張 麟声(チョウ リンセイ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	この授業では日本語教育学の基礎的研究を学習者母語非限定の場合と限定の場合に分けて、それぞれのあるべき姿について考える。母語限定の場合に関しては、中国語を母語とする日本語学習者の中間言語に見られる母語のプラス及びマイナスの転移をとらえ、前者を生かし、後者を防ぐためのストラテジーを講義する。
到達目標	この授業を通して、日本語教育学的研究の一斑を知り、そのための基礎的な能力を身につける。
講義方法	教員による講義、及び、学生による発表。
準備学習	授業中に指示する。
成績評価	平素の学習状況、レポート等によって総合的に評価する。
講義構成	1. 日本語教育学の基礎的研究とは 2. 学習者母語非限定の場合の研究(1) 3. 学習者母語非限定の場合の研究(2) 4. 学習者母語非限定の場合の研究(3) 5. 学習者母語非限定の場合の研究(4) 6. 学習者母語非限定の場合の研究(5) 7. 学習者母語非限定の場合の研究(6) 8. 学習者母語非限定の場合の研究(7) 9. 学習者の母語を限定した場合の研究(1) 10. 学習者の母語を限定した場合の研究(2) 11. 学習者の母語を限定した場合の研究(3) 12. 学習者の母語を限定した場合の研究(4) 13. 学習者の母語を限定した場合の研究(5) 14. 学習者の母語を限定した場合の研究(6) 15. まとめ

教科書	張麟声著『中国語話者のための日本語教育研究入門』大阪公立大学共同出版会 張麟声著『日本語教育のための誤用分析——中国語話者の母語干渉20例』スリーエーネットワーク
参考書・資料	白畑知彦ほか著『英語習得の「常識」と「非常識」』大修館書店
講義関連事項	授業中に指示する。
担当者から一言	たとえ将来日本語教師にならなくても、周りに外国の方がたくさん生活している今日、その知識を少し知っておくことが必要であろう。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。
URL	http://www.lc.osakafu-u.ac.jp/staff/zhang/lin_index.htm

授業コード	11066		
授業科目名	日本語学特殊講義II（前）		
担当者名	金 美善(キム ミソン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	外国人の話す日本語を観察すると、母語と日本語との構造的な関係、世代と生活文化との関係、さらには日本の言語政策、(多)言語意識といったホスト社会との関係などさまざまな関係性をのぞくことができます。この授業では、「移民言語」に焦点を当て、日本語を母語としない人々の話す日本語について考えていきます。授業では、言語接触に関連した社会言語学の理論や具体的な言語資料を紹介しながら、日本語の多様性を読み取る方法について学んでいきます。
到達目標	日本語の多様性を、従来の地域方言、社会方言に加え、エスノレクト(ethnolect)の可能性を考えていきます。言語の多様性と規範との関係について、自分なりの考え方を持つことを目標とします。
講義方法	配布プリントを用いた講義形式になるが、参加者が実際にデータに触れ、その内容を分析し、意見交換を行う機会をもうけます。
準備学習	最近はやりの「多文化共生」について、その「具体的実態」を調べて、ことばの面でも考えておきましょう。
成績評価	出席状況やレポートを総合して評価します。
講義構成	1回目 オリエンテーション 2回目 移民と言語問題1 3回目 移民と言語問題2 4回目 在日外国人と言語問題1 5回目 在日外国人と言語問題2 6回目 在日コリアンの言語1 7回目 在日コリアンの言語2 8回目 在日コリアンの言語3 9回目 在日コリアンの言語4 10回目 日本語の多様性1 11回目 日本語の多様性2 12回目 総括、課題発表日 13回目 課題発表日 14回目 まとめ
教科書	講義中に提示します。 プリントを配布します。
参考書・資料	講義中に紹介します。

授業コード	11073
授業科目名	日本語教育概論I (前)
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	外国人に対する日本語教育についての概略を知る。日本語教育と国語教育との違いは何か、日本語教育の方法や教材としてどんなものが用いられているか、また、日本語教育のために知っておかなければならない文法とはどのようなものか、等について講義する。
到達目標	外国人に対する日本語教育についての概略を知る。
講義方法	テキストと配付資料に沿って講義する。
準備学習	日本語教育、異文化共生等をめぐるニュースに触れ、関心を高めること。
成績評価	学期末の試験70%、出席・提出物等の平常点30%の割合。毎回、出席票うらに質問、感想等のコメントを必ず書いてもらいます。
講義構成	テキストに沿って、以下の事柄について講義する。 (1)外国語としての日本語の教育 (2)教授法の背景 (3)授業の方法 (4)実際指導の具体例 (5)教授法の変遷
教科書	『教師用日本語教育ハンドブック7 教授法入門』(国際交流基金日本語国際センター)凡人社発行
参考書・資料	講義内で紹介します。
講義関連事項	日本語学、言語学に関する講義。

担当者から一言	外国人に対する日本語ボランティアに興味のある人は、ボランティア先を紹介しますので、積極的に取り組んでください。
その他	日本語を教える技術だけでなく、異文化コミュニケーションや異文化理解に対する興味も深めてください。

授業コード	11074		
授業科目名	日本語教育概論II(後)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	外国人に対する日本語教育についての概略を知る。本講義においては、特に、日本語教育における文法について考える。外国人に対して日本語を教える際には、日本語教育に合った文法を知っておく必要がある。その文法について学び、どうすれば外国人にとって分かりやすい説明が可能かを考える。
到達目標	日本語教育文法についての概略を知る。
講義方法	配布資料に沿って、日本語教科書での当該事項の扱いについても触れながら講義を進める。
準備学習	扱う文法項目についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
成績評価	学期末の試験70%、出席・提出物等の平常点30%。
講義構成	以下のテーマについて講義する。 (1)コ・ソ・ア (2)助詞の用法 (3)動詞の活用 (4)形容詞 (5)自動詞と他動詞 (6)アスペクト (7)受身 (8)使役 (9)モダリティ (10)目的節・理由節 (11)条件節 (12)連体修飾 (13)やりもらい (14)敬語
教科書	プリント資料を配付する。
参考書・資料	講義時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学、言語学に関する講義。

担当者から一言	外国人に対する日本語ボランティアに興味のある人は、ボランティア先を紹介しますので、申し出てください。
その他	日本語を教える技術だけでなく、異文化コミュニケーションや異文化理解に対する関心を高めてください。

授業コード	11075
-------	-------

授業科目名	日本語教育研究I (前)		
担当者名	原田登美(ハラダ トミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	月曜日5限。2号館7階の原田研究室(273)に来てください。または授業終了後に声をかけてください。できれば、予約を入れておいてくれると助かります。		

講義の内容	外国人に対する日本語教育について、日本語によるコミュニケーションとは何かをテーマに学習します。特に、多文化共生社会や異文化コミュニケーションの考え方から、日本語教育のための文法能力と社会言語的能力を中心に理論と実践の両方の側面から学びます。
到達目標	1. 多文化・多言語共生社会での日本語教育及び日本語教師の活動を理解すること 2. 外国語教育としての日本語文法の体系的な教え方を学ぶこと 3. 文献を読み理解し要点を把握して、他の人に伝え発表できること 4. 自分の意見を整理して他の人に説明し、発表できること
講義方法	講義とあわせて、グループ討論、発表、文献の購読などを行います。一方的に講義を行うのではなく、双方向授業の形式で行います。課題への主体的取り組み、授業への積極的参加、自己の意見の意欲的な説明と発表を期待します。
準備学習	1. 日本語教育、日本語教授法、日本語教育文法の基礎知識が必要なため、「日本語教育概論Ⅰ、Ⅱ」で学んだ、外国人に対する日本語教育の概略と外国人に対する日本語教育文法の基本を修得していることが前提です。未修得の学生は、『新・はじめての日本語教育Ⅰ』(アスク講談社)を読むようにしましょう。 2. My KONANIに、持参するべき資料や連絡事項を掲載しているので、毎回チェックしてから授業に参加するようにしましょう。
成績評価	出席30%のほかに提出物、発表、試験により総合的に評価します。
講義構成	以下のテーマを取り上げます。一つのテーマが複数回になることや、テーマの順序が入れ替わることがあります。 ・日本語教師の仕事と役割 ・多文化の中での日本語コミュニケーション ・異文化コミュニケーションと日本語教育 ・日本語文法と表現 ・日本語文法をどう教えるか ・日本語能力とは何か
教科書	特に指定はしません。必要に応じて資料を配布します。
参考書・資料	『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社刊、 『多文化共生のコミュニケーション—日本語教育の現場から』アルク 『日本語教師のための外国語教育学』風間書房 『欧米人が沈黙するとき—異文化間のコミュニケーション』大修館書店

授業コード	11076		
授業科目名	日本語教育研究II (後)		
担当者名	原田登美(ハラダ トミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	月曜日4限。2号館7階の原田研究室(273)に来てください。または授業終了後に声をかけてください。できれば、予約を入れておいてくれると助かります。		

講義の内容	外国人に対する日本語教育について、日本語の言語と文化、異文化コミュニケーションと異文化理解をテーマに学習します。特に、異文化コミュニケーションと異文化理解の考え方から、日本語教育のための文法・表現と日本語についての社会言語文化を中心に、理論と実践の両方の側面から学びます。
-------	--

到達目標	1. 多文化・多言語共生社会での日本語教育及び日本語教師の実践と活動を理解すること 2. 外国語教育としての日本語文法の体系的な教え方を学ぶこと 3. 文献を読み理解し要点を把握して、他の人に伝え発表できること 4. 自分の意見を整理して他の人に説明し、発表できること 5. 日本語教育に関連するテーマの一つを選び、授業でプレゼンテーションを行うこと
講義方法	講義とあわせて、グループ討論、発表、文献の購読などを行います。一方的に講義を行うのではなく、双方向授業の形式で行います。課題への主体的取り組み、授業への積極的参加、自己の意見の意欲的な説明と発表を期待します。
準備学習	1. 日本語教育の観点からの異文化コミュニケーション、異文化理解、多文化共生社会に対する基礎知識が必要のため、「日本語教育研究Ⅰ」で学んだ、外国人に対する日本語教育概略と日本語文法と表現の基本を修得していることが前提です。 未修得の学生は、『新・はじめての日本語教育1』、『はじめての日本語教育2』（アスク講談社）、『日本語教育学を学ぶ人のために』（世界思想社刊）、『多文化共生のコミュニケーション—日本語教育の現場から』アルク、を参考にしましょう。 2. My KONANIに、持参するべき資料や連絡事項を掲載しているので、毎回チェックしてから授業に参加するようにしましょう。
成績評価	出席30%のほかに提出物、発表、試験により総合的に評価します。
講義構成	以下のテーマを取り上げます。一つのテーマが複数回になることや、テーマの順序が入れ替わることがあります。 ・異文化コミュニケーションと日本語教育 ・日本語文法と表現 ・日本語文法をどう教えるか ・日本語文法と社会言語文化
教科書	特に指定はしません。必要に応じて資料を配布します。

授業コード	11079		
授業科目名	日本語教育特殊講義（前）		
担当者名	鈴木庸子（スズキ ヨウコ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限

講義の内容	日本語教育能力検定試験は、日本語教員として、日本語学校、公的機関等で働くための資格の一つですが、出題範囲が幅広く、効果的な対策が必要です。 本講義では、日本語教育能力試験の問題を解きながら、日本語教育の実践につながる体系的な基礎知識を確認していきます。 日本語教育のための文法、語彙、音声など言語一般の基礎知識と、言語と社会、言語と心理、第二言語習得、異文化理解などを出題傾向を考えながらまとめていきます。
到達目標	日本語教育学において、基礎的な知識を固め、実践に生かすために、どのように対応すればいいか考えることができる。 日本語教育能力試験を目指す人は、検定合格のための知識を確実なものにし、どの分野の勉強が必要か把握することができる。
講義方法	実際に試験問題を解きながら、配付プリントに沿って講義する。聴解問題は試験の出題傾向に慣れるため、音声CDを聞き、要点をまとめていく。
準備学習	日本語学習者は多様で、学習環境も様々です。日本語学習者、日本語教育に関する記事やニュースなどには目を通し、交流センターなどで日本語学習者と接するようにすること。
成績評価	学期末の試験80%、出席・授業態度などの平常点20%
講義構成	第1回 日本語教育能力試験の概要 第2回～第8回 試験Ⅰ（日本語の文法、語彙、言語学、言語教育法、異文化間教育、言語習得などの基礎的知識）、試験Ⅱ（音声）を解きながら、基礎を固める。 第9回～第15回試験Ⅲ（横断的な設問や現場対応能力）を解きながら、応用能力を高める。
教科書	『平成21年度 日本語教育能力検定試験 試験問題』財団法人 日本国際支援協会 凡人社
参考書・資料	講義内で紹介します。

授業コード	11077		
授業科目名	日本語教授法研究I (前)		
担当者名	長谷川重和(ハセガワ シゲカズ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	この講義は、日本語教員養成課程の一環として、日本語教育に携わる人が心得ておくべき基本的な知識の習得を目的とする。前期は、日本語文法の基本的事項について実例を通して理解を深め、どのように教えるかを考えていく。
到達目標	(1) 日本語文法の基礎を理解する (2) 日本語学習者が理解しやすい例文を作る能力を身につける (3) 具体的な場面・状況にを考え、初級教材を作成する
講義方法	講義形式ではなく、全員参加型の討論主体の授業。毎回のテーマについて各自が事前に調べ、授業で発表するというタスクを課す。タスクをこなしながら基本的知識を身につけるという手法で進める。
準備学習	日本語学や言語学などの基本的知識を修得していることが望ましい。
成績評価	出席(20%)、各テーマについてのミニ・レポート(30%)、プロジェクト・ワーク(20%)、学期末のレポート(30%)
講義構成	(1) 日本語のきまりと仕組み (2) 文の構成要素とその種類 (3) 述語の種類 (4) 「主語」「主題」「とりたて」 (5) 述語の活用 (6) テンス・アスペクト (7) ヴォイス(態)
教科書	国立国語研究所(編)寺村秀夫著『日本語の文法(上)』(日本語教育指導参考書4)国立印刷局 ISBN4-17-311404-4
担当者から一言	日本語を教えるためには日本語文法についてしっかり理解しておくことが大切です。さまざまな準備作業を通じて、実際の授業で役立つ実践的な技術を身につけ、日本語教育のための「実用文法」とは何かを考えていきたいと思います。

授業コード	11078		
授業科目名	日本語教授法研究II (後)		
担当者名	長谷川重和(ハセガワ シゲカズ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	この講義は日本語教員養成課程の一環として、日本語教育に携わる人が心得ておくべき基本的な知識の習得を目的とする。後期は中・上級の学習者にどのように教えるのかを中心課題とする。特に、複文について基本的な文型と実際にどう教えるかを考えていく。
到達目標	(1) 中級・上級の学習者のための文型を理解する (2) 学習者が理解しやすい例文を作る能力を身につける (3) 実際の場面・状況を考え、中上級教材を作成する
講義方法	講義形式ではなく、全員参加型の討論主体の授業。毎回のテーマについて各自が事前に調べ、授業で発表するというタスクを課す。タスクをこなしながら基本的知識を身につけるという手法で進める。
準備学習	日本語文法の基礎を修得していることが望ましい。
成績評価	出席(20%)、各テーマについてのミニ・レポート(30%)、プロジェクト・ワーク(20%)、学期末のレポート(30%)
講義構成	(1) 複文の類型 (2) 並列的接続

	(3)理由・原因 (4)時の特定 (5)条件表現 (6)連体修飾1 (7)連体修飾2
教科書	国立国語研究所(編)寺村秀夫著『日本語の文法(下)』(日本語教育指導参考書5)国立印刷局 ISBN4-17-311405-2

担当者から一言	中級・上級の学習者がより日本語らしい表現を身につけるためにはどんな工夫が必要でしょうか。学習者が実際の場面で用いることのできる、自然な日本語表現とは何かを考えていきたいと思います。
---------	--

授業コード	11L11		
授業科目名	日本語教授法実習I（1クラス）		
担当者名	原田登美（ハラダ トミ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	原田…火曜日14:40～16:10、その他必要に応じて電話や口頭で予約のうえ随時。		

講義の内容	優秀な日本語教員は、日本語の言語に関する体系的な知識を持っていると同時に、いかにして、学習者に日本語を早く正確に習得させるかの教授方法を身につけていかなければなりません。 この実習では、甲南大学における「日本語教員養成課程」での最終段階として教壇実習や交流活動を行ない、これまで学んだ体系的知識を実際教育でどう生かすかを実践してみます。
到達目標	・日本語教育文法や表現を、外国人を対象に共に学び教えることができること ・外国人を対象に、チューターや教師として実際に教える体験と能力を培うこと
講義方法	1)双方向授業の形式で行います。 2)受講者は、課題について、発表や報告をします。 3)教師と学生の役割を担って、模擬授業を行います。 4)留学生と交流を行い、意見を交換し、共同授業などを行います。 5)留学生を対象に教壇実習をします。 6)留学生や地域の外国人との交流活動を行い、企画や実施状況について話し合います。
準備学習	・日本語教育についての全般的知識を習得していることが前提です。「日本語教員養成課程」のコースで学習したことで、苦手だった分野は復習しておくこと。特に、日本語教育文法の基本的な知識は身に付けておくことが大切です。
成績評価	出席(20%)、教壇実習を行う、又は、交流活動を行いその報告書を提出する(40%)、試験(20%)、その他発表や提出物など(20%)
講義構成	1)実践に必要な知識や技術を習得するための授業。 2)各文法項目・レベル・テーマ別に課題に沿った発表や報告。 3)留学生や他の日本語教育機関との交流、授業見学、意見交換、共同授業を通じての異文化コミュニケーションと多文化への理解と実践。 4)甲南大学の留学生を対象に実際に教壇で教える実践活動。 5)留学生や地域の外国人との交流活動を企画し実際に行い、異文化や多文化への理解を深めて報告書にまとめる。
教科書	授業時に指定、随時プリント配布
参考書・資料	『新改定版日本語教授法』石田敏子著(大修館書店)、『日本語教授法』木村宗男他編(桜楓社)、『教授法マニュアル70例、上・下』富田隆行著(凡人社)
講義関連事項	「日本語教育研究」「日本語教授法概論」「日本語教授法研究Ⅰ、Ⅱ」新聞・日本語関係雑誌の日本語教育に関する記事

担当者から一言	この授業を通じて、異文化交流の難しさと同時に楽しさを体験することでしょう。互いに理解し合うために、どのように自己表現を工夫し、経験を積み重ねていったらよいか、学生同士が互いの発表や実習について、評価を交換しながら考えていきます。一年後の授業の成果が楽しみです。
その他	日本語教員養成課程、実習の科目を始めて履修する者は「日本語教授法実習Ⅰ」に登録すること

授業コード	11L12		
授業科目名	日本語教授法実習I (2クラス)(前・集中)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)、黄 淑燕(コウ シュクエン)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(集中講義)
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	これまで日本語、日本語教育に関する種々の科目から学んだことを基礎に、実際に日本語を教える場に立って、日本語教育の実践を経験する。
到達目標	日本語教材の作成、教室活動の研究を通して、外国人に日本語を教える上での実践的な力を養うのが目標である。
講義方法	(前期)テキストに沿って、教材作成や教室活動の実践について学ぶ。順に担当者を決めて、模擬授業を行う。(後期)台湾台中市の東海大学において、日本語クラスを編成し、台湾の学生を対象に日本語を教える実習を行う(夏期休暇中の9月上旬、一週間集中)。
準備学習	「日本語学概論」「日本語文法論」「日本語教育概論」等の履修によって、日本語や日本語教育に関する基礎的知識を習得しておくこと。
成績評価	教室での発表、実習への取り組み、実習態度等を総合的に評価する。
講義構成	(前期) 1. 学習者のニーズ分析 2. 教材研究 3. 教授法研究 4. 模擬授業 5. 台湾事情 (後期) 1. 実習の計画 2. 実習 3. 実習の反省 後期の実習は、台湾東海大学の学生とチームを組んで行う。前期から、インターネット上の掲示板、email等で台湾の学生と連絡を取り合いながら進める予定である。
教科書	『やさしい日本語指導8 教室活動』藤沢昌弘著(凡人社)
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	可能な場合は、日本語ボランティア等に積極的に関わってください。

担当者から一言	実習費用は、往復航空運賃、宿泊費を含めて8万円程度かかる見込み。そのほかに実習費を徴収する。日程、費用ともに正確には決定していないので、前期中の連絡に注意すること。
その他	本科目は通年科目であるが、後期分は夏期休暇中に集中して行うので、後期の通常時間帯での授業は行わない。

授業コード	11L21		
授業科目名	日本語教授法実習II (1クラス)		
担当者名	原田登美(ハラダ トミ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(火曜3限)
オフィスアワー	原田…火曜日14:40～16:10、その他必要に応じて電話や口頭で予約のうえ随時。		

講義の内容	優秀な日本語教員は、日本語の言語に関する体系的な知識を持っていると同時に、いかにして、学習者に日本語を早く正確に習得させるかの教授方法を身につけていかねばなりません。 この実習では、甲南大学における「日本語教員養成課程」での最終段階として教壇実習や交流活動を行ない、これまで学んだ体系的知識を実際教育でどう生かすかを実践してみます。
到達目標	・日本語教育文法や表現を、外国人を対象に共に学び教えることができること ・外国人を対象に、チューターや教師として実際に教える体験と能力を培うこと
講義方法	1) 双方向授業の形式で行います。 2) 受講者は、課題について、発表や報告をします。 3) 教師と学生の役割を担って、模擬授業を行います。 4) 留学生と交流を行い、意見を交換し、共同授業などを行います。 5) 留学生を対象に教壇実習をします。 6) 留学生や地域の外国人との交流活動を行い、企画や実施状況について話し合います。

準備学習	・日本語教育についての全般的知識を習得していることが前提です。「日本語教員養成課程」のコースで学習したことで、苦手だった分野は復習しておくこと。特に、日本語教育文法の基本的な知識は身に付けておくことが大切です。
成績評価	出席(20%)、教壇実習を行う、又は、交流活動を行いその報告書を提出する(40%)、試験(20%)、その他発表や提出物など(20%)
講義構成	1)実践に必要な知識や技術を習得するための授業。 2)各文法項目・レベル・テーマ別に課題に沿った発表や報告。 3)留学生や他の日本語教育機関との交流、授業見学、意見交換、共同授業を通じての異文化コミュニケーションと多文化への理解と実践。 4)甲南大学の留学生を対象に実際に教壇で教える実践活動。 5)留学生や地域の外国人との交流活動を企画し実際に行い、異文化や多文化への理解を深めて報告書にまとめる。
教科書	授業時に指定、随時プリント配布
参考書・資料	『新改定版日本語教授法』石田敏子著(大修館書店)、『日本語教授法』木村宗男他編(桜楓社)、『教授法マニュアル70例、上・下』富田隆行著(凡人社)
講義関連事項	「日本語教育研究」「日本語教授法概論」「日本語教授法研究Ⅰ、Ⅱ」新聞・日本語関係雑誌の日本語教育に関する記事
担当者から一言	この授業を通じて、異文化交流の難しさと同時に楽しさを体験することでしょう。互いに理解し合うために、どのように自己表現を工夫し、経験を積み重ねていったらよいか、学生同士が互いの発表や実習について、評価を交換しながら考えていきます。一年後の授業の成果が楽しみです。
その他	日本語教員養成課程、実習の科目を始めて履修する者は「日本語教授法実習Ⅰ」に登録すること

授業コード	11L22		
授業科目名	日本語教授法実習Ⅱ(2クラス)(前・集中)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)、黄 淑燕(コウ シュクエン)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(集中講義)
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	これまで日本語、日本語教育に関する種々の科目から学んだことを基礎に、実際に日本語を教える場に立つて、日本語教育の実践を経験する。日本語教材の作成、教室活動の研究を通して、外国人に日本語を教える上での実践的な力を養うのが目的である。
到達目標	日本語教授の基本的な方法について学ぶ。異文化に関する興味を深める。
講義方法	(前期)テキストに沿って、教材作成や教室活動の実践について学ぶ。順に担当者を決めて、模擬授業を行う。(後期)台湾台中市の東海大学において、日本語クラスを編成し、台湾の学生を対象に日本語を教える実習を行う(夏期休暇中の9月上旬、一週間集中)。
準備学習	模擬授業等の担当の準備をしておくこと。
成績評価	教室での発表、実習への取り組み、実習態度等を総合的に評価する。
講義構成	(前期) 1. 学習者のニーズ分析 2. 教材研究 3. 教授法研究 4. 模擬授業 5. 台湾事情 (後期) 1. 実習の計画 2. 実習 3. 実習の反省 後期の実習は、台湾東海大学の学生とチームを組んで行う。前期から、インターネット上の掲示板、email等で台湾の学生と連絡を取り合いながら進める予定である。
教科書	『やさしい日本語指導8 教室活動』藤沢昌弘著(凡人社)
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	可能な場合は、日本語ボランティア等に積極的に関わってください。

担当者から一言	実習費用は、往復航空運賃、宿泊費を含めて8万円程度かかる見込み。そのほかに実習費を徴収する。日程、費用ともに正確には決定していないので、前期中の連絡に注意すること。
その他	本科目は通年科目であるが、後期分は夏期休暇中に集中して行うので、後期の通常時間帯での授業は行わない。尚、「日本語教授法実習Ⅱ」は、すでに「日本語教授法実習Ⅰ」を履修した者が登録すること。未履修の場

	合は「日本語教授法実習Ⅰ」に登録すること。
--	-----------------------

授業コード	11059		
授業科目名	日本語語彙論Ⅰ(前)		
担当者名	橋本行洋(ハシモト ユキヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	【テーマ】日本語語彙の史的研究(Ⅰ) 日本語の語彙について史的(通時的)観点から考察を行う。		
到達目標	日本語の語彙およびその研究に関する基礎知識を習得するとともに、具体的な考察を通して、語彙史研究の実際についての理解を深めることを目的とする。		
講義方法	対面講義		
準備学習	講義においては、既に明らかな事実を示すとともに、現在担当者が構築中の論をも提示することがある。その点を踏まえ、受講者は講義担当者和同様の問題意識を持つことを心がけてほしい。		
成績評価	定期試験(筆記)による評価		
講義構成	1 「語」と「語彙」 2 語種について 3 語義変化と語形変化 4 語彙体系とその変化 5 語の派生・語構成について 6 類推と異分析 7 語彙史研究の立場から見た「く抜きことば」と「くれ足すことば」 8 「く入れことば」の成立をめぐって		
教科書	教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。		
参考書・資料	講義中に適宜紹介する。		
担当者から一言	試験に際しては講義ノート(自筆)が最も重要な資料となる。 また、講義内容は通年を考えているので、できるだけ「日本語語彙論Ⅱ(後)」とともに受講することが望ましい。		

授業コード	11060		
授業科目名	日本語語彙論Ⅱ(後)		
担当者名	橋本行洋(ハシモト ユキヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	【テーマ】日本語語彙の史的研究(Ⅱ) 日本語の語彙について史的(通時的)観点から考察を行う。		
到達目標	日本語の語彙およびその研究に関する基礎知識を習得するとともに、具体的な考察を通して、語彙史研究の実際についての理解を深めることを目的とする。		
講義方法	対面講義		
準備学習	講義においては、既に明らかな事実を示すとともに、現在担当者が構築中の論をも提示することがある。その点を踏まえ、受講者は講義担当者和同様の問題意識を持つことを心がけてほしい。		
成績評価	定期試験(筆記)による評価		
講義構成	1 語彙史研究概説 2 食事語彙(三食の呼称)とその変遷 3 「く入れことば」の成立と展開 4 近世近代における漢語副詞語彙の受容と展開:「全然」「断然」および「俄然」等		
教科書	教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。		

参考書・資料	講義中に適宜紹介する。
担当者から一言	試験に際しては講義ノート(自筆)が最も重要な資料となる。 また、講義内容は通年を考えているので、できるだけ「国語学特殊講義(一)a」とともに受講することが望ましい。

授業コード	11022		
授業科目名	日本語史I(前)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	火曜日4時間目・水曜2時間目、その他適宜。なるべく前もって連絡すること		

講義の内容	上代日本語の形成から中世までを中心に、日本語史の基本的な事項について講義します。
到達目標	日本語学の素養を身につけ、古典をはじめとする言語資料の読みをより確かなものとする。
講義方法	テキストおよび配布プリントによる講義。 授業中にしばしば配布資料による少時間の言葉調べの作業を課します。 これは、具体的に資料を調べることによって、 帰納法という思考の方法を会得することが目的です。
準備学習	教科書による予習。 前回の講義箇所の復習を行い、 プリントやテキストの記述に目を通しておく。 質問事項がないか、自分自身で考えてみる。
成績評価	定期試験を主として、出席状況などを勘案して総合的に評価します。 多すぎる欠席は大きな減点の対象となります。
講義構成	1. 上代語の資料と言語 ・表記 ・音韻 ・語彙 ・文法 2. 中古語の資料と言語 ・表記 ・音韻 ・語彙 ・文法 3. 中世語の資料と言語 ・表記 ・音韻 ・語彙 ・文法 (中世は古代語から近代語への転換点であるので、後期にも継続します)
教科書	金田弘・宮腰賢『新訂国語史要説』大日本図書
参考書・資料	授業中に示します。
講義関連事項	日本語学、日本文学、言語学など

担当者から一言	ただの暗記でなく、相互関連や変化の理由など考えましょう。
---------	------------------------------

授業コード	11023		
授業科目名	日本語史Ⅱ(後)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜日3限・5限		
講義の内容	近世・近代・現代の日本語を中心に講義します。現代語を認識する参考になります。		
到達目標	各種の日本語文献を読む際に、日本語学の素養を生かす。		
講義方法	テキストおよび配布プリントによる講義。 授業中にしばしば配布資料による言葉調べの作業を課します講義。		
準備学習	前回の講義箇所の復習を行い、 プリントやテキストの記述に目を通しておく。 質問事項がないか、自分自身で考えてみる。		
成績評価	定期試験、出席、提出物の状況などで総合評価します。		
講義構成	中世は古典語から近代語への大きな転換点であるので、そこを復習、追加学習した上で次の時代へ移る。 1. 近世語の資料と言語 ・表記 ・音韻 ・語彙 ・文法 2. 近代の資料と言語 3. 現代の資料と言語 近代、現代については、日本語学概論をはじめ、語彙、文法など他に関連する講義科目も多い。全体の進行状況によっては、プリントを配布した上で、各自の学習や考察にゆだねることもある。		
教科書	金田弘・宮腰賢『新訂国語史要説』大日本図書		
参考書・資料	授業中に示します。		
講義関連事項	日本語学、日本文学、言語学など		
担当者から一言	暗記だけでなく、資料にもとづいて考えましょう。		

授業コード	11091		
授業科目名	日本語表現研究II(後)		
担当者名	安井寿枝(ヤスイ カズエ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
講義の内容	日本語の表現を研究するために養ってきた基礎知識を応用して、文学作品の表現を日本語学の観点から分析・考察することを目的に講義を行います。作品は、阪神間を舞台とした谷崎潤一郎の『細雪』を対象とします。表現研究の方法を実際に体験してみてください。		
到達目標	実際の表現研究を体験し、その他の作品においても、その研究方法を応用できるようにすることが本講義の目標です。		
講義方法	まずは『細雪』の表現について、その使用を確認する課題を毎時間行ってもらいます。その後、それを元に『細雪』の表現研究を講義形式で行います。少人数の場合は参加型の講義になりますので、その心づもりでいてください。		
準備学習	『細雪』を読んでおいてください。		
成績評価	学期末試験60%＋課題30%＋自主学習10% 詳細は初回講義にて説明します。		
講義構成	1 『細雪』について 2 方言 3 視点 4 命名 5 自称詞 6 対照詞		

	7 文末 8 感動詞 9 待遇表現① 10 待遇表現② 11 文の長さ 12 漢字 13 句読点 14 記号 15 その他作品の表現研究
教科書	プリント(A4またはA3)を使用します。
参考書・資料	谷崎潤一郎『細雪(上)』の文庫本を用意しておいてください。

授業コード	11K11		
授業科目名	日本語表現法I (A)(前)		
担当者名	佐々木聖佳(ササキ ミカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	日本語日本文学科1年次		

講義の内容	これからの社会では、情報を分析し、問題を発見し、他者とコミュニケーションをとりながら問題解決をはかる能力と、その内容を正しく表現できる文章力が必要になってきます。この講義では、日本語による様々な文章表現について、個人で、グループで、クラスで分析し、話し合い、そして考えて、文章を書き上げていきます。授業を通じて、表現することが楽しいと思えるような、そんな「自分の表現」を発見していきましょう。
到達目標	基礎的な文章作成能力を確実に身につけ、論理的な思考力とコミュニケーション力を培い、多様な表現活動を実践していくことを到達目標としています。
講義方法	演習が中心になります。文章作成の基礎的な事項についてはプリントを配布して講じます。また、グループ単位、クラス単位で、課題解決学習、討議、発表を行うことがしばしばあります。
準備学習	日頃から、本、新聞、メディア、映画、漫画など様々な表現に関心を持ち、積極的にふれるようにしてください。
成績評価	出席、提出課題(半期4回以上)とレポート、授業への参加度によって評価します。グループ活動やディスカッションなど授業に積極的に参加し、課題を確実に提出して下さい。皆出席であっても課題が出されていなければ評価しません。
講義構成	1 講義内容についてのガイダンス 2 文章表現の基礎 書く技術 題材の選択—主観と客観 ブレーンストーミングという手法 3 作文を書く 原稿用紙の使い方 構想をたてて作文を書く 推敲をする 4 手紙文を書く 手紙の様式 手紙の用語と慣用表現 形式を整えて手紙を書く 5 オリジナル辞書を作る 辞書の文章表現の分析 グループでオリジナル辞書を作成する
教科書	教科書は用いず、プリントを配布します。プリントを整理できるように、ファイルを用意してください。
参考書・資料	『文章表現ハンドブック』 伊坂祐次他編、笠間書院 1500円 『国語表現法』 丸山顕徳編 佐々木聖佳他著、嵯峨野書院 1700円など (随時、講義の中で紹介していきますので、あらかじめ購入しておく必要はありません。)

担当者から一言	自分の考えや思いを人に伝え、理解してもらうことは、本来楽しいことです。課題は多いですが、楽しんで取り組んでもらえたらと思います。面白くて、役に立つ、そして皆さんを刺激することのできる教材を考えていきます。
---------	--

授業コード	11K12		
授業科目名	日本語表現法I (B)(前)		
担当者名	佐々木聖佳(ササキ ミカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	日本語日本文学科1年次以外		

講義の内容	これからの社会では、情報を分析し、問題を発見し、他者とコミュニケーションをとりながら問題解決をはかる能力と、その内容を正しく表現できる文章力が必要になってきます。この講義では、日本語による様々な文章表現について、個人で、グループで、クラスで分析し、話し合い、そして考えて、文章を書き上げていきます。授業を通じて、表現することが楽しいと思えるような、そんな「自分の表現」を発見していきましょう。
到達目標	基礎的な文章作成能力を確実に身につけ、論理的な思考力とコミュニケーション力を培い、多様な表現活動を実践していくことを到達目標としています。
講義方法	演習が中心になります。文章作成の基礎的な事項についてはプリントを配布して講じます。また、グループ単位、クラス単位で、課題解決学習、討議、発表を行うことがしばしばあります。
準備学習	日頃から、本、新聞、メディア、映画、漫画など様々な表現に関心を持ち、積極的にふれるようにしてください。
成績評価	出席、提出課題(4回以上)とレポート、授業への参加度によって評価します。グループ活動やディスカッションなど授業に積極的に参加し、課題を確実に提出して下さい。皆出席であっても課題が出されていない場合は評価しません。
講義構成	1 講義内容についてのガイダンス 2 文章表現の基礎 書く技術 題材の選択—主観と客観 ブレーンストーミングという手法 3 作文を書く 原稿用紙の使い方 構想をたてて作文を書く 推敲をする 4 手紙文を書く 手紙の様式 手紙の用語と慣用表現 形式を整えて手紙を書く 5 オリジナル辞書を作る 辞書の文章表現の分析 グループでオリジナル辞書を作成する
教科書	教科書は用いず、プリントを配布します。プリントを整理できるように、ファイルを用意してください。
参考書・資料	『文章表現ハンドブック』伊坂祐次他編、笠間書院 1500円 『国語表現法』丸山顕徳編 佐々木聖佳他著、嵯峨野書院 1700円など (随時、講義の中で紹介していきますので、あらかじめ購入しておく必要はありません。)
担当者から一言	自分の考えや思いを人に伝え、理解してもらうことは、本来快いことです。課題に楽しんで取り組んでもらえたらと思います。面白くて、役に立つ、そして皆さんを刺激することのできる教材を考えていきます。様々な学部、学年の人の集う少人数のクラスですので、一人一人にあった指導をしています。

授業コード	11K21		
授業科目名	日本語表現法II (A)(後)		
担当者名	佐々木聖佳(ササキ ミカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	日本語日本文学科1年次		

講義の内容	日本語表現法Ⅱでは、日本語表現法Ⅰで培ってきた、文章表現に関する基礎的な知識と基本的な文章作成力に立脚して、論説文・意見文の作成、ディベート、創作などの課題に取り組む中で、論理的な思考力を培い、現実の切り取り方を学び、より高度な自己表現能力の鍛錬を目指します。授業を通じて、表現することが楽しいと思えるような、そんな「自分の表現」を発見していきましょう。
到達目標	基礎的な文章表現能力を確実に身につけ、論理的な思考力とコミュニケーション力を培い、多様な表現活動を実践していくことを到達目標としています。
講義方法	演習が中心になります。文章作成の基礎的な事項についてはプリントを配布して講じます。また、グループ単位、クラス単位で、課題解決学習、討議、発表を行うことがしばしばあります。
準備学習	日頃から、本、新聞、メディア、映画、漫画など様々な表現に関心を持ち、積極的にふれるようにしてください。
成績評価	出席、レポート、提出課題(4回以上)と授業への参加度によって評価します。グループ活動やディスカッションなど授業に積極的に参加し、課題を確実に提出して下さい。皆出席であっても課題が出されていなければ評価しません。
講義構成	1 履歴書とエントリーシートの書き方 就職活動に備えて 2 論説文を書く 論説文とは何か 論説文の用語と構成 論説文を書く 3 ディベートを楽しもう グループの作戦会議 ディベートをする 4 意見文を作成する 5 創作 表現の現場から
教科書	教科書は用いず、プリントを配布します。プリントを整理できるように、ファイルを用意してください。
参考書・資料	『文章表現ハンドブック』伊坂祐次他編、笠間書院 1500円 『国語表現法』丸山顕徳編 佐々木聖佳他著、嵯峨野書院 1700円 『論文ワークブック』浜田麻里他著 くろしお出版 2500円 (その他、随時、講義の中で紹介していきますのであらかじめ購入する必要はありません。)
担当者から一言	日本語表現法Ⅰの受講を前提に講義を進めます。授業の中で、同世代の人たちの思いや考えを知り、自分一人では思い及ばないような様々な表現方法にふれることは、自分自身の考えを鍛え、表現を考える、貴重な機会になります。積極的に授業に参加し、自分自身の考えを発信していきましょう。

授業コード	11K22		
授業科目名	日本語表現法Ⅱ（B）(後)		
担当者名	佐々木聖佳(ササキ ミカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	日本語日本文学科1年次以外		

講義の内容	日本語表現法Ⅱでは、日本語表現法Ⅰで培ってきた、文章表現に関する基礎的な知識と基本的な文章作成力に立脚して、論説文・意見文の作成、ディベート、創作などの課題に取り組む中で、論理的な思考力を培い、現実の切り取り方を学び、より高度な自己表現能力の鍛錬を目指します。授業を通じて、表現することが楽しいと思えるような、そんな「自分の表現」を発見していきましょう。
到達目標	基礎的な文章表現能力を確実に身につけ、論理的な思考力とコミュニケーション力を培い、多様な表現活動を実践していくことを到達目標としています。
講義方法	演習が中心になります。文章作成の基礎的な事項についてはプリントを配布して講じます。また、グループ単位、クラス単位で、課題解決学習、討議、発表を行うことがしばしばあります。
準備学習	日頃から、本、新聞、メディア、映画、漫画など様々な表現に関心を持ち、積極的にふれるようにしてください。
成績評価	出席、レポート、提出課題(4回以上)と授業への参加度によって評価します。グループ活動やディスカッションなど授業に積極的に参加し、課題を確実に提出して下さい。皆出席であっても課題が出されていなければ評価しません。

講義構成	1 履歴書とエントリーシートの書き方 就職活動に備えて 2 論説文を書く 論説文とは何か 論説文の用語と構成 論説文を書く 3 ディベートを楽しもう グループの作戦会議 ディベートをする 4 意見文を作成する 5 創作 表現の現場から
教科書	教科書は用いず、プリントを配布します。プリントを整理できるように、ファイルを用意してください。
参考書・資料	『文章表現ハンドブック』 伊坂祐次他編、笠間書院 1500円 『国語表現法』 丸山顕徳編 佐々木聖佳他著、嵯峨野書院 1700円 『論文ワークブック』 浜田麻里他著 くろしお出版 2500円 (その他、随時、講義の中で紹介していきますのであらかじめ購入する必要はありません。)
担当者から一言	日本語表現法Ⅰの受講を前提に講義を進めます。授業の中で、同世代の人たちの思いや考えを知り、自分一人では思い及ばないような様々な表現方法にふれることは、自分自身の考えを鍛え、表現を考える、貴重な機会になります。積極的に授業に参加し、自分自身の考えを発信していきましょう。

授業コード	11013		
授業科目名	日本語表現論		
担当者名	佐々木聖佳(ササキ ミカ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜2限)、後期(木曜2限)

講義の内容	これからの社会では、情報を分析し、問題を発見し、他者とコミュニケーションをとりながら問題解決をはかる能力と、その内容を正しく表現できる文章力が必要になってきます。この講義では、日本語による様々な文章表現について、個人で、グループで、クラスで分析し、話し合い、そして考えて、文章を書き上げていきます。一年間の授業を通じて、表現することが楽しいと思えるような、そんな「自分の表現」を発見してください。
到達目標	基礎的な文章作成能力を確実に身につけ、論理的な思考力とコミュニケーション力を培い、多様な表現活動を実践していくことを到達目標としています。
講義方法	演習が中心になります。文章作成の基礎的な事項についてはプリントを配布して講じます。また、グループ単位、クラス単位で、課題解決学習、討議、発表を行うことがしばしばあります。
準備学習	日頃から、本、新聞、メディア、映画、漫画など様々な表現に関心を持ち、積極的にふれるようにしてください。
成績評価	出席、提出課題(年間8回以上)とレポート、授業への参加度によって総合的に評価します。グループ活動やディスカッションなど授業に積極的に参加し、課題を確実に提出して下さい。皆出席であっても課題が出されていない場合は評価しません。
講義構成	(前期) 1 講義内容についてのガイダンス 2 文章表現の基礎 書く技術 題材の選択—主観と客観 ブレーンストーミングという手法 3 作文を書く 原稿用紙の使い方 構想をたてて作文を書く 推敲をする 4 手紙文を書く 手紙の書き方 手紙の用語と慣用表現 形式を整えて手紙を書く 5 オリジナル辞書を作る 辞書の文章表現の分析

	グループでオリジナル辞書を作成する (後期) 6 履歴書とエントリーシートの書き方 就職活動に備えて 7 論説文を書く 論説文とは何か 論説文の用語と構成 論説文を書く 8 ディベートを楽しもう グループの作戦会議 ディベートをする 9 意見文を作成する 10 創作 表現の現場から
教科書	教科書は用いず、プリントを配布します。プリントを整理できるように、ファイルを用意してください。
参考書・資料	『文章表現ハンドブック』伊坂祐次他編、笠間書院 1500円 『国語表現法』丸山顕徳編 佐々木聖佳他著、嵯峨野書院 1700円など (随時、講義の中で紹介していきますので、あらかじめ購入する必要はありません。)
担当者から一言	自分の考えや思いを人に伝え、理解してもらうことは、本来楽しいことです。課題に楽しんで取り組んでもらえたらと思います。面白くて、役に立つ、そして、皆さんを刺激することのできる教材を考えていきます。様々な学部、学年の人の集う少人数のクラスですので、一人一人にあった指導をしています。

授業コード	11024		
授業科目名	日本語文法論I（前）		
担当者名	益岡隆志（マスオカ タカシ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	オフィスアワーの代わりに、授業内容に関する質問はeメール（masuoka@gold.ocn.ne.jp）で受け付けます。		

講義の内容	私たちの母語である現代日本語(共通語)の文法がどのような仕組み(構造)になっているのかということについて、具体的な表現を観察しながら考えていきます。日本語を日常、何不自由なく使用できるということと、日本語の文法の仕組み(構造)を認識するということが、いかに異なることなのかを深く理解することが、この講義の目的です。
到達目標	日本語を知らない人に日本語の文法の仕組みについて具体的に説明ができるようになること。
講義方法	教科書をもとにして適宜、質問するなどして、母語の文法に対する理解が深まるよう、また、文法を体系的に見る目を養うよう工夫します。
準備学習	日本語についての初歩的・入門的な本(日本語概説・日本語概論など)を予め読んでおくことを望みます。教科書『24週日本語文法ツアー』を予習・復習のために読んでください。
成績評価	出席状況とレポート(計2回)を総合して評価します。
講義構成	教科書を基本にして、それに多少の話題を付け加える予定です。一つの課を一回で講義するというのが基本的なペースです。教科書の11週までの部分を取り上げます。 第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 教科書1週から11週(他に、教科書以外の題材を追加する) 第15回 まとめ
教科書	益岡隆志著『24週日本語文法ツアー』くろしお出版
参考書・資料	益岡隆志・田窪行則著『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版
講義関連事項	日本語学・言語学に関わる各科目

担当者から一言	日常無意識に使用している母語の仕組み(構造)を考えるには、意識的なトレーニングが必要です。身近な言葉のなかの隠れた規則性を発見する楽しみを実感してほしいと思います。
ホームページタイトル	益岡隆志のホームページ
URL	http://www2.ocn.ne.jp/~masuoka/

授業コード	11025		
授業科目名	日本語文法論Ⅱ(後)		
担当者名	益岡隆志(マスオカ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	オフィスアワーの代わりに、授業内容に関する質問はeメール(masuoka@gold.ocn.ne.jp)で受付けます。		

講義の内容	私たちの母語である現代日本語(共通語)の文法がどのような仕組み(構造)になっているのかということについて、具体的な表現を観察しながら考えていきます。日本語を日常、何不自由なく使用できるということと、日本語の文法の仕組み(構造)を認識するというのが、いかに異なることなのかを深く理解することが、この講義の目的です。
到達目標	日本語を知らない人に日本語の文法の仕組みについて具体的に説明ができるようになること。
講義方法	教科書をもとにして適宜、質問するなどして、母語の文法に対する理解が深まるよう、また、文法を体系的に見る目を養うよう工夫します。
準備学習	日本語についての初歩的・入門的な本(日本語概説・日本語概論など)を予め読んでおくことを望みます。教科書『24週日本語文法ツアー』を予習・復習のために読んでください。
成績評価	出席状況とレポート(計2回)を総合して評価します。
講義構成	教科書を基本にして、それに多少の話題を付け加える予定です。一つの課を一回で講義するというのが基本的なペースです。教科書の12週から24週までの部分を取り上げます。 第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 教科書12週から24週(他に、教科書以外の題材を追加する) 第15回 まとめ
教科書	益岡隆志著『24週日本語文法ツアー』くろしお出版
参考書・資料	益岡隆志・田窪行則著『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版
講義関連事項	日本語学・言語学に関わる各科目

担当者から一言	日常無意識に使用している母語の仕組み(構造)を考えるには、意識的なトレーニングが必要です。身近な言葉のなかの隠れた規則性を発見する楽しみを実感してほしいと思います。
ホームページタイトル	益岡隆志のホームページ
URL	http://www2.ocn.ne.jp/~masuoka/

授業コード	11090		
授業科目名	日本語表現研究Ⅰ(日本語の表現)(前)		
担当者名	安井寿枝(ヤスイ カズエ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	私たちはどのような話し方をするか、または書き方をするかを、人間関係・媒体・目的などの条件から場面に応じて反射的に選択して日常生活を送っています。この授業ではそれらがなぜ選択されたのかを意識することで、日本語の表現に注目し、さらにそれに必要な知識を学んでいきます。自らが使用する表現を、研究することに慣れていきましょう。
到達目標	自ら考える力ことを第一の目標とします。そして、自ら考えることにより、基礎知識を確実なものにしましょう。
講義方法	提示したテーマにそった課題を初めに行ってもらい、それに準じた講義を行います。講義後、さらに深めた分析・考察してもらいます。
準備学習	日常の中から表現についての疑問点を探し、なぜそのような表現をするのか考える習慣をつけましょう。
成績評価	学期末試験60%+課題30%+自主学習10% 詳細は初回講義にて説明します。
講義構成	1 校正

	2 メールのことば 3 歌詞 4 短歌 5 オノマトペ 6 位相語・役割語 7 語種 8 文体 9 源氏物語記 10 品詞 11 話し言葉と書き言葉 12 文章構成 13 文末 14 描写と説明 15 日常の疑問を考える
教科書	プリント(A4またはA3)を使用します。
参考書・資料	多門靖容・半沢幹一編(2005)『ケーススタディ 日本語の表現』おうふう

授業コード	11080		
授業科目名	日本事情（前）		
担当者名	野口雅司（ノグチ マサシ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	日本の大学に入学を希望する外国人日本語学習者に要求される、日本に関する知識及び一般教養的な知識を提示し、それらを踏まえた上で日本語教師として必要とされる知識について学習する。
到達目標	日本人として、また日本教師として、日本、世界に関する一般的な知識および教養を身につける。
講義方法	① 日本の大学への進学を希望する外国人が受験する日本留学試験の一つである「総合科目」の問題等を受講者とともに解いていく。 ② 日本語学習者が持つ疑問を具体的に提示し、その回答を受講者とともに考える。
準備学習	講義は一部発表形式とするので、事前に与えられた課題について各自調べておくこと。
成績評価	1 平常点(出席率・講義参加度):50% 2 発表:25% 3 学期末テスト:25% * 学期末テストだけの単位取得は困難である。
講義構成	1:「総合科目」(「日本留学試験」)及び「異文化コミュニケーション」・「日本事情」(「日本語教育能力検定試験」)に関する問題を実際に受講生に解いてもらう。 2:問題に関連する知識、情報、統計等を提示する。 3:日本人の言動や日本の伝統・習慣などに関して、多くの日本語学習者が持つ疑問を提示、その回答を次の講義までの課題とする。課題の回答は受講生の担当制とし、発表形式をとる。
教科書	「日本留学試験 総合科目」の過去問題等のプリントを講義時に配布する。
参考書・資料	『チャレンジ総合科目 日本留学試験対応』(日本留学試験研究会(編)国書刊行会)
担当者から一言	日本事情に関する知識は日本語学習者はもちろん、日本語教師にとっても必要不可欠な知識である。将来日本語教師を目指す人は、ぜひ受講してほしい。

授業コード	11086		
授業科目名	日本の芸能（後）		
担当者名	大山範子（オオヤマ ノリコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	能・狂言に関する講義。能楽(能・狂言)を楽しむための基本的なことがらについて解説後、具体的に作品に触れながら、中世・近世の文化との関わりを中心に論じる。
到達目標	受講者が能楽についての知識を深め、楽しく鑑賞しつつその特性を理解できることを目指す。また、能を含めた中世の芸能とそれらが後世に与えた影響を知ることで、日本文化について考える際の手がかりの一つを得る。
講義方法	最初に、能についてさまざまな面から概説的講義を行う(現代の上演芸術としての能や、そこに至る歴史的変遷など)。その上で、いくつかの作品を取り上げて詞章を読み、ビデオ等を用いて舞台映像を鑑賞しながら、能が先行する文化(特に文学作品)をどのように受容し創作されているのか、また後世にどのような影響を及ぼしたかなど、幅広く考察する。
準備学習	取り扱う作品の詞章は事前に配布するので、必ず目を通して講義に望むこと。
成績評価	講義時に課す小課題(不定期、数回を予定)30%、期末レポート70%で評価する。
講義構成	第1回 能ってどんなもの? —能・狂言入門— 第2回 能の諸相 —能を「見る」・「聞く」・「読む」— 第3回 能の歴史と受容史 第4回 能の詞章と古典文学をめぐって 第5～6回 能《高砂》—能と古今注— 第7～8回 能《忠度》—能と『平家物語』— 第9～10回 能《野宮》—能と『源氏物語』— 第11～12回 能《隅田川》—能と『伊勢物語』— 第13～14回 能《安宅》と「勧進帳」—能と近世演劇— 第15回 狂言「附子」—狂言と説話・伝承—
教科書	特に定めず、講義時にプリントを配布する。
参考書・資料	新潮日本古典集成『謡曲集(上・中・下)』(新潮社) 日本古典文学大系『謡曲集(上・下)』(岩波書店) 新編日本古典文学全集『謡曲集(一)・(二)』(小学館) 『岩波講座 能・狂言(Ⅰ?Ⅶ、別巻)』(岩波書店) 詳細は、各作品に関する文献も含め、講義の中で適宜紹介する。
担当者から一言	能・狂言の世界を通して、日本の「中世」を感じてみませんか。
その他	「講義構成」に掲げた作品は、受講者の人数や関心によっては変更する場合があります。

授業コード	11001		
授業科目名	日本文学概論I（後）		
担当者名	木股知史（キマタ サトシ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	火曜 12時30分～13時		

講義の内容	日本近代文学の概要を多様なジャンルの作品を通じて理解することを目指しています。 ジャンルとは、芸術作品の様式のことを言いますが、近代文学では、小説(長編小説、ノベル、短編小説など)、詩歌(短歌・俳句・詩など)、戯曲、批評といった表現様式があります。 それぞれの表現様式から、具体的な作品を取り上げて、表現の特性を理解するとともに、あわせて、研究の基礎についてもふれることができるように配慮したいと思います。 作品については、明治大正期のもものと、現代に近いものを対照して、近代文学のひろがり理解できるように工夫したいと考えています。 文学史のありかた、メディア環境と文学といった、近代文学を成立させている枠組についても視野に含めたいと思います。
到達目標	日本近代文学の多様性について、具体的な作品を通して理解すること。 文学と社会のつながりについて考えること。 基本的なキーワードの意味を的確に理解すること。
講義方法	各項目毎に、プリント教材を配布して進める。 質問紙、小レポートを適宜配布し、受講者の声を反映したい。
準備学習	抄出作品については、全文を読むようにすること。 文学事典などをひく習慣を身につけること。

成績評価	レポート(小レポート、期末レポート)、出席等によって評価します。
講義構成	1 近代文学のジャンルと「文学」概念の変遷 2 小説 短編小説 3 小説 長編小説 4 小説 メタフィクション 5 詩歌 6 戯曲 7 文学と伝承 * 各項目について1～2回の講義をおこなう。
教科書	各テーマごとに冊子型のプリントを配布する。
参考書・資料	配布プリント等で指示します。
担当者から一言	注意事項 ①受講者は、かならず第1回目の授業に出席すること。 ②配布プリントを保存するファイルを各自準備し、授業時に持参すること。

授業コード	11002		
授業科目名	日本文学概論Ⅱ(前)		
担当者名	周防朋子(スホウ トモコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	古典文学を勉強するための基礎的な知識を身につけるとともに、変体仮名(くずし字)の解読方法や初歩的な書誌学をあわせて学ぶ。
到達目標	変体仮名(くずし字)の解読の練習を行うことによって、直接原典やその影印が読める能力が身につく。
講義方法	担当者の講義形式が主であるが、くずし字の解読の際は受講者を指名して読んでもらう。また、適宜小テストを行い、学習の進展具合を確認しつつ進める。
準備学習	『字典かな』を使って、テキストの予習と復習を行い、くずし字に触れるようにしてほしい。
成績評価	講義に4回以上欠席した受講者は、その段階において単位を取得することができない(不可の評価になる)。その他の場合は、出席点(30パーセント)と期末の試験(70パーセント)によって評価する。日常の学習態度や提出物も加味する。
講義構成	1、書誌学の基礎の基礎 2、くずし字解読の初歩――「いろは」を学ぶ 3、くずし字解読の初歩――字母とくずし方 4、くずし字解読・中級編(1)連綿体を読む 5、くずし字解読・中級編(2)和歌を読む 6、くずし字解読・やや難解編(1)古筆切を読む 7、くずし字解読・やや難解編(2)さらに古筆切を読む 8、くずし字解読と翻刻、釈文作成について 9、「一寸法師」をくずし字で読む 適当に、パワーポイントの画像を使って講義を行う。
教科書	『一寸法師』(原本複製 お伽草子、市古貞次編)三弥井書店[500円＋税] 『字典かな』(出典明記、改訂版)笠間書院[380円＋税] どちらも必ず購入しておくこと。 また、適宜資料を配付する。配布資料は、当日欠席した者の分を後日配布することはない。
参考書・資料	適宜授業中に指示する。
講義関連事項	高等学校までに学んだ古文の知識は身に付いているものとして講義する。

担当者から一言	今後、近代文学や日本語学を専攻しようとする人にとっても、古典文学の基礎は必要な知識である。たとえば、明治時代の作家には古文体で執筆する者もおれば、その生原稿がくずし字で書かれていることも多い。「自分にはいらないから」などという気持ちは捨てて取り組むこと。予習、復習は必ずしておくこと。授業中に指名して答えてもらう。厳しく指導するが、がんばればくずし字は1、2ヶ月で読めるようになるので、ついてくること。
その他	授業中、はなはだしい私語で周囲に迷惑をかけた場合は退出を命じる。携帯電話は電源を切ってかばんの中に

	しまうこと。病気等の場合を除いて、授業中の飲食は禁止し、飲料などを机の上に置かないようにしてほしい。化粧品などの授業に関係ないものを授業中に取り出した場合も退出を命ずる。 必修科目なので、出来る限り一年次で単位を取得しておくよう努力すること。
ホームページタイトル	HPはなし。

授業コード	11014		
授業科目名	日本文学史Ia（前）		
担当者名	廣川晶輝（ヒロカワ アキテル）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	これまでの諸君にとって、「日本文学史」はどんな存在だったろうか。『国語便覧』などに載っている知識をそのまま「暗記」するものであり、定期試験などでは、そうした「暗記」に拠る得点源だったのではないだろうか。本講義では、〈日本文学史〉は、ある〈視点〉から創り上げられたものであることを自覚することから始めよう。そしてそのうえで、〈日本文学史〉を構想することはいかに可能であるかを、共に〈考えて〉いこう。
到達目標	日本文学や日本文化について論じるための基礎を固める。
講義方法	毎回配布するプリントに基づいて講義する。
準備学習	〈考える〉ためのトレーニングをしておいて下さい。例えば、新聞の論説を読んで、自分ならばどう論じるかを考えてみる、などです。
成績評価	定期試験の成績に拠る。
講義構成	○〈日本文学史〉を構想することとは？ カノン（〈古典〉）の形成について 「国歌集としての『万葉集』」という刷り込みについて ○〈日本文学史〉を構想することはどのように可能か？ 同一題材の利用に見る〈日本文学史〉
教科書	毎回配布する担当者独自のプリント
参考書・資料	ハルオ・シラネ氏、鈴木登美氏編『創造された古典』（1999年4月、新曜社）
担当者から一言	高校までで受けた授業とは異なる刺激的な講義となろう。受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	11015		
授業科目名	日本文学史Ib（後）		
担当者名	廣川晶輝（ヒロカワ アキテル）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	これまでの諸君にとって、「日本文学史」はどんな存在だったろうか。『国語便覧』などに載っている知識をそのまま「暗記」するものであり、定期試験などでは、そうした「暗記」に拠る得点源だったのではないだろうか。本講義では、〈日本文学史〉は、ある〈視点〉から創り上げられたものであることを自覚することから始めよう。そしてそのうえで、〈日本文学史〉を構想することはいかに可能であるかを、共に〈考えて〉いこう。
到達目標	日本文学や日本文化について論じるための基礎を固める。そのうえで、日本文学や日本文化について自らの視点で論じる力を身に付ける。
講義方法	毎回配布するプリントに基づいて講義する。
準備学習	前期の「日本文学史Ⅰa」において得る知見を基盤として講義は進むので、「日本文学史Ⅰa」の講義内容を修得しておくように。
成績評価	定期試験の成績に拠る。

講義構成	○〈日本文学史〉を構想することとは？ カノン（〈古典〉）の形成について 「国民的叙事詩としての『平家物語』」という渴望について ○〈日本文学史〉を構想することはどのように可能か？ 折口信夫に学ぶ 和歌史をめぐる
教科書	毎回配布する担当者独自のプリント
参考書・資料	ハルオ・シラネ氏、鈴木登美氏編『創造された古典』（1999年4月、新曜社）
講義関連事項	上掲「準備学習」の項目で記したとおりである。前期の「日本文学史Ⅰa」を履修し知見を得ておくことを勧めたい。
担当者から一言	高校までで受けた授業とは異なる刺激的な講義となろう。受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	11016		
授業科目名	日本文学史Ⅱa（前）		
担当者名	塚本章子（ツカモト アキコ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	明治中期から大正末頃にかけての文学史について講義します。この時期は、西洋文学の影響を受けながら、言文一致、浪漫主義、自然主義、白樺派といった文学が、急速に開花し展開していく時期です。明治以降、近代社会が形成されていくなかで、個人の内面は、どのように発見され、描き出されていったのでしょうか。そして、自由を求める精神と社会との衝突はどのように起きていったのでしょうか。こういった問題を、女性の生き方の変化、女性作家の活躍、文学に描かれる女性像の変化を一つの軸にして、作品に触れながら考察していきます。
到達目標	日本近代文学の歴史、女性像の変化、女性文学の展開について理解し、明治大正期の文学を読んで適切な意見を述べることができる。
講義方法	プリントを配布します。実際の作品本文をできるだけ多く紹介します。写真や映像等の視聴覚教材も用います。意見を書いてもらい、紹介することもあります。
準備学習	高等学校で習った文学史を復習しておいてください。
成績評価	試験（50％）、提出物・出席・授業態度等（50％）によって評価します。3分の2以上の出席をしなければ成績を評価しません。
講義構成	1 坪内逍遙と二葉亭四迷の試み 2 樋口一葉の登場と活躍 3 与謝野鉄幹と与謝野晶子の闘い 4 自然主義文学と女性 5 大逆事件の衝撃 6 夏目漱石の作品に見る女性像 7 森鷗外の苦悩 8 白樺派の作家たちと新しい女性像 9 梶井基次郎と芥川龍之介の新しさ ※各テーマごとに、1～2回の講義をあてます。順序を変更することもあります。
教科書	プリント配布
参考書・資料	プリント配布。参考になる著書を授業で紹介します。
講義関連事項	特になし

担当者から一言	授業をよく聞き、要点を書き取っていくこと。配布したプリントは、各自ファイルなどに整理していくこと。紹介した作品全体を出来るだけ多く読んで、興味や関心を広げていってください。
その他	特になし

ホームページタイトル	なし
------------	----

授業コード	11017		
授業科目名	日本文学史IIb (後)		
担当者名	島村健司(シマムラ ケンジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	講義直後、およびメールにて応じます。		

講義の内容	昭和期の文学 1920～1950年代あたりをおもな射程として、文学とくに小説の転回を考える。昭和中期までに相当するこの時期は「激動の昭和」ともいわれる。文学作品が生成されてきたこうした時代背景に眼を向けながら、具体的な作品もとりあげてすすめる。その際、既存の文学史を問いなおし、単に歴史的に過去をなぞるのではなく、いまのわれわれの問題とかかわらせながら考えていく。		
到達目標	◆主として1920年代から1950年代の文学、とくに小説の転回をとらえる。 ◆さまざまな文学者、作品に触れ、見識を広げる。 ◆文化的背景と表現のかかわりを考える力を養う。 ◆われわれが身をおく日常空間と物語世界とのかかわりについて自覚的になる。		
講義方法	講義形式で行なう。配布資料を中心とする。場合によっては視覚資料(パワーポイントを利用)を用いる。		
準備学習	◆後期の講義開始までに昭和期の日本文学の流れについて書かれている書物を読んでおくこと。書名は指定しないので、各人で探すこと。 ◆資料はなるべくそれを扱う時間の前時に配布するようにこころがけるので、資料内容に目を通し、知らない人名などを調べたり、引用してある作品(資料には抜粋した本文のみ掲載)などの全文を読んでもらうこと。		
成績評価	試験(50%)、課題(30%)、出席(20%)を総合して評価する。		
講義構成	1 関東大震災がもたらしたもの 2 プロレタリア文学と新感覚派 3 「セメント樽の中の手紙」と「機械」 4 大衆文学の興隆 5 「文芸復興」が叫ばれる時代 6 「墨東綺譚」と「道化の華」 7 戦時下の統制 8 戦後の転回 *各テーマごとに1～3回の講義にあてる。		
教科書	とくに指定しない。資料を配る。		
参考書・資料	講義時に紹介する。		

担当者から一言	◆配布資料はファイルにまとめるなどして整理すること。 ◆講義内容は、必ず要点を書き取り、ノートなどにまとめること。 ◆課題は期日までに必ず提出すること。 ◆疑問や意見などがある場合は、遠慮なく発言することを望む。		
---------	--	--	--

授業コード	11054		
授業科目名	日本文学特殊講義I (後)		
担当者名	中原香苗(ナカハラ カナエ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	『方丈記』の著者として名高い鴨長明は、和歌や管絃に造詣の深い数寄者である。 『方丈記』のほか、歌集『鴨長明集』、歌論書『無名抄』、説話集『発心集』を編んでいる。 このうち『無名抄』には、彼の和歌に対する考え方とともに和歌に関しての興味深い逸話が多数収録されている。		
-------	---	--	--

	この講義では、長明の生涯を知り、歌人としての鴨長明にもふれつつ、長明の数寄者の側面にも着目し、『方丈記』『無名抄』『発心集』に拠りながら、長明における和歌と数寄との関係などについて考えたい。
到達目標	鴨長明という人の多面性を知ることができる。 長明の和歌・歌論について学び、和歌に対する理解を深めることができる。 また、長明の和歌に対する考えと、当時の和歌思潮との関わりについて知ることができる。 長明編の説話集を読み、説話の読み方、説話を理解する際の背景などについて理解できる。 長明というフィルターを通して、中世という時代に対しての認識を深めることができる。
講義方法	プリントを用いて授業を進めます。 理解の助けとなるよう、必要に応じて、スライドやインターネットなどの画像を利用することもあります。
準備学習	鴨長明に関する本(何でも可)を読んでおいてください。 毎回、授業で配布した資料は、My KONANに掲載しておきますので、 授業を欠席した人は、確認するようにしてください。
成績評価	小テスト(30%) 定期試験(70%)
講義構成	第1回～第3回 授業の概要説明、鴨長明の生涯 第4回～第6回 歌人としての鴨長明、楽人としての鴨長明 第7回～第8回 鴨長明と和歌 第9回～第11回 鴨長明の歌論 第12回～第14回 長明と数寄
教科書	ありません。
参考書・資料	三木紀人『閑居の人 鴨長明』(新典社) (講談社学術文庫) →どちらも同じ本です。 新潮日本古典集成『方丈記 発心集』

担当者から一言	鴨長明という人は、『方丈記』の著者としてあまりに有名ですが、それ以外の側面は知らない、という人は多いのではないのでしょうか。 彼は、和歌の修練を積んで勅撰集入集を志し、また出家後は仏道修行に励みながら、仏道に関わる説話集を編むなど、多彩な側面をもっています。 授業を通して、人間「鴨長明」にふれ、彼をとりまく世界を感じてほしいと思います。
その他	私語は禁止。 携帯電話はマナーモードにし、机に出さないようにしておいてください。

授業コード	11055		
授業科目名	日本文学特殊講義II(後)		
担当者名	岩見幸恵(イワミ サチエ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	日本は早くから港湾をひかえた門前町や城下町といった近代的都市が各地に存在し、そこに文学を含む文化が発達した。そこで都市論的見地から近代・現代文学について論じる。
到達目標	都市の真の意味を把握すると共に、広く文学・芸術全般において優れた読者、鑑賞者となる。
講義方法	授業形式で講義を行なう。永井荷風、江戸川乱歩、谷崎潤一郎、横溝正史、村上春樹等を中心に東京、神戸に関わる作家を取り上げる。
準備学習	シラバスに記した作家の作品を何れか1作品以上読んでおくこと。また第一印象を大切にするためにメモを残すこと。
成績評価	期末試験(40%)、レポート(40%)、出席率(20%)によって総合的に評価する。10回以上授業に出席しなければ成績を評価しない。
講義構成	1、オリエンテーション 2、都市の条件:大陸の城壁と日本の城下町 3、近代の都市:産業革命と大衆文化 4、都市の文学的アイテム:迷路と田園 5、東京と神戸:地震と戦争と再開 6、永井荷風①経歴 7、永井荷風②『日和下駄』下駄と傘 8、永井荷風③『すみだ川』『墨東綺譚』

	9、江戸川乱歩 10、横溝正史 11、村上春樹①経歴 12、村上春樹②作品 13、谷崎潤一郎 14、谷川流『涼宮ハルヒの憂鬱』と有川浩の作品 15、まとめ
教科書	プリントを配布する。
参考書・資料	作品に関する研究書と論文。
講義関連事項	適宜配布するプリントは授業に繰り返し使用するので、各自ファイルして毎回持参すること。
担当者から一言	提出物は自ら学習した証です。確実に提出すること。

授業コード	11085		
授業科目名	日本文化の諸相（後）		
担当者名	佐藤愛弓（サトウ アユミ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	「戦乱の時代の文学」南北朝時代は乱世といわれる中世の中でも、類をみない混乱の時代である。人々は、そのような時代の中を、時に裏切り、時に分裂しつつ、たくましく個性的に生き抜いており、その世界では敵と味方を二つに分けて考えることができない。またこのような混乱の時代においては、密教を中心とした宗教が、政治と深く結びついて大きな影響を与えていた。本授業では、『太平記』を基礎として時代の流れを把握しつつ、密教僧の文化を中心として鎌倉時代末期から南北朝時代の言説を読み解いていく。
到達目標	古典作品の性質は、その作品が成立した時代状況と深く関係する。 本授業では、古典鑑賞に必要な読解力を身につけるとともに、中世という時代の躍動を感じ、作品と時代とを連動させて理解することを目標とする。
講義方法	講義
準備学習	とくになし。
成績評価	期末レポート85%、平常点15% (但し全授業数の3分の1を欠席した場合は、期末レポートの提出を認めません)
講義構成	1 オリエンテーション（鎌倉時代末期～南北朝時代について） 2 王権と密教（後宇多の灌頂） 3 王権と密教（鳥羽宝蔵をめぐる言説1） 4 王権と密教（鳥羽宝蔵をめぐる言説2） 5 後醍醐天皇の倒幕活動と密教僧1 6 後醍醐天皇の倒幕活動と密教僧2 7 鎌倉幕府における密教僧の役割 8 鎌倉幕府の滅亡 9 建武の新政と密教僧 10 南北朝の騒乱1 11 南北朝の騒乱2 12 南北朝の騒乱と密教僧 13 室町幕府と密教文化（秩序の回復をめざして） 14 室町幕府と密教文化（鎮魂の言説1） 15 室町幕府と密教文化（鎮魂の言説2）
教科書	授業中にプリントを配布します。

授業コード	11056
授業科目名	比較文学特殊講義（前）
担当者名	田中雅史（タナカ マサシ）

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	この授業では、幻想的なものの芸術作品における現れを歴史的な流れにおいて比較検討すると同時に、それを精神分析の中の対象関係論という分野のモデルと比較して考えていきます。何回かの説明の後、宮部みゆきの『龍は眠る』、長野まゆみ『少年アリス』などを読んでいます。第1部を読んでいなくても授業が理解できるように配慮する予定です。文学作品以外に映画・漫画・音楽などの他のジャンル・メディアの作品も参照しながら、芸術作品と人間の内的世界の関わりについて考えていきます。授業中に意見をきくことが多いので、はじめは大変かもしれませんが、しばらくすると慣れて楽しめると思います。
到達目標	作品を通して、言葉を使いながらも言葉におさまりきらない人間存在の奥の深さを理解する。
講義方法	作品を順に細かく読んでいきます。その週に検討する部分について、出席者に意見を求め、それにコメントを加えていきます。必要に応じ、パワーポイントやプリントで解説します。
準備学習	授業の範囲を精読し、コメントを考える。
成績評価	レポートを中心に、出席、授業中のコメント等を加味
講義構成	1.近代文学における幻想的なものの位置づけについて 2.ロマン主義、象徴主義、シュルレアリスムなど 3.日常性と狂気 4.前エディプス期の精神内界と芸術 5.宮部みゆき『龍は眠る』 6.長野まゆみ『少年アリス』 なるべく多くの国、多くのジャンルの作品を参照していきたいと思っています。
教科書	宮部みゆき『龍は眠る』、予言する鳥編(新潮文庫)、長野まゆみ『少年アリス』(河出文庫)

授業コード	11050		
授業科目名	文学と表現I（前）		
担当者名	古澤タ起子（フルサワ ユキコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	「こども」がどのように表現されてきたのかという視点から、近代の文芸作品を味読する。したがって、児童文学の範疇に入る作品も含まれる。
到達目標	日本の近代において、子どもがどのように表現されてきたかに関心を持ち、授業で扱った以外の作品も、そうした視点で読んでみることができる。
講義方法	担当者による講義形式を基本とする。受講生に課す毎時の感想文を、適時フィードバックさせていく。
準備学習	これまでの読書体験が「準備」ということになるでしょうか。 テキストには、高校までの教科書に収載されている作品を含め、読んでおいた方が望ましい作品を集めています。全文を掲載できなかった作品もあるので、とりあえずは図書館などで本を手にとって、読んでもらうことが望まれます。
成績評価	課題レポート(40%)。課題は前もって授業中に示します。 毎回、感想文の提出を求め、それをもって出席とします。(未提出の場合、出席とは認めません。)これを平常点(60%)とします。
講義構成	回想される「こども期」から始まって、描かれるこどもの大まかな年齢(幼年期、少年少女期、青年期)に沿って進む予定であるが、順序は変更することがある。 1. オリエンテーション 「こども像」の変遷 2. こどもの育つ場所 「硝子戸の中」 夏目漱石 3. ひきだしの中の宝物 「銀の匙」 中 勘助 4. ギャングエイジの冒険 「鷹の巣とり」 千葉省三 5. 友だちが見知らぬ顔に 「久助君の話」 新美南吉 6. 暗くなった帰り道 「トロッコ」 芥川龍之介 7. おとなまでの長い時間 「女生徒」 太宰 治 8. 分け合うよろこび 「風琴と魚の町」 林 芙美子

	9. 少年と青年のはざまで「少年の死」 木下杢太郎 10. ぼくの冒険「鹿狩り」 国木田独步 11. 父の怒りに触れた日「八十吉」 斎藤茂吉 12. 食べないこども「鮎」 岡本かの子 13. すなおに親切を受ける「伊豆の踊子」 川端康成 14. 人形娘がおとなになる時「伸び支度」 島崎藤村 15. 課題レポートの作成と提出
教科書	『伸び支度 名作に描かれた少年少女』上田博監修、古澤夕起子・辻本千鶴編 おうふう
参考書・資料	適時、紹介しますので積極的に読んでください。
担当者から一言	つい昨日まで「こども」だったあなたたちと一緒に、名作の中の「こども」を訪ねる時間を楽しみにしています。授業の性質上、30分以上の遅刻は入室を遠慮してください。

授業コード	11051		
授業科目名	文学と表現Ⅱ（後）		
担当者名	古澤夕起子（フルサワ ユキコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	この百年の間、「こども」はどのように表現されてきたのか。文学作品を中心に、まんがや映画、歌などにも触れながら考えていきたい。
到達目標	「こども」をキーワードに、文学作品やアニメ、社会的な現象に関心を持つことができる。
講義方法	担当者による講義形式を基本とする。受講生に課す毎時の感想文を、適時フィードバックさせていく。
準備学習	「こども」をめぐる問題は、こどもを持つ人だけのものではありません。「こども」でなかった人はいないからです。自分の中の「こども」を意識して眺めてみるのが「準備」になります。 毎時の授業については、現在進行形のさまざまな問題を、授業に引き付けて考えることが「準備」でもあり、「復習」でもあります。
成績評価	レポートによる(40%) 毎時、感想文の提出を求め、平常点とします(60%)。(未提出の場合、出席とは認めません。)
講義構成	1 「少女」のイメージはどこから来たか 2-3 欧米への発信と受信 「ちりめん本」+児童文学の翻訳 4-5 明日はおとなに「たけくらべ」 樋口一葉 6 作られる少女像 明治・大正の少女雑誌をのぞいてみる 7 いつまでも子どもで「花物語」 吉屋信子 8-9 大正期、少女たちのハローワーク「八つの夜」 与謝野晶子 10 「桜の園」 吉田秋生のまんが+中原俊監督の映画 11 ニンゲンフシンの男の子「星の光は昔の光」 川上弘美 12 小学生と高校生がチャットでバイト「インストール」綿矢りさ 13 パジャマを脱ぐとき「パジャマガール」きど・のりこ+「14歳」千原ジュニア 14 「解散」する家族「ホームレス中学生」田村裕+「幸福な食卓」瀬尾まいこ 15 ザ・ブルーハーツの時代 1985-1995「終わらない歌を歌おう」
教科書	特に定めない。プリントなどによって進める。
参考書・資料	適時、紹介しますので積極的に読んでください。
講義関連事項	「こども」をめぐるニュースが氾濫している現代。その根っこを探っていくと・・・100年前まで繋がっていますよ。
担当者から一言	毎時、提出してもらった感想文からは教えられるところが多く感謝しています。授業の性質上、30分を越える遅刻の場合は入室を遠慮してください。

授業コード	11052		
授業科目名	文学と風土I(後)		
担当者名	田口道昭(タグチ ミチアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
講義の内容	兵庫県を舞台にした文学作品を鑑賞する。兵庫県出身またはゆかりの作家は多く、また、兵庫県を舞台にした作品はたくさんある。この講義では、それらの作品の中からいくつかを選び、それらがどのような土壌や伝統の中で生成したのかを説明し、また、それらを理解することで、作品がどのように読めるかを明らかにしていく。		
到達目標	地域ゆかりの作品に触れ、地域の文化や風土を理解する共に、文学作品の理解を深める。		
講義方法	兵庫県ゆかりの作品を紹介しつつ、それらの歴史的背景や地域的特性について説明し、作品の理解にどのようにかかわっているのかを説明する。		
準備学習	授業で取り上げる作品を読んでおくことが望ましい。		
成績評価	積極的な出席(20%)及び定期試験(80%)によって評価する。毎回出席をとる。遅刻3回を欠席1回としてカウントする。筆記試験は授業で取り上げた内容についての確に理解できているかどうかを評価する。		
講義構成	第1回 はじめに・兵庫県出身やゆかりの作家・作品紹介 第2回 谷崎潤一郎『乱菊物語』 第3回 同上 第4回 佐多稲子『素足の娘』 第5回 同上 第6回 村上春樹『風の歌を聴け』 第7回 同上 第8回 司馬遼太郎『菜の花の沖』 第9回 同上 第10回 遠藤周作『黄色い人』 第11回 同上 第12回 兵庫県ゆかりの歌人・俳人 正岡子規・前田純孝ほか 第13回 新田次郎『孤高の人』 第14回 同上 第15回 まとめ 受講者の理解度、関心度に応じて、授業計画が変更になることもある。		
教科書	資料を配布する。		
参考書・資料	適宜指示する。		

授業コード	11053		
授業科目名	文学と風土II(後)		
担当者名	諸岡知徳(モロオカ トモノリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	なし		

講義の内容	物語には、さまざまな別の物語が混在している。作家は先行する物語を、ある時は意識的に地として、またある時は無意識に図として自らの物語に組み込み、再編成していく。風土とは、ある物語に導入された歴史的かつ地理的な物語なのだとはいえるだろう。 本講義では、大阪という都市を舞台にした織田作之助の小説をいくつか取り上げて、主にそのなかに現れる都市の歴史的、地理的な物語を補助線としながら、小説を読み解いていくことにしたい。		
到達目標	織田作之助をはじめとする文学テキストの読解および近代大阪の歴史や文化を知ること		
講義方法	授業形式での講義。講義は時間通りに始めるので、遅刻はしないこと。		
準備学習	織田作之助の小説については前の週にプリントを配布するので、それらを事前に読んでおくこと。		
成績評価	成績評価はレポートを主にして、出席状況・受講態度などを参照する。レポートの提出日時、課題は講義内で知らせる。		
講義構成	テーマ : 小説のなかの大阪 大阪を舞台とした小説を取り上げ、テキストを詳細に読み進めていく。 取り上げる小説は、織田作之助の大阪を舞台とした小説を予定している。		
教科書	必要時に随時プリントを配布する。		
参考書・資料	必要がある場合は、講義中に指示する。		

講義関連事項	必要に応じて講義時間内に説明する。
担当者から一言	それぞれの講義内容は関連しているため、欠席すると内容理解に支障が出る。なるべく欠席をしないように注意してください。
その他	特になし
ホームページタイトル	なし

授業コード	11067		
授業科目名	マスコミ言語研究I(前)		
担当者名	道浦俊彦(ミチウラ トシヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	私(道浦)は、現役の読売テレビのアナウンサーです。 仕事の傍ら、甲南大学で週1コマ、この講座を担当して今年で5年目になります。 講義では、ふだん何気なく耳にしている放送や新聞などで使われている言葉を取り上げ、その言葉にどういう意図があるのか、送り手の立場から解説・分析していきます。 また、新聞の社説やコラムを読み込むことで、文章の読解力を養います。
到達目標	放送を中心としたマスコミで使われる言葉に対する関心を高める。それによって、言葉で表現される向こう側にある、社会の実体になづく。
講義方法	授業で資料を配布して講義する。
準備学習	ふだんから新聞を読んでおく。テレビを見る。
成績評価	レポート提出、出席などの総合評価。
講義構成	・放送で使うことば ・新聞で使う言葉、放送で使う言葉 ・外来語の現在 ・「話し言葉」と「書き言葉」 ・若者言葉 ・関西方言の現在 ・変わりつつある現代の言葉 ・いつの間にか定着した言葉 ・「辞書」を考える ・メディアリテラシー など。 配分に関しては、最初の授業で指示する。
教科書	『スプーのさめない距離～辞書に載らない言い回し56』(道浦俊彦、小学館)
参考書・資料	『ことばと国家』(田中克彦、岩波新書) 『日本の方言地図』(徳川宗賢、岩波新書) 『日本語と外国語』(鈴木孝雄、岩波新書) 『新解さんの謎』(赤瀬川原平、文春文庫) 『新聞と現代日本語』(金武伸弥、文春新書) 『みんなで国語辞典！』(北原保雄監修、大修館書店) 『数え方の辞典』(飯田朝子、小学館) 『現代用語の基礎知識2010年版』(自由国民社)ほか
担当者から一言	言葉のおもしろさ、日本語のおもしろさということの一端を、この講義で掴んでいただければと思います。 ふだん、読売テレビの「情報ライブミヤネ屋」という番組を担当しています。 報道局とアナウンス部の兼務なので、「しゃべり手」としてだけでなく「番組の作り手」という視点から、また新聞用語懇談会の委員として新聞やテレビの言葉について携わってきた経験を、皆さんにお伝えできればと思っています。 教科書として拙著を挙げましたが、あくまで「これがないと、授業についていけない」というものではありません。 その点をご安心を。

ホームページタイトル	『道浦俊彦の平成ことば事情』
URL	http://www.ytv.co.jp/announce/index.html

授業コード	11068		
授業科目名	マスコミ言語研究Ⅱ（後）		
担当者名	三上喜美男（ミカミ キミオ）、服部孝司（ハットリ コウジ）、松岡 健（マツオカ タケシ）、亀山正芳（カメヤマ マサヨシ）、竹内 章（タケウチ アキラ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	神戸新聞社編集局、論説委員室などのベテラン記者、デスクらが取材、執筆、見出しの付け方などを実践的に指導する。新聞からより多くの情報、知識を読み取る力を磨く一方、書く力も養う。新聞記者志望の学生には、記者になるための具体的なノウハウを教える。情報が氾濫する現代、必要な情報を選び出し、かつ、自らの考えを的確に伝え、納得してもらえる術を身に付けさせる。
到達目標	開講時に指示する。
講義方法	その日の新聞からホットなニュースや世相を切ったフィーチャー記事を題材にして、新聞を深く読み込んでいく。何が書かれているか、何を強調しているのかなど、記事について活発にディスカッションして、知られざる新聞の価値、魅力に迫っていく。また、毎回、話し合ったテーマについてレポートを書き、社会で通用する文章力を養う。
準備学習	開講時に指示する。
成績評価	毎回のレポートが出席簿と試験の代わりとなり、講義をした記者やデスクがマスコミの視点で採点する。
講義構成	講義は5、6人で担当するため、リレー式に基本から応用までレクチャーしていく。5W1Hから始まって、相手を納得させる文章表現まで実践的に指導していく。甲南大学卒の神戸新聞記者をゲストに招くことも計画している。
教科書	講義当日の神戸新聞朝刊（大学最寄駅のキオスクかコンビニで入手可能）
参考書・資料	その日の講義内容に従って、講師が用意する。
担当者から一言	マスコミに関心がある学生や新聞記者を志望する学生にとっては大いに役立つ講座です。

授業コード	11089		
授業科目名	メディア・リテラシー（前）		
担当者名	畠山兆子（ハタケヤマ チョウコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	豊かな物語性を持つ画像や映像は、私たちを魅了して放さない。それは何故か。その構造を読み解くことばを獲得することは、メディアとしての自分自身を自覚し、文化的アプローチに立った自己認識にいたることである。
到達目標	画像や映像を読み解くことばを獲得する
講義方法	パソコンを使って、画像を提示して講義する。その後、課題作品の企画書を作成し、各自パソコンで制作する。課題作品の合評を行う。
準備学習	日常接する画像や映像に関心を持つこと
成績評価	授業中の課題作品4回 提出物
講義構成	1 パート1 「ことば」から出発 ことば遊び・物語作り 2 パート2 動物編 ① 写真は語る ② 動物絵本を考える ③ フォト・ドキュメンタリーの制作 ④ 課題作品の合評 ⑤ 映像ドキュメンタリーの制作 ⑥ 課題作品の合評 3 パート3 広告編 ① 新聞広告を読む

	② 物語キャンペーンの制作 ③ 課題作品の合評 4 パート4 CM編 ① CMとは何か ② 静止画CM編の制作 ③ 課題作品の合評 注意事項: 進行状況等により内容が変更になる場合があります。
教科書	松山雅子編著『自己認識としてのメディア・リテラシー』教育出版(CD付き) 定価2300円＋税
講義関連事項	「子どもの文学・文化」の講義で、アニメーション番組の放送形態について取り上げています。
担当者から一言	パソコンを使って、自分で作品を作ることができるCDがついています。写真絵本やフォト・ドキュメンタリー、アニメーション番組予告編作りなど、制作者体験をしてみませんか。自分の中に眠っている才能を見つけ出せるかもしれません。

授業コード	12V11		
授業科目名	CALLI (1クラス)(前)		
担当者名	牧木綿子(マキ ユウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	先着順40名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	各教員に問い合わせして下さい。		

講義の内容	This class is designed for English majors who would like to use the computer to help improve their English. This class will not make use of a computer-based language learning software. The Internet (as well as other multimedia devices) will be used as a basis for a variety of different activities, all of which require English language skills of various kinds including reading, skimming, listening, writing and presentation.
到達目標	Students will be able to gather information effectively through the Internet.
講義方法	Classes are held in a computer room, and students will work on tasks at the computer under the guidance of the instructor.
準備学習	Students are advised to get access to news sites in English such as BBC, CNN and so on, from time to time.
成績評価	Regular attendance/participation and an efficient use of the computer are important in this class. The grade will reflect the students' effort and the quality of work throughout the year. Tests may be used at the discretion of the instructor.
講義構成	Students will use the Internet in order to complete a variety of activities and assignments involving a wide range of Internet sites. These will range from simple accessing of data, assimilating a variety of information, comparing and contrasting and writing up findings either in conventional essay form, or by filling out a data sheet on the computer. Details will be given during the first class. The computer will replace the blackboard and the notebook in the classroom. Most instructors will establish a class homepage. Students to publish their own work, access or edit each other's work, request help and input from the teacher and submit work for grading through the computer. The class and the instructor will keep in touch by email. Email may also be used as part of the course to encourage communicative activities. Some instructors will explore with the students the possibility of exchanging letters and information with native speakers of English in other countries.
教科書	Duplicated materials and worksheets will sometimes be used but as far as possible this will be a paperfree class.
その他	当科目を受講するには先着順登録が必要です。

授業コード	12V12
-------	-------

授業科目名	CALLI (2クラス)(前)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
特記事項	先着順40名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	各教員に問い合わせして下さい。		

講義の内容	This class is designed for English majors who would like to use the computer to help improve their English. This class will not make use of a computer-based language learning software. The Internet (as well as other multimedia devices) will be used as a basis for a variety of different activities, all of which require English language skills of various kinds including reading, skimming, listening, writing and presentation.
到達目標	Students will be able to gather information effectively through the Internet.
講義方法	Classes are held in a computer room, and students will work of tasks at the computer under the guidance of the instructor.
準備学習	Students are advised to get access to news sites in English such as BBC, CNN and so on, from time to time.
成績評価	Regular attendance/participation and an efficient use of the computer are important in this class. The grade will reflect the students' effort and the quality of work throughout the year. Tests may be used at the discretion of the instructor.
講義構成	Students will use the Internet in order to complete a variety of activities and assignments involving a wide range of Internet sites. These will range from simple accessing of data, assimilating a variety of information, comparing and contrasting and writing up findings either in conventional essay form, or by filling out a data sheet on the computer. Details will be given during the first class. The computer will replace the blackboard and the notebook in the classroom. Most instructors will establish a class homepage. Students to publish their own work, access or edit each other's work, request help and input from the teacher and submit work for grading through the computer. The class and the instructor will keep in touch by email. Email may also be used as part of the course to encourage communicative activities. Some instructors will explore with the students the possibility of exchanging letters and information with native speakers of English in other countries.
教科書	Duplicated materials and worksheets will sometimes be used but as far as possible this will be a paperfree class.

その他	当科目を受講するには先着順登録が必要です。
-----	-----------------------

授業コード	12V13		
授業科目名	CALLI (3クラス)(前)		
担当者名	水本有紀(ミズモト ユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	先着順40名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	各教員に問い合わせてください		

講義の内容	This class is designed for English majors who would like to use the computer to help improve their English. This class will not make use of a computer-based language learning software. The Internet (as well as other multimedia devices) will be used as a basis for a variety of different activities, all of which require English language skills of various kinds including reading, skimming, listening, writing and presentation.
到達目標	Students will be able to gather information effectively through the Internet.
講義方法	Classes are held in a computer room, and students will work of tasks at the computer under the guidance of the instructor.
準備学習	Students are advised to get access to news sites in English such as BBC, CNN and so on, from time to

	time.
成績評価	Regular attendance/participation and an efficient use of the computer are important in this class. The grade will reflect the students' effort and the quality of work throughout the year. Tests may be used at the discretion of the instructor.
講義構成	Students will use the Internet in order to complete a variety of activities and assignments involving a wide range of Internet sites. These will range from simple accessing of data, assimilating a variety of information, comparing and contrasting and writing up findings either in conventional essay form, or by filling out a data sheet on the computer. Details will be given during the first class. The computer will replace the blackboard and the notebook in the classroom. Most instructors will establish a class homepage. Students to publish their own work, access or edit each other's work, request help and input from the teacher and submit work for grading through the computer. The class and the instructor will keep in touch by email. Email may also be used as part of the course to encourage communicative activities. Some instructors will explore with the students the possibility of exchanging letters and information with native speakers of English in other countries.
教科書	Duplicated materials and worksheets will sometimes be used but as far as possible this will be a paperfree class.
その他	当科目を受講するには先着順登録が必要です。

授業コード	12V21		
授業科目名	CALLII (1クラス)(後)		
担当者名	牧木綿子(マキ ユウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	先着順40名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	各教員に問い合わせして下さい。		

講義の内容	This class is designed for English majors who would like to use the computer to help improve their English. This class will not make use of a computer-based language learning software. The Internet (as well as other multimedia devices) will be used as a basis for a variety of different activities, all of which require English language skills of various kinds including reading, skimming, listening, writing and presentation.
到達目標	Students will be able to gather information effectively through the Internet.
講義方法	Classes are held in a computer room, and students will work of tasks at the computer under the guidance of the instructor.
準備学習	Students are advised to get access to news sites in English such as BBC, CNN and so on, from time to time.
成績評価	Just as in CALL I, regular attendance/participation and an efficient use of the computer are important in this class. The grade will reflect the students' effort and the quality of work throughout the year. Tests may be used at the discretion of the instructor.
講義構成	Follows the class organization of CALL I. Students will use the Internet in order to complete a variety of activities and assignments involving a wide range of Internet sites. These will range from simple accessing of data, assimilating a variety of information, comparing and contrasting and writing up findings either in conventional essay form, or by filling out a data sheet on the computer. Details will be given during the first class. The computer will replace the blackboard and the notebook in the classroom. Most instructors will establish a class homepage. Students to publish their own work, access or edit each other's work, request help and input from the teacher and submit work for grading through the computer. The class and the instructor will keep in touch by email. Email may also be used as part of the course to encourage communicative activities. Some instructors will

	explore with the students the possibility of exchanging letters and information with native speakers of English in other countries.
教科書	Duplicated materials and worksheets will sometimes be used but as far as possible this will be a paperfree class.
その他	当科目を受講するには後期での先着順登録が必要です。(CALL I 履修者が自動的に CALL II に登録されるわけではないので注意してください。) CALL I を履修しなかった人も登録可能です。

授業コード	12V22		
授業科目名	CALLII (2クラス)(後)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
特記事項	先着順40名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	各教員に問い合わせして下さい。		

講義の内容	This class is designed for English majors who would like to use the computer to help improve their English. This class will not make use of a computer-based language learning software. The Internet (as well as other multimedia devices) will be used as a basis for a variety of different activities, all of which require English language skills of various kinds including reading, skimming, listening, writing and presentation.
到達目標	Students will be able to gather information effectively through the Internet.
講義方法	Classes are held in a computer room, and students will work of tasks at the computer under the guidance of the instructor.
準備学習	Students are advised to get access to news sites in English such as BBC, CNN and so on, from time to time.
成績評価	Just as in CALL I, regular attendance/participation and an efficient use of the computer are important in this class. The grade will reflect the students' effort and the quality of work throughout the year. Tests may be used at the discretion of the instructor.
講義構成	Follows the class organization of CALL I. Students will use the Internet in order to complete a variety of activities and assignments involving a wide range of Internet sites. These will range from simple accessing of data, assimilating a variety of information, comparing and contrasting and writing up findings either in conventional essay form, or by filling out a data sheet on the computer. Details will be given during the first class. The computer will replace the blackboard and the notebook in the classroom. Most instructors will establish a class homepage. Students to publish their own work, access or edit each other's work, request help and input from the teacher and submit work for grading through the computer. The class and the instructor will keep in touch by email. Email may also be used as part of the course to encourage communicative activities. Some instructors will explore with the students the possibility of exchanging letters and information with native speakers of English in other countries.
教科書	Duplicated materials and worksheets will sometimes be used but as far as possible this will be a paperfree class.
その他	当科目を受講するには後期での先着順登録が必要です。(CALL I 履修者が自動的に CALL II に登録されるわけではないので注意してください。) CALL I を履修しなかった人も登録可能です。

授業コード	12V23
-------	-------

授業科目名	CALLII (3クラス)(後)		
担当者名	水本有紀(ミズモト ユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	先着順40名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	各教員に問い合わせてください		

講義の内容	This class is designed for English majors who would like to use the computer to help improve their English. This class will not make use of a computer-based language learning software. The Internet (as well as other multimedia devices) will be used as a basis for a variety of different activities, all of which require English language skills of various kinds including reading, skimming, listening, writing and presentation.
到達目標	Students will be able to gather information effectively through the Internet.
講義方法	Classes are held in a computer room, and students will work on tasks at the computer under the guidance of the instructor.
準備学習	Students are advised to get access to news sites in English such as BBC, CNN and so on, from time to time.
成績評価	Just as in CALL I, regular attendance/participation and an efficient use of the computer are important in this class. The grade will reflect the students' effort and the quality of work throughout the year. Tests may be used at the discretion of the instructor.
講義構成	Follows the class organization of CALL I. Students will use the Internet in order to complete a variety of activities and assignments involving a wide range of Internet sites. These will range from simple accessing of data, assimilating a variety of information, comparing and contrasting and writing up findings either in conventional essay form, or by filling out a data sheet on the computer. Details will be given during the first class. The computer will replace the blackboard and the notebook in the classroom. Most instructors will establish a class homepage. Students to publish their own work, access or edit each other's work, request help and input from the teacher and submit work for grading through the computer. The class and the instructor will keep in touch by email. Email may also be used as part of the course to encourage communicative activities. Some instructors will explore with the students the possibility of exchanging letters and information with native speakers of English in other countries.
教科書	Duplicated materials and worksheets will sometimes be used but as far as possible this will be a paperfree class.
その他	当科目を受講するには後期での先着順登録が必要です。(CALL I 履修者が自動的に CALL II に登録されるわけではないので注意してください。) CALL I を履修しなかった人も登録可能です。

授業コード	12077		
授業科目名	Japan in English I (前)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	Wednesday 12.20 - 12.55. Other times by arrangement.		

講義の内容	Japanese people are often asked about their country's culture and history. They are sometimes expected to explain the Japanese point of view regarding important international issues. Of course, they may have difficulty in expressing themselves in English. But that is not always the only problem. Often they just don't know what to say, even though their English may be quite good. This class will help students improve the skills they require to function effectively abroad. However, it is not a conversation class. There are plenty of opportunities in Konan and outside to practice English
-------	---

	conversation. This class is rather different. It is designed to help students to talk intelligently about their own country in a group of foreigners. Students may not realize how much impact Japanese culture is having on the international scene in the fields of art, design, cinema, manga and so on. As well as introducing foreign friends to tea ceremony, ikebana and haiku, students will want to know about the latest trends in Japan's dynamic culture.
到達目標	This class is designed for students who are interested in studying abroad, or who hope to work overseas in the future. It should also give students the confidence to talk about Japan with foreigners.
講義方法	The class will be usually be conducted in English but assignments may sometimes be explained in Japanese as well. It will follow a topic-based approach. Presentations will be made by the instructor on a wide variety of subjects. Each presentation will be followed by time to for students to familiarize themselves with new vocabulary and expressions. Then class members will be expected to discuss the presentation and express their own views on the subject. Written assignments may be given. Students may be required to make 'prepared statements' to tell the class about some aspect of Japanese history and culture about which they have special knowledge—anything from The Tale of Genji to otaku culture.
準備学習	Essays and presentations will be required.
成績評価	About 35% of the grade will reflect the students' contribution to discussion and about 65% for written assignments and prepared presentations. Participation is essential, and so regular attendance will be expected. If attendance falls below 80%, the grade will be adversely affected. There may be a final examination, but students will be told in advance what they should prepare. There may also be short tests to check that assignments have been effectively carried out.
講義構成	Topics will be introduced in no particular order, though the first few sessions will focus on the theme "Japan and the West". Students can suggest topics for discussion.
教科書	No textbook is required for this class.
担当者から一言	This class should be fun, but you may be challenged to look at Japan in a new way.

授業コード	12078		
授業科目名	Japan in English II (後)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	Wednesday 12.20 – 12.55. Other times by arrangement.		

講義の内容	Japanese people are often asked about their country's culture and history. They are sometimes expected to explain the Japanese point of view regarding important international issues. Of course, they may have difficulty in expressing themselves in English. But that is not always the only problem. Often they just don't know what to say, even though their English may be quite good. This class will help students improve the skills they require to function effectively abroad. However, it is not a conversation class. There are plenty of opportunities in Konan and outside to practice English conversation. This class is rather different. It is designed to help students to talk intelligently about their own country in a group of foreigners. Students may not realize how much impact Japanese culture is having on the international scene in the fields of art, design, cinema, manga and so on. As well as introducing foreign friends to tea ceremony, ikebana and haiku, students will want to know about the latest trends in Japan's dynamic culture.
到達目標	This class is designed for students who are interested in studying abroad, or who hope to work overseas in the future. It should also give students the confidence to talk about Japan with foreigners.
講義方法	The class will be usually be conducted in English but assignments may sometimes be explained in Japanese as well. It will follow a topic-based approach. Presentations will be made by the instructor on a wide variety of subjects. Each presentation will be followed by time to for students to familiarize themselves with new vocabulary and expressions. Then class members will be expected to discuss the presentation and express their own views on the subject. Written assignments may be given. Students may be required to make 'prepared statements' to tell the class about some aspect of Japanese history and culture about which they have special knowledge—anything from The Tale of Genji to otaku culture.

準備学習	……Essays and presentations will be required.
成績評価	……About 35% of the grade will reflect the students' contribution to discussion and about 65% for written assignments and prepared presentations. Participation is essential, and so regular attendance will be expected. If attendance falls below 80%, the grade will be adversely affected. There may be a final examination, but students will be told in advance what they should prepare. There may also be short tests to check that assignments have been effectively carried out.
講義構成	……Topics will be introduced in no particular order, though the first few sessions will focus on the theme "Japan and the West". Students can suggest topics for discussion.
教科書	……No textbook is required for this class.
担当者から一言	……This class should be fun, but you may be challenged to look at Japan in a new way.

授業コード	12027		
授業科目名	アメリカ文学史I (前)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	17世紀のピューリタンの時代から現代までのアメリカ文学の流れを歴史的背景や文化的背景を視野に入れながら講義する。 17世紀のすべての移民が宗教的動機から海を渡ったわけではないが、その後のアメリカの文化を形成していく上でピューリタンの果たした役割には絶大なものがあった。神を中心にしたピューリタンの思想はさまざまな形で現れているが、17世紀の後半になるとその神中心の色彩に陰りが見え始め、18世紀には科学的合理主義と啓蒙思想が台頭してきて人間の理性に重きがおかれるようになる。19世紀に入るとロマン主義が登場してくるが、アメリカではこのロマン主義は国家主義的な色彩を帯びてきて国民文学への機運が高まり、19世紀の中盤はエマソン、ホーソーン、メルヴィル、ホイットマンなど錚々たる作家が活躍し、後にアメリカ・ルネサンスと呼ばれることになる。 南北戦争を境にロマン主義からリアリズムへと移行し、ヘンリー・ジェームズやマーク・トウェインが傑作を数多く生み出すが、トウェインは、後半に入ると、リアリズムの流れを汲むきわめてペシミスティックな自然主義的な傾向をもみせるようになる。自然主義の作家としてはスティーブン・クレインやドライサーなどがいるが、この自然主義を克服する形で第一次大戦後に登場してくるのがモダニズムの作家たちである。ロスト・ジェネレーションの作家と呼ばれるヘミングウェイやフィッツジェラルド、同時代のエリオットやフォークナーなどは、「神の死」以後の世代のアンニユイを描くと同時にその克服を目指す。大恐慌を境に社会主義的な傾向を見せる作家も登場してくるが、第二次大戦後は既成の文化を否定するカウンター・カルチャーや黒人作家、ユダヤ系作家などのマイノリティが市民権を獲得するようになる。 以上のような流れをたどりながら、前期は南北戦争以前を概説する。
到達目標	17世紀から19世紀前半までのアメリカ文学の概要を把握することを目指す。
講義方法	テキストおよびMyKONANであらかじめ配布した資料をもとに講義形式で進める。
準備学習	推薦図書リストに挙げた作品を読んでおくこと。
成績評価	平常点(小テスト並びに場合によりレポート)と定期試験を基に平常点40%、定期試験60%の基準で評価する。
講義構成	次のテーマを追いながら講義する。 1. 17世紀のピューリタニズム 2. 18世紀の啓蒙思想 3. 19世紀のロマン主義
教科書	ソルバーグ『アメリカの知的伝統』金星堂 亀井俊介・川本皓嗣編『アメリカ名詩選』岩波書店
参考書・資料	必要に応じて指摘する。

授業コード	12028
-------	-------

授業科目名	アメリカ文学史Ⅱ(後)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	17世紀のピューリタンの時代から現代までのアメリカ文学の流れを歴史的背景や文化的背景を視野に入れながら講義する。 17世紀のすべての移民が宗教的動機から海を渡ったわけではないが、その後のアメリカの文化を形成していく上でピューリタンの果たした役割には絶大なものがあつた。神を中心にしたピューリタンの思想はさまざまな形で現れているが、17世紀の後半になるとその神中心の色彩に陰りが見え始め、18世紀には科学的合理主義と啓蒙思想が台頭してきて人間の理性に重きがおかれるようになる。19世紀に入るとロマン主義が登場してくるが、アメリカではこのロマン主義は国家主義的な色彩を帯びてきて国民文学への機運が高まり、19世紀の中盤はエマソン、ホーソーン、メルヴィル、ホイットマンなど錚々たる作家が活躍し、後にアメリカ・ルネサンスと呼ばれることになる。 南北戦争を境にロマン主義からリアリズムへと移行し、ヘンリー・ジェームズやマーク・トウェインが傑作を数多く生み出すが、トウェインは、後半に入ると、リアリズムの流れを汲むきわめてペシミスティックな自然主義的な傾向をもみせるようになる。自然主義の作家としてはスティーブン・クレインやドライサーなどがいるが、この自然主義を克服する形で第一次大戦後に登場してくるのがモダニズムの作家たちである。ロスト・ジェネレーションの作家と呼ばれるヘミングウェイやフィッツジェラルド、同時代のエリオットやフォークナーなどは、「神の死」以後の世代のアンニユイを描くと同時にその克服を目指す。大恐慌を境に社会主義的な傾向を見せる作家も登場してくるが、第二次大戦後は既成の文化を否定するカウター・カルチャーや黒人作家、ユダヤ系作家などのマイノリティが市民権を獲得するようになる。 以上のような流れをたどりながら、後期は南北戦争以後を概説する。		
到達目標	19世紀後半から現代までのアメリカ文学の概要を把握することを目指す。		
講義方法	テキストおよびMyKONANであらかじめ配布した資料をもとに講義形式で進める。		
準備学習	推薦図書リストに挙げた作品を読んでおくこと。		
成績評価	平常点(小テスト並びに場合によりレポート)と定期試験を基に平常点40%、定期試験60%の基準で評価する。		
講義構成	次のテーマを追いながら講義する。 1. リアリズム 2. 自然主義 3. モダニズム 4. 現代アメリカ文学		
教科書	ソルバーク『アメリカの知的伝統』金星堂 亀井俊介・川本皓嗣編『アメリカ名詩選』岩波書店		
参考書・資料	必要に応じて指摘する。		

授業コード	12019		
授業科目名	アメリカン・スタディーズⅠ(前)		
担当者名	安武留美(ヤスタケ ルミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	「多文化社会」と呼ばれるアメリカ社会は、多様で、常時変化を続けている。アメリカン・スタディーズⅠでは、共和国建国の理想と現実を、15世紀末から19世紀半ばまでの新大陸の歴史的変遷の中で理解しようとするものである。		
到達目標	アメリカ社会の歴史を語るにあたって必要な基礎的な用語や概念を習得する。また、アメリカ社会の様々な側面を各々の歴史的な文脈の中で理解しようとする試みを通して、自分なりのアメリカ史観を構築する。		
講義方法	開講時に配布する授業スケジュールに従って、映画鑑賞や一次資料の解説を織り交ぜながら、講義中心に進める。コース半ばに中間テストに代わる提出物が課されるので見逃さないように。		
準備学習	毎週配布される、次の授業に関する一次資料をよく読みこんでおくこと。		

成績評価	クイズ(20%)、提出課題(30%)、期末試験(50%)
講義構成	アメリカ大陸の「発見」(異文化の交流) イギリス植民地社会(多様な社会) 独立と合衆国の建国(理念と現実) 建国後のアメリカ社会(産業化、宗教・社会運動) 奴隷制度と奴隷制廃止運動(奴隷貿易、奴隷社会、様々な運動) 南北戦争(南北の対立と戦争) 再建の時代(改革の試みと挫折)など
教科書	開講時に指示する。

授業コード	12020		
授業科目名	アメリカン・スタディーズⅡ（後）		
担当者名	安武留美（ヤスタケ ルミ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	「多文化社会」と呼ばれるアメリカ社会は、多様で、常時変化を続けている。アメリカン・スタディーズⅠでは、今日のアメリカ合衆国が「移民の国」「多文化主義の国」といわれる所以を19世紀後半から現代までのアメリカ社会の歴史的変遷の中に探る。
到達目標	アメリカ社会の歴史を語るにあたって必要な基礎的な用語や概念を習得する。また、アメリカ社会の様々な側面を各々の歴史的な文脈の中で理解しようとする試みを通して、自分なりのアメリカ史観を構築する。
講義方法	開講時に配布する授業スケジュールに従って、映画鑑賞や一次資料の解説を織り交ぜながら、講義中心に進める。コース半ばに中間テストに代わる提出物が課されるので見逃さないように。
準備学習	毎週配布される、次の授業に関する一次資料をよく読みこんでおくこと。
成績評価	クイズ(20%)、提出課題(30%)、期末試験(50%)
講義構成	西部への拡大と社会変化 産業化と移民の流入 社会運動と改革主義 消費社会の誕生 帝国主義と第一次世界大戦 大恐慌とニューディール 第二次世界大戦とアメリカ社会 戦後のアメリカ 公民権運動とその波及 保守化の時代 オバマ政権 など
教科書	開講時に指示する。

授業コード	12025		
授業科目名	イギリス文学史I(前)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	水曜日(12時10分ー13時)		

講義の内容	イギリス文学の変遷を18世紀末から20世紀まで、文化変容に力点を置き、論じていきます。作品と時代思潮の関係を不可分と考え、自分の力でさまざまな事象を考えてみよう。
到達目標	イギリス文化と文学の流れを18世紀末から20世紀末までに限定して理解します。作家とその作品の暗記という文学史の悪しき通弊を避けて、テキストがどのようにして有機的に生成されるかに主眼を置き、論じていきます。考えるヒントを自分の力でつかむようにしてください。
講義方法	概略を説明し、各論をいっしょに考えていきます。ノートを有効に記載してください。
準備学習	インターネットのサイト Norton Anthology of English Literature (http://www.wwnorton.com/college/english/nael/) を講義前に必ず参照味読してください。
成績評価	平常点(提出レポートと理解度確認テスト)60%、定期試験40%の割合で評価します。
講義構成	01 産業革命と英国文化(1785ー1832) 02 古典主義とロマン主義 03 ウィリアム・ワーズワス(1) 04 ウィリアム・ワーズワス(2) 05 ドロシー・ワーズワス 06 サミュエル・ティラー・コールリッジ 07 ジョージ・ゴードン・バイロン 08 パシー・バッシュー・シェリーとメアリ・シェリー 09 ジョン・キーツ 10 ヴィクトリア朝と大英帝国(1837ー1901) 11 ウィリアム・マックニース・サッカレー 12 チャールズ・ディケンズ 13 ブロンテ姉妹 14 ジョージ・エリオット 15 トマス・ハーディ 16 ヴィクトリア朝の思想家―トマス・カーライル 17 ジョン・ラスキン 18 マシュー・アーノルドとレズリー・ステューヴン 19 ヴィクトリア朝の詩歌―ブラウニング夫妻 20 アーノルド・デニソン 21 モダニズムの文学―T.S.エリオット 22 ジェイムズ・ジョイス 23 ヴァージニア・ウルフ 24 文学と絵画(1)ウィリアム・ホガース 25 文学と絵画(2)ウィンダム・ルイス
教科書	プリント配布
参考書・資料	随時指定します。

授業コード	12026		
授業科目名	イギリス文学史Ⅱ(後)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	水曜日(12時10分ー13時)		

講義の内容	イギリス文学の変遷を18世紀末から20世紀まで、文化変容に力点を置き、論じていきます。作品と時代思潮の関係を不可分と考え、自分の力でさまざまな事象を考えてみよう。
到達目標	イギリス文化と文学の流れを18世紀末から20世紀末までに限定して理解します。作家とその作品の暗記という文学史の悪しき通弊を避けて、テキストがどのようにして有機的に

	生成されるかに主眼を置き、論じていきます。考えるヒントを自分の力でつかむようにしてください。
講義方法	概略を説明し、各論をいっしょに考えていきます。 ノートを有効に記載してください。
準備学習	インターネットのサイト Norton Anthology of English Literature (http://www.wwnorton.com/college/english/nael/) を講義前に必ず参照味読してください。
成績評価	平常点(提出レポートと理解度確認テスト)60%、定期試験40%の割合で評価します。
講義構成	01 産業革命と英国文化(1785－1832) 02 古典主義とロマン主義 03 ウィリアム・ワーズワス(1) 04 ウィリアム・ワーズワス(2) 05 ドロシー・ワーズワス 06 サミュエル・ティラー・コールリッジ 07 ジョージ・ゴードン・バイロン 08 パシー・バッチー・シェリーとメアリ・シェリー 09 ジョン・キーツ 10 ヴィクトリア朝と大英帝国(1837－1901) 11 ウィリアム・マックニース・サッカレー 12 チャールズ・ディケンズ 13 ブロンテ姉妹 14 ジョージ・エリオット 15 トマス・ハーディ 16 ヴィクトリア朝の思想家―トマス・カーライル 17 ジョン・ラスキン 18 マシュー・アーノルドとレズリー・スティーヴン 19 ヴィクトリア朝の詩歌―ブラウニング夫妻 20 アーノルド・テニソン 21 モダニズムの文学―T.S.エリオット 22 ジェイムズ・ジョイス 23 ヴァージニア・ウルフ 24 文学と絵画(1)ウィリアム・ホガース 25 文学と絵画(2)ウィンダム・ルイス
教科書	プリント配布
参考書・資料	随時指定します。

授業コード	12Q11		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIa（1クラス)(前)		
担当者名	クック(クック ルイーズ ジェニファー)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This course will be primarily a discussion skills course. However, reading, writing and listening in English will also be covered.
到達目標	Course outcomes: 1) To gain confidence and fluency in discussing ideas and opinions in English. 2) To learn English phrases suitable for discussion (e.g. phrases for giving opinions, persuading, disagreeing, etc.). 3) To learn vocabulary appropriate for specific topic areas. 4) To develop critical thinking about various global and domestic issues.
講義方法	Every week in this course you will work with partners and small groups to improve your ability to discuss social issues in English. There will be homework every week to prepare you for these discussions. The homework may comprise one or more of the following: a question sheet, a reading passage (and related

	exercises) from the textbook, independent internet research and preparation for poster presentations. After the discussions, students will fill out self-assessment forms to monitor their own progress in acquiring discussion skills. In addition to the textbook, students will be given handouts of English phrases useful for discussion. There will be regular quizzes on these. Although there will be an emphasis on speaking English, we will also do listening and reading, and grammar and vocabulary exercises from the textbook. With the written homework assignments, our class will therefore cover the four skills of language learning.
準備学習	Students will need to complete all homework assignments before coming to class.
成績評価	Grades will depend on: punctual, thoughtful, and complete homework assignments; active class participation in pair- and group-work; self-assessments; quizzes; and attendance. Homework: 40% Discussions: 30% Quizzes: 10% Self-assessments: 10% Attendance: 10%
講義構成	It is expected that each topic area will require at least three weeks. However, this (and topic choice) may change according to the needs and interests of the students. Semester 1 Week 1: Course and teacher introductions Week 2: Getting-to-know-you activities Week 3: Unit 1, Advertising Week 4: Unit 1 (contd.) Week 5: Unit 2, Animal rights Week 6: Unit 2 (contd.) Week 7: Poster presentation Week 8: Poster presentation Week 9: Fashion Week 10: Fashion (contd.) Week 11: Food Week 12: Food (contd.) Week 14: Concepts of beauty Week 15: Review
教科書	'Ideas and Issues, Intermediate' Writer: Olivia Johnston & Mark Farrell Publisher: Macmillan Languagehouse
参考書・資料	Please bring a dictionary and a folder for handouts
担当者から一言	Ours will be a challenging class, and so it is very important that students are ready to do the homework. The homework will help you to go deeply into an issue, and prepare you for expressing your ideas and opinions in class. By doing it, you will always have something to say in the discussions, and so you will feel more in control and more confident. Doing the homework is therefore essential if you are to get maximum benefit and enjoyment from this class.

授業コード	12Q12		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラム1a (2クラス)(前)		
担当者名	バプティスト(バプティスト ジャニス)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
講義の内容	This class is designed to help students develop their conversational ability. Students will have ample		

	opportunities to practice speaking in class.
到達目標	Develop students' confidence to speak English
講義方法	Final grade will be based on active participation in class activities, preparation and completion of assignments, regular attendance, punctuality, and attentiveness in class.
準備学習	Prepare a topic for "warm up" conversation
成績評価	Current event topics, movies and songs will be discussed in a relaxed and supportive class atmosphere.
講義構成	In order to develop conversational ability, students will participate in pair, small and/or full group activities. Course materials matched to students' current ability as well as to challenge will be used. Each student will prepare and deliver one short and one long presentation during this course. Students will be able to suggest topics of interest for discussion / presentation
教科書	TELL ME MORE by Matthew Reesor. Publisher: McMillan Language House
参考書・資料	N/A
講義関連事項	N/A
担当者から一言	Speaking and interacting regularly in a foreign language can help you feel comfortable and develop confidence in your ability. I would like you to make every effort to get maximum benefit from this class by willingly participating in class activities.

授業コード	12Q13		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIa (3クラス)(前)		
担当者名	バスカヴィル(ブライアン L. バスカヴィル)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This oral English course will continue to encourage students to use and build upon the English which they have studied in previous years. Students will practice English conversation techniques that can help them now in Japan or during possible future trips abroad. Active student participation will be a significant part of the class and students will be asked to use English in ways that are pertinent to their own lives. Although all four skills will be used to some degree in the course, students will be especially encouraged to communicate their own ideas by speaking in English. Class attendance and active participation are very important parts of the final grade.
到達目標	At the end of this term, students should have increased their ability to speak and listen in English. In addition, students should be more comfortable and have more confidence when speaking in English.
講義方法	This class will be taught entirely in English and students will have a chance to practice using English in real situations. In addition, students will often work in pairs and groups in a variety of activities during each class. Note that it is very difficult to make up for missed classes.
準備学習	Besides homework or other tasks assigned in class, students are encourage to listen to native-speaker English as much as possible outside of class (music, movies, TV, etc.). In addition, speaking in English at any opportunity outside of class is also helpful.
成績評価	Evaluation will be based on attendance and active class participation (50%), other assigned work (30%), in addition to a final quiz and oral test (20%).
講義構成	The following schedule, subject to revision, shows major topics to be covered in this class: first term weeks 1-2 classroom English, introductions, personal information and introductions weeks 3-4 comparisons weeks 5-7 occupations, personalities, personal preferences weeks 8-9 directions weeks 10-11 talking about experiences week 12-13 travel English topics I week 14 oral test

教科書	"Talk a Lot: Book Two-Second Edition" by David Martin (EFL Press)
参考書・資料	Students must have a dictionary (Japanese/English, English/Japanese) in every class.
担当者から一言	This is not a lecture class. Student attendance and active participation are very important, therefore it is very difficult to make up for missed classes.

授業コード	12Q14		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIa (4クラス)(前)		
担当者名	バスカヴィル(ブライアン L. バスカウヰル)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This oral English course for students who have already studied abroad (or highly motivated students who might like to study abroad) will aim to help retain and build upon English already acquired. Students will practice various techniques to "exercise" their language skills in ways not often available in other situations in Japan. Active student participation will be a significant part of the class. Students will be asked to use English in ways that are pertinent to their own lives. Although all four skills will be used to some degree in the course, students will be especially encouraged to communicate their own ideas by speaking in English. Class attendance and active participation are very important parts of the final grade.		
到達目標	By the end of this course, students should have had many opportunities to practice, maintain and improve their English skills in general and oral English skills, in particular. Students will also be introduced to opportunities outside of class to help maintain and improve their English skills.		
講義方法	This class will be taught entirely in English and students will have a chance to practice using English in real situations. In addition, students will often work in pairs and groups in a variety of activities during each class. Note that it is very difficult to make up for missed classes, so attendance is very important.		
準備学習	Before class, students must prepare thoroughly for the topics of the following week. This may include vocabulary preparation or gathering general background information on assigned topics. Without sufficient English vocabulary and general knowledge, it is difficult to take part in the class activities.		
成績評価	Evaluation will be based on attendance and active class participation (60%), other assigned work (20%), in addition to a final quiz and/or project (20%).		
講義構成	Students can expect a varied, stimulating class each week based on topics of particular interest to them. Following is a basic course outline which will be modified to suit the particular students enrolled. Week 1 Introductions, course information, biographies Weeks 2-3 Life in Japan/Life Abroad Week 4 Golden Week/Japanese Holidays Weeks 5-6 YouTube and Podcasts Week 7 TV & Movies/Vocabulary Week 8 Current Events/Stories in the News Week 9-11 Students' topics/assisted discussion Week 12 Turning Points/Life Crossroads Weeks 13 Technology/Gadgets Week 14 Final discussions lead by each student		
教科書	To be decided.		
参考書・資料	A Japanese-English/English-Japanese dictionary is required in every class.		

担当者から一言	This class is aimed at a much higher level than the other English Forum class. Most students in this class have studied abroad some time or their English level/motivation is higher than average students. This would also be a good class for ambitious students who aspire to study abroad. In any case, all students must participate actively and come prepared for each class. NOTE: If you are not sure if this is the right class for you, please go to the first class and talk to the teacher. Students who have already taken this class as English Forum I may enroll again in English Forum II or III.
---------	---

授業コード	12Q15		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIa (5クラス)(前)		
担当者名	シニア(シニア. マーク)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	In English Forum I, the course aims to help the students: 1) express themselves adequately in guided situations 2) improve their ability to understand spoken English 3) improve pronunciation, stress, and intonation, and 4) increase their understanding of other cultures.		
到達目標	In this course, students will: * get used to using English to communicate with their classmates and teacher * practise and perform a large number of basic conversations in a variety of situations * begin to practise expressing their own ideas, feelings, and opinions on a variety of familiar topics * review the English they have studied before, but also learn new vocabulary and useful expressions * practise basic skills that are necessary for successful language learning (for example, using a dictionary and taking notes)		
講義方法	Classroom activities range from listening to audiotapes, watching videos, and participating in class and group discussions and presentations, at the discretion of the teacher.		
準備学習	It is important to complete weekly homework assignments – as these form the basis of class speaking activities.		
成績評価	You will be assessed on the basis of participation, class activities, homework, and final semester test. Participation: 25% Class activities: 25% Homework: 25% Test: 25%		
講義構成	Class 1: Introductions Classes 2 & 3: Exchanging information Classes 4 & 5: Lifestyles Classes 6 & 7: Past experiences Classes 8 & 9: Appearances/Fashion Classes 10 & 11: Vacations Classes 12 & 13: Money/Personal budget Class 14: Review Test		
教科書	New Changing Times, by Dale Fuller/Chris Fuller (Macmillan Languagehouse, 2006) ISBN: 4-7773-6027-X		
参考書・資料	Please bring a dictionary and a folder for handouts.		
担当者から一言	Enjoy speaking English in a fun, relaxed, informal class.		

授業コード	12Q16		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIa (6クラス)(前)		
担当者名	マニエル(マニエル ステラ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	the aim of this course is to help the students express themselves adequately in guided situations, improve		
-------	--	--	--

	their ability to understand spoken English, improve pronunciation, stress, and intonation s.
到達目標	Classroom activities range from listening to audiotapes, watching videos, and participating in class and group discussions ,pair work, and ofcourse presentations.
講義方法	Instuctorss will aim to create comfortable workshp atmosphere. Students will be expected to work hard both alone and with their partners.
準備学習	Evaluation will generally take place over the year in the form of continious assessment, short test will be given regularly. Pair work : 50 % Homework : 30 % Attendance : 20 %
成績評価	Evaluation will generally take place over the year in the form of continious assessment, short test will be given regularly. Pair work : 50 % Homework : 30 % Attendance : 20 %
講義構成	Some changes to the schedule are likely as the teacher becomes familiar with students abilities and interests. .Introducing yourself,exchanging personal information. 2.Talking about your daily life as a student. 3.Talking about things you can do and things you like to do. 4. Talking about your home town and what you can do there. 5Describing your journey to school / University. 6.Talking about shopping habits and preferences. 7.Talking about things that are happening in your life. 8 Describing people you know. 9. Talking about your future arrangements. 10.Talking about Movies. 11.Talking about your early memories. 12.Talking about hopes and dreams for the furure. 13. Movies. 14. Two students discuss what they want to do after graduation. 15. Oral test in pairs.
教科書	Breakthrough Successs with English I Author :Miles Craven. Publisher :Macmillan.
担当者から一言	Japanese/English, English/Japanese Dictionary.

授業コード	12Q21		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIb (1クラス)(後)		
担当者名	クック(クック ルーズ ジェニファー)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This course will be primarily a discussion skills course. However, reading, writing and listening in English will also be covered.
到達目標	In the second semester, students will consolidate their abilities in the following: 1) To gain confidence and fluency in discussing ideas and opinions in English. 2) To learn English phrases suitable for discussion (e.g. phrases for giving opinions, persuading, disagreeing, etc.). 3) To learn vocabulary appropriate for specific topic areas. 4) To develop critical thinking about various global and domestic issues.
講義方法	Every week in this course you will work with partners and small groups to improve your ability to discuss social issues in English. There will be homework every week to prepare you for these discussions. The

	homework may comprise one or more of the following: a question sheet, a reading passage (and related exercises) from the textbook, independent internet research and preparation for poster presentations. After the discussions, students will fill out self-assessment forms to monitor their own progress in acquiring discussion skills. In addition to the textbook, students will be given handouts of English phrases useful for discussion. There will be regular quizzes on these. Although there will be an emphasis on speaking English, we will also do listening and reading, and grammar and vocabulary exercises from the textbook. With the written homework assignments, our class will therefore cover the four skills of language learning.
準備学習	Students will need to complete all homework assignments before coming to class.
成績評価	Grades will depend on: punctual, thoughtful, and complete homework assignments; active class participation in pair- and group-work; self-assessments; quizzes; and attendance. Homework: 40% Discussions: 30% Quizzes: 10% Self-assessments: 10% Attendance: 10%
講義構成	It is expected that each topic area will require at least three weeks. However, this (and topic choice) may change according to the needs and interests of the students. Semester 2 Week 1: Welcome back activities Week 2: Crime and Punishment Week 3: Crime and Punishment (contd.) Week 4: Discipline Week 5: Discipline (contd.) Week 6: Drink and Drugs Week 7: Drink and Drugs (contd.) Week 8: Family Week 9: Family (contd.) Week 10: Film and TV Week 11: Film and TV (contd.) Week 12: Green Issues Week 13: Green Issues (contd.) Week 14: Sexism Week 15: Review
教科書	'Ideas and Issues, Intermediate' Writer: Olivia Johnston & Mark Farrell Publisher: Macmillan Languagehouse
参考書・資料	Please bring a dictionary and a folder for handouts
担当者から一言	Ours will be a challenging class, and so it is very important that students are ready to do the homework. The homework will help you to go deeply into an issue, and prepare you for expressing your ideas and opinions in class. By doing it, you will always have something to say in the discussions, and so you will feel more in control and more confident. Doing the homework is therefore essential if you are to get maximum benefit and enjoyment from this class.

授業コード	12Q22		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIb (2クラス)(後)		
担当者名	バプティスト(バプティスト ジャニス)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限

特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)
講義の内容	This class is designed to help students develop their oral communication skills and build on skills learned in Eng. Forum 1a. Students will have ample opportunities in class to practice expressing their opinions on a range of topics.
到達目標	Further develop students' confidence to speak English
講義方法	Current event topics, movies and songs will be discussed in a relaxed and supportive class atmosphere.
準備学習	Prepare a topic for 'warm up' conversation with other students
成績評価	Final grade will be based on active participation in class discussions and activities, preparation and completion of assignments, regular attendance, punctuality, and attentiveness in class.
講義構成	In order to develop communication skills, students will participate in pair, small and/or full group activities. Course materials will include movies, news articles or songs that provide socially relevant issues for discussion. Each student will prepare and deliver one short and one long presentation during this course. Students will be able to suggest topics of interest for discussion / presentation
教科書	There's no required textbook for this course.
参考書・資料	N/A
講義関連事項	N/A
担当者から一言	Speaking and interacting regularly in a foreign language can help you feel comfortable and develop confidence in your ability. As the world becomes smaller through globalization, the need to speak a second or third language effectively becomes greater. I would like you to make every effort to get maximum benefit from this class by fully participating in class activities.

授業コード	12Q23		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIb（3クラス)(後)		
担当者名	バスカヴィル(ブライアン L. バスカウィル)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This oral English course will continue to encourage students to use and build upon the English which they have studied in previous years. Students will practice English conversation techniques that can help them now in Japan or during possible future trips abroad. Active student participation will be a significant part of the class and students will be asked to use English in ways that are pertinent to their own lives. Although all four skills will be used to some degree in the course, students will be especially encouraged to communicate their own ideas by speaking in English. Class attendance and active participation are very important parts of the final grade.
到達目標	At the end of this term, students should have increased their ability to speak and listen in English. In addition, students should be more comfortable and have more confidence when speaking in English.
講義方法	This class will be taught entirely in English and students will have a chance to practice using English in real situations. In addition, students will often work in pairs and groups in a variety of activities during each class. Note that it is very difficult to make up for missed classes.
準備学習	Besides homework or other tasks assigned in class, students are encouraged to listen to native-speaker English as much as possible outside of class (music, movies, TV, etc.). In addition, speaking in English at any opportunity outside of class is also helpful.
成績評価	Evaluation will be based on attendance and active class participation (50%), other assigned work (30%), in addition to a final quiz and oral test (20%).
講義構成	The following schedule, subject to revision, shows major topics to be covered in this class: second term weeks 1-2 . . . review classroom English, summer experiences weeks 3-4 . . . talking about the past weeks 7-9 . . . food, describing Japanese food to others week 10-11 . . . sickness and health

	weeks 12-13 ・travel English topics II week 14 ・ ・ ・ ・oral test
教科書	"Talk a Lot: Book Two-Second Edition" by David Martin (EFL Press)
参考書・資料	Students must have a dictionary (Japanese/English, English/Japanese) in every class.
担当者から一言	This is not a lecture class. Student attendance and active participation are very important, therefore it is very difficult to make up for missed classes.

授業コード	12Q24		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIb（4クラス)(後)		
担当者名	バスカヴィル(ブライアン L. バスカヴィル)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This oral English course for students who have already studied abroad (or highly motivated students who might like to study abroad) will aim to help retain and build upon English already acquired. Students will practice various techniques to "exercise" their language skills in ways not often available in other situations in Japan. Active student participation will be a significant part of the class. Students will be asked to use English in ways that are pertinent to their own lives. Although all four skills will be used to some degree in the course, students will be especially encouraged to communicate their own ideas by speaking in English. Class attendance and active participation are very important parts of the final grade.
到達目標	By the end of this course, students should have had many opportunities to practice, maintain and improve their English skills in general and oral English skills, in particular. Students will also be introduced to opportunities outside of class to help maintain and improve their English skills.
講義方法	This class will be taught entirely in English and students will have a chance to practice using English in real situations. In addition, students will often work in pairs and groups in a variety of activities during each class. Note that it is very difficult to make up for missed classes, so attendance is very important.
準備学習	Before class, students must prepare thoroughly for the topics of the following week. This may include vocabulary preparation or gathering general background information on assigned topics. Without sufficient English vocabulary and general knowledge, it is difficult to take part in the class activities.
成績評価	Evaluation will be based on attendance and active class participation (60%), other assigned work (20%,) in addition to a final quiz and/or project (20%).
講義構成	Students can expect a varied, stimulating class each week based on topics of particular interest to them. Following is a basic course outline which will be modified to suit the particular students enrolled. Week 1 Introductions, course review, welcome new students Week 2 Travel topics Week 3 Japanese/Foreign students Week 4 Current Events/Stories in the News Weeks 5 CNN Student News Week 6 Work life after university Weeks 7-8 Multitasking/Vocabulary Week 9-11 Students' topics/assisted discussion Weeks 12-13 Adulthood/Vocabulary Week 14 Final discussions lead by each student
教科書	To be decided.
参考書・資料	A Japanese-English/English-Japanese dictionary is required in every class.

担当者から一言	This class is aimed at a much higher level than the other English Forum class. Most students in this class have studied abroad some time or their English level/motivation is higher than average students. This would also be a good class for ambitious students who aspire to study abroad. In any case, all students must participate actively and come prepared for each class. NOTE: If you are not sure if this is the right class for you, please go to the first class and talk to the teacher. Students who have already taken this class as English Forum I may enroll again in English Forum II or III.
---------	--

授業コード	12Q25		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIb (5クラス)(後)		
担当者名	シニア(シニア: マーク)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	In English Forum I, the course aims to help the students: 1) express themselves adequately in guided situations 2) improve their ability to understand spoken English 3) improve pronunciation, stress, and intonation, and 4) increase their understanding of other cultures.		
到達目標	In this course, students will: * get used to using English to communicate with their classmates and teacher * practise and perform a large number of basic conversations in a variety of situations * begin to practise expressing their own ideas, feelings, and opinions on a variety of familiar topics * review the English they have studied before, but also learn new vocabulary and useful expressions * practise basic skills that are necessary for successful language learning (for example, using a dictionary and taking notes)		
講義方法	Classroom activities range from listening to audiotapes, watching videos, and participating in class and group discussions and presentations, at the discretion of the teacher.		
準備学習	It is important to complete weekly homework assignments – as these form the basis of class speaking activities.		
成績評価	You will be assessed on the basis of participation, class activities, homework, and final semester test. Participation: 25% Class activities: 25% Homework: 25% Test: 25%		
講義構成	Class 1: Introductions Classes 2 & 3: Hometowns Classes 4 & 5: Opinions Classes 6 & 7: Cooking/Food Classes 8 & 9: Unforgettable moments Classes 10 & 11: Traveling in Japan Classes 12 & 13: The future Class 14: Review Test		
教科書	New Changing Times, by Dale Fuller/Chris Fuller (Macmillan Languagehouse, 2006) ISBN: 4-7773-6027-X		
参考書・資料	Please bring a dictionary and a folder for handouts.		
担当者から一言	Enjoy speaking English in a fun, relaxed, informal class.		

授業コード	12Q26		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIb (6クラス)(後)		
担当者名	マニユエル(マニユエル ステラ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	the aim of this course is to help the students express themselves adequately in guided situations, improve their ability to understand spoken English, improve pronunciation, stress, and intonation s. .
到達目標	Classroom activities range from listening to audiotapes, watching videos, and participating in class and group discussions ,pair work, and ofcourse presentations.
講義方法	Instuctorss will aim to create comfortable workshp atmosphere. Students will be expected to work hard both alone and with their partners.
準備学習	Since this course forcusses on oral communication, attendance, attitude, and active participating in call and group discussionsand pair work.
成績評価	Evaluation will generally take place over the year in the form of continious assessment, short test will be given regularly. Pair work : 50 % Homework : 30 % Attendance : 20 %
講義構成	Some changes to the schedule are likely as the teacher becomes familiar with students abilities and interests. 1.Introducing yourself,exchanging personal information. 2.Talking about your daily life as a student. 3.Talking about things you can do and things you like to do. 4. Talking about your home town and what you can do there. 5Describing your journey to school / University. 6.Talking about shopping habits and preferences. 7.Talking about things that are happening in your life. 8 Describing people you know. 9. Talking about your future arrangements. 10.Talking about Movies. 11.Talking about your early memories. 12.Talking about hopes and dreams for the furure. 13. Movies. 14. Two students discuss what they want to do after graduation. 15. Oral test in pairs.
教科書	Breakthrough Successs with English I Author :Miles Craven. Publisher :Macmillan.
参考書・資料	Japanese/English, English/Japanese Dictionary.

授業コード	12Q31		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIIa (1クラス)(前)		
担当者名	バプティスト(バプティスト ジャニス)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This class is designed to help students develop their oral communication skills. Students will have ample opportunities to practice expressing their opinions on a range of topics in class.
到達目標	Help students challenge themselves to talk about social issues
講義方法	Current event topics, movies and songs will be discussed in a relaxed and supportive class atmosphere.
準備学習	Prepare a news story (any topic that interests you)
成績評価	Current event topics, movies and songs will be discussed in a relaxed and supportive class atmosphere.
講義構成	In order to develop communication skills, students will participate in pair, small, or full group activities. Course materials will include movies, news articles or songs that provide socially relevant issues for discussion. Each student will also prepare and deliver one short and one long presentation during this course. Students will be able to suggest topics of interest for discussion / presentation

教科書	There's no required textbook for this course.
参考書・資料	N/A
講義関連事項	N/A
担当者から一言	Speaking and interacting regularly in a foreign language help you to feel comfortable and develop confidence in your ability. I would like you to make every effort to get maximum benefit from this class.

授業コード	12Q32		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIIa（2クラス）(前)		
担当者名	バスカヴィル(ブライアン L. バスカヴィル)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This oral English course for students who have already studied abroad (or highly motivated students who might like to study abroad) will aim to help retain and build upon English already acquired. Students will practice various techniques to “exercise” their language skills in ways not often available in other situations in Japan. Active student participation will be a significant part of the class. Students will be asked to use English in ways that are pertinent to their own lives. Although all four skills will be used to some degree in the course, students will be especially encouraged to communicate their own ideas by speaking in English. Class attendance and active participation are very important parts of the final grade.
到達目標	By the end of this course, students should have had many opportunities to practice, maintain and improve their English skills in general and oral English skills, in particular. Students will also be introduced to opportunities outside of class to help maintain and improve their English skills.
講義方法	This class will be taught entirely in English and students will have a chance to practice using English in real situations. In addition, students will often work in pairs and groups in a variety of activities during each class. Note that it is very difficult to make up for missed classes, so attendance is very important.
準備学習	Before class, students must prepare thoroughly for the topics of the following week. This may include vocabulary preparation or gathering general background information on assigned topics. Without sufficient English vocabulary and general knowledge, it is difficult to take part in the class activities.
成績評価	Evaluation will be based on attendance and active class participation (60%), other assigned work (20%), in addition to a final quiz and/or project (20%).
講義構成	Students can expect a varied, stimulating class each week based on topics of particular interest to them. Following is a basic course outline which will be modified to suit the particular students enrolled. Week 1 Introductions, course information, biographies Weeks 2-3 Life in Japan/Life Abroad Week 4 Golden Week/Japanese Holidays Weeks 5-6 YouTube and Podcasts Week 7 TV & Movies/Vocabulary Week 8 Current Events/Stories in the News Week 9-11 Students' topics/assisted discussion Week 12 Turning Points/Life Crossroads Weeks 13 Technology/Gadgets Week 14 Final discussions lead by each student
教科書	To be decided.
参考書・資料	A Japanese-English/English-Japanese dictionary is required in every class.

担当者から一言	This class is aimed at a much higher level than the other English Forum class. Most students in this class have studied abroad some time or their English level/motivation is higher than average students. This would also be a good class for ambitious students who aspire to study abroad. In any case, all students must participate actively and come prepared for each class. NOTE: If you are not sure if this is the right class for you, please go to the first class and talk to the teacher. Students who have already taken this class as English Forum I may enroll again in English Forum II or III.
---------	--

授業コード	12Q33		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIIa (3クラス)(前)		
担当者名	シニア(シニア・マーク)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	In English Forum II, the course aims to help the students: 1) express themselves with greater fluency and confidence 2) respond more quickly in a conversation 3) build on language gains made in English Forum I		
到達目標	In this course, students will: ・ improve their ability to participate in longer, more complex conversations in a variety of situations ・ express their ideas and opinions about topics that are related to personal experience and interests, and begin to talk about more complex issues of social and global interest. ・ practice using language fluently, accurately, and appropriately (including grammar, vocabulary, idiomatic expressions, pronunciation, and intonation) ・ learn new vocabulary, structures, and useful expressions ・ practice skills for becoming successful, independent language learners (for example, using a dictionary, taking notes, and using the Internet and other materials)		
講義方法	At the discretion of the teacher a variety of activities will take place, for example, pair work, group discussion, listening to cassette tapes and watching videos. The aim will be to involve all students fully in the class. Since fluency and confidence in using the language are of the greatest importance in this class, the emphasis will be on communicating effectively. Grammar and vocabulary will be revised in cases in which incorrect language causes misunderstandings.		
準備学習	It is important to complete weekly homework assignments – as these form the basis of class speaking activities.		
成績評価	You will be assessed on the basis of participation, class activities, homework, and final semester test. Participation: 25% Class activities: 25% Homework: 25% Test: 25%		
講義構成	Lesson 1: Introductions Lessons 2 & 3: Likes and dislikes Lessons 4 & 5: Friends and friendship Lessons 6 & 7: Dating Lessons 8 & 9: Shopping Lessons 10 & 11: Domestic and foreign travel Lessons 12 & 13: Jobs and work Lesson 14: Review Test		
教科書	Face to Face, by Dale Fuller/Corey Fuller (Macmillan Languagehouse) ISBN: 4-89585-300-4		
参考書・資料	Please bring a dictionary and a folder for handouts.		
担当者から一言	Enjoy speaking English in a fun, relaxed, informal class.		

授業コード	12Q41
-------	-------

授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIIb (1クラス)(後)		
担当者名	バプティスト(バプティスト ジャニス)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This class is designed to help students develop their oral communication skills by building on what was learned in Eng. Forum II 2a. Students will have ample opportunities to practice expressing their opinions on a range of topics in class.
到達目標	Help students talk about social issues with confidence
講義方法	Current event topics, movies and songs will be discussed in a relaxed and supportive class atmosphere.
準備学習	Read newspaper, magazine, on Internet article that can be discussed with classmates.
成績評価	Final grade will be based on active participation in class discussions and activities, preparation and completion of assignments, regular attendance, punctuality, and attentiveness in class.
講義構成	In order to develop communication skills, students will participate in pair, small and/ or full group activities. Course materials will include movies, news articles or songs that provide socially relevant issues for discussion. Each student will prepare and deliver one short and one long presentation during this course. Students will be able to suggest topics of interest for discussion / presentation
教科書	There's no required textbook for this course.
参考書・資料	N/A
講義関連事項	N/A

担当者から一言	Speaking and interacting regularly in a foreign language can help you feel comfortable and develop confidence in your ability. As the world becomes small through globalization, the need to speak a second or third language becomes greater. I would like you to make every effort to get maximum benefit from this class by fully participating in all activities.
---------	---

授業コード	12Q42		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIIb (2クラス)(後)		
担当者名	バスカヴィル(ブライアン L. バスカウィル)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This oral English course for students who have already studied abroad (or highly motivated students who might like to study abroad) will aim to help retain and build upon English already acquired. Students will practice various techniques to “exercise” their language skills in ways not often available in other situations in Japan. Active student participation will be a significant part of the class. Students will be asked to use English in ways that are pertinent to their own lives. Although all four skills will be used to some degree in the course, students will be especially encouraged to communicate their own ideas by speaking in English. Class attendance and active participation are very important parts of the final grade.
到達目標	By the end of this course, students should have had many opportunities to practice, maintain and improve their English skills in general and oral English skills, in particular. Students will also be introduced to opportunities outside of class to help maintain and improve their English skills.
講義方法	This class will be taught entirely in English and students will have a chance to practice using English in real situations. In addition, students will often work in pairs and groups in a variety of activities during each class. Note that it is very difficult to make up for missed classes, so attendance is very important.
準備学習	Before class, students must prepare thoroughly for the topics of the following week. This may include vocabulary preparation or gathering general background information on assigned topics. Without sufficient English vocabulary and general knowledge, it is difficult to take part in the class activities.
成績評価	Evaluation will be based on attendance and active class participation (60%), other assigned work (20%,) in addition to a final quiz and/or project (20%).

講義構成	Students can expect a varied, stimulating class each week based on topics of particular interest to them. Following is a basic course outline which will be modified to suit the particular students enrolled. Week 1 Introductions, course review, welcome new students Week 2 Travel topics Week 3 Japanese/Foreign students Week 4 Current Events/Stories in the News Weeks 5 CNN Student News Week 6 Work life after university Weeks 7-8 Multitasking/Vocabulary Week 9-11 Students' topics/assisted discussion Weeks 12-13 Adulthood/Vocabulary Week 14 Final discussions lead by each student
教科書	To be decided.
参考書・資料	A Japanese-English/English-Japanese dictionary is required in every class.
担当者から一言	This class is aimed at a much higher level than the other English Forum class. Most students in this class have studied abroad some time or their English level/motivation is higher than average students. This would also be a good class for ambitious students who aspire to study abroad. In any case, all students must participate actively and come prepared for each class. NOTE: If you are not sure if this is the right class for you, please go to the first class and talk to the teacher. Students who have already taken this class as English Forum I may enroll again in English Forum II or III.

授業コード	12Q43		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムIIB (3クラス)(後)		
担当者名	シニア(シニア. マーク)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	In English Forum II, the course aims to help the students: 1) express themselves with greater fluency and confidence 2) respond more quickly in a conversation 3) build on language gains made in English Forum I
到達目標	In this course, students will: ・ improve their ability to participate in longer, more complex conversations in a variety of situations ・ express their ideas and opinions about topics that are related to personal experience and interests, and begin to talk about more complex issues of social and global interest. ・ practice using language fluently, accurately, and appropriately (including grammar, vocabulary, idiomatic expressions, pronunciation, and intonation) ・ learn new vocabulary, structures, and useful expressions ・ practice skills for becoming successful, independent language learners (for example, using a dictionary, taking notes, and using the Internet and other materials)
講義方法	At the discretion of the teacher a variety of activities will take place, for example, pair work, group discussion, listening to cassette tapes and watching videos. The aim will be to involve all students fully in the class. Since fluency and confidence in using the language are of the greatest importance in this class, the emphasis will be on communicating effectively. Grammar and vocabulary will be revised in cases in which incorrect language causes misunderstandings.
準備学習	It is important to complete weekly homework assignments – as these form the basis of class speaking activities.
成績評価	You will be assessed on the basis of participation, class activities, homework, and final semester test. Participation: 25%

	Class activities: 25% Homework: 25% Test: 25%
講義構成	Lesson 1: Introductions Lessons 2 & 3: Opinions and reasons Lessons 4 & 5: Music Lessons 6 & 7: Character/Personality Lessons 8 & 9: Money/Budgets Lessons 10 & 11: Situations in life/Storytelling Lessons 12 & 13: The future Lesson 14: Review Test
教科書	Face to Face, by Dale Fuller/Corey Fuller (Macmillan Languagehouse) ISBN: 4-89585-300-4
参考書・資料	Please bring a dictionary and a folder for handouts.
担当者から一言	Enjoy speaking English in a fun, relaxed, informal class.

授業コード	12Q51		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムⅢa（1クラス）(前)		
担当者名	バスカヴィル（ブライアン L. バスカヴィル）		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	先着順30名（登録方法は時間割別表を参照のこと）		

講義の内容	This oral English course for students who have already studied abroad (or highly motivated students who might like to study abroad) will aim to help retain and build upon English already acquired. Students will practice various techniques to “exercise” their language skills in ways not often available in other situations in Japan. Active student participation will be a significant part of the class. Students will be asked to use English in ways that are pertinent to their own lives. Although all four skills will be used to some degree in the course, students will be especially encouraged to communicate their own ideas by speaking in English. Class attendance and active participation are very important parts of the final grade.
到達目標	By the end of this course, students should have had many opportunities to practice, maintain and improve their English skills in general and oral English skills, in particular. Students will also be introduced to opportunities outside of class to help maintain and improve their English skills.
講義方法	This class will be taught entirely in English and students will have a chance to practice using English in real situations. In addition, students will often work in pairs and groups in a variety of activities during each class. Note that it is very difficult to make up for missed classes, so attendance is very important.
準備学習	Before class, students must prepare thoroughly for the topics of the following week. This may include vocabulary preparation or gathering general background information on assigned topics. Without sufficient English vocabulary and general knowledge, it is difficult to take part in the class activities.
成績評価	Evaluation will be based on attendance and active class participation (60%), other assigned work (20%), in addition to a final quiz and/or project (20%).
講義構成	Students can expect a varied, stimulating class each week based on topics of particular interest to them. Following is a basic course outline which will be modified to suit the particular students enrolled. Week 1 Introductions, course information, biographies Weeks 2-3 Life in Japan/Life Abroad Week 4 Golden Week/Japanese Holidays Weeks 5-6 YouTube and Podcasts Week 7 TV & Movies/Vocabulary Week 8 Current Events/Stories in the News Week 9-11 Students' topics/assisted discussion Week 12 Turning Points/Life Crossroads Weeks 13 Technology/Gadgets

	Week 14 Final discussions lead by each student
教科書	To be decided.
参考書・資料	A Japanese-English/English-Japanese dictionary is required in every class.
担当者から一言	This class is aimed at a much higher level than the other English Forum class. Most students in this class have studied abroad some time or their English level/motivation is higher than average students. This would also be a good class for ambitious students who aspire to study abroad. In any case, all students must participate actively and come prepared for each class. NOTE: If you are not sure if this is the right class for you, please go to the first class and talk to the teacher. Students who have already taken this class as English Forum I may enroll again in English Forum II or III.

授業コード	12Q52		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムⅢa (2クラス)(前)		
担当者名	シニア(シニア. マーク)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	イングリッシュ・フォーラムⅢはディスカッションとディベートのクラスです。学生はディベートを通じて自分の意見を効果的に自信を持って表現したり主張したりすることを学びます。
到達目標	このクラスでは学生は ○現代社会の様々な問題を考える力を養います ○英語で自分の考えを説得力を持って表現できるように学習します このクラスで得たチームワークとディベート力は大学卒業後も役に立つことでしょう。
講義方法	Interesting and controversial topics are discussed informally in pairs and groups, then debated in teams.
準備学習	Students should read the coursebook unit carefully before class in order to derive maximum benefit from in-class discussion and debate activities.
成績評価	Students are assessed on the basis of participation, class activities, homework, and a model debate at the end of the semester. Participation: 25% Class activities: 25% Homework: 25% Test debate: 25%
講義構成	Classes follow a two-week cycle: Week 1: prepare & discuss topic (pairs/groups) Week 2: debate topic (teams) In this way, approximately six different topics will be covered during the semester. Past topics have included cell phones, smoking, English...
教科書	Title: Which side are you on? (Seibido) Author: Gillian Flaherty ISBN: 4-7919-4063-6 C1082
参考書・資料	Please bring a dictionary to class.
担当者から一言	ディベートを楽しんでください！ リラックスできて形式ばらないクラスです。

授業コード	12Q61
-------	-------

授業科目名	イングリッシュ・フォーラムⅢb (1クラス)(後)		
担当者名	バスカヴィル(ブライアン L. バスカヴィル)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This oral English course for students who have already studied abroad (or highly motivated students who might like to study abroad) will aim to help retain and build upon English already acquired. Students will practice various techniques to “exercise” their language skills in ways not often available in other situations in Japan. Active student participation will be a significant part of the class. Students will be asked to use English in ways that are pertinent to their own lives. Although all four skills will be used to some degree in the course, students will be especially encouraged to communicate their own ideas by speaking in English. Class attendance and active participation are very important parts of the final grade.		
到達目標	By the end of this course, students should have had many opportunities to practice, maintain and improve their English skills in general and oral English skills, in particular. Students will also be introduced to opportunities outside of class to help maintain and improve their English skills.		
講義方法	This class will be taught entirely in English and students will have a chance to practice using English in real situations. In addition, students will often work in pairs and groups in a variety of activities during each class. Note that it is very difficult to make up for missed classes, so attendance is very important.		
準備学習	Before class, students must prepare thoroughly for the topics of the following week. This may include vocabulary preparation or gathering general background information on assigned topics. Without sufficient English vocabulary and general knowledge, it is difficult to take part in the class activities.		
成績評価	Evaluation will be based on attendance and active class participation (60%), other assigned work (20%,) in addition to a final quiz and/or project (20%).		
講義構成	Students can expect a varied, stimulating class each week based on topics of particular interest to them. Following is a basic course outline which will be modified to suit the particular students enrolled. Week 1 Introductions, course review, welcome new students Week 2 Travel topics Week 3 Japanese/Foreign students Week 4 Current Events/Stories in the News Weeks 5 CNN Student News Week 6 Work life after university Weeks 7-8 Multitasking/Vocabulary Week 9-11 Students' topics/assisted discussion Weeks 12-13 Adulthood/Vocabulary Week 14 Final discussions lead by each student		
教科書	To be decided.		
参考書・資料	A Japanese-English/English-Japanese dictionary is required in every class.		

担当者から一言	This class is aimed at a much higher level than the other English Forum class. Most students in this class have studied abroad some time or their English level/motivation is higher than average students. This would also be a good class for ambitious students who aspire to study abroad. In any case, all students must participate actively and come prepared for each class. NOTE: If you are not sure if this is the right class for you, please go to the first class and talk to the teacher. Students who have already taken this class as English Forum I may enroll again in English Forum II or III.
---------	---

授業コード	12Q62		
授業科目名	イングリッシュ・フォーラムⅢb (2クラス)(後)		
担当者名	シニア(シニア. マーク)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	イングリッシュ・フォーラムⅢはディスカッションとディベートのクラスです。学生はディベートを通じて自分の意見を効果的に自信を持って表現したり主張したりすることを学びます。
到達目標	このクラスでは学生は ○現代社会の様々な問題を考える力を養います ○英語で自分の考えを説得力を持って表現できるように学習します このクラスで得たチームワークとディベート力は大学卒業後も役に立つことでしょう。
講義方法	Interesting and controversial topics are discussed informally in pairs and groups, then debated in teams.
準備学習	Students should read the coursebook unit carefully before class in order to derive maximum benefit from in-class discussion and debate activities.
成績評価	Students are assessed on the basis of participation, class activities, homework, and a model debate at the end of the semester. Participation: 25% Class activities: 25% Homework: 25% Test debate: 25%
講義構成	Classes follow a two-week cycle: Week 1: prepare & discuss topic (pairs/groups) Week 2: debate topic (teams) In this way, approximately six different topics will be covered during the semester. Past topics have included marriage, gambling, cloning...
教科書	Title: Which side are you on? (Seibido) Author: Gillian Flaherty ISBN: 4-7919-4063-6 C1082
参考書・資料	Please bring a dictionary to class.
担当者から一言	ディベートを楽しんでください！ リラックスできて形式ばらないクラスです。

授業コード	12037		
授業科目名	英語学研究I (前)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日5限またはアポイントメント		

講義の内容	今年の英語学研究は形式意味論 (formal semantics) の基礎的な考えを概観する。形式意味論とは、論理学の成果を自然言語の意味分析に流用し、発展させた理論である。形式意味論においては、(平叙)文の意味を知ることとは、究極的にはその文を「真」だと判定できる条件を知ることだとされている。よって、形式意味論は「真理条件の意味論 (truth-conditional semantics)」とも呼ばれる。さらに、形式意味論の主眼は、「全体の意味は、部分の意味と、組み合わせ規則によって決定される」というフレーゲの構成性原理をベースに、どのようにして「語の意味」が「文の意味」まで正しく、自動的に組み上げられていくかを明らかにすることにある。よって、語彙意味論や認知意味論などとは違い、語の意味そのものよりも、語と語の組み合わせ方に研究の力点が置かれていると言えるかもしれない。初学者は意味論というより数学でも勉強している気になるかもしれないが、厳密に文の構成を追求することによって初めて見えてくる意味現象も多々存在し、世界でも非常に多くの研究者が形式意味論の枠組みでの意味研究を行っている。 一見難しそうであるが、パズルを解き明かすようなおもしろさを感じ取ってほしいと思う。論理的思考をするのが好きな人、あるいは論理的思考を鍛えたいと思う学生におすすめである。
到達目標	形式意味論の基本的な論理表示を理解し、ことばの裏にある論理性を知ることが目標である。

講義方法	テキストをもとに講義方式で行う。テキストは毎回持参すること。論理記号というものは、「習うより慣れろ」という側面もあるので、随時練習問題をやってもらい、できるだけ論理式に慣れてもらう。また、二度の中間試験を行う。
準備学習	英語学入門を含めて英語学科目を8単位以上履修済であることが望ましい。
成績評価	2度の中間試験と期末試験の単純平均点で評価する。90点以上が秀、80点以上が優、70点以上が良、60点以上が可、それ未満を不可とすることを原則とする。追加課題などによる救済措置は一切とらないので注意されたい。
講義構成	※予定は変更されることがあるので講義での告知を聞き逃さないこと。 1. Introduction 2. 意味の諸相(1) 2. 意味の諸相(2) 4. 意味の諸相(3) 5. Midterm Exam 1 6. 命題論理(1) 7. 命題論理(2) 8. 命題論理(3) 9. 集合論 10. Midterm Exam 2 11. 述語論理(1) 12. 述語論理(2) 13. 述語論理(3) 14. 述語論理(4) 15. Final Exam
教科書	杉本孝司『意味論1 一形式意味論一』くろしお出版. 1998年.
担当者から一言	3年次配当の講義ということで、それなりに高度な内容となります。

授業コード	12038		
授業科目名	英語学研究Ⅱ（後）		
担当者名	中谷健太郎（ナカタニ ケンタロウ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日5限またはアポイントメント		

講義の内容	前期に引き続き形式意味論 (formal semantics) の基礎的な考えを概観する。詳細は「英語学研究 I」のシラバスを参照のこと。
到達目標	形式意味論の基本的な論理表示を理解し、ことばの裏にある論理性を知ることが目標である。
講義方法	テキストをもとに講義方式で行う。テキストは毎回持参すること。論理記号というものは、「習うより慣れろ」という側面もあるので、随時練習問題をやってもらい、できるだけ論理式に慣れてもらう。また、二度の中間試験を行う。
準備学習	今年度の「英語学研究 I」でやったことを前提として話を進めるので、今年度の「英語学研究 I」を履修済であること(あるいはそれに相当する知識が既にあること)が強く推奨される。
成績評価	2度の中間試験と期末試験の単純平均点で評価する。90点以上が秀、80点以上が優、70点以上が良、60点以上が可、それ未満を不可とすることを原則とする。追加課題などによる救済措置は一切とらないので注意されたい。
講義構成	1. Introduction & Review – 命題論理と形式意味論 2. 述語論理(1) 3. 述語論理(2) 4. 述語論理(3) 5. 述語論理(4) 6. Midterm Exam 1 7. 構成性原理(1) 8. 構成性原理(2) 9. 構成性原理(3)

	10. Midterm Exam 2 11. 統語論と論理形式(1) 12. 統語論と論理形式(2) 13. 統語論と論理形式(3) 14. 統語論と論理形式(4) 15. Final Exam
教科書	杉本孝司『意味論1 一形式意味論一』くろしお出版. 1998年.
担当者から一言	3年次配当の講義ということで、それなりに高度な内容となります。

授業コード	12002		
授業科目名	英語学入門（後）		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)、中島信夫(ナカシマ ノブオ)、福島彰利(フクシマ アキトシ)、中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 木曜4限
オフィスアワー	各教員に問い合わせること。		

講義の内容	当「英語学入門」は、 ・「英語の歴史」(1年次配当) ・「英語の文法」「英語の意味」「英語の音声」「英語の獲得と理解」「英語のレキシコン」(2年次配当) ・「英語学研究」(3年次配当) といった「英語学」科目の入り口となる講義である。特に2年次3年次配当の英語学科目は当「入門」の内容を前提にしていることがあるので、当「入門」は1年次でしっかり習得しておくことが望まれる。 「英語学」は、英語の上達そのものを目的とする学問ではない。「英語学」とは、英語という言葉を通して、人間がことばを使用したり理解したりする能力はどうなっているのだろうかという疑問を解明する学問であり、「言語学」と呼ばれる認知科学の一分野である。 当授業では英語を【1】音声、【2】文法、【3】語と意味、【4】文脈と意味という四側面に分けて様々な方向からスポットライトを当てる。 当授業はあくまで入門なので、英語学の色々な側面を広く紹介するのが主眼である。各下位分野へのより詳しい探究は、上述した英語学専門科目や、英語学教員(有村・中島信・福島・中谷)担当のセミナーI、IIなどでなされる。
到達目標	言語理論の基本を学ぶことにより、英語を科学的に分析する基礎的な力を身につけ、2年次配当以降の英語学講義履修に備える。
講義方法	担当者それぞれが用意した資料に基づき、リレー方式で講義する。
準備学習	試験回数が多いので、講義の内容で分からないところを洗い出しておき、各試験前までにはそれらをきちんと解決して試験に臨むこと。
成績評価	3度の中間試験および期末試験、以上4試験の結果の平均により評価する。期末試験も中間試験1回と同じ比重であるので注意されたい(各25%、4つ合わせて100%。期末試験は学期全体ではなく、最後の中間試験以降の授業のみが試験範囲となる)。試験サイクルが短いことは一見大変そうであるが、逆に言えば一回一回の試験の範囲が小さいということである。まじめにとりくめば必ず報われると考えてほしい。
講義構成	初回 Overview(概観)ー有村・中島・福島・中谷 【1】音声(福島:9月～10月:第2回～8回) ・音声学 ・音韻論 ・Review Session ・1st Midterm Exam 【2】文法(有村:10月～11月:第9回～第15回) ・文法 ・文法と意味 ・Review Session ・2nd Midterm Exam

	【3】 語と意味(中谷:11月～12月:第16回～第24回) ・アスペクト ・意味役割、項構造 ・Review Session ・3rd Midterm Exam 【4】 文脈と意味(中島信:12月～1月:第25回～第32回) ・語用論 ・認知意味論 ・Review Session ・Final Exam
教科書	各担当者が用意するプリント、スライドによる。
参考書・資料	随時、指示する。
講義関連事項	本講義で学んだことをさらに深める科目として以下のものがある:英語の歴史、英語の文法、英語の意味、英語の音声、英語の獲得と理解、英語のレキシコン、講読演習、セミナーI・II。
担当者から一言	当講義は入門とはいえ、高校の時には聞いたこともないような用語、概念を紹介する。また、週2回の半期集中講義で、トピックも非常に多岐に渡るのが本講義の特徴である。よって、欠席を重ねるとたちまち訳が分からなくなるので、その点充分留意してもらいたい。

授業コード	12031		
授業科目名	英語の意味I（前）		
担当者名	中島信夫（ナカシマ ノブオ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	言葉の意味・解釈が言葉が用いられる場面とどのように関係し変わってくるかという語用論の問題について考える。具体的には、 1. 言外の意味・皮肉・比喩 (implicatures, irony, metaphor, metonymy) 2. 敬語・丁寧表現 (politeness) 3. 言葉を話すことがどのような社会的行為になるか、(speech acts) といったことについての理解を深める。また、テキストの英語は主として家族間の会話で省略(ellipsis)が非常に多いので、会話における省略の文法について理解する。
到達目標	会話表現の分析と通して語用論、意味論の基本的概念、考え方を理解する。
講義方法	主として講義形式で行うが、理解を深めるため前もってテキストを読み質問、感想等を毎回授業の初めに提出してもらう。質問については次回に回答する。
準備学習	対訳の日本語を参考にしてセリフの会話表現を読み、疑問点、問題点を整理して毎回提出する。
成績評価	レポート(20%)と出席(30%)、それに学期末の筆記試験(50%)とで総合的に評価する
講義構成	1 オリエンテーションとビデオ鑑賞 (Back to the Future) 2 ビデオ鑑賞 (Back to the Future) のあと授業構成、成績等について説明 3 Chapter 1. Late for School Vocatives(呼びかけ), Swearing(誓言) 4 Chapter 1. Late for School Logical Words(論理語): not, and, or, if-then, all, some 5 Chapter 2. Doc's Experiment Speech Acts(発話行為): speech act verb, illocutionary act 6 Chapter 3. Hill Valley, 1955 Double Negatives(二重否定), Implicatures(会話の含意), Deixis(直示表現) 7 Chapter 4. Lorraine Generalized Implicatures(一般化された会話の含意), Conditionals(条件文), Politeness(丁寧表現、言葉の作法) 8 Chapter 5. High School Implicatures, Logic(論理), Simile(明喩), Idioms 9 Chapter 6. Skateboard

	Rules of Politeness 10 Chapter 6. Skateboard P. Grice “Logic and Conversation” Maxims of Quantity, Quality, Relation and Manner 11 Chapter 7. The Big Dance Implicatures, Speech Acts 12 Chapter 8. The First Kiss Logic, Invited Inference(誘導推論) 13 Chapter 9. Ten-O-Four P.M. Ellipsis(省略), Logical Words 14 Chapter 10. I’m Home Vocatives, Speech Acts, Deixis 15 試験
教科書	池下、B. Pollard 編集『バック・トゥ・ザ・フューチャー(Back to the Future)』スクリーンプレイ
参考書・資料	今井邦彦 (2001) 『語用論への招待』東京: 大修館書店 小泉保編 (2001) 『入門語用論研究Ⅱ理論と応用』東京: 研究社 毛利可信 (1980) 『英語の語用論』東京: 大修館書店 山梨正明 (1986) 『発話行為』東京: 大修館書店 Thomas, Jenny (1995) Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics. London: Longman. (翻訳あり) 中島信夫『英語の意味。講義資料』My Konanの授業資料の欄からダウンロード可。
講義関連事項	英語学入門、英語の文法、英語の音声、レキシコン

授業コード	12032		
授業科目名	英語の意味Ⅱ(後)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	言葉の意味・解釈が言葉が用いられる場面とどのように関係し変わってくるかという語用論の問題について考える。具体的には、 1. 言外の意味・皮肉・比喩 2. 敬語・丁寧表現 3. 言葉が話すことがどのような社会的行為になるか、 といったことについての理解を深める。テキストの英語は主として親しい者同士の会話で省略が非常に多いので、会話における省略の文法について理解する。 また、イギリス英語の特徴についても調べていく。
到達目標	語用論、意味論の一般的知識を身につけ、英語を解釈したり使ったりする場合に応用できるようにする。
講義方法	主として講義形式で行うが、理解を深めるため前もってテキストを読み質問、感想等を毎回授業の初めに提出してもらう。質問については次回に回答する。
準備学習	テキストの授業予定分をあらかじめ読んで、疑問点、感想等を書いて授業の始まる前に提出する。
成績評価	レポート(20%)と出席率(30%)、それに学期末の筆記試験(50%)とで総合的に評価する。レポートのテーマについては授業で指示する。
講義構成	14回の講義内容は以下の通り: 1. 授業概要説明・ビデオ鑑賞 2. 引き続きビデオ鑑賞(簡単な感想を書いて提出) 3. P. H. Grice (1957) “Meaning” _____ (1975) “Logic and Conversation” 4. Chapter 1. Two Boys 5. Chapter 2. S.P.A.T. 6. Chapter 3. Emergency 7. Chapter 4. Cool Uncle Will 8. Chapter 5. New Trainers 9. Chapter 6. Christmas 10. Chapter 7. Rachel 11. Chapter 8. Honesty 12. Chapter 9. Something from Mum

	13.Chapter 10. No Man is an Island 14.まとめ、試験・レポート・評価等の説明
教科書	亀山・井上・久米・柴田 訳・解説(2003)「アバウト・ア・ボーイ(About A Boy)」スクリーンプレイ
参考書・資料	今井邦彦(2001)『語用論への招待』東京:大修館書店 小泉保編(2001)『入門語用論研究Ⅱ理論と応用』東京:研究社 毛利可信(1980)『英語の語用論』東京:大修館書店 山梨正明(1986)『発話行為』東京:大修館書店 Thomas, Jenny (1995) Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics. London:Longman. (翻訳あり) 中島信夫『英語の意味。講義資料』My Konanの授業資料の欄からダウンロード可。

授業コード	12033		
授業科目名	英語の音声I(前)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	火曜日 12:10～13:00		

講義の内容	英語として使われている言語音声は、どのようなメカニズムのもとに産出されるのか、そしてそうした音声はどのような音単位にまとめられるのかを解説する。
到達目標	日本語、英語に使われている音単位の基本を知り、発音の練習に応用できる。
講義方法	基本的に講義形式で進めていく。もちろん音声を扱う講義であるから、オーディオビジュアル機器を有効に使うことになる。さらには、インターネットへのアクセスを利用し、受講生諸君の理解を深めることができるようにしたい。
準備学習	日頃から、ラジオやインターネットで流されている英語を聞いておこう。
成績評価	レポート30%、期末試験70%で評価する。
講義構成	1 音声器官:英語の母語話者は、体内のどの器官をどう使うことで英語の音を産出しているか。 2 音声の分類:発音された文章やフレーズは、途切れ目の無い音の連続体となっているが、それをさらにどんな単位に分けることができるのか。 3 音素と異音:発音された音声の意味を正確に知覚するためには、どの音が「同じ」で、どの音が「違う」のかを判断せねばならない。その判断基準はどのようなものか。 4 英語の音節:話者が発音するときの、音の最小単位は何か。母音と子音がどのようなまとまりを成すのか。
教科書	特になし。
参考書・資料	Longman Pronunciation Dictionary. その他、必要に応じて資料を配付する。

担当者から一言	音声を記述する手段の一つとして、音素記号(広義の発音記号のこと)を学習しますが、このことは長い時間と忍耐が必要です。しっかり付いてきて下さい。
---------	---

授業コード	12034		
授業科目名	英語の音声Ⅱ(後)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	火曜日 12:10～13:00		

講義の内容	自然な英語の発音とはどのようなものかを解説する。日常的な会話で聞こえてくる発音は、辞書に表記されている発音記号どおりになっていない現実――例えば、あるはずの音が全く聞こえていない、強く発音されるべきアクセントが落ちてしまっている、全く別の音に変わってしまった等――に目を向けてもらう。こうしたいわゆる音変化が、どのような原則のもとに起こるのかを探ってゆきたい。
-------	--

到達目標	英語の韻律に関して、自分の耳をならし、さらにそれらを記述する手段を知ることが出来る。
講義方法	基本的に講義形式で進めていく。もちろん音声を扱う講義であるから、オーディオビジュアル機器を有効に使うことになる。さらには、インターネットへのアクセスを利用し、受講生諸君の理解を深めることができるようにしたい。
準備学習	日頃から、ラジオやインターネットを利用し、英語音声に慣れておくこと。特に、授業資料にアップロードしたファイルは、必ず聞いておくこと。
成績評価	レポート30%、期末試験70%で評価する。
講義構成	1 リズム: 単語に付与されている強く読むべき箇所(これは講義の中で「強勢」という用語に置き換える)が、どのような機能を持つのか。 2 イントネーション: 発話された音声は声の高低が常に変化している。こうした変化をつかさどる原則は何なのか。 3 英語の変容とバラエティー: 地域的な発音にはどのような変種があるのか。また、現在進行している発音の変化にどのようなものがあるのか。 4 英語の音響特性: コンピュータを使い音声を視覚化する方法にどのようなものがあるか。 5 自然な発音: 日常的に見られる発音の実体とはどのようなものか。英語らしい(訛りの無い)発音をするために、我々は何を知っておかねばならないのか。
教科書	特になし。
参考書・資料	Longman Pronunciation Dictionary. その他、必要に応じて資料を配付する。
講義関連事項	本講義は、学生諸君が前期に開講される「英語の音声」を履修済みであることを前提にしているので、必ず前／後期を通して受講すること。

授業コード	12036		
授業科目名	英語の獲得と理解(英語の理解)(後)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	「英語の獲得と理解」2007年度以降の入学生適用 「英語の理解」2006年度入学生適用		
オフィスアワー	月曜5限またはアポイントメント		

講義の内容	本講義では、心理言語学の中心的トピックを、「言語獲得」と「文理解(言語処理)」の二分野を中心に概観する。 「言語学 (Linguistics)」と「心理言語学 (Psycholinguistics)」(または「言語心理学 (Psychology of language)」)は、究極的には目標を同一にする。つまり、双方ともに、言語にまつわる人間の能力を科学的に解明するのが目標である。人間が言語を使い、理解している以上、人間の身体内部、特に脳に言語使用を可能にするメカニズムが備わっているのは間違いないだろう。「言語学」も「心理言語学」もその脳内メカニズムの解明を目指している。 違いは、いわゆる「言語学」が、我々の静的な言語知識に焦点を当てがちなのに対し、「心理言語学」が、我々の実際の言語運用のしくみに焦点を当てている点である。ただ、「言語知識」は「運用」されるためにあるのだし、「言語運用」は「言語知識」を当然の前提としている。よって、「言語学」と「心理言語学」は明確に区別された分野ではなく、同じメカニズムに違う角度からスポットライトを当てた姉妹のような学問だと言える。 本講義では、後者、つまり、人間が実際に母国語を獲得し、それを使用したり、あるいは言語を読んだり聞いたりするときに、頭の中で何が起きているのか、そのことに焦点をあてた研究である「心理言語学」(「言語心理学」)を概観する。
到達目標	ヒトの認知機能とリアルタイム言語理解のメカニズムが言語刺激とどう関わっているのか、基本的な学説を理解する。
講義方法	教科書にそって講義を進める。授業において教科書を参照するので教科書は毎回持ってくる。適宜補足資料や異説をとえたる論文を配布して、比較考察を行う。
準備学習	「英語学入門」を履修済であることが強く推奨される。
成績評価	2度の中間試験と期末試験の3つの試験の単純平均で成績評価する。
講義構成	1. イントロ

	2. 言語生得性をめぐる問題 (I) 3. 言語生得性をめぐる問題 (II) 4. 発話の知覚 (I) 5. Midterm Exam 1 6. 発話の知覚 (II) 7. 心的辞書 8. 文理解 (I) 9. Midterm Exam 2 10. 文理解 (II) 11. 文理解 (III) 12. ジェスチャー 13. 言語と思考 (I) 14. 言語と思考 (II) 15. Final Exam
教科書	針生 悦子(編)『言語心理学』朝倉書店. 2006.
参考書・資料	随時配布する。

授業コード	12029		
授業科目名	英語の文法I（前）		
担当者名	有村兼彬（アリムラ カネアキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日 12:10 - 13:00		

講義の内容	英語の文法について考える。文法と言うと「暗記科目」と思っている人は案外多いのではないだろうか。この授業では、専門用語の幾つかは覚えなければならないものの、その用語を用いて英語の文法を支配している原理原則を探るつもりである。この授業で目指す文法は、「考える文法」最終的には「納得できる文法」である。
到達目標	[1] 英語の文法を見直す。 [2] 英語の文法形式を支配する原理原則は何であるかを考える。 [3] 文法を理解することで、一般的な英語の理解を深める。
講義方法	下記のテキストをもとに英語の文法について解説する。授業ではプリントを毎回用意し、解説の理解を確認するつもりである。
準備学習	前回学んだことを理解したうえで授業に臨む。
成績評価	前期試験60%、出席20%、レポート等20%
講義構成	第1回目： 一般的説明 第2回目-第4回目： 第1章 節と名詞句 第5回目-第7回目： 第2章 不定詞節 第8回目-第10回目： 第3章 動名詞節・分詞節・無動詞節 第11回目-第13回目： 第5章 交替現象 第14回目 復習
教科書	有村兼彬他(2008)『英語学へのファーストステップ』(改訂版)英宝社。
参考書・資料	授業中に適宜紹介する。
講義関連事項	英語学入門、英語の意味、英語の音声、英語の獲得と理解、英語のレキシコン、英語学研究

担当者から一言	例えば I believe him honest.という文はSVOCというラベルが貼られ、それで納得しているのが現状ではないだろうか。しかし、この文のhimは「目的語」なのだろうか、それともhonestに対する「主語」なのだろうか？このようなナイーブな疑問が言語学の大問題につながるのです。つまり当たり前のことと習ったことが果たして当たり前なのだろうか？従来の考えに疑問を持つ姿勢こそが重要だし、それが学問の進展につながっていくのです。
---------	--

授業コード	12030
-------	-------

授業科目名	英語の文法Ⅱ(後)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日 12:10 - 13:00		

講義の内容	英語の文法について考える。文法と言うと「暗記科目」と思っている人は案外多いのではないだろうか。この授業では、専門用語の幾つかは覚えなければならないものの、その用語を用いて英語の文法を支配している原理原則を探るつもりである。この授業で目指す文法は、「考える文法」最終的には「納得できる文法」である。
到達目標	[1] 英語の文法を見直す。 [2] 英語の文法形式を支配する原理原則は何であるかを考える。 [3] 文法を理解することで、一般的な英語の理解を深める。
講義方法	下記のテキストをもとに英語の文法について解説する。授業ではプリントを毎回用意し、解説の理解を確認するつもりである。
準備学習	前回学んだことを理解したうえで授業に臨む。
成績評価	前期試験60%、出席20%、レポート等20%
講義構成	第1回目： 一般的説明 第2回目-第4回目： 第6章 叙実性 第5回目-第7回目： 第7章 受動文 第8回目-第10回目： 第8章 数量詞と否定 第11回目-第13回目： 第10章 右方向移動現象 第14回目 復習
教科書	有村兼彬他(2008)『英語学へのファーストステップ』(改訂版)英宝社。
参考書・資料	授業中に適宜紹介する。
講義関連事項	英語学入門、英語の意味、英語の音声、英語の獲得と理解、英語のレキシコン、英語学研究

担当者から一言	例えば I believe him honest.という文はSVOCというラベルが貼られ、それで納得しているのが現状ではないだろうか。しかし、この文のhimは「目的語」なのだろうか、それともhonestに対する「主語」なのだろうか？このようなナイーブな疑問が言語学の大問題につながるのです。つまり当たり前のことと習ったことが果たして当たり前なのだろうか？従来の考えに疑問を持つ姿勢こそが重要だし、それが学問の進展につながっていくのです。
---------	--

授業コード	12035		
授業科目名	英語のレキシコン(英語の獲得)(前)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	「英語のレキシコン」2007年度以降の入学生適用 「英語の獲得」2006年度入学生適用		
オフィスアワー	月曜5限またはアポイントメント		

講義の内容	ある語や文がどういう「意味」を持っているかは、母国語話者ならば誰でも直感的に理解できる。よって言語表現をめぐる「意味」の問題は、注意深い観察者でなければ見過ごされてしまいがちなものである。 しかし、もし(突拍子もない仮定かもしれないが)あなたがロボット工学の技術者だとして、人工知能に人間言語の「意味」を理解させようとしたら、その難しさ、複雑さにあなたは途方にくれるだろう。 本講義では、人間の言語表現、特に語をめぐる「意味」について、解体・考察する。具体的には、語レベルの意味が文レベルの意味とどのような相互作用を起こすのかに焦点を当てる。また、このトピックは人間の心理機能と密接に関連するので、認知・獲得・思考といったテーマも視野に入れる。
到達目標	動詞意味論を中心に、ことばの意味の観察能力を身につけ、それがヒトの、出来事や外界の認知とどう関連しているのかという問題意識を育む。
講義方法	基本的に講義形式を採用するが、大人数授業でもなるべく多くの学生に質問を与え、応えてもらう形にして、「聴く授業」ではなく、「考える授業」を目指す。講義では教科書に言及するので、毎回教科書を持参すること。

準備学習	英語学入門を履修済であることが望ましい。
成績評価	2度の中間試験と期末試験、計3つの試験の単純平均点で評価する。
講義構成	※予定は変更されることがあるので注意。 [Section 1] 1. Overview: Language, Thought, Reality 2. Introduction to Verb Semantics 3. Verb Semantics and Language Acquisition 4. Midterm Exam 1 [Section 2] 5. Figure and Ground 6. Verb Classification 7. Movement and Possession 8. Semantics of Causation 9. Review 10. Midterm Exam 2 [Section 3] (このセクションは内容が変更になる可能性もあります) 11. Lexical Atomism 12. Lexical Decomposition 13. Radical Empiricism 14. Linguistic Determinism 15. Final Exam
教科書	スティーブン・ピンカー(著)幾島幸子・桜内篤子(訳)『思考する言語(上)』日本放送出版協会(NHKブックス)、2009年。
参考書・資料	随時配布する。

授業コード	12013		
授業科目名	英語文化研究Ia（前）		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	水曜日 12.20 - 12.55		

講義の内容	16世紀初期、イギリスは北ヨーロッパの海岸沿いに位置する取るに足らない小さな島として知られており、そこでは一定のヨーロッパ人に辛うじて理解されうる雑多な言語が使われていました。しかしながら、19世紀末には英国は世界の3分の1を支配下におき、言語としての英語はインターナショナル・コミュニケーションの最も重要な手段となりました。今日、善かれ悪しかれ英国の文化、政治形態、法制は世界の他の40以上の国々にその影響が見られます。しかし、EUを中心とする最近のヨーロッパでの英国の役割自体は再び一構成国という小さな国ともいえるようになりました。
到達目標	To understand more about the culture of the English-speaking world.
講義方法	下記6つのモジュールは各々、授業内で教師によるトピックの導入及び説明、プリント、映画、BBCのドキュメンタリーその他の関係資料が与えられます。トピックに関する参考文献の紹介等も授業内で行います。学生は各自の研究に併行してレポートの作成が課せられます。その上、学生にはテーマに関する発表の機会も与えられます。
準備学習	Students will sometime be asked to prepare topics for the class, and read, and occasionally translate, duplicated material.
成績評価	学生は各自それぞれのモジュールに対するレポートの提出が必要です。各期試験も行います。成績の評価は80%をレポートと試験で、残りの20%は出席と授業内での発表等の評価となります。すなわち、授業への積極的な参加をしない場合は、各々のモジュールに必要な情報が得られずレポート作成はかなり難しいと思われるます。
講義構成	このクラスでは、学生はイギリスの興味深い歴史、文化と言語を研究する機会に恵まれます。コース全体は6つのモジュールで構成され、前期に3モジュール、後期に3モジュールとなります。各々のモジュールはここでは特に限定しませんが、トピックとして、The Story of English, The Idea of England, The Oxford English

	Dictionary, The English Garden and English Country Life, Slavery and its Abolition, Industry and Empire, The Philanthropists, Women Rights in Victorian England, Winston Churchill and Winston Smith などを取り上げる予定です。年代順に取り上げるのではなく、テーマごとにみていきます。このクラスでは、現代までの英語文化に重点をおいています。
教科書	テキストの指定はありません。

授業コード	12014		
授業科目名	英語文化研究Ib（後）		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	水曜日 12.20 - 12.55		

講義の内容	16世紀初期、イギリスは北ヨーロッパの海岸沿いに位置する取るに足らない小さな島として知られており、そこでは一定のヨーロッパ人に幸うじて理解されうる雑多な言語が使われていました。しかしながら、19世紀末には英国は世界の3分の1を支配下におき、言語としての英語はインターナショナル・コミュニケーションの最も重要な手段となりました。今日、善かれ悪しかれ英国の文化、政治形態、法制は世界の他の40以上の国々にその影響が見られます。しかし、EUを中心とする最近のヨーロッパでの英国の役割自体は再び構成国という小さな国ともいえるようになりました。
到達目標	To understand more about the culture of the English-speaking world.
講義方法	下記6つのモジュールは各々、授業内で教師によるトピックの導入及び説明、プリント、映画、BBCのドキュメンタリーその他の関係資料が与えられます。トピックに関する参考文献の紹介等も授業内で行います。学生は各自の研究に併行してレポートの作成が課せられます。その上、学生にはテーマに関する発表の機会も与えられます。
準備学習	Students will sometime be asked to prepare topics for the class, and read, and occasionally translate, duplicated material.
成績評価	学生は各自それぞれのモジュールに対するレポートの提出が必要です。各期試験も行います。成績の評価は80%をレポートと試験で、残りの20%は出席と授業内での発表等の評価となります。すなわち、授業への積極的な参加をしない場合は、各々のモジュールに必要な情報が得られずレポート作成はかなり難しいと思われる。
講義構成	このクラスでは、学生はイギリスの興味深い歴史、文化と言語を研究する機会に恵まれます。コース全体は6つのモジュールで構成され、前期に3モジュール、後期に3モジュールとなります。各々のモジュールはここでは特に限定しませんが、トピックとして、The Story of English, The Idea of England, The Oxford English Dictionary, The English Garden and English Country Life, Slavery and its Abolition, Industry and Empire, The Philanthropists, Women Rights in Victorian England, Winston Churchill and Winston Smith などを取り上げる予定です。年代順に取り上げるのではなく、テーマごとにみていきます。このクラスでは、現代までの英語文化に重点をおいています。
教科書	テキストの指定はありません。

授業コード	12015		
授業科目名	英語文化研究IIa (前)		
担当者名	平野幸夫(ヒラノ ユキオ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
オフィスアワー	授業後に質問や相談に応じます。		

講義の内容	多様化するマスメディアの歴史を、欧米と日本を比較しながら振り返り、活字・放送メディアの現況を紹介、その存在意義と課題を論じる。特に新聞報道の現場にいる立場から、時事的なテーマを通して、情報の吟味や分析の手法を紹介。ニュースの価値判断力を高める。
到達目標	メディア全般の基本的な機能と役割を修得する。

講義方法	毎回ごとの授業テーマに応じた資料プリントを配布、それに基づいて講義する。メディアの現場の見学も盛り込む。
準備学習	国内外の新聞、放送メディアを中心に日々のニュースを認識しておく。
成績評価	講義中に指示する課題レポートで総合判断する。
講義構成	①はじめに：欧米と日本のメディア発達史 ②活字メディアの特性 ③放送メディアの特性 ④取材と紙面製作の現場 ⑤客観報道と主観報道 ⑥取材方法と記者クラブ制度 ⑦インタビューと文章作法 ⑧スクープと調査報道 ⑨犯罪、災害報道の実情と課題 ⑩出版社と週刊誌報道 ⑪ネットワークと視聴率競争 ⑫大衆文化とコマーシャルズム ⑬知る権利と報道の自由 ⑭メディアの将来 ⑮まとめ
教科書	特定しない。
参考書・資料	講義中に随時紹介する。映像資料も活用する。

担当者から一言	毎回、最新ニュースの話題を取り上げながら、独自の視点でニュースの中身を判断する力を養いたい。
その他	メールアドレス y.hirano713@mbi.nifty.com

授業コード	12016		
授業科目名	英語文化研究IIb（後）		
担当者名	平野幸夫(ヒラノ ユキオ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限
オフィスアワー	授業後に質問に応じる		

講義の内容	ジャーナリズムの最重要の役割の一つに、公権力の監視機能があるが、欧米や日本のメディアにはその機能を喪失しつつある兆候も見られる。内外で転機を迎えているジャーナリズムのあるべき姿を学ぶ。最新の時事テーマを題材に、ニュースの分析力を高める。
到達目標	世界のジャーナリズムの潮流と課題を修得する。
講義方法	授業のテーマに応じた資料プリントを配布し、それを基に講義を展開する。
準備学習	国内外の新聞、放送ジャーナリズムの動向をウォッチしておく。
成績評価	講義中に指示する課題レポートで総合判断する。
講義構成	①はじめに：欧米ジャーナリズムと日本の世論形成 ②表現の自由と報道倫理 ③内部告発と調査報道 ④犯罪報道と人権 ⑤キャンペーン報道を考える ⑥個人情報と情報公開 ⑦視聴率競争とやらせの構造 ⑧教育と映像メディアの負の相関 ⑨大衆心理とワイドショー ⑩出版文化の新たな潮流 ⑪ベストセラーと著作権 ⑫危機管理とメディア ⑬政治報道の課題 ⑭インターネットの光と影 ⑮まとめ

教科書	特定しない。
参考書・資料	授業で随時紹介。映像資料も活用する。
担当者から一言	広く内外の時事テーマへの関心を高め、情報の中身を吟味する手法も提示したい。
その他	メールアドレス y.hirano713@mbi.nifty.com

授業コード	12N11		
授業科目名	英作文Ia (A)(1クラス)(前)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	英語英米文学科1年次		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	「英作文」という科目名から明らかなように、「英語で文章を作る」という作業を繰り返す授業になります。皆さんも高校までの学習で痛感してきたはずですが、「文章」と呼べるレベルのものを英語で作るのはそんなに簡単なことではありません。その前のレベル(単語、フレーズ、センテンス、パラグラフ)でつまづいてしまうことが多いからです。その原因の一つは日本語と英語の間に発想の違いがあるからなのですが、そういう発想の違いにも目を向けながら和文英訳や課題英作文(エッセイ)に取り組んでもらいます。1年次対象の授業ですので、高校までで習得したはずの文法事項の再確認にもある程度は時間を費やすことになるかと思います。担当教員による添削や解説を通じて、できるだけなめらかに自然な英語で自己表現ができるよう努めましょう。
到達目標	成績評価は前期・後期でそれぞれに行なうものの、実質的には通年の科目ですので「到達目標」も本来は1年後に到達すべき目標を書くべきところですが、とりあえず前期は、 自分が伝えようとすることを英語で表現するときに ①適切な英単語を選べるようになる(たとえ辞書があってもこれは案外むずかしいことなのです) ②単語と単語の組み合わせ(collocation)を自然で適切なものに行なうことができる ③意味が通じ、しかもなめらかなセンテンスを作れるようになる としておきます。
講義方法	「講義内容」にもあるとおり、英語で書いても日本語で書いても作文は結局は自己表現です。受講生の皆さんはほぼ全員が日本人でしょうから、あなたがたが英語で自己表現しようとする場合、たとえ無意識のうちにでも自己＝日本を表現していることとなります。しかし、何かを英語で表現するときには、その表現しようとするものについてできるだけ自覚的であったほうが正確さも説得力も増します。そこで、出版年は少し古いですが、日本に関する事柄が英語ではどのように表現されるかを紹介して、しかもexercise たっぶりのテキストを選びました。テキストで紹介される単語やフレーズをまずしっかり覚えてもらいます。そのうえでそれらを応用できるように作られた exercise に取り組んでもらいます。そういう作業を繰り返して、「己を知る」プロセスのなかで英語表現力を向上させ、海外に出ても英語で自分のこと日本のことを紹介したり説明したりできるようになることを目指します。また、テキストで扱うテーマとは別に、300語程度の課題英作文を3回ぐらい提出してもらい、添削します。添削は個別に行なうだけではなく、クラスで受講生の作った英文例を紹介したうえで、いわば公開添削の形もとります。
準備学習	テキストに相当量の情報が(英語で)出ていますし、練習問題も豊富ですので、その予習をしてくれば準備学習としては十分です。言い方を変えれば、予習を前提として授業を進めますので、予習していなければ出席していてもあまり意味がないこととなります。
成績評価	練習問題(exercise)の出来具合:30% 課題英作文:30% 試験:30% 出席:10%
講義構成	前期は教科書に出ている以下のようなトピックをそれぞれ2回～3回かけて扱います。 ①日本の四季 ②日本の祝日(成人の日、子どもの日、お彼岸とお盆 etc.) ③日本の年中行事(節分、ひな祭り etc.) ④日本のスポーツ(相撲、野球) また、「講義方法」にも書いたとおり、教科書のトピックとは別に課題英作文を3回ほど提出してもらう予定ですので、その公開添削に1回～2回を費やし、合わせて15回の授業となるようにします。
教科書	斉藤 宏、Eleanor C. Kelly 著 『日本文化を英語で表現』(成美堂)

授業コード	12N12		
授業科目名	英作文Ia (A)(2クラス)(前)		
担当者名	芦田利恵子(アシダ リエコ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	英語英米文学科1年次		

講義の内容	「英作文」という科目名から明らかなように、「英語で文章を作る」という作業を繰り返す授業になります。皆さんも高校までの学習で痛感してきたはずですが、「文章」と呼べるレベルのものを英語で作るのはそんなに簡単なことではありません。その前のレベル(単語、フレーズ、センテンス、パラグラフ)でつまづいてしまうことが多いからです。その原因の一つは日本語と英語の間に発想の違いがあるからなのですが、そういう発想の違いにも目を向けながら和文英訳や課題英作文(エッセイ)に取り組んでもらいます。1年次対象の授業ですので、高校までで習得したはずの文法事項の再確認にもある程度は時間を費やすことになるかと思います。担当教員による添削や解説を通じて、できるだけなめらかに自然な英語で自己表現ができるよう努めましょう。		
到達目標	成績評価は前期・後期でそれぞれに行なうものの、実質的には通年の科目ですので「到達目標」も本来は1年後に到達すべき目標を書くべきところですが、とりあえず前期は、 自分が伝えようとすることを英語で表現するときに ①適切な英単語を選べるようになる(たとえ辞書があってもこれは案外むずかしいことなのです) ②単語と単語の組み合わせ(collocation)を自然で適切なものにすることができる ③意味が通じ、しかもなめらかなセンテンスを作れるようになる としておきます。		
講義方法	テキストの演習問題をこなしながら、パラグラフライティングの基礎、表現、文法、修辞法を学びます。文法や表現は提出課題とします。		
準備学習	授業中に指示された場所をあらかじめ読んで、演習問題を解いておく。自分で書く作文については、指示された範囲の準備をして授業に臨むこと。		
成績評価	期末テスト 30% 提出課題(作文・文法語法演習) 60% 平常点 10%		
講義構成	week 1 Introduction week 2-6 Introduction to paragraphs week 7-10 Five elements of good writing week 11-14 Types of paragraphs week 15 Final exam		
教科書	From Great Paragraphs to Great Essays (second edition) Cengage		
講義関連事項	出席は必須条件です。やむを得ない欠席の場合は担当者に連絡してください。また、初回授業時に詳しい説明を行い、配布物を渡します。初回から出席をとります。		

授業コード	12N13		
授業科目名	英作文Ia (A)(3クラス)(前)		
担当者名	小林 剛(コバヤシ ゴウ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	英語英米文学科1年次		

講義の内容	「英作文」という科目名から明らかなように、「英語で文章を作る」という作業を繰り返す授業になります。皆さんも高校までの学習で痛感してきたはずですが、「文章」と呼べるレベルのものを英語で作るのはそんなに簡単なことではありません。その前のレベル(単語、フレーズ、センテンス、パラグラフ)でつまづいてしまうことが多いからです。その原因の一つは日本語と英語の間に発想の違いがあるからなのですが、そういう発想の違いにも目を		
-------	--	--	--

	向けながら和文英訳や課題英作文(エッセイ)に取り組んでもらいます。1年次対象の授業ですので、高校までで習得したはずの文法事項の再確認にもある程度は時間を費やすことになるかと思います。担当教員による添削や解説を通じて、できるだけなめらかに自然な英語で自己表現ができるよう努めましょう。
到達目標	自分が伝えようとすることを英語で表現するときに 1. 適切な英単語を選べるようになる(たとえ辞書があってもこれは意外とむずかしいことなのです) 2. 単語と単語の組み合わせ(collocation)を自然で適切なものにすることができる 3. 意味が通じ、しかもなめらかなセンテンスを作れるようになる。
講義方法	「英語で文章を作る」という作業を始めるためには、何よりもまず、英語で多くの人に表現したいと思うような自分の意見を持つ必要があります。この授業では、現代社会を生きる学生にとって重要と思われる様々なテーマについて、まずは自分の意見をしっかり持ち、それをどのように英語で表現したら相手にうまく伝わるのか、という観点から英語表現の基本を身に付けていってもらいたいと思います。つまり、方法を学んだ上で内容を考えるのではなく、伝えたいと思う内容を持った上で伝えるための方法を学んでいくわけですね。教科書に沿ってそれぞれのテーマについて反対意見と賛成意見を検討しながら自分の意見を作り上げ、それをまずは短いセンテンスで表現していくところから始めます。
準備学習	文法事項も復習しながら進めていくので、高校のときに使っていた文法書をもう一度見直しておいてください。
成績評価	出席、折々の作業、提出作文、期末テストを勘案して評価します。
講義構成	英作文という実習型・参加型の授業ですので、特に「講義構成」というものはありません。
教科書	西本徹、Beryl Hawkins著『Debating Current Issues 意見の相違からみる社会問題』(成美堂、2010年)

ホームページタイトル	小林剛研究室
URL	http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~go/

授業コード	12N14		
授業科目名	英作文Ia (A)(4クラス)(前)		
担当者名	牧木綿子(マキ ユウコ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	英語英米文学科1年次		

講義の内容	「英作文」という科目名から明らかなように、「英語で文章を作る」という作業を繰り返す授業になります。皆さんも高校までの学習で痛感してきたはずですが、「文章」と呼べるレベルのものを英語で作るのはそんなに簡単なことではありません。その前のレベル(単語、フレーズ、センテンス、パラグラフ)でつまづいてしまうことが多いからです。その原因の一つは日本語と英語の間に発想の違いがあるからなのですが、そういう発想の違いにも目を向けながら和文英訳や課題英作文(エッセイ)に取り組んでもらいます。1年次対象の授業ですので、高校までで習得したはずの文法事項の再確認にもある程度は時間を費やすことになるかと思います。担当教員による添削や解説を通じて、できるだけなめらかに自然な英語で自己表現ができるよう努めましょう。
到達目標	成績評価は前期・後期でそれぞれに行なうものの、実質的には通年の科目ですので「到達目標」も本来は1年後に到達すべき目標を書くべきところですが、とりあえず前期は、 自分が伝えようとすることを英語で表現するときに ①適切な英単語を選べるようになる(たとえ辞書があってもこれは意外とむずかしいことなのです) ②単語と単語の組み合わせ(collocation)を自然で適切なものにすることができる ③意味が通じ、しかもなめらかなセンテンスを作れるようになる としておきます。
講義方法	前期中に課題の英作文を2つ提出します。それぞれの課題について、合計3回書きます。一度目はパラグラフを書いた後、4.5人のクラスメートに自分の英作文を文法面、構成面、内容面からチェックしてもらいます(ピア・エディティング)。この作業によって、自分のミスも、発見してもらえ、またクラスメートの英作文をチェックすることにより、書くときに何が大切かということに気付く作業にもなります。二度目はピア・エディティングによって指摘してもらったことを参考にもう一度書き直し、担当教員に提出します。三度目は、担当教員の指導にしたがって、清書をします。パラグラフの作成と並行して、和文英訳も行います。日本語で何気なく使っている表現を英語に書き換えようすると意外と難しいものです。自分が知っている、単語、熟語、文法を使って、日本語式から英語式に発想を変えて、書き換えていきます。
準備学習	課題提出のため、家庭学習が多いです。ただ辞書で単語を拾うのではなく、単語の意味、使い方、用例までしっ

	かり読んで理解したうえで、自分が書きたい文にその単語を活用していくこと。
成績評価	出席、授業への参加 30% 英作文課題 50% 提出物 20%
講義構成	テキストの各章にしたがって進める。課題提出日など、詳細な講義構成については、最初の授業で予定表を配布します。
教科書	Success with College Writing (Macmillan Languagehouse)

授業コード	12N15		
授業科目名	英作文Ia (B)(前)		
担当者名	豊島庸二(トヨシマ ヨウジ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	英語英米文学科1年次以外		

講義の内容	「英作文」という科目名から明らかなように、「英語で文章を作る」という作業を繰り返す授業になります。皆さんも高校までの学習で痛感してきたはずですが、「文章」と呼べるレベルのものを英語で作るのはそんなに簡単なことではありません。その前のレベル(単語、フレーズ、センテンス、パラグラフ)でつまづいてしまうことが多いからです。その原因の一つは日本語と英語の間に発想の違いがあるからなのですが、そういう発想の違いにも目を向けながら和文英訳や課題英作文(エッセイ)に取り組んでもらいます。1年次対象の授業ですので、高校までで習得したはずの文法事項の再確認にもある程度は時間を費やすことになるかと思います。担当教員による添削や解説を通じて、できるだけなめらかに自然な英語で自己表現ができるよう努めましょう。		
到達目標	成績評価は前期・後期でそれぞれに行なうものの、実質的には通年の科目ですので「到達目標」も本来は1年後に到達すべき目標を書くべきところですが、とりあえず前期は、 自分が伝えようとすることを英語で表現するときに ①適切な英単語を選べるようになる(たとえ辞書があってもこれは案外むずかしいことなのです) ②単語と単語の組み合わせ(collocation)を自然で適切なものにすることができる ③意味が通じ、しかもなめらかなセンテンスを作れるようになる としておきます。		
講義方法	指定のテキストを用い、パラグラフを基本としたライティングを行います。パラグラフの構造やライティングのプロセスを学び、英語の論理的展開にしたがった「理解してもらえ」英文が書けるようになることを目標とします。 2～3回の授業でテキストのchapterを1つ終える予定です。各授業中にはprewriting等の作業を行う時間も取り、最終的に1つのchapterが終了した時点で、課題の作文を提出してもらい、添削を受ける、という流れになります。 課題の提出は計4回を予定しています。テキストの理解度を確認するための小テストも行う予定です。		
準備学習	予習としてテキストを前もって読んでおく必要があります。また、授業中に完了できなかった作業を完成させておくことなども必要となります。		
成績評価	評価は、出席点・平常点(授業への参加態度、作業内容)、小テスト、課題・レポートにより行います。配点は以下の通りです。 出席・平常点 30% 小テスト 10～20% 課題 50～60% * 出席回数が全授業回数の3分の2に満たない場合は単位を認めない。		
講義構成	第1回 ガイダンス、基本事項説明 第2回 Chapter 1: Paragraph Format (1) 第3回 Chapter 1: Paragraph Format (2) 第4回 Chapter 2: Narrative Paragraphs (1) 第5回 Chapter 2: Narrative Paragraphs (2) 第6回 Chapter 3: Paragraph Structure (1) 第7回 Chapter 3: Paragraph Structure (2) 第8回 Chapter 3: Paragraph Structure (3) 第9回 Chapter 4: Descriptive Paragraphs (1)		

	第10回 Chapter 4: Descriptive Paragraphs (2) 第11回 Chapter 4: Descriptive Paragraphs (3) 第12回 Chapter 5: Logical Division of Ideas (1) 第13回 Chapter 5: Logical Division of Ideas (2) 第14回 Chapter 5: Logical Division of Ideas (3) * 講義構成は変更になることもあります。
教科書	書名: Introduction to Academic Writing (Third Edition) 著者: Alice Oshima & Ann Hogue 出版社: Longman
その他	【注意事項】 ・欠席を報告する場合は、理由を証明する文書等を用意すること。 ・遅刻は原則として認めない。 ・テキストを持参しない者は出席を認めない。 * 第1回の授業時に授業内容や成績についての詳細を改めて説明します。 受講する学生(検討中の人も含む)は、必ず第1回目の授業に出席して下さい。

授業コード	12N21		
授業科目名	英作文Ib (A)(1クラス)(後)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	英語英米文学科1年次		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	当然ながら前期「英作文I(a)」と多くの点で重複する授業内容になります。引き続き英語による自己表現の作業をしてもらいます。ただ、後期は少しレベルアップして、例えばエッセイなどは大学生にふさわしい知的内容のものが求められます。現在の社会で頻繁に議論的となっていくような事柄をテーマとして設定し、自分の意見を英語で展開するという作業をしてもらうこともあるでしょう。ということは、エッセイといっても小論文に近いものを書くこととなりますので、しっかりしたパラグラフ構成の論理的な文章を組み立てるという作業になります。担当者の添削にも、そういった観点からの指導が付け加えられます。
到達目標	①単純な構造の短いセンテンスだけでなく、ある程度の構造的複雑さを持つ長めのセンテンスが書けるようになる ②パラグラフが有機的に構成された論理的で説得力のある英語の文章が書けるようになる。
講義方法	前期と同じです。英語で書いても日本語で書いても作文は結局は自己表現です。受講生の皆さんはほぼ全員が日本人でしょうから、あなたがたが英語で自己表現しようとする場合、たとえ無意識のうちにでも自己＝日本を表現していることになります。しかし、何かを英語で表現するときには、その表現しようとするものについてできるだけ自覚的であったほうが正確さも説得力も増します。そこで、出版年は少し古いですが、日本に関する事柄が英語ではどのように表現されるかを紹介していて、しかもexercise たっぷりのテキストを選びました。テキストで紹介される単語やフレーズをまずしっかり覚えてもらいます。そのうえでそれらを応用できるように作られたexercise に取り組んでもらいます。そういう作業を繰り返して、「己を知る」プロセスのなかで英語表現力を向上させ、海外に出ても英語で自分のこと日本のことを紹介したり説明したりできるようになることを目指します。また、テキストで扱うテーマとは別に、300語程度の課題英作文を3回ぐらい提出してもらい、添削します。添削は個別に行なうだけではなく、クラスで受講生の作った英文例を紹介したうえで、いわば公開添削の形もとります。
準備学習	前期と同じ教科書を使いますが、そのなかには相当量の情報が(英語で)出ていますし、練習問題も豊富ですので、その予習をしてくれば準備学習としては十分です。言い方を変えれば、予習を前提として授業を進めますので、予習していなければ出席していてもあまり意味がないことになります。
成績評価	練習問題 (exercise) の出来具合: 30% 課題英作文: 30% 試験: 30% 出席: 10%
講義構成	後期も前期同様、教科書に出ている以下のトピックをそれぞれ2回～3回かけて扱います。 ①日本の文化と制度(歌舞伎、迷信、教育 etc.) ②日本の天災(台風、地震) ③日本の慣習(お正月、結婚式、お葬式、贈答) また、これも前期同様ですが、教科書のトピックとは別に課題英作文を3回ほど提出してもらう予定ですので、その公開添削に1回～2回を費やし、全15回の授業となるようにします。
教科書	斉藤 宏、Eleanor C. Kelly 著 『日本文化を英語で表現』(成美堂)

授業コード	12N22		
授業科目名	英作文Ib (A)(2クラス)(後)		
担当者名	芦田利恵子(アシダ リエコ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	英語英米文学科1年次		

講義の内容	当然ながら前期「英作文I(a)」と多くの点で重複する授業内容になります。引き続き英語による自己表現の作業をしてもらいます。ただ、後期は少しレベルアップして、例えばエッセイなどは大学生にふさわしい知的内容のものが求められます。現在の社会で頻繁に議論の的となっているような事柄をテーマとして設定し、自分の意見を英語で展開するという作業をしてもらうこともあるでしょう。ということは、エッセイといっても小論文に近いものを書くことになりますので、しっかりしたパラグラフ構成の論理的な文章を組み立てるという作業になります。担当者の添削にも、そういった観点からの指導が付け加えられます。
到達目標	①単純な構造の短いセンテンスだけでなく、ある程度の構造的複雑さを持つ長めのセンテンスが書けるようになる ②パラグラフが有機的に構成された論理的で説得力のある英語の文章が書けるようになる。
講義方法	テキストの演習問題をこなしながら、パラグラフライティングの基礎、表現、文法、修辞法を学びます。文法や表現は提出課題とします。
準備学習	授業中に指示された場所をあらかじめ読んで、演習問題を解いておく。自分で書く作文については、指示された範囲の準備をして授業に臨むこと。
成績評価	期末レポート 40% 提出課題（作文・文法語法演習） 50% 平常点 10%
講義構成	week 1-4 Descriptive essay week 5-7 Comparison essay week 8-10 Cause-effect essay week 11-14 Classification essay
教科書	From Great Paragraphs to Great Essays (second edition) Cengage
講義関連事項	出席は必須条件です。やむを得ない欠席の場合は担当者に連絡してください。また、初回授業時に詳しい説明を行い、配布物を渡します。初回から出席をとります。

授業コード	12N23		
授業科目名	英作文Ib (A)(3クラス)(後)		
担当者名	小林 剛(コバヤシ ゴウ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	英語英米文学科1年次		

講義の内容	当然ながら前期「英作文I(a)」と多くの点で重複する授業内容になります。引き続き英語による自己表現の作業をしてもらいます。ただ、後期は少しレベルアップして、例えばエッセイなどは大学生にふさわしい知的内容のものが求められます。現在の社会で頻繁に議論の的となっているような事柄をテーマとして設定し、自分の意見を英語で展開するという作業をしてもらうこともあるでしょう。ということは、エッセイといっても小論文に近いものを書くことになりますので、しっかりしたパラグラフ構成の論理的な文章を組み立てるという作業になります。担当者の添削にも、そういった観点からの指導が付け加えられます。
到達目標	1. 単純な構造の短いセンテンスだけでなく、ある程度の構造的複雑さを持つ長めのセンテンスが書けるようになる 2. パラグラフが有機的に構成された論理的で説得力のある英語の文章が書けるようになる。
講義方法	「英語で文章を作る」という作業を始めるためには、何よりもまず、英語で多くの人に表現したいと思うような自分の意見を持つ必要があります。この授業では、現代社会を生きる学生にとって重要と思われる様々なテーマに

	ついて、まずは自分の意見をしっかり持ち、それをどのように英語で表現したら相手にうまく伝わるのか、という観点から英語表現の基本を身に付けていってもらいたいと思います。つまり、方法を学んだ上で内容を考えるのではなく、伝えたいと思う内容を持った上で伝えるための方法を学んでいくわけです。教科書に沿ってそれぞれのテーマについて反対意見と賛成意見を検討しながら自分の意見を作り上げるという作業は前期と同じですが、後期はそれを論理的に構成されたパラグラフやエッセイにまとめ上げていく方法を学習していきたいと思います。
準備学習	文法事項も復習しながら進めていくので、高校のときに使っていた文法書をもう一度見直しておいてください。
成績評価	出席、折々の作業、提出作文、期末テストを勘案して評価します。
講義構成	英作文という実習型・参加型の授業ですので、特に「講義構成」というものはありません。
教科書	西本徹、Beryl Hawkins著『Debating Current Issues 意見の相違からみる社会問題』(成美堂、2010年)
ホームページタイトル	小林剛研究室
URL	http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~go/

授業コード	12N24		
授業科目名	英作文Ib (A)(4クラス)(後)		
担当者名	牧木綿子(マキ ユウコ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	英語英米文学科1年次		

講義の内容	当然ながら前期「英作文I(a)」と多くの点で重複する授業内容になります。引き続き英語による自己表現の作業をしてもらいます。ただ、後期は少しレベルアップして、例えばエッセイなどは大学生にふさわしい知的内容のものが求められます。現在の社会で頻繁に議論的となっているような事柄をテーマとして設定し、自分の意見を英語で展開するという作業をしてもらうこともあるでしょう。ということは、エッセイといっても小論文に近いものを書くことになりますので、しっかりしたパラグラフ構成の論理的な文章を組み立てるという作業になります。担当者の添削にも、そういった観点からの指導が付け加えられます。
到達目標	①単純な構造の短いセンテンスだけでなく、ある程度の構造的複雑さを持つ長めのセンテンスが書けるようになる ②パラグラフが有機的に構成された論理的で説得力のある英語の文章が書けるようになる。
講義方法	後期中に課題の英作文を3つ提出します。前期に引き続き、それぞれの課題について、合計3回書きます。一度目はパラグラフを書いた後、ピア・エディティング。二度目はピア・エディティングによって指摘してもらったことを参考にもう一度書き直し、担当教員に提出します。三度目は、担当教員の指導にしたがって、清書をします。また、後期は、パラグラフの数を増やし、最終的に3つめの課題では、4から5つのパラグラフからなるエッセイを作成します。当然、書く内容もしっかり考えなければ、構成のしっかりした、論理的な文章は書けません。後期もパラグラフの作成と並行して、和文英訳も行います。ニュースに出てくる表現を、和訳してみましょう。
準備学習	後期の課題の内容は、より内容重視になりますので、書くために、本、新聞、インターネット等での情報収集も大切です。普段から、世界の様々な出来事に興味を持って、読む習慣をつけておきましょう。
成績評価	出席、授業への参加 30% 英作文課題 60% 提出物 10%
講義構成	テキストの各章にしたがって進める。課題提出日など、詳細な講義構成については、最初の授業で予定表を配布します。
教科書	Success with College Writing (Macmillan Languagehouse)

授業コード	12N25		
授業科目名	英作文Ib (B)(後)		
担当者名	豊島庸二(トヨシマ ヨウジ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限

特記事項	英語英米文学科1年次以外		
講義の内容	当然ながら前期「英作文I(a)」と多くの点で重複する授業内容になります。引き続き英語による自己表現の作業をしてもらいます。ただ、後期は少しレベルアップして、例えばエッセイなどは大学生にふさわしい知的内容のものが求められます。現在の社会で頻繁に議論的となっているような事柄をテーマとして設定し、自分の意見を英語で展開するという作業をしてもらうこともあるでしょう。ということは、エッセイといっても小論文に近いものを書くことになりますので、しっかりしたパラグラフ構成の論理的な文章を組み立てるという作業になります。担当者の添削にも、そういった観点からの指導が付け加えられます。		
到達目標	①単純な構造の短いセンテンスだけでなく、ある程度の構造的複雑さを持つ長めのセンテンスが書けるようになる ②パラグラフが有機的に構成された論理的で説得力のある英語の文章が書けるようになる。		
講義方法	指定のテキストの後半(Chapter 6～10)を用います。前期(英作文 I a(B))で得た知識を基に、新たな展開方法のパラグラフを学びます。さらにエッセイの構造を学び、より説得力のある英文が書けるようになることを目標とします。 基本的な授業の進度は前期と同様です。prewritingなどの作業をこなしながら、2～3回の授業でテキストのchapterを1つ終え、課題の作文の提出、添削、という流れになります。 課題の提出は計4回を予定しています。テキストの理解度を確認するための小テストも行う予定です。		
準備学習	予習としてテキストを前もって読んでおく必要があります。また、授業中に完了できなかった作業を完成させておくことなども必要となります。		
成績評価	評価は、出席・平常点(授業への参加態度、作業内容)、小テスト、課題・レポートにより行います。配点は以下の通りです。 出席・平常点 30% 小テスト 10～20% 課題 50～60% * 出席回数が全授業回数の3分の2に満たない場合は単位を認めない。		
講義構成	第1回 ガイダンス、基本事項説明、Chapter 6: Process Paragraphs (1) 第2回 Chapter 6: Process Paragraphs (2) 第3回 Chapter 6: Process Paragraphs (3) 第4回 Chapter 7: Comparison/Contrast Paragraphs (1) 第5回 Chapter 7: Comparison/Contrast Paragraphs (2) 第6回 Chapter 7: Comparison/Contrast Paragraphs (3) 第7回 Chapter 8: Definition Paragraphs (1) 第8回 Chapter 8: Definition Paragraphs (2) 第9回 Chapter 8: Definition Paragraphs (3) 第10回 Chapter 9: Essay Organization (1) 第11回 Chapter 9: Essay Organization (2) 第12回 Chapter 9: Essay Organization (3) 第13回 Chapter 10: Opinion Essays (1) 第14回 Chapter 10: Opinion Essays (2) * 講義構成は変更になることもあります。		
教科書	書名: Introduction to Academic Writing (Third Edition) 著者: Alice Oshima & Ann Hogue 出版社: Longman		
その他	【注意事項】 ・欠席を報告する場合は、理由を証明する文書等を用意すること。 ・遅刻は原則として認めない。 ・テキストを持参しない者は出席を認めない。 * 第1回の授業時に授業内容や成績についての詳細を改めて説明します。 受講する学生(検討中の人も含む)は、必ず第1回目の授業に出席して下さい。		

授業コード	12N31		
授業科目名	英作文IIa (1クラス)(前)		
担当者名	LEECH(シェーン リーチ)		
配当年次	2年次	単位数	1

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
講義の内容	This class is designed for English majors who have already completed Eisakubun I. Students are expected to have already introduced to paragraph writing and simple essay construction, and will now aim for a higher degree of proficiency in a variety of formal and informal writing tasks.		
到達目標	In this course students will: -Learn to write in longer more involved reports -Time will not be spent so much on basic structures of sentences or paragraphs as that is covered in other classes. -Give their opinions on a variety of subjects in the form of written reports		
講義方法	Instructors will aim to create a comfortable workshop atmosphere. Students will be expected to work hard both alone and with other students during the class.		
準備学習	Preparation before class isn't necessary but it would be a good idea to review other reports that have been written and returned to the students.		
成績評価	Written Assignments 50%, Movie report 30%, In class work 20%		
講義構成	Week 1 Introductions and get to know you activities. Week 2 Questions and writing assignment about the teacher. Week 3 Topic 1 Week 4 Topic 2 Week 5 Topic 3 Week 6 Topic 4 Week 7 Topic 5 Week 8 Topic 6 Week 9 Topic 7 Week 10 Topic 8 Week 11 Topic 9 Week 12 Topic 10 Week 13 Movie Week 14 Movie Week 15 Final movie report due		
教科書	Text: Talk your Head Off (...and write too) Author: Brana Rish West Publisher: Prentice Hall Regents		
担当者から一言	A dictionary is needed.		

授業コード	12N32		
授業科目名	英作文IIa (2クラス)(前)		
担当者名	バプティスト(バプティスト ジャニス)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
講義の内容	This course is designed to build on the basic skills acquired in Eisakubun 1. The aim of the course is to help students achieve a higher degree of proficiency in formal and informal writing tasks. Several essay styles will be studied and essays and/or exercises assigned weekly.		
到達目標	To help students develop academic writing skills.		
講義方法	The atmosphere of this class is meant to be supportive and nurturing. As much as possible, students will receive individual feedback and guidance. Writing assignments and exercises are designed to be done individually or with other students during class.		
準備学習	Make sure that all assigned homework or preparation has been completed.		
成績評価	The grade will mainly be based on the quality of written work, progress made throughout the course, and timely completion of all assignments. Regular attendance, preparedness for class, attentiveness, and		

	participation in class activities will also be considered in the final evaluation.
講義構成	The writing process, from pre-writing to the final essay, will be the focus in this class. Several essay styles will be studied and assigned to be done in class or at home. To help students better grasp the techniques of each style, analysis exercises will also be assigned and graded. Corrected essays will be returned, and when required, rewritten and resubmitted.
教科書	There is no assigned textbook. Course materials will be provided by the instructor. However, students are expected to bring their own notepaper and dictionary.
担当者から一言	Writing in one's own language can be difficult; more so in a foreign language. But with effort and practice, it can be a satisfying experience. In this class I would like students to seriously apply themselves and do the best they can.

授業コード	12N33		
授業科目名	英作文IIa (3クラス)(前)		
担当者名	バスカヴィル(ブライアン L. バスカウィル)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This class is designed for English majors who have already completed Eisakubun I. Students are expected to have already been introduced to paragraph writing and simple essay construction, and will now aim for a higher degree of proficiency in a variety of formal and informal writing tasks.		
到達目標	At the end of this term, students should have a good grasp of how to write several different types of paragraphs in English.		
講義方法	Instructors will aim to create a comfortable workshop atmosphere. Students will be expected to work hard both alone and with other students during the class.		
準備学習	Students must expect to spend considerable time on writing assignments (homework) outside of class every week. Writing assignments must be typed and all homework must be completed before coming into the next class.		
成績評価	Regular attendance is important as instructor's input and guidance are crucial to maintain progress. The grade will reflect students' effort and the quality of their written work throughout the year. Tests and examinations are at the discretion of each instructor. Attendance (10%), Writing Assignments/Homework (70%), Final Writing Test (20%).		
講義構成	In order to communicate effectively in written English, technical skill alone is not enough. A high degree of personal involvement is also necessary. Each instructor will have his or her own approach, and some may wish to use a textbook. Students should expect to write frequently, and to take a pride in what they write. Assignments will be varied and should help students in studying abroad, writing graduation theses, and/or pursuing career in the future. Brainstorming to generate ideas and researching topics adequately before writing help to prepare the ground for a successful essay. Attention will be given to the whole process of producing a finished piece of writing. When students are preparing initial drafts, they need not worry too much about accuracy but experiment with new vocabulary and complex sentences. Students may have their essays returned for rewriting. The final version should be of the publication standard. Following is an outline, subject to revision, of the topics planned for this course. Week 1: Course introduction, basic information, in-class writing Weeks 2-3: Paragraph introduction, simple listing paragraph Week 4: Grammar work Weeks 5-7: Order of importance paragraphs Weeks 8: Grammar work Weeks 9-10: Time order paragraphs Week 11: Grammar work Weeks 12-13: Spatial order paragraphs Week 14: Final in-class writing		
教科書	Students are required to bring a dictionary to every class, but other materials will be provided by the instructor.		

参考書・資料	Students must bring a good Japanese-English/English-Japanese dictionary to every class.
担当者から一言	This class is conducted entirely in English, but this is not a conversation class. Learning to write well takes time and effort. Therefore, writing homework is required every week.

授業コード	12N34		
授業科目名	英作文IIa (4クラス)(前)		
担当者名	加藤正治(カトウ マサハル)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	目標:「日本語らしい文章をできるだけ英語らしい英語で表わす」 「英語らしい英語を書く」ためには「英語で考える」必要があるが、日本人は「英語で考える方法」を教えられていないので「英語で考える」ことは非常に困難である。このクラスでは、言葉のルール、即ち文法に焦点を当てることにより日本語と英語の類似点と相違点を明確にし、「英語で考える方法」の習得に一步でも近づくことを目標とする。 内容: (1)日本語と英語の語法の違いをテーマ別に簡単に説明する。 (2)比較的短い英文を和訳することにより知識の確認をする。		
到達目標	「英語で考える方法」の習得を少しでも身につけるようにする。		
講義方法	受講者各自に課題として与えた和文英訳をプリントし、それを受講者全員に配布し、それぞれの訳文について議論する。必要に応じて解説を加える。		
準備学習	配布された和文英訳のプリントに目を通し、問題点・疑問点を把握しておくこと。		
成績評価	定期試験80%、出席10%、平常点10%の割合で評価する。		
講義構成	第1回 主語(1) 第2回 主語(1) 第3回 主語(2) 第4回 主語(2) 第5回 名詞と冠詞 第6回 名詞と冠詞 第7回 形容詞 第8回 形容詞 第9回 動詞(1) 第10回 動詞(1) 第11回 動詞(2) 第12回 動詞(2) 第13回 自動詞と他動詞 第14回 自動詞と他動詞 第15回 自動詞と他動詞		
教科書	特に指定せず、プリントを配布する。		
担当者から一言	議論に際しては積極的に発言すること。		
その他	携帯電話の電源は切ること。6回以上欠席した場合には失格とする。		

授業コード	12N41		
授業科目名	英作文IIb (1クラス)(後)		
担当者名	LEECH(シェーン リーチ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限

特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)
講義の内容	This class is designed for English majors who have already completed Eisakubun I. Students are expected to have already introduced to paragraph writing and simple essay construction, and will now aim for a higher degree of proficiency in a variety of formal and informal writing tasks.
到達目標	In this course students will: -Learn to write in longer more involved reports -Time will not be spent so much on basic structures of sentences or paragraphs as that is covered in other classes. -Give their opinions on a variety of subjects in the form of written reports
講義方法	Instructors will aim to create a comfortable workshop atmosphere. Students will be expected to work hard both alone and with other students during the class.
準備学習	Preparation before class isn't necessary but it would be a good idea to review other reports that have been written and returned to the students
成績評価	Written Assignments 50%, Movie report 30%, In class work 20%
講義構成	Week 1 Introductions and get to know you activities. Week 2 Summer activity report. Week 3 Topic 1 Week 4 Topic 2 Week 5 Topic 3 Week 6 Topic 4 Week 7 Topic 5 Week 8 Topic 6 Week 9 Topic 7 Week 10 Topic 8 Week 11 Topic 9 Week 12 Topic 10 Week 13 Movie Week 14 Movie Week 15 Final movie report due
教科書	Text: Talk your Head Off (...and write too) Author: Brana Rish West Publisher: Prentice Hall Regents
担当者から一言	A dictionary is needed.

授業コード	12N42		
授業科目名	英作文IIb (2クラス)(後)		
担当者名	バプティスト(バプティスト ジャニス)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
講義の内容	This course is designed to build on the basic skills acquired in Eisakubun 1 and higher writing skills of Eisakubun IIa. The aim of the course is to help students achieve a greater degree of proficiency in formal and informal writing tasks. Several essay styles will be studied and essays and/or exercises will be assigned throughout the course.		
到達目標	Help students improve academic writing skills. Learn basics of business writing.		
講義方法	The atmosphere of this class is meant to be supportive and nurturing. As much as possible, students will receive individual feedback and guidance.		
準備学習	Complete all assignments on time		
成績評価	The final grade will be based on the quality of the written work, progress made throughout the course, and timely completion of all assignments. Regular attendance, preparedness for class, attentiveness, and participation in class activities are also considered in the final evaluation.		

講義構成	The writing process from pre-writing to the final essay will be the focus in this class. Several essay styles will be studied and assigned for class work or at home writing. To help students better grasp the techniques of each style, analysis exercises will also be assigned and graded. Corrected essays will be returned, and when required, rewritten and resubmitted.
教科書	There is no assigned textbook. Course materials will be provided by the instructor. However, students are expected to bring their own notepaper and dictionary.
担当者から一言	Writing in one's own language can be difficult; more so in a foreign language. But with effort and practice, it can be a satisfying experience. In this class I would like students to seriously apply themselves and do the best they can.

授業コード	12N43		
授業科目名	英作文IIB (3クラス)(後)		
担当者名	パスカヴィル(ブライアン L. パスカヴィル)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This class is designed for English majors who have already completed Eisakubun I. Students are expected to have already been introduced to paragraph writing and simple essay construction, and will now aim for a higher degree of proficiency in a variety of formal and informal writing tasks.
到達目標	At the end of this term, students should have a good grasp of how to write several different types of essays (compositions) in English.
講義方法	Instructors will aim to create a comfortable workshop atmosphere. Students will be expected to work hard both alone and with other students during the class.
準備学習	Students must expect to spend considerable time on writing assignments (homework) outside of class every week. Writing assignments must be typed and all homework must be completed before coming into the next class.
成績評価	Regular attendance is important as instructor's input and guidance are crucial to maintain progress. The grade will reflect students' effort and the quality of their written work throughout the year. Tests and examinations are at the discretion of each instructor. Attendance (10%), Writing Assignments/Homework (70%), Final Writing Test (20%).
講義構成	In order to communicate effectively in written English, technical skill alone is not enough. A high degree of personal involvement is also necessary. Each instructor will have his or her own approach, and some may wish to use a textbook. Students should expect to write frequently, and to take a pride in what they write. Assignments will be varied and should help students in studying abroad, writing graduation theses, and/or pursuing career in the future. %22Brainstorming%22 to generate ideas and researching topics adequately before writing help to prepare the ground for a successful essay. Attention will be given to the whole process of producing a finished piece of writing. When students are preparing initial drafts, they need not worry too much about accuracy but experiment with new vocabulary and complex sentences. Students may have their essays returned for rewriting. The final version should be of the publication standard. Week 1: Course review, basic information, in-class writing Weeks 2-3: Paragraph review and essay introduction Week 4: Grammar work Weeks 5-7: Multi-paragraph essays Weeks 8: Grammar work Weeks 9-10: Contrastive essays Week 11: Grammar work Weeks 12-13: Persuasive essays Week 14: Final in-class writing
教科書	Students are required to bring a dictionary to every class, but other materials will be provided by the instructor.
参考書・資料	Students must bring a good Japanese-English/English-Japanese dictionary to every class.

担当者から一言	This class is conducted entirely in English, but this is not a conversation class. Learning to write well takes time and effort. Therefore, writing homework is required every week.
---------	--

授業コード	12N44		
授業科目名	英作文Ⅱb（4クラス）(後)		
担当者名	加藤正治(カトウ マサハル)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	先着順30名（登録方法は時間割別表を参照のこと）		

講義の内容	目標:「日本語らしい文章をできるだけ英語らしい英語で表わす」 「英語らしい英語を書く」ためには「英語で考える」必要があるが、日本人は「英語で考える方法」を教えられていないので「英語で考える」ことは非常に困難である。このクラスでは、言葉のルール、即ち文法に焦点を当てることにより日本語と英語の類似点と相違点を明確にし、「英語で考える方法」の習得に一步でも近づくことを目標とする。 内容: (1)日本語と英語の語法の違いをテーマ別に簡単に説明する。 (2)比較的短い英文を和訳することにより知識の確認をする。
到達目標	「英語で考える方法」の習得を少しでも身につけるようにする。
講義方法	受講者各自に課題として与えた和文英訳をプリントし、それを受講者全員に配布し、それぞれの訳文について議論する。必要に応じて解説を加える。
準備学習	配布された和文英訳のプリントに目を通し、問題点・疑問点を把握しておくこと。
成績評価	定期試験80%、出席10%、平常点10%の割合で評価する。
講義構成	第1回 使役動詞 第2回 使役動詞 第3回 能動態と受動態 第4回 能動態と受動態 第5回 助動詞 第6回 助動詞 第7回 時制 第8回 時制 第9回 仮定法 第10回 仮定法 第11回 話法 第12回 話法 第13回 比較 第14回 比較 第15回 否定
教科書	特に指定せず、プリントを配布する。

担当者から一言	議論に際しては積極的に発言すること。
その他	携帯電話の電源は切ること。6回以上欠席した場合には失格とする。

授業コード	12N51		
授業科目名	英作文Ⅲa（1クラス）(前)		
担当者名	J. ブルックス(ブルックス ジョアン ビクトリア)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	先着順30名（登録方法は時間割別表を参照のこと）		

講義の内容	This class is designed for English majors who have already completed Eisakubun I and IIa. Students are expected to have already acquired fair skills in writing and simple essay construction, and will now aim for a higher degree of proficiency in a variety of formal and informal writing tasks.
到達目標	Students will: ◆become comfortable using English to communicate with their classmates and teacher ◆acquire &/or improve skills in planning, organizing and writing paragraphs and essays ◆understand and be able to produce a variety of writing genres, such as process, description, narrative and opinion ◆improve English vocabulary and grammar
講義方法	You will work with partners and in small groups as you improve your ability to understand and use written English. You will assist each other with ideas, editing and revising your work. You will also do regular writing homework to review and practice at your own pace.
準備学習	If you want to be successful in this course, you should: ◆bring your textbook and ClearBook to every class ◆do your homework well before class ◆ not in the few minutes before class starts. You need the time to think about it and be sure you have done it well. ◆you may sometimes also need time to do library or internet research
成績評価	Participation20% Writing Assignments80%
講義構成	Class 1Orientation Class 2Paragraph review Class 3Paragraph review Class 4Developing ideas Class 5Developing ideas Class 6Topic sentences Class 7Topic sentences Class 8Supporting and concluding sentences Class 9Supporting and concluding sentences Class 10Review of paragraph skills Class 11Review of paragraph skills Class 12Writing workshop Class 13Writing workshop Class 14Wrap-up
教科書	Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays
参考書・資料	You will need an A4 size ClearBook for your writings and downloads. I will show you an example in our first class.

担当者から一言	A mind is like a parachute. It only works when it is open.
---------	--

授業コード	12N52		
授業科目名	英作文Ⅲa（2クラス）(前)		
担当者名	古瀬明里（フルセ アカリ）		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	先着順30名（登録方法は時間割別表を参照のこと）		

講義の内容	英作文Ⅲに引き続き、パラグラフ・ライティング、エッセーやレポートを英文で書くことを目的とする。英文でコミュニケーションを図るためには、読者にとって、できるだけわかりやすい、説得力のある文章を書くことが大切である。この講義では、英文のスタイル、構成、文法などの修辞学的な側面から英作文を洗練させていくと共に、文章内容の向上を目指す。資料や情報を分析しながら、自らの考えを明確に表現するアカデミックな内容の文章を書くこと、そして、文章を洗練させていく技術を身につけることを最終目標とする。
到達目標	5-6の複数パラグラフ・エッセーを完成させるために、pre-writing, writing, rewritingの作業を繰り返し、自分の考えを明確に表現するアカデミックな文章を書くこと、そして文章を洗練させていくスキルを身につけることを到達目標とする。

講義方法	テーマに沿って、narrative, comparison and contrast, cause and effect, argumentationなどのさまざまなタイプのテキストを使い、まとまりのある、明確で、説得力のある文章を書くことを目指す。そのために、pre-writing, writing, rewritingの作業を繰り返し行い、ライティングのプロセス全体を重視する。
準備学習	英作文I・IIで学んできたパラグラフ構成、文章のまとめ方などの基礎を理解しておく必要がある。ライティングプロセスの各段階でその作業を確認するため、提出物の期限は厳守すること。
成績評価	出席状況(評価を受けるには原則として2/3以上の出席が必要)や講義への積極的参加などの平常点30%、小テスト30%、課題(締め切り厳守)40%による総合評価。
講義構成	まずはwriting skill を学習し、実践として、各章に関連したトピックについてまとまりのある英文エッセーを書く練習を重ねていく。課題提出日などを含む詳細な講義構成については初回の講義でシラバスを配布し、説明する。
教科書	Great Essays: An Introduction to Writing Essays Second Edition by Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, ElenaVestri Solomon. Thomson Heinle, 2004.
参考書・資料	・MLA Handbook for Writers of Research Papers Seventh Edition ・MLA英語論文の手引き(北星堂書店) ・Thesaurus, English/English Dictionary 随時プリント配布

授業コード	12N53		
授業科目名	英作文Ⅲa (3クラス)(前)		
担当者名	マニユエル(マニユエル ステラ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This class is designed for English majors who have already completed Eisakubun I and II. Students are expected to have already introduced to paragraph writing and simple essay construction, and will now aim for a higher degree of proficiency in a variety of formal and informal writing tasks.
到達目標	Students will aim to create comfortable and aim for higher degree proficiency.
講義方法	Instructors will aim to create a comfortable workshop atmosphere. Students will be expected to work hard both alone and with other students during the class.
準備学習	In order to communicate effectively in written English, Students will be given home work throughout the year. When students are preparing initial drafts, they need not worry too much about accuracy but experiment with new vocabulary and complex sentences.
成績評価	Evaluation will generally take place over the year in the form of continuous assessment. Tests will be given regularly. Written assignments : 50 % Homework : 30% Attendance 20%
講義構成	Some changes to the schedule are likely as the teacher becomes familiar with students abilities and interests. Chapter 1 – Writing Personal information. Chapter 2 – Writing compound sentences. Chapter 3 – Writing about a basic food in your country. Chapter 4 – Writing about special celebration. Chapter 5 – Describing steps in preparing for a celebration. Chapter 6 – Writing about a person or an animal. Chapter 7 – Writing about personality. Chapter 8 – Writing about famous movie stars. Chapter 9 – Writing about an unusual day. Chapter 10 Writing about yourself and Family. Chapter 11 Writing about advantages and disadvantages of robots. Chapter 12 Writing about disliking an animal, insect, or disease. Chapter 13 Writing a business letter.

	Chapter 14 Comparing and contrasting the laws in different countries. Chapter 15. Test In order to communicate effectively in written English, technical skill alone is not enough. A high degree of personal involvement is also necessary. Each instructor will have his or her own approach, and some may wish to use a textbook. Students should expect to write frequently, and to take a pride in what they write. Assignments will be varied and should help students in studying abroad, writing graduation theses, and/or pursuing career in the future. %22Brainstorming%22 to generate ideas and researching topics adequately before writing help to prepare the ground for a successful essay. Attention will be given to the whole process of producing a finished piece of writing. When students are preparing initial drafts, they need not worry too much about accuracy but experiment with new vocabulary and complex sentences. Students may have their essays returned for rewriting. The final version should be of the publication standard.
教科書	Weaving It Together. Author – Milada Broukal. Publisher – Thomson

担当者から一言	Dictionary is a must English/Japanese, Japanese/English
---------	---

授業コード	12N61		
授業科目名	英作文Ⅲb (1クラス)(後)		
担当者名	J. ブルックス(ブルックス ジョアン ビクトリア)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	This class is designed for English majors who have already completed Eisakubun I and IIa. Students are expected to have already acquired fair skills in writing and simple essay construction, and will now aim for a higher degree of proficiency in a variety of formal and informal writing tasks.
到達目標	Students will: ◆become comfortable using English to communicate with their classmates and teacher ◆acquire &/or improve skills in planning, organizing and writing paragraphs and essays ◆understand and be able to produce a variety of writing genres, such as process, description, narrative and opinion ◆improve English vocabulary and grammar
講義方法	You will work with partners and in small groups as you improve your ability to understand and use written English. You will assist each other with ideas, editing and revising your work. You will also do regular writing homework to review and practice at your own pace.
準備学習	If you want to be successful in this course, you should: ◆bring your textbook and ClearBook to every class ◆do your homework well before class ◆ not in the few minutes before class starts. You need the time to think about it and be sure you have done it well. ◆you may sometimes also need time to do library or internet research
成績評価	Participation20% Writing Assignments80%
講義構成	Class 1Essay structure Class 2Essay structure Class 3Outlines Class 4Process essays Class 5Process essays Class 6Process essays Class 7Narrative essays Class 8Narrative essays Class 9Narrative essays Class 10Unity & coherence Class 11Unity & coherence Class 12Final Project workshop

	Class 13Final Project workshop Class 14Wrap-up
教科書	Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays
参考書・資料	You will need an A4 size ClearBook for your writings and downloads. I will show you an example in our first class.
担当者から一言	A mind is like a parachute. It only works when it is open.

授業コード	12N62		
授業科目名	英作文Ⅲb（2クラス)(後)		
担当者名	古瀬明里(フルセ アカリ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	英作文Ⅲに引き続き、パラグラフ・ライティング、エッセーやレポートを英文で書くことを目的とする。英文でコミュニケーションを図るためには、読者にとって、できるだけわかりやすい、説得力のある文章を書くことが大切である。この講義では、英文のスタイル、構成、文法などの修辞学的な側面から英作文を洗練させていくと共に、文章内容の向上を目指す。資料や情報を分析しながら、自らの考えを明確に表現するアカデミックな内容の文章を書くこと、そして、文章を洗練させていく技術を身につけることを最終目標とする。
到達目標	5-6の複数パラグラフ・エッセーを完成させるために、pre-writing, writing, rewritingの作業を繰り返し、自分の考えを明確に表現するアカデミックな文章を書くこと、そして文章を洗練させていくスキルを身につけることを到達目標とする。
講義方法	テーマに沿って、narrative, comparison and contrast, cause and effect, argumentationなどのさまざまなタイプのテキストを使い、まとまりのある、明確で、説得力のある文章を書くことを目指す。そのために、pre-writing, writing, rewritingの作業を繰り返し行い、ライティングのプロセス全体を重視する。
準備学習	英作文I・IIで学んできたパラグラフ構成、文章のまとめ方などの基礎を理解しておく必要がある。ライティングプロセスの各段階でその作業を確認するため、提出物の期限は厳守すること。
成績評価	出席状況(評価を受けるには原則として2/3以上の出席が必要)や講義への積極的参加などの平常点30%、小テスト30%、課題(締め切り厳守)40%による総合評価。
講義構成	まずはwriting skill を学習し、実践として、各章に関連したトピックについてまとまりのある英文エッセーを書く練習を重ねていく。課題提出日などを含む詳細な講義構成については初回の講義でシラバスを配布し、説明する。
教科書	Great Essays: An Introduction to Writing Essays Second Edition by Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, ElenaVestri Solomon. Thomson Heinle, 2004.
参考書・資料	・MLA Handbook for Writers of Research Papers Seventh Edition ・MLA英語論文の手引き(北星堂書店) ・Thesaurus, English/English Dictionary 随時プリント配布

授業コード	12N63		
授業科目名	英作文Ⅲb（3クラス）(後)		
担当者名	マニユエル（マニユエル ステラ）		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	先着順30名（登録方法は時間割別表を参照のこと）		

講義の内容	The aim of this course is to help students learn how to write, in English, various kinds of paragraphs and simple essay construction. Aiming for higher proficiency in a variety of formal and informal writing tasks.
-------	--

到達目標	Students will aim to create comfortable and aim for higher degree proficiency.
講義方法	Instructors will aim to create a comfortable workshop atmosphere. Students will be expected to work hard both alone and with other students during the class.
準備学習	In order to communicate effectively in written English , Students will be given home work throughout the year. When students are preparing initial drafts, they need not worry too much about accuracy but experiment with new vocabulary and complex sentences.
成績評価	Evaluation will generally take place over the year in the form of continuous assessment. Tests will be given regularly. Written assignments : 50 % Homework : 30% Attendance 20%
講義構成	Some changes to the schedule are likely as the teacher becomes familiar with students abilities and interests. Chapter 1 – Writing Personal information. Chapter 2 – Writing compound sentences. Chapter 3 – Writing about a basic food in your country. Chapter 4 – Writing about special celebration. Chapter 5 – Describing steps in preparing for a celebration. Chapter 6 – Writing about a person or an animal. Chapter 7 – Writing about personality. Chapter 8 – Writing about famous movie stars. Chapter 9 – Writing about an unusual day. Chapter 10 Writing about yourself and Family. Chapter 11 Writing about advantages and disadvantages of robots. Chapter 12 Writing about disliking an animal , insect, or disease. Chapter 13 Writing a business letter. Chapter 14 Comparing and contrasting the laws in different countries. Chapter 15. Test
教科書	Weaving It Together. Author – Milada Broukal. Publisher – Thomson
参考書・資料	Japanese/English, English/ Japanese Dictionary is a must.

授業コード	12001		
授業科目名	英米文化・文学入門 (前)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)、ライクロフト(ライクロフト デビッド w.), 青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)、井野瀬久美恵(イノセ クミエ)、秋元孝文(アキモト タカフミ)、安武留美(ヤスタケ ルミ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 木曜4限
オフィスアワー	担当教員ごとに異なるので確認してください。		

講義の内容	英語英米文学科の新入生のための、英米文学・文化についての入門的な講義となる。ツールとしての英語力は他の講義で鍛錬することになるが、その先にある専門分野への入り口として、イギリス・アメリカの文化・文学・歴史といったものに関するみなさんの関心を高めることを目的にする。学生諸君が学習する英語という言語の背後にある、イギリス・アメリカの様々な文化的事象や文学作品について、各担当者の取り上げる多様な切り口から紹介していく。		
到達目標	専門科目に連結できる「考える力」を身につけよう。		
講義方法	回数	講義日	担当者 講義内容
	01	4/6(火)	全員 オリエンテーション
	02	4/8(木)	安武 アメリカンシステムとその拡大
	03	4/13(火)	井野瀬 「連合王国」に暮らす人びと——階級と民族
	04	4/15(木)	安武 ジェンダー
	05	4/20(火)	井野瀬 イギリスは「紅茶の国」? ——生活文化から
	06	4/22(木)	安武 人種
	07	4/27(火)	井野瀬 ピーター・ラビットのイギリス——動物愛護の視点
	08	5/6(木)	安武 アメリカの市民権

	09 5/11(火) 井野瀬 ロイヤルファミリーのイギリス——女王の国って？
	10 5/13(木) 青山 文学入門
	11 5/18(火) 中島 イギリス文学とは？
	12 5/20(木) 中島 イギリスの詩
	13 5/25(火) 中島 イギリスの小説
	14 5/27(木) 中島 イギリス小説の世界
	15 6/1(火) 中島 イギリス文学と絵画
	16 6/3(木) ライクロフト シェイクスピアの劇壇(1)
	17 6/8(火) ライクロフト シェイクスピアの劇壇(2)
	18 6/10(木) ライクロフト シェイクスピアと映画
	19 6/15(火) ライクロフト イギリスの児童文学
	20 6/17(木) 青山 19世紀アメリカ詩1
	21 6/22(火) 青山 19世紀アメリカ詩2
	22 6/24(木) 青山 19世紀アメリカ小説1
	23 6/29(火) 青山 19世紀アメリカ小説2
	24 7/1(木) 秋元 アメリカの現代小説:現代とは？
	25 7/6(火) 秋元 20世紀前半
	26 7/8(木) 秋元 20世紀半ば、そしてポストモダン
	27 7/13(火) 秋元 たとえばポール・オースターの場合
	28 7/15(木) 全員 理解度確認テスト
準備学習	好奇心こそ自己を発展させる原動力です。図書館、サイバーライブラリー、インターネットを駆使して自らの興味を醸成させよう。
成績評価	6人の担当者それぞれの分野ごとに点数をつけ、それを合算する形で成績を算出する。試験の有無、平常点、出席などの加味に関しては各担当者によって異なるので、それぞれの説明をよく聞くこと。
講義構成	最初の授業の折に詳細をお伝えします。
教科書	プリントを配布。
参考書・資料	随時指定します。

授業コード	12A11		
授業科目名	基礎演習Ia (1クラス)(前)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日昼休み		

講義の内容	基本的には英語力の養成を主体としながら、さまざまな辞書・事典の紹介、論文・レポートの書き方、ITツールの利用法、図書館の利用法など英語英米文学科の学生として必要な基礎知識を見つけることを目的とする。
到達目標	英語で書かれた辞書・辞典並びにインターネットを通して得たさまざまな情報を獲得し、利用できるようになることを目指す。
講義方法	さまざまな教材を使用しながら、参加型の授業を心がける。
準備学習	予習していることを前提に授業を進めるので毎時間、予習をかたかさないこと。
成績評価	出席を重視し、小テスト、レポート、定期試験などを基に平常点40%、定期試験60%を基準に評価する。
講義構成	テキストを読む傍らさまざまな作業を取り入れる。
教科書	プリント他
参考書・資料	必要に応じて指定する。

授業コード	12A12
-------	-------

授業科目名	基礎演習Ia (2クラス)(前)		
担当者名	安武留美(ヤスタケ ルミ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	アメリカ文化研究入門		
到達目標	文献の講読に加えて、インターネットや図書館でのリサーチを行い、アメリカ社会・文化に関する知識を深める。		
講義方法	毎週かなり多量の英文を読み進めてもらい、クラスではクラスではその大要とポイントを正しく把握しているかどうかをチェックしていく。		
準備学習	課題となっている文献を読み込んでおく。		
成績評価	授業への貢献度(30%)、クイズ(30%)、期末テスト(60%)によって総合的に評価する。		
講義構成	開講時に配布する、文献リスト及び講読スケジュールに沿って進められる。		
教科書	開講時に指示する。		

授業コード	12A13		
授業科目名	基礎演習Ia (3クラス)(前)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日 (12:10-13:00)		

講義の内容	この演習を中心にするクラスは、専門課程に入る助走期間と位置づけていいでしょう。そこで外国語学習の基本に立ち返り、「読む、書く、聞く、話す」の「四技能」を今一度確認しておきましょう。この確認作業は「今さら」の感を伴うかもしれませんが、将来の飛躍になくてはならない過程であると信じています。		
到達目標	英語英米文学科ではTOIECの点数を目標点として定めています。この目標に向かいさえ自分の置かれている位置を客観的に見つめて目標の到達をはかりましょう。		
講義方法	以上のような学習目的を掲げたのだから、ある一定の理解に到達するためには、多面的なアプローチが必要となってきます。いろいろ試みますが、一つ一つの課題を受講生の大半が理解をしていることを確認しながらクラス運営をしていきたいと考えています。なお、教材はこちらで多く用意していますが最初の時間に受講生からの希望も多く採り入れたいと予定しています。		
準備学習	担当者から指示を得るというような受け身ではなく、自分から積極的に授業に向かい、将来の目標にむすびつけてください。		
成績評価	成績は、小テスト、レポート(60%)、定期試験(40%)の割合で評価します。		
講義構成	受講生と話し合い授業の進行は取りきめたいと思います。		
教科書	CD-ROM、プリント配布		
参考書・資料	随時指定します。		

授業コード	12A14		
授業科目名	基礎演習Ia (4クラス)(前)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

オフィスアワー	水曜日のお昼休み
講義の内容	アメリカで出版された超短編小説集 Flash Fiction を読む。一編につき2, 3ページの超短編小説を、前期は訳読でじっくりとクラス全員で読み、後期は一回につき一編を担当者の発表形式で行う。収録された作品を読んで、生の英語に触れ、読解力をつけるのみならず、英語文化圏のポップな発想力に触れ、おもしろい文化的な現象を感知するアンテナを磨いてほしい。 上記テキストの講読を中心にしつつ、映画、音楽、ニュースなど様々なリアルタイムのポップカルチャーから題材を用意して、英語力の向上と「考える力」「ものの見方」を養うことを目標にする。
到達目標	英語読解力の向上と3年次より始まるゼミに向けての基本的リサーチ力、プレゼンテーション力の向上を目指す。
講義方法	予習は必須。辞書を引き、読んだ上で授業に参加し、自分ではわからなかった個所を確認する。ランダムにあてて訳読していく。 後期には担当者を決めて、ハンドアウトを用意して口頭発表をしてもらう。
準備学習	取り上げる作品は事前に伝えるので、かなり辞書を引いて自分で読んだ上で参加すること。
成績評価	基礎演習は少人数の必修科目ですから、出席および授業への参加姿勢を重視します。出席に関しては正当な理由なく5回以上欠席した場合は単位を与えません。遅刻は1/2欠席としてカウントします。遅刻した場合は講義終了後自分で遅刻した旨を報告に来てください。報告がなかった場合は欠席扱いになります。 きちんと予習した上で出席しているか、当てられた箇所を適切に訳出できるか、積極的に参加しているか、といった点を中心に、テストやレポートを課して総合的に判断します。 上記出席基準に満たない場合、また試験を受験しなかった場合、レポートを提出しなかった場合に成績評価は「欠席」となります。
講義構成	開講時に指示する。
教科書	James Thomas, Denise Thomas & Tom Hazuka eds, Flash Fiction (Norton 1992)

授業コード	12A15		
授業科目名	基礎演習Ia (5クラス)(前)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日 12:10～13:00		

講義の内容	本講義の目的は以下の通りである。 1 テキストの内容を要領よくサマライズする。この目的を達成するには、まず、英文を正確に読みこなし、適切な日本語に置き換える作業が必要となる。 2 プレゼンテーション能力を身に付ける。このことは、特定の課題について調べたものをもとに、ハンドアウトを作成し、発表をするという形式で行う。
到達目標	パッセージのテーマを読み取り、それをコンパクトにまとめる事ができるようになる。
講義方法	まずテキストを丹念に読み、日本語に訳してもらう。セクションやチャプター等、まとまりのあるところまで訳し終えた地点で、内容を要約することに取り組んでゆく。 これとは別に、テキストに関連したトピック、もしくはまったく関連性の無いトピックについて、各自調べてもらう。そしてその内容をクラスで発表する。
準備学習	配布されるテキストを必ず予習して授業に参加すること。
成績評価	出席点10%、授業への取組み態度20%、期末テスト70%で評価する。
講義構成	初回到概要を説明する。
教科書	プリント配布
参考書・資料	Longman Dictionary of Contemporary English
担当者から一言	本講義では、上記の「内容・目的」に掲げた1に重きをおきます。

授業コード	12A16
-------	-------

授業科目名	基礎演習Ia (6クラス)(前)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	Thursday 12.15 – 12.55 pm. Other times by arrangement.		

講義の内容	This class will study literature in English. Students will read and discuss books and plays, and write essays about them.
到達目標	Through reading books, listening to poetry or watching plays we learn a great deal about ourselves and about our society. If we talk about them with other people, we experience spiritual growth and enrich our lives. Students will also learn the basic principles of writing critical essays about works of literature.
講義方法	授業では、テキストの台本を読み、十分な準備をしたのちビデオ鑑賞を経て討論を行う。それぞれのトピックについて少人数によるグループによる発表を課します。 文学を学ぶ上で最も大切なことは、取り上げる作品(原文)を自分で読んでみることです。その経験を通して、はじめて内容について論じることが可能となり、また作品の意味や価値といったものに対する自分の意見が言えるようになります。
準備学習	Students have to prepare sections of the text before the class. Translation exercises will sometimes be given. Occasionally, students may be asked to do some research in the library or on the Internet.
成績評価	課題に対する十分な準備が必要なことはもちろんであるが、ビデオ鑑賞およびその解説など毎回の授業を消化することによって、次回の授業につなげていきます。授業の構成上、出席することが重要です。正当な事由のない欠席は評価に反映されます。成績は年間を通して総合的に評価をし、最終的な評価は、十分な理解あるレポート課題の提出によってなされます。授業内での積極的な発言、態度は高く評価し考慮します。 つまり、しっかりと努力し、頑張った者は高い評価が与えられるということです。
講義構成	In the first semester, we will hold a poetry workshop. Students will read a selection of poems together, and try to decide what poetry actually is, and how it differs from fiction and drama. As well as reading other people's poetry, students will be encouraged to try writing themselves—for example, haiku in English. Then we will read a short novel, The Snow Goose, and discuss the writer's use of narrative and characterization to involve the reader's emotions, and change the way we think about life. In the second semester, we will watch the movie Shakespeare in Love. We will learn something about the theatre in Shakespeare's day and discuss the relationship between the writer's life and his literary works. The movie is a fictional account of the first performance of Romeo and Juliet, so we will study some scenes from the play. We will think about drama and how it differs from the novel, and also how the director can change the way the text is presented in performance.
教科書	後日連絡します。

授業コード	12A21		
授業科目名	基礎演習Ib (1クラス)(後)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日昼休み		

講義の内容	基本的には英語力の養成を主体としながら、さまざまな辞書・事典の紹介、論文・レポートの書き方、ITツールの利用法、図書館の利用法など英語英米文学科の学生として必要な基礎知識を見つけることを目的とする。
到達目標	英語で書かれた辞書・辞典並びにインターネットを通して得たさまざまな情報を獲得し、利用できるようになることを目指す。
講義方法	さまざまな教材を使用しながら、参加型の授業を心がける。
準備学習	予習していることを前提に授業を進めるので毎時間、予習をかたかさないこと。
成績評価	出席を重視し、小テスト、レポート、定期試験などを基に平常点40%、定期試験60%を基準に評価する。

講義構成	テキストを読む傍らさまざまな作業を取り入れる。
教科書	プリント他
参考書・資料	必要に応じて指定する。

授業コード	12A22		
授業科目名	基礎演習Ib（2クラス）(後)		
担当者名	安武留美(ヤスタケ ルミ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	アメリカ文化研究入門		
到達目標	文献の講読に加えて、インターネットや図書館でのリサーチを行い、アメリカ社会・文化に関する知識を深める。		
講義方法	毎週かなり多量の英文を読み進めてもらい、クラスではクラスではその大要とポイントを正しく把握しているかどうかをチェックしていく。		
準備学習	課題となっている文献を読み込んでおく。		
成績評価	授業への貢献度(30%)、クイズ(30%)、期末テスト(60%)によって総合的に評価する。		
講義構成	開講時に配布する、文献リスト及び講読スケジュールに沿って進められる。		
教科書	開講時に指示する。		

授業コード	12A23		
授業科目名	基礎演習Ib（3クラス）(後)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日（12:10－13:00）		

講義の内容	この演習を中心にするクラスは、専門課程に入る助走期間と位置づけていいでしょう。そこで外国語学習の基本に立ち返り、「読む、書く、聞く、話す」の「四技能」を今一度確認しておきましょう。この確認作業は「今さら」の感を伴うかもしれませんが、将来の飛躍になくてはならない過程であると信じています。		
到達目標	英語英米文学科ではTOIECの点数を目標点として定めています。この目標に向かいさえ自分の置かれている位置を客観的に見つめて目標の到達をはかりましょう。		
講義方法	以上のような学習目的を掲げたのだから、ある一定の理解に到達するためには、多面的なアプローチが必要となってきます。いろいろ試みますが、一つ一つの課題を受講生の大半が理解をしていることを確認しながらクラス運営をしていきたいと考えています。なお、教材はこちらで多く用意していますが最初の時間に受講生からの希望も多く採り入れたいと予定しています。		
準備学習	担当者から指示を得るといような受け身ではなく、自分から積極的に授業に向かい、将来の目標にむすびつけてください。		
成績評価	成績は、小テスト、レポート(60%)、定期試験(40%)の割合で評価します。		
講義構成	受講生と話し合い授業の進行は取りきめたいと思います。		
教科書	CD-ROM、プリント配布		
参考書・資料	随時指定します。		

授業コード	12A24		
授業科目名	基礎演習Ib (4クラス)(後)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日のお昼休み		

講義の内容	アメリカで出版された超短編小説集 Flash Fiction を読む。一編につき2, 3ページの超短編小説を、前期は訳読でじっくりとクラス全員で読み、後期は一回につき一編を担当者の発表形式で行う。収録された作品を読んで、生の英語に触れ、読解力をつけるのみならず、英語文化圏のポップな発想力に触れ、おもしろい文化的な現象を感知するアンテナを磨いてほしい。 上記テキストの講読を中心にしつつ、映画、音楽、ニュースなど様々なリアルタイムのポップカルチャーから題材を用意して、英語力の向上と「考える力」「ものの見方」を養うことを目標にする。
到達目標	英語読解力の向上と3年次より始まるゼミに向けての基本的リサーチ力、プレゼンテーション力の向上を目指す。
講義方法	予習は必須。辞書を引き、読んだ上で授業に参加し、自分ではわからなかった個所を確認する。ランダムにあてて訳読していく。 後期には担当者を決めて、ハンドアウトを用意して口頭発表をしてもらう。
準備学習	取り上げる作品は事前に伝えるので、かならず辞書を引いて自分で読んだ上で参加すること。
成績評価	基礎演習は少人数の必修科目ですから、出席および授業への参加姿勢を重視します。出席に関しては正当な理由なく5回以上欠席した場合は単位を与えません。遅刻は1/2欠席としてカウントします。遅刻した場合は講義終了後自分で遅刻した旨を報告に来てください。報告がなかった場合は欠席扱いになります。 きちんと予習した上で出席しているか、当てられた箇所を適切に訳出できるか、積極的に参加しているか、といった点を中心に、テストやレポートを課して総合的に判断します。 上記出席基準に満たない場合、また試験を受験しなかった場合、レポートを提出しなかった場合に成績評価は「欠席」となります。
講義構成	開講時に指示する。
教科書	James Thomas, Denise Thomas & Tom Hazuka eds, Flash Fiction (Norton 1992)

授業コード	12A25		
授業科目名	基礎演習Ib (5クラス)(後)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日 12:10～13:00		

講義の内容	本講義の目的は以下の通りである。 1 テキストの内容を要領よくサマライズする。この目的を達成するには、まず、英文を正確に読みこなし、適切な日本語に置き換える作業が必要となる。 2 プレゼンテーション能力を身に付ける。このことは、特定の課題について調べたものをもとに、ハンドアウトを作成し、発表をするという形式で行う。
到達目標	ハンドアウトを作成し、発表する事に慣れる。
講義方法	まずテキストを丹念に読み、日本語に訳してもらう。セクションやチャプター等、まとまりのあるところまで訳し終えた地点で、内容を要約することに取り組んでゆく。 これとは別に、テキストに関連したトピック、もしくはまったく関連性の無いトピックについて、各自調べてもらう。そしてその内容をクラスで発表する。
準備学習	毎時間指示される課題をすませて、授業に出席すること。
成績評価	出席点10%、授業への取り組み態度20%、期末テスト70%で評価する。

講義構成	初回到概要を説明する。
教科書	プリント配布
参考書・資料	Longman Dictionary of Contemporary English
担当者から一言	本講義では、上記の「内容・目的」に掲げた2に重きをおきます。

授業コード	12A26		
授業科目名	基礎演習Ib (6クラス)(後)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	Thursday 12.15 – 12.55 pm. Other times by arrangement.		

講義の内容	This class will study literature in English. Students will read and discuss books and plays, and write essays about them.
到達目標	Through reading books, listening to poetry or watching plays we learn a great deal about ourselves and about our society. If we talk about them with other people, we experience spiritual growth and enrich our lives. Students will also learn the basic principles of writing critical essays about works of literature.
講義方法	授業では、テキストの台本を読み、十分な準備をしたのちビデオ鑑賞を経て討論を行う。それぞれのトピックについて少人数によるグループによる発表を課します。 文学を学ぶ上で最も大切なことは、取り上げる作品(原文)を自分で読んでみることです。その経験を通して、はじめて内容について論じることが可能となり、また作品の意味や価値といったものに対する自分の意見が言えるようになります。
準備学習	Students have to prepare sections of the text before the class. Translation exercises will sometimes be given. Occasionally, students may be asked to do some research in the library or on the Internet.
成績評価	課題に対する十分な準備が必要なことはもちろんであるが、ビデオ鑑賞およびその解説など毎回の授業を消化することによって、次回の授業につなげていきます。授業の構成上、出席することが重要です。正当な事由のない欠席は評価に反映されます。成績は年間を通して総合的に評価をし、最終的な評価は、十分な理解あるレポート課題の提出によってなされます。授業内での積極的な発言、態度は高く評価し考慮します。 つまり、しっかりと努力し、頑張った者は高い評価が与えられるということです。
講義構成	In the first semester, we will hold a poetry workshop. Students will read a selection of poems together, and try to decide what poetry actually is, and how it differs from fiction and drama. As well as reading other people's poetry, students will be encouraged to try writing themselves—for example, haiku in English. Then we will read a short novel, The Snow Goose, and discuss the writer's use of narrative and characterization to involve the reader's emotions, and change the way we think about life. In the second semester, we will watch the movie Shakespeare in Love. We will learn something about the theatre in Shakespeare's day and discuss the relationship between the writer's life and his literary works. The movie is a fictional account of the first performance of Romeo and Juliet, so we will study some scenes from the play. We will think about drama and how it differs from the novel, and also how the director can change the way the text is presented in performance.
教科書	後日連絡します。

授業コード	12A31		
授業科目名	基礎演習IIa（1クラス）（前）		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

オフィスアワー	水曜日12:15-12:45
講義の内容	「英文を読む」とはということかについて、徹底した訓練をおこなう。それを通して、これまで自分の読みのどこがどう違っていたのか、「英文を読む」ということをめぐるさまざまな考え方を学び、知的に「動揺」しながら、英語で書かれた文章への理解を多角的、多面的に深めることを目的としたい。
到達目標	「英語を読むこと」の意味について、「日本語を読むこと」との違いを発想や表現などについて理解し、英語と日本語の「互換性」の感度と精度を高める。
講義方法	テキストの英文をまずは徹底的に読み込みながら、そもそも英文を読むとはということかについて考えていく。さらには、テキストに詳細な解説を加え(必要な場合には資料を配布して)、中身を正確に、できるだけ迅速に理解する方法を身につける。そのプロセスで、さらにテキストの内容についての理解を深めるための資料収集方法についても教示したい。
準備学習	あらかじめ指定したテキストの担当部分を日本語らしい文章に訳すことが準備学習となる。それを授業中にチェックして自己評価を加えて、毎回提出してもらう。なお、自分の担当箇所以外もきちんと目を通しておくこと。
成績評価	授業中のテキストの翻訳(30%)、出席状況(20%)、課題レポート(20%)、筆記試験(30%)によって総合評価する。とりわけ、1)自分が担当した部分を責任もってやったか、2)担当部分の翻訳が日本語としてきちんと意味が通るかどうか、3)課題レポート作成に際して自分なりの意見が「自分の言葉」で表明・表現されているかどうか、この3点を評価のポイントにしたいと思っている。
講義構成	適宜指示する。
教科書	History Today、BBC History Magazineといった、図版や写真をふんだんに用いたイギリスの雑誌から、興味をひくテーマの文章を適宜抽出してテキストとして用い、「英文を読む」ことを鍛えていく。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	英語文化研究I、ブリティッシュ・スタディーズなど、イギリス文化や歴史関連の講義は受講しておくのが望ましい。
担当者から一言	英語と日本語は全く性格の異なる言語です。ですから、この2つの言葉を行き来させる「翻訳」という作業には、2つの言語の違いを意識することがまずは必要です。その一方で、日本語も英語も、人間のコミュニケーションのために生まれた言語、言葉であることに違いはありません。英語力を豊かにすることは、日本語の力を豊かにすることでもあることをお忘れなく！

授業コード	12A32		
授業科目名	基礎演習IIa（2クラス）（前）		
担当者名	中島信夫（ナカシマ ノブオ）		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日3限 10号館8階803研究室		

講義の内容	歴史、文学、文化、言語について書かれた英文のエッセイを読みこうした分野の基本的考え方を学ぶとともに色々なスタイルの英文に慣れるようにする。
到達目標	英文の論旨とか論理の展開を正確に把握する能力や、自分の考えを論旨のはっきりした英語および日本語で表現する能力など卒業論文の作成に不可欠な能力・技術の育成を目指す。
講義方法	英語の短いエッセイを順番を決めて読んでいく。その後、エッセイの内容について自分の考えを英語ないし日本語で各自まとめてもらう。また、英語を勉強する場合の基本的な事柄、例えば、辞書の引き方とか発音の仕方などの練習も行う。
準備学習	毎時間全員に発表してもらうのでテキストの分からない単語の意味を必ず調べておくこと。
成績評価	出席30%、レポート20%、学期末試験50%の割合で評価する。
講義構成	テキストThe Universe of Englishの Part I Perception and Representationと Part II Evolution and Historyから二つのセッションを選んで読む。このほか短編小説を一つ読む予定。また、時間的に余裕があればテキストのテーマに関連した映画も鑑賞する予定。
教科書	東京大学教養学部英語教室編(1993) The Universe of English 東京大学出版会 およびプリント

参考書・資料	授業中に指示する。
--------	-----------

授業コード	12A33		
授業科目名	基礎演習IIa（3クラス）（前）		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日12:20-13:00		

講義の内容	大学生生活を1年終えてこれからの学習が専門性を帯びてくる段階なので、資料の検索の仕方、図書館のより賢い使い方などを学ぶ場としたい。また、キャリア・センターの協力を仰いで将来の進路について考える。同時に、英語英米文学科の学生としての英語力の向上、あるいはインターネットの記事を読むことで現代社会が抱える問題を考えてもらいたいと思う。また、毎回小テスト形式でTOEICリーディングの問題を1問課すつもりである。
到達目標	次の点を目標とする。 [1] 大学2年生としての基本的な学習習慣の確立を目指す。 [2] 進んだ専門科目に対応し得る基礎力を養成する。 [3] TOEICのより高い成績をあげるための訓練を行う。
講義方法	図書館での文献検索、キャリアセンターによるレクチャーなどを織り交ぜながら、同時にインターネット記事を講読し、TOEIC対策を行う。
準備学習	与えられた資料について予習することが求められる。
成績評価	50%は出席点が占めるが、残りは前期試験、レポートによる。
講義構成	一回目は全体的説明。二回目は、図書館でのより高度な文献検索実習。それ以降は言語問題を扱ったインターネット記事の講読。途中で、キャリアセンターによるレクチャーを行う。
教科書	講義担当者が資料を配布する。
担当者から一言	大学は「自分探し」の場である。この授業では、学問上の自分探しをやって頂きたいと思う。

授業コード	12A34		
授業科目名	基礎演習IIa（4クラス）（前）		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	Harper Lee 原作の To Kill a Mockingbird(1960) は、映画化もされて多くの一般アメリカ人に親しまれた小説である。この授業では主として映画版のシナリオを読みながら、ときおり原作の文章にも触れる形で英語力の向上をはかる。1930年代アメリカ南部を舞台にしたこの作品で扱われるテーマは人種問題であるが、内容的にはわかりやすいので、しっかり予習して授業に臨めば、「文学性」に discourage されることなく英語読解力を向上させることができるはずである。
到達目標	口語英語表現(そしてそこに見られる英語的発想)に慣れ、同時に「アメリカ南部」の文化的、歴史的的特殊性についての知識と理解を深める。
講義方法	少人数のクラスになるので、毎回数ページずつ受講生に翻訳をしてもらって理解度を確認しながら授業を進める。シナリオであれ原作の文章であれ、せつかくの「生きた英語」を「死んだ日本語」にしないこと、つまりなめらかな日本語にすることにも留意する。テキストを一定のページ数進んだらビデオを見てテキストの理解を深めるが、それは同時にリスニングの訓練にもなるはずである。
準備学習	言うまでもないが、予習を前提として授業を進めるので予習は必須である。あらかじめ辞書を使って読んで、自分がわからないのはどこなのかわかったうえで授業に出席すること。

成績評価	授業への参加度と出席30% 試験70%
講義構成	「基礎演習」という名称で、講義形式ではなく参加型のリーディング授業なので、特に「講義構成」と呼ぶべきものはない。実質的には通年科目のこの授業では、映画版シナリオと原作の一部を一年かけて読む。
教科書	「講義内容」に挙げたとおり(一部はプリント)。授業開始時まで担当者が手配する。

授業コード	12A35		
授業科目名	基礎演習IIa (5クラス) (前)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜5限またはアポイントメント		

講義の内容	思春期の少年少女が主人公の、いわゆる「Coming of Age」ものの映画の脚本をとりあげ、口語表現を中心に、高校では習わなかったような生の英語の表現、そしてその背後にある文化を探る。今回はWes Anderson & Owen Wilsonによる「Rushmore」を取り上げる。
到達目標	より「生」に近い英語表現を学ぶことにより、英語らしい表現を身につける。語彙力、読解力を向上させる。
講義方法	当授業では、毎週で課題をもとに、映像とともに脚本を読み進める。こちらで解説することは最小限にとどめ、ほぼすべてのことを学生諸君に質問し、学生諸君に答えてもらう。また、挙手発言も推奨されている。黙って教室にいれば時間が過ぎて行くという授業には決してならないので、みなさんもそこはあきめて(?)積極的に発言してほしい。
準備学習	各回の授業には予習課題が出るので、それを確実に提出することが求められる。課題を出さなければ単位を取ることは困難であろう。
成績評価	出席(20%)、挙手点(10%)、課題・小テスト(30%)、試験(40%)で数値化して決定する。欠席が5回に達した場合、単位を認めない。
講義構成	※以下の講義予定は暫定的なものであり、授業の進行により変更される。 1. Part 1: pp. 1-6 2. Part 1: pp. 7-12 3. Part 1: pp. 13-18 4. Part 1: pp. 19-24 5. Part 1: pp. 25-30 6. Part 2: pp. 1-6 7. Part 2: pp. 7-12 8. Part 2: pp. 13-18 9. Part 2: pp. 19-24 10. Part 2: pp. 25-30 11. Part 3: pp. 1-6 12. Part 3: pp. 7-12 13. Part 3: pp. 13-18 14. Part 3: pp. 19-24 15. Final Exam
教科書	随時配布する。

授業コード	12A41		
授業科目名	基礎演習IIb (1クラス) (後)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限

特記事項	自動登録
講義の内容	「英文を読む」とはということかについて、徹底した訓練をおこなう。それを通して、これまで自分の読みのどこがどう違っていたのか、「英文を読む」ということをめぐるさまざまな考え方を学び、知的に「動揺」しながら、英語で書かれた文章への理解を多角的、多面的に深めることを目的としたい。
到達目標	「英語を読むこと」の意味について、「日本語を読むこと」との違いを発想や表現などについて理解し、英語と日本語の「互換性」の感度と精度を高める。
講義方法	テキストの英文をまずは徹底的に読み込みながら、そもそも英文を読むとはということかについて考えていく。さらには、テキストに詳細な解説を加え(必要な場合には資料を配布して)、中身を正確に、できるだけ迅速に理解する方法を身につける。そのプロセスで、さらにテキストの内容についての理解を深めるための資料収集方法についても教示したい。
準備学習	あらかじめ指定したテキストの担当部分を日本語らしい文章に訳すことが準備学習となる。それを授業中にチェックして自己評価を加えて、毎回提出してもらう。なお、自分の担当箇所以外もきちんと目を通しておくこと。
成績評価	授業中のテキストの翻訳(30%)、出席状況(20%)、課題レポート(20%)、筆記試験(30%)によって総合評価する。とりわけ、1)自分が担当した部分を責任もってやったか、2)担当部分の翻訳が日本語としてきちんと意味が通るかどうか、3)課題レポート作成に際して自分なりの意見が「自分の言葉」で表明・表現されているかどうか、この3点を評価のポイントにしたいと思っている。
講義構成	適宜指示する。
教科書	History Today、BBC History Magazineといった、図版や写真をふんだんに用いたイギリスの雑誌から、興味をひくテーマの文章を適宜抽出してテキストとして用い、「英文を読む」ことを鍛えていく。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	英語文化研究I、ブリティッシュ・スタディーズなど、イギリス文化や歴史関連の講義は受講しておくのが望ましい。
担当者から一言	英語と日本語は全く性格の異なる言語です。ですから、この2つの言葉を行き来させる「翻訳」という作業には、2つの言語の違いを意識することがまずは必要です。その一方で、日本語も英語も、人間のコミュニケーションのために生まれた言語、言葉であることに違いはありません。英語力を豊かにすることは、日本語の力を豊かにすることでもあることをお忘れなく！

授業コード	12A42		
授業科目名	基礎演習IIb（2クラス）（後）		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日3限 10号館8階803研究室		

講義の内容	歴史、文学、文化、言語について書かれた英文のエッセイを読みこうした分野の基本的考え方を学ぶとともに色々なスタイルの英文に慣れるようにする。
到達目標	英文の論旨とか論理の展開を正確に把握する能力や、自分の考えを論旨のはっきりした英語および日本語で表現する能力など卒業論文の作成に不可欠な能力・技術の育成を目指す。
講義方法	英語の短いエッセイを順番を決めて読んでいく。その後、エッセイの内容について自分の考えを英語ないし日本語で各自まとめてもらう。また、英語を勉強する場合の基本的な事柄、例えば、辞書の引き方とか発音の仕方などの練習も行う。
準備学習	毎時間全員に発表してもらうのでテキストの分からない単語の意味を必ず調べておくこと。
成績評価	出席30%、レポート20%、学期末試験50%の割合で評価する。
講義構成	テキストThe Universe of Englishの Part III Culture and Youthと Part IV Society and The Environmentから二つのセッションを選んで読む。このほか言語についてのエッセイを一つ読む予定。また、エッセイに関連した映画を鑑賞する予定。
教科書	東京大学教養学部英語教室編(1993) The Universe of English 東京大学出版会 およびプリント

参考書・資料	授業中に指示する。
--------	-----------

授業コード	12A43		
授業科目名	基礎演習IIb（3クラス）（後）		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日 12:10 - 13:00		

講義の内容	専門科目の学習が専門性を帯びてくる段階なので、資料の検索の仕方、図書館のより賢い使い方などを学ぶ場としたい。また、キャリア・センターの協力を仰いで将来の進路について考える。同時に、英語英米文学科の学生としての英語力の向上、あるいはインターネットの記事を読むことで現代社会が抱える問題を考えてもらいたいと思う。また、毎回小テスト形式でTOEICリーディングの問題を1問課すつもりである。		
到達目標	次の点を目標とする。 [1] 大学2年生としての基本的な学習習慣の確立を目指す。 [2] 進んだ専門科目に対応し得る基礎力を養成する。 [3] TOEICのより高い成績をあげるための訓練を行う。		
講義方法	図書館での文献検索、キャリアセンターによるレクチャーなどを織り交ぜながら、同時にインターネット記事を講読し、TOEIC対策を行う。		
準備学習	与えられた資料について予習することが求められる。		
成績評価	50%は出席点が占めるが、残りは前期試験、レポートによる。		
講義構成	一回目は全体的説明。二回目は、図書館でのより高度な文献検索実習。それ以降は言語問題を扱ったインターネット記事の講読。途中で、キャリアセンターによるレクチャーを行う。		
教科書	講義担当者が資料を配布する。		
参考書・資料	授業中に適宜紹介する。		
担当者から一言	大学は「自分探し」の場である。この授業では、学問上の自分探しをやって頂きたいと思う。		

授業コード	12A44		
授業科目名	基礎演習IIb（4クラス）（後）		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	前期と同様。Harper Lee 原作の To Kill a Mockingbird(1960) は、映画化もされて多くの一般アメリカ人に親しまれた小説である。この授業では主として映画版のシナリオを読みながら、ときおり原作の文章にも触れる形で英語力の向上をはかる。1930年代アメリカ南部を舞台にしたこの作品で扱われるテーマは人種問題であるが、内容的にはわかりやすいので、しっかり予習して授業に臨めば、「文学性」に discourage されることなく英語読解力を向上させることができるはずである。		
到達目標	口語英語表現(そしてそこに見られる英語的発想)に慣れ、同時に「アメリカ南部」の文化的、歴史的的特殊性についての知識と理解を深める。		
講義方法	少人数のクラスになるので、毎回数ページずつ受講生に翻訳をしてもらって理解度を確認しながら授業を進める。シナリオであれ原作の文章であれ、せっかくの「生きた英語」を「死んだ日本語」にしないこと、つまりなめらかな日本語にすることにも留意する。テキストを一定のページ数進んだらビデオを見てテキストの理解を深めるが、それは同時にリスニングの訓練にもなるはずである。		
準備学習	言うまでもないが、予習を前提として授業を進めるので予習は必須である。あらかじめ辞書を使って読んで、自		

	分がわからないのはどこなのかかわかったうえで授業に出席すること。
成績評価	授業への参加度と出席30% 試験70%
講義構成	「基礎演習」という名称で、講義形式ではなく参加型のリーディング授業なので、特に「講義構成」と呼ぶべきものはない。実質的には通年科目のこの授業では、前期に引き続き映画版シナリオと原作の一部を読む。
教科書	「講義内容」に挙げたものを前期に引き続き使う。適宜プリントも配布する。

授業コード	12A45		
授業科目名	基礎演習IIb（5クラス）（後）		
担当者名	中谷健太郎（ナカタニ ケンタロウ）		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜5限またはアポイントメント		

講義の内容	思春期の少年少女が主人公の、いわゆる「Coming of Age」ものの映画の脚本をとりあげ、口語表現を中心に、高校では習わなかったような生の英語の表現、そしてその背後にある文化を探る。今回はTerry Twigoffによる「Ghost World」を取り上げる。		
到達目標	より「生」に近い英語表現を学ぶことにより、英語らしい表現を身につける。語彙力、読解力を向上させる。		
講義方法	当授業では、毎週でる課題をもとに、映像とともに脚本を読み進める。こちらで解説することは最小限にとどめ、ほぼすべてのことを学生諸君に質問し、学生諸君に答えてもらう。また、挙手発言も推奨されている。黙って教室にいれば時間が過ぎて行くという授業には決してならないので、みなさんもそこはあきめて(?)積極的に発言してほしい。		
準備学習	各回の授業には予習課題が出るので、それを確実に提出することが求められる。課題を出さなければ単位を取ることは困難であろう。		
成績評価	出席(20%)、挙手点(10%)、課題・小テスト(30%)、試験(40%)で数値化して決定する。欠席が5回に達した場合、単位を認めない。		
講義構成	※以下の講義予定は暫定的なものであり、授業の進行により変更される。 1. Scene 1-5 2. Scene 6-10 3. Scene 11-15 4. Scene 16-20 5. Scene 21-25 6. Scene 26-30 7. Scene 31-35 8. Scene 36-40 9. Scene 41-45 10. Scene 46-50 11. Scene 51-55 12. Scene 56-60 13. Scene 61-65 14. Scene 66-70 15. Final Exam		
教科書	随時配布する。		

授業コード	12M11		
授業科目名	講読演習Ia（1クラス）（前）		
担当者名	有村兼彬（アリムラ カネアキ）		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)
オフィスアワー	木曜日 12:10 - 13:00
講義の内容	1800年1月9日にフランス、アペロン県の森で推定年齢11、2才の野生の少年が発見された。後にビクターと名付けられたが、人間社会から隔離して育ったこの子供がどうやって、教育されて行ったか、あるいは、言葉の発達はどうかだったのか。興味が尽きない。本来人間の子供であれば周囲の言葉を聞くことによって言葉を学習するものだが、果たして教育の成果はどうかだったのだろうか。この事例がもたらす言語学的意味合いは大きい。ビクターの問題を捉えて言語とは何か、社会性とはどういうことか考えてみたい。
到達目標	しっかりと英語を読めるようになると同時に、人間とは何か、言語とは何かを考えるヒントを得る。
講義方法	受講生が分担して講読する。
準備学習	前回学んだことをよく理解した上で授業に臨む。
成績評価	前期試験50%、出席25%、レポート等25%
講義構成	第1回目: テキストの概略を紹介する。 第2回目-3回目: Out of the forest 第4回目 -8回目: Father Bonnatere, Priest and Naturalist 第9回目 - 13回目: Life in the Wild 第14回目: 復習
教科書	Roger Shattuck, The Forbidden Experiment: The Story of the Wild Boy of Aveyron. (藤田・中村(編))『アヴェロンの野生児』(英宝社)
参考書・資料	授業中に紹介する。
担当者から一言	英語を素直に読むということは結構難しい。しっかり読む練習をして下さい。

授業コード	12M12		
授業科目名	講読演習Ia（2クラス)(前)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	敬語表現という観点から英語の会話表現の解釈、用法についての理解を深めることを主な目的とする。それにとともにBrown、Levinsonのface threateningという概念を用いたポライトネスの考え方を学習する。また、会話における省略、間接発言行為といった関連したテーマについても考えていく。
到達目標	会話表現の理解を通して語用論、意味論の基礎的知識を身につける。
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。
準備学習	単語、イディオムの意味を辞書で確かめておくこと。
成績評価	出席30%、レポート20%、筆記試験50%の割合で評価する。 レポートのテーマについては授業で指示する。
講義構成	映画「ローマの休日」のシナリオを読みながら英語の敬語表現について調べていく。テキストは15の章に分けられているので前期では1章から7章までを読む。あわせてポライトネスについて解説したYule (1996) Pragmatics の第7章を読む。こちらはプリントで配布する予定。 Chapter 1 Princess Ann Goes On A Goodwill Tour Chapter 2 Where Do You Live? Chapter 3 Will You Help Me Get Undressed, Please? Chapter 4 Is This The Princess? Chapter 5 How Much Would A Real Interview With This Dame Be Worth? Chapter 6 Would You Be So Kind As To Tell Me Where I Am? Chapter 7 Can You Lend Me Some Money?
教科書	曽根田憲三 他編注 「ローマの休日(Roman Holiday)」開文社出版
参考書・資料	今井邦彦 (2001) 『語用論への招待』東京: 大修館書店 小泉保編 (2001) 『入門語用論研究Ⅱ理論と応用』東京: 研究社 毛利可信 (1980) 『英語の語用論』東京: 大修館書店

講義関連事項	英語学入門、英語の意味
--------	-------------

授業コード	12M13		
授業科目名	講読演習Ia (3クラス)(前)		
担当者名	山口治彦(ヤマグチ ハルヒコ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	日本語で書かれた漫画(岸本斉史の『NARUTO』)とその英語版、およびそのアニメーションの英語吹替え版を用いて、日本語と英語の表現性の違いや翻訳の問題点について考える。マンガとアニメというそれぞれのメディアに応じた翻訳の実態に触れるとともに、英語版アニメを使って聞き取りの演習もおこなう。
到達目標	漫画という身近なジャンルを通して、英語のセリフをたんに漠然と理解するのではなく、実感できることが目標。また、英語版アニメが完全に聞き取れることも同時に目標としたい。
講義方法	漫画を翻訳する際の諸問題について漫画テキストの具体的な翻訳例を分析することからはじめる。 受講生は5人程度のチームを作り、それぞれの担当箇所における翻訳の工夫や問題点について口頭発表をおこなう。この口頭発表に対して受講生からの批評および担当教員による論評というかたちで講義を進める。 そして、同じ漫画の英語版アニメを用いて、セリフがどのように英語に翻訳されているかをさらに確認する。実際に、英語版アニメを見ながら、セリフを聞きとってもらおうと思う。
準備学習	日本語のオリジナルを読んだうえで、その日本語がどのように英語に翻訳されたのかをきちんと跡付けておくこと。より具体的には、英語版のセリフきちんと理解できるか確認し、知らない単語についてはすべて調べておくこと。
成績評価	評価は、テストの成績が70%、出席・平生点が30%ぐらいの見当でおこなう。
講義構成	第1回授業の進め方に関するオリエンテーション 第2回漫画翻訳の問題点(イントロダクション) 第3回以降漫画翻訳に関する口頭発表および質疑応答
教科書	岸本斉史『NARUTO 巻ノ一』集英社 ISBN4-08-872840-8 Kishimoto, Masashi. NARUTO Vol.1. San Francisco, CA: VIZ. ISBN1-56931-900-b
参考書・資料	Longman Dictionary of Contemporary English. Macmillan English Dictionary for Advanced Learners. Oxford Advanced Learner's Dictionary. 岡枝慎二 『字幕翻訳講義の実況中継』語学春秋社

担当者から一言	単位を取るためだけでなく、自分の英語の力を伸ばすためにしっかり勉強してください。
---------	--

授業コード	12M14		
授業科目名	講読演習Ia (4クラス)(前)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	手話が英語、日本語のような音声言語と同様に自然言語であることを理解する。また、手話がろう者、聴者を問わずすべての村人によって話されている社会を知ることによって、言語と社会の問題、「障害者」とは何かといった問題について考える。
到達目標	手話を通して言語の仕組みについて理解する。英語の論文を読む力を身につける。
講義方法	英文を日本語に訳しながら英語の語句の意味および構文を理解していく。
準備学習	意味の不明な語句についてはあらかじめ必ず辞書で調べておくこと。よく分からない構文、慣用句等について整

	理しておく。
成績評価	出席点30%、レポート20%、試験50%で評価する。レポートのテーマについては授業で指示する。
講義構成	最初の授業でスライドを使って、手話とはどのようなものか、手話が日常的に使われているイスラエルの村の様子、手話研究の歴史、などについて解説する。 テキストを毎時間2ページの割合で読んでいく。
教科書	Margalit Fox (2007) Talking Hands. Ch. 8 Everyone Here Speaks Sign Language (プリントで配布)
参考書・資料	参考書・資料については授業で配布ないし指示する。

授業コード	12M21		
授業科目名	講読演習Ib (1クラス)(後)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	木曜日 12:10 - 13:00		

講義の内容	1800年1月9日にフランス、アペロン県の森で推定年齢11、2才の野生の少年が発見された。後にビクターと名付けられたが、人間社会から隔離して育ったこの子供がどうやって、教育されて行ったか、あるいは、言葉の発達はどうかだったのか。興味が尽きない。本来人間の子供であれば周囲の言葉を聞くことによって言葉を学習するものだが、果たして教育の成果はどうだっただろうか。この事例がもたらす言語学的意味合いは大きい。ビクターの問題を捉えて言語とは何か、社会性とはどういうことか考えてみたい。		
到達目標	しっかりと英語を読めるようになると同時に、人間とは何か、言語とは何かを考えるヒントを得る。		
講義方法	受講生が分担して講読する。		
準備学習	前回学んだことをよく理解した上で授業に臨む。		
成績評価	後期試験50%、出席25%、レポート等25%		
講義構成	第1回目:テキストの概略を紹介する。 第2回目-5回目:Paris 第6回目-10回目:Examination and Diagnosis 第11回目-13回目:Diagnosing the Diagnosis 第14回目:復習		
教科書	Roger Shattuck, The Forbidden Experiment: The Story of the Wild Boy of Aveyron. (藤田・中村(編))『アヴェエロンの野生児』(英宝社)		
参考書・資料	授業中に紹介する。		
講義関連事項	英語学入門		

担当者から一言	英語を素直に読むということは結構難しい。しっかり読む練習をして下さい。
---------	-------------------------------------

授業コード	12M22		
授業科目名	講読演習Ib (2クラス)(後)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	敬語表現という観点から英語の会話表現の解釈、用法についての理解を深めることを主な目的とする。それにとともにBrown, Levinsonのface threateningという概念を用いたポライトネスの考え方を学習する。また、会話における省略、間接発言行為といった関連したテーマについても考えていく。
-------	--

到達目標	会話表現の理解を通して語用論、意味論の基礎的知識を身につける。
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。
準備学習	単語、イディオムの意味を辞書で確かめておくこと。
成績評価	出席30%、レポート20%、筆記試験50%の割合で評価する。 レポートのテーマについては授業で指示する。
講義構成	映画「ローマの休日」のシナリオを読みながら英語の敬語表現について調べていく。テキストは15の章に分けられているので後期では8章から15章までを読む。あわせてポライトネスについて解説したYule (1996) Pragmaticsの第7章を読む。こちらはプリントで配布する予定。 Chapter 8 I'd Like To do Just Whatever I Liked Chapter 9 Where Did You Find This Loony? Chapter 10 Have You Got Your Lighter? Chapter 11 You Never Hurt Your Hand Chapter 12 The Princess And The Barber Chapter 13 I Don't Know How To Say Goodbye Chapter 14 I Have No Story Chapter 15 Rome! By All Means, Rome
教科書	曽根田憲三 他編注 「ローマの休日(Roman Holiday)」開文社出版
参考書・資料	今井邦彦 (2001) 『語用論への招待』東京: 大修館書店 小泉保編 (2001) 『入門語用論研究Ⅳ理論と応用』東京: 研究社 毛利可信 (1980) 『英語の語用論』東京: 大修館書店
講義関連事項	英語学入門、英語の意味

授業コード	12M23		
授業科目名	講読演習Ib (3クラス)(後)		
担当者名	山口治彦(ヤマグチ ハルヒコ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	前期に引き続き、日本語で書かれた漫画(岸本斉史の『NARUTO』)とその英語版、およびそのアニメーションの英語吹替え版を用いて、日本語と英語の表現性の違いや翻訳の問題点について考えることを基本とする。マンガとアニメというそれぞれのメディアに応じた翻訳の実態に触れるとともに、英語版アニメを使って聞き取りの演習もおこなう。 『NARUTO』以外の漫画について取り上げることもありうる。前期の授業の状況を見て、受講生と相談のうえ講義内容については柔軟に考えたい。
到達目標	漫画という身近なジャンルを通して、英語のセリフをたんに漠然と理解するのではなく、実感できることが目標。また、英語版アニメが完全に聞き取れることも同時に目標としたい。
講義方法	漫画を翻訳する際の諸問題について漫画テキストの具体的な翻訳例を分析することからはじめる。 受講生は5人程度のチームを作り、それぞれの担当箇所における翻訳の工夫や問題点について口頭発表をおこなう。この口頭発表に対して受講生からの批評および担当教員による論評というかたちで講義を進める。 そして、同じ漫画の英語版アニメを用いて、セリフがどのように英語に翻訳されているかをさらに確認する。実際に、英語版アニメを見ながら、セリフを聞きとってもらおうと思う。
準備学習	日本語のオリジナルを読んだうえで、その日本語がどのように英語に翻訳されたのかをきちんと跡付けておくこと。より具体的には、英語版のセリフきちんと理解できるか確認し、知らない単語についてはすべて調べておくこと。
成績評価	評価は、テストの成績が70%、出席・平生点が30%ぐらいの見当でおこなう。
講義構成	第1回授業の進め方に関するオリエンテーション 第2回漫画翻訳の問題点(イントロダクション) 第3回以降漫画翻訳に関する口頭発表および質疑応答
教科書	岸本斉史『NARUTO 巻ノ二』集英社 ISBN-10: 4088728785 Kishimoto, Masashi. NARUTO Vol.2. San Francisco, CA: VIZ. ISBN-10: 1591161789

参考書・資料	Longman Dictionary of Contemporary English. Macmillan English Dictionary for Advanced Learners. Oxford Advanced Learner's Dictionary. 岡枝慎二 『字幕翻訳講義の実況中継』語学春秋社
--------	--

担当者から一言	単位を取るためだけでなく、自分の英語の力を伸ばすためにしっかり勉強してください。
---------	--

授業コード	12M24		
授業科目名	講読演習Ib (4クラス)(後)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	木曜日 12:10 - 13:00		

講義の内容	イギリスでは英語が話されていると言えば、当たり前のことと受け止められる。確かに英語が圧倒的な地位を保っていることは事実なのだが、実際には少数とは言え他の言語が話されていることもまた事実である。このことを理解するには、イギリスの歴史を遡らなければならない。450年以前には英語はこの世に存在せず、ケルト人が居住し、ケルト語が話されていたし、また帝政ローマ帝国の一部をなすイングランドではラテン語もまた通用語であった。このような背景にあって、ケルト人あるいはケルト語はどのような運命をたどり、そして現状はどうか？このことを理解することは、イギリスあるいは英語を理解する上で重要な知識である。
到達目標	[1] イギリスの言語事情を身に付ける。 [2] ケルト人あるいはケルト語について考える。 [3] 英語の成立過程を学ぶ。
講義方法	受講生が分担して講読する。
準備学習	前回学んだことをよく理解した上で授業に臨む。
成績評価	前期試験50%、出席25%、レポート等25%
講義構成	第1回目：テキストの紹介 第2回目-第3回目 Early Inhabitants 第4回目-第8回目 The Celtic People 第9回目-第13回目 The Celts Today 第14回目 復習
教科書	Michael C. Mobs, The Polyglot Isles: The Languages of the British Isles. (益田(編)『英国言語事情』(成美堂))

担当者から一言	英語の歴史的背景を知ることは現代のイギリスを理解することでもあり、また英語の特徴を考える上で重要な知識です。素直に英語を理解する読み方を学んで下さい。
---------	---

授業コード	12M31		
授業科目名	講読演習IIa（1クラス)(前)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	1940年、西インド諸島の一角、トリニダード島のセント・ベネディクト山近くの道ばたで、ひとりのイギリス人女性が瀕死の状態で見つめられた。近くにあったのは蝶をとるための網。まもなく亡くなった彼女は、蝶の収集家として知られる女性旅行家、マーガレット・エリザベス・フォンテーヌ。2万匹を超す蝶とともに彼女の残した日記をテキストとして熟読しながら、なぜ彼女が旅の人生を送ったのか、なぜ蝶に魅せられたのか、探してみよう。
到達目標	英語で伝えたい内容を適切な日本語で表現できるようになるとともに、その内容の背後にある文化的・社会的意

	味を深く考えることを学ぶ。
講義方法	テキストに解説を加えながら、学生自身による調査や報告をも交えて、徹底して中身を読み込む。
準備学習	毎回担当する部分を確定するので、その部分をあらかじめ訳して日本語にまとめておくとともに、担当以外の英文については、意味の取りにくい部分やうまく日本語にできない部分など、自分自身の問題点を明確にしておく。
成績評価	講義中の発表(40%)、出席状況(40%)、適宜提出を求めるレポート(20%)を総合的に評価する。とりわけ、翻訳に際して、あるいは適宜求めるレポートについても、自分が担当した部分に対する責任感の有無、内容を読み込む英語の理解力、その解釈力を評価のポイントにしたい。
講義構成	本テキストを序文(introduction)から順にじっくりと読み込んでいく。テキストの進み具合や内容によっては、熟読ではなく、パラグラフごとに要約する作業をおこなうことにしたい。
教科書	Margaret Fountaine, Love Among the Butterflies: The diaries of a wayward, determined and passionate Victorian lady, Penguin Book, 1982.
参考書・資料	適宜資料を配付する。
講義関連事項	ブリティッシュ・スタディーズや英語文化研究Iなど、イギリス文化関連の講義を受講しておくのが望ましい。
担当者から一言	小説の世界がもつ奥深さを感じ取れるよう、日本語の小説もたくさん読んでください。

授業コード	12M32		
授業科目名	講読演習IIa（2クラス)(前)		
担当者名	西條隆雄(サイジョウ タカオ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	The Pickwick Papers (1836-7) はディケンズ24歳の時のユーモアあふれる処女小説である。作品は20ヶ月にわたる月刊分冊の形で出版されたが、第4分冊でサム・ウェラーが登場するとともに人気が一気に沸騰し、当時小説とは400部くらいしか売れないものだという常識をこえて販売はどんどん伸び、最終分冊の出るころには想像を絶する4万部の売れゆきをみせた。本演習では人のいい老紳士ピックウィック氏とその一行の愉快的旅物語と、そこで起こる間違い喜劇をじっくり読みつつ、ディケンズ英語のリズム、『ピクウィック』の魅力、初期ディケンズの特徴、そしてイギリス出版史の興味ある側面に触れてみたい。
到達目標	音を聞いて意味を把握する習慣を養う。音は音、訳は訳と切り離さず、人の読む英語を耳にして、即意味を理解するようつとめる。
講義方法	リズムカルな音読と内容把握に演習の重点をおき、前もってあてている担当者に音読と翻訳をやってもらう。その場合、とくに発音や読みのリズムを重視します。
準備学習	できれば日々英語に接する(英語を聞き話す)環境をつくってほしい。また、語彙が一つでも多ければそれだけ思考世界も広がるので、テキストのより深い理解のため、(音読も含めて)前もってしっかり予習をしておくこと。
成績評価	さまざまなテスト、クラスにおける学習態度、学期末試験の成績を総合して評価する。
講義構成	初回にThe Pickwick Papers の出版経緯と作品構成に触れ、以降はさまざまな冒険談やエピソードの中で初期ディケンズの特徴をよくあらわした Chs. 22-25 を取り上げ読み進める。
教科書	Charles Dickens, The Pickwick Papers (あぼろん社)

授業コード	12M33		
授業科目名	講読演習IIa（3クラス)(前)		
担当者名	横山三鶴(ヨコヤマ ミツル)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	『クリスマス・キャロル』の作者としてもお馴染みのイギリスを代表する国民的作家、チャールズ・ディケンズの『大いなる遺産』(原題はGreat Expectations)を読む。主人公ピップの成長の物語を、前期と後期で小説の前半と後
-------	---

	半とに分け、通年でじっくりと読んでいきたい。
到達目標	文学的評価も高く、かつエンターテインメント性にも富んだディケンズの名作を、しっかりと原文で読んでいく。あらすじを把握し、内容を楽しみながら、語彙力・読解力を養いたい。前期はまず原文に慣れることから始め、速読と精読を織り交ぜながら、小説を読む楽しみを味わう。
講義方法	授業は演習方式で行う。前半は原書に慣れる目的で、全員で少しずつ、ゆっくり、精読を中心に読み進める。基本的には、原書を読むことが中心になるが、授業でとりあげる以外の部分は、リトルド版などで(プリント使用)補いたい。 この作品は、映画化(イーサン・ホーク、グヴィネス・パルトロウ、ロバート・デニーロが出演)もされているので、まず映画を観て作品のイメージをつかむ。また、BBC制作のドラマもあり原作に忠実に作られているので、こちらは、作品を読み進めながら理解を確認するために鑑賞したい。 少年ピップの不遇な子供時代、ある囚人との出会い、奇妙な老婦人ミス・ハビシャムと美しいエステラとの出会い・・・など、ピップが成人になるまでの成長を追う。
準備学習	小説を読むので、授業で精読をする箇所は必ず予習をすること。具体的には授業中に指示する。
成績評価	演習形式の授業なので、出席と授業での学習態度、貢献度を重視する。出席点と授業中に出す課題についてのコメント(授業中での提出物)で60%、期末レポート40%とする。詳しくは最初の授業で説明する。
講義構成	講義方法の内容にそって授業を進めていく。小説は全59章からなっているが、前期はできれば29章までが目標ではあるが、最初は原文に慣れるためにゆっくり読み進める。だいたい1回の授業で2章をめやすとする。具体的には初回の授業で説明する。
教科書	Charles Dickens, Great Expectations(Penguin Classics)
参考書・資料	授業中に指示する。

授業コード	12M41		
授業科目名	講読演習IIb（1クラス)(後)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	予約の上随時		

講義の内容	イギリス文化がどのように表現されているかしているか、全体的な視野から検討する。資料の収集、読み方、分析の方法を詳しくともに調べていきたいと思います。その過程で読解力を多角的に習得できればと考えています。読んで訳して終わりという授業だけは避けたいと思います。もう一人の担当者である井野瀬先生と連携しながら講義を進めていきます。
到達目標	真の読解力をつけることに到達目標を置きます。
講義方法	ひとつの問題を受講者全員が参加して検討する、考える授業にします。
準備学習	予習復習の際にテキストに向かうだけでなく、インターネットのサイト記事にもできるだけアクセスして自分から好奇心を醸成するようにしましょう。
成績評価	平常点70%定期試験30%の割合で評価します。
講義構成	最初はテキストにあらわれる疑問点をいくつか指摘して、どのように解決するかを示します。次に受講生の方々から疑問点、問題点をあげてもらい検討していきましょう。そのときに英語表現、文化背景、テキストが問いかけてくるもののこたわって考えてみよう。 以上のような思考過程をたどるので、つねに能動的に発信できるように、発言に十分な時間を与えます。担当者は受講生のリカをたえず確認しながら授業を進めていきます。 また多くのテキストがDVD、テレビ、映画番組になって視覚化されています。文字のテキストがどのように視覚化され、どのような差異を生み出しているかを確認してみよう。
教科書	History Today などの最近の雑誌から記事をコピーしてテキストにします。
参考書・資料	授業の折にその都度指示します。
講義関連事項	イギリス文化論、イギリス文学史

担当者から一言	どのように問題設定をするか、そのためには何が必要か、自分の力を信じて考え、実行してみよう。
---------	---

授業コード	12M42		
授業科目名	講読演習IIb (2クラス)(後)		
担当者名	西條隆雄(サイジョウ タカオ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	The Pickwick Papers (1836-7) はディケンズ24歳の時のユーモアあふれる処女小説である。作品は20ヶ月にわたる月刊分冊の形で出版されたが、第4分冊でサム・ウェラーが登場するとともに人気が一気に沸騰し、当時小説とは400部くらいしか売れないものだという常識をこえて販売はどんどん伸び、最終分冊の出るころには想像を絶する4万部の売れゆきをみせた。本演習では人のいい老紳士ピックウィック氏とその一行の愉快的な旅物語と、そこで起こる間違い喜劇をじっくり読みつつ、ディケンズ英語のリズム、『ピクウィック』の魅力、初期ディケンズの特徴、そしてイギリス出版史の興味ある側面に触れてみたい。		
到達目標	音を聞いて意味を把握する習慣を養う。音は音、訳は訳と切り離さず、人の読む英語を耳にして、即意味を理解しようつとめる。		
講義方法	リズムカルな音読と内容把握に演習の重点をおき、前もってあてている担当者に音読と翻訳をやってもらう。その場合、とくに発音や読みのリズムを重視します。		
準備学習	できれば日々英語に接する(英語を聞き話す)環境をつくってほしい。また、語彙が一つでも多ければそれだけ思考世界も広がるので、テキストのより深い理解のため、(音読も含めて)前もってしっかり予習をしておくこと。		
成績評価	さまざまなテスト、クラスにおける学習態度、学期末試験の成績を総合して評価する。		
講義構成	The Pickwick Papers のさまざまな冒険談やエピソードの中で初期ディケンズの特徴をよくあらわした Chs. 22-25 を取り上げ読み進める。		
教科書	Charles Dickens, The Pickwick Papers (あぼろん社)		

授業コード	12M43		
授業科目名	講読演習IIb (3クラス)(後)		
担当者名	横山三鶴(ヨコヤマ ミツル)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	前期に引き続き、ディケンズの『大いなる遺産』の後半、大人に成長してからのピップの物語を読む。社会的・時代的な背景も考察しながら、さらに深く小説を読み、味わう。		
到達目標	前期である程度原文に慣れたところで、精読と同時に、速読する部分の量を増やして、速読・多読の力を養成する。ストーリーの展開を的確に把握することで、自然に速読の力が身につくようにする。さらに、重要な場面は、精読によってより深く読む読解力をつける。		
講義方法	後期も演習方式で授業を行うが、ある程度のまとまった範囲で(たとえば章ごとに)担当を決め、発表形式でも読み進めていく。担当者が問題点を提示し、全員でそれについて考察することで、さらに理解が深まることを期待する。		
準備学習	後期は速読する部分も増えるので、さらに予習が必要となる(前期のシラバスを参照のこと)。具体的な内容については、授業中に指示をする。		
成績評価	演習形式の授業なので、出席、授業での態度、貢献度が重視される。特に、後期は発表も重視。出席、授業内でのコメントなどの提出、発表とで60%、期末レポートで40%とする。試験は行わない。		
講義構成	講義方法の内容にそって、小説の後半(前期の続き)を読む。速読と、必要に応じてリトルド版のテキスト(プリント使用)、BBC制作のドラマなので理解を補いながら、重要な箇所は精読し、最後まで読み切る。前期の進度によっても変更するが、後期は一回の授業で3章ぐらいのペースで読み進める。		
教科書	Charles Dickens, Great Expectations(Penguin Books)		
参考書・資料	授業中に指示する。		

担当者から一言	このクラスでは、文学的にも評価が高く、時代を超えても色あせない小説を読んでもらおうと、前期、後期を通して1冊の長編小説を読むことにしています。できれば、前期、後期続けて受講してほしいと思いますが、後期から受講する人は、前期の内容(あらすじでも結構です)を自分でカバーしてください。必要なプリント等は、初回の授業でお渡しします。
---------	---

授業コード	12M51		
授業科目名	講読演習Ⅲa (1クラス)(前)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	アメリカの作家や社会活動家書いた短編小説、エッセイ、回顧録、それにスピーチなども集めたアンソロジーを読みます。異なる時代、階層、人種を背景に持ち、それゆえに作風も思想も異なる書き手たちのバラエティーに富んだ文章を味わいながら、読解力向上を目指します。
到達目標	文学的表現および口語表現に慣れ、同時にアメリカ社会の歴史と現状についての理解を深めます。
講義方法	精読に徹し、毎回受講生に当てて和訳してもらおうという輪読形式で進めます。それぞれの文章の前後には語彙や文法に関するものから内容に関するものまで、いろいろな exercise が用意されていますので、それらを理解度チェックの小テストとして使うこともあります。予習・復習を万全にして授業に臨んでください。
準備学習	受講生が予習してきていることを前提として授業を進めますので、テキストの予習は必須です。
成績評価	期末試験70% 出席と授業への参加の積極性30%
講義構成	前期は以下のタイトルの文章を読む予定です。 ① “George Washington, My Countryman” by Mary Antin ② “Going Home” by Pete Hamill ③ “You Go Your Way, I’ll Go Mine” by William Saroyan ④ “The Red Dog” by Howard Maier ⑤ “The Last Night of the World” by Ray Bradbury”
教科書	Reflections (Second Edition) (松柏社)

授業コード	12M52		
授業科目名	講読演習Ⅲa (2クラス)(前)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	木曜日のお昼休み		

講義の内容	『白鯨』で有名なアメリカンルネッサンス期の作家Herman Melville の短編 Bartleby, the Scrivener (1853) を読む。作品の中心にいながらあらゆる生産を拒み単調な返事を返すばかりで、深遠なる空白として存在するパートルビー。モダニズムの始まりともいわれるこの不思議な小説を読み、考える。
到達目標	硬質な英文の読解によって英語力を高めるとともに、小説の読解の訓練をする。
講義方法	最初の数回はテキストの詳細な訳読をする。受講者を指名しての訳読を行うので予習が前提である。後半は受講者の人数に応じてグループ分けをし、担当部分を各グループごとに発表する形式で行いたい。発表に関しては英文の読解、解説だけでなく、それぞれ関心を持ったことからについて調べ、ハンドアウトを用意してもらう。
準備学習	必ず毎回予習したうえで参加すること。最低限自分でテキストを読んでいない限り、講義に出席しても成果は得られないことに留意してほしい。
成績評価	出席および講義中の態度、予習や訳出のできが40パーセント、口頭発表30パーセント、試験が30パーセント。

	正当な理由なく5回以上欠席したもの、口頭発表をしなかったもの、試験を受けなかったものには単位を与えない。
講義構成	開講時に指示する。
教科書	Herman Melville, Bartleby, the Scrivener web上にある無料のpdfファイルを使用する。 http://www.enotes.com/bartleby-scrivener-text/bartleby-scrivener の「Download PDF」をクリックしてダウンロードし、プリントアウトしたものを持参すること。
参考書・資料	日本語訳として http://www.campus.u-air.ac.jp/~gaikokugo/meisaku07/eBook/bartleby_h.pdf を参考にしてもよい。ただし最初から翻訳を読むのではなく、かならず最初には原文にあたり、不明な箇所の読解の参考程度に利用すること。
担当者から一言	出席は厳密に取ります。遅刻は1/2欠席扱いになります。また、遅刻した場合は講義終了後自分で遅刻した旨を教員に伝えてください。その時点で初めて「遅刻」として記録します。報告しなかった場合はこちらで把握できないため欠席となってしまうので注意するように。
その他	2009年度開講の「講読Ⅰ」と同じ作品を扱うが、講義の方法が違うので、「講読Ⅰ」を修得した者も履修してよい。また、後期開講の「文学探訪Ⅱb」ではこの作品を半期にわたって解釈するので、その予習を兼ねて受講することも勧める。

授業コード	12M53		
授業科目名	講読演習Ⅲa(3クラス)(前)		
担当者名	鷲尾順子(ワシオ ジュンコ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	火曜日16:30-17:00 非常勤講師控室(3号館2F北側[山側]突き当たり)		

講義の内容	20世紀のアメリカ作家Hemingwayの短編を何編か原文で読みます。Hemingwayの作品を原文で読むことで彼の文体や作品の味わいを楽しみたいと思います。また、作品の歴史的・文化的背景を学んでいくと共に、できれば作品や作者に関連する批評などを読んだり、同時代の作家達について学んでいくことで、更に視野を広げたいと考えています。
到達目標	作品だけでなく、作家や当時の社会的背景などについての知識を深めると共に、自分なりの作品解釈が楽しめるようになること！
講義方法	各週予定の範囲を受講者全員が読んでくることを前提として、担当者による各自の担当分の要約、和訳、解釈などの口頭発表及び発表者に対するその他の受講者による質問やコメントを中心に進めます。必要に応じて教員より解説や補足説明などを行います。また、映画化された作品の関連映像なども参照します。
準備学習	講義で進む予定の範囲は担当している、いないにかかわらず、前もって読んでおくこと。必要に応じて、単語などの意味や作品の背景を調べておくこと。
成績評価	出席及び講義参加姿勢(出席だけでは評価の対象になりません)、発表及び数回のレポートで総合的に判断します。
講義構成	担当者を中心とした和訳や内容解釈、その他の学生たちとの質疑応答、適宜、時代背景などの確認や映像鑑賞。
教科書	The Snows of Kilimanjaro and Other Stories Ernest Hemingway (Arrow Books) ISBN-10:0099908808 ISBN-13:978-0099908807
担当者から一言	講義への積極的な参加をお願いします！

授業コード	12M61
-------	-------

授業科目名	講読演習Ⅲb（1クラス）(後)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	先着順30名（登録方法は時間割別表を参照のこと）		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	アメリカの作家や社会活動家書いた短編小説、エッセイ、回顧録、それにスピーチなども集めたアンソロジーを読みます。異なる時代、階層、人種を背景に持ち、それゆえに作風も思想も異なる書き手たちのバラエティーに富んだ文章を味わいながら、読解力向上を目指します。		
到達目標	文学的表現および口語表現に慣れ、同時にアメリカ社会の歴史と現状についての理解を深めます。		
講義方法	精読に徹し、毎回受講生に当てて和訳してもらうという輪読形式で進めます。それぞれの文章の前後には語彙や文法に関するものから内容に関するものまで、いろいろな exercise が用意されていますので、それらを理解度チェックの小テストとして使うこともあります。予習・復習を万全にして授業に臨んでください。		
準備学習	予習を前提として授業を進めますので、テキストの予習は必須です。		
成績評価	期末試験70% 出席と授業への参加の積極性30%		
講義構成	後期は以下のタイトルの文章を読む予定です。 ① “Thank You, Ma’ m” by Langston Hughes ② “I Have a Dream” by Martin Luther King, Jr. ③ “I Know Why the Caged Bird Sings” by Maya Angelow ④ “A White Man’ s Word” by Debra Swallow ⑤ “Antonio’ s First Day of School” by Rudolph Anaya		
教科書	Reflections(Second Edition)（松柏社）		
講義関連事項	前期と同じテキストを使うので、前記に受講した人が引き続き受講するのが望ましい。		

授業コード	12M62		
授業科目名	講読演習Ⅲb（2クラス）(後)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	先着順30名（登録方法は時間割別表を参照のこと）		
オフィスアワー	木曜日のお昼休み		

講義の内容	アメリカの現代作家Paul Austerの最初期の作品群 New York Trilogy (『ニューヨーク三部作』のなかのGhosts (1986)を読む。反探偵小説というポストモダンな形式で知られる本作だが、同時にこの小説は読むことと書くことをめぐるメタフィクションでもある。いまなお圧倒的な力を持つこの作品を読み、果然としましょう。		
到達目標	現代小説を通して生きた現代英語の読解力を高めるとともに、ありふれたリアリズム小説とは異なる文学作品を読んで解釈する訓練をする。		
講義方法	最初の数回はテキストの詳細な訳読をする。受講者を指名しての訳読を行うので予習が前提である。後半は受講者の人数に応じてグループ分けをし、担当部分を各グループごとに発表する形式で行いたい。発表に関しては英文の読解、解説だけでなく、それぞれ関心を持ったことからについて調べ、ハンドアウトを用意してもらう。		
準備学習	必ず毎回予習したうえで参加すること。最低限自分でテキストを読んでいない限り、講義に出席しても成果は得られないことに留意してほしい。		
成績評価	出席および講義中の態度、予習や訳出のできが40パーセント、口頭発表30パーセント、試験が30パーセント。 正当な理由なく5回以上欠席したもの、口頭発表をしなかったもの、試験を受けなかったものには単位を与えない。		
講義構成	1. 著者のバックグラウンド解説 2. 訳読 3. グループ発表 4. 解釈		

教科書	Paul Auster, New York Trilogy (Penguin)
参考書・資料	飯野友幸、秋元孝文著『現代作家ガイド1 ポール・オースター』
担当者から一言	出席は厳密に取ります。遅刻は1/2欠席扱いになります。また、遅刻した場合は講義終了後自分で遅刻した旨を教員に伝えてください。その時点で初めて「遅刻」として記録します。報告しなかった場合はこちらで把握できないため欠席となってしまうので注意するように。

授業コード	12M63		
授業科目名	講読演習Ⅲb (3クラス)(後)		
担当者名	鷺尾順子(ワシオ ジュンコ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	火曜日16:30-17:00 非常勤講師控室(3号館2F北側[山側]突き当たり)		

講義の内容	20世紀のアメリカ作家F. Scott Fitzgeraldの中篇 This Side of Paradiseを原文で読みます。Fitzgeraldの作品を原文で読むことで彼の文体や作品の味わいを楽しみたいと思います。また、作品の歴史的・文化的背景を学んでいくと共に、作品や作者に関連する批評などを読んだり、同時代の作家達について学んでいくことで、更に視野を広げたいと考えています。
到達目標	作品だけでなく、作家や当時の社会的背景などについての知識を深めると共に、自分なりの作品解釈が楽しめるようになること！
講義方法	各週予定の範囲を受講者全員が読んでくることを前提として、担当者による各自の担当分の要約、和訳、解釈などの口頭発表及び発表者に対するその他の受講者による質問やコメントを中心に進めます。必要に応じて教員より解説や補足説明などを行います。また、映画化された映像など関連映像も参照します。Fitzgeraldは、前期に読んだHemingwayと同時代・同年代の作家です。前期講義に参加した学生の皆さんは、その知識を後期講義でも大いに活用して下さい。
準備学習	講義で進む予定の範囲を担当している、いないにかかわらず、前もって読んでおくこと。必要に応じて、単語などの意味や作品の背景を調べておくこと。
成績評価	出席及び講義参加姿勢(出席だけでは評価の対象になりません)、発表及び数回のレポートで総合的に判断します。
講義構成	担当者を中心とした和訳や内容解釈、その他の学生たちとの質疑応答、適宜、時代背景などの確認や映像鑑賞。
教科書	F. Scott Fitzgerald, This Side of Paradise, Scribner; annotated edition版, (ペーパーバック) ISBN-10: 0684843781 ISBN-13: 978-0684843780

担当者から一言	講義への積極的な参加をお願いします！
その他	参考資料などは、講義中に適宜配布します。

授業コード	12M71		
授業科目名	講読演習Ⅳa（1クラス）(前)		
担当者名	山本秀行(ヤマモト ヒデユキ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	先着順30名（登録方法は時間割別表を参照のこと）		

講義の内容	この演習では、1961年にオードリー・ヘップバーン主演で映画化されたことでよく知られ、また近年、村上春樹による新訳が出版されたことで注目を集めているTruman Capoteの中編小説Breakfast at Tiffany's(1958)を扱う。英文の精緻な読解演習のみならず、映画版と比較検討したり、社会・文化的コンテクストなどにも焦点を当てる。
到達目標	英語読解力を高めるのみならず、文学の楽しさや現代アメリカ社会・文化に対する興味を持つことができる。

講義方法	毎回、5ページ程度を範囲とする。クラス講読形式または発表形式により受講者、範囲のページの英文テキストを読む。教員からの語学的・文学的解説や受講者間のディスカッション等により作品理解を深めていく。
準備学習	教科書の予習。
成績評価	1～2回のmini essayに、平常点(出席、発表、ディスカッションの状況など)も加味し、総合的に評価する。
講義構成	1. Introduction 2～13. Breakfast at Tiffany's pp.1～60 14. Criticism and Discussion
教科書	Truman Capote, Breakfast at Tiffany's (金星堂)
参考書・資料	トルーマン・カポーティ、村上春樹訳『ティファニーで朝食を』(新潮文庫)
講義関連事項	現代アメリカ文学、アメリカ研究、アメリカ大衆文化、翻訳論、映画研究、比較文学・文化、カルチュラル・スタディーズ。
担当者から一言	世界中の人々に愛読されている、現代アメリカ文学の代表的小説を英語で読んでみませんか。

授業コード	12M72		
授業科目名	講読演習Ⅳa（2クラス）(前)		
担当者名	田中紀子(タナカ ノリコ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	今年1月に逝去したJ. D. SalingerのThe Catcher in the Rye(『ライ麦畑でつかまえて』1951)は、20世紀における重要な作品の一つである。この作品の主人公である「落ちこぼれ」学生の彷徨をたどりながら、彼の目を通してみた大人社会の現実について考える。
到達目標	作品の主人公の言動を通して、1950年代のティーンエージャーならではの心情を知り、時代や地域、年齢を越えた普遍性についても考えたい。 第2次世界大戦後のアメリカと、それ以前のアメリカとの比較もしてみたい。
講義方法	・毎回定めた分量について担当者が要約、日本語訳、コメントを発表する。 ・日本語訳の訂正や補足説明を行なう。 ・言及されている場所、人物、出来事について、作品中での意味を考える。
準備学習	次の回に予定されている章を読んでおくこと。
成績評価	定期試験の成績 50% 授業中の発表 25% 授業への参加態度 25%
講義構成	第1回 作者と当時のアメリカ社会、授業の進め方について解説し、第1章を途中まで読む。 第2回 第1章を読み終える。 これ以降2章ずつ進める予定だが、日本語訳や要約については1章を教員、もう1章を学生の担当としてゆきたい。 第3回 第2、第3章 (連休中に第4、第5章を読んでおく。) 第4回 第6、第7章 第5回 第8、第9章 第6回 第10、第11章 第7回 第12、第13章 第8回 第14、第15章 第9回 第16、第17章 第10回 第18、第19章 第11回 第20、第21章 第12回 第22、第23章 第13回 第24、第25章 第14回 第26章、まとめ 第15回 前期試験
教科書	The Catcher in the Rye (Penguin Books) ペーパーバック版

参考書・資料	授業中に適宜紹介する。
--------	-------------

授業コード	12M73		
授業科目名	講読演習Ⅳa（3クラス）(前)		
担当者名	R.ケリー（ケリー リチャード J. ）		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	先着順30名（登録方法は時間割別表を参照のこと）		
オフィスアワー	To be announced in the class.		

講義の内容	Reading and Appreciating Literary Texts.
到達目標	To give students an appreciation of fine English content and structures.
講義方法	Interactive, seminar style instruction.
準備学習	To be announced in the class.
成績評価	Class Attendance and Participation.....40% Project Work.....30% End-of-semester Evaluation.....30%
講義構成	Works by the great names in British and American Literature will be focused on (e.g. Jonathan Swift, Jane Austin, Charles Dickens, Mark Twain, James Joyce and John Steinbeck).
教科書	There is no assigned textbook for this course. Materials will be given to the students in class as handouts and ADOBE PDF Files.
参考書・資料	An English e-dictionary is a requirement.
講義関連事項	Students will receive continual guidance to further research and reading through the course.
担当者から一言	This course is for students who wish to experience an appreciation of literary content.
その他	Email: kelly@kindai.ac.jp
ホームページタイトル	To be announced in the class.

授業コード	12M81		
授業科目名	講読演習Ⅳb（1クラス)(後)		
担当者名	山本秀行(ヤマモト ヒデユキ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	前期に引き続き、Truman Capoteの中編小説Breakfast at Tiffany's(1958)を読む。さらに、時間が許せば、Capoteの他の作品を読んだり、関連する批評なども併読したり、村上春樹の新訳との比較研究をする。
到達目標	英語読解能力を高めることはもちろん、作品理解を深め、文学研究法を修得できる。
講義方法	毎回、5ページ程度を範囲とする。クラス講読形式または発表形式により受講者、範囲のページの英文テキストを読む。教員からの語学的・文学的解説や受講者間のディスカッション等により作品理解を深めていく。
準備学習	教科書の予習。
成績評価	1～2回のmini essayに平常点(出席、発表、ディスカッションの状況など)も加味し、総合的に評価する。
講義構成	1.Review 2～10 Breakfast at Tiffany's pp.61-99 11. Comparison with the film version 12. Haruki Murakami's translation 13～14. Criticism & Discussion

教科書	Truman Capote, Breakfast at Tiffany's (金星堂)
参考書・資料	トルーマン・カポーティ、村上春樹訳『ティファニーで朝食を』(新潮文庫)
講義関連事項	現代アメリカ文学、アメリカ研究、アメリカ大衆文化、翻訳論、映画研究、比較文学・文化、カルチュラル・スタディーズ。
担当者から一言	世界中の人々に愛読されている、現代アメリカ文学の代表的小説を英語で読んでみませんか。

授業コード	12M82		
授業科目名	講読演習Ⅳb（2クラス)(後)		
担当者名	田中紀子(タナカ ノリコ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	1937年に発表されたJohn SteinbeckのOf Mice and Men(『ハツカネズミと人間』)は、1930年代のカリフォルニア州を舞台とした移動労働者の男性2人をめぐる物語である。 この小説を読み進めながら、そのテーマについて考える。 2度映画化されているので、その比較や、映像上の人物描写、セリフの効果などの考察も行ないたい。
到達目標	英語の読解力を高めるだけでなく、作品の中心人物たちの言動を通して、当時のアメリカ社会について理解を深め、人間の愛情、獣性、救いなどについて考える。
講義方法	・毎回定めた分量について担当者が要約、部分訳、コメントを発表する。 ・発表に対して訂正、解説を加える。 ・映画を見て、小説の内容を確認、また小説との比較を行なう。
準備学習	次の回に予定されている章を読んでおくこと。
成績評価	定期試験の成績 50%] 授業中の発表 25% 授業への参加態度 25%
講義構成	第1回 作者と当時のアメリカ社会、授業の進め方について解説し、最初の2ページを読む。 第2回から第14回までは毎回約6ページずつ読み進める。 学生による要約、日本語訳とそれについての訂正を行ない、映画の該当する部分を鑑賞する。 第15回 後期試験
教科書	John Steinbeck, OF MICE AND MEN (Penguin Classics ペーパーバック版)

授業コード	12M83		
授業科目名	講読演習Ⅳb（3クラス)(後)		
担当者名	R.ケリー(ケリー リチャード J.)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	To be announced in the class.		

講義の内容	Reading and Appreciating Literary Texts.
到達目標	To give students an appreciation of fine English content and structures.
講義方法	Interactive, seminar style instruction.
準備学習	To be announced in the class.
成績評価	Class Attendance and Participation 40% Project Work 30%

	End-of-semester Evaluation 30%
講義構成	Works by the great names in British and American Literature will be focused on (eg Jonathan Swift, Jane Austin, Charles Dickens, Mark Twain, James Joyce and John Steinbeck).
教科書	There is no assigned textbook for this course. Materials will be given to the students in class as handouts and ADOBE PDF Files.
参考書・資料	An English e-dictionary is a requirement.
講義関連事項	Students will receive continual guidance to further research and reading through the course.
担当者から一言	This course is for students who wish to experience an appreciation of literary content.
その他	Email: kelly@kindai.ac.jp
ホームページタイトル	To be announced in the class.

授業コード	12007		
授業科目名	コンプリヘンシブ・テスト		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		

講義の内容	英語力の客観的評価としてTOEICの点数により成績認定を行ない、学生の英語運用能力の向上を促す。
到達目標	TOEIC 600点
講義方法	科目名のとおり、これは「テスト」であって通常の授業は行なわない。英語英米文学科の主催のものをはじめ、言語文化センター、キャリアセンター、大学生協等が行なうTOEICを受験し各自が得点の向上を目指す。
準備学習	各自、ワークショップⅠ-Ⅲの授業等を通じて、日頃から練習しておくこと。
成績評価	600点以上が合格点で、スコアレポートの提出(随時受け付け)により年度末に単位が認定される。3年次で600点以上が取得できなければ4年次で再登録のうえ再チャレンジとなる。
講義構成	科目名のとおり、これは「テスト」であって通常の授業は行なわない。
教科書	特にないが、TOEIC対策本などを使って勉強すること。
講義関連事項	2009年1月中旬までにTOEICのスコアレポート(コピー可)を10号館8階の英文研究室に提出すること。また、合格点に達しない4年次生については、TOEICを2回以上受験していて、「ワークショップ」を前期終了時点で6単位以上を取得していれば単位を認定する場合もあるので、指導主任または学科主任に相談すること。

授業コード	12U11		
授業科目名	時事英語I（1クラス)(前)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	先着順40名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	水曜日（12:15－13:00)		

講義の内容	新聞、雑誌、インターネット、映像などの「情報」に私たちの日常はつまれています。情報を正確に得ることが日々のなかで求められていることは言うまでもありません。そこでこのクラスでは、最近の身近な、あらゆるジャンルの記事、情報、映像を題材にして、「具体的に」情報を読んでいこうと考えています。その過程で不明なところを洗い出し、より深い理解へと結びつけたいものです。
到達目標	身近な英語を理解できることは英語に対する向上心をいやがうえにも高めてくれるでしょう。英語圏の人たちが日常手にしている雑誌、新聞、インターネットの記事を果敢に挑戦してみてください。こうしたチャレンジは大きな飛躍となるでしょう。

講義方法	講義は、担当者が一方的に解説するのではなく、受講者全員がツツねに参加し、検討できる場にしたい。
準備学習	予習復習に際して、インターネットで関連記事を読むようにしましょう。
成績評価	レポート提出(70%)、定期試験(30%)の割合で成績評価をします。
講義構成	活字媒体と視覚メディアを交互にしてい予定で。
教科書	プリント、CD-ROM配布
参考書・資料	Bill Mascull, Key Words in the Media (Harper Collins, 1998)

授業コード	12U12		
授業科目名	時事英語I (2クラス)(前)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	先着順40名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	金曜のお昼休み		

講義の内容	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・ネットなどを通して、時事的な問題を扱う英語を学ぶ。当然時事問題に関する、あるいは今の世界のあり方に関する基本的な知識があってこそその時事問題であるから、英語の学習だけでなく日本語で新聞程度は読む習慣を身につけておいて欲しい。 内容的には、おもにアメリカのニュース番組を見て、聞き取り、理解することが中心になる。テレビというのは映像があるぶんわかりやすいと同時に、記憶に残りにくいメディアでもある。映像だけに頼らずに、受身ではなく英語に向かうことによって、英語力の向上を目指したい。		
到達目標	時事的な英語の読解力およびニュース英語の聞き取り能力の向上。		
講義方法	米国ABCのニュース番組を題材にしたテキストを用い、語彙や背景を予習したあとにニューストピックを見る。聞き取りはもちろん、小テストなどを通して語彙力のアップも目指す。		
準備学習	指示されたunitの予習。		
成績評価	出席など日ごろの受講態度を重視した上で、小テスト、試験、レポートなどから総合的に評価する。 5回以上欠席した場合、また試験を受験しなかった場合、レポートを提出しなかった場合に成績評価は「欠席」となります。		
講義構成	1. ニュース英語の特徴 2. テレビニュース 3. 新聞 4. 雑誌		
教科書	山根繁/Kathleen Yamane 編著『ABC World News 12』(金星堂)		

授業コード	12U21		
授業科目名	時事英語II (1クラス)(後)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	先着順40名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	水曜日 (12:15-13:00)		

講義の内容	新聞、雑誌、インターネット、映像などの「情報」に私たちの日常はつつまれています。情報を正確に得ることが日々のなかで求められていることは言うまでもありません。そこでこのクラスでは、最近の身近な、あらゆるジャンルの記事、情報、映像を題材にして、「具体的に」情報を読んでいこうと考えています。その過程で不明なところを洗い出し、より深い理解へと結びつけたいものです。		
到達目標	身近な英語を理解できることは英語に対する向上心をいやがうえにも高めてくれるでしょう。英語圏の人たちが		

	日常手にしている雑誌、新聞、インターネットの記事を果敢に挑戦してみてください。こうしたチャレンジは大きな飛躍となるでしょう。
講義方法	講義は、担当者が一方的に解説するのではなく、受講者全員がツツねに参加し、検討できる場にしたい。
準備学習	予習復習に際して、インターネットで関連記事を読むようにしましょう。
成績評価	レポート提出(70%)、定期試験(30%)の割合で成績評価をします。
講義構成	活字媒体と視覚メディアを交互にしてい予定す。
教科書	プリント、CD-ROM配布
参考書・資料	Bill Mascull, Key Words in the Media (Harper Collins, 1998)

授業コード	12U22		
授業科目名	時事英語Ⅱ（2クラス）(後)		
担当者名	秋元孝文（アキモト タカフミ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	先着順40名（登録方法は時間割別表を参照のこと）		
オフィスアワー	金曜のお昼休み		

講義の内容	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・ネットなどを通して、時事的な問題を扱う英語を学ぶ。当然時事問題に関する、あるいは今の世界のあり方に関する基本的な知識があってこそその時事問題であるから、英語の学習だけでなく日本語で新聞程度は読む習慣を身につけておいて欲しい。 内容的には、おもにアメリカのニュース番組を見て、聞き取り、理解することが中心になる。テレビというのは映像があるぶんわかりやすいと同時に、記憶に残りにくいメディアでもある。映像だけに頼らずに、受身ではなく英語に向かうことによって、英語力の向上を目指したい。
到達目標	時事的な英語の読解力およびニュース英語の聞き取り能力の向上。
講義方法	米国ABCのニュース番組を題材にしたテキストを用い、語彙や背景を予習したあとにニューストピックを見る。聞き取りはもちろん、小テストなどを通して語彙力のアップも目指す。
準備学習	指示されたunitの予習。
成績評価	出席など日ごろの受講態度を重視した上で、小テスト、試験、レポートなどから総合的に評価する。 5回以上欠席した場合、また試験を受験しなかった場合、レポートを提出しなかった場合に成績評価は「欠席」となります。
講義構成	1. ニュース英語の特徴 2. テレビニュース 3. 新聞 4. 雑誌
教科書	山根繁／Kathleen Yamane 編著『ABC World News 12』(金星堂)

授業コード	12C01		
授業科目名	セミナーIa (中島俊)(前)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	抽選登録(詳細は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	水曜日 (12:15ー13:00)		

講義の内容	本年度のセミナーは、ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』をテキストにとりあげたいと思います。このテキストを文学教材として読むよりも、文化史的な視点から読んでみようと考えています。ヴィクトリア朝に書かれたこの作品には、様々な面からのアプローチが可能です。たとえば、服装、食物、交通、旅行などのテーマが即座に浮かびますが、絵画、挿絵、写真、音楽、歴史、身体などの側面からのアプローチも興味深いところです。
-------	--

到達目標	自分の考えを明確に(達意の文章で)プレゼンレーションできるようにしましょう。これは社会人に踏み出す第1歩です。
講義方法	最初は全員で2、3章を読んでいき、話し合いのなかから各自のテーマを絞っていくことができれば、と期待しています。セミナー参加者全員による検討をえて、各自のテーマを追究していくことは必ずや意義深い経験になるでしょう。 各章ごとに、一人ないし複数の担当者がひとつのテーマを決めて、その報告を聞き参加者全員で検討していきたい。
準備学習	担当者から指示を与えられるのではなく自発的に「自分の問題」として発信できるようにしましょう。
成績評価	成績は提出レポートによって評価する。原則として定期試験は実施しません。
講義構成	受講生と話し合い進行順序を決めたいと思います。
教科書	Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland and through the Looking Glass (Oxford World Classics)
参考書・資料	随時指定します。

授業コード	12C02		
授業科目名	セミナーIa (有村)(前)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	抽選登録(詳細は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		

講義の内容	英語学研究でどのようなことが問題とされ、それはどのように説明しようとしてきたかを学習します。最終的には卒業論文のテーマを見つける。 皆さんは「文法」というとどんなイメージを持っているだろうか。文法という言葉は、音楽の文法、詩の文法、服飾の文法などとも使えることを考えると、要するに「何かを作るとき約束事」と言っていいたいだろうが、そうすれば言葉に関する文法は「文章を作るとき約束事」と考えられます。英語では目的語を動詞の前に置くことになっているのに対して、日本語では目的語は動詞の後ろに置かれる。英語には関係代名詞という目に見える単語があるのに日本語にはないが、両方とも節と節とを関係付けるストラテジーは共通して持っている。英語の様々な文法現象を眺めてみると、日本語とはかなり違っているが案外と同一ような操作を行っていることが分ってきます。このゼミではまず、かねてから興味のある領域を下記の専門書を読んで理解することから始め、そして英語学研究の方法を学ぶこととなります。これまで取り上げられた領域:倒置、法助動詞の意味、this/thatの使用法、完了形／進行形、知覚動詞構文、受動態、分詞構文、等位構文、など。
到達目標	まず、英語学研究の手法を学び、自分が興味を持つ領域が何であるか模索する。最終的に卒業研究(卒業論文)のテーマの確定に至る。
講義方法	各自興味を持った領域に関して調べ、それを一人約30分ほどで発表して頂きます。
準備学習	他のゼミ生が発表した内容を正しく理解する。
成績評価	出席を重視します。出席点50%, 発表30%, レポート20%
講義構成	第一回目に研究の対象になるような領域を紹介し、第二回目から発表して頂きます。前後期それぞれ一人一回発表する。
教科書	各自のテーマに沿った文献を紹介する。
参考書・資料	中島平三(編)2001年『最新英語構文辞典』(大修館書店)
講義関連事項	英語学入門、英語の文法、英語の音声、英語の意味、英語の獲得と理解。英語のレキシコン
担当者から一言	文法は、高校の頃経験したような、点取りのための無味乾燥な作業ではなく、人間の心を覗き込む作業であると思って欲しいですね。最終的には、皆さんの集大成とも言える卒業論文につながっています。奮闘を期待しています。

授業コード	12C03
-------	-------

授業科目名	セミナーIa (青山)(前)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	抽選登録(詳細は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	火・水・木曜日の昼休み。		

講義の内容	2010年度のセミナーでは1960年代のアメリカを研究する。60年代はサイレント・ジェネレーションと呼ばれた50年代に対抗した若者たちがカウンター・カルチャーを形成した激動の時代であった。モンゴメリー・バス・ボイコットに端を発した公民権運動を背景に黒人、インディアン、ユダヤ系、女性といったマイノリティが台頭してくる一方でアメリカがベトナム戦争の泥沼へ突入していった時代でもあった。 ヒッピーが「愛と平和」をスローガンに掲げ、ロックが規制文化の破壊を叫び、フォークが反戦のメッセージを歌い上げた時代に登場したブルー・ジーンズに象徴される「意識革命」をセミナーの中心テーマにする。		
到達目標	1960年代のアメリカをテーマにまとめたレポート・論文を書くことを目指す。		
講義方法	毎回全員参加の発表形式で進める。出席を重視し、前期後期レポート(並びに試験)を課す。 なお、セミナー(2年間計8単位)と卒論(8単位)は別の科目なのでセミナーの時間に卒論の指導は行わない。卒論は卒論で個別に指導する。		
準備学習	予習していることを前提に授業をすすめるので毎回予習を欠かさないこと。		
成績評価	出席を重視し、レポート並びに試験に基づいて評価する。		
講義構成	セミナーでは、まず最初に50年代の後半に登場したロックが69年のウッドハウスで頂点を迎えるミュージックシーンに焦点を当て、「イージー・ライダー」や「卒業」といった時代を象徴する映画や、60年代に新しい文学として登場した黒人文学やユダヤ系アメリカ文学などを通して60年代を総合的に研究する。		
教科書	Charles Webb, The Graduate. ICGミューズ出版。 その他は多岐にわたるのでプリント他を使用する。		
参考書・資料	Charles Reich, The Greening of America.		

授業コード	12C04		
授業科目名	セミナーIa (井野瀬)(前)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	抽選登録(詳細は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	水曜日12:20~12:45(10号館8階 井野瀬研究室)		

講義の内容	16世紀から現代に至るイギリス文化の形成とその変遷について、変化を引き起こした諸要因に注目しつつ、われわれが「イギリス」とよぶ国とその国民、およびその延長線上に成立した「大英帝国」という歴史的な時空間に於いて、そのイメージの再検討と再構築を多面的に試みる。		
到達目標	各々が2年という時間をかけて取り組めるテーマを具体的に見つけ、その基礎となる知識や情報を集め、整理して、解決すべき課題を明確にする。		
講義方法	まずは、各自が明確なテーマを選びとることからはじめてもらう。イギリスという国を、大英帝国という歴史的時空間を再考する際に、何をテーマとすれば、この国やそこに暮らす人びとのことがよりいっそう鮮やかに見えてくるのか。その理由は何か。こういった問題を最初にじっくり考え、テーマを明確にしてほしい。 そのうえで、さまざまな資料を発掘、駆使してそのテーマの中身を調査、分析し、その成果を1年に2度、報告してもらう。セミナーでは、各自の報告を受けて全体でディスカッションすることで、各報告者の視点をさらに豊かにし、イギリス文化の過去・現在・未来にたいする理解を深めたいと思う。他の学生の報告にどのようなコメントをしたらいいのか、何を議論すれば従来われわれが抱えてきたイギリスのイメージ、大英帝国像は変わるのだろうか。その変化を、報告者、そして報告者以外の参加者がどのようにエンジョイするか。各個人の知的好奇心と感性が問われる。 なお、本セミナーは、上記のようにディスカッション形式でおこなうため、自分の言葉で自分が選んだテーマを報告する責任感とともに、他の学生の報告に対しても自分自身の意見を、あるいは質問を口にする積極性が強く求められる。参加者はこの点にくれぐれも留意していただきたい。		

準備学習	報告日程にしたがって、自分の課題について、①なぜそのテーマを選んだのか、②そのテーマについてこれまでどのようなことがわかっているのか、③まだわかっていないことで自分が取り組みそうな問題はなにか、④それが自分の理解をどのように深めることになるのか、などをまとめ、報告のためのレジュメを作成する。
成績評価	セミナーでの報告(50%)、セミナー参加の積極性(他学生の報告に対するコメントなど＝25%)、レポート提出(年1回＝25%)だが、報告にせよ議論にせよ、セミナーでのさまざまな積極性を最大の評価ポイントとする。
講義構成	<1>テーマ確定のためのオリエンテーション <2>論文作成のためのオリエンテーション <3>学生の報告 毎回、2人(あるいは1人)ずつ、各自が選んだテーマに関する報告をおこない、それを全員で議論する。節目節目に、各自の研究を確定し、深めるべく、関連するテーマの研究動向を紹介・分析する機会を設けて、議論の深め方や論の構成についても指導したいと思っている。
教科書	適宜指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	ブリティッシュ・スタディーズや英語文化研究Iなどの講義はできるかぎり受講することが望ましい。
担当者から一言	自分が選んだ好きなテーマを「自分の言葉」で楽しく語ることができるかどうか、他の学生の報告の要点を的確につかみ、「自分の言葉」でコメントできるかどうか——こういったことは社会に出てから確実に役立ちます。くれぐれもインターネットからのコピペは避け、「自分の言葉」で語ることをお願いいたします。

授業コード	12C05		
授業科目名	セミナーIa (秋元)(前)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	抽選登録(詳細は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	木曜日のお昼休み		

講義の内容	現代アメリカ小説について、各人が抱えている問題意識をもとに考察、研究し、口頭発表とディスカッションを繰り返してよりよい論文を完成することを目指す。担当者の専門は現代アメリカ小説、とくにPaul Auster (1947-)であるが、卒業論文の題材はこれらの作家である必要はない。各自が好きな作家・作品を扱うこと。アメリカ文学で卒論を書きたい人、なかでもとくに現代の作家・作品を取り上げたい人に勧める。 セミナーとは各人オリジナルの「作品」である論文を作りあげていく場所だという考えでやっていくので、参加者それぞれの口頭発表およびそれに関するディスカッションが主となる。各自が好きな、関心のある作家やテーマを扱い、口頭発表やディスカッションをしてよりよい論文にしていく作業に参加者全員でする。 最終的には「おもしろい」論文を完成することを目指す。体裁だけをそろえた論文を書くのは簡単であるが、「おもしろい」論文を書くには発想や知的好奇心、地道な調査、努力が必要だ。しかし、そうやってがんばるのは実はそれじたいがなかなか「おもしろい」作業でもある。みなさん自身が「おもしろがって」書けば、読む人にとっても「おもしろい」論文ができるものなのだ。自分の興味のあるものを突き詰めて、そういう論文を書いてみたいと思う人たちが集まってくれば嬉しいです。 ディスカッションが中心になるので、授業にただいるだけではなく、積極的に自分の意見を言い、人の意見に反応することが求められる。ゼミという「場」を自分で作ろうという意識をもてる人に参加してほしい。また、普段から色々な本や映画や音楽に接し、考え、アンテナを磨いておくこと。「おもしろい」と感じる才能を大事にしてください。
到達目標	リサーチの仕方、発表の仕方、そしてなによりもみずから発想して考察を深める力を身につける。作品としての卒業論文の作成。
講義方法	リサーチの仕方、ハンドアウトの作り方、論旨のつくりかたについて学んだあと、アメリカの現代短編小説をいくつかみんなで読み、ディスカッションする。題材は講義開始時に指示する。 それから4年生は卒論のための発表をしていく。3年生はそれに対して質問やコメントをする。夏休み前後には3年生も各自選んだ作品について簡単な発表をもらう。4年生になるまでに卒業論文の題材を確定する。
準備学習	発表の題材として取り上げられる作品は可能な限り読んでくること。
成績評価	年に2回程度のレポート、口頭発表、毎回の授業での姿勢に基づきます。ただ教室にいるのではなく、積極的に自分の意見を述べているか、「場」としてのセミナーへの参加度を重視する。 【重要】欠席の際は必ず講義開始までにメールで連絡を入れることを求めます。連絡なしで欠席した場合は「欠席2」としてカウントします。遅刻は欠席1/2、講義終了後に自分で申告すること。申告がない場合は欠席扱いになります。5回以上欠席した場合は単位を与えません。

	上記出席基準に満たない場合、また試験を受験しなかった場合、レポートを提出しなかった場合に成績評価は「欠席」となります。
講義構成	開講時に指示する。
教科書	未定
参考書・資料	戸田山和久『論文の教室』(NHKブックス)
担当者から一言	僕のゼミは厳しいです。発表させられるし、コメントを求められます。教室にいただけでは単位をもらえません。そこそこ注意してください。ただ、できるだけみなさんが発言しやすいような「ゆるい」雰囲気を作るよう心がけておりますので、あんまり構える必要もありません。怒鳴られたりすることはありません。安心してください。

授業コード	12C06		
授業科目名	セミナーIa (福島)(前)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	抽選登録(詳細は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	火曜日12:10~13:00		

講義の内容	昨年度に引き続き、英語のイントネーションの分析を行う。 音声言語は必ず、ピッチの変化を伴うのは周知のことである。そして、このピッチの変化はでたために行われている訳ではないとも言わずもがなのことである。 英語のイントネーションの特徴として、まず「核」の存在を認めねばならない。「核」とは、音調上最も顕著にピッチの変化を伴う音節のことだが、この「核」が置かれることで、意味としてまとまりをなす部分を明示する機能がイントネーションにはある。そこで本年度のゼミでは、下記のテキストの第4章Tonality: chunking, or division into IPsを読み、どんなふうに「意味としてのまとまり」が音声的に示されるかを検討する。 まずテキストを読み進める前に、音調句内でどこに「核」がおかれているのかをしっかりと聞き取る練習から始める予定である。
到達目標	音調核の位置を聞き分け、さらに音調句の範囲を把握できるようになる
講義方法	毎時間の進め方は、概ね、テキストの読解、イントネーションの聞き取りと表記、音声分析ソフトを用いた確認作業に時間を費やすことになる。 5人前後のグループになって、作業を進めていくことにする。
準備学習	必ずテキストを予習しておくこと。
成績評価	出席点20点、担当を任された箇所の発表に対する評価20点、レポート等の提出/評価20点、期末テスト40点の合計100点で評価する。
講義構成	初回に概要を説明する。
教科書	John Wells. (2006) English Intonation An Introduction. Cambridge University Press.
担当者から一言	本セミナーは、発音の練習クラスではありません。あくまでも音声学の立場で、イントネーションを理解、分析することが目的であることを肝に銘じてください。

授業コード	12C07		
授業科目名	セミナーIa (中島信)(前)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	抽選登録(詳細は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	火曜4限、木曜4限 10号館 研究室(803)		

講義の内容	日常的場面で英語が実際に用いられる場合、話し手は相手との社会的関係とか相手の信念・知識などを含めたその場の状況を常に考慮している。従って、英語を適切に使用するには、個々の表現の持つ固有の意味だけでなく、使用される状況に関するそうした様々な情報を参照し有効に活用する必要がある。また、そうした場合、言語は情報伝達だけでなく、挨拶、依頼、約束、賞賛といった様々な社会的行為において必要不可欠な役割を果たしている。 授業では、こうした言語使用の場を念頭に置いて、単に表現の文法的・意味的特徴を調べるだけでなく、表現を適切に使用するための社会的・認知的事柄について考えていく。
到達目標	卒業研究作成に必要な意味論、語用論の知識と論文作成に必要な技術を身につける。
講義方法	実際に言葉が交わされる場面を考慮しながら英語の使い方をみていくので、映画のシナリオなどの会話をテキストに用いる。演習形式の授業なので担当を決めて各自発表してもらい、その発表内容とレポートで評価する。
準備学習	発表者はハンドアウト等の資料を準備しておく。発表者以外も必ずテキストを読んでおくこと。
成績評価	出席 30%、レポート20%、試験50%
講義構成	テキスト前半、Unit1からUnit5を読む。 1. William's Notting Hill & She 2. Surreal, But Nice 3. A Goddess is a Movie Star 4. Birthday Party 5. A Date with Anna
教科書	Richard Curtis (1999) Notting Hill 神谷久美子・Kim R. Kanel 編注 松柏社
参考書・資料	今井邦彦 (2001) 『語用論への招待』東京：大修館書店 小泉保編 (2001) 『入門語用論研究Ⅱ理論と応用』東京：研究社 毛利可信 (1980) 『英語の語用論』東京：大修館書店 山梨正明 (1986) 『発話行為』東京：大修館書店 Thomas, Jenny (1995) Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics. London:Longman. (翻訳あり)
講義関連事項	「英語の意味I,II」を受講していない人は必ず受講するようにしてください。

授業コード	12C08		
授業科目名	セミナーIa (大森)(前)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	抽選登録(詳細は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	Coming of Age in America: A Multicultural Anthology (1994)と題された短編集をテキストとする。タイトルにある“coming of age”とは、「成長する、大人になる」という意味である。伝統的にアメリカ文学が得意としてきた「成長物語」の20世紀版とも言える作品を集めた上記アンソロジーを読み、アメリカという同一の国に育ちながらも文化的背景を異にする作家たちが描き出すそれぞれの少年・少女期(and/or思春期)、そしてそれぞれのアメリカ像について比較検討する。
到達目標	文学作品を通じていわゆる「生きた英語」に触れ、読解力を向上させつつアメリカの多様性についての深い理解に到達する。
講義方法	例年のことながら、徹底した精読と、テーマ、表現方法などに関する討論を同時進行で行なう。英文解釈のレベルであれ作品解釈のレベルであれ、受講生が提起した解釈と疑問点をめぐってディスカッションが展開されるようなゼミにしたい。
準備学習	あらかじめ指定されたページ数についてレポーターとして指名された者はもちろんのこと、全員がしっかり予習をして自分なりの解釈や疑問点を整理したうえで授業に出席すること。また、異なる文化的背景を持つ作家たちの作品なので、作品を十分に理解するためにはアメリカの歴史や現状についての学習と調査を求められる場合もある。
成績評価	発表内容やディスカッションへの参加の度合い30% レポート30% 試験40%
講義構成	前期は以下の作品を取りあげて読解と検討の対象とする予定。 ① “The Wrong Lunch Line” by Nicholasa Mohr ② “Eyes and Teeth” by Wanda Coleman

	③ “The Kind of Light That Shines on Texas” by Reginald McKnight ④ “A Bag of Oranges” by Spiro Athanas
教科書	上記のとおり。授業開始までに担当者が手配する。

授業コード	12C09		
授業科目名	セミナーIa（中谷）(前)		
担当者名	中谷健太郎（ナカタニ ケンタロウ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	抽選登録（詳細は時間割別表を参照のこと）		
オフィスアワー	月曜5限またはアポイントメント		

講義の内容	このゼミでは、人間の脳内にある言語能力がどのようになっているかを、特に「語」と「意味」の結びつきに注目することによって探求する。一般に、語というのは、外界に存在する「物」に対するラベルのようなものと捉えられているかと思う。例えば、英語のdogという語は、イヌという物体に付けられたラベルであり、tableというのはテーブルという物体に付けられたラベルである、というように。 しかし、この考えは正しいとは言えない。例えば、日本語の「お年玉」と「お小遣い」と「お金」の違いはなんだろうか？ 物体としてはこの三者には何ら違いがないことが分かると思う。しかし、これら三つの単語の意味にははっきりと違いがある。単語は物体につけられたラベルだとは単純に言えないということになる。 また、動詞の場合は話をもっと複雑である。John walked.と言った場合のwalkedの意味は何だろうか？ walkedという表現にはJohnが(当然ですが)含まれていないので、walkedの意味は、John walkedという出来事からJohnを引いたものだと考えられる。しかし、まぶたを閉じてJohn walkedという出来事を思い浮かべてみよう。そこからJohnを消し去ったら、何も残らないのでは？ このように考えると、語というのは決して「外界にあらかじめ存在する何か」にラベルを付けるといった単純なものではないことが分かる。そうではなく(つまり、外界の事物に直接ラベルを貼ったりしているのではなく)、我々人間は、ある一定の、独自の見方で世界を解釈し、その解釈に対し、語を結びつけ、言語を作り上げていると言える。 この、我々人間による「世界の解釈」の単位を「コンセプト(概念)」と呼ぶ。runも一つの(下位分割可能な)コンセプトだし、walkもrunと似ているが微妙に異なるコンセプトだと言える。runとjogは物理的にはほとんど違いがないが、英語話者の中では違うコンセプトとして成り立っている。「お金をあげる」と「お小遣いをあげる」は、物理的には同じ出来事だが、日本語話者の中では違うコンセプトとして区別される。言語の意味を研究するというのは、人間の脳内にどのようなコンセプトが存在するのかを考えることに他ならない。 当ゼミでは、さまざまな点から、語・意味・コンセプトを考察し、それらが人間の脳内でどのような形で存在し、また我々が文を発するときそれらがどのようなプロセスで取捨選択されるのかを考察する。
到達目標	(1) ことばの構造についての基本的な学説を理解する。(2) 語の意味と文の構造との関係についての理解を深める。(3) 英語の論文がある程度読めるようになる。
講義方法	最初の1ヶ月は統語論を中心に、「言語の知識」についてのもっとも基本的な学説の講義を行う。意味を考えるのにあたって、統語論の基礎が分かっているかどうかどうしようもないからである。その後、授業においては、基本的な文献を購読形式でいくつか読みすすめる。 さらに文献ごとに文献のポイントをまとめたA4数枚のショートサマリーペーパーを学期中に書いてもらう。年間を通じて、ショートペーパーはたくさん書いてもらうことになり、こなすのは大変だと思うが、その結果、1年が終わるころには論文書きにかなり慣れることができる。さらにショートペーパーの一部を卒論に流用することも可能なので、卒論のプロジェクトに直結するものと考えよう。 また、年に2回研究発表会を行う。1度目は夏休み終盤に行われるゼミ合宿で実施する予定である(※予定は変更されることがある)。合宿では指定文献の中で各自選んだ章について発表してもらう。自分の興味を深めるとともに、他の発表を聞くことによって視野を広げる機会となる。合宿の発表会は授業の一部であるので、原則的に参加は義務である。2度目の研究発表会は1月に行う。いずれも半日～一日かけて「ミニ学会」形式で行われる。(これのかわりに学期中のいくつかの授業が休講になる。) 学年末までに4年次を書く卒論のトピックの方向性を決めてもらうのが目標です。

準備学習	英語学関連の講義を(入門を含め)8単位以上履修済であることが強く推奨される。特に「英語のレキシコン」「英語の文法 I」を履修しておくことが望ましいが、セミナーとの並行履修でもかまわない。また、心理言語学(言語獲得・習得・言語理解)で卒論を書くものは「英語の獲得と理解」をかならず履修しておくこと。
成績評価	無断欠席無し、レポート/ショートペーパー/発表といった課題をすべてもれなくこなせば優がつけられる。レポート/ショートペーパーにはABCD評価が付き、Dは再提出となる。Aが多いと成績は秀にランクアップし、Cが多すぎると良にランクダウンする。期末試験も行うが、期末試験はレポート/ショートペーパーと同じ扱いである。また、無断欠席(事前報告のない欠席)、未提出レポート、発表サボりが1つあるごとに、成績は一段階ずつランクダウンする。3ランクダウンすると不可となるので注意されたい。 欠席について。無断欠席1回で1ランクダウンすることは上述したが、さらに、無断であるなしに関わらず、欠席が5回(授業回数の1/3以上)に達した場合も成績は1ランクダウンする。授業への貢献が不十分だと看做されるためである。さらに、欠席(無断であるなしに関わらず)が8回(授業回数の半数以上)に達した場合、成績は自動的に不可とする。 3、4年次は就職活動などで欠席せざるをえない場合が出てくるかもしれないが、いずれにしても上記のルールを念頭において、体調を整え、「どうしてもやむを得ない場合」以外は欠席しないよう細心の注意を払うこと。
講義構成	1. Theories of "Knowledge of Language" 1a. X-bar theory 1b. Theta theory 1c. Case theory 2. Lexical aspect in English 3. Lexical aspect in Japanese 4. Lexical decomposition 5. Issues in alternations
教科書	開講時指定。
参考書・資料	Carnie (2002) Syntax Pinker (1989) Learnability and Cognition Vendler (1957) "Verbs and Times" 金田一 (1950)「国語動詞の一分類」 影山(編)(2001)『動詞の意味と構文』 など、随時指定する。

授業コード	12C10		
授業科目名	セミナーIa (ライクロフト)(前)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	抽選登録(詳細は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	Thursday lunchtime. Other times by arrangement.		

講義の内容	The class will study British Children's Literature. Does it matter what kind of books children read? And how does reading affect their growth and development? Members of this seminar will read and discuss various types of children's books and stories, including many well-known classics.
到達目標	To understand the effect that reading can have on children's development, and to analyse and evaluate popular children's books.
講義方法	Students will be expected to take an active part in discussion. There will be reading assignments, and students will sometimes have to make 'prepared statements' on important topics. Every student must give a 20-minute presentation in the second semester of the third year. Fourth students will give a shorter presentation either at the end of the first semester or early in the second introducing their graduation topic and reporting on the progress of their research. You can't talk effectively about books until you have read them. Children's books may be easier to read than adult fiction, so you can be ambitious and read many books. You will keep a journal in which you will record a summary of class discussion and presentations. Students should aim high and try to write their graduation theses in English.
準備学習	Seminar students are expected research topics that interest them on their own. But written assignments

	may sometimes be given, and presentations must be thoroughly prepared using PowerPoint or Keynote if possible. Fourth year students will spend the second semester writing their graduation theses.
成績評価	Taking and active role in class, completing reading assignments on time and giving a good presentation will ensure a good grade in the third year. Fourth year students will be also graded on the effectiveness of their preparation for the graduation thesis and their success in meeting deadlines. They will be expected to give a presentation on the topic of their thesis in the second semester, and act as chairpersons and lead the questions for third year presentations. There is no examination. It goes without saying that regular attendance is expected.
講義構成	During the third year students read widely and consider a varied range of issues. These are some of the questions which will be discussed and which may provide a them for students' graduation theses: 1. What are the benefits of reading in the process of a child's intellectual and moral development? 2. Should children's books teach the child about real life, or simply provide entertainment and enjoyment? 3. Should children's literature provide a positive and safe view of the world, or should children be exposed to the darker and more cruel sides of life through stories they read? 4. Fairy stories contain not only supernatural elements, but also violence and death. Are they really suitable reading for young children? 5. Some traditional stories and novels written in the past present children with ideas about social class or the role of women which are not acceptable today. Should they be discouraged from reading stories which go against modern ideas of gender equality or democracy? 6. Some of the best loved books are about children growing up in difficult circumstances and overcoming their difficulties. Do such books offer real help and guidance to children? 7. Recently a number of award-winning books for teenagers in the U.K. deal with social and family problems in a frank and open way. But some parents believe it is their responsibility to teach their children about relationships between the sexes and do not approve of books who take over their role. Should children's fiction deal with 'difficult' issues? Fourth year students will concentrate on working for their graduation theses. In the past, students have written about The Brothers Grimm, Lewis Carroll, J. M. Barrie, Hans Andersen, Frances Hodgson Burnett, Beatrix Potter, A. A. Milne, J. R. Tolkein, C. S. Lewis, J. K. Rowling and Roald Dahl (to mention only a few). The subject should be decided early in the first semester, and a detailed plan must be completed by the beginning of the second semester.
教科書	There is an extensive library of several hundred books in both English and Japanese which has been specially created for the use of students in this seminar.
参考書・資料	Prints and videos will sometimes be used. Children's books are easily available in libraries, or quite cheaply from internet bookshops.
講義関連事項	Oral literature, myth, education, child psychology, and parenting.
担当者から一言	There are many fascinating approaches to the subject of Children's Literature and you are sure to find something which interests you. But you must be willing to read books in English.
その他	To write your graduation thesis in English would be a wonderful achievement, and members of this seminar are strongly encouraged to set themselves this goal.

授業コード	12C11		
授業科目名	セミナーIa (安武)(前)		
担当者名	安武留美(ヤスタケ ルミ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	抽選登録(詳細は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal, that they are endowed by their Creator with certain unalienable rights, that among these are life, liberty, and the pursuit of happiness. (1776年、独立宣言の一節) 2008年のアメリカの大統領選挙の最終戦は、アメリカ史上初の黒人または女性大統領となるバラック・オバマ氏(民)とヒラリー・ロッドハム・クリントン氏(民)の一騎打ちとなった。結果は、皆さん後存知のとおり、オバマ氏が勝利し、アメリカ史上初の「黒人」大統領が誕生した。 「全ての人々(all men)」の平等、また自由や幸福となるための権利の保障を建国の理念するアメリカ合衆国において、女性が大統領に就任したことは未だなく、オバマ氏が史上初の非白人の大統領であることは、一考に値す
-------	--

	る。独立宣言に明記された基本的な権利の認められた「アメリカ市民」には、どのような人々が含まれ、どのような人々が含まれなかったのか、また歴史的に、その枠はどのように正当化、そして自然化されたのか。このゼミでは、そのような問題を考えるために、アメリカ社会を、移民や少数派（先住民、黒人、アジア系アメリカ人、ヒスパニック、女性）の視点で眺めてみる。
到達目標	4年次の終わりに提出することになっている卒業論文は、このセミナーの目的をふまえながら、各自が自由に選んだテーマで書くことになる。従って、3年次はテーマの選択と資料の収集を行うことを到達目標とする。
講義方法	図書館の使い方やリサーチの仕方を学ぶとともに、いくつかのテーマについて、講義、課題文献の精読、クラスディスカッションを行う。
準備学習	課題となっている文献をよく読みこんでおくこと。
成績評価	出席とクラスへの貢献度(30%)、ディスカッションへの貢献度(30%)、レポート(40%)によって、総合的に判断される。
講義構成	開講時に配布される課題文献リストに沿って進められる。
教科書	開講時に指示する。

授業コード	12F01		
授業科目名	セミナーIb (中島俊)(後)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日 (12:15-13:00)		

講義の内容	本年度のセミナーは、ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』をテキストにとりあげたいと思います。このテキストを文学教材として読むよりも、文化史的な視点から読んでみようと考えています。ヴィクトリア朝に書かれたこの作品には、様々な面からのアプローチが可能です。たとえば、服装、食物、交通、旅行などのテーマが即座に浮かびますが、絵画、挿絵、写真、音楽、歴史、身体などの側面からのアプローチも興味深いところです。		
到達目標	自分の考えを明確に(達意の文章で)プレゼンレーションできるようにしましょう。これは社会人に踏み出す第1歩です。		
講義方法	最初は全員で2、3章を読んでいき、話し合いのなかから各自のテーマを絞っていくことができれば、と期待しています。セミナー参加者全員による検討をえて、各自のテーマを追究していくことは必ずや意義深い経験になるでしょう。各章ごとに、一人ないし複数の担当者がひとつのテーマを決めて、その報告を聞き参加者全員で検討していきたい。		
準備学習	担当者から指示を与えられるのではなく自発的に「自分の問題」として発信できるようにしましょう。		
成績評価	成績は提出レポートによって評価する。原則として定期試験は実施しません。		
講義構成	受講生と話し合い進行順序を決めたいと思います。		
教科書	Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland and through the Looking Glass (Oxford World Classics)		
参考書・資料	随時指定します。		

授業コード	12F02		
授業科目名	セミナーIb (有村)(後)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録		

オフィスアワー	木曜日 12:10 - 13:00
講義の内容	英語学研究でどのようなことが問題とされ、それはどのように説明しようとしてきたかを学習します。最終的には卒業論文のテーマを見つける。 皆さんは「文法」というとどんなイメージを持っているだろうか。文法という言葉は、音楽の文法、詩の文法、服飾の文法などとも使えることを考えると、要するに「何かを作るとき約束事」と言っていいたろうが、そうすれば言葉に関する文法は「文章を作るとき約束事」と考えられます。英語では目的語を動詞の前に置くことになっているのに対して、日本語では目的語は動詞の後ろに置かれる。英語には関係代名詞という目に見える単語があるのに日本語にはないが、両方とも節と節とを関係付ける戦略は共通して持っている。英語の様々な文法現象を眺めてみると、日本語とはかなり違っているが案外と同じような操作を行っていることが分ってきます。このゼミではまず、かねてから興味のある領域を下記の専門書を読んで理解することから始め、そして英語学研究の方法を学ぶこととなります。これまで取り上げられた領域：倒置、法助動詞の意味、this/thatの使用法、完了形／進行形、知覚動詞構文、受動態、分詞構文、等位構文、など。
到達目標	まず、英語学研究の手法を学び、自分が興味を持つ領域が何であるか模索する。最終的に卒業研究(卒業論文)のテーマの確定に至る。
講義方法	各自興味を持った領域に関して調べ、それを一人約30分ほどで発表して頂きます。
準備学習	他のゼミ生が発表した内容を正しく理解する。
成績評価	出席を重視します。出席点50%、発表30%、レポート20%
講義構成	第一回目に研究の対象になるような領域を紹介し、第二回目から発表して頂きます。前後期それぞれ一人一回発表する。
教科書	各自のテーマに沿った文献を紹介する。
参考書・資料	中島平三(編)2001年『最新英語構文辞典』(大修館書店)
講義関連事項	英語学入門、英語の文法、英語の音声、英語の意味、英語の獲得と理解。英語のレキシコン
担当者から一言	文法は、高校の頃経験したような、点取りのための無味乾燥な作業ではなく、人間の心を覗き込む作業であると思って欲しいですね。最終的には、皆さんの集大成とも言える卒業論文につながっています。奮闘を期待しています。

授業コード	12F03		
授業科目名	セミナーIb (青山)(後)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火・水・木曜日の昼休み。		

講義の内容	2010年度のセミナーでは1960年代のアメリカを研究する。60年代はサイレント・ジェネレーションと呼ばれた50年代に対抗した若者たちがカウンター・カルチャーを形成した激動の時代であった。モンゴメリー・バス・ボイコットに端を発した公民権運動を背景に黒人、インディアン、ユダヤ系、女性といったマイノリティが台頭してくる一方でアメリカがベトナム戦争の泥沼へ突入していった時代でもあった。 ヒッピーが「愛と平和」をスローガンに掲げ、ロックが規制文化の破壊を叫び、フォークが反戦のメッセージを歌い上げた時代に登場したブルー・ジーンズに象徴される「意識革命」をセミナーの中心テーマにする。
到達目標	1960年代のアメリカをテーマにまとめたレポート・論文を書くことを目指す。
講義方法	毎回全員参加の発表形式で進める。出席を重視し、前期後期レポート(並びに試験)を課す。なお、セミナー(2年間計8単位)と卒論(8単位)は別の科目なのでセミナーの時間に卒論の指導は行わない。卒論は卒論で個別に指導する。
準備学習	予習していることを前提に授業をすすめるので毎回予習を欠かさないこと。
成績評価	出席を重視し、レポート並びに試験に基づいて評価する。
講義構成	セミナーでは、まず最初に50年代の後半に登場したロックが69年のウッドハウスで頂点を迎えるミュージックシーンに焦点を当て、「イージー・ライダー」や「卒業」といった時代を象徴する映画や、60年代に新しい文学として登場した黒人文学やユダヤ系アメリカ文学などを通して60年代を総合的に研究する。
教科書	Charles Webb, The Graduate. ICGミューズ出版。 その他は多岐にわたるのでプリント他を使用する。

参考書・資料	Charles Reich, The Greening of America.
--------	---

授業コード	12F04		
授業科目名	セミナーIb（井野瀬）(後)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	自動登録		

講義の内容	16世紀から現代に至るイギリス文化の形成とその変遷について、変化を引き起こした諸要因に注目しつつ、われわれが「イギリス」とよぶ国とその国民、およびその延長線上に成立した「大英帝国」という歴史的な時空間にかんして、そのイメージの再検討と再構築を多面的に試みる。
到達目標	各々が2年という時間をかけて取り組めるテーマを具体的に見つけ、その基礎となる知識や情報を集め、整理して、解決すべき課題を明確にする。
講義方法	まずは、各自が明確なテーマを選びとることからはじめてもらう。イギリスという国を、大英帝国という歴史的時空間を再考する際に、何をテーマとすれば、この国やそこに暮らす人びとのことがよりいっそう鮮やかに見えてくるのか。その理由は何か。こういった問題を最初にじっくり考え、テーマを明確にしてほしい。 そのうえで、さまざまな資料を発掘、駆使してそのテーマの中身を調査、分析し、その成果を1年に2度、報告してもらう。セミナーでは、各自の報告を受けて全体でディスカッションすることで、各報告者の視点をさらに豊かにし、イギリス文化の過去・現在・未来にたいする理解を深めたいと思う。他の学生の報告にどのようなコメントをしたらいいのか、何を議論すれば従来われわれが抱えてきたイギリスのイメージ、大英帝国像は変わるのだろうか。その変化を、報告者、そして報告者以外の参加者がどのようにエンジョイするか。各個人の知的好奇心と感性が問われる。 なお、本セミナーは、上記のようにディスカッション形式でおこなうため、自分の言葉で自分が選んだテーマを報告する責任感とともに、他の学生の報告に対しても自分自身の意見を、あるいは質問を口にする積極性が強く求められる。参加者はこの点にくれぐれも留意していただきたい。
準備学習	報告日程にしたがって、自分の課題について、①なぜそのテーマを選んだのか、②そのテーマについてこれまでどのようなことがわかっているのか、③まだわかっていないことで自分が取り組みそうな問題はなにか、④それが自分の理解をどのように深めることになるのか、などをまとめ、報告のためのレジュメを作成する。
成績評価	セミナーでの報告(50%)、セミナー参加の積極性(他学生の報告に対するコメントなど＝25%)、レポート提出(年1回＝25%)だが、報告にせよ議論にせよ、セミナーでのさまざまな積極性を最大の評価ポイントとする。
講義構成	<1>テーマ確定のためのオリエンテーション <2>論文作成のためのオリエンテーション <3>学生の報告 毎回、2人(あるいは1人)ずつ、各自が選んだテーマに関する報告をおこない、それを全員で議論する。節目節目に、それぞれの研究テーマを確定し、内容を深めるための特別講義をおこない、議論の深め方や論の構成についても指導したいと思っている。
教科書	適宜指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	ブリティッシュ・スタディーズや英語文化研究Iなどの講義はできるかぎり受講することが望ましい。
担当者から一言	自分が選んだ好きなテーマを「自分の言葉」で楽しく語ることができるかどうか、他の学生の報告の要点を的確につかみ、「自分の言葉」でコメントできるかどうか——こういったことは社会に出てから確実に役立ちます。くれぐれインターネットからのコピペは避け、「自分の言葉」で語ることを覚えてください。

授業コード	12F05		
授業科目名	セミナーIb (秋元)(後)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限

特記事項	自動登録
オフィスアワー	木曜日のお昼休み
講義の内容	現代アメリカ小説について、各人が抱えている問題意識をもとに考察、研究し、口頭発表とディスカッションを繰り返してよりよい論文を完成することを目指す。担当者の専門は現代アメリカ小説、とくにPaul Auster (1947-)であるが、卒業論文の題材はこれらの作家である必要はない。各自が好きな作家・作品を扱うこと。アメリカ文学で卒論を書きたい人、なかでもとくに現代の作家・作品を取り上げたい人に勧める。 セミナーとは各人オリジナルの「作品」である論文を作りあげていく場所だという考えでやっていくので、参加者それぞれの口頭発表およびそれに関するディスカッションが主となる。各自が好きな、関心のある作家やテーマを扱い、口頭発表やディスカッションをしてよりよい論文にしていく作業を参加者全員でする。 最終的には「おもしろい」論文を完成することを目指す。体裁だけをそろえた論文を書くのは簡単であるが、「おもしろい」論文を書くには発想や知的好奇心、地道な調査、努力が必要だ。しかし、そうやってがんばるのは実はそれじたいがなかなか「おもしろい」作業でもある。みなさん自身が「おもしろがって」書けば、読む人にとっても「おもしろい」論文ができるものなのだ。自分の興味のあるものを突き詰めて、そういう論文を書いてみたいと思う人たちが集まってくれば嬉しいです。 ディスカッションが中心になるので、授業に在るだけではなく、積極的に自分の意見を言い、人の意見に反応することが求められる。ゼミという「場」を自分で作ろうという意識をもてる人に参加してほしい。また、普段から色々な本や映画や音楽に接し、考え、アンテナを磨いておくこと。「おもしろい」と感じる才能を大事にしてください。
到達目標	リサーチの仕方、発表の仕方、そしてなによりもみずから発想して考察を深める力を身につける。作品としての卒業論文の作成。
講義方法	リサーチの仕方、ハンドアウトの作り方、論旨のつくりかたについて学んだあと、アメリカの現代短編小説をいくつかみんなで読み、ディスカッションする。題材は講義開始時に指示する。 それから4年生は卒論のための発表をしていく。3年生はそれに対して質問やコメントをする。夏休み前後には3年生も各自選んだ作品について簡単な発表をしてもらう。4年生になるまでに卒業論文の題材を確定する。
準備学習	発表の題材として取り上げられる作品は可能な限り読んでくること。
成績評価	年に2回程度のレポート、口頭発表、毎回の授業での姿勢に基づきます。ただ教室に在るのではなく、積極的に自分の意見を述べているか、「場」としてのセミナーへの参加度を重視する。 【重要】欠席の際は必ず講義開始までにメールで連絡を入れることを求めます。連絡なしで欠席した場合は「欠席2」としてカウントします。遅刻は欠席1/2。講義終了後に自分で申告すること。申告がない場合は欠席扱いになります。5回以上欠席した場合は単位を与えません。 上記出席基準に満たない場合、また試験を受験しなかった場合、レポートを提出しなかった場合に成績評価は「欠席」となります。
講義構成	開講時に指示する。
教科書	未定
参考書・資料	戸田山和久『論文の教室』(NHKブックス)
担当者から一言	僕のゼミは厳しいです。発表させられるし、コメントを求められます。教室に在るだけでは単位をもらえません。そこそこ注意してください。ただ、できるだけみなさんが発言しやすいような「ゆるい」雰囲気を作るよう心がけておりますので、あんまり構える必要もありません。怒鳴られたりすることはありません。安心してください。

授業コード	12F06		
授業科目名	セミナーIb（福島）(後)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日12:10~13:00		
講義の内容	前期に得た知識をもとに、イントネーションに関する専門論文を読む。 主なテーマは、上昇調の機能と特徴、再度尋ねられた事柄を繰り返すときの音調、様式化された(styled)特殊な音調等である。 それぞれの論文で扱われているデータや例文などは、講義中に読む練習をしたり、音声分析ソフトで確認をしながら、書かれた内容を吟味する。		
到達目標	英語のイントネーションのバラエティーに慣れる。		

講義方法	毎時間の進め方は、概ね、テキストの読解、イントネーションの聞き取りと表記、音声分析ソフトを用いた確認作業に時間を費やすことになる。 5人前後のグループになって、作業を進めていくことにする。
準備学習	毎時間指定される課題に取り組んだ上で、授業に臨むこと。
成績評価	毎授業への取り組み40点(出席点を含む)、期末テスト60点の合計100点で評価する。
講義構成	以下の論文1編に対して、おおむね4週間を書けて読んでゆく。
教科書	P. Ashby and M. Ashby, "Spelling aloud: a preliminary study of idiomatic intonation" A. Cruttenden, "Rises in English" J. House, Intonational stereotype: a re-analysis" 全てコピーで配布する。

授業コード	12F07		
授業科目名	セミナーIb (中島信)(後)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜4限、木曜4限 10号館 研究室(803)		

講義の内容	日常的場面で英語が実際に用いられる場合、話し手は相手との社会的関係とか相手の信念・知識などを含めたその場の状況を常に考慮している。従って、英語を適切に使用するには、個々の表現の持つ固有の意味だけでなく、使用される状況に関するそうした様々な情報を参照し有効に活用する必要がある。また、そうした場合、言語は情報伝達だけでなく、挨拶、依頼、約束、賞賛といった様々な社会的行為において必要不可欠な役割を果たしている。 授業では、こうした言語使用の場を念頭に置いて、単に表現の文法的・意味的特徴を調べるだけでなく、表現を適切に使用するための社会的・認知的事柄について考えていく。
到達目標	卒業研究作成に必要な意味論、語用論の知識と論文作成に必要な技術を身につける。
講義方法	実際に言葉が交わされる場面を考慮しながら英語の使い方を見ていくので、映画のシナリオなどの会話をテキストに用いる。演習形式の授業なので担当を決めて各自発表してもらい、その発表内容とレポートで評価する。
準備学習	発表者はハンドアウト等の資料を準備しておく。発表者以外も必ずテキストを読んでおくこと。
成績評価	出席 30%、レポート20%、試験50%
講義構成	テキスト後半、Unit6からUnit10を読む。 6. She's Gone 7. She's Back 8. Rude Awakening---Ain't No Sunshine 9. Like Me Again 10. The Right Decision---The Meaning of My Life is She
教科書	Richard Curtis (1999) Notting Hill 神谷久美子・Kim R. Kanel 編注 松柏社
参考書・資料	今井邦彦 (2001) 『語用論への招待』東京:大修館書店 小泉保編 (2001) 『入門語用論研究Ⅲ理論と応用』東京:研究社 毛利可信 (1980) 『英語の語用論』東京:大修館書店 山梨正明 (1986) 『発話行為』東京:大修館書店 Thomas, Jenny (1995) Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics. London:Longman. (翻訳あり)
講義関連事項	「英語の意味I,II」を受講していない人は必ず受講するようにしてください。

授業コード	12F08		
授業科目名	セミナーIb (大森)(後)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次	3年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜昼休み		
講義の内容	Coming of Age in America: A Multicultural Anthology (1994)と題された短編集をテキストとする。タイトルにある“coming of age”とは、「成長する、大人になる」という意味である。伝統的にアメリカ文学が得意としてきた「成長物語」の20世紀版とも言える作品を集めた上記アンソロジーを読み、アメリカという同一の国に育ちながらも文化的背景を異にする作家たちが描き出すそれぞれの少年・少女期(and/or思春期)、そしてそれぞれのアメリカ像について比較検討する。		
到達目標	文学作品を通じていわゆる「生きた英語」に触れ、読解力を向上させつつアメリカの多様性についての深い理解に到達する。		
講義方法	例年のことながら、徹底した精読と、テーマ、表現方法などに関する討論を同時進行で行なう。英文解釈のレベルであれ作品解釈のレベルであれ、受講生が提起した解釈と疑問点をめぐってディスカッションが展開されるようなゼミにしたい。		
準備学習	あらかじめ指定されたページ数についてレポーターとして指名された者はもちろんのこと、全員がしっかり予習をして自分なりの解釈や疑問点を整理したうえで授業に出席すること。また、異なる文化的背景を持つ作家たちの作品なので、作品を十分に理解するためにはアメリカの歴史や現状についての学習と調査を求められる場合もある。		
成績評価	発表内容やディスカッションへの参加の度合い30% レポート30% 試験40%		
講義構成	後期に読解と検討の対象とする予定の作品は以下のとおり。 ① “How the Garcia Girls Lost Their Accents” by Julia Alvarez ② “Marigolds” by Eugenia Collier ③ “Judgment Day” by Arturo Islas ④ “Going to School” by D’Arcy McNickle		
教科書	前期と同じテキストを使用。		

授業コード	12F09		
授業科目名	セミナーIb (中谷)(後)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜5限またはアポイントメント		

講義の内容	引き続き「語の意味とコンセプト」について考察する。詳しくは「セミナーIa」の内容を参照のこと。		
到達目標	(1) ことばの構造についての基本的な学説を理解する。(2) 語の意味と文の構造との関係についての理解を深める。(3) 英語の論文がある程度読めるようになる。		
講義方法	「セミナーIa」と同様、基本的な文献を購読形式でいくつか読みすすめるが、後期は同時に、言語データを調査するという点に重点を置く。 さらに1月に研究発表会を実施する予定である。夏合宿の研究発表会よりも深いレベルの発表が期待される。 学年末までに4年次を書く卒論のトピックの方向性を決めてもらうのが目標である。		
準備学習	英語学関連の講義を(入門を含め)8単位以上履修済であることが強く推奨される。特に「英語のレキシコン」「英語の文法 I」を履修しておくことが望ましいが、セミナーとの並行履修でもかまわない。また、心理言語学(言語獲得・習得・言語理解)で卒論を書くものは「英語の獲得と理解」をかならず履修しておくこと。		
成績評価	無断欠席無し、レポート/ショートペーパー/発表といった課題をすべてもれなくこなせば優がつけられる。レポート/ショートペーパーにはABCD評価が付き、Dは再提出となる。Aが多いと成績は秀にランクアップし、Cが多すぎると良にランクダウンする。期末試験も行うが、期末試験はレポート/ショートペーパーと同じ扱いである。また、無断欠席(事前報告のない欠席)、未提出レポート、発表サボりが1つあるごとに、成績は一段階ずつランクダウンする。3ランクダウンすると不可となるので注意されたい。		

	欠席について。無断欠席1回で1ランクダウンすることは上述したが、さらに、無断であるなしに関わらず、欠席が5回(授業回数の1/3以上)に達した場合も成績は1ランクダウンする。授業への貢献が不十分だと看做されるためである。さらに、欠席(無断であるなしに関わらず)が8回(授業回数半数以上)に達した場合、成績は自動的に不可とする。 3、4年次は就職活動などで欠席せざるをえない場合が出てくるかもしれないが、いずれにしても上記のルールを念頭において、体調を整え、「どうしてもやむを得ない場合」以外は欠席しないよう細心の注意を払うこと。
講義構成	1-4. Lexical decomposition continued 5-8. Structural alternations continued 9-12. Problems of polysemy 13-14. Workshop on lexical semantics 15. Final exam
教科書	開講時指定。
参考書・資料	Pinker (1989) Learnability and Cognition Jackendoff (1990) Semantic Structures Pustejovsky (1995) The generative lexicon. Levin (1993) English Verb Classes and Alternations 影山(編)(2001)『動詞の意味と構文』 など、随時指定する。

授業コード	12F10		
授業科目名	セミナーIb (ライクロフト)(後)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	Thursday lunchtime. Other times by arrangement.		

講義の内容	The class will study British Children's Literature. Does it matter what kind of books children read? And how does reading affect their growth and development? Members of this seminar will read and discuss various types of children's books and stories, including many well-known classics.
到達目標	To understand the effect that reading can have on children's development, and to analyse and evaluate popular children's books.
講義方法	Students will be expected to take an active part in discussion. There will be reading assignments, and students will sometimes have to make 'prepared statements' on important topics. Every student must give a 20-minute presentation in the second semester of the third year. Fourth students will give a shorter presentation either at the end of the first semester or early in the second introducing their graduation topic and reporting on the progress of their research. You can't talk effectively about books until you have read them. Children's books may be easier to read than adult fiction, so you can be ambitious and read many books. You will keep a journal in which you will record a summary of class discussion and presentations. Students should aim high and try to write their graduation theses in English.
準備学習	Seminar students are expected research topics that interest them on their own. But written assignments may sometimes be given, and presentations must be thoroughly prepared using PowerPoint or Keynote if possible. Fourth year students will spend the second semester writing their graduation theses.
成績評価	Taking an active role in class, completing reading assignments on time and giving a good presentation will ensure a good grade in the third year. Fourth year students will be also graded on the effectiveness of their preparation for the graduation thesis and their success in meeting deadlines. They will be expected to give a presentation on the topic of their thesis in the second semester, and act as chairpersons and lead the questions for third year presentations. There is no examination. It goes without saying that regular attendance is expected.
講義構成	During the third year students read widely and consider a varied range of issues. These are some of the questions which will be discussed and which may provide a theme for students' graduation theses: 1. What are the benefits of reading in the process of a child's intellectual and moral development? 2. Should children's books teach the child about real life, or simply provide entertainment and enjoyment?

	3. Should children's literature provide a positive and safe view of the world, or should children be exposed to the darker and more cruel sides of life through stories they read? 4. Fairy stories contain not only supernatural elements, but also violence and death. Are they really suitable reading for young children? 5. Some traditional stories and novels written in the past present children with ideas about social class or the role of women which are not acceptable today. Should they be discouraged from reading stories which go against modern ideas of gender equality or democracy? 6. Some of the best loved books are about children growing up in difficult circumstances and overcoming their difficulties. Do such books offer real help and guidance to children? 7. Recently a number of award-winning books for teenagers in the U.K. deal with social and family problems in a frank and open way. But some parents believe it is their responsibility to teach their children about relationships between the sexes and do not approve of books who take over their role. Should children's fiction deal with 'difficult' issues? Fourth year students will concentrate on working for their graduation theses. In the past, students have written about The Brothers Grimm, Lewis Carroll, J. M. Barrie, Hans Andersen, Frances Hodgson Burnett, Beatrix Potter, A. A. Milne, J. R. Tolkien, C. S. Lewis, J. K. Rowling and Roald Dahl (to mention only a few). The subject should be decided early in the first semester, and a detailed plan must be completed by the beginning of the second semester.
教科書	There is an extensive library of several hundred books in both English and Japanese which has been specially created for the use of students in this seminar.
参考書・資料	Prints and videos will sometimes be used. Children's books are easily available in libraries, or quite cheaply from internet bookshops.
講義関連事項	Oral literature, myth, education, child psychology, and parenting.
担当者から一言	There are many fascinating approaches to the subject of Children's Literature and you are sure to find something which interests you. But you must be willing to read books in English.
その他	To write your graduation thesis in English would be a wonderful achievement, and members of this seminar are strongly encouraged to set themselves this goal.

授業コード	12F11		
授業科目名	セミナーIb (安武)(後)		
担当者名	安武留美(ヤスタケ ルミ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal, that they are endowed by their Creator with certain unalienable rights, that among these are life, liberty, and the pursuit of happiness. (1776年、独立宣言の一節) 2008年のアメリカの大統領選挙の最終戦は、アメリカ史上初の黒人または女性大統領となるバラック・オバマ氏(民)とヒラリー・ロッドハム・クリントン氏(民)の一騎打ちとなった。結果は、皆さん後存知のとおり、オバマ氏が勝利し、アメリカ史上初の「黒人」大統領が誕生した。 「全ての人々(all men)」の平等、また自由や幸福となるための権利の保障を建国の理念するアメリカ合衆国において、女性が大統領に就任したことは未だなく、オバマ氏が史上初の非白人の大統領であることは、一考に値する。独立宣言に明記された基本的な権利の認められた「アメリカ市民」には、どのような人々が含まれ、どのような人々が含まれなかったのか、また歴史的に、その枠はどのように正当化、そして自然化されたのか。このゼミでは、そのような問題を考えるために、アメリカ社会を、移民や少数派(先住民、黒人、アジア系アメリカ人、ヒスパニック、女性)の視点で眺めてみる。
到達目標	4年次の終わりに提出することになっている卒業論文は、このセミナーの目的をふまえながら、各自が自由に選んだテーマで書くことになる。従って、3年次はテーマの選択と資料の収集を行うことを到達目標とする。
講義方法	各自の選んだトピックに関する文献についての発表と、それに基づくクラスディスカッションを中心に進める。
準備学習	課題文献を良く読み込んでおく。また、自分の発表には万全を期す。
成績評価	出席とディスカッションへの貢献度(30%)、クラス発表(30%)、レポート(40%)によって、総合的に判断される。

講義構成	開講後に作成される発表スケジュールに従って進める。
教科書	開講時に指示する。

授業コード	12J01		
授業科目名	セミナーIIa (中島俊)(前)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日 (12:15-13:00)		

講義の内容	本年度のセミナーは、ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』をテキストにとりあげたいと思います。このテキストを文学教材として読むよりも、文化史的な視点から読んでみようと考えています。ヴィクトリア朝に書かれたこの作品には、様々な面からのアプローチが可能です。たとえば、服装、食物、交通、旅行などのテーマが即座に浮かびますが、絵画、挿絵、写真、音楽、歴史、身体などの側面からのアプローチも興味深いところです。
到達目標	自分の考えを明確に(達意の文章で)プレゼンテーションできるようにしましょう。これは社会人に踏み出す第1歩です。
講義方法	最初は全員で2、3章を読んでいき、話し合いのなかから各自のテーマを絞っていくことができれば、と期待しています。セミナー参加者全員による検討をえて、各自のテーマを追究していくことは必ずや意義深い経験になるでしょう。 各章ごとに、一人ないし複数の担当者がひとつのテーマを決めて、その報告を聞き参加者全員で検討していきたい。
準備学習	担当者から指示を与えられるのではなく自発的に「自分の問題」として発信できるようにしましょう。
成績評価	成績は提出レポートによって評価する。原則として定期試験は実施しません。
講義構成	受講生と話し合い進行順序を決めたいと思います。
教科書	Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland and through the Looking Glass (Oxford World Classics)
参考書・資料	随時指定します。

授業コード	12J02		
授業科目名	セミナーIIa (有村)(前)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		

講義の内容	英語学研究でどのようなことが問題とされ、それはどのように説明しようとしてきたかを学習します。最終的には卒業論文のテーマを見つける。 皆さんは「文法」というとどんなイメージを持っているだろうか。文法という言葉は、音楽の文法、詩の文法、服飾の文法などとも使えることを考えると、要するに「何かを作るとき約束事」と言っていいたろうが、そうすれば言葉に関する文法は「文章を作るとき約束事」と考えられます。英語では目的語を動詞の前に置くことになっているのに対して、日本語では目的語は動詞の後ろに置かれる。英語には関係代名詞という目に見える単語があるのに日本語にはないが、両方とも節と節とを関係付けるストラテジーは共通して持っている。英語の様々な文法現象を眺めてみると、日本語とはかなり違っているが意外と似たような操作を行っていることが分ってきます。このゼミではまず、かねてから興味のある領域を下記の専門書を読んで理解することから始め、そして英語学研究の方法を学ぶこととなります。これまで取り上げられた領域:倒置、法助動詞の意味、this/thatの使用法、完了形/進行形、知覚動詞構文、受動態、分詞構文、等位構文、など。
到達目標	まず、英語学研究の手法を学び、自分が興味を持つ領域が何であるか模索する。最終的に卒業研究(卒業論

	文)のテーマの確定に至る。
講義方法	各自興味を持った領域に関して調べ、それを一人約30分ほどで発表して頂きます。
準備学習	他のゼミ生が発表した内容を正しく理解する。
成績評価	出席を重視します。出席点50%, 発表30%, レポート20%
講義構成	第一回目に研究の対象になるような領域を紹介し、第二回目から発表して頂きます。前後期それぞれ一人一回発表する。
教科書	各自のテーマに沿った文献を紹介する。
参考書・資料	中島平三(編)2001年『最新英語構文辞典』(大修館書店)
講義関連事項	英語学入門、英語の文法、英語の音声、英語の意味、英語の獲得と理解。英語のレキシコン
担当者から一言	文法は、高校の頃経験したような、点取りのための無味乾燥な作業ではなく、人間の心を覗き込む作業であると思って欲しいですね。最終的には、皆さんの集大成とも言える卒業論文につながっています。奮闘を期待しています。

授業コード	12J03		
授業科目名	セミナーIIa (青山)(前)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火・水・木曜日の昼休み。		

講義の内容	2010年度のセミナーでは1960年代のアメリカを研究する。60年代はサイレント・ジェネレーションと呼ばれた50年代に対抗した若者たちがカウンター・カルチャーを形成した激動の時代であった。モンゴメリー・バス・ボイコットに端を発した公民権運動を背景に黒人、インディアン、ユダヤ系、女性といったマイノリティが台頭してくる一方でアメリカがベトナム戦争の泥沼へ突入していった時代でもあった。 ヒッピーが「愛と平和」をスローガンに掲げ、ロックが規制文化の破壊を叫び、フォークが反戦のメッセージを歌い上げた時代に登場したブルー・ジーンズに象徴される「意識革命」をセミナーの中心テーマにする。		
到達目標	1960年代のアメリカをテーマにまとめたレポート・論文を書くことを目指す。		
講義方法	毎回全員参加の発表形式で進める。出席を重視し、前期後期レポート(並びに試験)を課す。なお、セミナー(2年間計8単位)と卒論(8単位)は別の科目なのでセミナーの時間に卒論の指導は行わない。卒論は卒論で個別に指導する。		
準備学習	予習していることを前提に授業をすすめるので毎回予習を欠かさないこと。		
成績評価	出席を重視し、レポート並びに試験に基づいて評価する。		
講義構成	セミナーでは、まず最初に50年代の後半に登場したロックが69年のウッドハウスで頂点を迎えるミュージックシーンに焦点を当て、「イージー・ライダー」や「卒業」といった時代を象徴する映画や、60年代に新しい文学として登場した黒人文学やユダヤ系アメリカ文学などを通して60年代を総合的に研究する。		
教科書	Charles Webb, The Graduate. ICGミューズ出版。 その他は多岐にわたるのでプリント他を使用する。		
参考書・資料	Charles Reich, The Greening of America.		

授業コード	12J04		
授業科目名	セミナーIIa (井野瀬)(前)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	自動登録		

オフィスアワー	水曜日12:20～12:45(10号館8階 井野瀬研究室)
講義の内容	16世紀から現代に至るイギリス文化の形成とその変遷について、変化を引き起こした諸要因に注目しつつ、われわれが「イギリス」とよぶ国とその国民、およびその延長線上に成立した「大英帝国」という歴史的な時空間にかんして、そのイメージの再検討と再構築を多面的に試みる。
到達目標	3年次に見つけたテーマについて、問題意識をさらに深め、具体的な知識や情報を使ってその課題・問題を議論し、解決への道すじをつけながら、論文に仕上げていく。
講義方法	まずは、各自が明確なテーマを選びとることからはじめてもらう。イギリスという国を、大英帝国という歴史的時空間を再考する際に、何をテーマとすれば、この国やそこに暮らす人びとのことがよりいっそう鮮やかに見えてくるのか。その理由は何か。こういった問題を最初にじっくり考え、テーマを明確にしてほしい。 そのうえで、さまざまな資料を発掘、駆使してそのテーマの中身を調査、分析し、その成果を1年に2度、報告してもらう。セミナーでは、各自の報告を受けて全体でディスカッションすることで、各報告者の視点をさらに豊かにし、イギリス文化の過去・現在・未来にたいする理解を深めたいと思う。他の学生の報告にどのようなコメントをしたらいいのか、何を議論すれば従来われわれが抱いていたイギリスのイメージ、大英帝国像は変わるのだろうか。その変化を、報告者、そして報告者以外の参加者がどのようにエンジョイするか。各個人の知的好奇心と感性が問われる。 なお、本セミナーは、上記のようにディスカッション形式でおこなうため、自分の言葉で自分が選んだテーマを報告する責任感とともに、他の学生の報告に対しても自分自身の意見を、あるいは質問を口にする積極性が強く求められる。参加者はこの点にくれぐれも留意していただきたい。
準備学習	報告日程にしたがって、自分の課題について、①なぜそのテーマを選んだのか、②そのテーマについてこれまでどのようなことがわかっているのか、③まだわかっていないことで自分が取り組みそうな問題はなにか、④それが自分の理解をどのように深めることになるのか、などをまとめるとともに、課題解決のための資料/史料とその所在を明確にしなが、報告のためのレジュメを作成する。
成績評価	セミナーでの報告(50%)、セミナー参加の積極性(他学生の報告に対するコメントなど＝25%)、レポート提出(年1回＝25%)だが、報告にせよ議論にせよ、セミナーでのさまざまな積極性を最大の評価ポイントとする。
講義構成	<1>テーマ確定のためのオリエンテーション <2>論文作成のためのオリエンテーション <3>学生の報告 毎回、2人(あるいは1人)ずつ、各自が選んだテーマに関する報告をおこない、それを全員で議論する。節目節目に、それぞれの研究テーマを確定し、内容を深めるための特別講義をおこない、議論の深め方や論の構成についても指導したいと思っている。
教科書	適宜指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	ブリティッシュ・スタディーズや英語文化研究Iなどの講義はできるかぎり受講することが望ましい。
担当者から一言	自分が選んだ好きなテーマを「自分の言葉」で楽しく語ることができるかどうか、他の学生の報告の要点を的確につかみ、「自分の言葉」でコメントできるかどうか——こういったことは社会に出てから確実に役立ちます。安易にインターネットからコピペなどせず、「自分の言葉」で語ることのおもしろさを学んでください。

授業コード	12J05		
授業科目名	セミナーIIa (秋元)(前)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日のお昼休み		
講義の内容	現代アメリカ小説について、各人が抱えている問題意識をもとに考察、研究し、口頭発表とディスカッションを繰り返してよりよい論文を完成することを目指す。担当者の専門は現代アメリカ小説、とくにPaul Auster (1947-)であるが、卒業論文の題材はこれらの作家である必要はない。各自が好きな作家・作品を扱うこと。アメリカ文学で卒論を書きたい人、なかでもとくに現代の作家・作品を取り上げたい人に勧める。 セミナーとは各人オリジナルの「作品」である論文を作りあげていく場所だという考えでやっていくので、参加者それぞれの口頭発表およびそれに関するディスカッションが主となる。各自が好きな、関心のある作家やテーマを扱い、口頭発表やディスカッションをしてよりよい論文にしていける作業を参加者全員でする。 最終的には「おもしろい」論文を完成することを目標にする。体裁だけをそろえた論文を書くのは簡単である		

	が、「おもしろい」論文を書くには発想や知的好奇心、地道な調査、努力が必要だ。しかし、そうやってがんばるのは実はそれじたいがなかなか「おもしろい」作業でもある。みなさん自身が「おもしろがって」書けば、読む人にとっても「おもしろい」論文ができるものなのだ。自分の興味のあるものを突き詰めて、そういう論文を書いてみたいと思う人たちが集まってくれば嬉しいです。 ディスカッションが中心になるので、授業にただいるだけではなく、積極的に自分の意見を言い、人の意見に反応することが求められる。ゼミという「場」を自分で作ろうという意識をもてる人に参加してほしい。また、普段から色々な本や映画や音楽に接し、考え、アンテナを磨いておくこと。「おもしろい」と感じる才能を大事にしてください。
到達目標	リサーチの仕方、発表の仕方、そしてなによりもみずから発想して考察を深める力を身につける。 作品としての卒業論文の作成。
講義方法	リサーチの仕方、ハンドアウトの作り方、論旨のつくりかたについて学んだあと、アメリカの現代短編小説をいくつかみんなで読み、ディスカッションする。題材は講義開始時に指示する。 それから4年生は卒論のための発表をしていく。3年生はそれに対して質問やコメントをする。夏休み前後には3年生も各自選んだ作品について簡単な発表をしてもらう。4年生になるまでに卒業論文の題材を確定する。
準備学習	発表の題材として取り上げられる作品は可能な限り読んでくること。
成績評価	年に2回程度のレポート、口頭発表、毎回の授業での姿勢に基づきます。ただ教室にいるのではなく、積極的に自分の意見を述べているか、「場」としてのセミナーへの参加度を重視する。 【重要】欠席の際は必ず講義開始までにメールで連絡を入れることを求めます。連絡なしで欠席した場合は「欠席2」としてカウントします。遅刻は欠席1/2、講義終了後に自分で申告すること。申告がない場合は欠席扱いになります。5回以上欠席した場合は単位を与えません。 上記出席基準に満たない場合、また試験を受験しなかった場合、レポートを提出しなかった場合に成績評価は「欠席」となります。
講義構成	開講時に指示する。
教科書	未定
参考書・資料	戸田山和久『論文の教室』(NHKブックス)
担当者から一言	僕のゼミは厳しいです。発表させられるし、コメントを求められます。教室にただいるだけでは単位をもらえません。そこそこご注意ください。ただ、できるだけみなさんが発言しやすいような「ゆるい」雰囲気を作るよう心がけておりますので、あんまり構える必要もありません。怒鳴られたりすることはありません。安心してください。

授業コード	12J06		
授業科目名	セミナーIIa (福島)(前)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日12:10~13:00		

講義の内容	昨年度に引き続き、英語のイントネーションの分析を行う。 音声言語は必ず、ピッチの変化を伴うのは周知のことである。そして、このピッチの変化はでたらめに行われている訳ではないとも言わずもがなのことである。 英語のイントネーションの特徴として、まず「核」の存在を認めねばならない。「核」とは、音調上最も顕著にピッチの変化を伴う音節のことだが、この「核」が置かれることで、意味としてまとまりをなす部分を明示する機能がイントネーションにはある。そこで本年度のゼミでは、下記のテキストの第4章Tonality: chunking, or division into IPsを読み、どんなふうに「意味としてのまとまり」が音声的に示されるかを検討する。 まずテキストを読み進める前に、音調句内でどこに「核」がおかれているのかをしっかりと聞き取る練習から始める予定である。
到達目標	音調核を聞き分け、さらに音調句の範囲を把握できるようになる。
講義方法	毎時間の進め方は、概ね、テキストの読解、イントネーションの聞き取りと表記、音声分析ソフトを用いた確認作業に時間を費やすことになる。 5人前後のグループになって、作業を進めていくことにする。
準備学習	テキストを必ず予習しておくこと。
成績評価	出席点20点、担当を任された箇所の発表に対する評価20点、レポート等の提出/評価20点、期末テスト40点

	の合計100点で評価する。
講義構成	初回到概要を説明する。
教科書	John Wells. (2006) English Intonation An Introduction. Cambridge University Press.
担当者から一言	本セミナーは、発音の練習クラスではありません。あくまでも音声学の立場で、イントネーションを理解、分析することが目的であることを肝に銘じてください。

授業コード	12J07		
授業科目名	セミナーIIa (中島)(前)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜4限、木曜4限 10号館 研究室(803)		

講義の内容	日常的場面で英語が実際に用いられる場合、話し手は相手との社会的関係とか相手の信念・知識などを含めたその場の状況を常に考慮している。従って、英語を適切に使用するには、個々の表現の持つ固有の意味だけでなく、使用される状況に関するそうした様々な情報を参照し有効に活用する必要がある。また、そうした場合、言語は情報伝達だけでなく、挨拶、依頼、約束、賞賛といった様々な社会的行為において必要不可欠な役割を果たしている。 授業では、こうした言語使用の場を念頭に置いて、単に表現の文法的・意味的特徴を調べるだけでなく、表現を適切に使用するための社会的・認知的事柄について考えていく。
到達目標	卒業研究作成に必要な意味論、語用論の知識と論文作成に必要な技術を身につける。
講義方法	実際に言葉が交わされる場面を考慮しながら英語の使い方を見ていくので、映画のシナリオなどの会話をテキストに用いる。演習形式の授業なので担当を決めて各自発表してもらい、その発表内容とレポートで評価する。
準備学習	発表者はハンドアウト等の資料を準備しておく。発表者以外も必ずテキストを読んでおくこと。
成績評価	出席 30%、レポート20%、試験50%
講義構成	テキスト前半、Unit1からUnit5を読む。 1. William's Notting Hill & She 2. Surreal, But Nice 3. A Goddess is a Movie Star 4. Birthday Party 5. A Date with Anna
教科書	Richard Curtis (1999) Notting Hill 神谷久美子・Kim R. Kanel 編注 松柏社
参考書・資料	今井邦彦 (2001) 『語用論への招待』東京:大修館書店 小泉保編 (2001) 『入門語用論研究Ⅳ理論と応用Ⅰ』東京:研究社 毛利可信 (1980) 『英語の語用論』東京:大修館書店 山梨正明 (1986) 『発話行為』東京:大修館書店 Thomas, Jenny (1995) Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics. London:Longman. (翻訳あり)
講義関連事項	「英語の意味I,II」を受講していない人は必ず受講するようにしてください。

授業コード	12J08		
授業科目名	セミナーIIa (大森)(前)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	Coming of Age in America: A Multicultural Anthology(1994)と題された短編集をテキストとする。タイトルにある“coming of age”とは、「成長する、大人になる」という意味である。伝統的にアメリカ文学が得意としてきた「成長物語」の20世紀版とも言える作品を集めた上記アンソロジーを読み、アメリカという同一の国に育ちながらも文化的背景を異にする作家たちが描き出すそれぞれの少年・少女期(and/or思春期)、そしてそれぞれのアメリカ像について比較検討する。
到達目標	文学作品を通じていわゆる「生きた英語」に触れ、読解力を向上させつつアメリカの多様性についての深い理解に到達する。
講義方法	例年のことながら、徹底した精読と、テーマ、表現方法などに関する討論を同時進行で行なう。英文解釈のレベルであれ作品解釈のレベルであれ、受講生が提起した解釈と疑問点をめぐってディスカッションが展開されるようなゼミにしたい。
準備学習	あらかじめ指定されたページ数についてレポーターとして指名された者はもちろんのこと、全員がしっかり予習をして自分なりの解釈や疑問点を整理したうえで授業に出席すること。また、異なる文化的背景を持つ作家たちの作品なので、作品を十分に理解するためにはアメリカの歴史や現状についての学習と調査を求められる場合もある。
成績評価	発表内容やディスカッションへの参加の度合い30% レポート30% 試験40%
講義構成	前期は以下の作品を取りあげて読解と検討の対象とする予定。 ① “The Wrong Lunch Line” by Nicholasa Mohr ② “Eyes and Teeth” by Wanda Coleman ③ “The Kind of Light That Shines on Texas” by Reginald McKnight ④ “A Bag of Oranges” by Spiro Athanas
教科書	上記のとおり。授業開始までに担当者が手配する。

授業コード	12J09		
授業科目名	セミナーIIa (中谷)(前)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜5限またはアポイントメント		

講義の内容	このゼミでは、人間の脳内にある言語能力がどのようになっているかを、特に「語」と「意味」の結びつきに注目することによって探求する。一般に、語というのは、外界に存在する「物」に対するラベルのようなものと捉えられているかと思う。例えば、英語のdogという語は、イヌという物体に付けられたラベルであり、tableというのはテーブルという物体に付けられたラベルである、というように。 しかし、この考えは正しいとは言えない。例えば、日本語の「お年玉」と「お小遣い」と「お金」の違いはなんだろうか？ 物体としてはこの三者には何ら違いがないことが分かると思う。しかし、これら三つの単語の意味にははっきりと違いがある。単語は物体につけられたラベルだとは単純に言えないということになる。 また、動詞の場合は話はもっと複雑である。John walked.と言った場合のwalkedの意味は何だろうか？ walkedという表現にはJohnが(当然ですが)含まれていないので、walkedの意味は、John walkedという出来事からJohnを引いたものだと考えられる。しかし、まぶたを閉じてJohn walkedという出来事を思い浮かべてみよう。そこからJohnを消し去ったら、何も残らないのでは？ このように考えると、語というのは決して「外界にあらかじめ存在する何か」にラベルを付けるといった単純なものではないことが分かる。そうではなく(つまり、外界の事物に直接ラベルを貼ったりしているのではなく)、我々人間は、ある一定の、独自の見方で世界を解釈し、その解釈に対し、語を結びつけ、言語を作り上げていると言える。 この、我々人間による「世界の解釈」の単位を「コンセプト(概念)」と呼ぶ。runも一つの(下位分割可能な)コンセプトだし、walkもrunと似ているが微妙に異なるコンセプトだと言える。runとjogは物理的にはほとんど違いがないが、英語話者の中では違うコンセプトとして成り立っている。「お金をあげる」と「お小遣いをあげる」は、物理的には同じ出来事だが、日本語話者の中では違うコンセプトとして区別される。言語の意味を研究するというのは、人間の脳内にどのようなコンセプトが存在するのかを考えることに他ならない。
-------	---

	当ゼミでは、さまざまな点から、語・意味・コンセプトを考察し、それらが人間の脳内でどのような形で存在し、また我々が文を発するときにそれらがどのようなプロセスで取捨選択されるのかを考察する。
到達目標	(1) ことばの構造についての基本的な学説を理解する。(2) 語の意味と文の構造との関係についての理解を深める。(3) 英語の論文がある程度読めるようになる。
講義方法	授業においては、3年次の学生をサポート/指導するディスカッションリーダー的な役割を担ってもらう。そのために授業の題材をしっかりと復習しておくことが期待される。 また、授業とは別に各自の興味に沿った文献を調べ、読み進めてもらう。学期中は随時中間報告メモを書いてもらい、前期末までに研究の中間レポートをまとめてもらう。 また、夏休み終盤に行われるゼミ合宿での研究発表会(※予定は変更されることがある)では、前期の研究の成果を発表してもらうと同時に、3年次の学生の発表についてのディスカッサントの役割を担ってもらう。
準備学習	英語学関連の講義を(入門を含め)8単位以上履修済であることが強く推奨される。特に「英語のレキシコン」「英語の文法 I」を履修しておくことが望ましいが、セミナーとの並行履修でもかまわない。また、心理言語学(言語獲得・習得・言語理解)で卒論を書くものは「英語の獲得と理解」をかならず履修しておくこと。
成績評価	無断欠席無し、レポート/ショートペーパー/発表といった課題をすべてもれなくこなせば優がつけられる。レポート/ショートペーパーにはABCD評価が付き、Dは再提出となる。Aが多いと成績は秀にランクアップし、Cが多すぎると良にランクダウンする。期末試験も行うが、期末試験はレポート/ショートペーパーと同じ扱いである。また、無断欠席(事前報告のない欠席)、未提出レポート、発表サボリが1つあるごとに、成績は一段階ずつランクダウンする。3ランクダウンすると不可となるので注意されたい。 欠席について。無断欠席1回で1ランクダウンすることは上述したが、さらに、無断であるなしに関わらず、欠席が5回(授業回数の1/3以上)に達した場合も成績は1ランクダウンする。授業への貢献が不十分だと看做されるためである。さらに、欠席(無断であるなしに関わらず)が8回(授業回数の半数以上)に達した場合、成績は自動的に不可とする。 3、4年次は就職活動などで欠席せざるをえない場合が出てくるかもしれないが、いずれにしても上記のルールを念頭において、体調を整え、「どうしてもやむを得ない場合」以外は欠席しないよう細心の注意を払うこと。
講義構成	- Theories of "Knowledge of Language" - X-bar theory - Theta theory - Case theory - Lexical aspect in English - Lexical aspect in Japanese - Lexical decomposition - Issues in alternations
教科書	開講時指定。
参考書・資料	Carnie (2002) Syntax Pinker (1989) Learnability and Cognition Vendler (1957) "Verbs and Times" 金田一 (1950)「国語動詞の一分類」 影山(編)(2001)『動詞の意味と構文』 など、随時指定する。

授業コード	12J10		
授業科目名	セミナーIIa (ライクロフト)(前)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	Thursday lunchtime. Other times by arrangement.		

講義の内容	The class will study British Children's Literature. Does it matter what kind of books children read? And how does reading affect their growth and development? Members of this seminar will read and discuss various types of children's books and stories, including many well-known classics.
-------	---

到達目標	To understand the effect that reading can have on children's development, and to analyse and evaluate popular children's books.
講義方法	Students will be expected to take an active part in discussion. There will be reading assignments, and students will sometimes have to make 'prepared statements' on important topics. Every student must give a 20-minute presentation in the second semester of the third year. Fourth students will give a shorter presentation either at the end of the first semester or early in the second introducing their graduation topic and reporting on the progress of their research. You can't talk effectively about books until you have read them. Children's books may be easier to read than adult fiction, so you can be ambitious and read many books. You will keep a journal in which you will record a summary of class discussion and presentations. Students should aim high and try to write their graduation theses in English.
準備学習	Seminar students are expected research topics that interest them on their own. But written assignments may sometimes be given, and presentations must be thoroughly prepared using PowerPoint or Keynote if possible. Fourth year students will spend the second semester writing their graduation theses.
成績評価	Taking an active role in class, completing reading assignments on time and giving a good presentation will ensure a good grade in the third year. Fourth year students will be also graded on the effectiveness of their preparation for the graduation thesis and their success in meeting deadlines. They will be expected to give a presentation on the topic of their thesis in the second semester, and act as chairpersons and lead the questions for third year presentations. There is no examination. It goes without saying that regular attendance is expected.
講義構成	During the third year students read widely and consider a varied range of issues. These are some of the questions which will be discussed and which may provide a theme for students' graduation theses: 1. What are the benefits of reading in the process of a child's intellectual and moral development? 2. Should children's books teach the child about real life, or simply provide entertainment and enjoyment? 3. Should children's literature provide a positive and safe view of the world, or should children be exposed to the darker and more cruel sides of life through stories they read? 4. Fairy stories contain not only supernatural elements, but also violence and death. Are they really suitable reading for young children? 5. Some traditional stories and novels written in the past present children with ideas about social class or the role of women which are not acceptable today. Should they be discouraged from reading stories which go against modern ideas of gender equality or democracy? 6. Some of the best loved books are about children growing up in difficult circumstances and overcoming their difficulties. Do such books offer real help and guidance to children? 7. Recently a number of award-winning books for teenagers in the U.K. deal with social and family problems in a frank and open way. But some parents believe it is their responsibility to teach their children about relationships between the sexes and do not approve of books who take over their role. Should children's fiction deal with 'difficult' issues? Fourth year students will concentrate on working for their graduation theses. In the past, students have written about The Brothers Grimm, Lewis Carroll, J. M. Barrie, Hans Andersen, Frances Hodgson Burnett, Beatrix Potter, A. A. Milne, J. R. Tolkien, C. S. Lewis, J. K. Rowling and Roald Dahl (to mention only a few). The subject should be decided early in the first semester, and a detailed plan must be completed by the beginning of the second semester.
教科書	There is an extensive library of several hundred books in both English and Japanese which has been specially created for the use of students in this seminar.
参考書・資料	Prints and videos will sometimes be used. Children's books are easily available in libraries, or quite cheaply from internet bookshops.
講義関連事項	Oral literature, myth, education, child psychology, and parenting.
担当者から一言	There are many fascinating approaches to the subject of Children's Literature and you are sure to find something which interests you. But you must be willing to read books in English.
その他	To write your graduation thesis in English would be a wonderful achievement, and members of this seminar are strongly encouraged to set themselves this goal.

授業コード	12J11
授業科目名	セミナーIIa (安武)(前)
担当者名	安武留美(ヤスタケ ルミ)

配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal, that they are endowed by their Creator with certain unalienable rights, that among these are life, liberty, and the pursuit of happiness. (1776年、独立宣言の一節) 2008年のアメリカの大統領選挙の最終戦は、アメリカ史上初の黒人または女性大統領となるバラック・オバマ氏(民)とヒラリー・ロッドハム・クリントン氏(民)の一騎打ちとなった。結果は、皆さん後存知のとおり、オバマ氏が勝利し、アメリカ史上初の「黒人」大統領が誕生した。 「全ての人々(all men)」の平等、また自由や幸福となるための権利の保障を建国の理念するアメリカ合衆国において、女性が大統領に就任したことは未だなく、オバマ氏が史上初の非白人の大統領であることは、一考に値する。独立宣言に明記された基本的な権利の認められた「アメリカ市民」には、どのような人々が含まれ、どのような人々が含まれなかったのか、また歴史的に、その枠はどのように正当化、そして自然化されたのか。このゼミでは、そのような問題を考えるために、アメリカ社会を、移民や少数派(先住民、黒人、アジア系アメリカ人、ヒスパニック、女性)の視点で眺める。
到達目標	このセミナーの内容をふまえながら、各自が自由に選んだテーマで、卒業論文を完成する。
講義方法	授業では、いくつかのテーマについて、講義、課題文献の精読、クラスディスカッションが行われるが、それと平行して、資料の収集、論文の構成、執筆、推敲を各自で予定を立てて進行していく。
準備学習	課題となっている文献をよく読みこんでおくこと。
成績評価	クラスへの貢献度(30%)、ディスカッションへの貢献度(30%)、レポート(40%)によって、総合的に評価される。
講義構成	授業は、開講時に配布される課題文献リストに沿って進められる。
教科書	開講時に指示する。

授業コード	12K01		
授業科目名	セミナーIIb (中島俊)(後)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日 (12:15-13:00)		

講義の内容	本年度のセミナーは、ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』をテキストにとりあげたいと思います。このテキストを文学教材として読むよりも、文化史的な視点から読んでみようと考えています。ヴィクトリア朝に書かれたこの作品には、様々な面からのアプローチが可能です。たとえば、服装、食物、交通、旅行などのテーマが即座に浮かびますが、絵画、挿絵、写真、音楽、歴史、身体などの側面からのアプローチも興味深いところです。
到達目標	自分の考えを明確に(達意の文章で)プレゼンレーションできるようにしましょう。これは社会人に踏み出す第1歩です。
講義方法	最初は全員で2、3章を読んでいき、話し合いのなかから各自のテーマを絞っていくことができれば、と期待しています。セミナー参加者全員による検討をえて、各自のテーマを追究していくことは必ずや意義深い経験になるでしょう。 各章ごとに、一人ないし複数の担当者がひとつのテーマを決めて、その報告を聞き参加者全員で検討していきたい。
準備学習	担当者から指示を与えられるのではなく自発的に「自分の問題」として発信できるようにしましょう。
成績評価	成績は提出レポートによって評価する。原則として定期試験は実施しません。
講義構成	受講生と話し合い進行順序を決めたいと思います。
教科書	Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland and through the Looking Glass (Oxford World Classics)
参考書・資料	随時指定します。

授業コード	12K02		
授業科目名	セミナーⅡb (有村)(後)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日 12:10 - 13:00		

講義の内容	英語学研究でどのようなことが問題とされ、それはどのように説明しようとしてきたかを学習します。最終的には卒業論文のテーマを見つける。 皆さんは「文法」というとどんなイメージを持っているだろうか。文法という言葉は、音楽の文法、詩の文法、服飾の文法などとも使えることを考えると、要するに「何かを作るときの約束事」と言っていいたろうが、そうすれば言葉に関する文法は「文章を作るときの約束事」と考えられます。英語では目的語を動詞の前に置くことになっているのに対して、日本語では目的語は動詞の後ろに置かれる。英語には関係代名詞という目に見える単語があるのに日本語にはないが、両方とも節と節とを関係付けけるストラテジーは共通して持っている。英語の様々な文法現象を眺めてみると、日本語とはかなり違っているが案外と同じような操作を行っていることが分ってきます。このゼミではまず、かねてから興味のある領域を下記の専門書を読んで理解することから始め、そして英語学研究の方法を学ぶこととなります。これまで取り上げられた領域：倒置、法助動詞の意味、this/thatの使用法、完了形／進行形、知覚動詞構文、受動態、分詞構文、等位構文、など。
到達目標	まず、英語学研究の手法を学び、自分が興味を持つ領域が何であるか模索する。最終的に卒業研究(卒業論文)のテーマの確定に至る。
講義方法	各自興味を持った領域に関して調べ、それを一人約30分ほどで発表して頂きます。
準備学習	他のゼミ生が発表した内容を正しく理解する。
成績評価	出席を重視します。出席点50%、発表30%、レポート20%
講義構成	第一回目に研究の対象になるような領域を紹介し、第二回目から発表して頂きます。前後期それぞれ一人一回発表する。
教科書	各自のテーマに沿った文献を紹介する。
参考書・資料	中島平三(編)2001年『最新英語構文辞典』(大修館書店)
講義関連事項	英語学入門、英語の文法、英語の音声、英語の意味、英語の獲得と理解。英語のレキシコン
担当者から一言	文法は、高校の頃経験したような、点取りのための無味乾燥な作業ではなく、人間の心を覗き込む作業であると思って欲しいですね。最終的には、皆さんの集大成とも言える卒業論文につながっています。奮闘を期待しています。

授業コード	12K03		
授業科目名	セミナーⅡb (青山)(後)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火・水・木曜日の昼休み。		

講義の内容	2010年度のセミナーでは1960年代のアメリカを研究する。60年代はサイレント・ジェネレーションと呼ばれた50年代に対抗した若者たちがカウンター・カルチャーを形成した激動の時代であった。モンゴメリー・バス・ボイコットに端を発した公民権運動を背景に黒人、インディアン、ユダヤ系、女性といったマイノリティが台頭してくる一方でアメリカがベトナム戦争の泥沼へ突入していった時代でもあった。 ヒッピーが「愛と平和」をスローガンに掲げ、ロックが規制文化の破壊を叫び、フォークが反戦のメッセージを歌い上げた時代に登場したブルー・ジーンズに象徴される「意識革命」をセミナーの中心テーマにする。
到達目標	1960年代のアメリカをテーマにまとめたレポート・論文を書くことを目指す。

講義方法	毎回全員参加の発表形式で進める。出席を重視し、前期後期レポート(並びに試験)を課す。 なお、セミナー(2年間計8単位)と卒論(8単位)は別の科目なのでセミナーの時間に卒論の指導は行わない。 卒論は卒論で個別に指導する。
準備学習	予習していることを前提に授業をすすめるので毎回予習を欠かさないこと。
成績評価	出席を重視し、レポート並びに試験に基づいて評価する。
講義構成	セミナーでは、まず最初に50年代の後半に登場したロックが69年のウッドハウスで頂点を迎えるミュージックシーンに焦点を当て、「イージー・ライダー」や「卒業」といった時代を象徴する映画や、60年代に新しい文学として登場した黒人文学やユダヤ系アメリカ文学などを通して60年代を総合的に研究する。
教科書	Charles Webb, The Graduate. ICGミューズ出版。 その他は多岐にわたるのでプリント他を使用する。
参考書・資料	Charles Reich, The Greening of America.

授業コード	12K04		
授業科目名	セミナーIIb（井野瀬）(後)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	自動登録		

講義の内容	16世紀から現代に至るイギリス文化の形成とその変遷について、変化を引き起こした諸要因に注目しつつ、われわれが「イギリス」とよぶ国とその国民、およびその延長線上に成立した「大英帝国」という歴史的な時空間にかんして、そのイメージの再検討と再構築を多面的に試みる。
到達目標	3年次、ならびに4年次前期に明確化したテーマについて、問題意識をさらに深め、具体的な知識や情報を駆使してその課題・問題を議論し、解決への道すじをつけながら、論文に仕上げていく。
講義方法	まずは、各自が明確なテーマを選びとることからはじめてもらう。イギリスという国を、大英帝国という歴史的時空間を再考する際に、何をテーマとすれば、この国やそこに暮らす人びとのことがよりいっそう鮮やかに見えてくるのか。その理由は何か。こういった問題を最初にじっくり考え、テーマを明確にしてほしい。 そのうえで、さまざまな資料を発掘、駆使してそのテーマの中身を調査、分析し、その成果を1年に2度、報告してもらう。セミナーでは、各自の報告を受けて全体でディスカッションすることで、各報告者の視点をさらに豊かにし、イギリス文化の過去・現在・未来にたいする理解を深めたいと思う。他の学生の報告にどのようなコメントをしたらいいのか、何を議論すれば従来われわれが抱えてきたイギリスのイメージ、大英帝国像は変わるのだろうか。その変化を、報告者、そして報告者以外の参加者がどのようにエンジョイするか。各個人の知的好奇心と感性が問われる。 なお、本セミナーは、上記のようにディスカッション形式でおこなうため、自分の言葉で自分が選んだテーマを報告する責任感とともに、他の学生の報告に対しても自分自身の意見を、あるいは質問を口にする積極性が強く求められる。参加者はこの点にくれぐれも留意していただきたい。
準備学習	報告日程にしたがって、自分の課題について、①なぜそのテーマを選んだのか、②そのテーマについてこれまでどのようなことがわかっているのか、③まだわかっていないことで自分が取り組みそうな問題はなにか、④それが自分の理解をどのように深めることになるのか、などをまとめるとともに、⑤課題解決のための資料/史料とその所在を明確にしなが、報告のためのレジュメを作成する。報告後は、報告時に受けた助言やコメントを取り入れて、卒業論文作成をおこなう。
成績評価	セミナーでの報告(50%)、セミナー参加の積極性(他学生の報告に対するコメントなど=25%)、レポート提出(年1回=25%)だが、報告にせよ議論にせよ、セミナーでのさまざまな積極性を最大の評価ポイントとする。
講義構成	<1>テーマ確定のためのオリエンテーション <2>論文作成のためのオリエンテーション <3>学生の報告 毎回、2人(あるいは1人)ずつ、各自が選んだテーマに関する報告をおこない、それを全員で議論する。節目節目に、それぞれの研究テーマを確定し、内容を深めるための特別講義をおこない、議論の深め方や論の構成についても指導したいと思っている。
教科書	適宜指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	ブリティッシュ・スタディーズや英語文化研究などの講義はできるかぎり受講することが望ましい。

担当者から一言	自分が選んだ好きなテーマを「自分の言葉」で楽しく語ることができるかどうか、他の学生の報告の要点を的確につかみ、「自分の言葉」でコメントできるかどうか——こういったことは社会に出てから確実に役立ちます。くれぐれもインターネットからのコピペは避け、「自分の言葉」で語ることを覚えてください。
---------	---

授業コード	12K05		
授業科目名	セミナーⅡb (秋元)(後)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日のお昼休み		

講義の内容	現代アメリカ小説について、各人が抱えている問題意識をもとに考察、研究し、口頭発表とディスカッションを繰り返してよりよい論文を完成することを目指す。担当者の専門は現代アメリカ小説、とくにPaul Auster (1947-)であるが、卒業論文の題材はこれらの作家である必要はない。各自が好きな作家・作品を扱うこと。アメリカ文学で卒論を書きたい人、なかでもとくに現代の作家・作品を取り上げたい人に勧める。 セミナーとは各人オリジナルの「作品」である論文を作りあげていく場所だという考えでやっているので、参加者それぞれの口頭発表およびそれに関するディスカッションが主となる。各自が好きな、関心のある作家やテーマを扱い、口頭発表やディスカッションをしてよりよい論文にしていく作業に参加者全員でする。 最終的には「おもしろい」論文を完成することを目指す。体裁だけをそろえた論文を書くのは簡単であるが、「おもしろい」論文を書くには発想や知的好奇心、地道な調査、努力が必要だ。しかし、そうやってがんばるのは実はそれじたいがなかなか「おもしろい」作業でもある。みなさん自身が「おもしろがって」書けば、読む人にとっても「おもしろい」論文ができるものなのだ。自分の興味のあるものを突き詰めて、そういう論文を書いてみたいと思う人たちが集まってくれば嬉しいです。 ディスカッションが中心になるので、授業にただいるだけではなく、積極的に自分の意見を言い、人の意見に反応することが求められる。ゼミという「場」を自分で作ろうという意識をもてる人に参加してほしい。また、普段から色々な本や映画や音楽に接し、考え、アンテナを磨いておくこと。「おもしろい」と感じる才能を大事にしてください。
到達目標	リサーチの仕方、発表の仕方、そしてなによりもみずから発想して考察を深める力を身につける。作品としての卒業論文の作成。
講義方法	リサーチの仕方、ハンドアウトの作り方、論旨のつくりかたについて学んだあと、アメリカの現代短編小説をいくつかみんなで読み、ディスカッションする。題材は講義開始時に指示する。 それから4年生は卒論のための発表をしていく。3年生はそれに対して質問やコメントをする。夏休み前後には3年生も各自選んだ作品について簡単な発表をしてもらう。4年生になるまでに卒業論文の題材を確定する。
準備学習	発表の題材として取り上げられる作品は可能な限り読んでくること。
成績評価	年に2回程度のレポート、口頭発表、毎回の授業での姿勢に基づきます。ただ教室にいるのではなく、積極的に自分の意見を述べているか、「場」としてのセミナーへの参加度を重視する。 【重要】欠席の際は必ず講義開始までにメールで連絡を入れることを求めます。連絡なしで欠席した場合は「欠席2」としてカウントします。遅刻は欠席1/2。講義終了後に自分で申告すること。申告がない場合は欠席扱いになります。5回以上欠席した場合は単位を与えません。 上記出席基準に満たない場合、また試験を受験しなかった場合、レポートを提出しなかった場合に成績評価は「欠席」となります。
講義構成	開講時に指示する。
教科書	未定
参考書・資料	戸田山和久『論文の教室』(NHKブックス)

担当者から一言	僕のゼミは厳しいです。発表させられるし、コメントを求められます。教室にただいるだけでは単位をもらえません。そこそこ注意してください。ただ、できるだけみなさんが発言しやすいような「ゆるい」雰囲気を作るよう心がけておりますので、あんまり構える必要もありません。怒鳴られたりすることはありません。安心してください。
---------	--

授業コード	12K06
-------	-------

授業科目名	セミナーIIb (福島)(後)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	前期に得た知識をもとに、イントネーションに関する専門論文を読む。 主なテーマは、上昇調の機能と特徴、再度尋ねられた事柄を繰り返すときの音調、様式化された(stylised)特殊な音調等である。 それぞれの論文で扱われているデータや例文などは、講義中に読む練習をしたり、音声分析ソフトで確認をしながら、書かれた内容を吟味する。
到達目標	英語のイントネーションのバラエティーに慣れる。
講義方法	毎時間の進め方は、概ね、テキストの読解、イントネーションの聞き取りと表記、音声分析ソフトを用いた確認作業に時間を費やす事になる。 5人前後のグループになって、作業を進めていく事にする。
準備学習	毎時間指定される課題に取り組んだ上で、授業に臨むこと。
成績評価	毎授業への取り組み40点(出席点を含む)、期末テスト60点の合計100点で評価する。
講義構成	以下の論文1編に対して、概ね4週間をかけて読んでいく。
教科書	P. Ashby and M. Ashby, "Spelling aloud: a preliminary study of idiomatic intonation" A. Cruttenden, "Rises in English" J. House, Intonational stereotype: a re-analysis" 全てコピーで配布する。

授業コード	12K07		
授業科目名	セミナーIIb (中島信)(後)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜4限、木曜4限 10号館 研究室(803)		

講義の内容	日常的場面で英語が実際に用いられる場合、話し手は相手との社会的関係とか相手の信念・知識などを含めたその場の状況を常に考慮している。従って、英語を適切に使用するには、個々の表現の持つ固有の意味だけでなく、使用される状況に関するそうした様々な情報を参照し有効に活用する必要がある。また、そうした場合、言語は情報伝達だけでなく、挨拶、依頼、約束、賞賛といった様々な社会的行為において必要不可欠な役割を果たしている。 授業では、こうした言語使用の場を念頭に置いて、単に表現の文法的・意味的特徴を調べるだけでなく、表現を適切に使用するための社会的・認知的事柄について考えていく。
到達目標	卒業研究作成に必要な意味論、語用論の知識と論文作成に必要な技術を身につける。
講義方法	実際に言葉が交わされる場面を考慮しながら英語の使い方を見ていくので、映画のシナリオなどの会話をテキストに用いる。演習形式の授業なので担当を決めて各自発表してもらい、その発表内容とレポートで評価する。
準備学習	発表者はハンドアウト等の資料を準備しておく。発表者以外も必ずテキストを読んでおくこと。
成績評価	出席 30%、レポート20%、試験50%
講義構成	テキスト後半、Unit6からUnit10を読む。 6. She's Gone 7. She's Back 8. Rude Awakening--Ain't No Sunshine 9. Like Me Again 10. The Right Decision--The Meaning of My Life is She
教科書	Richard Curtis (1999) Notting Hill 神谷久美子・Kim R. Kanel 編注 松柏社

参考書・資料	今井邦彦 (2001)『語用論への招待』東京:大修館書店 小泉保編 (2001)『入門語用論研究Ⅱ理論と応用』東京:研究社 毛利可信 (1980)『英語の語用論』東京:大修館書店 山梨正明 (1986)『発話行為』東京:大修館書店 Thomas, Jenny (1995) Meaning in Interaction: An Introduction to Pragmatics. London:Longman. (翻訳あり)
講義関連事項	「英語の意味Ⅱ」を受講していない人は必ず受講するようにしてください。

授業コード	12K08		
授業科目名	セミナーⅡb (大森)(後)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	Coming of Age in America: A Multicultural Anthology (1994)と題された短編集をテキストとする。タイトルにある“coming of age”とは、「成長する、大人になる」という意味である。伝統的にアメリカ文学が得意としてきた「成長物語」の20世紀版とも言える作品を集めた上記アンソロジーを読み、アメリカという同一の国に育ちながらも文化的背景を異にする作家たちが描き出すそれぞれの少年・少女期(and/or思春期)、そしてそれぞれのアメリカ像について比較検討する。
到達目標	文学作品を通じていわゆる「生きた英語」に触れ、読解力を向上させつつアメリカの多様性についての深い理解に到達する。
講義方法	例年のことながら、徹底した精読と、テーマ、表現方法などに関する討論を同時進行で行なう。英文解釈のレベルであれ作品解釈のレベルであれ、受講生が提起した解釈と疑問点をめぐってディスカッションが展開されるようなゼミにしたい。
準備学習	あらかじめ指定されたページ数についてレポーターとして指名された者はもちろんのこと、全員がしっかり予習をして自分なりの解釈や疑問点を整理したうえで授業に出席すること。また、異なる文化的背景を持つ作家たちの作品なので、作品を十分に理解するためにはアメリカの歴史や現状についての学習と調査を求められる場合もある。
成績評価	発表内容やディスカッションへの参加の度合い30% レポート30% 試験40%
講義構成	後期に読解と検討の対象とする予定の作品は以下のとおり。 ① “How the Garcia Girls Lost Their Accents” by Julia Alvarez ② “Marigolds” by Eugenia Collier ③ “Judgment Day” by Arturo Islas ④ “Going to School” by D’Arcy McNickle
教科書	前期と同じテキストを使用。

授業コード	12K09		
授業科目名	セミナーⅡb (中谷)(後)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜5限またはアポイントメント		

講義の内容	引き続き「語の意味とコンセプト」について考察する。詳しくは「セミナーⅡa」の内容を参照のこと。
到達目標	(1) ことばの構造についての基本的な学説を理解する。(2) 語の意味と文の構造との関係についての理解を深める。(3) 英語の論文がある程度読めるようになる。

講義方法	「セミナーIIa」と同様、基本的な文献を購読形式でいくつか読みすすめるが、後期は同時に、言語データを調査することによって重点に置く。 さらに、授業とは別に独自の研究を進めてもらい、随時中間報告レポートを書いてもらう。
準備学習	英語学関連の講義を(入門を含め)8単位以上履修済であることが強く推奨される。特に「英語のレキシコン」「英語の文法 I」を履修しておくことが望ましいが、セミナーとの並行履修でもかまわない。また、心理言語学(言語獲得・習得・言語理解)で卒論を書くものは「英語の獲得と理解」をかならず履修しておくこと。
成績評価	無断欠席無し、レポート/ショートペーパー/発表といった課題をすべてもれなくこなせば優がつけられる。レポート/ショートペーパーにはABCD評価が付き、Dは再提出となる。Aが多いと成績は秀にランクアップし、Cが多すぎると良にランクダウンする。期末試験も行うが、期末試験はレポート/ショートペーパーと同じ扱いである。また、無断欠席(事前報告のない欠席)、未提出レポート、発表サボリが1つあるごとに、成績は一段階ずつランクダウンする。3ランクダウンすると不可となるので注意されたい。 欠席について。無断欠席1回で1ランクダウンすることは上述したが、さらに、無断であるなしに関わらず、欠席が5回(授業回数の1/3以上)に達した場合も成績は1ランクダウンする。授業への貢献が不十分だと看做されるためである。さらに、欠席(無断であるなしに関わらず)が8回(授業回数半数以上)に達した場合、成績は自動的に不可とする。 3、4年次は就職活動などで欠席せざるをえない場合が出てくるかもしれないが、いずれにしても上記のルールを念頭において、体調を整え、「どうしてもやむを得ない場合」以外は欠席しないよう細心の注意を払うこと。
講義構成	1-4. Lexical decomposition continued 5-8. Structural alternations continued 9-12. Problems of polysemy 13-14. Workshop on lexical semantics 15. Final exam
教科書	開講時指定。
参考書・資料	Pinker (1989) Learnability and Cognition Jackendoff (1990) Semantic Structures Pustejovsky (1995) The generative lexicon. Levin (1993) English Verb Classes and Alternations 影山(編)(2001)『動詞の意味と構文』 など、随時指定する。

授業コード	12K10		
授業科目名	セミナーIIb (ライクロフト)(後)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	Thursday lunchtime. Other times by arrangement.		

講義の内容	The class will study British Children's Literature. Does it matter what kind of books children read? And how does reading affect their growth and development? Members of this seminar will read and discuss various types of children's books and stories, including many well-known classics.
到達目標	To understand the effect that reading can have on children's development, and to analyse and evaluate popular children's books.
講義方法	Students will be expected to take an active part in discussion. There will be reading assignments, and students will sometimes have to make 'prepared statements' on important topics. Every student must give a 20-minute presentation in the second semester of the third year. Fourth students will give a shorter presentation either at the end of the first semester or early in the second introducing their graduation topic and reporting on the progress of their research. You can't talk effectively about books until you have read them. Children's books may be easier to read than adult fiction, so you can be ambitious and read many books. You will keep a journal in which you will record a summary of class discussion and presentations. Students should aim high and try to write their graduation theses in English.

準備学習	Seminar students are expected research topics that interest them on their own. But written assignments may sometimes be given, and presentations must be thoroughly prepared using PowerPoint or Keynote if possible. Fourth year students will spend the second semester writing their graduation theses.
成績評価	Taking and active role in class, completing reading assignments on time and giving a good presentation will ensure a good grade in the third year. Fourth year students will be also graded on the effectiveness of their preparation for the graduation thesis and their success in meeting deadlines. They will be expected to give a presentation on the topic of their thesis in the second semester, and act as chairpersons and lead the questions for third year presentations. There is no examination. It goes without saying that regular attendance is expected.
講義構成	During the third year students read widely and consider a varied range of issues. These are some of the questions which will be discussed and which may provide a them for students' graduation theses: 1. What are the benefits of reading in the process of a child's intellectual and moral development? 2. Should children's books teach the child about real life, or simply provide entertainment and enjoyment? 3. Should children's literature provide a positive and safe view of the world, or should children be exposed to the darker and more cruel sides of life through stories they read? 4. Fairy stories contain not only supernatural elements, but also violence and death. Are they really suitable reading for young children? 5. Some traditional stories and novels written in the past present children with ideas about social class or the role of women which are not acceptable today. Should they be discouraged from reading stories which go against modern ideas of gender equality or democracy? 6. Some of the best loved books are about children growing up in difficult circumstances and overcoming their difficulties. Do such books offer real help and guidance to children? 7. Recently a number of award-winning books for teenagers in the U.K. deal with social and family problems in a frank and open way. But some parents believe it is their responsibility to teach their children about relationships between the sexes and do not approve of books who take over their role. Should children's fiction deal with 'difficult' issues? Fourth year students will concentrate on working for their graduation theses. In the past, students have written about The Brothers Grimm, Lewis Carroll, J. M. Barrie, Hans Andersen, Frances Hodgson Burnett, Beatrix Potter, A. A. Milne, J. R. Tolkein, C. S. Lewis, J. K. Rowling and Roald Dahl (to mention only a few). The subject should be decided early in the first semester, and a detailed plan must be completed by the beginning of the second semester.
教科書	There is an extensive library of several hundred books in both English and Japanese which has been specially created for the use of students in this seminar.
参考書・資料	Prints and videos will sometimes be used. Children's books are easily available in libraries, or quite cheaply from internet bookshops.
講義関連事項	Oral literature, myth, education, child psychology, and parenting.
担当者から一言	There are many fascinating approaches to the subject of Children's Literature and you are sure to find something which interests you. But you must be willing to read books in English.
その他	To write your graduation thesis in English would be a wonderful achievement, and members of this seminar are strongly encouraged to set themselves this goal.

授業コード	12K11		
授業科目名	セミナーIIb (安武)(後)		
担当者名	安武留美(ヤスタケ ルミ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal, that they are endowed by their Creator with certain unalienable rights, that among these are life, liberty, and the pursuit of happiness. (1776年、独立宣言の一節) 2008年のアメリカの大統領選挙の最終戦は、アメリカ史上初の黒人または女性大統領となるバラック・オバマ氏(民)とヒラリー・ロッドハム・クリントン氏(民)の一騎打ちとなった。結果は、皆さん後存知のとおり、オバマ氏が勝利し、アメリカ史上初の「黒人」大統領が誕生した。
-------	--

	「全ての人々(all men)」の平等、また自由や幸福となるための権利の保障を建国の理念するアメリカ合衆国において、女性が大統領に就任したことは未だなく、オバマ氏が史上初の非白人の大統領であることは、一考に値する。独立宣言に明記された基本的な権利の認められた「アメリカ市民」には、どのような人々が含まれ、どのような人々が含まれなかったのか、また歴史的に、その枠はどのように正当化、そして自然化されたのか。このゼミでは、そのような問題を考えるために、アメリカ社会を、移民や少数派(先住民、黒人、アジア系アメリカ人、ヒスパニック、女性)の視点で眺める。
到達目標	このセミナーの内容をふまえながら、各自が自由に選んだテーマで、卒業論文を完成する。
講義方法	授業では、学生の発表に基づいてクラスディスカッションが行われるが、それと平行して、資料の収集、論文の構成、執筆、推敲を各自で予定を立てて進行していく。
準備学習	課題文献を良く読み込んでおく。また、自分の発表には万全を期す。
成績評価	出席とディスカッションへの貢献度(30%)、クラス発表(30%)、レポート(40%)によって、総合的に判断される。
講義構成	開講後に作成される発表スケジュールに従って進める。
教科書	開講時に指示する。

授業コード	12008		
授業科目名	卒業研究		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)、ライクロフト(ライクロフト デビッド w.), 中島信夫(ナカシマ ノブオ)、中島俊郎(ナカジマ トシロウ)、青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)、大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)、井野瀬久美恵(イノセ クミエ)、福島彰利(フクシマ アキトシ)、秋元孝文(アキモト タカフミ)、安武留美(ヤスタケ ルミ)、中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	大学4年間の勉学・研究の総仕上げとして、学生各自が選んだ分野とテーマで英語または日本語の卒業論文を作成する。
到達目標	自分が選択したテーマについて深く研究する。
講義方法	それぞれの指導主任(セミナー担当教員)と1年間緊密に連絡をとりながら指導を受ける。5月下旬には題目提出、2009年1月上旬に卒業論文自体の提出が予定されている。詳細は履修要項を参照のこと。
準備学習	各指導の先生と相談すること。
成績評価	指導教員を主査とし、それ以外の教員1名または2名を副査として、複数の教員がそれぞれの論文を読んで口頭試問を行ない、合議により評価を決定する。口頭試問については2009年2月上旬を予定しているが、詳細なスケジュールは提出日以降に決まるので、指導教員に問い合わせること。
講義構成	科目の性質上講義形態を取らない。
教科書	各指導の先生と相談すること。

授業コード	12073		
授業科目名	ビジネス・イングリッシュI (前)		
担当者名	ミツダ(ミツダ ベンジャミン B.)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	Available by appointment and e-mail		

講義の内容	This student-centered course is for learners who want to practice and develop their basic listening and speaking skills for international business and survival purposes in a rapidly-changing and interdependent world. Classes will be conducted in English and students will be encouraged to take chances using English.
到達目標	Students will have chances to gain more confidence and effectiveness in English communication by actively practicing and seeking to first understand, then to be understood.

講義方法	From the start of the course, students will practice CONVERSATIONAL ENGLISH. In pairs and in groups, they will be asked to role play using model dialogs in business and social situations. They will also be encouraged to express their opinions on current topics.
準備学習	Previewing and reviewing unit materials and class assignments.
成績評価	Grades will be based on classwork, assignments, mini-presentations and a final review. Attending regularly (3 x late = 1 absence) and participating actively are important to get points. 評価方法・平常点30%・出席率30%・試験30%・その他10% (Homework and bonus points)
講義構成	Making telephone arrangements Getting to a meeting Socializing Dealing with problems Explaining culture Business plans and predictions Discussing current topics and activities; future plans and possibilities (To be considered)
教科書	Adams, Keith; Dovale, Rafael; GLOBAL LINKS 1 (English for International Business)
参考書・資料	Supplementary materials that are not required) (1) Iijima, Tai; INTRODUCTORY BUSINESS EIKAIWA (2) Covey Stephen R.; LIVING THE SEVEN HABITS (Stories of Courage and Inspiration)

担当者から一言	THREE POINTS TO REMEMBER IN THE CLASSROOM: 1. The GOAL is NOT to be PERFECT when communicating in English 2. The GOAL ALWAYS begins with "GO." 3. PPP = Practice, Practice, Practice (Pressure Plus Pleasure)
その他	"Nothing happens unless first a dream." (Carl Sandburg)

授業コード	12074		
授業科目名	ビジネス・イングリッシュII（後）		
担当者名	ミツダ(ミツダ ベンジャミン B.)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	Available by appointment and e-mail		

講義の内容	This higher-level communication course is for "proactive" and motivated learners of English who want to continue practicing and developing their writing, listening and speaking skills for international business and survival purposes.
到達目標	As students continue to "seek first to understand, then to be understood," it is hoped that they will become more confident and effective communicators by thinking about and discussing their viewpoints in English.
講義方法	A variety of current topics selected by the students and by the instructor will be explored and examined to find interconnections with business and their lives. Students will summarize materials, present opinions and receive comments followed by questions and answers. Audiovisuals such as scenes from movies, documentaries, news and business English programs will be introduced.
準備学習	Previewing and reviewing topic materials and class assignments.
成績評価	Evaluation will be done by continuous assessment based on assignments, class reports, interviews and

	presentations. Students are expected to attend regularly and participate actively. 評価方法・平常点30%・出席率30%・試験30%・その他10% (Homework and bonus points)
講義構成	Activities such as making summaries of resource materials, discussing updates of local and global news, viewing and discussing other issues of interest or relevance, making oral reports (presentations) on other current news, receiving and reviewing homework from previous topics.
教科書	The main textbook title and required reference materials will be announced at the start of the term.
参考書・資料	Adams, Keith; GLOBAL LINKS 2 (ENGLISH FOR INTERNATIONAL BUSINESS), Longman Albom, Mitch; TUESDAYS WITH MORRIE, Doubleday Covey, Stephen; FIRST THINGS FIRST / THE 8TH HABIT, Simon & Schuster, Free Press Gladwell, Malcolm; OUTLIERS (THE STORY OF SUCCESS), Little, Brown and Company Hesse, Stephen; TAKING SIDES, (Critical Thinking for Speech, Discussion and Debate) Obama, Barack; THE AUDACITY OF HOPE Moore, Michael; CAPITALISM / CORPORATIONS Rotella, Bob; LIFE IS NOT A GAME OF PERFECT FORBES GLOBAL/ ASIA; TIME; NEWSWEEK; INTERNATIONAL HERALD TRIBUNE; LONGMAN DICTIONARY OF CONTEMPORARY ENGLISH; COMMUNICATION BRIEFINGS (Idea Source for Decision Makers); CHICKEN SOUP FOR THE SOUL AT WORK (Stories of Courage, Compassion and Creativity in the Workplace); DON'T SWEAT THE SMALL STUFF Vox Populi, Vox Dei / The Asahi Weekly; The Daily Yomiuri; The Japan Times; The New York Times; The Washington Post Online; CNN; BBC These are suggested references. Resource materials will be selected and prepared by both the students and the instructor.
担当者から一言	P P P: Passion + Proactivity = Possibility (Practice, Practice, Practice!)
その他	Shoot For The Moon And Even If You Miss, You May Fall Among The Stars! (Norman Vincent Peale) Nothing great was ever accomplished without enthusiasm. (Ralph Waldo Emerson)

授業コード	12017		
授業科目名	ブリティッシュ・スタディーズI (前)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	水曜日12:15～12:45		

講義の内容	われわれが現在「イギリス」と呼ぶ国には、その正式名称に謳われた「連合王国」からわかるように、いくつかの民族の文化が融合している。また、「英連邦 British Commonwealth」の存在は、この国がけっして「島国」ではなかったことを物語る。こうした多様な要素がせめぎあったところに生まれ、発展したイギリス文化について、絵画や映画、演劇や音楽、スポーツなどを加えて読み解き、文字で書かれた資料の中身を豊かにしながら、文化を見る/考える/感じるための基礎的枠組みについて学ぶ。
到達目標	イギリスの歴史と文化を例にして、過去と現在を「対話」させる手法を学び、イギリスがどのような変化を経て現在の姿になったのか、具体的に語る言葉と方法を身につけ、それを他地域を見る目にも応用できるようにする。
講義方法	パワーポイント、文字資料(プリント配布)、そして口頭での説明という「三位一体」で講義をおこなう。パワーポイントで具体的なイメージを提示しながら、イングランド、ウェールズ、スコットランド、さらにはアイルランドという4つの王国の諸要素が混じり合うなかで、島国から帝国へと拡大した近代イギリス社会とその文化、人びとの考え方や物の見方、感性とその変化について、具体的に考えていく。その際、われわれを取り巻く現代世界との関わりをたえず念頭に置き、「過去と現在の対話」を試みたい。
準備学習	イギリス関係の時事問題やニュースを毎週チェックし、それが講義で語られる内容とどんな関係にあるのか、考える。

成績評価	試験(80%)、課題レポート(適宜提出、20%)だが、いずれの場合も、講義で得たイギリスの文化やそのイメージ、ならびにそれらの変化を「自分の言葉」でいかに表現するか——それが評価の大きなポイントとなる。
講義構成	以下のテーマを中心とするが、イギリスや旧英領植民地での出来事、国際情勢の変化などに対応して、内容を変更することもある。なお、＜2＞～＜8＞はそれぞれ2回に分けて講義することになっている。 ＜1＞「連合王国」と「イギリス」の間——プロローグ ＜2＞スコットランド——ジャコバイトの夢のゆくえ ＜3＞スコットランド——映画「プライヴハート」のメッセージ ＜4＞アイルランドの光と影——人口が減りつづける国 ＜5＞アイルランドの光と影——映画「麦の穂を揺らす風」とテロリズム ＜6＞ウェールズ——アーサー王伝説 ＜7＞ウェールズ——レッド・ドラゴンのゆくえ ＜8＞連合王国再編と大英帝国への道 ＜9＞グローバル化する世界における連合王国
教科書	適宜資料を配付する。
参考書・資料	井野瀬久美恵『大英帝国という経験』講談社(興亡の世界史16)2007年。 井野瀬久美恵編『イギリス文化史入門』昭和堂1994年。 井野瀬久美恵編『イギリス文化史』(2010年4月刊行予定) 河村貞枝・今井けい編『イギリス近現代女性史研究入門』青木書店2006年。
担当者から一言	歴史は「時間旅行」である。講義を「旅」として、知的に楽しんでもらいたい。

授業コード	12018		
授業科目名	ブリティッシュ・スタディーズⅡ（後）		
担当者名	井野瀬久美恵（イノセ クミエ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	われわれが現在「イギリス」と呼ぶ国の歴史と文化を、下記の4つの時空間、すなわち、①連合王国としてのイギリス、②ヨーロッパ史との関連、③環大西洋史として、④大英帝国の編成と再編成、から見直していく。この4つの時空間が多層的に絡み合うなかで、イギリス文化は想像され、創造されてきた。そこでせめぎあっていた階級や民族、ジェンダーなどの要素に着目しながら、イギリス文化を見る/考える/感じるための基礎的枠組みについて学ぶことにしたい。
到達目標	イギリスの歴史と文化を例にして、過去と現在を「対話」させる手法を学び、イギリスがどのような変化を経て現在の姿になったのか、具体的に語る言葉と方法を身につけ、それを他地域を見る目にも応用できるようにする。加えて、制度(システム)と文化との関係、文化史を分析する方法を身につけることを目標としたい。
講義方法	パワーポイント、テキスト、そして口頭での話という三位一体のなかで講義はおこなう。パワーポイントで具体的なイメージを提示しながら、時空間がさまざまに交錯するなかで、イギリスがその支配領域を帝国へと拡大していく近代以降を対象に、人びとの考え方や物の見方、世界観や人生観とその変化について、具体的に読み解いていく。とりわけ後期は、時代状況や出来事、人物を表現した絵画を題材にしながら、時代の感性を視覚的に捉え、立体的にイメージできるように配慮したい。
準備学習	講義の終わりに、次回の講義予告をおこなうので、その内容をテキストのなかに読み込み、次回の講義に臨むこと。また、前期同様、イギリス、ならびにかつてイギリスの支配を受けた国や地域の時事問題やニュースを意識的に集める作業も続けること。
成績評価	試験(80%)、課題レポート(適宜提出、20%)だが、いずれの場合も、講義で得たイギリスの文化やそのイメージ、ならびにそれらの変化を「自分の言葉」でいかに表現するか——それが評価の大きなポイントとなる。
講義構成	以下のテーマを中心とするが、イギリスや旧英領植民地での出来事、国際情勢の変化などに対応して、内容や講義順序を変更することもある。 ＜1＞プロローグ——文化史としてイギリスを語る意味 ＜2＞文化史というアプローチ ＜3＞宗教と文化 ＜4＞政治と文化 ＜5＞労働と文化 ＜6＞福祉と文化 ＜7＞教育と文化

	<8>イギリス料理はなぜまずい <9>イギリス人はなぜ演劇が好きなのか <10>イギリス的風景とは何か <11>女たちのイギリス <12>第一次世界大戦とイギリス社会の変貌 <13>帝国の逆襲?——悩めるイギリスと文化の再編 <14>ピートルズとマリー・クワントのイギリス <15>エピローグ——「イギリス人」とはだれなのか?
教科書	井野瀬久美恵(編)『イギリス文化史』昭和堂、2010年
参考書・資料	井野瀬久美恵『大英帝国という経験』講談社(興亡の世界史16)。 井野瀬久美恵編『イギリス文化史入門』昭和堂。 河村貞枝・今井けい編『イギリス近現代女性史研究入門』青木書店。
担当者から一言	歴史は過去と現代との対話である。講義を「時間旅行」として、知的に楽しんでもらえればほんとうにうれしい。

授業コード	12L11		
授業科目名	文学探訪Ia (1クラス)(前)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	Wednesday 12.20 – 12.55. Other times by arrangement.		

講義の内容	……An Introduction to the works of Charles Dickens.
到達目標	……To learn how Dickens used his unique power as a story-teller to show his readers how to live.
講義方法	……The class will make a study of one Dickens' best loved and most powerful novels, "Great Expectations". Extracts from other works will be introduced and discussed. Film versions of the novel will be shown and compared.
準備学習	……Students will be expected to read and prepare sections of the text before the class.
成績評価	……Written assignments and examinations will account for about 60% of the marks. Regular attendance and contribution to discussion will be necessary to earn the remaining 40%.
講義構成	……The class will follow the stages of the novels. Once the reading is complete, the class will look at the themes and impact of the novel as a whole.
教科書	……"Great Expectations" by Charles Dickens. Details of the edition to be used with be announced in the first class.
担当者から一言	……Konan has a long tradition of Dickens studies. "Great Expectations" is one of the best-loved novels in the English language. You are sure to enjoy it.

授業コード	12L12		
授業科目名	文学探訪Ia (2クラス)(前)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	金曜昼休み		

講義の内容	文学について研究したり論文を書いたりするためには、まず文学に慣れ親しむ必要がある。そして、願わくばそれが愉快的な経験であってほしいと思う。文学作品を読むという行為は、固定した意味をテキストから取り出すのではなく、自分で意味を作り出す行為である。あなたが読んで感じたこと、それこそがテキストが持つ意味なのだ。 この講義では「文学」について他のメディアとの比較等を通して「文学ってなに?」ということを考えるのを皮切りに、テキストとコンテキスト、語り手、視点など文学作品を読む際の道具をいくつか提供する。
-------	---

到達目標	文学作品に対する経験値を高め、抵抗をなくし、読解を楽しむための手法を身につける。
講義方法	われわれがイメージする「文学」にはいくつかの異なった相があるのではないだろうか。そこから「文学とは何か？」ということ、他のメディアとの比較などを通じて考え、初歩的な批評理論も学ぶ。 講義に関連した話題について意見を書くミニレポートを頻繁に課し、そこで出た意見をクラスで紹介することによって、双方向的な講義を目指したい。
準備学習	講義プリントを事前に読んでくるよう指示することがある。
成績評価	講義の際に書いて提出してもらいミニレポートなどを重視した上で、テストやレポートなどから総合的に評価する。 試験を受験しなかった場合、また期末レポートを課す場合には、レポートを提出しなかった場合に成績評価は「欠席」となります。
講義構成	1. 文学とは何か？ 2. 文学とマンガ、音楽、映画 3. テキストとコンテキスト 4. 作者って何？ 5. 語り手とは？ 6. 視点
教科書	プリントを配ります。

授業コード	12L21		
授業科目名	文学探訪Ib（1クラス）(後)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	Wednesday 12.20 – 12.55. Other times by arrangement.		

講義の内容	……An Introduction to the works of Charles Dickens.
到達目標	……To learn how Dickens used his unique power as a story-teller to show his readers how to live.
講義方法	……The class will make a study of one Dickens' best loved and most powerful novels, "Great Expectations". Extracts from other works will be introduced and discussed. Film versions of the novel will be shown and compared.
準備学習	……Students will be expected to read and prepare sections of the text before the class.
成績評価	……Written assignments and examinations will account for about 60% of the marks. Regular attendance and contribution to discussion will be necessary to earn the remaining 40%.
講義構成	……The class will follow the stages of the novels. Once the reading is complete, the class will look at the themes and impact of the novel as a whole.
教科書	……"Great Expectations" by Charles Dickens. Details of the edition to be used with be announced in the first class.

担当者から一言	……Konan has a long tradition of Dickens studies. "Great Expectations" is one of the best-loved novels in the English language. You are sure to enjoy it.
---------	--

授業コード	12L22		
授業科目名	文学探訪Ib（2クラス）(後)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限

特記事項	人間科学科「作品研究」と同時開講とする
オフィスアワー	金曜2:40-3:40
講義の内容	文学探訪Ⅰaの実践編になります。例年とは異なり、今年は半期をかけてひとつの作品について考察します。題材とするのは、19世紀の作家Herman Melvilleの短編“Bartleby, the Scrivener”です。作品の背景、作者についてなどいろいろな側面からこの作品について考えます。
到達目標	作品を読んで実際にそれに反応することでみなさんの文学的経験値を高め、前期で学んだポイントをもとに作品を解釈することを実践する。
講義方法	指定された作品を読んだ上で講義に参加してもらう。作品についての解釈や読み方を提供するのでそれに対する質問をみなさんに返してもらい、その応答で講義をつくっていく。場合によってはこちらから提示した論点について考察したミニレポートを提出してもらう。その意見の中からいくつかをクラスで紹介し、ふたたびみなさんに考えてもらうことによって双方向的な講義にしたい。作品に対して、自分なりの見方ができるようになってほしい。
準備学習	講義が始まるまでに確実に作品を読んでおくこと。
成績評価	質疑への参加度、講義の際に書いて提出してもらうミニレポートなどを重視した上でテストやレポートなどから総合的に評価する。
講義構成	1. コンテキストとしての作者：メルヴィルの伝記的背景。文学史的評価。 2. 語りの構造 3. 19世紀半ばのNY:ウォール街と資本主義 4. gentleman forgerとはなにか？ 6. デッドレターとは何か？読むことの不可能性など
教科書	ハーマン・メルヴィル「代書人、バートルビー」 日本語訳として http://www.campus.u-air.ac.jp/~gaikokugo/meisaku07/eBook/bartleby_h.pdf 原文 Herman Melville, Bartleby, the Scrivener http://www.enotes.com/bartleby-scrivener-text/bartleby-scrivener の「Download PDF」をクリックしてダウンロード。 上記二つをプリントアウトしたものを持参すること。
担当者から一言	・指定された作品は必ず読んで参加すること。 ・文学探訪Ⅰaを履修していなくても履修可能であるが、背景の理解のためにもaを履修済みのほうが望ましい。 ・講読Ⅲa②(木曜2時限)でこの作品を読むので、履修可能な者はそちらを受講して原文で作品を読んでおくことを勧める。

授業コード	12023		
授業科目名	文学探訪Ⅱa（前）		
担当者名	山本秀行（ヤマモト ヒデユキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
講義の内容	ヤンキー魂、開拓者精神、アメリカン・ドリームといった言葉で象徴されるアメリカ社会・文化の根幹をなすアメリカニズムはマスキュリニティ（男らしさ・男性性）という概念と切っても切れない関係ある。この講義では、アメリカにおける「男らしさ」の神話の成立過程の文化史的考察を行い、そうしたアメリカ社会におけるマスキュリニティの本質を探究するとともに、マスキュリニティという視点から、アメリカの社会と主流文学の関係について焦点を当てる。また、文学と他の文化メディア（映像・音楽・メディアなど）あるいは日本の社会・文学などと比較研究するなどして、文学に対する多角的なアプローチを試みる。		
到達目標	アメリカの文学はもちろんのこと、アメリカの社会・文化・メディアなどに対する広い興味を持つことができる。		
講義方法	まず、文学作品（主としてアメリカの主流の小説・戯曲）を原作にした映像資料を使って作品の概要を追いつつ、講義レジュメを配布し、作者の伝記的情報や文化的・歴史的背景などについて補足的説明をする。その後、原作と映画の違いやその違いの生じる原因などについて考察する。授業時間の後半に、リアクション・ペーパーにより、受講者の理解度を確認するとともに、受講者の意見を汲み取りたい。		

準備学習	授業で紹介するリーディング・リストに掲載されている文学作品はできるだけ多く読むようにすること。
成績評価	学年末テストに、平常点(出席状況、授業参加度、ブックレポートなど)を加味して、総合的に評価する。
講義構成	現代アメリカ文学におけるマスキュリニティ 1. イントロダクション 2. ホイトマン『草の葉』 3. メルビル『白鯨』『ビリー・バッド』 4. ジェイムズ『ある貴婦人の肖像』『ポストニアンズ』 5. フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』『夜はやさし』 6. ヘミングウェイ『日はまた昇る』『老人と海』 7. ミッチェル『風とともに去りぬ』 8. スタインベック『ハツカネズミと人間』 9. チャンドラー『ロング・グッドバイ』 10. ウィリアムズ『やけたタン屋根の猫』『去年の夏突然に』 11. カポーティ『ティファニーで朝食を』『冷血』 12. ジョン・アーヴィング『ガープの世界』 13. エリス『アメリカン・サイコ』 14. アニー・ブルー『シッピング・ニュース』『ブローックバック・マウンテン』
教科書	教科書は使用しない
参考書・資料	講義のリーディングリストの文献は、できるだけ多く読むようにして欲しい
講義関連事項	アメリカ文学研究、演劇研究、映画研究、大衆文化研究、ジェンダー研究、カルチュラル・スタディーズ。
担当者から一言	文学が好きな人はもちろん、演劇、映画、大衆文化が好きな人も歓迎します。

授業コード	12024		
授業科目名	文学探訪IIb（後）		
担当者名	山本秀行（ヤマモト ヒデユキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限

講義の内容	アメリカ社会の中で、肉体的・経済的・社会的ハンディキャップを負ったアジア系男性は、チャーリー・チャンやフー・マンチューのような非男性的なステレオタイプを小説や映画などによって押し付けられることによって、「従順で非男性的なオリエンタル(東洋人)」として「他者化」されてきた。この講義では、マスキュリニティ(男らしさ・男性性)という視点から、アメリカの現代社会とマイノリティ文学(特にアジア系アメリカ人の戯曲／演劇)の関係について焦点を当て、アジア系アメリカ人のマスキュリニティにまつわる問題点(アイデンティティ再構築、ホモフォビア、ステレオタイプとしてのブルース・リー、モデル・マイノリティ神話、イデオロギーとしてのアメリカ家族など)について考察する。また、文学と他の文化メディア(映像・音楽・マスメディアなど)あるいは日本の社会・文学などと比較研究するなどして、文学に対する多角的なアプローチを試みる。
到達目標	アメリカの主流文学だけでなくマイノリティの文学・演劇・文化を知り、アメリカの社会問題等に応い興味を持つことができる。
講義方法	毎回、教科書の一章ずつを範囲として読んできてもらい、Quiz形式で作品の概要や教科書の内容を確認する。さらに、講義レジュメを配布し、作者の伝記的情報や文化的・歴史的背景などについて補足的説明をするとともに、関連する映像資料を使って、受講者の興味と理解を高めたい。
準備学習	テキストの予習。
成績評価	学年末テスト(何でも持込可)に加えて、平常点(出席状況、Quiz、授業参加度など)を加味して、総合的に評価する。
講義構成	現代アメリカのマイノリティ(特にアジア系アメリカ人)の演劇・文学とマスキュリニティ 1. イントロダクション:「イエローフェイス」 2. 文学・演劇・映画におけるアジア系男性のステレオタイプ 3. 文学・演劇・映画におけるアジア系女性のステレオタイプ 4. 「第1章: アジア系アメリカ人男性の失われたマスキュリニティ」 5. 「第2章: アジア系男性の非男性的ステレオタイプに抗して」 6. 「第3章: アジア系男性ステレオタイプとしてのブルース・リー」 7. 「第4章: オルターナティブなマスキュリニティを求めて」 8. 「第5章: イデオロギーとしての《アメリカン・ファミリー》批判」

	9.「第6章:人種・ジェンダー・セクシュアリティ《神話》の脱構築」 10.「第7章:オリエンタリズムを越えて」 11.「第8章:パフォーマティヴなアイデンティティ/ジェンダー」 12.「第9章:《モデル・マイノリティ神話》に潜むマスキュリニティの不安とホモフォビア」 13.「第10章:アジア系男性の《フェミニスト的まなざし》」 14.「第11章:境界を越えるアジア系クイア演劇」
教科書	山本秀行『アジア系アメリカ演劇—マスキュリニティの演劇表象』(世界思想社)
参考書・資料	講義時に適宜、指示する。
講義関連事項	アメリカ研究、演劇研究、映画研究、大衆文化研究、マイノリティ研究、ジェンダー研究、カルチュラル・スタディーズ。
担当者から一言	もし、皆さんがアメリカで「アジア系アメリカ人」として生まれ、そこで育ち、生活をしなければならないとしたらどうでしょう？アジア系アメリカ人の演劇・文学を通して、アメリカ演劇・文学を身近なものとして感じてもらえたらと思います。 もちろん、文学が好きな人はもちろん、演劇、映画、大衆文化が好きな人も歓迎します。

授業コード	12R11		
授業科目名	ポキャブラリー・ビルディングI (1クラス)(前)		
担当者名	安武留美(ヤスタケ ルミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	英語の運用能力の基礎と言える語彙力アップのためのクラス
到達目標	一つの単語をただ闇雲に暗記するのではなく、派生語、接尾辞、接頭辞などに意識的になることで語彙力の拡張を図る。
講義方法	テキストの練習問題を一日一ユニット毎に展開していく。さらには、その応用として、学んだ単語を使った例文解説や、英作文などを行う。
準備学習	丁寧に単語を引き、例文の意味を理解しておく。
成績評価	出席および授業への貢献度(20%)、クイズ(30%)、期末試験(50%)
講義構成	1ガイダンス 2. unit 1 Number 3. unit 2 Prefix 4. unit 3 coming and going 5. unit 4 Where is it? 6. unit 5 the senses 7. unit1-5の復習 8. Unit 6 time 9. Unit 7 communication 10. Unit 8 Where is it?(2) 11. unit 9 soft actions 12. unit 10 All or nothing 13. Unit 6-10復習 14. 総復習テストの焦点 15. 前期テスト
教科書	書名: 語彙力養成の総合英語 出版社: 英潮社フェニックス 著者: Joe McKim

授業コード	12R12
授業科目名	ポキャブラリー・ビルディングI (2クラス)(前)
担当者名	鈴木淑美(スズキ トシミ)

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	本講義は、英語の運用能力の基礎と言える語彙力アップに焦点を絞る。派生語、接尾辞(suffix)、接頭辞(prefix)などに意識することによって、より英単語そのものの本質に近づくことが必要である。こうしたことに常に意識することを心がけるようにする。本講義ではそのような作業をするべく、本テキストの練習問題を通じて基礎を固めるだけにとどまらず、さらに例文作成、単語ノート作成などを通じて「ある動詞がどのような前置詞と共起し、どのような使われ方をするかを認識し、英単語能力拡張ということからさらに将来的な学術論文などを読解するような英文理解への足がかりとなるような応用力を高める。また単語小テストも随時行う。
到達目標	一つの単語における派生語、接尾辞、接頭辞などに意識することで語彙力の増加を目標とする。
講義方法	基礎的にはテキストの練習問題を一日一ユニット毎に展開していく。さらに応用的には単語派生、反意語、接尾辞、接頭辞などを応用して各自が例文作成を通じて単語ノート作成を行う。
準備学習	テキストの練習問題を事前にしておくこと。
成績評価	定期試験(50%)、小テスト(30%)、予習・出席状況(20%)
講義構成	1ガイダンス 2. unit 1 Number 3. unit 2 Prefix 4. unit 3 coming and going 5. unit 4 Where is it? 6. unit 5 the senses 7. unit1-5の復習 8. Unit 6 time 9. Unit 7 communication 10. Unit 8 Where is it?(2) 11. unit 9 soft actions 12. unit 10 All or nothing 13. Unit 6-10復習 14. 総復習テストの焦点 15. 前期テスト
教科書	書名: 語彙力養成の総合英語 出版社: 英潮社フェニックス 著者: Joe McKim
担当者から一言	語形成の観点から単語を習得していくと未知の単語でもその意味を推測できる力がつきます。積極的な取り組みを期待します。

授業コード	12R13		
授業科目名	ボキャブラリー・ビルディングI (3クラス)(前)		
担当者名	根之木朋貴(ネノキ トモキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	基本的には授業終了後		

講義の内容	本講義は、英語の運用能力の基礎と言える語彙力アップに焦点を絞る。具体的な到達目標は3000語以上レベルとするが、そのためには一つの単語をただ闇雲に暗記するだけではなく派生語、接尾辞(suffix)、接頭辞(prefix)などに意識することによって、より英単語そのものの本質に近づくことが必要である。こうしたことに常に意識することを心がけるようにする。本講義ではそのような作業をするべく、本テキストの練習問題を通じて基礎を固めるだけにとどまらず、さらに例文作成、単語ノート作成などを通じて「ある動詞がどのような前置詞と共起し、どのような使われ方をするかを認識し、英単語能力拡張ということからさらに将来的な学術論文などを読解するような英文理解への足がかりとなるような応用力を高める。
到達目標	一つの単語における派生語、接尾辞、接頭辞などに意識することで3000語レベル以上の語彙運用獲得を目標とする。
講義方法	基礎的にはテキストの練習問題を一日一ユニット毎に展開していく。 さらに応用的には単語派生、反意語、接尾辞、接頭辞などを応用して各自が例文作成を通じて単語ノート作成を行う。

準備学習	テキストの練習問題を事前にしておくこと。 また、本講義にとどまらず様々な英語に触れることで出会った重要単語などに意識的にするためワードノートなどの作成をしておくこと。
成績評価	定期試験(40%)、授業中の発表状況(30%)、課題などの提出物の状況と質(30%) さらに出席状況も考慮されるのは言うまでもない。
講義構成	1ガイダンス 2. unit 1 Number 3. unit 2 Prefix 4. unit 3 coming and going 5. unit 4 Where is it? 6. unit 5 the senses 7. unit1-5の復習 8. Unit 6 time 9. Unit 7 communication 10. Unit 8 Where is it?(2) 11. unit 9 soft actions 12. unit 10 All or nothing 13. Unit 6-10復習 14. 総復習テストの焦点 15. 前期テスト
教科書	書名: 語彙力養成の総合英語 出版社: 英潮社フェニックス 著者: Joe McKim
担当者から一言	本講義は全てパワーポイントで行いますので視覚的にどのような過程で一つの単語が形成されているのかが理解できます。また、本講義で得た多くのポイントは今後の英語学習の為に役立つものだと確信しますのでどうぞご期待ください。ともに頑張りましょう。

授業コード	12R21		
授業科目名	ボキャブラリー・ビルディングⅡ（1クラス）(後)		
担当者名	安武留美（ヤスタケ ルミ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	英語の運用能力の基礎と言える語彙力アップのためのクラス
到達目標	一つの単語をただ闇雲に暗記するのではなく、派生語、接尾辞、接頭辞などに意識的にすることで語彙力の拡張を図る。
講義方法	テキストの練習問題を一日一ユニット毎に展開していく。さらにその応用として、学んだ単語を使った例文解説や英作文などを行う。
準備学習	丁寧に単語を引き、例文の意味を理解しておく。
成績評価	出席および授業への貢献度(20%)、クイズ(30%)、期末試験(50%)
講義構成	1. ガイダンス 2. unit 11 Adjectives(1) 3. unit 12 the body 4. unit 13 the family 5. unit 14 strong action 6. unit 15 the world 7. unit11-15の復習 8. Unit 16 Adjectives(2) 9. Unit 17 soft actions(2) 10. Unit 18 actions and movement 11. unit 19 emotions and desires 12. unit 20 big numbers 13. Unit 16-20復習 14. 総復習テストの焦点 15. 後期テスト

教科書	書名: 語彙力養成の総合英語 出版社: 英潮社フェニックス 著者: Joe McKim

授業コード	12R22		
授業科目名	ボキャブラリー・ビルディングⅡ（2クラス)(後)		
担当者名	鈴木淑美(スズキ トシミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	本講義は、英語の運用能力の基礎と言える語彙力アップに焦点を絞る。資格試験、学術論文読解への足がかりとなるようにできるだけ多くの語彙力を培うことを到達目標とするが、そのためには一つの単語をただ闇雲に暗記するだけではなく派生語、接尾辞(suffix)、接頭辞(prefix)などに意識することによって、より英単語そのものの本質に近づくことが必要である。本講義では主としてこうしたことに常に意識することを心がけるようにする。また、本講義ではそのような語彙力増強をはかるべく、本テキストの練習問題を通じて基礎を固めるだけにとどまらず、さらに例文作成、単語ノート作成などを通じて「ある一つの動詞がどのような前置詞と共起し、どのような頻度でいかなる使われ方をするか」などを認識し、英単語能力拡張ということ枠組みからさらに将来的に、個々の専門分野に基づいた学術論文などを読解するような英文理解への足がかりとなるような応用力を高める。
到達目標	一つ一つの英単語の分析の仕方を身につけ、その単語における派生語、接尾辞、接頭辞などに意識することで英語の語彙を増やす。さらなる英文解読のための応用力を培う。
講義方法	基礎的にはテキストの練習問題を一日一ユニット毎に展開していく。さらにその応用としてある単語からの派生語、反意語、接尾辞、接頭辞などを応用することにより、各自が例文作成を通じて単語ノート作成を行う。さらに単語小テストなども随時行う。
準備学習	テキストの練習問題を事前にしておくこと。また、本講義にとどまらず様々な英語に触れることで出会った重要単語などに意識的にするためワードノートなどの作成をしておくこと。
成績評価	定期試験(50%)、小テスト(30%)、予習・出席状況(20%)
講義構成	1. ガイダンス 2. unit 11 Adjectives(1) 3. unit 12 the body 4. unit 13 the family 5. unit 14 strong action 6. unit 15 the world 7. unit11-15の復習 8. Unit 16 Adjectives(2) 9. Unit 17 soft actions(2) 10. Unit 18 actions and movement 11. unit 19 emotions and desires 12. unit 20 big numbers 13. Unit 16-20復習 14. 総復習テストの焦点 15. 後期テスト
教科書	書名: 語彙力養成の総合英語 出版社: 英潮社フェニックス 著者: Joe McKim
担当者から一言	語形成の観点から単語を習得していくと未知の単語でもその意味を推測できる力がつきます。積極的な取り組みを期待します。

授業コード	12R23		
授業科目名	ボキャブラリー・ビルディングⅡ（3クラス)(後)		
担当者名	根之木朋貴(ネノキ トモキ)		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	基本的には授業終了後		
講義の内容	本講義は、英語の運用能力の基礎と言える語彙力アップに焦点を絞る。資格試験、学術論文読解への足がかりとなるようにできるだけ多くの語彙力を培うことを到達目標とするが、そのためには一つの単語をただ闇雲に暗記するだけではなく派生語、接尾辞(suffix)、接頭辞(prefix)などに意識することによって、より英単語そのものの本質に近づくことが必要である。本講義では主としてこうしたことに常に意識することを心がけるようにする。また、本講義ではそのような語彙力増強をはかるべく、本テキストの練習問題を通じて基礎を固めるだけにとどまらず、さらに例文作成、単語ノート作成などを通じて「ある一つの動詞がどのような前置詞と共起し、どのような頻度でいかなる使われ方をするか」などを認識し、英単語能力拡張ということ枠組みからさらに将来的に、個々の専門分野に基づいた学術論文などを読解するような英文理解への足がかりとなるような応用力を高める。		
到達目標	一つ一つの英単語の分析の仕方を身につけ、その単語における派生語、接尾辞、接頭辞などに意識することで英語の語彙を増やす。さらなる英文解読のための応用力を培う。		
講義方法	基礎的にはテキストの練習問題を一日一ユニット毎に展開していく。 さらにその応用としてある単語からの派生語、反意語、接尾辞、接頭辞などを応用することにより、各自が例文作成を通じて単語ノート作成を行う。 さらに単語小テストなども随時行う。		
準備学習	テキストの練習問題を事前にしておくこと。 また、本講義にとどまらず様々な英語に触れることで出会った重要単語などに意識的にするためワードノートなどの作成をしておくこと。		
成績評価	基礎的にはテキストの練習問題を一日一ユニット毎に展開していく。 さらに応用的には単語派生、反意語、接尾辞、接頭辞などを応用して各自が例文作成を通じて単語ノート作成を行う。		
講義構成	1. ガイダンス 2. unit 11 Adjectives(1) 3. unit 12 the body 4. unit 13 the family 5. unit 14 strong action 6. unit 15 the world 7. unit11-15の復習 8. Unit 16 Adjectives(2) 9. Unit 17 soft actions(2) 10. Unit 18 actions and movement 11. unit 19 emotions and desires 12. unit 20 big numbers 13. Unit 16-20復習 14. 総復習テストの焦点 15. 後期テスト		
教科書	書名: 語彙力養成の総合英語 出版社: 英潮社フェニックス 著者: Joe McKim		
担当者から一言	本講義は全てパワーポイントで行いますので視覚的にどのような過程で一つの単語が形成されているのかが理解できます。また、本講義で得た多くのポイントは今後の英語学習の為に役立つものだと確信しています。どうぞご期待ください。ともに頑張りましょう。		

授業コード	12075		
授業科目名	翻訳セミナーI(前)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	翻訳を読んでいて何が言いたいのかよくわからずもどかしい思いをしながら自分の頭の悪さを嘆くことがよくあるが、内容が難しいわけでも、頭が悪いわけでもなく、翻訳がまずいことがその原因であることが多い。誤訳というわけではないが「まずい」のである。まずい訳は読者に対しても著者に対しても失礼である。 翻訳は著者の言わんとするところを可能な限り正確に日本語に移す作業であって単なる英文和訳ではない。この「事実」を頭に入れて翻訳のイロハを学ぶ。
到達目標	翻訳に必要な英語力と日本語力を身につける。
講義方法	前もって提出してもらった訳文の添削を通して翻訳のコツを説明しながら授業を進めていく。
準備学習	毎時間課題文の訳を前日までにメールで提出すること。
成績評価	毎時間の作業を重視し、平常点(50%)と期末試験(50%)に基づいて評価する。
講義構成	課題文を訳しながら、翻訳をするにあたって身につけておかなければならない以下の項目の処理方法を説明する。 ・語順 ・関係詞 ・話法 ・受動態と能動態 ・名詞中心文と動詞中心文 ・人称代名詞 ・接続詞 ・その他
教科書	安西徹雄『英文翻訳術』ちくま学芸文庫
参考書・資料	必要に応じて指示する。

授業コード	12076		
授業科目名	翻訳セミナーⅡ(後)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	翻訳を読んでいて何が言いたいのかよくわからずもどかしい思いをしながら自分の頭の悪さを嘆くことがよくあるが、内容が難しいわけでも、頭が悪いわけでもなく、翻訳がまずいことがその原因であることが多い。誤訳というわけではないが「まずい」のである。まずい訳は読者に対しても著者に対しても失礼である。 翻訳は著者の言わんとするところを可能な限り正確に日本語に移す作業であって単なる英文和訳ではない。この「事実」を頭に入れて翻訳のイロハを学ぶ。
到達目標	翻訳に必要な英語力と日本語力を身につける。
講義方法	前もって提出してもらった訳文の添削を通して翻訳のコツを説明しながら授業を進めていく。
準備学習	毎時間課題文の訳を前日までにメールで提出すること。
成績評価	毎時間の作業を重視し、平常点(50%)と期末試験(50%)に基づいて評価する。
講義構成	課題文を訳しながら、翻訳をするにあたって身につけておかなければならない以下の項目の処理方法を説明する。 ・語順 ・関係詞 ・話法 ・受動態と能動態 ・名詞中心文と動詞中心文 ・人称代名詞 ・接続詞 ・その他
教科書	安西徹雄『英文翻訳術』ちくま学芸文庫
参考書・資料	必要に応じて指示する。

授業コード	12053		
授業科目名	留学特別講座Ⅱ(前)		
担当者名	安武留美(ヤスタケ ルミ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限 火曜2限
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	留学する学生が留学先で専門科目を履修するケースを想定し、留学先での専門講義を乗り切れるよう、留学前の準備をサポートをするためのクラスである。
到達目標	1) 留学先で直面する大量の英語による情報をいかにプロセスするか、2) その情報に基づいてどのように自分の意見を組み立て説得力のあるエッセイを書くか、この2点について考え、そのテクニックを身につける。
講義方法	講義および学生の発表を中心に進める。講義および発表は日本語で行われるが、スライドやハンドアウトでは英語が中心となり、また提出課題・クイズ、試験はすべて英語で書いてもらう。
準備学習	教材として使用される文献のポイントを把握し、わからないところは授業の際に質問できるようにしておく。
成績評価	授業での態度、発表、クイズ、提出物、期末試験によって総合的に評価される。詳細は、開講時に指示する。
講義構成	最初に、TOEFLEの問題を取り組むことで、留学先ではどの程度の英語力と一般基礎知識を必要とされているのかを把握する。その後、留学先で歴史や社会、特に“class,” “gender,” “race,” “ethnicity”などをキーワードとする科目を履修するケースを想定して、文献の読んで要旨をまとめ、与えられた問いに答えるよう自分の議論を構成し、エッセイとしてまとめるという過程を実践する。
教科書	開講時に指示する。
講義関連事項	当「留学特別講座」は、留学直前の学生や将来の留学を計画している学生の履修を想定しているが、留学予定のない学生も履修することができる。また、1回の授業が3時間にわたって行われるので注意すること。

授業コード	12054		
授業科目名	留学特別講座Ⅲ		
担当者名	小林 剛(コバヤシ ゴウ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜5限)、後期(月曜5限)
特記事項	先着順30名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	【「留学特別講座Ⅲ」について】 当「留学特別講座Ⅲ」では、留学先で「Introduction to Cultural Studies」またはそれ相当の科目を履修するケースを想定している。英語圏でのCultural Studiesの入門教科書はすでにかかなりの数が出ているが、内容にはかなりばらつきがある。当科目では、その中でもポピュラー・カルチャーに焦点を当てた(当然英語で書かれた)テキストをいくつか概観する。 なお、当「留学特別講座Ⅲ」ではTOEFL対策は行わない。
到達目標	【留学特別講座シリーズ全般について】 「留学特別講座」シリーズ(I、II、III)は、これから留学する学生が留学先で専門科目を履修するケースを想定し、言葉の壁、内容の高度さ、課題の多さなど試練の多い留学先での専門講義を乗り切れるよう、留学前のサポートをする目的で開設されている。本講義シリーズでは、英語圏の大学の入門レベルの講義で使われるようなテキストを使い、留学先での入門レベルの授業を「先取り」する。 なお、当「留学特別講座」シリーズは、留学直前の学生や将来の留学を計画している学生の履修を想定しているが、留学予定のない学生も含め、誰でも履修することができる。 最後に、「留学特別講座」I、II、IIIはこの数字の順番に履修する必要はない。

講義方法	英語圏の授業では、「先生の言うことを大人しく耳に入れる」と言った受け身の態度では脱落する可能性が高い。そうではなく、「先生はこう言っているが、なぜそうなるのだろう」「先生はこう言っているが本当だろうか」「例外もあるのではなかろうか」など、授業の内容に能動的に自らをコミットするのが重要である。そうすることによって初めてトピックへの深い理解が得られるのだ。 この授業では、英語圏の大学でよく用いられているCultural Studiesのテキストをいくつか取り上げ、内容の理解に努めるが、一方的に講義するのではなく、頻繁に受講生に質問や課題を投げかけ、interactiveに授業を進める。そのことにより、物事に「疑問を投げかける」習慣をつけてもらう。これは結局「批評眼」という学問的に非常に重要な資質を養うことにつながるのである。
準備学習	日本語で文化研究の入門書を読んでおくことが望ましい。
成績評価	クラスでのディスカッションやプレゼンテーション、並びに期末レポートを総合的に評価して判断する。
講義構成	演習型・参加型の授業なので、特に「講義構成」というものは設けない。
教科書	複数のテキストから抜粋した部分をコピーして配布する。
ホームページタイトル	小林剛研究室
URL	http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~go/

授業コード	12T11		
授業科目名	ワークショップIa (1クラス)(前)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	指定されたクラスを自分で登録すること		
オフィスアワー	各教員に問い合わせてください		

講義の内容	最近ますます、英語による意志疎通能力の有無が進路・就職選択の際の大きなポイントとなってきています。TOEIC、TOEFL、英検等、各種の英語能力検定試験の名前を耳にすることが多くなったのもそのことの反映でしょう。 とりわけ英語英米文学科で学び始める皆さんの場合、卒業までの学習でどれだけ英語能力を身につけたかが問われます。カリキュラムのなかに、卒業検定試験として「コンプリヘンシブ・テスト」が必修化されているのはそのためです。そこで、この「ワークショップI」は、主としてTOEICタイプを念頭において、リスニング、文法、リーディングの対策・補強を目指す入門的な訓練の場とし、「コンプリヘンシブ・テスト」突破に向けての出発点とします。「コンプリヘンシブ・テスト」は3年次の必修ですが、3年次に当該テストに合格するには1年次からの計画性のある学習が必要です。是非この授業を活用してください。
到達目標	TOEICの問題形式に慣れる。
講義方法	1年生の皆さんは、TOEICタイプの試験について、右も左も分からないような状況かと思います。最初は平易なレベルからリスニング、文法、リーディングのexerciseに取り組んでいただき、それに対する解説を通じて形式に慣れてもらいます。その後徐々にexerciseのレベルを上げて行きます。また、小テスト、コンピュータを使ったインタラクティブ・エクササイズなどにより、実力を補強することになります。 1年生の段階でも、真面目にとりくめば3年次必修の「コンプリヘンシブ・テスト」合格の基準を突破することも可能です。一緒に頑張りましょう。 [注意] 授業を効果的にするため、国際言語文化センターが行なう「基礎英語」用のプレースメント・テストの結果を見て4つのクラスに分けます。第1回目の授業ではプレースメント・テストの結果がまだ出ていないので合同で授業を行ないますが(教室は掲示します)、そのとき授業の進め方などについての説明をすると同時に受講者数を確認しますので、必ず出席してください。プレースメント・テストの結果が出た第2週から、指定されたクラス(これも掲示します)で授業を受けてもらいます。
準備学習	毎時間指定された箇所を予習しておくこと。
成績評価	期末試験は、皆さんの学習成果を計る実力試験となります。授業全体の成績評価の60%とします。残り40%は、小テスト、出席、補助課題の提出状況などで決められます。 なお、本講義の期末試験の成績は後期の「ワークショップIb」のクラス分けに使われます。
講義構成	テキスト前半の各レッスンを、2週間程度かけて進む。 途中プリント等の教材を使用する。

	•Lesson 1 •Lesson 2 •Lesson 3 •Lesson 4
教科書	Multi-strategy Learning for the TOEIC Test. By Aaron Calcote, Nobuo Sakikawa, Shunichi Daito, Koichi Iwasaki, Mari Daito. 朝日出版社

授業コード	12T12		
授業科目名	ワークショップIa (2クラス)(前)		
担当者名	鷺尾順子(ワシオ ジュンコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	指定されたクラスを自分で登録すること		
オフィスアワー	各教員に問い合わせてください		

講義の内容	最近ますます、英語による意志疎通能力の有無が進路・就職選択の際の大きなポイントとなってきています。TOEIC、TOEFL、英検等、各種の英語能力検定試験の名前を耳にすることが多くなったのもそのことの反映でしょう。 とりわけ英語英米文学科で学び始める皆さんの場合、卒業までの学習でどれだけ英語能力を身につけたかが問われます。カリキュラムのなかに、卒業検定試験として「コンプリヘンシブ・テスト」が必修化されているのはそのためです。そこで、この「ワークショップI」は、主としてTOEICタイプを念頭において、リスニング、グラマー、リーディングの対策・補強を目指す入門的な訓練の場とし、「コンプリヘンシブ・テスト」突破に向けての出発点とします。「コンプリヘンシブ・テスト」は3年次の必修ですが、3年次に当該テストに合格するには1年次からの計画性のある学習が必要です。是非この授業を活用してください。
到達目標	TOEICの問題形式に慣れる。
講義方法	1年生の皆さんは、TOEICタイプの試験について、右も左も分からないような状況かと思います。最初は平易なレベルからリスニング、グラマー、リーディングのexerciseに取り組んでいただき、それに対する解説を通じて形式に慣れてもらいます。その後徐々にexerciseのレベルを上げて行きます。また、小テスト、コンピュータを使ったインタラクティブ・エクササイズなどにより、実力を補強することになります。 1年生の段階でも、真面目にとりくめば3年次必修の「コンプリヘンシブ・テスト」合格の基準を突破することも可能です。一緒に頑張りましょう。 [注意]授業を効果的にするため、国際言語文化センターが行なう「基礎英語」用のプレースメント・テストの結果を見て4つのクラスに分けます。第1回目の授業ではプレースメント・テストの結果がまだ出ていないので合同で授業を行ないますが(教室は掲示します)、そのとき授業の進め方などについての説明をすると同時に受講者数を確認しますので、必ず出席してください。プレースメント・テストの結果が出た第2週から、指定されたクラス(これも掲示します)で授業を受けてもらいます。
準備学習	毎時間指定された箇所を予習しておくこと。
成績評価	期末試験は、皆さんの学習成果を計る実力試験となります。授業全体の成績評価の60%とします。残り40%は、小テスト、出席、補助課題の提出状況などで決められます。 なお、本講義の期末試験の成績は後期の「ワークショップIb」のクラス分けに使われます。
講義構成	テキスト前半の各レッスンを、2週間程度かけて進む。 途中プリント等の教材を使用する。 •Lesson 1 •Lesson 2 •Lesson 3 •Lesson 4
教科書	Multi-strategy Learning for the TOEIC Test. By Aaron Calcote, Nobuo Sakikawa, Shunichi Daito, Koichi Iwasaki, Mari Daito. 朝日出版社

授業コード	12T13
-------	-------

授業科目名	ワークショップⅠa (3クラス)(前)		
担当者名	水本有紀(ミズモト ユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	指定されたクラスを自分で登録すること		
オフィスアワー	各教員に問い合わせてください		

講義の内容	最近ますます、英語による意志疎通能力の有無が進路・就職選択の際の大きなポイントとなってきています。TOEIC、TOEFL、英検等、各種の英語能力検定試験の名前を耳にすることが多くなったのもそのことの反映でしょう。 とりわけ英語英米文学科で学び始める皆さんの場合、卒業までの学習でどれだけ英語能力を身につけたかが問われます。カリキュラムのなかに、卒業検定試験として「コンプリヘンシブ・テスト」が必修化されているのはそのためです。そこで、この「ワークショップⅠ」は、主としてTOEICタイプを念頭において、リスニング、グラマー、リーディングの対策・補強を目指す入門的な訓練の場とし、「コンプリヘンシブ・テスト」突破に向けての出発点とします。「コンプリヘンシブ・テスト」は3年次の必修ですが、3年次に当該テストに合格するには1年次からの計画性のある学習が必要です。是非この授業を活用してください。
到達目標	TOEICの問題形式に慣れる。
講義方法	1年生の皆さんは、TOEICタイプの試験について、右も左も分からないような状況かと思います。最初は平易なレベルからリスニング、グラマー、リーディングのexerciseに取り組んでいただき、それに対する解説を通じて形式に慣れてもらいます。その後徐々にexerciseのレベルを上げて行きます。また、小テスト、コンピュータを使ったインタラクティブ・エクササイズなどにより、実力を補強することになります。 1年生の段階でも、真面目にとりくめば3年次必修の「コンプリヘンシブ・テスト」合格の基準を突破することも可能です。一緒に頑張りましょう。 [注意]授業を効果的にするため、国際言語文化センターが行なう「基礎英語」用のプレースメント・テストの結果を見て4つのクラスに分けます。第1回目の授業ではプレースメント・テストの結果がまだ出ていませので合同で授業を行ないますが(教室は掲示します)、そのとき授業の進め方などについての説明をすると同時に受講者数を確認しますので、必ず出席してください。プレースメント・テストの結果が出た第2週から、指定されたクラス(これも掲示します)で授業を受けてもらいます。
準備学習	毎時間指定された箇所を予習しておくこと。
成績評価	期末試験は、皆さんの学習成果を計る実力試験となります。授業全体の成績評価の60%とします。残り40%は、小テスト、出席、補助課題の提出状況などで決められます。 なお、本講義の期末試験の成績は後期の「ワークショップⅠb」のクラス分けに使われます。
講義構成	テキスト前半の各レッスンを、2週間程度かけて進む。 途中プリント等の教材を使用する。 ・Lesson 1 ・Lesson 2 ・Lesson 3 ・Lesson 4
教科書	Multi-strategy Learning for the TOEIC Test. By Aaron Calcote, Nobuo Sakikawa, Shunichi Daito, Koichi Iwasaki, Mari Daito. 朝日出版社

授業コード	12T14		
授業科目名	ワークショップⅠa (4クラス)(前)		
担当者名	神原由紀子(カンバラ ユキコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	指定されたクラスを自分で登録すること		
オフィスアワー	各教員に問い合わせてください		

講義の内容	最近ますます、英語による意志疎通能力の有無が進路・就職選択の際の大きなポイントとなってきています。TOEIC、TOEFL、英検等、各種の英語能力検定試験の名前を耳にすることが多くなったのもそのことの反映で
-------	---

	しょう。 とりわけ英語英米文学科で学び始める皆さんの場合、卒業までの学習でどれだけ英語能力を身につけたかが問われます。カリキュラムのなかに、卒業検定試験として「コンプリヘンシブ・テスト」が必修化されているのはそのためです。そこで、この「ワークショップⅠ」は、主としてTOEICタイプを念頭において、リスニング、グラマー、リーディングの対策・補強を目指す入門的な訓練の場とし、「コンプリヘンシブ・テスト」突破に向けての出発点とします。「コンプリヘンシブ・テスト」は3年次の必修ですが、3年次に当該テストに合格するには1年次からの計画性のある学習が必要です。是非この授業を活用してください。
到達目標	TOEICの問題形式に慣れる。
講義方法	1年生の皆さんは、TOEICタイプの試験について、右も左も分からないような状況かと思います。最初は平易なレベルからリスニング、グラマー、リーディングのexerciseに取り組んでいただき、それに対する解説を通じて形式に慣れてもらいます。その後徐々にexerciseのレベルを上げて行きます。また、小テスト、コンピュータを使ったインタラクティブ・エクササイズなどにより、実力を補強することになります。 1年生の段階でも、真面目にとりくめば3年次必修の「コンプリヘンシブ・テスト」合格の基準を突破することも可能です。一緒に頑張りましょう。 [注意]授業を効果的にするため、国際言語文化センターが行なう「基礎英語」用のプレースメント・テストの結果を見て4つのクラスに分けます。第1回目の授業ではプレースメント・テストの結果がまだ出ていないので合同で授業を行ないますが(教室は掲示します)、そのとき授業の進め方などについての説明をすると同時に受講者数を確認しますので、必ず出席してください。プレースメント・テストの結果が出た第2週から、指定されたクラス(これも掲示します)で授業を受けてもらいます。
準備学習	毎時間指定された箇所を予習しておくこと。
成績評価	期末試験は、皆さんの学習成果を計る実力試験となります。授業全体の成績評価の60%とします。残り40%は、小テスト、出席、補助課題の提出状況などで決められます。 なお、本講義の期末試験の成績は後期の「ワークショップⅠb」のクラス分けに使われます。
講義構成	テキスト前半の各レッスンを、2週間程度かけて進む。 途中プリント等の教材を使用する。 ・Lesson 1 ・Lesson 2 ・Lesson 3 ・Lesson 4
教科書	Multi-strategy Learning for the TOEIC Test. By Aaron Calcote, Nobuo Sakikawa, Shunichi Daito, Koichi Iwasaki, Mari Daito. 朝日出版社

授業コード	12T21		
授業科目名	ワークショップⅡb (1クラス)(後)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	指定されたクラスを自分で登録すること		
オフィスアワー	各教員に問い合わせてください		

講義の内容	ワークショップⅠaに続き、TOEICを中心に英語資格試験の対策を行い、3年次での「コンプリヘンシブ・テスト」突破の土台作りをします。詳細は「ワークショップⅠa」のシラバスを参照してください。 なお、クラス分けは前期試験の成績によって決められます。
到達目標	TOEICの問題形式に慣れる。
講義方法	「ワークショップⅠa」のシラバスを参照のこと。
準備学習	毎時間指定された箇所を予習しておくこと。
成績評価	「ワークショップⅠa」の評価方法に準じます。なお、本講義の期末試験の成績は2年次担当の「ワークショップⅡa」のクラス分けに使われます。
講義構成	テキスト後半の各レッスンを、2週間程度かけて進む。 ・Lesson 5

	•Lesson 6 •Lesson 7 •Lesson 8 •Lesson 9 •Lesson 10
教科書	「ワークショップⅠa」のテキストを継続使用。 Multi-strategy Learning for the TOEIC Test. By Aaron Calcote, Nobuo Sakikawa, Shunichi Daito, Koichi Iwasaki, Mari Daito. 朝日出版社

授業コード	12T22		
授業科目名	ワークショップⅡb (2クラス)(後)		
担当者名	鷺尾順子(ワシオ ジュンコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	指定されたクラスを自分で登録すること		
オフィスアワー	各教員に問い合わせてください		

講義の内容	ワークショップⅠaに続き、TOEICを中心に英語資格試験の対策を行い、3年次での「コンプリヘンシブ・テスト」突破の土台作りをします。詳細は「ワークショップⅠa」のシラバスを参照してください。 なお、クラス分けは前期試験の成績によって決められます。		
到達目標	TOEICの問題形式に慣れる。		
講義方法	「ワークショップⅠa」のシラバスを参照のこと。		
準備学習	毎時間指定された箇所を予習しておくこと。		
成績評価	「ワークショップⅠa」の評価方法に準じます。なお、本講義の期末試験の成績は2年次担当の「ワークショップⅡa」のクラス分けに使われます。		
講義構成	テキスト後半の各レッスンを、2週間程度かけて進む。 •Lesson 5 •Lesson 6 •Lesson 7 •Lesson 8 •Lesson 9 •Lesson 10		
教科書	「ワークショップⅠa」のテキストを継続使用。 Multi-strategy Learning for the TOEIC Test. By Aaron Calcote, Nobuo Sakikawa, Shunichi Daito, Koichi Iwasaki, Mari Daito. 朝日出版社		

授業コード	12T23		
授業科目名	ワークショップⅡb (3クラス)(後)		
担当者名	水本有紀(ミズモト ユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	指定されたクラスを自分で登録すること		
オフィスアワー	各教員に問い合わせてください		

講義の内容	ワークショップⅠaに続き、TOEICを中心に英語資格試験の対策を行い、3年次での「コンプリヘンシブ・テスト」突破の土台作りをします。詳細は「ワークショップⅠa」のシラバスを参照してください。 なお、クラス分けは前期試験の成績によって決められます。		
-------	--	--	--

到達目標	TOEICの問題形式に慣れる。
講義方法	「ワークショップⅠa」のシラバスを参照のこと。
準備学習	毎時間指定された箇所を予習しておくこと。
成績評価	「ワークショップⅠa」の評価方法に準じます。なお、本講義の期末試験の成績は2年次配当の「ワークショップⅡa」のクラス分けに使われます。
講義構成	テキスト後半の各レッスンを、2週間程度かけて進む。 ・Lesson 5 ・Lesson 6 ・Lesson 7 ・Lesson 8 ・Lesson 9 ・Lesson 10
教科書	「ワークショップⅠa」のテキストを継続使用。 Multi-strategy Learning for the TOEIC Test. By Aaron Calcote, Nobuo Sakikawa, Shunichi Daito, Koichi Iwasaki, Mari Daito. 朝日出版社

授業コード	12T24		
授業科目名	ワークショップⅠb（4クラス）(後)		
担当者名	神原由紀子(カンバラ ユキコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	指定されたクラスを自分で登録すること		
オフィスアワー	各教員に問い合わせてください		

講義の内容	ワークショップⅠaに続き、TOEICを中心に英語資格試験の対策を行い、3年次での「コンプリヘンシブ・テスト」突破の土台作りをします。詳細は「ワークショップⅠa」のシラバスを参照してください。 なお、クラス分けは前期試験の成績によって決められます。
到達目標	TOEICの問題形式に慣れる。
講義方法	「ワークショップⅠa」のシラバスを参照のこと。
準備学習	毎時間指定された箇所を予習しておくこと。
成績評価	「ワークショップⅠa」の評価方法に準じます。なお、本講義の期末試験の成績は2年次配当の「ワークショップⅡa」のクラス分けに使われます。
講義構成	テキスト後半の各レッスンを、2週間程度かけて進む。 ・Lesson 5 ・Lesson 6 ・Lesson 7 ・Lesson 8 ・Lesson 9 ・Lesson 10
教科書	「ワークショップⅠa」のテキストを継続使用。 Multi-strategy Learning for the TOEIC Test. By Aaron Calcote, Nobuo Sakikawa, Shunichi Daito, Koichi Iwasaki, Mari Daito. 朝日出版社

授業コード	12T31
授業科目名	ワークショップⅡa（1クラス）(前)
担当者名	神原由紀子(カンバラ ユキコ)

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	先着順40名（登録方法は時間割別表を参照のこと）		

講義の内容	「ワークショップⅠ」同様、TOEICタイプの英語能力試験のための対策講座である。 この授業では、readingでは特に文法、listeningではdictationやshadowingを中心に勉強し、TOEICの得点アップを目指す。
到達目標	TOEICの試験で時間を意識して問題に取り組む listeningでは、得点アップにつながる勉強の仕方を身につける readingではポイントをみていくことによって時間を短縮する 以上のことを目標としている
講義方法	「ワークショップⅠ」と同様、TOEICの出題傾向に慣れるため、時間を計ってTOEIC形式の練習問題に取り組み、その解説を行う。
準備学習	教科書の問題については、授業中に時間を計って一斉にするので、必ず教科書を持参すること。 毎回確認テストを授業のはじめにするので、前回勉強したことは必ず復習すること。 辞書を持参すること。
成績評価	定期試験50%、確認テスト30%、提出課題や宿題など20% 出席は授業の初めにとるので、その時にいなくて、かつ10分以内の遅刻を遅刻とし、それ以降は欠席とする。また、遅刻は2回で1回の欠席とする。そして、4回を超える欠席（遅刻も含む）をした場合は成績を評価しない。
講義構成	第1回：オリエンテーション Unit1 Travel 第2回：Unit1 Travel 第3回：Unit2 Daily Life 第4回：Unit2 Daily Life 第5回：Unit3 Health 第6回：Unit3 Health 第7回：Unit4 Eating Out 第8回：Unit4 Eating Out 第9回：Unit5 Events 第10回：Unit5 Events 第11回：Unit6 Entertainment 第12回：Unit6 Entertainment 第13回：Unit7 Media 第14回：Unit7 Media 第15回：試験 scheduleは変更する場合あり
教科書	The Next Stage to the TOEIC Test Pre-intermediate 金星堂 2000円

担当者から一言	教科書の問題についての質問や、TOEICの勉強についての質問など気軽にしてくださいね。
その他	私語は減点の対象とする。 注意しても直らない場合は退出を命ずる場合がある。 携帯電話は授業中はマナーモードにするか電源を切って鞆の中に入れておくこと。

授業コード	12T32		
授業科目名	ワークショップIIa（2クラス）(前)		
担当者名	牧木綿子(マキ ユウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	先着順40名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	ワークショップⅡに引き続く、TOEICタイプの試験対策講座です。3年次の必修科目「コンプリヘンシブ・テスト」に備えて、2年生の段階で目標点を突破しておきましょう。リーディング、リスニング力向上の基盤となるボキャブラ
-------	---

	リーを特に強化し、英語力をつけていきましょう。
到達目標	基本文法、基本ボキャブラリーを習得し、目標点を突破、もしくは近づくこと。
講義方法	TOEICの形式については1年生で履修したワークショップIで慣れていると思いますので、2年生では、テキストに加えてプリント教材を用いて、できるだけたくさん問題を短時間で解く練習をします。また、ボキャブラリー、リスニング、文法の弱点の強化を図ります。使用テキストには、コンピューター学習用のCD-ROMが添付されていますので、自宅で学習し、こなす問題量を増やします。
準備学習	宿題を毎回指示します。
成績評価	出席、授業への参加：20パーセント 宿題、小テスト：20パーセント 期末テスト：60パーセント
講義構成	基本的にテキストに沿って進めます。復習のための小テストの予定は授業内で指示します。
教科書	The Next Stage to the TOEIC Test（金星堂）
担当者から一言	大学内で年に何回かTOEICの公式試験が行われます。自分の現在の実力を知るために積極的に受験してください。担当者からも、日時等、できるだけお伝えします。

授業コード	12T41		
授業科目名	ワークショップIIb（1クラス）(後)		
担当者名	神原由紀子(カンバラ ユキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	先着順40名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	ワークショップⅡaに引き続き行われるものなので、前期と同じく、TOEICのlistening readingとバランスよく勉強していく。listeningであれば、特に、繰り返し発音したり、shadowingをしたりと、実際に声に出して練習をしていく。readingでは、文法問題の解き方や、長文でのとき方などをみていきたい
到達目標	TOEICの試験で時間を意識して問題に取り組む listeningでは、得点アップにつながる勉強の仕方を身につける readingではポイントをみていくことによって時間を短縮する 以上のことを目標としている
講義方法	実際のTOEICテストに備えるべく、時間を計って、演習問題を解いていき、その解説をしていく。
準備学習	教科書の問題については、授業中に時間を計って一斉にするので、必ず教科書を持参すること。 毎回確認テストを授業のはじめにするので、前回勉強したことは必ず復習すること。 辞書を持参すること。
成績評価	定期試験50%、確認テスト30%、提出課題や宿題など20% 出席は授業の初めにとるので、その時にいなくて、かつ10分以内の遅刻を遅刻とし、それ以降は欠席とする。また、遅刻は2回で1回の欠席とする。そして、4回を超える欠席（遅刻も含む）をした場合は成績を評価しない。
講義構成	第1回：Unit8 Office 第2回：Unit8 Office 第3回：Unit9 Personnel 第4回：Unit9 Personnel 第5回：Unit10 Finance 第6回：Unit10 Finance 第7回：Unit11 Sales Promotion 第8回：Unit11 Sales Promotion 第9回：Unit12 Purchasing 第10回：Unit12 Purchasing 第11回：Unit13 Employment 第12回：Unit13 Employment 第13回：Unit14 Training

	第14回: Unit15 Management 第15回: 試験 スケジュールは変更する場合がある
教科書	「ワークショップIIa(1クラス)」のテキストを引き続き使用。
担当者から一言	「ワークショップIIa(1クラス)」のテキストと同じものを使用するので、「IIa(1クラス)」を履修した人が継続して受講することが望ましい。
その他	私語は減点の対象とする。 注意しても直らない場合は退出を命ずる場合がある。 携帯電話は授業中はマナーモードにするか電源を切って鞆の中に入れておくこと。

授業コード	12T42		
授業科目名	ワークショップIIb（2クラス)(後)		
担当者名	牧木綿子(マキ ユウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	先着順40名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		

講義の内容	ワークショップIIに引き続く、TOEICタイプの試験対策講座です。3年次の必修科目「コンプリヘンシブ・テスト」に備えて、2年生の段階で目標点を突破しておきましょう。リーディング、リスニング力向上の基盤となるボキャブラリーを特に強化し、英語力をつけていきましょう。
到達目標	基本文法、基本ボキャブラリーを習得し、目標点を突破すること。
講義方法	前期に引き続き、テキストに加えてプリント教材を用いて、できるだけたくさん問題を短時間で解く練習をします。また、ボキャブラリー、リスニング、文法の弱点の強化を図ります。使用テキストには、コンピューター学習用のCD-ROMが添付されていますので、自宅で学習し、こなす問題量を増やします。また、2年生の後期では特に、TOEICの公開テストを受験しましょう。3年生になってから焦らないために。
準備学習	宿題を毎回指示します。
成績評価	出席、授業への参加:20パーセント 宿題、小テスト:20パーセント 期末テスト:60パーセント
講義構成	基本的にテキストに沿って進めます。復習のための小テストの予定は授業内で指示します。
教科書	The Next Stage to the TOEIC Test (金星堂)

担当者から一言	大学内で年に何回かTOEICの公式試験が行われます。自分の現在の実力を知るために積極的に受験してください。担当者からも、日時等、できるだけお伝えします。前期のテキストを引き続き使用しますので、続けて受講することが望ましい。
---------	---

授業コード	12067		
授業科目名	ワークショップⅢa（前）		
担当者名	鷺尾順子（ワシオ ジュンコ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	先着順40名（登録方法は時間割別表を参照のこと）		
オフィスアワー	火曜日16:30-17:00 非常勤講師控室（3号館2F北側〔山側〕突き当たり）		

講義の内容	3年次生の多くはすでに「ワークショップI、II」を履修し、TOEICの形式にもある程度なれてきていると思います。この講義は、そうした3年次生で自分の学習だけではまだ少し不安を感じている学生や得点を更に上げる為に引き続き授業という形で練習を重ねたい学生向けのものです。
到達目標	TOEIC 600点以上、既に到達している場合は50点以上の加点をめざしましょう！
講義方法	基本的にはI、IIと同様にTOEIC形式の練習問題に取り組んでもらい解説を行ないます。また、模擬テストの形式で、より本番に近い形での練習も重ねたいと思います。
準備学習	Vocabulary の予習、復習。配布されたHomeworkやSupplementary Workプリントの完成と見直し。その他、常に英語に触れていること！
成績評価	クラスでの授業への取り組み姿勢・出席状況・Homework等の得点を60%、期末に実施する試験の結果を40%として最終評価します。
講義構成	Listening, Reading各パートの練習問題を中心に解答し、解説を適宜加える。
教科書	初回の講義時に指示します。(プリント教材を講義中に配布)
担当者から一言	日々の積み重ねが大切です。講義の場を疑問解消の機会としても大いに利用して下さい。プリントの配布が多いのでA4ファイルを準備して、整理を心がけてくださいね！

授業コード	12068		
授業科目名	ワークショップIIIb (後)		
担当者名	鷺尾順子(ワシオ ジュンコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	先着順40名(登録方法は時間割別表を参照のこと)		
オフィスアワー	火曜日16:30-17:00 非常勤講師控室(3号館2F北側[山側]突き当たり)		

講義の内容	3年次生の多くはすでに「ワークショップI、II」を履修し、TOEICの形式にもある程度なれてきていると思います。この講義は、そうした3年次生で自分の学習だけではまだ少し不安を感じている学生や得点を更に上げる為に引き続き授業という形で練習を重ねたい学生向けのものです。
到達目標	TOEIC 600点以上、既に到達している場合は50点以上の加点をめざしましょう！
講義方法	基本的にはI、IIと同様にTOEIC形式の練習問題に取り組んでもらい解説を行ないます。また、模擬テストの形式で、より本番に近い形での練習も重ねたいと思います。
準備学習	Vocabulary の予習、復習。配布されたHomeworkやSupplementary Workプリントの完成と見直し。その他、常に英語に触れていること！
成績評価	クラスでの授業への取り組み姿勢・出席状況・Homework等の得点を60%、期末に実施する試験の結果を40%として最終評価します。
講義構成	Listening, Reading各パートの練習問題を中心に解答し、解説を適宜加える。
教科書	初回の講義時に指示します。(プリント教材を講義中に配布)
担当者から一言	日々の積み重ねが大切です。講義の場を疑問解消の機会としても大いに利用して下さい。プリントの配布が多いのでA4ファイルを準備して、整理を心がけてくださいね！

授業コード	13037		
授業科目名	NPO／NGO論（前）		
担当者名	宮垣 元(ミヤガキ ゲン)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	前期火・水曜の12時10分～13時がオフィスアワーですので、自由に来て頂いて結構です。それ以外の時間については、事前にメールで連絡をしてください。		

講義の内容	環境や国際援助、福祉や教育などをはじめ、様々な分野においてNPO(非営利組織)・NGO(非政府組織)が大きな役割を果たしており、その重要性は今後増すことが予想されている。これらの諸活動には、行政や企業に対する独自の有効性が期待されているが、その根拠や可能性は十分明確ではない。本講義の目的は、こうした「未知なる組織」であるNPOの実態を知り、今日の経済社会における意義を理解することにある。前半では、日本のNPOの歴史と実態などを整理しながら基本的知識を得る。後半では、ゲストスピーカーや個人・グループ作業などを通してNPOの設立・運営などの事例を検討し、その組織原理を学ぶ。
到達目標	NPO/NGOの運営ノウハウや制度的知識よりも、これらの活動や組織が、なぜ存在し、どのような有効性や可能性を持つかという点を自ら考え、理解することを目標としたい。
講義方法	1つのテーマについて1～2回程度の講義を行います。講義と平行して、ゲストスピーカーにも来て頂く予定です。また、クラス規模により可能であれば、個人発表、グループワークなどを行いたいと考えています(形態は受講者数により決定します)。具体的な進め方などは、第1回の授業でお話しますので、履修者は必ず第1回目に出席してください。
準備学習	予習は特に必要としないが、講義資料は事前にダウンロードし、講義内容を自らそれに補足しながら学習して欲しいと思います。なお、NPO/NGOの全体を15回の講義ですべて網羅することは困難であるため、講義ではいくつかの重要なポイントに絞って進めます。講義で紹介できない事例については、参考文献なども活用して下さい。
成績評価	数回の中間レポートと期末試験もしくは期末レポート(受講者数により決定)により総合的に行う。発表、グループワーク、ゲストスピーカーなど、授業への参加についても加味する。
講義構成	1. ボランティア元年からNPO・NGOへ(イントロ) ・NPOの概要と関連概念の基本的な考え方 ・NPO法と社会的基盤、中間支援組織 2. NPOとは何か ・理論的背景と「non」の悲劇 ・社会学におけるNPO ・経済学におけるNPO、など 3. NPOの現状 ・NPOの歴史(市民的公益活動の系譜) ・NPOの現状(NPO法人数の推移、活動分野ほか) ・NPOと組織(NPOの組織構造) 4. 事例研究 ・ボランティアとNPO ・ヒューマンサービス分野のNPO ・まちづくりとNPO、など 5. NPOの設立・運営・評価 ・NPOをつくる ・NPOをマネジメントする ・NPOを評価する 6. 情報社会におけるNPOの意義と課題(まとめ)
教科書	教科書は特に指定しない。参考文献・資料などは講義でも随時紹介する。また、必要な資料の配布を行うので、各自ファイルしておくこと。
参考書・資料	宮垣が執筆に関わったものとして以下の三冊を参考書としてあげておきます。 ・宮垣元『ヒューマンサービスと信頼：福祉NPOの理論と実証』慶應義塾大学出版会 ・平松・鶴飼・宮垣・星『社会ネットワークのリサーチメソッド(仮題)』ミネルヴァ書房 ・P. F. ドラッカー・G. J. スターン『非営利組織の成果重視マネジメント』ダイヤモンド社 また、講義では直接取り扱いませんが、入門書としては以下をおすすめします。 ・上條茉莉子・椎野修平編『NPO解体新書』公人社 ・山岡義典編『NPO基礎講座』ぎょうせい ・山岡義典編『NPO基礎講座2』ぎょうせい ・山岡義典編『NPO実践講座』ぎょうせい ・山岡義典編『NPO実践講座2』ぎょうせい ・山岡義典編『NPO実践講座3』ぎょうせい ・谷本寛治・田尾雅夫ほか編『シリーズ・NPO』ミネルヴァ書房
講義関連事項	本講義は文学部「地域連携科目」です。ゲストスピーカーをおよびする際は、受講生以外に地域の方なども聴講が可能です。
担当者から一言	ひとことで言うと「やることの多い授業」です。そのことをよく理解して受講してください。NPOやNGO、ボランティアに関心がある人、参加したい人など、意欲のある人を歓迎します。
ホームページタイトル	codeプロジェクト：甲南大学の地域活動取材活動のページです。実際の活動に関する調査活動に関心のある人は参考にして下さい。
URL	http://www.code.glab.org/

授業コード	13033		
授業科目名	映像文化論(映像文化論I) (後)		
担当者名	田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	火曜・水曜・木曜の昼休み、および木曜5限。必要な場合はメールで連絡すること。dtano@nifty.com		

講義の内容	情報化社会で暮らす私たちは、毎日大量の広告や宣伝に接しているが、そうした広告や宣伝が私たちにどのような影響を及ぼしているのかを理解するため、テレビショッピングやダイレクトメールの説得術、テレビCMの内容などを分析する。
到達目標	講義を通じて、広告や宣伝の読み解き方を身につけ、それらが私たちに及ぼす影響を理解することが目標である。
講義方法	講義は毎回配布するプリントと、適宜紹介する映像や資料を中心に進める。映像・資料を用いながら、できるだけわかりやすく解説するが、かなり踏み込んだ内容を含んでいるので、積極的な受講態度が望まれる。
準備学習	必要に応じて指示する。
成績評価	期末テスト70点、小レポート30点とし、講義内容の理解度、および問題意識の深さを評価する。
講義構成	(1) イントロダクション (2) メディアとは何か？ (3) ミミズ入りのハンバーガー？：うわさの社会学 (4)～(5) プロジェクトX：ニュースは娯楽である (6)～(7) 2ちゃんねる：情報化社会の現在と未来 (8)～(9) 注意散漫な視聴者：テレビショッピングの説得術 (10)～(11) 封を開けさせる：ダイレクトメールの説得術 (12)～(14) テレビCMを分析してみよう！ (15) まとめ
教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書・資料	アンソニー・プラトカニス／エリオット・アロンソン著『プロパガンダ：広告・政治宣伝のからくりを見抜く』（誠信書房、1998年）

授業コード	13T11		
授業科目名	家族社会学(家族社会学I) (A)(前)		
担当者名	野々山久也(ノノヤマ ヒサヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	文学部		
オフィスアワー	月・火(12:10～1:00)。そのほか必要があれば、電話078-435-2379やメール：nonoyama@konan-u.ac.jpなどにて予約してください。		

講義の内容	家族社会学は、社会学が研究の対象にする最も基礎的な領域、すなわち家族や結婚や夫婦関係や親子関係などを中心にして、その制度のあり方や集団のダイナミクスや生活スタイルのあり方について研究する分野である。この科目は、「社会学」を学ぼうとする学生諸君ならば、まず初歩的な段階で学習しておきたい科目である。この研究分野の高度な専門的知識に関しては、ここでは学習しない。
到達目標	この講義では、家族社会学に関しての高度な専門知識の学習を到達目標にはしていない。むしろ自分が育ってきた家族が一体、どのような家族であったのか、またこれから自分が形成していく家族がどのような家族であるといのか、などに関心のある学生諸君、そして家族や結婚について社会的により深い知識をもちたいと思っている学生諸君を対象にして、この授業の履修によって家族一般はもちろんのこと自分の家族の見方や家族との接し方が大きく変わることになることを到達目標にしている。
講義方法	現代家族について、とくにその集団という側面を中心にして講義形式で進めていく。おおむね1つのテーマを2～3回にわけて、具体的かつ詳細に解説していく。このことは現代家族について学習するとともに、家族社会学

	の分析方法についても学習していくことになる。具体的な事例や調査結果の提示を講義資料として活用する。
準備学習	My KONANに毎回、掲載される講義関連資料から各自資料をプリントアウトして呈示された資料をもとに前もって授業準備をしていくことが必須である。その他、新聞や雑誌などの家族に関連する情報を確認し、授業内容のテーマとともに家族や友人と議論を行なっておくこと。
成績評価	期末テスト(60分)を中心にして、その他の採点を加味して成績を総合評価する。授業中の私語は、減点対象になる。また授業中に数回のレポート提出を課す(未提出は、理由の如何にかかわらず0点と評価する)。提出は、すべて紙媒体(メールによる添付は不可)によること。提出先は、10号館7階の廊下にあるレポート・ボックスのうちの指示されたボックス番号に提出すること。
講義構成	1 家族社会学の基本概念 2 家族社会学の発展史 3 配偶者選択(恋愛・結婚)の過程 4 結婚と夫婦関係 5 子どもの社会化 (1) 核家族の自立化と子育て (2) 子育ての困り込み (3) 家族の遊び力 (4) 父親力の回復 6 家族の危機 7 家族の内部構造 (1) 分業構造 (2) 勢力構造 (3) 情緒構造 8 家族システムの視点 9 家族福祉の視点 10 家族の将来—21世紀型家族とは—
教科書	とくに特定の教科書を指定してはいない。授業のすすみ具合にそって、そのつど参考文献などを紹介していく。
参考書・資料	講義資料は、毎回、My KONAN の「講義関連資料」に掲載するので、つねに確認すること。なお、一応の参考文献は、以下のとおりである。 デヴィッド・チール著(野々山ほか訳)『家族ライフスタイルの社会学』ミネルヴァ書房 野々山久也著『家族の遊び力』ミネルヴァ書房 野々山久也著『現代家族のパラダイム革新』東京大学出版会 野々山久也編著『家族福祉の視点』ミネルヴァ書房 など。
講義関連事項	受講するにあたって持参すべき資料や連絡事項を、MY KONANの講義関連資料の欄に掲載するので、毎回、必ずチェックしてから授業に出席すること。それは授業の予習をしておくということでもある。
担当者から一言	
その他	とくに出席について毎回、点呼するようなことはしないが、登録する以上は、出席は当然の義務である。

授業コード	13T12		
授業科目名	家族社会学(家族社会学I) (B)(前)		
担当者名	安達正嗣(アダチ マサシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	他学部(2年次以上)		

講義の内容	家族社会学における主要な論点を取りあげながら、家族社会学の基本的な概念や考え方を解説して、個人、家族、社会の関係を理解するための能力を養うことを目的としている。本講義では、とくに法学部の学生のみが受講していることを考慮して、たとえば結婚行動や夫婦関係といったトピックスを用意することによって、法律と家族との関連を重視した講義をおこなうことにする。
到達目標	法学を学んでいくなかで、家族を理解することは不可欠である。法学部の学生が法学を学んでいくなかで、家族社会学的な考察をできるようにする。
講義方法	教科書として、野々山久也編著『論点ハンドブック 家族社会学』を用いる。 教科書を解説するだけではなく、新聞や統計資料などといったプリント教材、ビデオ(DVD)やインターネットのホームページなども活用しながら、家族社会学に対する理解が深まるように具体的に講義をおこなう。

	なお、講義中に個人をあてて、質問に答えてもらったり、意見を言ってもらったりすることがあるので、その心構えが必要となる。教室の後部に座っている学生を重点的にあてる予定である。
準備学習	教科書である『論点ハンドブック 家族社会学』をあらかじめ読んでおくことを前提として講義をおこなうので、その時間におこなう箇所については予告するので、必ず読んでおくこと。
成績評価	定期試験(100%)。ただし、講義中におこなった質問への答え、あるいは意見を考慮することもある。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回 家族研究の発端 第3回 家族分析の基礎 第4回 親族と地域社会 ① 第5回 親族と地域社会 ② 第6回 家族変動 ① 第7回 家族変動 ② 第8回 近代家族 ① 第9回 近代家族 ② 第10回 結婚とは何か ① 第11回 結婚とは何か ② 第12回 結婚行動 第13回 夫婦関係 ① 第14回 夫婦関係 ② 第15回 まとめ
教科書	野々山久也編著『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社、2009年(2500円+税)。
参考書・資料	適宜、指示する。
講義関連事項	後期科目「家族社会学Ⅱ(B)(後)」
担当者から一言	家族社会学Ⅰ(B)(前)と家族社会学Ⅱ(B)(後)は連続しており、教科書も同一なので、両方とも受講することが望ましい。 なお、私語をしている学生がいた場合には、何か述べたいことがあると判断して、その人を積極的に指名して質問をしたり意見を聞いたりします。
その他	法学を学んでいくうえで、家族の問題は避けられないと思いますので、関心をもって聴講してください。

授業コード	13W11		
授業科目名	現代家族論(家族社会学Ⅱ)(A)(後)		
担当者名	野々山久也(ノノヤマ ヒサヤ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	文学部		
オフィスアワー	月・火(12:10～1:00)。そのほか必要があれば、電話078-435-2379やメール: nonoyama@konan-u.ac.jpなどにて予約してください。		

講義の内容	この科目は、家族社会学Ⅰを履修し終えた学生たちに開講されており、より高度な現代家族社会学についての諸理論の学習を目的としている。本年度は、とくにレファレンス・ブック『論点ハンドブック家族社会学』(世界思想社)をテキストとして活用して講義を進めていく。このテキストは、家族社会学の命題や論争点をそれぞれ4ページにわたって、要領よく解説している。テキストにしたがって学習を進めていく。
到達目標	家族社会学におけるそれぞれの論争に関して何が焦点であって、どんな内容の論争が展開されたのかを詳細に学んでいく。そして、そのような論争が何を意味していたのかを今日的な視点で改めて問い直していく。そのことが学習できれば、目標の達成である。
講義方法	必要な項目を1回の講義において4項目(論点)ほどを選択して講義していく。テキストに収録されている論点(項目)は、合計80項目である。全体で14回ほどの講義回数として、1回に4項目であれば、56項目ほど学習できる。できるだけ多くの項目を確実に学習していきたい。そうすることで、ほぼ今日的な家族社会学の理論的な全体像を学習することができることになる。
準備学習	この科目は、家族社会学Ⅰをすでに学習してきていることを前提にして授業を進めていく。したがって、すでに家族社会学Ⅰを履修してきていることが条件になる。なお、この科目は、テキストを用いて講義を進めていく。したがって、授業に出席するためには、前もってテキストを読んで出席すると、一段と講義内容の理解が容易になるはずである。

成績評価	期末テスト(60分)を中心にして、その他の採点を加味して成績を総合評価する。授業中の私語は、減点対象になる。また授業中に数回のレポート提出を課す(未提出は、理由の如何にかかわらず0点と評価する)。提出は、すべて紙媒体(メールによる添付は不可)によること。提出先は、10号館7階の廊下にあるレポート・ボックスのうちの指示されたボックス番号に提出すること。																																									
講義構成	<table><tr><td>1 家華族研究の発端</td><td>21 結婚行動の動向</td></tr><tr><td>2 家族普遍性</td><td>22 結婚行動の動機</td></tr><tr><td>3 家族の定義づけ</td><td>23 結婚適齢期</td></tr><tr><td>4 制度としての家族の多様性</td><td>24 結婚の安定性</td></tr><tr><td>5 集団としての家族の多様性</td><td>25 夫婦の勢力関係</td></tr><tr><td>6 家族研究の分析方法</td><td>26 伝統的な夫婦の勢力関係</td></tr><tr><td>7 家族と一般システム理論</td><td>27 性別役割分業の原型</td></tr><tr><td>8 家族類型の収斂</td><td>28 子どもの社会化</td></tr><tr><td>9 家族機能の変化</td><td>29 伝統的な子育て</td></tr><tr><td>10 核家族の自立化</td><td>30 子どもの基本的社会化</td></tr><tr><td>11 研究単位としての核家族</td><td>31 階層再生産と家族</td></tr><tr><td>12 夫婦制家族イデオロギー</td><td>32 ライフコースと家族</td></tr><tr><td>13 近代家族の特性</td><td>33 生活嗜好と家族ライフスタイル</td></tr><tr><td>14 女性の雇用労働化</td><td>34 フェミニズムと家族</td></tr><tr><td>15 結婚の定義づけ</td><td>35 制度としての離婚</td></tr><tr><td>16 結婚の類型化</td><td>36 離婚行動の抑止要因</td></tr><tr><td>17 伝統的な結婚</td><td>37 離婚率の変化</td></tr><tr><td>18 制度としての結婚</td><td>38 再婚後の家族関係</td></tr><tr><td>19 配偶者選択の過程</td><td>39 老親と世代関係</td></tr><tr><td>20 結婚と家族形成</td><td>40 高齢者ケアと家族</td></tr></table>		1 家華族研究の発端	21 結婚行動の動向	2 家族普遍性	22 結婚行動の動機	3 家族の定義づけ	23 結婚適齢期	4 制度としての家族の多様性	24 結婚の安定性	5 集団としての家族の多様性	25 夫婦の勢力関係	6 家族研究の分析方法	26 伝統的な夫婦の勢力関係	7 家族と一般システム理論	27 性別役割分業の原型	8 家族類型の収斂	28 子どもの社会化	9 家族機能の変化	29 伝統的な子育て	10 核家族の自立化	30 子どもの基本的社会化	11 研究単位としての核家族	31 階層再生産と家族	12 夫婦制家族イデオロギー	32 ライフコースと家族	13 近代家族の特性	33 生活嗜好と家族ライフスタイル	14 女性の雇用労働化	34 フェミニズムと家族	15 結婚の定義づけ	35 制度としての離婚	16 結婚の類型化	36 離婚行動の抑止要因	17 伝統的な結婚	37 離婚率の変化	18 制度としての結婚	38 再婚後の家族関係	19 配偶者選択の過程	39 老親と世代関係	20 結婚と家族形成	40 高齢者ケアと家族
1 家華族研究の発端	21 結婚行動の動向																																									
2 家族普遍性	22 結婚行動の動機																																									
3 家族の定義づけ	23 結婚適齢期																																									
4 制度としての家族の多様性	24 結婚の安定性																																									
5 集団としての家族の多様性	25 夫婦の勢力関係																																									
6 家族研究の分析方法	26 伝統的な夫婦の勢力関係																																									
7 家族と一般システム理論	27 性別役割分業の原型																																									
8 家族類型の収斂	28 子どもの社会化																																									
9 家族機能の変化	29 伝統的な子育て																																									
10 核家族の自立化	30 子どもの基本的社会化																																									
11 研究単位としての核家族	31 階層再生産と家族																																									
12 夫婦制家族イデオロギー	32 ライフコースと家族																																									
13 近代家族の特性	33 生活嗜好と家族ライフスタイル																																									
14 女性の雇用労働化	34 フェミニズムと家族																																									
15 結婚の定義づけ	35 制度としての離婚																																									
16 結婚の類型化	36 離婚行動の抑止要因																																									
17 伝統的な結婚	37 離婚率の変化																																									
18 制度としての結婚	38 再婚後の家族関係																																									
19 配偶者選択の過程	39 老親と世代関係																																									
20 結婚と家族形成	40 高齢者ケアと家族																																									
教科書	野々山久也(編著)『論点ハンドブック家族社会学』世界思想社、2009年																																									

授業コード	13W12		
授業科目名	現代家族論(家族社会学Ⅱ)(B)(後)		
担当者名	安達正嗣(アダチ マサシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	他学部(2年次以上)		

講義の内容	家族社会学における主要な論点を取りあげながら、家族社会学の基本的な概念や考え方を解説して、個人、家族、社会の関係を理解するための能力を養うことを目的としている。本講義では、とくに法学部の学生のみが受講していることを考慮して、たとえば離婚や家族政策といったトピックスを用意することによって、法律と家族との関連を重視した講義をおこなうことにする。
到達目標	法学を学んでいくなかで、家族を理解することは不可欠である。法学部の学生が法学を学んでいくなかで、家族社会学的な考察をできるようにする。
講義方法	教科書として、野々山久也編著『論点ハンドブック 家族社会学』を用いる。 教科書を解説するだけではなく、新聞や統計資料などといったプリント教材、ビデオ(DVD)やインターネットのホームページなども活用しながら、家族社会学に対する理解が深まるように具体的に講義をおこなう。 なお、講義中に個人をあてて、質問に答えてもらったり、意見を言ってもらったりすることがあるので、その心構えが必要となる。教室の後部に座っている学生を重点的にあてる予定である。
準備学習	教科書である『論点ハンドブック 家族社会学』をあらかじめ読んでいることを前提として講義をおこなうので、その時間におこなう箇所については予告するので、必ず読んでおくこと。
成績評価	定期試験(100%)。ただし、講義中におこなった質問への答え、あるいは意見を考慮することもある。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回 生殖行動 第3回 子育てと子どもの社会化 ① 第4回 子育てと子どもの社会化 ② 第5回 階層と職業 第6回 家族危機 第7回 家族と個人 ① 第8回 家族と個人 ②

	第9回 離婚 ① 第10回 離婚 ② 第11回 世代間関係 第12回 家族問題 ① 第13回 家族問題 ② 第14回 家族政策 ① 第15回 家族政策 ②
教科書	野々山久也編著『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社、2009年(2500円+税)。
参考書・資料	適宜、指示する。
講義関連事項	前期科目「家族社会学Ⅰ(B)(前)」
担当者から一言	家族社会学Ⅰ(B)(前)と家族社会学Ⅱ(B)(後)は連続しており、教科書も同一なので、両方とも受講することが望ましい。 なお、私語をしている学生がいた場合には、何か述べたいことがあると判断して、その人を積極的に指名して質問をしたり意見を聞いたりします。
その他	法学を学んでいくうえで、家族の問題は避けられないと思いますので、関心をもって聴講してください。

授業コード	13047		
授業科目名	カルチャー領域特論I（前）		
担当者名	竹田京二（タケダ キョウジ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	[事前登録]初回講義にてオリエンテーション・面接を実施 初回に出席しなければ受講はできない		
講義の内容	映像の根幹となるシナリオ。 ビデオカメラの操作と撮影の基礎。 インタビュー録音。 ビデオ編集。 フィールドワーク等での記録。		
到達目標	シナリオの作成。 映像、音声、コミュニケーション技術を総合的に捉え、ビデオ、オーディオ機器の基本操作を修得する。 シナリオに沿った撮影、録音、編集の方法及び各操作に関する注意点、トラブル対処法などの実践。 パソコンで行うビデオ編集の修得。 フィールドワーク等での記録、発表。		
講義方法	ビデオ機材の構造と使用方法の解説。 テキストを参考にして、ビデオ機材の使用実技。 シナリオの構成と作成方法を解説。 基本映像の鑑賞。		
準備学習	ビデオ作品として作成したいテーマ（作りたいもの）を確定してください。		
成績評価	ビデオ作品およびシナリオ作品の評価。		
講義構成	①オリエンテーション 授業の概要と進め方。学内の実習設備等を説明。先輩の優秀作品を鑑賞。 ②映像の歴史 黎明期の映画を鑑賞 ③映像制作の過程と企画 映像制作の過程を解説。企画の例を挙げる。 ④シナリオ シナリオは映像の根幹であることを認識。シナリオの構成を講義。 ⑤絵コンテ 絵コンテを作成する利点と絵コンテによる撮影方法を講義。 ⑥ノンリニア編集機Ⅰ パソコンで行うビデオ編集の原理。 ⑦ノンリニア編集機Ⅱ パソコンで行うビデオ編集の実習。		

	⑧ノンリニア編集機Ⅲ 音楽とデジタル写真の読み込み方法を講義。 ⑨撮影 カメラと三脚の基本操作を解説および実技。 ⑩レンズ 広角レンズと望遠レンズの特性を解説および実験。 ⑪録音 マイクロフォンの種類と性質を解説。インタビューの実技。 ⑫効果音楽 効果音楽の解説と作品鑑賞。 ⑬DVDの作成 ⑭PowerPointにビデオ映像をペーストする。
教科書	竹田が作成したテキストを配布します。

授業コード	13041		
授業科目名	環境文化論（前）		
担当者名	乾 清可（イヌイ サヤカ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜3限 土曜4限
特記事項	変則日程で開講するので注意すること		

講義の内容	高度に複雑化した日常生活の中で見えにくくなっている、私達を取り巻くさまざまな環境の問題について考えます。水、住居、食、ゴミ、風景などの身近な主題をてがかりに、日本だけでなくヨーロッパ、アメリカ合衆国、南アメリカ、アフリカの国々の具体的な例を挙げ比較、考察します。
到達目標	人間文化と環境の関係についての理解を深めます。
講義方法	異なる地域や時代の事例が具体的に理解できるよう、ビデオや写真資料などを多く利用し、みなさんとの意見交換を大切にしながら授業を進めていきます。
準備学習	新聞、雑誌、インターネットなどで環境に関連する様々な話題を意識して読み、収集する（6月19日の授業で利用します）。
成績評価	毎回授業の最後に提出してもらった小レポート60%、授業中に行われる課題や宿題40%、発表・その他10%を総合して評価します。
講義構成	01回（5/29）授業計画の説明ーはじめに 02回（5/29）洗濯方法から見てくる環境と文化の関係 03・04回（6/5）上下水道の歴史ー水売りから養分の再利用まで 05・06回（6/12）「きれいな」水と「きたない」水ー現代人と水の関係 07回（6/19）土地は誰のものかー湖岸を散歩する権利を求めて：レマン湖の例 08回（6/19）今何が問題になっているのか 09回（6/26）住宅と環境問題ー古い家ほど価値がある：フランスの例 10回（6/26）ゴミと人の関係史 11回・12回（7/3）遠い食物と近い食物ー食文化と環境の問題 13回（7/10）水辺風景の歴史とその変化ーセーヌ川岸を例に 14回（7/10）環境と文化まとめ
教科書	使用しません。
参考書・資料	嘉田由紀子『環境社会学』2002年 岩波書店（環境学入門9） 鶴見良行『バナナと日本人』1982年 岩波新書 村井吉敬『エビと日本人』1988年 岩波新書 ＊この他にも本や資料など授業中に逐次紹介します。
講義関連事項	試験や期末レポートがない分、出席と授業への積極的な参加や、出された宿題にどれだけ熱心に取り組むかが評価の大切なポイントになります。

担当者から一言	何気なく過ぎてゆく日常の生活を、異なった視点から見直す良い機会になればと思っています。
その他	質問がある人は授業の後、またはmailでお願いします（アドレスは授業のはじめにお知らせします）。

授業コード	13042		
授業科目名	現代文化論(現代文化論I)(後)		
担当者名	永井純一(ナガイ ジュンイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	本講義では現代文化としてポピュラー音楽をとりあげる。20世紀を通じて発展してきたポピュラー音楽は、われわれの日常生活において非常に身近なものであるが、アカデミックな、あるいはジャーナリスティックな視点から注目したとき、「メディア」「社会構造」「民族性」など、さまざまなテーマを見出すことができる。本講義ではそれらに関わるいくつかのトピックを取り上げ、社会学を中心に、音楽を扱った研究を紹介しつつ、広く社会と音楽の関連について考察する。
到達目標	ポピュラー音楽を、単なる楽しみとして終わらせるのではなく、それをきっかけとして、社会を読み解く、何かについて考えるための視点や意識を持つことを最終的な到達目標とする。
講義方法	講義形式。 音源・映像資料を適宜用いる。
準備学習	講義内容に関するテーマや音源について調べておく。
成績評価	期末テストによる評価。
講義構成	第1回 はじめに 第2回 ポピュラー音楽と聴衆 第3回 Jポップ論1 第4回 Jポップ論2 第5回 Jポップ論3 第6回 音楽のデジタル化 第7回 フェスティバル 第8回 サウンドとイメージ(ビデオクリップ) 第9回 音楽の社会的影響 第10回 ブリットポップとクールブリタニア 第11回 ジェンダー、セクシュアリティと音楽 第12回 音楽とアイデンティティ——沖縄音楽 第13回 ジャマイカ・ピース・コンサート 第14回 震災と音楽 第15回 まとめ
教科書	使用しない。
参考書・資料	キース・ニーガス著・安田 昌弘訳『ポピュラー音楽理論入門』(水声社、2004)。 三井徹編訳『ポピュラー・ミュージック・スタディーズ——人社会学の最前線』(音楽之友社、2005) 小川博司『音楽する社会』(勁草書房、1988) ジェイソン・トインビー 著・安田 昌弘 訳『ポピュラー音楽をつくる』(みすず書房、2004)。 その他、講義内で適宜指示する。

授業コード	13051		
授業科目名	現代文化論II(前)		
担当者名	工藤保則(クドウ ヤスノリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	大学生はさまざまな「現代文化」に関して、強いこだわりを持っていることが多いだろう。が、それはえてして視野の狭いものであったりする。本講義は、受講生が自分の関心の外にある「現代文化」に触れ、それについて考えることを通して、それまでに持っていなかった視点・興味・関心を持つためのきっかけとなることを望むものである。
到達目標	「現代文化」「伝統文化」など身のまわりの「文化」への興味・関心が高まる。
講義方法	講義形式で行う(毎回、映像などを用いる予定である)。
準備学習	授業で示した参考文献に親しむこと。

	授業内容の復習。
成績評価	基本的には、期末試験によって評価する(レポート提出とするかもしれない)。「授業への積極的参加」については、加点材料とするつもりである。
講義構成	授業前半は、講師がその1週間で経験した「現代文化トピック」を紹介する。 授業後半は、以下のような話題を各回1つ講じる。・(現代文化としての)音楽、・雑誌、・映画、・TV、・ラジオ、・落語、・歌舞伎、・狂言、・(現代文化作家としての)みうらじゅんの仕事、・大田垣晴子の仕事、・越前屋依太の仕事
教科書	教科書は指定しない。
参考書・資料	『質的調査の方法―都市・文化・メディアの感じ方』(工藤・寺岡・宮垣編)法律文化社
その他	遅刻(理由があって遅刻した場合は、その旨を明確に伝えるように)、私語、携帯電話・メールの使用は厳禁。 他、受講上、適切でない行為については厳しく対応する。 「座っていればなんとかなる」という授業ではないので、「座っていればなんとかなる」授業を望む学生には、向かないと思う。 これを含めた授業の進め方、受講上のルールは1回目の授業において説明をするので、受講希望者は必ず出席をするように(2回目以降の授業においては、そのルールにしたがって授業運営を行う)。

授業コード	13040		
授業科目名	考現学研究(生活文化論I) (前)		
担当者名	阿部真大(アベ マサヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	水曜日 昼休み		

講義の内容	「コミュニティケア再考」 現在、地域社会の再生に求められるのは、「規制をかけつつ自立させる」ような秩序の再構想である。 それは、これまで「既得権益」と批判されてきたような過度な規制でもなければ、無責任に「起業家精神(アントレプレナーシップ)」をあおる自己責任論でもない。さらに「商店街」である必要もないだろう。 それは、超高齢少子化社会を迎える今後の日本社会において、人々のニーズが「モノ」(商店街を支えたのは人々の物質的な豊かさへの欲求であった)から「安心」へと移るなかで、具体的には「コミュニティケアの構想」というかたちをとることになるであろう。 そこで、「規制と自立」をめぐる問題が浮上してくる。その際にもっとも困難な作業となるであろう「中庸の戦略」を見極めるために求められる「社会学的想像力」を養う。
到達目標	決められたテーマに沿って、自分で調査を計画し、実行し、レポートにまとめる力を身につける。
講義方法	実習方式
準備学習	高齢者介護をめぐる社会的な問題について、新聞やニュース等でチェックしておくこと。
成績評価	出席、参加態度、期末レポートから総合的に評価する。
講義構成	1ー3 社会保障の基礎 4ー6 コミュニティケア調査・設計 7ー9 コミュニティケア調査・実施 10ー12 コミュニティケア調査・まとめ 13ー15 発表と全体のまとめ
教科書	特定の教科書は使用しない。
参考書・資料	必要な文献をその都度指定する。
講義関連事項	講義の内容については進度に応じて若干の変更の可能性あり。
担当者から一言	実習方式です。ただ聞いているだけでなく、自分ならばこの問題に対してどういった提言をするか、考えながら受講してください。その成果が期末レポートでは問われます。

授業コード	13U11
-------	-------

授業科目名	コミュニケーション研究(コミュニケーション研究I) (A)(前)		
担当者名	西橋正泰(ニシハシ マサヒロ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	文学部		

講義の内容	「ジャーナリズムの世界」 私たちは毎日、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、書籍などのジャーナリズムと接している。そしてそれらが伝える情報によって、意識する、しないにかかわらず、自分自身の生き方、考え方が左右されることすらある。今、私たちが生きている時代を読み解くことは難しい。しかし、さまざまなジャーナリズムが伝える情報から、その一断面を見つめ、考え、その時点での自分なりの疑問や判断をもつことはできる。 そして、ジャーナリズムの情報や論調をうのみにするのではなく、主体的に受けとめ、疑問をもち、ともに考える場としたい。		
到達目標	いまより、少し意識的にジャーナリズムと接する。良質なジャーナリズムに近づける感覚を身につける。世論操作の対象としての市民から、主体的に考えるための材料をジャーナリズムから得る市民へと成長しよう。		
講義方法	毎回冒頭20分間は、最近の新聞記事の中から一つを選び(配布)、読み、疑問を出しあう。残りの70分間は、新聞記事、番組、ジャーナリストの著作などを核にして、その狙い、論点の整理、手法の分析を行い、疑問を出しあう。 更に、テストに代わる「伝える側の視点体験」として受講生自身が与えられたテーマについて、人に会って取材し、レポートを提出する。人に会っての取材は必須条件である。		
準備学習	新聞を読み、テレビ・ニュースを見るときに、その内容について、「なぜだろう」という疑問をもつ。そして、少し考えてみる。		
成績評価	毎回の授業で、どのような疑問をもつか(小用紙に記述)によって30%。テストに代わる「伝える側の視点体験」でテーマをどう深めたか、レポートの内容と説得力によって70%を評価する。レポート提出だけでは単位取得は困難である。		
講義構成	1. BSドキュメンタリー(NHK)「封鎖された街に生きて」 2. 人はなぜ争うのか・2010 3. イラク戦争の軌跡 4. 立山良司著「イスラエルとパレスチナ」 5. 高橋和夫著「アメリカとパレスチナ問題」 広河隆一著「パレスチナ」 芝生瑞和著「パレスチナ」 6. ETV特集(NHK)「加藤周一・歴史としての20世紀を語る」 7. 加藤周一著「戦後世代の戦争責任」「どうなる世界、どうする日本」 8. 斎藤茂男さん(元共同通信記者)の仕事(1)「死角からの報告」 9. 斎藤茂男さん(元共同通信記者)の仕事(2)「飽食窮民」 10. 斎藤茂男さん(元共同通信記者)の仕事(3)ジャーナリストとは 11. NHKスペシャル「日中戦争」 12. NHKスペシャル「ドキュメント・太平洋戦争」(1)「大日本帝国のアキレス腱」 13. NHKスペシャル「ドキュメント・太平洋戦争」(2)「敵を知らず己を知らず」 14. NHKスペシャル「ドキュメント・太平洋戦争」(3)「一億玉砕への道」 15. BS特集「新しい人」になってほしい」大江健三郎から若者たちへ		
教科書	なし		
参考書・資料	毎回プリントを配布		

担当者から一言	時に、その時点でのホットな報道を取り上げたい。また、テストに代わる「伝える側の視点体験」は、与えられたテーマについて、他人の論調の受けうりでなく、あなたらしい視点で取材し、レポートすること。出典を明記せずにインターネット、書籍、記事などから引用した場合、採点の対象から除外する。
---------	--

授業コード	13U12		
授業科目名	コミュニケーション研究(コミュニケーション研究I) (B)(前)		
担当者名	小関道幸(オゼキ ミチユキ)		
配当年次	3年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜2限
特記事項	他学部		
講義の内容	この授業のキーワードは「ソーシャルプロデューサー」・「ソーシャルメディア」そして「ソーシャルドキュメンタリー」です。 あまり聞きなれない新しい用語ですが、今時代が求めている“ソーシャル”な考え方や感覚を持人達を育成する為のプログラムを展開していきます。 “ソーシャルプロデューサーの元祖”ともいえる坂本龍馬を研究しワークショップで実際の演劇制作を体験してもらう予定です。		
到達目標	①今起きているニュースをソーシャルな観点から捉え直す力を養成し、ソーシャルプランナーとして自立していく。 ②マスメディアの情報を一方的に受け取るのではなく、自らの目で現場の課題や解決方法策うい考え抜く力を養う。 ③それぞれの適性に応じて最大のパフォーマンスを成し遂げるソーシャルプレゼン能力を高める。		
講義方法	一週間におきたニュースを、ニュース番組や新聞記事を材料にソーシャルプロデュースの観点から解説する。グループディスカッションやグループワーク・発表などの形式をふんだんに盛り込む予定。		
準備学習	・TVニュースや新聞報道を常にソーシャルプロデューサーの観点からチェックする。 ・授業で触れた著作物・DVD・映画・テレビ番組などのモニター/視聴に努める。 ・質問事項等あれば事前に用意して積極的に授業参加する。		
成績評価	定期試験(60%)、出席確認を兼ねた講義終了時のミニレポート(40%)。 ※但し10回以上出席しなければ成績を評価せず		
講義構成	・①(4/10) オリエンテーション「ソーシャルプロデュース論Ⅰ」とは？ 「ソーシャルメディア」とは？ ・②(4/10)～⑤(5/1) TVニュース(報道ステーション等)は何を伝えているのか？ 番組研究(4回予定) ・⑥(5/8)～⑨(5/25) 新聞ジャーナリズムの役割と現状《ソーシャルファクトを追って》(4回予定) ・⑩(6/5)～⑬(7/3) TVドキュメンタリーのソーシャルメッセージ性《作者と作品研究》(4回予定) ・⑭(7/10) ソーシャルメディア論まとめ ・⑮(7/17) 論述テスト(60分)		
教科書	未定(授業開始時に紹介予定)		
講義関連事項	坂本龍馬研究では、龍馬ミュージカル制作スタッフに実際に参加してもらう予定。		
担当者から一言	メディア研究という入口から、日々起きているニュースを縦・横・斜めから分析/解説する。 これからの時代は社会と自分との関係を見つめ直しよりよい社会を創造するソーシャルプロデューサーの時代！ そうした能力を身に付け、自己の感性を磨きあげる技術としてこの授業はある！ 志のある学生諸君の参加を待つ！		

授業コード	13029		
授業科目名	思想文化論(思想文化論I)(前)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	木曜日昼休み		
講義の内容	人類の社会形成の哲学的前提と進化論的前提を学ぶ。ホッブズとスピノザ、およびモンテスキューの社会論について論じる。		
到達目標	社会が必然的に発生することを理解する力がつく		
講義方法	資料配布		

準備学習	人類社会の考古学的学習をしておいてほしい
成績評価	レポートと試験
講義構成	1マキアヴェッリの『君主論』 2ホッブズの『リヴァイアサン』 3スピノザの『国家論』 4モンテスキューの『法の精神』
教科書	適宜指定する。教科書『倫理の大転換』(行路社)準備中です。
参考書・資料	マキアヴェッリ、ホッブズ、スピノザ、モンテスキュー等のテキスト
講義関連事項	試験では 1マキアヴェッリの『君主論』2ホッブズの『リヴァイアサン』3スピノザの『国家論』における基本命題が問題になります。彼らの近代的国家観を比較しながら勉強しておいてください。今までのプリントを持ってくるように。
担当者から一言	新しいものの見方を学んでください

授業コード	13030		
授業科目名	市民社会論(思想文化論Ⅱ)(前)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	現代社会の構造を財政・権力など多様な面から論じる。
到達目標	現代社会の特徴を理解する力がつく
講義方法	資料配布
準備学習	日本の政治システムを学習しておく
成績評価	レポートと試験
講義構成	1封建国家から近代市民国家への移行1 2封建国家から近代市民国家への移行2 原始蓄積 3租税とはなにか 4租税国家の成立 5財政の成立と役割 6社会成長論 7国家の生産論的意義 8国家の再生産論的意義 9社会保障 10労働の義務 11統治の仕組み 12 現代日本の統治機構 13国家の危機 14近代的国家間の諸相
教科書	神野直彦『財政とはなにか』岩波書店。教科書『倫理の大転換』(行路社)準備中です。
担当者から一言	新しいものの見方を学んでください

授業コード	13R21		
授業科目名	社会意識論(社会心理学Ⅱ)(A)(前)		
担当者名	田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	文学部(社会学科以外は2年次配当)		
オフィスアワー	火曜・水曜・木曜の昼休み、および木曜5限。必要場合はメールで連絡すること。dtano@nifty.com		
講義の内容	一個人としては善良な人間でも、集団や組織の一員となると、ときとして残虐な行動に走ることがある。普通の人間をそうした行動に駆り立てるものは何か。そこにはどのような社会的メカニズムが作用しているのか。こうした問題を考えるため、本講義ではいくつかの事例を社会学的に読み解き、権力と暴力をめぐる社会的メカニズムを明らかにする。		
到達目標	講義を通じて、普通の人間を非合理で暴力的な行動に駆り立てる社会的メカニズムを理解することが目標である。		
講義方法	講義は毎回配布するプリントと、適宜紹介する映像や資料を中心に進める。映像・資料を用いながら、できるだけわかりやすく解説するが、かなり踏み込んだ内容を含んでいるので、積極的な受講態度が望まれる。		
準備学習	必要に応じて指示する。		
成績評価	期末テスト70点、小レポート30点とし、講義内容の理解度、および問題意識の深さを評価する。		
講義構成	(1) イントロダクション (2)～(4) 監獄実験 (5)～(6) ミルグラム実験 (7)～(8) オフィスの大量虐殺者 (9)～(11) 独裁制の社会学 (12)～(13) 群衆の心理 (14)～(15) 自由からの逃走		
教科書	使用しない。プリントを配布する。		
参考書・資料	スタンレー・ミルグラム『服従の心理』(河出書房新社、2008年) エーリッヒ・フロム『自由からの逃走』(東京創元社、1965年)		

授業コード	13R22		
授業科目名	社会意識論(社会心理学Ⅱ)(B)(後)		
担当者名	田摩裕祐(タナビキ ユウスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	他学部(2年次以上)		
講義の内容	社会意識論は、現代社会を生きる人びとの意識・態度・社会的性格を明らかにし、それらがどのようなメカニズムによって規定されているのかについての理解を目的とする学問分野です。社会の様々な領域におけるトピックをとりあげ、これまで行われてきた調査や研究を紹介しながら、幅広い理解をめざします。		
到達目標	社会意識論における学術的知見を網羅的に理解し、社会構造・社会変動と人々の意識がどのように関連しているのかについて、論理的に説明する能力を得る。		
講義方法	講義構成の項目にかがけたトピックについて講義を行います。教科書は特に指定せず、毎回レジュメを配布します。		
準備学習	講義時間中に指示することがあります。		
成績評価	原則として、期末試験の成績によって評価を行います。		
講義構成	以下の各テーマについて、2～3回程度の講義を行います。 1: 社会意識論の目的・方法 2: 世論とマスメディア: 世論はどのように形成され、どのような力を持つのか。 3: 政治意識と政治文化: 人々の政治参加のかたちは、どのように変化してきたのか。 4: 階層意識の形成: 社会構造と社会意識は、どのように結びつくのか。		
教科書	特に指定しません。参考図書を講義時間中に紹介することがあります。		

授業コード	13039		
授業科目名	社会階層論(階層・移動論)(後)		
担当者名	阿部真大(アベ マサヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	水曜日 昼休み		

講義の内容	「戦後日本と階層」 「階層」概念と「階級」概念の違い、戦後日本における階層変動と「一億総中流」の自明視、近年の格差をめぐる議論、インセンティブ・ディバイドの問題などを考える。その上で、みずからテーマを決定し、報告書を作成する。		
到達目標	決められたテーマに沿って、自分で調べ、レポートにまとめる力を身につける。		
講義方法	講義・実習方式		
準備学習	格差をめぐる社会的な問題について、新聞やニュース等でチェックしておくこと。		
成績評価	出席、参加態度、期末レポートから総合的に評価する。		
講義構成	1－3 格差社会の問題 4－6 戦後日本の「中流」再考 7－9 テーマの設定と調査 10－12 報告書をまとめる 13－15 全体のまとめ		
教科書	特定の教科書は使用しない。		
参考書・資料	必要な文献をその都度指定する。		
講義関連事項	講義の内容については進度に応じて若干の変更の可能性あり。		
担当者から一言	講義形式＋実習方式です。ただ聞いているだけでなく、自分ならばこの問題に対してどういった提言をするか、考えながら受講してください。その成果が期末レポートでは問われます。		

授業コード	13N21		
授業科目名	社会学概論(現代社会学Ⅱ)(A)(後)		
担当者名	野々山久也(ノノヤマ ヒサヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	文学部(社会学科以外は2年次配当)		
オフィスアワー	月・火(12:10～1:00)。そのほか必要があれば、電話078-435-2379やメール: nonoyama@konan-u.ac.jp などにて予約してください。随時応じます。		

講義の内容	現代社会を理解するための基本的な社会学理論を学習していく。社会学を学んだ学生であれば、少なくとも知っていなければならない基礎知識を完全にマスターすることを目指していく。したがって、「現代社会」とは、どのような社会なのか、「現代社会学」とは、どのような学問なのかをしっかりと学習していく。 社会学科に入学した以上、社会学とは何かを、完全にとはいかなくとも、ほぼマスターして卒業したいものである。マックス・ウェーバーとは、デュルケムとは、それぞれどのような学者なのか、タルコット・パーソンズとは、どのような社会学を展開したのか、さらにハバーマスやブルデューらは、その後、どのような理論を展開しているのかを、そして今日、それらの理論は、どのように位置づけられているのかなど、学ぶことは沢山あると言ってよい。納得いくまで、しっかり追究してみたい。卒業時には、社会学士として自信をもって社会に出ていられるようにしたいものである。
-------	---

到達目標	社会学の基礎知識を学習する。これから学ぶ社会学が何かを方向づける学習をしておく。社会学的志向とは何かを学習する。そして社会学における著名な学者の研究業績をマスターする。
講義方法	講義資料があるかないかを毎回、MY KONANで確認して、あればMY KONANから、講義資料をプリント・アウトして、予習してから授業に参加すること。手元に資料がないと、理解に限度があるはずである。プリントが貯まっていけば、それらはすべて各自の知識になっているということになる。なるべく双方向的な授業を行いたい。積極的に発言してほしい。参加していて、面白い授業にしたいと思っている。
準備学習	日頃から新聞などを読んでおき、社会現象について関心を高めておく。1回生のうちに社会学と名うったタイトルの文献を必ず1冊は読破しておくこと。毎回、授業に出席する前に、MY KONANを確認して講義資料があれば、必ずプリント・アウトして予習をし、授業に持参すること。
成績評価	期末テスト(60分)を中心にして成績を評価する。期末テストは、授業内容を中心にした論述式のテストである。問題は、大きく2つに分かれていて、前半は、いくつかの小項目の説明を求める問題で、後半は、応用問題である。授業中に簡単なレポートを2～3回ほど課す予定にしている。授業中の私語は、減点の対象になる。
講義構成	オリエンテーション 第1章 親密性と公共性 第2章 相互行為と自己 第3章 社会的秩序と権力 第4章 組織とネットワーク 第5章 メディアとコミュニケーション 第6章 ジェンダーとセクシュアリティ 第7章 文化と再生産 第8章 格差と階層化 第9章 歴史と記憶 第10章 空間と場所 以上は、大体の流れであるが、社会状況の変化などによって、この順番で厳格に進行するとは限らない。進行状況については、授業出席を怠らずに各自に注意してフォロー・アップしてほしい。
教科書	特に指定した「教科書」はない。授業の進行状況に応じて、都度、参考文献を紹介していく。さまざまな文献を参考にしていきたいと思っている。毎日の新聞記事なども、大いに現代社会学的な学習資料になる。新聞には、毎日、目を通してほしい。
参考書・資料	参考資料など、ときには授業中にも配布するが、講義資料のある場合には、MY KONAN から各自にプリント・アウトして授業に出席すること。その他、参考文献などは、授業の進行状況に応じて、その都度、指示していく。授業を欠席すると、進行状況が分らなくなって、落第してしまう可能性がある。授業には欠席しないようにしてほしい。
担当者から一言	授業中の質疑応答を重視したい。質問や意見は、授業中どんどん出してくれることを期待している。双方向的な授業が出来れば、と望んでいる。
その他	今日の話題を材料にして双方向的な講義ができれば、と望んでいる。それには諸君の積極的な参加や発言が求められる。遠慮せずに、意見や考えていることを提示してほしい。

授業コード	13N22		
授業科目名	社会学概論(現代社会学Ⅱ)(B)(後)		
担当者名	春日井典子(カスガイ ノリコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	経済学部・経営学部(2年次配当)		
オフィスアワー	講義終了後		
講義の内容	経済学などの社会科学より歴史の浅い社会学は、近代の成立に呼応して生まれ、近代から現代へという大きな歴史変動の流れのなかで発展してきた社会科学です。 授業では、社会学の歴史の中でこれまで受け継がれ、議論されてきた著名な命題を、社会学史の流れに沿い		

	ながら紹介します。
到達目標	社会学の命題を学習することで、「近代から現代へ」という社会変動を再考することを目標とします。 この授業が、社会学以外の社会科学を専攻する皆さんにとって、自分自身の専攻する社会科学を、多少とも新しい角度から見直す手がかりとして役立つことを願います。
講義方法	講義方式で行います。私語は厳禁。
準備学習	前期開講の社会人間学(現代社会学Ⅰ)(B)(前)を受講し、社会学の基本的な「ものの見方」を理解していることが望ましい。
成績評価	持ち込み不可の期末試験(100%)により評価する。
講義構成	以下の命題について講義する。 第1回 社会学学説史 第2回 犯罪の潜在的機能(E・デュルケイム) 第3回 人格崇拜の成立(E・デュルケイム) 第4回 プロテスタンティズムの倫理と資本主義 (M・ウェーバー) 第5回 外集団への敵対と内集団の親和(G・ジンメル) 第6回 自由からの逃走(E・フロム) 第7回 「いき」の構造(九鬼周造) 第8回 高度産業社会と他人指向型(D・リースマン) 第9回 誇示的消費(T・B・ヴェブレン) 第10回 アイデンティティとモラトリアム (E・H・エリクソン) 第11回 女性の交換と近親婚の禁止(C・レヴィ=ストロース) 第12回 狂気の閉じ込めと監視(M・フーコー) 第13回 世界の複雑性と自己準拠システム(N・ルーマン) 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』筑摩書房 1986
参考書・資料	作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』筑摩書房 1986のなかで、授業で取り上げる部分は印刷して配布する。その他、必要に応じて随時資料を配付する。
担当者から一言	毎年受講生の多い科目です。大教室での講義となることが予想されます。授業中の私語を厳禁します。

授業コード	13N23		
授業科目名	社会学概論（現代社会学Ⅱ）（C）（後）		
担当者名	速水奈名子（ハヤミ ナナコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	法学部（2年次配当）		

講義の内容	本講義の前半では、古典／現代社会学理論を紹介していく。具体的には、ウェーバー(近代化論)、デュルケム(道徳論)、パーソンズ(システム論)、ジンメル・G.H.ミード(相互行為論)、ゴッフマン(ドラマ論・フレーム論)、ブルデュー(場の理論)そしてリッツァー(マクドナルド化論)らによる理論を検討する。後半では、それらを踏まえつつ、現代社会における諸問題を分析していく。ここでは主に、価値の多様化が進んだポスト近代社会における、ジェンダー問題そして消費文化の浸透に関する問題に焦点を当てた考察を行っていきたい。
到達目標	社会学理論の基礎を身につけること、そして現代社会の諸現象をそれをもとに分析する視野を養うことが目指される。
講義方法	各テーマに沿って講義を行う。イメージを提示するために、DVDやプロジェクターを使用する場合もある。
準備学習	以下に記した参考書・資料に加えて、授業内では、それぞれの理論家の主要著書を紹介するので、それらも各自で検討しておくこと。
成績評価	授業態度・小テスト(40%)、そして定期試験(60%)を通じて評価する。
講義構成	0. イントロダクション 1. 社会学とは何か

	2. ウェーバー：近代化論 3. デュルケム：道徳論 4. ジンメル・G.H.ミード：相互行為論 5. パーソンズ：システム論 6. ゴッフマン：ドラマ論・フレーム論 7. ブルデュー：構造化論 8. リッツアー：マクドナルド化論 9. 近代／ポスト近代 10. グローバリゼーション 11. 価値の多様性と現代社会 12. ジェンダーと現代社会 13. 消費文化と現代社会 14. まとめ
教科書	授業のたびにこちらで作成したレジュメを配布する。
参考書・資料	リッツアー・G.『古典社会学』(2000). 中野正太・宝月誠編『シカゴ学派の社会学』(2003). 大野道邦・油井清光・竹中克久編『身体社会学』(2005). ターナー・B. S.『古典社会学』(1999).
担当者から一言	社会学理論を学ぶことを通じて、自らが生きる今を客観的に分析する視点を養いましょう。

授業コード	13017		
授業科目名	社会人口論(社会人口論I) (前)		
担当者名	中里英樹(ナカザト ヒデキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	金曜昼休み。火・水・金曜日のその他の時間も、メール等での予約を随時受け付けます。		

講義の内容	人口学(人口論)という学問分野があります。人口、つまり人の数を扱うだけで一つの学問分野になるのだろうかと思われかもしれませんが、人の数、特に年齢層ごとの人の数というのは社会にとって非常に重要な意味を持ちます。そのことは、「少子化」や「高齢化」が大きな社会問題として新聞やテレビで取りあげられていることからわかるでしょう。 人口学の研究対象は人口の大きさや年齢構成だけではありません。ある地域における人口の大きさや年齢構成は、いくつかの要素が絡み合って決まります。最も直接的な要因である出生・死亡・移動、出生に大きな影響を与える結婚や、これらとすべてと密接な関わりを持つ家族(世帯)も、人口学が扱う中心的な対象となります。 ところがこれらの人口現象は、相互に関連しあっており、さらに社会・文化・政治・経済など広い意味での社会現象とも密接に関連しています。たとえば、高齢化・少子化・晩婚化は、衛生・医療環境、産業構造、教育観、結婚・育児観の変化によってもたらされた結果であり、逆に年金制度や労働環境の変化をもたらす原因にもなっています。 そこで、この講義は、人口現象を比較可能な形で捉えるための基礎的な指標(平均寿命・出生率・未婚率など)の算出方法を習得すると同時に、これらの人口現象相互、あるいは社会現象との関連について理論的・実証的に考察することを学びます。
到達目標	人口現象を比較可能な形で捉えるための基礎的な指標(平均寿命・出生率・未婚率など)の算出方法を習得すると同時に、これらの人口現象相互、あるいは社会現象との関連について理論的・実証的に考察する力を身につけることを目的としています。
講義方法	1. 配布および提示資料(映像など)に基づく講義。 2. 指標の計算などの実習。 3. 理解状況を確認するための小レポートや小テスト。
準備学習	時間外の課題やテスト準備が求められます
成績評価	授業中の提出物(小テスト・小レポート)40%、最終レポート60%
講義構成	1. 社会人口論とは何か 2. 人口学の研究対象と社会人口論 3. 人口転換理論。 4. 出生率の様々な指標 5. 日本の人口転換(戦前) 6. 日本の高齢化の原因

	7. 日本の人口転換(戦後) 8. 少子化とその背景
教科書	必要に応じてプリントなどを配布する。
参考書・資料	阿藤 誠『現代人口学―少子高齢社会の基礎知識―』日本評論社、2000年、2700円 山口喜一編著『人口分析入門』古今書院、1997年 清水浩昭編著『日本人口論―高齢化と人口問題』日本放送出版協会、1998年 速水融『歴史人口学で見た日本』文春新書、2001年 鬼頭宏『人口で見る日本史』PHP研究所、2007年 河野綱果『人口学への招待―少子・高齢化はどこまで解明されたか』中公新書、2007年 山田昌弘『少子社会日本―もうひとつの格差のゆくえ』岩波新書、2007年
担当者から一言	毎回の授業が基本的な知識の積み重ねとなりますので、欠席しないように参加してください。指標の算出にはごく基本的な数学(算数)を使うだけです、テーマに関心さえあれば数学が苦手な人でも履修を歓迎します。
ホームページタイトル	MyKonan 講義関連ページ

授業コード	13053		
授業科目名	社会人口論Ⅱ(後)		
担当者名	中里英樹(ナカザト ヒデキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	金曜昼休み。火・水・金曜日のその他の時間も、メール等での予約を随時受け付けます。		

講義の内容	前半では、人口学の重要トピックのうち、高齢化、家族と世帯、結婚・離婚、移動を学びます。後半では、出生や死亡を含む幅広い人口現象について、異なる国々の間、国内のさまざまな地域の間の状況の違いとその背景について考察します。
到達目標	講義内容を理解し、自ら関心を持った地域の人口現象について適切な情報を入手できるようになること。 入手した情報をもとに、分析・解釈を行いレポートを執筆できるようになる。
講義方法	以下の方法を併用しながら授業を進めます。 1. 配布およびプロジェクター提示資料(映像など)に基づく講義。 2. 図書館やインターネットを用いた資料収集。 3. 理解状況を確認するための小レポートや小テスト。
準備学習	最終レポートに必要なデータの収集、レポート執筆など多くの課外学習が必要となります。
成績評価	授業中の提出物(小テスト・小レポート)40%、期末試験またはレポート60%
講義構成	1. 高齢化 2. 家族と世帯の歴史的変容 3. 結婚と離婚 4. 社会変動と人口移動 5. 人口現象の地域性 6. 人口現象の地域性の背景 7. 最終レポート作成指導
教科書	必要に応じてプリントなどを配布する。
参考書・資料	阿藤 誠『現代人口学―少子高齢社会の基礎知識―』日本評論社、2000年、2700円 山口喜一編著『人口分析入門』古今書院、1997年 伊藤達也著『生活の中の人口学』古今書院、1994年 清水浩昭編著『日本人口論―高齢化と人口問題』日本放送出版協会、1998年 速水融『歴史人口学で見た日本』文春新書、2001年 鬼頭宏『人口で見る日本史』PHP研究所、2007年 河野綱果『人口学への招待―少子・高齢化はどこまで解明されたか』中公新書、2007年 山田昌弘『少子社会日本―もうひとつの格差のゆくえ』岩波新書、2007年
講義関連事項	社会人口論Ⅰを先に履修することを推奨します。

担当者から一言	毎回の授業が基本的な知識の積み重ねとなりますので、欠席しないように参加してください。指標の算出にはごく基本的な数学(算数)を使うだけです、テーマに関心さえあれば数学が苦手な人でも履修を歓迎します。
---------	--

ホームページタイトル	My KONAN授業情報参照
------------	----------------

授業コード	13R11		
授業科目名	社会心理学(社会心理学I) (A)(前)		
担当者名	星 敦士(ホシ アツシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	文学部(社会学科以外は2年次配当)		
オフィスアワー	金曜日4限目。それ以外の時間はメールで予約してください。		

講義の内容	社会心理学では、個人が日常生活のなかで何気なく感じていることや考えていること、そして行動を、他者や社会との相互作用を通じて形成されるものと捉えます。この科目では、人々の心の動き、感じ方、考え方、そして振る舞いが社会心理学という枠組みのなかでどのように考えられているのか、またどのような説明ができるのかについて、人と人、人と組織、集団の心理、そして人と社会に関する様々な事例を手がかりに概説します。
到達目標	日常生活における人々の振るまいの背景と個人に還元できない要因について考えることができる。
講義方法	以下の講義構成のようにいくつかの大きなテーマについて、2～3回ずつ理論的な内容とともに実験や調査データなどを提示しながら講義を行います。各時間の最後に、その回の内容に関連したリアクション・ペーパーを記入してもらい、次の回の冒頭にその記入内容を紹介しながら振り返ります。
準備学習	予備知識は特に必要としません。概論なので内容は「広く浅く」になります。よって各論について深く知りたい人、すでに社会心理学についてある程度の知識をもっている人には向きません。
成績評価	平常点(各回の講義時に記入してもらったリアクション・ペーパーの内容)30%と期末試験(論述試験)70%により成績評価を行います。
講義構成	01 イントロダクション(社会学と社会心理学) 02 自己とは何か 03～05 対人関係に関する社会心理学 06～08 組織に関する社会心理学 09～11 集団に関する社会心理学 12～14 社会と個人の関わりに関する社会心理学 15 試験
教科書	使用しません
参考書・資料	池上知子・遠藤由美, 1998, 『グラフィック社会心理学』サイエンス社. 小林裕・飛田操[編著], 2000, 『教科書 社会心理学』北大路書房. 吉田俊和・松原敏浩[編著], 1999, 『社会心理学:個人と集団の理解』ナカニシヤ出版.

授業コード	13R12		
授業科目名	社会心理学(社会心理学I) (B)(前)		
担当者名	田藤裕祐(タナベキ ユウスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	他学部(2年次以上)		

講義の内容	社会心理学は、社会的な場面における個人の認知、感情、動機づけ、社会的行動に関する科学的な解明を目的とする学問です。他者との関係性、相互作用、組織・集団や社会の中での個人などに注目し、理論や学説などの幅広い理解をめざします。
到達目標	社会心理学における主要な学術的知見を網羅的に学び、自らが置かれている社会関係や生活場面に応用して理解することを目指す。
講義方法	講義構成の項目にかがけたトピックについて講義を行います。実際の調査や実験の事例も紹介していくつもりです。教科書は特に指定せず、毎回レジュメを配布します。
準備学習	講義時間中に指示することがあります。

成績評価	原則として、期末試験の成績のみによって評価を行います。
講義構成	以下の各テーマについて、2～3回程度の講義を行います。 受講者の希望によってテーマを変更・追加することもあります。 1: 自己と他者、自己概念 2: 対人コミュニケーション 3: 個人と集団、同調と逸脱 4: 組織と個人、動機付けやリーダーシップ 5: ネットワークとグループ・ダイナミクス 6: 社会システムや規範と社会心理学
教科書	指定の教科書はありません。講義時間中に参考図書を紹介することがあります。

授業コード	13031		
授業科目名	社会人類学（前）		
担当者名	西川麦子(ニシカワ ムギコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	火曜昼休み		

講義の内容	人類学は他者理解、文化の多様性から学ぶ学問であるといわれます。しかし、人類学は対象社会をつねに中立的な立場からとらえてきたわけではありません。近代人類学の確立は、植民地統治、国民国家の形成といった政治的背景における、力関係、思想の潮流と深くかかわっています。この講義では、19世紀から20世紀にかけて人類学が学問領域として成立していくなかで、どのように「他者」を認識、分類し、「異文化」をとらえようとしてきたか、フィールドワークの方法論や民族誌の政治性について検討しながら考えていきます。
到達目標	社会、文化人類学が誕生し展開する政治的背景を学ぶとともに、「調査」という行為やその問題点についても再考できるようになること。
講義方法	教室での講義形式
準備学習	「文化人類学」「多文化共生論」を履修し、文化人類学について学習したうえで社会人類学を履修すると理解しやすくなります。
成績評価	出席(40%)、試験(60%)
講義構成	1. オリエンテーション 2. 「未開」と「文明」の二分法—「未開」のイメージの両義性 3. 肘掛け椅子の人類学者—思想としての進化論 4. 専門的学問としての人類学の確立—フィールドワークと実証主義 5. B・マリノフスキーの方法論—参与観察のパラドックス 6. フィールドワークと民族誌の政治性—他者の分類、統治の技法 7. 国民国家の形成—優生思想と文化相対主義 8. ボアズとアメリカの文化人類学—優生思想への挑戦 9. M・ミードの『サモアの思春期』—反証としてのサモア 10. フィールドワーカーのポジショナリティ—民族誌的「事実」？ 11. R・ベネディクトと『菊と刀』—国民性の研究 12. 人類学とエリア・スタディーズ 13. オリエンタリズム批判 14. 内省的アプローチ—文化的他者、自己への意識、対話と翻訳 15. まとめ
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書・資料	資料配布

授業コード	13044
授業科目名	社会調査応用演習Ⅱ（前）
担当者名	宮田尚子(ミヤタ ナオコ)

配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	抽選40名(詳細は時間割別表を参照のこと)		
講義の内容	量的な社会調査データにおける、基礎的な多変量解析の考え方について理解することを目指す。 サンプルデータに関する記述統計量から推測統計をおこなうが、その際、3変数以上の解析を対象とする。重回帰分析、分散分析、因子分析を中心とした基礎的な多変量解析法の理論を学ぶ。同時に、統計パッケージ(SPSS)を使って、実際の量的な社会調査データを分析しながら体験的に学習する。 ■前年度の内容 (今年度の授業で取りあげる具体的なトピックスは、受講生の意見を聞きながら決める予定である。) 【例1】 重回帰分析という方法を使って、「年収は何によって差がつくのか?」という問題に取り組んだ。男女差はどれくらいあるのか、年齢が1歳違えば年収はどれくらい違うのか、雇用形態(正社員か非正規雇用か)の違いはどれくらい年収に影響するのか・・・ということについて考察した。 【例2】 若いコーホート(世代)ほど平均結婚年齢が遅いこと。若いコーホートほど高学歴者が多いこと。高学歴者ほど学校卒業時の平均年齢が高く、就職時の平均年齢も高いこと。就職してから結婚する人が多いこと。これら4つの事実をデータで確認した上で、「晩婚化は若いコーホートで高学歴化していることが影響しているではないか?」という問いを立て、重回帰分析で検討した。		
到達目標	(1)社会学における基礎的な多変量解析(重回帰分析、分散分析、因子分析)の考え方について理解できる。 (2)統計パッケージ(SPSS)を使って基礎的な多変量解析(重回帰分析、分散分析、因子分析)をおこなうことができる。 (3)計量分析の結果を実社会の現象と関係づけて考察できる。		
講義方法	(1)講義 : 教科書や補助教材にのっとり、基礎的な多変量解析の理論について説明する。 (2)演習 : SPSSの操作方法について説明した後、実際にSPSSを用いて統計解析をおこなう。受講生には毎回、宿題を提出してもらい、次の授業時間に講評をおこなう。小レポートは添削して、受講生に返却する。		
準備学習	(1)履修条件 : 「社会調査応用演習Ⅰ」を同時履修している、あるいは履修済みであることが望ましい。しかし、この条件にあてはまらない学生も受講可。 (2)授業時間外における学習 : その日の授業内容の復習となるような小レポートを、毎回課す。小レポートは次の授業の開始時に提出。		
成績評価	(1)平常点(出席回数、受講態度) : 15% (2)小レポート : 40% (3)学期末レポート : 45%		
講義構成	第1回 はじめに 第2回 社会調査と多変量解析(1) 第3回 社会調査と多変量解析(2) 第4回 相関分析 第5回 分散分析(1) 第6回 分散分析(2) 第7回 単回帰分析 第8回 重回帰分析(1) 第9回 重回帰分析(2) 第10回 重回帰分析(3) 第11回 因子分析 第12回 多変量解析における検定の問題 第13回 社会調査データを読み解く(1) 第14回 社会調査データを読み解く(2) 第15回 まとめ		
教科書	－ ボーンシュテット&ノーキ(＝海野道郎・中村隆 監訳),『社会統計学』ハーベスト社 1990年 － 片瀬一男(編),『社会統計学』放送大学教育振興会 2007年 － 盛山和夫,『社会調査法入門』有斐閣 2004年 － 与謝野有紀,『社会の見方、測り方——計量社会学への招待』勁草書房 2006年 (初回の授業で、受講者と相談の上、中心的に扱う教科書を決める。)		
参考書・資料	(1)参考書 :		

	- 村瀬洋一ほか(編),『SPSSによる多変量解析』オーム社 - 田栗正章ほか,『やさしい統計入門』講談社 - 玉野和志,『実践社会調査入門』世界思想社 - 山田剛史・村井潤一郎,『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 (その他必要に応じて授業中に指示する。) (2)補助資料 : 必要に応じてその都度、配布する。 (3)スライド : 授業後、PDF形式でMy KONANの授業用サイトにアップロードする予定。
講義関連事項	(1)データを保存できるメディア(USBメモリなど)を毎回持参してください。 (2)社会調査士資格取得カリキュラムのE科目に相当します。
担当者から一言	数字を使って、社会で起こっている現象と一緒に考えてみませんか。

授業コード	13A11		
授業科目名	社会調査基礎演習Ⅰ（1クラス）(前)		
担当者名	中里英樹(ナカザト ヒデキ)、田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限
特記事項	2005年度以降入学生用 [出席番号指定]社会学科1年次(学籍番号が奇数) 社会学科2年次以上		
オフィスアワー	中里:金曜昼休み。火・水・金曜のその他の時間も、メール等での予約を随時受け付けます。nakazato@以下は皆さんの大学のアドレスと一緒にです。 田野:火・水・木曜の昼休み、および木曜5限。必要場合はメールで連絡すること。dtano@nifty.com		

講義の内容	社会学科1年次の最初の必須専門科目として、基礎演習 I では、大学や授業についての多角的な情報を得て、創造的かつ実践的な大学生活を送るための取り組み方を考えます。
到達目標	この科目の到達目標は、社会学科において専門的な学習、研究をすすめていくうえでの基本的な知識と方法、情報の探し方、論文やレポートの読み方、書き方などを学ぶことです。
講義方法	この科目は、3限目と4限目を通して学習する演習です。パソコン教室において主に少人数のグループに分かれて各自の個別作業やグループ作業をしながら実習していきます。キャンパス内外をはじめ図書館や雑誌館、その他の各種センターに出かけて学習したりもします。2名の教員のほか複数のTA(ティーチング・アシスタント)がみなさんの学習のサポートをします。
準備学習	毎回、課題が出されますので、各自が事前にレポートを作成する必要があります。
成績評価	毎回、出席をとります。出席点を重視しますので、欠席はできません。毎回、課題が出され、これにもとづいてグループワークをしたり、各自がレポートを作成します。最終成績は、出席点とレポート等の総合点で評価されます。
講義構成	I 学習を組み立てる ・ 社会学科のカリキュラム - 4年間の学習の組み立て、各学年のスケジュール ・ 「シラバス」を解説する - 「講義」「演習」「ゼミナール」 ・ 学習成果と評価 - 「出席」「試験」「レポート」「論文」 ・ 時間割を組み立てる - 甲南大学 Web Site 活用法 II 学びの窓口を利用する ・ 学部と学科 - 文学部、各学科事務室、研究室、社会調査工房とは？ ・ 窓口相談する - 担当窓口や各種センターを活用する ・ 在学中に「資格」をとる—社会調査士、etc. III 研究と論文の基本を学ぶ ・ 「卒業論文」とは？ - 先輩の論文にふれる ・ 研究のテーマ、方法、表現のしかた ・ 情報検索 - アイディアを探す、情報を集める ・ 図書館、サイバーライブラリー、雑誌館などで探索する ・ 文献リストを作る ・ 論文を読む - 構成を把握する ・ 課題レポートを書く - 目的と書式
教科書	教科書は、特に指定しません。
参考書・資料	参考書・資料は、必要に応じて指示します。

担当者から一言	この科目は、社会学科において皆さんが何を、どのように学習していくのかをしっかりと理解して、有意義な大学生
---------	--

	活を送ることができるようにするための科目です。そして最終的に「卒業研究」を作成して「社会学士」という学位を取得して卒業するまでに、皆さんがどのように研究活動をすすめていくのかを学ぶ基礎科目です。しっかり学習していったほしいと思います
その他	出席は必須です。毎回、出席を取ります。絶対に遅刻も、欠席もしないようにしてください。

授業コード	13A12		
授業科目名	社会調査基礎演習I（2クラス)(前)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)、阿部真大(アベ マサヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限
特記事項	2005年度以降入学生用 [出席番号指定]社会学科1年次(学籍番号が偶数)		
オフィスアワー	大津・阿部: 火曜の昼休み。予約を随時受け付けます		

講義の内容	社会学科1年次の最初の必須専門科目として、基礎演習 I では、大学や授業についての多角的な情報を得て、創造的かつ実践的な大学生活を送るための取り組み方を考えます。
到達目標	この科目の到達目標は、社会学科において専門的な学習、研究をすすめていくうえでの基本的な知識と方法、情報の探し方、論文やレポートの読み方、書き方などを学ぶことです。
講義方法	この科目は、3限目と4限目を通して学習する演習です。パソコン教室において主に少人数のグループに分かれて各自の個別作業やグループ作業をしながら実習していきます。キャンパス内外をはじめ図書館や雑誌館、その他の各種センターに出かけて学習したりもします。2名の教員のほか複数のTA(ティーチング・アシスタント)がみなさんの学習のサポートをします。
準備学習	毎回、課題が出されますので、各自が事前にレポートを作成する必要があります。
成績評価	毎回、出席をとります。出席点を重視しますので、欠席はできません。毎回、課題が出され、これにもとづいてグループワークをしたり、各自がレポートを作成します。最終成績は、出席点とレポート等の総合点で評価されます。
講義構成	I 学習を組み立てる ・ 社会学科のカリキュラム — 4年間の学習の組み立て、各学年のスケジュール ・ 「シラバス」を解説する — 「講義」「演習」「ゼミナール」 ・ 学習成果と評価 — 「出席」「試験」「レポート」「論文」 ・ 時間割を組み立てる — 甲南大学 Web Site 活用法 II 学びの窓口を利用する ・ 学部と学科 — 文学部、各学科事務室、研究室、社会調査工房とは？ ・ 窓口相談する — 担当窓口や各種センターを活用する ・ 在学中に「資格」をとる—社会調査士、etc. III 研究と論文の基本を学ぶ ・ 「卒業論文」とは？ — 先輩の論文にふれる ・ 研究のテーマ、方法、表現のしかた ・ 情報検索 — アイディアを探す、情報を集める ・ 図書館、サイバーライブラリー、雑誌館などで探索する ・ 文献リストを作る ・ 論文を読む — 構成を把握する ・ 課題レポートを書く — 目的と書式
教科書	教科書は、特に指定しません。
参考書・資料	参考書・資料は、必要に応じて指示します。

担当者から一言	この科目は、社会学科において皆さんが何を、どのように学習していくのかをしっかりと理解して、有意義な大学生活を送ることができるようにするための科目です。そして最終的に「卒業研究」を作成して「社会学士」という学位を取得して卒業するまでに、皆さんがどのように研究活動をすすめていくのかを学ぶ基礎科目です。しっかり学習していったほしいと思います
その他	出席は必須です。毎回、出席を取ります。絶対に遅刻も、欠席もしないようにしてください。

授業コード	13A21
-------	-------

授業科目名	社会調査基礎演習Ⅱ（1クラス）(後)		
担当者名	森田三郎(モリタ サブロウ)、宮田尚子(ミヤタ ナオコ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限
特記事項	2005年度以降入学生用 [出席番号指定]社会学科1年次(学籍番号が奇数) 社会学科2年次以上		
オフィスアワー	演習の時間は長いので、その間に教員やTAに遠慮なく相談して下さい。		
講義の内容	社会学や人類学研究に必要な方法・技術である量的および質的社会調査を用い報告書や論文を収集し内容を理解するための基礎知識を学びます。また、その実施方法を具体的に学び、小規模の調査を自ら実施することによって、実際に調査を行なう際の基本的な工程を体験的に理解することを目指します。		
到達目標	・社会調査によって小規模なデータの収集、分析、考察ができる。 ・官庁統計や簡単な調査報告書・質的調査論文を批判的に読める。 ・エクセルや統計パッケージ(SPSS)を使った基本的なデータ処理とプレゼンができる。		
講義方法	社会調査演習はパソコン教室と一般教室などでおこなわれるので、各回の演習がどこで行われるのか注意すること。毎回の実習作業に関しては、教員が説明した後、受講生のなすべき作業を教員とTAがサポートします。わからない点はその場で積極的に質問してください。また、作業は個人だけでなくグループでおこなう場合もあるので、必ず毎回出席するようにしてください。		
準備学習	テレビや新聞・雑誌、インターネットで見かける「〇〇に関するアンケート」が、いつ、だれに対して、どのような方法でおこなわれ、どのような結果が示されているのかを注意して見るようにしてください。また日常生活の中でも、自分が目にするもの、人の行動など、身近な周囲に対して、なぜ？という意識を持って観察することを心がけて下さい。		
成績評価	毎回の出席を前提とし、各自で作成した調査レポートの提出状況、出来具合が評価の中心となります。		
講義構成	1 統計情報の収集と整理 2 統計情報の読み方(1) 記述統計(平均・分散・標準偏差) 3 統計情報の読み方(2) 記述統計(クロス集計表) 4 統計情報の読み方(3) 因果関係と相関関係 5 アンケート法(1) アンケート法とは何か? —— 定量調査の基礎 6 アンケート法(2) アンケート法における仮説と検証の考え方 7 アンケート法(3) 調査項目の検討 8 アンケート法(4) 調査票の作成 —— ワーディングについて 9 アンケート法(5) サンプリングとは? 10 アンケート法(6) 対象者の選定とサンプリングの実習 11 アンケート法(7) 調査の実施(調査票の配布・回収) 12 アンケート法(8) データ入力とエディティング 13 アンケート法(9) 記述統計の算出と解釈1(平均・分散・標準偏差) 14 アンケート法(10) 記述統計の算出と解釈2(クロス集計) 15 アンケート法(11) 記述統計の算出と解釈3(クロス集計(続)) 16 質的調査法(1) 質的調査の基礎 17 質的調査法(2) 質的調査論文の読み方1 18 質的調査法(3) 質的調査論文の読み方2 19 質的調査法(4) 質的調査の実践1 20 質的調査法(5) 質的調査の実践2 21 質的調査法(6) 質的調査の実践3 22 質的調査法(7) 質的調査の実践4 23 質的調査法(8) 質的調査の実践5 24 質的調査法(9) 質的調査の実践6 25 質的調査法(10) 質的調査の実践7 26 質的調査法(11) 質的調査の実践8 27 質的調査法(12) 質的調査の実践9 28 質的調査法(13) 質的調査の実践10 29 質的調査法(14) 質的調査のまとめ方1 30 質的調査法(15) 質的調査のまとめ方2		
教科書	教科書は特に指定しません。		
参考書・資料	必要に応じて適宜指示します。また、甲南大学文学部社会学科で作成した「社会調査工房オンライン」を参照します。さらに、必要な資料については、甲南大学内でのイントラネットを通して、教員が作成したWEBサイトから閲覧、ダウンロード出来るものもあります。		
講義関連事項	「社会調査法」を併せて履修すると社会調査やフィールドワークへの理解がより深まります。また「フィールドワ		

	ーク研究」(2年時配当)、「社会統計学」(2年時配当)、「量的データ解析」(3年次配当)、「社会調査実践研究」(3年次配当)を順次履修すれば、社会調査と技法への理解がますますすすみます。
担当者から一言	この演習は、前・後期を通して社会学科の必修科目です。また、卒業研究の基礎であり、「社会調査士」資格の取得にも必須の内容です。作業はかなり大変ですが、ひととおりの調査法を1年生で学ぶことは貴重な経験となるはずです。1年間で学んだ経験と技術を持って2年生からのゼミに臨みましょう。
その他	質的調査として、ここでは「観察法」を取り上げます。詳しいスケジュールは、下記のWEBページを参照してください。(ただし、学内でしか見えません) http://www.center.konan-u.ac.jp/~saburo/kisoen10/kisoen210.htm
ホームページタイトル	社会調査工房オンライン
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/index.html

授業コード	13A22		
授業科目名	社会調査基礎演習Ⅱ（2クラス)(後)		
担当者名	菅 康弘(スガ ヤスヒロ)、高木昌要(タカキ マサメ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限
特記事項	2005年度以降入学生用 [出席番号指定]社会学科1年次(学籍番号が偶数)		
オフィスアワー	菅:「sugar@center.konan-u.ac.jp」に連絡の上、時間応談。		

講義の内容	社会学や人類学研究に必要な方法・技術である量的および質的社会調査を用い報告書や論文を収集し内容を理解するための基礎知識を学ぶ。また、その実施方法を学び、小規模の調査を自ら実施することによって、実際に調査を行なう際の基本的な行程を体験的に理解することを目指す。
到達目標	量的・質的調査の基礎的な知識を習得し、基本的な技法を身につけること。特に、数字にごまかされがちなデータの読み方や、社会調査の王道であるアンケートの技法や概念の習得、街頭における考現学的調査でのデータ収集法、分析法の習得など。
講義方法	講義＋演習＋実習。 実習では主に少人数のグループに分かれ、データ収集の基本的な方法、調査の企画・設計、実施に至る一連のプロセスを、講義と実践で習得する。一般教室とパソコン教室、図書館およびキャンパス内外が活動の場となり、複数の教員・TAのチームがサポートする。
準備学習	各回の課題を先に提示しておくので、それに応じたテーマ選択や調査項目の選定、具体的なプランなどを明確にしておくこと。課題や資料などは「My Konan」にアップされるので、自宅でも大学でも常にチェックを怠りなく。
成績評価	平常点＋提出物(論文・レポートなど。2つのクールの大課題＋各回の小課題)＋出席回数
講義構成	1 統計情報の収集と整理 官庁統計や調査報告書、データベースの検索と利用 2 統計情報の読み方(1) 記述統計(平均・分散・標準偏差) 3 統計情報の読み方(2) 記述統計(クロス集計) 4 統計情報の読み方(3) 因果関係と相関関係 5 アンケート法(1) アンケート法とは何か? 一定量調査の基礎 6 アンケート法(2) アンケート法における仮説と検証の考え方 7 アンケート法(3) 調査項目の検討 8 アンケート法(4) 調査票の作成 ―ワーディングについて 9 アンケート法(5) サンプリングとは? 10 アンケート法(6) 対象者の選定とサンプリングの実習 11 アンケート法(7) 調査の実施(調査票の配布・回収) 12 アンケート法(8) データ入力とエディティング 13 アンケート法(9) 記述統計の算出と解釈1(平均・分散・標準偏差) 14 アンケート法(10) 記述統計の算出と解釈2(クロス集計) 15 アンケート法(11) 記述統計の算出と解釈3(クロス集計(続)) 16 質的調査法(1) 質的調査の基礎 17 質的調査法(2) 質的調査論文の読み方1 18 質的調査法(3) 質的調査論文の読み方2 19 質的調査法(4) 質的調査の実践1 20 質的調査法(5) 質的調査の実践2 21 質的調査法(6) 質的調査の実践3 22 質的調査法(7) 質的調査の実践4

	23 質的調査法(8) 質的調査の実践5 24 質的調査法(9) 質的調査の実践6 25 質的調査法(10) 質的調査の実践7 26 質的調査法(11) 質的調査の実践8 27 質的調査法(12) 質的調査の実践9 28 質的調査法(13) 質的調査の実践10 29 質的調査法(14) 質的調査のまとめ方1 30 質的調査法(15) 質的調査のまとめ方2
教科書	使用しない。ただし、甲南大学HPトップ→研究所・センター→情報教育研究センター→Contents→文学と辿り、その中にある「社会調査工房オンライン」を随時参照すること。
参考書・資料	参考資料やサンプル・データを授業中に随時配布する。
講義関連事項	「社会調査法」を併せて履修すると社会調査やフィールドワークへの理解がより深まります。また「フィールドワーク研究」(2年時配当)、「社会統計学」(2年時配当)、「量的データ解析」(3年次配当)、「社会調査実践研究」(3年次配当)を順次履修すれば、社会調査マインドが深化します。
担当者から一言	この演習は、前・後期通して社会学科の必修科目です。また、卒業研究の基礎であり、「社会調査士」資格の取得にも必須の内容です。
その他	毎時間、グループで、あるいは個人で取り組む課題があります。やむなく欠席した時は、必ずその時に出された指示を確認することをお忘れなく。 ロコミに頼らず、常に「My Konan」をチェックすること。
ホームページタイトル	「社会調査工房オンライン」 http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/index.html

授業コード	13015		
授業科目名	社会調査法（前）		
担当者名	野々山久也（ノノヤマ ヒサヤ）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	月・火（12：10～1：00）。そのほか必要があれば、電話078-435-2379やメール：nonoyama@konan-u.ac.jpなどにて予約してください。		

講義の内容	社会調査の実施方法を概観し、その意義と実施に当たって注意すべきことを学ぶ。問題意識と社会調査のさまざまな手法をどのように結びつけるかについて、考えられるようになることを目指す。
到達目標	この科目は、社会調査士の資格取得のための必須科目である。到達目標は、資格取得のために不可欠な社会調査の基礎知識、社会調査実施に不可欠な倫理や調査実施のさまざまな技法について学習する。
講義方法	講義と授業内外の課題(レポート作成などの作業)を組み合わせる。
準備学習	講義資料などに関して指示にしたがって、前もって予習しておくこと。さらに社会学に関する基礎的な授業を同時に履修すること。加えて、日頃から新聞や雑誌に掲載されている多様な社会調査のデータに注目しておくこと。
成績評価	講義での課題(レポート)の提出状況を50%、そして最終的な学期末試験の成績を50%という配分で、各自の成績を評価をする。
講義構成	1 社会調査とは何か― 社会調査の意義・用途 2 社会調査成立の背景― 社会調査の歴史 3 メディアの中の社会調査― 社会調査の実例(1) 4 調査報告を読む― 社会調査の実例(2)量的調査 5 調査報告を読む― 社会調査の実例(3)質的調査 6 問題の発見と先行研究の整理― 社会調査の準備 7 さまざまな社会調査と手法の選択― 社会調査の種類 8 質問紙調査の準備― 量的調査(1) 9 質問紙調査の実施と分析― 量的調査(2) 10 質問紙調査のまとめ方― 量的調査(3) 11 フィールドワークの進め方― 質的調査(1) 12 フィールドワークのまとめ方― 質的調査(2) 13 調査実施の注意点― 調査倫理 14 調査から理論へ 15 まとめ

教科書	特定の教科書は使用しないが、参考文献は適宜、紹介していく。
参考書・資料	B. C. ミラー著(野々山久也ほか訳)『やさしい家族調査の方法』ミネルヴァ書房、1996年 大谷信介他編著『社会調査へのアプローチ(第2版)』ミネルヴァ書房、2005年など
講義関連事項	社会調査士資格取得のための必修科目
その他	My KONAN のクラスプロフィールの授業資料をつねに確認しておくこと。
ホームページタイトル	My KONANの講義関連情報より 社会調査工房オンライン(社会学科共通の調査関連ホームページ)

授業コード	13049		
授業科目名	社会調査法I(後)		
担当者名	岩淵亜希子(イワブチ アキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	非常勤教員のため、オフィスアワーはありません。講義の前後につかまえてください。		

講義の内容	いわゆるアンケート調査のことを、専門用語では「質問紙調査」とか「調査票調査」とかといいます。学校での進路希望調査や、5年ごとに政府が行なう国勢調査、コンサートやライブでの感想アンケートなど、誰でも1度は、このタイプの調査に答えたことがあるはずです。 では、そうした調査は、どのように作られて(仕組まれて)いるのでしょうか？ そうした調査から、たとえばどんなことがわかるのでしょうか？ この講義では、社会調査を計画し、実際に調査を行ってデータを集め、分析に至るまでの一連の流れについて、具体例をあげながら解説します。ちょっと難しいとは思うのですが、こんな調査をしたのなら、どんなしなげが必要か、ということと一緒に考えてみませんか。 なお、社会調査士資格関連科目ですが、資格を目指してない人でも、調査に関心のある方ならどなたでも歓迎します。
到達目標	質問紙調査の難しさ(と、できれば面白さも)がどこにあるのかを知り、知りたいことをとらえるための手続きを理解すること。またそれによって、アヤシゲな調査や分析結果に反応できるアンテナを磨くこと。
講義方法	講義とコメントカード・練習問題を基本に考えていますが、履修人数が少なければ、「やってみることを増やしたい」と思います。調査がどんなものかを知るには、実際にやってみるのが一番です。
準備学習	他の社会調査関連の講義・演習も履修してあると、たくさん出てくる専門用語の「聞いたことある」感が高まってとっつきやすいと思います。が、必須ではありません。 テレビやネットや雑誌や飲食店の、「アンケートっぽいもの」を日ごろ気にしておくと、講義中に「あーアレそうかも！」とひらめく瞬間があって楽しいかもしれません。が、必須ではありません。
成績評価	定期試験70%、平常点(講義のコメントカードや練習問題)30%を予定。 履修人数が少ない場合は、平常点の割合を増やすかもしれません。その場合は教室で説明します。
講義構成	1 インTRODクシヨン: 社会調査とは？ 2 社会調査の種類: 量的調査と質的調査 3 質問紙調査の思想と、調査プロセス 4 調査を企画する: テーマ、仮説、方法 5 調査票の作り方(1) 問題意識の具体化と仮説の設定 6 調査表の作り方(2) 質問と選択肢のワーディングを決める 7 調査表の作り方(3) 質問項目の選定と、調査票の組み立て 8 既存の研究・調査・データの探索と、その重要性 9 調査の実施方法(1) 全数調査・標本調査とサンプリング 10 調査の実施方法(2) 無作為抽出とサンプリングの実際 11 調査の実施方法(3) 調査票の配布・回収の方法と、その特徴 12 調査票の整理とデータ化: エディティング・コーディング・クリーニング 13 データの集計と分析法: 単純集計とクロス集計 14 集計結果の検定: カイ2乗検定と相関係数 15 まとめ: 調査の報告と社会調査のこれから
教科書	とくに指定しません
参考書・資料	講義のなかで紹介します
講義関連事項	社会調査士資格の取得に関連した科目です。資格を目指している人はよくご確認ください。

担当者から一言	調査というのは、基本的に地味～で面倒なものです。なので、講義も地味～でコツコツ系です。華やかさとかありません。登山とか楽しめる人は向いてると思います。そんな講義ですが、よろしく。
---------	---

授業コード	13V11		
授業科目名	社会統計学(社会調査応用演習I) (1クラス)(前)		
担当者名	星 敦士(ホシ アツシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	クラス分けのための履修希望調査を行うので、履修を希望する学生は以下の方法で調査期間内に申し込んでください。 調査期間:2010年3月29日(月)～4月2日(金) 申込方法:社会学科共同図書室前のボックスに入っている履修希望調査用紙に必要事項を記入して指定されたボックスに入れる。 結果発表:4月5日(月)「My KONAN」の学生連絡にて発表 注意事項:期間内に申し込まなかった場合は今年度の社会統計学(社会調査応用演習 I)は履修できません。		
オフィスアワー	金曜日4限目。それ以外の時間はメールで予約してください。		

講義の内容	社会調査によって得られたデータの客観性を裏付ける確率論の基礎、データの状態を記述する基本統計量、統計的検定の基本的な考え方、推測統計において使用される基本的な分析手法(比率や平均の差の検定、カイ二乗検定、相関係数、単回帰分析など)について演習を行います。
到達目標	社会調査によって収集した統計的データを集計、分析、解釈するために必要となる基礎的な統計学的知識を理解する。
講義方法	各回の内容について解説した後、練習問題を解くなどの演習を行います。
準備学習	確率・統計など数学の基礎知識が必要になることもあります。また分からないことがある時はMy KONANに資料を登録するのでそれらを参考に復習してください。
成績評価	各回の課題提出40%、期末試験60%により成績評価を行う。演習科目なので2/3以上の課題提出を成績評価の前提とする。
講義構成	01 社会調査と統計学 02 母集団と標本 03 基本統計量1:代表値 04 基本統計量2:変動の記述 05 確率と確率分布 06 正規分布 07 点推計と区間推計 08 統計的検定の考え方 09 仮説の検定 10 平均の差の検定(t検定) 11 カイ二乗検定 12 離散変数間の連関 13 相関係数・偏相関係数 14 単回帰分析 15 試験
教科書	使用しません。
参考書・資料	Bohrnstedt George W. and David Knoke, 1988, Statistics for Social Data Analysis 2nd. edition, F.E. Peacock Publisher, Inc.(=1992, 海野道郎・中村隆監訳、『社会統計学:社会調査のためのデータ分析入門』(学生版), ハーベスト社.) 向後千春・富永敦子, 2007, 『統計学がわかる:ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社. 盛山和夫・近藤博之・岩永雅也, 1992, 『社会調査法』放送大学教育振興会. 盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣. 鳥居泰彦, 1994, 『はじめての統計学』日本経済新聞社. など
講義関連事項	この授業は社会調査士資格科目のうちD科目(社会調査に必要な統計学に関する科目(推測統計))に該当します。

その他	授業には電卓を持参してください。
ホームページタイトル	社会調査工房オンライン(「1.アンケート法」の「1-4.データの分析」を参照)
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/index.html

授業コード	13V12		
授業科目名	社会統計学(社会調査応用演習I)(2クラス)(後)		
担当者名	阿部真大(アベ マサヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス分けのための履修希望調査を行うので、履修を希望する学生は以下の方法で調査期間内に申し込んでください。 調査期間:2010年3月29日(月)～4月2日(金) 申込方法:社会学科共同図書室前のボックスに入っている履修希望調査用紙に必要事項を記入して指定されたボックスに入れる。 結果発表:4月6日(月)「My KONAN」の学生連絡にて発表 注意事項:期間内に申し込まなかった場合は今年度の社会統計学(社会調査応用演習I)は履修できません。		
オフィスアワー	水曜日 昼休み		

講義の内容	具体的な内容としては、社会調査によって得られたデータの客観性を裏付ける確率論の基礎、データの状態を記述する基本統計量、統計的検定の基本的な考え方、推測統計において使用される基本的な分析手法(比率や平均の差の検定、カイニ乗検定、相関係数、偏相関係数、単回帰分析など)が含まれる。
到達目標	統計的データを集計・分析するために必要となる基礎的な統計学的知識を理解することを目的とする。
講義方法	講義方式
準備学習	様々なテーマの政府統計について、新聞やニュース等でチェックしておくこと。
成績評価	出席、参加態度、期末試験から総合的に評価する。
講義構成	01 社会調査と統計学 02 母集団と標本 03 基本統計量1:代表値 04 基本統計量2:変動の記述 05 確率と確率分布 06 正規分布 07 点推計と区間推計 08 統計的検定の考え方 09 仮説の検定 10 平均の差の検定(t検定) 11 カイニ乗検定 12 離散変数間の関連 13 相関係数 14 偏相関係数 15 単回帰分析
教科書	特定の教科書は使用しない。
参考書・資料	Bohrnstedt George W. and David Knoke, 1988, Statistics for Social Data Analysis 2nd. edition, F.E. Peacock Publisher, Inc.(=1992, 海野道郎・中村隆監訳『社会統計学:社会調査のためのデータ分析入門』(学生版),ハーベスト社.) 向後千春・富永敦子, 2007, 『統計学がわかる:ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社. 盛山和夫・近藤博之・岩永雅也, 1992, 『社会調査法』放送大学教育振興会. 盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣. 鳥居泰彦, 1994, 『はじめての統計学』日本経済新聞社.

	など
講義関連事項	講義の内容については進度に応じて若干の変更の可能性あり。
担当者から一言	社会調査士資格のための必修科目であるため、社会調査士資格を目指す学生は、この履修が必要となります。

授業コード	13V13		
授業科目名	社会統計学(社会調査応用演習I) (3クラス)(前)		
担当者名	平松 闊(ヒラマツ ヒロシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	クラス分けのための履修希望調査を行うので、履修を希望する学生は以下の方法で調査期間内に申し込んでください。 調査期間: 2010年3月29日(月)～4月2日(金) 申込方法: 社会学科共同図書室前のボックスに入っている履修希望調査用紙に必要事項を記入して指定されたボックスに入れる。 結果発表: 4月7日(月)「My KONAN」の学生連絡にて発表 注意事項: 期間内に申し込まなかった場合は今年度の社会統計学(社会調査応用演習 I)は履修できません。		

講義の内容	統計的データを集計・分析するために必要となる基礎的な統計学的知識を理解することを目的とする。具体的な内容としては、社会調査によって得られたデータの客観性を裏付ける確率論の基礎、データの状態を記述する基本統計量、統計的検定の基本的な考え方、推測統計において使用される基本的な分析手法(比率や平均の差の検定、カイニ乗検定、相関係数、偏相関係数、単回帰分析など)が含まれる。
到達目標	この授業は、社会調査のための「統計学基礎」の講義・演習であり、確率の基本、基本統計量の計算、統計的検定の基本、さらには、推測統計のための分析の基礎をしっかりと身につける必要がある。そのためには、各回ごとの練習問題をしっかりとこなし、さらには最終回に行われる一定の理解力を測定する「試験」でそのことを証明しなければならない。 さらにこの授業は、「社会調査士」(社会調査士協会)の資格取得のための「必修」の科目である。
講義方法	講義だけではなく演習的な内容を含むので、ほとんどの回において受講者には例題や練習問題を解くことを課す。
準備学習	統計学の基礎の科目であるから、基礎的な「数学」についての理解が必要である。それを身につけていない学生には、そのための準備学習が必要である。もちろん、そのための指示、練習問題、解答などで導入学習は初期段階でおこなう。 練習問題は基本的には時間内で行うが、不十分な場合には時間以外での学習を必要とするため、そのための「課題」をだすことがある。
成績評価	各回の演習内容(例題・練習問題)の提出、出席、期末試験を総合して成績評価を行う。演習は出席して作業を行うことが義務なので、3分の1以上の欠席の場合は、単位が認められない。
講義構成	01 社会調査と統計学 02 母集団と標本 03 基本統計量1: 代表値 04 基本統計量2: 変動の記述 05 確率と確率分布 06 正規分布 07 点推計と区間推計 08 統計的検定の考え方 09 仮説の検定 10 平均の差の検定(t検定) 11 カイニ乗検定 12 離散変数間の連関 13 相関係数 14 偏相関係数 15 単回帰分析
教科書	基本的には教科書は使わない。資料配布・講義資料を基本として講義をすすめる。
参考書・資料	Bohrnstedt George W. and David Knoke, 1988, Statistics for Social Data Analysis 2nd. edition, F.E. Peacock Publisher, Inc.(=1992, 海野道郎・中村隆監訳『社会統計学: 社会調査のためのデータ分析入門』(学生版), ハーベスト社.)

	向後千春・富永敦子, 2007, 『統計学がわかる:ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学』技術評論社. 盛山和夫・近藤博之・岩永雅也, 1992, 『社会調査法』放送大学教育振興会. 盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣. 鳥居泰彦, 1994, 『はじめての統計学』日本経済新聞社. 上記等を参考書とするが、基本的には、資料配布や講義資料(MY KONAN)を中心に行う。
担当者から一言	社会調査士のための必修科目であるため、しっかり基本を身につけることが肝要。 出席するのが基本。

授業コード	13N11		
授業科目名	社会人間学(現代社会学I) (A)(前)		
担当者名	菅 康弘(スガ ヤスヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	文学部(社会学科以外は2年次配当)		
オフィスアワー	「sugar@center.konan-u.ac.jp」に連絡の上、時間応談。		

講義の内容	・講義テーマ 文化の呪縛と文化の生成—現代社会における人間と関係性 ・講義概要 人間を語ることとは社会を語ることである。社会を考察することとは人間を考察することである。ちなみに「社会を構成する最小単位とは？」と問われたとき、多くは「個人」と答えるだろう。しかしこの回答は物理学モデルに影響されたものである。社会の最小単位とは「関係」である。そして社会における様々な関係性は現代という時の文化の影響下にある。と同時に、関係性のあり方が新たな文化を生成する。 本講義では、社会における「関係」と「文化」との相互作用を、主として言説・交換・欲求・規範の側面から考察し、今日の社会人間学的基盤の一端を明らかにすることを目的とする。
到達目標	社会的規範とは分析対象とするものであって、社会現象を「規範的に」語る道具ではない。欲求とは人間に「自然に」備わったものではなく、社会的に構成されるものである。規範や欲求は言説の中に巧妙に潜んでいる。そうした点を見極め、眼前の社会現象を視るまなざしを獲得すること。
講義方法	まれにCDやDVDを使うが、基本は大変アナログ的なシャベクリー方の講義である。最近流行りのインタラクティブな双方向授業やビジュアル系の講義は、話のリズムが崩れるし妙な間が空くため採用しない。したがってメールやオフィスアワーを積極的に活用し不明な点や率直な感想をどんどん表明してほしい。質問という「語り」を通し視えてくるものは多い。なお質問内容・回答内容はプライバシーに抵触しない範囲で講義において開示・解説し、受講生全員の共有財産とすることをあらかじめご了解頂きたい。ただし匿名のメールは黙殺する。 ちなみに、たまに欠席しても大丈夫なよう講義の進展には配慮しているが、たまに出席するという方には対応していない。アシカラズ...(^_^)
準備学習	試験問題が第2回の講義において発表されるので、常に頭の片隅に置いておくこと。そして、日々見聞きする社会事象に鋭敏にアンテナを張っておくこと。そうしたさりげない頭脳の働きが準備学習であり、それが試験の点数の差になって現れる。
成績評価	期末の試験。 完全な論述形式。複数の問題から1問選択する(2009年度は「複数問から複数選び、統一した論点で回答する」という形にした。今年度も同じやり方をとる可能性がある)。選択した問題に沿い、各自でタイトルを付した上で、論を進めること。いずれの問題も現代社会に生起する現象を題材にしたものである。 評価は、上記の「講義内容」をどの程度理解しているか、「到達目標」にどの程度近づいているかを念頭に、記されたタイトルの明晰さ・的確さ、論述に示された視点、論の説得性を基準とする。合わせて、論述のルールを遵守しているかどうか評価基準となる。
講義構成	01. 2009年度の試験問題を題材に講義の留意点を解説 02. 試験問題の発表と解説から2010年度の講義全体をレビュー 03. 言説群としての文化 04. 言説とレトリック 05. 経済的交換と社会的交換 06. 社会的交換における〈曖昧さ〉の規範 07. 交換言説のトラップ—愛と苦悩の欺瞞性 08. 怨み、憎しみ、ルサンチマン 09. 自己言及のパラドックス

	10. ルサンチマンと価値の逆転—そのアイロニーと意義 11. 目標までの距離と操られる欲求—相対的不満 12. 人を煽る言説群—アノミー社会の中の人間 13. まなざしの閉塞—エゴイズム社会の中の人間 14. アイデンティティの諸相—ボキャブラリーと他者からの認証 15. まとめ—現代社会における意味の希求
教科書	なし
参考書・資料	参考書籍は講義中随時指示するが、以下のものをあらかじめ提示しておく。資料は適宜配布する。 『岩波講座 現代社会学』(全26巻) E. デュルケム『自殺論』 D. リースマン『孤独な群衆』 F. ニーチェ『道徳の系譜』 P. ブラウ『交換と権力』
講義関連事項	人間という動物の存在を考えるためには、哲学・心理学・倫理学など人間学関連の科目にも共通する視点が多いし、近現代の文学関連の科目も参考となる。「社会」という言葉から観点を限定せず、広く人間や文化を眺めてほしい。
その他	◇欠席・遅刻・早退について ・欠席、早退は自己責任による自己判断にもとづく権利である ・遅刻と私語をしないことは一般的な社会的義務である （うろついたり、チョロチョロ出入りしないのは当然！） よって、遅刻者はコソコソと入室し早退者は堂々と退室すべきなのだが、現状は逆のようである... ◇ケータイについて ・電源を切れ！とはいわない ・バイブ音は周りに漏れないよう配慮すること ・電話に出るなら、荷物をもち二度と教室には戻らないこと ・メール閲覧は講義終了後に（サイト閲覧やゲームなど論外!）

授業コード	13N12		
授業科目名	社会人間学(現代社会学I) (B)(前)		
担当者名	春日井典子(カスガイ ノリコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	経済学部・経営学部(2年次配当)		
オフィスアワー	講義終了時		

講義の内容	社会学は、その対象においても方法においてもずいぶん多様性があり、それだけに初めて社会学に接する人は、わかりにくい学問という印象を受けるようです。この授業では、社会学の具体的なイメージを呼び起こすために、社会学の歴史の中でこれまで受け継がれ、議論されてきた著名な命題を挙げていながら、「社会学とは何か」を共に考えていきます。
到達目標	経済学部の2年次以上の学生を対象とした「社会学入門」として、多様な分析や研究の根本にある、社会学の「ものの見方」を理解することを目標とします。 この授業が、皆さんにとって、自分自身を取り巻く人間関係や社会現象を多少とも新しい角度から見直す手がかりとして役立つことを願います。
講義方法	講義形式で行います。
準備学習	復習として、授業で示した命題を、具体的な体験や現象に当てはめて再確認すること。
成績評価	持ち込み不可の定期試験(100%)により評価する。
講義構成	以下の命題について講義する。 第1回 自我の社会性(G・H・ミード) 第2回 人間の攻撃性(K・ローレンツ) 第3回 抑圧と文化の理論(S・フロイト) 第4回 文化としての性差(M・ミード) 第5回 動機の語彙(C・W・ミルズ) 第6回 自己呈示のドラマツルギー(E・ゴフマン)

	第7回 ダブル・バインド(G・ベイトソン) 第8回 ラベリングと逸脱(H・ベッカー) 第9回 予言の自己成就(R・K・マートン) 第10回 欲望の模倣とモデル＝ライバル論(R・ジラール) 第11回 志向のくいちがいと羞恥(M・シェラー) 第12回 準拠集団と相対的不満(R・K・マートン) 第13回 まとめ 第14回 試験
教科書	作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』筑摩書房 1986
参考書・資料	作田啓一・井上俊編『命題コレクション 社会学』筑摩書房 1986のなかで、授業で取り上げる部分は印刷して配布する。その他、必要に応じて随時資料を配付する。
担当者から一言	毎年、受講生の非常に多い科目です。大教室での講義となることが予想されます。授業中の私語を厳禁します。

授業コード	13N13		
授業科目名	社会人間学(現代社会学I) (C)(前)		
担当者名	速水奈名子(ハヤミ ナナコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	法学部(2年次配当)		

講義の内容	本講義の前半では、近代からポスト近代社会への時代の移行に応じて、社会学理論がいかに再構成されてきたのかを確認し、後半ではそれらを応用しながら、現代社会における諸問題を検討する。特に後半では、「身体社会学」に関わる問題を扱っていく。
到達目標	社会学理論の基礎を学ぶこと、そしてそれを通じて、現代社会を客観的に分析する視野を養うことが目指される。
講義方法	各テーマに沿って講義を行う。イメージを提示するために、DVDやプロジェクターを使用する場合もある。
準備学習	以下に提示した参考書・資料を利用すること、そして日常的に新聞やインターネット、テレビなどを通じて現代社会事情を把握することが望ましい。
成績評価	授業態度・小テスト(40%)、そして定期試験(60%)を通して評価する。
講義構成	1.イントロダクション 2.社会学理論とは何か 3.近代と社会学理論 4.ポスト近代と社会学理論I: ミクロ／マクロ理論を越えて 5.ポスト近代と社会学理論 II: 主客二元論を越えて 6.ポスト近代と社会学理論 III: 身体社会学の成立 7.ポスト近代と社会学理論IV: 感情社会学の成立 8.現代社会と社会学理論V: 合理性と非合理性I—マクドナル化論 9.現代社会と社会学理論VI: 合理性と非合理性II—再魔術化論 10.現代社会と社会学理論I: 社会と個人I—制度化された個人主義 11.現代社会と社会学理論II: 社会と個人II—制度の崩壊と個人主義 12.現代社会と社会学理論III: 社会とジェンダーI—フェミニズム運動 13.現代社会と社会学理論IV: 社会とジェンダーII—ジェンダーの多様性 14.まとめ
教科書	授業のたびにこちらで作成したレジュメを配布する。
参考書・資料	新睦人編、『新しい社会学のあゆみ』(2006). リッツァー. G., 『古典社会学』(2000). 大野道邦・油井清光・竹中克久編、『身体の社会学』(2005). ターナー. B. S., 『古典社会学』(1999).

担当者から一言	授業のはじめでは社会学理論の話をしませんが、これらは社会学がどのようなことを分析の対象としているのかを知る上で重要です。堅苦しく考えずに、参加してみてください。
---------	--

授業コード	13021		
授業科目名	社会ネットワーク論(後)		
担当者名	星 敦士(ホシ アツシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	金曜日4限目。それ以外の時間はメールで予約してください。		

講義の内容	「社会ネットワーク」とは、わかりやすく一言でいえば「つながり」のことです。世の中には実に多くの、そして様々な「つながり」があります。この講義では、「社会ネットワーク」という考え方の特徴とともに、実際に調査してみたら……、という視点も含めて紹介します。		
到達目標	「ネットワーク」という考え方を通して社会で起きている様々な出来事をとらえることができるようになればいいですね。		
講義方法	以下に示す4つの大きなテーマについて3回程度ずつ講義を行います。実習的な要素も含めたいと思っていますが、その方法やグループワークを取り入れるかどうかは履修者数によって変わるので未定です。		
準備学習	「つながり」というキーワードに関心があれば、予備知識は必要ありません。		
成績評価	平常点(40%)と期末レポート(60%)を総合して成績評価を行います。		
講義構成	01 イントロダクション 02～04 (1) ネットワークの効果を測る 05～07 (2) ネットワーク構造を描きだす 08～10 (3) ネットワークのプロセスをたどる 11～13 (4) メディアとしてのネットワーク 14 まとめ		
教科書	平松闊・鶴飼孝造・宮垣元・星敦士, 2010, 『社会ネットワークの研究・メソッド:「つながり」を調査する』ミネルヴァ書房。		
参考書・資料	適宜紹介します		

授業コード	13018		
授業科目名	社会倫理論(文化社会論)(前)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	人間の行動を根本的に規定する生存への努力を哲学的に解明すること、人間と社会環境との必然的つながりを明らかにすること、人間の社会的本質にもとづいて自然主義的倫理を打ち立てること。自然主義的倫理にもとづいて、現代社会のさまざまな病理を考察すること。		
到達目標	現代社会を生き抜く上で基本となる倫理性が身につき、その原理が理解でき、説明できるようになる。		
講義方法	資料配布。		
準備学習	日本で多発している犯罪事件に関心があることが必須要件です。 人間の精神と身体の関係について基礎的知識を備えること。デカルトの『方法序説』を読むほか、できればダーウィンの『種の起源』を紹介した進化論関係の入門書を読んでおいて欲しい。 授業で紹介する映画、書物に親しむ。		
成績評価	レポートと試験		
講義構成	第1回: 人間の誕生1 誕生の偶然性 第2回: 人間の誕生2 脳髓の発達 第3回: 人間の誕生3 精神の本質 第4回: 人間の誕生4 身体の本質 第5回: 心身関係論1 精神の役割 第6回: 心身関係論2 身体の生存への努力 第7回: 心身関係論3 身体と環境との相互作用 第8回: 人間の倫理1 欲望について		

	第9回：人間の倫理2感情について 第10回：人間の倫理3理性について 第11回：社会倫理の基礎1善とはなにか 第12回：社会倫理の基礎2善悪二元論について 第13回：現代社会の倫理学的考察1共同社会について 第14回：現代社会の倫理学的考察2共同社会について 第15回：現代社会の倫理学的考察3刑罰と倫理
教科書	資料を配布する。教科書『倫理の大転換』(行路社)準備中です。
担当者から一言	人間論の根本を知って欲しい

授業コード	13038		
授業科目名	集団組織論(集団論・組織論)(前)		
担当者名	若林直樹(ワカバヤシ ナオキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	ネットワーク組織は、今日のダイナミックに変化する組織の特質を表している。ネットワーク組織とは、独特の仕組みを持つ。それは、人々や集団が、組織内部における縦割りの壁や組織と外との壁によって分断されていながら共通の目標達成を目指している場合に、そうした壁を越える社会ネットワークを展開させることで、水平性、柔軟性そして多元性という特徴を持つ結合関係を媒介にした協働を行うことのできる活動システムである。そして、ネットワーク組織は、理想と現実の入り交じった組織の見方を示している。つまりこれは「ネットワーク」という視点を用いて、現代の企業、政府・自治体、NPOや諸団体が変革されていくべき理想の組織像を表すとともに、ダイナミックに変化している組織の実態をも表している。そして、パートナーシップ、ネットワーク・ガバナンス、知識ネットワークなどという新たな組織のあり方の議論にも展開している。この講義の課題は、社会ネットワークの視角から、「ネットワーク組織」という組織のあり方を検討して、ダイナミックに変化する現代の組織の原理と実態を明らかにしていくことである。
到達目標	①組織を考える諸概念を理解する 企業やNPO、政府などの組織の現代的なあり方を理解する社会学的な基礎概念を理解する。 ②現代の企業を巡る経営的な概念を理解する。 企業グループ、戦略的提携、官民パートナーシップなどの経営的な概念を理解する。 ③組織を考える現代的なコンセプトを知る 官僚制組織、組織の学習能力、社会ネットワーク理論、ソーシャル・キャピタルなどの組織を分析する現代の社会学的コンセプトを知る。 ④現代の組織の動きを知る こうした概念を通じて、現代の先端的な企業や社会的セクターの組織の実体的な動きを知る。
講義方法	①教科書に沿いながら基本的なコンセプトを理解する 教科書の各章を講義中に説明しながら、基本的なコンセプトを理解する ②代表的な企業や政府組織の事例を理解する 教科書や授業資料を通じて事例を理解し、そのことについて考察する ③パワーポイントを使いながら、要点の整理と図解を行う 授業資料としてパワーポイントを使いながら要点の整理と図解を行う。 ④中間レポートで実際の事例を考察する データベースを使いながら、実際の企業や政府組織の事例についての雑誌記事を探し、それについて中間レポートを作成する。
準備学習	教科書の各章を読んで予習を行う。そして、授業資料をみながら、講義でのポイントの復習を行う。
成績評価	2回程度のレポート(合計90点)と小テスト(10点)の合計で評価する。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回 ネットワーク組織の意義 第3回 ネットワーク組織とは何か 第4～5回 ネットワーク組織の形態 第6～7回 組織間ネットワークの形態 第8回 ネットワーク組織で働く 第9～10回 柔軟な組織原理 第11回 組織デザインの優位性 第12回 社会ネットワーク理論からみた組織像

	第13回 組織へのネットワーク効果 第14回 組織のネットワーク分析の意義 第15回 組織のソーシャル・キャピタル
教科書	若林直樹『ネットワーク組織』有斐閣。
参考書・資料	田尾雅夫他編『はじめて学ぶ経営学』ナカニシヤ出版。
講義関連事項	講義資料についてはMy Konan上で、後ほどダウンロードできるようにする。
担当者から一言	今の企業や政府組織のダイナミックで流動的な組織のあり方を理解してください。
その他	授業中は私語を避け、携帯電話を切ること。
ホームページタイトル	京都大学でのHPIは使用しない。My Konan上で授業資料公開に変更。

授業コード	13052		
授業科目名	情報社会学Ⅱ(後)		
担当者名	岡田朋之(オカダ トモユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	各時限の終了時をあてる		

講義の内容	情報社会といわれる現代社会をとらえる上で、さまざまなメディアの関与を考慮しないわけにはいかない。しかしその際、メディアそれ自体が文化的・社会的に構成されたものである点を見過している場合が少なくない。本講義では身近な存在でありながらメディアとして意識されにくい携帯電話やPHSなどの「ケータイ」を糸口に、それらをめぐる社会現象や言説を文化的・社会的側面から分析することを通じて現代の情報社会の一側面を明らかにする。
到達目標	情報メディアにかかわるごく身近な問題群の背景を理解し、問題解決に向けて取り組むためのイメージーションをやしなう。
講義方法	前半は現代のメディアとコミュニケーションをめぐるさまざまな状況を理解してもらうため、ビデオなどの映像資料や各種サイトを随時紹介する。 講義中はケータイメールを活用して随時受講生からの質問を受けつける。また、4～5回に1回程度、時間内に小エッセイを記入してもらうなど、担当者からの一方的な話の押しつけとならないよう、双方向性をできるだけ取り入れた講義にしていきたい。 さらに、後半の授業の中では少人数のグループを編成し、ワークショップの形式も取り入れながらグループごとに将来のメディア・イメージを構想してもらい、それをもとに個人でレポートを作成、評価の対象とする。
準備学習	適宜指示する。
成績評価	後半におこなうワークショップでのグループの成果と、学期末の個人レポートを中心に評価し、講義時間中に課す小エッセイも加味する。 評価の基準としては、知識量の多寡よりも、講義の中で示した社会学的な捉え方がどの程度理解されているかを重視したい。
講義構成	教科書の各章の内容にしたがって次のようにおこなう 1 ケータイから学ぶということ 2 メディア変容へのアプローチ(その1)～パーソナル化 3 メディア変容へのアプローチ(その2)～マルチメディア化 4 都市空間とメディア 5 ケータイにおけるメディア・コミュニケーションの特性 6 メディアと自己意識 7 メディア利用から見えるジェンダー(その1)～ケータイとジェンダー 8 メディア利用から見えるジェンダー(その2)～ネットとママ友 9 ケータイの流行学 10 メディアとうわさのコミュニケーション論 11 モバイル社会のゆくえ(その1)～「IT革命」とはなんだったのか 12 モバイル社会のゆくえ(その2)～ケータイでつながる人間関係のこれから 13 ワークショップ1: 2020年のケータイ生活を考える 14 ワークショップ2: 2020年のケータイとサービスを考える 15 ワークショップ3: 成果の発表と振り返り
教科書	岡田朋之・松田美佐編『ケータイ学入門』有斐閣 2002

参考書・資料	富田英典他著『ポケベル・ケータイ主義！』ジャストシステム 1997 J・E・カツツ&M・オックス『絶え間なき交信～ケータイ文化の誕生』富田英典監訳、NTT出版、2003 松田美佐・岡部大介・伊藤瑞子編 『ケータイのある風景——テクノロジーの日常化を考える——』北大路書房、2006 その他、必要に応じて講義時間内で紹介する。
講義関連事項	「情報社会学I」は本講義とセットで受講すること。
担当者から一言	日常生活でなにげなく接しているメディアを意識的にとらえなおす訓練/トライしてほしい。

授業コード	13035		
授業科目名	情報社会論(情報社会学I) (前)		
担当者名	岡田朋之(オカダ トモユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	各時限の終了時をあてる		

講義の内容	現代社会は情報化社会ともいわれる。そこから連想されるイメージは、社会のさまざまな領域に情報メディアが深くかかわっている現在の状況であり、また、メディア・テクノロジーがますます生活を変えていくであろうという将来への展望であろう。 しかし、これだけ社会生活においてメディアが大きな役割を果たしているにもかかわらず、皆さんはこれまでそうした状況でのものごとの見方や、社会の捉え方を学ぶ機会がほとんどなかったのではなかろうか。 本講義では、メディアとコミュニケーション、情報といったものとの関わりを軸に、社会学的な視点から、このような現代の情報化社会を見つめなおすものである。
到達目標	情報化の進んだ現代社会におけるさまざまな問題群の背景を理解し、問題解決に向けて取り組むためのイメージネーションをやしなう。
講義方法	多様化するメディア環境の理解を助ける上で、ビデオなどの映像資料や各種ウェブサイトを随時紹介する。 講義中はケータイメールを活用して随時受講生からの質問を受けつける。また、4～5回に1回程度、時間内に小エッセイを記入してもらうなど、担当者からの一方的な話の押しつけとならないよう、双方向性をできるだけ取り入れた講義にしていきたい。
準備学習	とくに必要としない。
成績評価	基本的には期末試験でおこなう。また、講義時間中に求める小エッセイもプラスアルファとして考慮する。 評価の基準としては、知識量の多寡よりも、講義の中で示した社会学的な捉え方がどの程度理解されているかを重視したい。
講義構成	以下の内容を予定しているが、新しい重要なトピックを取り上げることなどにより、若干の修正もあり得る。 第1回 オリエンテーション 第2回 情報政策の流れと「IT革命」について 第3回 メディア史(技術決定論と社会構成主義) 第4回 コンピュータとインターネット 第5回 情報社会を生きる子どもたち(1) 第6回 情報社会を生きる子どもたち(2) 第7回 情報社会と匿名性(1) 第8回 情報社会と匿名性(2) 第9回 マスメディアの流れ 第10回 多メディアの時代と世論形成 第11回 広告コミュニケーションの発展と転回 第12回 (選択テーマ)(1) 第13回 (選択テーマ)(2) 第14回 まとめ
教科書	とくに使用しない。必要に応じて資料を配布する。
参考書・資料	各回のテーマに合わせて参考文献を紹介する。 また、毎回講義レジュメを配布する。
担当者から一言	日常生活でなにげなく接しているメディアを意識的にとらえなおす訓練にトライしてほしい。

授業コード	13026		
授業科目名	生活福祉論(生活福祉学I) (前)		
担当者名	野々山久也(ノノヤマ ヒサヤ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	月・火(12:10~1:00)。そのほか必要があれば、電話078-435-2379やメール: nonoyama@konan-u.ac.jpなどにて予約してください。		

講義の内容	現代社会においては「社会福祉」は、基本的な人権とさえ認識されるようになってきた。それは特別なニーズを有する人びと、たとえば、障害者や要介護老人などに対する社会的サービスとしてだけでなく、一般的なニーズを有するすべて人びとの生活福祉として位置づけられる。 この講義科目では、社会福祉が生活福祉として認識され、すべての人びとにとって不可欠な社会的サービスとなってきた歴史的な背景をその論理展開の過程として学習していく。社会福祉が、そして生活福祉が1つの制度として確立してきた背景には、紆余曲折した多様な論理の展開過程が見いだされる。その過程を詳細に学習し理解することによって、いま期待されている高福祉が一体、何なのかを究めていくことにしたい。		
到達目標	社会福祉の概論をまず学習する。そのうえで今日的な福祉概念である「生活福祉」とは何かを学習する。生活福祉の全体像をマスターすることが到達目標である。		
講義方法	講義資料があるかないかを毎回、MY KONANで確認して、あればMY KONANから講義資料をプリントして、予習してから授業に出席すること。なるべく双方向的な授業を行いたいと思っているので、積極的に質問などして発言してほしい。出席していて、面白い授業にしていきたい。		
準備学習	新聞などさまざまな情報媒体から福祉関連の情報を注意して理解しておくようにすること。福祉情報は、刻々と変化している。今日的な社会学的研究テーマを見つけるためにも、この作業は重要である。なお、講義に出席する際には、MY KONANIに講義関連資料が掲載されていないかを確認し、掲載されている場合には、それをプリントアウトして、その予習をし、授業に持参すること。		
成績評価	期末テスト(60分)を中心にして、その他の採点を加味して成績を総合評価する。授業中の私語は、減点の対象になる。また授業中に2~3回のレポート提出を課すこともありうる(未提出は、理由の如何にかかわらず0点と評価する)。		
講義構成	1 オリエンテーション 2 社会福祉と生活福祉の概念について 3 Social Welfare とSocial Work 4 社会福祉の論理展開 (1) 前近代的論理段階 (2) 相互扶助・慈善事業・博愛事業 (3) 近代的段階への移行 (4) 救済事業・保護事業 5 福祉論理の拡大 6 イギリスの福祉国家の概念 7 拡大化した論理の自己矛盾 8 福祉論理の限定化 9 専門社会福祉事業の展開 10 生活福祉の論理の展開 11 まとめー実践的な生活福祉ー		
教科書	とくに特定の教科書を指定してはいない。授業のすすみ具合にそって、そのつど参考文献などを紹介していく。		
参考書・資料	授業の前半には不要であるが、後半になってからは、以下の参考文献の活用を勧めたい。 大阪ボランティア協会(編)『2010福祉小六法』中央法規		
講義関連事項	MY KONANIに、受講するにあたって持参すべき資料や連絡事項を掲載するので、毎回、必ずチェックしてから授業に出席すること。それは予習ということにもなる。		
担当者から一言	社会福祉や生活福祉などという言葉は、すでに誰しもが知っている言葉になってきている。しかし本当に正しく使用されているだろうか。ときに政治家であっても、誤解して使用している人が多いように感じる。その論理展開の過程を学ぶことによって、正しい概念をしっかりと学習していきたい。		
その他	とくに出席について毎回、点呼するようなことはしないが、登録する以上は、出席は当然の義務である。		

授業コード	13050
-------	-------

授業科目名	生活文化論II (後)		
担当者名	速水奈名子(ハヤミ ナナコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限

講義の内容	本講義では、日本社会における文化的制度、そしてそれが人びとの日常生活に与える影響が、時代とともにいかに変容してきたのか分析していく。講義のはじめでは、社会学的にこれまで「文化」という概念がどのように認識されてきたのか、その定義を確認する。次に、時代別に主にイメージを用いて、日本文化の変容を考察していく。
到達目標	授業を通じて、自らが生きる現代日本社会が、伝統的なそれといかに異なるものであるのか、またどのような伝統を受け継いでいるのか、客観的に分析する視野を養うことが目指される。
講義方法	各テーマに沿って講義を行う。イメージを提示するために、DVDやプロジェクターを使用する。
準備学習	特に授業前の準備は必要ないが、授業を通じて学んだことを、以下に提示した参考書・資料などを確認することを通じて、自らの中で再確認(復習)することが望ましい。
成績評価	授業態度・小テスト(40%)、そして定期試験(60%)を通して評価する。
講義構成	1.イントロダクション 2.社会学と文化 3.カルチャラル・スタディーズとは何か 4.日本文化を客観的に見る 5.江戸時代の文化制度 6.江戸時代の生活 7. 明治時代の文化制度 8. 明治時代の生活 9. 大正時代の文化制度／生活 10.昭和時代：戦前の文化制度／生活 11.昭和時代：戦後の文化制度 12.昭和時代：戦後の生活 13.現代：平成(ポスト近代)の文化制度 14.現代：平成(ポスト近代)の生活
教科書	授業のたびにこちらで作成したレジュメを配布する。
参考書・資料	大野道邦・小川伸彦編、『文化の社会学』(2009)。
担当者から一言	授業内ではさまざまなイメージを用いて、日本文化の変容を検討します。それを通じて、文化と日常生活における認識構成の関係を検討してみてください。

授業コード	13C02		
授業科目名	ゼミナールI (森田)(前)		
担当者名	森田三郎(モリタ サブロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	電話またはメールにて相談して予約。あるいはゼミの時に予約してください。		

講義の内容	3年生(1年後)になって、自分自身が本当に興味のある研究対象を見つけ、着実に取り組むための準備をします。そのためまずは、「聴く力」、「考える力」、「話す力」、「書く力」を身につけるためのトレーニングを行います。それと同時に、研究対象を身近な関西文化に絞り、1年生で学んだ調査手法を使って、街に出て調査をし、報告書を作成します。そのための、実習的な授業を行います。
到達目標	「聴く力」、「考える力」、「話す力」、「書く力」において、レベルアップすること。
講義方法	メールや教室での直接対話を含む指導教員との綿密なコミュニケーションと事前および経過の相談を前提とした上で、ゼミ生各自の自主的な調査を計画・実施してもらいます。研究成果の作成過程では、各自順番に経過を発表し、相互に建設的なコメントや情報提供を行い、ゼミ生どうし助け合いながら自身が責任を持って行います。教員は、ゼミ生のテーマに応じた個別指導を行います。研究の公表に関しては、前期の最終回に、パワーポイントを使って、全員の成果の発表会を行います。CDCの地域連携プロジェクトの成果として、CDCのWEBペー

	ジの阪神文化事典の項目として追加され、世界に公開されます。
準備学習	毎回、具体的な課題を出します。
成績評価	調査活動の成果を、集団討議の上、最終的には教員が評価します。評価の基準は、 (1)どの程度オリジナリティがあるか。 (これまでになかった研究対象、研究する視点、手法などがあつたか) (2)議論が正確であるか。 (テーマに関して、証拠としてあげているデータが正確なものと言えるか) (3)議論が妥当であるか。 (テーマに関して、主張する根拠が、そのテーマに相応しいデータになっているか) (4)自ら動いて、直接データを集めたか。 (自らが直接観察、インタビュー、アンケートなどを実施して集めた資料に基づいた根拠をあげているか。コピペは、最低評価になります)
講義構成	1回目のオリエンテーション時に、各自、取り組むテーマの候補をあげて、その中から、自分が取り組むテーマを決定します。2回目以降は、各自取り組んできた研究(調査)成果を、他のメンバーの中で、順に発表します。発表機会は前期に2回ですが、12月の授業終了時前後の休日に、学年合同ゼミ発表会を開催し、前期と後期に作った報告の中から、一つを選び、パワーポイントを使って、発表してもらいます。発表者以外の人は、コメントをします。全員が、発表者のテーマについて、ディスカッションをします。
教科書	ありません。
参考書・資料	『新琉球 地域文化論グラフィティ』(現代おきなわ若者教養講座/チームT・A地域科学研究室95編、ボーダーインク、1996)

授業コード	13C03		
授業科目名	ゼミナールI(大津)(前)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	現在の社会問題を調査する。
到達目標	現代社会を理解する力がつく
講義方法	グループに分かれての調査
準備学習	新聞テレビニュースを把握する
成績評価	レポート
講義構成	雇用問題の雑誌記事を解説、討論。人類学のテキストの解説と討論
教科書	雇用問題の雑誌記事、新聞記事
参考書・資料	『労働ダンピング』岩波新書
担当者から一言	出席重視

授業コード	13C04		
授業科目名	ゼミナールI(菅)(前)		
担当者名	菅 康弘(スガ ヤスヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	こちらが空いていて、そちらが空いていれば、いつでも...		

講義の内容	『菅ゼミ案内'10』に書いてある通り、2回生の間は ・外でいろいろなものをみる ・内でいろいろなものを読む ことをモットーとします。 前期「ゼミナール1」では、まず‘でい～ぶ観光’先である沖縄や奄美の知識を肥やしてください。その上で、 ‘でい～ぶ観光’です。 なお、2年時の間は合わせて、レジュメのまとめ方や表記の方法など、基礎的なことも学んでください。
到達目標	‘場所’というものを、‘土地’というものを視るまなざしを養って下さい
講義方法	基本的にゼミ生各自の発表で構成されます。
準備学習	指定された中から、自己の関心に応じた論考を選択する ↓ しっかりと内容を把握し、レジュメにまとめる ↓ 他者の発表もしっかりと把握する ↓ ‘でい～ぶ観光’において、「学ぶ＝遊ぶ」テーマを考える ↓ テーマに即した情報を広くゲットする
成績評価	平常点 & 発表
講義構成	私がまずサンプルの発表をやった後、各自が沖縄についての論考から内容紹介をします。レジュメという要約プリントを人数分作成し、発表します。皆さんは12名の発表から、どこに焦点を当てて‘でい～ぶ観光’に臨むかを考え、帰ってからのレポート作成に生かしてください。 ・前半：沖縄・奄美を「読む」 ・後半：‘でい～ぶ観光’にプランを発表する
教科書	テキストは研究室に転がっていますので、各自で好きなものを選ぶ形になりますが、あらかじめいくつかピックアップしておきます。
参考書・資料	研究室に掃いて捨てるほど転がっていますが、各自で徹底的に沖縄・奄美情報を漁ってください。
担当者から一言	ミーハーになってください！！

授業コード	13C05		
授業科目名	ゼミナールI (西川)(前)		
担当者名	西川 麦子(ニシカワ ムギコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	社会調査の一連のプロセス(構想・企画、調査設計、情報収集、記録、データ整理、報告書作成、発信と交信)を体験的に学ぶことを目的とする。人と場所とに関わりながら調査を行うフィールドワークを実施する。インタビューと、観察やドキュメント収集など、複数の方法を組み合わせ対象を多角的な視点からとらえ、情報を記録し資料として提示し、分析、考察していく。
到達目標	現場から課題を見出し情報を集め、調査記録を作成、整理し、分析、考察を行い、報告書を作成するという一連の調査のプロセスを実践することを目的とする。
講義方法	グループワークでの実習
準備学習	社会調査基礎演習Ⅰ・Ⅱ、社会調査法で学習した社会調査の基礎を復習しておく。
成績評価	出席(準備と調査の実施)、調査報告書作成、報告会でのプレゼンテーション
講義構成	調査のテーマは、「仕事」である。各グループは、これに2つのキーワード(たとえば、仕事・技術・地域)を組み合わせ、何を調査するのか課題を明確に設定していく。事前の情報収集や調査企画の段階で作業仮説をたてるが、調査地での参与観察、取材をとおしてえた情報、資料から実態と問題を把握していくプロセスを重視する。各グループにおいて課題を具体化し、次の手順で調査準備を行う(企画)。(1)関連資料・情報の収集(情報検索、文献収集)とまとめ、(2)調査対象を選定、(3)調査企画書作成(タイトル、キーワード、趣旨説明、調査対象、

	情報収集の方法、記録方法と道具、協力者・団体、日程、費用、作業分担、参考文献・資料一覧など)。(4)現地 の下見と企画再検討。 実際の調査とそのまとめ(実践)は、次の手順で行う(後期)。(1)調査依頼、交渉、機材、道具の準備、(2)現場で の取材、記録(本調査と補足調査)、(3)記録・資料作成(録音の文字化、写真、ドキュメントなどの整理)、(4)報告 書作成。準備(1)～(4)、実践(1)～(4)のプロセスを意識的に行うことによって、調査を具体的な作業の連携とプ ロセスとしてとらえ、企画力と実践力を養う。
教科書	西川麦子『フィールドワーク探求術—気づきのプロセス、伝えるチカラ』ミネルヴァ書房、2010
参考書・資料	「社会調査工房オンライン」(甲南大学社会学科)

授業コード	13C06		
授業科目名	ゼミナールI(中里)(前)		
担当者名	中里英樹(ナカザト ヒデキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜昼休み。火・水・金曜日のその他の時間も、メール等での予約を随時受け付けます。		

講義の内容	報告とディスカッション、自分の研究テーマの発見、関連資料の探索などの方法を学びつつ、実践する。		
到達目標	論文をまとめ批判的にコメントの出来る力をつける。 口頭報告のおよび質問の技法を身につける。		
講義方法	報告とディスカッション、サイバーライブラリーでの実習を行う。必要に応じて、資料を配布する。		
準備学習	報告にあたって十分な準備が求められます。		
成績評価	出席、報告、授業内での発言、提出課題などを総合的に評価する。		
講義構成	・小人数グループでの自己紹介 ・グループディスカッション ・推薦文献リストにもとづく報告 ・関心のあるテーマについての雑誌記事を複数紹介し、比較・論評する。		
教科書	テキストは用いず、適宜資料を配付する。		
参考書・資料	受講生の関心に応じて随時紹介する。		

授業コード	13C07		
授業科目名	ゼミナールI(宮垣)(前)		
担当者名	宮垣 元(ミヤガキ ゲン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	前期火・水曜の12時10分～13時がオフィスアワーですので、この時間は自由に来て頂いて結構です。それ以外 の時間については、メールで事前に連絡をしてください。		

講義の内容	受講生の関心に基づく様々なテーマについての議論を通じて、社会学的想像力の涵養を行う。また、専門的な 研究を進めるにあたりまず必要となる作業を行う。グループディスカッションの方法と進め方、テーマ設定と議論 の組み立て方、研究計画書の作成、先行研究へのアクセスと把握、文献リストの作成と文献購読、プレゼンテー ション・執筆の方法などを段階的に行う。		
到達目標	多様なメンバーが集まっているので、まずお互いの研究関心の共有を行う。このことを通じて、自分の研究関心 について効果的に発表することと、他者の発表に対し意見を述べられるようになることを当面の目標としたい。ゼ ミ全体としては、個々が役割を果たすことで、今後ゼミ内で自由闊達な議論を行う「場の構築」が目標となる。		
講義方法	受講生による発表と議論が中心となる。必要に応じ文献購読も行う。		
準備学習	個人、グループによる発表が主体となるので、そのための毎週の準備(調査、まとめ、プレゼンテーションの準備		

	など)が求められる。
成績評価	毎回の出席を前提とし、発表内容、議論への参加により評価を行う。
講義構成	スケジュールと内容、方法、発表担当などは初回に説明します。
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書・資料	参考文献・資料は必要に応じ随時紹介する。

ホームページタイトル	社会調査工房オンライン
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/

授業コード	13C08		
授業科目名	ゼミナールI(星)(前)		
担当者名	星 敦士(ホシ アツシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日4限目。それ以外の時間はメールで予約してください。		

講義の内容	いずれ1人で研究できるようになるための準備運動です。研究法・調査法の基礎も扱いますが、まずは自分の関心を他人に伝えたり、それについて話し合ったりすることに慣れるための時間だと考えてください。
到達目標	小集団のなかでうまく研究していく術を自分なりに身に付けられればよいのではと思います。
講義方法	参加者によるプレゼンが中心です。どうやってやるか、という部分は解説します。
準備学習	何にもいりません。
成績評価	出席、発表内容、ゼミ運営への貢献によって評価します。4回以上欠席した場合は単位評価しません。
講義構成	グループワーク・文献講読・参加者による発表などです。何をいつやるか、どのように組み合わせっていくかは受講者と相談して決めます。
教科書	使用しません
参考書・資料	適宜指示・紹介します

授業コード	13C09		
授業科目名	ゼミナールI(田野)(前)		
担当者名	田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜・水曜・木曜の昼休み、および木曜5限。必要な場合はメールで連絡すること。dtano@nifty.com		

講義の内容	受講生の関心をふまえ、テーマ設定、文献収集、資料分析、論文執筆の方法を指導する。
到達目標	受講生各々が、テーマ設定、文献収集、資料分析、論文執筆の方法を習得することをめざす。
講義方法	受講生の研究報告と、それについての討論を中心に進める。
準備学習	必要に応じて指示する。
成績評価	研究報告の内容によって評価する。
講義構成	初回のゼミで報告順を決定し、各回原則2人ずつ研究発表と討論を行う。
教科書	必要に応じて指示する。
参考書・資料	必要に応じて指示する。

担当者から一言	明確な問題意識と綿密な資料調査なしには、すぐれた論文は書けない。そのためには労を惜しまないこと。
---------	--

授業コード	13C10		
授業科目名	ゼミナールI (阿部)(前)		
担当者名	阿部真大(アベ マサヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日 昼休み		

講義の内容	自由発表ゼミ 各自が発表し、議論することで、みずからの問題関心を発見する。
到達目標	みずからの研究テーマを発見する。
講義方法	ゼミ方式
準備学習	自分の気になるテーマについて、新聞やニュース等でチェックしておくこと。
成績評価	出席、参加態度から総合的に評価する。
講義構成	① 報告者による発表 ② 参加者と報告者との間の質疑応答 ③ 全体討論 ④ まとめ ⑤ 次回の課題の発見
教科書	特定の教科書は使用しない。
参考書・資料	特に指定しない。
講義関連事項	内容については進度に応じて若干の変更の可能性あり。

担当者から一言	自分の問題関心がどこにあり、自分が何を解きたいのか、見つけてください。 その成果をゼミナールIIで発表してもらいます。
---------	--

授業コード	13F02		
授業科目名	ゼミナールII (森田)(後)		
担当者名	森田三郎(モリタ サブロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	電話またはメールにて相談して予約。あるいはゼミの時に予約		

講義の内容	次年度におこなう「ゼミ論研究」を実施する実力を養うために、共同調査を実施し、テーマの設定、方法の選択、技法の具体的な使い方、分析と考察の仕方を、具体的に学ぶ。また、「伝える力」についても、その基本を学び、習得する。共通テーマは、「現代日本の食に関する調査研究」とする。
到達目標	具体的な調査能力と、「伝える力」のレベルアップ
講義方法	授業では、受講生の中から司会者を決め、共通テーマである現代日本の食に関する情報を、協力して収集し、ディスカッションを通して、いくつかの問題群に分類する。受講ゼミ生は、それぞれ役割を分担して、全員が何らかの調査研究を受け持ち、調査を開始する。毎回、研究成果を持ち寄り、研究のプロセスを再検討して更に調査を行う。 授業を通して、調査が実施され、共同で最終報告書を作成する「食文化研究プロジェクト」を実施する。
準備学習	毎回、共同テーマに関する資料の探索と分析に関連する課題をだします。
成績評価	出席および共同調査における貢献度を総合的に判断する。
講義構成	はじめに、共同テーマに関して指導教員が説明し、次回からは、ゼミ生自身による調査プロジェクトとして、授

	業が機能するように、指導教員はアドバイザーに徹する。 調査研究は、いくつかの小さな調査研究の積み重ねとなるので、9月から11月末頃にかけてのゼミの時間は、常に、全体の進行状況を見ながら、具体的な小調査の企画およびその練り直しと、小調査の結果の報告と評価を行う場となる。 12月のゼミの時間になると、調査のまとめ、補足調査研究の実施と報告書の作成が、中心となる。
教科書	なし
参考書・資料	それを調べるのも、この授業の目的です。
担当者から一言	受講生のみなさんは、食に関心を持っている方が多いはずですよ。実際に食べてみるなど、研究を存分に楽しみましょう。

授業コード	13F03		
授業科目名	ゼミナールⅡ(大津)(後)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	現在の社会問題を調査する。
到達目標	現代日本社会を理解する力がつく
講義方法	グループに分かれての調査
準備学習	新聞テレビニュースを知る
成績評価	レポート
講義構成	雇用問題の雑誌記事を解説、討論。人類学のテキストの解説と討論
教科書	雇用問題の雑誌記事、新聞記事
参考書・資料	『労働ダンピング』岩波新書
担当者から一言	出席重視

授業コード	13F04		
授業科目名	ゼミナールⅡ(菅)(後)		
担当者名	菅 康弘(スガ ヤスヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	いつでも、お互いに空いているときに		

講義の内容	『菅ゼミ案内'10』に書きました通り、後期はインドアで読みあさります。あなたがたのボキャブリーをどんどん肥やしてください。
到達目標	前期では「空間を読む眼」を養うことが目標でしたが、引き続きこのまなざしを深化させ、より広く「文化を読む眼」を養って下さい
講義方法	やはり、私がサンプルで発表した後、あなたたち各自の発表となります。
準備学習	・‘でい〜ぶ観光’レポートの作成 ↓ ・自己の関心をみつめながら、配布リストから論考を選択 ↓ ・選択した論考を熟読し、レジュメにまとめる

成績評価	平常点 & 発表
講義構成	1. ‘でい〜ぶ観光’レポートの合評会 ↓ 2. 複数論考発表 ・各自がテーマを設定し、 ・複数の論考を選択し、 ・発表レジュメを作成し発表する
教科書	使用しない
参考書・資料	発表のための論考は研究室に多数あります。そこから各自のテーマで選んでください。また、日々接するテレビや雑誌・新聞記事、サイトネタなども発表に織り込んでいただいて結構です。
担当者から一言	外でも、内でもミーハー精神をお忘れなく！ 「精神は筋肉、脳みそは柔らかく！」

授業コード	13F05		
授業科目名	ゼミナールⅡ(西川)(前)		
担当者名	西川 麦子(ニシカワ ムギコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜昼休み		

講義の内容	受講生各自の関心にそった論文を選び、テーマ、構成、内容、方法などについて報告する。 論文の読み方、書き方の基本を学ぶ。
到達目標	論文や本を読みながら、自分の研究テーマを見つける。 文献資料などに関する情報検索法、論文の読み方、書き方の基本を習得する。
講義方法	受講生各自の発表にもとづき議論をすすめる演習形式
準備学習	社会調査基礎演習で学んだ情報検索法を復習し、図書館を活用し、関心のある文献を探す。
成績評価	出席、レポート、面接試験
講義構成	4月は、共通した論文を読み、論文の読み方、書き方の基本を学ぶ。5・6月は、受講生各自が選んだ論文を読み、発表と議論の練習をする。7月は、自分の研究テーマについての基本的な論文の概要をレポートにまとめる。また2、3、4回生合同の研究発表会に参加する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。

授業コード	13F06		
授業科目名	ゼミナールⅡ(中里)(後)		
担当者名	中里英樹(ナカザト ヒデキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜昼休み。火・水・金曜日のその他の時間も、メール等での予約を随時受け付けます。		

講義の内容	報告とディスカッション、自分の研究テーマの発見、関連先行研究の探索などの方法を学びつつ、実践する。また、調査のためのグループを組織し、調査を開始する。
到達目標	雑誌記事を比較検討できる力をつける。 先行研究を読んで内容をまとめ批判的にコメントの出来る力をつける。 口頭報告のおよび質問の技法を身につける。 グループ作業を円滑に進める力をつける。

講義方法	報告とディスカッション、社会調査工房(コモンルーム)でのグループミーティングにより進める。
準備学習	各自の発表のほか、グループ調査の分担作業を課外で行う必要がある。
成績評価	出席、報告、授業内での発言、提出課題などを総合的に評価する。
講義構成	・各自の関心のある本(学術書)についての報告。 ・グループ調査開始
教科書	テキストは用いず、適宜資料を配付する。
参考書・資料	受講生の関心に応じて随時紹介する。

授業コード	13F07		
授業科目名	ゼミナールII(宮垣)(集中)		
担当者名	宮垣 元(ミヤガキ ゲン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	前期火・水曜の12時10分～13時がオフィスアワーですので、この時間は自由に来て頂いて結構です。それ以外の時間については、メールで事前に連絡をしてください。		

講義の内容	受講生の関心に基づく様々なテーマについての議論を通じて、社会学的想像力の涵養を行う。また、専門的な研究を進めるにあたりまず必要となる作業を行う。グループディスカッションの方法と進め方、テーマ設定と議論の組み立て方、研究計画書の作成、先行研究へのアクセスと把握、文献リストの作成と文献購読、プレゼンテーション・執筆の方法などを段階的に行う。		
到達目標	お互いの研究関心の共有を踏まえ、多様な意見の中で議論を行えるようになることが目標となる。このことは、自己の意見の主張だけでなく、ひとつのテーマについても様々な異なる視点や考え方があることを理解できるようになることを意味する。ゼミ全体としては、全体で自由闊達な議論を行いながら、ひとつひとつの問題を立ち止まって掘り下げられるようになることを目指す。		
講義方法	受講生による発表と議論が中心となる。必要に応じ文献購読も行う。		
準備学習	個人、グループによる発表が主体となるので、そのための毎週の準備(調査、まとめ、プレゼンテーションの準備など)が求められる。		
成績評価	毎回の出席を前提とし、発表内容、議論への参加により評価を行う。		
講義構成	スケジュールと内容、方法、発表担当などは初回に説明します。		
教科書	教科書は特に指定しない。		
参考書・資料	参考文献・資料は必要に応じ随時紹介する。		

ホームページタイトル	社会調査工房オンライン
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/

授業コード	13F08		
授業科目名	ゼミナールII(星)(後)		
担当者名	星 敦士(ホシ アツシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日4限目。それ以外の時間はメールで予約してください。		

講義の内容	ゼミIに引き続き1人で研究できるようになるための準備運動です。本を読む時間の比重が少し増えると思います。本の探し方や読み方、まとめ方などを体験しながら終わりの頃には来年度以降の個人研究について考えることができればいいですね。		
-------	--	--	--

到達目標	研究のために読んだ本の内容を紹介するための様々なプレゼンの方法についてひと通り経験できればと思います。
講義方法	参加者によるプレゼンが中心です。どうやってやるか、という部分は解説します。
準備学習	ゼミ生同士仲良くなっておいってください。本を読んだり報告のための資料をつくったりするのは宿題になるのでバイトやサークルに行き過ぎて苦しめないように！
成績評価	出席、発表内容、ゼミ運営への貢献によって評価します。4回以上欠席した場合は単位評価しません。
講義構成	グループワーク・文献講読・参加者による発表などです。何をいつやるか、どのように組み合わせていくかは受講者と相談して決めます。
教科書	使用しません
参考書・資料	適宜紹介します

授業コード	13F09		
授業科目名	ゼミナールII (田野)(後)		
担当者名	田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜・水曜・木曜の昼休み、および木曜5限。必要な場合はメールで連絡すること。dtano@nifty.com		

講義の内容	受講生の関心をふまえ、テーマ設定、文献収集、資料分析、論文執筆の方法を指導する。
到達目標	受講生各々が、テーマ設定、文献収集、資料分析、論文執筆の方法を習得することをめざす。
講義方法	受講生の研究報告と、それについての討論を中心に進める。
準備学習	必要に応じて指示する。
成績評価	研究報告の内容によって評価する。
講義構成	初回のゼミで報告順を決定し、各回原則2人ずつ研究発表と討論を行う。
教科書	必要に応じて指示する。
参考書・資料	必要に応じて指示する。

担当者から一言	明確な問題意識と綿密な資料調査なしには、すぐれた論文は書けない。そのためには労を惜しまないこと。
---------	--

授業コード	13F10		
授業科目名	ゼミナールII (阿部)(後)		
担当者名	阿部真大(アベ マサヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日 昼休み		

講義の内容	自由発表ゼミ 各自が発表し、議論することで、みずからの研究テーマを深める。
到達目標	みずからの研究テーマを深める。
講義方法	ゼミ方式
準備学習	自分の気になるテーマについて、新聞やニュース等でチェックしておくこと。
成績評価	出席、参加態度から総合的に評価する。
講義構成	① 報告者による発表 ② 参加者と報告者との間の質疑応答

	③ 全体討論 ④ まとめ ⑤ 次回の課題の発見
教科書	特定の教科書は使用しない。
参考書・資料	特に指定しない。
講義関連事項	内容については進度に応じて若干の変更の可能性あり。
担当者から一言	ゼミナールⅢに続きます。

授業コード	13J01		
授業科目名	ゼミナールⅢ(野々山)(前)		
担当者名	野々山久也(ノノヤマ ヒサヤ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月・火(12:10～13:00)。そのほか必要があれば、電話078-435-2379やメール:nonoyama@konan-u.ac.jpなどにて予約してください。		

講義の内容	小集団によるゼミナール形式である。ゼミ・テーマは、「現代家族と生活福祉」としているが、ゼミ参加者の関心にしたがって、研究をすすめることを奨励している。毎回のゼミ発表を中心にして展開されるが、報告時間は、30～40分程度で、まず大きな質疑応答を行ない、そのうえでテーマにしたがったバズセッションを、さらに3～4人のグループに分かれて持つ。15分～20分のバズセッションのあと、元に戻って、グループごとの討議の内容と結論に関する報告を行なう。そのうえで全員で、それを討論しあう。毎回、なかなか騒がしいゼミとなるが、討論を終えた後は、各自が1つの課題をクリアした達成感を抱くことになる。
到達目標	報告予定者が準備してきた個別発表の内容をチェックして質疑応答のうえ、研究発表の問題点や今後を検討すべき方向づけを行なう。ゼミⅢは、2年時に検討してきた各自のテーマをさらに深めて最終的にはゼミ論にまで完成させることを目標とする。
講義方法	講義形式ではない。講義方法については、ゼミナール方式としておく。各自で発表内容を調べてきて、それを報告要旨(A3を2枚程度)にまとめてきて報告する。そのあと、質疑応答の後、小グループに分かれてバズセッションを行う。最終的に、報告のまとめを行う。
準備学習	各自、自らの研究テーマにしたがって関連文献を検索し、それを参考にしながら必要な資料とともにゼミ発表として報告できるように纏めてくる。常に研究テーマに関して新聞やマスメディアなどの情報を収集するべく怠りなく準備していること。
成績評価	ゼミ発表やゼミ出席ならびにレポート提出によって成績を総合的に評価する。
講義構成	開講時に指示する。
教科書	とくに教科書は指定しない。参考文献については、つど指示する。
参考書・資料	つど指示または紹介する。
担当者から一言	無断欠席は一切許しません。

授業コード	13J02		
授業科目名	ゼミナールⅢ（森田）(前)		
担当者名	森田三郎(モリタ サブロウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	電話またはメールにて相談して予約。あるいはゼミの時に予約してください。		

講義の内容	卒業研究につながる自主的研究として、ゼミ論研究を行って貰います。この段階での調査研究活動を通して、自主的な勉強の知的な楽しさに触れて欲しいというのが、もう一つの目的です。
-------	---

到達目標	ゼミ論中間発表を通して、「企画力」のレベルアップをはかる。
講義方法	受講生が各自、ゼミ論の研究成果を発表し、指導教員を含むゼミメンバー全員がコメントをします。特に、指導教員は研究の方向性、参考文献、適切なフィールド、方法、調査対象の紹介など、多方面にわたって、個別支援をします。
準備学習	毎回、各自のテーマに応じた課題を、個別にだします。
成績評価	出席率、および調査活動の成果としての「ゼミ論研究・中間報告」を、総合的に評価します。 評価の基準は、 (1)どの程度オリジナリティがあるか。 (これまでになかった研究対象、研究する視点、手法などがあつたか) (2)議論が正確であるか。 (テーマに関して、証拠としてあげているデータが正確なものと言えるか) (3)議論が妥当であるか。 (テーマに関して、主張する根拠が、そのテーマに相応しいデータになっているか) (4)自ら動いて、直接データを集めたか。 (自らが直接観察、インタビュー、アンケートなどを実施して集めた資料に基づいた根拠をあげているか。コピペは、最低評価になります) (5)本文で8000字以上あるか。 (6)出席率 (出席は、他のゼミ生に対するコメントに反映しますから、貢献度を表します)
講義構成	ゼミ生全員が各自の研究成果を、その方法も含めて順番に発表します。それに対して、教員および、他のゼミ仲間がコメントをします。発表者は、そのコメントを活かし、さらに研究を深めます。発表は通常の授業の時に、2回。
教科書	ありません
参考書・資料	高橋誠『企画書の書き方が面白いほどわかる本』(1999、中経出版)
担当者から一言	3回生は、大学のゼミ活動で最も集中できる時期です。ここでゼミ論を頑張って、就職活動の時に、胸を張って面白い自主研究をやったといきましょう。頑張れ！！

授業コード	13J03		
授業科目名	ゼミナールⅢ(大津)(前)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	ワーキングプアなど雇用破壊の現状を調査する。司法の現状と裁判員制度を調査する
到達目標	現代日本社会を理解する力がつく
講義方法	偽装請負、二重派遣などをグループに分かれて具体的に調査する。 裁判員制度関連の法律などを調査する
準備学習	関連書物を紹介する。
成績評価	レポート
講義構成	労働者派遣法について、派遣法改正について、雇用破壊の現状について 裁判員制度の内容について、死刑制度について
教科書	『裁判員制度の正体』 『雇用破壊』東洋経済新報社
参考書・資料	『労働ダンピング』岩波新書 『労働関係法規集』労働政策研究機構
講義関連事項	格差社会となった日本の現状と問題点
担当者から一言	社会問題で卒業論文を書いて欲しい。

授業コード	13J04		
授業科目名	ゼミナールⅢ(菅)(前)		
担当者名	菅 康弘(スガ ヤスヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	お互いに空いている時間。メールで応談		

講義の内容	卒業研究に向けての中間ステップとして、自分なりの『素材』を探求し、まとめること旨とする。
到達目標	文化を語る、社会を視る手法を身につけ、同時に説得的に「語る」作法を習得する。
講義方法	グループ発表と個人発表。語るべき内容、視点、必要なデータ、それらの所在・探索方法などについて適宜アドバイスをする
準備学習	日常、常にアンテナを張り、自分自身のテーマをみつけること。そして、テーマを「語る」ことを念頭に、必要な文献・資料・論考やデータを探しておく
成績評価	平常点。発表内容を主体に、質疑応答なども加味する
講義構成	第3クール 第1回～第6回においては「過去の卒論を読む」クールとし、2～3人のグループに分かれ、これまでのゼミ生の卒論から1部選択し、内容を紹介した後、質疑応答、そして評価すべき点・改善が必要な点などを各自で発表する。 第4クール 第7回～第15回においては、いよいよ各自の自由発表。テーマ選択・研究の形式は各自の自由である。ただし、説得的な語りのスタイルを習得してもらうため、適宜コメントをする。
教科書	使用しない。随時、参考となる文献・記事・サイト・番組などを紹介する。ただ、広い意味では日常のさりげない出来事の連続が「教科書」である。アンテナを張っておくことをお忘れなく！
担当者から一言	常に「ミーハー」であることを忘れずに！

授業コード	13J05		
授業科目名	ゼミナールⅢ(西川)(前)		
担当者名	西川 麦子(ニシカワ ムギコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	社会調査の一連のプロセス(構想・企画、調査設計、情報収集、記録、データ整理、報告書作成、発信と交信)を体験的に学ぶことを目的とする。人と場所とに関わりながら調査を行うフィールドワークを実施する。インタビューと、観察やドキュメント収集など、複数の方法を組み合わせ対象を多角的な視点からとらえ、情報を記録し資料として提示し、分析、考察していく。
到達目標	現場から課題を見出し情報を集め、記録を作成・整理し、分析・考察を行い、報告書を作成するという一連の調査プロセスを実践することを目的とする。
講義方法	グループワークによる実習形式をとる。各グループにおいて課題を具体化し、次の手順で調査準備を行う(企画)。(1)関連資料・情報の収集(情報検索、文献収集)とまとめ、(2)調査対象を選定、(3)調査企画書作成(タイトル、キーワード、趣旨説明、調査対象、情報収集の方法、記録方法と道具、協力者・団体、日程、費用、作業分担、参考文献・資料一覧など)。(4)現地の下見と企画再検討。実際の調査とそのまとめ(実践)は、次の手順で行う。(1)調査依頼、交渉、機材、道具の準備、(2)現場での取材、記録(本調査と補足調査)、(3)記録・資料作成(録音の文字化、写真、ドキュメントなどの整理)、(4)報告書作成。準備(1)～(4)、実践(1)～(4)のプロセスを意識的に行うことによって、調査を具体的な作業の連携とプロセスとしてとらえ、企画力と実践力を養う。

準備学習	社会調査基礎演習、社会調査法Ⅰ・Ⅱなど、社会調査関連の科目で学習した、調査法を復習しておく。
成績評価	出席(準備と調査の実施)、調査報告書作成、報告会でのプレゼンテーション
講義構成	1. 構成 授業の構成は、2つの段階に分ける。ゼミナールⅢでは、研究テーマから調査企画へと具体化し、実践に向けての準備をすすめる。1つ1つの作業を認識し分担しながら協働作業としてどのように連携させていくかをグループワークのなかで学んでいく。調査のプロセスについての概論講義(4回)、調査設計と予備調査とそのまとめ(8回)、調査企画書作成(2回)と検討会(1回)は、一般教室とパソコン室、図書館など、大学内での活動が中心となる。ゼミナールⅣでは、集中の形式をとり、実際の調査日程の状況に合わせて行うが、次のような内容と時間配分である。現地での調査(5回)、記録作成と資料整理(4回)、補充調査(2回)と報告書作成(3回)、発表会(1回))という構成である。調査は、各グループが選定した調査地を訪問するため学外での活動となる。記録整理、資料作成、報告書作成は、一般教室とパソコン室での作業が中心となる。 2. 調査テーマ 調査のテーマは、「仕事」である。各グループは、これに2つのキーワード(たとえば、仕事・技術・地域)を組み合わせ、何を調査するのか課題を明確に設定していく。事前の情報収集や調査企画の段階で作業仮説をたてるが、調査地での参与観察、取材をとおしてえた情報、資料から実態と問題を把握していくプロセスを重視する。 3. 調査の範囲／対象 調査地域は、日帰りで取材することができる阪神間とし、取材の対象は、個人の場合もあれば、個人を含む店舗や組織などの場合もある。グループごとに調査テーマを設定し、現場ではインタビューや記録などの作業を分担して行うが、全員がインタビュアーとしての役割を一度は体験する。 4. 調査方法、項目 現場を訪問し関係者へのインタビューと、組織や場所についての情報収集(参与観察、資料収集、写真撮影、スケッチなど)を行う。具体的な調査項目は、調査対象の基本的属性にくわえ、各グループ、取材者が設定したテーマに沿う。取材前にインタビューフロー案(調査項目、質問項目、時間配分、チェックポイント)をA4用紙1枚にまとめる。フロー案を作成することによって現場を想定した準備を行うが、現地では、現場の状況におうじて取材内容も展開していく。参与観察をとおして収集する情報をどのように記録するか(写真・ビデオ撮影、スケッチ、空間配置などの図画、ドキュメント収集・管理・整理法)を事前に検討する。
教科書	西川麦子『フィールドワーク探求術—気づきのプロセス、伝えるチカラ』ミネルヴァ書房、2010
参考書・資料	「社会調査工房オンライン」(甲南大学社会学科)
講義関連事項	学生自身は、企画・調査実施・分析・報告書作成、発表会のすべてを担っている。教員とティーチング・アシスタントは調査プロセスの講義や情報収集、記録作成、報告書作成の技術的な指導は行うが、実際の調査においては補助・助言の位置にとどめる。

授業コード	13J06		
授業科目名	ゼミナールⅢ（中里）(前)		
担当者名	中里英樹(ナカザト ヒデキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜昼休み。火・水・金曜日のその他の時間も、メール等での予約を随時受け付けます。		

講義の内容	報告とディスカッション、自分の研究テーマの発見、関連先行研究の探索などの方法を学びつつ、実践する。また、調査のためのグループを組織し、調査を開始する。
到達目標	論文をまとめ批判的にコメントの出来る力をつける。 口頭報告のおよび質問の技法を身につける。 グループのメンバー同士で分担をしながら調査を進める調整力および責任感を身につける。
講義方法	報告とディスカッション、社会調査工房(コモンルーム)でのグループミーティングにより進める。
準備学習	授業時間外での調査や準備作業が求められる
成績評価	出席、報告、授業内での発言、提出課題などを総合的に評価する。
講義構成	・グループ調査の実施 ・中間報告 ・報告書の作成 ・最終報告
教科書	テキストは用いず、適宜資料を配付する。

参考書・資料	受講生の関心に応じて随時紹介する。
--------	-------------------

授業コード	13J07		
授業科目名	ゼミナールⅢ（宮垣）（前）		
担当者名	宮垣 元（ミヤガキ ゲン）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	前期火・水曜の12時10分～13時がオフィスアワーですので、この時間は自由に来て頂いて結構です。それ以外の時間については、メールで事前に連絡をしてください。		

講義の内容	受講生の関心に基づく様々なテーマについての議論を通じて、社会学的想像力の涵養を行う。また、個々人の研究するテーマを定め、専門的な研究としてそれを自ら推進し、発表していく。並行して、ディスカッションの方法と進め方、テーマ設定と議論の組み立て方、研究計画書の作成、先行研究へのアクセスと把握、文献リストの作成と文献購読、プレゼンテーション・執筆の方法などを段階的に行う。
到達目標	個々の研究テーマに基づき、研究構想の発表やそれに必要となるディスカッションを通して、「思いつき」の議論ではなく、根拠や論理性、妥当性を踏まえての議論ができるようになることが目標である。ゼミ全体としては、お互いの研究関心を自分の問題として捉え、互いに切磋琢磨できるような関係となることを目指したい。
講義方法	受講生による発表と議論が中心となる。必要に応じ文献購読も行う。
準備学習	個人、グループによる発表が主体となるので、そのための毎週の準備（調査、まとめ、プレゼンテーションの準備など）が求められる。
成績評価	毎回の出席を前提とし、発表内容、議論への参加により評価を行う。
講義構成	スケジュールと内容、方法、発表担当などは初回に説明します。
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書・資料	参考文献・資料は必要に応じ随時紹介する。

ホームページタイトル	社会調査工房オンライン
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/

授業コード	13J08		
授業科目名	ゼミナールⅢ（星）（前）		
担当者名	星 敦士（ホシ アツシ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日4限目。それ以外の時間はメールで予約してください。		

講義の内容	論文を書くために必要な様々なスキルを扱います。まあスキルといっても研究テーマをどうやって見つけるか、本をどうやって探すか、探した本をどうまとめるか、研究方法の選び方など様々な要素がありますが、まずは自分の研究テーマを決めるところまでが中心になると思います。
到達目標	前期の終わり頃には何となくでも「これ」という自分の研究テーマが決まっていたらいいですね！
講義方法	参加者によるプレゼンが中心です。いろいろなスタイルで発表してもらいます。
準備学習	あまり深く考えすぎず、でも積極的に、日常生活のなかでテーマ探しをしてください。一度決めたテーマがボシャっても落ち込まないように。
成績評価	出席、発表内容、ゼミ運営への貢献によって評価します。4回以上欠席した場合は単位評価しません。
講義構成	参加者による発表が中心です。発表内容は各ゼミ生の進捗状況を勘案して決めます。
教科書	使用しません

参考書・資料	適宜紹介します
--------	---------

授業コード	13J09		
授業科目名	ゼミナールIII (田野)(前)		
担当者名	田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜・水曜・木曜の昼休み、および木曜5限。必要な場合はメールで連絡すること。dtano@nifty.com		

講義の内容	受講生の関心をふまえ、テーマ設定、文献収集、資料分析、論文執筆の方法を指導する。
到達目標	受講生各々が、テーマ設定、文献収集、資料分析、論文執筆の方法を習得することをめざす。
講義方法	受講生の研究報告と、それについての討論を中心に進める。
準備学習	必要に応じて指示する。
成績評価	研究報告の内容によって評価する。
講義構成	初回のゼミで報告順を決定し、各回原則2人ずつ研究発表と討論を行う。
教科書	必要に応じて指示する。
参考書・資料	必要に応じて指示する。

担当者から一言	明確な問題意識と綿密な資料調査なしには、すぐれた論文は書けない。そのためには労を惜しまないこと。
---------	--

授業コード	13J10		
授業科目名	ゼミナールIII (阿部)(前)		
担当者名	阿部真大(アベ マサヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日 昼休み		

講義の内容	自由発表ゼミ 各自が発表し、議論することで、みずからの研究テーマを深める。
到達目標	みずからの研究テーマを深める。
講義方法	ゼミ方式
準備学習	自分の気になるテーマについて、新聞やニュース等でチェックしておくこと。
成績評価	出席、参加態度から総合的に評価する。
講義構成	① 報告者による発表 ② 参加者と報告者との間の質疑応答 ③ 全体討論 ④ まとめ ⑤ 次回の課題の発見
教科書	特定の教科書は使用しない。
参考書・資料	特に指定しない。
講義関連事項	内容については進度に応じて若干の変更の可能性あり。

担当者から一言	ゼミナールIVに続きます。
---------	---------------

授業コード	13K01		
授業科目名	ゼミナールⅣ(野々山)(後)		
担当者名	野々山久也(ノノヤマ ヒサヤ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月・火(12:10～13:00)。そのほかひつようがあれば、電話078-435-2379やメール:nonoyama@konan-u.ac.jpなどにて予約してください。		

講義の内容	小集団によるゼミナール形式である。ゼミ・テーマは、「現代家族と生活福祉」としているが、ゼミ参加者の関心にしたがって、研究をすすめることを奨励している。毎回のゼミ発表を中心にして展開されるが、報告時間は、30～40分程度で、まず大きな質疑応答を行ない、そのうえでテーマにしたがったバズセッションを、さらに3～4人のグループに分かれて持つ。15分～20分のバズセッションのあと、元に戻って、グループごとの討議の内容と結論に関する報告を行なう。あおのうで全員で、それを討論しあう。毎回、なかなか騒がしいゼミとなるが、討論を終えた後は、各自が1つの課題をクリアした達成感を抱くことになる。
到達目標	報告予定者が準備してきた個別発表の内容をチェックして質疑応答のうえ、研究発表の問題点や今後を検討すべき方向づけを行なう。ゼミⅣは、2年時に検討してきた各自のテーマをさらに深めて最終的にはゼミ論にまで完成させることを目標とする。
講義方法	講義形式ではない。講義方法については、ゼミナール方式としておく。各自で発表内容を調べてきて、それを報告要旨(A3を2枚程度)にまとめてきて報告する。そのあと、質疑応答の後、小グループに分かれてバズセッションを行う。最終的に、報告のまとめを行う。
準備学習	各自、自らの研究テーマにしたがって関連文献を検索し、それを参考にしながら必要な資料とともにゼミ発表として報告できるように纏めてくる。常に研究テーマに関して新聞やマスメディアなどの情報を収集するべく怠りなく準備していること。
成績評価	ゼミ出席とゼミ発表、ゼミでの討論参加、そしてレポートなどによって総合評価する。
講義構成	開講時に指示する。
教科書	とくに教科書は指定しない。参考文献については、つど指示する。
参考書・資料	つど指示していく。

授業コード	13K02		
授業科目名	ゼミナールⅣ(森田)(後)		
担当者名	森田三郎(モリタ サブロウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	自動登録		

講義の内容	卒業研究につながる自主的研究として、ゼミⅢに引き続き、ゼミ論研究を行って貰います。また、時間の効率的な使い方についても学びます。
到達目標	「ゼミ論」を作成する過程を通した、社会的事象の分析力とプレゼン力の向上
講義方法	受講生が各自、ゼミ論の研究成果を発表し、指導教員を含むゼミメンバー全員がコメントをします。特に、指導教員は研究の方向性、参考文献、適切なフィールド、方法、調査対象の紹介など、多方面にわたって、個別支援をします。
準備学習	毎回、各自のレベルと課題に応じた課題を出します。
成績評価	出席、そして調査活動の成果としての「ゼミ論」を、集団討議の上、最終的には教員が評価します。 評価の基準は、 (1)どの程度オリジナリティがあるか。 (これまでに無かった研究対象、研究する視点、手法などがあったか) (2)議論が正確であるか。

	(テーマに関して、証拠としてあげてるデータが正確なものと言えるか) (3)議論が妥当であるか。 (テーマに関して、主張する根拠が、そのテーマに相応しいデータになっているか) (4)自ら動いて、直接データを集めたか。 (自らが直接観察、インタビュー、アンケートなどを実施して集めた資料に基づいた根拠をあげているか。コピペは、最低評価になります) (5)本文12000字以上あるか。 (6)出席率 (出席は、他のゼミ生に対するコメントに反映しますから、貢献度を表します)
講義構成	ゼミ生全員が各自の研究成果を、その方法も含めて順番に発表します。それに対して、教員および、他のゼミ仲間がコメントをします。発表者は、そのコメントを活かし、さらに研究を深めます。発表は通常の授業の時に、2回。12月のゼミ合宿の時には、最終稿を2、3回生のゼミ生もいる前で発表し、コメントを貰います。
教科書	ありません
参考書・資料	個別に紹介します。
担当者から一言	3回生は、大学のゼミ活動で最も集中できる時期です。ここでゼミ論を頑張って、就職活動の時に、胸を張って面白い自主研究をやったといきましょう。頑張れ！！

授業コード	13K03		
授業科目名	ゼミナールⅣ(大津)(後)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	ワーキングプアなど雇用破壊の現状を調査する。司法の現状と裁判員制度を調査する
到達目標	現代日本社会を理解する力がつく
講義方法	偽装請負、二重派遣などをグループに分かれて具体的に調査する。 裁判員制度関連の法律などを調査する
準備学習	テレビ新聞のニュースを知っておく
成績評価	レポート
講義構成	労働者派遣法について、派遣法改正について、雇用破壊の現状について 裁判員制度の内容について、死刑制度について
教科書	『裁判員制度の正体』 『雇用破壊』東洋経済新報社
参考書・資料	『労働ダンピング』岩波新書 『労働関係法規集』労働政策研究機構
講義関連事項	格差社会となった日本の現状と問題点
担当者から一言	社会問題で卒業論文を書いて欲しい。

授業コード	13K04		
授業科目名	ゼミナールⅣ(菅)(後)		
担当者名	菅 康弘(スガ ヤスヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	お互いに空いている時間をメールで応談の上		

講義の内容	卒業研究に向けての中間ステップという以上に、卒業研究の方向性を固めるために、自分なりの『素材』を探求し、まとめること旨とする。
到達目標	「論ずる」ということを習得する。そして、「卒業研究」に至るまで、何を・どのようにすべきかを、明確な形で把握すること。
講義方法	個人発表。語るべき内容、視点、必要なデータ、それらの所在・探索方法などについて適宜アドバイスをする
準備学習	社会に常にアンテナを張り、 ・きちっと自分なりのテーマをもつ ・論ずる内容に応じたデータを取得すること。
成績評価	平常点。発表内容を主体に、質疑応答なども加味する
講義構成	第5クール 引き続き各自の自由発表。前半に1回、後半に1回の計2回発表。卒業研究に向け、道筋を立てる。テーマ選択・研究の形式は各自の自由である。ただし、説得的な語りのスタイルを習得してもらうため、適宜コメントをす
教科書	使用しない。随時、参考となる文献・記事・サイト・番組などを紹介する。ただ、広い意味では日常のさりげない出来事の連続が‘教科書’である。アンテナを張っておくことをお忘れなく！
担当者から一言	常に「ミーハー」であることを忘れずに！

授業コード	13K05		
授業科目名	ゼミナールⅣ(西川)(集中)		
担当者名	西川 麦子(ニシカワ ムギコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	社会調査の一連のプロセス(構想・企画、調査設計、情報収集、記録、データ整理、報告書作成、発信と交信)を体験的に学ぶことを目的とする。人と場所とに関わりながら調査を行うフィールドワークを実施する。インタビュー、観察やドキュメント収集など、複数の方法を組み合わせ対象を多角的な視点からとらえ、情報を記録し資料として提示し、分析、考察していく。
到達目標	現場から課題を見出し情報を集め、記録を作成・整理し、分析・考察を行い、報告書を作成するという一連の調査プロセスを実践することを目的とする。
講義方法	グループワークによる実習形式をとる。各グループにおいて課題を具体化し、次の手順で調査準備を行う(企画)。(1)関連資料・情報の収集(情報検索、文献収集)とまとめ、(2)調査対象を選定、(3)調査企画書作成(タイトル、キーワード、趣旨説明、調査対象、情報収集の方法、記録方法と道具、協力者・団体、日程、費用、作業分担、参考文献・資料一覧など)。(4)現地の下見と企画再検討。実際の調査とそのまとめ(実践)は、次の手順で行う。(1)調査依頼、交渉、機材、道具の準備、(2)現場での取材、記録(本調査と補足調査)、(3)記録・資料作成(録音の文字化、写真、ドキュメントなどの整理)、(4)報告書作成。準備(1)～(4)、実践(1)～(4)のプロセスを意識的に行うことによって、調査を具体的な作業の連携とプロセスとしてとらえ、企画力と実践力を養う。
準備学習	社会調査基礎演習、社会調査法Ⅰ・Ⅱなど、社会調査関連の科目で学習した、調査法を復習しておく。
成績評価	出席(準備と調査の実施)、調査報告書作成、報告会でのプレゼンテーション
講義構成	1. 構成 授業の構成は、2つの段階に分ける。ゼミナールⅢでは、研究テーマから調査企画へと具体化し、実践に向けての準備をすすめる。1つ1つの作業を認識し分担しながら協働作業としてどのように連携させていくかをグループワークのなかで学んでいく。調査のプロセスについての概論講義(4回)、調査設計と予備調査とそのまとめ(8回)、調査企画書作成(2回)と検討会(1回)は、一般教室とパソコン室、図書館など、大学内での活動が中心となる。ゼミナールⅣでは、集中の形式をとり、実際の調査日程の状況に合わせて行うが、次のような内容と時間配分である。現地での調査(5回)、記録作成と資料整理(4回)、補充調査(2回)と報告書作成(3回)、発表会(1回))という構成である。調査は、各グループが選定した調査地を訪問するため学外での活動となる。記録整理、資料作成、報告書作成は、一般教室とパソコン室での作業が中心となる。 2. 調査テーマ 調査のテーマは、「仕事」である。各グループは、これに2つのキーワード(たとえば、仕事・技術・地域)を組み合わせ、何を調査するのか課題を明確に設定していく。事前の情報収集や調査企画の段階で作業仮説をたてる

	が、調査地での参与観察、取材をとおしてえた情報、資料から実態と問題を把握していくプロセスを重視する。 3. 調査の範囲／対象 調査地域は、日帰りで取材することができる阪神間とし、取材の対象は、個人の場合もあれば、個人を含む店舗や組織などの場合もある。グループごとに調査テーマを設定し、現場ではインタビューや記録などの作業を分担して行うが、全員がインタビュアーとしての役割を一度は体験する。 4. 調査方法、項目 現場を訪問し関係者へのインタビューと、組織や場所についての情報収集(参与観察、資料収集、写真撮影、スケッチなど)を行う。具体的な調査項目は、調査対象の基本的属性にくわえ、各グループ、取材者が設定したテーマに沿う。取材前にインタビューフロー案(調査項目、質問項目、時間配分、チェックポイント)をA4用紙1枚にまとめる。フロー案を作成することによって現場を想定した準備を行うが、現地では、現場の状況におうじて取材内容も展開していく。参与観察をとおして収集する情報をどのように記録するか(写真・ビデオ撮影、スケッチ、空間配置などの図画、ドキュメント収集・管理・整理法)を事前に検討する。
教科書	西川麦子『フィールドワーク探求術―気づきのプロセス、伝えるチカラ』ミネルヴァ書房、2010
参考書・資料	「社会調査工房オンライン」(甲南大学社会学科)
講義関連事項	学生自身は、企画・調査実施・分析・報告書作成、発表会のすべてを担っている。教員とティーチング・アシスタントは調査プロセスの講義や情報収集、記録作成、報告書作成の技術的な指導は行うが、実際の調査においては補助・助言の位置にとどめる。

授業コード	13K06		
授業科目名	ゼミナールⅣ(中里)(後)		
担当者名	中里英樹(ナカザト ヒデキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜昼休み。火・水・金曜日のその他の時間も、メール等での予約を随時受け付けます。		

講義の内容	卒業研究の準備段階として、受講生の研究関心をふまえて、文献収集、調査、論文執筆の方法を指導する。また受講生相互の報告とディスカッションを通じて、多様な問題や考え方に触れ、視野を広げる。
到達目標	卒業研究のテーマを確定し、適切な先行研究を見つけ、内容を整理する。 研究に必要な調査の企画を立てる。
講義方法	受講生自身の研究報告とそれに関する議論を中心とする。また必要に応じて、担当教員から必要資料等を配布、提示する。
準備学習	卒業研究に必要な文献探索、報告準備など、多くの準備学習が求められる。
成績評価	ゼミ中の報告・発言・提出物(ゼミ論を含む)により評価する
講義構成	・テーマの設定に関する解説と報告 ・先行研究の収集に関する解説と報告 ・論文の書き方に関する解説 ・ゼミ論の作成と指導 ・ゼミ論中間報告
教科書	テキストは用いず、適宜資料を配付する。
参考書・資料	受講生の関心に応じて随時紹介する。

授業コード	13K07		
授業科目名	ゼミナールⅣ(宮垣)(集中)		
担当者名	宮垣 元(ミヤガキ ゲン)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		

オフィスアワー	前期火・水曜の12時10分～13時がオフィスアワーですので、この時間は自由に来て頂いて結構です。それ以外の時間については、メールで事前に連絡をしてください。
講義の内容	受講生の関心に基づく様々なテーマについての議論を通じて、社会学的想像力の涵養を行う。また、個々人の研究するテーマを定め、専門的な研究としてそれを自ら推進し、発表していく。並行して、ディスカッションの方法と進め方、テーマ設定と議論の組み立て方、研究計画書の作成、先行研究へのアクセスと把握、文献リストの作成と文献購読、プレゼンテーション・執筆の方法などを段階的に行う。
到達目標	ゼミナールⅢに引き続き、個々の研究テーマに基づき、研究構想の発表や進捗発表、それに必要となるディスカッションを行う。これまでの議論を通じて、個々の研究成果を、オリジナルのゼミナール論文としてまとめることが目標となる。
講義方法	受講生による発表と議論が中心となる。必要に応じ文献購読も行う。
準備学習	個人、グループによる発表が主体となるので、そのための毎週の準備(調査、まとめ、プレゼンテーションの準備など)が求められる。
成績評価	毎回の出席を前提とし、発表内容、議論への参加により評価を行う。
講義構成	スケジュールと内容、方法、発表担当などは初回に説明します。
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書・資料	参考文献・資料は必要に応じ随時紹介する。
ホームページタイトル	社会調査工房オンライン
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/

授業コード	13K08		
授業科目名	ゼミナールⅣ(阿部)(後)		
担当者名	阿部真大(アベ マサヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日 昼休み		

講義の内容	自由発表ゼミ 各自が発表し、議論することで、みずからの研究テーマを深める。
到達目標	みずからの研究テーマを深める。
講義方法	ゼミ方式
準備学習	自分の気になるテーマについて、新聞やニュース等でチェックしておくこと。
成績評価	出席、参加態度から総合的に評価する。
講義構成	① 報告者による発表 ② 参加者と報告者との間の質疑応答 ③ 全体討論 ④ まとめ ⑤ 次回の課題の発見
教科書	特定の教科書は使用しない。
参考書・資料	特に指定しない。
講義関連事項	内容については進度に応じて若干の変更の可能性あり。
担当者から一言	ゼミナールⅤへ続きます。

授業コード	13K09
授業科目名	ゼミナールⅣ(星)(後)
担当者名	星 敦士(ホシ アツシ)

配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日4限目。それ以外の時間はメールで予約してください。		

講義の内容	ゼミⅢに引き続き論文を書くために必要な様々なスキルを扱いますが、個別の研究発表が中心になります。最後に論文という形で研究成果を提出してもらいます。卒業論文を書くための準備運動だと思ってください。
到達目標	論文という形で文章を書くことを経験することです。
講義方法	参加者によるプレゼンが中心です。いろいろなスタイルで発表してもらいます。
準備学習	たとえ研究は1人でやっても、つらくなったり分からないことがあったらゼミ生同士で助け合いましょう(慰め合うだけにならないように……)。
成績評価	出席、発表内容、ゼミ運営への貢献など平常点と、論文の提出によって評価します。4回以上欠席した場合は単位評価しません。
講義構成	参加者による発表が中心です。発表内容は各ゼミ生の進捗状況を勘案して決めます。
教科書	使用しません。
参考書・資料	適宜紹介します。

授業コード	13K10		
授業科目名	ゼミナールⅣ(田野)(後)		
担当者名	田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜・水曜・木曜の昼休み、および木曜5限。必要場合はメールで連絡すること。dtano@nifty.com		

講義の内容	受講生の関心をふまえ、テーマ設定、文献収集、資料分析、論文執筆の方法を指導する。
到達目標	受講生各々が、テーマ設定、文献収集、資料分析、論文執筆の方法を習得することをめざす。
講義方法	受講生の研究報告と、それについての討論を中心に進める。
準備学習	必要に応じて指示する。
成績評価	研究報告の内容によって評価する。
講義構成	初回のゼミで報告順を決定し、各回原則2人ずつ研究発表と討論を行う。
教科書	必要に応じて指示する。
参考書・資料	必要に応じて指示する。

担当者から一言	明確な問題意識と綿密な資料調査なしには、すぐれた論文は書けない。そのためには労を惜しまないこと。
---------	--

授業コード	13L01		
授業科目名	ゼミナールⅤ(野々山)(後)		
担当者名	野々山久也(ノノヤマ ヒサヤ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月・火(12:10～13:00)。そのほか必要があれば、電話078-435-2379やメール:nonoyama@konan-u.ac.jpなどにて予約してください。		

講義の内容	最終ゼミナールということで、これまでゼミナールⅠ～Ⅳまで研究を積み上げてきた各自のテーマに関しての内
-------	--

	容を整理すると共に、各自で自らの仮説を立て、その実証的研究に取り組む。ゼミナールでは、このことを主として追究する形式をとる。実際にフィールドに出て、インタビュー調査を行ったり、アンケート調査を行ったりすることになる。あるいは、図書館などで資料の加工を行なうことになる。そのうえで、各自がそのデータの分析を行ない、ゼミ生のまゝで発表することとおして、内容を深めていく。最終的には、各自で卒業にまとめていくことになる。
到達目標	ゼミナールⅠ～Ⅳまでに積み重ねてきた各自の研究テーマを最終的に体系化することを目標にする。大学4年間の集大成であると言ってもよい。卒業研究(集中講義)と並行して指導も行っていく。最終目標は、卒業論文にまとめあげることである。
講義方法	ゼミナールでの全体報告の形式や個別指導の形式をとって研究を進めていく。講義ではないので、講義方法という項目では表現しにくい、各自の研究にそった指導を行っていく。
準備学習	改めて準備学習などということもない。すでにこれまでに蓄積してきた研究をさらに進化させていくためにデータ収集に備えることが重要である。それは様々な社会調査法を活用することでもある。怠りないように。
成績評価	ゼミ出席とゼミ発表、並びにゼミ討論への積極的な参加とレポートにて総合評価する。
講義構成	開講時に指示する。
教科書	とくに教科書は指定しない。参考文献については、つど指示する。
参考書・資料	つど指示していく。
担当者から一言	無断欠席は、一切認めません。

授業コード	13L02		
授業科目名	ゼミナールⅤ(森田)(後)		
担当者名	森田三郎(モリタ サブロー)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	電話またはメールにて相談して予約。あるいはゼミの時に予約してください。		

講義の内容	受講生一人一人が、自分のゼミ論を受けて、さらにレベルの高い卒業研究につなげるのもいいし、独自の問題をあたりに設定して頑張るのもいい。自分らしさが一番で、この時点で自分がいちばん気になる問題に取り組む。ただし、それぞれのケースに応じてビデオや写真などの利用を含め、他の人々に、その研究の面白さと重要さが伝わるように書く。
到達目標	社会に通用する分析力とプレゼン力をつけると同時に、もんだ緒を見つけ、分析し、人に伝えることの楽しさを自分のものとする。
講義方法	受講生が各自、卒業研究の研究成果を発表し、指導教員を含むゼミメンバー全員がコメントをします。特に、指導教員は研究の方向性、参考文献、適切なフィールド、方法、調査対象の紹介など、多方面にわたって、個別支援をします。
準備学習	毎回、各自のテーマに応じた課題を出します。
成績評価	出席率、および「卒業研究」におけるゼミでの研究発表内容と応答を、総合的に評価します。 評価の基準は、 (1)どの程度オリジナリティがあるか。 (これまでになかった研究対象、研究する視点、手法などがあつたか) (2)議論が正確であるか。 (テーマに関して、証拠としてあげているデータが正確なものと言えるか) (3)議論が妥当であるか。 (テーマに関して、主張する根拠が、そのテーマに相応しいデータになっているか) (4)自ら動いて、直接データを集めたか。 (自らが直接観察、インタビュー、アンケートなどを実施して集めた資料に基づいた根拠をあげているか。コピペは、最低評価になります) (5)本文で16000字以上あるか。 (6)出席率 (出席は、他のゼミ生に対するコメントに反映しますから、貢献度を表します)
講義構成	ゼミ生全員が各自の研究成果を、その方法も含めて順番に発表します。それに対して、教員および、他のゼミ仲間がコメントをします。発表者は、そのコメントを活かし、さらに研究を深めます。発表は通常の授業の時に、2回。12月のゼミ合宿の時には、最終稿を2、3回生のゼミ生もいる前で発表し、コメントを貰います。

教科書	なし
担当者から一言	4回生後期は、大学生活の最後の時期です。社会に出てもとまどわない力を十分に養い、自分をもう一段向上させるよう、頑張ってください。

授業コード	13L03		
授業科目名	ゼミナールⅤ(大津)(後)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	卒業論文を各自のテーマに沿って書くための指導を行う。		
到達目標	現代日本社会を説明する力がつく		
講義方法	各自の卒業論文の構想と文章に対するコメント		
準備学習	日々のニュースをスクラップして知っておく		
成績評価	卒業論文の完成と諮問		
講義構成	各自への指導		
教科書	『財政とは何か』神野直彦、岩波書店		
担当者から一言	客観的視点とともに批判的視点を忘れないこと		

授業コード	13L04		
授業科目名	ゼミナールⅤ(西川)(前)		
担当者名	西川麦子(ニシカワ ムギコ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	個人研究の発表と議論。		
到達目標	各自の研究テーマを明確にし、論拠となる資料を分かりやすく提示して分析、考察をまとめ、これにもとづき参加者のあいだでの議論ができること。		
講義方法	演習形式		
準備学習	これまでのゼミナール研究の経緯をふまえ、各自の研究テーマについての概論をまとめ、何に着目し、どのようにアプローチするのか、課題を方法を明確にしておく。		
成績評価	出席、レポート、面接試験		
講義構成	4月は各自の研究計画、テーマについての報告、5月以降は、毎回3名ずつ研究調査の内容を報告、これにもとづいて参加者のあいだでの議論をすすめる。7月は、2回生、3回生のゼミ生と合同で、各自の研究の中間発表会を行う。		
教科書	必要に応じて資料を配布する		

授業コード	13L05
-------	-------

授業科目名	ゼミナールⅤ(中里)(後)		
担当者名	中里英樹(ナカザト ヒデキ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜昼休み。火・水・金曜日のその他の時間も、メール等での予約を随時受け付けます。		

講義の内容	卒業論文作成にむけて、文献収集、調査、論文執筆の方法を指導する。また論文の質を向上させることができるよう中間報告とディスカッションを通じて、受講生が相互の研究を批判的に検討する。
到達目標	4年間の集大成にふさわしい質の論文を完成させる。 ゼミ生同士が互いに論文の執筆に役立つ助言や批評をできる力をつける。
講義方法	受講生自身の研究報告とそれに関する議論を中心とする。また必要に応じて、担当教員から必要資料等を配布、提示する。
準備学習	各自中間報告および卒論執筆に向けて準備する必要がある。
成績評価	報告・発言を評価する。
講義構成	ゼミ1回につき2人または3人のゼミ生が卒業研究中間報告を行う。一人当たり計2回の卒業研究中間報告を行う。 報告者以外のゼミ生は、質問・コメントを1回のゼミに必ず1回は行う。
教科書	テキストは用いず、適宜資料を配付する。
参考書・資料	講生の論文テーマに応じて随時紹介する。

授業コード	13L06		
授業科目名	ゼミナールⅤ(宮垣)(前)		
担当者名	宮垣 元(ミヤガキ ゲン)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	前期火・水曜の12時10分～13時がオフィスアワーですので、この時間は自由に来て頂いて結構です。それ以外の時間については、メールで事前に連絡をしてください。		

講義の内容	受講生の関心に基づく様々なテーマについての議論を通じて、社会学的想像力の涵養を行う。また、個々人の研究するテーマを定め、専門的な研究としてそれを自ら推進し、発表していく。並行して、ディスカッションの方法と進め方、テーマ設定と議論の組み立て方、研究計画書の作成、先行研究へのアクセスと把握、文献リストの作成と文献購読、プレゼンテーション・執筆の方法などを段階的に行う。
到達目標	ゼミナール論文を踏まえ、個々の研究テーマを深め、研究構想の発表や進捗発表、それに必要となるディスカッションを行う。このことを通じて、それぞれが専門レベルでの「自分の研究テーマ」を確立できるようになることが目標となる。
講義方法	受講生による発表と議論が中心となる。必要に応じ文献購読も行う。
準備学習	個人、グループによる発表が主体となるので、そのための毎週の準備(調査、まとめ、プレゼンテーションの準備など)が求められる。
成績評価	毎回の出席を前提とし、発表内容、議論への参加により評価を行う。
講義構成	スケジュールと内容、方法、発表担当などは初回に説明します。
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書・資料	参考文献・資料は必要に応じ随時紹介する。

ホームページタイトル	社会調査工房オンライン
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/

授業コード	13L07		
授業科目名	ゼミナールⅤ(星)(後)		
担当者名	星 敦士(ホシ アツシ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日4限目。それ以外の時間はメールで予約してください。		

講義の内容	卒業論文の進捗状況を発表してもらって、それをみんなで検討します。1人で研究しているとたまに落ち込んだり暗くなったりしますので、ゼミで発表して他の人に慰めてもらってください。検討する側の人は批判することも大事ですができるだけ発表のなかに良い点を見つけてそれを伸ばしてあげましょう。
到達目標	どんなテーマについてでもお互いに意見を出し合えるようになればいいですね。
講義方法	参加者によるプレゼンが中心です。
準備学習	発表する時に「しゃべることがない……」という状態にならないよう日頃から少しずつ研究を進めておいてください。
成績評価	出席、発表内容、ゼミ運営への貢献など平常点と、論文の提出によって評価します。4回以上欠席した場合は単位評価しません、しませんけど……就活とか大変な時は個別に相談してください……。
講義構成	参加者による発表が中心です。発表内容は各ゼミ生の進捗状況を勘案して決めます。
教科書	使用しません
参考書・資料	適宜紹介します

授業コード	13L08		
授業科目名	ゼミナールⅤ(平松)(後)		
担当者名	平松 闊(ヒラマツ ヒロシ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		

講義の内容	卒業研究を書き上げるためのゼミナールです。ここでは、3年生で書き上げた「ゼミ論」を土台にしなが、それぞれ複数の「社会調査」を実施すること、そして自らのテーマを深めるための報告、討論、ディフェンスを毎週繰り返しおこなうことを目的とします。卒論に向けてのゼミナールです。
到達目標	このゼミナールは、卒論の書き上げを目標に据えた毎週の、報告、討論、ディフェンスを行うもので、最終の目標は、各自の卒論の完成です。そのために、毎回みずからの目標を設定し、それに向かったゼミナールをおこない、積み重ねによって、「はじめて書く論文」の書き方を習得することを目指す。
講義方法	基本的には、学生自ら「卒業研究」を完成させるための準備作業をおこない、調べて来たことを報告し、討論し、ディフェンスすることです。 さらに、自ら「社会調査」を実施し、それを分析、解釈、考察を行い、それを皆の前で報告し、そのことを通してテーマを進化させ、最終的に「卒業研究」へと仕上げていく。 こうした一連の作業がスムーズに進むよう指導する。
準備学習	卒論を書くためのゼミナールでの作業であり、日常的に自らのテーマを意識し、それについて、資料を調べ、調査を実施し、分析したものを報告、討論することを心がけることをしてください。
成績評価	ゼミナールⅤの最終的な成果は、「卒業研究」に集約されるが、それを完成させるためには日頃の「ゼミナール」で報告、討論、ディフェンスが重要である。 こうした日頃の作業の出来がこのゼミナールの評価となる。したがって、きっちりと出席して自らの作業を継続的にこなす必要がある。これらをきっちりと指導しながら、評価をおこないたい。 3分の1以上の欠席の場合は、単位を認めることはできません。
講義構成	1. 学生が自らのテーマを調べてきて、それを報告し、討論し、ディフェンスをおこない、それを他のゼミ生とともにサポートし、指導する。 2. 学生自ら「社会調査」を実施できるよう、サポートすると同時に強力にそれを指導する。 3. 学生が、卒業研究をスムーズにおこなうことができるように、あらゆるサポートをおこなう。

	4. 最終的には、「卒業研究」の完成をみとどける。
教科書	このゼミナールでは、とくに共通した教科書を必要としません。自らのテーマに関する参考文献、資料、調査記録などが「教科書」といえます。
担当者から一言	卒論に向けて、みんなで頑張ろう！！

授業コード	13034		
授業科目名	創作過程論(映像文化論Ⅱ)(集中)		
担当者名	宜野座菜央見(ギノザ ナオミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	この講義では、これまで「当たり前」に受け止めていた映像経験を再考し、「構成されたもの」として認識することを主眼とします。 以下の問題を取り上げ、テーマに即して映画作品を視聴しながら、検討していきます。 ①日本の言語文化の中で生活する私たちが、外国のTV番組・映画を視聴する際、どれだけ日本語の「字幕・吹き替え」に依存しているのだろうか？ ②映像作品で伝達される価値観に、あなたはどれだけ影響されているのか、いないのか？ ③映像作品における視覚・音楽・言語の「テクノロジー」は、どのように作用するのだろうか？		
到達目標	見る作業を「曖昧で受け身の行為から、思考を触発させる積極的行為にする」		
講義方法	講師による講義、映像視聴、クラス・ディスカッションを組み合わせながら進行します。		
準備学習	授業プリントの復習と、学生自身のノートの見直し。		
成績評価	学生が毎回出席し、討議に積極的な貢献をすることを重視します。出席(40%)、レポート(60%)。		
講義構成	授業では、クリップとしてさまざまな作品を見る作業と並行して、講義とディスカッションを通じて考察を深めます。 ①アニメーション作品(英語吹き替え版とオリジナルの比較)。セリフに依存しない映画。 ②アメリカ映画とそれ以外の国の映画。 ③劇映画が混在するドキュメンタリー映画。ドキュメンタリーが混在する劇映画。		
教科書	事前購入すべきテキストとして指定するものではありません。 レポート作成のために読むべき文献(論文、本からの抜粋など)は、配布します。		
参考書・資料	クラスで適宜紹介します。		
担当者から一言	講義を聞き、映像を見て、クラスで議論し、自分の言葉を用いてレポートを書く、このような流れになります。		

授業コード	13036		
授業科目名	ソーシャル・キャピタル論(比較社会学)(後)		
担当者名	星 敦士(ホシ アツシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	金曜日4限目。それ以外の時間はメールで予約してください。		

講義の内容	近年、ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)という概念が社会学だけではなく、他の社会科学の諸分野においても広く応用されています。この講義では、社会学を中心にこれまでのソーシャル・キャピタルをめぐる展開と、現代社会を分析するツールとしてソーシャル・キャピタルが応用されている諸種の研究例について解説します。
到達目標	現在の社会で起きていることをとらえる一つの視点として、あるいは社会の来し方行く末を考えるための枠組みとして「ソーシャル・キャピタル」というキーワードを使えるようになるといいですね。
講義方法	以下に示した各テーマについて、理屈っぽい話だけに偏らないよう調査データなどを提示しつつ講義を行います(何か良いものがあれば映像も交えたいと思います)。各時間の最後に、その回の内容に関連したリアクション・ペーパーを記入してもらい、次の回の冒頭にその記入内容を紹介しながら振り返ります。
準備学習	何か事前に勉強しておかないと内容がさっぱり理解できない、というタイプの話ではないので特別な準備学習は必要ありませんが、人と社会に対する関心を何となくでも持つておくということじゃないでしょうか(これは社会学

	全般において言えると思いますけど）。見えないものに思いをはせるとでもいいですか……。
成績評価	平常点(各回の講義時に記入してもらうリアクション・ペーパーの内容)30%と期末試験(論述試験)70%を総合して成績評価を行います。
講義構成	01 イントロダクション 02～04 ソーシャル・キャピタル概念の歴史的展開 05～07 ソーシャル・キャピタルの光と影 08～10 実証研究における応用 11～13 分析ツールとしてのソーシャル・キャピタル 14 まとめ 15 試験
教科書	使用しません
参考書・資料	適宜紹介します

授業コード	13M11		
授業科目名	卒業研究(野々山)		
担当者名	野々山久也(ノノヤマ ヒサヤ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月・火(12:10～13:00)。そのほか必要があれば、電話078-435-2379やメール: nonoyama@konan-u.ac.jpなどにて予約してください。		

講義の内容	卒業研究の指導は、野々山ゼミナール4回生の学生を中心に指導を行なう。教授会など会議のない水曜日の午後2:40～4:10(4限と5限)に集中して指導する予定。
到達目標	卒業研究は、ゼミ生各自がそれぞれの研究テーマにしたがって研究に取り組んでいることから、個別指導が中心になる。したがって、到達目標は、それぞれ個別的ではあるが、目標は、最終的に卒業論文に各自の研究がまとまることである。アンケート調査をするもの、インタビュー調査をするもの、観察法によるデータ収集をするもの、さらにはドキュメント分析法でまとめるもの、それぞれに適した指導を行っていく。
講義方法	講義ではない。個別の集中指導である。
準備学習	各自、それぞれの研究テーマにしたがってさまざまな文献や資料を使って研究を進める。最終的なまとめに向かった方向づけは、授業にて指導するが、各自の研究テーマにそった資料収集やその分析に関しては、それぞれ各自が指導にしたがって進めていく。
成績評価	卒業研究の提出をもって、成績の評価する。
講義構成	個別の集中指導。
教科書	教科書の指定はない。個別に相談にのる。
参考書・資料	つど個別に指示していく。
講義関連事項	卒業研究の作成には、各自の着実なオリジナル・データが求められるので、手抜かりのないように用意すること。
担当者から一言	新聞の切り抜きなど、常日頃からデータ収集には、手抜かりのないように備えてほしい。

授業コード	13M12		
授業科目名	卒業研究（森田）		
担当者名	森田三郎（モリタ サブロー）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	自動登録		

オフィスアワー	火曜日の10時半～12時50分をオフィスアワーとします。他の時間でも、メールや電話で直接面談の日にちの相談に応じます。学修相談あるいは生活相談その他、悩みや喜びを話したい方は、遠慮しないで森田研究室までおいでください。
講義の内容	大学生活の集大成である卒業研究を仕上げます。あなたの大学生活を有終の美で飾るために、悔いのない研究をやってください。
到達目標	受講生の個性が生かされた独自性のある卒業研究の作成
講義方法	自主的調査研究をやってください。指導教員は、メール、電話、直接面談にて、相談に応じて、みなさんの調査研究活動をサポートします。
準備学習	問題意識をもって、現場に出ること。街を歩くときも、なぜ、ここにこれがあるのか。なぜ、あの人はあのような行動をするのか、など。また、新聞記事についても、そのデータの信頼性、妥当性も含めて、考え、判断するように心がけて日常生活を送ること。
成績評価	調査活動の成果を、集団討議の上、最終的には教員が評価します。 評価の基準は、 (1)どの程度オリジナリティがあるか。 (これまでに無かった研究対象、研究する視点、手法などがあつたか) (2)議論が正確であるか。 (テーマに関して、証拠としてあげているデータが正確な者と言えるか) (3)議論が妥当であるか。 (テーマに関して、主張する根拠が、そのテーマに相応しいデータになっているか) (4)自ら動いて、直接データを集めたか。 (自らが直接観察、インタビュー、アンケートなどを実施して集めた資料に基づいた根拠をあげているか。コピペは、最低評価になります。コピペで、引用符がなかったら、盗作になります。それは許されない行為であることを、認識しておいてください。)
講義構成	受講生各自による自主的な調査研究活動です。ただし、受講生の皆さんが考えた研究のアイデアから手法、さらに、関連資料の探索、分析、レポートの書き方その他、研究活動のあらゆる段階と側面における相談は、いつでも受け付けます。遠慮しないできてください。
教科書	レポートの書式や参考文献の書き方等に関しては、学んできたはずですが、もう一度、社会調査工房オンライン{ http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/ }にて、確認してください。
参考書・資料	各自のテーマに応じて、個別に紹介します。
担当者から一言	多くの方は、3回生で仕上げたゼミ論のブラッシュアップになりますが、あえて、新たなテーマに挑戦する勇氣ある方がいます。それも良いです。でも、覚悟してください。時間が短い間に卒業研究レベルにまで仕上げるためには、相当なエネルギーと持続的努力が必要です。頑張ってください。しかし、ゼミ論のブラッシュアップをする人も、油断しないでください。最後にだらけたら、やはり、そういう卒業研究になってしまいます。有終の美で飾るためには、それ相応の努力は必要なのです。頑張てね！！

授業コード	13M13		
授業科目名	卒業研究(大津)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	現代社会を人類学的に論じた卒業論文の指導。
到達目標	現代日本社会を説明する力がつく
講義方法	卒業論文の指導、学生の発表
準備学習	ゼミナールでの発表の復讐
成績評価	論文の完成と試問
講義構成	論文の書き方、テーマの設定、論文構成の指導
教科書	『財政とは何か』神野直彦、岩波書店

担当者から一言	テーマへの客観的批判的アプローチを身につけて欲しい
---------	---------------------------

授業コード	13M14		
授業科目名	卒業研究（菅）		
担当者名	菅 康弘（スガ ヤスヒロ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	お互いに空いている時間ならいつでも		

講義の内容	卒業研究の提出に向け、各自のテーマを深化させる。
到達目標	説得的で、ユニークな視点をもった卒業論文を完成させること。
講義方法	自由発表
準備学習	論文を完成させるにあたり、 ・語るためのデータの収集し、 ・語りの視点を明確化させるように常に文化にアンテナを張り、 ・語りのための遵守事項に精通するよう、各種の書き方本を熟読する
成績評価	完成された卒業研究＋試問での受け答えの内容
講義構成	各自の発表2回
教科書	なし
参考書・資料	各自のテーマに応じ、教員がその都度提示する。

担当者から一言	卒業研究は各自の「作品」です。おそらく多くの方にとって、「作品」を創る機会は人生にはあまりないはず。納得のいくものを創ってください！
---------	--

授業コード	13M15		
授業科目名	卒業研究（西川）		
担当者名	西川麦子（ニシカワ ムギコ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	各自の研究のテーマについて、多角的、戦略的に情報を集め、資料を整理し、構成をきちんと組み立てた論文を作成する。第三者へ何をどのように伝えるのかを意識して、文章、レイアウトを工夫する。
到達目標	テーマにたいしての概論をまとめるだけでなく、何に着目し、どのような方法で取り組み、何を論拠として、どのような考察を行うのか、論の構成を戦略的に組み立て説得力のある論文に仕上げる。
講義方法	演習形式
準備学習	社会調査工房オンラインを参考にして、調査方法や表現の方法を復習しておく。
成績評価	論文と面接試験
講義構成	必要に応じて指示する。なお、7月にゼミナール研究、卒業研究中間発表会、12月にゼミナール論文、卒業論文の発表会を他の学年と合同で行う。
教科書	必要に応じて資料を配布する。

授業コード	13M16		
-------	-------	--	--

授業科目名	卒業研究（中里）		
担当者名	中里英樹（ナカザト ヒデキ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜昼休み。火・水・金曜日のその他の時間も、メール等での予約を随時受け付けます。		

講義の内容	卒業論文作成にむけて、受講生の関心を踏まえ、文献収集、調査、論文執筆の方法を指導する。		
到達目標	大学の研究の集大成として相応しいレベルの卒業論文の執筆		
講義方法	ゼミ形式および個別指導による		
準備学習	卒論提出まで多くの課外学習が必要です。		
成績評価	卒業論文および口頭試問によって評価する		
講義構成	個別指導による		
教科書	個別に必読文献を指示する		

授業コード	13M17		
授業科目名	卒業研究（宮垣）		
担当者名	宮垣 元（ミヤガキ ゲン）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	前期火・水曜の12時10分～13時がオフィスアワーですので、この時間は自由に来て頂いて結構です。それ以外の時間については、メールで事前に連絡をしてください。		

講義の内容	受講生の問題関心に基づく様々なテーマについて、それを卒業研究論文としてまとめるまでの指導を行う。テーマ設定と論理的な議論の組み立て方、研究計画書の作成と発表、先行研究へのアクセスと把握整理・自分の研究の位置づけ、文献リストの作成と文献購読、調査計画の立案と実施、分析と執筆の方法などを段階的に行う。		
到達目標	「卒業論文」の完成が最終目標である。卒業論文の完成は、自らの設定したテーマに基づいて、1)社会的背景や先行研究のサーベイ、2)それを踏まえての問題発見、3)議論を行うために必要な調査分析や理論構築、4)論理的で説得的な解釈と結論、などに至る全体のプロセスを、自ら行えるようになることを意味している。		
講義方法	受講生による発表と議論が中心となる。必要に応じ文献購読も行う。		
準備学習	自らの設定したスケジュールに従って、調査、執筆などを各自が行う。授業時間は発表の時間にあてられるため、それ以外の時間に十分な準備が必要となる。		
成績評価	卒業論文および口頭試問により評価する。		
講義構成	スケジュールと内容、方法、発表担当などは初回に説明します。		
教科書	教科書は特に指定しない。		
参考書・資料	参考文献・資料は必要に応じ随時紹介する。執筆方法などは資料を配布。また、オンラインコンテンツ「社会調査工房オンライン」にも執筆に関する解説があるので、参考にして下さい。		

授業コード	13M18		
授業科目名	卒業研究（星）		
担当者名	星 敦士（ホシ アツシ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	自動登録		

オフィスアワー	金曜日4限目。それ以外の時間はメールで予約してください。
講義の内容	卒業論文を執筆するうえで必要なあらゆるスキルと情報を個別の進捗状況に応じて提供します。
到達目標	卒業論文を提出すること。
講義方法	個人、あるいはグループでの面談が中心です。
準備学習	あまりネガティブに考えない、健康に気をつける、規則正しい生活(十分な睡眠と三食きちんと食べる)、相談できる友達を見つける、といったところでしょうか。
成績評価	卒業論文の内容と口頭試問の結果によって評価します。
講義構成	スケジュールは個別に調整して決めます。
教科書	使用しません
参考書・資料	適宜紹介します

授業コード	13M19		
授業科目名	卒業研究(平松)		
担当者名	平松 闊(ヒラマツ ヒロシ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		

講義の内容	卒業研究では、4年間の最後の仕上げとして、自らの「作品」を完成させます。2年、3年のゼミナールで、継続して取り組んできた自らの「テーマ」について、さまざまな方法によるアプローチ、そして社会学科では、何よりも「社会調査」(少なくとも2つの方法を使用)を自ら行い、それを分析・解釈し、実証し、最終的には、16000字(400字換算で40枚)以上の論文に仕上げます。
到達目標	2011年1月に提出する「卒業研究(論文形式が主)」が一定の水準に達していることが目標。一定の水準とは、自らのテーマについて、問題関心、これまでの歴史、研究史のサーベイ、さらにはみずからの行った「社会調査」による分析結果とその考察の内容を、16000字(1600字A4紙10枚)以上のボリュームを満たし、それを期限までに提出することである。さらに、それは2名(主査、副査)の試問を受け、それに応答しなければならない。ハードルは低くないが、少なくとも2年からのゼミナールの総仕上げになる。
講義方法	月2回程度の「集合研究会」—学生が各自、自らのテーマについて調べてきたことを報告し、それを討論し、ディフェンスを行いながら、それぞれのテーマの深化を行います。 同時に、学生個人別に教員とのおもに「ネット」を通じて、調査報告等の分析、解釈に関するやりとりを重ねていきます。 特に後期には、合宿による学習会をかさねながら、卒論執筆が基本になります。教員と学生各自とのネットやメールを通じたやりとりによりさらに論文執筆が進んでいきます。 2010年の12月の終わりには、各自の「卒論執筆」が完成するよう指導していきます。
準備学習	2年生からのゼミナール(I～V)での積み重ねが準備学習である。とくに3年での「ゼミ論文」が「卒業研究」の草稿の一部になる。さらに、自らのテーマに関する文献の読み込みと分析は、この卒業研究(論文)を組み立てる段階での基本となる。さらには、自らの言葉で論文を書きあげる能力を準備することは日ごろの「演習」で鍛えられる。
成績評価	2010年1月に提出される「卒業研究論文」を、主査、副査(社会学科のもう1人の教員)による試問により、一定の水準が確保されているかの判断により、「評価」を受けます。この際、社会学科では、学生自ら行った社会調査による1次データ(あるいは1.5次データ)の分析が基本とされています。
講義構成	週2時間のゼミナールという形式はとっていませんが、1年間にわたって「卒業論文」を書き上げるまでの学習、調査、報告、討論、ディフェンス、そして教員とのさまざまな形(たとえばネットやメールを含めた)でのやりとりが、卒業研究の時間を構成します。 さらに「論文執筆」、提出された論文の審査時の試問(主査、副査野2名による)、ディフェンス等は非常に密度の濃いものになっています。
教科書	学生自らのテーマごとに論文を進めるため、共通した教科書はないが、自らのテーマに関係した文献は多数あり、あるとすれば、それぞれのテーマごとの文献が教科書となる。

担当者から一言	卒業研究は、大学生活最後の「仕上げ」の作業です。思い残すことのない自らの
---------	--------------------------------------

	「作品」を作りましょう。
--	--------------

授業コード	13M20		
授業科目名	卒業研究 (田野)		
担当者名	田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜・水曜・木曜の昼休み、および木曜5限。必要な場合はメールで連絡すること。dtano@nifty.com		

講義の内容	受講生の関心をふまえ、テーマ設定、文献収集、資料分析、論文執筆の方法を指導する。
到達目標	受講生各々が、テーマ設定、文献収集、資料分析、論文執筆の方法を習得することをめざす。
講義方法	受講生の研究報告と、それについての討論を中心に進める。
準備学習	必要に応じて指示する。
成績評価	研究報告の内容によって評価する。
講義構成	初回に報告順を決定し、各回研究報告と、それについての討論を中心に進める。
教科書	必要に応じて指示する。
参考書・資料	必要に応じて指示する。

担当者から一言	明確な問題意識と綿密な資料調査なしには、すぐれた論文は書けない。そのためには労を惜しまないこと。
---------	--

授業コード	13M21		
授業科目名	卒業研究 (阿部)		
担当者名	阿部真大(アベ マサヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日 昼休み		

講義の内容	個別指導 個別の指導をおこなう。
到達目標	卒業研究の完成。
講義方法	個別指導
準備学習	自分の気になるテーマについて、新聞やニュース等でチェックしておくこと。
成績評価	取り組みの態度から総合的に評価する。
講義構成	個別の集中指導
教科書	特定の教科書は使用しない。
参考書・資料	特に指定しない。
講義関連事項	内容については進度に応じて若干の変更の可能性あり。

担当者から一言	研究の総仕上げに向けて全力で取り組みましょう。
---------	-------------------------

授業コード	13Q21		
-------	-------	--	--

授業科目名	多文化共生論(文化人類学II) (A)(前)		
担当者名	赤坂 賢(アカサカ マサル)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	文学部		

講義の内容	グローバル化の時代にあつて、近代世界の根幹であつた国民国家(Nation State)が溶解あるいは変形しつつあるといわれる。明確な境界を持った、基本的には国家を構成する共同体が創られる過程で、絶えず境界の外との交流を通してグローバルな世界を生み出されてきた。しかし、ナショナルな境界が「われわれ」というアイデンティティに特権的な地位を与え、外国人という「他者」を生み出してきた。21世紀の不安材料として、「われわれ」と「他者」とを明確に区別し、統合化と差異化の過程がいつそう進展するのか? こうした課題にむけて、多文化共生の実態について検討してゆきたい。
到達目標	日本を知るために、異文化あるいは他国と比較する相対的な思考態度が身につく。
講義方法	講義形式をとるが、多文化主義の実態に対する理解を深めるためにVHSやDVDなどの映像資料を利用してみたい。その折には小さな用紙を配布して、質問・感想・意見・まとめ等の提出をもとめ、次回の講義に生かしたい。
準備学習	世界の動きや日本社会が直面する課題にたいする関心を深めるために、日頃から新聞・テレビ・映画・雑誌などにより情報の入手につとめること。また、授業で示した参考図書に眼を通すこと。
成績評価	定期試験(70%)と、質問・感想等の用紙で示された授業への積極的態度(30%)
講義構成	1. 多文化共生について:問題の所在 2. 多文化主義の先進国から学ぶもの 3～5. オーストラリア:白豪主義からの脱却、先住民アボリジニ、ハンソン現象 6～7. カナダ:二言語主義から多言語主義へ、ケベック問題、先住民問題 8～10. アメリカの多様性:メルティング・ポットからサラダ・ボウルへ、アジア系アメリカ人の活躍、アフリカ系アメリカ人と公民権運動 11～12. EUの課題。地域主義、国籍、参政権など 13. エスニック・コミュニティの形成 14. クレオール化(文化の接触・混淆)、ワールド・ミュージック 15. 開かれた日本社会をつくるために
教科書	使用しない

担当者から一言	ニュースを見聞きして感じた疑問を歴史や文化の理解につなげてほしい。
その他	私語の禁止と携帯電話のオフ私語の禁止や携帯電話のオフ 新聞の社会面、国際面など テレビのニュース時評 『はだしの1500マイル』(2002年) S.スピルバーグ監督『アミスタッド』(1988年)

授業コード	13Q22		
授業科目名	多文化共生論(文化人類学II) (B)(後)		
担当者名	渡辺和之(ワタナベ カズユキ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	他学部(2年次以上)		

講義の内容	文化人類学は、人間を取り巻く社会や文化をフィールドワークによって明らかにする学問である。この講義は、文化人類学の基礎となる諸問題を概説するものである。特に、市場経済が浸透し、国家による政策が進められるなかで、現地の住民がいかなる問題に直面しているのか、各地の事例を紹介してゆく。 後期は特にグローバル化の進行に伴うアイデンティティーをめぐる問題を扱ってゆく。伝統的な社会が近代化
-------	--

	し、伝統の持つ意味が多様化するなかで、人々は「伝統」をめぐるいかに関わり合うのか。具体的には、カースト、民族、伝統、観光、内戦などを例に、変化する社会の文化を考えてゆく。
到達目標	1. 文化や伝統は常に変化することを理解する。「日本文化」はいまや「日本人」だけのものではないし、「日本文化」そのものも周囲との関係のなかで歴史的に創られてきた。 2. 世の中には白黒が簡単につけられない問題があることを理解する。何が正しく、何が間違っているのかを判断するには何か前提が必要である。これは学問でも同じこと。どんな学問も突き詰めると、不確かな前提の上に成り立っており、文化人類学も例外ではない。 3. 「何が正しいか」ではなく、「何を正しい」と人々が考えているのかに注目するのが重要であることを理解する。人々が何にアイデンティティを求め、周囲の人々とどのように関係するか分析する方が実りある。
講義方法	講義形式でおこなう。ほぼ毎回授業のテーマに関し、小作文を書いてもらう。
準備学習	期間中に調べごとをしてもらうことがある。
成績評価	定期試験で評価する
講義構成	第1回 コスモロジー 第2回 カースト社会 第3回 祭祀と王権 第4回 小乗仏教の拡大と勤勉な労働 第5回 エスニシティ 第6回 伝統の創造 第7回 伝統の解釈をめぐる政治 第8回 観光と植民地統治 第9回 景観論争 第10回 シェルパの20世紀 第11回 グローバル化するインド映画1 第12回 グローバル化するインド映画2 第13回 内戦の拡大と王権 第14回 内戦とグローバル化 第15回 試験
教科書	特に用いない。配布したレジュメにそって講義する。
参考書・資料	石井溥ほか『ヒマラヤの「正倉院」』山川出版社 石井溥ほか『流動するネパール』東京大学出版会 ルイ＝デュモン『ホモヒエラルキクス』みすず書房 関根康正(編)『都市的なものの現在』東京大学出版会 鹿野勝彦『シェルパ:ヒマラヤ高地民族の20世紀』茗溪堂 アパデュライ『さまよえる近代』平凡社など。 映画『ボンベイ』マニ・ラトナム監督。DVD発売コロムビアレコード。 映画『家族の四季』カラン＝ジョーハル監督DVD発売アップリンク 映画『モンスーン・ウェディング』ミラナイール監督DVD発売 アミューズ・ビデオ
講義関連事項	通年の授業なので、前期と後期を継続して履修することが望ましい。
担当者から一言	期間中に、最低1回はインド映画を見てもらうつもりでいる。
ホームページタイトル	国立民族学博物館
URL	http://www.minpaku.ac.jp/

授業コード	13022		
授業科目名	都市空間論（後）		
担当者名	菅 康弘(スガ ヤスヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	「sugar@center.konan-u.ac.jp」に連絡の上、時間応談。		

講義の内容	タイトル: 都市 vs. 田舎?—都市の多面性とそこに生きる意味 都市—それは上記のような二分法で単純化される空間ではない。都市には常に「都市的なもの」と「反都市的
-------	---

	なもの」が矛盾し合い、齟齬をきたし、調和し合っている。しかし、この複雑性が人を時に不安に陥れ、時に自遊させる。こうした多義性を対象に、本講義では、‘視覚’と‘stranger’という観点から都市と近代、そしてポスト近代における都市的自我と行動・規範を解説する。
到達目標	眼前にある、あなた住み、動いている都市と、都市の都市的な部分である‘都市’とを明確に区別すること。具体的な出来事や自分の経験だけを絶対視せず、広く深く文化を観察し、「分析」というまなざしから、自分の生きている世界を突破できるようになること。そして、分析のために使える語彙、すなわちボキャブラリーを増やすこと。
講義方法	まれにCDやDVDを使うが、基本は大変アナログ的なシャベクリー方の講義である。最近流行りのインタラクティブな双方向授業やビジュアル系の講義は、話のリズムが崩れるし妙な間が空くため採用しない。したがってメールやオフィスアワーを積極的に活用し不明な点や率直な感想をどんどん表明してほしい。質問という「語り」を通して視えてくるものは多い。なお質問内容・回答内容はプライバシーに抵触しない範囲で講義において開示・解説し、受講生全員の共有財産とすることをあらかじめご了承ください。ただし匿名のメールは黙殺する。 ちなみに、たまに欠席しても大丈夫なよう講義の進展には配慮しているが、たまに出席するという方には対応していない。アシカラズ...(^_~)
準備学習	試験問題が第2回の講義において発表されるので、常に頭の片隅に置いておくこと。そして、日々見聞きする社会事象に鋭敏にアンテナを張っておくこと。そうしたさりげない頭脳の働きが準備学習であり、それが試験の点数の差になって現れる。
成績評価	期末の試験。 完全な論述形式。複数の問題から1問選択する。選択した問題に沿い、各自でタイトルを付した上で、論を進めること。いずれの問題も都市に生起する現象を題材にしたものである。 評価は、上記の「講義内容」をどの程度理解しているかを念頭に、記されたタイトルの明晰さ・的確さ、論述に示された視点、論の説得性を基準とする。合わせて、論述のルールを遵守しているかどうかも評価基準となる。
講義構成	01. 2009年度試験問題を題材に、履修上の留意点を解説する 02. 試験問題の発表と解説から2010年度の講義全体をレビュー 03. ストレンジャーの空間と文化—自己呈示と「信頼」 04. 〈平等〉をめぐる2つの規範 05. 不関与の規範—真の無関心と儀礼的無関心 06. 緩やかな‘秩序’—相互の信頼と高度な協同 07. ‘個’と‘人’—個人主義という名の宗教の空間 08. 「みる－みられる」空間の快楽と不安 09. 第3の空間と都市的？自我の構造 10. 近代都市—饒舌から沈黙へ 11. 劇場の誕生と2つの分離 12. ‘劇場’の都市への浸透—分離がもたらす2つの欲望 13. 空間の再編・欲望の自律・視覚の特権化 14. 拡散する‘分離’—沈黙の都市へ 15. 都市における近代と反近代、都市と反都市
教科書	使用しない
参考書・資料	参考書籍は講義中随時指示するが、以下のものをあらかじめ提示しておく。資料は適宜配布する。 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』 吉見俊哉『都市のドラマツルギー』 大谷信介『現代都市住民のパーソナル・ネットワーク』 磯村英一『人間にとって都市とは何か』 G. ジンメル『ジンメル・エッセイ集』『橋と扉』『社会学』 和田博文『テキストのモダン都市』 C. S. フィッシャー『都市的体験』 W. ベンヤミン『都市の肖像』『パサージュ論』 そして、都市を唄うおびただしい流行歌群
講義関連事項	「社会調査基礎演習2-2」の受講生は、前半の最終課題「Town Watching Report」と本講義が密接に連動するので、テーマや調査項目の選択、レポートにおける論の進め方・語りの視点などに積極的に参考としてほしい。 それ以外にも本講義では、近代史・民俗学・表象論・都市計画論や、現代文化・近代社会論・メディア論の講義を参照し、近代社会・現代社会の一部として都市空間を考察してほしい。また、空間的視点を重視するので、視覚や表象に関わる科目も重要である。
その他	◇欠席・遅刻・早退について ・欠席、早退は自己責任による自己判断にもとづく権利である ・遅刻と私語をしないことは一般的な社会的義務である （うろついたり、チョロチョロ出入りしないのは当然！） よって、遅刻者はコソコソと入室し早退者は堂々と退室すべきなのだが、現状は逆のようである... ◇ケータイについて

	・電源を切れ！とはいわない ・パイプ音は周りに漏れないよう配慮すること ・電話に出るなら、荷物をもち二度と教室には戻らないこと ・メール閲覧は講義終了後に（サイト閲覧やゲームなど論外！）
--	--

授業コード	13048		
授業科目名	ネットワーク領域特論Ⅱ（前）		
担当者名	宮垣 元（ミヤガキ ゲン）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	前期火・水曜の12時10分～13時がオフィスアワーですので、自由に来て頂いて結構です。それ以外の時間については、事前にメールで連絡をしてください。		

講義の内容	本講義のテーマは「ネットワークと組織」であるが、とりわけ近年の新しい動向を主な対象とする。インターネットの爆発的な普及、地域コミュニティの変容、ボランティアやNPO・NGOの台頭など、私たちの周りの「組織」や「関係（ネットワーク）」に新しい動きが生じつつあるが、こうした「新しい（…とされている）組織やネットワーク」をどのように捉え、またそれらがいかなる意義や可能性を持つのかという点を具体的な事例を通して考えていきたい。特に、コミュニティの希薄化が指摘される中で、コミュニティの再編に資する「関係性の変容」を生み出すために、どのような活動や組織が必要となるか考えることが本講義の主題である。 本年度に取り上げる事例は、地域メディアやまちづくり活動を担うNPOの立ち上げプロセスとしたい。地域把握、社会課題、組織目的、ネットワークなど、実際に地域にNPOを立ち上げるプロセスについて実践的に考えることを通して、これらの組織の特性や可能性について考える。また、「社会ネットワーク論」「NPO/NGO論」の応用編であり、「ネットワーク領域特論Ⅰ」の続編でもある。
到達目標	到達目標は2つで、本講義が対象とする組織や活動に共通する「自発性に基づく行動原理の可能性」を概念的に理解すること、そしてグループワークを通してこうした行動原理の重要性を実践的に理解することにあります。
講義方法	1つのテーマについて2～3回程度の授業を行うが、学期を通して「テーマ・ゼミ」のような形式とし、講義形式ではなく、予習、発表や討論など、受講生の参加が主体となる。参加の形態は4、5つ程度のグループによる「グループワーク」で、授業時間の多くはその時間にあてられる。したがって、特別な専門知識は必要としないが、毎回の出席を前提とし、課題や発表など、学期を通して「すべきこと」が多いので、よく注意してください。
準備学習	履修にあたっての前提知識は特に必要としませんが、グループワークの準備や調査、作業などが随時発生しますので、これらを通して準備学習を行って下さい。
成績評価	原則としてグループワークであるため、数回の間レポートとグループワークのプレゼンテーション、及び期末レポートにより総合的に行う。随時行う発表、グループワーク、授業への参加についてもその都度加味する。特に、グループワークへの「参加」が重要であることを理解して下さい。
講義構成	以下のテーマを取り上げる（ただし、順番は変更する場合もある）。また、講義形式だけでなく、グループワークなど、学生による発表を数回行う。 1. イントロダクション 2-3. 組織の変容： ボランティアやNPOから何を学ぶか 4-5. コミュニティの変容： 地域を知る、社会課題を知る 5-6. 地域メディアの可能性： 関係の結節点としての地域メディア 7-8. ネットワークとネットワーキング： 自発性の行動原理 9-10. 実践としてのネットワーク： 自ら企画立案を行ってみる 11-12. 「ネットワーク」をつくる①：プレゼンテーション 13-14. 「ネットワーク」をつくる②：プレゼンテーション 15. まとめ
教科書	教科書は特に指定しません。参考文献などは講義でも随時紹介します。また、必要な資料の配布を行う場合があります。
参考書・資料	・平松・鶴飼・宮垣・星『社会ネットワークのリサーチ・メソッド』ミネルヴァ書房 ・工藤・寺岡・宮垣『質的調査の方法』法律文化社 ・宮垣元『ヒューマンサービスと信頼：福祉NPOの理論と実証』慶應義塾大学出版会 ・富永健一『経済と組織の社会学理論』東京大学出版会 ・金子郁容『ボランティア：もうひとつの情報社会』岩波新書

担当者から一言	全体を通して、講義形式ではなくテーマ・ゼミ形式で進行する予定です。受講者の出席、グループワークへの参加が強く求められますので、そのことをよく理解して履修して下さい。
---------	--

授業コード	13028		
授業科目名	比較文化論(比較文化論I)(後)		
担当者名	辻野理花(ツジノ リカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	この講義ではオランダという国を中心にとりあげ、その社会や文化への理解を深めます。みなさんはオランダについてどのようなことを知っていますか。チューリップや風車、チーズといった観光対象としてのオランダ。小野伸二選手などの日本人サッカー選手が活躍したオランダ。世界で初めて安楽死を合法化した国オランダ。現在日本ではオランダについてあまり多くのことは知られていないようです。しかし、日本とオランダの関係は400年以上前に始まっており、それ以来さまざまな接点が両国間でみられます。そこで、日本との関係も深いオランダに焦点を当て、まずオランダを知り、オランダと日本の関係を知り、オランダ社会への理解を深めていきましょう。オランダを合わせ鏡にし、オランダに光をあてることによって見えてくる世界を探索していきましょう。ひいては私たちが暮らす日本社会についてもあらためて見つめ、考えていきたいと思います。		
到達目標	オランダ社会の成り立ちと諸相について歴史的視点から理解する。 講義でとりあげるトピックについて日本やそのほかの社会との比較を通して、オランダ社会についての理解を深める。 オランダ社会への理解を深めることで、自文化についてこれまでとは異なる視点からとらえ、考える。		
講義方法	講義形式、必要に応じて映像資料も利用しながら講義をすすめていきます。		
準備学習	新聞やテレビ、インターネットなどで報道されるヨーロッパに関するニュースなど意識的にキャッチするようにしてください。		
成績評価	小テストとレポート(複数回実施予定 授業中の提出物も含む)		
講義構成	1. オリエンテーション 2. オランダをつくったのはオランダ人(オランダについての概要) 3. ヨーロッパの中のオランダ 4. 日蘭交流 5. 現代オランダの諸相 2-5のテーマを各3-4回ずつに分けて講義します。		
教科書	なし		
参考書・資料	随時紹介		
担当者から一言	講義の順序や進度、内容は変更することもあります。		

授業コード	13055		
授業科目名	比較文化論II(後)		
担当者名	辻野理花(ツジノ リカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	本講義は様々な文化にまつわる諸相や現象を取り上げ、異文化を知り、理解を深めていくことを目的とします。いくつかのトピックを設定し、それらについて複数の文化・社会について見ていきます。この講義を通して新たな関心や視点をもつことを目標とします。講義では大きく分けて2つの側面を中心に進めていきます。1つはグローバリゼーションとローカル化という側面について、もう1つは映像文化やメディアについてです。これら2つの側面を中心にいくつかのトピックを設定して見ていく予定である。		
到達目標	講義でとりあげる具体的な現象を通して、グローバリゼーションとローカル化について理解し、説明することができる。映像文化についてクリティカルに読み解き、論じることができる。		
講義方法	講義形式 必要に応じて映像資料も利用しながら講義をすすめていきます。また講義内容によってはディスカッションやグループワークも予定しています。		
準備学習	受講するにあたって、講義を聞くだけではなく、新聞、TV、雑誌などを通じて世界の状況に関心をもち知ろうとする姿勢が望まれます。		

成績評価	小テストとレポート（複数回実施予定 授業中の提出物も含む）
講義構成	住、多文化、移民、言語、映像文化、メディアなどのトピックに注目して、それぞれ数回に分けて講義を行う。
教科書	なし
参考書・資料	随時紹介

担当者から一言	講義中心ですが、ディスカッションなどの際には積極的に参加してください。 講義の順序や進度、内容は変更することもあります。
---------	---

授業コード	13056		
授業科目名	表象文化論（集中）		
担当者名	宜野座菜央見（ギノザ ナオミ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）

講義の内容	この講義では、映画の分析を通じて、私たちが日常生活で意識しない、ごく「自然」に受けとめている社会的・文化的実践の前提条件を「疑い」、考察していきます。 ①娯楽と分類される映画には、政治的・社会的な意義はないのか？ ②さまざまな映画作品が明確に、または潜在的に依拠する価値観は、どのようなもので、どのように表出するか？ ③人間らしさとしての理性・知性はどのようなものとして呈示されているか？
到達目標	「これまで娯楽として見ていた映画の社会性・政治性・歴史性を明確に認識する」
講義方法	講義、映像視聴、グループ・ディスカッションを組み合わせで進めます。
準備学習	授業プリントの復習と学生自身のノート整理。
成績評価	学生が毎回出席し、討議に積極的な貢献をすることを重視します。出席(40%)、レポート(60%)。
講義構成	21世紀の私たちは、母国語の読み書き能力（リテラシー）、さらに外国語である英語の能力を要求される時代を生きています。リテラシーがもたらす力、言語に関わるさまざまな問題（人種・階級・ジェンダー・文化）を視覚化した映画を考察しながら、＜娯楽・メディア・芸術＞である映画の社会性を確認します。 ①あなたに識字（読み書き）能力がなかったら？ ②その言語が、正統とみなされなかったり、多数派の言語でなかったら？ ③映像作品が社会を風刺したり、問題をアピールする場合、独特の強みと弱点とは何だろうか？
教科書	購入すべきテキストの指定はありません。講読教材としての論文、本からの抜粋などは、授業で配布します。
参考書・資料	できれば、レイ・ブラッドベリ『華氏451度』（ハヤカワ文庫 2008年）を読んできてください。
担当者から一言	集中講義は精神的にも肉体的にも過酷です。せっかく全回出席したのに、レポートを出せずに単位を取り損ねる学生もいます。体調とスケジュールのバランスを考えて、参加してください。

授業コード	13024		
授業科目名	フィールドワーク研究(社会調査法Ⅱ)(前)		
担当者名	西川麦子(ニシカワ ムギコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	フィールドワークのプロセス、質的調査の技法を具体的、かつ総合的にとらえる。ここでのフィールドワークとは、人と状況とに関わり、情報を集め、第三者に何かを伝える、一連の行為をさす。講義では、現場と関わりながら問いを見つけるプロセスや、マーケティング・リサーチの質的調査など、異なるタイプの調査の取り組み方や、「見る」、「集める」、「聞く」といった情報収集と記録方法について紹介する。また、フィールドワークにおける人と人との関わり方について考えていく。
-------	---

到達目標	社会調査の質的調査についての基本的な知識と技法を習得し、受講生各自が、現場との関わり方について意識して考えることができるようになること。
講義方法	講義形式と受講生のあいだでのディスカッション。
準備学習	社会調査基礎演習Ⅰ、Ⅱおよび社会調査法Ⅰ（社会調査法）を履修していることを前提に講義をすすめるので、これらの講義内容を復習しておくこと。
成績評価	出席（講義時間内の小レポート）と調査レポート
講義構成	1. プロセスとしての調査—企画・実践・発信 2. 構造化される調査、されえない調査 3. 心身をとおして考える—「記録」する、位置づける 4. 道具から調査を考える 5. 見る—何に注目するのか 6. 見る—見えないものとの関係 7. 集める—位置づける、分類する 8. 集める—読み解く、組み合わせる 9. 聞く—音を意識する、場面を設定する 10. インタビュー—どんな聞き手でありたいのか 11. マーケティング・リサーチのグループ・インタビュー：「フロー案」 12. 無知のアプローチ：知らないことから学ぶ 13. 記録と向き合う—整理、資料化 14. 伝える—責任、配慮、戦略 15. まとめ
教科書	西川麦子『フィールドワーク探求術—気づきのプロセス、伝えるチカラ』ミネルヴァ書房、2010年
参考書・資料	下記のホームページ（社会調査工房オンライン）を参考にする
講義関連事項	社会調査基礎演習Ⅰ・Ⅱと社会調査法Ⅰをすでに履修していることを前提に講義をすすめます。
ホームページタイトル	社会調査工房オンライン、社会調査の方法、5-1基本編／フィールドワークを始める人へ
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/05/frame.html

授業コード	13027		
授業科目名	福祉事業論(生活福祉学Ⅱ)(前)		
担当者名	越智祐子(オチ ユウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	人生にはたくさんのイベントがあります。その多くは、社会と密接に関係しています。ミクロな社会関係もそうですが、社会制度や社会のありようとも大いに関係があります。この授業では、わたしたち個人のライフステージごとの課題を、社会福祉的視点から考察します。
到達目標	社会福祉の視点を理解し、身近な生活課題と社会制度を結びつけて考察できる。
講義方法	講義形式です。新聞記事や視聴覚材を利用します。受講生の意見や感想を求めることがあります。
準備学習	社会福祉の法制度についての知識が多少必要になります。関連科目を受講したり、図書を参照したりして工夫してください。
成績評価	試験により評価します。私語等、他の受講生に迷惑になることはしないでください。
講義構成	1. オリエンテーション 2. 社会生活の構成：自分たちの現状の洗い出しと展望 3. 働くことをめぐる課題：雇用と社会保険 4. 結婚：世帯と家族 5. 子どもを持つことをめぐる課題（1） 6. 子どもを持つことをめぐる課題（2） 7. 子どもを持つことをめぐる課題（3） 8. ふたたび、働くということ 9. 疾病・障害（1） 10. 疾病・障害（2） 11. 介護（1） 12. 介護（2）

	13. 死をめぐる 14. まとめ
教科書	指定しません。
参考書・資料	適宜紹介します。
担当者から一言	社会福祉は、「特定の人を対象にした法制度と実践技術群」というマニアな側面だけではありません。わたしたちが脆弱性をどうとらえ、対応するのか、という問いとして、考えてみましょう。
その他	授業中の私語はしないでください。

授業コード	13Q11		
授業科目名	文化人類学(文化人類学I) (A)(後)		
担当者名	森田三郎(モリタ サブロー)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	文学部		
オフィスアワー	授業終了時に予約してください。		

講義の内容	人間行動の謎をさぐる(人類文化の起源と多様な可能性を考える) 私たち人類社会は、現在、地球環境やテロの恐怖など、いくつもの解決すべき大きな問題を抱えています。それを解決するためには、もはや理屈ではない、行動することが大事なのだという意見があります。でも、それはやはり短絡的だと思います。オゾンホール拡大がとまらない環境問題のように、たしかに、いつまでも決定できずに、時を空費して手遅れになってしまう危険性が高いのは事実です。しかし、私たち人類は、地球の中で否応なしに共同生活をしなければ生き延びることはできません。そのためには、私たちと、これほど違った発想や感情を持っているように見える人たちとも、共通の祖先をもった兄弟なのだという感覚を全人類がお互いに養うことが不可欠なのです。相互理解と合意に基づいて、改革を進めること。これ以外に、道はないと思います。そして、その相互理解のための基礎訓練をするのが、この文化人類学という学問の役割なのです。急がば回れ。文化人類学的想像力を涵養することは、人類の生存にとって、決定的に重要なことです。 ★ヒトって、どんな性質をもった動物なのか？ ★いつごろ、どうやってヒトになったのか？ ★言葉(言語)って何？ 言葉って人以外に使わないのか？ ★人類はこれまでに、どんな言葉をしゃべってきたのか？ ★言葉には、いったいどんなやり方やルール(つまり文化)があるのか？ ★人は何を食べてきたのか？ 食べる、食べないを決定する要因は何？ ★現代人の食生活の特徴は？ 食の世界でも2極分解って本当？ ★豚肉が大好きな人がいる一方で、豚を食べるなんて人間のすることではないと主張する人がいるのはなぜなのか？ 等々。この授業では、こういった人類の行動をめぐる謎について、人類学者たちの観察やインタビューに基づく記録(報告書)を材料として分析・考察します。人間を、その可笑しさ、せつなさ、愚劣さと崇高さの幅においてとらえることが、人間性のより深い理解と、異なる文化の共存にとって大切だと思うからです。文化人類学は、私たちの生活にとって、直接役に立つものではありません。しかし、その知識と発想は、地球全体が生活の舞台となり、異なる文化を持った多くの人々とおつきあいをせざるを得ないこれからの時代の人々にとって、もっとも重要な意義をもつのである、と私は思っています。
到達目標	人の行動の違いは、文化の違いに由来することを理解し、国籍や民族の違いを過大評価せず、世界の人類の共通性に目を向けること。
講義方法	授業は、以下の「講義構成」の中で紹介したテーマにしたがって、掲示資料およびパワーポイントやビデオ、DVDなどの映像資料を使いながら説明します。みなさんに質問もします。講義予定は、少し変わるかも知れませんが、そのときは事前に予告します。また、このWEB版のシラバスも改訂します。 授業で用いる資料については、原則として講述の「授業支援ページ」(学内からのみアクセス可能)にダウンロードできるようにしておきますが、準備が間に合わないときには、授業時に配布することもあります。したがって、授業の前々日までには、かならず、授業支援ページをチェックしておいてください。
準備学習	国籍、性別、年齢にかかわらず、人間の行動や考え方に関心を持って、メディアから伝わる様々なニュースに関心を持って欲しい。そういう視点で、新聞や雑誌を読むこと。またテレビのニュースを見聞すること。
成績評価	授業内容に関する小テスト(レポートを含む)およびアンケートを加算します。 小テストは、My Konan の小テスト機能を利用します。アンケートの場合には内容による差はつけませんが、小テストは、素点評価、レポートについては、5段階(絶対)評価をします。レポートも、My Konan の小テストの中の記述方式を利用します。

	この小テスト(記述式レポートも含む)およびアンケートを合算すると100点になります。受講生諸君の点数は、それぞれ受験した小テストの点数の積み重ねで、自動的に計算されます。
講義構成	講義の予定日時とテーマ 第1回 (09/20) オリエンテーション ― 文化を持つ異端の動物・ヒト 第2回 (09/27) サルからヒトに至る600万年の旅 ― 地球の気候変動と人類進化史 第3回 (10/04) 人種と民族の形成 ― 生物学的適応と文化的適応 第4回 (10/11) 狩猟採集社会の多様性 ― イヌイットからムブティ・ピグミーまで 第5回 (10/18) 農業の登場 ― 熱帯地方に始まった根栽農耕と文明を導いた穀物農耕 第6回 (10/25) 文明の生態史観 ― 遊牧民文化の史的役割と梅棹忠夫の視点 第7回 (11/01) 言葉文化を考える ― その多様性の価値(言語分類と地理的分布) 第8回 (11/08) インド・ヨーロッパ語族をさぐる ― 言語年代学事始め 第9回 (11/15) 日本人と日本語の成立 第10回 (11/22) 食文化を考えるために(受講生自身による食生活チェック調査) 第11回 (11/29) ファースト・フードとスロー・フード ― ドキュメンタリー「スーパーサイズ・ミー」を手がかりとして 第12回 (12/06) アメリカン・スタンダードは、世界標準なのか? ― アメリカ食物史を見直す 第13回 (12/13) イスラム教徒とおぞましき豚 第14回 (12/20) ヒンドゥー教徒と聖牛 まとめとQ&A
教科書	特定のテキストは使用しません。
参考書・資料	講義内容の関係で、必要に応じてビデオやDVD等の動画資料を見て貰います。また必要な教材は、最初のオリエンテーションの時を除き、原則として、講義日を挟んで、およそ2週間、WEB上に掲示しますので、各自授業前にダウンロードして持参してください。

担当者から一言	参考文献や資料は、下記の授業支援Webページで紹介します。予習や復習に使ってください。授業日程の変更も含む最新の授業日程に関しては、WEB版シラバスと授業支援ページを、こまめにチェックしておくように、気をつけてください。講義内容に関連する資料の掲示期間は、講義日を挟んで2週間です。期間が過ぎたら、自動的に削除されるようになっていきますので、ご注意ください。 板書はあまりしませんので、授業では私の話をしっかり聞いて、ノートをとって下さい。私の授業中には、必ずケータイの電源を切っておいて下さい。
その他	質問のある方は、下記の授業支援Webページをクリックして下さい。そこに記してあるメールアドレスから、私に連絡ができます。
ホームページタイトル	「文化人類学A」支援Webページ(アクセスできるのは、学内からのみです)
URL	http://www.center.konan-u.ac.jp/~saburo/CultAnthroPage/anth10.html

授業コード	13Q12		
授業科目名	文化人類学(文化人類学I) (B)(前)		
担当者名	渡辺和之(ワタナベ カズユキ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	他学部(2年次以上)		

講義の内容	文化人類学は世界の民族に関する文化を、フィールドワークによって明らかにする学問である。この講義では、いくつかのトピックに注目しながら、文化人類学の諸問題を基礎から概説することを目的とする。ちなみにこの講義で事例とするのはおもにアジアのアフリカなどに住む先住民の文化である。彼ら、彼女らの文化は、われわれから見ると違うものと感じるものであるかもしれないが、よく調べると、われわれと違う文化も、よくみるとどこか通じる部分があることをわかって欲しい。また、この授業では遠い海の向こうにある国々の文化について話してゆくが、それぞれの歴史があり、われわれの社会と似たような問題を抱えることも理解して欲しい。
到達目標	1. 文化相対主義的な視点を身につける。 2. 欧米だけでなく、アジアやアフリカの文化に関心を持つ。 3. 海外の文化を知ること、日本の文化を見つめなおす。 4. 日本の常識が世界で通じるとは限らないことを理解する。
講義方法	講義形式でおこなう。授業中にその日のテーマに関する小作文を書いてもらうことがある。
準備学習	期間中に一度何か民族誌を1冊本を読んでもらうことがあるかもしれない。
成績評価	定期試験で評価する。

講義構成	第1回 文化人類学とは？ 第2回 異文化におけるフィールドワーク 第3回 狩猟採集民の「豊かな社会」 第4回 カラハリ論争 第5回 狩猟採集民の現在 第6回 住まいの間取り 第7回 漂海民の定住化 第8回 家を化粧する 第9回 親族関係と出自集団 第10回 母系社会と交換 第11回 親族の基本構造 第12回 北西海岸の漁労文化 第13回 トーテムポールと毛皮交易 第14回 先住民権運動 第15回 試験
教科書	特に用いない。配布したレジュメにそって講義する。
参考書・資料	波平恵美子『文化人類学(カレッジ版)』医学書院 スチュワート＝ヘンリほか編『狩猟採集民の現在』言叢社 佐藤浩司(編)『シリーズ建築人類学』(4巻)学芸出版社 岸上伸啓『イヌイト』中公新書
講義関連事項	通年の授業なので、前期と後期を継続して履修することが望ましい。
ホームページタイトル	国立民族学博物館
URL	http://www.minpaku.ac.jp/

授業コード	13U21		
授業科目名	メディア研究(コミュニケーション研究Ⅱ) (A)(後)		
担当者名	西橋正泰(ニシハシ マサヒロ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	文学部		

講義の内容	「ジャーナリズムの世界」 私たちは毎日、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、書籍などのジャーナリズムと接している。そしてそれらが伝える情報によって、意識する、しないにかかわらず、自分自身の生き方、考え方が左右されることすらある。今、私たちが生きている時代を読み解くことは難しい。しかし、さまざまなジャーナリズムが伝える情報から、その一断面を見つめ、考え、その時点での自分なりの疑問や判断をもつことはできる。 そして、ジャーナリズムの情報や論調をうのみにするのではなく、主体的に受けとめ、疑問をもち、ともに考える場としたい。
到達目標	いまより、少し意識的にジャーナリズムと接する。良質なジャーナリズムに近づける感覚を身につける。世論操作の対象としての市民ではなく、主体的に考えるための材料をジャーナリズムから得る市民へと成長しよう。
講義方法	毎回冒頭20分間は、最近の新聞記事の中から一つを選び(配布)、読み、疑問を出しあう。残りの70分間は、新聞記事、番組、ジャーナリストの著作などを核にして、その狙い、論点の整理、手法の分析を行い、疑問を出しあう。 更に、テストに代わる「伝える側の視点体験」として受講生自身が与えられたテーマについて、人に会って取材し、レポートを提出する。人に会っての取材は必須条件である。
準備学習	日々、新聞を読み、テレビ・ニュースを見るときに、その内容について、「なぜだろう」という疑問をもつ。そして、少し考えてみる。
成績評価	毎回の授業で、どのような疑問をもつか(小用紙に記述)によって30%。テストに代わる「伝える側の視点体験」のテーマをどう深めたか、レポートの内容と表現、説得力によって70%を評価する。レポート提出だけでは単位取得は困難である。なお、出典を明記せずに、インターネット、書籍、記事などから引用した場合、採点の対象から除外する。
講義構成	1.NHKスペシャル「兵士はどう戦わされてきたか」 2. マスコミは核兵器廃絶をどう伝えてきたか 中国新聞「知られざるヒバクシャ・劣化ウラン弾の実態」

	3. マスコミは核兵器廃絶をどう伝えてきたか NHKスペシャル「調査報告・劣化ウラン弾」 4. マスコミは核兵器廃絶をどう伝えてきたか ETV特集「ピカは人が落とさなきゃ落ちてこん」 5. マスコミは核兵器廃絶をどう伝えてきたか NHKスペシャル「原爆投下・10秒の衝撃」 6. マスコミは憲法をどう伝えてきたか(1)読売新聞社説 7. マスコミは憲法をどう伝えてきたか(2)朝日新聞社説 8. マスコミは憲法をどう伝えてきたか(3)加藤周一著「憲法は押しつけられたか」 9. 磯野恭子さん(元山口放送ディレクター)の仕事(1)「死者たちの遺言」 10. 磯野恭子さん(元山口放送ディレクター)の仕事(2)「原爆の子・百合子」 11. 磯野恭子さん(元山口放送ディレクター)の仕事(3)「大地は知っている」 12. マスコミは「松本サリン事件」をどう伝えたか 13. 石山永一郎著「彼らは戦場に行った」 14. NHKスペシャル「沖縄 よみがえる戦場」 15. BS世界のドキュメンタリー「赦すことはできるのか」
教科書	なし
参考書・資料	毎回プリントを配布
担当者から一言	時に、その時点でのホットな報道を取り上げたい。 より良い社会、より良い世界、より良い地球を作っていくために、ジャーナリズムと私達はどのような関係を持てばいいのかを考える。その上で、自分にできることは何かを考えよう。

授業コード	13U22		
授業科目名	メディア研究(コミュニケーション研究Ⅱ)(B)(後)		
担当者名	小関道幸(オゼキ ミチユキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限
特記事項	他学部		

講義の内容	この授業のキーワードは「ソーシャルプロデューサー」「ソーシャルメディア」そして「ソーシャルドキュメンタリー」です。 あまり聞きなれない新しい用語ですが、今時代が求めている“ソーシャル”な考え方や感覚を持人達を育成する為のプログラムを展開していきます。 “ソーシャルプロデューサーの元祖”ともいえる坂本龍馬を研究しワークショップで実際の演劇制作を体験してもらう予定です。
到達目標	①今起きているニュースをソーシャルな観点から捉え直す力を養成し、ソーシャルプランナーとして自立していく。 ②マスメディアの情報を一方的に受け取るのではなく、自らの目で現場の課題や解決方法策うい考え抜く力を養う。 ③それぞれの適性に応じて最大のパフォーマンスを成し遂げるソーシャルプレゼン能力を高める。
講義方法	一週間におきたニュースを、ニュース番組や新聞記事を材料にソーシャルプロデュースの観点から解説する。グループディスカッションやグループワーク・発表などの形式をふんだんに盛り込む予定。
準備学習	・TVニュースや新聞報道を常にソーシャルプロデューサーの観点からチェックする。 ・授業で触れた著作物・DVD・映画・テレビ番組などのモニター/視聴に努める。 ・質問事項等あれば事前に用意して積極的に授業参加する。
成績評価	定期試験(60%)、出席確認を兼ねた講義終了時のミニレポート(40%)。 ※但し10回以上出席しなければ成績を評価せず
講義構成	・①(9/18) オリエンテーション「ソーシャルプロデュース論Ⅱ」とは？ ・②(9/25)～④(10/9) 時代を拓くソーシャルプロデューサー(現代編) ・⑤(10/16)～⑦(10/23) 維新のソーシャルプロデューサー坂本龍馬研究 《メッセージ力・プレゼン力とは？》

	・⑧(11/6)～⑪(11/27) 世直し劇『出でよ！龍馬 2010』への制作参加(ワークショップⅠ) メッセージスタディ・京都現場取材など ・⑫(12/4)～⑬(12/11) 制作実習(ワークショップⅡ) ・⑭ まとめ ・⑮ 論述テスト(60分)
教科書	未定(授業開始時に紹介予定)
講義関連事項	坂本龍馬研究では、龍馬ミュージカル制作スタッフに実際に参加してもらう予定。
担当者から一言	メディア研究という入口から、日々起きているニュースを縦・横・斜めから分析/解説する。 これからの時代は社会と自分との関係を見つめ直しよりよい社会を創造するソーシャルプロデューサーの時代！ そうした能力を身に付け、自己の感性を磨きあげる技術としてこの授業はある！ 志のある学生諸君の参加を待つ！

授業コード	13032		
授業科目名	メディア文化論I(メディア文化論) (前)		
担当者名	金 千秋(キム チアキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限

講義の内容	「メディア文化論」は、2008年から2年にわたって地域連携科目として開催されてきた。2010年前期での講義は、この講義開催の当初の目的、地域住民自らが地域の知力と創造力を増し地域活性化のツールとするためのコミュニティラジオ局設立を目前に、ラジオ局における有用な人材を育成することを目的に開催する。現代社会を特徴づけるメディアには、従来からのラジオ、テレビ、新聞、雑誌、そして今はインターネットや携帯が加わり一見情報が溢れているように思われる。しかし果たしてそれは真実であろうか？それらをじっくり観察してみると、東京を中心としたマスメディアからの膨大な情報であることがわかる。しかしてそれらの情報は、地域に生きる一人一人にとって、果たして生活に活力や喜びを与えることの出来る、必要有用な情報なのであろうか？現在一見安定しているように見える日本社会、しかしすべての人々に共通のものは、全体的な景気に対する不安感や政治の動向に関してのなんともやるせない傍観者としての視線が蔓延していることではないだろうか。IT技術の急速な進化を駆動力として、私たちの生活環境は大きく変化した。いつでも、どこでも、どの地域でも、同じものが手に入り、同じような服装をして同じような話題を口にし、同じような生活をしている。日本中駅前には、同じ大手企業の看板が立ち並び、同じような思考をもち、同じような毎日を送る。それは一見幸せな平和な世界の実現のように思えるが、実は自分の住んでいる土地の風土・歴史との結びつきや、近隣の人々同士の結びつきよりも、仮想世界との連携により近親感を持つ状況は、現実世界が大きな力に操られているバーチャル世界化している可能性もあながち荒唐無稽な考えではない。それがさらに進行していくと、地域に住みながら、地域との密着がなくなり、何らかの危機に陥ったとしても存在していながら存在していない人間の危機は見えなくなるという、完全孤立化の危険な状況も生まれる。コミュニティの現実感を持った再建は、現代社会に共通する大きな課題であり、その有用なツールとして注目されているコミュニティラジオのこの地でのあり方を構築する。 地域でのコミュニティラジオの有用なあり方、それは地域の力を上げてゆくツールとなることが必然である。この地域の力アップ、それはすなわち地域経済力アップという単一な方向ではない。これからの時代は、力すなわち経済力という単純なものだけで満足できる結果は生まれない。、いかに多様な視線を持ち得ることができるかということに比重が置かれる時代である。流れ来る情報を正しく確実に読み解き、それらの意味や関連を地域に確固として生きてゆくための指針として創造してゆくメディアリテラシーの力、それを育むことが重要である。
到達目標	最初にメディアについての理解講座を行い、メディアとは人間社会のにおいてどのような役目を果たしてきたを理解、時代の流れの中でどのような変遷を果たしてきたかを知る。その中で市民メディア、設立目前となっているコミュニティラジオの誕生の歴史をたどる。世界の中でのコミュニティラジオの果たす役割とその理念を学び、日本のコミュニティラジオ誕生とそれぞれの状況を検証する。またラジオというメディアだけでなくインターネット通信というものの可能性を検証し、ラジオという耳からの媒体だけでなく、マルチな可能性を検証してみる。 グローバルな情報発信を一般特性とする電波メディアであるにもかかわらず、地域に固執すること、やり方によっては世界と繋がる可能性をもつ電子媒体でありながら、受信エリアが限定されるという特徴を持つコミュニティラジオ、その求める意味、「地域に根ざすことこそが、実は世界的な見地に立つこと」それを実体験を通じて自分のものとしてゆく。 人々が必要としている様々な情報を自ら受信・発信できるコミュニティメディア、そのことが地域において大きな

	役割を果たす意味を実感できる人材とすることを目標とする。 業務用機材を使用しなくても、簡単に手に入るIT技術を多用し、情報収集のテクニカルをマスターし、コミュニティラジオ局の新しいあり方に活かせる方法を使って、簡単な取材なども体験する。また音声だけではなく環境が整えばメディアミックス（動画配信、テキスト配信）などもチーム編成で討議、検討、実施する。また開局に関しての広報活動なども、行う。広報活動は地域住民、地域商店街、同じ地域にある学校施設、またマスメディアへの広報なども、グループに分かれ、討議し検討し、どのチームで対応するかなども検討し、実施する。
講義方法	東灘にコミュニティラジオ局が設立、スタジオの一つが甲南大学近辺に作られることを前提として授業を行う。実際に番組制作に関する、ディレクト・ミキサー・エディットなど放送実施の能力を身につけられるようなワークショップを行い、番組企画・取材先コーディネート・取材実施・編集など放送番組制作を実行できるためのワークショップを行い、放送番組のデモを制作し実際にテスト放送を行う。 また東灘のコミュニティラジオ局設立を、地域の住民・商圏の方々に広報活動したりマスコミに対する広報活動などを、実際に行うためのプレゼン能力・伝える能力などを開発するためのトレーニングも行う。 大学の授業としてだけでなく、社会人となってもこの「伝える」「プレゼン」の能力は大きな力となることを想定している。 1日目全体のオリエンテーション。 2日目以後の授業の最新情報に関しては、常にWEB版を参照。
準備学習	参考ホームページなどを見て、番組などを見たり聴いたりしましょう。 また大学周辺の地域への関心を持ちましょう。 例) 地名に対する不思議(変わった町名など) 例) なぞのお店を見つける(何を売っているかなぞ・店主がなぞ) 例) おいしいと評判の店、親切と評判の店などの口コミ情報に敏感になる FMわいわい(神戸市長田区) http://www.tcc117.org/fmyy/ 日本コミュニティ放送協会 http://www.jcba.jp/ サイマルラジオ http://www.simulradio.jp/ (全国のコミュニティFMをインターネットで放送) 総務省近畿総合通信局による(コミュニティFM局に関する)情報 http://www.ktab.go.jp/housou/fm/commu.html コミュニティFM 最新開局情報リンク http://www2s.biglobe.ne.jp/~unit973/fmlink.htm
成績評価	授業への積極的参加(出席率)と関与。成果物。提出レポートの評価
講義構成	①4月7日 オリエンテーション 今までのメディアとこれからのメディアのあり方。 なぜコミュニティにメディアが必要か。 (甲南大学で設立しようとしているコミュニティラジオ局の役割と求めるところ)。 ②4月14日 今までメディアの果たしてきた役割と現在地域で求められている 地域住民が創るコミュニティメディアの役割。 (時代の変遷の中でメディアの果たしてきた立ち居地) ③4月21日 多様な視点の形成、自己認識と自己確立の実感。 地域の中にある多文化の顕在化を目指すコミュニティラジオ局の存在意味。 多文化社会の形成のための10年「FMわいわいの映像を通じて」 ④4月28日 コミュニティメディア 世界の現状・日本の現状。 ゴールデンウィーク期間に課題あり。 ⑤5月12日 ゴールデンウィーク期間の課題のプレゼンテーションと評価。 ⑥5月19日 コミュニティメディアが地域に果たせる役割、果たさなくてはならない役割。 グループでディスカッション、そしてプレゼンテーション。 ⑦5月26日 文化の構成を解析＝マスメディアで自分の中に構成されている文化を自覚・発見。 受け手ではなく、人と人とのコミュニケーションの中で創り上げてゆく。 ⑧6月2日 受け手ではなく発信者となるメディアの実践(1)「伝える」理解篇 ⑨6月9日 受け手ではなく発信者となるメディアの実践(2)「伝える」理解篇 ⑩6月16日 受け手ではなく発信者となるメディアの実践(3)「伝える」実践篇 ⑪6月23日 受け手ではなく発信者となるメディアの実践(4)「伝える」実践篇

	⑫6月30日 地域発掘の課題制作(1) ⑬7月7日 地域発掘の課題制作(2) ⑭7月14日 地域発掘の課題制作(3) **スケジュール、内容は、講義の進捗状況により変更される場合があります。
教科書	(株)晃洋書房「コミュニティメディアの未来」松浦さと子・川島隆編著 2010年3月中に販売予定 { http://www.koyoshobo.co.jp/ }
参考書・資料	適宜、配布またはこの授業用WEB上で公開。
担当者から一言	最新の授業日程に関しては、WEB版シラバスをこまめにチェックしてください。 座学もありますが、DVD鑑賞・そしてその感想を発表、またワークショップやグループ討議など積極的に自己発信・自己啓発を行う予定です。 しかし積極的な人だけを対象にしているわけではありません。むしろ自分自身の秘めたる能力発見や自分も知らなかった自分自身を知るという機会になると思います。これは担当講師の実体験でもあります。

授業コード	13054		
授業科目名	メディア文化論Ⅱ(前)		
担当者名	田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	火曜・水曜・木曜の昼休み、および木曜5限。必要な場合はメールで連絡すること。dtano@nifty.com		

講義の内容	ナチズムに関する様々な映像や映画を紹介し、それらにおいてヒトラーやナチズムがどう描かれているか、そしてそれがどんな意味をもっているかを読み解くことで、現代におけるメディアと権力の問題を明らかにする。
到達目標	講義を通じて、映像や資料の読み解き方を身につけ、メディアと権力の問題を考える視点を得ることが目標である。
講義方法	講義は毎回配布するプリントと、適宜紹介する映像や資料を中心に進める。映像・資料を用いながら、できるだけわかりやすく解説するが、かなり踏み込んだ内容を含んでいるので、積極的な受講態度が望まれる。
準備学習	必要に応じて指示する。
成績評価	期末テスト70点、小レポート30点とし、講義内容の理解度、および問題意識の深さを評価する。
講義構成	(1) イントロダクション (2)～(3) 宣伝家ヒトラー (4)～(5) 『意志の勝利』 (6)～(7) ヒトラー像の諸相 (8)～(9) 悪の象徴としてのナチズム (10)～(11) ホロコーストの表象 (12)～(13) ナチズムとエロス (14)～(15) 新たなナチズム像
教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書・資料	田野大輔『魅惑する帝国 政治の美学化とナチズム』(名古屋大学出版会、2007年) 飯田道子『ナチスと映画 ヒトラーとナチスはどう描かれてきたか』(中公新書、2008年)

授業コード	13045		
授業科目名	ライフスタイル領域特論I（前）		
担当者名	速水奈名子（ハヤミ ナナコ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限

講義の内容	ライフスタイルとは、時代、文化に応じて異なるものである。日本社会における現状を考えると、それは消費文化の浸透に伴い、自由に自らの好みに応じて選択できるものへと変容しつつあるといえるだろう。本講義では、このように消費文化が浸透し、価値の多様化が進んだ現代社会におけるライフスタイルのあり方を、ジェンダー論と若者論に焦点をあてつつ考察していく。
到達目標	自らが当たり前のように感じているの生活スタイルの枠組みを、客観的に分析するための視野を養うことが目指される。
講義方法	各テーマに沿って講義を行う。イメージを提示するために、DVDやプロジェクターを使用する場合もある。
準備学習	以下に記した参考書・資料、または授業中に紹介する参考書や資料・情報を自ら検討すること。
成績評価	授業態度・小テスト(40%)、そして定期試験(60%)を通して評価する。
講義構成	1.イントロダクション 2.ライフスタイルの変容：近代とポスト近代 3.価値の多様化とライフスタイル 4.ライフスタイルとジェンダー論I：フェミニズム運動 5.ライフスタイルとジェンダー論II：雇用制度の変容 6.ライフスタイルとジェンダー論III：リプロダクティブヘルスライツ 7.ライフスタイルとジェンダー論IV：性同一性障害 8.ライフスタイルと消費文化論I：脱産業社会と消費文化の浸透 9.ライフスタイルと消費文化論 II：日本アニメ・マンガの世界的浸透 10.ライフスタイルと消費文化論 III：おたく論 11.ライフスタイルとグローバリゼーション論I：グローバリゼーションとは何か 12.ライフスタイルとグローバリゼーション論II：格差社会 13.ライフスタイルとグローバリゼーション論III：コスモポリタニズム 14.まとめ：
教科書	授業のたびにこちらで作成したレジュメを配布する。
参考書・資料	ゴッフマン、E.,『行為と演技』(1959). ———,『公共空間における関係性』(1976). 大野道邦・油井清光・竹中克久編,『身体社会学』(2005). リースマン、D.,『孤独な群衆』(1961). リッツァ、G.,『マクドナルド化する社会』(1996) ———,『消費社会の魔術的体系：ディズニーワールドからサイバーモールまで』(1999)
担当者から一言	自らのライフスタイルのあり方を客観的に分析する視野を養いましょう。

授業コード	13046		
授業科目名	ライフスタイル領域特論II（後）		
担当者名	中里英樹（ナカザト ヒデキ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	金曜昼休み。火・水・金曜日のその他の時間も、メール等での予約を随時受け付けます。		

講義の内容	この授業は2年次までの社会学科での学習をふまえて、さらに専門的に限定された領域について深く研究するための科目です。 今年度は、「家族と仕事(働き方)の社会学」というテーマを設定しました。 この授業では、家族と仕事(働き方)の相互関連について考察するために必要な、社会学および関連学問分野の研究動向を紹介するとともに、さまざまな資料によって歴史的な変化や国際的な差異を確認していきます。日本の状況を中心としますが必要に応じて国際的な状況にも言及します。
到達目標	家族と仕事というこれからの人生において重要な部分を占める可能性の大きい領域について、ミクロ(個人的)・マクロ(全社会的)両面から現状および将来像を批判的に考察する力をつけることを目的とします。
講義方法	下記「講義構成」の内容について、解説・課題学習・レポート作成などを通じて理解を深めます。また、履修者自身にもさまざまな資料を収集してもらいます。
準備学習	講義中に指示します
成績評価	出席、授業内提出課題(30%)、および最終レポート(70%)
講義構成	1.現代日本における重要課題としてのワークライフバランス-男女共同参画社会および少子化との関連

	2.仕事・労働にかかわるもう一つの社会問題 3.近代化過程の仕事と家族 4.「近代家族」の揺らぎとフェミニズム 5.日本の専業主婦の状況と主婦論争 6.家族と労働を結ぶ視点：マルクス主義フェミニズムの成果 7.高度経済成長収束後の女性労働 8.格差のない職につくために 9. 男性の働き方 10.働き方をめぐる体制(regime)の国際比較 11.現代日本における取り組みの現状と課題 (それぞれの内容への時間配分は履修者の関心や理解度に応じて決めていきます)
教科書	テキストは用いず、適宜資料を配付する。
参考書・資料	熊沢誠『女性労働と企業社会』(岩波新書、2000年)、森岡孝二『働きすぎの時代』(岩波新書、2005年)、木本喜美子『家族・ジェンダー・企業社会』(ミネルヴァ書房、1995)、石原邦雄編『家族と職業——競合と調整』(ミネルヴァ書房、2002)など、テーマごとに授業中に紹介する。
講義関連事項	家族社会学I・II、ジェンダー論、社会人口論I・II、ライフコース論などを履修しているといっそう理解が深まります。
担当者から一言	現在進行形のテーマですので、私を含め参加者みんなが共同研究をするつもりで、授業を進めていきます。相当量の課外学習が必要となりますので意欲のある人の参加を期待します。
ホームページタイトル	MyKonanの講義関連ページ

授業コード	14039		
授業科目名	イメージと神話（後）		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	授業終了後随時、あるいは火曜日12時20分から1時30分まで		

講義の内容	壺絵で読む『イリアス』、『オデュッセイア』と題して、ホメロスのさわりのテキストを読みながら、それが壺絵にどのようにイラストされているかを見てゆく。また映画、ビデオを多用しながら、最古の西洋文学であるホメロスの二つの物語を読んでゆく。一人では読みにくいが、資料を使いながら、質問を出しながら読んでゆくと、たいへん面白いということが体感していただくのが目的である。
到達目標	ギリシア神話の現代性をイメージを通じて知る。
講義方法	パワーポイントをつかった講義形式で行う。ビデオやOHPを多用する。
準備学習	関連する本を多読すること。
成績評価	毎回出席を取る。 また学期中の小レポート(800字程度)を2回、学期末の大レポートを(4000字程度)1回を課す。レポート点60%、出席点40%
講義構成	以下のトピックスを予定している。詳しい日程表は初回の授業にに渡す。 1. ホメロスとはだれか、なにが書かれているのか。 2. 『イリアス』関連の映画やビデオを見る 3. 『イリアス』を壺絵というイラストを見ながら、さわりを拾い読みしてゆく 4. 『オデュッセイア』関連の映画やビデオを見る 5. 『オデュッセイア』を壺絵というイラストを見ながら、さわりを拾い読みしてゆく
教科書	岩波文庫『イリアス』松平千秋訳(上・下) 岩波文庫『オデュッセイア』松平千秋訳(上・下)
参考書・資料	授業の都度、指示する。
講義関連事項	神話論

授業コード	14004
-------	-------

授業科目名	イメージ・トレーニング		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)、上村くにこ(ウエムラ クニコ)、山崎俊輔(ヤマサキ シュンスケ)、伊東浩司(イトウ コウジ)、北川 恵(キタガワ メグミ)、福井義一(フクイ ヨシカズ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)、西嶋 淳(ニシジマ アツシ)、高岡智子(タカオカ トモコ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
オフィスアワー	各担当教員の他科目のオフィスアワーを参照のこと。		
講義の内容	人間科学科へのオリエンテーション。心の中で働いているイメージについて考え、実習を通じてさまざまなイメージを具体的に体験する。		
到達目標	人間科学科の「心理臨床領域」と「人間表現領域」の双方における様々な科目の中で重視される「イメージ」に関して、実習を通じて体験学習しつつ理解を深める。「心理系」と「表現系」の各教員が、それぞれの観点から、そのつど課題を出すので、その全てをクリアすること。		
講義方法	実習を中心に、講義を交えて行う。正確な実習スケジュールは、授業の第1日目に行う「オリエンテーション」でプリントを配布する。		
準備学習	必要に応じて、各担当教員から、次週までに準備すべき内容の通達を行う。		
成績評価	各担当者による出欠確認と、実習、レポートまたはテストの評価を合計する。前期・後期の各最終日に課す作文も、評価対象となる。		
講義構成	第1回目の授業で「年間スケジュール表」を配布するので、受講者は必ず出席すること。 本科目は人間科学科必修科目なので、受講は原則として人間科学科の学生に限る。それ以外の学生が受講を希望する場合は、オリエンテーション(初回授業)の際に担当者(川田)に申し出ること。 公欠、その他の事情でやむを得ず欠席する日には、その日の担当教官を、年間スケジュール表で調べて、各担当教官に申し出て相談すること。 4月12日:オリエンテーション【川 田】 4月19日:イメージのコラージュ①(講義)【川 田】 4月26日:イメージのコラージュ②(実習)【川 田】(雑誌、広告、チラシなど持参のこと。) 5月10日:イメージのコラージュ③(ふり返し)【川 田】 5月17日:イメージのコラージュ④(作品発表)【川 田】 5月24日:イメージを使ったグループ体験①【大 西】 5月31日:イメージを使ったグループ体験②【大 西】 6月 7日:ストレス・マネジメント①(認知的評価)【北 川】 6月14日:ストレス・マネジメント②(コーピング)【北 川】 6月21日:ストレス・マネジメント③(リラクゼーション)【北 川】 6月28日:イメージを使ったグループ体験③【大 西】 7月 5日:イメージを使ったグループ体験④【大 西】 7月12日:体験 壺イメージ療法(理論編)【福 井】 7月16日:前期まとめ【川 田】(金曜日が月曜時間割の日) ---- 夏休み ---- 9月20日:スポーツとイメージ①【山 崎】(祝日だが授業日) 9月27日:スポーツとイメージ②【伊 東】 10月 4日:映画と音楽のイメージ①【高 岡】 10月11日:映画と音楽のイメージ②【高 岡】(祝日だが授業日) 10月18日:体験 壺イメージ療法(実習編)①【福 井】 10月25日:体験 壺イメージ療法(実習編)②【福 井】 11月 1日:①お話をつくる【上 村】 11月 8日:②お話を紙芝居にする【上 村】 11月15日:③紙芝居を上演する【上 村】 11月22日:“音”的思考とイメージ・ワーク①【ニシジマ】 11月29日:“音”的思考とイメージ・ワーク②【ニシジマ】 12月 6日:“音”的思考とイメージ・ワーク③【ニシジマ】 12月13日:“音”的思考とイメージ・ワーク④【ニシジマ】 12月20日:後期まとめ【川 田】		
教科書	講義資料は随時配布する。		
講義関連事項	人間科学科の全科目。		
担当者から一言	基本的に人間科学科以外の学生は受講できない。是非にも受講したいという場合は、初回のオリエンテーション時に、担当教官(川田)に相談すること。		

授業コード	14041		
授業科目名	イメージ表現研究 (前)		
担当者名	椎原 保(シイハラ タモツ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
講義の内容	現代での表現は、領域が広くその表現方法も多様です。 現代美術では、決められた表現形式はなく、自由に表現活動が行われています。 その様々な現代的な表現のケースを知り、イメージーションが向けられるフィールドの広がりや微妙な差異を理解していきます。		
到達目標	ここでの目的は、その能力となる「感じること」と「表現すること」を繰り返し、同時に批評や分析も行いながらイメージ・スタディに必要なリテラシーを研究し、クリエイティブな視点を獲得することにあります。 感性を鍛える授業になると思います。 メディア社会に必要な表現力について考えてみよう！		
講義方法	作品制作が中心です。 ワークショップスタイルで授業を進めていきます。 その他ビデオ、スライドによる作品鑑賞、合評、ディスカッションなどを予定しています。		
準備学習	現物の美術に触れるにことが重要です。 「展覧会に行く。」「ギャラリーに作品を見に行く。」などしてください。 現代美術についての書物を読むこともお勧めします。 自分の興味の対象外のことで、客観的に研究にできる姿勢が必要です。		
成績評価	授業内での、作品発表や発言内容の深さなどで評価します。 出席回数は確実に評価に影響してきますので注意してください。 毎回、授業時間内で小レポートを書いていただきます。 試験は実施しません。 授業を楽しみ、参加の度合いの深ければ、自然と評価も高まるでしょう！		
講義構成	講義構成 1、「感じること」について 感じることから始まる世界 見ること、聞くこと、そして情報から、 現代美術の領域で行われているワークショップを体験 表現の可能性についてディスカッションします。 2、「事物と物語」から ソフィー・カルの「本当の話」にならって 3、コミュニケーションと共同作業についての実験 4、協力して制作する 5、写真による表現 写真というメディアを理解するための作品制作と展示 6、事物をあつかった作品 7、空間実験 8、未定の実験 9、「作品鑑賞」………フィールドワーク		
教科書	特にありません。 教科書では学べない経験的なことを学びます。		
講義関連事項	視覚メディア表現論 イメージ論 イメージトレーニング 現代芸術論		
担当者から一言	いままで、経験したことのない表現にチャレンジしてみましょう。 あらたな感性の広がりをもたらしてくれると思います。 そして、一緒に表現の新たな領域をつくっていきましょう。		

授業コード	14010		
授業科目名	イメージ論（前）		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	金曜14時40分以後(前期)		

講義の内容	——「イメージ」とは何か—— 「イメージ」と「現実」との関係を現代思想家の著作を辿りながら概説し、それぞれと同時代のアート・シーンの作品を紹介する。最後に、20世紀末(主に1980年代)に一時的に大流行した「シミュレーション・アート」とは何だったのかを再検証し、また、90年代以降にアート界でも話題を集めている、日本のアニメやコミックスのイメージ(そのイメージを借用したアートの作品)についても考察したい。
到達目標	「イメージ」をめぐって展開した現代思想と、それに関連する現代芸術の概要を把握する。また、それらを元に、「イメージ」についての各自の考察を深める。
講義方法	PCプロジェクターやビデオ、CDなど視聴覚資料を使う。
準備学習	平素から、様々な「イメージ」について関心を持ち、「イメージとは何か」というテーマをめぐって、自分なりに考える習慣を持っていてほしい。
成績評価	学期末のレポートで、授業内容の理解度を確認し、同時に自分自身の意見も書いてもらう。 また、授業時には、出欠確認を兼ねたアンケート調査を実施し、成績評価に反映させる。 評価点の比率は、「期末レポート」：「出席率」＝ 60：40。
講義構成	「イメージ」とは何か J. P. サルトル『想像力の問題』から P. クロソウスキー『歓待の掟』から M. ブランショ『文学空間』から C. ロセ『現実とその分身』から R. バルト『明るい部屋』から J. ボードリヤール『シミュラクルとシミュレーション』 ……等々。
教科書	テキストは授業中にプリントを配布する
参考書・資料	参考書は授業中に紹介し、資料は適宜、プリントして配布する。

授業コード	14C01		
授業科目名	演習I(谷口)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	人間・環境学を中心とした本演習では、一方で人間と環境についての新しい理論を研究しつつ、他方で臨床的・フィールド的な身体知を培っていく。このような理論の探求では、人間をめぐる環境倫理と生命倫理を研究することになる。 まず、パーソナリティと心の形成のメカニズムを明らかにする。次に、人間が地球環境の破壊をもたらした原因を追求し、環境倫理学の構築をめざす。さらに、環境の主体である生命の概念と深くかかわる医療環境や脳死・臓器移植そして癒しの諸問題を、生命倫理学の立場からとりあげる。 さらに、オフキャンパス・アクティビティ(甲南大学環境教育野外施設のフィールド活動や国営明石海峡公園「あいな里山公園の創造」[国土交通省]のような環境活動)を通じて、人生の諸問題を解決する能力である「知恵」をみがく。さらに、例えば自然環境において身体行為を伴った環境教育をおこなうことによって、心に病いをもつ現代人を健全なものにする試みも実施する。 本演習では、今年度とくに、生命倫理と環境倫理を架橋とする「ケアの倫理」について研究する。
到達目標	実践と理論、そして統合する能力を培う。

講義方法	ノート講義、フィールドワーク、研究発表
準備学習	各回、文献を精読し指示された発表をレジュメにまとめておく。
成績評価	レポート、出席、プレゼンテーション
講義構成	文献講読、レポート指導
教科書	その都度、指示する。
参考書・資料	その都度、指示する。
講義関連事項	哲学、倫理学、環境系関連科目を並行してとること
担当者から一言	人間と環境をめぐる生命倫理学も環境倫理学も、基本的には「ケア」による応用哲学の分野です。したがって現代社会の身近で具体的な諸課題を取り上げるつもりです。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室, http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/ }
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	14C02		
授業科目名	演習I (斧谷)		
担当者名	斧谷 彌守一 (ヨキタニ ヤスイチ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	『イメージの感性をみがく』(サブテーマ「自分にとっての日本的イメージ」) イメージ(ことばと映像)を扱うゼミです。広告、詩、歌詞、写真、絵画などを見ると、はっきりとした意味が伝わってきたり、意味はよく分からなくとも何らかの雰囲気伝わってきます。このゼミでは、そのような意味や雰囲気について考えていきます。まず、自分にとって面白い、あるいは、心に染みる作品を見つけだし、次に、パソコンを使って自分で作品(映像+ことば)を作ることをめざします。気づいていなかった自分が見えてきます。卒業研究では、作品集を制作するのが普通です。
到達目標	Photoshop、Illustratorを使って自分の作品を作ること。 4回生は作品集を仕上げること。
講義方法	作品を制作し、批評し合うことが中心となる。
準備学習	作品の制作・印刷。
成績評価	平常点で評価する。
講義構成	第1回目のオリエンテーションで指示する。
教科書	特になし。必要な資料は配布する。

授業コード	14C03		
授業科目名	演習I (港道)		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカン)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜3限)、後期(木曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日4時30分以降		

講義の内容	現代社会が抱える諸問題を各自が調査し、報告し、討論する。また、外国語のテキストを読むことを通じて、論理的思考力を養成する。
到達目標	世界の基礎的理解を徹底し、思考力の向上をはかる。
講義方法	発表とテキスト購読を交互に行う。

準備学習	新聞、インターネット、テレビ・ラジオ報道などを通じて、調査する訓練をすること。
成績評価	参加の程度によって評価する。
講義構成	例 パレスチナ問題 生殖技術がもたらす社会問題 グローバリゼーションと貧困 等
教科書	特になし。
参考書・資料	その都度、必要なものを指示する。
担当者から一言	暗い世界を明るく生きましょう。

授業コード	14C04		
授業科目名	演習I(上村)		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日 お昼休み		

講義の内容	この演習の目的は、エッセイ・自分史・聞き書き・小説・戯曲・論文などの文章表現を極めることによって、言葉の大切さとその力を実感してもらうことである。作文の基礎、文章の組み立てかた、テーマの探し方、取材のしかた、語彙の使い方等を、実践的に学ぶ。
到達目標	文章能力を高める。
講義方法	実践的な授業である。受身的な講義は最小限にとどめて、自分が準備してきたものを合評しあうことに主眼を置く。
準備学習	小説・ドキュメンタリー関係の本を多読すること。 また授業には必ず文章を書いてくること。
成績評価	授業の準備、授業中の発表。
講義構成	以下の3つの要素からなる。 1) 毎回準備してきた課題を発表する。レギュラーゲストとしてプロの作家に14回ほど来てもらい、学生が準備してきたものを添削してもらい、一緒に評論しあうことによって、後期の終わりまでには作品を少なくともひとつ完成させる。(14回) 2) 作文構成の基礎を学ぶと同時に、大野晋著『日本語練習帳』を読み、練習問題をしながら日本語の感性を磨く。(11回) 3) 人の話を聞くこと、取材する等の能力を高めるために、さまざまな分野のゲストにきてもらったり、街にでたりしながら一緒に学ぶ。(3回) 詳しい日程表は初回の授業のときに渡す。
教科書	大野晋『日本語練習帳』岩波新書
参考書・資料	都度、指示する。
担当者から一言	ひたすら実践的な授業ですから、授業を創るのは学生さんたちです。積極的に参加すればするほど、学ぶことが多いです。

授業コード	14C05
授業科目名	演習I(川田)
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)

配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜16:30以降、火曜の授業終了後、 その他相談に応じます。予めお知らせしてあるe-メールアドレスに連絡して下さい。		

講義の内容	ゼミ生各自が、自分自身のテーマを見つけて、その研究に取り組みます。 テーマは、どんなことでも構いません。 最も興味のあること、情熱を傾けられることを、研究テーマに選んで下さい。 毎月、月末には、研究報告書を全員に提出してもらいます。 その報告書をもとに、指導教員が個別に助言・指導し、相談にのります。 指導は主にe-メールやe-掲示板で進めていきます。 一生、本気で取り組めるような、自分の「テーマ」を見つけて探究しましょう！ 授業時には、順番に「研究報告」をしてもらいます。また、その内容をもとに、 ゼミ全員で徹底的に討論しながら、今後の研究方針を皆で一緒に考えます。
到達目標	最終目標は、4年次に提出する「卒業論文」です。3年性のうちから、テーマを絞り込み、資料を入手し、研究・調査をどんどん進めていきましょう。
講義方法	学生による研究発表と、その内容に基づく全員でのディスカッション。
準備学習	授業時間は、平素の研究成果を発表する場であり、この科目では授業時間外の常日頃の調査・研究が何より大切です。自覚を持って、自分の研究テーマに積極的に取り組みましょう。
成績評価	毎月末の報告書、授業への出席とディスカッションでの積極度、各自の研究発表など、全てを総合して評価します。
講義構成	毎回、学生による研究発表と討論会を実施します。 発表の順番は、前期・後期それぞれの初回授業で決定します。
教科書	各自の研究テーマにあわせたテキストを、個々に紹介します。
参考書・資料	参考文献、参考資料、参考サイトは、各自の研究テーマにあわせて、随時紹介していきます。
担当者から一言	各自が自分自身の研究テーマで研究活動を進めていくゼミです。 研究発表時には、現時点で自分なりに最高の「プレゼン」を見せてください。 ヴィジュアル資料、オーディオ資料も発表では駆使してください。 他の人の発表時にも、ディスカッションに積極的に参加することで、 自分自身の研究の視野も広がります。皆で一緒に頑張りましょう！

授業コード	14C06		
授業科目名	演習I(西)		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜3限ほか随時(メールでアポイントメントをとってください)		

講義の内容	芸術、思想、現代文化の領域からそれぞれに研究テーマを決め、論文作成にじっくり取り組むゼミ。
到達目標	(1)意義のある研究課題を設定し、 (2)根拠に基づいた情報を提示しながら、 (3)説得力をもった主張を行いつつ、 (4)首尾一貫した論述をおこなう、 という技術の習得を目指す。
講義方法	毎週1人ないし2人ずつそれぞれの研究内容についてプレゼンテーションを行ったうえで、全員でディスカッションをする。
準備学習	特に必要としない。
成績評価	毎回の出席と発表、議論での発言によって評価する。
講義構成	ゼミ生がそれぞれの研究関心によって順次発表をおこなっていく。

教科書	教科書は使用しない。
-----	------------

授業コード	14C07		
授業科目名	演習I(横山)		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	横山ゼミではユング心理学に基づいて、「心理学的にものごとを考えること」を学ぶ。こころの深層は、神話、おとぎ話、他文学、絵画などの芸術作品、さらにはこころの病、夢などに現れる、これらを解釈することによってこころの深層にせまる。また風景構成法、箱庭実習、精神病院見学を行い、夏には各自の夢を報告しあう一泊の合宿夢セミナーを行う。		
到達目標	ゼミ内での親睦を深め、全員が常識的ではなく、心理学的に物事を視ることの力をつけること。		
講義方法	グループ別に題材を選び発表して、討論を行い、教員、TAが必要に応じてコメントする。		
準備学習	心理学的に物考えることを練習するため、各グループで討論し、発表グループは全員のレジュメを用意すること。		
成績評価	発表義務の履行と、出席。		
講義構成	グループ別に題材を選び発表して、討論を行い、教員、TAが必要に応じてコメントする。		
教科書	なし。		
参考書・資料	河合隼雄著作集(岩波書店)、横山博「神話のなかの女たち」(人文書院)、「心理療法とこころの深層」(新曜社)など。		
講義関連事項	2回生時臨床心理学を受講のこと。		
担当者から一言	こころの深さ、自らのこころのなかにも異常性があることに興味のある人。		

授業コード	14C08		
授業科目名	演習I(北川)		
担当者名	北川 恵(キタガワ メグミ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	人は他者との関係のなかで成長・発達します。心理臨床も関係性を通しての支援といえます。人格発達やメンタルヘルスを関係性という視点から考えてみたいと思います。虐待といった関係性にそのものの問題や、関係性を育むことに困難を抱えやすい自閉性障害、そのほか、さまざまなテーマが関連してくると思います。前期は共通テーマを設定して関係性についての理解を深めた上で、後期は各自の関心テーマについて個人の研究発表を行う予定です。		
到達目標	自分の興味や関心に沿った問題意識を掘り下げる研究テーマを見つけ、先行研究を学ぶ。		
講義方法	受講生と相談の上決める。		
準備学習	掘り下げて考えてみたい心理学的なテーマは何かについて考えておく。		
成績評価	授業への参加、発表、討論、レポートなど		
講義構成	初回到概要を説明する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		

授業コード	14C09		
授業科目名	演習I(森)		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜授業後		

講義の内容	前期はグループ研究発表と体験学習(箱庭療法)を交えながら、各自の研究テーマを発展させる。後期は、まず全体テーマによる討論を行ったのち、個人の研究発表を中心に進めていく。全体テーマは、映画を取り上げる予定であるが、受講生と相談の上決める。個人テーマは限定しないので、各自の興味ある事柄で心理学的に分析できるものを選ぶ。現在のところ、親子関係、子育て、児童虐待、児童養護施設における子どものケアなどを中心にしながら、文学、映画、アニメなどの芸術、犯罪、教育その他の社会問題を幅広く扱っている。		
到達目標	卒業研究のために必要な資料収集、分析、考察能力を身につける。自らの意見をまとめて発言し、文章にまとめる力をつける。		
講義方法	前期はグループ研究発表と体験学習(箱庭療法)を交えながら、各自の研究テーマを発展させる。後期は、まず全体テーマによる討論を行ったのち、個人の研究発表を中心に進めていく。		
準備学習	自らのテーマについて調査し、発表の準備をする。		
成績評価	授業への参加、発表、レポートによる。		
講義構成	初回のオリエンテーションで決定する。		
教科書	なし		
参考書・資料	森茂起『トラウマの発見』講談社、森茂起、森年恵『トラウマ映画の心理学』新水社		

授業コード	14C10		
授業科目名	演習I(羽下)		
担当者名	羽下大信(ハゲ ダイシン)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	各自のテーマに沿って指導する		
到達目標	卒業論文完成にむけての準備・考察を行う。		
講義方法	人間に関することで、自分が関心をもったテーマを発表し、まとめる形式。		
準備学習	適宜指示する。		
成績評価	講義の出席、発表、レポートによる		
講義構成	各自の選んだテーマについて順次考察していく。		
教科書	なし		

授業コード	14C11		
授業科目名	演習I(大西)		
担当者名	大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	少年犯罪や非行、学校でのいじめ・不登校、家庭での児童虐待など、青少年をめぐる問題は多岐にわたる。これらの問題を心理学的な視点から検討する力をつけるため、前期は、青少年の問題についての論文を概観し、グループでテーマを決めて研究計画を練る。後期は、研究計画を基に調査を実施し、その結果を分析して、発表する。
到達目標	卒業研究に向けての基本的な研究態度、研究方法の習得をめざす。
講義方法	グループごとにテーマを選び、研究の計画を立て、実行し、発表する。
準備学習	青少年をめぐる諸問題について調べておく。
成績評価	授業への参加、グループでの発表、レポート提出。
講義構成	1. 青少年の問題に関する文献を読み、ディスカッションを行う。 2. 興味のあるテーマについて話し合い、グループ分けを行う。 3. グループでテーマを決定する。 4. グループでテーマに関する文献収集・調査方法等を検討する。 5. 調査を実施し、分析する。 6. グループ発表 7. まとめとレポート作成
教科書	なし

授業コード	14C12		
授業科目名	演習I (福井)		
担当者名	福井義一(フクイ ヨシカズ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	年間を通して、心理学的な研究法に馴染み、社会的な問題を心理学的な観点から把握・分析し、解決するための基礎を学ぶ。前期は、ゼミの雰囲気に慣れ、周囲とバランスよく協調しながらも自分の意見を述べる訓練を行うと共に、基礎的な研究方法について理解する。後期からは各自の興味・関心がある分野について、先行研究を探し、文献購読と発表、ディスカッションをメインとする。 個人のテーマは、愛着、トラウマ、解離、ストレスの分野から選択することが望ましいが、話し合いの上で各自の希望を尊重する。
到達目標	卒業研究を行うのに必要な、基礎的な知識とスキルを身につけることができる。 各自の関心のあるテーマを追求して、研究を行う動機づけを高めることができる。
講義方法	発表とディスカッションをメインとする。
準備学習	特になし。
成績評価	授業への参加と関与の度合い、発表、レポートによる。
講義構成	初回オリエンテーションにおいて、話し合いの上で決定する。
教科書	特になし。

授業コード	14F01		
授業科目名	演習Ⅱ(斧谷)		
担当者名	斧谷 彌守一(ヨキタニ ヤスイチ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	『イメージの感性をみがく』(サブテーマ「自分にとっての日本的イメージ」) イメージ(ことばと映像)を扱うゼミです。広告、詩、歌詞、写真、絵画などを見ると、はっきりとした意味が伝わってきたり、意味はよく分からなくとも何らかの雰囲気が伝わってきます。このゼミでは、そのような意味や雰囲気
-------	--

	について考えていきます。まず、自分にとって面白い、あるいは、心に染みる作品を見つけだし、次に、パソコンを使って自分で作品(映像+ことば)を作ることをめざします。気づいていなかった自分が見えてきます。卒業研究では、作品集を制作するのが普通です。
到達目標	Photoshop、Illustratorを使って自分の作品を作ること。 4回生は作品集を仕上げること。
講義方法	作品を制作し、批評し合うことが中心となる。
準備学習	作品の制作・印刷。
成績評価	平常点で評価する。
講義構成	第1回目のオリエンテーションで指示する。
教科書	特になし。必要な資料は配布する。

授業コード	14F02		
授業科目名	演習Ⅱ(谷口)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	人間・環境学を中心とした本演習では、一方で人間と環境についての新しい理論を研究しつつ、他方で臨床的・フィールド的な身体知を培っていく。このような理論の探求では、人間をめぐる環境倫理と生命倫理を研究することになる。 まず、パーソナリティと心の形成のメカニズムを明らかにする。次に、人間が地球環境の破壊をもたらした原因を追求し、環境倫理学の構築をめざす。さらに、環境の主体である生命の概念と深くかかわる医療環境や脳死・臓器移植そして癒しの諸問題を、生命倫理学の立場からとりあげる。 さらに、オフキャンパス・アクティビティ(甲南大学環境教育野外施設のフィールド活動や国営明石海峡公園「あいな里山公園の創造」[国土交通省との共同研究]のような環境活動など)を通じて、人生の諸問題を解決する能力である「知恵」をみがく。さらに、例えば自然環境において身体行為を伴った環境教育をおこなうことによって、心に病いをもつ現代人を健全なものにする試みも実施する。 本演習では、今年度とくに、生命倫理と環境倫理を架橋とする「ケアの倫理」について研究する。
到達目標	実践と理論、そして統合する能力を培う。
講義方法	ノート講義、フィールドワーク、研究発表
準備学習	各回文献を精読し、指示された発表をレジュメにまとめておく。
成績評価	レポート、出席、プレゼンテーション
講義構成	文献講読、卒論指導
教科書	その都度、指示する。
参考書・資料	その都度、指示する。
講義関連事項	哲学、倫理学、環境系関連科目を並行してとること

担当者から一言	人間と環境をめぐる生命倫理学も環境倫理学も、基本的には「ケア」による応用哲学の分野です。したがって現代社会の身近で具体的な諸課題を取り上げるつもりです。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室, http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/ }
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	14F03		
授業科目名	演習Ⅱ(港道)		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	4年次	単位数	4

開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜3限)、後期(木曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日4時30分以降		
講義の内容	現代社会が抱える諸問題を各自が調査し、報告し、討論しながら、卒業研究の準備を進める。また、外国語のテキストを読むことを通じて、論理的思考力を養成する。		
到達目標	世界を深く理解し、それに対応する思考力を高め、卒業論文の作成に資する論理力を要請する。		
講義方法	発表・討論とテキスト購読を交互に進める。		
準備学習	新聞、インターネット、テレビ・ラジオ報道に当り、問題調査の訓練をすること。		
成績評価	参加の程度によって評価する。		
講義構成	例 パレスチナ問題 生殖医療技術が生む社会問題 グローバリゼーションと貧困 等		
教科書	特になし。		
参考書・資料	その都度指示する。		
担当者から一言	暗い世界を明るく生きましょう。		

授業コード	14F04		
授業科目名	演習Ⅱ(上村)		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日 お昼休み		
講義の内容	この演習の目的は、エッセイ・自分史・聞き書き・小説・戯曲・論文などの文章表現を極めることによって、言葉の大切さとその力を実感してもらうことである。作文の基礎的な書き方、文章の組み立てかた、テーマの探し方、取材のしかた、語彙の使い方等を、実践的に学ぶ。		
到達目標	文章能力を高める。		
講義方法	実践的な授業である。受身的な講義は最小限にとどめて、自分が準備してきたものを合評しあうことに主眼を置く。		
準備学習	小説、ドキュメンタリー関係の本を多読すること。		
成績評価	授業の準備、授業中の発表。		
講義構成	以下の3つの要素からなる。 1) 毎回準備してきた課題を発表する。レギュラーゲストとしてプロの作家に14回ほど来てもらい、学生が準備してきたものを添削してもらい、一緒に評論しあうことによって、後期の終わりまでには作品を少なくともひとつ完成させる。(14回) 2) 作文構成の基礎を学ぶと同時に、大野普著『日本語練習帳』を読み、練習問題をしながら日本語の感性を磨く。(11回) 3) 人の話を聞くこと、取材する等の能力を高めるために、さまざまな分野のゲストにきてもらったり、街にでたりしながら一緒に学ぶ。(3回) 詳しい日程表は初回の授業のときに渡す。		
教科書	大野晋『日本語練習帳』岩波新書		
参考書・資料	都度、指示する。		
担当者から一言	ひたすら実践的な授業ですから、授業を創るのは学生さんたちです。積極的に参加すればするほど、学ぶこと		

	が多いです。
--	--------

授業コード	14F05		
授業科目名	演習Ⅱ(川田)		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜16:30以降、火曜の授業終了後、 その他相談に応じます。予めお知らせしてあるe-メールアドレスに連絡して下さい。		

講義の内容	ゼミ生各自が、自分自身のテーマを見つけて、その研究に取り組みます。 テーマは、どんなことでも構いません。 最も興味のあること、情熱を傾けられることを、研究テーマに選んで下さい。 毎月、月末には、研究報告書を全員に提出してもらいます。 その報告書をもとに、指導教員が個別に助言・指導し、相談にのります。 指導は主にe-メールやe-掲示板で進めていきます。 一生、本気で取り組めるような、自分の「テーマ」を見つけて探究しましょう！ 授業時には、順番に「研究報告」をしてもらいます。また、その内容をもとに、 ゼミ全員で徹底的に討論しながら、今後の研究方針を皆で一緒に考えます。
到達目標	最終目標は、「卒業論文」の完成です。「どこへ出しても恥ずかしくない」「生涯、誇りに思える」、そんな論文を目指しましょう！
講義方法	学生による研究発表と、その内容に基づく全員でのディスカッション。
準備学習	授業時間は、平素の研究成果を発表する場であり、この科目では授業時間外の常日頃の調査・研究が何より大切です。自覚を持って、自分の研究テーマに積極的に取り組みましょう。
成績評価	毎月末の報告書、授業への出席とディスカッションでの積極度、各自の研究発表など、全てを総合して評価します。
講義構成	毎回、学生による研究発表と討論会を実施します。 発表の順番は、前期・後期それぞれの初回授業で決定します。
教科書	各自の研究テーマにあわせたテキストを、個々に紹介します。
参考書・資料	参考文献、参考資料、参考サイトは、各自の研究テーマにあわせて、随時紹介していきます。

担当者から一言	各自が自分自身の研究テーマで研究活動を進めていくゼミです。 研究発表時には、現時点で自分なりに最高の「プレゼン」を見せてください。 ヴィジュアル資料、オーディオ資料も発表では駆使してください。 他の人の発表時にも、ディスカッションに積極的に参加することで、 自分自身の研究の視野も広がります。皆で一緒に頑張りましょう！
---------	---

授業コード	14F06		
授業科目名	演習Ⅱ(西)		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜3限ほか随時(メールでアポイントメントをとってください)		

講義の内容	芸術、思想、現代文化の領域からそれぞれに研究テーマを決め、論文作成にじっくり取り組むゼミ。
到達目標	(1)意義のある研究課題を設定し、 (2)根拠に基づいた情報を提示しながら、 (3)説得力をもった主張を行いつつ、

	(4) 首尾一貫した論述をおこなう、 という技術の習得を目指す。
講義方法	毎週1人ないし2人ずつそれぞれの研究内容についてプレゼンテーションを行ったうえで、全員でディスカッションをする。
準備学習	特に必要としない。
成績評価	毎回の出席と発表、議論での発言によって評価する。
講義構成	ゼミ生がそれぞれの研究関心によって順次発表をおこなっていく
教科書	教科書は使用しない。

授業コード	14F07		
授業科目名	演習Ⅱ(横山)		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	演習Ⅰに準ずる。後期には個人で卒論のテーマを発表してもらって討論、指導する。		
到達目標	7月までに卒論の頭だしが出来て、なおかつ、3回生のグループ内での指導がしっかり出来るようになること。そして、秋には卒論の中間発表が出来て、卒論をしっかり仕上げること。		
講義方法	演習Ⅰに準ずる。4回生は3回生に指導的に関わる。		
準備学習	3回生を指導することと、論文の引用文、参考文献の書き方、章立ての仕方などを共同図書室にある優秀な卒論を参考に学んでおくこと。		
成績評価	出席と発表義務の履行。		
講義構成	グループ別に題材を選び発表して、討論を行い、教員、TAが必要に応じてコメントする。		
教科書	なし。		
参考書・資料	河合隼雄著作集(岩波書店)、横山博「神話のなかの女たち」(人文書院)、「心理療法とこころの深層」(新曜社)など。		
講義関連事項	2回生時臨床心理学を受講のこと。		
担当者から一言	こころの深さ、自らのこころのなかにも異常性があることに興味のある人。		

授業コード	14F08		
授業科目名	演習Ⅱ(北川)		
担当者名	北川 恵(キタガワ メグミ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	人は他者との関係のなかで成長・発達します。心理臨床も関係性を通しての支援といえます。人格発達やメンタルヘルスを関係性という視点から考えてみたいと思います。虐待といった関係性にそのものの問題や、関係性を育むことに困難を抱えやすい自閉性障害、そのほか、さまざまなテーマが関連してくると思います。前期は共通テーマを設定して関係性についての理解を深めた上で、後期は各自の関心テーマについて個人の研究発表を行う予定です。		
到達目標	各自の研究テーマを掘り下げて検討する。効果的な発表方法を身につけ、他者と意見交換をはかれるようになる。		
講義方法	受講生と相談の上決める。		
準備学習	研究テーマについて、資料収集をしながら、自分の考えを整理する。		

成績評価	授業への参加、発表、討論、レポートなど
講義構成	初回到概要を説明する。
教科書	授業中に適宜紹介する。

授業コード	14F09		
授業科目名	演習Ⅱ(森)		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜授業後		

講義の内容	前期のグループ研究発表、体験学習(箱庭療法)の間に、各自の研究テーマについて調査を進め、卒業研究の計画をまとめる。後期の個人発表で、研究の中間報告をする。3回生のグループ発表や全体討論にも参加する。全体テーマは、映画を取り上げる予定であるが、受講生と相談の上決める。		
到達目標	卒業研究のために必要な資料収集、分析、考察能力を身につける。自らの意見をまとめて発言し、文章にまとめる力をつける。		
講義方法	前期はグループ研究発表と体験学習(箱庭療法)を交えながら、各自の研究テーマを発展させる。後期は、まず全体テーマによる討論を行ったのち、個人の研究発表を中心に進めていく。		
準備学習	自らのテーマについて調査し、発表の準備をする。		
成績評価	授業への参加、発表、レポートによる。		
講義構成	初回のオリエンテーションで決定する。		
教科書	なし		
参考書・資料	森茂起『トラウマの発見』講談社、森茂起、森年恵『トラウマ映画の心理学』新水社		

授業コード	14F10		
授業科目名	演習Ⅱ(羽下)		
担当者名	羽下大信(ハゲ ダイシン)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	各自のテーマに沿って指導する		
到達目標	卒業論文完成にむけての準備・考察を行う。		
講義方法	人間に関することで、自分が関心をもったテーマを発表し、まとめる形式。		
準備学習	適宜指示する。		
成績評価	講義の出席、発表、レポートによる		
講義構成	各自の選んだテーマについて順次考察していく。		
教科書	なし		

授業コード	14F11		
-------	-------	--	--

授業科目名	演習Ⅱ(大西)		
担当者名	大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	少年犯罪や非行、学校でのいじめ・不登校、家庭での児童虐待など、青少年をめぐる問題は多岐にわたる。こうした社会問題を心理学的な視点から検討する力をつけるため、前期は、青少年の問題についての論文を概観し、テーマを決めて研究計画を練る。後期は、研究計画を基に調査を実施し、その結果を分析して、発表する。なお、個人テーマは青少年の問題に限定しない。		
到達目標	卒業研究に必要な心理学の研究能力を身につける。		
講義方法	テーマを選び、研究の計画を立て、実行し、発表する。		
準備学習	自分のテーマについて考えておく。		
成績評価	授業への参加、発表、レポート提出。		
講義構成	初回授業で説明する。		
教科書	なし		

授業コード	14F12		
授業科目名	演習Ⅱ(福井)		
担当者名	福井義一(フクイ ヨシカズ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	年間を通して、心理学的な研究法に馴染み、社会的な問題を心理学的な観点から把握・分析し、解決するための基礎を学ぶ。前期は、ゼミの雰囲気慣れ、周囲とバランスよく協調しながらも自分の意見を述べる訓練を行うと共に、基礎的な研究方法について理解する。後期からは各自の興味・関心がある分野について、先行研究を探し、文献購読と発表、ディスカッションをメインとする。 個人のテーマは、愛着、トラウマ、解離、ストレスの分野から選択することが望ましいが、話し合いの上で各自の希望を尊重する。 4回生については、ゼミの進行と並行して、各自の研究テーマを深め、卒業研究を進めるよう個別指導を進めていく。		
到達目標	自分で関心領域に関する卒業研究を進め、卒業論文としてまとめることができる。		
講義方法	主として個別指導による。		
準備学習	普段から、関心領域に対してアンテナを張り、情報収集をすること。		
成績評価	卒業研究への取り組みを重視する。		
講義構成	初回オリエンテーションにおいて、話し合いの上で決定する。		
教科書	特になし。		

授業コード	14K01		
授業科目名	演習Ⅲ(谷口)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	人間・環境学を中心とした本演習では、一方で人間と環境についての新しい理論を研究しつつ、他方で臨床的・フィールド的な身体知を培っていく。このような理論の探求では、人間をめぐる環境倫理と生命倫理を研究することになる。 まず、パーソナリティと心の形成のメカニズムを明らかにする。次に、人間が地球環境の破壊をもたらした原因を追求し、環境倫理学の構築をめざす。さらに、環境の主体である生命の概念と深くかかわる医療環境や脳死・臓器移植そして癒しの諸問題を、生命倫理学の立場からとりあげる。 さらに、オフキャンパス・アクティビティ(甲南大学環境教育野外施設のフィールド活動や国営明石海峡公園「あいな里山公園の創造」[国土交通省との共同研究]のような環境活動など)を通じて、人生の諸問題を解決する能力である「知恵」をみがく。さらに、例えば自然環境において身体行為を伴った環境教育をおこなうことによって、心に病いをもつ現代人を健全なものにする試みも実施する。 本演習では、今年度とくに、生命倫理と環境倫理を架橋とする「ケアの論理」について研究する。
到達目標	実践と理論、そして統合する能力を培う。
講義方法	ノート講義、フィールドワーク、研究発表
準備学習	各回文献を精読し、指示された発表をレジュメにまとめておく。
成績評価	レポート、出席、プレゼンテーション
講義構成	文献講読、レポート指導
教科書	その都度、指示する。
参考書・資料	その都度、指示する。
講義関連事項	哲学、倫理学、環境系関連科目を並行してとること

担当者から一言	人間と環境をめぐる生命倫理学も環境倫理学も、基本的には「ケア」による応用哲学の分野です。したがって現代社会の身近で具体的な諸課題を取り上げるつもりです。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室, http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/ }
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	14K02		
授業科目名	演習Ⅲ（港道）		
担当者名	港道 隆（ミナトミチ タカシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜3限）、後期（木曜3限）
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日4時30分以降		

講義の内容	現代社会が抱える諸問題を各自が調査し、報告し、討論しながら、卒業研究の準備を進める。また、外国語のテキストを読むことを通じて、論理的思考力を養成する。
到達目標	世界を深く理解し、問題に対処する思考力を養成する。
講義方法	発表・討論とテキスト購読を交互に進める。
準備学習	特になし。
成績評価	参加の程度によって評価する。
講義構成	例 パレスチナ問題 生殖医療技術が生む社会問題 グローバリゼーションと貧困 等
教科書	特になし。
参考書・資料	その都度指示する。
担当者から一言	暗い世界を明るく生きましょう。

授業コード	14K03
-------	-------

授業科目名	演習Ⅲ(上村)		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日 お昼休み		

講義の内容	この演習の目的は、エッセイ・自分史・聞き書き・小説・戯曲・論文などの文章表現を極めることによって、言葉の大切さとその力を実感してもらうことである。作文の基礎的な書き方、文章の組み立てかた、テーマの探し方、取材のしかた、語彙の使い方等を、実践的に学ぶ。
到達目標	文章能力を高める。
講義方法	実践的な授業である。受身的な講義は最小限にとどめて、自分が準備してきたものを合評しあうことに主眼を置く。
準備学習	小説・ドキュメンタリー関係の本を多読すること。 また授業には必ず文章を書いてくること。
成績評価	授業の準備、授業中の発表。
講義構成	以下の3つの要素からなる。 1) 毎回準備してきた課題を発表する。レギュラーゲストとしてプロの作家に14回ほど来てもらい、学生が準備してきたものを添削してもらい、一緒に評論しあうことによって、後期の終わりまでには作品を少なくともひとつ完成させる。(14回) 2) 作文構成の基礎を学ぶと同時に、大野普著『日本語練習帳』を読み、練習問題をしながら日本語の感性を磨く。(11回) 3) 人の話を聞くこと、取材する等の能力を高めるために、さまざまな分野のゲストにきてもらったり、街にでたりしながら一緒に学ぶ。(3回) 詳しい日程表は初回の授業のときに渡す。
教科書	大野晋『日本語練習帳』岩波新書
参考書・資料	都度、指示する。

担当者から一言	ひたすら実践的な授業ですから、授業を創るのは学生さんたちです。積極的に参加すればするほど、学ぶことが多いです。
---------	---

授業コード	14K04		
授業科目名	演習Ⅲ(川田)		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	前期:月曜16:30以降、後期:水曜13:00～15:00。 通年:火曜の授業終了後。		

講義の内容	演習Ⅰ・演習Ⅱの学生による研究発表を聴き、その後のディスカッションに参加してもらう。 様々なテーマの研究に触れて、視野を広げ、自分自身の言葉で考えをまとめ、発言できるようになってほしい。
到達目標	様々な話題に柔軟に対応し、自分自身の物の見方や考え方を確立し、それを「討論」の場で発言できるようになること。
講義方法	発表を聞き、ディスカッションで自分の意見を発言する。
準備学習	翌週の発表者の研究テーマに合わせて、資料や情報を集めておき、ディスカッションに役立てよう。
成績評価	出席状況とディスカッションでの発言状況など積極性を評価する。
講義構成	発表学生(演習Ⅰ・演習Ⅱの履修生)のテーマ選択に沿ってディカッションの内容が決定される。

	予定としては、1日に2人の発表があるので、毎回2つの異なったテーマでのディスカッションがある。内容は、1週間前の授業時に予告することにした。
教科書	教科書は特に使用しない
担当者から一言	ディスカッションの内容に関して、毎回、予め自分で調べて、ディスカッション当日に活かすこと。積極的な参加・発言を待っています！
その他	いわゆる「副ゼミ」としての登録になるので、登録前に必ず担当教員に相談し、受講の了承を得ること。

授業コード	14K05		
授業科目名	演習Ⅲ（西）		
担当者名	西 欣也（ニシ キンヤ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（金曜4限）、後期（金曜4限）
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜3限ほか随時（メールでアポイントメントをとってください）		

講義の内容	芸術、思想、現代文化の領域からそれぞれに研究テーマを決め、論文作成にじっくり取り組むゼミ。		
到達目標	(1) 意義のある研究課題を設定し、 (2) 根拠に基づいた情報を提示しながら、 (3) 説得力をもった主張を行いつつ、 (4) 首尾一貫した論述をおこなう、 という技術の習得を目指す。		
講義方法	毎週1人ないし2人ずつそれぞれの研究内容についてプレゼンテーションを行ったうえで、全員でディスカッションをする。		
準備学習	特に必要としない。		
成績評価	毎回の出席と発表、議論での発言によって評価する。		
講義構成	ゼミ生がそれぞれの研究関心によって順次発表をおこなっていく		
教科書	教科書は使用しない。		

授業コード	14K06		
授業科目名	演習Ⅲ（横山）		
担当者名	横山 博（ヨコヤマ ヒロシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（金曜4限）、後期（金曜4限）
特記事項	自動登録		

講義の内容	横山ゼミではユング心理学に基づいて、「心理学的にものごとを考えること」を学ぶ。こころの深層は、神話、おとぎ話、他文学、絵画などの芸術作品、さらにはこころの病、夢などに現れる、これらを解釈することによってこころの深層にせまる。また風景構成法、箱庭実習、精神病院見学を行い、夏には各自の夢を報告しあう一泊の合宿夢セミナーを行う。		
到達目標	神話、おとぎ話の解釈を通して、無意識の力を理解し、心理学的に物事を考えられるようになること。		
講義方法	グループ別に題材を選び発表して、討論を行い、教員、TAが必要に応じてコメントする。		
準備学習	2回生時の臨床心理学で講義されたことを復習し、関連文献を読んでおくこと。		
成績評価	発表義務の履行と、出席。		
講義構成	グループ別に題材を選び発表して、討論を行い、教員、TAが必要に応じてコメントする。		
教科書	なし。		
参考書・資料	河合隼雄著作集（岩波書店）、横山博「神話のなかの女たち」（人文書院）、「心理療法とこころの深層」（新曜社）		

	など。
講義関連事項	2回生時臨床心理学を受講のこと。
担当者から一言	こころの深さ、自らのこころのなかにも異常性があることに興味のある人。

授業コード	14K07		
授業科目名	演習Ⅲ（北川）		
担当者名	北川 恵（キタガワ メグミ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜3限）、後期（水曜3限）
特記事項	自動登録		

講義の内容	人は他者との関係のなかで成長・発達します。心理臨床も関係性を通しての支援といえます。人格発達やメンタルヘルスを関係性という視点から考えてみたいと思います。虐待といった関係性にそのものの問題や、関係性を育むことに困難を抱えやすい自閉性障害、そのほか、さまざまなテーマが関連してくると思います。前期は共通テーマを設定して関係性についての理解を深めた上で、後期は各自の関心テーマについて個人の研究発表を行う予定です。
到達目標	自分の興味や関心に沿った問題意識を掘り下げる研究テーマを見つけ、先行研究を学ぶ。
講義方法	受講生と相談の上決める。
準備学習	掘り下げて考えてみたい心理学的なテーマは何かについて考えておく
成績評価	授業への参加、発表、討論、レポートなど
講義構成	初回到概要を説明する。
教科書	授業中に適宜紹介する。

授業コード	14K08		
授業科目名	演習Ⅲ(森)		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜授業後		

講義の内容	演習Ⅰの同じ内容で進める。前期はグループ研究発表と体験学習(箱庭療法)を交えながら、各自の研究テーマを発展させる。後期は、まず全体テーマによる討論を行ったのち、個人の研究発表を中心に進めていく。全体テーマは、映画を取り上げる予定であるが、受講生と相談の上決める。個人テーマは限定しないので、各自の興味ある事柄で心理学的に分析できるものを選ぶ。現在のところ、親子関係、子育て、児童虐待、児童養護施設における子どものケアなどを中心にしながら、文学、映画、アニメなどの芸術、犯罪、教育その他の社会問題を幅広く扱っている。
到達目標	卒業研究のために必要な資料収集、分析、考察能力を身につける。自らの意見をまとめて発言し、文章にまとめる力をつける。
講義方法	前期はグループ研究発表と体験学習(箱庭療法)を交えながら、各自の研究テーマを発展させる。後期は、まず全体テーマによる討論を行ったのち、個人の研究発表を中心に進めていく。
準備学習	自らのテーマについて調査し、発表の準備をする。
成績評価	授業への参加、発表、レポートによる。
講義構成	初回のオリエンテーションで決定する。
教科書	なし
参考書・資料	森茂起『トラウマの発見』講談社、森茂起、森年恵『トラウマ映画の心理学』新水社

その他	演習Ⅰの受講生数にゆとりがあるときのみ開講する。
-----	--------------------------

授業コード	14K09		
授業科目名	演習Ⅲ(羽下)		
担当者名	羽下大信(ハゲ ダイシン)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	各自のテーマに沿って指導する
到達目標	卒業論文完成にむけての準備・考察を行う。
講義方法	人間に関することで、自分が関心をもったテーマを発表し、まとめる形式。
準備学習	適宜指示する。
成績評価	講義の出席、発表、レポートによる
講義構成	各自の選んだテーマについて順次考察していく。
教科書	なし

授業コード	14K10		
授業科目名	演習Ⅲ(大西)		
担当者名	大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	少年犯罪や非行、学校でのいじめ・不登校、家庭での児童虐待など、青少年をめぐる問題は多岐にわたる。これらの問題を心理学的な視点から検討する力をつけるため、前期は、青少年の問題についての論文を概観し、グループでテーマを決めて研究計画を練る。後期は、研究計画を基に調査を実施し、その結果を分析して、発表する。
到達目標	卒業研究に向けての基本的な研究態度、研究方法の習得をめざす。
講義方法	グループごとにテーマを選び、研究の計画を立て、実行し、発表する。
準備学習	青少年をめぐる諸問題について調べておく。
成績評価	授業への参加、グループでの発表、レポート提出。
講義構成	1. 青少年の問題に関する文献を読み、ディスカッションを行う。 2. 興味のあるテーマについて話し合い、グループ分けを行う。 3. グループでテーマを決定する。 4. グループでテーマに関する文献収集・調査方法等を検討する。 5. 調査を実施し、分析する。 6. グループ発表 7. まとめとレポート作成
教科書	なし

授業コード	14K11		
授業科目名	演習Ⅲ(福井)		
担当者名	福井義一(フクイ ヨシカズ)		

配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	年間を通して、心理学的な研究法に馴染み、社会的な問題を心理学的な観点から把握・分析し、解決するための基礎を学ぶ。前期は、ゼミの雰囲気慣れ、周囲とバランスよく協調しながらも自分の意見を述べる訓練を行うと共に、基礎的な研究方法について理解する。後期からは各自の興味・関心がある分野について、先行研究を探し、文献購読と発表、ディスカッションをメインとする。 個人のテーマは、愛着、トラウマ、解離、ストレスの分野から選択することが望ましいが、話し合いの上で各自の希望を尊重する。
到達目標	卒業研究を行うのに必要な、基礎的な知識とスキルを身につけることができる。 各自の関心のあるテーマを追求して、研究を行う動機づけを高めることができる。
講義方法	発表とディスカッションをメインとする。
準備学習	特になし。
成績評価	授業への参加と関与の度合い、発表、レポートによる。
講義構成	初回オリエンテーションにおいて、話し合いの上で決定する。
教科書	特になし。

授業コード	14J11		
授業科目名	外国文献基礎演習（1クラス）		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)、高岡智子(タカオカ トモコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
オフィスアワー	高岡: 月曜日12:10～13:00 西: 金曜日3限目		

講義の内容	前期は表現領域について、後期は心理学について、英文で講読をおこなう授業。		
到達目標	英語論文における考証の手続きを解釈する基本を学ぶ。		
講義方法	順番に英文を読み、訳してもらい随時説明を加える。		
準備学習	特に必要としない。		
成績評価	英文和訳の試験をおこなう。出席も加味する。		
講義構成	高岡(前期): 音楽療法のルーツはどこにあるのか。大作曲家モーツァルトやベートーヴェンは心の病とどのよう に対峙し、作曲活動を行ってきたのか。前期は音楽療法と西洋音楽についての内容理解を深める。 西(後期): 人間の心理や性格について論じられた文章を読む。		
教科書	教科書は使用しない。		
参考書・資料	講義中にプリントを配布する。		
担当者から一言	必ず予習をすること。		

授業コード	14J12		
授業科目名	外国文献基礎演習（2クラス）		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)、宮川貴美子(ミヤガワ キミコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
オフィスアワー	金曜日4時30分以降		

講義の内容	社会問題を扱う論文を精読することによって、厳密な読み方を鍛錬し、論理的な思考力を養成する。
-------	---

到達目標	英語の基本構造の理解を徹底する。
講義方法	一回に数人の参加者が数行を担当し、訳文を修正しつつ解説する。
準備学習	必ず予習してくる。
成績評価	前期末・後期末の2度の試験で評価する。
講義構成	毎回、数人の参加者がテキストを日本語訳し、全員で検討し、必要場合は修正し、さらに解説を加える。
教科書	テキストは初回に配布する。
参考書・資料	英語の文法書。
担当者から一言	きちんと勉強すれば、努力は必ず実ります。

授業コード	14J13		
授業科目名	外国文献基礎演習（3クラス）		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)、上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
オフィスアワー	横山:オンデマンドで／ 上村:授業終了後随時。必要なら別の時間をそのとき設定する。		

講義の内容	上村(前期)宗教学者ミルチャ・エリアーデの英文の文献を読み、論文の読み方を学ぶ。 横山(後期)基礎的なユング心理学の英文の文献を読み、論文の読み方を学ぶ。		
到達目標	英語論文を読む基礎的力を身につける。特に大学院進学希望者には必要不可欠である。		
講義方法	順番に英文を読み、訳してもらい随時説明を加える。		
準備学習	必ず1度は当たり訳さなければならないので、必ず予習してくる。		
成績評価	英文を2問あるいはそれ以上出題するので、それを和訳してもらう。辞書持込可。出席も加味する。		
講義構成	基本的に学生が1～2文章を読み、訳してもらう。後で教員が説明を加える。		
教科書	講義の一番最初の時間にプリントを配布。		
担当者から一言	予習をすること。		

授業コード	14014		
授業科目名	外国文献研究I		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
オフィスアワー	金曜3限		

講義の内容	本格的なドイツ語文献とその英語訳を読んでいく、ハードだがやりがいがある講読授業。英語文献読解力、ドイツ語文献読解力のどちらか、または、両方を身につけたい人、思考力を鍛えたい人、大学院を目指したい人を歓迎する。		
到達目標	大学院修士課程を目指す人のために英語読解力を養成し、更に、余力のある人のためにドイツ語読解力を養成する(大学院の授業ではドイツ語またはフランス語が必要になることがある)。		
講義方法	英語とドイツ語の訳を参加者が読み、解説を加えることで、文献を正確に読解する訓練を行う。英語だけの参加も可能だが、毎回、全員予習が必須。前期、後期の最終回に英語の試験を行い、これが大学院入試のための模擬試験ともなる。		
準備学習	ドイツ語文法(中級ドイツ語、上級ドイツ語)を修得済、あるいは履修中であることが望ましい。		
成績評価	模擬テストも加味するが、基本的に平常点で評価する。		
講義構成	前期はドイツ語と英語でフロイトを読む予定。後期のテキストについては参加者の関心を考慮して決定する。第1回目のオリエンテーションで授業の内容・進め方について相談するので、必ず出席すること。		

教科書	教科書は用いず、プリントを配布する。
参考書・資料	授業の中で適宜指示する。

授業コード	14015		
授業科目名	外国文献研究II		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)、神山すみ江(コウヤマ スミエ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜4限)、後期(月曜4限)
オフィスアワー	授業終了後随時。		

講義の内容	本格的なフランス語文献とその英語訳を読んでゆく。初めてアカデミックな文献をよむことになる。英語文献読解力あるいはフランス語文献読解力、あるいはその両方をつけたい人、さらに思考力を鍛えたい人を対象とする。文献を読みこなすためには、背景の基礎知識と、理論的なものの考え方が必要なので、それを涵養するのが目的である。
到達目標	学術的文献を読みこなす技術と知識を身につける。
講義方法	与えられたテキストを正確に読解する訓練のために、輪読形式で読解してゆく。必ず予習をして翻訳文を用意してくる。ただし自分が当たった場合は、準備してきた文章を棒読みせず、もう一度頭のなかで骨組みを再構築しながら翻訳を試みる。
準備学習	背景の基礎知識をつけるために、指定され、あるいは配布された資料は必ず読み、予習をして授業に臨むこと。
成績評価	基本的に平常点で評価するので、必ず出席すること。
講義構成	フランスのギリシア神話学者たちの作品を読んでゆく。本格的なフランス語文献と、その定評ある英語翻訳文献を読みこなしてゆく訓練をつむ。日本語で書かれた関連資料も配布するので、必ず読んでくること。
教科書	プリントを配布する。
参考書・資料	都度プリントで渡すか、あるいは指示する。
講義関連事項	外国文献基礎演習(すでに履修していることが望ましい)、中級フランス語(すでに履修しているか、あるいは同時履修が望ましい)、上級フランス語。

担当者から一言	親密な授業になると思うので、厳しい中に、楽しさを見出してゆきたいと思います。
---------	--

授業コード	14021		
授業科目名	環境学基礎論Ⅰ(前)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	授業の前後の1時間		

講義の内容	人間の環境は、身体と行動を介して自然環境、社会環境、心の環境が成立すると考えられる。それらの環境は、人間とは無関係に成立しているのではなく、人間と相互作用することで自己形成される。 「自然環境」では、人間が適度に関与することで生態系が維持されている。例えば、森林の保全や農耕によって自然環境は健全に循環する。「社会環境」では、経済活動など人間の関与が大きい。そしてその社会現象も、自己組織的にシステムが出来上がる。例えば、商品の価格も市場において自己組織的に決定される。「心の環境」では、いうまでもなく人間自身の問題であり、それは“心のあり方”が中心となる。例えば、親子関係において、神経質の親は神経質な子どもを育てることになり、その子の心は母親のそのような性格を内化して自己形成されることになる。 このように、自己組織のシステム論、生態学的心理学、環境教育学などから主体と客体が“複雑に”相互作用することによって自己形成される「人間の多様な環境」を環境学の観点から考察していく。 環境学基礎論Ⅰでは、講義構成の1・2を中心に検討する。
到達目標	身近な環境について意識を覚醒すること。
講義方法	ノートを中心に講義は進むが、より具体的にVTR、スライドも文献として紹介する。時に、甲南大学環境教育野

	外施設(広野グランド)に出て、米作り・野菜作り・ビオトープ観察・バードウォッチング等の環境教育活動をおこなうこともある。
準備学習	各授業で示されたテーマに関係する資料を準備しておく。
成績評価	テストないしレポートと出席点
講義構成	1. 自然・社会・精神環境の自己生成とその展開ー自己組織的システム論ー 2. 生態学的心理学による環境認知論ーアフォーダンス論ー 3. オートポイエーシス理論ー内部観測をめぐるー 4. 心の形成と治癒としてのビオトープづくりと箱庭療法
教科書	谷口文章『環境教育の哲学ー環境教育学序説ー』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	里見軍之・谷口文章編『現代哲学の潮流』(ミネルヴァ書房)
講義関連事項	「哲学思想基礎論」、「人間環境論」、「環境倫理学」、「環境教育の実践Ⅰ・Ⅱ」、「国際環境教育ネットワーク」、「国内環境教育ネットワーク」
担当者から一言	心の環境汚染が、自然や社会の環境を破壊してきたと思います。このことをいっしょに考えましょう。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	14022		
授業科目名	環境学基礎論Ⅱ(後)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	授業の前後の1時間		

講義の内容	人間の環境は、身体と行動を介して自然環境、社会環境、心の環境が成立すると考えられる。それらの環境は、人間とは無関係に成立しているのではなく、人間と相互作用することで自己形成される。 「自然環境」では、人間が適度に関与することで生態系が維持されている。例えば、森林の保全や農耕によって自然環境は健全に循環する。「社会環境」では、経済活動など人間の関与が大きい。そしてその社会現象も、自己組織的にシステムが出来上がる。例えば、商品の価格も市場において自己組織的に決定される。 「心の環境」では、いうまでもなく人間自身の問題であり、それは“心のあり方”が中心となる。例えば、親子関係において、神経質の親は神経質な子どもを育てることになり、その子の心は母親のそのような性格を内化して自己形成されることになる。 このように、自己組織のシステム論、生態学的心理学、環境教育学などから主体と客体が“複雑に”相互作用することによって自己形成される「人間の多様な環境」を環境学の観点から考察していく。 環境学基礎論Ⅱでは、講義構成の3・4を中心に検討する。
到達目標	環境意識の高揚とともに、それを理論化できるようにする。
講義方法	ノートを中心に講義は進むが、より具体的にVTR、スライドも文献として紹介する。時に、甲南大学環境教育野外施設(広野グランド)に出て、米作り・野菜作り・ビオトープ観察・バードウォッチング等の環境教育活動をおこなうこともある。
準備学習	環境学基礎論Ⅰで集めた資料をⅡで応用できるように準備する。
成績評価	テストないしレポートと出席点
講義構成	1. 自然・社会・精神環境の自己生成とその展開ー自己組織的システム論ー 2. 生態学的心理学による環境認知論ーアフォーダンス論ー 3. オートポイエーシス理論ー内部観測をめぐるー 4. 心の形成と治癒としてのビオトープづくりと箱庭療法
教科書	谷口文章『環境教育の哲学ー環境教育学序説ー』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	里見軍之・谷口文章編『現代哲学の潮流』(ミネルヴァ書房)
講義関連事項	哲学思想基礎論／人間環境論／環境倫理学／環境教育の実践Ⅰ・Ⅱ／国際環境教育ネットワーク／国内環境教育ネットワーク
担当者から一言	心の環境汚染が、自然や社会の環境を破壊してきたと思います。このことをいっしょに考えましょう。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室

URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/
-----	---

授業コード	14046		
授業科目名	環境教育学(集中)		
担当者名	ショウ ラジブ(ショウ ラジブ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	持続的な開発の中心には、人間の安全保障と環境のバランスが必要であり、これには、環境マネジメント、持続可能な開発、災害の軽減、予防の計画のより一層の向上が不可欠である。それゆえ、開発、環境、防災のマネジメントは連結しているといえる。開発ラーニングとは、さまざまな関係者(stakeholder)の教育プロセスであり、それは、現場から学ぶことが非常に重要である。政府機関、非政府機関、専門家、国連を含めた国際機関の役目を定義し、特徴付けることが、開発ラーニングの焦点となる。そして、環境・防災教育は、ラーニング・エクササイズの重要な要素となる。 コースの目的は、特に環境・防災教育に焦点をあて、開発ラーニングの基本概念、アジア各国でのプロジェクト・マネジメントの成功事例について講義する。プロジェクト・マネジメントの事例は、現場での豊富な経験をふまえた、ラーニング・プロセスである。学生は、地球規模で考え、地域で行動することを学ぶ。
到達目標	環境・防災教育のセオリーと実践のギャップを埋めること。
講義方法	集中講義
準備学習	環境と防災に関する基礎知識
成績評価	下記は、本コースの単位を取得する必要事項である。 - オリエンテーションの参加、アンケートの回答 - 講義への積極的な参加(出席) - グループディスカッションへの積極的な参加 - 開発ラーニングに関するレポート英語で1ページ(講義最終日に提出)
講義構成	3部に分かれた14回の講義を行う。 - 第1部:開発ラーニング/環境・防災教育の概要 理論的背景、トピックと課題の概要説明、一般理論などについて講義する。 - Part 2: 各国の実例 日本国内外の現地での実例を紹介し、それぞれの成功事例を分析する。 - Part 3:参加型ラーニング:エクササイズ 実生活における基本的な問題へ取り組み、議論を通し、各学生及びグループの考えを刺激し高める。
教科書	なし
参考書・資料	講義時に随時知らせる。
講義関連事項	なし

ホームページタイトル	IEDM Website
URL	http://www.iedm.ges.kyoto-u.ac.jp/

授業コード	14047		
授業科目名	環境・芸術文化論（後）		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、川田都樹子(カワタ トキコ)、西 欣也(ニシ キンヤ)、戸田耿介(トダ コウスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	担当教員の授業の前後1時間		

講義の内容	「環境」というと環境問題を思いおこすが、本来、環境は生命をとりまく空間であり、すべての生命が快適に生きていく身の周りの空間のことである。したがってこの講義では、環境問題を中心とするのではなく、環境の創造、またそれを精神的に支える芸術文化論の視座から、環境・芸術文化論を展開したく考えている。
到達目標	自然観、都市公園・里山の景観、芸術に対する美的感性などに対する覚醒。
講義方法	4人の講師がそれぞれのテーマで講義をするが、ノート、パワーポイントなどによる。
準備学習	4部のテーマごとに課題があるので、それに沿った内容を準備しておくこと。
成績評価	レポート
講義構成	第1部. 環境教育と環境創造 01. オリエンテーション(谷口) 02. 環境教育から見た環境創造(谷口) 第2部. 環境創造の事例と方法 03. 都市環境と緑地・里山(戸田) 04. 都市ビオトープ環境創造―(戸田) 05. 学校ビオトープ環境創造―(戸田) 第3部. 環境と芸術 06. 「環境芸術」における「環境」とは？(川田) 07. 「環境芸術」のはじまり(川田) 08. 「ミニマル・アート」から「環境」へ(川田) 09. 自然環境と「アース・ワーク」(川田) 10. 都市環境と「パブリック・アート」(川田) 第4部. 自然・風景・文化論 11. 自然美の普遍性と多様性(西) 12. 風景と文化的アイデンティティ(西) 13. アジア的自然観の再検討(西) 14. 日本的自然観の再検討(西) 15. まとめ 21世紀の環境創造と芸術文化論(谷口)
教科書	その都度、指示。
参考書・資料	その都度、指示。
担当者から一言	現代においてこそ、創造的な環境を知りましょう。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	14031		
授業科目名	芸術思想史（前）		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	金曜3限ほか随時(メールでアポイントメントをとってください)		

講義の内容	芸術を理論的、歴史的に論じるための入門講義。
到達目標	映画や音楽などの作品経験の中で自分が個人として感じたことを、客観的な言葉に置き換え、さらにそれをより広い視野の中で考察していくために必要な基礎概念や理論的枠組みを学習する。
講義方法	各回ごとに一つのトピックを提示し、なるべく実際の作品を体験しながら、自らの感性を知識や理論と関連づける試みを行う。なお、授業はしばしば全員でのディスカッションのかたちをとる。
準備学習	特に必要としない。
成績評価	平常点によるものとする。なお、受講者は、積極的な発言をはじめとする参加によって評価されることをあらかじめ了解されたい。
講義構成	おおむね以下のような内容を予定している。 (1)そもそも芸術とは何なのか (2)ポピュラーカルチャー vs. ハイカルチャー (3)解釈は人それぞれである方がよいのか (4)美しく描かれた汚物と醜く描かれた美人

	(5) 作品が歴史的であるとはどういうことか (6) 批評の意義と限界
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	参考書については、講義のなかで適宜指示・紹介する。資料はプリントを配布する。
講義関連事項	平素から映画館やギャラリー、劇場、などに足を運んで、少しでも多くの作品に触れる機会を持つようにしてください。
担当者から一言	入門講義です。気楽に参加してください。

授業コード	14059		
授業科目名	芸術療法（前）		
担当者名	内藤あかね（ナイトウ アカネ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	原則として授業のあと。		

講義の内容	この講義では、芸術療法arts therapyの中でも特に絵画療法art therapy（以下、アートセラピー）を扱います。高名な米国のアートセラピストであるJudith Rubinは、アートセラピーを学ぶにはまずアートとセラピーについて学ばなければいけないと言います。今期は、アートについて知るために絵本をいくつか紹介し、子どもがどのようにアートの世界へ開かれていくかを考えます。また、アートセラピーの現場で使われる画材についても学びます。セラピーにかんしては、受講者が心理療法の基礎をすでに学んでいることを前提に必要な知識を扱います。そして、アートセラピーで行われる技法を講義中の実習を通して体験します。
到達目標	受講者が心理療法の一方法論としてアートセラピーにかんする基礎知識を得て、その可能性を考えられるようになる。実技を体験することにより、受講者自身の自己理解が深まる。
講義方法	主として講義形式ですが、実習を数回行う予定。他、アートセラピーを紹介するDVD(英語版もあり)を見る機会も含める予定です。
準備学習	臨床心理学・心理療法の基礎知識を必要とするので、事前に勉強しておくこと。講義資料や講義中に紹介するアートセラピーにかんする文献を受講者が進んで読むこと。
成績評価	講義中の小レポート、実習レポート、および期末レポート。期末レポートの提出だけでは単位取得できません。
講義構成	Ⅰ．イントロダクション アートセラピー（芸術療法）のセッションでは何をするのか？ Ⅱ．アートを知る ①絵本—アート—子ども ②画材を知る Ⅲ．セラピーを知る ①心理療法の基礎概念 ②心理療法の媒体としての言語とアート Ⅳ．アートセラピーを知る ①アートセラピーとは何か ②アートセラピーの技法を体験する
教科書	なし
参考書・資料	適宜配布します。
担当者から一言	この講義を受講する人は、あらかじめ深層心理学や心理療法の基礎知識が必要です。また、講義中に描画行為（実習）を通して自分を表出・表現したり、英語の資料を使用するDVDを見たりするので、これらのことに抵抗のある人は向きません。講義中に提出するレポート類を評価対象として重視するので、出席が大事になります。

授業コード	14042		
授業科目名	言語表現研究（前）		
担当者名	浅黄 斑（アサギ マダラ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
講義の内容	自分の言いたいことを分かってほしい。つきつめるところ、これが言語表現の基本です。わたしたちが日本という国で生活している以上、日本語での表現力を磨かなければなりません。友人や仲間たちとうまくコミュニケーションができて、その表現力では実社会に通用しないことが多々あります。 仮に上司に報告をするという行為ひとつをとってみても、口頭で伝える場合と文書で伝える場合がありますし、上司の年齢(世代)はまちまちです。 それで、いろんな世代に理解をさせる表現力は、今も昔も、それぞれの時代を生き延びるための、重要なツールなのです。 本講座は、改めて日本語というものの特徴を知り、その知識を深めることによって、日本語の表現力を高めることを目的としています。 まずは日本語の秘密を織りまぜながら、日本語が〈謎かけ〉や〈ことば遊び〉にまで発展した、日本のルネッサンスと呼ばれる江戸・元禄時代にまでさかのぼって、あなたたちの表現力を高める一助になりたい、と考えています。		
到達目標	1 言葉づかいをおろそかにしない力を蓄える。 (言葉の誤った使用法や、ワープロ文書での誤変換などを防ぐ力の養成) 2 雑学的な知識を得ることによって、日本語に興味を持ち、さまざまな表現法があることを理解する。		
講義方法	必要な資料は、その都度プリントで渡しますが、復習のために、それ以前の講義のプリントに戻ることが、しばしばあります。そのためプリントはファイリングして講座に持ち込んでください。		
準備学習	プリントの予習、および復習。		
成績評価	出席点70% レポート点30% 8回以上授業に出席しなければ、成績を評価しない。		
講義構成	第一回 オリエンテーション オリエンテーション時に構成概要を説明する。 ○授業内容 1 日本語概論 2 日本語の複合性。孤立性 3 日本語の発音 4 日本語の表記 5 ことば遊び 6 日本語の文法 7 日本人の表現		
教科書	不要。 配布プリントによる。		
担当者から一言	現役のプロ作家です。著書、テレビドラマ原作多数。 十年ほどミステリーを書き、それ以降は時代小説に軸足を移しました。 ときには脱線して、業界の舞台裏などに話が及ぶかもしれません。		

授業コード	14011		
授業科目名	言語論（前）		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	金曜日16:30分以降		
講義の内容	「言語とは何か？」を根本的な次元で理解するために必要な考え方を取り上げ、それを吟味する。		
到達目標	外国語の学習にも役立つ言語理解を確立する。		
講義方法	講義形式で進める。		

準備学習	特になし。
成績評価	学期末の試験で評価する。
講義構成	1. ソシールと恣意性の概念。 2. 生成文法の基礎と、言語能力の概念。 3. 精神分析と言語的社会性の問い。 4. 言語行為の概念と性差の問い。
教科書	なし。
参考書・資料	その都度指示する。

授業コード	14032		
授業科目名	現代芸術論I(芸術論I) (前)		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	月・金曜日の4時半以降(まず授業後に声をかけて下さい。)		

講義の内容	第二次世界大戦後、20世紀後半以後の現代芸術は、一見、難解なものが多く、またその多様さゆえにカオス的な状況であったように見えがちである。互いに無関係な「～イズム」や「～アート」が無数に出現したかのように思えるのだ。しかし、多様な流派や新しいカテゴリーも、その時々活躍した美術批評家たちの言説と思想を読み解くことで容易に理解できるだろう。 とりわけ、戦後のアメリカの美術界は「批評家先導型」であったとさえ言われるほど、同時代の美術批評の言説が大きな役割を担った。 本講義では、アメリカ美術批評の言説を読み解きながら現代芸術の流れを理解するとともに、それが同時代の社会の動きや哲学思想といかに深く関わっていたかを考察する。 まず、ヨーロッパのモダン・アートからアメリカの現代芸術への移行を概説し、その後、美術批評の言説をたどりつつ、主に1930年代から1960年代までのアート・シーンの流れを把握する。また、それぞれの言説が立脚点とする哲学や思想、時代背景を探っていく。
到達目標	批評の言説を読み解くことで現代芸術を理解し、そこから各自が問題点や関心事を見つけ出して思考を深めていくことを目標とする。
講義方法	PCプロジェクター、ビデオなど視覚資料を講義に使用。
準備学習	日頃から、美術館、ギャラリー、画集、美術雑誌などで、現代芸術の作品や作家に親しんでおくこと。
成績評価	学期末のレポートで、授業内容の理解度を確認し、同時に自分自身の意見も書いてもらう。 また、授業時には、出欠確認を兼ねたアンケート調査を実施し、成績評価に反映させる。 評価点の比率は、「期末レポート」：「出席率」＝ 60：40。
講義構成	講義で扱う批評家／キーワード 序：戦前のアメリカ美術界とヨーロッパ美術界の関係 1：ハンス・ホフマン／抽象絵画、セザンヌ受容、プッシュ・アンド・プル理論 2：クレメント・グリーンバーグ／純粹還元、モダニズム、フォーマリズム、カント美学、ヴェルブリン、様式史 3：ハロルド・ローゼンバーグ／抽象表現主義、アクション・ペインティング、サルトル、実存主義、演劇論 4：レオ・スタインバーグ／ネオ・ダダイズム、異種混交、水平性・垂直性、ポスト・モダニズム
教科書	必要なテキストは適宜プリントして配布する。
参考書・資料	『アートを学ぼう INVITATION TO ART THEORY』、岡林洋責任監修、ランダムハウス講談社、2009年。 『批評の現在』、懷徳堂記念会編、和泉書院、1999年。 『芸術の楽しみ・やさしい芸術学』原田平作・神林恒道編、晃洋書房、1996年。 『芸術学ハンドブック』神林恒道・潮江宏三・島本浣編、勁草書房、1989年。 その他、参考資料として授業中にもプリントを配付する。
講義関連事項	「美術史Ⅰ」、広域副専攻「芸術史」「現代の芸術」

担当者から一言	「流れ」を概観する講義なので、連続して受講すること。 シラバスの内容は、授業の進行状況によって変動する場合がある。
その他	プロジェクターでの画像映写時は部屋を暗くするので、ノートを取るために、各自で手元あかり(ペンライトなど)を用意することが望ましい。

授業コード	14033		
授業科目名	現代芸術論Ⅱ(芸術論Ⅱ)(後)		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	水曜日13時～15時(まず授業終了時に声をかけてください)		

講義の内容	——1960年代～1970年代の芸術と理論—— 主に1960年代～1970年代の現代芸術を概観し、それを支えた芸術理論を紹介しながら、「モダニズム」が終焉したと言われる時代のアート・シーンの動向を考察する。また、それらと深く関わっていた美術批評や美学・芸術学の言説を紹介し、それぞれの時代背景について考えていこうと思う。
到達目標	前世紀中葉～後半の時代思潮と、当時のアート・シーンとの密接な関係を把握すること。
講義方法	PCプロジェクター、ビデオ、書画カメラなど視覚資料を使用する。
準備学習	日頃から、美術館、ギャラリー、画集、美術雑誌などで、現代芸術の作品や作家に親しんでおくこと。
成績評価	学期末のレポートで、授業内容の理解度を確認し、同時に自分自身の意見も書いてもらう。 また、授業時には、出欠確認を兼ねたアンケート調査を実施し、成績評価に反映させる。 評価点の比率は、「期末レポート」：「出席率」＝ 60：40。
講義構成	・予備知識として——1910年代・1920年代、ダダイズム。 ・ハブニング(A.カプロウなど)とJ.デューイ『経験としての芸術』 ・ポップ・アート(A.ウォーホル、R.リキテンシュタインなど)と、 A.C.ダントー「芸術世界」『プリロ・ボックスを超えて』 ・ミニマル・アート(R.モリス、D.ジャッドなど)と、 M.フリード「芸術と物体性」・メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』 ・コンセプチュアル・アート(J.コッス「哲学以後の芸術」と、 ヴィトゲンシュタイン『論理哲学論考』
教科書	必要なテキストは適宜プリントして配布する。
参考書・資料	『アートを学ぼう INVITATION TO ART THEORY』、岡林洋責任監修、ランダムハウス講談社、2009年。 『批評の現在』、懐徳堂記念会編、和泉書院、1999年。 その他、参考資料として授業中にもプリントを配付する。
講義関連事項	「現代芸術論Ⅰ」の続編というべき内容なので、是非、「Ⅰ」を履修してから受講してほしい。 授業の進行状況にあわせて、随時シラバス内容が変更になる可能性がある。その必要が生じた時には、授業内で告知するので予めご了承ください。

担当者から一言	特にプロジェクター等使用中の入室・退室は禁止する(明かりが入るとスクリーンが見づらいので)。
その他	プロジェクター使用時は部屋を暗くするので、教室設備によっては、ノートを取るために、各自で手元あかり(ペンライトなど)を用意する必要があるかもしれない。初回授業時に教室設備を確認したうえで、改めて指示する。

授業コード	14020		
授業科目名	現代思想(前)		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	金曜日16:30分以降		

講義の内容	近代国民国家の要である「主権」の概念を、ヨーロッパにおけるその歴史を吟味しつつ、われわれが生きている社会にとっての問題点を探る。
到達目標	暴力に満ちた現代世界の理解を深める。
講義方法	古典的講義形式で進める。
準備学習	その都度指示する。
成績評価	学期末の試験で評価する。
講義構成	1. 日本国憲法と国民概念・憲法前文のレトリック、「われわれ」とは誰か？ 2. 国民主権と国家主権。 3. ヨーロッパにおける王権とキリスト教。 4. 政治神学とは何か。 5. 戦争と国際機関と国際法の変遷。 6. テロリズムの戦争概念への影響。
教科書	特になし。
参考書・資料	その都度指示する。

授業コード	14051		
授業科目名	行動科学（後）		
担当者名	一言英文（ヒトコト ヒデフミ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	私たちは普段、笑い、食べ、話し、考え、悩みながら毎日を過ごします。人間は、さまざまな行動をする生き物といえるでしょう。行動科学とは、人の行動を科学的にとらえることによって人間を理解しようとする研究を行っています。人の行動は多様であり、社会がますます複雑になる現代において、人の行動に潜む法則を理解するはさまざまなことに応用できる知識となっています。本講義では、学習心理学や社会心理学、感情心理学などに触れながら、人の行動の法則を理解することを目的としています。
到達目標	講義内容を参照すること。初回講義で概要を説明します。
講義方法	パワーポイントと配布資料
準備学習	適宜指示します。
成績評価	定期試験(80%)と、時々行う課題(20%)で評価します。
講義構成	1. 行動科学について&行動の生物学的基礎 2. 行動の生物学的基礎 3. 学習:古典的条件づけ 4. 学習:オペラント条件づけ 5. 感情:心理学における感情 6. 感情:個々の感情について 7. ストレスと健康 8. 動機づけ 9. 自己 10. 性格 11. 状況 12. 社会的認知 13. 文化 14. まとめ 15. 試験
教科書	特になし
参考書・資料	授業のテーマごとに資料を配布する。 参考書: 心理学の基礎 今田寛ほか(培風館)、心理学の基礎 加藤司(樹村房)、社会心理学 藤原武弘(晃洋書房)

授業コード	14049		
授業科目名	国際環境教育ネットワーク(前)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、シュレスタ(シュレスタ マノジュ L.), 西 欣也(ニシ キンヤ)、浅野能昭(アサノ ヨシアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜1限 土曜2限
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	地球環境問題の解決のためには、「グローバルに考え、ローカルに活動する」ことが重要である。そのため、本講義においては、グローバルな視野から海外の環境情報や環境教育の現状について知るために、テレビ会議システムを利用し、ラジャバト=プラナコーン大学(タイ)、北京大学(中国)、マラヤ大学(マレーシア)、環境省、国土交通省等と甲南大学を結び、リアルタイムのe-Learning(遠隔授業)を行う。それぞれの大学や機関はゲストとして、メッセージや情報を送ってもらう予定である。海外との講義は英語で行われるが、本学の学生は日本語でのコミュニケーションでもよい。なお、本講義は教職科目、学芸員科目にも充当できる。
到達目標	国際的な環境教育の情報を知り、国際人としての感覚を養う。
講義方法	インターネットを使用した遠隔講義
準備学習	できるだけ英会話を勉強しておくこと。
成績評価	レポートと出席点
講義構成	第1回 オリエンテーション:「本講義が目指すネットワーク」:担当者(谷口) 第2回 環境省からのメッセージと国際環境政策:担当者(谷口、環境省きんき環境館) 第3回 農業と環境:担当者(谷口・ゲスト) 第4回 タイにおける地球温暖化活動:担当者(谷口、チナタ・ナガシンハ:プラナコーン大学) 第5回 地球環境問題とネパールの環境教育:担当者(シュレスタ) 第6回 タイの農業と環境:担当者(谷口、シリワット・スンダロトック:プラナコーン大学) 第7回 自然観の比較文化論:担当者(西) 第8回 国営あいな里山公園(「あいなの里山」創造活動):担当者(谷口、西、国土交通省) 第9回 中国の環境教育の政策と北京大学の環境教育:担当者(谷口、劉:北京大学) 第10回 タイ・中国・日本の環境教育ネットワーク:担当者(谷口、チナタ・ナガシンハ:プラナコーン大学) 第11回 北海道と九州の国立公園の環境保全活動:担当者(谷口、浅野:環境省) 第12回 マレーシア・日本の環境教育ネットワーク:担当者(谷口、バハルディン:マラヤ大学) 第13回 まとめー地球環境問題の解決に向けてー:担当者(谷口) 第14回 TV国際シンポジウム:担当者(谷口、ナガシンハ、劉)
教科書	適宜紹介する
参考書・資料	その都度、配布
講義関連事項	環境関連の科目を修得しておくことが望ましい

担当者から一言	甲南大学が世界へと環境教育の情報を発信するフォーカル・ポイントの大学として本講義は展開されます。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	14048		
授業科目名	国内環境教育ネットワーク(後)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、西 欣也(ニシ キンヤ)、今井佐金吾(イマイ サキンゴ)、浅野能昭(アサノ ヨシアキ)、高阪 薫(タカサカ カオル)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜1限 土曜2限
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	地球環境問題の解決のためには、「グローバルに考え、ローカルに活動する」ことが重要である。本講義においては、日本においてのローカルな活動を主として学ぶ。そのために、テレビ会議システムを使用し、宮城教育大学、広島修道大学、環境省、国土交通省等と甲南大学のネットワークを結び、リアルタイムでのe-Learning(遠隔授業)を行い、各大学や研究・行政機関で行なわれている環境教育について学ぶ。それぞれがゲストとしてメッ
-------	--

	セージや情報を送ってもらう予定である。なお、本講義は教職科目、学芸員科目にも充当できる。
到達目標	国内の環境教育の情報を知り、学外の環境教育の状況を把握する。
講義方法	通常講義と学外とのe-ラーニング講義。
準備学習	環境教育の基本的知識を、テーマごとに得ておくこと。
成績評価	レポートと出席点
講義構成	第01回 オリエンテーション:本講義が目指すネットワーク:担当者(谷口) 第02回 環境省からのメッセージと国内における環境政策:担当者(谷口/環境省きんき環境館) 第03回 日本における林野政策と森林環境教育(谷口) 第04回 北海道・九州の国立公園におけるマネジメント:担当者(谷口/浅野) 第05回 地方行政における環境政策:担当者(谷口/西) 第06回 国営あいな里山公園(「あいな里山」復元活動):担当者(谷口/国土交通省) 第07回 大気汚染・ダイオキシン・環境ホルモン問題:担当者(谷口/今井:広修大) 第08回 広島修道大学における環境教育の取組:担当者(谷口/今井:広修大) 第09回 環境問題と化学物質(今井:広修大) 第10回 宮城教育大学における環境教育のアーカイブ化の展開:担当者(谷口/宮教大) 第11回 コメと環境文学:担当者(高阪) 第12回 沖縄の環境にみる伝統文化:担当者(高阪) 第13回 まとめⅠ(国際・国内環境教育ネットワーク):担当者(谷口) 第14回 まとめⅡ(学生との討論):担当者(谷口)
教科書	適宜、紹介する
講義関連事項	国際環境教育ネットワーク/環境学基礎論

担当者から一言	地域連携の科目でもあり、甲南大学からe-Learningによって全国に発信したいと予定しています。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室,http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/}
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	14018		
授業科目名	サウンド・スケープ論（集中）		
担当者名	小林昌廣（コバヤシ マサヒロ）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）

講義の内容	われわれの住む世界に満ちている音というものはいかにして生成され、また消費され、そして消滅してゆくのか、音（サウンド）の「生と死」を文化人類学、哲学、芸術学、生理学など広範な領域からトレースする。 音を能動／受動、自然／人工、調和／不協和、可聴／難聴といった二項対立から解放し、音のあるべき姿へと立ち戻らせる方法を模索する。
到達目標	世の中に散見されるサウンドスケープ論を超えるサウンド観をもつこと。
講義方法	講義形式だがパワーポイントやDVDなども使用する。
準備学習	授業に出る前に世界に対して耳を敏（そばだ）てておくこと。
成績評価	毎回の小レポートと講義最終日のレポート、出席
講義構成	1 映画の音～サイレントからトーキーへ 2 文芸（小説、詩、俳句）のなかの音～想像と創造 3 漫画・コミックスのなかの音～オノマトペを中心に 4 舞台における音①～古典芸能（歌舞伎、能楽、文楽） 5 舞台における音②～セリフ、効果音、出囃子など 6 音の歴史①～録音再生メディアの歴史 7 音の歴史②～哲学と音楽史 8 ランドスケープとサウンドスケープ～建築と音響 9 音と医学①～聴覚生理学 10 音と医学②～難聴論・幻聴論 11 音と医学③～補聴器の歴史 12 音楽療法論①～芸術療法のなかの音楽療法 13 音楽療法論②～歴史・文化・技術 14 サウンド論～坂本龍一の場合

	15 サウンド論～武満徹の場合
教科書	特になし
参考書・資料	講義中に指示する。
講義関連事項	「身体表現研究」はより拡張された内容を扱っている。
担当者から一言	講義初日にやや長めのアンケートを書いてもらいますので必ず出席してください。

授業コード	14044		
授業科目名	作品研究（後）		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	英語英米文学科「文学探訪Ⅰb ②」と同時開講とする		
オフィスアワー	金曜16:30分以降		

講義の内容	ハーマン・メルヴィルの短編小説『バートルビー』の詳細な読解を通じて、現代社会がはらむ問題を照射する。
到達目標	短編ながら容易ではないテキストを通じて「読む」行為を実体験する。
講義方法	本講義は、英文科の講義、秋元文孝「文学探訪」との合同講義であり、各回二人の教員が交代で講義をし、後に質疑応答を行なう。
準備学習	講義第一回までに、日本語訳を読んでおくこと。
成績評価	年度末の試験で評価する。
講義構成	1. 肯定でも否定でもなく。I would prefer not to. 2. 精神分析と「抵抗」の概念。 3. 絶対的抵抗と貨幣の場所。 4. 壁とウォール・ストリート。 5. Dead Letters.
教科書	http://www.enotes.com/bartleby-scrivener-text/bartleby-scrivener から英語原文を、 http://www.canpus.u-air.ac.jp/~gaikokugo/meisaku07/eBook/bartleby_h.pdf から、柴田元幸訳を、 いずれも pdf ファイルでダウンロードすること。

授業コード	14038		
授業科目名	作品表現研究I(作品表現研究) (前)		
担当者名	森 年恵(モリ トシエ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	戦前から現代にいたるまでの日本映画を、特に戦前戦後期に焦点を当てて観る。スクリーンに映る過去の日本の風俗や流行、世相は、過去のものでありながら、現代の私たちの生きかたや心理を映す鏡でもある。したがって、取り上げられる映画について考えることは、現在の私たちを理解する作業でもある。同時に、日本映画の巨匠と呼ばれる監督を中心に、黄金期の日本映画史を学習する機会とする。
到達目標	受講生それぞれが(日本)映画への関心を深めること。
講義方法	講義による。
準備学習	素材とする映画を前もって見て小レポートを準備する。なお、映画鑑賞の機会は提供する。
成績評価	小レポートの提出および授業中の討論への参加。8割以上の出席を必要とする。
講義構成	・映画を語るとは？過去へのオマージュ 堤幸彦『20世紀少年』（2008）

	・サラリーマンの悲哀は過去のもの？ 小津安二郎『生まれてはみたけれど』(1932) ・モダンガールの抵抗 溝口健二『浪華悲歌』(1936) ・戦後復興、輸出商品としての映画 黒澤明『羅生門』(1950) ・原水爆と日米関係 本多猪四郎『ゴジラ』vs.『GODZILLA』(1954) ・赤線の廃止と女性の結束 溝口健二『噂の女』(1954) ・戦争に引き裂かれた個人 成瀬巳喜男『浮雲』(1955) ・1968年に何があったか？ 大島渚『絞死刑』(1968) ・アニメは日本を救うか？ 大友克洋『AKIRA』(1988)
教科書	なし。
参考書・資料	『JAPANESE CINEMA: texts and contexts』Alastair Phillips & Julian Stringer(ed.) Routledge 『トラウマ映画の心理学』森茂起・森年恵 新水社 『日本映画史100年』四方田犬彦 集英社新書 『日本映画史』1-4巻、佐藤忠夫 岩波書店
担当者から一言	映画とともに自分自身もみつめてみましょう。

授業コード	14045		
授業科目名	ジェンダー論（後）		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	月曜日 授業終了後、随時		

講義の内容	ジェンダーという概念で、現代社会の諸現象を眺めなおすとどんなことが見えてくるかを学ぶことが、この講義の目的である。
到達目標	ジェンダー概念を深く理解する。
講義方法	①講義を聴く、②ゲストの講演を聴く、あるいはビデオを見る、③皆で討論する、の三部形式で行う。まず講義で問題提起をおこない、翌週それに関するゲストの話や、あるいはビデオを見る。3週目には2週にわたる問題について、それぞれが書いてきたレポートを小グループで討論しあう。つまり原則として1つのトピックスを3週かけて扱う。
準備学習	指定された参考文献を必ず読み、自分の意見をまとめてくること。
成績評価	試験(40%)、4回にわたるレポート(40%)、そして授業中の発表態度(20%)の3点を評価する。
講義構成	以下の4つのトピックスを予定している。具体的日程は最初の授業のときに知らせる。 1) フェミニズムの歴史と現代的意味(2回) (ジェンダーという言葉の歴史を考える) 2) ジェンダーの今日的意味(3回) (ジェンダーと経済、ジェンダーとライフサイクル) 2) 男性とは何か(3回) (今生きにくいといわれる男性のジェンダーのありかたについて、ポルノを通じて考える) 3) トランスジェンダーの今日(3回) (トランスジェンダーを生きるゲストを呼んでディスカッション) 4) インターセックスとは何か(3回) (インターセックスを生きるゲストを呼んでディスカッション) 5) まとめのためのディスカッション(1回)
教科書	プリントを都度配布する。
参考書・資料	都度指示する。
担当者から一言	参加型の授業なので、自分で授業を創る意気込みで参加してください。

授業コード	14019		
授業科目名	視覚メディア表現論 (前)		
担当者名	椎原 保(シイハラ タモツ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	特に設定していないので、授業が個別に予約してください。		

講義の内容	ここでは、主に写真についての研究をします。 現代は、視覚メディアの時代です。 視覚メディアの特性を知り、メディアリテラシーについても学びます。 芸術という海を泳ぐこと 直感的に何らかのリアルな世界を感じとってもらえたらと思います。 イメージの世界を探検しましょう。 自分の力で、作品を見て理解する能力を鍛えましょう。
到達目標	写真、映像などのメディアによる表現の特性を理解すること 自分でメディアについて研究できる視点を見出せることなど なんでも興味をもてる感性を身につけること
講義方法	講義では、カメラ機材、写真、写真集、などの現物を用いた講義展開で授業をすすめます。 履修人数によりますが、ディスカッションなどのゼミ形式の授業展開もしたいと考えています。 視覚メディアについてなんらかの問題意識がもてるように、ここではある一つの局面を紹介するような方法で授業を進めたいと考えています。
準備学習	視覚メディアについて興味をもつこと 映像や写真の現物に触れること
成績評価	授業への参加の度合いで評価 授業内での小レポートの提出による評価 前期授業内でのレポート提出による評価 授業最後にセルフポートレート提出してもらい、その写真の表現の違いについて述べてもらいます。 自分で見出した視点で、メディアについてのレポートを授業内で提出していただきます。 試験は行いません。すべて授業内での評価ですので、欠席されるとそのまま評価に反映されますので、ご注意ください。
講義構成	1,「メディアとしての写真」について 2次元ペーパーカメラを使って記憶に残す。 (見ることにして。感覚について。) 2,「写真の技術」について カメラの構造、デジタルカメラとフィルムカメラの違い、 写真の現像処理、フィルム、光源、特殊写真処理 3,「ドキュメント」について ユージン・スミス、アンリ・カルティエ・ブレッソン、マグナム・フォト、4,「メイキング・フォト」(making photo)、「ステージド・フォト」(staged photo)、「コンストラクテッド・フォト」(constructed photo)について・・ 5,「リアリティと虚構」「事実と物語」について 澤田知子、ソフィ・カル、クラフト・エヴィング商会、レオ・レオーニ、 イリヤ・カバコフ 他、 6,「丹平写真倶楽部」 (写真作品、椎原治の現物の作品を見ていただきます。) 7,「クリエイティブな世界」について マン・レイ、今道子、森村泰昌、シンディ・シャーマン、やなぎみわ ベルナール。フォコン他 8,「現代ドイツの写真家から」について ベッヒャー、アンドレアス・グルスキー、トーマス・シュトゥルト、 トーマス・ルフ、他 9,「写真の発明とその後」「肖像写真」について アッジュとザンダー、ダイアン・アーバス、ホンマタカシ、 10,「現代美術と写真」について ボルタンスキー、折元立身、杉本博司、その他、中平卓馬、マン・レイ、

	畠山直哉など予定 11,「セルフポートレート」について 12,鏡ドライブ(ワークショップ) ※)順番が入れ替わることもあります。
教科書	特になし。
参考書・資料	適宜、プリントを配布します。 授業内で紹介します。
講義関連事項	イメージ表現研究 イメージ論 イメージトレーニング 現代芸術論
担当者から一言	芸術について…… 書物や映像のメディアだけで学ぶのではなく、リアルな作品からの経験が重要だと思います。そういう意味で、学外へ作品を見に行くことも考えています。 それともう一つ。美しいものばかりとは限りません。また、いくら自分は写真を好きだと思っていても、好きな写真ばかりともいえません。
その他	作品に限らず、できるだけ色々な意味で現物をみてもらい、体験から理解してもらえるような授業にしたいと思っています。 ワークショップ的な展開も予定しています。

授業コード	14034		
授業科目名	宗教論		
担当者名	吉永進一(ヨシナガ シンイチ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)

講義の内容	宗教の有無を問われると、「特に無い」と答える人が多いでしょう。それは日本社会の特徴であって、世界全体を見渡せば、むしろ宗教が一大勢力になっている社会も多いのです。この講義では前半に世界宗教と日本宗教の見取り図を学び、後半はテキストを頼りに現代社会とのかかわりを考えていきたいと思います。
到達目標	多様な価値観の理解、宗教の社会的、心理的機能の理解
講義方法	講義形式
準備学習	世界史、日本史
成績評価	知識問題の試験50%、論述問題50%
講義構成	1: ガイダンス、宗教と宗教学 2: 先住民の宗教、古代宗教 3: ユダヤ教 4: キリスト教 5: キリスト教(アメリカ) 6: イスラーム 7: イスラーム 8: アジアの宗教 9～11: 日本の宗教 11～12: 日本の近代宗教 13～14: 近代の心理療法宗教 15: ニューエイジ、スピリチュアリティ 16: 諸宗教の見取り図 17: 宗教における実践 18: 現代社会における宗教 19: 生命の循環と継承 20: 救いと癒しの現場 21: 生と死の意味を問う 22～まとめ

教科書	島蘭、葛西、福嶋、藤原『宗教学キーワード』(有斐閣叢書)
参考書・資料	授業中に指示する
担当者から一言	好奇心と柔らかな心をもって授業に臨んでください。

授業コード	14062		
授業科目名	心身論研究(後)		
担当者名	深尾篤嗣(フカオ アツシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	まず心身医学の全般的知識(心身相関や心身症の概念、心身医学の基礎、身体科各領域における心身症の種類と病態、および心身医学的アプローチ)について講義した上で、講師の専門である内分泌・代謝系の心身症を例にして、心身医学・医療の実際(心身相関のエビデンス、症例を通じての病態の診立て、心理テストや心身医学的アプローチの用い方など)について講義する。精神医学とは異なる身体疾患を対象とした全人的医療学としての心身医学に対する理解を深めることを目的とする。
到達目標	心療内科の実際や身体科各領域の心身症について知るとともに、心身医学・医療の理論、見立て、治療の基本を身につける。
講義方法	Power Pointおよび配布資料を主にするが、必要に応じて教科書、参考書関連の資料をOHPで写したり、板書しつつ講義する。
準備学習	特に必要ないが、各自が興味ある心身医学関連の本を読んでおくことが望ましい。中公新書の池見西次郎著「心療内科」「続・心療内科」などが適当である。
成績評価	出席率および学期末のレポート提出による。
講義構成	1. 心身医学の歴史と現状(心身相関、心身症の定義、失感情症、失体感症など) 2. 心身医学の基礎(ストレスの概念と歴史、ストレスと脳、情動と内分泌、アレルギー、消化器など) 3. 身体科各領域(循環器系、消化器系、呼吸器・アレルギー系、神経・筋肉系、内分泌・代謝系)の心身症 4. 慢性疼痛 5. サイコオンコロジー 6. スピリチュアリティと心身医学 7. 心身医学的アプローチ(向精神薬、認知行動療法、精神分析、ブリーフセラピー、自律訓練法、プロセス指向心理学など) 8. 心身医学・医療の実際—内分泌・代謝系心身症(甲状腺疾患、糖尿病、メタボリックシンドローム、摂食障害など)を例に
教科書	『医療における心理行動科学的アプローチ——糖尿病／ホルモン疾患の患者と家族のために』(中井吉英:監修、内分泌糖尿病心理行動研究会:編、新曜社刊)
参考書・資料	『心身医学標準テキスト第3版』(久保千春:編、医学書院刊)

担当者から一言	心身医療を実践する診療科がいわゆる「心療内科」です。心療内科はよく精神科と混同されますが、その実態は身体疾患を対象とした全人的医療を実践する診療科であることを理解して欲しいと思います。
ホームページタイトル	内分泌糖尿病心理行動研究会、レインボードクターへの道
URL	http://www.nt-shinri-k.net/ http://blog.sq-life.jp/fukao/

授業コード	14026		
授業科目名	深層心理学I（前）		
担当者名	羽下大信（ハゲ ダイシン）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	深層心理について考察する。
到達目標	深層心理に関する基礎的・応用的知識を身につける。

講義方法	講義形式で行う。
準備学習	適宜指示する。
成績評価	定期試験にて行う。
講義構成	1)Introduction/「無意識的なもの」について その特長と現れ 言語・振る舞い・しぐさ ビデオ「フラメンコ」 2)本能行動と文化行動、意味づけとストーリーを生きること 現実と事実と真実はどう違うか、「違い」ワークシート 資料(1) 3)視覚イメージと無意識的なもの ビデオ「鏡」(A. タルコフスキイ) 「ざくろの色」(パラジャノフ) 盲点のワーク ワークシート 資料(2) 4)音楽イメージと無意識的なもの 音楽ソフト M.Vetter(現代音楽)、Jegog(パリ音楽) V.Morrison(アメリカン・コンテンポラリー)、Az Yet(同) Janequin(フランドル、ルネサンス) 5)シャーマニズムと治癒 ビデオ「脳と心」 宮古島でのシャーマン養成 覚醒夢ワーク 閉眼での視覚イメージ・ワーク 6)心と身体(1) 心と身体の相互関係モデル、身体イメージと無意識的なもの 7)心と身体(2) ビデオ「治療と心」から、ガンの終末期ケア 8)自分という感覚 「自分」レジュメ 資料(3) 9)宗教経験と無意識的なもの カルト、新・新宗教 資料(4) 10)心理療法・カウンセリング 誰の、何を、どう、援助するか 資料(5) 11)思春期心性とイノセンスと大人社会 資料(6) もらい子ファンタジと「裁き、評価する母」からの離脱 12)アイデンティティ マイノリティ、サブ・カルチャーと所属感 13)Securityの問題 Trans-GenderとTrans-Sexual, Gender Dysphoria(性別不快)と性の自認 異性装、同性愛、異性愛 14)討論
教科書	適宜指示する。

授業コード	14027		
授業科目名	深層心理学II（後）		
担当者名	羽下大信（ハゲ ダイシン）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	前期に引き続き、深層心理の知識について考察する。
到達目標	深層心理に関する基礎的・応用的知識を身につける。
講義方法	講義形式で行う。
準備学習	適宜指示する。
成績評価	定期試験にて行う。
講義構成	1)発達について(1) エリクソンの考え方 危機とライフサイクル論 2)発達について(2) 思春期はどこから始まるか 少年少女期との対比で 3)症状論(一) 症状を持つ能力について

	何を、どこを病気と考えるか 症状未満/症状以上 資料(7) 4)症状論(二) 分裂病について 夢を見ること/妄想を持つこと/空想すること 分裂病と心理療法あるいはコミュニティーアプローチ 5)症状論(三) 心身症・行動障害・ノイローゼと心理療法 事例1: 心臓神経症、事例2: 出社恐怖、事例3: 未定 資料(8) 6)思春期に特異的な現れ(1) 拒食、過食・嘔吐、対人恐怖 ビデオ「心の扉を探して」 拒食を続ける少女、その後 7)思春期に特異的な現れ(2) 不登校 ビデオ「不登校」 8)思春期に特異的な現れ(3) いじめ ビデオ「中学生日記」・卒業生からのメッセージ」 9)依存の心理 アルコール・ギャンブル・買い物(カード)・人間関係・仕事 資料(9) 10)家族 その構造の特長 他の人間関係との違い 虐待から見える親子・社会 ビデオ「PTSD」 11)再び、心理療法(1) 心理療法とカウンセリングの違い、Cure/Care/Heal ビデオ「カウンセリングの実際」 12)再び、心理療法(2) 発達の問題 病気治療モデル VS 発達援助モデル ヨーロッパ型の治療モデルとアジアのhealing system ビデオ「スリランカの悪魔祓い」 13)老年期 高齢化とライフ・ケア 資料(10) ホスピス ビデオ「ビハラの活動」 14)災害時ストレスとそのケア 被害者その後と自助グループ ビデオ 資料(11)
教科書	適宜指示する。

授業コード	14043		
授業科目名	身体表現研究（前）		
担当者名	小林昌廣（コバヤシ マサヒロ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	おそらく歴史的には最も古く、確かな伝統を持ち続けながらも、芸術学においても批評においても後進的な位置づけしか与えられなかった<身体表現>を前面＝全面に押し出し、その現代性や可能性について考察する。本年度も引き続き、わが国の古典芸能における身体表現を中心に講義を展開する。「古典」たる芸能がなぜ「現在」の身体表現となり得ているのか、その秘密を探るのが目的である。時間が余れば、日本映画における身体についても言及したい。
到達目標	古典芸能の「敷居」の存在をできるだけ軽減して、身体表現としての現代性を理解すること。
講義方法	毎回資料を配布するが、講義と映像の二本立てで行なう。
準備学習	事前の準備はとくに必要ないが、できるだけ生の舞台を観ることが望ましい。
成績評価	レポート(講義の内容がきちんと反映されていることが評価のポイントとなる。講義最終日に回収)
講義構成	扱うテーマ: performanceとperforming arts、その概念と歴史 古典芸能史から見た身体の歴史、または躰(しつけ)・所作の美学 歌舞伎舞踊と日本舞踊、あるいは身体言語とその文法 地唄舞(上方舞・京舞)、あるいは「文化」としての身体 人形浄瑠璃(文楽)、その「人間学」的構造と批評性 能楽(能・狂言)、特に「動十分心、動七分身」の身体論 暗黒舞踏と六十年代演劇、あるいは古典への嫉妬 孤独なパフォーミングアーツとしての落語

	日本映画のなかの古典的身体とその運動性 映像や詞章(歌詞)による作品鑑賞に加えて、同時代の批評文を読んで、「一回性」でしかない身体芸術を思想的に復元する。
教科書	特になし。
参考書・資料	身体表現全般に関しては: 小林昌廣『臨床する芸術学』(昭和堂) 日本舞踊に関しては: 渡辺保『日本の舞踊』(岩波新書) 郡司正勝『おどりの美学』(演劇出版社) 武智鉄二『舞踊の芸』(東京書籍) その他は講義のなかで紹介する。
講義関連事項	「身体論」(後期火2)は本講義の基礎的な性格をもっている。
担当者から一言	講義のなかだけでは限界がありますので、生の舞台、生の身体表現を積極的に観るようにしてください。 国内(特に関西)での公演などについてはできるだけ紹介するようにします。

授業コード	14012		
授業科目名	身体論（後）		
担当者名	小林昌廣（コバヤシ マサヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	一人ひとりがもれなく所有しているにもかかわらず、従来は「精神」と「肉体」の混成体として抽象的にしか扱われていなかった「身体」を、＜医学／芸術／哲学＞のトライアングルの中心に据えることで、より具体的な身体、あるいは身につまされる身体について考える。
到達目標	自分の固有の身体についての認識を深めると同時に、他者の身体のありようについても関心をもつようにする。
講義方法	レジュメとパワーポイント(keynote)によって講義は進められ、それによって身体論的思考を熟成させてゆく。
準備学習	準備するものはとくになく、かけがえのない身体を教室に持参するのみである。
成績評価	レポート(とくに、レポートに講義の内容が反映されているかが評価のポイントとなる。講義最終日に回収)
講義構成	主なテーマ＝病名論、病院論、病因論、健康論、闘病記論、身体変工論、医療人類学、美術解剖学、芸術生理学、他者論、老いの哲学、スピリチュアリティ論など。 それらと平行して、自らの身体を思考するうえで必要となる哲学、芸術学、医学の基礎的な知見も紹介する。 ただし、身体論はつねに「いま・ここ」性を強く帯びた領域ゆえ、扱うテーマが変更されることもある。
教科書	特になし。
参考書・資料	授業中に指示するが、担当教員の著作としては以下の2冊を参照されたい: 『病い論の現在形』(青弓社) 『臨床する芸術学』(昭和堂)
講義関連事項	「身体表現研究」(前期火2限)は、本講義の派生的性格をもっている。
担当者から一言	ふだんから「身」の廻りの、身体に関わるコトバやアート、表現に敏感になっておいてください。 また講義は猛烈な速度と膨大な情報量によって展開されるので、教室は「講義を聴く身体」を獲得するための鍛錬の場と捉えてください。

授業コード	14009		
授業科目名	心理学基礎論		
担当者名	久松睦典(ヒサマツ ムツノリ)		
配当年次	1年次	単位数	4

開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
講義の内容	私たちは日々、何かを見たり聞いたり感じたり、あるいは想像したり考えたりしながら暮らしています。何かを知覚し、思考する主体としての心は、普段はあまりに自明なものと感じられますが、ひとたび心そのものについて考え始めると、それは途端に捉えどころのないあやふやな現象に思えてきます。いったい心はどのように芽生え、世界を認識し、成長し、そして他者と交流するのでしょうか？ 心理学という学問は、このような人の心のはたらきについて科学的に研究しようとする学問分野です。身近で具体的な例を挙げながら、皆さんと一緒に心について考えていきたいと思います。		
到達目標	(1)近代心理学成立の歴史を理解する。 (2)心理学の諸領域の理論を具体例を挙げて説明できる。 (3)心理学研究法の基礎を理解する。 といったことが、この講義の到達目標です。		
講義方法	講義形式で行います。必要に応じて、ビデオなどの資料を用います。また、講義中に簡単な実習を行ったり、小レポートを書いてもらうこともあります。		
準備学習	テキストを読んで予習し、各回の講義で提示する例題に解答すること。		
成績評価	定期試験(60%) レポート等のホームワーク(20%) 講義中の課題(20%)		
講義構成	第1回 導入:心理学とは 第2回 心の進化:脳・神経 第3回 近代心理学の誕生:魂から心へ 第4回 感覚機能:感じる 第5回 形と空間の知覚:見る 第6回 記憶と忘却 第7回 欲求と感情 第8回 古典的条件づけによる学習 第9回 オペラント条件づけによる学習 第10回 行動主義心理学、行動療法 第11回 発達:氏か育ちか 第12回 言葉の発達:言語とは 第13回 愛着と社会性の発達 第14回 思考の発達 第15回 試験(小テスト) 第16回 知能とは 第17回 児童期と自我体験 第18回 思春期・青年期とイニシエーション 第19回 老年期の心理 第20回 対人認知と態度 第21回 自己過程 第22回 集団と社会的相互作用 第23回 パーソナリティ 第24回 心理検査 第25回 心の深層:フロイトと精神分析理論 第26回 心の深層:夢とコンプレックス 第27回 ストレスと適応 第28回 秘密と心の病 第29回 心理療法 第30回 試験		
教科書	藤岡新治、山上精次、金城辰夫編『図説 現代心理学入門』培風館、2006年		
参考書・資料	講義中にその都度お伝えします。		

授業コード	14054		
授業科目名	心理学研究法(後)		
担当者名	荻田純久(オギタ ヨシヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限

講義の内容	心理学の研究論文を熟読したり、論文を執筆したりする際に必要な力を養成する。具体的には、SPSSを用いたデータ解析法、論文執筆時のルール（書式、表現など）といったテーマを扱う。この他に、研究を行う上で極めて重要な1)文献収集方法、2)集めた文献の整理・管理方法、3)科研費等の外部研究資金の獲得方法、4)様々な研究者育成事業などを紹介する。
到達目標	学会誌レベルの論文をある程度読むことができるようになること。卒業研究の時に自力でデータ解析ができるようになることを到達目標とする。
講義方法	心理学研究に関する講義およびパソコンを用いたデータ解析の演習を行う。
準備学習	本講義ではパソコンを頻繁に使用する。ワード、エクセルの基本操作は出来るようにしておくことが望ましい。またMY KONANを使ったプリント配布、レポート提出などがあるので、MY KONANを使いこなせるように練習しておくことが望ましい。
成績評価	受講態度(10%) 小テスト(何回か講義時間中に実施:60%) レポート課題(30%)
講義構成	1. はじめに 2. 心理学研究と統計学 (t検定、分散分析、カイニ乗検定、多変量解析、実験計画法、メタ分析など) 3. 論文の作成方法(データベースの利用方法、文献管理ソフトなど) 4. 科研費等の研究助成金とその獲得方法 5. 様々な研究者育成事業
教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書・資料	適宜紹介する。
担当者から一言	出来るだけ話をかみくだき、全学生が「しみじみ」理解できるように講義を進めていくつもりである。ただし、毎回の講義後に必ず復習を行うようにしてもらいたい。

授業コード	14068		
授業科目名	心理学史Ⅱ(後)		
担当者名	福井義一(フクイ ヨシカズ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	我が国における心理学の歴史について、その導入期を中心として詳細に紹介する。特に、心理学と同時に輸入された催眠が、我が国のアカデミックな分野にどのように受容され、その後排斥されていったのか、それによって異常心理学や臨床心理学の分野の確立が、立ち後れていった事情について、詳細に検討する。
到達目標	我が国における心理学の受容の歴史を理解することができる。 心理学と催眠という観点から、当時の社会情勢を踏まえつつ、基礎と臨床分野の隔絶について、より詳細に理解することができる。
講義方法	主として講義方式による。
準備学習	特になし。
成績評価	試験と、複数回の小レポートによる。ただし、10回以上授業に出席しない場合は、成績を評価しない。
講義構成	おおむね以下のようなスケジュールで行うが、進み具合によって一部変更や省略があり得る。 1. オリエンテーション 2. 心理学の誕生 3. メスメリズムと催眠術の導入 催眠術の登場 ブームの背景 アカデミズムとの関係 催眠の変質 千里眼事件 霊術へ 4. 心理学を導入した学者達(1) 5. 心理学を導入した学者達(2) 6. 心理学を導入した学者達(3) 7. 中村古峯と変態心理学

	8. 戦前, 戦中, 戦後の心理学 9. 現在の心理学へ
教科書	なし。
参考書・資料	『催眠術の日本近代』 一柳廣孝著 青弓社 『〈変態〉の時代』 菅野聡美著 講談社

授業コード	14053		
授業科目名	心理学実習		
担当者名	北川 恵(キタガワ メグミ)、横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)、羽下大信(ハゲ ダイシン)、福井義一(フクイ ヨシカズ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)、宮川貴美子(ミヤガワ キミコ)、尾崎勝彦(オサキ カツヒコ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限 火曜4限 火曜5限)、後期(火曜3限 火曜4限 火曜5限)
オフィスアワー	各担当教員の他科目のオフィスアワーを参照のこと。		

講義の内容	心理学の基礎的な研究方法を実習を通して学ぶ。統計法を理解しながら、実験、調査の方法を学び、心理学の考え方・方法論・考察の仕方などを、体験的に理解することが目的である。
到達目標	心理学の基礎的な研究方法、統計的処理を伴う結果の分析方法、レポートの書き方を身につける。心理学の職域についての理解も深める。
講義方法	各テーマについて、講義、実習や討論、レポート作成を繰り返す参加型の授業である。詳しくは初回のオリエンテーションで説明するので、必ず出席すること。
準備学習	ほぼ毎回レポートが課せられるので、期日内にレポートを仕上げながら、毎回の授業に臨むこと。授業前に準備学習が必要な場合は、その授業に先立つ授業時などに指示する。
成績評価	出席状況とレポートの内容によって、総合的に評価する。ほぼ毎回レポートが課される。
講義構成	第1回の授業で年間予定の詳細を説明する。仮登録も行なうので、受講を希望するものは必ず参加すること。将来、心理臨床領域で学ぶことを希望する学生は、この実習を受講することが望ましい。なお、原則として文学部人間科学科の学生に限る。
教科書	授業のなかで指示する。
参考書・資料	授業のなかで指示する。
講義関連事項	人間科学科の全科目。特に1年次の「心理学基礎論」2年次の「心理学統計基礎論」「心理テストⅠ」と密接に結びついている。

授業コード	14050		
授業科目名	心理学統計基礎論（前）		
担当者名	荻田純久（オギタ ヨシヒサ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜2限

講義の内容	心理学において統計学の基礎知識は必要不可欠である。様々な論文を読む際に統計学の知識がなければ、何が書かれているか理解することができない場合がある。心理臨床の現場で働く場合も統計学の基礎知識が全くない状態のままでは十分に業務を遂行することはできない。本講義は、心理学研究や心理臨床に必要な統計学の基礎知識をマスターすることを目的とする。
到達目標	データが与えられた際に、どのような分析方法を選択すればよいか、ある程度の判断ができるようになること。また、自分が選択した分析方法によって分析を実行し、結果を文章で纏めることができるようになることを最終的な到達目標とする。
講義方法	統計学の基礎的講義を行った後、電卓を用いたデータ分析演習を行う。
準備学習	心理学実習などデータ解析を扱った講義を履修した学生はその復習をしておくことが望ましい。
成績評価	受講態度(10%)

	小テスト(何回か講義時間中に実施:60%) レポート課題(30%)
講義構成	1. 心理学と統計学 2. 度数分布表とヒストグラム 3. 代表値 4. 散布度 5. 母集団と標本 6. 相関係数 6. 統計的仮説の検定の考え方 7. 平均値の差の検定(1) 8. 平均値の差の検定(2) 9. 分散分析(1) 10. 分散分析(2) 11. 分散分析(3) 12. カイニ乗検定 13. 多変量解析の基礎
教科書	なし。適宜プリントを配布する。
参考書・資料	講義中に紹介する。
担当者から一言	高校時代に数学が苦手であった学生も理解ができるか否か心配することなく履修して欲しい。全学生が「しみじみ」理解できるように講義を進めていくつもりである。分からないことがあれば、放置せず、質問するなどして次の講義までに理解するよう努力すること。
その他	簡易電卓(加減乗除とルートの計算ができるもの)を初回から毎回持参すること。

授業コード	14056		
授業科目名	心理テストI		
担当者名	北川 恵(キタガワ メグミ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)、望月昌恵(モチヅキ マサエ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
オフィスアワー	各担当教員の他科目のオフィスアワーを参照のこと。		

講義の内容	心理学の基礎的な研究方法を実習を通して学ぶ。統計法を理解しながら、実験、調査の方法を学び、心理学の考え方・方法論・考察の仕方などを、体験的に理解することが目的である。
到達目標	基本的な心理テストの背景理論、実施と分析・考察の方法、報告書の書き方を身につける。心理アセスメントが必要な臨床実践の場についても理解を深める。
講義方法	各テーマについて、講義、実習や討論、レポート作成を繰り返す参加型の授業である。詳しくは初回のオリエンテーションで説明するので、必ず出席すること。
準備学習	心理学実習を履修していることが望ましい。 ほぼ毎回レポートが課されるので、期日までにレポートを完成させて、授業に臨むこと。 授業前に事前学習が必要な場合は、先立つ授業時間中などに指示する。
成績評価	出席状況とレポートの内容によって、総合的に評価する。ほぼ毎回レポートが課される。
講義構成	第1回の授業で年間予定の詳細を説明する。仮登録も行なうので、受講を希望するものは必ず参加すること。将来、心理臨床領域で学ぶことを希望する学生は、この実習を受講することが望ましい。なお、原則として文学部人間科学科の学生に限る。
教科書	授業のなかで指示する。
参考書・資料	授業のなかで指示する。
講義関連事項	人間科学科の全科目。特に1年次の「心理学実習」「心理学基礎論」2年次の「心理学統計基礎論」と密接に結びついている。

授業コード	14058
-------	-------

授業科目名	心理テストⅡ（後）		
担当者名	北川 恵(キタガワ メグミ)、羽下大信(ハゲ ダイシン)、福井義一(フクイ ヨシカズ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	各担当教員の他科目のオフィスアワーを参照のこと。		

講義の内容	「心理学実習」「心理テストⅠ」で学んだことを踏まえて、高度な専門的技術を要する個人検査の実施法と解釈法を学ぶ。
到達目標	心理アセスメントの際に用いられることが多い代表的な心理検査について、実施法と解釈方法を身につける。
講義方法	担当教員がそれぞれの専門領域に応じて分担担当する。詳細については第1回の授業でオリエンテーションとグループ分けを行うので、必ず出席すること。
準備学習	「心理学実習」「心理テストⅠ」を履修していることが望ましい。
成績評価	出席状況とレポートの内容によって、総合的に評価する。各課題ごとにレポートが課される。
講義構成	第1回の授業全体のスケジュールの詳細を説明する。第2～3回目は全員で風景構成法の実施・解釈を行い、第4回目以降はグループに分かれて3つの心理テスト(WAIS-Ⅲ・ロールシャッハ法・PFスタディ)の実習を行う予定である。すべての心理テストについて、まず受講生が自ら心理テストを施行してから、教員が基本的な実施法と評定・解釈法を講じる。受講生は、自らの検査結果を整理し、解釈をまとめる。心理テストによっては受講生以外の事例について解釈を行う場合もある。なお、原則として文学部人間科学科の学生に限る。
教科書	授業のなかで指示する。
参考書・資料	授業のなかで指示する。
講義関連事項	人間科学科の全科目。「心理学実習」「心理テストⅠ」から「心理テストⅢ」への橋渡しの性格を持っている。
その他	授業の形式上、授業時間に遅れないことを求められる。出席を厳密に取るので注意すること。

授業コード	14063		
授業科目名	心理テストⅢ（後）		
担当者名	弘田洋二(ヒロタ ヨウジ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	臨床場面で使用されるパーソナリティ・アセスメントの代表的なものであるロールシャッハ・テストの実施から結果の整理まで、解釈の前段階となる基礎を身につける。スコアリング実習を通して、各反応における認知体験のプロセスについて理解することも重要な目標である。 ロールシャッハ・テストはⅠカードからⅩカードまで、模様の異なったインクブロットによって構成されている。毎回ひとつのカードの反応について片口法によってスコアし、そのスコアリングの根拠を言葉にすることを練習する。用意された教材(事例)については、各回ごとに予習したレポートを提出することが義務づけられる。授業において、全員でそれらスコアリングを再検討して、スコアの意義や反応体験についての理解を身につける。
到達目標	ロールシャッハ・テストの実施から結果の整理まで、解釈の前段階となる基礎を身につける。 各反応における認知体験のプロセスについて理解する。
講義方法	実習および参加型学習形態である。 学生は与えられた教材につき予習して、テキストを読むなどの自習によってレポートを提出する。それを素材にしながら、受講者とともにその内容について検討する。講義の場は、受講者のした課題解決の点検および復習の場であるので、毎回の予習が不可欠である。
準備学習	適宜指示する。
成績評価	毎回提出されるレポート、授業への参加、学習貢献度と期末レポートによって評価する。割合は、平常点50、レポート50である。
講義構成	第1回: ロールシャッハ・テストについて 第2回: ロールシャッハ・テストの実施 第3回-12回: スコアリングの練習 第13回: スコアリング結果の整理の仕方 第14回: 解釈のために

	第15回：期末レポートの返却と解説
教科書	・ロールシャッハ・テストの学習 片口法スコアリング入門、片 口安史監修、藤岡新治・松岡正明著、金子書房、1993
参考書・資料	・ロールシャッハ・スコアリング 阪大法マニュアル、辻悟・福 永知子著、金子書房、1999 ・ロールシャッハ検査法、辻悟、金子書房、1997
講義関連事項	通常の講義に5回以上欠席すると、期末レポートは受けつけない。

担当者から一言	受講者は、テスターおよび被験者になる経験をしていることが望ましい。
その他	なし

授業コード	14060		
授業科目名	心理療法（後）		
担当者名	北川 恵（キタガワ メグミ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	オン・デマンドで行う。		

講義の内容	対人援助と心理療法の基本的な考え方や姿勢を学ぶ。心理療法の主要な理論や技法も紹介する。
到達目標	主要な理論が誕生した背景とともにその特徴を知り、効用と限界について考えられるようになる。
講義方法	講義形式で行うが、グループディスカッションや実習などの体験的要素を取り入れる。
準備学習	心のしくみや不適応など、臨床心理学の基礎知識があることが望ましい。
成績評価	授業への参加、レポート、テスト。
講義構成	心理療法の主要な理論である精神分析、（認知）行動療法、来談者中心療法、ならびに子どもを対象とする遊戯療法について学ぶ。心理療法家の基本姿勢や、広く対人援助のなかでの心理療法の役割などについても考えたい。
教科書	授業中に適宜紹介する。

授業コード	14061		
授業科目名	心理臨床研究		
担当者名	森 茂起（モリ シゲユキ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（土曜1限）、後期（土曜1限）
オフィスアワー	参加者の報告日時は、各自に指示する。		

講義の内容	学外の施設や活動にボランティアとして参加し、治療的配慮を持ったかかわりを体験することによって、心理臨床への理解を深める。
到達目標	臨床現場に触れることで、実践的な感覚を身につける。
講義方法	遊戯療法の実践に参加する機会が多い。週1回、児童養護施設などに出かけていき、特定の子どもに1対1で関わる。その他、さまざまな問題を抱える子ども対象のキャンプなどに参加する活動もある。活動の報告を学内で担当教員に行ない、指導を受ける。
準備学習	なし
成績評価	活動への参加と報告。レポートの作成。
講義構成	実習先によって活動形態が異なるため、履修指導に注意すること。活動の曜日、時間帯は個人によって異なる。初回にオリエンテーションを行なうので、第1回の講義（土曜1限）に必ず参加すること。オリエンテーションに参加しなかったものは、原則として受講できない。（初回以外は土曜に講義はありません）
教科書	なし
参考書・資料	なし

担当者から一言	学外の活動(子どもとの活動)に熱心に取り組める学生の参加を期待します。
---------	-------------------------------------

授業コード	14040		
授業科目名	神話論(前)		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	授業終了後、随時。		

講義の内容	ギリシア神話をもとにして紀元前5世紀に作られたギリシア悲劇のいくつかを選択してテキストとして読み、また現代の舞台や映画を見ることによって、ギリシア神話の意味を考える。		
到達目標	ギリシア神話の現代性を理解する。		
講義方法	パワーポイントを使った講義形式で行う。ビデオやOHPも使う。テキストはコピーして渡す。		
準備学習	与えられたテキストは必ず読んでくること。		
成績評価	毎回出席をとる。 まだ学期中の小レポート(800字程度)を2回、学期末の大レポート(4000字)一回を課す。レポート点60%、出席点40%を基準とする。		
講義構成	以下の悲劇を順次検討してゆく。最初の授業の際に、詳しい日程表を渡す。 1)ギリシア悲劇とは(1回) 2)ソボクレス『オイディプス王』を読む・見る(2回) 3)アイスキュロス『アガメムノン』を読む・見る(2回) 4)エウリピデス『トロイアの女』を読む・見る(2回) 5)エウリピデス『オレステス』を読む・見る(2回) 6)エウリピデス『メディア』を読む・見る(2回) 7)まとめ(1回)		
教科書	必要な資料はプリントで配布する。		
参考書・資料	ちくま文庫『ギリシア悲劇Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』 岩波文庫『アガメムノン』(久保正影訳) 岩波文庫『オイディプス王』(藤沢令夫訳) れんが書房『オレステス』(山形治江訳) その他		
講義関連事項	イメージと神話		

授業コード	14055		
授業科目名	精神医学		
担当者名	鈴木瑞実(スズキ タマリ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)

講義の内容	精神医学は、心理学をはじめとする人文諸科学と、身体医学をはじめとする自然科学の両方に渡って展開する、複雑で広大な分野です。時代の激変とともにこの分野の変化も著しく、また最新の知見も次々に積み重ねられつつあり、わが国の標準的な精神医学の教科書でも、この20年で2倍の分厚さになりました。「どうしても知っておかねばならないこと」「知っておいたほうが良いこと」を確実に伝達し、また、多方面にわたる関連諸領域の話題も適宜取り入れて、精神医学の豊かさも伝えることを目指します。		
到達目標	精神医学を使いこなす		

講義方法	各回のまとめプリント(レジュメ)を、MY KONAN(クラスプロフィールの「授業資料」)に、少なくとも一週間前までにUPしますので、授業日にはそれをプリントアウトして持参してください。基本的にそれに沿って授業を進めてゆきます。双方向のやり取りになる授業の回も予定しています。
準備学習	精神医学に現在持っているイメージ、興味が持てそうな分野、精神医学や精神のやまいが出てきて印象に残っている文学・音楽・映像作品などを尋ねられたら、各自すぐまとめられるようにしておいてください。
成績評価	筆記試験(期末)による評価など
講義構成	[前期]序論、神経症、精神医学史、症状論、診断学、統合失調症、脳とこころ、天才と精神医学 ほか [後期]]老年精神医学、感情障害、精神病理学、パーソナリティのかたより、睡眠と夢、ひきこもり、映画と精神医学、精神科治療学 ほか
教科書	・現代臨床精神医学(金原出版) ・看護のための精神医学(医学書院)
参考書・資料	ICD-10(医学書院)・シャルコー(勉誠出版)・無意識の発見(上)(下)(弘文堂)・狂気(一冊でわかる・岩波)・精神症候学(第2版・弘文堂)
講義関連事項	一週間前までにUPされた授業資料(プリント)の、大項目だけでも良いですから、ざっと目を通しておいて下さい。参考書・資料は、できるだけ順次図書館に入れて頂きますので、進んで学習したい学生の方は、ぜひ目を通してみてください。疑問のある方は、講師までどしどし質問・希望を寄せてください。
担当者から一言	隔週水曜・午後3時から午後5時まで、18号館1階の学生相談室にいる予定です。質問・相談などある人は、コンタクトしてください。

授業コード	14007		
授業科目名	卒業研究		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)、斧谷彌守一(ヨキタニ ヤスイチ)、横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)、谷口文章(タニグチ フミアキ)、港道 隆(ミナトミチ タカシ)、森 茂起(モリ シゲユキ)、羽下大信(ハゲ ダイシン)、川田都樹子(カワタ トキコ)、西 欣也(ニシ キンヤ)、北川 恵(キタガワ メグミ)、福井義一(フクイ ヨシカズ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	演習		

講義の内容	学部4年間の総括として、卒業論文の名に値するような研究論文・作品を書くために助言・指導を行う。
到達目標	論文としてしっかり仕上げること。
講義方法	演習で、自分のテーマを研究発表することにより、より専門的な卒業論文・作品が書けるように個人指導を行う。
準備学習	各自が所属するゼミ(演習)において、指導教員の元で論文のテーマ、論文題目を決定し、各自の研究を進めていく。
成績評価	卒業論文として、主査・副査による面接審査。
講義構成	主として演習の中において専門的指導を行う。さらに個別のテーマにそった指導も行う。
教科書	特に指定しない。

ホームページタイトル	文学部 人間科学科
URL	http://www.konan-u.ac.jp/~bun/ningen/

授業コード	14008		
授業科目名	哲学思想基礎論		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
オフィスアワー	授業の前後の1時間		

講義の内容	人生の意味は何か、世界をどのように見るか、人間はどのように行為すべきかの諸問題を検討する。そのために、人生の意味、世界の見方、行為のあり方について考察する。
到達目標	自らの力で「哲学する」習慣を身につけること。
講義方法	ノート講義が中心であるが、下記のテキストも併用する。
準備学習	各授業で示された文献を、次回までに一読しておく。
成績評価	テストと出席点
講義構成	1. 人生の意味：生と死、挫折と希望、愛と虚無、幸福論、老いと病い等 2. 世界の見方：社会と制度、法と経済、自然と環境、言語と文化等 3. 行為のあり方：精神と意志、自由と義務、行為と価値、理想と現実等
教科書	里見軍之・谷口文章編『現代哲学の潮流』（ミネルヴァ書房）
参考書・資料	資 料：VTR、スライド
講義関連事項	「環境学基礎論」、「国際環境教育ネットワーク」、「哲学思想史」、「心身論」、「環境倫理学」
担当者から一言	若い時代の悩みは、人生の宝です。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	14065		
授業科目名	哲学思想史（後）		
担当者名	谷口文章（タニグチ フミアキ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	哲学は、現実アクションできる思考を鍛えるものである。その意味で、イギリス・アメリカの経験論を系譜とした哲学思想史をテーマ別に追っていく。
到達目標	行間にある文脈を、哲学思想的に把握できるようにすること。
講義方法	ノートと関連資料
準備学習	構成項目の哲学者の古典を、どれか一つ継続して読むこと。
成績評価	レポートと出席点
講義構成	01. A. スミスの「理想的観察者 ideal observer」論 02. ベンサムとミルの功利主義とカントの義務論 03. ベンサムの量的功利主義 04. ミルの質的功利主義 05. カントの義務論 06. パースの問題解決方法 07. ジェイムズの純粋経験 08. デューイの経験主義的教育論 09. ローティの会話論 10. 現代における哲学の役割
教科書	里見軍之・谷口文章『現代哲学の潮流』（ミネルヴァ書房）
講義関連事項	哲学思想基礎論／環境学基礎論／倫理思想史

担当者から一言	哲学は難解と思われがちですが、「人生を豊かに考える」ためには示唆されることが多いと思います。さらに英米哲学の思想史的系譜を通じて、現代的な諸問題を読み解く力をつけていきましょう。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	14035
-------	-------

授業科目名	東洋哲学		
担当者名	井澤 清(イザワ キヨシ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜1限)、後期(木曜1限)

講義の内容	祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響あり。沙羅双樹の花の色 盛者必衰のことわりをあらはす。周知の平家物語冒頭部である。この詠嘆が仏教の無常観に基づくものであることは確かだろう。とは言え、諸行無常の達観は必ずしも悲観主義にのみ通じるものではない。 大乘仏教の初期経典『般若心経』は、この世の一切が空であると断じる。空とは無常の謂いである。そこで、無常であり、空であるからこそ、不生不滅であり、苦が生じることもない、と『般若心経』は論じる。これは悲観主義どころか、楽観主義にさえ通じる達観である。一面的な無常観を再考し、その真の意味を理解することが本講義の第一の狙いである。特にその際、『般若心経』の論理を考えてみる。 次に、この『般若心経』の無常観の理解に基づいて、『金剛般若経』における不可解な論断を考えてみたい。『金剛般若経』には「如来が、この上ない正しい覺りを覺ったというようなことはなにもない。それだからこそ、〈この上ない正しい覺り〉と言われる」とある。また、「真実だという思いは、真実でないという思いである。それだからこそ、〈真実だという思い〉と説かれる」とある。この反論理的な論断は何を表わすのだろうか。その「論理」を理解することが本講義の最終的な狙いである。
到達目標	生成消滅の原理となっている実体観をまず理解する。次に、その実体観が何を根拠にして認められるかを考える。次に、実体観に基づく時間論を考える。時間とは何か、生成消滅と時間とはいかに関わるかを理解する。 さらに、実体観と論理について考える。論理とはそもそもいかにして成立するかを理解する。最後に、言語はいかにして使用されているかを考え、言語と実在との関係を理解する。
講義方法	教科書を使用し、般若経の経典を実際に読んでゆく。その際、事前に要約者と質問者を決めておく。要約者には担当分の教科書を読んできて、講義でその内容を簡潔に要約してもらう。質問者には疑問点をいくつか用意してきてもらう。質問の後を議論の時間とし、他の出席者も交えて考えを出し合ってもらい、共通の理解をまとめあげてゆく。 仏教思想史に関しては随時、必要に応じて教示する。
準備学習	次回分のテキストに関して、要約者は紙に要約文を書いてくる。その他の出席者は質問事項をいくつか紙に書いてくる。
成績評価	平常点と学年末試験の点数で評価する。平常点は、発表内容と回数、質問内容と回数、議論の時間での発言内容と回数とし、それを点数化する。発表と質問は最低各2回を義務とする。発言に関しては、内容も大切であるが、まず発言してみようとする積極性を期待する。
講義構成	1 『般若心経』読解。初期大乘仏教の空観を見る。 1. 1 仏教史概説 1. 1. 1 仏教前史。「ヴェーダ」聖典における汎神論的梵我一如の思想を見る。 1. 1. 2 初期仏教。無常観と無我観を見る。 1. 1. 3 部派仏教。実体論に通じる三世実有説を見る。 1. 1. 4 初期大乘仏教。無我観から空観への展開を見る。 2 『金剛般若経』読解。言語と論理を考える。 2. 1 中観への展開を見る。 2. 2 唯識説への展開を見る。 3 まとめ。西洋哲学、宗教との関連に触れる。
教科書	『般若心経・金剛般若経』中村元・紀野一義訳注(岩波文庫・青303-1)
参考書・資料	『世界の名著2 大乘仏典』長尾雅人編 『空と無我』定方晟(講談社現代新書) 『唯識入門』横山紘一(第三文明社レグルス文庫) 『大乘仏典14 竜樹論集』梶山雄一、瓜生津隆真訳(中公文庫) 『インド思想史』中村元(岩波全書)
講義関連事項	西洋哲学(認識論)、宗教
担当者から一言	われわれは学校教育の中で、答えが一つである問題に慣らされてきた。しかし、われわれが現に対処してゆかなければならない数多くの問題は必ずしもそうした単純なものではないだろう。この講義では、答えが必ずしも一つとは限らない、あるいは、答えが出ないかもしれない問題について、一から自分の力で考えてゆく機会を提供したい。

授業コード	14001
-------	-------

授業科目名	人間科学基礎演習		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)、上村くにこ(ウエムラ クニコ)、港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	担当教員が複数であるため、各自問い合わせることを。		

講義の内容	「心」の問題を取り巻く社会のコンテキストを理解し、合わせて臨床心理学の基礎概念に習熟することを目指す。
到達目標	社会的コンテキストのなかで何が起きているか、それがこころの問題にいかに関与しているかということについて基礎的なことを学ぶ。
講義方法	前半を心理臨床の教員が、後半を人間表現領域の教員が担当する。 クラスをグループに分け、各グループが順次、一テキストないし一テーマを担当して発表を行い、続いて全員で討論する。
準備学習	与えられたテキストを読み、レポートを書くこと。
成績評価	レポートで評価する。
講義構成	受講者と相談の上決定する。
教科書	その都度配布することを原則にするが、心理臨床領域は事前にテキストを指定することがある。
参考書・資料	その都度指示する。
担当者から一言	その都度の問題を他人事としてではなく、自分のこととして理解する態度が必要です。積極的に参加してください。

授業コード	14A11		
授業科目名	人間科学基礎演習I (1クラス)(前)		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)、横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	複数の論文や記事を読みながら、社会と心への基礎的理解を高める。
到達目標	社会的出来事、それと付随して起きてきている心の問題の論文を全体討論しながら学び、心と社会の関係の基礎的なことを学ぶ。
講義方法	1クラスを複数のグループに分け、各グループが1テーマを担当し、テキストについての報告を行うとともに、グループごとに話し合うべき問題点を指摘し、全員が参加する討論の司会をする。
準備学習	前もって論文を渡すので、それについてのレポートを書いてもらい、それに基づいて議論する。
成績評価	人間表現領域、心理臨床領域の2つのレポートの総合で評価する。
講義構成	初回のオリエンテーションで発表する。
教科書	その都度配布する。
参考書・資料	その都度指示する。

授業コード	14A12		
授業科目名	人間科学基礎演習I (2クラス)(前)		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

特記事項	自動登録
講義の内容	様々な論文や記事を読みながら、社会と心への基礎的理解を高める。
到達目標	文献読解、プレゼンテーション、討論の技術の習得。
講義方法	1クラスを複数のグループに分け、各グループが1テーマを担当し、テキストについての報告を行うとともに、グループごとに話し合うべき問題点を指摘し、全員が参加する討論の司会をする。
準備学習	必要としない。
成績評価	人間表現領域、心理臨床領域の2つのレポートの総合で評価する。
講義構成	初回のオリエンテーションで発表する。
教科書	その都度プリントを配布する。
参考書・資料	その都度指示する。

授業コード	14A13		
授業科目名	人間科学基礎演習I（3クラス）(前)		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)、羽下大信(ハゲ ダイシン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	複数の論文や記事を読みながら、社会と心への基礎的理解を高める。		
到達目標	テキストを深く理解し、討論する能力の養成。		
講義方法	1クラスを複数のグループに分け、各グループが1テーマを担当し、テキストについての報告を行うとともに、グループごとに話し合うべき問題点を指摘し、全員が参加する討論の司会をする。		
準備学習	前もって配布するテキストを十分に読んでくること。		
成績評価	人間表現領域、心理臨床領域の2つのレポートの総合で評価する。		
講義構成	初回のオリエンテーションで発表する。		
教科書	その都度配布する。		
参考書・資料	その都度指示する。		

授業コード	14A21		
授業科目名	人間科学基礎演習II（1クラス）(前)		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)、上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	複数の論文や記事をテキストに、社会と心への基礎的理解を深める。		
到達目標	人間科学基礎演習 I と同じグループで、グループ討論、全体討論を行い、社会と心の問題の理解をより深める。		
講義方法	クラスをグループに分け、各グループが1テーマを担当し、テキストの報告を行うとともに、グループごとに話し合うべき問題点を指摘し、全体が参加する討論の司会をする。		
準備学習	レポートを人間表現、心理臨床と3本づつ渡すので、前もってそれらを読み、理解し、意見を言えるようにしておくこと。なお討論は論文1本につき2回である。		
成績評価	両領域で課すレポートの総合で評価する。		
講義構成	初回のオリエンテーションで発表する。		

教科書	その都度配布する。
参考書・資料	その都度指示する。

授業コード	14A22		
授業科目名	人間科学基礎演習II（2クラス）(前)		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	様々な論文や記事をテキストに、社会と心への基礎的理解を深める。		
到達目標	文献読解、プレゼンテーション、討論の技術の習得。		
講義方法	クラスをグループに分け、各グループが1テーマを担当し、テキストの報告を行うとともに、グループごとに話し合うべき問題点を指摘し、全体が参加する討論の司会をする。		
準備学習	必要としない。		
成績評価	両領域で課すレポートの総合で評価する。		
講義構成	初回のオリエンテーションで発表する。		
教科書	その都度プリントを配布する。		
参考書・資料	その都度指示する。		

授業コード	14A23		
授業科目名	人間科学基礎演習II（3クラス）(前)		
担当者名	羽下大信(ハゲ ダイシン)、港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	複数の論文や記事をテキストに、社会と心への基礎的理解を深める。		
到達目標	テキストを深く理解し、問題を討論する上で、自らの意見を発表する能力の養成。		
講義方法	クラスをグループに分け、各グループが1テーマを担当し、テキストの報告を行うとともに、グループごとに話し合うべき問題点を指摘し、全体が参加する討論の司会をする。		
準備学習	事前に配布するテキストを十分に読んでくること。		
成績評価	両領域で課すレポートの総合で評価する。		
講義構成	初回のオリエンテーションで発表する。		
教科書	その都度配布する。		
参考書・資料	その都度指示する。		

授業コード	14023		
授業科目名	人間環境論Ⅰ(集中)		
担当者名	清水芳久(シミズ ヨシヒサ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	地球上では、さまざまな人間活動と自然のサイクルが相互に関係し、微妙なバランスを保っている。環境問題を理解し人間活動との関係を解明するには、環境問題を全体としてとらえつつ個別の問題の現象や課題の特徴をとらえることが重要である。本講義では、まず、ストックホルムからリオデジャネイロを経由してヨハネスブルグに至る国際的な環境問題への取り組みの努力を歴史的に考察すると共に、各種の地球環境問題のメカニズムと課題、現象の把握や対策に活かされている技術を概観する。
到達目標	日本と地球の環境問題についての科学的知識の一端を習得すること。
講義方法	通常の講義を実施すると共に、人間と環境の望ましい関わりを考えるため、地球環境問題や地域環境問題の中からテーマを選び、グループに分かれて討議とプレゼンテーションを実施する。
準備学習	新聞、ラジオ、テレビ等で情報を収集しておくこと。
成績評価	試験ないしはレポート、討議とプレゼンテーションへの参加と成果、および出席率を総合して評価する。
講義構成	・はじめに ・地球環境問題とは？ ・地球環境問題のメカニズムと対策 ・環境汚染の現状と課題 ・各国・各地域における環境問題の取り組み ・まとめ
教科書	特になし
参考書・資料	随時資料を配付する。また映像資料も活用する。
担当者から一言	講義中は大いに明るく躊躇せずに発言して下さい。

授業コード	14024		
授業科目名	人間環境論Ⅱ(後)		
担当者名	清水芳久(シミズ ヨシヒサ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
講義の内容	地球上では、さまざまな人間活動と自然のサイクルが相互に関係し、微妙なバランスを保っている。環境問題を理解し人間活動との関係を解明するには、環境問題を全体としてとらえつつ個別の問題の現象や課題の特徴をとらえることが重要である。本講義では、地域環境問題のメカニズムと課題、現象の把握や対策に活かされている技術を概観する。		
到達目標	日本と地球の環境問題についての科学的知識の一端を習得すること。		
講義方法	通常の講義を実施すると共に、人間と環境の望ましい関わりを考えるため、持続可能性(sustainability)等について、グループに分かれて討議とプレゼンテーションを実施する。		
準備学習	新聞、ラジオ、テレビ等で情報を収集しておくこと。		
成績評価	試験ないしはレポート、討議とプレゼンテーションへの参加と成果、および出席率を総合して評価する。		
講義構成	・はじめに ・地域環境問題とは？ ・環境汚染の現状と課題 ・日本の公害対策と環境の現状 ・地域環境問題の取り組み ・Sustainabilityとは？ ・まとめ		
教科書	特になし		
参考書・資料	随時資料を配付する。また映像資料も活用する		
担当者から一言	講義中は大いに明るく躊躇せずに発言して下さい。		

授業コード	15R12
-------	-------

授業科目名	博物館学I (B)(集中)		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)、平井章一(ヒライ ショウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	「2007年度以降入学生は、歴史文化領域コースは(A)、美術領域コースは(B)、環境領域コースは(C)を履修すること。 2006年度以前入学生は、歴史文化学科は(A)クラス、人間科学科は(B)・(C)クラスのいずれかを履修すること」		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	<②美術領域> 独立行政法人化、指定管理者制度の導入など、いま博物館を取り巻く状況は大きく変わりつつあります。いいかえれば、「博物館」とは何かや、博物館の「公共性」とは何かが今ほど問われている時代はないといえるでしょう。ここでは、こうした今日的な問題を踏まえながら、博物館の機能や学芸員の役割を学びます。 [Ⅰ:見学編]では、実際に美術館に行って展覧会を見学し、学芸員の実務や博物館の施設について学びます。 [Ⅱ:講義編]では、博物館の理念や機能を、資料や映像、学芸員である講師の実体験にもとづく裏話などを織り交ぜながら、わかりやすく紹介します。また、受講生とともに、これから求められる美術館像、学芸員像についても考えてみたいと思います。
到達目標	博物館の中でも、特に美術館に関して、その現状と今日的課題を知り、美術館学芸員として必要な知識を身につける、
講義方法	[Ⅰ:見学編]と学芸員資格取得に関する管理は川田が担当し、[Ⅱ:講義編]は、平井が担当する。全員、[Ⅰ]+[Ⅱ]の両方を受講すること。
準備学習	各自で、なるべく多くの美術館を訪れ、展示作品だけでなく、展示形態や美術館のシステムなどにも注目しつつ見学しておくこと。また、美術館が提供するイベント、ギャラリー・トーク、ワーク・ショップなどにも、積極的に参加しよう。
成績評価	[Ⅰ:見学編]=出席点+レポート、[Ⅱ:講義編]=出席点+レポート 最終:[Ⅰ]+[Ⅱ](総合点で判断する)
講義構成	[Ⅰ:見学編](川田担当) 詳細は4月の「学芸員養成課程ガイダンス(2回生用)」で提示する。 前期期間中に3～4回の変則的な実施になるので注意すること。 主に土曜日の午後に、学外の美術館を見学することになる。 毎回、簡単なレポートを提出してもらう。 [Ⅱ:講義編](平井担当) 夏季集中講義(3日間・1～4限) 8月23日(月)、24日(火)、25日(水)。 日程等の詳細は、教務課掲示板にて決定次第、発表する。 最終レポートの提出を求める。
教科書	特に指定しない。必要事項は適宜プリントして配布する。
講義関連事項	4月の「学芸員養成課程ガイダンス(2回生用)」に必ず出席すること。

担当者から一言	[Ⅰ:見学編]と[Ⅱ:講義編]の、両方に必ず出席すること。片方だけしか出席しなかった場合は、履修単位を認められないので注意すること。
その他	[Ⅰ:見学編]の集合日時・場所などの詳細は教務部の掲示板と10号館6階エレベータ・ホールの掲示板にも各見学の1ヶ月前から通知する。

授業コード	15R13		
授業科目名	博物館学I (C)(後)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、戸田耿介(トダ コウスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	「2007年度以降入学生は、歴史文化領域コースは(A)、美術領域コースは(B)、環境領域コースは(C)を履修すること。 2006年度以前入学生は、歴史文化学科は(A)クラス、人間科学科は(B)・(C)クラスのいずれかを履修すること」		

	と」
オフィスアワー	授業の前後1時間
講義の内容	地域文化や産業の再生、持続可能な社会づくり、伝統文化の伝承など、もう一度足元から我々の社会と生活の有り様を再構築する動きが、外因的にも内発的にも現れている。20世紀の効率主義と進歩思想によって失われた価値の再評価と新たな価値観の創造が求められている時代である。 博物館という社会装置はこのような現代的な課題に対して、どのように関わりを持つのだろうか？ また、実際にはどう関わっているのだろうか。 各地にある博物館(類似施設を含む)を紹介しながら、生涯学習の場として市民の社会参加を下支えするその役割や実態、課題等について探っていきます。
到達目標	自然誌博物館の役割を理解すること。
講義方法	全体に講義を主にするがビデオやスライド等を教材として使用する。博物館の具体的な活動に関しては見学や開催セミナー等の聴講を課する。 事例として、出来るだけ地域や社会の現代的な課題にコミットしていて、ユニークな運営をしている博物館を取り上げる。
準備学習	身近な博物館(動物園、水族園、昆虫館など)を繰り返し訪れておく。
成績評価	期末レポートと中間のミニレポート及び出席数により総合的に評価する。
講義構成	1. 博物館と生態学【谷口】 2. 生涯学習システムの中での博物館【戸田】 3. 自然・科学博物館の現状(博物館の機能紹介)【戸田】 4. 役割と機能の新たな展開(歴史的視点から)【戸田】 5. 自然・環境系博物館の現代的な役割【戸田】 6. 博物館体験交流(私の見た博物館)【戸田】 7. 都市における博物館の魅力【戸田】 8. 拡大する博物館の概念・地域おこしとエコミュージアム【戸田】 9. 企業のCSR活動と博物館【戸田】 10. 大学博物館の役割【戸田】 11. ネットワーク型博物館の可能性【戸田】 12. 博物館と市民・NPOのパートナーシップ【戸田】 13. 現代社会の課題に取り組む博物館や博物館類似施設【戸田】 14. 博物館学と環境教育【谷口】
教科書	適宜紹介します。
参考書・資料	・適宜紹介します ・学内イントラネットe-Learningコンテンツ「人間と環境」
講義関連事項	人間科学科専門科目:国際環境教育ネットワーク/国内環境教育ネットワーク
担当者から一言	トピックを交えながら双方向型で講義を進めます。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	15R22		
授業科目名	博物館学Ⅱ (B)(後)		
担当者名	池上 司(イケガミ ツカサ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	「2007年度以降入学生は、歴史文化領域コースは(A)、美術領域コースは(B)、環境領域コースは(C)を履修すること。 2006年度以前入学生は、歴史文化学科は(A)クラス、人間科学科は(B)・(C)クラスのいずれかを履修すること」		
講義の内容	「博物館概論」と「博物館学Ⅰ (B)」の内容をさらに深める。 美術館の展覧会について講義し、適宜グループワーク、ディスカッション、見学実習を行う。		
到達目標	学芸員としての実践的な視点を養い、自ら展示を発想する力を身につけることを目的とする。		
講義方法	講義、見学実習		

準備学習	できるだけ展覧会に足を運び、多くの展示を見ること。
成績評価	授業への取り組み方(70%)、課題レポート(30%)による総合評価
講義構成	(1)美術作品の展示 (2)平面図を書く (3)インスタレーションについて (4)キュレーターの仕事 (5)展示プランを考える
教科書	特に使用しない。
参考書・資料	アメリア・アレナス『みる・かんがえる・はなす 鑑賞教育へのヒント』、淡交社、2001年
講義関連事項	適宜見学実習を実施し、その都度レポートを課す。見学実習に関する詳細は授業中に指示する。
担当者から一言	自ら学ぶ姿勢を重視する。日頃から美術館や展示に関心を持つこと。

授業コード	15R23		
授業科目名	博物館学Ⅱ (C)(前)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、戸田耿介(トダ コウスケ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	「2007年度以降入学生は、歴史文化領域コースは(A)、美術領域コースは(B)、環境領域コースは(C)を履修すること。 2006年度以前入学生は、歴史文化学科は(A)クラス、人間科学科は(B)・(C)クラスのいずれかを履修すること」		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	「対話と連携」を運営の基礎に据え、知識社会に應えるために市民とともに新しい価値を創造し、生涯学習活動の中核として機能する博物館が望まれている。特に、自然系博物館には環境問題への対応や科学・技術振興への寄与が期待されているが、多くの博物館(類似施設を含む)はこの要請にどう応えようとしているのだろうか。そのために必要とされる施設や組織はどのように構築され機能しているのか。その中で学芸員はどの様に活動しどの様な役割を果たしているのか。各地にある博物館の活動を紹介しながら、これからの博物館の社会的な役割を探ります。
到達目標	生命、自然を見る眼を養う。その上で学芸員の役割を身につける。
講義方法	全体に講義を主にするがビデオやスライド等を教材として使用する。博物館の具体的な活動に関しては受講者の自主的な見学や開催セミナー等への参加を勧める。また、講義の中で動物園や水族園等の博物館見学も予定する。
準備学習	ミニレポートのためのテーマを調べておく。
成績評価	期末レポートと講義中のミニレポート、出席数等により総合的に評価する。
講義構成	1. 博物館と環境創造【谷口】 2. 自然・環境系博物館の役割の新たな展開―人と自然の博物館を事例に【戸田】 3. 博物館資料の収集と保存技術の動向【戸田】 4. 博物館展示のあり方と学芸員の役割【戸田】 5. 博物館資料の活用【戸田】 6. 博物館の啓発活動と学芸員の役割【戸田】 7. 環境問題と博物館等の取り組み【戸田】 8. まちおこし等に寄与する博物館の魅力【戸田】 9. 博物館での市民参画をどう進めるか【戸田】 10. 博物館体験(現地見学)【谷口・戸田】 11. 学校教育と博物館との連携【戸田】 12. 博物館の評価と運営のあり方【戸田】 13. 博物館の役割と学芸員の位置づけ【戸田】 14. 生涯学習システムの中での博物館【戸田】 15. 予備日【谷口】
教科書	適宜紹介します。
参考書・資料	適宜紹介します

担当者から一言	トピックを交えながら双方向型で講義を進めます。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	15R32		
授業科目名	博物館実習 (B・C)(集中)		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)、谷口文章(タニグチ フミアキ)、西 欣也(ニシ キンヤ)、池上 司(イケガミ ツカサ)		
配当年次	3・4年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	(川田:質問・相談受け付け)前期は金曜3時間目終了後、後期は水曜1時から3時		

講義の内容	博物館学芸員課程の最後の科目として、自然誌博物館や美術館やギャラリーでの実習を行います。博物館の役割や学芸員としての活動を、現場にたって学習します。
到達目標	現場での実習を通して、博物館学芸員としての知識と技量を身につける。
講義方法	事前指導・事後指導は学内で行います。実習は受講生が複数の博物館・美術館・ギャラリー等に分かれて行います。
準備学習	受講要項の注意事項を良く読んでおくこと。 学内で開催される学芸員講演会には必ず出席するように。 また、放課後や休日などを利用して、なるべく多くの関連施設(環境学系選択者は自然誌博物館を、芸術学系選択者は、美術館やギャラリー)を見学しておくこと。
成績評価	事前指導・事後指導におけるレポート、および実習の成績を総合して評価します。
講義構成	・博物館実習は、事前指導、実習、事後指導からなります。 ・事前指導は4年次前半に1～2回、事後指導は4年次後半に1回を予定しています。 ・「環境学系」選択者は学外の自然誌博物館、「芸術学系」選択者は学外の美術館または学内のギャラリー施設での実習になります。 ・学外の博物館・美術館での演習内容はそれぞれの館が行っている実習プログラムによります。また実習期間は5日～8日間程度で、実習館によって異なります。実習時期も実習館によって異なります(早いところでは4月・5月から、遅いところでは11月・12月まで)。 ・学内ギャラリーでの実習は、夏期休暇中を中心に集中形式で行います。 ・詳細は4月に行うガイダンスで説明します。
教科書	ガイダンスの時に指示します。
参考書・資料	「博物館実習ノート」を配布します。

担当者から一言	3年生は履修登録の必要はありません。 4年生のみ登録してください。 受講登録については4月初めのガイダンスで別途指示します。 ガイダンスには必ず出席してください。 また受講要項の注意事項を読んでおいてください。
その他	「環境学系」か「芸術学系」かは、各自が既に選択したものから変更できない。 本実習は、必要科目を既に履修し、昨年度までに「実習面接」に合格した者しか受けられない。

授業コード	14052		
授業科目名	発達心理学		
担当者名	中島暢美(ナカジマ ノブミ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)

講義の内容	講義では、人の受胎から老年に至るまでの生涯を、発達心理学の視点から学びます。 人の全成長過程を連続したものとして捉え、各発達段階における重要な発達変化について学習します。また、
-------	---

	各発達段階を相互に比較し、関係づけながら、一連の発達過程の中に位置づけていきます。 講義の目的の、第1は、発達心理学についての基礎的知識の習得です。第2は、たんに知識の暗記に留まらず、受講生各人がすでに自分自身の身についている成育歴を通して学習していく時間を共有したいと考えています。つまり、発達心理学とは何かを良く知ること、そして、それを時には自分の経験にあてはめ、自分の言葉に置き換え、自分のものにする(身につける)ことが主な作業となります。さらに、受講生各人が、本講義を通して“成長する”あるいは“学ぶ”とはどういうことかを“自分で考えてみる”機会になることを願っています。
到達目標	初回講義で説明します。講義内容を参照してください。
講義方法	講義中心の授業です。各発達段階ごとに講義レジュメと関連資料を配布します。受講生は、講義の中で重要と思われることを記入する等、講義レジュメを自分なりに工夫して完成します。自分で作成した講義レジュメは、試験対策ノートになります。
準備学習	適宜指示します。
成績評価	1.出席状況。 年間を通して、欠席3分の2以上は不可となります。遅刻・早退は3回で、欠席1回とみなし、30分以上の遅刻や早退は欠席とみなします。 2.前・後期試験の結果。 各100点満点で、前・後期試験合計÷2で、60点以上が合格となります。 以上1.2の総合評価とします。
講義構成	1回 オリエンテーション 2回 (簡易)オリエンテーション、生涯発達心理学とは 3回 人間の発達と人格について 4回 胎児期 ～胎児の心～ 5回～8回 乳時期 ～愛着の形成と言語の発達～ 9回～13回 幼児期 ～幼児の視点～ 14回 前期試験 <夏季休暇> 1回 前期試験解答 2回～6回 児童期 ～家庭教育と学校教育～ 7回～9回 青年期 ～自立と自律～ 10回 中年期 ～ライフ・イベント、ストレス、コーピング～ 11回～13回 老年期 ～高齢者の知能と人格～ 14回 後期試験
教科書	テキストは特に指定しません。
参考書・資料	田島元信、高橋恵子、無藤隆編『発達心理学入門Ⅰ 乳児・幼児・児童』東京大学出版会 田島元信、高橋恵子、無藤隆編『発達心理学入門Ⅱ 青年・成人・老人』東京大学出版会 村瀬学『初期心的現象の世界』『子ども体験』『理解のおくれの本質』大和書房
担当者から一言	人間科学科(心理臨床領域)の学生、教職をめざす学生には受講をお勧めします。また、将来の目標や自分が何をしたいのかわからなくて困っている学生にも、自分を見つめなおすための一助になるかもしれません。

授業コード	14036		
授業科目名	美術史I（前）		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	授業終了後＋金曜3時限終了後		

講義の内容	——『美術史の基礎概念』(様式史としての美術史)の再考—— 市販の美術全集の編纂の仕方や、テレビの美術番組の作り方などを見てみると、現在でも一般に「美術史」といえば、「ルネサンス時代の美術」「バロック時代の美術」「ロココ時代の美術」…といったように、「時代様式」で区分して「美術史」を語ることが多いだろう。こうした「様式史としての美術史」というスタイルが定着したのは、20世紀になってからのことである。この講義では、このスタイルを定式化した美術史家、ハインリヒ・ヴェルフリンの思考法を紹介し、それにひとまず則しながら、16世紀(ルネサンス)と17世紀(バロック)の美術様式を比較し、この方法論が他の時代にも適応しうるかどうかが検討してみる。 しかしながら、実は現今の「美術史研究」では、この方法論は批判され超克されつつある。なぜ「様式史」は否定されつつあるのか、また、それを超えて行こうとする「美術史研究」とはいかなるものか。講義の終盤では、「様式史としての美術史」を批判的に検証し、近年の「美術史学」の動向を紹介する。
-------	--

到達目標	学問としての「美術史学」のあり方を考察することが最終目標だが、授業の過程を通して、「芸術作品を見る目」も養ってもらいたい。
講義方法	PCプロジェクターや書画カメラなど視覚資料を講義に使用。
準備学習	日頃から、美術館、ギャラリー、画集、美術雑誌などで、美術作品に親しんでおくこと。
成績評価	学期末のレポートで、授業内容の理解度を確認し、同時に自分自身の意見も書いてもらう。 また、授業時には、出欠確認を兼ねたアンケート調査を実施し、成績評価に反映させる。 評価点の比率は、「期末レポート」：「出席率」＝ 60：40。
講義構成	●ハインリッヒ・ヴェルフリン『美術史の基礎概念』(1915)概説 「様式史」としての「美術史」とは？ (直観の範疇としての)5対の「基礎概念」 16世紀芸術＝「クラシック様式」／17世紀芸術＝「バロック様式」 「歴史」は繰り返される？ ヴェルフリンの用いたレトリック ●ヴェルフリン以後の「美術史」 「モダニズム」を支えた「進歩史観」の批判的検証 ●「ポスト・ヒストリー」時代の「美術史」 「進歩史」としての美術史観が、現在では否定される理由 「ニュー・アート・ヒストリー」 「ヴィジュアル・カルチャー・スタディーズ」
教科書	必要なテキストは適宜プリントして配布する。
参考書・資料	参考書： ハインリッヒ・ヴェルフリン『美術史の基礎概念』海津忠雄・訳、慶應義塾大学出版会、2000年。 ジョン・A・ウォーカー & サラ・チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門』岸文和他訳、晃洋書房、2001年。
講義関連事項	「現代芸術論Ⅰ」と合わせて受講することをお勧めする。
担当者から一言	特にプロジェクター使用中の入室・退室は禁止する(明かりが入るとスクリーンが見づらいので)。
その他	プロジェクター使用時は部屋を暗くする。教室によっては、ノートを取るために、各自で手元あかり(ペンライトなど)を用意したほうがいいかもしれない。初回授業時に教室設備を確認したうえで、改めて指示を出すことにする。

授業コード	14037		
授業科目名	美術史Ⅱ(後)		
担当者名	青山 勝(アオヤマ マサル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	私たちは毎日、言葉を聞いたり話したりするのを同じくらい、あるいはそれ以上に、さまざまな「イメージ」に接しながら生活しています。しかし、多くの人が初等教育以来、言葉の「読み書き能力」を身につけるための教育を受けてきているのに対して、イメージの「読み書き能力」について学ぶ機会はあまり提供されてきませんでした。そのような能力を身につけるためには、イメージの「語彙」や「文法」を学び、またイメージの「歴史」を知ることが必要です。そのような観点から、この「美術史Ⅱ」の授業を、現代人に必須のイメージの「読み書き能力」の基礎を養うための講座の一つと位置づけてみたいと思います。実際、古今東西の優れた美術作品をさまざまな観点から深く理解することは、イメージを「読み取る」能力を磨くための恰好のレッスンになってくれるでしょう。 したがって、この授業では、ルネサンス美術から現代アートまでさまざまな美術作品を取り上げますが、いわゆる「通史」的なスタイルは避けたいと思います。一定の知識の獲得(時代ごとの「様式」の特徴、美術運動、技法、画家の名前等々)も重要ですが、それ以上に、個々の「イメージ」を分析的に「見ること」、そのことを深められるようなクラスにしていきたいと思います。ルネサンス絵画における「遠近法」の成立の過程、また20世紀におけるその崩壊、そうした話題を中心に、具体的な作例を通じて視覚的に読み取っていきます。 なお、この授業は、2009年度の「美術史Ⅰ」(担当: 青山勝)と重なる内容の授業です。2009年度の「美術史Ⅰ」の単位取得者は重ねて登録しないようにしてください。
到達目標	- ルネサンス以来の西洋美術の流れの概略を理解する - 人が「奥行」を理解するシステムを理解する

	・ルネサンス絵画において成立したいわゆる「遠近法」がどのようなものかを理解する ・その成立のプロセスを具体的な作例を通じて理解する ・ルネサンス以前、初期ルネサンス、盛期ルネサンス、マニエリスムの絵画の特徴を、「空間」の観点から理解し、絵を見てそれがどの時代に属するものか推測できるようになる ・ルネサンス絵画とバロック絵画との違いが見分けられるようになる ・19世紀から20世紀にかけての美術の流れについて概略を理解する ・美術におけるモダニズムを、遠近法の観点から理解する ・「アヴァンギャルド」とは何かを理解する ・1960年代以降の「現代アート」の諸相を知るなど
講義方法	スクリーンに画像を映しながら解説等を行います。受講人数にもよりますが、可能な限り、一方的な説明に終始するのではなく、受講者自身が口頭で画像の分析を行う演習の機会を取り入れます。ワークシートを配布し、それによって授業内容を整理してもらう場合もあります。
準備学習	美術史についての深い知識等を前提とする授業ではありませんが、受講にあたって、美術に対する一定の関心は必要です。ふだんから、さまざまな美術展に積極的に出かけ、美術に親しむ機会を増やすように努めてください。
成績評価	以下を目安に総合的に評価します。 ・平常点(積極的な受講態度、課題提出等) 70% ・授業最終日に行う確認テスト 30% 原則として10回以上出席し、最終日の確認テストを受けなければ評価しません。
講義構成	1 イントロダクション 2 「見ること」とは? 3 「奥行知覚」をめぐって 4-7 ルネサンスの〈遠近法〉: その成立と展開 8-9 ルネサンスとバロック: 様式分析入門 10-12 美術におけるモダニズム: 純粹視覚 13-14 現代アート: 「視覚」から「思考」へ 15 確認テスト (上記の予定は変更になる場合もあります)
教科書	特になし。必要に応じてコピー等を配布します。
講義関連事項	この授業は、2009年度の「美術史I」(担当: 青山勝)と重なる内容の授業です。2009年度の「美術史I」の単位取得者は重ねて登録しないようにしてください。

授業コード	14057		
授業科目名	ファンタジー研究(前)		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)、上村くにこ(ウエムラ クニコ)、港道 隆(ミナトミチ タカシ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	質問や相談は世話人(西のオフィスアワーは金曜3限)まで。		

講義の内容	ファンタジーの世界は一見、非現実で合理性がないようにみえる。妖精、小人、鬼、妖怪、天使等のように、この世には見えないはずの存在が目の前に出現し、跳梁跋扈する。善と悪との対比が激しく、しばしば善悪の価値がひっくりかえることも特徴である。なによりも私たちの心を捉えてやまないのは、この破天荒な世界が不思議なリアリティをもって迫ってくることである。講義では4人の教員が、神話学・心理学・文学・哲学等の視点を踏まえながら、一見非現実なファンタジーの世界のリアリティについて考えてゆく。
到達目標	ファンタジーの多様なあり方を知るとともに、人間にとってファンタジーが意味するものについて理解を深める。
講義方法	4人の教員のリレー方式で行う。世話人は西。
準備学習	特に必要としない。
成績評価	出席と各教員が課す課題および小テストで総合的に評価する。
講義構成	4月8日 オリエンテーション(西) 4月15日 文学史の中のファンタジー(西) 4月22日 ファンタジー文学とリアリズム文学(西) 5月6日 地獄の想像力1(キリスト教)(上村)

	5月13日 地獄の想像力2(キリスト教)(上村) 5月20日 地獄の想像力3(仏教)(上村) 5月27日 ファンタジーと心理学(大西) 6月3日 ファンタジーにみる子どもの発達(大西) 6月10日 ファンタジーにみる子どもの心(大西) 6月17日 (港道)意味と無意味の差異 6月24日 (港道)ルイス・キャロルの論理学1 7月1日 (港道)ルイス・キャロルの論理学2 7月8日 まとめ(西) 7月15日 レポート試験(西)
教科書	教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
参考書・資料	

授業コード	14030		
授業科目名	文学思想史(文学思想史I)(後)		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	金曜3限ほか随時(メールでアポイントメントをとってください)		

講義の内容	文学を理論的、歴史的に論じるための入門講義。
到達目標	文学作品における人物造形の比較分析を通じて、人間の本質について考察するとともに、古代から現代に至る文学史の基礎的知識を習得する。
講義方法	講義プラス討議。
準備学習	特に必要としない。
成績評価	平常点によるものとする。なお、受講者は、積極的な発言をはじめとする参加によって評価されることをあらかじめ了解されたい。
講義構成	毎週いくつかの文学作品を紹介し、男性性と女性性、自由と正義、フィクションとファクトといった複数の軸を使いながら人物像を比較考察し、参加者自身の人間像とつきあわせながら人間探究を深めてゆく。 ・人は自らの欲望と義務とのあいだでどのような判断を行い、どのような行為や発言を選ぶか ・それを他者はどのように意味付けるか ・どのような境遇や運命がどのような人格を生み出すか ・愛情、自尊心、不安、希望はどのような関係にあり、どのような現れ方をするか ・それが文学作品に表現されたとき、どのような描写が説得力を持ち、感動を生むか といった様々な問題を、具体的作品の登場人物にヒントを求めながら考えていく。
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	参考書については講義のなかで適宜指示・紹介する。資料はプリントを配布する。

担当者から一言	予備知識は全くありませんが、自分がどのように感じ、考えているか述べなければ単位が出ません。覚悟して受講してください。
---------	--

授業コード	14067		
授業科目名	防災心理学(前)		
担当者名	明石加代(アカシ カヨ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	災害とは、個人や社会の対処能力を超えた、不可抗力的な出来事や状況をいう。それは、個人や社会の機能を一時的に崩壊させ、混乱と苦しみをもたらす。しかし一方で、私たち人間は、災害という経験から多くのことを学んできた。防災の歴史は、文明の発展の歴史でもある。 この講義では、まず心理社会的な影響という視点から、災害という状況について学んでいく。続いて、ではそのよ
-------	--

	うな状況に対して、私たちに何ができるのかを考えていきたい。 なお、この講義では自然災害を中心に扱うが、扱われる内容は他に、私たちが遭遇する可能性のあるさまざまなトラウマティックな出来事(事故や犯罪被害など)も含んでいる。災害の悲惨さについて触れていくことになるが、同時に、人間のたくましさや回復力についても学べる内容を目指したい。
到達目標	・災害が及ぼす心理的、社会的な影響を理解することができる。 ・そうした影響に対処する方法を理解することができる。
講義方法	講義形式で行なう。
準備学習	災害や事故、事件を報じている新聞やニュースに日頃から親しみ、そうした出来事がどのように社会に伝えられ、受けとめられていくか、注意深く接してください。
成績評価	毎回の授業終了時に、ミニレポートの提出があります。ミニレポートの内容から、どの程度授業に主体的に取り組めたか判断します。 評価は定期試験が50%、ミニレポートが50%の割合で行ないます。 6回以上の欠席には、単位を認定しません。
講義構成	およそ以下の内容で行なう。 1. 災害とは 災害が及ぼすさまざまな心理的影響 災害とコミュニティ 災害支援とは 支援者・救援者の問題 2. トラウマ、PTSD トラウマの歴史 ストレスとトラウマ 長期反復性トラウマ 3. 復興と回復 身近な人を支えるためにできること セルフケアとストレスマネジメント PTSDの治療法 サイコロジカル・ファーストエイド トラウマと心の成長
教科書	使用しません。 授業時に毎回レジュメを配付します。
参考書・資料	B. ラファエル『災害の襲うとき』石丸正訳, みすず書房

授業コード	14028		
授業科目名	ライフサイクル論Ⅰ(後)		
担当者名	明石加代(アカシ カヨ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	「ライフサイクル」とは、人がこの世に生を享けてから死に至るまでの、身体的・心理的・社会的な移りゆきのことである。人生周期ともいう。この講義では、ライフサイクルにおける心理的な問題を、身近な題材を用いながら扱っていく。発達心理学と重なる内容もあるが、心が成長するとはどういうことか、よりよい人生とはどのようなものか、各受講生が自分なりの考えを深められるような時間にしていきたいと考えている。 なお本講義ではライフサイクルの前半部分、誕生から青年期までを取りあげる。
到達目標	・青年期までを扱った発達心理学の基礎概念を理解することができる。 ・すでに発達心理学を学んだ人は、それらの知識を人生という大きな流れにおいてみたり、身近な題材にあてはめて考えてみたりすることで、より深く理解することができる。
講義方法	講義形式で行なう。
準備学習	講義では、1回につきひとつのテーマを扱いますが、習ったことを常に復習するよう心がけてください。各テーマのつながりを自分なりに見つけていくことで、理解できることの幅は大きく広がります。
成績評価	毎回の授業終了時に、ミニレポートの提出があります。ミニレポートの内容から、どの程度授業に主体的に取り組

	組めたか判断します。 評価は定期試験が50%、ミニレポートが50%の割合で行ないます。 6回以上の欠席には、単位を認定しません。
講義構成	1. イントロダクション 2. E・エリクソンとライフサイクル論 3. 子どもの誕生:妊娠・出産をめぐる 4. 乳児期(1) 5. 乳児期(2):人生早期における環境との相互作用 6. 幼児期:「私になること」のはじまり 7. 児童期(1) 8. 児童期(2):世界がひらかれるとき 9. 発達障害の世界を知る 10. 思春期(1) 11. 思春期(2):思春期の危機 12. 青年期:私を引き受けて生きていくこと 13. 青年期から成人期へ:私であることと愛すること 14. まとめ 15. 終講試験
教科書	使用しません。 授業時に毎回レジュメを配付します。

授業コード	14029		
授業科目名	ライフサイクル論Ⅱ(後)		
担当者名	宮川貴美子(ミヤガワ キミコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	少子高齢社会の到来は、ライフサイクルという人の一生のありようを大きく変化させ、一人ひとりの価値観や生き方の多様化をもたらした。このような現代に生きる私たちは、これからの時間—成人期以降の人生、とりわけ中年期から老年期—をいかに生きるかを考え、自分なりの意味づけをすることが大事なことであろう。そこで本講義では成人期、中年期、老年期を中心に、それぞれの時期にみられる心理的特性と発達課題、人生後半の課題について学び、考えることを目的とする。また高齢社会を迎えて久しいわが国においては、「老い」の問題を考えることが重要なテーマのひとつであることから、各論最後の「ライフサイクルにおける老いの諸相」では、高齢者をとりまくさまざまな問題を取り上げつつ、高齢者理解を深めたい。
到達目標	成人期、中年期、老年期をめぐる課題やさまざまな問題について学び、考え、理解を深めること。
講義方法	主に講義形式により行うが、授業中に数回、小レポートを提出してもらう予定である。
準備学習	ライフサイクル的視点にたって「いかに生きるのか」ということについて、受講者それぞれに問題意識をもって受講してください。
成績評価	期末試験の成績(80%)とレポート(20%)をもって、総合的に評価する。
講義構成	全体をおおむね5期に分けて以下のことを学ぶ。また講義のほか、ライフサイクルをめぐる問題を扱った映像資料を用いて理解を深める。 - ライフサイクルの現代的意義 - ライフサイクルにおける成人期 - 成人期とは - 成人期をめぐる諸理論と発達課題—エリクソン、ハヴィガースト、レビンソンなど - 女性のライフサイクル - 心の危機と問題 - ライフサイクルにおける中年期 - 中年とは - 中年期をめぐる諸理論と発達課題—ユング、ほか - 更年期の問題 - 心の危機と問題 - ライフサイクルにおける老年期 - 終末期(ターミナル)を生きる—いかに死ぬかということ - 老年期をめぐる諸理論と発達課題 - 心の危機と問題

	5. ライフサイクルにおける老いの諸相 ・高齢者と死 ・老いの現実 ・高齢者への心理的援助
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書・資料	参考書は適宜、授業の中で紹介するが、資料は講義内容に応じて配付する。
講義関連事項	心理学、心理学基礎論、発達心理学、臨床心理学、深層心理学など
担当者から一言	成人期、中年期、老年期をめぐるさまざまな問題に目を向けて、その問題意識を自分自身のこととして捉え、そのときに向けて「今、何を準備しておくのか」についても考えていきたいと思います。

授業コード	14025		
授業科目名	臨床心理学		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)
オフィスアワー	オンデマンドで		

講義の内容	精神医学で分類される心の病にどんなものがあるかを講義した上で、それらを理解するための理論を講義する。内容は1、フロイト理論、2、対象関係論、3、ユング理論の順で紹介する。随時事例を交え、理解しやすいように努める。まだ私は精神科医であり、ユング派の分析家であるため、ユングの概念の方をより詳しく、神話やおとぎ話を例に出しながら講ずる。そして、心理療法の基本的なことを紹介した上で夢分析の方法、箱庭療法などイメージを通した治療法を紹介する。
到達目標	この授業を通して、心の病の奥深さと無意識の力動性を理解してもらうこと。
講義方法	板書をレジュメ的にしつつ講義していく。
準備学習	『看護のための精神医学』など精神医学概論や河合隼雄『コンプレックス』『ユング心理学入門』などを講義と併行的に読むこと。
成績評価	学期末の記述試験による。持ち込み不可。
講義構成	1、臨床心理学とは何か。 2、臨床心理学のフィールド。 3、臨床心理学が対象とする心の病。 イ、神経症、ロ、精神病、ハ人格障害、 ニ、現代のトピックス;不登校、摂食障害、抑うつ、PTSD。 4、心の病を理解する理論。 イ、フロイト理論、ロ、対象関係論、ハ、マラー、 エリクソン、ニ、ユング理論。 5、心の病への心理療法。 イ、心理療法の基礎、ロ、心理療法の理論、ハ、夢理論、 ニ、夢分析の実際、ホ、箱庭療法、遊戯療法、他。
教科書	なし。
参考書・資料	『神話のなかの女たち』(横山博、人文書院)『心理療法 言葉／イメージ／宗教性』(横山博編、新曜社)『心理療法とこころの深層』(横山博、新曜社)『ユング心理学入門』(河合隼雄、倍風館)など。
担当者から一言	板書をメモるだけでは理解出来ないから注意。

授業コード	14017		
授業科目名	倫理思想基礎論		
担当者名	樫 則章(カタギ ノリアキ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)

講義の内容	倫理思想は確たる世界観に立脚した上で「私たちはどう生きるべきか」という問題に答え、私たち一人ひとりに人生観を与えるものでなければならない。このような認識のもと、本授業では、はじめに現代の規範倫理理論およびメタ倫理理論について概説し、次に現代の医学・医療が私たちにつきつける倫理的問題について検討します。要するに本授業の目的は、学生のみなさんが自分なりの倫理観、人生観(死生観)を形成する際の一助となることです。
到達目標	前期:全体としては、授業で取り上げられる規範倫理学説の概要を述べることを到達目標としますが、各回については授業用プリントに明示します。 後期:全体としては、前期で理解した規範倫理学説をふまえた上で、医学・医療に関する倫理的問題について自分なりの考えを述べることを到達目標としますが、各回については授業用プリントに明示します。
講義方法	前期・後期ともに教科書は使用せず、授業用プリントを使って講義形式で授業を進めます。また、パワーポイントを使って、写真、図表、動画を示しながら理解を深めることができますようにします。授業用プリントはMyKONANIにあります。第2回以降の分は各自でプリントアウトしてください。
準備学習	授業用プリントを事前にプリントアウトして、各回の到達目標を確認しておいてください。
成績評価	前期末および後期末の試験の成績で評価します。前期試験を受験しなかった場合、前期分の成績は0点として処理します。レポートの提出等で前期分の成績を評価することはしません。
講義構成	前期 01 倫理、倫理学、倫理的相対主義 02 倫理的主観主義と倫理的客観主義 03 倫理的利己主義 04 自然法思想 05 カント主義01 06 カント主義02 07 功利主義01 08 功利主義02 09 権利基底型倫理学 10 契約論倫理学 11 徳倫理学 12 ケア倫理学 13 その他の倫理理論(原則主義、決疑論、フェミニズム、障害学) 14 まとめ 15 試験 後期 01 現代社会と医学・医療 02 医師－患者関係とインフォームド・コンセント 03 医学研究の倫理 04 生命維持治療の不開始と中止 05 安楽死 06 脳死 07 移植医療 08 人工妊娠中絶 09 生命の選別 10 生殖補助医療 11 胚・胎児の研究と利用 12 遺伝子医療 13 健康権と医療権 14 まとめ 15 試験
教科書	前期・後期ともに教科書は使用しません。
参考書・資料	前期:リチャード・ノーマン『道徳の哲学者たち』(塚崎 智、石崎嘉彦、樫 則章監訳、ナカニシヤ出版、2001年)、マイケル・スミス『道徳の中心問題』(樫 則章監訳、ナカニシヤ出版、2006年) 後期:『生命倫理百科事典』(生命倫理百科事典翻訳刊行委員会編(代表:粟屋剛、編集幹事:樫 則章ほか)丸善株式会社、2007年)、伊勢田哲治・樫 則章編著『生命倫理学と功利主義』(ナカニシヤ出版、2006年)、伏木信次・樫 則章・霜田 求編著『生命倫理と医療倫理』、(金芳堂、2004年)、ピーター・シンガー『生と死の倫理』(樫 則章訳、昭和堂、1998年)、樫 則章ほか『医療と生命』(ナカニシヤ出版、2007年)
講義関連事項	倫理思想を理解するにはできるだけ広い視野に立てるようさまざまな分野に対して関心をもつ必要がありますが、とくに哲学思想基礎論は並行して受講してください。
担当者から一言	刺激的でおもしろく、めりはりのある理解しやすい授業になるよう努力します。

授業コード	14066		
授業科目名	倫理思想史(後)		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	金曜16:30分以降		

講義の内容	近代倫理思想の要を、哲学者カントと、同時代の文学者マルキ・ド・サドとを突き合わせることによって浮き彫りにする。そこから見えてくる現代社会の問題をともに考える。
到達目標	哲学と文学から出発して、われわれの在り方についての精神分析的理解をも目指す。
講義方法	講義形式で進める。
準備学習	特になし。
成績評価	学年末の試験で評価する。
講義構成	1. カント倫理学の基本としての「自由」の概念. 2. カントとフランス革命. 3. フランス革命と文学者サド. 4. M. ホルクハイマーTh. アドルフ『啓蒙の弁証法』における「カントとサド」. 5. ジャック・ラカンの論文「カントとサド」.
教科書	特になし。
参考書・資料	その都度指示する。

授業コード	15N61		
授業科目名	アジア史I (A)(前)		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	「アラブ史概説」 イスラーム誕生以降のアラブ世界の歴史を概説する。
到達目標	宗教思想としてのイスラームに関する基礎的な知識を得、様々な他者との接触を経て発展したアラブ世界の歴史展開を把握する。また現代の国際情勢に直結する問題でもある、アラブ世界の近代化の問題についても理解を深める。
講義方法	プリントと板書を併用した講義形式。適宜、映像資料を用いる。 受講者の理解度を測るために、毎回出席を兼ねた小レポートを課する。
準備学習	高校世界史の知識を前提にして講義を進めていくため、自信のない人は、高校時代の教科書で復習をしてから授業に望むように。
成績評価	出席率を含めた平常点と、学期末テストの成績を総合して評価する。
講義構成	1. アラブとイスラーム 2. アラブ世界の広がり 3. イスラームの始まり 4. イスラーム世界の拡大と分裂 5. ペルシア人とトルコ人 6. 十字軍とは何か 7. 十字軍時代の和平 8. サラディンと十字軍 9. モンゴルとアラブ 10. マムルーク朝時代の国際関係

	11. オスマン帝国によるアラブ支配 12. アラブ民族の形成と近代 13. 現代アラブと国際情勢 14. まとめ
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	講義中に指示する。

授業コード	15N62		
授業科目名	アジア史I (B)(後)		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00 木曜日12:20～13:00		

講義の内容	「中国・江南地方における地域社会と市鎮」 ここで江南地方とは、長江下流の南岸、南京・上海・杭州の3都市を結んだ地域をいう。経済的、文化的に見て、江南は、過去1000年間、中国における最先進地域であったし、今でもありつづけている。本講義は、この江南地方について、19世紀を中心に17世紀から20世紀前半を念頭におきつつ、社会経済史の側面から考察する。このことを通して、現代にもつながる中国(さらには東アジアの)近世社会の構造的特徴を理解したい。		
到達目標	現在の国境にとらわれず、〈地域〉間の結びつきに焦点をあわせて東アジアの歴史的展開を説明できる。		
講義方法	講義形式による。		
準備学習	第1回目に講義全体にかかわる基礎的な参考文献を紹介するので、なるべく早い時期にそれらに目を通しておくこと。		
成績評価	原則として学期末試験による。		
講義構成	第1回 はじめに 以下、講義は主として以下の3つの部分から構成される。 (1)人口の変遷と江南の開発(第2～5回) この章では、マクロ人口の動向とそれをめぐる諸問題を、移民・開発・商業化という側面に注目して概観する。あわせて全国的な動向と江南地方のそれとを対比することにより江南の地域的特徴について考える。 (2)都市化の進展と市鎮社会(第6～10回) ここでは明清時代を念頭におき、江南地方における商業化と都市化について概観し、あわせて市鎮(市場町)の発展とその機能をできるかぎり多面的に考察する。地域における中心地としての市鎮という観点から、江南地方の市鎮社会の成立、およびそこを舞台とする社会的諸事業の意義について考える。 (3)江南地方と日本(第11～14回) ここでは王朝国家体制下における江南地方の位置づけについて述べるとともに、国家の枠をこえた東アジア地域の中での江南地方について考える。 第15回 まとめ		
教科書	用いない。		
参考書・資料	講義中に随時紹介する。また、適宜プリントを配布する。		

授業コード	15N71		
授業科目名	アジア史Ⅱ (A)(前)		
担当者名	赤木崇敏(アカギ タカトシ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	テーマ:「アジアの歴史文化と世界遺産」 現在、世界ではグローバリズムやボーダーレス化が唱えられる一方で、民族・宗教間の紛争・対立が各地で絶えず起こっています。この対立・差別を超克するためにも、現実の世界は一律ではないこと、各地には多種多様な文化や宗教、歴史が根ざしていることを学んでいく必要があります。
-------	---

	本講義では、アジアの世界遺産のうち、中国とその周辺部に関わる文化遺産を採り上げて、その歴史的・文化的背景について考察します。ただの観光名所の案内解説ではなく、これら世界遺産という題材を通じて、アジアの諸文化の多様性やその歴史的背景について、各人が理解を深め思考することを目的とします。
到達目標	(1)北アジア～東アジア～中央アジアの歴史・文化に関する基礎知識を身につける。 (2)世界遺産および遺産を取り巻く諸問題について理解を深める。
講義方法	毎回プリントを配布し、板書を交えて講義する。また、適宜、パワーポイント・DVDなど映像資料も使用。
準備学習	過去プリントの復習。また、高校世界史教科書・資料集などで事項や地名を予習・復習するのがのぞましい。
成績評価	出席状況(小テスト30%)と、期末試験(70%)によって評価する。 小テストを1回も受験していなければ(＝全く出席していない場合)、成績評価しない。
講義構成	以下のトピックスを中心に授業を進める予定である。 (1)世界遺産概要 (2)「アジア」と「ヨーロッパ」のあいだ (3)アジアの地理と文化 (4)中国の仏教文化：峨眉山と樂山大仏～敦煌莫高窟 (5)東アジアの王朝文化：明・清朝の皇宮群～天壇・北京の皇帝の廟壇～古代高句麗王国の首都群と古墳群 (6)北アジアの文化：オルホン溪谷の文化的景観(モンゴル)～万里の長城 (7)チベットの文化：ラサのポタラ宮の歴史的遺跡群
教科書	特に指定しないが、過去の配布プリントを毎回持参すること。
参考書・資料	講義中に随時紹介する。

授業コード	15N72		
授業科目名	アジア史Ⅱ(B)(後)		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	「中世アラブの都市社会」 古来より、ユーラシア大陸とアフリカ大陸、地中海とインド洋との結節点として、政治、経済、文化面で重要な位置を占めてきたエジプト。特に、12世紀のサラディン(サラフッディーン)によるアイユーブ朝の統治以降、首都のカイロはアラブ世界、イスラーム世界の中心都市として発展し、今日に至っている。 この講義では、近年研究の進展が著しい中世のエジプト、特に13-15世紀のカイロに焦点を定め、当時の都市社会に暮らしたマムルーク(奴隷軍人)、ウラマー(知識人)、商人、民衆などの姿を描写する。
到達目標	マムルーク朝時代のカイロにおける様々な社会集団のあり方を理解し、中世アラブの都市社会の全体像を把握する。また日本、アジア、ヨーロッパなどの都市社会との比較から、当該地域の特殊性・共通性についても理解を深める。
講義方法	プリントと板書を併用した講義形式。適宜、映像資料を用いる。 受講者の理解度を測るために、毎回出席を兼ねた小レポートを課する。
準備学習	高校世界史の知識を前提にして講義を進めていくため、自信のない人は、高校時代の教科書で復習をしてから授業に望むように。
成績評価	出席率を含めた平常点と、学期末テストの成績を総合して評価する。
講義構成	1. イントロダクション 2. カイロの都市プランと建築 3. マムルーク朝政治史概観 4. 外来の支配エリートたち 5. 越境する支配エリート 6. イクター制度 7. ワクフ制度 8. イスラームの知とウラマー 9. あるウラマーの生涯 10. 交易ネットワークと大商人 11. スーフィー・聖者・墓参り 12. 中世アラブ民衆の世界 13. マムルーク朝の終焉と遠い近代

	14. まとめ
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	講義中に指示する。

授業コード	15017		
授業科目名	アジア史の諸問題（後・集中）		
担当者名	蓮田隆志（ハスダ タカシ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（水曜3限 集中講義）

講義の内容	歴史とは単なる過去の事実の羅列やロマンの産物などではない。時と場合によっては、人々が命を賭けて血みどろの戦いを繰り広げる戦場となる。逆に領土紛争など現実の政治上・経済上の対立において、歴史が自己の立場を正当化する武器になることもある。「地域」を考える上で、歴史を踏まえなければ何も語ることはできないと言ってよい。 この講義では東南アジアの歴史について、東南アジアだけでなくアジア全体を見渡す上で最低限の知識を獲得し、その後のより高度な学習・研究の基盤とすることを目標とする。講義レベルは主に1・2回生を想定したものとなるが、他地域に興味を持つ学生も有効な比較の視座を得られるであろう。 講義では現在との関係に強く配慮する。受講生は、現在と切り離された昔話や地名・年代の丸暗記と異なる、「学問」としての歴史学に触れることになるだろう。
到達目標	東南アジアの歴史が持つ特徴を、他者に説明できる程度の理解を獲得する。
講義方法	日本の東南アジア史研究は世界でも屈指の水準を誇るが、その成果の中からある程度標準的な学説をもとに東南アジアの歴史を概観する。その際、(1)周辺他地域との関係(2)扱うトピックが近代以降の歴史学や政治の中でどのように理解されてきたのか、の二点に特に配慮して講義を組み立てる。
準備学習	なじみの薄い地域なので、事前に地図帳などで地理感を養って欲しい。
成績評価	記述式の試験を行う。
講義構成	1. ガイダンスとウォーミングアップ 2. 先史・古代の東南アジア 3. 「古典期」の東南アジア 4. 近世の東南アジア:「伝統」社会の誕生 5. 植民地期の東南アジア 6. ナショナリズムの時代 7. 開発と国民国家形成
教科書	使用しない。毎回教員がプリント配布する。なお、プリントの再配布は行わないので、欠席する場合は各自で確保すること。

授業コード	15024		
授業科目名	アジア文化史（4単位）		
担当者名	大石真一郎（オオイシ シンイチロウ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜3限）、後期（木曜3限）

講義の内容	中東のみならず東南アジア、南アジア、中央アジア、北アフリカのほとんどの地域では、イスラームという宗教が社会・経済・文化に大きな影響を与えている。これらのイスラーム地域は、ヨーロッパや中華と並んで「世界史」を構成する重要な文明世界であり、その意味でイスラーム世界とも呼ばれる。本講義では、宗教としてのイスラームについての理解を踏まえた上で、イスラームの出現から現代にいたるイスラーム世界の歴史と文化を概説する。
到達目標	イスラーム史に関する基礎的な知識を身に付け、日本とも様々な分野で重要な関係を築きつつあるイスラーム社会への理解を深める。
講義方法	配付プリントと板書を併用した講義形式。
準備学習	講義の早い段階で、イスラームに関する基本的な文献を紹介するので、それらのいずれかを精読することが望

	ましい。
成績評価	年度末試験を基準とする。
講義構成	1 日本とイスラーム 2 研究入門 3 イスラーム以前のオリент 4 イスラームの出現 5 信仰と実践 6 イスラーム世界の拡大 7 テュルク人のイスラーム化 8 シーア派の分派 9 スーフィズム 10 復古主義的改革運動 11 近代主義的改革運動 12 イスラームと現代
教科書	教科書は用いない。資料は適宜配布する。

授業コード	15025		
授業科目名	アジア文化史 (2単位)(前)		
担当者名	大石真一郎(オオイシ シンイチロウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	中東のみならず東南アジア、南アジア、中央アジア、北アフリカのほとんどの地域では、イスラームという宗教が社会・経済・文化に大きな影響を与えている。これらのイスラーム地域は、ヨーロッパや中華と並んで「世界史」を構成する重要な文明世界であり、その意味でイスラーム世界とも呼ばれる。本講義では、イスラームの初期の歴史を概説するとともに、この宗教を特徴付けているイスラーム法に関して詳細に解説する。
到達目標	イスラーム史に関する基礎的な知識を身に付け、日本とも様々な分野で重要な関係を築きつつあるイスラーム社会への理解を深める。
講義方法	配付プリントと板書を併用した講義形式。
準備学習	講義の初期の段階で、イスラームに関する基本的な文献を紹介するので、それらのなかから興味のあるものを選んで、精読することが望ましい。
成績評価	年度末試験を基準とする。
講義構成	1 日本とイスラーム 2 研究入門 3 イスラーム以前のオリент 4 イスラームの出現 5 信仰と実践 6 イスラーム法 7 コーランとハディース 8 イスラーム法学の確立
教科書	教科書は用いない。

授業コード	15A01		
授業科目名	演習I (4単位)(稲田)		
担当者名	稲田 清一 (イナダ セイイチ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00 木曜日12:20～13:00		

講義の内容	「東アジアの歴史と文化」 中華文明が影響をあたえた範囲は広くほとんど全世界に及ぶが、とりわけ東アジア・東南アジア地域に著しい。現在、中国を含む東アジア・東南アジア地域は世界でもっとも活力にあふれた地域の一つであり、同時に混沌とした地域でもある。歴史的に日本とも深くかかわるこれらの地域の諸問題について関心のある学生諸君の参加を期待する。 この授業は演習形式で行われる。文献の検索方法から議論の仕方や報告の技法にいたるまで、「卒業研究」の作成に直結する準備をする場でもある。
到達目標	文献の探し方からプレゼンテーションまで、歴史研究の基礎的な力を身につける。
講義方法	参加者全員による演習形式とする。 (1)アジアにかんする文献を読み、討論する。今年度は「人口と家族」をテーマに史料の整理と関連文献を読む。 (2)参加者各自の興味にしたがって自分のテーマを決め、それについて調査し報告する。 (3)アジアにゆかりのある地や施設などを参観する。
準備学習	はじめに参考文献を紹介するので読んでくること。
成績評価	出席をふくむ平常点と学期末のレポートなどを総合して評価する。
講義構成	前期 第1回 オリエンテーション 第2～10回 「人口と家族」に関する史料の整理と関連文献のレポート 第11～15回 各自が選んだ研究テーマの報告 後期 第1回 オリエンテーション 第2～10回 「人口と家族」に関する史料の整理と関連文献のレポート 第11～15回 各自が選んだ研究テーマの報告
教科書	使用しない。
参考書・資料	資料は配付する。参考文献は随時紹介する。

授業コード	15A02		
授業科目名	演習I (4単位)(合田)		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日の昼休み		

講義の内容	西洋史に関するテーマ報告を通じて情報の収集と解析の仕方を学び、あわせてプレゼンテーション能力を培ってもらいます。
到達目標	卒業研究テーマの設定
講義方法	前期は手頃な文献の紹介・書評を、後期はテーマ報告をしていただきます。
準備学習	文献の読み込みとレジュメの作成
成績評価	出席と報告内容で評価します。
講義構成	毎時間、1名ないし2名が報告し、続いて質疑応答を行う。
教科書	定めない。

授業コード	15A03		
授業科目名	演習I (4単位)(佐藤)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	4

開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		
講義の内容	「日本古代史・中世史の研究」 各自が決めた研究テーマについて研究報告を行い、卒業論文の作成にむけて準備をします。 基本的な研究方法を習得するとともに、研究報告をもとに討論を行い、日本史についての知見を深め、討論の仕方を身につけることを目的とします。		
到達目標	調査・発表、討論、レポート作成の基本を身につける		
講義方法	毎回、担当者が研究報告を行い、それをもとに討論する。		
準備学習	研究報告の準備		
成績評価	平常点とレポート(前期・後期各1回)		
講義構成	1:ガイダンス 2:3回生の研究報告 3:2回生の研究報告		
教科書	なし		
参考書・資料	なし		
講義関連事項	史料研究Ⅰ・古文書学など日本史の史料を扱う講義を並行して履修することが望ましい。		

授業コード	15A04		
授業科目名	演習Ⅰ(4単位)(出口)		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	民俗と地域文化をかけたこのゼミでは、現場に立って感じたり、考えることを重視します。フットワーク軽く現場に出向き、土地の人との会話や観察、みずからの経験に知の表現をあたえられるよう、準備しましょう。 たとえば、祭りがテーマならば、競い合い、かつこよさ、美しさの共感、恥、見栄、愛着、そのための日常、人づきあい、鍛錬、克己・・・そんな観点からとりくみます。 文献も読みますが、めざすは己のフィールドを自分のことば・体で語ること。 2年次3年次と反復して、独創性のある卒論作成につなげていきましょう。
到達目標	だれにもまねできない自分のテーマを見つけ、人前で語り、人に共感・啓蒙していけるようになること フィールド巡検の企画の率先 卒論テーマの策定
講義方法	自分がやりたいテーマを見つけよう そのテーマと格闘しよう 関連する文献を集めてみよう 集めた文献を読んでみよう それで満足した？面白かった？ 面白くないなら、満足しないなら、満足できるもの、面白いものにするにはどうすればいい？ 人に伝えるためのレジュメをつくろう 仲間の発表に関心をもち、質問しよう 皆でひとつのテーマにとりくんでみよう 分担討議もお任せします どう？卒論の骨格はできた？ 春と秋の巡検にしよう！
準備学習	やりたいテーマを見つけるため、自分の心にとことんむきあうこと、ゼミの仲間意識を育てること、なにがあってもゼミには顔をだすこと、人の発表を聞き逃したら心底悔しがること、ゼミの時間を適度に過ぎさないこと、ゼミのことをいつも考えていること、その姿勢が準備学習です。
成績評価	出席が大原則です。そして、討議への参加、発表、レポートにより総合的に評価します。

講義構成	2年3年複式での授業です。 講義と実習、発表・討論で組み立てます。 前期1回、後期1回必ず口頭発表をしてもらいます。
教科書	使用しない
担当者から一言	ゼミは自分たちでつくりあげるところによさがあります。仲間のお世話や仕切ることも必要です。人のしていることに関心を持ち、助けたり、刺激を受けたり、悔しがったり、一緒になってよりよいゼミにしていきましょう。

授業コード	15A05		
授業科目名	演習I (4単位)(中辻)		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	日本や海外に関する地理学的研究の基礎を学ぶことを目的とする。具体的にはまず、地理学の方法論に関する文献の購読を行う。次に、各自の関心にそって文献購読を行い、地理学的な考え方や研究手法を学ぶとともに、卒業論文作成に向け、各自の関心をより具体化することを目指す。
到達目標	・ 地理学という学問分野についての基礎的な理解。 ・ 文献の探し方、読み方、レジュメの作り方、発表の仕方など、ゼミで必要となる技法を磨く。 ・ 地理学的研究で用いるさまざまな手法が使えるようになる。 ・ 各自の漠然とした問題意識を卒業論文の具体的なテーマに絞り込む。
講義方法	受講者全員による文献購読と討論、また各自の研究発表と討論を基本とします。
準備学習	日頃から図書館に通い、興味関心のある本を探して下さい。また、新聞を毎日読むよう訓練しましょう。
成績評価	授業への参加度と学期末に提出するレポートを中心に評価します。
講義構成	地理学に関する文献の全員での購読 調査テーマや調査地に関する文献収集の方法 各自の関心に基づく研究発表 野外調査と収集データの整理法 野外調査実習
教科書	特に指定しない。

授業コード	15A06		
授業科目名	演習I (4単位)(中町)		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	広く中東・イスラーム地域の歴史や文化に関する諸テーマを扱う。
到達目標	受講生それぞれにとって関心のあるテーマを扱った文献を輪読し、発表や討論を通じて、当該地域の歴史と文化についての具体的なイメージをつかむ。 また、神戸市近郊に存在する中東関係の様々な施設を見学し、身近にある異文化共存の問題について理解を深める。
講義方法	受講生による発表をメインとし、必要に応じて基本事項の解説を行う。 また中東関連施設の見学では、5-6名のグループを編成し、予備調査、調査準備、聞き取り、調査報告をグループ別に行う。
準備学習	受講生による発表では、具体的な文献の一つ選んでレビューするという形式を取ることがある。発表者以外の受

	講生にも文献のコピーをあらかじめ配布するので、必ず事前に目を通してから授業に望むこと。
成績評価	授業への参加度(平常点)と、学期末のレポートを総合して評価する。
講義構成	最初の1、2回はガイダンスとして、中東イスラーム地域に関する研究文献の調べ方、図書館レファレンスの利用の仕方を紹介する。 その後は受講生による発表および討論を行う。 課外見学については適宜、日程を調整しながら行いたい。
教科書	各回の発表担当者が指定する。
担当者から一言	希望者が集まれば、初学者向けのアラビア語勉強会を開催します。関心のある人、ゼミ生であるとないとを問わず、気軽に参加して下さい。

授業コード	15A07		
授業科目名	演習I (4単位)(鳴海)		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	この演習では、人文地理学の基礎的な考え方を学びながら、学生の希望するテーマについての知識を個々に深めていくことを目的とする。その過程では、文献の選び方やその講読、調べた課題の報告やそれに関する議論などを行い、卒業論文の作成に備える。
到達目標	選んだ研究課題の分析が行え、そのプレゼンができる。
講義方法	受講生全員による文献講読と討論、また担当者による報告を基本とする。
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。
成績評価	出席を基本とし、課題への取り組みや報告も含めて総合的に判断する。
講義構成	①文献講読、②研究報告、③巡検
教科書	特に指定しない。

授業コード	15A08		
授業科目名	演習I(4単位)(東谷)		
担当者名	東谷 智(ヒガシタニ サトシ)、佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、人見佐知子(ヒトミ サチコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	前期:木曜日昼休み 佐藤研究室 後期:木曜日12:20～14:20東谷研究室(10号館5階)		

講義の内容	受講生が選択したテーマに関わる基本的な文献を読み解き、基礎的な知識を身につける事を目的とする。
到達目標	自身が選んだテーマに関わる文献をまとめ、前期末に5,000字、後期末に8,000字のレポートを作成すること。
講義方法	受講生による発表。
準備学習	テーマ選択に当たり、教員に相談すること。
成績評価	講義への参加度および学年末に提出するレポートによって評価する。
講義構成	受講生による発表を毎回行う。 必要に応じて学外見学に出かける。
教科書	講義中に指示する。
参考書・資料	講義中に指示する。

授業コード	15A09		
授業科目名	演習I (4単位)(横山)		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	欧米近現代史の諸問題について、問題の所在を把握し、その理解を深めます。		
到達目標	欧米近現代史についての基本的知識の獲得。		
講義方法	最初に、共通のテキストを読み、欧米近現代史の研究において何が問題にされているのかについて把握し、その中で自分が関心をもつ分野を定めます。 次に、自分が焦点を定めた分野について、半期に少なくとも2回、通年で4回程報告します。		
準備学習	指定教科書を予め通読しておくことが望ましい。		
成績評価	出席、報告、議論への参加などを考慮した平常点評価を行います。		
講義構成	1. 導入、分担確認 2～5 欧米近現代史の諸問題についてのテキストの講読 6～14 個別発表 15. まとめ		
教科書	E・H・カー『歴史とは何か』(岩波新書)、大下尚一他編『西洋の歴史[近現代編]』(ミネルヴァ書房)		
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。		

担当者から一言	出席は厳密に取ります。発表のドタキャンは厳禁です。		
---------	---------------------------	--	--

授業コード	15C01		
授業科目名	演習I (2単位)(稲田)(前)		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00 木曜日12:20～13:00		

講義の内容	「東アジアの歴史と文化」 中華文明が影響をあたえた範囲は広くほとんど全世界に及ぶが、とりわけ東アジア・東南アジア地域に著しい。現在、中国を含む東アジア・東南アジア地域は世界でもっとも活力にあふれた地域の一つであり、同時に混沌とした地域でもある。歴史的に日本とも深くかわるこれらの地域の諸問題について関心のある学生諸君の参加を期待する。 この授業は演習形式で行われる。文献の検索方法から議論の仕方や報告の技法にいたるまで、「卒業研究」の作成に直結する準備をする場でもある。		
到達目標	文献の探し方からプレゼンテーションまで、歴史研究の基礎的な力を身につける。		
講義方法	参加者全員による演習形式とする。 (1)アジアにかんする文献を読み、討論する。今年度は「人口と家族」をテーマに史料の整理と関連文献を読む。 (2)参加者各自の興味にしたがって自分のテーマを決め、それについて調査し報告する。 (3)アジアにゆかりのある地や施設などを参観する。		
準備学習	はじめに参考文献を紹介するので読んでくること。		
成績評価	出席をふくむ平常点と学期末のレポートなどを総合して評価する。		
講義構成	第1回 オリエンテーション		

	第2～10回 「人口と家族」に関する史料の整理と関連文献のレポート 第11～15回 各自が選んだ研究テーマの報告
教科書	使用しない。
参考書・資料	資料は配付する。参考文献は随時紹介する。

授業コード	15C02		
授業科目名	演習I (2単位)(合田)(前)		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日の昼休み		

講義の内容	西洋史に関するテーマ報告を通じて情報の収集と解析の仕方を学び、あわせてプレゼンテーション能力を培ってもらいます。		
到達目標	卒業研究テーマの設定		
講義方法	手頃な文献の紹介・書評、またはテーマ報告をしていただきます。		
準備学習	文献の読み込みとレジュメの作成		
成績評価	出席と報告内容で評価します。		
講義構成	毎時間、1名ないし2名が報告し、続いて質疑応答を行う。		
教科書	定めない。		

授業コード	15C03		
授業科目名	演習I (2単位)(佐藤)(前)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	「日本古代史・中世史の研究」 各自が決めた研究テーマについて研究報告を行い、卒業論文の作成にむけて準備をします。 基本的な研究方法を習得するとともに、研究報告をもとに討論を行い、日本史についての知見を深め、討論の仕方を身につけることを目的とします。		
到達目標	調査・発表、討論、レポート作成の基本を身につける		
講義方法	毎回、担当者が研究報告を行い、それをもとに討論する。		
準備学習	研究報告の準備		
成績評価	平常点とレポート(前期・後期各1回)		
講義構成	1:ガイダンス 2:3回生の研究報告 3:2回生の研究報告		
教科書	なし		
参考書・資料	なし		
講義関連事項	史料研究 I・古文書学など日本史の史料を扱う講義を並行して履修することが望ましい。		

授業コード	15C04		
授業科目名	演習I (2単位)(出口)(前)		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	民俗と地域文化をかけたこのゼミでは、現場に立って感じたり、考えることを重視します。フットワーク軽く現場に向き、土地の人との会話や観察、みずからの経験に知の表現をあたえられるよう、準備しましょう。 たとえば、祭りがテーマならば、競い合い、かつこよさ、美しさの共感、恥、見栄、愛着、そのための日常、人づきあい、鍛錬、克己・・・そんな観点からとりくみます。 文献も読みますが、めざすは己のフィールドを自分のことば・体で語ること。 2年次3年次と反復して、独創性のある卒論作成につなげていきましょう。
到達目標	だれにもまねできない自分のテーマを見つけ、人前で語り、人に共感・啓蒙していけるようになること フィールド巡検の企画の率先 卒論テーマの策定
講義方法	自分がやりたいテーマを見つけよう そのテーマと格闘しよう 関連する文献を集めてみよう 集めた文献を読んでみよう それで満足した？面白かった？ 面白くないなら、満足しないなら、満足できるもの、面白いものにするにはどうすればいい？ 人に伝えるためのレジュメをつくろう 仲間の発表に関心をもち、質問しよう 皆でひとつのテーマにとりくんでみよう どう？フィールド研究の端緒はつかめた？ 春の巡検にいこう！
準備学習	やりたいテーマを見つけるため、自分の心にとことんむきあうこと、ゼミの仲間意識を育てること、なにがあってもゼミには顔をだすこと、人の発表を聞き逃したら心底悔しがること、ゼミの時間を適当に過ぎさないこと、ゼミのことをいつも考えていること、その姿勢が準備学習です。
成績評価	出席が大原則です。そして、討議への参加、発表、レポートにより総合的に評価します。
講義構成	2年3年複式での授業です。 講義と実習、発表・討論で組み立てます。 前期1回必ず口頭発表をしてもらいます。
教科書	使用しない
担当者から一言	ゼミは自分たちでつくりあげるところによさがあります。仲間のお世話や仕切ることも必要です。人のしていることに関心をもち、助けたり、刺激をうけたり、悔しがったり、一緒になってよりよいゼミにしていきましょう。

授業コード	15C05		
授業科目名	演習I (2単位)(中辻)(前)		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		

講義の内容	日本や海外に関する地理学的研究の基礎を学ぶことを目的とする。具体的にはまず、地理学の方法論に関する文献の購読を行う。次に、各自の関心にそって文献購読を行い、地理学的な考え方や研究手法を学ぶとともに、卒業論文作成に向け、各自の関心をより具体化することを目指す。
-------	---

到達目標	・ 地理学という学問分野についての基礎的な理解。 ・ 文献の探し方、読み方、レジュメの作り方、発表の仕方など、ゼミで必要となる技法を磨く。 ・ 地理学的研究で用いるさまざまな手法が使えるようになる。 ・ 各自の漠然とした問題意識を卒業論文の具体的なテーマに絞り込む。
講義方法	受講者全員による文献購読と各自の研究発表、発表に対する全体での討論を基本とします。
準備学習	日頃から書店や図書館に通い、興味関心のある本を探して下さい。また、新聞を毎日読むよう訓練しましょう。
成績評価	授業への参加度と学期末に提出するレポートを中心に評価します。
講義構成	地理学に関する文献の全員での購読 調査テーマや調査地に関する文献収集の方法 各自の関心に基づく研究発表 野外調査と収集データの整理法 野外調査実習
教科書	特に指定しない。

授業コード	15C06		
授業科目名	演習I (2単位)(中町)(前)		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	広く中東・イスラーム地域の歴史や文化に関する諸テーマを扱う。
到達目標	受講生それぞれにとって関心のあるテーマを扱った文献を輪読し、発表や討論を通じて、当該地域の歴史と文化についての具体的なイメージをつかむ。 また、神戸市近郊に存在する中東関係の様々な施設を見学し、身近にある異文化共存の問題について理解を深める。
講義方法	受講生による発表をメインとし、必要に応じて基本事項の解説を行う。 また中東関連施設の見学では、5-6名のグループを編成し、予備調査、調査準備、聞き取り、調査報告をグループ別に行う。
準備学習	受講生による発表では、具体的な文献の一つ選んでレビューするという形式を取ることがある。発表者以外の受講生にも文献のコピーをあらかじめ配布するので、必ず事前に目を通してから授業に望むこと。
成績評価	授業への参加度(平常点)と、学期末のレポートを総合して評価する。
講義構成	最初の1、2回はガイダンスとして、中東イスラーム地域に関する研究文献の調べ方、図書館レファレンスの利用の仕方を紹介する。 その後は受講生による発表および討論を行う。 課外見学については適宜、日程を調整しながら行いたい。
教科書	各回の発表担当者が指定する。

担当者から一言	希望者が集まれば、初学者向けのアラビア語勉強会を開催します。関心のある人、ゼミ生であるとないとを問わず、気軽に参加して下さい。
---------	---

授業コード	15C07		
授業科目名	演習I (2単位)(鳴海)(前)		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		

講義の内容	この演習では、人文地理学の基礎的な考え方を学びながら、学生の希望するテーマについての知識を個々に深めていくことを目的とする。その過程では、文献の選び方やその講読、調べた課題の報告やそれに関する議論などを行い、卒業論文の作成に備える。
到達目標	選んだ研究課題の分析が行え、そのプレゼンができる。
講義方法	受講生全員による文献講読と討論、また担当者による報告を基本とする。
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。
成績評価	出席を基本とし、課題への取り組みや報告も含めて総合的に判断する。
講義構成	①文献講読、②研究報告、③巡検
教科書	特に指定しない。

授業コード	15C08		
授業科目名	演習I (2単位)(東谷)(前)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、人見佐知子(ヒトミ サチコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み 佐藤研究室		

講義の内容	受講生が選択したテーマに関わる基本的な文献を読み解き、基礎的な知識を身につける事を目的とする。		
到達目標	自身が選んだテーマに関わる文献をまとめ、学期末に5,000字のレポートを作成すること。		
講義方法	受講生による発表。		
準備学習	テーマ選択に当たり、教員に相談すること。		
成績評価	講義への参加度および学期末に提出するレポートによって評価する。		
講義構成	受講生による発表を毎回行う。 必要に応じて学外見学に出かける。		
教科書	講義中に指示する。		
参考書・資料	講義中に指示する。		

授業コード	15C09		
授業科目名	演習I (2単位)(横山)(前)		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	欧米近現代史の諸問題について、問題の所在を把握し、その理解を深めます。		
到達目標	欧米近現代史についての基礎的知識の獲得。		
講義方法	最初に、共通のテキストを読み、欧米近現代史の研究において何が問題にされているのかについて把握し、その中で自分が関心をもつ分野を定めます。 次に、自分が焦点を定めた分野について、半期に少なくとも2回、通年で4回程報告します。		
準備学習	指定教科書を予め通読しておくことが望ましい。		
成績評価	出席、報告、議論への参加などを考慮した平常点評価を行います。		
講義構成	1. 導入、分担確認		

	2～5 欧米近現代史の諸問題についてのテキストの講読 6～14 個別発表 15. まとめ
教科書	E・H・カー『歴史とは何か』(岩波新書)、大下尚一他編『西洋の歴史[近現代編]』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。
担当者から一言	出席は厳密に取ります。発表のドタキャンは厳禁です。

授業コード	15F01		
授業科目名	演習Ⅱ(2単位)(稲田)(後)		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00 木曜日12:20～13:00		

講義の内容	「東アジアの歴史と文化」 中華文明が影響をあたえた範囲は広くほとんど全世界に及ぶが、とりわけ東アジア・東南アジア地域に著しい。現在、中国を含む東アジア・東南アジア地域は世界でもっとも活力にあふれた地域の一つであり、同時に混沌とした地域でもある。歴史的に日本とも深くかわるこれらの地域の諸問題について関心のある学生諸君の参加を期待する。 この授業は演習形式で行われる。文献の検索方法から議論の仕方や報告の技法にいたるまで、「卒業研究」の作成に直結する準備をする場でもある。
到達目標	文献の探し方からプレゼンテーションまで、歴史研究の基礎的な力を身につける。
講義方法	参加者全員による演習形式とする。 (1)アジアにかんする文献を読み、討論する。今年度は「人口と家族」をテーマに史料の整理と関連文献を読む。 (2)参加者各自の興味にしたがって自分のテーマを決め、それについて調査し報告する。 (3)アジアにゆかりのある地や施設などを参観する。
準備学習	はじめに参考文献を紹介するので読んでくること。
成績評価	出席をふくむ平常点と学期末のレポートなどを総合して評価する。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2～10回 「人口と家族」に関する史料の整理と関連文献のレポート 第11～15回 各自が選んだ研究テーマの報告
教科書	使用しない。
参考書・資料	資料は配付する。参考文献は随時紹介する。

授業コード	15F02		
授業科目名	演習Ⅱ(2単位)(合田)(後)		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日の昼休み		

講義の内容	西洋史に関するテーマ報告を通じて情報の収集と解析の仕方を学び、あわせてプレゼンテーション能力を培ってもらいます。
到達目標	卒業研究テーマの設定
講義方法	手頃な文献の紹介・書評、またはテーマ報告をしていただきます。

準備学習	文献の読み込みとレジュメの作成
成績評価	出席と報告内容で評価します。
講義構成	毎時間、1名ないし2名が報告し、続いて質疑応答を行う。
教科書	定めない。

授業コード	15F03		
授業科目名	演習Ⅱ(2単位)(佐藤)(後)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	「日本古代史・中世史の研究」 各自が決めた研究テーマについて研究報告を行い、卒業論文の作成にむけて準備をします。 基本的な研究方法を習得するとともに、研究報告をもとに討論を行い、日本史についての知見を深め、討論の仕方を身につけることを目的とします。
到達目標	調査・発表、討論、レポート作成の基本を身につける
講義方法	毎回、担当者が研究報告を行い、それをもとに討論する。
準備学習	研究報告の準備
成績評価	平常点とレポート(前期・後期各1回)
講義構成	1:ガイダンス 2:3回生の研究報告 3:2回生の研究報告
教科書	なし
参考書・資料	なし
講義関連事項	史料研究Ⅰ・古文書学など日本史の史料を扱う講義を並行して履修することが望ましい。

授業コード	15F04		
授業科目名	演習Ⅱ(2単位)(出口)(後)		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	民俗と地域文化をかかげるこのゼミでは、現場に立って感じたり、考えることを重視します。フットワーク軽く現場に出向き、土地の人との会話や観察、みずからの経験に知の表現をあたえられるよう、準備しましょう。 たとえば、祭りがテーマならば、競い合い、かつこよさ、美しさの共感、恥、見栄、愛着、そのための日常、人づきあい、鍛錬、克己・・・そんな観点からとくみます。 文献も読みますが、めざすは己のフィールドを自分のことば・体で語ること。 2年次3年次と反復して、独創性のある卒論作成につなげていきましょう。
到達目標	だれにもまねできない自分のテーマを見つけ、人前で語り、人に共感・啓蒙していけるようになること フィールド巡検の企画の率先 卒論テーマの策定
講義方法	自分がやりたいテーマを見つけよう そのテーマと格闘しよう

	関連する文献を集めてみよう 集めた文献を読んでみよう それで満足した？面白かった？ 面白くないなら、満足しないなら、満足できるもの、面白いものにするにはどうすればいい？ 人に伝えるためのレジュメをつくろう 仲間の発表に関心をもち、質問しよう 皆でひとつのテーマにとりくんでみよう 分担討議もお任せします どう？卒論の骨格はできた？ 秋の巡検にいこう！
準備学習	やりたいテーマを見つけるため、自分の心にとことんむきあうこと、ゼミの仲間意識を育てること、なにがあってもゼミには顔をだすこと、人の発表を聞き逃したら心底悔しがること、ゼミの時間を適当に過ぎさないこと、ゼミのことをいつも考えていること、その姿勢が準備学習です。
成績評価	出席が大原則です。そして、討議への参加、発表、レポートにより総合的に評価します。
講義構成	2年3年複式での授業です。 講義と実習、発表・討論で組み立てます。 後期1回必ず口頭発表をしてもらいます。
教科書	使用しない
担当者から一言	ゼミは自分たちでつくりあげるところによさがあります。仲間のお世話や仕切ることも必要です。人のしていることに関心をもち、助けたり、刺激をうけたり、悔しがったり、一緒になってよりよいゼミにしていきたいと思います。

授業コード	15F05		
授業科目名	演習Ⅱ(2単位)(中辻)(後)		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜2限		

講義の内容	日本や海外に関する地理学的研究の基礎を学ぶことを目的とする。具体的にはまず、地理学の方法論に関する文献の購読を行う。次に、各自の関心にそって文献購読を行い、地理学的な考え方や研究手法を学ぶとともに、卒業論文作成に向け、各自の関心をより具体化することを目指す。
到達目標	・ 地理学という学問分野についての基礎的な理解。 ・ 文献の探し方、読み方、レジュメの作り方、発表の仕方など、ゼミで必要となる技法を磨く。 ・ 地理学的研究で用いるさまざまな手法が使えるようになる。 ・ 各自の漠然とした問題意識を卒業論文の具体的なテーマに絞り込む。
講義方法	受講者全員による文献購読と各自の研究発表、発表に対する討論を基本とします。
準備学習	日頃から書店や図書館に通い、興味関心のある本を探して下さい。また、新聞を毎日読むよう訓練しましょう。
成績評価	授業への参加度と学期末に提出するレポートを中心に評価します。
講義構成	地理学に関する文献の全員での購読 調査テーマや調査地に関する文献収集の方法 各自の関心に基づく研究発表 野外調査と収集データの整理法 野外調査実習
教科書	特に指定しない。

授業コード	15F06
授業科目名	演習Ⅱ(2単位)(中町)(後)
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	広く中東・イスラーム地域の歴史や文化に関する諸テーマを扱う。
到達目標	受講生それぞれにとって関心のあるテーマを扱った文献を輪読し、発表や討論を通じて、当該地域の歴史と文化についての具体的なイメージをつかむ。 また、神戸市近郊に存在する中東関係の様々な施設を見学し、身近にある異文化共存の問題について理解を深める。
講義方法	受講生による発表をメインとし、必要に応じて基本事項の解説を行う。 また中東関連施設の見学では、5-6名のグループを編成し、予備調査、調査準備、聞き取り、調査報告をグループ別に行う。
準備学習	受講生による発表では、具体的な文献の一つ選んでレビューするという形式を取ることがある。発表者以外の受講生にも文献のコピーをあらかじめ配布するので、必ず事前に目を通してから授業に望むこと。
成績評価	授業への参加度(平常点)と、学期末のレポートを総合して評価する。
講義構成	最初の1、2回はガイダンスとして、中東イスラーム地域に関する研究文献の調べ方、図書館レファレンスの利用の仕方を紹介する。 その後は受講生による発表および討論を行う。 課外見学については適宜、日程を調整しながら行いたい。
教科書	各回の発表担当者が指定する。
担当者から一言	希望者が集まれば、初学者向けのアラビア語勉強会を開催します。関心のある人、ゼミ生であるとないとを問わず、気軽に参加して下さい。

授業コード	15F07		
授業科目名	演習Ⅱ(2単位)(鳴海)(後)		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録		

講義の内容	この演習では、人文地理学の基礎的な考え方を学びながら、学生の希望するテーマについての知識を個々に深めていくことを目的とする。その過程では、文献の選び方やその講読、調べた課題の報告やそれに関する議論などを行い、卒業論文の作成に備える。		
到達目標	選んだ研究課題の分析が行え、そのプレゼンができる。		
講義方法	受講生全員による文献講読と討論、また担当者による報告を基本とする。		
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。		
成績評価	出席を基本とし、課題への取り組みや報告も含めて総合的に判断する。		
講義構成	①文献講読、②研究報告、③巡検		
教科書	特に指定しない。		

授業コード	15F08		
授業科目名	演習Ⅱ(2単位)(東谷)(後)		
担当者名	東谷 智(ヒガシタニ サトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

特記事項	自動登録
オフィスアワー	木曜日12:20～14:20 東谷研究室(10号館5階)
講義の内容	受講生が選択したテーマに関わる基本的な文献を読み解き、基礎的な知識を身につける事を目的とする。
到達目標	自身が選んだテーマに関わる文献をまとめ、学期末に8,000字のレポートを作成すること。
講義方法	受講生による発表。
準備学習	テーマ選択に当たり、教員に相談すること。
成績評価	講義への参加度および学年末に提出するレポートによって評価する。
講義構成	受講生による発表を毎回行う。 必要に応じて学外見学に出かける。
教科書	講義中に指示する。
参考書・資料	講義中に指示する。

授業コード	15F09		
授業科目名	演習Ⅱ(2単位)(横山)(後)		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	欧米近現代史の諸問題について、問題の所在を把握し、その理解を深めます。
到達目標	欧米近現代史の基本構造の把握。
講義方法	最初に、共通のテキストを読み、欧米近現代史の研究において何が問題にされているのかについて把握し、その中で自分が関心をもつ分野を定めます。 次に、自分が焦点を定めた分野について、半期に少なくとも2回、通年で4回程報告します。
準備学習	指定教科書を通読しておくことが望ましい。
成績評価	出席、報告、議論への参加などを考慮した平常点評価を行います。
講義構成	1. 導入、分担確認 2～5 欧米近現代史の諸問題についてのテキストの講読 6～14 個別発表 15. まとめ
教科書	特にありません。
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。
担当者から一言	出席は厳密に取ります。発表のドタキャンは厳禁です。

授業コード	15J01		
授業科目名	演習Ⅱ(4単位)(稲田)		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00 木曜日12:20～13:00		
講義の内容	「東アジアの歴史と文化」		

	中華文明が影響をあたえた範囲は広くほとんど全世界に及ぶが、とりわけ東アジア・東南アジア地域に著しい。現在、中国を含む東アジア・東南アジア地域は世界でもっとも活力にあふれた地域の一つであり、同時に混沌とした地域でもある。歴史的に日本とも深くかわるこれらの地域の諸問題について関心のある学生諸君の参加を期待する。 この授業は演習形式で行われる。文献の検索方法から議論の仕方や報告の技法にいたるまで、「卒業研究」の作成に直結する準備をする場でもある。
到達目標	文献の探し方からプレゼンテーションまで、歴史研究の基礎的な力を身につける。
講義方法	参加者全員による演習形式とする。 (1)アジアにかんする文献を読み、討論する。今年度は「人口と家族」をテーマに史料の整理と関連文献を読む。 (2)参加者各自の興味にしたがって自分のテーマを決め、それについて調査し報告する。 (3)アジアにゆかりのある地や施設などを参観する。
準備学習	はじめに参考文献を紹介するので読んでくること。
成績評価	出席をふくむ平常点と学期末のレポートなどを総合して評価する。
講義構成	前期 第1回 オリエンテーション 第2～10回 「人口と家族」に関する史料の整理と関連文献のレポート 第11～15回 各自が選んだ研究テーマの報告 後期 第1回 オリエンテーション 第2～10回 「人口と家族」に関する史料の整理と関連文献のレポート 第11～15回 各自が選んだ研究テーマの報告
教科書	使用しない。
参考書・資料	資料は配付する。参考文献は随時紹介する。

授業コード	15J02		
授業科目名	演習Ⅱ(4単位)(合田)		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日の昼休み		

講義の内容	西洋史に関するテーマ報告を通じて情報の収集と解析の仕方を学び、あわせてプレゼンテーション能力を培ってもらいます。
到達目標	卒業研究テーマの設定
講義方法	前期は手頃な文献の紹介・書評を、後期はテーマ報告をしていただきます。
準備学習	文献の読み込みとレジュメの作成
成績評価	出席と報告内容で評価します。
講義構成	毎時間、1名ないし2名が報告し、続いて質疑応答を行う。
教科書	定めない。

授業コード	15J03		
授業科目名	演習Ⅱ(4単位)(佐藤)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	4

開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		
講義の内容	「日本古代史・中世史の研究」 各自が決めた研究テーマについて研究報告を行い、卒業論文の作成にむけて準備をします。 基本的な研究方法を習得するとともに、研究報告をもとに討論を行い、日本史についての知見を深め、討論の仕方を身につけることを目的とします。		
到達目標	調査・発表、討論、レポート作成の基本を身につける		
講義方法	毎回、担当者が研究報告を行い、それをもとに討論する。		
準備学習	研究報告の準備		
成績評価	平常点とレポート(前期・後期各1回)		
講義構成	1:ガイダンス 2:3回生の研究報告 3:2回生の研究報告		
教科書	なし		
参考書・資料	なし		
講義関連事項	史料研究Ⅰ・古文書学など日本史の史料を扱う講義を並行して履修することが望ましい。		

授業コード	15J04		
授業科目名	演習Ⅱ(4単位)(出口)		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	民俗と地域文化をかけたこのゼミでは、現場に立って感じたり、考えることを重視します。フットワーク軽く現場に出向き、土地の人との会話や観察、みずからの経験に知の表現をあたえられるよう、準備しましょう。 たとえば、祭りがテーマならば、競い合い、かつこよさ、美しさの共感、恥、見栄、愛着、そのための日常、人づきあい、鍛錬、克己・・・そんな観点からとりくみます。 文献も読みますが、めざすは己のフィールドを自分のことば・体で語ること。 2年次3年次と反復して、独創性のある卒論作成につなげていきましょう。
到達目標	だれにもまねできない自分のテーマを見つけ、人前で語り、人に共感・啓蒙していけるようになること フィールド巡検の企画の率先 卒論テーマの策定
講義方法	自分がやりたいテーマを見つけよう そのテーマと格闘しよう 関連する文献を集めてみよう 集めた文献を読んでみよう それで満足した？面白かった？ 面白くないなら、満足しないなら、満足できるもの、面白いものにするにはどうすればいい？ 人に伝えるためのレジュメをつくろう 仲間の発表に関心をもち、質問しよう 皆でひとつのテーマにとりくんでみよう 分担討議もお任せします どう？卒論の骨格はできた？ 春と秋の巡検にいこう！
準備学習	やりたいテーマを見つけるため、自分の心にとことんむきあうこと、ゼミの仲間意識を育てること、なにがあってもゼミには顔をだすこと、人の発表を聞き逃したら心底悔しがること、ゼミの時間を適当に過ごさないこと、ゼミのことをいつも考えていること、その姿勢が準備学習です。
成績評価	出席が大原則です。そして、討議への参加、発表、レポートにより総合的に評価します。

講義構成	2年3年複式での授業です。 講義と実習、発表・討論で組み立てます。 前期1回、後期1回必ず口頭発表をしてもらいます。
教科書	使用しない
担当者から一言	ゼミは自分たちでつくりあげるところによさがあります。仲間のお世話や仕切ることも必要です。人のしていることに関心を持ち、助けたり、刺激を受けたり、悔しがったり、一緒になってよりよいゼミにしていきましょう。

授業コード	15J05		
授業科目名	演習II (4単位)(中町)		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	広く中東・イスラーム地域の歴史や文化に関する諸テーマを扱う。
到達目標	受講生それぞれにとって関心のあるテーマを扱った文献を輪読し、発表や討論を通じて、当該地域の歴史と文化についての具体的なイメージをつかむ。 また、神戸市近郊に存在する中東関係の様々な施設を見学し、身近にある異文化共存の問題について理解を深める。
講義方法	受講生による発表をメインとし、必要に応じて基本事項の解説を行う。 また中東関連施設の見学では、5-6名のグループを編成し、予備調査、調査準備、聞き取り、調査報告をグループ別に行う。
準備学習	受講生による発表では、具体的な文献を一つ選んでレビューするという形式を取ることがある。発表者以外の受講生にも文献のコピーをあらかじめ配布するので、必ず事前に目を通してから授業に望むこと。
成績評価	授業への参加度(平常点)と、学期末のレポートを総合して評価する。
講義構成	最初の1、2回はガイダンスとして、中東イスラーム地域に関する研究文献の調べ方、図書館レファレンスの利用の仕方を紹介する。 その後は受講生による発表および討論を行う。 課外見学については適宜、日程を調整しながら行いたい。
教科書	各回の発表担当者が指定する。
担当者から一言	希望者が集まれば、初学者向けのアラビア語勉強会を開催します。関心のある人、ゼミ生であるとないとを問わず、気軽に参加して下さい。

授業コード	15J06		
授業科目名	演習II (4単位)(鳴海)		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	この演習では、人文地理学の基礎的な考え方を学びながら、学生の希望するテーマについての知識を個々に深めていくことを目的とする。その過程では、文献の選び方やその講読、調べた課題の報告やそれに関する議論などを行い、卒業論文の作成に備える。
到達目標	選んだ研究課題の分析が行え、そのプレゼンができる。
講義方法	受講生全員による文献講読と討論、また担当者による報告を基本とする。
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。

成績評価	出席を基本とし、課題への取り組みや報告も含めて総合的に判断する。
講義構成	①文献講読、②研究報告、③巡検
教科書	特に指定しない。

授業コード	15J07		
授業科目名	演習Ⅱ(4単位)(東谷)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、東谷 智(ヒガシタニ サトシ)、人見佐知子(ヒトミ サチコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日12:20～14:20 東谷研究室(10号館5階)		

講義の内容	受講生が選択したテーマについて、先行研究をまとめるとともに、分析の素材を見出し、分析方法を会得することを目的とする。
到達目標	自身が選んだテーマに関わる文献をまとめ、前期末に5,000字、後期末に14,000字のレポートを作成すること。
講義方法	受講生による発表。
準備学習	テーマ選択に当たり、教員に相談すること。
成績評価	講義への参加度および学年末に提出するレポートによって評価する。
講義構成	受講生による発表を毎回行う。 必要に応じて学外見学に出かける。
教科書	講義中に指示する。
参考書・資料	講義中に指示する。

授業コード	15J08		
授業科目名	演習Ⅱ(4単位)(横山)		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	欧米近現代史の諸問題について、問題の所在を把握し、その理解を深めます。
到達目標	欧米近現代史に関する基礎的知識の獲得。
講義方法	最初に、共通のテキストを読み、欧米近現代史の研究において何が問題にされているのかについて把握し、その中で自分が関心をもつ分野を定めます。 次に、自分が焦点を定めた分野について、半期に少なくとも2回、通年で4回程報告します。
準備学習	指定教科書を予め通読しておくことが望ましい。
成績評価	出席、報告、議論への参加などを考慮した平常点評価を行います。
講義構成	1. 導入、分担確認 2～5 欧米近現代史の諸問題についてのテキストの講読 6～14 個別発表 15. まとめ
教科書	E・H・カー『歴史とは何か』、大下尚一他編『西洋の歴史[近現代編]』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。

担当者から一言	出席は厳密に取ります。発表のドタキャンは厳禁です。
---------	---------------------------

授業コード	15061		
授業科目名	観光文明学I (集中)		
担当者名	真板昭夫(マイタ アキオ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	1970年代に提唱された持続的な資源の利用をベースに1980年代から世界各地で始められた自然や歴史文化の環境保全を実現するために進められている「エコツーリズム開発の現状と課題」について我が国内外での実践事例を元に講義を進めていく。そして地域の人々の誇りである有形無形の「宝」遺産を持続的に保全利用しながら、未来に引き継ぎ、「持続的な観光地域づくりを行っていく仕掛けとはどうあるべきか」の謎解き！！を行います。		
到達目標	1、エコツーリズムの発生と歴史について理解し、その社会的な意義について説明できる。 2、国内国外におけるエコツーリズムの事例からエコツーリズムと地域おこしの関係を理解し、その具体策に着いていくつか発表出来るようになる。 3、エコツーリズム推進のプロセスと組み立ての構造を説明出来る。 4、エコツーリズムの宝探しから宝興しまでの企画プロデュース能力を身につける。		
講義方法	講義においてはOHPやパワーポイント、ビデオを用いて講義を進めていく。また各時間ごとに講義内容についての関連項目の個人発表を学生が出席者の前でレポートする作業を実施する。		
準備学習	1、観光資源の持続的利用と保全について事前学習のために、世界思想社から出ている「大覚寺大沢池景観修復プロジェクト——古代と現代を結ぶ文化遺産」と世界思想社「観光デザイン学の創造」のエコツーリズムデザインの章を事前に読むように。		
成績評価	出席時間数と最後の課題レポートの提出によって総合評価する。		
講義構成	1、エコツーリズムの歴史(1) 2、エコツーリズムの理論フレーム(2) 3、国内に置けるエコツーリズム開発事例 3-1 西表島(3)(4) 3-2 南大東村(5) 3-3 二戸市(6)(7) 4、国外でのエコツーリズム開発事例 4-1 フィジー(8) 4-2 ガラパゴス諸島(9)(10) 4-5 マカオ(11) 4-6 ボスニアヘルツゴビナ(12) 5、エコツーリズムの新展開と地域おこし 理論フレームと課題(13) 6、人びとの誇りを未来に引き継いでいくには(14) 7、まとめと小論文作成テスト(15)		
教科書	世界思想社「大覚寺大沢池景観修復プロジェクト——古代と現代を結ぶ文化遺産」		
参考書・資料	世界思想社「観光デザイン学の創造」		

担当者から一言	環境保全に関わるNPOの世界の動向や、将来JICA等で働きたい人、世界遺産の保全と利用に着いて学びたい人はぜひ講義に参加してください。
ホームページタイトル	私のホームページがあります「真板昭夫」で検索してください。
URL	http://www.akio-maita.com/

授業コード	15062		
授業科目名	観光文明学II (前)		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	水昼休み(後期)		

講義の内容	現代の観光を中心に、観光にもとめられるもの、観光地の盛衰、これからの観光のありかたを具体的な事例をとりあげながら講義する。 人数によっては、一緒に日帰り観光に出かけることもしたい。
到達目標	旅は行動しなければ、はじまらない。本講義から、その気になって、自分で旅にでること、そのコンセプトを組み立てること。
講義方法	ビデオや豊富なスライドを見たり、旅雑誌・フリーペーパーなどを資料に使いながら講義。 リアルタイムな旅の現場を通してホットな話を伝え、考える講義にする。
準備学習	機会をとらえて旅をすること、億劫がらずに知らない世界に飛び込むこと、それがなによりの準備学習だ。
成績評価	出席、小レポート、大レポート、巡検参加
講義構成	現代日本の観光 人間の本質的なもの—旅 旅が人・地域を育てる 国際観光地ニッポンの現代的諸相 つくられた世界と旅 旅人を旅する 目でみる水辺の観光 (ゲストスピーカー: 出口正登・写真家) 旅をささえるもの
教科書	一冊にさだめることはしない。
参考書・資料	適宜授業中に紹介する。
担当者から一言	旅こそわが命、と思う者、きてくださいな！

授業コード	15040		
授業科目名	技術と文化(技術と文化I) (後)		
担当者名	赤木崇敏(アカギ タカトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
講義の内容	テーマ:「古文書から見る中央アジア史」 前近代の世界史において、中央アジアはユーラシア全土にまたがる交通ネットワークの中心に位置するとともに、周縁の諸文明圏を文化的・経済的に結びつける大動脈としても機能しており、世界史上のその重要性は言うまでもありません。現代の国際情勢の中でも、中央アジア地域は以前にも増してその価値が再認識されつつあります。本講義では、様々な民族や文化・言語の混交するこの地域特有の歴史文化の諸相を概観します。とくに、20世紀初頭より中央アジア諸地域から発見された古文書を用いて、様々な民族の間でどのようなコミュニケーションが図られ、また現代にまでつながる言語文化がどのように創成されたのか、その技術と文化について		

	解説します。
到達目標	(1) イスラム化以前の中央アジアの歴史に関する知識を身につける。 (2) 中央アジアの様々な言語文化について理解を深める。
講義方法	毎回プリントを配布し、板書を交えて講義する。また、適宜、パワーポイント・DVDなど映像資料も使用。
準備学習	過去プリントの復習。また、高校世界史教科書・資料集などで事項や地名を予習・復習するのがのぞましい。
成績評価	出席状況(小テスト30%)と、期末試験(70%)によって評価する。 小テストを1回も受験していなければ(＝全く出席していない場合)、成績評価しない。
講義構成	以下のトピックスを中心に授業を進める予定である。 (1) アジアの地理と文化 (2) 中央アジア史の概観 (3) 文字と紙の発明 (4) 唐代の公文書と情報ネットワーク
教科書	特に指定しないが、過去の配布プリントを毎回持参すること。
参考書・資料	講義中に随時紹介する。

授業コード	15068		
授業科目名	技術と文化Ⅱ（前）		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	月曜日の昼休み		

講義の内容	技術は文化の重要な構成要素の一つである。本講義では西洋の古代・中世・近世における技術史を概観し、西洋文化の特質を抽出する。とくに軍事技術と航海術に焦点をあて、近代の西洋が世界に覇権を唱えるようになるその歴史的素因を明らかにしてゆく。
到達目標	前近代の西洋の技術的特質を理解すること。
講義方法	画像などを用いながら、主として講義形式で進める。
準備学習	講義時に紹介する参考資料等を参照しておくことが望ましい。
成績評価	期末試験(持ち込み不可)の成績で評価する。
講義構成	1 古代ギリシア・ローマの技術と文化 2 中世の技術革新 3 大砲と帆船 4 海事革命
教科書	教科書は用いない。
参考書・資料	火器の誕生とヨーロッパの戦争 平凡社 長篠合戦の世界史 同文館出版
その他	【授業公開に際して(教職員向け)】途中入退室はできません。

授業コード	15001		
授業科目名	基礎演習（前）		
担当者名	稲田清一（イナダ セイイチ）、合田昌史（ゴウダ マサフミ）、佐藤泰弘（サトウ ヤスヒロ）、出口晶子（デグチ アキコ）、鳴海邦匡（ナルミ クニタダ）、中辻 享（ナカツジ ススム）、中町信孝（ナカマチ ノブタカ）、横山 良（ヨコヤマ リョウ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	各担当者から連絡します。		

講義の内容	歴史文化学科の専門科目を学ぶための基礎として、各専門分野に共通する調査・研究の方法について学びます。
到達目標	文献検索、レジュメやレポートの作成、口頭発表などの基本的な方法を身につけること。
講義方法	10名ほどの学生を1名の教員が指導する少人数クラスで行います。歴史文化学科のすべての専任教員が担当し、講義、グループでの作業、個々の研究発表、レポートの作成などを行います。具体的な演習の進め方は、最初の時間に各担当教員から説明します。
準備学習	各教員が指示します。
成績評価	平常点とレポート。少なくともレポートを4本提出してもらいます。
講義構成	最初の時間に説明します。
教科書	教科書はありません。
参考書・資料	必要な参考文献は、その都度指示します。
講義関連事項	ありません。
担当者から一言	歴史文化学科は多様な専門領域を含んでいます。どのような専門領域を学ぶにしても、基礎的な方法を身につけていないと十分な学習、調査・研究ができません。積極的に参加してください。

授業コード	15026		
授業科目名	現代史I(後)		
担当者名	白川哲夫(シラカワ テツオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	近代・現代の日本社会と戦争・軍隊 明治時代以降の日本は、一九四五年まで断続的に戦争を続け、その後も様々な形で海外で起きた戦争の影響をうけた。それぞれの戦争は、当時の日本社会を反映する形で戦われると同時に、大きな影響を日本社会に与えるものでもあった。本授業は、政府や国家の動きではなく、社会変動や民衆の動向、兵士の視点から戦争・軍隊について考えていく。主要な方法として、①戦争における「死」がどのように取り扱われたのかということ、②それぞれの時期に、戦争について人々がどのように考えていたかということ、を中心に紹介していきたい。
到達目標	戦争や軍隊と日本社会の関係を通じて、日本の近・現代史が抱えた問題について理解できる。あわせて、歴史を学ぶことがなぜ大切なのかを認識し、説明できる。
講義方法	口述による講義形式を基本とし、毎回資料を配布して進めていく。随時板書を使用するとともに、図表や写真、映像や音声資料も使用する。毎回授業終盤にアンケートを行い、その回答を次の授業に反映していく。
準備学習	(1)日本の近現代史について、通史的に書かれているものを読んでください。 (2)参考文献や資料としてあげているものに、目を通すようにすること。その際、書かれている内容をうのみにせず、自分で考えること。
成績評価	資料持ち込み可の期末試験(80%)及び出席点(20%)。
講義構成	1. ガイダンス 2. 日本の軍隊(上) 3. 日本の軍隊(下) 4. 日清戦争～「国民」の戦争～ 5. 日露戦争～「軍神」誕生～ 6. 大正時代の軍隊 7. 「軍神」の光と影 8. アジア・太平洋戦争～「名誉」の戦死?～ 9. 朝鮮戦争～復興と分断～ 10. ベトナム戦争～なぜ「反戦」か～ 11. 靖国神社～その歴史～(上) 12. 靖国神社～その歴史～(下) 13. 靖国論争 14. 遺族をいやすために～「礎」論の役割～ 15. まとめ
教科書	特に使用しない。

担当者から一言	趣味や教養にとどまらない、興味深い「歴史」を紹介したいと思います。
その他	常識的な姿勢で受講してください。

授業コード	15027		
授業科目名	現代史II (前)		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	「自由の帝国アメリカ」の歴史 アフガニスタンを攻撃し、イラクを侵略するアメリカは、いったい民主主義の国なのか、それとも帝国主義国なのか？このような問いがよく聞かれます。 この講義は、アメリカの歴史を植民地時代以来の「自由の帝国」として見ることによって、その問いに答えようとするものです。 アメリカは植民地時代以来、強烈な選民意識をもって行動してきました。それは時には隣国への侵略行為であったり、また時には海外への膨張や派兵であったりしました。そのようなアメリカの行動を正当化したイデオロギーが「自由の帝国アメリカ」という考え方だったのです。この講義では、このようなイデオロギーの生成と展開を植民地時代のアメリカからたどります。そうすると、現代アメリカの行動がよく理解できます。
到達目標	アメリカ現代史について批判的に考察する力を養うこと。
講義方法	資料を参考にしながら講義を進めます。
準備学習	予めアメリカ史の通史を読んでおくことが望ましい。
成績評価	出席と期末試験により、講義への取り組みの姿勢と講義への理解を中心に評価します。
講義構成	1. 導入 2. 植民地時代アメリカの自己意識 3. 独立革命と「自由の帝国」(1) 4. 独立革命と「自由の帝国」(2) 5. 「自由の帝国」の光と影 6. 「自由の帝国」の前進＝「マニフェスト・デスティニー(明白なる運命)」 7. 「自由の帝国」の宿命＝南北戦争 8. 「自由の帝国」の海外進出＝帝国主義国化 9. 第一次世界大戦と「自由の帝国」 10. ウッドロー・ウィルソン外交の意味 11. 第二次世界大戦と「自由の帝国」 12. 冷戦と「自由の帝国」 13. 9. 11と「自由の帝国」の再発進 14. バラク・オバマの外交 15. 「自由の帝国」の明日？
教科書	特にありません。
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。

担当者から一言	出席は厳密に取ります。私語厳禁です。警告1回の後、退席してもらいます。
---------	-------------------------------------

授業コード	15028		
授業科目名	現代史III (文明の諸問題I) (後)		
担当者名	蓮田隆志(ハスダ タカシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限

講義の内容	おもに1930年代以降のアジアの歴史について、東南アジアを中心として概説する。
-------	---

到達目標	現代世界の動向の中に東南アジアがどのように位置づけられるのか、他人に説明できる程度の理解を獲得する。
講義方法	日本の東南アジア史研究は世界でも屈指の水準を誇るが、その成果の中からある程度標準的な学説をもとに解説する。その際、(1)周辺他地域、とりわけ日本との関係(2)扱うトピックが近代以降の歴史学や政治の中でどのように理解されてきたのか、の二点に特に配慮して講義を組み立てる。
準備学習	事前に地図帳などでインドより東の地域の地理を確認しておくこと。また、太平洋戦争や冷戦など現代史に関わる一般常識についても自分なりに復習しておくこと。
成績評価	期末試験によって評価する。
講義構成	1. ガイダンスとウォーミングアップ 2. 戦間期の世界経済と植民地支配 3. 植民地社会の変容とナショナリズム 4. 太平洋戦争と独立戦争 5. 冷戦の展開と東南アジア 6. 開発の時代
教科書	使用しない。毎回プリントを配布する。

授業コード	15041		
授業科目名	考古学		
担当者名	向井佑介(ムカイ ユウスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)

講義の内容	考古学にかんする話題は、毎日のように新聞・テレビ・インターネットで報道されていますが、考古学が具体的にどんな学問であるかは、あまり知られていません。考古学はどのような方法を用いて、どのようなことを研究しているのでしょうか。この講義では、考古学がどのような学問かを理解し、また考古学から歴史を明らかにするための方法について学びます。
到達目標	考古学の細かな専門知識を得ることよりも、考古学の研究方法や分析方法を理解することを重視します。また、考古学の発掘・研究成果によって、歴史に対する認識がどのように変わりつつあるのかを理解することを目標とします。
講義方法	パワーポイントを利用し、写真や図面を参照しながら、授業を進めます。 毎回、簡単なレジュメを配布します。
準備学習	考古学や文化財についての報道に日頃から注目するようにしてください。
成績評価	出席点(15%)、小レポート(15%)、期末試験(70%)をあわせて評価します。
講義構成	前期は、考古学の方法論と、日本の先史時代の基礎的な知識を身につけます。まず、型式学・層位学など考古学の基礎的な方法や、自然科学の方法を利用した分析について学びます。あわせて、人類が誕生してから古墳時代までの歴史を概観し、日本考古学についての基礎的な知識を身につけます。 ①考古学とは何か ②考古学の方法 ③考古学と自然科学 ④日本文化のなりたち 後期は、東アジアをはじめ世界に視野をひろげ、日本の事例と比較することで、日本文化のなりたちについて理解を深めていきます。とくに日本の古代国家の形成過程と比較するため、次のようなテーマをとりあげる予定です。 ①文明の誕生 ②墓の考古学 ③都市の考古学 ④仏教とシルクロード
教科書	なし

授業コード	15057
-------	-------

授業科目名	古文書学		
担当者名	大田壮一郎(オオタ ソウイチロウ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)

講義の内容	歴史研究の基本的な方法の一つに、文献史料を用いて歴史過程を再構成する方法があります。これら文献史料を「古文書」・「古記録」と呼びます。 この講義では、まず古文書の様式について基本を学びます。さらに、古文書からどのようなことがわかるのか、古文書を使ってどのように研究を行うのか、等を実際に古文書を読みながら学びます。
到達目標	古文書学の基本としての様式論を理解し、基礎的な古文書の読解ができる。
講義方法	最初は講義形式で基本的な解説をします。途中から受講者の皆さんに実際に古文書を読んでもらいます。
準備学習	漢文の知識(高等学校までのもの)は前提となりますので、事前に復習をしておいてください。
成績評価	前期・後期の期末テストと平常点で総合評価します。平常点は読解の担当や小テスト・出席などを合計します。
講義構成	・古文書とは ・古文書の様式(Ⅰ 公式様文書 Ⅱ 公家様文書 Ⅲ 武家様文書 Ⅳ その他) ・古文書の読解
教科書	使いません。適宜、レジュメを配布します。
参考書・資料	佐藤進一『新版 古文書学入門』(法政大学出版局)。とくに後期は古文書を実際に原史料で読みますので、『くずし字用例事典』・『くずし字解読事典』(東京堂出版)等の辞書類を用意してください。
担当者から一言	古文書の読解は、語学と同じで自分で繰り返し学ばなくては身に付きません。集中して取り組み、博物館や美術館に展示してある古文書も読めるようになります。積極的な受講姿勢を望みます。

授業コード	15N11		
授業科目名	自然地理学 (A)(前)		
担当者名	道下雄大(ミチシタ ユウダイ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	自然地理学は、自然環境の地域差を人との関連性から把握する学問分野です。その対象は、地形、気候、水、生物、火山活動、地震など多岐にわたりますが、本講義では特に植物を対象とします。植物は我々の日常生活において一日たりとも欠かすことのできない存在でありながら、世界的に大きな地域差があり、自然環境を理解するのに適した材料です。
到達目標	身近な自然環境への理解を深めること
講義方法	プリントを配布し、プロジェクターなどを利用した講義形式とします。受講人数に応じて可能であれば屋外での観察も行う。
準備学習	できるだけ植物の名前を覚えてくること
成績評価	試験(50%)、レポート(50%)。試験・レポートともに1回実施。レポート課題は「身近な環境の現状と改善点」であり、最終講義(試験)までに提出するものとする。
講義構成	1. 導入ー植物と人との関り 2. 植物の見分け方(1) 3. 植物の見分け方(2) 4. 身近な植物の観察 5. 植物の地理的分布と進化 6. 栽培植物の起源と多様性 7. 照葉樹林文化論と風土論 8. 食文化論、生物に関するタブー 9. 花の文化史 10. 民家庭園における植物の多様性 11. 里山林における植物の多様性 12. 自然保護の歴史 13. 自然環境構成要素としての環境倫理

	14. まとめ—自然環境と人との関係性 15. 試験
教科書	教科書は指定せず、授業中に配布するプリントを使用します。
参考書・資料	宮脇昭(1970)植物と人間 生物社会のバランス. 日本放送出版協会(NHKブックス) 中尾佐助(1978)現代文明ふたつの源流：照葉樹林文化・硬葉樹林文化. 朝日新聞社(選書) 鬼頭秀一(1996)自然保護を問いなおす—環境倫理とネットワーク. 筑摩書房(ちくま新書) 平野隆久 菱山忠三郎 畔上能力 西田尚道(1989)山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花. 山と溪谷社
担当者から一言	植物を見分けることができるようになれば、自然環境に対する理解は飛躍的に向上します。ただし、短期間でできることではありませんので、真剣に考えている方は個別にご相談ください。環境倫理や民族植物学を学びたい方、自然保護関連のボランティアに興味がある方への相談にも応じます。本講義で学んだ事柄を元に、自然環境に対する理解を深めていただければ幸いです。

授業コード	15N12		
授業科目名	自然地理学 (B)(後)		
担当者名	小倉博之(オグラ ヒロユキ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	非常勤ですので、質問や相談は講義後に教室で受け付けます。		

講義の内容	自然地理学の方法論を概説し、その展開・応用として、人口の集中する沖積平野の形成過程と特性、ならびに、わが国の自然災害特性について考察します。
到達目標	自然地理学は地理学の一分野であり、さらに自然科学に属する学問です。本授業では、自然地理学の成果と手法をもちいて、われわれの生活の場である地球の上で展開する現象を探究し、それらの特性と法則性を理解することを目標とします。 学校教育では暗記科目として扱われがちな「地理」ですが、本授業では、たんなる知識の吸収に終わらず、現象の科学的な見方、論理展開の方法、そして普遍性の探究方法を修得していただきたいと思います。さらに将来、本授業で得た知識や考え方を現実の自然・社会現象や防災などへの対応に応用されることを期待します。
講義方法	板書とプロジェクター等によって図・表や写真を提示し、内容を解説する講義を主体としますが、自然現象を客観的にとらえるため、課題を出して受講者に作業・計算などをしてもらおう予定です。
準備学習	授業中に与えられた課題については、期日までに仕上げておく必要があります。 また、レポートや論文の書き方については、できるだけ早いうちに本やゼミなどで学んでおくことを薦めます。
成績評価	最終評価は、平常点(授業中に数回実施する小テスト・小レポートの評価点)と定期試験の点数を総合し、絶対評価でおこないます。配点比率は、平常点が30%、定期試験が70%ですので、定期試験を受けるだけで本科目に合格することは困難です。
講義構成	1. 自然地理学とは 2. 自然現象の記録と帰納法 3. 自然地理学における演繹法 4. 比較による時系列変化の推論 5. 地形をつくる作用 — 地形形成営力 6. 地球史の時間目盛り 7. 新生代第四紀と人類の進化・発展 8. 平野の種類と特性 9. アジアの平野 — 沖積平野の形成過程 10. 沖積平野の特性 11. 地震の発生源 — 海溝型地震と内陸型地震 12. 活断層と内陸地震 13. 活断層地形—地殻変動の地表への現れ 14. 活断層の調査方法 15. まとめ — 科学としての自然地理学
教科書	教科書は指定せず、授業中に配付するプリントを使用します。
参考書・資料	池田安隆ほか「活断層とは何か」東京大学出版会. 太田陽子ほか 編著「日本の地形6 近畿・中国・四国」(他に本シリーズ各巻), 東京大学出版会. 貝塚爽平ほか 編著「写真と図でみる地形学」東京大学出版会. 貝塚爽平「平野と海岸を読む」岩波書店, 自然景観の読み方5.

	貝塚爽平 編著「世界の地形」東京大学出版会。 田淵 洋 編著「新版 自然環境の生い立ち―第四紀と現在」朝倉書店。 松田時彦「活断層」岩波新書。
講義関連事項	自然環境, 自然景観, 自然災害, 地球科学
担当者から一言	授業内容は回を追って深化していき、さらに毎回多くの図表を使用して進められるので、欠席すると理解が困難になります。 配付した資料は、授業内の小試験などでも使用することもありますので、過去配付分も毎回持参してください。
その他	学生時代は人生において、もっとも贅沢に時間を使うことができる期間と言えるかもしれません。自分自身の五感で直接に、あるいはメディアを通して自然・社会現象に接し、深く観察して、現象の背景を自分で考える力を身につけることを期待します。 単位の修得に関しては学則に注意して下さい。

授業コード	15052		
授業科目名	史料研究I		
担当者名	上田長生(ウエダ ヒサオ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)

講義の内容	江戸時代には膨大な文書(もんじょ)が作成され、現在に残されています。 特に、民間レベルでも多くの文書を作成されたことは、江戸時代の特徴の一つといえます。それらの適切な読解を行うことで、江戸時代の社会について豊かで具体的な像を描きだすことができます。 本講義では、まず、江戸時代の史料の読み方の基礎と調べ方を解説します。その上で、実際に江戸時代の法令を読み、特有の言いまわしや用語を学びます。次に、江戸時代の村で作成された史料を読むことで、史料読解の習熟を目指します。また、そこから村の仕組みや生活、さらには江戸時代の社会についてどのようなことが読み取れるのかを考えていきます。講義の進展度を考慮して、適宜教員による解説を加えます。 最後に、史料のもとになる古文書に触れることで、その特徴や、史料と古文書の違いを理解し、古文書の読解の大切さを学びます。		
到達目標	歴史学の基礎は史料の正確な読解・解釈です。そのために、どのような手段で、どのように調べる必要があるのかを学び、歴史学を基礎的な力を身につけることを目指します。		
講義方法	演習形式(受講生による発表)		
準備学習	発表担当者以外も必ず事前に当該史料を読み、その意味を調べておくこと。		
成績評価	平常点・レポートを組み合わせで評価する。		
講義構成	1、ガイダンス・分担確認 2、江戸時代の史料の特徴 3、史料講読(江戸時代の法令) 4、史料講読(村で作成された史料) 5、古文書の読解		
教科書	読解する史料はコピーを配布します。		
参考書・資料	『増訂近世古文書解読字典』(柏書房)、若尾俊平編著『図録古文書入門事典』(柏書房)のいずれかの購入を勧めます。その他の参考文献は講義中に適宜紹介します。		

担当者から一言	江戸時代は、私たちから遠く思われる一方で、とても身近な時代でもあります。江戸時代の史料を読むことで、現在につながる部分や異なる部分を感じ取ってほしいと思います。史料を読むには根気がいりますが、じっくり取り組んでください。
---------	--

授業コード	15Q11		
授業科目名	史料研究II (1クラス)		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)

オフィスアワー	月曜日・金曜日の昼休み
講義の内容	近世ヨーロッパの対外膨張に関する問題を考察する。
到達目標	史料の読み方を習得すること。
講義方法	英語の研究文献ないし一次史料を配布し、それらをもとに読解と解説を進める。
準備学習	文献を読み込むこと。
成績評価	平常点と後期末の試験で評価する。
講義構成	初回講義時に知らせる。
教科書	初回講義時に知らせる。

授業コード	15Q12		
授業科目名	史料研究Ⅱ（2クラス）		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜4限）、後期（火曜4限）
オフィスアワー	随時		

講義の内容	ヨーロッパの文学と歴史の源泉であるホメロスの英雄叙事詩と、1920年代のアメリカを描いた社会史の傑作を輪読します。古代と現代に関わる名著を読むことにより、変わらぬ人間の心にふれることができます。
到達目標	古代から現代まで変わらぬ人間の心情の機微や苦悩を知ること。
講義方法	指定文献を輪読します。
準備学習	藤縄謙三『ホメロスの世界』（至誠堂新書）、岡道男『ホメロスにおける伝統の継承と創造』（創文社）などに注意すること。
成績評価	授業中のパフォーマンス、議論への参加状況などを考慮した平常点評価を行います。
講義構成	1. 導入、分担確認 2～7. 輪読 8. 中間総括 9～14. 輪読 15. まとめ
教科書	『イリアス』（上）、（下）、（岩波文庫）、『オデュッセイア』（上）、（下）（岩波文庫）、F.L.アレン『オンリー・イエスタデイ』（ちくま文庫）
参考書・資料	適宜紹介、配布します。

担当者から一言	出席は厳密に取ります。発表のドタキャンは厳禁です。
---------	---------------------------

授業コード	15M21		
授業科目名	人文地理I (A)(前)		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
特記事項	文学部		

講義の内容	人文地理学は、幅広い研究の領域を持つ学問である。その特徴は、人と空間・環境の関わりをみる学問であるといえる。ここでは特に「都市」というテーマに関心を集め、人と地域の関わり方の歴史について考える。
到達目標	人文地理学的な視点から「地域」をとらえる見方を学ぶことを目標とする。
講義方法	板書を用いた講義形式を基本とする。また、適時、資料の配布、プロジェクターの活用を行い、実際に資料を見ながら話をすすめる。

準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。
成績評価	期末試験による評価を基本とする。そのほか、授業時に実施する課題（小テスト、小レポートなど）も参考とする。また、可能であれば定期的に出席を確認し参考にする。
講義構成	(0)ガイダンス:①全体の紹介、②地理学の考え方 (1)近代地理学の概説:①近代地理学の成立、②地理学の様々な関心 (2)都市の地理学:①都市の概念、②都市の分類、③都市プランという考え方 (3)空間分布のパターンとその古典的モデル:①クリスターの中心地理論、②都市計画における中心地理論の応用 (4)郊外住宅の登場:①近世都市の限界、②都市計画という技術、③田園都市というモデル、④ニュータウンの開発 (5)まとめ
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書・資料	特定の参考書は指定しない。必要な文献や資料は、適時指示する。

授業コード	15M22		
授業科目名	人文地理I (B)(前)		
担当者名	阪野祐介(サカノ ユウスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	他学部		

講義の内容	人文地理学では、人は環境（自然や社会、歴史）の中でどのような営みを行ってきたのかを知ることが一つの目的でもある。そこから、現在ある世界の様々な問題を解決するための糸口を見つけ出し、解決のためにはどうすべきかを考えるきっかけになると考える。本講義では、とくに地域や景観、空間、場所をキーワードとしながら進める予定である。
到達目標	人文地理学の基本的な知識を習得し、身の回りの日常の風景の中にある問題や意味を見つけ出すことができる。
講義方法	基本的には講義形式で進めるが、授業内で地図の読解などの作業を行う。場合によっては、グループディスカッションを行うこともある。
準備学習	配布プリントの復習を行ったり、授業内で紹介する参考文献に親しむこと。
成績評価	定期試験(60%)、授業参加度(ミニレポート等40%)。
講義構成	1. ガイダンス 2. 人文地理学の流れ(1) 3. 人文地理学の流れ(2) 4. 村落空間と村落景観(1) 5. 村落空間と村落景観(2) 6. 村落と社会関係(2) 7. 村落と社会関係(2) 8. 都市の景観(1) 9. 都市の景観(2) 10. 都市の景観(3) 11. 都市と空間認知 12. 都市空間とエスニック・グループ(1) 13. 都市空間とエスニック・グループ(2) 14. 都市空間とエスニック・グループ(3) 15. まとめ
教科書	なし。授業内で参考文献を適宜紹介する。

授業コード	15M31
-------	-------

授業科目名	人文地理Ⅱ (A)(後)		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
特記事項	文学部		

講義の内容	人文地理は、幅広い研究の領域を持つ学問である。その特徴は、人と空間・環境の関わりをみる学問であるといえる。ここでは基本資料のひとつである古地図を紹介する。特に角度の測量というテーマから、地図史を学ぶ。特に近世日本の事例を中心とする予定である。
到達目標	人文地理学の基本資料である古地図を理解する。
講義方法	板書を用いた講義形式を基本とする。また、適時、資料の配布、プロジェクターの活用を行い、実際に資料を見ながら話をすすめる。
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。
成績評価	期末試験による評価を基本とする。そのほか、授業時に実施する課題(小テスト、小レポートなど)も参考とする。また、可能であれば定期的に出席を確認し参考にする。
講義構成	(1)ガイダンス: 地図という表現 (2)地図の歴史の概説: ①世界の地図史、②日本の地図史 (3)ポルトラノ海図とコンパス: ①地中海の海図、②日本におけるポルトラノ海図の受容 (4)近世日本における地図作製とコンパス: ①廻り検地、②村と都市の測量、③伊能忠敬再考 (5)近世日本における水準の測量: ①海を干拓する技術、②河川を改修する技術 (6)近代地形図の登場: ①三角測量と地図、②日本の三角測量 (7)まとめ
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書・資料	特定の参考書は指定しない。必要な文献や資料は、適時指示する。

授業コード	15M32		
授業科目名	人文地理Ⅱ (B)(後)		
担当者名	阪野祐介(サカノ ユウスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	他学部		

講義の内容	人文地理学では、人は環境(自然や社会、歴史)の中でどのような営みを行ってきたのかを知ることが一つの目的でもある。そこから、現在ある世界の様々な問題を解決するための糸口を見つけ出し、解決のためにはどうすべきかを考えるきっかけになると考える。本講義では、とくに地域や景観、空間、場所をキーワードとしながら進める予定である。
到達目標	人文地理学の基本的な知識を習得し、身の回りの日常の風景の中にある問題や意味を見つけ出すことができる。
講義方法	基本的には講義形式で進めるが、授業内で地図の読解などの作業を行う。場合によっては、グループディスカッションを行うこともある。
準備学習	配布プリントの復習を行ったり、授業内で紹介する参考文献に親しむこと。
成績評価	定期試験(60%)、授業参加度(ミニレポート等40%)。
講義構成	1. ガイダンス 2. 環境問題(1) 3. 環境問題(2) 4. 環境問題(3) 5. 環境問題(4) 6. 観光と地域(1) 7. 観光と地域(2) 8. 観光と地域(3) 9. 観光と地域(4)

	10. 宗教の地理学(1) 11. 宗教の地理学(2) 12. 宗教の地理学(3) 13. 宗教の地理学(4) 14. 宗教の地理学(5) 15. まとめ
教科書	なし。授業内で参考文献を適宜紹介する。

授業コード	15M11		
授業科目名	人文地理 (A)		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜1限)、後期(水曜1限)
特記事項	文学部		

講義の内容	人文地理学は、幅広い研究の領域を持つ学問である。その特徴は、人と空間・環境の関わりをみる学問であるといえる。ここでは特に「都市」(前期)および「地図」(後期)というふたつのテーマに関心を集め、人と地域の関わり方の歴史について考える。
到達目標	人文地理学的な視点から「地域」をとらえる見方を学ぶことを目標とする。
講義方法	板書を用いた講義形式を基本とする。また、適時、資料の配布、プロジェクターの活用を行い、実際に資料を見ながら話をすすめる。
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。
成績評価	期末試験(前後期とも実施予定)による評価を基本とする。そのほか、授業時に実施する課題(小テスト、小レポートなど)も参考とする。また、可能であれば定期的に出席を確認し参考にする。
講義構成	【前期】 (1)ガイダンス:①全体の紹介、②地理学の考え方 (2)近代地理学の概説:①近代地理学の成立、②地理学の様々な関心 (3)都市の地理学:①都市の概念、②都市の分類、③都市プランという考え方 (4)空間分布のパターンとその古典的モデル:①クリスターの中心地理論、②都市計画における中心地理論の応用 (5)郊外住宅の登場:①近世都市の限界、②都市計画という技術、③田園都市というモデル、④ニュータウンの開発 (6)まとめ 【後期】 (1)ガイダンス:地図という表現 (2)地図の歴史の概説:①世界の地図史、②日本の地図史 (3)ポルトラノ海図とコンパス:①地中海の海図、②日本におけるポルトラノ海図の受容 (4)近世日本における地図作製とコンパス:①廻り検地、②村と都市の測量、③伊能忠敬再考 (5)近世日本における水準の測量:①海を干拓する技術、②河川を改修する技術 (6)近代地形図の登場:①三角測量と地図、②日本の三角測量 (7)まとめ
教科書	特定の教科書は指定しない。

授業コード	15M12		
授業科目名	人文地理 (B)		
担当者名	阪野祐介(サカノ ユウスケ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	他学部		

講義の内容	人文地理学では、人は環境(自然や社会、歴史)の中でどのような営みを行ってきたのかを知ることが一つの目的でもある。そこから、現在ある世界の様々な問題を解決するための糸口を見つけ出し、解決のためにはどうすべきかを考えるきっかけになると考える。本講義では、とくに地域や景観、空間、場所をキーワードとしながら進める予定である。
到達目標	人文地理学の基本的な知識を習得し、身の回りの日常の風景の中にある問題や意味を見つけ出すことができる。
講義方法	基本的には講義形式で進めるが、授業内で地図の読解などの作業を行う。場合によっては、グループディスカッションを行うこともある。
準備学習	配布プリントの復習を行ったり、授業内で紹介する参考文献に親しむこと。
成績評価	定期試験(60%)、授業参加度(ミニレポート等40%)。
講義構成	1. ガイダンス(1) 2. 人文地理学の流れ(1) 3. 人文地理学の流れ(2) 4. 村落空間と村落景観(1) 5. 村落空間と村落景観(2) 6. 村落と社会関係(2) 7. 村落と社会関係(2) 8. 都市の景観(1) 9. 都市の景観(2) 10. 都市の景観(3) 11. 都市と空間認知 12. 都市空間とエスニック・グループ(1) 13. 都市空間とエスニック・グループ(2) 14. 都市空間とエスニック・グループ(3) 15. まとめ(1) 16. ガイダンス(2) 17. 環境問題(1) 18. 環境問題(2) 19. 環境問題(3) 20. 環境問題(4) 21. 観光と地域(1) 22. 観光と地域(2) 23. 観光と地域(3) 24. 観光と地域(4) 25. 宗教の地理学(1) 26. 宗教の地理学(2) 27. 宗教の地理学(3) 28. 宗教の地理学(4) 29. 宗教の地理学(5) 30. まとめ(2)
教科書	なし。授業内で参考文献を適宜紹介する。

授業コード	15N41		
授業科目名	西洋史I(A)(前)		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	アメリカ民主主義の歴史的展開をたどることにより、現代アメリカと世界への理解と洞察力を養うことを目的にします。 この講義では、アメリカ民主主義の本質を民衆の政治的自己決定としてとらえ、それをアメリカ・ポピュリズムと呼びます。このようなポピュリズムとしてのアメリカ民主主義がどのようにして生まれ、政治文化の中心となり、現在はどのような状況であるのかをたどてくと、現在アメリカ政治の特質がよくわかります。また、日本を含めた世界の政治の現状も見通せます。
-------	---

到達目標	アメリカ民主主義についての基本的理解の獲得。
講義方法	配布資料を参照しつつ講義を進める。
準備学習	アメリカ史についての基礎的知識を整理しておくことが望ましい。
成績評価	出席と期末試験により、講義への取り組みの姿勢と講義の理解を中心に評価する。
講義構成	1. 導入 2. アメリカ独立革命とアメリカ民主主義 3. 白人男性大衆民主主義の誕生 4. 自由労働イデオロギー 5. 黒人奴隷制度とアメリカ民主主義 6. 性差別とアメリカ民主主義 7. ポピュリストの蜂起 8. 革新主義の意味 9. ニューディールとアメリカ民主主義 10. 公民権運動とアメリカ民主主義 11. 1960年代とアメリカ民主主義 12. レーガン革命とアメリカ民主主義 13. アメリカ民主主義の現在 14. オバマ革命とアメリカ民主主義 15. まとめ
教科書	特にありません。適宜プリント資料を配布します。
参考書・資料	参考書は適宜紹介します。資料はプリントの形で適宜配布します。
担当者から一言	私語厳禁です。警告1回の後退室してもらいます。

授業コード	15N42		
授業科目名	西洋史I (B)(前)		
担当者名	園屋心和(ソノヤ ムネカズ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限

講義の内容	現代の国家の多くは、多かれ少なかれ、「国民国家」の原理をその基礎に持つといえるが、史上、国民国家が最初に成立したのは西ヨーロッパであると考えられている。本講義では、近世から近代にかけての、フランスおよびドイツにおける国民国家の形成を対比的に概観しながら、以下の点について学ぶ。 1. 国民国家とそれ以前の「国家」の相違 2. 国家、国民、民族、国境といった観念の変化ならびにナショナリズムの生成 3. 国民国家が抱えている諸問題(今日も見出される問題との関連)
到達目標	1. フランスおよびドイツを中心とする近世・近代ヨーロッパ史の主要なトピックについて知っている 2. 国民国家をめぐる基本的な問題について知っている 3. 過去の歴史的な出来事と現代の問題とを関連づけて考える姿勢を見つける
講義方法	配布プリント(レジュメ、資料)および板書を用いて講義をすすめる。レジュメ・プリントは穴埋め式になっているが、単に空欄を埋めて満足するのではなく、話の要点を適宜ノートしていくことが求められる。
準備学習	高校で世界史を学んでいることが望ましい。但し、履修の絶対要件ではない。受講にあたって、特別な予習は必要ないが、授業内容を理解する上で必ず助けとなるので、最低一度は、高校世界史の教科書、できれば西洋史の概説書の関連部分を通読することを勧める。
成績評価	学期末の筆記試験で評価する(100%)。
講義構成	- 第1回 オリエンテーション - 第2回 基本的用語の説明 - 第3～4回 ウェストファリア条約と「主権国家体制」の成立 - 第4～5回 絶対王政と身分制国家 - 第6～7回 ブルボン朝フランスによるアルザス制圧 - 第8～9回 フランス革命と国民国家の誕生 - 第10～11回 ナポレオン戦争とドイツ・ナショナリズムの高揚 - 第11～12回 プロイセンの台頭とドイツ統一への道 - 第13～14回 普仏戦争とドイツ帝国によるアルザス併合 - 第15回 全体のまとめ

教科書	特に指定しない。
参考書・資料	授業で用いるプリントはこちらで配布する。 参考書(例) 谷川稔『国民国家とナショナリズム』山川出版社、1999 若尾・井上編著『近代ドイツの歴史—18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2005 谷川・渡辺編著『近代フランスの歴史—国民国家形成の彼方に』ミネルヴァ書房、2006
その他	私語は控える、携帯電話は消音などの最低限のマナーは守って下さい。

授業コード	15N51		
授業科目名	西洋史Ⅱ(A)(後)		
担当者名	梶 さやか(カジ サヤカ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	東ヨーロッパ近・現代史 本講義ではロシアを含む東ヨーロッパの歴史を学ぶ。中世のキリスト教化や国家の成立、近世のルネサンスや宗教改革ならびに社会構造をふまえて、近代における社会の変質や帝国とナショナリズム、20世紀の二つの世界大戦、社会主義体制などを取り上げる。こうした東ヨーロッパの歴史が、今を生きる人々の意識や現代の政治といかに関わっているのかについても注目する。また、本講義で学ぶ事柄を通じて、「東ヨーロッパ」という概念についても再検討を行う。
到達目標	・東西ヨーロッパの共通点や相違点、ヨーロッパとその周辺地域の関係を理解する。 ・様々な地域の歴史を通じて、複眼的な歴史理解を身につける。
講義方法	講義。板書と随時配布するプリントが中心だが、視覚教材も用いる予定。
準備学習	高校の世界史を履修していることが望ましいが、必須条件ではない。 また、現在の東ヨーロッパの政治・経済・文化に日ごろから関心をもって接すること。
成績評価	・学期末の筆記試験 ・平常点(講義への取り組み方) ・出席回数を受験資格とする
講義構成	本講義では、東ヨーロッパの近代・現代の歴史を以下の構成で学んでゆく。 第1-2回: 導入 東ヨーロッパとは何か 第3-6回: 中世・近世 東ヨーロッパ世界の成立と展開 第7-9回: 近代 三つの帝国(ハプスブルク・オスマン・ロシア)とナショナリズム、社会の変化(「近代化」) 第10-12回: 20世紀 東ヨーロッパと二つの世界大戦、社会主義体制 第13回: 東ヨーロッパの歴史と現在 第14回: まとめ 第15回: 試験
教科書	なし
参考書・資料	講義のなかで適宜指示する。
担当者から一言	日本では取り上げられることの少ない東ヨーロッパの歴史を学ぶことで、複眼的な歴史のとらえ方を身につけ、これまで持っていた「ヨーロッパ史」イメージを相対化してみよう。
その他	私語は禁止。携帯電話はマナーモードにすること。

授業コード	15N52		
授業科目名	西洋史Ⅱ (B)(後)		
担当者名	宮坂康寿(ミヤサカ ヤストシ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	中世ヨーロッパには、大きく聖職者・騎士・市民・農民の四つの身分が存在した。本講義では、このうち中世ヨーロッパ社会の上流階級を構成した聖職者と騎士を取り上げ、各々にまつわる世界の諸相をいくつか紹介する。
到達目標	ヨーロッパの社会・文化の基礎が中世に形成されたことを知ると同時に、現代人と中世人の心性の違いについても理解する。
講義方法	板書を交えた講義。ビデオ教材も適宜利用する。
準備学習	予習はとくに必要としない。用語集(大学受験用でも可)があれば、基礎知識の確認には便利であろう。
成績評価	期末試験の成績で評価する。
講義構成	それぞれ以下のテーマについて、順を追って講義を進める。ただし、時間的なウエイトは、〔聖職者(キリスト教)の世界〕の方にいくらか多く置かれることになる。 〔聖職者(キリスト教)の世界〕 1) 教会権力と世俗権力 2) 修道制の発展と修道院文化 3) 異端審問制の成立と魔女裁判 〔騎士の世界〕 1) 封建社会と騎士 2) 十字軍と騎士修道会 3) 騎士道理念と騎士文学
教科書	使用しない。

授業コード	15016		
授業科目名	西洋史の諸問題		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜4限)、後期(月曜4限)
オフィスアワー	月曜日の昼休み		

講義の内容	中世から近世までの西洋史における主要な問題を取り上げ概観する。
到達目標	中近世における西洋史の基礎知識を獲得すること。
講義方法	画像などを用いて、主として講義形式で進める。
準備学習	講義時に紹介する参考資料等を参照しておくことが望ましい。
成績評価	期末試験の成績で評価する。
講義構成	1 ヨーロッパの形成1。イスラムとキリスト教ヨーロッパ 2 ヨーロッパの形成2。十字軍とレコンキスタ 3 ヨーロッパの危機。 4 ヨーロッパの膨張1。ポルトガル 5 ヨーロッパの膨張2。スペイン 6 ヨーロッパの膨張3。オランダ 7 ヨーロッパの膨張4。フランス・イギリス
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	『スペイン・ポルトガル史』山川出版社 『西洋の歴史』ミネルヴァ書房 『大航海の時代』同文館 『マゼランー世界分割を体現した航海者』京都大学学術出版会 (その他、講義時に紹介する)
その他	【授業公開に際して(教職員向け)】途中入退室はできません。

授業コード	15023
-------	-------

授業科目名	西洋社会史(歴史と思想Ⅱ)(後)		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	オバマ当選に至るまでのアメリカ黒人の歴史をグローバルな視野から理解することを目標にします。
到達目標	アメリカ黒人史の基本的流れの把握。
講義方法	配布資料を参考にしながら講義形式で授業を進めます。
準備学習	アメリカ史の通史を読んでおくことが望ましい。
成績評価	出席と期末試験により、講義への取り組みの姿勢と講義への理解を中心に評価します。
講義構成	第1回: イントロダクション(アメリカ黒人の歴史を学ぶことの意義について) 第2回: アメリカ黒人奴隷制の始まり 第3回: アメリカ独立革命と黒人奴隷制 第4回: 南北戦争前のアメリカの政治経済構造と黒人奴隷制 第5回: 南北戦争の原因と黒人奴隷制 第6回: 南北戦争と黒人 第7回: 南北戦争と奴隷解放の意味 第8回: 「どん底」の時代—ジムクロウ制度と選挙権剥奪— 第9回: 差別と戦う黒人たち—B.T.ワシントンとW.E.B.デュボイス— 第10回: ハーレム・ルネサンスとガーヴェイズム 第11回: 大恐慌・ニューディールと黒人 第12回: 黒人公民権運動の胎動 第13回: 黒人公民権運動の展開 第14回: 黒人公民権後の黒人—オバマまで— 第15回: まとめ
教科書	特にありません。
参考書・資料	本田創造『アメリカ黒人の歴史』(岩波新書)。その他、適宜、紹介、配布します。
担当者から一言	私語厳禁です。警告1回の後退室してもらいます。

授業コード	15K01		
授業科目名	卒業研究(稲田)		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00 木曜日12:20～14:30		

講義の内容	4年間の学習の集大成として卒業論文を作成する。資料の収集、論文の構想などにつき、段階的に発表してもらい、受講者皆で討論し、助言する。
到達目標	アジア史に関する特定のテーマについて、研究史・関連するおもな史料をふまえて、自分の見解を述べるができる。
講義方法	各自が論文のテーマを選定し、それについて調べ報告する。また、報告について参加者間で意見を交換する。
準備学習	日常的にアンテナをはりめぐらし、情報を収集、集積する。
成績評価	論文と口頭試問により総合的に評価する。
講義構成	第1回をオリエンテーションの時間とし、そのときに指示する。
教科書	使用しない。

授業コード	15K02		
授業科目名	卒業研究（合田）		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		

講義の内容	前期は卒業論文の作成に向けて各自でテーマの絞り込みと先行研究の調査を行ってもらいます。後期は各自の進捗度に応じて個別に論文作成の指導を行います。		
到達目標	独創性のある作品としての卒業論文を目指してください。		
講義方法	各自が卒業論文のテーマを決定し、それについて調べ報告する。		
準備学習	前年度までの演習における報告内容を整理し、テーマ設定に向けて準備すること。		
成績評価	論文と口頭試問により総合的に評価する。		
講義構成	毎時間、各自がテーマ報告を行い、それについて質疑応答あるいは指導を行う。		
教科書	指定しない。		

授業コード	15K03		
授業科目名	卒業研究（佐藤）		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	卒業論文作成のための演習を行います。		
到達目標	卒論の作成		
講義方法	卒業論文の中間報告と討論		
準備学習	卒論の準備		
成績評価	卒業論文		
講義構成	1. 卒業論文の構想 2. 卒業論文の構成と内容		
教科書	なし		
参考書・資料	なし		
講義関連事項	なし		

授業コード	15K04		
授業科目名	卒業研究（出口）		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	各自のテーマに即した卒論研究のための全体指導と個別指導		
-------	-----------------------------	--	--

	月1回のペースで集まり、進展状況の報告をする 論文の書き方、書式の指導 フィールド調査の指導 データの集積と分析の指導 論文の組み立てと論考の指導
到達目標	ほかのだれでもない、自分のオリジナルな論を堂々と論じること
講義方法	互いの報告を聞きながら、助言に徹します。 夏休み前に目次等骨組みを決定。 秋からは、個別指導と全体指導。 合宿も検討しています。
準備学習	フィールドは相手あってのもの、時機あってのもの、時間を上手にやりくりして、逃げ出さないことが肝心です。かならず結果はついてきます。
成績評価	卒業論文と試問
講義構成	講義内容、講義方法を参照
教科書	ありません。
担当者から一言	自分のもっている能力を過小評価してはいけません。最後まで気をぬかない！手をぬかない！かならずよいものができます。

授業コード	15K05		
授業科目名	卒業研究（中町）		
担当者名	中町信孝（ナカマチ ノブタカ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	卒業論文を作成するための演習を行う。		
到達目標	卒業論文を完成させる。		
講義方法	受講生が各自の研究テーマの進捗を報告し、報告をもとに個別指導を行う。		
準備学習	2、3年次の演習における各自の発表内容をおさらいしておくこと。		
成績評価	論文と口頭試問による。		
講義構成	開講時に指示する。		
教科書	特に指定しない。		

授業コード	15K06		
授業科目名	卒業研究（鳴海）		
担当者名	鳴海邦匡（ナルミ クニタダ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	自動登録		

講義の内容	卒業論文作成のための演習を行う。		
到達目標	卒業論文を作成する。		
講義方法	卒業論文作成に向けた準備報告とその討論		
準備学習	授業で示した資料を読む。		
成績評価	提出された論文と口頭試問		

講義構成	適時連絡する。
教科書	特定の教科書は指定しない。

授業コード	15K07		
授業科目名	卒業研究（東谷）		
担当者名	東谷 智（ヒガシタニ サトシ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日12:20～14:20 東谷研究室（10号館5階）		

講義の内容	卒業論文を作成すること。
到達目標	論理立てて歴史の事象を説明できるようになること。
講義方法	受講生の準備報告および個別指導。
準備学習	日本史に関わる基礎的な文献をできるだけ多く読んでおくこと。
成績評価	卒業論文作成に向けた準備報告の内容、および提出された卒業論文によって評価する。
講義構成	受講生の報告および個別指導。
教科書	用いない。
参考書・資料	適宜指示する。

授業コード	15K08		
授業科目名	卒業研究（横山）		
担当者名	横山 良（ヨコヤマ リョウ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	卒論作成指導。
到達目標	卒論作成。
講義方法	ゼミ及び個人指導による卒論作成指導。
準備学習	これまでの研究経過をまとめておくこと。
成績評価	卒論内容及び平常点を評価する。
講義構成	1. イントロダクション 2～7. 個別発表 8. 中間総括 9～14. 個別発表 15. 総括
教科書	なし。
参考書・資料	特になし。

授業コード	15L11
-------	-------

授業科目名	地誌 (A)		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
特記事項	文学部		
オフィスアワー	前期、後期とも火曜2限		

講義の内容	【前期】世界の生業と文化 この授業ではまず、世界各地の自然環境のなかで育まれてきた狩猟採集、牧畜、焼畑などの生業に焦点をあて、その仕組みや近年の変化について考える。さらに、ムギ、ジャガイモ、雑穀、肉類など世界各地で主食となっている作物や畜産物に焦点をあて、それに関わる農耕や食文化について考える。世界各地の伝統的な生業や食文化のありようには、その地域の文化が最も本源的に表れる。この授業で生業や食文化に焦点を当てようとするのはこのためである。 【後期】日本地誌の諸問題 この授業ではまず、日本の自然、社会、文化の特徴を諸外国と比較しつつ説明したい。次に、特に農村部に焦点をあて、農林業の低迷や過疎・高齢化といった問題をそれが発生した経緯とともに概説する。さらに、グローバリゼーションの中での日本へのヒトやモノの移動と、それをめぐる諸問題について考察したい。
到達目標	【前期】自然環境と人間社会の相互作用の中で育まれてきた世界各地の生活様式の特徴を知ること。また、発展途上国農村の抱える問題について基礎的な理解を得ること。 【後期】日本の自然の特徴とその中で育まれてきた生業や社会関係の特徴について基礎的な理解を得ること。さらに、現在の地方や農村の抱える問題について理解を深めること。
講義方法	板書と配布資料が中心であるが、必要に応じてスライドやビデオを用い、理解を深めたい。
準備学習	授業で紹介する参考図書を読んでみて下さい。
成績評価	定期試験(90%)と授業中の課題(10%)により評価する。
講義構成	前期 (1)ガイダンス ～文化と生態系 (2)狩猟採集民の捉え方をめぐって (3)牧畜民の暮らし (4)焼畑の生態的合理性 (5)焼畑民の暮らしの変化 (6)ヨーロッパの混合農業 (7)農業革命論について (8)中央アンデス高地のジャガイモ栽培 (9)アンデスから世界に渡ったジャガイモ (10)世界の雑穀栽培 (11)日本の焼畑と雑穀 (12)茶の起源と伝播 (13)農業に不可欠な水資源の問題 (14)まとめ 後期 (1)日本の平野の特徴 (2)水田開発の展開―新潟平野を事例に (3)里山景観の変化 (4)山村での暮らし―ゼンマイ採集に注目して (5)山の神と日本人 (6)日本の村落社会の特徴 (7)戦後日本の地域構造と地域政策 (8)食料自給率の低下と日本の農業 (9)日本の森林と林業 (10)過疎問題と限界集落 (11)日本の中の外国人
教科書	特に指定しない。中高で用いたものでよいので地図帳の持参が望ましい。
参考書・資料	授業中に紹介する。

授業コード	15L12
-------	-------

授業科目名	地誌 (B)		
担当者名	藤田裕嗣(フジタ ヒロツグ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜5限)、後期(月曜5限)
特記事項	他学部		

講義の内容	「地誌」とは、特定の「地域」に関する地理的情報の整理された記述である。それを提示する学問としての「地誌学」(地域地理学)は、地理学において系統地理学(一般地理学)に並ぶ1大分野と評価されてきた。本講義では、これら「地理学」の中に占める「地誌学」の位置づけから始めつつ、「地誌」を個々に記述する方向はとらず、「地誌学」のさらなる研究可能性を歴史のなかに探ってみたい。 そのために、まず「地誌」に関する研究史を整理する。その上で、わが国の「地誌」の歩みに関して、とくに古代(風土記)と近世(新編武蔵風土記稿、など)を中心に辿り、その記述内容から再構成しうる当時の「地域」像も提示する。これら前期に扱う「地誌」は、文章で表現され、それを読む方向性が指定されたアナログデータである。 一方、後期は古地図を取り上げる。古地図に描かれた建物や道といった要素(図像、記号)は、相互の位置関係に従って配置されている。そして、それらの要素を読む順序が予め明示されてはいないという意味で、デジタルデータと言える。そのような性格を持つ古地図の中に描き込まれた「地域」像を解説する。前期との連続性から、日本中近世の地域図から始め、ヨーロッパにおける近代地図帳、さらにはそれ以外の文化圏で作成された古地図、の順に検討し、世界へと目を広げる。最後に、前期で取り上げた文章としての「地誌」と比較する。
到達目標	カーナビゲーションシステムの普及もあって、地図は日常生活に浸透してきた。高校「地理歴史」で「地理」を担当する場合はもちろんのこと、世界史や日本史の履修でも地図を読む技術は役立つ。地図を読む訓練を通じて、地理的事象に対する基礎的な考え方も身につけられる。
講義方法	講義形式を基本とするが、地図を読む技術を養うには実践が必要であり、そのための実習も適宜、盛り込む。さらに、「地図」自体がグラフィックデータであり、視聴覚教材を最大限に活用する予定である。教科書は、主に後期で使用し、地図における彩色やその他の情報が不足するため、視聴覚教材で補う。
準備学習	日常生活で「地図」に触れたら、意識してみましょう。それが第一歩です。
成績評価	期末に実施する試験で60%。通年講義ではあるが、前期末にも簡単な試験を実施する予定である。さらに、抜き打ち的にアンケートや課題を課することで、出席も確認し、40%に換算する。
講義構成	[前期] I. 地理学と地誌学(第2・3回;第1回はプロローグ) II. 日本における「地誌」の歩み 1) 古代ー風土記(第4～7回) 2) 近世(第8～13回) III. まとめと後期への展望(第14・15回) [後期] まず日本中近世の地域図を紹介した後(I)、16世紀から17世紀にかけて相次いで登場したヨーロッパにおける近代地図帳について、「地域」に着目して論じる(II)。最後に、中国など、それ以外の文化圏で作成された古地図を取り上げる(III、IV)。主な地図(ないしはジャンル)名を下の< >内に示した。 I. 日本の地域図 1) 生活空間(身近な領域)を描いた地図<古代の開田図、中世の荘園絵図>(第1～3回) 2) さまざまな領域図<道中国、川絵図;近世町絵図>(第4～6回) II. ヨーロッパにおける近代地図帳 1) 世界地図帳<オルテリウス『世界の舞台』1570、日本図を含めた各国「地域」>(第7回) 2) 都市地図帳<ブラウンとホーヘンベルク『世界都市図帳』1572>(第8回) 3) 道路地図帳<オウグルビー道路地図帳1675、ポインティングー図>(第9・10回) III. 中国の地域図ー出土した地域図<馬王堆図>(第11・12回) IV. 世界のさまざまな図<ベドリーナ図、マーシャル群島の海図>(第13・14回) V. 全体のまとめ(第15回)
教科書	織田武雄『地図の歴史 日本篇』、講談社(現代新書) 織田武雄『地図の歴史 世界篇』、講談社(現代新書)
参考書・資料	久武哲也・長谷川孝治編『改訂増補地図と文化』、地人書房
講義関連事項	幸い、教員に採用された場合、中学社会はおろか、高校地理歴史科でも、地理・日本史・世界史の科目はいずれも担当する可能性があり、その準備をする必要がある。歴史のなかに「地誌」を探る本講義は、その準備も狙っている。そして、教員養成制度は、政府によって再検討の対象とされており、それらの最新情報の提供も、心がけたい。

担当者から一言	文系の学問にとって講義は、学生諸君の自主的な学習を促すきっかけに過ぎず、自ら学ぶ態度こそが重要である。諸君も長年受けてきた授業は、担当する教師として教壇に立ち、中高生を前にした場合、違った様相を見せる。教師としての力量が、生徒に伝わるのである。
その他	携帯電話の電源オフは必須。他人に迷惑をかけない配慮は、社会生活を営む上での最低のマナーである。

授業コード	15L21		
授業科目名	地誌I (A)(前)		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	文学部		
オフィスアワー	火曜2限		

講義の内容	世界の生業と文化 この授業ではまず、世界各地の自然環境のなかで育まれてきた狩猟採集、牧畜、焼畑などの生業に焦点をあて、その仕組みや近年の変化について考える。さらに、ムギ、ジャガイモ、雑穀、肉類など世界各地で主食となっている作物や畜産物に焦点をあて、それに関わる農耕や食文化について考える。世界各地の伝統的な生業や食文化のありようには、その地域の文化が最も本源的に表れる。この授業で生業や食文化に焦点を当てようとするのはこのためである。
到達目標	自然環境と人間社会の相互作用の中で育まれてきた世界各地の生活様式の特徴を知ること。また、発展途上国農村の抱える問題について基礎的な理解を得ること。
講義方法	板書と配布プリントによる講義形式で進める。理解を深めるために、スライドやビデオも用いる。
準備学習	授業で紹介する参考図書を読んでみて下さい。
成績評価	定期試験(90%)と授業中のレポート課題(10%)により評価する。
講義構成	(1)ガイダンス ～文化と生態系 (2)狩猟採集民の捉え方をめぐって (3)牧畜民の暮らし (4)焼畑の生態的合理性 (5)焼畑民の暮らしの変化 (6)ヨーロッパの混合農業 (7)農業革命論について (8)中央アンデス高地のジャガイモ栽培 (9)アンデスから世界に渡ったジャガイモ (10)世界の雑穀栽培 (11)日本の焼畑と雑穀 (12)茶の起源と伝播 (13)農業に不可欠な水資源の問題 (14)まとめ
教科書	特に指定しない。中高で使ったものでいいので、地図帳の持参が望ましい。
参考書・資料	授業中に紹介する。

授業コード	15L22		
授業科目名	地誌I (B)(前)		
担当者名	藤田裕嗣(フジタ ヒロツグ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	他学部		

講義の内容	「地誌」とは、特定の「地域」に関する地理的情報の整理された記述である。それを提示する学問としての「地誌学」(地域地理学)は、地理学において系統地理学(一般地理学)に並ぶ1大分野と評価されてきた。本講義では、これら「地理学」の中に占める「地誌学」の位置づけから始めつつ、「地誌」を個々に記述する方向はとらず、「地誌学」のさらなる研究可能性を歴史のなかに探してみたい。 そのために、まず「地誌」に関する研究史を整理する。その上で、わが国の「地誌」の歩みに関して、とくに古代(風土記)と近世(新編武蔵風土記稿、など)を中心に辿り、その記述内容から再構成しうる当時の「地域」像も提示する。これら前期に扱う「地誌」は、文章で表現され、それを読む方向性が指定されたアナログデータである。
-------	--

到達目標	カーナビゲーションシステムの普及もあって、地図は日常生活に浸透してきた。高校「地理歴史」で「地理」を担当する場合はもちろんのこと、世界史や日本史の履修でも地図を読む技術は役立つ。地図を読む訓練を通じて、地理的事象に対する基礎的な考え方も身につけられる。
講義方法	講義形式を基本とするが、地図を読む技術を養うには実践が必要であり、そのための実習も適宜、盛り込む。さらに、「地図」自体がグラフィックデータであり、視聴覚教材を最大限に活用する予定である。教科書は、主に後期で使用し、地図における彩色やその他の情報が不足するため、視聴覚教材で補う。
準備学習	日常生活で「地図」に触れたら、意識してみましょう。それが第一歩です。
成績評価	前期末に試験を実施する予定である。 さらに、抜き打ち的にアンケートや課題を課することで、出席も確認し、それを40%に換算する。
講義構成	〔前期〕Ⅰ. 地理学と地誌学(第2・3回;第1回はプロローグ) Ⅱ. 日本における「地誌」の歩み 1) 古代―風土記(第4～7回) 2) 近世(第8～13回) Ⅲ. まとめと後期への展望(第14・15回)
教科書	教科書は、特に指定しない。
参考書・資料	久武哲也・長谷川孝治編『改訂増補地図と文化』、地人書房
講義関連事項	幸い、教員に採用された場合、中学社会はおろか、高校地理歴史科でも、地理・日本史・世界史の科目はいずれも担当する可能性があり、その準備をする必要がある。歴史のなかに「地誌」を探る本講義は、その準備も狙っている。そして、教員養成制度は、政府によって再検討の対象とされており、それらの最新情報の提供も、心がけたい。後期も連続して履修することが望ましい。
担当者から一言	文系の学問にとって講義は、学生諸君の自主的な学習を促すきっかけに過ぎず、自ら学ぶ態度こそが重要である。諸君も長年受けてきた授業は、担当する教師として教壇に立ち、中高生を前にした場合、違った様相を見せる。教師としての力量が、生徒に伝わるのである。
その他	携帯電話の電源オフは必須。他人に迷惑をかけない配慮は、社会生活を営む上での最低のマナーである。

授業コード	15L31		
授業科目名	地誌Ⅱ (A)(後)		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	文学部		
オフィスアワー	火曜2限		

講義の内容	日本地誌の諸問題 この授業ではまず、日本の自然、社会、文化の特徴を諸外国と比較しつつ説明したい。次に、特に農村部に焦点をあて、農林業の低迷や過疎・高齢化といった問題をそれが発生した経緯とともに概説する。さらに、グローバル化の中での日本へのヒトやモノの移動と、それをめぐる諸問題について考察したい。
到達目標	日本の自然の特徴とその中で育まれてきた生業や社会関係の特徴について基礎的な理解を得ること。さらに、現在の地方や農村の抱える問題について理解を深めること。
講義方法	板書と配布資料を用いた講義形式。必要に応じて、スライドやビデオを用い、理解を深めたい。
準備学習	授業で紹介する参考図書を読んでみて下さい。
成績評価	定期試験(90%)と授業中の課題(10%)により評価する。
講義構成	(1) 日本の平野の特徴 (2) 水田開発の展開―新潟平野を事例に (3) 里山景観の変化 (4) 山村での暮らし―ゼンマイ採集に注目して (5) 山の神と日本人 (6) 日本の村落社会の特徴 (7) 戦後日本の地域構造と地域政策 (8) 食料自給率の低下と日本の農業 (9) 日本の森林と林業 (10) 過疎問題と限界集落

	(11) 日本の中の外国人
教科書	特に指定しない。中高で用いたものでよいので、地図帳の持参が望ましい。
参考書・資料	柏久2005『環境形成と農業—新しい農業政策の理念を求めて』昭和堂。 大野晃2005『山村環境社会学序説—現代山村の限界集落化と流域共同管理—』農山漁村文化協会。授業中にも紹介する。

授業コード	15L33		
授業科目名	地誌Ⅱ (B)(後)		
担当者名	藤田裕嗣(フジタ ヒロツグ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	他学部		

講義の内容	「地誌」とは、特定の「地域」に関する地理的情報の整理された記述である。それを提示する学問としての「地誌学」(地域地理学)は、地理学において系統地理学(一般地理学)に並ぶ1大分野と評価されてきた。本講義では、これら「地理学」の中に占める「地誌学」の位置づけから始めつつ、「地誌」を個々に記述する方向はとらず、「地誌学」のさらなる研究可能性を歴史のなかに探ってみたい。 後期は古地図を取り上げる。古地図に描かれた建物や道といった要素(画像、記号)は、相互の位置関係に従って配置されている。そして、それらの要素を読む順序が予め明示されてはいないという意味で、デジタルデータと言える。そのような性格を持つ古地図の中に描き込まれた「地域」像を解説する。前期との連続性から、日本中近世の地域図から始め、ヨーロッパにおける近代地図帳、さらにはそれ以外の文化圏で作成された古地図、の順に検討し、世界へと目を広げる。最後に、前期で取り上げた文章としての「地誌」と比較する。
到達目標	カーナビゲーションシステムの普及もあって、地図は日常生活に浸透してきた。高校「地理歴史」で「地理」を担当する場合はもちろんのこと、世界史や日本史の履修でも地図を読む技術は役立つ。地図を読む訓練を通じて、地理的事象に対する基礎的な考え方も身につけられる。
講義方法	講義形式を基本とするが、地図を読む技術を養うには実践が必要であり、そのための実習も適宜、盛り込む。さらに、「地図」自体がグラフィックデータであり、視聴覚教材を最大限に活用する予定である。教科書は、主に後期で使用し、地図における彩色やその他の情報が不足するため、視聴覚教材で補う。
準備学習	日常生活で「地図」に触れたら、意識してみましょう。それが第一歩です。
成績評価	期末に実施する試験で60%、さらに、抜き打ち的にアンケートや課題を課することで、出席も確認し、40%に換算する。
講義構成	まず日本中近世の地域図を紹介した後(Ⅰ)、16世紀から17世紀にかけて相次いで登場したヨーロッパにおける近代地図帳について、「地域」に着目して論じる(Ⅱ)。最後に、中国など、それ以外の文化圏で作成された古地図を取り上げる(Ⅲ、Ⅳ)。主な地図(ないしはジャンル)名を下の< >内に示した。 Ⅰ. 日本の地域図 1)生活空間(身近な領域)を描いた地図<古代の開田図、中世の荘園絵図>(第1~3回) 2)さまざまな領域図<道中国、川絵図;近世町絵図>(第4~6回) Ⅱ. ヨーロッパにおける近代地図帳 1)世界地図帳<オルテリウス『世界の舞台』1570、日本図を含めた各図「地域」>(第7回) 2)都市地図帳<ブラウンとホーヘンベルク『世界都市図帳』1572>(第8回) 3)道路地図帳<オウグルビー道路地図帳1675、ポインティンガー図>(第9・10回) Ⅲ. 中国の地域図—出土した地域図<馬王堆図>(第11・12回) Ⅳ. 世界のさまざまな図<ペドリーナ図、マーシャル群島の海図>(第13・14回) Ⅴ. 全体のまとめ(第15回)
教科書	織田武雄『地図の歴史 日本篇』、講談社(現代新書) 織田武雄『地図の歴史 世界篇』、講談社(現代新書)
参考書・資料	久武哲也・長谷川孝治編『改訂増補地図と文化』、地人書房
講義関連事項	幸い、教員に採用された場合、中学社会はおろか、高校地理歴史科でも、地理・日本史・世界史の科目はいずれも担当する可能性があり、その準備をする必要がある。歴史のなかに「地誌」を探る本講義は、その準備も狙っている。そして、教員養成制度は、政府によって再検討の対象とされており、それらの最新情報の提供も、心がけたい。
担当者から一言	文系の学問にとって講義は、学生諸君の自主的な学習を促すきっかけに過ぎず、自ら学ぶ態度こそが重要である。諸君も長年受けてきた授業は、担当する教師として教壇に立ち、中高生を前にした場合、違った様相を見せ

	る。教師としての力量が、生徒に伝わるのである。
その他	携帯電話の電源オフは必須。他人に迷惑をかけない配慮は、社会生活を営む上での最低のマナーである。

授業コード	15049		
授業科目名	地図学（前）		
担当者名	波江彰彦（ナミエ アキヒコ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	事前登録（詳細は時間割別表を参照のこと）		

講義の内容	(1限)地理情報システム(GIS)の基本的な知識・技法を学び、また、GISの初歩的な操作を体験する。GISとは、デジタル化された地理情報と各種データベースが結合されたシステムであり、空間分析を行うツールとして利用されている。専門的ツールの域を超えて、近年では手軽にGISを体験できるツールやサービスが提供されている。現在、誰もが「使える」道具となりつつあるGISの基本を習得し、さらにそこから、GISのさまざまな利用事例を知り、社会におけるGISの生かし方について考えることにつなげたい。 (2限)演習形式で地理情報システム(GIS)の基本的な操作を学ぶ。まず、GISを使っていく上で必要となる基本的な知識や技法を体得する。そして、個人あるいはグループによる作業を通じて、身近な地域の主題図(階級区分図・分布マップなど)を完成させる。
到達目標	GISの基本的な知識・技法を体得し、それらを生かして身近な地域の主題図を作成することができる。
講義方法	(1限)講義形式を主体とする(総授業時間の70%)。資料・プリントを配付し、パワーポイントを用いて講義内容を説明・提示する。また、コンピュータを使用した演習も行う(総授業時間の30%)。 (2限)コンピュータを用いた演習形式である。個人作業・グループ作業の両方を予定している。インターネットも活用する。
準備学習	My KONANを使って授業連絡、資料配付、質問受付、課題提出などを行うので、授業の前後に必ずチェックすること。
成績評価	個人作業によるレポート、グループ作業によるレポートおよびプレゼンテーションの内容によって評価する。出席状況や授業への取り組み態度も重視する。また、授業中の(あるいは授業後に課す)課題や小レポートも参考にする。
講義構成	(1限) 第1回:授業のガイダンス 第2～3回:GISとはどういうものか、何ができるのか 第4～5回:GISデータの種類と加工 第6～8回:GISの分析技法と表現(重ね合わせ、バッファ、階級区分図、3次元表現など) 第9～11回:個人作業(GISソフトを用いた課題作成) 第12～13回:GISの利用とトレンド(行政・商用・環境GIS、ウェブGIS、FOSS4Gなど) 第14回:まとめ (2限) 第1回:授業のガイダンス 第2～4回:GISデータの入手と加工 第5～6回:個人作業(GISを用いた統計地図作成) 第7～9回:重ね合わせ分析、点データ作成、バッファ生成 第10～13回:グループ作業(GISを用いた地域分析) 第14回:グループ作業の成果のプレゼンテーション、講評
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	後藤真太郎・谷 謙二・酒井聡一・加藤一郎(2007)『新版 MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座—フリーソフトでここまで地図化できる—』古今書院。 そのほか、授業中に適宜配付・紹介する。

授業コード	15018
授業科目名	地理学の諸問題
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)、鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)

配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜1限)、後期(火曜1限)
オフィスアワー	【後期】火曜2限(担当:中辻)		
講義の内容	【前期】前半では、高校での教科書を参考にしながら、人文地理学史の概説に触れ、その方法論的な枠組みの基本を理解する。後半では、基本的なツールのひとつである地図を用いて、様々な地域の変化を学ぶ。(担当:鳴海) 【後期】後半では、東南アジアを事例に、地理学が取り組んできた諸テーマを論ずることを主眼とする。東南アジアは一見日本と似た点も多いが、異なった特徴を持っている。講義ではまず、東南アジアを自然環境とそこで育まれてきた生活様式、さらに歴史の面から捉え、日本や世界の他地域との比較のなかでその特性を明らかにする。さらに、現在この地域が抱える民族、貧困、環境などの問題についても注目したい。(担当:中辻)		
到達目標	【前期】人文地理学の基本とその関心のあり方を理解する。 【後期】東南アジアの特徴を自然、社会、文化、歴史など多様な側面から理解すること。また、地理学的なものの見方の基礎を養うこと。(担当:中辻)		
講義方法	板書を用いた講義形式を基本とする。また、適時、資料の配布、プロジェクターの活用を行い、実際に資料を見ながら話をすすめる。		
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。		
成績評価	成績は前期50%、後期50%の合計で評価する。 【前期】期末試験による評価を基本とする。そのほか、授業時に実施する課題(小テスト、小レポートなど)も参考とする。また、可能であれば定期的に出席を確認し参考にする(担当:鳴海) 【後期】期末試験(70%)、出席(15%)、レポート課題(15%)で評価する。(担当:中辻)		
講義構成	【前期】(担当:鳴海) (1)ガイダンス:この講義の紹介 (2)地理学の考え方:①地理学の伝統、②近代地理学の成立、③様々な地理学 (3)地図の基本:①様々な地図、②地図の記号と表現、③地図の利用 (4)古地図で読む景観の変化:①昔の景観を知ること、②都市の開発と発展、③自然の荒廃 (5)まとめ 【後期】(担当:中辻) (1)イントロダクション (2)自然と生活様式から見た風土区分 (3)多様な民族と民族間関係 (4)多様な稲作 (5)熱帯林と森林破壊 (6)海上交易と都市 (7)東南アジア諸国の工業化 (8)都市化と都市問題		
教科書	特定の教科書は指定しない。		
参考書・資料	特定の参考書は指定しない。必要な文献や資料は、適時指示する。高校などで使った地図帳を持参することが望ましい。		

授業コード	15019		
授業科目名	地理学の諸問題I(前)		
担当者名	鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
講義の内容	人文地理学は、幅広い研究の領域を持つ学問である。その特徴は、人と空間の関わりをみる学問といえる。まず前半では、高校での教科書を参考にしながら、人文地理学史の概説に触れ、その方法論的な枠組みの基本を理解する。後半では、基本的なツールのひとつである地図を用いて、様々な地域の変化を学ぶ。		
到達目標	人文地理学的な視点から「地域」をとらえる見方を学ぶことを目標とする。		
講義方法	板書を用いた講義形式を基本とする。また、適時、資料の配布、プロジェクターの活用を行い、実際に資料を見ながら話をすすめる。		
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。		

成績評価	期末試験による評価を基本とする。そのほか、授業時に実施する課題(小テスト、小レポートなど)も参考とする。また、可能であれば定期的に出席を確認し参考にする。
講義構成	(0)ガイダンス:この講義の紹介 (1)地理学の考え方:①地理学の伝統、②近代地理学の成立、③様々な地理学 (2)地図の基本:①様々な地図とその歴史、②地図の記号と表現、③地図の利用 (3)古地図で読む景観の変化:①昔の景観を知ること、②都市の開発と発展、③自然の荒廃 (4)まとめ
教科書	特定の教科書は指定しない。

授業コード	15020		
授業科目名	地理学の諸問題II(後)		
担当者名	中辻 享(ナカツジ ススム)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	火曜2限		

講義の内容	「地理学の諸問題～東南アジアを事例に」 本講義では東南アジアを事例に、地理学が取り組んできた諸テーマを論ずることを主眼とする。東南アジアは一見日本と似ているが、異なった特徴を持っている。講義ではまず、東南アジアを自然環境とそこで育まれてきた生活様式、さらに歴史の面から捉え、日本や世界の他地域との比較の中で、その特性を明らかにする。さらに、現在この地域が抱える民族、貧困、環境などの問題についても注目したい。
到達目標	東南アジアの特徴を自然、社会、文化、歴史など多様な側面から理解すること。また、地理学的なものの見方の基礎を養うこと。
講義方法	板書と配布プリントが中心であるが、スライドやビデオなども用いる。
準備学習	授業で紹介する参考図書を読むこと。また、新聞の国際面に毎日目を通すこと。
成績評価	定期試験(70%)、出席(15%)、レポート(15%)
講義構成	(1)イントロダクション (2)自然と生活様式から見た風土区分 (3)多様な民族と民族間関係 (4)多様な稲作 (5)熱帯林と森林破壊 (6)海上交易と都市 (7)東南アジア諸国の工業化 (8)都市化と都市問題
教科書	特に指定しない。ただし、地図帳を持参すること。
参考書・資料	藤巻正己・瀬川真平編『現代東南アジア入門』(古今書院, 2003)。 京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア—風土・生態・環境』(弘文堂, 1997)。 山田勇編『森と人の対話—熱帯からみる世界』(人文書院, 1996)。 渡部忠世編『稲のアジア史(全3巻)』(小学館, 1987)。 石井米雄・桜井由躬雄『ヴィジュアル版世界の歴史12 東南アジア世界の形成』(講談社, 1985)。

授業コード	15054		
授業科目名	地理学・民俗学資料研究I（前）		
担当者名	出口晶子（デグチ アキコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
講義の内容	みずからが実地にあるき、調査研究した一次資料を提示しながら、資料のもつ記録性、学術的社会的価値について、考える。フィールドの現場にたって、「現代を記録する」ことのたいせつさ、「現代の資料をみずからつくる」方法を実践的に学ぶ。		

到達目標	既存の資料をさがすのではなく、みずからの手で資料化されていないものに形をあたえることが目標です。
講義方法	映像をみたり、祭りを見たり、町に出たり、自分で経験していることを形あるものにするにはどうするか、それを五感を働かせて、人のしていること、考え、行動に、関心をはらいながら、対話形式で知恵をだしあう授業にする。グループワーク、発表もとりたい。
準備学習	真剣にむきあえるテーマをひとつ見つけよう。外からはいつてくるものをどんどんとりこもう。この講義をここだけで終わらせない。アンテナをはってつなげる思考回路をつくること、それが準備学習だ。
成績評価	授業中の小レポート、ならびに定期試験にかわるレポートで評価。
講義構成	1 民俗・地理学とフィールドワーク 2 現場をあるく・見る・現代を記録する 3 地理学、民俗学における映像や聞き取り・観察記録の資料性 4 未来創造のための記録 5 瀬戸内海・島・川・湖：その他私のアーカイブから
教科書	一冊に限定しない。
参考書・資料	適宜必要に応じて授業中に提示する。
担当者から一言	野外が教室、フットワーク軽く、町にでよう。

授業コード	15055		
授業科目名	地理学・民俗学資料研究Ⅱ（後）		
担当者名	鳴海邦匡（ナルミ クニタダ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	この講義では、文献資料の探し方、史料調査の手法、調査報告の仕方について、実際に作業を通して学ぶことを予定している。
到達目標	人文地理学（特に歴史地理学）関わる調査をすすめていくうえで、必要となる調査手法を身につけることを目的とする。その過程で対象となる資料や素材の理解を深めることを期待する。
講義方法	それぞれの課題に応じて実際に作業する。
準備学習	授業で示した参考資料に親しむ。
成績評価	課題毎のレポートによって評価する。また、出席も定期的に確認し参考にする。
講義構成	(1) ガイダンス：調査を行うにあたって (2) 文献資料の探し方：図書館の利用、インターネットの活用 (3) 史料調査の方法：調書のためのカードの作成、資料撮影の方法 (4) 地図の表現：自分の地図を作る (5) 調査報告の仕方：プレゼンテーションの手法、展示の作製 (6) まとめ：講評
教科書	特定の教科書は指定しない。

授業コード	15056		
授業科目名	地理学・民俗学資料研究Ⅲ（集中）		
担当者名	波江彰彦（ナミエ アキヒコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	事前登録		

	履修条件あり、履修要項参照のこと
講義の内容	地理情報システム(GIS)の実践的利用を演習形式で行う。近年、GISの開発と利用が進み、フリーで利用できるGISソフトウェア・ツール・サービスが数多く登場し、これらを使って相当レベルの分析や地図表現が可能となった。その一方で、行政・商用・教育などの多方面においてGISの活用例は増加し、ウェブ上で公開されるGISのさまざまな成果を容易に入手できるようになった。今後、仕事や社会活動においてGISを利用する機会がますます増加すると考えられる。授業において受講生はいくつかの課題に取り組む。これらの取り組みを通じて、バッファ生成、重ね合わせ分析、ネットワーク分析、GPSデータの取得・利用、3次元表現・分析といったGISによる実践的な分析を体得する。
到達目標	GISの利用を前提とした課題を立案し、GISによる実践的な分析を通じて成果をあげることができる。
講義方法	コンピュータを用いた演習形式である。グループ作業を予定している。野外実習も考えている。資料・プリントを配付し、パワーポイントを用いて講義内容を説明・提示する。インターネットも活用する。
準備学習	「地理と情報I」・「地理と情報II」の履修を通じて、GISの知識・技法をある程度身につけていることが望ましい。
成績評価	課題の成果とプレゼンテーションの内容によって評価する。また、全授業への出席を原則とする。授業への取り組み態度も重視する。
講義構成	第1回: 授業のガイダンス 第2～6回: 課題1の作業(ハザードマップ・文化財マップの作成: GPSの利用) 第7回: 課題1のプレゼンテーション、講評 第8～12回: 課題2の作業(日常行動の時間地理学的分析) 第13回: 課題2のプレゼンテーション、講評 第14回: 最終講評、課題の成果公開に向けて 作業の進行状況や受講生の関心に応じて講義構成を変更することもある。
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	授業中に適宜配付・紹介する。
講義関連事項	「GIS学術士」の資格認定科目である。

授業コード	15050		
授業科目名	地理と情報I(前)		
担当者名	波江彰彦(ナミエ アキヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
講義の内容	地理情報システム(GIS)の基本的な知識・技法を学び、また、GISの初歩的な操作を体験する。GISとは、デジタル化された地理情報と各種データベースが結合されたシステムであり、空間分析を行うツールとして利用されている。専門的ツールの域を超えて、近年では手軽にGISを体験できるツールやサービスが提供されている。現在、誰もが「使える」道具となりつつあるGISの基本を習得し、さらにそこから、GISのさまざまな利用事例を知り、社会におけるGISの生かし方について考えることにつなげたい。		
到達目標	GISの基本的な知識・技法を習得し、初歩的な操作ができる。		
講義方法	講義形式を主体とする(総授業時間の70%)。資料・プリントを配付し、パワーポイントを用いて講義内容を説明・提示する。また、コンピュータを使用した演習も行う(総授業時間の30%)。		
準備学習	My KONANを使って授業連絡、資料配付、質問受付、課題提出などを行うので、授業の前後に必ずチェックすること。		
成績評価	期末レポートによって評価する。また、授業中の(あるいは授業後に課す)課題や小レポート、出席も参考にする。		
講義構成	第1回:授業のガイダンス 第2～3回:GISとはどういうものか、何ができるのか 第4～5回:GISデータの種類と加工 第6～8回:GISの分析技法と表現(重ね合わせ、バッファ、階級区分図、3次元表現など) 第9～11回:個人作業(GISソフトを用いた課題作成) 第12～13回:GISの利用とトレンド(行政・商用・環境GIS、ウェブGIS、FOSS4Gなど) 第14回:まとめ		
教科書	特に指定しない。		

参考書・資料	後藤真太郎・谷 謙二・酒井聡一・加藤一郎(2007)『新版 MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座—フリーソフトでここまで地図化できる—』古今書院. そのほか、授業中に適宜配付・紹介する。
講義関連事項	「GIS学術士」の資格認定科目である。「地理と情報Ⅱ」は、この授業と関連する科目である。

授業コード	15051		
授業科目名	地理と情報Ⅱ（前）		
担当者名	波江彰彦（ナミエ アキヒコ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	事前登録（詳細は時間割別表を参照のこと）		

講義の内容	演習形式で地理情報システム(GIS)の基本的な操作を学ぶ。GISとは、デジタル化された地理情報と各種データベースが結合されたシステムであり、空間分析を行うツールとして利用されている。専門的ツールの域を超えて、近年では手軽にGISを体験できるツールやサービスが提供されている。この授業では、そのようなツールやサービスを利用して、まずGISを使っていく上で必要となる基本的な知識や技法を体得する。そして、個人あるいはグループによる作業を通じて、身近な地域の主題図(階級区分図・分布マップなど)を完成させる。		
到達目標	GISの基本的な知識・技法を体得し、それらを生かして身近な地域の主題図を作成することができる。		
講義方法	コンピュータを用いた演習形式である。個人作業・グループ作業の両方を予定している。資料・プリントを配付し、パワーポイントを用いて講義内容を説明・提示する。インターネットも活用する。		
準備学習	「地理と情報Ⅰ」もあわせて受講することが望ましい。My KONANを使って授業連絡、資料配付、質問受付、課題提出などを行うので、授業の前後に必ずチェックすること。		
成績評価	個人作業によるレポート、グループ作業によるレポートおよびプレゼンテーションの内容によって評価する。出席状況や授業への取り組み態度も重視する。		
講義構成	第1回:授業のガイダンス 第2～4回:GISデータの入手と加工 第5～6回:個人作業(GISを用いた統計地図作成) 第7～9回:重ね合わせ分析、点データ作成、バッファ生成 第10～13回:グループ作業(GISを用いた地域分析) 第14回:グループ作業の成果のプレゼンテーション、講評		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	後藤真太郎・谷 謙二・酒井聡一・加藤一郎(2007)『新版 MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座—フリーソフトでここまで地図化 できる—』古今書院. そのほか、授業中に適宜配付・紹介する。		
講義関連事項	「GIS学術士」の資格認定科目である。		

授業コード	15003		
授業科目名	日本学 (4単位)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、稲田清一(イナダ セイイチ)、合田昌史(ゴウダ マサフミ)、出口晶子(デグチ アキコ)、東谷 智(ヒガシタニ サトシ)、鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)、中辻 享(ナカツジ ススム)、中町信孝(ナカマチ ノブタカ)、横山 良(ヨコヤマ リョウ)、人見佐知子(ヒトミ サチコ)、鎌谷かおる(カマタニ カオル)、木場貴俊(キバ タカトシ)、河野未央(コウノ ミオ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(火曜3限)
オフィスアワー	前期:木曜昼休み(佐藤) 後期:木曜日12:20～14:20 東谷研究室(10号館5階)		

講義の内容	【前期】
-------	------

	歴史文化学科における各専門領域への導入として、色々な視点、様々な立場から、日本および日本の諸地域、日本と世界の関わりなどを講義する。日常的には自明と思っている日本を意識的に取り上げて問題関心を養うとともに、各専門領域を紹介する役割を持たせる。 【後期】 本講義では、地域の歴史と文化を知ることにより、地域の視点から日本を考えることを目的とします。江戸時代から幕末維新期の阪神間の文化的諸相について取り上げ、学内講義とフィールドワークで学ぶことにより、理解を深めたい。
到達目標	日本をめぐる様々な研究領域について知見を得る。
講義方法	リレー講義形式で実施する。
準備学習	必要に応じて各担当者から指示する。
成績評価	出席およびレポートによる評価（詳しくは初回講義時に説明する）。
講義構成	【前期】 1. ガイダンス 2. 佐藤泰弘「歴史学の観点、日本史の視点」 3. 様々な視点からの話題提供 稲田清一・合田昌史・出口晶子・鳴海邦匡・中辻 享・中町信孝・横山 良 4. まとめ 【後期】 ◎学内講義 ・ガイダンス（鳴海） ・兵庫津と海運ネットワーク（河野） ・阪神間の酒造と文化的ネットワーク（鎌谷） ・開港と神戸の遊廊（人見） ・阪神間の怪異文化（木場） ・まとめ（東谷） * 講義順と日程は後期の初回に指示します ◎学外講義（集中講義） ・学内講義で取り上げた場所でのフィールドワーク * 学外講義の日程など詳細は講義中に指示します。
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書・資料	特定の参考書は指定しない。必要な文献や資料は、適時指示する。
講義関連事項	なし
その他	講義は前期は火曜日3限目、後期は火曜日3限目＋集中講義となっています。注意してください。

授業コード	15004		
授業科目名	日本学(2単位)(前)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、稲田清一(イナダ セイイチ)、合田昌史(ゴウダ マサフミ)、出口晶子(デグチ アキコ)、鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)、中辻 享(ナカツジ ススム)、中町信孝(ナカマチ ノブタカ)、横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	火曜2限（鳴海）		

講義の内容	歴史文化学科における各専門領域への導入として、色々な視点、様々な立場から、日本および日本の諸地域、日本と世界の関わりなどを講義する。日常的には自明と思っている日本を意識的に取り上げて問題関心を養うとともに、各専門領域を紹介する役割を持たせる。
到達目標	日本をめぐる様々な研究領域について知見を得る。
講義方法	リレー講義形式で実施する。

準備学習	必要に応じて各担当者から指示する。
成績評価	出席およびレポートによる評価（詳しくは初回講義時に説明する）。
講義構成	1. ガイダンス 2. 佐藤泰弘「歴史学の観点、日本史の視点」 3. 様々な視点からの話題提供 稲田清一・合田昌史・出口晶子・鳴海邦匡・中辻 享・中町信孝・横山 良 4. まとめ
教科書	特定の教科書は指定しない。
参考書・資料	特定の参考書は指定しない。必要な文献や資料は、適時指示する。
講義関連事項	なし
担当者から一言	歴史文化学科は様々な専門領域の教員がいます。2年生で演習（ゼミ）を決める際までに、教員の専門領域について知っておく必要があります。ゼミ選択のためにもしっかりと受講してください。

授業コード	15N21		
授業科目名	日本史I (A)(後)		
担当者名	三村昌司(ミムラ ショウジ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	日本の明治前期の地方政治史についての講義を行います。 高校までの日本史の教科書では、歴史の舞台となるのは東京（中央）が中心でした。しかしそれは、歴史の一面でしかありません。そこで、この講義では、地方を舞台として、歴史を描きなおしてみようことをめざします。 とはいえ、単なる「地方の歴史」とどまらず、それが日本全体の動きとどのように関係していたのか、という点をつねに考えていきたいと思っています。 なお、扱う地域は甲南大学のある兵庫県です。とくに神戸・三田・淡路・姫路などを取り上げていく予定です。
到達目標	(1) 歴史に対する理解 近代日本形成の歴史的過程について理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な社会の一員として必要な自覚と資質を養うことをめざします。 (2) プロセスの重視 結果や結論だけを求めるのではなく、そこに至る過程を重視する視野の獲得をめざします。
講義方法	黒板がわりにパワーポイントを使用する予定です。ただし、黒板がわりですので、データを出力したものは最初に配布しません。パワーポイントのデータは、授業の中盤と終わりの時期の2度にわけて、MY KONANで公開します。 また必要に応じて資料を配布します。時折課題を課すこともあります。
準備学習	とくにありません。
成績評価	試験70%、出席（および課題）30%。
講義構成	(1) 兵庫県の成立 — 兵庫県はいつできたか？ (2) 居留地の成立 — 三宮の南にある「居留地」の歴史を知っていますか？ (3) 「大区小区制」の展開 — 兵庫県三田市の一地域を事例に (4) 三新法の隠された意図 — 公式には出ない「隠された意図」を見抜く (5) 歴史研究はどうやってなされるか？ — 資料の発見・救出、くずし字を読む
教科書	とくにありません。適宜参考文献を紹介します。
担当者から一言	明治時代の兵庫県の話をおもにしますが、加えて「歴史って勉強する意味あるの？」という問題にも触れていきたいと思っています。高校までの「暗記もの」とは違う、歴史学の面白さに触れてもらえればと思います。

授業コード	15N22
-------	-------

授業科目名	日本史I (B)(前)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	木曜日の昼休み。		

講義の内容	「平安・鎌倉時代の紛争と社会」 平安・鎌倉時代における様々な紛争や裁判の事例を具体的に検討し、当該期の社会の特質を考える。		
到達目標	当該テーマについて基本的な知見を得る		
講義方法	配付資料を用いた講義。		
準備学習	平安・鎌倉時代の概論、もしくは高校教科書レベルの概説書を読んでおくこと。		
成績評価	レポートと期末試験とを予定(詳しくは講義最初に伝える)		
講義構成	1. 土地所有をめぐる紛争 2. 財産の相続をめぐる紛争 (講義構成は変更することがあります)		
教科書	なし。		
参考書・資料	講義時に指示します。		
講義関連事項	古文書学		

授業コード	15N31		
授業科目名	日本史II (A)(前)		
担当者名	村井良介(ムライ リョウスケ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	この講義では、おもに戦国大名を取りあげ、戦国期社会の特質について考える。また、そこから、権力とは何か、権力をどう考えるべきかという普遍的問題への視点を示す。 戦国時代は、中世から近世へという、日本史上の大きな転換点として注目されてきた。戦国時代を知ることは、日本の中世を知るためにも、近世を知るためにも重要であるが、同時に戦国時代という時代に固有の特質も考える必要がある。この講義では、戦国大名を取りあげ、権力論の視点から、それに迫る。		
到達目標	個別の知識や用語を憶えることも必要ではあるが、この講義では、たとえば戦国大名をめぐる学説が、どういう考え方に基づき、どういう筋道で論じられているのか。あるいは、戦国時代を見ることを通して、権力というものをどう考えていけばいいのかなど、考え方や歴史の見方を身につけることを目標とする。		
講義方法	適宜プリントを配布して、それに沿って講義をおこなう。		
準備学習	参考文献は、比較的読みやすい、一般読者向けのものを挙げておいたので、積極的に目を通しておくことが望ましい。		
成績評価	定期試験(100%)		
講義構成	第1回 概要の説明 第2回 戦国時代はどういう時代か 第3回 転換期としての戦国時代(1) 第4回 転換期としての戦国時代(2) 第5回 戦争から平和へ 自力救済の問題 第6回 戦国時代は中世か？近世か？(1) 第7回 戦国時代は中世か？近世か？(2) 第8回 戦国大名概念は不要か？ 第9回 戦国大名概念は不要か？ 第10回 戦国大名と豊臣の平和(1) 第11回 戦国大名と豊臣の平和(2) 第12回 戦国大名と「戦国領主」(1) 第13回 戦国大名と「戦国領主」(2) 第14回 権力論から考える戦国社会の特質		

	第15回 試験
教科書	使用しない。
参考書・資料	久留島典子編『日本の歴史13 一揆と戦国大名』（講談社、2001年） 矢田俊文『上杉謙信』（ミネルヴァ書房、2005年） 池享『日本中世の歴史6 戦国大名と一揆』（吉川弘文館、2009年）
その他	私語は周りの学生の迷惑になるので慎むこと。また、授業中、正当な理由なく教室を出入りしないこと。

授業コード	15N32		
授業科目名	日本史II (B)(前)		
担当者名	志村 洋(シムラ ヒロシ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	百姓身分・村落社会の問題を中心に、高校日本史レベルでは紹介されることのない、戦後近世史の著名な学説を解説し、あわせてトピック的な話題を紹介する。 高校日本史の教科書に書かれている何気ない一文にも、その背後には実に多くの論争や多様な実態がよこたわっている。本講義では、そうした一言では処理、解決しきれない近世史の専門的内容にも目を向けることで、歴史学が考える学問、変化する学問であることを知ってもらいたい。
到達目標	「歴史」を複眼的に捉える視点を獲得する。歴史学を、過去の物語や道徳訓としてではなく、現実社会の諸問題に目を向ける学問的営みのひとつであることを理解する。
講義方法	講義方式で行う。必要に応じてプリントを配布する。授業中、受講生に感想文を求めたり、質問する場合がある。
準備学習	高校日本史Bの近世史部分は一読しておくこと。 読み下しされていない史料も授業中用いるので、初歩的な漢文の読み方(レ点や一、二点などの返り点の用法)に慣れておくこと。
成績評価	原則として定期試験(参考書・ノート類の持ち込みは不可)で評価する。ただし必要に応じて、受講態度(注:出席回数ではない)も成績評価に加味する。
講義構成	1. オリエンテーション 2. 近世社会の基本的しくみと史料 3. 太閤検地と小農自立(研究史1) 4. 近世後期の豪農と半プロレタリアート(研究史2) 5. 兵営国家論と国奉行論(研究史3) 6. 慶安の触書について(各論1) 7. 生類憐れみ令について(各論2) 8. 町場下層民の世界について(各論3)
教科書	特に指定しない。
講義関連事項	1. 大幅な遅刻入室(授業開始後30分以降)と、途中退出を禁じます(ただし、しかるべき事情によって事前に申し出があった場合は例外)。 2. 授業中、出欠は原則取らない。 3. 講義は近世史の専門的内容に言及します。安易な考えや態度での受講は後悔することになりますので、注意して下さい。

授業コード	15015		
授業科目名	日本史の諸問題		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	「平安時代の貴族社会の研究」
-------	----------------

	平安時代の貴族社会を主たる論点としながら、日本の古代・中世史の研究について考える。
到達目標	日本史を学ぶための基本的な方法を身につける。
講義方法	配付資料を用いた講義
準備学習	指定した教科書や参考文献を読むこと。
成績評価	レポート(3～5回)、および期末試験を予定しています。 レポートの未提出および試験の欠席は「欠席」として評価します。
講義構成	1:政治の仕組み 2:平安京 3:儀式 4:貴族社会を支えるもの 5:貴族社会の特質 (講義構成は変更することがあります)
教科書	最初の講義で指定します。
参考書・資料	吉川真司編『日本の時代史5平安京』
講義関連事項	日本文化史
担当者から一言	1年生から受講できる科目なので、色々な研究スタイルや研究方法を紹介したいと思います。

授業コード	15022		
授業科目名	日本文化史（後）		
担当者名	東谷 智（ヒガシタニ サトシ）		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	木曜日12:20～14:20 東谷研究室（10号館5階）		

講義の内容	地域の文化を学ぶことにより、日本の文化について知見を深めることを目的とする。
到達目標	文化の地域差について理解する。
講義方法	基本的に講義形式で行いますが、必要に応じてフィールドワークとして大学近辺に出かけます。文献を読むのではなく、出来るだけ五感を通して文化を感じ取ってみたいと思います。 また、絵画資料や絵図資料も随時用いています。
準備学習	講義中に指示する。
成績評価	後期末にレポートを課す他、講義中のミニレポートを加味して評価します。講義を聴いてノートを取るだけではなく、自ら積極的に動いてもらうことが高評価につながります。
講義構成	◎文化の違いと比較—東と西の文化史 ・食文化の比較 ・建物と生活 ・地名の比較 ◎大学近辺の文化財
教科書	用いない。必要に応じてプリントを配付する。
参考書・資料	講義中に指示する。
担当者から一言	机の上で学ぶよりも現場に出てみましょう。身近なところに文化を考える素材があるものです。

授業コード	15063		
授業科目名	博物館概論（前）		
担当者名	村田隆志（ムラタ タカシ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限

講義の内容	博物館とは何なのか、学芸員とはどのような職業で、どのような能力が求められるのか、学芸員資格取得の前提となる基礎的な知識を養うことを目的とする。また、講義中に課すこんにちの博物館に関する問題についてのディベートや、課題である作品解説の執筆などの模擬的な実務経験を通じて、博物館と学芸員に関する理解を深める。
到達目標	1. 博物館という施設についての歴史的経緯と現状を理解する。 2. 学芸員という職種について、「博物館法」に定められている職務を理解し、それぞれについて実務を行う前提となる基礎的な知識を習得する。 3. 現代の博物館に関する問題について講義中に行うディベートやプレゼンテーションにより、博物館について考察を深めるとともに、論理的に他者に自身の考えを伝える能力を養う。
講義方法	主として博物館と学芸員に関する講義形式を採る。開講期間中、一度は実際に学内外の博物館施設での見学（詳細は講義中、またMy KONANで案内する）の機会を設ける。ほか、講義室で実際の資料（掛軸・画帖など）を用いて取扱の実習を行う場合もある。 また、受講生を何組かのグループに分けてのディベート・プレゼンテーションを数回試みる。参加実績が単位取得にとって不可欠の要件となるので、必ず参加すること。詳細は講義中に適宜指示する。
準備学習	本科目で課すレポートやディベートは、受講者が博物館での鑑賞経験を豊富に有していることが前提となる。このため、各自が常日頃から様々な形で博物館に親しんでおくことが望まれる。
成績評価	レポート(30%)と、講義中のディベート・プレゼンテーションでの成績・貢献度(30%)、学期末のキャプション(作品解説)課題(40%)で総合的に評価します。
講義構成	1.イントロダクション 2.博物館・展覧会・学芸員の歴史と現状 3.学内外博物館施設見学 4.資料の収集 寄贈・購入・真贋 5.資料の保管 環境・損傷の原因と回避・修復 6.レポート講評とディベート1 7.レポート講評とディベート2 8.レポート講評とディベート3 9.学芸員の研究の手法 10.展示の実際 作品の取り扱い 11.プレスリリース・キャプションの執筆法 12.教育普及の精神と企画、運営 13.プレゼンテーション1 14.プレゼンテーション2 15.レポート総評と総括 ※内容については講義の進捗状況、展覧会見学などの都合上、変更する場合がある。
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	中村興二・岸文和編『日本美術を学ぶ人のために』(世界思想社、2001年)ほか。講義中に随時紹介を行う。
担当者から一言	日本の学芸員に求められる能力は多種多様です。学会に新知見を問う第一線の研究者として活躍すること、来館した小学生の素朴な質問に答えること、業者と交渉して価値ある資料を購入すること、破損した資料をどのように修復するのかの方針を定めること、訴求力のあるキャッチコピーや、ポスターデザインを決定して来館者を増やすこと……など、全てに対応することが学芸員には求められます。本科目で学ぶことによって、これらの様々な能力の基礎を養い、それぞれの人生に活かしてください。

授業コード	15R11		
授業科目名	博物館学I (A)(前・集中)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、辻 智美(ツジ サトミ)、西山マルセーロ(ニシヤマ マルセーロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(集中講義)
特記事項	「2007年度以降入学生は、歴史文化領域コースは(A)、美術領域コースは(B)、環境領域コースは(C)を履修すること。 2006年度以前入学生は、歴史文化学科は(A)クラス、人間科学科は(B)・(C)クラスのいずれかを履修すること」		
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	この講義では、博物館の調査研究活動の意義や方法について理解し、資料の収集・整理・保存と管理および展示に関する知識や技術の習得を図ることを目的とします。そのために具体的な事例として、竹中大工道具館および小磯記念美術館での講義を行います。
到達目標	博物館資料および博物館の活動について一定の知見を得ること。
講義方法	配付資料およびスライドなどを用いた講義を実施します。 前期期間中は大学での通常講義、博物館での現地講義となります。
準備学習	指定する教科書や参考文献を熟読すること。
成績評価	平常点およびレポート
講義構成	前期期間中の講義と夏休み中の集中講義とを組み合わせた講義構成となります。 講義日程については、講義中に指示します。 週間講義 1: 博物館資料とは何か 2: 資料の収集 3: 資料の保管と環境 4: 資料の研究 5: 資料の公開・展示 集中講義 竹中大工道具館 小磯記念美術館 (講義構成は変更することがあります)
教科書	最初の講義で指示します。
参考書・資料	講義中に指示します
講義関連事項	博物館概論(2年次履修)、博物館学Ⅱ(3年次履修)
担当者から一言	博物館学芸員養成課程の必修科目です。通常講義も集中講義も欠席しないようにしてください。

授業コード	15R21		
授業科目名	博物館学Ⅱ(A)(集中)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、三木美裕(ミキ ヨシヒロ)、福島正和(フクシマ マサカズ)、木村朱晶(キムラ スアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	「2007年度以降入学生は、歴史文化領域コースは(A)、美術領域コースは(B)、環境領域コースは(C)を履修すること。 2006年度以前入学生は、歴史文化学科は(A)クラス、人間科学科は(B)・(C)クラスのいずれかを履修すること」		
オフィスアワー	木曜日12:20～12:50 佐藤研究室(10号館5階)		

講義の内容	まず、ミュージアムが毎日どのように運営されているのかを学びます。 次に、ミュージアムの特性を生かした教育普及事業の必要性について考えます。実際にどのようなプログラムを開発できるか、ギャラリーの中で各自が考えます。以上を通して、ミュージアムが来館者に対して持つ様々な可能性を追求します。
到達目標	博物館の運営や学芸員の仕事について理解する
講義方法	3日間の集中講義中はギャラリーでの実践が中心。体を動かしながら、ミュージアム運営の仕組みを理解できるよう試みます。
準備学習	指定された教科書を熟読すること
成績評価	(a)集中講義前に提出する事前レポート、(b)集中講義期間の出席および講義への参加態度、(c)集中講義後に提出する事後レポートで評価する。レポートの課題や到達目標についてはガイダンスおよび講義中に指示を行う。
講義構成	ミュージアム内でのセミナー室での小講義と、グループに分かれてギャラリーでの観察を行います。この過程で各自の課題を見つけ出し、工夫をこらして問題点を解決する方策を探ります。3日間それを繰り返し、最終日には各自の発表を行います。

教科書	三木美裕『キュレーターからの手紙』
参考書・資料	講義中に指示します。
講義関連事項	博物館概論・博物館学Ⅰもあわせて受講してください。
担当者から一言	受講に際しては、3日間フルに参加されることが鍵になります。
その他	・6月下旬に受講のためのガイダンスを予定しています。 ・受講に関するガイダンスや、講義日程等、連絡事項や変更点については必要に応じて掲示をします。掲示の見落としのないように注意してください。

授業コード	15R31		
授業科目名	博物館実習 (A)(集中)		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、出口晶子(デグチ アキコ)、東谷 智(ヒガシタニ サトシ)、鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)		
配当年次	3年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	佐藤(木曜日昼休み)		

講義の内容	博物館学芸員資格を取得するための仕上げとして、学外の博物館で1週間前後の実習をうけます。
到達目標	学芸員の実務を理解する。
講義方法	ガイダンスで指示します。
準備学習	ガイダンスで指示します。
成績評価	博物館実習の評価および報告をもとに成績を評価します。
講義構成	1. ガイダンス 2. 事前指導 3. 実習 4. 事後指導
教科書	なし
参考書・資料	なし
講義関連事項	博物館概論・博物館学Ⅰ・Ⅱ
担当者から一言	ガイダンスに必ず参加してください。日程など掲示の見落としのないように注意してください。

授業コード	15010		
授業科目名	阪神文化論I(阪神文化論) (後)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	本年度の阪神文化論は、朝日新聞社との連携講座として開講する。 われわれが、自ら場所を移動することなく、日本、世界各地の出来事を知ることができるのは、新聞やテレビ、インターネットといったメディアのおかげであらう。その意味で、メディアはわれわれの「現実・リアリティ」を作っている側面がある。講義では、新聞メディアの最前線で仕事をしている新聞記者や報道カメラマン、それらを記事として紙面を構成・編集する立場の人たちを毎回講師として招き、「リアリティとは何か。それはどこにあるのか」をテーマに、われわれの新聞記事を読み解く力を養う。それゆえに、講義の射程は通常の「阪神文化」の対象を大きく超えることが予想される。了承いただきたい。
到達目標	新聞記事を批判的に読み解き、「リアリティ」の所在を自分なりにつかんだうえで、記事の背景をも考慮に入れて「出来事」を考えられるようになる。
講義方法	朝日新聞社の記者やカメラマン、編集担当者らによる連続講義の形をとる。毎回の講義については、講義担当者である井野瀬が、朝日新聞編集局長補佐・草川誠氏とともに、それぞれの話について「リアリティ」をキーワード

	ドにして論点を明らかにしながら進めていく。
準備学習	各講義と関連する朝日新聞の記事を必ず読み、そこに描かれた「リアリティ」の中身について、自分なりの考えをまとめておく。それ以外にも、気になる記事については、なぜ気になったのかの理由を含めてメモをつけて整理するために、Myスクラップ・ブックを作してほしい。
成績評価	各講義の最後に、出欠確認を兼ねて、その講義で学んだ内容をリアクション・ペーパーの形で提出してもらい、それを総合的に評価する。必要に応じて、それ以外にもレポート提出を求めることもある。いずれにしても、各講師がそれぞれのリアクション・ペーパーに与える評価を総合して成績をつけることにする。
講義構成	9月21日 オリエンテーション(1)——メディアが伝える「リアリティ」を読み解くために(担当・井野瀬) 9月28日 オリエンテーション(2)——新聞メディアと「リアリティ」の関係性 (担当・朝日新聞大阪本社・編集局長補佐 草川誠氏) 10月5日 新聞記事のなかのリアリティ(1) 10月12日 新聞記事のなかのリアリティ(2) 10月19日 新聞記事のなかのリアリティ(3) 10月26日 新聞記事のなかのリアリティ(4) 11月2日 報道写真のなかのリアリティ(1) 11月9日 報道写真のなかのリアリティ(2) 11月16日 報道写真のなかのリアリティ(3) 11月30日 報道写真のなかのリアリティ(4) 12月7日 新聞編集とリアリティ(1) 12月14日 新聞編集とリアリティ(2) 12月21日 新聞編集とリアリティ(3) 1月4日 新聞編集とリアリティ(4) 1月11日 まとめ (担当者の都合により、内容の一部変更の可能性もある。あらかじめご了承ください)
教科書	講義の前、あるいは講義の中で、適宜指示するが、朝日新聞を毎日読んで、気になる記事をチェックしておいてほしい。
参考書・資料	講義のなかで適宜指示する。
講義関連事項	メディア、マスコミ、メディア・リテラシーなどのキーワードと関わる講義を受講していることが望ましい。
担当者から一言	朝日新聞社との連携講座は、文学部初の試みです。担当者としてもワクワクしています。事件や出来事、諸問題の最前線でその「リアリティ」を伝えようとする彼ら、新聞人の送る言葉や写真、編集手法に耳をすませるとともに、現場に立つ者ならではの臨場感を、おおいに楽しんでください。あなたがたの日常の1コマが、そのなかの「リアリティ」に対する見方が、大きく変わることを期待しています！

授業コード	15011		
授業科目名	阪神文化論Ⅱ(後)		
担当者名	東谷 智(ヒガシタニ サトシ)、鳴海邦匡(ナルミ クニタダ)、人見佐知子(ヒトミ サチコ)、鎌谷かおる(カマタニ カオル)、木場貴俊(キバ タカトシ)、河野未央(コウノ ミオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	木曜日12:20～14:20 東谷研究室(10号館5階)		

講義の内容	本講義は江戸時代から幕末維新期の阪神間の文化的諸相について、学内講義とフィールドワークで学ぶ科目です。 講義では、いくつかの場所を設定し、その場所に視点を据えて阪神間を見ることにより、地域としての阪神間が持つ広がりやつながりについて論じていきたいと思います。 阪神間では非常に多くの人とモノの動き、多くの情報が行き交っていました。 学内講義で、物流のネットワークや人的ネットワークを背景に阪神間という地域とそこで生み出される文化について理解をします。加えて、フィールドワークで現地調査を行うことにより、より理解を深めることを目的とします。 なお、近代以降の阪神間の文化を「モダニズム」をキーワードとして学ぶ科目(阪神文化論Ⅰ)もある。あわせて受講することにより、より深く阪神間の文化について学ぶことができます。
到達目標	江戸時代の阪神間の文化について理解すること。 フィールドワークの方法を会得すること。

講義方法	学内講義は通常の講義形式で行います(リレー講義)。 学外講義はフィールドワークとして現地調査を行います(東谷その他)。
準備学習	講義中に指示する。
成績評価	・出席点＋講義内でのミニレポート(40点) ・後期末のレポート(60点)
講義構成	【学内講義】(火曜4限) ・ガイダンス(鳴海) ・兵庫津と海運ネットワーク(河野) ・阪神間の酒造と文化的ネットワーク(鎌谷) ・開港と神戸の遊廓(人見) ・阪神間の怪異文化(木場) ・まとめ(東谷) * 講義順と日程は初回に指示します 【学外講義】(集中講義) ・学内講義で取り上げた場所でのフィールドワーク * 学外講義の日程など詳細は講義中に指示します。
教科書	特に指定しない。 必要に応じてプリントを配布します。
参考書・資料	講義中に指示する。
講義関連事項	阪神文化論 I (前期)
担当者から一言	講義で学んだことを踏まえた現地調査を行う科目です。 講義で聞いた内容を自分の目で確かめ、阪神間の文化を理解してほしいと思います。
その他	学内講義(火曜4限)と学外講義(集中講義)で構成します。 学外講義の日程については講義の際に指示します。

授業コード	15070		
授業科目名	比較文化史I(前)		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	「紙と書物の文化史」 東アジアで生まれた紙が、イスラーム地域を通じてヨーロッパに伝播し、それぞれの地域に特色のある書物文化を育んだ。この講義では、紙、書物(写本)、口承とリテラシー、知識伝達などのキーワードから、各地域の文化史を説明する。特に、今まであまり論じられることのなかった歴史的イスラーム地域の文化史に多くの時間を割く。
到達目標	紙の発明や伝播に関する従来学説がどのような根拠に基づいてとなえられたのか、紙・書物の登場によって知的伝達のあり方はどのように変容したか、印刷技術の発達は人々の意識をどのように変化させたかなど、紙と書物に関する諸問題への理解を深める。
講義方法	プリントと板書を併用した講義形式。適宜、映画などの映像資料を用いる。
準備学習	日本史・世界史において、紙や書物に関してどのような事件・現象が生じたか、分かる範囲でリストアップしておくこと。
成績評価	平常点(出席点)と学期末テスト(もしくはレポート)の成績を総合して評価する。
講義構成	1. イントロダクション 2. 紙の生まれる前 3. 声の文化 4. クルアーンと書物 5. 紙の誕生 6. 紙の伝播

	7. イスラーム地域における書物 8. イスラーム地域の知識伝達 9. イスラーム地域の写本 10. イスラーム地域の書道と細密画 11. 中世ヨーロッパの写本 12. 活版印刷の誕生 13. 印刷術の伝播と近代 14. まとめ
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	講義中に指示する。

授業コード	15071		
授業科目名	比較文化史Ⅱ(前)		
担当者名	中田美絵(ナカタ ミエ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	テーマ: アジア地域における仏教の展開 インドに発祥した仏教は、中央アジア・東南アジア・中国・朝鮮・日本などの広範囲の地域で文化・社会・政治など様々な分野に大きな影響を与えた。時には、歴史的・文化的背景の異なる地域・社会に流入して文化衝突を引き起こしたり、当初の思想とは違った形で受容されることも多い。本講義では、仏教が各地域に受容されてからどういった変遷を遂げたのか、また、社会や政治にどのように影響を与えていったのかを、中国・唐代の時期を軸に据え、他地域との比較も行ないながら解説したい。		
到達目標	仏教が歴史上果たしてきた役割を、政治・経済・文化などの諸方面から具体例を挙げて説明することが出来る。		
講義方法	板書と配布プリントを併用した講義形式。適宜、写真なども用いる。		
準備学習	・開講前に、高校の世界史の教科書などで唐代までの中国史の復習をしておくことが望ましい。 ・講義中に紹介した書籍や、配布する参考プリントなどは積極的に読むこと。		
成績評価	出席回数と期末テストにより評価する。詳細については初回に説明する。		
講義構成	(1) 導入 (2) 仏教と政治 ・統治手段としての仏教思想 ・暴力装置としての仏教 (3) 五臺山文殊信仰の展開 ・仏教聖地成立までの過程 ・五臺山文殊信仰と王権 ・東アジア仏教圏における五臺山文殊信仰 (4) 混淆する仏教 ・ゾロアスター教と仏教 ・ネストリウス派キリスト教と仏教 (5) 法門寺と仏舎利信仰		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	講義中に適宜紹介する。また、プリントを適宜配布する。		

授業コード	15039		
授業科目名	文化交流史(文化交流史I) (前)		
担当者名	和田郁子(ワダ イクコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	南アジア系の移民は、現在では世界各地に見られる。南アジア系の人々の海外進出や移住には長い歴史があ
-------	--

	るが、移民(移住する人々)の動きは19世紀のイギリス植民地体制下で大きく展開した。本講義では、海上での人間の活動が古くから活発に行われていた、インド洋海域における南アジア系移民に注目し、前近代から近代に至る彼らの移動の背景や活動、移住先の社会との関係などについて取り上げる。
到達目標	移民の歴史を通して、広域にわたる人間の移動/移住が、人々の出身地、移住先双方の社会や文化にどのような影響を与えるのかについて考え、多様な背景を持つ人々を包含する社会のあり方について理解を深める。
講義方法	板書を基本とする講義形式で行う。絵画・映像資料も適宜利用する。
準備学習	世界地理についての基本的な知識を身につけておくこと。特に、インド洋沿岸(東アフリカ～ユーラシア大陸の南部～東南アジア)の各国の名称や位置については必須。また、毎回の授業時には地図(高等学校「地理」教材用の地図帳など)を持参し、適宜参照することが望ましい。
成績評価	原則として期末試験により評価する。 ただし、10回以上授業に出席しなければ成績を評価しない。
講義構成	第1回:オリエンテーション 第2回～第3回:インド洋と南アジアの地理的特徴と人間の活動 第4回～第8回:前近代インド洋海域のさまざまな商人集団 第9回～第14回:南アジアの植民地化と人間の移動 第15回:試験
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	参考文献については講義の中で紹介する。参考資料も適宜配布する。
講義関連事項	講義後、出席確認を兼ねて感想・質問票の提出を求めるので、積極的に記入して下さい。また、欠席した際などのノートの不足分は各自で責任を持って補うこと。
その他	携帯電話は電源をオフにしておくこと。また、私語や授業途中の出入など他の受講生の迷惑になる行為は禁じます。

授業コード	15069		
授業科目名	文化交流史Ⅱ(後)		
担当者名	中町信孝(ナカマチ ノブタカ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜日 昼休み、3限		

講義の内容	「13世紀世界システムの発展と崩壊」 日本では鎌倉時代にあたる13世紀、中央ユーラシアに起こったモンゴル帝国が広い領域を支配し、それによりアジア・アフリカ・ヨーロッパの隅々まで覆う一当然日本をも含みこむ一ネットワークが出現した。それ以前は互いに無関係な歴史を展開していた各地域が、この時代にはじめて一つのまとまった歴史世界として結合したとする研究者もいるほどである。 この講義ではそのような立場を踏まえ、この時代を、大航海時代や資本主義世界システムに先立つ「13世紀世界システム」の時代ととらえて説明する。
到達目標	13世紀世界システムとはどのような条件の下で可能となったのか、現代の世界システムとどのような相違があるのかを把握する。また、3大陸の結節点を占めるイスラーム地域の問題を中心にする。ヨーロッパや南、東南、東アジア、および日本にいたる広い地域間交流について考察することで、それぞれの地域の独自性・共通性を理解する。
講義方法	プリントと板書を併用した講義形式。適宜、映像資料を用いる。
準備学習	自分が関心を持つ地域やテーマに関して、それぞれの13世紀とはどのような時代であったかを調べ、まとめておいてもらいたい。 (例)13世紀の日本社会、13世紀のヨーロッパ建築、等。
成績評価	平常点(出席点)と、学期末テスト(もしくはレポート)の成績を総合して評価する。
講義構成	1. イントロダクション 2. 世界史のはじまり13世紀 3. シルクロードとアッパース・ネットワーク 4. モンゴル帝国の拡大 5. モンゴル帝国の発展 6. 東アジアの13世紀 7. インド洋海域世界

	8. 紅海とペルシア湾 9. 交易離散共同体 10. 地中海とヨーロッパ 11. マルコ・ポーロの世界 12. イブン・バットゥータの世界 13. 世界システムの崩壊 14. その後の世界システム
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	講義中に指示する。

授業コード	15038		
授業科目名	文化地理学I（後）		
担当者名	出口晶子（デグチ アキコ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	地球儀を頭にいれて、海を軸に、人類進化、人類移動、民族移動、文化移動、文化交流を考える。 みずから移動しながら、立ったその場所からどんな世界がみえるのか、パースペクテヴと位置について、考える。 ナショナル・ジェオグラフィックな世界をとりあげる。
到達目標	頭に地図をつくること。
講義方法	ビデオ映像やスライドをまじえ、講義。さらに近隣の巡検に出かけることもする。
準備学習	移動について、いつも注意深く考えること。そして、移動を楽しむこと。
成績評価	出席と小レポート、大レポート等で評価。
講義構成	進化と移動 陸をあるいた移動 海をこえた移動 海・山をこえた人と文化 海をつなぐ移動と文化 ある場所から見えるけしき 時間と空間の旅 移動するということ
教科書	とくに限定しない。
担当者から一言	海は広いな、大きいな、いつてみたいな、よその国。

授業コード	15060		
授業科目名	文化地理学Ⅱ(前)		
担当者名	大城直樹(オオシロ ナオキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限

講義の内容	(各々2～3回かけて講義していく。ただし以下は予定であり変更する場合もある。) ・1970年代以後の文化地理学の流れ ・学説史的コンテクストおよび隣接分野の動向と時代的・社会的コンテクスト ・トウアン(Yi-Fu Tuan):「トポフィリア」と「場所」概念 ・レルフ(Edward Relph):「場所感覚」と風景の見方 ・ベルク(Augustin Berque): 和辻「風土論」との折衝、ハイデッガーの解釈学的現象学の継承 ・いわゆる「文化論的転回 cultural turn」について
到達目標	文化地理学的な立場から、どのようにして人間と環境(空間・風景・場所)の関係について考えることが出来る

	か、その一端を紹介する。 はじめに、1970年代以降の文化地理学の学説史を地理学内外のコンテキストに目配せしながら説明し、その後、具体的な概念や思考のあり方について考えていく。トゥアンやレルフ、またその批判的継承者としてベルクらの所説、また文化論的転回およびその後の所説などがトピックとなるはずである。
講義方法	通常の講義形態。ただし受講生の人数によって演習形式を組み合わせることもありうる。
準備学習	授業中に紹介する文献を読んでおくこと。
成績評価	期末テスト(70%)＋授業時のレポート(30%)
講義構成	通常の講義形態。ただし受講生の人数によって演習形式を組み合わせることもありうる。
教科書	特に使用しない。だが、読むべき文献は多い。これについては、講義時にリストを配布する。

授業コード	15037		
授業科目名	文明の諸問題Ⅱ(前)		
担当者名	川合清隆(カワイ キヨタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日、14時40分～16時		

講義の内容	ヨーロッパ文明を特徴付けるキリスト教がテーマ。16世紀初頭の宗教改革から、18世紀末のフランス革命までの時期を対象に、フランスにおけるカトリックとプロテスタントの抗争に焦点を当てて講義する。
到達目標	宗教問題の正確な理解。
講義方法	講義内容のレジュメのプリントを毎回配布する。通常の口頭による講義
準備学習	適宜指示します。
成績評価	期末の筆記試験による。
講義構成	「フランスにおけるカトリックとプロテスタント」 第1章 カラス事件とヴォルテールの裁判闘争 1 カラス事件(1762年)の概要 2 カラスの裁判と処刑 3 ヴォルテールの裁判闘争 第2章 宗教改革—フランスとジュネーヴ 1 フランスの宗教改革の始まり 2 カトリックとプロテスタントの違い 3 カルヴァンとジュネーヴの宗教改革 第3章 宗教戦争とナントの勅令 1 宗教戦争への序曲 2 宗教戦争とナントの勅令 第4章 啓蒙思想とキリスト教 1 啓蒙思想と『百科全書』 2 理神論とは何か 3 神の存在証明 4 理神論者と来世信仰—ヴォルテールとルソーの違い
教科書	必要に応じて指示します。

授業コード	15021		
授業科目名	民俗学の諸問題		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜3限)、後期(木曜3限)
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	人々の暮らしにみる伝承のあり方について、文字と口承、生業、芸能、人生儀礼、旅と見聞、民俗文化の遺産化などをめぐって考える。現在学、応用の学としての日本民俗学の視点から、現代のわれわれの暮らしのありかたを考える。
到達目標	調べごとでお知らせ、当事者としての経験につなげること
講義方法	授業は、講義と討論をまじえながら進めるので、受講生の積極的な姿勢を求める。観察から洞察する力、分析から表現する力を鍛えてほしい。
準備学習	みずから当事者として経験していることを、ほりさげて考えるくせをつけよう。
成績評価	レポート、試験等により総合的に評価。
講義構成	1 民俗学のまなざし 現在学、応用の学としての民俗学 2 伝承のあり方ととらえ方 3 民俗学と実践性 未来創造に資するか？ 4 民俗学の自然観 山に生かされる、離島であること、都市と田舎 5 旅と民俗 お参り、遠野物語と遠野観光 6 現代社会と民俗 民俗芸能、わがふるさと、わが町という視点、町並み保存、民俗文化財の所在、観光と民俗 7 モノのゆくえ モノは語る 8 学校と民俗 都市伝説、課外活動、祭り、山登り
教科書	限定しない。
参考書・資料	プリントを配布。読むべき図書などは、適宜指示する。随時映像(スライド・ビデオ)や音楽も使う。
講義関連事項	地理学・民俗学資料研究、民俗文化研究
担当者から一言	旅をして、風景を経験し、いまを生きる同時代人とあちこちで出会い、対話を重ねてみてください。古老の話にこだわる必要はありません。若者のその眼で見たまま、感じたままがよいのです。

授業コード	15035		
授業科目名	民俗文化研究I(後)		
担当者名	大江 篤(オオエ アツシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限

講義の内容	この講義では、祭りと民俗芸能についての理解を深めるとともに、フィールドワークの方法や資料分析のための方法論を習得することを目標とする。 日本人は、季節ごとに祭りをを行い、神を慰め、祀る人々が楽しむ場で民俗芸能を発達させてきた。ここでは、兵庫県を中心に各地の祭りと民俗芸能を取り上げ、その歴史と現在を紹介するとともに、文化資源としての価値を検証していきたい。
到達目標	民俗文化を研究する上での課題を理解するとともに研究の方法を身につけることを目標とする。
講義方法	ビデオなどで祭礼・民俗芸能を紹介しながら、講義形式で実施する。毎時間プリントを配布する。
準備学習	民俗調査報告書や自治体史を読み、参与観察調査を実施する祭礼を事前に決めておくこと。
成績評価	出席(正当な理由無く欠席した場合は減点する) 小レポート(フィールドワークによるもの)30% 期末レポート40%
講義構成	1、ガイダンス 2、「民俗文化」とは？ 3、祭りの源流-古代人と神々- 4、神社の成立 5、国家の祭り-伊勢神宮の鏡- 6、都の祭り-賀茂祭-

	7、都市の祭り-ヤマ・ホコ・ダシ- 8、海の祭り-瀬戸内の権伝馬 9、村の祭りと芸能-田楽- 10、村の祭りと芸能-一ツ物- 11、山の祭り-三信遠の霜月祭り- 12、民俗芸能の伝播-風流太鼓踊り- 13、無形民俗文化財としての祭り 14、民俗芸能の創造的活用 15、講義のまとめ
教科書	使用しない。プリントを使用。
参考書・資料	講義のなかで適宜紹介する。
担当者から一言	祭りや民俗芸能の事例をできるだけ、映像で紹介するが、現場の臨場感にまさる体験はない。したがって、講義期間中の祭礼を適宜紹介していくので、是非、現場でフィールドワークしてほしい。

授業コード	15036		
授業科目名	民俗文化研究Ⅱ(前)		
担当者名	伊達仁美(ダテ ヒトミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	民俗文化財、いわゆる生活資料の保存修復という分野において、その技術とともに何をどう残すかを講義する。また、それらを構成している材質やその特徴、それに発生する異常に対し、保存修復方法や予防処置、使用資材等を紹介する。さらに生活資料の活用事例として学校教育や観光、高齢者福祉の中で使用されていることについても触れ、それらから資料保存について考える。 なお、休日に学外の資料館等で現地見学を行ない、資料の収集や保存の実際を学習する。ただし、日程については、原則的に全員が参加可能な日とする。		
到達目標	本講義を通じて、民俗文化財の保存修復を認識し、学生の視点から自分達がかかわることができることを見出してほしい。		
講義方法	ビデオ、スライドで事例紹介し、授業に必要なプリントは、その都度配布します。授業は、一方的なものではなく、受講生との意見交換なども行うため、積極的な姿勢でのぞんで下さい。		
準備学習	地元や旅行先で生活資料や民俗文化財などが展示している施設を見学し、それらに対する基礎知識を持って受講して下さい。		
成績評価	試験は行ないませんが、出席(40%)、授業への参加度(20%)、小レポート(20%)、期末レポート(20%)等から総合的に評価します。		
講義構成	1～2. 各自の報告に基づいて、民俗文化財の保存を考える 3. 民俗文化財の現状 4. 民俗文化財の保存修復に関する調査方法 5. 現地見学 6～7. 民俗文化財の保存修復方法 8. 災害と民俗文化財 9. 地域住民参加型保存修復 10. 学校教育と民俗文化財 11. 観光と民俗文化財 12. 高齢者福祉と民俗文化財 13. 総括		
教科書	使用しませんが、その都度参考図書を紹介します。		
講義関連事項	文化財保存、あらゆる分野の民俗学		

担当者から一言	民俗文化財は、生活のすべてに関係するものです。それらを保存修復ならびに活用をするわけですから、色々な知識が必要となります。常に資料の背景にある情報に興味を持ってください。また、民俗文化財を後世に伝えるために、授業を通じて自分自身ができることを考えて下さい。
---------	--

授業コード	15002
-------	-------

授業科目名	歴史学・地理学基礎論（後）		
担当者名	稲田清一（イナダ セイイチ）、出口晶子（デグチ アキコ）、東谷 智（ヒガシタニ サトシ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	木曜昼（出口） 月曜・木曜昼休み（稲田）		

講義の内容	「ヒトとモノの移動・交流」 今年度はこのテーマをめぐり、日本史・東洋史・民俗地理学の各領域からアプローチします。現代は国際化の時代といわれますが、そもそも人類は孤立して存続してきたわけではありません。よく知られているシルクロードの東西交易や遣唐使を通しての文化交流はもとより、たびたび起こった戦争も交流の一形態です。この講義では、大量輸送が始まる前の交流の姿をさまざまな面から考察します。
到達目標	この講義は個々の事象についての知識を覚えることにあるものではありません。一つのテーマにもさまざまなアプローチの仕方があるということを知ることが目標です。歴史学、地理学の方法を学びながらその領野を越境すること、それがねらいです。
講義方法	配付資料やスライドを用いて行われる、3名の教員によるリレー式の講義です。コメントや小論文の提出が求められる場合があります。
準備学習	具体的には講義中に指示しますが、講義中に興味を持ったトピックについて自分なりの感想や疑問点などを整理してみてください。
成績評価	出席点と平常点、ならびに各分担者ごとにレポートもしくは試験を実施し、総合的に評価します。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第8回 ゼミ紹介 第15回 まとめ 具体的な日程はオリエンテーションのさいにお知らせしますが、担当者はそれぞれ以下のような内容で講義します。 ◎「ユーラシアの交通路」（稲田） 次のようなトピックをとりあげる予定にしています。 (1)歴史における空間と時間 (2)ユーラシアの交通路から何を読みとるか？ (3)蜀への道 (4)16世紀 ◎「今日ただいま、旅の途中」（出口） 現代に生きるわれわれの旅について、とりあげる。 ・旅を欲する ・旅と物語 ・旅の空間で見ているものはなに？ ◎「人とモノの移動」（東谷） 江戸時代の日本を取り上げ、「移動」について考えていきたい。 下記の内容を予定している。 ・旅と観光 ・情報の流通 ・都市と周縁部
教科書	とくに使用しません。
参考書・資料	講義中に指示します。

授業コード	15014
-------	-------

授業科目名	歴史と自然（前）		
担当者名	稲田清一（イナダ セイイチ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00 木曜日12:20～13:00		

講義の内容	「中国史における人と自然」 自然は人間の営みにどのような影響を与えてきたのか。逆に人類は自然環境にどのように働きかけてきたのか。自然環境が一方向的に人の性格をつくるのでもなければ、人の手の加わっていない「自然」なるものもほとんどない。この講義では、こうした人と自然環境とのかかわりの結果を示す指標として人口の動向に着目しつつ、中国について考察する。		
到達目標	東アジアの風土とその変遷の大筋をいくつかの例をあげて説明できる。		
講義方法	講義形式による。		
準備学習	日頃から東アジアの地図に親しんでおくこと。		
成績評価	原則として学期末試験による。		
講義構成	序章はじめに（第1回） 第1章東アジアの生態系（第2～3回） 第2章気候変動の歴史とマクロ人口動向（第4～5回） 第3章黄土と関中平野の開発（第6～8回） 第4章 中国史における北と南（第9回） 第5章華中・南の森と山地開発（第10～12回） 第6章自然とミクロ人口動向（第13～14回） 終章おわりに（第15回）		
教科書	指定しない。		
参考書・資料	講義中に随時紹介する。また、適宜プリントを配布する。		

授業コード	15067		
授業科目名	歴史と自然II（後）		
担当者名	中辻 享（ナカツジ ススム）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	火曜2限		

講義の内容	「東南アジアの歴史と自然」 熱帯に位置する東南アジアでは一般に自然の力が旺盛であり、その制御は難しい。また、東南アジア諸国の多くは発展途上国である。そのため、この地域、特に農村部では現在も自然と深い結びつきを持った暮らしを見ることができる。また、この地域は港市国家の栄えた時代、ヨーロッパの植民地となった時代、戦後の東西冷戦下の時代、現在のグローバリゼーションの時代というように、古くから国際社会の影響を大きく受け、変容してきた。本講義ではこうした歴史の中で、東南アジアの人々が自然との関わり方をどう変化させてきたのか、また、こうした自然と歴史の中で育まれた東南アジア社会の特徴は何かということを考えたい。		
到達目標	東南アジアの自然と社会の特徴を日本などとも比較しつつ理解すること。また、現在の発展途上国の農村が抱える問題について基礎的な理解を得ること。		
講義方法	板書と配布プリントが中心であるが、スライドやビデオなども用いる。		
準備学習	「地理学の諸問題」を受講していることが望ましいですが、その限りではありません。授業で紹介する参考図書を読んでみて下さい。		
成績評価	定期試験（70％）、出席（15％）、レポート（15％）		
講義構成	（1）農業インボリューション論について （2）モラル・エコノミー論について （3）デルタの自然と社会—紅河デルタを例に		

	(4) 東南アジアの稲作儀礼 (5) 人口からみた東南アジアの特徴 (6) プランテーションと農民農業 (7) 国家の中での農村社会—移住政策を中心に (8) グローバリゼーションと環境問題
教科書	特に指定しない。ただし、中高で用いたのものでいいので地図帳を持参すること。
参考書・資料	京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア—風土・生態・環境』弘文堂、1997。 斎藤照子『東南アジアの農村社会（世界史リブレット84）』山川出版社、2008。

授業コード	15013		
授業科目名	歴史と思想(歴史と思想I)(後)		
担当者名	川合清隆(カワイ キヨタカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日 14時40分～16時00分		

講義の内容	18世紀末に起った世界史的事件「フランス大革命」について講義する。フランス革命以前、ヨーロッパは、アンシャン・レジームと呼ばれる封建的旧社会であった。革命は、この旧社会から近代市民社会への移行の画期である。それとともに、王政の国家は変革され、民主主義と国民主権の国家が出現する。この講義を通じて、現代社会の基本的要件である民主主義的統治制度の成り立ちを学習し、民主主義、基本的人権などの思想も学習する。さらに、近代史における革命現象についても理論的解明を試みる。
到達目標	国民国家成立過程の理解。
講義方法	毎回、講義内容のレジュメを配布し、レジュメに基づいて講義する。適宜、板書し、年表も使用する。
準備学習	適宜指示します。
成績評価	期末の筆記試験によって評価する。試験問題は、適語を補い文を完成する形式(50点)と、小論文を書く形式(50点)。毎回ではないが、間歇的に出欠を取り、成績評価の参考とする。
講義構成	第1章 絶対王政の崩壊(1789年5月～10月) 1 三部会の開会(5月5日) 2 三部会から国民議会へ 3 バスチーユ占領(7月12日～14日) 4 封建制廃止決議 5 人権宣言——アメリカ独立宣言との関係 6 ヴェルサイユ行進(10月5～6日) 第2章 立憲君主制(1789年11月～91年9月) 1 フランス革命と明治維新 2 財政赤字と教会財産の没収 3 教会改革と聖職者民事基本法 4 91年憲法の政治体制——立憲君主制 [注意]本講義は後期へ続くので、通年で履修するのが望ましい。
教科書	なし
参考書・資料	マチエ著『フランス革命』上・中・下、岩波文庫 ソブール著『フランス革命』上・中・下、岩波新書 桑原武夫編『フランス革命とナポレオン』、中公文庫、世界の歴史10、 柴田三千雄著『フランス革命』、岩波セミナーブックス30、 トムソン著『ロベスピエールとフランス革命』、岩波新書 河野健二著『フランス革命小史』、岩波新書、 立川孝一著『フランス革命』、中公新書

授業コード	15012
授業科目名	歴史と美術(後)
担当者名	木村重圭(キムラ シゲカズ)

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
講義の内容	日本文化の歴史の中で、特に日本美術の展開をたどって行きたい。縄文時代から始まり、飛鳥・奈良・平安時代の仏教美術の歴史を展望し、中世から近世では、日本独自の花を咲かせた絵画の分野を概観してもらう。そして、日本美術の流れを学んでもらえればと考えている。 尚、毎回スライドを使用し、視覚的にも理解を深めてくれるようにと計画している。		
到達目標	日本の美術の歴史の中で、特に著名な人物や作品についての基本的な知識が吸収できる。そのため毎回スライドを用いた作品等を視覚的に認識できるよう紹介している。 一般的常識として、これ位は知っておいてほしいと考えているので、その位置づけである。		
講義方法	講義を60分、残り30分をスライド		
準備学習	普段から時間をつくり、博物館や美術館の展覧会、古社寺の文化財などの見学に行くようにしてほしいと望んでいる。		
成績評価	出席30%、試験70%		
講義構成	1、時代区分、縄文土器と弥生土器 2、古墳時代、埴輪と須恵器 3、飛鳥・白鳳時代、法隆寺と薬師寺 4、天平時代、東大寺・正倉院・興福寺 5、天平から平安時代へ、唐招提寺・東寺・平等院 6、絵巻物、源氏物語絵巻・信貴山縁起絵巻など 7、水墨画、如拙・周文・雪舟など 8、桃山時代の絵画、狩野派の画家たち 9、桃山時代の巨匠たち、長谷川等伯・海北友松など 10、琳派の芸術、俵屋宗達・尾形光琳など 11、南蛮美術 12、南画（文人画）、池大雅・与謝蕪村など 13、洋風画、司馬江漢など 14、写生派、円山応挙・呉春など 15、風俗画と浮世絵		
教科書	なし		
参考書・資料	毎回プリントとして資料を配布する。		

授業コード	55001		
授業科目名	アドバンスト・キャリアデザイン（集中）		
担当者名	中山一郎（ナカヤマ イチロウ）、I		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
講義の内容	「仕事ができる“ビジネスマン”の流儀と作法」というサブテーマで授業をおこなっていきます。いよいよ社会人デビューをするにあたってビジネスマンに必要なとされる能力である、関係を構築する知恵、自ら考えて判断や決定をする知恵、情報を収集し編集する知恵、自分の将来をイメージ・描ける知恵、あるいはモラルやマナー、ビジネス倫理などといった知識について実践的に学んでいきます。企業や各種団体などとも連携して人間や社会というものを洞察し、多面的な視点による判断力を養成し、生涯にわたる豊かな人間力を育成する基盤づくりを目的とします。		
到達目標	自分なりの自信をもって社会に出て、卒業後3年間は就職先を辞めない人材の育成。		
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション		
準備学習	授業時間帯以外にもチームやグループごとに集まって打ち合わせをしたり、話し合いをしたりすることがあるかもしれません。		
成績評価	1. 講義への積極的参加・意欲的な参加 2. グループワークにおける仲間への貢献や協力 3. 提出物 4. 出席 ※ 以上を総合的に評価します。		

講義構成	企業に入社後3年くらいまでに必要とされるであろう知識・知恵・スキルを実践的に修得していきます。具体的には、「関係を構築する知恵」「情報を収集し編集する知恵」「自ら考えて判断や決定をする知恵」「自分の将来をイメージ・描ける知恵」という4つの知恵の修得を軸とした講義を体験型・参加型というスタイルでおこなっていきます。企業や団体で働くビジネスマンや本学OB・OGなどのジョイント授業などを予定しています。
教科書	必要に応じてレジュメを配布します。
参考書・資料	必要に応じて紹介します。

担当者から一言	就職し、社会に出る“不安”を“ワクワク”に変える講義です。世の中におもしろい仕事などはありません。仕事をおもしろくするのも、つまらなくするのも自分次第なのです。人生は1度きり。その中で仕事をしている時間が圧倒的に長いのはいうまでもないでしょう。どうせ働くなら、楽しく働きませんか。
---------	--

授業コード	55C11		
授業科目名	インターンシップ・ボランティア(文)		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	事後登録		

講義の内容	企業・団体・地域社会と連携した直接的な社会体験・就業体験により、社会人としての基本的なマナーや、社会で求められる知識や能力について把握する。また、働くことの意味や重要性を理解することで、職業意識や就労意識を形成し、自己の適職及びそれに必要な専門的能力を確認するとともに、責任感をもって自ら考え行動する姿勢を養う。
到達目標	就労体験により、社会で求められる知識や能力を認識し、職業観・就業意識を培う。
講義方法	インターンシップ・ボランティア先での就労体験を主とする。
準備学習	ビジネスマナー講座やオリエンテーション、コンプライアンス研修などで事前にビジネス社会についての常識や予備知識を学ぶ。
成績評価	活動に関するレポートおよび出席状況等により評価を決定する。
講義構成	(1)キャリアセンターが実施するガイダンスに出席すること インターンシップ 4月14日(水)または16日(金) 12:20～12:50 121講義室 ボランティア 4月13日(火)または15日(木) 12:20～12:50 121講義室 (2)インターンシップまたはボランティアを希望する者は、キャリアセンターに登録書の提出が必要。 期限:2010年5月13日(木)15:00 (3)キャリアセンターに紹介を希望する場合は、キャリアセンター委員会または受入企業・団体が面接を行い選考する。 (4)夏期休暇期間を利用して、60時間以上のインターンシップ・ボランティアに参加すること。 (5)活動に関するレポート(様式はキャリアセンターに問い合わせる)を指定期日までにキャリアセンターに提出すること。
教科書	特定の教科書は使用しません。

その他	参加者は、キャリアセンターが実施する事前研修と事後研修に参加することが望ましい。
-----	--

授業コード	55F11		
授業科目名	キャリアゼミ(文・法)(1クラス)(前)		
担当者名	坂本理郎(サカモト マサオ)、I		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		
講義の内容	多様な進路や働き方があることを知り、その中から自分が希望する進路を探り、その実現に向かってどのような準備が必要なのか、大学生活での学びや経験はどのように活かすことができるのかを理解します。		
到達目標	このような進路の探索活動を通して、自分自身について深く理解し、同時に、社会人としてふさわしい基礎力を身につけることを目指します。		
講義方法	単なる知識やスキルの詰め込みではなく、体験を通した学習を重視するため、学生諸君が主役のグループ・ワークやディスカッションが中心となります。グループでの活動を通して、チームワークやコミュニケーションのスキルを高めることができます。担当の教員とキャリアセンターの職員は、皆さんと一体となって学習できる場づくりと支えあう人間関係づくりを行います。教員と職員は、皆さん方の自己理解および相互理解の促進と、それぞれの目標や計画づくりに対して、熱意を持って支援します。		
準備学習	担当者が適宜指示します。		
成績評価	ゼミ内での活動に対する意欲、プロセス、結果に対して、総合的に評価を行います。		
講義構成	講義の内容は大きく分けて以下の三つの部分からなります。 ①自分自身についての理解 これまでの人生を振り返る、自己評価と他者評価など ②様々な仕事や働き方についての理解 卒業生などの働く人々に対するインタビュー、連携先の企業・団体等に出向いての「ジョブ・シャドウイング」 ③就職活動や社会人として必要なスキルの体験学習 インタビュースキル、模擬面接など		
教科書	特に定めません。		
参考書・資料	担当者が適宜指示します。		

授業コード	55F12		
授業科目名	キャリアゼミ (文・法)(2クラス)(後)		
担当者名	坂本理郎(サカモト マサオ)、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	多様な進路や働き方があることを知り、その中から自分が希望する進路を探り、その実現に向かってどのような準備が必要なのか、大学生活での学びや経験はどのように活かすことができるのかを理解します。		
到達目標	このような進路の探索活動を通して、自分自身について深く理解し、同時に、社会人としてふさわしい基礎力を身につけることを目指します。		
講義方法	単なる知識やスキルの詰め込みではなく、体験を通した学習を重視するため、学生諸君が主役のグループ・ワークやディスカッションが中心となります。グループでの活動を通して、チームワークやコミュニケーションのスキルを高めることができます。担当の教員とキャリアセンターの職員は、皆さんと一体となって学習できる場づくりと支えあう人間関係づくりを行います。教員と職員は、皆さん方の自己理解および相互理解の促進と、それぞれの目標や計画づくりに対して、熱意を持って支援します。		
準備学習	担当者が適宜指示します。		
成績評価	ゼミ内での活動に対する意欲、プロセス、結果に対して、総合的に評価を行います。		
講義構成	講義の内容は大きく分けて以下の三つの部分からなります。 ①自分自身についての理解 これまでの人生を振り返る、自己評価と他者評価など ②様々な仕事や働き方についての理解 卒業生などの働く人々に対するインタビュー、連携先の企業・団体等に出向いての「ジョブ・シャドウイング」 ③就職活動や社会人として必要なスキルの体験学習 インタビュースキル、模擬面接など		
教科書	特に定めません。		
参考書・資料	担当者が適宜指示します。		

授業コード	19A11		
授業科目名	教育心理 (A)(前)		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	教育に関わる発達心理学、学習心理学の知識を習得するとともに、それらを主体的に学校教育に生かすための視点や姿勢を獲得する。前半は、学習に関する心理学理論を学び、それらに基づいた教授法、指導法を理解する。後半は、乳児期、幼児期から青年期にいたるまでの「心の発達」の過程を学びながら、現在の学校教育において問題になりやすい事項に特に焦点を当てて子どもの成長過程を理解する。
到達目標	教育に役立つ心理学的知識を身につける。
講義方法	講義による。
準備学習	授業中に指定する。
成績評価	ミニ・レポートと試験の総合評価。
講義構成	第1回：教育心理を学ぶということ 第2回：学習とは何か。学習心理学の基礎(古典的条件づけと、道具的条件づけ) 第3回：望ましくない行動の除去、望ましい行動の強化。 第4回：正の強化と負の強化。強化スケジュール。 第5回：不安、恐怖の行動療法 第6回：認知的学習 第7回：学習の動機付け 第8回：学習の過程と練習 第9回：記憶理論の基礎 第10回：記憶のメカニズム 第11回：ライフサイクル(乳児期、幼児期) 第12回：愛着理論 第13回：ライフサイクル(児童期、青年期) 第14回：認知的発達 第15回：まとめ(生徒理解と生徒指導)
教科書	木村忠雄編『教育心理学のエッセンス』八千代出版

授業コード	19A12		
授業科目名	教育心理 (B)(前)		
担当者名	明石加代(アカシ カヨ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限

講義の内容	「わたし」をつくりあげていくことと、「みんな」に合わせること。学校という場所では、常に、この正反対の方向をもつ力が、せめぎあっている。こうした心の動きについて理解する一助となることを目指して、青年期までの心にまつわる理論(発達心理学と臨床心理学)について、幅広く講義する。
到達目標	青年期までを取り扱った臨床心理学、発達心理学の基礎的な理論を理解することができる。 発達障害や子ども虐待の問題について学び、こうした問題への意識を高める。
講義方法	講義形式で行なう。
準備学習	講義では、1回につきひとつのテーマを扱いますが、習ったことを常に復習するよう心がけてください。各テーマのつながりを自分なりに見つけていくことで、理解できることの幅は大きく広がります。
成績評価	毎回の授業終了時に、ミニレポートの提出があります。ミニレポートの内容から、どの程度授業に主体的に取り組めたか判断します。 評価は定期試験が50%、ミニレポートが50%の割合で行ないます。 6回以上の欠席には、単位を認定しません。

講義構成	1. イントロダクション 2. 認知と記憶の発達:乳幼児はどのように世界と出合っていくか 3. 愛着:人と人との絆を成り立たせているもの 4. 自我・自己・人格の発達:「私」の成立 5. 意識と無意識:フロイトの精神分析学 6. 遊び・仲間・秘密:社会性の発達 7. 学習・動機・知能:人の行動を左右するもの 8. 発達障害(1):広汎性発達障害:自閉症とその周辺 9. 発達障害(2):ADHDとLD:発達のアンバランス 10. 不登校 11. 思春期という嵐 12. 子ども虐待 13. 無気力・ひきこもり 14. まとめ 15. 終講試験
教科書	使用しません。 授業時に毎回レジュメを配付します。

授業コード	19A13		
授業科目名	教育心理 (C)(前)		
担当者名	濱田智崇(ハマダ トモタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	子どもが「育つ」「学ぶ」ことについて、子どものこころの発達という視点から考える。現代の教育現場における諸問題について、心理学の切り口から理解するための基礎を学ぶ。
到達目標	教師として子どもにどのように「教え」「育て」ていくかを考えるために必要となる、基本的な知識や考え方が身につく。
講義方法	講義形式を主とするが、実習も取り入れる
準備学習	自らの過去の学校体験と絡めて考えてもらうこともある。あらかじめ思い出しておく授業内容も頭に入りやすく、授業内のミニ・レポートが書きやすくなるかもしれない。
成績評価	出席および毎回のミニレポート(55%)と期末試験(45%)による総合評価 ミニレポート提出率が60%未満の場合、および期末試験を受験しなかった場合に、成績評価「欠席」とする。
講義構成	1)教育心理とは何か 「教育」「学校」と「心理学」 教育心理学の変遷 2)心理学の諸理論から 生涯発達 乳幼児から保護者まで 学習の過程 能力の発揮と生徒教師関係 こころの発達とは 3)生徒理解のために 児童期・思春期のこころ 教師の役割 ロールプレイ実習 4)子どもの心理的障害 発達障害や知的障害の世界 障害を持つ子どもの発達過程 障害を持つ子どもの学習
教科書	特に指定しない。毎回プリントを配布する。
参考書・資料	授業中に適宜紹介する。
講義関連事項	心理学の基礎知識
担当者から一言	出席を重視します。原則として毎回、授業の内容に即したミニレポートを課しますので遅刻しないように注意してください。

授業コード	19C11		
授業科目名	教育相談 (A)(後)		
担当者名	大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	教育相談として、効果的にスクール・カウンセラーとの連携や、児童・生徒へのサポートを行うために必要なカウンセリングの基礎知識や、学校問題の現状について学習する。
到達目標	学校現場では日々、様々な問題が起こる。それらの問題に対応する上で、臨床心理学の知見は大きな力となる。本講義の目的は、臨床心理学の基礎を学び、様々な学校問題について考えることで、個性豊かな児童・生徒をサポートするための方法や、教育相談の果たす役割について理解することである。
講義方法	講義形式で行う。
準備学習	必要に応じて授業の中で指示する。
成績評価	出席を重視する。テストやミニ・レポートによる総合評価。
講義構成	第1回: はじめに 教育相談の役割 第2回: 児童・生徒の指導トレーニング ① 理論 第3回: 児童・生徒の指導トレーニング② 体験 第4回: カウンセリングの基本理論 ① 心理療法 第5回: カウンセリングの基本理論 ② スキル・トレーニング 第6回: 教育相談トレーニング ① 理論 第7回: 教育相談トレーニング ② 体験 第8回: スクール・カウンセラーの活用法 第9回: 発達障害の種類と特徴 第10回: 発達障害を持つ児童・生徒へのサポート 第11回: 不登校の現状と対応 第12回: いじめの現状と対応 第13回: 非行の現状と対応 第14回: 保護者への関わり方 信頼関係とは何か 第15回: 学校問題を予防すること 第16回: 期末試験
教科書	必要に応じてプリントを配布します。
参考書・資料	授業中に紹介する。

授業コード	19C12		
授業科目名	教育相談 (B)(後)		
担当者名	明石加代(アカシ カヨ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限

講義の内容	子どもたちは今どんなことで、どのように悩んでいるのだろうか。教師は学校という場で、子どもたちの悩みにどう関わることができるだろうか。 カウンセリングは、悩む人へのよりよい援助について考える実践の学である。この講義では、カウンセリングおよびその前提となる臨床心理学の知見を学びながら、人が悩むということの意味、現実的にできる援助の方法について考えていく。また、ロールプレイなどの体験学習を通じて、自分について知り、よりよいコミュニケーションについて考える機会としたい。教職を目指す人も受講できるが、知識だけを身体的に吸収するのではなく、自ら考え、主体的に関わる姿勢で講義にのぞんで欲しい。
到達目標	・カウンセリングの理論、方法の基礎を理解することができる。 ・さまざまな対人援助法における、カウンセリングの位置づけを理解することができる。 ・「悩む」「相談する／される」という場において、慌てずじっくりと考える力を身につけ、教育現場でのさまざまな問題に対応できる力を身につける。

講義方法	講義形式で行なう。
準備学習	・各自で授業で学んだことをふりかえり、関連づけながら、理解を深めていってください。 ・学んだことを鵜呑みにするのではなく、自分というフィルターを通して、着実に取り入れていってください。
成績評価	毎回の授業終了時に、ミニレポートの提出があります。ミニレポートの内容から、どの程度授業に主体的に取り組めたか判断します。 評価は定期試験が50%、ミニレポートが50%の割合で行ないます。 6回以上の欠席には、単位を認定しません。
講義構成	1. イントロダクション 2. 実習(1) 3. 「悩む」ということ 4. コミュニケーションすること 5. 実習(2) 6. カウンセリングとは(1) 7. カウンセリングとは(2) 8. 傾聴の技法 9. よりよく聴くために 10. カウンセリングの実際 11. 実習(3) 12. ストレスとつきあう 13. トラウマとPTSD 14. まとめ 15. 終講試験
教科書	使用しません。 授業時に毎回レジュメを配付します。

授業コード	19C13		
授業科目名	教育相談(C)(後)		
担当者名	濱田智崇(ハマダ トモタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	子どものこころを理解し、適切なサポートを行う教育相談の理論と方法を身につける。そのために、カウンセリングの基礎を学ぶとともに、教師としての自分のあり方についても各自が考察を深める。
到達目標	「もの」ではない「ひと」とどのように接していくか考えることができるようになる。そして「ひと」である自分と向き合うことができるようになる。
講義方法	講義、1人で行う実習、小集団による実習を適宜組み合わせる
準備学習	子どもについて関心を持っておくこと、普段の自分の人間関係に対して少し意識を向けてみるができることと望ましい。
成績評価	出席・実習への参加態度・授業時に提出するミニレポート(60%)と期末試験(40%)による総合評価 ミニレポート提出率が60%未満の場合、および期末試験を受験しなかった場合に、成績評価「欠席」とする。
講義構成	1) 教育相談とは？ 教師がカウンセリングを学ぶ必要がある理由 2) カウンセリングとは？ カウンセリングと「普通の会話」の違い 教師のカウンセリング・マインド 3) 相談を受ける・話を聴くとは？ 育てること・待つこと 教師が自分を知っておく必要 4) カウンセリングの「技法」とは？ ロールプレイ・応答練習 5) 教師の役割としての相談 学級運営と「個」 保護者との関わり ストレスと教師自身のメンタルケア 6) スクールカウンセリングと教師

	学校教育現場での役割・連携
教科書	特に指定しない。毎回プリントを配布する。
参考書・資料	授業中に適宜紹介する。
講義関連事項	臨床心理学の基礎知識
担当者から一言	講義の他、さまざまな実習を取り入れ、体験的に学んでもらえるようにします。実習に参加しないとミニレポートの提出もできず、出席とは見なせません。ペアやグループでの実習もありますので、他の受講者の迷惑にならないよう、遅刻はできる限り避けてください。

授業コード	19001		
授業科目名	ギリシア語		
担当者名	茶谷直人(チャタニ ナオト)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)

講義の内容	古典ギリシア語の初級文法を、当時の人々の文章を例文にしながら学んで行く。古典ギリシア語・文化は、ヨーロッパ言語・文化の一大源流であると同時に、単なる遺物ではなく今もなお「ヨーロッパ的なもの」を形作る基盤であり続けている。よって古典ギリシア語を学ぶことは、古代ギリシアの哲学・文学・歴史・社会・芸術を学ぶ者にとって必要であるというだけでなく、何であれ西洋に関わる事柄を専攻する学生諸君にとって、自らの専攻領域を学ぶ上で何かしらフィードバックできることがあるであろう。
到達目標	古典ギリシア語の基礎文法習得を基本としつつ、上で記した、古典ギリシア語に触れることの意義を、受講生それぞれに身をもって体感してもらうことをめざす。
講義方法	原則的に教科書に沿って授業を進める。ただし、あくまで要点を絞り、かつ受講者が理解しやすいように可能な限りパラフレーズしながら内容説明を行う。
準備学習	教科書収録の練習問題を、適宜自宅学習として課す。
成績評価	出席、課題への取り組みの状況により評価する。
講義構成	1回の授業につき教科書を1～2課進める。前期は、アルファベットから始めて、古典ギリシア語の構文上の基本的特徴、名詞・形容詞の語形変化、動詞の基本的変化などを学ぶ。後期は前期に引き続き、形容詞の語形変化、動詞の様々な変化などを学ぶ。 なお、進行具合に応じて、古典の実際の文献に触れる機会も持ちたい。
教科書	水谷智洋『古典ギリシア語初歩』(岩波書店)
担当者から一言	古代ギリシアの文化や思想に関心を持つ方はもちろんのこと、ドイツ語、フランス語、英語などに語学的関心を持つ方、なんであれ知的好奇心の旺盛な方、この授業に「物珍しさ」を感じる方など、様々な関心・動機からの受講を歓迎します。

授業コード	19004		
授業科目名	生涯学習論（後）		
担当者名	朝日素明（アサヒ モトアキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	特に設けませんが、質問や相談等は毎授業時もしくはメールで応じる予定です。		

講義の内容	生涯学習の概念には包括的な内容を含み、これを捉えるには何らかの体系的な柱立てが必要です。さしあたり、次のような柱立てで講義を組み立てていきます。1. 理念や出自、2. 学校教育との関連、3. 社会教育との関連、4. 行政による生涯学習の推進、5. 生涯学習関連の職員、6. 生涯学習関連の施設、7. 生涯学習の理論。
到達目標	①生涯学習の実践者および支援者としての高い意識と自覚をもち、行動できる。 ②多様な生涯学習を体系的、理論的に捉える視点を具体的に挙げられる。 ③生涯学習を支える諸条件について、具体的にその働きや仕組みを説明できる。 ④生涯学習に関する理論、生涯学習の方法について、生涯学習の理念に関連づけて説明できる。

講義方法	講義のねらいや内容にしたがい、講述を中心に進めます。講述に際しては、パワーポイントのスライド資料ならびにその他関連する資料のプリントを配布します。また開講後、早い段階でレポートを課し、ワークショップ、プレゼンテーション、ディスカッションの実践もとり入れていきます。
準備学習	授業時に示す参考文献に親しんでいきましょう。その他、必要な学習はその都度、指示します。
成績評価	定期試験(50%)、レポート(40%)、授業への積極的参加度(10%)による総合評価とします。レポートは早い段階で課し、内容によって再提出を求めます。
講義構成	初回 オリエンテーション 第2回～第3回 生涯学習の出自と理念 第4回～第6回 学校教育と生涯学習 第7回～第8回 社会教育と生涯学習 第9回～第10回 国・地方の社会教育行政 第11回～第12回 生涯学習に関連する職員・施設 第13回 生涯学習の理論 第14回～ 補足とまとめ
教科書	特に指定しません。授業時にプリントを配布するとともに参考文献を示します。
参考書・資料	岩永雅也(2002)『生涯学習論—生涯学習社会の展望』放送大学教育振興会 日本社会教育学会編(2004)『現代教育改革と社会教育』(講座現代社会教育の理論1)東洋館出版社 日本社会教育学会編(2004)『現代的人権と社会教育の価値』(講座現代社会教育の理論2)東洋館出版社 日本社会教育学会編(2004)『成人の学習と生涯学習の組織化』(講座現代社会教育の理論3)東洋館出版社 鈴木敏正(2004)『生涯学習の教育学—学習ネットワークから』北樹出版 末本誠・松田武雄編(2004)『生涯学習と地域社会教育』春風社 小宮山博仁・立田慶裕編(2004)『人生を変える生涯学習の力』新評論
講義関連事項	身近な生涯学習施設を是非訪問してみてください。 身の回りのありとあらゆる事柄、生活全般に対する感受性を高めてください。
担当者から一言	生涯学習の基本は、各人が「よりよく生きよう」とする主体性や自発性によっています。したがって本講義を通して、資格取得はもちろんのこと、自らの学び・育ちを見つめ直し、「よりよく生きる」ために、自分に対してできること、他人や社会に対してできることを考える機会にしてほしいと思います。

授業コード	55A11		
授業科目名	ベーシック・キャリアデザイン(文)(前)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)、中山一郎(ナカヤマ イチロウ)、I		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限

講義の内容	文学部で学ぶ「専門教育」をとおして、皆さんのこれから、すなわち「大学生活4年間の過ごし方」や卒業後の「生き方」「働き方」を考えてゆく講義です。講義は「講義型授業」と「体験型・参加型授業」でおこないます。「講義型授業」では日本語日本文学科・英語英米文学科・社会学科・人間科学科・歴史文化学科の各専門にキャリアというテーマを絡めて「生き方」や「働き方」というものについて考えてゆきます。「体験型・参加型授業」では、大学生活を充実させ、将来の進路選択や就職選択に際して必要とされる基本的なチカラを“3つの知恵”(「人と人との関係を築く知恵」「情報を収集して活用する知恵」「自ら考えて判断や決定をする知恵」と名づけ人間関係を軸としたトレーニングを講義の中でおこなっていきます。「専門教育」と「キャリア教育」を融合した講義です。
到達目標	これからスタートする大学生活をいかに充実させ、きたるべき卒業後の進路選択から就職活動などへ向けて、自らの頭で考え、行動し、選択していけるような態度や姿勢を身につけていきます。“ありたい自分”を考えてゆく講義です。
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	授業の中で学んだ知恵・知識・スキルは、授業以外の場においてもどんどん実践し活かしていきましょう。
成績評価	講義への出席(一回一回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場になかった、講義を受けていなかった学生は原則欠席とします)と不定期的に実施するレポート。以上をトータルして評価します。
講義構成	1. プロローグ ～ベーシック・キャリアデザインとは～(講師:森・大津・中山) 2. 人と人との関係を築く知恵Ⅰ(担当:中山) 3. 人と人との関係を築く知恵Ⅱ(担当:中山) 4. 情報を収集して活用する知恵Ⅰ(担当:中山) 5. 情報を収集して活用する知恵Ⅱ(担当:中山) 6. 自ら考えて判断や決定をする知恵Ⅰ(担当:中山)

	7. 自ら考えて判断や決定をする知恵Ⅱ(担当:中山) 8. 高石「ライフサイクルとこころの成長課題」(学生相談室) 9. 鳴海「地図をつくった人々」(歴史文化学科) 10. 西「古典に学ぶ『責任感』と『コミュニケーション』」(人間科学科) 11. 阿部「新卒一括採用を考えるー安心感と公正さが失われた社会を生きる」(社会学科) 12. 秋元「お金と仕事とキャリアの話」(英語英米文学科) 13. 小谷「文学作品と職業。職業とコミュニケーション能力。」(日本語日本文学科) 14. エピローグ ～ベーシック・キャリアデザインのまとめ～(講師:森・大津・中山)
教科書	必要に応じて「レジュメ」を配付します。
担当者から一言	文学部は就職に不利ではありません。今は「何を勉強してきたか」よりも「どのように勉強してきたか」が問われる時代です。進路や就職に不安をもっている人。自分の専門と自分の将来とにつながりを見つけてゆきたい人。自分のことをもっと深く知りたい人。新しく友達をつくりたいと思っている人。大学生活の4年間を充実させたい人。大歓迎です。

授業コード	31025		
授業科目名	PC統計学（前）		
担当者名	森 剛志（モリ タケシ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	事前登録科目 2008年度以降入学生用 「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	与えられたデータを調理して、分析する。データから読み取れる事実を報告できるようにする。ただし、科学的な分析がおこなえるように、統計的基礎も随時身につけていく。
到達目標	データから読み取れる事実を統計学的に解析し、報告できるようにする。
講義方法	2つの課題に取り組んでもらいます。 1つは、私が統計的基礎の講義と、実際のデータを用いて、EXCELやSPSSで分析していく方法を教授しますので、各自分析結果を報告する。2つ目は、定めたテーマで各自が興味ある結果について、Power Pointで報告する。
準備学習	配布した資料を事前に読んでおくこと。
成績評価	報告の質と内容。
講義構成	1. データ分析 2. 基本的記述統計分析 3. 分散と検定 4. 回帰分析
教科書	開講時にアナウンスします。
参考書・資料	授業用の資料を渡します。

授業コード	31034		
授業科目名	PC統計学I（経済統計）（後）		
担当者名	宇野伸孝(ウノ ノブタカ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限 木曜4限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生はPC統計学 I として履修すること。その際「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること。 2005年度以前入学生は経済統計として履修すること		

講義の内容	我々は自らの健康状態を知るために、体温や血圧、血糖値などの数値データから判断することがある。現在のデータだけではなく過去のデータも参照すれば、健康になりつつあるのか、それとも逆なのかが判断できる。経済も同じであり、様々な状態において統計データという形で常にシグナルを発信している。一見してわかるものもあれば、組み合わせたり計算したりして初めて発見できるものもあるので、ある程度の統計手法や経済の仕組み(経済理論)も身につけておく必要がある。 本講義では、主に経済理論で取り扱うような変数が、現実の経済ではどのような名称で呼ばれているのか、推計する対象や方法とは何か、どこで入手できるのかなどの基本はもとより、実際に色々な角度からデータを眺めていくことで、自分の力で経済の状態や景気の先行きが分析できるよう練習を積み重ねていく。 なお、本講義がいわゆる統計学と異なる点は、記述統計や推測統計などの手法面よりも、現実の経済を投影したデータそのものに重点を置いていることである。したがって、数学の知識はそれほど必要としない。
到達目標	インターネットから必要な経済データを入手できる。 グラフ作成や簡単な統計分析ができる。
講義方法	インターネット上に公開されている様々なデータを収集し、簡単な計算やグラフ作成などを通して理解を深めていく。なお、毎回これらをまとめて課題として提出してもらう。
準備学習	Excelの基本操作を習得しておくこと。
成績評価	評価の目安としては、出席が30%、課題が70%
講義構成	第1日 経済関連ニュース 第2日 国の財政と地方財政 第3日 フィリップス曲線 第4日 人口ピラミッド 第5日 世界のGDP 第6日 株価 第7日 日銀短観 第8日 景気動向指数 第9日 価格指数 第10日 ローレンツ曲線 第11日 回帰分析 第12日 シミュレーション 第13日 連立方程式 第14日 産業連関分析 第15日 総復習
教科書	特に指定しない。 必要な資料等はWebで提示する。
参考書・資料	必要に応じて講義中に紹介する。
講義関連事項	マクロ経済学やミクロ経済学などの経済理論の基礎となる科目を並行して学習すると効果的。次のステップとして、PC統計学Ⅱ、情報処理の上級科目、計量経済学などがある。
担当者から一言	インターネットやオフィスソフトを利用するので、あらかじめPCの基本操作を習得していることが望ましい。

授業コード	31054		
授業科目名	PC統計学Ⅱ(PC統計学) (前)		
担当者名	宇野伸孝(ウノ ノブタカ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限 木曜4限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生はPC統計学Ⅱとして履修すること。その際「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること。 2005年度以前入学生はPC統計学として履修すること		
講義の内容	実験データや統計データ、アンケート調査など、結果として得られた各種データの間には、何らかの関連性や傾向が潜んでいることが多い。そのままだと見過ごしてしまう、このような要素を抽出するアプローチの一つに多変量解析がある。多変量解析とは、主成分分析や因子分析、クラスター分析などいくつかの手法の総称であり、コンピュータの発展・普及とともに広く利用されるようになった。 本講義では、多変量解析の基礎をPCで実際に計算しながら習得していく。データの収集・整理には主にExcelを使用するが、分析には統計ソフトのSPSSを用いることにする。		

到達目標	経済データの基本的な分析手法を習得する。 データに必要な分析方法の選択ができる、また逆に分析に必要なデータが入手・選択できること。
講義方法	講義毎に一つ以上のテーマを設け、必要な理論の説明、例題を使ったSPSSの操作方法の説明、練習問題(提出物)の順に進めていく。
準備学習	Excelの基本操作を習得しておくこと。
成績評価	評価の目安としては、出席が30%、課題が70%
講義構成	第1日 Excelの基本操作確認 第2日 SPSSの入力・加工 第3日 グラフと表の作成 第4日 代表値について 第5日 共分散と相関関係 第6～7日 回帰分析 第8～9日 判別分析 第10～11日 クラスタ分析 第12～13日 因子分析 第14～15日 主成分分析
教科書	内藤統也監修・秋川卓也著『新装版 文系のためのSPSS超入門』ブレアデス出版。
参考書・資料	小田利勝著『ウルトラ・ビギナーのためのSPSSによる統計解析入門』ブレアデス出版。 村瀬洋一・高田 洋・廣瀬毅士著『SPSSによる多変量解析』オーム社。
講義関連事項	計量経済学、経済統計学、経済数学、情報処理関連。
担当者から一言	インターネットやオフィスソフトを利用するので、あらかじめPCの基本操作を習得していることが望ましい。統計学や数学に興味があればなお良し。

授業コード	31016		
授業科目名	アジア経済入門(後)		
担当者名	裴 光雄(ペ クワンウン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	アジアNIEs、ASEAN諸国を始めとするアジアの国々・地域の経済成長は、目を見張るものがあり、近年、世界の成長を牽引する最有力の地域となった。アジアの諸国が日本の経済発展にとっても重要であることをいまさら論じる必要もない。多くの日本企業はコストを節約するために生産拠点をアジアに移してきた。したがってアジア経済を知ることはきわめて重要な意義を持つ。講義では、多くの国の幅広い問題を取り扱うので、概説的にならざるを得ないが、アジア経済をより深く学習するための手がかりになるようにしたい。
到達目標	アジア各国の経済について、基本的な知識を習得し、正しく視ることができるようになる。アジア各国という場合、日本、NIEs、ASEAN、中国、インドについて、これらの国・地域の経済発展の歴史と特徴を理解し、これらの地域・国が今後どのように発展していこうとしているのかを考え、そして日本にいる私たちがアジア地域に住む人々と今後、どのようにより良い関係を築いていけるのか、を考えることができる。
講義方法	授業は講義のレジュメと統計資料を毎回配布し、必要に応じてパワーポイントも使用します。講義が中心ですが、時事的な問題も含めて随時ビデオも利用します。特定の教科書は指定しませんが、参考図書を参考にしてください。
準備学習	重要なことは、日頃からアジア経済に関心を持つことです。そしてできれば興味のある国を見つけて、日頃から関心を持っていたきたいと思います。
成績評価	平常点30%と期末試験70%の割合で評価します。平常点は抜き打ちの小テスト。私語をする学生は減点し退場してもらいます。試験は、用語解説と論述式の問題です。論述式の問題にはいくつかの選択肢があって、各自の関心にしたがって答えられるようにしますが必ず自分の言葉で書くことが大切です。
講義構成	1週目:オリエンテーション 2週目:アジア経済(日本、NIEs)の基本的指標(1) 人口、面積、GDP、国民所得、貿易額、産業構造、就業構造など 3週目:アジア経済(ASEAN、中国、インド)の基本的指標(2) GDP、国民所得、貿易額、産業構造、就業構造など

	4週目:日本の経済発展の歴史と特徴(1) 戦後復興期、高度成長期 5週目:日本の経済発展の歴史と特徴(2) オイルショック以降の低成長期、バブル経済、平成不況 6週目:NIEsの経済発展の歴史と特徴(1) －韓国－ 7週目:NIEsの経済発展の歴史と特徴(2) －台湾－ 8週目:NIEsの経済発展の歴史と特徴(3) －香港、シンガポール－ 9週目:ASEANの経済発展の歴史と特徴(1) －タイ、マレーシア－ 10週目:ASEANの経済発展の歴史と特徴(2) －インドネシア、フィリピン－ 11週目:ASEANの経済発展の歴史と特徴(3) －ベトナム、ミャンマー－ 12週目:中国の経済発展の歴史と特徴(1) －改革開放以前－ 13週目:中国の経済発展の歴史と特徴(2) －改革開放以後－ 14週目:インドの経済発展の歴史と特徴 15週目:全体のまとめ or 試験 順番の変更はありうる
教科書	特に指定しない。プリント配布。
参考書・資料	事前の購入の必要はないが、以下の図書を参考図書として薦める。 ・今井 宏他『テキストブック 21世紀アジア経済』勁草書房、2003年 ・渡辺利夫『アジア経済読本[第3版]』東洋経済新報社、2003年。 ・原洋之助『アジア経済論』NTT出版、1999年。

担当者から一言	とにかく出席して前に座り、ノートを必ずとるようにしてください。
---------	---------------------------------

授業コード	31017		
授業科目名	アメリカ経済入門（前）		
担当者名	田村太一（タムラ タイチ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	本講義では、現代アメリカ経済をみるうえでの基礎的な知識の修得を念頭において、アメリカン・グローバリズムを検討します。
到達目標	アメリカ経済の歴史と現状の理解を通じて、理論的・歴史的・実証的な分析力の涵養を目指します。
講義方法	テキスト、レジュメを用いて講義する予定です。講義の進行に応じて、下記スケジュールを調整する可能性があります。
準備学習	講義前に、該当するテキスト、参考書の部分を予め一読しておいてください。
成績評価	学期末試験で成績評価を行います。
講義構成	1. ガイダンス&イントロダクション——現代アメリカ経済をみる眼 ◇アメリカン・グローバリズムの国内的文脈(前半) 2. アメリカ経済の歴史(主に建国期から19世紀) 3. 産業構造の変遷 4. 企業経営と株主資本主義 5. 金融制度と金融革新 6. 財政政策の歴史的展開 7. アメリカ型福祉国家体制と雇用システム

	◇アメリカン・グローバリズムの対外経済関係(後半) 8. グローバリゼーションとアメリカン・グローバリズム 9. 戦後の国際経済体制と金ドル本位制 10. 海外直接投資と多国籍企業 11. 多国籍企業の貿易構造と通商政策 12. オフショアリングとサービス貿易 13. グローバルマネー循環 14. グローバル・ガバナンスと政策協調 15. まとめ
教科書	中本 悟編『アメリカン・グローバリズム——水平な競争と拡大する格差』日本経済評論社、2007年。
参考書・資料	萩原伸次郎・中本 悟編『現代アメリカ経済——アメリカン・グローバリゼーションの構造』日本評論社、2005年。 新岡 智・増田正人・板木雅彦編『国際経済政策論』有斐閣、2005年。 池上 彰『そうだったのか！アメリカ』集英社文庫、2009年。
講義関連事項	国際経済学、国際金融論、日本経済論
担当者から一言	スミス、リカード、マルクス、ケインズなどの経済学の古典に触れてください。

授業コード	55C31		
授業科目名	インターンシップ・ボランティア（経済）		
担当者名	青木浩治（アオキ コウジ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	2007年度以降入学生適用		

講義の内容	このプログラムは、企業や団体、地域社会と連携した直接的な社会体験や就業体験により、社会人としての基本的マナーや社会の求めている能力・知識を学生の皆さんに理解・習得して頂くことを目的としています。また、同時に、働くことの意味や重要性を現場体験を通じて知って頂く絶好の機会にもなるでしょう。
到達目標	大学外での貴重な現場体験を通じて、学生の皆さんが一層成長して頂くことが目標です。
講義方法	インターンシップ・ボランティア先での実体験を基礎とし、その結果をプレゼンする。
準備学習	現場体験の場を自ら発掘することが必要です。
成績評価	活動に関するレポートおよび出席状況と、11月上旬に予定されている報告会でのプレゼンテーションにより評価します。
講義構成	(1)キャリアセンターが実施するガイダンスに出席して下さい。 ・インターンシップ 4月14日(水)、4月16日(金)の12:20～12:50分。場所は、後日キャリアセンター掲 示板にて連絡しますので、各自確認して下さい。 ・ボランティア 4月13日(火)、4月15日(木)の12:20～12:50分。場所は、後日キャリアセンター掲 示板にて連絡しますので、各自確認して下さい。 (2)インターンシップまたはボランティアを希望する学生は、キャリアセンターに登録書を提出して下さい。期限は5月13日(木曜日)午後3時までとします。 (3)キャリアセンターに紹介を希望する場合は、キャリアセンター委員会または受け入れ企業・団体が面接によって選考します。 (4)夏季休暇期間を利用して、60時間以上のインターンシップ・ボランティアに参加して下さい。ただし、企業・団体の都合により60時間に満たないケースがあるかもしれません。 (5)活動に関するレポートを指定期日までにキャリアセンターに提出して下さい。レポートの様式はキャリアセンターに直接問い合わせてください。 (6)11月上旬に、インターンシップ・ボランティアに参加した経験を発表する報告会を開催する予定です。その場において、プレゼンテーションを行うことが各自の課題として要求されます。
教科書	特定の教科書は使用しません。
その他	参加者は、キャリアセンターが実施する事前研修と事後研修に積極的に参加して下さい。

授業コード	31K11
-------	-------

授業科目名	英語で読む経済I (1クラス)(前)		
担当者名	杉村芳美(スギムラ ヨシミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	英語テキストの講読をととして、グローバル化した今日の経済について理解を深める		
到達目標	英語文献に抵抗なく接することができるようになるとともに、内容を大きくつかんで理解できるようになること		
講義方法	受講者による英語テキストの読解を中心にしながら、重要な経済事象、経済用語についての知識を増やしていく。取り上げる経済現象についての解説も適時加えていく。		
準備学習	毎回の学習箇所の予習をしっかりと行うとともに、取り上げられる経済事項、経済用語について下調べを行うこと。新聞を読み、ニュースを見る習慣を身につけること。		
成績評価	出席、受講姿勢、期末試験などを総合的に評価します		
講義構成	学習進度にしたがって、テキストを選び、授業での作業内容を深化させていきます		
教科書	授業時に指示・配布します		

授業コード	31K12		
授業科目名	英語で読む経済I (2クラス)(前)		
担当者名	東 裕三(ヒガシ ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	ミクロ経済学の基礎的な英語文献を読むことで、英文を読む訓練をすると同時に、ミクロ経済学の基本的な考え方を理解する。		
到達目標	ミクロ経済学の基本的な考え方を英語で理解することができる。		
講義方法	事前に英文資料を配布し、予習を行ってもらう。授業では、担当者に訳を発表してもらい、英訳や経済理論に関して適宜、補足や解説を行う。		
準備学習	どの分野の英文でもよいので、英語の長文読解に慣れておくこと。		
成績評価	期末試験50%、平常点(出席+発表)20%、小テスト30%で総合評価する。		
講義構成	第1回: 講義のガイダンス(講義内容・方法、成績評価についての説明) 第2回~第14回: 受講生による英訳の発表、英訳や基礎的な経済理論の解説 適宜小テストを実施する予定。		
教科書	各講義で教材プリントを配布する。		
参考書・資料	講義にて適宜紹介する。		

担当者から一言	英文や経済学の理解を深めるため、一步一步着実に勉強していきましょう。
---------	------------------------------------

授業コード	31K13		
授業科目名	英語で読む経済I (3クラス)(前)		
担当者名	中野沙弥香(ナカノ サヤカ)		

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		

講義の内容	英語で書かれた経済の文献を読むことで、英語に慣れると同時に経済に関する知識を増やすことも目的としています。
到達目標	読解力の上昇と経済に対する理解を深めることを目標としています。
講義方法	英文テキストの輪読と討論を行います。
準備学習	特にありません。
成績評価	出席、発表、課題等の平常点と期末テストにより総合的に評価します。
講義構成	各講義毎に1つのテーマについて輪読・討論を行います。
教科書	開講時に教材プリントを配布します。

授業コード	31K14		
授業科目名	英語で読む経済I（4クラス）(前)		
担当者名	王 凌(ワン リン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		

講義の内容	英文新聞・雑誌や英文テキストから、経済的な考え方がよく示されている文章を選び、英語と経済を同時に学ぶ。この講義の目的は、経済に関する国際的な話題を英文で読むことを通して、英文の読解力を養うところにある。同時に、様々な話題に触れることで国際感覚を身につけて欲しい。
到達目標	具体的な到達目標は次の2つです。 (1) 経済学に関する基本的な英語文献を輪読して英語の読解力を高めること。 (2) 経済学の専門知識についての理解を深めること。
講義方法	英文を丹念に読みこなす力を身に付けるため、受講者全員が事前に配布した英文を翻訳する。授業では、順番に日本語訳を発表してもらいます。そして、全員で資料の内容に関して議論します。
準備学習	事前に配布した資料の英訳を準備しておくこと。
成績評価	講義出席、課題準備および期末試験成績で総合的に評価します。
講義構成	第1回 イン트로ダクション 第2回～第4回 経済学に関する英語資料 第5回～第7回 日本経済に関する英語資料 第8回～第10回 アジア経済に関する英語資料 第10回～第12回 アメリカ経済に関する英語資料 第13回～第14回 ヨーロッパ経済に関する英語資料
教科書	あらかじめプリントを配布する。

授業コード	31K15		
授業科目名	英語で読む経済I（5クラス）(後)		
担当者名	寺地祐介(テラジ ユウスケ)		

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		

講義の内容	英語で書かれた経済学の教科書をもとに、前期の入門ミクロ経済学の発展的なトピックを取り扱う。 発展的なトピックの例は、以下のとおり。 ・ 外部性(環境問題) ・ 公共財・共有地の問題(政府の役割) ・ 貿易の利益 ・ 企業間競争(市場構造) 以上のようなトピックのうち少なくとも二つを取り扱うことにする。 取り扱うトピックは受講者との相談で決めたい。
到達目標	前期で学んだミクロ経済学の基礎的な内容を踏まえ、ミクロ経済学の理論的枠組で、どのように現実の問題を考察・分析できるかを学ぶ。
講義方法	主に講義ノートをもとに授業を行う。
準備学習	準備学習は、必要なし。 ただし、宿題を通じて、毎回の授業内容を復習すること。
成績評価	成績評価は以下のとおり。 出席(宿題提出+授業参加):30% 中間テスト:20% 期末テスト:50%
講義構成	14回の授業のスケジュールは以下のとおり。 第1回 イン트로ダクション 第2回以降 第1回で決まったトピックに関する講義 なお、第2回以降の講義は、主に講義ノートをもとに行う。 また、トピックによっては、簡単なグループワークを行ってもらうこともある。
教科書	G. N., Mankiw "Principles of Economics fifth edition" (2008) South-Western 教科書に関する具体的な指示は第1回講義で連絡する

授業コード	31K16		
授業科目名	英語で読む経済I (6クラス)(後)		
担当者名	岡本 弥(オカモト ヒサシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		

講義の内容	英字新聞の記事や英語で書かれた簡単な経済学の論文を材料に読解・大意要約および内容把握を行う。
到達目標	英語で書かれた経済に関する記事や簡単な経済学の論文を自力で読み解く力をつけることを目標としたい。
講義方法	配布資料とそれに関連する宿題をもとに授業を実施する。
準備学習	毎回の宿題の励行。
成績評価	評価の配点は、出席30%・課題70%とする。なお、課題は毎回の宿題と2回のレポートを予定している。また出席点は、授業に対する貢献度を加味して評価する。
講義構成	授業は、次のような流れで実施する 配布資料の内容把握 *各段落の内容の要約 *主張およびその根拠の把握 *経済学的重要ポイントに関する説明
教科書	第1回の講義で指定する。
参考書・資料	適宜、講義で指定する。

担当者から一言	語学の基本はまめに辞書をひくことです(というか私の信念です)。英文解釈力に自信がなくても、そのような努力を厭わない人を歓迎します。
---------	---

授業コード	31K17		
授業科目名	英語で読む経済I (7クラス)(後)		
担当者名	東 裕三(ヒガシ ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	経済学に関する英語文献を読むことにより、英文を読む訓練をすると同時に、経済現象に対する理解を深める。
到達目標	短時間で英文の意味を理解できるようになること。
講義方法	・事前に資料を配り、予習を行ってもらう。 ・授業では担当者に訳を発表してもらう。 ・必要に応じて、補足や解説を行う。
準備学習	予習をすること。
成績評価	期末試験60%と平常点(出席＋発表)40%
講義構成	第1回 授業のガイダンスなど 第2回 授業開始:受講生による発表を中心に進める ・・・ 最終回まで続く
教科書	教材を配布する。

授業コード	31K18		
授業科目名	英語で読む経済I (8クラス)(後)		
担当者名	田代義次(タシロ ヨシツグ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生は自動登録		
オフィスアワー	第1回目の講義で通知します。		

講義の内容	経済に関する文献を英語で読むことにより、両方に親しんでもらうことを目的とします。
到達目標	指名されなくても、積極的に発言できるようになってください。
講義方法	皆さんが気軽に発言できる講義を目指します。 受講生の発表による内容理解がメインになります。
準備学習	生活のなかで接する経済に関する事柄に興味を持ってください。
成績評価	出席点、平常点(発表による)とテストで総合的に評価します。
講義構成	英語文献の内容の理解(受講生の発表)と、それについて議論する予定です。
教科書	第1回目の講義で指定します。

担当者から一言	平常点の占める割合が高いので、積極的に発言できる方でないと、高得点は期待できません。
---------	--

授業コード	31N11
-------	-------

授業科目名	英語で読む経済Ⅱ（1クラス）(前)		
担当者名	岩崎 晃（イワサキ アキラ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目		
オフィスアワー	火曜3限～4限		

講義の内容	市場経済がどのように機能するかを分析するミクロ経済学の基礎を学びます。 1. 市場と需要、供給 2. 弾力性概念 3. 市場と公共政策 講義内容はある程度、すでに入門ミクロ経済学で学んでいるはずですから、この講義では皆さんが習得済みの経済学の概念がどのように表現されるか、またそれらの概念がどのように分析に利用されるかを解説する。
到達目標	価格変動を通じて、市場経済でおこるさまざまな経済問題がどう解決されるか、政府の政策によって事態をどのように改善できるか、といった問題を簡単な理論的ツールで分析できるようになること、ならびに簡単な経済問題を英語で分析できるようになること。
講義方法	1. まず全員で文章を音読する（英語の勉強には音に強くなることも大事）。 2. 指名して、学生にパラグラフ毎に内容を説明してもらう。 3. 必要に応じて、教員が内容を詳しく解説する。 4. 自宅で、練習問題を解いて勉強内容の理解度を確認する。
準備学習	1. 自宅で教材の音読の練習。 2. 自宅でキーコンセプトを学習。 3. （講義後に）再度、講義内容を確認すること。
成績評価	1. 定期試験の結果（80％） 2. 講義中の質疑・発表（20％）
講義構成	（1～4回） 1. The Market Forces of Supply and Demand （5～8回） 2. Elasticity and Its Application （9～14回） 3. Supply, Demand, and Government Policies
教科書	N. Gregory Mankiw, Principles of Economics, Third Edition, 2004, Part 2.
参考書・資料	「入門ミクロ経済学」の講義で使用した教科書を再度取り出して勉強してください。 伊藤元重『入門経済学（第3版）』日本評論社、ほか。
講義関連事項	経済理論の基礎を学びますので、ミクロ経済学関連の科目と内容的に関連します。他の科目についての質問もご遠慮なく！

担当者から一言	声に出して読んでみましょう。
---------	----------------

授業コード	31N12		
授業科目名	英語で読む経済Ⅱ（2クラス）(前)		
担当者名	谷口謙次（タニグチ ケンジ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目		

講義の内容	テキストには『オバマ演説集』（朝日出版、2008年）を使用します。オバマ大統領の演説の素晴らしさは各方面で絶賛されており、これ以外にも多数の本が出版されています。また、インターネットでも彼の演説が動画や文章で数多く取り上げられています。彼の演説は英語も内容も分かりやすく、自らの主張がはっきりしています。その点で英語を学ぶ最良の教材と考えています。 講義では主に『オバマ演説集』から「2004年民主党大会貴重演説」の内容を取り上げます。当時オバマ氏は大統領候補どころか連邦上院議員でもなく、州上院議員でしかありませんでした。しかし、今回の選挙戦の間常に主張してきた内容は、すでにこの演説の中に数多く見られます。失業問題、戦争、医療や教育問題、こうした経済に関わる問題についてやさしく、的確に論じています。この演説を通して、彼がなぜ黒人（アフロ・アメリカン）初の大統領に選ばれたのかを知り、そしてそれについて考えてもらいたいと思います。
-------	---

到達目標	本講義では英語で経済、それに関わる社会や海外事情について理解する能力を身に付けることが目的です。単に英文を訳すのではなく、その内容について理解できることが大切です。経済や社会に関係する専門用語を身に付け、文法の基礎をもう一度確認することとします。
講義方法	毎回テキストの中から文章を選び取り、そこで用いられる専門用語や文法を解説します。また、内容に関する解説も行い、理解を深めていきたいと考えています。 基本的にプリントは配りません。必ずノートかルーズ・リーフを用意してください。
準備学習	特になし。
成績評価	期末テスト50点、小テスト30点(計10回)、復習テスト20点(前期中に2度)とします。 小テストは毎回の専門用語や単語のテスト。復習テストは講義5～6回の内容。期末テストは講義中すべての内容を含みます。なお小テストは出席確認ではありません。 すべてのテストで持ち込みは不可です。
講義構成	01.オバマ大統領、テキストについての解説。 02.「格別に名誉ある夜」22頁。 03.「二つの大陸から生まれた夢」24頁。 04.「アメリカ独立宣言の下に」26頁。 05.「素朴な夢を信じ」28頁。 06. 復習テスト 07.「我々にはもっとなすべきことがある」30頁。 08.「人々はきちんと認識している」32頁。 09.「戦死者と家族について考える」38頁。 10.「若者を戦地に送る者の義務」40頁。 11. 復習テスト 12.「多数からひとつへ」42頁。複 13.「リベラルなアメリカも…」44頁。 14.「希望の政治に参加しよう」46頁。 15.「歴史の岐路で正しい選択を」48頁。
教科書	『オバマ演説集』(朝日出版、2008年)

授業コード	31N13		
授業科目名	英語で読む経済II(3クラス)(前)		
担当者名	嘉陽英朗(カヨウ ヒデアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目		

講義の内容	この講義では、社会や経済における人間の活動の中に発生する、いろいろな行動パターンの合理性・非合理性を、歴史の中に探る教材(ファシズム、バブルなど)を採用してきました。本年度も引き続き大きなテーマは保ちながら、もう少し身近な現象にも触れられるような教材を選び、読むことにしたいと思います。
到達目標	(内容)経済における基本的な概念(例:インセンティブ)の英語による再確認と、健全な懐疑主義、「自分も例外ではない」感覚の再確認。 (英語・日本語)間接的に示されている論理構造を読み解き、考えることの復習。

講義方法	(1)教材や参考資料はプリントとして配布しますので、指示に従って予習をしてください。 (1回の予習量の目安は、A4に打ったプリントで、改行やヒントのスペースも含めて、2/3～1枚程度を予定しています。) 予習は、下調べや訳が中心です。 ↓↓ (2)授業では、受講者の皆さんを指名して、訳や答えを発表していただきます。 講師は正解や訳(例)、解説、関連情報、関連するエピソードなどで応答します。 ↓↓ (3)授業の終わりに、次の授業の予習範囲などをお知らせします。
準備学習	「授業方法」の項目の通り、予習が必要です。特別な準備が必要な場合は、改めて指示します。
成績評価	平常点40%、試験60%。試験の受験だけで単位を取得することは出来ません。 平常点に関するルールは、講義開始時にあらためて説明します。
講義構成	第1回:出席者確認・説明書と教材配布・講義説明など 第2回:授業開始(基本的概念の確認、背景について) (＊最初の何回かは、新規参加者のための簡単な再説明も、時間の許す範囲で行います。) ----- 第3回から:配布した課題や資料をもとに、授業を行います。 ----- 最終回:授業続き、補足、試験について。 ----- 定期試験
教科書	プリントを配布します。プリントには、直接の教材となる英文だけではなく、用語解説や背景紹介、文法解説なども盛り込みます。特に除外の指定がない限り、すべてが試験対象となります。
参考書・資料	必要に応じて、適宜、プリントとして配布、またはご紹介いたします。
講義関連事項	必修授業ではありませんが、教材を受け取り、ある程度継続したテーマについて「続きもの」の授業になりますので、できるだけ出席できるように、努力してください。

授業コード	31N14		
授業科目名	英語で読む経済Ⅱ(4クラス)(前)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目		
オフィスアワー	火曜4限(前期)もしくは火曜5限(後期)		

講義の内容	この講義では、経済学の基礎的な考え方を英語で読んでみます。 経済学で用いられる英語はさほど難しくないもので、日本語で理解するよりも簡単かもしれませんし、新たな発見があるかもしれません。適宜表やグラフがあるので、英語での表やグラフの表現方法も学びます。
到達目標	経済学の基礎的知識を習得するとともに、基礎的な英語力を養うことを目標とします。
講義方法	毎回担当箇所を英訳してもらい、発表してもらいます。
準備学習	担当した英文の和訳をし、他の受講生の前でわかりやすく発表する必要があるため、十分な事前準備をする必要があります。くれぐれも自分が発表する際には欠席をしないよう気をつけてください。
成績評価	平常点50点、期末試験50点とします。平常点は担当分の発表で評価しますので、講義中発表しなかった場合、平常点がなくなることにご注意してください。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2～14回 各受講者による発表と解説 第15回 期末試験
教科書	Walter J. Wessels, Economics (Barron's Business Review Series) (Paperback), Barron's Educational Series; 4 edition (July 1, 2006) を用います。
担当者から一言	経済学を英語で学ぶことによって、より経済学の視野が広がると思います。

	英語が好きな人も、経済学が好きな人もぜひ受講してみてください。
--	---------------------------------

授業コード	31N15		
授業科目名	英語で読む経済II (5クラス)(後)		
担当者名	上池あつ子(カミイケ アツコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目		

講義の内容	グローバリゼーションのもと相互依存が強まっているため、世界経済の動向が日本経済の動向に大きな影響を与えている。本講義では、世界経済の動向および日本経済の動向に関する海外の有力な経済誌の論説などを中心に輪読し、世界経済と日本経済の現状とその課題、展望について、理解を深めることを目指す。		
到達目標	基本的な経済用語(英語)やその意味など英文経済誌を通読できるための語彙力の習得と同時に、現代の世界経済と日本経済が抱える諸問題について一定の知識と理解を獲得する事を目標としたい。		
講義方法	講義と受講生による輪読を併用する。講義については、課題となる英文論説について、文法的な説明および経済用語の解説などを行い、論点の整理を行う。受講生は、輪読を通じて内容への理解を深める。経済英語用語の習得、課題の内容理解を確認する一環として、復習テストを1回実施する。		
準備学習	受講生は、辞書や参考資料にあげた石塚雅彦『経済英語入門』などを利用し、配布した英文の課題を通読し、文法上および内容において不明な部分を明確にしておくことが必要である。 日本経済新聞や日本の主要新聞などの経済面を読み、経済情報や知識を取得することも有用であると思われるので、ぜひ実践してほしい。		
成績評価	成績評価については、出席点が20%、復習テスト40%、定期試験40%で総合評価するため、定期試験のみでの単位取得は困難である。		
講義構成	第1回: 講義のガイダンス(講義内容・方法、定期試験・復習テスト、成績評価について説明)。 第2回～第6回: 講義と輪読。 英文課題を配布し、論点整理、文法の解説などを行う。その後受講生による輪読を行い、課題の内容の理解を深める。 第8回: 復習テスト 第9回～第14回: 講義と輪読。 英文課題を配布し、論点整理、文法の解説などを行う。その後受講生による輪読を行い、課題の内容の理解を深める。		
教科書	主として、the Economistの経済論説記事を使用する。使用する論説記事は適宜講義において配布する。		
参考書・資料	石塚雅彦『経済英語入門』日経文庫		

授業コード	31N16		
授業科目名	英語で読む経済II (6クラス)(後)		
担当者名	嘉陽英朗(カヨウ ヒデアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	事前登録科目		

講義の内容	この講義では、社会や経済における人間の活動の中に発生する、いろいろな行動パターンの合理性・非合理性を、歴史の中に探る教材(ファンズム、バブルなど)を採用してきました。本年度も引き続き大きなテーマは保ちながら、もう少し身近な現象にも触れられるような教材を選び、読むことにしたいと思います。		
到達目標	(内容) 経済における基本的な概念(例: インセンティブ)の英語による再確認と、健全な懐疑主義、「自分も例外ではない」感覚の再確認。 (英語・日本語)間接的に示されている論理構造を読み解き、考えることの復習。		

講義方法	(1)教材や参考資料はプリントとして配布しますので、指示に従って予習をしてください。 (1回の予習量の目安は、A4に打ったプリントで、改行やヒントのスペースも含めて、2/3～1枚程度を予定しています。) 予習は、下調べや訳が中心です。 ↓↓ (2)授業では、受講者の皆さんを指名して、訳や答えを発表していただきます。 講師は正解や訳(例)、解説、関連情報、関連するエピソードなどで応答します。 ↓↓ (3)授業の終わりに、次の授業の予習範囲などをお知らせします。
準備学習	「授業方法」の項目の通り、予習が必要です。特別な準備が必要な場合は、改めて指示します。
成績評価	平常点40%、試験60%。試験の受験だけで単位を取得することは出来ません。 平常点に関するルールは、講義開始時にあらためて説明します。
講義構成	第1回:出席者確認・説明書と教材配布・講義説明など 第2回:授業開始(基本的概念の確認、背景について) (＊最初の何回かは、新規参加者のための簡単な再説明も、時間の許す範囲で行います。) ----- 第3回から:配布した課題や資料をもとに、授業を行います。 ----- 最終回:授業続き、補足、試験について。 ----- 定期試験
教科書	プリントを配布します。プリントには、直接の教材となる英文だけではなく、用語解説や背景紹介、文法解説なども盛り込みます。特に除外の指定がない限り、すべてが試験対象となります。
参考書・資料	必要に応じて、適宜、プリントとして配布、またはご紹介いたします。
講義関連事項	必修授業ではありませんが、教材を受け取り、ある程度継続したテーマについて「続きもの」の授業になりますので、できるだけ出席できるように、努力してください。

授業コード	31035		
授業科目名	開発経済(前)		
担当者名	川畑康治(カワバタ コウジ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限 月曜3限
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	現在、地球上で約26億の人々が栄養失調状態にあり、3秒に1人の割合で子供が貧しさのために死んでいます。その一方で中国・インドなどアジア諸国では著しい発展を遂げ、貧困からの脱却を実現しつつあります。 このような世界は我々と全く無関係という訳ではなく、先進各国の多くの企業が世界の貧困層に低価格帯の商品を売り込むと同時に、所得向上につながる仕事を提供し、貧困削減と新市場獲得の両立を目指しています。 こうした世界の現実を理解するために、現在、地球上で何が起き、どのような問題が生じているのかを、現実のデータを用いてわかりやすく解説します。またそうした現状の改善に向けて、国際社会はどうあるべきか、また私たちは何をすべきか、という観点から、これまで行われてきた様々な取り組みを紹介します。 さらにこのような現実を理解し、考察するためには、その背後にどのようなメカニズムが働き、あるいは働いていないのかを考えることが有益です。そこでこれまで皆さんが学んできた経済学のツールを用いて、国際社会の仕組みを解説します。
到達目標	グローバル化が進む現代社会においては、国際社会への理解が不可欠なものとなりつつあります。そこでこの授業科目では、皆さんが経済学のツールを用いて国際社会の現状を理解することができ、また国際的な共存のあり方について議論できるようになることが目標です。
講義方法	基本的には、教科書に沿って1回の授業で1章ずつ解説(講義形式)していきます。 また教科書の内容を補足する形で、開発経済学の理論を説明します。 (ただし履修登録人数によっては、変更することもあります)
準備学習	(1)履修条件 マクロ経済学、ミクロ経済学および金融関連科目の基礎知識があると理解しやすいです。

	(2)授業時間外学習 教科書の各章を各授業時間前に読了しておくことが望ましいです。
成績評価	定期試験により成績評価(100%)を行います。経済学のツールを使いながら、国際社会の現状を理解しているか、国際協力のあり方について議論できるか、が評価のポイントとなります。
講義構成	以下のようなトピックを取り上げます。(下記は講義項目の一部です) 1. 国際社会の現状について:BBC(英国放送協会)ドキュメントレポートetc. 2. 国際社会が目指す8のゴール:ミレニアム開発目標について 3. 国際協力の一例:チャリティコンサート「Live Aid」「Live 8」を考えるetc. 4. 国際社会が現在取り組んでいること:貧困、教育、環境等の諸問題について 5. 国際協力のあり方:グローバルパートナーシップを求めて
教科書	ジェフリー・サックス著『貧困の終焉』早川書房2300円
参考書・資料	下記の本と併読すると、より理解が深まります。 ウィリアム・イースタリー著『エコノミスト南の貧困と闘う』東洋経済新報社 「開発経済」の概略をまず気軽に知りたいという方は、下記のエッセイがおすすめです。 西水美恵子著『国をつくるという仕事』英治出版 また教科書を含め、上記の参考書はマクロ的視点から書かれていますが、ミクロ的視点、プロジェクトベースに関心のある方は下記の本がおすすめです。なお著者は2006年ノーベル平和賞受賞者です。 ムハマド・ユヌス『ムハマド・ユヌス自伝』早川書房 その他、授業で使用する補助教材は、追ってお知らせします。
講義関連事項	教科書に沿って授業を進めますので、図書館の本、中古本でも構いませんから必ず入手して下さい。 また教科書を試験前などにまとめて読もうとすると、読み飛ばす箇所が多くなって重要なポイントが分かりにくく、ものすごくしんどいです。毎日少しずつ読んでいくと、この本が世界的に評価されている理由を実感できると思います。
担当者から一言	開発経済の問題は、国際社会が直面する重要な課題であると同時に、非常にエキサイティングな分野でもあります。世界では約12億の人々が極貧状態にあり、皆さんがこのシラバスを読んでいる間にも、多くの命が消えています。しかしこのような現実、皆さんの考え方ひとつで変わるかもしれません。 この授業が、皆さんが世界の現実に少しでも関心を持ち、考える機会になればと思います。
URL	http://www2.kobe-u.ac.jp/~kawabat/class3.html

授業コード	31055		
授業科目名	家計の経済（後）		
担当者名	森 剛志（モリ タケシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	金曜昼休み		

講義の内容	家計の視点から、経済的に合理的な人の行動と少子高齢化という日本のおかれた現状についての理解を深める。少子化がもたらす社会保障財政の危機的状況とその打開策についての理解を深める。 また、時間が許す範囲で人と人との付き合い方の方法をゲーム論を用いて理解を深める。 主に、働きすぎの男性と家事育児に専念してきた女性という日本の家計の構造的背景についての理解と人付き合いの黄金法則を理解することである。
到達目標	学んだ内容を自分のことばで書けるようになること。
講義方法	講義形式で教授する。
準備学習	参考資料やテキストを事前に読んでおくこと。
成績評価	小テストおよび期末試験。
講義構成	最初に、結婚問題を経済学(比較優位を用いて)ではどのように説明しているかを説明し、現在との違い(日本の結婚しない若者と働きすぎの子育て期の男性)についての理解を深め、消費選択の考え方についても説明する。 次に、少子高齢化がもたらす危機的現状を説明し、若者と将来生まれてくる世代がいかに負担をこうむるのかを理解してもらう。世代間重複モデルを用いて、年金・医療・介護財政についての理解を深める。 また、ゲーム論を用いて、人付き合いの方法についての理解を深め、具体的には以下のようなトピックを扱って

	いく。 具体的には、以下のようなトピックを扱う。 ・比較優位から説明する結婚の利益と日本のゆがんだ労働市場 ・消費者理論 ・少子高齢化と社会保障の危機 ・年金改革 ・医療・介護改革 ・囚人のジレンマゲーム ・繰り返しゲームからみた最高の人付き合い方 経済学の教える原則と現状との違いについて理解することが重要となるでしょう。
教科書	適宜指示する。
参考書・資料	伊藤元重「入門経済学」 森剛志「日本のお金持ち妻研究」 鈴木亘著「だまされないための年金・医療・介護入門」 川西 諭著「ゲーム理論の思考法」中経出版 アクセルロッド「つきあい方の科学」

授業コード	31089		
授業科目名	環境経済Ⅰ(前)		
担当者名	柘植隆宏(ツゲ タカヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「環境経済Ⅰ」・「環境経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	環境問題に対する経済学的なアプローチについて講義を行う。この授業では、市場メカニズムを活用して環境負荷の削減を図る政策手段である「環境政策の経済的手段」について解説を行う。ミクロ経済学の復習、および外部性の内部化についての解説を行ったうえで、地球温暖化問題と廃棄物問題に対する経済学的なアプローチについて、環境税、排出量取引、ごみ処理有料化などの環境政策を事例として取り上げながら解説を行う。
到達目標	この授業の目標は、環境問題に対する経済学的な分析手法を習得することで、現実の環境問題の発生原因、およびそれに対する対策を、経済学の観点から評価・分析できるようになることである。特に、各種政策手段の特徴を理解し、環境問題の性質に応じて、適切な手段を選択できるようになることを目標とする。
講義方法	板書による講義形式。
準備学習	・「入門ミクロ経済学」の内容を十分に理解していること。 ・ミクロ経済学や公共経済学と関連する内容が含まれるので、「中級ミクロ経済学」や「公共経済」を履修済みであるか、あるいは、この授業と併せて履修することが望ましい。 ・新聞等を読み、現実の環境問題の動向を把握しておくこと。参考書の該当部分を事前に読んでおく、授業の内容が理解しやすい。
成績評価	期末試験の結果により評価する。平常点を加点することがある。
講義構成	第1回：イントロダクション 第2回：ミクロ経済学の復習(1)市場メカニズム 第3回：ミクロ経済学の復習(2)余剰分析 第4回：外部性 第5回：外部性の内部化(1)ピグー税 第6回：外部性の内部化(2)コースの定理 第7回：外部性の内部化(3)政策手段の選択とポリシーミックス 第8回：地球温暖化対策の経済分析(1)京都メカニズム 第9回：地球温暖化対策の経済分析(2)環境税と排出量取引 第10回：地球温暖化対策の経済分析(3)自然エネルギー 第11回：地球温暖化対策の経済分析(4)ポスト京都 第12回：廃棄物政策の経済分析(1)ごみ処理有料化 第13回：廃棄物政策の経済分析(2)産廃税と不法投棄対策 第14回：廃棄物政策の経済分析(3)リサイクル 第15回：廃棄物政策の経済分析(4)循環型社会

教科書	教科書は使用しない。レジュメをMy KONANIにアップロードするので、各自印刷して持参すること。
参考書・資料	参考書として以下の文献を挙げる。この他については、講義中に適宜紹介する。 ・栗山浩一著(2008)『図解入門ビジネス 最新 環境経済学の基本と仕組みがよ〜くわかる本』秀和システム ・栗山浩一・馬奈木俊介著(2008)『環境経済学をつかむ』有斐閣

授業コード	31090		
授業科目名	環境経済Ⅱ(後)		
担当者名	柘植隆宏(ツゲ タカヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「環境経済Ⅰ」・「環境経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	環境問題に対する経済学的なアプローチについて講義を行う。この授業では、環境政策の評価手法、企業の環境対策、資源・エネルギー経済学などのトピックを扱う。公共事業による生態系破壊、有害化学物質の規制、天然資源の枯渇などの問題を事例として取り上げる。また、環境調和型企業経営が注目される背景、それを実現するためのマネジメント手法、および現実の企業経営における最新の動向についても講義する。
到達目標	この授業の目標は、環境問題に対する経済学的な分析手法を習得することで、現実の環境問題の発生原因、およびそれに対する対策を、経済学の観点から評価・分析できるようになることである。特に、環境政策を効率性の観点から評価したり、資源の持続可能な利用を実現するためのマネジメント方法を考案したりできるようになることを目標とする。
講義方法	板書による講義形式。
準備学習	・「入門ミクロ経済学」と「環境経済Ⅰ」の内容を十分に理解していること。 ・ミクロ経済学や公共経済学と関連する内容が含まれるので、「中級ミクロ経済学」や「公共経済」を履修済みであるか、あるいは、この授業と併せて履修することが望ましい。 ・新聞等を読み、現実の環境問題の動向を把握しておくこと。参考書の該当部分を事前に読んでおく、授業の内容が理解しやすい。
成績評価	期末試験の結果により評価する。平常点を加点することがある。
講義構成	第1回：イントロダクション 第1回：公共財 第2回：費用便益分析 第3回：環境の価値と評価手法(1)顕示選好法 第4回：環境の価値と評価手法(2)表明選好法 第6回：環境評価の政策利用(1)生態系保全政策 第7回：環境評価の政策利用(2)環境規制 第8回：企業の環境対策(1)公害の歴史 第9回：企業の環境対策(2)環境経営 第10回：企業の環境対策(3)環境技術 第11回：企業の環境対策(4)CSRとSRI 第12回：資源・エネルギー経済学(1)枯渇性資源 第13回：資源・エネルギー経済学(2)再生可能資源 第14回：資源・エネルギー経済学(3)共有資源 第15回：持続可能な発展
教科書	教科書は使用しない。レジュメをMy KONANIにアップロードするので、各自印刷して持参すること。
参考書・資料	参考書として以下の文献を挙げる。この他については、講義中に適宜紹介する。 ・栗山浩一著(2008)『図解入門ビジネス 最新 環境経済学の基本と仕組みがよ〜くわかる本』秀和システム ・栗山浩一・馬奈木俊介著(2008)『環境経済学をつかむ』有斐閣

授業コード	31A01
-------	-------

授業科目名	基礎ゼミI (基礎ゼミ) (A)- 1(前)		
担当者名	小島修一(コジマ シュウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミ I として履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生みなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。

授業コード	31A02		
授業科目名	基礎ゼミI (基礎ゼミ) (A)- 2(前)		
担当者名	青木浩治(アオキ コウジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミ I として履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生みなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。

準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。

授業コード	31A03		
授業科目名	基礎ゼミI (基礎ゼミ) (A)- 3(前)		
担当者名	草野正裕(クサノ マサヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミ I として履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入學したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。		
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適應すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。		
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。		
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。		
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。		
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。		
教科書	特に使用しません。		
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。		
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。		

授業コード	31A04		
授業科目名	基礎ゼミI (基礎ゼミ) (A)- 4(前)		
担当者名	岡田元浩(オカダ モトヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		

	2008年度以降入学生は基礎ゼミⅠとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。
講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生が充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。

授業コード	31A05		
授業科目名	基礎ゼミⅠ(基礎ゼミ)(A)- 5(前)		
担当者名	永廣 顕(エヒロ アキラ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミⅠとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生が充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。

参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。

授業コード	31A06		
授業科目名	基礎ゼミI (基礎ゼミ) (A)- 6(前)		
担当者名	上島康弘(ウエシマ ヤスヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミ I として履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生みなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	「経済学部入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。

担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。
---------	--

授業コード	31A07		
授業科目名	基礎ゼミI (基礎ゼミ) (A)- 7(前)		
担当者名	古川 顕(フルカワ アキラ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミ I として履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生みなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
-------	--

到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。

授業コード	31A08		
授業科目名	基礎ゼミI (基礎ゼミ) (A)- 8(前)		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミ I として履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生が充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。

授業コード	31A09
-------	-------

授業科目名	基礎ゼミI（基礎ゼミ）(A)– 9(前)		
担当者名	中島清貴(ナカシマ キヨタカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミ I として履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生みなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。

授業コード	31A10		
授業科目名	基礎ゼミI（基礎ゼミ）(A)–10(前)		
担当者名	後藤 励(ゴトウ レイ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミ I として履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生みなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。

準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。

授業コード	31A11		
授業科目名	基礎ゼミI (基礎ゼミ) (B)- 1(前)		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミ I として履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入學したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。		
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適應すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。		
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。		
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。		
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。		
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。		
教科書	特に使用しません。		
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。		
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。		

授業コード	31A12		
授業科目名	基礎ゼミI (基礎ゼミ) (B)- 2(前)		
担当者名	杉村芳美(スギムラ ヨシミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		

	2008年度以降入学生は基礎ゼミⅠとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。
講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生が充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。

授業コード	31A13		
授業科目名	基礎ゼミⅠ（基礎ゼミ）(B)－ 3(前)		
担当者名	稲田義久(イナダ ヨシヒサ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミⅠとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生が充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。

参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。

授業コード	31A14		
授業科目名	基礎ゼミⅠ（基礎ゼミ）(B)– 4(前)		
担当者名	小林 均(コバヤシ ヒトシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミⅠとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生みなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。

担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。
---------	--

授業コード	31A15		
授業科目名	基礎ゼミⅠ（基礎ゼミ）(B)– 5(前)		
担当者名	奥田 敬(オクダ タカシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミⅠとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生みなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
-------	--

到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適應すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。

授業コード	31A16		
授業科目名	基礎ゼミI (基礎ゼミ) (B)- 6(前)		
担当者名	寺尾 建(テラオ タケル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミ I として履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に、担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入学生が充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するための手がかりを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	次の5つのことを、具体的な到達目標とします。 〔教員を知り、友人をつくること〕 〔大学での学習環境に慣れること〕 〔勉強の技術を身につけること〕 〔世の中の出来事に目を向けること〕 〔経済学とはどのような学問であるかを知ること〕 一言でいえば、「大学生活に慣れること」です。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。 全講義が終了した時点で、各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。
準備学習	My KONANなどを通じて配布される資料等にもとづいて、予習をしてください。
成績評価	毎回、「リアクション・ペーパー」を配布します。 そこに受講生のみなさんが記入した感想・意見・質問等は、同一グループに所属する担当教員の全員が共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を考慮して、指導主任が行います。 なお、開講時に、各担当者が、成績評価の方法についての詳細をお伝えします。
講義構成	開講時に、講義の予定表(各回の担当教員名、講義のタイトル・内容)を告知します。
教科書	使用しません。
参考書・資料	「経済学部入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会、2010年)。
講義関連事項	この科目は必修科目です。履修登録期間以前の回[4/7(水)]にも、必ず出席をしてください。

担当者から一言	はじめまして。寺尾 建(てらお・たける)です。みなさんの指導主任も担当します。よろしくお願いします。
---------	--

授業コード	31A17		
授業科目名	基礎ゼミⅠ（基礎ゼミ）(B)– 7(前)		
担当者名	森 剛志(モリ タケシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミⅠとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入學したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。

担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。
---------	--

授業コード	31A18		
授業科目名	基礎ゼミⅠ（基礎ゼミ）(B)– 8(前)		
担当者名	柘植隆宏(ツゲ タカヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミⅠとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入學したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること；

	・大学の学習環境に適応すること; ・世の中の出来事に目を向けること; ・経済学とはどのような学問かを知ること; ・勉強のしかたを学ぶこと.
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います.
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること.
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します. 成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います.
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します.
教科書	特に使用しません.
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会).

担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります. 同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります.
---------	---

授業コード	31A19		
授業科目名	基礎ゼミⅠ(基礎ゼミ)(B)- 9(前)		
担当者名	阿萬弘行(アマン ヒロユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミⅠとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします.		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入學したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします. 大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます.
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす. 具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること; ・大学の学習環境に適応すること; ・世の中の出来事に目を向けること; ・経済学とはどのような学問かを知ること; ・勉強のしかたを学ぶこと.
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います.
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること.
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します. 成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います.
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します.
教科書	特に使用しません.
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会).

担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります. 同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります.
---------	---

授業コード	31A20
-------	-------

授業科目名	基礎ゼミⅠ（基礎ゼミ）(B)-10(前)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録 2008年度以降入学生は基礎ゼミⅠとして履修 2007年度以前入学生は基礎ゼミとして履修		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	内容を「甲南大学経済学部入門」として、甲南大学経済学部に入學したみなさんが充実した大学生活を送るための足がかりとなることを目的とします。大学生となったみなさんが新たな自分を発見するためのきっかけを提供するために、経済の問題にこだわらず、政治・文化・社会・科学・芸術・スポーツなど、さまざまな分野の話題・問題を取り上げます。
到達目標	大学生活へのソフト・ランディングをめざす。具体的には、 ・教員を知り、友人を作ること； ・大学の学習環境に適応すること； ・世の中の出来事に目を向けること； ・経済学とはどのような学問かを知ること； ・勉強のしかたを学ぶこと。
講義方法	主として、1つのクラスを複数の教員が担当する「リレー方式」で行います。
準備学習	My KONANなどを通して配布される資料を予習すること。
成績評価	毎回「リアクション・ペーパー」を配布し、そこに受講生のみなさんが記入した意見・感想・質問等は同一グループに所属する担当教員すべてが共有します。成績評価は、「リアクション・ペーパー」や受講態度等を参考にし、指導主任が行います。
講義構成	開講時に講義の予定表(各回の教員名、タイトルおよび内容)を掲示します。
教科書	特に使用しません。
参考書・資料	「経済学入門のしおり 2010」(甲南大学経済学会)。
担当者から一言	全講義が終了した時点で、担当の各教員は、経済学部の新入生の約半数のみなさんの顔と名前を直接知ることになります。同時に、みなさんも、経済学部の教員の約半数の顔と名前を直接知ることになります。

授業コード	31J11		
授業科目名	基礎ゼミⅡ（1クラス)(後)		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)、後藤 励(ゴトウ レイ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です。「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし、大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます。最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い、その成果を発表します。ただし、1年生のみが受講できます。
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし、1つのクラスを2名の教員が担当します。
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します。
講義構成	初回と最終回を除く、前半6回と後半6回を、各1名の別々の教員が担当します。最終回は、同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です。

教科書	担当教員が適宜指示します。
参考書・資料	担当教員が適宜指示します。
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること、ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを、履修要件とします。

授業コード	31J12		
授業科目名	基礎ゼミⅡ（2クラス）(後)		
担当者名	後藤 励(ゴトウ レイ)、岩崎 晃(イワサキ アキラ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です。「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし、大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます。最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い、その成果を発表します。ただし、1年生のみが受講できます。
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし、1つのクラスを2名の教員が担当します。
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します。
講義構成	初回と最終回を除く、前半6回と後半6回を、各1名の別々の教員が担当します。最終回は、同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です。
教科書	担当教員が適宜指示します。
参考書・資料	担当教員が適宜指示します。
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること、ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを、履修要件とします。

授業コード	31J13		
授業科目名	基礎ゼミⅡ（3クラス）(後)		
担当者名	青木浩治(アオキ コウジ)、市野泰和(イチノ ヤスカズ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です。「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし、大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます。最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い、その成果を発表します。ただし、1年生のみが受講できます。
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし、1つのクラスを2名の教員が担当します。
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。

成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します。
講義構成	初回と最終回を除く、前半6回と後半6回を、各1名の別々の教員が担当します。最終回は、同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です。
教科書	担当教員が適宜指示します。
参考書・資料	担当教員が適宜指示します。
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること、ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを、履修要件とします。

授業コード	31J14		
授業科目名	基礎ゼミⅡ(4クラス)(後)		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)、青木浩治(アオキ コウジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です。「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし、大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます。最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い、その成果を発表します。ただし、1年生のみが受講できます。		
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。		
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし、1つのクラスを2名の教員が担当します。		
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。		
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します。		
講義構成	初回と最終回を除く、前半6回と後半6回を、各1名の別々の教員が担当します。最終回は、同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です。		
教科書	担当教員が適宜指示します。		
参考書・資料	担当教員が適宜指示します。		
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること、ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを、履修要件とします。		

授業コード	31J15		
授業科目名	基礎ゼミⅡ(5クラス)(後)		
担当者名	小島修一(コジマ シュウイチ)、石川路子(イシカワ ノリコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です。「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし、大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます。最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い、その成果を発表します。ただし、1年生のみが受講できます。		
-------	---	--	--

到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし、1つのクラスを2名の教員が担当します。
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します。
講義構成	初回と最終回を除く、前半6回と後半6回を、各1名の別々の教員が担当します。最終回は、同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です。
教科書	担当教員が適宜指示します。
参考書・資料	担当教員が適宜指示します。
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること、ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを、履修要件とします。

授業コード	31J16		
授業科目名	基礎ゼミⅡ(6クラス)(後)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、小島修一(コジマ シュウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です。「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし、大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます。最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い、その成果を発表します。ただし、1年生のみが受講できます。		
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。		
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし、1つのクラスを2名の教員が担当します。		
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。		
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します。		
講義構成	初回と最終回を除く、前半6回と後半6回を、各1名の別々の教員が担当します。最終回は、同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です。		
教科書	担当教員が適宜指示します。		
参考書・資料	担当教員が適宜指示します。		
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること、ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを、履修要件とします。		

授業コード	31J17		
授業科目名	基礎ゼミⅡ(7クラス)(後)		
担当者名	杉村芳美(スギムラ ヨシミ)、奥田 敬(オクダ タカシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です。「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし、大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます。最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い、その成果を発表します。ただし、1年生のみが受講できます。
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし、1つのクラスを2名の教員が担当します。
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します。
講義構成	初回と最終回を除く、前半6回と後半6回を、各1名の別々の教員が担当します。最終回は、同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です。
教科書	担当教員が適宜指示します。
参考書・資料	担当教員が適宜指示します。
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること、ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを、履修要件とします。

授業コード	31J18		
授業科目名	基礎ゼミⅡ(8クラス)(後)		
担当者名	奥田 敬(オクダ タカン)、杉村芳美(スギムラ ヨシミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	2010年度入学生のみ対象 1年次前期に「基礎ゼミⅠ」の単位を修得していること、並びに「入門ミクロ経済学」の成績上位150名以内の成績を収めていることを条件とする。後期成績発表時に掲示される要項に従って申し込み、指定されたクラスで履修すること。		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目的です。「読む」「聞く」「調べる」「整理する」「書く」「発表する」「討論する」等を中心とし、大学生としての基礎的な学力・表現力を身につけます。最後に「ディベート」「プレゼンテーション」を行い、その成果を発表します。ただし、1年生のみが受講できます。
到達目標	大学で学ぶために必要な知的技術を身につけることが目標です。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とし、1つのクラスを2名の教員が担当します。
準備学習	グループ内で事前に打ち合わせをしておくこと。
成績評価	受講態度・発表・課題レポート等を総合的に評価します。
講義構成	初回と最終回を除く、前半6回と後半6回を、各1名の別々の教員が担当します。最終回は、同一時間帯に開講される複数クラスで合同して行う予定です。
教科書	担当教員が適宜指示します。
参考書・資料	担当教員が適宜指示します。
講義関連事項	(1)1年次前期に開講される「基礎ゼミⅠ」の単位を取得していること、ならびに(2)1年次前期に開講される必修科目の「入門ミクロ経済学」の成績が同学年の上位150名以内であることの2つを、履修要件とします。

授業コード	55F31		
授業科目名	キャリアゼミ(経済)(1クラス)(前)		
担当者名	青木浩治(アオキ コウジ)、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2007年度以降入学生適用 ベーシック・キャリアデザインの単位を修得していることが望ましい。書類選考あり。2年次受講指導において、詳		

	細を告知する
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。
講義の内容	1年次における「ベーシック・キャリアデザイン」では、自分自身についての理解にもとづいて、「キャリアデザインマップ」を作成し、各自が将来の目標を設定しました。この講義では、その目標を実現するために必要となるコミュニケーション能力やチームワーク、プレゼンテーション能力等を向上させることを目的とします。
到達目標	自己のキャリアをデザインする上で必要となるコミュニケーション能力やチームワーク、プレゼンテーション能力等を向上させることを目的とします。
講義方法	担当教員と受講生ならびに受講生相互の対話を通じて、実際の仕事の内容を理解し、職業観や人生観を深めます。卒業生をゲスト・スピーカーとして招き、また、連携先の企業・団体等における「ジョブ・シャドウイング」を実施することによって、多様な進路や職業があることを体得するとともに、各自が希望する進路選択に必要な知識や技能、各自の専攻と進路との関係についてさらに深く学びます。
準備学習	ヒヤリングのための質問項目の準備やプレゼンのための準備など、ほぼ毎回宿題が課されますので、事前にこなすことが求められます。
成績評価	グループ・ワークの成果ならびにプレゼンテーション等の成果を、総合的に評価します。
講義構成	グループ・ワークを基本としたクラス運営とします。 1年次の「ベーシック・キャリアデザイン」と同様に、キャリアセンターの職員がファシリテーターとして定期的かつ個別的に受講生のみなさんのフォローを行い、受講生のみなさんの自己理解の促進や将来の目標や学習計画の策定、能力開発の方法等について支援をします。
教科書	特に定めません。
参考書・資料	担当者が適宜指示します。
講義関連事項	1年次後期に開講された「ベーシック・キャリアデザイン」の単位を修得していることが望ましく、書類選考によって受講生を決定します。書類選考の詳細は、2010年3月29日(月)10:00-11:00に824教室にて予定されている「2年次受講指導」の際に告知します。なお、この科目は、3年次配当の「プラクティカル・キャリアデザイン」への導入科目としても位置づけられます。

授業コード	55F32		
授業科目名	キャリアゼミ(経済)(2クラス)(前)		
担当者名	上島康弘(ウエシマ ヤスヒロ)、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2007年度以降入学生適用 ベーシック・キャリアデザインの単位を修得していることが望ましい。書類選考あり。2年次受講指導において、詳細を告知する		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	受講生相互ならびに受講生と担当教員の対話を通じ、実際の仕事の内容を理解するとともに、職業観や人生観を深めます。卒業生をゲスト・スピーカーとして招き、また、連携先の企業・団体等における「ジョブ・シャドウイング」を実施することによって、多様な進路や職業があることを体得するとともに、各自が希望する進路選択に必要な知識や技能、各自の専攻と進路との関係等について深く学びます。
到達目標	1年次配当の「ベーシック・キャリアデザイン」では、自分自身についての理解にもとづいて「キャリアデザインマップ」を作成し、各自が将来の目標を設定しました。この講義では、その目標を実現するために必要となるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を向上させることを目標とします。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とします。「ベーシック・キャリアデザイン」と同様に、キャリアセンターの職員がファシリテーターとして、定期的かつ個別的に受講生の自己理解の促進や将来の目標や学習計画の策定、能力開発の方法等について支援をします。
準備学習	「キャリアデザインマップ」で設定した将来の目標を常に意識しながら講義に臨むようにしましょう。
成績評価	グループ・ワークの成果ならびにプレゼンテーション等の成果を総合的に評価します。
講義構成	グループ・ワークを基本とします。その他数回、卒業生から仕事に関する話を聴き、また、企業・団体等で「ジョブ・シャドウイング」を実施します。
教科書	特に定めません。

参考書・資料	担当者が適宜指示します。
講義関連事項	1年次配当の「ベーシック・キャリアデザイン」の単位を修得していることが望ましく、書類選考によって受講生を決定します。書類選考の詳細については、2010年3月29日(月)10:00～11:00に8-24教室にて予定されている「受講指導(2年次)」の際にお知らせします。なお、この科目は、3年次配当の「プラクティカル・キャリアデザイン」への導入科目としても位置づけられます。

授業コード	55F33		
授業科目名	キャリアゼミ(経済)(3クラス)(後)		
担当者名	柘植隆宏(ツゲ タカヒロ)、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2007年度以降入学生適用 ベーシック・キャリアデザインの単位を修得していることが望ましい。書類選考あり。2年次受講指導において、詳細を告知する		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	受講生相互ならびに受講生と担当教員の対話を通じ、実際の仕事の内容を理解するとともに、職業観や人生観を深めます。卒業生をゲスト・スピーカーとして招き、また、連携先の企業・団体等における「ジョブ・シャドウイング」を実施することによって、多様な進路や職業があることを体得するとともに、各自が希望する進路選択に必要なとなる知識や技能、各自の専攻と進路との関係等について深く学びます。
到達目標	1年次配当の「ベーシック・キャリアデザイン」では、自分自身についての理解にもとづいて「キャリアデザインマップ」を作成し、各自が将来の目標を設定しました。この講義では、その目標を実現するために必要となるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を向上させることを目標とします。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とします。「ベーシック・キャリアデザイン」と同様に、キャリアセンターの職員がファシリテーターとして、定期的かつ個別的に受講生の自己理解の促進や将来の目標や学習計画の策定、能力開発の方法等について支援をします。
準備学習	「キャリアデザインマップ」で設定した将来の目標を常に意識しながら講義に臨むようにしましょう。
成績評価	グループ・ワークの成果ならびにプレゼンテーション等の成果を総合的に評価します。
講義構成	グループ・ワークを基本とします。その他数回、卒業生から仕事に関する話を聴き、また、企業・団体等で「ジョブ・シャドウイング」を実施します。
教科書	特に定めません。
参考書・資料	担当者が適宜指示します。
講義関連事項	1年次配当の「ベーシック・キャリアデザイン」の単位を修得していることが望ましく、書類選考によって受講生を決定します。書類選考の詳細については、2010年3月29日(月)10:00～11:00に8-24教室にて予定されている「受講指導(2年次)」の際にお知らせします。なお、この科目は、3年次配当の「プラクティカル・キャリアデザイン」への導入科目としても位置づけられます。

授業コード	55F34		
授業科目名	キャリアゼミ(経済)(4クラス)(後)		
担当者名	永廣 顕(エヒロ アキラ)、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2007年度以降入学生適用 ベーシック・キャリアデザインの単位を修得していることが望ましい。書類選考あり。2年次受講指導において、詳細を告知する		
オフィスアワー	開講時に担当教員がお知らせします。		

講義の内容	受講生相互ならびに受講生と担当教員の対話を通じ、実際の仕事の内容を理解するとともに、職業観や人生観を深めます。卒業生をゲスト・スピーカーとして招き、また、連携先の企業・団体等における「ジョブ・シャドウイン
-------	--

	グ」を実施することによって、多様な進路や職業があることを体得するとともに、各自が希望する進路選択に必要なとなる知識や技能、各自の専攻と進路との関係等について深く学びます。
到達目標	1年次配当の「ベーシック・キャリアデザイン」では、自分自身についての理解にもとづいて「キャリアデザインマップ」を作成し、各自が将来の目標を設定しました。この講義では、その目標を実現するために必要となるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を向上させることを目標とします。
講義方法	グループ・ワークを基本としたクラス運営とします。「ベーシック・キャリアデザイン」と同様に、キャリアセンターの職員がファシリテーターとして、定期的かつ個別的に受講生の自己理解の促進や将来の目標や学習計画の策定、能力開発の方法等について支援をします。
準備学習	「キャリアデザインマップ」で設定した将来の目標を常に意識しながら講義に臨むようにしましょう。
成績評価	グループ・ワークの成果ならびにプレゼンテーション等の成果を総合的に評価します。
講義構成	グループ・ワークを基本とします。その他数回、卒業生から仕事に関する話を聴き、また、企業・団体等で「ジョブ・シャドウイング」を実施します。
教科書	特に定めません。
参考書・資料	担当者が適宜指示します。
講義関連事項	1年次配当の「ベーシック・キャリアデザイン」の単位を修得していることが望ましく、書類選考によって受講生を決定します。書類選考の詳細については、2010年3月29日(月)10:00～11:00に8-24教室にて予定されている「受講指導(2年次)」の際にお知らせします。なお、この科目は、3年次配当の「プラクティカル・キャリアデザイン」への導入科目としても位置づけられます。

授業コード	31029		
授業科目名	金融(金融経済)(前)		
担当者名	阿萬弘行(アマン ヒロユキ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
オフィスアワー	講義時間の中でお知らせします。		

講義の内容	金融制度・金融システムの仕組みを理解するために必要な基礎的な知識や考え方について学ぶ。主に、ミクロ的な側面から見た金融市場の機能や金融機関の行動、マクロ経済の面から見た金融の役割について講義する。
到達目標	金融の基礎的理論を理解すること。応用問題について数値を用いた計算ができること。グラフを描いて理論の説明ができること。
講義方法	毎回資料を配布して講義を行う。時事的なトピックス、関連の話題についての解説等を行う。
準備学習	参考書の関連箇所を予習することによって理解が深まる。
成績評価	主に期末試験によって評価する。
講義構成	(1) 講義のイントロダクション (2) 金融システムの基本的仕組み (3) 銀行の役割 (4) 金融システムと金融規制 (5) 決済機能 (6) 消費者向け金融サービス (7) 証券市場分析の基礎 (8) 債券市場 (9) 株式市場 (10) 株価形成と投資 (11) 行動ファイナンス (12) 派生市場 (13) マクロ経済と金融 (14) マクロ金融政策 (15) 外国為替市場
教科書	特定の教科書は指定しない。講義中に随時参考書を紹介する。
参考書・資料	酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』有斐閣アルマ 東京証券取引所『入門日本の証券市場』東洋経済新報社

	リチャード・セイラー『市場と感情の経済学』ダイヤモンド社
--	------------------------------

授業コード	31063		
授業科目名	金融政策		
担当者名	古川 顕(フルカワ アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜1限)、後期(火曜1限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	講義終了後および在室時はいつでも質問等に応じる。		

講義の内容	金融政策全般にわたって体系的に講述する。
到達目標	金融システムの安定性の問題や金融政策の目標・手段・政策波及経路・有効性などについてマスターすること。
講義方法	必要に応じて資料を配付しながら、以下の教科書に沿って講義する。
準備学習	新聞の経済・金融欄を毎日読んで、現実の経済や金融の動向について把握するように努めること。
成績評価	期末試験の成績で評価する。
講義構成	1 日本の金融市場と金融制度 2 信用秩序と公的介入 3 マクロ・プルーデンス政策 4 金融政策の目標と手段 5 金融政策の波及メカニズム 6 金融政策の有効性
教科書	古川 顕『テキストブック 現代の金融』(第2版)東洋経済新報社
参考書・資料	必要に応じて紹介する。
講義関連事項	マクロ経済学(初級・中級)、ミクロ経済学(初級・中級)、金融経済、国際金融、証券市場の受講が望ましい。
担当者から一言	受講者は毎日の新聞の経済欄、とくに金融欄に必ず目を通すことが望ましい。

授業コード	31064		
授業科目名	金融政策Ⅰ(前)		
担当者名	古川 顕(フルカワ アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「金融政策Ⅰ」「金融政策Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		
オフィスアワー	講義終了後および在室時はいつでも質問等に応じる。		

講義の内容	金融政策全般にわたって体系的に講述する。
到達目標	日本の金融市場や金融制度、金融システムの安定性の問題についての確な知識を有すること。
講義方法	必要に応じて資料を配付しながら、以下の教科書に沿って講義する。
準備学習	新聞の経済・金融欄を毎日読んで、現実の経済や金融の動向について把握するように努めること。
成績評価	期末試験の成績で評価する。
講義構成	1 日本の金融市場 2 日本の金融制度 3 日本の決済システム 4 信用秩序の維持と公的介入 5 マクロ・プルーデンス政策 6 金融監督政策と国際的規制

教科書	古川 顕『テキストブック 現代の金融』(第2版)東洋経済新報社
参考書・資料	必要に応じて紹介する。
担当者から一言	受講者は毎日の新聞の経済欄、とくに金融欄に必ず目を通すことが望ましい。

授業コード	31065		
授業科目名	金融政策Ⅱ(後)		
担当者名	古川 顕(フルカワ アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「金融政策Ⅰ」・「金融政策Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		
オフィスアワー	講義終了後および在室時はいつでも質問等に応じる。		

講義の内容	金融政策全般にわたって体系的に講述する。		
到達目標	金融政策の目標・手段・政策波及経路・有効性などについてマスターすること。		
講義方法	必要に応じて資料を配付しながら、以下の教科書に沿って講義する。		
準備学習	新聞の経済・金融欄を毎日読んで、現実の経済や金融の動向について把握するように努めること。		
成績評価	期末試験の成績で評価する。		
講義構成	1 金融政策と中央銀行 2 金融政策の目標 3 金融政策の手段 4 日本銀行の金融調節 5 金融政策の波及メカニズム 6 金融政策の有効性		
教科書	古川 顕『テキストブック 現代の金融』(第2版)東洋経済新報社		
参考書・資料	必要に応じて紹介する。		
講義関連事項	マクロ経済学(初級・中級)、ミクロ経済学(初級・中級)、金融経済、国際金融、証券市場の受講が望ましい。		
担当者から一言	受講者は毎日の新聞の経済欄、とくに金融欄に必ず目を通すことが望ましい。		

授業コード	31023		
授業科目名	経済学の歴史(前)		
担当者名	岡田元浩(オカダ モトヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限 月曜5限
オフィスアワー	第1回目の講義時に通知します。		

講義の内容	この講義では、古代ギリシャや中世から現代に至るまでに経済学がたどってきた歩みを、それぞれの時代背景とともに、わかりやすく解説していきます。また、ちょうど私たちが自分自身の過去を振り返り反省することで、将来をより良いものとするができるように、現代の経済学がもつ問題点やその将来的課題を理解する上でも、経済学の歴史を学ぶことが重要です。単なる過去の出来事の知識としてではなく、現在・将来に指針を与えるものとして、歴史を学ぶことの大切さを、この講義を通じて知ってもらいたいと思います。		
到達目標	古代ギリシャ・中世から現代に至る経済学の歴史と、それを学ぶことの今日的意義に関する基礎的な知識・理解を得ることを到達目標としています。		
講義方法	通常の大クラス形式の講義です。		
準備学習	各講義の終わりに次回講義内容の予告をしますので、それにあわせて予習をおこなってください。くわしくは第1回目の講義時に説明します。		

成績評価	原則として定期試験成績と2回実施予定の小テスト成績に基づき評価を行います。 「不可」、「欠席」の不合格成績に関しては、定期試験、小テストのいずれかを受験したが、合格点に達しなかった場合は「不可」、定期試験、小テストのいずれも全く受験しなかった場合は「欠席」とします。
講義構成	時代背景や現代との関わりを補足説明しながら、以下のような項目構成で講義をおこなう予定です。 ・ ガイダンス ・ 近代以前の経済思想 古代ギリシャ／中世世界／近世 ・ 近代の経済学の芽生え 重商主義／重農学派とケネー『経済表』 ・ 近代の経済学の確立　―古典派経済学― アダム・スミスと『国富論』／リカードウ、マルサス他 ・ 近代の経済学の成熟　―新古典派経済学― 「限界革命」他 ・ 資本主義批判の経済学　―マルクス経済学― ・ 多様な経済学派 歴史主義とリスト／制度学派とヴェブレン ・ 20世紀と現代の経済学 ケインズ他 ・ まとめ また計2回の小テストをおこなう予定です。
教科書	この講義では特定のテキストを使用せず、担当者(岡田)がプレゼンテーション用ソフトで作成した資料にしたがって講義を進めます。
参考書・資料	その都度紹介します。
講義関連事項	たとえば「社会経済思想」、「現代経済学の諸潮流」、「西洋経済史」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」などが、とりわけ本講義と関連の深い他講義科目といえましょう。
担当者から一言	講義中の私語は、講義担当者にとっても、真面目に講義を聴いている受講生にとっても、はなはだ迷惑です。厳につつしんでください。

授業コード	31033		
授業科目名	経済史(前)		
担当者名	草野正裕(クサノ　マサヒロ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
オフィスアワー	講義終了後研究室に来てください。質疑応答など行ないたいと思います。		

講義の内容	主として西洋に素材を求めるが、適宜東洋経済史、日本経済史についても触れる。近現代史を中心に講義し、近時研究の盛んな数量的アプローチにもウエイトを置く。 この場合、実証という立場から、既存の理論的枠組みによって史実を解釈するという方法は、できるだけ回避することにはしたいと思います。そうではなくて、あくまでも理論は史実を解釈する場合の手段であるという立場をとることにはしたいと思います。なお、講義においては随時、近年とみに盛んとなった数量経済史的な分析を取り入れてゆくつもりです。とくに人口史・物価史研究および一橋グループの成果等がある程度詳細に紹介する予定です。
到達目標	毎回の講義レジュメに5問前後の基礎的な論述問題をつけています。これらの問題に6～8割程度答えられることを到達目標にしたいと思います。

講義方法	プロジェクター等を使います。随時小テストを行ったり、感想を提出していただいたりといったことも考えています。
準備学習	授業の前に、ダウンロードしたレジュメを一読されることをおすすめします。
成績評価	通常の期末試験、小テスト、感想、出欠などの総合評価を考えていますが、受講生の数が多い場合は期末試験の評価に頼らざるをえないかもしれません。
講義構成	1 はじめに 2 経済史学の発展 3 数量経済史研究について 4 中世社会 5 日本の荘園経済と太閤検地 6 (ア)商業革命と物価変動 (イ)重商主義 (ウ)農業革命と工業化への道 7 前工業化社会の経済変動 8 工業化(産業革命) 9 工業化(産業革命)ーその2ー 10 近世日本の経済発展 11 工業化と景気循環 12 日本の近代経済成長 13 大戦間の経済変化 14 第2次世界大戦後の経済成長 15 おわりに
教科書	特になし
参考書・資料	My KONAN に毎回のレジュメをアップ・ロードします。それを、ダウンロード、プリントアウトして、教室に持参してください。なお、ダウンロードしたパソコンを持ち込んでいただいてもかまいません。無線が使える場合は、教室で受信していただいても結構です。
担当者から一言	歴史を学ぶとはどういうことか少し考えてみて下さい。

授業コード	31106		
授業科目名	経済社会特論(前)		
担当者名	朴 一(パク イル)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	毎週木曜日のお昼か2:30～、教員控え室にて		

講義の内容	本講義では、日本の隣国である韓国・北朝鮮の政治・経済・文化について学ぶ。日本の植民地支配を経て韓国は、日本から資本と技術を導入し経済発展を遂げ、現在は1人当たりGNP2万ドルを超える高所得国に成長した。一方、北朝鮮は同盟国のソ連が崩壊、中国が改革・開放路線に移行することで、経済的に行き詰まり、1人当たりGNPわずか500ドルの低開発に喘いでいる。講義では、両国の解放後の歩みを貴重な映像で振り返りながら、植民地工業化、朝鮮戦争と分断、開発独裁と歪み、民主化の真相に迫りたい。また時間が許せば、日韓・日朝関係の現状と問題点についても考えてみたい。
到達目標	学生が韓国と北朝鮮の政治と経済の概略を理解できるようにする。
講義方法	テーマの解説、ビデオによる理解、補足説明、討論と質疑、受講感想文の提出という順番で行う。
準備学習	特に必要なし。
成績評価	出席、レポート、テストなどを総合して採点する。
講義構成	①あなたは韓国・北朝鮮のことをどれだけ知っていますか ②韓国における対日文化開放政策の波及 ③植民地支配の光と影 ④慰安婦問題の爪痕 ⑤朝鮮戦争と南北分断 ⑥高度成長の時代 ⑦民主化の時代① ⑧民主化の時代② ⑨工業に担い手

	⑩通貨危機と政府の対応 ⑪北朝鮮における経済開発、その変化と連続性 ⑫韓国の太陽政策と北朝鮮経済の変容 ⑬北朝鮮はなぜミサイル・核開発にこだわるのか ⑭日朝関係の現状と課題 ⑮日韓関係の現状と課題
教科書	朴一、『朝鮮半島を見る眼』、藤原書店、2005年
参考書・資料	朴一編、『変貌する韓国経済』、世界思想社、2004年

担当者から一言	授業中、騒々しい人は退席していただきます。
---------	-----------------------

授業コード	31022		
授業科目名	経済政策（前）		
担当者名	鈴木 純（スズキ ジュン）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限

講義の内容	国民生活の向上と安定のために、政府はさまざまな政策手段を講ずる役割を担っています。そのような役割が政府の責任として明示的に組み込まれた体制は、「福祉国家」と呼ばれています。しかし現在、福祉国家はさまざまな困難に直面しており、そのあり方に転換が迫られています。本講義では、福祉国家体制の形成と展開、そして今後向かうべき転換の方向性について議論します。それによって現代の種々の経済政策を体系的に捉える見方を獲得することを目指します。		
到達目標	(1) 市場の役割と政府の役割を理解する。 (2) 経済政策の体系を知る。 (3) 現実の経済問題や個々の経済政策の効果を理解するための枠組み(見方)を獲得する。		
講義方法	講義、および問題演習		
準備学習	ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎を習得していると講義の理解が容易ですが、重要な概念については、その都度解説する予定です。 「一話完結」ではありません。知識を積み上げていく必要があります。		
成績評価	定期試験 (80%) 小テスト (20%) 小テストは、講義の進度や時間の都合にあわせて実施しますので、実施日は事前に告知しません。4～5回の実施を予定しています。		
講義構成	以下の予定で講義を進めます。(3限4限をセットで「1回」と数えています。進度によっては、ひとつのテーマが週をまたぐ可能性があります。) 第1回 イントロダクションー経済・経済理論・経済政策ー 第2回 近代社会と市場経済 第3回～第4回 市場メカニズムの機能 第5回～第6回 市場の失敗・市場の限界 第7回 社会の集団化と国家の変容 第8回 成長と分配の経済政策 第9回 雇用と安定の経済政策 第10回 社会保障政策 第11回 政府の失敗と民主主義 第12回 福祉国家の危機 第13回 非営利経済とコミュニティ 第14回 福祉国家から福祉社会へ 第15回 定期試験		
教科書	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会の展望』、高菅出版、2001。		
参考書・資料	山口三十四、丸谷冷史、足立正樹、三谷直紀編著『経済政策基礎論』、有斐閣、2006。		

担当者から一言	どんなことでもよいので、社会や経済に関わる問題を何かひとつ頭に置いて講義に臨んでください。
URL	http://www.econ.kobe-u.ac.jp/~suzuj/

授業コード	31070		
授業科目名	経済体制		
担当者名	杉村芳美(スギムラ ヨシミ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(火曜3限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	授業時間のあと		

講義の内容	この講義では、資本主義の市場経済がどのような経済なのかを中心に学んでいきます。前期は、経済の世界はどのような仕組みと働きでなりたっているのかを考えます。資本主義の市場経済の特徴、働き、前提、限界などに目を向けるとともに、20世紀の壮大な実験であった社会主義経済の経験も取り上げます。経済と社会、経済と人間という点を視野に入れながら、考えていきたいと思います。後期は、資本主義の経済活動に焦点をあて、それがもっているさまざまな問題を取り上げて考えていきます。今日、資本主義の経済には、賞賛、批判、それぞれさかんに浴びせかけられています。資本主義経済という、私たちにとっての現実をいろいろな角度から見ていきたいと思います。
到達目標	わたしたちにとっての現実である資本主義の経済についてしっかりとしたイメージを抱けるとともに、どう生きていけばよいかのヒントをもてること
講義方法	プリント、板書を中心に、パワーポイントなども利用しての講義
準備学習	そのつど指示する準備をすること
成績評価	前期末および後期末の、2回の試験の得点による
講義構成	1 経済体制という視点 2 資本主義は自壊したか 3 資本主義経済の位置づけ 4 資本主義と市場経済 5 経済体制の基本型 6 伝統と市場 7 資本主義の成立と社会主義思想 8 社会主義の経済 9 社会主義計画経済のメカニズム 10 社会主義の失敗と市場の意味 11 資本主義の「勝利」 12 自由と平等 13 グローバル化と資本主義 14 前期まとめ 15 前期試験 16 資本主義の経済 17 会社は悪か 18 市場と企業 19 資本主義と倫理 20 経済と倫理1 21 経済と倫理2 22 宗教と資本主義1 23 宗教と資本主義2 24 西欧人の労働観 25 日本人の労働観 26 市場社会の労働1 27 市場社会の労働 28 資本主義という現実 29 後期まとめ 30 後期試験
教科書	特には指定しない
担当者から一言	考えながら聞く姿勢をもってください

授業コード	31071		
授業科目名	経済体制Ⅰ(前)		
担当者名	杉村芳美(スギムラ ヨシミ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「経済体制Ⅰ」・「経済体制Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	授業時間のあと		

講義の内容	経済の世界はどのような仕組みと働きでなりたっているのか。そのツボといえるところを、この講義では学んでいきます。今日の社会では、資本主義の市場経済が中心にありますが、そのことの意味、働き、前提、限界などに目を向けます。20世紀の壮大な実験であった社会主義経済の経験も取り上げます。経済と社会、経済と人間という点を視野に入れながら、考えていきたいと思います。
到達目標	資本主義の市場経済について、みずから説明できるよう理解を深める
講義方法	プリント、板書を中心に、パワーポイントなども使用しての講義
準備学習	授業でそのつど指示する作業を行うこと
成績評価	学期末試験の得点による
講義構成	1 経済体制という視点 2 資本主義は自壊したか 3 資本主義経済の位置づけ 4 資本主義と市場経済 5 経済体制の基本型 6 伝統と市場 7 資本主義の成立と社会主義思想 8 社会主義の経済 9 社会主義計画経済のメカニズム 10 社会主義の失敗と市場の意味 11 資本主義の「勝利」 12 自由と平等 13 グローバル化と資本主義 14 まとめ 15 試験
教科書	特には指定しない

担当者から一言	知識を得るというよりも、じっくり考えてみるという姿勢でのぞんでください
---------	-------------------------------------

授業コード	31072		
授業科目名	経済体制Ⅱ(後)		
担当者名	杉村芳美(スギムラ ヨシミ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「経済体制Ⅰ」・「経済体制Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	授業時間のあと		

講義の内容	この講義では、資本主義の経済活動に焦点をあて、それがもっているさまざまな問題を取り上げて考えていきます。経済体制Ⅰとあわせて受講するのがのぞましい内容になります。今日、資本主義の経済には、賞賛、批判、
-------	--

	それぞれさかんに浴びせかけられています。資本主義経済という、私たちにとっての現実をいろいろな角度から見ていきたいと思います。
到達目標	この世の中をどのように生きていけばよいかについて、ヒントのようなものが得られること
講義方法	プリント、板書を中心に、パワーポイントなども利用しての講義
準備学習	そのつど指示する作業を行ってください
成績評価	学期末試験の得点による
講義構成	1 資本主義の経済 2 会社は悪か 3 市場と企業 4 資本主義と倫理 5 経済と倫理1 6 経済と倫理2 7 宗教と資本主義1 8 宗教と資本主義2 9 西欧人の労働観 10 日本人の労働観 11 市場社会の労働1 12 市場社会の労働 13 資本主義という現実 14 まとめ 15 試験
教科書	特には指定しない
担当者から一言	考えながら聞く姿勢をもってください

授業コード	31L71		
授業科目名	経済の歴史と思想（1クラス）(前)		
担当者名	小島修一(コジマ シュウイチ)、奥田 敬(オクダ タカシ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	火曜日12:15～13:00 9号館7階奥田研究室		

講義の内容	この講義は、経済学における歴史的アプローチの重要性を学ぶ入門講義である。全体は経済史入門と経済思想史入門の二部から構成され、現代の経済問題を長期的、歴史的な視点と幅広い観点から考える力を養うことを目的としている。
到達目標	人間の経済生活に対して歴史的な視点を持つこと。
講義方法	1. 二人の教員による共同講義(ただし、経済史と経済思想史の順序はクラスによって異なる) 2. レジュメや講義資料を配付するので、専用ファイルを作ること 3. 小テストを2回行う
準備学習	シラバスの指定された部分を事前に調べておくこと。
成績評価	小テスト20%×2回＋期末試験60%
講義構成	1. イントロダクション 2. 資本主義とは何か 3. 商業の資本主義から産業の資本主義へ 4. 資本主義の批判と修正 5. 金融主導のグローバル資本主義 6. 21世紀の資本主義を考える 7. 〈economy〉とは何か？－経済学の起源と展開

	8. 「同感」から「交換」へー文明としての「商業社会」(アダム・スミス『道徳感情論』) 9. 〈労働の分割〉から〈巨富の分配〉へー(『国富論』第1篇) 10. 資本蓄積と産業構造ー経済発展の「自然な進路」(『国富論』第2篇) 11. 「重商主義」批判と「見えざる手」ー経済的自由主義の政策体系(『国富論』第4-5篇) 12. 〈物神崇拜〉と資本の論理ーマルクスの経済学批判
教科書	プリントを配布するので教科書は特に用いない
参考書・資料	その都度指示する

授業コード	31L72		
授業科目名	経済の歴史と思想（2クラス)(前)		
担当者名	奥田 敬(オクダ タカシ)、小島修一(コジマ シュウイチ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	金曜日5限 9号館7階奥田研究室		

講義の内容	この講義は、経済学における歴史的アプローチの重要性を学ぶ入門講義である。全体は経済史入門と経済思想史入門の二部から構成され、現代の経済問題を長期的、歴史的な視点と幅広い観点から考える力を養うことを目的としている。		
到達目標	人間の経済生活に対して歴史的な視点を持つこと。		
講義方法	1. 二人の教員による共同講義(ただし、経済史と経済思想史の順序はクラスによって異なる) 2. レジюмеや講義資料を配付するので、専用ファイルを作ること 3. 小テストを2回行う		
準備学習	シラバスの指定された部分を事前に調べておくこと。		
成績評価	小テスト20%×2回＋期末試験60%		
講義構成	1. イントロダクション 2. 〈economy〉とは何か？ー経済学の起源と展開 3. 「同感」から「交換」へー文明としての「商業社会」(アダム・スミス『道徳感情論』) 4. 〈労働の分割〉から〈巨富の分配〉へー(『国富論』第1篇) 5. 資本蓄積と産業構造ー経済発展の「自然な進路」(『国富論』第2篇) 6. 「重商主義」批判と「見えざる手」ー経済的自由主義の政策体系(『国富論』第4-5篇) 7. 〈物神崇拜〉と資本の論理ーマルクスの経済学批判 8. 資本主義とは何か 9. 商業の資本主義から産業の資本主義へ 10. 資本主義の批判と修正 11. 金融主導のグローバル資本主義 12. 21世紀の資本主義を考える		
教科書	プリントを配布するので教科書は特に用いない		
参考書・資料	その都度指示する		

授業コード	31051		
授業科目名	計量経済		
担当者名	宇野伸孝(ウノ ノブタカ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	2007年度以前入学生適用 事前登録		

講義の内容	様々な経済の現象を数値データを駆使して理論的に分析することは、これまでの推移を整理・理解するため、あるいは将来を予測するために有用な手段である。 本講義では、現実の経済における因果関係を説明するために導出された各種経済理論モデルを、現実の数値データを用いて推計し、その妥当性を評価するという一連の手法を解説する。 なお、後期は主に各自がPCを利用して実際に計算をする実習形式での講義を行う。主にテキストの練習問題を解いていくが、現在はインターネット上から数多くの経済データが入手可能なので、これらをダウンロードし分析することも予定している。
到達目標	基本的な統計学と計量経済学の理論を習得する。 PCを使った計量分析ができるようになる。
講義方法	前期は講義形式で基礎的な理論を学び、後期はPCを使った実習形式で行う。 なお、前期は計算練習で電卓を使用するので各自持参するように。
準備学習	マクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な理論を把握していることが望ましい。 また、後期までにExcelの基本操作を習得してもらいたい。
成績評価	出席が30%、練習問題が30%、期末試験(2回)が40%。
講義構成	第1回 計量経済学とは 第2回 マクロ経済理論の復習 第3回 ミクロ経済理論の復習 第4回 数学の基礎知識 第5回 統計学の基礎知識1 第6回 統計学の基礎知識2 第7回 単純回帰モデルの推定 第8回 BLUEの証明 第9回 決定係数の導出 第10回 t値とt検定 第11回 重回帰モデルの推定 第12回 重回帰モデルのt値とt検定 第13回 自由度調整済決定係数 第14回 F値とF検定 第15回 前期末試験 第16回 実習に備えての復習 第17回 ダミー変数1(異常値) 第18回 ダミー変数2(季節変動) 第19回 ダミー変数3(質的変数) 第20回 ダミー変数4(構造転換) 第21回 チョウテスト 第22回 系列相関とダービン＝ワトソン比 第23回 コ克蘭・オーカット法 第24回 連立方程式モデル1 第25回 連立方程式モデル2 第26回 産業連関表の作成1 第27回 産業連関表の作成2 第28回 インターネットからのデータ入手方法 第29回 入手したデータを使った推定 第30回 後期末試験
教科書	白砂提津耶著『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学 第2版』日本評論社。
参考書・資料	伴金美・中村二郎・跡田直澄著『エコノメトリックス<新版>』有斐閣。 山本 拓著『計量経済学』新世社。
講義関連事項	マクロ経済学、ミクロ経済学、経済統計学、経済数学、情報処理関連。
担当者から一言	講義の性質上数学の知識がある程度必要であるが、もしも数学や数値を扱うことが苦手であっても、ほぼ毎回ある練習問題を解いていくことで少しずつでも慣れていってもらいたい。そうすれば経済に限らず分析の視野が広がるはずである。

授業コード	31052
授業科目名	計量経済 I (前)
担当者名	宇野伸孝(ウノ ノブタカ)

配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	2008年度以降入学生適用 事前登録 「計量経済Ⅰ」・「計量経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		

講義の内容	様々な経済の現象を数値データを駆使して理論的に分析することは、これまでの推移を整理・理解するため、あるいは将来を予測するために有用な手段である。 本講義では、現実の経済における因果関係を説明するために導出された各種経済理論モデルを、現実の数値データを用いて推計し、その妥当性を評価するという一連の手法を解説する。 なお、後期の計量経済Ⅱでは主に各自がPCを利用して実際に計算をする実習形式での講義を行うので併せて履修してもらいたい。
到達目標	基本的な統計学と計量経済学の理論を習得する。
講義方法	講義形式で基礎的な理論を解説する。 なお、計算練習で電卓を使用するので各自持参するように。
準備学習	マクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な理論を把握していることが望ましい。
成績評価	出席が30%、練習問題が30%、期末試験が40%。
講義構成	第1回 計量経済学とは 第2回 マクロ経済理論の復習 第3回 ミクロ経済理論の復習 第4回 数学の基礎知識 第5回 統計学の基礎知識1 第6回 統計学の基礎知識2 第7回 単純回帰モデルの推定 第8回 BLUEの証明 第9回 決定係数の導出 第10回 t値とt検定 第11回 重回帰モデルの推定 第12回 重回帰モデルのt値とt検定 第13回 自由度調整済決定係数 第14回 F値とF検定 第15回 前期末試験
教科書	白砂提津耶著『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学 第2版』日本評論社。
参考書・資料	伴金美・中村二郎・跡田直澄著『エコノメトリックス＜新版＞』有斐閣。 山本 拓著『計量経済学』新世社。
講義関連事項	計量経済Ⅱ、マクロ経済学、ミクロ経済学、経済統計学、経済数学。
担当者から一言	講義の性質上数学の知識がある程度必要であるが、もしも数学や数値を扱うことが苦手であっても、ほぼ毎回ある練習問題を解いていくことで少しずつでも慣れていってもらいたい。そうすれば経済に限らず分析の視野が広がるはずである。

授業コード	31053		
授業科目名	計量経済Ⅱ(後)		
担当者名	宇野伸孝(ウノ ノブタカ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	2008年度以降入学生適用 事前登録 「計量経済Ⅰ」・「計量経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		

講義の内容	様々な経済の現象を数値データを駆使して理論的に分析することは、これまでの推移を整理・理解するため、あるいは将来を予測するために有用な手段である。 本講義では、現実の経済における因果関係を説明するために導出された各種経済理論モデルを、現実の数値データを用いて推計し、その妥当性を評価するという一連の手法を理解した上で、主に各自がPCを利用して実際に計算をする実習形式での講義を行う。主にテキストの練習問題を解いていくが、現在はインターネット上から数多くの経済データが入手可能なので、これらをダウンロードし分析することも予定している。 なお、前期の計量経済Ⅰでは、本講義の前提である理論部分を解説するので併せて履修してもらいたい。
-------	--

到達目標	基本的な統計学と計量経済学の理論を習得する。 PCを使った計量分析ができるようになる。
講義方法	PCを使った実習形式で行う。テキストの練習問題に加えてオリジナルの問題も解いてもらう。
準備学習	計量経済Ⅰを履修済みであり、かつExcelの基本操作を習得していることが望ましい。
成績評価	出席が30%、練習問題が30%、期末試験が40%。
講義構成	第1回 実習に備えての復習 第2回 ダミー変数1(異常値) 第3回 ダミー変数2(季節変動) 第4回 ダミー変数3(質的変数) 第5回 ダミー変数4(構造転換) 第6回 チョウテスト 第7回 系列相関とダービン=ワトソン比 第8回 コ克蘭・オーカット法 第9回 連立方程式モデル1 第10回 連立方程式モデル2 第11回 産業連関表の作成1 第12回 産業連関表の作成2 第13回 インターネットからのデータ入手方法 第14回 入手したデータを使った推定 第15回 後期末試験
教科書	白砂提津耶著『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学 第2版』日本評論社。
参考書・資料	伴金美・中村二郎・跡田直澄著『エコノメトリックス<新版>』有斐閣。 山本 拓著『計量経済学』新世社。
講義関連事項	計量経済Ⅰ、マクロ経済学、ミクロ経済学、経済統計学、経済数学、情報処理関連。
担当者から一言	講義の性質上数学の知識がある程度必要であるが、もしも数学や数値を扱うことが苦手であっても、ほぼ毎回ある練習問題を解いていくことで少しずつでも慣れていってもらいたい。そうすれば経済に限らず分析の視野が広がるはずである。

授業コード	31076		
授業科目名	健康経済（前）		
担当者名	後藤 励(ゴトウ レイ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用		

講義の内容	ほとんどの人が健康でありたいと思っているでしょう。そのため、健康食品を買ったり、スポーツクラブに行ったりして病気にならないように予防しています。一旦病気になると、医療のお世話になり、年をとれば介護サービスを受ける人もいます。健康を保つもの、害するものに関する産業、政策について経済学的に分析する基礎を学びます。
到達目標	健康を保つ(害する)のに関与する産業や社会の制度についての基礎的な知識を習得する
講義方法	参加人数によって大きく変わるが、基本的には担当者による講義形式で行う。皆さんの理解を助けるために、講義トピックに関するテレビ番組などを見ていただくこともある。
準備学習	健康を保つ(害する)のに関与する財やサービスにはどのようなものがあるのかを考える。
成績評価	期末試験による評価(100%)
講義構成	講義で取り扱うトピックは以下を含む。 1. 健康とはなにか？ 2. 健康経済で取り扱う財やサービスは普通の財やサービスとどのように違うのか？ 3. 医療制度の現状と問題点 4. 介護制度の現状と問題点 5. 健康食品や健康スポーツなどの健康関連産業の現状と問題点 6. 健康を害するモノをなぜ消費するのか？ 7. 健康に関する産業・社会制度と日本経済

教科書	特に指定しない。
参考書・資料	池上直己「ベーシック医療問題」日経文庫 西村周三「医療と福祉の経済システム」ちくま新書 河口洋行「医療の経済学」日本評論社 田村祐一郎「いのりの経済学」千倉書房 真野俊樹「日本の医療はそんなに悪いのか」薬事日報社 依田高典 後藤励 西村周三「健康行動経済学」日本評論社
講義関連事項	授業中の私語等で注意を受けたものは、即単位の取得資格が失われる。

授業コード	31077		
授業科目名	現代アジア経済I(現代アジア経済)(前)		
担当者名	金 俊行(キム ジュネン)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	2007年度以前入学生は「現代アジア経済」として、2008年度以降入学生は現代アジア経済Ⅰとして履修すること。 その際「現代アジア経済Ⅰ」・「現代アジア経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	「東アジア共同体」について考えます。なぜテーマとして浮上したのでしょうか。必要なのでしょうか。何が課題となっているのでしょうか。この問題を考える前提としてまず「東アジアの奇跡」と呼ばれた驚異的な経済成長の変遷について韓国経済をモデルにして学びます。次に1997年の「アジア通貨危機」の背景を分析します。つねに問題とされるのは国際基軸通貨であるドルの過剰供給です。2000年代になって世界経済は米国経済の一極繁栄を背景にしてグローバリゼーションが加速していきます。同時に国際金融の不安定さは深刻なものとなっていきました。リーマンショックはその結果のひとつです。さて、東アジアの中の日本経済にはどのような戦略的オプションがあるのでしょうか。
到達目標	①戦後国際金融市場動向の変遷と関連させながら韓国経済の驚異的発展の背景を理解しましょう。 ②国際通貨体制(ドル体制)にはどんな問題があって、それはどのように現れてきたのか、東アジア経済の具体的な経験のなかから説明できるようになりましょう。 ③東アジア経済における国際分業の進展について観察しながら、今後の課題について考えます。
講義方法	講義プリントを中心に板書でこれを補います。
準備学習	マクロ経済学や国際金融の基礎知識をすでに学んでいることが望ましいのですが、履修の前提とはしません。最低限必要なことは授業の中で解説します。
成績評価	3年生対象の前期開講ということもありますので出席が重視されます。出席点は、毎回のコミュニケーションペーパーに何がわかったか何がわからなかったか、そしてどう考えたかを記入していただき、その枚数と内容が対象になり、成績評価の50%を占めます。ですから出席が不足した学生は単位取得が不可能になりますから注意してください。期末試験で残りの50%を評価します。
講義構成	1, 授業ガイダンス 2, ドル体制とは何か 3, ドル危機と外資導入輸出工業化政策 4, オイルショックと韓国経済の奇跡 5, レーガノミクスと対外債務累積危機 6, ブラザ合意とソウルオリンピック 7, 中国の開放政策とアジアの金融自由化 8, NY株価の急騰とアジアの金融自由化 9, 東アジア通貨危機(1) 10, 東アジア通貨危機(2) 11, 「双子の赤字」とアジアの黒字 12, 東アジア分業体制の発展 13, 「東アジア共同体」の必要性 14, 「東アジア共同体」の課題
教科書	テキストは使用しません。
参考書・資料	金俊行著『グローバル資本主義と韓国経済発展』御茶の水書房 その他必要に応じて随時紹介します。

授業コード	31078		
授業科目名	現代アジア経済Ⅱ（後）		
担当者名	裴 光雄（ペ クワンウン）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「現代アジア経済Ⅰ」・「現代アジア経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	まず、今日の東アジアFTAおよび東アジア共同体構想、その契機となったアジア通貨・金融危機についても解説し、アジアの経済展と関係する一般的な考え方を紹介する。その後、アジアNIESと呼ばれる国、地域およびASEAN諸国のうちのいくつかの国々の経済発展の軌跡を概説し、またビデオを見ることによって、それぞれの国々に共通する問題、あるいは特有な問題を知る手がかりにしたい。以上を通して、今後この地域がどのように発展していこうとしているのかを考え、そして日本にいる私たちがアジア地域に住む人々と今後どのようにより良い関係を築いていけるのかを考えたいと思います
到達目標	東アジアのFTA、東アジアの地域統合、東アジア共同体について十分な知識と理解を身に付ける
講義方法	授業は講義のレジュメと統計資料を毎回配布し、必要に応じてパワーポイントも使用します。講義が中心ですが、時事的な問題も含めて随時ビデオも利用します。特定の教科書は指定しませんが、参考図書を参考にしてください。
準備学習	重要なことは、日頃からアジア経済に関心を持つことです。そしてできれば興味のある国を見つけて、日頃から関心を持っていたきたいと思います。
成績評価	平常点30%と期末試験70%の割合で評価します。平常点は抜き打ちの小テスト。私語をする学生は減点し退場してもらいます。試験は、用語解説と論述式の問題です。論述式の問題にはいくつかの選択肢があって、各自の関心にしたがって答えられるようにしますが必ず自分の言葉で書くことが大切です。
講義構成	1週目：オリエンテーション 2週目：FTA（自由貿易協定）とは GATT、WTOとの関連、地域統合における位置 3週目：日本のEPA（経済連携協定）戦略 EPAとは、経済産業省の資料による考察 4週目：韓国のFTA戦略（1） チリとのFTA締結・発効と「同時多発的」FTA推進戦略 5週目：韓国のFTA戦略（2） 米国とのFTA締結と批准を巡る動向 6週目：韓国のFTA戦略（3） EUとのFTA締結とその内容 7週目：韓国のFTA戦略（4） 日本とのFTA交渉の蹉跌とその要因 8週目：韓国のFTA戦略（5） 中国・インドとの交渉経過とその動向 9週目：ASEAN・中国・インドのFTA戦略 10週目：東アジアの地域統合をどう考えるか（1） 今日の状況…貿易、投資、ODA、金融・経済協力など 11週目：東アジアの地域統合をどう考えるか（2） 「奇跡」、通貨・金融危機、チェンマイイニシアティブ 12週目：東アジアの地域統合をどう考えるか（3） EAEG、アジア通貨基金とAPEC、東アジアサミット 13週目：東アジアの地域統合をどう考えるか（4） これまでの研究の検討－議論の紹介と整理－ 14週目：東アジアの地域統合をどう考えるか（5） 「東アジア共同体」論を中心に 15週目：全体のまとめ or 試験 順番の変更はありうる
教科書	特に指定しない。プリント配布。
参考書・資料	事前の購入の必要はないが、以下の図書を参考図書として薦める。 ・安忠栄『現代東アジア経済論』岩波書店、2000年。 ・末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大学出版会、2000年。

	・進藤栄一『東アジア共同体をどうつくるか』ちくま新書、2007年。 ・徐勝・李康国『韓米FTAと韓国経済の危機』晃洋書房、2009年。
講義関連事項	アジア経済入門を既に受講していることが望ましい
担当者から一言	とにかく出席して前に座り、ノートを必ずとるようにしてください。

授業コード	31081		
授業科目名	現代アメリカ経済（前）		
担当者名	稲田義久（イナダ ヨシヒサ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	本講義では戦後のアメリカ経済を学習します。アメリカ経済を学ぶ意義は、以下の2点です。第1に、日本にとって特に重要な存在だからです。第2に、アメリカ経済の動向は日本の将来を考える上で重要な参考材料となるからです。 このような観点から、戦後のアメリカ経済を年代順にそのパフォーマンスを概観し、動態の理解を深めたいと思います。
到達目標	戦後のアメリカ経済の基礎的な知識の習得とマクロ経済学の基礎理論でアメリカ経済の動態を理解すること。
講義方法	パワーポイントによるプレゼンテーションが中心になります。 予習、復習用に電子教材を用意しています。講義をより理解してもらうために、3回のMonthly Essayを課します。
準備学習	秋元英一著、『世界大恐慌-1929年に何がおこったか』、講談社学術文庫を一読しておくことをすすめる。今回の世界恐慌を理解するのに適切な文献です。
成績評価	レポート(Monthly Essay)と期末試験の総合評価。評価のウェイトはレポートが30%、試験が70%です。
講義構成	第01講 Current Topics for the US Economy 第02講 アメリカ経済と景気変動 第03講 戦後経済と黄金の60年代 第04講 戦後アメリカン・システムの特徴 第05講 経済的混乱と石油ショック 第06講 ニクソンの登場と「新経済政策」 第07講 レーガノミクスの光と影 第08講 レーガノミクスとは何か 第09講 レーガノミクスの転換：湾岸戦争の経済的帰結 第10講 IT革命で甦ったアメリカ経済 第11講 クリントノミクスとは何か 第12講 IT革新と収穫逡増 第13講 IT革命の労働への影響 第14講 ドットコム・バブル崩壊の意味 第15講 Eビジネス革命
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	講義は以下の教材に沿って行われます。 http://kccn.konan-u.ac.jp/keizai/america/index.html F.G.アダムス著、『Eビジネスの経済学』、日本評論社
担当者から一言	半期で講義するので時間的にタイトになります。講義の十分な理解のためには予習・復習が重要となります。そのために自学習用に電子教材を用意しましたので、十分に活用してください。

授業コード	31091		
授業科目名	現代経済学の諸潮流(現代経済学の歴史)(後)		
担当者名	岡田元浩(オカダ モトヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限

特記事項	2008年度以降入学生は現代経済学の諸潮流として履修 2007年度以前入学生は現代経済学の歴史として履修
オフィスアワー	第1回目の講義時に通知します。
講義の内容	この講義では、現代の経済学において主流の位置を占め、実際の経済政策や、一般の人々の経済認識に大きな影響を及ぼしている流派＝「新古典派経済学」の特徴と問題点を明らかにするとともに、市場、消費、労働雇用、貨幣といったテーマに関して、新古典派経済学とは異なるとらえ方を示す有力な学説を、今日わたしたちを取り巻く現実の経済問題に即しながらわかりやすく紹介していきます。この講義を通じて、多様な経済学アプローチから積極的に学ぶことが、現代の経済社会への理解を深める上でいかに大切であるかを知ってもらいたいと思います。
到達目標	みなさんがミクロ経済学やその他の講義を通じて親しく学んできた新古典派経済学の特徴と、新古典派とは異なる多様な経済学アプローチに関する知識の獲得とともに、幅広い社会的視野からの経済理解の大切さを知ること、到達目標としています。
講義方法	通常の大クラス形式の講義です。
準備学習	各講義の終わりに次回講義内容の予告をしますので、それにあわせた予習をおこなってください。くわしくは第1回目の講義時に説明します。
成績評価	原則として定期試験成績に基づき評価します。 「不可」、「欠席」の不合格成績に関しては、定期試験を受験したが合格点に達しなかった場合は「不可」、定期試験を受験しなかった場合は「欠席」とします。
講義構成	おおむね以下の構成で講義を進めていく予定です。 ・ ガイダンス： 経済学のこと、もっと広く知りましょう！ ・ あなたが学んできた現代経済学の主流＝新古典派経済学： その特徴と背景はどんなものだろうか。 ・ 市場の歴史をたどると面白い： カール・ポラニーの「大転換」 ・ ブランド志向と消費の本質： 「見せびらかし消費」を強調したアメリカの経済学者ヴェブレン ・ 市場では雇用主と労働者は対等？： マルクスの資本主義批判 ・ アントニオ・ネグリの「脱工業経済」論： この半世紀で労働のあり方は機械機（はたおりき）とコンピューターの間のごとく大きく変わってしまった。 ・ 規制なき市場は失業を解消する？： マルクス、ケインズ他の雇用理論 ・ お金の役割って？— そのジレンマ： ケインズの貨幣論 ・ まとめ
教科書	この講義では特定のテキストを使用せず、担当者（岡田）がプレゼンテーション用ソフトで作成した資料にしたがって講義を進めます。
参考書・資料	その都度紹介します。
講義関連事項	たとえば「経済学の歴史」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」などが、とりわけ本講義と関連の深い他講義科目といえましょう。
担当者から一言	講義中の私語は、講義担当者にとっても、真面目に講義を聴いている受講生にとっても、はなはだ迷惑です。厳につつしんで下さい。

授業コード	31080		
授業科目名	現代中国経済(モダン・エコノ特論)(前)		
担当者名	青木浩治(アオキ コウジ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	2008年度以降入学生は現代中国経済として履修		

	2007年度以前入学生はモダン・エコノ特論として履修
オフィスアワー	原則として金曜日午後1-2時。その他時間的余裕があれば随時対応します。
講義の内容	「改革・開放」という言葉を知っていますか？現代中国経済は急速に成長していますが、こうした中国経済の台頭が始まったのが1978年の改革・開放政策への転換からでした。歴史的に日本は中国との結びつきが強く、大きな影響を受けてきた国の一つですが、学生諸君の中国経済に関する知識は、一部のマニアを除いて驚くほど貧困です。例えば毛沢東は知っていても鄧小平という名前を知らない人が意外に多いのではないのでしょうか？この授業では北京や上海に観光旅行に行っただけでは分からない中国経済の実相を、身近な出来事を含めて少し広い視点から解説する予定です。
到達目標	中華人民共和国が産声をあげた後の中国の成り立ち、およびその成長の過程を、経済を中心としてではあるが大まかにでも語ることができるようになること、第二に、今後日本がお付き合いしていく中で、アメリカとともに最も重要となると予想される隣国の事情について、必要最低限の常識を身につけることが目標です。
講義方法	基本的に口述筆記とというスタイルをとりますが、ビジュアルにするためパワーポイントを多用する予定です。ただし漫然として聞き流すのではなく、できるだけノートをとるようにしましょう。
準備学習	MY Konanに授業用のパワーポイント・スライドをダウンロード可能にしておきますので、事前に必ず該当箇所をプリント・アウトし、その内容について学習しておいて下さい。
成績評価	不定期に行う三回の出席調査が15%、定期末試験結果が85%のウェイトで評価します。
講義構成	次のような内容に従って授業を進める予定です。 1.イントロダクション：中国の近・現代と授業の課題 2.社会主義計画経済時代の中国（1）：社会主義計画経済の確立 3.社会主義計画経済時代の中国（2）：大躍進と文化大革命 4.社会主義計画経済時代の中国（3）：計画期中国の成果 5.改革・開放への転換（1）：農業・農村改革 6.改革・開放への転換（2）：改革の拡大と天安門事件 7.社会主義市場経済の確立に向けて（1）：南巡講話と94年改革 8.社会主義市場経済の確立に向けて（2）：中国経済の変調と国有企業改革 9.グローバル化時代の中国（1）：中国経済の国際化 10.グローバル化時代の中国（2）：WTO加盟ブームとその要因 11.グローバル化時代の中国（3）：中国のエネルギー・環境問題 12.和諧社会に向けて（1）：農民大国中国の現実 13.和諧社会に向けて（2）：転換点通過の課題 14.和諧社会に向けて（3）：戸籍制度 2-4では、中華人民共和国前半30年の足跡を辿り、現在の改革・開放に転換した時代的背景を解説します。結論的に言うと、建国後前半30年は毛沢東という特定のリーダーによる政治的混乱に翻弄された歴史でした。その失敗劇を多くのスライドを用いて概説する予定です。 続く5-11では、1978年以降の中国経済の展開を時間の軸、空間の軸の二つの視点から解説します。改革・開放といっても90年代初頭まで、中国は相変わらず計画期のクセを引きずっており、混乱気味でした。そうした生みの苦しみを辿ること、そして21世紀の爆発的な成長の背景を探ることがここでの課題です。 最後の12-14では現代中国経済が直面する諸課題のうち、最も重要と考えられる格差是正問題について、歴史・制度および日本の経験を交えて解説する予定です。
教科書	特定の教科書は使用しませんが、標準的なものとして以下を推薦しておきます。 加藤弘之・上原一慶編著「中国経済論」ミネルヴァ書房、2004年。 南亮進・牧野文夫編著「中国経済入門」第2版、日本評論社、2005年。 天児慧「中国の歴史11：巨龍の胎動、毛沢東vs.鄧小平」講談社、2004年。
参考書・資料	授業中に別途指示します。
講義関連事項	授業内容に近いものを甲南大学のウェブサイト上で公開しています。最初に甲南大学情報教育センターのホームページにアクセスして下さい。それが現れたら上の方のContentsをクリックして下さい。すると学部ごとのウェブ・コンテンツが掲示されますので、この中から経済学部の教材を選んで下さい。「現代中国経済」という題名のコンテンツがそれです。
担当者から一言	中国の地図を常備しておくといかに手助けになります。中国は国土面積が日本の26倍、ちょうどアメリカと同じサイズで、北はフィンランドから南はイタリアまでの西欧がすっぽり入る広大な領土からなっています。ですから日本とは異なり地域性の強いお国柄であり、中国を勉強するに当たって、歴史とともに地理に強くなっておくことを薦めます。

授業コード	31T11		
授業科目名	現代日本経済（1クラス）(後)		
担当者名	古川 顕(フルカワ アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	主要問題の現状と課題		

講義の内容	戦後最長の景気拡大期が終わると同時に、米国のサブプライムローン問題を発端とするグローバルな金融危機やデフレの深刻化、株価の下落、円高の進展など、日本経済は激震に見舞われた。本講義では、いわゆるバブルの生成と崩壊から最近に至るまでの日本経済の動向をフォローしながら、内外の金融的諸問題と景気や物価との関連、経済活動のグローバル化の進展、金融・財政政策の運営などについて体系的に説明する。		
到達目標	日本経済が直面する現状と課題、対策等について十分な知識をもつこと。		
講義方法	主要なテーマごとに資料を作成し、その資料に沿って講述する。		
準備学習	新聞の経済欄について毎日欠かさず読んでおくこと。		
成績評価	期末に行う筆記試験によって行う(場合によっては出席を取り、期末試験とは別に小テストを行い、これらを成績評価に反映させる可能性がある)。		
講義構成	1. バブルの生成と崩壊 2. 金融市場の発展 3. 利子率と資産価格の変動 4. 株価決定のメカニズム 5. 為替レートの変動とその影響 6. サブプライムローンと金融新技術 7. グローバルな金融危機 8. 物価と景気 9. 日本経済の課題 (以上の章立ての順序および内容等については、部分的に変更する可能性あり)		
教科書	使用しない。必要な資料をコピーして配布する。		
担当者から一言	毎日の新聞の経済・金融欄に必ず目を通して、自分なりに日本経済の現状を把握することが望ましい。		

授業コード	31T12		
授業科目名	現代日本経済（2クラス）(後)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、青木浩治(アオキ コウジ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限 土曜2限
特記事項	地域活性化システム論 受講指導時にガイダンスを実施するので、希望者は参加すること。		

講義の内容	授業の第一の目的は、六甲山・神戸の歴史、文化、自然について学び、その環境資源・観光資源としての価値を再認識することです。その第二の目的は、地域再生・地域活性化に関する制度・政策を学び、六甲山におけるエコツーリズムや神戸をコンセプトとした観光活性化の取り組みなどを題材にして、地域再生・地域活性化に対する理解を深めることです。		
到達目標	グループワークを通じて、六甲山・神戸をコンセプトとしたユニークな地域再生・地域活性化プランを立案し、人前でプレゼン、提案することが目標です。		
講義方法	国・地方自治体の政策担当者や実務家が、地域再生に向けたそれぞれの取り組みについて講義を行います。また、六甲山およびその近辺でのフィールドワークも予定しています。それらを通して得た知識や経験に基づいて、グループ単位で六甲山・神戸をテーマとする地域再生・活性化計画を作成し、最終回の公開ワークショップにおいて発表を行います。		
準備学習	最後の公開ワークショップに向けた準備作業を意識して受講することが必要です。		

成績評価	出席状況、授業中の発言頻度・内容、および公開ワークショップにおける発表内容等に基づき、総合的に評価します。
講義構成	次の構成で授業を進める予定です。 第1回 オリエンテーション:9月30日(木) 第2回 フォーラムⅠ:10月9日(土):2限 第3・4回 フィールドワーク:10月16日(土):終日 第5回 地域活性化論・政策プランニングの基礎理論(1):10月21日:(木) 第6回 地域活性化論・政策プランニングの基礎理論(2):10月28日:(木) 第7回 グループワーク:「報告に向けての準備」:11月11日:(木) 第8回 再生に向けた地域での取り組み(1):11月18日:(木) 第9回 再生に向けた地域での取り組み(2):11月25日:(木) 第10回 再生に向けた地域での取り組み(3):12月2日:(木) 第11回 中間報告会(1):12月9日:(木) 第12回 フォーラムⅡ:12月18日(土):2限 第13回 中間報告会(2):1月6日:(木) 第14・15回(*) 公開ワークショップー六甲山・神戸活性化に向けた学生アクションプランの発表: 1月8日(土) なお、授業は原則木曜5限に行いますが、一部土曜日に実施されるので注意して下さい。
教科書	特に使用しません。
講義関連事項	大学および経済学部ホームページに2008年度・2009年度の授業や公開フォーラムの様子などについての報告がアップされていますので、ぜひ一度開いてみて下さい。
その他	受講希望者は、開講前の9月中旬にガイダンスを開催するので、必ず参加して下さい。その正確な期日は後日、掲示します。

授業コード	31T13		
授業科目名	現代日本経済（3クラス）(後)		
担当者名	稲田義久(イナダ ヨシヒサ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	日本の資本市場 野村證券(株)提携講座 2008年度以降入学生用。2007年度以前入学生は「今日の経済問題Ⅳ」を履修すること		

講義の内容	このコースは野村證券株式会社によって提供されるもので、講師陣は野村證券および野村総合研究所等の実務に長けた人々から構成される。 資本市場(株式、債券などの市場)が家計や企業の資金運用・調達にあたって、どのように機能しているかを現状に即して実務家が説明する。
到達目標	新聞の金融経済記事の理解と金融経済の基礎知識の習得
講義方法	野村證券のスタッフによる講義
準備学習	新聞の金融経済欄に目を通しておくこと
成績評価	期末の試験によって評価する。
講義構成	ガイダンス 経済情報のとらえ方 経済成長と金融資本市場 証券投資のリスク・リターン ポートフォリオ・マネジメント 債券市場の役割と投資の基礎知識 株式市場の役割と投資の基礎知識 投資信託の役割とその仕組み 支店見学 金融市場の役割とその変化 資本市場における投資家心理

	資産運用とライフ・プランニング (以上2006年度実績)
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	野村証券投資情報部編『証券投資の基礎』丸善株式会社 氏家純一編『日本の資本市場』東洋経済新報社

授業コード	31082		
授業科目名	現代ヨーロッパ経済（後）		
担当者名	中屋宏隆(ナカヤ ヒロタカ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	同日5限終了後。		

講義の内容	戦後ヨーロッパ経済の進展について検討を加える。
到達目標	経済史的視点から進展著しいヨーロッパ統合の現状に可能な限り接近することを目標としたい。
講義方法	レジュメを配布し、パワーポイントを用いて進める。
準備学習	必要ない。
成績評価	小テスト(30点)と期末試験(70点)。
講義構成	第1回 イン트로ダクション 第2回 戦後ヨーロッパ統合の開始 第3回 超国家的統合の挫折 第4回 ヨーロッパ統合の再出発 第5回 1950年代のヨーロッパ経済の成長 第6回 ドゴールの登場 第8回 1970年代とヨーロッパ経済の低迷 第9回 通貨協力から統合の再加速 第10回 ポスト冷戦期とヨーロッパ統合 第11回 拡大するヨーロッパ経済 第12回 大統領と外務大臣の誕生
教科書	適宜指示する。
担当者から一言	リスボン条約が発効し、EU大統領が誕生しました。戦後ヨーロッパではいかに統合が進められ、今後どういった進展が予想されるのかを考えて行きたいと思います。

授業コード	31030		
授業科目名	公共経済（後）		
担当者名	小林 均(コバヤシ ヒトシ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
オフィスアワー	在校中随時		

講義の内容	現代国家は混合経済体制といわれ、国民経済が公共経済と市場経済とから構成されている。資本主義経済は自由な民間の経済活動を中心に運営される経済である。しかし現実には公共経済の国民経済に占める割合はかなりの大きさになっている。本講義は公共経済の担い手である政府活動の経済的根拠を明らかにすることによって、国民経済における公私の役割分担を検討し、効率かつ公平な経済システムの構築を目指すものである。
到達目標	1.今日の財政赤字、社会保障、所得分配といった問題を経済学ではどうとらえるかを知ること 2. 入門の経済学、とりわけミクロ経済学の応用問題を理解 3. 上記1の問題を感情的・情緒的に捉えることと経済学的に捉えることの相違を理解すること
講義方法	講義形式で、講義資料を配布する。試験は、講義の中から出しますので、日々の講義を理解し、試験期間中の

	試験に臨んで下さい。
準備学習	1. 第1回目の講義で、講義全体の内容について話しますので、どういう講義か確認してください 2. 毎回の講義の最後に、次回の講義のテーマについて話しますので、注意深く聞いてください 3. 普段から、新聞、TVで社会保障、所得格差、税金等について関心を持って、読み、聞いてください
成績評価	出席はとらず、試験期間中の試験で判断します。
講義構成	1 講義全体についての説明 2 国民経済と公共部門・大きな政府VS.小さな政府 3 公共経済学とその課題 4 価格機構の特性 5 市場の失敗と政府の役割 6 公共財の経済学(1)公共財と準公共財 7 公共財の経済学(2)供給システム 8 費用便益分析(1) 9 費用便益分析(2) 10 外部効果とその対策(1)外部性 11 外部効果とその対策(2)公的対応(ピグー課税) 12 外部効果とその対策(3)私的対応(コースの定理) 13 自然独占と規制(1) 14 自然独占と規制(2) 15 租税の経済学(1)租税原則 16 租税の経済学(2)公平な課税 17 租税の経済学(3)効率的課税 18 租税の経済学(4)最適課税 19 所得分配政策(1)所得再分配の根拠 20 所得分配政策(2)政策手段 21 所得分配政策(2)政策手段の評価 22 社会保険(1)年金 23 社会保険(2)医療 24 社会保険(3)介護 25 公債の経済学(1) 26 公債の経済学(2) 27 公共選択の理論(1)中位投票と投票のパラドックス 28 公共選択の理論(2)公共部門肥大化要因 29 地方分権 30 まとめ 31 後期試験
教科書	特になし。毎回の講義のノートを配布しますので、それをしっかり理解して下さい。
参考書・資料	講義の際に適宜指示します
講義関連事項	ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎知識が必要。関連科目として、財政、地方財政、都市経済、経済政策、情報通信の経済学、経済体制、社会政策。
担当者から一言	今日の経済問題を考える際に必要な理論的な話为中心で、特に入門ミクロ経済学の応用・発展的な講義である。

授業コード	31L41		
授業科目名	公共経済入門（1クラス）(前)		
担当者名	上島康弘(ウエシマ ヤスヒロ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示。		

講義の内容	経済学とは、人々や会社、国のつながりをはっきり示した上で、どのようにすれば人々の福祉(幸福の度合い)を向上させられるのかを考える学問である。この講義では、まず市場のはたらきを理解して、次に市場にまかせていては解決できない問題を取り上げて、それにどう対処すればいいのかを考える。
-------	---

到達目標	経済学のツールを学ぶとともに、それらを現実の問題に応用して解決策を考える力を養う。
講義方法	・配付する資料に基づいて講義を行う。 ・毎回、質問時間を設けるので、遠慮なく質問してほしい。
準備学習	・前回の内容を自分なりにノートに整理すること ・配布された資料や指示された本を読むこと。 ・宿題に対して自らの答を書くこと。
成績評価	学期末試験(100点満点) + 平常点(上限20点)。100点以上のときには100点とする。
講義構成	(「入門ミクロ経済学」の進み具合を見て、授業のレベルとテーマの順序を調整します。) I. 需要と供給[モノの値段はどう決まる?] (1) 需要と供給 (2) 需要曲線 (3) 供給曲線 (4) 需要, 供給, 均衡 (5) 応用1: 半導体市場—なぜ「シリコン・サイクル」が存在するのか (6) 応用2: フェアトレード—買い物で世界を変える II. 市場の効率性[どれだけ買えばしあわせか?] (1) 消費者余剰と需要曲線 (2) 生産者余剰と供給曲線 (3) 総余剰と死加重 (4) 応用1: 排出権取引—市場が地球を救う(か) (5) 応用2: 国際貿易—貿易に勝ち負けはない III. 外部性, 公共財, 共有資源[市場は失敗するか?] (1) さまざまな財 (2) 外部性に対する政策 (3) 共有資源に対する政策 (4) 応用1: 地球温暖化—なぜガソリン税が必要なのか (5) 応用2: 海洋資源—魚がいなくなる IV. 税・社会保険と所得分配[「格差社会」をどう防ぐ?] (1) 所得税・住民税の計算 (2) 社会保険のイロハ (3) 所得の再分配 (4) 応用1: ジニ係数—格差は拡大しているか (5) 応用2: 子どもの貧困—「親が貧しいから子が学校に行けない」社会 V. 労働経済学入門[給料はどう決まる?] (1) 給料の決め方 (2) 人的資本理論 (3) 応用1: 統計的差別—女性なぜ「差別」されるのか (4) 応用2: フリーターの涙—きみはどう生きるか
教科書	同一のテキストを終始用いることはしない。
参考書・資料	下記の2冊をすすめる。前者は、説明が分かりやすく、練習問題がすばらしい。後者はノーベル経済学賞の受賞者による教科書で、経済学の使い方を教えてくれる。自分の好みに合うほうを読めばいい。 ・マンキュー「経済学 ミクロ編 第2版」(東洋経済新報社)の第4, 7, 9, 10, 11, 20章。 ・クルーグマン「ミクロ経済学」(東洋経済新報社)の第3, 6, 17, 19, 20, 21章。
講義関連事項	・静かに授業を聴いているのに分らないとすれば、私の説明が下手だからである。繰り返しになるが、遠慮なく質問してほしい。「くだらない質問」などない。 ・授業ではパワーポイントは使わないし、小学校のように整理された板書もしない。話の流れを理解して要点をメモに取ること。帰宅後、メモと資料を見ながら、自分なりのノートを作るべきである。そうしてはじめて、キーワードやものの考え方が頭の中に定着する。自分のノートを作ろう。
担当者から一言	経済学の面白さを伝えたい。
その他	

授業コード	31L42		
授業科目名	公共経済入門（2クラス）(後)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	火曜4限(前期)もしくは火曜5限(後期)		

講義の内容	経済学とは、人や国のつながりを考慮した上で、どのようにすれば人々の福祉(幸福の度合い)を向上させることができるのかを考える学問である。この講義では、市場のはたらきを理解した上で、市場にまかせていては解決できないような問題を取り上げて、それらにどう対処すればいいのかを考える。
到達目標	経済学の基礎的知識を習得するとともに、これらの知識を実際社会で活用できるような力を身につける。
講義方法	配付する資料を用いて講義を行う。 毎回、最後に質問時間を設けるので、遠慮なく質問してください。
準備学習	担当教員に指示された参考書等に目を通しておくこと。 また、適宜時事問題を扱うため、日頃から新聞等からの情報に関心を持つておく必要がある。
成績評価	学期末試験(100点満点)＋平常点(上限20点)。 なお100点以上の場合は100点とする。
講義構成	I. 需要と供給[価格や取引量はどうか決まる?] (1) 需要と供給 (2) 需要曲線 (3) 供給曲線 (4) 需要, 供給, 均衡 (5) 応用: 売り手と買い手の駆け引き II. 市場の効率性[その取引量でしあわせですか?] (1) 消費者余剰と需要曲線 (2) 生産者余剰と供給曲線 (3) 総余剰と死加重 (4) 応用: 価格規制の弊害とは? III. 税・社会保険と所得分配[「格差社会」を防ぐには?] (1) 日本の財政と財政改革 (2) 日本の税制 (3) 日本の年金・医療制度 (4) 応用: 格差社会は是か非か? IV. 外部性[市場が失敗するときその1] (1) 集積の経済学 (2) 集積に対する政策 (3) 生産・消費および外部性 (4) 応用: 【都市経済学入門1】集積がもたらすメリット&デメリットとは? V. 公共財の役割[市場が失敗するときその2] (1) 私的財とその他の財 (2) 公共財 (3) 共有資源 (4) 応用: 【都市経済学入門2】人はどのように居住地を選択するのか?
教科書	特に指定しない。配布するレジュメに基づく。
参考書・資料	N.グレゴリー・マンキュー著の「マンキュー経済学 ミクロ編」(東洋経済新報社)や ポール・クルーグマンら著の「クルーグマン ミクロ経済学」(東洋経済新報社)など。 その他の参考書については、講義中に適宜指示する。

担当者から一言	この講義では、単に多くの知識を詰め込むという形式ではなく、経済学の基礎的な知識をきちんと理解し、その知識を日常生活で「応用」できるよう指導します。役に立つ経済学をぜひ実感してください。
---------	--

授業コード	31069		
授業科目名	公共政策(総合政策特論)(前)		
担当者名	小林 均(コバヤシ ヒトシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	2008年度以降入学生は公共政策として履修 2007年度以前入学生は総合政策特論として履修		
オフィスアワー	来校、在室時9号館7F		

講義の内容	わが国が現在抱えている問題は、多額な債務残高であり、人口高齢化・少子化に伴う医療・年金・介護の問題であり、さらには無駄な公共投資やこれまでの地方財政制度の限界である。こうした問題は相互に関連を持ち、まさに日本の構造改革が迫られている背景である。本講義では、財政赤字の問題から説き起こし、公共投資、社会保障、地方交付税に焦点を当てて、その解決への政策を総合的視点に立って議論する。		
到達目標	次の5つの点を理解、考察することが目標です。 1 今日の日本の抱える問題のうち、なぜ膨大な財政赤字の累積が生じたか 2 財政赤字累積の背景は、経済政策の運営上の問題があること 3 財政赤字累積の背景には、少子高齢化にともなう社会保障制度上の問題があること 4 財政赤字累積の背景には、国と地方の関係や地方財政制度上の問題があること 4 財政赤字累積を解決するには、どうしたらよいかを考えること		
講義方法	板書中心で、図、表の資料は必要に応じて配布します。		
準備学習	1 最初の講義で、全体の話をしますので、どういう講義か確認してください 2 毎回の講義のタイトルを確認してください。 3 財政赤字、少子高齢化、医療、年金、介護、地方財政、公共工事等がこの講義の対象となっていますので、TV、新聞等で関連の項目について見聞き、読んでください。		
成績評価	試験期間中の試験のみの評価		
講義構成	1 講義の全体についての説明 2 世界1の借金国 3 なぜ財政赤字は大きくなったか？ 4 少子高齢化社会がもたらすものは何か？ 5 年金制度の維持は可能か？ 6 医療制度のどこが問題か？ 7 介護保険はなぜ導入され、どこが問題か？ 8 公共事業のどこが問題か？ 9 地方財政のどこが問題か？ 10 地方分権への改革がもたらされている 11 持続可能な年金制度とは何か？ 12 持続可能な医療制度とは何か？ 13 これからの介護制度とは何か？ 14 財政の構造改革の必要性 15 まとめ 16 試験		
教科書	特になし		
参考書・資料	講義の際に指摘します。		
担当者から一言	今年度は、地方と国との関係の見直し、一括交付金や道州制に時間を割きたいと考えています。		

授業コード	31057
-------	-------

授業科目名	国際金融		
担当者名	中島清貴(ナカシマ キヨタカ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜4限)、後期(月曜4限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		
講義の内容	前期セメスターでは、国際的なリスク分散の意義を議論し、インデックスファンド、ファンドオブファンズの有用性を考察する。また、国際資本市場および貿易市場における裁定問題を扱い、為替レートが利子率や物価とどのような関係にあるのかを議論する。 後期セメスターでは、国際金融取引の観点からリスク回避の手段としてのデリバティブ取引について議論する。デリバティブ取引は概して金儲けの手段として理解されることが多い。しかし、各人が、金融リスク管理を目的として「謙虚に」それを使用した場合、逆に経済を安定化させる上で有用な手段であることを議論していく。また、金儲けの手段としてデリバティブを利用した場合、金融リスクが飛び火することで、経済を不安定化させる可能性があることも併せて議論していく。		
到達目標	①リスクがどのように定義されるのかをしっかりと理解することで、受講者がどのように金融資産を分散 投資をしていけば良いのかについての指針を与えることを目標とする。 ②為替レートが重要なマクロ金融変数である金利および物価とどのような関係にあるのかを理解し、日本の低金利政策が米国のサブプライムローン問題の原因となった可能性やデフレが為替レートに与える影響を理解する。 ③円やドル、株式などの金融資産価格の予測が必ずしも成功しない利用を理解し、分散投資やデリバティブ取引などの金融取引がなぜ必要であるのかを理解する。 ④デリバティブ取引を金儲けの手段としてではなく、金融リスク管理の手段として謙虚に利用することの重要性を理解する。		
講義方法	私のホームページ、もしくは、My Konanで書き込み式のレジュメを事前に配布し、空欄を埋めるようにして講義を行う。		
準備学習	①授業日当日の12時までにレジュメや講義資料を私のホームページかMy Konanにアップロードしておくので、各自予め印刷をし、レジュメと講義資料を持参の上、講義に臨むこと。 ②四則演算(足し算、引き算、掛け算、割り算)を使用する。暗記に頼るような講義内容ではないので、話しの流れをしっかりと追うように心掛けること。		
成績評価	期末テストだけで決めます。出席点やレポート点はありません。		
講義構成	I 国際的なリスク分散 ①期待収益とサンクトペテルスブルクのパラドックス ②リスクと標準偏差 ③分散投資 ④分散出来るリスクと出来ないリスクーインデックスファンドの有用性 ⑤国際分散投資とファンドオブファンズ II 裁定 ①裁定と経済効率性 ②先渡取引 ③為替レートと金利の関係ーカバー付き金利平価式 ④低金利政策と国際的な過剰流動性 ⑤為替レートと物価の関係ー購買力平価説 ⑥為替レートと貨幣の関係ーソロスチャート III ランダムウォーク ①ショートポジションとロングポジション ②自己実現的期待と市場の効率性 ③ランダムウォークとリスクヘッジ IV デリバティブーオプション取引 ①コールオプションとプットオプション ②プロテクティブプットとプロテクティブコール ③ダイナミックヘッジングとリスクの国際的な伝播 V デリバティブースワップ取引 ①通貨スワップ ②金利スワップ		

	Ⅵ デリバティブー先渡し取引と先物取引 ①先渡し取引の問題点 ②先物取引と有用性 ③先物取引の実際 ④先物取引と信用取引 ⑤将来経済を見るための先物価格
教科書	レジュメに沿って授業を進める
参考書・資料	「金融技術の考え方・使い方」 斎藤誠著 有菱閣 「ウォール街のランダムウォーカー」 バートン・マルキール 日本経済新聞社
講義関連事項	板書をしますので、前席で受講することを薦めます。
担当者から一言	日本人にとって、老後の生活資金を確保すべく、金融商品に積極的に投資をしていくことの重要性が今後ますます大きくなっていくことは間違いありません。そのためには、リスクがどのように定義され、どのように投資をすればリスクを無駄にとる必要がないのか、についてしっかりと理解をする必要があります。そのためには、自分の頭でしっかりと今後の経済動向を見極め、間違った投資行動をとらないような確固とした知恵が必要です。そうした知恵を何とか掴もうと思っている人にとっては幾つか有用な情報がこの授業で得られることでしょう。あと、金融機関やコンサルティング会社への就職、また大学院への進学を考えている人にとっても役立つ授業になっていると思います。
その他	当たり前のことですが、私語や授業中の立ち歩きは厳禁です。出席を一切取りませんので、話しをしたい方や立ち歩きをしたいお子様は教室の外でするようにしましょう。

授業コード	31058		
授業科目名	国際金融Ⅰ(前)		
担当者名	中島清貴(ナカシマ キヨタカ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「国際金融Ⅰ」・「国際金融Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		

講義の内容	本講義の前半では、国際的なリスク分散の意義を議論し、インデックスファンド、ファンドオブファンズの有用性を考察する。講義の後半では、国際資本市場および貿易市場における裁定問題を扱い、為替レートが利子率や物価とどのような関係にあるのかを議論する。
到達目標	①リスクがどのように定義されるのかをしっかりと理解することで、受講者がどのように金融資産を分散 投資をしていけば良いのかについての指針を与えることを目標とする。 ②為替レートが最も重要なマクロ金融変数である金利および物価とどのような関係にあるのかを理解し、日本の低金利政策が米国のサブプライムローン問題の原因となった可能性やデフレが為替レートに与える影響を理解する。
講義方法	私のホームページ、もしくは、My Konanで書き込み式のレジュメを事前に配布し、空欄を埋めるようにして講義を行う。
準備学習	①授業日当日の12時までにレジュメや講義資料をMy Konan、もしくは私のホームページにアップロードしておくので、各自予め印刷をし、レジュメと講義資料を持参の上、講義に臨むこと。 ②四則演算(足し算、引き算、掛け算、割り算)を使用する。暗記に頼るような講義内容ではないので、話しの流れをしっかりと追うように心掛けること。
成績評価	期末テストだけで決めます。出席点やレポート点はありません。
講義構成	Ⅰ 国際的なリスク分散 ①期待収益とサンクトペテルスブルクのパラドックス ②リスクと標準偏差 ③分散投資 ④分散出来るリスクと出来ないリスクーインデックスファンドの有用性 ⑤国際分散投資とファンドオブファンズ Ⅱ 裁定 ①裁定と経済効率性 ②為替レートと金利の関係ーカバー付き金利平価式

	③低金利政策と国際的な過剰流動性 ④為替レートと物価の関係－購買力平価説 ⑤為替レートと貨幣の関係－ソロスチャート
教科書	レジュメに沿って授業を進める
参考書・資料	「金融技術の考え方・使い方」 斎藤誠著 有菱閣 「ウォール街のランダムウオーカー」 パートン・マルキール 日本経済新聞社
講義関連事項	板書をしますので、前席で受講することを薦めます。
担当者から一言	日本人にとって、老後の生活資金を確保すべく、金融商品に積極的に投資をしていくことの重要性が今後ますます大きくなっていくことは間違いありません。そのためには、リスクがどのように定義され、どのように投資をすればリスクを無駄にとる必要がないのか、についてしっかりと理解をする必要があります。そして、自分の頭でしっかりと今後の経済動向を見極め、間違った投資行動をとらないような確固とした知恵が必要です。そうした知恵を何とか掴もうと思っている人にとっては幾つか有用な情報がこの授業で得られることでしょう。あと、金融機関やコンサルティング会社への就職や大学院への進学を考えている人にとっても役立つ授業になっていると思います。
その他	当たり前のことですが、私語や授業中の立ち歩きは厳禁です。出席を一切取りませんので、話しをしたい方や立ち歩きをしたいお様は教室の外でするようにしましょう。

授業コード	31059		
授業科目名	国際金融Ⅱ(後)		
担当者名	中島清貴(ナカシマ キヨタカ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「国際金融Ⅰ」・「国際金融Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		

講義の内容	本講義では、国際金融取引の観点からリスク回避の手段としてのデリバティブ取引について議論する。デリバティブ取引は概して金儲けの手段として理解されることが多い。しかし、各人が、金融リスク管理を目的として「謙虚に」それを使用した場合、逆に経済を安定化させる上で有用な手段であることを議論していく。また、金儲けの手段としてデリバティブを利用した場合、金融リスクが飛び火することで、経済を不安定化させる可能性があることも併せて議論していく。
到達目標	①円やドル、株式などの金融資産価格の予測が必ずしも成功しない利用を理解し、分散投資やデリバティブ取引などの金融取引がなぜ必要であるのかを理解する。 ②デリバティブ取引を金儲けの手段としてではなく、金融リスク管理の手段として謙虚に利用することの重要性を理解する。
講義方法	私のホームページ、もしくは、My Konanで書き込み式のレジュメを事前に配布し、空欄を埋めるようにして講義を行う。
準備学習	①前期セメスターに開講されるの「国際金融Ⅰ」を受講していることが望ましい。 ②授業日当日の12時までにレジュメや講義資料をMy Konan、もしくは私のホームページにアップロードしておくので、各自予め印刷をし、レジュメと講義資料を持参の上、講義に臨むこと。 ③暗記に頼るような講義内容ではないので、話しの流れをしっかりと追うように心掛けること。
成績評価	期末テストだけで決めます。出席点やレポート点はありません。
講義構成	I ランダムウォーク ①ショートポジションとロングポジション ②自己実現的期待と市場の効率性 ③ランダムウォークとリスクヘッジ II デリバティブ・オプション取引 ①コールオプションとプットオプション ②プロテクティブプットとプロテクティブコール ③ダイナミックヘッジングとリスクの国際的な伝播 III デリバティブ・スワップ取引 ①通貨スワップ ②金利スワップ

	IV デリバティブー先渡取引と先物取引 ①先渡取引の問題点 ②先物取引の有用性と問題点 ③先物取引の実際 ④先物取引と信用取引 ⑤将来経済を見るための先物価格
教科書	レジュメを利用しますので、教科書は指定しません。
参考書・資料	「金融技術の考え方・使い方」 斎藤誠著 有菱閣 「ウォール街のランダムウォーカー」 バートン・マルキール 日本経済新聞社
講義関連事項	板書をしますので、前席で受講することを薦めます。
担当者から一言	日本人にとって、老後の生活資金を確保すべく、金融商品に積極的に投資をしていくことの重要性が今後ますます大きくなっていくことは間違いありません。また、そうした金融商品の幾つかがデリバティブ取引に基づくものであるケースも数多くあるため、今後そうした金融商品の特性を各人が見極めていくためにはデリバティブ取引そのものについてしっかりと理解をする必要があります。迷える子羊として生きていくのではなく、自分の頭でしっかりと今後の経済動向を見極め、間違った投資行動をとらないような確固とした知恵を何とか掴もうと思っている人にとっては幾つか有用な情報がこの授業で得られることでしょう。あと、金融機関やコンサルティング会社への就職や大学院への進学を考えている人にとっても役立つ授業になっているかと思います。
その他	当たり前のことですが、私語や授業中の立ち歩きは厳禁です。出席を一切取りませんので、話しをしたい方や立ち歩きをしたいお子様は教室の外でするようにしましょう。

授業コード	31031		
授業科目名	国際経済(国際経済学)(後)		
担当者名	中西訓嗣(ナカニシ ノリツグ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 月曜5限
特記事項	2007年度以前入学生は国際経済学として履修 2008年度以降入学生は国際経済として履修		

講義の内容	国際経済学は大きく「国際マクロ経済学」と「国際貿易論」という二つの領域に分けることができます。本講義では、これら二つの領域に関する基礎的な知識を伝えと共に、学生諸君自らが国際経済学の理論を使って「経済分析」を実践できるよう「理論の使い方」にも配慮して説明するつもりです。
到達目標	1. 国際収支統計や貿易統計を読み解き、日本の国際取引の様態を体系的に説明できる。 2. 景気、金利、経常収支、資本収支、外国為替レートの決定と変動およびこれらの相互関係について順序立てて説明できる。 3. 国際貿易や国際要素移動を生み出す諸要因について体系的に説明できる。 4. 貿易自由化や保護貿易政策が人々の経済厚生に及ぼす影響とそれを生み出すメカニズムについて順序立てて説明できる。
講義方法	パワーポイントのスライドと書き込み式の配付資料を利用して講義します。
準備学習	国際経済学は応用分野なので「ミクロ経済学」や「マクロ経済学」など経済学の基礎理論についても、本講義と並行して、しっかり勉強しておく必要があります(基礎経済学、経済学入門、経済原論等に相当する名称の講義科目を受講済みであることが望ましい)。
成績評価	出席点30%(出席調査は不定期)、期末試験70%
講義構成	概ね以下のような内容と順序で講義を進めます。 1. 国際経済の歴史 2. 日本の国際経済取引の現状 3. 国際収支表の基本構造と読み方 4. 外国為替相場制度と外国為替レートの決定 5. 国民所得の変動と国際経済取引 6. 国際資本移動と利子率の役割 7. 国際貿易構造の決定(比較優位の理論) 8. 国際貿易と人々の暮らし向き(貿易利益の理論) 9. 貿易政策の基礎(関税政策の類型・根拠・効果等) 10. 多国籍企業の活動・海外直接投資

	11. WTO(世界貿易機関)の役割 12. 国際経済における今日的な課題(貿易と環境, FTA・EPA, 貿易と国民の健康等)
教科書	特に指定しません。
参考書・資料	井川・林原・佐竹・青木編著『基礎国際経済学』中央経済社, 2000年 石川・菊地・椋著『国際経済学をつかむ』有斐閣, 2007年 上記の他, 必要があれば講義中に適宜指示します。
講義関連事項	書き込み式配付資料は My-KONAN にファイルを順次アップロードしていく予定です。受講生は各自ダウンロードの上, 印刷して講義に持参してください。
担当者から一言	講義中の入退室・私語・携帯電話等の使用は厳禁です。ただし, 講義に関連する質問は(話の途中であっても)大いに歓迎します。どしどし質問してください。

授業コード	31L51		
授業科目名	国際経済入門（1クラス）(前)		
担当者名	藤本建夫(フジモト タテオ)、金 俊行(キム ジュネン)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生用		

講義の内容	「入門」とは「関心をもつこと」です。ですからいきなりナマの国際経済情勢を追いかけてみましょう。教員が毎回、先週の国際経済に関する新聞記事などを資料化したもの(これを「週間国際経済」と呼びます)を作成して解説します。野球を理解するためにルールブックを読むのではなく、試合を見ながらルールの解説やチーム・選手の紹介をするという方法です。国際経済市場の実際のダイナミズムをトピックスや統計から感じて、そのなかで国際貿易や国際金融の基礎知識を必要に応じて説明します。 ですから授業を休むとわけがわからなくなるかもしれません。7回、1ヶ月半ほどの間にどんなことが起きて、どう変化していくのでしょうか。いっしょに観察しましょう。 後半の7回は少し歴史をさかのぼって1930年代の世界大恐慌と2008年の世界金融危機を対比し、今私たちがどこにいるかを考えます。
到達目標	①現在進行中の国際経済の動き、日本経済との関わりに関心をもつ学生になりましょう。 ②そのなかで関心をもったことについて、国際経済の初歩的な理論を使って説明できるようになりましょう。 後半の目標は、世界経済の奥の深さを理解する。
講義方法	教員が作成した「週間国際経済」を使って、前週の国際経済市場動向を解説します。板書も多くなります。頑張ってノートしましょう。 パワーポイントを利用して講義します。
準備学習	皆さんも新聞を読んでください。毎日、国際経済に関する記事ひとつでいいです。できたら本屋に行って経済関係の週刊誌をいくつか買って読んでみましょう。経済学部 of 学生とはそういうものです。
成績評価	出席点が70%です。毎回出席カードに「何に興味を持ってどう考えたか」を書いてください。わからなかったことへの質問も書きましょう。 レポートが30%です。全6回の「週間国際経済」を使いながら、2010年4、5月の国際経済市場の特徴を自身が関心をもったことを中心にまとめてください。 後半の成績はテストです。
講義構成	1回目は、国際経済の見方、国際経済学の考え方をざっくりと説明します。 2回目から7回目まで「週間国際経済」です。 この期間に国際経済に関する大事件が起こったら、それにフォーカスして観察しましょう。 後半の講義の構成は次の通りです。 1. 1930年代世界大恐慌 2. 世界経済の構造変化 3. 2008年の世界金融危機 4. グリーン・ニューディール

教科書	使いません。あえていえば新聞です。
参考書・資料	おもしろくて、わかりやすい本が出版されたら(当然されるでしょう)紹介します。
担当者から一言	最初はわけがわからないはずですが、だんだんわかっていけば楽しくなるかもです。でもそのためには授業中の集中力がいるでしょうね。だから人の集中を乱すような行為(私語はもちろん)教育サービス業者の使命感にもとづいて厳しく注意します。

授業コード	31L52		
授業科目名	国際経済入門(2クラス)(後)		
担当者名	高 龍秀(コ ヨンス)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	1960年代より高度成長をしたアジアNIES(韓国、台湾、香港、シンガポール)、少し遅れて成長をはじめたASEAN、中国の経済の特徴を学ぶ。欧米も含めた世界経済の現状を学ぶ。
到達目標	アジア各国の経済と世界経済について基本的な理解力をつける。
講義方法	毎回資料を配布する。ビデオ・パワーポイントを使い、視覚的にもアジア経済を理解するようにする。よく授業を聞き質問に回答をした者に1～10点のポイントを与える。私語などで授業のじゃまをすれば退場させ減点する。
準備学習	前回学んだ点をもう一度復習し理解するようにする。
成績評価	小テスト20点程度、レポート15点、期末テストを65点で厳密に評価する。毎回、授業で習った事を理解していないと、単位を取ることは難しい。
講義構成	第1講:この講義のガイダンス。 アジアの歴史性と多様性。日本はアジアの一員か？ 第2講:アジアNIEs開発モデルとは？ アジアNIEs工業化の特徴:「三者同盟」 第3講:アジアNIEsと外資導入 第4講:アジアNIEsと国家の役割 国家による経済介入。なぜ「開発独裁」が登場したのか？ 第5講:アジアNIEsの現地資本 第6講:アジアNIEs4地域の特徴 第7講:ASEAN経済 第8講:タイ・マレーシア経済 第9講:フィリピン・インドネシア経済 第10講:アジアの通貨危機 第11講:中国経済の歴史的展開 第12講:中国の改革・開放政策 第13講:世界経済の現状 第14講:まとめ 21世紀の日本とアジア
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	平川・石川編『東アジアのグローバル化と地域統合』ミネルヴァ書房、2007年。 中村尚司『人々のアジア』岩波新書、650円。 鶴見良行『東南アジアを知る』岩波新書。 末広昭『タイー開発と民主主義』岩波新書 加藤弘之・上原一慶『中国経済論』ミネルヴァ書房
担当者から一言	アジア経済は活気に満ちている。21世紀の日本にとって、アジアとの関係はますます重要なものとなる。アジア経済と世界経済の現状について、よく理解すると共に、そのポイントを語れる能力をつけてもらいたい。授業中の私からの質問に積極的に答える学生を歓迎する。

授業コード	31038		
授業科目名	今日の経済問題I		
担当者名	藤本建夫(フジモト タテオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	震災と経済 2007年度以前入学生用		

講義の内容	15年前に阪神・淡路地帯は大震災に襲われます。それ以降被災地は一向に経済は回復しません。それはどこに原因があるかを明らかにする。		
到達目標	自然災害と経済活動、それに政策が深く関わっていることを理解する。		
講義方法	テキスト、パワーポイントおよび板書を使って講義する。		
準備学習	下記のテキストを良く読んでくる。		
成績評価	テストで評価する。		
講義構成	1. ポートピア 2. 宮崎神戸市政 3. 日米貿易摩擦とバブル経済 4. 阪神・淡路大震災 5. 二つの大震災と金融政策 6. 国家の復興政策 7. 国会における復興予算審議 8. 金融・経済危機下の被災地経済 9. あだ花の産業復興政策 10. 大震災から10年 11. 政治家に問われる「情熱、責任感、判断力」		
教科書	藤本建夫『何が地方都市再生を阻むのか』晃洋書房、2010年		

授業コード	31079		
授業科目名	今日の経済問題II(後)		
担当者名	金 俊行(キム ジュネン)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限 木曜3限
特記事項	グローバリズムとアジア 2007年度以前入学生適用		

講義の内容	本講義では、「グローバリゼーション」とは多様な資本主義の相互依存関係の深化として肯定的理解の上に立ち、一方で「グローバリズム」とは米国型市場経済の普遍化という覇権的なイデオロギーであるとして批判していく。アジアでは、分断された開放経済である韓国が対象になる。韓国経済は、外資導入輸出工業化政策によって世界経済との相互依存性を強めながら発展してきた。一方でそれは、グローバリズムによって育成され、かつ深刻な危機を経験してきた。講義の前半では、その生成・発展過程を概観した後、1997年の通貨危機の本質と、アジア経済全体の課題について解説する。講義の後半では、「今日の経済問題」として〈東アジア共同体〉の現状と展望について、貿易および国際金融の側面から考察していきたい。		
到達目標	①戦後世界経済の変遷と連関させて新興工業化経済の発展過程を理解する。 ②ドル基軸通貨体制の矛盾から今日の世界経済混迷の本質を考える。 ③国際金融および国際貿易の基礎的な理解を得る。		
講義方法	講義プリントを中心に板書でこれを補う形で進行する。		
準備学習	国際経済関連科目(国際経済論、国際金融論、アジア経済論、マクロ経済)などの科目のうち2科目以上をすでに単位取得していることが望ましいが、履修の前提とはしない。		
成績評価	4単位科目であるので、より多く、より熱心に受講した学生により高い評価を行うために、平常点を40%程度付与したい。授業に対するコメントを記入した出席カードの提出や、講義ノートの提出などを総合して評価する。配分としては、平常点40点＋期末試験60点を考えている。		

講義構成	1, 2回目 授業ガイダンス 3, 4回目 グローバリズムとは何か 5, 6回目 戦後米国対外援助政策と資本蓄積 7, 8回目 外資導入輸出工業化政策の金融システム 9, 10回目 ボラティリティの拡大と高度経済成長 11, 12回目 資本移動自由化と証券化 13, 14回目 フランケンシュタイン・エコノミー 15, 16回目 アジア通貨危機とワシントン・コンセンサス 17, 18回目 変動相場制移行の意味 19, 22回目 東アジア共同体の課題(1) 23, 24回目 東アジア共同体の課題(2)
教科書	適当なものがあれば指定する。
参考書・資料	金俊行著『グローバル資本主義と韓国経済発展』御茶の水書房 その他必要に応じて随時紹介する。
その他	経済学に関する基礎的な知識を備えていることが望ましいが、それはある程度授業のなかで補っていきたい。何よりも講義内容に対する関心が求められる。また、静かで心地よく集中できる受講環境に協力していただきたい。

授業コード	31104		
授業科目名	今日の経済問題III (前)		
担当者名	吉川真裕(ヨシカワ マサヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	金融市場と金融商品 2007年度以前入学生用		

講義の内容	ファイナンス理論の考え方にに基づいて、金融市場と金融商品について解説する。受講者の金融リテラシーの向上を目指し、将来の資産運用(年金や保険等、すべての人がかわりを持つ)に役立つことを目的とする。
到達目標	細かな知識をたくさん得ることよりも資産運用に関する基本的な考え方を理解し、他の人にも説明できるようになることを目指している。
講義方法	できるだけパソコン(パワーポイント、エクセル)、インターネット、ビデオを用いて進めていくが、ただ漠然と話を聞いているだけでなく、重要なことはしっかりとノートをとることをお勧めする。
準備学習	事前の準備は特に必要としないが、授業後にその日の内容を復習することをお勧めする。
成績評価	原則として期末試験(持ち込み不可の論述問題)の成績による。
講義構成	1. なぜ金融リテラシーが必要か 2. 金融商品と金融リスク 3. ファイナンス理論の基本(割引現在価値) 4. リスクとリターン 5. ポートフォリオ投資 6. 市場ポートフォリオと分離定理 7. デリバティブ 8. 投資信託 9. 確定給付年金と確定拠出年金 10. ライフ・ステージと証券投資
教科書	井手正介・高橋文郎『ビジネスゼミナール 証券投資入門』日本経済新聞社、2001年、2500円。現在、品切れ状態であり、改訂版が出なければ代替りの教科書は指定しない。なお、大きな書店や古本屋(アマゾンを含む)で若干数は入手できるはずなので、必要な人は探してほしい(もちろん、図書館にもある)。
参考書・資料	井手正介『株式投資入門』日本経済新聞社、2008年 バートン マルキール『ウォール街のランダム・ウォーカー』日本経済新聞社、2004年 チャールズ エリス『敗者のゲーム』日本経済新聞社、2003年 ジョン C. ボーグル『インデックス・ファンドの時代』東洋経済新報社、2000年 久保田敬一『よくわかるファイナンス』東洋経済新報社、2006年 大村敬一・俊野雅司『証券投資理論入門』日経文庫、2000年 大和総研『日本人のためのお金教科書』翔泳社、2001年

	野村証券投資情報部『証券投資の基礎』丸善、2002年
講義関連事項	金融や証券関連の科目と合わせて受講すれば、学習の相乗効果が上がるものと考えられる。
担当者から一言	誰もが避けて通れない「人生におけるお金の問題」を学生のうちに勉強しておけば、将来、役立つものと期待している。「資産運用はお金持ちにはかならずしも必要でないが、お金を十分に持たない多くの人にこそ必要である。」

授業コード	31084		
授業科目名	今日の経済問題IV (後)		
担当者名	稲田義久(イナダ ヨシヒサ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	日本の資本市場 野村証券(株)提携講座 * 2007年度以前入学生用		

講義の内容	このコースは野村証券株式会社によって提供されるもので、講師陣は野村証券および野村総合研究所等の実務に長けた人々から構成される。 資本市場(株式、債券などの市場)が家計や企業の資金運用・調達にあたって、どのように機能しているかを現状に即して実務家が説明する。		
到達目標	新聞の金融経済記事の理解と金融経済の基礎知識の習得		
講義方法	野村証券のスタッフによる講義		
準備学習	新聞の金融経済欄に目を通しておくこと		
成績評価	期末の試験によって評価する。		
講義構成	ガイダンス 経済情報のとらえ方 経済成長と金融資本市場 証券投資のリスク・リターン ポートフォリオ・マネジメント 債券市場の役割と投資の基礎知識 株式市場の役割と投資の基礎知識 投資信託の役割とその仕組み 支店見学 金融市場の役割とその変化 資本市場における投資家心理 資産運用とライフ・プランニング (以上2009年度実績)		
教科書	教科書は使用しない。		
参考書・資料	野村証券投資情報部編『証券投資の基礎』丸善株式会社 氏家純一編『日本の資本市場』東洋経済新報社		

授業コード	31028		
授業科目名	財政 (前)		
担当者名	永廣 顕(エヒロ アキラ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
オフィスアワー	講義終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	今日の日本財政においては、深刻な財政赤字および債務残高の累増、少子高齢化や格差社会問題、アメリカの金融危機に端を発した景気後退への対応が当面の政策課題となり、昨年9月に誕生した新政権においても財政運営の方向性が問われている状況にある。本講義では、日本経済において重要な役割を担っている財政に
-------	---

	ついて、理論、制度、歴史、政策それぞれに配慮しながら解説をおこなう。また、政権交代による影響についても可能な範囲で言及したい。
到達目標	今日の日本財政を多角的な視点から理解できるようになることを目標とする。
講義方法	(1)板書中心の講義形式とする。 (2)参考資料の説明時にパワーポイントを使用する。 (3)My KONANと財政ホームページで、講義前日までにレジメを公開する。 (4)講義開始時にレジメと参考資料を配付する。 (5)講義内容を記録するためのノート類や配付物を保存するためのファイル類を準備しておくこと。
準備学習	講義の前に必ずMy KONANをチェックし、公開されたレジメにより講義の概要を確認しておくこと。
成績評価	学期末試験の得点のみで評価する。
講義構成	1. イントロダクションー財政を学ぶにあたって 2. 現代財政と財政システム(1)ー財政とは何か 3. 現代財政と財政システム(2)ー三つの政府体系 4. 経費分析ー経費の分類と構造 5. 租税理論と税制改革(1)ー租税体系 6. 租税理論と税制改革(2)ー所得税(1) 7. 租税理論と税制改革(3)ー所得税(2) 8. 租税理論と税制改革(4)ー所得税(3) 9. 租税理論と税制改革(5)ー法人税 10. 租税理論と税制改革(6)ー消費税(1) 11. 租税理論と税制改革(7)ー消費税(2) 12. 租税理論と税制改革(8)ー税制改革 13. 財政赤字と公債理論(1)ー財政赤字とプライマリー・バランス 14. 財政赤字と公債理論(2)ー財政赤字の問題点 15. 財政赤字と公債理論(3)ー公債制度 16. 財政赤字と公債理論(4)ー公債政策の推移 17. 社会保障財政(1)ー年金(1) 18. 社会保障財政(2)ー年金(2) 19. 社会保障財政(3)ー年金(3) 20. 社会保障財政(4)ー年金(4) 21. 社会保障財政(5)ー医療保険 22. 社会保障財政(6)ー介護保険 23. 社会保障財政(7)ー社会保障制度改革 24. 予算制度(1)ー予算の仕組み(1) 25. 予算制度(2)ー予算の仕組み(2) 26. 予算制度(3)ー予算過程 27. 財政投融资ー財政投融资制度 28. 総括ーこれからの財政 29. 学期末試験
教科書	特定の教科書は使用しない。財政全般については、片桐正俊編[2007]『財政学ー転換期の日本財政(第2版)』(東洋経済新報社)、金澤史男編[2005]『財政学』(有斐閣)、神野直彦[2007]『財政学[改訂版]』(有斐閣)、持田信樹[2009]『財政学』(東京大学出版会)を参照のこと。
参考書・資料	資料として、福田淳一編[2009]『図説日本の財政(平成21年度版)』(東洋経済新報社)をあげておく。その他、必要に応じて講義時間中に紹介する。
講義関連事項	2008年度以降入学生は「地方財政Ⅰ・Ⅱ」、2007年度以前入学生は「地方財政」も聴講することが望ましい。
担当者から一言	講義内容をより深く理解するために、今日の日本財政、日本社会が抱える諸問題に関心を持って講義を聴講すること。
ホームページタイトル	{財政(2010), http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/zaisei2010/zaisei2010.htm }
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/zaisei2010/zaisei2010.html

授業コード	31L31		
授業科目名	財政・金融入門（1クラス）(前)		
担当者名	永廣 顕(エヒロ アキラ)、中島清貴(ナカシマ キヨタカ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	講義終了後、または、担当者の研究室在室時		
講義の内容	世の中の経済活動には必ずお金のやりとりがつきまとう。したがって、お金の流れを分析すれば、経済全体の動きも理解することができる。本講義では、市場経済社会を統治する政府の経済活動である「財政」と、経済主体間の資金過不足の調整である「金融」について、基本的なしくみや専門用語の解説をおこなう。		
到達目標	財政・金融の基本的なしくみや専門用語を学ぶことで、現実の財政・金融問題を理解するための方法を身につけることを目標とする。		
講義方法	(1)板書やパワーポイントによる講義形式とする。 (2)レジメや参考資料を配付する。		
準備学習	講義の前に必ずMy KONANをチェックし、講義の概要を確認しておくこと。		
成績評価	学期末試験(財政50点、金融50点、合計100点満点)の得点のみで評価する。		
講義構成	1. イントロダクションー財政・金融を学ぶにあたって 2. 財政とは何かー3つの経済主体の関係 3. お金の使い道 4. 税金のしくみ(1) 5. 税金のしくみ(2) 6. 政府の借金 7. 年金のしくみ 8. 金融とは何かーリスクと情報の重要性について 9. 今日のお金の価値と明日のお金の価値 10. リスクの分散(1) 11. リスクの分散(2) 12. 情報の非対称性とモラルハザード 13. 情報の非対称性と逆選択 14. 総括ーこれからの財政・金融 15. 学期末試験		
教科書	特定の教科書は使用しない。財政の入門書として、神野直彦[2007]『財政のしくみがわかる本』(岩波ジュニア新書)、金融の入門書として、石野雄一[2007]『ざっくり分かるファイナンスー経営センスを磨くための財務』(光文社新書)をあげておく。		
参考書・資料	必要に応じて講義時間中に紹介する。		
講義関連事項	講義内容を記録するためのノート類や配付物を保存するためのファイル類を準備しておくことが望ましい。		
担当者から一言	高校の「政治・経済」や「現代社会」で学習した財政・金融に関する項目を復習しておくこと。		

授業コード	31L32		
授業科目名	財政・金融入門(2クラス)(後)		
担当者名	中島清貴(ナカシマ キヨタカ)、永廣 顕(エヒロ アキラ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	講義終了後、または、担当者の研究室在室時		
講義の内容	世の中の経済活動には必ずお金のやりとりがつきまとう。したがって、お金の流れを分析すれば、経済全体の動きも理解することができる。本講義では、市場経済社会を統治する政府の経済活動である「財政」と、経済主体間の資金過不足の調整である「金融」について、基本的なしくみや専門用語の解説をおこなう。		
到達目標	財政・金融の基本的なしくみや専門用語を学ぶことで、現実の財政・金融問題を理解するための方法を身につけることを目標とする。		
講義方法	(1)板書やパワーポイントによる講義形式とする。 (2)レジメや参考資料を配付する。		

準備学習	講義の前に必ずMy KONANをチェックし、講義の概要を確認しておくこと。
成績評価	学期末試験(財政50点、金融50点、合計100点満点)の得点のみで評価する。
講義構成	1. イントロダクションー財政・金融を学ぶにあたって 2. 財政とは何かー3つの経済主体の関係 3. お金の使い道 4. 税金のしくみ(1) 5. 税金のしくみ(2) 6. 政府の借金 7. 年金のしくみ 8. 金融とは何かーリスクと情報の重要性について 9. 今日のお金の価値と明日のお金の価値 10. リスクの分散(1) 11. リスクの分散(2) 12. 情報の非対称性とモラルハザード 13. 情報の非対称性と逆選択 14. 総括ーこれからの財政・金融 15. 学期末試験
教科書	特定の教科書は使用しない。財政の入門書として、神野直彦[2007]『財政のしくみがわかる本』(岩波ジュニア新書)、金融の入門書として、石野雄一[2007]『ざっくり分かるファイナンスー経営センスを磨くための財務』(光文社新書)をあげておく。
参考書・資料	必要に応じて講義時間中に紹介する。
講義関連事項	講義内容を記録するためのノート類や配付物を保存するためのファイル類を準備しておくことが望ましい。
担当者から一言	高校の「政治・経済」や「現代社会」で学習した財政・金融に関する項目を復習しておくこと。

授業コード	31032		
授業科目名	産業経済(産業政策)(後)		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
特記事項	2007年度以前入学生は産業政策として履修 2008年度以降入学生は産業経済として履修		
講義の内容	日本経済は第2次大戦後、ダイナミックな持続的成長を通じて自由世界第2位の経済大国になった。しかし、今世紀に入ってから人口の高齢化や円高により成熟・停滞経済化の段階にはいった。この間の日本産業の動向を経済学の基本的ツールで解説し、併せて政府の産業政策についても言及する。		
到達目標	標準的経済学のツールで産業の動向が分析できるようになること。日本の産業を事例として取り上げるが、学生諸君が卒業後に活躍することになる可能性のある近隣のアジア諸国の産業動向を適切に分析できるようになってもらいたい。		
講義方法	一般の講義。ハンドアウトを配布するので、講義の際の追加情報をメモする習慣を身につけて欲しいと思う。		
準備学習	受講に際しての準備としては、ミクロ経済学のとくに企業理論に関する部分を復習して欲しい。また、講義前の準備としては、各講義前に配布したハンドアウトを一読して、講義の流れを把握しておいて貰いたい。		
成績評価	期末試験で評価する。		
講義構成	1. 経済発展と政府の役割 2. 産業発展と産業政策 - 自立期の日本産業と産業政策 - 高度成長期の日本産業と産業政策 - 成熟期の日本産業と産業政策 3. 経済の国際化と産業構造の変化 - 産業構造の変化と貿易 - 国際分業の広がり - 直接投資と産業構造 - アジア経済と日本の産業構造 4. 日本のミクロ経済システム - 企業システム		

	流通システム 政府規制
教科書	とくに指定しない。 参考書としてあげたものなどを参考のこと。
参考書・資料	鶴田俊正・伊藤元重著『日本産業構造論』NTT出版。 『通商白書』(各年)、『中小企業白書』(各年)ほか。
講義関連事項	主にミクロ経済学を応用した内容です。理論的基礎も実際の日本産業に関する知識も大切です。
担当者から一言	新聞記事にご注目！ ホットな話題はきっと関心をひくと思いますので、講義中に言及します。遠慮なく発言(質問)してください。

授業コード	31L61		
授業科目名	産業経済入門（1クラス）(前)		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生用		
オフィスアワー	火曜13時から15時まで		

講義の内容	産業構造、産業組織、公益事業、産業政策などの分野を将来、いっそう詳しく学ぶ際の基礎になる考え方や知識を身につけてもらう。 はじめに、産業経済の問題を分析する際に、経済学の理論、とりわけミクロ経済学がどのように応用されるかを説明する。続いて、様々な産業において、どのような特徴があるのかを、個別に検証する。 産業の発展は、民間企業の創意工夫によって推進される部分が大いだが、政府による介入の必要性についても言及する。
到達目標	産業の発展の様子を、ミクロ経済学の分析ツールで説明できるようになる。
講義方法	配布資料やパワーポイントを使って講義する。配布資料には空白部分を設けるので、講義内容についてメモをすることを期待したい。また、講義期間中に一度、中間試験を行う予定。
準備学習	配布資料を一読しておくことを希望する。また、講義後に日を置いてメモを読み直して、講義内容を再確認して欲しい。
成績評価	中間試験(40%)と期末試験(60%)で評価する。
講義構成	1～3回 ミクロ経済学の基礎(需要、供給、余剰概念) 4～6回 ミクロ経済学の応用(比較静学分析、独占と寡占の分析) 7～8回 経済発展と産業構造の変化 9～14回 個別産業の発展過程と課題(自動車、鉄鋼、造船、流通、運輸など)
教科書	教科書として1冊を指定できる適当な書籍がありませんので、それに代えて配布物を用意します。参考書にあげた書物も有益です。
参考書・資料	なかなか適当な入門書がないので、参考書として以下の書物を挙げておきます。三菱総合研究所編『日本経済読本(第8版)』東洋経済新報社。
担当者から一言	日本産業の発展・成熟を経済学の標準的なツールで簡単に分析できます。さまざまな面白いエピソードも、経済学の知識をもって聞けば、よく理解できると思います。

授業コード	31L62		
授業科目名	産業経済入門（2クラス）(後)		
担当者名	林 健太(ハヤシ ケンタ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照)		

	2008年度以降入学生用
オフィスアワー	第1回講義時に伝える。
講義の内容	産業構造、産業組織、公益事業、産業政策などの分野を将来、いっそう詳しく学ぶ際の基礎になる考え方や知識を身に付けて貰う。 はじめに、産業経済の問題を分析する際に、経済学の理論、とりわけミクロ経済学がどのように応用されるかを説明する。つづいて、様々な産業において、どのような特徴があるのか、個別に検証する。 産業の発展は、民間企業の創意工夫によって推進される部分が大いだが、政府による介入の必要性についても言及する。
到達目標	産業組織論の基礎となるミクロ経済学の知識を確固たるものにすると同時に、情報通信分野の動向を知ること、これからどのような世の中を生きていかなければならないのかを自ら考えられるようになる。
講義方法	パワーポイントや配付資料を使って講義を行う。 また、講義期間中に一度、中間試験を行う。
準備学習	入門ミクロ経済学の復習をすると同時に、日頃から新聞やウェブサイトを目を通し、経済や産業（特に情報通信産業）の動向をチェックしておくこと。
成績評価	中間試験(40%)＋学期末試験(60%)で評価する。
講義構成	第1回～第3回:ミクロ経済学とは(需要・供給・余剰) 第4回～第6回:ミクロ経済学の応用(独占・寡占) 第7回:中間テスト 第8回～第15回:情報通信分野の話題提供
教科書	特定の教科書は使用しない。
参考書・資料	G.マンキュー『マンキュー経済学1 ミクロ編』東洋経済新報社 伊藤元重『入門経済学』日本評論社

授業コード	31085		
授業科目名	産業組織		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	市場経済が効率的に機能するためには、市場が競争的に構成されていることが必要である。産業組織論とは、ミクロ経済学を基礎に、現実の市場に理論を適用する際に必要な、さまざまな特別の要因を考慮して、現実の諸産業を分析・評価することを目標としている。 この講義では、指定した教科書に沿って、伝統的な産業組織論(S-C-Pパラダイム)の分析手法を解説し、それに加えて新しい企業行動の理論的分析による伝統的分析の深化について講義する。
到達目標	数学的取扱いを要しない範囲で、独占や寡占、企業間協調による経済的損失を説明できるようになることを到達目標とする。
講義方法	一般の講義スタイル。ハンドアウトを用意するので、そこに講義内容の追加説明をメモする習慣を身につけてもらいたい。
準備学習	講義に対する全体的準備としては、ミクロ経済学の講義で習った内容のうち、企業行動に関する部分を復習しておくこと。 また、毎回の準備としては、教科書の該当章の項目を良く見て、講義のアウトラインをまず理解すること。ならびに、分析には図を主に使うので、図の意味するところを理解しておくこと。
成績評価	期末試験の結果による。
講義構成	前期 1. 産業組織論の概略 2. 企業行動と産業組織 3. 産業組織論の発展 4. 合併の経済分析 5. 企業間協定の経済分析 6. 企業の戦略的行動と産業組織 7. 価格競争と非価格競争 8. 技術革新と企業間競争、産業組織 9. ネットワーク外部性と標準化 10. 経済のグローバル化と産業組織 11～12. 競争政策 13～14 政府規制の経済的根拠 後期

	15. 競争政策の意義 16. 競争政策の生い立ち 17. 共謀と協調:カルテル規制政策 18. コンテストابل市場の理論と参入阻止戦略、参入政策 19. 一般集中の概念 20. 独占的状態の排除政策 21. 合併・買収の規制政策 22. 垂直的取引制限の規制政策 23. 不当廉売の規制 24. 企業の垂直的統合;取引費用の経学 25. 下請取引と優越的地位の乱用に対する規制 26. 技術革新と知的財産権 27. 交易事業分野の競争と規制 28. 経済のグローバル化と競争政策
教科書	前期分:土井教之編著『産業組織論入門』ミネルバ書房。 後期分:小田切宏之『競争政策論』日本評論社。
参考書・資料	1. 新庄浩二編『産業組織論[新版]』有斐閣。 数学的取扱いが好きな学生には、次の書籍が参考になる。 2. 小田切宏之『新しい産業組織論』有斐閣。
担当者から一言	企業合併やカルテルの話題が新聞紙上にのりこもきとあるでしょう。気をつけてみましょう。

授業コード	31086		
授業科目名	産業組織Ⅰ(前)		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「産業組織Ⅰ」・「産業組織Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		

講義の内容	市場経済が効率的に機能するためには、市場が競争的に組織されていることが必要である。産業組織論とは、ミクロ経済学を基礎に、現実の市場に理論を適用する際に必要な、さまざまな特別の要因を考慮して、現実の諸産業を分析・評価することを目標としている。 この講義では、指定した教科書に沿って、伝統的な産業組織論(S-C-Pパラダイム)の分析手法を解説し、それに加えて新しい企業行動の理論的分析による伝統的分析の深化について講義する。
到達目標	数学的取扱いを要しない範囲で、独占や寡占、企業間協調による経済的損失を説明できるようになることを到達目標とする。
講義方法	一般の講義スタイル。ハンドアウトを用意するので、そこに講義内容の追加説明をメモする習慣を身につけてもらいたい。
準備学習	講義に対する全体的準備としては、ミクロ経済学の講義で習った内容のうち、企業行動に関する部分を復習しておくこと。 また、毎回の準備としては、教科書の該当章の目次を良く見て、講義のアウトラインをまず理解すること。また、分析には図を主に使うので、図の意味するところを理解しておくこと。
成績評価	期末試験の結果による。
講義構成	1. 産業組織論の概略 2. 企業行動と産業組織 3. 産業組織論の発展 4. 合併の経済分析 5. 企業間協定の経済分析 6. 企業の戦略的行動と産業組織 7. 価格競争と非価格競争 8. 技術革新と企業間競争、産業組織 9. ネットワーク外部性と標準化 10. 経済のグローバル化と産業組織 11～12. 競争政策 13～14. 政府規制政策
教科書	土井教之編著『産業組織論入門』ミネルバ書房。
参考書・資料	1. 新庄浩二編『産業組織論[新版]』有斐閣。 数学的取扱いが好きな学生には、次の書籍が参考になる。 2. 小田切宏之『新しい産業組織論』有斐閣。

担当者から一言	企業合併やカルテル事件が新聞紙上にのることが学期中にきつとあるでしょう。気をつけて新聞をみましょう。
---------	--

授業コード	31087		
授業科目名	産業組織Ⅱ(後)		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「産業組織Ⅰ」・「産業組織Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		

講義の内容	産業組織論は現実の諸産業を価格理論をもとに、各産業の技術的特性や需要の特徴などを考慮して評価し、必要があれば政策手段を行使して企業の活動を是正することを目指している。 この講義では、産業組織Ⅰで扱った理論的分析を活かして、競争政策をどのように展開していくべきかを講義する。
到達目標	企業にとっては当然である、と考えられそうな競争手段が、場合によってはどのように経済全体の成果を悪化させることがあるかを理解すること。 近年では企業のコンプライアンスが強調されているが、日本企業は競争政策にかかわる面で結構問題をおこしている、就職前にこの面の知識を身につけることは大変有益である。
講義方法	一般の講義スタイル。 ハンドアウトのメモ欄を活用して、各回の講義の全体としてのイメージを頭に描いてください。
準備学習	講義全体の準備としては、ミクロ経済学の企業理論の箇所と、産業組織Ⅰの内容にざっと目を通しておいください。 また、毎回の講義の準備としては、教科書の該当箇所をざっと読んでおいください。
成績評価	期末試験の結果による。
講義構成	1. 競争政策の意義 2. 競争政策の生い立ち 3. 共謀と協調:カルテル規制 4. コンテストابل市場の理論と参入阻止戦略 5. 一般集中の概念 6. 独占的状态の排除 7. 合併・買収 8. 垂直的取引制限 9. 不当廉売の規制 10. 企業の垂直的統合;取引費用の経学 11. 下請取引と優越的地位の乱用 12. 技術革新と知的財産権 13. 交易事業分野の競争と規制 14. 経済のグローバル化と競争政策
教科書	小田切宏之『競争政策論』日本評論社。
参考書・資料	1. 小田切宏之『新しい産業組織論』有斐閣 教科書より理論的性格が濃厚で、難易度も高いが、競争政策上の事例を挙げてあって参考になる。 2. 『公正取引委員会年次報告(独占禁止白書)』(各年) 競争政策に関する行政活動の資料として有益。

担当者から一言	カルテルへの課徴金賦課や大企業の合併審査など、新聞紙上ににぎわす事件がこの学期中におければ、この講義もきっと印象に残ることでしょう。 昨年はパナソニックによる三洋電機の合併が、世界各国の市場での両社のシェアが高かったことから、各国の独禁法に対処するためにずいぶん時間や対処を要しました。こういう事案を念頭に置きながら勉強すると、勉強のための勉強ではない、と分かってきます。
---------	---

授業コード	31092
-------	-------

授業科目名	社会経済思想		
担当者名	奥田 敬(オクダ タカン)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	金曜日4限 9号館7階奥田研究室		
講義の内容	18世紀に「新しい科学」として経済学が登場するまで、人々はどのように社会をとらえていたのだろうか(第Ⅰ部)、また、経済学という新しい思想－イデオロギー？－はいかにして形成され何を問題として残しているのだろうか(第Ⅱ部)。経済学の初心に立ちもどり、その出現の人類史的な意味の考察を通じて、現代世界が「どこから、どこへ」向かいつつあるのかを探りたい。		
到達目標	「考えるヒント」として古典を活用する力と習慣を身につけること。		
講義方法	基本的には原典に即して文献講読(lecture)のような形式で進めるが、リアクション・ペーパーに応じて適宜ディスカッションも交える。		
準備学習	最低限の要望としては、講義資料の指定箇所には必ず目を通し、疑問点をチェックしておくこと。興味が湧いたら、その原典を手にとってほしい。		
成績評価	基本的には期末試験の得点によるが、毎回配布するリアクション・ペーパーや随時課題とするミニ・レポートが内容的に優れていれば、加点の対象とする。		
講義構成	第1回 序論：現代「経済学」(ミクロ/マクロ/マルクス)の起源 第Ⅰ部 〈homo politicus〉と〈homo religiosus〉 第2回 総説：ヘレニズムとヘブライズム 1-A.「ポリス」と「オイコス」：古代地中海世界の政治と社会 第3回 〈労働〉と〈競争〉―ヘシオドスからソクラテスまで 第4回 〈分業〉と〈正義〉―プラトン『国家』 第5回 〈幸福〉と〈国家〉―アリストテレス『政治学』 第6回 〈貨幣〉と〈分配〉―アリストテレス『ニコマコス倫理学』 第7回 〈快楽〉と〈意志〉―エピクロス主義・ストア主義・懐疑主義 第8回 〈有徳〉と〈有用〉―キケロー『義務論』 1-B.「神の支配」と「地上の帝国」：キリスト教における人間と世界 第9回 〈原罪〉と〈福音〉―『旧約聖書』と『新約聖書』 第10回 〈歴史〉と〈永遠〉―アウグスティヌス『神の国』 2. 貨殖と救済：ラテン中世の宗教と経済 第11回 〈恩恵〉と〈自然〉―トマス・アクィナス『神学大全』 第12回 〈煉獄〉と〈運命〉―ダンテ『神曲』 3-A. 解放された「万能人」：ルネサンスと共和主義 第13回 〈権力〉の現実―マキアヴェッリ『君主論』 第14回 〈古代〉への憧憬―マキアヴェッリ『ディスコルシ』 3-B. 禁欲する「専門人」：宗教改革の「召命=天職」論 第15回 小括：〈近代〉への展望―ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 第Ⅱ部 〈homo economicus〉の誕生 第16回 総説：ヨーロッパ啓蒙と〈経済学〉 4. 絶対主義から市民社会へ 第17回 〈主権〉のための「社会契約」 第18回 〈恐怖〉から〈平等〉へ―ホッブズ『リヴァイアサン』 第19回 〈所有〉から〈自由〉へ―ロック『統治二論』 第20回 〈自愛〉から〈連帯〉へ―ルソー『社会契約論』 5. 「富への道」と「徳への道」 第21回 〈文明〉としての「商業」 第22回 〈私悪〉と〈公益〉―マンディヴィル『蜂の寓話』 第23回 〈奢侈〉と〈政体〉―モンテスキュー『法の精神』 第24回 〈技芸〉と〈勤労〉―ヒューム『政治論集』 第25回 〈理性〉と〈感情〉―ルソー『学問芸術論』『人間不平等起源論』『エミール』 第26回 〈同感〉と〈交換〉―スミス『道徳感情論』 第27回 〈権威〉と〈功利〉―スミス『法学講義』 第28回 〈価値〉と〈資本〉―スミス『国富論』 第29回 〈市場〉と〈友情〉―ジェノヴェーゼ『市民の経済』 第30回 総括：啓蒙の〈経済学〉から「経済学」の啓蒙へ		
教科書	原典史料の抜粋と参考文献のリストをプリントして配布するので、特定の教科書は用いない。		

参考書・資料	その都度紹介するが、さしあたりは全体的な予備知識を得るために次の2冊を推薦する。 (1)八木紀一郎『経済思想』(日本経済新聞社) (2)山脇直司『ヨーロッパ社会思想史』(東京大学出版会)
講義関連事項	関連科目として「経済学の歴史」と「経済史」を履修していることを前提に講義する。並行して「歴史と経済」(広域副専攻科目)・「西洋経済史」・「現代経済学の諸潮流」・「日本の経済思想家」を履修することを推奨する。
担当者から一言	本講は2500年あまりの長期にわたる大河ドラマのようなものである。必ず最初から最後まで聴き通してほしい。

授業コード	31093		
授業科目名	社会経済思想Ⅰ(前)		
担当者名	奥田 敬(オクダ タカシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「社会経済思想Ⅰ」・「社会経済思想Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	金曜日4限 9号館7階奥田研究室		

講義の内容	18世紀に「新しい科学」として経済学が登場するまで、西欧世界の人々はどのように社会をとらえていたのだろうか？ ヘレニズムとヘブライズムを源泉とする〈homo politicus〉(政治人)と〈homo religiosus〉(宗教人)という近代以前の2つの人間像を導きとして、経済学の湧出に至るまでの思想の伏流を辿る。
到達目標	「考えるヒント」として古典を活用する力と習慣を身につけること。
講義方法	基本的には原典に即して文献講読(lecture)のような形式で進めるが、リアクション・ペーパーに応じて適宜ディスカッションも交える。
準備学習	最低限の要望としては、講義資料の指定箇所には必ず目を通し、疑問点をチェックしておくこと。興味が湧いたら、その原典を手にとってほしい。
成績評価	基本的には期末試験の得点によるが、毎回配布するリアクション・ペーパーや随時課題とするミニ・レポートが内容的に優れていれば、加点の対象とする。
講義構成	第1回 序論：現代「経済学」(ミクロ/マクロ/マルクス)の起源 〈homo politicus〉と〈homo religiosus〉 第2回 総説：ヘレニズムとヘブライズム 1-A.「ポリス」と「オイコス」：古代地中海世界の政治と社会 第3回 〈労働〉と〈競争〉—ヘシオドスからソクラテスまで 第4回 〈分業〉と〈正義〉—プラトン『国家』 第5回 〈幸福〉と〈国家〉—アリストテレス『政治学』 第6回 〈貨幣〉と〈分配〉—アリストテレス『ニコマコス倫理学』 第7回 〈快楽〉と〈意志〉—エピクロス主義・ストア主義・懐疑主義 第8回 〈有徳〉と〈有用〉—キケロー『義務論』 1-B.「神の支配」と「地上の帝国」：キリスト教における人間と世界 第9回 〈原罪〉と〈福音〉—『旧約聖書』と『新約聖書』 第10回 〈歴史〉と〈永遠〉—アウグスティヌス『神の国』 2. 貨殖と救済：ラテン中世の宗教と経済 第11回 〈恩恵〉と〈自然〉—トマス・アキナス『神学大全』 第12回 〈煉獄〉と〈運命〉—ダンテ『神曲』 3-A. 解放された「万能人」：ルネサンスと共和主義 第13回 〈権力〉の現実—マキアヴェッリ『君主論』 第14回 〈古代〉への憧憬—マキアヴェッリ『ディスコルシ』 3-B. 禁欲する「専門人」：宗教改革の「召命=天職」論 第15回 小括：〈近代〉への展望—ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
教科書	原典史料の抜粋と参考文献のリストをプリントして配布するので、特定の教科書は用いない。
参考書・資料	その都度紹介するが、さしあたりは全体的な予備知識を得るために次の2冊を推薦する。 (1)八木紀一郎『経済思想』(日本経済新聞社) (2)山脇直司『ヨーロッパ社会思想史』(東京大学出版会)
講義関連事項	関連科目として「経済学の歴史」と「経済史」を履修していることを前提に講義する。並行して「歴史と経済」(広域副専攻科目)・「西洋経済史」・「現代経済学の諸潮流」・「日本の経済思想家」を履修することを推奨する。

授業コード	31094		
授業科目名	社会経済思想Ⅱ(後)		
担当者名	奥田 敬(オクダ タカシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「社会経済思想Ⅰ」・「社会経済思想Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	金曜日4限 9号館7階奥田研究室		

講義の内容	啓蒙の18世紀における全ヨーロッパ的な思想の交流と対抗を背景として、〈homo economicus〉(経済人)という新しい人間像と〈文明としての商業〉(→市民社会)が形成される過程を追う。経済学の初心に立ちもどり、その出現の人類史的な意味の考察を通じて、現代世界が「どこから、どこへ」向かいつつあるのかを探りたい。
到達目標	「考えるヒント」として古典を活用する力と習慣を身につけること。
講義方法	基本的には原典に即して文献講読(lecture)のような形式で進めるが、リアクション・ペーパーに応じて適宜ディスカッションも交える。
準備学習	最低限の要望としては、講義資料の指定箇所には必ず目を通し、疑問点をチェックしておくこと。 興味が湧いたら、その原典を手にとってほしい。
成績評価	基本的には期末試験の得点によるが、毎回配布するリアクション・ペーパーや随時課題とするミニ・レポートが内容的に優れていれば、加点の対象とする。
講義構成	〈homo economicus〉の誕生 第1回 序説：ヨーロッパ啓蒙と〈経済学〉 1. 絶対主義から市民社会へ 第2回 〈主権〉のための「社会契約」 第3回 〈恐怖〉から〈平等〉へ—ホッブズ『リヴァイアサン』 第4回 〈所有〉から〈自由〉へ—ロック『統治二論』 第5回 〈自愛〉から〈連帯〉へ—ルソー『社会契約論』 2. 「富への道」と「徳への道」 第6回 〈文明〉としての「商業」 第7回 〈私悪〉と〈公益〉—マンディヴィル『蜂の寓話』 第8回 〈奢侈〉と〈政体〉—モンテスキュー『法の精神』 第9回 〈技芸〉と〈勤労〉—ヒューム『政治論集』 第10回 〈理性〉と〈感情〉—ルソー『学問芸術論』『人間不平等起源論』『エミール』 第11回 〈同感〉と〈交換〉—スミス『道徳感情論』 第12回 〈権威〉と〈功利〉—スミス『法学講義』 第13回 〈価値〉と〈資本〉—スミス『国富論』 第14回 〈市場〉と〈友情〉—ジェノヴェージ『市民の経済』 第15回 総括：啓蒙の〈経済学〉から「経済学」の啓蒙へ
教科書	原典史料の抜粋と参考文献のリストをプリントして配布するので、特定の教科書は用いない。
参考書・資料	その都度紹介するが、さしあたりは全体的な予備知識を得るために次の2冊を推薦する。 (1)八木紀一郎『経済思想』(日本経済新聞社) (2)山脇直司『ヨーロッパ社会思想史』(東京大学出版会)
講義関連事項	関連科目として「経済学の歴史」と「経済史」を履修していることを前提に講義する。並行して「歴史と経済」(広域副専攻科目)・「西洋経済史」・「現代経済学の諸潮流」・「日本の経済思想家」を履修することを推奨する。

授業コード	31073		
授業科目名	社会政策		
担当者名	岡本 弥(オカモト ヒサシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)

特記事項	2007年度以前入学生適用
講義の内容	わが国で近年観察される雇用状況の変化に注目しながら、労働に関連する経済問題について考える。
到達目標	新聞に日々掲載されている労働に関する記事について、経済学的な見地から、人と議論できるようになること。
講義方法	単位取得を希望する人は、下記の2点を了解のうえ、履修登録のこと。 *成績不良者の救済は絶対に行わない。 *授業中の私語や携帯電話やメールの使用は厳禁。ただし質問は歓迎。
準備学習	入門レベルのミクロ経済学の知識があることが望ましい。
成績評価	中間および最終試験(各50点満点で合計100点満点)+平常点(上限30点)。100点以上のときには100点とする
講義構成	講義予定トピックは以下の通り。 *イントロダクション *賃金と雇用の決まり方 *日本の労働市場 *労働供給 *労働需要 *年功賃金制度 *長期雇用制度 *さまざまな賃金格差 *失業と労働市場 *女性の労働問題 *若年者の雇用問題 *高齢者の雇用問題
教科書	特定の教科書は使用しない。ただし、下記の参考書については、講義をより深く理解するうえで役立つと思われる。
参考書・資料	*大竹文雄(1998)『労働経済学入門』日経文庫 *大橋勇雄・中村二郎(2004)『労働市場の経済学』有斐閣 *佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2000)『マテリアル人事労務管理』有斐閣 *佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2007)『新しい人事労務管理(第3版)』有斐閣アルマ *中馬宏之(1995)『労働経済学』新世社

授業コード	31046		
授業科目名	上級マクロ経済学Ⅰ(変動と成長) (前)		
担当者名	寺尾 建(テラオ タケル)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	2007年度以前入学生は「変動と成長」として、2008年度以降入学生は「上級マクロ経済学Ⅰ」として履修すること。 その際「上級マクロ経済学Ⅰ」・「上級マクロ経済学Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	開講時に、担当者より告知します。		

講義の内容	ジュグラーの波、乗数効果、 与件、予見、 売り手市場、売るべし売るべからず、 キャッシュフロー、金融政策、 有価証券、有効需要の原理、 売りオペレーション、売上高経常利益率、 マネーサプライ、マーシャルのk、 クーポン、クレジット・クランチ、 ロングポジション、ローレンツ曲線、 景気循環、ケインズ、 インフレーション、インセンティブ、 在庫循環、残存期間、 一物一価の法則、一般均衡、 外国為替市場、外需、 クラウディング・アウト、クズネッツ・サイクル、
-------	---

到達目標	経済についてはいうまでもなく、「自分がいかなる思考の枠組を用いているのかを意識しながら、人や物事全般について評価や判断ができる」というレベルの思考力を涵養することが、具体的な到達目標です。
講義方法	双方向的かつ再帰的に行います。
準備学習	「中級マクロ経済学」ならびに「中級ミクロ経済学」での学習内容が、既知のものとして求められます。 具体的には、IS-LM分析による財政政策・金融政策の効果の分析、ならびに予算制約下での効用最大化問題からの需要関数の導出・利潤最大化問題からの供給関数の導出等について精確な理解をしていることが求められます（講義は、講義時間と同程度の時間の予習・復習が求められる水準です）。
成績評価	期末試験の成績を、5段階で評価します。 昨年度の期末試験の成績分布は、履修登録者が100名で、 〔秀〕23名 〔優〕28名 〔良〕19名 〔可〕5名 〔不可〕4名 〔欠席〕21名 でした。この講義は、「講義への参加率が80%以上の場合の合格率は90%以上、参加率が80%未満の場合の合格率は1%未満」という特徴をもっています。
講義構成	昨年度、ある受講生の方が、「階段の上り方ではなく、階段の造り方についての講義」と評してくれました。上級科目です。誰でも興味を抱くような主題は扱いません。誰でも知っているような事項も扱いません。誰でも身につけられるような技術も扱いません。講義構成は、「階段を造りながら上っていく」です。
教科書	使用しません。
参考書・資料	[01] 池尾和人・池田信夫『なぜ世界は不況に陥ったのか』（日経BP社、2009年）。 [02] 大住圭介・川畑公久・筒井修二 編『経済成長と動学』（勁草書房、2006年）。 [03] 大瀧雅之『動学的一般均衡のマクロ経済学』（東京大学出版会、2005年）。 [04] 加藤諒『現代マクロ経済学講義 動学的一般均衡モデル入門』（東洋経済新報社、2006年）。 [05] 神永正博『不透明な時代を見抜く「統計思考力」』（ディスカバー21、2009年）。 [06] 齊藤誠『新しいマクロ経済学〔新版〕』（有斐閣、2006年）。 [07] 齊藤誠『成長信仰の桎梏 消費重視のマクロ経済学』（勁草書房、2006年）。 [08] 櫻川昌哉『経済を動かす単純な論理』（光文社、2009年）。 [09] 時政昂・三輪俊和・高瀬光夫 編『マクロ経済学』（勁草書房、2003年）。 [10] 林文夫 編『経済停滞の原因と制度』（勁草書房、2007年）。 [11] 平川克美『経済成長という病』（講談社現代新書、2009年）。 [12] 吉川洋『現代マクロ経済学』（創文社、2000年）。 [13] 吉川洋・大瀧雅之 編『循環と成長のマクロ経済学』（東京大学出版会、2000年）。 [14] ポール R. クルグマン『クルグマンの視座』（ダイヤモンド社、2008年）。
講義関連事項	「上級マクロ経済学Ⅱ」をあわせて履修することを強く勧めます。
担当者から一言	受講生のみなさんは、これまで「足し算」で考えていた問題をすべて、「掛け算」で考え直すことになるはずです。あるいは、これまで「他人事」として考えていた問題をすべて、「自分のこと」として考え直すことになるはずです——「成長」が、問題です。
その他	2007年度以前の入学生のみなさんには、Aコースの上級科目である「変動と成長」として開講されますが、この科目は、2008年度カリキュラムにおけるA群〔理論・情報〕の上級科目です。

授業コード	31047		
授業科目名	上級マクロ経済学Ⅱ（後）		
担当者名	稲田義久（イナダ ヨシヒサ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	2008年度以降入学生用 「上級マクロ経済学Ⅰ」・「上級マクロ経済学Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	火曜日 11:30-12:30 9号館7F 稲田研究室		

講義の内容	本講義では計量モデルを使った予測の初歩を講義する。より高い予測精度を目指す超短期モデル予測からシナリオ提供が主たる目的である長期モデル予測まで、計量モデルの利用は様々である。どのようにビジネスや経済政策に予測が利用されているか説明し、簡単なモデル作成の実例を示す。
到達目標	マクロ経済学の応用領域としての経済予測の基礎を習得する。
講義方法	講義が中心であるが簡単な計量モデルの作成や推計の実例を示す。
準備学習	2月15日内閣府発表の2009年10－12月期GDP統計の結果の要約を読んでおくこと。以下のwebに掲載されています。 http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/toukei.html#qe

成績評価	数回の演習レポートで評価する。
講義構成	第01講 経済予測・シミュレーションとは何か 第02講 ビジネス予測の精度比較 第03講 超短期予測の考え方 第04講 超短期予測の考え方: 続き1 第05講 超短期予測の考え方: 続き2 第06講 短期・中期・長期予測の考え方 第07講 短期・中期・長期予測の考え方: 続き1 第08講 短期・中期・長期予測の考え方: 続き2 第09講 マクロ計量モデル入門 第10講 マクロ計量モデル入門: 続き1 第11講 マクロ計量モデル入門: 続き2 第12講 シミュレーション分析入門 第13講 シミュレーション分析入門: 続き
教科書	特に指定しません。講義資料を配布します。
参考書・資料	Edited by Lawrence R. Klein, The Making of National Economic Forecasts, Edward Elgar, 2009 飯塚信夫・加藤久和, 『EViewsによる経済予測とシミュレーション入門』, 日本評論社

授業コード	31049		
授業科目名	上級ミクロ経済学Ⅰ(前)		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「上級ミクロ経済学Ⅰ」・「上級ミクロ経済学Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	第1回の授業でお知らせします。		

講義の内容	ゼミ選びでどのゼミに応募するのか、班で発表するときどれだけ準備をがんばるのか、飲み会でどの席に座るのか、どんなタイミングでどんな言い方で好きな人に告白するのか、一車線の道で向こうから車が来るときに待つのか進むのか、あっち向いてホイでどっちを向くのか、私たちは、毎日、いろんなことを決めています。そして、その結果何が起るのかは、多くの場合、自分が何をするのかということだけでなく、他の人たちが何をするのかということにも依存しています。だから、私たちは、ほかの人のすることが気になるのですね。 このような、自分が何をするのか決めるときにはほかの人が何をするのも気になるという状況を、はっきりとしたかたちで記述し、厳密なやりかたで分析するのが、ゲーム理論です。この授業では、具体例や数値例を使ってゲーム理論の基本的な概念を体系的に学び、それらの概念がどのように使われるのかを、できるだけ現実的な応用例で見していきます。 この講義をうけたみなさんが、複雑な現実のなかで、自分が考えたい問題を見つけたとき、複雑な現実から枝葉をとりはらって、その問題を単純なゲームに表せるようになり、そうすることで、自分が考察したい問題をよりの確に、全体的に理解できるようになる。そういう講義にしたいと思います。
到達目標	ほかの人をリスペクトするということの学問的な意味を理解したうえで、ほかの人をリスペクトできるようになること。
講義方法	板書とスライドによる講義をします。また、講義中にはしばしば質問を出しますので、受講者のみなさんは、それらの質問への答えを、ていねいに考えてください。
準備学習	教科書や参考書の、読んでおくべき箇所を指示します。
成績評価	宿題(20%)と期末試験(80%)によって評価します。 宿題は、講義期間中2、3回ほど出す予定です。 また、「講義方法」のところにあるように、講義中にはしばしば質問を出しますが、それらの質問への答えのなかで、特に優秀なものにはボーナス点を与えます。
講義構成	次のような講義構成を予定しています。授業の進みかたが早ければ、上級ミクロ経済学Ⅱのトピックのいくつかをこの授業でやりますし、授業の進みかたが遅ければ、この授業のトピックのいくつかを上級ミクロ経済学Ⅱでやることにします。 1. 市場均衡の理論

	需要曲線と供給曲線が交わるところで財の価格と取引量が決まることの意味と、その価格と取引量で実現する資源配分が効率的であること、つまり、ひとりひとりが「自分のために」行動した結果が、「みんなのために」なるしくみとしての市場について、復習します。 2. 市場取引実験 市場均衡の理論の復習のために、また、経済学の新しい分野である実験経済学の紹介として、「ダブルオークションによる取引」という実験を、受講生のみなさんに体験してもらいます。 3. 独占市場 ある財の売り手がひとりだけ、という場合を独占と言います。独占市場では「競争がないので値段が高くなる」のでしょうか。また、独占によって値段が高くなることは、私たちにとって良くないことなのでしょうか。完全競争市場と比較しながら、考えていきます。 4. 戦略形ゲーム ゲーム理論への導入として、ゲームを行うすべてのプレイヤーが同時に行動するゲームを、戦略形というかたちで表して分析する方法を学びます。「囚人のジレンマ」や「男女の争い」などのゲームを例にとり、戦略形ゲームの解き方を学びましょう。 5. 展開形ゲーム プレイヤーが順番に行動するゲームを、展開形というかたちで表して分析します。ここでは、先手を取るか後手を取るか、という問題や、自分の将来の行動を縛ることが自分にとって有利な状況を作り出す、という、コミットメントの概念について勉強します。 6. 寡占市場 ある財について、その売り手はひとりではないけれど、たくさんいるわけでもない、という場合が寡占です。クールノー競争やシュタッケルベルグ競争などのモデルを使って、企業の戦略的な意思決定について学びます。 7. 繰り返しゲーム 人々の間の長期的な関係を、同じゲームを何回も繰り返す状況というふうに見て、誰に命じられるわけでもなく、話し合いや約束をしたわけでもないのに、人々の間に協力関係が生まれてくることを考察します。
教科書	渡辺隆裕 『ゼミナールゲーム理論入門』 日本経済新聞社 2008年。
参考書・資料	神戸伸輔 『入門ゲーム理論と情報の経済学』 日本評論社 2004年。 梶井厚志 『戦略的思考の技術』 中公新書 2002年。 奥野正寛(編著) 『ミクロ経済学』 東京大学出版会 2008年。 矢野誠 『ミクロ経済学の基礎』 岩波書店 2001年。 金子守 『ゲーム理論と蒟蒻問答』 日本評論社 2003年。
講義関連事項	中級ミクロ経済学の内容を理解していることを前提として講義を行います。 中級ミクロ経済学を受講していない人で、この授業を受けたいという人は、担当者に相談に来てください。
担当者から一言	この授業の内容は、後期の「上級ミクロ経済学Ⅱ」の内容と連続します。ぜひ、上級ミクロ経済学Ⅱも受講してください。もちろん私は、この授業を受けたみなさんが上級ミクロ経済学Ⅱも続けて受けたくるように、努めます。

授業コード	31050		
授業科目名	上級ミクロ経済学Ⅱ(後)		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「上級ミクロ経済学Ⅰ」・「上級ミクロ経済学Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	第1回の講義でお知らせします。		

講義の内容	どうして飛行機のエコノミークラスはあんなに席が狭いのでしょうか。ドリンク1杯目無料というクーポンはお店にどんな利益をもたらすのでしょうか。あんまりガツガツしていない人のほうが合コンでもてるのはなぜなのでしょう。事故を起こして自動車保険を使うと、次の年の保険料が上がるのはなぜなのでしょう。オークションで、損をすることなく欲しいものを競り落とすにはどうすればいいのでしょうか。 これらの疑問はすべて、自分が知っていることをほかの人は知らない、ほかの人が知っていることを自分は知らない、という、「情報の非対称性」に関連しています。この授業では、情報の非対称性が市場での取引にもたら
-------	--

	す問題と、その問題に対するさまざまな対応策について、簡単な、けれども厳密な、モデルを使って分析することを学びます。 また、行動経済学や進化ゲーム、進化心理学など、ミクロ経済学の新しいトピックもこの授業で紹介する予定です。そして、上級ミクロ経済学Iとこの授業で学んだすべてのことを踏まえ、最後にもう一度、市場による資源配分について、「自分のために」が「みんなのために」なるしくみについて、あらためて、考えたいと思います。
到達目標	ほかの人を思いやるということの学問的な意味を理解したうえで、ほかの人を思いやれるようになること。
講義方法	板書とスライドによる講義をします。また、講義中にはしばしば質問を出しますので、受講者のみなさんは、それらの質問への答えを、ていねいに考えてください。
準備学習	教科書や参考書の、読んでおくべき箇所を指示します。
成績評価	宿題(20%)と期末試験(80%)によって評価します。 宿題は、講義期間中2、3回ほど出す予定です。 また、「講義方法」のところにあるように、講義中にはしばしば質問を出しますが、それらの質問への答えのなかで、特に優秀なものにはボーナス点を与えます。
講義構成	次のような講義構成を予定しています。前期の上級ミクロ経済学Iの授業進度が早ければ、この授業のトピックのいくつかは上級ミクロ経済学Iでやってしまっていますし、上級ミクロ経済学Iの授業進度が遅ければ、そのトピックのいくつかをこの授業でやります。 1. 逆選択 情報の非対称性が、市場取引においてどのように問題になるのか、中古車市場のモデルを使って解説します。 2. スクリーニング ほかの人がどんな人なのかわからないとき、どうやったら、それがわかるのでしょうか。あなたはどんな人ですか、って、聞くだけではだめなのです。なぜなら、その人は、うそをつくかもしれないからです。 3. シグナリングと不完備情報のゲーム 自分がどんな人なのか相手がわかっていないとき、どうやったら、それを知らせることができるのでしょうか。私はこんな人です、って、言うだけではだめなのです。なぜなら、あなたは、うそをついているかもしれないと思われるからです。 4. モラルハザード 人を雇うときには、その人にがんばって働いてもらいたいのですが、たいていの場合、その人がどれだけがんばっているかをつきつきりで見ているわけにはいきません。それでも、その人にがんばってもらうには、どうすればいいのでしょうか。 5. メカニズムデザイン 人々がどんな好みを持っているのかわからないなかで効率的な資源配分を行うにはどうすればいいのか、公共財の供給モデルを例にとりて解説します。 6. ミクロ経済学の新しい展開 行動経済学や進化ゲーム、進化心理学など、ミクロ経済学の新しいトピックを紹介します。 7. 市場均衡の理論 上級ミクロ経済学Iとこの授業で学んだすべてのことを踏まえ、最後にもう一度、市場均衡で実現する資源配分について、「自分のために」が「みんなのために」なるしくみについて、あらためて、考えたいと思います。
教科書	教科書は指定しませんが、参考書の、 渡辺隆裕『ゼミナールゲーム理論入門』と、 神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』については、 そのなかのいくつかの箇所を、読んでおくようにと指示を出すことがあります。
参考書・資料	渡辺隆裕『ゼミナールゲーム理論入門』日本経済新聞社 2008年。 神戸伸輔『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社 2004年。 梶井厚志『戦略的思考の技術』中公新書 2002年。 奥野正寛(編著)『ミクロ経済学』東京大学出版会 2008年。 ラッセル・ロバーツ『インビジブルハート ―恋におちた経済学者』日本評論社 2003年。 矢野誠『ミクロ経済学の基礎』岩波書店 2001年。 金子守『ゲーム理論と蒔蒔問答』日本評論社 2003年。
講義関連事項	中級ミクロ経済学と上級ミクロ経済学Iの内容を理解していることを前提として講義を行います。 上級ミクロ経済学Iを履修していない人で、この授業をとりたい人は、担当者に相談に来てください。

授業コード	31066		
授業科目名	証券市場		
担当者名	石橋尚平(イシバシ ショウヘイ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		
講義の内容	本講義では、金融ならびにファイナンスに関する基礎的な概念・理論、証券市場をはじめとする金融システムの仕組み、主な金融商品の内容・特徴、ファイナンスの最近の動向について解説する。 金融ならびにファイナンスについての基礎知識を身につけるだけではなく、聴講者自身の観点から、金融に関する社会問題についての論考を深めるほか、ファイナンス分野の基本的な計算能力をしっかりと身につけられるようにしたい		
到達目標	・当授業を履修し、活用することができると、証券アナリスト資格を取得するための一応の水準に到達することを目標とする。ただし、「経済」や「財務分析」などの科目については、各自勉強してもらいたい。 ・将来、金融業界に就職した場合や、また事業会社の財務部門に配属された場合、当講義で得られた知識が現場において活かされることを目標とする。 ・将来、金融関連を専攻する大学院や、MBAプログラムを取得する場合においても、当講義でのファイナンスの基本内容は、知識のベースとなるので、しっかりと勉強してもらいたい。		
講義方法	講義ノート(word版)、パワーポイントによる講義内容(授業中に表示)、レジュメの配布、宿題ならびに課題については、My Konanを通じて行うものとする。講義では、講義内容の解説の他、例題を多く出すこととし、ファイナンスの基本的な理解を進める。また、ファイナンスの計算問題を中心とした宿題(4回)や、レポートの提出(1回)を課し、履修者が予習復習を通じて理解を深めることができるようにする。		
準備学習	・ファイナンスの基本を理解するには、実際に簡単な数値例を使った問題を解くなどの練習が必要である。授業中に例題を示して練習する他、宿題(計4回)を課すので、これらの課題を理解のための機会だと考え、自分自身で解くようにすべきである。 ・教科書は指定しないが、下記に指定する参考書・資料や、授業中に示す参考文献は、履修者が十分に活用すれば、理解をさらに深め、内容を整理することに役立つ。		
成績評価	期末試験の点数を最重視する。 宿題(4回)の点数ならびにレポート(1回)も加味するが、宿題がよくても期末試験の成績が芳しくないと、80点以上をとることはできない。それぞれの点数を配点の中心とする複数の採点結果から、最も良い点を最終的な評価点とする。		
講義構成	第1回 ガイダンス、ファイナンスについて 第2回 資金循環(1) 第3回 資金循環(2) 第4回 間接金融と直接金融 第5回 わが国の金融市場 第6回 債券(1)～現在価値 第7回 債券(2)～債券の価格 第8回 債券(3)～デュレーション 第9回 債券(4)～コンベクシティ 第10回 債券(5)～さまざまな債券 第11回 モダン・ポートフォリオ理論(1)～リスクとリターン 第12回 モダン・ポートフォリオ理論(2)～分散投資 第13回 モダン・ポートフォリオ理論(3)～CAPM 第14回 債券、モダン・ポートフォリオ理論の補講 第15回 期末試験(前期) 第16回 ガイダンス、株式(1)～わが国の株式市場 第17回 株式(2)～理論上の株価 第18回 株式(3)～株価の算定 第19回 モダン・ポートフォリオ理論(4)～効率的市場仮説 第20回 デリバティブ(1)～デリバティブとは? 第21回 デリバティブ(2)～先物 第22回 デリバティブ(3)～オプション 第23回 デリバティブ(4)～リスク中立価格 第24回 デリバティブ(5)～BSモデル 第25回 デリバティブ(6)～スワップ 第26回 国際証券投資 第27回 オルタナティブ投資 第28回 行動ファイナンス(1)～概要 第29回 行動ファイナンス(2)～事例 第30回 期末試験(後期)		
教科書	特に指定しない		
参考書・資料	美和卓『20歳からの金融入門』日本経済新聞出版社 堀之内朗・武内浩二『債券取引の知識』日経文庫 石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 岡村秀夫、田中敦、野間敏克、藤原賢哉『金融システム論』有斐閣コンパクト 福光寛・高橋元『ベーシック証券市場論』同文館出版 小林孝雄・芹田敏夫『新・証券投資論Ⅰ 理論編』日本経済新聞出版社 伊藤敬介・荻島誠司・諏訪部貴嗣『新・証券投資論Ⅱ 実務編』日本経済新聞出版社 藤井英次『コア・テキスト国際金融論』新世社 角田康夫『行動ファイナンス』金融財政事情研究会 岡田克彦『行動ファイナンス入門』秀和システム		

講義関連事項	前期は第7回(5/27)、第9回(6/10)、第11回(6/24)、第13回(7/8)の回で宿題、第3回(4/22)の回でレポート提出を示す予定です(宿題は翌週提出、レポートは1カ月後提出) 後期は第17回(10/14)、第21回(11/11)、第23回(11/25)、第25回(12/9)の回で宿題、第18回(10/14)の回でレポート提出を示す予定です(宿題は翌週提出、レポートは1カ月後提出) ただし、変更の可能性あり
担当者から一言	授業中の私語は控えてください。
その他	最初の授業のガイダンスにおいて、授業の概要、課題、評価方法などを説明します。

授業コード	31015		
授業科目名	情報科学入門(前)		
担当者名	前田洋樹(マエタ ヒロキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	2008年度以降入学生適用		

講義の内容	この講義では、インターネット(ネットワーク)や電子メールなどにまつわる事柄を中心とした内容を座学により学習します。したがって、原則として講義中にコンピュータを使った実習はありません。 通信技術の飛躍的な進歩により、現在では高速なインターネットを比較的安価に利用できます。このおかげもあり、インターネットからさまざまな情報を容易に入手することができるようになりました。また、文書のやりとりにおいては、ハガキや封書ではなく、電子メールを利用する機会がずいぶんと多くなりました。インターネットや電子メールはパソコンで利用できるだけでなく、携帯電話などの移動体通信でも利用できます。講義を通じて、普段何気なく使っているインターネットや電子メールなどの仕組みについて解明していきましょう。 なお、講義で扱う内容は、ITパスポート試験などの資格試験に出題範囲として含まれていますので、資格の取得を目指して学習してみるのも良いかもしれません。
到達目標	ネットワークに関する知識を深めることができること。 インターネットや電子メールなどの仕組みを理解できること。
講義方法	講義は原則としてPowerPointや板書、口頭での説明に基づいて進めます。 しかし、教員が一方向的に説明するだけの講義になることはできるだけ避け、受講者のみなさんにも積極的に参加してもらえるような講義になるようにしたいと思います。 資料は必要に応じて配布します。
準備学習	毎回の講義の理解の積み重ねが重要であるため、とりわけ復習をしっかりとすること。 インターネットや電子メールなどの「仕組み」に関心を持つこと。
成績評価	期末試験の成績に基づいて評価します(100%)。 ただし、講義における発表や、予告なしにその日の講義のまとめや確認問題を解いたもの等を提出してもらうなど、通常の講義時の頑張り(単なる「出席」ではない)も平常点(出席点ではない)として成績評価に加味する予定です(最大20%程度)。
講義構成	以下のような内容を予定しています。 第1回 ガイダンス 第2回 インターネットの歴史 第3回 インターネットの接続方式 第4回 ネットワークの概要 第5回 ネットワークの種類 第6回 OSI基本参照モデル 第7回 2進数と10進数 第8回～第9回 IPアドレスとサブネットマスク 第10回 Webページ閲覧と電子メール送受信の仕組み 第11回～第12回 ネットワークセキュリティ 第13回～第14回 認証と暗号化 第15回 期末試験
教科書	特に指定しない予定です。
参考書・資料	参考書は必要に応じて適宜紹介しますが、例えば以下のような本を挙げておきます。 ・栢木厚『栢木先生のITパスポート試験教室』技術評論社

担当者から一言	インターネットや電子メールなどの「使い方」ではなく「仕組み」を扱う講義ですので、多くの人にとってあまり必要性を感じるものではないかもしれません。それゆえ、単位取得だけを目的として履修すると少々つらいと思います。なぜ履修するのかをよく考えてください。 講義では、知っていると役に立つような内容を、できるだけわかりやすく説明するように心がけ、楽しい講義を目指したいと思います。そのためには、教員だけでなく、受講者のみなさんが講義に積極的に参加（単なる「出席」ではありません）してくれることも大事です。みなさんの頑張りに期待しています。
その他	講義中、他の人に迷惑をかけるような行為（私語など）は厳に慎むこと。そのような行為に対しては、厳格に対処する。

授業コード	24M12		
授業科目名	情報処理概論I (C)(後)		
担当者名	前田洋樹(マエタ ヒロキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	この講義ではコンピュータの仕組みやソフトウェアを中心とした内容を座学により学習します。したがって、原則として講義中にコンピュータを使った実習はありません。 たとえば、パソコンのカタログを見ると「CPU」「メモリ」「ハードディスク」などの言葉が並んでいるでしょう。このようなものについてあまり馴染みはないと思いますが、知っているとパソコン選びの他にも役立つことがあるでしょう。コンピュータやソフトウェアについて少しでも多くのことを知ってもらうため、最低限知っておいた方がよいことからもう一歩進んだ内容まで学習したいと思います。 なお、講義で扱う内容は、ITパスポート試験などの資格試験に出題範囲として含まれていますので、資格の取得を目指して学習してみるのも良いかもしれません。
到達目標	コンピュータのハードウェアに関する知識を身につけることができる。 コンピュータのソフトウェアに関する知識を身につけることができる。
講義方法	講義は、原則として教員による説明、および、受講者の発表に基づいて進めます。 しかし、少人数の講義となることが予想されるため、受講者のみなさんを中心とした講義方法（ゼミの形式に近い形）となる可能性が高いです。 また、毎回の講義では、何らかの提出物を求める予定です。
準備学習	毎回の講義の理解の積み重ねが重要であるため、とりわけ復習をしっかりとすること。 コンピュータの「仕組み」に関心を持つこと。
成績評価	期末試験(50%)と平常点(50%)に基づいて評価します。 なお、平常点は、講義における発表・報告・レポート提出・出席などを基に総合的に評価します。
講義構成	以下のような内容を予定しています。 第1回 ガイダンス 第2回 コンピュータの「五大装置」 第3回 入力装置 第4回～第6回 出力装置 第7回～第10回 記憶装置 第11回～第12回 演算装置・制御装置 第13回～第14回 ソフトウェア 第15回 期末試験
教科書	特に指定しない予定です。
参考書・資料	参考書は必要に応じて適宜紹介しますが、例えば以下のような本を挙げておきます。 ・栢木厚『栢木先生のITパスポート試験教室』技術評論社

担当者から一言	パソコンの「使い方」ではなく「仕組み」を扱う講義ですので、とすれば多くの人にとってあまり必要性を感じる内容ではないかもしれません。それゆえ、単位取得だけを目的として履修すると少々つらいと思います。なぜ履修するのかをよく考えてください。 講義では、知っていると役に立つような内容を学習できる、楽しい講義を目指したいと思います。受講者のみなさんの講義への積極的な参加（単なる「出席」ではありません）を期待しています。
その他	講義中、他の人に迷惑をかけるような行為（私語など）は厳に慎むこと。そのような行為に対しては、厳格に対処する。

授業コード	24M22		
授業科目名	情報処理概論II (C)(前)		
担当者名	前田洋樹(マエタ ヒロキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	この講義では、インターネット(ネットワーク)や電子メールなどにまつわる事柄を中心とした内容を座学により学習します。したがって、原則として講義中にコンピュータを使った実習はありません。 通信技術の飛躍的な進歩により、現在では高速なインターネットを比較的安価に利用できます。このおかげもあり、インターネットからさまざまな情報を容易に入手することができるようになりました。また、文書のやりとりにおいては、ハガキや封書ではなく、電子メールを利用する機会がずいぶんと多くなりました。インターネットや電子メールはパソコンで利用できるだけでなく、携帯電話などの移動体通信でも利用できます。講義を通じて、普段何気なく使っているインターネットや電子メールなどの仕組みについて説明していきましょう。 なお、講義で扱う内容は、ITパスポート試験などの資格試験に出題範囲として含まれていますので、資格の取得を目指して学習してみるのも良いかもしれません。
到達目標	ネットワークに関する知識を深めることができること。 インターネットや電子メールなどの仕組みを理解できること。
講義方法	講義は原則としてPowerPointや板書、口頭での説明に基づいて進めます。 しかし、教員が一方向的に説明するだけの講義になることはできるだけ避け、受講者のみなさんにも積極的に参加してもらえるような講義になるようにしたいと思います。 資料は必要に応じて配布します。
準備学習	毎回の講義の理解の積み重ねが重要であるため、とりわけ復習をしっかりとすること。 インターネットや電子メールなどの「仕組み」に関心を持つこと。
成績評価	期末試験の成績に基づいて評価します(100%)。 ただし、講義における発表や、予告なしにその日の講義のまとめや確認問題を解いたもの等を提出してもらうなど、通常の講義時の頑張り(単なる「出席」ではない)も平常点(出席点ではない)として成績評価に加味する予定です(最大20%程度)。
講義構成	以下のような内容を予定しています。 第1回 ガイダンス 第2回 インターネットの歴史 第3回 インターネットの接続方式 第4回 ネットワークの概要 第5回 ネットワークの種類 第6回 OSI基本参照モデル 第7回 2進数と10進数 第8回～第9回 IPアドレスとサブネットマスク 第10回 Webページ閲覧と電子メール送受信の仕組み 第11回～第12回 ネットワークセキュリティ 第13回～第14回 認証と暗号化 第15回 期末試験
教科書	特に指定しない予定です。
参考書・資料	参考書は必要に応じて適宜紹介しますが、例えば以下のような本を挙げておきます。 ・栢木厚『栢木先生のITパスポート試験教室』技術評論社

担当者から一言	インターネットや電子メールなどの「使い方」ではなく「仕組み」を扱う講義ですので、多くの人にとってあまり必要性を感じるものではないかもしれませんが、それゆえ、単位取得だけを目的として履修すると少々つらいと思います。なぜ履修するのかをよく考えてください。 講義では、知っていると役に立つような内容を、できるだけわかりやすく説明するように心がけ、楽しい講義を目指したいと思います。そのためには、教員だけでなく、受講者のみなさんが講義に積極的に参加(単なる「出席」ではありません)してくれることも大事です。みなさんの頑張りには期待しています。
その他	講義中、他の人に迷惑をかけるような行為(私語など)は厳に慎むこと。そのような行為に対しては、厳格に対処する。

授業コード	31021		
授業科目名	情報通信・エネルギー産業(集中)		
担当者名	春日教測(カスガ ノリヒロ)、中村彰宏(ナカムラ アキヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	本年度は特に、情報通信産業における制度・政策・技術等について焦点を当てて講義します。1980年代以降の規制緩和の潮流や諸外国の動向、成果に対する評価等を俯瞰すると同時に、外部講師を招請して最新の動向について紹介します。また背後にある経済理論との関係についても解説します。		
到達目標	① 情報通信産業の特徴と具体的企業戦略を理解し、産業の将来動向と成長可能性について理解できる。 ② 経済理論と現実との関係を整理し、情報通信産業の中長期的な推移を展望できる。		
講義方法	夏期集中講義として開講されます。理論的側面については春日・中村が講義し、制度・政策・技術に関する最新の動向(電波行政、国際戦略、消費者行政、コンテンツ、情報通信白書、等)については、外部講師を招請して解説してもらう予定です。理論と現実の講義を交互に配置することにより、段階的に対応関係を理解できるよう工夫します。また講義に関する資料を適宜配付します。		
準備学習	(1) ミクロ経済学の基本的なイメージ(需要曲線、供給曲線、余剰などのイメージ)が出来ると望ましい。ただし、基本的なイメージについては、最初に全て説明します。 (2) 新聞や雑誌、テレビの経済ニュースに接し、情報通信産業に関する最近の動向について情報を多く収集すること。 (3) 興味のある業界・調べたい業界について述べたデータや資料を、インターネットや図書館等で自ら出典にあたってできるだけ多く収集し補足・整理すること。		
成績評価	小テスト、および提出されたレポート(複数回)の内容により評価します。		
講義構成	第1回 インTRODクシヨ(講義の進め方など) 第2～4回 ミクロ経済学の基礎(産業経済のための基礎知識) 第5～6回 「公的規制」とは何か?(定義、分類、政府活動との関係、等) 第7～10回 費用逡減産業(自然独占、料金理論、諸外国および日本の規制緩和過程等) 第11～14回 情報通信産業の動向と政策Ⅰ(外部講師を招請予定) 第15～18回 携帯電話産業の理論と実際 第19回 小テスト 第20～22回 情報通信産業の動向と政策Ⅱ(外部講師を招請予定) 第23～26回 情報通信産業の動向と政策Ⅲ(外部講師を招請予定) 第27～30回 情報通信産業の動向と政策Ⅳ(外部講師を招請予定) ※外部講師の都合により、講義順序が入れ替わる可能性があります。		
教科書	特に指定せず、適宜レジュメを配布して補足します。各トピックスには出典を書いておくので、より深く勉強したい場合は購入するか図書館等で借りるなどして下さい。		
参考書・資料	①植草益(2000)『公的規制の経済学』NTT出版 ②柳川隆・川濱昇(2003)『競争の戦略と政策』有斐閣 ③依田高典(2001)『ネットワーク・エコノミクス』日本評論社 など。		
担当者から一言	講義室で得られる知識だけでなく、外部とのつながり、現実との関わりを意識することでより深い理解が得られます。問題意識を持って積極的に講義に参加してください。		

授業コード	31N21		
授業科目名	情報リテラシーA(1クラス)(前)		
担当者名	樽井由紀(タルイ ユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生は「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	第1回講義時に指示する。		

講義の内容	大学や家庭などでPCに触れる機会は格段に増しているが、ソフトウェアが使えることと、レポート作成能力(文章表現能力)の向上は、必ずしも直接的に結びつくものではない。 そこで本講義では、ゼミ等で必須となるであろうレポートや小論文といった学術文書やビジネス文書などの文書作成の基礎を身につけて貰う。 同時に、作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技術向上も目指す。
到達目標	自分自身で物事を考え、表現することができること。 Wordを用いて、様々な文書を作成できること。 作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーションができること。
講義方法	毎回課題を与え、それを時間内に完成させて提出して貰う。 場合によっては、次回までの課題とすることもある。
準備学習	IT基礎(情報処理入門)を履修済み、あるいは、それと同程度にWord、PowerPointを使えること。 自分自身で物事を考える習慣をつけること。 普段から新聞や本などを読んだりし、視野を広げ、表現方法や語彙力を向上させること。
成績評価	出席(15%)、課題提出(45%)、期末レポート(40%)による。 3回以上欠席した場合、単位を放棄したものとみなす。
講義構成	第1回 ガイダンス 第2回～第3回 Wordの復習 第4回～第7回 課題に基づく演習(1) 第8回 プレゼンテーション(1) 第9回～第13回 課題に基づく演習(2) 第14回 プレゼンテーション(2)
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	白井晴男監修、切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健(2007)『Microsoft Office 2007を使った 情報リテラシーの基礎』近代科学社

授業コード	31N22		
授業科目名	情報リテラシーA(2クラス)(後)		
担当者名	樽井由紀(タルイ ユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生は「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	第1回講義時に指示する。		

講義の内容	大学や家庭などでPCに触れる機会は格段に増しているが、ソフトウェアが使えることと、レポート作成能力(文章表現能力)の向上は、必ずしも直接的に結びつくものではない。 そこで本講義では、ゼミ等で必須となるであろうレポートや小論文といった学術文書やビジネス文書などの文書作成の基礎を身につけて貰う。 同時に、作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技術向上も目指す。
到達目標	自分自身で物事を考え、表現することができること。 Wordを用いて、様々な文書を作成できること。 作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーションができること。
講義方法	毎回課題を与え、それを時間内に完成させて提出して貰う。 場合によっては、次回までの課題とすることもある。
準備学習	IT基礎(情報処理入門)を履修済み、あるいは、それと同程度にWord、PowerPointを使えること。 自分自身で物事を考える習慣をつけること。 普段から新聞や本などを読んだりし、視野を広げ、表現方法や語彙力を向上させること。
成績評価	出席(15%)、課題提出(45%)、期末レポート(40%)による。 3回以上欠席した場合、単位を放棄したものとみなす。
講義構成	第1回 ガイダンス 第2回～第3回 Wordの復習 第4回～第7回 課題に基づく演習(1)

	第8回 プレゼンテーション(1) 第9回～第13回 課題に基づく演習(2) 第14回 プレゼンテーション(2)
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	白井晴男監修、切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健(2007)『Microsoft Office 2007を使った 情報リテラシーの基礎』近代科学社

授業コード	31N23		
授業科目名	情報リテラシーA（3クラス)(後)		
担当者名	前田洋樹(マエタ ヒロキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生は「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	第1回講義時に指示する。		

講義の内容	大学や家庭などでPCに触れる機会は格段に増しているが、ソフトウェアが使えることと、レポート作成能力(文章表現能力)の向上は、必ずしも直接的に結びつくものではない。 そこで本講義では、ゼミ等で必須となるであろうレポートや小論文といった学術文書やビジネス文書などの文書作成の基礎を身につけて貰う。 同時に、作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技術向上も目指す。		
到達目標	自分自身で物事を考え、表現することができること。 Wordを用いて、様々な文書を作成できること。 作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーションができること。		
講義方法	毎回課題を与え、それを時間内に完成させて提出して貰う。 場合によっては、次回までの課題とすることもある。		
準備学習	IT基礎(情報処理入門)を履修済み、あるいは、それと同程度にWord、PowerPointを使えること。 自分自身で物事を考える習慣をつけること。 普段から新聞や本などを読んだりし、視野を広げ、表現方法や語彙力を向上させること。		
成績評価	出席(15%)、課題提出(45%)、期末レポート(40%)による。 3回以上欠席した場合、単位を放棄したものとみなす。		
講義構成	第1回 ガイダンス 第2回～第3回 Wordの復習 第4回～第7回 課題に基づく演習(1) 第8回 プレゼンテーション(1) 第9回～第13回 課題に基づく演習(2) 第14回 プレゼンテーション(2)		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	白井晴男監修、切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健(2007)『Microsoft Office 2007を使った 情報リテラシーの基礎』近代科学社		

授業コード	31N31		
授業科目名	情報リテラシーB（1クラス)(前)		
担当者名	前田洋樹(マエタ ヒロキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生は「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	第1回講義時に指示する。		

講義の内容	大学や家庭などでPCに触れる機会は格段に増しているが、ソフトウェアが使えることと、レポート作成能力（データ収集・加工能力）の向上は、必ずしも直接的に結びつくものではない。 そこで本講義では、ゼミ等で必須となるであろうレポートや小論文といった学術文書をはじめ、様々な文書作成のためのデータ収集法を学び、それらを有用なグラフや表に加工する技術や関数計算、簡易データベース構築の基礎などを身につけて貰う。 同時に、作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技術向上も目指す。
到達目標	必要なデータを収集できること。 Excelを用いて、データを有用なグラフや表に加工したり、関数計算などの計算ができること。 作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーションができること。
講義方法	毎回課題を与え、それを時間内に完成させて提出して貰う。 場合によっては、次回までの課題とすることもある。
準備学習	IT基礎(情報処理入門)を履修済み、あるいは、それと同程度にExcel、PowerPointが使えること。 自分自身で物事を考える習慣をつけること。 普段から新聞や本などを読んだりし、視野を広げ、表現力などを向上させること。
成績評価	出席(15%)、課題提出(45%)、期末レポート(40%)による。 3回以上欠席した場合、単位を放棄したものと見なす。
講義構成	第1回 ガイダンス 第2回～第3回 Excelの復習 第4回～第7回 課題に基づく演習(1) 第8回 プレゼンテーション(1) 第9回～第13回 課題に基づく演習(2) 第14回 プレゼンテーション(2)
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	白井晴男監修、切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健(2007)『Microsoft Office 2007を使った 情報リテラシーの基礎』近代科学社 滝川好夫・前田洋樹(2009)『経済学のためのExcel入門 Office2007対応版』日本評論社

授業コード	31N32		
授業科目名	情報リテラシーB（2クラス)(前)		
担当者名	宇野伸孝(ウノ ノブタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生は「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	第1回講義時に指示する。		

講義の内容	大学や家庭などでPCに触れる機会は格段に増しているが、ソフトウェアが使えることと、レポート作成能力（データ収集・加工能力）の向上は、必ずしも直接的に結びつくものではない。 そこで本講義では、ゼミ等で必須となるであろうレポートや小論文といった学術文書をはじめ、様々な文書作成のためのデータ収集法を学び、それらを有用なグラフや表に加工する技術や関数計算、簡易データベース構築の基礎などを身につけて貰う。 同時に、作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技術向上も目指す。
到達目標	必要なデータを収集できること。 Excelを用いて、データを有用なグラフや表に加工したり、関数計算などの計算ができること。 作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーションができること。
講義方法	毎回課題を与え、それを時間内に完成させて提出して貰う。 場合によっては、次回までの課題とすることもある。
準備学習	IT基礎(情報処理入門)を履修済み、あるいは、それと同程度にExcel、PowerPointが使えること。 自分自身で物事を考える習慣をつけること。 普段から新聞や本などを読んだりし、視野を広げ、表現力などを向上させること。
成績評価	出席(15%)、課題提出(45%)、期末レポート(40%)による。 3回以上欠席した場合、単位を放棄したものと見なす。

講義構成	第1回 ガイダンス 第2回～第3回 Excelの復習 第4回～第7回 課題に基づく演習(1) 第8回 プレゼンテーション(1) 第9回～第13回 課題に基づく演習(2) 第14回 プレゼンテーション(2)
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	白井晴男監修、切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健(2007)『Microsoft Office 2007を使った 情報リテラシーの基礎』近代科学社 滝川好夫・前田洋樹(2009)『経済学のためのExcel入門 Office2007対応版』日本評論社

授業コード	31N33		
授業科目名	情報リテラシーB (3クラス)(後)		
担当者名	宇野伸孝(ウノ ノブタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	事前登録科目 2006年度以降入学生は「IT基礎」または「IT応用」の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	第1回講義時に指示する。		

講義の内容	大学や家庭などでPCに触れる機会は格段に増しているが、ソフトウェアが使えることと、レポート作成能力(データ収集・加工能力)の向上は、必ずしも直接的に結びつくものではない。 そこで本講義では、ゼミ等で必須となるであろうレポートや小論文といった学術文書をはじめ、様々な文書作成のためのデータ収集法を学び、それらを有用なグラフや表に加工する技術や関数計算、簡易データベース構築の基礎などを身につけて貰う。 同時に、作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技術向上も目指す。
到達目標	必要なデータを収集できること。 Excelを用いて、データを有用なグラフや表に加工したり、関数計算などの計算ができること。 作成したレポートの内容を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーションができること。
講義方法	毎回課題を与え、それを時間内に完成させて提出して貰う。 場合によっては、次回までの課題とすることもある。
準備学習	IT基礎(情報処理入門)を履修済み、あるいは、それと同程度にExcel、PowerPointが使えること。 自分自身で物事を考える習慣をつけること。 普段から新聞や本などを読んだりし、視野を広げ、表現力などを向上させること。
成績評価	出席(15%)、課題提出(45%)、期末レポート(40%)による。 3回以上欠席した場合、単位を放棄したものと見なす。
講義構成	第1回 ガイダンス 第2回～第3回 Excelの復習 第4回～第7回 課題に基づく演習(1) 第8回 プレゼンテーション(1) 第9回～第13回 課題に基づく演習(2) 第14回 プレゼンテーション(2)
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	白井晴男監修、切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健(2007)『Microsoft Office 2007を使った 情報リテラシーの基礎』近代科学社 滝川好夫・前田洋樹(2009)『経済学のためのExcel入門 Office2007対応版』日本評論社

授業コード	31U11
授業科目名	初級マクロ経済学 (A)(後)
担当者名	王 凌(ワン リン)

配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	経済学部2005年度以前入学生および文学部・経営学部の学生用		
講義の内容	マクロ経済学に関する基礎的内容を講義する。国民所得の決定モデル、金融市場のモデル等を解説し、マクロ経済問題を理解する上で必要不可欠な知識を学ぶ。授業の目的は、経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析するための基本的な概念と標準的なマクロ経済理論を理解し、政策的なインプリケーションについても応用できる能力を身に着けることである。		
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1) GDPについて理解すること。 (2) 需要と供給という視点からマクロ経済の動きを理解すること。 (3) 乗数プロセスで景気の波及メカニズムを説明すること。 (4) マクロ経済の均衡を理解すること。 (5) 信用乗数メカニズムを理解すること。		
講義方法	原則として教科書の内容に基づいた講義を行う。		
準備学習	担当教員に指示された、教科書の箇所を読んでおくこと。		
成績評価	原則として期末試験の成績にもとづいて評価する。適宜平常点を加味する。		
講義構成	第1回 イン트로ダクション 第2回～第4回 GDP 第5回 需要、供給と景気 第6回 乗数プロセスと限界消費性向 第7回 需要(所得、生産)の決定とマクロ経済の均衡 第8回 所得の調整と需要の調整 第9回～第10回 マクロ経済モデルとマクロ経済均衡の計算 第11回～第12回 貨幣 第13回～第14回 信用乗数のメカニズム		
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年		

授業コード	31U21		
授業科目名	初級ミクロ経済学 (A)(前)		
担当者名	畠瀬和志(ハタセ カズシ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	経済学部2005年度以前入学生および文学部・経営学部の学生用		
講義の内容	ミクロ経済学の基礎を学ぶ。ミクロ経済学とは、個々の経済主体(企業、家計、政府)の行動に主眼を置き、経済の仕組みを解明しようとする学問である。講義においては、需要と供給から価格がどう決まるか、そうした価格形成に伴って企業の生産活動や家計の消費行動がどのように影響を受けるか、といった内容を主にグラフ(図)を用いて分析する。		
到達目標	(1) ミクロ経済学の基礎的な理論と用語をきちんと理解すること (2) 学んだ理論を用いて現実の経済問題を説明できるようになること		
講義方法	(1) 原則として教科書に沿った講義を行う (2) 毎回、演習問題を解いて提出してもらう		
準備学習	教科書の「コラム」を講義の前に読んで置けば、講義内容により興味を持てるでしょう。		
成績評価	(1) 出席(15%)		

	(2) 毎回提出する演習問題(45%) (3) 期末試験(40%)
講義構成	1. 需要と供給 2. 需要曲線と消費者行動 3. 費用の構造と供給行動 4. 市場取引と資源配分 5. その他(独占、市場の失敗など)
教科書	伊藤元重「入門経済学」第3版、日本評論社
参考書・資料	講義中に紹介する。
担当者から一言	毎回、数題の演習問題を与え、講師が解説しながら全員で問題を解きます。演習問題の提出をもって出席とみなすため、演習問題は必ず提出して下さい。

授業コード	31042		
授業科目名	所得課税法（後）		
担当者名	岡田悦美(オカダ エミ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	主として所得税法を講義する。所得税法は所得を課税の対象とし、個人(自然人)を納税義務者とするとして定めている。また、日本国内に住所(居所)を有するか否かで課税対象となる所得の範囲が変動することとされている。日常の生活のなかで行われている取引・事実を基礎にして所得が形成されるから近隣法規の理解も要求される。 「誰が、どのような税金を、どのような場合に、どれだけ、いつ、誰に対して支払わなければならないか」を自分で判断できるようになることが目的である。
到達目標	まず、所得税法の全体像(大きな幹)を把握し、そこから個々の規定を理解することが目標である。
講義方法	所得税法は所得税の課税要件及びその手続きを定めている。したがって講義は条文を確認しつつ教科書に沿って進める。その過程で指名し発言を求め理解の程度を確認するので、受講生は積極的に授業に取り組まなければならない。
準備学習	シラバスの講義構成を見て、教科書の該当箇所を予習すること。 授業で配布した資料も合わせて復習すること。 条文に親しむこと。 新聞を読むこと。
成績評価	主として期末筆記試験による(80%)。 レポートの提出及び授業出席状況を成績評価に加算する(20%)。
講義構成	第1回 所得税法の概要 第2回 所得課税法の基本原則 第3回 納税義務者・納税地 第4回 所得概念と非課税・免税 第5回 所得分類の意義、利子所得・配当所得 第6回 不動産所得・事業所得 第7回 給与所得・退職所得 第8回 山林所得・譲渡所得 第9回 一時所得・雑所得 第10回 収入金額の計算とその計上時期 第11回 必要経費の計算とその計上時期 第12回 課税標準・損益通算 第13回 損失の繰越控除・所得控除 第14回 税額の計算・申告・納付
教科書	岸田貞夫 『税法としての所得課税』[4訂版](税務経理協会2008年)
参考書・資料	今田繁雄編『平成21年版 図解所得税』(大蔵財務協会2009年)
講義関連事項	所得税法が収録された条文集を持参すること。

担当者から一言	「法人課税法(前)」を既に受講していることが望ましい。
---------	-----------------------------

	自主的に学習しない受講生は単位取得が難しいことを自覚しておいて欲しい。
--	-------------------------------------

授業コード	31039		
授業科目名	震災と地域経済Ⅰ(前)		
担当者名	藤本建夫(フジモト タテオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2008年度以降入学生用 「震災と地域経済Ⅰ」・「震災と地域経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	15年前、神戸は大震災に見舞われるが、かつて国際貿易港として、世界のコンテナ港として栄えていた。その神戸経済の特質を明らかにする。
到達目標	神戸という地元の経済について理解を深める。
講義方法	以下のテキストとパワーポイント・板書を利用して行う。
準備学習	テキストを良く読んでくる。
成績評価	テスト
講義構成	1. ポートピア 2. 宮崎神戸市政 3. 日米貿易摩擦とバブル経済 4. 阪神・淡路大震災
教科書	藤本建夫『何が地方都市再生を阻むのか』晃洋書房、2010年

授業コード	31040		
授業科目名	震災と地域経済Ⅱ(後)		
担当者名	藤本建夫(フジモト タテオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2008年度以降入学生用 「震災と地域経済Ⅰ」・「震災と地域経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	前期の講義を受けて、復興の経済政策の特質を明らかにして、その失敗の原因を考える。
到達目標	自然災害からの復興を成功させるためには災害の規模、世界全体の経済状況、それに政治・政治家の役割がいかに大切かを理解する。
講義方法	以下のテキストおよびパワーポイント・板書を利用する。
準備学習	テキストを良く読んでくる。
成績評価	テスト
講義構成	1. 二つの大震災と金融政策 2. 国家の復興政策 3. 国会における予算審議 4. 金融・経済危機下の被災地経済 5. あだ花の産業復興政策 6. 大震災から10年 7. 政治家に問われる「情熱、責任感、判断力」
教科書	藤本建夫『何が地方都市再生を阻むのか』晃洋書房、2010年

授業コード	31048
-------	-------

授業科目名	数理経済		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(火曜3限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	第1回の授業でお知らせします。		

講義の内容	前期は、ゲーム理論について学びます。 ゼミ選びでどのゼミに応募するのか、班で発表するときどれだけ準備をがんばるのか、飲み会でどの席に座るのか、どんなタイミングでどんな言い方で好きな人に告白するのか、一車線の道で向こうから車が来るときに待つのか進むのか、あっち向いてホイでどっちを向くのか、私たちは、毎日、いろんなことを決めています。そして、その結果何が起こるのかは、多くの場合、自分が何をすることということだけでなく、他の人たちが何をすることということにも依存しています。だから、私たちは、ほかの人のすることが気になるのですね。 このような、自分が何をすることか決めるときにはほかの人が何をすることかにも気になるという状況を、はっきりとしたかたちで記述し、厳密なやりかたで分析するのが、ゲーム理論です。この授業では、具体例や数値例を使ってゲーム理論の基本的な概念を体系的に学び、それらの概念がどのように使われるのかを、できるだけ現実的な応用例で見ていきます。 後期は、情報の非対称性について学びます。 どうして飛行機のエコノミークラスはあんなに席が狭いのでしょうか。ドリンク1杯目無料というクーポンはお店にどんな利益をもたらすのでしょうか。あんまりガツガツしていない人のほうが合コンでもてるのはなぜなのでしょう。事故を起こして自動車保険を使うと、次の年の保険料が上がるのはなぜなのでしょう。オークションで、損をすることなく欲しいものを競り落とすにはどうすればいいのでしょうか。 これらの疑問はすべて、自分が知っていることをほかの人は知らない、ほかの人が知っていることを自分は知らない、という、「情報の非対称性」に関連しています。この授業では、情報の非対称性が市場での取引にもたらす問題と、その問題に対するさまざまな対応策について、簡単な、けれども厳密な、モデルを使って分析することを学びます。 この講義をうけたみなさんが、複雑な現実のなかで、自分が考えたい問題を見つけたとき、複雑な現実から枝葉をとりはらって、その問題を単純なモデルに表せるようになり、そうすることで、自分が考察したい問題をよりの確に、全体的に理解できるようになる。そういう講義にしたいと思います。 また、行動経済学や進化ゲーム、進化心理学など、ミクロ経済学の新しいトピックもこの授業で紹介する予定です。そして、この授業で学んだすべてのことを踏まえ、市場による資源配分について、「自分のために」が「みんなのために」なるしくみについて、あらためて、考えたいと思います。
到達目標	ほかの人をリスペクトすることの学問的な意味を理解したうえで、ほかの人をリスペクトできるようになること。 ほかの人を思いやることの学問的な意味を理解したうえで、ほかの人を思いやるようになること。
講義方法	板書とスライドによる講義をします。また、講義中にはしばしば質問を出しますので、受講者のみなさんは、それらの質問への答えを、ていねいに考えてください。
準備学習	教科書や参考書の、読んでおくべき箇所を指示します。
成績評価	宿題(20%)、前期末試験(40%)、後期末試験(40%)によって評価します。 宿題は、4、5回ほど出す予定です。 また、「講義方法」のところにあるように、講義中にはしばしば質問を出しますが、それらの質問への答えのなかで、特に優秀なものにはボーナス点を与えます。
講義構成	次のような講義構成を予定しています。 前期： 1. 市場均衡の理論 需要曲線と供給曲線が交わるところで財の価格と取引量が決まることの意味と、その価格と取引量で実現する資源配分が効率的であること、つまり、ひとりひとりが「自分のために」行動した結果が、「みんなのために」なるしくみとしての市場について、復習します。 2. 市場取引実験 市場均衡の理論の復習のために、また、経済学の新しい分野である実験経済学の紹介として、「ダブルオークションによる取引」という実験を、受講生のみなさんに体験してもらいます。 3. 独占市場

	ある財の売り手がひとりだけ、という場合を独占と言います。独占市場では「競争がないので値段が高くなる」のでしょうか。また、独占によって値段が高くなることは、私たちにとって良くないことなのでしょうか。完全競争市場と比較しながら、考えていきます。 4. 戦略形ゲーム ゲーム理論への導入として、ゲームを行うすべてのプレイヤーが同時に行動するゲームを、戦略形というかたちで表して分析する方法を学びます。「囚人のジレンマ」や「男女の争い」などのゲームを例にとり、戦略形ゲームの解き方を学びましょう。 5. 展開形ゲーム プレイヤーが順番に行動するゲームを、展開形というかたちで表して分析します。ここでは、先手を取るか後手を取るか、という問題や、自分の将来の行動を縛ることが自分にとって有利な状況を作り出す、という、コミットメントの概念について勉強します。 6. 寡占市場 ある財について、その売り手はひとりではないけれど、たくさんいるわけでもない、という場合が寡占です。クールノー競争やシュタッケルベルグ競争などのモデルを使って、企業の戦略的な意思決定について学びます。 7. 繰り返しゲーム 人々の間の長期的な関係を、同じゲームを何回も繰り返す状況というふうに見て、誰に命じられるわけでもなく、話し合いや約束をしたわけでもないのに、人々の間に協力関係が生まれてくることを考察します。 後期: 1. 逆選択 情報の非対称性が、市場取引においてどのように問題になるのか、中古車市場のモデルを使って解説します。 2. スクリーニング ほかの人がどんな人なのかわからないとき、どうやったら、それがわかるのでしょうか。あなたはどんな人ですか、って、聞くだけではだめなのです。なぜなら、その人は、うそをつくかもしれないからです。 3. シグナリングと不完備情報のゲーム 自分がどんな人なのか相手がわかっていないとき、どうやったら、それを知らせることができるのでしょうか。私はこんな人です、って、言うだけではだめなのです。なぜなら、あなたは、うそをついているかもしれないと思われるからです。 4. モラルハザード 人を雇うときには、その人にがんばって働いてもらいたいのですが、たいていの場合、その人がどれだけがんばっているかをつきつきりで見ているわけにはいきません。それでも、その人にがんばってもらうには、どうすればいいのでしょうか。 5. メカニズムデザイン 人々がどんな好みを持っているのかわからないなかで効率的な資源配分を行うにはどうすればいいのか、公共財の供給モデルを例にとって解説します。 6. ミクロ経済学の新しい展開 行動経済学や進化ゲーム、進化心理学など、ミクロ経済学の新しいトピックを紹介します。 7. 市場均衡の理論 この授業で学んだすべてのことを踏まえ、最後にもう一度、市場均衡で実現する資源配分について、「自分のために」が「みんなのために」なるしくみについて、あらためて、考えたいと思います。
教科書	渡辺隆裕 『ゼミナールゲーム理論入門』 日本経済新聞社 2008年。 また、教科書として指定はしませんが、参考書の、 神戸伸輔 『入門ゲーム理論と情報の経済学』 については、 そのなかのいくつかの箇所を、読んでおくようにと指示を出すことがあります。
参考書・資料	神戸伸輔 『入門ゲーム理論と情報の経済学』 日本評論社 2004年。 梶井厚志 『戦略的思考の技術』 中公新書 2002年。 奥野正寛(編著) 『ミクロ経済学』 東京大学出版会 2008年。 ラッセル・ロバーツ 『インビジブルハート ―恋におちた経済学者』 日本評論社 2003年。 矢野誠 『ミクロ経済学の基礎』 岩波書店 2001年。 金子守 『ゲーム理論と蒟蒻問答』 日本評論社 2003年。

講義関連事項	中級ミクロ経済学の内容を理解していることを前提として講義を行います。 中級ミクロ経済学を履修していない人で、この授業を受けたいという人は、担当者に相談に来てください。
--------	--

授業コード	31099		
授業科目名	西洋経済史		
担当者名	小島修一(コジマ シュウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	今日、世界が直面している南北問題や環境・資源・人口の諸問題は全て、近代以降の工業化過程と深く結びついている。工業化はまずヨーロッパで始まり、その後北米や日本に広がり、今その波は中国や東南アジア諸国に押し寄せてきている。本講義は、最初にこの工業化の時代に入り、その原型を作ったヨーロッパの経済発展を検討することによって、「歴史としての現代」を考えようとするものである。
到達目標	ヨーロッパ経済史の基礎知識の獲得
講義方法	1. たびたび講義資料を配布し、小テストを行う。 2. 毎回、講義の最後に質問票を出してもらう。 3. レポート提出を義務づける。
準備学習	テキストの指定された部分は、事前に読んでおくこと
成績評価	各小テストを10点満点、レポートを20点満点とし、残りを期末試験にわりあてる。したがって、期末試験だけでは単位取得は困難である。
講義構成	(1) イントロダクション (2) 工業化の歴史的前提 1. ヨーロッパ経済史の長期サイクル 2. 大航海時代——ポルトガルとスペイン 3. 17世紀——オランダの時代 4. 重商主義 5. イギリスの商業革命 6. イギリスの農業革命 (3) 工業化の進展 1. 最初の産業革命 2. 自由貿易体制の成立 3. イギリスの産業的衰退 4. ヨーロッパ後発国の工業化 5. フランスの工業化 6. ドイツの工業化 7. ロシアの工業化 8. アメリカの工業化 (4) 経済史における20世紀
教科書	開講時に指示する。
参考書・資料	講義において指示する。

授業コード	31100		
授業科目名	西洋経済史Ⅰ(前)		
担当者名	小島修一(コジマ シュウイチ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「西洋経済史Ⅰ」・「西洋経済史Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	今日、世界が直面している南北問題や環境・資源・人口の諸問題は全て、近代以降の工業化過程と深く結びついている。工業化はまずヨーロッパで始まり、その後北米や日本に広がり、今その波は中国や東南アジア諸国に押し寄せてきている。本講義は、最初にこの工業化の時代に入り、その原型を作ったヨーロッパの経済発展を検討することによって、「歴史としての現代」を考えようとするものである。 「西洋経済史Ⅰ」は、産業革命以前の時代について講義を行う。産業革命以後の時代を取り上げる「西洋経済史Ⅱ」の講義も合わせて受講することが望ましい。
到達目標	西洋経済史の基礎知識の獲得
講義方法	1. たびたび講義資料を配布し、小テストを行う。 2. 毎回、講義の最後に質問票を出してもらう。 3. レポート提出を義務づける。
準備学習	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと
成績評価	各小テストを10点満点、レポートを20点満点とし、残りを期末試験にわりあてる。したがって、期末試験だけでは単位取得は困難である。
講義構成	(1) イントロダクション (2) ヨーロッパ経済史の長期サイクル (3) 大航海時代・・・ポルトガルとスペイン (4) 17世紀・・・オランダの時代 (5) 重商主義 (6) イギリスの商業革命 (7) イギリスの農業革命 (8) 工業化の歴史的前提
教科書	開講時に指示する。
参考書・資料	講義において指示する。

授業コード	31101		
授業科目名	西洋経済史Ⅱ(後)		
担当者名	小島修一(コジマ シュウイチ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「西洋経済史Ⅰ」・「西洋経済史Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	今日、世界が直面している南北問題や環境・資源・人口の諸問題は全て、近代以降の工業化過程と深く結びついている。工業化はまずヨーロッパで始まり、その後北米や日本に広がり、今その波は中国や東南アジア諸国に押し寄せてきている。本講義は、最初にこの工業化の時代に入り、その原型を作ったヨーロッパの経済発展を検討することによって、「歴史としての現代」を考えようとするものである。 「西洋経済史Ⅱ」は、産業革命以後の時代について講義を行う。産業革命以前の時代を取り上げる「西洋経済史Ⅰ」の講義も合わせて受講することが望ましい。
到達目標	西洋経済史の基礎知識の獲得
講義方法	1. たびたび講義資料を配布し、小テストを行う。 2. 毎回、講義の最後に質問票を出してもらう。 3. レポート提出を義務づける。
準備学習	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと
成績評価	各小テストを10点満点、レポートを20点満点とし、残りを期末試験にわりあてる。したがって、期末試験だけでは単位取得は困難である。
講義構成	(1) イントロダクション (2) 最初の産業革命 (3) 自由貿易体制の成立 (4) イギリスの産業的衰退 (5) ヨーロッパ後発国の工業化 (6) フランスの工業化

	(7) ドイツの工業化 (8) ロシアの工業化 (9) アメリカの工業化 (10) 経済史における20世紀
教科書	開講時に指示する。
参考書・資料	講義において指示する。

授業コード	31M01		
授業科目名	ゼミⅠ(藤本)(後)		
担当者名	藤本建夫(フジモト タテオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	東京一極集中と地方経済の衰退
到達目標	東京一極集中の基本的データの收拾と理解、これに対して地方がどうなっているかを検証する
講義方法	テキストの輪読、データ収集及びディスカッション
準備学習	テキストの当該箇所を読んでくる
成績評価	ゼミへの参加度とレポート
講義構成	学期前半は東京一極集中、後半は地方経済の衰退
教科書	藤本建夫『東京一極集中のメンタリティー』ミネルヴァ書房 藤本建夫『何が地方都市再生を阻むのか』晃洋書房

授業コード	31M02		
授業科目名	ゼミⅠ(岩崎)(後)		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	産業組織と企業戦略の分析。 市場経済では、企業の切磋琢磨を通じて、新製品が導入され、低価格で表品が豊富に供給されるようになります。その過程で、企業はライバルとの競争に勝ち抜くためにさまざまな戦略を立て実行します。各企業が採用する戦略は当然ながら、製品開発、品質管理、コスト管理、製品差別化などの企業の経営能力に大きく依存します。ゼミⅡ以降で研究するこの種の問題を分析する際の基礎的知識として、「企業経済学」を学びます。「ミクロ経済学」の講義をもう少し具体的応用を意識して特殊化した内容と理解してください。
到達目標	現実の産業界における企業戦略の適否を評価できるようになること。
講義方法	学生による発表と討論を中心に、自主的に勉学する。
準備学習	教科書をあらかじめ予習し、内容のアウトラインを作成すること。
成績評価	ゼミでの発表を含む活動。演習であるので、出席することが不可欠。
講義構成	1. 市場経済の機能 2. 企業の活動 3. 競争の意味 4. 戦略的企業行動 5. 業界標準 6. 人的資源 7. 企業の境界と垂直的統合、多角化
教科書	浅羽茂『企業の経済学』日本経済新聞社、ほか。
参考書・資料	講義中に紹介します。読みやすく、入手しやすい、廉価な経営史、経営者論の書籍が多数あります。通学途上などに楽しんでください。

担当者から一言	ミクロ経済学と「一見勉強らしくない勉強」を楽しみましょう！
---------	-------------------------------

授業コード	31M04		
授業科目名	ゼミⅠ(杉村)(後)		
担当者名	杉村芳美(スギムラ ヨシミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	随時(事前に連絡してください)		

講義の内容	「今日の資本主義」 グローバルな資本主義の今日の姿を、いろいろな角度から総合的に考えます。景気、企業、市場、技術、環境、資源、労働、情報、生活などを取り上げていきます。 また、ゼミ学習をとおして、大学生基礎力の向上と人間的な成長を目指します。		
到達目標	課題について、詳しく調べ、考えをまとめ、わかりやすく発表できること		
講義方法	グループワークを軸にして、情報・データの収集、ディスカッション、プレゼンテーションなどにより、進めていきます。		
準備学習	毎回指示する課題をしっかりと行ってくること		
成績評価	出席、参加姿勢、発表などを、総合的に評価します。		
講義構成	ゼミのスタート時に、各回の予定を提示します。		
教科書	授業時に指示します		

担当者から一言	世の中で起こっていることに広く関心を持ち、話題にしていこう。
---------	--------------------------------

授業コード	31M05		
授業科目名	ゼミⅠ(青木)(後)		
担当者名	青木浩治(アオキ コウジ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	原則として金曜日午後1-2時。その他時間的余裕があれば随時対応します。		

講義の内容	2年次では与えられたテーマに従って、話のストーリーを作る基礎的スキルの習得を行います。3年次ではグループ別の研究活動に移り、自分たちで意見をまとめる作業を行い、まとめたレポートを完成させます。いずれにせよ、この半年でステップアップすることが目標です。		
到達目標	社会に旅立つために最低限必要なスキルのうち、①自前の提案を行い、②人前で説得的に自分の意見を説明し、質疑応答に耐えられる能力を形成することが最終目標です。また、仲間との議論を通じて、人間関係形成力を養うことも狙います。		
講義方法	パソコンを活用した授業になります。2年次生はまずPCの必要最低限のテクニックを前提として、それを活用したデータ蓄積、データ加工、ストーリー作成の繰り返しを行います。		
準備学習	毎回課題が出されますので、遅れた分について自分でフォローアップしておくことが求められます。また、時折対抗プレゼンを行いますので、その準備が必要です。		
成績評価	出席状況、活動状況、期末レポートの三つにより評価します。		
講義構成	当方から半年間のスケジュールを配布し、このスケジュールに従って練習問題をこなしていきます。テーマは国際経済から見た日本経済の現状分析が中心となります。、基本は皆さんが自分でデータを取得・加工して納得いくまで分析するというスタイルをとり、結構ハードな内容となりますので注意しましょう。隣同士、ワイワイ・ガヤガヤしながらテーマに沿った学習を行うことがベストです。		
教科書	特別の教科書は使用しません。		

担当者から一言	遅刻・無断欠席は厳禁です。遅刻や無断欠席をしますと、その人に自動的に「学習の遅れ」というペナルティが課されますので注意して下さい。また、ひどくモラルを欠く学生はレッド・カードとなります。
---------	---

授業コード	31M06		
授業科目名	ゼミ(稲田)(後)		
担当者名	稲田義久(イナダ ヨシヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	火曜日11:30～12:30 9号館7F 稲田研究室		

講義の内容	株価、為替レート、金利といった金融指標の日次データや、毎週発表される重要な経済月次データを読み解く訓練をします。同時にデータベース作成を講義の一環とします。これらを材料に日本経済及び世界経済の動向レポートをプレゼンテーションしてもらいます。		
到達目標	景気指標の理解と週ベースでの経済事象の理解と報告の習慣化。		
講義方法	グループでの学習、報告が中心になります。パワーポイントを使ったプレゼンテーションを重視しています。		
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておくこと。		
成績評価	ゼミへの参加頻度と各自の到達目標レベル達成の成否がポイントとなります。		
講義構成	ゼミ生のプレゼン能力とデータの理解力を高めることを目標に、 1.月次データの読み方と分析、 2.それを用いたプレゼンテーション、 3.プレゼンテーションの評価と議論 各グループに毎回以上の3つの仕事をしてもらいます。		
教科書	永濱利広、『経済指標はこう読む』、平凡社新書		
参考書・資料	新聞・インターネットから議論の材料をさがします。		

授業コード	31M07		
授業科目名	ゼミ(草野)(後)		
担当者名	草野正裕(クサノ マサヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	テーマ 経済史とその周辺 演習内容 経済史をできるだけ論理的な線に沿って理解することを試みたいと思います。 テキストの輪読以外に、「英語・IT・金融」についてのスキルを中心とした演習を毎回すこずつ行います。これらは「読書・音楽」に代わる現代の「教養」かも知れません。		
到達目標	テキストはかなり難解ですので、半分ぐらいの理解を目指したいと思います。		
講義方法	分担を決めて、教科書を輪読します。その後で、グループに分かれて討論をしていただきます。		
準備学習	テキスト該当部分を二読三読、しっかり精読していただきたいと思います。		
成績評価	出欠と平常点で評価します。		
講義構成	以下はテキストの章立てです。 1 理論と歴史 2 慣習と指令 3 市場の勃興 4 都市国家と植民地 5 貨幣・法・信用 6 国家の財政 7 農業の商業化 8 労働市場 9 産業革命		

	10結論
教科書	J.R.ヒックス／新保 博、渡辺 文夫訳『経済史の理論』講談社学術文庫、1995年
参考書・資料	J.R.ヒックスの著作および「歴史とは何か」と題した文庫や新書。 演習の際に紹介したいと思います。
担当者から一言	歴史を学ぶとはどういうことか少し考えてみて下さい。
その他	演習の運営方針 報告グループ、質問グループなどに分かれてもらい活発な討論が行われるようにしたい。卒業論文を書いているだけでも構いません。 インゼミにも参加しましょう。

授業コード	31M08		
授業科目名	ゼミⅠ(小林)(後)		
担当者名	小林 均(コバヤシ ヒトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	9号館7F在校時随意		

講義の内容	21世紀日本における公・私の役割分担(社会保障と税制) 社会保障(年金・医療・介護)や税制(法人税・消費税等)において何が問題かを、明らかにし、それを受けていかに解決するかを研究することを目的とする。今年は社会保障制度の中心である、年金、医療、介護について検討したい。
到達目標	1. 我が国の社会保障制度のどこが問題かをすること 2. 問題の解決に向けてどうすればよいかを考えること
講義方法	教科書を輪読し、社会保障や税制における問題点をまとめることを、第1の目標とする。 第2として、それを人の前で、いかに、うまく説明するかに焦点を絞って、指導を行う。
準備学習	1. 毎日の新聞やTVを通して、社会保障制度に関心をもつ 2. ゼミのテキストを必ず目を通す
成績評価	出席、発表、レポート提出によって、評価する。
講義構成	テキストの輪読と討論(発表グループvs質問グループ:Emailで事前に質問事項を送り、発表グループは答えを用意)を通して、自己のテーマ探しと学ぶことの準備 1. 公的年金 2. 医療保険 3. 介護保険 4. 消えた年金記録問題 5. 厚生年金の改ざん問題 6. 後期高齢者医療制度の迷走 7. 病院における医師不足問題 8. 大手介護業者の不祥事と撤退 9. 介護人材不足問題 10. 介護施設の総量規制等々 11. 2002年には自己負担率引上等を行った医療制度改革 12. 2003年には介護保険料の引上げ 13. 2004年には将来の年金給付削減や積立金の取り崩しを決めた年金改革 14. 2005年には予防給付等を導入した介護保険制度改革・介護保険料の再引上げ 15. 2006年には16. 老人の自己負担引上げや後期高齢者医療制度を決めた医療制度改革
教科書	鈴木亘著「だまされないための年金・医療・介護入門」(単価1900円＋税)東洋経済新報社
担当者から一言	社会の動きに関心を持ち、他人とコミュニケーションを楽しめる学生を希望します。公共経済を履修すること。知りたいことがあれば、hkoba@center.konan-u.ac.jp にメールのこと

授業コード	31M09
-------	-------

授業科目名	ゼミ(小山)(後)		
担当者名	小山直樹(コヤマ ナオキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	火曜日 昼休み		

講義の内容	環境問題について、テキストやインターネットを利用してテーマ研究を行う。
到達目標	テーマ研究をグループで共同して行い、その結果をプレゼンテーションする。また、研究結果をレポートにまとめる。
講義方法	グループ単位でテーマごとに調査研究し、毎回プレゼンテーション用のレジュメを用意したうえで報告を行う。また、月ごとに個人レポートを提出してもらい、さらに、プレゼンテーションについて、相互評価を実施する。
準備学習	グループごとに、毎週、調べた内容を検討し、プレゼンテーションの準備をする。
成績評価	個人レポートおよびプレゼンテーションの相互評価などによって評価する。
講義構成	最初の授業時に相談して決定する。
教科書	適宜指示する。
参考書・資料	適宜指示する。

授業コード	31M10		
授業科目名	ゼミ(岡田)(後)		
担当者名	岡田元浩(オカダ モトヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	第1回目の講義時に伝えます。		

講義の内容	経済学の歴史に関する基礎的学習。くわしくは、2010年5月に配布予定の「ゼミ募集要項」で確認をおこなってください。
到達目標	経済学の歴史とそれを学ぶことの現代的意義に関する基礎的知識とともに、プレゼンテーションや文献収集・利用に関する初歩的スキルを身につけることを、目標とします。
講義方法	テキスト輪読と全体解説。
準備学習	各ゼミ授業時に次回以降のゼミ授業内容の予告を行いますので、それに応じた予習・課題への取り組みを行ってください。
成績評価	授業出席と課題への取り組みを主な基準に、総合的に評価します。
講義構成	概ね以下の構成でゼミ指導を行います。 第1回：ガイダンス 第2回～第6回：テキスト輪読 第7回：個別面談 第8回～第13回：テキスト輪読 第14回：まとめ
教科書	テキストについてはプレ・ガイダンスまたは第1回目の講義時に伝えます。
参考書・資料	その都度紹介します。

授業コード	31M11		
授業科目名	ゼミ(高)(後)		
担当者名	高 龍秀(コ ヨンス)		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	授業終了後。		
講義の内容	日本とアジアの電機企業を比較研究する。		
到達目標	韓国サムスンがなぜ急成長できたのか。そのライバルである、シャープ、東芝、ソニーは現在のグローバル競争の中でどう対応しようとしているのか、について理解できるようにする。		
講義方法	各グループで決まったテーマについて調べて、パワーポイントなどで発表する。		
準備学習	各グループで調べるべきテーマと日程をあらかじめ決めるので、発表までにしっかり調べてきて発表できるようにする。		
成績評価	出席厳守。 毎回の発表、出席態度を基に評価。		
講義構成	1. 企業を分析する視覚 2. 韓国のサムスンはどのように成長してきたのか。 3. サムスンと半導体 4. サムスンと携帯電話 5. サムスンと液晶 6. 日本の企業—シャープ 7. 東芝のフラッシュメモリー 8. ソニーはなぜ液晶TVでサムスンと提携したのか 9. 世界の携帯電話産業：ノキア、サムスン、モトローラ		
教科書	授業の中で、それぞれのチームの課題図書を指定します。		
参考書・資料	張世進 『ソニーVSサムスン』日本経済新聞社、2009年。 高龍秀 『韓国の企業・金融改革』東洋経済新報社、2009年。		

授業コード	31M12		
授業科目名	ゼミ(永廣)(後)		
担当者名	永廣 顕(エヒロ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	ゼミ終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	テーマ 転換期の日本財政 内容 財政赤字、税制改革、社会保障制度改革など、現代の日本財政が抱える諸問題について、理論、歴史、制度、政策それぞれに配慮しながら総合的に検討する。
到達目標	日本の財政問題について、活発な討論ができるようになることを目標とする。
講義方法	発表班、質問班、司会班を決め、現代の日本財政に関するテキストを輪読することを基本とする。
準備学習	グループごとに発表、質問等の事前準備をおこなうこと。
成績評価	平常点(出席・発表・討論等の状況)と提出されたレポートの内容により総合評価する。
講義構成	前半は、テキスト輪読のための準備として、レポートやレジメの書き方、資料検索の方法等について指導する。 後半は、発表班、質問班、司会班を決めてテキスト(新書2冊)を輪読し、受講者間で討論するとともに、要点について担当者が解説をおこなう。その他2回、工場・企業等の社会見学を実施する。
教科書	橋本俊詔[2006]『格差社会 何が問題なのか』岩波新書、中垣陽子[2005]『社会保障を問いなおす一年金・医療・少子化対策』ちくま新書などを予定しているが、新刊書があれば変更する可能性もある。詳細は開講時に説明する。

担当者から一言	(1)欠席する場合は必ず連絡すること。 (2)“ゼミ”に関心を持ち、ゼミの諸活動には積極的に参加すること。 (3)ゼミⅢまで継続して受講すること。
ホームページタイトル	{ゼミ I (2010), http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/zemi/zemi1_2010/zemi1_2010.html }
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/zemi/zemi1_2010/zemi1_2010.html

授業コード	31M13		
授業科目名	ゼミ(奥田)(後)		
担当者名	奥田 敬(オクダ タカン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	金曜日4限 9号館7階奥田研究室		

講義の内容	経済学の古典を読む:「経済学」という新しい学問が、なぜ、いかにして、18世紀のヨーロッパに出現したのか？それは人類の歴史にとってどのような意味をもつのか？ 原点(原典)に戻って再考する。		
到達目標	「考えるヒント」として古典を活用する力と習慣を身につけること。		
講義方法	受講者の報告と討論を中心に進めていく。		
準備学習	毎回、報告者はレジメ、他の受講者は質問メモを準備しておくこと。		
成績評価	ゼミへの取り組みの姿勢で判定する。3回以上無断欠席すると失格(遅刻も分単位で換算する)。		
講義構成	第1回 オリエンテーション(報告担当箇所の決定) 第2回～第14回 テキストの輪読(報告と討論) 第15回 まとめの討論		
教科書	さしあたりはアダム・スミス『国富論』(大河内一男監訳、中公文庫)の全巻読破を目標とする。以後は受講者と相談して決定する。		
参考書・資料	その都度指示するが、入門書として堂目卓生『アダム・スミス—『道徳感情論』と『国富論』の世界—』(中公新書)は必読。		

その他	ゼミⅢでは、経済学の古典を題材とした卒業論文(レポート)をまとめること。		
-----	--------------------------------------	--	--

授業コード	31M14		
授業科目名	ゼミ(古川)(後)		
担当者名	古川 顕(フルカワ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	授業終了後および在室時はいつでも質問・相談等に応じる。		

講義の内容	金融の理論、政策、制度全般について体系的に学習する。		
到達目標	金融の基礎的な理論、金融制度、金融市場について説明できる。		
講義方法	毎回、新聞の経済・金融に関する記事をピックアップし、その内容を紹介してもらうとともに、以下の教科書を輪読する。当然のことながら、ゼミへの出席およびゼミ生相互のディスカッションを重視する。		
準備学習	新聞の経済・金融欄について毎日欠かさずに読むこと。		
成績評価	ゼミへの出席状況、報告内容、討論への参加、各種ゼミ活動への貢献度などを総合的に勘案する。		
講義構成	以下のテキストを輪読するとともに、新聞の金融関係の記事について毎回報告してもらう。		
教科書	古川 顕『テキストブック 現代の金融』(第2版)東洋経済新報社		
参考書・資料	必要に応じて紹介する。		

担当者から一言	「よく学びよく遊べ」		
---------	------------	--	--

授業コード	31M15		
-------	-------	--	--

授業科目名	ゼミⅠ(寺尾)(後)		
担当者名	寺尾 建(テラオ タケル)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	ゼミ生のみんなについては、特に設けません。		

講義の内容	〔テーマ〕 現代経済学の基礎。 〔内容・目的〕 「経済はすでに身近だが、経済学はいまだに身近ではない」というスタンスから、「経済はある意味でいまだに身近ではなく、経済学はある意味ですでに身近である」というスタンスに変えること——経済学を精確に理解し、的確に用いることができるようになるために、ここで、一からやり直します。
到達目標	“はじめること”です。
講義方法	〔運営方針〕 「ゼミの時間が来るのが毎週待ち遠しい」とすべてのゼミ生が思うようなゼミにすること。 それ自体がひとつのネットワークであるようなゼミにすること。 そして、ゼミ生の各々が新たな自分を発見＝発明するようなゼミにすること。
準備学習	「中級ミクロ経済学」(2年次配当、前期／木曜／4・5限、4単位)を受講することをお勧めします(「ゼミⅠ」の受講申込の要件ではありません)。なお、「ゼミⅠ」の受講を申し込む際には、事前に、同担当者による「ゼミⅡ」・「ゼミⅢ」・「中級ミクロ経済学」・「上級マクロ経済学Ⅰ」・「日本経済入門」のシラバスを、必ず熟読しておいてください(いまこの文章を読んだ直後に読むことをお勧めします)。
成績評価	“プレイヤー”は、ゼミ生です。担当教員は、“監督”でも“コーチ”でもなく、“サポーター”です。
講義構成	「ゼミⅠ」は、「基礎」。“はじめること”が、課題です。 「ゼミⅡ」は、「応用」。“つづけること”が、課題です。 「ゼミⅢ」は、「実践」。“おわらせること”が、課題です。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社、2009年)。
参考書・資料	週に1回、配信されます。
講義関連事項	「ゼミⅠ」=1。

担当者から一言	“みんなのゼミ”です。
その他	ゼミ生となった場合には、「第10期生」になります。 「“いつも”無条件で自分に手を貸してくれる人が、100名以上手に入る」と考えてもらってかまいません。
ホームページタイトル	ホームページのタイトルとURLについては、同担当者による「ゼミⅢ」のシラバスを参照してください。

授業コード	31M16		
授業科目名	ゼミⅠ(市野)(後)		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	初回の講義時にお知らせします。		

講義の内容	みんな、いろんなものを全部もっとほしいけど、それは無理——。もっと安くてもっとすいてる生協の食堂がほしい、今の彼氏／彼女はキープしておきたいけどほかの男の子／女の子とも遊びたい、もっと便利な生活をしたいたい、もっときれいな地球環境がほしい、確かにそうなのですが、でも、それは無理なのだということ。これが、経済学の考え方の基本(その1)です。そんなのぜんぜんふつう、と思われるかもしれませんが、これ、実はけっこう忘れられやすいのです。そういうわけで、市野ゼミも、この考え方から出発しましょう。つまり、「何の犠牲もなしにほしいものを得ることはできない」ということをつねに心にとどめながら、経済・社会の問題を眺めていきましょう。そうすれば、今までは複雑に思えたことが、少しはわかりやすくなるはずです。 ちなみに、経済学の考え方の基本はあと二つあって、その2は「人々はバカじゃない」、その3は「売らしたれ買わしたれ」です。どういうこと？ それも、ゼミで学んでいきましょう。
到達目標	発表や討論などを通して、人の前ですじみちをたてて話ができるようになること。
講義方法	クラスを3人から4人のチームにわけ、発表や討論を行います。

準備学習	人の行動や、世の中のできごとで、「なんでかな」と感じたとき、その行動をした人がどんな状況に置かれているのか、その行動をするとその人にはどんな費用がかかるのか、その行動をするとその人にはどんな便益があるのか、というふうに考えて、「なんでかな」を理解しようと努めてください。
成績評価	発表の質、質疑応答・討論への参加度などにもとづいて評価します。
講義構成	質問ゲーム パワーポイントによる発表 ディベート
教科書	教科書は使いません。

授業コード	31M17		
授業科目名	ゼミ(林)(後)		
担当者名	林 健太(ハヤシ ケンタ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	研究室在室中随時。事前のアポイントメントがあるとベター。		

講義の内容	情報通信産業の現状や今後の動向、問題点等について考察する。 2年次では、皆で討論できる下地作りを行いつつ、ネットワーク経済学の基礎を学んで貰う。
到達目標	情報通信分野の動向を知ること、これからどのような世の中を生きていかなければならないのかを知ると同時に、そこで散見される諸問題に対し、どう対応すればよいか、自ら考えられるようになる。
講義方法	グループワークを基本とする。 学生によるプレゼンテーション、教員による解説を織り交ぜながら、講義を進行する。
準備学習	日頃から新聞やウェブサイトに通し、経済や産業(特に情報通信産業)の動向をチェックしておくこと。
成績評価	プレゼンテーションの内容および講義中に指示するレポートによる。 レポートは、半期で3回以上の未提出があった場合、単位を放棄したものとして扱う。 学内外を問わず、ゼミへの貢献度は評価したい。
講義構成	第1回: オリエンテーション 第2回: 自己紹介、グループ分け 第3回～第15回: 教科書の輪読とグループ研究の成果の発表
教科書	吉田和男(2002)『IT経済学入門』有斐閣コンパクト
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	半期間で3回以上のレポート未提出があった場合、ゼミの単位は放棄したものとする。 なお、来年度(2009年度)の「ゼミⅡ」は、前期に4単位分まとめて開講の予定。

担当者から一言	良くも悪くもゼミが学生生活の中心となるよう、一緒に盛り上げていきましょう。
---------	---------------------------------------

授業コード	31M18		
授業科目名	ゼミ(森)(後)		
担当者名	森 剛志(モリ タケシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	水曜日昼休み		

講義の内容	ゼミIでは、2人ぐらいで1チームで司会者をまわしていきます。最初は決められたテキストを(森剛志「日本のお金持ち妻研究」から)みんな読んできて、どのように思うか。この点についてはどのように書かれているか司会者から聞かれますから、各自が自主的に答えていくという形式をとります。家計の視点から、いろいろなこと(女性の働き方や貯蓄率の変化など)を話し合います。これで半年はかかります。これをさらに深めて充実した内容を発表・報告することが最終課題です。この課題と関連しますが、EXCELなどを用いて、簡単な表やグラフを作成し、報告する技術も身に付けましょう。
-------	--

到達目標	学んだ内容を自分のことばで話せるようになること。
講義方法	個人による報告とグループディスカッション。
準備学習	示されたテキストや資料を事前に読んでおくこと。
成績評価	報告の質・内容。議論への参加度。
講義構成	1.結婚の経済学 2. 学歴と所得、及び結婚の関係 3. 税制度と家計管理 4. 家計の歴史的考察 等
教科書	池田信夫著「希望を捨てる勇氣」ダイヤモンド社 森剛志「日本のお金持ち妻研究」 森剛志「日本のお金持ち研究」
担当者から一言	自分の取り組みたいテーマを半年間かけて探しましょう。

授業コード	31M19		
授業科目名	ゼミⅠ(後藤)(後)		
担当者名	後藤 励(ゴトウ レイ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	開講時に指示します		

講義の内容	近年、医療・介護など健康に関する分野について人々の関心が高まっています。このゼミでは、健康に関する分野それぞれの現状や問題点を経済学的に考える基礎を学びます。
到達目標	社会問題を分析する際の基礎的な知識を身につける。
講義方法	指定したテーマや教材を分担して報告してもらい、参加者全体で議論、担当教員による補足を行います。学期中に2～3回はテーマを与え、レポート提出を求めます。
準備学習	後藤ゼミは今年5期生を募集します。4期生のゼミが水曜日4限にありますので、そちらも参加すれば先輩からいろいろな話が聞けるでしょう。
成績評価	報告の質、議論への参加度合い、レポートによる総合評価
講義構成	開講時に5期生と相談の上決めます。
教科書	特に指定しません。

授業コード	31M20		
授業科目名	ゼミ(柘植)(後)		
担当者名	柘植隆宏(ツゲ タカヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	環境経済学の基礎を学ぶ。環境経済学とは、経済学の理論を用いて環境問題の原因を解明し、有効な対策を考えることを目的とした分野である。
到達目標	ゼミⅡ、ゼミⅢで、環境問題の分析を行う際に用いる経済学的な分析手法を修得すること。
講義方法	基本的知識を共有することを目的として、環境経済学の入門書を輪読する。
準備学習	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。また、新聞等を読み、現実の環境問題の動向を把握しておくこと。
成績評価	出席状況、講義中の発表内容、およびレポートの成績に基づき、総合的に評価する。
講義構成	第1回：環境と社会経済システム 第2回～第3回：外部性の内部化

	第4回～第5回:地球温暖化対策の経済分析 第6回～第7回:廃棄物政策の経済分析 第8回～第9回:公共財と費用便益分析 第10回～第11回:環境の価値と評価手法 第12回～第13回:企業の環境対策 第14回～第15回:資源・エネルギー経済学
教科書	未定。受講生と相談して決定する。
参考書・資料	参考書として以下の文献を挙げる。この他については、講義中に適宜紹介する。 栗山浩一著(2008)『図解入門ビジネス 最新 環境経済学の基本と仕組みがよ～くわかる本』秀和システム 栗山浩一・馬奈木俊介著(2008)『環境経済学をつかむ』有斐閣
担当者から一言	環境問題に関心のある学生、プレゼンテーションやディスカッションのスキル向上に意欲を持つ学生の受講を歓迎する。

授業コード	31M21		
授業科目名	ゼミⅡ(中島)(後)		
担当者名	中島清貴(ナカシマ キヨタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	①リスクがどのように定義され、どのようにして管理することが出来るのか、という点に対するの基本事項を理解するとともに、卒業後、組織人として仕事をしていくための基本的な姿勢を皆で考えていく。 ②ゼミⅡでは、どの財務情報が会社経営にとって大事で、どういったリスクに配慮しないといけないか、という点を勉強するので、そのための準備をゼミで行う。
到達目標	①リスクとは何なのか、という点をしっかりと理解した上で、リスクという観点からどのように物事がみえていけるのかについて指針を与える。 ②グループディスカッションを通じて、異なった意見をまとめる能力を身につけるとともに、プレゼンテーション能力を鍛える。 ③春休みにピータードラッカーの本を読むことで、組織人として仕事をし、社会にとって有用な活動をするための基本的な姿勢を皆で考える。
講義方法	ゼミⅡでは、ゼミ生が互いに信頼し、仲良くなれることを最重要視しながらゼミ運営をしていく。
準備学習	特にありませんが、この世に生を受けたからには、自分を高め、将来、面白い仕事をし、社会の役に少しでも立てれば、という問題意識を持ってゼミの活動にあたってもらえるとありがたいです。
成績評価	ゼミの活動に対する貢献(＝グループディスカッションでの発表の態度と11月以降のテキストの発表資料の出来具合)によって総合的に決めます。ゼミの活動に全く貢献をしていない人には「それなりの」点数しかつけないと思います。
講義構成	①10月末頃まではグループディスカッションを通じて、ゼミ生の交流を促すとともに、異なった意見をとりまとめ、より良いプレゼンテーションを行うためのトレーニングを行う。 ②11月からヴァーチャル株式取引とテキストを読んでいく過程で、リスクに対する基本事項を理解する ③ゼミ生がより仲良くなるため、年明けの3月にゼミ旅行に行き、ゼミⅡでの活動に対する準備を行う。
教科書	「ファイナンス」がすらすらわかる本ー60分で知ったかぶり 安部 徹也 同文館出版 1575円
参考書・資料	適宜指示いたします
講義関連事項	毎年、金融機関を目指されている方や大学院進学を考えている方の希望が多いのですが、金融リスクに対する理解や財務情報を読む能力はどの組織に入っても必須です。金融リスクや財務情報を分析するためのツボを知りたい方は誰でもウェルカムです。

担当者から一言	1つの授業当たりで皆さんが払っている授業料は4000円から6000円だそうです。皆さんにとって、この教育投資額に見合う、あるいは、それ以上の「ゼミ運営＝ゼミ生の訓練」を行うことが私に課せられた仕事です。知識に対する投資をしている、という明確な意識をもたれている方にとってはこのゼミを通じて得るところがあると思います。楽に単位をとって、お茶を濁すような知識を得たままでも良いのでとにかく卒業したいと考えている人は(このゼミに限らずどのゼミでも)あまり得るところはないでしょう。ゼミⅡの前期セメスターでは、どの財務情報が会社経営にとって大事で、どういったリスクに配慮しないといけないか、という点を勉強するので、その準備をゼミで行います。
---------	--

授業コード	31M22		
授業科目名	ゼミ(阿萬)(後)		
担当者名	阿萬弘行(アマン ヒロユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	講義時間帯にお知らせします。		
講義の内容	主に証券市場に焦点を当て、現代の金融に関する諸問題を理解するための基礎を学ぶ。証券論、コーポレートファイナンスを数値、データを使って多面的に検討する。適宜、時事的問題についても取り上げる。		
到達目標	テキストの基礎的内容をまとめて、分かりやすく報告できること。		
講義方法	金融に関するテキストを担当者が報告し、参加者で議論する。また、最近起きている金融・経済の時事的問題について新聞・経済誌記事からの報告を行う。適宜、関連するトピックスについてのレポート課題を課す。参加人数に応じて、グループワークを行う。		
準備学習	毎日の経済、金融に関するニュースを新聞・雑誌を通してチェックすることが、内容理解を深める。		
成績評価	ゼミの参加状況、報告内容、レポートを総合的に見て評価を行う。		
講義構成	毎回のゼミの主な構成 (1) テキスト内容の報告 (2) 金融・経済についての時事的問題の検討 (3) 関連するトピックスの報告 (4) レポート課題		
教科書	(候補)「道具としてのファイナンス」石野雄一 日本実業出版社		
講義関連事項	ゼミ受講生には、毎回の周到な報告準備、議論への積極的参加が求められます。		

授業コード	31M23		
授業科目名	ゼミ(石川)(後)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	火曜4限(前期)もしくは火曜5限(後期)		
講義の内容	都市政策の基礎を学んだ後、都市や地域の抱える問題について調査、その問題に対して有効かつ効果的な政策提言を行う。		
到達目標	自分自身で都市や地域の抱える問題を発見する力とともに、論理的な思考力を身につける。また、学生同士の議論(ディベート)の場を通じて、相手の意見を理解する力、自分の意見を表現する力を身につける。		
講義方法	受講生のグループワークを中心に講義を進める。なお、適宜PowerPointを用いたプレゼンテーションの機会を設ける。		
準備学習	時事問題を扱うため、日頃から新聞等からの情報に関心を持つ必要がある。また、論理的かつ建設的なディベートを展開するためには、Excelなどの表計算ソフトを用いてデータ分析やグラフ作成を行ったり、PowerPointなどのプレゼンテーションソフトを使う必要がある。このため、これらのソフトを使いこなすことが履修要件ではないが、ゼミを通じて使い方を習得できるよう積極的に努力することが必要である。		
成績評価	出席状況とともに、グループワークへの参加意欲(積極性)によって総合的に評価する。		
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2～13回 グループワークとその発表、ディベート 第14回 まとめ		
教科書	特に指定しない。配布したレジュメに基づく。		
参考書・資料	講義中に適宜指示する。		
担当者から一言	ゼミでは基本的にグループで作業することが多いため、学生同士で積極的にコミュニケーションを深めてほしいと思います。すべてのゼミ生が研究の楽しさを知ることができるようなゼミを目指します。		

授業コード	31Q01		
授業科目名	ゼミⅡ(藤本)		
担当者名	藤本建夫(フジモト タテオ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)

講義の内容	環境問題と経済対策		
到達目標	12月のインゼミで発表できるだけの力をつける		
講義方法	報告とディスカッション		
準備学習	テキストを良く読んでくる		
成績評価	プレゼンテーションの達成度とゼミへの参加度		
講義構成	中国の環境政策とヨーロッパの環境政策を交互に行なう		
教科書	定方正毅『中国で環境問題にとりくむ』岩波新書 福島清彦『環境問題を経済から見る』亜紀書房		

授業コード	31Q02		
授業科目名	ゼミⅡ(小島)		
担当者名	小島修一(コジマ シュウイチ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)

講義の内容	ディベートで学ぶ現代の経済社会 ゼミⅠからの継続で、日本社会が直面するいくつかの経済問題についてディベートを行う。ディベートとその準備過程を通して、論理的な思考力と発表・議論の力をつけることを目的としている。		
到達目標	日本社会が直面している経済問題について、自分の意見を持つこと		
講義方法	テーマの説明、ディベートの準備、ディベート、審査員による判定、論点の解説という順序で、毎月ゼミ活動を進める。		
準備学習	ディベートの前に、必ずチーム単位で打ち合わせを行うこと		
成績評価	ゼミでの積極性(調査・発言・リーダーシップなど)によって、成績を評価する。		
講義構成	(1)ディベートの準備 (2)ディベートの実践 (3)ディベートの判定と講評		
教科書	開講時に指示する。		
参考書・資料	『日本の論点』など		

授業コード	31Q03		
授業科目名	ゼミⅡ(杉村)		
担当者名	杉村芳美(スギムラ ヨシミ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)
オフィスアワー	随時(事前に連絡してください)		

講義の内容	「資本主義の現在と未来」		
-------	--------------	--	--

	ゼミⅠからの継続。 インゼミに参加するために、テーマ学習を深め、準備作業を進める。
到達目標	グループワークをとおして、学習テーマについて詳しく調べ、考えを整理し、しっかりした報告を行えるようになること
講義方法	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に進める
準備学習	各回ごとに指示する課題をしっかりと行ってくる
成績評価	出席、課題提出、参加姿勢などを、総合的に評価する
講義構成	前期は、今日の資本主義の諸側面について学び、後期はインゼミへの準備をする
教科書	授業で指示する

授業コード	31Q04		
授業科目名	ゼミⅡ(青木)		
担当者名	青木浩治(アオキ コウジ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)
オフィスアワー	原則として月曜日午後1～2時。その他時間的余裕があれば、随時対応します。		

講義の内容	社会に出て必要とされるスキルのうち、2年次生では与えられたテーマに沿って、調査・研究および発表を行うため基礎的なスキルを磨きました。3年次生ではその基礎に立って、いよいよ自分で種の仕込み作業、成果の発表と議論というもう一段階上のステップに進む予定です。		
到達目標	社会に旅立つために最低限必要なスキルのうち、①自前の提案を行い、②人前で説得的に自分の意見を説明し、質疑応答に耐えられる能力を形成することが最終目標です。また、仲間との議論を通じて、人間関係形成力を養うことも狙います。		
講義方法	PCを活用したグループ別作業形式をとります。主体は学生諸君であり、教員は脇役です。		
準備学習	前半は各グループで共同研究を実施し、その結果を対抗プレゼンにより発表するので、各自準備が必要です。また、後半は二つのグループに分かれた共同研究に移るので、同様の準備が必要となります。		
成績評価	ゼミ活動への積極的関与度と提出されたレポートの内容により評価します。		
講義構成	グループ内での議論と調査・研究を基本とし、時折プレゼンを行います。		
教科書	特別の教科書は使用しません。		
参考書・資料	テーマに沿った文献を自分たちで発掘していきます。		

授業コード	31Q05		
授業科目名	ゼミⅡ(稲田)		
担当者名	稲田義久(イナダ ヨシヒサ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)
オフィスアワー	火曜日11:30～12:30 9号館7F 稲田研究室		

講義の内容	どうなる日本経済・世界経済－エコノミストの分析方法を学ぶー ゼミⅠで培った経済データベース作成の基礎やプレゼンテーション能力の更なる向上を目指します。 ゼミⅡでは短期の景気分析だけではなく地域(関西)経済にも目を向けます。ダイナミックに変化する日本経済や世界経済の動向を分析し、政策を考えるエコノミストの目を育てたいと考えています。		
到達目標	経済分析の基礎能力を経済政策分析にうまく利用する仕方を習得する。		
講義方法	ゼミⅠと同様、グループでの学習、報告が中心になります。 ディスカッションとパワーポイントを使ったプレゼンテーションを重視しています。		
準備学習	関西経済の発展方向を検討した。関西メガリージョン構想を一読しておいてください。以下のウェブの資料を参		

	照してください。 http://www.kansai.meti.go.jp/7kikaku/mega_region/mega_region.html
成績評価	ゼミへの参加頻度と各自の到達目標レベル達成の成否がポイントとなります。
講義構成	ゼミⅡの活動は以下のステップで進みます。 第1ステップ ゼミを4つのグループに分割。各グループが活動の主体となる。 第2ステップ データの収集方法を習得しその理解を高める時期。経済を理解するのに必要なデータを各グループで収集し、データの読み方を勉強する。毎週その成果を2グループが報告する。 第3ステップ 4つのグループを2つの班に再編。インナーゼミナールでの発表する各班のトピックスを決定する。 第4ステップ 各グループは研究の成果をインナーゼミナールで発表するために、資料作りとプレゼンの準備に従事。 最終ステップ インナーゼミナールで成果を報告。
教科書	特に指定しません。
担当者から一言	望むこと:通信やパソコンに興味のある学生を歓迎します。そしてなによりも、元気・やる気があり、ゼミをめったなことで休まない学生、これがわがゼミの第1希望です。
その他	ゼミでの作業や指導は週1時間程度のゼミの時間だけでは不可能です。そこで、一定の場所に集まって時間をかけてじっくり議論する方法に加え、メール等を有効利用して仮想の空間でゼミを指導する方法を併用しています。

授業コード	31Q06		
授業科目名	ゼミⅡ(草野)		
担当者名	草野正裕(クサノ マサヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)

講義の内容	テーマ 経済史とその周辺 演習内容 経済史をできるだけ論理的な線に沿って理解することを試みたいと思います。 テキストの輪読以外に、「英語・IT・金融」についてのスキルを中心とした演習を毎回すこずつ行います。これらは「読書・音楽」に代わる現代の「教養」かも知れません。
到達目標	テキストはかなり難解ですので、半分ぐらいの理解を目指したいと思います。
講義方法	分担を決めて、教科書を輪読します。その後で、グループに分かれて討論をしていただきます。
準備学習	テキスト該当部分を二読三読、しっかり精読していただきたいと思います。
成績評価	出欠と平常点で評価します。
講義構成	以下はテキストの章立てです。 1 理論と歴史 2 慣習と指令 3 市場の勃興 4 都市国家と植民地 5 貨幣・法・信用 6 国家の財政 7 農業の商業化 8 労働市場 9 産業革命 10結論
教科書	J.R.ヒックス／新保 博、渡辺 文夫訳『経済史の理論』講談社学術文庫、1995年
参考書・資料	J.R.ヒックスの著作および「歴史とは何か」と題した文庫や新書。 演習の際に紹介したいと思います。

担当者から一言	歴史を学ぶとはどういうことか少し考えてみて下さい。
---------	---------------------------

その他	演習の運営方針 報告グループ、質問グループなどに分かれてもらい活発な討論が行われるようにしたい。卒業論文を書いている ただくつもりです。 インゼミにも参加しましょう。
-----	--

授業コード	31Q07		
授業科目名	ゼミⅡ(小林)		
担当者名	小林 均(コバヤシ ヒトシ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)
オフィスアワー	来校在室時		

講義の内容	経済のグローバル化、世界的競争の時代に、年金を含め所得保障をいかに効率的、公平に達成するかが共通の課題になっている。そうした中で、いま最も注目を浴びているのが、給付付き税額控除制度である。低所得者の経済的支援、少子化対策としての効果が期待されている。人口減少社会における、所得保障、少子化対策を検討するのが、このゼミの求めるところです。
到達目標	1 自己のテーマ探しと学ぶことの準備をすること 2 インナーゼミに向けて、グループ分けし、各グループごとにパワーポイントによるプレゼンを行い、実社会で通用するプレゼン能力を身につけること
講義方法	テキストの輪読と討論(発表グループvs質問グループ:Emailで事前に質問事項を送り、発表グループは答えを用意)を通して、自己のテーマ探しと学ぶことの準備。後半から、インナーゼミに向けて、グループ分けし、各グループごとにパワーポイントによるプレゼンを行い、実社会で通用するプレゼン能力を身につけることを目指す。
準備学習	1.テーマに関する新聞記事、TV報道を読み、聞くこと
成績評価	1. 出欠席と発表およびレポート 2. 12月開催のインナーゼミナールでの発表 3. 上記すべてがなされた場合を基準に、減点方式で評価 上記すべてがなされた者の中で、発表内容、ゼミでの態度の良好な者に「秀」が与えられる。
講義構成	1. 課税上の所得概念① 2. 課税上の所得概念② 3. 課税上の所得概念③ 4. 課税単位① 5. 課税単位②—女性とと所得税制 6. 控除制度① 7. 控除制度② 8. 給与所得課税 9. 累進課税 10. 年金税制 11. 相続税 12. 納税者番号制度 13. 所得再分配機能としての所得税(Ⅰ) 14. 所得再分配機能としての所得税(Ⅱ) 15. 給付付き税額控除(Ⅰ) 16. 給付付き税額控除(Ⅱ) 17. 社会保障の財源としての消費税(Ⅰ) 18. 社会保障の財源としての消費税(Ⅱ) 19. 社会保障の財源としての消費税(Ⅲ) 20. プレゼン1(1班) 21. プレゼン2(2班) 22. プレゼン3(3班) 23. プレゼン4(1班) 24. プレゼン5(2班) 25. プレゼン6(3班) 26. プレゼン7(2班) 27. プレゼン8(1班)

	28. プレゼン9(3班) 29. プレゼン10(合同) 30. インナーゼミナール
教科書	ゼミ I での教科書を継続して使用する。各自教科書を確保すること。

授業コード	31Q08		
授業科目名	ゼミⅡ(小山)(後)		
担当者名	小山直樹(コヤマ ナオキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
オフィスアワー	火曜日 昼休み		

講義の内容	環境問題について、グループ単位でテーマ研究を継続的に行なう。調査研究の結果は、年末に実施されるインナーゼミナール大会で報告する。		
到達目標	インゼミに向けての調査研究の中間報告を毎週行う。12/4(土)のインゼミで最終報告を行う。		
講義方法	グループごとに、毎回レジュメを用意した上でプレゼンテーションを行う。また、プレゼンテーションを相互評価する。原則として、インナーゼミナール大会で研究報告を実施する。		
準備学習	グループごとに、毎週、調査した内容を検討してプレゼンの準備を行う。		
成績評価	テーマ研究についてのレポートとプレゼンテーションの相互評価などを参考にして評価する。		
講義構成	最初の授業時に相談して決定する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書・資料	適宜指示する。		

授業コード	31Q09		
授業科目名	ゼミⅡ(岡田)		
担当者名	岡田元浩(オカダ モトヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)
オフィスアワー	第1回目の講義時に伝えます。		

講義の内容	ゼミ I で学んだ経済学の歴史に関する基礎的知識をさらに深め、インナー・ゼミナール大会(インゼミ)でのその成果の発表に向けた準備を行います。		
到達目標	経済学の歴史およびそれを学ぶことの現代的意義をゼミ I 段階より高度に理解するとともに、インゼミ発表準備を通じて、プレゼンテーション・スキルや文献収集・利用に関する基礎および応用知識を身につけます。		
講義方法	全体講義・解説とグループ学習。		
準備学習	各ゼミ授業時に次回以降のゼミ授業内容の予告を行いますので、それに応じた予習・課題への取り組みを行ってください。		
成績評価	授業出席と課題への取り組みを主な基準に、総合的に評価します。		
講義構成	概ね以下の構成でゼミ指導を行います。 第1回: ガイダンス 第2回～第4回: ゼミ I で用いたテキストの残り部分の学習 第5回～第26回: インゼミ発表に向けた準備学習 第27回: インゼミ反省会 第28回: まとめ		
教科書	第1回目の講義時に伝えます。		
参考書・資料	その都度紹介します。		

授業コード	31Q10		
授業科目名	ゼミⅡ(高)(後)		
担当者名	高 龍秀(コ ヨンス)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
講義の内容	アジアと日本の企業について研究する。		
到達目標	韓国サムスン、日本のシャープ、パナソニックなどについて、歴史的発展過程、競争力、課題を理解できるようにする。		
講義方法	各グループで決められた課題を調べてきて、パワーポイントなどで発表し、全体で討論する。		
準備学習	毎回、事前配布資料を熟読し、与えられた課題をよく考えてくる。		
成績評価	出席重視。毎回の発表、参加態度などで評価する。		
講義構成	3・4つのグループに分かれて、いくつかのアジア、日本企業を調べて行く。 対象は、韓国のサムスン、日本のシャープ、任天堂、ユニクロ、など。		
教科書	高龍秀『韓国の企業・金融改革』東洋経済新報社など、授業で指示する。		

授業コード	31Q11		
授業科目名	ゼミⅡ(永廣)		
担当者名	永廣 顕(エヒロ アキラ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)
オフィスアワー	ゼミ終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	テーマ 転換期の日本財政 内容 財政赤字、税制改革、社会保障制度改革など、現代の日本財政が抱える諸問題について、理論、歴史、制度、政策それぞれに配慮しながら総合的に検討する。		
到達目標	12月に開催されるインナーゼミナール大会で、共同研究の成果を発表する。		
講義方法	(1)インナーゼミナール大会に向けて、前期中に研究テーマを設定し、研究計画を立てる。 (2)夏休み中から資料収集・調査をおこない、分析・考察した成果を後期のゼミの時間に発表する。 (3)発表時にはゼミⅢ受講者から指導を受けるとともに、ゼミ生全員で討論する。		
準備学習	グループとしてまとまりのある発表ができるように研究に取り組むこと。		
成績評価	平常点(出席・発表・討論等の状況)と提出されたレポートの内容により総合評価する。		
講義構成	前期は、ゼミⅠに引き続きテキスト(新書1冊)の輪読をおこなった後、ゼミ合宿で研究テーマを設定し、インナーゼミナール大会に向けた準備を開始する。後期は、夏休み中から取り組んできた研究の成果をゼミの時間に発表し、討論を重ねることで発表内容のレベルアップに努める。その他4回、工場・企業等の社会見学を実施する。		
教科書	輪読時のテキストとして、小比木潔[2009]「消費税をどうするかー再分配と負担の視点から」岩波新書を予定している。		
参考書・資料	研究の進行状況に応じて適宜指示する。		

担当者から一言	(1)各自責任を持ち、お互いに協力して研究を進めること(決して他人まかせにしないこと)。 (2)ゼミの諸活動には積極的に参加すること。 (3)「財政」および「地方財政Ⅰ・Ⅱ」の未履修者は、必ず履修して講義を聴講すること。		
ホームページタイトル	{ゼミⅡ(2010), http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/zemi/zemi2_2010/zemi2_2010.html }		
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/zemi/zemi2_2010/zemi2_2010.html		

授業コード	31Q12		
授業科目名	ゼミⅡ(奥田)		
担当者名	奥田 敬(オクダ タカン)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)
オフィスアワー	金曜日4限 9号館7階奥田研究室		

講義の内容	経済学の古典を読む:「経済学」という新しい学問が、なぜ、いかにして、18世紀のヨーロッパに出現したのか？それは人類の歴史にとってどのような意味をもつのか？ 原点(原典)に戻って再考する。		
到達目標	「考えるヒント」として古典を活用する力と習慣を身につけること。		
講義方法	受講者の報告と討論を中心に進めていく。		
準備学習	毎回テキストの指定された範囲を読み、レジメまたは質問を準備すること。		
成績評価	ゼミへの取り組みの姿勢で判定する。5回以上無断欠席すると失格(遅刻も分単位で換算する)。		
講義構成	第1回 オリエンテーション(テキストの選定) 第2回～第14回 テキストの輪読(報告と討論) 第15回 前期のまとめ(夏期休暇中の課題設定) 第16回 夏期休暇中の課題報告 第17回～第29回 テキストの輪読(報告と討論) 第30回 まとめ(卒業論文のテーマ設定)		
教科書	受講者と相談して決定する。		
参考書・資料	その都度指示するが、入門書として内田義彦『社会認識の歩み』(岩波新書)は必読。		

その他	ゼミⅢでは、経済学の古典を題材とした卒業論文(レポート)をまとめること。		
-----	--------------------------------------	--	--

授業コード	31Q13		
授業科目名	ゼミⅡ(古川)		
担当者名	古川 顕(フルカワ アキラ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)
オフィスアワー	授業終了後および在室時はいつでも質問・相談等に応じる。		

講義の内容	金融の理論、政策、制度全般について体系的に学習する。		
到達目標	新聞・雑誌の金融の記事を十分に理解できるうえ、卒業論文作成のための準備ができること。		
講義方法	毎回、新聞の経済・金融に関する記事をピックアップし、その内容を紹介してもらうとともに、以下の教科書を輪読する。当然のことながら、ゼミへの出席およびゼミ生相互のディスカッションを重視する。さらに、インナーゼミ、他大学との対抗ゼミに対する準備を行う。		
準備学習	新聞の経済・金融欄を毎日欠かさず読んでおくこと。		
成績評価	ゼミへの出席状況、報告内容、討論への参加、各種ゼミ活動への貢献度などを総合的に勘案する。		
講義構成	テキストを輪読するとともに、新聞・雑誌の金融関係の記事について毎回報告してもらう。さらに適宜、インナーゼミナールおよび他大学との対抗ゼミの進捗状況を報告してもらう。		
教科書	古川 顕『テキストブック 現代の金融』(第2版)東洋経済新報社		
参考書・資料	必要に応じて紹介する。		

担当者から一言	「よく学びよく遊べ」		
---------	------------	--	--

授業コード	31Q14		
-------	-------	--	--

授業科目名	ゼミⅡ(上島)(前)		
担当者名	上島康弘(ウエシマ ヤスヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
オフィスアワー	研究室のドアに掲示.		

講義の内容	さまざまな社会問題を取り上げて、事実を調べて、しぐみを考え、解決策を提案する。研究成果をパワーポイントを使って報告して、その内容をレポートに仕上げる。
到達目標	目標は、社会問題のシャーロック・ホームズになることー問題点に目を向けて、必要な情報を集めて理解し、それに推理を加えて解決策を作り上げる力を身につけることである。
講義方法	本や資料を探して読み、プレゼンテーションとレポートの作成を行う。
準備学習	頻繁に出す宿題を必ず期日までに仕上げること。
成績評価	出席点・平常点(80点満点)+レポート点(20点満点)。出席点について、病欠欠席はマイナス5点、無断欠席はマイナス10点。
講義構成	(1)各自、関心のある問題について、本や資料を読んで事実を調べ、しぐみを考えて、解決策を提案する。 (2)上記(1)の報告の中からゼミ生全員の関心の高いものを選んで、インターゼミナールのテーマ候補とする。 (3)全員が何らかのテーマを研究するチームに属して、インターゼミナール発表の準備を進める。 (4)インターゼミナールで発表する。 (5)発表内容をレポートの形にまとめて提出する。
教科書	インターゼミナールのテーマが決まったら、チームの共通認識となる本を指定する。その本の話の流れとキーワード、図表の意味について、ノートを作りながら読むこと。
講義関連事項	さまざまな講義に出席して、「これをゼミで勉強しよう」という問題を見つけてほしい。
担当者から一言	世の中のしぐみを実証的に考える。

授業コード	31Q15		
授業科目名	ゼミⅡ(寺尾)		
担当者名	寺尾 建(テラオ タケル)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)
オフィスアワー	ゼミ生のみんなについては、特に設けません。		

講義の内容	さあたそ・ミル・ごっちゃん・カズマ・ショウ・こ～み・ベーコン・スーさん・ゆん・ちよく・りっちゃん・まーちゃん・げんた・みいちゃん・ツッキー・ほっしー・リョウイチ・キョーヘー・くーちゃん・のん —— この20名のみんなでしかできないこと、この20名のみんなだからこそできることを、実現すること。
到達目標	“つづけること”です。
講義方法	「みんなで、やった」としかいえないような方法で。
準備学習	準備が、すべて。
成績評価	みんなで、たがいに。
講義構成	みんなで、それぞれに。
教科書	みんなが、「ボク(ワタシ)が教科書！」で。
参考書・資料	みんなが、「ワタシ(ボク)が参考書！」で。
講義関連事項	「ゼミⅠ」＝1。「ゼミⅡ」＝10。

担当者から一言	“みんなのゼミ”です —— 期待しています。
その他	“いつでも”
ホームページタイトル	ホームページのタイトルとURLについては、「ゼミⅢ」のシラバスを参照。

授業コード	31Q16		
授業科目名	ゼミⅡ(市野)		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)
オフィスアワー	初回の授業でお知らせします。		

講義の内容	みんな、いろんなものを全部もっとほしいけど、それは無理——。もっと安くてもっとすいてる生協の食堂がほしい、今の彼氏／彼女はキープしておきたいけどほかの男の子／女の子とも遊びたい、もっと便利な生活をしたいしもっときれいな地球環境がほしい、確かにそうなのですが、でも、それは無理なのだということ。これが、経済学の考え方の基本(その1)です。そんなのぜんぜんふつう、と思われるかもしれませんが、これ、実はけっこう忘れられやすいのです。そういうわけで、市野ゼミも、この考え方から出発しましょう。つまり、「何の犠牲もなしにほしいものを得ることはできない」ということをつねに心にとどめながら、経済・社会の問題を眺めていきましょう。そうすれば、今までは複雑に思えたことが、少しはわかりやすくなるはずです。 ちなみに、経済学の考え方の基本はあと二つあって、その2は「人々はバカじゃない」、その3は「売らしたれ買わしたれ」です。どういうこと? それも、ゼミで学んでいきましょう。		
到達目標	ミクロ経済学の基本的な概念や考え方を理解すること。そして、それを基にして、自分たちが興味を持った対象について研究をすること。		
講義方法	前期は、ゼミ生どうして、ミクロ経済学の教科書を輪読する。 後期は、ゼミ生自身が選んだテーマについて、ゼミ生で共同研究を行う。		
準備学習	人の行動や、世の中のできごとで、「なんでかな」と感じたとき、その行動をした人がどんな状況に置かれているのか、その行動をするとその人にはどんな費用がかかるのか、その行動をするとその人にはどんな便益があるのか、というふうに考えて、「なんでかな」を理解しようと努めてください。		
成績評価	報告の質や質疑応答への参加度などにもとづいて評価します。		
講義構成	前期: ミクロ経済学の教科書を輪読します。3名程度の班をつくり、班ごとに、担当する章の内容について報告してもらいます。 後期: 12月上旬のインゼミ大会に参加して研究報告をします。		
教科書	N.グレゴリー・マンキュー「マンキュー経済学I ミクロ編」第2版 東洋経済新報社。		
担当者から一言	充実したゼミになるように、おたがいががんばりましょう。		

授業コード	31Q17		
授業科目名	ゼミⅡ(森)		
担当者名	森 剛志(モリ タケン)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)
オフィスアワー	水曜日昼休み		

講義の内容	ゼミⅡでは、2人ぐらいで1チームで司会者をまわしていきます。最初は決められたテキストをみんな読んできて、どのように思うか。この点についてはどのように書かれているか司会者から聞かれますから、各自が自主的に答えていくという形式をとります。家計の視点から、日本の労働市場の問題などを中心に話をします。また「人を動かす方法」について行動経済学の考え方を使って、学んでいきます。最終的には学んできたものを発表・報告することが最終課題です。また、EXCELなどを用いて、簡単な表やグラフを作成し、報告する技術も身に付けましょう。		
到達目標	数枚のタームペーパーを作成すること。		
講義方法	個人による報告とグループディスカッション。		
準備学習	教科書を事前に読んでおくこと。 与えられた課題を事前にこなしておくこと。		
成績評価	報告の質・内容。議論への参加度。		
講義構成	1.日本の労働市場		

	2. 海外の労働市場 3. 労働者間の格差問題 4. 日本の労働市場の将来 5. 非合理的人の行動 6. プロスペクト理論 7. 近い将来を大きく割引くモデル 等
教科書	池田信夫著「希望を捨てる勇気」ダイヤモンド社 多田洋介『行動経済学入門』（日本経済新聞社）
担当者から一言	自分の取り組みたいテーマを時間をかけて探しましょう。

授業コード	31Q18		
授業科目名	ゼミⅡ（後藤）		
担当者名	後藤 励（ゴトウ レイ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）
オフィスアワー	ゼミ生はメール連絡によるアポイントメントにより随時		
講義の内容	ゼミⅠではグループディスカッションを中心に行いました。ゼミⅡでは、個人発表と12月のインゼミに向けてのグループ発表の両方を行います。研究テーマを決めること、それをデータに基づいてしっかり調べることの難しさについては、何となくわかったと思います。しゃべりが効く人は自分の能力を過信しないでより説得的な説明を心がけましょう。しゃべりが苦手な人もこつこつ調べて、人が気づかない点を見つけましょう。		
到達目標	集団または一人で、分析可能な問題を発見し、データに基づいて論理的な分析を行う基礎を身につけること。		
講義方法	グループまたは個人による報告、全体でのディスカッション＋担当者の補足講義 など		
準備学習	ゼミの場合、時間の延長や宿題（個人やグループに対する）がありえます。水曜日5限はそうした準備学習や復習に使われることが多いでしょう。		
成績評価	出席、報告の質、全体ディスカッションへの参加度合い、学期末レポート（ゼミⅡは通年なので二回）による総合評価		
講義構成	グループディスカッションや個人報告の他にも、簡単な計量経済学的な分析についての講義などを行う		
教科書	特に指定しない		
担当者から一言	前期金曜日3限に「健康経済」を3/4回生向けに開講します。ゼミ生はそちらも受講してください。		

授業コード	31Q19		
授業科目名	ゼミⅡ（柘植）		
担当者名	柘植隆宏（ツゲ タカヒロ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）
講義の内容	ゼミⅠで修得した環境経済学の知識を活用して、グループ単位でレポートを作成する。研究成果は、インナーゼミナール大会で発表する。		
到達目標	・経済学的な分析手法を用いて、現実の環境問題を分析できるようになること。 ・研究内容をレポートにまとめるとともに、その内容に関してプレゼンテーションやディスカッションができるようになること。		
講義方法	・グループごとに、研究の進行状況を発表する。 ・レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどのトレーニングも行う。		
準備学習	・新聞等を読み、現実の環境問題の動向を把握しておくこと。 ・必要に応じて、ゼミ以外の時間にもグループワークを行うこと。		

成績評価	出席状況、講義中の発表内容、およびレポートの成績に基づき、総合的に評価する。
講義構成	研究テーマの設定 先行研究のレビュー 調査・分析 レポートの作成 プレゼンテーション ディスカッション
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	参考書として以下の文献を挙げる。この他については、講義中に適宜紹介する。 栗山浩一著(2008)『図解入門ビジネス 最新 環境経済学の基本と仕組みがよ〜くわかる本』秀和システム 栗山浩一・馬奈木俊介著(2008)『環境経済学をつかむ』有斐閣

授業コード	31Q20		
授業科目名	ゼミⅡ(中島)		
担当者名	中島清貴(ナカシマ キヨタカ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)

講義の内容	①前期セメスターでは、会社経営にとってどういった財務情報に留意する必要があるのか、どういった金融リスクに配慮しないといけないか、どういったコストを低く抑えないといけないか、という点を理解する。 ②後期セメスターでは、インターゼミナール大会の準備を行う。 ③インターゼミナール大会終了後は、グループディスカッションと疑似的な役員面接を通じて、就職活動のための実践的なトレーニングを行う。
到達目標	ゼミⅡでは、会社経営にとってどんな金融情報に配慮しないといけないのか、という点を皆が理解出来るようになるとともに、インターゼミナール大会の準備を通じて、組織の中で仕事をしていくことの面白さと難しさを実感してもらう。インターゼミナール大会での発表テーマは金融リスクに関するテーマが望ましいが、各自が面白いと思うものであれば原則、何でも良い。インターゼミナール大会終了後は、グループディスカッションや疑似的な役員面接を通じて、就職活動のための実践的なトレーニングをしていく。
講義方法	ゼミⅡでは、ゼミ生が将来、社会や会社組織でしっかりと生きいけるようになるためのトレーニングを行う。
準備学習	特にありませんが、この世に生を受けたからには、自分を高め、将来、面白い仕事をし、社会の役に少しでも立てれば、という意識を持ってもらえるとありがたいです。
成績評価	ゼミへの貢献によって総合的に評価します。
講義構成	①前期セメスターでは、会社経営にとって必要な基本的な金融情報(コーポレートファイナンス)をテキストを読みながら身につける。 ②後期セメスターでは、インターゼミナール大会の準備を行う。なお、発表のテーマは何でも良い。 ③インターゼミナール大会終了後は、グループディスカッションを何度も行いうことで、就職活動のための実践的なトレーニングを行う。
教科書	ざっくり分かるファイナンスー経営センスを磨くための財務 石野雄一 光文社新書 756円
講義関連事項	金融リスクに対する理解や財務情報を読む能力はどの組織に入っても必須です。金融リスクや財務情報を分析するためのツボを学習することで、現代の会社経営にとってどういった金融情報に配慮しないといけないのかをしっかりと理解し、自信を持って就職活動に臨みましょう。

担当者から一言	1つの授業当たりで皆さんが払っている授業料は4000円から6000円だそうです。皆さんにとって、この教育投資額に見合う、あるいは、それ以上の「ゼミ運営＝ゼミ生の訓練」を行うことが私に課せられた仕事です。知識に対する投資をしている、という明確な意識をもたれている方にとってはこのゼミを通じて得るところがあると思います。楽に単位をとって、お茶を濁すような知識を得たままでも良いので、とにかく卒業したいと考えている人は(このゼミに限らずどのゼミでも)あまり得るところはないでしょう。ゼミⅡでは、コーポレートファイナンスの基本的な理解とインターゼミナール大会への参加を通じて、就職活動を自信をもって臨めるようになるための訓練を行っていく予定です。
---------	---

授業コード	31Q21
-------	-------

授業科目名	ゼミⅡ(阿萬)		
担当者名	阿萬弘行(アマン ヒロユキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限)、後期(水曜4限)

講義の内容	証券市場への理解を深めるために、証券分析、企業分析の基礎的方法をグループワークを通して学ぶ		
到達目標	実際の企業、金融データに対して、証券分析の方法を応用できること。グループで協力して、レポートを完成できること。		
講義方法	主にグループワークでの学習を行う。テキスト、ウェブサイトを活用する。		
準備学習	毎日の経済金融に関するニュースを新聞、雑誌等を通してチェックすることで理解が深まる。		
成績評価	レポート、報告内容によって評価する。		
講義構成	テキスト内容の報告 グループによる調査・分析 グループによる結果の報告 テーマに関する議論		
教科書	(候補)「証券分析入門」 井出正介 高橋文郎 日本経済新聞社		

授業コード	31R01		
授業科目名	ゼミⅢ(藤本)(後)		
担当者名	藤本建夫(フジモト タテオ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	卒業論文の個別指導		
到達目標	論文の完成		
講義方法	個別的にディスカッション		
準備学習	指摘する論点について次回までに調べてくる		
成績評価	論文の完成度		
講義構成	すべて個別指導		
教科書	なし		

授業コード	31R02		
授業科目名	ゼミⅢ(小島)(後)		
担当者名	小島修一(コジマ シュウイチ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	これまでのゼミ活動の成果を踏まえながら、受講生と相談して決める予定。		
到達目標	大学生生活最後の研究成果をまとめる。		
講義方法	受講生と相談して決める予定。		
準備学習	グループでの打ち合わせを事前に行っておくこと。		
成績評価	ゼミ活動への積極性を中心として評価を行う予定。		
講義構成	受講生と相談して決める予定。		
教科書	開講時に指示する。		

授業コード	31R03		
授業科目名	ゼミⅢ（杉村）(後)		
担当者名	杉村芳美(スギムラ ヨシミ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	随時(事前に連絡してください)		

講義の内容	卒業レポート作成の指導		
到達目標	各自の研究成果を卒業レポートのかたちにまとめること		
講義方法	各自の研究作業の進展に応じてゼミ指導を行う		
準備学習	指示された作業プロセスを着実にこなしていくように		
成績評価	作業姿勢および成果提出による		
講義構成	各自の作業の進展に応じた指導を行っていく		
教科書	授業時に指示する		

授業コード	31R04		
授業科目名	ゼミⅢ（佐藤）(後)		
担当者名	佐藤治正(サトウ ハルマサ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	卒論指導。		
到達目標	400字35枚程度の卒論を作成する。		
講義方法	卒論テーマに関するプレゼンテーションと論文指導。		
準備学習	卒論の進捗状況に合わせて、個別指導する。		
成績評価	卒論。ゼミへの参加度、姿勢等、総合的に評価。		
講義構成	春の段階で、中間報告をしてもらい、秋から本格的に、テーマ、構成、結論等について議論を進め、卒論を完成させる。		
教科書	特になし。		

授業コード	31R05		
授業科目名	ゼミⅢ（青木）(後)		
担当者名	青木浩治(アオキ コウジ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	原則として金曜日午後1-2時ですが、必要に応じて随時対応します。		

講義の内容	卒業論文という、大学生活最後の成果を創ることを目指します。この作業により、テーマの選択と調査。研究、および文章化という社会に入ってから必要となる、しかしなかなか身に付きにくいスキルを形成することが目標です。		
到達目標	2-3年次では、社会に旅立つために最低限必要なスキルのうち、①自前の提案を行い、②人前で説得的に自分の意見を説明し、質疑応答に耐えられる能力を形成することに重点を置きました。このゼミⅢでは自分で追求すべきテーマを設定し、自分で調査・分析する能力を養うことが目標です。		

講義方法	各自の研究発表と質疑応答の形をとります。
準備学習	毎回1週間の調査・研究成果を発表することになるので、その準備を行ってください。
成績評価	発表と提出された卒業論文の内容で評価します。
講義構成	毎週各自の研究内容のプレゼンテーションを行う。 その発表に基いて質疑応答し、改善点を発掘する。
教科書	特定の教科書は使用しません。
担当者から一言	大学生生活の総決算ですので、後に残るものを創ってください。

授業コード	31R06		
授業科目名	ゼミⅢ（稲田）(後)		
担当者名	稲田義久（イナダ ヨシヒサ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	火曜日11:30～12:30 9号館7F 稲田研究室		

講義の内容	ゼミⅡで培った知識をベースに卒論の作成に取り組みます。		
到達目標	ゼミⅡで取り扱った課題を発展的に研究し、理解のレベルを上げる。		
講義方法	卒論の論題を決定し、それに沿って各自の卒論作成を指導する。		
準備学習	ゼミⅡで学習したことを簡単にまとめておくこと。		
成績評価	卒論の提出が成績評価の必須条件です。		
講義構成	卒論指導は以下のステップを経て完成させます。 第1期 各自卒論の課題選択 第2期 データ及び文献収集 第3期 卒論の第1ドラフト 第4期 報告と修正 第5期 最終調整		
教科書	特に使用しない。		

授業コード	31R07		
授業科目名	ゼミⅢ（草野）(後)		
担当者名	草野正裕（クサノ マサヒロ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	テーマ 経済史とその周辺 演習内容 経済史をできるだけ論理的な線に沿って理解することを試みたいと思います。		
到達目標	卒業論文を完成していただきます。		
講義方法	ゼミナリストン諸君の卒論報告とそれについての討論をしていただきます。		
準備学習	各自卒業論文の作成に向けて鋭意努力してください。		
成績評価	出欠と平常点、卒業論文で評価します。		
講義構成	輪番によるゼミナリストン諸君の報告とそれについての討論。（歴史から見た）労働・環境その他のテーマ。		
教科書	J.R.ヒックス／新保 博、渡辺 文夫訳『経済史の理論』講談社学術文庫、1995年		
参考書・資料	J.R.ヒックスの著作および「歴史とは何か」と題した文庫や新書。		

	演習の際に紹介したいと思います。
その他	演習の運営方針 卒業論文を書いていただくつもりです。報告グループ、質問グループなどに分かれてもらい活発な討論が行われるようにしたい。 インゼミにも参加しましょう。

授業コード	31R08		
授業科目名	ゼミⅢ（小林）（後）		
担当者名	小林 均（コバヤシ ヒトシ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	共通のテーマとして、現代における社会保障保障制度の問題について		
到達目標	1. ゼミⅠ、ゼミⅡで学習、研究してきたテーマについて、ゼミⅢで集大成を目指して、卒業レポートの作成 2. プレゼンテーションの内容と発表の仕方について一層の向上		
講義方法	共通のテーマについて輪読と、各自のテーマについてのディスカッションを行う。		
準備学習	教科書を事前に読むこと。		
成績評価	出席とレポートの提出		
講義構成	1. ゼミⅠ、ゼミⅡで研究してきたテーマに関連して、各自の一層の研究の向上の一助になるよう、指導する。		
教科書	[だまされないための年金・医療・介護入門]鈴木亘著、東洋経済新報社 2009		

授業コード	31R09		
授業科目名	ゼミⅢ（小山）（後）		
担当者名	小山直樹（コヤマ ナオキ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限
オフィスアワー	火曜日 昼休み		

講義の内容	卒業論文作成の個別指導を行う。		
到達目標	選択した研究テーマについて、論理的な考察と実証を行い、経済学的な思考法を反映した卒業論文を作成する。		
講義方法	毎回、個人研究の中間報告を行い、個別に研究指導を行う。		
準備学習	毎週、個人研究の中間報告の準備を行う。		
成績評価	卒業論文の提出をもって成績評価する。		
講義構成	最初のゼミ時に打ち合わせして決定する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書・資料	適宜指示する。		
講義関連事項	ゼミⅢ（小山）（後）を履修予定の学生は、必ず、7月末までに、小山まで、自分の研究テーマと研究概要を届け出ること。（メールでも可）		

授業コード	31R10		
-------	-------	--	--

授業科目名	ゼミⅢ (岡田)(後)		
担当者名	岡田元浩(オカダ モトヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	第1回目の講義時に伝えます。		

講義の内容	3年にわたるゼミ学習の総仕上げとして、英文による卒業論文の作成とその準備を行います。		
到達目標	英語論文の書き方に関する基本および応用スキルの習得を目標とします。		
講義方法	テキストを用いての英語論文作成解説と、資料収集・利用に関するアドバイスを中心に、卒論指導を行います。		
準備学習	各ゼミ授業時に次回以降のゼミ授業内容の予告を行いますので、それに応じた予習・課題への取り組みを行ってください。		
成績評価	授業への出席・取り組みと提出卒論内容を主な基準に、総合的に評価します。		
講義構成	概ね下記の構成でゼミ指導を行います。 第1回：ガイダンス 第2回：論文作成の手順に関する全体説明 第3回～第13回：テキスト解説および進行状況に応じた個別指導 第14回：卒論提出および卒論発表会		
教科書	テキストについては第1回目の講義時に伝えます。		
参考書・資料	その都度紹介します。		

授業コード	31R11		
授業科目名	ゼミⅢ (高)(後)		
担当者名	高 龍秀(コ ヨンス)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限

講義の内容	卒業論文作成にむけた、各自の研究を発表しあう。		
到達目標	甲南大学での4年間の勉強の集大成としての卒業論文をレベルの高いものとしてまとめる。		
講義方法	各自が、自分の関心のあるテーマについて調べてくる。それに関連した補足説明と議論を行う。		
準備学習	毎回、与えられて課題について、よく考えてくる。事前配布する資料をよく読んでくる。		
成績評価	出席重視。 毎回の発表と出席態度を基に評価。		
講義構成	1. 半導体産業について 2. 液晶の発達 3. 米国と日本の半導体産業 4. 韓国など後発半導体企業 5. 韓国・台湾の液晶産業 6. ユニクロの歴史 7. ユニクロのSPAとは何か		
教科書	授業の中で指示する。		

授業コード	31R12		
授業科目名	ゼミⅢ (永廣)(後)		
担当者名	永廣 顕(エヒロ アキラ)		
配当年次	4年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	ゼミ終了後、または、担当者の研究室在室時		
講義の内容	テーマ 転換期の日本財政 内容 財政赤字、税制改革、社会保障制度改革など、現代の日本財政が抱える諸問題について、理論、歴史、制度、政策それぞれに配慮しながら総合的に検討する。		
到達目標	自分の興味・関心から設定したテーマについて、学生生活の集大成として卒業論文を作成する。		
講義方法	(1)各自で卒業論文の作成に取り組む。また、卒論作成の個別指導を実施する。 (2)ゼミⅡに参加し、インゼミに向けた発表に対して指導する。 (3)時事問題について、ゼミ生全員で討論する。		
準備学習	「卒論研究計画書」、「卒論内容構成案」、「卒論草稿」を期日までに提出できるように準備しておくこと。		
成績評価	平常点(出席・卒論作成・インゼミ指導等の状況)と提出された卒業論文の内容により総合評価する。		
講義構成	卒論作成の個別指導とインゼミの指導が中心である。その他数回、時事問題についての討論や工場・企業等の社会見学を実施する。		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	研究の進行状況に応じて適宜指示する。		
担当者から一言	(1)卒論作成の個別指導を随時実施するので、積極的に指導を受けること。 (2)ゼミⅡでの経験を踏まえて、インゼミの指導をおこなうこと。 (3)最終学年でもあるので、ゼミの諸活動には積極的に参加すること。		
ホームページタイトル	{ゼミⅢ(2010), http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/zemi/zemi3_2010/zemi3_2010.html }		
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/zemi/zemi3_2010/zemi3_2010.html		

授業コード	31R13		
授業科目名	ゼミⅢ(奥田)(後)		
担当者名	奥田 敬(オクダ タカシ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	金曜日4限 7号館9階奥田研究室		

講義の内容	経済学の古典を題材とした卒業論文(レポート)の作成を指導する。		
到達目標	大学生生活の総まとめとなるような卒業論文を仕上げること。		
講義方法	受講者の報告と討論を中心に進めていく。		
準備学習	報告にあたっては、レジメ・資料集・参考文献リストを準備すること。		
成績評価	平常点と卒業論文(レポート)による。		
講義構成	第1回 オリエンテーション(報告スケジュールの決定) 第2回～第13回 受講者の報告と討論(必要に応じて文献講読も行う) 第14回～第15回 卒業論文(レポート)の最終報告と討論		
教科書	受講者各自が卒業論文(レポート)のテーマとして選んだ経済学の古典。		
参考書・資料	適宜指示する。		

授業コード	31R14		
授業科目名	ゼミⅢ(古川)(後)		
担当者名	古川 顕(フルカワ アキラ)		
配当年次	4年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
講義の内容	卒業論文作成の指導と新聞の経済・金融欄の熟読。		
到達目標	卒業論文の作成と新聞・雑誌の経済・金融欄が正確に理解できること。		
講義方法	卒業論文の中間報告と新聞記事の発表。		
準備学習	新聞の経済・金融欄を毎日欠かさず読んでおくこと。卒業論文の作成に必要な資料を収集すること。		
成績評価	卒業論文の内容と平常の学習態度。		
講義構成	卒業論文の書き方や参考文献の紹介、卒業論文の中間報告などを行う。		
教科書	適宜指示する。		
担当者から一言	「よく学びよく遊べ」		

授業コード	31R15		
授業科目名	ゼミⅢ（上島）(前)		
担当者名	上島康弘(ウエシマ ヤスヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限
オフィスアワー	研究室のドアに掲示。		
講義の内容	さまざまな社会問題を取り上げて、事実を調べて、しぐみを考え、解決策を提案する。研究成果をパワーポイントを使って報告し、その内容をレポートにまとめる。		
到達目標	目的は、社会問題のシャーロック・ホームズになることー問題点に目を向けて、必要な情報を集めて理解し、それに推理を加えて解決策を作り上げる能力を身に付けることである。		
講義方法	本や資料を探して読み、プレゼンテーションとレポートの作成を行う。		
準備学習	必ず決められた期日までに報告の準備を仕上げること。		
成績評価	「授業の最終回までに卒業レポートを提出すること」が単位取得のための必要条件である。それらを満たした上で、出席点・平常点(80点満点)＋レポート・発表点(20点満点)。出席点について、病欠欠席はマイナス5点、無断欠席はマイナス10点。なお、‘お付き合い’で履修していただく必要はありません。		
講義構成	(卒業レポートの提出)各自、関心のある問題について、本や資料を探して読んで、事実を調べ、しぐみを考えて、解決策を提案する。その研究成果をレポートにまとめて提出する。テーマは基本的に自由。たとえば、公務員志望の人は「生活保護制度の問題点」、食品関係に就職する人は「マグロが枯渇する」、証券会社に就職する人は「排出権取引の実際」などのテーマを選択することは可能である。ただし、労働分野を離れると、上島には専門知識がありません(いっしょに勉強しましょう)。		
教科書	各自のテーマが決まったら、出発点となる本を指示する。その本の話の流れとキーワード、図表の意味について、ノートを作りながら読むこと。		
担当者から一言	世の中のしぐみを実証的に考えよう。		

授業コード	31R16		
授業科目名	ゼミⅢ（寺尾）(後)		
担当者名	寺尾 建(テラオ タケル)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	ゼミ生のみennaについては、特に設けません。		
講義の内容	たくちゃんがたくちゃんであるために。ヤンくんがヤンくんであるために。りょーたがりょーたであるために。たかがたかであるために。くみちゃんがくみちゃんであるために。ニックがニックであるために。せーこがせーこであるために。コックンがコックンであるために。まえやんがまえやんであるために。もーちゃんがもーちゃんであるために。はなちゃんがはなちゃんであるために。けいちゃんがけいちゃんであるために。ふっちゃんがふっちゃんであ		

	るために、あやえがあやえであるために、コットンがコットンであるために、ひろがひろであるために、らおうがらおうであるために、りょうすけがりょうすけであるために、ゆいちゃんがゆいちゃんであるために、ああかがああかであるために、
到達目標	“おわらせること”です。
講義方法	“教えること”は、一切しません。
準備学習	2010年9月の開講までに、新たに100冊の本を読み、100の「問い」を考えておくこと。
成績評価	「評価」という言葉を耳にしたとき、年上の人からの評価ではなく、年下の人からの評価のことを先に考えられるようになること。
講義構成	“考えさせること”のみで、構成します。
教科書	教科書を用いて行うようなことは、すでに終えています。
参考書・資料	参考書・資料を用いて行うようなことも、すでに終えています。
講義関連事項	「ゼミⅠ」＝1、「ゼミⅡ」＝10、「ゼミⅢ」＝100。
担当者から一言	これで、「学校」は終わりです——それで、始まりです。
その他	“いつも いつでも いつまでも”
ホームページタイトル	ホームページのタイトルとURLは、毎年、卒業式の終了後に伝えています。

授業コード	31R17		
授業科目名	ゼミⅢ（市野）(後)		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	初回の講義時にお知らせします。		

講義の内容	みんな、いろんなものを全部もっとほしいけど、それは無理——。もっと安くてもっとすいてる生協の食堂がほしい、今の彼氏／彼女はキープしておきたいけどほかの男の子／女の子とも遊びたい、もっと便利な生活をしたいしもっときれいな地球環境がほしい、確かにそうなのですが、でも、それは無理なのだということ。これが、経済学の考え方の基本(その1)です。そんなのぜんぜんふつう、と思われるかもしれませんが、これ、実はけっこう忘れられやすいのです。そういうわけで、市野ゼミも、この考え方から出発しましょう。つまり、「何の犠牲もなしにほしいものを得ることはできない」ということをつねに心にとどめながら、経済・社会の問題を眺めていきましょう。そうすれば、今までは複雑に思えたことが、少しはわかりやすくなるはずです。 ちなみに、経済学の考え方の基本はあと二つあって、その2は「人々はバカじゃない」、その3は「売らしたれ買わしたれ」です。どういうこと？ それも、ゼミで学んでいきましょう。
到達目標	ミクロ経済学の理論をもとに、自ら設定したテーマで研究をし、それを論文にまとめる力をつけること。
講義方法	論文指導をします。
準備学習	人の行動や、世の中のできごとで、「なんでかな」と感じたとき、その行動をした人がどんな状況に置かれているのか、その行動をするとその人にはどんな費用がかかるのか、その行動をするとその人にはどんな便益があるのか、というふうに考えて、「なんでかな」を理解しようと努めてください。
成績評価	卒業研究論文の質によって評価します。
講義構成	第1回：卒業論文のテーマ選定 第2回から第15回：論文作成指導
教科書	指定しません。あなたが自分で見つけてください。
参考書・資料	その都度、紹介します。
担当者から一言	良い卒業論文が書けるよう、おたがいががんばりましょう。

授業コード	31R18
授業科目名	ゼミⅢ（林）(後)
担当者名	林 健太(ハヤシ ケンタ)

配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	研究室在室中随時。事前のアポイントメントがあるとベター。		

講義の内容	情報通信産業の現状や今後の動向、問題点等について考察し、その成果をインナー・ゼミナール大会で発表する。 同時に、卒業レポート作成希望者にはその指導を行う。
到達目標	情報通信分野の動向を知ること、これからどのような世の中を生きていかなければならないのかを知ると同時に、そこで散見される諸問題に対し、どう対応すればよいか自ら考え、他人に説明できる。
講義方法	インナーゼミナール大会に向けてのテーマ選定、資料作成、報告担当割当を講義中に決め、ゼミ合宿を経て本番に臨む。
準備学習	日頃から新聞やウェブサイトに通し、経済や産業（特に情報通信産業）の動向をチェックしておくこと。
成績評価	インナー・ゼミナール大会に向けての取り組み姿勢を評価する。 10回以上授業に出席しなければ成績を評価しない。
講義構成	第1回～第4回： テーマ選定、役割分担 第5回～第12回： 論点整理およびプレゼンテーション用資料の作成 第13回： ゼミ合宿 第14回： 本番前最終確認 第15回： インナー・ゼミナール大会で発表
教科書	指定しない。

担当者から一言	大学最後の思い出作りに励んで下さい。
---------	--------------------

授業コード	31R19		
授業科目名	ゼミⅢ（森）（後）		
担当者名	森 剛志（モリ タケン）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	水曜日昼休み.		

講義の内容	日本の労働市場はどうなっていくのか、労働市場の問題を中心にいろいろなこと（女性の働き方や守られすぎ働かせられすぎている正社員の問題など）を話し合います。ゼミⅢでは、2人ぐらいで1チームで司会者をまわしていきます。最初は決められたテキストをみんな読んできて、どのように思うか。この点についてはどのように書かれているか司会者から聞かれますから、各自が自主的に答えていくという形式をとります。これをさらに深めて充実した内容を発表・報告することが最終課題です。
到達目標	学んだ内容を自分のことばで話せるようになること。
講義方法	個人による報告とグループディスカッション。
準備学習	示されたテキストや資料を事前に読んでおくこと。
成績評価	報告の質・内容。議論への参加度。
講義構成	1.日本の労働市場 2. 海外の労働市場 3. 労働者間の格差問題 4. 日本の労働市場の将来 等
教科書	池田信夫著「希望を捨てる勇気」ダイヤモンド社

担当者から一言	水曜日の午前中を討論のために利用することがありますので、空けておいてください。
---------	---

授業コード	31R20
-------	-------

授業科目名	ゼミⅢ（後藤）（後）		
担当者名	後藤 励（ゴトウ レイ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	ゼミⅢでは、卒業論文を書いてもらいます。テーマ探し（もう決まっていると思いますが）、資料探し、書く、という一連の作業を学生生活の仕上げとしましょう。
到達目標	12月中旬までに卒業論文を完成させる。
講義方法	参加者による報告と全体討論
準備学習	報告の際には事前に発表資料を作成し、担当者に送付すること。
成績評価	卒業論文による評価。
講義構成	9月より月1回以上は全員の前で内容報告。12月中旬に卒業論文完成。
教科書	特に指定しない。

授業コード	31R21		
授業科目名	ゼミⅢ（柘植）（後）		
担当者名	柘植隆宏（ツゲ タカヒロ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	ゼミⅠとゼミⅡで修得した知識と技術を活用し、卒業論文を作成する。
到達目標	・経済学的な分析手法を用いて、現実の環境問題を分析できるようになること。 ・研究内容を論文にまとめるとともに、その内容に関してプレゼンテーションやディスカッションができるようになること。ゼミⅡよりも高い水準を目指す。
講義方法	卒業論文作成に向けた個人研究の進行状況を発表する。
準備学習	・新聞等を読み、現実の環境問題の動向を把握しておくこと。 ・ゼミ以外の時間にも積極的に研究に取り組むこと。
成績評価	卒業論文の内容により評価を行う。
講義構成	研究テーマの設定 先行研究のレビュー 調査・分析 論文の作成 プレゼンテーション ディスカッション
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	参考書として以下の文献を挙げる。この他については、講義中に適宜紹介する。 栗山浩一著（2008）『図解入門ビジネス 最新 環境経済学の基本と仕組みがよ～くわかる本』秀和システム 栗山浩一・馬奈木俊介著（2008）『環境経済学をつかむ』有斐閣

授業コード	31R22		
授業科目名	ゼミⅢ（中島）（後）		
担当者名	中島清貴（ナカシマ キヨタカ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	基本的には、卒業論文作成のための指導を行っていく予定であるが、受講生と相談の上で、何をしていくか決めていくつもりである。
-------	--

到達目標	仕事を通じて組織に貢献し、その組織への貢献が社会への貢献につながるような仕事の仕方はどういったものなのか、を皆で考えていきたいと考えている。
講義方法	受講生と私とのディスカッションを中心とした講義形式をとっていく。
準備学習	卒業論文を書かれる人は、事前に論文のテーマをお持ちであれば指導がし易いです。
成績評価	ディスカッションへの参加状況によって評価する。
講義構成	受講生と個別に相談の上、決めていく予定である。
教科書	特に指定しないが、ピータードラッカーの本や週刊東洋経済、エコノミストの記事を題材に議論する予定である。
参考書・資料	随時指示する。
講義関連事項	卒業論文を作成される場合には、腰を据えてしっかりと指導するつもりです。それ以外で参加される方は何をするか相談して決めていきましょう。
担当者から一言	甲南大学を卒業され、これから社会に出られるゼミ生の方々に少しでも役立つような言葉を一生懸命に吐いていければ、と思っております。

授業コード	31060		
授業科目名	地方財政		
担当者名	永廣 顕(エヒロ アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜1限)、後期(火曜1限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	講義終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	一国の財政は、国と地方自治体の財政から構成されている。今日の日本においては、地方分権化が急速に進展し地方財政の重要性が高まっている中で、地方間の財政力格差の是正や財政破綻の回避が当面の政策課題となっている。本講義では、日本の地方財政について、理論、制度、歴史、政策それぞれに配慮しながら解説をおこなう。また、昨年9月の政権交代がもたらす地方財政への影響についても可能な範囲で言及したい。
到達目標	今日の日本の地方財政を多角的な視点から理解できるようになることを目標とする。
講義方法	(1)板書中心の講義形式とする。 (2)参考資料の説明時にパワーポイントを使用する。 (3)My KONANで、講義前日までにレジメを公開する。 (4)講義開始時にレジメと参考資料を配付する。 (5)講義内容を記録するためのノート類や配付物を保存するためのファイル類を準備しておくこと。
準備学習	講義の前に必ずMy KONANをチェックし、公開されたレジメにより講義の概要を確認しておくこと。
成績評価	学期末試験(前期・後期の2回実施)の得点のみで評価する。
講義構成	1. イントロダクションー地方財政を学ぶにあたって 2. 財政システムと地方財政(1)ー地方財政とは何か 3. 財政システムと地方財政(2)ー国と地方の財政関係 4. 地方経費ー地方経費の分類と構造 5. 地方税(1)ー地方税の体系 6. 地方税(2)ー住民税 7. 地方税(3)ー事業税 8. 地方税(4)ー固定資産税 9. 地方税(5)ー地方消費税 10. 地方税(6)ー課税自主権 11. 地方債(1)ー地方の財政赤字とプライマリー・バランス 12. 地方債(2)ー地方債の分類 13. 地方債(3)ー事前協議・許可制度 14. 地方債(4)ー地方債の市場化 15. 前期末試験 16. 地方交付税(1)ー財政調整 17. 地方交付税(2)ー地方交付税額の算定 18. 国庫支出金ー国庫補助率 19. 地方譲与税ー地方譲与税の一般財源化

	20. 保険事業－国民健康保険と介護保険 21. 地方公営企業－地方公営企業の現状 22. 地方予算－予算過程 23. 地方財政制度改革(1)－地方分権・地域主権 24. 地方財政制度改革(2)－三位一体の改革 25. 地方財政制度改革(3)－地方税改革 26. 地方財政制度改革(4)－地方交付税改革 27. 地方財政制度改革(5)－財政破綻と再建法制(1) 28. 地方財政制度改革(6)－財政破綻と再建法制(2) 29. 地方財政制度改革(7)－道州制 30. 後期末試験
教科書	特定の教科書は使用しない。地方財政全般については、諸富徹・門野圭司[2007]『地方財政システム論』(有斐閣)、林健久編[2003]『地方財政読本(第5版)』(東洋経済新報社)、和田八束・星野泉・青木宗明編[2004]『現代の地方財政[第3版]』(有斐閣)を参照のこと。
参考書・資料	資料として、総務省編[2009]『平成21年版 地方財政白書』(日経印刷)をあげておく。その他、必要に応じて講義時間中に紹介する。
講義関連事項	「財政」の講義を聴講していることが望ましい。
担当者から一言	講義内容をより深く理解するために、今日の日本の地方財政が抱える諸問題に関心を持って講義を聴講すること。
ホームページタイトル	{旧}地方財政(2010), http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/local1_2010/local1_2010.html
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/local1_2010/local1_2010.html

授業コード	31061		
授業科目名	地方財政Ⅰ(前)		
担当者名	永廣 顕(エヒロ アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「地方財政Ⅰ」・「地方財政Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		
オフィスアワー	講義終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	一国の財政は、国と地方自治体の財政から構成されている。今日の日本においては、地方分権化が急速に進展し地方財政の重要性が高まっている中で、地方間の財政力格差の是正や財政破綻の回避が当面の政策課題となっている。本講義では、日本の地方財政について、理論、制度、歴史、政策それぞれに配慮しながら、地方税と地方債を中心に解説をおこなう。また、昨年9月の政権交代がもたらす地方財政への影響についても可能な範囲で言及したい。
到達目標	今日の日本の地方財政を多角的な視点から理解できるようになることを目標とする。
講義方法	(1)板書中心の講義形式とする。 (2)参考資料の説明時にパワーポイントを使用する。 (3)My KONANと地方財政Ⅰ ホームページで、講義前日までにレジメを公開する。 (4)講義開始時にレジメと参考資料を配付する。 (5)講義内容を記録するためのノート類や配付物を保存するためのファイル類を準備しておくこと。
準備学習	講義の前に必ずMy KONANをチェックし、公開されたレジメにより講義の概要を確認しておくこと。
成績評価	学期末試験の得点のみで評価する。
講義構成	1. イントロダクション－地方財政を学ぶにあたって 2. 財政システムと地方財政(1)－地方財政とは何か 3. 財政システムと地方財政(2)－国と地方の財政関係 4. 地方経費－地方経費の分類と構造 5. 地方税(1)－地方税の体系 6. 地方税(2)－住民税 7. 地方税(3)－事業税 8. 地方税(4)－固定資産税 9. 地方税(5)－地方消費税 10. 地方税(6)－課税自主権

	11. 地方債(1)ー地方の財政赤字とプライマリー・バランス 12. 地方債(2)ー地方債の分類 13. 地方債(3)ー事前協議・許可制度 14. 地方債(4)ー地方債の市場化 15. 学期末試験
教科書	特定の教科書は使用しない。地方財政全般については、諸富徹・門野圭司[2007]『地方財政システム論』(有斐閣)、林健久編[2003]『地方財政読本(第5版)』(東洋経済新報社)、和田八束・星野泉・青木宗明編[2004]『現代の地方財政[第3版]』(有斐閣)を参照のこと。
参考書・資料	資料として、総務省編[2009]『平成21年版 地方財政白書』(日経印刷)をあげておく。その他、必要に応じて講義時間中に紹介する。
講義関連事項	「財政」の講義を聴講していることが望ましい。また、「地方財政Ⅱ」の講義を続けて聴講することを強く勧める。
担当者から一言	講義内容をより深く理解するために、今日の日本の地方財政が抱える諸問題に関心を持って講義を聴講すること。
ホームページタイトル	{地方財政Ⅰ(2010), http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/local1_2010/local1_2010.html }
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/local1_2010/local1_2010.html

授業コード	31062		
授業科目名	地方財政Ⅱ(後)		
担当者名	永廣 顕(エヒロ アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「地方財政Ⅰ」・「地方財政Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい。		
オフィスアワー	講義終了後、または、担当者の研究室在室時		

講義の内容	一国の財政は、国と地方自治体の財政から構成されている。今日の日本においては、地方分権化が急速に進展し地方財政の重要性が高まっている中で、地方間の財政力格差の是正や財政破綻の回避が当面の政策課題となっている。本講義では、日本の地方財政について、理論、制度、歴史、政策それぞれに配慮しながら、「地方財政Ⅰ」では取り上げなかった国から地方への資金繰入れである地方交付税や国庫支出金、および、地方財政全般にわたる近年の制度改革を中心に解説をおこなう。また、昨年9月の政権交代がもたらす地方財政への影響についても可能な範囲で言及したい。
到達目標	今日の日本の地方財政を多角的な視点から理解できるようになることを目標とする。
講義方法	(1)板書中心の講義形式とする。 (2)参考資料の説明時にパワーポイントを使用する。 (3)My KONANと地方財政Ⅱホームページで、講義前日までにレジメを公開する。 (4)講義開始時にレジメと参考資料を配付する。 (5)講義内容を記録するためのノート類や配付物を保存するためのファイル類を準備しておくこと。
準備学習	講義の前に必ずMy KONANをチェックし、公開されたレジメにより講義の概要を確認しておくこと。
成績評価	学期末試験の得点のみで評価する。
講義構成	1. 地方交付税(1)ー財政調整 2. 地方交付税(2)ー地方交付税額の算定 3. 国庫支出金ー国庫補助率 4. 地方譲与税ー地方譲与税の一般財源化 5. 保険事業ー国民健康保険と介護保険 6. 地方公営企業ー地方公営企業の現状 7. 地方予算ー予算過程 8. 地方財政制度改革(1)ー地方分権・地域主権 9. 地方財政制度改革(2)ー三位一体の改革 10. 地方財政制度改革(3)ー地方税改革 11. 地方財政制度改革(4)ー地方交付税改革 12. 地方財政制度改革(5)ー財政破綻と再建法制(1) 13. 地方財政制度改革(6)ー財政破綻と再建法制(2) 14. 地方財政制度改革(7)ー道州制 15. 学期末試験

教科書	特定の教科書は使用しない。地方財政全般については、諸富徹・門野圭司[2007]『地方財政システム論』(有斐閣)、林健久編[2003]『地方財政読本(第5版)』(東洋経済新報社)、和田八束・星野泉・青木宗明編[2004]『現代の地方財政[第3版]』(有斐閣)を参照のこと。
参考書・資料	資料として、総務省編[2009]『平成21年版 地方財政白書』(日経印刷)をあげておく。その他、必要に応じて講義時間中に紹介する。
講義関連事項	「地方財政Ⅰ」の続きとなるので、「地方財政Ⅰ」の講義を聴講していることが強く望まれる。

担当者から一言	講義内容をより深く理解するために、今日の日本の地方財政が抱える諸問題に関心を持って講義を聴講すること。
ホームページタイトル	{地方財政Ⅱ(2010), http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/local2_2010/local2_2010.html }
URL	http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/ehiro/home/lecture/local2_2010/local2_2010.html

授業コード	31026		
授業科目名	中級マクロ経済学(後)		
担当者名	阿萬弘行(アマン ヒロユキ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
特記事項	2005年度以前入学生は初級マクロ経済学の単位を修得済みであること 2006年度以降入学生は入門マクロ経済学の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	講義の中でお知らせします。		

講義の内容	マクロ経済学に関する基礎的内容とともに発展的な内容について講義する。国民所得がどのようなメカニズムで決定されるのか、金融市場のマクロ経済の中での機能など、マクロ経済問題を理解する上で必要不可欠な知識を学ぶ。グラフ、数式を用いたモデル、統計資料などを使って、多面的な角度からマクロ経済学を理解できることを目指す。
到達目標	マクロ経済理論の概念を理解できること。理論が示す内容についてグラフを描けること。数値を用いて応用問題が解けること。
講義方法	受講者数に応じて、板書またはパワーポイント等を用いて行う。講義に関連する時事的なトピックスについても随時解説する。
準備学習	マクロ経済学の入門書の関連箇所を予習することで理解が深まる。
成績評価	期末試験の成績を重視する。
講義構成	(1) マクロ経済学に関するイントロダクション (2) 国民所得統計 (3) 消費関数 (4) 投資関数 (5) 有効需要の原理 (6) 財市場のモデル (7) 財政政策 (8) 金融市場のモデル (9) 中央銀行の金融政策 (10) IS-LMモデル (11) 総需要・総供給曲線 (12) 失業問題 (13) インフレーション (14) 国際経済と為替レート
教科書	特定の教科書は指定しない。下記の参考書を参照。
参考書・資料	「基礎からわかるマクロ経済学」 家森信善 中央経済社 「マクロ経済学」 伊藤元重 日本評論社

授業コード	31027
-------	-------

授業科目名	中級ミクロ経済学 (前)		
担当者名	寺尾 建(テラオ タケル)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
特記事項	2005年度以前入学生は初級ミクロ経済学の単位を修得済みであること 2006年度以降入学生は入門ミクロ経済学の単位を修得済みであること		
オフィスアワー	開講時に、担当者より告知します。		

講義の内容	「入門ミクロ経済学」が完成された映画だとすれば、「中級ミクロ経済学」は、映画の“メイキング”です。 最終的には、需要曲線や供給曲線を用いた分析を行います。 そのために、需要曲線や供給曲線をつくります。 さらにそのために、需要曲線や供給曲線をつくるために必要な“素材”を集めるところから始めます。 この講義で扱われる内容を精確に理解せずして「経済学部卒業」はない——そのような内容です。		
到達目標	言葉の使い方・言葉の選び方・言葉の連ね方、記号の使い方・記号の選び方・記号の連ね方について、大学生にふさわしい水準の技術を習得すること、そして、そのことを通じて、大学生にふさわしい“教養(education)”を身につけることを具体的な到達目標とします。経済学は、これらのための手段として位置づけます。		
講義方法	「リアクション・ペーパー」を用いて、双方向的に行います。		
準備学習	数学の素養は求められませんが、(訓練によって身につけることのできるタイプの)数学的に把握する能力は求められます。なお、講義時間中に考えるだけで理解できるような問題は扱いません。		
成績評価	期末試験の成績を、5段階で評価します。 昨年度の期末試験の成績分布は、履修登録者が280名で、 〔秀〕9名 〔優〕27名 〔良〕59名 〔可〕88名 〔不可〕83名 〔欠席〕14名 でした。この講義は、「講義への参加率が80%以上の場合の合格率は90%以上、参加率が80%未満の場合の合格率は3%未満」という特徴をもっています。		
講義構成	「過程であると思っていたものが、実は、結果であった」 「問いであると思っていたものが、実は、答えであった」 受講生のみなさんが、視点の変換と視野の拡大、発想の転換を体験できるような構成とします。		
教科書	[00] 矢野誠『ミクロ経済学の基礎』(岩波書店, 2001年)。		
参考書・資料	[01] 伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社, 2009年)。 [02] 伊藤元重『ミクロ経済学 第2版』(日本評論社, 2003年)。 [03] 奥野正寛 編著『ミクロ経済学』(東京大学出版会, 2008年)。 [04] 塩澤修平・石橋孝次・玉田康成 編著『現代ミクロ経済学 中級コース』(有斐閣, 2006年)。 [05] 矢野誠『ミクロ経済学の応用』(岩波書店, 2001年)。 [06] 山崎昭『ミクロ経済学』(知泉書館, 2006年)。		
講義関連事項	「中級マクロ経済学」をあわせて履修することを強く勧めます。		

担当者から一言	「抽象的」と評されることの多い講義ですが、それは、誤解です。 正しくは、「定量的(quantitative)ではなく、定性的(qualitative)な議論を主たる内容としている」です。 あるいは、「哲学的」と評されることも少なくない講義ですが、それも、誤解です。 哲学を構成する論理学・倫理学・美学のうち、この講義は、論理学にしかもとづいていません。
---------	---

授業コード	31L21		
授業科目名	統計入門(統計) (1クラス)(後)		
担当者名	小山直樹(コヤマ ナオキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生は統計入門として履修 2007年度以前入学生は統計として履修		
オフィスアワー	火曜日 昼休み		

講義の内容	この講義では、統計データに含まれる情報をわかりやすく整理・要約する「記述統計の方法」と、標本(部分)データの情報から、その標本を抽出してきた母集団(全体)の情報を統計的に推測する「推測統計の方法」を学
-------	--

	習する。ここで、データに含まれる情報は、「分布」の概念によって規定され、分布の平均・分散・標準偏差といった指標により定量的に把握される。また、推測統計の方法では、母集団と標本の関係は、「確率分布」の概念によって結び付けられる。こうした「分布」や「確率分布」の考え方、および数理的な記述を学習し、実際のデータを用いた統計分析の手法を演習する。
到達目標	データについて記述統計の手法に基づき、精確な分析ができること。また、推測統計の考え方を理解し、母数の推定を行えること。
講義方法	講義資料をMY KONANの授業資料ページからダウンロードできるようにしておくので、受講者は事前に必ずプリントアウトして、講義の際に持参すること。毎回の講義は、この資料に沿って解説を進める。
準備学習	My KONANの授業資料ページから事前に入手した講義資料を、毎週、必ず熟読し、予習ノートを作成すること。講義は、予習していることを前提に進行する。
成績評価	演習等の得点(20点)と定期試験(期末試験)の得点(80点)の得点合計によって評価する。
講義構成	第1回 ガイダンス 第2回 データの要約 第3回 データ間の関係 第4回 直線の当てはめ(1)最小2乗法 第5回 直線の当てはめ(2)決定係数 第6回 記述統計の演習・小テスト 第7回 確率と確率変数 第8回 確率変数と確率分布 第9回 確率変数の関数の分布 第10回 母集団と標本 第11回 標本平均の分布 第12回 母数の推定 第13回 区間推定 第14回 推測統計の演習・小テスト 第15回 期末試験の傾向と対策
教科書	My KONANの授業資料ページに用意したテキストを教科書として使用する。受講希望者は事前に必ずプリントアウトして、講義の際に持参すること。なお、講義開始以前に予習をしたい学生は、下に紹介する参考書を利用すること。
参考書・資料	稲垣宣生・山根芳知・吉田光雄 共著、統計学入門(裳華房)。
講義関連事項	この講義では、根号計算可能な電卓(8桁表示)を利用するので、最初の講義までに必ず準備すること。ただし、関数電卓や携帯電話ないしは電子翻訳機の電卓機能の利用は不可。
担当者から一言	この講義は、受講者が毎回必ず出席することを前提にして授業を進める。講義に欠席すると、それ以降の授業を理解することが大変困難になることが予想される。 また、講義資料(プリント)を講義の際に配布することは原則として行わない。受講希望者は、事前に必ずプリントアウトして、講義の際に持参すること。

授業コード	31L22		
授業科目名	統計入門(統計) (2クラス)(後)		
担当者名	小山直樹(コヤマ ナオキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 2008年度以降入学生は統計入門として履修 2007年度以前入学生は統計として履修		
オフィスアワー	火曜日 昼休み		
講義の内容	この講義では、統計データに含まれる情報をわかりやすく整理・要約する「記述統計の方法」と、標本(部分)データの情報から、その標本を抽出してきた母集団(全体)の情報を統計的に推測する「推測統計の方法」を学習する。ここで、データに含まれる情報は、「分布」の概念によって規定され、分布の平均・分散・標準偏差といった指標により定量的に把握される。また、推測統計の方法では、母集団と標本の関係は、「確率分布」の概念によって結び付けられる。こうした「分布」や「確率分布」の考え方、および数理的な記述を学習し、実際のデータを用いた統計分析の手法を演習する。		

到達目標	データについて記述統計の手法に基づき、精確な分析ができること。また、推測統計の考え方を理解し、母数の推定を行えること。
講義方法	講義資料をMY KONANの授業資料ページからダウンロードできるようにしておくので、受講者は事前に必ずプリントアウトして、講義の際に持参すること。毎回の講義は、この資料に沿って解説を進める。
準備学習	My KONANの授業資料ページから事前に入手した講義資料を、毎週、必ず熟読し、予習ノートを作成すること。講義は、予習していることを前提に進行する。
成績評価	演習等の得点(20点)と定期試験(期末試験)の得点(80点)の得点合計によって評価する。
講義構成	第1回 ガイダンス 第2回 データの要約 第3回 データ間の関係 第4回 直線の当てはめ(1)最小2乗法 第5回 直線の当てはめ(2)決定係数 第6回 記述統計の演習・小テスト 第7回 確率と確率変数 第8回 確率変数と確率分布 第9回 確率変数の関数の分布 第10回 母集団と標本 第11回 標本平均の分布 第12回 母数の推定 第13回 区間推定 第14回 推測統計の演習・小テスト 第15回 期末試験の傾向と対策
教科書	My KONANの授業資料ページに用意したテキストを教科書として使用する。受講希望者は事前に必ずプリントアウトして、講義の際に持参すること。なお、講義開始以前に予習をしたい学生は、下に紹介する参考書を利用すること。
参考書・資料	稲垣宣生・山根芳知・吉田光雄 共著、統計学入門(裳華房)。
講義関連事項	この講義では、根号計算可能な電卓(8桁表示)を利用するので、最初の講義までに必ず準備すること。ただし、関数電卓や携帯電話ないしは電子翻訳機の電卓機能の利用は不可。
担当者から一言	この講義は、受講者が毎回必ず出席することを前提にして授業を進める。講義に欠席すると、それ以降の授業を理解することが大変困難になることが予想される。 また、講義資料(プリント)を講義の際に配布することは原則として行わない。受講希望者は、事前に必ずプリントアウトして、講義の際に持参すること。

授業コード	31105		
授業科目名	都市経済（後）		
担当者名	橋本行史（ハシモト コウシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜2限
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	特に設けていないので、講義終了後にご相談ください。		

講義の内容	人口と産業が集中する地域である都市と経済を結びつけて分析・考察することを都市経済学と呼び、ミクロ経済学の一分野とされている。都市経済学として扱われる分野は、工業や海港の立地論、都市の階層性、都市の盛衰、土地利用、産業連関、都市公共政策、そして、都市財政などである。 経済学の特徴は、社会の事象を一定の前提の下に、理論化(経験的一般化)するところにある。その中でも伝統的な経済学は需要と供給を価格決定要因として扱い、そこでは空間＝距離は同一との前提をおいて考慮されない。ところが、都市経済学で扱う立地論では、空間＝距離の考慮が欠かせないため、伝統的な経済学の理論をそのまま当てはめてることができない。このように伝統的な経済学と異なって価格要因だけで事象の分析ができないところが、都市経済学の特色となっている。例えば、ジーンズの購入という身近な例では、1本は880円のジーンズ、他の1本は有名メーカーのクラッシュ・ジーンズ、また他の1本は高額の商品というように消費行動がとられ、価格という単一要因が消費行動を決定するわけではない。立地論のアプローチも同じである。 また、都市経済学は、生きた経済学として、理論的な分析だけでなくその分析を公共政策にどう活かすかという視点で取り上げられることも多い。都市の抱える問題をどのように捉えて解決するかということも、都市経済学
-------	---

	の一分野である。近年、地球規模の温暖化・グローバル化・少子高齢化・財政悪化といった環境変化に見舞われ、都市を巡る諸問題は変化している。本講義ではそうした新しい都市問題の分析も行うことを予定している。 最後になるが、地域構造や都市の変遷を調べることは、一定の地理的範囲に立地して盛衰を繰り返す企業の盛衰を知ることでもある。その意味で、日本の地域構造や都市の盛衰を考えることは、今後就職を考える学生に極めて有効な示唆を与える内容となっている。
到達目標	ミクロ経済理論をベースにした都市経済学の基礎知識の取得
講義方法	テキストを使用する。テキストの範囲外の分野についてはレジュメを配布する。タイムリーな話題には、パワーポイントやレジュメとは別の資料提供を企画している。教員からの一方向の座学とならないように、t問い掛け型・双方向型で講義を行う。
準備学習	講義で取り上げる各テーマに関連する新聞や他のメディアの情報に留意すること。
成績評価	期末試験(70%)と平常点(30%)。ただし、出席回数が講義回数の半分以上を満たさない場合、期末試験の受験の有無に関わらず単位は与えられない。
講義構成	〔総論〕 第1回 イントロダクション 第2回 都市経済学の体系、地域経済学・都市経済学の意義と範囲 第3回 都市集中：交通費と集中、競争と集中、都市集中のパターン 第4回 都市の発展と衰退：都市の発展段階、都市の成長・衰退分析 〔土地利用〕 第5回 土地利用1：土地サービスと地代、地価と土地課税、土地利用規制 第6回 土地利用2：住宅と土地、需要と供給、望ましい土地税制と住宅政策 〔地域構造〕 第7回 戦後の地域発展プロセス：経済の動向、産業構造の変化、人口動態、東京一極集中 第8回 世界都市：経済環境の変化、世界都市の概念・機能、世界都市が抱える格差 〔国土計画等〕 第9回 地域間の格差是正、国土総合開発法・国土形成計画法 第10回 産業連関表 〔都市化と公共政策〕 第11回 都市化と都市問題：都市化の要因、都市問題、都市化のメリットとデメリット 第12回 都市公共政策と経済理論：ミクロ経済理論、市場の失敗、政府介入、政府の失敗 第13回 都市と社会資本1：公共財の理論、社会資本の意義・種類・効果・配分、費用負担、決定過程 第14回 都市と社会資本2：プロジェクト評価の意義と方法、社会資本整備計画、道路整備の中期計画 第15回 都市と交通1：乗合バス事業の規制緩和の背景と内容、公営交通事業の制度趣旨と現状 第16回 都市と交通2：交通政策：大都市事例、明石市、札幌市のバスパートナーシップの失敗 第17回 都市と環境1：外部性の内部化、ビッグ、パレート最適、パレート効率性、コースの定理 第18回 都市と環境2：環境政策：命令・規制手段、擬似的市場的手段、ビッグ税、取引可能汚染権 第19回 都市と文化：文化経済学、創造都市論 第20回 都市と景観、観光：景観緑三法と頼の浦訴訟、観光の経済的効果、観光政策 第21回 都市と保健福祉：児童・高齢・障害、政策 第22回 都市と港湾：港湾の盛衰要因、港湾の経済的効果、事例－神戸港と神戸経済 〔都市財政〕 第23回 都市と財政(1) 地方財政の仕組み 第24回 都市と財政(2) 財政調整：補助金・交付税、地方財政計画、三位一体改革 第25回 都市と財政(3) 財政危機：公会計改革と地方財政健全化法 第26回 都市と財政(4) NPM(新公共経営)の経済理論 〔まちづくり〕 第27回 まちづくり：経済理論と経済政策、まちづくり三法、再開発ビルの再開発の失敗事例 第28回 NPOの経済理論、ソーシャルキャピタルとコミュニティの再組織化 ※講義の進行状況によって、上記の順序と内容を変更することがある。
教科書	橋本行史編(2010)『現代地方自治論』ミネルヴァ書房(2010年5月発刊予定)を使用(総論一部、地域構造、国土計画等、都市財政、まちづくり)等。他はレジュメを利用する。
参考書・資料	・貝塚啓明・香西泰・野中郁次郎監修、伊藤元重・猪木武徳・植田和男・加護野忠男・小峰隆夫・樋口美雄編集『日本経済辞典』日本経済新聞社、pp. 1203－1216、(1996)。 ・山田浩之他『地域経済学入門』有斐閣(2002)(1,900円)。 ・金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社(1997)(2,700円)。 ・宮尾尊弘『現代都市経済学第2版』日本評論社(1995)(2,900円)。 ・林宣嗣『都市問題の経済学』日本経済新聞社(1993)(1,800円)。 ・田淵隆俊、中村良平『都市と地域の経済学』有斐閣(1996)。 ・八田達夫編『東京一極集中の経済分析』日本経済新聞社(1994)。 ・伊藤隆敏、野口悠紀雄編『分析・日本経済のストック化』日本経済新聞社(1992)。 ・神野直彦『地域再生の経済学―豊かさを問う直す』(地方財政論・新書)中央公論新社(2002)。 ・スティグリッツ、J. E. 『スティグリッツ ミクロ経済学(第2版)』東洋経済社(2000)。

講義関連事項	昨年、講義の最後に自由記述の小レポートの作成を課したところ、非常に好評で、かつ、学習効果も高かった。本年も、自由記述による小レポート作成機会を設けて出席点呼の代わりとする。
担当者から一言	都市経済学は、都市に生じる様々な事象の原因をなるほどそうだったのかと考えさせてくれる学問です。この講義では、必要に応じて政策論にも言及します。
その他	他人に迷惑をかける行為、マナーに反する行為は禁止です。例えば、教室でのおしゃべり、ガム・飴、過度にだらしない姿勢、室内での理由なき帽子着用など。

授業コード	31096		
授業科目名	日本経済史（前）		
担当者名	草野正裕（クサノ マサヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜2限
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	講義終了後研究室に来てください。質疑応答など行ないたいと思います。		

講義の内容	まず、史料批判を中心とした実証的方法について論じます。ついで日本における封建社会から資本主義社会への移行ないしは工業化の問題を論じます。したがって古代・中世についてはかんたんに触れることとし、近世、近・現代にウェイトをおくつもりです。この場合、実証という立場から、既存の理論的枠組みによって史実を解釈するという方法は、できるだけ回避することにしたい。そうではなくて、あくまでも理論は史実を解釈する場合の手段であると考えたい。 なお、講義においては随時、近年とみに盛んとなった数量経済史的な分析を取り入れてゆくつもりです。とくに人口史・物価史研究および一橋グループの成果等がある程度詳細に紹介する予定です。
到達目標	毎回の講義レジュメに5問前後の基礎的な論述問題をつけています。これらの問題に6～8割程度答えられることを到達目標にしたいと思います。
講義方法	プロジェクター等を使います。随時小テストを行ったり、感想を提出していただいたりといったことも考えています。なお、My KONAN に毎回のレジュメをアップ・ロードします。それを、ダウンロード、プリントアウトして、教室に持参してください。あるいは、ダウンロードしたパソコンを持ち込んでいただいてもかまいません。無線が使える場合は、教室で受信していただいても結構です。
準備学習	授業の前に、教科書やダウンロードしたレジュメを一読されることをおすすめします。
成績評価	通常の期末試験、小テスト、感想、出欠などの総合評価を考えていますが、受講生の数が多い場合は期末試験の評価に頼らざるをえないかもしれません。
講義構成	本講義の受講者は、「日本経済史Ⅰ」（月曜1限）、「日本経済史Ⅱ」（月曜2限）の両方を履修していただきます。講義が時代順にならないので、すこしぎくしゃくするかも知れませんがご勘弁ください。 「日本経済史Ⅰ」 第1回：律令国家の経済構造 第2回：荘園経済の展開過程 第3回：在地領主制の展開 第4回：産業の発展と中世社会 第5回：戦国大名領の経済構造 第6回：織豊政権の成立 第7回：幕藩体制の成立 第8回：幕藩制経済の展開 第9回：元禄期の繁栄 第10回：享保期の経済政策 第11回：宝暦天明期の市場 第12回：田沼時代と寛政期の経済政策 第13回：化政期の経済変貌 第14回：天保期（1830～43年）の経済危機 第15回：経済史における数量的接近（その1） 「日本経済史Ⅱ」 第1回：開国による経済変動 第2回：明治維新と経済的変革

	第3回:工業化への道 第4回:産業革命の展開 第5回:産業資本の確立 第6回:日露戦争後の近代産業 第7回:第1次世界大戦と日本 第8回:慢性不況と巨大企業 第9回:戦争経済とその崩壊 第10回:混乱期の日本経済 第11回:日本経済の再建・復興 第12回:高度経済成長と産業構造の高度化 第13回:経済成長とひずみ現象 第14回:データでみる最近の日本経済の動向 第15回:経済史における数量的接近(その2)
教科書	竹中靖一・作道洋太郎編著『日本経済史』(学文社、1979年)。
参考書・資料	なお、つぎのような書物を一読されるのはなかなか有益だろうと思います。 正田健一郎・作道洋太郎編『概説日本経済史』(有斐閣、1978年) 宮本又次編『日本経済史』(青林書院新社、1977年) 塩澤君夫・後藤靖編『日本経済史』(有斐閣、1977年)
担当者から一言	歴史を学ぶとはどういうことか少し考えてみて下さい。

授業コード	31097		
授業科目名	日本経済史Ⅰ(前)		
担当者名	草野正裕(クサノ マサヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「日本経済史Ⅰ」・「日本経済史Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	講義終了後研究室に来てください。質疑応答など行ないたいと思います。		

講義の内容	「日本経済史Ⅰ」では、中近世日本経済史を講義することとし、近現代日本経済史は「日本経済史Ⅱ」にゆずることにしたいと思います。したがって受講生の方々は、「日本経済史Ⅰ」と「日本経済史Ⅱ」の両方を受講されることを強く希望します。「日本経済史Ⅰ」では、古代・中世についてはできるだけ簡単に触れることとし、近現代社会経済との関連が深い近世にウェイトをおくつもりです。この場合、実証という立場から、既存の理論的枠組みによって史実を解釈するという方法は、できるだけ回避することにしたいと思います。そうではなくて、あくまでも理論は史実を解釈する場合の手段であるという立場をとることにしたいと思います。なお、講義においては随時、近年とみに盛んとなった数量経済史的な分析を取り入れてゆくつもりです。とくに人口史・物価史研究および一橋グループの成果等のある程度詳細に紹介する予定です。
到達目標	毎回の講義レジュメに5問前後の基礎的な論述問題をつけています。これらの問題に6～8割程度答えられることを到達目標にしたいと思います。
講義方法	プロジェクター等を使います。随時小テストを行ったり、感想を提出していただいたりといったことも考えています。なお、My KONAN に毎回のレジュメをアップ・ロードします。それを、ダウンロード、プリントアウトして、教室に持参してください。あるいは、ダウンロードしたパソコンを持ち込んでいただいてもかまいません。無線が使える場合は、教室で受信していただいても結構です。
準備学習	授業の前に、教科書やダウンロードしたレジュメを一読されることをおすすめします。
成績評価	通常の期末試験、小テスト、感想、出欠などの総合評価を考えていますが、受講生の数が多い場合は期末試験の評価に頼らざるをえないかもしれません。
講義構成	第1回:律令国家の経済構造 第2回:荘園経済の展開過程 第3回:在地領主制の展開 第4回:産業の発展と中世社会 第5回:戦国大名領の経済構造 第6回:織豊政権の成立 第7回:幕藩体制の成立

	第8回:幕藩制経済の展開 第9回:元禄期の繁栄 第10回:享保期の経済政策 第11回:宝暦天明期の市場 第12回:田沼時代と寛政期の経済政策 第13回:化政期の経済変貌 第14回:天保期(1830～43年)の経済危機 第15回:経済史における数量的接近(その1)
教科書	竹中靖一・作道洋太郎編著『日本経済史』(学文社、1979年)。
参考書・資料	なお、つぎのような書物を一読されるのはなかなか有益だろうと思います。 正田健一郎・作道洋太郎編『概説日本経済史』(有斐閣、1978年) 宮本又次編『日本経済史』(青林書院新社、1977年) 塩澤君夫・後藤靖編『日本経済史』(有斐閣、1977年)
担当者から一言	歴史を学ぶとはどういうことか少し考えてみて下さい。

授業コード	31098		
授業科目名	日本経済史Ⅱ(前)		
担当者名	草野正裕(クサノ マサヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「日本経済史Ⅰ」・「日本経済史Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		
オフィスアワー	講義終了後研究室に来てください。質疑応答など行ないたいと思います。		

講義の内容	「日本経済史Ⅱ」では、中近世日本経済史をあつかった「日本経済史Ⅰ」に引き続いて、近現代日本経済史を講義したいと思います。したがって受講生の方々は、「日本経済史Ⅰ」をすでに履修されているか、あるいは今後履修されることが望ましいと考えます。「日本経済史Ⅱ」の講義においても「日本経済史Ⅰ」と同様、実証という立場から、既存の理論的枠組みによって史実を解釈するという方法は、できるだけ回避することにしたいと思います。そうではなくて、あくまでも理論は史実を解釈する場合の手段であるという立場をとることにしたいと思います。なお、講義においては随時、近年とみに盛んとなった数量経済史的な分析を取り入れてゆくつもりです。とくに人口史・物価史研究および一橋グループの成果等がある程度詳細に紹介する予定です。
到達目標	毎回の講義レジュメに5問前後の基礎的な論述問題をつけています。これらの問題に6～8割程度答えられることを到達目標にしたいと思います。
講義方法	プロジェクター等を使います。随時小テストを行ったり、感想を提出していただいたりといったことも考えています。なお、My KONAN に毎回のレジュメをアップ・ロードします。それを、ダウンロード、プリントアウトして、教室に持参してください。あるいは、ダウンロードしたパソコンを持ち込んでいただいてもかまいません。無線が使える場合は、教室で受信していただいても結構です。
準備学習	授業の前に、教科書やダウンロードしたレジュメを一読されることをおすすめします。
成績評価	通常の期末試験、小テスト、感想、出欠などの総合評価を考えていますが、受講生の数が多い場合は期末試験の評価に頼らざるをえないかもしれません。
講義構成	第1回:開国による経済変動 第2回:明治維新と経済的変革 第3回:工業化への道 第4回:産業革命の展開 第5回:産業資本の確立 第6回:日露戦争後の近代産業 第7回:第1次世界大戦と日本 第8回:慢性不況と巨大企業 第9回:戦争経済とその崩壊 第10回:混乱期の日本経済 第11回:日本経済の再建・復興 第12回:高度経済成長と産業構造の高度化 第13回:経済成長とひずみ現象 第14回:データでみる最近の日本経済の動向

	第15回:経済史における数量的接近(その2)
教科書	竹中靖一・作道洋太郎編著『日本経済史』(学文社、1979年)。
参考書・資料	なお、つぎのような書物を一読されるのはなかなか有益だろうと思います。 正田健一郎・作道洋太郎編『概説日本経済史』(有斐閣、1978年) 宮本又次編『日本経済史』(青林書院新社、1977年) 塩澤君夫・後藤靖編『日本経済史』(有斐閣、1977年)
担当者から一言	歴史を学ぶとはどういうことか少し考えてみて下さい。

授業コード	31L11		
授業科目名	日本経済入門 (A)(前)		
担当者名	後藤 励(ゴトウ レイ)、森 剛志(モリ タケシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照) 高大連携科目		
オフィスアワー	金曜昼休み		

講義の内容	現在日本経済が直面している問題に対する理解を深める。
到達目標	日本経済の置かれている現状を自分のことばで書けるようになること。
講義方法	講義形式で教授する。
準備学習	指示された資料を事前に読んでおくこと。
成績評価	小テストおよび期末試験。
講義構成	前半は、基礎的なマクロ経済学と現在の日本の現状を紹介する。 後半は、少子化と金融など具体的なトピックを取り扱う。現在家計の平均金融資産は1000万円を超えるとも言われているが、全く貯蓄がない世帯も3割ある。いわば、貧富の差がとてつもなく大きくなっているのが現状である。こうした日本経済のおかれた現状を把握した上で、今まで事実であったことがもはや事実でなくなっていることを紹介し、理解を深めていただく。 (少子化)では、 ・日本の現状 ・海外の状況(主にアメリカと北欧諸国) を紹介し、現在の日本の女性のおかれた現状と今後の少子高齢化の日本の展望を考えていただく。 (金融)では、 ・格差が拡大する家計の金融 ・高貯蓄国から低貯蓄国への変貌 ・「危険回避的な資産選好(株式などへの投資は嫌い)」は、本当か? などの事実を紹介し、今後の日本経済の展望を考えてもらう。 日本経済の将来像を描けるかどうか、重要となるでしょう。
教科書	特に定めないが、初回の授業で必要文献を配布する予定である。
参考書・資料	適宜指示する。

授業コード	31L12		
授業科目名	日本経済入門 (B)(後)		
担当者名	森 剛志(モリ タケシ)、後藤 励(ゴトウ レイ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	クラス指定(授業時間表別表参照)		

	高大連携科目
オフィスアワー	金曜昼休み
講義の内容	現在日本経済が直面している問題に対する理解を深める。
到達目標	日本経済の置かれている現状を自分のことばで書けるようになること。
講義方法	講義形式で教授する。
準備学習	指示された資料を事前に読んでおくこと。
成績評価	小テストおよび期末試験。
講義構成	前半は、基礎的なマクロ経済学と現在の日本の現状を紹介する。 後半は、少子化と金融など具体的なトピックを取り扱う。現在家計の平均金融資産は1000万円を超えるとも言われているが、全く貯蓄がない世帯も3割ある。いわば、貧富の差がとてつもなく大きくなっているのが現状である。こうした日本経済のおかれた現状を把握した上で、今まで事実であったことがもはや事実でなくなっていることを紹介し、理解を深めていただく。 (少子化)では、 ・日本の現状 ・海外の状況(主にアメリカと北欧諸国) を紹介し、現在の日本の女性のおかれた現状と今後の少子高齢化の日本の展望を考えていただく。 (金融)では、 ・格差が拡大する家計の金融 ・高貯蓄国から低貯蓄国への変貌 ・「危険回避的な資産選好(株式などへの投資は嫌い)」は、本当か？ などの事実を紹介し、今後の日本経済の展望を考えてもらう。 日本経済の将来像を描けるかどうか、重要となるでしょう。
教科書	特に定めないが、初回の授業で必要文献を配布する予定である。
参考書・資料	適宜指示する。

授業コード	31L13		
授業科目名	日本経済入門 (C)(後)		
担当者名	寺尾 建(テラオ タケル)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	法学部生 経営学部生(2009年度以降入学生)		
オフィスアワー	開講時に、担当者より告知します。		

講義の内容	日本経済を理解するための導入だけでなく、「学問」への導入ともなる内容とします。
到達目標	「事実について観察と考察を重ね、新たな洞察を得る」—— 事実にもとづいて考え、新たな“問い”を発見できるようになることが、具体的な到達目標です。
講義方法	毎回の講義において、受講生のみなさんに「問い」を投げかけます。その「問い」について、受講生のみなさんが考えたことを書いてもらい、その内容に沿って講義を進めます。最終的にどのような「問い」まで扱うことになるのかは、受講生のみなさんとともに決めることになります。
準備学習	入門科目ですので、経済に関する知識や経済学の素養は、事前には一切求められませんが、(少なくとも)開講期間中は、毎日、新聞に目を通し、経済誌にも目を通すようにしてください。
成績評価	期末試験の成績を、5段階で評価します。 昨年度の期末試験の成績分布は、履修登録者が246名で、 〔秀〕4名 〔優〕23名 〔良〕39名 〔可〕48名 〔不可〕89名 〔欠席〕43名 でした。この講義は、「講義への参加率が80%以上の場合の合格率は98%以上、参加率が80%未満の場合の合格率は4%未満」という特徴をもっています。
講義構成	現時点(2010年2月10日)において、講義において扱う予定のトピックは、おおそは定めています。

	しかしながら、この講義の開講までの期間、2010年の上半期に何が起きるかはわかりません。その回の講義で扱うピックを最終的に確定するのは、毎回、その講義の1週間前したいと思います。 とはいえ、「行き当たりばったり」にするつもりはありません。講義を構成するにあたっては、次の5つのことを、原則とします。 (1)「最新」のことを重視はするが、「最新」のことだけを取り上げることはしない。 (2)「いま考えることに意義がある」という問題を、優先的に取り上げる。 (3)とはいえ、「時事問題」の解説に終始するような議論は行わない。 (4)「憶えること」は要求しない。 (5)しかし、「考えること」は、徹底的に要求する。 以上の原則にしたがって、受講生のみなさんが生まれてから現在に至るまでのおよそ20年間に、「日本経済」がどのように変化してきており、そして、現在どのような状態にあるのかについて、その概要を把握することができるような構成とします。 全講義が終了したとき、受講生のみなさん自身が、「自分が目にしたことがあるもの」「自分が耳にしたことがあるもの」「いま自分がいる場所」を、これまでには考えたことがなかったようなかたちで(再)発見することができるようになっていることを、講義を構成する際の最優先の目的とします。
教科書	以上で述べた講義の内容・方法・構成を実現するために、使用しません。
参考書・資料	[01] 浅子和美・篠原総一 編『入門・日本経済[第3版]』(有斐閣, 2007年)。 [02] 池尾和人・池田信夫『なぜ世界は不況に陥ったのか』(日経BP社, 2009年)。 [03] 烏賀陽弘道『Jポップとは何か』(岩波新書, 2005年)。 [04] 神永正博『不透明な時代を見抜く「統計思考力」』(ディスカバー21, 2009年)。 [05] 小宮一慶『日経新聞の数字がわかる本』(日経BP社, 2009年)。 [06] 紺谷典子『平成経済20年史』(幻冬舎新書, 2008年)。 [07] 櫻川昌哉『経済を動かす単純な論理』(光文社, 2009年)。 [08] 下川秋史・家庭総合研究会 編『増補版 昭和・平成家庭史年表』(河出書房新社, 2001年)。 [09] 中村昭典『親子就活』(アスキー新書, 2009年)。 [10] 林文夫 編『経済停滞の原因と制度』(劉草書房, 2007年)。 [11] 平川克美『経済成長という病』(講談社現代新書, 2009年)。 [12] ひろゆき(西村博之)『僕が2ちゃんねるを捨てた理由』(扶桑社新書, 2009年)。 [13] 福澤諭吉『現代語訳 学問のすすめ』(齋藤孝 訳, ちくま新書, 2009年)。 [14] 三浦展・原田曜平『情報病』(角川oneテーマ21, 2009年)。 [15] 三橋規宏 他『ゼミナール 日本経済入門 改訂版』(2008年, 日本経済新聞出版社)。 [16] 湯沢雅彦・宮本みち子『新版 データで読む家族問題』(NHKブックス, 2008年)。 [17] 朝日ジャーナル別冊『1989-2009 時代の終焉と新たな幕開け』(朝日新聞出版, 2009年)。 [18] 朝日新聞「変転経済」取材班 編『失われた20年』(岩波書店, 2009年)。 [19] 東洋経済新報社 編『会社四季報 業界地図 2011年版』(東洋経済新報社, 2010年)。 [20] 『日本の論点』編集部 編『その先が読めるビジネス年表』(文藝春秋, 2009年)。
講義関連事項	経済学部生のみなさんにとっては、大学において自分が経済学をどの程度まで修得したのかを確認するための“総復習用”の科目として、4年次に履修することも有意義な選択であると思います。

授業コード	31095		
授業科目名	日本の経済思想家(後)		
担当者名	奥田 敬(オクダ タカシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	金曜日4限 9号館7階奥田研究室		

講義の内容	西欧経済学の導入は極東の島国にいかなる衝撃を与えたか? 〈文明としての商業〉の理想と現実の狭間で格闘した近代日本の代表的な3人の思想家(福澤・柳田・河上)の再読を通じて、(18世紀 / 明治 / 戦後)〈啓蒙〉の最大の遺産にして今なお残された課題である〈市民社会〉(civil society[→associations])の可能性を探究したい。
到達目標	「考えるヒント」として古典を活用する力と習慣を身につけること。
講義方法	基本的には原典に即して文献講読(lecture)のような形式で進めるが、リアクション・ペーパーに応じて適宜ディスカッションも交える。

準備学習	最低限の要望としては、講義資料の指定箇所には必ず目を通し、疑問点をチェックしておくこと。 興味が湧いたら、その原典を手にとってほしい。
成績評価	基本的には期末試験の得点によるが、毎回配布するリアクション・ペーパーや随時課題とするミニ・レポートが内容的に優れていれば、加点の対象とする。
講義構成	第1回 日本経済思想史の概要 Ⅰ－近世日本の経済観念 第2回 [室町期] 御伽草子と〈貨幣〉経済 第3回 [江戸前期] 浮世草子の〈商業〉認識 第4回 [江戸後期] 儒学と国学の間の〈経世済民〉論 Ⅱ－近代日本の経済思想 第5回 福澤諭吉(1835-1901)の生涯と思想 第6回 〈実学〉への転回－『西洋事情』と『学問のすすめ』 第7回 〈交際〉としての社会－『文明論之概略』 第8回 柳田国男(1875-1962)の生涯と思想 第9回 明治末期日本の農業問題－『時代ト農政』 第10回 〈常民〉の生活世界へ－『都市と農村』 第11回 河上肇(1879-1946)の生涯と思想 第12回 大正期日本の社会問題－『貧乏物語』 第13回 昭和初期日本の労働問題－『第二貧乏物語』 Ⅲ－現代日本の経済倫理 第14回 戦後復興から高度成長まで 第15回 バブルの後で
教科書	原典史料の抜粋と参考文献のリストをプリントして配布するので、特定の教科書は用いない。
参考書・資料	その都度紹介する。
講義関連事項	関連科目として「経済学の歴史」と「経済史」を履修していることを前提に講義する。並行して「歴史と経済」(広域副専攻科目)・「日本経済史」・「現代経済学の諸潮流」・「社会経済思想(Ⅰ・Ⅱ)」を履修することを推奨する。

授業コード	31C01		
授業科目名	入門マクロ経済学 (A- 1)(後)		
担当者名	稲田義久(イナダ ヨシヒサ)、東 裕三(ヒガシ ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通してこよう。
成績評価	講義クラス成績65%、演習クラス成績35%で総合的に評価する。 <講義クラス> <演習クラス> 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。

	4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。
担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。

授業コード	31C02		
授業科目名	入門マクロ経済学 (A- 2)(後)		
担当者名	稲田義久(イナダ ヨシヒサ)、東 裕三(ヒガシ ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように定まるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%、演習クラス成績35%で総合的に評価する。 ＜講義クラス＞ ＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。
---------	--

授業コード	31C03		
授業科目名	入門マクロ経済学 (A- 3)(後)		
担当者名	稲田義久(イナダ ヨシヒサ)、中野沙弥香(ナカノ サヤカ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように定まるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること。
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%、演習クラス成績35%で総合的に評価する。 ＜講義クラス＞ ＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。
---------	--

授業コード	31C04		
授業科目名	入門マクロ経済学 (A- 4)(後)		
担当者名	稲田義久(イナダ ヨシヒサ)、中野沙弥香(ナカノ サヤカ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限

特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。
講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように定まるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること。
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%、演習クラス成績35%で総合的に評価する。 ＜講義クラス＞ ＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。
担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。

授業コード	31C05		
授業科目名	入門マクロ経済学 (A- 5)(後)		
担当者名	稲田義久(イナダ ヨシヒサ)、岡谷良二(オカタニ リョウジ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		
講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように定まるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。		
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること。		
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。		
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておう。		

成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する。 ＜講義クラス＞ ＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。
担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。

授業コード	31C06		
授業科目名	入門マクロ経済学 (A- 6)(後)		
担当者名	稲田義久(イナダ ヨシヒサ)、岡谷良二(オカタニ リョウジ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように定まるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること。
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通してこよう。
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する。 ＜講義クラス＞ ＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。

教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。
---------	--

授業コード	31C11		
授業科目名	入門マクロ経済学 (B- 1)(後)		
担当者名	青木浩治(アオキ コウジ)、新居理有(アライ リアル)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する。 ＜講義クラス＞ ＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。
担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。

授業コード	31C12		
授業科目名	入門マクロ経済学 (B- 2)(後)		
担当者名	青木浩治(アオキ コウジ)、新居理有(アライ リアル)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。		
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること		
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。		
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。		
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する。 <講義クラス> <演習クラス> 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。		
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。		
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。		
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。		
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。		
担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。		

授業コード	31C13		
授業科目名	入門マクロ経済学 (B- 3)(後)		
担当者名	青木浩治(アオキ コウジ)、岡本 弥(オカモト ヒサシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%、演習クラス成績35%で総合的に評価する。 ＜講義クラス＞ ＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。
担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。

授業コード	31C14		
授業科目名	入門マクロ経済学 (B- 4)(後)		
担当者名	青木浩治(アオキ コウジ)、岡本 弥(オカモト ヒサシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%、演習クラス成績35%で総合的に評価する。 ＜講義クラス＞ ＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%)

	2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。
担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。

授業コード	31C15		
授業科目名	入門マクロ経済学 (B- 5)(後)		
担当者名	青木浩治(アオキ コウジ)、寺地祐介(テラジ ユウスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%、演習クラス成績35%で総合的に評価する。 ＜講義クラス＞ ＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。

	林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社).
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。
---------	--

授業コード	31C16		
授業科目名	入門マクロ経済学 (B- 6)(後)		
担当者名	青木浩治(アオキ コウジ)、寺地祐介(テラジ ユウスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%、演習クラス成績35%で総合的に評価する。 ＜講義クラス＞ ＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書). 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社). 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版). 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。
---------	--

授業コード	31C21		
授業科目名	入門マクロ経済学 (C- 1)(後)		
担当者名	寺尾 建(テラオ タケル)、東 裕三(ヒガシ ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に、各担当者より告知します。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学びます。 マクロ経済学とは、経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析する、経済学の基礎的な分野です。 マクロ経済学の主な課題は、一国の経済活動水準やその変化がどのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにすることです。そのために必要な諸概念や諸関係について学びます。		
到達目標	(1)自分の目で経済現象を見極められる力を獲得すること、(2)日々の経済ニュースの要点が理解できるようになることの2つが、具体的な到達目標です。		
講義方法	この科目は、100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の必修科目です。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を、演習クラスにおいて小テスト等を実施しながら確認・補足します。		
準備学習	入学以降は、毎日、全国紙の経済面に目を通すようにしてください。		
成績評価	講義クラスの成績を65%、演習クラスの成績を35%のウェイトで総合し、5段階で評価します。 〔講義クラス〕 〔演習クラス〕 1. 出席状況(15%) 1. 出席状況(15%) 2. 期末試験(50%) 2. 小テスト(20%) 詳細については、第1回の講義時に、各担当者から説明が行われる予定です。		
講義構成	〔1〕経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念であるGDPの意味と意義について概説します。 〔2〕有効需要と乗数メカニズム GDPの決定とその変化の仕組みについて概説します。 〔3〕貨幣の機能 貨幣・銀行が経済において果たす役割について概説します。 〔4〕その他 (時事的な問題も含めて)関連する論点について適宜解説をします。		
教科書	〔00〕伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社、2009年)。		
参考書・資料	〔01〕伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社、2002年)。 〔02〕井堀利宏『経済学演習』(新世社、1999年)。 〔03〕岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書、1994年)。 〔04〕伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版、1996年)。 〔05〕林敏彦『ハート&マインド経済学入門』(有斐閣アルマ、1996年)。		
講義関連事項	この科目は、マクロ経済学に関する入門的な解説を行うものです。 マクロ経済学の詳細については、中級科目である「中級マクロ経済学」において講義されます。 本科目を履修したみなさんは、2年次において「中級マクロ経済学」を履修することを強く勧めます。		
担当者から一言	講義の詳細は担当者によって異なることもありますので、開講時によく確認をしてください。 なお、一部のクラスでは、コンピュータを利用した授業方法を随時取り入れる予定です。		

授業コード	31C22		
授業科目名	入門マクロ経済学 (C- 2)(後)		
担当者名	寺尾 建(テラオ タケル)、東 裕三(ヒガシ ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に、各担当者より告知します。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学びます。 マクロ経済学とは、経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析する、経済学の基礎的な分野です。 マクロ経済学の主な課題は、一国の経済活動水準やその変化がどのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにすることです。そのために必要な諸概念や諸関係について学びます。
到達目標	(1)自分の目で経済現象を見極められる力を獲得すること、(2)日々の経済ニュースの要点が理解できるようになることの2つが、具体的な到達目標です。
講義方法	この科目は、100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の必修科目です。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を、演習クラスにおいて小テスト等を実施しながら確認・補足します。
準備学習	入学以降は、毎日、全国紙の経済面に目を通すようにしてください。
成績評価	講義クラスの成績を65%、演習クラスの成績を35%のウェイトで総合し、5段階で評価します。 〔講義クラス〕〔演習クラス〕 1. 出席状況(15%) 1. 出席状況(15%) 2. 期末試験(50%) 2. 小テスト(20%) 詳細については、第1回の講義時に、各担当者から説明が行われる予定です。
講義構成	〔1〕経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念であるGDPの意味と意義について概説します。 〔2〕有効需要と乗数メカニズム GDPの決定とその変化の仕組みについて概説します。 〔3〕貨幣の機能 貨幣・銀行が経済において果たす役割について概説します。 〔4〕その他 (時事的な問題も含めて)関連する論点について適宜解説をします。
教科書	[00] 伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社, 2009年)。
参考書・資料	[01] 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社, 2002年)。 [02] 井堀利宏『経済学演習』(新世社, 1999年)。 [03] 岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書, 1994年)。 [04] 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版, 1996年)。 [05] 林敏彦『ハート＆マインド経済学入門』(有斐閣アルマ, 1996年)。
講義関連事項	この科目は、マクロ経済学に関する入門的な解説を行うものです。 マクロ経済学の詳細については、中級科目である「中級マクロ経済学」において講義されます。 本科目を履修したみなさんは、2年次において「中級マクロ経済学」を履修することを強く勧めます。
担当者から一言	講義の詳細は担当者によって異なることもありますので、開講時によく確認をしてください。 なお、一部のクラスでは、コンピュータを利用した授業方法を随時取り入れる予定です。

授業コード	31C23		
授業科目名	入門マクロ経済学 (C- 3)(後)		
担当者名	寺尾 建(テラオ タケル)、田代義次(タシロ ヨシツグ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に、各担当者より告知します。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学びます。 マクロ経済学とは、経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析する、経済学の基礎的な分野です。 マクロ経済学の主な課題は、一国の経済活動水準やその変化がどのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにすることです。そのために必要な諸概念や諸関係について学びます。
到達目標	(1)自分の目で経済現象を見極められる力を獲得すること、(2)日々の経済ニュースの要点が理解できるようになることの2つが、具体的な到達目標です。
講義方法	この科目は、100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の必修科目です。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を、演習クラスにおいて小テスト等を実施しながら確認・補足します。
準備学習	入学以降は、毎日、全国紙の経済面に目を通すようにしてください。

成績評価	講義クラスの成績を65%、演習クラスの成績を35%のウェイトで総合し、5段階で評価します。 〔講義クラス〕〔演習クラス〕 1. 出席状況(15%) 1. 出席状況(15%) 2. 期末試験(50%) 2. 小テスト(20%) 詳細については、第1回の講義時に、各担当者から説明が行われる予定です。
講義構成	〔1〕経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念であるGDPの意味と意義について概説します。 〔2〕有効需要と乗数メカニズム GDPの決定とその変化の仕組みについて概説します。 〔3〕貨幣の機能 貨幣・銀行が経済において果たす役割について概説します。 〔4〕その他 (時事的な問題も含めて)関連する論点について適宜解説をします。
教科書	[00] 伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社, 2009年)。
参考書・資料	[01] 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社, 2002年)。 [02] 井堀利宏『経済学演習』(新世社, 1999年)。 [03] 岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書, 1994年)。 [04] 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版, 1996年)。 [05] 林敏彦『ハート&マインド経済学入門』(有斐閣アルマ, 1996年)。
講義関連事項	この科目は、マクロ経済学に関する入門的な解説を行うものです。 マクロ経済学の詳細については、中級科目である「中級マクロ経済学」において講義されます。 本科目を履修したみなさんは、2年次において「中級マクロ経済学」を履修することを強く勧めます。
担当者から一言	講義の詳細は担当者によって異なることもありますので、開講時によく確認をしてください。 なお、一部のクラスでは、コンピュータを利用した授業方法を随時取り入れる予定です。

授業コード	31C24		
授業科目名	入門マクロ経済学 (C- 4)(後)		
担当者名	寺尾 建(テラオ タケル)、田代義次(タシロ ヨシツグ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に、各担当者より告知します。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学びます。 マクロ経済学とは、経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析する、経済学の基礎的な分野です。 マクロ経済学の主な課題は、一国の経済活動水準やその変化がどのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにすることです。そのために必要な諸概念や諸関係について学びます。
到達目標	(1)自分の目で経済現象を見極められる力を獲得すること、(2)日々の経済ニュースの要点が理解できるようになることの2つが、具体的な到達目標です。
講義方法	この科目は、100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の必修科目です。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を、演習クラスにおいて小テスト等を実施しながら確認・補足します。
準備学習	入学以降は、毎日、全国紙の経済面に目を通すようにしてください。
成績評価	講義クラスの成績を65%、演習クラスの成績を35%のウェイトで総合し、5段階で評価します。 〔講義クラス〕〔演習クラス〕 1. 出席状況(15%) 1. 出席状況(15%) 2. 期末試験(50%) 2. 小テスト(20%) 詳細については、第1回の講義時に、各担当者から説明が行われる予定です。
講義構成	〔1〕経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念であるGDPの意味と意義について概説します。 〔2〕有効需要と乗数メカニズム GDPの決定とその変化の仕組みについて概説します。 〔3〕貨幣の機能 貨幣・銀行が経済において果たす役割について概説します。

	〔4〕その他 (時事的な問題も含めて)関連する論点について適宜解説をします。
教科書	[00] 伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社, 2009年)。
参考書・資料	[01] 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社, 2002年)。 [02] 井堀利宏『経済学演習』(新世社, 1999年)。 [03] 岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書, 1994年)。 [04] 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版, 1996年)。 [05] 林敏彦『ハート&マインド経済学入門』(有斐閣アルマ, 1996年)。
講義関連事項	この科目は、マクロ経済学に関する入門的な解説を行うものです。 マクロ経済学の詳細については、中級科目である「中級マクロ経済学」において講義されます。 本科目を履修したみなさんは、2年次において「中級マクロ経済学」を履修することを強く勧めます。
担当者から一言	講義の詳細は担当者によって異なることもありますので、開講時によく確認をしてください。 なお、一部のクラスでは、コンピュータを利用した授業方法を随時取り入れる予定です。

授業コード	31C25		
授業科目名	入門マクロ経済学 (C- 5)(後)		
担当者名	寺尾 建(テラオ タケル)、王 凌(ワン リン)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に、各担当者より告知します。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学びます。 マクロ経済学とは、経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析する、経済学の基礎的な分野です。 マクロ経済学の主な課題は、一国の経済活動水準やその変化がどのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにすることです。そのために必要な諸概念や諸関係について学びます。
到達目標	(1)自分の目で経済現象を見極められる力を獲得すること、(2)日々の経済ニュースの要点が理解できるようになることの2つが、具体的な到達目標です。
講義方法	この科目は、100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の必修科目です。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を、演習クラスにおいて小テスト等を実施しながら確認・補足します。
準備学習	入学以降は、毎日、全国紙の経済面に目を通すようにしてください。
成績評価	講義クラスの成績を65%、演習クラスの成績を35%のウェイトで総合し、5段階で評価します。 〔講義クラス〕 〔演習クラス〕 1. 出席状況(15%) 1. 出席状況(15%) 2. 期末試験(50%) 2. 小テスト(20%) 詳細については、第1回の講義時に、各担当者から説明が行われる予定です。
講義構成	〔1〕経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念であるGDPの意味と意義について概説します。 〔2〕有効需要と乗数メカニズム GDPの決定とその変化の仕組みについて概説します。 〔3〕貨幣の機能 貨幣・銀行が経済において果たす役割について概説します。 〔4〕その他 (時事的な問題も含めて)関連する論点について適宜解説をします。
教科書	[00] 伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社, 2009年)。
参考書・資料	[01] 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社, 2002年)。 [02] 井堀利宏『経済学演習』(新世社, 1999年)。 [03] 岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書, 1994年)。 [04] 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版, 1996年)。 [05] 林敏彦『ハート&マインド経済学入門』(有斐閣アルマ, 1996年)。
講義関連事項	この科目は、マクロ経済学に関する入門的な解説を行うものです。 マクロ経済学の詳細については、中級科目である「中級マクロ経済学」において講義されます。

	本科目を履修したみなさんは、2年次において「中級マクロ経済学」を履修することを強く勧めます。
担当者から一言	講義の詳細は担当者によって異なることもありますので、開講時によく確認をしてください。 なお、一部のクラスでは、コンピュータを利用した授業方法を随時取り入れる予定です。

授業コード	31C26		
授業科目名	入門マクロ経済学 (C- 6)(後)		
担当者名	寺尾 建(テラオ タケル)、王 凌(ワン リン)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に、各担当者より告知します。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学びます。 マクロ経済学とは、経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析する、経済学の基礎的な分野です。 マクロ経済学の主な課題は、一国の経済活動水準やその変化がどのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにすることです。そのために必要な諸概念や諸関係について学びます。		
到達目標	(1)自分の目で経済現象を見極められる力を獲得すること、(2)日々の経済ニュースの要点が理解できるようになることの2つが、具体的な到達目標です。		
講義方法	この科目は、100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の必修科目です。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を、演習クラスにおいて小テスト等を実施しながら確認・補足します。		
準備学習	入学以降は、毎日、全国紙の経済面に目を通すようにしてください。		
成績評価	講義クラスの成績を65%、演習クラスの成績を35%のウェイトで総合し、5段階で評価します。 〔講義クラス〕 〔演習クラス〕 1. 出席状況(15%) 1. 出席状況(15%) 2. 期末試験(50%) 2. 小テスト(20%) 詳細については、第1回の講義時に、各担当者から説明が行われる予定です。		
講義構成	〔1〕経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念であるGDPの意味と意義について概説します。 〔2〕有効需要と乗数メカニズム GDPの決定とその変化の仕組みについて概説します。 〔3〕貨幣の機能 貨幣・銀行が経済において果たす役割について概説します。 〔4〕その他 (時事的な問題も含めて)関連する論点について適宜解説をします。		
教科書	〔00〕伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社、2009年)。		
参考書・資料	〔01〕伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社、2002年)。 〔02〕井堀利宏『経済学演習』(新世社、1999年)。 〔03〕岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書、1994年)。 〔04〕伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版、1996年)。 〔05〕林敏彦『ハート&マインド経済学入門』(有斐閣アルマ、1996年)。		
講義関連事項	この科目は、マクロ経済学に関する入門的な解説を行うものです。 マクロ経済学の詳細については、中級科目である「中級マクロ経済学」において講義されます。 本科目を履修したみなさんは、2年次において「中級マクロ経済学」を履修することを強く勧めます。		
担当者から一言	講義の詳細は担当者によって異なることもありますので、開講時によく確認をしてください。 なお、一部のクラスでは、コンピュータを利用した授業方法を随時取り入れる予定です。		

授業コード	31C31
授業科目名	入門マクロ経済学 (D- 1)(後)
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、萩原史朗(ハギハラ シロウ)

配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通してこよう。
成績評価	講義クラス成績65%、演習クラス成績35%で総合的に評価する。 <講義クラス> <演習クラス> 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。
担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。

授業コード	31C32		
授業科目名	入門マクロ経済学 (D- 2)(後)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、萩原史朗(ハギハラ シロウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。

	原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%、演習クラス成績35%で総合的に評価する。 <講義クラス> <演習クラス> 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。
担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。

授業コード	31C33		
授業科目名	入門マクロ経済学 (D- 3)(後)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、三原裕子(ミハラ ユウコ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		
講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。		
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること		
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。		
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。		
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する。 ＜講義クラス＞ ＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。		
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能		

	貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。
担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。

授業コード	31C34		
授業科目名	入門マクロ経済学 (D- 4)(後)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、三原裕子(ミハラ ユウコ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		
講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。		
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること		
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。		
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。		
成績評価	講義クラス成績65%、演習クラス成績35%で総合的に評価する。 ＜講義クラス＞ ＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。		
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。		
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。		
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。		
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。		

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。
---------	--

授業コード	31C35		
授業科目名	入門マクロ経済学 (D- 5)(後)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、湯浅圭祐(ユアサ ケイスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する。 <講義クラス> <演習クラス> 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。
---------	--

授業コード	31C36		
授業科目名	入門マクロ経済学 (D- 6)(後)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、湯浅圭祐(ユアサ ケイスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限

特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。
講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように決定されるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%、演習クラス成績35%で総合的に評価する。 <講義クラス> <演習クラス> 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。 3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書)。 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社)。 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版)。 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)。
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。
担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。 一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。

授業コード	31F01		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (A- 1)(前)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、東 裕三(ヒガシ ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか？
-------	--

	私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだということのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F02		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (A-2)(前)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、東 裕三(ヒガシ ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		
講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経		

	済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか？ 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだということのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方や、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F03
授業科目名	入門ミクロ経済学 (A- 3)(前)
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、中野沙弥香(ナカノ サヤカ)

配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちににとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちににとって、良いものなのだろうか。もし良いものだということのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席：15% 期末試験：50% 演習クラス 出席：15% 小テスト：20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F04		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (A-4)(前)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、中野沙弥香(ナカノ サヤカ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか？ 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分

	人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F05		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (A- 5)(前)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、岡谷良二(オカタニ リョウジ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか？ 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのが、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方や、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。

	2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F06		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (A- 6)(前)		
担当者名	石川路子(イシカワ ノリコ)、岡谷良二(オカタニ リョウジ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだということのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%

講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F11		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (B- 1)(前)		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)、新居理有(アライ リアル)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちににとって良いものなのか？ 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考に、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。

準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F12		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (B- 2)(前)		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)、新居理有(アライ リアル)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか: この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか: 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をにつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのが、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。

	(3) 人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4) 人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5) 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方や、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつかって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F13		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (B- 3)(前)		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)、岡本 弥(オカモト ヒサシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか？ 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、
-------	---

	売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売 のか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たち にとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのが、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明で きるようになること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という 社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜 日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを 行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びま す。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを 説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会 のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F14		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (B- 4)(前)		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)、岡本 弥(オカモト ヒサシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この 3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経 済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何
-------	--

	をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか？ 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F15		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (B- 5)(前)		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)、寺地祐介(テラジ ユウスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		
講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか？ 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだということのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。		
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。		
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。		
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。		
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%		
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方や、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)		
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年		
参考書・資料	各担当者がお知らせします。		

授業コード	31F16		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (B- 6)(前)		
担当者名	市野泰和(イチノ ヤスカズ)、寺地祐介(テラジ ユウスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜4限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだということのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会

	のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F21		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (C- 1)(前)		
担当者名	後藤 励(ゴトウ レイ)、東 裕三(ヒガシ ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちににとって良いものなのか？ 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何を売って売するのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのがなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を理解すること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。

	2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F22		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (C- 2)(前)		
担当者名	後藤 励(ゴトウ レイ)、東 裕三(ヒガシ ユウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだということのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%

講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F23		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (C- 3)(前)		
担当者名	後藤 励(ゴトウ レイ)、田代義次(タシロ ヨシツグ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちににとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考に、誰が何をにつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだということのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。

準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F24		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (C- 4)(前)		
担当者名	後藤 励(ゴトウ レイ)、田代義次(タシロ ヨシツグ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか: この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか: 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのが、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。

	(3) 人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4) 人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5) 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方や、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F25		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (C- 5)(前)		
担当者名	後藤 励(ゴトウ レイ)、王 凌(ワン リン)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか？ 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、
-------	---

	売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考に、誰が何をつくって売 のか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たち にとって、良いものなのだろうか。もし良いものだということのなら、それは、どういう意味で「良い」の だろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明 できるようになること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という 社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜 日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを 行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びま す。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを 説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会 のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F26		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (C- 6)(前)		
担当者名	後藤 励(ゴトウ レイ)、王 凌(ワン リン)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この 3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経 済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何
-------	--

	をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか？ 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方や、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F31		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (D-1)(前)		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)、萩原史朗(ハギハラ シロウ)		
配当年次	1年次	単位数	4

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		
講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか？ 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかったり買わなかったりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだということのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。		
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。		
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。		
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。		
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%		
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方や、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)		
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年		
参考書・資料	各担当者がお知らせします。		

授業コード	31F32		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (D- 2)(前)		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)、萩原史朗(ハギハラ シロウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのが、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方や、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会

	のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F33		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (D- 3)(前)		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)、三原裕子(ミハラ ユウコ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちににとって良いものなのか？ 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのが、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。

	2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F34		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (D- 4)(前)		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)、三原裕子(ミハラ ユウコ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか: この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか: 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのが、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%

講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F35		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (D- 5)(前)		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)、湯浅圭祐(ユアサ ケイスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか？ この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちににとって良いものなのか？ 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考に、誰が何をにつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。

準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』 第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31F36		
授業科目名	入門ミクロ経済学 (D- 6)(前)		
担当者名	岩崎 晃(イワサキ アキラ)、湯浅圭祐(ユアサ ケイスケ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜3限
特記事項	2006年度以降入学の経済学部生対象。講義クラス、演習クラスの両方を履修すること		
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか: この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか: 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たちにとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのが、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。

	(3) 人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4) 人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5) 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	31088		
授業科目名	農業経済		
担当者名	柘植隆宏(ツゲ タカヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
特記事項	2007年度以前入学生適用		

講義の内容	環境問題に対する経済学的なアプローチについて講義を行う。前期の授業では、市場メカニズムを活用して環境負荷の削減を図る政策手段である「環境政策の経済的手段」について解説を行う。ミクロ経済学の復習、および外部性の内部化についての解説を行ったうえで、地球温暖化問題と廃棄物問題に対する経済学的なアプローチについて、環境税、排出量取引、ごみ処理有料化などの環境政策を事例として取り上げながら解説を行う。後期の授業では、環境政策の評価手法、企業の環境対策、資源・エネルギー経済学などのトピックを扱う。公共事業による生態系破壊、有害化学物質の規制、天然資源の枯渇などの問題を事例として取り上げる。また、環境調和型企業経営が注目される背景、それを実現するためのマネジメント手法、および現実の企業経営における最新の動向についても講義する。
到達目標	この授業の目標は、環境問題に対する経済学的な分析手法を習得することで、現実の環境問題の発生原因、およびそれに対する対策を、経済学の観点から評価・分析できるようになることである。前期の授業では、各種政策手段の特徴を理解し、環境問題の性質に応じて、適切な手段を選択できるようになることを目標とする。後期の授業では、環境政策を効率性の観点から評価したり、資源の持続可能な利用を実現するためのマネジメン

	ト方法を考案したりできるようになることを目標とする。
講義方法	板書による講義形式。
準備学習	・「入門ミクロ経済学」の内容を十分に理解していること。 ・ミクロ経済学や公共経済学と関連する内容が含まれるので、「中級ミクロ経済学」や「公共経済」を履修済みであるか、あるいは、この授業と併せて履修することが望ましい。 ・新聞等を読み、現実の環境問題の動向を把握しておくこと。参考書の該当部分を事前に読んでおくと、授業の内容が理解しやすい。
成績評価	期末試験の結果により評価する。平常点を加点することがある。
講義構成	第1回：イントロダクション(1) 第2回：ミクロ経済学の復習(1)市場メカニズム 第3回：ミクロ経済学の復習(2)余剰分析 第4回：外部性 第5回：外部性の内部化(1)ピグー税 第6回：外部性の内部化(2)コースの定理 第7回：外部性の内部化(3)政策手段の選択とポリシーミックス 第8回：地球温暖化対策の経済分析(1)京都メカニズム 第9回：地球温暖化対策の経済分析(2)環境税と排出量取引 第10回：地球温暖化対策の経済分析(3)自然エネルギー 第11回：地球温暖化対策の経済分析(4)ポスト京都 第12回：廃棄物政策の経済分析(1)ごみ処理有料化 第13回：廃棄物政策の経済分析(2)産廃税と不法投棄対策 第14回：廃棄物政策の経済分析(3)リサイクル 第15回：廃棄物政策の経済分析(4)循環型社会 第16回：イントロダクション(2) 第17回：公共財 第18回：費用便益分析 第19回：環境の価値と評価手法(1)顕示選好法 第20回：環境の価値と評価手法(2)表明選好法 第21回：環境評価の政策利用(1)生態系保全政策 第22回：環境評価の政策利用(2)環境規制 第23回：企業の環境対策(1)公害の歴史 第24回：企業の環境対策(2)環境経営 第25回：企業の環境対策(3)環境技術 第26回：企業の環境対策(4)CSRとSRI 第27回：資源・エネルギー経済学(1)枯渇性資源 第28回：資源・エネルギー経済学(2)再生可能資源 第29回：資源・エネルギー経済学(3)共有資源 第30回：持続可能な発展
教科書	教科書は使用しない。レジュメをMy KONANIにアップロードするので、各自印刷して持参すること。
参考書・資料	参考書として以下の文献を挙げる。その他については、講義中に適宜紹介する。 ・栗山浩一著(2008)『図解入門ビジネス 最新 環境経済学の基本と仕組みがよ〜くわかる本』秀和システム ・栗山浩一・馬奈木俊介著(2008)『環境経済学をつかむ』有斐閣

授業コード	31043		
授業科目名	ビジネスデータ分析(前)		
担当者名	畠瀬和志(ハタセ カズシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	事前登録科目 2008年度以降入学生用 「情報リテラシーA」または「情報リテラシーB」の単位を修得済みであること		
講義の内容	Excelワークシートを用い、企業財務の基礎を学ぶ。企業は資本市場から資金を調達し、事業に投資する。投資した資金は商品の製造・販売を通して利益を生み出す。本講義では、Excelワークシートを用い、このような資金の流れを企業財務の観点から分析する。		

到達目標	(1) 財務分析の基礎的な知識を習得すること (2) Excelをビジネス実務で使えるようになること
講義方法	講義はコンピューターを用いた実習型式とする。毎回、数題のExcelワークシートを用いた課題を与え、講師が解説しながら全員で課題を解く。毎回の講義の終わりには、ワークシートを提出してもらう。
準備学習	講義の前に、前回の講義で提出したワークシートの数式について復習すれば役立つでしょう(似た数式が繰り返し登場します)。
成績評価	(1) 出席(15%) (2) 毎回提出するExcelワークシート(45%) (3) 期末レポート(40%)
講義構成	第1講: 正味現在価値 第2講: 内部収益率 第3講: リスクと確率分布 第4講: 共分散、相関係数 第5・6講: ポートフォリオによるリスクの分散 第7講: 財務諸表 第8・9講: 財務諸表を用いた企業価値の推定 第10・11講: 正味現在価値の実務への応用 第12・13講: 財務計画のシミュレーション(簡易モデル) 第14講: フリー・キャッシュフローとDCF法
教科書	講義毎に資料を配布する。
参考書・資料	石野雄一「道具としてのファイナンス」日本実業出版社 Simon Benninga “Financial Modeling”, MIT Press
担当者から一言	企業財務の基礎知識を比較的簡単に習得出来る講義を目指します。より本格的な知識習得には、本年度後期の「ビジネスデータ分析B」を受講して下さい。

授業コード	31044		
授業科目名	ビジネスデータ分析A(後)		
担当者名	畠瀬和志(ハタセ カズシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生用 2006年度以降入学生は「情報リテラシーA」または「情報リテラシーB」の単位を修得済みであること		
講義の内容	Excelワークシートをビジネスで使うためのトレーニングを行う。題材としては企業財務を扱うが、本講義では専門知識よりもExcelワークシート操作能力の習得に重きを置く。なお、企業財務の予備知識は必要としないが、Excelの基礎知識は持っていることを前提として講義を行う。		
到達目標	Excelをビジネス実務で使えるようになること		
講義方法	講義はコンピューターを用いた実習型式とする。毎回、数題のExcelワークシートを用いた課題を与え、講師が解説しながら全員で課題を解く。毎回の講義の終わりには、ワークシートを提出してもらう。		
準備学習	講義の前に、前回の講義で提出したワークシートの数式について復習すれば役立つでしょう(似た数式が繰り返し登場します)。		
成績評価	(1) 出席(15%) (2) 毎回提出するExcelワークシート(45%) (3) 期末レポート(40%)		
講義構成	第1・2講: Excelワークシート操作の基礎 第3講: 正味現在価値 第4講: 内部収益率 第5講: 将来価値に関する応用問題 第6講: 財務諸表 第7・8講: 企業価値の推定 第9・10講: 正味現在価値の実務への応用 第11講: リスクと確率分布		

	第12講: 共分散、相関係数 第13・14講: ポートフォリオ・マネジメント
教科書	講義毎に資料を配布する。
参考書・資料	石野雄一「道具としてのファイナンス」日本実業出版社 Simon Benninga “Financial Modeling”, MIT Press
担当者から一言	株価の計算や投資戦略といった実用的な題材を取り上げます。楽しくやって行きましょう。
その他	Excelワークシート操作能力の習得に重きを置くため、企業財務のうち専門性の高い部分は講義から外した。このように、本講義は企業財務の本格的な講義ではないため、Excelを用いた財務分析を学びたい受講者は「ビジネスデータ分析B」を受講されたい。

授業コード	31045		
授業科目名	ビジネスデータ分析B（後）		
担当者名	畠瀬和志（ハタセ カズシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	事前登録科目 2007年度以前入学生用 2006年度以降入学生は「情報リテラシーA」または「情報リテラシーB」の単位を修得済みであること		

講義の内容	企業は資本市場から資金を調達し、事業に投資する。投資した資金は商品の販売を通してリターンを生み出し、そのリターンは利息や配当として資本市場に還元される。また、リターンの一部は企業内で再投資される。本講義では、Excelワークシートを用い、このような資金の流れを企業財務の観点から分析する。「ビジネスデータ分析A」がExcelワークシート操作能力の習得に重きを置くのに対し、本講義「ビジネスデータ分析B」は財務分析の知識習得に重きを置く。
到達目標	(1) 財務分析の基礎的な知識を習得すること (2) Excelをビジネス実務で使えるようになること
講義方法	講義はコンピューターを用いた実習型式とする。毎回、数題のExcelワークシートを用いた課題を与え、講師が解説しながら全員で課題を解く。毎回の講義の終わりには、ワークシートを提出してもらう。
準備学習	講義の前に、前回の講義で提出したワークシートの数式について復習すれば役立つでしょう(似た数式が繰り返し登場します)。
成績評価	(1) 出席(15%) (2) 毎回提出するExcelワークシート(45%) (3) 期末レポート(40%)
講義構成	第1講: 正味現在価値 第2講: 内部収益率 第3講: リスク・リターンと相関係数 第4・5講: ポートフォリオによるリスクの分散 第6講: 市場リスクと個別リスク 第7講: 加重平均資本コスト(WACC) 第8・9講: 財務諸表を用いた企業価値の推定 第10・11講: 財務計画モデル 第12講: フリー・キャッシュフロー 第13・14講: 財務計画モデルを用いた企業価値評価(DCF法)
教科書	講義毎に資料を配布する。
参考書・資料	石野雄一「道具としてのファイナンス」日本実業出版社 Simon Benninga “Financial Modeling”, MIT Press
担当者から一言	やや複雑なワークシート操作もありますが、頑張って付いて来てください。

授業コード	31067
-------	-------

授業科目名	ファイナンスⅠ(前)		
担当者名	石橋尚平(イシバシ ショウヘイ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「ファイナンスⅠ」・「ファイナンスⅡ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	本講義では、金融ならびにファイナンスに関する基礎的な概念・理論、証券市場をはじめとする金融システムの仕組み、主な金融商品の内容・特徴、ファイナンスの最近の動向について解説する。 金融ならびにファイナンスについての基礎知識を身につけるだけでなく、聴講者自身の観点から、金融に関する社会問題についての論考を深めるほか、ファイナンス分野の基本的な計算能力をしっかりと身につけられるようにしたい。
到達目標	・当授業を履修し、活用することができると、証券アナリスト資格を取得するための一応の水準に到達することを目標とする。ただし、「経済」や「財務分析」などの科目については、各自勉強してもらいたい。 ・将来、金融業界に就職した場合や、また事業会社の財務部門に配属された場合、当講義で得られた知識が現場において活かされることを目標とする。 ・将来、金融関連を専攻する大学院や、MBAプログラムを取得する場合においても、当講義でのファイナンスの基本内容は、知識のベースとなるので、しっかりと勉強してもらいたい。
講義方法	講義ノート(word版)、パワーポイントによる講義内容(授業中に表示)、レジュメの配布、宿題ならびに課題については、My Konanを通じて行うものとする。講義では、講義内容の解説の他、例題を多く出すこととし、ファイナンスの基本的な理解を進める。また、ファイナンスの計算問題を中心とした宿題(4回)や、レポートの提出(1回)を課し、履修者が予習復習を通じて理解を深めることができるようにする。
準備学習	・ファイナンスの基本を理解するには、実際に簡単な数値例を使った問題を解くなどの練習が必要である。授業中に例題を示して練習する他、宿題(計4回)を課すので、これらの課題を理解のための機会だと考え、自分自身で解くようにすべきである。 ・教科書は指定しないが、下記に指定する参考書・資料や、授業中に示す参考文献は、履修者が十分に活用すれば、理解をさらに深め、内容を整理することに役立つ。
成績評価	期末試験の点数を最重視する。 宿題(4回)の点数ならびにレポート(1回)も加味するが、宿題がよくても期末試験の成績が芳しくないと、80点以上をとることはできない。それぞれの点数を配点の中心とする複数の採点結果から、最も良い点を最終的な評価点とする。
講義構成	第1回 ガイダンス、ファイナンスについて：金融市場の機能、資金の効率的な配分 第2回 資金循環(1)：フローとストック、経済のストック化、日銀資金循環 第3回 資金循環(2)：日米の家計の金融資産構成比較、アブソープション・アプローチ、世界の資金循環 第4回 間接金融と直接金融：金融の区分、銀行と証券 第5回 わが国の金融市場：金融市場の分類、短期金融市場、外国人投資家 第6回 債券(1)～現在価値：単利と複利、Net Present Value、内部収益率 第7回 債券(2)～債券の価格：債券の種類、債券の価格と利回り 第8回 債券(3)～デュレーション：金利の期間構造、フォワードレート、マコーレーのデュレーション 第9回 債券(4)～コンベクシティ：修正デュレーション、ボンド・コンベクシティ、債券投資のリスク 第10回 債券(5)～さまざまな債券：コーラブル債、変動利付債、債券発行市場、債券流通市場 第11回 モダン・ポートフォリオ理論(1)～リスクとリターン：分散、標準偏差、リスクに対する態度 第12回 モダン・ポートフォリオ理論(2)～分散投資：共分散、相関係数、効率的フロンティア 第13回 モダン・ポートフォリオ理論(3)～CAPM：無差別曲線、分離定理、マーケット・ポートフォリオ、 β 第14回 債券、モダン・ポートフォリオ理論の補講 第15回 期末試験
教科書	特に指定しない
参考書・資料	美和卓『20歳からの金融入門』日本経済新聞出版社 堀之内朗・武内浩二『債券取引の知識』日経文庫 石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 岡村秀夫、田中敦、野間敏克、藤原賢哉『金融システム論』有斐閣コンパクト 福光寛・高橋元『ベーシック証券市場論』同文館出版 小林孝雄・芹田敏夫『新・証券投資論Ⅰ 理論編』日本経済新聞出版社 伊藤敬介・荻島誠司・諏訪部貴嗣『新・証券投資論Ⅱ 実務編』日本経済新聞出版社
講義関連事項	第7回(5/27)、第9回(6/10)、第11回(6/24)、第13回(7/8)の回で宿題、 第3回(4/22)の回でレポート提出を示す予定です(宿題は翌週提出、レポートは1カ月後提出) ただし変更の可能性あり

担当者から一言	授業中の私語は控えてください。
その他	最初の授業のガイダンスにおいて、授業の概要、課題、評価方法などを説明します。

授業コード	31068		
授業科目名	ファイナンスⅡ(後)		
担当者名	石橋尚平(イシバシ ショウヘイ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「ファイナンスⅠ」・「ファイナンスⅡ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	本講義では、金融ならびにファイナンスに関する基礎的な概念・理論、証券市場をはじめとする金融システムの仕組み、主な金融商品の内容・特徴、ファイナンスの最近の動向について解説する。 金融ならびにファイナンスについての基礎知識を身につけるだけでなく、聴講者自身の観点から、金融に関する社会問題についての論考を深めるほか、ファイナンス分野の基本的な計算能力をしっかりと身につけられるようにしたい		
到達目標	・当授業を履修し、活用することができると、証券アナリスト資格を取得するための一応の水準に到達することを目標とする。ただし、「経済」や「財務分析」などの科目については、各自勉強してもらいたい。 ・将来、金融業界に就職した場合や、また事業会社の財務部門に配属された場合、当講義で得られた知識が現場において活かされることを目標とする。 ・将来、金融関連を専攻する大学院や、MBAプログラムを取得する場合においても、当講義でのファイナンスの基本内容は、知識のベースとなるので、しっかりと勉強してもらいたい。		
講義方法	講義ノート(word版)、パワーポイントによる講義内容(授業中に表示)、レジュメの配布、宿題ならびに課題については、My Konanを通じて行うものとする。講義では、講義内容の解説の他、例題を多く出すこととし、ファイナンスの基本的な理解を進める。また、ファイナンスの計算問題を中心とした宿題(4回)や、レポートの提出(1回)を課し、履修者が予習復習を通じて理解を深めることができるようにする。		
準備学習	・ファイナンスの基本を理解するには、実際に簡単な数値例を使った問題を解くなどの練習が必要である。授業中に例題を示して練習する他、宿題(計4回)を課すので、これらの課題を理解のための機会だと考え、自分自身で解くようにすべきである。 ・教科書は指定しないが、下記に指定する参考書・資料や、授業中に示す参考文献は、履修者が十分に活用すれば、理解をさらに深め、内容を整理することに役立つ。		
成績評価	期末試験の点数を最重視する。 宿題(4回)の点数ならびにレポート(1回)も加味するが、宿題がよくても期末試験の成績が芳しくないと、80点以上をとることはできない。それぞれの点数を配点の中心とする複数の採点結果から、最も良い点を最終的な評価点とする。		
講義構成	第1回 ガイダンス、株式(1)～わが国の株式市場 第2回 株式(2)～理論上の株価 第3回 株式(3)～株価の算定 第4回 モダン・ポートフォリオ理論(4)～効率的市場仮説 第5回 デリバティブ(1)～デリバティブとは？ 第6回 デリバティブ(2)～先物 第7回 デリバティブ(3)～オプション 第8回 デリバティブ(4)～リスク中立価格 第9回 デリバティブ(5)～BSモデル 第10回 デリバティブ(6)～スワップ 第11回 国際証券投資 第12回 オルタナティブ投資 第13回 行動ファイナンス(1)～概要 第14回 行動ファイナンス(2)～事例 第15回 期末試験(後期)		
教科書	特に指定しない		
参考書・資料	石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 藤井英次『コア・テキスト国際金融論』新世社 角田康夫『行動ファイナンス』金融財政事情研究会 岡田克彦『行動ファイナンス入門』秀和システム		

	福光寛・高橋元『ベーシック証券市場論』同文館出版 小林孝雄・芹田敏夫『新・証券投資論Ⅰ 理論編』日本経済新聞出版社 伊藤敬介・荻島誠司・諏訪部貴嗣『新・証券投資論Ⅱ 実務編』日本経済新聞出版社
講義関連事項	ファイナンスⅠ(前)を履修しておくことを推奨する 第2回(10/14)、第6回(11/11)、第8回(11/25)、第10回(12/9)の回で宿題、 第3回(10/14)の回でレポート提出を示す予定です(宿題は翌週提出、レポートは1カ月後提出) ただし、変更の可能性あり
担当者から一言	授業中の私語は控えてください。
その他	最初の授業のガイダンスにおいて、授業の概要、課題、評価方法などを説明します。

授業コード	55J13		
授業科目名	プラクティカル・キャリアデザイン (C)(前)		
担当者名	中山一郎(ナカヤマ イチロウ)、I		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	2007年度以降入学生適用		

講義の内容	「就職活動」を「キャリアデザイン」(自分の基本とする生き方や働き方を描くこと)の始発点として位置づけ、就職活動に必要な基本的な知恵や知識やスキルを学び、納得のいく就職先を自分自身で選択し決定していける“自分づくり”を具体的な目的とします。さらには「就職活動」というものを通じて自分や社会をより深く理解し、ビジネス社会における思考法やマナーやルールの基本を身につけ、最終的には「生きる」ということや「働く」ということについても考えていきたいと思います。ゲストスピーカーとして、企業の人事担当者や就職が内定した4年次生なども招く予定にしています。自分を成長させるための講義です。
到達目標	受講者たち一人ひとりが、それぞれ納得のゆく進路や就職先を選択し決定できる。
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	授業の中で学んだ知恵・知識・スキルは、授業以外の場においてもどんどん実践し活かしていきましょう。
成績評価	1. キャリアデザインシート 2. 講義への出席(いかなる理由があっても、講義の場になかった、講義を受けていなかった学生は原則欠席とします) 3. 講義への出席態度・参加意欲(遅刻・無用の私語・居眠り等厳禁) ※ 以上を総合的に評価します。
講義構成	1. プロローグ ～プラクティカル・キャリアデザインの狙い～ 2. 就職活動のキホンⅠ ～就職環境の変化と企業が求める人物像～ 3. 就職活動のキホンⅡ ～就職活動プランニングを描こう～ 4. 自分づくりのキホンⅠ ～自分が思っている自分を確認しよう《自己分析編》～ 5. 自分づくりのキホンⅡ ～他人から見えている自分を知ろう《他己分析編》～ 6. ロールモデルをさがそうⅠ ～先輩たちが語る就職活動体験談～ 7. ロールモデルをさがそうⅡ ～人事担当者が語る欲しい学生・欲しくない学生～ 8. ビジネス研究のキホンⅠ ～私と社会をつなぐ業界・業種選び～ 9. ビジネス研究のキホンⅡ ～私と企業をつなぐ職種・仕事選び～ 10. 就職情報のキホンⅠ ～就職ナビのどこを見ればイイ?何を見ればイイ?～ 11. 就職情報のキホンⅡ ～キャリアセンターを120%使いこなそう～ 12. 面接対策のキホンⅠ ～集団面接にチャレンジしよう～ 13. 面接対策のキホンⅡ ～グループディスカッションにチャレンジしよう～ 14. エピローグ ～就職活動は夢実現にむけてのキャリアデザインの出発点～

教科書	必要な「レジュメ」は講義の中で随時配布します。
参考書・資料	適宜紹介します。
担当者から一言	「就職活動」は間違いなく人間をひとまわり大きく成長させてくれます。活動中は楽しいことばかりではありません。厳しく辛いこともあるでしょう。それらを乗り越えるためのタフな気力や精神力もこの講義で身につけてください。厳しくも、楽しい、そして充実した講義を皆さんと一っしょに創っていきましょう。

授業コード	55A31		
授業科目名	ベーシック・キャリアデザイン（経済）（1クラス）（後）		
担当者名	中山一郎（ナカヤマ イチロウ）、I		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜1限
特記事項	2007年度以降入学生適用 履修クラスについては授業時間表参照		

講義の内容	大学生生活を充実させ、将来の進路選択や就職選択に際して必要とされる基本的なチカラを“4つの知恵”（人と人との関係を築く知恵・情報を収集して活用する知恵・自ら考えて判断や決定をする知恵・自分の将来をイメージして描ける知恵）と名づけ、「雑談&情報交換ペアワーク」「コミュニケーションゲーム」「グループディスカッション」「プレゼンテーション」「ロールプレイング」などといった人間関係を軸としたトレーニングを14回の講義の中で行っていきます。
到達目標	「自己発見（なりたい自分を探す）」をコンセプトに、最終の学習目標としては、きたるべき卒業後の進路選択から就職活動などへ向けて、まずは自らの頭で考え、行動し、選択していけるような態度や姿勢を身につけていきます。
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	授業の中で学んだ知恵・知識・スキルは、授業以外の場においてももどろん実践し活かしていきます。
成績評価	キャリアデザインシートの提出（講義の中での気づきや感想などを記入・提出）、キャリアデザインマップの発表と提出（将来の進路選択や就職活動を視野に入れての目標設定と行動企画を作成・発表・提出）、講義への出席（一回一回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場になかった、講義を受けていなかった学生は原則欠席とします）。以上を総合的に評価します。
講義構成	1. オリエンテーションーベーシック・キャリアデザインとは？ー 2. “なりたい私”を探そうⅠ 3. “なりたい私”を探そうⅡ 4. 豊かな人間関係をきずこうⅠ 5. 豊かな人間関係をきずこうⅡ 6. 専門・専攻を進路に活かそうⅠ 7. 専門・専攻を進路に活かそうⅡ 8. 幅広い情報を活用しようⅠ 9. 幅広い情報を活用しようⅡ 10. 考える力を身につけようⅠ 11. 考える力を身につけようⅡ 12. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅠ 13. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅡ 14. “なりたい私”を実現させよう
教科書	「テキスト」は正式な履修登録後の講義で配付します。
担当者から一言	「生き方」や「働き方」の正解がたった一つだけではないという“新しい時代”や“新しい社会”がやってきました。そのような中、皆さん一人ひとりが充実した大学生活を過ごし、さらには“私らしい生き方や働き方”を実践していくためには、いったいどのような教養が必要なのでしょうか。皆さんの「これから」をいっしょに考えていきましょう。

授業コード	55A32
-------	-------

授業科目名	ベーシック・キャリアデザイン (経済)(2クラス)(後)		
担当者名	中山一郎(ナカヤマ イチロウ)、I		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限
特記事項	2007年度以降入学生適用 履修クラスについては授業時間表参照		

講義の内容	大学生生活を充実させ、将来の進路選択や就職選択に際して必要とされる基本的なチカラを“4つの知恵”(人との関係を築く知恵・情報を収集して活用する知恵・自ら考えて判断や決定をする知恵・自分の将来をイメージして描ける知恵)と名づけ、「雑談&情報交換ペアワーク」「コミュニケーションゲーム」「グループディスカッション」「プレゼンテーション」「ロールプレイング」などといった人間関係を軸としたトレーニングを14回の講義の中で行っていきます。
到達目標	「自己発見(なりたい自分を探す)」をコンセプトに、最終の学習目標としては、きたるべき卒業後の進路選択から就職活動などへ向けて、まずは自らの頭で考え、行動し、選択していけるような態度や姿勢を身につけていきます。
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	授業の中で学んだ知恵・知識・スキルは、授業以外の場においてもどんどん実践し活かしていきましょう。
成績評価	キャリアデザインシートの提出(講義の中での気づきや感想などを記入・提出)、キャリアデザインマップの発表と提出(将来の進路選択や就職活動を視野に入れての目標設定と行動企画を作成・発表・提出)、講義への出席(一回一回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場になかった、講義を受けていなかった学生は原則欠席とします)。以上を総合的に評価します。
講義構成	1. オリエンテーションーベーシック・キャリアデザインとは？ー 2. “なりたい私”を探そうⅠ 3. “なりたい私”を探そうⅡ 4. 豊かな人間関係をきずこうⅠ 5. 豊かな人間関係をきずこうⅡ 6. 専門・専攻を進路に活かそうⅠ 7. 専門・専攻を進路に活かそうⅡ 8. 幅広い情報を活用しようⅠ 9. 幅広い情報を活用しようⅡ 10. 考える力を身につけようⅠ 11. 考える力を身につけようⅡ 12. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅠ 13. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅡ 14. “なりたい私”を実現させよう
教科書	「テキスト」は正式な履修登録後の講義で配付します。

担当者から一言	「生き方」や「働き方」の正解がたった一つだけではないという“新しい時代”や“新しい社会”がやってきました。そのような中、皆さん一人ひとりが充実した大学生活を過ごし、さらには“私らしい生き方や働き方”を実践していくためには、いったいどのような教養が必要なのでしょうか。皆さんの「これから」をいっしょに考えていきましょう。
---------	---

授業コード	31041		
授業科目名	法人課税法 (前)		
担当者名	岡田悦美(オカダ エミ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	主として法人税法を講義する。法人税法は所得を課税の対象とし、法人を納税義務者とするなど定めている。日常の企業活動のなかで行われている取引・事実を基礎にして所得が形成されるから近隣法規の理解も要求される。 「誰が、どのような税金を、どのような場合に、どれだけ、いつ、誰に対して支払わなければならないか」を自分で判断できるようになることが目的である。
到達目標	まず、法人税法の全体像(大きな幹)を把握し、そこから個々の規定を理解することが目標である。

講義方法	法人税法は法人税の課税要件及びその手続きを定めている。したがって講義は条文を確認しつつ教科書に沿って進める。その過程で指名し発言を求め理解の程度を確認するので、受講生は積極的に授業に取り組まなければならない。
準備学習	シラバスの講義構成を見て、教科書の該当箇所を予習すること。 授業で配布した資料も合わせて復習すること。 条文に親しむこと。 新聞を読むこと。
成績評価	主として期末筆記試験による(80%)。 レポートの提出及び授業出席状況を成績評価に加算する(20%)。
講義構成	第1回 法人税の意義と性質 第2回 法人税の納税義務者と課税所得等の範囲 第3回 同族会社、事業年度、納税地の意義等 第4回 課税所得の基礎的計算構造 第5回 益金及び損金の概念 第6回 公正妥当と認められる会計処理の基準と税務調整 第7回 益金及び損金の計上時期(一般と特例) 第8回 益金の額の計算特例(「別段の定め」) 第9回 損金の額の計算特例 減価償却費・繰延資産の償却費 第10回 損金の額の計算特例 給与 第11回 損金の額の計算特例 寄付金・交際費等・租税公課 第12回 損金の額の計算特例 資産の評価損・貸倒・引当金・準備金 第13回 圧縮記帳・リース取引 第14回 欠損金の繰越控除・繰戻還付と税額の計算・申告・納付
教科書	岸田貞夫『税法としての所得課税』[4訂版](税務経理協会2008年)
参考書・資料	森 秀文編『平成21年版 図解法人税』(大蔵財務協会2009年)
講義関連事項	法人税法が収録された条文集を持参すること。
担当者から一言	「簿記」を既に受講していることが望ましい。 自主的に学習しない受講生は単位取得が難しいことを自覚しておいて欲しい。

授業コード	31102		
授業科目名	簿記I（後）		
担当者名	越智砂織（オチ サオリ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	2006年度以降入学生対象		

講義の内容	企業は複式簿記のシステムにより、その活動に必要な資源である財産の増減と変動を把握し、営業活動によって生じる利益の計算を行い、その結果を財務諸表に要約して表示します。 本講義では、簿記の一連の手続きを学習します。
到達目標	基礎的な知識と技法をベースに、日本商工会議所主催簿記検定試験3級レベルを目標として、解説した後、問題を解くという演習形式で行います。 簿記は会計関連科目の最も基礎的な科目であり、この講義においては、複式簿記の基本的な構造である、会計処理方法、とりわけ日常の諸取引を中心に簿記原理を理解することを目的とします。
講義方法	講義と演習の両形式
準備学習	講義で学んだ箇所の復習をすること。
成績評価	中間試験(25%)・期末試験(60%)・授業態度(15%)
講義構成	第1回 ガイダンス、簿記の意味・目的・種類 第2回 簿記の基礎概念、取引 第3回 勘定と仕訳 第4回 決算と財務諸表 第5回 決算と財務諸表、中間試験 第6回 現金預金取引 第7回 商品売買

	第8回 有価証券 第9回 手形 第10回 その他の債権債務 第11回 固定資産 第12回 売掛金と買掛金 第13回 資本金と引出金 第14回 収益と費用 第15回 期末試験
教科書	福島三千代 『サクッとわかる日商3級商業簿記 テキスト』 ネットスクール 福島三千代 『サクッとわかる日商3級商業簿記 トレーニング』 ネットスクール
参考書・資料	随時、必要に応じてレジュメを配付します。
講義関連事項	講義には、テキスト、トレーニング、レジュメ(ガイダンス時に配付)、および電卓を必ず持参して下さい。
担当者から一言	簿記は、積み重ねの学問ですから、欠席するとその部分の知識が欠け、その後の理解に多大な支障をきたします。 したがって、講義はすべて出席することが望ましいです。

授業コード	31103		
授業科目名	簿記Ⅱ(前)		
担当者名	越智砂織(オチ サオリ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	2006年度以降入学生対象 「簿記Ⅰ」の単位を修得済みであること		

講義の内容	講義は、商業簿記と工業簿記とにわけて、それぞれ1コマずつ用いて行います。 なお、本講義は、日商簿記2級レベルの内容ですが、受講生の多くが日商簿記3級を理解していなければ、3級の復習を中心に行います(初回の授業の時に詳細な講義内容について決めます)。
到達目標	「簿記Ⅰ」講義によって習得した基礎的な知識と技法をベースに、日本商工会議所主催簿記検定試験2級レベルを目標として、商業簿記および工業簿記について理解します。
講義方法	講義および演習形式
準備学習	簿記の基礎知識を必要としているため、「簿記Ⅰ」を修得していることが望ましい。 講義で学んだ箇所を復習すること。
成績評価	中間試験(25%)、期末試験(60%)、および授業態度(15%)
講義構成	第1回 ガイダンス、現金・預金 第2回 手形、工業簿記の基礎 第3回 有価証券、材料費 第4回 固定資産、労務費、経費 第5回 一般商品売買、個別原価計算 第6回 特殊商品売買、部門別計算 第7回 株式の発行、合併・買収、総合原価計算 第8回 剰余金の配当・処分、損失処理、中間試験 第9回 税金、社債、総合原価計算 第10回 引当金、総合原価計算 第11回 決算手続き、財務諸表 第12回 本支店会計、標準原価計算 第13回 伝票会計、直接原価計算 第14回 帳簿組織、本社工場会計 第15回 期末試験
教科書	福島三千代 『サクッとわかる日商2級 商業簿記 テキスト』 ネットスクール 福島三千代 『サクッとわかる日商2級 商業簿記 トレーニング』 ネットスクール 福島三千代 『サクッとわかる日商2級 工業簿記 テキスト』 ネットスクール 福島三千代 『サクッとわかる日商2級 工業簿記 トレーニング』 ネットスクール
参考書・資料	授業の時に必要に応じてレジュメと過去問題を配付します。

講義関連事項	テキスト、トレーニング、レジュメ、および電卓を必ず持参して下さい。
担当者から一言	初回の講義のときに、受講生の要望を聞き、その後の授業の予定を立てるつもりですから、必ず出席して下さい。

授業コード	31018		
授業科目名	ヨーロッパ経済入門（後）		
担当者名	中屋宏隆（ナカヤ ヒロタカ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	2007年度以前入学生適用		
オフィスアワー	講義終了直後		

講義の内容	18世紀末英国の産業革命を起点にしたヨーロッパ経済の発展プロセスを概観する。
到達目標	ヨーロッパ経済史の基礎的な知識の獲得を目標としたい。
講義方法	レジュメを配布し、パワーポイントを用いて進める。
準備学習	必要無し。
成績評価	小テスト(30点)と期末試験(70点)。
講義構成	第1回 イントロダクション 第2回 英国の産業革命 第3回 金融システムの確立 第4回 交通・通信革命と産業革命の波及 第5回 第二次産業革命と独米の台頭 第6回 パクス・ブリタニカの終焉 第7回 戦間期の英国とドイツの経済 第8回 ナチス経済と大恐慌のアメリカ 第9回 ヨーロッパ統合の胎動 第10回 ヨーロッパにおける冷戦の幕開け 第11回 ドイツ分断からヨーロッパ統合へ 第12回 ヨーロッパ経済共同体の誕生
教科書	適宜紹介する。

担当者から一言	ヨーロッパ経済に少しでも関心を持ってもらえればと思います。
---------	-------------------------------

授業コード	31107		
授業科目名	労働経済（後）		
担当者名	舟場拓司（フナバ タクジ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	経済学部2007年度以前入学生適用		

講義の内容	この講義では、わが国の労働市場の特徴をつかむために、まず、労働力率、合計特殊出生率、労働時間、短時間労働者の割合など主要な統計指標の推移を検討する。これらの特徴が観察できる経済学による理論的根拠を考察したり、これらの指標に関して外国の数値と比較したりすることによって、理解を深める。また、失業や女性労働、教育などの人的資本投資などに関する最近の研究も紹介する。
到達目標	労働市場の出来事に関して、いくつかの見方を提示することによって、自分のストーリーを展開するための考え方が身につくと期待される。
講義方法	教科書を使わずに、ノート講義を行う。講義形式を想定しているが、受講生の数など、物理的に許される範囲で、意見交換を取り入れた、双方向授業も考えている。
準備学習	経済に関するニュースをこまめにチェックして、それに関してコメントしてみる。

成績評価	定期試験(100%)
講義構成	第1回 授業内容紹介 第2回から第4回 労働供給に関連するテーマ 労働力率 出生など 第5回から第7回 労働需要に関連するテーマ 第8回から第11回 人的資本に関連するテーマ 教育, 訓練, 健康など 第12回から第14回 失業に関連するテーマ 第15回 まとめ
教科書	使用しない。
参考書・資料	随時指示する。

授業コード	31074		
授業科目名	労働経済Ⅰ(前)		
担当者名	岡本 弥(オカモト ヒサシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「労働経済Ⅰ」・「労働経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	わが国で近年観察される雇用状況の変化に注目しながら、労働に関連する経済問題について考える。
到達目標	新聞に日々掲載されている労働に関連する記事について、経済学的な見地から、自分なりにコメントできるようになること。
講義方法	単位取得を希望する人は、下記の2点を了解のうえ、履修登録のこと。 *成績評価においては、4年生を絶対に特別扱いしない。 *授業中の私語や携帯電話およびメールの使用は厳禁。ただし質問は歓迎。
準備学習	入門レベルのミクロ経済学の知識があることが望ましい。
成績評価	学期末試験(100点満点)+平常点(上限30点)。100点以上のときには100点とする。ただし成績不良者の救済は絶対に行わない。
講義構成	講義予定トピックは以下の通り。 *イントロダクション *賃金と雇用の決まり方 *日本の労働市場 *労働供給 *労働需要 *年功賃金制度 *長期雇用制度
教科書	特定の教科書は使用しない。ただし、以下の参考書については、講義をより深く理解する上で役立つと思われる。
参考書・資料	*大竹文雄(1998)『労働経済学入門』日経文庫 *大橋勇雄・中村二郎(2004)『労働市場の経済学』有斐閣 *佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2000)『マテリアル人事労務管理』有斐閣 *佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2007)『新しい人事労務管理(第3版)』有斐閣アルマ *中馬宏之(1995)『労働経済学』新世社
講義関連事項	講義予定トピックは以下の通り。 *イントロダクション *賃金と雇用の決まり方 *日本の労働市場 *労働供給 *労働需要 *年功賃金制度 *長期雇用制度

授業コード	31075		
授業科目名	労働経済Ⅱ(後)		
担当者名	岡本 弥(オカモト ヒサシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	2008年度以降入学生適用 「労働経済Ⅰ」・「労働経済Ⅱ」は同一年度に履修することが望ましい		

講義の内容	わが国で近年観察される雇用状況の変化に注目しながら、労働に関連する経済問題について考える。
到達目標	新聞に日々掲載されている労働に関する記事について、経済学の考え方に基づいて議論できるようになること。
講義方法	単位取得を希望する人は、下記の2点を了解のうえ、履修登録のこと。 * 成績などにおいて4年生を絶対に特別扱しない。 * 授業中の私語や携帯電話やメールの使用は厳禁。ただし質問は歓迎。
準備学習	入門レベルのミクロ経済学の知識があることがのぞましい。また前期の「労働経済Ⅰ」を履修することによって、理解が高まると思われる。
成績評価	学期末試験(100点満点)+平常点(上限30点)。100点以上のときには100点とする。ただし成績不良者の救済は絶対に行わない。
講義構成	講義予定トピックは以下の通り。 *さまざまな賃金格差 *失業と労働市場 *女性の労働問題 *若年者の雇用問題 *高齢者の雇用問題
教科書	特定の教科書は使用しない。ただし下記の参考書については、講義をより深く理解するうえで役立つと思われる。
参考書・資料	*大竹文雄(1998)『労働経済学入門』日経文庫 *大橋勇雄・中村二郎(2004)『労働市場の経済学』有斐閣 *佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2000)『マテリアル人事労務管理』有斐閣 *佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2007)『新しい人事労務管理(第3版)』有斐閣アルマ *中馬宏之(1995)『労働経済学』新世社

授業コード	35018		
授業科目名	Academic Listening(ESL VII) (後)		
担当者名	FREEBORN(フリーボーン ポール)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 水曜2限
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	Students in this course will listen to live academic lectures and apply lecture listening and notetaking techniques.
到達目標	◆Recognize rhetorical forms in academic lectures ◆Take useful, well-organized notes on the main and supporting ideas using abbreviations and key words ◆Demonstrate understanding of the lecture through extension activities such as a discussion, quiz, presentation ◆Practice TOEFL-type listening items, including short conversations.
講義方法	During each lecture, students will have an opportunity to do authentic listening to campus conversations and academic lectures. They will be required to take notes and discuss the listening with classmates.
準備学習	Completion of Freshmen Semester 1 Speaking and Listening.

成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm 15 points/ Final 15 points
講義構成	This course meets twice a week. Each lesson will include a listening to a lecture.
教科書	Key Concepts textbook.
参考書・資料	Students may be required to do supplemental online listening such as podcasts.
担当者から一言	Listening is an active skill. Students should work on really paying attention and listening for key words and information. Outside listening is encouraged.

授業コード	35017		
授業科目名	Academic Reading(ESL VI) (後)		
担当者名	LEE Sarah(リー サラ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限 木曜1限
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	The aim of this course is the development of fluent, accurate reading of upper intermediate level academic texts, and the use of facts and ideas from reading for communicative purposes.
到達目標	◆Build skills in inferring, analyzing, synthesizing, summarizing, and paraphrasing facts and ideas found in texts. ◆Apply knowledge and usage of common word forms, roots, prefixes, and suffixes and ability to determine vocabulary words from context. ◆Read advanced academic and authentic reading materials (newspapers/magazines) ◆Practice TOEFL-type reading items.
講義方法	Students will collaborate with classmates to develop original responses to reading materials through written and/or spoken pair/small group tasks. Teacher will provide additional explanation on TOEFL-related reading skills.
準備学習	Students should have completed the first semester of reading and vocabulary and already begun to work on academic reading skills.
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 15 points/final exam 15 points
講義構成	This course meets 3 times a week.
教科書	Reading Matters
参考書・資料	Students will be required to check out library books.
講義関連事項	There will be supplementary authentic reading materials brought in by the teacher.
担当者から一言	Becoming a better reader takes practice. Students should be encouraged to read for pleasure outside of class in order to increase vocabulary and reading speed.

授業コード	35019		
授業科目名	Academic Speaking(ESL VIII) (後)		
担当者名	MITCHELL(ミッチェル マレン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
特記事項	【自動登録科目】		
講義の内容	The main aim of this course is the development of academic speaking skills for public speaking. The course emphasizes both individual and group speeches.		

到達目標	◆Organize a speech using an opening statement (hook), background information, topic sentence, main ideas and supporting details. ◆Include elements of style such as pauses, repetition, transitions, posture, eye contact and gestures. ◆Make and utilize appropriate visual aids to support a presentation ◆Use a variety of speech styles: persuasive, argumentative, descriptive, opinion, and narrative speech ◆Practice TOEFL-type independent speaking activities
講義方法	The teacher will introduce a variety of speech styles and assist students in the development and improvement of speaking skills. Active class participation in discussions will be a critical element of the course.
準備学習	Completion of Speaking and Listening Freshmen Semester 1.
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 15 points Final exam 15 points
講義構成	This course meets twice a week. The course will be divided into 4 or 5 units each developed around a particular speech style (narrative, persuasive, argumentative, opinion, descriptive)
教科書	Dynamic Presentation textbook
参考書・資料	The teacher will use supplementary videos to demonstrate speeches.

担当者から一言	Students should work on developing their personal confidence through giving formal and informal speeches.
---------	---

授業コード	35A11		
授業科目名	Academic Writing II(ESL IX) (前)		
担当者名	QUINN B.(クイン ブラドリー)、LEE Sarah(リー サラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 火曜1限
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	In this course, students will be introduced to the basic components of a research paper.
到達目標	◆Practice the development of critical thinking skills and their application to higher concept writing assignments. ◆Learn how to paraphrase and summarize written academic texts. ◆Learn the components of a research paper including in-text citing, reference page, and quality resources. ◆Continue grammar refinement and working to identify errors.
講義方法	All study abroad courses require students to be active participants. The teacher will guide students in their search for quality resources and refining their ideas in their quest to write a research paper.
準備学習	Completion of Academic Writing 1
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 15 points/ final exam 15 points
講義構成	This course meets twice a week.
教科書	Writing to Communicate 3:Essay and the Short Research Paper by Cynthia A. Boardman. Sourcework: Academic Writing from Sources by Nancy E. Dollahite.
参考書・資料	The teacher will make writing reference guides available to students to assist them in the writing of a research paper.

担当者から一言	Being able to paraphrase academic texts and cite sources are skills necessary for success in an American University. The students should work hard to understand these central components of research writing in order to succeed at the University of Buffalo.
---------	---

授業コード	35015
-------	-------

授業科目名	Academic Writing I (後)		
担当者名	FREEBORN(フリーボーン ポール)、GONDREE(ゴンドリー エリック)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 火曜3限 水曜1限 木曜2限
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	In this course, you will develop clear, concise academic essay writing in several rhetorical styles in addition to creative written expression.
到達目標	◆Review of paragraph structure ◆Descriptive Essay ◆Narrative Essay ◆Opinion Essay ◆Comparison Essay ◆Cause/ Effect Essay
講義方法	Students will practice further developing their academic writing. The teacher will introduce the essay format and students will have opportunities to practice writing in various rhetorical styles. The class will emphasize self-correction and peer correction of errors.
準備学習	Completion of Writing and Grammar and mastery of the paragraph form.
成績評価	Class participation 15 points Quizzes and graded assignments 45 points TOEFL 15 points Midterm exam 10 points Final Exam 15 points
講義構成	This class meets 3 times per week. The course is organized in five 3-week segments of practice writing the various forms of essays.
教科書	Effective Academic Writing 3
参考書・資料	It is recommended that students have a good English-English dictionary.
担当者から一言	Students should continue to work diligently to refine their writing craft by careful construction and correction of academic essays.

授業コード	35033		
授業科目名	Company Visits (集中)		
担当者名	渡邊和俊(ワタナベ カズトシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	EBA総合コースの留学先であるニューヨーク州のバッファロー近郊にあるアメリカ現地企業を訪問する。
到達目標	アメリカ企業の現状を理解する。
講義方法	グループごとにアメリカの現地企業を訪問する。 現在のところ、MOOG社、リッチ社、メンソレータム社を訪問予定である。
準備学習	事前に訪問先企業のホームページを熟読しておく。
成績評価	レポートを評価する。
講義構成	5月中旬に、アメリカ企業を訪問する。 帰国後、レポート作成を行なう。
教科書	必要に応じて、提示する。

授業コード	35016
-------	-------

授業科目名	Reading and Vocabulary(ESL V) (前)		
担当者名	GONDREE(ゴンドリー エリック)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限 木曜2限
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	The course will focus on an introduction to academic reading skills and vocabulary development. Students will read from a variety of sources including textbook, graded readers, newspapers, magazines and more.
到達目標	Students will be able to: ◆Recognize the difference between academic and non-academic written materials. ◆Predict information, identify main & supporting points, skim to get a general understanding of a reading, understand text organization, scan a reading for specific details, and distinguish between fact vs. opinion. ◆Paraphrase and summarize information from written texts. ◆Analyze and develop skills needed to increase overall accuracy and reading speed. ◆Collaborate with classmates to share knowledge, opinions, ideas, and concepts drawn from assigned readings. ◆Develop receptive & active vocabulary through studying word forms, roots, prefixes/suffixes, antonyms/synonyms, and guessing meaning from context. Practice TOEFL-type reading items.
講義方法	Study Abroad English courses are taught using a communicative approach where all students are expected to be active learners and participants in class. Therefore, reading will be done primarily as homework and in class, students will use the ideas and vocabulary from the text in a variety of speaking and writing exercises.
準備学習	This is the first freshmen reading class, so there are no prerequisites for entering this class. Students should expect to do both academic and pleasure reading outside of class so that they may participate fully in the class activities.
成績評価	Class participation = 20 points Quizzes and graded assignments = 20 points Midterm Exam = 15 points/ Final Exam = 15 points. TOTAL: 100 points.
講義構成	This class meets three times per week. The student textbook serves as the primary text, plus there are additional supplementary readings throughout the course in order to expose students to a variety of types of reading material. 1st class = orientation and receive the class syllabus 2nd ◆ 7th week = reading and preparation for midterm in week 8. 9th ◆ 14th week = reading and preparation for final project in week 15.
教科書	Reading Matters by Mary Lee Wholey (Cengage Learning)
参考書・資料	Students will be required to check out graded readers (Penguin books) from the Konan University CUBE library.
講義関連事項	Teacher will pass out additional handouts in class. It is important to have a good notebook to keep these handouts in.

担当者から一言	In this course, you will increase your confidence in reading by building academic vocabulary and studying academic texts. You will also increase your reading speed through extensive fluency practice.
---------	---

授業コード	35014		
授業科目名	Writing and Grammar (前)		
担当者名	LEE Sarah(リー サラ)、QUINN B.(クイン ブラドリー)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 水曜1限 木曜1限 金曜3限
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	The main aim of the course is the development of clear, concise academic paragraph writing in several rhetorical styles in addition to creative written expression. Grammar is taught to support students' writing skills and to improve general accuracy and knowledge of grammatical form.
-------	--

到達目標	◆Write well organized and developed paragraphs incorporating brainstorming, outlining, and revised drafts. ◆Be able to understand and use: topic sentence, main idea, supporting details, and introduction, body and conclusion ◆Apply error analysis techniques to individual writing as well as peer editing. ◆Write creatively for self-expression and language development through the use of journals, self-reflection, etc. ◆Review basic grammar components needed for writing a variety of types of paragraphs. ◆Be able to write a paragraph in a limited amount of time with a focus on both form and content in order to prepare for the independent Writing section of the TOEFL iBT.
講義方法	Study Abroad courses are taught with a communicative approach and all students are required to be active learners and participants. Throughout the course, students will work on writing a variety of styles of paragraphs which they will compile and refine in their writing portfolio. Using examples from the textbook, the teacher will explain the various writing styles and help students to develop their own writing.
準備学習	Students will be expected to work on writing a rough draft and then refining that rough draft into a final product. The writing class is a workshop style where students are encouraged to develop their writing craft through extensive opportunities for practice and feedback from their peers and the teacher.
成績評価	Class Participation: 15 % Quizzes and graded assignments: 45% Midterm Exam 15% Final Exam: 15% TOEFL: 10%
講義構成	This class meets three times per week. The class will be divided into four 4-week segments during which you will develop 4 types of paragraphs: descriptive, opinion, process, and narrative. The last several weeks of class may also include an introducing the essay.
教科書	Effective Academic Writing 1:The Paragraph by Alice Savage (Oxford) First Steps in Academic Writing. By Ann Hogue (Pearson) Great Paragraphs 2 by Keith S. Folse (Cengage).
参考書・資料	The teacher may bring in additional writing samples to help students understand the various rhetorical forms.
講義関連事項	The teacher will provide each student with a journal and a writing portfolio which they will use throughout the semester to collect their writing.
担当者から一言	Writing is a craft that is developed through practice. In this class, you will learn a variety of forms of writing and have extensive opportunity to practice writing those forms and do self-editing and peer editing in order to learn how to correct your own writing.

授業コード	35047		
授業科目名	インターンシップ(集中)		
担当者名	西川耕平(ニシカワ コウヘイ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	インターンシップとは、学生が在学中に自らの専攻と将来のキャリアに関連した就業体験をすることであり、産業界と大学が連携して、将来の人材を育成することを目的に実施するものです。また大学で学んだ経済学・経営学の知識を、実務研修体験によって理解を確かにするだけでなく、ビジネスに関する発展的な学習意欲を高めることを目的にしています。
到達目標	インターンシップに行く前の自分と、体験後の自分との違いを振り返って、自分の内面に何が起こったのかを、事後分析によってつかむ社会的学習能力の獲得。
講義方法	事前の企業研究から研修体験記や事後の職務分析までを含めたレポートを講義担当者の指導の下で作成して提出します。キャリアセンターが主催するインターンシップに参加した場合は、事後報告会への参加も必須とします。受講者の数や体験企業の種類や期間によっても指導が異なりますので、基本は個別指導となります。
準備学習	インターンシップに行く前の自分を記録するためのエッセイを書くこと。
成績評価	評価はインターンシップ研修に対して付与するのではなく、研修実務活動を中心に、事前準備と事後の分析から得た知見をまとめたレポートと報告内容を考慮して認定します。ですから科目担当者にレポートを提出しない場合や、必要書類を提出しない場合は、単位を認定しません。

講義構成	EBA担当部分： インターンシップ先の業務分析 業務担当者と業務の流れ図作成 職場で必要とされる能力の分析 職場で働く意味の分析 レポート作成 擬似職業体験による自己の振り返り
教科書	特に指定しません。

授業コード	35046		
授業科目名	インデペンデント・スタディーズ(O・C・A)(集中)		
担当者名	西川耕平(ニシカワ コウヘイ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	科目の性格上特に指定しませんので、お互い事前に調整しましょう。		

講義の内容	学生の興味対象や調査方法によって異なりますが、担当者は学生が課題を実行する過程を背面から支えます。
到達目標	リサーチテーマの発見方法の学習と実践 テーマに沿ったリサーチ方法の学習とリサーチ実践 リサーチ結果を整理して文章化する能力獲得
講義方法	2007年度実績 目的：大学生の就職活動を支援するコンサルタントや企業に対して、就職を希望する学生に関する理解を深め、就職活動というコミュニケーションを一層円滑にする視点を仮想的に、コンサルタント達に提案する。 活動計画 基礎段階：就職支援コンサルタントや採用企業側の論理を理解する基礎学習期 キャリアデベロップメントアドバイザー(CDA)資格講座の学習を通じて、採用支援側の視点をつかむ。講義時間は、CDA資格講座に4コマ相当時間の学習。 調査段階：就職を希望する学生側の論理を理解する調査期 質問表調査や、インタビューによるデータ収集。 報告段階：調査に基づく議論と就職活動の視点提示・報告 最終報告：12月22日(土曜日)10:00～17:00 大阪市総合生涯学習センター梅田 大阪駅前第2ビル6FL 第2研修室 ゲストスピーカー講演 学生達の30分の報告と、30分の質疑応答
準備学習	調べたい領域の探索と予想されるリサーチ結果を計画として担当者に事前相談すること。
成績評価	課題のデザインと達成内容を、学生達と担当者が確認しながら、成績を評価します。
講義構成	講義方法と講義内容を参照してください。
教科書	特に指定ませんが、最終的にかなりの文献を読んでノートを作ることになります。

授業コード	35022		
授業科目名	会計学入門（前）		
担当者名	福島孝夫（フクシマ タカオ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限

講義の内容	企業会計の課題と論理
到達目標	企業会計の特徴の理解
講義方法	テキストと講義資料による通常の講義を予定しているが、受講者と相談の上、演習方式の導入も考えている。
準備学習	テキストの予習
成績評価	平常の学習態度と期末のテストによる総合評価

講義構成	大略、以下のような構成を予定している。(変更の可能性もある。) 1) 会計の意義・領域・目的 2) 企業会計の基本目的と計算方法 3) 期間損益計算の方法と課題 4) 期間損益計算の基本原則 5) 期間収益の決定 6) 期間費用の決定 7) 損益計算書の構造と内容 8) 貸借対照表の機能と構造 9) 資産の会計 10) 負債の会計 11) 純資産の会計 12) 会計報告書の見方
教科書	目下のところ、未定
参考書・資料	桜井久勝著『財務会計論講義(第10版)』(中央経済社)
講義関連事項	複式簿記の基本知識が必要
担当者から一言	新聞・テレビ等を通して企業と会計に関する情報をキャッチするように心がけることが有益である。

授業コード	35026		
授業科目名	企業調査研究(前)		
担当者名	西川耕平(ニシカワ コウヘイ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	他学部学生の受講を積極的に認める。 受講の相談は以下のメールで受け付けます。[kensk@center.konan-u.ac.jp]		
オフィスアワー	頻繁に相談・指導をしますから、事前に調整した時間に設定します。		

講義の内容	テキストによる戦略論の復習 日経テレコンを使った企業調査 調査結果の報告
到達目標	具体的な調査による戦略論の基本概念の理解と応用能力獲得
講義方法	教室での講義形式と企業調査の個別指導とで構成されます。
準備学習	特に必要ありません。
成績評価	以下の項目を総合して評価します。 出席 テキスト学習部分の評価: 各章のクイズ 調査部分の評価: 調査段階の進捗評価: 調査を期限までに終えている事と調査内容の評価 分析段階の進捗評価: 分析を期限までにおえている事と分析内容の評価 プレゼンテーションアウトラインの評価: 完成している度合いの評価 報告における評価: プレゼンテーションの評価
講義構成	2つの部分で構成されます。 テキスト学習部分 調査と分析・文章化部分
教科書	沼上, わかりやすいマーケティング戦略, 有斐閣アルマ
講義関連事項	甲南大学内オープンクラス: 学生であれば、10名程度の枠内まで、学部を問わず誰でも参加できます。ただし出席は毎回取りますし、テキスト学習ではクイズで学習度をチェックします。調査部分では、調査資料を整理して発表しなければ最終評価となりませんので、最後までやりぬくことを求められます。興味ある学生は、必ず初回ガイダンスに参加して、内容を確かめてください。

授業コード	35054		
授業科目名	起業マネジメント（前）		
担当者名	投石満雄（ナゲシ ミツオ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜2限
オフィスアワー	原則として、月曜日講義後の午後1時頃まで。		

講義の内容	内外環境分析や事業アイデアの探り方に端を発して、ビジネスプランづくりから創業後の事業推進に至るまでを、できる限り実際の事例を盛り込みながら、紹介、検討する。なお、グループでのビジネスプラン策定演習では、できれば実在企業の開示可能な情報を提供し、グループでビジネスプランの特定部分策定に挑む要素を盛り込む可能性あり。		
到達目標	創業前後に必要な実務知識習得を目的とし、自らビジネスを起こすに際しての現実的な課題の抽出や整理、対応策の構築が目標となる。		
講義方法	実務知識に関する講義形式と、グループディスカッションなどの演習形式の併用。また、事例企業として実際の起業家をゲストスピーカーとしてお招きし、講演や質疑応答の場を2回ほど予定している。		
準備学習	講義中に翌週、或いは、翌々週迄の準備事項をあげた場合、対応を求める場合がある（例：①試験として実施する最終日のための、ビジネスプラン策定とプレゼンテーションの準備【①は必須】 ②お招きするゲストスピーカーが経営する企業について、ホームページ等からの事前情報収集、及び、ケース次第では実際に店舗等の視察【②は可能な範囲で】など）。		
成績評価	実務知識を自身でまとめあげる試みとして、「ビジネスプランの策定と、そのプレゼンテーション」による試験を実施する。 成績評価は次の①～③を総合的に評価し履修を放棄したとみなす場合は、「欠席」と評価する。 ①原則として毎回行う出欠の確認 ②講義中の発言などの参画度合い ③最終日に提出するビジネスプランの策定、及び、最終日のビジネスプランのプレゼンテーション ただし、上記に関わらず最終日のプレゼンテーションに参加しなかった場合は「欠席」と評価する。 また、最終日のプレゼンテーションに参加しただけでは、単位取得は困難である。		
講義構成	1. 創業を取り巻く状況、強み・弱みや外部環境分析の方法～当社の現住所確認から～ 2. 事業アイデアの探り方から、ビジネスプランづくり ～数値計画や収益獲得の仕組みを含む～ 3. 起業家を招いてのディスカッション 4. グループでのビジネスプラン策定演習～与件に基づくプランニングとプレゼンテーション～ 5. 市場・販路開拓の切り札～当社のつくる顧客の損益計算書／食べる前においしい？～ 6. 経営者資質と、プレゼンテーションの留意点 7. 今日的なテーマを含め、要望に即しての実情紹介（市場・顧客満足度調査、産学官連携、知的財産権流通、直接金融、農商工連携、地域資源活用、創業関連各種支援施策、創業後のセカンドステージの実情他） 8. ビジネスプラン策定とプレゼンテーション、講評		
教科書	レジュメを含め必要資料を、講義中に随時配布。なお、現状では未確定の部分があるが、教科書を1冊使用する可能性がある。		
参考書・資料	上記教科書欄に記載の内容を中心に進める。		
講義関連事項	コンサルティングやセミナー等に関する講師自身の日頃の活動内容は、一般のネット検索で「投石満雄」で検索頂くと、一部の情報は公開されている。		
その他	上記内容の一部は変更となる場合あり。グループ演習割合を高める予定もあり、「考える姿勢」を含め、より一層の積極的参画を期待している。		

授業コード	J0911		
授業科目名	基礎英語I（EBA）（前）		
担当者名	FREEBORN（フリーボーン ポール）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 水曜2限
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	This course is intended to help students develop their ability to speak English naturally for the purposes of communication, with the goal of using English 100% of the time for their CUBE Study Abroad English classes. There will be an added emphasis on listening to short conversation and lectures on academic topics similar to TOEFL iBT.
到達目標	◆Build fluency through guided opportunities for authentic, natural communication ◆Increase knowledge and use of vocabulary and idiomatic expressions for increased listening comprehension and conversation. ◆Practice identifying the main ideas, supporting details, and key vocabulary words in a TOEFL iBT listening ◆Increase confidence in applying critical listening skills and using English to communicate orally. ◆Introduce basic presentation skills.
講義方法	The lecture will follow the textbook, covering the majority of the topics presented in the text. The teacher will supplement the text with additional speaking and listening material related to that topic. There will be multiple opportunities to practice listening and speaking for the TOEFL iBT.
準備学習	All students must be committed to speaking English only in the classroom.
成績評価	Class participation = 20 points Quizzes and graded assignments = 50 points Midterm Exam = 15 points Final Exam/Presentation = 15 points
講義構成	This class meets twice a week on 5th period Monday and 2nd period Wednesday.
教科書	Northstar Building Skills for the TOEFL iBT
担当者から一言	Although it is intimidating to speak only English in the class at first, the students in the class should encourage each other to create a 100% English environment in the classroom.

授業コード	J1911		
授業科目名	基礎英語Ⅱ(A) (EBA)(前)		
担当者名	GONDREE(ゴンドリー エリック)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	The course will focus on an introduction to academic reading skills and vocabulary development. Students will read from a variety of sources including textbook, graded readers, newspapers, magazines and more.
到達目標	Students will be able to: ◆Recognize the difference between academic and non-academic written materials. ◆Predict information, identify main & supporting points, skim to get a general understanding of a reading, understand text organization, scan a reading for specific details, and distinguish between fact vs. opinion. ◆Paraphrase and summarize information from written texts. ◆Analyze and develop skills needed to increase overall accuracy and reading speed. ◆Collaborate with classmates to share knowledge, opinions, ideas, and concepts drawn from assigned readings. ◆Develop receptive & active vocabulary through studying word forms, roots, prefixes/suffixes, antonyms/synonyms, and guessing meaning from context Practice TOEFL-type reading items.
講義方法	Study Abroad English courses are taught using a communicative approach where all students are expected to be active learners and participants in class. Therefore, reading will be done primarily as homework and in class, students will use the ideas and vocabulary from the text in a variety of speaking and writing exercises.
準備学習	This is the first freshmen reading class, so there are no prerequisites for entering this class. Students should expect to do both academic and pleasure reading outside of class so that they may participate fully in the class activities.
成績評価	Class participation = 20 points Quizzes and graded assignments = 20 points Midterm Exam = 15 points/ Final Exam = 15 points. TOTAL: 100 points
講義構成	This class meets three times per week. The student textbook serves as the primary text, plus there are

	additional supplementary readings throughout the course in order to expose students to a variety of types of reading material. 1st class = orientation and receive the class syllabus 2nd ◆ 7th week = reading and preparation for midterm in week 8. 9th ◆ 14th week = reading and preparation for final project in week 15.
教科書	Reading Matters by Mary Lee Wholey (Cengage Learning)
参考書・資料	Students will be required to check out graded readers (Penguin books) from the Konan University CUBE library.
講義関連事項	Teacher will pass out additional handouts in class. It is important to have a good notebook to keep these handouts in.
担当者から一言	In this course, you will increase your confidence in reading by building academic vocabulary and studying academic texts. You will also increase your reading speed through extensive fluency practice.

授業コード	J2911		
授業科目名	基礎英語Ⅱ(B) (EBA)(後)		
担当者名	LEE Sarah (リー サラ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	The aim of this course is the development of fluent, accurate reading of upper intermediate level academic texts, and the use of facts and ideas from reading for communicative purposes.
到達目標	◆Build skills in inferring, analyzing, synthesizing, summarizing, and paraphrasing facts and ideas found in texts. ◆Apply knowledge and usage of common word forms, roots, prefixes, and suffixes and ability to determine vocabulary words from context. ◆Read advanced academic and authentic reading materials (newspapers/magazines) ◆Practice TOEFL-type reading items.
講義方法	Students will collaborate with classmates to develop original responses to reading materials through written and/or spoken pair/small group tasks. Teacher will provide additional explanation on TOEFL-related reading skills.
準備学習	Students should have completed the first semester of reading and vocabulary and already begun to work on academic reading skills.
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 15 points/final exam 15 points
講義構成	This course meets 3 times a week.
教科書	Reading Matters
参考書・資料	Students will be required to check out library books.
講義関連事項	There will be supplementary authentic reading materials brought in by the teacher.
担当者から一言	Becoming a better reader takes practice. Students should be encouraged to read for pleasure outside of class in order to increase vocabulary and reading speed.

授業コード	35010		
授業科目名	キャリア・デザインⅠ(後)		
担当者名	中山一郎(ナカヤマ イチロウ)、I		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	大学生活を充実させ、将来の進路選択や就職選択に際して必要とされる基本的なチカラを“4つの知恵”(人と人との関係を築く知恵・情報を収集して活用する知恵・自ら考えて判断や決定をする知恵・自分の将来をイメージして描ける知恵)と名づけ、「雑談&情報交換ペアワーク」「コミュニケーションゲーム」「グループディスカッション」「プレゼンテーション」「ロールプレイング」などといった人間関係を軸としたトレーニングを14回の講義の中で行っていきます。
到達目標	「自己発見(なりたい自分を探す)」をコンセプトに、最終の学習目標としては、きたるべき卒業後の進路選択から就職活動などへ向けて、まずは自らの頭で考え、行動し、選択していけるような態度や姿勢を身につけていきます。
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	授業の中で学んだ知恵・知識・スキルは、授業以外の場においてもどんどん実践し活かしていきましょう。
成績評価	キャリアデザインシートの提出(講義の中での気づきや感想などを記入・提出)、キャリアデザインマップの発表と提出(将来の進路選択や就職活動を視野に入れての目標設定と行動企画を作成・発表・提出)、講義への出席(一回一回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場になかった、講義を受けていなかった学生は原則欠席とします)。以上を総合的に評価します。
講義構成	1. オリエンテーションーキャリアデザインとは？ー 2. “なりたい私”を探そうⅠ 3. “なりたい私”を探そうⅡ 4. 豊かな人間関係をきずこうⅠ 5. 豊かな人間関係をきずこうⅡ 6. 専門・専攻を進路に活かそうⅠ 7. 専門・専攻を進路に活かそうⅡ 8. 幅広い情報を活用しようⅠ 9. 幅広い情報を活用しようⅡ 10. 考える力を身につけようⅠ 11. 考える力を身につけようⅡ 12. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅠ 13. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅡ 14. “なりたい私”を実現させよう
教科書	「テキスト」は正式な履修登録後の講義で配付します。
参考書・資料	適宜紹介します。
担当者から一言	「生き方」や「働き方」の正解がたった一つだけではないという“新しい時代”や“新しい社会”がやってきました。そのような中、皆さん一人ひとりが充実した大学生活を過ごし、さらには“私らしい生き方や働き方”を実践していくためには、いったいどのような教養が必要なのでしょうか。皆さんの「これから」をいっしょに考えていきましょう。

授業コード	35027		
授業科目名	キャリア・デザインⅡ(前)		
担当者名	橋本佳苗(ハシモト カナエ)、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	大学でのキャリア形成を通じて、どのような未来像を自己について描いていくのかを考える。
到達目標	自己分析、企業分析等の総まとめを行なう。
講義方法	ディスカッションを行なう。
準備学習	自己分析をさまざまな視点から試みておくこと。
成績評価	レポート を評価する。
講義構成	1. オリエンテーション 2. 多様な仕事と働き方 3. 企業分析 4. 研究発表 5. 自己を知る 6. キャリアビジョンを作成する
教科書	必要に応じて提示する。

担当者から一言	実践から学び、実践から自己を知る授業です。
---------	-----------------------

授業コード	35038		
授業科目名	キャリア・デザインⅢ(集中)		
担当者名	渡邊和俊(ワタナベ カズトシ)、橋本佳苗(ハシモト カナエ)、I		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	EBA総合コースにおけるニューヨーク州立大学バッファロー校留学をふまえ、自己のキャリア形成について考える。
到達目標	学生自身による自己分析と自己アピールをまとめる。
講義方法	グループディスカッションを行なう。
準備学習	アメリカでの留学体験をまとめておくこと。
成績評価	出席とレポートを評価する。
講義構成	1. 自己分析 2. 業界分析・企業分析 3. 企業が求める人材とは 4. エントリーシートの作成 5. グループディスカッションの仕方 6. 面接のマナーと面接の受け方 7. 東京企業訪問(8月5日～7日)
教科書	必要に応じて、提示する。

授業コード	35045		
授業科目名	金融論(後)		
担当者名	阿萬弘行(アマン ヒロユキ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限 火曜2限
オフィスアワー	講義時間の中でお知らせします。		

講義の内容	金融制度・金融システムの仕組みを理解するために必要な基礎的な知識や考え方について学ぶ。主に、ミクロ的な側面から見た金融市場の機能や金融機関の行動、マクロ経済の面から見た金融の役割について講義する。
到達目標	金融の基礎的理論を理解すること。応用問題について数値を用いた計算ができること。グラフを描いて理論の説明ができること。
講義方法	毎回資料を配布して講義を行う。時事的なトピックス、関連の話題についての解説等を行う。受講人数に応じて、課題への取り組みを合わせて実施することがある。
準備学習	参考書の関連箇所を予習することによって理解が深まる。
成績評価	主に期末試験によって評価する。ただし、参加人数に応じて、課題への取り組み状況を評価する。
講義構成	(1) 講義のイントロダクション (2) 金融システムの基本的仕組み (3) 銀行の役割 (4) 金融システムと金融規制 (5) 決済機能 (6) 消費者向け金融サービス (7) 証券市場分析の基礎 (8) 債券市場 (9) 株式市場

	(10) 株価形成と投資 (11) 行動ファイナンス (12) 派生市場 (13) マクロ経済と金融 (14) マクロ金融政策 (15) 国際経済
教科書	特定の教科書は指定しない。講義中に随時参考書を紹介する。
参考書・資料	酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』有斐閣アルマ 東京証券取引所『入門日本の証券市場』東洋経済新報社 リチャード・セイラー『市場と感情の経済学』ダイヤモンド社

授業コード	35034		
授業科目名	経営戦略論（後）		
担当者名	今井 希（イマイ ノゾム）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限 木曜4限
オフィスアワー	火曜日12:10～13:00		

講義の内容	本講義では、経営戦略論の系譜と代表的なアプローチについて、事例をつうじて具体的に学ぶことを通じて、「経営戦略」をどのように理解していけばよいのかを考えていきます。 経営戦略論は経営学のなかでもかなり若い領域ですが、成立以来約50年間で様々な分析ツールの開発など実務に大きな影響を与え、「経営戦略」という用語もすっかり日常的に用いられるようになりました。しかし、「経営戦略」とは一体なんなのかは必ずしも明確ではありませんし、経営戦略論が企業の戦略的な活動を十分に捉えているとも言え難いところがあります。 この講義では経営戦略論の系譜と「経営戦略」を捉える代表的な6つのアプローチを学んでいきます。また、6つのアプローチの中から「ポジショニング・アプローチ」や「リソースベースド・ビュー」の研究で示されている分析ツールを用いて実際に分析を行ってもらいます。 こういったアプローチの理解や実際の分析をつうじて、経営戦略とは、また経営戦略を実践するとは何かを、具体的に考えてもらいたいと思います。
到達目標	経営戦略に関する議論の流れや、各アプローチのポイントを理解する。また、授業で得た知識を実際に使う力をつける。
講義方法	「経営戦略」の代表的な6つのアプローチについて、指定したテキストを読み進めながら学んでいきます。事前にテキストの報告担当を割り当て、授業の前半で教科書の該当箇所を報告してもらい、それをもとにディスカッションを行います。授業の後半では、次回の内容に関わる講義を行います。 以上が、基本的な授業の進め方ですが、講義の中で理解した視点を応用して、講義の中でのケーススタディや最終レポートの作成も行ってもらいます。
準備学習	以下に挙げるような経営戦略論のテキストおよびリソース・ベースド・ビューに関する文献を一読しておく、講義内容が理解しやすくなると思います。 十川廣國(2006)『経営学イノベーション〈2〉経営戦略論』中央経済社 沼上幹(2009)『経営戦略の思考法 時間展開・相互作用・ダイナミクス』日本経済新聞社(特に第Ⅰ部) Barney, J. B.(2002) Gaining and Sustaining Competitive Advantage, 2nd., ed., Pearson Education (『企業戦略論 競争優位の構築と持続(上)基本編』ダイヤモンド社 2003年)
成績評価	授業への参加の度合い(50%)と、最終レポートの内容(50%)に基づいて評価します。
講義構成	第1講 はじめに 講義の進め方を中心に説明します。 第2講 経営戦略前史 戦略とはどういった概念だったのか、経営戦略(論)はどういった経緯で形成されてきたのかについて概観します。 第3講 経営計画論: 変動の激しい環境における将来の計画 チャンドラーやアンゾフといった草創期の経営戦略論について議論し、初期の経営戦略論がどういった問題意識を持っていたのかを理解します。 第4・5講 ポジショニング・アプローチ: 企業の外部環境の理解 Porterの産業構造分析を中心としたポジショニング・アプローチと呼ばれる議論のエッセンスを理解し、具体的な事例にあてはめて分析を行います。 第6・7・8講 リソース・ベースド・ビュー: 企業の内部資源の理解 経営戦略論のなかで経営資源に注目するアプローチのエッセンスを理解し、具体的な事例分析も行います。そ

	の上で、こういったアプローチが持つ経営資源の捉え方に関する特徴と課題を、リソース・ベースト・ビューの理論的ルーツまで遡って検討します。 第9講 シナリオ・プランニング シナリオ・プランニングに関する議論について概観します。 第10講 戦略のプロセス・アプローチ: パターンとしての戦略 戦略のプロセス学派と呼ばれる諸研究について、どういった問題意識をもちどういった研究を行ったのか、その議論の特徴を具体的な事例も交えつつ検討します。 第11講 戦略の実践アプローチ: 戦略家の行いとしての戦略 2000年以降ヨーロッパを中心として議論が行われている、「実践としての戦略」と呼ばれるアプローチの問題意識とそのアプローチの特徴について、とりわけ戦略のプロセス学派との関わりで検討します。 第12講 戦略研究の7つの課題 これまでの経営戦略研究が持つ理論前提について再検討します。 第13・14講 これからの戦略と戦略研究 「実践としての戦略」の問題意識を引き継ぐとするならば、経営戦略をどのように理解することができるかについて検討します。また、経営資源を実践との関わりで考え直してみます。 第15講 まとめ これまでの講義内容を振り返ります。
教科書	Chris Carter, Stewart Clegg and Martin Kornberger(2008)A Very Short, Fairly Interesting and Reasonably Cheap Book About Studying Strategy, Sage Publications.
参考書・資料	詳しくは、講義の中で適宜提示していきます。 以下のような文献を合わせて読むと、講義の理解の助けになると思います。 Chandler, A. D.(1962)Strategy and Structure, MIT Press (「組織は戦略に従う」ダイヤモンド社 2004年) Collis, D. J. and C. A. Montgomery(1998) Corporate Strategy: A Resource-Based Approach, McGraw-Hill (「資源ベースの経営戦略論」東洋経済新報社 2004年) Porter, M. E.(1980) Competitive Strategy, Free Press(「競争の戦略」ダイヤモンド社、1982年)
担当者から一言	自分が興味を持っている産業や企業に当てはめるなど、常に具体的なことがらに置き換えて考えることを心がけてください。

授業コード	35001		
授業科目名	経済学入門（後）		
担当者名	青木浩治（アオキ コウジ）、寺地祐介（テラジ ユウスケ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
オフィスアワー	開講時に各担当者より発表する。		

講義の内容	マクロ経済学の基礎を学ぶ。マクロ経済学とはその名の通り経済の仕組みを巨視的、全体的に捉え、分析しようとする経済学の基礎的分野である。一国の経済活動水準やその変化は、どのような要因によってどのように定まるのかを明らかにするのがその主な目標であるが、そのために必要な諸概念やその相互関係について学習する。
到達目標	自分の目で経済現象を見つめる能力の獲得と新聞の経済記事が理解できること。
講義方法	100名規模の講義クラスと20名規模の演習クラスからなる、半期4単位の講義(必修)である。 原則として、教科書・参考書に沿った講義を行い、その内容を演習クラスにて、小テスト織り交ぜつつ補足する。
準備学習	全国紙の経済欄に目を通しておこう。
成績評価	講義クラス成績65%, 演習クラス成績35%で総合的に評価する。 ＜講義クラス＞ ＜演習クラス＞ 1.出席状況(15%) 1.出席状況(15%) 2.期末試験(50%) 2.小テスト(20%) 詳細については、第1回講義時に各担当者から説明を行う予定である。
講義構成	1.経済をマクロからとらえる マクロ経済学の基本概念である国民所得について概説する。 2.有効需要と乗数メカニズム 国民所得の決まり方を学習する。

	3.貨幣の機能 貨幣・銀行の役割について概説する。 4.その他 関連するトピックスを適宜概説する。
教科書	伊藤元重『入門 経済学 第3版』(日本評論社)。
参考書・資料	岩田規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書) 林敏彦『ハート&マインド経済学』(有斐閣) 井堀利宏『経済学演習』(新世社) 伊達邦春『マクロ経済学』(八千代出版) 伊藤元重『マクロ経済学』(日本評論社)
講義関連事項	講義はあくまでマクロ経済学への初歩的入門であり、標準的マクロ経済学はこの科目の上級科目である「中級マクロ経済学」において講義される。本科目を履修した者はつづいて「中級マクロ経済学」を履修するよう強く勧める。

担当者から一言	詳細は担当者によって異なることがあるので、開講時によく確認されたい。
その他	一部のクラスでは、パソコンシステムを利用した授業方法を随時取り入れる予定である。

授業コード	35005		
授業科目名	経済・経営のための数学I(前)		
担当者名	藤木 清(フジキ キヨシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限

講義の内容	昨今、統計データから物事を読み取る力や、自分でデータを収集・整理・加工して、他人に説明する力が必要になっている。この授業では、記述統計的分析手法を中心に学習し、これらの力を伸ばしていくことを目的とする。 前半は、表やグラフの表現及び質的なデータの整理・加工の方法と分析方法について学習する。後半は量的なデータの整理・加工の方法と分析方法について学習する。 若干の数学的な素養が必要であるが、できるだけ平易に解説するとともに中間試験や平常課題を通して段階的に理解を深めていく。
到達目標	1. 表やグラフの表現方法やマナーを理解し、素データから適切な表・グラフを作成することができる。 2. データの種類によって、整理する方法を自ら選択することができる。 3. 質的データについて、クロス集計を行い、考察することができる。 4. 量的データについて、データの中心とばらつきを把握し、データ間の比較を行うことができる。 5. 2つの量的データの関係性について、分析し考察することができる。
講義方法	演習を取り入れた講義
準備学習	授業としては特別な準備は不要である。日々、ニュースや新聞などで客観的なデータを読む習慣を身につけてほしい。
成績評価	平常課題20% 中間試験20% 期末試験60%
講義構成	【第1回】オリエンテーション 【第2回】表やグラフの表現1 【第3回】表やグラフの表現2 【第4回】変数の種類、アンケートのたてかた 【第5回】質的データの整理・考察(単純集計) 【第6回】質的データの整理・考察(クロス集計) 【第7回】中間試験 【第8回】量的データの整理・考察(代表値) 【第9回】量的データの整理・考察(ばらつき) 【第10回】量的データの関係性の分析(相関1) 【第11回】量的データの関係性の分析(相関2) 【第12回】量的データの関係性の分析(回帰1) 【第13回】量的データの関係性の分析(回帰2) 【第14回】おさらいと総括

	【第15回】期末試験
教科書	書名:「ゼロからの統計学 一使えるシーンが見えるー」 著者:竹田茂生・藤木清 発行:くろしお出版 発行年:2010年3月刊行予定

授業コード	35006		
授業科目名	経済・経営のための数学Ⅱ（後）		
担当者名	藤木 清（フジキ キヨシ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限

講義の内容	昨今、さまざまな場面で統計的分析手法が使用されている。それだけに、分析手法の基本的な考え方を習得しておくことは、今後の学習・研究にとって有用である。 本講義では、特に推測統計的分析の基礎を理解し、習得することを目的とする。そのためには、確率、確率変数など若干、数学的な知識が必要である。本講義では、できるだけ平易に解説するよう努める。また、理解を助けるために平常課題を課す。
到達目標	1. 推測統計的分析手法を利用するために必要な確率変数や確率分布について説明できる。 2. 推測統計的分析手法を理解し、いろいろな問題にあてはめて活用しようと試みることができる。
講義方法	講義を中心に行うが適宜演習を加える
準備学習	「統計学入門Ⅰ」で学習した内容を使用するので履修しておくことは望ましい(必須ではない)。
成績評価	平常課題20% 期末試験80%
講義構成	【第1回】推測統計的分析手法の全体像 この授業で学習することを理解する 記述統計的分析手法との違いを理解する 【第2回】事象と確率 基本的な確率の概念および性質を学ぶ 【第3回】確率変数と確率分布(1) 離散的確率変数と離散的確率分布の概念を理解する 標準化の概念を知る 【第4回】確率変数と確率分布(2) 連続的確率変数と連続的確率分布の概念を学ぶ 代表的な連続的確率分布である正規分布を知る 【第5回】正規分布の活用(1) 正規分布に従う確率変数の確率の求め方を知る 【第6回】正規分布の活用(2) 確率からパーセント点を求める 【第7回】標本分布(1) 母集団と標本の違いを理解する 標本平均の性質を知るー不偏性と一致性ー 【第8回】標本分布(2) 標本分散(不偏分散)の性質を知る 標本平均の分布の性質(中心極限定理他)を知る 【第9回】推定(1) 推定の種類を理解する 点推定の方法を理解する 区間推定の方法(母分散が既知の場合)を理解する 【第10回】推定(2)

	区間推定の方法(母分散が未知の場合)を理解する 【第11回】 統計的仮説検定(1) 母平均の検定(母分散が既知の場合)方法を知る 【第12回】 統計的仮説検定(2) 2種類の過誤を理解する 母平均の検定(母分散が未知の場合)方法を理解する 【第13回】 統計的推測の応用 母平均の差の検定について理解する 【第14回】 最終総括 この授業で学んだことを確認する 【第15回】 期末試験
教科書	鳥居泰彦 著 『はじめての統計学』 日本経済新聞社 ISBN 4-532-13074-3
参考書・資料	豊田利久、大谷一博、小川一夫、長谷川光、谷崎久志 著 『基本統計学(第2版)』 東洋経済新報社 ISBN 4-492-47069-7

授業コード	35044		
授業科目名	コーポレート・ファイナンス（後）		
担当者名	赤石雅弘（アカイシ マサヒロ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限 木曜4限
オフィスアワー	木曜日 4時限終了後		

講義の内容	コーポレート・ファイナンスはその名の示すとおり企業の財務活動を考察の対象とする。企業の財務活動としては、(1)資本調達、(2)資本投資、(3)利益処分(配当決定)、(4)日々循環する資金(運転資本)の管理が挙げられる。 本講義では、これらのうち(1)(2)(3)を取り上げ、これらに関する意思決定をどのように行えばよいかを中心に考察していく。内容的には抽象度が高くなるが、基礎的な事項に焦点を合わせ、できる限り分かりやすく解説するつもりである。
到達目標	財務論の内容をきちんと理解してもらう。さらにそれを通じて、企業財務をめぐる具体的な諸問題に対しても、どのように捉え、どのように対応していけばよいかを考えることができるようになってもらいたい。
講義方法	『経営財務論講義ノート2010』(生協で販売)を用いながら、通常の講義形式で進める。また、講義の過程で、理解を深めてもらうための小テストを何回か行う。
準備学習	テキスト(『講義ノート2010』)の予習と復習。
成績評価	(1)基本的には期末試験によって評価するが、(2)講義の過程で行う小テストの結果を(1)に加味する。期末試験を受けなかった場合は、たとえ小テストを受けていたとしても、「欠席」として評価する。
講義構成	第1章 コーポレート・ファイナンス論の課題 → 第1回 <1回=2コマ> 1 コーポレート・ファイナンス論の対象 2 コーポレート・ファイナンス論の方法 第2章 資本調達形態 → 第2～3回 1 資本の種類 2 株式 3 社債 第3章 投資決定 → 第4～7回 1 投資決定の意味 2 投資案の分析 3 投資案の評価方法

	★ 練習問題 4 NPV法とIRR法の対比 第4章 資本コスト → 第8～9回 1 資本コストの意味 2 源泉別資本コスト ★ 練習問題 3 投資判定基準としての資本コスト(必要利益率) 4 補足——源泉別資本コストの大きさを決める要因 → 第10回 第5章 資本調達決定 1 負債利用の効果と財務リスク 2 最適資本構成をめぐる2つの仮説 → 第11～12回 3 MM命題とその証明 4 MM理論の検討 第6章 配当政策 → 第13～14回 1 配当政策の諸問題 2 伝統的配当政策論 3 MMの配当政策論 4 MM理論の検討
教科書	教科書に代わるものとして『経営財務論講義ノート2010』を用いる。各自これを生協で購入した上で受講すること(価格＝600円程度)。毎回の講義はこれをもとに進める。
参考書・資料	講義の過程で適宜紹介・配布する。また、主な参考書は上記の『経営財務論講義ノート』中に示す。
担当者から一言	毎週の講義は一回ごとの完結型ではなく積み重ね的に連続するので、受講する以上は最初から継続的に受講することを望む。また、毎回の講義も、途中からではなく初めから聞いてもらいたい。細切له的な出席や、授業の途中からの出席では、講義内容を理解できないでしょう(サスペンスドラマを途中から見ても話の筋が分からないのと同じ)。

授業コード	35041		
授業科目名	国際専門特講I(労働経済)(集中)		
担当者名	BOYLES(ボイルズ コリン)		
配当年次	3・4年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	Introduction to the workings of the labor market and related systems
到達目標	To be able to understand the special features of the labor market and the policies and strategies we take to deal with them—as workers, employers and policymakers.
講義方法	The class will be conducted as a lecture series but time for class discussion will be set aside whenever possible. English will be the classroom language.
準備学習	No special preparation is required.
成績評価	Attendance and participation (30%) Two short quizzes conducted in class (70%)
講義構成	Course Outline: 1. The labor market, 2. Labor supply, 3. Labor demand 4. Unemployment, 5. Market imperfections, 6. Personnel systems 7. Labor relations, 8. Labor issues
教科書	Purchase of a text not required.
参考書・資料	When needed, handouts will be provided and references given.
講義関連事項	No prerequisites beyond a genuine interest in how the economy works.

担当者から一言	Please take comprehensive lecture notes and review them after each session so that you can seek any clarifications you need.
---------	--

授業コード	35042		
授業科目名	国際専門特講II(ビジネスゲーム) (集中)		
担当者名	クレッグ(クレッグ ティモシー ジェームズ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	【自動登録科目】		
オフィスアワー	講義前、講義後に質問を受け付ける		

講義の内容	MIkeBikesという、ニュージーランドのSmartSims社によるビジネス・シミュレーションを使用して、経営戦略、会計、マーケティングなどについて意思決定の仕方を学ぶ。
到達目標	具体的な経営戦略の立て方を習得する。
講義方法	講義形式とグループワーク
準備学習	英文によるビジネス・シミュレーションのマニュアルを熟読する。
成績評価	出席とレポートを評価する。
講義構成	1. ビジネス・シミュレーションの使用法の講義 2. 学生個人によるシミュレーションの実施 3. 学生チームによるシミュレーションの実施
教科書	シミュレーションのマニュアル

授業コード	M1091		
授業科目名	上級英語オーラル・コミュニケーション (EBA)(後)		
担当者名	リー(リー エドワード M.)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限 金曜1限

講義の内容	This class will focus on integrating the four language skills. The topics will center on business.
到達目標	◆To help students learn more about the business world and global issues related to business. ◆To provide an opportunity for students to maintain and expand their acquired English skills in a business setting. ◆To prepare students with the English skills they will use in their future careers.
講義方法	The teacher will lead the students through a discussion of a variety of business related topics, focusing on helping students acquire the English skills they will need for their future careers in business.
準備学習	Completion of all junior level English courses.
成績評価	Class participation 25 points Homework, quizzes, and graded assignments 45 points Midterm exam 15 points/final exam 15 points
講義構成	The teacher will cover approximately 4 units of the text before the midterm and 4 units following the midterm exam. At the midterm and final exams, students will be required to give oral presentations using the knowledge they have acquired in the class.
教科書	Market Leader

担当者から一言	Students are encouraged to think critically about their own English needs for their future careers and to express these needs to the teacher.
---------	---

授業コード	35008		
授業科目名	情報処理I (EBA)(前)		
担当者名	小川正史(オガワ マサシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	この講義の目的は、社会科学を専攻する学生諸君に、コンピュータシステムの本質とその利用についての基礎知識を修得していただくことです。コンピュータシステムの歴史、基本的な仕組みや概念を体系的にわかりやすく解説することで、初心者やごく一般的なコンピュータシステム利用者はもとより、パワーユーザや情報システムの開発者などを目指す学生諸君にとっても有用な講義とします。 この講義を履修すれば、「コンピュータが何でできているのか」が、わかります！		
到達目標	・コンピュータの限界を知り、その特性を生かした適正な利用につながる知識を修得する。 ・コンピュータの選定、導入、更新の際の意思決定に役立つ知識を修得する。 ・コンピュータの進歩の方向性を考える上で有用な知識を修得する。 ・コンピュータを応用した商品やサービス等の企画、開発、評価に役立つ知識を修得する。 ・経済産業省所管の国家試験「情報処理技術者試験」の受験に役立つ知識を修得する。		
講義方法	多様なメディアを活用して講義を行います。		
準備学習	各回の授業は、前回までの授業内容を理解できていることを前提に進められます。 毎回十分な復習をした上で、授業に臨んでください。		
成績評価	基本的には学期末試験の得点(80%)と出席状況(20%)で評価する予定ですが、受講状況によっては、小テストや課題レポートを実施し、これらを加味して評価する場合もあります。		
講義構成	講義の概要はつぎのとおりですが、下記以外にもITの進歩に即応して最新のトピックスを随時取り上げます。 1.コンピュータの歴史 ・コンピュータ前史 ・コンピュータ時代 ・コンピュータの世代 2.コンピュータの基本動作 ・論理演算と論理回路 ・電子スイッチと電子回路 ・半導体 ・ダイオードとトランジスタ ・ICとLSI ・半導体メモリ 3.コンピュータの基礎概念 ・コンピュータの基本構成 ・機械語 ・CPUの基本動作 4.オペレーティングシステム ・OSの概念 ・OSの構成 ・プログラミング言語		
教科書	定道 宏 著 『情報処理概論』(オーム社, 1988年)		
参考書・資料	必要に応じて講義中に指示します。		

授業コード	35009		
授業科目名	情報処理II (EBA)(後)		
担当者名	小川正史(オガワ マサシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	この講義の目的は、社会科学を専攻する学生諸君に、コンピュータシステムの本質とその利用についての基礎知識を修得していただくことです。コンピュータシステムの歴史、基本的な仕組みや概念を体系的にわかりやすく解説することで、初心者やごく一般的なコンピュータシステム利用者はもとより、パワーユーザや情報システムの開発者などを目指す学生諸君にとっても有用な講義とします。		
-------	---	--	--

	この講義を履修すれば、「コンピュータが計算間違いをするわけ」が、わかります！
到達目標	・コンピュータの限界を知り、その特性を生かした適正な利用につながる知識を修得する。 ・コンピュータの選定、導入、更新の際の意思決定に役立つ知識を修得する。 ・コンピュータの進歩の方向性を考える上で有用な知識を修得する。 ・コンピュータを応用した商品やサービス等の企画、開発、評価に役立つ知識を修得する。 ・経済産業省所管の国家試験「情報処理技術者試験」の受験に役立つ知識を修得する。
講義方法	多様なメディアを活用して講義を行います。
準備学習	各回の授業は、前回までの授業内容を理解できていることを前提に進められます。 毎回十分な復習をした上で、授業に臨んでください。
成績評価	基本的には学期末試験の得点(80%)と出席状況(20%)で評価する予定ですが、受講状況によっては、小テストや課題レポートを実施し、これらを加味して評価する場合もあります。
講義構成	講義の要はつぎのとおりですが、下記以外にもITの進歩に即応して最新のトピックスを随時取り上げます。 1.コンピュータシステム ・コンピュータの特徴 ・コンピュータの仕組み 2. コンピュータの基礎概念 ・コンピュータの基本構成 ・コンピュータシステム ・データと情報 ・アナログとデジタル ・10進数と2進数／16進数 ・記憶容量 3.データの表現と取り扱い ・数値データ ・文字データ ・文字コード ・データ通信の工夫 ・マルチメディアデータ ・音声・音楽データ ・静止画データ ・動画データ
教科書	定道 宏 著 『情報処理概論』(オーム社, 1988年)
参考書・資料	必要に応じて講義中に指示します。

授業コード	35035		
授業科目名	人的資源管理 (後)		
担当者名	西川耕平(ニシカワ コウヘイ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限 金曜3限
オフィスアワー	講義前後60分		

講義の内容	2点の理解を目的とします。 戦略的人的資源管理について： 戦略計画と目標達成に必要なメンバーの能力開発と行動を促す、人材開発ポリシーと実践活動を含む人的資源システム管理の理解。 Human Resource Developmentについて： HRDの歴史と学説理解 組織メンバーの技能と知識獲得に代表される訓練体系の理解 Work Place Learning：人としての成長を目指す長期的な能力開発の理解 持続的な組織変革を実践できる人材を育成する組織開発の理解 個人の知識技能に応じて作られる職業人生プラン作成と、個人の職業生活が豊かとなるようマネジメントする部分で構成されるキャリア開発の理解。
到達目標	大人を変革させる学習に関する理論の理解
講義方法	教室における講義形式です。様々な意見が自由に飛び交うようにできる限り運営します。

準備学習	英文を読むスピードと理解する訓練
成績評価	以下のいくつかの点を総合して評価します。まず、まとまった内容を理解し終えた時点で〇×形式のクイズ、また数回の事例分析の報告を質と量の点から評価対象とします。そして全体の理解を測る最終試験と、毎回の出席を総合して、最終評価とします。
講義構成	予定しているテーマ 戦略的人的資源管理のフレームワーク 募集と選考： 訓練と能力開発： 業績評価： 報酬システム： 倫理 人的資源開発のフレームワーク 訓練： 社会化・訓練・コーチング・カウンセリング キャリアマネジメントと能力開発 組織開発： マネジメント組織の開発・組織の変革介入・多様性管理
教科書	Werner, DeSimone, (2009) Human Resource Development, 5th ed., South-Western. Chapter 1.2.3.を以下のサイトから購入しておいてください。残り部分は、進捗状況に応じて買うべき章を事前に指示します。 {http://academic.cengage.com/cengage/instructor.do?disciplinenumber=416&product_isbn=9780324578744&courseid=MN08&codeid=2A1A&sortByShow=all&sortBy=copyrightYear&instructorFlag=true&newProducts=false&codeFlag=true}
参考書・資料	最初の数回は、以下の標準的なテキストの部分を使って講義します。 Gary Dessler, (2006) A Framework for Human Resource Management, 4th ed., Prentice-Hall. Fisher, Schoenfeldt, and Shaw, (2006) Human Resource Management, 6th ed., Houghton Mifflin.
担当者から一言	このクラスは、アメリカの標準的なHuman Resource ManagementとHuman Resource Developmentのテキストに基づいて運営されます。

授業コード	35028		
授業科目名	心理学入門（前）		
担当者名	高石恭子(タカイシ キョウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	講義後、教室または学生相談室にて質問等受け付ける。		

講義の内容	心は目に見えないが、さまざまなはたらきをもっていて私たちの行動を左右し、生の実感をもたらす。そのしくみやはたらきについて理解しておくことは、自己形成や人間関係のありように大きく役立つだろう。本講義では、心を適切に理解するための方法、心と身体の関係、人の一生(ライフサイクル)における心の発達、心の病と心を健康に保つための工夫、ストレスと心のケアなどについて、心理学の基本的な内容を幅広く学んでいく。
到達目標	心理学の基本的な知識を習得し、それを自己理解や学生生活に役立てることができる。
講義方法	講義形式であるが、受講者の規模によって、できるだけ実習や体験的学習を取り入れて進める。
準備学習	授業で示す文献や資料をよく読んで理解すること。
成績評価	授業中に課す小レポート(60点)と期末レポート(40点)の合計により評価する。
講義構成	第1回 はじめに： 心理学とは 第2回 知覚と認知 第3回 記憶 第4回 パーソナリティ 第5回 心の構造 第6回 言葉とイメージ 第7回 夢とコンプレックス 第8回 心と身体 第9回 ライフサイクルと心の発達①乳幼児期・児童期 第10回 ②思春期・青年期・若い成人期 第11回 ③中年期・老年期 第12回 心の健康と病 第13回 ストレスと心のケア 第14回 まとめ 第15回 期末レポート

教科書	特に指定しない。
参考書・資料	参考書:『教養の心理学』 村田幸次(培風館) 『大学生がカウンセリングを求めるとき』小林哲郎他編著(ミネルヴァ書房) 『ワークショップ 大学生生活の心理学』藤本忠明・東正訓(ナカニシヤ出版) 資料:その都度配布する。
担当者から一言	研究室よりも学生相談室(18号館1階西側)にいたることが多いので、講義に直接関連のあるなしにかかわらず、何か話したいことのある人は火曜・木曜の午後、または金曜の3時以降に相談室の方へお越しください。

授業コード	35C11		
授業科目名	卒業研究(渡邊クラス)(後)		
担当者名	渡邊和俊(ワタナベ カズトシ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限

講義の内容	EBA総合コースの学生はニューヨーク州立大学バッファロー校への留学およびバッファロー近郊の現地企業訪問を体験する。アメリカにおけるさまざまな体験および学習を経た上で、甲南大学に帰国する。帰国後はアジアの中にある日本を考えることによって、今後とも世界の経済成長の中心になるアジアでのビジネスのあり方を学習することになる。こうしたアジアにおける起業や既存の企業のビジネスの現状を考察する。		
到達目標	アメリカとアジアのビジネスの比較と、日本企業の経営上の特徴を説明できるようになる。		
講義方法	学生自身が関心を持ったビジネスや企業を考察する。個人・グループでの学習を行なう。		
準備学習	ワークショップⅡ(アジア・ビジネス)を受講することを義務付けることによって、アジア・ビジネスの基本知識を学んでおく。		
成績評価	最後に提出してもらった研究レポートで評価する。		
講義構成	毎回、発表者を決めて、個人・グループでプレゼンテーションを行なっていく。		
教科書	必要に応じて提示する。		

授業コード	35C12		
授業科目名	卒業研究(西川クラス)(後)		
担当者名	西川耕平(ニシカワ コウヘイ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限

講義の内容	特定のテーマを決めませんがOrganizational Behaviorのテキストを指定して読みます。Organizational Behaviorを理解する事と、リサーチ方法(情報収集・分析方法・論理的仮説発見方法と発表)を具体的なリサーチで学びます。		
到達目標	Organizational Behaviorの基礎概念の再確認と応用能力獲得		
講義方法	テキスト学習部分は講義形式の集合教育です。レポート作成部分は個別指導形式です。		
準備学習	英語文献を読むスピードと正確さを再確認してください。		
成績評価	基本は講義ですから、出席と複数回のクイズで評価の半分が決まり、具体的なリサーチで残りの評価が決まります。リサーチ評価は、リサーチの質(深さ、範囲、新しさ)と量で決まります。		
講義構成	テキストを読んで解説を聞いて、各章の終了時にクイズで理解度をチェックします。特に興味を持った用語やコンセプトをテーマとしてリサーチを進めて、レポートを提出します。		
教科書	どれか1冊のうち特定部分を決めて読みます。 Kreitner and Kinicki, (2009) Organizational Behavior, 8 th. ed., McGraw-Hill Kinicki and Kreitner, (2009) Organizational Behavior, 4 th ed., McGraw-Hill Robbins and Judge, (2008) Essentials of Organizational Behavior, 9 th ed., Pearson Education		

	Hellirigel and Slocum, (2009) Organizational Behavior, 12 th ed., Cengage Learning
--	--

担当者から一言	後期開講までにテキストと読む部分を掲示しますので、掲示案内に注意して下さい。
---------	--

授業コード	L1091		
授業科目名	中級英語オーラル・コミュニケーション (EBA)(後)		
担当者名	リー(リー エドワード M.)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 金曜2限
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	The main aim of this course is to integrate the four-language skills in business related topics.
到達目標	◆Help students to improve their ability to synthesize the various English skills for greater understanding and communication in Business settings. ◆Engage students in speaking, listening and reading activities designed to increase students' facility with the vocabulary that appears in the textbook.
講義方法	Teacher will lead students in the discussion of business related topics. Students are expected to be active participants in class.
準備学習	Students should have completed all freshmen and sophomore required English classes prior to taking this class.
成績評価	◆Class participation 20 points ◆Quizzes and graded assignments 50 points ◆Midterm exam 15 points/ final exam 15 points
講義構成	This course meets twice a week. The teacher will cover approximately 4 units of the text before the midterm and 4 units of the text following the midterm for a total of 8 units. At the midterm and final exam, students will be expected to do projects or presentations based upon the material covered.
教科書	Market Leader

担当者から一言	This is one of the most important English classes students will take because it has real world implications for their future success in Business.
---------	---

授業コード	L1191		
授業科目名	中級英語スピーチ・コミュニケーション (EBA)(前)		
担当者名	GONDREE(ゴンドリー エリック)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限 金曜1限
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	Students will listen to advanced authentic university lectures and use that information as a starting point for classroom discussions. Students will also increase awareness of cultural differences between the U.S. and Japan in order to prepare for their study abroad.
到達目標	◆Apply advanced level note-taking skills to authentic university lectures. ◆Lead/Participate in group and class discussions. ◆Continue to develop listening/speaking skills and increase confidence through advanced level communicative tasks. ◆Increase awareness of cultural differences between studying the U.S. and in Japan, as well as issues related to studying abroad. ◆Practice TOEFL-type speaking/listening as needed.
講義方法	In each lesson cycle, the teacher will introduce a lecture which students will listen to and then discuss. Prior to listening to the lecture, the students will have time to prepare for the topic and study vocabulary.
準備学習	Completion of Academic Listening 1 and Academic Speaking

成績評価	Class participation 25 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 10 points/final exam 15 points
講義構成	This class meets twice a week. The class will cover 6 to 8 lectures during the semester.
教科書	Lecture Ready 2 by Peg Sarosy and Kathy Sherak Noteworthy: Listening and Notetaking Skills by Phyllis L. Lim
講義関連事項	The teacher will bring in a variety of additional authentic materials (listening and print media) related to American culture.
担当者から一言	This course allows students not only to increase their ability to listen to advanced academic lectures, but also a chance to discuss their concerns related to studying abroad and the adjustment into U.S. culture.

授業コード	L1491		
授業科目名	中級英語リーディング (EBA)(前)		
担当者名	QUINN B.(クイン ブラドリー)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 金曜2限
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	Students will be introduced to authentic and lengthy academic reading materials similar to what they may encounter in an American University.		
到達目標	◆Practice reading comprehension, notetaking, summarizing and paraphrasing academic texts ◆Focus on understanding the meaning of advanced academic texts and being able to discuss the concepts presented in the texts. ◆Continue to build academic vocabulary		
講義方法	Students are expected to be active learners in class. Much of the reading will be assigned for homework so that the class time can be focused on discussing and presenting the ideas from the readings.		
準備学習	Completion of Academic Reading 1.		
成績評価	◆Class participation 20 points ◆Quizzes and graded assignments 50 points ◆Midterm exam 15 points ◆Final exam 15 points		
講義構成	This class meets twice a week. On the first day of class, the teacher and students will discuss and mutually decide upon the chapters to be covered in the text based upon student interest levels.		
教科書	Ten Steps to Building College Reading Skills Ten Steps to Improving College Reading Skills		
担当者から一言	Students should try to read an English newspaper on a daily basis, such as The Japan Times.		

授業コード	L1291		
授業科目名	中級英語リスニング (EBA)(後)		
担当者名	QUINN B.(クイン ブラドリー)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限 水曜4限
特記事項	【自動登録科目】		

講義の内容	The main aim of the course is to further develop speaking and reading skills surrounding a variety of global and cross cultural topics.		
到達目標	・Further develop reading skills and strategies relating to current events in the news ◆Improve ability to summarize and think critically about reading content		

	◆Discuss and debate current event issues ◆Learn new vocabulary and expressions through reading, listening, and discussion
講義方法	The teacher will lead students through the reading, listening, and discussion of a variety of current events topics. Students are expected to be active participants in the class.
準備学習	Completion of required freshmen and sophomore English classes.
成績評価	Participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 15 points/ final exam 15 points
講義構成	This course will meet twice a week.
教科書	Reading the News
担当者から一言	Students should read a daily English newspaper in order to have knowledge of current topics to bring to the classroom for discussion.

授業コード	35043		
授業科目名	テクノロジーマネジメント（後）		
担当者名	渡邊和俊（ワタナベ カズトシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限

講義の内容	企業競争において、テクノロジーが果たす役割は増大している。テクノロジーの特性、活用の仕方を学ぶことによって、企業独自の経営戦略の展開が可能になる。企業におけるテクノロジーの位置づけを学ぶことで、持続的成長の可能性を探ることになる。
到達目標	企業におけるテクノロジーの役割を理解する。
講義方法	講義形式
準備学習	多くの企業におけるテクノロジーの活用事例を調べておくこと。
成績評価	出席と期末試験を評価する。
講義構成	1. テクノロジー（技術）とは 2. 生産システムにおけるテクノロジーの役割 3. イノベーションにおけるテクノロジーの役割 4. 情報におけるテクノロジーの役割
教科書	必要に応じて提示する。

授業コード	35037		
授業科目名	日本経済の現代的課題（後）		
担当者名	稲田義久（イナダ ヨシヒサ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	月曜日11:30-12:30		

講義の内容	本講義では日本経済の現代的課題について学習します。「失われた10年」とよばれる1990年代の長期景気低迷から、日本経済は2002年-07年にかけて緩やかな景気回復を享受しました。しかし、2008年9月のリーマン・ショック以降、急速に景気は悪化し未曾有の大不況に陥りました。その原因や大不況に対する政策と一緒に考えます。
到達目標	経済指標から経済の変動を読み解く能力の習得。
講義方法	講義と与えられた課題のプレゼンテーションが中心になります。
準備学習	全国紙の経済欄を読む習慣をつけておいてください。
成績評価	出席、レポートとプレゼンの総合評価。評価のウェイトは出席が20%、レポートが30%、プレゼンが50%です。

講義構成	第1講 戦後の景気日付 第2講 GDP項目とそれを説明する経済指標 第3講 経済成長とその説明要因:供給サイド 第4講 経済成長とその説明要因:需要サイド 第5講 民間消費と関連指標 第6講 民間投資と関連指標 第7講 生産・雇用と関連指標 第8講 貿易と関連指標 第9講 金融・物価と関連指標 第10講 高度成長期 第11講 バブル期とその崩壊 第12講 長期停滞期・実感なき景気回復 第13講 今回の大不況と景気回復の処方箋
教科書	とくに使用しません。
参考書・資料	講義中に必要資料を配布します。

授業コード	35003		
授業科目名	ビジネスと社会(ビジネス・ソサイエティ)(後)		
担当者名	海道ノブチカ(カイドウ ノブチカ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限

講義の内容	経営学の基本問題について講義する。まず経営学がどのように生成し、発展してきたかを歴史的に跡づける。次に企業の生産、労務、財務、管理、組織といった各側面にどのような問題があり、それについてどのような各論が展開されているのかについて解明する。さらに経営学の現代的課題であるコーポレート・ガバナンスの問題や環境問題と企業の関係を取りあげる。		
到達目標	現代の企業経営の仕組みを理論的に理解できる。		
講義方法	教科書を中心に講義形式で授業を進める。		
準備学習	キーワードなどについては、参考書にあげた文献を用いて理解を深めること。		
成績評価	定期試験(100%)		
講義構成	第1-3回 経営学の対象と方法 第4-7回 経営学の歴史(日本、ドイツ、アメリカ) 第8-10回 企業形態1(企業形態の種類、株式会社の特質) 第11-13回 企業形態2(企業の結合形態、ヨーロッパ会社) 第14-18回 コーポレート・ガバナンス 第19-21回 ステーク・ホルダーと企業 第22-24回 環境問題と企業 第25回以降 経営のファンクション		
教科書	海道ノブチカ・風間信隆編著『コーポレート・ガバナンスと経営学』ミネルヴァ書房、2009年。		
参考書・資料	吉田和夫・大橋昭一監修『最新・基本経営学用語辞典』同文館出版、2010年。		

授業コード	35007		
授業科目名	プレ・セミナー(前)		
担当者名	渡邊和俊(ワタナベ カズトシ)、西川耕平(ニシカワ コウヘイ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	企業経営の基本知識を学ぶ。
到達目標	企業の組織と経営戦略の基本知識を習得する。

講義方法	テキストを事前に予習してもらって、発表してもらう。
準備学習	テキストを事前に熟読しておくこと。
成績評価	2回提出してもらうレポートで、評価する。
講義構成	1. 企業マネジメントとは 2. 戦略とはなにか 3. 競争のための差別化 4. 競争優位とビジネスシステム 5. 多角化 6. 企業構造の再編成 7. 国際化戦略 8. 資本構造のマネジメント 9. 組織と個人 10. 組織構造 11. インセンティブシステム
教科書	伊丹・加護野共著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社

授業コード	35020		
授業科目名	プレ・ワークショップ (前)		
担当者名	渡邊和俊 (ワタナベ カズトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	ニューヨーク州立大学バッファロー校への留学時において、アメリカの現地学生とのグループ・ディスカッションで、日本に関するさまざまなことを聞かれる。事前に日本のビジネスをはじめ、広く日本についての理解を深めておく必要がある。		
到達目標	企業経営を中心にして日本の特徴を理解する。		
講義方法	資料を毎回配布して学習する。		
準備学習	日常において、日本の文化、歴史、政治など広く関心を持って、新聞などのメディアの情報を確認すること。		
成績評価	出席とレポートにもとづいて、評価する。		
講義構成	講義形式とディスカッションを行なう。		
教科書	必要に応じて提示する。		

授業コード	35023		
授業科目名	法学入門 (前)		
担当者名	大塚泰寿 (オオツカ ヤスヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限

講義の内容	人が社会生活の営みを維持するためには、一定の規範が必要であり、それら規範の中でも法は特に重要なものである。本講義では、初めて法を学ぶ人を対象として、法とは何かについて、平易に解説を行う。		
到達目標	法について、ある程度の理解を得られること。		
講義方法	レジュメ・資料を配布して講義する。入門クラスであり、また、少人数クラスであるため、丁寧に指導を行っていきたい。		
準備学習	1回目の講義で、進め方等について相談、説明することにした。		
成績評価	出席や講義への積極的関与など平常点による評価(100%)		
講義構成	講義構成は以下の予定である。 1. 法とは何か		

	・講義のオリエンテーション ・法の性格 2. 法と裁判 ・法と裁判 ・裁判の基準 ・法の解釈 3. 法の体系 ・法の分類 ・近代国家と憲法 ・犯罪と刑罰に関する法 ・市民社会の法 －家族関係に関する法 －財産関係に関する法 ・労働者の権利に関する法 ・社会保障に関する法 ・国際社会の法 －国際法の歴史と発展 －現代国際法の展開
教科書	なし
参考書・資料	講義中に指示する。

授業コード	35004		
授業科目名	簿記入門(アカウンティングI) (前)		
担当者名	福島孝夫(フクシマ タカオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	講義開始前及び講義終了後の時間		

講義の内容	企業複式簿記の基本構造と手続
到達目標	複式簿記の特徴の理解
講義方法	テキストと講義資料を使った通常の講義。必要に応じて課題を課し、問題演習を行う。
準備学習	前回の復習をした後、当日の予習を行って不明な部分を明らかにしておく。
成績評価	平常の学習態度と期末のテストによって総合的に評価する。
講義構成	大略以下の構成で講義する予定である。 1) 会計の意義と簿記 2) 簿記の意義と目的 3) 複式簿記の基礎概念と相互関係 4) 損益計算の2方法と複式簿記 5) 勘定と勘定記入の規則 6) 取引と取引記入の規則 7) 複式簿記の期中手続き 8) 複式簿記の期末手続き 9) 主要取引の記帳方法 10) 複式簿記手続きの総括
教科書	目下のところ未定
参考書・資料	『検定簿記講義(商業簿記3級編)』(中央経済社)

担当者から一言	簿記は全体で1つになっているので、最初から最後まで出席することと、自分で問題を実際に解くことが肝要である。
---------	---

授業コード	35025
-------	-------

授業科目名	マーケティング（前）		
担当者名	西村順二（ニシムラ ジュンジ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	講義の開始前、および講義終了後。		

講義の内容	マーケティング論は、生産段階から最終消費段階まで、財・サービスが流れる取引連鎖を研究対象とした学問である。そこでは製造業者、流通業者（卸売商・小売商）、消費者、サービス業者、さらには行政などのミクロ的行動の分析が行われると共にマクロ構造の分析も行われる。 本講義では、日本の経済社会において展開されているマーケティング戦略のメカニズムを明らかにし、それを通してマーケティングの基礎知識を習得する事を目指す。
到達目標	マーケティング洞察力とその背後にある理論的展開に関する能力の修得。
講義方法	パワーポイント及び板書による口述説明と、学生によるプレゼンテーション
準備学習	経営学の基礎理論を以下の文献などを利用して確認しておくこと。 西村順二他共編著(2004)『マーケティング理論の深化』千倉書房。
成績評価	原則的には、試験、レポート提出等に基づき、総合的に評価する。
講義構成	講義構成および成績評価の具体的な方法については、講義の開始時に指示するので、一回目の講義には必ず出席すること。 なお、基本的には以下の様に進められる。 1 イントロダクション 2 マーケティングとは何か 3 マーケティングの基礎概念 4 製品のマネジメント 5 広告活動のマネジメント 6 価格のマネジメント 7 ブランドのマネジメント 8 流通チャネルのマネジメント 9 競争戦略 10 マーケティングリサーチ 11 プロジェクト研究テーマ設定 12 プロジェクト研究資料収集 13 プロジェクト研究仮説設定 14 プロジェクト研究仮説検証 15 プロジェクト研究プレゼンテーション
教科書	西村順二・石垣智徳(2007)『マーケティングの革新的展開』同文館。
参考書・資料	池尾恭一著『日本型マーケティングの革新』（有斐閣） 田村正紀著『現代の市場戦略』（日本経済新聞社） なお、講義においても適時指示する。
担当者から一言	当然のことであるが講義中の私語は厳禁である。 受講者は、この最低限のマナーは守ること。

授業コード	35036		
授業科目名	マーケティング管理論（後）		
担当者名	西村順二（ニシムラ ジュンジ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限 月曜4限
オフィスアワー	講義の前後および火曜日12:10-12:50		

講義の内容	マーケティング論は、生産段階から最終消費段階まで、財・サービスが流れる取引連鎖を研究対象とした学問である。そこでは製造業者、流通業者（卸売商・小売商）、消費者、サービス業者、さらには行政などのミクロ的行動の分析が行われると共にマクロ構造の分析も行われる。 本講義では、日本の経済社会において展開されているマーケティング戦略のメカニズムを明らかにする。
-------	---

到達目標	マーケティング管理論の基本概念であるマーケティングミックス編成に基づき、特に流通チャネル戦略及び流通システム論の基礎知識を修得する。
講義方法	講義の開始時に詳細に説明する。 基本的には、パワーポイントによる講義および簡単なマーケティングの実践を行なう。
準備学習	マーケティングに関する基礎知識の定着確認を、以下の文献に基づき行っておくこと。 西村順二他共編著(2004)『マーケティング理論の深化』千倉書房。
成績評価	原則的には、試験、レポート提出等に基づき、総合的に評価する。
講義構成	講義構成および成績評価の具体的な方法については、講義の開始時に指示するので、一回目の講義には必ず出席すること。 以下が、本講義で学ぶ項目である。 1. マーケティングとは何か 2. マーケティングの基礎概念 市場細分化、消費者ニーズ、製品属性、需給マッチング、差別的優位性、チャネルなど 3. マーケティングミックスの構成 4. 取引関係の動態 5. マクロ流通の動態 6. ミクロ流通の動態 7. 流通業態の変化 小売業態、卸売業態、SPAなど
教科書	西村順二『卸売流通動態論—中間流通における仕入と販売の取引連動性—』千倉書房、2009年。
参考書・資料	講義において適時指示する。
担当者から一言	当然のことであるが講義中の私語は厳禁である。 受講者は、この最低限のマナーは守ること。

授業コード	35021		
授業科目名	マクロ経済学(前)		
担当者名	清水隆則(シミズ タカノリ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 金曜4限
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	マクロ経済学の基礎理論を講義する。
到達目標	政府の政策の効果を分析できるようになること。 ケインズ経済学と古典派経済学の違いを理解できるようになること。
講義方法	基本的に講義形式で行うが、問題演習も取り入れていく。
準備学習	予習よりも復習を重視すること。
成績評価	期末テスト50%, 小テスト30%, 出席等20%
講義構成	1. マクロ経済学とは 2. GDPの概念 3. 有効需要と乗数メカニズム 4. 貨幣の機能 5. IS-LM分析 6. AD-AS分析 7. 古典派経済学 8. 物価変動とマクロ経済 9. 国際マクロ経済学 10. 経済成長
教科書	特定の教科書は用いない(下に挙げた参考書を部分的に用いる)。
参考書・資料	伊藤元重『入門経済学 第3版』日本評論社、2009年。 北坂真一『マクロ経済学 ベーシック』有斐閣、2003年。 平澤典男『マクロ経済学基礎理論講義』有斐閣、1995年。

授業コード	35024		
授業科目名	マネジメント概論(マネジメント) (前)		
担当者名	西川耕平(ニシカワ コウヘイ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 火曜5限
特記事項	他学部学生の受講を積極的に認める。 受講の相談は以下のメールでも受け付けます。{kenskw@center.konan-u.ac.jp}		
オフィスアワー	講義後60分		
講義の内容	マネジメントを切り口にしてビジネスを理解するコースです。一般的にマネジメントは目的達成に向けて効果的・効率的に資源を統合するマネジャー達の活動を意味します。ですからこのコースでは、マネジャー達がビジネス環境・ビジネス組織に働きかけて目的達成活動を説明する理論体系を学ぶことになります。そしてマネジメント活動を説明する論理を基礎にして具体的なビジネス組織やマネジャーの行動を理解しようというコースです。		
到達目標	基本的なマネジメント概念を理解すること。		
講義方法	教室における講義形式です。初期の日本語テキストと英語のテキストを併用します。日本語テキストに関しては必要に応じて配布します。		
準備学習	特に必要ありません。		
成績評価	複数部分評価の総計で評価します。あるテーマが終わった時点でするクイズと、中間または期末にするクイズと出席などの平常評価の合計で評価します。		
講義構成	日本語部分 マネジメントの定義 マネジメント学説史 英語部分 Innovative Management for Turbulent Times The Environment and Corporate Culture 予定: Managing in Global Environment		
教科書	日本語のテキストは、クラス開講時に配布します。次の英文テキストを使います。Daft, (2008) Management, 18th ed., South Western. 受講者は、以下のサイトで第1章と3章を購入しておいてください。 { http://academic.cengage.com/cengage/instructor.do?disciplinenumber=416&product_isbn=9780324537703&courseid=MN05&codeid=2A3A&sortByShow=all&sortBy=copyrightYear&instructorFlag=true&newProducts=false&codeFlag=true }		
講義関連事項	甲南大学内オープンクラス: 学生であれば、40名程度の枠内まで、学部を問わず誰でも参加できます。ただし出席とクイズは毎回取りますし、日本語での講義ですが途中からテキストが英文になり、クイズも英文になりますので注意してください。興味ある学生は、初回のガイダンスに必ず参加して、内容を確かめてください。		

授業コード	35039		
授業科目名	マネジメント特講I(国際経営史) (後)		
担当者名	藤 田 順 也(フジタジュンヤ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
講義の内容	企業の多国籍化は19世紀後半から始まり、それらの活動が世界各国の社会経済の成長・発展のエンジンの1つとなってきました。本講義では、ヨーロッパ・アメリカ・日本における代表的な多国籍企業を事例として取り上げて、経営史の観点から、それらの多国籍企業の経営現象を説明します。		
到達目標	①歴史方法論 方法論として経営史を理解することで、経営現象を分析する手段の1つを修得することができる。 ②国際経済史		

	19世紀以降の世界経済の潮流を、多国籍企業の活動を通じて説明することができる。
講義方法	基本的には、パワーポイントによる講義を行います。 なお、教科書についての利用方法はガイダンスにおいて説明しますので、事前に購入する必要はありません。
準備学習	①歴史研究であるため、少なからず「歴史」に興味があることが望ましい。 ②関心のある企業の沿革をホームページや社史などで調べるようにしましょう。
成績評価	期末試験により評価します。
講義構成	以下の構成に基づき、講義を行います。 第1回 ガイダンス 第2回～第3回 多国籍企業の形成と発展(歴史的背景) 第4回～第9回 外国企業の日本進出(対日直接投資) (事例研究:J&Pコーツ, ユニリーバ, ネスレ, ゼネラルフーズなど) 第10回～第13回 日本企業の海外進出(対外直接投資) (事例研究:鐘淵紡績, 内外綿, Panasonicなど) 第14回 総括 第15回 試験 なお、事例研究の題材は都合により多少変更することがあります。
教科書	ジェフリー・ジョーンズ(安室憲一・梅野巨利訳)『国際経営講義-多国籍企業とグローバル資本主義-』有斐閣, 2007年。
参考書・資料	講義の際に適時配布・紹介します。
担当者から一言	19世紀以降の多国籍企業の経験の積み重ねを考察することが、現代の国際経営への理解を深めることにつながっていると思っています。
その他	講義中の私語は厳禁である。

授業コード	35040		
授業科目名	マネジメント特講Ⅱ(日本の中小企業・・(後))		
担当者名	松谷年郎(マツタニ トシオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	アポイントメントによる(随時)		

講義の内容	ここ数年、日本経済はアメリカの好景気やBRIC's諸国の躍進の恩恵をこうむり、新たな上昇課程に向かっておりました。しかしながら、アメリカのサブプライム問題に端を発した金融危機は世界経済を混乱に陥れ、そして日本経済おも非常事態に陥れております。この様な非常なスピードで変化しつつある社会の中での確に社会のニーズを捉えた企業のみが勝ち残り、変化への対応に遅れた企業は非常に早いスピードで姿を消そうとしています。 本講義の目的は、日本経済の活力源といわれる中小企業、特にファッションビジネスにスポットを当て、これらを取り巻く環境の変化にいかに対応し、さらに発展していつているかを分析します。
到達目標	1)ファッションビジネス構造の現状を理解することが出来る。 2)経営戦略理論を使ってファッションビジネス企業の経営戦略を理解し、企業が出している資料等や文献及びマーケットリサーチをすることにより分析できるようになる。
講義方法	授業の進め方は実務経験のある講師による講義としますが、出来る限り実践経験のあるゲストスピーカーを招いたり、ビデオテープ等を活用したいと思います。
準備学習	企業経営戦略理論が理解できている事が望ましい。
成績評価	☆講義出席率-----20% ☆レポート提出-----30% ☆テスト 1回-----50%
講義構成	1. ファッションビジネスとは 2. ファッションビジネス分野の範囲拡大 3. ファッションビジネスの変遷

	4. アパレルファッションビジネスの仕組み a. 複雑なアパレル商品の生産・流通システム b. アメリカの生産・流通システム c. アパレルファッション産業の担い手 5. アパレルファッションビジネスの直面する問題点 a. 日本経済の変化 b. ファッション産業構造の変化 c. 消費者意識の変化 6. アパレルファッションビジネスの経営戦略 a. 成長戦略のポイント b. 競争戦略のポイント c. 機能戦略 (Merchandising) のポイント d. Specialty Store Retailer of Private Label Apparel (SPA) e. その他 7. ケーススタディー
教科書	特になし
参考書・資料	IFIビジネススクール 「ファッションビジネスの構造」
担当者から一言	出来るだけ生きた情報を基に授業を行いたいと思います。 現在は、日本の企業のみならず私たち自身が、数十年かに一度あるかどうかの大きな変化の中にあります。この大きな変化を的確に捉え行動することが大事だということを実感していただきたい。 そのためには、私たち自身を変えていかなければならないと思います。

授業コード	35002		
授業科目名	ミクロ経済学（前）		
担当者名	市野泰和（イチノ ヤスカズ）、寺地祐介（テラジ ユウスケ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜3限
オフィスアワー	第1回の授業時にお知らせします。		

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。今、わたしたちが暮らす日本をはじめ、世界の多くの場所で、これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれるしくみ、つまり、人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみのなかで行われています。 この授業では、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。そのうえで、この講義をきちんと受講したみなさんは、最終的には、次の二つの問いに、自分の言葉で、自信を持って、答えられるようになります。 (1)モノの値段っていったい何なのか： この世の中の多くのモノには値段がついているけれど、その値段は、いったいどこから来るものなのだろうか。 (2)市場経済は、私たちにとって良いものなのか： 私たちは、値段を見て、高いとか安いとか言いながら、さまざまなモノを、自発的に売ったり買ったり、あるいは、売らなかつたり買わなかつたりしている。そのように、モノについている値段を参考にして、誰が何をつくって売なのか、誰が何を買って使うのか、ということが決められていく、そういう世の中のしくみ(＝市場経済)が、私たち
-------	---

	にとって、良いものなのだろうか。もし良いものだというのなら、それは、どういう意味で「良い」のだろうか。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、世の中で実際に起こっている価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようにすること。 (3)人々がモノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)人々がモノを作って売る、という行動が、どのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を理解すること。
講義方法	1時限目には、100名規模の講義クラスで、教科書や参考書の内容に基づいた講義を行います。そして、同じ曜日の3時限目または4時限目には、20名規模の演習クラスで、講義クラスの復習や解説、問題演習や小テストを行います。
準備学習	担当教員に指示された、教科書や参考書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	講義クラス 出席:15% 期末試験:50% 演習クラス 出席:15% 小テスト:20%
講義構成	0. 経済学とはどのような学問か トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方と、それらの考え方の使い方を学びます。 1. 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 2. 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 3. 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 4. 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(＝市場経済)の性能を学びます。 5. その他(ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、など)
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年
参考書・資料	各担当者がお知らせします。

授業コード	35032		
授業科目名	ワークショップI(後)		
担当者名	渡邊和俊(ワタナベ カズトシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限 金曜5限
講義の内容	ニューヨーク州立大学バッファロー校の留学を終えたEBA総合コースの学生に、日本企業の最新の動向を確認してもらう。同時に学生自身の留学体験の確認を行なう。学生の自己についての確認と日本社会の現状を結びつけ、学生自身の今後の展望をはからせる。		
到達目標	日本の企業の現状の一端を確認する。		
講義方法	講義形式とグループディスカッション		
準備学習	留学体験を事前にまとめておくこと。		
成績評価	出席とレポートを評価する。		

講義構成	多様な業界の経営者にビジネスの現状を講義していただく。 そのあと、質疑応答を通じて、学生の理解を深めていく。 さらに、学生による「留学で得られたこと」をテーマにしたプレゼンテーションを行なう。
教科書	必要におうじて提示する。

授業コード	35051		
授業科目名	ワークショップⅡ（後）		
担当者名	渡邊和俊(ワタナベ カズトシ)、シュレスタ(シュレスタ マノジュ L.)、高 龍秀(コ ヨンス)、杉田俊明(スギタ トシアキ)、安積敏政(アサカ トシマサ)、近藤伸二(コンドウ シンジ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	アジアの主要国の経済・経営の現状分析を行う。グローバリゼーションの流れで、主な日本企業は、売上高の40%近くを海外で得ている。特にアジアの市場は今後の日本企業の成長にとって、重要な位置を占める。同時に、アメリカのサブプライム・ローンに端を発する世界金融危機にともない、日本のみならず、アジア諸国も深刻な経済状況の悪化に見舞われている。 今年度は、アジア全域、インド、中国、韓国、台湾およびネパールの各国の経済・経営の現状分析を行うとともに、今後の経済状況およびビジネスの状況についての方向性を探る。		
到達目標	アジアのビジネスの現状を確認する。		
講義方法	講義とグループディスカッション		
準備学習	できるだけ多くのアジア諸国の経済状況および企業活動について、調査しておくこと。		
成績評価	レポートの提出		
講義構成	1. 安積 敏政 教授 経営学部 アジア全域のビジネスについて 2. 高 龍秀 教授 経済学部 韓国のビジネスについて サムソン電子の急成長 3. 杉田 俊明 教授 経営学部 中国のビジネスについて その1: 中国企業の成長戦略(M&A&Aを中心に) その2: 日中企業経営比較研究(経営システムを中心に) 4. マノジュ・シュレスタ 教授 経営学部 ネパールおよびインドのビジネスについて 5. 近藤 伸二 氏 毎日新聞論説委員 台湾のビジネスについて		
教科書	特に指定しない。		
担当者から一言	今後も世界のビジネスにおいて大きな影響をもたらすアジアの代表的な国を取り上げていくので、積極的に授業を受けてください。		

授業コード	35052		
授業科目名	ワークショップⅢ（後）		
担当者名	西川耕平（ニシカワ コウヘイ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	講義時間の前後1時間とします。		

講義の内容	組織開発を講義と体験から学習します。 まず講義部分は、テキストを使ってコンサルタントとして組織に介入して、健全な組織に変革する組織開発理論と、それに関わる社会学・社会心理学理論も併せて学びます。 次に体験学習は、組織開発に関する仕事をしている講師を招いて、具体的な事例を聞いたり変革介入手法を体験する事で、人の変革を学習します。
到達目標	自己を冷静に相対化して人間関係を作る能力獲得

講義方法	テキストを使った講義部分と外部講師による講演と体験部分で構成されます。
準備学習	人的資源管理を履修している事。
成績評価	講義部分の評価と体験部分の評価を総合して最終評価とします。 講義部分は、章の終了後のクイズの成績と出席 体験部分は、毎回出席をした上で、体験を通じて気付いた事や体験から学んだ事のレビューの評価
講義構成	現在予定しているテーマ 講義 組織開発の概略： 歴史 組織開発の概略： 主要理論 組織開発のプロセス： 変革介入の管理 Appreciative Inquiry 理論体系 グローバルビジネス環境における組織開発と日本 講演・体験（講師の都合により、順序と内容が変わる場合があります） 変革介入技法： Human Process 1 Process Consultation 変革介入技法： Human Process 2 Team Building 変革介入技法： Human Process 3 Confrontation Meeting 変革介入技法： Human Process 4 Large-Group Intervention 変革介入技法： Human Resource 1 MBO 変革介入技法： Human Resource 2 報酬システム 変革介入技法： Human Resource 3 Coaching Mentoring 変革介入技法： Human Resource 4 キャリア開発 変革介入技法： Appreciative Inquiry
教科書	特に指定はしません。
参考書・資料	Cummings & Worley (2009) Organization Development and Change, 9th ed., South Western. Whitney, Trosten-Bloom, (2003) The Power of Appreciative Inquiry, Berrett-Koehler Publishers. Cooperrider, Whitney, and Stavros, (2005) Appreciative Inquiry Handbook, Berrett-Koehler Publishers.
担当者から一言	外部から講師を呼びますので、最後まで続けられる人だけ参加してください。また体験では、対話から自分をさらけ出す場面がありますから、積極的だがオープンな受講姿勢が必要です。

授業コード	35053		
授業科目名	ワークショップⅣ（前）		
担当者名	渡邊和俊（ワタナベ カズトシ）、西村順二（ニシムラ ジュンジ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限

講義の内容	このワークショップのテーマは「ソーシャル・アントレプレナーシップ」である。これは社会起業家の精神およびその方向性を意味する。社会起業家は、通常の営利を目的とせず、広く社会に貢献することを第一義とする。特に、グローバル化が進展する現代では、営利目的を主とする企業活動では、対応できないような社会的課題が生じている。このワークショップでは、この社会的課題に対する対応の在り方を考える。
到達目標	ソーシャル・アントレプレナーシップについて、理解できることを学習目標とする。
講義方法	社会起業家についてまず理論的な理解を行ない、そのあと、実際の事例を考察する。
準備学習	さまざまなメディアを利用して、社会起業家の事例について認識を深めるようにしてほしい。
成績評価	出席とレポートの評価にもとづいて、成績評価を行なう。
講義構成	1. 営利企業と社会起業家の関係 2. NPOのマーケティング 3. プロジェクト研究1 4. 社会起業家とCB 5. CSR 6. ゲストスピーカーによる講義1 7. ゲストスピーカーによる講義2 8. 社会起業家と金融 9. 行政面から見た社会起業家 10. 社会起業家の実際 11. ゲストスピーカーによる講義3

	12. ゲストスピーカーによる講義4 13. ゲストスピーカーによる講義5
教科書	特に必要があれば、提示する。

授業コード	41031		
授業科目名	アジア地域研究（前）		
担当者名	中村 都(ナカムラ ミヤコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限

講義の内容	東・東南アジアを中心に、政治体制、地域統合、民族紛争、日本との関係(歴史的関係を含む)、グローバルな課題でもある開発と環境、人権保障などについて学ぶ。
到達目標	東アジア・東南アジアについての報道に対する理解度を高める。
講義方法	配付資料のほか、映像資料を使い、講義する。
準備学習	日頃、新聞やテレビなどによる報道に接し、何が起こっているか、どのような問題があるかを知っておくようにする。
成績評価	授業中や課題のレポートで総合的に評価する。
講義構成	第1回～第3回: アジア地域概観(経済、政治、社会、文化) 第4回～第6回: 日本と東・東南アジアの関係(歴史、現代) 第7回: アジアにおける地域統合 第8回～第10回: 開発と環境 第11回～第12回: 民族紛争 第13回～第14回: 政治体制と人権保障
教科書	未定。
参考書・資料	プリント資料を配付の予定。

授業コード	41015		
授業科目名	アジア法（後）		
担当者名	七野敏光（シチノ トシミツ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	中華人民共和国婚姻法(家族法)を中心に講義を行う。夫婦別姓(中国人夫婦は普通別姓である)、及び一人っ子政策(一九八〇年代以降の中国に行われる、一組の夫婦は原則として一子しか出産してはならないとする人口抑制政策)という具体的で、かつ学生諸君にとっても比較的関心が高いと思われる話題に則して婚姻法を語ってゆく。その必要上当然に、婚姻法以外の中華人民共和国法や、台湾、韓国の家族法についても論及し、「アジア法」と呼ぶに相応しい講義内容としてゆく。婚姻法の知識を修得するばかりでなく、その法が行われる社会背景をも含めて理解できる講義にしたい。
到達目標	外国の法制度を学ぶことにより、わが国の法制度についてのより深みのある理解が得られれば幸いである。
講義方法	教科書を使用しないため、常時講義に出席し、ノートを完備しておくことが履修のために必須となる。
準備学習	特に必要としない。毎回の講義内容をその時間内に十分に理解するように努めてほしい。
成績評価	主として期末試験の成績で評価する。
講義構成	一. 中華人民共和国婚姻法の概略 1. 中国における家族法の歴史 2. 中華人民共和国婚姻法の基本原則 二. 中国人と姓 1. 中国における親族 2. 同姓不婚の原則 3. 夫婦及び子女の姓

	三. 一人っ子政策と婚姻法 1. 近年中国における人口増加の背景 2. 一人っ子政策の内容 3. 一人っ子政策と婚姻法の改正 4. 一人っ子政策の歪み
教科書	特に使用しない。
参考書・資料	講義中に指示する。
担当者から一言	異なる法の世界を垣間見ることにより、われわれ自身の法についての理解・認識を一層深めてもらいたい。概論とは一味違う興味を覚えさせる、そんな講義を目指している。

授業コード	41030		
授業科目名	アメリカ地域研究（後）		
担当者名	西山隆行（ニシヤマ タクユキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	アポイントメントによる		

講義の内容	冷戦終焉から20年あまり経過し、日米安全保障条約改定から50年を迎える今日、日本とアメリカの関係は大きな変化を迎えつつある。日本にとって重要な同盟国であるアメリカとの関係を考える上では、アメリカの政治と社会のあり方を、基礎に立ち返って検討することが必要である。 2010年度のアメリカ地域研究では、アメリカの政治・社会が近年どのように変化しつつあるのかを、制度的な前提や歴史的背景にも立ち返りつつ、明らかにしたい。
到達目標	メディア等で発信される表面的で雑駁な情報に惑わされることなく、アメリカの内政と外交を深く理解することを目標とする。
講義方法	アウトラインに沿って講義を行う。アウトラインは教室で配布するか、生協で購入出来るようにする。詳細は第一回目の講義で説明する。
準備学習	時事問題も比較的多く扱うことになるので、各種ニュースを見る習慣をつけておいて下さい。アメリカ政治について予習したい場合は、久保文明／砂田一郎／松岡泰／森脇俊雅『アメリカ政治』（有斐閣、2006年）をおすすめします。
成績評価	学期末の試験による。希望者は、それに追加してテイク・ホーム・イグザムを受けることもできる。出席点はないが、講義中に他者の妨げになる学生については減点する。
講義構成	以下は仮の講義構成であり、アメリカ政治の変動等により、講義内容を変更することもありうる。 1. ガイダンス—アメリカの内政と外交の特徴 2. アメリカ例外主義とアメリカのナショナリズム 3. アメリカ合衆国憲法と統治構造(1) 4. アメリカ合衆国憲法と統治構造(2) 5. アメリカの多民族体制(1) 6. アメリカの多民族体制(2) 7. アメリカ型国家と政党制の変容 8. アメリカ型福祉国家 9. 環境政治と「グリーン・ニューディール」 10. モラルをめぐる政治とアメリカ政治の保守化？ 11. 国内秩序維持政策 12. アメリカの対外政策(1) 13. アメリカの対外政策(2) 14. 日米関係と今後のアメリカ政治の展望
教科書	特定の書籍に基づいて講義を行う予定はない。可能であれば、学期開始直後にプリント版で講義資料を作成し、購入出来るように手配したい。

授業コード	55C41
-------	-------

	5. ブラウン事件 6. 平等保護と司法 7. VTR “A Class Divided” 8. リーガル・リアリズム 9. VTR “Little Rock Nine” 10. 公共訴訟と司法の変容 11. 救済としての司法 12. 公共訴訟と司法の正統性 13. 公共訴訟の現代的意義と問題 14. まとめ
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	松井茂記『アメリカ憲法入門（第5版）』（有斐閣、2004） 木下毅『アメリカ公法』（有斐閣、1993） ケアーズ編（松浦・松井編訳）『政治としての法』（風行社、1991年） その他の参考文献については、講義中適宜紹介する。

授業コード	41014		
授業科目名	英米法Ⅱ(英米私法)(集中)		
担当者名	ジャオ(ジャオ ジェイソン ホセ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	8月7日、21日、28日、9月4日、11日		

講義の内容	本講義では、アメリカ合衆国の司法制度、法律、統治に関する基礎知識を提供する。講義の中で、アメリカの法制度と日本およびフィリピンの法制度との類似性・差異についても検討する。
到達目標	アメリカ法の特徴を理解すると同時に、それとの比較から見た日本の法制度の特徴を理解・説明できる。
講義方法	講義および資料等は、主として英語を使用する。講義で視聴するビデオについては、できる限り日本語字幕付きのものを使用する予定である。
準備学習	受講者には、英語が得意であること、授業で配布する短い英語資料が読めることが期待される。
成績評価	成績評価は以下の3つの要素を総合して行う。 ①出席(50%) ②小レポートおよび討論への参加(15%) ③最終日の最後の日に行う試験(35%)
講義構成	講義構成 概ね以下のような内容で行う予定である。 1. (8月7日) ●オリエンテーション ●アメリカの歴史と統治機構 ・憲法の歴史／統治機構／権力分立／州と連邦／法源の階層性／映画『スミス都へ行く』 2. (8月21日) ●当事者主義と陪審裁判 ・当事者主義の特徴と根拠／陪審制／陪審裁判におけるローヤーの役割／証拠法／当事者主義への批判／陪審制への批判／映画『十二人の怒れる男』 3. (8月28日) ●リーガル・プロフェッション ・法学教育と法曹への道／弁護士業務／法曹におけるマイノリティ・女性／法曹倫理／映画『ペーパー・チェイス』および映画『シビル・アクション』＜前半＞ 4. (9月4日) ●司法制度 ・法廷および裁判官／第一審裁判所および控訴審裁判所／州および連邦裁判所の構造と特徴／裁判官の選任／管轄権／連邦制／連邦および州裁判所の適用法／映画『シビル・アクション』＜後半＞ 5. (9月11日) ●合衆国大統領

	・任期・資格／選出／大統領職継承／責任と権力／行政機関／歴代大統領／映画『パーフェクト・カップル』 ●試験（最終時限に筆記または口頭で行う）
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	講義時に適宜配布する。

授業コード	41M01		
授業科目名	演習（黒田）		
担当者名	黒田忠史（クロダ タダブミ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	火曜日12時10分～12時50分。 その他E-Mailでの約束時間		

講義の内容	法史・比較法文化論。とりわけ今年度は、法律専門職の歴史、各国における法律専門職養成制度の特徴、現代におけるプロフェッション倫理と法的責任について考える。
到達目標	実社会において「法」を現実を生かす法律専門職の種類、それぞれの職業法と職業倫理、法的責任と道義的責任などについて理解を深め、それを通じて、大学で社会人としての「責任」について、たえず自省できるようになること。
講義方法	関連文献や論文、判例などを、ゼミ生が分担して調査・検討・報告し、全員で討論する。
準備学習	My Konanに掲載される毎回の演習資料、関連する参考文献を読み、議論に備える。
成績評価	基本的には、報告の質と討論への参加度で評価する。
講義構成	第1回～第3回 予備的作業（アイス・ブレイキング。ゼミで気楽に発言できるように、最近の具体的な法律問題、裁判事例を取り上げ、議論する。その際、法律専門家が果たした役割に留意する。さしあたりは、①非嫡出子相続分問題、②ハンセン病訴訟、③敷金・更新料返還訴訟、などを予定） 第4回～第10回 現代日本の法律専門職の実態、歴史と現状、資格取得法 第11回～第17回 各種法律専門職の職務範囲と越権行為の法的効果（いわゆる職際問題） 第18回～第26回 専門家の法的責任（守秘義務、誠実義務、真実義務、専門職自治、懲戒） 第27回～最終回 総括（現代における「プロフェッション」の役割）
教科書	特になし。
参考書・資料	個別テーマごとに、そのつど提示。

担当者から一言	自分の問題意識をもち、主体的にゼミに参加してほしい。
---------	----------------------------

授業コード	41M02		
授業科目名	演習（安西）		
担当者名	安西敏三（アンザイ トシミツ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	随時		

講義の内容	日本の政治・法・社会に対する考え方を論じてきた古典の読解を通じて、混迷する現代に対処する視点を培うことを目的とする。
到達目標	学生として最低限の読解能力と発表能力、それに議論能力及び文章作成能力を養成することをお目指したい。
講義方法	前期に宮村治雄『日本政治思想史』を輪読し、後期には古典的史料を配布して、担当者のレジュメと発表、それに対する質疑応答と解説を加える方法で行う。
準備学習	担当者以外の参加者も、あらかじめ担当部分を各自、読んでおき、質問事項を作っておくこと。
成績評価	基本的には、報告の内容と受講態度、それに出席数による。
講義構成	前期：宮村治雄『日本政治思想史』の輪読

	後期古典的史料の読解であるが、例示的に挙げれば、以下のようなものである。 聖徳太子「十七条の憲法」 関東御成敗式目 信玄家法 荻生徂徠「太平策」 本居宣長「宇比山踏」 福澤諭吉「西洋事情」 丸山真男「超国家主義の論理と心理」など
教科書	前期：宮村治雄『日本政治思想史』（日本放送出版協会）
講義関連事項	日本政治思想史Ⅰ、Ⅱを履修することを望む。
担当者から一言	関心のあるテーマについて、論文を執筆するならば、個別指導を行う。

授業コード	41M03		
授業科目名	演習（高野）		
担当者名	高野清弘（タカノ キヨヒロ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	金曜日3時～4時		

講義の内容	プラトンの政治に関する主著『国家』を講読する。これ以外に、演習生各人が興味を抱くプラトンの対話編の小品を二・三、各人の研究対象とする。 これ以外に、楽しみながら政治を学びたいので、劇映画を課題として課し、それについて話し合うことも予定している。
到達目標	プラトンの考え方を大筋で理解すること。
講義方法	『国家』については、演習生全員がその週の箇所を読んでくること、分からない場合には、さかのぼって読み返してくること、ノートなど筆記用具を机の上に置いておくことを求める。また、難解な語句や事件、人物についてはネット利用も含め調べてくることを求める。
準備学習	その週の箇所を読んでくること。やむなく欠席した場合は、欠席した時に取り上げた箇所も読んでくること。
成績評価	平常点。ただし、事前連絡なく3回以上欠席した場合は、単位与えない。
講義構成	講義ではないので、記すことを得ない。
教科書	プラトン『国家』（岩波文庫）
参考書・資料	高野清弘『政治と宗教のはざま』（行路社、2009年）

担当者から一言	なるべく楽しく討論したいと思っています。私が語ることが常に正しいとは限らないことがらを論じ合いたいので、わたくしへの批判をあえて行うことを希望します。電子辞書をはじめ辞書をとにかく利用してください。
ホームページタイトル	丸山眞男を読む会
URL	http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/yomukai/

授業コード	41M04		
授業科目名	演習（小泉）		
担当者名	小泉洋一（コイズミ ヨウイチ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	具体的事例に憲法規定を解釈適用することを演習させる
到達目標	具体的場合に憲法に関する問題を発見し、その問題に対して憲法規定を解釈適用して問題は解決する能力を修得すること

講義方法	重要な憲法判例について、その事実と判決を理解させ、その論点を検討させ、それらを報告させるとともに、それを報告書にまとめさせる
準備学習	法学部専門科目のうち、憲法Ⅰ、憲法Ⅱを履修したこと。あるいは自学自習でそれと同等の憲法解釈学を勉強すること。未履修の者にはとくに努力が求められる。
成績評価	出席状況、判例の研究発表、判例に関するレポートを総合評価する。
講義構成	違憲審査権に関する判例 憲法判断に関する判例 司法権の限界に関する判例 平和主義に関する判例 平等に関する判例 精神的自由に関する諸判例 経済的自由に関する諸判例 その他の判例
教科書	未定 はじめのうち必要に応じて資料を配布する。
参考書・資料	未定
担当者から一言	よく勉強すること

授業コード	41M05		
授業科目名	演習（西田）		
担当者名	西田英一（ニシダ ヒデカズ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	火曜 12:20－13:00		

講義の内容	法のフィールドワーク —— “調べて考えて提案する” 本ゼミでは、自分の足でかき集めたナマの情報を編集しながら、社会の中の法のありようをフィールドワークを通して観察・考察していく。HPで見かけた見知らぬ人にメールを出す、カメラやテープをもって実際に街や企業や役所の窓口に出かけ、インタビューする、アンケート調査をしてみる。こうして、知識として知っていることと、自分たちが体感することとのずれの中から、法の可能性と限界について考察し、生き物としての法の「感じ」をつかんでもらうことをめざす。
到達目標	社会の中での法の働き方の一端を体験的に理解し、その問題点と可能性について他者に説明できるようになる。
講義方法	情報収集・分析・報告等の基本動作について説明し、それ以外は受講生自身の企画と実行活動を中心に置き、そのつど助言・支援を提供する。
準備学習	法社会学Ⅰ、Ⅱの単位を取得していることが望ましい。
成績評価	何度かの課題報告およびゼミ活動への貢献によって評価する。
講義構成	前半は、共通の課題を班に分かれて研究する。まず予備調査として、班ごとに街で撮ってきた写真を編集し、それをもとにテーマ候補を提示する（第1回合宿）。その後、班ごとのテーマに沿って、フィールドに出てデータの収集（インタビュー、アンケート等々）、分析を経て、PowerPointで最終プレゼンする。 後半は、個人ベースで調査研究する。前半に引き続きフィールドワークの方法等について説明する。前半のグループ研究で得た感覚と若干の度胸で、納得行くまで自分自身の問いを深めてもらう。年2回の合宿を予定。
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	ゼミの中でそのつど紹介する。

授業コード	41M06		
授業科目名	演習（前田）（後）		
担当者名	前田忠弘（マエダ タダヒロ）		
配当年次	3年次	単位数	4

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
オフィスアワー	いつでも。予約をしてもらえれば確実です。		
講義の内容	司法と福祉の狭間で、犯罪を行ったり、社会復帰できない非行少年、高齢犯罪者、知的障害者の現状を調べ、心神喪失医療観察法、刑事施設被収容者処遇法、更生保護法、少年法の運用と課題について学習します。なお、今年度は可能な限り、施設参観などのフィールドワークを実施する予定です。		
到達目標	各自が課題を設定し、調べ、プレゼンテーションを行い、全員参加で議論するという形式の学習活動により、刑事法学に関する基礎知識を修得するとともに、表現力や論争力の養成を目指します。		
講義方法	教科書、関連する文献資料、刑事判例をもとに、各自が設定した課題でプレゼンテーションを行い、全員参加の議論を行います。プレゼンテーションは原則としてパワーポイントを使用します。 このほか、矯正施設参観、裁判傍聴、福祉施設でのボランティア、実務家の講話、小中高生を対象にした法教育としての模擬裁判などを行うことによって、受講生個々の学が意欲に応じていきます。		
準備学習	前学期は担当者が海外研修中のため、後学期開講となります。したがって、前学期はメールのやり取りと一時帰国の際のスクーリングによって、準備学習を実施したいと思います。		
成績評価	準備学習、プレゼンテーション、議論への参加、自己の学びに関する報告書を総合して成績を評価します。		
講義構成	(1) 各自の課題に関するプレゼンテーション (2) フィールドワーク (3) 各自の学びの発表会		
教科書	前野育三・前田忠弘ほか著『刑事政策のすすめ[第2版]』(2007年 法律文化社)		
参考書・資料	平成21年版犯罪白書 このほか適宜、準備学習および授業の際に、文献資料を紹介します。		
講義関連事項	もし夏季休業中に、準備学習として西オーストラリア州の司法と矯正を学びたい場合には、可能な限り対応しますので、連絡してください。		
担当者から一言	各自の将来を何かしら拓くような、甲南で学んでよかったと思えるような学習活動にしたいと思います。定められた授業時間以外にも、みなさんと勉強したいと思います。		

授業コード	41M07		
授業科目名	演習(中井)		
担当者名	中井伊都子(ナカイ イツコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(火曜3限)
講義の内容	国際模擬裁判を通じて、現代国際社会における国家間紛争の平和的解決の手法を具体的に検討する。		
到達目標	国際法の視点から、国際紛争の予防や解決を検討することのできる視点を培う。		
講義方法	グループごとに扱うテーマを決めて、原告国側と被告国側に分かれて、それぞれの主張を展開する国際模擬裁判形式で行う。		
準備学習	国際模擬裁判を担当するグループは、数週間かけて当該国際紛争の原因と経過を調べ、それらの事実に沿った原告側被告側の主張を、国際法の観点から構成する。ほかの履修生は国際司法裁判所判事として、いずれの主張がより論理的に展開されていたかを判断して判決文を作成する。		
成績評価	平常点(出席と判決文)50点と国際模擬裁判での活躍度50点		
講義構成	各グループが選択した国際紛争について、共通の事実認識(コンプロミー)の報告一回とそれに基づく模擬裁判一回の計2回をあてる。		
教科書	各グループが選択した国際紛争ごとに、基礎となる教科書や参考書などを紹介する。		
担当者から一言	国際法を学ぶ演習ではなく、国際法を駆使して議論をたたかわせることを目的とした演習ですので、国際法の基礎はしっかり理解しておいてください。また国際問題にはしっかりアンテナを張って、「国際法の観点から」解説すると・・・と考える習慣を持ってほしいと思います。		

授業コード	41M08
-------	-------

授業科目名	演習（前嶋）		
担当者名	前嶋京子（マエシマ キョウコ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときは、アポイントをとること。		

講義の内容	会社法の基本的な問題から始め、漸次難易度の高い問題を検討していく。本年度の講義受講生には、会社法の学習が十分でない者と、十分な基礎知識を有している者が含まれることから、最初の段階では、それぞれのレベルの応じたテーマを振り分け、報告してもらうことにするが、最終的には、受講生皆が一定の高レベルに到達することを予定している。		
到達目標	現実の社会で、解決を必要とする会社法上の問題に遭遇したときに、相応の処理ができる能力を養うことを目標とする。また、授業をすすめていく過程で、ものごとを理論的に考察する能力を身につけるとともに、自己と相反する意見を尊重しつつも、自己の立場をしっかりと表現し、議論することができる能力を養うことをも目標とする。		
講義方法	報告担当者を決め、その者が設定された問題に関連する学説・判例を調べ、それなりの解答を用意する。その報告をもとに、担当者以外の者も加わって、皆で討議・検討していく。		
準備学習	会社法（商法Ⅰ・Ⅱ）の学習が十分ではない者は、実質上討議に参加できないことになるので、事前に十分に学習しておくこと。 報告者以外も、報告予定のテーマについて、予め学習しておくことが望ましい。		
成績評価	平常点にレポートの成績を加味して評価する。 平常点は、出席率・報告の内容・議論への参加の積極性等の内容を吟味して評価する。		
講義構成	1. 自己紹介と授業のすすめ方の説明 2. 授業をすすめる上で必要な基礎知識等の確認 3. 報告者による報告と討議（夏休み前まで） 4. 夏休みのレポートの書き方の説明（夏休み直前の授業） 5. 報告者による報告と討議の続き（「判例研究」レポート提出前まで） 「判例研究」レポートの書き方の説明は適当な時期に行う。 「判例研究」レポート提出は年末〔年内授業終了日〕に締切予定 6. 報告者による報告と討議の残り（年明け） 7. 「判例研究」レポートの講評（最終回）		
教科書	特に使用しない（報告準備のために必要な文献等の紹介・指示は適宜行う）。		
参考書・資料	必要に応じて紹介するが、一般的な予習のための参考書としては、江頭憲治郎等編『会社法判例百選（別冊ジュリストNo.180）』（有斐閣・2006年）や浜田道代等編『会社法の争点』（有斐閣・2009年）を、あげることができる。		
講義関連事項	商法Ⅰ・商法Ⅱを未受講のものは、前期の間に受講しておくこと。		
担当者から一言	授業の性質上、出席を重視する。報告担当になっていなくても、積極的に質問や意見発表をするなど、学生諸君の積極的取組を期待する。		
その他	六法必携。六法については最新版（平成22年版）を用意すること。		

授業コード	41M09		
授業科目名	演習（島田）		
担当者名	島田 茂（シマダ シゲル）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	毎回、授業終了後、質問を受け付ける。		

講義の内容	行政法上の基本問題の検討		
到達目標	行政法上の基本的な概念を用いて、自分の見解を理論的に発表できるようにする。		
講義方法	少人数のグループに分け、順番に報告する。その後、全員で討論する。		
準備学習	事前に与えられた資料は必ず読んでくること。		

成績評価	出席率とゼミでの発言で判断する。
講義構成	①行政法上の基礎的概念についての説明 ②裁判例の検討 ③裁判例以外の紛争事例の検討 ④学説の検討
教科書	未定
担当者から一言	行政法は一見難しいようだけど、それほどでもない。我々の身近な生活に関わる法律問題の多くが行政法に関係している。環境保護、警察、福祉などの行政の仕事に興味を持っている人は参加してほしい。

授業コード	41M10		
授業科目名	演習（金）		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
オフィスアワー	各回の講義後		

講義の内容	今日、国際的交流の活発化という現実のもとで、国際婚姻などの家族法的関係ばかりでなく、国際的な売買など財産法についても、国際私法により解決されるべき多くの問題が生じている。 このような国際的な民商事法上の法律問題について、実体法と手続法の双方の観点から、より詳細な国際私法上の論点を取り上げ、国際的な視野を持ち、的確に対処できる基礎を築くことを目的とする。
到達目標	具体的なテーマについて、民法、国際私法の理論・裁判例の順で理解を深め、国際私法の問題を解決できる考え方を形成する。
講義方法	ゼミ形式で進める。以下で取り上げるいずれかの事項から興味のある項目をゼミ生が選ぶ。その他、ゼミ生の希望に応じる。担当者は一週間前までにレジュメを作成・配布し、ゼミのときにそれを発表する。ゼミ生が中心となって質問・討論を行いながら、ゼミテーマに関する理解を深める。
準備学習	発表者はレジュメを作成するため、資料の調べ方やレジュメのまとめ方を身につけるとともに、発表について法律的・批判的にコメントできるよう、関連資料を包括的に検討する。国際私法講義に出ることが望ましい。
成績評価	報告と議論への参加度合いに応じて評価をつける。正当な理由なき欠席あるいは事前の連絡なき欠席が3回に達した場合、単位が得られない可能性が高い。出席は最低限の要件であるが、出席だけでは合格点とならない。
講義構成	I. 家族生活と国際私法 ・婚姻、離婚、嫡出子・非嫡出親子関係の成立、養子縁組、親子間の法律関係、 ・後見、扶養、子の奪取 ・相続・遺言 II. 国際取引と国際私法 ・国際取引の主体(自然人・法人) ・取引活動(契約、当事者自治、消費者・労働者保護) ・法定債権(不法行為、事務管理、不当利得) ・債権譲渡その他(相殺、債権者代位権、債権者取消権) ・物権 III. 国際取引紛争の解決手続 ・訴訟(国際裁判管轄権、外国判決の承認・執行、国際的訴訟競合、判決の抵触) ・仲裁(仲裁契約、仲裁手続、仲裁判断とその執行) ・倒産(国際管轄、外国人の地位、準拠法) IV. その他 ・知的財産権、インターネットにかかわる諸問題、国籍法
教科書	櫻田嘉章『国際私法〔第5版〕』(有斐閣、2006)
参考書・資料	櫻田嘉章・道垣内正編『国際私法判例百選〔新法対応補正版〕』(有斐閣、2007)
講義関連事項	六法は必ず持ってくる。日常生活における渉外的法律関係に興味を持ち、ゼミへの積極的な参加を期待する。

授業コード	41M11		
授業科目名	演習（池田）		
担当者名	池田佳隆（イケダ ヨシタカ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	国際政治を考える際の基礎的な概念を学んだ後、アメリカ・ヨーロッパ・アジアなどの国際情勢について理解を深める。		
到達目標	国際政治に関する様々なテーマに関する知識をふまえた上で、自分の意見を報告できるようになる。		
講義方法	毎回報告の担当者を決め、その報告の後で全員で議論する。		
準備学習	テキストの該当部分を読んでおく。		
成績評価	報告時のパフォーマンスや議論への貢献度等を総合的に評価する。		
講義構成	1国際政治の考え方 2戦争と平和 3平和構築 4貧困問題 5環境問題 6民族問題 7地域主義 など		
教科書	大芝亮（編著）『国際政治学入門』ミネルヴァ書房、2008年		

授業コード	41M12		
授業科目名	演習（桑岡）		
担当者名	桑岡和久（クワオカ カズヒサ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	演習終了後		

講義の内容	財産法および家族法、民法領域全般。		
到達目標	民法全般に関する問題解決をテーマにして、問題を正確に理解した上で解決策を探る能力を向上させることを目的としています。		
講義方法	演習形式で行う。そのため、参加者は資料探索・読み込み、レジュメの作成など報告の準備作業、討論を通じて、プレゼンテーションのスキルを習得することも演習の目的である。		
準備学習	資料を読み込んだ上で、テーマごとの具体例についての解答を用意する。		
成績評価	出席、作成されたレジュメ、報告・討論での発言を成績評価の対象とする。		
講義構成	第一回 ガイダンス 第二回以降 民法領域全般から選択したテーマについて報告・討論を行う。		
教科書	テーマごとに異なるため各回ごとに指定する。		
講義関連事項	六法を持参してください		

授業コード	41M13		
授業科目名	演習（武井）		
担当者名	武井 寛（タケイ ヒロシ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	社会の変化に伴い、他の法分野と同様、労働法の分野でも新たな問題や、それに対する理論的課題が生じています。たとえば、兼業をした場合労働時間は法的にどのように扱われるべきか、成果主義が導入された結果としての賃金大幅減額には我慢するしかないのかといったように。それらのうち比較的最近の訴訟事件をとり		
-------	--	--	--

	あげ、その紛争の特徴や法律判断のありかたを検討します。
到達目標	判例や実定法を根拠に、自分なりの法律的な議論を行えるようになること。
講義方法	何人かでグループを組み(さまざまなパターンがありうるが、受講生と相談して決めたい)、あらかじめ教員が配布した事案につき、まずは個人で考え、その後グループごとで議論し、グループで一定の法律判断(判決といってもいいでしょう)を提示してもらいます。さらにそれをグループ同士で質疑・応答し、議論を深めるという形式で行います。言い換えれば、グループ内での議論とグループ間での議論を通じて、法律論を基盤にしたディベート力を養おうとするものです。
準備学習	配布された事案をよく読むこと。また、労働法の授業で用いた教科書や資料を復習しておくこと。
成績評価	出席と議論への参加度の総合評価による。無断欠席をした場合には成績評価をしない。
講義構成	第1回 授業ガイダンス 第2回以降 発表と討論
教科書	なし
参考書・資料	必要に応じて指示または配布します。

担当者から一言	屁理屈でかまいません。ともかく出席して何かしゃべること。すべてはそこからはじまります。
---------	---

授業コード	41M14		
授業科目名	演習（西山）(後)		
担当者名	西山隆行（ニシヤマ タカユキ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
オフィスアワー	アポイントメントによる。		

講義の内容	「タバコと比べてマリファナは、中毒性も低いし、健康に及ぼす影響も小さい。でも、マリファナ所持が違法なのにタバコが合法なのは何故だろう?」、「ヨーロッパでは死刑制度が廃止されているのに、日本やアメリカでは死刑が増加しているのは何故だろう?」、「アメリカの成人の31人に一人が受刑中! イリノイ州が財政再建のために千人以上の犯罪者を仮釈放する予定! …どうして?」—犯罪問題は政治過程における大問題であるにもかかわらず、これまではもっぱら法学者や社会学者によって検討されてきました。しかし、政治上、財政上のインパクトを考えると、政治学の観点からの分析が不可欠です。2010年度の演習では、犯罪問題を政治学の観点から分析することにしたいと思います。
到達目標	論理的思考力を身につけると共に、法律の規定や常識に囚われない、柔軟な発想を身につけることを目指します。
講義方法	通常の演習の方式で実施します。
準備学習	ニュース等をよく読んで、いろいろな事柄に興味を持つようにして下さい。
成績評価	平常点で評価します。詳細は初回の演習で説明します。
講義構成	以下は仮の講義構成です。ゲストを何度か招く予定なので、その都合によって日程やトピックが変更になります。 第1週: イントロダクション+犯罪統計の分析 第2週: 麻薬と犯罪の定義 第3週: 死刑と刑罰 映画視聴予定 第4週: 続き 文献購読 第5週: 犯罪被害者と厳罰化 第6週: 犯罪増加の原因分析と政策的対応 第7週: 銃規制と市民社会 映画視聴予定 第8週: 続き 文献購読 第9週: 日本の警察について 第10週: テロ対策 第11週: 戦争犯罪 第12~14週: グループ報告
教科書	新書数冊を購入していただくと共に、プリントを配布します。

授業コード	41M15		
授業科目名	演習（住田）		
担当者名	住田英穂（スミタ ヒデホ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	木曜日の昼休み 事前に連絡するようにして下さい。		

講義の内容	民法の財産法について学びます。具体的には、①重要論点について深く掘り下げる、②判例を分析・批評する、③民法学説史上、重要な論文に接する、ということを行います。		
到達目標	① 問題意識をもって、課題に取り組み、調査・研究できること。 ② 問題意識をもって、調査・研究した成果をわかりやすくまとめ、発表できること。 ③ 自分の考えをもち、意見の異なる人と議論できること。		
講義方法	グループごとに課題を割り当て、レジュメを作成し、報告をもらい、その後に、全員で討論を行います。期末には、各自にレポートを提出してもらいます。		
準備学習	翌週のゼミの課題に関して、参考文献を指定するので、それをきちんと予習するようにして下さい。		
成績評価	①出席 ②発表 ③レジュメ ④レポート ⑤討論における発言の5つを評価の対象にします。特に、③レジュメと④レポートは、大きなウエイトを占めます。		
講義構成	第1回目に、グループ分けと課題の割当を行います。		
教科書	課題に応じて、適宜、指定します。		
参考書・資料	課題に応じて、適宜、指定します。		

担当者から一言	ゼミ生は、問題意識をもって課題に取り組んで欲しいと思います。ゼミでの活動を通じて、主体的に物事が考えられるようになってくれれば・・・と切に願っています。よく学び！よく遊ぶ！明るいゼミにしたいと思います。		
---------	---	--	--

授業コード	41M16		
授業科目名	演習（久保）		
担当者名	久保はるか（クボ ハルカ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	随時行います。あらかじめご連絡ください。		

講義の内容	前期演習では、幅広く環境問題を知る上で重要な文献を読み、環境問題とは何かを知るとともに、社会科学が学問として環境問題をどのように捉えてきたのか、その基本的な視点を学ぶことを第一の目的とする。加えて、課題文献を読む中で、要点の把握・論点の抽出を的確にできるようになるよう、読解力を身につける訓練を行うことを第二の目的とする。 後期演習では、前期で学んだことを踏まえて、今度は、具体的な事例について調査・考察する。各自が身近な環境問題に関心を持つとともに、その問題に、どのような主体がどのように取り組んでいるのかについて調査・考察することが、後期演習の目的である。2009年度は、東灘区という身近な地域の取り組みを調査している。他に希望がなければ、2010年度も継続する予定である。		
到達目標	第一に、環境学の基本的な視点を習得すること。 第二に、読解力を身につけ、要点の把握・論点の抽出を的確にできるようになること。 第三に、身近な環境問題・まちづくりについて、主体的に調査・考察すること。		
講義方法	前期演習では、読解力を身につけることも目的の一つであるから、発表者をあらかじめ決める方法を取るのではなく、参加者全員が課題文献を読んでいることを前提に、ランダムに当てながら当該文献の内容を確認し論点を抽出する方法をとる。その後、参加者全員で討論を行う。また、ワークショップ形式を取り入れて、論点の抽出と『問題の構造化』の作業を行う。 後期演習に関しては、参加者と相談して決定するが、各自あるいはグループで関心あるテーマを選定し、調査・考察した結果を発表してもらうことを考えている。		
準備学習	常日頃から環境問題に関心を持ってもらいたいため、新聞・雑誌・書籍等に積極的に触れ、環境問題をめぐる社会の動きを把握しておくことが望ましい。		
成績評価	出席状況、課題への取り組み状況、議論への貢献度などを総合的に判断して評価します。		

講義構成	初回にシラバスを配布します。
教科書	適宜、文献・資料をプリントして配布します。
参考書・資料	参考文献・資料の検索の仕方を指導します。 演習をとおして、書籍や論文の検索の仕方を習得し、読んでまとめるという作業を身に付けてください。
担当者から一言	ゼミには、受身ではなく積極的な姿勢で臨みましょう！

授業コード	41M17		
授業科目名	演習（櫻井）		
担当者名	櫻井智章（サクライ トモアキ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	未定（第1回目に知らせます）		

講義の内容	憲法上の重要問題について検討する。 具体的な内容については受講者と相談の上で決めます。
到達目標	憲法上の重要問題について、判例・政府見解や学説などを通じて理解を深めることを第一の目的とする。 同時に、①問題を発見し、自ら調べ、まとめる能力、②他人にも理解できるように伝える能力、③自分の義務を果たす責任感、を身につけることを目的とする。
講義方法	ゼミ形式で行います。 担当者の報告の後、全体で質疑応答・討論を行います。
準備学習	毎回扱う問題について、予習して来ること。
成績評価	出席・授業態度・報告、ゼミへの貢献度などに基づいて総合評価します。 特に、出席が少ない場合には単位の取得は困難だと考えてください。 詳細は第1回目に説明します。
講義構成	前期、後期のそれぞれ第1回目に受講者と相談の上で決めます。
教科書	特になし
参考書・資料	第1回目に紹介するほか、適宜指示します。
担当者から一言	ゼミは受講者の意向を最大限に尊重して運営していきたいと思います。

授業コード	41M18		
授業科目名	演習（岡森）		
担当者名	岡森識晃（オカモリ シアキ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	木曜昼休み・木曜5限		

講義の内容	環境判例を素材として、我が国における環境法の特色や行政法理論との関係について検討する。環境判例は、単に環境紛争を解決するだけでなく、我が国の環境法に大きな影響を与えてきた。我が国では現在、様々な環境法令が存在するが、その多くは環境判例を契機として整備された。そこで、環境判例にじかに触れ、環境判例とはどのようなものか、環境法にどのような影響を及ぼしたのかについて学んでみたい。また、環境法は、行政法とも密接な関わりがあるので、行政法の観点から環境判例を分析したい。
到達目標	環境判例とはどのようなものか、環境法にどのような影響を及ぼしたのかについて知ることができる。 環境法と行政法との関係について知ることができる。
講義方法	ゼミ形式で行う。演習の進め方など、詳細については、顔ぶれがそろってから、相談して決定する。基本的には、報告者による報告と全員での討論という形式をとる。
準備学習	行政法総論Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。 環境問題及び環境法に対する問題意識をもって受講することが望ましい。

成績評価	出席状況、ゼミ報告等を総合的に判断して行う。
講義構成	1. はじめに 2. 報告テーマの設定 3. 資料収集 4. 資料収集 5. 報告資料の作成 6. 報告資料の作成 7. 報告資料の作成 8. 中間報告 9. 報告資料の補正 10. 報告資料の補正 11. 報告・討論 12. 報告・討論 13. 報告・討論 14. 報告・討論 15. まとめ
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	淡路剛久・大塚直・北村喜宣編『環境法判例百選』（有斐閣・2004年）。
担当者から一言	学生の皆さんの主体的な参加を期待します。

授業コード	41M19		
授業科目名	演習（森永）		
担当者名	森永真綱（モリナガ マサツナ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限）、後期（火曜3限）
講義の内容	比較的新しい判例について、1審判決から精査し、その妥当性および射程について検討する。		
到達目標	刑法学の理解を深めるとともに、発表、討論のスキルを高めることを目的とする。		
講義方法	毎回担当者に報告してもらった後、全員で討論する。		
準備学習	刑法総論・各論の復習をしっかりしておくこと。基礎がかけていると思う人は、井田良『基礎から学ぶ刑事法（第4版）』（有斐閣・2010年3月刊行予定）を通読しておくこと。		
成績評価	報告内容、討論における発言内容、受講態度、出席状況を総合して評価する。		
講義構成	比較的新しい判例を中心に、報告・討論を行う。		
教科書	特に指定しない。		

授業コード	41M20		
授業科目名	演習（田中）		
担当者名	田中誠人（タナカ マコト）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
講義の内容	民事訴訟法と関連法規における問題点を深く理解することを目的とし、講義で学んだ知識を基礎として、民事訴訟法に関する判例や、学説において問題となっているいわゆる論点などの検討をおこないます。 その他、受講生の希望によってはグループ間のディベートや、模擬裁判、実務見学なども考えています。		
到達目標	基本的な議論の進め方、他者の意見を聞き、分析し、自己の意見を表明することに習熟することを心がけながら、民事訴訟法を素材として、講義で得た知識をより深く、発展させる。		
講義方法	形式は、参加人数にもよりますが、数名でグループを構成し、1回につき1グループに報告を行ってもらいます。 題材については、教員からアドバイスあるいは必要であればリストの提示もおこないますが、基本的にはグループ内で話し合って選択してもらいます。		

	各グループは、報告において、①問題の所在、②判例などの位置づけ、③過去の関連判例、④学説状況、⑤自説に基づく結論など、といった項目について報告を行い、この報告に基づいてゼミで討論します。 レジュメは簡略なもので結構ですが、一見して上記の点がわかる程度に詳細かつ整理されたものであることを求めます。また、報告者以外の参加者も、予め当日のテーマに関する判例や基本書の該当項目を熟読し、何が争点なのかを把握しておく必要があります。 1回のゼミで報告が終わらなかった場合、報告が不十分であった場合など、当該問題について報告者あるいは受講者の納得を得られなかった場合には、次の週もひきつづき同グループが報告を担当することがあります。
準備学習	実体法において規定されている権利が侵害され紛争が生じた時に問題となるのが訴訟(法)なので、民法・商法などの民事法を中心に、法律科目を予めしくは並行して履修していることが望ましい。 また、民事訴訟法の基礎的な理解が必要となるため、民事訴訟法の講義も予めしくは並行して履修してあることが望ましい。
成績評価	受講態度、議論への参加状況など、総合的な判断によります。
講義構成	受講者との協議によります。
教科書	概説書ではなく、比較的詳細な体系書。受講前に通読しておくことが望ましいため、以下をあくまで参考として自分にふさわしいものを選んでください。 伊藤眞『民事訴訟法』(有斐閣) 上田徹一郎『民事訴訟法』(法学書院) 松本博之=上野泰男『民事訴訟法』(弘文堂) 新堂幸司『民事訴訟法』(弘文堂) 高橋宏志『重点講義民事訴訟法』(有斐閣) 中野=松浦=鈴木『新民事訴訟法講義』(有斐閣大学双書) など。 なお、民事訴訟法の体系を理解する上で、是非とも読んでおきたい文献として、兼子一『民事訴訟法体系』(酒井書店)が挙げられますが、絶版により入手困難であるうえ、近時の論点については触れていないため、上記リストからは外しておきます。
参考書・資料	小林秀之編『判例講義民事訴訟法』(悠々社) 伊藤眞ほか編『民事訴訟法判例百選』(有斐閣) 伊藤眞=山本和彦/編『民事訴訟法の争点』(有斐閣)
担当者から一言	法律学において正解はありません。それぞれの異なる価値観の中で、何を重視するのか、どのような結果を望むのかを考えながら、皆でワイワイと語り合ひましょう。

授業コード	41M21		
授業科目名	演習（笹倉）		
担当者名	笹倉香奈（ササクラ カナ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
オフィスアワー	ゼミ時又はメールにて予約してください。相談があれば、気軽に声をかけてください。		

講義の内容	前期は、ゼミ生によるプレゼンテーションと討論を通じて、刑事訴訟法分野に関する基本的知識の確認を行います。後期は、模擬裁判のシナリオを作成し、上演します。
到達目標	刑事訴訟法の分野における諸問題について理解を深めることを目的とします。
講義方法	* 前期は、ゼミ形式で行います。プレゼンテーションの担当者は、あらかじめ下調べを入念に行い、レジュメを準備し、ゼミ当日にプレゼンテーションを行っていただきます。担当者の報告後、全員で討論を行います。 * 後期は、模擬裁判のシナリオを作成します。 * ゼミの時間帯以外にも、希望があれば、課外活動(裁判傍聴、施設見学、合宿等)を行います。
準備学習	刑事訴訟法Ⅰを履修済みであること。または、履修済みの者と同程度の知識を有していること。 刑事訴訟法Ⅱを履修中であること(必須)。
成績評価	出席状況、報告を担当する際のプレゼンテーション及び配付資料の内容、議論への参加の程度、その他受講態度を総合して評価します。通年で5回以上欠席した場合、7回以上遅刻した場合は、理由を問わず、原則として単位修得を認めません。

講義構成	第一回に話し合っ決定します。 講義の時間帯以外にも、受講生からの希望があれば、課外活動を行います。
教科書	上口裕、後藤昭、安富潔、渡辺修『刑事訴訟法〔第4版〕』（有斐閣、2006年） 井上正仁編『別冊ジュリスト・刑事訴訟法判例百選（第8版）』（有斐閣、2005年） *その他、受講生の関心に応じて、適宜文献紹介を行います。 *六法は必ず持参してください。
参考書・資料	田中開、寺崎嘉博、長沼範良『刑事訴訟法〔第3版〕』（有斐閣、2008年） 福井厚『刑事訴訟法講義・第4版』（法律文化社、2009年） 白取祐司『刑事訴訟法・第5版』（日本評論社、2008年）
担当者から一言	1年間のゼミが楽しいものになるかは、受講生の皆さんのゼミに対する姿勢次第です。課外活動の希望があれば、積極的に企画・参加してください。

授業コード	41027		
授業科目名	外交史I(前)		
担当者名	楠 綾子(クスノキ アヤコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	随時(要相談)		

講義の内容	19世紀末に近代国家建設へ歩みはじめた日本は、激動する国際政治のなかでどのように生存を確保しようとしてきたのか。グローバリゼーションの進展によって、複雑さと混迷をますます深めつつあるようにみえる現代の国際政治と、そのなかでの日本の方向性を考えるために、外交史は有力な材料を提供してくれるであろう。本講義は、とくに日本の対外関係のなかでもっとも重要な対米関係を中心に、開国から太平洋戦争までの日本の外交政策を解説する。
到達目標	19世紀末から太平洋戦争までの日本外交の諸特徴や諸問題について、系統立って理解していることが望ましい
講義方法	毎回の授業で配布するレジュメに沿って講義する。講義のスケジュールについては、初回の授業で説明する。
準備学習	・日ごろから新聞やテレビなどのニュース報道を通じて、外交・国際問題に関心をもつこと。 ・授業中に紹介した参考図書に親しむこと。
成績評価	小テスト(20%) 出席(10%) 期末テスト(70%)
講義構成	毎回の講義は、担当者による解説を基本とするが、ビデオ放映やディスカッションを行うことがある。
教科書	五百旗頭真編『日米関係史』（有斐閣、2008年）。
参考書・資料	授業中に適宜指示する。
担当者から一言	テレビや新聞などのニュースを通じて、日常的に外交・国際政治に関する情報に親しんでもらいたい。また、指定した教科書は、各自で読み進めてもらいたい。

授業コード	41028		
授業科目名	外交史Ⅱ(後)		
担当者名	楠 綾子(クスノキ アヤコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	随時(要相談)		

講義の内容	太平洋戦争は戦前日本の外交上の失敗といえるであろう。では、敗戦と占領を体験した日本は、激動する国際政治のなかでどのような外交を展開してきたのであろうか。グローバリゼーションの進展によって、複雑さと混迷をますます深めつつあるようにみえる現代の国際政治と、そのなかでの日本の方向性を考えるために、外交史は有力な材料を提供してくれるであろう。本講義は、日本の対外関係のなかでもっとも重要な対米関係を中心に、アジア諸国との関係を加えつつ、太平洋戦争から今日までの日本の外交政策を解説する。
-------	--

到達目標	1945年以後の日本外交の諸特徴と諸問題について、系統立って理解していることが望ましい
講義方法	毎回の授業で配布するレジュメに沿って講義する。講義のスケジュールについては、初回の授業で説明する。
準備学習	・日ごろからテレビや新聞などのニュース報道を通じて、外交・国際問題に関心をもつこと。 ・授業中に紹介する参考文献に親しむこと。
成績評価	小テスト(20%) 出席(10%) 期末テスト(70%)
講義構成	毎回の講義は、担当者による解説を基本とするが、ビデオ放映やディスカッションを行うことがある。
教科書	五百旗頭真編『日米関係史』(有斐閣、2008年)。
参考書・資料	五百旗頭真編『戦後日本外交史【新版】』(有斐閣、2006年)。そのほかは授業中に適宜指示する。

授業コード	41100		
授業科目名	外国文献講読(前)		
担当者名	馬場 優(ババ マサル)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	EU(欧州連合)の労働市場政策のキータームに「フレキシキュリティ(flexicurity)」がある。これは「柔軟性(flexibility)」と「安全(security)」の合成語である。この「フレキシキュリティ」はどのような内容なのであろうか。そして、日本の労働市場政策に適用可能なものなのであろうか。この講義では、2007年に出版されたフレキシキュリティに関する論文集(Henning Jorgensen & Per Kongshoj Madsen(eds.), Flexicurity and Beyond: Finding a new agenda for the European Social Model, (Copenhagen: DJOF Publishing, 2007)の第1章(pp.7-38)を手がかりにそれを考えていきたい。		
到達目標	「フレキシキュリティ」について一定の理解ができる。		
講義方法	毎回参加者全員でテキストを読み込んでいき、必要に応じてコメントを行う。		
準備学習	出席と予習は絶対的条件である。予習していない場合には、欠席と見なされると思っておいてほしい。		
成績評価	平常点で評価する。		
講義構成	第1回 使用テキストの配布や講義全体に関する説明など。 第2回以降 テキスト講読		
教科書	Henning Jorgensen & Per Kongshoj Madsen(eds.), Flexicurity and Beyond: Finding a new agenda for the European Social Model, (Copenhagen: DJOF Publishing, 2007) 第1回目にコピーを配布する。		

授業コード	41L01		
授業科目名	基礎演習(黒田)(前)		
担当者名	黒田忠史(クロダ タダブミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	法学部一年次学生を対象にしたこの科目(前期、2単位)では、これから4年間、法学を学ぶにあたっての「心構え」と、最低限の勉学の「定石」を身につけられるようにする。具体的で現代的な法律問題や事件を適時取り上げながら、関連法令・論文・判例などの集め方、読み方、レポートの書き方などについて手ほどきをしながら、法学という学問の重要性、難しさ面白さについて考えることができる機会としたい。		
到達目標	法学の学習方法を習得。		
講義方法	第3回までと第6回は他のクラスと共通。第4回以降は、下記の講義構成に掲げた現代法的なトピックスについて、配付資料を共同で熟読し、論点を整理し、ディベートを行うことによって、法学に関心を持てるようにする。		
準備学習	My Konanに掲載する「演習資料」を読み、議論の準備をしておくこと。		

成績評価	出席状況と演習への「参加度」で評価する。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第4回 法とは何か。法を学ぶことの意義 第5回 民事裁判と刑事裁判 第6回 法学会総会 第7回 「裁判員制度」(重大犯罪事件の判定実験) 第8回 刑罰と不法行為責任 第9回 損害賠償請求事件の判例(1) 第10回 同 (2) 第11回 「家族における法」 第12回 家族紛争の具体例(ディベート) 第13回 人権をめぐる具体的事例(ディベート) 第14回 まとめと全体討論。小論文作成練習。
教科書	特になし。
参考書・資料	池田真朗他『法の世界へ』第4版(有斐閣アルマ、2006年) 『現代法学入門』(一橋出版、2003年) 『新版・現代法学入門』第4版(有斐閣双書2005年) 唐澤宏明『はじめて学ぶ法学』(三省堂、2004年) 倉沢康一郎『プレップ法と法学』(弘文堂プレップ法学、1986年) その他、法学の入門的教科書。
担当者から一言	間違ってもいいので、積極的に質問したり意見を述べたりしようとする「意欲」をもって参加してほしい。

授業コード	41L02		
授業科目名	基礎演習（安西）(前)		
担当者名	安西敏三（アンザイ トシミツ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	随時、但し事前に連絡していただくと有り難い。		

講義の内容	現代政治の動向を基本的に認識するために、古今東西における、政治の見方について、入門的なテキストを通じて、共に考えてみよう。
到達目標	政治の見方について、基本的な智識の習得と考察能力の涵養を目指す。
講義方法	あらかじめ指定したテキストの箇所の内容を報告者に要約して発表してもらい、その後、質疑応答をすると言う、かたちで進めたい。
準備学習	あらかじめ該当箇所を読み、質問事項なり意見なりをメモ程度で良いのでノートしておくこと。
成績評価	出席と受講態度によって評価する。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第4回 政治と政治学及び法学について 第5回 「第一章 政治を考える視点 1 丸山真男、一九四九年の問いかけ」 第6回 法学会総会 第7回 「2 政治的統合の基本構造 3 主体の複数性と政治的統合」 第8回 「4 政治的統合のメカニズム 5 政治権力の魔性」 第9回 「第二章 政治をする精神 1 政治家と権力 2 政治家と魂 3 政治家と権力感情」 第10回 「4 政治家と判断力 5 政治家と責任問題」 第11回 「第三章 政治に関与する精神 1 丸山真男の問題提起 2 政治参加の意味」 第12回 「3 競争と選択 4 「正しく理解された自己利益」」 第13回 「終章 政党政治の精神 1 政党政治はもつのか 2 政党政治の構造」 第14回 「3 政治主導・政治家主導・首相主導 4 自民党システム 5 政党改革」
教科書	佐々木毅『政治の精神』(岩波新書、2009年)
参考書・資料	特に無いが、日々の新聞およびニュース。

講義関連事項	政治という人間の営みは、人間のあらゆる営みに関係するので、幅広い知識の修得と考察を心がけたい。
担当者から一言	気楽に話すことから、色々な問題点を浮き彫りにすることができるので、読後感なり、見たり聞いたりしたことについて、遠慮することなく話してくれることを希望する。
その他	教育活動の一環として、2, 3人ごとに当方負担で昼食を共にし、話し合う機会を設ける。

授業コード	41L03		
授業科目名	基礎演習（高野）(前)		
担当者名	高野清弘(タカノ キヨヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	金曜日3時～4時		

講義の内容	学ぶことの楽しさを実感していただくことを目標とする。あわせて、将来の設計の手がかりをつかんでいただければ幸いである。		
到達目標	本を読むこと、考えることの楽しさを理解すること。		
講義方法	近藤正臣『通訳者のしごと』(岩波ジュニア新書)を講読する予定である。報告者を決め、報告者に20分から30分報告してもらい、そのあと、参加者全員に、質問、討論への参加を求める。また、もう一冊課題図書を選定し、それについては、ワープロ40字36行3枚以上のレポートの提出を求める。購読する書物、ノート、筆記用具は必ず持参すること。		
準備学習	その週の個所を読み、質問を用意してくること。		
成績評価	平常点。欠席はなるべく避けること。事前連絡なく3回以上欠席した場合、単位を与えない。		
講義構成	第1回 共通講義(法学部長によるガイダンス、教員紹介) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法) 第3回 共通講義(キャリアセンターの活動紹介、法学・政治学の論文作成方法、課題設定) 第4回 将来の夢などを論題に、討論し、第5回以降の割り当てを決める。 第6回 法学会総会 第7回以降 上記の新書を、講読していく。		
教科書	近藤正臣『通訳者のしごと』(岩波ジュニア新書)。教科書はこちらで用意する。		
担当者から一言	なるべく楽しく討論したいと思っています。私は、先生らしくない先生を目指しているので、どうぞよろしく。		

授業コード	41L04		
授業科目名	基礎演習（小泉）(前)		
担当者名	小泉洋一(コイズミ ヨウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	法と宗教との関係は今日の世界中に見解が激しく対立している問題である。宗教の法は古代の国家法に大きな影響を与えてきた。また宗教は今日でも法に関する多くの問題を提起している。このような法と宗教との関係は法学部生がまず学ぶのに適した入門的な課題となる。 ただし法と宗教の関係はかなり複雑でもあるので、私が提起し解説した問題について、受講生各自が、私の指導の下で、調べ、考え、発表し、議論し、レポートを作成するまで実際にしてもらおう。また、これを通じて法学部でよりよく学んでいくために有益な技法と作法を受講生に伝える。		
到達目標	自分で調べ、考え、発表し、議論し、レポートを作成する仕方を習得する。さらに、法学の学習方法を身につけ、また基礎知識も習得する。これらの作業を繰り返して、法学部で学習する能力を開発する。		
講義方法	私が法と道德に関する基本的問題を提起したのち、受講生がその問題に関する文献、新聞記事や判例を検索し、それらを調べ、比較検討し、議論し合い、研究発表し合い、最後にレポートを作成する。その間、受講生は何回かグループまたは単独で研究発表することになる。		

準備学習	この科目の共通講義で指示される。第1回からすべて必ず出席すること。
成績評価	出席状況、研究発表、レポートを総合評価する。欠席回数が多いのは論外である。
講義構成	第1回 共通講義 第2回 共通講義 第3回 共通講義 第4回 法と宗教に関する問題提起 第5回 法と宗教、道徳に関する学び、勉強の仕方 第6回 法学会総会 第7回 法と宗教に関する簡単な発表、討論、法令、判例、新聞記事の検索 第8回 法と宗教(1)判例に関する研究発表(1) 第9回 法と宗教(2)判例に関する研究発表(2) 第10回 法と宗教(3)判例比較・それに基づく討論 第11回 法と宗教(4)研究発表・それに基づく討論 第12回 法と宗教・道徳に関する他の問題に関する研究発表 第13回 法と宗教・道徳に関する他の問題に関する研究発表 第14回 法と宗教 レポート提出・総括的な討論 以上は予定であり、受講生の人数や希望に応じて変更することもある。
教科書	私が配布する資料を教材とする
参考書・資料	受講生が各自で検索する。

授業コード	41L05		
授業科目名	基礎演習（西田）(前)		
担当者名	西田英一（ニシダ ヒデカズ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜 12:20－13:00		

講義の内容	法や裁判が、人びとの生活や社会とどう関わっているのかについて、具体的な課題解決作業を通じて、各人各様に実感してもらいたい。
到達目標	設定された課題(主として紛争解決方法の比較・評価)について、必要なデータを収集・加工し、報告にまとめることができる。
講義方法	第4回以降の少人数基礎演習クラスでは、4人1組の班に分かれて作業してもらう。法と社会に関連する簡単な問題・課題が与えられるので、それについて班で協力して調べて報告する。同一課題に対し2つ以上の班が報告し、毎回その優劣を受講者の投票によって決める。課題・報告は、各班とも2回以上行う。授業以外の時間に、班で集まって作業することもある。
準備学習	興味をもった新聞記事を、他の新聞と比較しながら読む。
成績評価	報告、期末個人レポート、出席状況によって評価する。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第4回 班分けと作業課題の説明 第5回 班別プレゼン作成作業 第6回 法学会総会 第7回 1回目報告(1) 第8回 1回目報告(2) 第9回 投票結果発表と講評 第10回 班別プレゼン作成作業 第11回 2回目報告(1) 第12回 2回目報告(2) 第13回 2回目報告(3) 第14回 個人レポート提出
教科書	使用しない。
参考書・資料	各班の課題解決ニーズに応じて、その都度紹介する。

担当者から一言	意味ある情報を探索し、つかまえた情報を加工し、それをいかにうまく発表するかを競う。
---------	---

授業コード	41L06		
授業科目名	基礎演習（中井）(前)		
担当者名	中井伊都子（ナカイ イツコ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	国際社会におけるさまざまな紛争を取り上げ、その原因と経緯そしてその解決方法を検討する。		
到達目標	国際社会における様々な紛争の存在とその原因を理解し、今後の学習において国際的な視野から考察する姿勢を培う。		
講義方法	履修生が選択した国際紛争について各自が調べて報告し、それに基づいて全員で議論する。		
準備学習	新聞の国際面を熟読し、どのような紛争を選択して報告するのか、またほかの履修生が報告するテーマについてどのような意見を出せるのか、常に考えるようにすること。		
成績評価	平常点（出席と議論への参加）40点、報告の内容とそのまとめ方＆プレゼンテーションの仕方60点。		
講義構成	第1回 共通講義（基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス） 第2回 共通講義（教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介） 第3回 共通講義（法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等） 第6回 法学会総会 第7回～第14回 履修生各自が選択した国際紛争をテーマとした報告と議論		
教科書	各自の報告テーマが決まった時点で、それに合わせた教科書および参考書を紹介する。		

担当者から一言	国際問題に興味があれば、まず新聞の国際面をしっかりと読んで理解し、わからないことは徹底的に調べる習慣を付けてください。
---------	---

授業コード	41L07		
授業科目名	基礎演習（前嶋）(前)		
担当者名	前嶋京子（マエシマ キョウコ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときは、アポイントをとること。		

講義の内容	日常生活にいかに関係しているのかを理解してもらおうと同時に、法を学ぶ楽しさを感じてもらいたいと思っている。 この授業では、報告テーマを割り当てられた報告者が調べてきたことを報告し、それについて皆で議論をしていくことになる。その過程で、他の人の意見を尊重しつつ、自分の意見や理解したことを、他の人に理論的に説明できるようになってもらいたい。 大学では、講義形式の授業が多いが、この授業は、学生が自ら積極的に調べてきたり、発言したりすることが重要視される。このような取り組みを通じて、法学的なものの考え方をだんだんと身につけていってもらいたい。		
到達目標	高校まででは、法というものについて、詳しく勉強したことがないと思われるので、これから法学を学んでいくために必要なことを身につけるのが、この授業における当面の目標となる。		
講義方法	第3回までは他のクラスと共通講義で、第6回は、法学会総会となる。第4回以降は、第6回を除き、講義構成にも掲げたように、報告者を決め、その報告をもとに、受講生皆で議論する形ですすめる。		
準備学習	報告者以外も発言を求められるので、しっかりと報告者の報告を理解することができるように、体調を整えておくこと（寝不足などの体調不良で、報告者や他の人の発言が理解できないようなことのないように、体調を管理すること）。 報告者以外も、報告予定のテーマについて予め学習しておくことが望ましい。		
成績評価	平常点にレポートを若干加味して評価する。 平常点は、出席率・報告の内容・議論への参加の積極性等の内容を吟味して評価する。		
講義構成	第1回 共通講義（基礎演習の趣旨・履修登録ガイダンス・教員紹介）		

	第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリーの活用法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法・国際交流センターガイダンス) 第4回 各自の自己紹介の後、ゼミの運営方針等について相談。レポートの書き方についての質問も受付ける。 第5回 レポートの提出。報告の割当。報告するためのレジュメの書き方等のガイダンス。 第6回 法学会総会 第7回以後 共通講義で学んだことを応用し、各受講生には、割当られた報告テーマについて調べてもらい、受講生皆の前で報告してもらう。詳細は第4回目の授業のときに受講者と相談して決定する(判決例等も題材とする予定)。
教科書	特に指定しない(必要に応じて資料を配付し、あるいは指示をする)。
参考書・資料	必要に応じて紹介する。
担当者から一言	法学を学ぶことの楽しさを少しでも実感してもらいたいの、積極的に取り組んでももらいたい。
その他	六法必携。

授業コード	41L08		
授業科目名	基礎演習（島田）(前)		
担当者名	島田 茂(シマダ シゲル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	毎回、授業の終了後、質問を受け付ける。		

講義の内容	目的→ 様々な法律科目を学んでいくための基礎的な能力(情報収集・整理、発表、レポート作成等の能力)をつけること 内容→ 新聞記事・ニュース等に現れた法律問題を取り上げ、報告と討議を行う。
到達目標	法学を学んでいくうえで必要とされる基礎的知識と考え方を身につける。
講義方法	毎回一定の人数の受講者に前もって与えられた課題に基づいて簡単な発表をしてもらい、それに対して参加者全体で質疑・応答を行う。次の回に全員に演習の内容をまとめたレポートを提出してもらう。 ・課題については、新聞記事・ニュース等からなるべく身近なものを選ぶ予定である。 ・発表を個人で行うか、グループで行うか等は履修人数を考慮して決定する。 ・ゼミで課題についての発表等を始める前に共通講義と六法の引き方、基本的な法律用語の意味等についての講義がある(「講義構成」参照)。
準備学習	事前に提示した課題は必ずやってくる
成績評価	出席点60パーセント、課題の発表、質疑応答及びレポート40パーセントで評価する。
講義構成	第1回 共通講義(法学部長によるガイダンス、教員紹介) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法) 第3回 共通講義(キャリアセンターの活動紹介、法学・政治学の論文作成方法、課題設定) 第4回 講義の進め方についての説明、発表のグループ分け等 第5回 六法の引き方、基本的な法律用語の意味 第6回 法学会総会 第7回 課題の発表、質疑・応答① 第8回 レポート提出①、課題の発表、質疑・応答② 第9回 レポート提出②、課題の発表、質疑・応答③ 第10回 レポート提出③、課題の発表、質疑・応答④ 第11回 レポート提出④、課題の発表、質疑・応答⑤ 第12回 レポート提出⑤、課題の発表、質疑・応答⑥ 第13回 レポート提出⑥、課題の発表、質疑・応答⑦ 第14回 レポート提出⑦、課題の発表、質疑・応答⑧ まとめ ※レポート⑧は後日提出。
教科書	未定
担当者から一言	・出席が成績評価において大きな比重を占めます。毎回必ず出席し、積極的に課題の発表と質疑・応答に参加してください。 ・法改正等が頻繁に行われています。六法は指定された最新のものを準備し、毎時間必ず持参して下さい。

授業コード	41L09		
授業科目名	基礎演習（金）（前）		
担当者名	金ムンスク（キム ムンスク）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	各回の講義後		

講義の内容	学生の日常生活において生じる、さまざま法律関係を法学的観点から認識し、全般的な法律問題に触れ、法律システムの全体像について理解を深める。とくに能力と契約とを関係づけ、六法の仕組みについて説明する一方、模擬裁判を行う。
到達目標	法学入門として法学の基礎知識を修得し、社会を法的視点で分析できる考え方の土台を作る。
講義方法	講義を行うとともに、学生全員がテーマについて討論を行う。
準備学習	各講義の内容につき自主的にノートがとれるように、事前に配布された関連資料を予習する。講義後は、講義内容を積極的に復習する。
成績評価	報告と議論への参加度合い（70%）、提出されたレポート（30%）に応じて評価をつける。正当な理由なき欠席あるいは事前の連絡なき欠席が3回に達した場合、単位が得られない可能性が高い。出席は最低限の要件であるが、出席だけでは合格点とならない。
講義構成	第1回 共通講義（基礎演習の趣旨・教員紹介・履修登録ガイダンス・国際交流センターガイダンス） 第2回 共通講義（教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリーの活用法、キャリアセンターの活動紹介） 第3回 共通講義（法学・政治学の論文作成方法、各ゼミでの打合わせ） 第4回 レポート検討 第5回 法学入門 第6回 法学会総会 第7回 未成年者の能力 第8回 契約書の作成 第9回 紛争解決方法 第10回 模擬裁判 第11回 判決文の読み方 第12回 六法の仕組み 第13回 各国における法律の相違 第14回 まとめ
教科書	適時、関連資料を配布する。
担当者から一言	学生の積極的な参加を希望する。

授業コード	41L10		
授業科目名	基礎演習（山本）（前）		
担当者名	山本真知子（ヤマモト マチコ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	月曜4限。その他についてはアポイントを取ること。		

講義の内容	新聞記事・ニュース等に現れた法律問題を取り上げ、報告と質疑応答を行う。
到達目標	法学部で学んでいくための基礎的な能力（情報収集・整理、発表、レポート作成等の能力）を身につける。
講義方法	・毎回一定の人数の受講者が前もって与えられた課題について報告をし、それについて参加者全員で質疑応答を行う。報告者は、次の回に演習の内容を踏まえたレポートを提出する。 ・課題については、新聞記事・ニュース等からなるべく身近なものを選ぶ予定である。

	・発表を個人で行うか、グループで行うか等は履修人数を考慮して決定する。 ・ゼミで課題についての発表等を始める前に共通講義と六法の引き方、基本的な法律用語の意味等についての講義がある(「講義構成」参照)。
準備学習	・日ごろから新聞を読みニュースを見る。 ・毎週の課題についての事前学習。報告者はレジュメと報告原稿を用意する。 ・レポートの作成。
成績評価	出席、課題の報告・質疑応答55パーセント、レポート45パーセントで評価する。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の趣旨、科目登録注意ガイダンス、教員紹介、教員への質問) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、文献資料のある場所・探し方について、キャリアセンター活動紹介) 第3回 共通講義(小論文・レポートの書き方、国際交流センターガイダンス等) 第4回 六法の引き方、基本的な法律用語の意味 第5回 報告・質疑応答① 第6回 法学会総会 第7回 レポート提出①、報告・質疑応答② 第8回 レポート提出②、報告・質疑応答③ 第9回 レポート提出③、報告・質疑応答④ 第10回 レポート提出④、報告・質疑応答⑤ 第11回 レポート提出⑤、報告・質疑応答⑥ 第12回 レポート提出⑥、報告・質疑応答⑦ 第13回 レポート提出⑦、報告・質疑応答⑧ 第14回 レポート提出⑧、レポートの書き方について
教科書	1 弥永真生『法律学習マニュアル[第3版]』(有斐閣、2009年) 2『ポケット六法 平成22年度版』(有斐閣、2009年)(最新のもの)
参考書・資料	新聞記事等
担当者から一言	・出席が成績評価において大きな比重を占めます。毎回必ず出席し、積極的に課題の報告と質疑・応答に参加してください。 ・法改正等が頻繁に行われています。六法は指定された最新のものを準備し、毎時間必ず持参して下さい。

授業コード	41L11		
授業科目名	基礎演習(池田)(前)		
担当者名	池田佳隆(イケダ ヨシタカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	ナショナリズムに関するテキストを題材として、政治学や国際関係論の基本的な考え方を学ぶことを目的とする。 それとともに、レジュメの作成や口頭発表の方法などについても説明する。
到達目標	政治学や国際政治学の基本的な概念を理解する。 様々な情報をまとめた上で自分の意見を発表できるようになる。
講義方法	毎回報告の担当者を決め、その報告の後に全員で議論する。
準備学習	テキストの該当部分を読んでおく。
成績評価	報告時のパフォーマンスと議論への貢献度を総合的に評価する。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第4回 自己紹介と報告者の決定 第5回 報告と議論 第6回 法学会総会 第7回～第13回 報告と議論 第14回 まとめの議論

教科書	大澤真幸・姜尚中編『ナショナリズム論・入門』有斐閣、2009年
担当者から一言	テレビ・新聞・インターネットなどを通じて、色々なニュースに興味を持つようにしておいてください。

授業コード	41L12		
授業科目名	基礎演習（桑岡）(前)		
担当者名	桑岡和久(クワオカ カズヒサ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	契約や事故、家族といった生活に関わる民法の基本的な事柄
到達目標	契約など具体的なケースを素材に講義や教科書で得た法律の知識を使って自ら解決を試みる作業を通じて、法律学の基本的な考え方を身につけることを目的にしています。
講義方法	報告と討論によって進めます。
準備学習	各テーマごとに教科書の該当範囲を読み込んだ上で、具体的なケースについて法的にどのように解決されるかを考える。
成績評価	発表と討論での発言が主な評価対象です。出席も加味します。
講義構成	第1回 共通講義(法学部長によるガイダンス、教員紹介) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法) 第3回 共通講義(キャリアセンターの活動紹介、法学・政治学の論文作成方法、課題設定) 第4回 基礎演習ガイダンス 第5回 民法とは何か 第6回 法学会総会 第7回 権利とは何か、義務とは何か／権利はどのように実現するのか 第8回 契約① 契約が成立する時点での問題 第9回 契約② 契約する人の問題(代理) 第10回／第11回 契約③ 契約を実現する段階の問題 第12回 家族法 第13回 不法行為 第14回 物権、とくに所有権
教科書	野村豊弘「民法入門」 最新版を用意してください
参考書・資料	六法を持参してください

授業コード	41L13		
授業科目名	基礎演習（武井）(前)		
担当者名	武井 寛(タケイ ヒロシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	世情問題となっている(つまり、多様なまたは相対立する見解が存在する)ことがら(新聞記事・各種ニュース等で取り上げられている問題—たとえば、臓器移植、介護・高齢者医療、米軍基地と日米安保、年金、夫婦別姓、取り調べの可視化等々)について議論することを通して、今後専門科目を学んでいくための基本的な作法(情報収集・整理、検討、レジュメの作成、報告、議論、レポート作成等)を身につけてもらいたいと思っています。
到達目標	どのような問題であれ、一定の論拠・理由を示して、自分なりの考えを人に伝えることができるようになること。
講義方法	何人か(受講生の数により変動する)でグループを作り、グループごとに、選択したテーマについて情報収集をし、分析・検討し、一定の見解を提示してもらい、それに基づいて、全員で議論を行っていきます。
準備学習	新聞で特集して取り上げられるテーマなどにつき、日頃から注意し、読み込むこと。

成績評価	総合評価になりますが、おおむね、出席が5割、テーマに関する検討・報告等への関与が3割、質疑応答への参加が2割というあたりになるでしょう。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第4回 自己紹介、グループ分け、テーマの設定 第5回 テーマの設定(続き[予備])、順番設定、資料収集その他 第6回 法学会総会 第7回以降 各グループの報告とそれにもとづく質疑・討論
教科書	なし。受講生の提示した報告が、すなわち教科書ということになります。
参考書・資料	なし。受講生の提示したものが…(以下同文)。
講義関連事項	第4回講義において、各人の興味・関心をもっている社会(法律問題含む)問題について、ひとりひとり述べてもらいますので、あらかじめ考えておいてください。
担当者から一言	毎日新聞を読み、記事と対話してみてください。そして、どのような法律がそれと関係しているか考えるようになれば、さらに、それについて自分で調べ始めるようになれば、どんな専門科目もだいじょうぶ…かも知れません。

授業コード	41L14		
授業科目名	基礎演習（住田）(前)		
担当者名	住田英穂(スミタ ヒデホ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	木曜日の昼休み 事前に連絡するようにして下さい。		

講義の内容	今後、法律学を学んでいく上で必要になる学習方法を身につけてもらうようにしたいと思います。具体的には、①文献・資料の検索・収集、②文献・資料の精読・分析、③レジュメの作成、④発表、⑤レポートの作成の5つの場面にわたって、指導を行いたいと思います。
到達目標	① 課題にそって、図書館を利用して調査・分析することができること。 ② 調査・分析した成果を、レジュメにわかりやすくまとめることができること。 ③ 調査・分析した成果を、レポートにまとめることができること。
講義方法	グループごとに課題を割り当て、レジュメを作成し、報告をしてもらい、その後に、全員で討論を行います。報告したテーマについて、各自、レポートを提出してもらいます。なお、担当教員の専攻は、民法ですので、課題も民法に関連するものになります。
準備学習	毎回、課題を出すので、きちんと予習してゼミに参加するようにして下さい。
成績評価	①出席 ②発表 ③レジュメ ④レポート ⑤討論における発言の5つを評価の対象にします。特に、③レジュメと④レポートは、大きなウエイトを占めます。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の趣旨、教員紹介、履修ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法 国際交流センター活動紹介等) 第4回 今後の活動の打ち合わせ、報告者の割り当て 第5回 担当グループによる報告 第6回 法学会総会 第7回以降 担当グループによる報告
教科書	課題に応じて、適宜指示するようにします。
参考書・資料	課題に応じて、適宜指示するようにします。
担当者から一言	大学では、自ら、問題を発見し、調査・分析をしていくことが要求されます。受講生には、物事が主体的に考えられるようになって欲しいと切に願っています。

授業コード	41L15
-------	-------

授業科目名	基礎演習（久保）(前)		
担当者名	久保はるか(クボ ハルカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	随時行います。あらかじめご連絡ください。		

講義の内容	次の3つを目的とします。 第一に、「政治」とは何なのか、何故我々は政治に参加する必要があるのか……その基本的な考え方と政治の仕組みを学ぶとともに、現代社会の問題を考えます。 第二に、専門書を精読し要約すること、参考文献・資料の探し方、レジュメの作り方、発表の仕方、議論の仕方を学んでもらいます。これらは大学で是非身につけてもらいたいスキルです。 第三に、レポートの書き方を指導します。
到達目標	第一に、政治参加についての基本的な考え方と政治の仕組みについて理解し、現代社会の問題を考察すること。 第二に、専門書を精読し要約すること、参考文献・資料の探し方、レジュメの作り方、発表の仕方、議論の仕方を習得すること。 第三に、形式を整えたレポートを仕上げること。
講義方法	担当者を割り振り、あるいはグループごとに、割り当てられた課題文献についてレジュメを作成・報告してもらい、その後、全員で議論をします。 2回ほど、あらかじめ提出された課題レポートの指導の時間を設けます。演習での学習とレポート指導をふまえて、最終的にレポートを書き直し再提出してもらいます。
準備学習	今何が起こっているのか、何が問題なのか……日ごろから新聞等を読む習慣をつけましょう。
成績評価	出席状況、報告内容、議論への貢献の度合い、レポートから総合的に評価します。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第6回 法学会総会 第4回以降: 担当者あるいはグループによる報告と議論(ゼミ形式)+レポートの書き方指導 第14回: 最終レポートの提出
教科書	文献・資料を配布します。 担当者には、必要に応じて、関連文献・資料の探し方を指導します。
担当者から一言	ゼミには、受身ではなく積極的な姿勢で臨みましょう！

授業コード	41L16		
授業科目名	基礎演習（櫻井）(前)		
担当者名	櫻井智章(サクライ トモアキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	未定(追って連絡します)		

講義の内容	元榮太郎『刑事と民事』を読む。 この本は、副題「こっそり知りたい裁判・法律の超基礎知識」が示すように、法や裁判に関する基本的な事柄を扱ったものです。
到達目標	文献を読んで報告することを通じて、法学に関する基礎的な知識を学ぶとともに、①内容を的確に理解する能力、②理解した内容を他人にも理解できるようにまとめる能力、③分かりやすいように伝える能力、を身につけることを目的とする。 併せて、今後法学を勉強してゆく際に必要となってくる、判例・法令や文献を収集する方法を身につけることも目的とする。
講義方法	担当者が報告し、その後、質疑応答を行う。 適宜、教員が補足・解説・コメントを加える。
準備学習	毎回、教科書の該当箇所を読んでくる。

成績評価	総合評価で判断しますが、概ね 出席・授業態度(60点)、レポート(10点)、報告(30点) と考えてください。 出席は厳しくとります。 詳細は第4回のガイダンスの際に説明します。
講義構成	第1回 共通講義 第2回 共通講義 第3回 共通講義 第4回 ガイダンス、担当者の決定等 第5回 報告・質疑応答 第6回 法学会総会 第7回～第14回 報告・質疑応答
教科書	元榮太郎『刑事と民事』(幻冬舎新書、2008年) 教科書は担当教員が準備するので、受講者が購入する必要はありません。 第4回(最初の個別授業)に配布します。
参考書・資料	第4回のガイダンスの際に説明します。 その際に説明しますが、小型の六法を必ず持参してください。
担当者から一言	やる気のある学生を待っています。

授業コード	41L17		
授業科目名	基礎演習(岡森)(前)		
担当者名	岡森識晃(オカモリ シアキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜昼休み		

講義の内容	法学を学ぶに当たって必要な技能、すなわち、文献検索、レジュメの作成及び報告の手法を習得するとともに、これらを駆使して、興味を持った環境問題や環境法について報告し、全員で討論する。
到達目標	環境問題及び環境法に関する基礎的な知識を習得することができる。 文献検索、レジュメの作成及び報告の手法を習得することができる。
講義方法	ゼミ形式で行う。演習の進め方など、詳細については、顔ぶれがそろってから、相談して決定する。基本的には、報告者による報告と全員での討論という形式をとる。
準備学習	環境問題及び環境法に対する問題意識をもって受講することが望ましい。
成績評価	出席状況、ゼミ報告等を総合的に判断して行う。
講義構成	1. 教員紹介(共通講義) 2. 文献資料の探し方(共通講義) 3. 論文作成の仕方(共通講義) 4. 報告テーマの設定 5. 資料収集 6. 法学会総会(共通講義) 7. 資料収集 8. レジュメ作成 9. レジュメ作成 10. レジュメ作成 11. 報告 12. 報告 13. 報告 14. 報告 15. 報告
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	南博方・大久保規子『要説環境法(第4版)』(有斐閣・2009年)。
担当者から一言	報告では、はじめて聞く人にわかりやすく発表し、討論では、積極的に参加することができるよう心がけて下さ

	い。
--	----

授業コード	41L18		
授業科目名	基礎演習（森永）(前)		
担当者名	森永真綱(モリナガ マサツナ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	刑事法のアクチュアルなテーマを素材に、法学へのアプローチを行う。テーマは刑罰の存在意義、テロリズム、公訴時効制度などを予定している。		
到達目標	法学を学ぶ上で必要な基礎的能力を培うことを目的とする(情報収集・整理、発表、質疑・応答、レポート作成の方法など)。		
講義方法	共通講義・総会以外の回は、担当者に一つのテーマについて報告してもらい、それについて全員で討論を行う。		
準備学習	武藤眞朗ほか『法を学ぶパートナー(補訂版)』(成文堂・2009)を一通り読んでおくことが望ましい。		
成績評価	発表内容および討論における発言内容、受講態度によって評価する。出席状況も加味する。		
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第6回 法学会総会 それ以外の回については、担当者に一つのテーマについて報告してもらい、それについて全員で討論を行う。テーマはテロリズム、公訴時効制度などを予定している。		
教科書	武藤眞朗ほか『法を学ぶパートナー(補訂版)』(成文堂・2009) 『ポケット六法 平成22年度版』(有斐閣・2009)、『セレクト六法 平成22年度版』(岩波書店・2009)などの小型の六法一冊。		

授業コード	41L19		
授業科目名	基礎演習（田中）(前)		
担当者名	田中誠人(タナカ マコト)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	社会における法律・法制度に関する問題点をピックアップし、問題意識を受講生全員で共有したうえで、当該問題をどのように考えるべきか、議論・検討する。		
到達目標	基本的な資料の集め方から、議論の進め方、他者の意見を聞き、分析し、自己の意見を表明することに習熟することを心がけながら、社会における様々な法的問題につき、知識を高める。		
講義方法	各自(人数が多い場合には各グループ)が問題を提起し、その問題の内容や資料を紹介したうえで(前週後半30分程度)、各自がその問題を検討し、議論を行う(次週前半1時間程度)。		
準備学習	社会においてどのような問題が生じているか日々関心を高め、新聞などをしっかりと読み、ニュースを聞くなど、情報収集を心がけたうえで、さらにもう一步、自分がどのように感じるか、問題は何かなど、分析を行う姿勢を身につけていただきたい。		
成績評価	受講態度、議論への参加状況など、総合的な判断(50%) 自分の提起した問題につき、議論を経た最終的な私見についてのレポート(50%)		
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の主旨、教員紹介、履修登録ガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリの活用方法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、国際交流センター活動紹介等) 第4回 ガイダンス・課題設定・班分け・演習方針・サンプル提示 第5回 サンプルディスカッション＋初回テーマ設定 第6回 法学会総会 第7～14回 ディスカッション＋次週テーマ設定		

教科書	新聞、インターネット、論文など、必要に応じて参照。
参考書・資料	必要に応じて、適宜アドバイスをを行う。
担当者から一言	法律学において正解はありません。それぞれの異なる価値観の中で、何を重視するのか、どのような結果を望むのかを考えながら、皆でワイワイと語り合しましょう。

授業コード	41L20		
授業科目名	基礎演習（益澤）(前)		
担当者名	益澤 彩(マスザワ アヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	講義後		

講義の内容	身近な法律問題をテーマにして、法学部で学ぶための基礎的なことから(文献の利用・検索、文章作成、プレゼンテーション・質疑応答など)を行います。		
到達目標	文献の利用・検索、文章作成、プレゼンテーション、質疑応答などの基礎的な能力を身につけること		
講義方法	・クラス別の初回の講義(第4回) グループ分け、テーマの割当、文献配布など ・第5回以後の講義 担当グループによるレジュメを用いたプレゼンテーション 上記プレゼンテーションをもとに全員で質疑応答 共通講義の内容やテーマにそくして、教員からの補足・解説		
準備学習	普段から、ニュースを聞いたり新聞を読むようにして下さい。 講義で取り上げるテーマに関しては、別途、指示します。		
成績評価	①出席率・レポート(60点)、②プレゼンテーション・質疑応答への参加状況などの授業態度(40点)で評価します。 「欠席(K)」は、①で20点未満の場合です。		
講義構成	第1～3回 共通講義(142教室) 第4回 クラス別(オリエンテーション、グループ分けなど) 第5回 クラス別 第6回 法学会総会 第7回～14回 クラス別		
教科書	クラス別講義で用いる文献・資料は、第4回講義以後に教員から配布する。		

授業コード	41L21		
授業科目名	基礎演習（笹倉）(前)		
担当者名	笹倉香奈(ササクラ カナ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	講義時又はメールにて事前に予約してください。		

講義の内容	受講生によって行われるプレゼンテーションと、それを受けた討論によって、刑事法分野の問題に関する理解を深めるゼミです。各自で行っていただくプレゼンテーションのトピックの選択は自由です。刑事法入門の受講生であれば、講義で扱った内容を、復習を兼ねてもう一度取り上げていただくということでもかまいません。		
到達目標	刑事法を中心とした諸問題を素材として、大学での学習方法と法学の基礎的な考え方を身につけ、プレゼンテーションの方法、議論の仕方を習得することを目的とします。		
講義方法	ゼミ形式で行います。各自でトピックを選択し、下調べを行ってレジュメを準備し、ゼミ当日にプレゼンテーションをして頂きます。報告後、全員で討論を行います。		
準備学習	「刑事法入門」を履修していること。		

成績評価	出席状況、報告を担当する際のプレゼンテーション及び配付資料の内容、議論への参加の程度、その他受講態度を総合して評価します。議論への積極的な参加が、単位修得の大前提です。
講義構成	第1回 共通講義(基礎演習の趣旨・教員紹介・履修登録ガイダンス・国際交流センターガイダンス) 第2回 共通講義(教材関連ガイダンス、図書館・サイバーライブラリーの活用法、キャリアセンターの活動紹介) 第3回 共通講義(法学・政治学の論文作成方法、各ゼミでの打合わせ) 第4回 自己紹介、グループ分け・担当の割当て 第5回 資料の探し方の練習 第6回 法学会総会 第7回以降 各グループの報告・討論
教科書	特に指定しません。受講生の関心に応じて、適宜文献紹介を行います。 六法は必ず持参してください。
講義関連事項	受講生からの希望があれば、課外活動として裁判所見学(または裁判傍聴)等を開催します。課外活動の実施は、金曜日の午後の時間帯になります。
担当者から一言	* 自分が報告担当でないときにも、他の受講生の報告や議論から学ぶことは多くあります。常に積極的に講義に参加してください。大学では、自ら問題を発見し、探求していくというプロセスが大切です。そうして、そのようなプロセスを体験することで、勉強の本当の楽しさを見つけられることができると思います。 * 「刑事法入門」を選択している者で、さらに刑事法を勉強したいという意欲がある者を歓迎します。

授業コード	41023		
授業科目名	行政学I (前)		
担当者名	久保はるか(クボ ハルカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	随時行います。あらかじめメールでご連絡ください。		

講義の内容	「行政」という主体について、どのようなイメージを持っているでしょうか。社会問題を解決してくれるありがたい存在でしょうか、それとも税金を無駄遣いする迷惑な存在でしょうか。政治が決定したことを肅々と執行する姿でしょうか、それとも政治をも凌駕する巨大な権力者でしょうか。 行政学Ⅰでは、まず、「行政」とはどのような存在であるのか、政府(行政)活動の位置づけの歴史的変遷と、行政学の議論を紹介します。そして、現代日本の統治構造における行政の位置づけと制度を確認します。全体を通して、行政と政治との関係、行政と民間との関係から、「行政」とは何かを考えていきます。
到達目標	授業では、公務員試験を受験する学生にも対応しうよう、基本的な概念の解説を心がけますが、単に用語を暗記するのではなく、「行政」を見る視点を身につけてもらいたいと思います。
講義方法	講義形式にて行います。 授業は特定の教科書に沿った構成としていませんが、随時参考とするべき基本的文献と該当ページを毎回示しますので、復習に活用してください。
準備学習	常日頃新聞等に目を通し、現在の政治行政の動きを追っておくことが望ましい。 復習には、授業で配布するレジュメに加えて、各自の目的にあった参考書の該当ページを読むとよいでしょう。
成績評価	期末試験の成績を基本とします。
講義構成	[ガイダンス] 「行政」のイメージ? 授業の進め方、テキストの紹介と成績評価の説明。 Ⅰ. 「行政」とは何か Ⅰ-1. 行政の活動範囲の変化: 近代国家から福祉国家へ Ⅰ-2. 行政主体の変化: 近代官僚制から現代公務員制へ Ⅰ-3. 「行政学」の発展: アメリカ行政学の形成と展開を中心に Ⅱ. 統治構造と政府間関係 Ⅱ-1. 議院内閣制度と行政改革 Ⅱ-2. 官民関係の変化とNPM・行政改革 Ⅱ-3. 中央地方関係(政府間関係)
教科書	授業は特定の教科書に沿った構成としていませんが、随時参考とするべき基本的文献として、とりあえず次のようなものをあげておきます。各自の目的にあったものを選んでもらえるよう、第1回のガイダンスで文献の説明をします。 真淵勝『行政学』有斐閣、2009年

	今村都南雄ほか『ホーンブック基礎行政学』北樹出版、2006年 森田朗『改訂版 現代の行政』放送大学教育振興会、2000年 西尾勝『行政学(新版)』有斐閣、2001年 行政学ⅠとⅡを通年で受講する予定の者は、最新の教科書である真淵勝『行政学』を購入することをお勧めします。
参考書・資料	参考書については上記参照。 資料については、授業で適宜配布します。

担当者から一言	第1回目のガイダンスで、試験の形式や成績評価の詳細を説明しますので、受講者は必ず出席してください。
---------	---

授業コード	41024		
授業科目名	行政学Ⅱ(後)		
担当者名	久保はるか(クボ ハルカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	随時行います。あらかじめご連絡ください。		

講義の内容	行政学Ⅱでは、行政の組織と活動に焦点を当てます。 まず、官僚制と行政組織に関する理論を学び、次いで、日本の行政組織の体系と意思決定の仕組み、公務員制度を取り上げ、日本の官僚制の特徴を学んでもらいます。また、地方自治体の組織と活動についても取り上げます。最後に、行政活動のシナリオとなる政策について取り上げ、最後に行政の活動を社会との関係から理解してもらいます。
到達目標	行政学Ⅰでは、「行政」とは何かを学びましたが、行政学Ⅱでは、「行政」の具体的な姿を学びます。授業では、公務員試験を受験する学生にも対応しうよう、基本的な概念の解説を心がけますが、単に用語を暗記するのではなく、日本の行政の組織や活動の実態と課題について説明できるようになります。
講義方法	講義形式にて行います。 授業は特定の教科書に沿った構成としていませんが、随時参考とするべき基本的文献と該当ページを毎回示しますので、復習に活用してください。
準備学習	行政学Ⅰで説明した基本的な概念を前提とする部分がありますので、行政学Ⅰを受講していたほうが望ましい。 また、平日頃新聞等に目を通し、現在の政治行政の動きを追っておくことが望ましい。 復習には、授業で配布するレジュメに加えて、各自の目的にあった参考書の該当ページを読むとよいでしょう。
成績評価	期末試験の成績を基本とします。
講義構成	0. ガイダンス:授業の進め方、テキストの紹介と成績評価の説明。 1. 行政組織と官僚制 1-1. 官僚制とは(ウェーバーの官僚制論) 1-2. 行政組織理論 2. 日本の行政組織(中央省庁体系) 3. 日本の中央省庁の決定方式 3-1. 内閣提出法案の作成過程 3-2. 予算編成過程の意思決定 4. 日本の公務員制度 4-1. 現代公務員制度の構成原理 4-2. 日本の公務員制度 5. 日本の地方自治 5-1. 都道府県と市区町村 5-2. 地方自治体の統治機構 5-3. 地方自治体の骨格:組織・人事・財政 6. 政策過程 7. 行政活動と社会
教科書	授業は特定の教科書に沿った構成としていませんが、随時参考とするべき基本的文献として、とりあえず次のようなものをあげておきます。各自の目的にあったものを選んでもらえるよう、第1回のガイダンスで文献の説明をします。 真淵勝『行政学』有斐閣、2009年 今村都南雄ほか『ホーンブック基礎行政学』北樹出版、2006年

	西尾勝『行政学(新版)』有斐閣、2001年 森田朗『改訂版 現代の行政』放送大学教育振興会、2000年 行政学ⅠとⅡを通年で受講する者は、最新の教科書である真淵勝『行政学』を購入することをお薦めします。
参考書・資料	参考書については上記参照。 資料については、授業で適宜配布します。

担当者から一言	第1回目のガイダンスで、試験の形式や成績評価の詳細を説明しますので、受講者は必ず出席してください。
---------	---

授業コード	41048		
授業科目名	行政救済法I（後）		
担当者名	島田 茂(シマダ シゲル)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	毎回、講義の終了時に質問を受け付ける。		

講義の内容	行政事件訴訟法の一部を改正する法律が平成16年6月9日に公布された。行政事件訴訟法の改正は、司法制度改革の一環として行われ、義務づけ訴訟や差止訴訟などが新たに規定されることになった。講義では、この行政事件訴訟の改正も視野に入れて、行政救済法の中心的な存在である行政事件訴訟の全体的な構造を明らかにする。
到達目標	わが国の行政救済システムの概要を理解するとともに、その問題点と限界を認識すること。
講義方法	通常の講義方法を採用する。
準備学習	毎回、講義の最後で、次の講義のテーマを知らせるので、事前に教科書等で該当部分を予習しておくこと。
成績評価	期末試験で評価する。
講義構成	1. 行政救済法の基本的な考え方 2. 行政訴訟制度と行政不服申立て制度 3. 行政訴訟法に関わる基本的諸概念 4. 行政訴訟の種類 5. 取消訴訟の機能 6. 訴えの利益 7. 処分性 8. 無効確認訴訟 9. 義務づけ訴訟と差止訴訟 10. 仮の救済 11. 取消訴訟の審理・判決 12. 行政裁量の司法統制 13. 客観訴訟 14. まとめ—行政争訟制度の課題
教科書	未定

授業コード	41049		
授業科目名	行政救済法Ⅱ(後)		
担当者名	岡森識晃(オカモリ シアキ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜昼休み		

講義の内容	行政救済法(行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家補償)のうち、国家補償について講義する。国家補償制度は、損失補償制度と損害賠償制度からなる。関連法令や判例を参照しつつ、制度の概要及び問題点について検討する。
到達目標	国家補償の基礎的な知識を習得することができる。

講義方法	講義形式で行う。
準備学習	行政法総論Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。 行政救済法Ⅰを履修していることが望ましい。
成績評価	期末試験の成績で評点する。
講義構成	- はじめに - 損失補償とは - 損失補償の法的根拠 - 損失補償の内容と方法 - 開発利益の社会還元とは - 国家賠償とは - 国家賠償制度の法的根拠－国家賠償法の制定－ - 公権力の行使に基づく損害賠償(1)－責任の性質－ - 公権力の行使に基づく損害賠償(2)－国又は公共団体・公権力の行使－ - 公権力の行使に基づく損害賠償(3)－公務員・その職務を行うについて－ - 公権力の行使に基づく損害賠償(4)－故意・過失－ - 公権力の行使に基づく損害賠償(5)－違法性－ - 公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく損害賠償(1)－公の営造物－ - 公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく損害賠償(2)－設置管理の瑕疵－ - まとめ
教科書	教科書 南博方『行政法(第6版)』(有斐閣・2009年)。
参考書・資料	小早川光郎・宇賀克也・交告尚史編『行政判例百選Ⅱ(第5版)』(有斐閣・2006年)。 その他の文献については、講義の折に適宜指示する。

担当者から一言	講義では、条文や判例を参照するので、六法及び判例集を持参することをお勧めします。
---------	--

授業コード	41A91		
授業科目名	行政法総論I（1クラス)(前)		
担当者名	岡森識晃(オカモリ シアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	法学部2年次		
オフィスアワー	水曜5限		

講義の内容	行政法は、行政権の濫用を防ぐために、行政を法によって拘束し、もって国民の人権を保護し、公共の福祉に寄与することを目的としている。この講義においては、行政法総論のうち、行政法とはどのような法か、行政上の法律関係とはどのようなものか、行政は誰が行うか、行政はどのような作用を行うか、行政行為とは何か、行政行為はどのような効力をもつかについて、主に検討する。各テーマは、基礎編と応用編からなる。基礎編では、そのテーマに関する基礎理論を外観し、応用編では、そのテーマに関する論点を取り上げて、詳細に分析する。
到達目標	行政法に関する基礎的な知識を習得することができる。 時事問題を行政法の視点から見ることができるようになる。
講義方法	講義形式で行う。
準備学習	公法入門を履修していることが望ましい。
成績評価	期末試験の成績で評点する。出欠をとることもある。
講義構成	- はじめに - 行政法とはどのような法か(基礎編) - 行政法とはどのような法か(応用編) - 行政は誰が行うか(基礎編) - 行政は誰が行うか(応用編) - 行政はどのような作用を行うか(基礎編) - 行政はどのような作用を行うか(応用編) - 行政上の法律関係とはどのようなものか(基礎編) - 行政上の法律関係とはどのようなものか(応用編) - 行政行為とは何か(基礎編) - 行政行為とは何か(応用編)

	12. 行政行為はどのような効力をもつか(基礎編) 13. 行政行為はどのような効力をもつか(応用編) 14. 行政行為以外の行政作用にはどのようなものがあるか 15. まとめ
教科書	南博方『行政法(第6版)』(有斐閣・2009年)。
参考書・資料	小早川光郎・宇賀克也・交告尚史編『行政判例百選 I (第5版)』(有斐閣・2006年)。 その他の文献については、講義の折に適宜指示する。
担当者から一言	応用編では基礎編で得た知識を前提として講義するので、基礎編をしっかりと理解した上で、応用編を受講する必要があります。

授業コード	41A92		
授業科目名	行政法総論I（2クラス)(前)		
担当者名	長谷川佳彦(ハセガワ ヨシヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	法学部2年次以外		

講義の内容	行政法は、行政に特有または固有の法といわれるが、行政の活動が広範に及んでいる現在、われわれの日常生活と密接に関係する法分野でもある。行政法総論 I では、行政法の全体像を概観した上で、法律による行政の原理など、行政法の基本原理について講義を行う。あわせて、行政組織法の一般理論についても説明する。
到達目標	1. 行政法の存在意義と体系を説明することができる。 2. 法律による行政の原理などの行政法の基本原理について、具体例を挙げて説明することができる。 3. 行政組織法の一般理論を説明することができる。
講義方法	レジュメを配布し、それに基づいて講義形式で行う。
準備学習	1. 憲法の講義などを通じて、憲法の知識を修得していることが望ましい。 2. 予め教科書の該当箇所やレジュメを読んでアウトラインをつかんだ上で、講義に臨んでもらいたい。 3. 復習の際には、教科書やレジュメをもう一度読み直して理解を定着させるとともに、余力があれば参考書を用いてより高度な知識を身につけるよう努めてほしい。
成績評価	定期試験の成績で評価する。
講義構成	第1回 オリエンテーション・行政法の意義 第2回 行政法の全体像 第3回 行政法の法源・行政法令の効力 第4回～第6回 法律による行政の原理 第7回～第8回 信頼保護の原則・その他の行政法の一般原則 第9回～第11回 行政裁量 第12回～第13回 行政組織法概論 第14回 まとめ
教科書	芝池義一『行政法読本』(有斐閣、2009年)
参考書・資料	芝池義一『行政法総論講義[第4版補訂版]』(有斐閣、2006年) 小早川光郎・宇賀克也・交告尚史編『行政判例百選 I・II [第5版]』(有斐閣、2006年) * 他の参考書については、第1回の講義時に紹介する。
講義関連事項	講義には最低限小型六法を持参すること。
担当者から一言	行政法は抽象的な議論が多いので、常に具体例をイメージしながら勉強を進めていきましょう。 また、日頃から新聞を読んだりニュースを見たりするよう心掛けましょう。 行政法に関わる問題が社会で数多く生じていることに気付くはずです。

授業コード	41047
授業科目名	行政法総論II (後)
担当者名	長谷川佳彦(ハセガワ ヨシヒコ)

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
講義の内容	行政法総論Ⅰで習得した知識を前提に、行政作用法、すなわち行政が国民にむかって対外的に行う作用に関する法について講義を行う。		
到達目標	1. 行政が国民にむかって行う多様な活動形態を、具体例を挙げて説明することができる。 2. 多様な行政活動に対する法的統制について、説明することができる。		
講義方法	レジュメを配布し、それに基づいて講義形式で行う。		
準備学習	1. 行政法総論Ⅰで説明したことを前提に講義を進めるので、行政法総論Ⅰが履修済みであることを強く希望する。 2. 予め教科書の該当箇所やレジュメを読んでアウトラインをつかんだ上で、講義に臨んでもらいたい。 3. 復習の際には、教科書やレジュメをもう一度読み直して理解を定着させるとともに、余力があれば参考書を用いてより高度な知識を身につけるよう努めてほしい。		
成績評価	定期試験の成績で評価する。		
講義構成	第1回 オリエンテーション・行政作用法の概観 第2回 行政立法 第3回～第7回 行政行為（行政処分） 第8回～第9回 行政上の義務履行確保の制度 第10回 行政指導 第11回 行政計画・行政契約 第12回～第13回 行政手続 第14回 情報公開・個人情報保護		
教科書	芝池義一『行政法読本』（有斐閣、2009年）		
参考書・資料	芝池義一『行政法総論講義〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年） 小早川光郎=宇賀克也=交尚史編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第5版〕』（有斐閣、2006年） * 他の参考書については、第1回の講義時に紹介する。		
講義関連事項	講義には最低限小型六法を持参すること。		
担当者から一言	行政法は抽象的な議論が多いので、常に具体例をイメージしながら勉強を進めていきましょう。 また、日頃から新聞を読んだりニュースを見たりするよう心掛けましょう。 行政法に関わる問題が社会で数多く生じていることに気付くはずです。		

授業コード	41087		
授業科目名	経済法Ⅰ（前）		
担当者名	濱谷和生（ハマトニ カズオ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	原則として火曜日昼、しかし在室している限りいつでもドアをノックして下さい。		
講義の内容	私たちが暮らしている経済社会は、一見無秩序に動いているように見えるけれども、実はそこにはある秩序が法律制度として立ち立てられ、それを破ろうとする行為等を禁止したりする。とりわけ、技術が急激に進歩し、ヒト・モノ・カネ・情報の点で経済のグローバル化が進み、国内的にも経済の構造改革・規制の改革が唱えられている目下のわが国の実情からは、そのような経済の秩序を経済の実情に合わせてどのように制度改革してゆくべきかという視点から、現状を観察することには重要な意味がある。この講義は、「経済法Ⅱ」と一体となって、現在国内で通用している基本的な経済秩序の概要を学ぶと共に、できれば今後の課題と展望をも学生諸君と一緒に探ろうとするものである。本講義は、学生諸君に、国内における経済秩序の基本をなす競争秩序とそれを守る法律である独占禁止法等の実体規制、ことに私的独占の禁止と不当な取引制限の禁止の概要を示すであろう。		
到達目標	学習範囲における独占禁止法について、基本的な論点に関する基礎知識を獲得し、またそれにもとづいて、上記論点について、第三者に対して簡単に説明することができる能力を涵養する。		
講義方法	講義は、原則として、まず対象となるテーマに関する、どうして・何故という疑問等から話が始まり、それを解きほぐし、できれば課題や展望を示すことで終わる。したがって、教科書的な観点からは説明を漏らすところも多くなる。その補完のため、学生諸君には、予習を前提にして、講義中も随時対話的な質疑が交わされることがある。また、必要に応じて理解度・到達度を評価するため、簡単なレポート等が課されることがある。		

準備学習	ミクロ経済学の勉強が望まれる。また、常々に新聞・雑誌をよく読んで、時事的な話題に関心を持ち続けてほしい。さらに、経済学部・経営学部の受講者には、民商法・行政法・民事刑事の手続法に関わる基礎的知識の事前準備をお願いしたい。
成績評価	主として期末の筆記試験および随時に行われるレポート等により評価する。法学部ホームページ (http://www.law.konan-u.ac.jp)にある「授業支援と独習」「試験問題」のページで本科目の過去問と解説等を参照のこと。
講義構成	第1回 経済法の歴史と理論－総論 第2回 経済法の歴史と理論－総論(続き) 第3回 米国法の歴史と現状 第4回 ドイツ法の歴史と現状 第5回 EU法の歴史と現状 第6回 日本法の歴史と現状 第7回 独禁法の基礎概念 第8回 集中規制－総論 第9回 集中規制－私的独占 第10回 集中規制－企業集中 第11回 集中規制－その他 第12回 カルテル規制－総論 第13回 カルテル規制－不当な取引制限 第14回 カルテル規制－その他
教科書	特に指定しない。ただし、レジュメについて、My Konan にて配布する。
参考書・資料	川浜・瀬領・泉水・和久井「ベーシック経済法(有斐閣アルマ)」 根岸・杉浦編「NJ経済法(法律文化社、2002年・三訂版)」
講義関連事項	常々、新聞・雑誌をよく読んで、時事的な話題に関心を持ち続けてほしい。

担当者から一言	「重要な論点をわかりやすく」を心がけますが、教員から知識を与えてもらうという姿勢では勉強になりません。自分からわからないことを理解しようとする積極姿勢に変えて下さい。
その他	以下の欧米のサイトを見ると文字化け等が起こったならば、ブラウザ(IEの場合)の「表示」→「エンコード」を日本語から西ヨーロッパ言語等に変更することをお勧めします。
ホームページタイトル	{公正取引委員会, http://www.jftc.go.jp/ } {米国司法省反トラスト局, http://www.usdoj.gov/atr/ } {米国FTC, http://www.ftc.gov/ } {EU競争総局, http://europa.eu.int/comm/competition/index_en.html }

授業コード	41088		
授業科目名	経済法Ⅱ(後)		
担当者名	濱谷和生(ハマトニ カズオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	原則として火曜日昼、しかし在室している限りいつでもドアをノックして下さい。		

講義の内容	私たちが暮らしている経済社会は、一見無秩序に動いているように見えるけれども、実はそこにはある秩序が法律制度として立ち立てられ、それを破ろうとする行為等を禁止したりする。とりわけ、技術が急激に進歩し、ヒト・モノ・カネ・情報の点で経済のグローバル化が進み、国内的にも経済の構造改革・規制の改革が唱えられている目下のわが国の実情からは、そのような経済の秩序を経済の実情に合わせてどのように制度改革してゆくべきかという視点から、現状を観察することには重要な意味がある。この講義は、「経済法Ⅰ」と一体となって、現在国内で通用している基本的な経済秩序の概要を学ぶと共に、できれば今後の課題と展望をも学生諸君と一緒に探ろうとするものである。本講義は、学生諸君に、国内における経済秩序の基本をなす競争秩序とそれを守る法律である独占禁止法等の実体規制、ことに不公正な取引方法の概要および独禁法の執行体制を示すであろう。
到達目標	学習範囲における独占禁止法について、基本的な論点に関する基礎知識を獲得し、またそれにもとづいて、上記論点について、第三者に対して簡単に説明することができる能力を涵養する。
講義方法	講義は、原則として、まず対象となるテーマに関する、どうして・何故という疑問等から話が始まり、それを解きほぐし、できれば課題や展望を示すことで終わる。したがって、教科書的な観点からは説明を漏らすところも多くなる。その補完のため、学生諸君には、予習を前提にして、講義中も随時対話的な質疑が交わされることがある。また、必要に応じて理解度・到達度を評価するため、簡単なレポート等が課されることがある

準備学習	ミクロ経済学の勉強が望まれる。また、常々に新聞・雑誌をよく読んで、時事的な話題に関心を持ち続けてほしい。さらに、経済学部・経営学部の受講者には、民商法・行政法・民事刑事の手続法に関わる基礎的知識の事前準備をお願いしたい
成績評価	主として期末の筆記試験および随時に行われるレポート等により評価する。法学部ホームページ (http://www.law.konan-u.ac.jp)にある「授業支援と独習」「試験問題」のページで本科目の過去問と解説等を参照のこと。
講義構成	第1回 不公正な取引方法－総論 第2回 不公正な取引方法－各論1 第3回 不公正な取引方法－各論2 第4回 不公正な取引方法－各論3 第5回 独禁法の執行体制－公正取引委員会の組織と権限 第6回 独禁法の執行体制－行政規制 第7回 独禁法の執行体制－刑事規制 第8回 独禁法の執行体制－私人による法の実現 第9回 国家の規律管轄権行使の意義と限界－いわゆる域外適用問題について 第10回 独禁法の適用除外制度 第11回 知的財産権と独禁法－総論 第12回 知的財産権と独禁法－事例分析を中心に 第13回 規制改革と競争政策－総論 第14回 国際取引と独禁法
教科書	特に指定しない。ただし、レジュメについて、My Konan にて配布する。
参考書・資料	川浜・瀬領・泉水・和久井「ベーシック経済法(有斐閣アルマ)」 根岸・杉浦編「NJ経済法(法律文化社、2002年・三訂版)」
講義関連事項	常々、新聞・雑誌をよく読んで、時事的な話題に関心を持ち続けてほしい。

担当者から一言	「重要な論点をわかりやすく」を心がけますが、教員から知識を与えてもらうという姿勢では勉強になりません。自分からわからないことを理解しようとする積極姿勢に変えて下さい。
その他	以下の欧米のサイトを見ると文字化け等が起こったならば、ブラウザ(IEの場合)の「表示」→「エンコード」を日本語から西ヨーロッパ言語等に変更することをお勧めします。
ホームページタイトル	{公正取引委員会, http://www.jftc.go.jp/ } {米国司法省反トラスト局, http://www.usdoj.gov/atr/ } {米国FTC, http://www.ftc.gov/ } {EU競争総局, http://europa.eu.int/comm/competition/index_en.html }

授業コード	41062		
授業科目名	刑事政策（後）		
担当者名	前田忠弘（マエダ タダヒロ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	水曜日午後（講義終了後などに予約してもらえれば確実です）		

講義の内容	刑事政策とは犯罪の原因と対策に関する科学です。そこでまず、本当に犯罪は増えているのか、凶悪化しているのか、治安は悪くなっているのか、そして犯罪発生への責任は犯罪者個人のみにあるのか、それとも他の外部的要因も影響を及ぼしているのか、ということについて、資料に基づき考えてみたいと思います。それらの検討をふまえて次に、現在の犯罪対策は効果的に機能しているかを確かめ、さらに有効な犯罪対策を展望したいと思います。 近年、犯罪予防や犯罪者処遇の分野では就労支援や生活支援など福祉との連携の必要性が強く意識されつつある一方で、厳罰化や監視強化を盛り込んだ刑事法の改正も積極的に行われています。 そこでこの講義は、刑罰制度の現状と新たな刑事制裁のあり方、犯罪者のインクルージョンを目指す施策、裁判員制度と犯罪被害者、現代社会に特徴的な犯罪と法的対応について概観し、考察することを内容とします。
到達目標	証拠に基づいて犯罪の実相を理解し、現在の刑事政策の妥当性を検証し、多文化共生社会における刑事政策のあり方を提案する力を身につけることを目標とします。
講義方法	教科書で予習していることを前提として、受講生との質疑応答を軸に講義を進めます。適宜、視聴覚教材やゲストスピーカーの講話を取り入れることによって理解を深めたいと思います。
準備学習	事前に示された講義課題に対する各自の考え方を、教科書や参考文献を用いてまとめたうえで、講義に出席し

	てください。
成績評価	プレゼンテーション、フィールドワーク、レポート提出など各自が選択した講義と関連する学習活動(30%)、学期末試験(70%)を総合して成績を評価します。
講義構成	第1回 「体感治安」、「過剰収容」と犯罪の現況 第2回 刑事政策立法の動向 第3回 犯罪を説明する様々な理論 第4回 犯罪対応としての刑事司法 第5回 刑罰および類似の制裁 第6回 犯罪者の司法前処遇 第7回 刑事施設に収容された人の権利と社会復帰に向けた処遇 第8回 犯罪者のインクルージョン 第9回 犯罪被害者の支援と司法参加 第10回 刑事政策における司法と福祉の連携 第11回 非行問題と少年法改正 第12回 非行少年の手続きと処遇 第13回 子どもの福祉と刑事政策 第14回 高齢社会と刑事政策 第15回 地域社会の安全と刑事政策
教科書	前野育三・前田忠弘ほか著『刑事政策のすすめ[第2版]』(法律文化社 2007年)
参考書・資料	平成21年版犯罪白書 このほか、講義の際に適宜、文献紹介をする。
講義関連事項	刑法、刑事訴訟法と密接に関連しますので、各自で復習をしてください。 とくに関心のある学生には、法心理学、法女性学、福祉法政策、司法福祉論(本年度は休講)、および野口弁護士担当の特講の履修をすすめます。
担当者から一言	警察官、刑務官、法務教官、保護観察官、家庭裁判所調査官、福祉施設職員、教員などを目指す学生には興味深い授業内容です。

授業コード	41060		
授業科目名	刑事訴訟法I（後）		
担当者名	笹倉香奈（ササクラ カナ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	講義時に又はメールで予約してください。		

講義の内容	刑事手続のうち、捜査に関する部分を扱います。捜査は、日本の刑事手続を大きく特色づけています。そこでどのような問題が起こっているか、また起こりつつあるのかを理解することは、日本における法のあり方を考える上で、きわめて重要です。
到達目標	捜査法の基本的なルールを理解しつつ、基本的人権にも関わる憲法上の諸問題に触れることで、法的なものの考え方を身につけることが本講義の目的です。
講義方法	講義形式で進めます。毎回レジュメを配布します。
準備学習	刑事法入門を履修済みであり、刑法総論・各論など、その他の刑事法関係科目を履修済みであるか、履修中であることが望ましい。
成績評価	学期末試験で評価します。
講義構成	1. イントロダクション ～刑事手続の基本構造 2. 捜査手続概説、捜査の基本原則、捜査の端緒 3. 任意捜査と強制捜査 4. 任意捜査の限界 5. 対物的強制処分(1) 6. 対物的強制処分(2) 7. 対物的強制処分(3) 8. 对人的強制処分(1) 9. 对人的強制処分(2) 10. 被疑者の取調べ(1) 11. 被疑者の取調べ(2)

	12. 被疑者の防御(1)黙秘権 13. 被疑者の防御(2) 弁護人依頼権・接見交通権 14. まとめと復習 (進行状況によって変更することがあります)
教科書	上口裕、後藤昭、安富潔、渡辺修『刑事訴訟法〔第4版〕』(有斐閣、2006年) * 六法は必ず持参してください。
参考書・資料	〔資料〕 井上正仁編『別冊ジュリスト・刑事訴訟法判例百選(第8版)』(有斐閣、2005年) 〔参考書〕 田中開、寺崎嘉博、長沼範良『刑事訴訟法〔第3版〕』(有斐閣、2008年) 福井厚『刑事訴訟法講義〔第3版〕』(法律文化社、2007年) 白取祐司『刑事訴訟法〔第5版〕』(日本評論社、2008年)
講義関連事項	毎回レジュメを配布します。レジュメは、MY KONANIにもアップロードするので、出席しない場合は、そこからダウンロードして下さい。ただし、穴埋めの部分の答えは、MY KONANIにアップロードしません。
担当者から一言	私語は他の受講生の迷惑になるため、厳禁です。緊張感をもって受講してください。他の受講生の迷惑になる行為を行った場合には、即刻退室していただきます。
その他	質問等は、kana.s@center.konan-u.ac.jpまで。

授業コード	41061		
授業科目名	刑事訴訟法Ⅱ(前)		
担当者名	富田智和(トミタ トモカズ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
講義の内容	刑事訴訟法のうち、公訴の提起から上訴・再審に至るまでの部分を取り扱う。 条文や制度、法律上の論点について解説することはもちろんであるが、それ以外にも現在刑事裁判に携わっている者として、現在の刑事裁判実務やその問題点などについても言及したいと考えている。		
到達目標	刑事訴訟法のうち公訴の提起から上訴・再審に至るまでの基本的な事項についての理解が得られるようにしたいと考えている。		
講義方法	講義形式で行う。		
準備学習	教科書を事前に読んで講義に臨むのがベストである。また、新聞やニュースで刑事裁判について取り扱ったものがあれば興味を持って見ておくこと。		
成績評価	学期末試験で評価する。		
講義構成	1 刑事訴訟法序論(刑事手続の流れ、基本構造、刑事訴訟法の学び方) 2 公訴の提起(1) 3 公訴の提起(2) 4 公判期日の流れ、構造等 5 公判前整理手続、裁判員制度等 6 公判手続(1) 7 公判手続(2) 8 証拠法(1) 9 証拠法(2) 10 証拠法(3) 11 自白法則 12 伝聞法則(1) 13 伝聞法則(2) 14 裁判、上訴・再審 ※但し、講義の進行具合によっては変更されることがあり得る。		
教科書	①上口裕・後藤昭・安富潔・渡辺修『刑事訴訟法〔第4版〕』(有斐閣Sシリーズ) ②井上正仁『刑事訴訟法判例百選(第8版)』(有斐閣) ※六法は毎回必ず持参すること。		

	※これ以外の参考文献については初回の講義において指示する。
--	-------------------------------

授業コード	41A31		
授業科目名	刑事法入門(刑法通論) (1クラス)(前)		
担当者名	笹倉香奈(ササクラ カナ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	法学部1年次 出席番号1～250		
オフィスアワー	講義時に又はメールで事前に予約をしてください。		

講義の内容	刑法、刑事訴訟法、及び刑事政策の基礎を解説します。
到達目標	刑事法の基礎を学びつつ、専門科目を履修する上で必要な、法的思考力を身につけることが、本講義の目的です。
講義方法	講義形式で行います。
準備学習	講義時に配布するレジュメに、毎回の講義のポイントとなる点を記載します。必ず復習すること。
成績評価	学期末試験で評価します。
講義構成	1 刑事法とは ～刑事法の存在理由と全体構造 2 犯罪統計から学ぶ ～犯罪の現況 3 刑罰とは ～死刑存廃論を通して考える 4 刑法の基礎(1) ～刑法の原則 5 刑法の基礎(2) ～犯罪の成立要件① 6 刑法の基礎(3) ～犯罪の成立要件② 7 刑法の基礎(4) ～犯罪の成立要件③ 8 刑法の基礎(5) ～生命と刑法 9 刑事訴訟法の基礎(1) ～犯罪の捜査① 10 刑事訴訟法の基礎(2) ～犯罪の捜査② 11 刑事訴訟法の基礎(3) ～公訴の提起 12 刑事訴訟法の基礎(4) ～公判と裁判員制度 13 少年法 14 まとめと復習 * 講義の進行によって、予定を変更することがあります。
教科書	最新の六法(講義の際は必ず持参すること)。
参考書・資料	平成21年版犯罪白書 * 講義中に、適宜文献案内を行ないます。
講義関連事項	毎回レジュメを配布します。

担当者から一言	私語は厳禁です。緊張感をもって受講してください。
その他	レジュメ等はMY KONANIにアップロードします。

授業コード	41A32		
授業科目名	刑事法入門(刑法通論) (2クラス)(前)		
担当者名	笹倉香奈(ササクラ カナ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	法学部1年次 出席番号251～最後、法学部2年次以上		
オフィスアワー	講義時に又はメールで事前に予約をしてください。		

講義の内容	刑法、刑事訴訟法、及び刑事政策の基礎を解説します。
到達目標	刑事法の基礎を学びつつ、専門科目を履修する上で必要な、法的思考力を身につけることが、本講義の目的です。
講義方法	講義形式で行います。
準備学習	講義時に配布するレジュメに、毎回の講義のポイントとなる点を記載します。必ず復習すること。
成績評価	学期末試験で評価します。
講義構成	1 刑法とは ～刑法の存在理由と全体構造 2 犯罪統計から学ぶ ～犯罪の現況 3 刑罰とは ～死刑存廃論を通して考える 4 刑法の基礎(1) ～刑法の原則 5 刑法の基礎(2) ～犯罪の成立要件① 6 刑法の基礎(3) ～犯罪の成立要件② 7 刑法の基礎(4) ～犯罪の成立要件③ 8 刑法の基礎(5) ～生命と刑法 9 刑事訴訟法の基礎(1) ～犯罪の捜査① 10 刑事訴訟法の基礎(2) ～犯罪の捜査② 11 刑事訴訟法の基礎(3) ～公訴の提起 12 刑事訴訟法の基礎(4) ～公判と裁判員制度 13 少年法 14 まとめと復習 * 講義の進行によって、予定を変更することがあります。
教科書	最新の六法(講義の際は必ず持参すること)。
参考書・資料	平成21年版犯罪白書 * 講義中に、適宜文献案内を行ないます。
講義関連事項	毎回レジュメを配布します。
担当者から一言	私語は厳禁です。緊張感をもって受講してください。
その他	レジュメ等はMY KONANIにアップロードします。

授業コード	41058		
授業科目名	刑法各論I（後）		
担当者名	森永真綱（モリナガ マサツナ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	本講義では、刑法各論の各テーマの内、財産犯以外を対象とする。
到達目標	刑法各論の各テーマのうち財産犯以外に関する基本的な知識を修得してもらうと共に、刑法総論と有機的に関連づけ、刑法的な論理的・体系的思考力をより深めることを目的とする。
講義方法	レジュメに沿って進める。板書することもあるが、基本的には口頭による説明が中心である。
準備学習	刑法総論の講義内容を復習しておくこと。理解が不十分だった人は、井田良『基礎から学ぶ刑事法(第4版)』(2010年3月刊行予定・有斐閣)の第4章～第16章を読み復習しておくこと。また法学検定試験委員会編『2010年度法学検定試験問題集』の3級、4級(2010年4月刊行予定・商事法務)を使って、問題を解きつつ理解を深めるというやり方も有用である(やる気のある人なら、4級だけでなく、3級の問題にも十分対応可能である)。
成績評価	期末テストによる。
講義構成	1 生命・身体に対する罪(1) 2 生命・身体に対する罪(2) 3 自由に対する罪(1) 4 自由に対する罪(2) 5 人格に対する罪(1) 6 人格に対する罪(2)、信用・業務に対する罪

	7 風俗に対する罪、放火罪(1) 8 放火罪(2) 9 放火罪(3) 10偽造罪(1) 11偽造罪(2) 12偽造罪(3)・公務執行妨害罪 13証拠隠滅罪・偽証罪 14賄賂の罪 15まとめ
教科書	山口厚『刑法』(2005年・有斐閣)
参考書・資料	適宜指示する。
担当者から一言	刑法は、何回も繰り返すことで、徐々に理解が深まる領域なので、しっかり復習してください。

授業コード	41059		
授業科目名	刑法各論Ⅱ(刑法各論Ⅱ(財産犯)) (前)		
担当者名	平山幹子(ヒラヤマ モトコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	開講時に連絡する。		

講義の内容	本講義は、刑法典が定めている種々の犯罪のうち、財産に対する罪を対象とするものである。
到達目標	実務上も重要な財産犯の諸規定に関する基本的知識と、それに基づき事案を適切に処理する論理的思考力を身につけることが目的である。具体的には、法学検定試験(2級)や公務員試験、各種資格試験に対応する基礎知識と考え方の修得を目指す。
講義方法	毎回、講義構成、検討項目、問題の所在等を示したレジュメを配布し、口頭により説明する。とくに重要な項目については、黒板を用いるほか、受講生に練習問題を解いてもらいながら、進めることもある。
準備学習	事前に配布したレジュメ・資料には目を通してくること。
成績評価	学期末試験による。
講義構成	1 開講ガイダンス・財産犯総論 2 窃盗の罪(1) 3 窃盗の罪(2) 4 窃盗の罪(3) 5 強盗の罪(1) 6 強盗の罪(2) 7 詐欺の罪(1) 8 詐欺の罪(2) 9 恐喝の罪 10 横領の罪(1) 11 横領の罪(2) 12 背任の罪(1) 13 背任の罪(2) 14 盗品関与罪、毀棄・隠匿の罪
教科書	山口厚『刑法』(有斐閣・2005年)
参考書・資料	山口厚『刑法各論・補訂版』(有斐閣・2005年) 西田典之ほか編『刑法判例百選Ⅱ各論・第6版』(有斐閣・2008年)
講義関連事項	1. 教科書と六法を必ず持参すること。 2. 出席はとらない。 3. 講義中の私語を禁ずる。

担当者から一言	本講義は、各種資格試験に合格するための基礎知識の取得を目指すものである。まじめに勉強に取り組まないかぎり単位取得は望めないなので、よく考えて選択すること。
---------	---

授業コード	41C31		
授業科目名	刑法総論I（1クラス）(後)		
担当者名	森永真綱(モリナガ マサツナ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	本講義では、刑法総論の各テーマの内、構成要件論、違法論、責任論の一部を対象とする。 ★なお、この講義は、より積極的に刑法をはじめとする法律学に挑戦しようとする方を対象としたクラスです。刑事法入門を始め前期の授業の理解が不十分であったと感じている方は、刑法総論 I ②を受講してください。
到達目標	刑法総論の基本的な知識の修得、及び刑法特有の論理的・体系的な思考力を養うことを目的とする。
講義方法	レジュメに沿って進める。板書することもあるが、基本的には口頭による説明が中心である。
準備学習	井田良『基礎から学ぶ刑事法(第4版)』(2010年3月刊行予定・有斐閣)の第4章～第16章を読み、刑法を概観しておかれない。また法学検定試験委員会編『2010年度法学検定試験問題集』の3級、4級(2010年4月刊行予定・商事法務)を使って、問題を解きつつ理解を深めるというやり方も有用である(やる気のある人なら、4級だけでなく、3級の問題にも十分対応可能である)。
成績評価	期末テストによる。
講義構成	1刑法学序論(1) 2刑法学序論(2) 3罪刑法定主義 4構成要件論の基礎 5因果関係論(1) 6因果関係論(2) 7不作為犯論 8違法論の基礎、正当行為 9正当防衛論(1) 10正当防衛論(2) 11正当防衛論(3)、緊急避難論(1) 12緊急避難(2) 13責任論の基礎 14原因において自由な行為 15まとめ
教科書	山口厚『刑法』(2005年・有斐閣)
参考書・資料	適宜指示する。

担当者から一言	刑法は、何回も繰り返すことで、徐々に理解が深まる領域なので、しっかり復習してください。
---------	---

授業コード	41C32		
授業科目名	刑法総論I（2クラス）(後)		
担当者名	前田忠弘(マエダ タダヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	水曜日午後(講義終了後に予約してもらおうと確実です)		

講義の内容	この講義は、刑法総論の学習課題のうち、構成要件論、違法論、責任論の一部を内容とします。 ★なお、この講義は刑事法入門をはじめ前期の授業の理解が不十分であったと感じている学生を対象としたクラスです。より積極的に刑法をはじめとする法律学に挑戦しようとする学生は、刑法総論 I（1クラス）を受講してください。
到達目標	この講義では、犯罪の成立に関する基本的な知識と考え方を身につけるとともに、法的なものの見方、考え方の育成を目指します。
講義方法	教科書と講義時に配布するワークシートを用いて説明し、考えてもらいます。とくに重要な項目については、受講生に練習問題を解いてもらいながら進めることもあります。

準備学習	授業で理解できなかったところを質問できるように、復習を心がけてください。どんな小さな質問でも歓迎します。
成績評価	学期末試験によって、成績評価を行います。 なお、講義中に指示する任意提出の宿題につき、真摯または意欲的と評価できる場合には加点の対象とします。
講義構成	1 刑法の意義と役割 2 犯罪および刑罰の基礎的問題(1) 罪刑法定主義 3 犯罪および刑罰の基礎的問題(2) 刑罰論 4 構成要件論の基礎 5 因果関係 6 不作為犯 7 中間まとめ 8 違法論の基礎 9 正当行為 10 正当防衛(1) 11 正当防衛(2) 12 緊急避難 13 責任論の基礎 14 故意と過失 15 まとめ
教科書	山口厚『刑法』(2005年 有斐閣)
担当者から一言	法学検定試験(3級)に対応できる刑法総論の基礎知識と考え方を修得できるように取り組みましょう。
その他	講義中の私語および携帯電話の使用(含メール)は厳禁です。 遅刻、中途退出、講義中の飲食、帽子の着用も原則として認めません(必要のある人は事前に連絡してもらえると助かります)

授業コード	41057		
授業科目名	刑法総論Ⅱ(前)		
担当者名	森永真綱(モリナガ マサツナ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	本講義では、刑法総論の各テーマの内、責任論、未遂犯論、共犯論、罪数論を対象とする。
到達目標	刑法総論の基本的な知識の修得、及び刑法特有の論理的・体系的な思考力を養うことを目的とする。
講義方法	レジュメに沿って進める。板書することもあるが、基本的には口頭による説明が中心である。
準備学習	井田良『基礎から学ぶ刑事法(第4版)』(2010年3月刊行予定・有斐閣)の第4章～第16章を読み、刑法を概観しておきたい。また法学検定試験委員会編『2010年度法学検定試験問題集』の3級、4級(2010年4月刊行予定・商事法務)を使って、問題を解きつつ理解を深めるというやり方も有用である(やる気のある人なら、4級だけでなく、3級の問題にも十分対応可能である)。
成績評価	期末テストによる。
講義構成	1 故意 2 錯誤論(1) 3 錯誤論(2) 4 過失犯論(1) 5 過失犯論(2) 6 未遂犯論(1) 7 未遂犯論(2) 8 共犯の基礎理論(1) 9 共犯の基礎理論(2) 10 共同正犯(1) 11 共同正犯(2) 12 共犯の諸問題(1) 13 共犯の諸問題(2) 14 罪数論 15 まとめ

教科書	山口厚『刑法』(2005年・有斐閣)
参考書・資料	適宜指示する。
担当者から一言	刑法は、何回も繰り返すことで、徐々に理解が深まる領域なので、しっかり復習してください。

授業コード	41033		
授業科目名	現代政治学I(比較政治I) (前)		
担当者名	馬場 優(ババ マサル)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限

講義の内容	ヨーロッパの主要国の政治制度と政治的現状を紹介することを主たる内容とする。またそれと関連して、今日のヨーロッパ主要国が直面している問題のひとつである「貧困」に関する複数の問題を取り上げる予定であるである。		
到達目標	ヨーロッパ主要国の政治制度とその歴史的背景、および政治の現状について理解できる。		
講義方法	教科書と担当者が配布するレジュメと板書によって進めていく。		
準備学習	テキストの予習		
成績評価	定期試験(100%)		
講義構成	1回目 イン트로ダクション 2回目 ヨーロッパ連合(EU) 3回目 ドイツ(1) 4回目 ドイツ(2) 5回目 ドイツ(3) 6回目 フランス(1) 7回目 フランス(2) 8回目 フランス(3) 9回目 イギリス(1) 10回目 イギリス(2) 11回目 イギリス(3) 12回目 イタリア(1) 13回目 イタリア(2) 14回目 オーストリア(1) 15回目 オーストリア(2)		
教科書	網谷龍介・伊藤武・成廣孝編 『ヨーロッパのデモクラシー』(ナカニシヤ出版、2009年)		
参考書・資料	必要に応じて紹介する。		
講義関連事項	講義および試験全般については、第1回目で改めて言及するので、必ず出席すること。		

担当者から一言	毎回授業に出席する義務はありません。学生の皆さんの自主性にお任せします。ただし、自分の都合で休んだ場合には、自分できちんと対処してください。授業中の不必要な教室の外への出入りはやめてください。携帯電話のために出て行ったら、授業開始までに電源を切るか、授業終了後に電話してください。他人の迷惑になることはやめてください。場合によっては、期末試験を受ける資格を剥奪することもあります。
---------	--

授業コード	41034		
授業科目名	現代政治学II(比較政治II) (後)		
担当者名	久米郁男(クメ イクオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	社会における様々な財やサービスは、誰でも手に入れることができるわけではないという意味で「希少」である。この希少な資源をどのように配分するか、その仕組みとして市場経済が存在する。しかし、市場を通しての資源配分に対して政府も資源の配分を行う。この講義では、具体的な例を用いてこの市場と政府の関係を考える。
-------	--

到達目標	現代の政治経済現象を見る視点を養う。
講義方法	講義形式で行うが、適宜、質問票を配布するなどして双方向の講義となるよう工夫をする。
準備学習	久米郁男他『はじめて出会う政治学 第3版』を読んでおくことが望ましい。
成績評価	講義中の課題と試験で行う予定である。
講義構成	以下の10のトピックについて講義を行う 第一部 理論 (1) 市場メカニズム (2) 政府の役割 (3) 政府の能力と政治経済への影響 マクロ経済政策をめぐる経済学における論争を概観して、政府の能力に関する経済学的な見方を整理して説明する (4) 成功する政府・失敗する政府 政府の政策が成功したり失敗したりする原因に関する最近の理論を説明する 第二部 公共政策から見る (5) 財政赤字と政治制度 日本の財政赤字の拡大についてその原因を考える (6) バブル不況と政策対応 バブル崩壊後の長期不況への政策対応を事例に政策の失敗の原因を考える (7) 福祉政策 再分配政策の持つ意味と福祉政策の発展について考える (8) 福祉政策と労働市場 (9) 福祉政策と政治制度 (10) 資本主義の多様性
教科書	久米郁男他『New Liberal Arts Selection 政治学』有斐閣
担当者から一言	しっかり出席して講義を聴いてください。
ホームページタイトル	久米郁男ホームページ
URL	http://www.geocities.jp/kumeikuo/

授業コード	41A71		
授業科目名	憲法I (A)(後)		
担当者名	小泉洋一(コイズミ ヨウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	法学部1年次 出席番号1～210		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	日本国憲法において人権保障がどのように表れているか、人権保障の基本原則は何か、憲法の人権規定に いかなる解釈上の問題があるか、この解釈上の問題をいかに考えるべきか。 これらの点を受講生に解説するのが、この講義の内容である。その重要な項目を次のとおりである。 人権の歴史と類型 幸福追求権 平等権 精神的自由権 思想良心の自由、信教の自由、学問の自由 表現の自由 表現の自由の限界 集会結社の自由 経済的自由権 人身の自由 社会権 生存権 教育の受ける権利、労働者の権利 受益権・参政権、国民の義務 人権保障の限界 講義では人権規定に関する個別の問題を扱った後、人権に関する一般的問題にふれる予定である。
-------	--

到達目標	人権の基本原則、人権の種類、人権の内容、人権の特徴、人権の限界および人権に関する具体的な問題に関して正確に理解すること。
講義方法	教科書に基づき講述する。他の講義資料の配付や板書などは最小限にとどめる予定である。
準備学習	教科書を入手してそれを開講前から通読し始めること。その際、理解できなくてもかまわない。それとあわせてどのようなことを学ぶか、どのようなことがどこに書いてあるかを大まかに知っておくこと。それは受講していく際に大いに役に立つはずである。 またこの科目専用のノートを用意しておくことも必要である。 何よりもよく勉強するという決意を持っておくことはもちろんである。
成績評価	もっぱら期末の筆記試験により成績評価を行う。筆記試験は、講義で取り扱った各事項に関するいくつかの記述の正誤を答えさせ、誤りのものには、その誤りの理由を述べさせるという形式の問題を数問出題するとともに、講義で扱った基本的事項や重要な問題点に関して各自が論説するという形式の問題を1題出題する予定である。このような出題によって、受講生が個々の事項について正確な理解をしているかを確認させていただくとともに、基本的事項について理解した上でいかに考察しているかを尋ねさせていただくようにする。 正誤問題の配点は100点満点で50点であり、論説問題は50点となる。 講義で取り扱ったことすべてを、試験の出題範囲とする。その重要事項は次のとおりである。 人権の歴史と類型 幸福追求権 平等権 精神的自由権 思想良心の自由、信教の自由、学問の自由 表現の自由 表現の自由の限界 集会結社の自由 経済的自由権 人身の自由 社会権 生存権 教育の受ける権利、労働者の権利 受益権・参政権、国民の義務 人権保障の限界 試験には教科書の持ち込みを可とする予定である。 成績の「欠席」かどうかの基準はこの試験を受けたかどうかとする。
講義構成	後期 第1回 人権の歴史と類型 第2回 幸福追求権 第3回 平等権 第4回 精神的自由権 思想良心の自由、信教の自由、学問の自由 第5回 精神的自由権 表現の自由 第6回 精神的自由権 表現の自由の限界 第7回 精神的自由権 集会結社の自由 第8回 経済的自由権 第9回 人身の自由 第10回 社会権 生存権 第11回 教育の受ける権利、労働者の権利 第12回 受益権・参政権、国民の義務 第13回 人権保障の限界 第14回 人権保障の及ぶ範囲 第15回 試験
教科書	小泉洋一ほか『憲法の基本』(法律文化社)。必要に応じて、次の参考書として示したものを各自で精読して自学自習してもらいたい。
参考書・資料	必要に応じて、次の参考書として示したものを各自で精読して自学自習してもらいたい。 『憲法判例百選Ⅰ』『Ⅱ』別冊ジュリスト。 芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法第4版』岩波書店、2007年 辻村みよ子『憲法第3版』日本評論社、2008年 高橋和之『立憲主義と日本国憲法』有斐閣、2005年 野中俊彦ほか『憲法Ⅱ第4版』有斐閣、2006年
講義関連事項	この講義は日本国憲法に関連するほか、他の法、たとえば民法、刑法、刑事訴訟法などにも関連する。
担当者から一言	講義の時に質問のある場合、講義の終了時に質問していただければ大いに歓迎するが、講義中は質問を遠慮していただきたい。だからといって質問を行うことにためらう必要はない。 受講生は、憲法に関する知識を中等教育でかなり得ているはずである。この講義はそれは異なり、決して平易ではないので、勉強するというしっかりした決意を持って受講することが必要である。受講生の努力が求められ

	る。 なお、この科目の成績評価について受講生はよくしておくのが有益である。それは、期末の筆記試験により成績評価を行うというものである。 その筆記試験は、講義で取り扱った各事項に関するいくつかの記述の正誤を答えさせ、誤りのものには、その誤りの理由を述べさせるという形式の問題を数問出題するとともに、講義で扱った基本的事項や重要な問題点に関して各自が論説するという形式の問題を1題出題する予定である。 このような出題によって、受講生が個々の事項について正確な理解をしているかを確認させていただくとともに、基本的事項について理解した上でいかに考察しているかを尋ねさせていただくようにする。 正誤問題の配点は100点満点で50点であり、論説問題は50点となる。
その他	日本国憲法において人権保障がどのように表れているか、憲法の人権規定にいかなる解釈上の問題があるか、この解釈上の問題をいかに考えるべきか。 これらの点を受講生に解説するのが、この講義の目的である。 講義では以下のように、人権規定に関する個別の問題を扱った後、人権に関する一般的問題にふれる予定である。 人権の歴史と類型 幸福追求権 平等権 精神的自由権 思想良心の自由、信教の自由、学問の自由 精神的自由権 表現の自由 精神的自由権 表現の自由の限界 精神的自由権 集会結社の自由 経済的自由権 人身の自由 社会権 生存権 教育の受ける権利、労働者の権利 受益権・参政権、国民の義務 人権保障の限界 人権保障のおよぶ範囲 以上のことに関心を持つ一人でも多い学生に受講していただきたい。

授業コード	41A72		
授業科目名	憲法I (B)(後)		
担当者名	小泉洋一(コイズミ ヨウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	法学部1年次 出席番号211～最後		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	日本国憲法において人権保障がどのように表れているか、人権保障の基本原則は何か、憲法の人権規定にいかなる解釈上の問題があるか、この解釈上の問題をいかに考えるべきか。これらの点を受講生に解説するのが、この講義の内容である。
到達目標	人権の基本原則、人権の種類、人権規定に関する解釈上の問題、その問題に関する判例学説を正しく理解すること。
講義方法	教科書に基づき講述する。他の講義資料の配付や板書などは最小限にとどめる予定である。
準備学習	教科書を入手してそれを開講前から通読し始めること。その際、理解できなくてもかまわない。それとあわせてどのようなことを学ぶか、どのようなことがどこに書いてあるかを大まかに知っておくこと。それは受講していく際に大いに役に立つはずである。 またこの科目専用のノートを用意しておくことも必要である。 何よりもよく勉強するという決意を持つておくことはもちろんである。
成績評価	もっぱら期末の筆記試験により成績評価を行う。筆記試験は、講義で扱った主要な事項や重要な問題点に関して受講生各自が説明するとともに、論述するという形式の問題を2、3題出題させていただくようなものと考えている。 講義で取り扱ったことすべてを、試験の出題範囲とする。試験には教科書の持ち込みを可とする予定である。 成績の「欠席」とそれ以外を分ける基準は、期末試験を受験したかどうかとする。
講義構成	後期 第1回 人権の歴史と類型

	第2回 幸福追求権 第3回 平等権 第4回 精神的自由権 思想良心の自由、信教の自由、学問の自由 第5回 精神的自由権 表現の自由 第6回 精神的自由権 表現の自由の限界 第7回 精神的自由権 集会結社の自由 第8回 経済的自由権 第9回 人身の自由 第10回 社会権 生存権 第11回 教育の受ける権利、労働者の権利 第12回 受益権・参政権、国民の義務 第13回 人権保障の限界 第14回 人権享有主体 第15回 試験 以上の順番は変更することもある。
教科書	小泉洋一ほか『憲法の基本』（法律文化社、2008年）。これは私が中心となって2年以上の期間をかけて完成させた本である。
参考書・資料	必要に応じて、次の参考書として示したものを各自で精読して自学自習してもらいたい。 『憲法判例百選Ⅰ』『Ⅱ』別冊ジュリスト。 芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法第4版』岩波書店、2007年 辻村みよ子『憲法第3版』日本評論社、2008年 高橋和之『立憲主義と日本国憲法』有斐閣、2005年 野中俊彦ほか『憲法Ⅱ第4版』有斐閣、2006年
担当者から一言	講義の時に質問のある場合、講義の終了時に質問していただきたい。

授業コード	41A73		
授業科目名	憲法I (C)(後)		
担当者名	櫻井智章(サクライ トモアキ)		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
特記事項	法学部1年次以外		
オフィスアワー	特に設けません。大抵は研究室にいます。 詳細は第1回の講義時に説明します。		

講義の内容	「憲法」と題する講義の対象は、大きく基本的人権と統治機構とに分けることができます。この講義では、そのうちの基本的人権に関する問題を扱います。
到達目標	最高裁判所の重要判例を中心に、基本的人権の分野に関する基礎的な知識と基本的な考え方を習得することが、この講義の目的です。
講義方法	毎回、講義資料を配布し、それに従って進めていく予定です。
準備学習	毎回、配布資料の最後に、次回扱う判例と教科書の該当箇所を示すので、予習してくることが望ましい。民主党政権の下で重要な法改正がなされる可能性があります。日頃からニュース等に注目しておいてください。
成績評価	期末試験の成績で評価します。 詳細は第1回の講義時に説明します。
講義構成	第1回 ガイダンス、「憲法上の権利」論 第2回 法の下での平等 第3回 精神的自由(1) 第4回 精神的自由(2) 第5回 経済的自由 第6回 身体的自由、適正手続き 第7回 包括的基本権 第8回 参政権 第9回 社会権 第10回 基本権の主観的妥当範囲 第11回 基本権の客観的妥当範囲 第12回 公務員の基本権

	第13回 政教分離 第14回 「憲法上の権利」総論 第15回 試験
教科書	大沢秀介編著『判例ライン憲法』(成文堂、2007年) 詳細は第1回の講義時に説明します。
参考書・資料	第1回の講義時に詳しく説明しますが、以下の本を勧めておきます。 ①伊藤正己『憲法入門〔第四版補訂版〕』(有斐閣、2006年) ②芦部信喜〔高橋和之補訂〕『憲法〔第四版〕』(岩波書店、2007年) ③阪本昌成『憲法2 基本権クラシック〔全訂第三版〕』(有信堂高文社、2008年) ④大石眞『憲法講義Ⅱ』(有斐閣、2007年) ⑤佐藤幸治『憲法〔第三版〕』(青林書院、1995年)
担当者から一言	最高裁判所の判例を理解するためには相応の努力が要求されます。

授業コード	41A81		
授業科目名	憲法Ⅱ (A)(前)		
担当者名	櫻井智章(サクライ トモアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	法学部2年次 出席番号1～210		
オフィスアワー	特に設けません。大抵は研究室にいます。 詳細は第1回の講義時に説明します。		

講義の内容	「憲法」と題する講義の対象は、大きく基本的人権と統治機構とに分けることができます。 この講義では、そのうちの統治機構に関する問題を扱います。 なお、憲法訴訟に関連する事項は、憲法Ⅲで取扱われるため、この講義では扱いません。
到達目標	統治機構(政治制度)を法的に考察します。 各憲法機関の(1)地位(2)組織(3)権限(4)手続、及び(5)機関相互の関係を中心に、統治機構の分野に関する基礎的な知識と基本的な考え方を習得することが、この講義の目的です。
講義方法	毎回、講義資料を配布し、それに従って進めていく予定です。
準備学習	公法入門を履修済みであることが望ましい(憲法Ⅰについては履修の有無を問わない)。 政権交代もあり、今後大きく変わることが予想される分野ですので、日頃からニュース等に注目しておいてください。
成績評価	期末試験の成績で評価します。 詳細は第1回の講義時に説明します。
講義構成	第1回 ガイダンス、憲法に関する基礎知識 第2回 日本国憲法の歴史 第3回 統治機構総論、国家の形態と象徴 第4回 内閣(1) 第5回 内閣(2) 第6回 国会(1) 第7回 国会(2) 第8回 公民団 第9回 政党、選挙制度 第10回 議院内閣制 第11回 裁判所(1) 第12回 裁判所(2) 第13回 地方自治、戦争放棄 第14回 憲法保障と憲法改正 第15回 試験
教科書	特に指定しません。詳細は第1回の講義時に説明します。 2010(平成22)年版の六法を持参してください(憲法典の改正はありませんが、附属法令の改正がありますので、最新版を持つよう心掛けて下さい)。
参考書・資料	第1回の講義時に詳しく説明しますが、以下の本を勧めておきます。 ①阪本昌成『憲法1 国制クラシック〔第二版〕』(有信堂高文社、2004年)

	②大石眞『憲法講義Ⅰ〔第二版〕』（有斐閣、2009年） ③芦部信喜〔高橋和之補訂〕『憲法〔第四版〕』（岩波書店、2007年） ④樋口陽一『憲法〔第三版〕』（創文社、2007年） ⑤佐藤幸治『憲法〔第三版〕』（青林書院、1995年）
担当者から一言	やる気のある学生を待っています。

授業コード	41A82		
授業科目名	憲法Ⅱ (B)(前)		
担当者名	櫻井智章(サクライ トモアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	法学部2年次 出席番号211～最後		
オフィスアワー	特に設けません。大抵は研究室にいます。 詳細は第1回の講義時に説明します。		

講義の内容	「憲法」と題する講義の対象は、大きく基本的人権と統治機構とに分けることができます。 この講義では、そのうちの統治機構に関する問題を扱います。 なお、憲法訴訟に関連する事項は、憲法Ⅲで扱われるため、この講義では扱いません。
到達目標	統治機構(政治制度)を法的に考察します。 各憲法機関の(1)地位(2)組織(3)権限(4)手続、及び(5)機関相互の関係を中心に、統治機構の分野に関する基礎的な知識と基本的な考え方を習得することが、この講義の目的です。
講義方法	毎回、講義資料を配布し、それに従って進めていく予定です。
準備学習	公法入門を履修済みであることが望ましい(憲法Ⅰについては履修の有無を問わない)。 政権交代もあり、今後大きく変わることが予想される分野ですので、日頃からニュース等に注目しておいてください。
成績評価	期末試験の成績で評価します。 詳細は第1回の講義時に説明します。
講義構成	第1回 ガイダンス、憲法に関する基礎知識 第2回 日本国憲法の歴史 第3回 統治機構総論、国家の形態と象徴 第4回 内閣(1) 第5回 内閣(2) 第6回 国会(1) 第7回 国会(2) 第8回 公民団 第9回 政党、選挙制度 第10回 議院内閣制 第11回 裁判所(1) 第12回 裁判所(2) 第13回 地方自治、戦争放棄 第14回 憲法保障と憲法改正 第15回 試験
教科書	特に指定しません。詳細は第1回の講義時に説明します。 2010(平成22)年版の六法を持参してください(憲法典の改正はありませんが、附属法令の改正がありますので、最新版を持つよう心掛けて下さい)。
参考書・資料	第1回の講義時に詳しく説明しますが、以下の本を勧めておきます。 ①阪本昌成『憲法1 国制クラシック〔第二版〕』（有信堂高文社、2004年） ②大石眞『憲法講義Ⅰ〔第二版〕』（有斐閣、2009年） ③芦部信喜〔高橋和之補訂〕『憲法〔第四版〕』（岩波書店、2007年） ④樋口陽一『憲法〔第三版〕』（創文社、2007年） ⑤佐藤幸治『憲法〔第三版〕』（青林書院、1995年）
担当者から一言	やる気のある学生を待っています。

授業コード	41A83		
授業科目名	憲法Ⅱ (C)(前)		
担当者名	小泉洋一(コイズミ ヨウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	法学部2年次以外		
オフィスアワー	火曜日 昼休み		

講義の内容	この講義では憲法の一般的な事項および日本国憲法における統治機構(政治制度)を取り扱う。国民主権とは何か。また国民主権、権力分立、そして人権保障の諸原則に照らしてわが国の統治機構をめぐる憲法上の問題をいかに考えるべきか。これらの基本的問題の考察にこそ講義の目的がある。 講義で取り扱う主要事項は具体的に次のとおり。 憲法の概念 平和主義 人権享有主体 国民主権 天皇 国会 内閣 裁判所 憲法改正
到達目標	憲法の統治機構分野に関する諸原則を理解すること。この分野における諸規定の目的、内容およびそれに関する具体的な問題を理解すること。諸規定に関する解釈上の問題に対する基本的な考え方を理解すること。これらが到達目標である。
講義方法	教科書に基づき講述する。できるかぎり教科書の記述順に話す、場合によれば変えることもある。 講義中、日本国憲法以外の法文も参照することがあるので六法全書を教室に持参していただきたい。 講義中、教科書を見ながら話をよく聞き、よく理解に努めていただきたい。
準備学習	教科書を入手してそれを開講前から通読し始めること。その際、理解できなくてもかまわない。それをおしてどのようなことを学ぶか、どのようなことがどこに書いてあるかを大まかに知っておくこと。それは受講していく際に大いに役に立つはずである。
成績評価	もっぱら期末の筆記試験により成績評価を行う。 試験は正誤問題と論述問題の形式で行う。正誤問題では各講義で扱った事項を正確に理解しているかを尋ね、論述問題では本科目の主要な問題を文章で説明することができるかを問う。正誤問題は6題を予定し、論述問題は1題である。配点は正誤問題50点、論述問題50点である。 試験時間は60分の予定である。 試験の出題範囲は講義で取り扱ったことすべてであり、より具体的にいえば以下の通りである。 憲法の概念、平和主義 人権享有主体 国民主権 天皇 国会 内閣 裁判所 憲法改正 パソコンなど持ち込みが禁止されているものを除くほか、すべてのものを試験場に持ち込むことを許す方法で前期末に試験を実施する。 成績の「欠席」とそれ以外を分ける基準は、期末試験を受験したかどうかとする。 この試験の準備として、憲法Ⅱ全体をノートと教科書をよく見直して広く見直しておくことが必要である。またできれば憲法Ⅰで扱う人権分野も復習しておいた方がよい。いずれにせよ、広くかつ正しく理解することが必要となる。 また、この準備として、この科目の過去の試験問題をみしておくのは大変よいことである。
講義構成	前期 第1回 憲法の概念、平和主義 第2回 参政権、人権享有主体

	第3回 国民主権 第4回 天皇 第5回 国会の地位・組織 第6回 国会の活動・権能 第7回 議院の権能・議員の特権・内閣の地位 第8回 内閣の行政・内閣の組織・権能 第9回 内閣の責任・司法権の概念 第10回 裁判所の組織 第11回 司法権独立・財政 第12回 地方自治の意義・地方公共団体の組織 第13回 地方公共団体の権能 第14回 憲法改正・改憲論議 第15回 試験 以上は予定であって、状況により変更することもある。
教科書	小泉洋一ほか『憲法の基本』法律文化社、2008年 講義範囲とは関わりなく何度か通読してほしい。 各章末にある「まとめてみよう」は、講義の後、各自のノートに要点をまとめておくこと。「考えてみよう」は参考文献を読んだりして挑戦するとよい。
参考書・資料	『憲法判例百選Ⅱ』別冊ジュリスト。 芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法第4版』岩波書店、2007年 辻村みよ子『憲法第3版』日本評論社、2008年 高橋和之『立憲主義と日本国憲法』有斐閣、2005年 野中俊彦ほか『憲法Ⅱ第4版』有斐閣、2006年
講義関連事項	この講義を理解するには、憲法Ⅰを履修済みであることが必要である。未履修の者はこの講義を受講しながら、それとは別に必ず自習で憲法の人権分野をよく勉強することが必要である。 この自習のためには教科書を精読し、その要点にまとめ、それを理解してほしい。その理解が独自流とならないために、参考文献も読んだ方がよい。
担当者から一言	講義の前および講義中は質問も慎んでもらいたい。講義中に質問したくなったときは、質問を書きとめ、それに従い講義終了後に私に質問していただきたい。

授業コード	41043		
授業科目名	憲法Ⅲ(後)		
担当者名	小泉洋一(コイズミ ヨウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	火曜日 昼休み		

講義の内容	憲法のうち司法権と違憲審査制度に関する分野を概説する。
到達目標	司法権と違憲審査制度に関する原則および法解釈上の問題への基本的な考え方を理解すること。
講義方法	教科書と講義資料に基づいて講述する。
準備学習	憲法Ⅰおよび憲法Ⅱを履修したことを前提にして、それらで学んだことを復習しておくことが必要な準備である。
成績評価	もっぱら期末の筆記試験により成績評価を行う。試験では知識や法的思考をどれほど習得しているかを受講

	生に尋ねさせていただくため、5問ほどの正誤問題および1問の論述問題を出題する。講義で取り扱ったことすべてを、試験の出題範囲とし、教科書である『憲法判例集』の試験場への持ち込みを認める方法で試験を実施する予定である。 この講義では試験を受験しなかった者は講義に出席したことがあっても欠席と評価する。
講義構成	講義予定 第1回 憲法保障と違憲審査制の意義◆ 第2回 憲法保障と違憲審査制の意義◆・違憲審査の性格◆ 第3回 違憲審査の性格◆ 第4回 司法の概念 第5回 司法権の限界 第6回 憲法訴訟の提起・違憲審査の対象◆ 第7回 違憲審査の対象◆ 第8回 憲法判断の方法 第9回 違憲審査の方法◆ 第10回 違憲審査の方法◆ 第11回 違憲審査の方法◆◆ 第12回 違憲審査の方法◆・違憲判断の方法 ◆ 第13回 違憲判断の方法◆ 第14回 違憲判決の効力 第15回 試験
教科書	野中・江橋『憲法判例集』第10版（有斐閣、2009）
参考書・資料	芦部 信喜・高橋 和之編『憲法判例百選Ⅱ』別冊ジュリスト。 その他のものは開講後指示する。また講義資料も配付する。
講義関連事項	この講義を効果的に受講するには憲法Ⅰと憲法Ⅱを履修していることが必要である。
担当者から一言	講義の前および講義中は質問も慎んでもらいたい。講義中に質問しなくなったときは、質問を書きとめ、それに従い講義終了後に私に質問していただきたい。

授業コード	41A11		
授業科目名	公法入門（1クラス）(前)		
担当者名	島田 茂(シマダ シゲル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	法学部1年次 出席番号1～210、法学部2年次以上		

講義の内容	憲法や行政法は「公法」に属する。講義では、法の基本的な概念や考え方について総論的に講義した後、憲法、行政法、国際法などの領域から幾つかの論点を選び出し、公法規範の意義や機能、その解釈・適用の方法等について述べていく。
到達目標	公法の基本的な概念や考え方を習得する。
講義方法	通常の講義形式で行う。
準備学習	事前に指定された教科書の該当項目を読んてくること
成績評価	学期末の試験で評価する。
講義構成	第1回(4月8日) 法の概念 第2回(4月15日) 公法の領域 第3回(4月22日) 憲法と国法秩序 第4回(5月6日) 国際社会の法 第5回(5月13日) 国家と環境 第6回(5月20日) 裁判所 第7回(5月27日) 国会と法律制定権 第8回(6月3日) 内閣・衆議院の解散 第9回(6月10日) 行政組織 第10回(6月17日) 行政の活動 第11回(6月24日) 地方自治の法 第12回(7月1日) 精神的自由権 第13回(7月8日) 経済的自由権と社会権

	第14回(7月15日)情報公開 第15回(未定) 試験
教科書	小泉・島田編著「公法入門」(法律文化社)

授業コード	41A12		
授業科目名	公法入門（2クラス)(前)		
担当者名	小泉洋一(コイズミ ヨウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	法学部1年次 出席番号211～最後		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	これから法学を専門に勉強することになる法学部生に対し、憲法、行政法、国際法、税法等、公法全般に関する基本的事項、その他基礎知識を講義する。
到達目標	これから法学を専門に勉強することになる法学部生に対し、今後の学習の基礎となり、また有益となるであろう基礎知識を修得すること。また、これから専門的に取り組むべき主要な課題を知ること。
講義方法	各回の講義とも教科書に基づき講述する。また講義資料を配付することもある。各自、講義前にその関連頁を一読するとともに、講義中は教科書をみながら話を聴いていただきたい。 なお、第4回は岡森先生が、第5回は中井先生が、第7回は櫻井先生が、それぞれ講義を担当する担当する。
準備学習	教科書を入手して、きちんと理解できなくてもよいから、それを最初から最後までざっと一読しておく。この科目用のノートを用意しておく。六法全書を入手しておく。六法はできれば最新のものがよい。六法もざっとみておいた方がよい。
成績評価	もっぱら期末の筆記試験により成績評価を行う。その試験は、基本的に私がこの科目で行ってきた、次の2つの出題方法をとる。 第1は、毎回の講義で取り扱った個別の各事項に関するいくつかの記述を正誤を答えさせ、誤りのものには、その誤りの理由を述べさせるという形式の問題を数問出題するというものである。これは各講義の重要事項を受講生が正確に理解しているかを問うことを目的としている。 第2は、この講義全般に関わる最も重要な事項について、受講生各自が論述するという形式の問題を1題出題するというものである。これは、受講生がもっとも基本的な事項を自分なりに考察しているか、またそれを文書で説明することができるかどうかを尋ねることを目的とする。 なお、正誤問題の配点は100点満点で50点であり、論述問題は50点となる。 試験は講義で取り扱ったことすべてを試験の出題範囲とする。その主たる項目は次のとおりである。 法の概念 公法の領域 憲法と国法秩序 国家と環境 国際社会の法 国会と法律制定権 裁判所 内閣・衆議院の解散 行政組織 行政の活動 地方自治の法 精神的自由権 経済的自由権と社会権 情報公開 この試験に対応するためには、もっとも基本的事項を広く勉強するとともに、各講義で扱われる重要事項について深く理解できるように勉強することが必要になる。 六法の持ち込みを認める予定である。 なお、この科目において成績の「欠席」とそれ以外を分ける基準は、期末の試験を受験したかどうかによる。
講義構成	前期 第1回(4月8日) 法の概念 第2回(4月15日) 公法の領域

	第3回(4月22日)憲法と国法秩序 第4回(5月6日)国家と環境 第5回(5月13日)国際社会の法 第6回(5月20日)国会と法律制定権 第7回(5月27日)裁判所 第8回(6月3日)内閣・衆議院の解散 第9回(6月10日)行政組織 第10回(6月17日)行政の活動 第11回(6月24日)地方自治の法 第12回(7月1日)精神的自由権 第13回(7月8日)経済的自由権と社会権 第14回(7月15日)情報公開 第15回(未定)試験 ただし以上の順番は変わることもあるかもしれない。
教科書	小泉・島田編『公法入門』法律文化社、2009年。
参考書・資料	必要に応じて講義資料を配付する。参考文献は教科書掲載の文献案内を参照してほしい。講義の際には各自六法も持参のこと。 なお、教科書にも参考書を示しているので、必要があればそれらもみていただきたい。
担当者から一言	受講生の努力が求められる。
URL	http://www.center.konan-u.ac.jp/~juri/hougakukai_index.htm

授業コード	41072		
授業科目名	国際私法I（前）		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	各回の講義後		

講義の内容	日本の社会および生活の国際化の進展に伴う国際私法関係の法律問題について、その解決方法の理解が不可欠となっている。講義では、国際私法の基本的な仕組みの理解を目的とする。
到達目標	国際的な法律関係において国際私法の観点からの必要性を認識し、問題の解決方法を理解することができる。
講義方法	教科書を中心に講義を進めるが、適時、裁判例及び関連資料を配布する。
準備学習	契約法、不法行為法、親族法、相続法の講義を聞いておくことが望ましい。 教科書、レジュメを中心に予習し、具体的な事例・裁判例について検討する。
成績評価	定期試験(70%)及び3回提出されたレポート(30%)の内容に応じて評価する。
講義構成	1. 国際私法の必要性 2. 国際私法の基礎的観念 3. 国際私法の法的性質と機能 4. 隣接法分野 5. 国際私法の沿革 6. 法源 7. 法律関係の性質決定 8. 連結点の確定 9. 準拠法の指定 10. 反致 11. 外国法の適用 12. 公序 13. 先決問題と適応問題 14. まとめ
教科書	櫻田嘉章『国際私法〔第5版〕』(有斐閣、2006)
参考書・資料	櫻田嘉章・道垣内正人編『国際私法判例百選〔新法対応補正版〕』(有斐閣、2007)
講義関連事項	六法は必ず持ってくる。その他の資料は、講義中に適宜紹介する。

授業コード	41073		
授業科目名	国際私法Ⅱ(後)		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	各回の講義後		

講義の内容	国際私法の基本的な仕組みを理解した後、国際私法の各論、特に2006年の改正部分を中心に、国際私法の具体的解決方法についての理解を本講義の目的とする。
到達目標	国際私法分野において、とくに契約、不法行為、婚姻・離婚に関する法律関係について具体的な事例を自主的に解決できるようにする。
講義方法	教科書を中心に講義を進めるが、適時、裁判例及び関連資料を配布する。
準備学習	教科書、レジュメを中心に予習し、具体的な事例・裁判例について検討する。契約法、不法行為法、親族法、相続法、国際私法Ⅰの講義を聞いておくことが望ましい。
成績評価	定期試験(70%)及び3回提出されたレポート(30%)の内容に応じて評価する。
講義構成	1. 自然人 行為能力・失踪宣告 2. 法人 3. 契約債権 当事者自治、消費者契約・労働契約、強行法規の特別連結理論 4. 法定債権 とくに不法行為、製造物責任、名誉・信用の毀損 5. 債権譲渡・債権質 6. 婚姻 7. 離婚 8. 親子関係 9. 相続・遺言
教科書	櫻田嘉章『国際私法〔第5版〕』(有斐閣、2006)
参考書・資料	櫻田嘉章・道垣内正人『国際私法判例百選〔新法対応補正版〕』(有斐閣、2007) その他の資料は、講義中に適宜紹介する。
講義関連事項	六法は必ず持ってくること。

授業コード	41025		
授業科目名	国際政治学Ⅰ(前)		
担当者名	池田佳隆(イケダ ヨシタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	国際政治学の基礎的な考え方について学ぶ。
到達目標	国際政治学の基本概念を理解する。
講義方法	通常の講義形式による。
準備学習	講義のテーマに関連しそうなニュースに注目しておく。
成績評価	期末試験による。 (持ち込みは認めない予定である)
講義構成	1 国際政治の歴史 2 国際社会と国内社会 3 国際政治におけるアクター

	4国際政治におけるパワー 5国際政治のアリーナ 6国際政治の見方 7ゲーム理論と国際政治
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	講義中に紹介する。
担当者から一言	普段から国際社会の様々な問題について目を向けるように心がけておいてください。

授業コード	41026		
授業科目名	国際政治学Ⅱ（後）		
担当者名	池田佳隆（イケダ ヨシタカ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	前期の国際政治学Iの講義内容を踏まえた上で、具体的な国際情勢について理解を深めることを目的とする。 現在進行形の時事問題に関する解説も適時加える予定である。
到達目標	国際社会の主な地域な国際機構に関する基本的な知識を得る。
講義方法	通常の講義形式による。
準備学習	講義のトピックスに関する最近のニュースを検索し、理解しておく。
成績評価	期末試験による。 (持ち込みは認めない予定である)
講義構成	1アメリカと世界 2アジアの国際政治 3現代世界の統合と分離 4南北問題 5グローバルガバナンス
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	講義中に紹介する。
担当者から一言	普段から時事問題に目を向けるように心がけておいてください。

授業コード	41097		
授業科目名	国際取引法I（前）		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	各回の講義後		

講義の内容	経済のグローバル化が進行している状況の下、国際取引の内容はますます多様になっているし、近年では電子商取引も急速に発達しつつある。 本講義は物品の国際売買を中心とした貿易取引の基本的な仕組みと国際紛争解決の方法について考える機会を与えるとともに、国際取引法の法律関係の理解を目的とする。
到達目標	とくに契約分野において国内法・国際条約の比較を行い、基本的な知識を深め、国際物品売買に関する理論・仕組みを理解できるようにする。
講義方法	教科書を中心に講義を進めるが、適時、裁判例及び関連資料を配布する。
準備学習	教科書、レジュメを中心に予習し、具体的な事例・裁判例について検討する。契約法の知識を必要としているため、契約法または国際私法を修得していることが望ましい。

成績評価	定期試験(70%)及び3回提出されたレポート(30%)の内容に応じて評価する。
講義構成	1. 国際取引に適用される法 2. 国際取引の当事者 (1)個人 (2)法人 (3)国家及び国家機関 3. 国際的な物品の売買 (1)国際売買契約 (2)国際物品運送 (3)国際貨物保険 (4)国際的な代金の決済 (5)製造物責任 4. 国際取引紛争の解決 (1)国際民事訴訟 ①国際裁判管轄権 ②外国判決の承認および執行 (2)国際商事仲裁 5. 国際倒産
教科書	山田鐸一・佐野寛『国際取引法〔第3版補訂第2版〕』(有斐閣、2009)
参考書・資料	適宜、関連資料を配布する。
講義関連事項	六法は必ず持ってくること。

授業コード	41C11		
授業科目名	国際法I(国際法総論)（1クラス)(前)		
担当者名	中井伊都子(ナカイ イツコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	法学部2年次		
オフィスアワー	メールで事前に連絡してください。		

講義の内容	国際法は、各国家の管轄権の及ぶ範囲とその行使のあり方を規制することを第一の目的としてきた。この伝統的な国際法の役割を理解し、さらに国際法の現代的課題である全地球的な問題を解決するための法的な仕組みを検討する基礎として、国際法の歴史的発展と「国家」を法的に把握することを目的とする。
到達目標	国際社会における諸問題を、法的な視点から考察することのできる視点を培う。
講義方法	条約集とレジュメを参照しながら、講義形式で行う。
準備学習	講義内で条約集と一緒に読む余裕はありませんので、指定した条約は必ず事前に目を通して頂くこと。
成績評価	中間レポート(40点)と期末試験(60点)。
講義構成	1 国際法の概念 ・ 国際法の歴史 ・ 国際法の法的性格 ・ 国際法と国内法の関係 2 国際法の成立形式 ・ 慣習国際法 ・ 条約 3 国際法の主体 ・ 国家 ・ その他の主体 4 国家の成立 ・ 国家承認論 ・ 国家承継

	5 国家機関
教科書	『国際法』(第5版)有斐閣Sシリーズ 『ベーシック条約集』(2009 年版)東信堂
参考書・資料	国際判例や関連する国家の情報などは、講義ごとに配布する。
担当者から一言	国際問題に関心を持ちその理解をより深めるために、新聞の国際面にも必ず目を通すことを習慣付けてください。

授業コード	41C12		
授業科目名	国際法I(国際法総論) (2クラス)(前)		
担当者名	中井伊都子(ナカイ イツコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	法学部2年次以外		
オフィスアワー	事前にメールで連絡してください。		

講義の内容	国際法は、各国家の管轄権の及ぶ範囲とその行使のあり方を規制することを第一の目的としてきた。この伝統的な国際法の役割を理解し、さらに国際法の現代的課題である全地球的な問題を解決するための法的な仕組みを検討する基礎として、国際法の歴史的発展と「国家」を法的に把握することを目的とする。
到達目標	国際社会における諸問題を、法的な視点から考察することのできる視点を培う。
講義方法	条約集とレジュメを参照しながら、講義形式で行う。
準備学習	講義内で条約集と一緒に読む余裕はありませんので、指定した条約は必ず事前に目を通して頂くこと。
成績評価	中間レポート(40点)と期末試験(60点)。
講義構成	1 国際法の概念 ・ 国際法の歴史 ・ 国際法の法的性格 ・ 国際法と国内法の関係 2 国際法の成立形式 ・ 慣習国際法 ・ 条約 3 国際法の主体 ・ 国家 ・ その他の主体 4 国家の成立 ・ 国家承認論 ・ 国家承継 5 国家機関
教科書	『国際法』(第5版)有斐閣Sシリーズ 『ベーシック条約集』(2009 年版)東信堂
参考書・資料	国際判例や関連する国家の情報などは、講義ごとに配布する。
講義関連事項	国際問題に関心を持ちその理解をより深めるために、新聞の国際面にも必ず目を通すことを習慣付けてください。

授業コード	41C21		
授業科目名	国際法Ⅱ(国際人権法) (後)		
担当者名	大塚泰寿(オオツカ ヤスヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	事前にメールなどで連絡してください。		

講義の内容	一般国際法上、外国人保護のための規則は早くから整備されてきたが、自国民の取り扱いについては長く国内管轄事項とされていた。しかし現在では、人権の保障は国際社会全体の問題と考えられており、国家は、自国の管轄権下にある個人に対して、一定の国際人権水準を満たすことが求められている。この講義では、前半において外国人の保護に関する国際法を、後半において人権の国際的保障制度について概観する。		
到達目標	国際人権法の基本的知識を取得し、 国際的な人権問題について法的な視点から説明することができる。		
講義方法	レジュメを配布するとともに、教科書・条約集を読みながら、講義形式で進めていく。		
準備学習	教科書の関係する部分に、事前に目を通しておくことが望ましい。		
成績評価	定期試験(75%)とレポート・平常点(25%)により評価を行う。定期試験だけでは、単位修得はかなり困難である。		
講義構成	第1部 外国人の保護に関する国際法 1 国籍 2 外国人の法的地位 3 外交的保護 4 難民の保護 5 犯罪人の引渡し 第2部 人権の国際的保障制度 1 人権の国際的保障の歴史と展開 2 条約による人権保障 3 条約の国内的実施 4 条約の国際的実施		
教科書	松井芳郎編『ベーシック条約集』(東信堂) 松井芳郎・佐分晴夫・坂元茂樹・小畑郁・松田竹男・田中則夫・岡田泉・薬師寺公夫『国際法[第5版]』有斐閣Sシリーズ		
参考書・資料	講義中に適宜指示する。		
講義関連事項	国際法についての基礎知識を有していることを前提に講義を行うため、国際法Ⅰの受講を強く推奨する。(ただし国際法Ⅰの講義を受講していないからといって、履修が認められないわけではない)		
その他	講義中の私語や携帯電話使用などは厳禁である。		

授業コード	41055		
授業科目名	国際法Ⅲ(国際法各論Ⅰ) (前)		
担当者名	中井伊都子(ナカイ イツコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	メールで事前に連絡してください。		

講義の内容	現代国際法において最も重要な法源である条約に関する国際法規を検討し、さらに国際社会における紛争の平和的解決のためのメカニズムを考察する。		
到達目標	国際紛争の原因とその経緯および解決方法について、法的な観点から考察することのできる視点を培う。		
講義方法	条約集とレジュメを参照しながら、講義形式で行う。		
準備学習	条約集の指定した部分を必ず読んでくること。		

成績評価	中間レポート(40点)と期末試験(60点)。
講義構成	1. 条約法 ・条約の成立 ・条約への留保 ・条約の無効原因 2. 国家管轄権 ・属地的管轄権という原則 ・管轄権の域外適用 3. 平和と安全の維持 ・武力行使の違法化 ・集団安全保障 ・国際法上の自衛権 ・平和維持活動 4. 国家責任 ・国家責任の成立要件 ・違法性阻却事由 5. 国際判例研究
教科書	松井芳郎編 『ベーシック条約集2009年版』(東信堂) 松井芳郎・佐分晴夫・坂元茂樹・小畑郁・松田竹男・田中則夫・岡田泉・薬師寺公夫 『国際法[第5版]』(有斐閣Sシリーズ)
講義関連事項	国際法Ⅰを履修していないと、理解が非常に困難であることが予想されます。必ず国際法Ⅰを履修してから、本講義を受けてください。

授業コード	41067		
授業科目名	債権法I(契約法I) (前)		
担当者名	住田英穂(スミタ ヒデホ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	木曜日の昼休み 事前に連絡するようにして下さい。		

講義の内容	債権総則のうち、「保証」を除いた部分を講義する。具体的には、「講義構成」の項目を参照して下さい。債権総論では、「債権」という権利について、その内容や効力などを検討するという抽象的な議論がなされ、難解なことが多い。そこで、本講義では、日常生活になじみの深い、契約から生じた債権を念頭に置きながら、講義を進めることにする。
到達目標	① 債権総論に関する全体像を把握し、主要な実定法のルールおよび概念について、その意味を理解し、具体例を挙げながら説明できる。 ② 法的問題を解決するために、事例問題の事実の概要を客観的に把握し、解決の根拠となるルールを発見し、それを適用して、妥当な解決を見だし、その理由を説明できる。
講義方法	毎回、レジュメを配布します。レジュメと教科書に沿って講義を進める。
準備学習	1年次配当科目である「民法法入門」が履修済みであることが望ましい。
成績評価	期末試験の成績に基づく評価を原則とします。六法を持参しているかのチェックをかねて、出席をとることがあるかもしれません。
講義構成	第1章 債権法ガイダンス 第2章 債権の目的 第3章 債権の効力 第4章 責任財産の保全 第5章 多数当事者の債権関係 第6章 債権譲渡と債務引受 第7章 債権の消滅
教科書	池田真朗 『新標準講義 民法債権総論』(慶應義塾大学出版会)

参考書・資料	必要な資料は、レジュメと共に講義にて配布します。
講義関連事項	六法を必ず持参するようにして下さい。

授業コード	41068		
授業科目名	債権法II(契約法II) (後)		
担当者名	桑岡和久(クワオカ カズヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	民法典債権各論のうち契約および債権総論中の保証
到達目標	契約における法律関係について理解すること
講義方法	具体例を交えつつ解説する形式で進める
準備学習	民法総則 I、II および債権法 I を履修していることが望ましい
成績評価	学期末試験の成績により評価する
講義構成	I. 契約総論 1、契約法の全体構造 2、契約の意義 3、契約の成立 4、契約成立後終了前までの法関係 5、契約の終了 II. 契約各論 1、売買 2、贈与 3、消費貸借 4、賃貸借 5、使用貸借 6、請負 7、委任 8、組合 9、和解 10、保証
教科書	初回の講義で紹介する
参考書・資料	六法

担当者から一言	六法必携
---------	------

授業コード	41091		
授業科目名	司法精神医学 (前)		
担当者名	森 裕(モリ ヒロシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限

講義の内容	精神医学と法学は、扱う事象が人の活動であるといった点において共通する基盤を有しているといえる。しかし、それらは、問題解決の方法論として立つべき視座が異なっている場合も少なくない。精神医学は、ある人の歴史的事実をひも解く経験科学であるが、法学は、そのような事実的判断に加え、規範的判断を伴う。たとえば、被疑者、ないし被告人の刑事責任能力判断といった文脈において、その違いが先鋭化する。 司法精神医学は、このような、精神医学と法学との狭間に生じうる様々な事象を扱う学問である。より具体的には、精神障害を抱える人が刑罰法令に触れる行為をした際の刑事責任能力や、その後の処遇の在り方などがその対象となる。 この講義では、精神医学と法学の立ち位置の違いを常に意識しながら、両者の間に生じうる様々な問題点に
-------	--

	について理解し、また、それらについての問題解決志向型の思考パターンを身につけてもらうことを目的とする。 まず、前半において、触法精神障害者の処遇、刑事責任能力、さらに、心神喪失者等医療観察法について学ぶ。そして、後半において、精神医学と民事法との関わりを見出しながら、少年犯罪についても触れてゆく。 なお、適宜、症例や裁判例を用いる予定である。
到達目標	第1講 精神医学と法 人の様々な営みについて、精神医学と法学が関与することがある事象について理解することができる。 第2講 精神医学と刑事法、触法精神障害者の処遇(1) 精神医学と刑事法との接点を学び、触法精神障害者の処遇の動向について、歴史的観点から説明することができる。 第3講 触法精神障害者の処遇(2) 触法精神障害者の処遇の動向について、欧米のものについて学び、今後のわが国における在り方についての問題提起ができる。 第4講 刑事責任能力論(1) 刑事責任能力の概念について学び、精神医学からの関わりについて説明することができる。 第5講 刑事責任能力論(2) 刑法学の立場から、刑事責任能力論の位置づけや内容について理解することができる。 第6講 刑事精神鑑定の実際 これまでの講義を踏まえ、刑事手続きにおける精神鑑定の意義、手法、問題点を指摘することができる。 第7講 精神科医療と人権 精神科医療の歴史について学び、その特徴や問題点を指摘することができる。 第8講 心神喪失者等医療観察法(1) 心神喪失者等医療観察法の趣旨や意義、歴史的経緯について説明することができる。 第9講 心神喪失者等医療観察法(2) 心神喪失者等医療観察法について、司法と精神科医療の果たすべき役割について説明することができる。 第10講 司法精神科医療の実際 心神喪失者等医療観察法による精神科医療の実際について理解することができる。 第11講 精神医学と民事法(1) 意思能力、行為能力、民事責任能力などから、民事法と精神医学との関わりについて説明することができる。 第12講 精神医学と民事法(2) 成年後見制度の趣旨と運用について説明することができる。 第13講 精神科医療と少年犯罪 刑罰法令に触れる行為を行ったような少年について、司法と精神科医療の関わりについて理解することができる。 第14講 司法精神医学の今後の課題 これまでの講義を踏まえ、司法と精神医学のコラボレーションによって解決してゆくべき課題を挙げることができる。
講義方法	原則として、プレゼンテーションソフトを用いて講義を進める。なお、講義内容によっては、司法精神科医療の第一線で活躍する臨床家による講話を行うことがある。
準備学習	(1)履修条件 刑法総論、及び民法について、基本的知識を有していることが望まれる。なお、精神医学についての事前の知識等は必要としない。 (2)授業時間以外における学習方法 インターネットや新聞等といった膨大な情報の中から、「精神鑑定」や「責任能力」といったキーワードに着眼してもらいたい。
成績評価	学期末試験によって、成績評価を行う。毎回の出席は確認しないが、最終講義(第14講)において学期末試験について言及することがある。
講義構成	1 精神医学と法「司法精神医学概論」 2 精神医学と刑事法、触法精神障害者の処遇(1)「我が国における歴史と現状」 3 触法精神障害者の処遇(2)「欧米における歴史と現状」 4 刑事責任能力論(1)「精神医学の側面から-処遇論を中心に-」 5 刑事責任能力論(2)「刑法学の側面から-解釈論、裁判例を中心に-」 6 刑事精神鑑定の実際「現状と裁判員裁判を踏まえて」 7 精神科医療と人権「偏見・差別、強制医療、自己決定権とノーマライゼーション」 8 心神喪失者等医療観察法(1)「精神保健福祉法による医療の限界と立法趣旨について」 9 心神喪失者等医療観察法(2)「裁判所が関わる精神科医療」 10 司法精神科医療の実際「心神喪失者等医療観察法指定入院医療機関における医療」 11 精神医学と民事法(1)「意思能力、行為能力、民事責任能力」 12 精神医学と民事法(2)「成年後見制度とその運用」 13 精神科医療と少年犯罪「精神科医療が必要な少年とは」

	14 司法精神医学の今後の課題「まとめ」 なお、講義の進捗状況によっては、その内容が変更になる場合がある。
教科書	町野朔編『精神医療と心神喪失者等医療観察法・ジュリスト増刊』（有斐閣）
参考書・資料	隈無く網羅したものとして『司法精神医学（第1巻～第6巻）』（中山書店）がある。また、岩井宣子『精神障害者福祉と司法』（向学社）、安田拓人『刑事責任能力の本質とその判断』（弘文堂）など。
講義関連事項	法曹だけでなく、法律実務家、並びに精神保健福祉の専門家等を目指す受講生に必要な最低限の知見を提供したい。
担当者から一言	受講生が、精神医学の初学者であることを前提に講義を進める。受講生には、法学を学んでいるという自己の立場を意識しつつ、司法精神医学が扱う様々な事象について、問題意識を持ってもらいたいと願っている。なお、質問や疑問点が生じた場合にはそのまま放置せず、講義後に担当者まで質問するように願いたい。

授業コード	41084		
授業科目名	社会保障法I（前）		
担当者名	武井 寛(タケイ ヒロシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	社会保障法 I では、社会保障の考え方の基本を簡単に整理したのち、保険方式で営まれている社会的な法制度、すなわち、労災保険、雇用保険、年金保険、医療保険、介護保険について、当該法制度の趣旨や仕組み、給付の内容、関連する裁判例などの基本的知識を学ぶ。
到達目標	社会保険に関する法の基本的考え方を理解すること。
講義方法	あらかじめ配布する予定のレジュメにしたがって、必要な内容について順次講義する。パワーポイント等を必要に応じて用いる。
準備学習	日々の医療や年金等に関するニュースに注意すること。
成績評価	講義の途中に行う小テストと期末テストの成績によって評価する。
講義構成	1 授業内容の説明＋憲法と社会保障法、社会保険 2 社会保険の意義と機能 3 医療保険 4 医療保険 5 医療保険 6 医療保険＋介護保険 7 介護保険 8 介護保険 9 介護保険 10 年金保険 11 年金保険 12 年金保険 13 労災保険 14 労災保険 15 雇用保険
教科書	本沢巳代子・新田秀樹編著『トピック社会保障法』不磨書房
参考書・資料	必要に応じてレジュメに資料を添付する。なんらかの六法が必携。

授業コード	41085		
授業科目名	社会保障法Ⅱ（後）		
担当者名	武井 寛（タケイ ヒロシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

オフィスアワー	水曜4限
講義の内容	社会保障法Ⅱでは、社会保障の考え方の基本を簡単に整理したのち、いわゆる社会福祉の制度と、生活保護制度について、当該法制度の趣旨や仕組み、給付の内容、関連する裁判例などの基本的知識を学ぶ。社会福祉の制度領域として、おおむね児童福祉、障害者福祉および家庭福祉に分けて講義する。また、今後の社会保障について、現在行われている議論等も紹介しながら、そのあるべき姿を探ってみたい。
到達目標	社会福祉および生活保護に関する法の基本的考え方を理解すること。
講義方法	あらかじめ配布する予定のレジュメにしたがって、必要な内容について順次講義する。パワーポイント等を必要に応じて用いる。
準備学習	日々の社会福祉領域に関するニュースに注意すること。
成績評価	講義の途中に行う小テストと期末テストの成績によって評価する。
講義構成	1 授業内容の概略説明＋憲法と社会保障法、社会福祉、生活保護 2 社会福祉法の歴史的展開 3 社会福祉法の基本原則と法構造 4 児童福祉 5 児童福祉 6 障害者福祉 7 障害者福祉 8 高齢者福祉 9 家庭福祉 10 家庭福祉 11 生活保護 12 生活保護 13 生活保護 14 社会福祉基礎構造改革と提供主体 15 今後の社会保障制度－セーフティネット論との関連で
教科書	本沢巳代子・新田秀樹編著『トピック社会保障法』不磨書房
参考書・資料	必要に応じてレジュメに資料を添付する。なんらかの六法が必携。

授業コード	41F11		
授業科目名	商法I(会社法I) (A)(前)		
担当者名	前嶋京子(マエシマ キョウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	法学部2年次		
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときは、アポイントをとること。		

講義の内容	「商法Ⅰ」では、会社法についての講義を行う。 現代社会において「会社」の果たす役割の重要性はいうまでもない。その「会社」のうち特に「株式会社」を中心に講義を行う。内容的には、「商法Ⅱ」の講義と併せて、株式会社の設立をはじめとして、その組織や運営、解散・清算にいたるまでの全般を網羅する(従って、「商法Ⅱ」の受講を強く要望する)。 「商法Ⅰ」では、以下の「講義構成」に掲げる事項についての講義を行う。
到達目標	本講義では、会社法の基礎知識を得、現在問題となっている諸点の理解を深め、将来実際の社会で活躍するために必要な会社法に関する知識を得ると共に、会社法に関する問題についての理解力・判断力を養うことを目標とする。
講義方法	通常の講義形式により行う。
準備学習	卒業後の社会人になれば、会社法は日常的に経験する法領域ではあるが、多くの学生諸君は、未だ会社法的な事項を日常的に経験していないと思われる。そこで、「会社法的な常識」は未だ発達していないので、授業に出席し、授業中に理解できるように努めると共に、復習をしっかりとて、次の授業に臨むようにすること(復習をして疑問を持ったところは、早い時期に質問に来ること)。
成績評価	定期筆記試験のみで成績を評価する。 評価に際しては、基本的な事項の理解を重要視する。
講義構成	1.授業の進め方の説明等

	2.会社法序説 会社概念、会社の種類等 （組織変更を含む） 3.株式会社法総論 株式会社の特色等 4.株式会社の設立 5.株式・株主 6.株式会社の資金調達 a.募集株式の発行等 （新株発行・自己株式の処分） b.新株予約権 c.社債
教科書	森淳二郎・吉本健一編『会社法 エッセンシャル 補訂版』有斐閣ブックス（2009年）。なお、最新版が出た場合には、最新版を利用する。
参考書・資料	必要に応じて紹介する。
講義関連事項	本講義は「商法Ⅱ」と一体のものとして構成されているので、「商法Ⅱ」の受講を強く要望する。
担当者から一言	授業では2006年に施行された会社法についての講義をする。書店で販売されている会社法関連の出版物や図書館の蔵書には、旧法（商法会社編の旧規定）に関する記述がなされているものも多い。履修・自習上、各自が会社法に関する書籍・文献を利用するときは、発行年月日等を確認して、旧法の記述を新会社法に関するものと誤解しないように注意されたい。 また、会社法に関する法務省令はしばしば改正されているので、面倒がらずに、最新の六法等で確認しながら、学習をすすめていくようにすること。
その他	六法必携。六法については最新版（平成22年版）を用意すること。

授業コード	41F12		
授業科目名	商法I(会社法I) (B)(前)		
担当者名	山本真知子(ヤマモト マチコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	法学部2年次以外		
オフィスアワー	月曜4限。その他についてはアポイントを取ること。		

講義の内容	会社法総論、株式会社[総説、株式、株式会社の機関]
到達目標	会社法総論、株式会社[総説、株式、機関]についての基礎的な知識を身につける。
講義方法	・教科書、六法、判例等に基づいた講義形式。
準備学習	・予習（講義の最後に指示された教科書の該当頁を読む。教科書中に出てきた条文については六法を引く。） ・復習（講義の内容を次回までに復習し、疑問点については参考文献等で調べる。）
成績評価	・学期末試験の成績で評価する。
講義構成	第1回 会社法総論 商法と会社法、会社の意義 第2回 会社の種類、株式会社総説 第3回 株式(1) 第4回 株式(2) 第5回 株式(3) 第6回 株式(4) 第7回 株式(5) 第8回 株式会社の機関(1) 株主総会① 第9回 株式会社の機関(2) 株主総会② 第10回 株式会社の機関(3) 取締役、取締役会① 第11回 株式会社の機関(4) 取締役、取締役会② 第12回 株式会社の機関(5) 取締役、取締役会③ 第13回 株式会社の機関(6) 会計参与、監査役、監査役会、会計監査人 第14回 株式会社の機関(7) 委員会設置会社 会社法の課題

	※内容、進度は理解度等に応じて多少変更する場合がある。
教科書	1 近藤光男編『現代商法入門〔第8版〕』（有斐閣、2009年） ※講義開始までに改訂された場合には最新版を使用する。 2『ポケット六法平成22年度版』（有斐閣）等の最新版の六法
参考書・資料	1 江頭憲治郎『株式会社法〔第3版〕』（有斐閣、2009年） 2 神田秀樹『会社法〔第11版〕』（弘文堂、2009年） 3 宮島 司『新会社法エッセンス〔第三版〕』（弘文堂、2008年） 4 森淳二郎・吉本健一編著『会社法—エッセンシャル〔補訂版〕』（有斐閣、2009年） 5 河本一郎・岸田雅雄・森田章・川口恭弘『日本の会社法〔新訂第9版〕』（商事法務、2008年） 等会社法に対応したもの。講義開始までに改訂された場合には最新版を参考にすること。
講義関連事項	・商法Ⅰ（会社法Ⅰ）と商法Ⅱ（会社法Ⅱ）で「会社法」全体についての講義を行うので、商法Ⅰを履修する人は商法Ⅱも履修するようにしてください。 ・逆に商法Ⅱ（会社法Ⅱ）を履修する人は商法Ⅰ（会社法Ⅰ）を履修済みであることが望ましいです。そうでない場合には必ず商法Ⅰ（会社法Ⅰ）を併行履修してください。 ・また、商法は民法の特別法ですので、民法の知識が一定範囲で必要となります。民事法入門と民法のうち財産法に関連する科目を履修しておくか、併行して履修して下さい。
担当者から一言	・平成17年6月に成立した会社法は1000に近い条文を有し、また、その法務省令も多くの条文を有し、その構成と内容は非常に「複雑」なものになっています。その骨格と全体像の理解を目標としますので、講義に出席するとともに予習・復習をして下さい。 ・教科書、最新版の六法を毎時間必ず持参すること。
その他	・法学部以外の履修希望者は、「講義関連事項」と「担当者から一言」を十分に理解した上で履修登録をするようにしてください。

授業コード	41F21		
授業科目名	商法Ⅱ(会社法Ⅱ) (A)(後)		
担当者名	前嶋京子(マエシマ キョウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	法学部2年次		
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときは、アポイントをとること。		

講義の内容	「商法Ⅱ」では、「商法Ⅰ」と一体のものとして、会社法についての講義を行う(従って、「商法Ⅰ」の受講を強く要望する)。 現代社会において「会社」の果たす役割の重要性はいうまでもない。その「会社」のうち特に「株式会社」を中心に講義を行う。内容的には、「商法Ⅰ」の講義の続き、すなわち、株式会社の組織や運営、計算、組織再編、解散・清算等についての講義をする。 「商法Ⅱ」では、以下の「講義構成」に掲げる順に講義を行う。
到達目標	会社法の基礎知識を得、現在問題となっている諸点の理解を深め、将来実際の社会で活躍するために必要な会社法に関する知識を得ると共に、会社法に関する問題についての理解力・判断力を養うことを目標とする。
講義方法	通常の講義形式で行う。
準備学習	前期の商法Ⅰ（会社法Ⅰ）の内容に続いて講義を行うので、商法Ⅰで学習したことについて、よく復習しておくこと。また、商法Ⅱの授業に出席し、授業中に講義内容を理解するように努めると共に、復習をしっかりとて、次の授業に臨むようにすること(復習をして疑問を持ったところは、早い時期に質問に来ること)。
成績評価	定期筆記試験のみで成績を評価する。 評価に際しては、基本的な事項の理解を重要視する。
講義構成	1.株式会社の機関(総論) 2.株主総会 （定款変更、利益供与を含む） 3.取締役・取締役会 4.会計参与 5.監査役(会) 6.会計監査人 7.委員会設置会社の機関 8.計算

	9.企業再編－株式会社の合併、分割、株式交換・株式移転 10.解散・清算等 11.外国会社等
教科書	森淳二郎・吉本健一編『会社法 エッセンシャル 補訂版』有斐閣ブックス(2009年)。なお、最新版が出た場合には、最新版を利用する。
参考書・資料	必要に応じて紹介する。
講義関連事項	本講義は「商法Ⅰ」と一体のものとして構成されているので、「商法Ⅰ」の受講を強く要望する。
担当者から一言	授業では2006年に施行された会社法についての講義をする。書店で販売されている会社法関連の出版物や図書館の蔵書には、旧法(商法会社編の旧規定)に関する記述がなされているものが多い。履修・自習上、各自が会社法に関する書籍・文献を利用するときは、発行年月日等を確認して、旧法の記述を新会社法に関するものと誤解しないように注意されたい。 また、会社法に関する法務省令はしばしば改正されているので、面倒がらずに、最新の六法等で確認しながら、学習をすすめていくようにすること。
その他	六法必携。六法については最新版(平成22年版または平成23年版)を用意すること。

授業コード	41F22		
授業科目名	商法Ⅱ(会社法Ⅱ) (B)(前)		
担当者名	山本真知子(ヤマモト マチコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	法学部2年次以外		
オフィスアワー	月曜4限。その他についてはアポイントを取ること。		

講義の内容	株式会社の資金調達の方法、計算、設立、定款変更・会社の解散・精算等、持分会社、企業買収・企業再編(M&A)、外国会社
到達目標	株式会社の資金調達の方法、計算、設立、定款変更・会社の解散・精算等、持分会社、企業買収・企業再編(M&A)、外国会社についての基礎的な知識を身につける。
講義方法	・教科書、六法、判例等に基づいた講義形式
準備学習	・予習(講義の最後に指示された教科書の該当頁を読む。教科書中に出てきた条文については六法を引く。) ・復習(講義の内容を次回までに復習し、疑問点については参考文献等で調べる。)
成績評価	・学期末試験の成績で評価する。
講義構成	第1回 株式会社の資金調達(1) 募集株式の発行① 第2回 株式会社の資金調達(2) 募集株式の発行② 第3回 株式会社の資金調達(3) 不公正な株式発行等、株式発行等の無効 第4回 株式会社の資金調達(4) 新株予約権 第5回 株式会社の資金調達(5) 社債 第6回 株式会社の計算等(1) 総説、会計の原則と会計帳簿、計算書類 第7回 株式会社の計算等(2) 資本金と準備金、剰余金の配当、違法な剰余金の配当等に関する責任 第8回 設立(1) 第9回 設立(2)、定款変更、解散・精算 第10回 企業買収・企業再編(1) 総説、組織再編行為 第11回 企業買収・企業再編(3) 合併、会社分割、株式交換・株式移転、 第12回 企業買収・企業再編(4) 自己株式と株式の相互保有、事業譲渡・譲受け等、組織変更 第13回 企業買収・企業再編(5) 敵対的企業買収と企業買収防衛策、親子会社関係 第14回 持分会社、外国会社 ※内容、進度は理解度等に応じて多少変更する場合がある。
教科書	1近藤光男編『現代商法入門〔第8版〕』(有斐閣、2009年) ※講義開始までに改訂された場合には最新版を使用する。 2『ポケット六法平成22年度版』(有斐閣)等の最新版の六法
参考書・資料	1 江頭憲治郎『株式会社法〔第3版〕』(有斐閣、2009年) 2 神田秀樹『会社法〔第11版〕』(弘文堂、2009年) 3 宮島 司『新会社法エッセンス〔第三版〕』(弘文堂、2008年)

	4 森淳二郎・吉本健一編著『会社法—エッセンシャル[補訂版]』(有斐閣、2009年) 5 河本一郎・岸田雅雄・森田章・川口恭弘『日本の会社法[新訂第9版]』(商事法務、2008年) 等会社法に対応したもの。講義開始までに改訂された場合には最新版を参考にすること。
講義関連事項	・商法Ⅰ(会社法Ⅰ)と商法Ⅱ(会社法Ⅱ)で「会社法」全体についての講義を行うので、商法Ⅰを履修する人は商法Ⅱも履修するようにしてください。 ・逆に商法Ⅱ(会社法Ⅱ)を履修する人は商法Ⅰ(会社法Ⅰ)を履修済みであることが望ましいです。そうでない場合には必ず商法Ⅰ(会社法Ⅰ)を併行履修してください。 ・また、商法は民法の特別法ですので、民法の知識が一定範囲で必要となります。民事法入門と民法のうち財産法に関連する科目を履修しておくか、併行して履修して下さい。
担当者から一言	・平成17年6月に成立した会社法は1000に近い条文を有し、また、その法務省令も多くの条文を有し、その構成と内容は非常に「複雑」なものになっています。その骨格と全体像の理解を目標としますので、講義に出席するとともに予習・復習をして下さい。 ・教科書、最新版の六法を毎回必ず持参すること。
その他	・法学部以外の履修希望者は、「講義関連事項」と「担当者から一言」を十分に理解した上で履修登録をするようにしてください。

授業コード	41076		
授業科目名	商法Ⅲ(商行為法)(前)		
担当者名	山本真知子(ヤマモト マチコ)		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	月曜4限。その他についてはアポイントを取ることに。		

講義の内容	商法の意義と法源、隣接法との関係、商人、商行為、商号、商業登記、商業帳簿、商業使用人と 代理商、商行為法総論・各論
到達目標	商法総則・商行為法についての基礎的な知識を身につける。
講義方法	・教科書、六法、判例等に基づいた講義形式。
準備学習	・予習(講義の最後に指示された教科書の該当頁を読む。教科書中に出てきた条文については六法を引く。) ・復習(講義の内容を次回までに復習し、疑問点については参考文献等で調べる。)
成績評価	・学期末試験の成績で評価する。
講義構成	第1回 講義の進め方等についての説明 商法と何か、商法の適用 第2回 商人と営業 第3回 商行為① 第4回 商行為② 第5回 商業登記 第6回 商号、商業帳簿 第7回 商業使用人 第8回 代理商、企業取引の補助者 第9回 企業間の売買(商事売買) 第10回 消費者取引① 第11回 消費者取引② 第12回 運送営業 第13回 運送取扱営業 第14回 寄託を受けた商人の責任 まとめ、学期末テストの説明等 ※ 商法総則と商行為法を効率的に学ぶため、教科書の順番と異なった進め方をする場合がある。

	※ 内容、進度は理解度等に応じて多少変更される場合があります。
教科書	1 近藤光男編『現代商法入門〔第8版〕』（有斐閣、2009年） ※講義開始までに改訂された場合には最新版を使用する。 2『ポケット六法平成22年度版』（有斐閣）等の最新版の六法
担当者から一言	・商法は民法の特別法ですので、民法の知識が一定範囲で必要となります。民事法入門と民法のうち財産法に関連する科目を履修しておくか、併行して履修してください。 ・教科書、最新版の六法を毎時間必ず持参すること。

授業コード	41077		
授業科目名	商法Ⅳ(手形・小切手法Ⅰ)(前)		
担当者名	前嶋京子(マエシマ キョウコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときは、アポイントをとること。		

講義の内容	本講義では、手形法・小切手法を講義していく。 手形や小切手は、日常生活ではあまり縁のないものであるが、ビジネスの社会では、かつてそうであったほどではないにせよ、今も、決済や金融の手段などとして重要な存在であるといえる。特に、将来銀行等へ就職したときには、手形や小切手は日常的に接するものとなろう。 本講義では、手形・小切手を通じて、有価証券の持つ特有な法制度の基礎的な知識を得ることができるが、このような知識は、他の講義科目では得られないものといえよう。
到達目標	現代の経済社会において、かつてほど手形・小切手の重要性はなくなってきているといえるであろうが、それでもなお、典型的な有価証券として、経済社会におけるその役割には、軽んじ得ないものがあるといえる。本講義では、手形・小切手の学習を通じて、有価証券特有の制度・基礎知識を修得することを目標とする。
講義方法	通常の講義形式で行う。
準備学習	受講上、民法の基礎知識が必要とされる。 日常生活ではあまり経験することのない特殊な法領域といえるので、事前の学習は困難かもしれないので、授業後の復習をしっかりと、次の授業に臨むようにすること。
成績評価	定期筆記試験のみで成績を評価する。 評価に際しては、基本的な事項の理解を重要視する。
講義構成	1. 授業のすすめ方の説明等 2. 有価証券概論 3. 約束手形・為替手形、小切手の異同 4. 手形・小切手の経済的機能 5. 手形行為・小切手行為総論 6. 手形・小切手の振出 7. 為替手形における引受 8. 譲渡と裏書（保証を含む） 9. 支払・不渡、遡求 10. 権利の消滅・時効 11. 証券の喪失と公示催告・除権決定 12. その他（参加、複本、謄本等を含む）
教科書	川村正幸『手形小切手法＜第2版＞』法研出版（2007年）
参考書・資料	必要に応じて紹介する。
講義関連事項	民法についての基礎知識が必要となる。

担当者から一言	学生の日常の生活ではあまり見ることのない手形や小切手についての講義であるため、「日常的な常識」では想像しにくい内容が講義されることとなるので、自学自習が比較的難しいものであるといえる。できる限り講義には出席すること。
その他	六法必携。

授業コード	41078
-------	-------

授業科目名	商法Ⅴ(保険法)(後)		
担当者名	前嶋京子(マエシマ キョウコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときには、アポイントをとること。		

講義の内容	商法Ⅴでは、保険法を講義していく。 今や保険は、企業の経済活動上のリスク管理の面で必要な制度であるだけでなく、私たちの日常生活においても、なくてはならない制度となっている。例えば、結婚や子供の出生を機に生命保険に入ったり、自宅を建てれば火災保険に入るといったことは日常の生活で普通に行われることである。また、自動車を購入すれば、当然のように自動車保険も購入する。このように保険というものが、ごく日常的で重要であるにもかかわらず、保険に関する知識は一般的に乏しいといえる。そこで、この授業では、保険制度の基本的な事項を大切に、保険法に規定のある損害保険・生命保険・傷害疾病保険といった私保険全般に関する基礎知識や問題となりうる点について講義していく。
到達目標	本講義では、保険法の基礎知識を得、現在問題となっている諸点の理解を深め、将来実際の社会で活躍するために必要な保険法に関する知識を得ると共に、保険法に関する問題についての理解力・判断力を養うことを目標とする。
講義方法	通常の講義形式により行う。
準備学習	受講上、民法の基礎知識が必要とされる。 常日頃から、身近にある保険契約について関心を持ち、保険約款なども読んでみるなど、興味を持って授業に臨んでもらいたい。 授業後の復習はしっかりして、次の授業に臨むようにすること。
成績評価	定期筆記試験のみで成績を評価する。 評価に際しては、基本的な事項の理解を重要視する。
講義構成	1. 授業の進め方の説明等 2. 保険法についての概説 - 保険制度の目的・機能 - 保険法の法源 など。 3. 各保険契約共通の概念・問題 - 保険契約の関係者 - 保険事故・保険料・保険金 - 告知義務 など 4. 損害保契約 - 損害保険契約の特徴 - 被保険利益・保険価額 - 保険者の代位 など 5. 生命保険・傷害疾病保険 - 生命保険契約の特徴 - 契約の成立・当事者 など - 傷害保険・疾病保険(傷害疾病損害保険・傷害疾病定額保険を含む)の特徴・効果 など
教科書	山下友信等『保険法 第3版』有斐閣アルマ。2010年3月発行予定のものであるので、旧版を買わないように注意すること。なお、発行予定のものであることから、万一 授業開始前までに間に合わないときには、変更することもあり得るので注意すること。
参考書・資料	読みやすい入門書として、竹濱修『保険法入門』日経文庫(2009年)がある。その他、必要に応じて紹介する。
講義関連事項	商法Ⅴは、商法Ⅰ～Ⅳとは異なった分野の学習といえるが、商法Ⅲの履修後であることが望ましい。また、民法についての基礎知識は必要となる。

担当者から一言	授業では2008年に成立し、本年4月に施行された保険法についての講義をする。書店で販売されている保険法関連の出版物や図書館の蔵書には、旧法(商法第10章保険の旧規定)に関する記述がなされているものも多い。履修・自習上、各自が保険法に関する書籍・文献を利用するときは、発行年月日等を確認して、旧法の記述を新保険法に関するものと誤解しないように注意されたい。
その他	六法必携。六法については最新版(平成22年版または平成23年版)を用意すること。

授業コード	41092
-------	-------

授業科目名	情報社会論I (B)(後)		
担当者名	濱井禧价(ハマイ ヨシスケ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	社会のあらゆる分野において急速に浸透してきた情報化は、従来の社会構造、産業構造に大きな変革をもたらしつつある。本講義では、高度な情報技術に支えられて発展する情報化社会の現状を理解させるとともに、この発展に寄与する情報産業の社会的位置づけと意義を理解させ、情報産業に携わる個人の持つべき職業倫理、健全な職業観を身に付ける。
到達目標	情報化社会の現状を理解する。個人の持つべき職業倫理、健全な職業観を身に付ける。
講義方法	電子教材、参考資料、板書による説明
準備学習	特になし
成績評価	1. 平常点(出席およびレポート提出)――40% 2. 課題発表――20% 3. 定期試験――40%
講義構成	第1回: 情報技術の歴史 第2回: コンピュータおよび通信技術の現状 第3回: 社会構造・産業構造とその変化 第4回: コミュニケーション(広義)の本質と情報技術 第5回: 組織と情報化事例(公共事業) 第6回: 組織と情報化事例(製造業――その1) 第7回: 組織と情報化事例(製造業――その2) 第8回: 組織と情報化事例(情報サービス産業) 第9回: 社会における情報技術の分類とその内容(具体的業務内容) 第10回: 知的所有権とコンピュータテクノロジー 第11回: 情報技術倫理 第12回: 情報セキュリティ 第13回: 課題発表 第14回: 課題発表
教科書	講義に必要なテキストは適宜配布する。
担当者から一言	実社会における情報技術を理解し、将来の職業観の確立に役立ててほしい。

授業コード	31U12		
授業科目名	初級マクロ経済学 (B)(後)		
担当者名	王 凌(ワン リン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	マクロ経済学に関する基礎的内容を講義する。国民所得の決定モデル、金融市場のモデル等を解説し、マクロ経済問題を理解する上で必要不可欠な知識を学ぶ。授業の目的は、経済の仕組みを巨視的・全体的に捉えて分析するための基本的な概念と標準的なマクロ経済理論を理解し、政策的なインプリケーションについても応用できる能力を身に着けることである。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1) GDPについて理解すること。 (2) 需要と供給という視点からマクロ経済の動きを理解すること。 (3) 乗数プロセスで景気の波及メカニズムを説明すること。 (4) マクロ経済の均衡を理解すること。 (5) 信用乗数メカニズムを理解すること。
講義方法	原則として教科書の内容に基づいた講義を行う。
準備学習	担当教員に指示された、教科書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	原則として期末試験の成績にもとづいて評価する。適宜平常点を加味する。
講義構成	第1回 イントロダクション

	第2回～第4回 GDP 第5回 需要、供給と景気 第6回 乗数プロセスと限界消費性向 第7回 需要(所得、生産)の決定とマクロ経済の均衡 第8回 所得の調整と需要の調整 第9回～第10回 マクロ経済モデルとマクロ経済均衡の計算 第11回～第12回 貨幣 第13回～第14回 信用乗数のメカニズム
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年

授業コード	31U22		
授業科目名	初級ミクロ経済学 (B)(前)		
担当者名	王 凌(ワン リン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	人々がモノをつくること(生産)、人々がモノを使うこと(消費)、そして、人々がモノをやりとりすること(交換)、この3つから経済は成り立っています。これら3つの経済活動は、「市場経済」と呼ばれる仕組みのなかで行われています。この授業では、個々の経済主体(企業、家計、政府)の行動に主眼を置き、市場経済のもとで、生産、消費、交換という経済活動がどのように行われるのかを学びます。
到達目標	具体的な到達目標は次の5つです。 (1)トレードオフ、機会費用、インセンティブなどの、経済学の基本的な考え方を知ること。 (2)需要と供給のグラフを使って、市場均衡、価格の変化や生産量・消費量の変化を説明できるようになること。 (3)需要曲線の意味、消費者の消費行動がどのように需要曲線で表されているのかを理解すること。 (4)供給曲線の意味、生産者の生産行動がどのように供給曲線で表されているのかを理解すること。 (5)各経済主体の意思決定・行動様式の相互依存性を理解すること。
講義方法	原則として教科書の内容に基づいた講義を行う。
準備学習	担当教員に指示された、教科書の箇所を読んでおくこと。
成績評価	原則として期末試験の成績にもとづいて評価する。適宜平常点を加味する。
講義構成	第1回 イン트로ダクション 経済学とはどのような学問か、ミクロ経済学の分析内容と分析手法などについて解説します。 第2回～第4回 需要と供給 需要と供給のグラフが何を表しているのかを学び、そのグラフを使って、世の中で実際に起こっているできごとを説明するやりかたを学びます。 第5回～第6回 需要曲線と消費者行動 人々の、モノを買って使う、という行動が、どのように需要曲線で表されるのかを学びます。 第7回～第8回 費用の構造と供給行動 人々の、モノをつくって売る、という行動が、どのように供給曲線で表されるのかを学びます。 第9回～第10回 市場取引と資源配分 人々が自由に自発的にモノ売り買いすることを通じて誰が何をどれだけ生産し消費するかが決まる、という社会のしくみ(=市場経済)の性能を学びます。 第11回～第14回 ゲーム理論 ゲーム理論とはどのようなものであるのか、そしてそれを利用して経済問題をどのように分析できるのかを学び

	ます。
教科書	伊藤元重、『入門 経済学』第3版、日本評論社、2009年

授業コード	41C81		
授業科目名	親族法（1クラス）(前)		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	法学部全学年 出席番号1～210		
オフィスアワー	各回の講義後		

講義の内容	本講義は、民法第4編親族を対象とする講義である。 親族法はいわゆる「家族」構成員相互の法律関係(家族や男女関係、親子関係等)を主として対象とする。家族構成員たる自然人はまた社会の構成員として存在するため、社会の変化や意識の変化にも注意を払い、親族法を捉える必要がある。 講義では、家族のあり方について考える機会を与えるとともに、親族法分野の理解を目的とする。
到達目標	親族法の特徴や仕組みについて理論・裁判例を理解し、具体的な事例を解決できるようにする。
講義方法	講義は、基本的には教科書に沿って進める。最初に各制度の枠組みやその基本的な考え方を概説した後、重要な論点を中心に講義を行う。
準備学習	教科書、レジュメを中心に予習し、具体的な事例・裁判例について検討する。相続法をとる人はこの講義を聞いておくことが望ましい。
成績評価	定期試験(70%)と3回提出されたレポート(30%)の内容に応じて評価する。
講義構成	1. 家族法の全体像 2. 婚姻の成立Ⅰ(婚姻の意義、婚姻成立の要件) 3. 婚姻の成立Ⅱ(婚姻の無効と取消し、婚約・結納・内縁) 4. 婚姻の効果Ⅰ(一般的效果) 5. 婚姻の効果Ⅱ(財産的效果) 6. 離婚の成立 7. 離婚の効果 8. 親子Ⅰ(実子) 9. 親子Ⅱ(養子) 10. 親権Ⅰ 11. 親権Ⅱ 12. 後見・保佐・補助 13. 扶養 14. まとめ
教科書	千藤ほか『プリメール民法5 家族法〔第2版〕』(法律文化社、2005)
参考書・資料	水野紀子・大村敦志・窪田充見編『家族法判例百選〔第7版〕』(有斐閣、2008) その他の資料は、講義中に適宜紹介する。
講義関連事項	六法は必ず持ってくること。

授業コード	41C82		
授業科目名	親族法（2クラス)(前)		
担当者名	辻上佳輝(ツジガミ ヨシテル)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	法学部全学年 出席番号211～最後、法学部以外		

講義の内容	親族法は民法第4編「親族」を主な対象とする分野である。後期開講の「相続法」とあわせて「家族法」と呼ばれ
-------	---

	るこの分野は、親族関係(「親戚関係」と同じ意味だと思ってよい)、婚姻(「結婚」)、離婚、親子、養子縁組、離縁、扶養などについて学ぶ。 内容は、大学生ならばこれから数年のうちには経験する可能性が高いものばかりで(もちろん経験したくない事柄もあるが…)、いずれ自分の生活に役立つことばかりである。
到達目標	親族法のみならず法律学全体の目標であるが、①親族法で使う言葉を理解し、正しく使えるようになること、②親族法や民法が持っている理論を正しく使えるようになること、③法体系の中で今学んでいることがどこに位置するのかを知ること、が究極的な目標である。 親族法では、これに加えて④実際の社会で動いているルールと法規定がどのようにに関係し、また乖離しているのかを知ること、も重要となる。
講義方法	「My Konan」の指定ページにてアップロードする講義レジュメと口述による。
準備学習	この講義では、予習は一切必要でない。最初に講義を聞き、参考書などで補充すること。
成績評価	期末試験の成績による。
講義構成	第1回 ガイダンス・親族法の学び方 第2回 親族 第3～6回 婚姻 第7～8回 離婚 第9～11回 親子 第12～13回 養子・特別養子・離縁 第14～15回 扶養
教科書	使用せず、詳細なレジュメによる。
参考書・資料	参考書の一覧は、第1回のレジュメに列挙している。 自分にあったものを用いること。

授業コード	41032		
授業科目名	政治学原論(政治学原論II) (後)		
担当者名	飯田文雄(イダ フミオ)		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	この講義は、現代政治の理解に必要な諸理論を、その思想的・歴史的前提を踏まえつつ考察することを目的とする。具体的には、本講義の考察対象となるのは、主として20世紀以降の現代先進民主主義諸国に共通する政治的現象の理解に不可欠な諸理論である。また現在の時点では、それらを、以下に挙げるテーマを手がかりに整理・概観する予定である(事情により変更の可能性ある)。
到達目標	①基本的な政治学の概念を理解すること ②それら概念が現実の政策にどう応用されているかを理解すること ③①②を通して公務員試験受験の基礎となる学力をつけること これらが到達目標である。
講義方法	大教室での講義形式で授業を行う。質問は適宜授業後に受け付ける。
準備学習	政治学の他の科目を出来る限り聴講しておくことは勿論この講義の準備として有益である。また同様に、政治学の専門書や政治思想史の古典を読むことも準備として有益である。
成績評価	期末の筆記試験の成績による。
講義構成	序 現代政治理論の方法 第1章 リベラリズムの歴史的展開 1-1 リベラリズムと権利 1-2 リベラリズムと自己利益 1-3 リベラリズムと人格発展 第2章 自由 2-1 二つの自由論 2-2 共同体論と自由 2-3 共和主義の自由論 第3章 権力 3-1 現代権力論の起源

	3-2 3次元の権力論 以上各項目を各1-2時間程度で講義する
教科書	「現代政治学の名著」(佐々木毅編、中央公論社) 「現代政治理論」(川崎・杉田編、有斐閣、2006)
参考書・資料	参考書:「政治学講義」(佐々木毅著、東京大学出版会)「概説西洋政治思想史」(中谷・足立編著、ミネルヴァ書房)他、講義内で適宜指示 資料:講義の理解を促進し、より進んだ勉強を奨励するため、参考文献リスト等を適宜配布する予定である。
担当者から一言	教科書等、シラバス作成時に未確定な事柄を中心とした、講義の進め方に関する重要事項を、初回の講義で伝達するので、必ず出席すること。

授業コード	41A41		
授業科目名	政治学入門(政治学原論I) (A)(前)		
担当者名	池田佳隆(イケダ ヨシタカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	法学部1年次 出席番号1～210		
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	入門用のテキストを用いて、政治学の基本的な考え方を学ぶ。
到達目標	政治学の基本的な概念を理解する。
講義方法	通常の講義形式による。
準備学習	テキストの該当部分を読んでおく。
成績評価	期末試験による。
講義構成	1投票行動 2マスメディア 3政党 4官僚制 5利益団体 6首相 7地方自治 8国際政治 9グローバリゼーション
教科書	ポリティカル・サイエンス事始め(第3版) 伊藤光利編、有斐閣、2009年3月 (必ず2009年に発売された最新版を購入してください。同じタイトルでも古い版だと内容が異なります。)
担当者から一言	法律を勉強する人も政治学の基礎を学んでおいて損はありません。積極的に参加してください。

授業コード	41A42		
授業科目名	政治学入門(政治学原論I) (B)(前)		
担当者名	池田佳隆(イケダ ヨシタカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	法学部1年次 出席番号211～最後		
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	入門用のテキストを用いて、政治学の基本的な考え方を学ぶ。
到達目標	政治学の基本的な概念を理解する。
講義方法	通常の講義形式による。
準備学習	テキストの該当部分を読んでおく。
成績評価	期末試験による。
講義構成	1投票行動 2マスメディア 3政党 4官僚制 5利益団体 6首相 7地方自治 8国際政治 9グローバリゼーション
教科書	ポリティカル・サイエンス事始め(第3版) 伊藤光利編、有斐閣、2009年3月 (必ず2009年に発売された最新版を購入してください。同じタイトルでも古い版だと内容が異なります。)

担当者から一言	法律を勉強する人も政治学の基礎を学んでおいて損はありません。積極的に参加してください。
---------	---

授業コード	41A43		
授業科目名	政治学入門(政治学原論I)(C)(後)		
担当者名	西山隆行(ニシヤマ タクユキ)		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	法学部1年次以外		
オフィスアワー	随時行います。あらかじめご連絡ください。		

講義の内容	政治学の基本的な考え方や政治の仕組みを学ぶとともに、実際の政治現象をどのように捉えたらよいのか、新聞記事などを随時紹介しながら考えていきます。
到達目標	講義を通じて、政治に関心を持ち、日本の政治状況や社会問題について知ろうとする姿勢を身につけてもらいたい。そして、政治学に関心をもち、さらに勉強したいと思ってもらえればうれしいです。
講義方法	講義形式にて行います。 毎回、レジュメとともに資料や新聞記事を配布します。レジュメはMyKonanに掲載しますが、資料や新聞記事のコピーはMyKonanに掲載されませんので注意してください。
準備学習	最近の政治状況について、常日頃から新聞等に目を通して把握しておいてください。 また、参考文献にあげた『はじめて出会う政治学』に目を通しておくと、授業内容の理解が進むでしょう。
成績評価	期末試験の成績を基本とします。
講義構成	0. はじめに：現在の政治状況 I. 政治のプロセスと経済・市民社会 1. 選挙(投票) 2. 世論とメディア 3. 利益団体 4. 地方自治 5. 政策過程 II. 政治の仕組み(統治の主体) 1. 国会 2. 政党 3. 議院内閣制と総理大臣 4. 官僚制 5. 政治過程に関する理論
教科書	授業は特定の教科書に沿った構成としていませんが、随時参考とすべき基本的文献として、とりあえず次のようなものをあげておきます。各自の目的にあったものを選んでもらえるよう、第1回のガイダンスで文献の説明をします。 北山・真淵・久米『はじめて出会う政治学(第3版)』有斐閣、2009年。 伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め(第3版)』有斐閣、2009年。 久米・川出・古城・田中・真淵『ニューリベラルアーツ 政治学』有斐閣、2003年。
参考書・資料	上記を参照。

担当者から一言	第1回目のガイダンスで、試験の形式や成績評価の詳細を説明しますので、受講者は必ず出席してください。
---------	---

授業コード	41035		
授業科目名	政治過程論I(前)		
担当者名	平野淳一(ヒラノ ジュンイチ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	本講義では政治学的な視点を用いると政治過程がどのように見えるのかを解説します。政治についての情報はテレビや新聞、ネットなどからも得ることができ、ジャーナリストや専門家がそれぞれの観点から行った分析に
-------	---

	も触れることができます。しかし、そうしたメディアで流されている情報を基に政治の動向を読み解いたり、日本政治に対する自分なりの見方を形成していくことは簡単ではありません。実際に起こっている諸問題をより深く掘り下げて理解するためには、長期的かつ多様な観点から政治現象を捉えることが有益です。 そのために本講義では政治学の分野における理論枠組みや研究成果の紹介を通じて、政治現象の一般的な理解を深めることを目指します。具体的な流れとしては、日本政治の歴史的・制度的背景を概観した後、政治過程を選挙過程と政策過程の二つの領域に分けて論じます。2009年の衆議院選挙では民主党が勝利し、戦後初の選挙による政権交代が起りましたが、政権交代による変化についても講義では適宜触れていくつもりです。
到達目標	① 現代日本政治に関する知識を深める ② 多様な視点から政治現象を理解する ③ 政治に関する時事解説の妥当性を自分なりに判断する力を身につける
講義方法	通常の講義形式で行います。レジュメを配布しますので、それを基に説明を加えていく方式を取ります。
準備学習	北山俊哉・真淵勝・久米郁男『はじめて出会う政治学：構造改革の向こうに』（有斐閣、2009年）を一読しておく と授業内容が理解しやすくなると思います。
成績評価	期末試験のみで評価します。
講義構成	政治過程論Ⅰ、政治過程論Ⅱを通じて全体で四部から構成されます。 1. 政治過程論とは何か 2. 戦後日本政治の展開 ① 日本政治の基本的な制度構造 ② 戦後日本政治史の概略 3. 選挙過程 ① 選挙制度 ② 政党システム・政党組織 ③ 有権者の行動 ④ 政治家の行動 ⑤ 日本の選挙過程の特徴と近年に見られる変化 (※ 以下は政治過程論Ⅱ) 4. 政策過程
教科書	建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史『比較政治制度論』有斐閣、2008年。
参考書・資料	三宅一郎『投票行動』東京大学出版会、1989年。 ※ その他については講義中に適宜紹介します。
講義関連事項	政治過程論Ⅰ、政治過程論Ⅱは担当者が同じで講義内容の連続性も高いので、両方受講することをお勧めします。
担当者から一言	日本政治についてより深く理解したい方の受講を歓迎します。政治を批判的に見ることは大切ですが、実際に起こっていることを十分に理解して初めて何が問題なのかを自分なりに考えることができます。講義を通じて政治を冷静な目で見ながらも身近に感じることの面白さや大切さをお伝えできるようにしたいと思います。

授業コード	41036		
授業科目名	政治過程論Ⅱ（後）		
担当者名	平野淳一（ヒラノ ジュンイチ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	本講義では政治学的な視点を用いると政治過程がどのように見えるのかを解説します。政治についての情報はテレビや新聞、ネットなどからも得ることができ、ジャーナリストや専門家がそれぞれの観点から行った分析にも触れることができます。しかし、そうしたメディアで流されている情報を基に政治の動向を読み解いたり、日本政治に対する自分なりの見方を形成していくことは簡単ではありません。実際に起こっている諸問題をより深く掘り下げて理解するためには、長期的かつ多様な観点から政治現象を捉えることが有益です。 そのために本講義では政治学の分野における理論枠組みや研究成果の紹介を通じて、政治現象の一般的な理解を深めることを目指します。具体的な流れとしては、日本政治の歴史的・制度的背景を概観した後、政治過程を選挙過程と政策過程の二つの領域に分けて論じます。2009年の衆議院選挙では民主党が勝利し、戦後初の選挙による政権交代が起りましたが、政権交代による変化についても講義では適宜触れていくつもりです。
到達目標	① 現代日本政治に関する知識を深める ② 多様な視点から政治現象を理解する ③ 政治に関する時事解説の妥当性を自分なりに判断する力を身につける

講義方法	通常の講義形式で行います。レジュメを配布しますので、それを基に説明を加えていく方式を取ります。
準備学習	北山俊哉・真淵勝・久米郁男『はじめて出会う政治学：構造改革の向こうに』（有斐閣、2009年）を一読しておく と授業内容が理解しやすくなると思います。
成績評価	期末試験のみで評価します。
講義構成	政治過程論Ⅰ、政治過程論Ⅱを通じて全体で四部から構成されます。 1. 政治過程論とは何か 2. 戦後日本政治の展開 3. 選挙過程 （※ 以上は政治過程論Ⅰ） 4. 政策過程 ① 執政制度と政治的リーダーシップ ② 議会制度 ③ 官僚制 ④ 司法制度 ⑤ 地方政府・中央地方関係 ⑥ 利益集団 ⑦ マスメディア ⑧ 日本の政策過程の特徴と近年に見られる変化
教科書	建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史『比較政治制度論』有斐閣、2008年。
参考書・資料	講義中に適宜紹介します。
講義関連事項	政治過程論Ⅰ、政治過程論Ⅱは担当者が同じで講義内容の連続性も高いので、両方受講することをお勧めします。
担当者から一言	日本政治についてより深く理解したい方の受講を歓迎します。政治を批判的に見ることは大切ですが、実際に起こっていることを十分に理解して初めて何が問題なのかを自分なりに考えることができます。講義を通じて政治を冷静な目で見ながらも身近に感じることの面白さや大切さをお伝えできるようにしたいと思います。

授業コード	41051		
授業科目名	税法I(租税実体法) (前)		
担当者名	石原 忍(イシハラ シノブ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
講義の内容	租税実体法のうち資産税(相続税・贈与税)を講義する(講義の進行状況により消費税を加える)。相続税・贈与税では、①相続税法が私法と対立している部分を有すること②相続税・贈与税と所得税との関連を理解する。		
到達目標	「何に対してどのように課された税金を、誰が、何時、どのように納付するのか」を判断し、課税上の問題点を考察できることを目的とする。なお、本講義は、相続税・贈与税の計算ができるようになることを目的とするものではない。		
講義方法	教科書のうち重要部分について、判例を参照しながら講義する。なお適宜プリント、レジュメを配布する。		
準備学習	相続法の初歩的理解があれば、受講がスムーズになると思われます。		
成績評価	期末試験による。		
講義構成	第1回 ガイダンス、租税法総論 第2回 相続法の確認 相続税と贈与税の関係 第3回 相続税の納税義務者 相続税の課税価格について(本来の財産) 第4回～第9回 相続税の課税価格について(みなし相続財産、非課税、課税価格の計算の特例) 第10回～第11回 相続税の総額から各人の相続税額 第12回～第14回 贈与税(課税要件から税額まで)		
教科書	第1回の講義で指示する。 受講生は第1回の講義の後準備してください。		
参考書・資料	水野忠恒ほか編「租税判例百選[第4版]」(有斐閣・2005年) 佐藤英明『プレップ租税法』((弘文堂・2006年) 岡村忠生ほか『ベーシック税法[第4版]』(有斐閣・2009年)		

講義関連事項	判例六法(有斐閣)など、税法の掲載された法規集を用意してください。
--------	-----------------------------------

担当者から一言	租税法の初学者であっても、関心のある学生は積極的に参加してみてください。
---------	--------------------------------------

授業コード	41052		
授業科目名	税法Ⅱ(租税手続法)(後)		
担当者名	石原 忍(イシハラ シノブ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	租税手続法、租税争訟法、租税処罰法を講義する。
到達目標	納税義務の成立・確定・消滅の過程を理解したうえで、租税債務の「公共性・公平性」という特質に伴って、納税義務者に保障されている制度及び国に留保されている特権について、それらの役割と問題点を議論することを目的とする。
講義方法	教科書のうち重要部分について、判例を参照しながら講義する。なお講義ではレジュメを用意する予定。
準備学習	行政法の初歩的理解があれば、受講がスムーズになると思われます。 租税法の理解を深めるため、租税実体法(所得税法・法人税法・相続税法)を内容とする講義を受講することを勧めます。
成績評価	期末試験による。
講義構成	第1回 ガイダンス、租税法総論 第2回～第3回 納税義務の成立〔課税要件総論(1)〕 第4回～第5回 納税義務の成立〔課税要件総論(2)～納税義務の成立、諸義務まで〕 第6回～第8回 納税義務の確定(1)(納税申告ほか) 第9回～第10回 納税義務の確定(2)(課税処分ほか) 第11回～第12回 納税義務の確定(3)(その他) 第13回～第14回 租税処罰法、租税争訟法
教科書	第1回の講義で指示する。 受講生は第1回の講義の後準備してください。
参考書・資料	水野忠恒ほか編「租税判例百選〔第4版〕」(有斐閣・2005年) 岡村忠生ほか『ベーシック税法〔第4版〕』(有斐閣・2009年) 佐藤英明『プレップ租税法』(弘文堂・2006年)
講義関連事項	判例六法(有斐閣)など、税法の掲載された法規集を用意してください。

担当者から一言	租税法の初学者であっても、関心のある学生は積極的に参加してみてください。
---------	--------------------------------------

授業コード	41019		
授業科目名	西洋政治史I(前)		
担当者名	高野清弘(タカノ キヨヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
オフィスアワー	金曜日3時～4時		

講義の内容	15世紀末までのテューダー朝成立までのイギリスの政治史を中心として、ヨーロッパの政治の流れを概観する。明治以来、わが国は、欧米諸国に学んで近代化の努力を重ねてきた。したがって、わが国の政治制度の多くは、議会制度を始めとして、欧米の諸制度をモデルとするものである。この講義で対象とするのは、そのような制度が完成される以前の西洋社会であり、それゆえ、本講義は、いわばそのような制度を生み出した歴史的土壌を理解することを目指す。
到達目標	イギリスを軸に、中世のヨーロッパの姿を理解すること。
講義方法	講義内容についての詳細なレジュメを配布し、それにしたがって講義する。講義の中で、イギリスの歴史を扱った映画なども紹介し、ビデオ等で鑑賞することを推奨する。また、小説や戯曲も紹介するので、積極的に読んでいただきたい。

準備学習	授業の中で紹介した本を読んでくることが望ましい。
成績評価	原則として、期末の筆記試験の点数で成績評価を行う。授業の中で紹介した本や映画についてのレポートを提出した場合、加点の対象とする。これは任意であるが、次の要件を備えたものでなければならない。本の場合、著者、書名、出版社、出版年が明記されていること、映画の場合、映画のタイトル、監督、主演俳優、公開年が明記されていること、および、ワープロで40字36行2枚以上(本文)。手書きや以上の要件を備えていない場合には、加点の対象としない。締め切りは、6月の最終講義日。また、メールに添付での提出は歓迎するので、アドレスを知りたい学生は申し出ること。なお、2009年度はかなりの数の履修者に不可の判定を下した。先輩やネットの情報はあてにならないので注意すること。
講義構成	第1章 始めに 第2章 イギリス像の転換 第3章 ケルトとローマ 第4章 イングランド・スコットランド・ウェールズの形成 第1節 民族大移動 第2節 イングランドの形成 第3節 ウェールズ・スコットランドの形成 第5章 第1節 「属領時代」 第2節 「属領」から島国へ 第3節 王と諸侯 第4節 議会の形成 第5節 諸侯の政権掌握と抗争 第6節 経済と社会 第6章 終わりに—テューダー朝の成立
教科書	教科書は指定しない。
参考書・資料	川北稔・木畑洋一編『イギリスの歴史』(有斐閣アルマ) 青山吉信・今井宏編『概説イギリス史』(有斐閣選書) 高野清弘『政治と宗教のはざままで』(行路社) その他、随時、興味深い本を紹介する。

担当者から一言	出席はとりません。講義を聴く意志のある学生の積極的な出席を求めます。
ホームページタイトル	丸山眞男を読む会
URL	http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/yomukai/

授業コード	41020		
授業科目名	西洋政治史Ⅱ(後)		
担当者名	高野清弘(タカノ キヨヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限
オフィスアワー	金曜日3時～4時		

講義の内容	本講義においては、イギリスを機軸として、近代以降の西洋政治史を概観する。したがって、テューダー朝の成立を序論とし、二つの革命を経て、海外進出、工業化の進展によってイギリス帝国が成立していった過程と、それが次第に凋落していった経緯を論ずるが、イギリス史の展開は他の西欧諸国との関係抜きには論じられないので、そのことにも言及する。
到達目標	イギリスを中心に成立過程のヨーロッパ近代社会を知ること。
講義方法	本講義は、詳細なレジュメを配布し、それにそくして講義する。。できれば、この時期のイギリスの歴史に関係した映画や小説なども紹介していきたい。
準備学習	授業の中で紹介した本を読んでくることが望ましい。
成績評価	原則として、期末の筆記試験の点数で成績評価を行う。授業の中で紹介した本や映画についてのレポートを提出した場合、加点の対象とする。これは任意であるが、次の要件を備えたものでなければならない。本の場合、著者、書名、出版社、出版年が明記されていること、映画の場合、映画のタイトル、監督、主演俳優、公開年が明記されていること、および、ワープロで40字36行2枚以上(本文)。手書きや以上の要件を備えていない場合には、加点の対象としない。締め切りは、12月の最終講義日。また、メールに添付での提出は歓迎するので、アドレスを知りたい学生は申し出ること。評価は結構厳しく行う予定であるので、そのつもりで受講すること。

講義構成	講義構成 序章 歴史とは何か。 第1章 近代イギリスの成立 第1節 テューダー朝の立と宗教改革 その1 その2 第2節 エリザベスの時代 その1 その2 第2章 二つの革命 第1節 ピューリタン革命 その1 その2 第2節 名誉革命 その1 その2 第3章 ユニオン・ジャックの成立 第1節 地主支配体制の確立と議会主義の成立 第2節 「二重革命」の時代
教科書	教科書は指定しない。
参考書・資料	川北稔・木畑洋一編『イギリスの歴史』(有斐閣アルマ) 青山吉信・今井宏編『概説イギリス史』(有斐閣選書) 高野清弘『政治と宗教のはざままで』(行路社) 随時、関連した文献を紹介する。
担当者から一言	出席はとりません。講義を聴く意志のある学生の積極的な出席を求めます。
ホームページタイトル	丸山眞男を読む会
URL	http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/yomukai/

授業コード	41039		
授業科目名	西洋政治思想史I(前)		
担当者名	高野清弘(タカノ キヨヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	金曜日3時～4時		

講義の内容	近代初頭にいたるまでの西洋政治思想の流れを概観する。今日、「政治」という言葉には、マイナスのイメージが伴い、また、「思想」に対しても嫌悪感ないし敵意が一般化しているように思われる。政治自体は人間の歴史が始まるとともに営まれていたのであろうが、政治についての反省的な思索が開始されたのは、西洋においては、古典古代のギリシャにおいてであった。そこでは、政治に否定的な意味合いはなく、人間が人間であろうとする限りなさざるを得ない行為と観念されていた。本講義においては、政治の復権を目差して、今一度西洋の政治思想を古典古代から理解することを試みる。キリスト教も西洋思想の柱であるので、その思想についても概説を試みる。
到達目標	少なくとも、西洋の思想の根本をなす、キリスト教的な考え方とギリシア的な考え方の相違について学生がある程度の理解を獲得することを目指す。
講義方法	プリントを配布する。レポートを課すこともありうる。
準備学習	授業において推薦する書物を読むこと。
成績評価	この科目は、毎年、受講生数が大きく変動するため、あらかじめ確たる方針を提示することができない。しかし、基本的には期末試験によって成績評価を行う。
講義構成	前期 1. 政治思想史の課題 2. 政治学の始源 3. 理想国家の構想——プラトン 4. ポリス政治の総括——アリストテレス 5. ポリスの没落とヘレニズム世界

	6. エピクロス派とストア派 7. ローマの政治思想 8. キリスト教の登場 9. アウグスティヌス——「神の国」と「地の国」 10. 中世ヨーロッパ社会の形成と政治思想の動向 11. トマス・アキナス——中世政治思想の体系化 12. 中世末期における政治思想の動向 13. ルネサンスの政治思想 14. 総括
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書・資料	小笠原・小野・藤原『政治思想史』(有斐閣Sシリーズ) 福田勲一『政治学史』(東京大学出版会) 藤原保信『政治理論史』(早稲田大学出版部) 高野清弘『政治と宗教のはざまで』(行路社) その他、講義の中で適宜紹介する。
担当者から一言	なるべく、さまざまな分野に興味を持っていただきたい。
ホームページタイトル	丸山眞男を読む会
URL	http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/yomukai/

授業コード	41040		
授業科目名	西洋政治思想史Ⅱ(後)		
担当者名	高野清弘(タカノ キヨヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	金曜日 3時～4時		

講義の内容	マキアヴェッリ以降の近代政治思想の流れを概観する。近年、特殊「近代」的な政治・経済・科学等に対する批判がかまびすしいが、近代に対して批判的に関わろうとする場合にも、我々自身が決定的に近代の刻印を受けていることの認識が当然の前提となろう。この意味において、我々は、近代の出発点に立ち戻り、もう一度近代の思想を捉え返す必要があるということになる。この場合、政治に関する思想を独立したものとしてではなく、自然科学・経済・宗教等と根本においては共通の基盤を有するものとして理解することを求めている。
到達目標	西洋近代とは何か。この思想史上の大問題について思考する手掛かりを提供する。
講義方法	プリントを配布する。レポートを課すこともありうる。また、メールによるものも含め、質問を課題とすることも考えている。しかし、これは予定であって、受講生数によって、講義方法を変更することもありうる。
準備学習	講義において紹介した本を読んでくれることが望ましい。
成績評価	受講生数が、毎年大きく変動するので、あらかじめ確たる方針を提示できない。しかし、基本的には期末試験によって成績評価を行う。
講義構成	1. 西洋政治思想Iのまとめ 2. ルネッサンスの政治思想 マキアヴェッリ 3. トマス・モア 4. 宗教改革の政治思想 ルターの思想 5. 同上 6. カルヴァンと抵抗権 7. 政治学のゲシュタルト・チェンジ——トマス・ホブズ 8. 同上 9. リベラル・デモクラシーの定礎——ジョン・ロック 10. 同上 11. 市民社会批判——ルソー 12. 理性の再検討——ヒュームとカント 13. フランス革命の衝撃——ロマン主義・歴史主義・保守主義 14. まとめ
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書・資料	小笠原・小野・藤原『政治思想史』(有斐閣Sシリーズ) 福田勲一『政治学史』(東京大学出版会)

	藤原保信『政治理論史』(早稲田大学出版部) 高野清弘『政治と宗教のはざままで』(行路社) その他、講義の中で適宜紹介する。
担当者から一言	なるべく、さまざまな分野に興味を持っていただきたい。
ホームページタイトル	丸山眞男を読む会
URL	http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/yomukai/

授業コード	41009		
授業科目名	西洋法史I(前)		
担当者名	黒田忠史(クロダ タダミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	火曜日12:10～12:50 またはE-Mailによる約束時間		

講義の内容	現行日本法の近代化に大きな影響を与えてきた西欧法の基層にあるヨーロッパ特有の法思想、法制度、裁判制度などの歴史的経緯と特徴について概説する。とりわけ前期「西洋法史I」では、ヨーロッパ前近代の法史について講義する。
到達目標	西洋古代・中世の法史料についての基礎的知識の習得と、近代法の基礎にある法文化の特性を理解できること。
講義方法	パワーポイントや資料(My Konanにアップロード済)、視聴覚教材などを使用し、講義する。
準備学習	My Konanに掲載している講義資料、法史料を事前に読んでおくこと。
成績評価	基本的には期末試験(100点満点)の結果で評価。
講義構成	第1講 序論(過去問解説、勉強方法、法史のトピック) 第2講 ヘブライズム法思想 第3講 古代ギリシャの民主政と陪審裁判 第4講 古ゲルマンの法と社会 第5講 ユースティニアヌス法典 第6講 中世前期の裁判制度 第7講 レーエン制と村落法 第8講 都市の成立と発展 第9講 神の平和、ラントの平和 第10講 中世の大学と法学部 第11講 中世ローマ法学の展開 第12講 カノン法 第13講 ギルドとツunftの制度と法 第14講 ローマ法の継受、まとめ
教科書	特になし。
参考書・資料	勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』ミネルヴァ書房 2004年 黒田著『西欧近世法の基礎構造』晃洋書房 1999年 上山編『近代ヨーロッパ法社会史』ミネルヴァ書房 1997年
講義関連事項	毎回の講義の冒頭で、前回の復習、質問への回答、講義の課題設定を行うので、毎回遅刻しないように。質問や意見は、他の人にも説明できるように、できるだけ講義中のクエスチョン・タイムにしてください。
その他	My Konanに、パワーポイントで提示するスライドや配布資料を、すべて載せています。前もってプリントアウトし、毎回の講義に持参してください。

授業コード	41010		
授業科目名	西洋法史Ⅱ(後)		
担当者名	黒田忠史(クロダ タダミ)		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	火曜日12:10～12:50 またはE-Mailによる約束時間		
講義の内容	「近代法」の形成過程、その普遍性と特殊性、それを決定づけたヨーロッパ各国の政治的・社会的「構造」の特徴について講述する。		
到達目標	現行法を生み出した政治的・社会的・文化的な背景についての基礎的知識を習得。		
講義方法	パワーポイントや資料(My Konanにアップロード済)、視聴覚教材などを使用し、講義する。		
準備学習	My Konanの講義資料、法史料のダウンロードないしコピーと予習。		
成績評価	期末試験の結果によって評価。		
講義構成	第1講 序論(過去問を用いた勉強方法の説明、法史学のトピック) 第2講 帝国と領邦国家における裁判所組織の確立 第3講 永久ラント平和令とカリナ刑事法典 第4講 魔女裁判と刑事法学 第5講 ルネサンスと人文主義法学 第6講 身分制議会と絶対主義国家 第7講 パンデクテンの現代的慣用 第8講 近世自然法論 第9講 プロイセン一般ラント法 第10講 啓蒙主義的法典編纂 第11講 歴史法学派 第12講 パンデクテン法学による法典編纂 第13講 ワイマル期とナチス法学 第14講 「自然法のルネサンス」と現代法学の課題		
教科書	特になし。		
参考書・資料	勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』ミネルヴァ書房 2004年 黒田著『西欧近世法の基礎構造』晃洋書房 1999年 勝田有恒・山内進編著『近世・近代ヨーロッパの法学者たち』ミネルヴァ書房 2008年 上山編『近代ヨーロッパ法社会史』ミネルヴァ書房 1997年 ネル著・村上訳『ヨーロッパ法史入門』東大出版 1999年 その他、講義の中の個別テーマごとに紹介する。		
講義関連事項	講義の冒頭で、前回までの復習と質問への回答、課題設定などを行うので、遅刻しないように。質問や意見はE-Mailでも受け付けますが、他の人にも説明できるように、できるだけ講義中のクエスチョン・タイムにしてください。		
担当者から一言	さまざまな論文式の試験において十分に実力を発揮できるように、時々、小論文作成練習を行うが、あくまで実力をつけるための自主的練習であって、点数はつかない。		

授業コード	41C91		
授業科目名	相続法(1クラス)(後)		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	法学部全学年 出席番号1～210		
オフィスアワー	各回の講義後		

講義の内容	本講義は、民法第5編相続を対象とする講義である。 相続とは自然人の財産法上の地位(または権利義務)を、その者の死後に、法律もしくは死亡者の最終意思の效果として、特定の者に承継させることをいう。当事者(被相続人と相続人)の知・不知にかかわらず法律の規定に基づいて効力を生ずる相続を法定相続(または無遺言相続)といい、遺言という形で表明された被相続人の最終の意思に基づいて行われる相続を遺言による相続という。 講義では、相続制度・遺言制度の概要を理解させることを目的とする。
到達目標	相続法の特徴や仕組みについて理論・裁判例を理解し、具体的な事例を解決できるようにする。
講義方法	基本的には、教科書の内容に沿って、各制度の枠組みやその基本的な考え方を最初に概説し、重要な論点を

	中心に講義を進める。
準備学習	教科書、レジュメを中心に予習し、具体的な事例・裁判例について検討する。親族法をとる人はこの講義を聞いておくことが望ましい。
成績評価	定期試験(70%)及び3回提出されたレポート(30%)の内容に応じて評価する。
講義構成	I. 法定相続 1. 相続人 2. 相続財産 3. 単純承認・放棄 4. 相続分 5. 遺産共有 6. 遺産分割 7. 限定承認 8. 財産分離 9. 相続人の不存在 II. 遺言 1. 遺言の方式 2. 遺言による財産処分 3. 遺留分減殺請求権
教科書	千藤ほか『ブリーム民法5 家族法〔第2版〕』(法律文化社、2005)
参考書・資料	水野紀子・大村敦志・窪田充見編『家族法判例百選〔第7版〕』(有斐閣、2008) 参考書・資料は、講義中に適宜紹介する。
講義関連事項	六法は必ず持ってくること。

授業コード	41C92		
授業科目名	相続法（2クラス)(後)		
担当者名	辻上佳輝(ツジガミ ヨシテル)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	法学部全学年 出席番号211～最後、法学部以外		

講義の内容	相続法は民法第5編「相続」を主な対象とする分野である。前期開講の「親族法」とあわせて「家族法」をなす分野であり、できるかぎり前期の「親族法」を受講していることが望ましい。 相続法では、その名の通り「相続」に関するルールを学習する。家族の中に死人が出たとき、一般的な家庭であれば、まず通夜・葬儀を済ませ、役所への書類を提出し、ある程度落ち着けば最後に亡くなった家族が持っていた財産の分配のことを考えるはずである。 相続法は、最後の「財産の分配」のことだけを主に学ぶ分野である。 この講義の内容も、一生のうちに何回かは経験する事柄であり(当然、誰も経験したくはないが…)、いずれ役に立つことばかりである。
到達目標	相続法のみならず法律学全体の目標であるが、①相続法で使う言葉を理解し、正しく使えるようになること、②相続法や民法が持っている理論を正しく使えるようになること、③法体系の中で今学んでいることがどこに位置するのかを知ること、が究極的な目標である。 相続法では、これに加えて④相続法で最も重視される「平等」の意義を深く知ること、も重要となる。
講義方法	「My Konan」の指定ページにてアップロードする講義レジュメと口述による。
準備学習	この講義では、予習は一切必要でない。最初に講義を聞き、参考書などで補充すること。
成績評価	期末試験の成績による。
講義構成	第1回 ガイダンス・相続法概説・相続法で学ぶこと 第2回 相続人と相続財産1 相続の開始・相続人 第3回 相続人と相続財産2 承認・放棄・相続人不存在 第4～6回 遺産分割・相続回復請求 第7回 限定承認・財産分離 第8～10回 遺言1 遺言の方式・効力 第11回 遺言能力 第12～13回 遺贈・死因贈与 第14～15回 遺留分

教科書	使用せず、詳細なレジュメによる。
参考書・資料	参考書の一覧は、第1回のレジュメに列挙している。 自分にあったものを用いること。

授業コード	41086		
授業科目名	知的財産法II (後)		
担当者名	大瀬戸豪志(オオセト タカシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	月曜日昼休み		

講義の内容	映画やコンピュータプログラムの著作物を保護する著作権、機械や医薬品等の発明を保護する特許権、デザインを保護する意匠権、ブランドを保護する商標権等の知的財産権は、現代の企業にとって不可欠の経営資源となっている。今年度の講義では、このような知的財産権のうち、特に著作権を中心として、実際の産業・経済社会におけるその機能の解明に重点を置く(特許権については、次年度に講義する)。
到達目標	著作権法の正確かつ体系的な理解
講義方法	講義ごとに事前に配布する講義要項と教科書に沿った予習を十分にしていることを前提として講義を行う。
準備学習	講義要項と教科書に沿った予習
成績評価	学期末の定期試験(筆記試験)
講義構成	第1講 知的財産法総説 第2講 著作権の客体(1)(著作物の概念) 第3講 著作権の客体(2)(著作物の具体例) 第4講 著作権の主体(著作者・著作権者) 第5講 著作権の内容・効力(1) 第6講 著作権の内容・効力(2) 第7講 著作権の制限(1) 第8講 著作権の制限(2) 第9講 著作権の利用 第10講 著作者人格権の内容・効力 第11講 著作権の侵害と救済手段 第12講 著作者人格権、著作隣接権、実演家人格権の侵害と救済手段 第13講 著作権の国際的保護 第14講 全体のまとめと質疑
教科書	島並・上野・横山編著『著作権法入門』有斐閣、2009
担当者から一言	講義を聴いて、ノートを正確にとること(がきるようになること)が大学で学ぶ最大の意義である。

授業コード	41050		
授業科目名	地方自治(地方自治法) (前)		
担当者名	野田 崇(ノダ タカシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	地方自治法とは、都道府県、市町村といった地方自治体の活動に関する法である。と言っても、例えば、自治体が住民に対して命令・強制を行う場合、国の行政活動と同様のルールに従うのであって、自治体だから特別の扱いを受ける訳ではない。自治体だから特別だと言えるのは、一つには法律と条例の関係など国の諸活動との関係であり、もう一つは、住民訴訟のように自治体に特有の制度である。本講義では、自治体行政に特有の法制度を説明する。
到達目標	地方自治法が定めている地方自治制度の概要を把握する。
講義方法	レジュメを配布し、講義形式にておこなう。適宜教科書の参照を指示する。

準備学習	特に課題等は課さないが、指定した教科書に目を通しておくこと。また、新聞を読み、地方自治制度や地方自治体に関する記事があれば、読むようにすること。
成績評価	期末試験による。
講義構成	一回目 地方自治とは何か・日本の地方自治の歴史 二回目 憲法と地方自治 三回目 地方公共団体とは？ 四回目 地方公共団体の事務 五回目 地方公共団体の事務・関与 六回目 地方公共団体の組織(1) 七回目 地方公共団体の組織(2) 八回目 地方公共団体の活動(1) 九回目 地方公共団体の活動(2) 十回目 地方公共団体の活動(3) 十一回目 地方公共団体の財政(1) 十二回目 地方公共団体の財政(2) 十三回目 住民監査請求・住民訴訟(1) 十四回目 住民監査請求・住民訴訟(2)
教科書	宇賀克也『地方自治法概説[第二版]』(有斐閣・2007年)
講義関連事項	小型六法を持参すること。

授業コード	41029		
授業科目名	中南米地域研究(後)		
担当者名	田沼幸子(タヌマ サチコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	中南米地域に関する歴史、地理、文化について学ぶ。これらは静的で不変なものではなく、現代のグローバルな社会を形作ってきた世界システムの形成と深く関わっている。同時に、その形成に対応した各地域、文化独自の発展のあり方に注目する。
到達目標	中南米地域の地理・歴史・文化の概要に関する知識を身につける。
講義方法	各回ごとにフォーカスした地域・テーマに関して講義する。
準備学習	少なくとも中南米のうち5カ国の名前と位置を覚える。 中南米で制作された映画を一本観る。
成績評価	各講義ごとのリアクションペーパー、中間試験、期末試験の結果を総合して判断する
講義構成	1～4回 地理および先コロンブス期の歴史 5～8回 大航海時代および植民地期の歴史 9～12回 近代史 13～15回 現代史
教科書	なし
参考書・資料	毎回、関連資料を用いたレジュメを配布する

担当者から一言	中南米についてほとんど知識がなくても、関心がなくてもかまいませんが、講義を聞き、自分なりに考え、書くことを通じて、受け売りではない知識を身につけようとする意欲があることを期待します。大幅な遅刻をしたり、周囲に迷惑な私語をする者は退席してもらいます。出席率が悪い者は成績をつけませんので、履修しないでください。
---------	--

授業コード	41J31
授業科目名	特講I(法律学特別講義)(1クラス)(前)
担当者名	野口善國(ノグチ ヨシクニ)、伊藤信二(イトウ シンジ)、中山 高(ナカヤマ タカシ)

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
講義の内容	「あなたも付添人、調査官」 少年事件の特質、少年処遇の基本、少年法「改正」問題等を主な内容とする。 単に、一方的に知識を与えるのではなく、現実の事例を元に、自分が付添人（付添人）、調査官、裁判官ならどう対応するかを自分の頭で考える。 民事または家事の具体的事例を題材にします。題材となった事例について、当事者から法律相談を受けた場合を仮定し、解決手段の選択、解決に向けての注意点を検討します。具体的には、 ①当該事例にどのような法律上の問題点が存するか ②法律上の問題点について、どのような主張及び反論が可能か ③主張及び反論を裏付ける証拠としてはどのようなものが考えられるか ④相応しい紛争解決手段にはどのようなものがあるかについて検討します。特別の法的知識は不要ですが、講義で検討する事例について、上記①ないし④を自分の頭で考えながら授業にのぞんで欲しいと思います。（伊藤）		
到達目標	1 少年の可塑性について知識の上だけでなく、感情的にも実感する。 2 現実の少年非行の手続の流れを理解する。 3 自分の将来の職業の中で、少年非行にどう取り組むかイメージを持ち、職業へのモチベーションを高める。 民事（家事）に関する権利関係の捉え方、権利関係の実現手続について、実務的なイメージが掴めるようになることを目的とします。（伊藤）		
講義方法	毎時間、前半が講義（事案の説明など）、後半がそれぞれ自分の選択した職業の立場で意見を述べ、討論する。 講義の前半では、ビデオなどの視聴覚教材を利用して、民事（家事）事件の実務に関する説明を行います。後半では、民事（家事）の具体的事例を題材にして、当事者から相談を受けた場合の対応及び検討すべき点の解説を実務的観点から行います。六法全書を持参することが必要です。（伊藤）		
準備学習	特に必要ないが、教科書に眼を通しておけば効果的 特に必要ありません。（伊藤）		
成績評価	1 平常の意見発表の内容を50% 2 定期試験（論述テスト）を50%で評価する。 期末の筆記試験の点数で評価します。（伊藤）		
講義構成	1 少年事件の特質と少年事件手続 2～4 事例討議 5 （1）少年非行をどう解決すべきかー全般的討論 （2）何を学んだかー反省会 6～9 民事（家事）の具体的事例に即して実務上の問題を検討します。（伊藤）		
教科書	歌を忘れたカナリヤたち 特にありません。講義で取り上げる事例についてはレジュメを配布します。（伊藤）		
参考書・資料	家庭の愛をください 親をせめるな 特にありません。（伊藤）		
担当者から一言	将来、自分が少年問題に直面した時、あなたはどのようにするのかを一緒に考えましょう。 法律実務に興味をもつ学生の受講を希望します。（伊藤）		

授業コード	41J32
-------	-------

授業科目名	特講I(法律学特別講義)(2クラス)(後)		
担当者名	中島健治(ナカジマ ケンジ)、石井龍一(イシイ リュウイチ)、鴫田香織(トキタ カオリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	My KONANで先着順20名		

講義の内容	各回、特定のテーマをとりあげ、事件の体験等をまじえてお話をする。(鴫田) 1、今日の貧困問題を考える～私が弁護士になった頃のこと 2、セクシャル・ハラスメントをなくすために 3、命を守る 4、DVとストーカーの話 5、行政と市民と司法 弁護士が日頃どのような業務をしているかの理解を深めるべく、民事・刑事・家事の具体的事例を題材に、受任から事件終了までのプロセスを紹介しつつ、各段階で生じる問題点についてディスカッションを通じて検討する。民法・刑法の基礎知識があれば足りる。できるだけ身近な題材を取り上げ、自分が弁護士ならどうするかを自分の頭で考え随時意見を述べてもらおう。(石井) 法曹になるための条件、勉強方法について検討する。 ロースクール入試(適性試験を含む)、ロースクールでの授業の内容、新司法試験の内容についても実際の問題を示しつつ、それぞれに対応するために必要な能力、勉強方法について検討する。また、ロースクールでの学習、新司法試験のための学習が実務にどのように役に立つかについても検討してみたい。(中島)
到達目標	弁護士の公益性を理解する。(鴫田) 弁護士の業務内容、社会的意義・役割を理解する。(石井) 法曹になるための方法、身につけるべき能力を理解する。(中島)
講義方法	講義形式(鴫田) 民事・刑事・家事の具体的事例をレジュメで配布し、解説する。事例の中で生じる問題点について学生に意見を述べてもらい適宜ディスカッションする。(石井) 講義が中心にはなるが、適宜学生にも意見を述べてもらう機会を与え、ディスカッションも行なう。また、ロースクール入試や新司法試験を模した問題を講義の場で検討することも考えている。(中島)
準備学習	特になし。(鴫田) 特になし。(石井) 特になし。 新司法試験の問題の検討も行なうが、どういう問題が出されているか知ることが目的なのでそれを解けることまでは求めている。 民法、刑法の基礎程度の学力があれば望ましい。(中島)
成績評価	期末試験による。 (各教員が1問ずつ作成する問題から1問選択して回答)
講義構成	講義の内容記載の通り(鴫田) 第6回～第10回 上記「講義の内容」に即して構成する。各回1事例又は2回で1事例を取り上げる。(石井) 第11回～第14回 上記「講義の内容」に即して構成する。第11回は法曹になるためのルート等についての説明を行なう。第12回以降は、ロースクール入試、新司法試験等の問題の検討も行なう。
教科書	特になし。
担当者から一言	弁護士の社会で果たす様々な役割を理解してもらえれば幸いです。(鴫田) 特に3年生の積極的な履修を期待します。(中島)

授業コード	41096		
授業科目名	特講II(政治学特別講義)(後)		
担当者名	久米郁男(クメ イクオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	新聞やテレビでは、世界中の様々なニュースが報道される。そこでは、国ごとに政治や経済、社会現象がずいぶん異なっているという印象を受けるだろう。しかし、国ごとに違いがあるかどうか、さらにどうして違いが生じるかを理解するためには、しっかりとした方法論を身につける必要がある。この講義では、比較政治的な分析をする上で必要な方法論を、日常での出来事(たとえば、身長が高いと収入が増えるのか?)から比較政治のテーマ(たとえば、民主主義になると戦争はしなくなるのか?)まで幅広い題材を用いて具体的に学んでいく。その際に、講義参加者を少人数のグループに分けて、グループワークを行ったり、プレゼンテーションやディベートを行いつつ方法論を身につけていくようにする。
到達目標	因果関係の推論の方法を身につける。
講義方法	この講義では、グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベートなどを取り入れて、全員参加型の講義を行う。
準備学習	特に必要ない。
成績評価	講義への参加、講義中に課す課題によって評価する。 出席状況は、毎回、参加者に発言を求めながら確認する。なお、3回以上欠席がある場合は、単位は与えないので出席がしっかりできる人のみ受講してください。
講義構成	以下11のテーマを扱う。 (1)社会科学的思想とは何か:具体例で考えよう。 * 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、第2章 ・増山幹高『計量政治分析入門』東大出版会、第1章 (2)事実を知る記述的推論:官僚が強いってどうやって分かるの * 高根、第3章 * 久米郁男他『政治学』有斐閣、第12章 ・佐藤信『推計学のすすめ』講談社ブルーバックス、第1章 ・キング・コヘイン・ヴァーバ(以下ではKKVと略す)『社会科学のリサーチデザイン』勁草書房、第2章 (3)原因を探る因果的推論:少子化対策で子供の数を増やす方法って * 高根、第4章 ・KKV、第3章 ・赤川学『子どもが減って何が悪い?』ちくま新書 (4)「物差しを作る」操作化を考えよう:首相のリーダーシップをどう測る * 高根、第3章 ・久米他『政治学』第11章2 (5)観察と仮説演繹法:「民主的平和論」を手がかりに * 戸田山和久『科学哲学の冒険』NHKブックス、第2章 ・久米他『政治学』第8章 (6)啓蒙主義と実証:日本はどのように論じられてきたか ・久米他『政治学』第11章1 ・丸山真男『現代政治の思想と行動』(未来社)1章。 (7)文化論批判と反証可能性:文化の違いで説明して大丈夫? * KKV、第5章4 ・大嶽秀夫『戦後政治と政治学』(東大出版会)2章 ・Steven Reed, Making Common Sense of Japan, Pittsburgh University Press, 1993, chap2 (8)因果関係推論の技法:原因を発見しよう * 高根、第3章・6章 ・KKV、第3章

	(9) 比較分析の手法: 福祉国家はどうやって生まれるの * 高根、第6章 * 河野勝編『アクセス比較政治学』日本経済評論社、第1章 (10) 事例の選択: アジアの経済発展を手がかりに * KKV, 第4章 ・クルーグマン「アジアの奇跡という幻想」『良い経済学悪い経済学』所収 ・Barbara Geddes, Paradigms and Sandcastles, Michigan UP, chapter 2. (11) 演繹と帰納、そして帰納の復権 * 戸田山和久『科学哲学の冒険』第3章・4章
教科書	高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書
担当者から一言	参加型の授業です。どんどんあてますので、積極的に答えるようにしてください。
URL	http://www.geocities.jp/kumeikuo/

授業コード	41098		
授業科目名	特講Ⅲ（前）		
担当者名	金ムンスク(キム ムンスク)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	各回の講義後		

講義の内容	経済のグローバル化が進行している状況の下、国際取引の内容はますます多様になっているし、近年では電子商取引も急速に発達しつつある。 本講義は物品の国際売買を中心とした貿易取引の基本的な仕組みと国際紛争解決の方法について考える機会を与えるとともに、国際取引法の法律関係の理解を目的とする。
到達目標	とくに契約分野において国内法・国際条約の比較を行い、基本的な知識を深め、国際物品売買に関する理論・仕組みを理解できるようにする。
講義方法	教科書を中心に講義を進めるが、適時、裁判例及び関連資料を配布する。
準備学習	教科書、レジュメを中心に予習し、具体的な事例・裁判例について検討する。契約法の知識を必要としているため、契約法または国際私法を修得していることが望ましい。
成績評価	定期試験(70%)及び3回提出されたレポート(30%)の内容に応じて評価する。
講義構成	1. 国際取引に適用される法 2. 国際取引の当事者 (1)個人 (2)法人 (3)国家及び国家機関 3. 国際的な物品の売買 (1)国際売買契約 (2)国際物品運送 (3)国際貨物保険 (4)国際的な代金の決済 (5)製造物責任 4. 国際取引紛争の解決 (1)国際民事訴訟 ①国際裁判管轄権 ②外国判決の承認および執行 (2)国際商事仲裁 5. 国際倒産
教科書	山田鐸一・佐野寛『国際取引法[第3版補訂第2版]』(有斐閣、2009)
参考書・資料	適宜、関連資料を配布する。
講義関連事項	六法は必ず持ってくること。

授業コード	41099		
授業科目名	特講Ⅳ(後)		
担当者名	石田信義(イシダ ノブヨシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
講義の内容	現代世界においては北半球と南半球の政治経済の関係性が益々緊密化しており、地理的に日本と地球の反対側の位置にあるブラジルは、今日、ラテンアメリカ諸国の中で目覚ましい発展可能性が論じられている。また、日本からブラジルへの移民がスタートしてすでに100年を経たことで知られるように、ブラジルと日本との歴史的な関係性も深い。そこで本講義では、ラテンアメリカ、主にブラジルの政治経済の実態に関し、植民地期、独立期、そして国内統合化・開発を経て今日に至る政治・経済・社会・文化の諸相を総合的に理解することによってその実像を捉え、我が国の歩みとの関連性をも見ていくことによって、異なる文化地域の発展過程の独自性と世界的複合化に対する分析視点を養う。		
到達目標	政治経済の実態を理解するために、対象地域の現在面に関する知識のみに留まることなく、比較の視座に基づいて物事の「源流」を総合的に辿る歴史的視野をもつ。		
講義方法	講義では、資料配布等によりラテンアメリカの自然と人、政治経済及び社会・文化に関する基礎情報を最初に伝える。また、ビデオ等を見ることによってイメージ作りを助ける。授業は講義形式で進行し、歴史に関する方法論の説明を出発点として、政治経済の変化過程を時間を追って説明していく。学生個々人に対しては、対象地域に関する日頃の関心事についての率直な意見や報告を求める。必要と思われる文献・情報等は受講生に紹介し、またディスカッションを行う。		
準備学習	学習の対象地域をラテンアメリカ、あるいはブラジルにのみ限定することなく、日頃の時事的な問題について広く関心を寄せておくこと。また、地図や歴史の教科書等を振り返ることによって、世界の地理的、歴史的な広がりを感じてみる。		
成績評価	定期試験(70%)、出席日数及び発言等の積極性(30%)に基づいて総合評価する。但し、3分の2以上授業に出席しなければ成績を評価しない。		
講義構成	第1回 比較文化の視点－歴史とは何か 第2回 ラテンアメリカ文化の枠組み－イベリア文化の積層 第3回 ブラジルの自然と人 第4回 統一性と多様性 第5回 植民地時代－熱帯農業基盤 第6回 社会文化的基層の形成 第7回 独立(1822年)と共和改革(1889年) 第8回 1900年代初期の政治的統合化 第9回 1945年～70年代の経済的統合化と軍事政権 第10回 1980年代の民政移管 第11回 1990年代以降の対外関係の多角化 第12回 政治的民主化過程と課題 第13回 ブラジルと日本 第14回 ブラジルにおける日系人社会 第15回 日系人の労働移動と今日(まとめ)		
教科書	授業の進行に合わせて、適時主要参考文献を紹介する。		
参考書・資料	E.H.カー[著]・清水幾太郎[訳]『歴史とは何か』(岩波新書)2003年第68刷発行 和辻哲郎[著]『風土』(岩波文庫)2002年第42刷発行 井上幸治[編]『南欧史』(山川出版)1997年第3刷発行 国本伊代・中川文彦[編]『ラテンアメリカ研究への招待』(新評論)1997年 富野幹雄・住田育法[編]『ブラジル学を学ぶ人のために』(世界思想社)2002年 堀坂浩太郎[編]『ブラジル新時代』(勁草書房)2004年 ブラジル日本商工会議所[編]『現代ブラジル事典』(新評論)2005年 シッコ・アレンカール、ルシア・カルビ、マルクス・ヴェニシオ・リベイロ[著]・東昭彦他[訳]『ブラジルの歴史』(世界の教科書シリーズ7)(明石書店)2007年		

授業コード	41K01		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(1クラス)(後)		
担当者名	高野清弘(タカノ キヨヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	[思想史] My KONANで先着順20名		
オフィスアワー	金曜日3時～4時		

講義の内容	本を読むこと、考えることの楽しさを学生諸君とともしたい。私も含め、今の人たちは「本当のもの」を知らないという気持ちがしてならない。本を読み、考えることを通じて、「本当のもの」の一端に触れたい。
到達目標	古代ローマの歴史を通じて、あるべき政治の姿を垣間見る。
講義方法	塩野七生『ローマ人の物語』のうち、ハンニバルまたはカエサルを読む。この本は面白くて、ためになる。つまり、現代の政治を考える上でのヒント、さらには、日常生活で各人がとるべき行動についての指針を与えてくれる本である。毎回、レポーターを決めて、その報告を出発点に、全員でわいわい話し合いたい。その前提は、全員が本を読んでくることであるので、読んでこない学生、本を持ってこない学生、筆記用具を机の上においていない学生には、厳しい指導を行う。『ローマ人の物語』は、長いローマの歴史を扱っているので、30巻を越えている。授業で取り上げるのはその一部でしかない。したがって、その他の巻のうち、各人が興味を持った巻について、レポートを課すことも予定している。なお、これとは別に、何からでも政治は学べるという視点から、劇映画を課題として課すことや、授業の中で取り上げることも考えている。
準備学習	その週取り上げる箇所を読んでくること。必ず質問を提起できるように読んでくることを求める。やむを得ず欠席した場合は、欠席した授業において取り上げた箇所を読んでくることが必須である。
成績評価	平常点。事前連絡なく3回以上欠席した場合は、単位を認めない。予習などの準備をせずに出席した場合は、欠席とみなし、同じくそれが3回以上に及ぶ場合には、単位を認めない。また、さまざまな形で課題を課すので、それも評価の対象とする。
講義構成	講義ではないので、記すことを得ない。
教科書	塩野七生『ローマ人の物語』(新潮文庫)、ハンニバルまたはカエサルの巻。
参考書・資料	高野清弘『政治と宗教のはざま』(行路社)
担当者から一言	なるべく楽しく討論したいと思っています。上記のように、時には、ビデオなども討論の材料にしたいと考えています。下記のホームページでもできれば見てほしい。
ホームページタイトル	丸山眞男を読む会
URL	http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/yomukai/

授業コード	41K02		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(2クラス)(前)		
担当者名	前嶋京子(マエシマ キョウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	[私法系] My KONANで先着順20名		
オフィスアワー	木曜日3時限。その他必要があるときには、アポイントをとること。		

講義の内容	商法Ⅰの講義で詳しく扱うことができない会社法の論点を取り上げて検討する。 演習形式での授業であるので、報告テーマを割り当てられた報告者が調べてきたことを報告し、それについて皆で議論をしていくことになる。 報告のテーマとする論点は、会社法上の基礎的なものであり、その論点についての学説や判例を、報告者を中心に整理をすることで、会社法の理解を深めていくことにする。また、会社法上有名な判決も時間の許す限り読んでいきたいと思っている。
到達目標	会社法に関する論点についての学説・判例を検討することで、会社法に関する理解を深めるとともに、法解釈のスキルを身につけることを目標とする。
講義方法	演習方式で行う。 報告担当者を決め、その者が与えられた論点に関連する学説・判例を調べ、報告をする。その報告をもとに、担

	当者以外の者も加わって、皆で検討していく。
準備学習	商法Ⅰの授業で詳しく扱えない会社法の論点についての学説・判例を検討していく関係上、商法Ⅰの授業を必ず受講すること。 なお、報告者以外にも、報告予定のテーマについて、予め学習しておくことが望ましい。
成績評価	平常点にレポートの成績を加味して評価する。 平常点は、出席率・報告の内容・議論への参加の積極性等の内容を吟味して評価する。
講義構成	1. 自己紹介と授業のすすめ方の説明 2. 授業をすすめる上で必要な基礎知識等の確認・報告担当の割当 3. 報告者による論点についての報告と検討及び論点に関する判決紹介の報告 4. レポートの書き方の説明(報告の合間の適当な時期に行う) 5. 報告者による論点についての報告と検討及び論点に関する判決紹介の報告の続き 6. レポートの提出
教科書	特に使用しない(報告準備のために必要な文献等の紹介・指示は適宜行う)。
参考書・資料	必要に応じて紹介するが、一般的な予習のための参考書としては、江頭憲治郎等編『会社法判例百選(別冊ジュリストNo.180)』(有斐閣・2006年)や浜田道代等編『会社法の争点』(有斐閣・2009年)を、あげることができる。
講義関連事項	商法Ⅰの授業を必ず受講すること。
担当者から一言	授業の性質上、出席を重視する。報告担当になっていなくても、積極的に質問や意見発表をするなど、学生諸君の積極的取組を期待する。
その他	六法必携。六法については最新版(平成22年版)を用意すること。

授業コード	41K03		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(3クラス)(後)		
担当者名	桑岡和久(クワオカ カズヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	[私法系] My KONANで先着順20名		
オフィスアワー	演習終了後		

講義の内容	敷金返還に関する契約問題など民法に関連する領域の中からテーマを絞って少し立ち入って考えてみることを内容としています。
到達目標	民法分野について講義で学んだ知識を確認し、また講義よりももう一步踏み込んで理解することを目的とします。
講義方法	比較的簡単な事例を解決することからはじめて、実際の判例を調べるなどした上で、発表や討論を通じて自らの理解の確認・促進をはかります
準備学習	テーマごとの資料の探索と精読。
成績評価	主な評価対象は報告や討論での発言です。正解が求められているわけではありませんので、発言内容が間違っても減点されることはありません。
講義構成	第一回 ガイダンス 第二回以降 各テーマを報告・討論、裁判型ディベートなどの形式でおこなう
教科書	テーマや形式に応じてこちらから指定します
講義関連事項	六法を持参してください
担当者から一言	最初から完璧な報告・発言をするのは困難です。間違いから学んでいくことが大事ですので、失敗を恐れず積極的に挑戦してみてください。

授業コード	41K04
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(4クラス)(後)
担当者名	武井 寛(タケイ ヒロシ)

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	[私法系] My KONANで先着順20名		
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	法律学を学んでいながら、裁判例をきちんと読まずに卒業する人がいる(少なくとも私の経験上そのような人がいました)とすれば、それは寂しいことです。ということで、この講義では、労働法に関する基本的で重要ないくつかの判例について、最初から最後まで(当事者の主張から判決理由まで、そして地裁判決から最高裁判決まで)しっかりと読むことを目的にしたいと思っています。
到達目標	生の裁判例を抵抗なく読み、理解できる基礎的能力を身につける。
講義方法	演習形式で行います。具体的には、何人かのグループ(受講者の数により変動します)に分け、グループごとに、割り当てられた判例について、事実関係、当事者の主張、判決理由、その判決が教科書等ではどのように触れられているのか、自分たちはどのように思うか等をレジュメにまとめ、報告してもらい、その報告に基づいて全員で議論するかたちで行っていきます。
準備学習	少なくとも、配布された判例について(かなりの分量になることもありますが、この点、あらかじめ認識しておいてください)、全員が読んでくること。
成績評価	出席と授業への取り組みの積極性・報告の内容等によって総合評価します。10回以上授業に出席しなければ、成績を評価しません。
講義構成	第1回 授業のガイダンス、グループ分け、判例の割当 第2回以降 報告と討論
教科書	授業の性格上、ありません。
参考書・資料	必要に応じて適宜指示します。
担当者から一言	巷間、裁判所の判決文は、そのわかりにくさで批判されることもあり、それを読み通すのはしんどい作業になるかもしれません。でも、終わった後はなにか残るはずだと思います。

授業コード	41K05		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(5クラス)(集中)		
担当者名	中西淑美(ナカニシ トシミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	[基礎法系] My KONANで先着順18名 8月2日、3日、4日		

講義の内容	紛争処理制度と聞くとすぐに裁判を思い浮かべるかもしれないが、裁判以外にも仲裁や調停をはじめとするさまざまな制度がある。ADRと呼ばれるこれら裁判外紛争処理制度に対する関心や利用の高まりとともに、弁護士や調停者等に期待される役割や当事者との関わり方も大きく変化してきている。 クライアントが抱える紛争は、言うまでもなく法的側面のみでなく、社会的、関係的、情緒的次元をも含む複合的なものである。実務の現場で弁護士に要請されるのは、こうした紛争の構造を把握しながら、法的対応を創案していくことにある。その準備作業として、ここでは紛争の構造と展開について学際的な視点から理論的理解を深めていく。 次に、紛争交渉コミュニケーション理論として、弁護士にとってとりわけ重要なクライアントとのコミュニケーションについて、心理学やカウンセリングの理論を参考にしながら、クライアントとの面談の構造についても検討する。最後に、紛争交渉コミュニケーション技法として、マイクロ・カウンセリングの技法を応用しつつ、その基礎として、適切なクライアントとのコミュニケーションの技法を紹介する。本授業は、クライアントとの効果的な関係構築と情報収集がなされたうえで、「交渉論」「紛争処理論」などを参考に、学際的な視点から紛争解決実務の複合的技法への理論的、技法的理解を深めていこうとするものである。 本授業は、学際的な視点から紛争解決実務の複合的技法への理論的、技法的理解を深めていこうとするものである。クライアントが抱える紛争は、言うまでもなく法的側面のみでなく、社会的、関係的、情緒的次元をも含む複合的なものである。
到達目標	紛争解決過程において、重要なクライアントとのコミュニケーション理論と技法について、心理学やカウンセリングの理論を参考に、クライアントとの面談の構造、紛争交渉コミュニケーション技法の一部を習得することを目標とする。 具体的には、①コンフリクトとは何か、②紛争における紛争構造モデルを知る、③メディエーション概念について

	知る、以上3項目を目標とする。
講義方法	少人数(24人以内)の演習形式で進める。毎回、予習を前提に、受講者によるミニプレゼンテーションを行ってもらい、それを素材にディスカッションを行う。適宜、スキルプレイ、ロールプレイを実施する。資料はパワーポイントで提示し、レジメの印刷・配布は行わない。
準備学習	和田 仁孝編 有斐閣「ADR 理論と実践」(第9章担当 中西) 2008 和田仁孝、中西淑美、「医療コンフリクトマネジメントーメディエーションの理論と実践」シーニュ社2006
成績評価	成績評価は、平常点と期末試験点の総合点とする。
講義構成	おおむね以下の内容で講義する予定。 1. ガイダンス 2. 紛争の構造と展開 3. 裁判とADR(裁判外の紛争処理) 4. コミュニケーションとしての紛争 5. 紛争交渉コミュニケーション理論 6. 面談(リーガルカウンセリング) 7. リーガルカウンセリング演習 8. 支援環境としての紛争処理システム～対話促進調停Mediation 9. 紛争交渉コミュニケーション技法:基礎編 10. Mediation演習(近隣紛争) 11. Mediation演習(近隣紛争) 12. 紛争交渉コミュニケーション技法:応用編 13. Mediation演習(近隣紛争) 14. Mediation演習(医療紛争) 15. 試験
教科書	特に使用しない。
参考書・資料	和田仁孝『民事紛争処理論』(信山社、1994) 和田仁孝・太田勝造・阿部昌樹編『交渉と紛争処理』(日本評論社、2002) 和田仁孝・太田勝造・阿部昌樹編『法と社会のアプローチ』(日本評論社、2004) 中村芳彦・和田仁孝『リーガルカウンセリングの技法』(法律文化社、2006) 和田仁孝『ADR 理論と実践』(有斐閣2008) アレン・アイビー『マイクロカウンセリング』(川島書店、1985) 鈴木有香『人と組織を強くする交渉力』自由国民社 2009) その他、講義の中で適宜紹介する。
講義関連事項	日本医療メディエーター協会(JAHM)ホームページ http://jahm.org/index.htm
担当者から一言	教室での私語・携帯電話等、他の受講者の妨げになるような行為があれば即時退室してもらう。演習の都合上、欠席は原則として認めない。

授業コード	41K06		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(6クラス)(後)		
担当者名	住本正樹(スミモト マサキ)、宮家史子(ミヤケ フミコ)、河野茂博(コウノ シゲヒロ)、岡地勇一(オカチ ユウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	[民事法系] 担当者:司法書士 My KONANで先着順20名		
講義の内容	兵庫県司法書士会に属する司法書士が、その実務経験に基づき、実際に生起する不動産登記・商業登記・裁判手続(消費者問題を中心)・成年後見業務に関する手続について解説するとともに、具体的事例を題材に講義をすすめる。実務現場では、何に注意を払って手続を遂行しているかを講義し、手続法と実体法とのかかわりを感じ得てもらうことを主題としている。なお、担当は次のとおり。 不動産登記 河野茂博(こうの しげひろ) 商業登記 住本正樹(すみもと まさき) 裁判事務 岡地勇一(おかち ゆういち) 成年後見 宮家史子(みやけ ふみこ)		
到達目標	民法(特に物権、親族・相続)、会社法(株式会社)等の実体法を勉強すること。司法書士の資格、職業について		

	調べること。
講義方法	通常の講義形態。必要によって発言を求めることがあり、できるだけ質問の時間をとる。
準備学習	司法書士が、どのように法律に携わっているか、また、社会の中で法律はどのような場面で利用されているのかを考えてもらいたい。
成績評価	レポート及び授業への寄与度を総合的に判断する。
講義構成	1. はじめに 司法書士業務について 2. 消費者問題入門(1) 3. 消費者問題入門(2) 4. 多重債務問題と司法書士(1) 5. 多重債務問題と司法書士(2) 6. 不動産登記法入門 7. 不動産取引と不動産登記(1) 8. 不動産取引と不動産登記(2) 9. 会社法と商業登記(司法書士の役割) 10. 商業登記入門(1) 11. 商業登記入門(2) 12. 家庭裁判所(家事事件)について、法定後見(総論) 13. 法定後見(各論) 14. 任意後見、遺言等 まとめ
教科書	各講師がレジュメを用意する。
参考書・資料	六法(講義には必ず持参して下さい)

担当者から一言	日常生活における身近な消費者問題、多重債務問題について、司法書士が取り扱う具体的事例を紹介しながら、問題解決の方法など理解してもらいたいと考えています。(岡地) 司法書士が日常多く取り扱う具体的な事例を通して、司法書士の業務及び不動産登記について伝えたいと考えています。(河野) 会社法務の実務について、自分の頭で考えてみたいと思っている学生の受講を希望します。(住本) 急激に進む高齢化に伴い、今後確実に利用が増える成年後見制度について具体的事例を紹介することで、成年後見制度を理解し、興味をもってもらいたいと考えています。そして、将来的に(司法書士になるか否か)を問わず身内の案件であってもいいので成年後見に携わってもらえれば大変うれしく思います。(宮家)
---------	--

授業コード	41K07		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(7クラス)(前)		
担当者名	濱谷和生(ハマタニ カズオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	[公法・私法・刑事法] 担当者:ロースクール教員・弁護士 My KONANで先着順30名		
オフィスアワー	原則火曜日の昼、しかし在室している限りいつでもドアをノックして下さい。		

講義の内容	本講義は、将来、ロースクール進学(つまり司法試験受験)および国家・地方公務員試験ならびに司法書士・行政書士等の各種国家資格試験等をを目指す学生諸君を対象にして、さしあたり過去の各種試験問題等を利用して(担当者において講義進行上、その水準は適宜修正する)、2年次段階において受験準備をするために必要な学力形成という視点から、主として憲民刑の法律知識の整理および学習の仕方や姿勢ならびに学習上のTIPsの伝達を目的とする。
到達目標	国Ⅱ程度の水準の問題に、自ら進んで取り組むことのできる態度と能力を涵養する。
講義方法	事前に配布する問題を前提に、各参加者の予習および知識の確認をかねて簡単な問題解説(各参加者への質問等を含む)を施した後、各自に事前に準備してもらった起案の報告をお願いする。最後の20分程度を使って、次の問題の簡単な説明を行う。
準備学習	憲法・民法・刑法について、講義が始まるまでの期間に、何でもよいのでごく簡単な入門書(一年の時に利用した教科書でかまいません)を、一週間ほどで集中して、必ず読んでおいてください。きっと力になると思います。
成績評価	数回実施する予定の小テストの成績による。
講義構成	第1回 オリエンテーリングと資料配付 第2回 憲法第1問 第3回 憲法第2問

	第4回 憲法の小テスト 第5回 民法第1問 第6回 民法第2問 第7回 商法 第8回 民事法の小テスト 第9回 刑法第1問 第10回 刑法第2問 第11回 刑法の小テスト 第12回 民事訴訟法 第13回 刑事訴訟法 第14回 予備日(質問日)
教科書	特に使用しない。
参考書・資料	適宜、講義の場で指示し、My Konan のウェブ上で配布することを原則とする。
講義関連事項	受験には抜け道や簡単なショートカットはありません。まんべんなく憲民刑を丁寧に勉強することこそが王道だと思います。また、しかし他面、それさえするのならば、栄冠への道は誰に対しても等しく開かれています。「どうせ甲南だから受験なんて無理だ」などということも絶対ないのです。受験への向き不向きを別にすれば、要は、やる気と根気だけです。自分を過小評価することなく、あるいは本学の教育体制に対し文句だけ言ってまともな勉強もしないでいる前に、自分のできることを精一杯やりましょう。そんなガッツのある受講者を全力で応援します。
担当者から一言	実は担当者も、学生時代に司法試験を受けたわけではありません。どちらかというと学業成績は悪かったと思います。そんなわけで、できない学生諸君の立場に立って、いわば一緒に過去問に取り組みたいと思います。担当者にとっても専門でない分野ばかりです(担当者は経済法専攻)ので、もちろん講義と解説の品質管理はしっかり致します(一応弁護士登録しています)が、やる気のある学生諸君との知的バトルを楽しみにしています。
ホームページタイトル	「2年次特講(8クラス)(前)」ホームページ、 www.syllabus.konan-u.ac.jp/customer/01/index.jsp?toc=4031

授業コード	41K08		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(8クラス)(前)		
担当者名	小舟 賢(コブネ マサル)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	[公法系] 担当者:ロースクール教員 My KONANで先着順20名		
オフィスアワー	火曜の昼休み		

講義の内容	この授業においては、新聞記事などを素材として、社会問題を読み解きながら、私たちの生活における法律との関係を考えます。
到達目標	社会と法律との関係を意識しながら、新聞記事の内容などを理解することができる。
講義方法	(1)指定された新聞記事などを受講生で輪読したうえで、まずは各自が自力でその内容をノートにまとめる作業を行います。そして質問項目に答える形で、その内容を十分理解しているか、あるいはどこの部分があまり理解できていないのかを確認します。(あまり理解できていなかったところも含めて、質問項目に対する回答を次の授業までに各自が調査を行ってレポートにまとめます。) (2)前回の授業における質問項目について、レポートをもとに回答を求めます。その後、肯定派、否定派、審判に分かれて、ディベートを行います。(肯定派と否定派の各グループは、予め第一立論を準備してレジュメを用意します。) その他、授業にて指示した準備学習をすること。
準備学習	日頃から新聞を読み、社会と法律との関係を意識すること。 講義資料等を予め読んでおき、分からないことがあれば予め調べておくこと。 その他、授業にて指示した準備学習をすること。
成績評価	出席点(28%)、授業点(36%)、期末レポート点(36%)で評価する。 ただし、無断欠席が3回以上あった場合は成績評価しない。
講義構成	1. 初回ガイダンス 2～13. 偶数回: 新聞記事の輪読、ノート作成、質問項目の検討 奇数回: 調査レポートの報告、ディベート 14. (日程調整日)

教科書	教科書は指定しない。配付資料と法令集を必ず持参すること。
参考書・資料	授業において適宜指示する。
担当者から一言	社会問題について関心のある学生、3年次でのゼミ履修を考えている学生に対して、特に受講を勧めます。 1年次での法律の授業にあまりついてこれなかった学生、法律に苦手意識のある学生でも、授業に積極的に参加する意志のある方であれば大いに歓迎します。
その他	やむを得ず授業を欠席する場合は、必ず事前に担当者に連絡すること。 ただし、緊急を要する場合は、事後の連絡でもよいものとする。

授業コード	41K09		
授業科目名	2年次演習(2年次特講)(9クラス)(後)		
担当者名	小舟 賢(コブネ マサル)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	[公法系] 担当者:ロースクール教員 My KONANで先着順20名		
オフィスアワー	火曜の昼休み		

講義の内容	この授業においては、新聞記事などを素材として、社会問題を読み解きながら、私たちの生活における法律との関係を考えます。
到達目標	社会と法律との関係を意識しながら、新聞記事の内容などを理解することができる。
講義方法	(1)指定された新聞記事などを受講生で輪読したうえで、まずは各自が自力でその内容をノートにまとめる作業を行います。そして質問項目に答える形で、その内容を十分理解しているか、あるいはどここの部分があり理解できていないのかを確認します。(あまり理解できていなかったところも含めて、質問項目に対する回答を次の授業までに各自が調査を行ってレポートにまとめます。) (2)前回の授業における質問項目について、レポートをもとに回答を求めます。その後、肯定派、否定派、審判に分かれて、ディベートを行います。(肯定派と否定派の各グループは、予め第一立論を準備してレジュメを用意します。)
準備学習	日頃から新聞を読み、社会と法律との関係を意識すること。 講義資料等を予め読んでおき、分からないことがあれば予め調べておくこと。 その他、授業にて指示した準備学習をすること。
成績評価	出席点(28%)、授業点(36%)、期末レポート点(36%)で評価する。 ただし、無断欠席が3回以上あった場合は成績評価しない。
講義構成	1. 初回ガイダンス 2～13. 偶数回:新聞記事の輪読、ノート作成、質問項目の検討 奇数回:調査レポートの報告、ディベート 14.(日程調整日)
教科書	教科書は指定しない。配付資料と法令集を必ず持参すること。
参考書・資料	授業において適宜指示する。

担当者から一言	社会問題について関心のある学生、3年次でのゼミ履修を考えている学生に対して、特に受講を勧めます。 1年次での法律の授業にあまりついてこれなかった学生、法律に苦手意識のある学生でも、授業に積極的に参加する意志のある方であれば大いに歓迎します。
その他	やむを得ず授業を欠席する場合は、必ず事前に担当者に連絡すること。 ただし、緊急を要する場合は、事後の連絡でもよいものとする。

授業コード	41021		
授業科目名	日本政治史I(前)		
担当者名	森川正則(モリカワ マサノリ)		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
講義の内容	この講義は、「20世紀の世界と日本の政治・外交」を主題とします。日本政治史Ⅰが対象とするのは20世紀の前半、すなわち戦前・戦中と呼ばれる時代で、日露戦争(1904～05年)の頃からアジア・太平洋戦争(1941～45年)の頃になります。前半では主に内政(国内政治)を扱い、後半では主に外交を扱います。また、その時々の国内・国際社会の状況に広く目配りするとともに、戦後・現在との対比も織り交ぜることによって、戦前・戦中という時代の姿に迫っていきます。		
到達目標	内政については、戦前の日本で民主主義(デモクラシー)と政党政治がどのように成長し、崩れていったのかを学び、考えてもらいます。また、外交については、国際社会の中で戦前の日本がどのような生き方をしたのか、どうして戦争への道を歩んでしまったのかを学び、考えてもらいます。そして、戦後・現在との対比を念頭に置きながら、戦前・戦中という時代を見つめることを通じて、私たちが生きている時代を過去とのつながりの中で見据える思考力・知的想像力を高めてもらうことが目標となります。		
講義方法	毎回、レジュメと資料を配布して講義を行います。併せて、映像・視聴覚教材も使用していきます。		
準備学習	下の「参考書・資料」欄で、講義全体に関係する図書を挙げておきました。事前学習や事後学習に役立ててもらえればと思います。		
成績評価	学期中に1度、レポートを提出してもらいます。成績は、レポート(評価割合40%)と学期末試験(評価割合60%)を総合して評価します。		
講義構成	第1回 古きを訪ね、今を考える 第2回 日露戦争と自由化・民主化の潮流 第3回 普通選挙制とマス・デモクラシー 第4回 「平民宰相」の誕生と政党政治 第5回 「ライオン宰相」たちの闘いと政党政治 第6回 大恐慌の衝撃 第7回 デモクラシーと政党政治のたそがれ 第8回 大戦の惨禍と20世紀の幕開け 第9回 舞台はパリからワシントンへ 第10回 戦争の違法化の潮流と軍縮交渉 第11回 揺れ動く「非常時日本」の生き方 第12回 宣戦布告なき戦い 第13回 交渉は春に始まり、冬に緊迫する 第14回 アジア・太平洋戦争の時代 第15回 学期末試験		
教科書	教科書は指定しません。毎回、講義レジュメ・資料を配布します。		
参考書・資料	御厨貴・天川晃『日本政治史：20世紀の日本政治』(放送大学教育振興会、2003年) 井上寿一『日本外交史講義』(岩波書店、2003年) 川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』(名古屋大学出版会、2007年) 坂野潤治『日本政治史：明治・大正・戦前昭和』(放送大学教育振興会、改訂版・1997年) 北岡伸一『政党から軍部へ：1924～1941』(日本の近代5、中央公論新社、1999年) イアン・ニッシュ『戦間期の日本外交：パリ講和会議から大東亜会議まで』(ミネルヴァ書房、2004年)		
講義関連事項	後期の日本政治史Ⅱと併せて履修することが望ましいです。		
その他	講義中の私語や携帯電話の使用は固く禁じます。		

授業コード	41022		
授業科目名	日本政治史Ⅱ(後)		
担当者名	森川正則(モリカワ マサノリ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
講義の内容	この講義は、前期の日本政治史Ⅰに続き、「20世紀の世界と日本の政治・外交」を主題とします。日本政治史Ⅱが対象とするのは20世紀の後半、すなわち戦後と呼ばれる時代で、アジア・太平洋戦争の終結から冷戦の終結後までになります。前半では主に内政(国内政治)を扱い、後半では主に外交を扱います。また、その時々の国内・国際社会の状況に広く目配りするとともに、戦前との対比も織り交ぜることによって、戦後という時代の姿に迫っていきます。		
到達目標	内政については、戦後の日本で民主主義(デモクラシー)と政党政治がどのように再生し、展開していったのかを学び、考えてもらいます。また、外交については、戦後の日本がどのように国際社会に復帰し、どんな生き方をし		

	ていったのかを学び、考えてもらいます。そして、戦後という時代を見つめることを通じて、私たちが生きる21世紀初めの現在を過去とのつながりの中で見据える思考力・知的想像力を高めてもらうことが目標となります。
講義方法	毎回、レジュメと資料を配布して講義を行います。併せて、映像・視聴覚教材も使用していきます。
準備学習	下の「参考書・資料」欄で、講義全体に関係する図書を挙げておきました。事前学習や事後学習に役立ててもらえればと思います。
成績評価	学期中に1度、レポートを提出してもらいます。成績は、レポート(評価割合40%)と学期末試験(評価割合60%)を総合して評価します。
講義構成	第1回 破滅、誓い、再生 第2回 占領の時代の姿 第3回 「1936・37年の躍進」は戦後へ 第4回 再び、二大政党制の時代へ？ 第5回 高度成長と「明治100年」 第6回 20世紀と昭和の終わり 第7回 政権交代なき政党政治の揺らぎ 第8回 歴史の中の2009年 第9回 1951年9月、サンフランシスコへ 第10回 「巨人政治家」たちの選択と日米関係 第11回 「不正常な状態」の終わりと日中関係 第12回 湾岸戦争の衝撃に揺れて 第13回 新世紀の同盟の役割と将来 第14回 新世紀のアジア・太平洋を生きる 第15回 学期末試験
教科書	教科書は指定しません。毎回、講義レジュメ・資料を配布します。
参考書・資料	御厨貴・天川晃『日本政治史：20世紀の日本政治』(放送大学教育振興会、2003年) 井上寿一『日本外交史講義』(岩波書店、2003年) 川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』(名古屋大学出版会、2007年) 福永文夫『戦後日本の再生：1945～1964年』(丸善、2004年) 河野康子『戦後と高度成長の終焉』(日本の歴史24、講談社、2002年) 五百旗頭真『戦後日本外交史』(有斐閣、新版・2006年)
講義関連事項	前期の日本政治史Ⅰを履修していることが望ましいです。
その他	講義中の私語や携帯電話の使用は固く禁じます。

授業コード	41037		
授業科目名	日本政治思想史I(前)		
担当者名	安西敏三(アンザイ トシミツ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	近世日本の、即ち江戸期における政治思想を扱うが、狭義の政治思想に限定することなく、広く政治的状況に結果的に影響を及ぼした、ないし及ぼす可能性をもった思想を対象とする。江戸期を対象とするのは「思想史」が制度史とか政治史に比較して相対的に連続性が強いからである。また時間的に現在に近い時代に関心が向くのが自然であるので、その分、過去の問題に眼を向けないのが一般的である。特に法学部学生はなかなか過去に眼をむけるチャンスがない。また教育便宜的にも日本政治史なり、外交史なりは明治以降を対象としている場合がほとんどであるので、それ以前の時代認識を得るためにも近代以前の思想の講義は必要である。もちろん日本政治思想史Ⅱは明治期も対象とするけれども、近代以前の思想を認識し、過去を現在と立体的に考えることによって、現代を対象化し、意識化し、自己の置かれた状況を知り、現在に対処すべき視点を豊かにするこの糧を提供したい。
到達目標	近世日本の基本的な思想についての最低限度の知識とそれに関連する史料を読む能力を培いたい。
講義方法	史料を付けたレジュメを配布して行う。
準備学習	講義で紹介する文献なり史料なりを読んでおく和良好的。
成績評価	出席点を加味することもあるが、基本的には学期末の試験による。
講義構成	序章 講義を始めるにあたって

	第一章 徳川封建制の機構と精神 第一節 徳川封建制の歴史的 position 付け 第二節 武士道論の諸相 第二章 伝統的イデオロギーの諸形態 第一節 神道 第二節 仏教 第三節 キリスト教 第三章 儒学の政治思想 第一節 儒学あるいは朱子学(＝宋学＝新儒学) 第二節 「天人相関」もしくは「天人合一」の思想 第三節 宋学の理気哲学 第四節 自然秩序観の二表現 第五節 易姓革命の思想 第六節 儒教政治思想の主要観念 第七節 儒教思想の両極志向性 第八節 批判 第九節 江戸時代における修正と変容の諸形態
教科書	使用しないが、『丸山眞男講義録 日本政治思想史』第五、六、七冊は常に参照する。
参考書・資料	その都度、紹介する。
講義関連事項	講義の視点とテレビや映画などの江戸時代ものに見られる史観とを比較して考えるのも、良い。

授業コード	41038		
授業科目名	日本政治思想史Ⅱ(後)		
担当者名	安西敏三(アンザイ トシミツ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	日本政治思想史Ⅰと同じ問題意識で講義をするが、講義対象は江戸期から明治期までである。
到達目標	基本的な思想の流れと史料の読解能力の修得を目標とする。
講義方法	史料を付したレジュメを配布することによって行う。
準備学習	配布したレジュメの復習と参考文献を読んでおくことが望ましい。
成績評価	出席点を加味する場合もあるが、基本的には学期末の試験による。
講義構成	序章 講義を始めるにあたって 第一章 国学の政治思想 第一節 国学運動の三つの源泉 第二節 漢意と大和意の方法的対置 第三節 漢意と大和意の分説 第四節 本居宣長の「もののあはれ」の展開 第五節 国学政治思想の特色とディレンマー本居宣長を中心に一 第六節 幕藩体制と国学 第七節 汎美主義の政治的帰結 第八節 国学における「学問」意識の独立 第二章 反文明とユートピアー安藤昌益の政治思想ー 第一節 「互生」「直耕」と「法世」 第二節 「自然の世」への復帰 第三章 叛逆の論理ー山県大弼と大塩平八郎ー 第一節 「御威光」と叛逆 第二節 山県大弼と『柳子新論』 第三節 中斎大塩平八郎 第四章 「尊王論」の前提 第一節 「天下様」と「天子様」 第二節 天皇のイメージ 第五章 華夷思想と日本国観 第一節 「日本国」

	第二節 華夷思想への対応 第三節 「泰平」と「尊王論」 第六章 村人達と「一揆」 第一節 村 第二節 一揆の経過 第三節 要求の根拠と論理 第七章 「国体」の逆説―水戸学― 第一節 「水府の学」 第二節 「天」と「天皇」 第三節 「民志を一に」 第四節 「国体」論の逆機能 第八章 西洋観と「開国」 第一節 西洋との出会い 第二節 キリシタンの西洋 第三節 「窮理」の西洋 第四節 脅威としての西洋 第五節 佐久間象山―朱子学と西洋自然科学― 第六節 横井小楠―朱子学と西洋政治思想― 第七節 大橋訥庵―朱子学による西洋排撃― 第九章 幕末・維新・啓蒙期の政治思想―福澤諭吉を中心に― 第一節 「道理」と「万国公法」 第二節 国際政治と国家理性―「正義は力なり」VS.「力は正義なり」― 第三節 「権理通義」と「自由」 第四節 「文明」と「国体」
教科書	教科書は使用しないが、『丸山眞男講義録 第七冊 日本政治思想史 1967』（東京大学出版会）、渡辺浩『政治思想Ⅱ 近世日本政治思想』（日本放送出版協会、絶版）、安西敏三『福澤諭吉と自由主義』（慶應義塾大学出版会）は常に参照する。
参考書・資料	その都度、紹介する。
講義関連事項	講義内容と大河ドラマなど歴史ものと比較して見るのも、歴史観を培うのに有益である。

授業コード	41011		
授業科目名	日本法史I(前)		
担当者名	山田 勉(ヤマダ ツトム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
講義の内容	日本の前近代法について概説する。 現代日本法は西洋的な体系を持っている。その源は明治期に移植したヨーロッパ法であり、戦後期にはアメリカ法が加味された。法を学ぶ上で、西洋法の伝統に学ぶことが重要なのはいうまでもない。 しかし、西洋式の洋服を着てみても、鏡に映るのは西洋人ではなく、あくまで＜洋服を着た日本人＞である。自分の姿を正しく知ろうとするならば、西洋法を学ぶだけでは充分とはいえない。日本法の＜身体＞をトータルに理解することが必要なのである。 西洋法の移植は日本法史の大きな画期であったが、紫陽花が土地によって花の色を変えるように、移植した植物がどう育つかは、その地の土壌の問題でもある。講義では、古代法／中世法／近世法の順で、その土壌について考えてみたい。		
到達目標	古代法から近世法に至る日本法の基礎的理解		
講義方法	具体的な法史料を、教材プリントとして適宜用いながら講述する。		
準備学習	日本の古代、中世、近世とはどのような時代であったかを、講義構成にそって確認しつつ、講義に出席することが必要である。		
成績評価	定期試験で評価する。		
講義構成	・倭人の法 ・中国法の移植 ・律令の日本化 ・古代法から中世法へ ・武家法、公家法、本所法		

	・中世法の特質 ・分国法 ・近世法の成立 ・幕府法と藩法 ・公事方御定書 ・身分法など
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	牧英正・藤原明久編『日本法制史』青林書院

担当者から一言	特に歴史の詳しい知識を必要とはしませんが、日本史の基礎知識が大いに不足していることを自覚する人は、簡単な通史に目を通したりして、講義に並行して自分で補ってください。
---------	--

授業コード	41012		
授業科目名	日本法史Ⅱ(後)		
担当者名	山田 勉(ヤマダ ツトム)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	日本の近代法について概説する。 日本近代法は明治前期に、異文化であるヨーロッパ法を急速に移植することによって形成された。権利や憲法という発想を持たず、市民などどこにもいない社会に、近代市民法がやってきたのである。当然、そのままうまく行くわけがない。当時の洒落者が着物に革靴をはいたりしたように、馴染みのない西洋法と何とか折り合いをつけようと悪戦苦闘することとなった。 この西洋型法制は時には日本社会と不協和音を奏でながら、明治憲法体制、明治末・大正期の再編成、第二次大戦中の戦時統制を経て、戦後改革・アメリカ法の移植に至り、現行法へと続いている。講義では、その流れに沿って日本社会と近代法について考えてみたい。
到達目標	日本近代法の成立と変質に関する基礎的理解
講義方法	具体的な法史料を、教材プリントとして適宜用いて講述する。
準備学習	維新时期、明治前期、明治後期、大正期、昭和戦前期、昭和戦後期が、それぞれどのような時代であったかを確認しつつ、講義に出席することが必要である。
成績評価	定期試験で評価する。
講義構成	・明治国家の出發と課題 ・廃藩置県と岩倉ミッション ・地租改正と資本制 ・明治憲法の成立 ・刑法 ・法典論争と「家」制度 ・日清・日露講和条約と対朝鮮政策 ・社会法学の登場 ・法の社会化の諸相 ・家族法理の変化 ・戦時統制法 ・戦後改革
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	牧英正・藤原明久編『日本法制史』青林書院

担当者から一言	近代法史は、現代の問題と直結しています。何がどこにつながっているか、新聞を読んで比較し、考えてみましょう。
---------	---

授業コード	41044
授業科目名	比較憲法(前)
担当者名	小泉洋一(コイズミ ヨウイチ)

配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	4月26日の講義の初めに講義資料を渡すのでぜひ出席してください。出席できない者は、事前にできなかった者は26日16時20分から16時40分の間に私に連絡してください。		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	日本国憲法の条項についての法解釈的検討ではなく、憲法現象を客観的、実証的に認識する。この講義はとくに人権保障に限定して、そのような比較憲法的考察をするのが目的である。このため、主として近代憲法の歴史的発展および英米独仏の差という、時間と空間の二つの軸で人権保障の内容と方法を比較することになる。
到達目標	各時代、各国の人権宣言の背景、内容、特徴を理解すること、それらを踏まえて今日のわが国における人権宣言の普遍性と固有性を考察すること。
講義方法	教科書と講義資料に基づいて講述する。受講数によっては、時間中に教科書を受講生に順番に音読してもらうかもしれない。
準備学習	法学部専門教育科目である憲法Ⅰと憲法Ⅱを履修すること。それらを受講後復習しながら、この日各憲法を勉強すること。
成績評価	レポートと筆記試験を総合して成績評価することを予定している。 レポートは試験のときに提出していただく。レポートの課題および筆記試験の出題方法は4月12日の講義中に指示する予定である。
講義構成	1. 序論－比較憲法の意義と方法・人権の歴史性 2. 17世紀イギリスの人権宣言 3. 18世紀アメリカの人権宣言 4. 19世紀アメリカの人権宣言 5. 18世紀フランスの人権宣言 6. 19世紀フランスの人権宣言 7. 19世紀ドイツの人権宣言 8. 20世紀アメリカの人権保障 9. 20世紀フランスの人権保障 10. 20世紀ドイツの人権保障 11. 20世紀社会主義国の人権宣言 12. 国際的人権宣言 補足 比較の中での東アジアとわが国の人権保障 14. 予備 試験
教科書	高木 八尺、末延 三次、宮沢 俊義『人権宣言集』岩波書店、1957。第1回の講義中に教科書の特徴について説明する。
参考書・資料	阿部照哉・畑博行『世界の憲法集[第4版]』(有信堂、2009年) 初宿正典・辻村みよ子『新解説世界憲法集』(三省堂、2006年) 高橋和之『世界憲法集 新版』(岩波書店、2007年) 阿部照哉『比較憲法入門』(有斐閣、1994年) 樋口陽一『比較憲法全訂第3版』(青林書院、1992年) 樋口陽一『国法学』(有斐閣、2004年) 辻村みよ子『比較憲法』(岩波書店、2003年) 塩津徹『比較憲法学』(成文堂、2005年) 田中英夫『英米法総論上』『下』(東京大学出版会、1980年) その他、各国法(英米法、ドイツ法、フランス法、社会主義など)に関する文献も参考になる。 資 料:講義資料を配布する。
担当者から一言	実定憲法についての憲法1を履習しておくことが受講の前提条件である。受講生の努力を期待する。第1回の講義には筆記試験の方法とレポート課題を述べるので必ず出席すること。 講義中に質問したくなったときは、質問を書きとめ、それに基づき講義終了後に私に質問していただきたい。
その他	最初の講義(4月12日)に講義資料を配付するとともに、レポート課題を発表するので是非とも出席すること。 無断で欠席した場合には受講の上で不利になるかもしれない。4月26日の講義の初めに講義資料を渡すのでぜひ出席してください。出席できない者は、事前にできなかった者は26日16時20分から16時40分の間に私に連絡してください。

授業コード	41016
-------	-------

授業科目名	比較法文化論（前）		
担当者名	黒田忠史（クロダ タダブミ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	火曜日12:10～12:45 その他E-Mailによる約束時間		

講義の内容	日本とヨーロッパ諸国（特にイギリス、ドイツ、フランス、アメリカ）の司法制度の特徴および法曹養成制度の特徴を比較法的に検討する。後半で東アジアのいくつかの国の司法制度と法曹養成制度の特徴を、ヨーロッパ諸国の諸類型と比較し検討する。
到達目標	諸外国の法制度・裁判制度についての知識を習得し、日本の法と裁判の特徴と問題点を絶えず考えるようになること。
講義方法	配付資料やパワーポイント、視聴覚教材を用いて講述する。
準備学習	My Konanにアップロードしている「講義資料」を事前に読んでおくこと。
成績評価	基本的には期末の試験（100点満点）の成績で、評価する。
講義構成	第1講 序論：類型的比較の方法。過去問を使った勉強方法の説明 第2講 日本の司法制度・法曹養成制度の特徴（1） 第3講 同 （2） 第4講 ドイツの司法制度・法曹養成制度の特徴（1） 第5講 同 （2） 第6講 フランスの司法制度・法曹養成制度の特徴（1） 第7講 同 （2） 第8講 イギリスの司法制度・法曹養成制度の特徴（1） 第9講 同 （2） 第10講 アメリカの司法制度・法曹養成制度の特徴（1） 第11講 同 （2） 第12講 韓国の司法制度・法曹養成制度の特徴 第13講 中国・台湾の司法制度・法曹養成制度の特徴 第14講 まとめ、質問
教科書	特になし。
参考書・資料	広渡清吾編『法曹の比較法社会学』（東大出版、2003年） 小林昌之・小泉慎也編『アジア諸国の司法改革』（アジア経済研究所、2002年）
講義関連事項	毎回の講義の冒頭で、前回までの復習、質問への回答、講義の課題設定などを行うので、遅刻しないように。質問や意見は、できるだけ講義中のクエスチョン・タイムにしてください。

授業コード	41089		
授業科目名	福祉法政策（前）		
担当者名	藤澤宏樹（フジサワ ヒロキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	人権擁護にもっとも敏感でなければならない福祉の現場で、人権侵害事件が後を絶ちません。それはどうしてなのでしょう。そして、どのような解決策が考えられるのでしょうか。「福祉法政策」の講義では、毎回、福祉の現場における人権侵害事件をとりあげて、法・政策の立場から検討していきます。
到達目標	福祉の現場の諸問題について知ること。そしてその解決方法について、法・政策の立場から検討することができるようになること。
講義方法	講義形式で行います。
準備学習	新聞やテレビ等で、社会福祉の最新トピックを読んだり見たりしてください。
成績評価	期末試験の成績で評価します。ただし、受講状況、受講態度により変更する場合があります。授業中の告知に注意してください。
講義構成	次のテーマにつき、各々1～2回を割り当てる予定です。

	1 公的扶助～「健康で文化的な最低限度の生活」とは 2 子どもの貧困～低所得世帯への教育費支援制度の展望 3 児童福祉～児童養護施設をめぐる諸問題 4 障がいのある人々と福祉 5 高齢者福祉～介護施設殺人事件 6 医療福祉 7 福祉と差別～ハンセン病問題 8 なぜ福祉(受給)権が保障されなければならないのか ※順序を入れ替える場合があります。
教科書	『社会福祉小六法2010年版』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	子どもの貧困白書編集委員会編『子どもの貧困白書』(明石書店) 藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』(大月書店)
講義関連事項	授業中の私語、携帯電話の使用は認めません。退席してもらう場合があります。

授業コード	41065		
授業科目名	物権法I(物権法)(前)		
担当者名	桑岡和久(クワオカ カズヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	民法の物権領域のうち物権総論、所有権、用益物権、占有権(物権法から担保物権法を除いた領域)
到達目標	上記物権法分野の基礎的な知識と考え方の習得
講義方法	講義形式
準備学習	民法入門、民法総則 I を履修していることが望ましい
成績評価	期末試験の成績によって評価する
講義構成	1. 序 2. 物権の一般的効力 3. 物権変動 4. 不動産物権変動における公示 5. 動産物権変動における公示 6. 明認方法による公示 7. 物権の消滅 8. 所有権 9. 用益物権 10. 占有権
教科書	安永正昭「講義 物権・担保物権法」
参考書・資料	六法

授業コード	41066		
授業科目名	物権法II(担保法)(後)		
担当者名	住田英穂(スミタ ヒデホ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	木曜日の昼休み 事前に連絡するようにして下さい。		

講義の内容	物権法のうちで、担保物権法に関する部分の講義を行います。具体的には、「講義構成」の項目を参照して下さい
-------	---

	い。学生にとっては、担保法は、難しいと思います。金融取引の実務については、ほとんど知らない上に、問題となる事例においても、利害関係人が多く登場するからです。本講義では、判例を素材にしながら、事例を客観的に把握し、各当事者の利益状況を分析する方法を具体的に示しながら、講義を進めるようにします。
到達目標	① 担保物権法に関する全体像を把握し、主要なルールおよび概念について、その意味を理解し、具体例を挙げながら説明できる。 ② 法的問題を解決するために、事例問題の事実の概要を客観的に把握し、解決の根拠となるルールを発見し、それを適用して妥当な解決を見だし、その理由を説明できる。
講義方法	毎回、レジュメを配布します。レジュメと教科書に沿って講義を進めることにします。
準備学習	「民法法入門」「物権法Ⅰ」が履修済みであることが望ましい。特に、物権法Ⅰの基本知識は、物権法Ⅱを理解する上でも前提となるので、未修者は、本講義指定の教科書の物権法の部分を自習することが望ましい。
成績評価	期末試験の成績による。六法を持参しているかどうかのチェックをかねて、出席をとることがあるかもしれません。
講義構成	序 担保物権法序論 1章 抵当権 2章 共同抵当と根抵当 3章 不動産譲渡担保 4章 動産担保 5章 法定担保物権
教科書	安永正昭「講義 物権・担保物権法」(有斐閣)

授業コード	41C71		
授業科目名	不法行為法（1クラス）(後)		
担当者名	桑岡和久(クワオカ カズヒサ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	法学部全学年 出席番号1～210、法学部以外		
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	民法債権法のうち不法行為法、不当利得法、事務管理
到達目標	不法行為、不当利得、事務管理についての基本的な知識と考え方の習得
講義方法	講義形式。
準備学習	民法法入門を履修していることが望ましい
成績評価	基本的には期末試験の成績による。
講義構成	Ⅰ. 不法行為 1、不法行為制度 2、権利侵害 3、故意・過失 4、因果関係 5、損害 6、責任能力、正当防衛・緊急避難 7、過失相殺、損益相殺 8、使用者責任 9、物による権利侵害 10、差止請求と損害賠償 Ⅱ. 不当利得 1、不当利得制度 2、侵害利得 3、給付利得 Ⅲ. 事務管理
教科書	潮見佳男「債権各論Ⅱ 不法行為法 第二版」
参考書・資料	六法

授業コード	41C72		
授業科目名	不法行為法（2クラス）(後)		
担当者名	福元隆久（フクモト タカヒサ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	法学部全学年 出席番号211～最後		

講義の内容	交通事故や傷害事件など他人の違法な行為により損害を受けた者の損害賠償に関する問題が不法行為の問題です。本講義では、不法行為理論の概要を理解すると共に訴訟や示談交渉の現場における問題点を理解することを目的としています。また、不法行為と同じく契約によらずに債権関係が発生する事務管理・不当利得についても簡単に触れたいと思います。
到達目標	本講義は不法行為法を直接の対象としていますが、法律学全体の学習において、比較的早期の講義であるということも踏まえ、下記事項の習得を目的としたいと思います。 ①「条文」を「解釈する」ことの意味を理解すること ②「事実」を「条文」に当てはめることの意味を理解すること ③法律の文献を読みこなせるようになること
講義方法	講義で配布するレジュメに基づいて講義します。
準備学習	次回講義予定の参考文献の該当箇所を読んでおくのが望ましい。
成績評価	期末の筆記試験で評価します。
講義構成	1 不法行為制度概説 2 一般不法行為の成立要件① 権利侵害・違法性 3 一般不法行為の成立要件② 故意・過失 4 一般不法行為の成立要件③ 因果関係 5 一般不法行為の成立要件④ 損害 損害賠償の範囲 6 損害賠償請求権の主体 7 責任能力 違法性阻却事由 8 過失相殺 損益相殺 時効 9 特殊不法行為① 責任無能力者の監督者の損害賠償責任 使用者責任 10 特殊不法行為② 土地工作物責任 共同不法行為 11 損害賠償問題の諸事例 公害事件と差止請求 名誉・プライバシーの侵害 12 事務管理 不当利得
教科書	藤岡康宏・磯村保・浦川道太郎・松本恒雄著『有斐閣Sシリーズ 民法Ⅳ－債権各論[第3版補訂]』（有斐閣） 瀬川信久・内田貴『民法判例集債権各論[第3版]』（有斐閣） ※ いずれも参考書であり、購入は必須ではありません。

担当者から一言	不法行為は、最も身近に生じる法律問題です。従って、皆さんが社会に出て、日常的に法律を扱う仕事に就かなくても、目にする機会は多いと思われます。講義では、弁護士としての立場から、法理論だけでなく、実務での取扱も触れ、皆さんが社会に出た際に役立てるよう講義ができればと考えています。それから、期末テストは、マークシート方式で実施する予定ですが、だからと言って簡単ではありません。文章を
---------	---

	読みこなす力、講義全体の幅広い知識が求められますので、この点、理解のうえ講義を選択して下さい。
--	---

授業コード	55J11		
授業科目名	プラクティカル・キャリアデザイン (A)(前)		
担当者名	本田勝裕(ホンダ カツヒロ)、I		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	★楽しくて、役に立ち、キャリアの希望を叶えにいく講義である。 そのために「受ける授業から作る授業・作るキャリアへ」と題して進めていく。 詳細は以下のとおり。 ①就職活動(教員・公務員・起業・進学・留学などを含む)を中心に将来の進路(キャリア)の描き方(デザイン)を実践的に学ぶ。自己分析など演習を中心にやる実践型授業である。特に今年度は3年次対象のため、前期と後期では時期にあわせて多少内容を変える。 ②『受ける授業から作る授業へ』やがて自分の就職活動などキャリアデザインに『活かせる授業へ』。 ③キャリアコンサルタントである講師(私)が最新の就職活動に関する情報を元に講義をおこない、よりスムーズな就職活動がおこなえるものを目指す。 ④2009年の授業では大阪府特別顧問の藤原和博氏や学生起業家、経営者、人事採用担当者などをゲストに招き、セミナーでは通常聞けないリアルな話も聞ける。 ⑤講師、ゲスト、学生同士との対話が中心になるので、相当賑やかな授業になる。 ⑥昨年度の授業テキストをウェブ上に掲載しておくので、テーマやルールや目次を参照するといいたいだろう。授業写真もリンクしておく。 <昨年度後期授業テキスト>{http://www.ponta.co.jp/KONAN_09_Autumn_text.doc} (ワード形式) <授業写真>{http://www.ponta.co.jp/091214.html}(昨年12月の後期授業風景) <学生による授業評価>{http://www.ponta.co.jp/KONAN09Spring_assessment.pdf}(昨年前期授業;pdf形式)
到達目標	授業開講冒頭に【動機】「なぜこの授業を履修するのか」と【目標】「どんな最終授業を迎えたいか」という質問をする。これに講師は意見を持たない。 君自身が自分の動機と目標を決めて授業を作っていくことになるので、到達目標の正解はない。 正解のない「キャリアデザイン」という科目では、自分でゴールを決めていく必要があるのだから。
講義方法	レクチャー(講義)と、ワークショップ(ペアから4,5人のグループ)による。
準備学習	特に定めない。 ただ日常生活で「なぜ?」と「どうやって?」を問いかけておくと学習効果は最適化する。
成績評価	①成績評価は毎週のレポート提出、出席(2/3以下の出席は不可)、受講生自身による自己採点などによって決定する。 ②レポートはすべての授業でおこない講師がコメントを書き、基本的に翌週返却する。 ③自己採点は自己責任において評価することが前提。その上で自分の成長度合いを鑑み評価する。(テキスト&レポートを読み返したり、実感を重視するとよいだろう) ④試験はおこなわない。
講義構成	主なプログラムは以下のとおり。 ・面接演習(模擬面接) ・グループワーク演習 ・プレゼンテーション演習 ・エントリーシート演習 ・自己分析演習 ・キャリアプラン作成 ・コーチング理論を活用したコミュニケーション能力開発 ・組織心理学FFS理論を活用した個性と適性の診断テスト ・業界研究と職種研究(マスコミ業界を参考に) ・進路に関する価値観演習 ・インターンシップの可能性と実用性についての考察(体験者をよんで) ・就職と起業の異なりとその可能性考察(起業家をよんで) ・甲南大学生の卒業後の進路と傾向 ・社会人ゲストをよんでのキャリアデザイン対談 以上の内容で、自分の就職活動やキャリア形成(「やりたい仕事かわからない」「とくかく不安」「今なにをすべきか」「教員や公務員か企業か民間就職か迷う」など)に不安を感じている学生と期待感を持つ学生が対象と

	なる。 ※前期5月初旬の授業は、ルーマニアでのソリューションフォーカス国際会議への出張のため、7月に補講授業をおこなう可能性がある。
教科書	・第3回目の授業までにテキストを甲南大学生協で販売する。販売時期に関しては授業で問い合わせること。 ・毎回テキストを持参すること。 ・ゲストなどが決定し次第随時更新するため、私のウェブサイト「ポンタのキャリアゼミ」 { http://www.ponta.co.jp/ }
参考書・資料	・参考書籍として自著をあげておく。「採用される履歴書エントリーシート実例集」 本田勝裕・櫻井照士共著 主婦の友社刊{ http://www.ponta.co.jp/ } } にデジタルテキストをおく。

担当者から一言	「まじめ」でかつ「楽しい」授業を、君と一緒に作りに行く。
ホームページタイトル	ポンタのキャリアゼミ
URL	http://www.ponta.co.jp

授業コード	55A41		
授業科目名	ベーシック・キャリアデザイン（法）(後)		
担当者名	野口由輝子(ノグチ ユキコ)、I		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	大学生生活を充実させ、将来の進路選択や就職選択を自律的に行っていくに当たり必要となる基本的なチカラを育てていきます。具体的には、14回の講義の中で“4つの知恵”と称する「人と人との関係を築く知恵」(人間関係力)・「情報を収集して活用する知恵」(情報力)・「自ら考えて判断や決定をする知恵」(思考力)・「自分の将来をイメージして描ける知恵」(遂行力)を醸成していきます。その際、多様な方法を導入しながら、インターラクティブな参加型スタイルで行っていきます。
到達目標	「自己発見(なりたい自分を探す)」をコンセプトに、学習到達目標としては、卒業後の進路選択から就職活動や、学生時代にしかできない活動などへ向けて、この大学生活を充溢させるための具体的な目標を設定すると共に、アクションプランを自発的にイキイキと策定することです。このことは、プロ社会人を目指すに当たって、自律的に考えて選択し意思決定しながら行動していくことができる態度や姿勢を少しでも早くから身につけるためにも重要です。
講義方法	レクチャー・ペアワーク・セルフワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	自分に対して3つの視点(これまでの自分・今の自分・これからの自分)で考えるトレーニングをしておいてください。
成績評価	キャリアデザインシートの提出(講義の中での気づきや感想などの記入・提出)、キャリアデザインマップの発表と提出(将来の進路選択や就職活動を視野に入れての目標設定とアクションプランの策定・発表・提出)、講義への出席と講義中の参加態度(毎回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場になかった、講義を受けていなかった学生は原則として欠席)。以上を総合的に評価します。
講義構成	1. オリエンテーションーベーシック・キャリアデザインとは？ 2. 自分を探索してみようⅠ 3. 自分を探索してみようⅡ 4. 豊かな人間関係を築こうⅠ 5. 豊かな人間関係を築こうⅡ 6. 専門・専攻を進路に活かそうⅠ 7. 専門・専攻を進路に活かそうⅡ

	8. 幅広い情報を活用しようⅠ 9. 幅広い情報を活用しようⅡ 10. 考える力を身につけようⅠ 11. 考える力を身につけようⅡ 12. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅠ 13. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅡ 14. “なりたい私”を実現させよう
教科書	講義で必要となる資料は、その都度講義中に配付します。

担当者から一言	私たちは未曾有の逃れられない変容の時代と向き合っています。この時代の潮流を味方に引き寄せるには、あなたがどのように大学生活を過ごすかに係っています。大切なことは、大学や様々な活動などを通じ知性と感性に磨きをかけながら、世の中の動向を理解すると共に、今の自分をしっかりと受けとめ、それがこれまでの自分とどう繋がっているのか、更にはこれから先どこに向かって自分を動かしていきたいのかについて、自力で惜しみなく取り組んでいくことです。 つまり、生活し学ぶことを通して得られる様々な役割に満ち溢れた空間軸と、過去・現在・未来の自分を貫く時間軸を重ね合わせながら、自らが本質的な自分としっかり対話し、かけがえのない自分スタイルの生き方・学び方・働き方を探求することにつきます。この講義の中で、その創意工夫について一緒に考えていきましょう。
---------	--

授業コード	41J11		
授業科目名	法学部情報処理I（1クラス）(前)		
担当者名	津吉 彰(ツヨシ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	My KONANで抽選74名		

講義の内容	パソコン(OS:WindowsVISTA(R))上で、Microsoft Office2007(R)等を用い、文書作成、電子メール送受信、表計算等を自由に操れるようになることを目指します。またそれらのデータを用いたプレゼンテーションが出来るようにします。またホームページビルダー(R)によるホームページ作成方法について学びます。
到達目標	メールでのコミュニケーションができる。 EXCEL、WORDなどを用いて基本的なドキュメント作成ができる。 Powerpointでのプレゼンテーションができる。 ホームページの基本を知る。
講義方法	毎回最初に解説を行い、その後の演習を中心とした講義を行います。毎回の小さな演習課題と2回程度のレポート課題を提出してもらいます。作成したホームページのコンペも行います。 授業では出席、演習を重視します。
準備学習	初級者を対象とするため、事前準備は不要であるが、実施済み授業については欠席時もWebコンテンツを活用して自習すること。
成績評価	出席(30%)、毎回提出してもらうレポート(60%)とホームページのコンペ(10%)で評価を決定します。出席7回未満では合格できません。
講義構成	第1回 オリエンテーション、パソコンのしくみと基本操作 第2回 InternetによるWWW検索とダウンロード、ファイル管理、メーラー(電子メールソフト)の操作 第3回 Wordの基本操作と演習 第4回 Wordの操作 第5回 Wordの演習、提出、電子メールへの添付 第6回 Excelの基本操作 第7回 Excelの応用 第8回 Excelの演習、Word,Excelの演習課題の提示 第9回 ホームページ作成ソフトによるホームページ作成 第10回 ホームページ作成と公開 第11回 プレゼンテーションソフトの操作 第12回 プレゼンテーションデータの作成 第13回 プレゼンテーション、ホームページのコンペ、ホームページを各自採点します。 第14回 苦手題目克服と総合的な演習
教科書	プリントなどを用意しますので、不要です。
参考書・資料	各自の必要性に合わせて、市販のコンピュータ書籍を購入してください。授業では特に使用しません。

担当者から一言	初心者を対象としており、コンピュータ操作に関する知識がないものとして授業を行ないます。授業中あいた時間などを利用して、タッチタイピングの練習をしてください。10分以上の遅刻は欠席として取り扱います。
---------	---

授業コード	41J12		
授業科目名	法学部情報処理I (2クラス)(前)		
担当者名	津吉 彰(ツヨシ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	My KONANで抽選74名		

講義の内容	パソコン(OS:WindowsVISTA(R))上で、Microsoft Office2007(R)等を用い、文書作成、電子メール送受信、表計算等を自由に操れるようになることを目指します。またそれらのデータを用いたプレゼンテーションが出来るようにします。またホームページビルダー(R)によるホームページ作成方法について学びます。
到達目標	メールでのコミュニケーションができる。 EXCEL、WORDなどを用いて基本的なドキュメント作成ができる。 Powerpointでのプレゼンテーションができる。 ホームページの基本を知る。
講義方法	毎回最初に解説を行い、その後の演習を中心とした講義を行います。毎回の小さな演習課題と2回程度のレポート課題を提出してもらいます。作成したホームページのコンペも行います。 授業では出席、演習を重視します。
準備学習	初級者を対象とするため、事前準備は不要であるが、実施済み授業については欠席時もWebコンテンツを活用して自習すること。
成績評価	出席(30%)、毎回提出してもらうレポート(60%)とホームページのコンペ(10%)で評価を決定します。出席7回未満では合格できません。
講義構成	第1回 オリエンテーション、パソコンのしくみと基本操作 第2回 InternetによるWWW検索とダウンロード、ファイル管理、メーラー(電子メールソフト)の操作 第3回 Wordの基本操作と演習 第4回 Wordの操作 第5回 Wordの演習、提出、電子メールへの添付 第6回 Excelの基本操作 第7回 Excelの応用 第8回 Excelの演習、Word,Excelの演習課題の提示 第9回 ホームページ作成ソフトによるホームページ作成 第10回 ホームページ作成と公開 第11回 プレゼンテーションソフトの操作 第12回 プレゼンテーションデータの作成 第13回 プレゼンテーション、ホームページのコンペ、ホームページを各自採点します。 第14回 苦手題目克服と総合的な演習
教科書	プリントなどを用意しますので、不要です。
参考書・資料	各自の必要性に合わせて、市販のコンピュータ書籍を購入してください。授業では特に使用しません。

担当者から一言	初心者を対象としており、コンピュータ操作に関する知識がないものとして授業を行ないます。授業中あいた時間などを利用して、タッチタイピングの練習をしてください。10分以上の遅刻は欠席として取り扱います。
---------	---

授業コード	41J13		
授業科目名	法学部情報処理I (3クラス)(前)		
担当者名	力宗幸男(リキソウ ユキオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	My KONANで抽選74名		

オフィスアワー	授業中、またはその直前・直後
講義の内容	パソコンを用いて、文書の作成、電子メールの送受信、表計算、プレゼンテーション等が自由にできるようになることを目指す。具体的には WindowsとMicrosoft Office (Word, Excel, PowerPoint)、AL-Mailを用いて「講義構成」の内容を学習する。
到達目標	文書の作成、電子メールの送受信、表計算、プレゼンテーション等が自由にできるようになることを目指す。
講義方法	最初、学習内容の説明を行い、その後、パソコンを用いた実習を行う。
準備学習	キーボードをタッチタイピングできるように練習をしておくこと。
成績評価	毎回レポートを提出させる。また、レポートにより出席をとる。評価は出席とレポートで行う。試験は行わない。
講義構成	1. パソコンの操作とWindowsXPの操作 2. ワードプロセッサの基本操作 3. 文書の修正と校正 4. 電子メールの送受信、添付ファイルの操作 5. 複雑な文書の作成 6. 文書への画像の挿入 7. スプレッドシートの基本操作 8. スプレッドシートのレイアウトの修正 9. グラフの作成1 10. グラフの作成2 11. 文書へのスプレッドシートの挿入 12. プレゼンテーションソフトの基本操作 13. プレゼンテーションソフトの応用操作 14. まとめ
教科書	考える 伝える 分かちあう 情報活用力 noa出版
参考書・資料	授業中に指示する。
担当者から一言	受講の前提条件 初心者を対象としているので、コンピュータ操作に関する知識がないものとして授業を行う。但し、キーボード操作については、授業中にはあまり時間を割かないので、前もって練習しておくことが望ましい。

授業コード	41J14		
授業科目名	法学部情報処理I (4クラス)(前)		
担当者名	力宗幸男(リキソウ ユキオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	My KONANで抽選74名		
オフィスアワー	授業中、またはその直前・直後		
講義の内容	パソコンを用いて、文書の作成、電子メールの送受信、表計算、プレゼンテーション等が自由にできるようになることを目指す。具体的には WindowsとMicrosoft Office (Word, Excel, PowerPoint)、AL-Mailを用いて「講義構成」の内容を学習する。		
到達目標	文書の作成、電子メールの送受信、表計算、プレゼンテーション等が自由にできるようになることを目指す。		
講義方法	最初、学習内容の説明を行い、その後、パソコンを用いた実習を行う。		
準備学習	キーボードをタッチタイピングできるように練習をしておくこと。		
成績評価	毎回レポートを提出させる。また、レポートにより出席をとる。評価は出席とレポートで行う。試験は行わない。		
講義構成	1. パソコンの操作とWindowsXPの操作 2. ワードプロセッサの基本操作 3. 文書の修正と校正 4. 電子メールの送受信、添付ファイルの操作 5. 複雑な文書の作成 6. 文書への画像の挿入 7. スプレッドシートの基本操作		

	8. スプレッドシートのレイアウトの修正 9. グラフの作成1 10. グラフの作成2 11. 文書へのスプレッドシートの挿入 12. プレゼンテーションソフトの基本操作 13. プレゼンテーションソフトの応用操作 14. まとめ
教科書	考える 伝える 分かちあう 情報活用力 noa出版
参考書・資料	授業中に指示する。
担当者から一言	受講の前提条件 初心者を対象としているので、コンピュータ操作に関する知識がないものとして授業を行う。但し、キーボード操作については、授業中にはあまり時間を割かないので、前もって練習しておくことが望ましい。

授業コード	41J21		
授業科目名	法学部情報処理II（1クラス）(後)		
担当者名	津吉 彰(ツヨシ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	My KONANで抽選74名		

講義の内容	法学部情報処理Iで扱ったスキルをベースに、パソコン上で、図表を取り入れた文書作成、データベースの操作、WWWのホームページ作成等が自由に行えるようになることを目指します。また、判例データベースLEX/DBの検索を試用します。
到達目標	LEX/DBなど法律情報データベースを使用できる。 ACCESSなどのデータベースとEXCELとの違いがわかる。 EXCEL、WORDなどを用いて基本的なドキュメント作成ができる。
講義方法	毎回講義の最初に解説を行い、その後出来るだけ演習を行ってもらいます。
準備学習	授業終了分の内容についてはダウンロード教材で復習をしておいて下さい。
成績評価	出席(30%)、毎回提出してもらうレポート(50%)、課題レポート(20%)で評価を決定します。出席7回未満では合格できません。
講義構成	第1回 シラバス確認、図表を取り入れた文書の作成(その1) 第2回 図表を取り入れた文書の作成(その2) 第3回 LEX/DBの操作説明、課題の提示 第4回 データベースソフトの操作(その1) 第5回 データベースソフトの操作(その2) 第6回 セキュリティと情報倫理 第7回 これまでの内容の演習ホームページの作成(その1) 第8回 Office総合演習、ホームページの作成(その2) 第9回 Office総合演習、ホームページの作成(その3)サーバへのアップロード 第10回 Word,Excelの演習 第11回 HELP機能を使用した演習、総合的な課題 第12回 総合的な課題 第13回 全体的な復習、課題の提出 第14回 MOS受験対策と総合的な演習
教科書	プリントを用意しますので、不要です。
参考書・資料	参考書は授業中に推薦はしますが、授業では使用しません。
担当者から一言	演習を主体とした科目ですので遅刻厳禁です。10分以上の遅刻は欠席として取り扱います。

授業コード	41J22
-------	-------

授業科目名	法学部情報処理II (2クラス)(後)		
担当者名	津吉 彰(ツヨシ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	My KONANで抽選74名		

講義の内容	法学部情報処理Iで扱ったスキルをベースに、パソコン上で、図表を取り入れた文書作成、データベースの操作、WWWのホームページ作成等が自由に行えるようになることを目指します。また、判例データベースLEX/DBの検索を試用します。
到達目標	LEX/DBなど法律情報データベースを使用できる。 ACCESSなどのデータベースとEXCELとの違いがわかる。 EXCEL、WORDなどを用いて基本的なドキュメント作成ができる。
講義方法	毎回講義の最初に解説を行い、その後出来るだけ演習を行ってもらいます。
準備学習	授業終了分の内容についてはダウンロード教材で復習をしておいて下さい。
成績評価	出席(30%)、毎回提出してもらふレポート(60%)、課題レポート(10%)で評価を決定します。出席7回未満では合格できません。
講義構成	第1回 シラバス確認、図表を取り入れた文書の作成(その1) 第2回 図表を取り入れた文書の作成(その2) 第3回 LEX/DBの操作説明、課題の提示 第4回 データベースソフトの操作(その1) 第5回 データベースソフトの操作(その2) 第6回 セキュリティと情報倫理 第7回 これまでの内容の演習ホームページの作成(その1) 第8回 Office総合演習、ホームページの作成(その2) 第9回 Office総合演習、ホームページの作成(その3)サーバへのアップロード 第10回 Word,Excelの演習 第11回 HELP機能を使用した演習、総合的な課題 第12回 総合的な課題 第13回 全体的な復習、課題の提出 第14回 MOS受験対策と総合的な演習
教科書	プリントを用意しますので、不要です。
参考書・資料	参考書は授業中に推薦はしますが、授業では使用しません。

担当者から一言	演習を主体とした科目ですので遅刻厳禁です。10分以上の遅刻は欠席として取り扱います。
---------	--

授業コード	41J23		
授業科目名	法学部情報処理II (3クラス)(後)		
担当者名	力宗幸男(リキソウ ユキオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	My KONANで抽選74名		
オフィスアワー	授業中、またはその直前・直後		

講義の内容	パソコンを用いて、Home Pageの作成、データベースの操作、データベースの作成、年賀状(またはクリスマスカード)の作成等を「講義構成」に従って学習する。
到達目標	HTMLの概念、データベースの概念を理解し、HomePageの設計やデータベースの設計ができるようになることを目指す。
講義方法	最初、学習内容の説明を行い、その後、パソコンを用いた実習を行う。
準備学習	法学部情報処理Iを履修すること。
成績評価	毎回レポートを提出させる。また、レポートにより出席をとる。評価は出席とレポートで行う。試験は行わない。

講義構成	1. 法学部情報処理Iの復習 2. ワードプロソフトによるHome Pageの作成1 3. ワードプロソフトによるHome Pageの作成2 4. HTMLによるHome Pageの作成1 5. HTMLによるHome Pageの作成2 6. HTMLによるHome Pageの作成3 7. HTMLによるHome Pageの作成4 8. データベースの操作1 9. データベースの操作2 10. データベースの操作3 11. データベースの作成 12. 住所録の作成 13. 年賀状(またはクリスマスカード)の作成 14. まとめ
教科書	最初の授業で指示する。
参考書・資料	授業中に指示する。
担当者から一言	受講の前提条件 法学部情報処理Iを受講済み、あるいはそれ相当の知識を有すること。特に、キーボード操作が自由にできることが必要である。

授業コード	41J24		
授業科目名	法学部情報処理II(4クラス)(後)		
担当者名	力宗幸男(リキソウ ユキオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	My KONANで抽選74名		
オフィスアワー	授業中、またはその直前・直後		

講義の内容	パソコンを用いて、Home Pageの作成、データベースの操作、データベースの作成、年賀状(またはクリスマスカード)の作成等を「講義構成」に従って学習する。
到達目標	HTMLの概念、データベースの概念を理解し、HomePageの設計やデータベースの設計ができるようになることを目指す。
講義方法	最初、学習内容の説明を行い、その後、パソコンを用いた実習を行う。
準備学習	法学部情報処理Iを履修すること。
成績評価	毎回レポートを提出させる。また、レポートにより出席をとる。評価は出席とレポートで行う。試験は行わない。
講義構成	1. 法学部情報処理Iの復習 2. ワードプロソフトによるHome Pageの作成1 3. ワードプロソフトによるHome Pageの作成2 4. HTMLによるHome Pageの作成1 5. HTMLによるHome Pageの作成2 6. HTMLによるHome Pageの作成3 7. HTMLによるHome Pageの作成4 8. データベースの操作1 9. データベースの操作2 10. データベースの操作3 11. データベースの作成 12. 住所録の作成 13. 年賀状(またはクリスマスカード)の作成 14. まとめ
教科書	最初の授業で指示する。
参考書・資料	授業中に指示する。
担当者から一言	受講の前提条件

	法学部情報処理Iを受講済み、あるいはそれ相当の知識を有すること。特に、キーボード操作が自由にできることが必要である。
--	--

授業コード	41A51		
授業科目名	法社会学I（1クラス)(前)		
担当者名	西田英一（ニシダ ヒデカズ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	法学部1年次 出席番号1～250		
オフィスアワー	火曜 12:20－13:00		

講義の内容	法も社会も決して「どこかにある」ものではない。私たちが日常経験したり見聞きたりする生活場面のそここに、法の問題や社会のありようが見え隠れしている。法と社会はまた「すでにできあがっているもの」でもない。人びとの様々な関わりの中で、法の意味や作用もたえず更新されている。 法社会学 I では、具体的な場面を取り上げながら、こうした法と社会の動態的な関係にアプローチするときの視点を提供していきたい。
到達目標	具体例をあげて、法と社会の関わりについて説明できる。
講義方法	パワーポイントファイルをスクリーン上で展開しながら進める。レジメの印刷・配布は行わない。
準備学習	日頃から新聞に目を通し、事故の被害者や遺族の方々がどんな苦痛を強いられ、それをどう乗り越えようとしているのかについて考えておくこと。
成績評価	期末試験の評価による。
講義構成	1. ガイダンス 2. VTR『NHK特集 誰もが誰かを訴える』 3. 日本人は裁判嫌い？ 4. 隣人訴訟(その1) 5. 隣人訴訟(その2) 6. 悲しき勝訴:ある医療過誤訴訟(その1) 7. 悲しき勝訴:ある医療過誤訴訟(その2) 8. 中間まとめ 9. たばこ訴訟(その1):たばこ訴訟の言説分析 10. たばこ訴訟(その2):職場の喫煙規制 11. コミュニケーションとしての紛争 12. 働く女性と法(その1) 13. 働く女性と法(その2) 14. 支援環境としての紛争処理システム
教科書	特に使用しない。
参考書・資料	和田仁孝『民事紛争処理論』(信山社、1994) 棚瀬孝雄編『たばこ訴訟の法社会学』(世界思想社、2000) 星野英一編『隣人訴訟と法の役割』(有斐閣、1984) 川島武宜『日本人の法意識』(岩波書店、1967) その他、講義の中で適宜紹介する。

担当者から一言	教室での私語等、他の受講者の妨げになるような行為があれば、学生証提示の上、即時退室してもらう。
その他	質問その他の連絡は、学籍番号・氏名を記入の上、下記アドレスまで送信してください。 nishida@center.konan-u.ac.jp

授業コード	41A52		
授業科目名	法社会学I（2クラス）(前)		
担当者名	西田英一（ニシダ ヒデカズ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限

特記事項	法学部1年次 出席番号251～最後、法学部1年次以外
オフィスアワー	火曜 12:20～13:00
講義の内容	法も社会も決して「どこかにある」ものではない。私たちが日常経験したり見聞きたりする生活場面のそこそこに、法の問題や社会のありようが見え隠れしている。法と社会はまた「すでにできあがっているもの」でもない。人びとの様々な関わりの中で、法の意味や作用もたえず更新されている。 法社会学Ⅰでは、具体的な場面を取り上げながら、こうした法と社会の動態的な関係にアプローチするときの視点を提供していきたい。
到達目標	具体例をあげて、法と社会の関わりについて説明できる。
講義方法	パワーポイントファイルをスクリーン上で展開しながら進める。レジメの印刷・配布は行わない。
準備学習	日頃から新聞に目を通し、事故の被害者や遺族の方々がどんな苦痛を強いられ、それをどう乗り越えようとしているのかについて考えておくこと。
成績評価	期末試験の評価による。
講義構成	1. ガイダンス 2. VTR『NHK特集 誰もが誰かを訴える』 3. 日本人は裁判嫌い？ 4. 隣人訴訟(その1) 5. 隣人訴訟(その2) 6. 悲しき勝訴:ある医療過誤訴訟(その1) 7. 悲しき勝訴:ある医療過誤訴訟(その2) 8. 中間まとめ 9. たばこ訴訟(その1):たばこ訴訟の言説分析 10. たばこ訴訟(その2):職場の喫煙規制 11. コミュニケーションとしての紛争 12. 働く女性と法(その1) 13. 働く女性と法(その2) 14. 支援環境としての紛争処理システム
教科書	特に使用しない。
参考書・資料	和田仁孝『民事紛争処理論』(信山社、1994) 棚瀬孝雄編『たばこ訴訟の法社会学』(世界思想社、2000) 星野英一編『隣人訴訟と法の役割』(有斐閣、1984) 川島武宜『日本人の法意識』(岩波書店、1967) その他、講義の中で適宜紹介する。
担当者から一言	教室での私語等、他の受講者の妨げになるような行為があれば、学生証提示の上、即時退室してもらう。
その他	質問その他の連絡は、学籍番号・氏名を記入の上、下記アドレスまで送信してください。 nishida@center.konan-u.ac.jp

授業コード	41A61		
授業科目名	法社会学Ⅱ（1クラス）(後)		
担当者名	西田英一（ニシダ ヒデカズ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
特記事項	法学部1年次 出席番号1～250		
オフィスアワー	火曜 12:20－13:00		

講義の内容	法・裁判の主要な役割の一つは“紛争解決”にある。もちろん、紛争解決の側から見たとき、法・裁判はありうる方法の一つであり、裁判以外にもさまざまな紛争処理の制度や方法がある。さらに、社会の多様化や変化に伴って、紛争解決ニーズも変化し、それぞれの紛争処理制度の意義や役割も常に変化している。 法社会学Ⅱでは、法・裁判を紛争処理制度の一つと位置づけ、社会変化や紛争解決ニーズの変化と関連づけながら、法・裁判が実際に果たしている機能、さらに今後期待される役割について考察してみたい。
到達目標	法・裁判が現在果たしている機能と今後期待される役割について説明することができる。
講義方法	各回の講義では、下記教科書をベースに、関連資料やポイントをスクリーン上で展開しながら解説していく。レジメの印刷・配布は行わない。

準備学習	日頃から新聞に目を通し、紛争解決のためにどんな制度や仕組みが使われているのか、について考えること。
成績評価	期末試験の評価による。
講義構成	おおむね以下の内容で講義する予定。 1. ガイダンス 2. 交渉と合意 3. 紛争の展開 4. 紛争処理の全体システム 5. ADR(1) 6. ADR(2) 7. 中間まとめ 8. 裁判の位置づけ 9. 裁判制度の構造的問題 10. 裁判過程の現実 11. 裁判官の役割 12. 弁護士像の変化 13. 弁護士と依頼人関係 14. まとめ
教科書	和田仁孝ほか編『交渉と紛争処理』（日本評論社、2002年）
参考書・資料	和田仁孝『民事紛争処理論』（信山社、1994） その他講義の中で適宜紹介する。
担当者から一言	教室での私語等、他の学生の受講の妨げになる行為があれば、学生証提示の上、即時退室してもらう。
その他	質問その他の連絡は、学籍番号・氏名を記入の上、下記アドレスまで送信してください。 nishida@center.konan-u.ac.jp

授業コード	41A62		
授業科目名	法社会学Ⅱ（2クラス）(後)		
担当者名	西田英一（ニシダ ヒデカズ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	法学部1年次 出席番号251～最後、法学部1年次以外		
オフィスアワー	火曜 12:20－13:00		

講義の内容	法・裁判の主要な役割の一つは“紛争解決”にある。もちろん、紛争解決の側から見たとき、法・裁判はありうる方法の一つであり、裁判以外にもさまざまな紛争処理の制度や方法がある。さらに、社会の多様化や変化に伴って、紛争解決ニーズも変化し、それぞれの紛争処理制度の意義や役割も常に変化している。 法社会学Ⅱでは、法・裁判を紛争処理制度の一つと位置づけ、社会変化や紛争解決ニーズの変化と関連づけながら、法・裁判が実際に果たしている機能、さらに今後期待される役割について考察してみたい。
到達目標	法・裁判が現在果たしている機能と今後期待される役割について説明することができる。
講義方法	各回の講義では、下記教科書をベースに、関連資料やポイントをスクリーン上で展開しながら解説していく。レジメの印刷・配布は行わない。
準備学習	日頃から新聞に目を通し、紛争解決のためにどんな制度や仕組みが使われているのか、について考えること。
成績評価	期末試験の評価による。
講義構成	おおむね以下の内容で講義する予定。 1. ガイダンス 2. 交渉と合意 3. 紛争の展開 4. 紛争処理の全体システム 5. ADR(1) 6. ADR(2) 7. 中間まとめ 8. 裁判の位置づけ 9. 裁判制度の構造的問題 10. 裁判過程の現実 11. 裁判官の役割

	12. 弁護士像の変化 13. 弁護士と依頼人関係 14. まとめ
教科書	和田仁孝ほか編『交渉と紛争処理』（日本評論社、2002年）
参考書・資料	和田仁孝『民事紛争処理論』（信山社、1994） その他講義の中で適宜紹介する。
担当者から一言	教室での私語等、他の学生の受講の妨げになる行為があれば、学生証提示の上、即時退室してもらう。
その他	質問その他の連絡は、学籍番号・氏名を記入の上、下記アドレスまで送信してください。 nishida@center.konan-u.ac.jp

授業コード	41090		
授業科目名	法女性学（前）		
担当者名	三成美保（ミツナリ ミホ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	現代日本社会が直面している諸問題をジェンダーの観点から考察する。講義では大きく3つの領域をとりあげる。(1)「性と法」、(2)「家族と法」、(3)「労働と法」である。欧米を含む国際社会と比べたときの日本の現状について検討し、わたしたちの今後の課題を展望したい。(1)「性と法」では、セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスなどの日常的な性暴力から、レイプなどの悪質な性犯罪、買春についての考え方について考える。(2)「家族と法」では、最新のテーマである生殖補助医療のほか、夫婦・親子を中心に、戦前の家制度や昨今欧米で注目をあびている同性婚についても学ぶ。(3)「労働と法」では、家事育児などのアンペードワークの位置づけについて考え、均等法およびその改正について学ぶ。また、男性に多い「過労死」についても
到達目標	性にもとづく差別や偏見はあなたの身近のいたるところにあります。家族のなか、学校のなか、アルバイト先、就職活動のさなか、職場のなか、地域のなか……。あなた自身やあなたの大切なひとが被害にあって声をあげることができずにいるとき、あなたはどうすればいいのか。被害・被害者への適切な対応とはどのようなものなのか。あなたが被害者にならないように、また、加害者にならないように、正しい知識を身につけてください。
講義方法	授業ではパワーポイントを利用する。DVDや図版をはじめとして視覚資料を多用し、わかりやすい講義をこころがける。パワーポイント画面の主要部分はレジュメとして配布する。
準備学習	新聞やニュースにしばしば関連法令や裁判ニュース、国内外の事件などがのります。日頃から気をつけてください。
成績評価	学期末試験の成績を基本とし、平常点を加味する。平常点は、授業内容に関する簡単な確認ペーパーによって評価する。
講義構成	1 序：ジェンダー法学の課題と目的 2 総論：国際社会のなかの日本：男女共同参画社会基本法と国際的動向 3 性と法(1) セクシュアル・ハラスメント 4 性と法(2) レイプ裁判の落とし穴 5 性と法(3) 買春と売春 6 性と法(4) ドメスティック・バイオレンス 7 家族と法(1) 生殖補助医療と法：代理母をめぐる 8 家族と法(2) 人工妊娠中絶：女性の自己決定権と胎児の生命 9 家族と法(3) 「家」制度と婚外子の法的地位 10 家族と法(4) 離婚と面接交渉権 11 家族と法(5) 新しい家族のあり方：同姓婚や生活共同体 12 労働と法(1) 男女雇用機会均等法と同改正法 13 労働と法(2) アンペイドワーク 14 労働と法(3) 過労死とパート労働 15 労働と法(4) ポジティブ・アクション(積極的差別是正措置)
教科書	とくに指定しない。
参考書・資料	①戒能・浅倉・若尾編『フェミニズム法学』（明石書店、2004年） ②金城清子『ジェンダーの法律学』（有斐閣、2002年） ③浅倉むつ子監修『導入対話によるジェンダー法学』（不磨書房、2003年） その他は各項目ごとに授業中に指示する。
担当者から一言	本講義では、社会における男性と女性の関係性（ジェンダー関係）をとりあげて、法律や法文化のなかにかに

	それが反映されているかを説明します。男性にとっても重要な事項をお話しますので、男性もこぞって参加してください。とくに公務員になりたい方はぜひ受講してください。
--	---

授業コード	41006		
授業科目名	法心理学（後）		
担当者名	我藤 諭(ガトウ サトシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	◆法は人間の現象であり、そして心理学は人間の現象にかかわる科学である。両者とも人間の現象を扱いながらも、法学は規範学、心理学は事実学というそれぞれの学としての性格の違いから、両者の交流を妨げていたかもしれない。けれども、法学と心理学が深くかかわっている現実世界の諸問題は少なくない。 ◆本講義では、法学と心理学が深くかかわる刑事裁判を中心に、「取調べ」「供述分析」「信用性判断」をキーワードに展開する。
到達目標	◆受講を通して法学あるいは心理学の知識を獲得することが目標ではなく、法学が扱う人間現象への心理学の問題の立て方、方法、概念などについて学びながら、法学と心理学のかかわる諸問題について考える力を身につける
講義方法	前半は主に認知心理学や供述心理学の基礎を紹介し、後半は具体的な事件における供述分析について紹介する。
準備学習	特に予習は求めない。 毎回の授業のレジュメをあらかじめMyKonanにアップしておくので、各自レジュメをダウンロード・印刷し持参すること。
成績評価	定期テストにより評価する。
講義構成	1 オリエンテーション 2 法と心理学の歴史 3・4・5 供述をめぐる心理学的知見 6・7 欧米における供述分析 8・9 日本における供述分析 10・11 性犯罪事件における被害者供述（事例） 12・13 知的障害者と虚偽自白 14 刑事裁判における供述分析の課題と可能性 15 定期テスト
教科書	特に指定しない。 毎回の講義ではレジュメを使用する。
参考書・資料	「取調べ室の心理学」（浜田著、平凡社新書、2004年） 「自白の心理学」（浜田著、岩波新書721、2001年） 「〈うそ〉を見抜く心理学」（浜田著、NHKブックス937、2002年） 「目撃証言の研究」（渡部監修、北大路書房、2001年） 「目撃証言の心理学」（厳島・仲・原共著、北大路書房、2003年） 「生み出された物語」（山本編著、北大路書房、2003年） 「子どもの面接法」（仲編訳、北大路書房、2004年） 「取調べの心理学」（原編訳、北大路書房、2003年） 「嘘とだましの心理学」（仁平・箱田編、有斐閣） 「裁判官はなぜ誤るのか」（秋山賢三、岩波新書809） 「目撃証言」（ロフタス・ケッチャム共著、厳島訳、岩波書店）
講義関連事項	法と心理学会 http://www.u-gakugei.ac.jp/~ktakagi/JSLP/index.htm 日本弁護士連合会 http://www.nichibenren.or.jp/ 甲山事件 http://www.jca.ax.apc.org/kabutoq/ 野田事件 http://homepage2.nifty.com/nodajiken/
担当者から一言	受講にあたって事前に必要な知識やスキルは特にない。 しかし、講義中の途中入退室や私語などの迷惑行為は厳禁である。 場合によっては、退室を命じることがある。 知識や結論を早急に求めようとせず、事象を根気強く追究する姿勢が必要である。 心理学から見た法の世界について率直に語る心算であるので、法曹界を目指す学生には視野を広げる機会ととらえてほしい。

授業コード	41017		
授業科目名	法哲学I (前)		
担当者名	油納芳生(ユノウ ヨシオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	法哲学上の諸問題の体系的検討 法哲学上の諸問題を、田中成明氏の著作にそって体系的に検討します。この法哲学Ⅰでは、特に法システムの基本的仕組みと主な機能、法と強制とに重点を置いて、皆さんと共に考えていきます。
到達目標	法の仕組みと役割を全体的に理解する。
講義方法	基本的にはテキストにそって講義をしますが、補足したりするためにプリント、ビデオ等を取り入れるつもりです。
準備学習	授業の予習をテキストでもってなし、質問を作ってくること。
成績評価	学期末の記述式テストでのみ評価しますが、質問点をも加味します。
講義構成	第1～2回： 1、法への2つのアプローチ(田中テキスト第1章) 第3～6回： 2、法規範について(田中テキスト第2章) 第7～9回： 3、法の機能(田中テキスト第3章) 第10～14回：4、法と強制(田中テキスト第5章) 第15回： 試験
教科書	田中成明『法学入門』有斐閣、2005年
参考書・資料	加藤新平『法哲学概論』(法律学全集1)有斐閣、1976年 田中成明『法理学講義』有斐閣、1994年 中山竜一『20世紀の法思想』岩波書店、2000年 笹倉秀夫『法哲学講義』東大出版会、2002年 平野・亀本・服部『法哲学』有斐閣アルマ、2002年 井上達夫『法という企て』東大出版会、2003年 A.カウフマン、上田健二訳『法哲学[第2版]』ミレルヴァ書房、2006年 青井秀夫『法理学概説』有斐閣、2007年 小林 公『法哲学』木鐸社、2009年 資料は適宜配布の予定です。
講義関連事項	1、出席はとりません。出席は強制ではないので、真剣に聞きたい人のみ来てください。それ故、私語は絶対に認めません。 2、質問は講義中でも、終了後でもどしどしして下さい。大いに歓迎します。良い質問には質問点を与えます。 3、成績とは無関係に、数回の意見・理解度等の調査をする予定です。

授業コード	41018		
授業科目名	法哲学II (後)		
担当者名	油納芳生(ユノウ ヨシオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	法哲学上の諸問題の体系的検討(続) 法哲学上の諸問題を、田中成明氏の著作にそって体系的に検討します。この法哲学Ⅱでは、特に法的思考、法の解釈・運用等に重点を置き、皆さんと一緒に考えていきます。
到達目標	法の解釈と法的思考についての基本的理解をする。
講義方法	基本的にはテキストにそって講義をしますが、皆さんの理解を助けたり、補足したりするためにプリントやビデオ等も取り入れる予定です。

準備学習	授業の予習をテキストでもってなし、予め質問を作ってくること。
成績評価	学期末の記述式テストのみで評価しますが、質問点をも加味します。
講義構成	第1回：はじめに 第2～7回：1、法的思考（田中テキスト第11章） 第8～13回：2、法の解釈と運用（田中テキスト第12章） 第14回：おわりに 第15回：試験
教科書	田中成明『法学入門』（有斐閣、2005年）
参考書・資料	田中成明『法理学講義』有斐閣、1994年 笹倉秀夫『法哲学講義』東大出版会、2002年 平野・亀本・服部『法哲学』有斐閣アルマ、2002年 青井秀夫『法理学概説』有斐閣、2007年 小林 公『法哲学』木鐸社、2009年 笹倉秀夫『法解釈講義』東大出版会、2009年 資料は適宜配布の予定です。
講義関連事項	法哲学Ⅰをふまえて、講義をしますので、法哲学Ⅰの履修をしておいて下さい。
担当者から一言	1、出席はとりません。出席は強制ではないので、真剣に勉強をしたい人のみ来てください。それ故、私語は絶対に認めません。 2、質問は講義中でも、終了後でもかまいませんので、どしどしして下さい。大いに歓迎します。良い質問には質問点を与えます。 3、成績とは無関係に、数回の意見・理解度等の調査をする予定です。

授業コード	41101		
授業科目名	法律学概論（後）		
担当者名	黒田忠史(クロダ タダブミ)		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜日12時10分～12時50分。その他、E-Mailによる約束時間。		

講義の内容	「法」をめぐる諸問題
到達目標	教師および社会人として不可欠な「法と法律学」についての基礎的知識と良識の習得。
講義方法	パワーポイントや配付資料、視聴覚教材を用いて講義する。
準備学習	My Konan に掲載した「資料」のダウンロードと予習。
成績評価	基本的に、期末試験（100点満点）の結果90点以上を「秀」、80-89点を「優」、70-79点を「良」、60-69点を「可」、60点未満を「不可」とする。
講義構成	第1講 「法」とは何か。社会規範と法規範。 第2講 法の目的、種類。 第3講 法の解釈と適用 第4講 裁判所の組織と機能 第5講 裁判員制度 第6講 権利と義務 第7講 基本的人権 第8講 不法行為と損害賠償 第9講 契約と法 第10講 家族と法 第11講 相続と法 第12講 住居と法 第13講 犯罪と法 第14講 まとめ、質問
教科書	特になし。
参考書・資料	佐藤幸治他『法律学入門』第3版（有斐閣、2006年） 池田真朗他『法の世界へ』第4版（有斐閣アルマ、2006年）

	『現代法学入門』(一橋出版、2003年) 『新版・現代法学入門』第4版(有斐閣双書2005年) 唐澤宏明『はじめて学ぶ法学』(三省堂、2004年) 倉沢康一郎『プレップ法と法学』(弘文堂プレップ法学、1986年) その他、法学の入門的教科書。
--	---

授業コード	41079		
授業科目名	民事訴訟法I(前)		
担当者名	田中誠人(タナカ マコト)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	私人の社会生活における権利・義務関係は、民法・商法などのいわゆる実体法によって規律されている。そして、そのような権利・義務関係が全うされない場合には、民事紛争が生ずることとなる。 民事紛争は、私人間の紛争であることから、当事者同士の話し合いによって解決できるものではあるが、解決が見出せない場合には、自力救済(紛争解決のための実力行使)を禁じられた当事者の救済のため、あるいは未解決紛争の堆積がもたらすであろう社会的混乱の回避のためと、その目的には諸説あるが、とにかく、国家がその解決を引き受けることが必要となる。民事訴訟法は、そのような、国家による紛争解決の手続を定めた法律(手続法)であり、実体法上の権利を実現するにあたって、我々の社会生活と間接的に深く関わるものである。本講義は、この民事訴訟法を概説するものであり、全体的な構成の前半部分として、訴えの提起から口頭弁論までにつき、手続の流れに沿って講義を行う。
到達目標	民事訴訟法とはどのような法律なのかを中心として、民事紛争がどのような手続により解決へと導かれるのかを理解する。
講義方法	レジュメを配布のうえ、レジュメに従って講義を進める形式で行う。
準備学習	実体法において規定されている権利が侵害され紛争が生じた時に問題となるのが訴訟(法)なので、民法・商法などの民事法を中心に、法律科目を予めしくは並行して履修していることが望ましい。
成績評価	定期試験(100%)
講義構成	第1回 ガイダンス・授業内容・単位条件・授業方針 第2回 民事訴訟法とその周辺 第3回 民事訴訟制度の目的と理念 第4回 民事訴訟手続のアウトライン 第5回 受訴裁判所 第6回 訴え 第7・8回 当事者 第9・10回 訴訟物 第11・12・13回 訴訟の審理 第14回 司法制度改革
教科書	レジュメを配布する。
参考書・資料	講義において紹介する。
講義関連事項	本講義は、後期に開講する民事訴訟法Ⅱと連続し一体のものである。必須ではないが、民事訴訟法Ⅱと併せて履修することが望ましい。
その他	六法を携行すること。(『ポケット六法』(有斐閣)や『セレクト六法』(岩波書店)などの小冊子でよい)私語・携帯の着信音はご遠慮いただきたい。教員の判断により、退室を求める場合がある。

授業コード	41080		
授業科目名	民事訴訟法Ⅱ(後)		
担当者名	田中誠人(タナカ マコト)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	私人の社会生活における権利・義務関係は、民法・商法などのいわゆる実体法によって規律されている。そして、そのような権利・義務関係が全うされない場合には、民事紛争が生ずることとなる。 民事紛争は、私人間の紛争であることから、当事者同士の話し合いによって解決できるものではあるが、解決が見出せない場合には、自力救済(紛争解決のための実力行使)を禁じられた当事者の救済のため、あるいは未解決紛争の堆積がもたらすであろう社会的混乱の回避のためと、その目的には諸説あるが、とにかく、国家がその解決を引き受けることが必要となる。民事訴訟法は、そのような、国家による紛争解決の手続を定めた法律(手続法)であり、実体法上の権利を実現するにあたって、我々の社会生活と間接的に深く関わるものである。本講義は、この民事訴訟法を概説するものであり、全体的な構成の後半部分として、口頭弁論から判決および複雑訴訟形態、上訴再審につき、手続の流れに沿って講義を行う。
到達目標	民事訴訟法とはどのような法律なのかを中心として、民事紛争がどのような手続により解決へと導かれるのかを理解する。
講義方法	レジュメを配布のうえ、レジュメに従って講義を進める形式で行う。
準備学習	実体法において規定されている権利が侵害され紛争が生じた時に問題となるのが訴訟(法)なので、民法・商法などの民事法を中心に、法律科目を予めもしくは並行して履修していることが望ましい。
成績評価	定期試験(100%)
講義構成	第1回 ガイダンス・授業内容・単位条件・授業方針 第2回 弁論主義 第3回 訴訟行為 第4・5回 証拠 第6・7回 判決効 第8回 当事者による訴訟の終了 第9回 複数請求訴訟 第10・11・12回 多数当事者訴訟 第13回 上訴・再審 第14回 略式訴訟手続
教科書	レジュメを配布する。
参考書・資料	講義において紹介する。
講義関連事項	本講義は、前期に開講する民事訴訟法Ⅰと連続し一体のものである。必須ではないが、民事訴訟法Ⅰと併せて履修することが望ましい。
その他	六法を携行すること。(『ポケット六法』(有斐閣)や『セレクト六法』(岩波書店)などの小冊子でよい) 私語・携帯の着信音はご遠慮いただきたい。教員の判断により、退室を求める場合がある。

授業コード	41081		
授業科目名	民事訴訟法Ⅲ(民事執行法Ⅰ)(後)		
担当者名	田中誠人(タナカ マコト)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限

講義の内容	判決によって訴訟手続が終了しても、判決において義務者とされた当事者がその判決に従った行動を実行しなければ、紛争は終結しないこととなる。そのような場合に権利者は、自己の権利の強制的な実現を求め、民事執行手続を利用することとなる。本講義は、この民事執行手続を規律する民事執行法を中心として、効率的な債権回収システムの確立に不可欠な、担保権実行手続、および、民事保全手続について概説するものである。
到達目標	権利の実現過程を学ぶことで、民事実体法および民事手続法のより深い理解につなげる。
講義方法	レジュメを配布のうえ、レジュメに従って講義を進める形式で行う。
準備学習	社会において生じた民事紛争や、その他、民事的な問題ををどのように解決へと導くのか、というのが民事手続法における共通の視点なので、民法や商法といった実体法(民事)を中心に、法律科目を予めもしくは並行して履修していることが望ましい。 また、民事訴訟手続についても基礎的な理解が必要であるため、民事訴訟法の講義も並行して履修、あるいは履修済であることが望ましい。
成績評価	定期試験(100%)
講義構成	第1回 ガイダンス・授業内容・単位条件・授業方針 第2回 民事執行手続の構造・執行手続の主体 第3回 強制執行の要件・強制執行手続の構造－金銭執行を中心として

	第4回 担保権実行の要件と構造および財産開示制度 第5回 執行関係訴訟 第6回 金銭執行(不動産) 第7回 金銭執行(動産船舶その他) 第8回 金銭執行(債権・少額訴訟債権) 第9回 非金銭執行 第10回 担保権実行 第11回 形式競売その他 第12回 民事保全の意義・構造 第13回 保全命令手続と不服申立て手続 第14回 保全執行
教科書	レジュメを配布する。
参考書・資料	講義において紹介する。
その他	六法を携行すること。(『ポケット六法』(有斐閣)や『セレクト六法』(岩波書店)などの小冊子でよい)私語・携帯の着信音はご遠慮いただきたい。教員の判断により、退室を求める場合がある。

授業コード	41A21		
授業科目名	民事法入門(1クラス)(前)		
担当者名	山本真知子(ヤマモト マチコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	法学部全学年 出席番号1～210		
オフィスアワー	月曜4限。その他についてはアポイントを取る。		

講義の内容	民法の基本原則、権利と義務、契約(成立、履行、債務不履行)、債権の回収・確保、物権、能力(権利能力・行為能力)、法人、不当利得、不法行為、親族・相続、裁判手続
到達目標	民法、民事訴訟法、商法、労働法などの民事法科目を学ぶための基礎となる事柄の修得。
講義方法	通常の講義形式により行う。抽象的な概念や原理原則を具体的に理解できるように可能な限り具体例に即して説明する予定である。
準備学習	・予習(講義の最後に指示された教科書の該当頁を読む。教科書中に出てきた条文については六法を引く。) ・復習(講義の内容を次回までに復習し、疑問点については参考文献等で調べる。)
成績評価	期末試験の成績によって評価する。
講義構成	1、民法の意義 2、権利と義務／権利の実現 3、契約の成立 4、契約の成立した後～契約の履行 5、債務不履行 6、債権の確保、回収 7、物権 8、能力(権利能力・行為能力) 9、法人 10、不当利得 11、不法行為 12、親族・相続 13、裁判手続
教科書	野村豊弘『民法入門(第5版)』(有斐閣、2007年) 但し、2010年4月時点での最新版を購入すること。
参考書・資料	必要に応じて紹介する。
担当者から一言	六法を必ず持参すること。

授業コード	41A22
-------	-------

授業科目名	民事法入門（2クラス）(前)		
担当者名	桑岡和久（クワオカ カズヒサ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	法学部全学年 出席番号211～最後		
オフィスアワー	講義終了後		
講義の内容	民法、民事訴訟法、商法、労働法など民事法の基本的な事柄を修得することを目的とします。		
到達目標	民法を中心に民事法の基礎的な知識と基本的な考え方を習得する		
講義方法	抽象的な概念や原理原則を具体的に理解できるように可能な限り具体例に即して説明します		
準備学習	第二回目以降は法律用語などこれまでに学習した事柄を復習しておいてください		
成績評価	期末試験の成績によって評価します		
講義構成	1、民事法の意義 2、権利と義務／権利の実現 3、契約の成立 4、契約の履行 5、債務不履行 6、債権の確保、回収 7、物権 8、能力（権利能力・行為能力） 9、法人 10、不当利得 11、不法行為 12、親族・相続 13、裁判手続		
教科書	野村豊弘「民事法入門」 最新版を用意してください		
参考書・資料	小型の六法を持参してください		
担当者から一言	教科書だけでなく六法も必ず携行してください		

授業コード	41C41		
授業科目名	民法総則I(民法I) (A)(後)		
担当者名	住田英穂（スミタ ヒデホ）		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	法学部全学年 出席番号1～210、法学部以外 他学部は授業時間割表にて登録方法を確認すること		
オフィスアワー	木曜日の昼休み 事前に連絡するようにして下さい。		

講義の内容	民法総則の前半部分に該当する部分を講義します。具体的には、下記「講義構成」を参照して下さい。日常生活になじみが深い、契約の締結に関わる問題が、検討の中心になります。1年生は、法を解釈することにまだ慣れていないと思うので、法の適用を通じて紛争を解決するとは、どういうことであるかを示しながら、講義を進めることにします。
到達目標	① 民法総則の前半部分に関する全体像を把握し、主要な実体法のルールおよび概念について、その意味を理解し、具体例を挙げながら説明できる。 ② 法的問題を解決するために、事例問題の事実の概要を客観的に把握し、解決の根拠となるルールを発見し、それを適用して妥当な解決を見だし、その理由を説明できる。
講義方法	毎回、レジュメを配布します。レジュメと教科書に沿って、講義を進めることにします。
準備学習	民事法入門が履修済みであることが望ましい。
成績評価	期末試験の成績で評価します。六法を持参しているかのチェックをかねて、出席をとることがあるかもしれませ

	ん。
講義構成	1 ガイダンス・民法の基本原則 2 法律行為と意思表示 合意の瑕疵 心裡留保 虚偽表示 錯誤 詐欺・強迫 法律行為の解釈 3 人 権利能力 意思能力 行為能力 4 物
教科書	永田＝松本＝松岡「民法入門・総則（第4版）」 エッセンシャル民法1（有斐閣ブックス）
参考書・資料	講義の際に、適宜、挙げることにします。
講義関連事項	講義には、六法を必ず持参するようにして下さい。
担当者から一言	大学生として、マナーを欠く学生には、厳しく接するようにします。

授業コード	41C42		
授業科目名	民法総則Ⅰ(民法Ⅰ) (B)(後)		
担当者名	馬場圭太(ババ ケイタ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
特記事項	法学部全学年 出席番号211～最後		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	民法総則の前半部分（後掲、「講義構成」を参照）を講義します。 民法総則は、民法という法分野の一般的規定をまとめた部分です。したがって、民法科目のなかでも最も抽象度が高く、初学者にとっては難解だといわれます。本講義では、具体例を挙げるなど可能な限り受講生の理解を助けるよう努めますが、受講生の側も相応の努力を払うことが必要であることを肝に銘じて受講していただきたいと思います。
到達目標	民法総則に関する基本的知識および法的な思考方法の習得を目標とします。
講義方法	通常の講義方式で行います。出席はとりません。
準備学習	学習の仕方については、初回の講義で指示します。
成績評価	基本的に期末テストのみを評価対象としますが、課題（ミニレポートなど）を課すこともあります。
講義構成	民法典の規定に従って、以下の順に講義する予定です。1つのテーマにつき複数回の授業を割り当てます。 1 民法の基本構造 2 法源、民法の基本原則 3 権利の主体1：権利能力（失踪宣告） 4 権利の主体2行為能力（制限能力者制度） 5 権利の客体：物 6 法律行為総論 7 意思表示（心裡留保、錯誤、詐欺、強迫） 法人は、民法総則Ⅱ（民法Ⅱ）で講義します。
教科書	永田眞三郎＝松本恒雄＝松岡久和『民法入門・総則 ― エッセンシャル民法1 第4版』（有斐閣）を使用します。
参考書・資料	初回の授業にて指示します。
講義関連事項	「民事法入門」をすでに履修し終えていることが望ましいです。

授業コード	41C51		
授業科目名	民法総則Ⅱ(民法Ⅱ) (A)(前)		
担当者名	益澤 彩(マスザワ アヤ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	法学部全学年 出席番号1～210		
オフィスアワー	講義後		

講義の内容	民法総則の後半部分(強行規定違反・公序良俗違反、消費者契約法、無効と取消、代理、法人、時効、権利濫用と信義則)を内容とする。これらはまた、民事法のみならず法律学の基礎となっている。 なお、民法総則の残りの部分(前半部分)は民法総則Ⅰ(民法Ⅰ)の内容である(講学上の「民法総則」を分割している)。
到達目標	民法総則における基本原理・基本的知識や法律学の基礎を習得すること
講義方法	・通常の講義形式 ・各回で1枚の講義用レジュメを配布予定 ・小型六法(条文)は各自で持参
準備学習	具体的には講義の際に指示する。 なお、民法総則Ⅰ(民法Ⅰ)の内容については、履修の有無にかかわらず、各自で自習を進めておくこと。
成績評価	定期試験(期末の筆記試験) 100% 「欠席(K)」は、期末試験を受験しなかった場合のみである。
講義構成	以下の順序である。 講義ガイダンス(講義概要の解説、テキストの紹介など) 法律行為(民法) 強行規定違反、公序良俗違反 法律行為(消費者契約法) 無効と取消 代理 法人 時効 一般条項—信義誠実の原則、権利の濫用
教科書	特定の図書を教科書として指定しないが、数冊を初回の講義で紹介する。 その際の紹介や民法総則Ⅰ(民法Ⅰ)での指定・紹介を参考にして、必ず一冊は購入しておくこと。
講義関連事項	受講の際には、小型六法(最新版)を必ず持参すること。

授業コード	41C52		
授業科目名	民法総則Ⅱ(民法Ⅱ) (B)(前)		
担当者名	益澤 彩(マスザワ アヤ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	法学部全学年 出席番号211～最後、法学部以外 他学部は授業時間割表にて登録方法を確認すること		
オフィスアワー	講義後		

講義の内容	民法総則の後半部分(強行規定違反・公序良俗違反、消費者契約法、無効と取消、代理、法人、時効、権利濫用と信義則)を内容とする。これらはまた、民事法のみならず法律学の基礎となっている。 なお、民法総則の残りの部分(前半部分)は民法総則Ⅰ(民法Ⅰ)の内容である(講学上の「民法総則」を分割している)。
到達目標	民法総則における基本原理・基本的知識や法律学の基礎を習得すること
講義方法	・通常の講義形式 ・各回で1枚の講義用レジュメを配布予定 ・小型六法(条文)は各自で持参

準備学習	具体的には講義の際に指示する。 なお、民法総則I(民法I)の内容については、履修の有無にかかわらず、各自で自習を進めておくこと。
成績評価	定期試験(期末の筆記試験) 100% 「欠席(K)」は、期末試験を受験しなかった場合のみである。
講義構成	以下の順序である。 講義ガイダンス(講義概要の解説、テキストの紹介など) 法律行為(民法) 強行規定違反、公序良俗違反 法律行為(消費者契約法) 無効と取消 代理 法人 時効 一般条項—信義誠実の原則、権利の濫用
教科書	特定の図書を教科書として指定しないが、数冊を初回の講義で紹介する。 その際の紹介や民法総則I(民法I)での指定・紹介を参考にして、必ず一冊は購入しておくこと。
講義関連事項	受講の際には、小型六法(最新版)を必ず持参すること。

授業コード	41082		
授業科目名	労働法I(労使関係法I) (後)		
担当者名	武井 寛(タケイ ヒロシ)		
配当年次	学部・学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	労働者集団、とくに労働組合が関与する法領域たる集団的労働関係の諸問題を扱う。実定法としては憲法28条の規定する労働三権(団結権、団体交渉権、団体行動権[争議権])と労働組合法を中心とした法領域となる。団結権の歴史的展開を踏まえた上で、基本的人権としての労働基本権の意義、そして個別テーマにそった問題へとすすむ。
到達目標	労働三権の存在意義について理解する。
講義方法	あらかじめ配布する予定のレジュメにしたがって、必要な内容について順次講義する。パワーポイント等を必要に応じて用いる。
準備学習	労働問題に関するルポルタージュを読んでおくと、授業の理解が深まるでしょう。
成績評価	講義の途中に行う小テストと期末テストの成績によって評価する。
講義構成	1 講義内容の紹介+労働法の体系 2 労働法の歴史的展開(団結権を中心として) 3 日本国憲法と労働基本権の特徴 4 労働組合の結成と運営 5 労働組合の運営と統制 6 団体交渉その1 7 団体交渉その2 8 労働協約その1 9 労働協約その2 10 不当労働行為その1 11 不当労働行為その2 12 争議行為と組合活動その1 13 争議行為と組合活動その2 14 集団的労働紛争の解決手続 15 労組法上の労働者と使用者
教科書	初回の講義時に摘示する
参考書・資料	『労働判例百選』有斐閣。その他必要に応じて摘示する。

担当者から一言	集団的労働関係に関する法はイメージのわきにくい領域だと思いますが、重要な「基本的人権」に関する法領域
---------	--

	です。「人間集団」が人権の享有主体とされる珍しい法領域であると考え、興味をわいてくる…かも。
--	--

授業コード	41083		
授業科目名	労働法Ⅱ(労働保護法Ⅰ) (前)		
担当者名	武井 寛(タケイ ヒロシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	水曜4限		

講義の内容	個別労働者の保護に関する法領域を扱う。実定法としては、労働基準法および労働契約法が中心となるが、均等法、派遣法、労災保険法等、さまざまな個別法にも触れることになる。また、契約論的視点からは、民法も参照することになる。個別の労使紛争解決手段として、裁判所、行政機関、労働審判等の多様なツールが用意されているので、それぞれの特徴についても留意したい。
到達目標	労働者保護の法と仕組みについて理解する。
講義方法	あらかじめ配布する予定のレジュメにしたがって、必要な内容について順次講義する。パワーポイント等を必要に応じて用いる。
準備学習	日々の新聞記事における労働関連のニュースに敏感になること。
成績評価	講義の途中に行う小テストと期末テストの成績によって評価する。
講義構成	1 講義内容の紹介＋労働者保護法の歴史 2 労働条件の決定システムと労働法上の基本概念 3 労働契約の成立過程(募集・採用・試用) 4 労働契約の基本原則 5 労働契約と就業規則 6 賃金 7 労働時間その1(時間概念と弾力的労働時間制度) 8 労働時間その2(休憩・休日・時間外労働) 9 休暇・休業・休職、セクシュアル・ハラスメント、女性・年少者保護 10 人事その1(配転・出向・転籍) 11 人事その2(懲戒処分、人事考課) 12 労働災害 13 労働契約の終了と解雇 14 労働条件の変更 15 労働者派遣
教科書	初回講義時に指示する
参考書・資料	『労働判例百選』有斐閣。その他必要に応じて指示する。
担当者から一言	働く際の重要な問題を扱います。その多くは高校生まで(つまり、働き出す前)に、実は知っておいてほしいことがらでもあります。

授業コード	52022		
授業科目名	APアカウンティング・プロフェッション応用a (前)		
担当者名	中西倭夫(ナカニシ シズオ)、山田善紀(ヤマダ ヨシノリ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	金曜日17時20分～19時		

講義の内容	当講義はAPアカウンティング・プロフェッション基礎a、bを履修済みで、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。 講義のテーマは連結決算及び簿記1級の試験範囲の中の重要と考えられるテーマを選んで、問題演習と解答解説を中心に進めます。ただし、連結決算については全体説明の講義も取り入れます。
-------	--

到達目標	日商簿記1級の商業簿記・会計学の部分について6月または11月の試験に合格可能なレベルに到達することを目標とします。また将来の会計専門家となるための基礎がためができることが目標です。
講義方法	授業は毎回15分程度のミニテスト(前回講義範囲による)を行い、解答と解説を行います。解答と解説に続いて今回のテーマについての講義の後問題演習をクラスで行います。各自疑問点は適時質問します。講義の最後にテストを返却する予定です。
準備学習	講義の前に必ず前回の講義内容についての復習を実施し、ミニテストに備えることが期待されています。また連結以外のテーマでは該当箇所の基礎で学習した内容を確実にしておく必要があります。
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。また6月1級合格者は考慮します。
講義構成	1 簿記一巡の手続・一般原則 2 商品売買・棚卸資産・割賦販売 3 連結会計の基礎・支配獲得 4 支配獲得日後の連結 5 子会社株式の追加取得・売却 6 持分法 7 外貨建財務諸表項目の換算・キャッシュ・フロー計算書 8 総復習 9 工事契約 10 現金預金 11 有価証券 12 有形固定資産・無形固定資産 13 繰延資産・研究開発費・引当金 14 社債・純資産
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ) Ver.7.0」TAC(株) 「簿記検定講座 日商1級 上級 商業簿記・会計学 上級プレ講義テキスト」TAC(株)
参考書・資料	「テキスト連結会計入門」ビジネスアカウンティング研究会 同文館出版(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ) Ver.7.0」TAC(株)
講義関連事項	ミニテストの結果を参考にして、必要な追加資料等は講義の中で示します。
担当者から一言	財務会計は現代経済社会の基本です。日商簿記の1級に合格して現代経済社会を前向きに自信を持って進めるようにともに頑張りましょう。

授業コード	52023		
授業科目名	APアカウンティング・プロフェッション応用b(後)		
担当者名	河崎照行(カワサキ テルユキ)、齊野純子(サイノ ジュンコ)、山田善紀(ヤマダ ヨシノリ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		

講義の内容	当講義はAPアカウンティング・プロフェッション基礎a、b、応用aを履修済みで、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。 講義のテーマは連結決算及び簿記1級の試験範囲の中の重要と考えられるテーマを選んで、問題演習と解答解説を中心に進めます。ただし、連結決算については全体説明の講義も取り入れます。
到達目標	日商簿記1級の商業簿記・会計学の部分について11月の試験に合格可能なレベルに到達することを目標とします。試験後、将来の会計専門家となるための理論的な基礎がためができることが目標です。
講義方法	11月の試験までは、授業は毎回15分程度のミニテスト(前回講義範囲による)を行い、解答と解説を行います。解答と解説に続いて今回のテーマについての講義の後問題演習をクラスで行います。各自疑問点は適時質問します。11月の受験までに数回の演習問題の答案練習を実施します。 試験後は、講義形式により、会計の最新理論を学びます。
準備学習	日商1級の範囲を一通り学習していることを前提とします。講義の前に必ず前回の講義内容についての復習を実施し、ミニテストに備えることが期待されています。

成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。また、6月もしくは11月の日商1級合格者は考慮します。
講義構成	1 委託販売・試用販売・未着品販売 2 金銭債権・貸倒引当金 3 固定資産の減損会計・リース取引 4 退職給付会計・純資産 5 デリバティブ取引・外貨換算会計 6 税効果会計・本店支店会計 7 企業結合・合併・株式交換・株式分割 8 総復習 9 概念フレームワーク(河崎照行教授) 10 現金預金(河崎照行教授) 11 有価証券(河崎照行教授) 12 有形固定資産・無形固定資産(齊野純子教授) 13 繰延資産・研究開発費・引当金(齊野純子教授) 14 社債・純資産(齊野純子教授)
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ) Ver.7.0」TAC(株) 「簿記検定講座 日商1級 上級 簿記・会計学 I. 個別会計編(1)」TAC(株) 「簿記検定講座 日商1級 上級 簿記・会計学 II. 個別会計編(2)」TAC(株)
参考書・資料	「テキスト連結会計入門」ビジネスアカウンティング研究会 同文館出版(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ) Ver.7.0」TAC(株)
講義関連事項	各テーマについて日商簿記2級の復習を同時にします。 ミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で示します。
担当者から一言	習熟度に応じて、進捗度が前後する場合があります。財務会計は現代経済社会の基本です。日商簿記の1級に合格して現代経済社会を前向きに自信を持って進めるようにともに頑張りましょう。

授業コード	52024		
授業科目名	APアカウンティング・プロフェッション応用c(前)		
担当者名	古田清和(フルタ キョカズ)、立野靖人(タテノ ヤスト)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	古田清和・立野靖人 事前にアポイントをとり授業の前後		

講義の内容	当講義は日商簿記1の内容を学習したかまたは同等以上の学力があると認められた学生が、工業簿記及び原価計算において、日商簿記1級に合格できる計算能力と論理力を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための実力を養うことを目的とします。
到達目標	6月または11月の日商1級受験・合格レベルを想定しています。
講義方法	教科書1に沿った講義と前回の復習と今回の理解度を確認するミニテストとし、6月の受験までに4回の演習問題の答案練習を実施します。 6月受験修了後は教科書2に沿って管理会計の基礎を学習します。
準備学習	日商1級の範囲を一通り学習していることを前提に、より実践的な内容を理解するため、該当箇所の基礎で学習した内容を確実にしておく必要があります。
成績評価	「出席状況」、「演習」、「ミニテスト」、「期末試験」を総合評価します。 また6月日商1級合格者は考慮します。
講義構成	1～8講 教科書1に従って、日商1級の範囲の論点を確認します。またこの間に45分の演習を4回実施する予定です。6月の日商1級受験にあたり基本的な内容をカバーすることになります。 1講 総論・個別原価計算・材料費会計・労務費会計・経費会計 2講 製造間接費会計・部門別計算・総合原価計算総論 3講 減損・仕損・工程別・組別 4講 標準原価計算・演習1

	5講 直接原価計算・演習2 6講 CVPと事業部・演習3 7講 差額原価収益分析・設備投資の意思決定・演習4 8講 前半の総まとめ 9～14講 教科書2を中心に、日商1級の管理会計及び特殊論点の範囲を学習し、11月受験の合格を目指す体制を整えます。 9講 管理会計総論・費用の管理 10講 計画と予算 11講 意思決定(業務遂行) 12講 意思決定(設備投資) 13講 戦略の策定と遂行 14講 企業における管理会計の実例・ABC
教科書	教科書1:2010年6月目標日商簿記1級 工業簿記・原価計算上級プレ講義テキスト+4回の演習模試 TAC(株) 教科書2:基礎からわかる管理会計の実務(商事法務)古田・中安・山田著
参考書・資料	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ) Ver.4.0」TAC(株) なお、旧版のVer3を使用している場合はそれでも構いません。
講義関連事項	演習やミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で提示または配付します。
担当者から一言	習熟度に応じて、進捗度が前後する場合があります。前半の8回で1級の内容をひととおり理解します。日商簿記の1級に合格して日本の製造業やその先にある管理会計の世界に進めるようにともに頑張りましょう。やる気が一番です。

授業コード	52025		
授業科目名	APアカウンティング・プロフェッション応用d(後)		
担当者名	上埜 進(ウエノ ススム)、中安富紀子(ナカヤス フキコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	〔上埜〕毎水曜日の12.30-13.00を予定しています。メールなどにてアポイントメントをとり、気軽に研究室を訪れて下さい。 〔中安〕事前にアポイントメントをとってください。		

講義の内容	第1回から第7回までは中安が担当します。そこでは、日商簿記1級の内容を学習したかまたは同等以上の学力があると認められた学生を対象とし、日商簿記1級に合格できる計算能力と論理力を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための実力を養うことを目的とします。 第8回から第14回までは上埜が担当します。そこでは、受講者が管理会計、その基礎的用語と基本コンセプトとを、正しく捉えることができるようにするための講義をめざしています。管理会計領域の中から主たるテーマを選択し、その基礎を優しく解説します。講義内容は講義構成に記しております。
到達目標	第1回から第7回まで 11月の日商簿記1級受験・合格レベルを到達目標とします。 第8回から第14回まで 受講者が、管理会計の基礎的用語を正しく定義でき、基礎的な諸概念と技法を正しく使えることが到達目標です。
講義方法	第1回から第7回まで 教科書の中から、論点を絞って内容を確認します。毎回、理解度を確認するミニテストあるいは答練を行います。 第8回から第14回まで 教科書の中から、基礎的なテーマを絞り、講義します。各講義は、教科書にある基礎的な語句と概念を確認する、練習問題を解く、といった方法をとります。毎回の授業は、双方向をモットーにしており、受講者全員に教科

	書の内容を説明してもらうというスタイルをとります。
準備学習	第1回から第7回まで 基礎で学習した内容を復習し、教科書を読んでから講義に出席することが望ましいです。またミニテストや答案練習に向けた準備も欠かすことができません。 第8回から第14回まで 教科書を読んで講義に出席して下さい。分からない語句や、解けない問題を識別し、講義に参加して下さい。
成績評価	成績は、概ね、class participation(含むプレゼンテーション・小テスト)30%、試験70%をメドに決めます。試験は、講義範囲から出題し、基礎知識を確認する問題を70%、実力差を見極める問題が30%になるように出題します。
講義構成	第1講から第7講まで 教科書に従って、日商簿記1級の範囲のうち論点を絞って確認していきます。またこの間に3~4回程度の答練を実施する予定です。計算練習を中心に、これまで学習してきた内容をブラッシュアップさせます。 第1講 原価計算の基礎知識、費目別計算、製造間接費会計 第2講 部門別計算、実際個別原価計算 第3講 実際総合原価計算、工程別総合原価計算 第4講 組別・等級別総合原価計算、連産品の原価計算 第5講 標準原価計算 第6講 直接原価計算 第7講 予算実績差異分析 第8講 テーマ:講義ガイダンス テーマ:企業経営と企業会計(第1章) 概要:簿記・会計と期間業績の測定、管理会計と財務会計、管理会計の体系 第9講 テーマ:原価計算の基礎(第3章) 概要:原価の分類、原価計算の一般的構造、原価計算の種類 第10講 テーマ:原価管理の方法(第14,16章) 概要:原価管理の概要、標準原価管理の概要、原価標準の分類、原価標準の設定と指示、原価改善、原価企画の概要、原価企画の組織と手順 第11講 テーマ:戦略的コストマネジメントの方法(第11章) 概要:ライフ・サイクル・コスト・マネジメント、品質コストینگ 第12講 テーマ:短期利益計画、CVP分析、予算管理(第5,6章) 概要:原価見積の方法、損益分岐点分析、CVP分析 第13講 テーマ:分権制組織の会計管理(第11章) 概要:分権制組織の形態、事業部の財務諸表、多角化企業の事業部管理、ミニ・プロフィット・センターとライン・カンパニー制 第14講 テーマ:価値創出経営(第14章) 概要:期間業績の評価指標、企業価値の評価モデル、VBMの視点と全社戦略
教科書	第1回から第7回まで ・2010年11月目標日商簿記1級 工業簿記・原価計算上級テキスト TAC(株) 第8回から第14回まで ・上埜 進(著者代表)『管理会計の基礎 ―理論と実践―(第4版)』、2010、(税務経理協会) (学部で初めて学ぶ学生用に執筆した管理会計教科書です)
参考書・資料	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ)Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ)Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ)Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ)Ver.4.0」TAC(株)

	「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ)Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ)Ver.4.0」TAC(株) (なお、旧版のVer3を使用している場合はそれでも構いません。) 上埜進著『管理会計 ―価値創出をめざして― (第4版)』、2008、(税務経理協会)(管理会計を本格的に学習できる唯一の基本書であり、例題も豊富で、CPA試験の短答式・論文式の両試験の出題範囲ならびにレベルに対応しております)
講義関連事項	[中安] 演習やミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で提示または配布します。
担当者から一言	[上埜]継続は力なり。困難に直面しても、へこたれず、続けて下さい。 楽しく学びましょう。 [中安]習熟度に応じて、進捗が前後する場合があります。電卓を必ず持参してください。
ホームページタイトル	上埜進
URL	http://www.dab.hi-ho.ne.jp/s-ueno/Prof_Ueno/Prof.Susumu_Ueno_index.htm

授業コード	52018		
授業科目名	APアカウンティング・プロフェッション基礎a(前)		
担当者名	中西優夫(ナカニシ シズオ)、辻井一磨(ツジイ カズマ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限 金曜3限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	金曜日17時20分～19時00分		

講義の内容	当講義は日商簿記2級を合格または同等以上の学力があると認められた学生が、商業簿記及び会計学において、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。具体的には日商簿記1級の内商業簿記・会計学の連結を除く全体領域の前半部分に関する計算問題の答案演習と解説(理論的な解説を含む)を通じて各自自主的に課題に取り組み解決する能力獲得を講師がサポートする形で進めます。
到達目標	日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。2011年11月の日商簿記の1級合格を具体的な目標としています。
講義方法	講師は2人体制とし、講義の1コマ目は前半、ミニテスト(標準15分間)と問題解説、後半新しいテーマについてクラス全体での設例演習を中心とした講義とし、2コマ目は新しいテーマの演習問題の答案練習を実施します。 また復習問題として課題を指定し、次回の講義の開始時に課題の提出とする予定です。なおクラスを4人1組のグループに分け、グループ討議、グループ演習を実施する場合もあります。
準備学習	講座開始前に2級の領域を復習しておいてください。また各回とも習熟度を確認するためのミニテストを実施しますので前回の内容を確実に復習しておくとともに、当該分に充分目をとうしておくことを心がけてください。
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。
講義構成	1 全体の流れと概要解説・2級復習① 2 2級復習②・総合計算問題 3 簿記一巡の手続き 4 商品売買の会計処理と原価率・利益率 5 棚卸資産 6 割賦販売 7 委託販売4 8 一般原則その他の基本原則 9 工事契約 10 総合演習問題① 11 現金預金 12 金銭債権・貸倒引当金 13 有価証券 14 総合問題②
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株)

	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株) 企業会計原則の全文を準備しておいてください。 問題演習教材については講義開始時に指定します。また決定次第シラバスを修正しますので留意してください。
参考書・資料	「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株)
講義関連事項	各テーマについて関連する日商2級の範囲も復習します。 ミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で示します。
担当者から一言	クラスの習熟度に応じて、進捗度が前後する場合があります。 財務会計は現代経済社会の基本です。日商簿記の1級に合格して、現代経済社会を前向きに自信を持って進めるようにともに頑張りましょう。

授業コード	52019		
授業科目名	APアカウンティング・プロフェッション基礎b(後)		
担当者名	篠藤敦子(シノトウ アツコ)、辻井一磨(ツジイ カズマ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限 金曜3限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	授業の際に、事前にアポイントメントをとってください。		

講義の内容	当講義は、日商簿記2級を合格または同等以上の学力があると認められた学生が、商業簿記及び会計学において、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。具体的には、日商簿記1級のうち商業簿記・会計学の連結を除く全体領域の後半部分に関する計算問題の答案演習と解説(理論的な解説を含む)を通じて、各自が自主的に課題に取り組み解決する能力の獲得を、講師がサポートする形で進めます。
到達目標	日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。2011年11月の日商簿記1級の合格を具体的な目標としています。
講義方法	講師は2人体制とし、講義の1コマ目の前半はミニテスト(標準15分間)と問題解説、後半は新しいテーマについてクラス全体での設例演習を中心とした講義とし、2コマ目は新しいテーマの演習問題の答案練習を実施します。 また、復習問題として課題を指定し、次回の講義の開始時に課題の提出とする予定です。なお、クラスを4人1組のグループに分け、グループ討議、グループ演習を実施する場合もあります。
準備学習	講義開始前に2級の領域を復習しておいてください。また、各回とも習熟度を確認するためのミニテストを実施しますので、前回の内容を確実に復習しておくとともに、当該分の内容にも十分に目を通しておくことを心がけてください。
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。
講義構成	1 有形固定資産 2 リース取引・無形固定資産 3 繰延資産・研究開発費 4 引当金 5 退職給付会計 6 社債 7 純資産 8 総復習 9 デリバティブ取引 10 外貨換算会計 11 税効果会計 12 本支店会計 13 企業結合・合併 14 株式交換・会社の分割
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ) Ver.7.0」TAC(株) 企業会計原則の全文を準備しておいてください。 問題演習教材については、講義開始時に指定します。また、決定次第シラバスを修正しますので留意してください。

	い。
参考書・資料	「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ) Ver.7.0」TAC(株)
講義関連事項	各テーマについて、関連する日商簿記2級の範囲も復習します。 ミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で示します。
担当者から一言	クラスの習熟度に応じて、進捗度が前後する場合があります。 財務会計は、現代経済社会の基本です。日商簿記1級に合格して、現代経済社会を前向きに自信を持って進めるようにともに頑張りましょう。

授業コード	52020		
授業科目名	APアカウンティング・プロフェッション基礎c(前)		
担当者名	古田清和(フルタ キヨカズ)、中安富紀子(ナカヤス フキコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限 水曜3限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	当講義は日商簿記2級を合格または同等以上の学力があると認められた学生が、工業簿記及び原価計算において、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。
到達目標	日商簿記検定の2級の復習から開始し、1級へ向けて足固めをします。原価計算基準に慣れるとともに問題の解答パターンを覚えるのではなく、解くための考える力を養えるようにすることが必要です。
講義方法	講師は2人体制とし、講義の前半はミニテストと講義とし、後半でミニテストの講評と解説及び演習問題の答案練習を実施します。ミニテスト及び演習問題の答案練習は個人別に行います。 また復習問題として課題を指定し、次の講義の開始時に課題の提出とする予定です。なおクラスを4人1組程度のグループに分け、グループ討議、グループ演習を実施する場合があります。
準備学習	講座開始前に2級の領域を復習しておいてください。また各回とも習熟度を確認するためのミニテストを実施しますので前回の内容を確実に復習しておくとともに、当該分に充分目を通しておくことを心がけてください。
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。
講義構成	1 全体の流れと概要解説・二級の復習1 2 二級の復習2・総論原価計算基準 3 原価記録と財務諸表 4 個別原価計算 5 材料費会計 6 労務費会計 7 経費会計 8 製造間接費会計1 9 製造間接費会計2 10 原価の部門別計算1 11 原価の部門別計算2 12 個別原価計算における仕損 13 総合原価計算の基礎 14 仕損・減損が生じる場合の計算
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 原価計算基準の全文を準備しておいてください。(3/24シラバス修正)
参考書・資料	追加の問題演習教材については講義開始時に 指示します。
講義関連事項	各テーマについて関連する日商簿記2級の範囲も復習します。 ミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で示します。
担当者から一言	習熟度に応じて、進捗度が前後する場合があります。

	原価計算は製造業のものつくりの基本です。日商簿記の1級に合格して日本の製造業やその先にある管理会計の世界に進めるようにともに頑張りましょう。
--	--

授業コード	52021		
授業科目名	APアカウンティング・プロフェッション基礎d(後)		
担当者名	村田智之(ムラタ トモユキ)、田邊宏嗣(タナベ コウジ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限 水曜3限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	当講義は日商簿記2級を合格または同等以上の学力があると認められた学生が、工業簿記及び原価計算において、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。
到達目標	日商簿記1級合格のための基礎力の取得を目的とします。
講義方法	講師は2人体制とし、講義の前半はミニテストと設例中心の講義とし、後半はミニテストの講評と解説及び演習問題の答案練習を実施します。ミニテスト及び演習問題の答案練習は個人別に行います。また復習問題として課題を指定し、次の講義の開始時に提出する予定です。なおクラスを4人1組程度のグループに分け、グループ討議、グループ演習を実施する場合があります。
準備学習	テキスト及びトレーニング(問題集)の講義範囲の内容を予め予習し、理解が十分でなかった部分を講義で確認するようにして下さい。また、各回とも前回までの習熟度を確認するためのミニテストを実施しますので、予習→講義→範囲の復習を継続する必要があります。
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。
講義構成	1 工程別総合原価計算 2 組別・等級別総合原価計算 3 連産品の原価計算 4 標準原価計算の基礎(1) 5 標準原価計算の基礎(2) 6 標準原価計算における仕損・減損(1) 7 標準原価計算における仕損・減損(2) 8 原価差異の会計処理と標準の改訂 9 直接原価計算 10 直接標準原価計算 11 企業予算の編成 12 CVP分析 13 最適セールス・ミックスの決定 14 総復習
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ) Ver.4.0」TAC(株) 問題演習教材につきましては、講義開始時に指示します。教科書の追加があった場合には、シラバスを適時修正しますので、留意して下さい。
参考書・資料	教科書に加えて、会計法規集等を参考に使用することがあります。
講義関連事項	各テーマについて関連する日商簿記2級及び前期履修内容の復習を実施します。ミニテストの結果を参考にし、必要な資料等は講義の中で示しますが、教科書、参考書(合格テキスト1級Ⅰ、合格トレーニング1級Ⅰを含む)は必ず持参して下さい。

担当者から一言	本講義における原価計算は、財務意思決定に関する基本的事項を履修範囲とし、管理会計や経営戦略策定にも応用可能な領域です。日商1級にまずは合格できる知識を取得し、その後は知識を深耕してゆきましょう。
---------	---

授業コード	52026		
授業科目名	AP経営コンサルティング論（前）		
担当者名	大工舎 宏(ダイクヤ ヒロシ)、平山賢二(ヒラヤマ ケンジ)、森本朋敦(モリモト トモノブ)、安達悟志(アダチ サトシ)、中平将仁(ナカヒラ マサヒト)、加納由紀子(カノウ ユキコ)、神棒信彦(カンボウ ノブヒコ)、伊藤 学(イトウ マナブ)、森岡文廣(モリオカ フミヒロ)、渡邊 亘(ワタナベ ワタル)、加藤風貴(カトウ フウキ)、川原拓馬(カワハラ タクマ)、山本泳吾(ヤマモト エイゴ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		

講義の内容	経営コンサルティング・経営コンサルタントの仕事はどのようなものかについて、実務で活躍している経営コンサルタントがわかりやすく講義・説明します。 「経営コンサルティングとは何か?」「戦略立案のアプローチ」「企業の分析(外部・内部)」「グローバル経営」など、経営コンサルティングにおける主要テーマにおける理論と実務をご紹介します。
到達目標	①経営コンサルティング・経営コンサルタントの仕事がどのようなものであるかについて知ることができる。 ②上記を通じて、実際の企業経営はどのようなものか、どのようなことが課題となっているかなどについて知ることができる。
講義方法	各回の講義は、各テーマに詳しい経営コンサルタントがリレー形式で担当します。 各テーマについて、経営コンサルティングの仕事における一般的な理論の概略説明を講義するとともに、実務における適用について実例を交えながら講義します。 講義が中心ですが、各テーマの最後に、学んだ内容を自身で振り返る自習作業を行う予定にしています。
準備学習	・特に準備学習は必要ありませんが、日頃から新聞や経済ニュースなどの情報を積極的に把握し、企業社会の動きに注目しておくようにしてください。 ・講義の中で紹介される手法や書籍などのうち、興味のあるものについて後日自ら学習するようにしてください。 ・興味のある講義テーマについて、講義終了後に学生間で感想・考えを討議してみてください。
成績評価	・定期試験を行います。
講義構成	各回の講義は株式会社アットストリームの経営コンサルタントが担当します。以下、各回の講義テーマの予定です(今後一部変更される場合があります)。 ・第1回(平山賢二):「経営コンサルタントとは?」(コンサルタントの志) ・第2回(大工舎宏):「ミッションマネジメント」(経営の原点・意思) ・第3回(安達悟志):「戦略立案アプローチ論」(戦い方・勝ち方を考える) ・第4回(加藤風貴):「外部環境分析/事業環境分析」(外を知る・見る、コンサルタントによる会社・業界研究) ・第5回(森岡文廣):「内部環境分析」(己を知る・整理する) ・第6回(森本朋敦):「会計と経営」(経営の基本/経営コンサルタントの重要スキル) ・第7回(川原拓馬):「顧客の声(Voice of Customer)を活かす」(経営の黄金律) ・第8回(伊藤学):「業務改革とIT活用」(コンサルティングサービスの最大領域) ・第9回(中平将仁・渡邊亘):「業種別アプローチ(製造業)」(製造業の課題と着眼点) ・第10回(加納由紀子):「業種別アプローチ(流通業)」(流通業の課題と着眼点) ・第11回(神棒信彦):「M&A」(有機的成長かM&Aによる価値創造か?) ・第12回(山本泳吾):「グローバル経営」(Think Global! Act Local!) ・第13回(大工舎宏):「改革の実行・定着」(Changeは難しい) ・第14回(平山賢二):「経営コンサルティング会社を経営する」(ユニークなコンサルティング会社の作り方) ・第15回 試験
教科書	特に教科書等の指定はありませんが、下記を参考図書としてご紹介します。興味のある書籍を学習ください。 ・「取引先企業の実態把握強化法」(アットストリーム著) 金融財政事情研究会 ・「勝つ現場力」「勝つ改善力」(平山賢二) JIPMソリューション ・「ミッションマネジメント」(アーサーアンダーセン) 生産性出版 (絶版) ・「提案力を高めるコンサルタントSEへのアプローチ」(安達悟志) 日刊工業新聞社 ・「連結経営管理マニュアル」(森本朋敦 監修:内藤文雄) 税務研究会 ・「連結経営管理と実践手法」(森本朋敦) 税務研究会 ・「ヘドロ在庫をなくせ!」(中平将仁) JIPMソリューション ・「経営の突破力 現場の達成力」(大工舎宏) JIPMソリューション

担当者から一言	一線で活躍する個性豊かな経営コンサルタントが続々と登場しますので楽しみにしてください。
URL	http://www.atstream.co.jp/

授業コード	52027		
授業科目名	AP経営コンサルティング論応用(前)		
担当者名	大工舎 宏(ダイクヤ ヒロシ)、平山賢二(ヒラヤマ ケンジ)、森本朋敦(モリモト トモノブ)、安達悟志(アダチ サトシ)、中平将仁(ナカヒラ マサヒト)、加納由紀子(カノウ ユキコ)、神棒信彦(カンボウ ノブヒコ)、伊藤 学(イトウ マナブ)、森岡文廣(モリオカ フミヒロ)、渡邊 亘(ワタナベ ワタル)、加藤風貴(カトウ フウキ)、川原拓馬(カワハラ タクマ)、山本泳吾(ヤマモト エイゴ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
講義の内容	「経営コンサルティング論」で学んだテーマに関連するグループ討議・グループワーク等を行うことで、更にテーマについての理解を深めていきます。 「ワクワクするミッション・ビジョンを考える」、「・・・社(・・・業)の経営課題を想定する」など、各回のテーマに応じた題材を設定します。		
到達目標	①経営コンサルティング・経営コンサルタントの仕事がどのようなものであるかについて知ることができる。 ②上記を通じて、実際の企業経営はどのようなものか、どのようなことが課題となっているかなどについて知ることができる。 ③グループ討議等を通じて、企業経営における主要テーマについての意見・考え方の共有と整理を行うことができる。		
講義方法	各回の講義は、各テーマに詳しい経営コンサルタントがリレー形式で担当します。 各テーマ並びに「経営コンサルティング論」で学んだテーマに関連するグループ討議・グループワーク等を行います。 討議・ワークの結果に対して、経営コンサルタントからフィードバック・アドバイスをを行います。 最後に、討議を通じて学んだことなどを各自で整理・記述いただくことを予定しています。		
準備学習	・特に準備学習は必要ありませんが、日頃から新聞や経済ニュースなどの情報を積極的に把握し、企業社会の動きに注目しておくようにしてください。 ・講義の中で紹介される手法や書籍などのうち、興味のあるものについて後日自ら学習するようにしてください。 ・興味のある講義テーマについて、講義終了後に学生間で感想・考えを討議してみてください。		
成績評価	定期試験を行います。		
講義構成	株式会社アットストリームの経営コンサルタントが担当します。以下は、「経営コンサルティング論」における各回の講義テーマの予定です(今後一部変更される場合があります)。 各回のテーマに応じたグループ討議・グループワークのテーマについては、随時設定していきます。 また、いずれかの講義の際に、経営コンサルタント(数名)との座談会等も企画する予定にしています。 ・第1回(平山賢二):「経営コンサルタントとは?」(コンサルタントの志) ・第2回(大工舎宏):「ミッションマネジメント」(経営の原点・意思) ・第3回(安達悟志):「戦略立案アプローチ論」(戦い方・勝ち方を考える) ・第4回(加藤風貴):「外部環境分析/事業環境分析」(外を知る・見る、コンサルタントによる会社・業界研究) ・第5回(森岡文廣):「内部環境分析」(己を知る・整理する) ・第6回(森本朋敦):「会計と経営」(経営の基本/経営コンサルタントの重要スキル) ・第7回(川原拓馬):「顧客の声(Voice of Customer)を活かす」(経営の黄金律) ・第8回(伊藤学):「業務改革とIT活用」(コンサルティングサービスの最大領域) ・第9回(中平将仁・渡邊亘):「業種別アプローチ(製造業)」(製造業の課題と着眼点) ・第10回(加納由紀子):「業種別アプローチ(流通業)」(流通業の課題と着眼点) ・第11回(神棒信彦):「M&A」(有機的成長かM&Aによる価値創造か?) ・第12回(山本泳吾):「グローバル経営」(Think Global! Act Local!) ・第13回(大工舎宏):「改革の実行・定着」(Changeは難しい) ・第14回(平山賢二):「経営コンサルティング会社を経営する」(ユニークなコンサルティング会社の作り方)		
教科書	特に教科書等の指定はありませんが、下記を参考図書としてご紹介します。興味のある書籍を学習ください。 ・「取引先企業の実態把握強化法」(アットストリーム著) 金融財政事情研究会 ・「勝つ現場力」「勝つ改善力」(平山賢二) JIPMソリューション ・「ミッションマネジメント」(アーサーアンダーセン) 生産性出版 (絶版) ・「提案力を高めるコンサルタントSEへのアプローチ」(安達悟志) 日刊工業新聞社 ・「連結経営管理マニュアル」(森本朋敦 監修:内藤文雄) 税務研究会 ・「連結経営管理と実践手法」(森本朋敦) 税務研究会 ・「ヘドロ在庫をなくせ!」(中平将仁) JIPMソリューション ・「経営の突破力 現場の達成力」(大工舎宏) JIPMソリューション		
担当者から一言	一線で活躍する個性豊かな経営コンサルタントが続々と登場しますので楽しみにしてください。		

URL	http://www.atstream.co.jp/
-----	----------------------------

授業コード	52028		
授業科目名	BP経営コンサルティング論（前）		
担当者名	大工舎 宏(ダイクヤ ヒロシ)、平山賢二(ヒラヤマ ケンジ)、森本朋敦(モリモト トモノブ)、安達悟志(アダチ サトシ)、中平将仁(ナカヒラ マサヒト)、加納由紀子(カノウ ユキコ)、神棒信彦(カンボウ ノブヒコ)、伊藤 学(イトウ マナブ)、森岡文廣(モリオカ フミヒロ)、渡邊 亘(ワタナベ ワタル)、加藤風貴(カトウ フウキ)、川原拓馬(カワハラ タクマ)、山本泳吾(ヤマモト エイゴ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		

講義の内容	経営コンサルティング・経営コンサルタントの仕事はどのようなものかについて、実務で活躍している経営コンサルタントがわかりやすく講義・説明します。 「経営コンサルティングとは何か?」「戦略立案のアプローチ」「企業の分析(外部・内部)」「グローバル経営」など、経営コンサルティングにおける主要テーマにおける理論と実務をご紹介します。
到達目標	①経営コンサルティング・経営コンサルタントの仕事がどのようなものであるかについて知ることができる。 ②上記を通じて、実際の企業経営はどのようなものか、どのようなことが課題となっているかなどについて知ることができる。
講義方法	各回の講義は、各テーマに詳しい経営コンサルタントがリレー形式で担当します。 各テーマについて、経営コンサルティングの仕事における一般的な理論の概略説明を講義するとともに、実務における適用について実例を交えながら講義します。 講義が中心ですが、各テーマの最後に、学んだ内容を自身で振り返る自習作業を行う予定にしています。
準備学習	・特に準備学習は必要ありませんが、日頃から新聞や経済ニュースなどの情報を積極的に把握し、企業社会の動きに注目しておくようにしてください。 ・講義の中で紹介される手法や書籍などのうち、興味のあるものについて後日自ら学習するようにしてください。 ・興味のある講義テーマについて、講義終了後に学生間で感想・考えを討議してみてください。
成績評価	・定期試験を行います。
講義構成	各回の講義は株式会社アットストリームの経営コンサルタントが担当します。以下、各回の講義テーマの予定です(今後一部変更される場合があります)。 ・第1回(平山賢二):「経営コンサルタントとは?」(コンサルタントの志) ・第2回(大工舎宏):「ミッションマネジメント」(経営の原点・意思) ・第3回(安達悟志):「戦略立案アプローチ論」(戦い方・勝ち方を考える) ・第4回(加藤風貴):「外部環境分析/事業環境分析」(外を知る・見る、コンサルタントによる会社・業界研究) ・第5回(森岡文廣):「内部環境分析」(己を知る・整理する) ・第6回(森本朋敦):「会計と経営」(経営の基本/経営コンサルタントの重要スキル) ・第7回(川原拓馬):「顧客の声(Voice of Customer)を活かす」(経営の黄金律) ・第8回(伊藤学):「業務改革とIT活用」(コンサルティングサービスの最大領域) ・第9回(中平将仁・渡邊亘):「業種別アプローチ(製造業)」(製造業の課題と着眼点) ・第10回(加納由紀子):「業種別アプローチ(流通業)」(流通業の課題と着眼点) ・第11回(神棒信彦):「M&A」(有機的成長かM&Aによる価値創造か?) ・第12回(山本泳吾):「グローバル経営」(Think Global! Act Local!) ・第13回(大工舎宏):「改革の実行・定着」(Changeは難しい) ・第14回(平山賢二):「経営コンサルティング会社を経営する」(ユニークなコンサルティング会社の作り方) ・第15回 試験
教科書	特に教科書等の指定はありませんが、下記を参考図書としてご紹介します。興味のある書籍を学習ください。 ・「取引先企業の実態把握強化法」(アットストリーム著) 金融財政事情研究会 ・「勝つ現場力」「勝つ改善力」(平山賢二) JIPMソリューション ・「ミッションマネジメント」(アーサーアンダーセン) 生産性出版(絶版) ・「提案力を高めるコンサルタントSEへのアプローチ」(安達悟志) 日刊工業新聞社 ・「連結経営管理マニュアル」(森本朋敦 監修:内藤文雄) 税務研究会 ・「連結経営管理と実践手法」(森本朋敦) 税務研究会 ・「ヘドロ在庫をなくせ!」(中平将仁) JIPMソリューション ・「経営の突破力 現場の達成力」(大工舎宏) JIPMソリューション

担当者から一言	一線で活躍する個性豊かな経営コンサルタントが続々と登場しますので楽しみにしてください。
---------	---

URL	http://www.atstream.co.jp/
-----	----------------------------

授業コード	52029		
授業科目名	BP経営コンサルティング論応用（前）		
担当者名	大工舎 宏(ダイクヤ ヒロシ)、平山賢二(ヒラヤマ ケンジ)、森本朋敦(モリモト トモノブ)、安達悟志(アダチ サトシ)、中平将仁(ナカヒラ マサヒト)、加納由紀子(カノウ ユキコ)、神棒信彦(カンボウ ノブヒコ)、伊藤 学(イトウ マナブ)、森岡文廣(モリオカ フミヒロ)、渡邊 亘(ワタナベ ワタル)、加藤風貴(カトウ フウキ)、川原拓馬(カワハラ タクマ)、山本泳吾(ヤマモト エイゴ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		

講義の内容	「経営コンサルティング論」で学んだテーマに関連するグループ討議・グループワーク等を行うことで、更にテーマについての理解を深めていきます。 「ワクワクするミッション・ビジョンを考える」、「・・・社(・・・業)の経営課題を想定する」など、各回のテーマに応じた題材を設定します。
到達目標	①経営コンサルティング・経営コンサルタントの仕事がどのようなものであるかについて知ることができる。 ②上記を通じて、実際の企業経営はどのようなものか、どのようなことが課題となっているかなどについて知ることができる。 ③グループ討議等を通じて、企業経営における主要テーマについての意見・考え方の共有と整理を行うことができる。
講義方法	各回の講義は、各テーマに詳しい経営コンサルタントがリレー形式で担当します。 各テーマ並びに「経営コンサルティング論」で学んだテーマに関連するグループ討議・グループワーク等を行います。 討議・ワークの結果に対して、経営コンサルタントからフィードバック・アドバイスをを行います。 最後に、討議を通じて学んだことなどを各自で整理・記述いただくことを予定しています。
準備学習	・特に準備学習は必要ありませんが、日頃から新聞や経済ニュースなどの情報を積極的に把握し、企業社会の動きに注目しておくようにしてください。 ・講義の中で紹介される手法や書籍などのうち、興味のあるものについて後日自ら学習するようにしてください。 ・興味のある講義テーマについて、講義終了後に学生間で感想・考えを討議してみてください。
成績評価	定期試験を行います。
講義構成	株式会社アットストリームの経営コンサルタントが担当します。以下は、「経営コンサルティング論」における各回の講義テーマの予定です(今後一部変更される場合があります)。 各回のテーマに応じたグループ討議・グループワークのテーマについては、随時設定していきます。 また、いずれかの講義の際に、経営コンサルタント(数名)との座談会等も企画する予定にしています。 ・第1回(平山賢二):「経営コンサルタントとは?」(コンサルタントの志) ・第2回(大工舎宏):「ミッションマネジメント」(経営の原点・意思) ・第3回(安達悟志):「戦略立案アプローチ論」(戦い方・勝ち方を考える) ・第4回(加藤風貴):「外部環境分析／事業環境分析」(外を知る・見る、コンサルタントによる会社・業界研究) ・第5回(森岡文廣):「内部環境分析」(己を知る・整理する) ・第6回(森本朋敦):「会計と経営」(経営の基本／経営コンサルタントの重要スキル) ・第7回(川原拓馬):「顧客の声(Voice of Customer)を活かす」(経営の黄金律) ・第8回(伊藤学):「業務改革とIT活用」(コンサルティングサービスの最大領域) ・第9回(中平将仁・渡邊亘):「業種別アプローチ(製造業)」(製造業の課題と着眼点) ・第10回(加納由紀子):「業種別アプローチ(流通業)」(流通業の課題と着眼点) ・第11回(神棒信彦):「M&A」(有機的成長かM&Aによる価値創造か?) ・第12回(山本泳吾):「グローバル経営」(Think Global! Act Local!) ・第13回(大工舎宏):「改革の実行・定着」(Changeは難しい) ・第14回(平山賢二):「経営コンサルティング会社を経営する」(ユニークなコンサルティング会社の作り方)
教科書	特に教科書等の指定はありませんが、下記を参考図書としてご紹介します。興味のある書籍を学習ください。 ・「取引先企業の実態把握強化法」(アットストリーム著) 金融財政事情研究会 ・「勝つ現場力」「勝つ改善力」(平山賢二) JIPMソリューション ・「ミッションマネジメント」(アーサーアンダーセン) 生産性出版 (絶版) ・「提案力を高めるコンサルタントSEへのアプローチ」(安達悟志) 日刊工業新聞社 ・「連結経営管理マニュアル」(森本朋敦 監修:内藤文雄) 税務研究会 ・「連結経営管理と実践手法」(森本朋敦) 税務研究会

	・「ヘドロ在庫をなくせ！」（中平将仁）JIPMソリューション ・「経営の突破力 現場の達成力」（大工舎宏）JIPMソリューション
担当者から一言	一線で活躍する個性豊かな経営コンサルタントが続々と登場しますので楽しみにしてください。
URL	http://www.atstream.co.jp/

授業コード	52009		
授業科目名	GBコース英会話Ⅰ(前)		
担当者名	マック(マック トーマス M.)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	Tuesdays 12:30 to 2:00		

講義の内容	This course improves students' ability to understand various business topics in English and to express their ideas and opinions about them.
到達目標	In this course, students will: ・ learn conversation strategies for managing conversations in business situations ・ participate in projects that simulate business environments in various cultures ・ practice using English fluently, accurately, and appropriately (including grammar, vocabulary, idiomatic expressions, pronunciation, and intonation) ・ learn new vocabulary, structures, and useful expressions ・ practice skills for becoming successful, independent language learners
講義方法	Class time will be used for student-centered speaking activities related to business topics. You will use English actively in pair and group activities including short dialogs and discussions, information exchange tasks, and team projects. For each class activity, you will learn the vocabulary, grammar, and strategies necessary for successful communication. In addition to the speaking activities, there will be listening tasks in every class. Also, TOEIC-type questions will be used to review each of the topics we cover.
準備学習	Complete whatever homework assignments you are given. It is best to do homework a few days before class rather than a few minutes before class!
成績評価	50% Participation 30% Projects, discussions, TOEIC quizzes, and homework 20% Presentation
講義構成	Week 1 Introduction to class Weeks 2-5 Units 1~2 Weeks 6-9 Units 3~4 Weeks 10-13 Units 5~6 Week 14 Final presentations (Some changes to the schedule are likely as the teacher becomes familiar with student abilities and interests.)
教科書	Getting Ready for Business: Preparing for Work Student Book 1 (Vaughan & Zemach; Macmillan)

その他	
ホームページタイトル	Mach's Website
URL	http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~mach/

授業コード	52010
-------	-------

授業科目名	GBコース英会話 II (後)		
担当者名	マック(マック トーマス M.)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	Tuesdays 12:30 to 2:00		

講義の内容	This course continues to improve students' ability to understand various business topics in English and to express their ideas and opinions about them.
到達目標	In this course, students will: · learn conversation strategies for managing conversations in business situations · participate in projects that simulate business environments in various cultures · practice using English fluently, accurately, and appropriately (including grammar, vocabulary, idiomatic expressions, pronunciation, and intonation) · learn new vocabulary, structures, and useful expressions · practice skills for becoming successful, independent language learners
講義方法	Class time will be used for student-centered speaking activities related to business topics. You will use English actively in pair and group activities including short dialogs and discussions, information exchange tasks, and team projects. For each class activity, you will learn the vocabulary, grammar, and strategies necessary for successful communication. In addition to the speaking activities, there will be listening tasks in every class. Also, TOEIC-type questions will be used to review each of the topics we cover.
準備学習	Complete whatever homework assignments you are given. It is best to do homework a few days before class rather than a few minutes before class! Keep corrected homework in order to study for the final exam.
成績評価	50% Participation 30% Projects, discussions, TOEIC quizzes, and homework 20% Presentation
講義構成	Week 1 Review of spring term Weeks 2-5 Units 7~8 Weeks 6-9 Units 9~10 Weeks 10-13 Units 11~12 Week 14 Final presentations (Some changes to the schedule are likely as the teacher becomes familiar with student abilities and interests.)
教科書	(Same textbook as our spring course) Getting Ready for Business: Preparing for Work Student Book 1 (Vaughan & Zemach; Macmillan)

その他	
ホームページタイトル	Mach's Website
URL	http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~mach/

授業コード	52A21		
授業科目名	GBビジネス英会話・上級 (1クラス)(前)		
担当者名	ミツダ(ミツダ ベンジャミン B.)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	Available by appointment and e-mail		

講義の内容	Conversational phrases and strategies focusing on professional English and current business topics will be explored. The goals are practicing and increasing English communication skills further through awareness of local and global news and interconnected business events. Moreover, it is hoped all students will gain greater confidence to express themselves as they "seek first to understand, then to be understood" in their ongoing journey with English. Materials from sources such as The Wall Street Journal, Forbes Asia, Time, Student Times, BBC and CNN will be used to "exercise" listening comprehension, vocabulary and discussion skills. In previous semesters, topics included language used at work, business developments (Toyota, General Motors, Apple, Google), mergers, scenes from movies and documentaries, speeches by political leaders, environmental issues and sports.
到達目標	The aim is to prepare students for giving presentations in front of the class using English only. From a wide variety of topics, students will make their own selections and give their own perspectives or points of view.
講義方法	Students will be assigned to find their own topics from the internet and newspapers so they need to keep up with the daily news reports. From their collection of materials, they will summarize and express their opinions in pairs and in groups.
準備学習	Vocabulary lists and reading materials will be given for homework.
成績評価	・平常点 30% ・出席率 30% ・試験 30% ・その他 10% (Homework and bonus points) Evaluation based on assignments, short quizzes, regular attendance, active participation, interviews, mini-presentations, self-assessment and a final review.
講義構成	Requirements: Come to class on time and actively use English as much as possible. Lessons: The first class of the term is for orientation and handing out the first homework (vocabulary and reading materials). There will be a final review in the last class of the term. Every topic is studied in 2 or 3 parts. Depending on the content as well as local and global events, one part is studied in each class as follows: a (starting a new topic about 50 min.) 1. Vocabulary Quiz of the previous topic. 2. Listening questions about the topic. 3. Watch the video one time through. 4. Transcribe the first paragraph of the news report with analysis of grammar, vocabulary and content. (about 20 min.) 5. Discuss / clarify / question & answer main ideas of the topic. 6. H.W. of discussion questions, transcription and begin preparation for next class.* ----- b (examining the topic about 50 min.) 1. Check Reading Homework. (10 min.) 2. See video and answer comprehension questions. Check answers. (15 min.) 3. Discussion, including some sharing with the whole class during the activity. (20 min.)* ----- c (finishing the topic 50 min.) 1. Check transcripts as a listening activity. Exchange papers and mark missing, wrong or extra words. (10 min.) 2. See the video of the news again. 3. Continue discussion including some sharing with the whole class. (20 min.) 4. Listening Quiz. (5 min.) 5. Receive vocabulary list and materials for the next topic.* ----- *Other activities may be done if time allows, such as making summaries of the topics, discussing updates of previous news, viewing & discussing other news of interest or relevance, making oral reports (presentations) on other current news,

	receiving corrected homework from previous topics, etc.
教科書	Adams, Keith; GLOBAL LINKS (ENGLISH FOR INTERNATIONAL BUSINESS), Longman Albom, Mitch; TUESDAYS WITH MORRIE, Doubleday Covey, Stephen; FIRST THINGS FIRST / THE 8TH HABIT, Simon & Schuster, Free Press Gladwell, Malcolm; OUTLIERS (THE STORY OF SUCCESS), Little, Brown and Company Hesse, Stephen; TAKING SIDES, (Critical Thinking for Speech, Discussion and Debate) Obama, Barack; THE AUDACITY OF HOPE Moore, Michael; CAPITALISM / CORPORATIONS Rotella, Bob; LIFE IS NOT A GAME OF PERFECT LONGMAN DICTIONARY OF CONTEMPORARY ENGLISH; COMMUNICATION BRIEFINGS (Idea Source for Decision Makers); CHICKEN SOUP FOR THE SOUL AT WORK (Stories of Courage, Compassion and Creativity in the Workplace); DON'T SWEAT THE SMALL STUFF These are suggested references. Resource materials will be selected and prepared by both the students and the instructor. Required readings will be confirmed at the start of the term.
担当者から一言	The GOAL is NOT to be perfect when communicating in English. Practicing x 3 (P P P) in and out of the classroom and taking chances are important. BE PROACTIVE. GOAL begins with "GO."
その他	Attending regularly (3 x late = 1 absence), participating actively and taking chances to speak up in English are necessary to get weekly bonus points.

授業コード	52A22		
授業科目名	GBビジネス英会話・上級（2クラス）(後)		
担当者名	ミツダ(ミツダ ベンジャミン B.)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	Available by appointment and e-mail		

講義の内容	Conversational phrases and strategies focusing on professional English and current business topics will be explored. The goals are practicing and increasing English communication skills further through awareness of local and global news and interconnected business events. Moreover, it is hoped all students will gain greater confidence to express themselves as they "seek first to understand, then to be understood" in their ongoing journey with English. Materials from sources such as The Wall Street Journal, Forbes Asia, Time, Student Times, BBC and CNN will be used to "exercise" listening comprehension, vocabulary and discussion skills. In previous semesters, topics included language used at work, business developments (Toyota, General Motors, Apple, Google), mergers, scenes from movies and documentaries, speeches by political leaders, environmental issues and sports.
到達目標	The aim is to prepare students for giving presentations in front of the class using English only. From a wide variety of topics, students will make their own selections and give their own perspectives or points of view.
講義方法	Students will be assigned to find their own topics from the internet and newspapers so they need to keep up with the daily news reports. From their collection of materials, they will summarize and express their opinions in pairs and in groups.
準備学習	Vocabulary lists and reading materials will be given for homework.

成績評価	・平常点 30% ・出席率 30% ・試験 30% ・その他 10% (Homework and bonus points) Evaluation based on assignments, short quizzes, regular attendance, active participation, interviews, mini-presentations, self-assessment and a final review.
講義構成	Requirements: Come to class on time and actively use English as much as possible. Lessons: The first class of the term is for orientation and handing out the first homework (vocabulary and reading materials). There will be a final review in the last class of the term. Every topic is studied in 2 or 3 parts. Depending on the content as well as local and global events, one part is studied in each class as follows: a (starting a new topic about 50 min.) 1. Vocabulary Quiz of the previous topic. 2. Listening questions about the topic. 3. Watch the video one time through. 4. Transcribe the first paragraph of the news report with analysis of grammar, vocabulary and content. (about 20 min.) 5. Discuss / clarify / question & answer main ideas of the topic. 6. H.W. of discussion questions, transcription and begin preparation for next class.* ----- b (examining the topic about 50 min.) 1. Check Reading Homework. (10 min.) 2. See video and answer comprehension questions. Check answers. (15 min.) 3. Discussion, including some sharing with the whole class during the activity. (20 min.)* ----- c (finishing the topic 50 min.) 1. Check transcripts as a listening activity. Exchange papers and mark missing, wrong or extra words. (10 min.) 2. See the video of the news again. 3. Continue discussion including some sharing with the whole class. (20 min.) 4. Listening Quiz. (5 min.) 5. Receive vocabulary list and materials for the next topic.* ----- *Other activities may be done if time allows, such as making summaries of the topics, discussing updates of previous news, viewing & discussing other news of interest or relevance, making oral reports (presentations) on other current news, receiving corrected homework from previous topics, etc.
教科書	Adams, Keith; GLOBAL LINKS (ENGLISH FOR INTERNATIONAL BUSINESS), Longman Albom, Mitch; TUESDAYS WITH MORRIE, Doubleday Covey, Stephen; FIRST THINGS FIRST / THE 8TH HABIT, Simon & Schuster, Free Press Gladwell, Malcolm; OUTLIERS (THE STORY OF SUCCESS), Little, Brown and Company Hesse, Stephen; TAKING SIDES, (Critical Thinking for Speech, Discussion and Debate) Obama, Barack; THE AUDACITY OF HOPE Moore, Michael; CAPITALISM / CORPORATIONS Rotella, Bob; LIFE IS NOT A GAME OF PERFECT LONGMAN DICTIONARY OF CONTEMPORARY ENGLISH; COMMUNICATION BRIEFINGS (Idea Source for Decision Makers); CHICKEN SOUP FOR THE SOUL AT WORK (Stories of Courage, Compassion and Creativity in the Workplace); DON'T SWEAT THE SMALL STUFF

	These are suggested references. Resource materials will be selected and prepared by both the students and the instructor. Required readings will be confirmed at the start of the term.
担当者から一言	The GOAL is NOT to be perfect when communicating in English. Practicing x 3 (P P P) in and out of the classroom and taking chances are important. BE PROACTIVE. GOAL begins with "GO."
その他	Attending regularly (3 x late = 1 absence), participating actively and taking chances to speak up in English are necessary to get weekly bonus points.

授業コード	52A11		
授業科目名	GBビジネス英会話・初級（1クラス）(前)		
担当者名	ミツダ(ミツダ ベンジャミン B.)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	Available by appointment and e-mail		

講義の内容	Through regular conversational practice with classmates and with the instructor, students will have opportunities to acquire greater communicative competence and confidence. In addition to practicing dialogs, students will preview and review current topics in order to develop and present their viewpoints in English.
到達目標	This basic business conversation course aims to activate and build the vocabulary, listening, reading and speaking skills of students so that they can better communicate in English in a variety of social and work-related situations.
講義方法	From the start of the course, students will practice CONVERSATIONAL ENGLISH. In pairs and in groups, they will be asked to role play using model dialogs in business and social situations. They will be pushed, pulled and encouraged to take chances and express their opinions.
準備学習	Previewing and reviewing topic assignments and class materials.
成績評価	・平常点 30% ・出席率 30% ・試験 30% ・その他 10% (Homework and bonus points) Evaluation based on assignments, short quizzes, regular attendance, active participation, interviews, mini-presentations, self-assessment and a final review.
講義構成	Asking and giving information; greeting others Talking about work, ability and interests Practicing office and conversational routines (telephone, voice mail, internet, fax & letter formats) Making appointments, requests and suggestions Giving directions, advice and asking for guidance Stating preferences, comparisons Discussing current topics and activities; future plans and possibilities (These are example topics to be considered)
教科書	NEW BASIC SURVIVAL International Communication for Professional People by Peter Viney (The textbook title(s) and required resource materials will be confirmed at the start of the term)
担当者から一言	Attending regularly (3 x late = 1 absence), participating actively and taking chances are important to earn points.

	The GOAL is NOT to be PERFECT in English BUT THE GOAL ALWAYS BEGINS WITH "GO."
その他	The best way to predict the future is to create it (Peter Drucker). Expand your horizons. Seek wisdom. Information is the key to the new age (Yukichi Fukuzawa).

授業コード	52A12		
授業科目名	GBビジネス英会話・初級（2クラス）(後)		
担当者名	ミツダ(ミツダ ベンジャミン B.)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	Available by appointment and e-mail		

講義の内容	Through regular conversational practice with classmates and with the instructor, students will have opportunities to acquire greater communicative competence and confidence. In addition to practicing dialogs, students will preview and review current topics in order to develop and present their viewpoints in English.
到達目標	This basic business conversation course aims to activate and build the vocabulary, listening, reading and speaking skills of students so that they can better communicate in English in a variety of social and work-related situations.
講義方法	From the start of the course, students will practice CONVERSATIONAL ENGLISH. In pairs and in groups, they will be asked to role play using model dialogs in business and social situations. They will be pushed, pulled and encouraged to take chances and express their opinions.
準備学習	Previewing and reviewing topic assignments and class materials.
成績評価	・平常点 30% ・出席率 30% ・試験 30% ・その他 10% (Homework and bonus points) Evaluation based on assignments, short quizzes, regular attendance, active participation, interviews, mini-presentations, self-assessment and a final review.
講義構成	Asking and giving information; greeting others Talking about work, ability and interests Practicing office and conversational routines (telephone, voice mail, internet, fax & letter formats) Making appointments, requests and suggestions Giving directions, advice and asking for guidance Stating preferences, comparisons Discussing current topics and activities; future plans and possibilities (These are example topics to be considered)
教科書	NEW BASIC SURVIVAL International Communication for Professional People by Peter Viney (The textbook title(s) and required resource materials will be confirmed at the start of the term)

担当者から一言	Attending regularly (3 x late = 1 absence), participating actively and taking chances are important to earn points. The GOAL is NOT to be PERFECT in English BUT THE GOAL ALWAYS BEGINS WITH "GO."
その他	The best way to predict the future is to create it (Peter Drucker).

	Expand your horizons. Seek wisdom. Information is the key to the new age (Yukichi Fukuzawa).
--	--

授業コード	52011		
授業科目名	GBビジネス英語Ⅰ(前)		
担当者名	伊庭 緑(イバ ミドリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	火曜日・木曜日の昼休み 研究室:6号館6階		

講義の内容	テキストはビジネスに必要な語彙や慣用表現などを段階的に学習するように構成されているが、前期ではテキストの前半を扱う。またこの授業ではビジネス関連の記事やビジネス文書の読解、ビジネス関連の文書の作成も行なうので学生はテキスト以外の課題にも取り組むことになる。
到達目標	国際ビジネスの現場で必要な英語力とビジネススキルを習得することを目指す。
講義方法	初回の授業時にTOEICの Reading セクションの模擬テストを受けその場で採点し、各自の実力を知り、それぞれの目標を定める。通常の授業は講義方式ではなく、learner-centeredのワークショップ方式でおこなう。最終授業時にはバージョンの違うTOEICの模擬テストを受けどれだけ目標が達成されたかを確認する。
準備学習	次回進むテキストのUnitの問題を解いておく。 学習したボキャブラリーなどを復習する。
成績評価	テスト・レポート70% 出席状況・授業態度30%
講義構成	講義の構成は以下の通りですが不測の事態により変更の可能性もあります。 第 1回 Guidance/Mini TOEIC 第 2回 Corporate Culture (1) 第 3回 Corporate Culture (2) 第 4回 Corporate Culture (3) 第 5回 Customer Support (1) 第 6回 Customer Support (2) 第 7回 Customer Support (3) 第 8回 Products and Packaging (1) 第 9回 Products and Packaging (2) 第10回 Products and Packaging (3) 第11回 Careers (1) 第12回 Careers (2) 第13回 Careers (3) 第14回 Review Test 第15回 前期試験 (Mini TOEIC)
教科書	教科書名:The Business 著者: John Allison with Paul Emmerson 出版社: Macmillan
参考書・資料	書名: 即聴即答 ビジネス英語トレーニング 著者: ショーン K 出版社: アルク
講義関連事項	この授業を履修する学生は中級英語TOEICも履修することが望ましい。 また海外の大学に留学を希望する学生は中級英語TOEFLを履修することが望ましい。TOEFLに関しては春・夏に集中講座(インターセッション:ただし有料)もある。

担当者から一言	GBコースの人は気を引き締めて受講してください。 とはいうものの、楽しく学習できればと思います。ただしレベルは「やや難」に設定していますので本当に英語が苦手な人にはつらいかもしれません。授業は原則として英語で行います。
ホームページタイトル	英語発音入門
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/ilc/english/

授業コード	52012		
授業科目名	GBビジネス英語 II (後)		
担当者名	伊庭 緑(イバ ミドリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	火曜日・木曜日の昼休み 研究室:6号館6階		

講義の内容	テキストはビジネスに必要な語彙や慣用表現などを段階的に学習するように構成されているが、後期ではテキストの後半を扱う。またこの授業ではビジネス関連の記事やビジネス文書の読解、ビジネス関連の文書の作成も行なうので学生はテキスト以外の課題にも取り組むことになる。		
到達目標	国際ビジネスの現場で必要な英語力とビジネススキルを習得することを目標とする。		
講義方法	初回の授業時にTOEICの Reading セクションの模擬テストを受けその場で採点し、各自の実力を知り、それぞれの目標を定める。通常の授業は講義方式ではなく、learner-centeredのワークショップ方式でおこなう。最終授業時にはバージョンの違うTOEICの模擬テストを受けどれだけ目標が達成されたかを確認する。		
準備学習	次回進むテキストのUnitの問題を解いておく。 学習したボキャブラリーなどを復習する。		
成績評価	テスト・レポート70% 出席状況・授業態度30%		
講義構成	講義の構成は以下の通りですが不測の事態により変更の可能性もある。 第 1回 Guidance/Mini TOEIC 第 2回 Making Deals (1) 第 3回 Making Deals (2) 第 4回 Making Deals (3) 第 5回 Company and Community (1) 第 6回 Company and Community (2) 第 7回 Company and Community (3) 第 8回 Mergers and Acquisitions (1) 第 9回 Mergers and Acquisitions (2) 第10回 Mergers and Acquisitions (3) 第11回 International Trade (1) 第12回 International Trade (2) 第13回 International Trade (3) 第14回 Review Test 第15回 後期試験 (Mini TOEIC)		
教科書	教科書名:The Business 著者:John Allison with Paul Emmerson 出版社:Macmillan		
参考書・資料	書名:即聴即答 ビジネス英語トレーニング 著者: ショーン K 出版社:アルク		
講義関連事項	この授業を履修する学生は中級英語TOEICも履修することが望ましい。 また海外の大学に留学を希望する学生は中級英語TOEFLを履修することが望ましい。TOEFLに関しては春・夏に集中講座(インターセッション:ただし有料)もある。		
担当者から一言	GBコースの人は来年度の留学に向けて後期も積極的に英語を勉強してください。		
ホームページタイトル	英語発音入門		
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/ilc/english/		

授業コード	51063
-------	-------

授業科目名	アカウンティング・プロフェッション応用c(会計プロフェッション応用a)(管理会計)(前)		
担当者名	古田清和(フルタ キヨカズ)、立野靖人(タテノ ヤスト)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	テーマ:工業簿記・原価計算Ⅰ計算と理論 事前申請科目 受講を希望するものはMy KONANで申し込み用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、4月2日(金)17:00までに経済・法・経営学部合同事務室(9号館1階)に申請すること。 アカウンティング・プロフェッション・コース(APコース)所属学生以外が対象となります。 講義内容は「APアカウンティング・プロフェッション応用c」と同一内容で、講義は合同クラスで行います。		
オフィスアワー	古田清和・立野靖人 事前にアポイントをとり授業の前後		

講義の内容	当講義は日商簿記1の内容を学習したかまたは同等以上の学力があると認められた学生が、工業簿記及び原価計算において、日商簿記1級に合格できる計算能力と論理力を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための実力を養うことを目的とします。
到達目標	6月または11月の日商1級受験・合格レベルを想定しています。
講義方法	教科書1に沿った講義と前回の復習と今回の理解度を確認するミニテストとし、6月の受験までに4回の演習問題の答案練習を実施します。 受験修了後は教科書2に沿って管理会計の基礎を学習します。
準備学習	日商1級の範囲を一通り学習していることを前提に、より実践的な内容を理解するため、該当箇所の基礎で学習した内容を確実にしておく必要があります。
成績評価	「出席状況」、「演習」、「ミニテスト」、「期末試験」を総合評価します。また6月日商1級合格者は考慮します。
講義構成	1～8講 教科書1に従って、日商1級の範囲の論点を確認します。またこの間に45分の演習を4回実施する予定です。6月の日商1級受験にあたり基本的な内容をカバーすることになります。 1講 総論・個別原価計算・材料費会計・労務費会計・経費会計 2講 製造間接費会計・部門別計算・総合原価計算総論 3講 減損・仕損・工程別・組別 4講 標準原価計算・演習1 5講 直接原価計算・演習2 6講 CVPと事業部・演習3 7講 差額原価収益分析・設備投資の意思決定・演習4 8講 前半の総まとめ 9～14講 教科書2を中心に、日商1級の管理会計及び特殊論点の範囲を学習し、11月受験の合格を目指す体制を整えます。 9講 管理会計総論・費用の管理 10講 計画と予算 11講 意思決定(業務遂行) 12講 意思決定(設備投資) 13講 戦略の策定と遂行 14講 企業における管理会計の実例・ABC
教科書	教科書1:2010年6月目標日商簿記1級 工業簿記・原価計算上級プレ講義テキスト+4回の演習模試 TAC(株) 教科書2:基礎からわかる管理会計の実務(商事法務)古田・中安・山田著
参考書・資料	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ) Ver.4.0」TAC(株) なお、旧版のVer3を使用している場合はそれでも構いません。
講義関連事項	演習やミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で提示または配付します。
担当者から一言	習熟度に応じて、進捗度が前後する場合があります。前半の8回で1級の内容をひとつと理解します。日商簿記の1級に合格して日本の製造業やその先にある管理会計の世界に進めるようにともに頑張りましょう。やる気が一番です。

授業コード	51059		
授業科目名	アカウンティング・プロフェッション基礎a(前)		
担当者名	中西倭夫(ナカニシ シズオ)、辻井一磨(ツジイ カズマ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限 金曜3限
特記事項	テーマ: 商業簿記・会計学Ⅰ 計算と解説 事前申請科目 受講希望者は履修要項を参照して申請してください。 なおこの科目は、2008年度以降入学生用科目です。アカウンティング・プロフェッション・コース(APコース)所属学生以外が対象となります。 講義内容は「APアカウンティング・プロフェッション基礎a」と同一内容で、講義は合同クラスで行います。		
オフィスアワー	金曜日17時20分～19時00分		

講義の内容	当講義は日商簿記2級を合格または同等以上の学力があると認められた学生が、商業簿記及び会計学において、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。具体的には日商簿記1級の内商業簿記・会計学の連結を除く全体領域の前半部分に関する計算問題の答案演習と解説(理論的な解説を含む)を通じて各自自主的に課題に取り組む能力獲得を講師がサポートする形で進めます。
到達目標	日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。2011年11月の日商簿記の1級合格を具体的な目標としています。
講義方法	講師は2人体制とし、講義の1コマ目は前半、ミニテスト(標準15分間)と問題解説、後半新しいテーマについてクラス全体での設例演習を中心とした講義とし、2コマ目は新しいテーマの演習問題の答案練習を実施します。 また復習問題として課題を指定し、次の講義の開始時に課題の提出とする予定です。なおクラスを4人1組のグループに分け、グループ討議、グループ演習を実施する場合もあります。
準備学習	講座開始前に2級の領域を復習しておいてください。また各回とも習熟度を確認するためのミニテストを実施しますので前回の内容を確実に復習しておくとともに、当該分に充分目をとうしておくことを心がけてください。
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。
講義構成	1 全体の流れと概要解説・2級復習① 2 2級復習②・総合計算問題 3 簿記一巡の手続き 4 商品売買の会計処理と原価率・利益率 5 棚卸資産 6 割賦販売 7 委託販売4 8 一般原則その他の基本原則 9 工事契約 10 総合演習問題① 11 現金預金 12 金銭債権・貸倒引当金 13 有価証券 14 総合問題②
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株) 企業会計原則の全文を準備しておいてください。 問題演習教材については講義開始時に指定します。また決定次第シラバスを修正しますので留意してください。
参考書・資料	「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株)
講義関連事項	各テーマについて関連する日商2級の範囲も復習します。 ミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で示します。
担当者から一言	クラスの習熟度に応じて、進捗度が前後する場合があります。 財務会計は現代経済社会の基本です。日商簿記の1級に合格して、現代経済社会を前向きに自信を持って進めるようにともに頑張りましょう。

授業コード	51060		
授業科目名	アカウンティング・プロフェッション基礎b(後)		
担当者名	篠藤敦子(シノウ アツコ)、辻井一磨(ツジイ カズマ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限 金曜3限
特記事項	テーマ: 商業簿記・会計学Ⅱ計算と解説 事前申請科目 受講希望者は履修要項を参照して申請してください。 なおこの科目は、2008年度以降入学生用科目です。アカウンティング・プロフェッション・コース(APコース)所属学生以外が対象となります。 講義内容は「APアカウンティング・プロフェッション基礎b」と同一内容で、講義は合同クラスで行います。		
オフィスアワー	授業の際に、事前にアポイントメントをとってください。		
講義の内容	当講義は、日商簿記2級を合格または同等以上の学力があると認められた学生が、商業簿記及び会計学において、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。具体的には、日商簿記1級のうち商業簿記・会計学の連結を除く全体領域の後半部分に関する計算問題の答案演習と解説(理論的な解説を含む)を通じて、各自が自主的に課題に取り組み解決する能力の獲得を、講師がサポートする形で進めます。		
到達目標	日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。2011年11月の日商簿記1級の合格を具体的な目標としています。		
講義方法	講師は2人体制とし、講義の1コマ目の前半はミニテスト(標準15分間)と問題解説、後半は新しいテーマについてクラス全体での設例演習を中心とした講義とし、2コマ目は新しいテーマの演習問題の答案練習を実施します。 また、復習問題として課題を指定し、次の講義の開始時に課題の提出とする予定です。なお、クラスを4人1組のグループに分け、グループ討議、グループ演習を実施する場合もあります。		
準備学習	講義開始前に2級の領域を復習しておいてください。また、各回とも習熟度を確認するためのミニテストを実施しますので、前回の内容を確実に復習しておくとともに、当該分の内容にも十分に目を通していただくことを心がけてください。		
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。		
講義構成	1 有形固定資産 2 リース取引・無形固定資産 3 繰延資産・研究開発費 4 引当金 5 退職給付会計 6 社債 7 純資産 8 総復習 9 デリバティブ取引 10 外貨換算会計 11 税効果会計 12 本支店会計 13 企業結合・合併 14 株式交換・会社の分割		
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ)Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ)Ver.7.0」TAC(株) 企業会計原則の全文を準備しておいてください。 問題演習教材については、講義開始時に指定します。また、決定次第シラバスを修正しますので留意してください。		
参考書・資料	「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ)Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ)Ver.7.0」TAC(株)		
講義関連事項	各テーマについて、関連する日商簿記2級の範囲も復習します。 ミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で示します。		

担当者から一言	クラスの習熟度に応じて、進捗度が前後する場合があります。 財務会計は、現代経済社会の基本です。日商簿記1級に合格して、現代経済社会を前向きに自信を持って進めるようにともに頑張りましょう。
---------	--

授業コード	51061		
授業科目名	アカウンティング・プロフェッション基礎c(前)		
担当者名	古田清和(フルタ キョカズ)、中安富紀子(ナカヤス フキコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限 水曜3限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	当講義は日商簿記2級を合格または同等以上の学力があると認められた学生が、工業簿記及び原価計算において、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。
到達目標	日商簿記検定の2級の復習から開始し、1級へ向けて足固めをします。原価計算基準に慣れるとともに問題の解答パターンを覚えるのではなく、解くための考える力を養えるようにすることが必要です。
講義方法	講師は2人体制とし、講義の前半はミニテストと講義とし、後半でミニテストの講評と解説及び演習問題の答案練習を実施します。ミニテスト及び演習問題の答案練習は個人別に行います。 また復習問題として課題を指定し、次の講義の開始時に課題の提出とする予定です。なおクラスを4人1組程度のグループに分け、グループ討議、グループ演習を実施する場合もあります。
準備学習	講座開始前に2級の領域を復習しておいてください。また各回とも習熟度を確認するためのミニテストを実施しますので前回の内容を確認して復習しておくとともに、当該分に充分目を通しておくことを心がけてください。
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。
講義構成	1 全体の流れと概要解説・2級の復習1 2 2級の復習2・総論原価計算基準 3 原価記録と財務諸表 4 個別原価計算 5 材料費会計 6 労務費会計 7 経費会計 8 製造間接費会計1 9 製造間接費会計2 10 原価の部門別計算1 11 原価の部門別計算2 12 個別原価計算における仕損 13 総合原価計算の基礎 14 仕損・減損が生じる場合の計算
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 原価計算基準の全文を準備しておいてください。(3/24シラバス修正)
参考書・資料	追加の問題演習教材については講義開始時に 指示します。
講義関連事項	各テーマについて関連する日商簿記2級の範囲も復習します。 ミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で示します。

担当者から一言	習熟度に応じて、進捗度が前後する場合があります。 原価計算は製造業のもののつくりの基本です。日商簿記の1級に合格して日本の製造業やその先にある管理会計の世界に進めるようにともに頑張りましょう。
---------	---

授業コード	51062
-------	-------

授業科目名	アカウンティング・プロフェッション基礎d(後)		
担当者名	村田智之(ムラタ トモユキ)、田邊宏嗣(タナベ コウジ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限 水曜3限
特記事項	テーマ:工業簿記・原価計算Ⅱ計算と解説 事前申請科目 受講希望者は履修要項を参照して申請してください。 なおこの科目は、2008年度以降入学生用科目です。アカウンティング・プロフェッション・コース(APコース)所属学生以外が対象となります。 講義内容は「APアカウンティング・プロフェッション基礎d」と同一内容で、講義は合同クラスで行います。		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	当講義は日商簿記2級を合格または同等以上の学力があると認められた学生が、工業簿記及び原価計算において、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。
到達目標	日商簿記1級合格のための基礎力の取得を目的とします。
講義方法	講師は2人体制とし、講義の前半はミニテストと設例中心の講義とし、後半はミニテストの講評と解説及び演習問題の答案練習を実施します。ミニテスト及び演習問題の答案練習は個人別に行います。また復習問題として課題を指定し、次の講義の開始時に提出する予定です。なおクラスを4人1組程度のグループに分け、グループ討議、グループ演習を実施する場合があります。
準備学習	テキスト及びトレーニング(問題集)の講義範囲の内容を予め予習し、理解が十分でなかった部分を講義で確認するようにして下さい。また、各回とも前回までの習熟度を確認するためのミニテストを実施しますので、予習→講義→範囲の復習を継続する必要があります。
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。
講義構成	1 工程別総合原価計算 2 組別・等級別総合原価計算 3 連産品の原価計算 4 標準原価計算の基礎(1) 5 標準原価計算の基礎(2) 6 標準原価計算における仕損・減損(1) 7 標準原価計算における仕損・減損(2) 8 原価差異の会計処理と標準の改訂 9 直接原価計算 10 直接標準原価計算 11 企業予算の編成 12 CVP分析 13 最適セールス・ミックスの決定 14 総復習
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ) Ver.4.0」TAC(株) 問題演習教材につきましては、講義開始時に指示します。教科書の追加があった場合には、シラバスを適時修正しますので、留意して下さい。
参考書・資料	教科書に加えて、会計法規集等を参考に使用することがあります。
講義関連事項	各テーマについて関連する日商簿記2級及び前期履修内容の復習を実施します。ミニテストの結果を参考にし、必要な資料等は講義の中で示しますが、教科書、参考書(合格テキスト1級Ⅰ、合格トレーニング1級Ⅰを含む)は必ず持参して下さい。
担当者から一言	本講義における原価計算は、財務意思決定に関する基本的事項を履修範囲とし、管理会計や経営戦略策定にも応用可能な領域です。日商1級にまずは合格できる知識を取得し、その後は知識を深耕してゆきましょう。

授業コード	51064
-------	-------

授業科目名	アカウンティング・プロフェッション応用a(会計プロフェッション応用b)(財務会計論)(前)		
担当者名	中西優夫(ナカニシ シズオ)、山田善紀(ヤマダ ヨシノリ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	テーマ: 商業簿記・会計学Ⅰ 計算と理論 事前申請科目 受講を希望するものはMy KONANで申し込み用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、4月2日(金)17:00までに経済・法・経営学部合同事務室(9号館1階)に申請すること。 アカウンティング・プロフェッション・コース(APコース) 所属学生以外が対象となります。 講義内容は「APアカウンティング・プロフェッション応用a」と同一内容で、講義は合同クラスで行います。		
オフィスアワー	金曜日17時20分～19時		

講義の内容	当講義はAPアカウンティング・プロフェッション基礎a、bを履修済みで、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。 講義のテーマは連結決算及び簿記1級の試験範囲の中の重要と考えられるテーマを選んで、問題演習と解答解説を中心に進めます。ただし、連結決算については全体説明の講義も取り入れます。
到達目標	日商簿記1級の商業簿記・会計学の部分について6月または11月の試験に合格可能なレベルに到達することを目標とします。また将来の会計専門家となるための基礎がためができることが目標です。
講義方法	授業は毎回15分程度のミニテスト(前回講義範囲による)を行い、解答と解説を行います。解答と解説に続いて今回のテーマについての講義の後問題演習をクラスで行います。各自疑問点は適時質問します。講義の最後にテストを返却する予定です。
準備学習	講義の前に必ず前回の講義内容についての復習を実施し、ミニテストに備えることが期待されています。また連結以外のテーマでは該当箇所の基礎で学習した内容を確実にしておく必要があります。
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。また6月1級合格者は考慮します。
講義構成	1 簿記一巡の手続・一般原則 2 商品売買・棚卸資産・割賦販売 3 連結会計の基礎・支配獲得 4 支配獲得日後の連結 5 子会社株式の追加取得・売却 6 持分法 7 外貨建財務諸表項目の換算・キャッシュ・フロー計算書 8 総復習 9 工事契約 10 現金預金 11 有価証券 12 有形固定資産・無形固定資産 13 繰延資産・研究開発費・引当金 14 社債・純資産
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ) Ver.7.0」TAC(株) 「簿記検定講座 日商1級 上級 商業簿記・会計学 上級プレ講義テキスト」TAC(株)
参考書・資料	「テキスト連結会計入門」ビジネスアカウンティング研究会 同文館出版(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ) Ver.7.0」TAC(株)
講義関連事項	ミニテストの結果を参考にして、必要な追加資料等は講義の中で示します。
担当者から一言	財務会計は現代経済社会の基本です。日商簿記の1級に合格して現代経済社会を前向きに自信を持って進めるようにともに頑張りましょう。

授業コード	51066		
授業科目名	アカウンティング・プロフェッション応用b(後)		
担当者名	河崎照行(カワサキ テルユキ)、齊野純子(サイノ ジュンコ)、山田善紀(ヤマダ ヨシノリ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	テーマ: 商業簿記・会計学Ⅱ計算と理論 事前申請科目 受講を希望するものはMy KONANで申し込み用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、9月18日(土)13:00までに経済・法・経営学部合同事務室(9号館1階)に申請すること。 なおこの科目は、2008年度以降入学生用科目です。アカウンティング・プロフェッション・コース(APコース)所属学生以外が対象となります。 講義内容は「APアカウンティング・プロフェッション応用b」と同一内容で、講義は合同クラスで行います。		
講義の内容	当講義はAPアカウンティング・プロフェッション基礎a、b、応用aを履修済みで、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。 講義のテーマは連結決算及び簿記1級の試験範囲の中の重要と考えられるテーマを選んで、問題演習と解答解説を中心に進めます。ただし、連結決算については全体説明の講義も取り入れます。		
到達目標	日商簿記1級の商業簿記・会計学の部分について11月の試験に合格可能なレベルに到達することを目標とします。 試験後、将来の会計専門家となるための理論的な基礎がためができることが目標です。		
講義方法	11月の試験までは、授業は毎回15分程度のミニテスト(前回講義範囲による)を行い、解答と解説を行います。解答と解説に続いて今回のテーマについての講義の後問題演習をクラスで行います。各自疑問点は適時質問します。11月の受験までに数回の演習問題の答案練習を実施します。 試験後は、講義形式により、会計の最新理論を学びます。		
準備学習	日商1級の範囲を一通り学習していることを前提とします。講義の前に必ず前回の講義内容についての復習を実施し、ミニテストに備えることが期待されています。		
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。また、6月もしくは11月の日商1級合格者は考慮します。		
講義構成	1 委託販売・試用販売・未着品販売 2 金銭債権・貸倒引当金 3 固定資産の減損会計・リース取引 4 退職給付会計・純資産 5 デリバティブ取引・外貨換算会計 6 税効果会計・本支店会計 7 企業結合・合併・株式交換・株式分割 8 総復習 9 概念フレームワーク(河崎照行教授) 10 現金預金(河崎照行教授) 11 有価証券(河崎照行教授) 12 有形固定資産・無形固定資産(齊野純子教授) 13 繰延資産・研究開発費・引当金(齊野純子教授) 14 社債・純資産(齊野純子教授)		
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ) Ver.7.0」TAC(株) 「簿記検定講座 日商1級 上級 簿記・会計学Ⅰ. 個別会計編(1)」TAC(株) 「簿記検定講座 日商1級 上級 簿記・会計学Ⅱ. 個別会計編(2)」TAC(株)		
参考書・資料	「テキスト連結会計入門」ビジネスアカウンティング研究会 同文館出版(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ) Ver.7.0」TAC(株)		
講義関連事項	各テーマについて日商簿記2級の復習を同時にします。 ミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で示します。		
担当者から一言	習熟度に応じて、進捗度が前後する場合があります。財務会計は現代経済社会の基本です。日商簿記の1級に合格して現代経済社会を前向きに自信を持って進めるようにともに頑張りましょう。		

授業コード	51068		
授業科目名	アカウンティング・プロフェッション応用d(後)		
担当者名	上埜 進(ウエノ ススム)、中安富紀子(ナカヤス フキコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	テーマ: 工業簿記・原価計算Ⅱ計算と理論 事前申請科目 受講を希望するものはMy KONANで申し込み用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、9月18日(土)13:00までに経済・法・経営学部合同事務室(9号館1階)に申請すること。 なおこの科目は、2008年度以降入学生用科目です。アカウンティング・プロフェッション・コース(APコース)所属学生以外が対象となります。 講義内容は「APアカウンティング・プロフェッション応用d」と同一内容で、講義は合同クラスで行います。		
オフィスアワー	[上埜]毎水曜日の12.30-13.00を予定しています。メールなどにてアポイントメントをとり、気軽に研究室を訪れて下さい。 [中安]事前にアポイントメントをとってください。		
講義の内容	第1回から第7回までは中安が担当します。そこでは、日商簿記1級の内容を学習したかまたは同等以上の学力があると認められた学生を対象とし、日商簿記1級に合格できる計算能力と論理力を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための実力を養うことを目的とします。 第8回から第14回までは上埜が担当します。そこでは、受講者が管理会計、その基礎的用語と基本コンセプトとを、正しく捉えることができるようになるための講義をめざしています。管理会計領域の中から主たるテーマを選択し、その基礎を優しく解説します。講義内容は講義構成に記しております。		
到達目標	第1回から第7回まで 11月の日商簿記1級受験・合格レベルを到達目標とします。 第8回から第14回まで 受講者が、管理会計の基礎的用語を正しく定義でき、基礎的な諸概念と技法を正しく使えることが到達目標です。		
講義方法	第1回から第7回まで 教科書の中から、論点を絞って内容を確認します。毎回、理解度を確認するミニテストあるいは答練を行います。 第8回から第14回まで 教科書の中から、基礎的なテーマを絞り、講義します。各講義は、教科書にある基礎的な語句と概念を確認する、練習問題を解く、といった方法をとります。毎回の授業は、双方向をモットーにしており、受講者全員に教科書の内容を説明してもらうというスタイルをとります。		
準備学習	第1回から第7回まで 基礎で学習した内容を復習し、教科書を読んでから講義に出席することが望ましいです。またミニテストや答案練習に向けた準備も欠かすことができません。 第8回から第14回まで 教科書を読んで講義に出席して下さい。分からない語句や、解けない問題を識別し、講義に参加して下さい。		
成績評価	成績は、概ね、class participation(含むプレゼンテーション・小テスト)30%、試験70%をメドに決めます。試験は、講義範囲から出題し、基礎知識を確認する問題を70%、実力差を見極める問題が30%になるように出題します。		
講義構成	第1講から第7講まで 教科書に従って、日商簿記1級の範囲のうち論点を絞って確認していきます。またこの間に3~4回程度の答練を実施する予定です。計算練習を中心に、これまで学習してきた内容をブラッシュアップさせます。 第1講 原価計算の基礎知識、費目別計算、製造間接費会計 第2講 部門別計算、実際個別原価計算 第3講 実際総合原価計算、工程別総合原価計算 第4講 組別・等級別総合原価計算、連産品の原価計算 第5講 標準原価計算 第6講 直接原価計算 第7講 予算実績差異分析 第8講 テーマ: 講義ガイダンス テーマ: 企業経営と企業会計(第1章) 概 要: 簿記・会計と期間業績の測定、管理会計と財務会計、管理会計の体系 第9講 テーマ: 原価計算の基礎(第3章)		

	概 要:原価の分類、原価計算の一般的構造、原価計算の種類 第10講 テーマ:原価管理の方法(第14,16章) 概 要:原価管理の概要、標準原価管理の概要、原価標準の分類、原価標準の設定と指示、原価改善、原価企画の概要、原価企画の組織と手順 第11講 テーマ:戦略的コストマネジメントの方法(第11章) 概 要:ライフ・サイクル・コスト・マネジメント、品質コストニング 第12講 テーマ:短期利益計画、CVP分析、予算管理(第5,6章) 概 要:原価見積の方法、損益分岐点分析、CVP分析 第13講 テーマ:分権制組織の会計管理(第11章) 概 要:分権制組織の形態、事業部の財務諸表、多角化企業の事業部管理、ミニ・プロフィット・センターとライン・カンパニー制 第14講 テーマ:価値創出経営(第14章) 概 要:期間業績の評価指標、企業価値の評価モデル、VBMの視点と全社戦略
教科書	第1回から第7回まで ・2010年11月目標日商簿記1級 工業簿記・原価計算上級テキスト TAC(株) 第8回から第14回まで ・上埜 進(著者代表)『管理会計の基礎 ―理論と実践―(第4版)』、2010、(税務経理協会) (学部で初めて学ぶ学生用に執筆した管理会計教科書です)
参考書・資料	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ)Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ)Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ)Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ)Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ)Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ)Ver.4.0」TAC(株) (なお、旧版のVer3を使用している場合はそれでも構いません。) 上埜進著『管理会計 ―価値創出をめざして―(第4版)』、2008、(税務経理協会)(管理会計を本格的に学習できる唯一の基本書であり、例題も豊富で、CPA試験の短答式・論文式の両試験の出題範囲ならびにレベルに対応しております)
講義関連事項	[中安] 演習やミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で提示または配布します。
担当者から一言	[上埜]継続は力なり。困難に直面しても、へこたれず、続けて下さい。 楽しく学びましょう。 [中安]習熟度に応じて、進捗が前後する場合があります。電卓を必ず持参してください。
ホームページタイトル	上埜進
URL	http://www.dab.hi-ho.ne.jp/s-ueno/Prof_Ueno/Prof.Susumu_Ueno_index.htm

授業コード	51018		
授業科目名	アジア経営論（後）		
担当者名	杉田俊明（スギタ トシアキ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限 水曜4限
オフィスアワー	火曜、水曜、木曜など （必要に応じて、いつでも電子メールで連絡ください）		
講義の内容	本講義はアジア・中国における経営を研究し、その関連の基礎知識と専門知識を習得するものである。		

到達目標	アジア・中国における経営の特徴を把握し、その関連の基礎知識と専門知識を習得すること。
講義方法	レクチャーとケース・スタディを併用
準備学習	指定のテキストは事前必読。
成績評価	出席の姿勢、質疑討議参加の積極性、期末テストの成績などにより総合的に評価する。
講義構成	第1回 講義ガイダンス 講義内容の概要説明、受講姿勢や評価の基準など 第2回 アジア・中国経済の概況 第3回 日本企業によるアジア・中国への直接投資と現地経営(概況。以下同) 第4回 欧米多国籍企業によるアジア・中国への直接投資と現地経営 第5回 華僑華人系企業のボーダレス経営 第6回 アジア・中国企業の経営と対外直接投資 第7回～第11回 アジア・中国における経営を研究する際、必要とする専門知識 ●国際ビジネス形態の基礎知識と専門知識 特に貿易と直接投資、提携、M&Aなどの諸形態、そしてアジア・中国におけるそれらの特性など 第12回～第25回 ケース・スタディ(アジア・中国における経営基礎知識や専門知識の応用) ●パナソニックグループ、ダイキン工業、ユニクロ、伊藤忠商事などの日本企業 ●海爾(ハイアール)、TCL、格蘭仕(ギャランツ)など中国企業 ●CP(正大)、L&F(利豊)、三星などアジア、華僑華人系企業 など 第25回～第30回 まとめ、理論的なインプリケーション 貿易理論とその応用 直接投資理論とその応用 M&A理論とその応用 提携理論とその応用 など * 講義内容は必要に応じて変更することがある。
教科書	『国際ビジネス形態と中国の経済発展』杉田俊明、中央経済社、2002年 『国際ビジネス研究の新潮流』(シリーズ・国際ビジネス 5) 江夏健一・他編、中央経済社、2008年 など 但し、詳細は開講時に指示する。
参考書・資料	『新・国際経営』竹田志郎編著、文真堂、2003 『ケース・ブック 国際経営』吉原英樹他編著、有斐閣、2003 『国際経営論』佐藤憲正編、学文社、2005 『国際ビジネス理論』(シリーズ・国際ビジネス 2) 江夏健一・他編、2008 など 詳細は開講時に指示する
講義関連事項	受講に際しては諸規則を厳守すること。 私語、あるいは携帯電話を使用する者、無断入退室する者など、講義に迷惑な行為を行う者は減点対象とする。

担当者から一言	日頃から問題意識を持って新聞やテレビのアジア・中国関連報道をみること。
その他	講義においては、「出席」だけではなく、「積極的な思考と討議への参加」も心掛けてください。
ホームページタイトル	{アジア・中国経営研究, http://homepage1.nifty.com/Toshiaki-SUGITA/ }
URL	http://homepage1.nifty.com/Toshiaki-SUGITA/

授業コード	51073		
授業科目名	インターナショナルOCA		
担当者名	内藤文雄(ナイトウ フミオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	経営学部インターンシップ・ボランティア受講説明会に出席すること。		

講義の内容	現在、企業の経済活動をはじめとして、様々な分野において、急速な国際化、グローバル化が進んでいる。このような状況において、一人ひとりが国際的な視野をもって自己責任で物事に取り組むことが不可欠になりつつある。本授業科目は、短期(語学)留学、国際ボランティア活動、国際インターンシップ、国際事情研修などに自主
-------	---

	的に参加する。
到達目標	外国語による異文化コミュニケーションを通じて、国際人として必要な視野を自己のものとする。
講義方法	短期(語学)留学、国際ボランティア活動、国際インターンシップ、国際事情研修(自ら企画したものを含む)などに自主的に参加し、事後に報告会で発表し、レポートを提出する。
準備学習	各自の国際的な活動に必要な情報、知識および技能を準備しておくこと。特に、英会話能力の研鑽に励んでおくこと。
成績評価	単位は、海外での活動そのものについて認定するのではなく、単位認定申請書を提出した学生に対し、「経営学部報告会での発表」「レポート」等をOCA委員会が総合的に審査し、成績評価を決定する。
講義構成	(1)経営学部事務室に申請書を提出。 (2)夏期休暇期間を利用して、海外での活動を60時間以上行う。 (3)活動終了後に「単位認定申請書」を提出。 (4)経営学部教員の事後指導、報告会で発表。 (5)活動に関するレポート(2,000字以上)を指定期日までに提出。 ※詳細は、ガイダンス・掲示で公表する。
教科書	特になし
担当者から一言	本講義は国際人として必要な視野を身につけることを目的とした科目であり、与えられたことを消化するだけの受け身の学生ではなく、自ら進んで学ぶ積極的な姿勢の涵養と人格の形成を主目的とした科目であることを十分に理解した上で受講してほしい。
その他	海外で短期(語学)留学、ボランティア、インターンシップ、国際事情研修などを行った者で、単位修得を希望する者にのみ単位認定を行うので、年度初めの受講登録は不要である。

授業コード	51072		
授業科目名	インターンシップ(オフ・キャンパス・アクティビティ)		
担当者名	内藤文雄(ナイトウ フミオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	経営学部インターンシップ・ボランティア受講説明会及びキャリアセンターインターンシップ・ボランティアガイダンスに参加してください。		

講義の内容	最近、将来のキャリアについて十分に考慮せず安易に就職する学生や、十分な企業研究を行わずに就職する学生が増加していることが指摘されており、その結果、新卒採用学生の多くが3年以内に離職するといわれている。このような現象は、学生にとっても、また企業にとっても大きな損失であり、有効な対策を講じることが急務となっている。本授業科目では、インターンシップを通じて、「学生が、在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う」ことにより、職業意識を高めるとともに、産学が連携して社会的に有用な人材を育成するものである。
到達目標	企業等における実務体験を通して、教室で学んだ経営学の知識を確実なものに高め、実生活にフィードバックできること、および実務を体験することによって教室での講義に具体的な関心や興味を持つようになること
講義方法	キャリアセンターのインターンシップ・プログラムにエントリーし、夏休み期間等にも実務を体験。具体的な関心や興味を持った事を整理し発表する。
準備学習	インターンシップ先の企業等の組織について、その事業の目的や内容を調査するとともに、従事予定の業務に必要な知識や技能を準備しておくこと
成績評価	単位は、インターンシップ活動そのものについて認定するのではなく、単位認定申請書を提出した学生に対し、「経営学部報告会」「レポート」等の評価をOCA委員会が総合的に審査し、成績の評価を決定する。
講義構成	(1)キャリアセンターに申請書を提出。 (2)夏期休暇期間を利用して、キャリアセンターより許可された企業において60時間以上の活動を行う。 (3)活動終了後に「単位認定申請書」をキャリアセンターに提出。 (4)経営学部主催の事後指導、報告会に参加。 (5)活動に関するレポート(2,000字以上)を指定期日までに提出する。 ※詳細は、ガイダンス・掲示で公表する。
教科書	特になし

担当者から一言	単位の修得だけを目的とせず、この科目の受講を通して、自らの将来のキャリアを考える機会をもってもらいたい。したがって、与えられたことを消化するだけの受け身の学習ではなく、自ら色々なことにチャレンジするという
---------	--

	積極的な態度で受講してほしい。
その他	インターンシップを行なった者で、単位取得を希望する者にのみ単位認定を行なうので、年度初めの受講登録は不要である。

授業コード	51K01		
授業科目名	演習I(林)(後)		
担当者名	林 満男(ハヤシ ミツオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	火曜日12:20～13:00 木曜日13:00～14:30		

講義の内容	企業経営が如何に社会一般・全般の問題に関わっているかについて認識し、その上で、その複雑な関係をときほぐしつつ、企業経営が如何にあるべきか、如何に社会に貢献できるか、といったことについて考えたい。その際、とりわけ、今日の企業経営のグローバル化の影響を中心的に考えたい。
到達目標	上記「講義の内容」にあるような思考の訓練により、自ら積極的に社会と経営の関係について考える意欲と能力を修得する。
講義方法	講義開始時点での最新の文献を輪読しながら、諸問題を明らかにしつつ、それについての議論を中心に行う。
準備学習	絶えず積極的に、テレビや新聞、雑誌などの現実社会における関連記に広く関心を向け、自分なりの意見やビジョンを構成すよう努力する。
成績評価	授業態度、議論への参加の積極度、授業中に課するレポートの内容の評価による。
講義構成	9～10月：企業と社会の関係に関するテキストの輪読 11月：関連分野に関する資料、文献の紹介、解題。 12月：各受講者の関心領域のテーマによるレポートの作成。 1月：レポートの作成、発表と討議、それに基づく知識体系の整理。
教科書	講義開始時点での最新の文献を使う予定であるので、講義開始時点で指示する。
参考書・資料	講義中指示する。
担当者から一言	本講義で研究する諸問題を一層よく、特に具体的に、また身近なものとして理解するために、日々、テレビや新聞、雑誌などを通じて、時事的な問題の報道、ニュースなどを積極的に見聴きするようにして欲しい。

授業コード	51K02		
授業科目名	演習I(布上)(後)		
担当者名	布上康夫(ヌノカミ ヤスオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	火曜日 12:30から13:00		

講義の内容	データベースの操作と基礎知識について学習する。
到達目標	既存のデータベースを前提に「データの操作」ができるようになること
講義方法	教科書の例題を中心にSQLでデータベースを操作し、その報告内容について討論する。
準備学習	日頃から情報関連のニュースに関心をもつこと。
成績評価	出席状況(2/3)と理解度(1/3)を総合的に判断して評価する
講義構成	後期 SQLについて報告と討論 1～2. SQLについて 3～4. データベースとは

	5～6. SQLの基礎 7～8. SQLの基本操作と主な関数 9～10. SQLの結合操作 11～12. SQLのトランザクション処理 13～15. 動的SQLとストアドプロシージャ
教科書	SQLの絵本 (株)アंक 翔泳社
参考書・資料	必要に応じてその都度指示する

授業コード	51K03		
授業科目名	演習I(中丸)(後)		
担当者名	中丸寛信(ナカマル ヒロノブ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	火曜日 12:20～13:00		

講義の内容	近年、地球環境の危機が様々な形で叫ばれ、その危機の現状、それに対する対応のあり方などが各方面において盛んに論じられている。2005年2月16日には京都議定書もようやく発効し、本格的取り組みが始まっている。そのような中で、2007年のノーベル平和賞には、環境問題への取り組みを啓蒙してきた米元副大統領アル・ゴア氏、および、地球温暖化について長年研究を続け、第4次評価報告書をまとめたIPCC(気候変動に関する政府間パネル)が選ばれた。まさに21世紀は環境の世紀であり、これからますます環境問題は注目され、その解決に向けて新たな取り組みがなされていくにちがいない。 本演習では、そのような状況を踏まえながら、近年における企業の労務管理や環境マネジメントの動向、またこれからのあり方を、とくに経営における「人」の視点から考察していきたい。さらに、私たち一人ひとりにできることは何か、また意識やライフスタイルを今後どのように転換していけばよいかといった問題にもふれていきたい。
到達目標	・地球温暖化の現状、影響、今後のあり方について説明できる。 ・持続可能な社会に向けて、日本における環境と経済・経営のビジョンについて説明できる。 ・ゼロエミッション、環境マネジメントシステム、企業における環境教育などについて説明できる。 ・消費者として環境意識を高め、行動につなげることができる。
講義方法	教科書を活用し、グループによる発表、意見交換などを通して検討の時間を持つ。
準備学習	授業で取り上げる章の内容を、各自で事前に読み、理解しておくこと。また、発表者はレジュメを用意して授業に臨むこと。
成績評価	教科書についての発表、質疑応答、レポート提出および出席状況などを総合的に判断して評価する。
講義構成	1. 講義の内容、方法、進め方など。 2. 地球温暖化の現状と今後の課題 3. 地球温暖化の影響 4. 持続可能な社会への変革 5. 日本における環境と経済・経営のビジョン 6. ゼロエミッションの動向 7. ゼロエミッションの具体的取り組み事例について 8. 中小企業のための環境マネジメントシステム 9. 環境マネジメントシステムの認証取得の事例について 10. 低炭素社会に向かってできること 11. 企業における環境教育 12. 日本の消費者の環境意識と行動 13. 消費者として出来ること 14. これまでの授業のまとめ 15. 未来に向かっての展望について
教科書	中丸寛信『地球温暖化と環境マネジメント』千倉書房、2009年。
参考書・資料	中丸寛信『地球環境と企業革新』千倉書房、2002年。 奥林康司編『入門・人的資源管理』中央経済社、2003年。 ダニエル・ゴールドマン『EQ:こころの知能指数』講談社、1996年。 その他、授業の中で適宜紹介する。

担当者から一言	地球環境問題・経営労務・人間の生き方などに関心を抱いている学生たちと共に、意見交換を中心にしながらゼミを進めていきたい。
---------	--

授業コード	51K04		
授業科目名	演習I(廣山)(後)		
担当者名	廣山謙介(ヒロヤマ ケンスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	開講前の前期中 月曜日Ⅴ限、木曜日Ⅳ限、共に9号館5階の研究室。 開講後は追って指示する。		

講義の内容	企業の経営発展についての歴史的実証分析を行うゼミナールです。 詳細はゼミナールガイドブックを参照してください。テキストの輪読と討論、各自の研究発表が中心です。
到達目標	歴史的実証分析とは何かについての基本的な考え方を理解している。 時系列データの取り扱い方についての原則を理解している。
講義方法	テキストの輪読と討論、各自の研究発表が中心です。
準備学習	報告担当者はレジュメの作成。担当に当たっていない者は前回の報告の疑問点や評価点についての意見をメモして持参すること。
成績評価	2年次半期の成績は、授業への参加態度とそれへの貢献度によって評価します。事前に連絡のない欠席が3回以上の場合、原則として除籍します。
講義構成	初回にガイダンスをおこない、各自の関心領域についての調査をおこなう。その後、基礎的文献の渉獵が可能となるような導入演習を構成していく。
教科書	ゼミナールへの応募時の申告を考慮した上で、追って指示します。
講義関連事項	前期に実施されるゼミ募集で参加が認められた者に限り受講することができる。

担当者から一言	明るく楽しいゼミナールでありたいです。
その他	ゼミの募集概要や内容についてはゼミナールガイドブック(後日配布)を参照してください。

授業コード	51K05		
授業科目名	演習I(シュレスタ)(後)		
担当者名	シュレスタ(シュレスタ マノジュ L.)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	火曜日12:10-13:00		

講義の内容	経済のグローバル化とともに、企業間の競争は過去にない様相をみせている。いかに、その競争優位を確立するのかは、企業にとって最大の課題と言えるであろう。目まぐるしく進歩する技術と企業のグローバル化は、我々に、21世紀の企業経営には、標準モデルがあり得ないことを教えてくれる。 本演習では、国内外の企業の経営戦略の検討を通して、現代における組織と戦略のあり方を検討する。
到達目標	グローバル企業の戦略を、事例通じて比較しつつ学び、受講生の戦略思考を養成する。
講義方法	文献の熟読、プレゼンテーション、ディスカッション
準備学習	指定した文献、配布した資料には目を通して、演習に臨むこと。
成績評価	出席、プレゼンテーション、ディスカッション、レポートの質を総合的に評価する。
講義構成	1 経営戦略とは—何をいかに学ぶか 2-3 戦略を立てる(事業領域の定義—「ドメイン」という考え方) 4-5 戦略の策定—経営資源の展開

	6-7 競争の戦略 8-9 戦略を革新する(新規事業創造の戦略) 10-13 成長の戦略(ベンチャー企業の不均衡創造、ネットワーク戦略、新しい組織への動き) 14-15 戦略を広げる(グローバル戦略、多様な環境への対応、地域企業の戦略、戦略的社会性)
教科書	大滝精一、山田英夫、金井一頼、岩田智、『経営戦略—論理性・創造性・社会性の追求』(有斐閣アルマ・2006年)
参考書・資料	演習開講時に指示する。

授業コード	51K06		
授業科目名	演習I(馬場)(後)		
担当者名	馬場大治(ババ タイジ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		

講義の内容	経営管理論を中心に広く経営全般をカバーする。特に日本企業の経営戦略、企業制度、経営組織について勉強する。
到達目標	①経営管理論の基礎的な諸議論を理解している。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③経営学の諸理論を用いて、現実の企業の行動を簡単に考察することができる。
講義方法	ゼミナールでの勉強を通して、ものごとを理論的に考える力、そして考えたことを人に話す力、書く力をきたえていきたい。そのため、学生の発表と討論を中心に、または、それだけでゼミナールの時間が終わるような形でゼミを運営していきたい。ゼミナールにおいて主役は学生であり、教師はほんの学問の世界へのつきそい程度のものであるべきであり、そのような形になるべく、教師も努力するし、学生にも努力してもらう。2年次の後期は、初歩的なテキストブックを輪読し、経営学全般に関しての基礎的な知識を身につける。続いて、春休みと3年生前期の初めには、ある企業や業界を決め、経営管理論の諸理論や各種の戦略策定の諸技法を用いて、それを分析することを試みる。続いて、いくつかのグループにわかれて、それぞれが選んだテーマに企業や業界に関して、グループごとの研究発表を行う。そして、3年次の後半からは、卒論に向けて、それぞれの個別のテーマに関して研究を行い、研究発表を行う。
準備学習	報告者は担当箇所を十分に理解し、レジメを作成してくる。担当者にあたっていない場合は、テキストの該当箇所を事前に予習し、質問を考えてくる必要がある。
成績評価	受講態度・レポート等により評価する。
講義構成	輪読を行う機関に関しては、テキストに沿って講義を進める。それ以降に関しては、適宜指示する。
教科書	(1)塩次喜代次・高橋伸夫・小林敏男『経営管理(新版)』2009年、有斐閣。 (2)小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためケース分析』同文館、2005年。
参考書・資料	必要に応じて、適宜指示する。
担当者から一言	ゼミナール活動(学習・研究活動だけでなく、コンパ、旅行等の課外活動)に関して、積極的に参加意欲を持った人格明朗な学生を希望する。

授業コード	51K07		
授業科目名	演習I(杉田)(後)		
担当者名	杉田俊明(スギタ トシアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	火曜、水曜、木曜など (必要に応じて、いつでも電子メールで連絡ください)		

講義の内容	本講義(演習)は、2年次後期の学生を対象に、国際経営の基礎知識を体系的に学んでいただくものである。
到達目標	国際経営の基礎理論、アジア・中国における経営の枠組み、全体の概容を把握すること
講義方法	学生による研究発表と討論、そして、教員によるコメントと指導による進行である。
準備学習	指定テキストは事前必読。 発表者は該当発表日の2日前までにレジメをメールにて提出すること。
成績評価	出席状況、発表状況、討議参加の状況、並びにその他のゼミ関連活動への参加状況などにより、総合的に判断する。
講義構成	第1回 各自自己紹介、講義の進め方、講義全体の概要、所要の準備など 第2回～第4回 国内経営と国際経営のそれぞれの特徴と、その共通点と相違点は何か 第5回～第7回 多国籍企業とは何か、その主な定義と主要な学説は何か 第8回～第11回 国際市場参入の方法論とは何か、それはなぜなのか 第12回～第14回 アジア・中国における経営の普遍性と特殊性は何か 第15回 まとめ * 講義内容は必要に応じて変更することがある。
教科書	『新・国際経営』竹田志郎編著、文真堂、2003
参考書・資料	『国際ビジネス入門』江夏健一編著、中央経済社、2008
講義関連事項	本講義は、「講義」というよりも「演習」なので、自主的、積極的な学習が求められている。
担当者から一言	講義時間以外においても、テキストと参考書の閲読と共に、新聞(経営、経済面)とテレビのニュースをできるだけみるようにしてください。
その他	「出席」だけではなく、「発表」「発言」が必須である。
ホームページタイトル	アジア・中国企業経営研究
URL	http://homepage1.nifty.com/Toshiaki-SUGITA/

授業コード	51K08		
授業科目名	演習I(倉科)(後)		
担当者名	倉科敏材(クラシナ トシキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	火曜日16時～17時、水曜日10時～12時		

講義の内容	テーマ: ファミリービジネス経営論 企業の永続的な存続は誰しもが望んでいる。ギネスブックが認定する世界最古の企業は今から1300年前に設立された日本のファミリー企業である。専門経営者企業に必要なものはサイエンス(科学的管理)の視点であるが、オーナーや創業者ファミリーによる企業経営にはそれだけではなくアート(人間重視の管理)も必要となる。米国流の科学的管理だけでは企業の永続性は望めない。当ゼミナールでは卒業時までにはファミリー企業経営の課題とその対応に関して具体的かつ体系的に学習し、卒業後企業経営に参画する場合に役立つよう努める。
到達目標	起業経営一般およびファミリー企業経営の課題についての理解を以下の方法を通じて深める。 ①ファミリー企業特有な経営課題についての講義 ②チームによる研究調査の実施・発表 ③デベートを通じての理解の深化
講義方法	2年次は企業経営全般にわたる基礎的・理論的な研究を重視しメンバーのレベル合わせを最優先する。そのため準備した講義資料をベースに講義と討議を行う。またファミリー企業訪問と経営者との討議を実施し講義に資する。
準備学習	チームによる研究調査に当たっては事業時間だけではなく準備のための作業が必要とされる。
成績評価	出席状況、レポートおよび討議参画への積極性などを総合的に勘案して評価する。
講義構成	1) 経営全般の基礎知識に関する講義 2) フィールドワーク(ファミリー企業訪問と経営者との討議) 3) ディベート(特定テーマの研究と徹底的な討議)

教科書	倉科敏材著「ファミリー企業の経営学」
参考書・資料	岡田康司監訳「オーナー経営の存続と継承」、流通科学大学 Fred Neubauer「The Family Business」,Routledge ダニー・ミラー著「同族経営はなぜ強いのか」、講談社
講義関連事項	ゼミナールは一生を通じての友人関係の原点になる場でもあります。ですから、単に勉強をするだけでなくメンバーとの人間的な交流にも努力してください。
担当者から一言	創業者ファミリーの一員として卒業後企業経営に参画する学生だけでなく、実態調査に関心が深い勉学の意欲のある学生の応募を歓迎します。

授業コード	51K09		
授業科目名	演習I (河野)(後)		
担当者名	河野昭三(コウノ ショウゾウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	企業のゴーイングコンサーン化に関わる基本的な概念について、今年度は、老舗企業の経営発展について考究する。
到達目標	企業の寿命は約30年といわれるなか、わが国において老舗企業が何故かくも多く存在するのか、その存続要因は何に求められるかを考えることによって、中堅企業のマネジメントの核心が理解できるようになること。もって、将来の卒業論文に向けての基礎的な準備となること。
講義方法	テキストの内容について、全員がレポートを提出し、討議する。
準備学習	老舗企業に関する資料(新聞記事等)を図書館で探索しておくこと。
成績評価	出席状況とレポート、および討議の質を総合的に判断して行う。
講義構成	第1回: 授業に関する説明と質疑 第2回: プロローグ 第3回: 老舗企業大国ニッポン 第4回: ケータイに生きる老舗企業の知恵 第5回: 敗者復活 第6回～7回: 日本型バイオテクノロジーの発明 第8回: 和風の長い旅 第9回: 町工場ミクロの闘い 第10回～11回: 地域の顔になった老舗企業 第12回～13回: 世界最古の会社は死なず 第14回～15回: まとめ
教科書	野村進『千年、働いてきました: 老舗大国ニッポン』(角川書店、2006年11月) 各自、入手のこと。
参考書・資料	講義中に指示する。
講義関連事項	特になし。
担当者から一言	なによりも出席が大切。

授業コード	51K10		
授業科目名	演習I (安積)(後)		
担当者名	安積敏政(アサカ トシマサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		

オフィスアワー	月曜日10:30-12:30
講義の内容	日本を代表する国際企業のグローバル展開の現状を自らの手で定量的かつ定性的に把握し、国際ビジネスの実態と本質を理解する。対象企業は自動車、エレクトロニクス、サービスの3業種から選択。
到達目標	必要とする文献・資料を日本語にとどまらず英語など外国語によるものを含めて自らの手で検索・入手・分析できる。 10分間という限られた時間内に明瞭・簡潔かつ説得力のあるプレゼンテーションができる能力を身につける。 他人や他のグループの発表のポイントを把握し、さらに踏み込んだ質問や提案ができる能力を磨く。
講義方法	受講者を6グループに分け、6企業に関する最もポピュラーなビジネス書数冊の購読を課す(1グループ1企業を担当、ビジネス書は指定する)。各グループ毎に担当企業の研究発表を行ない、他のグループとの質疑応答に対応する。
準備学習	発表にあたっているグループは、前日までグループメンバーと十分調査・分析・討議の上、プレゼンテーション・チャートを完成し、当日持参する。
成績評価	グループ内研究活動・発表への参画度に加えて、他グループ発表に対する討議参画度を総合的に評価する。
講義構成	1. 企業戦略における他社事例研究(ケーススタディ)の重要性 2. 他社事例研究の具体的な方法論と手段。 3. グループ別発表と質疑応答および全員討論。 4. 大阪地区の代表的な国際企業へのフィールドトリップ。 ダイハツ(自動車)、コマツ(建設機械)、パナソニック(エレクトロニクス)などへの直接訪問(工場見学、ショールーム見学を含む)とそこでの企業人との質疑応答。
教科書	開講時にグループ別に指定する。
参考書・資料	開講時にグループ別に指定する。 各グループに共通の資料として、会社概況書、アニュアル・レポート、有価証券報告書、アナリスト・ミーティング発表資料、日本本社・海外現地法人のホームページなど。
担当者から一言	将来、国際的な企業に進路を求める人にとっては実践的に学べます。

授業コード	51K11		
授業科目名	演習I(尾形)(後)		
担当者名	尾形真実哉(オガタ マミヤ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	開講時にお伝えします。		

講義の内容	本演習では、第1に経営組織論・組織行動論に関する基礎知識を習得すること、第2に卒業論文を書くにあたり必要なテーマの設定の仕方、ものごとの考え方、表現の仕方を習得すること、第3に社会に出てからも他者と協働するために必要な人間力を育むことの3点を目的に進めて行きたいと思います。
到達目標	①仲間との協働作業を重ねることで、協働作業に求められるソーシャル・スキルを身に付ける。具体的には異なる意見や考え方を持つ人を尊重でき、その中で自分自身の考えや意見を主張できる能力を養いたい。 ②人とは違う物事の見方・考え方ができるようになる。 ③協働作業を通じて、ゼミ生同士のチームワークを高める。
講義方法	グループによる協働作業を通じて、課題を行い、発表する形式を予定していますが、状況に応じて、学生たちと相談しながら柔軟な講義方法をとりたいと考えています。基本的には、ゼミ生全体でコミュニケーションを取りながら、様々な課題に取り組んでいきたいと思っています。
準備学習	毎回の講義には目的があり、相互に関連しています。それぞれの講義の目的をしっかりと理解し、自らの行動に役立てて下さい。演習でやったエクササイズを日々の日常生活で応用することが準備学習になります。
成績評価	出欠、参加態度、課題への取り組み、課題の質、演習への貢献度などを総合的に評価します。無断欠席や遅刻は厳禁です。
講義構成	グループ・エクササイズやグループ・ディスカッションなどコミュニケーションを中心に講義を行う。また、物事の考え方、フィードバック、プレゼンテーションも実施します。
教科書	特に指定はしません。

担当者から一言	大学時代の友人は、一生の友人になります。演習での出会いを大事にし、明るく、楽しく、活発なゼミナールにしましょう。そのために、学生の自主性を尊重し、積極的に物事を提案し、取り組むことができる人、仲間と協力して物事に取り組むことができ、仲間のことを思いやることができる学生を歓迎します。経営組織論・組織行動論に関する知識の習得だけでなく、人間として共に成長していきましょう。学びも遊びも、みんなで、本気で、楽しくいきましょう！
---------	---

授業コード	51K12		
授業科目名	演習I(池田)(後)		
担当者名	池田公司(イケダ コウジ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	月曜日、火曜日、水曜日、木曜日の講義や会議のない時間帯。		

講義の内容	企業の電子開示に関する事例研究(ケーススタディ)を行います。企業会計の国際化(国際会計基準の導入)や電子化(EDINETの導入とXBRLの義務化)によって、財務会計は新しい段階に入りつつあります。また、このような変化と歩調を合わせて、財務諸表には記載されていない「ブランド」や「ノウハウ」といった無形の価値(知的資産)に投資家の関心が向けられるようになっていきます。例えば、ゲーム機の市場で、任天堂のWiiとソニーのPS3のシェアを比較すると、価格や性能ではなく、「開発コンセプトの面白さ」が勝敗を分けていることに気づくでしょう。最近の会計学は、このような知的資産(ブランド、ノウハウ、顧客満足度、企業風土、組織文化、人的資本)も、会計の認識対象に含め、積極的に電子開示をするようになっていきます。
到達目標	従来の既存概念にとらわれず、新しい切り口から考える能力を習得する。また、何が問題なのかを発見し、解決策を提案するとともに、他のゼミ生にも良く分かるようなプレゼンテーション能力を身に付ける。
講義方法	ゼミ生の皆さんに報告を割り当て、ケーススタディの結果について報告し、ディスカッションを行います。
準備学習	インターネットや携帯電話を利用して、報告題材をリサーチする。
成績評価	ゼミでの報告内容(60%)に、受講態度(40%)を加味して総合的に評価します。
講義構成	初回にガイダンスを行い、ケーススタディや報告の仕方について説明します。毎回、数名のゼミ生が報告を行い、その内容についてディスカッションを行う形で進めます。
教科書	なし
参考書・資料	講義中に、適宜指示します。
講義関連事項	ゼミは情報教育研究センターの実習室で行います。

授業コード	51K13		
授業科目名	演習I(杉山)(後)		
担当者名	杉山善浩(スギヤマ ヨシヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	火曜日の昼休み		

講義の内容	受講生が専門的・学際的知識、論理的思考、プレゼンテーション技法などを修得することを目的とし、発表および質疑応答形式で演習を行います。毎回、テーマを与えますので、報告者は、そのテーマに関して先行文献(図書、雑誌論文、雑誌記事、新聞記事、ホームページなど)を調査し、その結果をレジュメまたはPower Pointのスライドにまとめたうえで、報告することが必要です。
到達目標	・経営学・会計学・商学に目を向け、当該分野に関する先行文献を調査することで、経営学・会計学・商学の専門的・学際的知識を習得する。 ・論理的思考力、プレゼンテーション技法、コミュニケーション能力を身につける。
講義方法	受講生による報告形式の授業を行います。授業中に受講生の意見を求めることが多々ありますので、十分な予

	習は欠かせません。
準備学習	・新聞の経済や産業の欄を日頃から読み、企業行動に注目しておいてください。 ・Power Point(プレゼンテーションツール)の操作ができるようにしておいてください。
成績評価	出席状況、受講態度、研究報告、レポートの内容などに基づき、総合的に評価します。なお、受講生が履修を放棄したと見なされる場合の評価は「欠席」となります。
講義構成	第1回 授業の主旨と進め方 第2回 文献の収集方法 第3回 文献の整理方法 第4回 プレゼンテーション(発表)の作法 第5回 テーマ1発表, 質疑応答 第6回 テーマ2発表, 質疑応答 第7回 テーマ3発表, 質疑応答 第8回 テーマ4発表, 質疑応答 第9回 テーマ5発表, 質疑応答 第11回 テーマ6発表, 質疑応答 第12回 テーマ7発表, 質疑応答 第13回 テーマ8発表, 質疑応答 第14回 テーマ9発表, 質疑応答 第15回 レポートの作成方法
教科書	特定の教科書は使用しません。適宜、参考書・資料などを指示します。

授業コード	51K14		
授業科目名	演習I(古田)(後)		
担当者名	古田美保(フルタ ミホ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		

講義の内容	テーマ; 税務会計論 法人課税と企業行動に関する諸問題 内容; 企業にとって、法人税は大きな負担(利益の3割)ですが、意思決定の仕方や計算方法によってはその税負担の額は変動します。つまり、税額の計算とタックス・プランニング—どうすることで負担が大きく、あるいは小さくなるのか等—は経営意思決定上の重要な要素となっています。また、環境税や研究開発税制は、企業の「税負担をできるだけ少なくしたい」という欲求の結果としての行動が、経済全体にとって望ましいものであるよう設計されています。すなわち、経済政策や国家財政上も、企業への課税がどうあるべきかという問題は重要となっています。 このゼミでは、法人企業への課税はどうなっており、またどうあるべきか、その税額はどのように計算されるべきか、といった問題意識のもとに、法人課税に関する理論や現状を学んでいきます。
到達目標	演習2、演習3において卒業論文を執筆する土台を作ること为目标とします。 すなわち、 1. 税務会計とは何かについての基本的な知識を獲得する 2. 理論と実務の違いを理解し、問題について考えることができる 3. 問題をゼミの場で提起し、それを解決するための討論に参加できる 4. そのための資料収集と検討・レジュメの作成ができる 以上の4点を目標とします。
講義方法	税務会計論は、資格としては税理士あるいは国税専門官等に直接つながる研究分野であり、資格の取得も応援します。ただし、本ゼミでは、今年の実務にしか使えない知識の習得よりもすべての土台となる理論的な考察を重視します。そのためにも、議論・討論を中心としたゼミ運営を行います。 また、大学のゼミは徹底的な議論の場であると同時に、深い人間関係を培っていく場でもあるため、1度以上の合宿を行いたいと考えています。
準備学習	毎回の講義終了時まで、次回講義のテーマとレジュメ担当者を告知します。 レジュメ担当者はレジュメの作成、それ以外のゼミ生はテーマについて議論の準備をしてください。
成績評価	出席を前提として、ゼミ活動への参加度合い(演習中の報告および討論など)と課題の提出から総合的に評価します
講義構成	演習はゼミ生の報告と議論を中心として構成されます。 演習2および演習3において卒業論文を執筆することを視野に入れて、演習1では税務会計の基本を知り、考え

	て行く土台を作ります。 具体的には、教員もしくは担当者が基調となるプレゼンテーションを行い、それを受けての全員での問題点・疑問点の洗い出しおよび議論を行います。各回のテーマは事前に通知するので、全員がその議論に参加するために準備し、かつその場で考えてください。 その積み重ねから、税務会計の基本知識に基づいた問題の提起の仕方、議論の仕方、結論の出し方を学び、卒業論文の準備を始めていきます。
教科書	演習開講時に、相談の上決定します
講義関連事項	簿記入門・会計学総論等の積極的な受講があることが望ましい。

担当者から一言	本ゼミにおいては、報告とそれを受けての討論・議論を重視します。問題を発見し、それを解決する能力を養うことが大学とゼミの意義だと考えているからです。したがって、ゼミの活動には、各自が責任を自覚し、積極的に参加することを期待します。特に、問題提起、意見表明、疑問の提示等の発言はいつでも歓迎します。 また、税務会計という分野は2年生の皆さんにはなじみのないものだと思います。疑問・質問があれば、研究室まで、あるいはメール等で問い合わせてください。 e-mail: furuta@center.konan-u.ac.jp
---------	---

授業コード	51K15		
授業科目名	演習I(若林)(後)		
担当者名	若林公美(ワカバヤシ ヒロミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	火曜日 12:10-13:00 木曜日 12:10-13:00		

講義の内容	3年次の演習Ⅱへの準備として、国際会計論の基礎と企業評価について学習します。また、レポートの作成をはじめ、プレゼンテーション能力を身につけるための指導も行います。
到達目標	レジュメの作成と討議やプレゼン能力を身に着けることを目標とする。
講義方法	あらかじめ、話し合いの上で、割り当てを決め、各自がレジュメを作成・準備し、発表とディスカッションを行う形式をとっていきます。
準備学習	IFRSと比較するためにわが国基準の変遷について事前に予習しておく必要がある。
成績評価	レポートや報告の質、ディスカッションへの参加などを総合的に判断して、評価します。
講義構成	1. 英文会計 2. IFRSに則った財務諸表(日本電波工業の財務諸表) 3. 収益認識について(日本基準とIFRSの比較)1 4. 収益認識について(日本基準とIFRSの比較)2 5. 包括利益について(日本基準とIFRSの比較)1 6. 包括利益について(日本基準とIFRSの比較)2 7. 経営者による利益調整行動1 8. 経営者による利益調整行動2 9. 株式投資に有用な指標1 10. 株式投資に有用な指標2 11. 債券投資に有用な指標1 12. 債券投資に有用な指標2 13. レポートの作成 14. レポートの発表
教科書	使用教材は演習開始時に指定します。
参考書・資料	随時、必要な資料は配布します。

担当者から一言	国際会計に興味を持っている人、やる気のある人、努力を惜しまない人を歓迎します。
---------	---

授業コード	51K16
-------	-------

授業科目名	演習I(伊藤)(後)		
担当者名	伊藤公一(イトウ キミカズ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		

講義の内容	このゼミの目的は次の各点である。 1. テキストの輪読を通じて、会計と経営の知識を深める。とくに会社の財政状態、経営成績、キャッシュ・フローの状況等を会社の外部から見て投資意思決定を行う立場から、基本的な財務分析の手法を習得し、実際に分析を行うこと。 2. ゼミでの報告の実践を通じて、事実ならびに自分の考えを適切に人に伝える方法(プレゼンテーションの方法)を習得すること。 3. 就職活動が始まるまでに自分の大学卒業後のライフデザインを描くこと。 4. 日経新聞から日々のビジネス関連情報を入手し、かつ、記事の批判的検討を行えるようになること。 5. 就職活動の糸口(自分なりの就職活動テーマ)を見つけること。 6. 企業に対して財務体質の改善に関する経営コンサルティングの「初歩の初歩」が行えるように、知識を身につけ実践すること。		
到達目標	財務諸表分析の初歩は自力で行えるようになる。 日経新聞から必要な情報を読み取ることができるようになる。 自分は、大学卒業後、どのように社会に出てゆくかを暫定的に決定する。 財務分析を通じて、分析対象企業の財務的な要改善点を指摘できるようになる。		
講義方法	ゼミであるので、学生主体で行う。ゼミ報告の司会も学生が行う。 全員の積極的参加(発言、議論、報告、質問、質疑応答)が必須である。 (ゼミは、学生自身の参加度合いによって、いかようにもその内容・レベルが変動しうるものであること、その結果として、大学での自身の学びの質が大きく変動することを念頭に置くこと。)		
準備学習	特になし。ただし、日経新聞は普段から目を通しておくこと。		
成績評価	報告および質疑応答への参加度合いにより評価する。場合によりレポート提出を求める。		
講義構成	1. テキスト輪読 2. 新聞内容紹介 3. 自己・他人紹介 (必要に応じてSPI対策) 4. 財務分析の実践・結果報告		
教科書	大津広一 『会計力と戦略思考力』 日経ビジネス文庫 (2007)		

授業コード	51K17		
授業科目名	演習I(鶴身)(後)		
担当者名	鶴身 潔(ツルミ キヨシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		

講義の内容	「金融」は、他に増して現実との関わりの強い分野であり、その理解には、制度・市場・機関・商品・サービスなどについての情報や知識が不可欠である。まず金融を正しく知り理解するための問題提起をはかる。		
-------	---	--	--

到達目標	金融に関する基礎知識を、金融用語を通じて身につけ、参加者共通の認識を作り上げる。
講義方法	基本的な文献および資料の輪読、プレゼンテーション、ディスカッション。
準備学習	受講に当たっては、新聞等をよく読み、常に最近の金融・経済の動きに幅広く関心を示して、問題意識を持っておくこと。
成績評価	発表や討論の内容、さらに参加度によって成績を評価し決定する。
講義構成	使用するテキストや資料の構成に沿って進める。
教科書	金融の基本的教科書。開講時に指示する。

授業コード	51K18		
授業科目名	演習I(中田)(後)		
担当者名	中田善啓(ナカタ ヨシヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	予約をとること		

講義の内容	マーケティングとは何か、また情報化によって、ビジネスモデルがどのように変革しつつあるかについて、講義すると同時に、それに関連する文献を講読する。
到達目標	マーケティングの基礎知識を獲得し、企業活動、経済活動に関心を持つこと
講義方法	発表形式
準備学習	テキストを前もって予習すること。また、テキストに関係ある企業について調べること。
成績評価	レポート
講義構成	各自のテーマと関連させて発表する。
教科書	中田善啓著『ビジネスモデルのイノベーション』(同文館, 2009年)
参考書・資料	必要に応じて指導する。

担当者から一言	積極的に発言すること。
---------	-------------

授業コード	51K19		
授業科目名	演習I(西村)(後)		
担当者名	西村順二(ニシムラ ジュンジ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	火曜日12:10-13:00		

講義の内容	企業行動はいまや国境を越えて空間的に広がっている。製品の販売先として、原料の供給地として、製造・組立・流通加工の場所として、取引関係の提携先として等様々な面でビジネスの国際化行動は行われている。従って、マーケティング論の対象領域も当然一国内にとどまらない。外国企業との競争戦略、外国の消費者行動の分析、外国での流通構造の分析など、その考察はグローバルに行われる。また、同様に日本国内でも地域毎に多様な側面をもつ。本ゼミナールでは、グローバリゼーションや全国市場への同質化に伴うマーケティング戦略の標準化と適応化について研究する。
到達目標	マーケティング発想の取得と、理論的視点の醸成。
講義方法	研究グループを編成し、より高度なフィールドワークを行なう。
準備学習	マーケティング総論での基礎事項の確認作業。基本的マーケティング概念の確認。
成績評価	ゼミでのフィールドワークの成果に基づいて評価する。

講義構成	テキスト・基礎文献に基づく理論研究とグループによる実証研究を行う。 1、マーケティングコンセプト 2、STP分析 3、ポジショニング 4、マーケティング・ミックス 5、ミックス編成 6、研究プロジェクト(1)課題発見 7、研究プロジェクト(2)実証作業
教科書	高嶋克義・西村順二共編著(2010)『小売業革新』千倉書房。
担当者から一言	ゼミへ参加する者として、集団行動をとることに対してきちんと協力することは必要条件である。

授業コード	51K20		
授業科目名	演習I(大塚)(後)		
担当者名	大塚晴之(オオツカ ハルユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	火曜日12時から1時		

講義の内容	金融・証券に関する基本書を読み、基礎的な知識を得る。
到達目標	証券・金融に関する基礎知識を修得し、経済記事に現れる経済現象について一定の評価ができるレベルの学力を獲得する。また、特定のテーマについて集団討論を行うことができるためのコミュニケーション能力を培う。
講義方法	金融・証券分析に関する専門テキストの輪読および特定のテーマに関する討論。
準備学習	『実践経済学』同文館(大塚著)を読み込み、経済分析の基礎を習得しておく。
成績評価	出席と講義態度(100%)。 そのほかレポートを課す。
講義構成	1不確実性下の意思決定 2不確実性下の意思決定(演習) 3非対称情報下の経済分析 4非対称情報下の経済分析(演習) 5証券分析の統計的基礎 6証券分析統計的基礎(演習) 7現代ポートフォリオ理論 8現代ポートフォリオ理論(演習) 9効率的市況仮説 10効率的市場仮説演習 11債券投資分析 12債券投資分析(演習) 13企業のファンダメンタル分析 14企業のファンダメンタル分析(演習) 15まとめ
教科書	講義のはじめにリーディングリストを配布する。
担当者から一言	昨年度2年生の出席状況は芳しくなかった。無断欠席やレポーターの放棄は認めない。出席態度により、退ゼミを勧告する。

授業コード	51K21
-------	-------

授業科目名	演習I(三上)(後)		
担当者名	三上和彦(ミカミ カズヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	受講者は事前選考を行い決定される。選考方法については5月に配布するガイドブック・掲示で確認のこと。		
オフィスアワー	水曜日 12:10~13:00		

講義の内容	ゲーム理論を用いた戦略的意思決定の方法をさまざまな事例を通じて習得する。特に、価格戦略、立地戦略については理論を修得し、ケーススタディを作成する。
到達目標	・仮説の設定から問題解決へのプロセスを理解する。 ・ビジネスモデルの基本構造を理解する。 ・基本的なゲーム理論の手法を理解し、活用できる。
講義方法	テキストに基づいた受講生による報告と課題報告、担当者による補足説明講義。
準備学習	テキスト内容の報告準備。ルーティン課題とプロジェクト課題の準備
成績評価	出席(50%)、課題の提出状況(25%)、グループ活動(25%)に基づいて評価する。ただし規定の出席日数に満たないものは自動的に「不可」とする。
講義構成	基本的なフォーマットは ・最近のニュース解説、ルーティン課題報告 ・テキストに基づいた報告、議論 ・グループ活動の報告 となるが、状況に応じて変更することがある。
教科書	板橋 悟 (2009)『日経新聞で鍛えるビジュアル思考力』、日本経済新聞社。 グローバルタスクフォース(2004)『ポーター教授『競争の戦略』入門』、総合法令。
担当者から一言	演習では通常の講義とは異なり、積極的な取り組みが求められます。知識を受け入れ、覚えるという態度から、創りだし、活用するという態度に変えていきましょう。

授業コード	51L01		
授業科目名	演習II(林)		
担当者名	林 満男(ハヤシ ミツオ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習 I と同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜日12:10～13:00 木曜日13:00～14:30		

講義の内容	企業の国際化、多国籍化、グローバル化の意味、またそれらによりもたらされる諸問題を明らかにしながら、それら諸問題の解決に必要な経営政策・戦略のあり方を、とくに企業の社会的責任、企業倫理の研究を中心にしながら究明する。
到達目標	現代の国際経営と社会の関わりについて、自ら考えるための情報を得、それに基づき適切にして独自性ある知識の体系を構築する能力の習得。
講義方法	企業倫理に関連した文献の輪読を中心としながら、順次各人のテーマの決定、研究発表に移り、最終的には卒業論文の作成指導を行う。
準備学習	現実の問題を題材としながら講義を進めたいので、国際経営に関連した一般的な書物にも目を通して、新聞・雑誌・TVなどの関連したニュースや番組を意識して見ておく。
成績評価	講義中の態度、特に研究発表や議論への積極性及びレポートの評価を中心とする。
講義構成	4～6月：国際経営の概論的テキストの輪読 7～9月：関連分野に関する資料、文献の調査・検討。 10～12月：関心領域のテーマによるレポートの作成。 1月：レポートの内容検討と知識体系の整理。

教科書	ゼミ開始時点で最新の適切な文献を教科書としたい。
参考書・資料	講義中にその都度指示する。
講義関連事項	2年生までに経営学総論、マーケティング総論、外国語単位6単位以上を取得していない学生は参加できない。
担当者から一言	ゼミは講義と違い、あくまでも各人の自主的にして積極的な研究活動と参加意識が不可欠であり、ゼミ構成員の責務でもある点をよく理解していただきたい。

授業コード	51L02		
授業科目名	演習Ⅱ(布上)		
担当者名	布上康夫(ヌノカミ ヤスオ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習Ⅰと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜日 12:30から13:00		

講義の内容	SQLによるデータベースの操作ができることを前提に、データベースを構築する上で知っておくべき基本的な知識と手順を流通業務を例に学習する。ついて、見積請求システム、販売管理システム、顧客管理システムなどを実際に構築し、データベース設計の基礎知識を学習する		
到達目標	データベースの概念設計 論理設計 物理設計を理解し、見積請求システム、販売管理システム、顧客管理システムなどのデータベースシステムを理解すること。		
講義方法	テキストの輪読と質疑応答		
準備学習	実社会のデータベースシステムに関心をもつこと。		
成績評価	レポートと課題内容の理解度によって評価する。		
講義構成	前期 データベース設計の基礎について報告と討論 1～3. データベース設計 4～7. 概念設計 8～11. 論理設計 12～15. 物理設計 後期 各種のデータベースシステムについて報告と討論 16～20. 見積請求システム 21～25. 販売管理システム 26～30. 顧客管理システム		
教科書	基礎からのデータベース設計 高橋栄司 飯室美紀 NRIラーニングネットワーク株式会社		
参考書・資料	必要に応じてその都度紹介する。		

授業コード	51L03		
授業科目名	演習Ⅱ(中丸)		
担当者名	中丸寛信(ナカマル ヒロノブ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習Ⅰと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜日 12:20～13:00		

講義の内容	2年次後期における演習Ⅰの授業をもとに、各自が問題意識にそった研究テーマを設定し、そのテーマについて研究した成果を発表する時間をもつ。それを全員で検討するが、できる限りトータルな視点に立って一つひとつの問題をとらえることができるように努める。また問題の本質的原因に迫り、根本的解決に向かえるよう共に考え深めてゆきたい。もちろん、問題意識が共通な場合には、グループによる研究と発表も可能としたい。
到達目標	・今日の地球環境問題の現状、影響、今後のあり方について説明できる。

	・各自の研究テーマについて、その現状、原因、今後の課題について説明できる。 ・多くの研究発表によって学び、各自の問題意識が深まり、専門的知識が豊かになる。
講義方法	一人ひとり、または、グループの問題意識に関連するテーマを設定し、それについての研究発表、討論などによって、ともにテーマを深めていく。
準備学習	各自の研究テーマについて、研究発表のための準備を事前にしておくこと。また、発表者はレジュメを用意して授業に臨むこと。
成績評価	各自の研究テーマの発表、レポートおよび出席状況などを総合的に判断して評価する。
講義構成	各自(またはグループ)の関心に基づいて研究テーマを設定し、発表および質疑応答による検討の時間を持つ。
教科書	使用しない。
参考書・資料	授業の中で適宜参考文献・資料を示す。
担当者から一言	21世紀を迎えた今、さまざまな問題が一体何を私たち一人ひとりに、また世界に問いかけているかについて積極的・主体的に考える姿勢をもって授業に臨んでほしい。

授業コード	51L04		
授業科目名	演習II (廣山)		
担当者名	廣山謙介(ヒロヤマ ケンスケ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習 I と同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	追って掲示する 連絡はいつでも2年次に指示した方法で可能		

講義の内容	企業の経営発展についての歴史的実証分析を行うゼミナールです。本年度前期は引き続き各ゼミテンの春休みの研究報告から出発します。その後の計画は追って指示します。
到達目標	具体的な歴史実証分析のケースの検討ができる。その内容を判りやすく人に伝えることができる。
講義方法	報告と質疑応答
準備学習	報告者はレジュメの作成と配布、報告に当たっていない者は前回の報告の疑問点や評価点についてのメモの作成。
成績評価	授業への参加態度とゼミノートの採点による。具体的には3年次末、1月提出のゼミレポートで評価します。期限内に提出しない者、提出しても内容が不備な者には合格点を付与しません。この場合、4年次の演習Ⅱへの参加、卒業論文の提出はできません。
講義構成	経営史関連の論文の輪読およびゼミテーマについての個別研究報告をおこなう。
教科書	特に指示しない。自分の研究内容に関する指示文献を入手し、内容を理解しておくこと。
講義関連事項	受講者はA4版の大学ノートゼミ専用につくり、持参すること。 ゼミナールにはグループメールがあります。活用してレジュメなどを事前に送付すること。

担当者から一言	遅刻、欠席は認めません。急病以外は前日までに欠席の理由とその補充についての心構えをメールで通知する義務があります。
その他	仲良く、楽しく、元気いっぱいのクラスでありたいです。 就職活動を理由とした欠席は認めません。会社訪問はゼミの時間外に行く必要があります。事前に訪問先、時間の連絡をした者のみ欠席扱いせず、補充の指導をおこないます。連絡は前日までにメールでする必要があります。

授業コード	51L05		
授業科目名	演習II (シュレスタ)		
担当者名	シュレスタ(シュレスタ マノジュ L.)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)

特記事項	演習Ⅰと同一担当者で自動登録される。
オフィスアワー	火曜日 12:10-1:00
講義の内容	企業戦略に関わる理論的、実証的研究を行う。北欧、米国、インド企業の戦略について文献を輪読しながら議論する。
到達目標	グローバル企業の戦略を、事例を通じて比較しつつ学び、受講生の戦略思考を養成する。
講義方法	各自に文献の報告を割り当て、その報告を中心に研究指導を行う。
準備学習	指定した文献、事前に配布する資料に目を通して、要点を整理して演習に臨むこと。
成績評価	出席、プレゼンテーション、ディスカッション、レポートの質を総合的に評価する。
講義構成	1-2. 日本型製造観と欧米型製造観 3-4. 欧米型製造観—なぜ弱体化が進行したのか 5-6. 日本型製造観—なぜ戦略がなかったのか 7-8. 欧米メーカーへの処方箋(財務と戦略、作るか買うか) 9-10. 日本メーカーへの処方箋(製品レベルでの「間引き」、事業レベルでの「間引き」) 11. マイクロソフト 12. アップル 13. IBM 14. GE 15. グーグル 16. インドの経営・投資環境 17. ドクター・レディー 18. ランバクシー・ラボラトリーズ 19. ウォックハルト 20. タタ・ケミカル、タタ・スチール 21. タタ・ティー、タタ・モーターズ 22. ウィプロ 23. インフォシス・テクノロジーズ、 24. タタ・コンサルタンシー・サービス 25. エア・インディア 26. マルチ・スズキ・インディア 27. イケア 28. ノキア 29. H&M、 30. エリクソン
教科書	カジ・グリジニック著 ブーズ・アンド・カンパニー訳 1. 『グローバル製造業の未来 ビジネスの未来 2』(日本経済新聞出版社、2009年) 2. ジェトロ(日本貿易振興機構)著、『インド企業のグローバル戦略』(2008年) 3. 可兒 鈴一郎, オレ・ヘドクヴィスト『危機突破の冒険者精神(ヴァイキングスピリット)—H&M、IKEA、エリクソン、北欧企業の強さの秘密 世界で活躍したヴァイキングの教えに学ぶ』(ぼるす出版、2009年)
参考書・資料	可兒 鈴一郎, オレ・ヘドクヴィスト著『ノルディック・サプライズ—北欧企業に学ぶ生き残り術』(清流出版、2004年)
講義関連事項	演習開講時に指示する。
担当者から一言	英語文献であっても読もうとする意欲を持つ者の受講を期待する。

授業コード	51L06		
授業科目名	演習Ⅱ(馬場)		
担当者名	馬場大治(ババ タイジ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習Ⅰと同一担当者で自動登録される。		
講義の内容	ゼミナールでの勉強を通して、ものごとを理論的に考える力、そして考えたことを人に話す力、書く力をきたえていきたい。そのため、学生の発表と討論を中心に、または、それだけでゼミナールの時間が終わるような形でゼミを運営していきたい。ゼミナールにおいて主役は学生であり、教師はほんの学問の世界へのつきそい程度のものであるべきであり、そのような形になるべく、教師も努力するし、学生にも努力してもらふ。2年次の後期は、初		

	歩的なテキストブックを輪読し、経営学全般に関しての基礎的な知識を身につける。続いて、春休みと3年生前期の初めには、ある企業や業界を決め、経営管理論の諸理論や各種の戦略策定の諸技法を用いて、それを分析することを試みる。続いて、いくつかのグループにわかれて、それぞれが選んだテーマに企業や業界に関して、グループごとの研究発表を行う。そして、3年次の後半からは、卒論に向けて、それぞれの個別のテーマに関して研究を行い、研究発表を行う。
到達目標	①経営管理論の基礎的な諸議論を理解している。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③経営学の諸理論を用いて、現実の企業の行動を簡単に考察することができる。 ④自らが決めたテーマに関して、資料を収集したり調査を行い、それを発表できる。 ⑤他社の研究報告に対して、適切な論評を行い、討議することができる。
講義方法	①テキストの輪読 ②グループでの研究発表と討議 ③卒業研究の個人での研究発表と討議
準備学習	輪読に関しては、報告者は担当箇所を十分に理解し、レジメを作成してくる。担当者にあたっていない場合は、テキストの該当箇所を事前に予習し、質問を考えてくる必要がある。 また、グループでの研究発表や卒業研究の個人発表に関しては、その発表が活発なディカッションを引き起こし、聴衆を納得させるような発表になるべく、十分な準備をしてくる必要がある。
成績評価	受講態度と卒論により評価
講義構成	輪読を行う期間に関しては、テキストに沿って講義を進める。それ以降に関しては、適宜指示する。
教科書	(1)塩次喜代次・高橋伸夫・小林敏男『経営管理(新版)』2009年、有斐閣。 (2)小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためケース分析』同文館、2005年。
参考書・資料	必要に応じて、適宜指示する。
担当者から一言	ゼミナール活動(学習・研究活動だけでなく、コンパ、旅行等の課外活動)に関しても、積極的に参加してほしい。

授業コード	51L07		
授業科目名	演習Ⅱ(杉田)		
担当者名	杉田俊明(スギタ トシアキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習Ⅰと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	毎週火曜、水曜、木曜(その他、必要に応じて、いつでも電子メールをください。)		

講義の内容	「アジアにおける経営」を中心テーマに、理論書や参考資料を広く閲読し、専門知識を身につけ、研究対象に関わる事実の確認を行い、論証・論述などの基本的な能力を身に付けられるようにゼミが展開される。 同時に、社会人としての基本的なマナー、組織人としての心構えなどもゼミ活動を通じて学ぶものである。
到達目標	国際経営の基礎理論だけではなく、専門知識も把握し、同時に、アジア・中国における経営の枠組み、全体の状況を把握することにより、ある程度自分自身による研究と分析、そして、プレゼンテーションができるようにすること。
講義方法	関連研究書や理論書の輪読、研究発表、討論などを通じて学び、教員はその都度研究指導を行う。
準備学習	指定テキストは事前必読。 発表者は該当発表日の2日前までにレジメをメールにて提出すること。
成績評価	ゼミへの参加、貢献、研究発表や討議などの質、規律遵守など基本的なマナーの遵守度合いに応じて、総合的に判断(評価)する。
講義構成	基礎編 第1回 国内経営と国際経営、それぞれの共通点と相違点 第2回 多国籍企業の経営とアジア・中国企業の経営 専門編 第3回～第4回 国際市場参入論(概論) 第5回～第6回 貿易論、アジア・中国における応用(以下同) 第7回～第8回 直接投資論 第9回～第10回 M&A 第11回～第12回 アライアンス 第13回～第14回 アジア・中国における経営システム

	第15回 前期まとめ 応用編 第16回～第17回 ケース研究 パナソニックグループの対中国・アジアとの貿易と直接投資 第18回～第19回 ケース研究 三洋電機グループの対中国・アジアとの貿易と直接投資 第20回～第21回 ケース研究 ダイキン工業グループの対中国・アジアとの貿易と直接投資 第22回～第23回 ケース研究 ユニクロ(ファーストリテイリング)の対中国・アジアとの貿易と直接投資 第24回 ケース研究 利豊(本社:香港)グループの貿易と直接投資 第25回 ケース研究 ハイアール(本社:中国青島)グループの貿易と直接投資 第26回 ケース研究 TCL(本社:中国広東)グループの貿易と直接投資 第27回 ケース研究 サムソン(本社:韓国)グループの貿易と直接投資 第28回 ケース研究 CP((本社:タイ)グループの貿易と直接投資 第29回 ケース研究 IBM(本社:米国)グループの貿易と直接投資 第30回 後期まとめ 注:前掲内容には受講生による研究発表とそれに対する指導が含まれる。 * 講義内容は必要に応じて変更することがある。
教科書	『ケース・ブック 国際経営』吉原英樹他編著、有斐閣、2003 『国際ビジネス入門』(シリーズ・国際ビジネス 1)、江夏健一・他編 『国際ビジネス理論』(シリーズ・国際ビジネス 2)、江夏健一・他編(上記中央経済社、2007、2008) その他はその都度指示する。
参考書・資料	『国際ビジネス形態と中国の経済発展』杉田俊明、中央経済社、2002年 その他はその都度指示する
講義関連事項	下記記載の、杉田研究室のホームページ(講義関連コーナーなど)も合わせて閲覧・参照すること
担当者から一言	規律を厳格に遵守すること
その他	自主的、積極的に学習すること。
ホームページタイトル	アジア・中国経営研究
URL	http://homepage1.nifty.com/Toshiaki-SUGITA/

授業コード	51L08		
授業科目名	演習Ⅱ(倉科)		
担当者名	倉科敏材(クラシナ トシキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習Ⅰと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜日16時～17時、水曜日10時～12時		

講義の内容	・事例研究:諸外国の優秀ファミリー企業の事例研究を通じて ファミリービジネスの功罪を深く学ぶ ・自主研究:ファミリー企業の研究を深め、卒業論文のテーマを決定する事前作業として仮に以下の3つの分野に集中して自主研究を行うこととする。 ①地域の発展とファミリー企業の役割 ②イノベーションとファミリー企業 ③諸外国とのファミリー企業の対比
到達目標	1.ファミリー企業の経営課題を事例を通じて理解する。 ①日本のファミリー企業の経営課題のおさらい ②海外の優れたファミリー企業の経営戦略、成功要因の理解 ③グローバルな視点で見たファミリー企業成功の共通要因を理解する 2. ファミリー企業の経営課題を自主研究を通じて理解する。 ①各人が関心を有するファミリー企業の経営課題を選択し ②研究テーマを選択し ③報告書を作成し ④報告しかつ討議する
講義方法	①事例研究

	②分野別の自主研究 ③フィールドワーク(ファミリー企業の訪問、アンケート調査)
準備学習	自らプレゼンテーション資料を作成する作業があるため授業時間だけではなく準備学習が必要とされる。
成績評価	自主研究の成果、レポートおよび出席率を総合的に評価する・
講義構成	講義方法を参照のこと
教科書	研究分野が決定後、最新の適切な文献を提示する。
参考書・資料	・事例研究については資料を事前に配布する ・自主研究については研究分野が決定され、研究進行の過程で都度適切な資料などを提示する。
講義関連事項	ゼミのメンバーは、出来るだけ幅広く経営の専門講座を習得し、好成績をおさめること。学問だけでなく良好な人間関係をつくることにも努力してください。
担当者から一言	ゼミナール活動では自主性と積極性がこれまで以上に要求されるので、これに沿った活動を期待する。

授業コード	51L09		
授業科目名	演習II (河野)		
担当者名	河野昭三(コウノ ショウゾウ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習 I と同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	本年度は、社会的存在としての企業の在り方について考えることを旨とする。
到達目標	私企業は必ずしも営利追求の主体だけではなく、社会的課題に対して解決を志向する組織体でもあることを理解すること。
講義方法	テキストの輪読形式。毎回、受講者全員がレジュメを作成・提出し、教員の質問に答えながら、問題点を全員で討議する。
準備学習	指定する参考書を事前に読んでおくこと。
成績評価	出席状況、レジュメの内容、および討議態度を総合して評価する。
講義構成	第1回:オリエンテーション 第2回～4回:会社は誰のために？ 第5回～6回:事例;日本理化学工業 第7回～7回:事例;伊那食品工業 第8回～9回:事例;中村ブレイス 第10回～11回:事例;柳月 第12回～13回:事例;杉山フルーツ 第14回～15回:中間のまとめ 第16回～17回:社会的企業とは 第18回～19回:ビジネスの社会化 第20回～21回:社会的企業の基盤 第22回～24回:米国の事例 第25回～28回:日本の事例 第29回～30回:全体のまとめ
教科書	坂本光司『日本でいちばん大切にしたい会社』(あさ出版、2008年4月) 斎藤 稔『社会的起業家』(岩波書店、2004年7月)
参考書・資料	ムハマド・ユヌス『貧困のない世界を創る』(早川書房、2008年10月) この他は、講義中に指示する。
講義関連事項	「経営組織論」を受講すること。
担当者から一言	指導教員とのコミュニケーションを密にすること。

授業コード	51L10
-------	-------

授業科目名	演習Ⅱ(安積)		
担当者名	安積敏政(アサカ トシマサ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習Ⅰと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	月曜日13:30-15:30		

講義の内容	2年次後期の演習Ⅰにおける活動を踏まえ、さらに高度化した演習を行う。日本を代表する国際企業のグローバル展開の現状を自らの手で定量的かつ定性的に把握し、国際ビジネスの実態と本質を理解する。対象企業はゼミ生の就職希望先を意識した関心業種から選択する。自動車、エレクトロニクス、食品、アパレル、化粧品などの製造業および銀行・保険・流通・運輸・ソフトウェアなどのサービス業から6業種を選ぶ。
到達目標	10分間という限られた時間内に明瞭・簡潔かつ説得力のあるプレゼンテーションができる能力を身につける。経営視点からの問題発展、課題形成そして解決策の提案という一連の流れの基本を体得する。他人や他のグループの発表のポイントを把握し、さらに踏み込んだ質問や提案ができる能力を磨く。
講義方法	受講者を6グループに分け、6企業(業種)に関する代表的なビジネス書数冊の購読を課す(1グループ1企業または1業種を担当、ビジネス書は指定する)。各グループ毎に担当企業・業種の研究発表を行ない、他のグループとの質疑応答に対応する。
準備学習	発表にあたっているグループは、前日までグループメンバーと十分調査・分析・討議の上、プレゼンテーション・チャートを完成し当日持参する。
成績評価	グループ内研究活動・発表への参画度・貢献度に加えて、他グループ発表に対する質疑応答能力、期末レポートなどを総合的に評価する。
講義構成	1. 企業戦略における他社事例研究(ケーススタディ)の重要性 2. 他社事例研究の具体的な方法論と手段。 3. グローバル視点から企業経営における単年度事業計画、中長期戦略等の策定方法 4. グループ別発表と質疑応答および全員討論。 5. 関西地区の代表的な国際企業へのフィールドトリップ。 ダイハツ(自動車)、コマツ(建設機械)、パナソニック(エレクトロニクス)、伊藤ハム(食品)などへの直接訪問(工場見学、事業所訪問、歴史館・技術館・ショールーム見学を含む)とそこでの企業人との質疑応答。
教科書	開講時にグループ別に指定する。
参考書・資料	開講時にグループ別に指定する。 各グループに共通の資料として、会社概況書、アニュアル・レポート、有価証券報告書、アナリスト・ミーティング発表資料、日本本社・海外現地法人のホームページなど。
担当者から一言	将来、国際的な企業に進路を求める人にとっては調査・分析・提案能力を実践的に学べます。ゼミ生の進路、就職希望企業、希望企業への応募書類の書き方、面談の仕方などについては時間をかけて相談にのります。

授業コード	51L11		
授業科目名	演習Ⅱ(尾形)		
担当者名	尾形真実哉(オガタ マミヤ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習Ⅰと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	開講時にお伝えします。		

講義の内容	本演習では、昨年度に続き、第1に経営組織論・組織行動論に関する基礎知識を習得すること、第2に卒業論文を書くにあたり必要なテーマ設定の仕方、ものごとの考え方、表現の仕方を習得すること、第3に社会に出てからも他者と協働するために必要な人間力を育むことの3点を目的に進めて行きたいと思います。また、今年度からは、より経営組織論のトピックに近づけて、企業組織を対象にグループ研究を重ね、問題の設定と仮説の提示、さらにはフィールド調査を実施して、その結果を他大学との合同ゼミで発表します。本演習から、経営組織論で学んだ理論を用いながら、実際の現象を分析する思考方法を身につけて下さい。
到達目標	本演習のグループ研究に本気で取り組み、仲間との協働作業を通じてしか得られない経験をして下さい。本気で取り組めば、必ず就職活動の時に、胸を張って語れる有意義な経験になるはずです。ゼミ生全員にそのような

	経験を積ませることを到達目標としたい。
講義方法	グループによる共同研究が中心になります。フィールド調査は1度だけではなく、何度も生じてくる疑問を徹底的に解消するために、何度もフィールドに足を運ぶ癖を身につけて下さい。ゼミ生の自主性を尊重するので、自ら進んで課題に取り組んで下さい。
準備学習	毎回の出席が重要です。
成績評価	出欠、参加態度、課題に取り組む姿勢、課題の質、ゼミでの発言、協調性や社会人としての礼儀作法などを総合的に評価します。また、グループ研究への取り組みや貢献度は重要な評価項目になります。グループ研究を他人任せにしたり、貢献していない場合は、除籍も検討します。
講義構成	他大学との合同ゼミに向け、グループごとのフィールド調査が中心になります。 また、正規の演習活動以外にも合同ゼミに向けて、サブゼミを行う場合もあります。
教科書	金井壽宏(1999)『経営組織』、日本経済新聞社。
参考書・資料	フィールドワークのために仮説思考や調査方法に関する参考文献をあげておきます。 西村克己(2006)『論理的な考え方が身につく本』PHPエディターズ・グループ 内田和成(2006)『仮説思考』東洋経済新報社。 日本能率協会コンサルティング(2008)『「仮説」の作り方・活かし方』日本能率協会マネジメントセンター 渡辺健介(2007)『世界一やさしい問題解決の授業』ダイヤモンド社。
講義関連事項	楽しさや創造性は、ルールを守ることによって成り立ちます。無断欠席、遅刻は厳禁です。社会人として他のゼミ生に迷惑をかけるような行動は絶対に避けて下さい。このルールを守れない人には、厳しく接していきたいと思えます。

担当者から一言	本演習では、昨年度に続き、仲間との協働作業が中心となります。それゆえ、経営組織論・組織行動論に関する知識の習得だけではなく、仲間と協力して物事に取り組むことができ、仲間のことを思いやりながら学んでいきましょう。 さらに、楽しさや創造性の中にも規律を重んじながら人間力を育てていきましょう。ゼミが楽しく、充実するかどうかはゼミ生自身にかかっています。ゼミ生の活発な意見・活動を期待しています。学びも遊びもみんなで、本気で、楽しくいきましょう。
---------	--

授業コード	51L12		
授業科目名	演習Ⅱ(長坂)		
担当者名	長坂悦敬(ナガサカ ヨシユキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習Ⅰと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	月曜日 5限		

講義の内容	ゼミテーマは “ITとコスト・マネジメント” です。IT(情報技術)をツールとして自由に使いこなし、コストマネジメントの企画、実施からビジネスプロセスの最適化が達成できるプロフェッショナルを目指します。
到達目標	課題を発見し、調査研究して、解決策を具体的に提案、プレゼンテーションできるようになる。
講義方法	複数のチームに分かれ、プロジェクトベースラーニングを進めます。研究テーマの設定から調査、分析、まとめを行うことで、情報分析力、企画力、プレゼンテーション力、達成能力を身につけ、“コスト”をベースにした Data drivenなマネジメント方法論を学びます。
準備学習	日頃から新聞、ニュースなどを読み、話題になっているビジネス事情について理解を深めておくこと。 パソコン操作(コンピュータリテラシー)の基礎を習得しておくこと。
成績評価	出席、プロジェクトの達成度、ディスカッションへの参加度によって評価します。
講義構成	前期 1 オリエンテーション 2 2ndチームプロジェクト演習(4) 報告書まとめ 3 2ndチームプロジェクト演習(5) プレゼンテーション準備 4 2ndチームプロジェクト演習(6) プレゼンテーション準備 5 2ndチームプロジェクト演習(7) 発表 1GR、2GR 6 2ndチームプロジェクト演習(8) 発表 3GR、4GR、5GR 7 データベースとコストマネジメント概説 8 データベースアプリケーション演習(1) 9 データベースアプリケーション演習(2) 10 3rdチームプロジェクト “ビジネス業界の価値分析、評価”

	11 3rdチームプロジェクト演習(1)分析テーマ設定 12 3rdチームプロジェクト演習(2)役割分担決定 13 3rdチームプロジェクト演習(3)文献調査中間報告 14 3rdチームプロジェクト演習(4)企画書作成 15 3rdチームプロジェクト演習(5)プロポーザル発表 後期 1 3rdチームプロジェクト演習(6) 報告書まとめ 2 3rdチームプロジェクト演習(7)プレゼンテーション準備 3 3rdチームプロジェクト演習(8) 発表 1GR、2GR 4 3rdチームプロジェクト演習(9) 発表 3GR、4GR、5GR 5 プレーンストーミング(1) "ITとビジネス、管理会計" 6 卒業研究 ガイダンス 7 プレーンストーミング(2) "ITとビジネス、管理会計" 8 卒業研究 (1)文献調査 9 プレーンストーミング(3) "ITとビジネス、管理会計" 10 卒業研究 (2)文献調査報告 11 卒業研究 (3)プロポーザル作成 12 卒業研究 (4)プロポーザル発表 13 卒論テーマ案 発表 14 卒業研究の進め方。 15 まとめ。
教科書	長坂悦敬「Excelで学ぶ原価計算」、オーム社(2009)
参考書・資料	適宜配布する。
担当者から一言	呼称を "STETゼミ" と言います。Study, Think and Enjoy Together !の頭文字をとったものでゼミ運営の基本方針を示しています。 みんなで一緒に楽しみながら、悩みも共有して、学習しましょう！
ホームページタイトル	長坂研究室
URL	http://homepage2.nifty.com/nagasaka/

授業コード	51L13		
授業科目名	演習II (内藤)		
担当者名	内藤文雄(ナイトウ フミオ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習 I と同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	水曜日昼休み		

講義の内容	現代の企業経営にとって財務会計や監査の知識はその重要性を増しています。このゼミナールでは、財務会計や会計監査がどのように企業経営に対して役立つのか、あるいは企業の価値評価にどのように直接間接に関連しているのかなどについて理解を深めたいと思います。また、単に理解を深め知識を得るだけでなく、各自が知識を応用できる力を修得できるように指導します。
到達目標	1. 財務会計の基礎知識を習得している。 2. 会計監査の基礎知識を習得している。 3. 財務会計や会計監査の応用領域の課題について問題点を指摘できる。 4. 企業評価の基礎を理解している。
講義方法	毎回テーマをあらかじめ決定し、レジュメによる報告を行い、その内容について討論を行います。
準備学習	事前に財務会計論の基礎知識を再確認しておき、各回のテーマについて疑問点を準備しておくこと
成績評価	ゼミへの出席状況、報告の内容、討論への積極的な参加の状況を総合して評価を行います。
講義構成	前期には、財務会計の応用領域および会計監査論の基礎に関する知識を習得することを主眼として、専門書を輪読しながら、一体、何がどのように問題なのか、各自が主張できるよう指導します。 後期には、前期で養った各自の問題発見能力にもとづいて、財務会計や会計監査に関する時事的な問題点について、グループによる研究を進め、その成果の報告と討論を行い、問題解決の力を養うよう指導します。同時に、プレゼンテーションの方法も学びます。
教科書	各学期のはじめに指示します。

参考書・資料	各学期のはじめに指示します。
担当者から一言	ゼミでの活動は各自のオリジナリティを創意工夫することが大切です。このゼミでは、いろいろと試行錯誤を体験しながら、大学生活で「これはやった」とゼミ生が実感できるゼミにしたいと考えています。

授業コード	51L14		
授業科目名	演習II (久保田)(前)		
担当者名	久保田秀樹(クボタ ヒデキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限 火曜2限
特記事項	演習 I と同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	金曜日12時10分～13時		

講義の内容	近年の企業会計基準の新設・改訂に関連した領域について学習した後、企業の財務データを使った、収益性、安全性、成長性等に関する分析手法等について学ぶ。また、会社法及び会社計算規則等による会計についても解説する。
到達目標	各自選択した企業について、財務データを収集し、財務データを使った指標分析等により企業分析を行えるようになることを目的とする。
講義方法	教科書の各章を割り当て、各人の報告に私がコメントする形で輪読する。
準備学習	演習 I で学習した企業の財務データを使った分析手法等について理解を深めておく。
成績評価	進級レポートの提出を求め、それに出席状況およびゼミでの受講態度を加味して評価する。
講義構成	1 経営分析の基礎 2 収益性分析 3 生産性分析 4 成長性分析 5 安全性分析
教科書	テキストは、演習開講時に指示する。

授業コード	51L15		
授業科目名	演習II (若林)		
担当者名	若林公美(ワカバヤシ ヒロミ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習 I と同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜日 12:10～13:00 木曜日 12:10～13:00		

講義の内容	国際会計基準と米国基準のコンバージェンスのケースと英文財務諸表を用いた企業評価について学習します。また、レポートの作成をはじめ、プレゼンテーション能力を身につけるための指導も行います。
到達目標	英文の財務諸表を理解し、分析を行う能力を身につける。
講義方法	あらかじめ、話し合いの上で、割り当てを決め、各自がレジュメを作成・準備し、発表とディスカッションを行う形式をとっていきます。
準備学習	毎週、授業の関連教材を事前に配布するので、それをあらかじめ学習してくる。
成績評価	レポートや報告の質、ディスカッションへの参加などを総合的に判断して、評価します。
講義構成	1. 公正価値会計に関する調査 2. 公正価値会計に関するプレゼンテーション 3. 公正価値会計に関するレポートの作成 4. リース会計に関する調査

	5. リース会計に関するプレゼンテーション 6. リース会計に関するレポートの作成 7. 減損会計に関する調査 8. 減損会計に関するプレゼンテーション 9. 減損会計に関するレポートの作成 10. 退職給付会計に関する調査 11.退職給付会計に関するプレゼンテーション 12.退職給付会計に関するレポートの作成 14.クロスセクション比較1(食品) 15.クロスセクション比較2(車) 16.クロスセクション比較3(化学) 17.クロスセクション比較4(医薬) 18.クロスセクション比較5(電気) 19.企業価値評価1(DDM) 20.企業価値評価2(FCF) 21.企業価値評価3(RIM) 22.企業価値評価4(EVA) 23.企業価値の測定 24.債券とレーティング(1) 25.地方債とレーティング(2) 26.倒産予測分析 行う。
教科書	適宜指示する。

担当者から一言	国際会計に興味を持っている人、やる気のある人、努力を惜しまない人を歓迎します。
---------	---

授業コード	51L16		
授業科目名	演習Ⅱ(鶴身)		
担当者名	鶴身 潔(ツルミ キヨシ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習Ⅰと同一担当者で自動登録される。		

講義の内容	様々な現実の社会経済の動きを追いながら、これからの金融サービス業や金融ビジネスを展望する。
到達目標	現代の経済社会の中で生起する金融現象・問題の本質を捉える力(金融知力)を身につける。
講義方法	各自作成したレジュメの内容に沿って報告と討論を重ねる。
準備学習	新聞・雑誌・ネットなどを通じて、各自興味あるトピックスについて情報・資料収集しておくこと。
成績評価	発表や討論の内容、活動の成果、さらに参加度等によって、成績を評価し決定する。
講義構成	3年次前半までは各種資料の輪読、3年次後半からは、それぞれの研究課題に基づいた調査・研究の報告。
教科書	リーディングリストを配布する。

授業コード	51L17		
授業科目名	演習Ⅱ(玄野)		
担当者名	玄野博行(ゲンノ ヒロユキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)
特記事項	演習Ⅰ(中田)の単位修得者が自動登録される。		

講義の内容	演習Ⅱは、大学生活を有意義なものとし、多大な成果をあげるための最大限のサポートをします。ただし、大学生活における成果は、自分自身の努力の結果なのだとことを十分に自覚してください。 演習Ⅱがめざすものは、大学生として必要な素養を身につけることです。そこでは自ら主体的に「求める」「得る」「伝える」ことが何よりも大切です。積極的な態度で参加するように心がけてください。
-------	--

	内容は次のとおりです。 ・大学生として備えておくべき知識を得る ・より高度な知識を得るための方法を学ぶ ・論理的な思考を身につける ・文章力を磨く ・発表力を養う
到達目標	物事にはいろいろな見方や考え方があります。到達目標としては、何らかのテーマについてそれぞれの視点で考え、議論をしていく中で新たなアイデアや解決法を獲得することです。また、常識の壁を打ち破って時代の波を乗り切るための「知恵」を身につけ、ビジネスシーンでも応用できるようになることを目指します。さらに、簡単な課題解決のプロセスを通して、考える力、行動する力、チームワーク力を身につけていきます。
講義方法	◆教科書を輪読することによるディスカッション ◆定量的分析技法を講義し、その後パソコン(統計ソフト)を使って、データの統計解析を行う ◆何らかのテーマを設定し、発表およびレポートを作成する ◆場合によっては、実際にアンケート調査を実施する ※その都度、DVDを鑑賞する予定です
準備学習	教科書は予習として読んでおいてください。その際、分からない部分はチェックした状態で「演習Ⅱ」に臨んでください。また、参考書も是非読んでおいてください。 定量的分析技法の講義の際は、必ず復習しておいてください。分からないまま放置していると、後々苦しい思いをすることになります。
成績評価	出席状況、取り組み姿勢、発表内容およびレポートの総合評価とします。
講義構成	◆教科書の輪読・ディスカッション →各章ごとに輪読・ディスカッション ◆定量的分析技法の講義 ◆データに基づく実習 →場合によっては、実際にアンケート調査を実施 ◆結果を発表 ◆レポートを作成
教科書	高根正昭[1979]『創造の方法学』講談社現代新書。
参考書・資料	田村正紀[2006]『リサーチ・デザイン 経営知識創造の基本技術』白桃書房。
担当者から一言	「演習Ⅱ」の時間だけが演習の時間だと思いこまないようにしてください。常日頃からの認識(考える力)と行動(実践する力)が重要です。 分からないことがあれば放置せずに、積極的に質問などをして解決してください。
その他	3回生の皆さんは秋頃から就職活動戦線に入るかと思われます。それまでに次の参考文献を入手して下準備をすることをおすすめします。 上原隆[2009]『就活講義の実況LIVE2011』ダイヤモンド社。

授業コード	51L18		
授業科目名	演習Ⅱ(西村)		
担当者名	西村順二(ニシムラ ジュンジ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習Ⅰと同一担当で自動登録される。		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	企業行動はいまや国境を越えて空間的に広がっている。製品の販売先として、原料の供給地として、製造・組立・流通加工の場所として、取引関係の提携先として等様々な面でビジネスの国際化行動は行われている。従って、マーケティング論の対象領域も当然一国内にとどまらない。外国企業との競争戦略、外国の消費者行動の分析、外国での流通構造の分析など、その考察はグローバルに行われる。また、同様に日本国内でも地域毎に多様な側面をもつ。本ゼミナールでは、グローバリゼーションや全国市場への同質化に伴うマーケティング戦略の標準化と適応化について研究する。
到達目標	マーケティング理論の修得と現実のマーケティング問題発見能力の修得
講義方法	研究グループを編成し、より高度なフィールドワークを行なう。それと共に、理論思考の修得を目指して、基本文献を検討する。

準備学習	2年次に学んだマーケティング手法の確認作業とマーケティング基礎概念の理解確認
成績評価	ゼミでのフィールドワークの成果に基づいて評価する。
講義構成	以下の流れに従い、テキスト・基礎文献に基づく学習と現実のマーケティング問題に対するプロジェクト研究を行う。 1、論文の書き方 2、理論研究の特徴 3、実証研究の特徴(1)定量分析 4、実証研究の特徴(1)定性分析 5、マーケティング課題の発見 6、レビュー研究導入 7、論文構成の一貫性確認
教科書	西村順二(2009)『卸売流通動態論—中間流通における仕入と販売の取引連動性—』千倉書房。
参考書・資料	適時指示する。
担当者から一言	ゼミ運営においては、積極的に研究・ゼミ諸活動に参加することを期待する。

授業コード	51L19		
授業科目名	演習Ⅱ(大塚)		
担当者名	大塚晴之(オオツカ ハルユキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習Ⅰと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜12時～1時		

講義の内容	証券・金融に関する各人の研究テーマについて毎回一定の研究成果を報告していただくことにより、資本市場研究を深めることを目的とする。
到達目標	投資理論及び資金調達理論の基礎を学び、資本市場に関する最近のテーマについて自ら分析を行う知識を培う。
講義方法	学生の報告に対するコメントと討論。
準備学習	『証券論』(有斐閣)(釜江・大塚他著)を講義に先立って読み込んでおく。
成績評価	出席・平常点(100%)。
講義構成	1ポートフォリオ理論 2ポートフォリオ理論演習 3CAPM 4CAPM演習 5WACCと株価 6WACCと株価演習 7効率的市場仮説 8効率的市場仮説演習 9行動ファイナンス 10行動ファイナンス演習 11MM理論 12MM理論演習 13MM理論の修正 14修正MM理論演習 15非対称情報下の最適資本構成 16非対称情報下の最適資本構成演習 17資本構成とコーポレートガバナンス 18資本構成とコーポレートガバナンス演習 19CAPMIに関する論文サーベイ 20CAPMIに関する論文サーベイ討論 21効率的市場仮説に関する論文サーベイ 22効率的市場仮説に関する論文サーベイ討論 23行動ファイナンスの論文サーベイ 24行動ファイナンスの論文サーベイ討論

	25最適資本構成論の論文サーベイ 26最適資本構成論の論文サーベイ討論 27コーポレートガバナンス論の論文サーベイ 28コーポレートガバナンス論の論文サーベイ討論 29卒論計画書原案プレゼンテーション 30まとめ
教科書	リーディングリストを配布する。

授業コード	51L20		
授業科目名	演習Ⅱ(三上)		
担当者名	三上和彦(ミカミ カズヒコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習Ⅰと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	水曜日 12:10~13:00		

講義の内容	演習Ⅱに引き続き、戦略的意思決定の方法を習得し、少しずつ実際の意思決定の場で、どのように理論を活用できるのか(あるいはできないのか)について深く議論を進めていく。知識・認識→理論・考察→検証・評価の流れを踏まえた論理的思考を養うことが演習Ⅱでの目的である。 また、グループでそれぞれの興味・関心に基づいたプロジェクトを実行する。これについては担当者は助言等は行うが、基本的に学生の自主性に基づいた活動となる。 これらの活動を通じて、演習Ⅲにおける卒業論文作成に必要な知識、考察方法を身につける。
到達目標	・自ら設定した仮説について適切に検証を行うことができる。 ・自分の意見を論理的に述べることができる。 ・グループの中で自分の役割を見つけ、目標に対し十分貢献できる。
講義方法	テキスト・資料に基づいた受講者による報告と担当者による補足説明講義。
準備学習	テキスト内容の報告準備。ルーティン課題とプロジェクト課題の準備。
成績評価	出席(50%)、課題の提出状況(25%)、グループ活動(25%)に基づいて評価する。ただし規定の出席日数に満たないものは自動的に「不可」とする。また、演習Ⅱの講義最終日を締切りとしたレポート(1万字以上)提出が単位取得の条件である。
講義構成	基本的なフォーマットは ・最近のニュース解説 ・テキストに基づいた報告、議論 ・グループ活動の報告 となるが、状況に応じて変更することがある。
教科書	板橋 悟 (2009)『日経新聞で鍛えるビジュアル思考力』、日本経済新聞社。 グローバルタスクフォース(2004)『ポーター教授『競争の戦略』入門』、総合法令。
担当者から一言	演習Ⅱでは、ゼミ活動の中でも高度な質そして量が求められます。楽しく、そして充実したゼミにしていきたいと思います。

授業コード	51M01		
授業科目名	演習Ⅲ（赤石）		
担当者名	赤石雅弘（アカイシ マサヒロ）		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（土曜3限）、後期（土曜3限）
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		

オフィスアワー	最初のゼミの折に示す。
講義の内容	「卒業論文」の作成・指導。
到達目標	各自が内容のある卒論を書きあげること。また、それを通じて、定められたテーマについて適切にまとめ、発表する力を修得してもらう。
講義方法	各自の選定したテーマについての研究報告と討議。
準備学習	必要なデータや文献などの渉猟とその解説・整理。
成績評価	(1)受講態度と(2)卒論により評価。
講義構成	各自の選んだテーマについて順次考察していく。各自のテーマと報告順は、学期の最初の講義時に示す。
教科書	各自の選んだテーマについて書かれた文献。各自に選定してもらうが、当方でも適宜紹介する。
担当者から一言	受講する以上は、「内容のある卒論を書き上げる」との意欲を持って参加してもらいたい。また、たとえ卒業必要単位は満たしているとしても、卒論は提出すること。

授業コード	51M02		
授業科目名	演習Ⅲ(布上)		
担当者名	布上康夫(ヌノカミ ヤスオ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜1限)、後期(火曜1限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜日 12:30から13:00		

講義の内容	卒業論文の作成指導を行なう		
到達目標	MySQL SQL serverなどの代表的なデータベースシステムについて、その概要や基本的なアーキテクチャや仕組みについて理解し、アプリケーションの開発に向けての基本的な能力を身につけること。		
講義方法	前期は各自が選んだデータベースシステムについての中間報告と質疑応答、後期は個別に卒業論文の作成を指導する。		
準備学習	インターネットや関連参考書を読むこと。		
成績評価	卒業論文によって評価する。		
講義構成	前期 各自が選んだモデル企業のアプリケーション開発の報告と討論 1～5. 代表的なフリーDBソフトウェアであるMySQLぬつての報告と質疑応答。 6～10. SQL Serverについての報告と質疑応答。 11～15. Oracleについての報告と質疑応答。 後期 15～30. 各自の卒論テーマの報告と討論		
教科書	使用しない。		
参考書・資料	各自のテーマごとに指示する。		

授業コード	51M03		
授業科目名	演習Ⅲ(中丸)		
担当者名	中丸寛信(ナカマル ヒロノブ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜4限)、後期(土曜4限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜日 12:20～13:00		

講義の内容	演習Ⅰ、演習Ⅱの授業を踏まえ、各自が研究テーマを設定し、そのテーマについて研究した内容を発表する。そ
-------	--

	れを全員で検討しながら進めていく。その成果を各自が卒業論文にまとめていく。
到達目標	・各自の研究テーマについて、その現状、原因、今後の課題について説明できる。 ・多くの研究発表によって学び、各自の問題意識が深まり、専門的知識が豊かになる。 ・各自の研究テーマについて研究した成果を卒業論文にまとめる。
講義方法	各自の研究テーマに基づく発表および検討の時間を持つ。
準備学習	各自の研究テーマについての発表のためのレジュメを用意してもらう。
成績評価	各自の研究テーマの発表、卒業論文、出席状況などを総合的に判断して評価する。ただし、卒業論文を提出しなければ単位取得はできない。
講義構成	各自が設定した研究テーマに基づいて研究した内容を発表し、質疑応答による検討の時間を持つ。
教科書	とくに指定しない。
参考書・資料	授業の中で適宜参考文献・資料を示す。
担当者から一言	卒業論文への取り組みを通して、問題意識に沿った研究の楽しさを体験し、それをその後の社会生活の中で役立ててほしい。

授業コード	51M04		
授業科目名	演習Ⅲ（廣山）		
担当者名	廣山謙介（ヒロヤマ ケンスケ）		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜1限）、後期（火曜1限）
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	講義の内容上、各受講生の事前予約により日時を個別に設定する。		

講義の内容	学習成果の総まとめとしての卒業論文の作成を最終目的として、各ゼミテンの研究課題に沿った指導をおこなう。		
到達目標	大学での勉学の最終成果としての卒業論文の作成。		
講義方法	受講生個別の卒業論文の作成指導。		
準備学習	報告者はレジュメの作成と配布、報告に当たっていない者は前回の報告の疑問点や評価点のメモの作成と持参。		
成績評価	三年間の演習での研究成果として作成した卒業論文によって評価する。		
講義構成	各自が設定した研究テーマに基づく研究報告を順次おこない、卒業論文を作成する。		
教科書	指示しない。各自が卒業論文に関する代表的な参考文献を手元に揃えること。		

担当者から一言	卒論は学部最後の仕上げです。体裁、論旨（論理構造）を中心に評価します。字数は最低2万字です。将来、家族などの関係者に公開できるような内容で仕上げてください。		
その他	演習Ⅱのメールグループを演習Ⅲでも活用しましょう。		

授業コード	51M05		
授業科目名	演習Ⅲ（シュレスタ）		
担当者名	シュレスタ（シュレスタ マノジュ L.）		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜1限）、後期（火曜1限）
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜日12:10－13:00		

講義の内容	3年次の演習を通して、各自が最も関心をもったテーマに基づいての研究報告及びその成果としての卒業論文の作成を中心に行う。		
到達目標	課題を論理的に分析し、まとめ、発表する能力を養うこと。		

講義方法	文献の熟読、プレゼンテーション、ディスカッション
準備学習	事前に配布する資料に目を通し、要点を各自が整理して演習に臨むこと。
成績評価	研究報告、議論への参加、卒業論文を総合的に評価する。
講義構成	初回到文献のリストを提示し、講義の構成を示す。
教科書	開講時に指示する。
参考書・資料	開講時に指示する。
講義関連事項	講義で講読する文献はすべて英語文献である。

授業コード	51M06		
授業科目名	演習Ⅲ(馬場)		
担当者名	馬場大治(ババ タイジ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		

講義の内容	経営管理理論に関して、学生自らがテーマを選択し、論文の作成指導を行う。
到達目標	①自らが決めたテーマに関して、資料を収集したり調査を行い、それを発表できる。 ②他者の研究報告に対して、適切な論評を行い、討議することができる。 ③自らが調査・研究したテーマに関して、論理一貫性のある論文にまとめることができる。
講義方法	学生が発表し、その後にその内容に関して議論して理解を深める。
準備学習	卒業研究の個人発表に関しては、その発表が活発なディカッションを引き起こし、聴衆を納得させるような発表になるべく、十分な準備をしてくる必要がある。
成績評価	評価の中心は提出された卒業論文であるが、出席状況、発表内容、授業中に議論にどれだけ参加したか等も加味して、総合的に評価する。
講義構成	各時間の担当者を事前に決め、研究発表を行う。
教科書	教科書は用いない。
参考書・資料	必要に応じて、適宜指示する。

授業コード	51M07		
授業科目名	演習Ⅲ(杉田)		
担当者名	杉田俊明(スギタ トシアキ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜5限)、後期(水曜5限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	毎週火曜、水曜、木曜(その他、必要に応じて、いつでも電子メールをください。)		

講義の内容	1、「アジアにおける経営」を中心テーマに、ゼミ生それぞれが自らの研究テーマを選択し、そのテーマに関わる参考資料を広く閲読し、専門知識を身につけ、研究対象に関わる事実の確認をまず行う。 2、論題の設定、論証・論述、結論など、論文各パートの発表を経て、卒業論文全体を段階的に仕上げて行く。 同時に、社会人としての基本的なマナーや、組織人としての心構えなどもゼミ活動を通じて学ぶものである。
到達目標	「アジアにおける経営」を中心テーマに、自らの研究テーマを選択し、参考資料を閲読し、専門知識を身につけ、卒業論文を仕上げること。 同時に、社会に巣立つ社会人としての基本的な動作や、組織人としての心構えなどもゼミ活動を通じて習得すること。
講義方法	関連研究書や理論書の輪読、自己研究論文の発表、討論などを通じて学び、教員はその都度研究指導を行う。
準備学習	指定テキストと参考書は事前必読。

	発表者は該当発表日の2日前までにレジメや論文をメールにて提出すること。
成績評価	ゼミへの参加、貢献、卒業論文の質、規律遵守など基本的なマナーの遵守度合いに応じて、総合的に判断(評価)する。
講義構成	第1回～第2回 アジア・中国経営論の枠組み 第3回～第4回 日本企業の対アジア・中国への直接投資と現地経営 第5回～第6回 欧米多国籍企業の対アジア・中国への直接投資と現地経営 第7回～第8回 華僑・華人系企業のボーダレス経営 第9回～第10回 アジア・中国企業の経営と対外直接投資 第11回 国際経営論(卒論執筆のための理論知識の再確認。以下同) 第12回 多国籍企業論 第13回 国際マーケティング論 第14回 経営組織論 第15回 前期まとめ 第16回～第29回 各ゼミ生による研究発表と卒論研究指導 第30回 総まとめ * 講義内容は必要に応じて変更することがある。
教科書	『国際ビジネス形態と中国の経済発展』杉田俊明、中央経済社、2002年 『国際ビジネス理論』(シリーズ・国際ビジネス 2)、江夏健一・他編 5、『国際ビジネス研究の新潮流』(シリーズ・国際ビジネス 5) 江夏健一・他編(上記中央経済社、2007、2008) などの専門書 詳細は講義中、その都度指示する。
参考書・資料	それぞれの研究テーマに応じて講義中にその都度指示する。
講義関連事項	下記記載の、杉田研究室のホームページ(講義関連コーナーなど)を閲覧・参照すること
担当者から一言	規定された卒論の進捗日程を厳格に遵守すること。また、各種規律を厳格に遵守すること。
その他	研究において「自主性」が大切だということを十分に認識すること。
ホームページタイトル	アジア・中国経営研究
URL	http://homepage1.nifty.com/Toshiaki-SUGITA/

授業コード	51M08		
授業科目名	演習Ⅲ(倉科)		
担当者名	倉科敏材(クラシナ トシキ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜日16時～17時、水曜日10時～12時		

講義の内容	これまでの演習を通じて関心をもった経営領域の範囲内で各自が設定した研究テーマを調査、分析、提言を行うと共に進捗に応じて各自が発表を行い、その内容に関して討議を行う。単に論文を書くことが重要なのではなく、実社会でも役に立つ経営課題に関するテーマ設定、仮説構築、章立て、分析方法、総括方法などを身につけることを目的とする。
到達目標	卒業論文の完成
講義方法	研究の進め方、論文の書き方などに関する演習、研究テーマに関する発表・討議および卒論作成の指導を行う。
準備学習	各人のテーマに応じて各人が常時学習を行うこと。
成績評価	ゼミでの発表内容、討議内容および卒業論文の内容を総合的に考慮して成績判定する。
講義構成	演習1)論文の書き方 2)テーマ設定 3)報告書の構成 4)仮説構築と立証 5)調査方法 6)総括の内容・方法

	討議1)研究テーマの中間討議 2)研究テーマの最終討議 指導1)全体指導 2)個別指導
教科書	各人のテーマに応じて必要な文献を提示する。
参考書・資料	ゼミの研究分野の研究は国内ではほとんど行われていない。したがってテーマに応じて推薦する外書購読を行ってほしい。
担当者から一言	自分で考えて結果を出すいい機会ですので頑張ってください。これまでのゼミ生はチームとしていい報告をしてくれました。個人でもいい結果を残すことを期待しています。

授業コード	51M09		
授業科目名	演習Ⅲ(河野)		
担当者名	河野昭三(コウノ ショウゾウ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜5限)、後期(土曜2限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	受講生に共通したテキストの輪読と卒業論文の作成指導を行う。		
到達目標	経営学に関連する専門知識を身に付けながら、受講生それぞれが独自の卒業論文を完成させること。		
講義方法	毎回、指定テキストに関するレポートを作成し討議を行うと共に、卒論作成に関する報告について議論する。		
準備学習	卒業論文のテーマに関連する各種文献や最新資料を収集しておくこと。		
成績評価	出席状況、ゼミレポート、および卒業論文の質による。		
講義構成	今年度は、共通テキストとして、デシ&フラスト『人を伸ばす力』(新曜社)を輪読しながら、受講生一人ひとりによる研究報告と討議を行う。 第1回オリエンテーション 第2回～15回:共通テキストの輪読、および卒論作成の指導。 第16回～30回:卒論の作成指導		
教科書	デシ&フラスト『人を伸ばす力』(新曜社、1999年6月) 受講者は各自入手のこと。		
参考書・資料	受講生の研究テーマによって、授業中に指示する。		
講義関連事項	特になし。		
担当者から一言	指導教員との緊密なコミュニケーションが必要。		

授業コード	51M10		
授業科目名	演習Ⅲ(安積)		
担当者名	安積敏政(アサカ トシマサ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜1限)、後期(火曜1限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	月曜日13:30-15:30		

講義の内容	演習Ⅰおよび演習Ⅱにおけるグループ別テーマ別活動から離れ、本演習では受講生各人の個別テーマ活動とする。ゼミ生の就職希望先を意識した関心業種からテーマを選び、発表および討論を通して卒論を仕上げる。		
到達目標	卒論作成をベースとした演習の目指すものは問題発見能力、課題形成能力、問題解決能力の3つであり、演習Ⅰおよび演習Ⅱで身につけた力をベースに特に”あなたならどうするのか”という問題解決能力(ソリューション)の向上に注力する。		

講義方法	毎回受講者4～5名の個別発表と討論。
準備学習	発表者は、卒論のフレームワークに従い、章ごとに発表をする。前日までに十分に検討の上、プレゼンテーション・チャートを作成し当日持参する。演習後は当日発表した内容に対する指導やゼミ生のコメント・質問を踏まえ、章ごとに卒論用の粗原稿を作成させながら進める。
成績評価	卒業論文及び個別発表と他の受講生の発表に対する参画度・議論貢献度を総合的に評価する。演習Ⅰ、演習Ⅱ同様、自分以外のゼミ生の発表に対する核心をついた質問能力を重視する。
講義構成	1. 受講生による個別発表と質疑応答および全員討論。 2. 関西地区の代表的な国際企業へのフィールドトリップ。 ダイハツ(自動車)、コマツ(建設機械)、パナソニック(エレクトロニクス)、伊藤ハム(食品)などへの直 訪問(工場見学、事業所訪問、歴史館・技術館・ショールーム見学を含む)とそこでの企業人との質疑 応答。
教科書	開講時に指定する。
担当者から一言	実社会が求める人材とは業種・業態を問わず「誠意」と「熱意」のある人です。大学で身につけなければいけないのは「ひたむきさ」と「たゆめぬ努力」です。卒論作成のプロセスでこの二つの重要な要素を身につけること。

授業コード	51M11		
授業科目名	演習Ⅲ(尾形)		
担当者名	尾形真実哉(オガタ マミヤ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	開講時にお伝えします。		

講義の内容	本演習では、卒業論文の作成が中心的課題となります。社会人になる前に、問題を設定し、それを解決するためには、どのような調査を実施しなければならないかを考え、また、そのような調査対象に自らアプローチして下さい。演習では、そのプロセスの発表が中心となります。
到達目標	社会に出れば、自ら問題に気づき、それを解決するために必要なものは何かを現場の立場で考え、問題を解決する能力が求められます。また、それをまとめて文章化し、他人に明確に伝える能力も重要です。卒業論文の作成を通じて、これらの能力を養成していきたいと思います。卒業論文を作成する過程での試行錯誤した経験は、社会に出た後、必ず有意義なものとなるはずで。それゆえ、本演習では、仮説の設定方法、調査方法、問題解決方法などの能力と自分の意見を他人に伝える文章力や提案力を身につけることを到達目標としたい。
講義方法	1回の演習で数人の発表担当者を決め、卒業論文に関する内容を発表してもらいます。その発表についてグループ・ディスカッションを行い、発表者はそれらの意見を反映して、より良いリサーチ・プロポーザルを作成し直して下さい。1人で卒業論文を作成するのではなく、ゼミ生全員でみんなの卒業論文を作成するという姿勢を大事にして下さい。
準備学習	自分自身の研究テーマをしっかりと定め、精緻化していくために新聞やニュース、本などを読むことを実践して下さい。また、自ら積極的にフィールドに出ていって現場に触れて下さい。
成績評価	卒業論文の質、出欠、参加態度、課題に取り組む姿勢、ゼミでの発言、協調性や社会人としての礼儀作法などを総合的に評価します。とりわけ、本演習では卒業論文への取り組み方を重点的に見ていきたいと思っています。
講義構成	学生各自の卒業論文の執筆過程を発表し、グループでのディスカッションを中心に行う。
教科書	特に指定はしません。
参考書・資料	卒業論文の作成に役立つ本をいくつか紹介しておきます。 酒井聡樹(2007)『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版。 西村克己(2007)『論理的な書き方が身につく本』PHP 研究所。
講義関連事項	無断欠席、遅刻は厳禁です。社会人として他のゼミ生に迷惑をかけるような行動は絶対に避けて下さい。このルールを守れない人には、厳しく接していきたいと思っています。

担当者から一言	貴重な大学4年間の最終年です。就職する前に、自分の関心を定め、自分の足と目と耳で問題にアプローチし、納得のいく答を導き出して卒業論文に反映して下さい。大学生活4年間の集大成として卒業論文の作成に取り組んで下さい。また、「充実した大学生活だった」と思えるように演習の時間を大いに利用して下さい。学生の主体的活動を期待しています。『チャレンジによる失敗を恐れるよりも、何もしないことを恐れる！』後悔のない
---------	--

	大学生生活を！
--	---------

授業コード	51M12		
授業科目名	演習Ⅲ（池田）		
担当者名	池田 公司（イケダ コウジ）		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜2限）、後期（火曜2限）
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	月曜日、火曜日、水曜日、木曜日の講義や会議のない時間帯。		

講義の内容	卒業論文の作成を指導します。
到達目標	演習Ⅰと演習Ⅱを通して学んできた各受講生の研究テーマを、「卒業論文」としてまとめることができるようにします。
講義方法	各人の設定した研究テーマに基づいて、個別指導を行います。
準備学習	2年次の演習Ⅰと3年次の演習Ⅱの報告原稿やパワーポイントのファイルを整理して見直し、卒論の作成に備えて最新のデータや資料を収集しておいてください。
成績評価	卒業論文とゼミでの受講態度に基づいて評価します。
講義構成	毎回、各自がそれぞれの研究テーマについて報告し、その内容についてディスカッションを行う形で進めます。
教科書	講義中に、適宜指示します。
参考書・資料	講義中に、適宜指示します。

担当者から一言	ゼミでは、受講生の自主性を尊重します。
---------	---------------------

授業コード	51M13		
授業科目名	演習Ⅲ（長坂）		
担当者名	長坂 悦敬（ナガサカ ヨシユキ）		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜3限）、後期（木曜3限）
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜日 5時間目		

講義の内容	ゼミテーマである”ITとコスト・マネジメント”を各自ブレークスルーし、卒業研究テーマを設定、卒業論文を仕上げる。卒業研究を通して、問題発見力、企画力、構成力、達成力、プレゼンテーション力、理論的考察力等を磨き、ビジネス・プロフェッショナルの素養を身につける。
到達目標	卒業論文を完成させる
講義方法	IT技法としてホームページ作成、ネットワーキング、プログラミング基礎を演習し、ITとビジネスについての先端事例に触れながら現在の課題についてディベートを行う。並行して卒業研究を進め、その進捗についてゼミで発表、全員で議論しながら、完成に導く。
準備学習	図書館、データベースによる文献の検索方法について事前に習得しておくこと
成績評価	卒業研究の達成度で評価する。
講義構成	前期 1 卒業研究中間報告用ホームページ作成(1) 2 卒業研究中間報告用ホームページ作成(2) 3 アドインプログラムの作成(1) 4 アドインプログラムの作成(2) 5 ITとビジネス 先端事情(1) 6 ディベート(1) 7 ITとビジネス 先端事情(2) 8 ディベート(2)

	9 ITとビジネス 先端事情(3) 10 ディベート(3) 11 卒業研究中間報告(1) 文献調査 12 卒業研究中間報告(2) 文献調査 13 卒業研究中間報告(3) 卒業論文 目次設定 14 卒業研究中間報告(4) 卒業論文 目次設定 後期 1 卒業研究中間報告(5) 進捗状況発表 2 卒業研究中間報告(6) 進捗状況発表 3 卒業論文の各章ごとの要旨発表(1) 4 卒業論文の各章ごとの要旨発表(2) 5 卒業論文の各章ごとの要旨発表(3) 6 卒業論文の追加、修正個所の指導、討論(1) 7 卒業論文の追加、修正個所の指導、討論(2) 8 卒業論文の追加、修正個所の指導、討論(3) 9 レジメ作成 10 発表用スライド作成 11 発表用スライド作成 12 卒業論文 最終発表(1) 13 卒業論文 最終発表(2) 14 まとめ
教科書	プリントを随時配布します
担当者から一言	ゼミの呼称は "STETゼミ"です。Study, Think and Enjoy Together !の頭文字をとったものでゼミ運営の基本方針を示しています。一緒に、楽しく、大いに悩みながら、思いっきり学習し、卒業論文を仕上げましょう！
ホームページタイトル	長坂研究室
URL	http://homepage2.nifty.com/nagasaka/

授業コード	51M14		
授業科目名	演習Ⅲ（内藤）		
担当者名	内藤文雄（ナイトウ フミオ）		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜1限）、後期（木曜1限）
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	水曜日昼休み		

講義の内容	財務会計論または会計監査論あるいはサステナビリティ報告書の開示・保証などに関連したテーマについての卒業論文の作成指導を行います。 卒業論文は、1万字以上の論文ですから、ゼミ生の関心・興味を最優先にテーマを相談して決定します。一生に1度かもしれない長文の論文作成が、ゼミ生の糧になるよう、論文の展望の観点だけでなく、論文作成の作法(いずれこれが報告書作成の基本になります。)をわかりやすく指導します。
到達目標	各自が選択したテーマにより、1万字以上の卒業論文を完成させること
講義方法	1回あたり5,000字程度の研究経過報告書を作成し、3回発表のうえ、卒業論文としてとりまとめていただきます。
準備学習	毎回、報告者を決めてレジュメによる報告を行うので、各自が調査・研究した内容をレジュメにまとめ、人数分コピーを準備しておくこと
成績評価	ゼミナール時の報告内容および討議姿勢を加味し、卒業論文の完成度を勘案して成績を評価します。
講義構成	各自が設定した研究テーマについて、研究計画にしたがって順次研究報告を行い、それに対する指導を行う。年3回の経過報告として1回あたり約3,000字のフルペーパーの論稿を作成し、発表する。
教科書	卒業論文の作成を目標とするため教科書は使用しない。ただし、必要な文献資料はその都度指示する。

授業コード	51M15		
授業科目名	演習Ⅲ(久保田)(前)		
担当者名	久保田秀樹(クボタ ヒデキ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限 水曜2限
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	金曜日12時10分～13時		

講義の内容	有価証券報告書等を使って、各自選択の企業について調べたことを報告する。その後、企業の財務データを使った、収益性、安全性、成長性等に関する分析手法等について学習する。その上で、卒論作成の指導を行う。
到達目標	各自選択した企業について財務データを収集し、財務データを使った指標分析等により企業分析を行えるようになることを目的とする。
講義方法	各人の報告に私がコメントする形で進める。
準備学習	演習Ⅱで学習した企業の財務データを使った分析手法等について理解を深めておく。
成績評価	出席状況、ゼミでの受講態度、卒論の研究報告および卒論の内容により評価する。
講義構成	1 経営分析の基礎 2 収益性分析 3 生産性分析 4 成長性分析 5 安全性分析
教科書	テキストは、演習開講時に指示する。
参考書・資料	各人の研究テーマに応じて紹介する。

授業コード	51M16		
授業科目名	演習Ⅲ(杉山)		
担当者名	杉山善浩(スギヤマ ヨシヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜4限)、後期(土曜4限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜日の昼休み		

講義の内容	受講生が卒業論文を作成することを目的とし、発表および質疑応答形式で演習を行います。各受講生は、研究テーマの選定、文献(図書、雑誌論文、雑誌記事、新聞記事、ホームページなど)の収集、収集した文献の講読・整理、論点の整理、論文のアウトラインの作成、論文の執筆、校正などの課題に取り組みます。
到達目標	・専門的知識、論理的思考、プレゼンテーション技法などを身につける。 ・要件を満たす卒業論文(例えば、字数10,000字以上など)を完成させる。
講義方法	受講生各自の進み具合に応じて、個別に課題を与えます。また、受講生各自が選択した研究テーマに関して、数回の研究報告を行ってもらいます。
準備学習	適宜、次の図書を参考にしてください。 照屋華子『ロジカル・ライティング―論理的にわかりやすく書くスキル―』東洋経済新報社、2006年。
成績評価	出席状況、受講態度、研究報告、卒業論文の内容などにに基づき、総合的に評価します。なお、受講生が履修を放棄したと見なされる場合の評価は「欠席」となります。
講義構成	第1回 授業の主旨と進め方 第2回 テーマの選択 第3回～第4回 事前調査 第5回 仮アウトラインの作成 第6回～第7回 関連文献の調査 第8回 文献の入手 第9回～第11回 文献の読解と整理 第12回 最終アウトラインの作成

	第13回～第15回 執筆・校正
教科書	論文作成指導を行うため、特定の教科書は使用しません。適宜、参考書・資料などを指示します。

授業コード	51M17		
授業科目名	演習Ⅲ(若林)		
担当者名	若林公美(ワカバヤシ ヒロミ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜1限)、後期(火曜1限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜日 12:10－13:00 木曜日 12:10－13:00		

講義の内容	国際会計や財務会計に関して学生が選定したテーマに沿って、卒業論文の作成を指導する。
到達目標	卒業論文の完成と論理的思考の習得を目指す。
講義方法	学生による発表とディスカッションを通じて論文作成を個別に指導する。
準備学習	関連文献の熟読とプレゼンテーションの準備をする。
成績評価	研究発表の内容、ディスカッション、卒業論文などに基づいて総合的に評価する。
講義構成	各自の問題意識に基づき、テーマを選定し、論文を作成し、プレゼンテーションを行う。 1. 研究テーマの選定方法(方法論の輪読1) 2. 研究テーマの選定方法(方法論の輪読2) 3. 研究テーマの選定方法(方法論の輪読3) 4. 研究テーマの選定方法と卒業論文の取り組み方(ケース研究1) 5. 研究テーマの選定方法と卒業論文の取り組み方(ケース研究2) 6. 研究テーマの選定方法と卒業論文の取り組み方(ケース研究3) 7. 研究テーマに関する先行研究の調査1 8. 研究テーマに関する先行研究の調査2 9. 研究テーマに関する先行研究の調査3 10. 研究テーマに関する文献レビューの方法(論文の構成1) 11. 研究テーマに関する文献レビューの方法(論文の構成2) 12. 研究テーマに関する文献レビューの方法(論文の構成3) 13. 先行研究における貢献と新規性1 14. 先行研究における貢献と新規性2 15. 先行研究における貢献と新規性3 16. 先行研究で発見されている事実の確認1 17. 先行研究で発見されている事実の確認2 18. 先行研究で利用されている仮説と検証の方法に関する調査1 19. 先行研究で利用されている仮説と検証の方法に関する調査2 20. 先行研究で用いられているデータとその特徴の調査1 21. 先行研究で用いられているデータとその特徴の調査2 22. 研究計画のドラフトとプレゼンテーション1 23. 研究計画のドラフトとプレゼンテーション2 24. 分析アプローチの検討1 25. 分析アプローチの検討2 26. 論文の作成 27. 論文のプレゼンテーション 28. 論文の修正
教科書	会計、企業会計、産業経理など必要な論文や専門書を適宜指示する。
参考書・資料	適宜指示する。

授業コード	51M18
-------	-------

授業科目名	演習Ⅲ(鶴身)		
担当者名	鶴身 潔(ツルミ キヨシ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	水曜日午後		

講義の内容	卒業論文の作成を通じて、研究発表能力等の向上をはかる。		
到達目標	現代の経済社会の中で生起する金融現象・問題の本質を捉える力(金融知力)を身につける。		
講義方法	3年次に引き続き、各自の研究課題に基づいた調査・研究の報告と研究成果作成の指導。		
準備学習	雑誌・新聞・ネットなどを通じて、各自興味あるトピックスについて情報・資料収集しておくこと。		
成績評価	出席および発表度、そして研究成果(卒業論文)の内容により、総合的に評価し決定する。		
講義構成	各自の研究経過報告に基づいて、討論を深める。 (1)論文テーマの設定、(2)文献・資料の収集、(3)文献・資料の分析と内容報告、(4)論文の構成・体系、(5)論文の完成に向けて。		
教科書	特定の教科書は用いない(必要な文献・資料については適宜紹介する)。		

授業コード	51M19		
授業科目名	演習Ⅲ(玄野)		
担当者名	玄野博行(ゲンノ ヒロユキ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
特記事項	演習Ⅱ(中田)の単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ自動登録される。		

講義の内容	「演習Ⅲ」では、自分自身の卒業研究を論文としてまとめることを目的とします。具体的には、各自のテーマに沿った文献の購読、データの収集と分析、論文の執筆と発表を行います。尚、関心のあるテーマと関連させつつ、マーケティング全般に関連したトピック・キーワードにも目配りをしながら勉強していきたいと思います。		
到達目標	到達目標は、卒業論文の完成となります。		
講義方法	◆卒業論文に関して、学生による発表とディスカッションを通じて論文作成を個別に指導する →他の学生の意見を謙虚に聞く、あるいは質問に対して的確に回答することを通じて、卒論のレベルアップをはかる ◆卒業論文のほかに、マーケティングについてのトピック・キーワードを提示し、これに対して全員でディスカッションする ※その都度、DVDを鑑賞する予定です		
準備学習	「演習Ⅲ」では、“自ら問題を見つけ、それを整理して、自分なりに考えて答えを導き出す能力”が必要となります。その際の準備学習として、以下で掲げる参考書・資料を入手し、読んでおくことをおススメします。		
成績評価	出席状況、取り組み姿勢、発表内容および卒業論文の総合評価とします。		
講義構成	◆テーマの確認・決定 ◆テーマに関する個人発表 ◆中間発表準備 ◆中間発表 ◆卒業論文作成と個人発表 ◆卒業論文の提出		
教科書	特に指定しません。		
参考書・資料	佐藤・湯川・横山・近藤編[2006]『アカデミック・スキルズ』慶応義塾大学出版会。 酒井聡樹[2007]『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版。		

担当者から一言	「演習Ⅲ」の時間だけが演習の時間だと思いこまないようにしてください。常日頃からの認識(考える力)と行動(実践する力)が重要です。 分からないことがあれば放置せずに、積極的に質問などをして解決してください。その際、上の参考書・資料に		
---------	--	--	--

	挙げておいた文献が解決手段の一つになるかと思われます。 最後まであきらめずに頑張りましょう！
その他	4回生の皆さんはすでに就職活動戦線中かと思われますが、次の参考文献を入手して再確認することをおススメします。 上原隆[2009]『就活講義の実況LIVE2011』ダイヤモンド社。

授業コード	51M20		
授業科目名	演習Ⅲ(西村)		
担当者名	西村順二(ニシムラ ジュンジ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜2限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当で自動登録される。		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	マーケティング研究の更なる進捗と卒業論文作成により、高度なマーケティング能力を身につける。
到達目標	マーケティングロジックの修得とマーケティング課題発見能力の修得
講義方法	卒業論文作成の集団・個別指導
準備学習	テキスト及び参考文献に基づくマーケティング基礎概念の確認
成績評価	ゼミ出席やゼミ報告内容及び卒業論文により評価する。
講義構成	各自が設定した研究テーマに基づく研究報告を順番に行い、卒業論文を作成する。以下の手順で進める。 1～2 各自のテーマ設定 3～4 論文の書き方学習 5～14 個別のプレゼンテーション 15 論文下書きの校正
教科書	西村順二(2009)『卸売流通動態論』千倉書房。

担当者から一言	ゼミに参加する者として、無断欠席などは許されません。大人としての振る舞い・行動を期待します。 なお、4年後期は2年ゼミ生とのコラボレーションの予定です。
---------	---

授業コード	51M21		
授業科目名	演習Ⅲ(大塚)		
担当者名	大塚晴之(オオツカ ハルユキ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当で自動登録される。		
オフィスアワー	火曜日12時から1時		

講義の内容	受講生が、証券分析の特定の分野に限らず、証券分析の幅広い分野に対する専門的及び学際的知識の上に立って、自ら選定したテーマに従って論文の作成を行う。学術論文の作成技法を修得することを目的とし、前半は自らの選定したテーマに関する論文のサーベイを行う。講義は、発表及び質疑応答形式である。後半では、各受講生は証券分析に関する自ら選定したテーマに沿って研究を進め、進捗状況について発表する。
到達目標	証券分析の先行研究論文を基礎に、証券分析の特定の分野に限らず、証券分析の幅広い分野に対する専門的及び学際的知識の上に立って、自ら選定したテーマに従って論文の作成を行う。この過程で、論理的思考、プレゼンテーション技法を身につける。
講義方法	学生の報告に対するコメントと討論。
準備学習	あらかじめ配布したリーディングリストを読み進める。
成績評価	平常点(100%)。
講義構成	1. 論文計画書の作成方法の概説 2. 各受講生の論文計画書のプレゼンテーション

	3. 各受講生の論文計画書の検討・討論 4. 各受講生が基礎とする基礎理論のプレゼンテーション 5. 各受講生が基礎とする基礎理論のプレゼンテーションを基にした討論 6. 各受講生が基礎とする基本論文のプレゼンテーション 7. 各受講生が基礎とする基本論文のプレゼンテーションを基にした討論 8. 各受講生の論文計画書の再構成案のプレゼンテーション 9. 各受講生の論文計画書の再構成案のプレゼンテーションを基にした討論 10. 各受講生の論文計画書の再構成案に対する講評 11. 各受講生の修正論文計画書のプレゼンテーション 12. 各受講生の修正論文計画書の検討・討論 13. 各受講生の修正論文計画書が基礎とする基礎理論のプレゼンテーション 14. 各受講生の修正論文計画書が基礎とする基礎理論のプレゼンテーションを基にした討論 15. 各受講生の修正論文計画書が基礎とする基本論文のプレゼンテーション 16. 各受講生の修正論文計画書が基礎とする基本論文のプレゼンテーションを基にした討論 17. 各受講生の修正論文計画書が基礎とする学術論文のプレゼンテーション(サーベイ) 18. 各受講生の修正論文計画書が基礎とする学術論文のプレゼンテーションを基にした討論(サーベイ) 19. 各受講生の修正論文計画書が基礎とする学術論文のプレゼンテーション(理論) 20. 各受講生の修正論文計画書が基礎とする学術論文のプレゼンテーションを基にした討論(理論) 21. 各受講生の修正論文計画書が基礎とする学術論文のプレゼンテーション(実証) 22. 各受講生の修正論文計画書が基礎とする学術論文のプレゼンテーションを基にした討論(実証) 23. 各受講生の修正論文計画書が基礎とする学術論文の選定・理解に関する講評 24. 各受講生の論文内容のプレゼンテーション(理論) 25. 各受講生の論文内容のプレゼンテーションを基にした討論(理論) 26. 各受講生の論文内容のプレゼンテーション(実証) 27. 各受講生の論文内容のプレゼンテーションを基にした討論(実証) 28. 各受講生の作成論文に関する講評 29. 各受講生の論文修正内容のプレゼンテーション 30. 各受講生の論文修正内容のプレゼンテーションに対する講評
教科書	リーディングリストを講義の初回に配布する。

授業コード	51M22		
授業科目名	演習Ⅲ(三上)		
担当者名	三上和彦(ミカミ カズヒコ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜3限)、後期(土曜3限)
特記事項	演習Ⅱの単位を修得し、且つ試験等に合格した者のみ演習Ⅱと同一担当者で自動登録される。		
オフィスアワー	水曜日 12:10~13:00		

講義の内容	演習Ⅲでは卒業論文の完成が主要な目標となる。これまで学んできたゲーム理論、業界分析などの知識およびインタビューや就職活動で得られた現場の知見を総合して、自ら設定した仮説を適切に検証することが求められる。 基本的に卒論指導は個人単位になるが、ゼミ全体での議論を通じ得られたものを卒論に反映させる。
到達目標	自分の意見が論理的に反映してある卒業論文を完成させる。
講義方法	卒論作成に向けた指導および学生による成果報告。
準備学習	卒業論文の草稿作成。
成績評価	出席(50%)、卒業論文の作成状況および内容(50%)に基づいて評価する。ただし規定の出席日数に満たないものは自動的に「不可」とする。
講義構成	基本的なフォーマットは ・各自の卒業論文の成果報告 ・テキストに基づいた報告、議論

	となるが、状況に応じて変更することがある。
教科書	鈴木一功監修(1999)『MBAゲーム理論』、ダイヤモンド社。 ポーター(1982)『競争の戦略』、ダイヤモンド社。
担当者から一言	演習Ⅲはゼミ活動の集大成になります。ゼミで学んだことはもちろんのこと授業やアルバイトなどで得られた経験、知識なども生かして経営学部で学んだ「証し」を卒業論文を通じて残しましょう。

授業コード	52015		
授業科目名	会計学基礎演習		
担当者名	内藤文雄(ナイトウ フミオ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(火曜3限)
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	水曜日昼休み		

講義の内容	本演習は、次年度以降のAPコース履修科目を十分に理解できる会計学の基礎理論を習得し、当該基礎理論について明確かつ即座に説明できる能力を身につける教育効果をねらっている。 また、高度専門的かつ複雑な経済現象を対象とする比重が増している会計学を確実に理解するために、その基礎理論を各自の中に確立しておけば、基礎理論に立脚した論理性のある立論を行うことができる。すなわち、高度専門的かつ複雑な経済現象を会計的にどのようにとらえるかについて、受講生は明確に自己の考え方を主張できるという効果が期待される。
到達目標	1. 会計学の基礎理論に関する専門的知識を理解している。 2. 与えられた会計学の基本論点について、自発的に調査・研究できる。 3. 調査・研究の結果にもとづいて体系的かつ論理的に自分の考えを論述できる。 4. 最新の財務会計トピックスを理解している。 5. 会計倫理を理解している。
講義方法	アカウンティング・プロフェッショナルに求められる資質・能力は、与えられたテーマについて、検討すべき論点を漏れなく適切に指摘し、各論点の意義を整理したうえで、解決策を独自に提案できることである。 本演習は、この能力を育成する基礎として、下記講義構成で掲げたテーマに関しておさえておくべき論点を解説したうえで、受講生がその内容を的確に把握できるように問題演習を行う。 また、通説の理解だけでなく、会計の考え方を異にする対立説も取り上げ、会計学の基礎理論についての受講生の理解を促進するよう配慮する。 そこで、前期においては、下記「講義構成」に掲げたテーマのうち1. から15. を対象とする。16. から30. のテーマは、後期の演習において学習する。
準備学習	演習予定のテーマについて、基本的な会計学テキストを熟読し、おおよその内容を理解し、また、疑問点を明確にしておくこと。
成績評価	出席状況、授業での報告内容および討議への参加状況を総合的に評価する。なお、出席回数が24コマに満たない者は不可とする。
講義構成	1. 財務会計の意義と機能 (1)財務会計の意義 (2)財務会計の機能(情報提供機能・利害調整機能) 2. 財務会計の基礎概念① (1)会計公準(企業実体の公準・会計期間の公準・貨幣的測定の公準) (2)会計主体論(資本主理論・企業実体理論) 3. 財務会計の基礎概念② (3)利益概念(当期業績主義と包括主義・現金主義会計と発生主義会計・財産法と損益法・資産負債アプローチと収益費用アプローチ・純利益と包括利益・資本維持論・資産評価と利益計算) (4)概念フレームワーク(財務報告の目的・会計情報の質的特性・財務諸表の構成要素・財務諸表における認識と測定) 4. 企業会計制度と会計基準① (1)会社法会計 5. 企業会計制度と会計基準② (2)金融商品取引法会計 6. 企業会計制度と会計基準③ (3)会計基準(企業会計原則とその一般原則・企業会計基準・会計基準の国際的調和化) 7. 資産会計総論①

(1) 資産の意義(定義・認識)
(2) 資産の分類(流動資産と固定資産、貨幣性資産と費用性資産、金融資産と事業資産)
8. 資産会計総論②
(3) 資産の評価(原価・時価・現在価値・公正価値)
(4) 費用配分の原理
9. 流動資産①
(1) 現金預金
(2) 金銭債権
10. 流動資産②
(3) 有価証券
11. 流動資産③
(4) 棚卸資産(棚卸資産の範囲・取得原価の決定・期末評価・棚卸計算法と継続記録法・払出原価の計算方法・評価減)
(5) その他の流動資産
12. 固定資産①
(1) 固定資産総論(意義・分類)
13. 固定資産②
(2) 有形固定資産(取得原価の決定・減価償却の方法・個別償却と総合償却・減耗償却と取替法・臨時償却と減損・圧縮記帳)
14. 固定資産③
(3) 無形固定資産(取得原価の決定・償却)
15. 固定資産④
(4) 投資その他の資産(投資有価証券・投資不動産・長期前払費用)
16. 負債①
(1) 負債の意義(定義・認識・偶発債務)
(2) 負債の分類と評価(流動負債と固定負債・法的債務と会計的負債)
17. 負債②
(3) 流動負債
(4) 固定負債(社債・資産除去債務)
18. 繰延資産
(1) 繰延資産の意義
(2) 繰延資産各論(創立費・開業費・開発費・株式交付費・社債発行費等)
19. 引当金
(1) 引当金の意義
(2) 引当金各論(製品保証引当金・退職給付引当金・売上割戻引当金・返品調整引当金・修繕引当金・債務保証損失引当金)
20. 純資産①
(1) 純資産の意義
(2) 純資産の分類(株主資本・評価差額・換算差額・新株予約権)
21. 純資産②
(3) 株主資本(資本金・資本剰余金・利益剰余金・自己株式・剰余金の配当等)
22. 純資産③
(4) 評価・換算差額等(その他有価証券評価差額金・繰延ヘッジ損益)
(5) 新株予約権
23. 収益と費用①
(1) 収益と費用の意義
(2) 収益と費用の分類(経常損益と特別損益・法人税等)
24. 収益と費用②
(3) 損益計算の原則(発生主義・実現主義・費用収益の対応)
25. 収益と費用③
(4) 収益と費用の認識と測定(売上収益の認識・委託販売・割賦販売・試用販売・予約販売・工事契約・時間基準・内部利益の控除・役員賞与)
26. 財務諸表
(1) 財務諸表の体系
(2) 貸借対照表(貸借対照表の種類・棚卸法と誘導法・完全性・総額主義・区分表示・流動性配列と固定性配列・勘定式と報告式)
27. 財務諸表
(3) 損益計算書(総額表示・区分表示・勘定式と報告式)
(4) 株主資本等変動計算書
28. 財務諸表
(5) キャッシュフロー計算書(キャッシュフロー計算書の目的・利益とキャッシュフロー・資金概念・キャッシュフロー計算書の区分・直接法と間接法)
(6) 附属明細表

	29. 財務諸表 (7) 注記(会計方針・後発事象・偶発事象・時価情報・継続企業情報・1株当たり情報) (8) 財務諸表の遡及修正 (9) 臨時計算書類 30. 財務報告制度の変革
教科書	本演習においては教科書を指定しない。各自で種々のテキストを調べる。なお、各テーマについて参照すべき文献については個々に指導する。
参考書・資料	演習において必要な参考書を指示する。

授業コード	51C21		
授業科目名	会計学総論 (A)(1クラス)(後)		
担当者名	内藤文雄(ナイトウ フミオ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限 金曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	<講義の目的> 会計は「企業が行う事業活動を貨幣額で把握し、組織的な方法(複式簿記)で記録・計算し、その結果を集約した情報(財務諸表)として利用者に提供する行為」である。会計は、企業経営にはなくてはならない重要なものである。 本講義は、会計がどのように企業経営に役立っているのかを理解し、受講生自らが会計を通じて作成される会計情報を用いて、企業を分析できるようにすることを目的とする。 本講義での学習は、受講生が2年次以降において学習する会計学関係諸科目の基礎理論の学習ともなる。 <講義の内容> 後述の講義構成をみる。講義する基本的な内容は、次の4点。 (1) 会計情報とは何か。どのような情報があるのか。 (2) 会計情報はどこから入手できるのか。 (3) 各自が入手した会計情報をどのように用いて企業を分析するのか。その手がかりを学習する。 (4) 分析して終わりではなく、分析結果をどのように企業経営に反映するのか。
到達目標	受講生が次の4点を理解または実施する能力を身につけること。 (1) 会計情報とは何か。どのような情報があるのか。 (2) 会計情報はどこから入手できるのか。 (3) 各自が入手した会計情報をどのように用いて企業を分析するのか。 (4) 分析結果をどのように企業経営に反映するのか。
講義方法	講義方法は、教科書および講義時に配布する講義資料をもとに、必要に応じて板書で補足解説する。 企業の事業活動がうまくいっているのかいないのか、うまくいっていないとするとどこに問題があるのかなど、こういったことを検討し判断するために、会計の考え方や方法はとても役に立つ。講義では、この役立ちをできるだけわかりやすい事例を用いながら解説する。 なお、会計＝計算＝数学なので「嫌い」という人が少なからずいる。しかし、お金の計算をすることだけが会計ではない。足し算、引き算、掛け算、割り算(これらを「四則演算」と呼ぶ。)ができれば、会計を理解することができる。また、簿記の知識があれば望ましいが、簿記は一体何のために必要なのかということも本講義を真面目に履修すればよく理解できる。
準備学習	本講義は、教科書および講義時に配布する講義資料をもとに、必要に応じて板書で補足解説する方法で授業を進めるので、事前に教科書の該当箇所を熟読しておくこと。
成績評価	基本的には期末試験によって評価する。会計を学習するうえで、基礎的なことがわからなければちんぷんかんぷんになってしまうので、ある程度講義が進んだ段階で知識確認のための小テストを実施し、その結果も加味して総合的に成績評価を行う。 なお、出欠をチェックしない。出席状況は、小テストおよび期末試験の成績に直接反映されると考えられるためである。
講義構成	1 企業を経営することについての会計の意義 (1) 企業経営と会計学 (2) 岡本周辺で店を開業する (3) PDSサイクル／PDCAサイクルと会計情報 (4) トヨタ自動車のP/Lから読み取れること

- 2 会計情報の企業経営に対する役立ち(1)
 - (1) 企業経営と会計情報
 - (2) 上場企業の選択
- 3 会計情報の企業経営に対する役立ち(2)
 - (3) 企業情報・会計情報の種類と内容
 - (4) 企業情報・会計情報の入手方法
- 4 企業の経営成績と損益計算書
 - (1) 損益計算書の意義
 - (2) 損益計算書の内容
 - (3) 収益項目
 - (4) 費用項目
 - (5) 利益・損失
- 5 企業の財政状態と貸借対照表
 - (1) 貸借対照表の意義
 - (2) 貸借対照表の内容
 - (3) 資産項目
 - (4) 負債項目
 - (5) 純資産項目
- 6 企業のキャッシュ・フローの状況とキャッシュ・フロー計算書
 - (1) キャッシュ・フロー計算書の意義
 - (2) キャッシュ・フロー計算書の内容
 - (3) 営業活動からのキャッシュ・フロー
 - (4) 投資活動からのキャッシュ・フロー
 - (5) 財務活動からのキャッシュ・フロー
- 7 収益性分析ーその1ー
 - (1) 会計情報から得られること(1)
 - (2) 収益性(P/L項目)
 - (3) 損益の考え方・原則
 - (4) 選択した上場企業の収益性分析Aと企業経営
- 8 収益性分析ーその2ー
 - (1) 収益性(B/S項目)
 - (2) 資産・負債・純資産の考え方・原則
 - (3) 収益性(キャッシュ・フロー計算書項目)
 - (4) 選択した上場企業の収益性分析Bと企業経営
- 9 安全性分析ーその1ー
 - (1) 会計情報から得られること(2)
 - (2) 安全性(B/S項目)
 - (3) 資産・負債・純資産の考え方・原則
 - (4) 選択した上場企業の安全性分析Aと企業経営
- 10 安全性分析ーその2ー
 - (1) 安全性(P/L項目、キャッシュ・フロー計算書項目)
 - (2) 損益分岐点比率
 - (3) 選択した上場企業の安全性分析Bと企業経営
- 11 成長性分析
 - (1) 会計情報からわかること(3)
 - (2) 成長性(B/S・P/L項目の分析)
 - (3) 売上高予測と健全な成長
 - (4) 選択した上場企業の成長性分析と企業経営
- 12 効率性分析
 - (1) 会計情報からわかること(4)
 - (2) 効率性(B/S・P/L項目の分析)
 - (3) 選択した上場企業の効率性分析と企業経営
- 13 企業価値分析
 - (1) 会計情報からわかること(5)
 - (2) 企業価値・インタンジブルズ・CSR
 - (3) 企業価値の算定方法
 - (4) 選択した上場企業の企業価値の算定と企業経営
- 14 会計情報の役立ちのまとめ
 - (1) 会計情報からわかること(総復習)
 - (2) 総合演習
- 15 会計学を学ぶことの意義
 - (1) 会計学の専門分野
 - (2) グローバル環境下における会計の論点

教科書	内藤文雄、『会計学ビギナーズ』、中央経済社、平成22年9月(予定)。
参考書・資料	講義の際、必要に応じて資料を配布する。また、参考図書も紹介する。
担当者から一言	企業を正しく理解するためには会計の知識が絶対に必要です。2年次以降において学習する会計学関係諸科目の基礎となる授業科目ですから、将来の学習のためにも積極的に学習してください。 また、2年次以降に会計を専攻しない学生であっても、企業をみる眼を身につけていただき、たとえば、就職活動に際しても、皆さん一人一人が収益力が高く、かつ安全な企業を選択できるだけ知識と方法を学習します。このことは、甲南大学経営学部卒業生としてその質を確保することをねらっています。
その他	新聞、雑誌、テレビ、インターネット、その他のメディアを利用して、企業に関する情報を入手するためのアンテナをしっかりとっておくことは有益なことです。普段の生活において習慣づけるようにしてください。

授業コード	51C22		
授業科目名	会計学総論 (A)(2クラス)(後)		
担当者名	内藤文雄(ナイトウ フミオ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限 水曜4限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	<講義の目的> 会計は「企業が行う事業活動を貨幣額で把握し、組織的な方法(複式簿記)で記録・計算し、その結果を集約した情報(財務諸表)として利用者に提供する行為」である。会計は、企業経営にはなくてはならない重要なものである。 本講義は、会計がどのように企業経営に役立っているのかを理解し、受講生自らが会計を通じて作成される会計情報を用いて、企業を分析できるようにすることを目的とする。 本講義での学習は、受講生が2年次以降において学習する会計学関係諸科目の基礎理論の学習ともなる。 <講義の内容> 後述の講義構成をみる。講義する基本的な内容は、次の4点。 (1) 会計情報とは何か。どのような情報があるのか。 (2) 会計情報はどこから入手できるのか。 (3) 各自が入手した会計情報をどのように用いて企業を分析するのか。その手がかりを学習する。 (4) 分析して終わりではなく、分析結果をどのように企業経営に反映するのか。
到達目標	受講生が次の4点を理解または実施する能力を身につけること。 (1) 会計情報とは何か。どのような情報があるのか。 (2) 会計情報はどこから入手できるのか。 (3) 各自が入手した会計情報をどのように用いて企業を分析するのか。 (4) 分析結果をどのように企業経営に反映するのか。
講義方法	講義方法は、教科書および講義時に配布する講義資料をもとに、必要に応じて板書で補足解説する。 企業の事業活動がうまくいっているのかいないのか、うまくいっていないとするとどこに問題があるのかなど、こういったことを検討し判断するために、会計の考え方や方法はとても役に立つ。講義では、この役立ちをできるだけわかりやすい事例を用いながら解説する。 なお、会計＝計算＝数学なので「嫌い」という人が少なからずいる。しかし、お金の計算をすることだけが会計ではない。足し算、引き算、掛け算、割り算(これらを「四則演算」と呼ぶ。)ができれば、会計を理解することができる。また、簿記の知識があれば望ましいが、簿記は一体何のために必要なのかということも本講義を真面目に履修すればよく理解できる。
準備学習	本講義は、教科書および講義時に配布する講義資料をもとに、必要に応じて板書で補足解説する方法で授業を進めるので、事前に教科書の該当箇所を熟読しておくこと。
成績評価	基本的には期末試験によって評価する。会計を学習するうえで、基礎的なことがわからなければちんぷんかんぷんになってしまうので、ある程度講義が進んだ段階で知識確認のための小テストを実施し、その結果も加味して総合的に成績評価を行う。 なお、出欠をチェックしない。出席状況は、小テストおよび期末試験の成績に直接反映されると考えられるためである。
講義構成	1 企業を経営することについての会計の意義 (1) 企業経営と会計学 (2) 岡本周辺で店を開業する

- (3) PDSサイクル／PDCAサイクルと会計情報
- (4) トヨタ自動車のP/Lから読み取れること
- 2 会計情報の企業経営に対する役立ち(1)
 - (1) 企業経営と会計情報
 - (2) 上場企業の選択
- 3 会計情報の企業経営に対する役立ち(2)
 - (3) 企業情報・会計情報の種類と内容
 - (4) 企業情報・会計情報の入手方法
- 4 企業の経営成績と損益計算書
 - (1) 損益計算書の意義
 - (2) 損益計算書の内容
 - (3) 収益項目
 - (4) 費用項目
 - (5) 利益・損失
- 5 企業の財政状態と貸借対照表
 - (1) 貸借対照表の意義
 - (2) 貸借対照表の内容
 - (3) 資産項目
 - (4) 負債項目
 - (5) 純資産項目
- 6 企業のキャッシュ・フローの状況とキャッシュ・フロー計算書
 - (1) キャッシュ・フロー計算書の意義
 - (2) キャッシュ・フロー計算書の内容
 - (3) 営業活動からのキャッシュ・フロー
 - (4) 投資活動からのキャッシュ・フロー
 - (5) 財務活動からのキャッシュ・フロー
- 7 収益性分析－その1－
 - (1) 会計情報から得られること(1)
 - (2) 収益性(P/L項目)
 - (3) 損益の考え方・原則
 - (4) 選択した上場企業の収益性分析Aと企業経営
- 8 収益性分析－その2－
 - (1) 収益性(B/S項目)
 - (2) 資産・負債・純資産の考え方・原則
 - (3) 収益性(キャッシュ・フロー計算書項目)
 - (4) 選択した上場企業の収益性分析Bと企業経営
- 9 安全性分析－その1－
 - (1) 会計情報から得られること(2)
 - (2) 安全性(B/S項目)
 - (3) 資産・負債・純資産の考え方・原則
 - (4) 選択した上場企業の安全性分析Aと企業経営
- 10 安全性分析－その2－
 - (1) 安全性(P/L項目、キャッシュ・フロー計算書項目)
 - (2) 損益分岐点比率
 - (3) 選択した上場企業の安全性分析Bと企業経営
- 11 成長性分析
 - (1) 会計情報からわかること(3)
 - (2) 成長性(B/S・P/L項目の分析)
 - (3) 売上高予測と健全な成長
 - (4) 選択した上場企業の成長性分析と企業経営
- 12 効率性分析
 - (1) 会計情報からわかること(4)
 - (2) 効率性(B/S・P/L項目の分析)
 - (3) 選択した上場企業の効率性分析と企業経営
- 13 企業価値分析
 - (1) 会計情報からわかること(5)
 - (2) 企業価値・インタンジブルズ・CSR
 - (3) 企業価値の算定方法
 - (4) 選択した上場企業の企業価値の算定と企業経営
- 14 会計情報の役立ちのまとめ
 - (1) 会計情報からわかること(総復習)
 - (2) 総合演習
- 15 会計学を学ぶことの意義

	(1) 会計学の専門分野 (2) グローバル環境下における会計の論点
教科書	内藤文雄、『会計学ビギナーズ』、中央経済社、平成22年9月(予定)。
参考書・資料	講義の際、必要に応じて資料を配布する。また、参考図書も紹介する。
担当者から一言	企業を正しく理解するためには会計の知識が絶対に必要です。2年次以降において学習する会計学関係諸科目の基礎となる授業科目ですから、将来の学習のためにも積極的に学習してください。 また、2年次以降に会計を専攻しない学生であっても、企業をみる眼を身につけていただき、たとえば、就職活動に際しても、皆さん一人一人が収益力が高く、かつ安全な企業を選択できるだけの知識と方法を学習します。このことは、甲南大学経営学部卒業者としてその質を確保することをねらっています。
その他	新聞、雑誌、テレビ、インターネット、その他のメディアを利用して、企業に関する情報を入手するためのアンテナをしっかりとっておくことは有益なことです。普段の生活において習慣づけるようにしてください。

授業コード	51C23		
授業科目名	会計学総論 (B)(後)		
担当者名	津田秀雄(ツダ ヒデオ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限 月曜4限
特記事項	経営学部2年次以上		

講義の内容	企業を取り巻く種々の利害関係者の要請に応じて企業会計のあり方は変化してきたが、現今では企業の活動実態を明確に表示することが求められ、この観点から取得原価主義会計と時価主義会計の各々の得失が論じられている。この講義を通じて、こうした議論の内容を理解し、自らの見解を有することができる能力を涵養できればと、願っている。		
到達目標	近年、会計基準の制定・改変はめまぐるしいほどに多くのことがらについて、又、頻度多くなされた。これらの動きを大局的に把握できるようになりたい。		
講義方法	テキストの構成に従って講述する。		
準備学習	事前にテキストの講義予定箇所について予習しておくことを期待する。		
成績評価	期末における論述試験の結果により評価する。		
講義構成	1. 会計学の内容－簿記から会計学へ 2. 会計学の対象－個人企業から株式会社へ 3. 会計情報の役割－利害調整から情報提供手段へ 4. 会計情報の国際化－国内基準からグローバル・スタンダードへ 5. 個人企業会計の特質 6. 会社企業会計の特質 7. 受託責任会計と利害調整会計 －株主・債権者保護の会計(1) 8. 受託責任会計と利害調整会計 －株主・債権者保護の会計(2) 9. 会社法上の情報開示制度 10. 証券市場と投資家保護のための財務情報の開示と企業会計制度(1) 11. 証券市場と投資家保護のための財務情報の開示と企業会計制度(2) 12. 金融商品取引法上の情報開示制度 －有価証券の発行市場と流通市場における企業情報の開示 13. 会計基準とその設定主体 14. 財務分析による財務情報の利用法 15. 定期試験		
教科書	岡村勝義『基礎から学ぶ 財務会計』中央経済社、¥2,800(税別)		
参考書・資料	武田隆二『会計学一般教程』(第7版)中央経済社 武田隆二『最新 財務諸表論』(第11版)中央経済社		
講義関連事項	簿記に関する授業科目を履修済みであることが望ましい。		

授業コード	51C24		
授業科目名	会計学総論 (C)(後)		
担当者名	池田 公司 (イケダ コウジ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	4

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限 月曜4限
特記事項	他学部クラス		
オフィスアワー	月曜日、火曜日、水曜日、木曜日の講義と会議のない時間帯。		

講義の内容	会計学総論(C)は、他学部向けの講義です。一口に会計学といっても、財務会計、管理会計、監査、税務会計など、内容は多岐にわたっています。一般に、会計の領域において、単に「会計学」という場合は、財務会計(financial accounting)を指すことが多いようです。30回という時間的な制約もありますので、今回の会計学総論(C)では、財務会計の基本的な考え方について解説します。また、財務会計は国際化(国際会計基準の導入)と電子化(企業の財務報告の電子化)によって、変化しつつあります。21世紀型の財務会計の特徴について、平易に解説します。
到達目標	資本市場における財務会計の役割を理解します。
講義方法	パワーポイントを用いて、講義形式で進めます。また、金融庁の新EDINETや、企業のIRサイトを実際に見ていただきます。
準備学習	前回の講義の内容を、復習しておいてください。
成績評価	後期試験(70%)に、受講態度(30%)を加味して総合的に評価します。
講義構成	I ガイダンス II 財務会計(外部報告会計)の意義と目的 III 金融庁の電子開示システム(新EDINET) IV 拡張可能な事業報告言語(XBRL) V XBRLによる財務情報サプライチェーンの構築 VI 会計情報の有効な2次利用 VII 会計のグローバル化とXBRLの新たな役割 VIII 公正価値による企業価値の評価 IX 会計の資格制度(公認会計士、税理士、国税専門官) X 総括
教科書	なし

授業コード	51041		
授業科目名	会計学特論a(簿記初級)(後)		
担当者名	鶴目敏生(ツルメ トシオ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 木曜1限
特記事項	事前申請科目 履修要項を確認すること。		

講義の内容	本講義は、前期開講の簿記入門(A)を履修した学生を対象に開講します。日商簿記検定3級の総まとめおよび答案作成力養成の講義を行い、日商簿記検定合格を目標とします。 簿記とは、企業の維持発展を図るために、企業活動を記録し、企業の経営成績や財政状態を明らかにするものです。簿記入門(A)に続き、会計学特論でも個人企業(うち商品売買業)を対象として学習します。
到達目標	平成22年11月(または平成23年2月)に実施される日本商工会議所主催簿記検定(日商簿記検定)3級の合格
講義方法	日商簿記検定3級の合格のためには、講義(インプット)と問題練習(アウトプット)をバランス良く学習することがきわめて重要です。日商簿記検定試験3級の出題範囲に準拠し、総まとめ冊子で企業取引事例の多くを学び、具体的な計算まで学習します。 ※平成22年11月検定後は、一部、日商簿記2級レベル(株式会社会計)の講義も行います。
準備学習	前期に履修した簿記入門(A)のテキスト内の範例を再確認しておいてください。また、平成22年6月日商簿記検定3級の本試験問題を再解答し、自分の弱点を発見しておくこと。
成績評価	出席状況(20%)、授業中のミニテストおよびレポート(20%)、期末試験(60%)に基づいて総合評価します。
講義構成	下記項目を講義する。 1 基礎項目の総復習(簿記一巡) 2 基礎項目の総復習(日々の仕訳) 3 基礎項目の総復習(試算表作成) 4 基礎項目の総復習(決算整理) 5 基礎項目の総復習(精算表の作成) 6 応用項目(仕訳)

	7 応用項目(補助簿) 8 応用項目(試算表) 9 応用項目(決算整理) 10 応用項目(精算表) 検定対策1 日商簿記検定3級直前対策 答案練習1 検定対策2 日商簿記検定3級直前対策 答案練習2 検定対策3 日商簿記検定3級直前対策 答案練習3 検定対策4 日商簿記検定3級直前対策 答案練習4 検定対策5 日商簿記検定3級模擬試験
教科書	本講義では、専用の教材が必要です。生協書籍部で販売しますので、必ず購入してください。 『日商3級総まとめ 商業簿記』 大原簿記学校
参考書・資料	必要に応じて、レジュメおよび問題資料を配布します。
講義関連事項	講義初回から電卓を使用します。
担当者から一言	簿記会計の修得を、日商簿記検定試験合格という見えるカタチにします。諦めずに集中することがポイントです。

授業コード	51042		
授業科目名	会計学特論b(国際税務会計)(後)		
担当者名	古田美保(フルタ ミホ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限 月曜4限

講義の内容	今日、経済取引は国境をまたいで行われるのが当然になって久しく、インターネット技術の発達により個人でも海外との商品売買は簡単に行えるようになっていきます。 しかし、国境は厳然として存在し、これをまたぐことにより派生する問題の一つが租税です。 租税制度は各国がその主権のもとに制定しており、従って国が違えば租税制度が違ってきます。実際に国際的な経済取引をするのであれば、相手国あるいはその候補国がどのような租税制度を採用しているのかについて十分理解しておく必要があります。また、グローバル社会において、国際取引に対する課税がどのようなものであるべきか、その理論を理解し、その理論と各国制度の間にずれがある場合、なぜそれが生じているのか、検討の上で考慮する必要があります。 本講義では、国際的な課税の理論と実際の適用について、事例を踏まえつつ検討を行います。 また、税務会計の講義として、企業の国際的タックス・プランニングの重要性と税額計算の実践についても考えます。
到達目標	本講義では、国家主権としての課税権の衝突としての二重課税・二重非課税等の問題がなぜ起こるのか、またどのように解消されるのかについて、国と企業それぞれの立場から検討できるようになることを目的とします。そのために 1. 国内課税と国際課税の違いは何か 2. 国際的課税問題にはどのようなものがあるのか、またその解決方法について 3. 国際課税の理論 4. 国際的タックス・プランニングの可能性と重要性 以上4点について、議論できるようになることを目標とします。
講義方法	テキストおよび参考資料を指定したうえで、毎回の講義にテーマを設定します。 毎回の講義は、このテーマについての講義を中心に、レジュメ報告およびそれについての討論を行います。 可能な限り事例を引用し、それに基づいた講義と討論を行う予定です。
準備学習	次回講義のテーマに関する討論のための予習(問題点・疑問点の洗い出し)、および、レジュメ報告担当者はレジュメ作成と報告準備をしてもらいます。
成績評価	毎回の講義への出席および貢献度と期末試験の成績により評価します
講義構成	おおよそ次のような構成で講義を進めていきます。 第1回 導入 第2回～第4回 国際課税の基本理論と企業にとっての重要性 第5回～第8回 日本企業と諸外国課税制度との問題と事例 第9回～第11回 諸外国課税制度における国際課税問題と事例 第12回～第13回 国際課税問題の解消と調整の手段 第14回 総括
教科書	初回講義にて相談のうえ決定します

担当者から一言	登録希望者は必ず初回講義に集積してください。
---------	------------------------

授業コード	51043		
授業科目名	会計学特論c(保証業務論)(前)		
担当者名	伊藤公一(イトウ キミカズ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限

講義の内容	公認会計士または監査法人による財務諸表監査に代表される保証業務は、その範囲および社会における重要性を最近とみに広げつつあります。 保証業務とはどのようなものであり、何を意味し、なぜ必要とされるのでしょうか。 保証業務には様々な種類があります。この授業では特に保証業務のうちCSR報告書の保証を取り上げて講義します。また、その理解の前提として必要と思われる、ステークホルダーの概念、およびCSR報告書の内容と課題についても考えたいと思います。		
到達目標	1. 保証業務の基本的考え方、枠組み、類型等を説明することができる。 2. CSRとは何を意味するかについて、基本的な事項を理解している。 3. CSR報告書のわが国における現状と課題を説明することができる。 4. ・CSR報告書の保証業務は、どのような前提と枠組みを有しているのか、説明することができる。 5. ステークホルダーとして、自分は今後、企業の発する情報のどのような点に注目すべきか、各自の視点から認識している。		
講義方法	基本的に講義形式にて授業を行う。 適宜、受講生に質問を投げかけ発言を求める場合がある。		
準備学習	新聞・雑誌記事において「CSR」というキーワードはどのように語られているか、また、公認会計士や監査法人の業務の新たな領域として、どのようなものがあるか、興味を持って観察してください。		
成績評価	期末試験により評価する。		
講義構成	1. 保証業務 2. 保証業務の枠組み・意義・分類 3. 保証報告書 4. ステークホルダー概念の拡大と強調 5. CSR 6. CSR報告書 7. CSR報告書の保証 8. メタ評価フレームワーク 9. CSR報告書の現状 10. 経営と「評判」 11. 自発的情報開示とCSR 12. 評判の管理 13. 保証業務の展望 14. CSR保証業務の今後 15. 総括		
教科書	指定しません。		
参考書・資料	内藤文雄『財務諸表監査の変革』税務経理協会 2003年 内藤文雄、松本祥尚、林隆敏『国際監査基準の完全解説』中央経済社 2010年 新日本有限責任監査法人『CSR報告書の読み方・作り方』中央経済社 2009年		

授業コード	51044		
授業科目名	会計学特論d(財務会計理論)(集中)		
担当者名	内藤文雄(ナイトウ フミオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

オフィスアワー	授業終了後30分程度
講義の内容	本講義は、前期の会計学基礎演習での履修内容の復習および後期の当該演習のための準備学習として、会計学の基礎理論に関するポイント解説および問題演習を夏季休業期間中に集中して実施する。講義を通じて、当該基礎理論について明確かつ即座に説明できる能力を身につける教育効果をねらっている。 また、高度専門的かつ複雑な経済現象を対象とする比重が増している会計学を確実に理解するために、その基礎理論を各自の中に確立しておけば、基礎理論に立脚した論理性のある立論を行うことができる。すなわち、高度専門的かつ複雑な経済現象を会計的にどのようにとらえるかについて、受講生は明確に自己の考え方を主張できるという効果が期待される。 なお、本講義は、会計学基礎演習受講生を主な対象としているが、会計学の基礎理論をより深く学びたい経営学部3・4年生も受講可能である。
到達目標	1. 財務会計の基礎理論について、専門用語の定義、意義を説明できること。 2. 会計基準の設定趣旨、目的、内容を的確に説明できること。 3. 最新の会計トピックスについて、その基本にある考え方を説明できること。
講義方法	会計力を自己のアイデンティティの一つとするためには、与えられたテーマについて、検討すべき論点を漏れなく適切に指摘し、各論点の意義を整理したうえで、解決策を独自に提案できることである。 本講義は、この能力を育成する基礎として、下記講義構成で掲げたテーマに関しておさえておくべき論点を解説したうえで、受講生がその内容を的確に把握できるように問題演習を行う。 論点については講義形式で、問題演習については受講生の解答を添削する形式でそれぞれ授業を進める。
準備学習	次回に学習する内容について、基礎的な文献を熟読しておくこと。
成績評価	出席状況、授業での報告内容および討議への参加状況を総合的に評価する。なお、出席回数が24コマに満たない者は不可とする。
講義構成	1. 財務会計の意義と機能に関する論点解説 2. 財務会計の意義と機能に関する問題演習 3. 財務会計の基礎概念(会計公準・会計主体論)に関する論点解説 4. 財務会計の基礎概念(会計公準・会計主体論)に関する問題演習 5. 財務会計の基礎概念(利益概念・概念フレームワーク)に関する論点解説 6. 財務会計の基礎概念(利益概念・概念フレームワーク)に関する問題演習 7. 企業会計制度と会計基準(会社法会計)に関する論点解説 8. 企業会計制度と会計基準(会社法会計)に関する問題演習 9. 企業会計制度と会計基準(金融商品取引法会計)に関する論点解説 10. 企業会計制度と会計基準(金融商品取引法会計)に関する問題演習 11. 企業会計制度と会計基準(企業会計原則・企業会計基準・IFRSs)に関する論点解説 12. 企業会計制度と会計基準(企業会計原則・企業会計基準・IFRSs)に関する問題演習 13. 資産会計総論(資産の意義・資産の分類)に関する論点解説 14. 資産会計総論(資産の意義・資産の分類)に関する問題演習 15. 資産会計総論(資産の評価・費用配分の原理)に関する論点解説 16. 資産会計総論(資産の評価・費用配分の原理)に関する問題演習 17. 流動資産に関する論点解説 18. 流動資産に関する問題演習 19. 固定資産に関する論点解説 20. 固定資産に関する問題演習 21. 繰延資産に関する論点解説 22. 繰延資産に関する問題演習 23. 負債に関する論点解説 24. 負債に関する問題演習 25. 引当金に関する論点解説 26. 引当金に関する問題演習 27. 純資産に関する論点解説 28. 純資産に関する問題演習 29. 収益と費用に関する論点解説 30. 収益と費用に関する問題演習
教科書	本講義においては教材を指定しない。毎回、オリジナルの教材を配布し、また、問題演習用の問題も配布する。なお、各テーマについて参照すべき文献については個々に指導する。
その他	本講義は、2010年8月から9月にかけて集中講義で実施する。具体的な講義日程は、7月末日までに掲示する。なお、毎週2日間、1日2コマ連続での授業を実施する。

授業コード	51069
-------	-------

授業科目名	会計プロフェッションセミナーⅡ		
担当者名	伊豫田隆俊(イヨダ タカトシ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(火曜3限)
特記事項	会計プロフェッションセミナーⅠを履修済みのものが登録できる。		
オフィスアワー	月曜日、火曜日、木曜日の午後0時半～1時半を原則とするが、必要に応じて適宜面談を行う(ただし、事前の appointments をとること)。		

講義の内容	会計プロフェッションセミナーⅠで修得した知識にもとづき、具体的な事例や問題を利用しながら財務諸表の重要事項についての理解を深めていく。ここでは、とくに会計的な思考にもとづく見方・分析や判断の涵養に重点を置いており、受講者間の討議や担当教員との個別的な質疑・応答を通じて、より高度な会計的能力を身につけることができるよう講義する。
到達目標	利益計算構造の理論的基礎について理解すること、わが国の会計概念フレームワークについて理解すること、および国際会計基準について理解することを目的とする。
講義方法	具体的な方法については受講生の希望を取り入れながら決めていくが、例えば、学生の中から予め報告者を数名指名しておき、授業の前半でそれぞれの報告者が指定された問題ないし事項について解説し、その後、受講者間での質疑・応答を通じて問題ないし事項についての理解を深めるとともに、関連事項について担当教員が解説を施すといった方法を考えている。
準備学習	報告ないしディスカッションのための予習が必要である。
成績評価	レポートの内容および講義への参加態度等を総合的に勘案しながら評価する。配点の目安はそれぞれ50%とする。
講義構成	第1講 テーマ: 利益概念の理論的枠組み(1) 概 要: 会計目的観の変遷と利益概念の変化について学習する。 第2講 テーマ: 利益概念の理論的枠組み(2) 概 要: 会計目的間の変遷と利益概念の変化について学習する。 第3講 テーマ: 利益計算構造の理論的枠組み(1) 概 要: 現行制度の下における利益計算の理論構造について学習する。 第4講 テーマ: 利益計算構造の理論的枠組み(2) 概 要: 現行制度の下における利益計算の理論構造について学習する。 第5講 テーマ: 利益検査構造の理論的枠組み(3) 概 要: 現行制度の下における利益計算の理論構造について学習する。 第6講 テーマ: 連結計算書の作成(1) 概 要: 連結計算書の作成に関する基礎理論について学習する。 第7講 テーマ: 連結計算書の作成(2) 概 要: 連結計算書の作成方法について学習する。 第8講 テーマ: 連結計算書の作成(3) 概 要: 連結計算書の作成方法について学習する。 第9講 テーマ: 財務諸表の作成と開示(1) 概 要: 財務諸表の作成と開示に関する理論および制度について学習する。 第10講 テーマ: 財務諸表の作成と開示(2) 概 要: 第11講財務諸表分析の基礎的手法について学習する。 テーマ: 国際会計基準(1) 概 要: 国際会計基準の生成と展開について学習する。 第12講 テーマ: 国際会計基準(2) 概 要: 国際会計基準をめぐるEU、米国およびわが国の対応について学習する。 第13講 テーマ: 国際会計基準とわが国会計基準(3)

	概 要:国際会計基準のコンバージェンスに伴うわが国企業会計基準の変容とその内容について学習する。 第14講 テーマ:国際会計基準とわが国の会計基準 概 要:国際会計基準のコンバージェンスに伴うわが国企業会計基準の変容とその内容について学習する。 第15講 テーマ:講義内容の総括と復習 概 要:第1講から第14講の内容を総括するとともに、理解の不十分な論点等について解説を行う。
教科書	桜井久勝著「財務会計講義」中央経済社を利用する予定であるが、第1回目の講義で学生と協議の上、決定することにした。
参考書・資料	染谷恭次郎『現代財務会計』(中央経済社・2004年) 新井清光『財務会計論』(中央経済社・2004年) 中村宣一郎・高尾裕二『エッセンシャル企業会計』(中央経済社・2004年) 会計法規集(中央経済社・2004年度版) その他、必要に応じて資料を配付するとともに、適宜参考資料について指示する。
講義関連事項	受講生の数および希望によっては講義内容がシラバスと変わりうる可能性がある。
担当者から一言	会計学は経済社会を理解するうえでの必須科目です。会計学を通じて世の中を見通す力を身につけることができるよう、一緒に楽しく学習しましょう。

授業コード	51055		
授業科目名	会計プロフェッション入門a(前)		
担当者名	中西優夫(ナカニシ シズオ)、辻井一磨(ツジイ カズマ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限 金曜3限
特記事項	テーマ:商業簿記 事前申請科目 受講希望者は履修要項を参照して申請してください。 なおこの科目は、2007年度以前入学生用科目です。 講義内容は「APアカウンティング・プロフェッション基礎a」と同一で、講義は合同クラスで行います。		
オフィスアワー	金曜日17時20分～19時00分		

講義の内容	当講義は日商簿記2級を合格または同等以上の学力があると認められた学生が、商業簿記及び会計学において、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。具体的には日商簿記1級の内商業簿記・会計学の連結を除く全体領域の前半部分に関する計算問題の答案演習と解説(理論的な解説を含む)を通じて各自自主的に課題に取り組む能力獲得を講師がサポートする形で進めます。
到達目標	日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。2011年11月の日商簿記の1級合格を具体的な目標としています。
講義方法	講師は2人体制とし、講義の1コマ目は前半、ミニテスト(標準15分間)と問題解説、後半新しいテーマについてクラス全体での設例演習を中心とした講義とし、2コマ目は新しいテーマの演習問題の答案練習を実施します。 また復習問題として課題を指定し、次の講義の開始時に課題の提出とする予定です。なおクラスを4人1組のグループに分け、グループ討議、グループ演習を実施する場合もあります。
準備学習	講座開始前に2級の領域を復習しておいてください。また各回とも習熟度を確認するためのミニテストを実施しますので前回の内容を確実に復習しておくとともに、当該分に充分目をとうしておくことを心がけてください。
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。
講義構成	1 全体の流れと概要解説・2級復習① 2 2級復習②・総合計算問題 3 簿記一巡の手続き 4 商品売買の会計処理と原価率・利益率 5 棚卸資産 6 割賦販売 7 委託販売4 8 一般原則その他の基本原則

	9 工事契約 10 総合演習問題① 11 現金預金 12 金銭債権・貸倒引当金 13 有価証券 14 総合問題②
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株) 企業会計原則の全文を準備しておいてください。 問題演習教材については講義開始時に指定します。また決定次第シラバスを修正しますので留意してください。
参考書・資料	「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅰ) Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ) Ver.7.0」TAC(株)
講義関連事項	各テーマについて関連する日商2級の範囲も復習します。 ミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で示します。
担当者から一言	クラスの習熟度に応じて、進捗度が前後する場合があります。 財務会計は現代経済社会の基本です。日商簿記の1級に合格して、現代経済社会を前向きに自信を持って進めるようにともに頑張りましょう。

授業コード	51056		
授業科目名	会計プロフェッション入門b(後)		
担当者名	篠藤敦子(シノトウ アツコ)、辻井一磨(ツジイ カズマ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限 金曜3限
特記事項	テーマ: 会計学 事前申請科目 受講希望者は履修要項を参照して申請してください。 なおこの科目は、2007年度以前入学生用科目です。 講義内容は「APアカウンティング・プロフェッション基礎b」と同一で、講義は合同クラスで行います。		
オフィスアワー	授業の際に、事前にアポイントメントをとってください。		

講義の内容	当講義は、日商簿記2級を合格または同等以上の学力があると認められた学生が、商業簿記及び会計学において、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。具体的には、日商簿記1級のうち商業簿記・会計学の連結を除く全体領域の後半部分に関する計算問題の答案演習と解説(理論的な解説を含む)を通じて、各自が自主的に課題に取り組み解決する能力の獲得を、講師がサポートする形で進めます。
到達目標	日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。2011年11月の日商簿記1級の合格を具体的な目標としています。
講義方法	講師は2人体制とし、講義の1コマ目の前半はミニテスト(標準15分間)と問題解説、後半は新しいテーマについてクラス全体での設例演習を中心とした講義とし、2コマ目は新しいテーマの演習問題の答案練習を実施します。 また、復習問題として課題を指定し、次回の講義の開始時に課題の提出とする予定です。なお、クラスを4人1組のグループに分け、グループ討議、グループ演習を実施する場合があります。
準備学習	講義開始前に2級の領域を復習しておいてください。また、各回とも習熟度を確認するためのミニテストを実施しますので、前回の内容を確実に復習しておくとともに、当該分の内容にも十分に目を通しておくことを心がけてください。
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。
講義構成	1 有形固定資産 2 リース取引・無形固定資産 3 繰延資産・研究開発費 4 引当金 5 退職給付会計 6 社債 7 純資産 8 総復習

	9 デリバティブ取引 10 外貨換算会計 11 税効果会計 12 本支店会計 13 企業結合・合併 14 株式交換・会社の分割
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ)Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ)Ver.7.0」TAC(株) 企業会計原則の全文を準備しておいてください。 問題演習教材については、講義開始時に指定します。また、決定次第シラバスを修正しますので留意してください。
参考書・資料	「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅱ)Ver.7.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 商業簿記・会計学(Ⅲ)Ver.7.0」TAC(株)
講義関連事項	各テーマについて、関連する日商簿記2級の範囲も復習します。 ミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で示します。
担当者から一言	クラスの習熟度に応じて、進捗度が前後する場合があります。 財務会計は、現代経済社会の基本です。日商簿記1級に合格して、現代経済社会を前向きに自信を持って進めるようにともに頑張りましょう。

授業コード	51057		
授業科目名	会計プロフェッション入門c(前)		
担当者名	古田清和(フルタ キヨカズ)、中安富紀子(ナカヤス フキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限 水曜3限
特記事項	事前申請科目 ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	当講義は日商簿記2級を合格または同等以上の学力があると認められた学生が、工業簿記及び原価計算において、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。
到達目標	日商簿記検定の2級の復習から開始し、1級へ向けて足固めをします。原価計算基準に慣れるとともに問題の解答パターンを覚えるのではなく、解くための考える力を養えるようにすることが必要です。
講義方法	講師は2人体制とし、講義の前半はミニテストと講義とし、後半でミニテストの講評と解説及び演習問題の答案練習を実施します。ミニテスト及び演習問題の答案練習は個人別に行います。 また復習問題として課題を指定し、次回の講義の開始時に課題の提出とする予定です。なおクラスを4人1組程度のグループに分け、グループ討議、グループ演習を実施する場合もあります。
準備学習	講座開始前に2級の領域を復習しておいてください。また各回とも習熟度を確認するためのミニテストを実施しますので前回の内容を確実に復習しておくとともに、当該分に充分目を通しておくことを心がけてください。
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。
講義構成	1 全体の流れと概要解説・二級の復習1 2 二級の復習2・総論原価計算基準 3 原価記録と財務諸表 4 個別原価計算 5 材料費会計 6 労務費会計 7 経費会計 8 製造間接費会計1 9 製造間接費会計2 10 原価の部門別計算1 11 原価の部門別計算2 12 個別原価計算における仕損 13 総合原価計算の基礎 14 仕損・減損が生じる場合の計算

教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅰ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 原価計算基準の全文を準備しておいてください。(3/24シラバス修正)
参考書・資料	追加の問題演習教材については講義開始時に 指示します。
講義関連事項	各テーマについて関連する日商簿記2級の範囲も復習します。 ミニテストの結果を参考にして、必要な資料等は講義の中で示します。

担当者から一言	習熟度に応じて、進捗度が前後する場合があります。 原価計算は製造業のものづくりの基本です。日商簿記の1級に合格して日本の製造業やその先にある管理会計の世界に進めるようにともに頑張りましょう。
---------	--

授業コード	51058		
授業科目名	会計プロフェッション入門d(後)		
担当者名	村田智之(ムラタ トモユキ)、田邊宏嗣(タナベ コウジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限 水曜3限
特記事項	テーマ:原価計算 事前申請科目 受講希望者は履修要項を参照して申請してください。 なおこの科目は、2007年度以前入学生用科目です。 講義内容は「APアカウンティング・プロフェッション基礎d」と同一で、講義は合同クラスで行います。		
オフィスアワー	水曜昼休み		

講義の内容	当講義は日商簿記2級を合格または同等以上の学力があると認められた学生が、工業簿記及び原価計算において、日商簿記1級に合格できる計算能力と理論的基礎を獲得し、将来会計プロフェッションへの道に進むための基礎を築くことを目的とします。
到達目標	日商簿記1級合格のための基礎力の取得を目的とします。
講義方法	講師は2人体制とし、講義の前半はミニテストと設例中心の講義とし、後半はミニテストの講評と解説及び演習問題の答案練習を実施します。ミニテスト及び演習問題の答案練習は個人別に行います。また復習問題として課題を指定し、次の講義の開始時に提出する予定です。なおクラスを4人1組程度のグループに分け、グループ討議、グループ演習を実施する場合があります。
準備学習	テキスト及びトレーニング(問題集)の講義範囲の内容を予め予習し、理解が十分でなかった部分を講義で確認するようにして下さい。また、各回とも前回までの習熟度を確認するためのミニテストを実施しますので、予習→講義→範囲の復習を継続する必要があります。
成績評価	「出席状況」、「ミニテスト」、「課題の提出」、「期末試験」を総合評価します。
講義構成	1 工程別総合原価計算 2 組別・等級別総合原価計算 3 連産品の原価計算 4 標準原価計算の基礎(1) 5 標準原価計算の基礎(2) 6 標準原価計算における仕損・減損(1) 7 標準原価計算における仕損・減損(2) 8 原価差異の会計処理と標準の改訂 9 直接原価計算 10 直接標準原価計算 11 企業予算の編成 12 CVP分析 13 最適セールス・ミックスの決定 14 総復習
教科書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅱ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ) Ver.4.0」TAC(株) 「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記1級 工業簿記・原価計算(Ⅲ) Ver.4.0」TAC(株)

	問題演習教材につきましては、講義開始時に指示します。教科書の追加があった場合には、シラバスを適時修正しますので、留意して下さい。
参考書・資料	教科書に加えて、会計法規集等を参考に使用場合があります。
講義関連事項	各テーマについて関連する日商簿記2級及び前期履修内容の復習を実施します。ミニテストの結果を参考にし、必要な資料等は講義の中で示しますが、教科書、参考書(合格テキスト1級Ⅰ、合格トレーニング1級Ⅰを含む)は必ず持参して下さい。
担当者から一言	本講義における原価計算は、財務意思決定に関する基本的事項を履修範囲とし、管理会計や経営戦略策定にも応用可能な領域です。日商1級にまずは合格できる知識を取得し、その後は知識を深耕してゆきましょう。

授業コード	51Q11		
授業科目名	外書講読(1クラス)(後)		
担当者名	古田美保(フルタ ミホ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限 金曜2限
特記事項	(2クラス)との重複履修は出来ない。		

講義の内容	財務会計ないし税法に関する英語文献の熟読
到達目標	英語文献の通読を通じて、国際的な共通項及び各国の特徴について考え、議論できるようになることを目標とする。
講義方法	テキストについてレジュメを作成してもらい、その報告と議論を行う
準備学習	テキストの事前通読および問題点・疑問点の洗い出しと、担当者はレジュメの作成は必ず講義開始までに行うこと
成績評価	各自の報告および議論の内容と期末のレポートにより評価する
講義構成	第1回 テキストの決定と担当範囲の決定 第2回以降 担当者による報告と議論 ※ 詳細については初回講義時に指示する。
教科書	初回開講時に受講者と相談のうえ決定したい

担当者から一言	受講希望者は初回開講時に必ず出席すること 報告担当者のレジュメ報告はもちろんのこと、受講者全員による討論を重視する 積極的に参加すること
---------	--

授業コード	51Q12		
授業科目名	外書講読(2クラス)(後)		
担当者名	林 満男(ハヤシ ミツオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	(1クラス)との重複履修は出来ない。		
オフィスアワー	火曜日12:10～13:00 木曜日13:00～14:30		

講義の内容	ドイツの専門文献を読むことにより、日米流の経営学に見られない経営学の考え方、理念、哲学に触れ、経営問題についての新たな、角度の違った、また一層多面的な見方や思考方法、発想を学ぶ。
到達目標	ドイツ語専門文献の読解力の修得。
講義方法	いくつかの重要なドイツ語文献を講読する。
準備学習	ドイツ語文法、語彙、基礎構文などに関する知識を習得しておく。
成績評価	出欠状況とレポート、試験による。
講義構成	1.近代の経済経営問題についての基本的な考えを検討するために、まず以下の文献を講読する。

	Peter Ulrich, " Transformation der oekonomischen Vernunft — Fortschrittsperspektiven d er Industriegesellschaft " 1993 これを踏まえながら、適宜、経営学の諸問題に関する、できるだけ一般的な関連ドイツ文献を講読する。 2.その際、受講生の読解力のレベルによっては、ドイツ語文の文脈理解の訓練のために、独和对訳書も使用する。 3.受講生のドイツ語読解力の程度を勘案し、できるだけ受講生の希望に沿って、1.と2.のバランスを調整しながら講義を進めたい。
教科書	Peter Ulrich, " Transformation der oekonomischen Vernunft — Fortschrittsperspektiven d er Industriegesellschaft " 1993
参考書・資料	上記「講義構成」参照
講義関連事項	講義は後期にあるので、夏休みの終わりまでに、できるだけドイツ語の基礎力・読解力をつける勉強をしておいて下さい。
担当者から一言	(ドイツ語に限らないことですが)、英語以外の外国語による経営学の勉強のおもしろさを一緒に楽しみましょう。

授業コード	51028		
授業科目名	監査論（後）		
担当者名	伊藤公一（イトウ キミカズ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限 水曜2限

講義の内容	この授業は、金融商品取引法や会社法に基づく監査制度について、その目的、意義、内容についての基礎知識を修得することを目指す。授業に際しては、できるかぎり会計・監査に関するトピックスをとりあげて、具体的に解説します。
到達目標	現代の監査における基本的な考え方、監査手続、およびわが国の監査を規定する制度の概要を説明することができる。
講義方法	授業の方法は、教科書にもとづいて、監査論を理解するために必要な基本的な論点を解説します。解説にあたっては、できるかぎり具体的な事例にもとづき学生諸君が身近に理解できるよう配慮します。
準備学習	特にありません。財務会計について基本的な知識があればより望ましい。
成績評価	原則として期末試験の結果にもとづいて評価を行います。
講義構成	第1回 監査保証業務の意義と枠組み（監査の種類と枠組み） 第2回 監査保証業務の意義と枠組み（監査の必要性） 第3回 監査の歴史的発展（イギリス・アメリカ） 第4回 監査の歴史的発展（意思決定保証の時代） 第5回 金融商品取引法監査制度（旧証券取引法の歴史的発展） 第6回 金融商品取引法監査制度（金融商品取引法監査） 第7回 会社法監査制度（会計監査人監査） 第8回 会社法監査制度（コーポレートガバナンスと会社法） 第9回 監査慣行と監査基準（会計監査の機能） 第10回 監査慣行と監査基準（監査基準） 第11回 監査リスクとリスク・アプローチ（会計監査のプロセス1） 第12回 監査リスクとリスク・アプローチ（監査リスク・モデル） 第13回 経営環境および内部統制の評価（経営環境の理解） 第14回 経営環境および内部統制の評価（内部統制の評価） 第15回 監査における立証命題の構成（リスク・アプローチにおける監査判断） 第16回 監査における立証命題の構成（リスク・アプローチの限界） 第17回 監査の実施方法（監査のプロセス2） 第18回 監査の実施方法（監査手続） 第19回 監査の証明機能とコミュニケーション機能（監査の証明機能） 第20回 監査の証明機能とコミュニケーション機能（監査のコミュニケーション機能） 第21回 監査結果の報告（監査意見の形成） 第22回 監査結果の報告（監査報告書） 第23回 連結財務諸表監査（連結会計基準と監査） 第24回 連結財務諸表監査（連結会計監査の特質） 第25回 ゴーイング・コンサーン監査の意義（継続企業の前提） 第26回 ゴーイング・コンサーン監査の意義（ゴーイング・コンサーンに関する監査判断）

	第27回 企業の不確実性情報と監査(企業の不確実性情報) 第28回 企業の不確実性情報と監査(不確実性情報に関する監査の特質) 第29回 四半期レビュー 第30回 保証業務
教科書	内藤文雄『財務諸表監査の考え方』第2版 税務経理協会(2010) および 盛田, 百合野, 朴『まなびの入門監査論』第3版 中央経済社 (2010)
担当者から一言	昨今、監査が正しく行われていれば未然に防げたと思われる重要な経済事件が生じています。本講義を通じて監査の現代的な意義とその必要性を理解していただきたい。

授業コード	51027		
授業科目名	管理会計(後)		
担当者名	杉山善浩(スギヤマ ヨシヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜2限
オフィスアワー	月曜日と火曜日の昼休み		

講義の内容	会計情報などを利用して、企業などの組織が戦略を遂行するために行う「意思決定」および「業績管理」に関する知識を講義します。具体的には、コスト・マネジメントを対象領域とする原価管理会計の各項目(ABC, 標準原価計算など)、意思決定会計の各項目(資本予算、関連収益・原価分析など)、業績管理会計の各項目(予算管理、業績評価など)について説明を加えます。
到達目標	・会計情報(とくに、コスト関連の情報)に関する知識を深める。 ・会計情報を有効に活用し、企業における「意思決定」や「業績管理」を合理的かつ賢明に行う。
講義方法	講義形式により授業を行います。パワーポイントとプリントによる授業となりますが、補助教材としてビデオを利用します。企業における管理会計実務の具体例は、授業中に上映するビデオ教材から学習します。
準備学習	(1)履修条件 日本商工会議所主催の簿記検定における「商業簿記3級」程度、「工業簿記2級」程度の基礎知識を必要とします。この基礎知識のない者は、授業内容の理解が困難であり、単位の取得は容易ではないでしょう。 (2)授業時間外における学習方法 ・ 上記の基礎知識を習得するように努めてください。 ・ 板書事項やプリント内容を復習してください。 ・ 新聞の経済や産業の欄を日頃から読み、企業行動に注目しておいてください。
成績評価	後期試験(90%)、授業中に作成するレポート(10%)により成績を評価します。なお、後期試験を受験しない者の評価は「欠席」となります。
講義構成	第1回 管理会計とは何か 第2回 原価企画 第3回 環境コストマネジメント 第4回 ライフサイクル・コストニング 第5回 ベンチマーキング 第6回 価格決定 第7回 バランスト・スコアカード 第8回 ABC/ABM 第9回 品質コストマネジメント 第10回 資本予算 第11回 CVP分析 第12回 予算管理 第13回 ミニ・プロフィットセンター 第14回 業績評価 第15回 標準原価計算
教科書	特定の教科書は使用しません。必要に応じて、下記の参考書を参照してください。
参考書・資料	岡本 清, 廣本敏郎, 尾畑 裕, 挽 文子著『管理会計 第2版』中央経済社, 2008年。 加登 豊編『インサイト管理会計』中央経済社, 2008年。

授業コード	52017		
授業科目名	管理会計応用演習		
担当者名	頼 誠(ヨリ マコト)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜1限)、後期(月曜1限)
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		

講義の内容	最初に将来の進路を踏まえた、今後の予定をきき、演習の方法を決める。基本的に公認会計士試験の範囲を意識して、下記の文献を教科書として使用し、輪読する予定である。あらかじめ割り当てられた各章の要約だけでなく、他の専門書で調べた内容、考えた事、を文章にし、発表してもらう。プレゼンテーションの練習である。発表に際しては、発表者だけでなく、全員参加が必要である。最低でも、教科書は読んできて、疑問・意見をもって授業に臨むこと。討論しなければ、演習としての意味がないと考える。なお、インターネットは、文献検索だけに使用すること。資料は専門書か論文を利用すること。
到達目標	「管理会計応用演習」では、上記のような「教育内容」によって、暗記型ではなく思考型の教育に重きをおき、質問の切り口を変えても柔軟に対応しうる能力を開発することをめざしている。
講義方法	基本的に公認会計士試験の範囲を意識して、下記の文献を教科書として使用し、輪読する予定である。
準備学習	日商簿記検定2級程度の実力をもっていること。
成績評価	受講生の出席・報告・質疑応答・レポートなどの内容から総合的に評価する。
講義構成	第1～第3回 管理会計の基礎 第4回～第6回 戦略的経営と利益管理のシステム 第7回～第9回 経営効率化のためのコスト・マネジメント 第10回～第12回 経営意思決定のための管理会計 第13回～第15回 管理会計の新しい課題
教科書	櫻井通晴著『管理会計 第4版』同文館の予定。 参考文献は随時紹介する。問題集などを使用する場合もある。

授業コード	51A01		
授業科目名	基礎演習(林)(前)		
担当者名	林 満男(ハヤシ ミツオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	火曜日12:10～13:00、木曜日12:10～13:00		

講義の内容	経営学の基礎知識を修得する。特に経営学的に社会を見る目を養いたい。
到達目標	企業経営の基本知識を習得し、それとの関わりで社会や自分自身の人生、生き方について考える能力を身につける。
講義方法	開講時に最新・最適のテキストを用い、その内容の説明と解釈を中心とする。新聞記事やビデオも利用したい。
準備学習	テレビや新聞、雑誌などの、興味を持てる企業経営問題の記事を注意して見たり読んだりする習慣を身につけておく。
成績評価	講義中の態度及びレポートの評価を中心とする。
講義構成	4月:企業経営の概略についての説明。 5月:関連分野に関する資料、文献の紹介。 6月:経営学の諸領域の個別、全般、体系の理解の養成。 7月:各受講者の関心に基づくテーマによるレポートの作成。
教科書	講義中に指示する。
参考書・資料	講義中に指示する。

担当者から一言	基礎知識の確実な修得があって、その上でこそ、初めて経営学の勉強も興味あり楽しいものとなります。
---------	---

授業コード	51A02		
授業科目名	基礎演習（赤石）(前)		
担当者名	赤石雅弘（アカイシ マサヒロ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	火曜日 12:20～13:00		

講義の内容	基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探求し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。		
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。		
講義方法	経営学の入門的なテキストの輪読と討論——テキストの各章を2～3人で構成する班に割り当て、担当班の報告（発表）とそれ以外の各班からの質問をもとに議論を進める。		
準備学習	使用テキストの予習と復習。		
成績評価	(1)出席状況、(2)受講態度（発表時の発表内容と質問の提出状況）、(3)レポートにより、総合的に評価する。		
講義構成	使用するテキストの章構成に沿って進める。		
教科書	未定。開講時に指示する。		
参考書・資料	その都度紹介・配布する。		

授業コード	51A03		
授業科目名	基礎演習（中丸）(前)		
担当者名	中丸寛信（ナカマル ヒロノブ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	火曜日 12:20～13:00		

講義の内容	基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミである。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探求し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学ぶ。		
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。		
講義方法	20名程度の少人数教育であるため、グループによる発表や質疑応答を積極的に取り入れながら授業を行う。		
準備学習	授業で取り上げるテーマについての参考文献をリサーチし、その中で各自の関心がある分野の基礎的内容を事前に理解する。また、発表の際にはレジュメを用意してもらう。		
成績評価	発表、質疑応答のあり方、レポート提出、出席状況などを総合的に判断して評価する。		
講義構成	・講義の目的、方法、内容、進め方などについての説明。 ・図書館ツアー、サイバーツアーによる文献リサーチの方法などの学習。 ・各自の関心のリサーチと基本的文献の探索。 ・各自またはグループによる発表、および、全員による検討。 ・提出レポートの発表とコメントなど。		
教科書	授業開始時に示す。		

参考書・資料	授業の中で適宜参考文献・資料を示す。
担当者から一言	さまざまな社会的問題が私たち一人ひとりに、また世界に何を問いかけられているかについて主体的に考えるための予備知識として、毎日、日本経済新聞などを読む習慣をつくってほしい。

授業コード	51A04		
授業科目名	基礎演習（廣山）(前)		
担当者名	廣山謙介(ヒロヤマ ケンスケ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	月曜5限、木曜4限。共に9号館5階の研究室で。		

講義の内容	基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探索し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。
講義方法	大学での座学と自宅でのコンピュータなどを利用した学習によって基礎的能力を涵養する。演習中は学生同士の積極的な討論を大切にする。
準備学習	演習時に指示された内容についてのレポートを作成し次回演習前の日曜日までにMy KONANの課題提出機能で提出すること。
成績評価	出席評価(3回以上欠席は原則不可)、提出課題の評価と授業中の質疑応答などを総合的に判断し評価する。
講義構成	時宜に応じた内容を検討する科目であり、演習中に次回の内容を指示する。変動する現代社会を経営学的視点からどのように切るのかを考える経営学の導入演習である。
教科書	特に指示しない。配布資料や演習中に指示する文献を利用した演習である。
参考書・資料	卒業まで使える『経営学辞典』を購入すること。毎回、英和辞書などを持参すること。
講義関連事項	各自、基礎演習中のメモ事項や課題などを毎回プリントアウトし管理すること。プリントアウトは綴じて一冊のノートとして、毎回持参すること。国際基準の用紙A4版に記入する癖を今のうちにつけておいて欲しい。
担当者から一言	仲よくして友達を多くつくりましょう。
その他	ホームページなどは初回に指示する。

授業コード	51A05		
授業科目名	基礎演習（馬場）(前)		
担当者名	馬場大治(ババ タイジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探索し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。
講義方法	テキストの輪読。
準備学習	報告者は担当箇所を十分に理解し、レジメを作成してくる。担当者にあたっていない場合は、テキストの該当箇所

	所を事前に予習し、質問を考えてくる必要がある。
成績評価	受講態度・レポート等により評価する。
講義構成	テキストに沿って講義を進める。
教科書	経営学全般に関する初歩的なテキストを利用するが、詳細は開講時に指示する。
担当者から一言	新入生諸君へ 演習形式の講義は、講義には毎回必ず出席し、そして、出席しているだけではなく、授業中に積極的に発言して議論に参加することが要求されます。

授業コード	51A06		
授業科目名	基礎演習（倉科）(前)		
担当者名	倉科敏材(クラシナ トシキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	火曜日16時～水曜日10時から12時		

講義の内容	基礎演習は、経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探索し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます		
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。		
講義方法	到達目標を達成するために必要な担当教員や専門家による講義や図書館やインターネットを活用した実務的作業を行う。また具体的なテーマをベースに各自がプレゼンテーション資料を作成し、討議が行えるようにする。		
準備学習	自らプレゼンテーション資料を作成する作業があるため授業時間だけではなく準備学習が必要とされる。		
成績評価	出席率:30 % 授業時における対応:20% 研究発表内容:50%		
講義構成	講義・現場実習:50% 学生による自主的な研究・発表:50%		
教科書	特になし		
参考書・資料	各自の研究テーマの内容および進行に応じて提示する		

授業コード	51A07		
授業科目名	基礎演習（布上）(前)		
担当者名	布上康夫(ヌノカミ ヤスオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	火曜日 12:30から13:00		

講義の内容	(1)[講義内容] 基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探索し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。		
到達目標	(2)[到達目標] ①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。 報告の仕方、レポートの書き方、資料の収集能力の養成などを重視しながら、経営学の体系を理解するのに必		

	要不可欠な基本的な知識を学習する。
講義方法	テキストの内容の報告とそれに対する質疑応答を中心に進める。
準備学習	図書館やインターネットを利用して関連したテーマについての情報を収集しておくこと。
成績評価	出席状況、報告、レポートを総合して評価する。
講義構成	1. 講義の概要 2. 企業の役割 3. 企業の理解 4. 企業のイメージ 5. 起業について 6. 企業の環境対応 7. 経営資源 8. 経営者の仕事 9. 企業の仕組み 10. 情報管理 11. 研究開発管理 12. 生産管理 13. マーケティング 14. 財務管理 15. 人間の管理
教科書	経営学を楽しく学ぶ 斉藤 毅憲 中央経済社
参考書・資料	講義中に必要に応じてその都度紹介する。
担当者から一言	報告と質疑応答を中心に講義を進めるので、毎回の出席を義務づける。また、報告者以外の全員にも毎回B5版1ページ程度のレポートの提出を義務づける。

授業コード	51A08		
授業科目名	基礎演習(安積)(前)		
担当者名	安積敏政(アサカ トシマサ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	月曜日10:30-12:30		

講義の内容	経営学の入門編として、国際ビジネスの基礎を国・地域研究の中から学ぶ。特に米国、EU、BRICS(ブラジル、ロシア、インド、中国)の6カ国・地域を先進国市場、新興市場、成長市場のビジネスチャンスという経営視点から理解する。
到達目標	大学での勉学のマナーを身につける。 必要とする文献や資料(日本語・外国語)を自らの手で検索・入手できる。 限られた時間内に明瞭・簡潔かつ説得力のあるプレゼンテーションをする基本を習得する。 他人や他グループの発表のポイントを把握し、さらに踏み込んだ質問ができる能力を磨く。
講義方法	受講者を6グループに分け、上記6カ国・地域に関する最もポピュラーなビジネス書数冊の購読を課す。(1グループ1カ国・地域を担当、ビジネス書は指定する)。各グループ毎に担当国・地域の研究発表を行い、他グループとの質疑応答に答える。
準備学習	発表にあたっているグループは、前日までグループメンバーと十分調査・討議の上、チャートを完成し、当日持参する。
成績評価	グループ内での研究活動・発表への参画度・貢献度に加えて、他グループ発表に対する討議参画度を総合的に評価する。
講義構成	1. 企業戦略における国・地域研究の重要性 2. 国・地域研究の具体的な方法論と手段 3. グループ別発表と質疑応答及び全員討論
教科書	開講時にグループ別指定する。
参考書・資料	開講時にグループ別に指定する。

担当者から一言	ダイナミックに変化する国際ビジネスの面白さとそこにチャレンジする人のやりがいを学べます。この演習はグループを構成するメンバー間の協力と関係プレーが肝心です。仲間が作れます。
---------	--

授業コード	51A09		
授業科目名	基礎演習（尾形）(前)		
担当者名	尾形真実哉(オガタ マミヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	開講時にお伝えします。		

講義の内容	基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探索し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。
講義方法	与えられた課題にグループで取り組み、それについての発表やディスカッションを行います。また、映像なども使用しながら講義を進めていきたいと思います。
準備学習	事前に与えられた課題などはしっかりとやってきて下さい。
成績評価	出欠、参加態度、課題の質などを総合的に評価します。
講義構成	グループ・エクササイズやグループ・ワークを中心に講義を行っていく。また、フィールドワークや大学の施設見学なども実施したいと思います。
教科書	特に指定はしません。

担当者から一言	楽しく、充実した大学生活を送るためには、沢山の友人を作ることが大切です。本演習での出会いを大切に、本演習を有意義な大学生活を送るためのきっかけにしてください。
---------	---

授業コード	51A10		
授業科目名	基礎演習（シュレスタ）(前)		
担当者名	シュレスタ(シュレスタ マノジュ L.)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	火曜日12:10-13:00		

講義の内容	経済のグローバル化とともに、企業間の競争は過去にない様相をみせている。いかに、その競争優位を確立するのは、企業にとって最大の課題と言えるであろう。目まぐるしく進歩する技術と企業のグローバル化は、我々に、21世紀の企業経営には、標準モデルがあり得ないことを教えてくれる。 本演習では、国内外の企業の経営戦略の検討を通して、現代における組織と戦略のあり方を検討する。
到達目標	総合社会学としての経営学の基本的な知識を事例を通じて深めつつ、資源の最適配分のメカニズム及び組織と戦略の体系を学ぶ。
講義方法	文献の熟読、プレゼンテーション、ディスカッション
準備学習	事前に配布する資料に目を通し、要点を整理して演習に臨むこと。
成績評価	出席、プレゼンテーション、ディスカッション、レポートの質を総合的に評価する。
講義構成	演習開講時に指示する。
教科書	演習開講時に指示する。
参考書・資料	演習開講時に指示する。

授業コード	51A11		
授業科目名	基礎演習（河野）(前)		
担当者名	河野昭三(コウノ ショウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	基礎演習は経営学の考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的な学習ではなく、受講生は大学での学習の基本である「自ら進んで必要な知識を探索し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。
講義方法	受講者全員が、毎回、指定項目についてレジュメを提出し、討議する。
準備学習	下記の参考書を授業の前・後に読んでおくこと。
成績評価	出席状況、受講態度、レポート内容などをもとに、総合的に評価する。
講義構成	テキストの各項目についてのレジュメ報告と討議により、企業経営の基本思考を学びつつ、学習マナーや論理的思考力を身につける。 第1回：オリエンテーション 第2回：経営力ということ、得心のいく仕事、苦情を生かす 第3回：とりやめた技術導入、不景気には時を待つ、暖簾 第4回：仕入れのコツ、信用を増す売り方、自己資金の範囲で 第5回：サービスできる範囲で商売を、厳しいお得意先、儲けを認めていただく 第6回：不良をなくす、物心ともの貢献を、宣伝の意義、相手の時間も大切に 第7回：商売にも説得力、予算にとられない、命をかける真剣さ、無形の契約 第8回：歓喜をもって仕事する、自主独立の経営、不景気と人材育成 第9回：仕事の知識や経験だけでは、適材適所、困難を直視する 第10回：謙虚な確信、叱ってもらえる幸せ、命これに従う 第11回：臨床家になれ、魂を入れた教育、上位者に訴える、何事も結構 第12回：分に応じた人を、適正な給与、人事の不満は 第13回：プロの自覚、経営者というもの、課長を辞退する 第14回：やりぬく決意、新入社員でも、奉公に出た専務 第15回：まとめ
教科書	松下幸之助『経営心得帖』
参考書・資料	野矢茂樹『入門！論理学』（中公新書、2006年9月） 学習技術研究会『知へのステップ（改訂版）』（くろしお出版、2009年2月）
講義関連事項	特になし。
担当者から一言	とにかく毎回出席して、新しい知識の習得に喜びを覚えること。 演習室内での私語は一切厳禁。 テキストは初回時に配布する。

授業コード	51A12		
授業科目名	基礎演習（池田）(前)		
担当者名	池田公司(イケダ コウジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		

オフィスアワー	月曜日、火曜日、水曜日、木曜日の講義や会議のない時間帯。
講義の内容	基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探求し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。
講義方法	総ての受講生に報告を割り当て、報告に基づいてディスカッションを行う形式で進める。
準備学習	基礎演習では、総ての受講生に報告を割り当てる。従って、日頃から身近な経営問題に目を向け、報告の題材を探しておくこと。
成績評価	基礎演習でのプレゼンテーションの内容(70%)に、出席態度(30%)を加味して、総合的に評価する。
講義構成	第1講 基礎演習のガイダンス 第2講～第13講 総ての受講生のパワーポイントによる報告と討論 第14講 総括
教科書	なし

授業コード	51A13		
授業科目名	基礎演習(久保田)(前)		
担当者名	久保田秀樹(クボタ ヒデキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	金曜日12時10分～13時		

講義の内容	基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探求し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。
講義方法	教科書の各章を割り当て、各人の報告に私がコメントする形で輪読する。
準備学習	入学時に渡される大学生活に関する各種パンフレット等をしっかり読んでおくこと。
成績評価	課題レポートの提出を求め、それに出席状況、およびゼミの受講態度を加味して成績を評価する。
講義構成	教科書に沿って、貸借対照表、損益計算書およびキャッシュフロー計算書の作成と公開といった財務会計の基礎的領域について学ぶ。
教科書	テキストは、演習開講時に指示する。

授業コード	51A14		
授業科目名	基礎演習(杉山)(前)		
担当者名	杉山善浩(スギヤマ ヨシヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	火曜日の昼休み		

講義の内容	基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探索し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。
講義方法	受講生による報告形式の授業を行います。授業中に受講生の意見を求めることが多々ありますので、十分な予習は欠かせません。
準備学習	新聞の経済や産業の欄を日頃から読み、企業行動に注目しておいてください。
成績評価	出席状況、受講態度、報告、レポートの内容などに基づき、総合的に評価します。なお、受講生が履修を放棄したと見なされる場合の評価は「欠席」となります。
講義構成	第1回 授業の主旨と進め方 第2回 大学で学ぶということ 第3回～第4回 「情報リテラシー」とは 第5回 図書館で本を探す 第6回 図書館で調べる 第7回 資料の保管と分類 第8回 資料の評価と情報の分析 第9回～第11回 プレゼンテーションの方法 第12回～第14回 レポート作成の手順 第15回 まとめ
教科書	特定の教科書は使用しません。適宜、参考書・資料などを指示します。

授業コード	51A15		
授業科目名	基礎演習（若林）(前)		
担当者名	若林公美(ワカバヤシ ヒロミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	火曜日 12:10-13:00 木曜日 12:10-13:00		

講義の内容	基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探索し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。
講義方法	グループでの研究発表、レポート提出、およびディスカッションを行う。
準備学習	テキストをあらかじめ予習し、内容をまとめておく。
成績評価	・レポートの内容 ・発表の内容 ・積極的な発言 ・意欲的な参加姿勢 ・出席と授業態度
講義構成	①ガイダンス ②企業経営の全体像 ③経営学の全体像 ④株式会社の仕組み ⑤日本の雇用制度の仕組み ⑥競争戦略のマネジメント(基本的な考え方)

	⑦競争戦略のマネジメント(違いを作る3つの基本戦略) ⑧多角化戦略のマネジメント ⑨国際化のマネジメント ⑩組織構造のマネジメント ⑪モチベーションのマネジメント ⑫キャリアデザイン ⑬情報システムの事業の仕組み ⑭経営学の広がり
教科書	加護野忠男・吉村典久編「1からの経営学」碩学舎(本体価格 2,400円)他。
担当者から一言	積極的に学び、考察することから得られる喜びや達成感を共有しましょう。

授業コード	51A16		
授業科目名	基礎演習（伊藤）(前)		
担当者名	伊藤公一（イトウ キミカズ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少数人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探索し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。
講義方法	演習ですから、一方通行ではなく、必ず、毎回、すべての受講生からの何らかの発言を求めます。また、必要に応じて受講生同士のグループワークも行います。 大学での学びは高校までと何が違うのか、また、経営学部で自分達は何を学ぶのか、卒業時点で自分はどのようになっているべきなのか、などについての理解の手がかりとなるよう努めます。 また、これからの勉学の方向性を定めるための指針となるように、ビジネス一般についての話題をなるべく幅広く提供しようと考えています。上記到達目標①～③に加えて、ビジネスの根幹をなす会計一般の話、「働く」ことの意味などについても受講生と共に考えたいと思います。
準備学習	特に必要ありません。
成績評価	出席率60%と、発言を中心とする授業への参加の度合い(積極性)(40%)を評価します。
講義構成	1. 高校での学習と大学での学習 2. 大学の「講義」、ノートを取り方 3. 資料の調べ方 4. 学生生活、自由と・・・ 5. 就職と就職活動 6. ビジネス 7. 働くということ 8. 会計とビジネス 9. 「儲け」とは何か 10. 自分のキャリアをデザインしよう 11. 経営学・会計学 12. 自己紹介、「他己」紹介 13. プレゼンテーション 14. 会社を診断する方法 15. 有意義な4年間に向けて
教科書	使用しません。授業中に、参考文献を紹介する場合があります。

授業コード	51A17
-------	-------

授業科目名	基礎演習（鶴身）(前)		
担当者名	鶴身 潔(ツルミ キヨシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	月～金曜日のお昼休み。		

講義の内容	基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探索し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。
講義方法	入門的な文献の輪読、プレゼンテーション、ディスカッション。
準備学習	現実の経済社会の動きに幅広く関心を示して、問題意識をもっておくこと。
成績評価	発表や討論の内容、さらに参加度等によって、成績を評価し決定する。
講義構成	使用するテキスト等の章構成に沿って進める。
教科書	未定。開講時に相談して決める。

URL	http://www.bus.konan-u.ac.jp/tsurumi/
-----	---

授業コード	51A18		
授業科目名	基礎演習（西村）(前)		
担当者名	西村順二(ニシムラ ジュンジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探索し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。
講義方法	経営学の入門的テキストに基づき議論及びプレゼンテーション
準備学習	『経営学のしおり』を熟読のこと。
成績評価	出席状況、受講態度、ディスカッションへの貢献等により総合的に評価する。
講義構成	以下の項目について学習する。 1 イン트로ダクション 2 経営学の基礎—組織 3 経営学の基礎—戦略 4 経営学の基礎—財務 5 経営学の基礎—会計 6 経営学の基礎—マーケティング 7 経営学の基礎—グローバル経営 8 資料収集の方法 9 データ分析の方法 10 データ特性 11 プレゼンテーションの方法 12 プレゼンテーション中間報告

	13 プレゼンテーション内容の検討 14 プレゼンテーション準備 15 プレゼンテーションと評価
教科書	適時指示する。
参考書・資料	『経営学のしおり』 田村正紀(2010)『マーケティング・メトリックス』日本経済新聞出版社。

授業コード	51A19		
授業科目名	基礎演習（三上）(前)		
担当者名	三上和彦(ミカミ カズヒコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	水曜日 12:10~13:00		

講義の内容	基礎演習は経営学の基本的な考え方や方法を学ぶ少人数教育ゼミです。高校までの受動的学習ではなく、受講生は大学での学修の基本である「自ら進んで必要な知識を探索し、報告して、討論する」ことを身につけ、併せて真摯な学習態度を学びます。
到達目標	①大学での勉学マナーを身につけている。 ②講義内容や資料の論旨を明確に理解し、報告・討議できる。 ③必要とする文献や資料を自らの手で検索・入手できる。
講義方法	各回の講義での課題に対して、自らの取り組み、あるいは共同での討議を通じて課題を解決していく。
準備学習	テキスト内容の報告・討論の準備。また普段から日本経済新聞などを活用して興味ある企業やビジネスモデルに関する資料を収集しておくこと。
成績評価	出席状況、演習での参加態度、課題の提出状況によって評価します。出席不足の場合は例外なく単位は認定しませんので注意してください。
講義構成	1. オリエンテーション 2. ビジネスモデルの理解 3. 情報のまとめ方:仮説の設定, 検証 4. レジューメ、レポートの作成 5. プレゼンテーションの仕方
教科書	板橋 悟 (2009)『日経新聞で鍛えるビジュアル思考力』、日本経済新聞社。
担当者から一言	出席、遅刻については講義初日から記録していきます。

授業コード	51A20		
授業科目名	基礎演習（再履修）(前)		
担当者名	赤石雅弘(アカイシ マサヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	再履修クラス		
オフィスアワー	火曜日 12:20～13:00		

講義の内容	経営学の基礎についての学習。
到達目標	テキストに書かれている内容を適切に把握し、理解できるようにするとともに、それをまとめ、発表する力を修得してもらう。
講義方法	経営学の入門的なテキストの輪読と討論——テキストの各章を2~3人で構成する班に割り当て、担当班の報告(発表)とそれ以外の各班からの質問をもとに議論を進める。
準備学習	使用テキストの予習と復習。

成績評価	(1)出席状況、(2)受講態度(発表時の発表内容と質問の提出状況)、(3)レポートにより、総合的に評価する。
講義構成	使用するテキストの章構成に沿って進める。
教科書	未定。開講時に指示する。
参考書・資料	その都度紹介・配布する。

授業コード	55F51		
授業科目名	キャリアゼミ(経営)(後)		
担当者名	中山一郎(ナカヤマ イチロウ)、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	事前申請科目 受講条件: ベーシック・キャリアデザインを受講していた学生が望ましい。 受講希望者は、出願書類を事前に配布するので、以下の日程で手続きを行うこと。 出願書類: 3/26(金)経営学部事務室にて配布(※My KONANからもダウンロード可能) 出願書類締切: 4/3(土)13:00までに経営学部事務室へ提出、結果発表: 4/8(木)教務部掲示板 許可された者は、自動的に履修登録されるので、4/13(火)以降に履修登録画面で確認すること。		

講義の内容	1年次生におけるベーシック・キャリアデザインでは、“自己発見”をコンセプトに、自分を理解し、主として大学生生活を充実させるための知恵を学び、各自が2年次生終了までの「目標と行動計画」を設定しました。この講義では“社会発見”をコンセプトに、広く社会を理解し、自分と社会とをつないでいく知恵を学んでいきます。加えて、それらを身につけていくにあたって必要とされるコミュニケーション力・情報活用能力・思考力・実行力などを向上させることも目的とします。
到達目標	組織のなかで自分の居場所をつくってゆく力、組織のなかで自分を活かしてゆく力、組織として成果を出してゆく力、といった「チームワーク力」を徹底的につけていきます。
講義方法	講義・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	講義の時間以外にも、課題の打ち合わせなどでグループごとで集まってもらうこともあります。
成績評価	1. 講義への積極的参加・意欲的な参加 2. グループワークにおける仲間との協力 3. 発表・提出物 4. 面接試験 ※ 以上を総合的に評価します。
講義構成	グループワークを基本とした授業運営をおこないます。そして1年次生のベーシック・キャリアデザインと同様に、キャリアセンターの職員がファシリテータとして皆さんのフォローをおこなっていきます。具体的な講義構成としては、ゲストスピーカーとして企業の人事担当者や卒業生を招いたり、社会人へのキャリアインタビュー、連携企業・団体におけるジョブ・シャドウイングなどを実施することによってより広く深く自分や社会を理解していきます。
教科書	必要な「レジュメ」は講義の中で随時配布します。
参考書・資料	適宜紹介します。
担当者から一言	「就職活動」は間違いなく人間をひとまわり大きく成長させてくれます。活動中は楽しいことばかりではありません。厳しく辛いこともあるでしょう。それらを乗り越えていくタフな気力や精神力もこの講義で身につけてください。厳しくも、楽しい、そして充実した講義を皆さんといっしょに創っていきましょう。

授業コード	51036		
授業科目名	金融サービス論(金融機関論)(後)		
担当者名	瀧川好夫(タキガワ ヨシオ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限 水曜2限
オフィスアワー	原則として水曜日4・5限		

講義の内容	愚者は経験から、賢者は歴史から学ぶと言われています。 本講義のねらいは、J.M.Keynes(1883-1946年)が現在生きていて、政策担当者であるならば、サブプライム危機(21世紀の大恐慌)をどのように診断し、どのように処方するだろうかを夢見たものです。
到達目標	講義では、1週間の新聞記事を選んで印刷・配布し、授業の冒頭で解説します。現実の生きた経済から学習材料をとり、学習の動機づけを与えることは、講義への関心を高め、講義内容の理解をより確実なものにしているように思えます。現在の世界金融危機に関連する時事問題を取り上げることによって、講義内容をなぜ学ぶ必要があるのかを理解できるでしょう。金融経済ニュースに関心をもち、新聞の金融経済面を楽に読めるようになることが学習目標です。
講義方法	教科書の内容に沿って講義します。サブプライム金融危機を実際の金融問題として取り上げ、その中で、個人、企業、金融機関、中央銀行の活動を学習します。いま起こっている世界金融危機を学習材料として取り上げ、臨場感をもって金融の仕組みを学ぶことができます。
準備学習	教科書を予習しておけば、講義は理解しやすいと思います。
成績評価	「期末試験」のみで評価します。
講義構成	・サブプライム危機を理解するためのポイント、・サブプライムローン問題、・世界金融危機、・世界金融危機への各国の対応、・世界金融危機への国際協調、・サブプライムローン問題から学ぶ、・世界金融危機から学ぶ、・世界金融危機への対応から学ぶ:金融資本市場安定化対策、・世界金融危機への対応から学ぶ:金融資本市場のインフラ、・オバマはサブプライム危機をどう解決する、・ケインズならサブプライム危機をどう解決するのか。
教科書	滝川好夫『サブプライム金融危機』ミネルヴァ書房、2010年。
講義関連事項	講義を受けて良かった、役に立ったと思われる授業を行います。
担当者から一言	講義では、現実の生きた経済から学習材料をとり、「何を、なぜ学ぶのか」を明らかにしています。「なぜ学ぶのか」が理解できれば、「金融論は、現実の世界で役に立ちそうで、おもしろい」ということを実感するようになるでしょう。
その他	「学ぶこと」と「考えること」の両立が大切です。本を読まないで考えてばかりではいけないし、考えないで本を読んでもばかりでいてもいけません。

授業コード	51006		
授業科目名	金融市場入門(前)		
担当者名	瀧川好夫(タキガワ ヨシオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	教科書は、「第1部 金融の制度」「第2部 金融のミクロ理論」「第3部 金融のマクロ理論」「第4部 金融政策:日本銀行」「第5部 金融の歴史」の5部からなっています。金融論で学ぶべきことは多いのですが、金融の実相を理解するためには、制度・理論・政策・歴史の知識が必要です。講義では「第1部 金融の制度」「第4部 金融政策:日本銀行」「第5部 金融の歴史」をとくに取り上げます。
到達目標	講義では、B4用紙2枚程度に1週間の新聞記事を切り貼りし、両面コピーをしたうえで配布し、授業の冒頭で解説します。現実の生きた経済から学習材料をとり、学習の動機づけを与えることは、講義への関心を高め、講義内容の理解をより確実なものにしているように思えます。時事問題を取り上げることによって、講義内容をなぜ学ぶ必要があるのかを理解できるでしょう。金融経済ニュースに関心をもち、新聞の金融経済面を楽に読めるようになることが学習目標です。
講義方法	教科書の内容に沿って講義しますので、教科書は必ず授業時にはもって来てください。また、参考者を用いて問題演習を行います。
準備学習	予習よりも復習が大事です。一番よい復習方法は参考書を用いて問題演習を行うことです。本を読むことと、問題を解くことの間には大きな溝があります。本を読んで分かったつもりでいても、問題はなかなか解けません。問題演習を行うと、どこが分かっている、どこが分かっているかを正しくチェックできます。
成績評価	期末試験のみで評価します。出席はとりませんが、授業での問題演習は理解を深め、単位取得に大切なものです。
講義構成	教科書の以下の章のみを講義します。 序論 金融に強くなる新聞の読み方 第1部 金融の制度 第1章 日本経済の循環:GDPと国富 第2章 金融システムの全体図:資金循環統計

	第3章 金融取引と決済システム 第4章 金融機関:銀行、証券会社および保険会社 第5章 金融市場 第2部 金融のミクロ理論(省く) 第3部 金融のマクロ理論(省く) 第4部 金融政策:日本銀行 第13章 通貨 第14章 金融政策 第15章 金融調節 第5部 金融の歴史 第16章 通貨と日本銀行の歴史 第17章 金融機関の歴史 第18章 金融経済の歴史
教科書	滝川好夫『たのしく学ぶ 金融論』ミネルヴァ書房、2008年。
参考書・資料	滝川好夫『金融論の楽々問題演習』税務経理協会、2007年。
講義関連事項	講義を受けて良かった、役に立ったと思われる授業を行います。
担当者から一言	講義では、現実の生きた経済から学習材料をとり、「何を、なぜ学ぶのか」を明らかにしています。「なぜ学ぶのか」が理解できれば、「金融論は、現実の世界で役に立ちそうで、おもしろい」ということを実感できるようになるでしょう。
その他	「学ぶこと」と「考えること」の両立が大切です。本を読まないで考えてばかりではいけないし、考えないで本を読んでもばかりいてもいけません。

授業コード	51021		
授業科目名	経営科学（後）		
担当者名	布上康夫（ヌノカミ ヤスオ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限 金曜5限
オフィスアワー	火曜日 12:30から13:00		

講義の内容	経営科学(management science)は、企業を経営する際に直面する諸問題を、経験や主観的な勘に頼らずに、数学的なモデルや統計的な手法を用いて分析・解決する研究領域である。経営科学の手法のルーツは、欧米において第2次大戦中に作戦計画のために開発されたオペレーションズリサーチ(operations research)にある。オペレーションズリサーチは、どちらかといえば新たな解の発見や解法の効率性などに焦点をあてた研究領域であるが、経営科学は現実の諸問題をいかにモデル化し、これらの手法を適用して分析し解決するかという応用的な側面を重視した研究領域であるといえる。本講義では、経営科学の手法を用いてさまざまな決定問題を分析し、解決するという側面を重視する。経営科学のさまざまな問題解決の手法についても紹介するが、それはあくまでも経営科学という研究領域を理解する1つの手段にすぎない。講義の主たる目的はこれらの手法を用いて、どのような問題が、どのようにして科学的に分析し解決しうるかを学習することにある。
到達目標	モデルを利用した意思決定について理解すること。
講義方法	教科書の例題を中心に講義する。
準備学習	企業が直面しているさまざまな意思決定問題に関心をもつこと。
成績評価	期末試験の成績により評価する。
講義構成	1. 日程計画問題について 日程問題とは パート図による問題表現 クリティカルパスとその解析 2. 線形計画問題について 線形問題とは 線形問題の表現 線形問題の一般的解法 感度分析 3. 輸送問題について 輸送問題とは

	輸送問題の解法 変形輸送問題とその解法 4. 割り当て問題について 割り当て問題とは 割り当て問題の解法 5. 在庫問題について 在庫問題とは 経済発注量モデル 数量割引モデル 最適ロットサイズモデル 6. 動的計画問題について 動的問題とは 最短経路問題とその解法 ナップサック問題とその解法
教科書	定道 宏 経営科学 オーム社
参考書・資料	参考書や資料、経営科学に関連したWebサイトに関する情報は講義中に紹介する。
担当者から一言	受講を希望する学生から「数学を勉強しなかったのに、経営科学を受講しても理解できるか」という質問をよく受けるが、講義では「数学的なモデルや統計的な手法」についても解説するが、主たる目的はこれらの手法を用いてどのような問題が科学的に分析し解決しうるのかという応用能力を養うことを目標にして講義する。講義に出席し、自分で問題を解いてみれば、講義内容は十分に理解できるはずである。

授業コード	51C11		
授業科目名	経営学総論 (A)(1クラス)(前)		
担当者名	上林憲雄(カンバヤシ ノリオ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限 金曜5限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	大学に入り、これから初めて「経営学」を学ぼうとする初学者を対象に、経営学の基本を平易に概説します。この講義を最後まで受講すれば、経営学とはどのような学問領域で、経営学を学ぶことがどのような意味を持ち、どのように役立つかが理解できるようになっているはずで。
到達目標	経営学の各領域に於ける知識を一通り押さえ、経営学的な発想法を身につけることを目標にします。
講義方法	教科書に沿って説明していきます。適宜ノートを取りながら受講するようにしてください。
準備学習	指定教科書を予め一読してから授業に臨んでください。教科書のうちのどの部分を読めばよいかは、毎回の授業時に指示します。
成績評価	期末試験の成績によって評価します。
講義構成	授業の概要は概ね以下の順に講述する予定ですが、状況を見て変更する場合があります。大学1年生で、経営学について全くの白紙状態の皆さんを念頭に置きつつ、経営学の基本的理解にとって必須の章を特に重点的に学習することになります。 1. 会社の経営とはどんなことか（企業経営入門） 2. 会社はどのようにして社会に役立っているのか（企業） 3. 会社は誰が動かしているのか（コーポレート・ガバナンス） 4. 会社はどのような方針で動いているのか（経営理念と戦略） 5. 会社はどんな仕組みで動いているのか（組織形態） 6. 会社は他の会社とどのように協力しているのか（組織間関係） 7. 会社はどのようにしてものを作るのか（生産管理） 8. 社員は仕事をどのように分担しているのか（組織構造と職務設計） 9. 社員は何故働くのか（モチベーションとリーダーシップ） 10. 社員はなぜ組織に留まろうとするのか（雇用システム） 11. 社員はどのような報酬を求めるのか（報酬システム） 12. 社員はどのようにして育てられるのか（人材育成制度） 13. 会社はどのようにしてものを売するのか（マーケティング） 14. 会社は海外でどのように経営しているのか（国際経営） 15. 会社の儲けはどのようにして測定するのか（会計制度）

	16. 経営学とはどのような学問かー各分野への橋渡しー（学問論）
教科書	上林憲雄ほか『経験から学ぶ経営学入門』2007年、有斐閣。
参考書・資料	余裕がある方は、教科書に加え、以下の書物を併用すれば、さらに理解が深まります： 奥林康司・上林憲雄・平野光俊 編著『入門人的資源管理(第2版)』2010年、中央経済社。
担当者から一言	教科書のタイトルにあるように、この講義の最大の特徴は、受講生の皆さんの「経験」を基礎にして説明を使用とすることです。高校生・大学新入生レベルでの皆さんの「経験」をベースにしながら、日常生活と経営学を結びつけながら講義をしたいと思っています。真剣に授業に参加すれば、必ず経営学のおもしろさが実感でき、理解ができるようになるはずです。

授業コード	51C12		
授業科目名	経営学総論 (A)(2クラス)(前)		
担当者名	河野昭三(コウノ ショウゾウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 木曜5限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	「経営学総論」は本来、企業（組織）経営に関する知的体系の全体像を示す教育科目であるが、受講者のすべて1年次であることに鑑み、いわゆる「経営学入門」の色彩を濃くしたものとする。企業（組織）とはいかなる存在で、その存在様相はどのようなものであるのか、また企業（組織）のメンバーである個人の在り方もどのようなものであるのか等に関する基礎的な知識の学習を目的とする。もって、2年次以降に展開される経営学の各専門科目の基礎となす。
到達目標	(1)企業の各種形態について基本的な知識をもつこと。 (2)企業（組織）経営の今日的課題を理解すること。 (3)企業の営利性と社会性について基本的な認識をもつこと。 (4)企業（組織）の管理方法についての基礎知識をもつこと。 (5)企業のゴーイング・コンサーン化についての基礎知識をもつこと。
講義方法	大教室での講義であるため、板書等では後方座席から見えにくいので、プリントを配布しそれに関する説明を行う。加えて、初学者でも理解できるように、ビデオ等の映像学習を採り入れる。又、理解度を確認するため、豆テストを随時行う。
準備学習	(1)新聞の経済面を毎日読むこと。 (2)授業の復習を必ず行うこと。
成績評価	豆テスト5回（計150点）＋ビデオ学習シート16回（計80点）＝230点の他に、課題レポート（1回：70点）を加え、総計300点を100点満点に換算（小数点以下は切り上げ）し、素点表示とする。期末テストは行わない。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回～5回 ビジネスの新潮流 第6回～7回 企業の諸形態 第8回～12回 企業の営利性と社会性 第13回 経営管理の基本原則 第14回 生産と販売の結合 第15回～17回 経営組織の存在様相 第18回～20回 組織と個人 第21回～22回 リーダーシップ 第23回～25回 長寿企業の存続要因 第26回～29回 躍進企業の理念と行動 第30回 まとめ
教科書	特になし。プリントを配布する。
参考書・資料	配布されたプリントを、一所懸命に勉強すること。
講義関連事項	「マーケティング総論」と「会計学総論」の履修と単位修得を望む。

担当者から一言	授業中の私語は厳禁。私語は、勉強したい学生に対する授業妨害であることを肝に銘じること。 講義の分からない点は、授業後に質問すること。その際、試験内容や成績に関わる質問はしないこと。
---------	---

授業コード	51C13		
授業科目名	経営学総論 (B)(後)		
担当者名	海道ノブチカ(カイドウ ノブチカ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限
特記事項	経営学部2年次以上・他学部クラス		

講義の内容	経営学の基本問題について講義する。まず経営学がどのように生成し、発展してきたかを歴史的に跡づける。次に企業の生産、労務、財務、管理、組織といった各側面にどのような問題があり、それについてどのような各論が展開されているのかについて解明する。さらに経営学の現代的課題であるコーポレート・ガバナンスの問題や環境問題と企業との関係を取りあげる。		
到達目標	現代の企業経営の仕組みを理論的に理解できる。		
講義方法	教科書を中心に講義形式で授業を進める。		
準備学習	キーワードなどについては、参考書にあげた文献を用いて理解を深めること。		
成績評価	定期試験(100%)		
講義構成	第1-3回 経営学の対象と方法 第4-7回 経営学の歴史(日本、ドイツ、アメリカ) 第8-10回 企業形態1(企業形態の種類、株式会社の特質) 第11-13回 企業形態2(企業の結合形態、ヨーロッパ会社) 第14-18回 コーポレート・ガバナンス 第19-21回 ステーク・ホルダーと企業 第22-24回 環境問題と企業 第25回以降 経営のファンクション		
教科書	海道ノブチカ・風間信隆編著『コーポレート・ガバナンスと経営学』ミネルヴァ書房、2009年。		
参考書・資料	吉田和夫・大橋昭一監修『最新・基本経営学用語辞典』同文館出版、2010年。		

授業コード	51039		
授業科目名	経営学特論a(日本的経営の特質)(後)		
担当者名	尾形真実哉(オガタ マミヤ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限 木曜3限
特記事項	事前申請科目 経営学部交換留学生のほか、本講義の内容・目的に関心のある経営学部生で、受講に先立って9月に実施する英文読解力の選考試験をパスした学部生(3・4年生またはBLコース所属学生)は履修できる。		
オフィスアワー	開講時にお伝えします。		

講義の内容	本講義は、日本的経営に関する著名な海外文献を熟読し、日本的経営について理解を深めていく。講義は、やや難解な内容の英語文献の熟読になります。そのため、本講義を受講するための選抜試験を実施します。選抜試験の内容や実施時期に関しては後日通知します。		
到達目標	日本的経営について理解を深めること。		
講義方法	受講生全員に英語の内容を日本語に翻訳してもらい、その内容について詳細な説明を行ってもらいます。講師はその内容について、補足的に説明を加えていく。適宜、映像なども用いるが、その映像も英語のものとなります。		
準備学習	専門的な英語のテキストを熟読するため、しっかりと英語の内容を理解するための事前学習が必要になります。		
成績評価	出席状況、課題の質、講義への参加態度、講義への貢献度などを総合的に評価します。		
講義構成	Abegglen, J. C. (1958), The Japanese Factory: Aspects of its social organization 1. Industry in Asia: The Case of Japan		

	2. The critical difference: A Lifetime commitment 3. The recruitment of personnel 4. Rewards and incentives in the Japanese Factory 5. Rank, Careers, and The formal organization 6. The factory's place in the employee's world 7. Productivity in the Japanese factory 8. Continuity and change in Japanese industry
教科書	教科書は Abegglen, J. C. (1958), The Japanese Factory: Aspects of its social organization を用いますが、絶版のためコピーをお渡しします。
参考書・資料	参考資料として Abegglen, J.C. and S. George, Jr. (1985), Kaisha, the Japanese corporation や Vogel, E. F.(1979), Japan as number one : lessons for America なども適宜参考にしていきたいと思います。必要な箇所はコピーにて配布します。
講義関連事項	先述しましたが、本講義では、受講前に選抜試験を実施します。選抜試験の内容や実施時期に関しては後日通知します。
担当者から一言	本講義では、文献はやや難解な内容の英語文献の熟読になります。そのため、受講生には、毎回、しっかりとした予習ができる忍耐力と高い英語読解力が求められます。

授業コード	51040		
授業科目名	経営学特論b(日本的経営とガバナンス)(前)		
担当者名	若林公美(ワカバヤシ ヒロミ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜2限
特記事項	事前申請科目 経営学部交換留学生のほか、本講義の内容・目的に関心のある経営学部生で、受講に先立って2月上旬に実施する英文読解力の選考試験をパスした学部生(3・4年生またはBLコース所属学生)は履修できる。		

講義の内容	This course is to study Japanese business management in the light of corporate governance.
到達目標	The goal of this course is to understand historical evolution of corporate governance in Japan and the current process of institutional continuity and change.
講義方法	The course is conducted in Japanese and English. Therefore, to take this course, students are required to submit an assignment and obtain permission in advance.
準備学習	To read each chapter in advance and summarize the contents is required as an assignment.
成績評価	Evaluation is based on presentation and discussion in each class.
講義構成	1. The diversity and change of corporate governance in Japan (1) 2. The diversity and change of corporate governance in Japan (2) 3. Relationship Banking in Post-bubble Japan: Coexistence of Soft- and Hard-Budget Constraints (1) 4. Relationship Banking in Post-bubble Japan: Coexistence of Soft- and Hard-Budget Constraints (2) 6. The Unwinding of Cross-Shareholding in Japan: Causes, Effects, and Implications (1) 7. The Unwinding of Cross-Shareholding in Japan: Causes, Effects, and Implications (2) 8. Foreign Investors and Corporate Governance in Japan (1) 9. Foreign Investors and Corporate Governance in Japan (2) 10. Venture Capital and its Governance: The Emergence of Equity Financing Conduits in Japan (1) 11. Venture Capital and its Governance: The Emergence of Equity Financing Conduits in Japan (2) 12. Corporate Governance in Financial Distress: The New Role of Bankruptcy (1) 13. Corporate Governance in Financial Distress: The New Role of Bankruptcy (2) 14. The Rise of Bank-Related Corporate Revival Funds (1) 15. The Rise of Bank-Related Corporate Revival Funds (2) 17. Business Portfolio Restructuring of Japanese Firms in the 1990s (1) 18. Business Portfolio Restructuring of Japanese Firms in the 1990s (2) 19. Corporate Finance and Human Resource Management in Japan (1) 20. Corporate Finance and Human Resource Management in Japan (2) 21. Employment Adjustment and Distributional Conflict in Japanese Firms (1) 22. Employment Adjustment and Distributional Conflict in Japanese Firms (2) 23. The Turnaround of 1997: Change in Japanese Corporate Law and Governance (1) 24. The Turnaround of 1997: Change in Japanese Corporate Law and Governance (2)

	25. The Performance Effects and Determinants of Corporate Governance Reform (1) 26. The Performance Effects and Determinants of Corporate Governance Reform (2) 27. Insider Management and Board Reform: For Whose Benefit?(1) 28. Insider Management and Board Reform: For Whose Benefit?(2)
教科書	Aoki, M. G. Jackson, and H. Miyajima, Corporate Governance in Japan, Oxford University Press, 2008.

授業コード	51011		
授業科目名	経営管理論（前）		
担当者名	馬場大治（ババ タイジ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限 水曜4限

講義の内容	本講義は、1年次配当の経営学総論に続いて、より専門的な経営学の科目を勉強していくための基礎科目として、そこにおいて基礎理論とされる、企業経営の管理的な諸側面に関する諸理論を簡単に解説していく。まず、テイラーやファヨールといった古典とされる議論を説明しながら、経営管理論とはいかなる学問領域であるのかを簡単に説明し、それに続いて、経営計画(戦略)、経営組織、動機付けとリーダーシップの順に、現代の経営管理論の諸議論を詳説していく。
到達目標	①経営管理論の基礎的な諸議論を理解している。 ②経営管理論の諸理論を用いて、現実の企業の行動を簡単に考察することができる。
講義方法	ケース・スタディー等の補助資料を適宜利用しながらの、講義方式。 講義のレジュメや資料は、各回の講義の際に配布する。
準備学習	配布資料を事前に読んでおくことを指示することがある。また、講義内容を確実に理解するためには、講義後のノートの整理や配布資料の再読が必要である。
成績評価	期末試験によって評価する。
講義構成	1. 経営管理論とは 1. 1 経営管理論とは 1. 2 テイラーの科学的管理法 1. 3 ファヨールの管理原則論 1. 4 初期人間関係論 1. 5 近代管理論 2. 経営計画(経営戦略) 2. 1 経営計画の策定 2. 2 全社戦略(多角化戦略) 2. 2. 1 多角化のメリット 2. 2. 2 多角化の限界 2. 3 事業戦略(競争戦略) 2. 3. 1 競争戦略の本質 2. 3. 2 競争戦略の手段 2. 4 組織間関係の戦略 2. 4. 1 川上・川下の占有 2. 4. 2 市場の内部組織化 3. 経営組織 3. 1 組織構造 3. 1. 1 ラインとスタッフ組織 3. 1. 2 機能別組織と事業部制 3. 1. 3 その他の組織構造 3. 2 トップマネジメントの組織 4. 組織運営 4. 1 組織文化 4. 1. 1 組織文化とは 4. 1. 2 組織文化の形成と維持 4. 1. 3 組織文化の機能と逆機能 4. 2 動機づけ 4. 2. 1 内容理論 4. 2. 2 過程理論 4. 2. 3 動機付けの実際

	4. 3 リーダーシップ 4. 3. 1 リーダーシップの理論 4. 3. 2 トップ・マネジメントのリーダーシップ
教科書	特に教科書は指定しない。
参考書・資料	[1]塩次・高橋・小林『経営管理(新版)』有斐閣 [2]後藤幸男編『新経営管理論講義』中央経済社 [3]占部都美『新訂 経営管理論』白桃書房 [4]野中郁次郎『経営管理』日本経済新聞社 [5]丸山、高木、夏目編『経営管理論の歴史と思想』日本経済新聞社 [6]加護野忠男、伊丹敬之『ゼミナール:経営学入門』日本経済新聞社 [7]石井、奥村、加護野、野中『経営戦略論(新版)』有斐閣 [8]坂下昭宣『経済学への招待』白桃書房 [9]柴田、中橋『経営管理の理論と実際』東京経済情報出版
担当者から一言	諸学説を単に記憶するだけでなく、それらの「考え方」をよりよく理解し、自分のものとしてできるように、日本企業やアメリカ企業の実例を多く示しながら講義を進めていきたい。

授業コード	51070		
授業科目名	経営コンサルティング論（前）		
担当者名	大工舎 宏(ダイクヤ ヒロシ)、平山賢二(ヒラヤマ ケンジ)、森本朋敦(モリモト トモノブ)、安達悟志(アダチ サトシ)、中平将仁(ナカヒラ マサヒト)、加納由紀子(カノウ ユキコ)、神棒信彦(カンボウ ノブヒコ)、伊藤 学(イトウ マナブ)、森岡文廣(モリオカ フミヒロ)、渡邊 亘(ワタナベ ワタル)、加藤風貴(カトウ フウキ)、川原拓馬(カワハラ タクマ)、山本泳吾(ヤマモト エイゴ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限

講義の内容	経営コンサルティング・経営コンサルタントの仕事はどのようなものかについて、実務で活躍している経営コンサルタントがわかりやすく講義・説明します。 「経営コンサルティングとは何か?」「戦略立案のアプローチ」「企業の分析(外部・内部)」「グローバル経営」など、経営コンサルティングにおける主要テーマにおける理論と実務をご紹介します。
到達目標	①経営コンサルティング・経営コンサルタントの仕事がどのようなものであるかについて知ることができる。 ②上記を通じて、実際の企業経営はどのようなものか、どのようなことが課題となっているかなどについて知ることができる。
講義方法	各回の講義は、各テーマに詳しい経営コンサルタントがリレー形式で担当します。 各テーマについて、経営コンサルティングの仕事における一般的な理論の概略説明を講義するとともに、実務における適用について実例を交えながら講義します。 講義が中心ですが、各テーマの最後に、学んだ内容を自身で振り返る自習作業を行う予定にしています。
準備学習	・特に準備学習は必要ありませんが、日頃から新聞や経済ニュースなどの情報を積極的に把握し、企業社会の動きに注目しておくようにしてください。 ・講義の中で紹介される手法や書籍などのうち、興味のあるものについて後日自ら学習するようにしてください。 ・興味のある講義テーマについて、講義終了後に学生間で感想・考えを討議してみてください。
成績評価	・定期試験を行います。
講義構成	各回の講義は株式会社アットストリームの経営コンサルタントが担当します。以下、各回の講義テーマの予定です(今後一部変更される場合があります)。 ・第1回(平山賢二):「経営コンサルタントとは?」(コンサルタントの志) ・第2回(大工舎宏):「ミッションマネジメント」(経営の原点・意思) ・第3回(安達悟志):「戦略立案アプローチ論」(戦い方・勝ち方を考える) ・第4回(加藤風貴):「外部環境分析／事業環境分析」(外を知る・見る、コンサルタントによる会社・業界研究) ・第5回(森岡文廣):「内部環境分析」(己を知る・整理する) ・第6回(森本朋敦):「会計と経営」(経営の基本／経営コンサルタントの重要スキル) ・第7回(川原拓馬):「顧客の声(Voice of Customer)を活かす」(経営の黄金律) ・第8回(伊藤学):「業務改革とIT活用」(コンサルティングサービスの最大領域) ・第9回(中平将仁・渡邊亘):「業種別アプローチ(製造業)」(製造業の課題と着眼点) ・第10回(加納由紀子):「業種別アプローチ(流通業)」(流通業の課題と着眼点) ・第11回(神棒信彦):「M&A」(有機的成長かM&Aによる価値創造か?) ・第12回(山本泳吾):「グローバル経営」(Think Global! Act Local!) ・第13回(大工舎宏):「改革の実行・定着」(Changeは難しい)

	・第14回(平山賢二):「経営コンサルティング会社を運営する」(ユニークなコンサルティング会社の作り方) ・第15回 試験
教科書	特に教科書等の指定はありませんが、下記を参考図書としてご紹介します。興味のある書籍を学習ください。 ・「取引先企業の実態把握強化法」(アットストリーム著) 金融財政事情研究会 ・「勝つ現場力」「勝つ改善力」(平山賢二) JIPMソリューション ・「ミッションマネジメント」(アーサーアンダーセン) 生産性出版 (絶版) ・「提案力を高めるコンサルタントSEへのアプローチ」(安達悟志) 日刊工業新聞社 ・「連結経営管理マニュアル」(森本朋敦 監修:内藤文雄) 税務研究会 ・「連結経営管理と実践手法」(森本朋敦) 税務研究会 ・「ヘドロ在庫をなくせ!」(中平将仁) JIPMソリューション ・「経営の突破力 現場の達成力」(大工舎宏) JIPMソリューション
担当者から一言	一線で活躍する個性豊かな経営コンサルタントが続々と登場しますので楽しみにしてください。
URL	http://www.atstream.co.jp/

授業コード	51C71		
授業科目名	経営財務論（1クラス)(前)		
担当者名	赤石雅弘(アカイシ マサヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限 月曜5限
特記事項	学籍番号10851001～10851190、経営学部4年次		
オフィスアワー	月曜日 5時限終了後		

講義の内容	経営財務論はその名の示すとおり経営財務すなわち企業の財務活動を考察対象とする。企業の財務活動としては、(1)資本調達、(2)資本投資、(3)利益処分(配当決定)、(4)日々循環する資金(運転資本)の管理が挙げられる。 本講義では、これらのうち(1)(2)(3)を取り上げ、これらに関する意思決定をどのように行えばよいかを中心に考察していく。内容的には抽象度が高くなるが、基礎的な事項に焦点を合わせ、できる限り分かりやすく解説するつもりである。
到達目標	財務論の内容をきちんと理解してもらう。さらにそれを通じて、企業財務をめぐる具体的な諸問題に対しても、どのように捉え、どのように対応していけばよいかを考えることができるようになってもらいたい。
講義方法	『経営財務論講義ノート2010』(生協で販売)を用いながら、通常の講義形式で進める。また、講義の過程で、理解を深めてもらうための小テストを何回か行う。
準備学習	テキスト(『講義ノート2010』)の予習と復習。
成績評価	(1)基本的には期末試験によって評価するが、(2)講義の過程で行う小テストの結果を(1)に加味する。期末試験を受けなかった場合は、たとえ小テストを受けていたとしても、「欠席」として評価する。
講義構成	第1章 経営財務論の課題 → 第1回 <1回=2コマ> 1 経営財務論の対象 2 経営財務論の方法 第2章 資本調達形態 → 第2～3回 1 資本の種類 2 株式 3 社債 第3章 投資決定 → 第4～7回 1 投資決定の意味 2 投資案の分析 3 投資案の評価方法 ★ 練習問題 4 NPV法とIRR法の対比 第4章 資本コスト → 第8～9回 1 資本コストの意味 2 源泉別資本コスト ★ 練習問題 3 投資判定基準としての資本コスト(必要利益率) 4 補足——源泉別資本コストの大きさを決める要因 → 第10回 第5章 資本調達決定

	1 負債利用の効果と財務リスク 2 最適資本構成をめぐる2つの仮説 → 第11～12回 3 MM命題とその証明 4 MM理論の検討 第6章 配当政策 → 第13～14回 1 配当政策の諸問題 2 伝統的配当政策論 3 MMの配当政策論 4 MM理論の検討
教科書	教科書に代わるものとして『経営財務論講義ノート2010』を用いる。各自これを生協で購入した上で受講すること（価格＝600円程度）。毎回の講義はこれをもとに進める。
参考書・資料	講義の過程で適宜紹介・配布する。また、主な参考書は上記の『経営財務論講義ノート』中に示す。
担当者から一言	毎週の講義は一回ごとの完結型ではなく積み重ね的に連続するので、受講する以上は最初から継続的に受講することを望む。また、毎回の講義も、途中からではなく初めから聞いてもらいたい。細切له的な出席や、授業の途中からの出席では、講義内容を理解できないでしょう（サスペンスドラマを途中から見ても話の筋が分からないのと同じ）。

授業コード	51C72		
授業科目名	経営財務論（2クラス）(前)		
担当者名	赤石雅弘（アカイシ マサヒロ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
特記事項	学籍番号10851191～終わり,経営学部4年次		
オフィスアワー	金曜日 4時限終了後		

講義の内容	経営財務論はその名の示すとおり経営財務すなわち企業の財務活動を考察対象とする。企業の財務活動としては、(1)資本調達、(2)資本投資、(3)利益処分（配当決定）、(4)日々循環する資金（運転資本）の管理が挙げられる。 本講義では、これらのうち(1)(2)(3)を取り上げ、これらに関する意思決定をどのように行えばよいかを中心に考察していく。内容的には抽象度が高くなるが、基礎的な事項に焦点を合わせ、できる限り分かりやすく解説するつもりである。
到達目標	財務論の内容をきちんと理解してもらう。さらにそれを通じて、企業財務をめぐる具体的な諸問題に対しても、どのように捉え、どのように対応していけばよいかを考えることができるようになってもらいたい。
講義方法	『経営財務論講義ノート2010』（生協で販売）を用いながら、通常の講義形式で進める。また、講義の過程で、理解を深めてもらうための小テストを何回か行う。
準備学習	テキスト（『講義ノート2010』）の予習と復習。
成績評価	(1)基本的には期末試験によって評価するが、(2)講義の過程で行う小テストの結果を(1)に加味する。期末試験を受けなかった場合は、たとえ小テストを受けていたとしても、「欠席」として評価する。
講義構成	第1章 経営財務論の課題 → 第1回 <1回＝2コマ> 1 経営財務論の対象 2 経営財務論の方法 第2章 資本調達形態 → 第2～3回 1 資本の種類 2 株式 3 社債 第3章 投資決定 → 第4～7回 1 投資決定の意味 2 投資案の分析 3 投資案の評価方法 ★ 練習問題 4 NPV法とIRR法の対比 第4章 資本コスト → 第8～9回 1 資本コストの意味 2 源泉別資本コスト ★ 練習問題

	3 投資判定基準としての資本コスト(必要利益率) 4 補足——源泉別資本コストの大きさを決める要因 → 第10回 第5章 資本調達決定 1 負債利用の効果と財務リスク 2 最適資本構成をめぐる2つの仮説 → 第11～12回 3 MM命題とその証明 4 MM理論の検討 第6章 配当政策 → 第13～14回 1 配当政策の諸問題 2 伝統的配当政策論 3 MMの配当政策論 4 MM理論の検討
教科書	教科書に代わるものとして『経営財務論講義ノート2010』を用いる。各自これを生協で購入した上で受講すること(価格＝600円程度)。毎回の講義はこれをもとに進める。
参考書・資料	講義の過程で適宜紹介・配布する。また、主な参考書は上記の『経営財務論講義ノート』中に示す。
担当者から一言	毎週の講義は一回ごとの完結型ではなく積み重ね的に連続するので、受講する以上は最初から継続的に受講することを望む。また、毎回の講義も、途中からではなく初めから聞いてもらいたい。細切れるな出席や、授業の途中からの出席では、講義内容を理解できないでしょう(サスペンスドラマを途中から見ても話の筋が分からないのと同じ)。

授業コード	51010		
授業科目名	経営史（前）		
担当者名	廣山謙介(ヒロヤマ ケンスケ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限 木曜5限
オフィスアワー	火曜日Ⅰ～Ⅲ限、5号館演習室。月曜日Ⅴ限、木曜日Ⅳ限、9号館5階の研究室。		

講義の内容	経営史の現代的課題について触れながら、現代にいたる経営成長について講義する。
到達目標	現代にいたる企業の経営成長について俯瞰することができる知識を身につける。
講義方法	講義室での座学と課題提出。
準備学習	特に予習準備は必要ではないが、講義内容に関する課題を受講後提出し、内容を理解した上で次の講義に臨むことが必要である。
成績評価	講義室での出席はとらない。期末試験50%、毎回の課題50%として算定する。場合によっては加算のため授業時間中に小テストを行うことがある。
講義構成	各回の構成は次の通り。月曜日Ⅳ限は日本経営史、木曜日Ⅴ限は一般経営史の分野について講義する。 4月 8日経営史とはなにか 4月15日現代経営の前提 大量生産・大量販売・大量消費 4月22日産業革命のはじまり 5月 6日産業革命の進展 5月13日工業化の伝播 5月20日アメリカにおける経営革新 化学工業 5月27日アメリカにおける経営革新 鉄道業 6月 3日アメリカにおける経営革新 自動車産業 6月10日パックスブリタニカからパックスアメリカナへ 6月17日ドイツ型経営の特質 6月24日戦時経営 7月 1日ヨーロッパの復権とEU 7月 8日多国籍企業の経営 7月15日国際経営史の課題、中国を含むアジアも射程に 4月12日日本の経営発展 4月19日近代経営成長の前提① 生産 4月26日近代経営成長の前提② 物流・販売 5月10日近代経営成長の前提③ 信用 5月17日明治維新と上からの工業化

	5月24日財閥の誕生 5月31日株式会社による大企業の誕生 6月 7日両大戦間期の経営の変化 6月14日戦時経済下での経営 6月21日復興期の日本経営 6月28日高度経済成長期の経営 在来部門の復興 7月 5日高度経済成長期の経営 新分野への進出 7月12日技術と経営 7月16日日本経営の今後の課題と展望
教科書	指定しない。各回に参考文献を指示するので課題解答のためによく読むこと。
参考書・資料	My KONAN の講義資料を事前にみておくこと。また課題提出もWEBで行うので利用方法を熟知しておくこと。
担当者から一言	経営学についての基本的術語の意味や内容を理解しておくことが必要である。

授業コード	51045		
授業科目名	経営実務a(エリアスタディーズ) (集中)		
担当者名	杉田俊明(スギタ トシアキ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	事前申請科目 国際交流センター主催「エリアスタディーズ」プログラムに参加し、事前・事後授業を受けているものが履修できる。 今年度のプログラム受講者の募集は終了している。		
オフィスアワー	毎週火曜、水曜、木曜。その他、随時メールください。		

講義の内容	国際経営に関して、本学での事前事後の受講、海外大学での受講(本年度は台湾。以下同)、海外での企業見学と当該企業での受講などを通じて学ぶ。詳細については講義の構成(詳細)を参照されたい。
到達目標	経営戦略、経営実務に関する基礎知識系専門知識をある程度把握し、経営戦略や経営組織などの知識を駆使し企業のケース(実例)分析をある程度できるようにすること。
講義方法	本学での受講、海外大学での受講、海外企業での見学や受講などを通じて学び、担当教員はその都度研究指導を行う。
準備学習	指定のテキストは必読。参考書のうちのいずれか1冊も合わせて事前に関連すること。
成績評価	本学での受講、海外大学での受講、海外企業での見学と受講への参加、最終研究発表の結果、並びに全過程における規律遵守などの度合いに応じて、総合的に判断(評価)する。
講義構成	本年度の本講義は国際経営を中心テーマに、台湾において実習するものである。 本学での講義 6コマ 1、国際人と国際理解について 2、経営経営と台湾企業の経済・経営について 3、企業分析研究の手法について 4、日系企業・台湾企業のケース研究 グローバル経営 5、日系企業・台湾企業のケース研究 経営組織 6、日系企業・台湾企業のケース研究 研究発表 海外大学での講義 6コマ (うち、台湾東海大学 3コマ) 1、台湾日系企業の発展プロセスと新動向 2、日系保険会社の台湾進出について 3、台湾企業の国際展開戦略 (うち、国立台北大学 3コマ) 4、労働法制日台比較 5、企業管理日台比較 6、歴史の視角から見る台湾にある日本 特別講義 1コマ オックスフォード大学教授Dr.Graham氏の講演会(台湾東海大学にて) 企業見学と企業での受講 4社

	1、鳥日ビール 2、友達電化 3、ジャイアント機械工業 4、現在調整中 その他 国際交流懇談会 台湾東海大学の教員学生とのお茶会、交流座談会 国立台北大学の教員学生との懇談会 その他 海外社会見学学習 台湾国立自然科学博物館見学 台湾歴史博物館見学 台湾(台中、台北)社会見学 など 注:講義構成は諸事情により若干変更する場合がある。
教科書	『新・国際経営』、竹田志郎編、文真堂、2003年。 その他は開講時に指示する。
参考書・資料	台湾—変容し躊躇するアイデンティティ(ちくま新書) 若林 正文 - 2001 戦後台湾経済分析 / 劉進慶. -- 東京大学出版会, 1975 台湾経済入門 / 渡辺利夫,朝元照雄. -- 勁草書房, 2007 台湾の企業と産業 / 佐藤幸人. -- アジア経済研究所, 2008.12. アジア・太平洋における台湾の位置 / 中村勝範,[ト]照彦,浅野和生. -- 早稲田出版, 2004
講義関連事項	下記記載の、杉田研究室のホームページ(講義関連コーナーなど)も合わせて閲覧・参照すること
担当者から一言	規律を厳格に遵守すること
その他	自主的、積極的に学習すること。
ホームページタイトル	アジア・中国経営研究
URL	http://homepage1.nifty.com/Toshiaki-SUGITA/

授業コード	51046		
授業科目名	経営実務b(人工社会の構築入門)(集中)		
担当者名	坂平文博(サカヒラ フミヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	抽選科目		

講義の内容	自然現象や生命現象、経済活動などの人間社会の現象を理解するにあたって、個々の因子の相互作用を考慮に入れた複雑系の考え方は非常に有効です。また、その複雑系を理解するためのツールとして、マルチエージェント・シミュレーション・システムは効果的です。 そこで、本講義では、実際にマルチエージェントシミュレーションを体験しながら、複雑系への理解を深めたいと思います。
到達目標	複雑系およびマルチエージェント・シミュレーションの考え方を理解し、現実の事象のなかから、それらが適用できるものを発見できること。 簡単なシミュレーションモデルを理解できること。
講義方法	主に演習からなる。 演習では、テキストに従い、実際に受講者がマルチエージェントシミュレーションプラットフォーム「artisoc」上にモデルをプログラミングしていきながら、複雑系およびマルチエージェント・シミュレーションの考え方を理解していく。
準備学習	特になし
成績評価	出席を重視する。場合によっては簡単な課題を出す。
講義構成	1～2時限目: 複雑系・マルチエージェントの考え方について(講義) 3～4時限目: マルチエージェント・シミュレーション・プラットフォーム「artisoc」の概要と使い方(講義) 4～7時限目: 簡単なシミュレーションモデルの作成(プログラミング): 立ち話モデル 7～10時限目: 本格的なシミュレーションモデルの作成(プログラミング): 森林火災モデル

	11～13時限目：本格的なシミュレーションモデルの作成(プログラミング)：シェリングの分居モデル 13～16時限目：本格的なシミュレーションモデルの作成(プログラミング)：コンウェイのライフゲーム
教科書	特になし。講義中にテキストを配布する
担当者から一言	プログラミングの演習をやりますが、ゼロからやりますので、初心者でも安心して受講できます。

授業コード	51047		
授業科目名	経営実務c(グローバル化する社会における経営者…) (前)		
担当者名	シュレスタ(シュレスタ マノジュ L.)、小川守正(オガワ モリマサ)、上村多恵子(ウエムラ タエコ)、セツト(セツト アフターブ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限

講義の内容	本講義は、企業、大学、病院の経営や外交の第一線に関わってきた者を講師に招き、グローバル化する社会において求められる経営者の役割、そして、アジアとの新しいパートナーシップに必要なリーダーシップについて、多面的な側面から考えることを目的とする。 講師には、甲南大学元理事長 小川守正氏、京南倉庫株式会社代表取締役 上村多恵子氏、インド前大使(現慶応義塾大学教授) Aftab Seth氏等を予定している。
到達目標	外交官、実務家の話しを通して、組織を動かすためのリーダーシップのあり方についての理解を深める。
講義方法	オムニバス形式で進める。
準備学習	事前に示される課題について、各自の意見をまとめて講義に参加すること。
成績評価	講義における議論への参加とレポート
講義構成	1.経営実務の紹介と講義目的の説明 2.松下幸之助による経営者の条件 3.10年続いた赤字会社松下住設機器(株)の危機突破事例、 2年ぶの旧製品在庫を抱えた松下冷機会社の事例 4.売上を上回る累積赤字をかかえた甲南病院の事例、地震で破壊しかけた甲南学園の事例 5.平生鈆三郎の経営哲学 6.経営と社会貢献 7.経営と地域社会貢献 8.インドの経済成長、その実態と課題 9.インドの外交政策 10.インドと日本の新たなパートナーシップに向けて 11.ベトナムの経済成長、その実態と課題 12.ベトナムの外交政策 13.ベトナムと日本の新たなパートナーシップを向けて 14.グローバル社会と経営者の役割
教科書	開講時に指示する。

授業コード	51022		
授業科目名	経営情報システム論（後）		
担当者名	高井才明（タカイ トシアキ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限 月曜4限
オフィスアワー	質問は電子メールで受け付けます		

講義の内容	情報処理技術の進展に伴い、これまでに伝統的な経営情報システム(management information system)以外にも意思決定支援システム(decision support system)やエグゼクティブ・インフォメーション・システム(executive information system)などの意思決定の支援を志向した情報システムが登場してきました。また、近年ではデータウェアハウスやビジネス・インテリジェンスといった全社的な情報管理、意思決定支援を目的としたデータ管理手法やビジネススタイルが普及し注目を集めています。
-------	---

	本講義ではコンピュータを中核とするこれら各種の情報システムについてわかりやすく概説します。
到達目標	・経営における各種情報システムの特徴や役割を正しく説明できる。 ・将来企業において情報システムを導入、活用する際の判断力を身につける。
講義方法	PowerPointのスライドおよび配布資料で講義を行います。 教科書も使用しますが、それ以外の歴史的な流れや最新のトピックス、事例などについても時間を割いて説明します。
準備学習	予備知識がなくても理解できるように解説しますが、経営管理、マーケティング、情報処理などの基礎知識があれば、より理解を深めることができます。 授業内で紹介する参考書をはじめ、新聞や雑誌などで企業の情報化に関する記事などを読むことで、より具体的なイメージを持って受講することができます。
成績評価	1～2回のレポート(30%)と期末試験(70%)により評価します
講義構成	1. 経営情報システム入門 2. 経営情報システムの定義と分類 3. 意思決定支援システム(DSS)とは 4. DSSの発展 5. 意思決定と決定支援 ①(人間の情報処理) 6. 意思決定と決定支援 ②(ヒューリスティクス) 7. DSSのアーキテクチャ① 8. DSSのアーキテクチャ② 9. 情報システムの戦略的な活用 10. 全社企業システム体系 11. データウェアハウス 12. ビジネス・インテリジェンス 13. 全社業務資源計画(ERP) 14. サプライチェーン管理(SCM) 15. デマンドチェーン管理(DCM)
教科書	「ビジネス情報学概論」, 定道 宏著, オーム社, 2006
講義関連事項	初回授業のガイダンスでより具体的な説明をします。 可能な限り出席してください。

授業コード	51012		
授業科目名	経営戦略論（前）		
担当者名	シュレスタ(シュレスタ マノジュ L.)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限 水曜2限
オフィスアワー	火曜日12:10～13:00		

講義の内容	景気動向だけでなく、目ざましい技術発展、社会構造や消費者嗜好の急激な変化、価値観の多様化。現代の企業は、これら経営環境の劇的な変化に対して、いかなる戦略の策定を行っているのだろうか。 本講義では、国内外の企業のケーススタディを通して、経営戦略の理論とともに「現代に生ける戦略」の実態を分析し、現代が求めつつある新たな企業像、経営者の役割(リーダーシップ)、そして、社会と企業の新たな関わり方等についても共に考えてみたいと思う。
到達目標	総合社会学としての経営学の基本的な知識を事例を通じて深めつつ、資源の最適配分のメカニズム及び組織と戦略の体系を学ぶ。
講義方法	配布したケーススタディ、紹介した文献の熟読を前提に講義を行う。なお、本講義ではケーススタディ、配布資料ともに英語の文献を多く使用する予定である。
準備学習	事前に配布する資料に目を通して、要点を整理し、講義に臨むこと。事例で挙げる企業については、事前にホームページ等で調べておくこと。
成績評価	数回課す予定のアセスメント及び後期末試験によって評価を行う。なお、「今週の戦略」に関するレポートの提出は任意とするが、レポートが特に優れたものである場合には、最終的な評価にあたり加算する。
講義構成	1. なぜ戦略が必要か 2. 戦略の歴史、チャンドラー、アンゾフ、 ミンツバーグ、ティース、環境分析の手法 3. 戦略策定と経営者の役割

	4. " 5. M. E. Porterの戦略論 6. 競争の戦略 7. 競争優位の戦略 8. 国の競争優位 9. 企業の多国籍化戦略 10. 日米企業の行動、動向、業績 11. 日米企業の競争戦略の比較 12. アジア企業の競争戦略 13. イノベーションとしての知的財産権 14. 知的財産マネジメント ① 15. 知的財産マネジメント ② 16. 企業の多国籍化戦略 17. 戦略的提携の意義 18. " 19. ポスト雁行形態の経営戦略 20. 21世紀型経営戦略を考える
教科書	特に指定しない。配布したレジュメに即して講義を行う。
参考書・資料	[1] ガース・サローナー、アンドレア・シェパード、ジョエル・ポドルニー著、石倉洋子訳、『戦略経営論』、東洋経済新報社・2004年 [2] ウォートン・スクール、ロンドン・ビジネススクール、IMD、『MBA全集5 経営戦略』、ダイヤモンド社・1998年 [3] DIAMOND ハーバード・ビジネス『戦略の本質 マイケル・E・ポーター』ダイヤモンド社・1997年2-3月号 [4] M. L. シュレスタ『企業の多国籍化と技術移転−ポスト雁行形態の経営戦略−』千倉書房・1996年 [5] G. ハメル & C. K. プラハラード著、一條和生訳『コア・コンピタンス経営−大競争時代を勝ち抜く戦略』日本経済新聞社・1994年 [6] Richard P. RUMELT, Dan E.SHENDEL and David J.TEECE(ed), Fundamental Issues in Strategy, Harvard Business School Press, 1994
講義関連事項	「今週の戦略」に関するレポートの提出は、原則としてA4版の用紙に横書きで(ワープロ書きが好ましい)、翌週の講義終了時とする。
担当者から一言	「自分と未来は変えられる」。自ら変化を作り出したい諸君の参加を希望する。

授業コード	51015		
授業科目名	経営組織論（前）		
担当者名	尾形真実哉（オガタ マミヤ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
オフィスアワー	開講時にお伝えします。		

講義の内容	本講義では、経営組織論の主要トピックについて、理論や概念、関連事例を学んでいきます。それらを日本の産業社会における現状に、あるいは学生に身近な組織現象に応用し、実践することができる力を身につけてもらうことを目的に講義を行います。 経営組織というと、経営に携わっていない学生にとっては縁遠いものに思えるかもしれませんが、決してそうではありません。クラブ活動やサークル活動、ゼミ運営やアルバイト、さらには遊びといった活動に組織論の理論が大いに関連しています。このような経営組織論には2つの視点が存在しています。1つは「組織の行動論理」、もう1つは「組織の中で活動する個人の行動論理」の2つです。本講義では、この両者の視点を相互に考慮しながら、経営組織論の理論的背景から、身近な事例や産業社会における事例まで、映画やドキュメンタリーなどの映像も使用しながらわかりやすく説明していきたいと思います。
到達目標	本講義では、経営組織に関する理論を用いて、現実世界で起きている現象を的確に捉え、次にどのようなことが起こり得るのか、そのような状況に自分自身がどのように対処すべきなのか、そうすることで事態がどのように変化し、社会にどのような貢献ができるのかなどを自分の頭で推測できるようになることを到達目標としたい。また、受講生が、より良いキャリアを歩むための知識も獲得してもらいたい。
講義方法	まず最初に経営組織論に関する理論について講義し、続いて、その理論に関連した映像を観ます。最後に、学んだ理論を用いて、映像を分析していくという流れで講義を行います。理論の講義は、パワーポイントを用いて説明を行います。1回の講義でパワーポイントのスライドは70枚～80枚程度になります。スライドが多いので、

	講義のスピードも若干早めになります。そこは事前に理解のうえ、受講するようにして下さい。
準備学習	経営組織論の講義は、1回1回が断絶した個別の内容ではなく、それぞれの講義が密接に関連した内容となっています。それゆえ、毎回の復習を欠かさず受講することで、その理解は大いに深まると思います。
成績評価	期末テストのみで評価します。出欠はとりません。
講義構成	1. オリエンテーション 2. 経営組織論とは 3. モチベーション論 4. リーダーシップ論 5. キャリア論 6. 組織社会化論、組織コミットメント論、組織市民行動論 7. 人事アセスメント論と心理的契約論 8. グループ・ダイナミクス 9. 意思決定論 10. 経営理念と組織文化論、日本的経営論 11. 組織構造論と組織間関係論 12. 組織学習論、イノベーション論、組織変革論 13. 経営組織論の総まとめ
教科書	金井壽宏(1999)『経営組織』、日本経済新聞社。
参考書・資料	講義の際に、講義の内容に関連する文献を適時紹介します。本講義に関する知識をより深めたい学生には、以下の文献を紹介しておきます。あくまでも参考文献で、必読というわけではありません。 伊丹敬之・加護野忠男(2003),『ゼミナール経営学入門 第3版』,日本経済新聞社。 金井壽宏・高橋潔(2004),『組織行動の考え方』,東洋経済新報社。 桑田耕太郎・田尾雅夫(1998),『組織論』,有斐閣アルマ。 二村敏子編(2004),『現代ミクロ組織論』,有斐閣ブックス。 リチャード・L・ダフト(2002),『組織の経営学』,ダイヤモンド社。 ステファン・P・ロビンズ(1997),『組織行動のマネジメント』,ダイヤモンド社。
講義関連事項	講義中の私語は絶対に控えて下さい。講義の妨げになる場合は退出してもらいます。ルールを守れない人は受講しないで下さい。 講義のスライドは多く、進むスピードも早いですし、テスト範囲も広範になります。それゆえ、楽をして単位を取りたい人には不向きな科目だと思います。
担当者から一言	経営組織論は、日常生活のあらゆる現象に関わる身近な科目です。日頃の経験と本講義をリンクさせながら受講することで、講義の理解度も高まると思います。本講義で、理論と実践をリンクさせ、社会に出てからも活かせる実践的な知識を身につけて下さい。「経営学」から「経営楽」へ！

授業コード	51014		
授業科目名	経営労務論（後）		
担当者名	中丸寛信（ナカマル ヒロノブ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限 木曜4限
オフィスアワー	火曜日 12:20～13:00		

講義の内容	労務管理は、企業の三要素といわれる「ヒト」「モノ」「カネ」のうち、「ヒト」に関する管理活動、その対策や諸施策である。本講義では、経営労務論とは何か、労務管理の歴史的発展、また労務管理の主要なテーマを取り上げ説明していく。その際、教科書を中心に、他の文献も参考にしながら理論的に学び、VTR映像、新聞記事なども活用しながら少しでも実態にもふれていく。それによって、経営労務の諸施策の背景としての理論とその実態、さらに今後のあり方などについて考察していく。
到達目標	・経営労務論とは何かについて説明できる。 ・労務管理の歴史的発展とその背景としての人間観について説明できる。 ・雇用管理、賃金管理などが今日の厳しい経済環境を背景にどのように変化してきたのか説明できる。 ・労務管理の今後のあり方について、自分の考え方を説明できる。
講義方法	講義はできるだけ教科書に沿ったレジュメを用意し、それを配布し行う。また、さまざまな理論的説明に沿ったビデオ教材を視聴する時間を取り、それについてのレポートを提出してもらう。それによって、理論のみならず少しでも実態にも触れ、理解が深まるよう工夫していきたい。
準備学習	毎日、日本経済新聞などを読み、経済や労務管理の動向について事前に把握し、問題意識をしっかりと醸成して

	おくこと。
成績評価	期末試験の成績80%、レポート提出10%、出席状況10%の割合で評価する。
講義構成	1. 経営労務論(人的資源管理)とは何か、本講義のテーマ(目的)、方法など 2. 労務管理の歴史的発展:現代労務管理までの主要理論① 3. 労務管理の歴史的発展:現代労務管理までの主要理論② 4. 労務管理の歴史的発展:労務管理の主要理論と人間観の変遷 5. 企業の採用について:採用の基準は何か、どのような人間を求めているかなど 6. 働く動機づけ(モチベーション):ヒトは何に動機づけられるのかなど 7. 働く動機づけ(モチベーション):ヒトはどのように動機づけられるのかなど 8. ヒトを動かす(リーダーシップ):リーダーシップのあり方など 9. ヒトを動かす(リーダーシップ):企業経営者の考え方の事例など 10. 雇用管理:終身雇用の意義と限界など 11. ワークシェアリングなど 12. 人事考課制度:職能資格制度や成果主義人事管理下の人事考課制度など 13. 賃金制度:賃金体系、賃金制度の新動向など 14. 年功制と成果主義について 15. 授業のまとめと今後の労務管理の展望 なお、その他福利厚生制度、労使関係、女性労働などについても、時間が許す限り講義の中でふれていきたい。
教科書	奥林康司編『入門・人的資源管理』中央経済社、2003年。 なお、入学時に配布された『経営学のしおり』も活用する。
参考書・資料	安藤 史江『コア・テキスト 人的資源管理』新世社、2008年。 エドワード・ホフマン著『マズローの人間論』ナカニシヤ出版、2002年。 高橋伸夫『虚妄の成果主義』日経BP社、2004年。 高橋伸夫『育てる経営』の戦略:ポスト成果主義への道』講談社、2005年。 津田真澄『新・人事労務管理』有斐閣、1993年。 その他、適宜授業の中で参考文献を示す。
担当者から一言	今日、企業の経済環境は非常に厳しくなっている。その中で希望をもって働くために、一人ひとりの人間の可能性を最大限引き出す管理が求められている。その視点に立って、経営労務の現状とこれからのあり方について共に考え深めていきたい。

授業コード	51007		
授業科目名	経済学入門（前）		
担当者名	瀧川好夫（タキガワ ヨシオ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	生産者・消費者が直面している問題は次の3つに整理できます。ミクロ経済学を学ぶ理由は、資源配分と生産技術の合理的選択を行いたいからです。 (1) 資源配分問題 ① 生産要素配分問題 生産者は、与えられた生産技術のもとで、生産要素を投入して、生産物を産出します。1つの生産物を作るのに、どんな生産要素をどれだけ配分すればよいのか？あるいは1つの生産要素を配分して、どんな生産物をどれだけ作ればよいのか？ ② 生産物配分問題 消費者は、与えられた嗜好のもとで、生産物を購入して、効用(満足)を充足します。どんな生産物をどれだけ買えばよいのか？ (2) 生産技術の合理的選択問題 生産者はいくつかの技術の中から最適なもの、すなわち1つの生産物を作るのに、できる限り少ない量の生産要素で済む生産技術、あるいは1つの生産要素で、できる限り多くの生産物を作る生産技術を合理的に選択します。
到達目標	私は大学教育の目標として、 ① 問題発見・問題解決できる人材を育てること ② コミュニケーション(プレゼンテーション)できる人材を育てること の2つを挙げています。ここで次の問題を考えてみましょう。「水なしでは生きていけませんが、水泥棒はさほどニュースになりません。指に宝石をちりばめたリングがなくても生活できるのに、宝石泥棒はニュースになりま

	す。水は生命の維持には不可欠であるが安価です。宝石は高価であるが生命の維持には必要ありません。なぜ水は安価で、宝石は高価なのでしょう。」これを1つの問題発見とするならば、「水とダイヤモンドの逆説」と呼ばれているこんな問題どうして思いついたのでしょうか。問題を発見する能力は本、講義、講演などを通じた知的刺激によって磨かれ、また問題を解決する能力も本、講義、講演などを通じた学習によって得られます。
講義方法	教科書の内容に沿って講義しますので、教科書は必ず授業時にはもって来てください。また、参考者を用いて問題演習を行います。公務員試験の問題レベルです。
準備学習	予習よりも復習が大事です。一番よい復習方法は参考書を用いて問題演習を行うことです。本を読むことと、問題を解くことの間には大きな溝があります。本を読んで分かったつもりでいても、問題はなかなか解けません。問題演習を行うと、どこが分かっている、どこが分かっているかを正しくチェックできます。
成績評価	期末試験のみで評価します。出席はとりませんが、授業での問題演習は理解を深め、単位取得に大切なものです。
講義構成	教科書の序章、第1、2、3、4部を学ぶ。 第1回 序章 ミクロ経済学を学ぶ 第2、3、4、5、6、7回 第1部 消費者・生産者の選択行動 第1章 消費者の選択行動：1人の消費者の需要 第2章 生産者の選択行動：1人の生産者の供給 第8、9、10回 第2部 多数の消費者の需要と多数の生産者の供給：需給均衡 第3章 1つだけの完全競争市場の均衡：部分均衡分析 第4章 2つ以上の完全競争市場の同時均衡：一般均衡分析 第11、12回 第3部 市場の望ましい状態：実証的経済学 vs. 規範的経済学 第5章 1つだけの市場の望ましい状態：部分均衡分析と余剰 第6章 2つ以上の市場の望ましい状態：一般均衡分析とパレート最適 第13、14、15回 第4部 市場は“望ましい状態”を達成できるのか 第7章 不完全競争市場は“望ましい状態”を達成できない：独占の弊害 第8章 完全競争市場は“望ましい状態”を達成できないことがある：市場の失敗
教科書	滝川好夫『たのしく学ぶ ミクロ経済学』ミネルヴァ書房、2009年。
参考書・資料	滝川好夫『ミクロ経済学の楽々問題演習』税務経理協会、2007年。
講義関連事項	本講義のミクロ経済学は問題発見・問題解決能力を養うのに役立つと思います。
担当者から一言	なぜミクロ経済学を学ぶのか。その答えは「合理的選択の理論」です。何をミクロ経済学で学ぶのか。その答えは「神のみぞ知る手」です。ミクロ経済学を学ぶと、合理的思考方法が身につきます。
その他	「学ぶこと」と「考えること」の両立が大切です。本を読まないで考えてばかりではいけないし、考えないで本を読んでばかりいてもいけません。

授業コード	51026		
授業科目名	原価計算（前）		
担当者名	長坂悦敬（ナガサカ ヨシユキ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限 月曜3限
オフィスアワー	月曜日5時間目		

講義の内容	企業の経営を合理的かつ効率的に運営するためには原価情報が不可欠である。原価計算の主な目的は、「財務諸表に表示する必要な原価を集計すること」と「販売価格の計算、原価管理、予算編成ならびに予算統制、経営の基本計画などを設定するために必要な原価情報を提供すること」であり、前者は「制度としての原価計算」であり、原価計算基準などの制約による一定の枠組みの中で実施される。後者は企業独自の考え方によって管理目的のために行われるもので「特殊原価調査」と呼ばれる。原価計算の基礎的概念、各種手法、企業での実例を学習する。
-------	---

到達目標	日商簿記2級レベルの原価計算手法をマスターすることと原価計算の意義について説明できること。
講義方法	原価計算についての基本事項を学習し、事項ごとにやさしい練習問題を解くことを繰り返し、理解を深める。
準備学習	1年次配当科目、簿記入門を履修するか、同等の事前学習をしていること。
成績評価	授業中の練習問題の提出状況(30%)と期末試験(70%)で評価する。
講義構成	1.オリエンテーション 2.原価計算の概要 3.材料費の計算 4.労務費の計算 5.経費の計算 6.製造間接費 7.部門費の計算 8.個別原価計算 9.総合原価計算 10.工程別総合原価計算 11.標準原価計算 12.製造業の会計 13.CVP分析 14.直接原価計算 15.まとめ
教科書	上埜進編著、「工業簿記・原価計算演習－理論と計算－」 税務経理協会、2,980円
参考書・資料	上埜進、長坂悦敬、杉山善治、「原価計算の基礎－理論と計算－」、税務経理協会、(2003) 門田安弘「原価計算」税務経理協会 岡本清著「原価計算」国元書房

担当者から一言	練習問題をできるだけ数多く解くことで基礎を理解できるようにしたいと考えています。現代企業の動向についてもトピックス的に紹介する予定です。
ホームページタイトル	長坂研究室 http://homepage2.nifty.com/nagasaka/
URL	http://homepage2.nifty.com/nagasaka/

授業コード	51016		
授業科目名	工業経営論（前）		
担当者名	渡邊和俊(ワタナベ カズトシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限

講義の内容	日本の製造業の「モノづくり」は世界に誇る競争力をもっている。その競争力を「技術」、「イノベーション」、「経営戦略」の視点から分析する。同時に情報通信システムがもたらす影響について理解する。
到達目標	日本の「モノづくり」の経営戦略を理解する。
講義方法	講義形式
準備学習	日常、日本の製造業の動向をチェックしておくこと。
成績評価	出席と期末試験で評価する。
講義構成	1. モノづくりとは何か 2. 大量生産システム 3. トヨタ生産システム 4. 製品と生産方法のイノベーション 5. ドミナント・デザイン 6. イノベーションと産業革新 7. 技術のイノベーション 8. 破壊的イノベーション 9. 情報の特性 10. 情報システムにもとづく経営戦略
教科書	必要に応じて、提示する。

授業コード	51C91		
授業科目名	工業簿記 (A)(後)		
担当者名	鶴目敏生(ツルメ トシオ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限 火曜2限
特記事項	事前申請科目 受講希望者は履修要項の申し合わせをよく読み、期日までに申請すること。		

講義の内容	本講義は、経営者、国際的企業人、会計職業人(税理士、公認会計士など)を志望する学生のための、“ビジネスのプロ”を養成する「ビジネス・リーダー養成プログラム」の第2ステップであり、学習レベルとしては日商簿記検定試験2級の合格を目標としています。 ※2級合格には、工業簿記(A)とともに中級簿記(A)の修得が必要です。 工業簿記(A)では、株式会社(うち製造業)を対象として学習します。製造業などは材料や労働力、生産設備などを使い、製品を製造、販売して利益を獲得する企業体です。また、原価計算を学習し、原価管理や利益管理など企業の維持発展に必要な知識を修得します。 日商簿記検定試験2級の合格のためには、3級と同様に講義(インプット)と問題練習(アウトプット)をバランス良く学習することがきわめて重要です。なお、2級は工業簿記と中級簿記(商業簿記)が同時出題されるため、得手不得手のないよう、バランス良く学習して下さい。 講義を受け、練習問題を解き、そして検定試験に合格するというのがこのコースのデザインです。
到達目標	平成23年2月に実施される日本商工会議所主催簿記検定(日商簿記検定)2級の合格
講義方法	日商簿記検定2級の合格のためには、講義(インプット)と問題練習(アウトプット)をバランス良く学習することがきわめて重要です。日商簿記検定2級の出題範囲に準拠し、テキストで簿記会計の基本的な考え方をマスターし、さらに、問題集で具体的な計算問題を練習することで学習効果を高めます。 検定試験直前(2月中旬から下旬)には、検定試験出題予想問題を試験形式で解答し、検定合格に向けて実践的な問題解答能力を身に付けます(合格レベルに達するまで繰り返します)。
準備学習	工業簿記は、簿記入門(A)の上位クラスのため、基本的な仕訳ができることが前提です。特に勘定への転記は、工業簿記でも必要な知識です。また、電卓練習として、精算表等の数値を使い、素早く集計できるように練習しておきましょう。
成績評価	出席状況(20%)、授業中のミニテストおよびレポート(20%)、期末試験(60%)に基づいて総合評価します。※毎回の授業に出席に、理解、復習しなければ、各種試験での得点はできません。
講義構成	下記の基礎18項目および検定試験対策(答案練習)を講義する。 1 工業簿記の基礎(記帳体系:個別原価計算) 2 材料費会計 3 労務費会計 4 経費会計 5 製造間接費会計 6 単純個別原価計算 7 部門別計算 8 工企業の財務諸表 9 工場会計の独立 10 工業簿記の基礎(記帳体系:総合原価計算) 11 単純総合原価計算(月末仕掛品原価の計算、材料投入形態) 12 減損および仕損 13 工程別総合原価計算 14 組別総合原価計算 15 等級別総合原価計算 16 標準原価計算 17 短期利益計画、CVP分析 18 直接原価計算
教科書	本講義では、専用の教材が必要です。生協書籍部で販売しますので、必ず購入してください。 ※講義初回から、教材および電卓を使用します。 『ALFA2級課程 工業簿記』 大原簿記専門学校
参考書・資料	必要に応じて、レジュメおよび問題資料を配布します。 推薦問題集『ステップアップ問題集(工業簿記)』 大原簿記学校
講義関連事項	甲南大学生協書籍部を通じて、日商簿記検定試験の受験申込をしてください。 ※申込期間に注意のこと。

担当者から一言	講義初回から、教材および電卓を使用します。 ※電卓は、10桁～12桁表示が望ましい。カード電卓は不向きである。 工業簿記(A)は、簿記入門(A)の上位クラスのため、日商簿記検定3級レベルを合格した者でなければ、履修することはできません。この講義を受講し、自宅等での復習を確実に行えば、日商簿記検定2級合格という成果がついてきます。目標として60%程度の合格率を目指します。
---------	---

授業コード	51C92		
授業科目名	工業簿記(B)(後)		
担当者名	浜田和樹(ハマダ カズキ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限 火曜2限
特記事項	事前申請科目 受講希望者は履修要項の申し合わせをよく読み、期日までに申請すること。		

講義の内容	工業簿記の特徴は、原材料を加工して製品を生み出す製造過程を、複式簿記により組織的に記録、計算する点である。そのため材料費、労務費、経費の費消過程を、経営給付に関連付けて正しく跡付けることが必要になる。その過程を各段階ごとに講義し、最終的には工業簿記の一巡の過程が理解できるようにしたいと思っている。
到達目標	工業簿記の基本的考え方を理解し、正しく原価を計算し記帳できる能力の達成を目標としている。
講義方法	工業簿記は記帳練習も必要なので、その時間も十分にとりたいと思っている。記帳練習を通して、確実に理解した個所とそうでない個所が明確になると思われる。そのため、毎回、基本的事項をまず説明し、その後記帳練習をという方法をとりたいと思っている。
準備学習	商業簿記3級程度の基礎知識が必要である。そのためその知識がない人は、この授業と並行して商業簿記3級の勉強をしてください。また講義をよく理解するためには、前もって予習しておくことも必要です。
成績評価	受講者数によって評価の仕方は異なってくるが、基本的には、出席点20%、途中1回行う中間テスト30%、期末に行う最終テスト(定期テスト)50%のウエイトで、最終評価する。
講義構成	講義は次の順序で実施する。 1. 工業簿記の基礎 2. 工業簿記の勘定連絡 3. 材料費： 材料費の分類、材料の購入原価の計算 4. 材料費： 材料の消費、予定価格を用いる方法 5. 労務費： 労務費の分類、賃金支払い額の計算 6. 労務費： 賃金の消費、予定賃率を用いる方法 7. 経費： 経費の分類、経費の消費 8. 経費： 経費の仕訳と勘定記入 9. 個別原価計算： 個別原価計算とは、計算手続き、製造間接費の配賦 10. 個別原価計算： 原価差異、原価元帳 11. 部門別個別原価計算： 部門別個別原価計算とは、補助部門費の製造部門への配賦 12. 部門別個別原価計算： 製造部門費の各製品への配賦 13. 総合原価計算： 総合原価計算とは、月初仕掛品がない場合の計算手続き 14. 総合原価計算： 月初仕掛品がある場合の計算手続き 15. 総合原価計算： 減損、仕損じが発生する場合の計算 16. 総合原価計算： 組別原価計算、等級別原価計算 17. 総合原価計算： 工程別原価計算 18. 工業簿記における財務諸表 19. 標準原価計算： 標準原価計算とは、原価標準の設定、標準原価の計算 20. 標準原価計算： 勘定記入の方法 21. 標準原価計算： 原価差異の計算と分析 22. 標準原価計算： 標準原価計算制度における財務諸表 23. 直接原価計算： 直接原価計算とは、勘定連絡、固定費調整 24. 直接原価計算： 短期利益計画、CVP分析 25. 本社工場会計 26. まとめ
教科書	TAC簿記検定講座著、『合格テキスト 日商簿記2級(工業簿記)Ver.5.0』、TAC出版、2009年11月。
参考書・資料	上埜 進編著、『工業簿記・原価計算演習の基礎(理論と計算)』、税務経理協会、平成21年4月。

担当者から一言	工業簿記は、テーマを一つずつ段階を追って理解していく必要がある。また理解を確実なものにするためには、繰り返しの記帳練習が必要である。
---------	--

授業コード	52002		
授業科目名	コース演習 I (2010-2011)		
担当者名	長坂悦敬(ナガサカ ヨシユキ)		
配当年次	2・3年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～2011年度 前期	曜日・時限	2010年度 前期(火曜1限)、2010年度 後期(火曜1限)、2011年度 前期(日曜5限)
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	火曜日 5限		

講義の内容	本演習では、 ・コミュニケーション／データ分析／プレゼンテーション／企画スキル教育 ・プロジェクト研究 ・企業研究 ・守秘義務・ビジネスマナー等教育 これらの教育・指導をとおして、ビジネスに関して、自ら問題を発見し、それを整理して、自分なりに考えて解決策を企画するとともに、交渉、プレゼンテーションすることで第3者に説明できる力を育成することが本演習の教育目標である。また、ビジネス・マネジメントに関する知識を習得するとともに、チームワーク力を発揮できるビジネスプロフェッションの素養を備えた社会性豊かな人間を養成したいと考えている。
到達目標	情報分析力、企画力、プレゼンテーション力、プロジェクト達成能力を身につける。
講義方法	2年生の4月から7月までは、コミュニケーション／プレゼンテーション／企画スキルを学ぶ。 ・プレゼンテーション方法(ビジュアルスライド作成を含む) ・ディベート 上記の基礎力を醸成した後、プロジェクト研究(2年生の7月から3年生の7月まで)を実施する。プロジェクト研究では、ビジネス・マネジメントに関して、自らの関心がどこにあるかを見つけ出し、研究テーマを設定する。そして、そのテーマについて自ら調査し、プレゼンテーションを行い、質疑を繰り返しながら、最終的に研究レポートを作成する。
準備学習	経営学総論、会計学総論、マーケティング総論の内容をよくレビューしておくこと。
成績評価	出席、プロジェクトの達成度、ディスカッションへの参加度によって評価します。
講義構成	前期 1 オリエンテーション(自己紹介、チーム編成) 2 プレゼンテーション演習(スライド作成技法の習得) 3 レジメ作成演習(レジメの作成技法の習得) 4 表計算ソフトウェア演習(統計処理、グラフ作成方法の習得) 5 インターネット検索と情報分類(ビジネストピックスの検索技法と分類方法の習得) 6 ブレーンストーミング演習(ディスカッション方法、まとめ方の習得) 7 親和図法、マインドマップによる情報整理(情報整理方法の習得) 8 ホームページ作成による情報発信(情報発信方法の習得) 9 ディベート演習(ディベート方法の習得) 10 1stチームプロジェクト演習(1)テーマ設定 11 1stチームプロジェクト演習(2)役割分担決定 12 1stチームプロジェクト演習(3)文献調査中間報告 13 1stチームプロジェクト演習(4)企画書作成 14 1stチームプロジェクト演習(5)プロポーザル発表 後期 1 1stチームプロジェクト演習(6) 報告書まとめ 2 1st チームプロジェクト演習(7) プレゼンテーション準備 3 1stチームプロジェクト演習(8) 発表 1GR、2GR 4 1stチームプロジェクト演習(9) 発表 3GR、4GR 5 2ndチームプロジェクト演習(1)テーマ設定 6 2ndチームプロジェクト演習(2)役割分担決定 7 2ndチームプロジェクト演習(3)文献調査中間報告 8 2ndチームプロジェクト演習(4)企画書発表 9 2ndチームプロジェクト演習(5)中間報告

	102ndチームプロジェクト演習(6) 報告書まとめ 11 2nd チームプロジェクト演習(7) プレゼンテーション準備 12 2ndチームプロジェクト演習(8) 発表 1GR、2GR 13 2ndチームプロジェクト演習(9) 発表 3GR、4GR 14 ディベート演習(ディベート技法の習練) 15 まとめ
教科書	佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦著『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門—』慶應義塾大学出版会、2006年。 小林康夫・船曳建夫編著『新・知の技法』東京大学出版会、1998年。
担当者から一言	本演習は、経営学部ビジネスリーダー養成プログラムのコアにあたり、BP、GBコース所属の皆さんと目標を高くもって進めていきたいと思います。ゼミの呼称は「BL-STETゼミ」です。STETはStudy, Think and Enjoy Together!の頭文字をとったものでゼミ運営の基本方針を示しています。みんなで一緒に楽しみながら、悩みも共有して、学習しましょう!
ホームページタイトル	長坂研究室
URL	http://homepage2.nifty.com/nagasaka/

授業コード	52003		
授業科目名	コース演習Ⅱ(後)		
担当者名	杉山善浩(スギヤマ ヨシヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	火曜日の昼休み		

講義の内容	本演習は、ビジネス・リーダー養成プログラム所属の学生を対象としています。同プログラム所属の学生は、3年次後期にインターンシップに参加し、インターンシップ先企業において「経営のリアリティ」を学びます。本演習では、インターンシップに参加している受講生に、自らが学んだ「経営のリアリティ」について報告してもらいます。このとき、コース演習Ⅰにおいて学んだ当該企業の歴史・現状・展望などを踏まえて報告することが不可欠です。
到達目標	・ マネジメントに関する幅広い知識を習得し、それを現場で応用できる。 ・ 多面的にモノを見て自らを客観化し、問題を発見し、その解決策を見出すことができる。 ・ 社会人として必要なビジネスマナーを体得している。
講義方法	受講生による報告形式の授業を行います。授業中に受講生の意見を求めることが多々ありますので、十分な準備は欠かせません。
準備学習	新聞の経済や産業の欄を日頃から読み、企業行動に注目しておいてください。
成績評価	出席状況、受講態度、報告、レポートの内容などにに基づき、総合的に評価します。なお、受講生が履修を放棄したと見なされる場合の評価は「欠席」となります。
講義構成	第1回 授業の主旨と進め方 第2回～第14回 インターンシップに関する報告と討論 第15回 まとめ
教科書	特定の教科書は使用しません。適宜、参考書・資料などを指示します。

授業コード	52008		
授業科目名	コース特論A(アカウンティング) (前)		
担当者名	久保田秀樹(クボタ ヒデキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜2限
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	金曜日12時10分～13時		

講義の内容	日本の企業会計は、3つの法律による規制を受けている。それぞれの法律は、法の目的を持つ。金融商品取引法は「投資者保護」、会社法は「債権者保護、株主保護」、そして税法は「課税の公平性」等である。各法律は、そうした目的を達するために、手段として企業会計に規制を加えている。 具体的な規制については、企業会計基準及び内閣府令や法務省令に委ねられている。したがって、本授業では、企業会計基準等として定められた企業会計のルールが中心となる。「企業の設立」、「資金調達」、「仕入・生産活動」、「販売活動」等について、それを写し取るルールがどのようなものであるか、そして財務諸表を使った経営分析について学習する。
到達目標	財務諸表をはじめとする、企業の財務データの高度利用には、企業会計基準等として定められた企業会計のルールに関する知識が不可欠である。企業の財務情報によって、企業の収益性、安全性および成長性を分析する際に必要な知識の習得を目標とする。
講義方法	教科書に沿ってアカウンティンの各領域について解説する。
準備学習	初級の複式簿記の知識を前提に講義を進めるので、受講者は日商簿記検定3級レベル以上の知識を習得しておくこと。
成績評価	宿題レポート等(20%)と期末の筆記試験の結果(80%)を合わせて総合的に評価する。時間的余裕があれば小テストを実施し、その場合は、それらも加味して評価する。
講義構成	第1回 会計の種類と役割 第2回 財務会計のシステムと基本原則 第3回 企業の設立と資金調達 第4回 仕入・生産活動 第5回 販売活動 第6回 設備投資と研究開発 第7回 資金の管理と運用 第8回 国際活動 第9回 税金と配当 第10回 財務諸表の作成と公開 第11回 企業集団の財務報告 第12回 財務諸表による経営分析Ⅰ(収益性分析) 第13回 財務諸表による経営分析Ⅱ(安全性分析) 第14回 財務諸表による経営分析Ⅲ(成長性分析)
教科書	桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣の開講時の最新版。
担当者から一言	会計科目は積み重ねが重要な学科目であるため、毎回出席し、予習・復習を徹底して行なうことが特に重要である。

授業コード	52007		
授業科目名	コース特論F(ファイナンス)(後)		
担当者名	赤石雅弘(アカイシ マサヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	土曜日の講義終了後		

講義の内容	ファイナンスの諸問題のうち、コーポレート・ファイナンス(経営財務、企業財務)について講義する。 コーポレート・ファイナンス(経営財務、企業財務)論はその名の示すとおり経営財務すなわち企業の財務活動を考察対象とする。企業の財務活動としては、(1)資本調達、(2)資本投下、(3)利益処分(配当決定)、(4)日々循環する資金(運転資本)の管理が挙げられる。 本講義では、これらのうち、(1)と(2)を取り上げ、これらに関する意思決定をどのように行えばよいかを中心に考察していく。科目の性格上抽象度が高い議論となるが、基礎的な事項に焦点を合わせ、できる限り分かりやすく解説するつもりである。
到達目標	企業財務理論のエッセンス——基礎概念や基本的な考え方——について、一通り掴んでもらう。
講義方法	講義内容を整理した『講義ノート』を配布し、これをもとに、通常の講義形式で進める。また、講義の過程で、理解を深めてもらうための小テストを何回か行う。
準備学習	『講義ノート』の予習と復習。
成績評価	(1)基本的には期末試験によって評価するが、(2)講義の過程で行う小テストの結果を(1)に加味する。

講義構成	I. コーポレート・ファイナンス論の課題 —— 第1回 ・コーポレート・ファイナンス論の対象と方法 ・講義全体の概要 II. 投資決定 —— 第2～5回 ・キャッシュフロー —— 将来のリターンの尺度 ・貨幣の時間価値(複利計算、割引計算、現在価値) ・主要な投資決定手法 ・計算問題 III. 資本コスト —— 第6～9回 ・資本コストの意義 ・各資本源泉のコストの計算 ・投資のハードルレート(必要収益率) IV. 資本調達決定(資本構成の決定) —— 第10～13回 ・負債利用効果(レバレッジ効果)と財務リスク ・最適資本構成の存否を巡る2つの仮説 ・モジリアニとミラー(MM)の資本構成理論とその検討 V. 総括 —— 第14回
教科書	配布する『講義ノート』

授業コード	52006		
授業科目名	コース特論M(マネジメント) (前)		
担当者名	杉山善浩(スギヤマ ヨシヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	火曜日の昼休み		

講義の内容	本講義では、教育の材料として「ケース(事例)」を受講生に配布します。グループワークを前提とし、各グループでは、配布されたケースを熟読・検討し、ケースに記述された課題に対して問題解決の判断を下します。その後、各グループで導いた判断を出し合い、全員でどのグループの判断が適切かを討論します。こうした疑似体験をとおして、経営学の知識を深めるとともに、受講生の問題解決能力、コミュニケーション能力を高めます。
到達目標	・ビジネスの場において合理的な意思決定を下すことができる。 ・学生間の議論をとおして、自分の意見を表現し相手を説得することができる。 ・マネジメントの理論を現場でどのように応用すればよいかを理解することができる。
講義方法	受講生による報告形式の授業を行います。授業中に受講生の意見を求めることが多々ありますので、十分な予習は欠かせません。
準備学習	新聞の経済や産業の欄を日頃から読み、企業行動に注目しておいてください。
成績評価	出席状況、受講態度、報告、レポートの内容などに基づき、総合的に評価します。なお、受講生が履修を放棄したと見なされる場合の評価は「欠席」となります。
講義構成	第1回 授業の主旨と進め方 第2回～第3回 組織を動かす—オーガニゼーション— 第4回～第5回 お金の計算に強くなる—アカウンティング— 第6回～第7回 顧客志向で成功する—マーケティング— 第8回～第9回 資金調達と企業価値向上—ファイナンス— 第10回～第11回 真のリーダーとなる—ゼネラルマネジメントと経営戦略— 第12回～第14回 合理的に問題を解決する—論理的思考方法とオペレーション— 第15回 まとめ
教科書	プリントと板書により講義します。教科書は使用しません。

授業コード	52005
-------	-------

授業科目名	コース特論O(オーガニゼーション)(後)		
担当者名	河野昭三(コウノ ショウゾウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜1限
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	経営組織の静態と動態に関する指定テキストの内容をしっかりと理解できることを目標とする。 講義の主要なテーマは次のとおり。 (1)組織と組織理論 (2)戦略、組織設計、有効性 (3)組織構造の基本 (4)外部環境と組織との関係 (5)製造業とサービス業の組織 (6)組織の規模、ライフサイクル、コントロール (7)組織の文化と倫理的価値観 (8)イノベーションと変革 (9)意思決定のプロセス (10)コンフリクト、パワー及びポリティックス
到達目標	経営組織の構造と機能および有効性と問題点に関する基本的な知識や考え方について、実際の企業経営の在り様を踏まえながら、その意味するところを受講生が自ら習得すること。
講義方法	テキストの各章について、受講者全員が毎回レポートを提出し、それをもとにしたディスカッションを行う。
準備学習	指定したテキストおよび参考書を、講義開始前に一通り読んでおくこと。
成績評価	出席状況、毎回のレポートとディスカッションの内容、および豆テストの成績を総合して判断する。
講義構成	第1回:オリエンテーション 第2回～3回:組織理論の活用、組織とは何か、システムとしての組織、組織の形態、組織設計の次元、組織の理論と設計に関する歴史的発展 第4回:組織の目標、組織戦略と組織設計、組織の有効性 第5回～6回:組織構造、組織構造の情報処理モデル、組織設計の選択肢、機能別・事業別・地域別の設計、マトリックス構造、組織の構造形態の実際 第7回:経営環境を形成するドメイン、経営環境の不確実性、資源依存、外部経営資源のコントロール 第8回:組織レベルでの製造技術、組織レベルでのサービス技術、事業部門の技術、技術の職務デザインに及ぼす影響 第9回～10回:組織の規模、組織のライフサイクル、組織の官僚主義とコントロール、変化する環境下での官僚主義、組織のコントロールシステム 第11回:変革の戦略的役割、技術の変化、新しい製品とサービス、戦略と組織構造の変革、文化の変革 第12回:組織の文化、組織における倫理的価値観、組織構造とシステムによる文化と倫理の形成 第13回:個人の意思決定、組織の意思決定、変化の激しい意思決定状況 第14回:集団間コンフリクト、パワー;個人と組織、パワーと権威、組織における政治的プロセス 第15回:まとめ
教科書	リチャード L. ダフト『組織の経営学』(ダイヤモンド社、2002年11月) (受講者は各自入手のこと。但し、授業開始前、教員よりの掲示を必ず見ること。)
参考書・資料	金井壽宏『経営組織』(日本経済新聞社、1999年1月) 桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論』(有斐閣、1998年4月) 沼上 幹『組織デザイン』(日本経済新聞社、2004年6月) その他は、講義中に指示する。
講義関連事項	ディスカッションの好きな受講生が望まれる。
担当者から一言	ややハードな授業ですが、何事も根気が大切。

授業コード	52004
授業科目名	コース特論S(ストラテジー)(前)
担当者名	杉田俊明(スギタ トシアキ)

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜1限
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	火曜、水曜、木曜など (必要に応じて、いつでも電子メールで連絡ください)		

講義の内容	本講義では、日本企業を中心に、米欧やアジアの多国籍企業の事例に対する検討を通じて、経営戦略理論はもとより、戦略的思考を磨き、経営者に求められる先見性、リーダーシップ、意思決定能力などを高めることを目標とする。
到達目標	本講義は前掲内容をベースに進められる予定だが、国際経営戦略、市場参入戦略、戦略的意思決定など、多面的な視点からアプローチするものでもある。 本講義を通じて、経営戦略に関する基礎知識を把握し、ある程度専門知識も持つこと。 また、戦略企画の知識もある程度習得すること。 特に、戦略はどのように組み立てられているのか、戦略を遂行するための組織はどのように組み立てられているのか、また、戦略的な意思決定はどのように下されているのかなどをこの講義を通じて体感できるようにするものである。 さまざまなビジネス・ケースを基に学生・教員間でディスカッションを行い、答えをただ教えてもらうではなく、自ら「創り出す」楽しさを実感することも、この講義を受講する楽しみの一つだと思う。
講義方法	レクチャーとケース・スタディを併用
準備学習	経営戦略に関する書籍を最低一冊、事前に関連すること。 また、新聞や雑誌の経済、経営専門紙面を毎日閲読するのが望ましい。
成績評価	出席の姿勢、質疑討議参加の積極性、期末テストの成績などにより総合的に評価する。
講義構成	2010年度における本講義は以下のステップに沿って進行する予定である。 ●戦略に関わる基礎理論学習のステージ 1、経営戦略とは何か、経営戦略の必要性 2、経営戦略の枠組み、経営戦略を策定するための経営環境分析など ●戦略に関わる実務応用展開のステージ、ケースから学ぶ経営戦略 3、電機メーカーのグローバル競争戦略、パナソニックについてのケース研究 戦略的意思決定と市場参入のための組織展開などを中心に 4、三洋電機についてのケース研究 市場競争に生き残るための提携戦略の展開などを中心に 5、ダイキン工業についてのケース研究 後発企業の市場参入戦略などを中心に 6、総合商社のグローバル競争戦略 伊藤忠商事についてのケース研究 市場参入戦略の変遷と現在の事業展開モデルなどを中心に 7、同 丸紅、三菱商事についてのケース研究 市場参入戦略の変遷と現在の事業展開モデルなどを中心に 8、SPA企業のグローバル競争戦略 ユニクロ(ファーストリテイリング)についてのケース研究 コアコンピタンスの保持と提携戦略の展開を中心に 9、多国籍企業のグローバル競争戦略とその経営比較 Dellのビジネスモデルとトヨタ生産システムの戦略 10、Li & Fungのビジネスモデルとユニクロモデルの戦略 11、GEのビジネスモデルとHaierモデルの戦略 12、SamsungのビジネスモデルとNTTdocomoモデルの戦略、など ●受講者自身による戦略応用のステージ 13～15 前掲学習から得た理論や応用知識を駆使し、自らが特定の企業を選び、関連情報を収集、整理、分析のうえ、経営戦略を組み立て、研究発表を行う。 これは、全員で思考・議論し、最適なソリューションを模索するというプロセスを体感するためのトレーニングでもある。
教科書	2010年度においては特定の教科書は使用せず、その都度必要な文献をコピーして配布、または、ウェブにて閲覧することとする。 但し、参考書は以下の通りなので、一通り事前に関連すること。
参考書・資料	ガース・サローナー、アンドレア・シェパード、ジョエル・ポドルニー著、石倉洋子訳『戦略経営論』東洋経済新報社、2002年。 石井淳蔵、加護野忠男、奥村昭博、野中郁次郎『経営戦略論』有斐閣、1996年。

	その他は講義時に随時指示する。
講義関連事項	受講に際しては諸規則を厳守すること。 私語、あるいは携帯電話を使用する者、無断入退室する者など、講義に迷惑な行為を行う者は減点対象とする。
担当者から一言	日頃から問題意識を持って新聞やテレビの企業経営関連報道をみること。
その他	講義においては、「出席」だけではなく、「積極的な思考と討議への参加」も心得てください。
ホームページタイトル	{アジア・中国経営研究, http://homepage1.nifty.com/Toshiaki-SUGITA/ }
URL	http://homepage1.nifty.com/Toshiaki-SUGITA/

授業コード	51031		
授業科目名	国際会計論(前)		
担当者名	若林公美(ワカバヤシ ヒロミ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限 木曜4限
オフィスアワー	火曜日 12:10-13:00 木曜日 12:10-13:00		

講義の内容	本講義では、国際財務報告基準(International Financial Reporting Standards: IFRS)とわが国の会計基準、さらには米国の会計基準の比較を行い、各基準の相違点をもたらす論拠を明らかにする。 特に、包括利益、公正価値、年金など、わが国企業に影響の大きい会計基準に焦点を当て、会計基準のコンバージェンスやその先にあるIFRSの導入(アドプション)が企業の財務諸表の作成においてにいかなる影響を及ぼすかを中心に講義を行う。
到達目標	本講義の目的は、会計基準の国際的な統合(コンバージェンス)と国際財務報告基準(International Financial Reporting Standards: IFRS)の内容と必要性を理解するとともに、わが国の会計基準との比較を通じて、わが国の会計基準の特徴を認識し、今後の日本の会計基準と会計実践に関する重要な論点を展望する力を習得することである。
講義方法	下記教科書および配布資料に基づいて、講義を行う。
準備学習	桜井久勝「財務会計講義」(中央経済社)など財務会計の標準的テキストの内容を事前に学習しておくことが望ましい。
成績評価	期末試験の結果(100%)で評価する。
講義構成	1. 国際財務報告基準(IFRS)1 2. 国際財務報告基準(IFRS)2 3. 財務諸表の枠組みと表示1 4. 財務諸表の枠組みと表示2 5. 包括利益1 6. 包括利益2 7. 概念フレームワーク1 8. 概念フレームワーク2 9. 収益1 10. 収益2 11. キャッシュ・フロー計算書1 12. キャッシュ・フロー計算書2 13. M&Aの会計1 14. M&Aの会計2 15. 連結財務諸表1 16. 連結財務諸表2 17. 外貨換算会計1 18. 外貨換算会計2 19. リース会計1 20. リース会計2 21. 金融商品会計1 22. 金融商品会計2 23. 減損会計1

	24. 減損会計2 25. 従業員給付会計1 26. 従業員給付会計2 27. ストックオプション会計1 28. ストックオプション会計2
教科書	桜井久勝編著『テキスト国際会計基準(第4版)』白桃書房(本体価格 3,300円)。
参考書・資料	以下のサイトを参考にしてください。 http://www.asb.or.jp/ http://www.iasb.org/Home.htm http://www.iasplus.com/index.htm http://www.fasb.org/
担当者から一言	テキストは事前に準備しておいてください。受講するに当たっては、会計学、簿記などの知識を身に付けていること(日商簿記2級程度)を前提とします。

授業コード	51017		
授業科目名	国際経営論(前)		
担当者名	林 満男(ハヤシ ミツオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
オフィスアワー	火曜日12:10～13:00 木曜日13:00～14:30		

講義の内容	企業経営の国際化はいったい私たちの生活にとってどんな意味があり、どんな問題をもたらすのだろうか。このことは、今日皆さんが何気なく当たり前のように使っている言葉である社会全体の「国際化」とか「グローバル化」といったことと切っても切れない関係があり、将来の真に人間性豊かな社会の建設のためには、その様々な問題の解決について考える必要があります。そのために、企業の国際化・多国籍化の歴史、理論、組織や戦略、行動を検討し、また国際的経営活動と各国の社会、そしてそれを超えて地球社会全体との関係などについても考えます。
到達目標	国際経営の問題を、社会の在り方や自分自身の生き方と結び付けて考える習慣を身につける。
講義方法	下記「教科書」の内容に沿いながら、特に最新の時事的な問題への理解を深めてもらうために、それに関する資料の配布、OHP、ビデオ等を適宜組み合わせで行う。また下記「参考書・資料」に掲げた文献や、その他の最新の重要な文献の内容も紹介しながら進める。
準備学習	テレビや新聞、雑誌などで目にする企業経営の国際化についての記事を関心を持ってみるようにし、自分なりの意見や評価をまとめてみる訓練しておく。
成績評価	原則は期末試験による。詳しくは講義はじめに説明する。
講義構成	教科書の目次に順次沿いながら、とりわけ以下のテーマに重点をおきつつ進める。 1. 国際経営問題に関する基本的な用語・概念・考え方の説明 2. 国際経営の歴史 3. 企業多国籍化の歴史 4. 企業多国籍化についての諸理論 5. 多国籍企業のもたらす諸問題 6. 多国籍企業の戦略と組織 7. 多国籍企業と文化問題 8. 多国籍企業と日本の企業文化 9. 多国籍企業と日本的経営 10. 多国籍企業と文化対応 11. 多国籍企業文化の国際比較 12. 多国籍企業とグローバル・マネージャー 13. 多国籍企業と地球市民社会 14. 多国籍企業と日本の将来 15. 多国籍企業と企業倫理
教科書	江夏健一・桑名 義晴【編著】・IBI国際ビジネス研究センター著『理論とケースで学ぶ国際ビジネス』同文館 2006年

参考書・資料	林満男『西独多国籍企業論』森山書店 1984 吉原英樹編『国際経営論への招待』有斐閣 2002 日本経済新聞関連記事 他については、講義中に指示したい。
講義関連事項	毎日の新聞や雑誌、テレビ等で報道される企業の国際的活動に関連した様々な事柄に注意しておけば、講義の内容に一層関心を持つことができ理解も深まるでしょう。また、国際経営の問題は、現代のいわゆる「グローバル化」全体の問題に深く関わっているという認識が重要です。
担当者から一言	講義はただ漫然と聞くのではなくて、絶えず自らも考えながら聞いていただきたい。そして、講義の内容を基に自分自身の新しい考えを創り出すような気持ちを持って欲しい。そのための質問を大いに歓迎します。

授業コード	51019		
授業科目名	国際ビジネス事情（前）		
担当者名	安積敏政（アサカ トシマサ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限
オフィスアワー	月曜日10:30－12:30、火曜日18:00（講義直後）－19:00		

講義の内容	21世紀に入りFTA(自由貿易協定)やEPA(経済連携協定)などにより世界各国の国境は益々低くなりボーダレス化している。加速化するグローバル化の中で日本のエレクトロニクス産業や自動車産業などは、欧米企業との競争に加えて中国・韓国・インド企業の台頭の中で熾烈な国際競争を挑まれている。他方ではブラジル、ロシア、インド、中国のBRICsとよばれる新興市場や成長市場が脚光を浴びている。今、国際ビジネスの最前線では何が起きているのかに焦点をあて、日本企業の21世紀のあるべきグローバル戦略を探ってみる。
到達目標	グローバルな視点から世界のビジネスの最前線を理解し、自分なりの世界展望を持てる。 その中で日本企業の直面している経営の構造的な問題の発見、経営課題形成、課題解決を模索する力をつけ、全講義終了後には自信を持って就職活動に挑める実践的な経営センスを身につける。
講義方法	各回の講義テーマについて講師よりパワーポイントを使ったビジュアル・プレゼンテーションを行なうと同時に指定教科書を併用。プレゼンテーションの骨子については受講者にレジメを配布する。テーマによっては放送番組などの動画も活用する。毎講義(90分2コマ連続)後半の30分はレポート作成(“このテーマの本質的な課題は何か、あなたならどう解決するか”)の時間にあてる。単なる既存知識伝授型の講義はやらず、受講生に対して“あなたならどう考えるか”、“あなたが企業人となったらどうアクションをとるか”という知恵発掘型の実践的な講義を行う。
準備学習	指定教科書の中で、次回の講義テーマの対象となっている章を熟読してくること。
成績評価	毎回の講義時間内に課すレポート評価70点(14回 x 5点満点)、期末テスト30点の合計点で評価する。上記レポートは、A, B, C, Dの4段階評価の上、次回講義時に返却する。無断欠席者の評価は毎回0点である。2008年度、2009年度受講者の中で3回以上無断欠席して単位を修得した実績はない。
講義構成	1. 世界の注目市場の変遷－BRICsの台頭ほか 2. 超大国・中国の衝撃と世界システム変容 ー岐路に立つトヨタ、パナソニックのグローバル経営ー 3. インドビジネス最前線 ーポスト中国は本当にインドかー 4. インド進出日系企業10社の事例に学ぶ ーインド事業のリスクと成功要因ー 5. インド最大の財閥 ータタグループの経営実態と展望 ー 6. ロシアビジネス最前線(前半) ービジネスチャンスとリスクー 7. ロシアビジネス最前線(後半) ーロシアの工場とシベリアランドブリッジー 8. 年代毎に再三登場するブラジルへの期待とは 9. 日本企業のASEAN(東南アジア諸国連合)戦略 10. アジアにおける中東戦略の幕開けを探る 11. 中東の先に続くビジネスーアフリカ9億人市場 12. 企業経営視点からのイスラム金融活用 13. 国際ビジネスにおける日本企業の異文化経営 14. これからのアジア戦略(前半) - ー 地域生産戦略、マーケティング戦略、研究開発戦略 ー 15. これからのアジア戦略(後半) - ー 人事戦略、財務戦略、税務戦略、広報戦略、地域統括戦略 ー
教科書	「激動するアジア経営戦略 ～中国・インド・ASEANから中東・アフリカまで～」 安積敏政著、日刊工業新聞社出版(2009年11月刊)、定価3,800円

参考書・資料	講義テーマ毎に毎回紹介する。
担当者から一言	3度の海外勤務と世界40カ国への業務出張の企業体験を踏まえ、今、世界のビジネスの最前線では何が起きているかをリアルに語りたい。
その他	就職活動(企業面談、内定式出席のみ対象)に伴う講義欠席は、講義日前日まで電子メールによる事前連絡があった場合に限り、検討の上、最大2回まで配慮する。講義後の連絡は一切無効とし、無断欠席扱いとする。上記配慮は3回生は対象外で4回生のみ対象とする。

授業コード	51034		
授業科目名	国際マーケティング論（後）		
担当者名	藤沢武史（フジサワ タケシ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限 木曜4限

講義の内容	グローバル・マーケティングが従来の国際マーケティングとどのように違うのかを意識しながら、グローバル・マーケティングの重要な意思決定領域を考察し、その決定基準を発見することが本講義の大きな目的となる。例えば、世界に30カ国以上、100カ所以上の生産拠点を持つ企業は、どのような市場クラスター化を行った後、どのような市場参入戦略、製品戦略、価格戦略、販売促進戦略、ロジスティックス戦略を採択するのかを考えてみよう。このグローバル企業が直面する事業環境を確認し、かつ当社の強味と弱味を分析し、その上で意思決定に影響を及ぼす重大要因を評価していかなければならない。こうした意思決定プロセスに焦点を当てて、最適なグローバル・マーケティング戦略モデルを構築し、その有効性を検討してみたい。
到達目標	グローバル・マーケティング戦略の上位戦略と下位戦略に影響を及ぼす変数が何であるかを、講義中に共に考える姿勢を身に付けていただきたい。明確な因果関係がどの程度頭の中に浮かぶか、またそれが本当に正しい解なのかを自己判断していただきたい。「覚える授業」ではなく、「頭を使って考える授業」への転換を図るので、講義中は是非協力していただきたい。
講義方法	Power Pointを使用して、配布されたスライドシートに沿って平易に口述する。VTRを1度使用する予定。
準備学習	次週の学習教材に関連するテキストの章を読まれるよう希望したい。
成績評価	定期試験の成績を80%、レポート課題を20%として総合評価する。
講義構成	1)グローバル・マーケティングの背景と諸機会 2)グローバル経営におけるマーケティングの役割 3)グローバル・マーケティングへの進化プロセス 4)国際市場細分化戦略 5)グローバル・マーケティング・リサーチ 6)グローバル市場参入戦略 7)グローバル製品戦略 8)グローバル価格戦略 9)グローバル広告戦略 10)グローバル・ロジスティックス戦略 11)グローバル・マーケティングの組織 12)グローバル・マーケティングの調整と統制 13)グローバル情報システム 14)総括
教科書	諸上茂登・藤沢武史著『グローバル・マーケティング(第2版)』中央経済社、2004年発行。
参考書・資料	高井眞編著『グローバル・マーケティングへの進化と課題』同文館、2001年。毎回テキスト内容に即した講義レジュメを配布する。
講義関連事項	マーケティングに関する知識を持っているのが望ましい。国際経営論を受講されると本講義内容がわかりやすくなる。

担当者から一言	授業中は私語を慎み、講義内容を聞くことに集中されたい。平素から「日本経済新聞」や『日経ビジネス』とか『東洋経済』、『プレジデント』などのビジネス情報誌に目を通しておくと、講義が理解しやすくなる。
---------	---

授業コード	52016
-------	-------

授業科目名	財務会計応用演習		
担当者名	内藤文雄(ナイトウ フミオ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜1限)、後期(火曜1限)
特記事項	ビジネス・リーダー養成プログラム専門科目		
オフィスアワー	水曜日昼休み		
講義の内容	本講義は、会計学基礎演習で習得した会計学の基礎理論にもとづき、より高度な財務会計の理論を習得し、当該理論について明確かつ即座に説明できる能力を身につける教育効果をねらっている。 また、高度専門的かつ複雑な経済現象を対象とする比重が増している会計学を確実に理解するために、その基礎理論に基づきより高度な理論的思考方を各自の中に確立しておけば、財務会計理論に立脚した論理性のある立論を行うことができる。すなわち、高度専門的かつ複雑な経済現象を会計的にどのようにとらえるかについて、受講生は明確に自己の考え方を主張できるという効果が期待される。		
到達目標	1. 財務会計に関して与えられたテーマについて、検討すべき論点を漏れなく適切に指摘できる。 2. 各論点の意義を種々の観点から整理できる。特に、通説と対立説との異動点を具体的に明確化できる。 3. 論点の本質的問題に対する解決策を独自に提案できる。 4. 最新の財務会計トピックスを理解し、企業経営に及ぼす影響を説明できる。 5. 会計倫理を理解している。		
講義方法	アカウンティング・プロフェッショナルに求められる資質・能力は、与えられたテーマについて、検討すべき論点を漏れなく適切に指摘し、各論点の意義を整理したうえで、解決策を独自に提案できることである。 本演習は、この能力を育成するため、下記講義構成で掲げたテーマに関しておさえておくべき論点を解説したうえで、受講生がその内容を的確に把握できるように問題演習を行う。 また、通説の理解だけでなく、会計の考え方を異にする対立説も取り上げ、財務会計理論に関する受講生の理解を促進する。 そこで、前期においては、下記「講義構成」に掲げたテーマのうち1. から15. を対象とする。16. から30. のテーマは、後期の演習において学習する。		
準備学習	財務会計論に関して会計学基礎演習で学習した基礎理論を復習しておくこと、および、本演習で予定している各テーマについて、各自で論点を指摘できるよう事前に準備しておくこと。		
成績評価	出席状況、授業での報告内容および討議への参加状況を総合的に評価する。なお、出席回数が24コマに満たない者は不可とする。		
講義構成	以下の個別テーマにつき、各論点にかかるレポート作成およびプレゼンテーションを行う。 1. 本演習の趣旨と進め方 2. 財務会計の機能と現代の財務会計制度の役割 3. 財務会計論に関する研究の進め方概説(1) 4. 財務会計論に関する研究の進め方概説(2) 5. 財務会計論に関する文献・資料収集方法概説(1) 6. 財務会計論に関する文献・資料収集方法概説(2) 7. 金融商品会計(1) 8. 金融商品会計(2) 9. デリバティブ会計・ヘッジ会計(1) 10. デリバティブ会計・ヘッジ会計(2) 11. リース会計(1) 12. リース会計(2) 13. 退職給付会計(1) 14. 退職給付会計(2) 15. 退職給付会計(3) 16. 研究開発費会計 17. ソフトウェア会計 18. 固定資産の減損会計(1) 19. 固定資産の減損会計(2) 20. 固定資産の減損会計(3) 21. 税効果会計(1) 22. 税効果会計(2) 23. 連結会計(1) 24. 連結会計(2) 25. 連結会計(3) 26. 企業結合会計(1) 27. 企業結合会計(2) 28. 外貨建取引等会計(1)		

	29. 外貨建取引等会計(2) 30. 財務会計の変革とグローバル化
教科書	本演習では教科書を指定しない。毎回、オリジナルの資料を配布し、また、問題演習用の問題も配布する。なお、各テーマについて参照すべき文献については個々に指導する。
参考書・資料	演習において必要な参考書を指示する。

授業コード	51032		
授業科目名	財務諸表分析（後）		
担当者名	桜井久勝（サクライ ヒサカツ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限

講義の内容	この講義では、企業が公表する決算書に基づいて、収益性や安全性について企業を評価する手法を体系的に解説します。 人間の学力を評価する1つの資料は、学校の成績表です。では、企業を評価するには、どんな資料を利用して、どのような観点から行えばいいのでしょうか。 利用する資料は信頼性の高いものでなければなりません。上場会社の場合、最も信頼性が高いのは、企業が金融商品取引法に基づいて、金融庁や証券取引所へ届け出る「財務諸表」です。そこでこの講義では、連結ベースで作成される貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書などの見方を解説します。 企業を評価する視点は、通常、次の5つです。①営利企業ですから、「収益性」が最重要。②収益性の背後には、付加価値を生み出す能力として「生産性」があります。③収益性が高い反面、倒産の危険も高いと困るので「安全性」の分析は欠かせません。④倒産は業績変動の山と谷が激しい企業で起きやすいので、業績変動の幅を見て「不確実性」とその要因を把握しておきます。⑤将来の「成長性」の潜在能力が高い企業ほど評価も高くなります。 この講義では、現実の企業の財務諸表に基づいて、これら5つの視点から企業を評価するための具体的な手法を実践的に解説します。皆さんが将来、どんなビジネス・キャリアを歩む場合でも、この講義で身につけた財務諸表の分析能力がきっと役立つでしょう。
到達目標	決算書は会社にとっての成績表であり、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書などから構成されています。この講義の第1の到達目標は、どの書面に会社のどんな実力が示されているのか、成績表の読み方をマスターすることです。成績表の見どころが理解できると、第2の目標は、1組の決算書を駆使して、その会社の収益性・安全性・成長性などを評価するための尺度とそれを具体的に測定する方法を習得します。ここまでくれば、たとえば次のようなライバル企業の実力比較ができるようになるでしょう。トヨタ自動車vsホンダ、パナソニックvsソニー、アサヒビールvs麒麟ビール……など。また、ビジネスマンの間で広く読まれている『日本経済新聞』の企業財務面の記事の内容も、容易に理解できるようになるでしょう。
講義方法	教科書には、ある企業が実際に公表した連結ベースの財務諸表が掲載されています。まずは、それぞれの財務諸表の見方を解説します。次に、これらを活用して、収益性・生産性・安全性・不確実性・成長性を評価するための手法を説明します。具体的な分析方法をマスターするために、教科書の財務諸表からデータを収集して、いっしょに電卓で計算してみます。8ケタあれば十分なので、講義には電卓を持参して下さい。
準備学習	会計学の基礎知識を必要としているため、少なくとも入門レベルの会計学を修得していることが望ましい。未習得の人は会計学の基礎知識を手取り早くマスターするための近道教材として、桜井久勝『会計学入門』(日経文庫)を読んでおいて下さい。
成績評価	期末試験の成績で評価します。
講義構成	講義は教科書に沿って次の内容と順序で行います。 第1部 財務諸表の見方 ①財務諸表の役割と仕組み ②財務諸表の入手方法 ③貸借対照表の見方……資金調達と資金投下の現状を知る ④損益計算書の見方……利益の源泉を観察する ⑤キャッシュ・フロー計算書の見方……収支に基づいて資金繰りを見る ⑥会計方針の注記……利益操作の意図を読み取る 第2部 財務諸表分析の基礎 ⑦分析の視点と方法 ⑧収益性の分析……投下資本から見て利益は十分か ⑨生産性の分析……どれほどの付加価値を生んでいるか ⑩安全性の分析……倒産の危険度を分析する ⑪不確実性の分析……業績変動の幅と要因を明らかにする

	⑫成長性の分析……将来の成長をもたらす潜在力を観察する 第3部 証券投資への応用 ⑬投資意思決定有用性……会計情報は証券投資にどう役立つか ⑭株式価値評価モデル……株式の真実価値を算定しよう ⑮債券の格付けと倒産予測への利用……債権者にとっての決算書の役立ち
教科書	桜井久勝『財務諸表分析(第4版)』中央経済社、2010年。
参考書・資料	なし。教科書だけで十分です。

授業コード	51025		
授業科目名	財務諸表論（前）		
担当者名	久保田秀樹(クボタ ヒデキ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 金曜2限
オフィスアワー	金曜日12時10分～13時		

講義の内容	日本の会計規制の特徴は、上場会社に関しては、会社法、金融商品取引法、税法という3つの法律による規制を受ける点にある。しかし、その基礎に横たわるのは、利益計算の基本原則である。本講義では、まず会計規制の前提としての財務諸表について学ぶ。 また、金融商品取引法会計の整備が、近年、急ピッチで進められ、連結や外貨換算に関する基準が改訂された他、金融商品会計、税効果会計、退職給付会計、連結キャッシュフロー計算書等、多くの新領域が出現している。本講義では、こうした新領域が会計学に突き付けている原理的問題と照応させながら、これらについても学習する。
到達目標	財務諸表をはじめとする、企業の財務データの高度利用には、企業会計基準等として定められた企業会計のルールに関する知識が不可欠である。財務情報によって、企業を分析する際に必要な知識の習得を目標とす
講義方法	教科書に沿って財務諸表の各領域について解説する。
準備学習	初級の複式簿記の知識を前提に講義を進めるので、受講者は日商簿記検定3級レベル以上の知識を習得しておくこと。
成績評価	宿題レポート等(20%)と期末の筆記試験の結果(80%)を合わせて総合的に評価する。時間的余裕があれば小テストを実施し、その場合は、それらも加味して評価する。
講義構成	1 会計の意義と役割 2 企業会計の仕組み 3 企業会計制度(会社法・金融商品取引法・法人税法) 4 資産の分類 5 流動資産 6 有形固定資産 7 無形固定資産 8 繰延資産 9 負債会計の分類 10 負債性引当金 11 流動負債 12 固定負債 13 リース会計 14 資本の分類 15 資本金 16 資本剰余金 17 利益剰余金 18 損益会計の意義 19 営業収益 20 営業費用 21 営業外損益 22 財務諸表の作成 23 キャッシュフロー計算書 24 株主資本等変動計算書 25 連結財務諸表の意義と目的 26 連結貸借対照表 27 連結損益計算書

	28 税効果会計 29 持分法 30 財務諸表分析
教科書	新井清光著、川村義則補訂『現代会計学』(中央経済社)の第11版
担当者から一言	会計科目は積み重ねが重要な学科目であるため、毎回出席し、予習・復習を徹底して行なうことが特に重要である。

授業コード	51N11		
授業科目名	実践的経営シミュレーション演習（1クラス）(前)		
担当者名	大塚晴之(オオツカ ハルユキ)、上地明德(カミジ アキノリ)、長尾光治朗(ナガオ コウジロウ)、五味悠一郎(ゴミ ユウイチロウ)、上坂朋宏(ウエサカ トモヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	Webで先着順36名。 前・後期すべてのクラスでの授業内容は同一であり、複数のクラスを重複して履修することはできない。		
オフィスアワー	火曜12時～1時		

講義の内容	コンピュータ上に置かれる、ビジネスゲームのソフトを利用して経営学を学ぶ。また、講義外の学習コンテンツ（自習コンテンツ）をWEB上に置き、学習のサポートを行う。WEB上での質問にも対応する。
到達目標	実務社会においてコミュニケーション能力を発揮し、経営に関する専門知識を反映させる能力を培うことを目標とする。
講義方法	講義教室においてビジネスゲームを利用して、各学生が競い合い、その過程で討論や理論学習を行って経営知識を習得する。
準備学習	事前学習コンテンツにアクセスし、講義の準備を行うこと。
成績評価	講義への参加態度により評価する。
講義構成	複数のビジネスゲームを利用し、会社経営について、講義・ゲーム・討論を行う。予定している内容は以下である。 1 イントロダクション・講義概要 2 コミュニティサイトの使い方・起業提案の方法 3 YBGゲーム（講義+ゲーム） 4 YBGゲーム（ゲーム+振り返り） 5 YBGゲーム（ゲーム+討論） 6 YBGゲーム（ゲーム+講評） 7 証券投資シミュレーション（講義+ゲーム+振り返り） 8 証券投資シミュレーション（ゲーム+討論） 9 証券投資シミュレーション（ゲーム+討論+振り返り） 10 証券投資シミュレーション（ゲーム+講評） 11 実務家講義（証券） 12 実務家講義討論（証券） 13 シミュレーションマーケット（講義+ゲーム+振り返り） 14 シミュレーションマーケット（ゲーム+討論） 15 シミュレーションマーケット（ゲーム+討論+振り返り） 16 シミュレーションマーケット（ゲーム+講評） 17 起業提案会Ⅰ 18 起業提案Ⅰに関する討論 19 実務家講義（起業） 20 実務家講義討論（起業） 21 サブシミュレーションゲーム（講義+ゲーム） 22 サブシミュレーションゲーム（ゲーム+討論） 23 起業提案会Ⅱ 24 起業提案Ⅱに関する討論 25 実務家講義（会計） 26 実務家講義討論（会計） 27 起業提案会Ⅲ 28 起業提案Ⅲに関する討論

	29最終起業提案会 30総括
教科書	PC上に置かれる、事前学習コンテンツおよびゲームを利用する。詳細については講義時に指示する。
参考書・資料	WEB上に用意する。
講義関連事項	本科目は、経営学全般を扱っており、何らかの意味において、すべての専門科目に関連する。
担当者から一言	この講義は、PCを利用した経営学学習のための新しい科目作りを皆さんと一緒にやっていこうとする取り組みでもあります。講義の主体は皆さんであり、われわれ教員は皆さんの要望に応える用意があります。一緒に学んでいきましょう。なお、人数制限を行う科目ですので、意欲のある学生の応募を期待します。
その他	甲南大学のホームページから、経営学部の現代GPIに関する項目を参照することにより、講義のイメージをつかむことができる。

授業コード	51N12		
授業科目名	実践的経営シミュレーション演習（2クラス）(前)		
担当者名	大塚晴之(オオツカ ハルユキ)、上地明德(カミジ アキノリ)、長尾光治朗(ナガオ コウジロウ)、五味悠一郎(ゴミ ユウイチロウ)、上坂朋宏(ウエサカ トモヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
特記事項	Webで先着順36名。 前・後期すべてのクラスでの授業内容は同一であり、複数のクラスを重複して履修することはできない。		
オフィスアワー	火曜12時～1時		

講義の内容	コンピュータ上に置かれる、ビジネスゲームのソフトを利用して経営学を学ぶ。また、講義外の学習コンテンツ（自習コンテンツ）をWEB上に置き、学習のサポートを行う。WEB上での質問にも対応する。
到達目標	実務社会においてコミュニケーション能力を発揮し、経営に関する専門知識を反映させる能力を培うことを目標とする。
講義方法	講義教室においてビジネスゲームを利用して、各学生が競い合い、その過程で討論や理論学習を行って経営知識を習得する。
準備学習	事前学習コンテンツにアクセスし、講義の準備を行うこと。
成績評価	講義への参加態度により評価する。
講義構成	複数のビジネスゲームを利用し、会社経営について、講義・ゲーム・討論を行う。予定している内容は以下である。 1イントロダクション・講義概要 2コミュニティサイトの使い方・起業提案の方法 3YBGゲーム（講義+ゲーム） 4YBGゲーム（ゲーム+振り返り） 5YBGゲーム（ゲーム+討論） 6YBGゲーム（ゲーム+講評） 7証券投資シミュレーション（講義+ゲーム+振り返り） 8証券投資シミュレーション（ゲーム+討論） 9証券投資シミュレーション（ゲーム+討論+振り返り） 10証券投資シミュレーション（ゲーム+講評） 11 実務家講義（証券） 12 実務家講義討論（証券） 13シミュレーションマーケット（講義+ゲーム+振り返り） 14シミュレーションマーケット（ゲーム+討論） 15シミュレーションマーケット（ゲーム+討論+振り返り） 16シミュレーションマーケット（ゲーム+講評） 17起業提案会 I 18起業提案 I に関する討論 19実務家講義（起業） 20実務家講義討論（起業） 21サブシミュレーションゲーム（講義+ゲーム） 22サブシミュレーションゲーム（ゲーム+討論） 23起業提案会 II

	24起業提案会Ⅱに関する討論 25実務家講義(会計) 26実務家講義討論(会計) 27起業提案会Ⅲ 28起業提案会Ⅲに関する討論 29最終起業提案会 30総括
教科書	PC上に置かれる、事前学習コンテンツおよびゲームを利用する。詳細については講義時に指示する。
参考書・資料	WEB上に用意する。
講義関連事項	本科目は、経営学全般を扱っており、何らかの意味において、すべての専門科目に関連する。
担当者から一言	この講義は、PCを利用した経営学学習のための新しい科目作りを皆さんと一緒にやっていこうとする取り組みでもあります。講義の主体は皆さんであり、われわれ教員は皆さんの要望に応える用意があります。一緒に学んでいきましょう。なお、人数制限を行う科目ですので、意欲のある学生の応募を期待します。
その他	甲南大学のホームページから、経営学部の現代GPIに関する項目を参照することにより、講義のイメージをつかむことができる。

授業コード	51N13		
授業科目名	実践的経営シミュレーション演習（3クラス)(後)		
担当者名	大塚晴之(オオツカ ハルユキ)、上地明德(カミジ アキノリ)、長尾光治朗(ナガオ コウジロウ)、五味悠一郎(ゴミ ユウイチロウ)、上坂朋宏(ウエサカ トモヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	Webで先着順36名。 前・後期すべてのクラスでの授業内容は同一であり、複数のクラスを重複して履修することはできない。		
オフィスアワー	火曜12時～1時		

講義の内容	コンピュータ上に置かれる、ビジネスゲームのソフトを利用して経営学を学ぶ。また、講義外の学習コンテンツ（自習コンテンツ）をWEB上に置き、学習のサポートを行う。WEB上での質問にも対応する。
到達目標	実務社会においてコミュニケーション能力を発揮し、経営に関する専門知識を反映させる能力を培うことを目標とする。
講義方法	講義教室においてビジネスゲームを利用して、各学生が競い合い、その過程で討論や理論学習を行って経営知識を習得する。
準備学習	事前学習コンテンツにアクセスし、講義の準備を行うこと。
成績評価	講義への参加態度により評価する。
講義構成	複数のビジネスゲームを利用し、会社経営について、講義・ゲーム・討論を行う。予定している内容は以下である。 1イントロダクション・講義概要 2コミュニティサイトの使い方・起業提案の方法 3YBGゲーム(講義+ゲーム) 4YBGゲーム(ゲーム+振り返り) 5YBGゲーム(ゲーム+討論) 6YBGゲーム(ゲーム+講評) 7証券投資シミュレーション(講義+ゲーム+振り返り) 8証券投資シミュレーション(ゲーム+討論) 9証券投資シミュレーション(ゲーム+討論+振り返り) 10証券投資シミュレーション(ゲーム+講評) 11 実務家講義(証券) 12 実務家講義討論(証券) 13シミュレーションマーケット(講義+ゲーム+振り返り) 14シミュレーションマーケット(ゲーム+討論) 15シミュレーションマーケット(ゲーム+討論+振り返り) 16シミュレーションマーケット(ゲーム+講評) 17起業提案会Ⅰ 18起業提案Ⅰに関する討論

	19実務家講義(起業) 20実務家講義討論(起業) 21サブシミュレーションゲーム(講義+ゲーム) 22サブシミュレーションゲーム(ゲーム+討論) 23起業提案会Ⅱ 24起業提案会Ⅱに関する討論 25実務家講義(会計) 26実務家講義討論(会計) 27起業提案会Ⅲ 28起業提案会Ⅲに関する討論 29最終起業提案会 30総括
教科書	PC上に置かれる、事前学習コンテンツおよびゲームを利用する。詳細については講義時に指示する。
参考書・資料	WEB上に用意する。
講義関連事項	本科目は、経営学全般を扱っており、何らかの意味において、すべての専門科目に関連する。

担当者から一言	この講義は、PCを利用した経営学学習のための新しい科目作りを皆さんと一緒にやっていこうとする取り組みでもあります。講義の主体は皆さんであり、われわれ教員は皆さんの要望に応える用意があります。一緒に学んでいきましょう。なお、人数制限を行う科目ですので、意欲のある学生の応募を期待します。
その他	甲南大学のホームページから、経営学部の現代GPIに関する項目を参照することにより、講義のイメージをつかむことができる。

授業コード	51N14		
授業科目名	実践的経営シミュレーション演習（4クラス）(後)		
担当者名	大塚晴之(オオツカ ハルユキ)、上地明德(カミジ アキノリ)、長尾光治朗(ナガオ コウジロウ)、五味悠一郎(ゴミ ユウイチロウ)、上坂朋宏(ウエサカ トモヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
特記事項	Webで先着順36名。 前・後期すべてのクラスでの授業内容は同一であり、複数のクラスを重複して履修することはできない。		
オフィスアワー	火曜12時～1時		

講義の内容	コンピュータ上に置かれる、ビジネスゲームのソフトを利用して経営学を学ぶ。また、講義外の学習コンテンツ(自習コンテンツ)をWEB上に置き、学習のサポートを行う。WEB上での質問にも対応する。
到達目標	実務社会においてコミュニケーション能力を発揮し、経営に関する専門知識を反映させる能力を培うことを目標とする。
講義方法	講義教室においてビジネスゲームを利用して、各学生が競い合い、その過程で討論や理論学習を行って経営知識を習得する。
準備学習	事前学習コンテンツにアクセスし、講義の準備を行うこと。
成績評価	講義への参加態度により評価する。
講義構成	複数のビジネスゲームを利用し、会社経営について、講義・ゲーム・討論を行う。予定している内容は以下である。 1 イントロダクション・講義概要 2 コミュニティサイトの使い方・起業提案の方法 3 YBGゲーム(講義+ゲーム) 4 YBGゲーム(ゲーム+振り返り) 5 YBGゲーム(ゲーム+討論) 6 YBGゲーム(ゲーム+講評) 7 証券投資シミュレーション(講義+ゲーム+振り返り) 8 証券投資シミュレーション(ゲーム+討論) 9 証券投資シミュレーション(ゲーム+討論+振り返り) 10 証券投資シミュレーション(ゲーム+講評) 11 実務家講義(証券) 12 実務家講義討論(証券) 13 シミュレーションマーケット(講義+ゲーム+振り返り)

	14シミュレーションマーケット(ゲーム＋討論) 15シミュレーションマーケット(ゲーム＋討論＋振り返り) 16シミュレーションマーケット(ゲーム＋講評) 17起業提案会Ⅰ 18起業提案Ⅰに関する討論 19実務家講義(起業) 20実務家講義討論(起業) 21サブシミュレーションゲーム(講義＋ゲーム) 22サブシミュレーションゲーム(ゲーム＋討論) 23起業提案会Ⅱ 24起業提案会Ⅱに関する討論 25実務家講義(会計) 26実務家講義討論(会計) 27起業提案会Ⅲ 28起業提案会Ⅲに関する討論 29最終起業提案会 30総括
教科書	PC上に置かれる、事前学習コンテンツおよびゲームを利用する。詳細については講義時に指示する。
参考書・資料	WEB上に用意する。
講義関連事項	本科目は、経営学全般を扱っており、何らかの意味において、すべての専門科目に関連する。
担当者から一言	この講義は、PCを利用した経営学学習のための新しい科目作りを皆さんと一緒にやっていこうとする取り組みでもあります。講義の主体は皆さんであり、われわれ教員は皆さんの要望に応える用意があります。一緒に学んでいきましょう。なお、人数制限を行う科目ですので、意欲のある学生の応募を期待します。
その他	甲南大学のホームページから、経営学部の現代GPIに関する項目を参照することにより、講義のイメージをつかむことができる。

授業コード	51037		
授業科目名	証券論（前）		
担当者名	植田宏文（ウエダ ヒロフミ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限 月曜3限

講義の内容	本講義では、家計の資産選択行動・企業の投資行動と資金調達行動・金融機関の貸出行動に代表される金融的要因が、どのようなメカニズムを通じてマクロ経済活動に影響を及ぼすのかを考察し、さらに理論的側面を踏まえた上で現実経済の動向を深く捉えることができるようにすることを目的としている。 このために、まず金融政策の意志決定メカニズムについて理解した後、いろいろな金融市場の仕組みと特徴について講義を行う。中央銀行である日本銀行が国債の購入や外国為替市場に介入することによって日本銀行券が市中に供給され、その資金を金融機関が各種金融市場において運用している。また金融機関から供給される資金を需要するのは、家計や企業である。これらの金融市場における資金の需給関係によって、市場利子率や金融資産価格が変化しマクロ経済に影響を及ぼす。このプロセスを認識するとともに、金融政策の有効性について分析する。本講義では理論的分析のみならず現実的側面をも重視させながら展開させていく。
到達目標	実際の金融市場の動向について説明し、それが講義内容とどのように関連しているかを重視し説明していく。したがって、理論的側面のみならず現実的な側面をも理解できるようにすることを目的としている。
講義方法	講義は、すべてパワーポイントを用いて解説する。また、必要に応じて、講義時間中に質問時間を設けるので、講義で不明だった点等を積極的に活用していただきたい。
準備学習	予習よりもしっかり復習していくことが望まれる。各講義内容は、決して独立しているものではなく、連続性を有している。したがって、次の講義内容を理解するための準備としては、前週の講義内容を正確に理解することをすすめる。
成績評価	学期末の筆記試験のみで成績評価点を与える。出席はとらない。
講義構成	1 金融政策運営方針 中央銀行の独立性、先進主要国との比較 2 短期金融市場と長期金融市場 インターバンク市場とオープンバンク市場 長期国債市場、金利の期間別構造 3 金融指標と経済活動

	日銀短観、景気動向指数、マネーサプライ 4 企業の資本構造と投資行動 負債と自己資本、ヘッジ金融・投機的金融 5 フィナンシャル・アクセラレータ仮説 金融的要因とマクロ経済成長 6 信用創造理論 マネーサプライの変動要因と実体経済との関係 7 クレジット・ビューとマネー・ビュー 銀行貸出経路と企業の資金調達 8 IS—LM分析 総需要と所得、利子率の決定 9 金融不安定性理論の展開 10 金融政策の有効性と限界 理論的側面と現実との比較
教科書	植田宏文著『金融不安定性の経済分析』晃洋書房、2006年

授業コード	51035		
授業科目名	消費者行動論（後）		
担当者名	池内裕美（イケウチ ヒロミ）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限

講義の内容	モノを買うという行為はあまりに日常的すぎて、意識することは少ないかもしれない。しかし、そこには非常に複雑で興味深い心理的活動が営まれている。例えば、なぜ“期間限定”や“人気商品”などのPOP広告がつくと、その商品を魅力的に感じたりするのだろうか。“298円”や“1980円”だと、実際以上に安く感じるのはなぜだろうか。なぜ松・竹・梅だと“竹”を選ぶ人が多くなるのだろうか。 本講義では、こうした消費者の基本的な行動原理や、私たちの消費生活を取り巻く身近な諸問題について、主に心理学的見地から解説していく。また講義内では、各トピックスに関連するビデオや新聞・雑誌記事なども参考資料として用いる予定である。
到達目標	企業や小売店の効果的なマーケティング活動には、消費者の心理や行動に関する理解が不可欠となる。本講義では、マーケティングにおける消費者行動理解の役割について具体的に把握できること、そして講義を通して得た知識を日頃の自分自身の購買行動や、実際の消費現象に当てはめて分析できるようになることを目指す。
講義方法	教科書代用の配布プリントを中心に、PPTを使用した講義形式で授業を進めていく。 また可能な限り、テーマに合わせてビデオ教材を用いる予定である。
準備学習	授業プリント類の復習および参考図書に積極的に目を通すこと。 また、新聞の経済・産業欄を読むなどして、企業のマーケティング活動や消費者行動に関連する諸問題に日頃から注目して頂きたい。
成績評価	定期試験（筆記）の成績にて評価する予定である。
講義構成	<消費者行動論の概略> 01 オリエンテーション：消費者行動とマーケティング 02 消費者行動論の歴史 <消費者行動における個人内過程> 03 購買意思決定過程とブランド選択 04 購買決定後の消費者行動 05 計画購買と非計画購買 06 価格判断の過程と法則 07 動機づけと感情 08 製品知識と消費者関与 09 消費者の個人特性：パーソナリティとライフスタイル <消費者行動における外的要因> 10 口コミによる流行現象と企業のマーケティング戦略 11 インターネットによる消費者間コミュニケーション 12 広告コミュニケーション1：比較広告とサブリミナル広告 13 広告コミュニケーション2：広告表現の科学

	14 企業のリスクコミュニケーション 15 地域性と消費者行動 16 文化的要因と消費者行動 <消費者行動における社会的問題> 17 消費者行動の病理:コレクターの心理と買物依存症 18 騙される消費者:悪質商法の技法と対策 19 訴える消費者:苦情・クレーム行動の現状と課題 20 環境問題と消費者行動 ・上記トピックスについて1～2回の講義で概説する予定である。 ・トピックスの順序およびタイトルは変更する可能性がある。
教科書	使用しない。毎回、テキストに代わるプリントを配布する予定である。
参考書・資料	竹村和久編集 2000 『消費行動の社会心理学』 北大路書房 田中洋 2008 『消費者行動論体系』 中央経済社 杉本徹雄編著 1997 『消費者理解のための心理学』 福村出版 その他、適宜講義内で紹介する。
担当者から一言	特に心理学に関する専門的知識がなくても、理解できるように進めていく予定であるが、モノを購入したり広告を見たりした時の自分自身の心理状態について、日頃から関心を持つようにして欲しい。 また配布プリントは、毎回必ず持参すること。

授業コード	51029		
授業科目名	情報会計システム論(システム分析)(前)		
担当者名	池田公司(イケダ コウジ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限 木曜5限
オフィスアワー	月曜日、火曜日、水曜日、木曜日の講義や会議のない時間帯。		

講義の内容	この講義では、拡張可能な事業報告言語(eXtensible Business Reporting Language; XBRL)を用いた新しい会計ディスクロージャーについて解説します。近年、日・米・欧の国際的な協力により、知的資産情報(企業のブランドや特許権など)をXBRLウェブサービスによって情報利用者に提供する試みが始まっています。最新の動向を分かり易く解説します。
到達目標	企業価値の評価の仕方を習得します。
講義方法	下記のテキストに準拠して、講義形式で授業を進めます。この講義を受講するに当たって、特に技術的な専門知識は必要ありません。
準備学習	前回の講義の内容を思い出して、テキストを復習しておいてください。
成績評価	前期試験(70%)に、受講態度(30%)を加味して評価します。
講義構成	I ガイダンス II 財務報告から事業報告への変化 III 拡張可能な事業報告言語(eXtensible Business Reporting Language; XBRL) IV 拡張された事業報告(Enhanced Business Reporting; EBR) V EBRのタクソノミーと日・米・欧の国際的な取り組み VI 知的資産情報と公正価値会計 VII 継続的報告と継続的監査 VIII 事業報告のサプライチェーン IX EBRとIT監査のあり方 X 総 括
教科書	池田公司『知的資産の監査』中央経済社

授業コード	51F11
-------	-------

授業科目名	情報処理I（1クラス）(前)		
担当者名	浮田 泉(ウキタ イズミ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	事前登録(時間割表の別表を参照。)		

講義の内容	本講義は、表計算ソフト(Excel)を活用できるように、情報処理技術を修得することを目的とする。そのために、まずデータの作成、書式設定等、基本的な技術を身につける。次に、会計データを素材としてデータ分析やブック管理を学習し、各種の課題に対して、問題解決する力をつけられるように、講義を進める。また、最新の企業情報開示についても触れる。		
到達目標	① Excelの基本操作(作表、計算、グラフ、データベース)ができるようになる。 ② 目的に応じた表の設計、加工、利用ができるようになる。		
講義方法	Excelを利用した演習が中心となる。授業時に配付する資料とその解説によって、課題を完成させる。したがって、ほぼ毎回、課題提出を求めることになる。課題は、メールによる提出を原則とする。		
準備学習	これまでの学習経験(あるいはパソコンの操作経験)に差があると思われるが、テーマごとに、必要に応じて指示する。		
成績評価	平常点、中間テスト、レポートについて、それぞれ次のような割合で評価する。 平常点(課題) : 50% 中間テスト(筆記試験) : 20% レポート(定期試験に代わる) : 30% 出席状況が悪い場合には、単位取得は困難となる。		
講義構成	(進度によって、変更することがあります。) 第1回 ガイダンス Excelの基本(1)データの作成・操作・書式の設定 第2回 Excelの基本(2)数式の作成・編集 第3回 Excelの基本(3)グラフの作成 第4回 Excelの基本(4)データの共有・セキュリティの設定 第5回 会計データの作成・操作(1) 第6回 会計データの作成・操作(2) 第7回 中間試験 第8回 会計情報分析(1)貸借対照表・損益計算書 第9回 会計情報分析(2)百分比・構成比・財務比率 第10回 会計情報分析(3) 第11回 Excelの応用(1)分析機能 第12回 Excelの応用(2)データベース 第13回 Excelの応用(3)Wordへの取り込み 第14回 総合問題(1) 第15回 総合問題(2)		
教科書	教科書は指定せず、適宜資料を配布する。		
参考書・資料	適宜指示する。		
担当者から一言	積み重ねの学習ですから、繰り返し復習することが大切です。自分のペースでしっかり理解しながら、Excelの活用技術を身に付けてください。		

授業コード	51F12		
授業科目名	情報処理I（2クラス）(後)		
担当者名	浮田 泉(ウキタ イズミ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	事前登録（時間割表の別表を参照。）		

講義の内容	本講義は、表計算ソフト(Excel)を活用できるように、情報処理技術を修得することを目的とする。そのために、まずデータの作成、書式設定等、基本的な技術を身につける。次に、会計データを素材としてデータ分析やブック管理を学習し、各種の課題に対して、問題解決する力をつけられるように、講義を進める。また、最新の企業情報開示についても触れる。		
-------	---	--	--

到達目標	① Excelの基本操作(作表、計算、グラフ、データベース)ができるようになる。 ② 目的に応じた表の設計、加工、利用ができるようになる。
講義方法	Excelを利用した演習が中心となる。授業時に配付する資料とその解説によって、課題を完成させる。したがって、ほぼ毎回、課題提出を求めることになる。課題は、メールによる提出を原則とする。
準備学習	これまでの学習経験(あるいはパソコンの操作経験)に差があると思われるが、テーマごとに、必要に応じて指示する。
成績評価	平常点、中間テスト、レポートについて、それぞれ次のような割合で評価する。 平常点(課題) : 50% 中間テスト(筆記試験) : 20% レポート(定期試験に代わる) : 30% 出席状況が悪い場合には、単位取得は困難となる。
講義構成	(進度によって、変更することがあります。) 第1回 ガイダンス Excelの基本(1)データの作成・操作・書式の設定 第2回 Excelの基本(2)数式の作成・編集 第3回 Excelの基本(3)グラフの作成 第4回 Excelの基本(4)データの共有・セキュリティの設定 第5回 会計データの作成・操作(1) 第6回 会計データの作成・操作(2) 第7回 中間試験 第8回 会計情報分析(1)貸借対照表・損益計算書 第9回 会計情報分析(2)百分比・構成比・財務比率 第10回 会計情報分析(3) 第11回 Excelの応用(1)分析機能 第12回 Excelの応用(2)データベース 第13回 Excelの応用(3)Wordへの取り込み 第14回 総合問題(1) 第15回 総合問題(2)
教科書	教科書は指定せず、適宜資料を配布する。
参考書・資料	適宜指示する。
担当者から一言	積み重ねの学習ですから、繰り返し復習することが大切です。自分のペースでしっかり理解しながら、Excelの活用技術を身に付けてください。

授業コード	51049		
授業科目名	情報処理II（後）		
担当者名	細井真人（ホソイ マヒト）		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限 火曜2限

講義の内容	本講義では、インターネットやインターネットで公開されているデータベースから、ビジネスや経済の各分野(人口、労働、物価、景気、企業、家計、政府、金融、国際経済等)における様々な種類の情報や統計データを検索・入手し、入手した情報・データをEXCELを用いて処理、分析することを通じて情報処理・分析の技術の習得と各分野の理解を深めます。
到達目標	1. ビジネスや経済の各分野における主要な統計の内容を理解する。 2. インターネットから各種統計を適切に入手し、EXCELを用いてデータの加工と分析、簡単なシミュレーションができる。
講義方法	授業は、講義と実習を組み合わせで行ないます。毎回、1時間目は一般の講義室での講義形式で、2時間目は情報教育研究センターのコンピュータ教室での実習形式を予定しています。授業内容は、教科書の各章の内容に沿って行います。実習課題や宿題として課すレポートは、EXCELとインターネット接続を必要とします。
準備学習	コンピュータの操作技術や統計学の知識があると理解しやすいと思いますが、関連する内容は講義中に説明します。
成績評価	定期試験(50%)、実習課題・宿題(50%)
講義構成	第1回 オリエンテーション、EXCEL操作の復習 第2回 検索サイトとデータベース

	第3回 統計データベースとデータ分析 第4回 人口に関するデータと分析 第5回 労働に関するデータと分析 第6回 物価に関するデータと分析 第7回 景気に関するデータと分析 第8回 企業に関するデータと分析 第9回 家計に関するデータと分析 第10回 政府に関するデータと分析 第11回 金融に関するデータと分析 第12回 国際経済に関するデータと分析 第13回 国民経済に関するデータと分析 第14回 時事トピックス、まとめ 第15回 試験
教科書	細井真人、「インターネット経済統計学」、オーム社、2002年

担当者から一言	新聞等による日々の経営記事に目を通すと、授業の理解がより深まると思います。皆さんの多くが到達目標に達するように授業をしたいと思います。
---------	---

授業コード	24M13		
授業科目名	情報処理概論I (D)(1クラス)(前)		
担当者名	小川正史(オガワ マサシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	この講義の目的は、社会科学を専攻する学生諸君に、コンピュータシステムの本質とその利用についての基礎知識を修得していただくことです。コンピュータシステムの歴史、基本的な仕組みや概念を体系的にわかりやすく解説することで、初心者やごく一般的なコンピュータシステム利用者はもとより、パワーユーザや情報システムの開発者などをめざす学生諸君にとっても有用な講義とします。 この講義を履修すれば、「コンピュータが何でできているのか」が、わかります！
到達目標	・コンピュータの限界を知り、その特性を生かした適正な利用につながる知識を修得する。 ・コンピュータの選定、導入、更新の際の意思決定に役立つ知識を修得する。 ・コンピュータの進歩の方向性を考える上で有用な知識を修得する。 ・コンピュータを応用した商品やサービス等の企画、開発、評価に役立つ知識を修得する。 ・経済産業省所管の国家試験「情報処理技術者試験」の受験に役立つ知識を修得する。
講義方法	多様なメディアを活用して講義を行います。
準備学習	各回の授業は、前回までの授業内容を理解できていることを前提に進められます。 毎回十分な復習をした上で、授業に臨んでください。
成績評価	基本的には学期末試験の得点(80%)と出席状況(20%)で評価する予定ですが、受講状況によっては、小テストや課題レポートを実施し、これらを加味して評価する場合もあります。
講義構成	講義の概要はつぎのとおりですが、下記以外にもITの進歩に即応して最新のトピックスを随時取り上げます。 1.コンピュータの歴史 ・コンピュータ前史 ・コンピュータ時代 ・コンピュータの世代 2.コンピュータの基本動作 ・論理演算と論理回路 ・電子スイッチと電子回路 ・半導体 ・ダイオードとトランジスタ ・ICとLSI ・半導体メモリ 3.コンピュータの基礎概念 ・コンピュータの基本構成 ・機械語 ・CPUの基本動作 4.オペレーティングシステム

	・OSの概念 ・OSの構成 ・プログラミング言語
教科書	定道 宏 著 『情報処理概論』(オーム社, 1988年)
参考書・資料	必要に応じて講義中に指示します。

授業コード	24M14		
授業科目名	情報処理概論I (D)(2クラス)(前)		
担当者名	小川正史(オガワ マサシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	この講義の目的は、社会科学を専攻する学生諸君に、コンピュータシステムの本質とその利用についての基礎知識を修得していただくことです。コンピュータシステムの歴史、基本的な仕組みや概念を体系的にわかりやすく解説することで、初心者やごく一般的なコンピュータシステム利用者はもとより、パワーユーザや情報システムの開発者などを旨とする学生諸君にとっても有用な講義とします。 この講義を履修すれば、「コンピュータが何でできているのか」が、わかります！
到達目標	・コンピュータの限界を知り、その特性を生かした適正な利用につながる知識を修得する。 ・コンピュータの選定、導入、更新の際の意思決定に役立つ知識を修得する。 ・コンピュータの進歩の方向性を考える上で有用な知識を修得する。 ・コンピュータを応用した商品やサービス等の企画、開発、評価に役立つ知識を修得する。 ・経済産業省所管の国家試験「情報処理技術者試験」の受験に役立つ知識を修得する。
講義方法	多様なメディアを活用して講義を行います。
準備学習	各回の授業は、前回までの授業内容を理解できていることを前提に進められます。 毎回十分な復習をした上で、授業に臨んでください。
成績評価	基本的には学期末試験の得点(80%)と出席状況(20%)で評価する予定ですが、受講状況によっては、小テストや課題レポートを実施し、これらを加味して評価する場合もあります。
講義構成	講義の概要はつぎのとおりですが、下記以外にもITの進歩に即応して最新のトピックスを随時取り上げます。 1.コンピュータの歴史 ・コンピュータ前史 ・コンピュータ時代 ・コンピュータの世代 2.コンピュータの基本動作 ・論理演算と論理回路 ・電子スイッチと電子回路 ・半導体 ・ダイオードとトランジスタ ・ICとLSI ・半導体メモリ 3.コンピュータの基礎概念 ・コンピュータの基本構成 ・機械語 ・CPUの基本動作 4.オペレーティングシステム ・OSの概念 ・OSの構成 ・プログラミング言語
教科書	定道 宏 著 『情報処理概論』(オーム社, 1988年)
参考書・資料	必要に応じて講義中に指示します。

授業コード	24M23
-------	-------

授業科目名	情報処理概論II (D)(1クラス)(後)		
担当者名	小川正史(オガワ マサシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	この講義の目的は、社会科学を専攻する学生諸君に、コンピュータシステムの本質とその利用についての基礎知識を修得していただくことです。コンピュータシステムの歴史、基本的な仕組みや概念を体系的にわかりやすく解説することで、初心者やごく一般的なコンピュータシステム利用者はもとより、パワーユーザや情報システムの開発者などを目指す学生諸君にとっても有用な講義とします。 この講義を履修すれば、「コンピュータが計算間違いをするわけ」が、わかります！
到達目標	・コンピュータの限界を知り、その特性を生かした適正な利用につながる知識を修得する。 ・コンピュータの選定、導入、更新の際の意思決定に役立つ知識を修得する。 ・コンピュータの進歩の方向性を考える上で有用な知識を修得する。 ・コンピュータを応用した商品やサービス等の企画、開発、評価に役立つ知識を修得する。 ・経済産業省所管の国家試験「情報処理技術者試験」の受験に役立つ知識を修得する。
講義方法	多様なメディアを活用して講義を行います。
準備学習	各回の授業は、前回までの授業内容を理解できていることを前提に進められます。 毎回十分な復習をした上で、授業に臨んでください。
成績評価	基本的には学期末試験の得点(80%)と出席状況(20%)で評価する予定ですが、受講状況によっては、小テストや課題レポートを実施し、これらを加味して評価する場合もあります。
講義構成	講義の概要はつぎのとおりですが、下記以外にもITの進歩に即応して最新のトピックスを随時取り上げます。 1.コンピュータシステム ・コンピュータの特徴 ・コンピュータの仕組み 2. コンピュータの基礎概念 ・コンピュータの基本構成 ・コンピュータシステム ・データと情報 ・アナログとデジタル ・10進数と2進数／16進数 ・記憶容量 3.データの表現と取り扱い ・数値データ ・文字データ ・文字コード ・データ通信の工夫 ・マルチメディアデータ ・音声・音楽データ ・静止画データ ・動画データ
教科書	定道 宏 著 『情報処理概論』(オーム社, 1988年)
参考書・資料	必要に応じて講義中に指示します。

授業コード	24M24		
授業科目名	情報処理概論II (D)(2クラス)(後)		
担当者名	小川正史(オガワ マサシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	この講義の目的は、社会科学を専攻する学生諸君に、コンピュータシステムの本質とその利用についての基礎知識を修得していただくことです。コンピュータシステムの歴史、基本的な仕組みや概念を体系的にわかりやすく
-------	--

	解説することで、初心者やごく一般的なコンピュータシステム利用者はもとより、パワーユーザや情報システムの開発者などを目指す学生諸君にとっても有用な講義とします。 この講義を履修すれば、「コンピュータが計算間違いをするわけ」が、わかります！
到達目標	・コンピュータの限界を知り、その特性を生かした適正な利用につながる知識を修得する。 ・コンピュータの選定、導入、更新の際の意思決定に役立つ知識を修得する。 ・コンピュータの進歩の方向性を考える上で有用な知識を修得する。 ・コンピュータを応用した商品やサービス等の企画、開発、評価に役立つ知識を修得する。 ・経済産業省所管の国家試験「情報処理技術者試験」の受験に役立つ知識を修得する。
講義方法	多様なメディアを活用して講義を行います。
準備学習	各回の授業は、前回までの授業内容を理解できていることを前提に進められます。 毎回十分な復習をした上で、授業に臨んでください。
成績評価	基本的には学期末試験の得点(80%)と出席状況(20%)で評価する予定ですが、受講状況によっては、小テストや課題レポートを実施し、これらを加味して評価する場合があります。
講義構成	講義の概要はつぎのとおりですが、下記以外にもITの進歩に即応して最新のトピックスを随時取り上げます。 1.コンピュータシステム ・コンピュータの特徴 ・コンピュータの仕組み 2.コンピュータの基礎概念 ・コンピュータの基本構成 ・コンピュータシステム ・データと情報 ・アナログとデジタル ・10進数と2進数／16進数 ・記憶容量 3.データの表現と取り扱い ・数値データ ・文字データ ・文字コード ・データ通信の工夫 ・マルチメディアデータ ・音声・音楽データ ・静止画データ ・動画データ
教科書	定道 宏 著 『情報処理概論』(オーム社, 1988年)
参考書・資料	必要に応じて講義中に指示します。

授業コード	51030		
授業科目名	税務会計（後）		
担当者名	古田美保（フルタ ミホ）		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限

講義の内容	営利活動を行う法人企業には、法人税の納付義務が課されています。そして、その法人企業の課税所得を計算し、納付すべき法人税額を確定することが、税務会計の主要目的です。 法人税負担は、法人企業にとって不可避のコストであるため、企業活動を行なう際には税法と税務会計の理解が必ず要求されます。また、税効果会計が導入されたことに伴い、財務諸表の作成および理解にあたっても、税務会計を理解していることが必要となります。ただし、税法の規定、特に法人税の規定は経済情勢等に応じて変更される可能性が高いものと考えられます。したがって、税法の本質や理念を理解することが、将来の税法の理解にもつながる点で、重要になります。 本講義では、法人税法の理論と課税所得・法人税額算定の仕組みを解説し、税務会計の理論的体系的な理解を得ることを目的とします。
到達目標	次の2点を目標とする。 1. 企業会計利益と課税所得の差異を理解し、基本的な税額計算ができること。 2. 現行の法人税法の課税理論について理解し、論じることができること。

講義方法	講義は、配布プリントを中心に行います。 また、可能な限り法規集を併用し、条文を読む機会を設けます。 規定の理解のために、適宜基礎的な計算問題も取り入れます。
準備学習	予習よりも復習に重点を置き、毎回の講義をその週のうちに消化するように心がけてください。 不明な点についてはメールもしくは研究室来室の上質問するか、次回講義の最初に質問するよう準備するようにしてください。 簿記や財務会計の知識は必須ではありませんが、内容によっては有用になります。
成績評価	期末試験の成績により評価します。
講義構成	講義は原則的な規定から例外規定、個別単位規定から連結単位規定、国内規定から国際取引規定、という順序で行います。 i. 総論; 租税法および法人税法の基本的な諸概念(第1～第3回) 第1回 税務会計の概要 第2回 法人税法の概要(納税義務者・課税所得等の範囲・計算構造等) 第3回 課税所得計算 ii. 個別法人単位・国内取引に関する原則的規定(第4～第16回) 第4回 益金の計算(1) 第5回 " (2) 第6回 " (3) 第7回 損金の計算(1) 第8回 " (2) 第9回 " (3) 第10回 資産の会計(1) 第11回 " (2) 第12回 " (3) 第13回 特殊規定 第14回 引当金の会計 第15回 欠損金の会計 第16回 税額計算 iii. 租税特別措置等(第17～第21回) 第17回 租税特別措置法の概要 第18回 軽課による優遇(1) 第19回 " (2) 第20回 重課による抑止 第21回 租税特別措置(政策税制)の今後 iv. 新税制—法人格の擬制(第22～第26回) 第22回 企業組織再編税制(1) 第23回 " (2) 第24回 連結納税制度(1) 第25回 " (2) 第26回 新税制の意義 v. 国際課税制度(第27～第29回) 第27回 外国税額控除・過小資本税制 第28回 移転価格税制・タックス・ヘイヴン税制 第29回 国際課税の今後 vi. 総括(第30回) 第30回 総括
教科書	配布プリントおよび参考書を中心に講義を進めます。
講義関連事項	講義内容の理解のためには、簿記・財務会計の知識が有用となります。
担当者から一言	原則として出席は採りません。受講生には積極的な参加を望みます。質問や問題提起は、いかなるときも歓迎します。

授業コード	51C81
-------	-------

授業科目名	中級簿記 (A)(後)		
担当者名	宮本健太(ミヤモト ケンタ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜2限
特記事項	事前申請科目 受講希望者は履修要項の申し合わせをよく読み、期日までに申請すること。		

講義の内容	本講義は、経営者、国際的企業人、会計職業人(税理士、公認会計士など)を志望する学生のための、“ビジネスのプロ”を養成する「ビジネス・リーダー養成プログラム」の第2ステップであり、学習レベルとしては日商簿記検定試験2級の合格を目標としています。 ※2級合格には、中級簿記(A)とともに工業簿記(A)の修得が必要です。 中級簿記(A)では、株式会社(うち商品売買業)を対象として学習します。株式会社とは、株式を発行して資金を調達し企業体を運営する組織です。複数の出資者(株式)が企業体を運営する共同企業であり、簿記入門(A)で学習の対象とする個人企業とは性質が異なります。また、株式会社は、取引規模も大きくなることから、様々な簿記会計の知識が必要になります。 日商簿記検定試験2級の合格のためには、3級と同様に講義(インプット)と問題練習(アウトプット)をバランス良く学習することがきわめて重要です。なお、2級は中級簿記(商業簿記)と工業簿記が同時出題されるため、得手不得手のないよう、バランス良く学習して下さい。 講義を受け、練習問題を解き、そして検定試験に合格するというのがこのコースのデザインです。
到達目標	平成23年2月に実施される日本商工会議所主催簿記検定(日商簿記検定)2級の合格
講義方法	日商簿記検定2級の合格のためには、講義(インプット)と問題練習(アウトプット)をバランス良く学習することがきわめて重要です。日商簿記検定2級の出題範囲に準拠し、テキストで簿記会計の基本的な考え方をマスターし、さらに、問題集で具体的な計算問題を練習することで学習効果を高めます。 検定試験直前(2月中旬から下旬)には、検定試験出題予想問題を試験形式で解答し、検定合格に向けて実践的な問題解答能力を身に付けます(合格レベルに達するまで繰り返します)。
準備学習	中級簿記は、簿記入門(A)の上位クラスのため、日商簿記3級レベルの仕訳は確実にマスターしておかなければなりません。事前準備として、特に決算整理仕訳の復習をしておいてください。
成績評価	出席状況(20%)、授業中のミニテストおよびレポート(20%)、期末試験(60%)に基づいて総合評価します。※毎回の授業に出席に、理解、復習しなければ、各種試験での得点はできません。
講義構成	下記の基礎14項目および検定試験対策(答案練習)を講義する。 1 簿記一巡の手続き 2 固定資産・繰延資産 3 銀行勘定調整表 4 引当金 5 商品の評価 6 税金 7 株式会社 8 社債 9 決算 10 伝票会計 11 帳簿組織 12 特殊商品売買 13 その他の取引 14 支店会計
教科書	本講義では、専用の教材が必要です。生協書籍部で販売しますので、必ず購入してください。 ※講義初回から、教材および電卓を使用します。 『ALFA2級課程 商業簿記』 大原簿記専門学校
参考書・資料	必要に応じて、レジュメおよび問題資料を配布します。 推薦問題集『2級ステップアップ問題集(商業簿記)』 大原簿記学校
講義関連事項	甲南大学生協書籍部を通じて、日商簿記検定試験の受験申込をしてください。 ※申込期間に注意のこと。

担当者から一言	講義初回から、教材および電卓を使用します。 ※電卓は、10桁～12桁表示が望ましい。カード電卓は不向きである。 中級簿記(A)は、簿記入門(A)の上位クラスのため、日商簿記検定3級レベルを合格した者でなければ、履修することはできません。この講義を受講し、自宅等での復習を確実に行えば、日商簿記検定2級合格という成果がついてきます。目標として60%程度の合格率を目指します。
---------	---

授業コード	51C82		
授業科目名	中級簿記 (B)(後)		
担当者名	藤原克彦(フジハラ カツヒコ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 月曜2限
特記事項	事前申請科目 受講希望者は履修要項の申し合わせをよく読み、期日までに申請すること。		

講義の内容	簿記の基本(基本言語)は仕訳であり、仕訳とは企業の経済活動を勘定科目と金額で表すことです。そして、この勘定科目と金額を貸借対照表と損益計算書と言う財務諸表に集約・整理することによって、企業の経営状態を表します。 すなわち簿記の基本は仕訳であり、目的は財務諸表の作成にあると言えます。 講義は、仕訳と貸借対照表・損益計算書の関係を覚えるのでなく理解することに重点を置いて進めます。(簿記検定2級を目標にするものではありません。)
到達目標	企業の経済活動を仕訳し財務諸表を作成すること。
講義方法	仕訳を貸借対照表・損益計算書との関係を通して理解出来る様に講義を進めます。
準備学習	簿記初級(3級)程度の知識は必要ですので、必ず開講までに取得しておいて下さい。
成績評価	レポート等提出物(30%)、出席(20%)、期末試験(50%)
講義構成	第 1回: 簿記の歴史 第 2回: 簿記の基本原則 第 3回: 現代簿記の特色 第 4回: 簿記による記録・計算の方法 第 5回: 資産・負債・資本と貸借対照表 第 6回: 収益・費用と損益計算書 第 7回: 貸借対照表と損益計算書の関係 第 8回: 仕訳と取引と勘定(その①) 第 9回: 仕訳と取引と勘定(その②) 第10回: 元帳への転記とその役割 第11回: 試算表の目的とその種類 第12回: 試算表の作成と誤謬の発見について 第13回: 決算その意味と手続 第14回: 元帳の締切りと繰越試算表の作成 第15回: 試算表と貸借対照表と損益計算書の関係 第16回: 簿記と会計について
教科書	法律等の改正による改訂版が出揃ってから後、開講前に指示します。
参考書・資料	現状では別に指定はありませんが、何か良い書籍があれば開示します。
講義関連事項	別になし。

担当者から一言	簿記は積み重ねの学習が特に重要な科目ですが、受講していて突然理解の深まることがあります。少しでも興味があれば受講して下さい。「高が簿記、然れど簿記」です。
---------	---

授業コード	51C51		
授業科目名	統計学入門I (1クラス)(前)		
担当者名	藤木 清(フジキ キヨシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	昨今、統計データから物事を読み取る力や、自分でデータを収集・整理・加工して、他人に説明する力が必要になっている。この授業では、記述統計的分析手法を中心に学習し、これらの力を伸ばしていくことを目的とする。
-------	--

	前半は、表やグラフの表現及び質的なデータの整理・加工の方法と分析方法について学習する。後半は量的なデータの整理・加工の方法と分析方法について学習する。 若干の数学的な素養が必要であるが、できるだけ平易に解説するとともに中間試験や平常課題を通して段階的に理解を深めていく。
到達目標	1. 表やグラフの表現方法やマナーを理解し、素データから適切な表・グラフを作成することができる。 2. データの種類によって、整理する方法を自ら選択することができる。 3. 質的データについて、クロス集計を行い、考察することができる。 4. 量的データについて、データの中心とばらつきを把握し、データ間の比較を行うことができる。 5. 2つの量的データの関係性について、分析し考察することができる。
講義方法	演習を取り入れた講義
準備学習	授業としては特別な準備は不要である。日々、ニュースや新聞などで客観的なデータを読む習慣を身につけてほしい。
成績評価	平常課題20% 中間試験20% 期末試験60%
講義構成	【第1回】オリエンテーション 【第2回】表やグラフの表現1 【第3回】表やグラフの表現2 【第4回】変数の種類、アンケートのたてかた 【第5回】質的データの整理・考察(単純集計) 【第6回】質的データの整理・考察(クロス集計) 【第7回】中間試験 【第8回】量的データの整理・考察(代表値) 【第9回】量的データの整理・考察(ばらつき) 【第10回】量的データの関係性の分析(相関1) 【第11回】量的データの関係性の分析(相関2) 【第12回】量的データの関係性の分析(回帰1) 【第13回】量的データの関係性の分析(回帰2) 【第14回】おさらいと総括 【第15回】期末試験
教科書	書名:「ゼロからの統計学 一使えるシーンが見える」 著者: 竹田茂生・藤木清 発行:くろしお出版 発行年:2010年3月刊行予定

授業コード	51C52		
授業科目名	統計学入門I (2クラス)(前)		
担当者名	藤木 清(フジキ キヨシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	昨今、統計データから物事を読み取る力や、自分でデータを収集・整理・加工して、他人に説明する力が必要になっている。この授業では、記述統計的分析手法を中心に学習し、これらの力を伸ばしていくことを目的とする。 前半は、表やグラフの表現及び質的なデータの整理・加工の方法と分析方法について学習する。後半は量的なデータの整理・加工の方法と分析方法について学習する。 若干の数学的な素養が必要であるが、できるだけ平易に解説するとともに中間試験や平常課題を通して段階的に理解を深めていく。
到達目標	1. 表やグラフの表現方法やマナーを理解し、素データから適切な表・グラフを作成することができる。 2. データの種類によって、整理する方法を自ら選択することができる。 3. 質的データについて、クロス集計を行い、考察することができる。 4. 量的データについて、データの中心とばらつきを把握し、データ間の比較を行うことができる。 5. 2つの量的データの関係性について、分析し考察することができる。
講義方法	演習を取り入れた講義
準備学習	授業としては特別な準備は不要である。日々、ニュースや新聞などで客観的なデータを読む習慣を身につけて

	ほしい。
成績評価	平常課題20% 中間試験20% 期末試験60%
講義構成	【第1回】オリエンテーション 【第2回】表やグラフの表現1 【第3回】表やグラフの表現2 【第4回】変数の種類、アンケートのたてかた 【第5回】質的データの整理・考察(単純集計) 【第6回】質的データの整理・考察(クロス集計) 【第7回】中間試験 【第8回】量的データの整理・考察(代表値) 【第9回】量的データの整理・考察(ばらつき) 【第10回】量的データの関係性の分析(相関1) 【第11回】量的データの関係性の分析(相関2) 【第12回】量的データの関係性の分析(回帰1) 【第13回】量的データの関係性の分析(回帰2) 【第14回】おさらいと総括 【第15回】期末試験
教科書	書名:「ゼロからの統計学 一 使えるシーンが見える」 著者: 竹田茂生・藤木清 発行: ころしお出版 発行年: 2010年3月刊行予定

授業コード	51C61		
授業科目名	統計学入門Ⅱ（1クラス）(後)		
担当者名	藤木 清(フジキ キヨシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	昨今、さまざまな場面で統計的分析手法が使用されている。それだけに、分析手法の基本的な考え方を習得しておくことは、今後の学習・研究にとって有用である。 本講義では、特に推測統計的分析の基礎を理解し、習得することを目的とする。そのためには、確率、確率変数など若干、数学的な知識が必要である。本講義では、できるだけ平易に解説するよう努める。また、理解を助けるために平常課題を課す。
到達目標	1. 推測統計的分析手法を利用するために必要な確率変数や確率分布について説明できる。 2. 推測統計的分析手法を理解し、いろいろな問題にあてはめて活用しようと試みることができる。
講義方法	講義を中心に行うが適宜演習を加える
準備学習	「統計学入門Ⅰ」で学習した内容を使用するので履修しておくことは望ましい(必須ではない)。
成績評価	平常課題20% 期末試験80%
講義構成	【第1回】 推測統計的分析手法の全体像 この授業で学習することを理解する 記述統計的分析手法との違いを理解する 【第2回】 事象と確率 基本的な確率の概念および性質を学ぶ 【第3回】 確率変数と確率分布(1) 離散的確率変数と離散的確率分布の概念を理解する 標準化の概念を知る 【第4回】 確率変数と確率分布(2) 連続的確率変数と連続的確率分布の概念を学ぶ 代表的な連続的確率分布である正規分布を知る

	【第5回】 正規分布の活用(1) 正規分布に従う確率変数の確率の求め方を知る 【第6回】 正規分布の活用(2) 確率からパーセント点を求める 【第7回】 標本分布(1) 母集団と標本の違いを理解する 標本平均の性質を知る－不偏性と一致性－ 【第8回】 標本分布(2) 標本分散(不偏分散)の性質を知る 標本平均の分布の性質(中心極限定理他)を知る 【第9回】 推定(1) 推定の種類を理解する 点推定の方法を理解する 区間推定の方法(母分散が既知の場合)を理解する 【第10回】 推定(2) 区間推定の方法(母分散が未知の場合)を理解する 【第11回】 統計的仮説検定(1) 母平均の検定(母分散が既知の場合)方法を知る 【第12回】 統計的仮説検定(2) 2種類の過誤を理解する 母平均の検定(母分散が未知の場合)方法を理解する 【第13回】 統計的推測の応用 母平均の差の検定について理解する 【第14回】 最終総括 この授業で学んだことを確認する 【第15回】 期末試験
教科書	鳥居泰彦 著 『はじめての統計学』 日本経済新聞社 ISBN 4-532-13074-3
参考書・資料	豊田利久、大谷一博、小川一夫、長谷川光、谷崎久志 著 『基本統計学(第2版)』 東洋経済新報社 ISBN 4-492-47069-7

授業コード	51C62		
授業科目名	統計学入門II(2クラス)(後)		
担当者名	藤木 清(フジキ キヨシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	昨今、さまざまな場面で統計的分析手法が使用されている。それだけに、分析手法の基本的な考え方を習得しておくことは、今後の学習・研究にとって有用である。 本講義では、特に推測統計的分析の基礎を理解し、習得することを目的とする。そのためには、確率、確率変数など若干、数学的な知識が必要である。本講義では、できるだけ平易に解説するよう努める。また、理解を助けるために平常課題を課す。
-------	---

到達目標	1. 推測統計的分析手法を利用するために必要な確率変数や確率分布について説明できる。 2. 推測統計的分析手法を理解し、いろいろな問題にあてはめて活用しようと試みることができる。
講義方法	講義を中心に行うが適宜演習を加える
準備学習	「統計学入門Ⅰ」で学習した内容を使用するので履修しておくことは望ましい(必須ではない)。
成績評価	平常課題20% 期末試験80%
講義構成	【第1回】 推測統計的分析手法の全体像 この授業で学習することを理解する 記述統計的分析手法との違いを理解する 【第2回】 事象と確率 基本的な確率の概念および性質を学ぶ 【第3回】 確率変数と確率分布(1) 離散的確率変数と離散的確率分布の概念を理解する 標準化の概念を知る 【第4回】 確率変数と確率分布(2) 連続的確率変数と連続的確率分布の概念を学ぶ 代表的な連続的確率分布である正規分布を知る 【第5回】 正規分布の活用(1) 正規分布に従う確率変数の確率の求め方を知る 【第6回】 正規分布の活用(2) 確率からパーセント点を求める 【第7回】 標本分布(1) 母集団と標本の違いを理解する 標本平均の性質を知る－不偏性と一致性－ 【第8回】 標本分布(2) 標本分散(不偏分散)の性質を知る 標本平均の分布の性質(中心極限定理他)を知る 【第9回】 推定(1) 推定の種類を理解する 点推定の方法を理解する 区間推定の方法(母分散が既知の場合)を理解する 【第10回】 推定(2) 区間推定の方法(母分散が未知の場合)を理解する 【第11回】 統計的仮説検定(1) 母平均の検定(母分散が既知の場合)方法を知る 【第12回】 統計的仮説検定(2) 2種類の過誤を理解する 母平均の検定(母分散が未知の場合)方法を理解する 【第13回】 統計的推測の応用 母平均の差の検定について理解する 【第14回】 最終総括 この授業で学んだことを確認する 【第15回】 期末試験
教科書	鳥居泰彦 著 『はじめての統計学』 日本経済新聞社 ISBN 4-532-13074-3

参考書・資料	豊田利久、大谷一博、小川一夫、長谷川光、谷崎久志 著 『基本統計学(第2版)』 東洋経済新報社 ISBN 4-492-47069-7
--------	---

授業コード	51J21		
授業科目名	ビジネス英会話・上級(1クラス)(前)		
担当者名	ミツダ(ミツダ ベンジャミン B.)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
特記事項	定員があるため、先着順登録。時間割表の別表を参照 ビジネス英会話・初級の単位修得者に限る。		
オフィスアワー	Available by appointment and e-mail		

講義の内容	Conversational phrases and strategies focusing on professional English and current business topics will be explored. The goals are practicing and increasing English communication skills further through awareness of local and global news and interconnected business events. Moreover, it is hoped all students will gain greater confidence to express themselves as they "seek first to understand, then to be understood" in their ongoing journey with English. Materials from sources such as The Wall Street Journal, Forbes Asia, Time, Student Times, BBC and CNN will be used to "exercise" listening comprehension, vocabulary and discussion skills. In previous semesters, topics included language used at work, business developments (Toyota, General Motors, Apple, Google), mergers, scenes from movies and documentaries, speeches by political leaders, environmental issues and sports.
到達目標	The aim is to prepare students for giving presentations in front of the class using English only. From a wide variety of topics, students will make their own selections and give their own perspectives or points of view.
講義方法	Students will be assigned to find their own topics from the internet and newspapers so they need to keep up with the daily news reports. From their collection of materials, they will summarize and express their opinions in pairs and in groups.
準備学習	Vocabulary lists and reading materials will be given for homework.
成績評価	・平常点 30% ・出席率 30% ・試験 30% ・その他 10% (Homework and bonus points) Evaluation based on assignments, short quizzes, regular attendance, active participation, interviews, mini-presentations, self-assessment and a final review.
講義構成	Requirements: Come to class on time and actively use English as much as possible. Lessons: The first class of the term is for orientation and handing out the first homework (vocabulary and reading materials). There will be a final review in the last class of the term. Every topic is studied in 2 or 3 parts. Depending on the content as well as local and global events, one part is studied in each class as follows: a (starting a new topic about 50 min.) 1. Vocabulary Quiz of the previous topic. 2. Listening questions about the topic. 3. Watch the video one time through. 4. Transcribe the first paragraph of the news report with analysis of grammar, vocabulary and content. (about 20 min.) 5. Discuss / clarify / question & answer main ideas of the topic. 6. H.W. of discussion questions, transcription and begin preparation for next class.* -----

	b (examining the topic about 50 min.) 1. Check Reading Homework. (10 min.) 2. See video and answer comprehension questions. Check answers. (15 min.) 3. Discussion, including some sharing with the whole class during the activity. (20 min.)* ----- c (finishing the topic 50 min.) 1. Check transcripts as a listening activity. Exchange papers and mark missing, wrong or extra words. (10 min.) 2. See the video of the news again. 3. Continue discussion including some sharing with the whole class. (20 min.) 4. Listening Quiz. (5 min.) 5. Receive vocabulary list and materials for the next topic.* ----- *Other activities may be done if time allows, such as making summaries of the topics, discussing updates of previous news, viewing & discussing other news of interest or relevance, making oral reports (presentations) on other current news, receiving corrected homework from previous topics, etc.
教科書	Adams, Keith; GLOBAL LINKS (ENGLISH FOR INTERNATIONAL BUSINESS), Longman Albom, Mitch; TUESDAYS WITH MORRIE, Doubleday Covey, Stephen; FIRST THINGS FIRST / THE 8TH HABIT, Simon & Schuster, Free Press Gladwell, Malcolm; OUTLIERS (THE STORY OF SUCCESS), Little, Brown and Company Hesse, Stephen; TAKING SIDES, (Critical Thinking for Speech, Discussion and Debate) Obama, Barack; THE AUDACITY OF HOPE Moore, Michael; CAPITALISM / CORPORATIONS Rotella, Bob; LIFE IS NOT A GAME OF PERFECT LONGMAN DICTIONARY OF CONTEMPORARY ENGLISH; COMMUNICATION BRIEFINGS (Idea Source for Decision Makers); CHICKEN SOUP FOR THE SOUL AT WORK (Stories of Courage, Compassion and Creativity in the Workplace); DON'T SWEAT THE SMALL STUFF These are suggested references. Resource materials will be selected and prepared by both the students and the instructor. Required readings will be confirmed at the start of the term.
担当者から一言	The GOAL is NOT to be perfect when communicating in English. Practicing x 3 (P P P) in and out of the classroom and taking chances are important. BE PROACTIVE. GOAL begins with "GO."
その他	Attending regularly (3 x late = 1 absence), participating actively and taking chances to speak up in English are necessary to get weekly bonus points.

授業コード	51J22		
授業科目名	ビジネス英会話・上級（2クラス)(後)		
担当者名	ミツダ(ミツダ ベンジャミン B.)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
特記事項	定員があるため、先着順登録。時間割表の別表を参照 ビジネス英会話・初級の単位修得者に限る。		
オフィスアワー	Available by appointment and e-mail		
講義の内容	Conversational phrases and strategies focusing on professional English and current business topics will be		

	explored. The goals are practicing and increasing English communication skills further through awareness of local and global news and interconnected business events. Moreover, it is hoped all students will gain greater confidence to express themselves as they "seek first to understand, then to be understood" in their ongoing journey with English. Materials from sources such as The Wall Street Journal, Forbes Asia, Time, Student Times, BBC and CNN will be used to "exercise" listening comprehension, vocabulary and discussion skills. In previous semesters, topics included language used at work, business developments (Toyota, General Motors, Apple, Google), mergers, scenes from movies and documentaries, speeches by political leaders, environmental issues and sports.
到達目標	The aim is to prepare students for giving presentations in front of the class using English only. From a wide variety of topics, students will make their own selections and give their own perspectives or points of view.
講義方法	Students will be assigned to find their own topics from the internet and newspapers so they need to keep up with the daily news reports. From their collection of materials, they will summarize and express their opinions in pairs and in groups.
準備学習	Vocabulary lists and reading materials will be given for homework.
成績評価	・平常点 30% ・出席率 30% ・試験 30% ・その他 10% (Homework and bonus points) Evaluation based on assignments, short quizzes, regular attendance, active participation, interviews, mini-presentations, self-assessment and a final review.
講義構成	Requirements: Come to class on time and actively use English as much as possible. Lessons: The first class of the term is for orientation and handing out the first homework (vocabulary and reading materials). There will be a final review in the last class of the term. Every topic is studied in 2 or 3 parts. Depending on the content as well as local and global events, one part is studied in each class as follows: a (starting a new topic about 50 min.) 1. Vocabulary Quiz of the previous topic. 2. Listening questions about the topic. 3. Watch the video one time through. 4. Transcribe the first paragraph of the news report with analysis of grammar, vocabulary and content. (about 20 min.) 5. Discuss / clarify / question & answer main ideas of the topic. 6. H.W. of discussion questions, transcription and begin preparation for next class.* ----- b (examining the topic about 50 min.) 1. Check Reading Homework. (10 min.) 2. See video and answer comprehension questions. Check answers. (15 min.) 3. Discussion, including some sharing with the whole class during the activity. (20 min.)* ----- c (finishing the topic 50 min.) 1. Check transcripts as a listening activity. Exchange papers and mark missing, wrong or extra words. (10 min.) 2. See the video of the news again. 3. Continue discussion including some sharing with the whole class. (20 min.) 4. Listening Quiz. (5 min.) 5. Receive vocabulary list and materials for the next topic.* ----- *Other activities may be done if time allows, such as making summaries of the topics, discussing updates of previous news, viewing & discussing other news of interest or relevance, making oral reports (presentations) on other current news, receiving corrected homework from previous topics, etc.

教科書	Adams, Keith; GLOBAL LINKS (ENGLISH FOR INTERNATIONAL BUSINESS), Longman Albom, Mitch; TUESDAYS WITH MORRIE, Doubleday Covey, Stephen; FIRST THINGS FIRST / THE 8TH HABIT, Simon & Schuster, Free Press Gladwell, Malcolm; OUTLIERS (THE STORY OF SUCCESS), Little, Brown and Company Hesse, Stephen; TAKING SIDES, (Critical Thinking for Speech, Discussion and Debate) Obama, Barack; THE AUDACITY OF HOPE Moore, Michael; CAPITALISM / CORPORATIONS Rotella, Bob; LIFE IS NOT A GAME OF PERFECT LONGMAN DICTIONARY OF CONTEMPORARY ENGLISH; COMMUNICATION BRIEFINGS (Idea Source for Decision Makers); CHICKEN SOUP FOR THE SOUL AT WORK (Stories of Courage, Compassion and Creativity in the Workplace); DON'T SWEAT THE SMALL STUFF These are suggested references. Resource materials will be selected and prepared by both the students and the instructor. Required readings will be confirmed at the start of the term.
担当者から一言	The GOAL is NOT to be perfect when communicating in English. Practicing x 3 (P P P) in and out of the classroom and taking chances are important. BE PROACTIVE. GOAL begins with "GO."
その他	Attending regularly (3 x late = 1 absence), participating actively and taking chances to speak up in English are necessary to get weekly bonus points.

授業コード	51J11		
授業科目名	ビジネス英会話・初級（1クラス)(前)		
担当者名	ミツダ(ミツダ ベンジャミン B.)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限
特記事項	定員があるため、先着順登録。時間割表の別表を参照		
オフィスアワー	Available by appointment and e-mail		

講義の内容	Through regular conversational practice with classmates and with the instructor, students will have opportunities to acquire greater communicative competence and confidence. In addition to practicing dialogs, students will preview and review current topics in order to develop and present their viewpoints in English.
到達目標	This basic business conversation course aims to activate and build the vocabulary, listening, reading and speaking skills of students so that they can better communicate in English in a variety of social and work-related situations.
講義方法	From the start of the course, students will practice CONVERSATIONAL ENGLISH. In pairs and in groups, they will be asked to role play using model dialogs in business and social situations. They will be pushed, pulled and encouraged to take chances and express their opinions.
準備学習	Previewing and reviewing topic assignments and class materials.
成績評価	・平常点 30% ・出席率 30% ・試験 30% ・その他 10% (Homework and bonus points) Evaluation based on assignments, short quizzes, regular attendance, active participation, interviews, mini-presentations, self-assessment and a final review.
講義構成	Asking and giving information; greeting others Talking about work, ability and interests

	Practicing office and conversational routines (telephone, voice mail, internet, fax & letter formats) Making appointments, requests and suggestions Giving directions, advice and asking for guidance Stating preferences, comparisons Discussing current topics and activities; future plans and possibilities (These are example topics to be considered)
教科書	NEW BASIC SURVIVAL International Communication for Professional People by Peter Viney (The textbook title(s) and required resource materials will be confirmed at the start of the term)
担当者から一言	Attending regularly (3 x late = 1 absence), participating actively and taking chances are important to earn points. The GOAL is NOT to be PERFECT in English BUT THE GOAL ALWAYS BEGINS WITH "GO."
その他	The best way to predict the future is to create it (Peter Drucker). Expand your horizons. Seek wisdom. Information is the key to the new age (Yukichi Fukuzawa).

授業コード	51J12		
授業科目名	ビジネス英会話・初級（2クラス）(後)		
担当者名	ミツダ(ミツダ ベンジャミン B.)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限
特記事項	定員があるため、先着順登録。時間割表の別表を参照		
オフィスアワー	Available by appointment and e-mail		

講義の内容	Through regular conversational practice with classmates and with the instructor, students will have opportunities to acquire greater communicative competence and confidence. In addition to practicing dialogs, students will preview and review current topics in order to develop and present their viewpoints in English.
到達目標	This basic business conversation course aims to activate and build the vocabulary, listening, reading and speaking skills of students so that they can better communicate in English in a variety of social and work-related situations.
講義方法	From the start of the course, students will practice CONVERSATIONAL ENGLISH. In pairs and in groups, they will be asked to role play using model dialogs in business and social situations. They will be pushed, pulled and encouraged to take chances and express their opinions.
準備学習	Previewing and reviewing topic assignments and class materials.
成績評価	・平常点 30% ・出席率 30% ・試験 30% ・その他 10% (Homework and bonus points) Evaluation based on assignments, short quizzes, regular attendance, active participation, interviews, mini-presentations, self-assessment and a final review.
講義構成	Asking and giving information; greeting others Talking about work, ability and interests Practicing office and conversational routines (telephone, voice mail, internet, fax & letter formats) Making appointments, requests and suggestions

	Giving directions, advice and asking for guidance Stating preferences, comparisons Discussing current topics and activities; future plans and possibilities (These are example topics to be considered)
教科書	NEW BASIC SURVIVAL International Communication for Professional People by Peter Viney (The textbook title(s) and required resource materials will be confirmed at the start of the term)
担当者から一言	Attending regularly (3 x late = 1 absence), participating actively and taking chances are important to earn points. The GOAL is NOT to be PERFECT in English BUT THE GOAL ALWAYS BEGINS WITH "GO."
その他	The best way to predict the future is to create it (Peter Drucker). Expand your horizons. Seek wisdom. Information is the key to the new age (Yukichi Fukuzawa).

授業コード	51051		
授業科目名	ビジネス英語I (前)		
担当者名	伊庭 緑(イバ ミドリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	定員があるため、先着順登録。時間割表の別表を参照		
オフィスアワー	火曜日・木曜日の昼休み 研究室:6号館6階		

講義の内容	テキストはビジネスに必要な語彙や慣用表現などを段階的に学習するように構成されているが、前期ではテキストの前半を扱う。またこの授業ではビジネス関連の記事やビジネス文書の読解、ビジネス関連の文書の作成も行なうので学生はテキスト以外の課題にも取り組むことになる。
到達目標	国際ビジネスの現場で必要な英語力とビジネススキルを習得することを目指す。
講義方法	初回の授業時にTOEICの Reading セクションの模擬テストを受け各自の実力を知り、それぞれの目標を定める。通常の授業は講義方式ではなく、learner-centeredのワークショップ方式でおこなう。最終授業時にはバージョンの違うTOEICの模擬テストを受けどれだけ目標が達成されたかを確認する。
準備学習	次回進むテキストのUnitの問題を解いておく。 学習したボキャブラリーなどを復習する。
成績評価	テスト・レポート70% 出席状況・授業態度30%
講義構成	講義の構成は以下の通りですが不測の事態により変更の可能性もあります。 第 1回 Guidance/Mini TOEIC 4/6 第 2回 Corporate Culture (1) 4/13 第 3回 Corporate Culture (2) 4/20 第 4回 Corporate Culture (3) 4/27 第 5回 Customer Support (1) 5/11 第 6回 Customer Support (2) 5/18 第 7回 Customer Support (3) 5/25 第 8回 Products and Packaging (1) 6/1 第 9回 Products and Packaging (2) 6/8 第10回 Products and Packaging (3) 6/15 第11回 Careers (1) 6/22 第12回 Careers (2) 6/29 第13回 Careers (3) 7/6 第14回 Review Test 7/13

	第15回 前期試験 (Mini TOEIC) 7/27
教科書	教科書名: The Business 著者: John Allison with Paul Emmerson 出版社: Macmillan
参考書・資料	書名: 即聴即答 ビジネス英語トレーニング 著者: ショーン K 出版社: アルク
講義関連事項	この授業を履修する学生は中級英語TOEICも履修することが望ましい。 また海外の大学に留学を希望する学生は中級英語TOEFLを履修することが望ましい。TOEFLに関しては春・夏に集中講座(インターセッション: ただし有料)もある。
担当者から一言	続けることが大事です。気楽にどうぞ。ただしレベルは「やや難」に設定していますので本当に英語が苦手な人にはつらいかもしれません。登録すべきかどうか一度覗いてから検討してください。 授業は原則として英語で行います。
ホームページタイトル	英語発音入門
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/ilc/english/

授業コード	51052		
授業科目名	ビジネス英語Ⅱ(後)		
担当者名	伊庭 緑(イバ ミドリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	定員があるため、先着順登録。 時間割表の別表を参照		
オフィスアワー	火曜日・木曜日の昼休み 研究室:6号館6階		

講義の内容	テキストはビジネスに必要な語彙や慣用表現などを段階的に学習するように構成されているが、後期ではテキストの後半を扱う。またこの授業ではビジネス関連の記事やビジネス文書の読解、ビジネス関連の文書の作成も行なうので学生はテキスト以外の課題にも取り組むことになる。
到達目標	国際ビジネスの現場で必要な英語力とビジネススキルを習得することを目標とする。
講義方法	初回の授業時にTOEICの Reading セクションの模擬テストを受けその場で採点し、各自の実力を知り、それぞれの目標を定める。通常の授業は講義方式ではなく、learner-centeredのワークショップ方式でおこなう。最終授業時にはバージョンの違うTOEICの模擬テストを受けどれだけ目標が達成されたかを確認する。
準備学習	次回進むテキストのUnitの問題を解いておく。 学習したボキャブラリーなどを復習する。
成績評価	テスト・レポート70% 出席状況・授業態度30%
講義構成	講義の構成は以下の通りですが不測の事態により変更の可能性もある。 第 1回 Guidance/Mini TOEIC 第 2回 Making Deals (1) 第 3回 Making Deals (2) 第 4回 Making Deals (3) 第 5回 Company and Community (1) 第 6回 Company and Community (2) 第 7回 Company and Community (3) 第 8回 Mergers and Acquisitions (1) 第 9回 Mergers and Acquisitions (2) 第10回 Mergers and Acquisitions (3) 第11回 International Trade (1) 第12回 International Trade (2) 第13回 International Trade (3) 第14回 Review Test 第15回 後期試験 (Mini TOEIC)

教科書	教科書名: The Business 著者: John Allison with Paul Emmerson 出版社: Macmillan
参考書・資料	書名: 即聴即答 ビジネス英語トレーニング 著者: ショーン K 出版社: アルク
講義関連事項	この授業を履修する学生は中級英語TOEICも履修することが望ましい。 また海外の大学に留学を希望する学生は中級英語TOEFLを履修することが望ましい。TOEFLに関しては春・夏に集中講座(インターセッション: ただし有料)もある。
担当者から一言	続けることが大事です。気楽にどうぞ。ただしレベルは「やや難」に設定していますので本当に英語が苦手な人にはつらいかもしれません。登録すべきかどうか一度覗いてから検討してください。 授業は原則として英語で行います。
ホームページタイトル	英語発音入門
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/ilc/english/

授業コード	55J12		
授業科目名	プラクティカル・キャリアデザイン (B)(後)		
担当者名	本田勝裕(ホンダ カツヒロ)、I		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	★楽しくて、役に立ち、キャリアの希望を叶えにいく講義である。 そのために「受ける授業から作る授業・作るキャリアへ」と題して進めていく。 詳細は以下のとおり。 ①就職活動(教員・公務員・起業・進学・留学などを含む)を中心に将来の進路(キャリア)の描き方(デザイン)を実践的に学ぶ。自己分析など演習を中心にやる実践型授業である。特に今年度は3年次対象のため、前期と後期では時期にあわせて多少内容を変える。 ②『受ける授業から作る授業へ』やがて自分の就職活動などキャリアデザインに『活かせる授業へ』。 ③キャリアコンサルタントである講師(私)が最新の就職活動に関する情報を元に講義をおこない、よりスムーズな就職活動がおこなえるものを目指す。 ④2009年の授業では大阪府特別顧問の藤原和博氏や学生起業家、経営者、人事採用担当者などをゲストに招き、セミナーでは通常聞けないリアルな話も聞ける。 ⑤講師、ゲスト、学生同士との対話が中心になるので、相当賑やかな授業になる。 ⑥昨年度の授業テキストをウェブ上に掲載しておくので、テーマやルールや目次を参照するといいたいだろう。授業写真もリンクしておく。 ＜昨年度後期授業テキスト＞{http://www.ponta.co.jp/KONAN_09_Autumn_text.doc} (ワード形式) ＜授業写真＞{http://www.ponta.co.jp/091214.html}(昨年12月の後期授業風景) ＜学生による授業評価＞{http://www.ponta.co.jp/KONAN09Spring_assessment.pdf}(昨年前期授業;pdf形式)
到達目標	授業開講冒頭に【動機】「なぜこの授業を履修するのか」と【目標】「どんな最終授業を迎えたいか」という質問をする。これに講師は意見を持たない。 君自身が自分の動機と目標を決めて授業を作っていくことになるので、到達目標の正解はない。 正解のない「キャリアデザイン」という科目では、自分でゴールを決めていく必要があるのだから。
講義方法	レクチャー(講義)と、ワークショップ(ペアから4,5人のグループ)による。
準備学習	特に定めない。 ただ日常生活で「なぜ?」と「どうやって?」を問いかけておくと学習効果は最適化する。
成績評価	①成績評価は毎週のレポート提出、出席(2/3以下の出席は不可)、受講生自身による自己採点などによって決定する。 ②レポートはすべての授業でおこない講師がコメントを書き、基本的に翌週返却する。 ③自己採点は自己責任において評価することが前提。その上で自分の成長度合いを鑑み評価する。(テキスト&レポートを読み返したり、実感を重視するといいたいだろう) ④試験はおこなわない。
講義構成	主なプログラムは以下のとおり。

	・面接演習(模擬面接) ・グループワーク演習 ・プレゼンテーション演習 ・エントリーシート演習 ・自己分析演習 ・キャリアプラン作成 ・コーチング理論を活用したコミュニケーション能力開発 ・組織心理学FFS理論を活用した個性と適性の診断テスト ・業界研究と職種研究(マスコミ業界を参考に) ・進路に関する価値観演習 ・インターンシップの可能性と実用性についての考察(体験者をよんで) ・就職と起業の異なりとその可能性考察(起業家をよんで) ・甲南大学生の卒業後の進路と傾向 ・社会人ゲストをよんでのキャリアデザイン対談 以上の内容で、自分の就職活動やキャリア形成(「やりたい仕事が見つからない」「とにかく不安」「今なにをすべきか」「教員や公務員か企業か民間就職か迷う」など)に不安を感じている学生と期待感を持つ学生が対象となる。
教科書	・第3回目の授業までにテキストを甲南大学生協で販売する。販売時期に関しては授業で問い合わせること。 ・毎回テキストを持参すること。 ・ゲストなどが決定し次第随時更新するため、私のウェブサイト「ポンタのキャリアゼミ」http://www.ponta.co.jp/」にデジタルテキストをおく。
参考書・資料	・参考書籍として自著をあげておく。「採用される履歴書エントリーシート実例集」 本田勝裕・櫻井照士共著 主婦の友社刊 以下アマゾンヘリンクhttp://www.amazon.co.jp/2011%E8%9F%B7%E7%BD%B4%E8%A0%E8%EF%BD%A6-Web%E8%9F%87%E7%BD%BE%E8%A0%A2%E6%87%88%E9%9A%BC%E9%9A%AA%E3%82%89%E6%B2%BF-%E8%AC%97%E7%BD%A1%E9%80%95%E7%BD%A8%E7%B8%BA%E8%BC%94%E7%BD%8C%E7%B9%A7%E5%8F%A5%E7%BD%B1%E7%BD%A5%E8%B1%81%E7%BD%B4%E8%AD%96%E7%BD%B8%E7%B9%9D%E7%BD%BB%E7%B9%A7%E7%BD%A8%E7%B9%9D%E7%BD%B3%E7%B9%9D%E5%8C%BB%CE%9C%E7%B9%9D%E7%BD%BC%E7%B9%A7%E7%BD%B7%E7%B9%9D%E7%BD%BC%E7%B9%9D%E5%8C%BB%E3%83%BB%E9%96%BE%E7%BD%AA%E8%9F%BE%E7%BD%B1PR%E7%B9%9D%E7%BD%BB%E8%A0%A2%E7%8E%B2%E6%82%8D%E8%9C%8D%E5%A2%93%E7%BD%A9%E6%BA%B7%E7%BD%AE%E6%BB%89%E7%BD%BE%E7%9F%A9%E5%AF%94-%E8%9F%86%E7%BD%B1%E9%96%A8%E7%BD%B7%E8%9C%B7%E5%9F%9F%E7%A3%B0%E7%BD%BC%E9%99%8C%E5%BC%B1%E3%83%BB%E8%9F%BE%E7%BD%BB-%E8%AD%9B%E7%BD%AC%E9%80%95%E7%BD%B0/dp/4072681512/ref=sr_1_2?ie=UTF8&s=books&qid=1252256997&sr=1-2

担当者から一言	「まじめ」でかつ「楽しい」授業を、君と一緒に作りに行く。
ホームページタイトル	ポンタのキャリアゼミ
URL	http://www.ponta.co.jp

授業コード	55A51		
授業科目名	ベーシック・キャリアデザイン（経営）(後)		
担当者名	中山一郎(ナカヤマ イチロウ)、I		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	大学生生活を充実させ、将来の進路選択や就職選択に際して必要とされる基本的なチカラを“4つの知恵”(人との関係を築く知恵・情報を収集して活用する知恵・自ら考えて判断や決定をする知恵・自分の将来をイメージして描ける知恵)と名づけ、「雑談&情報交換ペアワーク」「コミュニケーションゲーム」「グループディスカッション」「プレゼンテーション」「ロールプレイング」などといった人間関係を軸としたトレーニングを14回の講義の中で行っていきます。
到達目標	「自己発見(なりたい自分を探す)」をコンセプトに、最終の学習目標としては、きたるべき卒業後の進路選択から就職活動などへ向けて、まずは自らの頭で考え、行動し、選択していけるような態度や姿勢を身につけていきます。
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	授業の中で学んだ知恵・知識・スキルは、授業以外の場においてもどんどん実践し活かしていきましょう。

成績評価	キャリアデザインシートの提出(講義の中での気づきや感想などを記入・提出)、キャリアデザインマップの発表と提出(将来の進路選択や就職活動を視野に入れての目標設定と行動企画を作成・発表・提出)、講義への出席(一回一回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場になかった、講義を受けていなかった学生は原則欠席とします)。以上を総合的に評価します。
講義構成	1. オリエンテーションーベーシック・キャリアデザインとは？ー 2. “なりたい私”を探そうⅠ 3. “なりたい私”を探そうⅡ 4. 豊かな人間関係をきずこうⅠ 5. 豊かな人間関係をきずこうⅡ 6. 専門・専攻を進路に活かそうⅠ 7. 専門・専攻を進路に活かそうⅡ 8. 幅広い情報を活用しようⅠ 9. 幅広い情報を活用しようⅡ 10. 考える力を身につけようⅠ 11. 考える力を身につけようⅡ 12. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅠ 13. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅡ 14. “なりたい私”を実現させよう
教科書	「テキスト」は正式な履修登録後の講義で配付します。
担当者から一言	「生き方」や「働き方」の正解がたった一つだけではないという“新しい時代”や“新しい社会”がやってきました。そのような中、皆さん一人ひとりが充実した大学生活を過ごし、さらには“私らしい生き方や働き方”を実践していくためには、いったいどのような教養が必要なのでしょうか。皆さんの「これから」をいっしょに考えていきましょう。

授業コード	51020		
授業科目名	ベンチャービジネス(前)		
担当者名	倉科敏材(クラシナ トシキ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限 水曜4限
オフィスアワー	火曜日16時～17時、水曜日10時～12時		

講義の内容	ベンチャーと一般の中小企業との差異は、その成長性の高さ、高度な専門性および個性的でリスクをいとわぬ挑戦的な経営者の存在にあると言われている。日本経済の閉塞性を打破する切り札と期待されるベンチャー企業の実態と課題を明らかにするとともに、実際に起業を行う場合に直面する経営課題とその解決策、成功と失敗の事例などを具体的に学習する。じっさいに起業を行う場合に参考になるような実践的な学習を目指す。
到達目標	個人または組織内で起業するに必要な経営課題を理解し、事業計画書の作成ができるようになることを目標とする。
講義方法	講義形式が中心であるが、必要に応じベンチャー関連企業の経営者講話やDVDの映写を行う。各講義ごとの資料についてはネット上で事前に公開する。
準備学習	事前にネット上で公開する資料内容を読んでおいてほしい。
成績評価	中間試験と期末試験の成績)を総合的に評価する。成績のウエイトは中間試験30%期末試験70%とする。
講義構成	主要な講義概要は以下に示す 1) 日本におけるベンチャー企業の現状と課題 2) 発展段階と経営戦略・課題 3) ベンチャー企業育成支援の体制・制度 4) ベンチャー企業の成功要因分析 5) 日米ベンチャービジネス環境の差異 6) ベンチャービジネスの失敗事例・成功事例
教科書	ホームページを通じて配布する講義資料をベースに講義を行う。
参考書・資料	「ベンチャー企業経営論」金井一頼他一有斐閣 「ベンチャー企業」松田修一 ー日本経済新聞社
講義関連事項	自分の人生設計を兼ねながら各人が自分なりのベンチャー計画を描くことを勧める。そのことが講義に対する関心を高めることにもつながる。
担当者から一言	卒業後ベンチャービジネスを立ち上げようという学生を歓迎する。個人的にもベンチャービジネスの設立・育成に

	関わった経験もあり具体的な示唆が出来ると思う。
--	-------------------------

授業コード	51C41		
授業科目名	簿記入門 (A)(1クラス)(前)		
担当者名	鶴目敏生(ツルメ トシオ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限 火曜2限 木曜3限 木曜4限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	本講義は、経営者、国際的企業人、会計職業人(税理士、公認会計士など)を志望する学生のための、“ビジネスのプロ”を養成する「ビジネス・リーダー養成プログラム」の第1ステップであり、学習レベルとしては日商簿記検定試験3級の合格を目標としています。 簿記とは、企業の維持発展を図るために、企業活動を記録し、企業の経営成績や財政状態を明らかにするものです。簿記入門(A)は、個人企業(うち商品売買業)を対象として学習します。 講義を受け、練習問題を解き、そして検定試験に合格するというのがこのコースのデザインです。 ※すでに検定試験に合格している学生も、理論的背景などの講義を受けることで、より深く理解することができます。
到達目標	平成22年6月に実施される日本商工会議所主催簿記検定(日商簿記検定)3級の合格
講義方法	日商簿記検定3級の合格のためには、講義(インプット)と問題練習(アウトプット)をバランス良く学習することがきわめて重要です。日商簿記検定3級の出題範囲に準拠し、テキストで簿記会計の基本的な考え方をマスターし、さらに、問題集で具体的な計算問題を練習することで学習効果を高めます。 ※4月中旬に中間テストを行い、より習熟度を高めるために、クラス替えを行います。
準備学習	簿記は数字を扱いますが、数学的な知識よりも、文章を読みとる力が必要です。 新聞の経済欄などを読み、興味のある企業を見つけておくことも学習効果が高まります。 また、四則計算(+、-、×、÷)、分数の計算は、再確認しておいてください。
成績評価	出席状況(20%)、授業中のミニテストおよびレポート(20%)、期末試験(60%)に基づいて総合評価します。なお、平成22年6月の日商簿記検定3級に合格した学生には、『優:80点以上』を認定します(甲南大学生協で検定試験の申込みをした者に限る)。 ※毎回の授業に出席に、理解、復習しなければ、各種試験での得点はできません。
講義構成	下記の基礎10項目および検定試験対策(答案練習)を講義する。 1 簿記の目的、取引・仕訳 2 勘定記入・試算表、商品売買 3 現金預金、手形 4 有価証券、債権・債務、その他の収益・費用 5 訂正仕訳、主要簿および補助簿 6 伝票会計 7 決算整理(売上原価の計算) 8 決算整理(貸倒引当金、減価償却) 9 決算整理(有形固定資産の売却、費用・収益の見越し、繰延べ) 10 決算整理(現金過不足、現金、有価証券の評価替え、引出金)、損益計算書および貸借対照表 検定対策1 日商簿記検定3級直前対策答案練習1 検定対策2 日商簿記検定3級直前対策答案練習2 検定対策3 日商簿記検定3級直前対策答案練習3 検定対策4 日商簿記検定3級直前対策答案練習4 検定対策5 日商簿記検定3級模擬試験
教科書	本講義では、専用の教材が必要です。生協書籍部で販売しますので、必ず購入してください。 ※講義初回から、教材および電卓を使用します。 『ALFA3級課程 商業簿記』 大原簿記専門学校 『3級ステップアップ問題集』 大原簿記学校
参考書・資料	必要に応じて、レジュメおよび問題資料を配布します。
講義関連事項	甲南大学生協書籍部を通じて、日商簿記検定試験の受験申込をしてください。 ※申込期間に注意のこと。

担当者から一言	講義初回から、教材および電卓を使用します。 ※電卓は、10桁～12桁表示が望ましい。カード電卓は不向きである。 簿記会計は、誰でも理解できる単純明快な法則があります。その法則が身に付くと、非常に楽しく学習できま
---------	--

	す。毎回の講義は、基本項目＋問題練習で進めます。また、適時ミニテストを実施し、自分自身で習熟度のチェックができるようになっています。質問などは授業前後の時間帯、メールを利用します。
--	--

授業コード	51C42		
授業科目名	簿記入門 (A)(2クラス)(前)		
担当者名	沼 智博(ヌマ トモヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限 火曜2限 木曜3限 木曜4限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	本講義は、経営者、国際的企業人、会計職業人(税理士、公認会計士など)を志望する学生のための、“ビジネスのプロ”を養成する「ビジネス・リーダー養成プログラム」の第1ステップであり、学習レベルとしては日商簿記検定試験3級の合格を目標としています。 簿記とは、企業の維持発展を図るために、企業活動を記録し、企業の経営成績や財政状態を明らかにするものです。簿記入門(A)は、個人企業(うち商品売買業)を対象として学習します。 講義を受け、練習問題を解き、そして検定試験に合格するというのがこのコースのデザインです。 ※すでに検定試験に合格している学生も、理論的背景などの講義を受けることで、より深く理解することができます。
到達目標	平成22年6月に実施される日本商工会議所主催簿記検定(日商簿記検定)3級の合格
講義方法	日商簿記検定3級の合格のためには、講義(インプット)と問題練習(アウトプット)をバランス良く学習することがきわめて重要です。日商簿記検定3級の出題範囲に準拠し、テキストで簿記会計の基本的な考え方をマスターし、さらに、問題集で具体的な計算問題を練習することで学習効果を高めます。 ※4月中旬に中間テストを行い、より習熟度を高めるために、クラス替えを行います。
準備学習	簿記は数字を扱いますが、数学的な知識よりも、文章を読みとる力が必要です。 新聞の経済欄などを読み、興味のある企業を見つけておくことも学習効果が高まります。 また、四則計算(+、－、×、÷)、分数の計算は、再確認しておいてください。
成績評価	出席状況(20%)、授業中のミニテストおよびレポート(20%)、期末試験(60%)に基づいて総合評価します。なお、平成22年6月の日商簿記検定3級に合格した学生には、『優:80点以上』を認定します(甲南大学生協で検定試験の申込みをした者に限る)。 ※毎回の授業に出席に、理解、復習しなければ、各種試験での得点はできません。
講義構成	下記の基礎10項目および検定試験対策(答案練習)を講義する。 1 簿記の目的、取引・仕訳 2 勘定記入・試算表、商品売買 3 現金預金、手形 4 有価証券、債権・債務、その他の収益・費用 5 訂正仕訳、主要簿および補助簿 6 伝票会計 7 決算整理(売上原価の計算) 8 決算整理(貸倒引当金、減価償却) 9 決算整理(有形固定資産の売却、費用・収益の見越し、繰延べ) 10 決算整理(現金過不足、現金、有価証券の評価替え、引出金)、損益計算書および貸借対照表 検定対策1 日商簿記検定3級直前対策答案練習1 検定対策2 日商簿記検定3級直前対策答案練習2 検定対策3 日商簿記検定3級直前対策答案練習3 検定対策4 日商簿記検定3級直前対策答案練習4 検定対策5 日商簿記検定3級模擬試験
教科書	本講義では、専用の教材が必要です。生協書籍部で販売しますので、必ず購入してください。 ※講義初回から、教材および電卓を使用します。 『ALFA3級課程 商業簿記』大原簿記専門学校 『3級ステップアップ問題集』大原簿記学校
参考書・資料	必要に応じて、レジュメおよび問題資料を配布します。
講義関連事項	甲南大学生協書籍部を通じて、日商簿記検定試験の受験申込をしてください。 ※申込期間に注意のこと。
担当者から一言	講義初回から、教材および電卓を使用します。 ※電卓は、10桁～12桁表示が望ましい。カード電卓は不向きである。

	簿記会計は、誰でも理解できる単純明快な法則があります。その法則が身に付くと、非常に楽しく学習できます。毎回の講義は、基本項目＋問題練習で進めます。また、適時ミニテストを実施し、自分自身で習熟度のチェックができるようになっています。質問などは授業前後の時間帯、メールを利用します。
--	---

授業コード	51C43		
授業科目名	簿記入門 (A)(3クラス)(前)		
担当者名	宮本健太(ミヤモト ケンタ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限 火曜2限 木曜3限 木曜4限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	本講義は、経営者、国際的企業人、会計職業人(税理士、公認会計士など)を志望する学生のための、“ビジネスのプロ”を養成する「ビジネス・リーダー養成プログラム」の第1ステップであり、学習レベルとしては日商簿記検定試験3級の合格を目標としています。 簿記とは、企業の維持発展を図るために、企業活動を記録し、企業の経営成績や財政状態を明らかにするものです。簿記入門(A)は、個人企業(うち商品売買業)を対象として学習します。 講義を受け、練習問題を解き、そして検定試験に合格するというのがこのコースのデザインです。 ※すでに検定試験に合格している学生も、理論的背景などの講義を受けることで、より深く理解することができます。
到達目標	平成22年6月に実施される日本商工会議所主催簿記検定(日商簿記検定)3級の合格
講義方法	日商簿記検定3級の合格のためには、講義(インプット)と問題練習(アウトプット)をバランス良く学習することがきわめて重要です。日商簿記検定3級の出題範囲に準拠し、テキストで簿記会計の基本的な考え方をマスターし、さらに、問題集で具体的な計算問題を練習することで学習効果を高めます。 ※4月中旬に中間テストを行い、より習熟度を高めるために、クラス替えを行います。
準備学習	簿記は数字を扱いますが、数学的な知識よりも、文章を読みとる力が必要です。 新聞の経済欄などを読み、興味のある企業を見つけておくことも学習効果が高まります。 また、四則計算(+、－、×、÷)、分数の計算は、再確認しておいてください。
成績評価	出席状況(20%)、授業中のミニテストおよびレポート(20%)、期末試験(60%)に基づいて総合評価します。なお、平成22年6月の日商簿記検定3級に合格した学生には、『優:80点以上』を認定します(甲南大学生協で検定試験の申込みをした者に限る)。 ※毎回の授業に出席に、理解、復習しなければ、各種試験での得点はできません。
講義構成	下記の基礎10項目および検定試験対策(答案練習)を講義する。 1 簿記の目的、取引・仕訳 2 勘定記入・試算表、商品売買 3 現金預金、手形 4 有価証券、債権・債務、その他の収益・費用 5 訂正仕訳、主要簿および補助簿 6 伝票会計 7 決算整理(売上原価の計算) 8 決算整理(貸倒引当金、減価償却) 9 決算整理(有形固定資産の売却、費用・収益の見越し、繰延べ) 10 決算整理(現金過不足、現金、有価証券の評価替え、引出金)、損益計算書および貸借対照表 検定対策1 日商簿記検定3級直前対策答案練習1 検定対策2 日商簿記検定3級直前対策答案練習2 検定対策3 日商簿記検定3級直前対策答案練習3 検定対策4 日商簿記検定3級直前対策答案練習4 検定対策5 日商簿記検定3級模擬試験
教科書	本講義では、専用の教材が必要です。生協書籍部で販売しますので、必ず購入してください。 ※講義初回から、教材および電卓を使用します。 『ALFA3級課程 商業簿記』 大原簿記専門学校 『3級ステップアップ問題集』 大原簿記学校
参考書・資料	必要に応じて、レジュメおよび問題資料を配布します。
講義関連事項	甲南大学生協書籍部を通じて、日商簿記検定試験の受験申込をしてください。 ※申込期間に注意のこと。
担当者から一言	講義初回から、教材および電卓を使用します。

	※電卓は、10桁～12桁表示が望ましい。カード電卓は不向きである。 簿記会計は、誰でも理解できる単純明快な法則があります。その法則が身に付くと、非常に楽しく学習できます。毎回の講義は、基本項目＋問題練習で進めます。また、適時ミニテストを実施し、自分自身で習熟度のチェックができるようになっています。質問などは授業前後の時間帯、メールを利用します。
--	---

授業コード	51C44		
授業科目名	簿記入門 (B)(前)		
担当者名	伊藤公一(イトウ キミカズ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限 水曜2限
特記事項	経営学部2年次以上・他学部クラス		

講義の内容	この授業では、簿記一巡の手続きについて習得することを目的とします。複式簿記の原理の理解のみならず、手を動かして実際に会計処理の基本を行うことのできる力をつけます。 この時間は、講義の時間ではなく、むしろ受講生自らが手を動かして簿記の基本を身につけるための、演習中心の時間であると考えてください。
到達目標	日商簿記3級検定試験に合格することができること。
講義方法	基本的な原理の説明のあと、演習を行うということを繰り返します。毎回電卓を持参し、自分が問題を解くことを通じて、簿記3級レベルの力を身につけるのだという意識を常に持って、授業に臨んでください。 適宜、理解度を確認をするための小テストも行います。
準備学習	事前の準備は必要ではないが、毎回の復習は必須である。
成績評価	期末テストの成績80%、授業中の小テスト等20%の比率で評価する。
講義構成	1 簿記の意味・目的・種類 2 資産・負債・資本(純資産)と貸借対照表 3 収益・費用と損益計算書 4 取引の意義と種類 5 取引の8要素と結合関係 6 勘定の意義と分類・勘定記入法則 7 仕訳と勘定記入 8 帳簿の種類・仕訳帳への記入 9 仕訳帳から総勘定元帳への転記 10 決算の方法 11 試算表の作成 12 元帳の締め切りと財務諸表の作成 13 決算手続と精算表 14 現金預金取引 15 商品売買 16 売掛金と買掛金 17 その他の債権と債務 18 手形 19 有価証券 20 固定資産 21 資本金と引出金 22 収益と費用(見越・繰延) 23 税金、帳簿と伝票 24 決算手続・精算表 25 総復習2 26 問題演習1 27 問題演習2 28 問題演習3 29 問題演習4 30 問題演習5
教科書	福島三千代 『サクッと受かる日商3級商業簿記 テキスト』 ネットスクール出版 同上 『サクッと受かる日商3級商業簿記 トレーニング』 同上

授業コード	51C99		
授業科目名	簿記入門 (A)(1・2・3クラス)(前)(抽選用)		
担当者名	登録用科目(トウロクヨウカモク)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限 火曜2限 木曜3限 木曜4限
特記事項	事前申請科目 受講希望者は履修要項の申し合わせをよく読み、期日までに申請すること。		

講義の内容	本講義は、経営者、国際的企業人、会計職業人(税理士、公認会計士など)を志望する学生のための、“ビジネスのプロ”を養成する「ビジネス・リーダー養成プログラム」の第1ステップであり、学習レベルとしては日商簿記検定試験3級の合格を目標としています。 簿記とは、企業の維持発展を図るために、企業活動を記録し、企業の経営成績や財政状態を明らかにするものです。簿記入門(A)は、個人企業(うち商品売買業)を対象として学習します。 講義を受け、練習問題を解き、そして検定試験に合格するというのがこのコースのデザインです。 ※すでに検定試験に合格している学生も、理論的背景などの講義を受けることで、より深く理解することができます。
到達目標	平成22年6月に実施される日本商工会議所主催簿記検定(日商簿記検定)3級の合格
講義方法	日商簿記検定3級の合格のためには、講義(インプット)と問題練習(アウトプット)をバランス良く学習することがきわめて重要です。日商簿記検定3級の出題範囲に準拠し、テキストで簿記会計の基本的な考え方をマスターし、さらに、問題集で具体的な計算問題を練習することで学習効果を高めます。 ※4月中旬に中間テストを行い、より習熟度を高めるために、クラス替えを行います。
準備学習	簿記は数字を扱いますが、数学的な知識よりも、文章を読みとる力が必要です。 新聞の経済欄などを読み、興味のある企業を見つけておくことも学習効果が高まります。 また、四則計算(+、-、×、÷)、分数の計算は、再確認しておいてください。
成績評価	出席状況(20%)、授業中のミニテストおよびレポート(20%)、期末試験(60%)に基づいて総合評価します。なお、平成22年6月の日商簿記検定3級に合格した学生には、『優:80点以上』を認定します(甲南大学生協で検定試験の申込みをした者に限る)。 ※毎回の授業に出席に、理解、復習しなければ、各種試験での得点はできません。
講義構成	下記の基礎10項目および検定試験対策(答案練習)を講義する。 1 簿記の目的、取引・仕訳 2 勘定記入・試算表、商品売買 3 現金預金、手形 4 有価証券、債権・債務、その他の収益・費用 5 訂正仕訳、主要簿および補助簿 6 伝票会計 7 決算整理(売上原価の計算) 8 決算整理(貸倒引当金、減価償却) 9 決算整理(有形固定資産の売却、費用・収益の見越し、繰延べ) 10 決算整理(現金過不足、現金、有価証券の評価替え、引出金)、損益計算書および貸借対照表 検定対策1 日商簿記検定3級直前対策答案練習1 検定対策2 日商簿記検定3級直前対策答案練習2 検定対策3 日商簿記検定3級直前対策答案練習3 検定対策4 日商簿記検定3級直前対策答案練習4 検定対策5 日商簿記検定3級模擬試験
教科書	本講義では、専用の教材が必要です。生協書籍部で販売しますので、必ず購入してください。 ※講義初回から、教材および電卓を使用します。 『ALFA3級課程 商業簿記』 大原簿記専門学校 『3級ステップアップ問題集』 大原簿記学校
参考書・資料	必要に応じて、レジュメおよび問題資料を配布します。
講義関連事項	甲南大学生協書籍部を通じて、日商簿記検定試験の受験申込をしてください。 ※申込期間に注意のこと。

担当者から一言	講義初回から、教材および電卓を使用します。 ※電卓は、10桁～12桁表示が望ましい。カード電卓は不向きである。 簿記会計は、誰でも理解できる単純明快な法則があります。その法則が身に付くと、非常に楽しく学習できます。毎回の講義は、基本項目＋問題練習で進めます。また、適時ミニテストを実施し、自分自身で習熟度の
---------	--

	チェックができるようになっています。質問などは授業前後の時間帯、メールを利用します。
--	--

授業コード	51071		
授業科目名	ボランティア(オフ・キャンパス・アクティビティa)		
担当者名	内藤文雄(ナイトウ フミオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	経営学部インターンシップ・ボランティア受講説明会及びキャリアセンターインターンシップ・ボランティアガイダンスに参加してください。		

講義の内容	現在、社会福祉、保険・医療、教育、自然・環境、まちづくり、国際協力、災害など様々な分野において多くの人がボランティアとして活動しており、ボランティア活動は社会を支える不可欠な存在になっている。本授業科目は、学生が自発的にさまざまなボランティア活動に従事し、その結果を報告することにより、ボランティア活動で得た知見を自己のなかに定着させるものである。
到達目標	地域活動やボランティア活動に自主的に参加し、人と人との結びつきや社会の仕組みに関心を持ち、社会貢献の精神を学ぶことによって、ボランティアについて深く理解し、自己の今後の社会貢献に活かすことができること。
講義方法	キャリアセンターのボランティア活動プログラムにエントリーし、夏休み期間等にも実務を体験。具体的な関心や興味を持った事を整理し発表する。
準備学習	各自が従事しようとするボランティア活動に必要な情報、知識および技能を準備しておくこと。
成績評価	単位は、ボランティア活動そのものについて認定するのではなく、単位認定申請書を提出した学生に対し、「経営学部報告会」「レポート」等の評価をOCA委員会が総合的に審査し、成績評価を決定する。
講義構成	(1)キャリアセンターに申請書を提出。 (2)夏期休暇期間を利用して、キャリアセンターより許可された団体(地方自治体や社会福祉協議会などのボランティア団体)が主催するボランティア活動を60時間以上行う。 (3)活動終了後に「単位認定申請書」をキャリアセンターに提出。 (4)経営学部の事後指導、報告会に参加。 (5)活動に関するレポート(2,000字以上)を指定期日までに提出する。 ※詳細は、ガイダンス・掲示で公表する。
教科書	特になし

担当者から一言	本講義はボランティア活動に対する理解と認識を深めることを目的とした科目であり、与えられたことを消化するだけの受け身の学習ではなく、自ら進んで学ぶ積極的な姿勢の涵養と人格の形成を主目的とした科目であることを十分に理解した上で受講してほしい。
その他	ボランティア活動を行なった者で、単位修得を希望する者にのみ単位認定を行うので、年度初めの受講登録は不要である。

授業コード	51033		
授業科目名	マーケティング管理論(後)		
担当者名	中山雄司(ナカヤマ ユウジ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限

講義の内容	マーケティングは情報が不完備な状況で市場における懸隔を架橋することであるが、情報化社会では情報のやりとりの一部が市場ないしは、企業間で可能になり、マーケティングのビジネス・モデルが進化している。1990年代後半以降からのインターネット利用の普及に伴う情報革命(IT革命)がマーケティングに大きな影響を与えていると言える。本講義では最新の事例を踏まえながら、情報化に焦点をあてたマーケティング管理論を展開する。
到達目標	日経新聞や日経MJ(日経流通新聞)のマーケティング関連の記事を読んで理解できる。 情報化社会における企業のマーケティング戦略を立案するための基礎知識を獲得できる。 本講義で習得した知識を就職活動に活用できる。

講義方法	教科書に基づいて作成した講義ノートを配布し、それを用いて講義する。 (講義ノートはMy Konanからもダウンロードできるようにする予定。)
準備学習	教科書・講義ノートを用いて復習すること。 日経新聞・日経MJ(日経流通新聞)に日頃から目を通すこと。
成績評価	期末試験(70%)、冬休みの課題レポート(30%)に基づき評価する。
講義構成	第1回から第5回の講義でマーケティングの基礎知識の復習を行う。 その後は教科書に従って第1章から順に講義する。 教科書の構成 第1章 人工物の複雑化とアーキテクチャ 第2章 マルチサイド・プラットフォーム 第3章 流通段階の取引とプラットフォーム 第4章 マルチサイド・プラットフォームの価格戦略 第5章 エコシステムにおける競争と協調 第6章 プラットフォームとイノベーション 第7章 プラットフォームの調整ルール エピローグ
教科書	中田善啓(2009)『ビジネスモデルのイノベーション』同文館出版
参考書・資料	沼上幹(2008)『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣 中田善啓(2002)『マーケティングの変革 ― 情報化のインパクト ―』同文館出版
その他	講義中の私語は厳禁である。受講者は、この最低限のマナーは守ること。

授業コード	51C31		
授業科目名	マーケティング総論 (A)(1クラス)(後)		
担当者名	西村順二(ニシムラ ジュンジ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
特記事項	クラス指定		
オフィスアワー	講義の前後および火曜日12:10-12:50		

講義の内容	マーケティング論は、生産段階から最終消費段階まで、財・サービスが流れる取引連鎖を研究対象とした学問である。そこでは製造業者、流通業者(卸売商・小売商)、消費者、サービス業者、さらには行政などのミクロ的行動の分析が行われると共にマクロ構造の分析も行われる。 本講義では、日本の経済社会において展開されているマーケティング戦略のメカニズムを明らかにし、それを通してマーケティングの基礎知識を習得する事を旨とする。
到達目標	マーケティングに関する基本的な理論理解と現実問題へのインサイト醸成。
講義方法	テキストに基づく説明を行うが、その際に板書・パワーポイントによる説明に基づく。また、簡単なマーケティング実習もおこなう。
準備学習	経営学総論を受講しておくことが望ましい。また、入学時に配布された『経営学のしおり』を熟読しておくこと。
成績評価	原則的には、試験、レポート提出等に基づき、総合的に評価する。
講義構成	講義構成および成績評価の具体的な方法については、講義の開始時に指示するので、一回目の講義には必ず出席すること。 以下が、本講義で学ぶ項目である。 1. マーケティングとは何か 2. マーケティングの基礎概念-市場細分化、消費者ニーズ、製品属性、需給マッチング、差別的優位性、チャネルなど 3. マーケティングミックスの構成 4. 取引関係の動態 5. マクロ流通の動態 6. ミクロ流通の動態 7. 流通業態の変化-小売業態、卸売業態、SPAなど
教科書	西村順二『卸売流通動態論-中間流通における仕入と販売の取引連動性-』千倉書房、2009年。

参考書・資料	講義において適時指示する。
担当者から一言	当然のことであるが講義中の私語は厳禁である。 受講者は、この最低限のマナーは守ること。

授業コード	51C32		
授業科目名	マーケティング総論 (A)(2クラス)(後)		
担当者名	廣田章光(ヒロタ アキミツ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
特記事項	クラス指定		

講義の内容	マーケティングは、世の中を豊かにし、人々に喜びを与え続ける考え方であり、より上手く行うための理論である。常に進化し、自分の思い通りにならない他者(お客様)を対象とするマネジメントである。 この講義では、世の中の事象と企業が行うマーケティングとの関連を確認することからスタートする。確認した事象を実現するために、企業がどのような活動を行っているのかを理解し、そのことの優劣が何によって決まっていのかを学ぶ。 講義では、社会の事象とマーケティングマネジメントとの関係を理解できるよう、具体的かつ新しい事例を紹介しながら進める。
到達目標	■マーケティング志向の行動(マーケティングの考え方)とは何かを理解する。 →世の中に存在する企業のマーケティング行動が理解できるようになる。 ■マーケティングの基本用語を理解する。 ■自身の条件を変えて商品、サービスを評価できる。 さまざまな顧客の立場で商品、サービスを評価できる。 企業の立場で、世の中のマーケティング事象に対する狙いと仕掛けを確認、評価できる。。
講義方法	講義では、社会の事象とマーケティングマネジメントとの関係を理解できるよう、具体的かつ新しい事例を紹介しながら進める。テキストは講義内容を理解するため、および講義内容を後日確認するために使用する。必要に応じて、テキストの重要箇所を指示する。 ★定時スタートを実施。遅れてきた方の出席は認めない。 ★講義を真剣に聞きたい学生が満足できる環境をつくり、講義を行うことが私の使命。講義中の私語をはじめ、真剣に講義を聞く学生の環境を妨げる行為には厳しく対応。例えば、私語をしたい場合は講義を欠席して、食堂等で行うこと。
準備学習	■学んだことを、通学、ショッピング、アルバイト、部活の場面の何と関連するかを考えて、記録する。 ■自分の消費体験を、学んだ知識によって分析してみる(何故、買ったのか、何故買わなかったのか。何故、感動したのか、何故、腹が立ったのか) ■様々な顧客の立場になりきって、商品、サービスを評価してしてみる。
成績評価	ミニレポート 最終試験
講義構成	■授業計画の項目・内容 第1回 講義の進め方と約束、この講義であなたに身に付くこと、マーケティングの全体像 第2回 消費とマーケティング 第3回 経営とマーケティング 第4回・第5回 マーケティングのなりたち 第6回・第7回 マーケティング発想の経営 第8回・第9回

	マーケティングの基本概念 第10回 製品開発のマネジメント 第11回 広告のマネジメント 第12回 チャネルのマネジメント 第13回 販売ルートの開発と維持 第14回 マーケティング・リサーチ 第15回・第16回 ブランド構築・維持のマネジメント 第17回・第18回 営業のマネジメント 第19回・第20回 関係のマネジメント 第21回・第22回 競争戦略のマネジメント 第23回・第24回 価格戦略のマネジメント 第25回・第26回 ロジスティックとビジネスモデルのマネジメント 第27回 社会責任とマーケティング 第28回 マーケティング思考法とトレーニング 第29回 これからのマーケティング。専門科目の学び方 第30回 学年末試験
教科書	『1からのマーケティング 第三版』、中央経済社
参考書・資料	石井淳蔵・嶋口充輝・栗木契・余田拓郎、『ゼミナール・マーケティング』、日本経済新聞社。 勝見明・野中郁次郎・鈴木敏文、『16歳からの経営学』、宝島社。 栗木契・清水信年・余田拓郎、『売れる仕掛けはこうしてつくる』、日本経済新聞社。 石井淳蔵・水越康介、『マーケティング優良企業の条件』、日本経済新聞。

授業コード	51C33		
授業科目名	マーケティング総論 (B)(前)		
担当者名	中山雄司(ナカヤマ ユウジ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
特記事項	経営学部2年次以上・他学部(文・法)クラス		

講義の内容	マーケティング論は、生産段階から最終消費段階まで、財・サービスが流れる取引連鎖を研究対象とした学問である。そこでは製造業者、流通業者(卸売商・小売商)、消費者、サービス業者、さらには行政などのミクロ的行動の分析が行われると共にマクロ構造の分析も行われる。本講義では、日本の経済社会において展開されているマーケティング戦略のメカニズムを明らかにし、それを通してマーケティングの基礎知識を習得する事を目指す。(前半のミクロ的行動分析に力点を置く。)
到達目標	日経新聞や日経MJ(日経流通新聞)のマーケティング関連の記事を読んで理解できる。 マーケティングの一般書を読んで理解できる。 マーケティングの専門書を読むための基礎知識を得る。
講義方法	教科書に基づいて作成した講義ノートを配布し、それに用いて講義する。 (講義ノートはMy Konanからもダウンロードできるようにする予定。)
準備学習	教科書・講義ノートを用いて復習すること。

成績評価	期末試験(70%)，課題レポート2回(15%×2=30%)に基づき評価する。
講義構成	沼上 『わかりやすいマーケティング戦略 新版』の内容に基づきながら講義を開始し，途中から中田『ビジネスモデルのイノベーション』に移る。 前者については序章～第5章まで，後者については全章をカバーする予定である。 沼上 幹 『わかりやすいマーケティング戦略 新版』の構成 序章 イン트로ダクション 第Ⅰ部 マーケティング戦略 第1章 マーケティング・ミックス 第2章 ターゲット市場の選定 第3章 製品ライフサイクル 第4章 市場地位別のマーケティング戦略 第Ⅱ部 より広い戦略的視点を求めて 第5章 業界の構造分析 第6章 全社戦略 第7章 事業とドメインの定義 終章 戦略的思考に向かって 中田 善啓 『ビジネスモデルのイノベーション』の構成 第1章 人工物の複雑化とアーキテクチャ 第2章 マルチサイド・プラットフォーム 第3章 流通段階の取引とプラットフォーム 第4章 マルチサイド・プラットフォームの価格戦略 第5章 エコシステムにおける競争と協調 第6章 プラットフォームとイノベーション 第7章 プラットフォームの調整ルール エピローグ
教科書	中田 善啓 『ビジネスモデルのイノベーション』 同文館出版 2009年出版
参考書・資料	沼上 幹 『わかりやすいマーケティング戦略 新版』 有斐閣 2008年出版
その他	講義中の私語は厳禁である。受講者は，この最低限のマナーは守ること。

授業コード	51C34		
授業科目名	マーケティング総論(C)(集中)		
担当者名	大北健一(オオキタ ケンイチ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	他学部(理工・経済・他)クラス		

講義の内容	情報化社会におけるマーケティングの基本的な考え方を解説していきます。21世紀前後から情報革命(IT革命)がマーケティングに大きな影響を与えているとともに，マーケティングは市場における懸隔を架橋し大きな役割を果たしています。情報化社会では情報のやりとりの一部が市場ないしは企業間で可能になり，マーケティングのビジネスモデルが進化しています。本講義では，マーケティングと情報化をテーマに，マーケティングの主要な問題を検討していきます。 ※レジメをMy KONANで公開する場合があります。その場合には，各自で配布資料をダウンロードのうえ講義に臨んでください。
到達目標	マーケティングの基本的な考え方を修得できることに加え，進化するマーケティングのビジネスモデルについても検討できる。
講義方法	講義
準備学習	初回の講義に指定のテキストを持参したもとで参加してください。また，レジメ等が配布されているかどうか適宜当該サイトを確認してください。
成績評価	出席点はもとより，講義内で適宜行うミニ・レポート(または小テスト)と試験を総合的に評価いたします。
講義構成	1. テキスト第1章: 人工物の複雑化とアーキテクチャ(1) 2. テキスト第1章: 人工物の複雑化とアーキテクチャ(2) 3. テキスト第1章: 人工物の複雑化とアーキテクチャ(3)

	4. テキスト第1章の総括 5. テキスト第2章: マルチサイド・プラットフォーム(1) 6. テキスト第2章: マルチサイド・プラットフォーム(2) 7. テキスト第2章: マルチサイド・プラットフォーム(3) 8. テキスト第2章の総括 9. テキスト第3章: 流通段階の取引とプラットフォーム(1) 10. テキスト第3章: 流通段階の取引とプラットフォーム(2) 11. テキスト第3章: 流通段階の取引とプラットフォーム(3) 12. テキスト第3章の総括 13. テキスト第4章: マルチサイド・プラットフォームの価格戦略(1) 14. テキスト第4章: マルチサイド・プラットフォームの価格戦略(2) 15. テキスト第4章の総括 16. テキスト第5章: エコシステムにおける競争と協調(1) 17. テキスト第5章: エコシステムにおける競争と協調(2) 18. テキスト第5章: エコシステムにおける競争と協調(3) 19. テキスト第5章の総括 20. テキスト第6章: プラットフォームとイノベーション(1) 21. テキスト第6章: プラットフォームとイノベーション(2) 22. テキスト第6章: プラットフォームとイノベーション(3) 23. テキスト第6章の総括 24. テキスト第7章: プラットフォームの調整ルール(1) 25. テキスト第7章: プラットフォームの調整ルール(2) 26. テキスト第7章: プラットフォームの調整ルール(3) 27. テキスト第7章の総括 28. 補足① 29. 補足② 30. 試験
教科書	中田善啓著『ビジネスモデルのイノベーション—プラットフォーム戦略の展開—』(同文館・2009年)

授業コード	51038		
授業科目名	リスクマネジメント (前)		
担当者名	三上和彦(ミカミ カズヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限 金曜5限
オフィスアワー	水曜日 12:10~13:00		

講義の内容	経営者の意思決定はしばしば不確実性・リスクが存在する下で行わなければならない。例えば、投資プロジェクトを実行するか否かを決定する場合、将来得られるであろうキャッシュ・フローを評価する必要があるが、それは需要動向やライバル企業の動向など様々な将来起こるであろう状況に依存しており、確定的ではない。直観的にはそうした不確実性はなるべく回避すべきものであると考えられる。一方、実はそうした不確実性こそが企業に成長のチャンスを与える一つの要因でもある。本講義では、まず不確実性及びリスクをいかに把握し、意思決定に結びつけていくのかを学習する。前半においては簡単な例を用いて基礎的な意思決定の方法に慣れ、後半においては、その応用問題について解説する。
到達目標	・環境的リスクと戦略的リスクの違いを理解する。 ・企業が直面するリスクを認識できる。 ・リスクを定量化して、その対策方法を理解できる。 ・リスク低減のメリットとデメリットを理解できる。
講義方法	基本的に板書に基づいた講義。必要に応じて参考となる新聞記事のコピー等を配布します。
準備学習	講義はオムニバス方式ではなく、ある程度の積み重ねとなります。講義内容を先取りした予習は必要ありませんが、直近の講義内容は理解して講義に臨むようにしてください。
成績評価	中間試験(40%)、期末テスト(60%)。いずれもマークシート方式の試験。出席はとりません。
講義構成	理論的には以下の内容をカバーする。 ・企業が直面するリスク(リスクと不確実性の把握) ・不確実性下での意思決定の方法 ・戦略的意思決定(ゲーム理論の基礎)

	・保険を利用したリスク管理 ・デリバティブを利用したリスク管理 上記の内容に基づき企業が直面する具体的なリスクおよびその解決方法について講義を行うが、直近の経済状況についても講義の中で触れるので、このシラバス執筆段階ではその内容は確定していない。以下は昨年度の講義トピックであり参考にしてほしい。 01 企業がリスク管理を行う(行わない)理由(東インド会社、東芝、昭和電工) 02 お花見デリバティブ(損保ジャパン) 03 オリエンタルランドの地震対策(オリエンタルランド、JR東日本、野村證券) 04 サブプライム+証券化() 05 ケータイ・キャリアの競争(ドコモ、au、ソフトバンク) 06 意思決定理論 07 保険と保険産業(三菱重工、東京海上日動) 08 保険需要(三菱商事) 09 ジェット燃料のヘッジ戦略(JAL、ANA)
教科書	なし。担当者が講義で用いる講義ノートは以下のウェブ・ページに掲載する。
参考書・資料	土方薫(2001)『保険デリバティブ』、日本経済新聞社。 北出公英、田中鉄、佐藤龍司(2006)『勝者の保険リスクマネジメント』、東洋経済新報社。 米山高生(2008)『物語で読み解くリスクと保険入門』、日本経済新聞出版社。 バーンスタイン(1998)『リスク』、日本経済新聞社。 ハリントン、ニーハウス(2005)『保険とリスクマネジメント』、東洋経済新報社。 バンクス(2007)『企業リスク・マネジメント入門』、シグマベイスキャピタル。 ベサンコ、シャンリー、ドラノブ(2002)『戦略の経済学』、ダイヤモンド社。
講義関連事項	講義に関する連絡やハンドアウトなどはホーム・ページ[https://gate.konan-u.ac.jp/bus/mikami/risk/RM.htm]に掲載しますのでチェックするようにしてください。 私語は厳禁です。受講マナーを守るようにしてください。
ホームページタイトル	2010度 リスクマネジメント
URL	https://gate.konan-u.ac.jp/bus/mikami/risk/RM.htm

授業コード	21053		
授業科目名	宇宙物理学(宇宙物理学I) (前)		
担当者名	須佐 元(スサ ハジメ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	宇宙物理学I(2004年度以前の入学生用) 宇宙物理学(2005年度以降の入学生用)		

講義の内容	現在の宇宙物理学の基礎となる事項についてその概要を学ぶ。まずビッグバン宇宙論の枠組み、宇宙の歴史と宇宙の構造の大きな形成について学び、次いで銀河の形成、星の構造の理論について学ぶ。時間があればブラックホールや白色矮星といった極限的な天体についても学ぶ。
到達目標	現代の宇宙論の概要を理解する。
講義方法	板書とパワーポイントを用いた講義。おもに板書を用いる。
準備学習	力学・電磁気学をきちんと理解していること。
成績評価	レポート、試験の結果を総合して評価する。期末試験を最優先する。
講義構成	第1回 宇宙の階層 第2回 膨張宇宙論 第3回 膨張宇宙論続き 第4回 宇宙の熱史 第5回 密度揺らぎの進化 第6回 最初の天体の形成 第7回 宇宙の再電離 第8回 銀河形成の時代 第9回 星形成の理論

	第10回 星の構造を進化 第11回 星の構造と進化続き 第12回 白色矮星と中性子星 第13回 ブラックホール 第14回 予備 第15回 試験
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	授業で指示する。
担当者から一言	「星から光子は一秒間に何個やってくるか？」といった物理学の目で宇宙を考える訓練をする。 宇宙の物理量のオーダー計算に慣れることを目的とする。 数字を入れて電卓で必ず計算してみること。

授業コード	21047		
授業科目名	音響学・電気音響学(後)		
担当者名	佐藤和栄(サトウ カズエ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	音は人間にとって、会話や音楽などによる身近な情報伝達の手段や、身の周りに起こっている状況を把握する手段としてきわめて大きな役割を持っている。この音を基本にした音響技術は現在の情報化時代においても大変重要な技術になっている。本講義を通し、音の基本的な性質、音波伝播の解析や音響機器の技術について学び、習得することである。以下に示す項目について講義する。 1. 音波の物性 2. 聴覚と音声 3. 波動方程式 並びに平面波・球面波の伝播解析 4. 機械振動系の解析(一自由度系、物体の振動) 5. 電気・機械・音響系の等価回路 6. 電気・機械・音響変換の種類と特徴 7. マイクロホンと送話器の構造・特性 8. 受話器とスピーカの構造・特性
到達目標	音の物理的性質、聴覚メカニズム、音波の伝わり方、波動理論と解析、マイク・スピーカを含めた音響機器、などについて理解し、簡単な音響現象や音響機器の構造を説明できる。
講義方法	西山・池谷・山口・奥島 共著:大学講義シリーズ「音響振動工学」、コロナ社(1979)を教科書として、この本をベースに授業を進める。 身近に体験している音に関する様々な現象を例に挙げ、その現象の起こる理論や解析法などを学んで行く。波動解析や振動解析を行うには、既に学んできた解析学から応用数学の知識が必要となる。もう忘れたという方にも思い出せる様に授業を進めたいと考えている。 授業の理解度を測るために、ミニテストを実施し、覚えていない、理解できていない箇所を明らかにし、学び易いようにしていく。
準備学習	三角関数、対数演算、微分積分学などを復習しておくことと理解し易い。授業中も思い出せるように説明して行きたい。
成績評価	授業中に実施するミニテスト、期末試験、出席状況(出席率60%に満たない学生は評価の対象にしない)で評価する。
講義構成	1. 音の基本的性質Ⅰ(音とは、レベルの表し方) 2. 音の基本的性質Ⅱ(騒音、回折、遮音) 3. 人間の聴覚(聴覚メカニズム、聴覚心理特性) 4. 波動理論(波動方程式の導出法、進行波・後退波について) 5. 平面波の伝播(管内の音波の伝わり方) 6. 球面波・音源の指向特性 7. 音源の放射インピーダンス、音響ホーン 8. 機械系の振動(質量・バネ・抵抗からなる振動系) 9. 機械系の振動(弦、棒、膜の振動) 10. 電気・機械・音響系の等価回路(機械素子、音響素子) 11. 電気・機械・音響系の等価回路(種々の問題について) 12. 電気機械音響変換器(変換器の種類と特徴) 13. マイクロホンと送話器(構造・指向特性)

	14. 受話器とスピーカ(構造・周波数特性の解析) 15. まとめ
教科書	大学講義シリーズ「音響振動工学」 西山 静男、池谷和夫、山口善司、奥島基良 (コロナ)
参考書・資料	「音響振動論」 早川 寿雄、吉川 昭吉朗 著 (丸善) 「電気音響振動学」 西巻 正朗 著 (コロナ社)
担当者から一言	日常身近に接している音の性質、基本的な現象、解析法や音響機器の基本が分るように、そして社会人になってからも実践できるように講義したいと考えている。

授業コード	21031		
授業科目名	解析力学(力学III)(後)		
担当者名	村木 綏(ムラキ ヤスシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	力学III(2004年度以前の入学生用) 解析力学(2005年度以降の入学生用)		

講義の内容	力学I・IIで取り扱われたニュートン力学を基礎として解析力学を扱う。目的は、 (1) 力学の基礎概念をより一般化し理解する。 (2) 物理量を定量化し、物理現象を定式化して解く能力をやしなう。 (3) 量子力学、統計力学などの現代物理学を理解するのに不可欠な基礎概念を理解する。		
到達目標	ラグランジュの運動方程式をよく理解し、様々な問題が解けるようになる。 そして実際の物理現象の本質が理解できるようになる。		
講義方法	黒板に板書する方法により進めるが、講義内容のうち数式はプリントでも配布する。		
準備学習	本講義を理解するためには数学の基礎知識が必要です。 もう2年前に勉強して知識が曖昧になっていると思われるので 次の事項を復習しておくこと。 数学Ⅲの微分と数学Cの行列の章を読み直しておくように。 数学Ⅲでは三角関数の微分、合成関数や分数関数の微分に 習熟しておくように。また数学Cでは、回転行列、逆行列、行列の固有値、 行列式の解法に習熟しておくように。		
成績評価	毎回の小テスト、期末試験をそれぞれ半々で評価する。60点以上が合格。		
講義構成	第1回 力学の歴史とニュートンの運動方程式 第2回 直交座標と極座標 第3回 一般化座標と運動エネルギー 第4回 ラグランジュの運動方程式(1) - 単振動と振り子 第5回 ラグランジュの運動方程式(2) - 両端を壁で固定された2個の錘の振動 第6回 両端をばねで固定された二個の錘の振動 第7回 二重振子の運動 第8回 位相空間での運動 第6回 ハミルトンの運動方程式 第9回 正準変換 第10回 ハミルトン・ヤコビの運動方程式 第11回 コリオリの力と気象現象 第12回 変分原理による運動方程式の導出 第13回 多粒子系のラグランジュ方程式と固有振動 第14回 分子の運動に対するラグランジュ方程式		
教科書	「解析力学」物理入門コース2 小出昭一郎著(岩波書店)		
参考書・資料	「力学Ⅱ(解析力学)」 原島 鮮著(裳華房)		
講義関連事項	講義は教科書の構成の順に進めません。しかし教科書の内容はほぼ終了します。 諸君の理解が早まるような論理立てで進めます。必要なときはプリントや力学ノートを 配布して講義を進めます。教科書や参考書は購入することを推奨します。		

担当者から一言	これまで学んだ力学のイメージが急に変わります。「力学」と思ってなめてかからないように。
その他	3年から専門的な講義が始まります。2年後期は基本科目である力学、電磁気学を仕上げる期間となります。解析力学の講義は力学関係の講義の最終仕上げの時間となります。いままで曖昧に理解していた学生はこの際しっかり理解するようにしましょう。 ”しっかり理解する”ということは、君たちが高校の先生になつたつもりで、他の学生に説明できるくらい理解するということです。わかっていないことを、わかっていないとし、謙虚に自己点検する姿勢が向上と理解の秘訣です。この際きちんと頭の中を整理しましょう。

授業コード	21064		
授業科目名	基礎光学（前）		
担当者名	山崎篤志（ヤマサキ アツシ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本講義では、波動や振動を中心に物理学の基礎となる知識を習得する。導入部として初学者のための基本的な事項の復習を行い、振動・波動に対して、単なる数式的な取り扱いではなく、物理現象とリンクした理解を目指す。後半部分では数学の知識も必要であるため、微分積分の復習も十分時間をかけて行う予定である。
到達目標	本講義では、波動や振動を中心に物理学の基礎となる知識を習得することを目指す。
講義方法	スライドを中心に、板書、配付資料などを併用する。
準備学習	高校の物理1、物理2の教科書を復習しておくことが望ましい。
成績評価	中間試験、期末試験の結果によって評価する。小テストを行った場合には、その点と出席状況なども加味する。
講義構成	第1回 波の基本性質Ⅰ 第2回 波の基本性質Ⅱ 第3回 音波の基本振動とドップラー効果 第4回 光の干渉と回折 第5回 光の粒子性と光電効果 第6回 光の波動性と物質波 第7回 原子のモデル 第8回 前半まとめと中間テスト 第9回 円運動と単振動を扱うための微積分 第10回 単振動 第11回 減衰振動 第12回 連成振動 第13回 波動方程式 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	なし。講義資料は、講義終了後にweb上で公開する。
参考書・資料	・裳華房 小形正夫 著 裳華房テキストシリーズ-物理学「振動・波動」 ・裳華房 有山正孝 著 基礎物理学選書8「振動・波動」 ・講談社 小暮陽三 著 ゼロから学ぶ「振動と波動」 ・岩波書店 和田純夫 著 物理講義のききどころ5「振動・波動のききどころ」

担当者から一言	振動・波動は現代物理学の根幹である量子力学の基本骨格をなす部分であるため、自分なりのイメージを作るなど工夫をして理解に努めて欲しい。
URL	http://www.phys.konan-u.ac.jp/~yamasaki/FP3.html

授業コード	21C11		
授業科目名	基礎数学（1クラス）(前)		
担当者名	堀内清光(ホリウチ キヨミツ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること 再履修者は、②(岡部)クラスを履修すること		
オフィスアワー	講義終了後(金曜6限の一部)その他アポイントを取れば対応する。		

講義の内容	まず、高等学校で学習した数学の知識を、大学で物理を勉強するのに役立つよう復習をかねて訓練する。そして、大学での数学その楽しさと難解さを紹介する。時間があれば研究に役立つような数学のソフトの紹介も行う。		
到達目標	基礎的な力の完壁化と、今後の研究方法を構築するためのヒントとなることを目標とする。		
講義方法	受講生の能力と興味に合わせてフレキシブルな講義を目指す。 一クラス30人程度で演習的な側面もある。 教科書はそれほど重要視しない。		
準備学習	前提として望ましい知識・能力は高校卒業程度の数学と常識！ それが備わっていないとは言わせない。		
成績評価	試験を含めた総合評価で、開講時に通知する。		
講義構成	開講時に詳細をアナウンスする。 標準的な内容は下記のものであるが、学生の興味と能力に合わせて、フレキシブルに行う。 1. 基礎概念 数・関数など 2. 微分の定義と導関数の導出 3. 一変数の初等関数の微分(1) 4. 一変数の初等関数の微分(2) 5. 三角関数・指数関数の微分(1) 6. 三角関数・指数関数の微分(2) 7. 合成関数の微分(1) 8. 合成関数の微分(2) 9. 逆関数の微分 10. 偏微分のかえ方と全微分のかえ方 11. 初等関数の積分(1) 12. 初等関数の積分(2) 12. 三角関数・指数関数の積分(1) 14. 三角関数・指数関数の積分(2)		
教科書	講談社 超入門微分積分 小寺平治著		
参考書・資料	微分積分学と線形代数学の教科書		

担当者から一言	一週間の終わりで疲れている時間であるが楽しくやろう！
---------	----------------------------

授業コード	21C12		
授業科目名	基礎数学（2クラス）(前)		
担当者名	岡部久高(オカベ ヒサタカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること 再履修者は、(岡部)クラスを履修すること		

講義の内容	高等学校で学習した数学の知識を中心に、大学で物理を勉学するのに役立つよう復習をかねて演習する。
到達目標	高校数学の復習を兼ね、大学物理学の理解を円滑にするために最低限の数学力を身に付ける。
講義方法	一クラス30人程度で演習も含める。
準備学習	高校数学の関数、微分と積分を中心に高校教科書などで復習しておくこと。
成績評価	定期試験、課題、出席など
講義構成	主な内容 1～14回 物理学と数学、いろいろな関数、微分法とその応用、積分法、定積分法とその応用、その他、必要に応じて、偏微分法、全微分・重積分、複素数、ベクトルなどを扱う。 15回 定期試験
教科書	出版社：電気書院 著者：松田 修 「改訂新版 これからスタート！ 理工学の基礎数学」 ISBN978-4-485-30047-3
参考書・資料	出版社：講談社サイエンティフィック 著者：小寺平治 「超入門 微分積分」 ISBN978-4-06-155764-2
担当者から一言	講義は、高校程度の内容をも含んだ基礎的な微分・積分を中心に行うが、学生諸君と話し合いの上で、その他の内容を扱うこともある。

授業コード	21019		
授業科目名	基礎物理学I(基礎物理学) (前)		
担当者名	須佐 元(スサ ハジメ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	基礎物理学(2004年度以前の入学生用) 基礎物理学I(2005年度以降の入学生用)		
オフィスアワー	木曜以外の昼休み。そのほかも在室ならば適宜質問の応じる。		

講義の内容	大学で学ぶ物理学は、高校までと異なり、高度な数学を駆使して記述される。したがって数学に習熟することが物理の理解にとって必須になっている。しかしながら数学はあくまで数学であり、数式の持つ物理的な意味と、道具としての数学を混同してはならない。この講義では、物理の最も基本的な力学という題材を通して、数学を物理学の道具として用いるための能力を養う。
到達目標	力学や電磁気学の講義を理解できる数学的素地をもつことを目標とする。
講義方法	主として板書によって行い、適宜演習も行う。
準備学習	高校までに学んだ数学(微分積分・ベクトル)を理解しておくこと。
成績評価	期末に行う試験に中間試験・レポートを加味して評価する。また期末の試験を欠席したものは、講義に関して欠席扱いとする。
講義構成	1-2回目 微分積分の意味と区分求積法 3回目 微分積分で自然現象を表すということ 4回目 運動方程式を微分で表すこと 5回目 運動方程式の積分の積分と保存量 6回目 中間試験 7回目 中間試験の検討 8回目 ベクトルの概念 9回目 ベクトルの演算 10回目 ベクトルの微分 12回目 ベクトルによる粒子の運動の記述 13回目 ベクトルによる運動方程式の記述 14回目 まとめ

	15回目 試験
教科書	板書を用いて行うので特に指定しない。
参考書・資料	「物理入門コース 力学」 戸田盛和 著 岩波書店 「物理学」 小出昭一郎 著 裳華房
担当者から一言	数学を道具として使うということは、自然科学の基本です。がんばって習得してください。

授業コード	21020		
授業科目名	基礎物理学II (前)		
担当者名	山本常夏(ヤマモト トコナツ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	講義では電磁気学を題材にして物理の基本的な概念と基礎法則について説明する。
到達目標	空間の扱いと場の概念を理解し、ベクトル演算を身につける。
講義方法	プロジェクタを使い講義をする。毎回レポート用紙を配り講義内容が理解できたかテストする。
準備学習	講義で説明した問題を解いていくこと
成績評価	期末試験で評価する
講義構成	1回目 自然現象と物理学、物理の勉強の仕方 2回目 クーロンの法則 3回目 重ね合わせの原理 4回目 電気力線 5回目 微分演算子 6回目 静電場 7回目 中間試験 8回目 電位と静電エネルギー 9回目 静電場の基礎法則 10回目 定常電流 11回目 静磁場 12回目 ローレンツ力 13回目 中間試験 14回目 まとめ マクスウエル方程式 15回目 試験
教科書	裳華房 電磁気学 中山正敏 著

URL	http://www.hep.konan-u.ac.jp/~tokonatu/kiso-butsumi2-10/
-----	---

授業コード	21021		
授業科目名	基礎物理学Ⅲ（前）		
担当者名	山崎篤志（ヤマサキ アツシ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本講義では、波動や振動を中心に物理学の基礎となる知識を習得する。 導入部として初学者のための基本的な事項の復習を行い、振動・波動に対して、単なる数式的な取り扱いではなく、物理現象とリンクした理解を目指す。後半部分では数学の知識も必要であるため、微分積分の復習も十分時間をかけて行う予定である。
-------	---

到達目標	本講義では、波動や振動を中心に物理学の基礎となる知識の習得を目指す。
講義方法	スライドを中心に、板書、配付資料などを併用する。
準備学習	高校の物理1、物理2の教科書を復習しておくことが望ましい。
成績評価	中間試験、期末試験の結果によって評価する。出席状況なども加味する。
講義構成	第1回 波の基本性質Ⅰ 第2回 波の基本性質Ⅱ 第3回 音波の基本振動とドップラー効果 第4回 光の干渉と回折 第5回 光の粒子性と光電効果 第6回 光の波動性と物質波 第7回 原子のモデル 第8回 前半まとめと中間テスト 第9回 円運動と単振動を扱うための微積分 第10回 単振動(1) 第11回 単振動(2) 第12回 連成振動 第13回 波動方程式 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	なし。講義資料は、講義終了後にweb上で公開する(URLは開講後に通知する)。
参考書・資料	・裳華房 小形正夫 著 裳華房テキストシリーズ-物理学「振動・波動」 ・裳華房 有山正孝 著 基礎物理学選書8「振動・波動」 ・講談社 小暮陽三 著 ゼロから学ぶ「振動と波動」 ・岩波書店 和田純夫 著 物理講義のききどころ5「振動・波動のききどころ」
担当者から一言	振動・波動は現代物理学の根幹である量子力学の基本骨格をなす部分であるため、自分なりのイメージを作るなど工夫をして理解に努めて欲しい。
URL	http://www.phys.konan-u.ac.jp/~yamasaki/FP3.html

授業コード	21001		
授業科目名	基礎物理学実験（前）		
担当者名	村木 綏(ムラキ ヤスシ)、山県民穂(ヤマガタ タミオ)、杉村 陽(スギムラ アキラ)、梶野文義(カジノ フミヨシ)、宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)、梅津郁朗(ウメヅ イクロウ)、青木珠緒(アオキ タマオ)、秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)、安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、小堀裕己(コボリ ヒロミ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)、須佐 元(スサ ハジメ)、山本常夏(ヤマモト トコナツ)、富永 望(トミナガ ノゾム)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
講義の内容	物理学は自然科学の最も根幹をなす学問の一つです。17世紀以来多くの学者が仮説を提唱し、実験で確認されたもののみが真理として残りました。しかしながら現在の高等学校では 授業時間が十分確保できないのでこのような物理学の歩みはスキップされ、大学入試に配慮して、物理は公式に数字を代入し答えを出す教科とみなされがちです。この風潮は大学で学ぶ物理学と大きくかけ離れています。物理学はもっと生きた学問なのです。この現状をすこしでも解消するために企画されたのが本授業です。甲南大学独自の高・大接続プログラムの一つです。この授業を機会に、高等学校で実験を体験しなかった学生もまた実験を体験した学生も、 あいまいな概念(例えば力と場の違い)を実験をとおしてきちんと整理・理解し、あわせてこれから2年間、物理学科で展開される基礎的な授業「力学」、「電磁気学」の理解を深めるのに役立つことを期待しています。		
到達目標	甲南大学理工学部物理学科の学生は実験のエキスパートになろう。 この際、高校であいまいであった物理学の概念を深く理解しよう。 例えば、速度、加速度の違い、力と運動量の違い、電場と電位の違い		

	といった基本的な概念の理解を実験をとおして深めよう。
講義方法	全テーマを順番に実施する。 実験場所は7号館P212号室と5号館102号室で交互に行う。 実験相手は毎回変わる。
準備学習	高校物理2の教科書をもう一度丁寧に読んでおくことを勧める。
成績評価	実験とその結果のまとめ(レポート)で評価する。 実験における熱意とまとめの内容および期末テストが評価の対象になる。 実験テーマを3個以上欠席または報告書が未提出の場合は不可となるので注意。 期末テストは12個の実験テーマのなかから数個選んで選択で解答をしてもらう。 総合点で60点以上が合格。 なお病気の時は医師の診断書を添えて申し出るように。
講義構成	力学関係の実験 実験1 万有引力と重力加速度を調べる実験 実験2 エネルギー保存則を調べる実験 実験3 遠心力を調べる実験 実験4 万有引力常数を求める実験 電磁気学関係の実験 実験5 エールステッド・アンペールの法則を調べる実験 実験6 ファラデー・レンツの法則を調べる実験 実験7 電磁波の伝搬を調べる実験 原子物理学の実験 実験8 電子の比電荷を求める実験 実験9 プランク常数を求める実験 実験10 磁場による電子の軌道を測定する実験 その他の課題 実験11 光速度を測定する実験 実験12 超音波による波の回折、干渉実験
教科書	テキストと予習用のDVDを配布するので、十分予習してきて実験にのぞむように。
参考書・資料	実験中に関連資料を提示するとともに参考文献を教える。

担当者から一言	まず大学に入って初めて仲間と相談しながら、また先生や先輩のTAにわからないところを聞きながら実験を進める良い機会です。この機会を大いに利用し仲間勉強するグループを作ったり、先生と顔見知りになるよう心がけましょう。 またレポートの書き方は非常に大切な技術です。学生生活を通してその訓練をします。 その第一歩がこの授業です。実験レポートはきちんと自分が理解したことが先生に伝わるように書くことを心がけましょう。
---------	---

授業コード	21017		
授業科目名	計算物理ワークショップ(計算物理及び実習)(後)		
担当者名	須佐 元(スサ ハジメ)、富永 望(トミナガ ノゾム)		
配当年次	3年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
オフィスアワー	基本的に昼休みはありますがそれ以外でも随時訪ねてください。		

講義の内容	この講義ではさまざまな物理現象を題材として取り上げ、その方程式をコンピューターを使って数値的に解き、可視化する。その過程で物理現象を感覚的に理解するとともに、数値計算の手法・アルゴリズムについても学び、より進んだ勉強、研究のための糧を得る。 またこの講義はワークショップ科目として開講される。受講者はグループに分かれて与えられた課題を検討し、各自がレポートを作成して提出する。また内容について発表を行ってもらうこともある。
到達目標	数値計算を通じて、基本的な物理の内容、とくに偏微分方程式で記述されるさまざまな基礎方程式を感覚的に理解すること、および数値計算の手法・アルゴリズムにも精通することを目指す。
講義方法	講義と実習からなる。
準備学習	コンピュータ実習 I および II は履修していることを前提とする。また開講までに履修可能な基礎科目、力学、電

	磁気、量子、統計を理解していること。Mathematicaの使いかた、C言語について復習しておくこと。
成績評価	レポートをすべて提出することは必須条件である。成績は、レポートに期末試験を加味して厳格に評価する。また期末試験を受験しなければ欠席扱いとするので注意すること。
講義構成	第1回～第4回 粒子の運動 第5回～第8回 ラプラス方程式・ポアソン方程式 第9回～第12回 波動方程式 第13回～第14回 最終課題 第15回 試験
教科書	WEBページを用意する。授業で指示する。
参考書・資料	「Numerical Recipes」W.H.Press他 (Cambridge Univ. Press, 1986年)
担当者から一言	この講義はコンピュータのスキルを磨くとともに、物理の内容をよりよく理解することを目指しています。なかなかタフな内容になると思われるので心してかかってください。

授業コード	21052		
授業科目名	原子核物理学（前）		
担当者名	宇都宮弘章（ウツノミヤ ヒロアキ）		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	土曜日3,4時限		

講義の内容	原子核は強い相互作用(核力)で束縛された陽子と中性子からなる粒子系(量子有限多体系)であり、反応・崩壊過程では、弱い相互作用、電磁相互作用が関与する複雑な力学世界を形成している。このような力学世界の基本的な性質(種類、形状、質量、結合エネルギー)と安定性・不安定性(アルファ、ベータ、ガンマ崩壊、崩壊の法則)、その力学世界を支配する核力の性質を理解する。
到達目標	原子核物理学の基礎を理解することで、原子爆弾や原子力発電に利用される核のエネルギーに関する知識、さまざまな社会分野で利用される放射線に関する知識、原子核物理学の研究分野で必要な基本的な専門知識が身につく。
講義方法	My Konanに講義資料を置く。講義資料に基づき液晶プロジェクターを用いて講義を進める。必要に応じて板書する。宿題、レポートを課す。計算を行なうので電卓が必要である。出席は採らない。
準備学習	宿題に解答し、レポートを作成すること。
成績評価	期末試験、宿題、レポートを総合的に評価する。期末試験は持ち込み不可、電卓持ち込み可で実施する。期末試験を受けない場合は欠席とする。
講義構成	第1回 核図表に見るいろいろな原子核 第2回 電子散乱と核半径 第3回 原子核の質量と結合エネルギー 第4回 ワイゼッカー・ベータの質量公式 第5回 核のエネルギー(原子爆弾、原子力発電、星のエネルギー) 第6回 放射性壊変の法則 第7回 アルファ崩壊と量子トンネル効果 第8回 ベータ崩壊とニュートリノ 第9回 天然に存在する放射性核種 第10回 ガンマ線と物質の相互作用 第11回 いろいろなガンマ線源:レーザー逆コンプトンガンマ線 第12回 加速器施設見学 第13回 核力の性質 第14回 まとめ
教科書	My Konanに置く講義資料。
参考書・資料	原子核物理 影山誠三郎著 理工学基礎講座25 朝倉書店

講義関連事項	関連する講義に「放射線計測学」「宇宙核物理学」がある。
担当者から一言	現代社会では、核不拡散、核廃絶、エネルギーという人類の大きな問題に関連して、原子核に関する基礎知識はますます必要になっています。
その他	講義に関数電卓を持参すること。

授業コード	21030		
授業科目名	原子物理学 (前)		
担当者名	安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	毎週水曜日17:00～19:00		

講義の内容	熱放射、物質の比熱等の現象をミクロな視点から議論し、ニュートンの力学、マックスウェルの電磁気学等の古典物理学がこれらの現象を記述するのに不十分であることを示す。さらに、量子力学への発展の過程を辿り、ミクロな世界を支配する自然法則について解説する。本科目は量子力学の前段階を講義することにより、量子力学の理解を助けるとともに、あわせて量子力学の知識を必要とする他の専門科目の理解を助けることを目的としている。
到達目標	19世紀末の古典論の破綻から20世紀初頭における量子論の台頭に至る道筋を論理的に理解することを到達目標とする。
講義方法	講義はパワーポイントと板書を併用して行う。講義資料は、授業の冒頭でのみ配布する。講義中の私語厳禁。
準備学習	1年次の基礎物理学および力学Ⅰ、電磁気学Ⅰを履修しておくことが望ましい。
成績評価	講義中、演習問題やレポートを課すことがある。成績は期末試験の結果に演習問題やレポートの出来を加味して決める。
講義構成	第1回 講義の進め方、参考書の紹介および古典物理学の復習 第2回 Boltzmannの法則 第3回 エネルギー等分配の法則 第4回 比熱の古典理論 第5回 Rayleigh-Jeansの輻射式 第6回 Wienの輻射式 第7回 Planckの輻射式と作用量子h 第8回 光電効果と光の粒子性 第9回 エネルギー量子と固体の比熱 第10回 原子の発光スペクトル 第11回 原子模型とRutherfordの実験 第12回 Bohrの量子条件 第13回 Sommerfeldの量子条件 第14回 de Broglieの物質波とSchrödinger方程式 第15回 試験
教科書	原則として毎回講義の冒頭に講義資料(テキスト)を配布する。
参考書・資料	「原子物理学－微視的物理学入門－」菊地健著(共立出版) 「原子物理学I」シュポルスキー著 玉木、細谷、井田、松平訳(東京図書) 「量子論」小出昭一郎著(裳華房) 「量子力学I」朝永振一郎(みすず書房)
講義関連事項	講義中、私語は厳禁です。

担当者から一言	1限の講義ですが、受講者は遅刻しないよう努力してください。
---------	-------------------------------

授業コード	21066		
授業科目名	コンピュータサイエンスI (B)(前)		
担当者名	藤田 靖(フジタ ヤスシ)		

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	情報システム工学科以外		
講義の内容	昔は、「読み・書き・そろばん」。今は、「読み・書き・コンピュータ」。学生時代も社会に出てからも、コンピュータを使いこなせる能力が必要になります。コンピュータを知るには、コンピュータを使い込む必要があります。 講義では、コンピュータサイエンスの基本の説明をします。コンピュータを使い込んでいくときに知っておくべきことを説明します。 学生の間に、最低でもITパスポート試験の資格を取ってください。そして、理系の学生なので基本情報技術者試験の資格も目指してください。 講義内では、タイムリーな話題も取り上げる予定です。		
到達目標	一人でコンピュータ操作ができ、コンピュータ用語を理解し、調べることができる。		
講義方法	本年は、基本情報処理試験問題・初級シスアド試験問題・ITパスポート試験問題を用いた説明も行います。また、インターネットからいろいろな題材を集めた説明もします。		
準備学習	IT関連のニュースを日頃から読んでおくこと。		
成績評価	(1) 所定の出席日数以上の出席が必要です。 基本的に、毎回課題を提出してもらいます。 (2) 毎日の積み重ねが重要なので、頻繁に、小テストを行い評価します。 期末試験は、行いません。 (3) 成績は、小テストの成績を重視します。このため、必ず小テストを受ける必要があります。 (4) 小テストは、いろいろな情報処理試験の過去問題から出します。 (5) レポート提出もあります。レポートはWebページや友達の資料をコピーするのではなく自分の言葉で記入してください。		
講義構成	第 1回 情報処理の単位 第 2回 基数変換 第 3回 負の数の表現 第 4回 固定小数点と浮動小数点・誤差 第 5回 文字データの表現 第 6回 論理演算・論理回路 第 7回 ハードウェア(入力装置・出力装置) 第 8回 ハードウェア(CPU・メモリ) 第 9回 ハードウェア(ハードディスク) 第10回 ソフトウェア OS 第11回 ソフトウェア プログラム言語 第12回 表計算 第13回 通信の仕組み 第14回 コンピュータネットワーク		
教科書	基本情報技術者合格教本 須藤 智 (著)・定平 誠(著)／技術評論社 ISBN－10 4774140872 ISBN－13 978－4774140872		
参考書・資料	(1) 基本情報+ITパスポート 計算ドリル 大滝 みや子 著／実教出版／ISBN4-407-31789-2 (2) あなたはコンピュータを理解していますか？ 梅津信幸著／技術評論社／ISBN4-7741-1600-9 (3) プログラムはなぜ動くのか 矢沢久雄著／日経BP社／ISBN4-8222-8101-9		
担当者から一言	IT関連には、いろいろな資格があります。IT関連の勉強をして、いろいろな資格試験も受けてほしい。		

その他	講義中の私語を禁じます。講義を邪魔する学生には、単位を出しません。
-----	-----------------------------------

授業コード	21035		
授業科目名	コンピュータ実習I (前)		
担当者名	梶野文義(カジノ フミヨシ)、渡邊 毅(ワタナベ タケシ)、池田瑞穂(イケダ ミズホ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 月曜2限
オフィスアワー	随時。授業終了後またはメールで相談時間の予約をしておくと確実です。		

講義の内容	自然科学、特に物理学を学び理解し、研究するために、コンピュータによる科学計算、シミュレーションおよびデータ処理等は欠かすことができない。この実習では、コンピュータ入門を修得した学生に対して、UNIXコンピュータの基礎的知識と取扱い方を修得させた後、C言語によるプログラミングを教える。これにより、将来、卒業研究や大学院での研究、そして、就職後、情報技術関連の各方面で大いに役立ててもらうことを目的としている。
到達目標	1) UNIXおよびC言語の基礎知識の修得。 2) 基礎的な問題のC言語のプログラムが書けるようになること。
講義方法	オンラインテキストを用いて実習を行う。
準備学習	オンラインテキストを事前に読んでおくこと。
成績評価	出席の状況、提出された課題に対する結果および試験により総合的に評価を行う。 出席回数、およびレポート提出回数はそれぞれ9回以上であることが単位取得の最低条件である。 C言語によるプログラミングの理解度をみる試験を最重視する。
講義構成	第1回 UNIX入門(ファイルとディレクトリの操作) 第2回 UNIX入門(入出力のリダイレクション) 第3回 UNIX入門(muleによるファイルの編集) 第4回 C言語(プログラムの作成とコンパイル) 第5回 C言語(四則演算) 第6回 C言語(判断と繰り返し) 第7回 C言語(定数回の繰り返し) 第8回 C言語(ライブラリ関数) 第9回 C言語(配列) 第10回 C言語(関数) 第11回 C言語(文字列) 第12回 C言語(ポインタ) 第13回 C言語(構造体) 第14回 練習 第15回 試験
教科書	Online Hypertext“コンピュータ実習I”(情報教育研究センターのホームページにあります。)

担当者から一言	この科目は、コンピュータ入門に続く実習科目です。 コンピュータ実習I、同II、計算物理および実習、コンピュータサイエンスI、同II、ソフトウェア工学を履修する事により系統的にコンピュータおよび情報関連の科目を学ぶ事ができます。 4年間の物理学を修得するためには非常に重要な実習科目です。 また、この科目はプログラミングの修得だけでなく、論理能力、問題解決能力の養成になるとともに、社会に出てから役立つので、是非受講して下さい。
ホームページタイトル	{コンピュータ関連講義コンテンツ, http://www.center.konan-u.ac.jp/~computer/ }

授業コード	21036		
授業科目名	コンピュータ実習II (後)		
担当者名	秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)、池田瑞穂(イケダ ミズホ)		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限
オフィスアワー	火2限、3限		
講義の内容	基本的な「C言語」のプログラミング技法を用いて、物理学の諸分野で必要とされる数値解析の基礎的な技法を習得することが目的である。		
到達目標	物理現象をコンピュータを用いて数値的に表現できるようになること。		
講義方法	各週の課題の解説。プログラム作成と実行。結果の検討、分析。課題提出。		
準備学習	コンピュータ実習 I で学習したことの復習		
成績評価	提出されたレポート課題の提出状況、その内容、および最終回に行う筆記試験の成績により総合的に評価する。		
講義構成	第1回 変数と型宣言I、四則演算 第2回 データの入出力と配列 第3回 変数と型宣言II、構造体 第4回 処理の流れの制御と関数 第5回 グラフ化による可視化I 第6回 グラフ化による可視化II 第7回 非線形方程式の解法(ニュートン法) 第8回 微分方程式の解法(オイラー法) 第9回 微分方程式の解法(ルンゲクッタ法) 第10回 乱数を用いた数値積分 第11回 乱数によるシミュレーション法 第12回 線形最小二乗法 第13回 筆記テスト 第14回 予備		
教科書	なし		
参考書・資料	「プログラミング言語C」 B.W. カーニハン、D.M.リッチー 「独習C」 ハーバートシルト		
講義関連事項	実習は毎週課題を出し、はじめに当日の課題について解説を行う。 時間中は教員とTAにより個別に指導を行う。実習のレポートはその日のうちに提出する。		
担当者から一言	この実習はコンピュータ実習Iの内容を習得していることを前提とした内容となっている。コンピュータ実習Iの単位を取得していないものは、各自実習Iのホームページの課題を自習しておくこと。		
ホームページタイトル	コンピュータ実習II		
URL	http://www.center.konan-u.ac.jp/~akimune/Computer2/		

授業コード	21027		
授業科目名	コンピュータ入門 (後)		
担当者名	安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、渡邊 毅(ワタナベ タケシ)、池田瑞穂(イケダ ミズホ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	毎週水曜日 17:00—19:00		
講義の内容	自然科学、特に物理学を学び理解するためには、コンピュータによる科学計算、シミュレーションおよびデータ処理等は欠かすことができない。この実習では、コンピュータを初めて使用する学生に、コンピュータの仕組みやWindowsについての基礎的知識を修得させるとともに、科学技術計算の初歩を経験させ、将来各方面で大いに役立ててもらうことを目的としている。		
到達目標	コンピュータを使用した実習をとおしてWORD、EXCELの機能、ホームページ作成のためのHTML言語、Mathematicaの「関数」等についての基本的知識を獲得することを目標とする。		
講義方法	オンラインの指導書にしたがったコンピュータ実習		
準備学習	この実習はコンピュータの初歩から始めるので特に必要はない。		
成績評価	出席の状況、課題に対するレポートの出来および期末試験の結果などにより総合的に評価を行う。欠席が2回		

	以下で、レポートの未提出回数が2回以下であることが単位取得の最低条件である。
講義構成	第1回 コンピュータの初歩的利用 第2回 Windows入門(タイプ練習) 第3回 Windows入門(文書の作成) 第4回 Windows入門(グラフの作成) 第5回 Windows入門(グラフの作成) 第6回 WWW入門(ホームページの作成I) 第7回 WWW入門(ホームページの作成II) 第8回 WWW入門(ホームページの作成III) 第9回 Mathematicalによる数値計算 第10回 Mathematicalによる線形代数 第11回 Mathematicalによる微分積分 第12回 Mathematicalによるグラフィックス表現 第13回 コンピュータの仕組み 第14回 復習 第15回 試験
教科書	Online Hypertext“コンピュータ入門”(センターのホームページにあります。 http://www.center.konan-u.ac.jp/~computer/)
講義関連事項	私語厳禁です。講師の説明に集中してください。また、遅刻は減点の対象です。

担当者から一言	コンピュータを早く使いこなすことは、「習うより慣れろ」ということわざ通りです。自分でキーボードをたくさんたたくということが一番の近道です。また、つまらないことで、行き詰まってしまう事もよくあります。そのようなときはティーチング・アシスタントに聞いて最大限に利用して下さい。 この講義ではOnline Hypertextをディスプレイにいつも出しておいて使うように考えてあります。関連事項をより深く知りたいときには、クリックすることにより、新しい世界が開けるでしょう。 1限の実習ですが、遅刻しないよう努力してください。
---------	--

授業コード	21054		
授業科目名	自然科学リサーチ（後）		
担当者名	山県民穂（ヤマガタ タミオ）、梶野文義（カジノ フミヨシ）、宇都宮弘章（ウツノミヤ ヒロアキ）、秋宗秀俊（アキムネ ヒデトシ）、須佐 元（スサ ハジメ）、山本常夏（ヤマモト トコナツ）、村木 綏（ムラキ ヤスシ）、富永 望（トミナガ ノゾム）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	物理学卒業研究(A)、(B)の準備のための講義科目である。各研究室に分属、指導する。
到達目標	各研究室でどのような研究がなされているのか理解する。 4年の卒業論文作成のためにどのテーマを自分はやりたいか そのためにはどのような知識や技術が必要かを理解して準備する。
講義方法	講義担当者が個別に指導する。
準備学習	計算機関係の講義(コンピューター実習Ⅰ、Ⅱ) や電気電子回路の講義を習得しておくが必要です。
成績評価	科目修得の内容と報告書、等により総合的に評価する。 出席が一定の条件を満たさないものには単位を与えない。
講義構成	各研究室の指示による。
教科書	各研究室の指示による。
その他	この講義は原則として物理学卒業研究(A)、(B)を履修する学生を対象とする。

授業コード	21018
-------	-------

授業科目名	実験工房ワークショップ		
担当者名	梅津郁朗(ウメヅ イクロウ)、中川道夫(ナカガワ ミチオ)		
配当年次	2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜5限)、後期(木曜5限)
オフィスアワー	随時。ただし電子メールでアポイントメントを取るのが望ましい。		

講義の内容	従来の学生実験は教員によってテーマが用意されており、それに従って実験、レポート作成を行うのが普通である。本講義は従来の方法を打破し、学生自身がテーマを選択し、納得がいくまで実験を行う。また、レポートも教員に課題が与えられるのではなく、教員とともに考え作成していく。 このような過程を通して実験の楽しさ、考えることの楽しさ、もの作りの楽しさを体験する。
到達目標	自主性を発揮し道を切り開く力をつけることを目標とする。
講義方法	まず、実験題目を教員と相談の上、各グループで設定する。基本的に実験の内容は自由であるがその例を「講義構成」に示す。教員は実験に対する助言を行うが基本的には各グループで相談し実験を進めていく。 あくまでも学生の自主性を尊重する。
準備学習	正規の時間は限られているため、下調べ等の準備が必要である。
成績評価	実験に対する探究心、工夫、自主性、熱意およびレポートを総合評価する。
講義構成	想定される実験題目の例としては下記のようなものがあげられるが可能な限り学生の要望に応える。通年で行う実験題目は1～2テーマに絞り込みじっくりと実験していく。 1) 高校物理を理解する実験 a) 高校の物理の教科書に記載されている実験装置を自分で組み上げ、内容を理解するとともにより高度な実験装置の開発を試みる。 b) 高速デジタルカメラを用いた運動の観察 二次元の落体の運動、抵抗のある物体の運動等 2) 音響に関する実験 マイクで音声を検出する回路を作成し声や楽器の音声を物理的に解析する。 3) 電気回路の実験 電波、光、音、熱等の検出回路や発生器を作成し、電子素子、コンデンサー、コイルの役割を体得する実験等 4) 回転する物体の運動を理解する実験 コマや自転車の車輪等の回転する物体を観測し、慣性モーメント、角運動量を理解する実験等 5) 燃料電池・太陽電池に関する実験 環境問題で注目を集めている燃料電池や太陽電池に関する実験を行い電子の振る舞いとエネルギー発生との関係を理解する 6) 熱力学に関する実験 自らの手でスターリングエンジンを作成し性能を評価することで熱力学を理解する 7) 宇宙・地球環境観測 天体望遠鏡やアンテナ等を使い 銀河、星、流星、雷など宇宙観測や環境測定をおこなう 8) コンピュータによる装置制御 コンピュータによる簡易ロボット、測定装置の制御等 9) 信号解析 フーリエ変換等 10) 光に関する実験 11) センサーに関する実験 12) その他
教科書	なし
参考書・資料	参考書・資料は自ら設定したテーマに沿って自ら探するのがこの実験の特色である。

担当者から一言	この実験での経験は卒業研究、大学院での研究に必ず役に立つはず。また自主的に行動する経験は社会に出てからも必要とされています。
その他	甲南大学から発信する新しい教育を目指しています。学生が実験の面白さを体験するばかりではなくホームページ等を通して実験の楽しさを社会に広めていければと思っています。

授業コード	21046
-------	-------

授業科目名	情報通信科学 (後)		
担当者名	三好旦六(ミヨシ タンロク)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	近年の携帯電話、デジタル放送、インターネットなど情報通信技術の進歩は著しい。今後はデジタル通信技術と情報処理技術のさらなる融合と発展により、多彩なサービスが提供されようとしている。情報通信や情報伝送の内容は膨大であるが、本科目では、情報通信を理解するための基礎的事項に的を絞って講義を行うことにする。
到達目標	情報通信技術に関する基礎的事項を理解すること。
講義方法	教科書により情報通信の概要を学び、配布ノートにより信号解析の数学的な補足を行う。
準備学習	教科書を予習しておくこと。
成績評価	成績は、出席状況と、3回の小テストなどの成績を総合的に判断して評価する。
講義構成	1. 情報通信システムの概要 2. 信号解析(時間領域と周波数領域での信号の取り扱い方) 3. アナログ変復調方式(AM,VSB,FM) 4. 情報源符号化(映像の符号化、音声の符号化、MPEG) 5. 通信路符号化(誤り訂正符号化) 6. デジタル変復調方式(OFDM,QPSK,QAM,ビット誤り率) 7. 送受信技術(衛星,地上,ケーブル)
教科書	・NHK出版「知っておきたい地上デジタル放送」NHK受信技術センター編.
参考書・資料	・大学課程「情報伝送工学」武部幹, 田中公男, 橋本秀雄, オーム社. ・電子情報通信学会編「通信方式」平松啓二, コロナ社. ・「デジタル放送」塩見正, 羽鳥光俊編, オーム社. ・映像情報メディア学会編「映像システムの基礎」江藤良純, 梅本益雄, コロナ社.
講義関連事項	講義資料は「クラスプロフィール」の「授業資料」のところに公開。各自、ダウンロードの上、毎回講義に持参すること。

授業コード	21041		
授業科目名	数理物理学 (前)		
担当者名	山県民穂(ヤマガタ タミオ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	火曜13:00(その他随時)		

講義の内容	1年次で学んだ線形代数の知識を基にして、「1次写像の固有値問題」という共通の概念で理解できる物理学を講義する。まず、ベクトル空間での2次元対称1次写像で表される物理現象を取扱い、この取扱をn次元ベクトルに拡張し、さらに無限次元に対応する関数空間での1次微分写像で表される物理の問題を扱う。これらの知識に基づいてグリーン関数の物理的概念を理解し、力学、電磁気学、量子力学で取り扱う簡単な微分方程式の境界値問題を解く。積分写像ではフーリエ変換で表される物理現象を扱う。講義には演習を充分取り入れる。
到達目標	物理学に現れる固有値問題を理解し、解く能力を養う。
講義方法	板書により講義を進める。演習を取り入れる。小テストを行う。
準備学習	MyKonanに載せている資料を予習し、毎回の講義の復習を十分にすること。 宿題を自分で解くこと。
成績評価	毎回の講義に対する宿題の結果と小テスト(4回の予定)を総合して評価する。 これに合格しなかった人に期末試験を課す。
講義構成	第1回 2次元図形の変形 第2回 写像の固有値、固有ベクトル 第3回 連成系の基準振動(1)2次元写像の例

	第 4回 連成系の基準振動(2)基底の変換 第 5回 格子振動:n次元1次写像の例 第 6回 関数空間と微分写像 第 7回 波動方程式、編微分方程式の解 第 8回 逆写像とグリーンベクトル 第 9回 グリーン関数(1) 第10回 グリーン関数(2):ポアソン方程式 第11回 グリーン関数(3):境界値問題 第12回 積分写像とフーリエ変換 第13回 フーリエ変換の例(1)電気回路の応答 第14回 フーリエ変換の例(2)強制振動 第15回 試験
教科書	プリントを配布する。My KONANにpdfファイルとして公開する。
参考書・資料	入門線形代数 三宅敏恒著 培風館 物理のための応用数学(基礎演習シリーズ) 小野寺嘉孝 裳華房
担当者から一言	微分積分学、線形代数学、物理数学Ⅰ、Ⅱ、力学Ⅲを履修しておくこと。かなり高度な内容であるので、復習を充分に行い、毎回出題される宿題は必ず自分で解く事。

授業コード	21048		
授業科目名	製図学(前)		
担当者名	鞍谷文保(クラタニ フミヤス)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
講義の内容	製図は、機械や建設物などを製作するときに、設計者の意図を製作者へ伝達する手段・情報として極めて重要なものである。本講義では、日本工業規格(JIS)の製図規格に基づいた製図の基礎知識の習得を目的とする。		
到達目標	日本工業規格(JIS)の製図規格に基づいた簡単な図面を描くことができる。		
講義方法	講義と製図実習を組み合わせる。		
準備学習	図学(立体図形を平面図形として表現するための技法)の知識を身につけておく。		
成績評価	提出された製図課題、出席状況および試験により評価する。 出席(25%)、課題製図4回(40%)、試験(35%)		
講義構成	第1回 設計と製図 第2回 図面の構成と図面管理 第3回 基礎となる図法 第4回 図形の表し方(1)(課題製図1) 第5回 図形の表し方(2) 第6回 図形の表し方(3)(課題製図2) 第7回 寸法記入法(1) 第8回 寸法記入法(2)(課題製図3前半) 第9回 寸法記入法(3)(課題製図3後半) 第10回 寸法公差の表示法(1) 第11回 寸法公差の表示法(2) 第12回 表面性状の図示方法 第13回 主要な機械部品の図示法(1)(課題製図4前半) 第14回 主要な機械部品の図示法(2)(課題製図4後半) 第15回 試験		
教科書	「JISにもとづく標準製図法」大西 清 著(理工学社) 教科書の課題を製図するので、教科書は必須である。		
参考書・資料	特になし		
講義関連事項	課題の製図に必要な製図器材の購入については、第1回目の講義で説明する。		
担当者から一言	製図実習を行うので出席が必要である。課題製図の予定はシラバスから変更することがある。		

授業コード	21L21		
授業科目名	線形代数学（1クラス）		
担当者名	妻木孝治（ツマキ コウジ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜4限）、後期（木曜4限）
講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。		
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性及従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列		
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。		
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメルの公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験		
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著（学術図書出版社）		
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。		
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。		

授業コード	21L22		
授業科目名	線形代数学 (2クラス)		
担当者名	森井俊行(モリイ トシユキ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。		
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性と従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。		
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。また、講義中に問題を解いてもらうこともある。		
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメルの公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験		
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)		
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。		

担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。
---------	-----------------------------

授業コード	21J11		
授業科目名	線形代数学 I (1クラス)(前)		
担当者名	妻木孝治(ツマキ コウジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	物理学科1年次、学籍番号の下一桁が偶数 2年次以上は、いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。線形代数学Iでは、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。
到達目標	線形代数学Iでは、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメル公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。

担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。
---------	-----------------------------

授業コード	21J12		
授業科目名	線形代数学 I (2クラス)(前)		
担当者名	森井俊行(モリイ トシユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	物理学科1年次、学籍番号の下一桁が奇数 2年次以上は、いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。線形代数学Iでは、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。
到達目標	線形代数学Iでは、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメル公式を理解し、運用できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。また、講義中に問題を解いてもらうこともある。
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメル公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勤治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	21J21		
授業科目名	線形代数学Ⅱ(1クラス)(後)		
担当者名	妻木孝治(ツマキ コウジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	物理学科1年次、学籍番号の下一桁が偶数 2年次以上は、いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。線形代数学Ⅱでは、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	線形代数学Ⅱでは、ベクトルの1次独立性及び従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。
準備学習	基本的な行列の計算に習熟していることが前提となるため、線形代数学Iを履修していることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	第1回 ベクトルの演算と3重積

	第2回 直線と平面の方程式 第3回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第4回 1次独立なベクトルと行列の階数 第5回 ベクトル空間の基底と次元 第6回 線形写像と表現行列 第7回 固有値と固有ベクトル 第8回 行列の対角化 第9回 内積 第10回 正規直交基底 第11回 対称行列の対角化 第12回 2次曲線(1) 第13回 2次曲線(2) 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	21J22		
授業科目名	線形代数学Ⅱ(2クラス)(後)		
担当者名	森井俊行(モリイ トシユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	物理学科1年次、学籍番号の下一桁が奇数 2年次以上は、いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。線形代数学Ⅱでは、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	線形代数学Ⅱでは、ベクトルの1次独立性及び従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。また、講義中に問題を解いてもらうこともある。
準備学習	基本的な行列の計算に習熟していることが前提となるため、線形代数学Ⅰを履修していることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	第1回 ベクトルの演算と3重積 第2回 直線と平面の方程式 第3回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第4回 1次独立なベクトルと行列の階数 第5回 ベクトル空間の基底と次元 第6回 線形写像と表現行列 第7回 固有値と固有ベクトル 第8回 行列の対角化 第9回 内積 第10回 正規直交基底 第11回 対称行列の対角化 第12回 2次曲線(1) 第13回 2次曲線(2) 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。

担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。
---------	-----------------------------

授業コード	21034		
授業科目名	相対性理論（後）		
担当者名	松田卓也（マツダ タクヤ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	特殊相対性理論をできるだけ分かりやすく解説する。まずギリシャ時代の天文学から始まって、ガリレイ、ニュートンによる近代物理学の発展を概観する。相対性原理はニュートン力学でも成立することを述べる。つぎに光の波動説を説明し、マイケルソンとモーレーの実験を説明する。相対性原理と光速不変の原理から特殊相対性理論が導かれることを説明する。 講義では、式の使用を最小限にとどめ、ミンコフスキーの時空図を用いて、ローレンツ収縮、運動する物体の時計の遅れなどを、図的に説明する。ガレージのパラドックス、二台の宇宙船のパラドックス、双子のパラドックスを図を用いて解説する。		
到達目標	ミンコフスキー時空図を理解し、さまざまなパラドックスを理解すること。		
講義方法	主として板書で講義する。必要に応じて、インターネットを利用してビデオを示す。		
準備学習	できれば教科書の当該の部分を読んでおくこと。		
成績評価	期末試験は行わない。講義の最後の15-20分を用いて、毎回、小レポートを提出させる。レポートの内容は時によりちがうが、講義の感想、講義内容についての小テストなどである。毎回のレポートを採点して、その総計で成績とする。レポートの形式は、最低5行以上書くこと。それ以下は及第点を与えない。レポートは10点満点として、5行以上書いた場合6点以上を与える。点は10-6点の範囲で分布する。成績は100点換算を行って決める。平均点を8点とすると、8割の出席がないと及第点に達しないことに注意。		
講義構成	天動説から地動説へ。ガリレイの力学と相対性原理。ニュートン力学の成立。真の力と見かけの力。光の波動説とエーテル。マイケルソン・モーレーの実験と光速不変の原理。ローレンツ変換。ミンコフスキー時空と相対論の図的解釈。同時の相対性。運動物体のローレンツ収縮。ガレージのパラドックス。二台のロケットのパラドックス。双子のパラドックス。		
教科書	「なっとくする相対性理論」 松田卓也・二間瀬敏史著、講談社		
参考書・資料	「相対論の正しい間違え方」松田卓也、木下篤哉、丸善		

担当者から一言	相対性理論の複雑な式変形ではなく、力学の本質を理解することを主眼とする。
---------	--------------------------------------

授業コード	21049		
授業科目名	測量（集中）		
担当者名	桂 郁雄（カツラ イクオ）、林 慶一（ハヤシ ケイチ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
オフィスアワー	集中講義期間中		

講義の内容	測量とは、諸点の空間的位置関係を所定の方法と精度に従って取得・処理し、数値や図で表現することという。測量の対象は、単に地形にとどまらず、地中・水中・空中、さらに広義には地球外空間にまで及ぶ。また、空間的位置関係をもとに面積や体積などの評価を行うことも測量の一部である。測量の成果は国土の利用・開発・保全のための各種事業計画策定や、各種建設工事の計画・設計・施工に欠くことのできないものである。 講義では、測量に関する基礎理論の解説から始め、基礎技術の習得を目指す。できる限り実習を取り入れて、各種測量機器の取り扱いや測量成果の表し方を習得する。		
到達目標	測量士補に準じる知識と技能の習得を目指す。		
講義方法	講義のほかに測量作業の実習を行う。		
準備学習	特に必要はない。		
成績評価	試験、および講義中に適宜行う小テスト、実習を含む出席により評価する。		

講義構成	1. 測量概説 2. 地球の形・測量の基準 3. 地図投影法 4. 測量における誤差 5. 距離測量 6. 水準測量 7. 角測量 8. トラバース測量 9. 三角・三辺測量 10. 平板測量 11. 地形測量 12. 写真測量 13. GPS測量 14. (予備) 15. 試験
教科書	石井一郎・上浦正樹著「最新測量学 第2版」(森北出版、2005)2,730円
参考書・資料	大島太市著「測量学—基礎編,応用編」(共立出版, 1997)(本体3,800円) 細川吉春他共著「よくわかる測量実習」(コロナ社, 1998)(本体2,700円) 測量作業実習の説明書は配布する予定。
講義関連事項	数学、とくに立体幾何の知識、および空間把握のセンスが必要となる。そのほかには地球に関する知識、とくに測地学が関連する。
担当者から一言	試験対策にも実習に積極的に参加することが大事。
その他	関数電卓またはパソコンが必要となるので、持参すること。

授業コード	21051		
授業科目名	素粒子物理学（前）		
担当者名	梶野文義(カジノ フミヨシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	随時。授業終了後またはメールで相談時間の予約をしておくと確実です。 場所:15号館1階		

講義の内容	自然界にある全ての物質は基本的粒子である素粒子によって構成されている。素粒子物理学はこれらの素粒子の基本的な性質を明らかにし、物質とは何であるか、また宇宙はどのようにして始まったのかなどを解明する先端の学問である。 この講義では素粒子の理論と実験の基礎的な問題を取りあげ、その全体像を把握できるようにする。また現在最先端で行われている研究にもふれることにより、興味を喚起する。
到達目標	1) 素粒子の種類、構造、崩壊過程、相互作用について理解を深めること。 2) 素粒子の検出原理について理解を深めること。
講義方法	液晶プロジェクタによるプレゼンテーションを行い、講義資料を配布する。 関連する演習問題とレポート作成により理解を深める。
準備学習	特になし。
成績評価	試験、レポート、出席回数により総合的に判断する。
講義構成	第1回 原子論 第2回 原子と原子核の構造 第3回 粒子と反粒子 第4回 粒子性と波動性 第5回 パイオンと強い相互作用 第6回 ニュートリノと弱い相互作用 第7回 保存則と素粒子の分類 第8回 クォークとレプトンの対称性 第9回 いろいろな相互作用 第10回 統一理論 第11回 素粒子と宇宙 第12回 素粒子の検出原理

	第13回 素粒子実験 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	なし
参考書・資料	原康夫著「素粒子物理学」(裳華房) 武田暁著「素粒子」(裳華房) 戸塚洋二著「素粒子物理」(岩波書店) 坂井典佑著「素粒子物理学」(培風館) 原康夫著「素粒子の起源」(共立出版)

授業コード	21037		
授業科目名	電気・電子回路(前)		
担当者名	福田博也(フクダ ヒロヤ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	電気回路理論の基礎について講述する。最初に、直流回路におけるオームの法則、キルヒホッフの法則、直流の電力などについて説明する。次に、正弦波交流の取り扱いについて説明し、簡単な回路の解析法、回路の諸定理を紹介する。最後に基本的な電子回路についても述べる。
到達目標	電気・電子回路の基本的な原理と法則について、日常生活との関わりを通して理解できる。
講義方法	板書により、教科書の内容を中心に講義する。理解を深めるための資料を配布することもある。
準備学習	普段から、身の回りの「電気」「電子」に目を向けるようにして下さい。
成績評価	全授業回数の 2/3 以上に出席しなければ、期末試験を受験した場合でも「欠席(放棄)」となる。期末試験 60%、平常点 40% 程度の割合で総合的に評価する。平常点は、授業中に提出してもらう質問や意見、数回予定している演習問題などの内容をもとに評価する。
講義構成	・電流と電圧 ・直流回路の基本法則(オームの法則、キルヒホッフの法則) ・簡単な直流回路の解析(抵抗の直列・並列接続、ブリッジ回路) ・直流電力 ・正弦波交流回路の取り扱い(複素数表示、フェーザ表示、インピーダンス) ・簡単な交流回路の解析(インピーダンスの直列・並列接続) ・回路の諸定理(重ね合わせの理、テブナンの定理) ・交流電力 ・基本的な電子回路(ダイオード、トランジスタ、OPアンプ)
教科書	山口静夫著、「電気回路基礎入門」、コロナ社、2000、ISBN:4-339-00728-5
参考書・資料	授業中に適宜紹介・配布する。

担当者から一言	電気・電子回路は学問的に体系化されたもので、毎回の積み重ねが求められる授業科目です。身の回りの応用例などを交えながら話しますので、最後まで受講を続けて下さい。
---------	---

授業コード	21006		
授業科目名	電磁気学I（後）		
担当者名	市田正夫（イチダ マサオ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	電磁気学I、II、IIIは一連の科目であり、併せて物理学の基礎をなす重要な分野の一つである。電磁気学Iでは真空中の静電場において、電荷とクーロンの法則に始まり、電荷が作り出す静電場の満たすべき方程式としてガウスの法則を学ぶ。また導体がある場合の電場や電場のエネルギーについて学ぶ。
-------	--

到達目標	電磁気学の基礎として静電場を学び、電場や電位の概念について理解し、ガウスの法則などを用いて電場を具体的に計算できるようにする。
講義方法	板書とプロジェクターを併用して行う。 毎回、演習を行い、問題のレポート提出を課す。
準備学習	教科書や前もって用意する講義資料で予習をすること。また、宿題を自分で必ず解くこと。
成績評価	成績評価は期末試験の結果に小テスト、宿題、出席率を加味して行う。 欠席が3回を超えると単位取得はできない。
講義構成	第1回 電荷とクーロンの法則、電磁気の単位系 第2回 スカラー積、ベクトル積とその応用 第3回 電場 第4回 電気力線とガウスの法則 第5回 ガウスの法則の応用 第6回 電位 第7回 電場の渦無しの法則 第8回 電気双極子 第9回 静電誘導と電場 第10回 静電誘導の例(鏡像法) 第11回 キャパシターと静電容量 第12回 電場のエネルギー 第13回 導体に働く力 第14回 電磁気学I まとめ 第15回 試験
教科書	「電磁気学」中山正敏 著(裳華房 1986年)
参考書・資料	「基礎演習シリーズ 電磁気学」中山正敏 著(裳華房 1986年) 「電磁気学I」長岡洋介 著(岩波書店 1997年) 「例解 電磁気学演習」長岡洋介 他著(岩波書店 1997年) 「詳解 電磁気学演習」後藤憲一 他著(共立出版 1993年)
担当者から一言	電磁気学IIは、その後に続く電磁気学II、IIIの基礎になっています。十分に理解して修得すること。 ただし、暗記は禁物です。 そのために、講義の予習・復習を十分に行い、講義には必ず出席すること。また、宿題は毎回必ず自分で解いて提出すること。

授業コード	21007		
授業科目名	電磁気学II (前)		
担当者名	小堀裕己(コボリ ヒロミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	電磁気学Iでは、静電場、導体、誘電体について学んだが、電磁気学IIでは、定常電流、静磁場、磁性体について学ぶ。具体的には、オームの法則、ジュール熱、直流回路、ビオ・サバールの法則、アンペールの法則、ベクトルポテンシャル、ローレンツ力、磁性体と磁気モーメントの概念について学ぶ。
到達目標	定常電流のモデルを微視的な描像から構築し、オームの法則とジュール熱の関係を明らかにする。さらにその応用として、起電力、キルヒホッフの法則、RC回路について理解し、様々な直流回路の問題を単独で解く事ができるようにする。磁気のビオ・サバールの法則が、電気のクーロンの法則に対応する重要な法則である事を学び、その基本概念を理解する。ベクトルポテンシャルを用いて、ビオ・サバールの法則からアンペールの法則を導いて、2つの法則が等価である事を示し、ビオ・サバールの法則とアンペールの法則に関連した様々な問題を単独で解く事ができるようにする。磁場の発生は、磁極ではなく電流によるものと解釈し、磁束線にはわき出しも吸い込みもない事を表す磁場に関するガウスの法則を導き、その物理的意味を理解する。また、磁性体の磁場の発生を磁化電流を用いたモデルで説明できる事を示し、磁場と磁束密度および磁化の関係を理解する。
講義方法	毎回、小テストを行い、問題のレポートを宿題として提出。
準備学習	電磁気学IIは、電磁気学Iの基礎の上に成り立っている。したがって、電磁気学Iの復習は欠かせない。電磁気学IIの講義を受ける前に、電磁気学Iの復習をじゅうぶんにしておく事。また、電磁気学IIのそれぞれの講義を受ける前に、教科書で予習をしておく事が望ましい。とくに、それぞれの講義の後で2時間以上の復習をす

	る事。
成績評価	成績評価は、期末試験(60%~70%)、小テスト(20%~30%)、宿題+出席(5%~10%)を総合的に評価して行う。
講義構成	第1回 電磁気学Ⅰの復習 第2回 電流とオームの法則、電流密度と一般化されたオームの法則 第3回 電流の電子論、ジュール熱 第4回 電流と起電力、直流回路とキルヒホフの法則 第5回 RC回路、電荷保存則の微分形 第6回 磁石と磁場、ビオ・サバールの法則 第7回 磁場に関するガウスの法則、アンペールの法則 第8回 ベクトル・ポテンシャル 第9回 ローレンツ力、アンペールの力 第10回 磁気双極子と環状電流の磁気モーメント 第11回 磁性体と磁気モーメント 第12回 磁化と磁化電流、磁性体のアンペールの法則、E-B対応とE-H対応 第13回 接している2種類の磁性体と磁場、磁力線と磁束線 第14回 まとめと演習 第15回 試験
教科書	「電磁気学」中山正敏著(裳華房 1986年)
参考書・資料	「基礎演習シリーズ 電磁気学」中山正敏著(裳華房 1986年) 「電磁気学Ⅰ」長岡洋介著(岩波書店 1997年) 「例解電磁気学演習」長岡洋介他著(岩波書店 1997年) 「詳解電磁気学演習」後藤憲一他著(共立出版 1993年)
担当者から一言	講義の予習・復習をじゅうぶん行い、講義には必ず出席すること。 宿題は毎回必ず自分で解いて提出すること。 物理学は考える学問であり暗記科目ではない。 数式はその意味を理解すれば、憶えなくても自然に表すことができることに早く気づいてほしい。

授業コード	21032		
授業科目名	電磁気学Ⅲ（後）		
担当者名	小堀裕己（コボリ ヒロミ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	電磁気学Ⅰ、Ⅱでは、静電場、導体、誘電体、定常電流、静磁場、磁性体について学んだ。電磁気学Ⅲでは、電磁誘導、マクスウェルの方程式、電磁波について学ぶ。具体的には、ファラデーの電磁誘導の法則、ローレンツ力と誘導電場、相互誘導と自己誘導、過度電流、磁場のエネルギー、交流回路、アンペール・マクスウェルの法則、マクスウェルの方程式、真空中および物質中の電磁波とそのエネルギーについて学ぶ。
到達目標	時間的に変動する磁場中でのファラデーの電磁誘導の法則、相互誘導、自己誘導の概念を理解し、これらに関連した様々な問題を単独で解く事ができるようにする。また、電磁気学Ⅰで学んだコンデンサーに蓄えられる電場のエネルギーの概念の対比として、ソレノイドに蓄えられる磁場のエネルギーの概念を理解する。複素関数を用いた交流回路の解法を学び、様々な交流回路の問題を単独で解く事ができるようにする。アンペール・マクスウェルの法則を導き、変動する電場が仮想的な電流の役割をする事を学ぶ。電磁気学の集大成ともいべきマクスウェルの方程式：1)電場に関するガウスの法則、2)磁場に関するガウスの法則、3)ファラデーに電磁誘導の法則、4)アンペール・マクスウェルの法則、の積分系と微分形の物理的意味を理解し、その微分形から電磁波の解を導く事ができるようにする。また、電磁波のエネルギー、反射と透過、放射について、その基本概念を理解する。
講義方法	毎回、小テストを行い、問題のレポートを宿題として提出。
準備学習	電磁気学Ⅲは、電磁気学ⅠとⅡの基礎の上に成り立っている。したがって、電磁気学ⅠとⅡの復習は欠かせない。電磁気学Ⅲの講義を受ける前に、電磁気学ⅠとⅡの復習をじゅうぶんにしておく事。また、電磁気学Ⅲのそれぞれの講義を受ける前に、教科書で予習をしておく事が望ましい。とくに、それぞれの講義の後で2時間以上の復習をする事。
成績評価	成績評価は、期末試験(60%~70%)、小テスト(20%~30%)、宿題+出席(5%~10%)を総合的に評価して行う。
講義構成	第1回 電磁気学Ⅰの復習

	第2回 電磁気学Ⅱの復習 第3回 ファラデーの電磁誘導の法則、ローレンツ力と誘導電場 第4回 相互誘導と自己誘導 第5回 過渡電流:LR回路、電流のエネルギーと磁場のエネルギー 第6回 交流回路 第7回 交流回路の共鳴と電気振動 第8回 アンペール・マクスウェルの法則 第9回 マクスウェルの方程式 第10回 真空中の電磁波 第11回 平面波と余弦電磁波 第12回 物質中の電磁波、電磁波のエネルギー 第13回 電磁波の反射と透過 第14回 電磁波の放射、物質中の電磁波の物理量の関係 第15回 試験
教科書	「電磁気学」中山正敏著(裳華房 1986年)
参考書・資料	「基礎演習シリーズ 電磁気学」中山正敏著(裳華房 1986年) 「電磁気学Ⅰ」長岡洋介著(岩波書店 1982年) 「電磁気学Ⅱ」長岡洋介著(岩波書店 1983年) 「例解電磁気学演習」長岡洋介他著(岩波書店 1997年) 「詳解電磁気学演習」後藤憲一他著(共立出版 1993年)
担当者から一言	講義の予習・復習をじゅうぶん行い、講義には必ず出席すること。 宿題は毎回必ず自分で解いて提出すること。 物理学は考える学問であり暗記科目ではない。 数式はその意味を理解すれば、憶えなくても自然に表すことができることに早く気づいてほしい。

授業コード	21008		
授業科目名	統計力学I(前)		
担当者名	富永 望(トミナガ ノゾム)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	随時たずねてきてください。		

講義の内容	私たちの目に見えるマクロな物質の世界で起こる現象は、ミクロな粒子の運動によるものですが、その運動は解くことの不可能なほど無限に近い数の結合方程式で表されます。古典統計力学でも量子統計力学で同じですが、この学問は解くことが不可能な、しかし我々の目に見える物理現象を、手品のように扱ってくれる方法で、大変興味深く、学んで気持ちのよくなる学問です。物理の領域で仕事をする人、その他の分野でも何か新しいアイデアを出そうとする人には欠かせない方法論です。「統計力学Ⅰ」では統計力学の考え方から始めて、エントロピーを初めとする色々な熱力学関数やボルツマン分布を理解してゆきます。量子統計力学への準備をします。
到達目標	統計力学の原理を理解し、統計力学を用いて様々な物理現象を自分で理解する力をつけることを目標とします。
講義方法	板書しながら講義を行います。式がたくさん出てきますが、しっかりノートをとって、自分で手を動かして自分のノートを作ってください。漫然とノートをとっているだけでは理解することはできないので、問題を自分で解く習慣をつけ自習を行ってください。
準備学習	微積分は必須です。力学・電磁気学・熱力学を理解していることを前提とします。
成績評価	中間試験、期末試験を行います。期末試験を受けなかったものは欠席とします。
講義構成	1) 統計力学の考え方 2) 等確率の原理とエントロピー 3) 自由粒子の量子力学 4) 理想気体のエントロピー 5) 中間テストと討論 6) カノニカル分布 7) 自由エネルギー 8) 分配関数とその応用 9) 熱力学の諸関係式 10) 中間テスト

	11) 古典統計力学近似 12) 古典統計力学の応用 13) エネルギー等分配の法則 14) 不完全気体について 15) 期末テスト
教科書	岩波基礎物理学シリーズ(7)、長岡洋介著「統計力学」
参考書・資料	大学演習 熱学・統計力学(久保 亮五・裳華房)
担当者から一言	わからないことなどあれば遠慮なく訪ねてきてください。

授業コード	21038		
授業科目名	統計力学Ⅱ(後)		
担当者名	富永 望(トミナガ ノゾム)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	随時訪ねてきてください。		

講義の内容	私たちの目に見えるマクロな物質はミクロな粒子が集まってできていて、その運動は解くことの不可能な無限に近い数の結合方程式で表されます。古典統計力学でも量子統計力学でもそれは、解くことが不可能な物理系に関して、我々の目に見えるもの、つまり、観測可能な量を手品のように導き出してくれる方法で、大変興味深く、学んで気持ちのよくなる学問です。物理の領域で仕事をする人、その他の分野でも何か新しいアイデアを出そうとする人には欠かせない方法論です。「統計力学 I」に引き続いて、物質のミクロな構造をより強く意識した理論の基礎を学び、具体的な応用に結びつくよう学んでゆきます。
到達目標	統計力学の原理を理解し、統計力学を用いて様々な物理現象を自分で理解する力をつけることを目標とします。
講義方法	板書しながら講義を行います。式がたくさん出てきますが、しっかりノートをとって、自分で手を動かして自分のノートを作ってください。漫然とノートをとっているだけでは理解することはできないので、問題を自分で解く習慣をつけ自習を行ってください。
準備学習	微積分は必須です。力学・電磁気学・熱力学・統計力学I・量子力学Iを理解していることを前提とします。
成績評価	中間試験、期末試験を行います。期末試験を受けなかったものは欠席とします。
講義構成	1) 量子論と古典論(位相空間と量子化) 2) 古典統計力学と応用(分配関数の計算、一次元気体) 3) 古典統計力学と応用(エネルギー等分配則) 4) 古典統計力学と応用(不完全気体) 5) 低温と量子効果(エントロピー、自由度の凍結) 6) 低温と量子効果(空洞放射) 7) 低温と量子効果(固体の比熱) 8) 化学ポテンシャル(開いた系の統計力学) 9) 化学ポテンシャル(化学平衡) 10) フェルミ粒子とボーズ粒子 11) フェルミ統計とボーズ統計(大きな分配関数) 12) フェルミ統計とボーズ統計(さまざまな性質) 13) 相転移 14) 予備 15) 試験
教科書	岩波基礎物理学シリーズ(7)、長岡洋介著「統計力学」
参考書・資料	大学演習 熱学・統計力学(久保 亮五・裳華房)
担当者から一言	わからないことなどあれば遠慮なく訪ねてきてください。

授業コード	21033
-------	-------

授業科目名	熱力学 (前)		
担当者名	梅津郁朗(ウメヅ イクロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	随時。ただし、電子メールでアポイントメントを取るのが望ましい。簡単な質問なら電子メールによる質問も受け付ける。		

講義の内容	熱力学は熱、温度、エネルギー等を取り扱う物理学であり、我々の生活に密着している。例えば、やかんを火にかければお湯がわき、沸騰すれば気体になる。冷凍庫に水を入れれば氷ができる。氷は室温では融けるのに、なぜ電気の力で凍るのだろうか？これらのようにエネルギーによって物質の温度と形態が変化する事は当たり前のことであるが、よく考えると実に不思議である。 本講義ではこれらの熱現象を定量的に取り扱う手法を学び熱現象を理解する。熱力学は概念の理解も重要であるが応用範囲も広くエンジンなどの熱機関、冷暖房、半導体の結晶成長、化学反応等の議論に有用である。さらに地球環境問題を考える際のエネルギーの有効利用に対しても熱力学は有用な知見を与える。		
到達目標	カルノーサイクルの計算を通じて熱効率を理解する。 熱平衡、エントロピー、自由エネルギー等の熱力学的概念を養う。		
講義方法	通常の講義の合間に随時演習、小テストを行う。		
準備学習	教科書を熟読すること		
成績評価	中間テスト、レポート、期末テスト等を総合的に評価する。		
講義構成	第1回 熱力学とは 第2回 熱力学第1法則 :エネルギーの保存、内部エネルギー、比熱 第3回 :等温変化と断熱変化 第4回 熱力学第2法則 :熱機関と効率、カルノーサイクル 第5回 :第二種永久機関、熱力学的温度 第6回 演習問題 第7回 エントロピー :クラウジウスの不等式、エントロピー増大の原理 第8回 :エントロピーの変化、熱機関とエントロピー 第9回 演習問題 第10回 熱力学関数 :自由エネルギー、エンタルピー 第11回 :化学ポテンシャル、マクスウエルの関係式 第12回 相平衡 :相転移、化学平衡 第13回 結晶成長 第14回 演習問題		
教科書	「物理学講義 熱力学」松下貢著(裳華房2009年)		
参考書・資料	「熱力学」三宅哲著(裳華房 1992年) 「フェルミ熱力学」E. Fermi著、加藤正昭訳(三省堂 1973年) 「ゼロからの熱力学と統計力学」和達三樹他著(岩波書店 2008年) 「例題でわかる工業熱力学」平田哲夫他著(森北出版2008年) 「入門熱力学」小宮山宏著(培風館2005年)		

担当者から一言	熱力学はマクロな現象を取り扱っており、ミクロな事象には立ち入らない考え方に特徴があります。従って力学や電磁気と比べて取っつきにくい点がありますが、その考え方奥深く色々なところに応用できます。是非このマクロなものの見方を学んで下さい。
---------	--

授業コード	21056		
授業科目名	半導体デバイス(電子デバイス物理) (後)		
担当者名	梅津郁朗(ウメヅ イクロウ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限

特記事項	電子デバイス物理(2004年度以前の入学生用) 半導体デバイス(2005年度以降の入学生用)
オフィスアワー	随時
講義の内容	半導体デバイスは半導体という物質を用いた電子素子のことである。パソコンの中核的な部品として使用されるのはもちろんのこと太陽電池、発光ダイオード、各種センサーとして広い分野で使用されている。我々が毎日使用している電子機器(携帯電話、テレビ、CD等)のほぼすべてに、しかも膨大な数の半導体素子が使用されている。本講義では実際の半導体デバイスを題材としその構造と動作原理を物理学的な立場から解説する。半導体を例にとりて現代物理学を学ぶのが大きな目的である。
到達目標	物質としての半導体および半導体pn接合の整流特性、光電流、発光現象を理解することを目標とする。これにより、ダイオード、太陽電池、発光素子等の原理とその背景になる物理を理解する。
講義方法	伝統的な講義形態の他、アニメーションを用いた視覚的な講義を行う。このアニメーションはホームページ上に公開しているので各自自習用として使用してほしい。 またこの講義は単に机上の解説ではなく物理学実験I,IIの「半導体に関する実験」に則しておこなう。実験では不十分であった理論的な裏づけをおこなうのが特色である。
準備学習	http://kccn.konan-u.ac.jp/physics/semiconductor/ を良く見て内容を把握しておくこと
成績評価	レポート、中間テスト、定期試験による総合評価。
講義構成	第1回 半導体の結晶構造と結晶成長 第2回 半導体のバンド構造と不純物ドーピング 第31回 状態密度と有効質量 第4回 電子、正孔の統計分布 第5回 ドリフト電流と拡散電流 第6回 キャリアの注入と再結合 第7回 pn接合(1) 第8回 pn接合(2) 第9回 pn接合ダイオード 第10回 バイポーラトランジスタ 第11回 電界効果トランジスタ 第12回 光電気伝導と光起電力 第13回 太陽電池と発光ダイオード 第14回 論理回路 第15回 試験
教科書	小長井誠著 半導体物性 培風館(電子・情報工学講座8) { http://kccn.konan-u.ac.jp/physics/semiconductor/ } 物理学実験I, II 半導体に関する実験の実験指導書
参考書・資料	キッテル固体物理学入門 丸善 わかる半導体セミナー CQ出版社 伝田精一 半導体工学 森北出版 高橋清
担当者から一言	この分野はノーベル物理学賞を数多く出した分野です。また、半導体デバイスを勉強すると太陽電池のように環境問題に貢献できる可能性があります。
ホームページタイトル	半導体/電子デバイス物理
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/physics/semiconductor/

授業コード	21055		
授業科目名	光・量子エレクトロニクス(光エレクトロニクス) (後)		
担当者名	市田正夫(イチダ マサオ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	光エレクトロニクス(2004年度以前の入学生用) 光・量子エレクトロニクス(2005年度以降の入学生用)		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	2009年度のノーベル物理学賞は、光ファバーとGCDに関する研究について与えられた。これらは、本講義で扱う内容でもある。講義では光そのものの性質に始まり、光と物質との相互作用、レーザーの基礎、光の検出法や光の強度・偏光・波長の制御方法などについて学ぶ。さらに、これらを応用した測定技術や身の回りの機器についての理解を深める。
到達目標	光がもつ様々な性質を理解し、それを応用した測定技術や身の回りの機器についての理解を深める。
講義方法	毎回プリントを配り、それに従ってプロジェクターによるプレゼンテーションと板書により講義を行う。
準備学習	教科書を予習して下さい。
成績評価	基本的に成績評価は期末試験のみで行う。 途中でレポートを課し、その内容により成績を加味することもあります。
講義構成	第1回 光・量子エレクトロニクスとは 第2回 光の性質1: マクスウェルの方程式 第3回 光の性質2: 物質中での光 第4回 光の性質3: 干渉、回折、屈折 第5回 光と物質の相互作用: 光の吸収・放出 第6回 レーザーの原理: 誘導放出・反転分布 第7回 種々の光源: ランプ、LED、レーザー 第8回 半導体レーザー 第9回 光検出器 第10回 撮像装置 第11回 光導波路: 光ファイバーの原理 第12回 光の制御: 光変調法 第13回 光ディスクについて 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「光エレクトロニクス」神保孝志 編著 (オーム社 1997年)
参考書・資料	「光エレクトロニクス 基礎編」ヤリーブ 著 (丸善) 「光エレクトロニクス 展開編」ヤリーブ 著 (丸善) 「光エレクトロニクス入門」西原浩、裏升吾 共著 (コロナ社) 「光情報産業と先端技術」米津宏雄 著 (工学図書)
担当者から一言	出席はとらないつもりです。講義を受けたい人だけ出席して下さい。 雑談の場ではありませんので。

授業コード	21L11		
授業科目名	微分積分学 (1クラス)		
担当者名	渡邊 毅 (ワタナベ タケシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期 (金曜2限)、後期 (金曜2限)
講義の内容	力学・電磁気学などの専門教科を学ぶに当たって欠くことのできない微分・積分、およびそれらの応用を講義する。初等関数の微積分や級数展開などの手法を一変数関数から始め、多変数関数についてまで習熟することを目的とする		
到達目標	自然科学の基本である数学の基礎の復習		
講義方法	講義と演習を並行して行う。また授業内での小テストを予定している。		
準備学習	演習問題の復習		
成績評価	期末テスト		
講義構成	第1回 ガイダンス、連続関数 第2回 微分法 第3回 Taylorの定理 第4回 無限級数 第5回 関数の級数展開 第6回 無限小、不定形の極限 第7回 連続関数の積分 第8回 積分の諸性質		

	第9回 不定積分と原始関数 第10回 積分の計算 第11回 積分の定義の拡張 第12回 連続曲線の長さ 第13回 1階微分方程式 第14回 定数係数の2階線形微分方程式の解法 第15回 前期試験 第16回 前期の復習 第17回 2変数の関数、極限、連続① 第18回 2変数の関数、極限、連続② 第19回 微分法 第20回 高階偏導関数 第21回 Taylorの定理 第22回 極大、極小 第23回 陰関数とその応用 第24回 面積 第25回 二重積分① 第26回 二重積分② 第27回 重積分の計算 第28回 広義の重積分 第29回 重積分の応用 第30回 後期試験 演習構成 講義内容に対応させて、授業内で教科書の問題や課題を解く。
教科書	「理工系の微積分」石井恵一、田尾洋子 共編（学術図書出版社）
参考書・資料	「入門微分積分」三宅敏恒 著（培風館）
担当者から一言	実践的なテクニックはもちろんですが、一年間の講義を通して微積分の考え方を身に付け、専門科目の理解につなげていくことを心がけてください。演習問題をきちんと復習することをお願いします。

授業コード	21L12		
授業科目名	微分積分学（2クラス）		
担当者名	森井俊行(モリイ トシユキ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（金曜2限）、後期（金曜2限）
講義の内容	力学・電磁気学などの専門教科を学ぶに当たって欠くことのできない微分・積分、およびそれらの応用を講義する。初等関数の微積分や級数展開などの手法を1変数関数から始め、多変数関数についてまで習熟することを目的とする		
到達目標	前期では、1変数関数を扱う。関数の連続、極限の意味をきちんと理解し、1変数関数の微分および積分の計算に習熟すること。また、級数の収束、発散についてきちんと理解すること。さらに、1変数の簡単な常微分方程式が解けるようになること。 後期では、前期で学んだ1変数関数を拡張して多変数関数を扱う。多変数関数の偏微分、全微分概念を正しくつかみ、それらの計算に習熟すること。また、多変数関数の微分の応用にも習熟する。さらに、多変数関数の積分とその応用に習熟する。		
講義方法	講義と演習を並行して行う。また講義の進行の中で中間テスト(複数回)を行う。		
準備学習	高等学校で学んだ微分、積分の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に一通り教科書に目を通し、予習しておくことと授業の理解が進むであろう。		
成績評価	期末定期試験および中間試験の結果に加えて、普段の演習レポートも併せて評価する。		
講義構成	前期 第1回 ガイダンス、連続関数 第2回 微分法 第3回 Taylorの定理 第4回 無限級数		

	第5回 関数の級数展開 第6回 無限小、不定形の極限 第7回 不定積分 第8回 不定積分の計算法 (1) 第9回 不定積分の計算法 (2) 第10回 定積分 第11回 広義の積分 第12回 連続曲線の長さ 第13回 1階微分方程式 第14回 定数係数の2階線形微分方程式の解法 第15回 前期試験 後期 第16回 2変数関数、極限と連続 第17回 偏微分と全微分 第18回 全微分の幾何学的意味、合成関数の微分 第19回 高階微分、Taylor展開 第20回 極大・極小 (1) 第21回 極大・極小 (2) 第22回 陰関数とその応用 第23回 面積と2重積分 第24回 多重積分の計算法 (1) 第25回 多重積分の計算法 (2) 第26回 広義の多重積分 第27回 ガンマ関数、ベータ関数 第28回 多重積分の応用 (1) 体積、曲面積 第29回 多重積分の応用 (2) 質量、重心、慣性モーメント 第30回 後期試験 演習構成 講義内容に対応させて、授業内で教科書の問題や課題を解く。
教科書	「理工系の微積分」石井恵一、田尾洋子 共編（学術図書出版社）
参考書・資料	「入門微分積分」三宅敏恒 著（培風館）
担当者から一言	演習問題をきちんと手を動かして解くことによって、理解を深める努力をして欲しい。

授業コード	21F11		
授業科目名	微分積分学Ⅰ（1クラス）(前)		
担当者名	渡邊 毅(ワタナベ タケシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	物理学1年次、学籍番号の下一桁が偶数 2年次以上は、いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	力学・電磁気学などの専門教科を学ぶに当たって欠くことのできない微分・積分、およびそれらの応用を講義する。初等関数の微積分や級数展開などの手法を一変数関数から始め、多変数関数についてまで習熟することを目的とする。前期では主に一変数関数について扱い、内容は後期に続く。
到達目標	自然科学の基本である数学の基礎の習熟
講義方法	講義と演習を並行して行う。また授業内での小テストを予定している。
準備学習	演習問題の復習
成績評価	期末テスト
講義構成	第1回 ガイダンス、連続関数 第2回 微分法 第3回 Taylorの定理 第4回 無限級数

	第5回 関数の級数展開 第6回 無限小、不定形の極限 第7回 連続関数の積分 第8回 積分の諸性質 第9回 不定積分と原始関数 第10回 積分の計算 第11回 積分の定義の拡張 第12回 連続曲線の長さ 第13回 1階微分方程式 第14回 定数係数の2階線形微分方程式の解法 第15回 前期試験 演習構成 講義内容に対応させて、授業内で教科書の問題や課題を解く。
教科書	「理工系の微積分」石井恵一、田尾洋子 共編（学術図書出版社）
参考書・資料	「入門微分積分」三宅敏恒 著（培風館）
担当者から一言	実践的なテクニックはもちろんですが、講義を通して微積分の考え方を身に付け、専門科目の理解につなげていくことを心がけてください。演習問題をきちんと復習することをお願いします。

授業コード	21F12		
授業科目名	微分積分学Ⅰ（2クラス）(前)		
担当者名	森井俊行(モリイ トシユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	物理学1年次、学籍番号の下一桁が奇数 2年次以上は、いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	力学・電磁気学などの専門教科を学ぶに当たって欠くことのできない微分・積分、およびそれらの応用を講義する。初等関数の微積分や級数展開などの手法を1変数関数から始め、多変数関数についてまで習熟することを目的とする。前期では主に1変数関数について扱い、内容は後期に続く。
到達目標	微分積分学Ⅰでは1変数関数を扱う。関数の連続、極限の意味をきちんと理解し、1変数関数の微分および積分の計算に習熟すること。また、級数の収束、発散についてきちんと理解すること。さらに、1変数の簡単な常微分方程式が解けるようになること。
講義方法	講義と演習を並行して行う。また講義の進行の中で中間テスト(複数回)を行う。
準備学習	高等学校で学んだ微分、積分の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通し、予習しておくことと授業の理解が進むであろう。
成績評価	期末定期試験および中間試験の結果に加えて、普段の演習、レポート等も併せて評価する。
講義構成	第1回 ガイダンス、連続関数 第2回 微分法 第3回 Taylorの定理 第4回 無限級数 第5回 関数の級数展開 第6回 無限小、不定形の極限 第7回 不定積分 第8回 不定積分の計算法 (1) 第9回 不定積分の計算法 (2) 第10回 定積分 第11回 広義の積分 第12回 連続曲線の長さ 第13回 1階微分方程式 第14回 定数係数の2階線形微分方程式の解法 第15回 前期試験 演習構成

	講義内容に対応させて、授業内で教科書の問題や課題を解く。
教科書	「理工系の微積分」石井恵一、田尾洋子 共編（学術図書出版社）
参考書・資料	「入門微分積分」三宅敏恒 著（培風館）
担当者から一言	演習問題をきちんと手を動かして自分で解くことによって、理解を深める努力をして欲しい。

授業コード	21F21		
授業科目名	微分積分学Ⅱ（1クラス）（後）		
担当者名	渡邊 毅（ワタナベ タケシ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	物理学科1年次、学籍番号の下一桁が偶数 2年次以上は、いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	力学・電磁気学などの専門教科を学ぶに当たって欠くことのできない微分・積分、およびそれらの応用を講義する。初等関数の微積分や級数展開などの手法を一変数関数から始め、多変数関数についてまで習熟することを目的とする。後期では前期の内容に続き、主に多変数関数について扱う。
到達目標	自然科学の基礎である数学の基礎の演習
講義方法	講義と演習を並行して行う。また授業内での小テストを予定している。
準備学習	演習問題の復習
成績評価	期末テスト
講義構成	第1回 前期の復習 第2回 2変数の関数、極限、連続① 第3回 2変数の関数、極限、連続② 第4回 微分法 第5回 高階偏導関数 第6回 Taylorの定理 第7回 極大、極小 第8回 陰関数とその応用 第9回 面積 第10回 二重積分① 第11回 二重積分② 第12回 重積分の計算 第13回 広義の重積分 第14回 重積分の応用 第15回 後期試験 演習構成 講義内容に対応させて、授業内で教科書の問題や課題を解く。
教科書	「理工系の微積分」石井恵一、田尾洋子 共編（学術図書出版社）
参考書・資料	「入門微分積分」三宅敏恒 著（培風館）
担当者から一言	実践的なテクニックはもちろんですが、講義を通して微積分の考え方を身に付け、専門科目の理解につなげていくことを心がけてください。演習問題をきちんと復習することをお願いします。

授業コード	21F22		
授業科目名	微分積分学Ⅱ（2クラス）（後）		
担当者名	森井俊行（モリイ トシユキ）		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	物理学科1年次、学籍番号の下一桁が奇数 2年次以上は、いずれのクラスを履修してもよい		
講義の内容	力学・電磁気学などの専門教科を学ぶに当たって欠くことのできない微分・積分、およびそれらの応用を講義する。初等関数の微積分や級数展開などの手法を1変数関数から始め、多変数関数についてまで習熟することを目的とする。後期では前期の内容に続き、主に多変数関数について扱う。		
到達目標	微分積分学Ⅱでは、前期で学んだ1変数関数の微分積分学を拡張して多変数関数を扱う。多変数関数の偏微分、全微分の概念を正しくつかみ、それらの計算に習熟する。また、多変数関数の微分の応用にも習熟する。さらに、多変数関数の積分とその応用に習熟する。		
講義方法	講義と演習を並行して行う。また授業内での小テストを予定している。		
準備学習	1変数の微分積分学の基本について習熟しておくことが前提となるため、微分積分学Ⅰを履修していることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通し、予習しておくことと授業の理解が進むであろう。		
成績評価	期末定期試験および中間試験の結果に加えて、普段の演習、レポートも併せて評価する。		
講義構成	第1回 2変数関数、極限と連続 第2回 偏微分と全微分 第3回 全微分の幾何学的意味、合成関数の微分 第4回 高階微分、Taylor展開 第5回 極大・極小 (1) 第6回 極大・極小 (2) 第7回 陰関数とその応用 第8回 面積と2重積分 第9回 多重積分の計算法 (1) 第10回 多重積分の計算法 (2) 第11回 広義の多重積分 第12回 ガンマ関数、ベータ関数 第13回 多重積分の応用 (1) 体積、曲面積 第14回 多重積分の応用 (2) 質量、重心、慣性モーメント 第15回 後期試験 演習構成 講義内容に対応させて、授業内で教科書の問題や課題を解く。		
教科書	「理工系の微積分」石井恵一、田尾洋子 共編（学術図書出版社）		
参考書・資料	「入門微分積分」三宅敏恒 著（培風館）		
担当者から一言	演習問題をきちんと手を動かして解くことによって、理解を深める努力をして欲しい。		

授業コード	21042		
授業科目名	物性物理学I (前)		
担当者名	水野健一（ミズノ ケンイチ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	物性とは、物質の物理的性質、つまり、物質のもつ機械的、熱的、電気的、磁氣的、光学的性質をいう。これらの性質は巨視的な現象として捉えられるが、物質の構成要素は原子や分子であり、そこに存在する電子は量子として振舞い、重要な役割を演ずる。また、電子以外の新たな量子も導入しながら各物性を説明する。ここでは固体（主に結晶）を扱うので構成要素の配列の仕方、対称性などについても学ぶ。 本講義科目は「物性物理学Ⅱ」と対をなす科目であり、内容はそれと二分され、本講義科目は前半部分に当たる。
到達目標	物の諸性質が、何に起因しているか、その時にどんな概念が導入されたかなど、それらの考え方を身につけることを目標とする。それらは構成要素の配列の仕方とも関連している。
講義方法	授業では教科書を指定し、その中の図を用いて説明することが多いのでプロジェクターと板書を併用する。従って、各自、教科書を持参すること。

準備学習	物性物理学における対象は無数に近い原子や分子で構成された固体であるので、統計物理学の概念が必要であり、そこでの量子の振る舞いを記述するためには量子力学的概念と取扱を知っておく必要がある。従って、統計力学と量子力学を並行履修することが必要です
成績評価	出来るだけ章毎に宿題を出し、次週にレポートの提出を求める予定である。 成績評価はレポート(20%)と期末試験(80%)による。
講義構成	第1回～第3回 はじめに、結晶構造と周期性 第4回～第5回 k空間 第6回～第7回 量子力学の基礎知識と取扱い方 第8回～第9回 固体の結合 第10回～第11回 格子振動 第12回～第14回 格子比熱と熱伝導 第15回 試験
教科書	著名:「固体物理学」(工学のために) 著者:岡崎 誠 出版社:裳華房 ISBN 978-4-7853-2214-4 C3042 定価:3,200E(本体3200円+税)
参考書・資料	「固体物理学 新世紀物質科学への基礎」H. イバツハ、H. リュート著、石井力、木村忠正訳(シュプリンガー) 「固体物理学入門」C. キッテル著、宇野良清他訳(丸善) 「物性論」黒沢達美著(裳華房)
講義関連事項	履修のための前提条件: 力学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ、電磁気学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ、熱力学、原子物理学、物理数学などの科目を履修済みであることが前提である。量子力学、統計力学については並行履修すること。
担当者から一言	物理学は積み重ね構造を持つ学問です。更に、物性物理学は、上記「講義関連事項」で述べたように、多くの基礎科目の上に成り立つ学問なので、溜めずにその都度、理解する努力が必要です。

授業コード	21043		
授業科目名	物性物理学Ⅱ(後)		
担当者名	飯田 武(イイダ タケン)		
配当年度	3年度	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	本講義科目は「物性物理学Ⅰ」と対をなす科目であり、内容はそれと二分され、講義内容は後半部分で、固体結晶中の電子の振る舞いを中心に議論する。 固体結晶中の電子の振る舞いは量子力学とフェルミ統計によって記述される。講義では、初歩的な量子力学と統計力学の復習を兼ねて固体の自由電子論を学び、ついでバンド理論、電気伝導、光学的性質、超伝導などについて学ぶ。 物性物理学は、学部で学ぶ電磁気学、量子力学、統計力学などの格好の実践の場である。このような基本科目の総合的な理解が深まるよう、基本概念の相互関係を説明し、適宜復習をしながら講義を進めて行く。
到達目標	巨視的な物質の示す諸性質について、量子力学、統計力学などの基本概念をもちいて考え、説明できる。
講義方法	教科書を指定し、それに沿って講義を進める。教科書だけでは理解しにくい量子力学や統計力学の基本や、複雑な数式の展開などについてはプリントをもちいて説明する。理解を深めるために毎回演習問題を宿題とする。宿題は次の講義のときに提出すること。
準備学習	(1)物性物理学Ⅰを必ず履修しておくこと。また量子力学、統計力学を並行履修することが必要です。 (2)宿題の演習問題は必ず自分で考えること。その積み重ねが定期試験で合格点を取るための基本条件です。
成績評価	成績評価は定期試験で行なう。宿題提出状況も加味する。加味する方法は提出された宿題の内容をみて決める。
講義構成	第1回～第3回 自由電子論 第4回～第6回 エネルギーバンド、バンド理論の応用 第7回～第8回 電気伝導 第9回～第11回 物質の光学的性質 第12回～第14回 超伝導 第15回 試験

教科書	物性物理学Iと同じ教科書を用いる。 著名:「固体物理学」(工学のために) 著者:岡崎 誠 出版社:裳華房
参考書・資料	「固体物理学 新世紀物質科学への基礎」H. イバツハ, H. リュート著, 石井力, 木村忠正訳(シュプリンガー) 「固体物理学入門」C. キッテル著, 中野良清他訳(丸善)
講義関連事項	履修のための前提条件: 力学I, II, III, 電磁気学I, II, III, 熱力学, 原子物理学, 物理数学などの科目を履修済みであること。量子力学, 統計力学を並行履修すること。
担当者から一言	物性物理学は, 物理の個々の基本概念の理解を深めると同時に相互の関係を理解する格好の場です。張り切って挑戦してください。

授業コード	21010		
授業科目名	物理学実験I(後)		
担当者名	梅津郁朗(ウメヅ イクロウ)、山県民穂(ヤマガタ タミオ)、梶野文義(カジノ フミヨシ)、青木珠緒(アオキ タマオ)、市田正夫(イチダ マサオ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
オフィスアワー	随時(事前に確認のこと。)		

講義の内容	物理学・応用物理学のいくつかの基本的な課題について実験を行う。物理学実験 I と物理学実験 II は連続して1年にわたり履修することを前提としている。実験は受講生を6組に分け、それぞれの組は1年を6期に分け「組別一期別表」により行う。1期の実験期間は4週間前後であり、本実験日の初回に日程を提示する。各期の実験は「実験題目表」に示す実験題目を指定の実験室で、各担当者の指示に従って行い、実験報告書を指定日までに作成し提出しなければならない。実験報告書を提出しない場合は当該実験は無効になるので注意すること。
到達目標	物理学の分野におけるいくつかの基本的な課題について実験を行っていく。到達目標は、本格的な実験を行っていく際に必要な実験技術、データの解析方法、結果のまとめ方等を習得し、最終学年で行う卒業研究に繋げることである。
講義方法	実験は、電子物性、分光、電子回路、光デバイス、半導体、素粒子の検出の6題目についておこなう。受講生は6組に分かれ、6実験題目うちの3題目について実験をおこなう。1つの題目は4回の授業で終了する。題目ごとに実験の方法、レポートの作成・提出方法などについて指導教員の指導を受ける。ここでおこなわなかった3題目については、物理学実験 II で実験する。
準備学習	特になし。
成績評価	実験内容の理解度、実験態度、実験報告書などによって評価を行う。
講義構成	組別一期別表(記号A~Fは実験題目表を参照) 1期 第1組/A 第2組/B 第3組/C 第4組/D 第5組/E 第6組/F 2期 第1組/B 第2組/C 第3組/A 第4組/E 第5組/F 第6組/D 3期 第1組/C 第2組/A 第3組/B 第4組/F 第5組/D 第6組/E 実験題目表 A 実験内容/電子物性に関する実験(導電率、誘電率、透磁率測定など) 実験室/P-310(7号館) 担当者/山崎 B 実験内容/分光に関する実験(光電効果、感度補正等) 実験室/P-406(7号館) 担当者/水野 C 実験内容/電子回路に関する実験(CR回路, LCR回路等) 実験室/P-418(7号館)

	担当者/山県 D 実験内容/光デバイスに関する実験(PCを用いた自動計測等) 実験室/P-313(7号館) 担当者/安藤 E 実験内容/半導体に関する実験(ダイオード、太陽電池など) 実験室/P-305(7号館) 担当者/梅津 F 実験内容/素粒子の検出に関する実験(宇宙線ミューオン、γ、β線の検出など) 実験室/15-102B(15号館) 担当者/梶野
教科書	実験の指導書を配布する。

授業コード	21A11		
授業科目名	物理学実験Ⅱ（1クラス）(前)		
担当者名	杉村 陽(スギムラ アキラ)、水野健一(ミズノ ケンイチ)、秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)、安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、小堀裕己(コボリ ヒロミ)、山本常夏(ヤマモト トコナツ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	物理学3年次で新規に履修するもの 再履修者は、いずれのクラスを履修してもよい		
オフィスアワー	随時(事前に確認のこと。)		

講義の内容	物理学・応用物理学のいくつかの基本的な課題について実験を行う。物理学実験Ⅰと物理学実験Ⅱは各々半年間の科目であり、合計で1年にわたり履修することを前提としている。実験は受講生を6組に分け、それぞれの組は1年を6期に分け「組別一期別表」により行う。1期の実験期間は4週間前後であり、本実験日の初回に日程は指示する。各期の実験は「実験題目表」に示す実験題目を指定の実験室で、各担当者の指示に従って行い、実験報告書を指定日までに作成し提出しなければならない。実験報告書を提出しない場合は当該実験は無効になるので注意すること。
到達目標	物理学の分野におけるいくつかの基本的な課題について実験を行っていく。到達目標は、本格的な実験を行っていく際に必要な実験技術、データの解析方法、結果のまとめ方等を習得し、最終学年で行う卒業研究に繋げることである。
講義方法	実験は、光学、分光、電子回路、光デバイス、半導体、素粒子の検出の6題目についておこなう。受講生は6組に分かれ、6実験題目うち物理学実験Ⅰでおこなわなかった3題目について実験をおこなう。1つの題目は4回の授業で終了する。題目ごとに実験の方法、レポートの作成・提出方法などについて指導教員の指導を受ける。
準備学習	特になし。
成績評価	実験内容の理解度、実験態度、実験報告書などによって評価を行う。
講義構成	組別一期別表(記号A～Fは実験題目表を参照) 4期 第1組/D 第2組/E 第3組/F 第4組/A 第5組/B 第6組/C 5期 第1組/E 第2組/F 第3組/D 第4組/B 第5組/C 第6組/A 6期 第1組/F 第2組/D 第3組/E 第4組/C 第5組/A 第6組/B 実験題目表 A 実験内容/電子物性に関する実験(導電率、誘電率、透磁率測定など) 実験室/P-310(7号館) 担当者/小堀 B 実験内容/分光に関する実験(光電効果など) 実験室/P-406(7号館) 担当者/青木

	C 実験内容/電子回路に関する実験(CR回路, LCR回路など) 実験室/P-205(7号館) 担当者/秋宗 D 実験内容/光デバイスに関する実験(PCを用いた自動計測など) 実験室/P-313(7号館) 担当者/市田 E 実験内容/半導体に関する実験(ダイオード、太陽電池など) 実験室/P-306(7号館) 担当者/杉村 F 実験内容/素粒子の検出に関する実験(宇宙線ミュオン、γ、β線の検出など) 実験室/15-102B(15号館) 担当者/山本
教科書	実験の指導書を配布する。

授業コード	21A12		
授業科目名	物理学実験II(2クラス)(後)		
担当者名	梅津郁朗(ウメヅ イクロウ)、山県民穂(ヤマガタ タミオ)、梶野文義(カジノ フミヨシ)、青木珠緒(アオキ タマオ)、市田正夫(イチダ マサオ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	再履修者は、いずれのクラスを履修してもよい		
オフィスアワー	随時(事前に確認のこと。)		

講義の内容	物理学・応用物理学のいくつかの基本的な課題について実験を行う。物理学実験Ⅰと物理学実験Ⅱは連続して1年にわたり履修することを前提としている。実験は受講生を6組に分け、それぞれの組は1年を6期に分け「組別一期別表」により行う。1期の実験期間は4週間前後であり、本実験日の初回に日程を提示する。各期の実験は「実験題目表」に示す実験題目を指定の実験室で、各担当者の指示に従って行い、実験報告書を指定日までに作成し提出しなければならない。実験報告書を提出しない場合は当該実験は無効になるので注意すること。
到達目標	物理学の分野におけるいくつかの基本的な課題について実験を行っていく。到達目標は、本格的な実験を行っていく際に必要な実験技術、データの解析方法、結果のまとめ方等を習得し、最終学年で行う卒業研究に繋げることである。
講義方法	実験は、電子物性、分光、電子回路、光デバイス、半導体、素粒子の検出の6題目についておこなう。受講生は6組に分かれ、6実験題目うちの3題目について実験をおこなう。1つの題目は4回の授業で終了する。題目ごとに実験の方法、レポートの作成・提出方法などについて指導教員の指導を受ける。ここでおこなわなかった3題目については、物理学実験Ⅱで実験する。
準備学習	特になし。
成績評価	実験内容の理解度、実験態度、実験報告書などによって評価を行う。
講義構成	組別一期別表(記号A~Fは実験題目表を参照) 1期 第1組/A 第2組/B 第3組/C 第4組/D 第5組/E 第6組/F 2期 第1組/B 第2組/C 第3組/A 第4組/E 第5組/F 第6組/D 3期 第1組/C 第2組/A 第3組/B 第4組/F 第5組/D 第6組/E 実験題目表 A 実験内容/電子物性に関する実験(導電率、誘電率、透磁率測定など) 実験室/P-310(7号館) 担当者/山崎 B 実験内容/分光に関する実験(光電効果、感度補正等) 実験室/P-406(7号館)

	担当者/水野 C 実験内容/電子回路に関する実験(CR回路, LCR回路等) 実験室/P-418(7号館) 担当者/山県 D 実験内容/光デバイスに関する実験(PCを用いた自動計測等) 実験室/P-313(7号館) 担当者/安藤 E 実験内容/半導体に関する実験(ダイオード、太陽電池など) 実験室/P-305(7号館) 担当者/梅津 F 実験内容/素粒子の検出に関する実験(宇宙線ミュオン、γ、β線の検出など) 実験室/15-102B(15号館) 担当者/梶野
教科書	実験の指導書を配布する。

授業コード	21059		
授業科目名	物理学卒業研究(A)		
担当者名	安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、水野健一(ミズノ ケンイチ)、山県民穂(ヤマガタ タミオ)、杉村 陽(スギムラ アキラ)、梶野文義(カジノ フミヨシ)、宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)、梅津郁朗(ウメヅ イクロウ)、青木珠緒(アオキ タマオ)、秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)、市田正夫(イチダ マサオ)、小堀裕己(コボリ ヒロミ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)、須佐 元(スサ ハジメ)、山本常夏(ヤマモト トコナツ)、村木 綏(ムラキ ヤスシ)、富永 望(トミナガ ノゾム)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限 木曜5限 金曜4限 金曜5限)、 後期(木曜4限 木曜5限 金曜4限 金曜5限)

講義の内容	分属した研究室において、特定のテーマについて教員の指導を受けながら1年間にわたり研究を行う。研究計画の企画・立案、実験装置の設計・製作、試料・文献収集、実験技術の習得、実験データ収集・解析等、研究の進め方を修得しつつ与えられたテーマの解決をはかる。 各研究室での担当教員と具体的な実験及び演習の概略はおおよそ、次のとおりである。 理論研究室(須佐元、富永望) 物理学の理論的諸問題から、トピックスを選んで講究する。理論物理学(宇宙物理学、力学系、相対性理論)に関する専門書を輪読する。研究テーマは学生の自主的選択によるが、特に希望する学生に対しては、研究室の課題と関連したコンピュータシミュレーション等によるテーマを与える。 原子核研究室(山県民穂、宇都宮弘章、秋宗秀俊) 有限多体系としての原子核、特に極端に不安定な原子核の構造と元素の起源に関する天体核反応の研究を行う。工学・化学・生物学・医学等の分野で応用されている放射線計測技術を学ぶ。原子核、天体核、放射線に関する専門書の輪読。甲南大学、大阪大学核物理研、電子総合技術研、筑波大学、SPRING8などでの原子核実験、放射線計測、電子回路とデータ収集、モンテカルロシミュレーション。 宇宙粒子研究室(梶野文義、村木綏、山本常夏) 宇宙ステーションに搭載予定のEUSO望遠鏡の研究開発、甲南大学空気シャワーアレーやアルゼンチン・オージェ装置による宇宙現象、雷現象の観測とデータ解析、各種放射線測定器を用いた宇宙線の観測、ニュージーランドに設置されたMOA望遠鏡で観測されたマゼラン雲の星の解析。及び、宇宙線及び宇宙物理の専門書の輪読。 半導体物性研究室(杉村陽、梅津郁朗) ナノメートルスケールの量子構造をもった半導体及び非晶質半導体のような複雑系で生じる物理現象を解明するために光学実験、電子輸送実験、シミュレーションを行う。また、関連した専門書の輪読を行う。 電子物性研究室(小堀裕己、山崎篤志) 主に、強相関物質、強磁性体、強誘電体、半導体に関する量子輸送現象、ナノサイズ効果、強磁性、強誘電
-------	---

	性、電子構造を調べる。そのために低温下での電子輸送測定、磁気輸送測定や放射光施設などを利用した光電子分光実験などを適宜行う。テーマに関連した専門書の輪読を行う。 光物性研究室(水野健一、青木珠緒) 物質の励起状態をいろいろな光学測定によって調べる。対象物質は分子性結晶およびその微粒子、生体物質など。試料作製、光学測定装置の構築や自動化、試料の光学測定などの課題に取り組む。 光・量子エレクトロニクス研究室(安藤弘明、市田正夫) 光論理・光記憶などの新しい光機能の創成を目的として、半導体における非線型光学現象を実験的に探究する。関連する基本知識の習得のため、専門書を輪読する。
到達目標	4年間の勉学の総仕上げが卒論です。 よい研究ができたという将来の人生の自信がつくよう一人一人が努力しましょう。
講義方法	担当教員が個別に指導する。
準備学習	3年後期の自然科学リサーチ、物理工学リサーチをきちんと習得していることが必要です。 そのほかに計算機関係の言語(C言語)の学習や講義、電気電子回路の講義を習得しておくことを強く推奨します。
成績評価	研究の推進状況、卒業論文、卒業研究発表会などにより総合的に評価する。 また出席が一定の条件を満たさない者には単位を与えない。
講義構成	卒業研究のテーマは各研究室から指示される。
教科書	卒業研究に必要な参考書は各研究室に用意されています。
講義関連事項	卒論の結果の発表は一人一人がみんなの前でやります。 従って同じ実験を2名でやる場合でも、それぞれ異なる評価がくだる場合があります。同僚にまかせではなく、一人一人がきちんとテーマを理解して、共同で実験や研究を熱心に進める必要があります。
その他	この講義を受講するためには、その前提として定められた単位を修得していなければならない。(物理学科専門科目表に付した注意事項を参照)

授業コード	21060		
授業科目名	物理学卒業研究(B)		
担当者名	安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、水野健一(ミズノ ケンイチ)、山県民穂(ヤマガタ タミオ)、杉村 陽(スギムラ アキラ)、梶野文義(カジノ フミヨシ)、宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)、梅津郁朗(ウメヅ イクロウ)、青木珠緒(アオキ タマオ)、秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)、市田正夫(イチダ マサオ)、小堀裕己(コボリ ヒロミ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)、須佐 元(スサ ハジメ)、山本常夏(ヤマモト トコナツ)、村木 綏(ムラキ ヤスシ)、富永 望(トミナガ ノゾム)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限 木曜5限)、後期(木曜4限 木曜5限)

講義の内容	分属した研究室において、特定のテーマについて教員の指導を受けながら1年間にわたり研究を行う。 研究計画の企画・立案、実験装置の設計・製作、試料・文献収集、実験技術の習得、実験データ収集・解析等、研究の進め方を修得しつつ与えられたテーマの解決をはかる。 各研究室での担当教員と具体的な実験及び演習の概略はおおよそ、次のとおりである。 理論研究室(須佐元、富永望) 物理学の理論的諸問題から、トピックスを選んで講究する。理論物理学(宇宙物理学、力学系、相対性理論)に関する 専門書を輪読する。研究テーマは学生の自主的選択による が、特に希望する学生に対しては、研究室の課題と関連したコンピュータシミュレーション等によるテーマを与える。 原子核研究室(山県民穂、宇都宮弘章、秋宗秀俊) 有限多体系としての原子核、特に極端に不安定な原子核の構造と元素の起源に関する天体核反応の研究を行う。工学・化学・生物学・医学等の分野で応用されている放射線計測技術を学ぶ。原子核、天体核、放射線に関する専門書の輪読。甲南大学、大阪大学核物理研、電子総合技術研、筑波大学、SPRING8などでの原子核実験、放射線計測、電子回路とデータ収集、モンテカルロシミュレーション。
-------	--

	宇宙粒子研究室(梶野文義、村木綏、山本常夏) 宇宙ステーションに搭載予定のEUSO望遠鏡の研究開発、甲南大学空気シャワーアレーやアルゼンチン・オージェ装置による宇宙現象、雷現象の観測とデータ解析、各種放射線測定器を用いた宇宙線の観測、ニュージーランドに設置されたMOA望遠鏡で観測されたマゼラン雲の星の解析。及び、宇宙線及び宇宙物理の専門書の輪読。 半導体物性研究室(杉村陽、梅津郁朗) ナノメートルスケールの量子構造をもった半導体及び非晶質半導体のような複雑系で生じる物理現象を解明するために光学実験、電子輸送実験、シミュレーションを行う。また、関連した専門書の輪読を行う。 電子物性研究室(小堀裕己、山崎篤志) 主に、強相関物質、強磁性体、強誘電体、半導体に関する量子輸送現象、ナノサイズ効果、強磁性、強誘電性、電子構造を調べる。そのために低温下での電子輸送測定、磁気輸送測定や放射光施設などを利用した光電子分光実験などを適宜行う。テーマに関連した専門書の輪読を行う。 光物性研究室(水野健一、青木珠緒) 物質の励起状態をいろいろな光学測定によって調べる。対象物質は分子性結晶およびその微粒子、生体物質など。試料作製、光学測定装置の構築や自動化、試料の光学測定などの課題に取り組む。 光・量子エレクトロニクス研究室(安藤弘明、市田正夫) 光論理・光記憶などの新しい光機能の創成を目的として、半導体における非線型光学現象を実験的に探究する。関連する基本知識の習得のため、専門書を輪読する。
到達目標	4年間の勉学の総仕上げが卒論です。 よい研究ができたという将来の人生の自信がつくよう一人一人が努力しましょう。
講義方法	担当教員が個別に指導する。
準備学習	3年後期の自然科学リサーチ、理工学リサーチをきちんと習得していることが必要です。 そのほかに計算機関係の言語(C言語)の学習や講義、電気電子回路の講義を習得しておくことを強く推奨します。
成績評価	研究の推進状況、卒業論文、卒業研究発表会などにより総合的に評価する。 また出席が一定の条件を満たさない者には単位を与えない。
講義構成	卒業研究のテーマは各研究室から指示される。
教科書	卒業研究に必要な参考書は各研究室に用意されています。
講義関連事項	卒論の結果の発表は一人一人がみんなの前でやります。 従って同じ実験を2名でやる場合でも、それぞれ異なる評価がくだる場合があります。同僚にまかせではなく、一人一人がきちんとテーマを理解して、共同で実験や研究を熱心に進める必要があります。
その他	この講義を受講するためには、その前提として定められた単位を修得していなければならない。(物理学科専門科目表に付した注意事項を参照)

授業コード	21K11		
授業科目名	物理学通論 (A)		
担当者名	岡部久高(オカベ ヒサタカ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)
特記事項	1年次		

講義の内容	物理学は、理工学系のさまざまな専門を学習するときに役立つ基礎的な学問の一つである。講義では、歴史的に早くから確立されている力学や電磁気学などの古典物理学の基礎・基本を中心に、可能な範囲で現代物理学の内容にも触れたい。これらは、今世紀のさらなる科学技術の進展に対処するのに必要な科学的素養を身につけるのに必要であろう。また、教職単位取得のための指定科目であることを考慮して、次代を担う中・高等学校
-------	---

	の生徒に理科の指導が適切に行えるよう、学校で扱われる現行の理科(物理)に対応した内容を重視する。
到達目標	21世紀の今日の科学技術について、常識的な知識やリテラシーを身に付けること。
講義方法	講義は、教科書によることのほかコンピュータによるデジタルコンテンツ(CGや実験映像)の提示などを併用して行う。物理学で扱われる方程式や数式はむしろそこで表現されている物理学的な内容の解釈に重点を置く。
準備学習	高校において物理学を履修した者は高校物理を、履修していない者は中学校理科の物理領域を復習しておくこと。 講義中は前の授業を踏まえて行うことが多いので、各講義後の復習は必須である。また、講義の理解のためには予習を行うことは重要である。
成績評価	評価は、主として定期試験の成績によって行う。
講義構成	前期の主な内容 (1)物理学とは (2)運動運動の法則と力の法則 (3)力と運動 (4)振動 (5)仕事とエネルギー (6)質点の角運動量と回転運動の法則 (7)見かけの力 後期で学習する主な内容は次の通りです。 応力・圧力、静止流体中の圧力、波動、光、熱、真空中の静電場、導体と静電場、電流、電流と磁場、電磁誘導、電磁波
教科書	「物理学基礎 第3版」原 康夫著 学術図書出版
参考書・資料	「シップマン自然科学入門 新物理学」 James T.Shipman 著 勝守寛 監訳 学術図書出版社
講義関連事項	毎回の講義では、教科書、ノートと筆記用具および関数電卓が必須である。 試験や課題の際には、関数電卓が必要である。 講義構成については、講義の進捗状況などにより変更することがある。
担当者から一言	指定した教科書は、講義の回数に比べて内容が豊富であり、少し程度も高い。 したがって、教科書をもとに講義をすすめるが、採り上げない項目や、やさしくするために付け加える内容があるなど必ずしも教科書とは一致しない。教科書中、授業で扱わない領域についても、将来、物理学の知識が必要となったときの参考にしてほしい。 講義は、前回で扱った知識や考え方をもとに進める場合が多いので、毎回出席をしてノートをとりながら聞いていないとついていけない。 予習、復習を必ず行ってほしい。

授業コード	21K12		
授業科目名	物理学通論 (B)		
担当者名	岡部久高(オカベ ヒサタカ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜2限)、後期(土曜2限)
特記事項	2年次以上		

講義の内容	物理学は、理工学系のさまざまな専門を学習するときに役立つ基礎的な学問の一つである。講義では、歴史的に早くから確立されている力学や電磁気学などの古典物理学の基礎・基本を中心に、可能な範囲で現代物理学の内容にも触れたい。これらは、今世紀のさらなる科学技術の進展に対処するのに必要な科学的素養を身につけるのに必要であろう。また、教職単位取得のための指定科目であることを考慮して、次代を担う中・高等学校の生徒に理科の指導が適切に行えるよう、学校で扱われる現行の理科(物理)に対応した内容を重視する。
到達目標	21世紀の今日の科学技術について、常識的な知識やリテラシーを身に付けること。
講義方法	講義は、教科書によることのほかコンピュータによるデジタルコンテンツ(CGや実験映像)の提示などを併用して行う。物理学で扱われる方程式や数式はむしろそこで表現されている物理学的な内容の解釈に重点を置く。
準備学習	高校において物理学を履修した者は高校物理を、履修していない者は中学校理科の物理領域を復習しておくこと。 講義中は前の授業を踏まえて行うことが多いので、各講義後の復習は必須である。また、講義の理解のためには予習を行うことは重要である。

成績評価	評価は、主として定期試験の成績によって行う。
講義構成	前期の主な内容 (1)物理学とは (2)運動運動の法則と力の法則 (3)力と運動 (4)振動 (5)仕事とエネルギー (6)質点の角運動量と回転運動の法則 (7)見かけの力 後期で学習する主な内容は次の通りです。 応力・圧力、静止流体中の圧力、波動、光、熱、真空中の静電場、導体と静電場、電流、電流と磁場、電磁誘導、電磁波
教科書	「物理学基礎 第3版」原 康夫著 学術図書出版
参考書・資料	「シッフマン自然科学入門 新物理学」 James T.Shipman 著 勝守寛 監訳 学術図書出版社
講義関連事項	毎回の講義では、教科書、ノートと筆記用具および関数電卓が必須である。 試験や小テストの際には、関数電卓が必要である。 講義構成については、講義の進捗状況などにより変更することがある。
担当者から一言	指定した教科書は、講義の回数に比べて内容が豊富であり、少し程度も高い。 したがって、教科書をもとに講義をすすめるが、採り上げない項目や、やさしくするために付け加える内容があるなど必ずしも教科書とは一致しない。教科書中、授業で扱わない領域についても、将来、物理学の知識が必要となったときの参考にしてほしい。 講義は、前回で扱った知識や考え方をもとに進める場合が多いので、毎回出席をしてノートを取りながら聞いていないとついていけない。 予習、復習を必ず行ってほしい。

授業コード	21065		
授業科目名	物理学リサーチ（後）		
担当者名	山県民穂（ヤマガタ タミオ）、水野健一（ミズノ ケンイチ）、杉村 陽（スギムラ アキラ）、梶野文義（カジノ フミヨシ）、宇都宮弘章（ウツノミヤ ヒロアキ）、梅津郁朗（ウメヅ イクロウ）、青木珠緒（アオキ タマオ）、秋宗秀俊（アキムネ ヒデトシ）、安藤弘明（アンドウ ヒロアキ）、市田正夫（イチダ マサオ）、小堀裕己（コボリ ヒロミ）、山崎篤志（ヤマサキ アツシ）、須佐 元（スサ ハジメ）、山本常夏（ヤマモト トコナツ）、村木 綏（ムラキ ヤスシ）、富永 望（トミナガ ノゾム）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	物理学卒業研究(A)、(B)の準備のための講義科目である。各研究室に分属、指導する。
到達目標	各研究室でどのような研究がなされているのか理解する。 4年の卒業論文作成のためにどのテーマを自分はやりたいか そのためにはどのような知識や技術が必要かを理解して準備する。
講義方法	講義担当者が個別に指導する。
準備学習	計算機関係の講義や電気電子回路の講義を習得しておく必要があります。
成績評価	科目修得の内容と報告書、等により総合的に評価する。 出席が一定の条件を満たさないものには単位を与えない。
講義構成	各研究室の指示による。
教科書	各研究室の指示による。

その他	この講義は原則として物理学卒業研究(A)、(B)を履修する学生を対象とする。
-----	--

授業コード	21057
-------	-------

授業科目名	物理工学リサーチ(創成科学リサーチ)(後)		
担当者名	安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、水野健一(ミズノ ケンイチ)、杉村 陽(スギムラ アキラ)、梅津郁朗(ウメヅ イクロウ)、青木珠緒(アオキ タマオ)、市田正夫(イチダ マサオ)、小堀裕己(コボリ ヒロミ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	物理学卒業研究(A)、(B)の準備のための講義科目である。各研究室に分属、指導する。
到達目標	各研究室でどのような研究がなされているのか理解する。 4年の卒業論文作成のためにどのテーマを自分はやりたいか そのためにはどのような知識や技術が必要かを理解して準備する。
講義方法	講義担当者が個別に指導する。
準備学習	各研究室の指示による。
成績評価	科目修得の内容と報告書、等により総合的に評価する。 出席が一定の条件を満たさないものには単位を与えない。
講義構成	各研究室の指示による。
教科書	各研究室の指示による。

その他	この講義は原則として物理学卒業研究(A)、(B)を履修する学生を対象とする。
-----	--

授業コード	21028		
授業科目名	物理数学I(前)		
担当者名	飯田 武(イイダ タケン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	数学は自然科学の「言語」のひとつであり、特に物理学では基本的に重要な役割を担っていることから、しっかりと学んでおくことが必要不可欠である。物理数学I、物理数学IIでは、物理学の様々な分野で用いられる数学の基本について講義し、力学や電磁気学などで学ぶ物理と直結した例題の解答と演習問題を通じて物理学の「言語」としての数学を学ぶ。 物理数学Iでは、「微分方程式」と「ベクトル解析」を講義する。「微分方程式」では、物理学で良く現れる1階および2階の微分方程式の解法、ついで「ベクトル解析」では、ベクトルの代数の復習と、スカラー量、ベクトル量に関する微分・積分について講義し、例題の解説を行なう。
到達目標	(1)物理学の「言語」のひとつである数学の基礎が理解でき、用いられている数学に惑わされることなく物理的な内容が理解できるようになる。 (2)さらに進んで物理的内容を数学を用いて表現できるようになる。
講義方法	講義は前もって配布されたプリントに沿って行なわれる。数学の基本と物理的な内容を出来るだけ丁寧に説明し、具体的な例題を解くことによって実践的な勘所を解説する。演習問題を自分で解いてみることによって理解を深めるように、毎回演習問題を宿題とする。宿題は次の講義のときに毎回提出すること。
準備学習	(1)講義に出席しただけでは内容を理解することは不可能です。自ら問題に立ち向うことが重要です。 (2)前もって講義内容のプリントを配布するので予習をしておくこと。 (3)演習問題が解けることが定期試験で合格点を取るための基本的条件です。従って、宿題の演習問題を必ず自分で考えて解いてみること。 (4)宿題は毎回必ず提出すること。
成績評価	成績評価は定期試験で行なう。宿題提出状況も加味される。
講義構成	第1回～第4回 I. 微分方程式 1. 微分方程式: 変数分離型方程式, 同次方程式, 線形微分方程式, 完全微分 第5回～第7回 2. 2階微分方程式: 2階微分方程式, 斉次方程式, 非斉次方程式 第8回～第11回

	II.ベクトル解析 1. ベクトルの代数:スカラーとベクトル, ベクトルの加減, 乗法, ベクトルの座標表示 2. ベクトルの微分と積分:ベクトルの微分, ベクトルの積分 3. スカラー場とベクトル場:スカラー場の勾配, ベクトル場の発散, ベクトル場の回転 第12回～14回 3. スカラー場とベクトル場:線積分, 面積分, ベクトル場の積分定理 第15回:試験
教科書	プリントを用いる.
参考書・資料	「裳華房テキストシリーズ—物理学 物理数学」松下貢(裳華房2006年) 「解析学概論」矢野健太郎, 石原 繁(裳華房1989年)
担当者から一言	ぜひ積極的に取り組んで何時間でも考える習慣を身に付けてください. 物理や数学で身に着けた「忍耐力や思考のスタミナ」は社会に出てから大いに役に立ちます.

授業コード	21029		
授業科目名	物理数学II(後)		
担当者名	飯田 武(イイダ タケシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	物理数学IIでは, 物理数学Iよりやや高度な数学の基本を学ぶ. 物理数学Iと同様に, 物理学の専門科目の学習に必要な不可欠な, 物理学の「言語」のひとつであることにはかわりはない. 物理数学IIでは, 「複素関数論」および「フーリエ解析」について講義する. 講義では, 厳密な数学的議論よりも, 基本的な考え方や物理への応用に重点をおく. さらに専門分野で学ぶ物理に直結した例題の解答ならびに演習問題を通じて, 物理学の「言語」としての数学を学ぶ. 「複素関数論」では特に正則関数の諸性質, 複素(経路)積分や正則関数の展開について, 「フーリエ解析」ではフーリエ級数, フーリエ変換について, 出来るだけ物理的現象と結びつけて講義し, 例題の解説を行なう.
到達目標	(1)物理学の「言語」のひとつである数学の基礎が理解でき, 用いられている数学に惑わされることなく物理的な内容が理解できるようになる. (2)さらに進んで物理的内容を数学を用いて表現できるようになる.
講義方法	講義は前もって配布されたプリントに沿って行なわれる. 数学の基本と物理的な内容を出来るだけ丁寧に説明し, 具体的な例題を解くことによって実践的な勘所を解説する. 演習問題を自分で解いてみることによって理解を深めるように, 毎回演習問題を宿題とする. 宿題は次の講義のときに毎回提出すること.
準備学習	(1)講義に出席しただけでは内容を理解することは不可能です. 自ら問題に立ち向かうことが重要です. (2)前もって講義内容のプリントを配布するので予習をしておくこと. (3)演習問題が解けることが定期試験で合格点を取るための基本的条件である. 従って, 宿題の演習問題を必ず自分で考えて解いてみる. (4)宿題は毎回必ず提出すること.
成績評価	成績評価は定期試験で行なう. 宿題提出状況も加味される
講義構成	第1回～第2回 I. 複素関数論 1. 複素関数:複素数とz平面, 初等複素関数 第3回～第5回 2. 正則関数:極限と連続性, 正則関数, コーシー・リーマンの方程式 第6回～第9回 3. 複素積分:複素積分, コーシーの定理, コーシーの積分表示, 極と留数, 留数の計算と積分への応用 第10回 4. 複素関数の展開:テイラー展開とローラン展開 第11回～13回 II. フーリエ解析 1. フーリエ級数とフーリエ変換:1次元の場合, 2次元, 3次元の場合, フーリエ変換の性質と具体例 第14回

	2. フーリエ変換の物理学への応用: 時間不変な系のフーリエ変換と種々の系関数 第15回: 試験
教科書	プリントを用いる.
参考書・資料	「裳華房テキストシリーズ—物理学 物理数学」松下貢(裳華房2006年) 「解析学概論」矢野健太郎, 石原 繁(裳華房1989年)
担当者から一言	ぜひ積極的に取り組んで何時間でも考える習慣を身に付けてください. 物理や数学で身に着けた「忍耐力や思考のスタミナ」は社会に出てから大いに役に立ちます.

授業コード	21058		
授業科目名	ラボラトリー・フィジックス（後）		
担当者名	水野健一（ミズノ ケンイチ）、中村賢志（ナカムラ ケンシ）、戎 健男（エビス タケオ）、中川道夫（ナカガワ ミチオ）、神野賢一（カンノ ケンイチ）、金 大貴（キン テギ）		
配当年次	2年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限 火曜5限
特記事項	物理学科4年次・物理学科以外		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	物理学の基礎的概念の理解を深め、物理学実験法の基本を修得させるために本実験を行う。基礎的な実験器具・装置の取扱いの習熟、種々の物理量を求める方法および測定技術の修得、測定値から物理量を求めるデータ処理、誤差を考慮した結果に対する評価・検討などを行う。 実験内容は物理学の各分野にわたっており、物理学通論などで解説される。内容に関連する現象、使われる原理・方法などについてあらかじめ十分に調査・研究すること。実験題目の主なものは、ボルダの振子、メルデの実験、レンズの焦点距離、屈折率、ニュートンリング、回折格子、等電位線、電位差計、抵抗ブリッジ、誘電率、誤差などである。実験者の組によって異なるが、それらの内から10題目について実験を行う。
到達目標	基本原理が理解出来たか?そして変数の定量的な変化により確認できたか?
講義方法	1つの実験題目は実験とその報告会で構成され、2週にわたる。なお、実験の前には予め調べてきたことをまとめたプレ・レポートを作成し指導教員の指導を受ける。実験終了後、結果をまとめたポスト・レポートを作成し、プレ・レポートとあわせて提出する。報告会では実験内容について発表を行い、討論する。
準備学習	予め基本原理を理解し、装置を見ておくこと。
成績評価	(1)実験、(2)報告会での発表、(3)レポートの三項目の内容により評価する。ただし、8題目以上の実験題目をこなさなければ成績を評価しない。
講義構成	後期 実験者の組によって題目が異なる。一つの例をつぎに示す。 第1回 実験法1 第2回 実験法2: 測定法 実験1: ボルダの振子 第3回 実験1の報告会、実験2: 固体の比熱 第4回 実験2の報告会、実験3: 誤差 第5回 「誤差」のデータ処理指導 第6回 実験3の報告会、実験4: メルデの実験 第7回 実験4の報告会、実験5: 誘電率 第8回 実験5の報告会、実験6: 屈折率 第9回 実験6の報告会、実験7: 電位差計 第10回 実験7の報告会、実験8: 微分方程式 第11回 実験8の報告会、実験9: 回折格子 第12回 実験9の報告会、実験10: トランジスタとダイオード 第13回 実験10の報告会 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	ラボラトリー・フィジックス実験ガイド」甲南大学理工学部物理学科編 「物理学実験」吉川泰三編(学術図書出版社)
参考書・資料	「理科年表」国立天文台編(丸善)

担当者から一言	実験内容をよく理解してから実験すること。実験を休まず行い、レポートは期限に遅れず提出すること。
---------	---

授業コード	21002		
授業科目名	ラボラトリー・フィジックスⅠ(後)		
担当者名	山県民穂(ヤマガタ タミオ)、宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)、市田正夫(イチダ マサオ)、小堀裕己(コボリ ヒロミ)、村木 綏(ムラキ ヤスシ)、米澤 康(ヨネザワ ヤスシ)、菅 滋正(スガ シゲマサ)、中川道夫(ナカガワ ミチオ)、神野賢一(カンノ ケンイチ)、周敏にゆう(シュウ ミンニウウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	力学、電磁気、光学、波動、熱学等物理学全般にわたる項目について物理学基礎実験を行う。各実験が終了するごとに小グループに分かれて、OHPを用いて実験目的・理論・装置・実験結果について報告・討論を行う。教育目標は、実験の原理の理解、実験装置の準備、測定、測定値から目的の物理量を得ること、さらに結果を報告書に纏め、評価する基礎能力を養うことである。また、諸々の物理現象を体験して法則・理論の理解を容易にし、報告会においてプレゼンテーションと質疑討論の訓練をすることを目標としている。 このラボラトリー・フィジックスの実験題目の内容は、基礎物理学、力学(Ⅰ)、電磁気学(Ⅰ)、基礎光学などで解説される。既に学習している内容については、実験を通してより深く具体的に物理現象、物理量について理解できるようになることを期待している。一方、まだ学習していない内容については、講義に先だって自ら理論等を調べ、実際に実験によって物理現象を体験することになる。この場合、「体験」が理論的学習より先に行われるわけであるが、このようなことは、一人の人間の成長過程を考えてみるとむしろ自然である。すなわち、まず「体験」と「試行錯誤」があって「考えて」みて「理論」が生まれるわけである。このような点から、見慣れない実験装置に出会ったら、興味を湧かして装置の構造、動作のカラクリと原理を調べて、その実験に挑んで頂きたい。この結果、実験が面白くなり、ひいては物理学の講義を理解することも容易になるにちがいない。 この講義では担当教員が少人数の学生を指導するので講義期間中、実験内容のみならず物理学全般の学修について教員と身近に話しできる機会である。
到達目標	物理学の基礎概念の理解、実験装置の原理、その取扱、物理的考察の能力要請。レポート作成能力と発表の訓練。
講義方法	主な実験題目は、ボルダの振子、固体の比熱、気柱の共鳴、弦の振動、ヤング率、レンズの焦点距離、屈折率、ニュートンリング、回折格子、プリズム分光器、統計と誤差、等電位線、電位差計と電池の起電力、誘電率、RC回路と微分方程式、トランジスターとダイオード、磁場と透磁率などである。それらの中から5-6題目について実験を行う。 1つの題目は2回の(2週の)授業で終了する。ただし第1回目誤差の実験のみ3回の授業である。各実験第1週目では実験のプレ・レポートをあらかじめ作成し、実験の前日までに提出しておき、授業時間の始めに指導教員の指導を受け、実験を行う。実験が終了すれば規定の時間までに実験ノートに指導教員に示し、指導を受けて検印を受ける。終了した実験題目の実験について、ポスト・レポートを作成する。 2週目の授業日には実験結果についての報告会を行う。報告会では全員が実験の全般にわたる事柄を報告する。そして討論を行い、教員の指導を受ける。
準備学習	実験前にプレレポートを作成し、実験準備を行う。
成績評価	(1)プレ・レポートの内容、(2)実験実行の際の様子、(3)報告会での発表の内容、(4)ポスト・レポートの内容を評価する。ただし、履修した実験題目の数が4以上でなければ単位の認定は困難である。また、4以上の場合でも総合成績が良くなければ、単位の認定をしないことがある。
講義構成	第1回 ガイダンス 第2回 実験1:統計と誤差 第3回 データ処理指導 第4回 実験1の報告会 第5回 実験2:例えば 誘電率 第6回 実験2の報告会 第7回 実験3:例えば、ボルダの振り子 第8回 実験3の報告会 第9回 実験4:例えば 等電位線 第10回 実験4の報告会 第11回 実験5:例えば ニュートンリング 第12回 実験5の報告会 第13回 実験6:例えば レンズの焦点距離 第14回 実験6の報告会

	第15回 実験法講義
教科書	「ラボラトリー・フィジックス…実験ガイド…」(甲南大学理工学部物理学科編)
参考書・資料	「物理学実験」吉川泰三編(学術図書出版社 1996年) 「理科年表」国立天文台編(丸善)
担当者から一言	本科目は必修である。各実験については原理、装置の構造と各部分の機能をよく下調べをしてくる。そして、実験前に測定値または物理量間の相関関係を予想し、実験結果と比較すること。

授業コード	21003		
授業科目名	ラボラトリー・フィジックス II (前)		
担当者名	山県民穂(ヤマガタ タミオ)、宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)、梅津郁朗(ウメヅ イクロウ)、青木珠緒(アオキ タマオ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)、山本常夏(ヤマモト トコナツ)、米澤 康(ヨネザワ ヤスシ)、戎 健男(エビス タケオ)、岡部久高(オカベ ヒサタカ)、中川道夫(ナカガワ ミチオ)、神野賢一(カンノ ケンイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	ラボラトリー・フィジックス I に引き続き、力学、電磁気、光学、波動、熱学等物理学全般にわたる項目について物理学基礎実験を行う。各実験が終了するごとに小グループに分かれて、OHPを用いて実験目的・理論・装置・実験結果について報告・討論を行う。教育目標は、実験の原理の理解、実験装置の準備、測定、測定値から目的の物理量を得ること、さらに結果を報告書に纏め、評価する基礎能力を養うことである。また、諸々の物理現象を体験して法則・理論の理解を容易にし、報告会においてプレゼンテーションと質疑討論の訓練をすることを目標としている。 このラボラトリー・フィジックスの実験題目の内容は、基礎物理学、力学(I)、電磁気学(I)、基礎光学などで解説される。既に学習している内容については、実験を通してより深く具体的に物理現象、物理量について理解できるようにすることを期待している。一方、まだ学習していない内容については、講義に先だって自ら理論等を調べ、実際に実験によって物理現象を体験することになる。この場合、「体験」が理論的学習より先に行われるわけであるが、このようなことは、一人の人間の成長過程を考えてみるとむしろ自然である。すなわち、まず「体験」と「試行錯誤」があって「考えて」みて「理論」が生まれるわけである。このような点から、見慣れない実験装置に出会ったら、興味を湧かして装置の構造、動作のカラクリと原理を調べて、その実験に挑んで頂きたい。この結果、実験が面白くなり、ひいては物理学の講義を理解することも容易になるにちがいない。 この講義では担当教員が少人数の学生を指導するので講義期間中、実験内容のみならず物理学全般の学修について教員と身近に話してできる機会である。
到達目標	物理学の基礎概念の理解、実験装置の原理の理解とその取扱、物理的考察の訓練、レポート作成や発表の訓練。
講義方法	主な実験題目は、ボルダの振子、固体の比熱、気柱の共鳴、弦の振動、ヤング率、レンズの焦点距離、屈折率、ニュートンリング、回折格子、プリズム分光器、統計と誤差、等電位線、電位差計と電池の起電力、誘電率、RC回路と微分方程式、トランジスターとダイオード、磁場と透磁率などである。それらの中から5-6題目について実験を行う。 1つの題目は2回の(2週の)授業で終了する。ただし第1回目誤差の実験のみ3回の授業である。各実験第1週目では実験のプレ・レポートをあらかじめ作成し、実験の前日までに提出しておき、授業時間の始めに指導教員の指導を受け、実験を行う。実験が終了すれば規定の時間までに実験ノート为指导教員に示し、指導を受けて検印を受ける。終了した実験題目の実験について、ポスト・レポートを作成する。 2週目の授業日には実験結果についての報告会を行う。報告会では全員が実験の全般にわたる事柄を報告する。そして討論を行い、教員の指導を受ける。
準備学習	実験前にプレレポートを作成し実験準備をする。
成績評価	(1)プレ・レポートの内容、(2)実験実行の際の様子、(3)報告会での発表の内容、(4)ポスト・レポートの内容を評価する。ただし、履修した実験題目の数が5以上でなければ単位の認定は困難である。また、5以上の場合でも総合成績が良くなければ、単位の認定をしないことがある。
講義構成	Aグループの例 第1回 最近の物理学のトピックス講義 第2回 実験6:例えば、気体の比熱比 第3回 実験6:報告会 第4回 実験7:例えば、サールの実験 第5回 実験7:報告会 第6回 実験8:例えば、ホイートストン橋

	第7回 実験8: 報告会 第8回 実験9: 例えば、回折格子 第9回 実験9: 報告会 第10回 実験10: 例えば透磁率と履歴 第11回 実験10: 報告会 第13回 実験11: メルデの実験 第14回 実験11: 報告会 第15回 理解度テスト
教科書	「ラボラトリー・フィジックス…実験ガイド…」(甲南大学理工学部物理学科編)
参考書・資料	「物理学実験」吉川泰三編(学術図書出版社 1996年) 「理科年表」国立天文台編(丸善)
担当者から一言	本科目は必修である。各実験については原理、装置の構造と各部分の機能をよく下調べをしてくる。そして、実験前に測定値または物理量間の相関関係を予想し、実験結果と比較すること。

授業コード	21004		
授業科目名	力学I(後)		
担当者名	山県民穂(ヤマガタ タミオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	古典力学は大学で学ぶ物理学の基礎である。自然科学の法則を見出す物理学の方法が古典的な形で現れ、自然現象を数理的に扱う物理学の手段を学ぶのに 適している。また、ほかの分野の現象、法則を解する基礎として非常に重要 である。 講義では、時間、空間、運動量、エネルギーなどをいかにして数理的に扱うかを学び、物理学の土台としての力学を身に着ける。講義に加えて演習も十分に取り入る。演習は単に知識だけでなく実際に手を動かして課題を解くことで、物理の方法、考え方が身につくので重要視する。 講義では数学的取扱をできるだけ丁寧に行う。		
到達目標	質点の運動方程式、運動量、エネルギー、仕事、ポテンシャル概念の理解		
講義方法	毎週、宿題または小テストの形で演習を課す。		
準備学習	教科書を使い、予習と復習を十分行うこと。		
成績評価	毎回の小テストの結果で成績評価する。これに合格しなかった人は期末試験で評価する。講義を4回以上欠席した場合、原則として単位認定しない。		
講義構成	第1回 運動 : 空間と時間 第2回 : 速度、速度の積分 第3回 運動の法則 : 慣性、運動法則 第4回 : 作用反作用の法則、運動量と力積 第5回 運動とエネルギー : 直線状の運動と斜面に沿う運動 第6,7回 : 単振動 第8回 : 1次元の運動とエネルギー 第9回 : 2次元の運動、円運動 第10回 : 仕事と運動エネルギー 第11,12回 : エネルギーの保存則 第13回 惑星の運動と中心力 第14回 まとめ 第15回 試験		
教科書	「力学」 戸田盛和 岩波書店		
参考書・資料	「力学」 原島鮮 裳華房 「古典力学」ゴールドスタイン 吉岡書店 「ファイマン物理学 I 力学」 ファイマン 岩波書店		
担当者から一言	講義形態は(出席のとり方、小テストの方法、レポートの提出方法、成績評価)は第1回めの講義で指示するので必ず出席すること。		

授業コード	21005		
授業科目名	力学II (前)		
担当者名	宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	土曜日2,3時限。		

講義の内容	力学Iで学んだ質点の力学に引き続き、力学IIでは質点系および剛体の力学を扱う。このような拵がりを持つ系では、回転の自由度が加わり、角運動量や慣性モーメントの概念が重要となる。また、異なる座標系の間の運動方程式の変換を扱い、特に回転系での運動について解説する。現実の物体の運動や地表面での現象について理解する能力を身につけることを目的とする。
到達目標	質点系の力学、特に2つの質点からなる力学問題(2体問題)の解法が理解できる。 大きさのある変形しない物体(剛体)の回転運動を扱う運動を扱い、慣性モーメント、力のモーメントを理解し、運動方程式が解けるようになる。併進運動する座標系、回転する座標系での質点の運動を扱い、運動する座標系で出現する慣性力(遠心力、コリオリの力)を理解し、運動方程式が解けるようになる。
講義方法	My Konanに講義概要と宿題を置く。板書で講義を行う。講義内容の理解を助け、理解度を自己点検してもらうため宿題を課す。また中間テストを行う。
準備学習	My Konanに出題される宿題を講義後自分で解くこと。 中間試験によく準備して臨むこと。
成績評価	宿題、中間試験、期末試験を総合的に評価する。期末試験を受けないものは欠席とする。
講義構成	第1回 角運動量 第2回 質点系の力学 : 運動量保存の法則 第3回 質点系の力学 : 2体問題 第4回 質点系の力学 : 運動エネルギー、角運動量 第5回 第1回中間試験 第6回 剛体の簡単な運動: 剛体の運動方程式 第7回 剛体の運動: 1次元物理振り子 第8回 剛体の運動: 2次元物理振り子 第9回 第2回中間試験 第10回 相対運動: 併進運動する座標系、慣性力 第11回 相対運動: 回転する座標系① 第12回 相対運動: 回転する座標系② 第14回 第3回中間試験 第15回 期末試験
教科書	「力学」戸田盛和(岩波書店 1982年)

担当者から一言	教科書を持って講義に出席しノートをとること。講義を受けたその日のうちに、宿題を自分の力で解くこと。単位を落とす人のほとんどは、能力よりは学習する姿勢に問題がある。
---------	---

授業コード	21044		
授業科目名	流体力学I (後)		
担当者名	小川欽也(オガワ キンヤ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	私達の身の回りには空気や水の流れを始め、数多くの流体の運動を見ることが出来る。流体の運動を取り扱う流体力学は航空・船舶の力学、河川・海岸工学や機械工学、化学工学はもちろんのこと、細胞や微生物の運動にまで深く関わっていることが明らかにされつつある。本講義では、流体を巨視的な観点から連続体として取り扱い、基礎方程式の物理的な意味とそれに基づく流体の様々な運動について理解することを目的とする。
到達目標	流体力学の基礎方程式の物理的な意味を理解し、様々な問題に対する取り組み方を学ぶこと。
講義方法	講義資料を配布するとともに、必要に応じて板書して口述する。

準備学習	提供された講義資料の予習を行うこと。また、与えられた課題(宿題)を必ずやること。
成績評価	定期試験(筆記)(50%)、不定期に行う四回程度の小テスト(筆記)(30%)、出席点(20%)によって成績評価する。ただし、6回以上欠席の場合には不合格とする。
講義構成	第1章序論 1.1 ベクトル解析・テンソル解析の初歩 1.2 連続体の変形と運動の記述法 第2章 流体の性質 2.1 静止流体と圧力 2.2 粘性と変形 第3章 基礎方程式 3.1 連続の式・運動量保存則・エネルギー保存則 3.2 状態方程式・境界条件 第4章 非圧縮非粘性流体の流れ 4.1 ベルヌーイの定理 4.2 ポテンシャル流 第5章 2次元の非粘性流れ 5.1 複素関数と等角写像 5.2 ブラシウスの公式 第6章 粘性流体の流れ 6.1 平行流・回転流 6.2 低レイノルズ数・高レイノルズ数の流れ
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	前田昌信 著『はじめて学ぶ流体力学』オーム社 ISBN4-274-08731-X (初歩的であるが概略を知るには良い) 橋本孝明 著『身のまわりから学ぶ流体力学』晃洋書房 ISBN4-7710-1665-8 (気軽な読み物として最適) 今井 功 著『物理テキストシリーズ9 流体力学』岩波書店 ISBN4-00-007749-X (古典的な名著) 神部 勉 編著『流体力学』裳華房 ISBN4-7853-2063-X (連続体力学の観点から固体についても記述。流れの安定なども記述) 高木隆司 著『現代人の物理2 流れの物理』朝倉書店 ISBN4-254-13622-6
講義関連事項	微分・積分学、微分方程式、ベクトル解析、力学の基礎的な素養が必要である。

授業コード	21045		
授業科目名	流体力学Ⅱ(前)		
担当者名	小川欽也(オガワ キンヤ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	私達の身の周りには空気や水の流れを始め、数多くの流体の運動を見ることができる。流体の運動を取り扱う流体力学は航空・船舶の力学、河川・海岸工学、や機械工学、化学工学はもちろんのこと、細胞や微生物の運動にまで深く関わっていることが明らかにされつつある。本講義では、流体力学Ⅰの内容に引き続き、流体を巨視的な観点から連続体として取り扱い、基礎方程式の物理的な意味とそれに基づく流体の様々な運動について理解することを目的とする。
到達目標	流体力学の基礎方程式の物理的な意味を理解し、様々な問題に対する取り組み方を学ぶこと。
講義方法	講義資料を配布するとともに、必要に応じて板書して口述する。
準備学習	提供された講義資料の予習を行うこと。また、与えられた課題(宿題)を必ずやること。
成績評価	定期試験(筆記)(50%)、不定期に行う4回程度の小テスト(30%)、出席点(20%)によって成績評価を行う。ただし、6回以上欠席の場合には単位習得できない。また、30分以上の遅刻は1/2欠席とする。
講義構成	講義内容 B. 流体力学Ⅰの復習 B.1 応力、ひずみ、ひずみ速度、渦度 B.2 基礎方程式と状態方程式 第7章 渦運動 7.1 渦度方程式・渦定理 7.2 渦糸の運動

	第8章 水面波 8.1 微小振幅波 8.2 表面張力波 8.3 非線形波動とソリトン 第9章 圧縮性流体 9.1 音波 9.2 衝撃波 9.3 薄い二次元物体と流れ 第10章 流れの安定性 10.1 定常流の安定性 10.2 熱対流 10.3 カオス
教科書	なし
参考書・資料	神部 勉 編著『流体力学』裳華房 ISBN 4-7853-2063-X 佐野 理 著 基礎物理学シリーズ12『連続体力学』朝倉書店 ISBN 4-254-13712-5
担当者から一言	微分・積分学, 微分方程式, ベクトル解析, 力学の基礎的な素養を備えていることが必要であり, 流体力学Ⅰを習得していることが望ましい。

授業コード	21063		
授業科目名	量子ナノテクノロジー (前)		
担当者名	安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、杉村 陽(スギムラ アキラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	21世紀の高度情報技術を根拠から支え、さらに発展させている源の量子情報技術およびナノテクノロジーについて講述する。1回目～7回目までは量子暗号通信、量子テレポーテーション、量子計算等の量子情報理論・技術について安藤が解説する。8回目から14回目までは杉村が半導体の分野を中心にナノテクノロジーの物理と応用について講義する。本講義は3、4年次配当であるが、量子力学Ⅰ、Ⅱを履修した後の4年次での履修が望ましい。
到達目標	量子情報技術に関わる、観測の問題、エンタングルメント等の基本概念を理解すること(安藤)。半導体ナノテクノロジーの概要を理解すること(杉村)。
講義方法	配布する講義資料に沿って、パワーポイントおよび板書を併用して講義を行う(安藤)。
準備学習	量子力学Ⅰ、Ⅱを履修した後の4年次での履修が望ましい。
成績評価	講義において課されるレポートの内容と期末試験の成績を総合して評価する。
講義構成	第1回 講義の概要 第2回 量子論入門(表記法と観測の問題) 第3回 量子暗号通信 第4回 EPR対とエンタングルメント 第5回 Bellの不等式 第6回 量子テレポーテーション 第7回 量子計算 第8回 「ナノテクノロジー」と各国の科学技術政策 第9回 半導体微細技術の進歩 第10回 ナノ構造作製法 ―結晶成長技術― 第11回 ナノ構造作製法 ―加工技術― 第12回 ナノ構造解析法 第13回 ナノ構造の応用 第14回 ナノ構造の物理 第15回 試験
教科書	原則として毎回、講義資料を配布する(安藤)。講義資料を配布する(杉村)。
担当者から一言	講義中の私語厳禁。1限の授業ですが、遅刻しないようにしてください。

授業コード	21009		
授業科目名	量子力学I (前)		
担当者名	杉村 陽(スギムラ アキラ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	古典力学の範囲で説明できなかった物理現象が、どのような考え方のもとで説明可能となり、それらの解釈がどのように量子力学の確立に用いられたのかを、具体的な計算を体験しながら理解してゆきます。単に言葉だけの理解でなく、微視的な世界の数量や単位に慣れ親しむことから始めて、シュレーディンガー方程式が何を記述するものかを理解し、具体的な一次元ポテンシャルの問題が解けるようにします。 種々の一次元ポテンシャルは、現実の複雑な物理現象に対するモデル化になっており、このポテンシャルによる解を検討することは微視的な現象を最も明解に理解するのに役立ちます。
到達目標	この講義の到達目標は、一次元のポテンシャル問題が解けるようになり、そのことで量子力学の基本概念について数式との対応も含めて明確に理解することである。
講義方法	演習を行い、問題のレポート提出を課す。
準備学習	前回の講義内容をよく勉強し、完全に理解してから次の講義に出席すること。
成績評価	簡単な演習問題を宿題として出し、次回・授業の始めにレポートとして提出してもらう。 成績評価は、レポート、小テスト、期末試験、出席率などを総合的に判断して行う。
講義構成	前期 第1回 古典物理学の限界(1): 黒体放射 第2回 古典物理学の限界(2): 光電効果、コンプトン散乱 第3回 復習と演習(理解度テスト) 第4回 波束 第5回 不確定性関係 第6回 復習と演習(理解度テスト) 第7回 シュレーディンガー方程式 第8回 演習 第9回 固有値と固有関数(1): 離散的束縛状態 第10回 固有値と固有関数(2): 運動量波動関数 第11回 復習と演習(理解度テスト) 第12回 一次元ポテンシャル(1): 井戸型ポテンシャル 第13回 一次元ポテンシャル(2): 周期ポテンシャル、調和振動 第14回 復習と演習 第15回 試験
教科書	「量子力学」ガジオロウイツツ(丸善1998年)
参考書・資料	「量子力学 I」猪木慶治・川合 光(講談社 1994年) 「量子力学」原 康夫(岩波書店 1994年) 「詳解、理論応用、量子力学演習」後藤憲一(共立出版 1982年)
担当者から一言	量子力学は20今世紀の社会を科学技術の側面から大きく変革しました。 物理学科・応用物理学科に席を置く者のみならず、現代人としてその概念を理解しておかなければならないと思います。古典的な考え方を越える要素が多く入ってきます。充分に時間をかけて考えて下さい。また友人とも議論しながら必ず理解して下さい。量子力学ぬきに現代の物理は語れません。

授業コード	21039		
授業科目名	量子力学II (後)		
担当者名	須佐 元(スサ ハジメ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	随時訪ねてください。		

講義の内容	量子力学Ⅰに引き続く授業科目です。まず、量子力学の基本的な枠組みを整理しなおし、波動関数と状態ベクトルの関係を明らかにします。新たに整理された考え方に基づき、いわゆる演算子法によって一次元調和振動子の固有値と固有関数を求めます。その後、量子力学における同種粒子の取り扱い方について解説します。次に水素原子の理解を目指して、中心力に対する3次元シュレディンガー方程式から出発して、動径座標の分離を行い、量子力学における角運動量の扱いを学びます。最後に、水素原子にこれを適用し、エネルギー準位と固有関数を導いて、原子の世界が量子力学に従っていることを明らかにします。
到達目標	水素原子の構造を理解し、その過程で量子力学の概念、計算法に習熟すること。
講義方法	この科目では偏微分方程式・及び線形代数の知識がたくさん必要になります。丁寧に板書しますので、ノートと教科書を使って、宿題を必ずこなし、考え方や数式の処理になれるようにしてください。
準備学習	力学の内容を完全に理解していること。大学1, 2年レベルの微分積分をきちんと行えること。量子力学Ⅰの内容を理解していること。これらの知識は仮定して授業を行います。
成績評価	期末の試験を行います。また毎回授業で宿題を出すので、次の週の授業時に提出すること。最終的な評価は期末の試験の結果に宿題の提出状況を加味して行います。
講義構成	1) 量子力学の基本的構造 2) 状態ベクトルと波動関数 3) 調和振動子 4) ハイゼンベルグの運動方程式 5) 同種粒子 6) フェルミ粒子の性質と縮退圧 7) 中心力による3次元シュレディンガー方程式 8) 極座標表示と角運動量演算子 9) 角運動量演算子1 10) 角運動量演算子2 11) 動径波動関数 12) 3次元における矩形ポテンシャルと波動関数 13) 水素原子のエネルギー準位と動径波動関数 14) 予備 15) 試験
教科書	「量子力学Ⅰ」ガシオロウィッツ(丸善 1998年)
参考書・資料	現代の量子力学 (J.J. Sakurai・吉岡書店) 詳解理論応用 量子力学演習(後藤 憲一・共立出版)
担当者から一言	量子力学はミクロの世界を記述する法則であり、勉強していくと日常の感覚に反することがそこかしこに現れます。これが難しく感じる理由ですが、一方でその不思議さが魅力でもあります。また実はこのミクロの世界の法則なしには我々のマクロ世界は存在すらできないことが勉強を進めていくと明らかになっていきます。履修者の皆さんにはこの不思議さと深遠さに感動してほしいと思っています。

授業コード	21040		
授業科目名	量子力学Ⅲ(前)		
担当者名	杉村 陽(スギムラ アキラ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	火曜日3時限		

講義の内容	量子力学Ⅲは量子力学Ⅱの応用編である。 量子力学Ⅱで学んだ知識を基礎にして、正確に解くのが難しい複雑な力学系を取り扱う方法の一つである摂動論を学ぶ。まず時間を含まない場合の摂動論を、ついで時間を含む摂動論について講義する。そして、光の吸収・放出過程など、摂動論の具体的な物理現象への応用について説明する。 その後、スピン系の量子力学に関する講義をおこない、スピノールやパウリ行列など量子力学的諸概念について説明する。そして最後に多粒子系の量子力学的取り扱いに触れる。
到達目標	この講義の到達目標は、量子力学を現実の物理系に応用する際に用いられる技術を習得すること、さらに、より上の課程で学ぶ多体相互作用の量子力学のための基礎を習得することである。
講義方法	宿題の形で演習を課すので必ず提出すること。
準備学習	前回の講義内容をしっかり勉強し、よく理解してから講義に出ること。

成績評価	講義の途中または終了時に、随時レポート課題を出題する。受講者は期限までにレポートを提出しなければならない。また、講義中に演習課題を課す場合もある。成績は、期末試験結果をもとに評価するが、講義出席状況、提出レポート、演習課題の成績も考慮する。
講義構成	第1回 時間を含まない場合の摂動論 :縮退していない系の摂動理論 第2回 :縮退していない系の摂動の応用 第3回 :縮退している系の摂動理論 第4回 :縮退している系の摂動の応用 第5回 時間を含む場合の摂動論 :時間を含む場合の摂動理論 第6回 :時間的に変わる摂動の応用 第7回 光の吸収・放出過程 :光の誘導放出と誘導吸収 第8回 :光の自然放出とスペクトル線幅 第9回 :選択規則 第10回 スピン :電子スピン 第11回 :パウリ行列とスピノール 第12回 :磁場の中でのスピンの運動 第13回 多粒子系 :同種粒子 第14回 :ハートリー近似、ハートリー・フォック近似 第15回 試験
教科書	講義資料を配布する。
参考書・資料	「量子力学」ガシオロウィッツ(丸善 1998年) 「量子力学」原 康夫(岩波書店 1994年) 「詳解、理論応用、量子力学演習」後藤憲一(共立出版 1982年)
担当者から一言	問題を解く技法を習得し、実際に具体的な量子力学現象を解くことで、量子力学の意味を実感してほしい。

授業コード	21012		
授業科目名	ワークショップⅠ(後)		
担当者名	村木 綏(ムラキ ヤスシ)、青木珠緒(アオキ タマオ)、秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)、安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)、富永 望(トミナガ ノゾム)、三好旦六(ミヨシ タンロク)、渡邊 毅(ワタナベ タケシ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	一年次前期に受講した講義科目の基礎学力として必要な、特に数学、力学、電磁気学の基礎的な事柄について、しっかりと実力をつけたいと思う学生の受講を想定している。内容は、例えば数学であれば、微分のしかた、積分のしかた、微分方程式の解き方など、力学では問題を解きながら、速度、加速度運動方程式の概念を理解するなど、基礎的なものである。しかし、学生の能力、学習の進捗度に応じて高度な練習問題を用意している。
到達目標	問題演習をとおして力学、電磁気学、数学の問題を正確に解けるようにするとともに、物理学の概念を理解する。そして2年次以降の講義がよりわかりやすくなるようにする。
講義方法	一年前期の成績に基づき3クラスを編成する。そして習熟度別授業を実施する。 具体的な実施方式は、各自問題集の問題を一問ずつノートに解く。理解できないところは、教員あるいはTA(ティーチングアシスタントの大学院生)に支援をもとめ、与えられた問題を完全に解くことを実行する。そして授業の最後に黒板で当てられた問題を一問ずつ解いてもらう。 授業の勧め方として、例えば3週間力学ⅠAに挑戦したものは4週目に小テストを受ける。 次の3週間は今度は力学ⅠBとか電磁気学、数学の問題に挑戦する。 そして4週目に小テストを受ける。以上の過程を3回繰り返す。そして最後に学年共通テストを受ける。同じ課題項目(例えば力学ⅠA)を再度履修することはできない。 また初回はⅠEを選択しないように。
準備学習	教科書数Ⅲにある問題が、すらすら解けるように復習しておくことが好ましい。

成績評価	出席率と授業に対する熱心さ、小テストの成績、最終学年共通テストの成績をほぼ1:1:1の比重で評価して成績をつける。総合点で60点以上が合格となる。
講義構成	力学 I A、I B、I C、I D、I E 電磁気学 I A、I B、I C、I D、I E 数学 I A、I B、I C、I D、I E
教科書	問題集を配布する。

授業コード	21013		
授業科目名	ワークショップ IIa (前)		
担当者名	山本常夏(ヤマモト トコナツ)、青木珠緒(アオキ タマオ)、秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)、富永 望(トミナガ ノゾム)、三好旦六(ミヨシ タンロク)、渡邊 毅(ワタナベ タケシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	一年次に受講した講義科目の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を 実際に演習問題を解くことにより身につける。
到達目標	出題された問題の解き方を理解すること。
講義方法	各受講生は、苦手な分野の克服などの目的に応じて演習科目を選択する。選択された演習科目ごとに一つのグループを構成し、共同で与えられた演習問題を解く。3週間で一つの演習科目を終了し、4週目に理解の確認のためのテストを行う。この4週間を一セットとして全部で3セットの演習科目を行う。
準備学習	最初の講義で配布する問題集の問題を解き、わからないところを講義で質問すること。
成績評価	与えられた演習問題を理解できたか試験で判断する。
講義構成	1回目 講義方法の説明と物理の勉強の仕方 2－4回目 演習1 5回目 理解度確認 6－8回目 演習2 9回目 理解度確認 10－12回目 演習3 13回目 理解度確認 14回目 試験
教科書	特にない。
担当者から一言	一連のワークショップで行う演習問題は物理学科を卒業する上で最低限必要な内容になっている。これらの演習を通じて他の講義科目の理解を深めていただきたい。

授業コード	21014		
授業科目名	ワークショップ IIb (後)		
担当者名	村木 綏(ムラキ ヤスシ)、青木珠緒(アオキ タマオ)、秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)、安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)、富永 望(トミナガ ノゾム)、三好旦六(ミヨシ タンロク)、渡邊 毅(ワタナベ タケシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	2年生後期は物理の基礎学力を固める時期です。3年生からは専門科目も増えてきます。そろそろ大学院へ進学するのか、4年で卒業して就職するのか決める時期です。そこでもっと実力をつけたい人や、大学院進学を目指したい人、苦手項目を克服したい人のために2年後期のワークショップは開催されます。
到達目標	問題演習をととして力学、電磁気学、数学のかなりの問題を自分の力で

	解けるようにするとともに、物理学の概念を理解する。 そして3年次以降の講義がよりわかりやすくなるようにする。
講義方法	二年前期までの成績に基づき3クラスを編成する。そして習熟度別授業を実施する。 具体的な実施方式は、各自問題集の問題を一問ずつノートに解く。理解できないところは、教員あるいはTA（ティーチングアシスタントの大学院生）に支援をもとめ、与えられた問題を完全に解くことを実行する。そして授業の最後に黒板で当てられた問題を一問ずつ解いてもらう。 授業の勧め方として、例えば3週間力学ⅡAに挑戦したものは4週目に小テストを受ける。 次の3週間は今度は力学ⅡBとか電磁気学Ⅱ、数学の問題に挑戦する。 そして4週目に小テストを受ける。以上の過程を3回繰り返す。そして最後に学年共通テストを受ける。同じ課題項目（例えば力学ⅡA）を再度履修することはできない。
準備学習	成績の下の方のクラスの学生、及び定期試験で100点がとれない 学生はIB,ICの問題を自習しておくことを強く勧める。
成績評価	出席率と授業に対する熱心さ、小テストの成績、最終学年共通テストの成績をほぼ1:1:1の比重で評価して成績をつける。総合点で60点以上が合格となる。
講義構成	力学 I C、I D、ⅡA、ⅡB、ⅡC 電磁気学 I C、I D、I E、ⅡA、ⅡB、ⅡC、ⅡD 数学 2B、3C、4D、5E、6F
教科書	問題集を配布する。

授業コード	21015		
授業科目名	ワークショップ IIIa (前)		
担当者名	山本常夏(ヤマモト トコナツ)、青木珠緒(アオキ タマオ)、秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)、富永 望(トミナガ ノゾム)、三好旦六(ミヨシ タンロク)、渡邊 毅(ワタナベ タケシ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	一年次に受講した講義科目の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を 実際に演習問題を解くことにより身につける。
到達目標	出題された問題の解き方を理解すること。
講義方法	各受講生は、苦手な分野の克服などの目的に応じて演習科目を選択する。選択された演習科目ごとに一つのグループを構成し、共同で与えられた演習問題を解く。3週間で一つの演習科目を終了し、4週目に理解の確認のためのテストを行う。この4週間を一セットとして全部で3セットの演習科目を行う。
準備学習	最初の講義で配布する問題集の問題を解き、わからないところを講義で質問すること。
成績評価	与えられた演習問題を理解できたか試験で判断する。
講義構成	1回目 講義方法の説明と物理の勉強の仕方 2-4回目 演習1 5回目 理解度確認 6-8回目 演習2 9回目 理解度確認 10-12回目 演習3 13回目 理解度確認 14回目 試験
教科書	特になし
担当者から一言	一連のワークショップで行う演習問題は物理学を卒業する上で最低限必要な内容になっている。これらの演習を通じて他の講義科目の理解を深めていただきたい。

授業コード	21016
-------	-------

授業科目名	ワークショップ IIIb (後)		
担当者名	村木 綏(ムラキ ヤスシ)、青木珠緒(アオキ タマオ)、秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)、安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)、富永 望(トミナガ ノゾム)、三好旦六(ミヨシ タンロク)、渡邊 毅(ワタナベ タケン)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	3年前期までに習得した必須科目の理解を確実にするために演習問題をおとして鍛錬します。基本的には大学院入学を目指す学生のための”塾”となりますが、就職をめざす学生諸君でもきちんと大学で勉強したことを固めたい学生は歓迎します。演習科目には新たに量子力学、統計力学が加わります。
到達目標	大学院入試問題が自分の力で解けるようになる。
講義方法	演習問題を一問ずつノートに解く。わからないところは教員あるいはTAに聞く。
準備学習	甲南大学大学院、および他大学大学院を目指す学生は少なくとも配布された問題集の全問を解いておくように。そしてわからない問題をワークショップで教員又はTAに聞くようにすることが望ましい。効率的な勉強になります。
成績評価	習熟度、取り組みの熱心さ、テストの成績を総合的に判断してつける。
講義構成	力学 電磁気学 数学 量子力学 統計力学 甲南大学院過去問
教科書	問題集＋大学院過去問 および 授業時に指示する問題

授業コード	22005		
授業科目名	遺伝学概論 (前)		
担当者名	向 正則(ムカイ マサノリ)		
配当年次	2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	現代生物学を理解する上で、遺伝子という概念を理解することは重要である。遺伝学の歴史を中心に、遺伝子という概念、遺伝子の実体がどのように明らかになってきたか、具体的な実験例をふまえて解説する。「セントラルドグマ」の理解を目的とする。遺伝子は何を制御しているのか？を中心に、遺伝学と発生生物学や行動学などの他の研究分野と結びついた結果、新たに明らかになってきた研究成果を解説する。バイオテクノロジー(遺伝子操作の基礎)、ゲノムバイオロジー(情報学と遺伝学の結びつき)について解説するとともに、現代の遺伝学が社会に与える影響についても考察する予定である。
到達目標	遺伝子という概念を理解し、それをもとに生命現象を理解する能力を養う。
講義方法	板書、配布資料をもとに講義を進めて行く。
準備学習	基本的な専門用語が多く、記憶する必要があるため、適宜、復習をして、講義に望んでほしい。
成績評価	期末試験を中心 に評価する。
講義構成	第1回 講義の概要と予定 第2回 メンデル遺伝学Iー遺伝型と表現型について 第3回 メンデル遺伝学IIー2遺伝子雑種の遺伝様式 第4回 メンデル遺伝学から染色体説へ 第5回 遺伝子と染色体 第6回 遺伝子の分子実体は何か？ 第7回 ゲノムDNAと遺伝子構造 第8回 セントラルドグマI、RNAの転写

	第9回 セントラルドグマII、遺伝暗号の解読 第10回 遺伝子による形作りの制御、私たちの体はどのように作られるのか？ 第11回 分子からみた生物の進化 第12回 遺伝学の使い方、遺伝子突然変異を使って遺伝子の機能を探る 第13回 遺伝子操作の基礎 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	必要な資料を適宜配布する。
参考書・資料	「エッセンシャル遺伝学」 D.L. ハートル、E.W. ジョーンズ共著、 布山喜章・石和貞男監訳（培風館 2005） 「GENES VIII」Benjamin Lewin著（Prentice Hall社 2004）
担当者から一言	研究の歴史のなかで、どういう状況で新たな発見が生まれたのか、すなわち新たな概念を導き出した研究者の独創的な考え方についてもふれたいと思う。長い歴史をもつ遺伝学を例に、自由な発想の重要性を学生が感じてもらえればと思う。

授業コード	22A11		
授業科目名	科学英語演習Ⅰ（1クラス）(前)		
担当者名	LEECH(シェーン リーチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	The purpose of this class is to give a working knowledge of Scientific English. As well as an understanding of various animal behaviour and ecology. A major focus of the class will be on environmental issues that are relevant in the world today and a build up of your vocabulary. This classes purpose is to give you a basis of English to help you in your more advanced classes of Biology.
到達目標	In this course students will be using English every class to communicate about different topics of scientific English. Lots of ideas will discussed and written in each class. You will learn how to write and discuss complicated issues dealing with science in the world.
講義方法	The classes will vary with every week but the basic procedure is following a topic in the text and expanding on that theme with the use of video and writing. There will be some discussion and question answering is class as well. The text is not used in every class so extensive use of English video is an imortant part of the course.
準備学習	No preperation before class is necessary, but review of previous lessons is a good idea.
成績評価	There will not be a final exam so your grade will be based on class work, attendance is very important. As well some lessons are spread over two or three weeks so please keep in mind that you must attend many classes. There will also be the writing of a few longer reports, in English, due during the term. This class will be conducted only in English to help you learn faster.
講義構成	Week 1 Introductions and get to know you Week 2 Topic 1 Week 3 Topic 2 Week 4 Topic 3 Week 5 Topic 4 Week 6 Topic 5 Week 7 Topic 6 Week 8 Topic 7 Week 9 Topic 8 Week 10 Topic 9 Week 11 Topic 10 Week 12 Review of work Week 13 Research for report Week 14 Research for report Week 15 Report due
教科書	Handouts will be giving every class. No textbook

担当者から一言	This class will be conducted only in English
---------	--

授業コード	22A12		
授業科目名	科学英語演習Ⅰ(2クラス)(前)		
担当者名	LEECH(シェーン リーチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	The purpose of this class is to give a working knowledge of Scientific English. As well as an understanding of various animals behaviour and ecology. A major focus of the class will be on environmental issues that are relevant in the world today and a build up of your vocabulary. This classes purpose is to give you a basis of English to help you in your more advanced classes of Biology.
到達目標	In this course students will be using English every class to communicate about different topics of scientific English. Lots of ideas will discussed and written in each class. You will learn how to write and discuss complicated issues dealing with science in the world.
講義方法	The classes will vary with every week but the basic procedure is following a topic in the text and expanding on that theme with the use of video and writing. There will be some discussion and question answering is class as well. The text is not used in every class so extensive use of English video is an imortant part of the course.
準備学習	No preperation before class is necessary, but review of previous lessons is a good idea.
成績評価	There will not be a final exam so your grade will be based on class work, attendance is very important. As well some lessons are spread over two or three weeks so please keep in mind that you must attend many classes. There will also be the writing of a few longer reports, in English, due during the term. This class will be conducted only in English to help you learn faster.
講義構成	Week 1 Introductions and get to know you Week 2 Topic 1 Week 3 Topic 2 Week 4 Topic 3 Week 5 Topic 4 Week 6 Topic 5 Week 7 Topic 6 Week 8 Topic 7 Week 9 Topic 8 Week 10 Topic 9 Week 11 Topic 10 Week 12 Review of work Week 13 Research for report Week 14 Research for report Week 15 Report due
教科書	Handouts will be giving every class. No textbook

担当者から一言	This class will be conducted only in English
---------	--

授業コード	22A21		
授業科目名	科学英語演習Ⅱ(1クラス)(後)		
担当者名	LEECH(シェーン リーチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	The purpose of this class is to give a working knowledge of Scientific English. As well as an understanding of various animals behaviour and ecology. A major focus of the class will be on environmental issues that are relevant in the world today and a build up of your vocabulary. This classes purpose is to give you a basis of English to help you in your more advanced classes of Biology.
到達目標	In this course students will be using English every class to communicate about different topics of scientific English. Lots of ideas will discussed and written in each class. You will learn how to write and discuss complicated issues dealing with science in the world.
講義方法	The classes will vary with every week but the basic procedure is following a topic in the text and expanding on that theme with the use of video and writing. There will be some discussion and question answering is class as well. The text is not used in every class so extensive use of English video is an imortant part of the course.
準備学習	No preperation before class is necessary, but review of previous lessons is a good idea.
成績評価	There will not be a final exam so your grade will be based on class work, attendance is very important. As well some lessons are spread over two or three weeks so please keep in mind that you must attend many classes. There will also be the writing of a few longer reports, in English, due during the term. This class will be conducted only in English to help you learn faster.
講義構成	Week 1 Introductions and get to know you Week 2 Topic 1 Week 3 Topic 2 Week 4 Topic 3 Week 5 Topic 4 Week 6 Topic 5 Week 7 Topic 6 Week 8 Topic 7 Week 9 Topic 8 Week 10 Topic 9 Week 11 Topic 10 Week 12 Review of work Week 13 Research for report Week 14 Research for report Week 15 Report due
教科書	Handouts will be giving every class.No textbook
担当者から一言	This class will be conducted only in English

授業コード	22A22		
授業科目名	科学英語演習 II (2クラス)(後)		
担当者名	LEECH(シェーン リーチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	The purpose of this class is to give a working knowledge of Scientific English. As well as an understanding of various animals behaviour and ecology. A major focus of the class will be on environmental issues that are relevant in the world today and a build up of your vocabulary. This classes purpose is to give you a basis of English to help you in your more advanced classes of Biology.
到達目標	In this course students will be using English every class to communicate about different topics of scientific English. Lots of ideas will discussed and written in each class. You will learn how to write and discuss complicated issues dealing with science in the world.
講義方法	The classes will vary with every week but the basic procedure is following a topic in the text and expanding on that theme with the use of video and writing. There will be some discussion and question answering is class as well. The text is not used in every class so extensive use of English video is an imortant part of the course.

準備学習	No preparation before class is necessary, but review of previous lessons is a good idea.
成績評価	There will not be a final exam so your grade will be based on class work, attendance is very important. As well some lessons are spread over two or three weeks so please keep in mind that you must attend many classes. There will also be the writing of a few longer reports, in English, due during the term. This class will be conducted only in English to help you learn faster.
講義構成	Week 1 Introductions and get to know you Week 2 Topic 1 Week 3 Topic 2 Week 4 Topic 3 Week 5 Topic 4 Week 6 Topic 5 Week 7 Topic 6 Week 8 Topic 7 Week 9 Topic 8 Week 10 Topic 9 Week 11 Topic 10 Week 12 Review of work Week 13 Research for report Week 14 Research for report Week 15 Report due
教科書	Handouts will be giving every class. No textbook
担当者から一言	This class will be conducted only in English

授業コード	22011		
授業科目名	環境生物学(前)		
担当者名	本多大輔(ホンダ ダイスケ)		
配当年次	1・2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	水曜日 12時～13時		

講義の内容	地球環境は天体としての活動と生命の活動によって、46億年前から様々な変化を経験してきました。生物は誕生以来それらの変化に対して絶滅や適応を重ねて今日に至っています。この講義の前半では、地球の歴史を生物学の視点から振り返りつつ、環境と生物の関係について理解を深めることを目的とします。 また、講義の後半では、炭素、窒素、リン、硫黄などの物質循環に対して、生物が担っている役割について講義します。特に、海洋中に出入りする物質や熱量の変動は、海洋にとってわずかなものであっても大気圏に大きな影響を与え、結果的に地球環境全体に大きな変化をもたらすことになるため、海洋に注目をして解説します。
到達目標	生物を時間軸と空間でとらえ、地球あるいは宇宙と生物、生物間の相互作用などについて理解します。
講義方法	資料を配付し、プロジェクターによって画像や動画を示しながら講義を行います。画像は、配布資料とすると同時に、ホームページを通して学内から閲覧できるようにします。 講義の終了時に質問などを書いて提出してもらいます。毎回の講義の最初にその質問などについての応答や解説をします。
準備学習	系統分類学研究室のホームページ(http://syst.bio.konan-u.ac.jp/)に学内からアクセスすることで、過去の期末試験問題を参照できます。ここで問われている内容を把握した上で、答え合わせをするという目的意識で講義に参加すると、効率良く理解できると思います。
成績評価	基本的に期末試験の結果によって評価します。
講義構成	第1回 地球の誕生 第2回 生命の誕生 第3回 藍藻の酸素発生開始 第4回 真核生物の出現 第5回 多細胞生物の出現、全球凍結 第6回 カンブリア紀 第7回 オルドビス紀～石炭紀 第8回 ペルム紀～PT境界 第9回 三畳紀～白亜紀

	第10回 KT境界～新生代 第11回 炭素循環 第12回 窒素、リン循環 第13回 硫黄、鉄循環 第14回 深海、地球外生命
教科書	特に指定しません。
参考書・資料	「藻類30億年の自然史 第2版」井上 勲著 ISBN-13: 978-4486017776 (東海大学出版会 2007年) 「地球生物学」池谷仙之、北里洋著 ISBN: 4-13-062711-2 (東京大学出版会 2004年) 「地球生態学」和田英太郎著 ISBN: 4-00-006803-2 (岩波書店 2002年) 「海の働きと海洋汚染」原島省、功刀正行共著 (裳華房 1997年) 「生物海洋学入門」C. M. Lalli、T. R. Parsons共著、關文威監訳、長沼毅訳 (講談社サイエンティフィック 1996年) 「海と地球環境」日本海洋学会編(東京大学出版会 1991年)
担当者から一言	1年生から積極的に受講することを勧めます。 また、この講義では「そんなことがあったのか」、「なるほど、そういうことなのか」といった感想をもつような話題を提供します。最初の強い印象の時にしっかりと理解するようにすると良いでしょう。 毎回の講義終了時に質問や感想などを書いてもらう用紙を配ります。「特になし」ということも認めていますが、細かなことでもぜひ伝えてください。受講学生も参加して良い講義にしていきたいと思います。
ホームページタイトル	{系統分類学研究室, http://syst.bio.konan-u.ac.jp/index.html }
URL	http://syst.bio.konan-u.ac.jp/

授業コード	22019		
授業科目名	基礎生物学Ⅰ(前)		
担当者名	今井博之(イマイ ヒロユキ)、本多大輔(ホンダ ダイスケ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	金曜日 12時10分～13時		

講義の内容	基礎生物学Ⅰ、Ⅱは一連の科目であり、分子生物学および細胞生物学の分野の基礎を系統的に学び、現代生物学を細胞レベル、遺伝子のレベルで理解する基礎力と思考力を養うことを目的とする。そのため、この分野で世界的に定評のある教科書「細胞の分子生物学(Molecular Biology of The Cell)第4版」の内容に沿って講義を進める。
到達目標	教科書「細胞の分子生物学」で示されている図を自分の言葉で解説できるようになることを目標にします。
講義方法	教科書を使用して講義を進めるので講義には必ず持参すること。
準備学習	毎回、講義の始めに予習確認テストを実施するので、予め教科書を充分に読んでから出席すること。
成績評価	小テスト、出席、レポートおよび学期末定期試験の結果を総合して評価する。
講義構成	第1回 細胞の区画化 第2回 シグナル配列 第3回 分子の核内・核外輸送 第4回 ミトコンドリアと葉緑体へのタンパク輸送 第5回 ペルオキシソーム 第6回 小胞体(1) 第7回 小胞体(2) 第8回 膜の構造:脂質二重層(1) 第9回 膜の構造:脂質二重層(2)、膜タンパク質(1) 第10回 膜の構造:膜タンパク質(2) 第11回 エネルギー変換ーミトコンドリアと葉緑体:ミトコンドリア 第12回 エネルギー変換ーミトコンドリアと葉緑体:電子伝達系とプロトンポンプ 第13回 エネルギー変換ーミトコンドリアと葉緑体:葉緑体と光合成 第14回 エネルギー変換ーミトコンドリアと葉緑体:ミトコンドリアと色素体の遺伝子系 第15回 試験
教科書	細胞の分子生物学 第5版 B・アルバーツ、A・ジョンソン他著、中村桂子、松原謙一 監訳 (ニュートンプレス 2010年) ISBN 978-4-315-51867-2

授業コード	22020		
授業科目名	基礎生物学Ⅱ(後)		
担当者名	渡辺洋平(ワタナベ ヨウヘイ)、向 正則(ムカイ マサノリ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
講義の内容	基礎生物学Ⅰ、Ⅱは一連の科目である。分子生物学および細胞生物学の分野の基礎を系統的に学ぶため、この分野で世界的に定評のある教科書「細胞の分子生物学(Molecular Biology of The Cell)第5版」の内容に沿って講義を進める。		
到達目標	現代生物学を細胞レベル、分子レベルで理解する基礎力と思考力を養うことを目的とする。		
講義方法	教科書を使用して講義を進める。講義には必ず教科書を持参すること。		
準備学習	毎回、講義の始めに予習確認テストを実施するので、予め教科書を充分に読んでから出席すること。		
成績評価	小テスト、出席、レポートおよび学期末定期試験の結果を総合して評価する。		
講義構成	第1回 細胞の組成(1) 第2回 細胞の組成(2) 第3回 細胞の行う触媒反応(1) 第4回 細胞の行う触媒反応(2) 第5回 細胞の行う触媒反応(3) 第6回 エネルギー獲得(1) 第7回 エネルギー獲得(2) 第8回 DNAの構造 第9回 染色体DNA(1) 第10回 染色体DNA(2) 第11回 ヒストンとヌクレオソーム(1) 第12回 ヒストンとヌクレオソーム(2) 第13回 染色体の全体構造(1) 第14回 染色体の全体構造(2) 第15回 試験		
教科書	細胞の分子生物学 第5版 B・アルバーツ、A・ジョンソン他著、中村桂子、松原謙一 監訳 (ニュートンプレス 2004年)		

授業コード	22023		
授業科目名	基礎生物学演習Ⅰ(前)		
担当者名	今井博之(イマイ ヒロユキ)、本多大輔(ホンダ ダイスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	金曜日 12時10分～13時		
講義の内容	基礎生物学演習Ⅰ、Ⅱは、分子生物学および細胞生物学の分野の基礎を系統的に学び、現代生物学を細胞レベル、遺伝子のレベルで理解する基礎力と思考力を養うことを目的とする。そのため、「細胞の分子生物学(Molecular Biology of The Cell)第4版」を教科書に用いるとともに、適宜、英語文献の調べ方や読み方等を指導したい。		
到達目標	教科書「細胞の分子生物学」で示されている図を自分の言葉で解説できるようになることを目標にします。		
講義方法	教科書の内容に沿って演習を進めるので、教科書を必ず持参すること。		
準備学習	毎回、演習の始めに予習確認テストを実施するので、必ず教科書を充分に読んでから出席すること。		
成績評価	予習確認テスト、出席、レポートおよび学期末定期試験の結果を総合して評価する。		
講義構成	第1回 膜輸送の基本		

	第2回 運搬体タンパクと能動膜輸送 第3回 細胞における情報伝達の基本 第4回 Gタンパク連結型細胞表面受容体によるシグナル伝達 1 第5回 Gタンパク連結型細胞表面受容体によるシグナル伝達 2 第6回 酵素連結型の細胞表面受容体によるシグナル伝達 第7回 タンパク質分解の調節によるシグナル伝達経路、植物のシグナル伝達 第8回 細胞骨格繊維の自己集合と動的な構造 第9回 細胞骨格繊維の調節 第10回 分子モーター 第11回 細胞骨格と細胞のふるまい 第12回 細胞周期 第13回 アポトーシス 第14回 細胞分裂 第15回 試験
教科書	細胞の分子生物学 第4版 B・アルバーツ、A・ジョンソン他著、中村桂子、松原謙一 監訳 (ニュートンプレス 2004年) ISBN4-315-51730-5

授業コード	22024		
授業科目名	基礎生物学演習Ⅱ(後)		
担当者名	渡辺洋平(ワタナベ ヨウヘイ)、向 正則(ムカイ マサノリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	基礎生物学演習Ⅰ、Ⅱでは、分子生物学および細胞生物学の分野の基礎を系統的に学ぶため、「細胞の分子生物学(Molecular Biology of The Cell)第4版」を教科書に用いて講義をすすめる。また、適宜、英語文献の調べ方や読み方等を指導したい。
到達目標	現代生物学を細胞レベル、分子レベルで理解する基礎力と思考力を養うことを目的とする。
講義方法	教科書の内容に沿って演習を進めるので、教科書を必ず持参すること。
準備学習	毎回、演習の始めに予習確認テストを実施するので、予め教科書を十分に読んでから出席すること。
成績評価	小テスト、出席、レポートおよび学期末定期試験の結果を総合して評価する。
講義構成	第1回 DNAの構造と機能 第2回 クロマチン構造 第3回 染色体の全体構造 第4回 DNA複製機構 第5回 DNA修復 第6回 普遍的組換え 第7回 転写、翻訳の機構 第8回 タンパク質の構造と機能(1) 第9回 タンパク質の構造と機能(2) 第10回 タンパク質の構造と機能(3) 第11回 膜輸送の分子機構 第12回 膜輸送の実際(1) 第13回 膜輸送の実際(2) 第14回 膜輸送の実際(3) 第15回 試験
教科書	細胞の分子生物学 第4版 B・アルバーツ、A・ジョンソン他著、中村桂子、松原謙一 監訳 (ニュートンプレス 2004年) ISBN4-315-51730-5

授業コード	22C11
-------	-------

授業科目名	基礎生物学実験（前）		
担当者名	日下部岳広（クサカベ タケヒロ）、園部治之（ソノベ ハルユキ）、道之前允直（ミチノマエ マサナオ）、田中 修（タナカ オサム）、石黒順平（イシグロ ジュンペイ）、今井博之（イマイ ヒロユキ）、本多大輔（ホンダ ダイスケ）、渡辺洋平（ワタナベ ヨウヘイ）、向 正則（ムカイ マサノリ）		
配当年次	2年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限 月曜4限 月曜5限
特記事項	事前登録		

講義の内容	生物学は自然の中の動植物の観察、分類、ある条件下での生命現象の解析などの段階を経て研究が発展し、知識が深められて来た。本実験科目では、高等学校時代に生物に接する機会の少ない現状のもと、初めて生物学を学ぼうとする人々にとって、「自然から学ぶ」姿勢を養う目的で実験を組んだ。はじめに、ミクロとマクロの形態観察を中心とした実験を行い、次いで、生理的また生化学的手法による生体反応や生体成分の実験を計画した。生体の基本構造の観察、理解に始まって、その機能的な面まで、系統的に理解し、専門的な段階に移行する基礎段階として位置づけている。なお、講義構成における順序や内容が変更される場合があるので掲示等にご注意すること。
到達目標	生物学の基礎的な実験技術の修得と原理を理解すること。
講義方法	説明と実験で構成される
準備学習	基礎的な実験説明書をよく読んでおくこと。
成績評価	各実験ごとに提出されるレポートの成績によって評価する。
講義構成	第1回 一般的注意、座席指定、顕微鏡貸出 第2回 顕微鏡使用法：各部品の働きとレンズの特性 第3回 植物細胞の原形質流動と細胞含有物 第4回 細胞分裂の観察：植物細胞 第5回 動物細胞の観察 第6回 植物細胞の観察 第7回 花粉と気孔 第8回 唾腺染色体の観察 第9回 アメリカザリガニの観察と解剖 第10回 線虫の観察 第11回 植物色素の抽出と分離 第12回 フナの体色変化 第13回 抗酸化酵素カタラーゼの作用 第14回 淡水産プランクトンの観察 第15回 まとめ、顕微鏡返却
教科書	必要なプリントなどは配布する
参考書・資料	「生物の実験法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」宇津木和夫 他著（培風館 1982年）

授業コード	22012		
授業科目名	系統分類学（後）		
担当者名	本多大輔（ホンダ ダイスケ）		
配当年次	1・2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	水曜日 12時～13時		

講義の内容	生命が誕生して以来、とどまることなく生物は進化を続けながら、今日の多様性を示すに至っています。形態学的、生理学的、遺伝学的な情報などを統合して理解することによって、我々を含めた全生物の全体像を把握することを目的とします。
到達目標	特に真核生物の系統、進化、分類について理解をすること、またその進化を支えた共生関係について、細胞学、遺伝学、生理学などの知識を組み合わせることで把握することを目指します。
講義方法	画像と動画をプロジェクターで表示しながら、指定した教科書に沿って講義を行う。パワーポイントで提示する画像は、ホームページを通して学内から閲覧できるようにします。 講義の終了時に質問などを書いて提出してもらいます。毎回の講義の最初にその質問などについての応答

	や解説をします。
準備学習	講義する教科書のページ範囲については事前に指定し、その内容について講義前に小テストを行いますので、十分な予習をすることが必要です。
成績評価	主に小テストと期末テストによって評価します。
講義構成	第1回 原核細胞と真核細胞 第2回 地球の誕生と生命の誕生 第3回 真核生物の起源 第4回 真核藻類の誕生 第5回 光合成色素 第6回 葉緑体とミトコンドリア 第7回 鞭毛 第8回 二次共生 第9回 植物化ということ 第10回 8大系統群-1 第11回 8大系統群-2 第12回 8大系統群-3 第13回 緑色藻類 第14回 緑色植物
教科書	「藻類30億年の自然史 第2版—藻類からみる生物進化・地球・環境」 著者: 井上 勲 単行本: 643ページ 出版社: 東海大学出版会 (2007/11) ISBN-10: 4486017773 ISBN-13: 978-4486017776
担当者から一言	内容は複雑で詳細な細胞生物学の知識が必要なものもありますが、1年生から積極的に受講することを勧めます。参考とすべき文献などを紹介しますので、努力すれば1年生から十分に理解できるように講義をします。ただし、毎回の小テストの準備を含めた予習と復習は不可欠です。 毎回の講義終了時に質問や感想などを書いてもらう用紙を配ります。「特になし」ということも認めていますが、細かなことでもぜひ伝えてください。受講学生も参加して良い講義にしていきたいと思います。
ホームページタイトル	系統分類学研究室
URL	http://syst.bio.konan-u.ac.jp/

授業コード	22010		
授業科目名	酵素化学(後)		
担当者名	渡辺洋平(ワタナベ ヨウヘイ)		
配当年次	1・2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限

講義の内容	生物は外界からエネルギーを取り入れ、自らを維持し、増殖する。これらの生命現象は一見非常に複雑であるが、細胞内で起こる(ひとつひとつは単純な)多数の化学反応の総和であることが出来る。酵素とは生物がタンパク質という形で生産する触媒であるが、細胞内で進行する化学反応の大部分は、この酵素によって制御されている。本講義では、酵素反応の解析法を学び、酵素の反応触媒機構、調節機構について考察する。
到達目標	酵素が、様々な調節を受けながら化学反応を触媒する機構を、その解析方法を含めて理解する。
講義方法	板書を中心に講義をすすめる。必要に応じて適宜資料を配布する。
準備学習	予習・復習
成績評価	定期試験により評価する。講義の出席も考慮する。
講義構成	第1回 酵素とは 第2回 酵素反応の特徴 第3回 酵素活性の調節 第4回 熱力学(1)第1法則 第5回 熱力学(2)第2法則 第6回 熱力学(3)自由エネルギー 第7回 化学平衡(1) 第8回 化学平衡(2)

	第9回 化学反応速度論(1) 第10回 化学反応速度論(2) 第11回 酵素反応速度論 第12回 酵素反応の阻害 第13回 実際の酵素反応 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	「ヴォート生化学」Donald Voet, Judith G. Voet著、田宮信雄、村松正美、八木達彦、吉田浩訳(東京化学同人)、 「化学・生命科学系のための物理化学」Raymond Chang著、岩澤康裕、北川禎三、濱口宏夫訳(東京化学同人)

授業コード	22030		
授業科目名	細胞学・遺伝学演習(4～5月)(前)		
担当者名	道之前允直(ミチノマエ マサナオ)、渡辺洋平(ワタナベ ヨウヘイ)、向 正則(ムカイ マサノリ)		
配当年次	3年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限 水曜5限 木曜5限 金曜5限
特記事項	4～5月		
オフィスアワー	特に指定はない。質問は随時受け付ける。		

講義の内容	細胞学・遺伝学実習を受講するにあたり、同実習を安全かつ円滑に進めるために以下の項目に従って基礎知識を学ぶ。 参考文献の精読、分析機器の取り扱い、排水処理の方法、危険物の取り扱い、危機回避・避難など実験実習に必要な基礎知識を直接機器に触れながら修得する。		
到達目標	分析機器の取り扱い、排水処理の方法。危険物の取り扱い、危機回避・避難など実験実習に必要な基礎知識の修得		
講義方法	参考文献の精読、分析機器の取り扱い、排水処理の方法、危険物の取り扱い、危機回避・避難など実験実習に必要な基礎知識を直接機器に触れながら修得する。		
準備学習	担当教員の講義科目の復習		
成績評価	細胞学・遺伝学実習の成績と併せて総合評価する。		
講義構成	細胞学・遺伝学実習の実習時間に組み込んで、随時実施する。		
教科書	特に指定しない。		

授業コード	22026		
授業科目名	細胞学・遺伝学実験(4～5月)(前)		
担当者名	道之前允直(ミチノマエ マサナオ)、渡辺洋平(ワタナベ ヨウヘイ)、向 正則(ムカイ マサノリ)		
配当年次	3年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限 水曜3限 水曜4限 木曜3限 木曜4限 金曜3限 金曜4限
特記事項	4～5月		
オフィスアワー	特に指定しない。質問は随時受け付ける。		

講義の内容	生命科学の理論的背景、特に細胞生物学および分子遺伝学の基礎が演習と実験を通して修得できるように組み立てられている。はじめに、実験科学の基本として、各種実験器具(ガラス器具類)の洗浄、滅菌操作の修得、分析機器の使用法、緩衝液の作用、試薬類の取扱いと調製を修得する。その後、講義構成欄にあげた、細胞学、遺伝学それぞれの分野の基礎的な課題について実験を行う。		
到達目標	分析機器の取り扱い、排水処理方法。危険物の取り扱い、危機回避・避難など実験実習に必要な基礎知識の修得		

講義方法	細胞学、遺伝学それぞれの分野の基礎的な課題について実験を行う。
準備学習	担当教員の講義科目の復習
成績評価	細胞学・遺伝学実験それぞれについて、実習態度、レポートおよび口頭試問により総合評価する。
講義構成	(実験) 1. 実験機器の使用法 2. タンパク質の抽出、結晶化 3. 劣性遺伝、伴性遺伝の観察 組織化学染色法 フクシン染色 in situ hybridization 法による遺伝子発現部位の解析 (演習) 参考文献の講読、実験計画の作成、試薬、器具の使用法の見積りなどを行う。
教科書	指定はない。
参考書・資料	適宜、プリント、資料を配布する。
講義関連事項	本実験を受講するにあたり、受講要綱に示されている要件を遵守すること。条件に満たないときは単位を与えない。再履修希望者には基礎学力テストを課すことがある。

授業コード	22001		
授業科目名	細胞生物学（前）		
担当者名	道之前允直(ミチノマエ マサナオ)		
配当年次	2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	特に指定はない。 質問等はいつでも受け付ける。		

講義の内容	生命現象の基本単位としての細胞について、その微細構造からみた機能を中心に概説する。はじめに、細胞のもつさまざまな構造と機能について、原核生物と真核生物、単細胞生物と多細胞生物とを対比させながら概説する。次いで、細胞研究法について、細胞学の発展の歴史と並行して紹介する。その後、細胞学各論として、細胞膜、細胞内小器官などの微細構造と機能を述べ、併せて各小器官の形成過程や細胞内での物質輸送について概説する。最後に、講義の総まとめとして、細胞の増殖と分化について染色体や核形成と併せて概説する。
到達目標	生命現象の基本単位としての細胞について微細構造とその機能について総合的に理解すること。
講義方法	プリント、参考資料、OHP、スライド等を使用して講義する。
準備学習	よく復習すること。
成績評価	講義のはじめに受講生と相談して成績評価方法を定める。 講義期間中の小テスト、レポート発表および期末試験の成績で総合評価のいずれかに決まることが多い。
講義構成	前期 第1回 細胞学概論 1)細胞とは 2)細胞の基本的性質 3)原核細胞と真核細胞 4)細胞機能の概観 第2回 細胞研究法(1) 1)直接観察法:顕微鏡などを用いた研究 2)物質の分離と同定:電気泳動、クロマトグラフィー、など分析的な研究 第3回 細胞研究法(2) 1)流体力学的方法:遠心分離機などによる研究 2)分光学的的方法:吸光度計などによる研究 第4回 細胞学各論 原形質膜 第5回 細胞学各論 小胞体 第6回 細胞学各論 ゴルジ装置 第7回 細胞学各論 リソソーム 第8回 細胞学各論 分泌小胞

	第9回 細胞学各論 ミトコンドリア(1) 第10回 細胞学各論 ミトコンドリア(2) 第11回 細胞学各論 クロロプラスト 第12回 細胞学各論 核 第13回 細胞学各論 仁、染色体 第14回 まとめ:細胞の増殖と分化 第15回 試験
教科書	特に定めない
参考書・資料	「細胞の分子生物学」A. Bruce他著 中村桂子他訳(教育社) 「分子細胞生物学(上)(下)」J. Darnell他著 野田春彦他訳(化学同人)

授業コード	22002		
授業科目名	情報生物学（後）		
担当者名	道之前允直(ミチノマエ マサナオ)		
配当年次	2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	特に指定はない。 質問等はいつでも受け付ける。ただし、メール等で面談日時の予約を取ること。		

講義の内容	生体は外界から来る多くの刺激を受容し、処理し、応答している。また、生体内においても同様、多くの刺激や信号を受容し、処理応答している。視覚器や聴覚器などによる光や音の受容と神経によるインパルスの伝播、シナプスにおける信号の伝達がまさにこれである。このような信号の受容が、生物を一個の統一個体として維持してゆくための不可欠な要素となっている。本講義では、生体における刺激情報の受容から電気信号の発生、伝達、処理の機構を統一的に把握することを目標に、最も研究が進んでいる視覚を中心に概説する。
到達目標	生体における刺激情報の受容から電気信号の発生、伝達、処理の機構を統一的に把握すること。
講義方法	参考資料の配付、OHP、スライド等を使用して講義する。
準備学習	よく復習すること。
成績評価	講義のはじめに受講生と相談して成績評価法を決める。
講義構成	第1回 情報変換分子と細胞膜 細胞膜の構造: 膜タンパク質、リン脂質など 第2回 情報変換分子と細胞膜 リセプター: アセチルコリンリセプターなど 第3回 情報変換分子と細胞膜 イオン輸送: ATPaseなど 第4回 情報変換分子と細胞膜 チャネル: 電位作動、リガンド作動、リークチャネルなど 第5回 情報変換分子と細胞膜 情報変換・運搬分子: Gタンパク質、IP3など 第6回 生体電気信号の発生と伝達 静止膜電位の形成 第7回 生体電気信号の発生と伝達 活動電位の発生 第8回 生体電気信号の発生と伝達 活動電位の伝播 第9回 生体電気信号の発生と伝達 チャネルのゲート機構 第10回 生体電気信号の発生と伝達 シナプスにおける伝達機構 第11回 刺激の受容と伝達 第12回 光刺激の受容 第13回 化学刺激の受容 第14回 機械刺激の受容 第15回 試験
教科書	指定しない。
参考書・資料	「ニューロンから脳へ(第2版)」S. Kuffler他著 金子章道他訳(廣川書店 1988年) 「ニューロバイオロジー(第2版)」G. M. Shepherd著 山元大輔訳(学会出版センター 1990年)

授業コード	22003		
授業科目名	植物生化学 (前)		
担当者名	今井博之(イマイ ヒロユキ)		
配当年次	2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	火曜日 12時10分～13時		

講義の内容	植物は、一般に「緑色で動かない」という特徴を有する。これは、太陽エネルギーを用いて有機物を自ら生産し(光合成)、他の生物に依存することなく生活している点と、環境への適応を個体あるいは細胞内で活発に行っている点を示している。本講義では、教科書「植物の生化学・分子生物学」の内容に沿って、植物が「緑色で動かない」特徴を、どのようなしくみによって構築しているのかを細胞レベル、物質のレベルで理解することを目指している。具体的には、植物の生命活動に不可欠な生体分子が、どのような代謝過程によって合成され、分解されているのかを中心に解説する。光合成では、葉緑体の構造、電子伝達系と成分、ATPの合成などを主に扱う。炭素代謝では、炭酸固定に関与する酵素の性質やカルビン・ベンソン回路を解説するとともに、C4-ジカルボン酸経路やCAMについても述べる。さらに、スクロースやデンプンの生合成を解説する。脂質代謝では、植物脂質の構造の特徴と機能、脂肪酸の生合成、グリセロ脂質の合成を主に解説するとともに、脂質の遺伝子工学に関する最近の研究開発を紹介する。
到達目標	植物に存在し、我々の生活にも密接に関わる糖質、脂質、タンパク質などの生体高分子が植物中でどのようにできるのか？ その生合成の仕組みを系統的に説明できる。
講義方法	必要に応じて参考資料(プリント)を配布し、プロジェクター等を使用して講義を進めます
準備学習	必ず教科書を十分に読んでから出席すること。
成績評価	出席状況と定期試験を重視します。また、小テストやレポートの内容も考慮します。
講義構成	第1回 はじめに 第2回 12 光合成(光合成の概要、光吸収とエネルギー変換) 第3回 12 光合成(反応中心複合体、光化学系、チラコイド膜の構成) 第4回 12 光合成(葉緑体膜の電子伝達経路) 第5回 12 光合成(葉緑体でのATP合成、C3植物の炭素の反応) 第6回 12 光合成(炭酸固定機構の変形型) 13 糖質代謝(ヘキソースリン酸プール) 第7回 13 糖質代謝(ヘキソースリン酸プールを利用する生合成経路、ヘキソースリン酸を生成する 異化経路) 第8回 13 糖質代謝(トリオースリン酸／ペントースリン酸の代謝プール、ヘキソースリン酸とペントースリン酸／トリオースリン酸プールの相互作用) 第9回 13 糖質代謝(デンプンはスクロースの合成が葉の輸送能力を越えたときに蓄積する、糖質による遺伝子発現の調節、解糖系のエネルギー保存反応、生合成へのエネルギーと還元力の供給) 第10回 10 脂質(脂質の機能と構造、脂肪酸の生合成、アセチルCoAカルボキシラーゼ) 第11回 10 脂質(脂肪酸シンターゼ、C16とC18脂肪酸の不飽和化と鎖長伸長、特異脂肪酸の合成) 第12回 10 脂質(膜脂質の合成) 第13回 10 脂質(膜脂質の機能、構造脂質の合成と機能) 第14回 10 脂質(貯蔵脂質の合成と分解、脂質の遺伝子工学) 第15回 試験
教科書	植物の生化学・分子生物学 Bob B.Buchanan, Wilhelm Gruissem, Russell L.Jones 編集 杉山達夫 監修 岡田清孝, 内藤 哲, 中村研三, 長谷俊治, 福田裕穂, 前島正義 監訳 (学会出版センター 2005刊) ISBN4-7622-3040-5
参考書・資料	参考書: 「テイツザイガー 植物生理学 第3版」L. テイツ/E. ザイガー編(培風館 2004年) 「生化学辞典 第4版」今堀和友、山川民生 監修 (東京化学同人 2007年)

担当者から一言	この講義を通じて、生体高分子に関する基礎生化学の知識を身につけてほしいと思います。
---------	---

その他	遅刻をしないこと。
-----	-----------

授業コード	22004		
授業科目名	植物制御機構論(後)		
担当者名	今井博之(イマイ ヒロユキ)		
配当年次	2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	火曜日 12時10分～13時		

講義の内容	当講義では、前期科目の植物生化学に引き続き、教科書「植物の生化学・分子生物学」の内容に沿って、窒素代謝、光呼吸、マメ科植物の共生窒素固定、生殖、植物の耐病性等に関する最近の研究を紹介し、それらの研究で使用されている植物遺伝子の解析手法や遺伝子導入法について解説します。
到達目標	植物の重要な生理機能を制御する仕組みを遺伝子のレベルで説明することができる。
講義方法	必要に応じて参考資料(プリント)を配布し、プロジェクター等を使用して講義を進めます。
準備学習	必ず教科書を十分に読んでから出席すること。
成績評価	出席状況と定期試験を重視します。また、小テストやレポートの内容も考慮します。
講義構成	第1回 はじめに 第2回 16 窒素と硫黄(生態系と植物における窒素についての概観、窒素固定の概略、窒素固定の酵素学) 第3回 16 窒素と硫黄(共生窒素固定) 第4回 16 窒素と硫黄(共生窒素固定～硝酸イオンの還元) 第5回 16 窒素と硫黄(亜硝酸イオンの還元、硝酸同化と炭素代謝の相互作用) 8 アミノ酸(植物におけるアミノ酸の合成、無機窒素の窒素輸送アミノ酸への同化) 第6回 8 アミノ酸(無機窒素の窒素輸送アミノ酸への同化) 14 呼吸と光呼吸(光呼吸の生化学的基盤、光呼吸経路) 第7回 14 呼吸と光呼吸(植物における光呼吸の役割) 第8回 前半の講義のまとめ 第9回 19 生殖(花成誘導～花の発生の分子遺伝学的解析) 第10回 19 生殖(配偶体の形成～自家不和合性) 第10回 19 生殖(受精～発芽) 第12回 21 植物病原体に対する応答(植物病原菌の病気の起こし方、植物の防御システム) 第13回 21 植物病原体に対する応答(植物と病原体の相互作用の遺伝的基礎、R遺伝子とR遺伝子仲介の病原抵抗性) 第14回 21 植物病原体に対する応答(植物の防御反応の生化学) 第15回 試験
教科書	植物の生化学・分子生物学 Bob B.Buchanan, Wilhelm Gruissem, Russell L.Jones 編集 杉山達夫 監修 岡田清孝, 内藤 哲, 中村研三, 長谷俊治, 福田裕穂, 前島正義 監訳 (学会出版センター 2005刊) ISBN4-7622-3040-5
参考書・資料	参考書: 「テイツザイガー 植物生理学 第3版」L. テイツ/E. ザイガー編(培風館 2004年) 「生化学辞典 第4版」今堀和友、山川民生 監修 (東京化学同人 2007年)

授業コード	22016		
授業科目名	植物生長分化論(後)		
担当者名	田中 修(タナカ オサム)		
配当年次	2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜日 12時30分～1時		

講義の内容	植物の一生は、種子が発芽する過程、茎が伸び葉が展開し光合成が活発な栄養生長期、そして、花が咲き種子が結実する生殖成長期の三期に大別される。個々の植物は、この三期の生活過程を経て、生活環を完結する遺伝的プログラムを持っている。しかし、自然界での植物は、多種多様な環境要因の影響を受ける。そのため、植物は、生活環を進行させる遺伝的プログラムだけを持っているのではなく、環境の変化に対応しつつ生活環の進行を調節していく制御システムを身につけている。 このような植物の特性と機能を把握し、環境の変化に呼応して生活環の進行を調節していく植物の生命活動への理解を深めることを、本講義は目的とする。講義では、遺伝的プログラムに基づく生活環の進行を順に追いつながら、大別される三期における特徴的な生理現象を、最近の研究成果を加えて解説する。同時に、植物の環境への応答メカニズムを、体内情報伝達システムと遺伝子の発現調節機構の面から考察する。
到達目標	植物生理学分野での発展を知り、植物の生き方を語れるようになること。
講義方法	予習、復習用の教科書をもとに、配布資料を使って、パワーポイントによる講義を行う。
準備学習	テキスト、参考書を繰り返し読むこと。
成績評価	学期中間の試験、および、学期末の試験の結果を重視するが、授業中の学習態度なども考慮する。
講義構成	第1回 発芽の過程 第2回 休眠の誘導とその意義、 第3回 貯蔵物質の分解系の確立、種子内での物質代謝 第4回 栄養生長期 第5回 植物ホルモンの生理作用 第6回 植物ホルモンによる形態形成の過程 第7回 光形態形成 第8回 光情報による生体機能の調節 第9回 生殖生長期 「つぼみたちの生涯」第1章を中心に 第10回 「つぼみたちの生涯」第2章を中心に 第11回 「つぼみたちの生涯」第3章を中心に 第12回 「つぼみたちの生涯」第4章を中心に 第13回 「つぼみたちの生涯」第5章を中心に 第14回 結実・老化 第15回 試験
教科書	「つぼみたちの生涯」田中修著（中公新書 2000年）
参考書・資料	「花のふしぎ100」田中修著（ソフトバンククリエイティブ・アイ新書 2009年） 「都会の花と木」田中修著（中公新書 2009年）
担当者から一言	この科目を受講し単位を取得するためには、「植物生理学要論」を受講していることが、望ましい。

授業コード	22033		
授業科目名	植物生理化学・基礎生化学演習（11～12月）(後)		
担当者名	田中 修(タナカ オサム)、今井博之(イマイ ヒロユキ)		
配当年次	3年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限 水曜5限 木曜5限 金曜5限
特記事項	11～12月		

講義の内容	植物生理化学および基礎生化学の基本的な概念を理解し、実験技術を修得することを目的とする。生理活性物質や酵素の定量、分析、分離精製および性質の解析、生体物質の取り扱い、バイオテクノロジーを支える基礎理論と実際を内容とする。
到達目標	植物生理化学および基礎生化学の基本的な概念を理解すること。
講義方法	講義ではなく、演習である。
準備学習	配布される実験マニュアルの内容をよく理解すること
成績評価	提出されるレポートの内容を重視するが、出席状況とともに、実験、演習に取り組む姿勢も考慮する。
講義構成	生理活性物質や酵素の性質と分析法に関する文献、植物バイオテクノロジーの原理を理解し、実験に必要な知識を修得する。
教科書	必要なものは配布する。

授業コード	22029		
授業科目名	植物生理化学・基礎生化学実験(11～12月)(後)		
担当者名	田中 修(タナカ オサム)、今井博之(イマイ ヒロユキ)		
配当年次	3年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限 水曜3限 水曜4限 木曜3限 木曜4限 金曜3限 金曜4限
特記事項	11～12月		

講義の内容	植物生理化学および基礎生化学の基本的な概念を理解し、実験技術を修得することを目的とする。生理活性物質や酵素の定量、分析、分離精製および性質の解析、生体物質の取り扱い、バイオテクノロジーを支える基礎理論と実際を内容とする。
到達目標	植物生理化学および基礎生化学の基本的な概念を理解し、実験技術を修得すること。
講義方法	講義ではなく、実験です。
準備学習	配布される実験マニュアルをよく読むこと
成績評価	提出されるレポートの内容を重視するが、出席状況とともに、実験、演習に取り組む姿勢も考慮する。
講義構成	1. 植物脂質の分離精製と薄層クロマトグラフィー 2. タンパク質の分離精製とゲル電気泳動 3. タンパク質の定量 4. 硝酸還元酵素の活性測定 5. 大腸菌を用いた植物タンパク質の発現 6. 植物のカルス誘導と再分化 7. プロトプラストの単離と細胞融合 8. キノコのプロトプラストからの子実体形成
教科書	実験マニュアルを配布する。

授業コード	22015		
授業科目名	植物生理学要論(前)		
担当者名	田中 修(タナカ オサム)		
配当年次	2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜日 12時30分～1時		

講義の内容	発芽してしまえばその場から移動しない植物の生活は、環境変化の影響をまともに受けざるを得ない。そのため、植物は多種多様の生理機能を身につけている。本講義は、それらの生理機能を理解することを目的としている。それ故、環境要因ごとに、それと関わりの深い生理現象を取り上げ、植物のもつ生理機能を解説する。
到達目標	「植物は動きまわることができない」のではなく、「動きまわる必要がない」こと、および、その仕組みを知る。
講義方法	教科書をもとに、配布プリントを用いて、パワーポイントによる講義を行う。
準備学習	テキスト、参考書を読んで、植物の生き方に興味を持つこと。
成績評価	学期の中間に行う試験、および、学期末の試験の結果に基づくが、授業中の学習態度なども考慮する。。
講義構成	第1回から第5回までは、「ふしぎの植物学」をテキストに、植物の基本的な生理機能を概説する。第6回から第14回までは、個々環境要因に対する植物の生理機能を講義する。 第1回～第5回 「ふしぎの植物学」第1章～第5章 第6回 光の強さ: 光-光合成曲線、光呼吸など 光の質: 光合成の作用スペクトル、光形態形成、光発芽 第7回 光周性: 発見の歴史、意義、生物における普遍性、光中断 第8回 温度と熱収支: 蒸散、葉温、温度係数など。 温度と生長・発育: 光合成、光呼吸、呼吸、発芽など 第9回 温度傷害: 高温障害、低温障害など 第10回 水収支と欠乏ストレス: 要水量、気孔、蒸散、根茎の発達、移送と保水機能など

	第11回 水過剰ストレス:嫌氣的呼吸、冠水への適応など 第12回 大気:二酸化炭素補償点、二酸化炭素濃縮機構、酸素濃度 湿度:気孔開閉、出葉速度、光合成など 第13回 土壤栄養:必須元素、塩類の吸収、窒素代謝など 第14回 生物環境:種間競争、種内競争、アレロパシー物質など 第15回 試験
教科書	「ふしぎの植物学」田中修著(中公新書 2003年)
参考書・資料	「入門 たのしい植物学」田中 修著(ブルーバックス 2007年) 「葉っぱのふしぎ」(ソフトバンククリエイティブ・アイ新書) 「雑草のはなし」田中 修著(中公新書 2007年)
担当者から一言	この科目を受講し、植物の生理に興味をもてば、「植物生長分化論」を受講すればよい。

授業コード	22034		
授業科目名	生物学コンピュータ実習		
担当者名	石倉とよみ(イシクラ トヨミ)		
配当年次	1・2・3・4年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限 土曜2限)、後期(土曜1限 土曜2限)

講義の内容	パソコンのインターネット(大学のメールソフトの使い方等)とWord(2007)とExcel(2007)を基礎から応用まで学習します。年度の最後にPowerPoint(2007)を使ってプレゼンを作成します。
到達目標	メールでファイルを提出(添付ファイル)したりレポートや研究資料の作成などに活用できるようにします。
講義方法	パソコンのモニター画面で操作方法を説明します。
準備学習	履修時には特に何もありません。授業が始まってからは授業内容を次回までに修得しておくようにしてください。
成績評価	出席50%、課題(試験)50%の配点です。課題(試験)の作成提出は授業時間内に行います。定期試験期間中に試験は行いません。1限と2限連続の授業ですが、出欠の評価は別々にします。
講義構成	◇Word基礎 文字文章入力、文書編集 ◇インターネット 情報検索、メール ◇Word応用 文書作成、表作成と編集、図形作成と編集 ◇圧縮と解凍 ファイルとフォルダ、拡張子 ◇Excel基礎 データ入力、演算と関数、表作成と編集、グラフ作成と編集 ◇Excel応用 複合グラフ、応用関数、データ集計と分析 ◇PowerPoint Webからの情報収集、他のソフトとの連携、プレゼン作成
教科書	2回目の授業時間内に販売します。 大学生協・書店では取り扱っていません。 ※部数の確認の為、履修希望者は必ず1回目の授業に来てください。
担当者から一言	この授業は実習が主体です。遅刻・欠席をしないように心掛けてください。 連絡用メールアドレス isi@center.konan-u.ac.jp

授業コード	22035
-------	-------

授業科目名	生物学卒業実験		
担当者名	日下部岳広(クサカベ タケヒロ)、園部治之(ソノベ ハルユキ)、道之前允直(ミチノマエ マサナオ)、田中 修(タナカ オサム)、石黒順平(イシグロ ジュンペイ)、今井博之(イマイ ヒロユキ)、本多大輔(ホンダ ダイスケ)、渡辺洋平(ワタナベ ヨウヘイ)、向 正則(ムカイ マサノリ)		
配当年次	4年次	単位数	20
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限 火曜4限 火曜5限 水曜3限 水曜4限 水曜5限 木曜3限 木曜4限 木曜5限 金曜3限 金曜4限 金曜5限)、後期(火曜3限 火曜4限 火曜5限 水曜3限 水曜4限 水曜5限 木曜3限 木曜4限 木曜5限 金曜3限 金曜4限 金曜5限)

講義の内容	バイオテクノロジーが注目される現代、その発展を支える基盤として生命科学はますます重要性を増している。生物学卒業実験では、それぞれの研究室で行われている第一線の研究に直接携わり、その生命科学の最先端の研究を行う。研究の面白さ、厳しさや難しさを実感しながら、一つの研究を纏め上げる。研究成果は、学会で発表されることもある。もちろんすべての学生が研究者への道を歩むわけではないが、1年間、研究者の一人として修行を積むという経験は貴重な体験となるはずである。
到達目標	所属する研究分野において、先端の研究に貢献する成果を得ること。
講義方法	講義ではなく、実験である。
準備学習	研究に必要な背景、知識、技術など十分に準備すること。
成績評価	生物学卒業実験の成果は、10月に開催される「中間発表会」と2月に開催される「研究発表会」において発表されるとともに、卒業論文として纏める。研究成果に加え、研究態度なども考慮して総合的に成績評価を行う。
講義構成	*生体調節学研究室(園部治之) 昆虫の生活史には、脱皮と変態、休眠(発生の停止)など、他の動物には見られない現象があり、それらは脊椎動物には全く存在しないホルモン分子種(例えば、エグジステロイド、幼若ホルモン、休眠ホルモンなど)によって調節されている。当研究室では、これらの調節系を、内分泌学と代謝調節という観点から、生化学的あるいは分子生物学的技法を用いて解析を行っている。また、甲殻類の内分泌系についても研究対象としており、昆虫と甲殻類の脱皮・変態を比較することによって、生命活動の普遍性と多様性の成り立ちを解明することを目指している。 *植物生理学研究室(田中 修) 人類は昔から、植物に花を咲かせて、その美しさを鑑賞し、実や種子を収穫してきた。しかし、花が咲くメカニズムは不明のままである。また、私たちは古くから、キノコを季節の味覚として食し、近年は、その栽培を盛んに行ってきた。しかし、キノコ形成のメカニズムは不明のままである。植物生理学研究室は、発展してきたバイサイエンスの知識と技術を使い、それらのメカニズムを明らかにしようとしている。さらに、それらの研究で得られる知見を生かして、アグロバクテリウムやパーティクルガンを用いて遺伝子を導入し、新しい形質を持った植物の作出を試みている。 *細胞学研究室(道之前允直) 生き物は外界と様々な情報をやりとりしながら生命を維持している。感覚器官や脳神経系の情報処理はどのような仕組みになっているのだろうか。感じるとは? 視るとは? 聴くとは? それらを生物学的に解明しようとしている。 *微生物学研究室(石黒順平) 当研究室では、分裂酵母における「細胞形態形成及び細胞壁合成の遺伝的制御機構」、「カルシウム及びTORシグナル伝達系の分子機構」などを研究している。細胞周期の制御に関与するシグナル伝達系の遺伝子は、細胞の分化や癌化に直接関わる重要な遺伝子として近年注目を集めており、分裂酵母はそれらの問題を扱うためのモデル細胞として盛んに用いられるようになって来た。卒業実験の具体的なテーマは、「分裂酵母の形態形成に関与するcps12+遺伝子の構造と機能解析」、「遺伝子ターゲティングによる分裂酵母P5型ATPaseホモログ遺伝子の機能解析」、「高塩ストレス環境下における分裂酵母TORシグナリングの役割解析」などである。 *発生学研究室(日下部岳広) 当研究室ではホヤとメダカをモデルとして、脳・神経回路・感覚器の発生・形態形成と生理機能を研究している。モデル動物の特徴を活かして、ヒトと共通の普遍的な発生・生理のメカニズムと、生命の歴史のなかで高度に組織化された脳神経系とその多様性が創出されたしくみを明らかにすることを目指す。 *植物生化学研究室(今井博之) 当研究室では、植物のスフィンゴ脂質代謝の調節機構を細胞レベル、遺伝子レベルから解明することを主な研究テーマとしている。実験材料としては、シロイヌナズナ、タバコ、ミヤコグサなどのモデル植物を用い、オルガネラと代謝産物の関連、脂質代謝を制御する酵素タンパク質の精製と性質の解析、さらにそれら酵素タンパク質の遺伝子の作用機構の解明に重点を置き研究を進める。 *系統分類学研究室(本多大輔) 微細藻類や原生生物など、単細胞の真核生物を主な対象とし、光学顕微鏡および電子顕微鏡を用いた詳細な形態、生活史、生理生化学的特徴、遺伝情報などから進化系統を解明し、それに基づいて分類体系を構築していくことをテーマとする。基本的に、野外でのサンプリングを行い、対象生物を探して分離培養するところからス

	タートし、観察や解析などのすべての過程を各自で行って系統、分類や同定の結論付けを行う。 *生理化学研究室(渡辺洋平) DNAの遺伝情報をもとに合成されたタンパク質は、アミノ酸がペプチド結合でつながったひも状のものである。タンパク質が機能するためには、このひもが3次元的に折れたたみ(フォールディング)正しい立体構造を形成しなければならない。分子シャペロンと呼ばれるタンパク質は、他のタンパク質のフォールディングを助けることができる。当研究室では、分子シャペロンがどのように他のタンパク質のフォールディングを助けるのか、その分子機構の解明を目指して研究を進める。 *分子遺伝学研究質(向 正則) ショウジョウバエを材料として、生殖細胞の形成分化機構を分子レベルで解析する。生殖細胞の最も基本的な性質である減数分裂は古くから知られているが、「生殖細胞が減数分裂を遂行する能力」を獲得する機構には不明な点が多い。生殖細胞に供給される母性因子、その下流遺伝子、生殖細胞を取り囲む細胞環境の解析を通じて、「生殖細胞が減数分裂を遂行する能力」を獲得する機構の解明を目指す。
教科書	各分野において、適切な文献を用いる

授業コード	22042		
授業科目名	生物学通論		
担当者名	田中 修(タナカ オサム)、佐子山豈彦(サコヤマ ヤスヒコ)、園部治之(ソノベ ハルユキ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	前期は佐子山豈彦、後期は田中修、園部治之が担当します		
オフィスアワー	火曜日13:00(田中)、金曜日11:00(園部)		

講義の内容	〔前期〕 生命の始まりは細胞である。地球上のすべての細胞は原核細胞か、真核細胞である。体を形づくる個々の細胞は生長し、増殖し、情報処理を行い、刺激に応答し、そして数多くの化学反応を行っている。このような能力をもつことこそ生命の特質である。ヒトなどの多くの多細胞生物は何十億、あるいは何兆という細胞が組織化されて複雑な構造をつくっているが、たった一つの細胞からなる生物もたくさん存在する。単純な単細胞生物でさえも、生命のあらゆる特徴を備えており、細胞が生命の基本単位であることをはっきりと示している。細胞内過程の分子レベルの理解には比較的少数の事実と原理を理解していればよい。そのために、多少の化学的基礎について解説する。 細胞の構成素材(アミノ酸、ヌクレオチド、炭水化物、脂肪酸およびリン脂質)について紹介する。 ③細胞のエネルギー代謝(ATP合成、ミトコンドリア、葉緑体などの細胞小器官)について、④遺伝情報:分子遺伝学について、転写、翻訳、およびDNA複製の基礎的メカニズムと、これらの過程を遂行する分子装置について述べる。転写制御の概念を紹介し、遺伝子制御についても触れる。今日的话题として遺伝子操作技術とゲノミクスについて軽く触れる。 ⑤発生現象についてのべる。 ⑦発生の仕上げる段階ともいえる神経系、内分泌系、さらに免疫系について解説する。 そして最後に、 ⑧生物の統一原理ともいえる生命の歴史、つまり生命の進化に解説したい。 内容は多少分子生物学に偏っている傾向はあるが今日のにはバイオ技術の一般的に科学的常識はたかまってきた。多少難しいと思われるがちですが、生命の不思議さと美を伝えるときの手段となればと思う。 〔後期〕 前半では、植物の生活環の進行を追いながら、生理機能、生体物質、代謝、ホルモン、バイオテクノロジーなどについて、解説する。 後半では、免疫系と内分泌系を例にあげながら、それらの生理現象の基礎となっている生化学反応について理解を深める。
到達目標	講義内容全般を理解できること
講義方法	〔前期〕 プリントだけでも理解できるようにするが、プリントとテキストを併用する。 〔後期〕 前半では、教科書に沿って解説する。随時、プリントなどを用いて理解の助けとする。 後半では、配布するプリントに沿って解説する。
準備学習	あらかじめ配布したプリント、テキスト、参考書などをよく読んで受講すること。
成績評価	成績評価は、前期、後期それぞれの成績を勘案して行う。前期は、期末試験を行い、その点数によって成績を決

	定する。後期は、7回目の講義時に、中間テストを行う。後期の前半7回分の内容のテストはここで行われないので、後期の前半7回分の成績を勘案してほしい人は、かならず受験すること。後期の後半7回は、提出されたレポートの内容や、小テストにより評価する。
講義構成	〔前期〕 第1回 細胞1 第2回 細胞2 第3回 代謝とエネルギー1 第4回 代謝とエネルギー2 第5回 代謝とエネルギー3 第6回 遺伝情報1 第7回 遺伝情報2 第8回 遺伝情報3 第9回 遺伝情報4 第10回 発生現象 第11回 情報伝達1(神経系、内分泌系) 第12回 情報伝達2(免疫系) 第13回 生命の歴史1 第14回 生命の歴史2 第15回 期末試験 〔後期〕 第1回から第7回までは、「入門たのしい植物学」をテキストに、植物の基本的な生理機能を概説する。 第1回 植物の成長 第2回 植物の生殖 第3回 光合成 第4回 光合成 第5回 植物のバイオテクノロジー 第6回 植物のバイオテクノロジー 第7回 品種改良の歴史 第8回 免疫系の役割1 第9回 免疫系の役割2 第10回 内分泌系による血糖量の調節1 第11回 内分泌系による血糖量の調節2 第12回 性ホルモン1 第13回 性ホルモン2 第14回 性ホルモン3
教科書	〔前期〕 分子からみた生物学 石川 統 著(裳華房) 2,700円 〔後期〕の前半 『入門たのしい植物学』田中修著(ブルーバックス 2007年)
参考書・資料	〔後期〕の前半 『クイズ 植物入門』田中修著(ブルーバックス 2005年) 『つぼみたちの生涯』田中修著(中公新書 2000年) 『ふしぎの植物学』田中修著(中公新書 2003年) 『雑草のはなし』田中修著(中公新書 2007年) 〔後期〕の後半 講義中に随時紹介する。
担当者から一言	本講義では、最新の知見の解説を行うことから難解な部分も出てくる。積極的に質問をして、出来るだけ正確に理解して欲しい。そして、今後何らかの形で生命倫理などの問題に対する判断を求められた際に、自分自身で明確な回答を出すための判断材料としてもらえることを願っている。 今まで得られてきた知識から想像や予想されることがちがうことに会おうと「意外」と感じる。その感情は、手品(マジック)を見た時に感じる感情と同じで、次にその意外がなぜかを解明したくなる衝動が起きる。そして、トリックがわかると解かった喜びと安堵の感情が起こる。この感情こそが学問を続ける楽しみの一つではないだろうか。この「意外」を見つけるための良い手助けとなるのが、別の角度から同じものを見直してみるということである。この生物学の授業を通して、1つでも多くの「意外」を見つけ、その意外感を楽しみ、そして生物のしたたかさ、生物学の面白さに気付かれる事を期待する。そして、一人一人ちがう意外感の原因を自分で見つけて戴きたい。

	また、生物学の知識のみならず、この「意外」を楽しみ、原因を追究するプロセスも今後の諸君が学ばれる中で、また、社会へ出た後で出会う色々な問題の解決のために利用して戴けると幸いである。
--	--

授業コード	22036		
授業科目名	生物学特殊講義Ⅲ(集中)		
担当者名	中野伸一(ナカノ シンイチ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	湖沼や河川などの陸水生態系は、物理・化学・生物・地学等のさまざまなプロセスの複合作用によって成り立つ複雑なシステムであり、陸上生態系に比べて物質循環速度が速く、生物群集の変化がダイナミックである。本講義は、水圏生態系における生物学的、化学的、物理的プロセスおよびこれらの相互作用について、基礎的な知識から最新の学術情報までを網羅して講義する。
到達目標	陸水生態系における生態学的プロセスに主眼を置き、水生生物と環境の相互作用に関する基礎知識を習熟し、陸水生態系の構造と機能の理解を通じて、地球環境問題の解決に資する生物観を醸成することを目的とする。受講生が、自然水域において現場環境に関する少ない情報から当該水域の状態、特にそこに生息する生物の生態について、できるだけ正確にかつより多くを把握できることが到達目標である。
講義方法	集中講義形式
準備学習	可能であれば、海、川、湖などに遊びに行き、水環境とはどういう場所か、実感しておいてください。
成績評価	ペーパーテストによる
講義構成	1.プランクトンの紹介 2.水の特性(粘性)と生物の生態 3.水の特性(乱流と層流)と生物の生態(その1) 4.水の特性(乱流と層流)と生物の生態(その2) 5.光・熱と生物の生態 6.植物プランクトンと光環境 7.成層・混合と生物の生態 8.酸素・二酸化炭素と生物の生態 9.植物プランクトンの生態に着目した炭素動態 10.窒素循環と生物の生態(その1) 11.窒素循環と生物の生態(その2) 12.リン循環と生物の生態 13.微生物学的プロセスに着目した酸素・硫黄動態 14.微生物ループの生態学(その1) 15.微生物ループの生態学(その2)
教科書	教科書は指定しません。
参考書・資料	下の教科書から抜粋した内容を講義します。 1.Horne & Goldman著、手塚泰彦訳、「陸水学」、京都大学出版会 2.Lampert & Sommer著、「Limnology」、Oxford 3.Lalli & Parsons著、「Biological Oceanography, an Introduction」、Butterworth Heinemann 4.西條八束・三田村緒佐武著、「湖沼調査法」、講談社サイエンティフィック 5.山中健生著、「環境に関わる微生物学入門」、講談社サイエンティフィック 6.瀬戸昌之著、「環境微生物学入門」、朝倉書店
講義関連事項	特に無し

担当者から一言	特に無し
その他	特に無し
URL	http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/~nakano/index.html

授業コード	22037
授業科目名	生物学特殊講義Ⅳ(集中)
担当者名	田村宏治(タムラ コウジ)

配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	動物発生とくに脊椎動物の初期発生と器官形成の基礎を身につける。細胞分裂・増殖・分化・形態形成によって、受精卵からどのようにして多種多様な細胞種と動物形態が生じるかを概観する。また、これら発生過程を研究する方法についても触れる。		
到達目標	・卵生、卵胎生、胎生の区別がつけられる。 ・胎生が、哺乳類だけで行われるわけではないことを理解できる。 ・動物の系統関係を俯瞰できるとともに脊椎動物の系統樹を理解できる。 ・動物の発生過程の概略を描写できる。 ・三胚葉と、それぞれから形成される器官を理解できる。 ・細胞分化と形態形成の概念を理解できる。 ・フラミンゴの膝がどこにあるか、理解できる。 ・動物の形態の多様性を発生学的に考察できる。 ・亀の甲羅が、何でできているかを理解できる。 ・発生学研究の方法論を理解できる。		
講義方法	画像、映像、プリント、および板書によって進める。		
準備学習	前もって、動物園か水族館に行っておくことが望ましい。		
成績評価	当日行う小テストと、レポートの内容により評価する。		
講義構成	・脊椎動物の生殖 ・脊椎動物の系統 ・初期発生過程 胚葉誘導 ・軸形成(前後・背腹・左右) ・細胞系譜と分化形質、発生における分化 ・器官形成と動物形態の多様性		
教科書	教科書は指定しない。		
参考書・資料	・Developmental Biology Eighth Edition (2006) Scott F. Gilbert ・エッセンシャル発生生物学(2007) Jonathan Slack 著(大隅典子訳) ・ウィルト発生生物学(2006) Fred H. Wilt, Sarah C. Hake 著(赤坂甲治・大隅典子・八杉貞雄 監訳) ・発生遺伝学(2007) 武田洋幸、相賀裕美子 著		

担当者から一言	ニワトリの卵とひよこ、どちらが重たいと思いますか？
---------	---------------------------

授業コード	22038		
授業科目名	生物学特殊講義Ⅴ(集中)		
担当者名	都丸雅敏(トマル マサトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	生物学は多様性と普遍性の学問です。地球上の生物は、共通の祖先から多数の種に分化し進化してきたので、多様性と普遍性を必然的に持っています。本講義では、主に進化遺伝学の視点から、生物の進化について解説します。中でも、多様性の源である種分化(種が形成されること)と、それに関わる生殖、特に求愛行動について焦点を当てます。求愛行動の例として、ショウジョウバエを取り上げ、多様性と普遍性の観点から、個体レベルから分子レベルまで解説します。
到達目標	性的隔離や性の進化的意味を学ぶことで、進化や種とは何か理解する。求愛行動に関わる感覚要素と受容の仕組みや遺伝子の役割をモデル生物(ショウジョウバエ)を通して学ぶ。
講義方法	主にスライドを使用して講義を進める。
準備学習	特になし
成績評価	出席とレポートで評価する。
講義構成	1. 進化生物学と遺伝学 2. 生物学的種概念と種分化 3. 性 4. 性比 5. 性淘汰(性選択)

	6. 性的対立と精子競争 7. 性的隔離 8. 求愛行動と種特異性 9. 求愛行動に関わる遺伝子 10. 求愛行動に関わる神経経路 11. 性フェロモンと生合成に関わる遺伝子 12. 性フェロモンの受容と遺伝的制御 13. 求愛歌の種特異性 14. 求愛歌の遺伝的制御 15. 求愛歌の受容
教科書	特になし
参考書・資料	・「進化—分子・個体・生態系」パートンら 著 宮田・星山 訳 メディカル サイエンスインターナショナル ・「進化とはなんだろうか」長谷川真理子 著 岩波ジュニア新書 ・「分子昆虫学 —ポストゲノムの昆虫研究—」神村学ら 編 共立出版
担当者から一言	講義でお話する内容は、たくさんの面白いことのごく一部にすぎません。興味ができたことから、さらに、真理の森へと探索に出かける、そのお手伝いができればと思います。
URL	http://www.cis.kit.ac.jp/~tomaru/

授業コード	22039		
授業科目名	生物学特設科目I(集中)		
担当者名	今井博之(イマイ ヒロユキ)		
配当年次	3年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	予備登録		
オフィスアワー	月曜日, 10:30～13:00		

講義の内容	本科目は、全国に設けられた各国立大学に附属する臨海および臨湖実験所で行われる公開臨海実習あるいは公開臨湖実習を履修し、単位を取得した場合にその単位を本学の単位として認定する科目である。 本科目は、修得単位数が1単位以上で2単位に満たない場合に適用する。 講義内容は、毎年5月頃に全国臨海・臨湖実験所所長会議より送付される、各実験所での実習内容を紹介したパンフレットを参照のこと。パンフレットは、教務部窓口あるいは今井に申し出て閲覧すること。
到達目標	実地経験に基づいた生物の理解によって、生命の多様性・複雑性をイメージするセンスを身につけることができる。
講義方法	各臨海および臨湖実験所の指定する通り。
準備学習	パンフレット等を参照し、教務部窓口あるいは今井と相談し、よく確認しておくこと。
成績評価	各臨海および臨湖実験所の指定する通り。 単位の認定方法および、単位取得後の手続き等に関しては、実習ごとに若干の違いがある。パンフレット等を参照し、教務部窓口あるいは今井と相談し、よく確認しておくこと。
講義構成	実習は、主に夏休み、冬休みあるいは春休みの期間に行われる。実習期間は3日間程度、集中。 それぞれの実験所で宿泊し、それぞれ特徴あるプログラムに沿って実習が行われる。 実習内容の詳細は、上述のパンフレットを参照。
教科書	各臨海および臨湖実験所の指定する通り。
参考書・資料	各臨海および臨湖実験所の指定する通り。
講義関連事項	一般の講義や実習と違い、重要な注意事項がたくさんあるので、以下の注意事項をよく理解しておくこと。 ・実習の時期や単位認定の都合上、履修した年度内に単位認定出来ない場合がある。この場合は次年度の単位として認定する事となるので、次年度に在籍しない場合には無効となるので注意すること。また、この単位が卒業に関わる場合には特に注意すること。 ・履修登録は4月時点では行わず、実習参加後に行う。これら本学での手続きは、概ね広域副専攻科目の特設科目Ⅱ(大学洋上セミナー)に準じて行われる。 ・実習の参加資格、実習の申し込み方法等は、それぞれの実習プログラムごとに異なるので、パンフレットを熟読すること。また、ほとんどの場合定員が設けられており、定員をオーバーした場合には抽選等により参加を断られる場合もあるので注意すること。 ・実習期間が本学の講義等と重なってしまった場合には、本学の講義を優先する。

	・実習には、個別に参加費および宿泊費が必要である。これらは、個別に実験所へ支払うことになる。また、交通費も必要になってくる。詳細はパンフレット参照。 ・海洋上での実習などもあり、危険な状況も生じうる。常に怪我や事故に注意し、安全に実習を終えられるよう心すること。 ・上記注意事項を含め、学科別受講指導(3月末)直後にガイダンスを行うので、必ず参加すること。
--	--

担当者から一言	今年度は、今井が窓口となり皆さんの相談に乗ります。気軽に相談に来てください。 他大学の学生さん達とともに集団生活をしながらの実習になります。きつい部分もありますが、楽しい思い出も沢山できます。実習内容も豊富で、かつ専門的なものも多く、それぞれのプログラムは個性的なものばかりです。他では経験できないものばかりですから、ぜひ積極的に参加し、思いっきりエンジョイしてきて下さい。 他大学の施設での実習であり、先方の先生方や技官の方々のお世話になります。実習器具の取り扱いや実習態度は勿論、日常生活でも節度と礼儀と感謝の気持ちを忘れずに参加して下さい。
---------	--

授業コード	22040		
授業科目名	生物学特設科目Ⅱ(集中)		
担当者名	今井博之(イマイ ヒロユキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	予備登録		
オフィスアワー	月曜日、10:30～13:00		

講義の内容	本科目は、全国に設けられた、各国立大学に附属する臨海および臨湖実験所で行われる公開臨海実習あるいは公開臨湖実習を履修し、単位を取得した場合に、その単位を本学の単位として認定する科目である。 本科目は、修得単位数が2単位以上の場合に適用する。 講義内容は、毎年5月頃に全国臨海・臨湖実験所所長会議より送付される、各実験所での実習内容を紹介した紹介パンフレットを参照のこと。パンフレットは、教務部窓口あるいは今井に申し出て閲覧すること。
到達目標	実地経験に基づいた生物の理解によって、生命の多様性・複雑性をイメージするセンスを身につけることができる。
講義方法	各臨海および臨湖実験所の指定する通り。
準備学習	パンフレット等を参照し、教務部窓口あるいは今井と相談し、よく確認しておくこと。
成績評価	各臨海および臨湖実験所の指定する通り。 単位の認定方法および、単位取得後の手続き等に関しては、実習ごとに若干の違いがある。パンフレット等を参照し、教務部窓口あるいは今井と相談し、よく確認しておくこと。
講義構成	実習は、主に夏休み、冬休みあるいは春休みの期間に行われる。実習期間は5日間程度、集中。 それぞれの実験所で宿泊し、それぞれ特徴あるプログラムに沿って実習が行われる。 実習内容の詳細は、上述のパンフレットを参照。
教科書	各臨海および臨湖実験所の指定する通り。
参考書・資料	各臨海および臨湖実験所の指定する通り。
講義関連事項	一般の講義や実習と違い、重要な注意事項がたくさんあるので、以下の注意事項をよく理解しておくこと。 ・実習の時期や単位認定の都合上、履修した年度内に単位認定出来ない場合がある。この場合は次年度の単位として認定する事となるので、次年度に在籍しない場合には無効となるので注意すること。また、この単位が卒業に関わる場合には特に注意すること。 ・履修登録は4月時点では行わず、実習参加後に行う。これら本学での手続きは、概ね広域副専攻科目の特設科目Ⅱ(大学洋上セミナー)に準じて行われる。 ・実習の参加資格、実習の申し込み方法等は、それぞれの実習プログラムごとに異なるので、パンフレットを熟読すること。また、ほとんどの場合定員が設けられており、定員をオーバーした場合には抽選等により参加を断られる場合もあるので注意すること。 ・実習期間が本学の講義等と重なってしまった場合には、本学の講義を優先する。 ・実習には、個別に参加費および宿泊費が必要である。これらは、個別に実験所へ支払うことになる。また、交通費も必要になってくる。詳細はパンフレット参照。 ・海洋上での実習などもあり、危険な状況も生じうる。常に怪我や事故に注意し、安全に実習を終えられるよう心すること。 ・上記注意事項を含め、学科別受講指導(3月末)直後にガイダンスを行うので、必ず参加すること。

担当者から一言	今年度は、今井が窓口となり皆さんの相談に乗ります。気軽に相談に来てください。
---------	--

	他大学の学生さん達とともに集団生活をしながらの実習になります。きつい部分もありますが、楽しい思い出も沢山できます。実習内容も豊富で、かつ専門的なものも多く、それぞれのプログラムは個性的なものばかりです。他では経験できないものばかりですから、ぜひ積極的に参加し、思いっきりエンジョイして下さい。 他大学の施設での実習であり、先方の先生方や技官の方々のお世話になります。実習器具の取り扱いや実習態度は勿論、日常生活でも節度と礼儀と感謝の気持ちを忘れずに参加して下さい。
--	--

授業コード	22009		
授業科目名	生物物理化学（前）		
担当者名	渡辺洋平（ワタナベ ヨウヘイ）		
配当年次	1・2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限

講義の内容	生物は外界からエネルギーを取り入れ、自らを維持し、増殖する。生物物理化学はこのような複雑な生命現象を、物理化学的な視点から理解しようというものである。中でも、生体を構成する個々の分子を対象とした生物物理化学的研究からは、現在の生命科学の基礎をなす重要な知見が多数得られている。本講義では、生体を構成する個々の分子の中でも、特に生命活動を直接的に担うタンパク質に注目し、その物理化学的性質を概説し、それらがどのように生命活動を支えているのかを紹介する。
到達目標	生体分子、特にタンパク質の物理化学的な性質と、その性質がどのように生命活動を支えているのかを理解する。
講義方法	板書を中心に講義をすすめる。必要に応じて適宜資料を配布する。
準備学習	予習・復習
成績評価	定期試験により評価する。講義の出席も考慮する。
講義構成	第1回 細胞の構造 第2回 生体を構成する分子(1) 第3回 生体を構成する分子(2) 第4回 アミノ酸(1) 第5回 アミノ酸(2) 第6回 タンパク質の構造(1)タンパク質内で働く力 第7回 タンパク質の構造(2)1次構造 第8回 タンパク質の構造(3)2次構造 第9回 タンパク質の構造(4)3次構造、4次構造 第10回 タンパク質の精製、分析法(1) 第11回 タンパク質の精製、分析法(2) 第12回 タンパク質の精製、分析法(3) 第13回 タンパク質と他の生体分子との関わり 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	「ヴォート生化学」Donald Voet, Judith G. Voet著、田宮信雄、村松正美、八木達彦、吉田浩訳（東京化学同人）

授業コード	22014		
授業科目名	動物生理生化学（後）		
担当者名	園部治之（ソノベ ハルユキ）		
配当年次	1・2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	金曜日（11:00）		

講義の内容	多細胞の個体では、細胞は漫然として集合しているのではなく、それぞれの間でコミュニケーション、すなわち細胞間シグナルの交換（生体内情報伝達）が行われ、個体としての生理状態が一定の範囲内に調節されている。近年、多くの生体内情報伝達物質が見いだされているが、本講義では特にペプチド・タンパク質系ホルモンとステロイド系ホルモンが動物の生理状態の調節にどのように関与しているかを、生化学と分子生物学的な観点か
-------	---

	ら解説する。具体的には、内分泌細胞でのホルモンの合成系、標的細胞でのホルモン受容体への結合に始まる細胞内での一連の化学反応、さらに生理的変化の発現などについて、最近の知見を交えながら解説する。
到達目標	ホルモンの構造と機能、細胞間シグナル伝達機構、細胞内シグナル伝達機構の基礎知識を十分に修得する
講義方法	配布したプリントを中心に解説する
準備学習	あらかじめ配布したプリントを予習しておくこと
成績評価	小テストやレポート提出(20%)と期末試験(80%)を合わせて評価する。
講義構成	第1回 ペプチド・タンパク質系ホルモンの構造と機能 第2回 " 第3回 " 第4回 ステロイドホルモンの構造と機能 第5回 " 第6回 " 第7回 インシュリンとグルゴンによる血糖量の調節機構 第8回 " 第9回 " 第10回 " 第11回 ステロイドホルモンによるタンパク質合成の調節機構 第12回 " 第13回 " 第14回 まとめ
教科書	使用しない

担当者から一言	配布したプリントはあらかじめ予習しておくこと。
---------	-------------------------

授業コード	22013		
授業科目名	内分泌学概論（前）		
担当者名	園部治之（ソノベ ハルユキ）		
配当年次	1・2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	金曜日(11:00)		

講義の内容	(1) 動物は、絶えず変化する外部環境に身を置きながら、体内の状態(内部環境)を安定に保って固体の秩序を維持している。このために神経系、内分泌系、免疫監視機構が重要な3本柱として働いている。本講義では、特に内分泌系を中心として、個体のホメオスタシス(恒常性)がどのようにして維持されているかや、動物の発生や成長、生殖機能、形態形成、行動発現などにホルモンがどのように関わっているかなどについて解説する。 (2) 内分泌学(Endocrinology)という言葉は、ホルモンの過剰や欠損がからだの働きの異常をもたらす観察が学問に発展したために、医学の一分野の響きが強かった。しかし、最近では、細胞生物学や分子生物学の手法を取り入れて、医学の一分野という枠を越え、基礎生命科学としての生体調節機構学とも呼べるような広がりを持つものに発展してきた。基礎生命科学としての内分泌学の最近の動向について平易に解説する。
到達目標	内分泌系の基礎知識を十分に修得する
講義方法	配布したプリントを中心に解説する
準備学習	あらかじめ配布したプリントを予習しておくこと
成績評価	小テストやレポート提出(20%)と期末試験(80%)を合わせて評価する。
講義構成	第1回 生体調節の仕組み(概説):(1)神経系 (2)内分泌系 (3)免疫系 第2回 " 第3回 " 第4回 " 第5回 内分泌器官の形態 第6回 " 第7回 " 第8回 ペプチド・タンパク質ホルモンの生合成 第9回 " 第10回 " 第11回 ステロイドホルモンの生合成系

	第12回 " 第13回 " 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	使用しない
担当者から一言	配布したプリントは予習しておくこと

授業コード	22007		
授業科目名	発生学概論（前）		
担当者名	日下部岳広（クサカベ タケヒロ）		
配当年次	1・2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	生物の発生現象、とくに動物の発生について、基本的な現象とそのしくみについて学ぶ。
到達目標	多細胞動物のからだと器官のなりたちを理解する。 発生のしくみの普遍性と多様性の理解を深める。
講義方法	教科書および配布資料に基づいて講義を行う。 毎回、質問に答える時間を設ける。
準備学習	毎回の授業をよく復習し、次の授業に臨むこと。
成績評価	期末試験により評価する。 授業への参加状況を考慮する。
講義構成	第1回 発生学とは 第2回 動物の系統と発生 第3回 発生と遺伝子 第4回 卵成熟 第5回 受精と卵割 第6回 ショウジョウバエの発生I 第7回 ショウジョウバエの発生II 第8回 海産無脊椎動物（ウニ・ホヤ）の発生 第9回 脊椎動物の初期発生 第10回 脊椎動物の器官形成I 中胚葉性器官の発生 第11回 脊椎動物の器官形成II 四肢の形成・内胚葉性器官の発生 第12回 脊椎動物の器官形成III 中枢神経系・神経堤・感覚器官 第13回 生殖細胞の形成 第14回 変態 第15回 発生工学・多能性幹細胞
教科書	ウイルト発生生物学（東京化学同人） その他、資料を適宜配布する。
参考書・資料	「細胞の分子生物学 第5版」 B. Alberts 他 著（Newton Press 2010） 「たった一つの卵から ―発生現象の不思議―」 西駕秀俊・八杉貞雄編著（東京化学同人 2001） 「発生遺伝学 ― 脊椎動物のからだと器官のなりたち」 武田洋幸・相賀裕美子著（東京大学出版会 2007）
担当者から一言	教科書・参考書や図書館を利用して自習し、授業で取り上げた内容の理解を深める努力が大切である。

授業コード	22031		
授業科目名	発生学・動物生理化学演習（6～7月）（前）		
担当者名	日下部岳広（クサカベ タケヒロ）、園部治之（ソノベ ハルユキ）		
配当年次	3年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限 水曜5限 木曜5限 金曜5限

特記事項	6～7月
講義の内容	発生学に関しては、胚発生過程および器官形成過程における細胞分化と形態形成のメカニズムについて理解を深めることを目的として、演習を行う。動物生理化学に関しては、動物のホメオスタシスに関する理解を深めることを目的として演習を行う。
到達目標	発生学および動物生理化学分野の実験解析に関連した英語の読解力と専門用語の理解を深める。さらに、データ解析や効果的なプレゼンテーション法、レポート作成の作法を修得する。
講義方法	実験に関連した外国文献を輪読する。 実験に関連した遺伝子・ゲノム・タンパク質に関する情報を国際データベースや情報科学ツールを用いて解析し、演習課題に答える。 実験の進行に応じて段階的にレポート作成の作法を修得する。
準備学習	本演習を履修しようとする者は、次の4科目「内分泌概論」、「動物生理生化学」、「発生学概論」、「発生生物学」を2年次までに修得するか、修得していないものは3年次で並行履修すること。 演習にあたっては、初回に配布されるテキストおよび適宜提示する参考文献・資料をよく予習すること。
成績評価	演習中の発表とレポートにより総合的に評価する。
講義構成	実験に関連した外国文献を輪読し、英語の読解力と専門用語の理解を深める。実験に関連した遺伝子・ゲノム・タンパク質に関する情報を国際データベースや情報科学ツールを用いて解析し、演習課題に取り組むことにより、パイオインフォマティクスを活用した研究手法の理解を深める。また、実験の進行に応じてデータ整理やデータの解釈、議論の展開の仕方など、レポート作成の作法を修得する。
教科書	なし
担当者から一言	本演習の基礎として、「内分泌概論」、「動物生理生化学」および「発生学概論」、「発生生物学」は重要である。したがって本実験を履修しようとする者は、これらの科目を2年次までに修得するか、修得していないものは3年次で並行履修すること。

授業コード	22027		
授業科目名	発生学・動物生理化学実験 (6～7月)(前)		
担当者名	日下部岳広(クサカベ タケヒロ)、園部治之(ソノベ ハルユキ)		
配当年次	3年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限 水曜3限 水曜4限 木曜3限 木曜4限 金曜3限 金曜4限
特記事項	6～7月		

講義の内容	発生学に関しては、胚発生・器官形成過程における細胞分化、形態形成メカニズムについての理解を深めることを目的として、卵細胞や胚・幼生を材料に分子発生学的実験を行う。動物生理化学に関しては、動物のホメオスタシスに関する理解を深めることを目的として、内分泌系の実験形態学的観察を行う。
到達目標	胚発生・器官形成過程における細胞分化・形態形成メカニズム、および動物のホメオスタシスに関する理解を深める。
講義方法	発生学に関しては、卵細胞や胚・幼生を材料に分子発生生物学の実験を行う。動物生理化学に関しては、内分泌系の実験形態学的観察を行う。
準備学習	本実験を履修しようとする者は、次の4科目「内分泌概論」、「動物生理生化学」、「発生学概論」、「発生生物学」を2年次までに修得するか、修得していないものは3年次で並行履修すること。 実験にあたっては、初回に配布されるテキストおよび適宜提示する参考文献・資料をよく予習すること。
成績評価	実験態度とレポートにより総合的に評価する。
講義構成	1. 初期胚の観察と胚操作 2. 胚発生における細胞分化と組織特異的遺伝子発現の観察 3. ゲノム情報を利用した解析 4. 内分泌器官の観察と内分泌調節機構 (1) ダンゴムシの造雄腺の観察 (2) メダカの脳下垂体の観察 (3) カイコの内分泌系の観察 (4) 甲殻類のX器官・サイナス腺系の観察 (5) 哺乳類の生殖腺、甲状腺、ランゲルハンス島などの観察
教科書	なし

担当者から一言	本実験の基礎として、「内分泌概論」、「動物生理生化学」および「発生学概論」、「発生生物学」は重要である。したがって本実験を履修しようとする者は、これらの科目を2年次までに修得するか、修得していないものは3年次で並行履修すること。
---------	--

授業コード	22008		
授業科目名	発生生物学（後）		
担当者名	日下部岳広（クサカベ タケヒロ）		
配当年次	1・2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	「発生学概論」で学んだ発生現象の背後にある分子・細胞レベルのメカニズムに焦点をあて、いくつかの重要な発生現象のしくみについて詳しく学ぶ。
到達目標	多細胞動物の体が作られるしくみを、分子・細胞レベルで理解する。 ゲノム情報の発現制御や分子・細胞レベルの発生制御機構を学ぶことにより、発生現象の普遍性と多様性についての理解を深める。
講義方法	教科書および配布資料に基づいて講義を行う。 毎回、質問に答える時間を設ける。
準備学習	毎回の授業をよく復習し、次の授業に臨むこと。
成績評価	期末試験により評価する。 授業への参加状況を考慮する。
講義構成	第1回 発生生物学の諸問題 第2回 細胞分裂の制御 第3回 細胞接着と形態形成 第4回 発生における遺伝子発現調節I 転写制御 第5回 発生における遺伝子発現調節II エピジェネティックな制御機構 第6回 発生を司る細胞間シグナル伝達 第7回 体軸の形成メカニズム 第8回 細胞分化の分子機構I 無脊椎動物モデル 第9回 細胞分化の分子機構II 脊椎動物の筋肉と血球 第10回 感覚器官の発生機構 第11回 脳神経系の発生I 神経管形成と中枢神経の領域化 第12回 脳神経系の発生II 神経回路形成の分子機構 第13回 ゲノム情報と遺伝子調節ネットワーク 第14回 Non-coding RNAによる発生制御 第15回 発生機構の多様性と普遍性、形態進化の分子機構
教科書	ウイルト発生生物学（東京化学同人） その他、資料を適宜配布する。
参考書・資料	「細胞の分子生物学 第5版」 B. Alberts 他 著（Newton Press 2010） 「たった一つの卵から ―発生現象の不思議―」 西駕秀俊・八杉貞雄編著（東京化学同人 2001） 「発生遺伝学 ― 脊椎動物のからだと器官のなりたち」 武田洋幸・相賀裕美子著（東京大学出版会 2007）

担当者から一言	教科書・参考書や図書館を利用して自習し、授業で取り上げた内容の理解を深める努力が大切である。
---------	--

授業コード	22018		
授業科目名	微生物遺伝学（後）		
担当者名	石黒順平（イシグロ ジュンペイ）		
配当年次	2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	水曜日1時PMから2時PM		

講義の内容	パスツールが白鳥型フラスコを用いて、微生物は自然発生するのではなく、他の生物と同様にその親から発生
-------	---

	することを証明したのは(生物発生説)、わずが百数十年前のことである。遺伝子の本体がDNAであることは、微生物を使った実験によって1950年頃にはじめて明らかにされた。この頃には、大腸菌の接合や酵母におけるヘテロタリズムの発見によって、微生物の遺伝解析が可能になり、微生物遺伝学の分野が誕生した。1970年代に入ると、バクテリアから分離調製されたいくつかの道具(プラスミド、制限酵素、リガーゼなど)を用いて、人工的にDNAを組換えることができるようになった。このような遺伝子操作技術は、遺伝現象を分子レベルで理解するのに大いに役立つと同時に、様々な有用生物物質の生産や、ある種の疾病の治療など、応用面においても盛んに利用されている。当講義では、遺伝現象を理解する上で必要な基礎的事項を説明したうえで、大腸菌(原核生物)と酵母(真核微生物)の遺伝解析を詳細に解説する。さらに遺伝子操作の原理と応用についても述べる。
到達目標	(1) 原核生物(大腸菌)及び真核微生物(酵母)における遺伝現象とそれらを利用した遺伝解析法について理解する。 (2) 遺伝子操作の原理と応用についての基礎的事項を理解する。 (3) バクテリオファージの遺伝子発現調節機構について理解する。
講義方法	口頭・板書による説明以外にプリントやパワーポイントなどを多用する。理解度をみるために、講義中に小テストをする場合がある。
準備学習	(1) 高校の「生物Ⅰ」及び「生物Ⅱ」の内容をよく理解していること。高校で生物を選択しなかった人は、それらの教科書で自習しておくことが必要(選択しなかった人は相談して下さい。教科書を貸し出すこともできます)。 (2) 「基礎生物学Ⅰ」及び「基礎生物学Ⅱ」を修得しておくことが望ましい。
成績評価	おもに期末試験の成績で評価する。
講義構成	後期 第1回 突然変異:誘発機構、変異率、抑制遺伝子変異、変異体の分離 第2回 // 第3回 大腸菌の遺伝解析:接合、Fプラスミッド、形質導入、染色体地図 第4回 // 第5回 真菌類の遺伝:分類、形態、生活環(子囊菌、担子菌など)、メンデルの遺伝、その他 第6回 // 第7回 酵母の遺伝解析:相補性試験、アレリズム試験、四分子分析、その他 第8回 // 第9回 遺伝子操作の基礎:ベクター、形質転換、クラーク・カーボンの式、その他 第10回 // 第11回 遺伝子操作の実際:遺伝子ライブラリー、遺伝子のクローニング、その他 第12回 // 第13回 ウイルスの遺伝:バクテリオファージの増殖、溶原化機構(遺伝子発現調節メカニズム)、その他 第14回 // 第15回 試験
教科書	特に指定しない。適宜、プリント等を配布する。
参考書・資料	「微生物科学」5巻柳田友道他著(学会出版センター) 「ワトソン・組換えDNAの分子生物学」ワトソン他著(丸善) 「遺伝子の分子生物学」ワトソン他著(東京電機大学出版局)
担当者から一言	講義内容は多岐にわたり、特定の教科書を用いないので、講義に出席してノートをとることが必須である。

授業コード	22032		
授業科目名	微生物学・系統分類学演習(9～11月)(後)		
担当者名	石黒順平(イシグロ ジュンペイ)、本多大輔(ホンダ ダイスケ)		
配当年次	3年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限 水曜5限 木曜5限 金曜5限
特記事項	9～11月		

講義の内容	実験の手順を理解し、遂行し、得られた結果を考察するために必要な関連知識の修得。必要に応じて、文献を輪読したり、演習問題を解く。
到達目標	(1) 微生物の取り扱いに必要な基礎知識を理解する。 (2) 遺伝子操作の原理と方法についての基礎知識を理解する。
講義方法	演習問題や文献講読について、プリント、板書、パワーポイント等を用いて解説する。
準備学習	(1) 高校レベルの生物と化学の知識を学習しておくこと。

	(2)「微生物生理学」、「微生物遺伝学」、「環境生物学」、「系統分類学」を修得していることが望ましい。
成績評価	演習問題や文献講読などについての発表内容、出席状況により総合的に評価する。
講義構成	「微生物学・系統分類学実験」の内容を理解し、実験を遂行するのに必要な知識を習得することを目的に、おもに生化学計算法などの演習問題や文献の講読を行う。
教科書	特に指定しない。適宜、プリント等を配布する。
参考書・資料	シーゲル生化学計算法(廣川書店)

授業コード	22028		
授業科目名	微生物学・系統分類学実験(9～11月)(後)		
担当者名	石黒順平(イシグロ ジュンペイ)、本多大輔(ホンダ ダイスケ)		
配当年次	3年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限 水曜3限 水曜4限 木曜3限 木曜4限 金曜3限 金曜4限
特記事項	9～11月		

講義の内容	現代生物学の中心原理は微生物を用いた研究により明らかにされた。また、遺伝子操作などDNA組換え実験において微生物の取り扱いには不可欠である。本実験では、微生物を取り扱うための基礎知識と技術を修得するために、無菌操作、大腸菌や酵母の培養などを行う。また、より高度な知識と実験技術を学ぶために、核酸の抽出、プラスミドの調製、形質転換などの実験を行う。 分類とは、多様な生物を人間が理解して整理するということである。この多様性を理解するためには、進化とその道筋である系統を理解することが不可欠である。本実験では、野外からサンプリングを行い、ひとすくいの海水中にいかに系統的に多様な微生物が存在していることを細胞構造の比較から認識した上で分類、同定を行う。特に材料は海産の単細胞生物とし、詳細な光学顕微鏡観察、走査型および透過型電子顕微鏡用の試料作成および観察技術の修得と、その観察結果の解釈を行う。
到達目標	(1) 微生物の取り扱いについての基本的知識と技術を身に付ける。 (2) 遺伝子操作の基本的知識と技術を身に付ける。
講義方法	実験器具の取り扱い、滅菌、培地の作成、形質転換などの原理と方法を説明したあと、実際に実験を行う。
準備学習	実験に必要な知識やプロトコールを記載したプリントを実験開始前に熟読し、内容を理解しておくことが必要である。
成績評価	提出されたレポートの内容のみならず、実験・演習の出席状況及び態度を総合的に評価する。
講義構成	1. 無菌操作と微生物培養の基礎実験 2. 酵母tRNAの調製と塩基組成の分析 3. 大腸菌—酵母シャトルベクターを用いた酵母の形質転換 4. 海産微生物のサンプリング 5. 光学顕微鏡による観察、スケッチ、写真撮影、同定 6. 走査型および透過型電子顕微鏡のための試料作成、観察、写真撮影、微細構造の解釈
教科書	特に指定しない。適宜、プリント等を配布する。
参考書・資料	実験に必要な知識やプロトコール等はプリントにして配布する。
ホームページタイトル	{系統分類学研究室, http://syst.bio.konan-u.ac.jp/index.html }
URL	http://syst.bio.konan-u.ac.jp/index.html

授業コード	22017		
授業科目名	微生物生理学(前)		
担当者名	石黒順平(イシグロ ジュンペイ)		
配当年次	2・3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	水曜日1時PMから2時PM		

講義方法	板書、配布資料を中心に講義を進めて行く。
準備学習	「基礎生物学II」、「基礎生物学演習II」の内容が本講義の基礎になる。「基礎生物学II」、「基礎生物学演習II」の講義内容の再確認してから講義に望んでほしい。また、分子生物学の知見は日々新しくなっており、基本的な専門用語、知見を記憶して行く必要がある。新しい知見を講義に積極的に盛り込んで行く予定である。十分復習をして、講義に望んでほしい。
成績評価	期末試験 を中心に評価する。
講義構成	第1回 講義の概要と予定 第2回 真核細胞の構造 第3回 メンデル遺伝学と分子遺伝学 第4回 セントラルドグマ 第5回 細胞の分化と遺伝子、生殖細胞、EG細胞、ES細胞、ガン細胞の比較 第6回 転写基本因子 第7回 プロモーターの構造 第8回 転写開始複合体 第9回 転写因子の作用 第10回 転写因子のドメイン構造 第11回 転写因子による細胞分化の制御 第12回 転写因子によるボディプランの制御 BX-C遺伝子座の発見 第13回 真核生物のmRNA構造、スプライシングの分子機構 第14回 翻訳の分子機構、翻訳調節とボディプラン 第15回 試験
教科書	必要な資料を適宜配布する。
参考書・資料	「エッセンシャル遺伝学」 D.L. ハートル、E.W. ジョーンズ共著、 布山喜章・石和貞男監訳（培風館 2005） 「GENES VIII」Benjamin Lewin著（Prentice Hall社 2004） 「細胞の分子生物学」Bruce Albertsら（Newton press 2004）
講義関連事項	基礎生物学II、基礎生物学演習II、遺伝学概論を受講してから、本講義を受講することをお勧めする。
担当者から一言	単に分子に関する知識を伝えるだけでなく、新しい考え方が生まれてくる過程にも注目し、その一つの原動力としていくつかの研究分野の成果の融合が大きな役割をもつことも併せて解説していきたい。

授業コード	22041		
授業科目名	臨海実習（集中）		
担当者名	道之前允直（ミチノマエ マサナオ）、日下部岳広（クサカベ タケヒロ）、岩崎 望（イワサキ ノゾム）、秋山 貞（アキヤマ タダシ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
オフィスアワー	特に指定はない。 質問等はいつでも受け付ける。		

講義の内容	地球の表面積の約7割を占める海洋。そこは、生命揺籃の場とも称され、実に多様な生物とそれらを取り囲む不思議に満ちた世界が広がっている。その海と海の生き物たちをいろいろな観点から調べ、観察し、実験を行うことで、不思議の世界を垣間見ることができる。海水を自らの手で分析、測定する。海中のプランクトン、海草、海藻や海岸動物を観察する。見てる間にどんどん形を変えていく初期発生の様子を観察し、さらにその過程に手を加え、実験を行うことで、そのメカニズムを探る。その一つ一つの作業も、そこから得られる結果も新しい発見の連続となるであろう。
到達目標	海産無脊椎動物の初期発生、海洋環境の理解、海洋生態の理解
講義方法	8月上旬、岡山大学牛窓臨海実験所に1週間合宿して集中講義をする。
準備学習	事前演習に必ず出席すること。
成績評価	事前、事後の演習と1週間集中の岡山大学牛窓臨海実験所での実習すべてに出席していることが前提条件となる。事後演習の後、各自実習の結果をまとめたレポート及び演習・実験の取り組み方との総合により評価する。
講義構成	事前演習、第1回 海洋物理学と海洋生態学 事前演習、第2回 海産無脊椎動物の初期発生

	実習内容 1 マガキの初期発生、ウニの初期発生の観察 2 ウニの単為発生 3 ウニ胚単雑割球の発生 4 ウニ胚の植物極化と動物極化 5 海産動物の生理的反応 6 海洋観測：船上実習 7 海洋観測：化学分析およびデーター解析 8 海洋観測：プランクトンの観察および分類 9 磯観察 10 海岸動物の観察と分類 11 海藻の観察と分類 事後演習 まとめとディスカッション
教科書	事前演習においてテキストを配布する。
参考書・資料	「海産無脊椎動物の発生実験」石川優・沼宮内隆晴共編（培風館1988年） 「無脊椎動物の発生上・下」団勝磨・他編（培風館1988年） 「原色検索日本海岸動物図鑑」西村三郎編著（保育社1992年） 「原色日本海岸動物図鑑」内海富士夫著（保育社1992年） 「海岸動物」西村三郎著（保育社1987年） 「海岸動物」フィールド図鑑 増田一ほか著（東海大出版会1996年） 「日本プランクトン図鑑」山路勇著（保育社1959年）
担当者から一言	他大学の施設をお借りしての実習であり、先方の先生方や技官の方々のお世話になる。節度と礼儀と感謝の気持ちを忘れず参加してほしい。1週間の共同生活をしながらの実習は、つらいこともあるが楽しいこともたくさんある。実習時間以外は、自由時間となる。事故に注意し、各自の責任において存分に楽しんでほしい。

授業コード	23063		
授業科目名	エネルギー変換化学（前）		
担当者名	酒井 宏（サカイ ヒロシ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
講義の内容	わが国はエネルギー資源に乏しく、エネルギー問題の解決は経済発展および国民生活の向上に極めて重要である。このような問題に対処するためには、新エネルギー源の開発を含めてエネルギー源の多様化をはかり、省エネルギーを推進するとともに、エネルギーの有効利用に注意を払う必要がある。エネルギーは熱エネルギー、化学エネルギー、核エネルギー、電気エネルギー、光エネルギーなど種々の形態をとる。本講義はこれらのエネルギー源について、またエネルギー間の効率よい変換について講義する。		
到達目標	① 原子炉のしくみや原子力発電について理解し、説明することができる。 ② 太陽光発電のメカニズムを理解し、説明することができる。 ③ 燃料電池のメカニズムを理解し、説明することができる。		
講義方法	必要に応じてプリントを配布する。		
準備学習	これまで習った物理化学の講義の復讐をしておきましょう。日頃から新聞の科学欄に興味を持って読みましょう。		
成績評価	基本的には期末試験の結果によって評価するが、レポートの提出の有無、内容についても加味する。		
講義構成	第1回 はじめに 第2回 エネルギーについて 第3回 核エネルギー1 第4回 核エネルギー2 第5回 原子力発電1 第6回 原子力発電2、レポート 第7回 光エネルギー1 第8回 光エネルギー2 第9回 太陽光発電1 第10回 太陽光発電2、レポート 第11回 化学エネルギー1 第12回 化学エネルギー2		

	第13回 燃料電池1 第14回 燃料電池2、レポート 第15回 まとめおよび試験
教科書	特に用いない。参考書を参照。
参考書・資料	「原子力発電のはなし」村主進 著（日刊工業新聞社 1997年） 「太陽光発電工学」山田興一、小宮山宏 著（日経BP社 2002年） 「燃料電池のおはなし」改訂版 広瀬研吉 著（日本規格協会 2002年）
担当者から一言	物理化学関係の講義であるので、これまで学んだ物理化学をよく理解しておくこと。
その他	新聞の科学欄を興味を持って読むよう心がけていただきたい。

授業コード	23065		
授業科目名	応用電気化学（後）		
担当者名	町田信也（マチダ ノブヤ）、山本雅博（ヤマモト マサヒロ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	電気化学は、各種金属や無機・有機化合物の製造・合成、および素材表面に機能性を付与するための表面処理などの幅広い工業分野において応用されている。また、日常生活において多用されている各種実用電池、21世紀のエネルギーとして注目されている燃料電池および太陽電池においても電気化学が基礎となっている。本講義では、電気化学理論、電気化学反応、光電気化学およびこれらの応用について講述する。
到達目標	酸化還元反応の電位に関連した平衡論と反応速度論について基本的に理解することが本講義の目的である。
講義方法	主として板書によるが、一部液晶プロジェクタにより最新情報を紹介する。必要に応じてプリントを配布する。主題ごとにレポートの提出を課す。
準備学習	電解質溶液論、電磁気学、拡散、拡散方程式、ラプラス変換、電気化学ポテンシャル、絶対反応速度論等の知識が必要である。
成績評価	講義への出席を前提とする。期末試験、小テスト、演習、レポートおよび出席状況により総合的に評価する。
講義構成	1 電気化学入門 2 基礎的電気化学プロセス：平衡系・電池 3 基礎的電気化学プロセス：電解質溶液・界面電気化学 4 電気化学測定のための装置 5 電気化学セルの構成：作用電極 6 電気化学セルの構成：対極・参照電極 7 電気化学セルの構成：電解液・電解セル 8 電流－電位曲線の測定：電極反応速度 9 電流－電位曲線の測定：サイクリックボルタンメトリー1 10 電流－電位曲線の測定：サイクリックボルタンメトリー2、回転ディスク電極 11 ポテンシオメトリー：pH測定 12 クーロメトリー：Karl-Fisher法 13 アンペロメトリー：グルコースセンサー 14 インピーダンス測定 15 まとめおよび試験
教科書	電気化学測定法（上）藤嶋 昭，相澤 益男，井上 徹（技報堂出版） およびプリント配布
参考書・資料	電気化学測定法（下）藤嶋 昭，相澤 益男，井上 徹（技報堂出版） 「Basic電気化学」大塚，加納，桑畑（化学同人） 新世代工学シリーズ「電気化学」小久見善八編著（オーム社） 「電気化学概論」松田好晴・岩倉千秋共著（丸善）
担当者から一言	4年次配当の選択必修科目の一つである。講義への出席を重視するとともに、小テスト、演習およびレポート作成等を課す。講義内容は、物理化学1、無機化学2の内容を理解していることを前提としている。

授業コード	23054
-------	-------

授業科目名	応用分析化学（前）		
担当者名	茶山健二（チャヤマ ケンジ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	機器分析、特に光吸収分析、発光分析、分離分析および電気分析を中心に分析法の原理、測定法の実際などを詳しく解説する。また、機器分析に関わる化学反応（分離、濃縮を含む）も必要に応じて説明する。
到達目標	機器分析の内、光吸収分析法、発光分析法、分離分析法それぞれの分析法の原理を理解し、実際にその内容を修得し、応用できるようになることを目標にしている。動画等を用いて、実際の測定をイメージできるようにして、理解を促進する。
講義方法	テキストを中心に講義を進めるが、必要に応じてプリント、ビデオを使用する。
準備学習	教科書、コンテンツ等を授業前によく読んでおくことが望まれる。
成績評価	期末試験での成績を重視する。（70%）レポート及び出席（30%）
講義構成	第1回 吸光光度分析：電磁波の種類 第2回 吸光光度分析：Lambert-Beerの法則 第3回 吸光光度分析：定量分析法 第4回 原子吸光分析：原子スペクトル 第5回 原子吸光分析：定量の原理 第6回 原子吸光分析：測定装置及び測定法 第7回 ICP発光分光分析：定量の原理 第8回 ICP発光分光分析：応用 第9回 ICP-質量分析：定量の原理 第10回 クロマトグラフ法：分離の理論 第11回 クロマトグラフ法：概説 第12回 電気泳動分析：原理 第13回 電気泳動分析：キャピラリー電気泳動 第14回 化学センサー：基礎と応用 第15回 まとめと試験
教科書	基礎化学選書7 機器分析 田中誠之・飯田芳男著（裳華房）

授業コード	23037		
授業科目名	化学英語演習（前）		
担当者名	茶山健二（チャヤマ ケンジ）、重松利彦（シゲマツ トシヒコ）、檀上博史（ダンジョウ ヒロシ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	化学系の専門講義、専門実験および卒業実験を履修するにあたって、化学英語を理解し、英文の文献や専門書を読む必要がある。本演習では、英語の化学用語を修得し、英語による論理的な表現に慣れ、内容を正確に把握する力を養うことを目的とする。
到達目標	化学英語演習1では、研究を行う際の文献調査に必要な英語力の基礎を身につけることを目的としている。化学的な内容としては、大学初級程度の英語を読解し、化学的な内容を正確に把握すると共に、それに関連する簡単な英作文が出来る程度の学力に達することを目標にしている。
講義方法	テキストとして、英語で書かれた化学の教科書、問題集あるいは化学論文を用い、クラス制で輪読する。
準備学習	演習の前に必ず予習をして、配布された英文を和訳し、分からないところを確認してくる。授業の最初の時間にノートをチェックするので、これも成績として考慮する。また、既に学習した範囲から小テストも数回行うので、内容を把握できていない部分は復習しておくこと。
成績評価	試験結果に、出席および理解度をチェックする小テストの成績を加味して評価する。
講義構成	前期 第1回 How to Study Chemical English 第2回 Atomic Structure, Periodic Table, Electronic Structure

	第3回 Atomic Weights 第4回 Periodic Properties and Chemical Bonding 第5回 Molecular and Formula Weights 第6回 Nomenclature 第7回 Chemical Equations 第8回 Mole Concept 第9回 Gases 第10回 Solids 第11回 The Liquid State 第12回 Solutions and Their Properties 第13回 Chemical Equilibrium 第14回 Acids and Bases 第15回 まとめとテスト
教科書	教科書は使用しない。プリントを配布する。

授業コード	23025		
授業科目名	化学英語演習1(前)		
担当者名	茶山健二(チャヤマ ケンジ)、重松利彦(シゲマツ トシヒコ)、檀上博史(ダンジョウ ヒロシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	化学系の専門講義、専門実験および卒業実験を履修するにあたって、化学英語を理解し、英文の文献や専門書を読む必要がある。本演習では、英語の化学用語を修得し、英語による論理的な表現に慣れ、内容を正確に把握する力を養うことを目的とする。
到達目標	化学英語演習1では、研究を行う際の文献調査に必要な英語力の基礎を身につけることを目的としている。化学的な内容としては、大学初級程度の英語を読解し、化学的な内容を正確に把握すると共に、それに関連する簡単な英作文が出来る程度の学力に達することを目標にしている。
講義方法	テキストとして、英語で書かれた化学の教科書、問題集あるいは化学論文を用い、クラス制で輪読する。
準備学習	演習の前に必ず予習をして、配布された英文を和訳し、分からないところを確認してくる。授業の最初の時間にノートをチェックするので、これも成績として考慮する。また、既に学習した範囲から小テストも数回行うので、内容を把握できていない部分は復習をしておくこと。
成績評価	試験結果に、出席および理解度をチェックする小テストの成績を加味して評価する。
講義構成	前期 第1回 How to Study Chemical English 第2回 Atomic Structure, Periodic Table, Electronic Structure 第3回 Atomic Weights 第4回 Periodic Properties and Chemical Bonding 第5回 Molecular and Formula Weights 第6回 Nomenclature 第7回 Chemical Equations 第8回 Mole Concept 第9回 Gases 第10回 Solids 第11回 The Liquid State 第12回 Solutions and Their Properties 第13回 Chemical Equilibrium 第14回 Acids and Bases 第15回 まとめとテスト
教科書	教科書は使用しない。プリントを配布する。

授業コード	23016
-------	-------

授業科目名	化学工学1 (前)		
担当者名	松尾成信(マツオ シゲノブ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	化学工業における製造工程は、物理的操作と化学反応操作などの各単位に分解される。本講義では、これらの各単位操作(蒸発、蒸留、ガス吸収、抽出など)において重要となる物質収支式およびエネルギー収支式の立て方について講述する。また、系内の運動量、温度勾配で発生する流動や伝熱の取り扱い方を理解することにより、簡単な動力計算や熱交換器の設計法を学習する。 化学工学では巨視的な現象論が中心となるが、講義全般を通して、各現象と分子レベルにおけるエネルギー授受の関係を説明することで、より深い理解と応用力を養う。
到達目標	物質・エネルギー収支の基本的な考え方を理解し、簡単な収支計算ができる。化学プロセスにおける流体・粒子・熱の移動現象についての基礎的事項を理解し、簡単な計算問題を解くことができる。
講義方法	配布資料を中心に講義を進めるが、理解度チェックと出欠確認を兼ねた小テストをできるだけ多く行う。
準備学習	数学は当然のこととして、物理化学の中でも熱力学、化学平衡論などをよく理解していること。
成績評価	中間・期末試験(80%)、出席率、小テスト等の平常点(20%)で評価する。
講義構成	1 熱力学の復習Ⅰ(PVT状態方程式、第1法則) 2 熱力学の復習Ⅱ(自由度とエネルギー等分配則) 3 熱力学の復習Ⅲ(第2法則と自由エネルギー) 4 化学工学の成り立ちと構成(移動現象、単位操作、反応工学) 5 物質収支:物理操作における収支式(蒸留、吸収) 6 物質収支:反応を伴う系での収支式(燃焼、パージ操作) 7 エネルギー収支:エネルギー保存則、熱収支と反応操作 8 移動現象:ポテンシャル勾配と運動量、熱、物質の移動 9 移動現象:流動Ⅰ(層流と乱流、円管内速度分布) 10 移動現象:流動Ⅱ(摩擦損失、管路変化による損失) 11 移動現象:伝導伝熱(フーリエの法則、多重円筒壁での伝熱) 12 移動現象:対流伝熱(対流伝熱係数、熱貫流係数) 13 移動現象:伝熱のまとめ(熱交換器、相変化を伴う伝熱) 14 演習:物質およびエネルギー収支、移動現象論 15 テスト(前期分)
教科書	「改訂新版 化学工学通論Ⅰ」 疋田晴夫著 (朝倉書店 1999年)
参考書・資料	「標準化学工学」(化学同人 2006年) 「化学工学便覧(改訂6版)」 化学工学会編 (丸善 1999年)
講義関連事項	3年次後期配当の「化学工学2」の基礎であるので、十分に理解することが必要である。
担当者から一言	化学プロセスの開発や装置設計においては、多くの流体物性を取り扱う。このため、流体の平衡・輸送性質について、正しく理解しておくことが重要であり、講義の始め数回を熱力学の復習に充てる。

授業コード	23017		
授業科目名	化学工学2 (後)		
担当者名	安岡弘陽(ヤスオカ ヒロアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	化学製造工程は、流体輸送、伝熱、蒸発、蒸留、ガス吸収、抽出などの物理的操作と化学反応操作などの各単位に分解される。 本講義は蒸留、吸収、抽出などの気液、液液系物質移動現象の説明を行う。合わせて、これら物質移動装置の設計および操作について講義する。 理工学部化学系の学生が、化学プロセスを定量的に把握し、用いられる装置の特性とその設計法の大筋を理解できるよう例題演習を交えて講義を行う。
-------	---

到達目標	工業的に用いられている分離操作について理解し、反応容器の簡単な設計ができる。
講義方法	配布資料による講述を中心に進めるが、理解度チェックと出欠確認を兼ねた小テストをできるだけ多く行う。
準備学習	数学は当然のこととして、物理化学の中でも化学平衡論、化学速度論などをよく理解していること。
成績評価	試験およびレポートの結果を重視するが、出席点を含めた平常点も考慮して総合評価する。
講義構成	1 蒸留:物質移動操作の基礎、接触装置の形式 2 蒸留:気液平衡関係、ラウール則 3 蒸留:回分単蒸留、蒸留の原理、蒸留装置 4 蒸留:理論段数の計算法、還流比と理論段数の関係、最小理論段数 5 蒸留:蒸留塔の高さ、段間隔、塔径、まとめ 6 蒸留:テスト 7 吸収:ガスの溶解度、ヘンリーの法則、テスト(蒸留)の解答 8 吸収:段数によるガス吸収、操作線、最小流量、理論段数 9 吸収:充填塔によるガス吸収、吸収速度、充填塔の高さ・直径 10 吸収:まとめ 11 吸収:テスト 12 抽出:液-液平衡、三角座標、てこの原理、テスト(吸収)の解答 13 抽出:抽出装置、回分操作、連続操作 14 抽出:単抽出と多回抽出の計算、まとめ 15 抽出:テスト
教科書	「改訂新版 化学工学通論Ⅰ」 疋田晴夫著（朝倉書店 1999年）
参考書・資料	「化学機械の理論と計算(第2版)」 亀井三郎編（産業図書 1987年） 「化学工学便覧(改訂5版)」 化学工学協会編（丸善 1988年）
講義関連事項	参考資料を講義に配布する。
担当者から一言	化学プロセスの開発や装置設計においては、多くの流体物性を取り扱うことになる。このためPVTを始めとする流体の平衡性質や相平衡について、正しく理解しておくことが重要であり、前期の講義の始め数回を熱力学の復習に充てる。

授業コード	23026		
授業科目名	化学工業論（前）		
担当者名	浅野昌也(アサノ マサヤ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	化学工業について下記の観点から、日本の製造業(特に、化学工業)の課題を明らかにし、科学技術と産業が密接に関係していることを理解してもらう。 1. 製造業の空洞化と技術革新 2. エネルギー問題、地球持続の科学技術 3. 環境問題、循環社会へ向けて 4. 企業と技術者の倫理、危機管理 5. 知的財産権
到達目標	日本の化学産業が、科学技術の進歩と相まって、世界的に見て競争力のある産業に育ってきたことを認識してもらう。特に、液晶ディスプレイや半導体デバイス自体は既に日本はトップではないにもかかわらず、材料・部材でみれば日系化学企業は70%のシェアを持っている。先端科学技術を取り入れ製品開発に生かしてきた結果だと思ふ。化学産業に対してきちっとした認識を持って欲しい。
講義方法	パワーポイント、資料を用いた講義と講義内容に関する受講生の理解度チェックを並行して行う。
準備学習	日頃から新聞やテレビの科学や産業、製造業に関する報道に注目し、興味を持って欲しい。
成績評価	基本的には出席状況・理解度などの授業態度(50%)と期末試験(50%)で評価する。
講義構成	第1回 ガイダンス 第2回 日本の化学工業

	第3回 世界の化学工業 第4回 化学工業各論(石油化学) 第5回 化学工業各論(繊維) 第6回 化学工業各論(高度部材産業) 第7回 新製品開発事例(印刷材料) 第8回 日本の製造業の空洞化と技術革新 第9回 環境・エネルギー 第10回 環境・エネルギー 第11回 知的財産権 第12回 企業と技術者の倫理、危機管理 第13回 新製品開発事例(電子材料) 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	特にありません。
参考書・資料	全体的には、西川唯一著「化学産業「脱」入門」(化学工業日報社)を推奨する。また、個々のテーマについてはその都度参考書を紹介していきたい。
担当者から一言	化学技術は今や、部材・材料のみならずバイオ、エネルギー、環境問題に対しても基盤となる技術である。皆さんが、卒業後いずれの分野に進まれても関わってくると思う。本講義では、化学産業を含む周辺の科学技術課題についても取り上げたい。

授業コード	23004		
授業科目名	化学コンピュータ演習（前）		
担当者名	町田信也（マチダ ノブヤ）、池田瑞穂（イケダ ミズホ）、藤田直幸（フジタ ナオユキ）		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限

講義の内容	現代の科学研究においては、得られた実験結果のまとめや成果の公表におけるコンピューターの役割は大きい。そこで本実習では実験結果等を取り扱う上で必要最小限のハードおよびソフトの使用方法を習得することを目的とする。実験結果の図表化、報告書の作成およびプレゼンテーション資料の作成に関する実習を行う。あわせて、インターネット時代に必要なネットワークの基礎知識についても講義する。クラス制で実施する。
到達目標	実験結果の図表化、報告書の作成およびプレゼンテーション資料の作成に関するコンピュータの利用技術を習得する。
講義方法	クラス制で実施する。受講者が実際にパソコンを使用して資料を作成する「実習」を重視する。必要に応じてレポートを課す。
準備学習	授業中に課題として指示されたレポート・演習は必ず行うこと。
成績評価	実習科目であるので出席を重視し、授業中に作成した資料、レポートおよび期末試験の結果をもとに総合的に評価する。
講義構成	第1回 コンピューターの仕組み、様々なOS 第2回 ファイル作成、保存の様式 第3回 文書作成1:ワードプロセッサ(Word) 第4回 文書作成2:ワードプロセッサ(Word) 第5回 文書作成3:ワードプロセッサ(Word) 第6回 データ処理と表計算1: 出入力、表作成と編集1 (Excel) 第7回 データ処理と表計算2: 出入力、表作成と編集2 (Excel) 第8回 データ処理と表計算3: 関数、グラフ作成 (Excel) 第9回 中間のまとめと演習 第10回 インターネットの仕組み1 第11回 インターネットの仕組み2 第12回 プレゼンテーションソフト2: Powerpointによる資料作成1 第13回 プレゼンテーションソフト1: Powerpointによる資料作成2 第14回 総合演習 第15回 まとめと試験
教科書	「Office2007で学ぶコンピュータリテラシー (Vista対応版)」 小野目 如快 著 実教出版 (2008年)

担当者から一言	実習科目であるので、授業に出席することが前提となっている。
---------	-------------------------------

授業コード	23045		
授業科目名	化学コンピュータ実習 (前)		
担当者名	町田信也(マチダ ノブヤ)、池田瑞穂(イケダ ミズホ)、藤田直幸(フジタ ナオユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限

講義の内容	現代の科学研究においては、得られた実験結果のまとめや成果の公表におけるコンピューターの役割は大きい。そこで本実習では実験結果等を取り扱う上で必要最小限のハードおよびソフトの使用方法を習得することを目的とする。実験結果の図表化、報告書の作成およびプレゼンテーション資料の作成に関する実習を行う。あわせて、インターネット時代に必要なネットワークの基礎知識についても講義する。クラス制で実施する。
到達目標	実験結果の図表化、報告書の作成およびプレゼンテーション資料の作成に関するコンピュータの利用技術を習得する。
講義方法	クラス制で実施する。受講者が実際にパソコンを使用して資料を作成する「実習」を重視する。必要に応じてレポートを課す。
準備学習	授業中に課題として指示されたレポート・演習は必ず行うこと。
成績評価	実習科目であるので出席を重視し、授業中に作成した資料、レポートおよび期末試験の結果をもとに総合的に評価する。
講義構成	第1回 コンピューターの仕組み、様々なOS 第2回 ファイル作成、保存の様式 第3回 文書作成1: ワードプロセッサ (Word) 第4回 文書作成2: ワードプロセッサ (Word) 第5回 文書作成3: ワードプロセッサ (Word) 第6回 データ処理と表計算1: 出入力、表作成と編集1 (Excel) 第7回 データ処理と表計算2: 出入力、表作成と編集2 (Excel) 第8回 データ処理と表計算3: 関数、グラフ作成 (Excel) 第9回 中間のまとめと演習 第10回 インターネットの仕組み1 第11回 インターネットの仕組み2 第12回 プレゼンテーションソフト2: Powerpointによる資料作成1 第13回 プレゼンテーションソフト1: Powerpointによる資料作成2 第14回 総合演習 第15回 まとめと試験
教科書	「Office2007で学ぶコンピュータリテラシー (Vista対応版)」 小野目 如快 著 実教出版 (2008年)
担当者から一言	実習科目であるので、授業に出席することが前提となっている。

授業コード	23028		
授業科目名	化学通論		
担当者名	中村 薫(ナカムラ カオル)、中山敏弘(ナカヤマ トシヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)
特記事項	前期は中山敏弘、後期は中村薫が担当します		

講義の内容	本科目は教職科目であるので、理科教員を目指す学生を対象として講義する。すなわち、高等学校の「化学」の教科書を完全に理解することを目的とする。また、理工学部の化学系学科以外の学生にも、化学の基礎的事柄や化学的な考え方を把握できるように努める。 本講義は、前期を中山が担当し、無機・物理化学の分野を主として解説し、後期は中村が担当し、有機化学の分野を主として解説する。
到達目標	高校の化学教科書や新聞等で掲載される化学に関する記事を理解出来る
講義方法	教科書に沿って、主に板書およびパワーポイントスライドにより講義する。プリントなども活用する。

準備学習	教科書の相当する部分を見てもらいたい
成績評価	レポート、小テスト、前期試験および後期試験の総合評価により成績を判定する。
講義構成	前期（中山 担当） 第1回 講義の説明 化合物・単体と元素 第2回 物質の構成 分子と原子 第3回 原子の構造 ボーアの量子論 第4回 原子の構造 波としての電子 第5回 元素の周期律 第6回 化学結合 イオン結合と共有結合 第7回 化学結合 配位結合と水素結合 第8回 まとめと小テスト 第9回 物質の状態 状態図と固体 第10回 物質の状態 液体と気体 第11回 エネルギーとエントロピー 熱力学第一法則 第12回 エネルギーとエントロピー 熱力学第二法則 第13回 物質の変化 反応速度 第14回 物質の変化 化学平衡 第15回 まとめと試験 後期（中村 担当） 第16回 講義の説明 周期律表、原子と有機分子、同位体 第17回 周期律表、電気陰性度 第18回 原子軌道 混成軌道 分子軌道 メタンの 第19回 sp³混成軌道 σ結合 アルカン メタンからガソリン 第20回 sp²混成軌道 分子軌道 π結合 エチレン 第21回 光と色と化学構造 何故見えるか シスとトランス 第22回 芳香族炭化水素 ベンゼン 第23回 アルコール メタノールとエタノール 第24回 アミン 孤立電子対 水素結合 第25回 アルデヒド ケトン アセトアルデヒド 第26回 酸性度 酢酸 第27回 糖 グルコース シクロデキストリン 第29回 不斉 旋光度と光学活性体 第30回 アミノ酸 蛋白質 DNA
教科書	前期:「化学」第4版 浅野努・荒川剛・菊川清 著（学術図書） 後期:「有機化学」(わかる化学シリーズ4) 斎藤勝裕 著 東京化学同人
参考書・資料	後期:「大学の有機化学」深澤義正、笛吹修治 著 化学同人
担当者から一言	化学を暗記するのではなく、良く理解してもらいたい。そうすれば化学が好きになるでしょう。 後期: 毎回、テーマに合った身の回りの有機化合物を例に取り、それらの性質と利用を説明したい。 {http://www.geocities.jp/ujiiratume/index.html}に授業で使用したパワーポイントの絵あります。
ホームページタイトル	後期 中村 { http://www.geocities.jp/cahornakamura/index.html }中村薫のホームページ

授業コード	23010		
授業科目名	化学のための数学1（前）		
担当者名	村上 良（ムラカミ リョウ）、堀内清光（ホリウチ キヨミツ）、村上仙瑞（ムラカミ センズイ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
講義の内容	自然の法則の多くが微分方程式を用いて表わすことができる。化学では例えばシュレディンガー方程式や化学反応速度式を解く際に微分方程式を理解しておく必要がある。本講義では微分方程式を用いて表される化学現		

	象を理解する基礎を確立することを目的とする。
到達目標	1階常微分方程式、定係数2階線形微分方程式、定数係数連立線形常微分方程式が解けるようになること。
講義方法	クラス制で実施する。 板書、プリントによる。
準備学習	微分・積分をよく復習しておくこと。
成績評価	期末試験による評価を重視する。またレポートの内容や出席状況、受講態度も評価に加える。
講義構成	第1回 イン트로ダクション 第2回 1階常微分方程式: 微分方程式の階数 第3回 1階常微分方程式: 解の存在と一意性 第4回 1階常微分方程式: 微分方程式の解法 第5回 1階常微分方程式: 演習問題 第6回 定係数2階線形微分方程式: 定係数2階常微分方程式 第7回 定係数2階線形微分方程式: 解の存在と一意性 第8回 定係数2階線形微分方程式: 同次方程式の一般解 第9回 定係数2階線形微分方程式: 同次方程式の解法 第10回 定係数2階線形微分方程式: 非同次方程式の解法 第11回 定係数2階線形微分方程式: 演習問題 第12回 連立微分方程式: 一般解、特解、初期条件 第13回 連立微分方程式: 定係数線形連立微分方程式 第14回 連立微分方程式: 演習問題 第15回 まとめ
教科書	“物理数学” 松下 貢 著 裳華房 (2009)
参考書・資料	“マッカーリ・サイモン 物理化学 上” 東京化学同人 (2008)
担当者から一言	クラスによって授業の進路は多少異なる場合もある

授業コード	23011		
授業科目名	化学のための数学2(化学数学演習)(後)		
担当者名	町田信也(マチダ ノブヤ)、内藤宗幸(ナイトウ ムネユキ)、根本藤人(ネモト フジト)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	現代化学を理解する上では広い範囲の数学の知識が必要である。そこで本演習では化学を理解する上で必要最小限の数学的知識を習得することを目的とする。化学熱力学に代表される化学の基礎を理解するために必須となる項目の理解に力点をおく。 実際に問題を解くことが理解するための最も早い道であるので、十分な演習を行う。クラス制で実施する。
到達目標	化学系学科の必修科目である物理化学の教科書を読みこむための数学について演習する。主に多変数関数の取り扱いに習熟するために、熱力学を題材として取り上げる。
講義方法	クラス制で実施する。 受講者が実際に問題を解く「演習」を重視する。 受講者が事前に問題を解き、授業のときに、受講者自身が黒板の前で説明することが中心になる。 適宜、レポートを課すので、期限までに必ず提出すること。
準備学習	1年次配当の「微分積分学及び演習Ⅰ・Ⅱ」、「線形代数及び演習Ⅰ・Ⅱ」、「基礎化学A」、「基礎化学B」、「基礎化学C」、「基礎化学D」、「基礎化学E」および「基礎化学F」をよく理解しておくこと。
成績評価	受講者が事前に問題を解き、これを黒板の前で説明する能力、また、授業中に行う小試験や宿題レポート、および期末試験の結果を総合的に評価する。
講義構成	後期 第1回 微分1: 有理整関数、有理関数の微分 第2回 微分2: 代数関数、初等関数の微分 第3回 微分3: 初等関数の微分 第4回 偏微分1: 偏微分、合成関数の偏微分、 第5回 偏微分2: 全微分、完全微分と不完全微分 第6回 偏微分3: 陰関数の微分、多変数関数の展開

	第7回 偏微分まとめ 第8回 熱力学における関数1 第9回 熱力学における関数2 第10回 熱力学の基本方程式、状態方程式 第11回 ルジャンドル変換によって導かれる熱力学関数 第12回 Maxwellの関係式1 第13回 Maxwellの関係式2 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「物理学の基礎 [2]波・熱」ハリディ、レスニック、ウォーカー共著、野崎光昭 監訳（培風館 2002） 「演習・物理学の基礎 [2]波・熱」ハリディ、レスニック、ウォーカー、ホワイテントン共著、野崎光昭 監訳（培風館 2003）
参考書・資料	「マッカーリ・サイモン物理化学 上下」マッカーリ・サイモン著 千原・江口・斎藤訳（東京化学同人2000年） 「アトキンス物理化学 上、下」アトキンス著 千原、中村訳（東京化学同人 2001年）
担当者から一言	演習科目であるので、授業に出席し、問題を解くことが前提となっている。従って、受講者が事前に問題を解いておくこと。さらに充分な予習・復習をしておくこと。 線形代数（および演習）や微分・積分（および演習）で学んだ知識が基礎となっている。それらの科目を習得しておくこと。

授業コード	23012		
授業科目名	化学のための物理及び演習1（後）		
担当者名	山本雅博（ヤマモト マサヒロ）、根本藤人（ネモト フジト）、川面 澄（カワツラ キヨシ）		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	現代化学を理解する上では最低限の物理的な知識が必要である。そこで本講義ならびに演習では化学を理解する上で必要最小限の力学的知識を習得することを目的とする。比較的簡単な力学を通して、その概念を理解することに力点を置く。 実際に問題を解くことが理解するための最も早い道であるので、充分な演習を行う。基礎的な事項からはじめるが、必ず、予習・復習を行い、実際に手を動かして問題を解くこと。 クラス制で実施する。
到達目標	物理化学では、力学・解析力学・量子力学・電磁気学・熱・統計力学・弾性体・流体力学・相対性理論等の物理を基礎として、化学的な現象の説明をおこなっている。本講義では、物理の基礎の基礎である力学を学び、物理化学の理解を深めることを目的とする。
講義方法	クラス制で実施する。 受講者が実際に問題を解く「演習」を重視する。 適宜、レポートを課すので、期限までに必ず提出すること。
準備学習	サイエンスは積み上げの学問であり、ひとつひとつの知識を得るには、本を読んで理解することも重要であるが、自分で手を動かして慣れることもさらに重要である。 力学(古典力学)を習得するには、数学の知識が必要である。運動方程式の記述に必要な微分・積分、運動は3次元で取り扱うことが多いので、ベクトル、ベクトル解析、行列等の知識が必要である。
成績評価	授業中に課す問題への取り組み、授業中に行う小試験、宿題のレポート提出、中間試験、および期末試験の結果を総合的に評価する。
講義構成	第1回 測定 第2回 直線運動 第3回 ベクトル 第4回 2次元と3次元の運動 第5回 力と運動1 第6回 力と運動2 第7回 力と運動3 第8回 まとめ 中間試験 第9回 運動エネルギーと仕事1 第10回 ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存

	第11回 粒子系 第12回 衝突と2体問題 第13回 回転 第14回 転がり、トルク、角運動量 第15回 試験
教科書	「物理学の基礎[1]・力学」D.ハリディ、R.レスニック、J.ウォーカー著、野崎訳、(培風館 2003年) 「演習・物理学の基礎[1]・力学」D.ハリディ、R.レスニック、J.ウォーカー、J.B.ホワイテントン著、野崎訳、(培風館 2003年)
参考書・資料	「物理入門コース1 力学」戸田盛和著(岩波書店 1982年) 「物理入門コース演習1 例解 力学演習」戸田盛和・渡辺慎介著(岩波書店 1990年) 「力学I-質点・剛体の力学-」原島 鮮著(裳華房 1973 年) 「力学」(裳華房テキストシリーズ - 物理学)川村清著(裳華房 1998年)
担当者から一言	演習科目であるので、事前に問題を解いた上で授業に出席し、受講者自身が黒板で問題を説明することが前提となっている。線形代数(および演習)や微分・積分(および演習)で学んだ知識が基礎となっている。これらの科目を習得しておくこと。高校で物理を履修していないものは、かなりの苦手意識がある人が多いが、化学を理解する上で必要となるので、修得に心がけること。

授業コード	23013		
授業科目名	化学のための物理及び演習2(化学物理及び演習)(前)		
担当者名	町田信也(マチダ ノブヤ)、根本藤人(ネモト フジト)		
配当年次	2年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	現代化学を理解する上では最低限の物理的な知識が必要である。そこで本講義ならびに演習では化学を理解する上で必要最小限の電磁気学的知識を習得することを目的とする。比較的簡単な電磁気学を通して、その概念を理解することに力点を置く。 実際に問題を解くことが理解するための最も早い道であるので、十分な演習を行う。基礎的な事項からはじめるが、必ず、予習・復習を行い、実際に手を動かして問題を解くこと。 クラス制で実施する。
到達目標	現代の化学を理解する上で、最低限の必要な、電磁気学的知識を習得することを目的とする。比較的簡単な電磁気学について、十分な演習問題を実際に解くことを通して、その概念を理解することに力点を置く。
講義方法	クラス制で実施する。 受講者が実際に問題を解く「演習」を重視する。 適宜、レポートを課すので、期限までに必ず提出すること。
準備学習	最低限の 力学、微分積分学、線形代数学、ベクトル解析、熱力学の知識が、講義を理解し、演習問題を解くための、前提とされている。1年次の「化学のための物理及び演習1」、「微積分学及び演習1」、「同2」、「線形代数学及び演習1」、「同2」、ならびに2年次配当の「化学のための数学1」を習得あるいは並行履修していること。
成績評価	毎回授業に出席し、演習問題を解くことが成績評価の前提になっている。宿題として課す問題への取り組み状況、授業中に行う小試験、宿題のレポート提出、中間試験、および期末試験の結果を総合的に評価する。
講義構成	第1回 電荷 第2回 電場1 第3回 電場2(数学の復習) 第4回 ガウスの法則 第5回 電位 第6回 電気容量 第7回 電流と抵抗 第8回 回路 第9回 まとめと中間試験 第10回 磁場 第11回 電流がつくる磁場 第12回 誘導とインダクタンス 第13回 マクスウェル方程式 第14回 電磁振動と交流 第15回 まとめと試験
教科書	「物理学の基礎[3]・電磁気学」D.ハリディ、R.レスニック、J.ウォーカー著、野崎訳、(培風館 2002年)

	「演習・物理学の基礎[3]・電磁気学」D.ハリディ、R.レスニック、J.ウォーカー、J.B.ホワイテントン著、野崎訳、(培風館 2003年)
参考書・資料	「物理入門コース3 電磁気学Ⅰ」長岡洋介著(岩波書店) 「物理入門コース4 電磁気学Ⅱ」長岡洋介著(岩波書店) 「物理入門コース演習2 例解 電磁気学演習」長岡洋介・丹慶勝市著(岩波書店) 「電磁気学演習(新訂版)」山村泰道、北川盈男(サイエンス社) 「電磁気学(Ⅰ)」原 康夫著 裳華房フィジックスライブラリー (裳華房) 「電磁気学(Ⅱ)」原 康夫著 裳華房フィジックスライブラリー (裳華房)
担当者から一言	演習科目であるので、事前に問題を解いた上で授業に出席し、受講者自身が黒板で問題を説明することが前提となっている。線形代数(および演習)や微分・積分(および演習)で学んだ知識が基礎となっている。これらの科目を習得しておくこと。高校で物理を履修していないものは、かなりの苦手意識がある人が多いが、化学を理解する上で必要となるので、修得に心がけること。

授業コード	23066		
授業科目名	環境化学1（後）		
担当者名	茶山健二（チャヤマ ケンジ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	近年、環境問題は多様な形で出現しているが、これらの問題は化学と無関係ではあり得ない。従って、環境問題を解決するのに化学の知識なしに取り組むことは不可能である。本講義では、地球上の環境の現状を認識し、現在までにどのような環境問題が起こったかを学習する。その際に、それらの問題を把握認識するための方法論、分析法等の理解も深められるよう幾つかのテーマを設定する。
到達目標	環境化学1では、環境保全或いは環境計測に資する化学の役割を理解することを目標としている。このためには、環境分析化学の知識を習得し、いくつかの分析法を理解する必要がある。実際に、環境関連の研究を行うことになった場合、その知識を活かして環境の状況を把握し、それらを数値化するために計測を行い、環境保全に取り組めるための基礎的な知識を習得することを目標とする。
講義方法	教科書を中心に、必要に応じてプリントを配布する。講義内容はできる限りノートして欲しい。
準備学習	授業の前に、関連する事項の参考文献を調べたり、レポートを作成するために準備を行っておくことが望まれる。
成績評価	出席態度、小論文、試験など総合評価して成績を判定する。
講義構成	後期 第1回 はじめに、地球の化学環境と環境問題の歴史 第2回 環境保全に関する法律 第3回 環境における化学物質の挙動と問題点 第4回 環境の現状 大気環境 第5回 環境の現状 水環境 第6回 環境の現状 土壌環境、廃棄物 第7回 環境汚染物質の測定法 概説 第8回 環境汚染物質の測定法 大気汚染 第9回 環境汚染物質の測定法 水質汚濁 第10回 環境汚染物質の測定法 土壌汚染 第11回 環境とエネルギー 原子力エネルギー 第12回 環境とエネルギー ソフトエネルギー 第13回 資源のリサイクル 第14回 汚染物質の処理技術 第15回 試験
教科書	化学教科書シリーズ 環境化学概論 田中稔・船造浩一・庄野利之共著 (丸善)
参考書・資料	演習で学ぶ環境 日本分析化学会北海道支部編 (三共出版) 「水と地球の歴史」北野康著(日本放送出版協会 1990年)
担当者から一言	履修に当たっては、化学・応用化学科の1、2年次配当の基礎的専門科目を履修していることが望ましい。

ホームページタイトル	[環境計測のための機器分析法, http://kccn.konan-u.ac.jp/chemistry/ia/]
------------	---

授業コード	23067		
授業科目名	環境化学2 (前)		
担当者名	脇田 慎一 (ワキダ シンイチ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	環境化学1で履修した環境問題を中心とした環境化学の基本概念、環境保全、環境汚染物質とその測定法に引き続き、環境化学2では、環境とヒトが係わる生活環境や環境ストレス応答などを包含する環境化学の体系化を図り、環境リスク評価で求められている計測化学の最前線(DNAチップなどのバイオチップやLab-on-a-Chipなどのマイクロ流体デバイス)を具体的な研究開発例を中心に、基礎となるセンサ工学や分離分析技術から体系化して最先端の研究開発を解説する。
到達目標	新しい環境問題に対して、マスコミ報道に流されることがなく、その本質的な影響を冷静に理解できる柔軟な判断力を身につけることを到達目標とする。
講義方法	講義はプロジェクターを使用したパワーポイント講義を行う。重要な内容は必ずノートに筆記して理解して欲しい。必要に応じて補助的なパワーポイント資料を事前にアップしますので印刷し講義に備えて下さい。また、講義後に重要なパワーポイント講義スライドの概要をアップします。
準備学習	環境化学1の講義内容を事前に理解して下さい。事前にアップされたパワーポイント講義資料を印刷して持参すること。
成績評価	講義への出席を前提とする。期末試験を主に、講義中に行う小論文、演習、レポート及び出席状況により総合評価する。
講義構成	第1回はじめに、環境問題の多様化と生活環境、人間環境の現状 第2回環境計測技術の概要:先端技術による多成分同時分析、自動化、簡便迅速化 第3回バイオセンサ・バイオチップと分離分析技術の概要 第4回マイクロ流体デバイス技術の概要 第5回マイクロ流体デバイスを用いた水質計測技術 第6回バイオセンサを用いた酸性雨計測技術 第7回小論文 第8回バイオセンサ・アッセイを用いたダイオキシン計測技術 第9回バイオアッセイを用いた内分泌攪乱評価技術 第10回生体ストレス応答とストレスマーカー 第11回マイクロ流体デバイスを用いた生体ストレスマーカー計測技術 第12回バイオチップを用いた生体応答評価、化学物質毒性評価 第13回環境リスク評価法 第14回環境計測技術のまとめと今後、小テスト 第15回期末試験
教科書	特に指定しない
参考書・資料	環境分析化学 三共出版 (2004) 生活と環境 東京数学社 (1999) 変化する環境と健康 三共出版 (2007) バイオチップとバイオセンサー 共立出版 (2006) 早わかりマイクロ化学チップ 丸善 (2006) 環境リスク解析入門 化学物質編 東京図書 (2006)

担当者から一言	4年次配当の選択科目の一つである。講義への出席とともに、講義内容の理解を重視するために、講義中に小テストや小論文を行い、加点評価の対象とする。履修に当たっては、3年次後期の環境化学1を履修していることが望ましい。
---------	--

授業コード	23030		
授業科目名	基礎化学1 (前)		
担当者名	池田能幸 (イケダ ヨシユキ)		

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	化学全般の理解に必要な基本概念について解説を行う。他の基礎化学の科目と合わせて、専門科目の中の基礎的科目として位置づけているので、演習も充分行い、理解を助けるよう工夫する。クラス制で実施する。 高校の化学では、有機化合物は簡単にしか取り扱われていないので、主要な有機化合物(高分子化合物を含む)の構造式と名称および基本的な反応になじんでもらうことを主眼としている。まず、原子の電子構造から始めて、化学結合、炭素の混成軌道等の基礎的事項を概説し、それを元に脂肪族および芳香族炭化水素の構造について説明する。次いで、これらの炭化水素の行う基本的な反応を分かり易く解説
到達目標	化学結合の成り立ちを理解し、結合の種類と特徴を説明できること。有機化学の種類と分類法を学び、それぞれ特徴的な化学反応を分子構造と結び付けて説明できること。
講義方法	教科書およびプリントを用いて講義する。
準備学習	共有結合について十分理解していること、基礎的な有機化学を、もう一度高校の教科書からでも復習しておくこと。
成績評価	中間試験および期末試験の成績を中心とし、演習課題に対する解答および出席状況を加味して評価する。
講義構成	第1回 現代化学と基礎化学 第2回 有機化合物の特徴、構造式、分類 第3回 原子構造、オービタル 第4回 原子の電子配置 第5回 化学結合：イオン結合、共有結合 第6回 結合の極性、電気陰性度、分子間力 第7回 混成軌道 第8回 非局在化と共鳴 第9回 飽和炭化水素：有機化合物の名称、基本的反応(ハロゲン化) 第10回 不飽和炭化水素1：構造、基本的反応(付加反応) 第11回 不飽和炭化水素2：付加重合 第12回 芳香族炭化水素1：構造 第13回 芳香族炭化水素2：基本的反応(置換反応) 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「ベッカー 一般化学(上、下)」R. S. Becker他著、木下 實他訳(東京化学同人 1983年) 「コンパクト有機化学」右田俊彦著(丸善 1984年)
参考書・資料	「構造式と化学名」高橋 浩著(三共出版 1996年)
担当者から一言	他の基礎化学の科目と合わせて、本講を理解することが肝要である。 項目ごとに解説した事項についての演習を行う。演習問題の解答は講義の終了時に提出してもらう。

授業コード	23031		
授業科目名	基礎化学5(前)		
担当者名	岩月聡史(イワツキ サトシ)、内藤宗幸(ナイトウ ムネユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	化学全般の理解に必要な基本概念について解説を行う。他の基礎化学の科目と合わせて、専門科目の中の基礎的科目として位置づけているので、演習も充分行ない、理解を助けるよう工夫する。 特に、本講では、物質学としての化学にとって基本的でかつ必須である、物質の微視的な構造について概説する。まず、原子の構造を明らかにし、ついで、その周期的な性質を見い出す。その後、原子から分子の構造への橋渡しとして、化学結合に関する導入的な解説を行う。これらの事項を理解するためには原子構造の物理理論(量子力学)の助けが必要である。そのため、物理の基本的な事項・数式の帰着を含めてできるだけ平易に理解できるよう工夫する。
到達目標	(1) 水素原子の原子軌道エネルギー準位を、ボーアの理論を用いて説明できる。 (2) 原子軌道を記述するための量子数の内容を説明し、各軌道を副殻表示することができる。 (3) 量子数に基づいて、原子軌道を図示することができる。

	(4) 多電子原子の電子配置(構成原理)を説明できる。 (5) イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度を理解し、それぞれの周期表中の傾向を説明できる。 (6) 原子の大きさ(共有結合半径)およびイオンの大きさ(イオン半径)を理解し、それぞれの周期表中の傾向を説明できる。 (7) 有機分子における混成軌道と多重結合を説明できる。
講義方法	基本的に板書による講義を行う。板書量は多いが、基本事項の習得は実際に手を動かし書くことによって体得するのが最も効果的であることを心得て、集中して受講すること。
準備学習	教科書の上に頼るのではなく、下記に挙げた参考書を併用することにより、より強固な基礎知識の習得になる。また、基本的なことであるが、講義前に教科書の該当事項について一読し、理解が難しい点を抽出しておく、講義の理解度が飛躍的に向上する。なお、本講義の内容は、高等学校化学の全範囲、ならびに高等学校物理の「原子の構造」の内容を一部含むため、理解不十分な箇所については常時復習するよう心がけること。
成績評価	成績評価は、期末試験の結果を第一基準とし、その他に平常点(出席、レポート、小試験)を成績全体の30%を限度として加味した上で、最終的に60点以上となった者を合格とする。
講義構成	第1回 原子の構造を学ぶ前に(講義の概要) 第2回 原子の構造1: 波の粒子性と波動性 第3回 原子の構造2: 原子スペクトルとボーア理論 第4回 原子の構造3: 電子の粒子性と波動性、シュレディンガー方程式 第5回 原子の構造4: 水素の原子軌道 第6回 原子の構造5: 量子数、電子スピン、構成原理 第7回 原子の構造6: 多電子原子の原子軌道と電子配置 第8回 中間まとめ 第9回 原子の性質の周期性1: 原子やイオンの大きさ 第10回 原子の性質の周期性2: イオン化エネルギー、電子親和力 第11回 原子の性質の周期性3: 電気陰性度 第12回 化学結合入門1: イオン結合と共有結合 第13回 化学結合入門2: 混成軌道、共鳴 第14回 化学結合入門3: 電気陰性度と結合の極性 第15回 まとめと試験
教科書	「フレッシュマンのための化学結合論」ウィンター著 西本訳(化学同人 1996年) その他、参考資料としてプリントを適宜配布する。
参考書・資料	「ベッカー 一般化学 上」ベッカー他著、木下他訳(東京化学同人 1983年) 「化学の基礎ー化学結合の理解」正畠著(化学同人 2004年) 「はじめて学ぶ大学の無機化学」三吉著(化学同人 1998年) 「化学結合論入門」高塚著(東京大学出版会 2007年) 「化学結合の量子論入門」小笠原・田地川著(三共出版 1994年)
担当者から一言	他の基礎科目と合わせて、本講を理解することが肝要である。授業を理解していくうえで、指数・対数および三角関数、簡単な微分・積分の知識が必要である。講義の予習復習は欠かさないよう努めること。
その他	当然のことであるが、講義中の飲食、私語、携帯電話などの使用は厳禁である。その他、周りの受講者に迷惑となる行為が認められる場合、厳しく対処するので注意すること。

授業コード	23032		
授業科目名	基礎化学7（前）		
担当者名	藤井敏司（フジイ サトシ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	化学全般の理解に必要な基礎的概念について解説を行う。他の基礎化学の科目と合わせて、専門化学の基礎的科目として位置づけているので、演習を充分に行い、理解を助けるように工夫する。特に本講義では、化学平衡、なかでも溶液内化学平衡のいくつかを例に挙げ、平衡論について解説する。酸塩基平衡、沈殿平衡および酸化還元平衡等について溶液内で起こる現象を平衡論的に解釈する方法を学習する。
到達目標	・平衡定数について理解する ・酸塩基並行について理解し、さまざまな条件下の水素イオン濃度計算を習得する ・沈殿平衡について理解し、溶解度積の計算を習得する ・酸化還元平衡について理解し、電池反応の基礎を習得する

講義方法	講義は2クラスに分けて行う。各平衡論の概念を説明し、基礎理論の導入、理論を使った演習を行う。演習および理解の度合いを小テストで確認する。
準備学習	対数関数に関する計算が頻出するので、対数関数に関する基礎を復習しておくこと
成績評価	講義への出席を前提とする。単元ごとに行う小テスト、中間テストおよび期末テストにより総合的に評価する。
講義構成	1 化学平衡 2 活動度と平衡計算 3 酸塩基平衡:はじめに 4 酸塩基平衡:理論 5 酸塩基平衡:電荷均衡、質量均衡 6 酸塩基平衡:一塩基酸および一酸塩基 7 沈殿平衡:物質の溶解度 8 沈殿平衡:溶解度と溶解度積 9 沈殿平衡:共通イオン効果 10 酸化還元平衡:酸化と還元 11 酸化還元平衡:半電池反応 12 酸化還元平衡:Nernstの式 13 酸化還元平衡:電池反応 14 酸化還元平衡:反応例 15 まとめおよび試験
教科書	「ベッカー一般化学 上・下」ベッカー他著、木下他訳(東京化学同人)
担当者から一言	他の基礎化学の内容と合わせて、本講義の内容を理解することが肝要である。講義は演習形式で行う。各自で問題を解くことが何よりも重要であり、これを小テスト・宿題で確認する。

授業コード	23005		
授業科目名	基礎化学A(前)		
担当者名	岩月聡史(イツスキ サトシ)、内藤宗幸(ナイトウ ムネユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	化学全般の理解に必要な基本概念について解説を行う。他の基礎化学の科目と合わせて、専門科目の中の基礎的科目として位置づけているので、演習も充分行ない、理解を助けるよう工夫する。 特に、本講では、物質学としての化学にとって基本的でかつ必須である、物質の微視的な構造について概説する。まず、原子の構造を明らかにし、ついで、その周期的な性質を見出す。その後、原子から分子の構造への橋渡しとして、化学結合に関する導入的な解説を行う。これらの事項を理解するためには原子構造の物理理論(量子力学)の助けが必要である。そのため、物理の基本的な事項・数式の帰着を含めてできるだけ平易に理解できるよう工夫する。
到達目標	(1)水素原子の原子軌道エネルギー準位を、ボーアの理論を用いて説明できる。 (2)原子軌道を記述するための量子数の内容を説明し、各軌道を副殻表示することができる。 (3)量子数に基づいて、原子軌道を図示することができる。 (4)多電子原子の電子配置(構成原理)を説明できる。 (5)イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度を理解し、それぞれの周期表中の傾向を説明できる。 (6)原子の大きさ(共有結合半径)およびイオンの大きさ(イオン半径)を理解し、それぞれの周期表中の傾向を説明できる。 (7)有機分子における混成軌道と多重結合を説明できる。
講義方法	基本的に板書による講義を行う。板書量は多いが、基本事項の習得は実際に手を動かし書くことによって体得するのが最も効果的であることを心得て、集中して受講すること。
準備学習	教科書にのみ頼るのではなく、下記に挙げた参考書を併用することにより、より強固な基礎知識の習得になる。また、基本的なことであるが、講義前に教科書の該当事項について一読し、理解が難しい点を抽出しておくこと、講義の理解度が飛躍的に向上する。なお、本講義の内容は、高等学校化学の全範囲、ならびに高等学校物理の「原子の構造」の内容を一部含むため、理解不十分な箇所については常時復習するよう心がけること。
成績評価	成績評価は、期末試験の結果を第一基準とし、その他に平常点(出席、レポート、小試験)を成績全体の30%を限度として加味した上で、最終的に60点以上となった者を合格とする。
講義構成	第1回 原子の構造を学ぶ前に(講義の概要)

	第2回 原子の構造1:波の粒子性と波動性 第3回 原子の構造2:原子スペクトルとボーア理論 第4回 原子の構造3:電子の粒子性と波動性、シュレディンガー方程式 第5回 原子の構造4:水素の原子軌道 第6回 原子の構造5:量子数、電子スピン、構成原理 第7回 原子の構造6:多電子原子の原子軌道と電子配置 第8回 中間まとめ 第9回 原子の性質の周期性1:原子やイオンの大きさ 第10回 原子の性質の周期性2:イオン化エネルギー、電子親和力 第11回 原子の性質の周期性3:電気陰性度 第12回 化学結合入門1:イオン結合と共有結合 第13回 化学結合入門2:混成軌道、共鳴 第14回 化学結合入門3:電気陰性度と結合の極性 第15回 まとめと試験
教科書	「フレッシュマンのための化学結合論」ウィンター著 西本訳(化学同人 1996年) その他、参考資料としてプリントを適宜配布する。
参考書・資料	「ベッカー 一般化学 上」ベッカー他著、木下他訳(東京化学同人 1983年) 「化学の基礎—化学結合の理解」正畠著(化学同人 2004年) 「はじめて学ぶ大学の無機化学」三吉著(化学同人 1998年) 「化学結合論入門」高塚著(東京大学出版会 2007年) 「化学結合の量子論入門」小笠原・田地川著(三共出版 1994年)
担当者から一言	他の基礎科目と合わせて、本講を理解することが肝要である。授業を理解していくうえで、指数・対数および三角関数、簡単な微分・積分の知識が必要である。講義の予習復習は欠かさないよう努めること。
その他	当然のことであるが、講義中の飲食、私語、携帯電話などの使用は厳禁である。その他、周りの受講者に迷惑となる行為が認められる場合、厳しく対処するので注意すること。

授業コード	23006		
授業科目名	基礎化学B(基礎化学3) (前)		
担当者名	町田信也(マチダ ノブヤ)、山本雅博(ヤマモト マサヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
特記事項	基礎化学3(2008年度以前の入学生用) 基礎化学B(2009年度以降の入学生用)		
オフィスアワー	水曜日 11:00		

講義の内容	化学全般の理解に必要な基本概念について解説を行う。他の基礎化学の科目と合わせて、専門科目の中の基礎的科目として位置づけているので、演習も充分行ない、理解を助けるよう工夫する。クラス制で実施する。 特に、本講では、化学現象を定量的に考察するうえで必要な化学熱力学の基礎について、具体例を示しながら解説する。化学現象(反応)に対する静的側面からのアプローチを中心に、 ●化学反応と種々の環境条件(温度や圧力など)の関係 ●エンタルピー、エントロピー、自由エネルギーの概念とそれらの関係 ●化学平衡とエネルギー変化の関係 などについて説明する。
到達目標	化学において必要となる化学熱力学を理解するための基礎を作る。
講義方法	通常の板書による講義が中心となる。また、課題レポートを宿題として課す。この課題項目について、学生に黒板の前で課題を解いてもらい、演習を行う。
準備学習	熱力学を理解するためには、数学という道具が、どうしても必要になる。三角関数、指数関数などの初等関数について、よく理解するとともに、これらを微分したり、積分したりする力を身につけておくこと。また、多変数関数の基礎が必要になるので、これらについても、よく理解しておく、あるいは並行して学習すること。 授業前に、教科書の当日講義で行うところを読んできて、わからないところを明確にしてきてほしい。 演習については、他の講義と連携している。
成績評価	毎回講義に出席していることを前提として、基本的には期末試験、小試験およびレポートの結果によって評価する。

講義構成	第1回 熱力学の目標 第2回 化学数学1: 熱力学に用いる微分と積分 第3回 エネルギーと仕事1: 運動エネルギー、内部エネルギー、気体のする仕事 第4回 化学数学2: 偏微分と全微分 第5回 エネルギーと仕事2: 仕事の大きさ、熱力学の第一法則 第6回 可逆過程と不可逆過程1: 可逆過程と最大仕事、状態量、エンタルピー、熱容量 第7回 熱機関とエントロピー1: カルノーサイクル、内部エネルギー変化 第8回 熱機関とエントロピー2: エントロピー 第9回 中間のまとめと中間試験 第10回 熱力学の構造1 第11回 熱力学の構造2 第12回 相平衡への熱力学の適用1: 気-液平衡と相律、化学ポテンシャル 第13回 相平衡への熱力学の適用2: クラジウス・クラペイロンの式 第14回 熱力学の構造のまとめ 第15回 まとめと試験
教科書	「理工系基礎レクチャー 物理化学 I 化学熱力学編」塩井章久著、(化学同人 2007年)
参考書・資料	「改訂増補化学熱力学中心の基礎物理化学」杉原・井上・秋貞著(学術図書出版 1999年) 「ムーア基礎物理化学(上)」ムーア著、細谷・湯田訳(東京化学同人 1985年) 「熱力学の基礎」清水 明著(東京大学出版会)(2007)

担当者から一言	他の基礎化学の科目と合わせて、本講を理解することが肝要である。 化学熱力学は「難しい！」と学生には不評です。確かに、やさしい学問ではないかもしれませんが、理解すると、一気に目の前が開ける爽快感があります。また、実用的にも非常に重要な知識になります。少なくとも講義の2倍以上の時間をかけて、自宅学習をして下さい。また本講では、演習課題・レポートを課しますので、必ず、提出してください。 また、演習をするためには、基礎的な数学の知識が必要になります。とくに、指数および対数計算、微分・積分が必要です。かならず数学関係科目(「微分積分および演習」、「線形代数学および演習」)を平行履修あるいは修得しておくこと。
---------	--

授業コード	23014		
授業科目名	基礎化学C(前)		
担当者名	茶山健二(チャヤマ ケンジ)、平山 鋭(ヒラヤマ サトシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	化学全般の理解に必要な基本概念について解説を行う。他の基礎化学の科目と合わせて、専門科目の中の基礎的科目として位置づけているので、演習も充分行い、理解を助けるよう工夫する。 高校で学んだ化学の基礎知識および化学量論を更に深めて、実際に化学実験に用いることが出来るよう演習問題も多く取り扱う。命名法、SI単位、溶液の濃度等、高校で学んだ化学を用いれば理解できる内容から始め、講義を履修し終えた時点では、分析化学の基礎知識および演習を理解できるところまで到達するよう講義・演習を行う。
到達目標	化学の基礎となる計算が出来るよう、濃度計算を初めとする化学量論的な取り扱いが容易に出来るようにする。また、酸塩基、酸化還元等の溶液内平衡が理解でき、化学の基礎の部分を十分理解できるようにする。
講義方法	プリントを配布して講義を行う。演習問題を解き、理解の度合いを小テストで確認する。
準備学習	授業前に、教科書を中心とした演習問題を解き、理解を深めておく。
成績評価	中間試験および期末試験の成績を中心とし、演習課題に対する解答および出席状況を加味して評価する。
講義構成	第1回 化学と現代社会 第2回 化学物質の名前: 無機化合物 第3回 化学物質の名前: 有機化合物 第4回 SI単位 第5回 モルの概念 第6回 化学反応 第7回 化学量論 第8回 物質の状態と組成 第9回 溶液と濃度

	第10回 重量パーセント濃度 第11回 モル濃度 第12回 酸と塩基 第13回 pH 第14回 滴定 第15回 まとめと試験
教科書	演習 溶液の化学と濃度計算 実験・実習の基礎 立屋敷 哲著 丸善 ISBN 978-4-621-07478-7 C3043
参考書・資料	プリントを配布する。
担当者から一言	他の基礎化学の科目と合わせて、本講を理解することが肝要である。 ほとんど毎時間、その日に解説した事項についての演習を行う。

授業コード	23007		
授業科目名	基礎化学D(基礎化学2) (後)		
担当者名	宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)、渡邊順司(ワタナベ ジュンジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	基礎化学2(2008年度以前の入学生用) 基礎化学D(2009年度以降の入学生用)		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	化学全般の理解に必要な基本概念について解説を行う。他の基礎化学の科目と合わせて、専門科目の中の基礎的科目として位置づけているので、演習も充分行い、理解を助けるよう工夫する。 高校の化学では有機化合物に関する事柄は簡単にしか取り扱われていないので、高校の化学との接続に意を払いつつ、有機化合物の構造と反応に関する基礎的な事項を分かり易く解説する。有機化合物の性質や反応は、構造式中の官能基と呼ばれる部分によって規定されるので、主な官能基のもつ機能を大まかに理解してもらうことを目的としている。
到達目標	主な官能基のもつ機能を大まかに理解し、有機化合物の構造と反応に関する基礎的な知識を身につけ、これを説明することができること。具体的には、指定教科書の章末に出ている問題が解けるようになることを目標に努力してほしい。
講義方法	講義は教科書に沿って進めるので毎時間教科書を持参すること。また、必要に応じてプリントも配布する。
準備学習	講義構成の項目に示されている各回の講義内容について、教科書の該当の章(カギ括弧内に示す)を必ず予め読んで講義に臨むこと。
成績評価	中間試験および期末試験の成績を中心とし、演習課題に対する解答および出席状況を加味して評価する。
講義構成	第1回 有機化合物とその表現法 [1章] 第2回 有機化合物における結合 [2章] 第3回 有機化合物の立体構造 [3章] 第4回 有機反応の基礎 [4章] 第5回 飽和炭化水素 [5章] 第6回 不飽和炭化水素 [6章] 第7回 芳香族炭化水素 [8章] 第8回 まとめと試験 第9回 ハロゲンをもつ化合物 [7章] 第10回 ヒドロキシル基をもつ化合物、エーテル結合をもつ化合物 [9章] 第11回 カルボニル基をもつ化合物 [10章] 第12回 カルボキシル基をもつ化合物 [11章] 第13回 アミノ基をもつ化合物 [12章] 第14回 有機化合物の命名法 [13章] 第15回 まとめと試験
教科書	「基礎有機化学」小林啓二著(朝倉書店 2006年)
参考書・資料	「構造式と化学名」高橋 浩著(三共出版 1996年)

担当者から一言	他の基礎化学の科目と合わせて、本講を理解することが肝要である。 主要な有機化合物の構造式と基本的な反応になじんでもらうことを主眼としているので、実際に手を動かして構造式や反応式を書いてみるのが重要である。 毎回、その日に解説した事項についての演習問題を宿題として課す。
その他	私語は厳禁する。

授業コード	23008		
授業科目名	基礎化学E(基礎化学6) (後)		
担当者名	檀上博史(ダンジョウ ヒロシ)、岩月聡史(イワツキ サトシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	基礎化学6(2008年度以前の入学生用) 基礎化学E(2009年度以降の入学生用)		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	化学全般の理解に必要な基本概念について解説を行う。他の基礎化学の科目と合わせて、専門科目の中の基礎的科目として位置づけているので、演習も充分行ない、理解を助けるよう工夫する。クラス制で実施する。 特に、本講では、物質学としての化学にとって基本的でかつ必須である、物質の微視的な構造について概説する。基礎化学A(基礎化学5)で述べた原子の構造についての知識をもとに、これらの原子がどのように化合物を作るかを化学結合と構造の観点から考えていく。これらの事項を理解するためには原子構造の物理理論(量子力学)の助けが必要である。そのため、物理の基本的な事項・数式の帰着を含めてできるだけ平易に理解できるよう工夫する。
到達目標	(1) 化合物をルイス式(電子式)で表記できる。 (2) 原子の電気陰性度と分子の極性との関係を説明できる。 (3) 混成軌道の種類と結合様式を説明できる。 (4) 共鳴混成体の極限構造式を記述できる。 (5) 原子価殻電子対間反発(VSEPR)則を用いて、多原子分子の構造を予測できる。 (6) 二原子分子の分子軌道エネルギー準位を図示できる。 (7) 分子軌道理論を用いて、二原子分子の結合次数を計算でき、かつ磁性の有無を決定できる。 (8) ボルンハーバーサイクルを用いてイオン化合物の結合エネルギーを計算できる。 (9) 化学結合より弱い相互作用について種類と概要を説明できる。
講義方法	基本的に板書による講義を行う。板書量は多いが、基本事項の習得は実際に手を動かし書くことによって体得するのが最も効果的であることを心得て、集中して受講すること。
準備学習	教科書だけに頼るのではなく、下記に挙げた参考書を併用することにより、より強固な基礎知識の習得になる。 また、基本的なことであるが、講義前に教科書の該当事項について一読し、理解が難しい点を抽出しておく、講義の理解度が飛躍的に向上する。 なお、本講義の範囲は、高等学校の化学の全範囲、ならびに基礎化学A(基礎化学5)の知識を理解していることが前提となるため、理解不十分な箇所については常時復習するよう心がけること。
成績評価	成績評価は、期末試験の結果を第一基準とし、その他に平常点(出席、レポート、小試験)を成績全体の30%を限度として加味した上で、最終的に60点以上となった者を合格とする。
講義構成	第1回 化学結合入門: 化学結合の種類と概要 第2回 化学結合の原子価結合理論1: ルイス構造、オクテット則 第3回 化学結合の原子価結合理論2: 原子価結合理論の概要 第4回 化学結合の原子価結合理論3: 二原子分子(単結合、多重結合) 第5回 化学結合の原子価結合理論4: 二原子分子(電気陰性度と極性) 第6回 化学結合の原子価結合理論5: 多原子分子(混成軌道と多重結合) 第7回 化学結合の原子価結合理論6: 多原子分子(原子価殻電子対間反発(VSEPR)則と分子構造) 第8回 中間まとめ 第9回 化学結合の分子軌道理論1: 分子軌道理論の概要と分子軌道の表し方 第10回 化学結合の分子軌道理論2: 二原子分子の分子軌道理論 第11回 化学結合の分子軌道理論3: 結合次数と磁性 第12回 イオン結合: ボルンハーバーサイクル 第13回 分子およびイオン間の相互作用1: 相互作用の種類 第14回 分子およびイオン間の相互作用2: イオン、極性分子、無極性分子の間の相互作用 第15回 まとめと試験

教科書	「フレッシュマンのための化学結合論」ウィンター著 西本訳(化学同人 1996年) その他、参考資料としてプリントを適宜配布する。
参考書・資料	「ベッカー 一般化学 上」ベッカー他著、木下他訳(東京化学同人 1983年) 「化学の基礎－化学結合の理解」正畠著(化学同人 2004年) 「はじめて学ぶ大学の無機化学」三吉著(化学同人 1998年) 「化学結合論入門」高塚著(東京大学出版会 2007年) 「化学結合の量子論入門」小笠原・田地川著(三共出版 1994年)
担当者から一言	他の基礎科目と合わせて、本講を理解することが肝要である。授業を理解していくうえで、指数・対数および三角関数、簡単な微分・積分の知識が必要である。上述のとおり、本講義は基礎化学A(基礎化学5)の内容を含むため、それらを含めて講義の予習復習は欠かさず行うよう努めること。
その他	当然のことであるが、講義中の飲食、私語、携帯電話の使用は厳禁である。その他、周りの受講者に迷惑となる行為が認められる場合、厳しく対処するので注意すること。

授業コード	23015		
授業科目名	基礎化学F(基礎化学4)(後)		
担当者名	町田信也(マチダ ノブヤ)、山本雅博(ヤマモト マサヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
特記事項	基礎化学4(2008年度以前の入学生用) 基礎化学F(2009年度以降の入学生用)		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	化学全般の理解に必要な基本概念について解説を行う。他の基礎化学の科目と合わせて、専門科目の中の基礎的科目として位置づけているので、演習も充分行ない、理解を助けるよう工夫する。クラス制で実施する。 特に、本講では、化学現象を定量的に考察するうえで必要な化学熱力学の基礎について、具体例を示しながら解説する。化学現象(反応)に対する静的側面からのアプローチを中心に、 ●化学平衡とエネルギー変化の関係 ●化学反応と種々の環境条件(温度や圧力など)の関係 ●多成分系の熱力学 について説明する。
到達目標	化学現象を定量的に考察するうえで必要な化学熱力学の基礎について習得する。
講義方法	通常の板書による講義が中心となる。また、課題レポートを宿題として課す。この課題項目について、学生に黒板の前で課題を解いてもらい、演習を行う。
準備学習	熱力学を理解するためには、数学という道具が、どうしても必要になる。三角関数、指数関数などの初等関数について、よく理解するとともに、これらを微分したり、積分したりする力を身につけておくこと。また、多変数関数の基礎が必要になるので、これらについても、よく理解しておく、あるいは並行して学習すること。 授業前に、教科書の当日講義で行うところを読んできて、わからないところを明確にできてほしい。 演習については、他の講義と連携している。
成績評価	基本的には期末試験、小試験およびレポートの結果によって評価する。
講義構成	第1回 化学熱力学を理解するための数学 第2回 化学熱力学の基礎1:相平衡 第3回 化学熱力学の基礎2:液-液平衡 第4回 化学熱力学の基礎3:化学平衡と自由エネルギー 第5回 熱化学:エンタルピー 第6回 熱容量 第7回 中間のまとめと中間試験 第8回 多成分系の熱力学1:混合量と部分モル量 第9回 多成分系の熱力学2:混合エントロピー 第10回 多成分系の熱力学3:多成分系の相平衡 第11回 多成分系の熱力学4:ラウールの法則とヘンリーの法則 第12回 熱力学と電解質溶液1:電荷と仕事 第13回 熱力学と電解質溶液2:電気化学反応と起電力 第14回 多成分系と電解質溶液に関するまとめ 第15回 まとめと試験

教科書	「理工系基礎レクチャー 物理化学Ⅰ 化学熱力学編」塩井章久著、(化学同人 2007年)
参考書・資料	「改訂増補化学熱力学中心の基礎物理化学」杉原・井上・秋貞著(学術図書出版 1999年) 「ムーア基礎物理化学(上)」ムーア著、細谷・湯田訳(東京化学同人 1985年) 「熱力学の基礎」清水 明著(東京大学出版会)(2007)
担当者から一言	他の基礎化学の科目と合わせて、本講を理解することが肝要である。 化学熱力学は「難しい！」と学生には不評です。確かに、やさしい学問ではないかもしれませんが、理解すると、一気に目の前が開ける爽快感があります。また、実用的にも非常に重要な知識になります。少なくとも講義の2倍以上の時間をかけて、自宅学習をして下さい。また本講では、演習課題・レポートを課しますので、必ず、提出してください。 また、演習をするためには、基礎的な数学の知識が必要になります。とくに、指数および対数計算、微分・積分が必要です。かならず数学関係科目(「微分積分および演習」、「線形代数学および演習」)を平行履修あるいは修得しておくこと。

授業コード	23009		
授業科目名	基礎化学演習Ⅰ(後)		
担当者名	町田信也(マチダ ノブヤ)、茶山健二(チャヤマ ケンジ)、岩月聡史(イワツキ サトシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	機能分子化学実験Aと並行履修		
オフィスアワー	木曜日 18:00		

講義の内容	酸塩基反応、沈殿反応、錯体生成反応などの溶液内化学平衡を用いる化学分析法、すなわち重量分析法、容量分析法、吸光光度分析法、イオン交換分離分析法等について演習を行う。これらの演習により、溶液内化学平衡の諸理論と、実際の化学操作や技術との関連性を理解する。
到達目標	酸塩基反応、沈殿反応、錯体生成反応などの溶液内化学平衡を用いる化学分析法、すなわち重量分析法、容量分析法、吸光光度分析法、イオン交換分離分析法等について習熟し、使いこなせるようにする。
講義方法	化学分析実験を行う上で必要となる化学平衡の理論、ならびに分析データ解析に関する演習をおこなう。内容をよりよく理解するために、しばしば小試験を行う。
準備学習	1年次配当の「基礎化学A」、「同B」、「同C」、「同D」、「同E」、「同F」ならびに2年次配当の「基礎化学実験」、「分析化学A」を習得していること前提としている。これらの学習に不安がある場合は、よく、復習しておくこと。また、未修得の場合は、並行履修すること。また、「分析化学B」を並行履修すると理解度が飛躍的に向上する。なお、本講は「機能分子化学実験A」と並行履修することが必須条件であるため、「基礎化学実験」を未修得の場合は受講することができない。
成績評価	出席が前提であり、期末試験のほか、中間試験、小試験、受講態度等により総合的に評価する。
講義構成	はじめに 第1回 化学分析実験を行う上での注意事項 演習Ⅰ 重量分析 (硫酸カリウム中の硫酸イオンの定量) 第2回 化学平衡と分析原理 第3回 分析データの解析 第4回 重量分析まとめ、中間試験1 演習Ⅱ 容量分析 (中和滴定法による市販酸の濃度決定および示差滴定) 第5回 化学平衡と分析原理 第6回 分析データの解析(小試験) (キレート滴定法による天然水中のカルシウム・マグネシウムイオンの定量) 第7回 化学平衡と分析原理 第8回 分析データの解析(小試験) (酸化還元滴定法による過酸化水素および鉄(Ⅱ)イオンの定量) 第9回 化学平衡 第10回 分析原理 第11回 分析データの解析(小試験) 第12回 容量分析まとめ、中間試験2 演習Ⅲ 機器分析 (pHメータによる酸・塩基の中和曲線の作成)

	第13回 分析原理と分析データの解析 (イオン交換クロマトグラフィーによる銅・亜鉛イオンの分離定量) 第14回 分析原理と分析データの解析 第15回 まとめと試験
教科書	「定量分析」分析化学研究会 編著(廣川書店)
参考書・資料	未定
担当者から一言	実験目的、実験方法、各操作のもつ意義、化合物の諸性質等を充分理解するためには、分析原理・理論が実際の化学操作やデータ解析にどのように関係しているかを習熟する必要がある。これは、実験を正しくかつ安全に行うことにつながる。 本講は「機能分子化学実験A」と並行履修することが必須条件であるため、「機能分子化学実験A」を履修するための前提条件を、履修要項で充分確認すること。

授業コード	23A11		
授業科目名	基礎化学実験 (A)(前)		
担当者名	池田能幸(イケダ ヨシユキ)、内藤宗幸(ナイトウ ムネユキ)、三宅純平(ミヤケ ジュンペイ)、西野恒代(ニシノ ツネヨ)、玉置克之(タマキ カツユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限 金曜5限
特記事項	機能分子化学科2年次		

講義の内容	無機定性分析を行い、化学実験の基本操作ならびに薬品の取扱いに慣れさせる。また、実験を通じていろいろな化学現象を体験することにより化学の面白さを学び、親近感を持たせる。
到達目標	身近な化学現象を題材とした実験を各自が行うことによって、実験の準備、操作、廃液処理、ノートの取り方、データの整理、レポートの作成等の一連の化学実験の手法を身につける。
講義方法	無機の定性分析を行い、実験終了後に口頭試問およびレポート提出を行う。さらには、理解を深めるため、関連する基礎化学のテストを数回行う。
準備学習	実験をスムーズに行うために、濃度、化学平衡など、高校の教科書の関連するところをもう一度よく復習しておくこと。
成績評価	理解度と出席およびマナーにより評価する。理解度は、レポートの内容と平常の実験状況、テストの成績により評価する。実験科目では全実験に出席することが前提となっているが、無欠席でも単位を与えないことがありうる。
講義構成	第1回 基礎化学実験受講についての説明と注意、器具薬品等の配布および洗浄 第2回 陽イオン第1・2属各個反応 第3回 陽イオン第1・2属未知試料分離確認 第4回 陽イオン第1・2属未知試料分離確認 第5回 小テスト・陽イオン第3・4属各個反応 第6回 陽イオン第3・4属未知試料分離確認 第7回 小テスト・陽イオン第5・6属各個反応 第8回 陽イオン第1～4属未知試料分離確認 第9回 陽イオン第1～5属未知試料分離確認 第10回 陽イオン第1～5属未知試料分離確認 第11回 小テスト・陰イオン各個反応 第12回 陽・陰全属未知試料分離確認 第13回 電子天秤による秤量誤差 第14回 水の硬度測定 第15回 テスト・実験器具洗浄・後片づけ・掃除
教科書	「基礎化学実験指針」甲南大学化学教室編(2006年)
参考書・資料	「新版 実験を安全に行なうために」化学同人編集部編(化学同人 1996年) 「安全要覧」甲南大学理工学部編 「基礎化学選書2 分析化学(改訂版)」長島弘三・富田功共著(裳華房)

担当者から一言	機能分子化学科2年次学生はA(金曜日)クラス、それ以外の履修生はB(火曜日)クラスを履修すること。 各回午後1時に講義室または指定された場所に集合すること。説明講義に遅れた者は、当日実験室への立ち入りを断ることがある。この場合欠席として扱う。やむを得ない事情により欠席・遅刻する場合、実験準備室に届
---------	--

	け出または連絡されたい。 レポートは次回実験日の午後1時まで提出すること。所定期日に提出出来なかった場合も、早急に提出すること。提出しない場合、実験をしなかったものとみなされる。 特別の事情により通常の実験が困難な場合は担当者に相談されたい。 4~5回実験に関係する内容のテストを行う。濃度、化学平衡など高校の教科書をもう一度よく復習しておくこと
--	---

授業コード	23A12		
授業科目名	基礎化学実験 (B)(前)		
担当者名	池田能幸(イケダ ヨシユキ)、内藤宗幸(ナイトウ ムネユキ)、三宅純平(ミヤケ ジュンペイ)、玉置克之(タマキ カツユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限 火曜5限
特記事項	機能分子化学科2年次以外		

講義の内容	無機定性分析を行い、化学実験の基本操作ならびに薬品の取扱いに慣れさせる。また、実験を通じていろいろな化学現象を体験することにより化学の面白さを学び、親近感を持たせる。
到達目標	身近な化学現象を題材にした実験を各自が行うことによって、実験の準備、操作、廃液処理、ノートの取り方、データの整理、レポート作成等の一連の化学実験の手法の基礎を身につける。
講義方法	無機の定性分析を行い、実験終了後に口頭試問およびレポート提出を行う。さらには、理解を深めるため、関連する基礎化学のテストを数回行う。
準備学習	実験をスムーズに行うために、濃度、化学平衡など、高校の教科書の関連するところをもう一度よく復習しておくこと。
成績評価	理解度と出席およびマナーにより評価する。理解度は、レポートの内容と平常の実験状況、テストの成績により評価する。実験科目では全実験に出席することが前提となっているが、無欠席でも単位を与えないことがありうる。
講義構成	第1回 基礎化学実験受講についての説明と注意、器具薬品等の配布および洗浄 第2回 陽イオン第1・2属各個反応 第3回 陽イオン第1・2属未知試料分離確認 第4回 陽イオン第1・2属未知試料分離確認 第5回 小テスト・陽イオン第3・4属各個反応 第6回 陽イオン第3・4属未知試料分離確認 第7回 小テスト・陽イオン第5・6属各個反応 第8回 陽イオン第1～4属未知試料分離確認 第9回 陽イオン第1～5属未知試料分離確認 第10回 陽イオン第1～5属未知試料分離確認 第11回 小テスト・陰イオン各個反応 第12回 陽・陰全属未知試料分離確認 第13回 電子天秤による秤量誤差 第14回 水の硬度測定 第15回 テスト・実験器具洗浄・後片づけ・掃除
教科書	「基礎化学実験指針」甲南大学化学教室編(2006年)
参考書・資料	「新版 実験を安全に行なうために」化学同人編集部編(化学同人 1996年) 「安全要覧」甲南大学理工学部編 「基礎化学選書2 分析化学(改訂版)」長島弘三・富田功共著(裳華房)

担当者から一言	機能分子化学科2年次学生はA(金曜日)クラス、それ以外の履修生はB(火曜日)クラスを履修すること。 各回午後1時に講義室または指定された場所に集合すること。説明講義に遅れた者は、当日実験室への立ち入りを断ることがある。この場合欠席として扱う。やむを得ない事情により欠席・遅刻する場合、実験準備室に届け出または連絡されたい。 レポートは次回実験日の午後1時まで提出すること。所定期日に提出出来なかった場合も、早急に提出すること。提出しない場合、実験をしなかったものとみなされる。 特別の事情により通常の実験が困難な場合は担当者に相談されたい。
---------	---

授業コード	23052
-------	-------

授業科目名	機能生命化学 (前)		
担当者名	源伸介 (ミナモト シンスケ)		
配当年度	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	機能生命化学は、生物化学で学んだ生体を構成する物質が、生体内においてどのように機能して生命現象を引き起こしているのかについての基礎的知識を得るための科目である。 本講義では、生体を構成する物質の機能を発現について、酵素反応、エネルギー生産、ビタミン及びホルモン等、物質の代謝に力点を置いて解説する。
到達目標	生物化学の続編として、生体構成物質として重要な酵素、ホルモン、ビタミン及びの基礎を修得し、特にエネルギー生産に関して体系的に理解する事を目標としている。
講義方法	主としてパワーポイントを用いて講義を行う。 教科書・ノートに代わるものとして、毎回の講義の要点をまとめた資料 (PDFファイル) をMy Konanのシステムにより配付する。
準備学習	配付した資料を必ずプリントアウトして目を通し、講義の際に持参すること。
成績評価	平常点40%と定期試験60%による総合評価で行う。
講義構成	第1回 酵素(1): 生体の反応 第2回 酵素(2): 酵素の機能 第3回 酵素(3): 酵素の分類 第4回 糖質の代謝(1): 解糖と発酵 第5回 糖質の代謝(2): ペントースリン酸回路と糖新生 第6回 エネルギー生産(1): 生体エネルギー 第7回 エネルギー生産(2): TCA回路 第8回 エネルギー生産(3): 電子伝達系と酸素呼吸 第9回 ビタミン(1): 補酵素とビタミン 第10回 ビタミン(2): 水溶性ビタミン 第11回 ビタミン(3): 脂溶性ビタミン 第12回 ホルモンの機能(1): ホルモンの種類と構造 第13回 ホルモンの機能(2): 生体の恒常性維持 第14回 ホルモンの機能(3): 血糖調節とエネルギー代謝 第15回 まとめと試験
教科書	なし

担当者から一言	本講義は生物化学を履修していることを前提としている。また、引き続き構造生命化学を履修することが望ましい。
---------	--

授業コード	23042		
授業科目名	機能物質化学1 (前)		
担当者名	舟橋良次 (フナハシ リョウジ)		
配当年度	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	エネルギー・環境問題、ウイルス感染への不安、安全で安心な社会の追求。これらを解決し、実現するためには新しいエネルギー材料、環境材料、医療機器、センサーが不可欠である。それらを構築する機能材料の性能は日進月歩高められている。あるものは物理、あるものは化学、そしてあるものは生物・医学とその分野は多岐にわたる。本講義では種々の材料の特性とその応用例を学ぶと共に、新機能材料の探索技術や合成技術について講義する。さらに高機能材料開発の急先鋒として期待されるナノテクノロジーについて、歴史を振り返ると共に、その応用例を学ぶ。
到達目標	身のまわりにある機能材料の働きと原理を勉強することで、新たな視野で科学・技術を学ぶことを身につける。
講義方法	液晶プロジェクターと板書。必要に応じてプリント配布。問答方式による議論型講義。化学、物理、生物などの講義で学んだ基礎的知識を、いかに実用化するか一緒に考えながら講義を進めましょう。
準備学習	新聞、雑誌、インターネットなど最新の科学技術の興味を持ち、できるだけ多くの正しい知識を身につけて下さい。

成績評価	期間、期末の試験、レポートの成績により総合的に評価する。
講義構成	第1週 機能材料とは 第2週 原子・分子の発見 第3週 ナノテクノロジー基礎 第4週 電池と金属・半導体材料 第5週 誘電体材料 第6週 磁性材料 第7週 超伝導材料 第8週 熱電材料 第9週 燃料電池 第10週 ナノカーボン材料 第11週 ウィルス 第12週 ディスプレー 第13週 機能材料の探索技術 第14週 材料の安全性
教科書	教科書は使用しない。
担当者から一言	機能材料の創製は未来を作るサイエンスです。その基礎と応用例を学び、理解することは未来を創る皆さんにとって今後役立つものになると思います。

授業コード	23043		
授業科目名	機能物質化学2（前）		
担当者名	渡邊順司（ワタナベ ジュンジ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	衣食住に代表される私達の生活必需品は、高性能かつ高付加価値化の一途をたどっている。これらの製品は元をたどれば種々の化学反応を物質に与えて創製された機能物質から作り出されている。近年では、この機能物質を材料として捉え、最終製品の使用目的に対応した材料を高効率かつリサイクル性も考慮して製造する使命が化学工業に課せられている。本講義では、無機および有機化合物までの広範な機能物質について取り上げ、これらの最終製品としての機能特性を含めて解説する。
到達目標	本講義によって、暮らしに必要とされる機能物質が時代の変遷と共にどのように推移してきたのかが理解できるようになる。 ①無機化合物の効率的な生産プロセスについての理解 ②石油を原料とする機能物質の生産プロセスについての理解 ③機能物質から製品への作り込みについての理解 ④我が国の化学産業の世界における位置づけについての理解
講義方法	講義時間の最初に毎回、出欠調査を兼ねて小テストを実施します。各回の講義テーマは、板書と液晶プロジェクターを併用して解説します。
準備学習	授業資料(プリント)はMy KONANIに掲載します。各自でプリントアウトして講義のアウトラインを把握し、講義に持参して下さい。また、小テストは前回の講義内容から出題するので、復習して準備して下さい。
成績評価	中間試験(30%)と期末試験(30%)の両方を受験し、出席を兼ねた小テスト(40%)を含めて評価する。
講義構成	第1回:物質と材料 第2回:無機化合物1(無機酸) 第3回:無機化合物2(ソーダと塩素) 第4回:無機化合物3(窒素化合物・リン酸化合物) 第5回:精密無機化学 第6回:ガラス 第7回:まとめと中間試験 第8回:炭素資源と石油化学 第9回:アルコール 第10回:汎用性高分子 第11回:機能性高分子 第12回:精密有機化学1(界面活性剤) 第13回:精密有機化学2(医薬・農薬)

	第14回:グリーン・サステイナブルケミストリー 第15回:まとめと期末試験
教科書	特に指定しない。自分に合うと思える専門書を選んで、それを教科書として下さい。選定に迷ったときはアドバイスをします。また、自分なりに講義内容をノートにまとめることができる力を養って下さい。
参考書・資料	「新しい工業化学」(化学同人 2004年 ISBN 978-4-759-80955-8)
担当者から一言	暮らしに役立つ最終製品がどのような機能物質から創製されているのか考え、化学の言葉で理解してみませんか。

授業コード	23070		
授業科目名	機能分子化学概論(前)		
担当者名	重松利彦(シゲマツ トシヒコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	大学における機能分子化学の学習の出発点において、新入生に適切な助言を与え、学問に誘い学びの体制を整える機会を与えることを目的とした、機能分子化学科の導入教育科目として位置付けられる。		
到達目標	化学の社会での位置づけについて具体例を挙げて説明できる。		
講義方法	前半(4～5回)は、機能分子化学科・大学院化学専攻において、学習・研究するにあたって必要となる基礎知識を概説する。後半の基礎ゼミでは、1各学生自身が科学(化学)に関連する興味ある事項について、テーマ設定・調査およびレジュメを作成し、これを資料としてプレゼンテーションおよび質疑応答を行う。		
準備学習	教科書をよく読み、報告する課題を決定し、レジュメを作成しておくこと。		
成績評価	前半の概説に関する試験、後半の基礎ゼミにおけるプレゼンテーションの内容、および出席状況により総合的に評価する。		
講義構成	・自然科学の中での化学の位置付け ・機能分子化学科での教育・研究 ・現在社会と化学の関わり ・化学者・化学技術者の倫理 ・基礎ゼミ(各人2～3回のプレゼンテーションを予定)		
教科書	「ピメンテル市民の化学」 小尾他訳 東京化学同人		
参考書・資料	「科学するあたま」 J.ギャレット他著 化学同人 「シュワルツ博士の化学はこんなに面白い」 J.シュワルツ著 主婦の友社		
担当者から一言	「機能分子化学概論及び基礎ゼミ」は2006年度から新たに設けられた必修科目であり、1年次のうちに修得するように心がけること。初期の全体講義、その後のゼミナール形式の報告によって、大学での学習にあたって必要となる基礎知識の修得、自主的な学習の重要性の認識、および科学(化学)に対する興味を惹起することを主眼としているので、積極的な参加が前提となる。		

授業コード	23029		
授業科目名	機能分子化学概論及び基礎ゼミ(前)		
担当者名	重松利彦(シゲマツ トシヒコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	大学における機能分子化学の学習の出発点において、新入生に適切な助言を与え、学問に誘い学びの体制を整える機会を与えることを目的とした、機能分子化学科の導入教育科目およびFast Year Seminarとして位置付けられる。		
到達目標	社会の中で化学の果たす役割を説明できる。		

講義方法	前半(4～5回)は、機能分子化学科・大学院化学専攻において、学習・研究するにあたって必要となる基礎知識を概説する。後半の基礎ゼミでは、1クラス6～7名の小クラスに分かれ、各学生自身が科学(化学)に関連する興味ある事項について、テーマ設定・調査およびレジュメを作成し、これを資料としてプレゼンテーションおよび質疑応答を行う。
準備学習	教科書をよく読み、報告する課題を見出す。選んだ課題について、レジュメを作成し発表すること。
成績評価	前半の概説に関する試験、後半の基礎ゼミにおけるプレゼンテーションの内容、および出席状況により総合的に評価する。
講義構成	・自然科学の中での化学の位置付け ・機能分子化学科での教育・研究 ・現在社会と化学の関わり ・化学者・化学技術者の倫理 ・基礎ゼミ(各人2～3回のプレゼンテーションを予定)
教科書	「ピメンテル市民の化学」 小尾他訳 東京化学同人
参考書・資料	「科学するあたま」 J.ギャレット他著 化学同人 「シュワルツ博士の化学はこんなに面白い」 J.シュワルツ著 主婦の友社
担当者から一言	「機能分子化学概論及び基礎ゼミ」は2006年度から新たに設けられた必修科目であり、1年次のうちに修得するように心がけること。初期の全体講義、その後の基礎ゼミにより、大学での学習にあたって必要となる基礎知識の修得、自主的な学習の重要性の認識、および科学(化学)に対する興味を惹起することを主眼としているので、積極的な参加が前提となる。

授業コード	23033		
授業科目名	機能分子化学実験1(後)		
担当者名	町田信也(マチダ ノブヤ)、茶山健二(チャヤマ ケンジ)、岩月聡史(イワツキ サトシ)、古川直治(フルカワ ナオジ)、平山悦子(ヒラヤマ エツコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限 木曜3限 木曜4限 木曜5限 金曜3限
オフィスアワー	木曜日 18:00		

講義の内容	酸塩基反応、沈殿反応、錯体生成反応などの溶液内化学平衡を用いる化学分析法、すなわち重量分析法、容量分析法、吸光光度分析法、イオン交換分離分析法等について実験する。これらの実験から溶液内化学平衡を理解するとともに、基本的な化学操作と技術の習得、定量分析を体験する。
到達目標	酸塩基反応、沈殿反応、錯体生成反応などの溶液内化学平衡を用いる化学分析法、すなわち重量分析法、容量分析法、吸光光度分析法、イオン交換分離分析法等について習熟し、使いこなせるようにする。
講義方法	実験をおこなう。しばしば、実験内容をよりよく理解するために、実験講義、演習ならびに小試験を行う。
準備学習	1年次配当の「基礎化学1」、「同2」、「同3」、「同4」、「同5」、「同6」ならびに2年次配当の「基礎化学7」、「基礎化学実験」、「分析化学A(分析化学1)」を習得していること前提としている。これらの学習に不安がある場合は、よく、復習しておくこと。まだ、未修得の場合は、必ず、並行履修すること。また、「分析化学B(分析化学2)」を並行履修すると、理解度が飛躍的に向上する。 なお、「基礎化学実験」を未修得の場合、あるいは基礎化学科目を10単位以上習得していない場合は、受講することができない。
成績評価	出席が前提であり、実験態度、レポート、小テスト、総合テスト等により総合的に評価する。
講義構成	以下の各テーマを2～3日の実験日に分け、試料調製、分析、データ解析ならびにレポート作成を行う。また、確認テストを適宜実施する。 Ⅰ 重量分析 硫酸カリウム中の硫酸イオンの定量 Ⅱ 容量分析 1)中和滴定法による市販酸の濃度決定および示差滴定 2)キレート滴定法による天然水中のカルシウム・マグネシウムイオンの定量 3)酸化還元滴定法による過酸化水素および鉄(Ⅱ)イオンの定量 Ⅲ 機器分析 1)pHメータによる酸・塩基の中和曲線の作成 2)イオン交換クロマトグラフィーによる銅・亜鉛イオンの分離定量

教科書	「定量分析」分析化学研究会 編著(廣川書店)
参考書・資料	未定
担当者から一言	実験目的、実験方法、各操作のもつ意義、化合物の諸性質等を充分理解した上で実験する必要がある。これは、実験を安全に行うことにつながる。 機能分子化学実験1を履修するための前提条件を、履修要項で充分確認すること。

授業コード	23034		
授業科目名	機能分子化学実験2(前)		
担当者名	重松利彦(シゲマツ トシヒコ)、山本雅博(ヤマモト マサヒロ)、村上 良(ムラカミ リョウ)、佐々木宗夫(ササキ ムネオ)、木原壮林(キハラ ソウリン)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限 木曜4限 木曜5限 金曜3限 金曜4限 金曜5限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	基本的なテーマ(講義構成の欄を参照のこと)を対象として、物質の構造、性質、反応などを定量的に測定する実験を行ない、実験の概念、原理、手法およびデータの解析法を修得する。また、得られた結果を、あらゆる観点から考察する研究態度を養う。さらに、実験記録およびレポートの書き方についても練習する。		
到達目標	測定実験では、実験は基本的に機器を使用する。得られた実験結果の解釈、誤差の統計処理、Discussion等の定量性に非常にこだわる。得られた結果が、明らかに常識と異なる場合はその理由をみつけ再実験することを要求する。 実験ノートの書き方も厳しく指導し、一定のレベルをクリアしないものは、単位を認めない。		
講義方法	4月は、担当する全教員により実験の内容の講義を行う。 安全教育、正しい実験操作の復習、試薬の取り扱い方、実験データの正しい扱い方についても講義を行う。 5月以降は、各実験テーマ担当の教員が基本的に指導を行う。以下の講義構成を参照のこと。		
準備学習	1年、2年で学習した物理化学・分析化学・無機化学の知識が必要である。 実験ノートに当日なにをするのか詳細な計画をたててくること。実験当日になって、「さあて今からなにをしようか」ということのないように。安全面からも実験計画をしっかりと立てることは重要である。		
成績評価	出席、実験態度、レポートなどの結果によって総合的に評価する。		
講義構成	実験に先立ち、実験講義を行ない、各実験の要点を解説する(週2日で2週間)。 実験は、組単位(一組2、3人)で行なう。下記の実験テーマ(15個のテーマを示したが多少増減する場合がある)について、一つのテーマを4日間(週2日で2週間)で完了させる。すなわち、15個のテーマのうち指示された5ないし6個のテーマを各組が行なうことになる。 下記の実験テーマのいくつかについて、測定実験を行なう。 実験テーマ1: 分光光度法 実験テーマ2: ガスクロマトグラフィー 実験テーマ3: 示差熱 実験テーマ4: 蒸気密度法 実験テーマ5: 凝固点降下 実験テーマ6: 粘度測定 実験テーマ7: 反応速度 実験テーマ8: 起電力 実験テーマ9: 電導度滴定 実験テーマ10: 分配率 実験テーマ11: 磁化率の測定 実験テーマ12: 相互溶解度 実験テーマ13: 酵素反応(本年は行わないこともある) 実験テーマ14: 電気泳動(本年は行わないこともある) 実験テーマ15: 高速液体クロマトグラフィー(本年は行わないこともある)		
教科書	「化学測定実験指針」甲南大学化学教室編(2000年) 「物理化学実験法(改訂版)」後藤廉平編(共立出版 1965年)		
参考書・資料	「物理化学実験法」千原秀昭編(東京化学同人 1968年)		

	「実験化学講座全26巻」日本化学会編(丸善 1956—1959年) 「続実験化学講座全14巻」日本化学会編(丸善 1964—1967年) 「新実験化学講座全21巻」日本化学会編(丸善 1975—1978年)
担当者から一言	実験初日に説明する注意事項を厳守すること。 実験白衣、保護メガネ、履き物、実験ノート(指定のものを使用すること)を、着用・所持しないものは実験室への入室を認めない。

授業コード	23035		
授業科目名	機能分子化学実験3（後）		
担当者名	宮澤敏文（ミヤザワ トシフミ）、松井 淳（マツイ ジュン）、村嶋貴之（ムラシマ タカシ）、檀上博史（ダンジョウ ヒロシ）、渡邊順司（ワタナベ ジュンジ）、伊藤邦明（イトウ クニアキ）		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限 木曜4限 木曜5限 金曜3限 金曜4限 金曜5限
オフィスアワー	木・金曜日 13:00～18:00		

講義の内容	下記に示す有機化合物の合成に関する実験テーマの中から一つを選んで実施する。各テーマは、簡単な化合物を出発物質として、数段階の反応を経て目的とする化合物を合成するものである。これらの実験を通じて、化学の実験を行うのに必要な基本操作や、有機化合物の分離・精製・同定に必要な各種の方法を、実際に経験することにより修得する。具体的には、薬品や器具・装置の扱い方、混合、加熱、冷却、乾燥などの基本操作、蒸留、抽出、再結晶などの物質の単離精製法、融点、屈折率などの物理定数の測定、クロマトグラフィー(薄層クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー)やスペクトル(赤外線吸収スペクトル、核磁気共鳴スペクトル)による化合物の同定、化学文献の調べ方、実験ノートの書き方、レポートの書き方などについて練習する。
到達目標	基本的な実験操作を身につけ、簡単な有機合成をマニュアルに従って実施することができる。また、赤外吸収スペクトルや核磁気共鳴スペクトルから化合物の構造に関する情報を読み取ることができる。
講義方法	実験に先立ち、実験に当たっての注意や各テーマの解説などについて、講義を行う(2日間)。実験は、班単位(一班2～3人)で「講義構成」に示されるいずれかのテーマについて行う。
準備学習	事前に「新版基礎有機化学実験—その操作と心得」のうち、有機合成化学実験に関する内容を読んでおくこと。また開講後は、「機能分子化学実験3 実験指針」を熟読して実験に臨むこと。
成績評価	出席が前提である。その上で、実験に対する態度、貢献度、理解度などの平常点およびレポートを総合評価して成績を判定する。レポートは、各段階終了後(中間レポート)および実験期間終了後(最終レポート)に提出してもらう。
講義構成	解説講義(実験に当たっての注意や各テーマの解説など)(全員) 実験(下記のいずれかのテーマ) 1. ベンズヒドロールの合成 2. トリフェニルメタノールの合成 3. p-プロモアニリンの合成 4. パラレッドの合成 5. スチレンの合成 6. p-エトキシフェニル尿素の合成 7. α -アミノ酪酸の合成 8. δ -バロラクタムの合成
教科書	「機能分子化学実験3 実験指針」甲南大学機能分子化学教室編(2010年) 「新版基礎有機化学実験—その操作と心得」畑一夫 他著(丸善 2006年)
参考書・資料	「フィーザー・ウィリアムソン 有機化学実験(原著6版)」L. F. Fieser 他著、後藤俊夫 他訳(丸善 1989年) 「実験有機化学」梅沢純夫著(丸善 1956年)
担当者から一言	実験初日に購入する「実験指針」を丹念に読むこと。更に、進んで他の文献も活用し、実験の目的、実験の具体的方法、各操作のもつ意義、化合物の諸性質などを充分に理解しておくことが必要である。これは、実験を安全に行うことにもつながる。

授業コード	23003
-------	-------

授業科目名	機能分子化学実験A(後)		
担当者名	町田信也(マチダ ノブヤ)、茶山健二(チャヤマ ケンジ)、岩月聡史(イワツキ サトシ)、古川直治(フルカワ ナオジ)、平山悦子(ヒラヤマ エツコ)		
配当年次	2年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限 木曜3限 木曜4限 木曜5限
特記事項	基礎化学演習1と並行履修		
オフィスアワー	木曜日 18:00		

講義の内容	酸塩基反応、沈殿反応、錯体生成反応などの溶液内化学平衡を用いる化学分析法、すなわち重量分析法、容量分析法、吸光光度分析法、イオン交換分離分析法等について実験する。これらの実験から溶液内化学平衡を理解するとともに、基本的な化学操作と技術の習得、定量分析を体験する。
到達目標	酸塩基反応、沈殿反応、錯体生成反応などの溶液内化学平衡を用いる化学分析法、すなわち重量分析法、容量分析法、吸光光度分析法、イオン交換分離分析法等について習熟し、使いこなせるようにする。
講義方法	実験をおこなう。しばしば、実験内容をよりよく理解するために、実験講義や小試験を行う。
準備学習	1年次配当の「基礎化学A」、「同B」、「同C」、「同D」、「同E」、「同F」ならびに2年次配当の「基礎化学実験」、「分析化学A」を習得していること前提としている。これらの学習に不安がある場合は、よく、復習しておくこと。また、未修得の場合は、必ず、並行履修すること。また、「分析化学B」を並行履修すると理解度が飛躍的に向上する。 本実験の履修者は、「基礎化学演習1」を必ず並行履修すること。なお、「基礎化学実験」を未修得の場合は、受講することができない。
成績評価	出席が前提であり、実験態度、レポート、小テスト等により総合的に評価する。
講義構成	以下の各テーマを2～3日の実験日に分け、試料調製、分析、データ解析ならびにレポート作成を行う。 Ⅰ 重量分析 硫酸カリウム中の硫酸イオンの定量 Ⅱ 容量分析 1)中和滴定法による市販酸の濃度決定および示差滴定 2)キレート滴定法による天然水中のカルシウム・マグネシウムイオンの定量 3)酸化還元滴定法による過酸化水素および鉄(Ⅱ)イオンの定量 Ⅲ 機器分析 1)pHメータによる酸・塩基の中和曲線の作成 2)イオン交換クロマトグラフィーによる銅・亜鉛イオンの分離定量
教科書	「定量分析」分析化学研究会 編著(廣川書店)
参考書・資料	未定

担当者から一言	実験目的、実験方法、各操作のもつ意義、化合物の諸性質等を充分理解した上で実験する必要がある。これは、実験を安全に行うことにつながる。 本実験の履修者は、「基礎化学演習1」を必ず並行履修すること。 機能分子化学実験Aを履修するための前提条件を、履修要項で充分確認すること。
---------	---

授業コード	23001		
授業科目名	機能分子化学実験入門(後)		
担当者名	池田能幸(イケダ ヨシユキ)、重松利彦(シゲマツ トシヒコ)、町田信也(マチダ ノブヤ)、山本雅博(ヤマモト マサヒロ)、渡邊順司(ワタナベ ジュンジ)、内藤宗幸(ナイトウ ムネユキ)、村上 良(ムラカミ リョウ)、三宅純平(ミヤケ ジュンペイ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	大学での化学実験に初めて触れる学生を対象に、今まで、講義や本で得た知識でしかなかった事柄について、体験的に学習するとともに、化学への興味と理解を深めることを目的としている。 さらに、化学実験における基礎的操作の習得、観察力と洞察力の養成、実験室における安全および基本的マナーの体得を目的とする。
到達目標	プロの化学者になるには、決められた作法によって正確な実験ができることが求められる。本実験では、その作

	法について習得することを目標とする。
講義方法	実験のみならず、この理解を深めるための実験講義を行う。
準備学習	実験前に、当日なにをどのようにするのか詳細な実験計画をたて、それを実験ノートに書いてくこと。 実験計画をたてずにその場で考えて実験を行うことはありえない。また、安全面の観点からも許されるものではない。
成績評価	出席、マナー、レポート、平常の実験状況ならびに適宜行う確認テストの内容を総合して判断する。 また、実験科目であるので全実験に出席することが前提となっている。 なお、レポートにおいては、実験結果そのものの成否ではなく、自分が行った実験について忠実に細大漏らさず記載していること、ならびに、これに関する考察が重要視される。
講義構成	第1回 はじめに (実験データの正しい扱い方、測容器の検定) 第2回 実験データの正しい扱い方:講義、演習、レポート課題 以下で示す教科書(A)を必ず持参すること、演習時にも必要 第3回 測容器の検定:講義、測容器の使用法、精密電子天秤の使用法、 試薬調製の方法、測容器の体積をどのように正確に求めるのか？ 実験(全量ピペット、メスフラスコ、容量可変ピペット) 第4回 測容器の検定:実験、レポート作成 第5回 まとめと確認テスト (酸濃度とpHに関する実験) 第6回 酸濃度の定義と酸-塩基の平衡反応 第7回 溶液の調製 第8回 pHの測定と弱酸における平衡 第9回 まとめと確認テスト (高分子の合成と表面特性に関する実験) 第10回:講義:高分子について 第11回:実験:ナイロンの合成 第12回:実験:種々の高分子材料の表面特性 第13回:総括:まとめと確認テスト 第14回 レポートの修正ならびに実験器具の整理 第15回 まとめ
教科書	適宜、資料・プリントを配布する。 教科書(A) 実験データを正しく扱うために (化学同人)
参考書・資料	「新版 実験を安全に行なうために」化学同人編集部編(化学同人 1996年) 「安全要覧」甲南大学理工学部編 「基礎化学選書2 分析化学(改訂版)」長島弘三・富田功共著(裳華房)
講義関連事項	実験白衣、保護メガネ、履き物(靴)を着用しない者、および、実験ノート、教科書を所持しない者は実験室への入室を認めない。
担当者から一言	実験科目であるので、出席し、レポートを提出することが前提となっている。 いままで、講義や本で得た知識でしかなかったことを、実際に体験して、身につけてほしい。 3名から4名のグループで協力して実験を行うが、実験レポートは各人が提出すること。

授業コード	23036		
授業科目名	機能分子化学卒業研究		
担当者名	池田能幸(イケダ ヨシユキ)、重松利彦(シゲマツ トシヒコ)、宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)、茶山健二(チャヤマ ケンジ)、町田信也(マチダ ノブヤ)、岩月聡史(イワツキ サトシ)、山本雅博(ヤマモト マサヒロ)、檀上博史(ダンジョウ ヒロシ)、渡邊順司(ワタナベ ジュンジ)、内藤宗幸(ナイトウ ムネユキ)、村上 良(ムラカミ リョウ)、三宅純平(ミヤケ ジュンペイ)		
配当年次	4年次	単位数	12
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限 火曜4限 火曜5限 水曜3限 水曜4限 水曜5限 木曜3限 木曜4限 木曜5限)、後期(火曜3限 火曜4限)

オフィスアワー	随時
講義の内容	機能分子化学科学生の、卒業論文執筆のための勉学と研究に相当するもので、下記の5つのグループに分かれて、特定のテーマについての実験と演習が行われる。ここでは、基礎的な事項の理解に基づいて、現代化学の先端に及ぶテーマが学生個々に与えられ、最終学年1年間研究を通じて指導教員や院生および同級生との係わり合いの中で、実験計画の立て方、実験の技術、結果の整理、研究の進め方などを修得する。
到達目標	最終学年1年間研究を通じて指導教員や院生および同級生との係わり合いの中で、実験計画の立て方、実験の技術、結果の整理、研究の進め方などを修得する。これにより、大学での学びの集大成とする。
講義方法	履修者にそれぞれ与えられる特定のテーマについての実験と演習をおこなう。
準備学習	機能分子化学卒業研究を履修するためには、前提条件を満たしている必要がある。 この前提条件を満たすよう、それぞれの科目を習得しておくこと。 なお、この前提条件は、入学年度により異なっているので、各自、履修要項でよく確認すること。
成績評価	年度の終わり(2月中旬)に開催される卒業研究成果発表会において、担当教員全員と院生、同級生および後輩等の前で口頭発表すると共に卒業論文を提出することにより、担当教員により評価される。
講義構成	グループ(研究室)構成 無機材料化学(重松利彦、町田信也、内藤宗幸) * 金属、酸化物、薄膜およびガラス等の機能性無機材料の合成と物性の研究 応用物理化学(山本雅博、村上 良) * 界面・表面を中心とした物理化学的研究 金属中の水素、電気化学基礎、自己組織化単分子膜、第一原理計算、分子シミュレーション 有機合成化学(宮澤敏文、檀上博史) * 酵素を利用した有機合成に関する研究 * マイクロ波の有機合成への応用に関する研究 * 均一系遷移金属触媒開発に関する研究 * 超分子ポリマー合成に関する研究 環境・計測化学(茶山健二、岩月聡史) * 環境化学に関する分析化学的研究 * 環境試料中の必須微量元素に関する研究 * 有機分析試薬の合成に関する研究 * 無機溶液反応機構の解明と新規分析化学反応への展開 材料プロセス化学(池田能幸、渡邊順司、三宅純平) * 高分子の合成と反応に関する研究 * 無機・有機複合材料の新素材の開発とその物理化学的特性に関する研究
教科書	テーマに応じて、指導教員から指示されたり、各自が検索する。
参考書・資料	テーマに応じて、指導教員から指示されたり、各自が検索する。
担当者から一言	入学年度により、履修するための前提条件が異なっているので、注意すること。 履修要項でよく確認すること。 2007年度入学者の履修条件は次の(1)と(2)の条件をすべて満たしていること。 (1) 広域副専攻科目または国際言語文化科目、保健体育科目および外国語科目については、卒業に必要な単位数を習得していること。 (2) 専門教育科目については、下記の単位数を習得し、かつ専門教育科目の習得単位数の合計が82単位以上であること。 必修科目30単位以上、選択必修科目A群16単位以上、選択必修科目B群16単位以上、選択必修科目C群10単位以上。

授業コード	23068		
授業科目名	機能分子化学特殊講義1(集中)		
担当者名	水畑 穰(ミズハタ ミノル)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	様々な物質の機能を引き出すには、原子や分子そのものが有する性質のみならず、それらがナノメートルオーダーで構築する様々な構造やその中で生じる相互作用や物性の制御が重要である。これらを実現するために近年「ナノマテリアル」という概念が急速に広がりを見せ、新しい材料の創製における重要な課題となっている。しかしながら、この概念を理解する上で必要な学術的要素は、昔から知られている物理化学的な理論と現象をより精密に制御することによって実現したものが多く。 本講義を受講することによって、物質の機能を引き出す上で必要な概念と技術について、講義の中で紹介する例をもとに、機能性材料の創製に必要なとされる基本的な学理と現象を理解する。		
到達目標	物質の機能を引き出す上で必要な概念と技術について、機能性材料の創製に必要なとされる基本的な学理と現象を理解する。 概念的な原理だけではなく、様々な機能性材料のとらえ方、すなわち観察法や測定法についても理解する。		
講義方法	集中講義。講義の際には参考資料を配付し、その資料に基づき説明を行う。プロジェクターを多用するが、その資料については、指定されたWebページ(履修者のみに公開)に掲載する。		
準備学習	物理化学、電気化学、分析化学に関連する基礎知識を有することが望ましい。		
成績評価	講義への出席(60%)およびレポート(40%)により評価する。 ただし、レポート提出がない場合は合格としない。 履修者数に応じて評価方法は講義前に指定する。		
講義構成	1. ナノマテリアルの紹介と機能発現(3) 2. ナノマテリアルの創製ーボトムアップとトップダウン(3) - 自己集合・自己組織化 - 微細加工技術 3. ナノマテリアルに関わる化学ー分子間相互作用と物質の構築(3) - ナノマテリアルと界面化学 4. ナノマテリアルに関わる技術ーナノオーダーを計測する(3) 5. 次世代の機能分子ー次世代の「ナノマテリアル」を想像(創造?)する(3)		
教科書	資料配布。		

授業コード	23069		
授業科目名	機能分子化学特殊講義2(集中)		
担当者名	井上将彦(イノウエ マサヒコ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	本講義では、ケミカルバイオロジーに関する内容について包括的に解説する。ケミカルバイオロジーとは、もっとも精密で神秘的な生命体を分子レベルで考察する学問体系である。化学の最大の特徴と武器は、物質を分子レベルで考察することであり、たとえそれが生体分子であろうと同じである。最近では分子の挙動も、「独立独歩の分子」としては記述出来ないことがわかってきた。分子と分子の間には必ず相互作用があり、それが生命現象の源になっていることも明らかになってきた。生物学の視点から見る現象論としての生命との大きな違いがここにあり、互いに補完しあうことになる。そしてその接点上に、生命現象の真の理解が生まれる。本講義においては、生体を構成する代表的な分子の化学構造を理解し、分子から生命現象までその根底に流れている共通性を基に生命現象を学ぶ。		
到達目標	(1) 分子間相互作用を列挙し説明することができる。 (2) 化学進化に関して説明することができる。 (3) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴とその分子間相互作用を説明できる。 (4) 単糖および多糖の基本構造を概説できる。 (5) 核酸塩基間に働く水素結合を概説することができる。 (6) DNA や RNA の高次構造を規定する分子間相互作用について説明できる。		

	(7)DNA の化学合成に関して説明できる。 (8)アミノ酸の構造を概説できる。 (9)タンパク質の高次構造を規定する分子間相互作用について説明できる。 (10)ペプチドの化学合成に関して説明できる。
講義方法	パワーポイント資料とプリントを併用して行う。
準備学習	有機化学およびその他関連する講義の内容をよく復習しておくこと。
成績評価	出席およびレポートで評価する。
講義構成	第 1回:生物有機化学概論 第 2回:生体分子と分子間相互作用 第 3回:静電相互作用、van der Waals 相互作用 第 4回:水素結合、疎水性相互作用 第 5回:化学進化 第 6回:脂質 第 7回:脂質膜 第 8回:単糖類 第 9回:多糖類 第10回:核酸塩基 第11回:DNA と RNA 第12回:アミノ酸とペプチド 第13回:タンパク質 第14回:セントラルドグマ 第15回:まとめ
教科書	特に指定しない。適宜プリントなどを配布する。
参考書・資料	伊東 椒 他 訳「マクマリー有機化学 第6版」下巻(東京化学同人) 井上 将彦 他 編「コンセプトで学ぶ有機化学」(化学同人) 西尾 元宏 著「有機化学のための分子間力入門」(講談社サイエンティフィック) 田伏 岩夫 著「生命現象の化学反応」(三共出版) 黒田 裕久 他 著「バイオメティクス概論」(コロナ社) 田宮 信雄 他 訳「ヴォート生化学」全巻(東京化学同人)

授業コード	23027		
授業科目名	キャリアデザイン1(後)		
担当者名	池田能幸(イケダ ヨシユキ)、宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)、茶山健二(チャヤマ ケンジ)、町田信也(マチダ ノブヤ)、山本雅博(ヤマモト マサヒロ)、I		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	隔週		

講義の内容	多様な進路や働き方がある中、自分の専門・専攻を実際の社会や職業に活かしていくために、大学での学びはどうあるべきなのか理解するため、専任教員だけでなく、ゲストスピーカーも招き、各自のキャリアデザインが出来るようする。
到達目標	社会の現状を知り、それぞれの企業がどのような人材を必要としているかを認識して、学生自身の将来像を築いていくために、在学中に、何をしなければならないかを意識してゆくことができるようにする。
講義方法	専任教員とゲストスピーカーによるオムニバスの講義方式
準備学習	現在の社会情勢を知るために、新聞をよく読んでおくこと。
成績評価	レポートを中心とした総合評価
講義構成	第1回 理工系学生におけるキャリアとは(池田) 第2回 企業から見た期待される学生(特別講師) 第3回 大学で学ぶことと職業1(町田) 第4回 企業の求める技術者(特別講師) 第5回 大学で学ぶことと職業2(茶山) 第6回 企業における研究(特別講師) 第7回 大学で学ぶことと職業3(宮澤) 第8回 大学で学ぶことと職業4(山本)

教科書	適宜資料を配布する。
-----	------------

授業コード	23048		
授業科目名	合成化学(後)		
担当者名	玉置克之(タマキ カツユキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	主として現在の化学工業における有機合成について原料石油からガソリンなどの燃料および合成化学原料の製造、それらからの工業製品の製造などについて、最新の情報を加えながら概説する。		
到達目標	各種エネルギーの変換と貯蔵方法を理解する。シントンと合成等価体の理解。		
講義方法	教科書およびプリントを用いて講義する。		
準備学習	有機化学、反応化学を十分理解しておくこと		
成績評価	基本的には期末試験の結果で評価するが、場合によってはレポートおよび出席状況を加味して評価する。		
講義構成	第1回 序論、有機化学製品供給の現状 第2回 有機化合物原料としての石油 第3回 石油の分解によるガソリンおよび工業化学原料の製造 第4回 石油の改質による工業薬品の製造 第5回 ナフサからのエチレンおよびプロピレンの製造 第6回 エチレンを原料とする有機工業薬品の合成(1) 第7回 エチレンを原料とする有機工業薬品の合成(2) 第8回 プロピレンを原料とする有機工業薬品の合成(1) 第9回 プロピレンを原料とする有機工業薬品の合成(2) 第10回 C4およびC5留分より合成される有機工業薬品の合成 第11回 芳香族誘導体の合成 第12回 石炭化学工業と製鉄業 第13回 石炭を原料とする有機工業薬品の合成 第14回 染料、香料、油脂等の化学 第15回 まとめと試験		
教科書	「有機工業化学」松田治和、野村正勝ら著(丸善)		
参考書・資料	「有機工業化学」阿河利男、小川雅弥ら(朝倉書店)		
講義関連事項	教科書およびプリントを用いて講義する。		

授業コード	23051		
授業科目名	構造生命化学(後)		
担当者名	源伸介(ミナモト シンスケ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限

講義の内容	構造生命化学では、不飽和脂肪酸の酸化・抗酸化、発ガン物質と抗ガン・抗変異原、ポリフェノール、抗体タンパク質、機能性ペプチド及びアミノ酸などの特徴的な構造を持つ物質群を取り上げて、生体分子の構造と生命現象との関係について解説するとともに、先端研究や商品化された応用例といったトピックスについても紹介する。		
到達目標	物質代謝あるいは環境や他の物質との反応による構造の変化が、生体構成物質の機能をどのように変化させるのかについて理解を深めることを目標とする。		
講義方法	主としてパワーポイントを用いて講義を行う。 教科書・ノートに代わるものとして、毎回の講義の要点をまとめた資料(PDFファイル)をMy Konanのシステムにより配付する。		
準備学習	配付した資料を必ずプリントアウトして目を通し、講義の際に持参すること。		
成績評価	平常点40%と定期試験60%による総合評価で行う。		

講義構成	第1回 脂質の酸化(1):生体膜と不飽和脂肪酸 第2回 脂質の酸化(2):酸化の促進と抑制用 第3回 脂質の酸化(3):オメガ3とオメガ6 第4回 発ガン(1):発ガンのメカニズム 第5回 発ガン(2):変異原物質の種類と構造 第6回 発ガン(3):変異原性とガンの抑制 第7回 ポリフェノール(1):種類と構造 第8回 ポリフェノール(2):カテキン類 第9回 ポリフェノール(3):フラボノイド類 第10回 免疫タンパク質(1):抗原抗体反応 第11回 免疫タンパク質(2):抗体生産 第12回 アミノ酸とペプチド(1):コラーゲンペプチド 第13回 アミノ酸とペプチド(2):血圧抑制ペプチド 第14回 アミノ酸とペプチド(3):アミノ酸と脳機能 第15回 まとめと試験
教科書	なし

担当者から一言	本講義に先立ち、機能生命化学を履修しておくことが望ましい。
---------	-------------------------------

授業コード	23055		
授業科目名	高分子合成化学（後）		
担当者名	池田能幸（イケダ ヨシユキ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	高分子化学は、我々の日常生活や化学の全分野と極めて密接に結び付いた学問として今日自然科学の大きな部門となっている。この講義では、高分子化合物の合成手段のうちのラジカル重合、イオン重合および高分子の化学反応を中心に、高分子化学の基礎的事項について解説する。
到達目標	高分子の分子量について理解する。ラジカル重合の素反応を理解する。イオン重合の機構を理解する。
講義方法	教科書およびプリントを用いて講義する。
準備学習	基礎的な有機化学を十分理解していること。高分子の合成反応といっても、すべて有機化学の反応である。
成績評価	基本的には期末試験の結果で評価するが、レポートおよび出席状況も加味して評価する。
講義構成	後期 第1回 序論:授業の方針、高分子とは、高分子化学の歴史 第2回 高分子の分子量 第3回 高分子の構造:立体規則性および分子特性 第4回 逐次重合:重縮合反応および重付加反応 第5回 逐次重合:重付加反応 第6回 連鎖重合:ラジカル重合の特徴 第7回 ラジカル重合:開始反応および生長反応 第8回 ラジカル重合:停止反応および連鎖移動反応 第9回 ラジカル重合:反応の動力学 第10回 ラジカル共重合(Ⅰ):反応の特徴とモノマー反応性比 第11回 ラジカル共重合(Ⅱ) 第12回 アニオン重合の素反応と特徴 第13回 カチオン重合の素反応と特徴 第14回 高分子反応 第15回 まとめおよび試験
教科書	「高分子合成化学」井上祥平著(裳華房)

担当者から一言	1年次および2年次前期までに、基礎化学1～6を受講済みであり、有機化学1を受講中であることを前提として講義をすすめる。高分子物性化学とあわせて高分子化学の概要が把握できることになる。
---------	---

授業コード	23056
-------	-------

授業科目名	高分子物性化学 (後)		
担当者名	池田能幸(イケダ ヨシユキ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	現代社会において、プラスチック、合成ゴム、合成繊維などは各方面で利用されており、世の中の発展に寄与してきた。最近では多角的な機能を持った高分子物質が、各分野で利用されている。これらに共通している高分子の基礎物性の理解なくして、高分子加工や機能の発現は不可能である。 本講では、基礎的な高分子物性の理解を深めるとともに、その重要性を認識できるようにしたい。
到達目標	高分子の構造と溶液物性ならびに固体物性の特徴を説明できるようになる。
講義方法	ノートとプリントを中心に、一部は液晶プロジェクターを併用して講義を行う。
準備学習	高分子の構造をよく理解していることと、力学物性の基礎をよく予習していること。
成績評価	基本的には期末試験の結果により評価するが、場合によっては出席状況およびレポートの結果も加味する。
講義構成	第1回 はじめに 第2回 高分子の分子特性1(平均分子量) 第3回 高分子の分子特性2(高分子鎖の形態;両末端間距離) 第4回 高分子の分子特性3(高分子鎖の形態;回転半径) 第5回 高分子溶液の性質1(希薄溶液の熱力学) 第6回 高分子溶液の性質2(分子量測定法) 第7回 中間のまとめおよび試験 第8回 高分子固体物性1(相転移) 第9回 高分子固体物性2(ガラス転移温度) 第10回 高分子の力学特性1(固体の弾性) 第11回 高分子の力学特性2(液体の粘性) 第12回 高分子の力学特性3(静的粘弾性) 第13回 高分子の力学特性4(動的粘弾性) 第14回 高分子の力学特性5(ゴム弾性) 第15回 まとめおよび試験
教科書	教科書は使用しない。必要ときはプリントを配布する。
担当者から一言	講義への出席を重視するとともに、小テスト、演習およびレポート作成等を課す。高分子合成化学の内容を理解していることを前提としている。

授業コード	23058		
授業科目名	錯体化学 (後)		
担当者名	酒井 宏(サカイ ヒロシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	生体内で金属イオンはほとんど金属錯体として存在している。また、最近の高分子合成において金属錯体や有機金属化合物が触媒として重要な役割を演じている。本講義は典型的な金属錯体の合成法、命名法、化学結合および化学的性質(電子状態)について述べるとともに、金属錯体が関与する世界(生体中の金属イオンや触媒活性)について解説する。
到達目標	金属錯体がいかにして生成し、どのような性質を有しているか、また、それが生体内でどのように利用されているかについて理解し、説明することができる。
講義方法	テキストを用い、板書しながら説明する。必要に応じてプリントを配布する。
準備学習	これまで習った無機化学の基礎を十分理解しておくことが望ましい。
成績評価	基本的には期末試験の結果によって評価するが、レポートの提出の有無、内容についても加味する。
講義構成	第1回 錯体の発見とその歴史 第2回 錯体の命名法 命名の規則 第3回 錯体の命名法 配位子の名称 第4回 配位結合 原子価結合理論

	第5回 配位結合 結晶場理論 第6回 配位結合 配位子場理論 第7回 配位結合 分子軌道理論1 第8回 配位結合 分子軌道理論2 第9回 配位化合物の立体化学 錯体の構造 第10回 配位化合物の立体化学 錯体の磁性 第11回 配位化合物の立体化学 錯体の異性体 第12回 配位化合物の合成と反応 置換反応 第13回 配位化合物の合成と反応 トランス効果 第14回 錯体化学のトピックス 第15回 まとめおよび試験
教科書	「配位化学」(第2版)F. Basoro and R. C. Johnson 山田祥一郎 訳 (化学同人1998年)
参考書・資料	「錯体化学」(化学選書 改訂版) 山崎一雄 吉川雄三 池田龍一 中村大雄 共著 (裳華房)
担当者から一言	本講義では、主に遷移金属錯体について学ぶので、無機化学を履修していることが望ましい。

授業コード	23057		
授業科目名	生体関連化学(後)		
担当者名	山田隆己(ヤマダ タカシ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	糖質、アミノ酸、ペプチド、タンパク質、脂質および核酸等は、生体において、それぞれ特徴ある働きを担っている。同時に、これらの生体分子は協調して、細胞ひいては生命を作り上げている。本講義では、これらの生体機能物質について、構造および立体化学、さらには反応について解説する。		
到達目標	私たちの身体にとって重要な役割を果たしている生体成分について、基礎的な知識を修得し、医学や薬学との関連を理解しやすくなる。		
講義方法	講義はできるだけ教科書に沿って行なうので、必ず教科書を購入し、講義の都度持参すること。講義の進行にあわせて、小テスト、演習およびレポート作成等を課す。		
準備学習	「有機化学1および2」、「物質構造化学2」の内容を理解していることを前提とします。マクマリーの「有機化学(上および中)」の教科書を適宜復習すること。		
成績評価	講義への全出席を前提とする。その上で、期末試験(約70%)、小テスト、演習、レポートなど(約30%)により総合的に評価する。		
講義構成	第1回 炭水化物1:単糖の構造と立体化学 第2回 炭水化物2:単糖の反応 第3回 炭水化物3:オリゴ糖および多糖の構造と合成 第4回 アミノ酸1:タンパク質構成アミノ酸の構造と性質 第5回 アミノ酸2:アミノ酸の分析と合成 第6回 ペプチドとタンパク質1:ペプチドおよびタンパク質の構造 第7回 ペプチドとタンパク質2:ペプチドの合成 第8回 ペプチドとタンパク質3:タンパク質の構造と性質 第9回 脂質1:ワックス、脂肪、油、脂肪酸、の構造と性質 第10回 脂質2:石けん、リン脂質の構造と性質 第11回 脂質3:プロスタグランジン、テルペン、ステロイドの構造と性質 第12回 複素環化合物の構造と反応 第13回 核酸とヌクレオチド 第14回 代謝経路の有機化学 第15回 まとめおよび試験		
教科書	「有機化学[下]{第6版}」マクマリー著、伊東他訳(東京化学同人 2005年)		
担当者から一言	講義への出席を重視するが、出席するだけでは単位取得は保証されない。内容の理解に努力すること。		

授業コード	23046
-------	-------

授業科目名	生物化学（後）		
担当者名	源伸介（ミナモト シンスケ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	生物化学は、化学的な立場から生物や生命現象を解明する科学であり、人間を含めたすべての生物を構成する物質の化学的性質とその働きを物質レベルでとらえて理解する教科目の一つである。 本講義では、糖質、脂質、タンパク質、ビタミン及び核酸について、その種類と化学的な構造及び性質を中心に化学的な基礎知識を解説する。
到達目標	生体を構成する様々な分子の種類と化学的な構造に関する理解を深めることを目標とする。
講義方法	主としてパワーポイントを用いて講義を行う。 教科書・ノートに代わるものとして、毎回の講義の要点をまとめた資料（PDFファイル）をMy Konanのシステムにより配付する。
準備学習	配付した資料を必ずプリントアウトして目を通し、講義の際に持参すること。
成績評価	平常点40%と定期試験60%による総合評価で行う。
講義構成	第1回 細胞と生体の構成成分 第2回 糖質の化学(1):単糖類の種類と化学構造 第3回 糖質の化学(2):オリゴ糖と多糖類の種類と化学構造 第4回 糖質の化学(3):糖質の化学的性質 第5回 脂質の化学(1):脂肪酸の種類と化学構造 第6回 脂質の化学(2):脂質の種類と化学構造 第7回 脂質の化学(3):脂質の化学的性質 第8回 タンパク質の化学(1):アミノ酸の種類と化学構造 第9回 タンパク質の化学(2):タンパク質の一次構造～高次構造 第10回 タンパク質の化学(3):タンパク質の化学的性質 第11回 ビタミンの化学(1):水溶性ビタミンの種類と化学構造 第12回 ビタミンの化学(2):脂溶性ビタミンの種類と化学構造 第13回 核酸の化学(1):核酸の構成成分 第14回 核酸の化学(2):DNAとRNAの化学構造 第15回 まとめと試験
教科書	なし
担当者から一言	本講義は次年度に配当される構造生命化学および機能生命化学の基礎となるものである。

授業コード	23053		
授業科目名	生命分子工学（前）		
担当者名	渡邊順司（ワタナベ ジュンジ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	生物はタンパク質・核酸・多糖のような生体分子から構成されており、これらの生体分子が生物の多様性と生体の恒常性を司っている。一方、生体分子を巧みに活用することにより発展してきたバイオ技術は、私達が生活する上で不可欠な基盤技術となってきている。しかしながら、生体分子と直接接触するマテリアルの高機能化がこれまで重要視されておらず、生体分子に適応できるような特性・機能をマテリアルに付与することが重要課題になってきた。本講義では、生体分子の構造と機能を系統的に理解し、医療・農業・工業・環境分野へ応用された新しいバイオ技術について、マテリアルと関連付けながら習得することを目的としている。
到達目標	本講義によって、生体分子の合理的な分子構造がもたらす洗練された機能発現の作用機序を理解できるようになる。 ①生体分子の構造と機能の特徴について分子レベルでの理解 ②生体分子を取り扱うマテリアルの必要要件についての理解 ③生体分子の溶液中あるいは表面・界面での挙動についての理解 ④生体分子を活用した先端技術についての理解
講義方法	講義時間の最初に毎回、出欠調査を兼ねて小テストを実施します。各回の講義テーマは、板書と液晶プロジェク

	ターを併用して解説します。
準備学習	授業資料(プリント)はMy KONANIに掲載します。各自でプリントアウトして講義のアウトラインを把握し、講義に持参して下さい。また、小テストは前回の講義内容から出題するので、復習して準備して下さい。
成績評価	中間試験(30%)と期末試験(30%)の両方を受験し、出席を兼ねた小テスト(40%)を含めて評価する。
講義構成	第1回: 生体分子の構造と機能1(核酸について) 第2回: 生体分子の構造と機能2(タンパク質について) 第3回: 生体分子の構造と機能3(多糖について) 第4回: 生体分子の構造と機能4(脂質、細胞について) 第5回: バイオ技術のためのマテリアル1(金属) 第6回: バイオ技術のためのマテリアル2(セラミックス) 第7回: バイオ技術のためのマテリアル3(ポリマー) 第8回: まとめと中間試験 第9回: マテリアルの物理化学1(表面・界面特性) 第10回: マテリアルの物理化学2(拡散・熱力学) 第11回: 生命分子工学の応用1(医療・診断分野) 第12回: 生命分子工学の応用2(農業・食品分野) 第13回: 生命分子工学の応用3(工業分野) 第14回: 生命分子工学の応用4(環境分野) 第15回: まとめと期末試験
教科書	特に指定しない。自分に合うと思える専門書を選んで、それを教科書として下さい。選定に迷ったときはアドバイスします。また、自分なりに講義内容をノートにまとめることができる力を養って下さい。
参考書・資料	「生命科学」(実教出版 2007年 ISBN 978-4-407-31073-3) 「バイオマテリアルサイエンス」(東京化学同人 2003年 ISBN 978-4-807-90577-5) 「金属バイオマテリアル」(コロナ社 2009年 ISBN 978-4-339-07094-1) 「ポリマーバイオマテリアル」(コロナ社 2009年 ISBN 978-4-339-07095-8) 「セラミックバイオマテリアル」(コロナ社 2009年 ISBN 978-4-339-07096-5)
担当者から一言	化学を基盤とするバイオマテリアルサイエンスについて理解を深め、バイオ系技術者として社会で活躍できる力を養成したいと思います。

授業コード	23047		
授業科目名	反応化学(後)		
担当者名	宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	有機化合物を対象として、反応の起こる仕組みについて解説する。有機化合物の反応は多種多様であり、体系的に分類・整理して理解する必要がある。それには大別して、(1)官能基に基づいて分類する方法と、(2)化学結合の開裂または形成様式に基づいて分類する方法とがある。この二つは相補的なものであり、両者相まって有機反応をより良く理解することができる。本講義は、有機化学を(1)の立場で概論的に学んだ人を対象として、(2)の有機反応論の立場から有機反応を体系化して理解するためのものである。まず、化学結合、酸・塩基、置換基の電子的効果など有機反応を考える上での基本概念を解説した後、それらに基づいて、反応様式別に、反応の起こる仕組みについて、重要な反応を取り上げて説明する。
到達目標	指定教科書である「マクマリー 有機化学」に書かれている反応機構が理解でき、各章中の問題や章末の問題が解けるようになることを目標に努力してほしい。
講義方法	板書とプリントによる。教科書は予習、復習用として活用してほしい。
準備学習	講義構成の項目に示されている各回の講義内容について、「マクマリー有機化学」の該当箇所を必ず予め読んで講義に臨むこと。
成績評価	中間試験および期末試験の成績を中心とし、演習課題に対する解答および出席状況を加味して評価する。
講義構成	第1回 反応の形式とエネルギー変化: ヘテロリシス、ホモリシス、遷移状態 第2回 有機分子の結合: 混成軌道、非局在化と共鳴 第3回 酸と塩基1: 有機化合物の酸性・塩基性 第4回 酸と塩基2: 酸・塩基の強さと置換基効果、ハメット則 第5回 芳香族求電子置換反応: 反応の機構と置換基効果、部分速度係数

	第6回 求核置換反応(1):SN2反応 第7回 求核置換反応(2):SN1反応 第8回 まとめと試験 第9回 脱離反応:E2反応、E1反応 第10回 オレフィンに対する付加反応:HXの付加、ハロゲンの付加、ハイドロボレーション 第11回 芳香族求核置換反応:付加-脱離機構、ベンザイン 第12回 カルボニル化合物の反応(1):カルボニル基への求核付加反応、マイケル付加 第13回 カルボニル化合物の反応(2):求核アシル置換反応 第14回 転位反応:ワグナー-メーヤワイン転位、ベックマン転位 第15回 まとめと試験
教科書	「マクマリー 有機化学(上、中、下)(第6版)」J. McMurry 著、伊東他訳(東京化学同人)
参考書・資料	「基礎有機反応論」橋本静信他著(三共出版) 「有機反応論入門」吉田政幸著(サイエンス社) 「有機反応機構(第5版)」P. Sykes 著、久保田尚志訳(東京化学同人) 「有機化学の考え方—有機電子論—」右田俊彦・西山幸三郎著(裳華房) 「有機反応機構」加納航治・西郷和彦著(裳華房)
担当者から一言	有機化合物の性質および反応についての基礎的な知識(「有機化学1・同2」)を前提としている。化学熱力学(「物理化学1」)、反応速度論(「溶液化学」)などにおける基本的概念を理解していることが望ましい。 講義を聴いた後で、「マクマリー 有機化学」の該当箇所をもう一度よく読むとともに問題にも当たって、講義内容を理解するように努めてほしい。

授業コード	23049		
授業科目名	物質構造化学1(後)		
担当者名	内藤宗幸(ナイトウ ムネユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	固体の構造について概説する。特に、古典結晶学を基礎とした結晶の定義、分類、表記法ならびに回折結晶学を基礎とした結晶構造解析法について解説する。
到達目標	結晶の定義を理解し、基本的な結晶構造における原子配列を記述することができる。 結晶中の原子配列と回折強度の関係を説明することができる。 結晶の熱力学的な安定性を説明することができる。
講義方法	通常講義形式で行う。随時、小テスト・レポートを課す。
準備学習	三角関数、微分積分、熱力学の基礎を良く理解しておくこと。
成績評価	小テスト・レポートならびに期末試験の結果を総合的に判断して評価する。
講義構成	第1回 結晶構造1:物質の状態 第2回 結晶構造2:空間格子と結晶 第3回 結晶構造3:結晶の表記法 第4回 結晶構造4:ブラベー格子 第5回 結晶構造5:様々な結晶構造 第6回 結晶構造6:構造欠陥 第7回 結晶構造解析1:X線の基本的性質 第8回 結晶構造解析2:電子からの散乱 第9回 結晶構造解析3:原子散乱因子 第10回 結晶構造解析4:構造因子 第11回 結晶構造解析5:結晶構造の決定 第12回 結晶の安定性1:格子エネルギー 第13回 結晶の安定性2:相平衡 第14回 結晶の安定性3:熱平衡状態図 第15回 まとめと試験
教科書	指定なし
参考書・資料	「新版X線回折要論」カリティ著、松村源太郎訳(アグネ承風社 1999年) 「固体化学入門」ウェスト著、遠藤忠訳(講談社 1996年)

授業コード	23050		
授業科目名	物質構造化学2(前)		
担当者名	山田隆己(ヤマダ タカシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	有機化合物の分子構造においては、飽和炭素原子が正四面体構造をとっているため、原子の空間的配列のみに違いが生じてくることがある。その結果、ちょうど右手と左手のような関係にある一対の立体異性体(鏡像異性体)を生じるが、それらには、一方が薬になるのに他方が毒になるというような極端に異なる生理作用を示すものもあり、現在、医薬品には立体異性体の厳密な区別が要求されている。生物の関与する反応はむろんのこと、一般に、有機化合物の構造や反応を理解するには、分子の三次元構造(立体構造)を取り扱う立体化学の理解が不可欠である。本講義では、主に、有機化合物における構造立体化学に関する基礎的概念について解説する。		
到達目標	有機化合物の構造を三次元的に捉え、表示することができ、さらに、有機化合物の反応を立体的に理解し、説明できる。		
講義方法	各回の内容に合わせた資料を配布し、それらについて、主にOHPを用いて説明する。講義の進行に合わせて随時小テストをする。		
準備学習	「有機化学1」を修得していることを前提とするので、マクマリーの教科書を必要に応じて復習すること。		
成績評価	複数回の小テスト(30%)と期末試験(70%)の成績を総合して評価する。		
講義構成	第1回 はじめに: 立体化学とは 第2回 立体異性の分類: 幾何異性、鏡像異性、ジアステレオ異性、配座異性 分子の立体構造の表示: FischerおよびNewman投影図、ステレオ図、分子模型 第3回 立体配座: プロパンのねじれ形と重なり形、シクロヘキサンの立体配座 第4回 分子の対称性とキラリティー: 対称要素と対称操作、キラルな点群とアキラルな点群 第5回 中心性キラリティー(1): 鏡像異性体、DL表示法、Cahn-Ingold-Prelog 則 第6回 中心性キラリティー(2): エリスロ体とスレオ体、メソ体、変旋光、エピマー、アノマー、疑似不斉 第7回 軸性キラリティー: RS表示法、アトロプ異性、ヘリセン化合物 第8回 面性キラリティー: RS表示法、アンサ化合物 第9回 分子の部分の間の立体関係(1): ホモトピック、エナンチオトピック、ジアステレオトピック 第10回 分子の部分の間の立体関係(2): プロキラリティー則 第11回 ラセミ体の光学分割(1): ラセミ混合物とラセミ化合物、ラセミ体の光学分割 第12回 ラセミ体の光学分割(2): ラセミ体の光学分割(つづき)、旋光性と光学純度 第13回 反応における立体化学(1): 立体区別反応 第14回 反応における立体化学(2): 不斉合成 第15回 まとめおよび試験		
教科書	とくに使用しない。		
参考書・資料	参考書: 「有機化学(上・中・下)(第7版)」マクマリー著、伊東他訳(東京化学同人 2009年)。 「立体化学入門 三次元の有機化学」ロビンソン著、豊田訳(化学同人 2002年)。 「基礎立体化学」ブックストン、ロバーツ著、小倉、川井訳(化学同人 2000年)。 分子模型: 1) HGS分子構造模型(有機化学学生実習用セット)(丸善)。2) 分子構造モデル MOL-TALOU 基本Bセット、(タロウ)。		
講義関連事項	上記分子模型により、自分で立体的な分子構造を作成して確認することを推奨します。		
担当者から一言	有機化学さらに化学の理解には、立体化学の知識が必須です。ぜひ「有機化学」と合わせて学習してください。		

授業コード	23061		
授業科目名	物性化学1(前)		
担当者名	町田信也(マチダ ノブヤ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限

オフィスアワー	随時
講義の内容	本講では無機化合物を中心に広範囲の物質を取り上げ、固体化学・材料科学的な視点から解説を試みる。マクロな意味での物性を、原子論的あるいは電子論的などのミクロな観点から解説する。講義では数式の使用を最小限にとどめながら、問題を本質的にとらえられるよう配慮する。
到達目標	無機固体材料におけるマクロな意味での物性を、原子論的あるいは電子論的などのミクロな観点から、定性的ならびに半定量的に理解し、これらの内容について議論する素地を形成していることを到達目標とする。
講義方法	通常の講義形式で行なう。小テスト・レポートを随時課すので、期限までに、必ず提出すること
準備学習	「無機化学1」および「構造化学1」でふれた結晶構造や欠陥構造に関する知識を持つとともに、材料の性質を物理化学的に取り扱うための基礎を身につけておくこと。具体的には、基礎的な数学、熱力学について理解しておくこと。
成績評価	毎回講義に出席していることを前提として、成績を評価する。基本的には期末試験の結果によって評価するが、レポートおよび小試験の結果も加味する。
講義構成	前期 第1回 化学結合と結晶構造 第2回 結晶の構造解析 第3回 平衡状態図について 第4回 固体の欠陥構造 第5回 固体の化学反応 第6回 固体の電子の振る舞いについて 第7回 固体の電子構造1: 固体中の電子 第8回 固体の電子構造2: フェルミ=ディラック分布、 第9回 固体の電子構造3: フェルミ=ディラック分布の数学的取り扱い 第10回 固体の電子構造4: 状態密度関数 第11回 固体の電子構造5: 自由電子モデル 第12回 固体の電子構造6: バンドモデル 第13回 光学材料 第14回 イオン伝導性材料 第15回 まとめと試験
教科書	教科書:「現代無機材料科学」足立吟也、南 努 編著 (化学同人 2007年)
講義関連事項	主として無機固体を取り扱う。そのため、「無機化学1」および「構造化学1」でふれた結晶構造や欠陥構造に関する知識を持っているものとして講義を行う。

授業コード	23062		
授業科目名	物性化学2（前）		
担当者名	松井 淳(マツイ ジュン)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	有機化合物を中心とした先端材料を題材にして、基礎物性と機能性について解説する。材料設計・構築を指向したバイオテクノロジー及びナノテクノロジーにも言及し、学術論文などを題材にして最新の事例を紹介しながら有機材料の現状と展望について概説する。
到達目標	有機化合物の物性が、医療や環境など応用諸分野へどのように活かされているかを理解する。
講義方法	講義
準備学習	有機化合物(生体関連物質を含む)の中から興味があるものを、興味がある理由とともに挙げられるようにしておくこと。なお、挙げるのは化合物名でもよいし、分類名(高分子ゲル、カーボンナノチューブ、ポルフィリンなど)でもよい。
成績評価	講義への出席を前提とする。期末試験、演習、レポートおよび出席状況により評価する。
講義構成	第1回 講義の概要、物質の分類、性質の分類 第2回 有機化合物の化学構造と基礎物性 第3回 有機化合物の電子・光・磁気物性 第4回 有機材料の機能と物性1: 導電性高分子

	第5回 有機材料の機能と物性2: 高分子ゲル 第6回 有機材料の機能と物性3: フラーレン 第7回 有機材料の機能と物性4: カーボンナノチューブ 第8回 有機材料の機能と物性5: 分子エレクトロニクス 第9回 超分子の機能と物性1: DNA 第10回 超分子の機能と物性2: 人工核酸 第11回 超分子の機能と物性3: ペプチド、タンパク質 第12回 有機分子とナノテクノロジー1: 分子の自己集合と自己組織化 第13回 有機分子とナノテクノロジー2: 分子コンピュータ 第14回 有機分子とナノテクノロジー3: ナノマシーン 第15回 期末試験
教科書	使用しない。必要に応じて資料を配布する。

授業コード	23038		
授業科目名	物理化学1（前）		
担当者名	山本雅博（ヤマモト マサヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
オフィスアワー	水曜午前11時		

講義の内容	化学を理解するために必要な物理化学的な原理と概念、すなわち、相平衡、化学平衡、反応速度および反応の動力学について、理解することを目的とする。 化学的な事物は一見個別的で一貫性がないように見えても、物理的な原理と概念によって諸物質の本性をかなり統一的に理解することができる。本講義では相平衡、化学平衡、反応速度、および反応の動力学などについて、いろいろな例を示しながら、現象とその理論的または概念的な意味について述べる。
到達目標	熱・統計力学と反応速度論を理解すること
講義方法	板書とプリントによる。主題ごとに演習問題を宿題として課す。
準備学習	基礎化学B, Fを履修していること。 授業で扱う範囲が広いので、授業ではエッセンスのみを話す。当日の授業の範囲に相当する部分を必ず目を通して欲しい。また、復習として、練習問題・章末問題はすべて解くこと。
成績評価	期末試験による評価を重視する。また、宿題レポートの結果も参考にする。
講義構成	第1回: 熱力学の第2法則 第2回: 可逆過程と非可逆過程 第3回: エントロピーと自由エネルギー 第4回: 平衡の条件 第5回: 相転移 クラジウス-クラペイロンの式 化学平衡とファントホッフの式 第6回: 化学平衡と温度および圧力の影響1 ―その概念的解説― 第7回: 化学平衡と温度および圧力の影響2 ―ファントホッフの式での取扱い― 第8回: 分子のエネルギー状態と運動の自由度: 並進運動、回転運動、振動運動 第9回: 化学統計: エネルギー順位とボルツマン分布 カノニカル分配関数 第10回: カノニカル分配関数による平衡定数の表現 第11回: 衝突論と遷移状態理論 第12回: アレニウスの活性化エネルギー 第13回: 擬似平衡による取扱い 第14回: 反応論における活性化エントロピー 第15回: まとめと試験
教科書	アトキンス 物理化学上・下(第6版) J.P.W. Atkins著, 千原秀昭他訳(東京化学同人 2000年)
参考書・資料	必要に応じてプリントを配布する。 また、マッカーリ・サイモン 物理化学・分子論的アプローチ 上・下 (東京化学同人) 田崎晴明「熱力学」「統計力学1, 2」(培風館)を参考書とする。

担当者から一言	化学の現象を平衡論および速度論を用いて定量的に説明しようとするのが物理化学だと思いますが、どうしても数式のハンドリングに目がいってしまい難しいと感じられる学生さんが多いとお聞きしております。 まずは、1) ということをいわんとしているのかをなるべく数式なしでつかんでいただいて、2) 最終結果の数式
---------	---

	の説明, 3)その後式の導入というふうに説明できたらと思っております。式についても, その数学および意味をゆっくり丁寧に解説していきます。
--	---

授業コード	23039		
授業科目名	物理化学2 (前)		
担当者名	三宅純平(ミヤケ ジュンペイ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限

講義の内容	近年のコンピューター技術の進歩のおかげで、分子の立体構造やエネルギーなどの性質を予測するための量子化学計算が、高い信頼度で実施できるようになった。そのため量子化学の発展は、分子の挙動を扱う自然科学のあらゆる分野に、大きなインパクトを与えている。本講義では、まず量子化学のもとになる原理の説明をし、それをどのようにしたら、原子や分子などの様々なモデル系に応用できるかを講述する。
到達目標	1. シュレーディンガー方程式と波動関数の意味を理解する。 2. 箱の中の粒子について、波動関数とエネルギーを計算できる。 3. 原子の波動関数を理解する。 4. 分子の波動関数を理解する。
講義方法	演習を交えて行い、理解度を確認するための小テストを実施する。
準備学習	教科書の予習および講義・小テストの復習。
成績評価	小テストまたはレポート(30%)、中間試験(30%)、定期試験(40%)
講義構成	第1回 量子化学の目標 第2回 量子論の夜明け 第3回 古典的波動方程式 第4回 シュレーディンガー方程式と箱の中の粒子 第5回 量子力学の仮説と一般原理 第6回 調和振動子と剛体回転子 第7回 中間のまとめと中間試験 第8回 水素原子 第9回 近似的方法 第10回 多電子原子 第11回 二原子分子 第12回 多原子分子における結合 第13回 計算量子化学 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「物理化学 分子論的アプローチ 上・下」マッカーリ・サイモン著 千原 秀昭・江口 太郎・齋藤 一弥 訳(東京化学同人)
参考書・資料	「アトキンス 物理化学 第6版 上・下」P. W. Atkins著 千原 秀昭・中村 亘男 訳(東京化学同人)

担当者から一言	量子化学は、非常に抽象的で近づきたい印象を受けるかもしれませんが、この学問を理解し使いこなすことで、立体構造やエネルギーなどに代表される分子の様々な性質を予め見積もることができるようになります。また、得られる様々な実験結果をより深く理解できるようになります。量子化学を習得するために、講義の予習・復習など自宅学習を心がけてください。
---------	--

授業コード	23018		
授業科目名	物理化学A (前)		
担当者名	山本雅博(ヤマモト マサヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
オフィスアワー	水曜午前11時		

講義の内容	化学を理解するために必要な物理化学的な原理と概念、すなわち、相平衡、化学平衡、反応速度および反応の動力学について、理解することを目的とする。 化学的な事物は一見個別的で一貫性が無いように見えても、物理的な原理と概念によって諸物質の本性をかなり統一的に理解することができる。本講義では相平衡、化学平衡、反応速度、および反応の動力学などについて、いろいろな例を示しながら、現象とその理論的または概念的な意味について述べる。
到達目標	化学平衡論と反応速度論についてその意味を理解し、基本的問題・応用問題を自ら解くことができることを目標とする。
講義方法	板書とプリントによる。主題ごとに演習問題を宿題として課す。
準備学習	基礎化学B, Fを履修していること。 授業で扱う範囲が広いため、授業ではエッセンスのみを話す。当日の授業の範囲に相当する部分を必ず目を通して欲しい。また、復習として、練習問題・章末問題はすべて解くこと。
成績評価	期末試験による評価を重視する。また、宿題レポートの結果も参考にする。
講義構成	第1回: 熱力学の第2法則 第2回: 可逆過程と非可逆過程 第3回: エントロピーと自由エネルギー 第4回: 平衡の条件 第5回: 相転移 クラジウス-クラペイロンの式 化学平衡とファントホッフの式 第6回: 化学平衡と温度および圧力の影響1 ―その概念的解説― 第7回: 化学平衡と温度および圧力の影響2 ―ファントホッフの式での取扱い― 第8回: 分子のエネルギー状態と運動の自由度: 並進運動、回転運動、振動運動 第9回: 化学統計: エネルギー順位とボルツマン分布 カノニカル分配関数 第10回: カノニカル分配関数による平衡定数の表現 第11回: 衝突論と遷移状態理論 第12回: アレニウスの活性化エネルギー 第13回: 擬似平衡による取扱い 第14回: 反応論における活性化エントロピー 第15回: まとめと試験
教科書	マッカーリ・サイモン 物理化学・分子論的アプローチ 上・下 (東京化学同人) アトキンス 物理化学上・下(第6版) J.P.W. Atkins 著, 千原秀昭他訳(東京化学同人 2000年)
参考書・資料	必要に応じてプリントを配布する。 また、アトキンス 物理化学上・下(第6版) J.P.W. Atkins 著, 千原秀昭他訳(東京化学同人 2000年) 田崎晴明「熱力学」「統計力学1, 2」(培風館)を参考書とする。
担当者から一言	化学の現象を平衡論および速度論を用いて定量的に説明しようとするのが物理化学だと思いますが、どうしても数式のハンドリングに目がいってしまい難しいと感じられる学生さんが多いとお聞きしております。 まずは、1) 何をいいたいのかわかるように数式をなるべく少なくして、2) 最終結果の数式の説明、3) その後式の導入というふうにご説明できればと思います。式についても、その数学および意味をゆっくり丁寧に解説していきます。

準備学習	熱力学の基礎事項を復習しておくこと。
成績評価	期末試験による評価を重視する。またレポートの内容や出席状況、受講態度も評価に加える。
講義構成	第 1回:分子間相互作用 第 2回:物質の性質 第 3回:熱力学関係式、部分モル量 第 4回:化学ポテンシャル 第 5回:ラウールの法則とヘンリーの法則 第 6回:活量係数 第 7回:正則溶液 第 8回:束一的性質 第 9回:相変化、相律 第10回:相図 第11回:電解質溶液 第12回:デバイ-ヒュッケルの理論 第13回:溶液と界面現象 第14回:界面現象とコロイド 第15回:まとめ
教科書	マッカーリ・サイモン 物理化学 下 東京化学同人(2008年)
参考書・資料	必要に応じてプリントを配布する。 化学熱力学 原田義也著 裳華房(修訂版 2002) ソフトマターのための熱力学 田中文彦著 裳華房(2009)
担当者から一言	個別の事項を覚えるだけでなく、その分野の概念や論理を理解し、使えるようになることを目的とする。そのための熱意と勉学態度が望まれる。

授業コード	23059		
授業科目名	分子分光學1(後)		
担当者名	村上 良(ムラカミ リョウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	物質の性質、反応などの情報を原子レベルで得ることは現在の化学の研究には必須となっている。原子・分子レベルでの詳細な情報を得るための物理化学的手法には大別して回折法と分光法があるが、本講義では分光法に焦点を合わせ、いくつかの分光法についてその基本原理から実際のスペクトルの解釈、またスペクトルからどのような情報が得られるか、ということについて解説する。
到達目標	スペクトルから分子の構造や分子間相互作用についての情報を引き出せるようになること。
講義方法	板書・プリント・液晶プロジェクタを使用する。
準備学習	量子化学の基礎事項を復習しておくこと。
成績評価	期末試験による評価を重視する。またレポートの内容や出席状況、受講態度も評価に加える。
講義構成	第 1回 分光学における一般的性質 第 2回 分子の電子吸収スペクトル 第 3回 電子吸収スペクトルと溶媒効果 第 4回 分子の発光スペクトル、発光スペクトルと電子スピン 第 5回 ラマン散乱スペクトルと分子振動 第 6回 ラマン散乱スペクトルと分子の形 第 7回 赤外吸収スペクトルと分子振動 第 8回 赤外吸収スペクトルの応用、赤外吸収スペクトルと分子間相互作用 第 9回 電子励起状態の振動スペクトル 第10回 気体分子の振動回転スペクトル 第11回 回転スペクトルと分子の形 第12回 回転スペクトルと核スピン 第13回 電子スピン共鳴スペクトルとラジカル分子 第14回 核磁気共鳴スペクトルと化学シフト 第15回 核磁気共鳴スペクトルと核スピン相互作用
教科書	“マッカーリ・サイモン 物理化学” 東京化学同人 (2008)

参考書・資料	“アトキンス 物理化学” 千原秀昭他訳 東京化学同人 (2009) “量子化学II 分光学理解のための20章” 中田宗隆著 東京化学同人 (2004)
--------	--

授業コード	23060		
授業科目名	分子分光学2(前)		
担当者名	宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	有機化合物の構造を知る手段の一つとして、スペクトルを利用する方法(分光学的方法)がある。これは、構造の決定に化合物の物理的性質を利用する方法の一種であり、現代の有機化学の研究には必要不可欠な手段となっている。 本講義では、分光学的な方法の中でも、有機化合物の構造決定において極めて有用な、紫外分光法、赤外分光法、核磁気共鳴分光法、質量分析法について、分かりやすく解説する。各分光法の原理については、スペクトルの解析に最低限必要な事項を取り扱うにとどめ、実際のスペクトルから如何にして必要な情報を読み取るかに重点を置き、演習を交えながら講義を進める。
到達目標	各分光法についての基礎的な原理を理解し、スペクトルから必要な情報を読み取ることができること。具体的には、指定教科書の章末に出ている問題(難しいものを除く)が解けるように努力してほしい。
講義方法	講義は教科書に沿って進めるが(毎時間教科書を持参すること)、必要に応じてプリントも配布する。
準備学習	講義構成の項目に示されている各回の講義内容について、教科書の該当箇所を必ず予め読んで講義に臨むこと。
成績評価	中間試験および期末試験の成績を中心とし、演習課題に対する解答および出席状況を加味して評価する。
講義構成	第1回 分光学的構造解析法の特徴 第2回 紫外・可視分光法(1):基礎的原理、測定方法 第3回 紫外・可視分光法(2):電子遷移の様式、分子軌道のエネルギー準位 第4回 紫外・可視分光法(3):スペクトルと構造の相関 第5回 赤外分光法(1):基礎的原理(伸縮振動と変角振動)、X-H伸縮振動 第6回 赤外分光法(2):三重結合、二重結合の伸縮振動 第7回 赤外分光法(3):指紋領域のスペクトル 第8回 まとめと試験 第9回 核磁気共鳴分光法(1):基礎的原理、測定方法 第10回 核磁気共鳴分光法(2):反磁性しゃへいと化学シフト 第11回 核磁気共鳴分光法(3):スピンスピンカップリング 第12回 核磁気共鳴分光法(4):複雑なスピンスピンカップリング 第13回 質量分析法(1):基礎的原理、フラグメンテーションの様式 第14回 質量分析法(2):結合様式とフラグメンテーションの関係 第15回 まとめと試験
教科書	「有機化合物のスペクトルによる同定法(第7版)」R. M. Silverstein他著、荒木 峻他訳(東京化学同人)
参考書・資料	「有機化学のためのスペクトル解析法」M. Hesse他著、野村正勝他訳(化学同人) 「有機化合物のスペクトル解析入門」L.M. Harwood他著、岡田恵次他訳(化学同人) 「有機化合物の構造とスペクトル」卯西昭信他著(三共出版) 「有機化合物の構造をきめる」竹内敬人著(化学同人) 「はじめての有機スペクトル解析」宇野英満・築部浩編(丸善)

担当者から一言	有機化学の基礎的な知識(「有機化学1・2」)を前提としている。 講義の中で行う演習は時間的に限られているので、上に挙げた参考書等により、自分で問題を解くことで、スペクトルの事例になじむように心掛けてほしい。
---------	--

授業コード	23021		
授業科目名	分析化学A(分析化学1)(前)		
担当者名	茶山健二(チャヤマ ケンジ)		

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	分析化学は、物理化学、無機化学、有機化学などと併立する化学の分野である。単に技術、知識として重要であるばかりでなく、分析化学的な研究方式、すなわち各種の化学種を定性、定量し、試料の性格をはっきり理解し、そこから考えを進めていく方式は、化学研究の一つの基本的な態度である。主に、溶液内イオン平衡、重量分析・容量分析の基礎について解説する。
到達目標	(1) イオン強度、活量の概念が理解できる。 (2) 活動度係数 γ を計算により求めることができる。 (3) 強酸、強塩基の溶液のpH計算が出来るようにする。 (4) 一塩基酸の溶液内イオン平衡を説明でき計算が出来る。 (5) 緩衝溶液について理論的に理解できる。 (6) 沈殿平衡を理解でき、溶液中の沈殿生成の予測が出来る。 (7) 共通イオン効果等の概念を身につける。 (8) 重量分析の簡単な計算が出来る。
講義方法	教科書を板書により補足し、更に必要に応じてプリントを配布する。
準備学習	授業の予習をし、理論を理解すると共に演習問題が解けるように学習しておくこと
成績評価	レポート、小テスト、試験により判定する。
講義構成	第1回 はじめに：分析化学とは(化学分析法と機器分析法) 第2回 分析化学で取り扱う化学反応と化学平衡、溶液の濃度 第3回 溶液内化学平衡：沈殿生成反応と重量分析 第4回 沈殿生成と沈殿の溶解度・溶解度積、沈殿生成に及ぼす諸因子 第5回 定性分析における属分離と沈殿生成・溶解度積 第6回 溶液内化学平衡：沈殿生成反応と沈殿滴定 第7回 容量分析、定量とは 第8回 沈殿滴定(モアー法とファーマンズ法) 第9回 溶液内化学平衡：酸・塩基反応と中和滴定 第10回 滴定終点、等量点、滴定曲線 第11回 溶液内化学平衡：錯体生成反応とキレート滴定 第12回 溶液内化学平衡：酸化還元反応と酸化還元滴定 第13回 酸化数、電位、過マンガン酸カリウムによる滴定 第14回 固体試料の溶解と酸化還元反応 第15回 まとめと試験
教科書	分析化学(改訂版) 黒田・杉谷・渋川共著(裳華房、2008年)
参考書・資料	「基礎科学選書2 分析化学(改訂版)」長島・富田共著(裳華房) イオン平衡 ―分析化学における― H.Freiser著藤永太郎・関戸榮一共訳(化学同人)

授業コード	23022		
授業科目名	分析化学B(分析化学2)(後)		
担当者名	岩月聡史(イワツキ サトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	分析化学A(分析化学1)では溶液内化学平衡の基礎を習得したが、分析化学B(分析化学2)ではその応用として、主に容量分析法について解説する。具体的には、酸塩基滴定、沈殿滴定、錯形成滴定(キレート滴定)、および酸化還元滴定の4種類の容量分析法について、各々の分析法に関与する化学平衡、分析指示薬の役割、試料の取扱や操作の留意点などについて説明する。なお、本講義の後半では、機器分析法の一例として吸光度分析について概説する。
到達目標	(1) 容量分析の基本的な原理を説明できる。 (2) 容量分析に用いる測容器と標準溶液について取り扱い方ならびに注意点を説明できる。 (3) 中和滴定の原理・理論と指示薬の反応、ならびに滴定操作を説明できる。 (4) 沈殿滴定の原理・理論といくつかの重要な滴定法を説明できる。

	(5)酸化還元反応の理論と滴定の原理、ならびに滴定の際の注意点を説明できる。 (6)錯形成(キレート生成)反応の理論と滴定の原理、ならびに滴定の際の注意点を説明できる。 (7)分析対象に最も適した容量分析法を選択できる。 (8)光吸収分析法の原理を説明できる。
講義方法	基本的に板書により行う。また、講義内容に基づいた演習問題を適宜配布する。
準備学習	教科書にのみ頼るのではなく、下記に挙げた参考書を併用して、容量分析の各方法について、その理論と原理を確実に理解するよう心がけること。本講義の内容の一部は、すでに高等学校の化学、ならびに分析化学A(分析化学1)で履修している内容であるため、当該箇所について適宜復習しておくことが肝要である。また、教科書や参考書をあらかじめ読み進め、理解が難しい点を抽出した上で講義に臨むと理解度が飛躍的に向上する。なお、講義中に配布される演習問題は、講義の進度に関わらず積極的に解答し、演習することが望ましい。
成績評価	成績評価は、期末試験の成績を第一基準とし、その他平常点(出席、レポート、小テスト)を成績全体の25%を限度として加味し、最終的に60点以上のものを合格とする。
講義構成	第1回:容量分析の基礎1(種類と原理) 第2回:容量分析の基礎2(測容器と標準溶液) 第3回:中和滴定1(酸塩基反応における化学平衡) 第4回:中和滴定2(酸塩基指示薬と滴定の実際) 第5回:沈殿滴定1(溶解度と溶解度積) 第6回:沈殿滴定2(Mohr法とFajans法) 第7回:酸化還元滴定1(酸化還元反応と酸化還元電位) 第8回:酸化還元滴定2(酸化還元反応における化学平衡) 第9回:酸化還元滴定3(酸化還元滴定の実際) 第10回:キレート滴定1(錯形成反応とキレート生成反応) 第11回:キレート滴定2(錯形成反応における化学平衡) 第12回:キレート滴定3(金属指示薬と滴定の実際) 第13回:吸光光度分析1(Lambert-Beerの法則) 第14回:吸光光度分析2(分光光度計と測定原理) 第15回:まとめと試験
教科書	分析化学(改訂版) 黒田・杉谷・渋川共著(裳華房、2008年)
参考書・資料	基礎化学選書2 分析化学(改訂版)長島・富田共著(裳華房) 定量分析 分析化学研究会編著(廣川書店) 分析化学 大橋・小熊・鎌田・木原共著(三共出版) 定量分析の化学 田中・中川編(朝倉書店)
担当者から一言	講義で配布される演習問題の解答は解説しないが、自ら解答しておくことを強く勧める。 分析化学A(分析化学1)の履修は必須ではないが、履修していることを前提とする講義内容を含む。
その他	当然のことであるが、講義中の飲食、私語、携帯電話などの使用は厳禁である。その他、周りの受講者に迷惑となる行為が認められる場合、厳しく対処するので注意すること。

授業コード	23040		
授業科目名	無機化学2（前）		
担当者名	岩月聡史（イワツキ サトシ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	無機化学で取り扱う元素は周期表のすべての元素であり、対象となる物質は多種多様かつ膨大な数であるが、周期表のように各元素を秩序立てて並べることによって、その性質を系統的に理解することが可能となる。無機化学2では、無機化学1までの履修内容に基礎を置き、さらに各元素の化学へ展開する。そして、元素およびその化合物の化学的性質から、周期表を理解することを目的とする。講義期間の前半では、典型元素の化合物の化学的性質を各族に分けて解説し、後半では遷移元素の化合物について、配位化学(錯体化学)の基礎を含めて解説する。
到達目標	(1)周期表の元素の一般的な傾向を説明できる。 (2)典型元素と遷移元素の違いを説明できる。 (3)重要ないくつかの元素について、その単離・精製法を説明できる。 (4)典型元素の各族毎に、共通する基本的な性質と反応性を説明できる。 (5)遷移元素の種類と基本的な性質を説明できる。

	(6) 遷移金属錯体の名称と化学式を記述することができる。 (7) 第一遷移系列の金属錯体の電子構造と立体構造を説明できる。
講義方法	基本的に板書により講義を行うが、適宜参考資料の配布も行う。講義の際に課題(小テスト、レポート)を課し、理解度のチェックを行う。
準備学習	教科書にのみ頼るのではなく、下記に挙げた参考書を併用して幅広く元素の化学について理解するよう努めること。なお、本講義の内容の一部は、高等学校の化学(元素の各論)の内容に基礎をおき、より専門的な内容を解説するため、予備学習として当該内容を復習しておくことが望ましい。
成績評価	成績評価は、期末試験の結果を第一基準とし、その他に平常点(出席、レポート、小試験)を成績全体の30%を限度として加味した上で、最終的に60点以上となった者を合格とする。
講義構成	第1回: 元素の種類 第2回: 典型元素の種類と性質 第3回: 1族および2族元素とそれらの化合物 第4回: 13族元素とその化合物 第5回: 14族元素とその化合物 第6回: 15族元素とその化合物 第7回: 16族元素とその化合物 第8回: 17族および18族元素とそれらの化合物 第9回: 12族元素とその化合物 第10回: 3-11族元素の化学1: 遷移元素の種類と性質 第11回: 3-11族元素の化学2: 配位化学の基礎 第12回: 3-11族元素の化学3: 第一遷移系列元素の化合物 第13回: 3-11族元素の化学4: 第二および第三遷移系列元素とその化合物 第14回: 3-11族元素の化学5: fブロック元素とその化合物 第15回: まとめと試験
教科書	特に指定せず適宜プリントを配布する。下記の書籍を参考書として挙げる。
参考書・資料	「シュライバー・アトキンス無機化学(上・下)」第4版、Atkins, Overton, Rourke, Weller, Armstrong著、田中・平尾・北川訳(東京化学同人 2008年) 「基礎無機化学」原著第3版、Cotton, Wilkinson, Gauss著、中原訳(培風館 1998年) 「ダグラス・マクダニエル無機化学(上・下)」第3版、Douglas, McDaniel, Alexander著、日高・安井・海崎訳(東京化学同人 1997年) 「ベッカー 一般化学(上・下)」ベッカー他著、木下他訳(東京化学同人 1983年)
担当者から一言	基礎化学5、同6、ならびに無機化学1の履修を前提にした内容を含むため、理解不十分な箇所は常に補うよう心がけること。
その他	当然のことであるが、講義中の飲食、私語、携帯電話の使用は厳禁である。その他、周りの受講者に迷惑となる行為が認められる場合、厳しく対処するので注意すること。

授業コード	23020		
授業科目名	無機化学A(無機化学1)(後)		
担当者名	重松利彦(シゲマツ トシヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	無機化学を理解する上で必要な基礎的事項のうち、化学結合と分子の対称性、および溶液内平衡と反応について詳しく解説する。
到達目標	対称性に基づく、分子の分類、簡単な多原子分子の分子軌道の組み立てができる。 酸と塩基、酸化と還元について基礎的事項が説明できる。
講義方法	通常の講義形式で行う。随時、小テストを課す。
準備学習	次週の授業内容及び、内容の理解を助ける練習問題を提示するので、予習しておくこと。
成績評価	期末試験(70%)と小テスト(30%)の結果によって評価する。
講義構成	第1回 ルイス構造-オクテット則、構造と結合 第2回 ルイス構造-VSEPR則 第3回 2原子分子の分子軌道

	第4回 多原子分子の分子軌道の組み立て 第5回 分子軌道による分子形の説明 第6回 分子の対象性-対称要素、対称操作 第7回 群論と分子の対称性 第8回 軌道の対象性-分子軌道と指標表 第9回 対称適合線形結合 第10回 分子軌道を組み立てる 第11回 酸・塩基の定義:ブレンステッド酸・塩基とルイス酸・塩基 第12回 ルイス酸・塩基の相性 第13回 酸・塩基平衡と酸・塩基の強さ 第14回 酸化・還元 第15回 まとめと試験
教科書	「シュライバー・アトキンス 無機化学上(第4版)」Atkins, Overton, Rourke, Weller, Armstrong著、田中、平尾、北川訳(東京化学同人 2008年)
参考書・資料	「ダグラス、マクダニエル無機化学」ダグラス、マクダニエル、アレキサンダー著、日高、安井、海崎訳(東京化学同人 1997年) 「バトラー、ハロッド無機化学」バトラー、ハロッド著、萩野監訳(丸善 1989年) 「詳説無機化学」福田、海崎、北川、伊藤編(講談社サイエンティフィク 1997年)

授業コード	23071		
授業科目名	有機化学1（後）		
担当者名	山田隆己（ヤマダ タカシ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	有機化学は「炭素化合物の化学」と定義されている。周期表の中で、炭素原子だけが単純なものから驚くほど複雑なものまでの広大な物質群をつくっている。それらの中には、われわれにとって大変危険な有害なものもあるが、日常生活に欠くことのできないものがきわめて多く含まれている。それらを構成している基本的な有機化合物の化学について、受講する諸君が系統的に学び理解することを、本講義および「有機化学2」の一連の講義の目標としている。 本講義では、主に脂肪族の代表的な有機化合物について、主に官能基に基づく分類にしたがって、それらの性質、構造、反応、合成等について系統的に解説する。
到達目標	有機化学の基本的な知識を体系的に修得し、代表的な有機化合物の性質、構造、反応などを説明できる。
講義方法	講義はできるだけ教科書に沿って行なうので、必ず教科書を(できるだけ、上、中、下の3冊を一緒に)購入し、講義の都度持参すること。講義の進行に合わせて随時小テストを行う。
準備学習	有機化学の基礎的事項から系統的に説明するので、講義の進行にあわせて教科書の対応する章をよく読み、復習すること。さらに、教科書中の練習問題や補充問題を自ら検討することが望ましい。
成績評価	数回の小テストと期末試験の成績およびレポート提出状況などを総合して評価する。評価の基準は、期末テストが約70%、小テストとレポートが約30%である。
講義構成	第1回 構造と結合(1章) 第2回 極性共有結合:酸と塩基(2章) 第3回 有機化合物:アルカンとその立体化学(3章) 第4回 有機化合物:シクロアルカンとその立体化学(4章) 第5回 有機反応の概観(1)(5章) 第6回 有機反応の概観(2)(5章) 第7回 アルケン:構造と反応性(6章) 第8回 アルケン:反応と合成(1)(7章) 第9回 アルケン:反応と合成(2)(7章) 第10回 アルキン:有機合成序論(8章) 第11回 立体化学(9章) 第12回 有機ハロゲン化物(10章) 第13回 ハロゲン化アルキルの反応:求核置換と脱離(1)(11章) 第14回 ハロゲン化アルキルの反応:求核置換と脱離(2)(11章) 第15回 まとめおよび試験
教科書	「有機化学(上)(第7版)」マクマリー著、伊東他訳(東京化学同人 2009年)

参考書・資料	「現代有機化学(上・下)(第4版)」ポルハルト・ショアー著、古賀他訳(化学同人、2004年)、「ブルース有機化学(上・下)(第5版)」ブルース著、大船他訳(化学同人、2009年)、「ジョーンズ有機化学(上・下)(第3版)」ジョーンズ著、奈良坂他訳(東京化学同人、2006年)「有機化学」宮城陽著(丸善、2007年)、「有機化学」奥山格監修(丸善、2008年)
担当者から一言	教科書を丹念に読むこと。さらに、各章中や章末の問題は、内容の理解あるいは応用に変役にたつものであるから、講義の進行につれて、各自でできるだけ解答していくこと。

授業コード	23041		
授業科目名	有機化学2（前）		
担当者名	檀上博史（ダンジョウ ヒロシ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	現代の日常生活は多種多様な有機化合物によって支えられており、医薬、プラスチック材料を始め、液晶、塗料、繊維および化粧品など、様々な場面で我々はその恩恵を受けている。特に最近ではナノテクノロジーの進歩に伴い、エレクトロニクス分野を始めとする各領域で有機機能性材料が注目されるなど、有機合成の需要はますます高い。本講義ではこれらの有機化合物を効率的に合成するための知識を獲得するべく、芳香族化合物やアルコール、エポキシド、カルボニル化合物、アミンなどの重要な化合物群について、その構造と性質、反応性および合成法について学ぶ。
到達目標	芳香族化合物および代表的な活性官能基を有する化合物の調製法や官能基化法、官能基変換について具体例を列挙することができ、またそれらについて反応機構を説明することができる。
講義方法	基本的に教科書に沿い、板書にて行う。
準備学習	2年次後期の「有機化学1」の内容を理解していることを前提とする。
成績評価	中間テスト、期末テストの成績および出席で評価する。
講義構成	第1回 ベンゼンと芳香族性(1):命名法、誘導体の構造ほか 第2回 ベンゼンと芳香族性(2):芳香族性、Hückel則ほか 第3回 ベンゼンの化学(1):芳香族求核置換反応ほか 第4回 ベンゼンの化学(2):置換基効果、その他の反応ほか 第5回 アルコール、フェノール、エーテル、エポキシド 第6回 中間試験 第7回 カルボニル化合物の化学 第8回 アルデヒドとケトン 第9回 カルボン酸 第10回 カルボン酸誘導体と求核アシル置換反応 第11回 カルボニルの α 置換反応 第12回 カルボニル縮合反応(1):アルドール反応、Claisen縮合ほか 第13回 カルボニル縮合反応(2):Michael反応ほか 第14回 アミン 第15回 試験
教科書	「有機化学(上、中、下) 第7版」マクマリー著、伊東他訳(東京化学同人 2009年)
参考書・資料	「有機反応機構 第5版」P. Sykes著、久保田尚志訳(東京化学同人)

担当者から一言	有機化学が面白くなってくる範囲です。是非興味をもって取り組んで下さい。
---------	-------------------------------------

授業コード	23023		
授業科目名	有機化学A(前)		
担当者名	宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

オフィスアワー	随時
講義の内容	生体はもとよりわれわれの身の回りに存在する物質のほとんどが有機化合物でできている。したがって、有機化学は最先端の機能性物質までも含む広範囲の物質科学や生命科学の基礎的な学問として重要である。「有機化学A」、「同B」、「同C」は一連の科目であり、この三科目を通して基本的な有機化合物の化学について系統的に学び、理解することを目標としている。そのため、この分野で世界的に定評のある「マクマリー 有機化学」を教科書として用い、その内容に沿って講義を進める。 「有機化学A」では、主に官能基に基づく分類にしたがって、炭化水素とハロゲンをもつ化合物について、それらの性質、構造、反応、合成等について系統的に解説する。
到達目標	有機化合物の構造と結合、極性や酸・塩基などの基礎的な知識を身につけ、また飽和および不飽和炭化水素、芳香族炭化水素やハロゲン化アルキルなどの調製法や反応について具体例を列挙することができ、またそれらの反応機構を説明することができるようになることを目標とする。 具体的には、教科書の章中や章末に出ている問題が解けるように努力してほしい。
講義方法	講義は教科書に沿って進めるので毎時間教科書を持参すること。また、必要に応じてプリントも配布する。
準備学習	講義構成の項目に示されている各回の講義内容について、教科書の該当の章(カギ括弧内に示す)を必ず予め読んで講義に臨むこと。時々、講義の始めに予習確認のための小テストを実施する。
成績評価	小テスト、中間試験と期末試験の成績を中心とし、レポート提出状況などを加味して評価する。
講義構成	第1回 構造と結合 [1章] 第2回 極性共有結合、酸と塩基 [2章] 第3回 アルカンとシクロアルカン: 構造と反応 [3, 4章] 第4回 有機反応の概観 [5章] 第5回 アルケン(1): 構造と反応性 [6章] 第6回 アルケン(2): 付加反応 [7章] 第7回 アルキン: 構造と反応 [8章] 第8回 まとめと試験 第9回 芳香族炭化水素(1): ベンゼンと芳香族性 [15章] 第10回 芳香族炭化水素(2): 求電子置換反応 [16章] 第11回 芳香族炭化水素(3): 配向性、置換基効果 [16章] 第12回 ハロゲン化アルキル(1): 構造と反応性 [10章] 第13回 ハロゲン化アルキル(2): 求核置換反応、脱離反応 [11章] 第14回 ハロゲン化アルキル(3): グリニャール試薬、有機金属化合物 [10章] 第15回 まとめと試験
教科書	「マクマリー 有機化学(上、中、下)(第7版)」J. マクマリー著、伊東他訳(東京化学同人)
参考書・資料	「ブルース 有機化学(上・下)(第4版)」P. Y. ブルース著、大船他訳(化学同人) 「ジョーンズ 有機化学(上・下)(第3版)」M. ジョーンズ, Jr. 著、奈良坂他訳(東京化学同人)
担当者から一言	「有機化学A」、「同B」、「同C」を通して「マクマリー 有機化学」を通読することが肝要である。講義前の予習とともに講義の後でもう一度教科書の該当箇所をていねいに読み直してほしい。その際に、実際に手を動かして構造式や反応式を書いてみるのが重要である。その上で、章中や章末の問題にも当たって理解を確認するようにしてほしい。

授業コード	23024		
授業科目名	有機化学B（後）		
担当者名	檀上博史（ダンジョウ ヒロシ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	随時		
講義の内容	生体はもとよりわれわれの身の回りに存在する物質のほとんどが有機化合物でできている。したがって、有機化学は最先端の機能性物質までも含む広範囲の物質科学や生命科学の基礎的な学問として重要である。「有機化学A」、「同B」、「同C」は一連の科目であり、この三科目を通して基本的な有機化合物の化学について系統的に学び、理解することを目標としている。そのため、この分野で世界的に定評のある「マクマリー 有機化学」を教科書として用い、その内容に沿って講義を進める。 「有機化学B」では、主に官能基に基づく分類にしたがって、アルコール、エーテルと各種カルボニル化合物、アミンについて、それらの性質、構造、反応、合成等について系統的に解説する。		

到達目標	アルコール、フェノール、エーテル、エポキシドや各種カルボニル化合物、アミンなど代表的な活性官能基を有する化合物群の調製法や官能基化法、官能基変換について具体例を列挙することができ、またそれらについて反応機構を説明することができるようになることを目標とする。 具体的には、教科書の章中や章末に出ている問題が解けるように努力すること。
講義方法	講義は教科書に沿って進めるので毎時間教科書を持参すること。また、必要に応じてプリントも配布する。
準備学習	2年次前期開講の「有機化学A」の内容を理解していることを前提とする。また講義構成の項目に示されている各回の講義内容について、教科書の該当の章(カギ括弧内に示す)を必ず予め読んで講義に臨むこと。時々、講義の始めに予習確認のための小テストを実施する。
成績評価	小テスト、中間試験と期末試験の成績を中心とし、レポート提出状況などを加味して評価する。
講義構成	第1回 アルコールとフェノール(1):アルコールの製法 [17章] 第2回 アルコールとフェノール(2):アルコール、フェノールの反応 [17章] 第3回 エーテルとエポキシド、チオールとスルフィド [18章] 第4回 カルボニル化合物の予習 第5回 アルデヒドとケトン(1):製法、酸化、還元[19章] 第6回 アルデヒドとケトン(2):求核付加反応[19章] 第7回 カルボン酸とニトリル[20章] 第8回 まとめと試験 第9回 カルボン酸誘導体と求核アシル置換反応(1):活性エステル[21章] 第10回 カルボン酸誘導体と求核アシル置換反応(2):エステル、アミド[21章] 第11回 カルボニル α 置換反応[22章] 第12回 カルボニル縮合反応[23章] 第13回 アミンと複素環(1):性質、塩基性[24章] 第14回 アミンと複素環(2):合成、反応[24章] 第15回 まとめと試験
教科書	「マクマリー 有機化学(上、中、下)(第7版)」J. マクマリー著、伊東他訳(東京化学同人)
参考書・資料	「ブルース 有機化学(上・下)(第4版)」P. Y. ブルース著、大船他訳(化学同人) 「ジョーンズ 有機化学(上・下)(第3版)」M. ジョーンズ, Jr. 著、奈良坂他訳(東京化学同人)
担当者から一言	「有機化学A」、「同B」、「同C」を通して「マクマリー 有機化学」を通読することが肝要である。講義前の予習とともに講義の後でもう一度教科書の該当箇所をていねいに読み直すこと。その際に、実際に手を動かして構造式や反応式を書いてみるのが重要である。その上で、章中や章末の問題にも当たって理解を確認すること。

授業コード	23064		
授業科目名	溶液化学（後）		
担当者名	村上 良（ムラカミ リョウ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	液体や溶液の化学は地球、環境あるいは生物などと密接に関わり、また種々の産業・技術に対しても重要な知見を与える分野である。本講義では、熱力学を主とする巨視的な見方で溶液の基本的な性質を述べると共に、微視的な相互作用について述べ、溶液構造を理解するように講ずる。
到達目標	液体・溶液の性質について体系化して講ずる。個別の事項を覚えるだけでなく、その分野の概念や論理を理解し身につけることを目標とする。
講義方法	板書、プリント、液晶プロジェクターによる。
準備学習	熱力学の基礎事項を復習しておくこと。
成績評価	期末試験による評価を重視する。またレポートの内容や出席状況、受講態度も評価に加える。
講義構成	第 1回:分子間相互作用 第 2回:物質の性質 第 3回:熱力学関係式、部分モル量 第 4回:化学ポテンシャル 第 5回:ラウールの法則とヘンリーの法則 第 6回:活量係数 第 7回:正則溶液

	第 8回:束一的性質 第 9回:相変化、相律 第10回:相図 第11回:電解質溶液 第12回:デバイ-ヒュッケルの理論 第13回:溶液と界面現象 第14回:界面現象とコロイド 第15回:まとめ
教科書	マッカーリ・サイモン 物理化学 下 東京化学同人(2008年)
参考書・資料	必要に応じてプリントを配布する。 化学熱力学 原田義也著 裳華房(修訂版 2002) ソフトマターのための熱力学 田中文彦著 裳華房(2009)
担当者から一言	個別の事項を覚えるだけでなく、その分野の概念や論理を理解し、使えるようになることを目的とする。そのため の熱意と勉学態度が望まれる。

授業コード	24031		
授業科目名	位相数学		
担当者名	小林雅子(コバヤシ マサコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(月曜4限)

講義の内容	この科目では、集合の概念・実数の定義・写像の連続性など、高校までの数学の教科書に書いてある項目ではあるが、実は詳しく述べられていなかった内容について改めて定義し直し、数学の基本的概念を再構築します。 また、後半は距離の概念をモチーフに日常現象から数学の本質的な部分を取り出し論理的に思考することを考えます。		
到達目標	・集合・論理の記号が正しく使える。 ・実数とは何か、を説明できる。 ・イプシロン-デルタ論法を扱うことができる。 ・ユークリッド空間内の開集合・閉集合とは何か、論述できる。 ・「距離」とは何か、解説できる。		
講義方法	1回の授業の中で前半を講義、後半は適宜演習とする。		
準備学習	指定テキストを一読し、知らない言葉等を見ておく。 場合によっては高校までの数学の教科書を復習する。とくに基本的な集合の記号や平面上の「不等式であらわされる領域」等の知識は必要です。 演習問題は後日解説するので、できなかった問題も次回までに考えておく。		
成績評価	毎回の演習、レポート、数回のテストについての総合評価		
講義構成	(前期) 第1回: 命題と論理 第2・3回: 集合 第4・5回: 写像 第6回: 2項関係 第7回: 実数の定義 第8・9回: 集合の濃度 第10回: 実数値連続関数 第11回: ユークリッド空間 第12・13回: ユークリッド空間の開集合と閉集合 第14回: 前期のまとめ 第15回: 前期試験 (後期) 第16回: 前期の復習 第17・18回: n 次元ユークリッド空間上の連続写像 第19回: n 次元ユークリッド空間上の点列 第20回: コンパクト性 第21回: 連結性		

	第22・23回：距離空間の定義と例 第24回：距離空間の開集合・閉集合 第25回：距離空間上の連続写像 第26回：距離空間のコンパクト性 第27・28回：位相と位相空間の定義 第29回：後期のまとめ 第30回：後期試験
教科書	鈴木晋一著「理工基礎演習 集合と位相」(サイエンス社)
参考書・資料	鈴木晋一著「集合と位相への入門ーユークリッド空間の位相」(サイエンス社)
担当者から一言	皆さんが履修した高校以下の算数・数学の教科書ではあまり取り扱われ無かったが、今回の指導要領改定によって復活する予定の「集合・論理の概念」等についても基本的な事項の解説から始めます。 数学の教員志望の学生さんは、特にしっかりと受講してください。
ホームページタイトル	小林雅子の講義関連ページ
URL	http://www.tcn.zaq.ne.jp/masakobayashi

授業コード	24043		
授業科目名	応用システム解析I(前)		
担当者名	和田昌浩(ワダ マサヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	月曜14:40～16:10 水曜10:40～12:10		
講義の内容	システム理論や制御理論の基礎として、ダイナミカルシステムの振舞いを解析する手法を習得する。自然界に存在する様々なダイナミカルシステムを状態方程式によって記述する方法を示し、システム解析に有用な数値解析法などを学ぶ。また、その安定性と線形近似について述べる。つづいて、ラプラス変換を用いた伝達関数、線形システムの入出力特性や、ブロック線図を用いたシステムの構造表現や時間応答などを考察する。いくつかのシミュレーションをMATLABやMathematicaなどを用いてデモを行う。		
到達目標	数学モデルによる解析やシミュレーションを通して、様々なシステム理論の基本を理解する。		
講義方法	配布するプリントを中心に講義を行い、演習問題やレポート等も行う。		
準備学習	1年次に学習する微分積分、線形代数を十分に理解しておくこと。		
成績評価	定期試験期間中に行う一回の筆記試験の得点および出席状況、レポートによって評価する。定期試験6、出席・レポート4の割合(予定)で評価する。		
講義構成	第1回 線形システムと非線形システム 第2回 様々なシステムとその分類 第3回 ダイナミカルシステム: 入出力と状態の関係とモデル化 第4回 様々なシステムに対する状態方程式の導出 第5回 数学モデルと図的モデル 第6回 状態方程式の解の導出とその特性 第7回 自励振動系と他励振動、強制系 第8回 位相面解析 第9回 状態空間における軌道と安定性、分岐現象 第10回 線形システムにおける状態方程式、行列を用いた解析法 第11回 ラプラス変換の性質と微分方程式の解法 第12回 ラプラス逆変換による解析手法 第13回 伝達関数、線形システムの入出力特性 第14回 伝達関数とブロック線図 第15回 試験		
教科書	特に指定はない。 作成したプリント等を用いる。		
参考書・資料	『非線形制御システムの解析』平井一正、池田雅夫著(オーム社) 授業中に参考書を紹介予定。		
講義関連事項	微分積分や線形代数の知識が必要。		

担当者から一言	講義「応用システム解析Ⅰ＆Ⅱ」を通して、システム理論や制御理論を学ぶことで、離散時間システムやデジタル機器などの基本的な概念および応用力を身に付けてもらうことにある。数学分野だけでなく、工学的にも応用されている様々な数学理論の一端を学んでもらう。また、システムにおける入出力関係や応答特性、安定性などについて考え、より一層の理解力を深めることにある。
その他	知能情報学部2年次配当科目「応用システム解析」と同時開講。
ホームページタイトル	{応用システム解析Ⅰ, http://www.is.konan-u.ac.jp/~wada/lecture/system/ }

授業コード	24044		
授業科目名	応用システム解析Ⅱ（後）		
担当者名	和田昌浩(ワダ マサヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	月曜14:40～16:10 水曜10:40～12:10		

講義の内容	この講義では、「応用システム解析Ⅰ」の内容に加え、より高度なシステムの解析を目的とする。講義では、主に線形定係数の方程式を中心にシステムの諸概念を述べる。また、離散システムと連続システムにおけるカオス現象も考える。一般の非線形系で記述されるカオス現象は連続時間システムである。一方、離散時間で表される系では差分方程式を用いた簡単なシステムで記述することができる。まずは、離散時間におけるカオスシステムを学んでもらい、続いて連続時間におけるカオスの特徴やその解法などを学習する。いくつかのシミュレーションをMATLABやMathematicaなどを用いてデモを行う。
到達目標	数学モデルによる解析やシミュレーションを通して、様々なシステム理論の制御理論や安定性の解析について理解する。
講義方法	配布するプリントを中心に講義を行う。演習問題やレポートも行う。また、実験機材やビデオ教材等を用い、理論だけでなく実際のシステムを用いた授業も行う。
準備学習	1年次に学習する微分積分、線形代数を十分に理解しておくこと。
成績評価	定期試験期間中に行う一回の筆記試験の採点および出席状況、レポートによって評価する。定期試験6、出席・レポート4の割合(予定)で評価する。
講義構成	第1回 伝達関数と入出力関係 第2回 システム構造の記述とその等価変換 第3回 特性方程式とシステムの固有値 第4回 状態変数変換とシステムの等価性 第5回 システムの固有値と時間応答との関係 第6回 過渡特性と周波数応答の関係 第7回 安定性の定義と安定判別法、特性根と安定性との関係 第8回 安定性1: ラウスの安定判別法 第9回 安定性2: フルビッツの安定判別法 第10回 状態方程式、遷移行列 第11回 状態方程式と伝達関数 第12回 状態方程式とブロック線図 第13回 カオス1: カオスと線形写像 第14回 カオス2: カオスの発生メカニズムと分岐現象 第15回 試験
教科書	特に指定はない。 作成したプリント等を用いる。
参考書・資料	『非線形制御システムの解析』平井一正、池田雅夫著(オーム社) 授業中に参考書を紹介予定。
講義関連事項	特に「応用システム解析Ⅱ」では、微分積分および線形代数の知識を必要とするため復習しておくこと。

担当者から一言	本講義では、「応用システム解析Ⅰ」の内容に引き続き、システム理論をより深く学んでいくものである。そのため、「応用システム解析Ⅰ」を受講しており、ある程度内容を理解していることが望ましい。
その他	知能情報学部2年次配当科目「システム制御工学」と同時開講。
ホームページタイトル	{応用システム解析Ⅱ, http://www.is.konan-u.ac.jp/~wada/lecture/system/ }

授業コード	24022		
授業科目名	応用統計解析(後)		
担当者名	小出武(コイデ タケン)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	確率や統計を始めとする基礎理論や基本概念が、科学的意思決定においてどのように用いられているかについて学習する。
到達目標	科学的に意思決定するために用いられる主な理論や概念を理解し、簡単な問題に対して意思決定手法を適用できる。
講義方法	教科書に沿って基本事項の解説を行い、問題演習を通して理解を深める。
準備学習	事前に教科書を予習しておくこと。 また、確率統計に関する基本的な知識を必要とする内容を含むので、簡単に復習してほしい。
成績評価	定期試験、授業での貢献度によって総合的に評価する。
講義構成	第1回 意思決定の基本的考え方 第2回 確率 ベイズの定理 第3回 確率 確率とレピュテーション 第4回 ベイズ意思決定 決定のしかた 第5回 ベイズ意思決定 ベイズとミニマックス 第6回 ベイズ統計学入門 パラメータの事前分析 第7回 ベイズ統計学入門 ベイズ推定と誤差評価 第8回 リスクと不確実性 リスク回避 第9回 リスクと不確実性 ポートフォリオ選択 第10回 ゲーム理論の基礎 2人ゼロ和ゲーム 第11回 ゲーム理論の基礎 主な非協力ゲーム 第12回 ゲーム理論の発展 協力ゲーム 第13回 ゲーム理論の発展 展開ゲーム 第14回 集団的決定 第15回 定期試験
教科書	松原 望,「意思決定の基礎」, 朝倉書店, 2001, 3,600円＋税。
講義関連事項	教科書は必ず購入すること。

授業コード	24049		
授業科目名	管理科学(後)		
担当者名	平尾周平(ヒラオ シュウヘイ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	「組織科学」で展開した組織論の延長で、ポスト・モダンの科学としての管理論を展開する。公式的な組織には、組織設計と管理は不可欠である。オートポイエティックな社会システムと、その社会システムの内部に構築される公式的な組織の重なり合いと乖離を明らかにすることによって、そこから派生する管理上の諸問題を検討する。さらに、人間をそれ自身オートポイエティックな存在であるという視点にたつたとき、そこから生じる新たな管理的諸問題を検討し、情報化社会のふさわしい管理の有るべき姿を提示し、将来の管理者としての素養を学び取らせることが目的である。
到達目標	管理とは何かを考えさせる。人と人との関連の中に成立する概念であるため、人とは何か、ということを考える基礎付けをする。その理解に立って、人の上に立つことの重要性和困難さを自ら学び取ってもらい、管理者像を描けるようにする
講義方法	講義内容に関するレポートを必要な都度、提出させ、作文内容を材料にしながら、各自、自ら問題意識を持ち、自ら解決方法を思考する習慣づけをおこなうよう工夫しながら、講義を進める。

準備学習	いかに問題意識を深く持つか、問題意識をいかに自ら自身の解決へと導いていけるか、こうした基本的な思考態度を養成することを目的としているので、取り立てて、準備学習を要求することはない。日ごろから「～とは何か」という思考態度の馴致を求める。
成績評価	毎回出席を取り、出席者に必要に応じてレポート提出を義務付け、内容に関して質問を繰り返すので、解答内容によって、到達度はある程度把握できる。最終試験で到達点に達しているかどうかの判断をおこなう。
講義構成	第1回 前期まとめ 第2回 システムとは 第3回 第3世代システム理論 第4回 自己創出的システム 第5回 システムと環境 カップリング, 相互浸透 第6回 システムの生成と行為論 第7回 観察の限界 第8回 主体性と心的システム 第9回 コミュニケーションの概念と行為 第10回 公式組織と行動期待 第11回 個人と組織の裂け目 第12回 社会化問題(社員教育) 第13回 組織と管理問題 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	なし

授業コード	24024		
授業科目名	グラフ理論I(前)		
担当者名	風間健一郎(カザマ ケンイチロウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	ここで言うグラフとは、関数のグラフや統計のグラフのことではない。道路・鉄道網とか、物質の分子構造とか、人の間の友人関係とかを、物と物のつながりかた、という視点から抽象化した概念がグラフである。グラフは簡単な図形として表すことができるため、理解しやすいという側面も持つが、反面、数学の一分野としてたいへん深い研究対象ともなっている。また、特にコンピュータサイエンスの分野では、データ構造やアルゴリズムとも関連して、重要な知識となっている。この講義では、グラフ理論の基本的な事柄を学習していく。
到達目標	グラフ理論の基本的な用語、定理等について理解すること。
講義方法	普通の講義。レポート等を課すこともある。
準備学習	予備知識などは特に必要としない。
成績評価	定期試験により評価する。レポート等の提出は加点の対象とする。
講義構成	第1回 はじめに グラフとは何か 第2回 基本的な定義 第3回 例 第4回 連結性 第5回 オイラー・グラフ 第6回 ハミルトン・グラフ 第7回 アルゴリズム 第8回 木の性質 第9回 木の数え上げ 第10回 応用 第11回 平面的グラフ 第12回 オイラーの公式 第13回 曲面上のグラフ 第14回 双対グラフ 第15回 試験
教科書	「グラフ理論入門」 R. J. ウィルソン著 西関隆夫・西関裕子共訳 近代科学社

授業コード	24025		
授業科目名	グラフ理論Ⅱ(後)		
担当者名	風間健一郎(カザマ ケンイチロウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	ここで言うグラフとは、関数のグラフや統計のグラフのことではない。道路・鉄道網とか、物質の分子構造とか、人の間の友人関係とかを、物と物のつながりかた、という視点から抽象化した概念がグラフである。グラフは簡単な図形として表すことができるため、理解しやすいという側面も持つが、反面、数学の一分野としてたいへん深い研究対象ともなっている。また、特にコンピュータサイエンスの分野では、データ構造やアルゴリズムとも関連して、重要な知識となっている。この講義では、グラフ理論の基本的な事柄を学習していく。		
到達目標	グラフ理論の基本的な用語、定理等について理解すること。		
講義方法	普通の講義。レポート等を課すこともある。		
準備学習	「グラフ理論Ⅰ」を履修していることが望ましい。		
成績評価	定期試験により評価する。レポート等の提出は加点の対象とする。		
講義構成	第1回 復習 第2回 点彩色 第3回 Brooksの定理 第4回 地図の彩色 第5回 辺彩色 第6回 彩色多項式 第7回 有向グラフ 第8回 オイラー有向グラフとトーナメント 第9回 マルコフ連鎖 第10回 Hallの結婚定理 第11回 横断理論 第12回 Hallの定理の応用 第13回 Mengerの定理 第14回 ネットワークフロー 第15回 試験		
教科書	「グラフ理論入門」 R. J. ウィルソン著 西関隆夫・西関裕子共訳 近代科学社		

授業コード	24016		
授業科目名	経営情報概論Ⅰ(前)		
担当者名	中井秀樹(ナカイ ヒデキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	情報化社会における情報の活用に関する理解を深めるために、様々な観点からの情報についての解説を行う。また、情報にかかわる文化や文明、社会的・学問的な理解に関する取り組みを紹介する。また、経営情報学に関して、人間を中心としてとらえた考え方を紹介する。		
到達目標	社会における情報システムや情報技術の利用に関する理解を深める。また、自分の身の回りで実際に利用されている情報技術に関して、具体的に考察を行ってみる。 企業など組織における情報活用に関する知識を得る。また、現代行われている情報活用に関する理解を深める。 具体的な分析手法は度に関しても知識を得る。		
講義方法	プレゼンテーションソフトによる提示情報と口頭での説明。ワークを行う場合もある。		
準備学習	新聞やネットのニュースで、社会の変化に関して常に気を配っておく。		

成績評価	定期試験及び小レポートなどから評価(ほぼ100%)。出席状況や受講態度も考慮する(+α)
講義構成	1.ガイダンス 2.情報化社会の成り立ち 脱工業化社会と情報化社会 3.情報化社会と情報文明 文化と文明に違いを踏まえて 4.情報・経営情報 5.組織と情報 6.情報活用における人的資源 7.経営情報と意思決定 8.情報化・デジタル化 9.情報の活用と情報システム 10.情報処理システムにおける技術の変遷 11.MISと経営情報システム 12.まとめ
教科書	なし
担当者から一言	便利な社会の裏側の仕組みとしての情報システムを知ってみてください。
URL	http://www.geocities.jp/nak_lab2009jp/mis.htm

授業コード	24017		
授業科目名	経営情報概論II(後)		
担当者名	中井秀樹(ナカイ ヒデキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	情報化社会における実際の情報活用に関する事例を紹介しながら、ICT活用や情報戦略について学ぶ。また、グローバル化が進む現代における日本の経営に関してなどの解説を行い、世界の中の日本に関する理解を深める。
到達目標	現代の企業における経営情報の活用に関わる専門用語の理解と、事例における優位点と問題点などを考え、より実践的な情報活用に関しての理解を深める。
講義方法	プレゼンテーションソフトによる提示情報と口頭での説明。ワークを行う場合もある。
準備学習	新聞やネットのニュースで、社会の変化に関して常に気を配っておく。
成績評価	定期試験及び小レポートなどから評価(ほぼ100%)。出席状況や受講態度も考慮する(+α)
講義構成	1.ガイダンス 2.社会の中の情報技術 2-1.情報処理技術 2-2.通信技術 2-3.ロボット・人工知能 3.情報とは 3-1.身近に扱う情報の留意点についての紹介 3-2.情報と感情(行動経済学) 4.日本的経営と経営情報 4-1.日本的経営とは 4-2.年功序列と終身契約 4-3.日本のリーダー像 5.情報活用戦略の事例 5-1.情報システムの構築事例 5-2.情報戦略の事例と補完財 5-3.情報システム関連のニュース 6.まとめ
教科書	なし
担当者から一言	情報の活用は企業にとってはもちろん、我々個人にとっても重要なことです。ぜひ、自分なりの情報活用に関して考えてみてください。

URL	http://www.geocities.jp/nak_lab2009jp/mis.htm
-----	---

授業コード	24050		
授業科目名	経営情報システムI(後)		
担当者名	石倉弘樹(イシクラ ヒロキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限

講義の内容	経営情報システムとは、組織における運営、マネジメント、分析、および意思決定を支援するために情報を準備する統合的ユーザーマシンシステムである。このため経営情報システムを論じるにはその前提となる経営学と情報技術についての説明が必要となるが、時間的制約があるため、本講義では経営情報システムを理解する上で最も体系だった知識が大切となる意思決定支援を中心に論述する。経営学と情報技術の重要な事柄については、学習の中で具体的な例を通して触れる。将来学んだ内容を容易に利用できるように、広く使われているマイクロソフトExcelを使用する。 I では定性的な構造的な意思決定問題について学習する。 II ではモデル化及び定式化が容易でない、非構造的な経営問題について、最適化の考え方を応用し、意思決定支援を行うための方法論について学習する。		
到達目標	PCを用いた意思決定ができるようになること。		
講義方法	PC演習室で、Excelを用いて演習形式で行なう。		
準備学習	PCによく慣れておくこと。		
成績評価	出席、講義時間中の提出物、試験の成績から総合的に判断する。		
講義構成	I (1)ゴールシークとシナリオ (2)最適生産計画 (3)線形計画問題 (4)非線形計画問題 (5)輸送計画 (6)感度分析 (7)整数計画問題 (8)0-1計画問題 (9)近似曲線 (10)成長曲線 (11)回帰分析 (12)まとめ		
教科書	I 荻田正雄「Excelでできる最適化の実践らくらく読本」同友館		

授業コード	24051		
授業科目名	経営情報システムII(後)		
担当者名	石倉弘樹(イシクラ ヒロキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	経営情報システムとは、組織における運営、マネジメント、分析、および意思決定を支援するために情報を準備する統合的ユーザーマシンシステムである。このため経営情報システムを論じるにはその前提となる経営学と情報技術についての説明が必要となるが、時間的制約があるため、本講義では経営情報システムを理解する上で最も体系だった知識が大切となる意思決定支援を中心に論述する。経営学と情報技術の重要な事柄については、学習の中で具体的な例を通して触れる。将来学んだ内容を容易に		
-------	---	--	--

	利用できるように、広く使われているマイクロソフトExcelを使用する。 I では定性的な構造的な意思決定問題について学習する。 II ではモデル化及び定式化が容易でない、非構造的な経営問題について、最適化の考え方を応用し、意思決定支援を行うための方法論について学習する。
到達目標	PCを用いた意思決定ができるようになること。
講義方法	PC演習室で、Excelを用いて演習形式で行なう。
準備学習	PCによく慣れておくこと。
成績評価	出席、講義時間中の提出物、試験の成績から総合的に判断する。
講義構成	II (1)目的関数を決める前に (2)制約条件を決める前に (3)決定変数を決める前に (4)コラボレーションと生産性向上 I (5)コラボレーションと生産性向上 II (6)コラボレーションと生産性向上 III (7)専門家の直感と最適化 I (8)専門家の直感と最適化 II (9)専門家の直感と最適化 III (10)倫理と生産性 I (11)倫理と生産性 II (12)情報とコミュニケーション
教科書	II 石倉弘樹「企業と意思決定」マナハウス

授業コード	24015		
授業科目名	コンパイラ(後)		
担当者名	若谷彰良(ワカタニ アキヨシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	プログラミング言語の持っている言語モデルと、OS/コンピュータアーキテクチャの間を、目的に応じて埋めるコンパイラとインタプリタの役割と構成及び実現方法を理解させるとともに、簡単なコンパイラ・インタプリタを作成できる基礎的能力を育成することを目指す。内容は、字句解析、構文解析、コード生成を含む。
到達目標	コンパイラとインタプリタの役割と構成及び実現方法が理解でき、簡単なコンパイラ・インタプリタを作成できる基礎的能力が育成される
講義方法	講義とともに数回の実習(場所、曜日、時限は別途連絡)を行なう。
準備学習	参考書および新聞・雑誌・webなどから関連する情報の収集に努めること。
成績評価	日頃の出席、随時行う小テスト、実習での課題提出と定期試験により評価する。評価を「欠席」として扱うのは定期試験を受けない場合のみである。
講義構成	第1回 コンパイラ概要とBNF(1) 第2回 コンパイラ概要とBNF(2) 第3回 字句解析とオートマトン(1) 第4回 字句解析とオートマトン(2) 第5回 演算子順位による構文解析 第6回 中間言語と記号表 第7回 下向き構文解析(1) 第8回 下向き構文解析(2) 第9回 コンパイラ・コンパイラ(flex/bisonについて) 第10回 誤り処理 第11回 実行時環境 第12回 レジスタ割り当てとコード生成

	第13回 実習1:flex/bisonによる簡易なインタプリタの作成 第14回 実習2:flex/bisonによる簡易なインタプリタの応用 第15回 試験
教科書	なし
参考書・資料	「コンパイラ入門」(サイエンス社、山下義行著、2008年) 「コンパイラの仕組み」(朝倉書店、渡邊坦著、1998年) 「コンパイラの構成と最適化」(朝倉書店、中田育男著、1999年)
担当者から一言	随時、講義の最後に小テスト(QUIZ)を行なう。
ホームページタイトル	{若谷ホームページ,http://pplinux.is.konan-u.ac.jp/~wakatani/}
URL	http://pplinux.is.konan-u.ac.jp/~wakatani/

授業コード	24001		
授業科目名	コンピュータサイエンスI (A)(後)		
担当者名	田村祐一(タムラ ユウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
特記事項	情報システム工学科		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	コンピュータは様々な理論や技術の集積で構成されている。これらの個々の知識の詳細は今後専門分野を学習することで習得することとなるが、この講義ではそれぞれの項目について深く学ぶのではなく、個々の分野がコンピュータサイエンスのどの分野と関連しているのかを示す。
到達目標	本講義では専門分野を学ぶ前の準備、つまり点で存在する専門分野の内容を線でつなぎ、最終的にハードウェア、ソフトウェア、システム等の観点からコンピュータ全体の概略を理解することを目標とする。
講義方法	こちらから提示する資料を中心に講義を進める。知識定着のため、数回小テスト(練習問題)を行う。
準備学習	特に必要なし。
成績評価	期末テストの結果および講義中に行う小テストの結果。
講義構成	第1回:ガイダンス、コンピュータの歴史 第2回:デジタルデータとアナログデータ 第3回:基数1 第4回:基数2、情報の表現 第5回:論理回路1 第6回:論理回路2 第7回:論理回路3 第8回:コンピュータのハードウェア1 第9回:コンピュータのハードウェア2 第10回:オペレーティングシステム1 第11回:オペレーティングシステム2 第12回:ネットワーク1 第13回:ネットワーク2、Web 第14回:セキュリティ、プログラミング、コンピュータ応用 第15回:テスト
教科書	特になし。必要な場合にはプリントを配布する。
参考書・資料	理工系のコンピュータ基礎学 稲垣耕作 コロナ社 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室 技術評論社
担当者から一言	コンピュータサイエンスを学ぶにあたり、全体の地図を示すことを目的とします。講義のスピードはどうしても速くなりますので、遅れずついてきてください。

授業コード	24010
-------	-------

授業科目名	コンピュータサイエンスII (後)		
担当者名	藤田 靖(フジタ ヤスシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
講義の内容	昔は、「読み・書き・そろばん」。今は、「読み・書き・コンピュータ」。学生時代も社会に出てからも、コンピュータを使いこなせる能力が必要になります。コンピュータを知るには、コンピュータを使い込む必要があります。 講義では、コンピュータを使うときの基本的なアルゴリズムなどの説明をします。 学生の間に、最低でもITパスポート試験の資格を取ってください。そして、理系の学生なので基本情報技術者試験の資格も目指してください。 講義内では、タイムリーな話題も取り上げる予定です(昨年度の例 世界のナベアツについて、数独(ナンプレ)についてなど)		
到達目標	一人でコンピュータ操作ができ、コンピュータ用語を理解し、調べることができる。		
講義方法	本年は、基本情報処理試験問題・初級シスアド試験問題・ITパスポート試験問題を用いた説明も行います。また、インターネットからいろいろな題材を集めた説明もします。		
準備学習	IT関連のニュースを日頃から読んでおくこと。		
成績評価	(1) 所定の出席日数以上の出席が必要です。毎回の講義終了前に、課題を出し、講義時間内に提出してもらいます。 (2) 毎日の積み重ねが重要なので、頻繁に、小テストを行い評価します。 期末試験は、行いません。 (3) 成績は、小テストの成績を重視します。このため、必ず小テストを受ける必要があります。 (4) 小テストは、いろいろな情報処理試験の過去問題から出します。 (5) レポート提出もあります。レポートはWebページや友達の資料をコピーするのではなく自分の言葉で記入してください。		
講義構成	第 1回 画面遷移 第 2回 PERT 第 3回 画像処理(1) 画像データ 第 4回 画像処理(2) フィルタリング 第 5回 データ計測 第 6回 データ構造 第 7回 サーチ 第 8回 ソート 第 9回 著作権・ライセンス 第10回 データベース 第11回 システム開発 第12回 テスト 第13回 モンテカルロ法 第14回 ライフゲーム		
教科書	基本情報技術者合格教本 須藤 智 (著)・定平 誠(著)／技術評論社 ISBN－10 4774140872 ISBN－13 978－4774140872		
参考書・資料	(1) 基本情報+ITパスポート 計算ドリル 大滝 みや子 著／実教出版／ISBN4-407-31789-2 (2) あなたはコンピュータを理解していますか？ 梅津信幸著／技術評論社／ISBN4-7741-1600-9 (3) プログラムはなぜ動くのか 矢沢久雄著／日経BP社／ISBN4-8222-8101-9		
担当者から一言	IT関連には、いろいろな資格があります。IT関連の勉強をして、いろいろな資格試験も受けてほしい。		

その他	講義中の私語を禁じます。講義を邪魔する学生には、単位を出しません。
-----	-----------------------------------

授業コード	24046		
授業科目名	社会情報ネットワーク論I (前)		
担当者名	中井秀樹(ナカイ ヒデキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	情報化社会の到来により、情報ネットワークは社会インフラの一つとして認知されており、ヨーロッパでは、ネット接続権は基本的人権のうちであると認められるようになってきている。日常生活の多くの部分がネットワークを介して利用できるようになっており、こうしたネットワークに関する事件や犯罪も多発する中で、きちんとした理解が必要となっている。 本稿では、こうした社会に適応するために必要とされる知識習得し、さらには活用する側として求められる知識に関しても紹介する。		
到達目標	社会で活用される情報ネットワークに関しての意識を高め、その技術に関する理解を深める。 ネットワークの仕組みや規格に関する理解を深め、ネットワーク活用に必要となる知識を習得する。		
講義方法	プレゼンテーションソフトによる提示情報と口頭での説明。ワークを行う場合もある。		
準備学習	新聞やネットのニュースで、社会の変化に関して常に気を配っておく。		
成績評価	定期試験及び小レポートなどから評価(ほぼ100%)。出席状況や受講態度も考慮する(+α)		
講義構成	1.ガイダンス 2.社会インフラとしての情報ネットワーク 3.社会変容と情報通信技術 4.異機種間接続とプロトコル 5.通信規約(1)OSI 6.通信規約(2)TCP/IC 7.通信規約(3)その他 8.ドメイン管理とDNS 9.インターネットにおける通信制御 10.電気通信事業者 11.情報共有とセキュリティ 12.ネットワークOSの機能 13.ブロードバンド 14.まとめ		
教科書	なし		

担当者から一言	これからの社会はネットワークをいかに活用するかが重要です。関心を持ち、知識を深めましょう。
URL	http://www.geocities.jp/nak_lab2009jp/net.htm

授業コード	24047		
授業科目名	社会情報ネットワーク論II (後)		
担当者名	中井秀樹(ナカイ ヒデキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	ネットワーク技術での最近の中心になっている無線技術に関して、その仕組みや社会での活用事例などを紹介しながら、長所と短所の理解など活用する上での注意点などに関する理解を深める。 また、昨今の電子政府やユビキタス・コンピューティングなど生活に影響を与えるであろう情報ネットワークの活用事例とその仕組みなどを紹介する。		
到達目標	無線技術に関する知識の習得。 ネットワークを活用したビジネスの紹介と利用釣る上での留意点の理解。		

講義方法	プレゼンテーションソフトによる提示情報と口頭での説明。ワークを行う場合もある。
準備学習	新聞やネットのニュースで、社会の変化に関して常に気を配っておく。
成績評価	定期試験及び小レポートなどから評価(ほぼ100%)。出席状況や受講態度も考慮する(+ α)
講義構成	1.ガイダンス 2.無線技術と通信 3.携帯型端末と通信制御 4.社会における情報通信技術 5.情報システムとネットワーク技術 6.電子商取引1 7.電子商取引2 8.電子商取引と電子決済システム 9.SCMとネットワーク 10.SOHO 11.電子政府 12.ユビキタス・ネットワーク 13.住民基本台帳ネットワーク 14.まとめ
教科書	なし
担当者から一言	社会の中心となっている無線技術についての知識や、電子政府などこれからの社会のあり方について考えてみましょう。
URL	http://www.geocities.jp/nak_lab2009jp/net.htm

授業コード	24011		
授業科目名	情報解析I(後)		
担当者名	北村達也(キタムラ タツヤ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	講義期間中の月曜日から金曜日まで随時.		

講義の内容	本講義では、様々な分野の基礎となるフーリエ解析及び常微分方程式の解法に関する知識を習得し、その応用例を学ぶ。フーリエ解析は信号やシステムの解析に極めて重要なものであり、微分方程式はあらゆる分野の現象の記述に必要不可欠なものである。1年次に学習した微分積分を基礎として、演習を織り交ぜながら講義を進める。
到達目標	(1) 連続時間信号、離散時間信号に対するフーリエ級数展開、フーリエ変換を求める技能を習得する。 (2) 種々の解法を用いて常微分方程式の一般解及び特殊解を求める技能を習得する。
講義方法	スライド、板書、及び演習
準備学習	微積分を多用するため、1年次の「微分積分及び演習」の内容を習得していることが望ましい。
成績評価	定期試験、小テスト
講義構成	第1回 概論 第2回 数列 第3回 級数 第4回 連続時間フーリエ級数展開(1) 第5回 連続時間フーリエ級数展開(2) 第6回 連続時間フーリエ級数展開(3) 第7回 連続時間フーリエ変換(1) 第8回 連続時間フーリエ変換(2) 第9回 離散時間フーリエ級数展開 第10回 離散時間フーリエ変換と離散フーリエ変換 第11回 微分方程式(1) 第12回 微分方程式(2) 第13回 微分方程式(3) 第14回 総括
教科書	なし。適宜資料を配布する。

参考書・資料	大石,「フーリエ解析」,岩波書店(1989) 船越,「キーポイント フーリエ解析」,岩波書店(1997) 石村,「すぐわかる微分方程式」,東京図書(1995) 水田,「大学で学ぶやさしい微分方程式」,サイエンス社(2008)
講義関連事項	講義資料は全てMy Konanに掲載する。
担当者から一言	フーリエ解析と微分方程式は理学や工学の様々な分野の基礎となります。自分の手を動かして理解を深めてください。
URL	http://basil.is.konan-u.ac.jp/

授業コード	24012		
授業科目名	情報解析Ⅱ(後)		
担当者名	長瀬昭子(ナガセ テルコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	簡単な常微分方程式の解法と解に関する基礎的な知識を習得し、その応用例を学ぶ。
到達目標	簡単な微分方程式が求積法で解ける。定数係数の線形微分方程式が解ける。連立線形微分方程式が解ける。解曲線が平面に描ける。微分方程式を応用しての問題解決法を知る。
講義方法	主に講義を行い、演習問題を解いて理解を深める。
準備学習	積分の公式の復習、行列の対角化がスムーズに計算できるように復習しておく。
成績評価	期末試験と授業中に課す小テスト、レポートの成績を総合して評価する。
講義構成	第1回 微分方程式の例と解 第2回 求積法による微分方程式の解法 第3回 1階線形微分方程式の解法 第4回 初期値問題に対する解の存在と一意性 第5回 定数係数2階線形微分方程式 1. 第6回 定数係数2階線形微分方程式 2. 第7回 連立微分方程式の解法1, 第8回 問題演習 第9回 線形微分方程式系の解の基本性質 第10回 行列の指数 第11回 2次元自励系の解挙動の分類 第12回 ベキ級数解 第13回 応用1. 第14回 応用2. 第15回 期末試験
教科書	「微分方程式」長瀬道弘著 裳華房
参考書・資料	微分方程式 その数学と応用(上下)M.ブラウン
講義関連事項	線形代数、微分積分

担当者から一言	講義のホームページを見てください。
ホームページタイトル	「情報解析Ⅱ(後)」ホームページ, http://www.syllabus.konan-u.ac.jp/customer/01/index.jsp?toc=3751

授業コード	24030		
授業科目名	情報幾何（前）		
担当者名	風間健一郎(カザマ ケンイチロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	この講義の目的は、「計算幾何学」への入門的事柄を紹介することである。CGなどの例をあげるまでもなく、今
-------	---

	日ではコンピュータで(広い意味の)図形を扱うことは当たり前になっている。図形を扱う数学の分野が幾何学であるが、計算幾何学では、単に問題が数学的に解けた、というだけではなく、それを「うまく」解く、つまり効率の良いアルゴリズムを開発することを目的としている。ここでは、この分野のいくつかの基本的な話題を中心に解説する。
到達目標	講義で紹介する、いくつかの基本的な話題について、発想からアルゴリズムにまとめるまでの流れを理解すること。また、簡単な図形の性質が、その過程でどのように生かされているかを理解すること。
講義方法	通常の講義。レポートを課すこともある。
準備学習	予備知識は特に必要としないが、三角形、円など平面図形の基本的な性質を思い出しておくに役立つであろう。
成績評価	定期試験で評価する。レポートの提出は加点の対象とする。
講義構成	第1回 はじめに 第2回 計算量について 第3回 基本的な事柄 第4回 交差(1) 第5回 交差(2) 第6回 凸包(1) 第7回 凸包(2) 第8回 凸包(3) 第9回 ポロノイ図(1) 第10回 ポロノイ図(2) 第11回 ポロノイ図(3) 第12回 ポロノイ図(4) 第13回 幾何学的変換法(1) 第14回 幾何学的変換法(2) 第15回 まとめ
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	徳山豪「はみだし幾何学」(岩波科学ライブラリー18)岩波書店 譚学厚、平田富夫「計算幾何学入門」森北出版 David Avis、今井浩、松永信介「計算幾何学、離散幾何学」朝倉書店 杉原厚吉「データ構造とアルゴリズム」共立出版

授業コード	24027		
授業科目名	情報システム工学実験及び演習(前)		
担当者名	前田多章(マエダ カズアキ)、中山弘隆(ナカヤマ ヒロタカ)、中易秀敏(ナカヤス ヒデトシ)、松本茂樹(マツモト シゲキ)、岳 五一(ガク ゴイチ)、堀内清光(ホリウチ キヨミツ)、田中雅博(タナカ マサヒロ)、渡邊栄治(ワタナベ エイジ)、若谷彰良(ワカタニ アキヨシ)、和田昌浩(ワダ マサヒロ)、森元勲治(モリモト カンジ)、新田直也(ニッタ ナオヤ)、北村達也(キタムラ タツヤ)、梅谷智弘(ウメタニ トモヒロ)、永田 亮(ナガタ リョウ)、灘本明代(ナダモト アキヨ)、阪本邦夫(サカモト クニオ)、田村祐一(タムラ ユウイチ)、小出武(コイデ タケシ)、高橋 正(タカハシ タダシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	事前に許可を得た者のみが履修できる		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」(4年次配当、必修)、「情報システム工学特別演習」(4年次)を行う上での基礎知識の獲得を考慮して開講される。したがって、当該研究室における「卒業研究及び演習」および「情報システム工学特別演習」の履修(研究室配属)を希望する者は、当該教員が実施する実験及び演習のテーマを履修することが望ましい。
到達目標	少人数クラスで、3つの基礎的研究テーマを連続して受講することにより、情報システム工学の基礎的な研究課題を深く理解し、卒業研究につながる基礎力を身につける。
講義方法	受講者は、許可された3つのテーマ(1テーマあたり4週間)を、前期期間中の定められた日程にしたがって受講する。これらのテーマはテーマごとに、(i)情報教育研究センター実習室(2号館、13号館)、(ii)講義室、および (iii)13号館の実験室に分かれて実施されるので、それぞれのテーマの実施場所によく注意すること。
準備学習	テーマごとに指示するので、各テーマの担当教員に確認のこと。

成績評価	出席状況、実験態度、および報告書をもとに総合的に評価する。
講義構成	[[テーマ名・担当教員] (1) MATLABによる機械学習プログラミング(中山) (2) 情報通信ネットワークや分散情報処理システムに関するシミュレーション(岳) (3) 知覚と認知実験(中易) (4) OpenCVによるコンピュータビジョン(田中) (5) 数式処理システムを用いたプログラミング(松本) (6) 実験的数理学のためにガッテン(森元) (7) 階層型ニューラルネットワークの学習法と画像処理への応用(渡邊) (8) 画像処理の応用と並列処理の基礎(若谷) (9) 連立方程式の解法を考えよう(高橋) (10) 次元の話(堀内) (11) 脳波計による脳内情報処理過程の観察(前田) (12) MATLABによる音声情報処理の基礎演習(北村) (13) Webに関する演習(灘本) (14) メディアアートとインタラクション(阪本) (15) OpenGLを使ったアニメーションの作成(田村) (16) マルチエージェントシミュレーション(小出) (17) LEGOとMATLABによるロボットシミュレーション(和田) (18) eclipseを用いたオブジェクト指向プログラムの開発(新田) (19) 物理シミュレータを用いたロボット動作の理解(梅谷) (20) 言語処理技術を利用した迷惑メールフィルタ／文書分類器の作成(永田)
教科書	テーマごとに指定する。
参考書・資料	テーマごとに指定する。
講義関連事項	なし
担当者から一言	本科目の履修を希望する者は、前年度後期に実施される説明会に出席しなければならない。
その他	なし
ホームページタイトル	情報システム工学実験及び演習

授業コード	24J01		
授業科目名	情報システム工学特別演習(中山)(集中)		
担当者名	中山弘隆(ナカヤマ ヒロタカ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」(4年次配当、必修8単位)をタイプAのゼミに所属して履修する学生が履修する科目である。卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、『卒業論文発表会』において発表する。とくに、論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置く。
到達目標	卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、『卒業論文発表会』において発表する。研究成果を効果的にまとめ、発表する能力を涵養する。
講義方法	講義日時(集中)はゼミごとに定める。
準備学習	論文やスライドの発表内容を十分に吟味して作成すること。
成績評価	主として、各ゼミにおいて課される卒業論文、および『卒業論文発表会』におけるプレゼンテーションを評価の対象とする。
講義構成	論文および発表用スライドの作成について、学生同士の相互チェックや教員の指導を通じ、どのようにすれば理解しやすくなるか、工夫する。
教科書	研究テーマ毎に決める。

授業コード	24J02
-------	-------

授業科目名	情報システム工学特別演習(岳)(集中)		
担当者名	岳 五一(ガク ゴイチ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」(4年次配当、必修8単位)をタイプAのゼミに所属して履修する学生が履修する科目である。卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、「卒業論文発表会」において発表する。とくに、論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置く。
到達目標	論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置き、卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、「卒業論文発表会」において発表できることを到達目標とする。
講義方法	文献講読および卒業研究を通じて、論文の書き方とプレゼンテーションの資料の作成方法、プレゼンテーションの仕方などの学習をしてもらう。
準備学習	3年時の岳が担当している授業科目の内容を復習しておくこと。
成績評価	主として、当ゼミにおいて課した卒業論文、および「卒業論文発表会」におけるプレゼンテーションを評価の対象とする。
講義構成	卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、「卒業論文発表会」において発表できるように、毎回の授業ではプレゼンテーションの資料の作成、論文の書き方とプレゼンテーションの学習と実践を行う。
教科書	指定しない。
参考書・資料	進行状況に応じて指定する。

授業コード	24J03		
授業科目名	情報システム工学特別演習(中易)(集中)		
担当者名	中易秀敏(ナカヤス ヒデトシ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」(4年次配当、必修8単位)をタイプAのゼミに所属して履修する学生が履修する科目である。卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、『卒業論文発表会』において発表する。とくに、論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置く。
到達目標	卒業研究の内容を把握して、目的と意義、実験計画と準備の方法、結果と考察を明確にプレゼンテーションできるようにする。
講義方法	講義日時(集中)はゼミごとに定める。
準備学習	卒業研究の内容を自発的に進展させ、それらをまとめる能力を養成する。
成績評価	主として、各ゼミにおいて課される卒業論文、および『卒業論文発表会』におけるプレゼンテーションを評価の対象とする。
講義構成	1. 研究発表の準備(研究成果のとりまとめ方) 2. パワーポイントの作成。 3. プレゼンテーションでの話し方 4. 質疑応答の工夫
教科書	なし
参考書・資料	なし
担当者から一言	恥をかくことを恐れては上達はあり得ない。実践でどれだけ失敗をするかが大切。

授業コード	24J04
-------	-------

授業科目名	情報システム工学特別演習(田中)(集中)		
担当者名	田中雅博(タナカ マサヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」(4年次配当、必修8単位)をタイプAのゼミに所属して履修する学生が履修する科目である。卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、『卒業論文発表会』において発表する。とくに、論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置く。		
到達目標	[発表会] 卒論発表会において、学会発表のような発表ができることが目標である。すなわち、 (1) 起承転結のはっきりした、わかりやすい内容のスライド (2) 学術的に正確な内容 (3) 聞いている人が納得する話し方。原稿を手に持たない (4) 発表会にふさわしい態度と服装 などに重点を置いて指導する。 [論文] LaTeXを用い、本格的な論文を書く。学生は1月中旬までに論文を書き、提出する。その後、平均して3～4回の添削を経て、2月中旬の発表会までに論文を仕上げていく。		
講義方法	卒業研究を行っていく過程で、頻繁に中間発表を行う。実験が収束段階に入る12月以降、論文の執筆に取りかかる。また、2月中旬の卒論発表会に向けて、2月から集中的に発表に関する指導を行う。		
準備学習	事前に十分な時間をかけて発表用スライドを作成し、話す練習を行うこと。論文の執筆に関しては、「卒業研究」において実験と平行して行っていくため、実験の成果が出てくる、12月頃から集中的に執筆することになる。従って、この時期には、十分な研究時間を確保しておくことが必要である。		
成績評価	主として、卒業論文、および『卒業論文発表会』におけるプレゼンテーションを評価の対象とする。		
講義構成	春から中間発表を繰り返すが、本特別演習としては、特に、12月以降の論文執筆と、2月の発表練習に力を注ぐ。卒業研究と完全に連動して進めていく。		
教科書	卒業研究の中で指定する。		

授業コード	24J05		
授業科目名	情報システム工学特別演習(渡邊)(集中)		
担当者名	渡邊栄治(ワタナベ エイジ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」(4年次配当、必修8単位)をタイプAのゼミに所属して履修する学生が履修する科目である。卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、『卒業論文発表会』において発表する。とくに、論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置く。		
到達目標	発表資料を基にして、他者に対して、分かりやすい説明を行うことができるとともに、適切に質疑応答を行うことができる能力を身につけることが望ましい。		
講義方法	講義日時(集中)はゼミごとに定める。		
準備学習	研究の進捗状況をメモにまとめ、研究室で報告するなど、日頃からの積み重ねが肝要である。		
成績評価	主として、各ゼミにおいて課される卒業論文、および『卒業論文発表会』におけるプレゼンテーションを評価の対象とする。		
講義構成	テーマの選定に関する報告、討論 中間報告会 卒業論文の作成		

	卒業研究発表会
教科書	なし.
参考書・資料	関連する論文, 書籍.

授業コード	24J06		
授業科目名	情報システム工学特別演習(若谷)(集中)		
担当者名	若谷彰良(ワカタニ アキヨシ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」(4年次配当、必修8単位)をタイプAのゼミに所属して履修する学生が履修する科目である。卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、『卒業論文発表会』において発表する。とくに、論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置く。		
到達目標	研究における成果を論文としてまとめ、その内容を口頭発表することができる。		
講義方法	講義日時(集中)は「卒業研究及び演習」の最初の講義日および随時に決定し、口頭発表の練習を中心に行う。		
準備学習	論文作成や口頭発表の準備などを、随時、各自で実施すること。		
成績評価	主として、各ゼミにおいて課される卒業論文、および『卒業論文発表会』におけるプレゼンテーションを評価の対象とする。		
講義構成	以下の事柄に関して、計画・実施・評価のサイクルを繰り返し、プレゼンテーション能力の研鑽に励む。 1. 研究の背景、先行研究の動向、研究目的とねらい 2. 研究内容の紹介(方法、結果) 3. 研究成果の説明 4. 研究の結論		
教科書	なし		

授業コード	24J07		
授業科目名	情報システム工学特別演習(前田)(集中)		
担当者名	前田多章(マエダ カズアキ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」(4年次配当、必修8単位)をタイプAのゼミに所属して履修する学生が履修する科目である。卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、『卒業論文発表会』において発表する。とくに、論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置く。		
到達目標	計測原理、操作方法、解析方法などを学ぶとともに、生体情報の研究手法を理解する。特に、脳波計を用いた生体情報計測技術の基礎を身につける。		
講義方法	実習形式で行う。		
準備学習	ヒトの脳機能に関する基本的な知識(神経細胞の興奮機序、興奮の伝導機序、脳における神経接合等)を予め身につけていること。ブレインサイエンスおよび感覚生理学の講義を受講していることが望ましい。		
成績評価	主として、各人が課される卒業論文、および『卒業論文発表会』におけるプレゼンテーションを評価の対象とする。		
講義構成	下の事柄に関して、計画・実施・評価のサイクルを繰り返し、プレゼンテーション能力の研鑽に励む。 1. 研究の背景、先行研究の動向、研究目的とねらい 2. 研究内容の紹介(方法、結果)		

	3. 研究成果の説明 4. 研究の結論
教科書	なし
参考書・資料	各自が文献調査する。
講義関連事項	実験は、基本的に脳波計を用いて行う。
担当者から一言	実験は、基本的に脳波計を用いるもので、計測より解析に時間がかかります。データ計測を行ったら、必ずその日のうちに解析を行うようにしてください。

授業コード	24J08		
授業科目名	情報システム工学特別演習（北村）(集中)		
担当者名	北村達也(キタムラ タツヤ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」(4年次配当、必修8単位)をタイプAのゼミに所属して履修する学生が履修する科目である。卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、『卒業論文発表会』において発表する。とくに、論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置く。
到達目標	読み手、聞き手に伝わる文章の書き方、プレゼンテーション資料の作り方、話し方を身に付ける。
講義方法	原稿執筆、プレゼンテーションに関する個別指導。
準備学習	日頃から他人の文章やプレゼンテーションを見るとときに良い点、悪い点を意識し、自分の論文執筆やプレゼンテーションに活かすようにする。
成績評価	主として、各ゼミにおいて課される卒業論文、および『卒業論文発表会』におけるプレゼンテーションを評価の対象とする。
講義構成	原稿執筆、プレゼンテーションに関する個別指導。
教科書	木下、「理科系の作文技術」、中公新書(1981)
参考書・資料	阿部、「明文術」、NTT出版(2006)
URL	http://basil.is.konan-u.ac.jp/

授業コード	24J09		
授業科目名	情報システム工学特別演習（灘本）(集中)		
担当者名	灘本明代(ナダモト アキヨ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	Webの仕組みを理解し、Webにかかわる様々な研究を行う。具体的には、GoogleやYahoo!にない新しい機能を持つ検索システムの研究、インターネット上の多言語コミュニケーションに関する研究、新しいWebブラウザに関する研究、WebとTVコンテンツとの変換・融合に関する研究等を行う。各人与えられたテーマの研究をするだけでなく、上記の研究の枠組みの中でゼミ生自らテーマを設定し、卒業研究を行う。また、研究室にてディスカッションの時間を多く取り、各人の研究テーマをゼミ内で議論し、研究を進めてゆく。
到達目標	Webの仕組みを理解し、自らWebアプリケーションを作成できるようになること。
講義方法	輪講形式で行う
準備学習	Rubyプログラミングを予習すること。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに卒業論文などにより、総合的に評価する。
講義構成	Rubyプログラミング演習 Webアプリケーション立案 Webアプリケーションの作成

	の3部構成で行う。
教科書	必要に応じてプリントを配布する。

授業コード	24J10		
授業科目名	情報システム工学特別演習（阪本）(集中)		
担当者名	阪本邦夫（サカモト クニオ）		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
オフィスアワー	随時		

講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」（4年次配当、必修8単位）をタイプAのゼミに所属して履修する学生が履修する科目である。卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、『卒業論文発表会』において発表する。とくに、論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置く。		
到達目標	・各自の研究テーマを自主的に取り組み遂行できる。 ・研究内容を要領よくまとめ、説明できる。		
講義方法	講義日時（集中）はゼミごとに定める。		
準備学習	不要		
成績評価	主として、各ゼミにおいて課される卒業論文、および『卒業論文発表会』におけるプレゼンテーションを評価の対象とする。		
講義構成	以下の事柄に関して、計画・実施・評価のサイクルを繰り返し、プレゼンテーション能力の研鑽に励む。 1. 研究の背景、先行研究の動向、研究目的とねらい 2. 研究内容の紹介（方法、結果） 3. 研究成果の説明 4. 研究の結論		
教科書	なし		

授業コード	24J11		
授業科目名	情報システム工学特別演習（田村）(集中)		
担当者名	田村祐一（タムラ ユウイチ）		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
オフィスアワー	随時		

講義の内容	卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、『卒業論文発表会』において発表する。とくに、論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置く。		
到達目標	論文をまとめ、プレゼンテーションを行う能力を身につけることを目標とする。		
講義方法	論文のまとめ方の指導と研究発表練習		
準備学習	特になし		
成績評価	卒業論文、および『卒業論文発表会』におけるプレゼンテーションを評価の対象とする。		
講義構成	以下の事柄に関して、計画・実施・評価のサイクルを繰り返し、プレゼンテーション能力の研鑽に励む。 1. 研究の背景、先行研究の動向、研究目的とねらい 2. 研究内容の紹介（方法、結果） 3. 研究成果の説明 4. 研究の結論		
教科書	なし		

授業コード	24J12		
授業科目名	情報システム工学特別演習(小出)(集中)		
担当者名	小出武(コイデ タケン)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	「卒業研究及び演習」(4年次配当、必修8単位)において修めた研究成果を卒業論文としてまとめ、卒業論文発表会にて発表する。特に、論文の書き方とプレゼンテーションの実施方法に重点を置く。
到達目標	・卒業論文において、研究成果を論理的にまとめることができる。 ・プレゼンテーションにおいて、研究成果を分かりやすく伝えることができる。
講義方法	研究室において、実施日時を調整して行う。
準備学習	卒業論文を記すためのWordとプレゼンを行うためのPowerPointの使い方を理解しておくことが望ましい。
成績評価	卒業論文の内容、プレゼンの内容に加え、論文作成やプレゼンにあたる態度や意欲を考慮して、総合的に評価する。
講義構成	卒業論文の作成は各自で行い、教員からのコメントに基づいて推敲を繰り返して完成させる。プレゼン用のスライドも各自で作成し、研究室内で発表練習を行い、同志や教員からのコメントに基づいて修正する作業を繰り返して、より質の高いスライドを作成する。
教科書	なし。

授業コード	24J13		
授業科目名	情報システム工学特別演習(和田)(集中)		
担当者名	和田昌浩(ワダ マサヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	月曜14:40～16:10		

講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」(4年次配当、必修8単位)をタイプAのゼミに所属して履修する学生が履修する科目である。卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、『卒業論文発表会』において発表する。とくに、論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置く。
到達目標	研究成果を効果的にプレゼンテーションする方法やその技術の習得を目指す。
講義方法	講義日時(集中)はゼミごとに定める。
準備学習	卒業研究及び演習と関連するので、日頃の研究の進捗状況をメモやレポートにまとめておくこと。
成績評価	主として、各ゼミにおいて課される卒業論文、および『卒業論文発表会』におけるプレゼンテーションを評価の対象とする。
講義構成	以下の事柄に関して、計画・実施・評価のサイクルを繰り返し、プレゼンテーション能力の研鑽に励む。 1. 研究の背景、先行研究の動向、研究目的とねらい 2. 研究内容の紹介(方法、結果) 3. 研究成果の説明 4. 研究の結論
教科書	指定なし。
参考書・資料	指定なし。
講義関連事項	卒業研究及び演習と連動して、発表の方法や練習を行います。

担当者から一言	より良いプレゼンテーション(発表)ができるように、努力しましょう。
ホームページタイトル	和田研究室
URL	http://wada-lab.net/

授業コード	24J14		
授業科目名	情報システム工学特別演習（新田）(集中)		
担当者名	新田直也(ニッタ ナオヤ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」(4年次配当、必修8単位)をタイプAのゼミに所属して履修する学生が履修する科目である。卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、『卒業論文発表会』において発表する。とくに、論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置く。		
到達目標	・研究内容を正確かつ効果的にプレゼンテーションする能力をつける。 ・論文の書き方の基本を理解する。		
講義方法	講義の内容・目的を参照。 詳細は卒業研究及び演習の中で説明する		
準備学習	特になし。		
成績評価	主として、ゼミにおいて課される卒業論文、および『卒業論文発表会』におけるプレゼンテーションを評価の対象とする。		
講義構成	講義の内容・目的を参照。 詳細は卒業研究及び演習の中で説明する。		
教科書	特になし。		

授業コード	24J15		
授業科目名	情報システム工学特別演習（梅谷）(集中)		
担当者名	梅谷智弘(ウメタニ トモヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	火曜日 10:30～12:00（前期）、木曜日 10:30～12:00（後期）		
講義の内容	卒業研究における成果を論文としてまとめ、「卒業論文発表会」にて発表する。論文の書き方とプレゼンテーション手法の習得に重点をおく。		
到達目標	以下の事項の習得を目指す。 1. 卒業研究で得られた知見をまとめ、卒業論文としてまとめられる。 2. 卒業研究を通して得られた知見をまとめ、限られた時間で要点をまとめて発表することができる。		
講義方法	以下の事柄に関して、計画・実施・評価・改善のサイクルを繰り返し、プレゼンテーション能力の研鑽に励む。 1. 研究の背景、先行研究の動向、研究目的とねらい 2. 研究内容の紹介 3. 研究成果の説明 4. 研究のまとめ		
準備学習	研究室配属に先立つ教育科目の修得を前提とする。		
成績評価	卒業論文および「卒業論文発表会」におけるプレゼンテーションをもとに、総合的に評価する。		
講義構成	研究室内での討論、および、発表を繰り返すことで、文章ならびにビジュアルエイドの形で成果をまとめていく。最後に合同で行われる「卒業論文発表会」で研究の成果を報告する。		
教科書	卒業研究をまとめ、発表するための基礎的な書物を、演習内で紹介する。		

授業コード	24J16		
授業科目名	情報システム工学特別演習(永田)(集中)		
担当者名	永田 亮(ナガタ リョウ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」(4年次配当、必修8単位)をタイプAのゼミに所属して履修する学生が履修する科目である。卒業研究における成果を卒業論文としてまとめ、『卒業論文発表会』において発表する。とくに、論文の書き方とプレゼンテーションの学習に重点を置く。		
到達目標	研究内容を、論文にまとめる能力を身につけることを到達目標とする。 加えて、研究内容を、分かり易く簡潔にプレゼンテーションする能力を身につけることも到達目標とする。		
講義方法	講義日時(集中)は相談のうえ決定する。		
準備学習	「卒業研究及び演習」と関連が深いので、同科目を十分に学習すること。		
成績評価	主として、卒業論文、および『卒業論文発表会』におけるプレゼンテーションを評価の対象とする。		
講義構成	以下の事柄に関して、計画・実施・評価のサイクルを繰り返し、プレゼンテーション能力の研鑽に励む。 1. 研究の背景、先行研究の動向、研究目的とねらい 2. 研究内容の紹介(方法、結果) 3. 研究成果の説明 4. 研究の結論		
教科書	なし。適宜資料などを配布する。		

授業コード	24052		
授業科目名	情報システム工学特論I(集中)		
担当者名	廉田 浩(カドタ ヒロシ)、佐野睦夫(サノ ムツオ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	(廉田担当分)テーマ:高性能マイクロプロセッサの開発動向 内容・目的:日常使われているIT製品・モバイル機器の中で重要な働きをしているCPUや各種プロセッサの基本的な構成と動作を実例に即して解説し、これらのプロセッサや機器をより深く理解するための基礎知識を修得する。 (佐野担当分)テーマ:コンテンツを支えるメディア処理技術 内容・目的:コンテンツ流通ビジネスを実現する情報システムの構成要件を明らかにし、映像・音楽・文書などのメディアを流通させるために必要となるメディア処理技術について、制作・蓄積・検索・変換・消費・再利用のコンテンツライフサイクルの各処理過程において、具体事例を通して学ぶ。		
到達目標	担当教員が掲げるそれぞれの講義テーマに関して、基本概念及び基礎知識を習得するとともに具体的事例にも精通することを目標とする。		
講義方法	(廉田担当分)プリントとスライドを使って講義する (佐野担当分)講義スライドやビデオ・板書を通して、基本的知識を獲得していくとともに、授業中実施する確認テストにより復習を行い、理解を深めていく。最終回には、学んだ知識に基づき、自らコンテンツ流通ビジネスを企画・実現する情報システムの設計演習を行う。		
準備学習	担当教員の指示に従って準備学習を行う。		
成績評価	(廉田担当分)毎回の出席と小テストで評価する (佐野担当分)各回に実施する確認テストと最終回に実施する設計演習の成績により総合的に判断する。		
講義構成	(廉田担当分) 第1回 はじめに ―プロセッサ開発の背景にある産業界の動向―		

	第2回 CMOS論理回路の基礎 第3回 半導体LSI微細化・マイクロプロセッサの基本構成と分類 第4回 汎用MPU高性能化(パイプライン・命令並列・記憶階層化) 第5回 組み込みMPUとシステムLSI 第6回 新しいプロセッサ メディア処理プロセッサとシステムLSI 第7回 新しいプロセッサ グラフィックプロセッサ 第8回 まとめ ― 今後の開発動向と大学への期待 ― (佐野担当分) 「コンテンツを支えるメディア処理技術」 第1回 コンテンツ流通ビジネスと情報システム構成上の課題(1) コンテンツ流通ビジネスの形態とそれがかかえる課題を明らかにする。 第2回 コンテンツ流通ビジネスと情報システム構成上の課題(2) コンテンツ流通ビジネスを支える情報システムの構成要件を学ぶ。 第3回 メディアデータ コンテンツを構成する映像・音楽・文書・Webデータなどのメディアデータの性質を明らかにし、コンテンツのライフサイクル(制作・蓄積・検索・変換・消費・再利用)について学習する。 第4回 コンテンツ制作支援技術 コンテンツを制作するために必要となるメディア処理技術について学ぶ。 第5回 メディア情報の構造化と検索 コンテンツの各種メディアの構造化と検索技法について学ぶ。 第6回 著作権保護技術 電子透かしや暗号化・改ざん防止などのコンテンツ著作権を保護するための基本技術を学ぶとともに、コンテンツ流通を活性化するためのフレームワークの実例について紹介する。 第7回 バイオメトリックス認証 コンテンツを管理するために必要となる個人認証技術として、指紋・虹彩・声紋・顔認証など個人を特定するバイオメトリックス認証の仕組みについて学ぶ。 第8回 コンテンツ流通システム設計演習 第1回から第7回まで学んだ知識に基づき、自らコンテンツ流通ビジネスを企画立案し、それを実現する情報システムの設計演習を行う。
教科書	(廉田担当分)特に指定しない。 (佐野担当分)
参考書・資料	(廉田担当分)柴山潔著「コンピュータアーキテクチャの基礎」近代科学社 (佐野担当分)講義ノートを取り、毎回実施する確認テストや最後の設計演習のための参考資料として残しておくこと。 確認テストや設計演習では、講義ノートを見てもよい。
講義関連事項	本講義は二名の講師が個別のテーマで各8回ずつ講義する構成である
担当者から一言	(佐野担当分)評価は各回に実施する簡単な確認テストや最後の回の設計演習に基づき行うので、授業を休まないこと。

授業コード	24053		
授業科目名	情報システム工学特論II（集中）		
担当者名	中野雅弘（ナカノ マサヒロ）、香月祥太郎（コウツキ ショウタロウ）		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）

講義の内容	(中野担当) 現在急速に進展している情報化社会の動向を理解するために必要な基礎および関連技術の習得を目的とする。そのために必要な技術として、まず情報通信ネットワーク、デジタル化技術およびインターネットの基本概念と要素技術を習得するとともに、一般社会における活用事例を紹介し、情報システムおよび情報化社会に関して理解を深める。 (香月担当) 「情報システム開発法」 情報通信技術の進歩により、情報システムはますます高度化され、複雑な業務や事象を合理的・効率的に処理することが可能になっている。ここでは情報システムの開発方法について、歴史的経緯を踏まえて進展した様々なシステムの基本的な特性を理解した上で、システム・ライフサイクル・プロセス(SLCP)に則してシステム開
-------	--

	発の方法を解説する。また、最近の新しい開発技法を紹介し、事例を基にした演習を通してシステム開発についての理解を深めることを目的とする。
到達目標	担当教員が掲げるそれぞれの講義テーマに関して、基本概念及び基礎知識を習得するとともに具体的事例にも精通することを目標とする。
講義方法	(中野) ・電子教材、配布する資料、板書書きによる説明 ・ケーススタディ紹介による説明 (香月) ・電子教材、配布テキスト、板書による講義 ・ケーススタディと事例に基づく演習
準備学習	担当教員の指示に従って準備学習を行う。
成績評価	最終確認テストと出席状況を総合的に評価する。(中野、香月で統合する)
講義構成	(中野) 1. 情報通信ネットワークの概念と構成 2. 伝送、交換システム技術について 3. デジタル化技術と通信プロトコル 4. 移動体通信技術の構成技術 5. 企業における情報通信技術(ビジネスソリューションなど) 6. eコマースと電子調達の要素技術 7. 地域社会での応用事例(交通、物流、防災、などの各分野) 8. 総復習、質問および最終確認テスト (香月担当) 1. 情報システムとは一その対象と形態、特性について 2. 情報システムの変遷と情報・通信技術の活用 3. 情報システムの開発方法とSLCP 4. システム分析とデータベース設計 5. 新しいシステム開発技法と事例紹介 6. オブジェクト指向型開発とビジネスプロセス・コンポーネント 7. 構造化分析手法 8. 演習
教科書	(中野) テキストは指定しない。講義ノートによる。 (香月) 講義テキストを配布する。また、必要に応じて参考となる資料を教示する。
参考書・資料	(中野) ・「情報ネットワークの通信技術」齋藤忠夫ほか著、オーム社発行 ・講義中に資料配布
講義関連事項	(香月) 本講義は、実際企業等で行われている情報システムの開発方法をもとに解説するものであることから、内容の理解を深めるためにも、システムに関する他の各種講義を十分に理解した上で受講することが望ましい。 また、講義の最後にシステム開発の重要なプロセスについて演習を行うので、全講義を欠かさず受講すること
担当者から一言	(中野担当) 情報通信技術(ICT)を単なる技術にとらえず、社会基盤の一つをなっている現状を認識し受講すること。幅広い分野を意識して講義する。 (香月担当) 情報システムは社会活動を支える重要なツールであり、インフラである。その役割と意義を理解し、開発の重要性を学んで欲しい。

授業コード	24054
授業科目名	情報社会論I(A)(後)
担当者名	濱井禧价(ハマイ ヨシスケ)

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	情報システム工学科		

講義の内容	社会のあらゆる分野において急速に浸透してきた情報化は、従来の社会構造、産業構造に大きな変革をもたらしつつある。本講義では、高度な情報技術に支えられて発展する情報化社会の現状を理解させるとともに、この発展に寄与する情報産業の社会的位置づけと意義を理解させ、情報産業に携わる個人の持つべき職業倫理、健全な職業観を身に付ける。
到達目標	情報化社会の現状を理解する。個人の持つべき職業倫理、健全な職業観を身に付ける。
講義方法	電子教材、参考資料、板書による説明
準備学習	特になし
成績評価	1. 平常点(出席およびレポート提出)――40% 2. 課題発表――20% 3. 定期試験――40%
講義構成	第1回:情報技術の歴史 第2回:コンピュータおよび通信技術の現状 第3回:社会構造・産業構造とその変化 第4回:コミュニケーション(広義)の本質と情報技術 第5回:組織と情報化事例(公共事業) 第6回:組織と情報化事例(製造業――その1) 第7回:組織と情報化事例(製造業――その2) 第8回:組織と情報化事例(情報サービス産業) 第9回:社会における情報技術の分類とその内容(具体的業務内容) 第10回:情報システム開発(仕様書) 第11回:情報システム開発(テスト、メンテナンス) 第12回:情報システム開発(マネジメント) 第13回:知的所有権とコンピュータテクノロジー 第14回:セキュリティ、プライバシー 第15回:情報技術倫理
教科書	講義に必要なテキストは適宜配布する。

担当者から一言	実社会における情報技術を理解し、将来の職業観の確立に役立ててほしい。
---------	------------------------------------

授業コード	24055		
授業科目名	情報社会論II(前)		
担当者名	古川安航(フルカワ ヤスユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	知的財産立国を目指す我が国において、知的財産権の発生から国内外での権利取得、活用についての知識を得ることはその重要性を増してきている。本講義では、受講者が社会における知的財産の重要性を認識することを目的として、知的財産について幅広く解説する。
到達目標	受講者が社会における知的財産の重要性を認識し、知的財産権に関する基本的知識を習得することを目標とする。
講義方法	黒板・プロジェクトを参照しながら、講演形式で行う。
準備学習	担当教員の指示に従って準備学習を行う。
成績評価	出席回数(30%)と期末試験の得点(70%)で評価する。遅刻して講義室に入室した者には、講義を聴くことは認めるが、出席点は認めない。
講義構成	第1回 知的財産権総論 第2回 知的財産権総論 第3回 特許(発明保護の趣旨等) 第4回 特許(登録要件) 第5回 特許(登録要件) 第6回 特許(出願審査・特許権)

	第7回 意匠(意匠保護の趣旨等) 第8回 意匠(登録要件・意匠権) 第9回 商標(商標保護の趣旨等) 第10回 商標(登録要件・商標権) 第11回 著作権 第12回 不正競争 第13回 知的財産権管理・特許等情報・特許等調査 第14回 まとめ 第15回 期末試験
教科書	なし
参考書・資料	資料配布は予定していない。

授業コード	24045		
授業科目名	信頼性工学（後）		
担当者名	中易秀敏(ナカヤス ヒデトシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	水曜日のお昼休み		

講義の内容	信頼性工学が使えるようになることを目的に講義を進めます。主な内容は、信頼度と破損確率、データ解析、構造関数と信頼性、構造信頼性解析、人間信頼性解析など。
到達目標	機械構造の破壊予測に関心を持ちヒューマンエラーにも関心を持つようにする。
講義方法	解説を聞き、実際に問題を解き、理解する。このサイクルを繰り返しながら、信頼性工学のおもしろさを体感してもらう講義です。
準備学習	物理的な故障のみならず人間が関与する故障にも関心を持つ。
成績評価	小テスト、レポート、期末テストの成績に平常点を加味して総合的に評価します。
講義構成	1. 信頼性と信頼性工学 2. 事故例に学ぶ1 3. 事故例に学ぶ2 4. 統計データ処理 5. 確率分布の当てはめ 6. 直列・並列システムの信頼性 7. パス解析とカット解析 8. 故障モード解析とFTA/ETA 9. 機械構造物の破損と材料破壊 10. 安全率と信頼性指標 11. 信頼性指標による設計 12. システムの信頼性評価 13. ヒューマンパフォーマンスモデル 14. オペレータモデルとヒューマンエラー 15. 試験
教科書	室津義定・米澤政昭・邵曉文、システム信頼性工学、共立出版
講義関連事項	確率統計の知識が必要

担当者から一言	信頼性工学はこれまで主に物理システムの故障解析と故障防止の技術が中心でした。本講義では、ヒューマンエラーも含めたマンマシンシステムの信頼性も考えてみます。
---------	---

授業コード	24013		
授業科目名	数式処理（前）		
担当者名	松本茂樹（マツモト シゲキ）		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	水曜・5限。		
講義の内容	数式処理システム Mathematica の基本操作に習熟するとともに、数理情報をはじめとする諸分野への数式処理システムの応用について学ぶ。		
到達目標	数式処理システムの長所・短所を理解したうえで、Mathematicaのオンラインマニュアルを参照しながら問題解決に繋がるMathematicaプログラミングを独力で書き上げることが出来る能力を身に付けることを目標とする。		
講義方法	コンピュータ実習室で講義を行い、講義時間内に(受講学生ひとりひとりが数式処理システムMathematicaを立ち上げ)演習・実習を繰り返す。		
準備学習	教科書の対応箇所に事前に目を通したうえで講義に臨むこと。また、講義時に教科書に掲載されているMathematicaプログラム(入力行)や「練習問題」を頻繁に参照するので教科書は必ず持参すること。		
成績評価	課題(レポート)、(講義時に実施する)小テスト、期末試験の成績を総合的に判断して評価する。		
講義構成	第1回 始めに 第2回 Mathematicaの文法、厳密値・近似値、基本計算 第3回 リストについて 第4回 FullFormと式、純関数、MapとApply、NestとFold 第5回 関数の作り方、記号計算 第6回 応用:「ヨセフスの問題」をリストで解析する 第7回 グラフィックスの文法、Plot関数とオプションの基本、ParametricPlotとPolarPlot 第8回 3次元のグラフ、Plot3D、ParametricPlot3DとRegionPlot3D 第9回 グラフィックスプリミティブ 第10回 マニピュレート、スライダー 第11回 マニピュレート、ロケーター 第12回 関数を作る、即時的な定義・遅延的な定義 第13回 パターンマッチとパターンオブジェクト 第14回 まとめと課題 第15回 試験		
教科書	「入門 Mathematica 決定版 Ver.7対応」日本Mathematicaユーザー会編著(東京電機大学出版局)		
参考書・資料	参考文献については適宜指示し、資料については適宜配付する。		
担当者から一言	コンピュータ実習室の自由利用時間帯を活用し、数式処理ソフトを納得のいくまで操作し使いこなして貰いたい。		
ホームページタイトル	{松本研究室(www.pine-web.com), http://www.pine-web.com/ }		

授業コード	24019		
授業科目名	数値解析(前)		
担当者名	中山弘隆(ナカヤマ ヒロタカ)、濱井禧价(ハマイ ヨシスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	月曜3限		
講義の内容	コンピュータによる科学技術計算に必要な数値計算法の基礎を講述する。		
到達目標	教科書の演習問題が解ける。		
講義方法	原則として教科書に従うが、応用に関してはパソコンによるデモンストレーションを行う。		
準備学習	特になし		
成績評価	数回のレポートと定期試験によって評価する。		
講義構成	第1回 コンピュータと数値の内部表現 第2回 誤差解析 第3回 非線形方程式とNewton法 第4回 連立1次方程式の理論 第5回 pivot演算行列とGauss-Jordan法 第6回 LU分解 第7回 反復法(Jacobi法、Gauss-Seidel法) 第8回 反復法の収束条件		

	第9回 固有値と固有ベクトル(Jacobi法、Householder法) 第10回 関数近似 第11回 数値積分(1)台形公式、Simpson公式 第12回 数値積分(2)Newton-Cotes型公式 第13回 常微分方程式の数値解法(1)Euler法 第14回 常微分方程式の数値解法(2)Runge-Kutta型公式 第15回 試験
教科書	「数値計算」川上一郎著(岩波書店)
講義関連事項	本講は数理計画 I と密接に関連するので、併せ受講するのが望ましい。
URL	http://it.is.konan-u.ac.jp

授業コード	24020		
授業科目名	数理計画I(後)		
担当者名	中山弘隆(ナカヤマ ヒロタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	月曜3限		

講義の内容	線形計画は経営計画や管理などの意思決定問題の他、機械学習などにおけるツールとして、様々な問題に適用されている。本講では、そのモデリング、基礎的理論および応用について述べるとともに、実際の応用に際しての諸注意を与える。
到達目標	線形計画に関する基礎知識の理解とその数値計算法を修得することが目的である。
講義方法	ノート講義であるが、応用に関してはパソコンによるデモンストレーションを行う。
準備学習	線形代数とくに線形連立方程式に関連する基礎知識(ピボット計算、解の存在条件、ランク等)を修得していることが望ましい。
成績評価	随時講義時間中に行う小テストおよび数回のレポートと定期試験によって評価する。
講義構成	第1回 LPのモデリング 第2回 解の一般的性質 第3回 凸多面体の性質、とくに端点について 第4回 シンプレクス法のアイデア 第5回 pivot演算による逆行列の計算 第6回 シンプレクスタブロー 第7回 2段階法と標準基底形式への変換 第8回 改訂シンプレクス法 第9回 双対原理 第10回 感度解析(1)右辺の変化に関して 第11回 感度解析(2)その他の変化に関して 第12回 内点法 第13回 ゲーム理論との関連 第14回 応用と多目的線形計画法 第15回 試験
教科書	「システム工学」田村坦之著(オーム社 1999年)
参考書・資料	「数理計画入門」福島雅夫著(朝倉書店 1996年) 「最適デザインの概念」松岡由幸、宮田悟志(共立出版 2008年) 「Excel とLINGOで学ぶ数理計画法」新村秀一(丸善 2008年)
講義関連事項	本講は数理計画 II と密接に関連するので、併せ受講するのが望ましい。
ホームページタイトル	{nakayama, http://it.is.konan-u.ac.jp }
URL	http://it.is.konan-u.ac.jp

授業コード	24021
-------	-------

授業科目名	数理計画II (前)		
担当者名	中山弘隆(ナカヤマ ヒロタカ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	月曜日3限		

講義の内容	非線形計画法は工学設計や関数近似等、様々な問題において重要な役割を果たす。本講では、そのモデリング、基礎的理論および数値計算法について述べるとともに、実際の応用に際しての諸注意を与える。
到達目標	非線形最適化に関する基礎知識とその数値計算法の習得が目的である。
講義方法	ノート講義であるが、応用に関してはパソコンによるデモンストレーションを行う。
準備学習	数理計画 I を履修していることが望ましい。
成績評価	随時講義時間中に行う小テストおよび数回のレポートと定期試験によって評価する。
講義構成	第1回 非線形計画のモデリング 第2回 勾配法 第3回 共役勾配法、Newton法 第4回 準Newton法 第5回 収束について 第6回 凸解析の基礎1: 凸集合、凸関数の定義と性質 第7回 凸解析の基礎2: 凸集合の分離定理、支持超平面 第8回 Lagrange乗数定理とその一般化 第9回 鞍点定理、その他の性質 第10回 双対定理、感度解析 第11回 制約付き非線形最適の解法 第12回 メタヒューリスティック法: シミュレーティッドアニーリング法、遺伝的アルゴリズム 第13回 多目的計画法 第14回 ファジィ数理計画 第15回 試験
教科書	「システム工学」田村坦之著(オーム社 1999年)
参考書・資料	「数理計画法」山下信夫、福島雅夫著(コロナ社 2008年) 「最適デザインの概念」松岡由幸、宮田悟志(共立出版 2008年) 「Excel とLINGOで学ぶ数理計画法」新村秀一(丸善 2008年) 「線形代数と凸解析」布川、中山、谷野著(コロナ社 1991年)

ホームページタイトル	{nakayama,http://it.is.konan-u.ac.jp}
URL	http://it.is.konan-u.ac.jp

授業コード	24029		
授業科目名	数理論理学 (前)		
担当者名	堀内清光(ホリウチ キヨミツ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	木曜日4時限(講義時間の終了後 その他事前のアポイントを取れば対応)		

講義の内容	数理論理の基礎について講義する。 キーワード 命題 推論 述語 古典論理 直観論理 これらが基本的に理解できて、数学で「証明する」ということがどういうことなのかを考えてもらいます。
到達目標	数理論理の基本的なことが理解できることを目標とする。 日常生活においても論理的な思考を実践できるようになれば幸いである。
講義方法	ディスカッション(意見交換)、グループワーク、分析、発表などはなく、特段の機材も使わない古典的な普通の講義です。教科書は必ず用意すること。初回から必要です。
準備学習	前提として望ましい知識は、高校卒業程度の数学と常識程度。
成績評価	試験レポートなどによる総合評価。

講義構成	第1回 命題論理と述語論理について 第2回 命題とは 第3回 否定について 第4回 論理積と論理和 第5回 論理式の標準型 第6回 含意命題 第7回 推論 第8回 論理のパズル 第9回 含意論理 第10回 肯定論理 第11回 最小論理 第12回 直観論理 第13回 古典論理 第14回 質問と予備日 第15回 試験
教科書	田村・荒金・平井「論理と思考」 大阪教育図書
参考書・資料	いろいろあります。
担当者から一言	「甲南大学の火星人は身長5メートルです」 さて、この文章は正しいでしょうか？
その他	教科書には誤植が多いので講義を聴かなければ解らなくなります。

授業コード	24018		
授業科目名	生体情報システム（後）		
担当者名	前田多章（マエダ カズアキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	月曜4限		

講義の内容	生物の情報処理系のひとつである神経系（中枢神経、末梢神経）に関して講義する。まず、神経系の構造と機能を説明し、続いて神経細胞の構造と機能を説明する。そして、外界からの刺激を生体が如何に受容し、如何に伝達し、如何に処理しているか、そして刺激に如何に対応しているかについて詳述する。
到達目標	本講義を通して、生体における神経系の基本特性を理解することを目的とする。特に、ニューロンの興奮機序、シナプスにおける興奮の伝達機序をしっかりと理解すること。
講義方法	講義形式で進める。 適宜、図や写真を提示して講義の理解を深める。
準備学習	あらかじめ予習等により、生物の細胞に関する簡単な知識を学び、講義を受けることが望ましい。
成績評価	受講態度と試験の結果で成績評価をする。
講義構成	1. 神経科学の概観 2. ニューロンとグリア(1) 3. ニューロンとグリア(2) 4. 静止時のニューロン膜(1) 5. 静止時のニューロン膜(2) 6. 活動電位(1) 7. 活動電位(2) 8. シナプス伝達(1) 9. シナプス伝達(2) 10. 神経伝達物質(1) 11. 神経伝達物質(2) 12. 脳の配線(1) 13. 脳の配線(2) 14. まとめ 15. 試験
教科書	なし

参考書・資料	①Rita Carter著:『脳と心の地形図』(原書房, 2000年) ¥2,250 ②William F. Ganong 著:『ギャノン 生理学』原著22版(丸善, 2006年) ¥10,500 ③小澤澗司, 本郷利憲, 広重力 著:『標準生理学』第6版(医学書院, 2005年) ¥12,600
講義関連事項	質問の時間を持ちますので, どんどん質問して分からないところを解決してください。よく分からないときは, 質問をするのにも苦慮するものですが, 頑張ってください。
担当者から一言	遅刻しないように注意してください。講義進行の妨害となりますので, 原則として遅刻および途中退去を認めません。

授業コード	24038		
授業科目名	設計生産情報システム (前)		
担当者名	中易秀敏(ナカヤス ヒデトシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	水曜日のお昼休み		

講義の内容	製品の設計と生産に関する情報の流れとその設計法について学びます。 内容は実験計画法の基礎理論を学び、時間があれば品質工学や情報積算法についても学習します。
到達目標	実験計画法で実験計画が立てられ、結果の分析が一人で行えるようになる。
講義方法	解説を聞き、実際に問題を解き、理解する。このサイクルを繰り返し、より深い理解と興味を深める。
準備学習	確率統計、分布の推定と検定ができること。
成績評価	理解度確認のための小テスト、レポートなどの成績と期末試験の成績を加味して総合的に評価する。
講義構成	1. 設計と生産に関する情報の流れと管理 2-3. 一元配置実験 4-5. 二元配置実験 6-7. 多元配置実験と応用 8-10. 2水準直交配列実験 11-13. 3水準直交配列実験 14. 多水準と擬水準実験 15. まとめ
教科書	永田 靖, 入門実験計画法, 日科技連
参考書・資料	中村義作, よくわかる実験計画法, 近代科学社
講義関連事項	計算演習に必要ですので電卓を必ず持参下さい。 統計解析の推定と検定理論の知識が必要です。
担当者から一言	統計的検定が頻繁に出てくるので、この知識を有していることが大切です。

授業コード	24A11		
授業科目名	線形代数 (A)		
担当者名	池永彰吾(イケナガ ショウゴ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階

	数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。 また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性及従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。		
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。		
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメルの公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験		
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)		
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。		
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。		

授業コード	24A12		
授業科目名	線形代数 (B)		
担当者名	風間健一郎(カザマ ケンイチロウ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		
講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆		

	行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性及従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメルの公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	24A13		
授業科目名	線形代数 (C)		
担当者名	三枝洋一(サイグサ ヨウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性及従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメルの公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	24A14
授業科目名	線形代数 (D)
担当者名	長瀬昭子(ナガセ テルコ)

配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜1限)、後期(金曜1限)
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性と従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメルの公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。

担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。
---------	-----------------------------

授業コード	24A15
-------	-------

授業科目名	線形代数 (E)		
担当者名	森元勘治(モリモト カンジ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜1限)、後期(金曜1限)
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。		
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性及従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。		
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。		
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメル公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験		
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)		
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。		
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。		

授業コード	24A16		
授業科目名	線形代数 (F)		
担当者名	高橋 正(タカハシ タダシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜1限)、後期(金曜1限)
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		
講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。		
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性及従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。		
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。		
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメルの公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験		
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)		

参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	24A17		
授業科目名	線形代数 (P)		
担当者名	和田浩一(ワダ コウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	情報システム工学科以外(2006年度以前入学生用) 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性と従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメルの公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1)

	第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	24A18		
授業科目名	線形代数 (Q)		
担当者名	渋谷哲夫(シブヤ テツオ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
特記事項	情報システム工学科以外(2006年度以前入学生用) 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。		
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性及従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。		
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。		
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメル公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル		

	第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	24A21		
授業科目名	線形代数演習 (A)		
担当者名	池永彰吾(イケナガ ショウゴ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜5限)、後期(木曜5限)
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		
講義の内容	線形代数の講義に従い、問題演習を行う。		
到達目標	与えられた基本的な問題が、適切に解答できるようになること。		
講義方法	通常の黒板を用いた問題演習。		
準備学習	教科書の演習問題に一通り目を通しておくことが望ましい。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	線形代数の講義と同じ。		
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)		
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。		
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。		

授業コード	24A22		
授業科目名	線形代数演習 (B)		
担当者名	風間健一郎(カザマ ケンイチロウ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜5限)、後期(木曜5限)
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		
講義の内容	線形代数の講義に従い、問題演習を行う。		
到達目標	与えられた基本的な問題が、適切に解答できるようになること。		
講義方法	通常の黒板を用いた問題演習。		
準備学習	教科書の演習問題に一通り目を通しておくことが望ましい。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	線形代数の講義と同じ。		
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)		
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。		
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。		

授業コード	24A23		
授業科目名	線形代数演習 (C)		
担当者名	三枝洋一(サイグサ ヨウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜5限)、後期(木曜5限)
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	線形代数の講義に従い、問題演習を行う。		
到達目標	与えられた基本的な問題が、適切に解答できるようになること。		
講義方法	通常の黒板を用いた問題演習。		
準備学習	教科書の演習問題に一通り目を通しておくことが望ましい。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	線形代数の講義と同じ。		
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)		
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。		

担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。		
---------	-----------------------------	--	--

授業コード	24A24		
授業科目名	線形代数演習 (D)		
担当者名	長瀬昭子(ナガセ テルコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	線形代数の講義に従い、問題演習を行う。		
到達目標	与えられた基本的な問題が、適切に解答できるようになること。		
講義方法	通常の黒板を用いた問題演習。		
準備学習	教科書の演習問題に一通り目を通しておくことが望ましい。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	線形代数の講義と同じ。		
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)		
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。		

担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。		
---------	-----------------------------	--	--

授業コード	24A25		
授業科目名	線形代数演習 (E)		
担当者名	森元勘治(モリモト カンジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	線形代数の講義に従い、問題演習を行う。
到達目標	与えられた基本的な問題が、適切に解答できるようになること。
講義方法	通常の黒板を用いた問題演習。
準備学習	教科書の演習問題に一通り目を通しておくことが望ましい。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	線形代数の講義と同じ。
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	24A26		
授業科目名	線形代数演習 (F)		
担当者名	高橋 正(タカハシ タダシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		
講義の内容	線形代数の講義に従い、問題演習を行う。		
到達目標	与えられた基本的な問題が、適切に解答できるようになること。		
講義方法	通常の黒板を用いた問題演習。		
準備学習	教科書の演習問題に一通り目を通しておくことが望ましい。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	線形代数の講義と同じ。		
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)		
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。		
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。		

授業コード	24A27		
授業科目名	線形代数演習 (P)		
担当者名	和田浩一(ワダ コウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜5限)、後期(木曜5限)
特記事項	情報システム工学科以外(2006年度以前入学生用) 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		
講義の内容	線形代数の講義に従い、問題演習を行う。		
到達目標	与えられた基本的な問題が、適切に解答できるようになること。		
講義方法	通常の黒板を用いた問題演習。		
準備学習	教科書の演習問題に一通り目を通しておくことが望ましい。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	線形代数の講義と同じ。		
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)		
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。		

担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。
---------	-----------------------------

授業コード	24A28		
授業科目名	線形代数演習 (Q)		
担当者名	渋谷哲夫(シブヤ テツオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜5限)、後期(木曜5限)
特記事項	情報システム工学科以外(2006年度以前入学生用) 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	線形代数の講義に従い、問題演習を行う。		
到達目標	与えられた基本的な問題が、適切に解答できるようになること。		
講義方法	通常の黒板を用いた問題演習。		
準備学習	教科書の演習問題に一通り目を通しておくことが望ましい。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	線形代数の講義と同じ。		
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)		
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。		

担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。
---------	-----------------------------

授業コード	24K11		
授業科目名	線形代数及び演習I (P)(前)		
担当者名	和田浩一(ワダ コウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
特記事項	生物学科・機能分子化学科(2007年度以降入学生用) 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。線形代数及び演習Iでは、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。		
到達目標	線形代数及び演習Iでは、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。		
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に		
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておく、授業理解が進むであろう。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方		

	第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメルの公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	24K12		
授業科目名	線形代数及び演習I (Q)(前)		
担当者名	渋谷哲夫(シブヤ テツオ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
特記事項	生物学科・機能分子化学科(2007年度以降入学生用) 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。線形代数及び演習Iでは、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。
到達目標	線形代数及び演習Iでは、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルをの公式を理解し、運用できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメルをの公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。

担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。
---------	-----------------------------

授業コード	24K21		
授業科目名	線形代数及び演習Ⅱ(P)(後)		
担当者名	和田浩一(ワダ コウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
特記事項	生物学科・機能分子化学科(2007年度以降入学生用) 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。線形代数及び演習Ⅱでは、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	線形代数及び演習Ⅱでは、ベクトルの1次独立性と従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。
準備学習	基本的な行列の計算に習熟していることが前提となるため、線形代数及び演習Ⅰを履修していることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	第1回 ベクトルの演算と3重積 第2回 直線と平面の方程式 第3回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第4回 1次独立なベクトルと行列の階数 第5回 ベクトル空間の基底と次元 第6回 線形写像と表現行列 第7回 固有値と固有ベクトル 第8回 行列の対角化 第9回 内積 第10回 正規直交基底 第11回 対称行列の対角化 第12回 2次曲線(1) 第13回 2次曲線(2) 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。

担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。
---------	-----------------------------

授業コード	24K22		
授業科目名	線形代数及び演習Ⅱ(Q)(後)		
担当者名	渋谷哲夫(シブヤ テツオ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限
特記事項	生物学科・機能分子化学科(2007年度以降入学生用) 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベク
-------	---

	トル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。線形代数及び演習Ⅱでは、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	線形代数及び演習Ⅱでは、ベクトルの1次独立性と従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。
準備学習	基本的な行列の計算に習熟していることが前提となるため、線形代数及び演習Ⅰを履修していることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	第1回 ベクトルの演算と3重積 第2回 直線と平面の方程式 第3回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第4回 1次独立なベクトルと行列の階数 第5回 ベクトル空間の基底と次元 第6回 線形写像と表現行列 第7回 固有値と固有ベクトル 第8回 行列の対角化 第9回 内積 第10回 正規直交基底 第11回 対称行列の対角化 第12回 2次曲線(1) 第13回 2次曲線(2) 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	24048		
授業科目名	組織科学(前)		
担当者名	平尾周平(ヒラオ シュウヘイ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	在室中はいつでもどうぞ		

講義の内容	組織論もバーナードやサイモンの近代組織論から、ポスト・モダンの組織論へ脱皮しようとしている。伝統的な個人主義、全体主義、関係主義の組織論や近代科学的な組織論の展開だけではなく、複雑性、自己組織性やオートポイエーシスをキーワードとする、脱産業社会とも呼ばれる今日の情報化社会にふさわしい組織論が展開されつつある。こうした講義は後期の管理科学にゆだねるとして、本講義は準備段階として、バーナード組織論を考察する。
到達目標	組織とは何かを理解させ、組織にかかわる自らとの関係を理解させ、自由と秩序の狭間にありながら、いかに会社生活を送ればいいのかを考察させる。これによって、社会人としてのあるべき姿を描けるようにする。
講義方法	講義内容に関するレポートを必要な都度、提出させ、作文内容を材料にしながら、各自、自ら問題意識を持ち、自ら解決方法を思考する習慣づけをおこなうよう工夫しながら、講義を進める。
準備学習	いかに問題意識を深く持つか、問題意識をいかに自ら自身の解決へと導いていけるか、こうした基本的な思考態度を養成することを目的としているので、取り立てて、準備学習を要求することはない。日ごろから「～とは何か」という思考態度の馴致を求める。
成績評価	毎回出席を取り、出席者に必要に応じてレポート提出を義務付け、内容に関して質問を繰り返すので、解答内容によって、到達度はある程度把握できる。最終試験で到達点に達しているかどうかの判断をおこなう。

講義構成	第1回 組織と管理 第2回 問題の所在 秩序と自由 全体主義と個人主義の統合 第3回 経営学の系譜 第4回 事業部型組織と職能型組織 第5回 一般システム理論とバーナードの組織定義 第6回 バーナードの人間観 全人仮説 第7回 個人主義と全体主義の統合の論理 第8回 組織定義と組織3要素 第9回 組織目的 第10回 協働意欲 第11回 コミュニケーション 第12回 伝達と権限受容説 第13回 統合の視点 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	なし

授業コード	24F01		
授業科目名	卒業研究及び演習（中山）		
担当者名	中山弘隆（ナカヤマ ヒロタカ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限 火曜4限）、後期（火曜3限 火曜4限）
オフィスアワー	随時		

講義の内容	ロボットと人間あるいはロボットどうしのコミュニケーションの実現を目指している。ゼミでの研究テーマは他にも土砂災害予測など実際の問題への応用を念頭に置いて、認識、推論、直感などの人間の知的情報処理へのシステム工学的アプローチをテーマとして取り上げる。これまでの主なテーマは、多目的最適化の斜張橋精度管理や耐震補強への応用、人工知能や機械学習による成長型ゲーム、DEAによるサッカー選手の評価、貨幣の自動判別、人物顔画像判別と似顔絵作成、株式売買支援システム、データマイニングによる企業倒産予測、人間的e-Learningシステムの構築、AIBOによるサッカー、蟻モデルや群行動モデルによる多目的最適化など。（詳細は、 http://it.is.konan-u.ac.jp/ 参照）。
到達目標	問題発見、問題解決能力を涵養し、成果を効果的にまとめ発表する力を身につける。
講義方法	各自、自分で定めた研究テーマについて、研究の進捗状況、資料紹介などを3週間に1回の割合で発表する。それぞれの発表に対し全員で議論をし、プレゼンテーション能力や討議能力を高める。11月か12月にはゼミ合宿の形で中間発表会を行い、3月には卒論としてまとめた内容について最終発表会を行う。
準備学習	3週に1回のゼミ発表に備え、事前に十分準備をしておくこと。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに卒業論文などにより、総合的に評価する。
講義構成	各研究室により、研究や演習の方法は様々であり、指導教員の方針に従って授業を行う。
教科書	各研究室において、指導教員が必要に応じて指示する。
参考書・資料	研究テーマ毎に決める。
URL	http://it.is.konan-u.ac.jp

授業コード	24F02		
授業科目名	卒業研究及び演習（岳）		
担当者名	岳 五一（ガク ゴイチ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限 火曜4限）、後期（火曜3限 火曜4限）

講義の内容	研究内容、ゼミの実施方法、ゼミテーマは下記の通りである。 (1)マルチメディア通信網、移動体無線通信網などの高度情報通信ネットワークをはじめとするコンピュータシステムや情報通信システムのモデリング化、コンピュータシミュレーションや解析によるシステムの解析と評価、構成と設計、QoS制御、情報の配信サービス、(2)多変量解析、最適化、制御理論、ファジィなどの手法といった技法を取り込んだシステムの最適化、需要予測、プランニング、総合評価、(3)Webアプリケーションの開発、コンテンツ配送方式、(4)e-learning実験・実証に関わる研究、マルチメディアデータベースシステムやマルチメディアによる教育・学習支援システムの開発、などについて教育および研究を行う。これまでの卒業研究テーマは下記のホームページに掲載している。http://www.is.konan-u.ac.jp/yuelab/
到達目標	卒業研究及び演習を通じて、情報通信関連分野における種々の問題解決に際して、問題発見・解決の能力と方法、解析とシミュレーションの方法、プログラミングなどの方法や技術を身に付けてもらうことを到達目標とする。
講義方法	文献輪講を通じて、具体的な研究テーマを後期の始まるまでに決定する。後期から年度末まで研究テーマを中心とする卒業研究を行い、卒論発表及び卒論の完成に向けて研究を進めてもらう。
準備学習	学部授業の「情報通信ネットワークI」と「情報通信ネットワークII」の内容を復習しておくこと。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに卒業研究成果の発表、卒論のまとめなどにより、総合的に評価する。
講義構成	学習及び研究の進行状態に応じて、随時に指示する。
教科書	指定しない。

授業コード	24F03		
授業科目名	卒業研究及び演習（中易）		
担当者名	中易秀敏（ナカヤス ヒデトシ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜3限 水曜4限）、後期（水曜3限 水曜4限）

講義の内容	研究内容、ゼミの実施方法、ゼミテーマなど 研究テーマ:1)ドライビングシミュレータによる運転特性評価(反応時間,視線移動,その他),2)ヒューマンインタフェース設計のための認知実験,3)設計生産情報システムや信頼性工学などが主要テーマ。研究テーマ以外の特徴:学習と同時にスポーツ活動レクリエーション(ソフトボールなど)を並行して行い,頭と体を同時に鍛える。頭と体を動かし,社会における安全・安心に役立つものづくりに興味のある人歓迎。研究室見学歓迎。ホームページにゼミ募集情報掲載中(http://ultranak.is.konan-u.ac.jp/naklab/)
到達目標	自ら問題解決する力と、集団で作業を共同で行える協調性を培う。
講義方法	研究内容、ゼミの実施方法、ゼミテーマなど 研究テーマ:1)ドライビングシミュレータによる運転特性評価(反応時間,視線移動,その他),2)ヒューマンインタフェース設計のための認知実験,3)設計生産情報システムや信頼性工学などが主要テーマ。研究テーマ以外の特徴:学習と同時にスポーツ活動レクリエーション(ソフトボールなど)を並行して行い,頭と体を同時に鍛える。頭と体を動かし,社会における安全・安心に役立つものづくりに興味のある人歓迎。研究室見学歓迎。ホームページにゼミ募集情報掲載中(http://ultranak.is.konan-u.ac.jp/naklab/)
準備学習	信頼性工学、ヒューマンインタフェース、設計生産情報システム
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに卒業論文などにより、総合的に評価する。
講義構成	各研究室により、研究や演習の方法は様々であり、指導教員の方針に従って授業を行う。
教科書	各研究室において、指導教員が必要に応じて指示する。

授業コード	24F04		
授業科目名	卒業研究及び演習（田中）		
担当者名	田中雅博（タナカ マサヒロ）		
配当年次	4年次	単位数	8

開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限 水曜4限)、後期(水曜3限 水曜4限)
講義の内容	当研究室では、パターン認識を軸として、人間よりも優れた「目」と「判断能力」を、コンピュータとカメラにより実現することを目指しており、レーザーセンサーと画像センサーにより、自己位置推定や移動物体認識などの機能を満載したKonan Robot (KoRo)の制作中。 卒論の主なテーマとしては (1)画像認識 (2)遺伝的アルゴリズムやOR的問題の実問題への応用 (3)署名認識 (4)コンピュータビジョン、レーザースキャナによる歩行者カウンタ などが主要テーマであり、画像と知的システムのコラボレーションによる「コンピュータによる遊びのシステム(だるまさんがころんだなど)」の研究を行う。		
到達目標	研究とは、他人の模倣でなく、自分で何かを作り上げていくことである。このことを実際に体得しながら1つのテーマについて研究を行っていく。 研究レベルは学生によって様々であるが、1年間の中で、テーマ決定に苦しみ、実験の設定に悩み、関連研究との差別化に悩み、思い通りの成果が出ないことに苦しみ、そして、論文を書き上げたときの充実感と開放感を味わうことが到達目標である。		
講義方法	基本的には、学生実験室において学生の発表を聞きながらコメントをしあうという形が多いが、latexの使用方法やOpenCVの内容説明などは、教授あるいは大学院生が講義することもある。 また、それらの発表資料をもとに、個別に指導を随時行う。 学生は実験を行うが、授業の時間帯だけでは全く不足しており、日常的に教員と学生、学生同士で、互いに教えあう形をとる。		
準備学習	自分の中間発表の日の前には、十分な実験結果の整理や手法の説明用スライドの準備などが必要。 また、この科目は週に1回ではなく、4回生になれば、常に研究のことを頭にいれて、随時研究室で進めることが必要である。 また、先輩から後輩、あるいは同級生同士で互いに教えあうことも、卒業研究の重要なポイントである。		
成績評価	日々の学習や研究態度、実験成果などをもとに、研究としてどれだけ充実したものを作り上げたかということ为主体にして評価を行う。		
講義構成	次のような内容である(一つの項目が1回という意味ではない)。 1. 論文とは何か。 章立て、参考文献などをみながら、論文というものがどういうものであるか、今後、どういうものを目標にしていったらよいのか、ということ、実際に調べながら学ぶ 2. プログラミングのプラットフォームの準備 Visual Studio 2008とOpenCVを基本的なプラットフォームとして構築する。学生によっては、ARIAやMATLABなどを用いることもある。 3. テーマ設定 4. 中間発表(前期から。ただし、頻度は後期が多い)。 5. 実験結果の評価 6. 論文執筆、発表会(科目でいうと、特別演習) また、互いに親睦を深めることも重要であるため、夏合宿、ゼミ旅行、その他、年に数回の懇親会を行っている。		
教科書	必要に応じて指示する。多くの本は、研究室に常備しているが、プログラミングの本など、手元において常時使う本は自分で購入するよう、指示する場合もある。		

授業コード	24F05		
授業科目名	卒業研究及び演習(松本)		
担当者名	松本茂樹(マツモト シゲキ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限 火曜4限)、後期(火曜3限 火曜4限)
オフィスアワー	水曜・5限		
講義の内容	数式処理システムMathematicaの応用可能性を 探ることが研究室のテーマであり、「数理科学実験」的な方法で		

	“探索と発見の科学”をゼミ生各人(の興味と関心)に相応しい研究課題を定めて追求する。多彩なパラダイムを秘めたプログラミング言語としてのMathematicaを駆使して数理の探求や斬新な応用テーマに真摯に取り組んで貰いたい。また、教職(数学)希望の学生に配慮し、数式処理と大学の数学を融合した高い立場から高校数学を俯瞰する機会も提供したい。詳細についてはwww.pine-web.com を参照されたい。
到達目標	各自の卒業研究テーマを教員の指導のもとに慎重且つ入念に選定し、研究の進捗や成果の纏め上げについても教員の指導・点検を経たうえで最終的完成に達することを目標とするが、研究完成の水準、特に、どのレベルまでの新規性・独自性を研究にもとめるかについては個々人の研究テーマと深く関連するため教員が個別に明確化する。
講義方法	文献の輪読を主体としつつ、ゼミ生ひとりひとりの研究テーマに関しては徹底した個人指導を行う。
準備学習	個々人の研究テーマに応じて個別に指導する。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに研究テーマとその成果などにより、総合的に評価する。
講義構成	毎週の講義時間においては、文献輪読、討論、各自の研究成果の発表等を順次行うとともに、学生実験室において(ゼミ生各自が自由な時間帯で)独自に研究テーマを探究することを推奨する。
教科書	必要に応じて指示する。

授業コード	24F06		
授業科目名	卒業研究及び演習(森元)		
担当者名	森元勘治(モリモト カンジ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限 火曜4限)、後期(火曜3限 火曜4限)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	卒業研究に関するテーマに従って、セミナー形式の演習を行う。前期は結び目理論についての基礎的な教科書を、輪読する形でセミナーを行う。結び目とは3次元空間に浮かぶ閉曲線であり、数学とは一見無関係に見えるが、そのようなとらえどころのないものに対して、視点を定め表現方法を定式化することにより、数学の対象へと抽象化する。このような思考方法や発想の柔軟性は、様々な現象を理論的にとらえるためには必要不可欠なものであり、社会現象を理論的に考える上でも極めて有効に働くであろう。後期は、様々な数学の話題から、各学生がテーマを決め、学びの集大成としての卒業論文を作成し、発表する。
到達目標	結び目を数学的に研究するための基本的な概念を理解する。さらに、数学全般にわたる様々な思考方法を学び、数学的理論実践応用力を身につける。
講義方法	学生が予習してきたことを説明し、それに対して、教員が解説をするという、セミナー形式で行う。
準備学習	セミナー形式の授業なので、割り当てられたところをしっかりと考えておくこと。
成績評価	出席及び、授業中の質疑等で、評価する。
講義構成	空間に浮かぶひも(閉曲線)を、数学的には結び目と言う。本ゼミでは、そのような結び目を数学的に研究する結び目理論の入門書を講読する。内容は、結び目の表現方法、変形方法、合成方法、結び目解消数、結び目曲面、結び目多項式等である。また後期では、学生がテーマを決めて卒業論文をまとめるが、円周率、方程式の解法、ユークリッドの互除法、連分数、黄金比、素数、ギリシャ数学、石取りゲーム、暗号、正多角形の作図、ピタゴラスの定理、曲線と曲面、面積と体積等の様々な話題を提供し、まとめの一助とする。 前期 第1回 オリエンテーション 第2回－第15回 「結び目の数学」によるセミナー 後期 第16回－第23回 テーマ別のまとめ 第24回－第29回 卒業論文の発表準備 第30回 発表
教科書	「結び目の数学」C.C.アダマス著、金信泰造訳(培風館)
参考書・資料	講義の中で適宜紹介する。

担当者から一言	この講義はセミナー形式で行うので、しっかりと予習をしておくこと。
---------	----------------------------------

授業コード	24F07		
授業科目名	卒業研究及び演習（渡邊）		
担当者名	渡邊栄治（ワタナベ エイジ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜3限 水曜4限）、後期（水曜3限 水曜4限）

講義の内容	本研究室では、階層型ニューラルネットワークの学習法および画像処理に関する研究に取り組んでいる。具体的には、(1)複数の階層型ニューラルネットワークに対する学習法の構築、(2)複数の計算機を用いた知的な画像処理手法の開発、(3)カメラ画像を基にしたマンマシンインタフェースの開発、(4)画像処理による手書きノートの評価手法の開発、(5)e-Learningなどにおける受講生の興味の有無の判定、(6)iPhone用Applicationの開発、などのほか、ゼミ生が興味を持った独自の研究テーマも予定している。		
到達目標	研究テーマの設定や関連する研究の動向調査、目的を達成するための継続的な問題解決、及び他者へのわかりやすい説明などを、ある程度、自律してすすめることが可能な知識や技術を身につけることが望ましい。		
講義方法	参考となる書籍、論文及び資料等の輪講、C言語を中心とした実習、及び報告会などを織り交ぜて卒業研究を進める。		
準備学習	日頃から、研究室において、各自の研究テーマの遂行に取り組むことが肝要である。		
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに卒業論文などにより、総合的に評価する。		
講義構成	各テーマにより、研究や演習の方法は様々であるため、進捗状況に対応して、関連論文や資料による知識の習得や実験を織り交ぜる。		
教科書	各テーマ内容に従い、必要に応じて指示する。		
参考書・資料	各テーマに応じた書籍、論文及び資料等を配布する。		

授業コード	24F08		
授業科目名	卒業研究及び演習（若谷）		
担当者名	若谷彰良（ワカタニ アキヨシ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜3限 水曜4限）、後期（水曜3限 水曜4限）
オフィスアワー	随時		

講義の内容	多くのコンピュータアルゴリズムは、並列・並行処理を用いて効率良く計算機上に実装されている。本研究室では、文献（和文・英文）の輪読やプログラミング実験を通して、画像処理や数値処理を含むさまざまなアルゴリズムの並列処理、およびMPIをはじめとする並列プログラミングの理解および計算機アーキテクチャ・実装方式の研究を行なう。ゼミ生は、具体的なテーマを前期中に決定し、年度末の卒業研究報告（報告書作成および口頭発表）に向けて各自が主体的に研究・調査・実験をしてもらう。		
到達目標	具体的なテーマに基づいた研究内容を決定でき、その遂行・実行およびまとめなどを行うことができる。		
講義方法	具体的なテーマを前期中に決定し、年度末の卒業研究報告（報告書作成および口頭発表）に向けて各自が主体的に研究・調査・実験をしてもらう。また、随時、研究テーマに関連した資料の勉強を行う。		
準備学習	研究テーマの遂行は講義時間内だけでは十分行えないので、事前の資料調査・下調べや、プログラム作成や実験などを、スケジュールを自分で行った上で、随時実施すること。		
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに卒業研究発表及び卒業論文への取り組みなどにより、総合的に評価する。		
講義構成	具体的なテーマを前期中に決定し、年度末の卒業研究報告（報告書作成および口頭発表）に向けて各自が主体的に研究・調査・実験をしてもらう。		
教科書	なし。必要な資料は教員が準備する。		

授業コード	24F09		
-------	-------	--	--

授業科目名	卒業研究及び演習（堀内）		
担当者名	堀内清光（ホリウチ キヨミツ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜3限 火曜4限）、後期（火曜3限 火曜4限）
オフィスアワー	学生との協議によって初回に決定する。		

講義の内容	位相空間論やユニバーサル代数を中心に数学の真髄に触れることを目標としたゼミを行う。 具体的内容は学生との協議によって初回に決定する。位相数学を決定した場合の例であるが、これは2年生の通年の位相数学の講義と深く関連している。 形式はゼミ生諸君が専門書を精読し毎回発表をする。 卒業論文の代わりの発表であるから、基本的に欠席は許されない。
到達目標	数学の真髄に触れることによって専門的にも人間としても学士に相当する見識をそなえた人間となってもらふ。
講義方法	各自の選択した内容にそって書物を輪講し発表を行ってもらふ。
準備学習	毎回の準備と予習は必須である。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに卒業論文（タイプAの研究室の場合）などにより、総合的に評価する。
講義構成	当番制で発表者が前に立ち講義のように発表する。それに対して皆で討論する。
教科書	各研究室において、指導教員が必要に応じて指示する。

授業コード	24F10		
授業科目名	卒業研究及び演習（前田）		
担当者名	前田多章（マエダ カズアキ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜3限 水曜4限）、後期（水曜3限 水曜4限）
オフィスアワー	月曜日4限		

講義の内容	脳科学に関わる基礎知識の習得を目的に、輪読会を行う。教科書は、全9章で構成されており、輪読に当たっては、各自が担当の範囲を要約し発表する。これに続き、発表内容に関する質疑応答を行うものである。
到達目標	本講義を通して、脳科学に関する基礎知識を身につける。また、専門書を読み、理解する技術とこれを発表する技術を身につける。
講義方法	(1) 各人の分担を決める。 (2) 各人が担当箇所を、事前に読み理解するとともに、参考文献を入手し目を通しておく。 (3) 分担箇所を順番に発表する。 ① 発表に際して、予めレジメを作成し、配布する。 ② 発表後、全員で質疑応答を行う。
準備学習	当該講義は、神経科学に関する基礎を既に学んでいることを前提として進めるため、以下の準備が必要である。 (1) 神経活動に関する基本的な特性を理解しておく。 (2) 必ず担当範囲を読んでレジメを作成する。 (3) 担当者以外も、必ず質問が出来るように、発表箇所に目を通しておく。
成績評価	出席状況、担当箇所の準備・発表内容、質疑応答の態度および試験結果を総合的に評価する。
講義構成	1回目：講義を進める上での諸注意。輪読の分担作業。 2回目～13回目：輪読会 (1) 発表 (2) 質疑応答 14回目：まとめ、総括。
教科書	甘利俊一 監修：精神の脳科学，シリーズ脳科学6，東京大学出版会，2008．ISBN:979-4-13-06406-1
参考書・資料	1. カラー図解 よくわかる生理学の基礎．メディカル・サイエンス・インターナショナル，2005． 2. カラー図解 神経の解剖と生理．メディカル・サイエンス・インターナショナル，2001．

	3. 標準生理学. 医学書院, 2009. 4. ギャノン生理学. 丸善, 2001.
講義関連事項	当該講義は, 神経科学に関する基本的な事柄をある程度知っていることを前提として進めます。 また, 知識をしっかり身につけることを目指すため, 講義期間で教科書全体を終了することが出来ない場合があります。そのため, 講義で扱うことが出来なかった箇所は各人が自習するようにして下さい。
担当者から一言	当該科目を履修するに当たっては, 神経科学に関する基本的な事柄をある程度知っていることも重要ですが, 化学や物理学に関する知識が常に要求されますので, これらに関しても予め復習しておいて下さい。

授業コード	24F11		
授業科目名	卒業研究及び演習（北村）		
担当者名	北村達也(キタムラ タツヤ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限 火曜4限)、後期(火曜3限 火曜4限)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	各自に与えられたテーマに関する研究を行い成果をまとめる。
到達目標	自分で考える力を身につける。
講義方法	輪読, 研究打合せ, 中間発表等
準備学習	プログラムの技能を確認しておく。
成績評価	取り組む姿勢, 成果物により評価する
講義構成	研究テーマ決定, 先行研究調査, 研究計画策定, 研究実施, 卒業論文執筆, の順序で進める。
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	木下, 理科系の作文技術, 中公新書(1981) 阿部, 明文術, NTT出版(2006), 中田, 理系のための「即効!」卒業論文術, ブルーバックス(2010)

授業コード	24F12		
授業科目名	卒業研究及び演習（灘本）		
担当者名	灘本明代(ナダモト アキヨ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限 火曜4限)、後期(火曜3限 火曜4限)

講義の内容	灘本明代(A) 本研究室では, Webの仕組みを理解し, Webにかかわる様々な研究を行っている。具体的には, GoogleやYahoo!にない新しい機能を持つ検索システムの研究, インターネット上の多言語コミュニケーションに関する研究, 新しいWebブラウザに関する研究, WebとTVコンテンツとの変換・融合に関する研究等を行う。各人与えられたテーマの研究をするだけでなく, 上記の研究の枠組みの中でゼミ生自らテーマを設定し, 卒業研究を行う。また, 研究室内部にてディスカッションの時間を多く取り, 各人の研究テーマをゼミ内で議論し, 研究を進めてゆく。Webに興味のある人, Webに関する自分のアイディアを実現したい人, インターネットを介して外国人とのコミュニケーションに興味のある人を歓迎する。
到達目標	成果として, 自ら企画したWebアプリケーションを各自1つ作成できるようになること。
講義方法	Rubyのプログラミング演習 Webに関する関連研究の論文の輪講 研究計画の立案

	研究計画に沿った研究の遂行 Webアプリケーションの作成 研究進捗状況及び成果のプレゼン 等学生自らが率先して演習や研究を行う。
準備学習	Rubyのプログラミングを予習しておくこと。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに卒業論文などにより、総合的に評価する。
講義構成	前期はプログラミング演習及び関連研究の輪講を行う。 後期は各自たてた研究計画に沿い、研究を行う。 また、毎週進捗状況及び研究成果のプレゼンを行う。
教科書	必要に応じてプリントを配布する。

授業コード	24F13		
授業科目名	卒業研究及び演習（阪本）		
担当者名	阪本邦夫（サカモト クニオ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜1限 火曜2限）、後期（火曜3限 火曜4限）
オフィスアワー	随時		

講義の内容	立体映像、ホログラフィ応用など「飛び出す3D映像」を体感できる立体映像システムや、ヒトとシステムとの関わり（インタフェース）について研究を行い、コンピュータが作り出した3次元映像空間の中で、いつもと変わらないヒトの動作により、立体映像の物体を移動させたり、いろいろと自由に操作ができるインタラクティブ映像メディアの実現を目指す。卒研では、(i)立体映像の生成や表示、(ii)動画像処理・認識による指差し指示や3次元マウス操作、(iii)動画像合成などのマルチメディア処理、(iv)ヒトに優しいシステム構築などに関する分野をテーマに選び、プログラミングまたはモノづくり（工作）を行い、ゲームや遊びを通じた学習・記憶支援など、立体映像・マルチメディアを活用した情報システムを構築する。
到達目標	・各自の研究テーマを自主的に計画をたて遂行することができる。 ・卒業論文をまとめることができる。
講義方法	・各自の研究テーマを自主的に計画をたて遂行する。 ・履修者自身が研究をまとめ、卒業論文を執筆する（教員は一切執筆しない）。
準備学習	自主的に計画をたてること
成績評価	日々の勉学・研究態度、発表、討論、演習など、および卒業論文により総合的に判断する。
講義構成	・各自の研究テーマを自主的に計画をたて遂行する。 ・履修者自身が研究をまとめ、卒業論文を執筆する（教員は一切執筆しない）。
教科書	なし
その他	研究室（ゼミ）への配属は3年次後期に、希望調査にもとづいて決定する。

授業コード	24F14		
授業科目名	卒業研究及び演習（田村）		
担当者名	田村祐一（タムラ ユウイチ）		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜3限 水曜4限）、後期（水曜3限 水曜4限）
オフィスアワー	随時		

講義の内容	バーチャルリアリティ関連論文を読み、自分の研究テーマの模索をする。 また、研究の進め方を立案し、プレゼンテーションの仕方などについて学習する。
到達目標	卒業研究を行うために必要となる能力の基礎的な部分（論文の読み方、研究の進め方など）を身につけることを

	到達目標とする。また、関連研究の詳細を知ることにも到達目標とする。
講義方法	論文・文献の購読、最新研究動向、技術の調査等の発表とディスカッションを通じて、卒業研究を実現していく。
準備学習	特にないが、C/C++またはJavaの知識があることが望ましい。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに卒業論文などにより、総合的に評価する。
講義構成	バーチャルリアリティとシミュレーションを軸として、研究を進めている。前者については、没入型のバーチャルリアリティ装置の開発およびバーチャルリアリティ上での様々なコンテンツ作成に関する研究を行う。また、バーチャルリアリティ空間内でのインターフェイスとして、触感覚・力覚情報を提示可能なデバイスの開発およびその評価、応用を進める。後者については、シミュレーション3次元可視化やよりリアリティのある触覚情報提示のためのリアルタイム物理演算手法の研究を行う。
教科書	なし

授業コード	24F15		
授業科目名	卒業研究及び演習（小出）		
担当者名	小出武(コイデ タケン)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限 火曜4限)、後期(火曜3限 火曜4限)

講義の内容	研究室に配属し、自らの研究テーマを遂行し、卒業論文を作成し、研究発表を行う。
到達目標	自らの研究テーマを計画性を持って遂行し、その成果を卒業論文としてまとめ、研究発表において研究内容を説明することができる。
講義方法	講義の時間までに各自の研究テーマを遂行し、講義の時間にその進捗を報告する。定期的に研究成果報告会を実施する。
準備学習	実質的な研究は、講義の時間外に進めることが肝要である。講義の時間は研究の進捗報告、成果の発表、ゼミの同志や教員とのディスカッションや相談などを行う時間である。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び演習や発表・討論など内容により、総合的に評価する。
講義構成	本研究室では、数理モデルや統計手法を用いた意思決定問題について研究している。本科目では、マルチエージェントシミュレーションによる意思決定と統計解析のどちらかを選択し、従来研究の調査・理解を進めながら、関心のある事柄を題材にした研究テーマを設定して研究を進める。シミュレーションの場合は、オリジナルのシミュレーションモデルを構築し、シミュレーション実験を行い、結果を分析・評価する。統計解析の場合は、関連のデータを収集し、統計分析手法を適用して、結果を分析・評価する。
教科書	各自のテーマに合わせて、教員が指示をする。

授業コード	24F16		
授業科目名	卒業研究及び演習（和田）		
担当者名	和田昌浩(ワダ マサヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限 水曜4限)、後期(水曜3限 水曜4限)

講義の内容	カオス、暗号、セキュリティ、時系列解析、画像処理などを中心に研究している。カオスなどの興味深い現象の解析をはじめ、近年注目を集めている最先端の技術や話題、たとえば暗号システムや時系列予測、マルチエージェント、創発システム、セキュリティシステムなどに関しても積極的に研究を進めている。また、卒業研究では各個人毎に決められたテーマに応じて研究するだけでなく、全員で1つの文献を読んだり、ディスカッションをしながら互いに理解力を深めていく。研究や勉強だけでなく、旅行やスポーツなど、様々なイベントを通じて活気・魅力のある研究室を目指している。
到達目標	それぞれの研究テーマに応じた最先端の研究について追究・探求し、様々な能力の涵養を目指す。
講義方法	毎回のゼミにおいて、前半は論文や書物を輪読し、基本知識を深め、後半は各自のテーマに応じた応用研究を

	行う。
準備学習	プログラミング(C言語やMATLAB)等の事前学習をしておくこと。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに卒業論文などにより、総合的に評価する。
講義構成	研究の進捗状況に応じて、柔軟な講義構成を予定。
教科書	特に指定しない。

授業コード	24F17		
授業科目名	卒業研究及び演習（新田）		
担当者名	新田直也(ニッタ ナオヤ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限 火曜4限)、後期(火曜3限 火曜4限)

講義の内容	本研究室では、ソフトウェア開発の技術的側面に焦点を当てて研究を行っている。具体的には、UML、デザインパターン、リファクタリング、アプリケーションフレームワークなどのソフトウェア設計論、ソフトウェアクラスタリングなどのソフトウェア解析論、各種セキュリティ技術などをテーマとして考えているが、ソフトウェアに関するものならテーマはこれに限らない。ゼミの前半では、技術習得および問題意識の喚起を目的として、ゼミ生全員が参加するソフトウェア開発プロジェクトを実施する。後半では、前半で体験した内容を基に各自興味を持った分野から研究テーマを選んでもらい、主体的に研究に取り組んでもらう。実際に動くシステムを作ってみたい人も、純粋な理論研究に関心がある人も歓迎する。(詳細は、http://silverbullet.is.konan-u.ac.jp/ 参照)		
到達目標	・ソフトウェア開発の難しさを体験に基づいて理解する。 ・オブジェクト指向技術に基づいたソフトウェア開発の方法を実践を通して学ぶ。 ・ソフトウェア工学の有用性と限界を理解する。 ・研究成果を客観的に評価する方法を学ぶ。		
講義方法	講義の内容・目的を参照。		
準備学習	特にないが、Javaプログラミングの経験があると作業がより円滑に進む。		
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに卒業論文などにより総合的に評価する。		
講義構成	講義の内容・目的を参照。		
教科書	特になし。		

授業コード	24F18		
授業科目名	卒業研究及び演習（梅谷）		
担当者名	梅谷智弘(ウメタニ トモヒロ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限 火曜4限)、後期(火曜3限 火曜4限)
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00, 後期 木曜日 10:30～12:00		

講義の内容	卒業研究のためのゼミとして、各研究室に所属し、研究を実施していくための基礎、すなわち、論文の読み方や書き方、研究の進め方、プレゼンテーションの仕方などについて学習する。さらに、研究室で実施されている研究の詳細を知り、自分の研究テーマの模索をする。 なお、事前に希望調査を行い所属先研究室を決定する。 本研究室は、ロボット周囲の要素技術の開発、および、それらを用いたシステム統合の実現を目的としている。ロボット単体では実世界に存在しえないため、ロボットに限らずロボット周囲の要素技術に焦点を当てて研究を進めている。具体的には、ロボット周囲の環境整備、センシングおよび、それらのロボットシステムとしての統合、もしくは、ロボット分野と関連が深い空間計測の応用を取り扱う。ゼミでは当初、これらの領域で共通に扱われる問題や技術動向の把握のための基礎文献の輪講を行う。その後、テーマを設定し、主体的に問題解決に		
-------	--	--	--

	向けた研究に取り組む。
到達目標	卒業研究を通して以下の事項の到達を目指す。 1. 自ら問題を設定し、自発的に解決手法を模索し、問題の解決にあたることができる。 2. 情報システム工学分野に関する専門的な知識を習得し、問題を解決するための方法について、取捨選択がおこなえる。 3. 問題解決の過程、結果を、卒業論文の形でまとめることができる。
講義方法	研究室ごとに少人数で研究を行う。各研究室により、研究の方法は様々であり、指導教員の方針に従って行う。
準備学習	3年次までに配当されている科目の復習を行うこと。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに卒業論文などにより、総合的に評価する。
講義構成	各研究室により、研究や演習の方法は様々であり、指導教員の方針に従って授業を行う。
教科書	各研究室において、指導教員が必要に応じて指示する。

授業コード	24F19		
授業科目名	卒業研究及び演習（永田）		
担当者名	永田 亮(ナガタ リョウ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限 水曜3限)、後期(水曜2限 水曜3限)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本研究室では、コンピュータで言語(英語、日本語など)を処理する研究を行っている。研究テーマは、大きく(1)英文の誤りを検出・訂正する手法に関する研究、(2)大量の文書から有益な知識を発見する手法に関する研究、(3)文章の構造を解析する技術の開発、に分かれる。(1)では、日本人が書いた英文中の誤りを検出・訂正する手法に関して研究を行っている。(2)では、大量の文書(例えば、WEBページ)から、キーワードや特徴的な表現を発見する手法について研究を行っている。また、文書の自動分類についても研究を行っている。(3)では、与えられた文章の品詞や構文構造を推定する技術を開発している。特に、誤りを含んだ文章を解析するための技術の開発に取り組んでいる。ゼミ生は、文献輪講を通じて、具体的なテーマを前期中に決定する。その後は、年度末の卒業研究報告に向けて主体的に研究を進めてもらう。		
到達目標	研究テーマを決定し、自主的に研究計画の立案と実施ができる能力を身につけることを目標とする。更に、研究結果を論文やプレゼンテーションの形で情報発信できる能力を身につけることを目標とする。		
講義方法	文献の輪読、研究進捗報告、研究の実施、プレゼンテーションなどを行う。		
準備学習	適宜配布する文献を熟読すること。		
成績評価	日々の勉学・研究態度、発表、討論、演習など、および卒業論文(タイプAのゼミの場合)により総合的に判断する。		
講義構成	1. 文献調査、言語データの分析などにより研究テーマを決定する。 2. 研究テーマにそって、研究を実施する。 3. 研究成果を論文にまとめる。		
教科書	特に使用しない。適宜、文献や資料を配布する。		
その他	研究室(ゼミ)への配属は3年次後期に、希望調査にもとづいて決定する。		

授業コード	24023		
授業科目名	多変量解析（後）		
担当者名	灘本明代(ナダモト アキヨ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	種々の特性のパラメータ(変数)群を集めて、それらを分析することによって各パラメータの相互の関係性や特徴等を明らかにして行く多変量解析について学ぶ。 多変量解析の基礎を学びながら、実際のデータを解析することにより、数式が多く難解に思われがちな多変量解析を利用する視点から分かりやすく学んで行くことを目的とする。
到達目標	アンケート結果等のデータに対して多変量解析を行うことにより、データ分析ができるようになる。
講義方法	8割が講義、2割実習の割合。実習では多変量解析のソフトを使って実際のデータを解析する。
準備学習	統計計算基礎に関して十分予習すること。 分散、共分散等はすでに理解しているものとする。
成績評価	出席、定期試験、演習のレポートにより総合的に評価する。
講義構成	1. 多変量解析とは 2. 多変量解析の準備:分散、共分散、相関 3. 重回帰分析Ⅰ 4. 重回帰分析Ⅱ 5. 重回帰分析演習 6. 主成分分析Ⅰ 7. 主成分分析Ⅱ 8. 主成分分析演習 9. 因子分析Ⅰ 10. 因子分析Ⅱ 11. 因子分析演習 12. クラスタ分析Ⅰ 13. クラスタ分析Ⅱ 14. まとめと多変量解析の適用事例概要 15. 試験
教科書	なし 必要に応じて印刷物を配布する。
参考書・資料	「図解でわかる多変量解析」 涌井良幸、涌井貞美著(日本実業出版社) 「入門はじめての多変量解析」石村貞夫、石村光資郎著(東京図書)
担当者から一言	線形代数、統計解析を履修していることが必要である。

授業コード	24036		
授業科目名	知能情報処理I（後）		
担当者名	田中雅博（タナカ マサヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	金曜日午前中.		

講義の内容	知能情報処理は、単なるアルゴリズムではなく、対象となるシステム、それを解決する手法、そして、それを実現する「高度に知能的な」ソフトウェアの総合的な学問である。 本講義では、コンピュータ内に簡単な構造のロボットを想定し、それを知能化するために必要な手法である、進化計算と強化学習について、代表的な遺伝的アルゴリズムとQ学習をプログラム例を交えながら具体的にわかりやすく解説する。 プログラム例を実際に作成・実行しながら、進化計算と強化学習をロボットへ適用し、その動作を確認する。
到達目標	遺伝的アルゴリズムとQ学習の概念を正確に理解し、かつ、プログラミングができるところまで到達することが目標である。
講義方法	板書を中心に進めるが、コンピュータを用いてプログラムを実際に動かし、具体的にイメージを持たせるようにする。プログラムは主としてExcel VBAである。
準備学習	毎回、教科書をしっかりよく読み、次の授業の準備を行っておくことが望ましい。予習・復習によりVBAに習熟することを求める。
成績評価	出席、平常点、期末試験の総合評価。
講義構成	1. 知能とは何か 2. 知能ロボット

	3. 進化計算とロボット 4. 遺伝的アルゴリズムとは 5. Excelによる実現 6. 適用例 7. 強化学習とロボット 8. Q学習とは 9. Excelを用いたQ学習の実装 10. 遺伝的アルゴリズムのプログラム 11. キリン型ロボット 12. 各関数の統合とキリン型ロボットへの適用 13. 基本例題 14. 異なる例題への適用 15. 試験
教科書	伊藤一之著「ロボットインテリジェンス. 進化計算と強化学習」, オーム社、2400円

授業コード	24037		
授業科目名	知能情報処理II (前)		
担当者名	渡邊栄治 (ワタナベ エイジ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本講義では、パターン分類や関数近似などの分野に適用されている階層型ニューラルネットワークの基礎的な原理と応用方法について講述する。また、簡単な人間同士のゲームを例として取り上げ、統計的な分析を行うとともに、階層型ニューラルネットワークによる戦略の生成の可能性についても論じる。
到達目標	入出力関係が未知なる環境下において、入力及び出力からその関係を導くための技法や推定された関係の評価を行うことができる知識を習得することが望ましい。
講義方法	講義形式。プロジェクトと板書を併用し講義を進める。
準備学習	統計に関する基礎知識を習得していることが望ましい。
成績評価	各回におけるsummary(各自の講義ノートのまとめ)と定期試験の成績を含めて総合的に評価する。
講義構成	第1回 階層型ネットワークの概要 第2回 人間同士のゲーム(データ収集) 第3回 人間同士のゲーム(データ分析) 第4回 ニューロンモデル 第5回 階層型ネットワークの構造 第6回 誤差逆伝搬法(1) 第7回 誤差逆伝搬法(2) 第8回 階層型ネットワークの応用例(工学的な問題) 第9回 階層型ネットワークの応用例(人間同士のゲーム)(1) 第10回 階層型ネットワークの応用例(人間同士のゲーム)(2) 第11回 階層型ネットワークの応用例(人間同士のゲーム)(3) 第12回 階層型ネットワークと多変量解析の関係(1) 第13回 階層型ネットワークと多変量解析の関係(2) 第14回 まとめ 第15回 試験日
教科書	なし
参考書・資料	―「非線形多変量解析 ―ニューラルネットによるアプローチ―」 豊田 秀樹(朝倉書店 1996年) ―「多変量解析法入門」 永田 靖・棟近 雅彦(サイエンス社 2001年)
講義関連事項	与えられる情報が少ないために、各自で考えることが必要である。

授業コード	24C11		
授業科目名	統計解析 (A)(前)		
担当者名	小出武(コイデ タケン)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限 水曜2限
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	確率や統計に関する諸概念や諸定理の基本事項を解説する。また、講義内容の理解を定着させるために、問題演習を行う。
到達目標	確率や統計に関する基本的な概念を理解し、説明することができる。
講義方法	教科書に沿って基本事項の解説を行い、適宜問題演習と計算機演習を行う。
準備学習	積み上げ型の学習科目であるので、毎回の授業内容はよく復習して理解し、次回の講義に備えること。
成績評価	定期試験、演習のレポート、出席状況により総合的に判断する。
講義構成	第1回 確率論の基礎 集合と集合算 第2回 確率論の基礎 確率と確率モデル 第3回 確率論の基礎 確率変数と分布 第4回 確率論の基礎 条件付き確率 第5回 順列と組合せ 2項定理と多項定理 第6回 確率分布と確率密度関数 平均と分散 第7回 確率分布と確率密度関数 変数変換 第8回 確率分布と確率密度関数 多変数分布 第9回 確率分布と確率密度関数 確率変数の独立性と相関係数 第10回 確率分布と確率密度関数 量み込み積分および積率母関数 第11回 1変数の離散分布と連続分布 2項分布 第12回 1変数の離散分布と連続分布 大数の法則および2項分布の発展 第13回 1変数の離散分布と連続分布 ポアソン分布と幾何分布 第14回 1変数の離散分布と連続分布 一様分布と指数分布 第15回 定期試験
教科書	服部雄一 編著、確率統計入門 わかりやすい応用例でまなぶ、培風館

授業コード	24C12		
授業科目名	統計解析 (B)(前)		
担当者名	片山登揚(カタヤマ ノリアキ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜1限 土曜2限
特記事項	情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	確率や統計に関する諸概念や諸定理の基本事項を解説する。また、講義内容の理解を定着させるために、問題演習を行う。
到達目標	確率や統計に関する基本的な概念を理解し、説明することができる。
講義方法	教科書に沿って基本事項の解説を行い、適宜問題演習と計算機演習を行う。
準備学習	積み上げ型の学習科目であるので、毎回の授業内容はよく復習して理解し、次回の講義に備えること。
成績評価	定期試験、演習のレポート、出席状況により総合的に判断する。
講義構成	第1回 確率論の基礎 集合と集合算 第2回 確率論の基礎 確率と確率モデル 第3回 確率論の基礎 確率変数と分布 第4回 確率論の基礎 条件付き確率 第5回 順列と組合せ 2項定理と多項定理 第6回 確率分布と確率密度関数 平均と分散 第7回 確率分布と確率密度関数 変数変換 第8回 確率分布と確率密度関数 多変数分布

	第9回 確率分布と確率密度関数 確率変数の独立性と相関係数 第10回 確率分布と確率密度関数 量み込み積分および積率母関数 第11回 1変数の離散分布と連続分布 2項分布 第12回 1変数の離散分布と連続分布 大数の法則および2項分布の発展 第13回 1変数の離散分布と連続分布 ポアソン分布と幾何分布 第14回 1変数の離散分布と連続分布 一様分布と指数分布 第15回 定期試験
教科書	服部雄一 編著、確率統計入門 わかりやすい応用例でまなぶ、培風館

授業コード	24C13		
授業科目名	統計解析 (C)(前)		
担当者名	妻鳥淳彦(メンドリ アツヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜1限 土曜2限
特記事項	情報システム工学科以外		

講義の内容	確率・統計の理論について解説する。 一般的な確率の定義だけでなく、経済学で用いられる主観的確率、ベイズの定理などの基礎理論から、統計分析の基盤となる母集団や標本の確率分布とその性質により、最もよく用いられる正規分布との関連を示す。それにより確率は一般的に知られている定義の仕方ですら求めたものになることを示す大数の法則、中心極限定理を解説する。 後半の統計分析では前半の確率分布の理論を利用して、実際のデータ(標本)からその標本のもつ性質について推定する(点推定・区間推定)。また、その意味を推測した命題が正しいかどうかについて判定する(検定)方法を解説する。
到達目標	①事象と確率について理解し、正規分布を利用した確率の計算ができる。 ②新聞などの世論調査、視聴率調査等の各種調査を分析した数値が表す意味、誤差の幅を理解し、新聞などの解説の正しさ、欺瞞に気づくことができる。 ③各種データの統計分析を行うとき、適切な分析方法を選択し、正しい分析ができる。
講義方法	教科書・配布プリント・黒板への板書による講義を行う。
準備学習	確率分布による確率の計算のためには積分を用いるので、定積分の意味は理解しておくこと。(実際の計算は数表を利用しての足し算、引き算なので積分の計算が必要なわけではない。) 理論の導出には難度の高い数学を用いるが、理論の運用はそれほど難しくない。運用方法は分類し、例題で解説するので、復習として対応する教科書の問題を解答しておくこと。 演習、試験のときには電卓が必須なので電卓(関数電卓やポケコンならさらに利用しやすい)を用意すること。
成績評価	次の4種類の評価方法の中の最も高い得点で評価する。 ①定期試験の得点(60%)、演習レポート及び中間試験の得点(40%)の配点で評価する。 ②定期試験の得点(50%)、中間試験の得点(50%)の配点で評価する。 ③定期試験の得点(80%)、演習レポートの得点(20%)の配点で評価する。 ④定期試験の得点(100%)で評価する。 (③、④は教育実習等で中間試験を受験できない場合があるために設定している。)
講義構成	第1、2回 確率の概念、確率の定義と基本公式 第3、4回 条件付き確率とベイズの定理、ベイズ推定 第5、6回 1変数のデータ処理、度数分布と代表値(平均)・散布度(分散) 第7、8回 2変数のデータ処理、回帰直線と相関係数 第9、10回 確率変数・確率分布の定義と平均・分散 第11、12回 2項分布とポアソン分布 第13、14回 正規分布とその確率の計算、2項分布の正規近似 第15回 チェビシェフの不等式と大数の法則、2次元の正規分布と中心極限定理 第16回 中間試験 第17、18回 母集団と標本抽出、標本平均の平均と分散 第19、20回 カイ2乗分布、t-分布、F-分布の性質と表の利用の仕方 第21、22回 点推定(不偏推定量・有効推定量・一致推定量・最尤推定量) 第23、24回 区間推定(正規分布・カイ2乗分布・t-分布の利用) 第25、26回 母平均と母分散の検定(正規分布・カイ2乗分布・t-分布の利用) 第27、28回 比率の検定・平均の差の検定・分散比の検定(正規分布・F-分布の利用)、独立性の検定 第29、30回 定期試験

教科書	稲垣・山根・吉田共著「統計学入門」(裳華房 1998年)
参考書・資料	稲垣宣生・吉田光雄・山根芳知・地道正行 共著「統計学講義」(裳華房 2007年) 服部哲也著「理工系の確率・統計入門」(学術図書 2005年)

授業コード	24C21		
授業科目名	統計解析演習 (A)(後)		
担当者名	小出武(コイデ タケン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限 水曜2限
特記事項	情報システム工学科 統計解析と同じクラスを履修すること		

講義の内容	確率や統計に関する諸概念や諸定理を踏まえ、母集団の概念、標本抽出、標本分布、いわゆる数理統計学の骨子である推定、検定の基本事項を解説する。また、講義内容の理解を定着させるために、問題演習を行う。
到達目標	確率や統計に関する基本的な概念を理解し、代表的な推定・検定を実行することができる。
講義方法	教科書に沿って基本事項の解説を行い、適宜問題演習と計算機演習を行う。
準備学習	積み上げ型の学習科目であるので、毎回の授業内容はよく復習して理解し、次回の講義に備えること。
成績評価	定期試験、演習のレポート、出席状況により総合的に判断する。
講義構成	第1回 正規分布 スターリングの公式 第2回 正規分布 正規分布の確率計算、規格化変換、偏差値 第3回 正規分布 正規分布とその1次結合 第4回 母集団と標本 復元抽出および非復元抽出 第5回 母集団と標本 標本平均の分布 第6回 母集団と標本 層別比例抽出法と任意抽出法 第7回 母集団と標本 標本分散の平均と不偏分散 第8回 χ^2 分布 ガンマ関数と分布の定義および分布に従う例 第9回 F分布とt分布 ベータ関数とF分布の定義およびF分布に従う例 第10回 F分布とt分布 t分布の定義およびt分布に従う例 第11回 推定と検定 母平均の推定と検定(1) 第12回 推定と検定 母平均の推定と検定(2) 第13回 推定と検定 母分散の推定と検定 第14回 推定と検定 その他の検定 第15回 定期試験
教科書	服部雄一 編著、確率統計入門 わかりやすい応用例でまなぶ、培風館
担当者から一言	前期開講の統計解析(A)を履修していること。

授業コード	24C22		
授業科目名	統計解析演習 (B)(後)		
担当者名	片山登揚(カタヤマ ノリアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜1限 土曜2限
特記事項	情報システム工学科 統計解析と同じクラスを履修すること		

講義の内容	確率や統計に関する諸概念や諸定理を踏まえ、母集団の概念、標本抽出、標本分布、いわゆる数理統計学の骨子である推定、検定の基本事項を解説する。また、講義内容の理解を定着させるために、問題演習を行う。
到達目標	確率や統計に関する基本的な概念を理解し、代表的な推定・検定を実行することができる。
講義方法	教科書に沿って基本事項の解説を行い、適宜問題演習と計算機演習を行う。
準備学習	積み上げ型の学習科目であるので、毎回の授業内容はよく復習して理解し、次回の講義に備えること。
成績評価	定期試験、演習のレポート、出席状況により総合的に判断する。

講義構成	第1回 正規分布 スターリングの公式 第2回 正規分布 正規分布の確率計算、規格化変換、偏差値 第3回 正規分布 正規分布とその1次結合 第4回 母集団と標本 復元抽出および非復元抽出 第5回 母集団と標本 標本平均の分布 第6回 母集団と標本 層別比例抽出法と任意抽出法 第7回 母集団と標本 標本分散の平均と不偏分散 第8回 χ^2 分布 ガンマ関数と分布の定義および分布に従う例 第9回 F分布とt分布 ベータ関数とF分布の定義およびF分布に従う例 第10回 F分布とt分布 t分布の定義およびt分布に従う例 第11回 推定と検定 母平均の推定と検定(1) 第12回 推定と検定 母平均の推定と検定(2) 第13回 推定と検定 母分散の推定と検定 第14回 推定と検定 その他の検定 第15回 定期試験
教科書	服部雄一 編著、確率統計入門 わかりやすい応用例でまなぶ、培風館
担当者から一言	前期開講の統計解析(A)を履修していること。

授業コード	24C23		
授業科目名	統計解析演習 (C)(後)		
担当者名	妻鳥淳彦(メンドリ アツヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜1限 土曜2限
特記事項	情報システム工学科以外 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		
講義の内容	確率・統計に関する諸概念や諸定理、推定や検定を含めた統計的な手法を理解するための演習である。分布表を使って推定や検定の問題を解くだけではなく、各種分布の確率、データの基本統計量、相関係数等の統計量を計算するコンピュータ演習も行う。Excelを利用して各種の統計分析を行うことを目的とする。また、コンピュータ・シミュレーションによって大数の法則、中心極限定理などの諸定理の理解を深めることも目的とする。		
到達目標	①適切な統計手法を選択し、電卓・Excelを利用し統計分析できる。 (特にExcelにデータを入力し、適切なExcel関数を用いて度数分布表やグラフを作成できる。) ②確率分布の理論をExcelによるコンピュータ・シミュレーションで実験的に理解する。		
講義方法	手計算と電卓を用いた演習(板書による解答・解説)と、Excelを利用したコンピュータ演習を行う。		
準備学習	前期の統計解析(C)の合格は必要ない。(この演習により前期の内容を理解することもできる。) しかし、適切な統計分析の方法を参照する必要があるため、前期の配布プリント、ノート、教科書を用意すること。(次回どの内容のプリントが必要かは毎回述べる。)よって、前期の統計解析(C)はなるべく履修すること。 手計算のためには電卓(関数電卓、ポケコンならより計算しやすい)は必須なので用意すること。		
成績評価	授業回数の70%以上出席する。 演習問題の解答を最低1回板書する。 Excelによる演習課題はすべて達成する。 以上すべてを達成した者について成績評価する。 成績(得点)は演習問題の解答の板書した問題数に比例する。		
講義構成	第1、2回 確率の計算、度数分布表とヒストグラムの作成 第3、4回 条件付き確率とベイズの定理、散布図の作成と回帰直線の方程式 第5、6回 事象の独立、同時分布と周辺分布、2次元の確率分布のグラフ 第7、8回 連続型確率分布・確率密度関数、正規分布の確率、モンテカルロ法によるシミュレーション 第9、10回 ポアソン分布を利用した確率の計算、正規分布を利用した確率の計算1 第11、12回 正規分布を利用した確率の計算2 第13、14回 母平均・母分散と標本平均の平均と分散、不偏推定量の有効性 第15、16回 母平均の推定と検定1、正規分布表の作成 第17、18回 母平均の推定と検定2、母分散の推定と検定、カイ2乗分布表の作成 第19、20回 母平均の推定と検定3、母比率の推定と検定 第21、22回 母平均の差の推定と検定 第23、24回 適合度の検定、F分布表の作成		

	第25、26回 推定と検定のまとめ1 第27、28回 推定と検定のまとめ2
教科書	稲垣・山根・吉田共著「統計学入門」(裳華房 1998年)
参考書・資料	鈴木治郎著「Excelで実験する統計学 第2版」(ピアソン・エデュケーション 2000年)
担当者から一言	前期開講の統計解析(C)を履修していることが望ましい。(前期は合格していなくてもよい。)

授業コード	24C24		
授業科目名	統計解析演習(D)(後)		
担当者名	松野高典(マツノ タカノリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜1限 土曜2限
特記事項	情報システム工学科以外 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	確率・統計に関する諸概念や諸定理、推定や検定を含めた統計的な手法を理解するための演習である。分布表を使って推定や検定の問題を解くだけではなく、各種分布の確率、データの基本統計量、相関係数等の統計量を計算するコンピュータ演習も行う。また、コンピュータ・シミュレーションによって大数の法則、中心極限定理などの諸定理の理解を深めることも目的とする。		
到達目標	Excelを用いて正規分布、 χ^2 -分布、 t -分布、 F -分布による推定・検定ができる。		
講義方法	手計算と電卓を用いた演習と、Excelを利用したコンピュータ演習を行う。		
準備学習	統計解析(C)を履修し確率・統計の基本概念を理解していることが望ましい。		
成績評価	演習レポートの得点で評価する。		
講義構成	第1、2回 確率の計算 第3、4回 条件付き確率とベイズの定理、ベイズ推定 第5、6回 平均・分散・期待値、チェビシェフの不等式 第7、8回 コーシー分布、二項分布と大数の法則 第9、10回 変数の独立性、相関係数、スターリングの公式 第11、12回 正規分布とその1次結合、中心極限定理 第13、14回 標本抽出、層別抽出法 第15、16回 標本平均の平均と分散 第17、18回 χ^2 -分布、 F -分布、 t -分布の確率 第19、20回 要因が複数の標本 第21、22回 正規分布による推定と検定1 第23、24回 正規分布による推定と検定2 第25、26回 ポアソン分布、 χ^2 -分布による推定と検定 第27、28回 F -分布、 t -分布による推定と検定 第29、30回 相関係数の推定と検定		
教科書	稲垣・山根・吉田共著「統計学入門」(裳華房 1998年)		
参考書・資料	鈴木治郎著「Excelで実験する統計学 第2版」(ピアソン・エデュケーション 2000年)		
担当者から一言	毎回の講義に出席し、演習を通して実践的な統計解析の知識を身につけて下さい。		

授業コード	24026		
授業科目名	認知システム(前)		
担当者名	前田多章(マエダ カズアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	月曜日4限		
講義の内容	ヒトが外界の事物・事象を如何に知覚し、推論・問題解決し、記憶し、そして対処しているのかを、ヒトが『言語』を		

	獲得し運用していく側面から解説し、ヒトの認知メカニズムを講義する。『記憶』はヒトの認知活動に非常に有用な機能ある。 本講義では、認知諸機能の構築に関して「記憶」が「発達」にともないどのように形成され変化していくかという側面から学習する。そして、認知メカニズムを理解することを目的とする。
到達目標	本講義を通して、ヒトの記憶の基本的特性を理解し、さらに、記憶が加齢とともにどのように発達し、どのように変化していくかを理解する。
講義方法	講義形式で進める。 適宜、図や写真を提示して講義の理解を深める。
準備学習	教科書を指定するので、予め目を通しておく必要がある。
成績評価	受講態度と試験の結果で成績評価する。
講義構成	1. 記憶の生涯発達心理学概観 2. 乳・幼児の記憶(1) 3. 乳・幼児の記憶(2) 4. 乳・幼児の記憶(3) 5. 児童の記憶(1) 6. 児童の記憶(2) 7. 児童の記憶(3) 8. 青年・成人の記憶(1) 9. 青年・成人の記憶(2) 10. 青年・成人の記憶(3) 11. 高齢者の記憶(1) 12. 高齢者の記憶(2) 13. 高齢者の記憶(3) 14. まとめ 15. 試験
教科書	太田信夫・多鹿秀継編著、『記憶の生涯発達心理学』。北大路書房、2008年。4,200円(税別)
参考書・資料	① 甘利俊一 監修:精神の脳科学, シリーズ脳科学6. 東京大学出版会, 2008. ISBN:979-4-13-06406-1 ② R. Carter 著, 養老孟司 監修:脳と心の地形図. 原書房, 1999. ISBN:978-4-56-203270-9
講義関連事項	あらかじめ予習等により、ヒトの認知機構に関する簡単な知識を学び、講義を受けることが望ましい。

授業コード	24042		
授業科目名	プログラミング言語論(後)		
担当者名	新田直也(ニッタ ナオヤ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	在席中ならいつでもかまいません		

講義の内容	計算機の歴史の中で、数多くのプログラミング言語が考案され、そのうちのいくつかは広く産業界に浸透してきた。本講義では、プログラミング言語のさまざまな仕組みが、プログラミングという実務の中の具体的にどのような作業に役立っているのかを中心に説明を行い、プログラミング言語を道具として使うための基本的な理解の醸成を目指す。特に、今後の有用性の観点から、オブジェクト指向については重点的に説明を加える。
到達目標	プログラミング言語のさまざまな構文要素が、プログラミングの中の具体的にどのような作業に役立つのかを理解する。また、オブジェクト指向言語の基本的な考え方と、オブジェクト指向プログラムの動作仕様を理解する。
講義方法	配布資料をもとに講義する。演習を1,2回行う。
準備学習	C言語の基本的な構文について理解しておくこと。ただし、ポインタや構造体などの考え方については講義の中で説明する。
成績評価	試験、レポート、演習をもとに総合的に評価する。
講義構成	第1回 プログラミング言語の種類と歴史 第2回 変数と型 第3回 式と演算子 第4回 制御構造 第5回 記憶クラス 第6回 構造化プログラミング(1)

	第7回 構造化プログラミング(2) 第8回 演習 第9回 オブジェクト指向言語(1) 第10回 オブジェクト指向言語(2) 第11回 オブジェクト指向言語(3) 第12回 オブジェクト指向言語(4) 第13回 オブジェクト指向言語(5) 第14回 プログラミング環境 第15回 試験
教科書	特に指定しない
参考書・資料	「原理がわかる プログラムの法則」河西朝雄著(技術評論社)
ホームページタイトル	{「プログラミング言語論(前)」ホームページ, http://www.syllabus.konan-u.ac.jp/customer/01/index.jsp?toc=3151 }

授業コード	24002		
授業科目名	プログラミング実習I		
担当者名	梅谷智弘(ウメタニ トモヒロ)、前田多章(マエダ カズアキ)、和田昌浩(ワダ マサヒロ)、永田 亮(ナガタ リョウ)、村尾 元(ムラオ ハジメ)、藤田 靖(フジタ ヤスシ)、辻 稔郎(ツジ トシロウ)、小林 太(コバヤシ フトシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限 月曜3限)、後期(月曜2限 月曜3限)
オフィスアワー	月曜14:40～16:10		

講義の内容	情報工学の根幹をなす、コンピュータのプログラミングを教える科目である。本科目では、コンピュータリテラシーから始めて、Linux上でC言語によるプログラミングの基礎を教える。そのため、Linuxのコマンドやファイルシステムについても簡単に触れる。C言語は、構造体までとし、プログラミング実習IIで本格的な応用を行うために、十分な基礎力をつけることを目指す。
到達目標	コンピュータのプログラミングの基礎科目として、以下の事項の達成を目指す。 1. C言語の基礎を習得し、基本的なプログラムを作成することができる。 2. C言語の基本的なプログラムを読んで内容を理解できる。
講義方法	(1) 教材の提供方法: Webを使って行う。教科書も使用する。 (2) 解説 (3) レポート: 毎回課す。
準備学習	初年次のコンピュータ実習科目として設定される科目であり、コンピュータリテラシーの基礎を含む内容であるため、特に必要としない。
成績評価	(1) 毎回のレポート(30%) (2) 面接試験(前期)と後期試験(40%) (3) 出席(20%) (4) 小テスト(10%) (5) 実習中の学習態度が悪いと減点する。
講義構成	(前期) 第1回 Windowsの使い方、システムの起動と終了電子メールの使い方、レポートの書き方 第2回 コンピュータリテラシー(続き)、UNIXにおけるディレクトリ構造、絶対パス、相対パス、unixコマンド1 第3回 C言語の基礎: コンパイルと実行、フローチャートとコーディング 第4回 main関数と変数の型宣言: 整数型、実数型、文字型 第5回 入出力関数: printf, scanf 第6回 演算子と優先順位: 算術演算子と様々な演算子 第7回 インクリメントとデクリメント: ++, --, i=i±1 第8回 面接試験 第9回 条件文1: if文の構造と関係演算子、論理演算子 第10回 条件文2: if, else if, else など 第11回 繰り返し文1: for文の構造 第12回 繰り返し文2: for文, breakとcontinue 第13回 繰り返し文3: while, do～while 第14回 まとめ

	第15回 面接試験 (後期) 第16回 復習: 前期の復習とUNIXコマンド2 第17回 関数1: 関数の宣言、関数の呼び出しと値の引き渡し 第18回 関数2: 配列、文字列データの渡し方・返し方 第19回 関数3: 再帰関数を用いたプログラム 第20回 関数4: 数学関数、ライブラリ関数 第21回 記憶クラス 第22回 配列1: 1次元配列 第23回 配列2: 2次元配列、文字配列 第24回 アドレスとポインタ1 第25回 アドレスとポインタ2 第26回 関数の応用 第27回 構造体 第28回 まとめと小テスト 第29回 総復習 第30回 試験
教科書	「入門ANSI-C(三訂版)」石田晴久著(実教出版)
参考書・資料	(1)「改訂第4版[ANSI C対応]はじめてのC」椋田寛著(技術評論社) (2)「C言語によるプログラミング基礎編」内田智文著(システム計画研究所) (3)「定本明解C言語(入門編)」柴田望洋著(ソフトバンクパブリッシング) (4)「明解C言語入門編一例解演習」柴田望洋、他著(ソフトバンクパブリッシング) これ以外にも数多くの書籍が刊行されているので、各自適当なものを参照のこと。
講義関連事項	2年次以降の「プログラミングII」および関連科目を受講するにあたり、「プログラミング実習I」で学んだ内容を十分に習得している必要がある。
担当者から一言	実習時間内だけでは習得不可能なので、自習・復習が必要である。
その他	情報システム工学科としての基礎科目であるため、十分に理解し、習得しておく必要がある。
ホームページタイトル	プログラミング実習 I
URL	http://www.center.konan-u.ac.jp/~prog1/

授業コード	24007		
授業科目名	プログラミング実習II		
担当者名	北村達也(キタムラ タツヤ)、若谷彰良(ワカタニ アキヨシ)、巽 啓司(タツミ ケイジ)、藤田 靖(フジタ ヤスシ)、宮崎光二(ミヤザキ コウジ)、豊田博俊(トヨダ ヒロトシ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限 金曜5限)、後期(金曜4限 金曜5限)

講義の内容	プログラミング実習Iに引き続き、C言語のさらなる習得をめざす。学生は、本科目が終わったときには、プログラミングにおいてはかなりの能力および自信を持つことができるはずである。用いる題材としては、情報処理の基本となる事柄と、専門科目に関連する一部の内容を含んでいる。
到達目標	各回に学習した内容に関して、独力でプログラミングできるようになること。
講義方法	毎回コンピュータを使った実習を行う。
準備学習	プログラミング実習Iの学習内容を十分に理解していること。
成績評価	レポート、出席状況、および試験により評価する。
講義構成	前期 1. 配列とポインタ 2. 標準入出力とリダイレクション 3. テキストファイルの操作 4. バイナリファイルの操作、Waveファイルの操作 5. 構造体 6. リスト(1) 7. リスト(2) 8. 動的な多次元配列の生成と操作

	9. 画像ファイルの操作 10. 画像の拡大・縮小 11. 画像の回転 12. 画像の合成 13. 画像のフィルタリング 14. マルチスレッド 後期 15～21. 前期の復習 線形連立方程式の解法 関数近似と結果のグラフ表示 22. セル・オートマトン 23. ESCシーケンス 24. ライフゲーム 25. アニメーション 26. ランダムウォーク 27. イメージ処理(1) 28. イメージ処理(2)
教科書	指定せず、必要に応じて参考書を参照すること。
参考書・資料	柴田望洋「明解C言語入門」、SOFTBANK
担当者から一言	本学科の学生にとって非常に重要な科目である。予習復習にたっぷり時間を使ってほしい。
ホームページタイトル	{プログラミング実習II, http://www.is.konan-u.ac.jp/lecture/prog2/ }

授業コード	24039		
授業科目名	マシンラーニング（後）		
担当者名	阪本邦夫（サカモト クニオ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	データマイニングの目的は大量のデータの中に潜む知識(規則)を発見することであり、宇宙科学や生命科学から企業の販売戦略に至る非常に広範囲な応用が可能である。本講はその基本技術の修得を目的とするが、簡単な応用例まで触れることによりその実質的な意味を把握させる。内容は、各種データの前処理、機械学習、知識の視覚化等である。必要に応じてExcel等の表計算ソフト、SAS等の統計処理ソフト、あるいはMathematicaやMatlabといった数式処理ソフトを用い演習を行う。
到達目標	・データマイニングについての基本的な事項を理解している。 ・データマイニングに関する簡単なプログラミングができる。
講義方法	ノート講義。講義時間中にパソコンを使用して、具体的な事例をもとにデータ解析を行う演習をあわせて実施する。
準備学習	復習を重視する。 課題のプログラムは履修者自身が自らの力で作成すること。(教員作成のプログラム例は一切配布しない)
成績評価	演習レポートおよび定期試験によって総合的に評価する。
講義構成	1. データマイニングとは 2. データマイニングの手順 3. 回帰分析 4. 決定木 5. クラスタ分析 6. 自己組織化マップ 7. 相関ルール 8. 最適化問題の解法 9. 線型計画法 10. 万能解析法、双対尺度法 11. 実験計画法 12. ニューラルネットの活用 13. 統計学的検定の活用 14. まとめ

	15. 定期試験
教科書	上田 太一郎監修：「Excelで学ぶデータマイニング入門」，オーム社，ISBN：4-274-06625-8
講義関連事項	知能情報学科「データマイニング」と同時開講
担当者から一言	Excelの基本操作，Cプログラミングができること。 定期試験の出題範囲は，C言語によるプログラム作成を含み（すべての設問がCプログラミングの場合もある），Excelの操作は含まない。 定期試験は教科書，ノート，配布資料等の持ち込みなしで実施する。 定期試験は通常の講義と同じ方法で実施する。

授業コード	24040		
授業科目名	メディア情報処理I(後)		
担当者名	北村達也(キタムラ タツヤ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	講義期間の月曜日から金曜日まで随時		

講義の内容	本講義では，音響データの処理に関する理論および手法を扱う。ヒトの聴覚の生理学的・心理学的特性，音の物理などについて理解した後，線形時不変システム，たたみ込み演算，時間-周波数領域変換，フィルタなどの信号処理の基礎について学ぶ。これらの処理を行うプログラムをMatlabで作成し，実際にデータを処理することを通して，音響データの処理に関する基礎的な技能を身につける。
到達目標	(1) ヒトの聴覚系の生理学的・心理学的特性を理解する。 (2) 音響データを対象にした信号処理の理論を習得し，そのプログラムをMatlabで作成できるようになる。
講義方法	スライド，板書，ビデオ教材，コンピュータ（主にMatlab）による演習
準備学習	日頃からメディア情報処理技術に関するニュース等に関心を持つことが重要である。
成績評価	講義期間中の演習課題，レポート，および期末試験の成績等を総合して評価する。
講義構成	第1回 概論 第2回 聴覚器官，聴覚心理，音声知覚 第3回 音声学の基礎 第4回 デシベル 第5回 音の物理 第6回 Matlab 第7回 線形時不変システムとたたみ込み演算(1) 第8回 線形時不変システムとたたみ込み演算(2) 第9回 信号の周波数領域表現(1) 第10回 信号の周波数領域表現(2) 第11回 標本化と量子化 第12回 フィルタ(1) 第13回 フィルタ(2) 第14回 総括 第15回 試験
教科書	なし。適宜資料を配付する。
参考書・資料	甘利，「音声・聴覚と神経回路モデル」，オーム社（1990） 日本音響学会編，「音のなんでも小辞典」，講談社（1996） 古井，「新音響・音声工学」，近代科学社（2006） 大石，「フーリエ解析」，岩波書店（1985） 中村，「ビギナーズデジタルフィルタ」，東京電機大学出版局（1989）
講義関連事項	講義資料は全てMy Konanに掲載する。

担当者から一言	メディア情報処理の面白さは，処理の結果を自分の目と耳で確認できることにあります。ぜひ，自らプログラムを作成し，実際のデータを処理することを通して，内容の理解を深めてください。
URL	http://basil.is.konan-u.ac.jp/

授業コード	24041		
授業科目名	メディア情報処理II (前)		
担当者名	北村達也(キタムラ タツヤ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	講義期間の月曜日から金曜日まで随時		

講義の内容	本講義では、静止画像データおよび動画画像データの処理に関する理論および手法を扱う。ヒトの視覚の生理学的・心理学的特性について理解した後、画像のデータ表現、線形変換、周波数変換、特徴抽出などの画像処理の基礎について学ぶ。そして、Matlabを利用してこれらの処理を行うプログラムを作成したり、OpenGLを利用してコンピュータ・グラフィクスを作成したりする技能を身につける。
到達目標	(1) ヒトの視覚系の生理学的・心理学的特性を理解する。 (2) 画像データを対象にした信号処理の理論を習得し、その処理をMatlabで実行できるようになる。
講義方法	スライド、板書、ビデオ教材、コンピュータ(MatlabおよびC)による演習
準備学習	本講義では演習にMatlabを使用するので、「知能情報学実験及び演習」第1回のMatlab講習を必ず受講すること。また、C言語によるプログラミング技能も必要である。
成績評価	講義期間中の演習課題、レポート、および期末試験の成績等を総合して評価する。
講義構成	第1回 概論 第2回 視覚 第3回 光学、デジタル画像 第4回 幾何学的変換(1) 第5回 幾何学的変換(2)、2値画像処理(1) 第6回 2値画像処理(2) 第7回 画質改善 第8回 画像の周波数分析(1) 第9回 画像の周波数分析(2) 第10回 画像の特徴抽出 第11回 色 第12回 3次元情報、動画画像処理 第13回 コンピュータ・グラフィクス 第14回 総括 第15回 試験
教科書	なし。適宜資料を配付する。
参考書・資料	田村,「コンピュータ画像処理」,オーム社(2002) 「デジタル画像処理」,CG-ARTS協会(2006) 村上,「画像処理工学 第2版」,東京電機大学出版局(2004)

担当者から一言	メディア情報処理の面白さは、処理の結果を自分の目と耳で確認できることにあります。ぜひ、自らプログラムを作成し、実際のデータを処理することを通して、内容の理解を深めてください。
URL	http://basil.is.konan-u.ac.jp/

授業コード	24034		
授業科目名	流通情報システムI (前)		
担当者名	平尾周平(ヒラオ シュウヘイ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	企業の原材料の購入から生産・流通経路を経て消費者に商品が渡るまでのつながりをサプライ・チェーンと呼ぶことにする。このサプライ・チェーンの構造を分析し、それぞれの構造を明らかにするとともに、情報システムとの関わりを解説する。前期は生産システムを、後期は流通システムを中心に講義する。
-------	--

到達目標	生産情報システムについて、各自、現実の生産現場で何がおこなわれているかを理解し、説明できるようにする
講義方法	通常の講義方法である。ただ、受講生が少ない科目であるため、個々の学生とマンツーマン的なコミュニケーションを図りながら、講義を進めることにしている。
準備学習	学生も、日常的に関係する世界の話が中心になるので、取り立てて準備学習は不要である。ただ、復習することによって、現実をより深く理解できるようになって欲しい。
成績評価	毎回出席を取り、出席者に質問を繰り返すので、解答内容によって、到達度はある程度把握できる。最終試験で到達点に達しているかどうかの判断をおこなう。
講義構成	前期 流通情報システム I 第1回 生産、流通、情報、システム の概念 第2回 生産形態の分類 第3回 生産情報システムとSE 第4回 生産情報システム開発の戦略的視点 第5回 生産システムの自動化への道 第6回 生産管理システム 製品企画・製品設計 第7回 生産管理システム 工程設計・作業設計 第8回 生産計画と統制 第9回 在庫管理とMRP 第10回 JIT生産システム 第11回 生産システムと情報処理技術 第12回 生産情報システムの開発 第13回 ERP 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	なし

授業コード	24035		
授業科目名	流通情報システムII(後)		
担当者名	平尾周平(ヒラオ シュウヘイ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	企業の原材料の購入から生産・流通経路を経て消費者に商品が渡るまでのつながりをサプライ・チェーンと呼ぶことにする。このサプライ・チェーンの構造を分析し、それぞれの構造を明らかにするとともに、情報システムとの関わりを解説する。前期は生産システムを、後期は流通システムを中心に講義する。
到達目標	流通情報システムについて、各自、現実の流通業の現場で何がおこなわれているかを理解し、説明できるようにする。
講義方法	通常の講義方法である。ただ、受講生が少ない科目であるため、個々の学生とマンツーマン的なコミュニケーションを図りながら、講義を進めることにしている。
準備学習	学生も、日常的に関係する世界の話が中心になるので、取り立てて準備学習は不要である。ただ、復習することによって、現実をより深く理解できるようになって欲しい。
成績評価	毎回出席を取り、出席者に質問を繰り返すので、解答内容によって、到達度はある程度把握できる。最終試験で到達点に達しているかどうかの判断をおこなう。
講義構成	第1回 流通産業の特徴 第2回 流通システムの仕組みと機能 第3回 流通業の業種・業態と経営特性 第4回 情報化の流れとPOS 第5回 マーチャンダイジング・システム 商品管理システム 第6回 マーチャンダイジング・システム 店舗管理システム 第7回 マーチャンダイジング・システム 物流管理システム

	第8回 マーチャンダイジング・システム 顧客管理システム 第9回 仕入れ・販売管理と情報システム 第10回 仕入れ管理とEOS 第11回 販売管理とPOS 第12回 電子商取引と商品開発 第13回 電子商取引と取引環境 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	なし

授業コード	24014		
授業科目名	論理設計 (前)		
担当者名	若谷彰良(ワカタニ アキヨシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	コンピュータのハードウェアは論理素子を結合したものからなっている。本講義では、論理の表現方法を解説し、それを実現するための基本ゲート、組合せ回路、順序回路について述べ、論理設計の基礎と実例の理解を目標とする。また、それぞれの回路の最適化設計手法について論じた後、カウンタや演算器等の回路の実例について言及する。
到達目標	コンピュータ部品としての論理設計・ロジックデザインの基礎が理解でき、その実例が説明できる。
講義方法	講義とともに、随時、講義の最後に小テスト(QUIZ)を実施する。
準備学習	参考書および新聞・雑誌・webなどから関連する情報の収集に努めること。
成績評価	日頃の出席、随時行う小テストや課題提出と定期試験により評価する。評価を「欠席」として扱うのは定期試験を受けない場合のみである。
講義構成	第1回 論理設計と情報処理 第2回 論理と論理代数 第3回 論理式と標準形1 第4回 標準形2と論理回路 第5回 論理ゲートと組み合わせ回路 第6回 組合せ回路の最適化設計 第7回 QM法 第8回 その他の論理最適化とテクノロジマッピング 第9回 組み合わせ回路の実際 第10回 同期式順序回路とフリップフロップ 第11回 同期式順序回路の最適化設計 第12回 状態数の最小化と状態割り当て 第13回 同期式順序回路の実際および非同期式順序回路 第14回 その他の話題 第15回 試験
教科書	「コンピュータサイエンスで学ぶ論理回路とその設計」柴山潔著(近代科学社、1999年)
参考書・資料	「システムLSI設計工学」藤田昌宏著(オーム社、2006年)

担当者から一言	随時、講義の最後に小テスト(QUIZ)を実施する。
ホームページタイトル	{若谷ホームページ, http://pplinux.is.konan-u.ac.jp/~wakatani/ }
URL	http://pplinux.is.konan-u.ac.jp/~wakatani/

授業コード	29001
-------	-------

授業科目名	地学実験		
担当者名	林 慶一(ハヤシ ケイチ)、桂 郁雄(カツラ イクオ)、西脇二一(ニシワキ ニイチ)、三木雅子(ミキ マサコ)、福地 章(フクチ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限 水曜4限)、後期(水曜3限 水曜4限)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	宇宙科学・天文学, 大気圏の科学, 固体地球物理学, 地質学・古生物学など, 地学分野全般にわたる実験・観測とそのデータ処理方法を修得する。中学校理科免許の必修科目である。
到達目標	各分野の実験の原理を理解し, 機器操作や野外調査の技能を習得し, データを適切に処理してレポートを書けるようにする。
講義方法	全員で同じ分野の実験を行う日と, 班に分かれて異なる分野の実験を行う日がある。また, 通常の水曜3,4限の実験のほかに, 前期と後期に1回ずつ, 土日に1泊2日で広野施設及びその周辺での天体観測と地質野外実習を行う。
準備学習	高等学校での地学の履修者が少ないので, 高校地学の内容を踏まえた展開に努めるが, 各自においても各実験に関係する高等学校レベルの内容を事前に学習しておくことが望ましい。
成績評価	実験レポート(80%)と出席(20%)で評価する。
講義構成	第1回 実験分野別の担当者によるガイダンス, 班分けなど 〈地質・天文〉 第2回 野外地質学概説 第3回 岩石の分類と鑑定 第4回 天文概説 第5回 地質調査方法概説 第6回 経緯儀による恒星の観測(5/15または6/5のいずれかに参加) 第7-8回 野外地質調査(5/16または6/6のいずれかに参加) 第9回 地質調査記録の整理法 第10回 天測計算・作図法 第11回 地質・天文レポート作成法 以上は, 前期に全体で実施。 〈測地〉 第12回 地磁気偏角の測定 第13回 地磁気水平分力の測定 第14回 測定結果の処理法 〈岩石〉 第15回 岩石薄片試料の作成 第16回 造岩鉱物の種類について 第17回 偏光顕微鏡による鉱物の鑑定 〈気象〉 第18回 気象学概説 第19回 天気図作成法 第20回 天気図作成演習 以上は, 前・後期に班別で実施するので, 順序は班により異なる。 〈太陽〉 第21回 シーロスタット及び分光器の原理 第22回 太陽光スペクトル観測結果の解析 〈天文・地質〉 第23回 経緯儀による恒星の観測(10/9または10/30のいずれかに参加) 第24-25回 野外地質調査(10/10または10-31のいずれかに参加) 第26回 地質調査記録の整理法 第27回 天測計算・作図法

	第28回 地質・天文レポート作成法 〈気象観測〉 第29回 気球観測による上層風の解析 第30回 全分野のレポート解説 以上は、後期に全体で実施。
教科書	各実験毎にテキストまたは実験説明書を配布する。
参考書・資料	第1回の講義の際に、資料冊子とフィールドノートを配布する。また、各実験の際に適宜必要な資料を配付する。
担当者から一言	・実験の事前説明、実験の実施、処理の解説などのスケジュールが決まっているので、遅刻した場合は実験の遂行が困難になり、単位習得が困難となる。遅刻・欠席しないようにすることが大切である。 ・レポートは、時間が経過すると記憶が薄れていくので、原則として各実験終了後1週間以内に提出すること。
その他	野外実習予備日として、前期は6月12-13日、後期は11月13-14日を予定しているので、空けておいてください。

授業コード	29002		
授業科目名	地学通論		
担当者名	林 慶一（ハヤシ ケイイチ）		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（月曜1限）、後期（月曜1限）
オフィスアワー	随時		

講義の内容	宇宙や地球には、実験室内では再現することが難しい現象や事物が多い。また、これらはさまざまな空間的・時間的スケールでとらえる必要がある。本講義では、人類が如何にしてこれらを解明してきたかをたどりながら、自然科学の中での地学分野の研究対象の特徴や、地学分野に固有な研究方法についての理解を図る。ただし、時間の関係上、気象分野と詳細な地球史については、広域副専攻科目「大気と海洋」と「地球の歴史」で扱
到達目標	地球と宇宙について、その構造や運動を進化的な視点から捉え、科学的な地球観と宇宙観を育成する。
講義方法	野外観察や実験は出来ないが、それらに替わる資料や映像などを数多く活用して実際の宇宙や地球に見られる事物や現象を理解しやすいよう工夫する。
準備学習	高等学校での地学の履修者が少ないことから、高校地学を含めた内容で展開するので特に準備は必要でない。しかし、遅刻や欠席をするとたちまちそれ以降の内容が理解ができなくなるので、全時間出席すること。
成績評価	前期・後期末試験の成績による。いずれも講義内容に沿った出題である。
講義構成	前期 ＜第1編 宇宙の構造と進化＞ 第1回 宇宙の構造 第2回 銀河の構造 第3回 ハッブルの法則、膨張宇宙 第4回 宇宙の進化 ＜第2編 恒星の進化＞ 第5回 太陽の構造 第6回 太陽の活動 第7回 恒星の光度と表面温度 第8回 HR図 第9回 構成の種類 第10回 恒星の進化 ＜第3編 太陽系の構成と進化＞ 第11回 水星 第12回 金星と地球 第13回 火星と小惑星帯 第14回 木星型惑星 第15回 試験 後期 第16回 木星の衛星 第17回 海王星型惑星

	第18回 太陽系の進化 <第4編 地球の構成と進化> 第19回 地殻とマントル 第20回 地球深部の構造 第21回 主な造岩鉱物 第22回 結晶分化作用 第23回 火山の活動 第24回 大陸移動からプレートテクトニクスへ 第25回 地震のメカニズム 第26回 プルームテクトニクス 第27回 地球の歴史-冥王代～原生代 第28回 地球の歴史-古生代～新生代 第29回 日本列島の地史 第30回 試験
教科書	ニューステージ「新訂 地学図表」(浜島書店)800円
担当者から一言	講義ではできない実験は「地学実験」を履修すると経験できます。

授業コード	55A21		
授業科目名	ベーシック・キャリアデザイン(理工)(後)		
担当者名	宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)、野口由輝子(ノグチ ユキコ)、I		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限

講義の内容	大学生生活を充実させ、将来の進路選択や就職選択を自律的に行っていくに当たり必要となる基本的なチカラを育んでいきます。具体的には、14回の講義の中で“4つの知恵”と称する「人と人との関係を築く知恵」(人間関係力)・「情報を収集して活用する知恵」(情報力)・「自ら考えて判断や決定をする知恵」(思考力)・「自分の将来をイメージして描ける知恵」(遂行力)を醸成していきます。その際、多様な方法を導入しながら、インターラクティブな参加型スタイルで行っていきます。
到達目標	「自己発見(なりたい自分を探す)」をコンセプトに、学習到達目標としては、卒業後の進路選択から就職活動や、学生時代にしかできない活動などへ向けて、この大学生活を充溢させるための具体的な目標を設定すると共に、アクションプランを自発的にイキイキと策定することです。このことは、プロ社会人を目指すに当たって、自律的に考えて選択し意思決定しながら行動していくことができる態度や姿勢を少しでも早くから身につけるためにも重要です。
講義方法	レクチャー・ペアワーク・セルフワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	自分に対して3つの視点(これまでの自分・今の自分・これからの自分)で考えるトレーニングをしておいてください。
成績評価	キャリアデザインシートの提出(講義の中での気づきや感想などの記入・提出)、キャリアデザインマップの発表と提出(将来の進路選択や就職活動を視野に入れての目標設定とアクションプランの策定・発表・提出)、講義への出席と講義中の参加態度(毎回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場にいなかった、講義を受けていなかった学生は原則として欠席)。以上を総合的に評価します。
講義構成	1. オリエンテーションーベーシック・キャリアデザインとは?ー 2. 自分を探求してみようⅠ 3. 自分を探求してみようⅡ 4. 豊かな人間関係を築こうⅠ 5. 豊かな人間関係を築こうⅡ 6. 専門・専攻を進路に活かそうⅠ 7. 専門・専攻を進路に活かそうⅡ 8. 幅広い情報を活用しようⅠ 9. 幅広い情報を活用しようⅡ 10. 考える力を身につけようⅠ 11. 考える力を身につけようⅡ 12. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅠ 13. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅡ 14. “なりたい私”を実現させよう
教科書	講義で必要となる資料は、その都度講義中に配付します。

担当者から一言	私たちは未曾有の逃れられない変容の時代と向き合っています。この時代の潮流を味方に引き寄せるには、あなたがどのように大学生活を過ごすかに係っています。大切なことは、大学や様々な活動などを通じ知性と感性に磨きをかけながら、世の中の動向を理解すると共に、今の自分をしっかりと受けとめ、それがこれまでの自分とどう繋がっているのか、更にはこれから先どこに向かって自分を動かしていきたいのかについて、自力で惜しみなく取り組んでいくことです。 つまり、生活し学ぶことを通して得られる様々な役割に満ち溢れた空間軸と、過去・現在・未来の自分を貫く時間軸を重ね合わせながら、自らが本質的な自分としっかり対話し、かけがえのない自分スタイルの生き方・学び方・働き方を探求することにつきます。この講義の中で、その創意工夫について一緒に考えていきましょう。
---------	--

授業コード	71023		
授業科目名	ITとコミュニケーション（後）		
担当者名	宇井徹雄（ウイ テツオ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	IT (Information Technology: 情報技術) の普及・発展、特にインターネットの普及・発展は、人間のコミュニケーションに大きな影響を与えつつあり、意思を伝達する手段の変化のみならず、生活、仕事、組織、社会等にも様々な形で大きな影響を与えつつあります。ここでは、情報化の進展とコミュニケーションの変容、組織におけるコミュニケーションの進化とグループウェアの利用、テレワークの普及とワークスタイルの変化、コミュニケーションメディアの選択、電子コミュニティの活用と新しいコミュニケーション文化等のテーマをとりあげ、ITとコミュニケーションに関する基礎的な見方・考え方とその変化について学習します。
到達目標	コミュニケーションとはどのようなことであり、ITを活用することによりコミュニケーションはどのように変わりつつあるのか。そして、それが生活、仕事等にどのような影響を与えていて、どのような問題がどのように研究されているのかについて、基礎的な概要を体系的に理解できるようになること。
講義方法	理解を確かなものにするため、途中で何回か、理解度確認テスト(小テスト)を実施します。また、途中で2回実習授業も実施します。
準備学習	日頃から、新聞などのIT関連の記事にも注目すること。
成績評価	平常点(授業に対する取り組み姿勢、小テスト、実習など)40%、定期テスト60%の割合で総合的に評価します。期末試験を受けない場合、「欠席」と評価します。実習欠席の場合、合格は難しくなります。
講義構成	第1回: コミュニケーションの基礎概念 第2回: 情報化の進展とコミュニケーションの変容 第3回: 同上 第4回: 組織におけるコミュニケーションの進化とグループウェアの利用 第5回: 同上 第6回: 同上 第7回: 同上 第8回: テレワークの普及とワークスタイルの変化 第9回: コミュニケーションメディアの選択とメディアリッチネス理論 第10回: 同上 第11回: 情報共有・知識共有からナレッジマネジメントへ 第12回: 同上 第13回: 電子コミュニティの活用と新しいコミュニケーション文化 第14回: 同上 第15回: テスト
教科書	講義ノートのプリントを配布します。
参考書・資料	参考書は講義の中で指示します。資料は必要に応じてコピーを配布します。

担当者から一言	1年次配当科目ですので、基礎的な見方・考え方を重視しつつ、最近の動向や身近な話題についても言及したいと考えています。
その他	授業中の私語は、まじめに受講しようとする学生に対する授業妨害ですので、厳禁です。授業中の携帯電話の利用も禁止します。違反する学生には退室していただきます。

授業コード	71024
-------	-------

授業科目名	ITと組織・管理（後）		
担当者名	濱井禧价（ハマイ ヨシスケ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限

講義の内容	社会のあらゆる分野において急速に浸透してきた情報化は、従来の社会構造、産業構造に大きな変革をもたらしつつある。本講義では、高度な情報技術に支えられて発展する情報化社会の現状を理解させるとともに、この発展に寄与する情報産業の社会的位置づけと意義を理解させ、情報産業に携わる個人の持つべき職業倫理、健全な職業観を身に付ける。
到達目標	情報化社会の現状を理解する。個人の持つべき職業倫理、健全な職業観を身に付ける。
講義方法	電子教材、参考資料、板書による説明
準備学習	特になし
成績評価	1. 平常点（出席およびレポート提出）――40% 2. 課題発表――20% 3. 定期試験――40%
講義構成	第1回：情報技術の歴史 第2回：コンピュータおよび通信技術の現状 第3回：社会構造・産業構造とその変化 第4回：コミュニケーション（広義）の本質と情報技術 第5回：組織と情報化事例（公共事業） 第6回：組織と情報化事例（製造業――その1） 第7回：組織と情報化事例（製造業――その2） 第8回：組織と情報化事例（情報サービス産業） 第9回：社会における情報技術の分類とその内容（具体的業務内容） 第10回：情報システム開発（仕様書） 第11回：情報システム開発（テスト、メンテナンス） 第12回：情報システム開発（マネジメント） 第13回：知的所有権とコンピュータテクノロジー 第14回：セキュリティ、プライバシー 第15回：情報技術倫理
教科書	講義に必要なテキストは適宜配布する。
担当者から一言	実社会における情報技術を理解し、将来の職業観の確立に役立ててほしい。

授業コード	71051		
授業科目名	Webコンピューティング（前）		
担当者名	灘本明代（ナダモト アキヨ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	インターネットの仕組みを解説し、その後様々なWebアプリケーションに必要な様々な技術を解析する。具体的には、Webの仕組みや検索エンジンの仕組みを解説し、実際にHTMLによりホームページを作成すると共に検索エンジンを利用する簡単なプログラムを作成する。
到達目標	インターネットの仕組み、Web検索エンジンの仕組みを理解する。
講義方法	講義7割とプログラミング演習3割の割合で講義を行う。
準備学習	数列を理解しておくこと。HTMLの基礎知識を学習しておくこと。
成績評価	出席、平常点、演習の課題提出及びテストの総合評価を行う。
講義構成	第1回：Webコンピューティングとは 第2回：インターネットの仕組み 第3回：HTML演習 第4回：Web検索エンジンアルゴリズム1 第5回：Web検索エンジンアルゴリズム2 第6回：Web検索エンジンアルゴリズム3

	第7回:Webプログラミング演習1 第8回:Webプログラミング演習2 第9回:Webプログラミング演習3 第10回:Webサービスとは 第11回:Webアプリケーション事例1 第12回:Webアプリケーション事例1 第13回:クラウドコンピューティングとは 第14回:まとめ 第15回:試験
教科書	特になし。必要に応じてプリントを配布する。
参考書・資料	Google Page Rankの数理

授業コード	71Q11		
授業科目名	Web数式処理（1クラス)(前)		
担当者名	松本茂樹(マツモト シゲキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	学籍番号 10971001～10971070 3年次以上は、いずれのクラスを履修してもよい		
オフィスアワー	水曜・5限。		

講義の内容	数式処理システム Mathematica の基本操作に習熟するとともに、数理情報をはじめとする諸分野への数式処理システムの応用について学ぶ。
到達目標	数式処理システムの長所・短所を理解したうえで、Mathematicaのオンラインマニュアルを参照しながら問題解決に繋がるMathematicaプログラミングを独力で書き上げることが出来る能力を身に付けることを目標とする。
講義方法	コンピュータ実習室で講義を行い、講義時間内に(受講学生ひとりひとりが数式処理システムMathematicaを立ち上げ)演習・実習を繰り返す。
準備学習	教科書の対応箇所に事前に目を通したうえで講義に臨むこと。また、講義時に教科書に掲載されているMathematicaプログラム(入力行)や「練習問題」を頻繁に参照するので教科書は必ず持参すること。
成績評価	課題(レポート)、(講義時に実施する)小テスト、期末試験の成績を総合的に判断して評価する。
講義構成	第1回 始めに 第2回 Mathematicaの文法、厳密値・近似値、基本計算 第3回 リストについて 第4回 FullFormと式、純関数、MapとApply、NestとFold 第5回 関数の作り方、記号計算 第6回 応用:「ヨセフスの問題」をリストで解析する 第7回 グラフィックスの文法、Plot関数とオプションの基本、ParametricPlotとPolarPlot 第8回 3次元のグラフ、Plot3D、ParametricPlot3DとRegionPlot3D 第9回 グラフィックスプリミティブ 第10回 マニピュレート、スライダー 第11回 マニピュレート、ロケーター 第12回 関数を作る、即時的な定義・遅延的な定義 第13回 パターンマッチとパターンオブジェクト 第14回 まとめと課題 第15回 試験
教科書	「入門 Mathematica 決定版 Ver.7対応」日本Mathematicaユーザー会編著(東京電機大学出版局)
参考書・資料	参考文献については適宜指示し、資料については適宜配付する。
担当者から一言	コンピュータ実習室の自由利用時間帯を活用し、数式処理ソフトを納得のいくまで操作し使いこなして貰いたい。
ホームページタイトル	{松本研究室(www.pine-web.com), http://www.pine-web.com/ }

授業コード	71Q12
-------	-------

授業科目名	Web数式処理（2クラス）(前)		
担当者名	高橋 正(タカハシ タダシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	学籍番号 10971071～終わり 3年次以上は、いずれのクラスを履修してもよい		
オフィスアワー	水曜・5限。		

講義の内容	数式処理システム Mathematica の基本操作に習熟するとともに、数理情報をはじめとする諸分野への数式処理システムの応用について学ぶ。
到達目標	数式処理システムの長所・短所を理解したうえで、Mathematicaのオンラインマニュアルを参照しながら問題解決に繋がるMathematicaプログラミングを独力で書き上げることが出来る能力を身に付けることを目標とする。
講義方法	コンピュータ実習室で講義を行い、講義時間内に(受講学生ひとりひとりが数式処理システムMathematicaを立ち上げ)演習・実習を繰り返す。
準備学習	教科書の対応箇所に事前に目を通したうえで講義に臨むこと。また、講義時に教科書に掲載されているMathematicaプログラム(入力行)や「練習問題」を頻繁に参照するので教科書は必ず持参すること。
成績評価	課題(レポート)、(講義時に実施する)小テスト、期末試験の成績を総合的に判断して評価する。
講義構成	第1回 始めに 第2回 Mathematicaの文法、厳密値・近似値、基本計算 第3回 リストについて 第4回 FullFormと式、純関数、MapとApply、NestとFold 第5回 関数の作り方、記号計算 第6回 応用:「ヨセフスの問題」をリストで解析する 第7回 グラフィックスの文法、Plot関数とオプションの基本、ParametricPlotとPolarPlot 第8回 3次元のグラフ、Plot3D、ParametricPlot3DとRegionPlot3D 第9回 グラフィックスプリミティブ 第10回 マニピュレート、スライダー 第11回 マニピュレート、ロケータ 第12回 関数を作る、即時的な定義・遅延的な定義 第13回 パターンマッチとパターンオブジェクト 第14回 まとめと課題 第15回 試験
教科書	「入門 Mathematica 決定版 Ver.7対応」日本Mathematicaユーザー会編著(東京電機大学出版局)
参考書・資料	参考文献については適宜指示し、資料については適宜配付する。

担当者から一言	コンピュータ実習室の自由利用時間帯を活用し、数式処理ソフトを納得のいくまで操作し使いこなして貰いたい。
---------	---

授業コード	71006		
授業科目名	アドバンスプログラミング（前）		
担当者名	北村達也(キタムラ タツヤ)、若谷彰良(ワカタニ アキヨシ)、巽 啓司(ツツミ ケイジ)、藤田 靖(フジタ ヤスシ)、宮崎光二(ミヤザキ コウジ)、豊田博俊(トヨダ ヒロトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限 金曜5限

講義の内容	プログラミング実習に引き続き、C言語のさらなる習得をめざす。学生は、本科目が終わったときには、プログラミングにおいてはかなりの能力および自信を持つことができるはずである。用いる題材としては、情報処理の基本となる事柄と、専門科目に関連する一部の内容を含んでいる。
到達目標	各回に学習した内容に関して、独力でプログラミングできるようになること。
講義方法	毎回コンピュータを使った実習を行う。
準備学習	プログラミング実習の学習内容を十分に理解していること。
成績評価	レポート、出席状況などにより評価する。評価を「欠席」として扱うのは全講義日を欠席した場合のみである。
講義構成	1. 配列とポインタ

	2. 標準入出力とリダイレクション 3. テキストファイルの操作 4. バイナリファイルの操作、Waveファイルの操作 5. 構造体 6. リスト(1) 7. リスト(2) 8. 動的な多次元配列の生成と操作 9. 画像ファイルの操作 10. 画像の拡大・縮小 11. 画像の回転 12. 画像の合成 13. 画像のフィルタリング 14. マルチスレッド
教科書	指定せず、必要に応じて参考書を参照すること。
参考書・資料	①「はじめてのC」椋田寛著(技術評論社) ②「C言語によるプログラミング基礎編」内田智文著(システム計画研究所) ③「定本明解C言語(入門編)」柴田望洋著(ソフトバンクパブリッシング) ④「明解C言語入門編―例解演習」柴田望洋, 他著(ソフトバンクパブリッシング) これ以外にも数多くの書籍が刊行されているので、各自適当なものを参照のこと。
担当者から一言	本学科の学生にとって非常に重要な科目である。予習復習にたっぷり時間を使ってほしい。

授業コード	71059		
授業科目名	意思決定論（後）		
担当者名	小出武(コイデ タケン)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	意思決定を科学的に行うための基礎理論や基本概念、主な意思決定手法について学習する。
到達目標	科学的に意思決定するために用いられる主な理論や概念を理解し、簡単な問題に対して意思決定手法を適用できる。
講義方法	教科書に沿って基本事項の解説を行い、問題演習を通して理解を深める。
準備学習	事前に教科書を予習しておくこと。 また、確率統計に関する基本的な知識を必要とする内容を含むので、簡単に復習してほしい。
成績評価	定期試験、授業での貢献度によって総合的に評価する。
講義構成	第1回 意思決定の基本的考え方 第2回 確率 ベイズの定理 第3回 確率 確率とレピュテーション 第4回 ベイズ意思決定 決定のしかた 第5回 ベイズ意思決定 ベイズとミニマックス 第6回 ベイズ統計学入門 パラメータの事前分析 第7回 ベイズ統計学入門 ベイズ推定と誤差評価 第8回 リスクと不確実性 リスク回避 第9回 リスクと不確実性 ポートフォリオ選択 第10回 ゲーム理論の基礎 2人ゼロ和ゲーム 第11回 ゲーム理論の基礎 主な非協力ゲーム 第12回 ゲーム理論の発展 協力ゲーム 第13回 ゲーム理論の発展 展開ゲーム 第14回 集団的決定 第15回 定期試験
教科書	松原 望,「意思決定の基礎」, 朝倉書店, 2001, 3,600円＋税。
講義関連事項	教科書は必ず購入すること。

授業コード	71012		
授業科目名	インターンシップ（集中）		
担当者名	阪本邦夫（サカモト クニオ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
講義の内容	キャリアセンターにより、受け入れ可能な企業を選定し、学生の希望に従って、実習先の企業を決定する。学生たちは、実習先の企業において社会の第一線の仕事を経験することにより、職業意識を高める。また、終了後は、企業による評価と学生のレポートにより、成績を決定する。		
到達目標	企業・団体・地域社会と連携した直接的な社会体験・就業体験により、社会人としての基本的なマナーや、社会で求められる知識や能力について把握する。また、働くことの意味や重要性を理解することで、職業意識や就業意識を形成し、自己の適職及びそれに必要な専門的能力を確認するとともに、責任感をもって自ら考え行動する姿勢を培う。		
講義方法	・キャリアセンターで行う事前研修、事後研修 ・派遣先の企業での研修・実習 ・知能情報学科での研修報告		
準備学習	・事前研修、事後研修での課題には真剣に取り組むこと。 ・派遣先の企業での研修・実習を効果的に行えるように、十分に準備して臨むこと。 ・インターンシップ終了後の発表会の準備を行うこと。		
成績評価	活動に関するレポートおよび出席状況と後期開始後11月上旬までに予定されている報告会でのプレゼンテーションにより評価を行う。		
講義構成	1. インターンシップガイダンス 2. インターンシップ参加申し込み 3. インターンシップ事前研修 4. 夏期休暇期間を利用して、60時間以上のインターンシップに参加すること（ただし、企業・団体の都合で60時間に満たないケースもある） 5. インターンシップ事後研修 6. 知能情報学科での研修報告 単位認定申請書とレポートの提出がない場合には、単位が認定されないので、期日までに手続きを行うこと。		
教科書	なし		

授業コード	71032		
授業科目名	応用システム解析（前）		
担当者名	和田昌浩（ワダ マサヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	月曜14:40～16:10 水曜10:40～12:10		

講義の内容	システム理論や制御理論の基礎として、ダイナミカルシステムの振舞いを解析する手法を習得する。自然界に存在する様々なダイナミカルシステムを状態方程式によって記述する方法を示し、システム解析に有用な数値解析法などを学ぶ。また、その安定性と線形近似について述べる。つづいて、ラプラス変換を用いた伝達関数、線形システムの入出力特性や、ブロック線図を用いたシステムの構造表現や時間応答などを考察する。いくつかのシミュレーションをMATLABやMathematicaなどを用いてデモを行う。
到達目標	数学モデルによる解析やシミュレーションを通して、様々なシステム理論の基本を理解する。
講義方法	配布するプリントを中心に講義を行い、演習問題やレポート等も行う。
準備学習	1年次に学習する微分積分、線形代数を十分に理解しておくこと。
成績評価	定期試験期間中に行う一回の筆記試験の得点および出席状況、レポートによって評価する。定期試験6、出席・レポート4の割合(予定)で評価する。
講義構成	第1回 線形システムと非線形システム 第2回 様々なシステムとその分類

	第3回 ダイナミカルシステム: 入出力と状態の関係とモデル化 第4回 様々なシステムに対する状態方程式の導出 第5回 数学モデルと図的モデル 第6回 状態方程式の解の導出とその特性 第7回 自励振動系と他励振動、強制系 第8回 位相面解析 第9回 状態空間における軌道と安定性、分岐現象 第10回 線形システムにおける状態方程式、行列を用いた解析法 第11回 ラプラス変換の性質と微分方程式の解法 第12回 ラプラス逆変換による解析手法 第13回 伝達関数、線形システムの入出力特性 第14回 伝達関数とブロック線図 第15回 試験
教科書	特に指定はない。 作成したプリント等を用いる。
参考書・資料	『非線形制御システムの解析』平井一正、池田雅夫著(オーム社) 授業中に参考書を紹介予定。
講義関連事項	微分積分や線形代数の知識が必要。

担当者から一言	講義「応用システム解析」および後期開講科目「システム制御工学」を通して、システム理論や制御理論を学ぶことで、離散時間システムやデジタル機器などの基本的な概念および応用力を身に付けてもらうことにある。数学分野だけでなく、工学的にも応用されている様々な数学理論の一端を学んでもらう。また、システムにおける入出力関係や応答特性、安定性などについて考え、より一層の理解力を深めることにある。
その他	理工学部情報システム工学科3年次配当科目「応用システム解析1」と同時開講。
ホームページタイトル	{応用システム解析 I , http://www.is.konan-u.ac.jp/~wada/lecture/system/ }

授業コード	71041		
授業科目名	オブジェクト指向言語論（後）		
担当者名	新田直也（ニッタ ナオヤ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	在席中ならいつでもかまいません		

講義の内容	計算機の歴史の中で、数多くのプログラミング言語が考案され、そのうちのいくつかは広く産業界に浸透してきた。本講義では、プログラミング言語のさまざまな仕組みが、プログラミングという実務の中の具体的にどのような作業に役立っているのかを中心に説明を行い、プログラミング言語を道具として使うための基本的な理解の醸成を目指す。特に、今後の有用性の観点から、オブジェクト指向については重点的に説明を加える。
到達目標	プログラミング言語のさまざまな構文要素が、プログラミングの中の具体的にどのような作業に役立つのかを理解する。また、オブジェクト指向言語の基本的な考え方と、オブジェクト指向プログラムの動作仕様を理解する。
講義方法	配布資料をもとに講義する。演習を1,2回行う。
準備学習	C言語の基本的な構文について理解しておくこと。ただし、ポイントや構文体などの考え方については講義の中で説明する。
成績評価	試験、レポート、演習をもとに総合的に評価する。
講義構成	第1回 プログラミング言語の種類と歴史 第2回 変数と型 第3回 式と演算子 第4回 制御構造 第5回 記憶クラス 第6回 構造化プログラミング(1) 第7回 構造化プログラミング(2) 第8回 演習 第9回 オブジェクト指向言語(1) 第10回 オブジェクト指向言語(2) 第11回 オブジェクト指向言語(3) 第12回 オブジェクト指向言語(4)

	第13回 オブジェクト指向言語(5) 第14回 プログラミング環境 第15回 試験
教科書	特に指定しない
参考書・資料	「原理がわかる プログラムの法則」河西朝雄著(技術評論社)
ホームページタイトル	{「プログラミング言語論(前)」ホームページ, http://www.syllabus.konan-u.ac.jp/customer/01/index.jsp?toc=3151 }

授業コード	71033		
授業科目名	オペレーションズ・リサーチ（前）		
担当者名	田中雅博（タナカ マサヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	金曜日10:30-12:00		

講義の内容	世の中には様々な画面で様々な問題が山積しています。問題に関わる人・モノ・組織・お金などとそれらの因果関係をはっきりさせることで問題を把握し、把握した問題に対しての解決策の模索に力を注ぐという2段階のアプローチがあります。オペレーションズ・リサーチは、この科学的なアプローチを基盤として様々な問題を解決していく方法の宝庫です。
到達目標	「講義構成」のところにあげてあるような、具体的な社会の問題をいかに科学的に解決することができるのか、そのイメージを把握し、さらに、いくつかの問題について、具体的な解決法を体得すること。
講義方法	基本的には板書を行い、説明する。教科書は自習用に書かれたわかりやすい本であるが、これを、講義で読み進めることにより、理解を求める。予習・復習をすることが容易なので、必ず行うこと。 また、小テストを随時行う予定である。
準備学習	本に書かれていることの完全理解を目指して、教科書をしっかり読んでみましょう。
成績評価	数回行う小テストや出席チェック、そして、定期試験を評価対象とする。
講義構成	1.オペレーションズリサーチとは 2.効率のよい保管方法を求める－在庫管理 3.将来を考えて在庫を管理する－データと予測 4.仕事をスマートに実行する－日程計画 5.練習問題 6.問題を真似て解決する－シミュレーション 7.「待つ」と「行列」を解決する－待ち行列 8.決め方を決める－AHP 9.投票者の選挙への影響力をはかる－投票力指数 10.駆け落ちをしないペアを作る－安定結婚問題 11.数式で表し問題解決－数理計画 12.仕事の効率を高める－線形計画 13.うまいこと組み合わせる－組合せ最適化 14.最適な通り道を見つける－ネットワーク計画 15.試験
教科書	松井, 根本, 宇野「入門オペレーションズ・リサーチ」, 東海大学出版会, 2800円

授業コード	71028		
授業科目名	オペレーティングシステム（前）		
担当者名	渡邊栄治（ワタナベ エイジ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	随時.		

講義の内容	計算機の最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステムに
-------	----------------------------------

	ついて講義する。各種オペレーティングシステムにおいて実現されている基礎的な概念や技法を講述するとともに、実際に使いこなせるための技術についても習得させる。
到達目標	個々のテクニカルタームを理解することだけでなく、個々のテクニカルターム間の関係を明確にでき、かつ平易に説明できることが望ましい。
講義方法	講義及び実習(2回)
準備学習	事前に、配付資料を読むこと。 日頃、漫然と計算機を操作するのではなく、OSの挙動などを、“Why”や“How”といった観点から観察することが望ましい。
成績評価	各講義に対するサマリーと定期試験の成績を含めて総合的に評価する。 サマリーと定期試験の比率は、おおよそ、2:3とする。
講義構成	第1回 オペレーティングシステムの概要 第2回 プロセス管理とスケジューリング(1) 第3回 プロセス管理とスケジューリング(2) 第4回 プロセス管理とスケジューリング(3) 第5回 プロセスの同期と通信(1) 第6回 プロセスの同期と通信(2) 第7回 メモリ管理(1) 第8回 メモリ管理(2) 第9回 ファイルシステム 第10回 割り込みと入出力制御(1) 第11回 割り込みと入出力制御(2) 第12回 実習: プロセス管理 第13回 実習: システムコール 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	大久保 英嗣:「オペレーティングシステムの基礎」(サイエンス社)

授業コード	71L21		
授業科目名	解析学 (A)		
担当者名	松本茂樹(マツモト シゲキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	情報システム工学科・知能情報学部		
オフィスアワー	水曜・5限。		

講義の内容	「“図形”の研究＝幾何学」という(素朴な)図式に倣うなら、“関数”の研究というのが解析学であるといえよう。すなわち、種々の関数の性質の研究や、ある条件(たとえば、微分方程式等の関数方程式)を満足する関数を求めるということが解析学の主題となる。なお、本講義で取り扱うのは主として実一変数関数の解析であり、数直線の位相構造・順序構造が深く関与した関数の解析が中心となる。具体的には、実一変数の解析学において、微分方程式の求積、連続関数の性質、初等関数の整級数展開、漸近展開等といった事項をテキストに沿って注意深く丹念に学ぶ。理論面でも応用面でも不可欠の論理的思考能力を高めることこそが本講義の最重要の目的であり、また、それに加えて数学本来の面白さや醍醐味を味わう機会ともなるよう講義時間内において種々の例題を解説するとともに問題演習を実施する。この科目が「数学」の(必修の)教職科目である点にも十分に配慮し、教員採用試験問題も多く取り上げる。前後期を通じて、数式処理システムを援用して具体的な数列・級数・関数等の挙動を探索し、理論の意味するところを実例の側から改めて描き出すことでより深い理解を
到達目標	「関数の研究」が解析学の本領であり、本講義では、初等関数の基本的性質に精通するとともに理論・応用の両面において初等関数が果たす役割を正確に理解することが到達目標である。一般の関数を多項式で近似すること、線形微分方程式の解法における指数関数の果たす役割、任意の周期関数のなかで余弦関数・正弦関数が占める位置等について、自分自身の言葉で解析学(関数の本質に関わる知見)を語ることが出来るかどうか自問して貰いたい。
講義方法	通常の板書と併せ、数式処理システムを臨機応変に活用し(教員からの教材提示及び受講学生による計算機演習を適宜実施することにより)受講学生により深い理解を促す。
準備学習	解析学の学習においては、微分積分学における基本的な定理・公式等の理解が不可欠であるので、1年次の必

	修科目「微分積分及び演習」の講義内容を十分に復習しておくことが望まれる。
成績評価	前期試験、後期試験、及び講義時間内に実施する小テスト、レポート等による。
講義構成	前期 第1回 はじめに、解析学という学問分野について、オリエンテーション 第2回 ラグランジュの補間法をオイラーの分数式の簡易化に活かす、ファンデルモンド行列 第3回 ネイピア数の定義(「複利の極限」=「連続複利」として)、実数の連続性公理 第4回 不等式の証明への解析学的アプローチ、「課題」を出題(問題用紙配付) 第5回 Chebyshev多項式(p.54, p.138)、有限小数・循環小数、位取り記数法(十進法と二進法) $1/3=0.0101010101010101\cdots$(二進数) 解析学的・代数学的・幾何学的証明 第6回 コーシーの収束判定基準(p.18 - 19, p.145 - 146, p.148)、収束の速さ、 フィボナッチ数列(の隣接二項比)と黄金比 第7回 「バーゼル問題」、マーダヴァ・グレゴリ・ライプニッツ級数 第8回 オイラー積、ゼータ関数、リーマン予想 第9回 正則連分数(循環連分数と二次無理数)、ガロアの定理、ルジャンドルの定理 第10回 連続関数の性質(中間値の定理、最大値の定理)、三角関数のグラフの正確な形状について 第11回 関数の凹凸と二次導関数、凸不等式、相加平均・相乗平均の不等式 第12回 漸近展開、無限小解析によるテーラー展開の計算、一般2項展開 第13回 テーラーの定理、グレゴリ級数の剰余の漸近展開 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 常微分方程式の求積法(その1)、変数分離形、同次形、1階線形 第17回 常微分方程式の求積法(その2)、2階線形、高階線形 第18回 複素指数関数、オイラーの等式&オイラーの公式 第19回 等比数列・等比級数(の収束・発散)に関する高校数学の復習、 比較判定法、ダランベールの判定法、コーシーの判定法 第20回 正項級数の収束判定法、一般調和級数と広義積分の比較(積分判定法) 第21回 絶対収束と条件収束、ライプニッツの定理、アーベルの変形 第22回 問題演習と解説 第23回 整級数(その1) テーラーの定理の剰余項、テーラー展開の具体例 第24回 整級数(その2) アーベルの補題、コーシー・アダマールの公式、収束半径 第25回 多項式近似(ストーン・ワイヤストラスの定理)、ベジェ曲線とベルンシュタイン多項式 第26回 フーリエ級数(その1) フーリエ係数(定義と計算)、パーセヴァルの等式 第27回 フーリエ級数(その2) リーマン・ルベーグの定理、フェーレルの定理 第28回 フーリエ級数(その3) 収束定理、ディリクレ・ジョルダンの定理 フーリエ級数と熱方程式、Gibbs現象の熱的緩和 第29回 まとめ 第30回 試験
教科書	「数理系のための 基礎と応用 微分積分Ⅰ」(サイエンス社)
参考書・資料	「新修解析学」梶原壤二(現代数学社) 「解析入門」田島一郎(岩波全書) 「数学解析入門」田島一郎著(好学社) 「解析概論」高木貞治著(岩波書店) 「解析学序説(上)・(下)」一松信著(裳華房) 「解析学Ⅰ・Ⅱ」宮岡悦良・永倉安次郎著(共立出版) 「解析入門」杉浦光夫他著(東京大学出版会) 「解析演習」杉浦光夫他著(東京大学出版会) 「微分積分学」笠原皓司著(サイエンス社) 「Mathematicaで学ぶ解析学」松本茂樹著(科学技術出版)
担当者から一言	教材(Mathematicaノートブックを含む)は講義専用のホームページに公開するので、講義の予習・復習の際に十二分に活用されたい。
ホームページタイトル	{松本茂樹研究室, http://www.pine-web.com/ }
URL	http://www.ii-konan.jp/pine-lab/archives/2010-analysis/

授業コード	71L22
-------	-------

授業科目名	解析学 (B)		
担当者名	平井崇晴(ヒライ タカハル)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜5限)、後期(金曜5限)
特記事項	情報システム工学科・知能情報学部以外		
講義の内容	ある高校生が質問した: 「x が限りなく大きくなるとき、$1/x$ は限りなく 0 に近づく」と習いましたが、0 ばかりでなく -1 にも -1000 万にも $1/x$ は近づいていく。だから本当は、「0 以下の全ての実数に近づく」と言わなければならないのではありませんか？ このような高校生がどこをどのように混乱しているのかを見抜くことができ、適切に対応することができるようになることを本講義の第一目標(最低ライン)とする。 内容的には、一変数関数を主に扱い、実数や連続関数、微分・積分など解析学の基礎となる重要概念を注意深く丹念に学習する。 ボリュームとしては少ない代わりに、きっちりできるようになって頂く。		
到達目標	高校数学の教育的配慮を見抜き、数学的には本来どのように扱うべきかが考えられるようになること。 $\varepsilon - \delta$ 論法の基本を習得すること。		
講義方法	講義及びミニ演習		
準備学習	{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/anatop.html }のデジタル教材(パワーポイント等)や返却された演習、サブノートの問、定義や表記法をこまめに復習すること。		
成績評価	前期試験と後期試験、演習成績による。詳細は{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/anatop.html }を参照のこと。出席点はない(から出席しても理解して帰らなければ意味がない)。		
講義構成	前期 1) ガイダンス 2) 数理論理学の基礎 -- 命題論理 -- 3) 数理論理学の基礎 -- 述語論理 -- 4) 数理論理学の基礎 -- $\forall$ 記号 $\exists$ 記号の演習 -- 5) 数学の記号化 -- 上限・下限など -- 6) 実数の連続性 -- デデキント切断 -- 7) 実数の連続性 -- 実数の連続性の公理 -- 8) 実数の連続性 -- 数列の極限 -- 9) 実数の連続性 -- 実数の連続性の公理と同値な定理 -- 10) 実数の連続性 -- 実数の小数展開 -- 11) 関数の極限 -- $\varepsilon - \delta$ 論法① -- 12) 関数の極限 -- $\varepsilon - \delta$ 論法② -- 13) トピックス -- 赤いカードを選ぶ -- 14) 前期のまとめ 15) 前期試験 後期 16) 前期試験反省会 17) 関数の連続性 -- 区間連続 -- 18) 関数の連続性 -- 一様連続 -- 19) 導関数① 20) 導関数② 21) トピックス -- 博士の愛した数式 -- 22) 積分の定義 23) 広義積分 24) 微積分の素朴な疑問 -- 高校教科書と微分 -- 25) 微積分の素朴な疑問 -- 高校教科書と積分 -- 26) 中間値の定理の応用 -- ハムサンドイッチ定理 -- 27) 積分の応用と重心 -- 変形ゴマ -- 28) 高校数学を専門数学から概観する 29) 後期のまとめ 30) 後期試験		
教科書	サブノート(プリントを冊子にしたもの): 生協で販売(予定)。 詳細は{公式ホームページ,http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/anatop.html}を参照のこと。		

参考書・資料	「解析入門」田島一郎 著 (岩波全書) 「基礎 微分積分」押川元重・阪口紘治 共著 (培風館) その他, {公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/anatop.html }や講義で紹介する予定.
担当者から一言	定義や定理が無味乾燥なものではなく, それらの「心」に触れ感動を伝える講義を目指す. 「できないまま何とか単位を取ろうとする」学生が多いがそうはさせない.
その他	詳細・最新情報など{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/anatop.html }は必見!
ホームページタイトル	{解析学(B) 公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/anatop.html }

授業コード	71021		
授業科目名	確率過程論（前）		
担当者名	岳 五一（ガク ゴイチ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	確率過程論は, 物理学, 工学等の自然科学の諸分野にとどまらず, 医学, オペレーションズ・リサーチ, 経済学等の人文科学, 社会科学の分野でも広く応用されるようになってきた. 本講義では純粋で複雑な数学的証明を避け, 確率に関する一般的な基礎知識を始め, ポアソン過程, 再生過程, マルコフ連鎖を中心とする確率過程についてわかりやすく説明する. その上で演習を行い, 理解を深めてもらう.
到達目標	本授業では毎回の授業を真面目に受講し, 演習等を確実にこなし, 確率過程論の知識を確実に取得することを到達目標とする.
講義方法	板書による講義. 理解の程度を深めるために, 授業時間内に講義と練習問題を使った演習を行う. 宿題・レポートを課すこともある.
準備学習	2年次配当必修科目の「確率統計及び演習」における確率論の基礎をしっかりと復習しておくこと.
成績評価	出席状況, 勉学の態度, 宿題・レポートの評価点, 期末テストの点数を加重平均する.
講義構成	第1回 確率空間, 確率変数, 期待値 第2回 条件付き確率とその平均, 多次元確率分布 第3回 演習 第4回 確率過程, ポアソン過程 第5回 非定常ポアソン過程, 到着時間間隔分布 第6回 演習 第7回 再生過程の定義, 再生関数, 再生方程式 第8回 再生定理, 遅延再生過程 第9回 残存寿命分布 第10回 演習 第11回 マルコフ連鎖, 高次推移確率 第12回 状態の分類, 定常分布 第13回 有限マルコフ連鎖, 演習 第14回 まとめと総合演習 第15回 試験
教科書	指定しない.
参考書・資料	[1]「応用確率論」依田 浩他著 (朝倉書店 1994年) [2]「確率過程とその応用」小和田正著 (実教出版株式会社 1994年)
担当者から一言	(1) 出欠は毎回調査する. (2) 理解の程度を深めるために, 授業時間内に講義と練習問題を使った演習を行う. (3) 宿題・レポートを数回課す.

授業コード	71065
-------	-------

授業科目名	確率システム工学(後)		
担当者名	岳 五一(ガク ゴイチ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本講義ではまずマルコフ過程について、そして確率過程論で学習した確率過程と身近なモデルを用いてその応用を中心にわかりやすく説明する。特に待ち行列理論、社会システムにおける種々の確率モデルについて講義する。その上で演習を行い、理解を深めてもらう。
到達目標	物理学、工学等の自然科学の諸分野をはじめ、医学・オペレーションズ・リサーチ、経済学等の人文科学、社会科学の分野に広く応用できる確率システム工学の知識を身に付けてもらうことを到達目標とする。
講義方法	板書による講義。理解の程度を深めるために、授業時間内に講義と練習問題を使った演習を行う。宿題・レポートを課すこともある。
準備学習	「確率過程論」(前)の内容をしっかりと復習しておくこと。
成績評価	出席状況、勉学の態度、宿題・レポートの評価点、期末テストの点数を加重平均する。
講義構成	第1回 マルコフ過程、離散状態のマルコフ過程: 出生過程 第2回 離散状態のマルコフ過程: 出生死滅過程 第3回 有限状態のマルコフ過程 第4回 演習 第5回 待ち行列理論、 $M/M/1(\infty)$ 待ち行列 第6回 $M/M/1(N)$ 待ち行列、演習 第7回 $M/M/m$ 待ち行列 第8回 有限母集団待ち行列 第9回 演習 第10回 社会システムにおけるマルコフモデルⅠ 第11回 社会システムにおけるマルコフモデルⅡ 第12回 交通システムへの適用 第13回 情報通信システムへの適用 第14回 まとめと演習 第15回 試験
教科書	指定しない。
参考書・資料	[1]「応用確率論」依田 浩他著(朝倉書店 1994年) [2]「確率過程とその応用」小和田正著(実教出版株式会社 1994年)
講義関連事項	(1)「確率過程論」を履修していることを要望する。 (2)出欠は毎回調査する。 (3)理解の程度を深めるために、授業時間内に講義と練習問題を使った演習を行う。 (4)宿題・レポートを数回課す。

授業コード	71F11		
授業科目名	確率統計及び演習(1クラス)		
担当者名	小出武(コイデ タケシ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜1限 水曜2限)、後期(水曜1限 水曜2限)
特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	確率や統計に関する諸概念や諸定理、母集団の概念、標本抽出、標本分布、いわゆる数理統計学の骨子である推定、検定の基本事項を解説する。また、講義内容の理解を定着させるために、問題演習を行う。コンピュータシミュレーションによって大数の法則、中心極限定理などの諸定理の理解を深め、さらに各種分布の確率密度関数のグラフを作成し、数値積分により確率計算を行い推定・検定に用いる分布についての理解を深めることを目的とする。
到達目標	確率や統計に関する基本的な概念を理解し、代表的な推定・検定を実行することができる。

講義方法	教科書に沿って基本事項の解説を行い、適宜問題演習と計算機演習を行う。
準備学習	積み上げ型の学習科目であるので、毎回の授業内容はよく復習して理解し、次回の講義に備えること。
成績評価	定期試験、演習のレポート、出席状況により総合的に判断する。
講義構成	[前期] 第1回 確率論の基礎 集合と集合算 第2回 確率論の基礎 確率と確率モデル 第3回 確率論の基礎 確率変数と分布 第4回 確率論の基礎 条件付き確率 第5回 順列と組合せ 2項定理と多項定理 第6回 確率分布と確率密度関数 平均と分散 第7回 確率分布と確率密度関数 変数変換 第8回 確率分布と確率密度関数 多変数分布 第9回 確率分布と確率密度関数 確率変数の独立性と相関係数 第10回 確率分布と確率密度関数 畳み込み積分および積率母関数 第11回 1変数の離散分布と連続分布 2項分布 第12回 1変数の離散分布と連続分布 大数の法則および2項分布の発展 第13回 1変数の離散分布と連続分布 ポアソン分布と幾何分布 第14回 1変数の離散分布と連続分布 一様分布と指数分布 第15回 定期試験 [後期] 第16回 正規分布 スターリングの公式 第17回 正規分布 正規分布の確率計算、規格化変換、偏差値 第18回 正規分布 正規分布とその1次結合 第19回 母集団と標本 復元抽出および非復元抽出 第20回 母集団と標本 標本平均の分布 第21回 母集団と標本 層別比例抽出法と任意抽出法 第22回 母集団と標本 標本分散の平均と不偏分散 第23回 χ^2分布 ガンマ関数と分布の定義および分布に従う例 第24回 F分布とt分布 ベータ関数とF分布の定義およびF分布に従う例 第25回 F分布とt分布 t分布の定義およびt分布に従う例 第26回 推定と検定 母平均の推定と検定(1) 第27回 推定と検定 母平均の推定と検定(2) 第28回 推定と検定 母分散の推定と検定 第29回 推定と検定 その他の検定 第30回 定期試験
教科書	服部雄一 編著、確率統計入門 わかりやすい応用例でまなぶ、培風館

授業コード	71F12		
授業科目名	確率統計及び演習（2クラス）		
担当者名	片山登揚(カタヤマ ノリアキ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限 土曜2限)、後期(土曜1限 土曜2限)
特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	確率や統計に関する諸概念や諸定理、母集団の概念、標本抽出、標本分布、いわゆる数理統計学の骨子である推定、検定の基本事項を解説する。また、講義内容の理解を定着させるために、問題演習を行う。コンピュータシミュレーションによって大数の法則、中心極限定理などの諸定理の理解を深め、さらに各種分布の確率密度関数のグラフを作成し、数値積分により確率計算を行い推定・検定に用いる分布についての理解を深めることを目的とする。
到達目標	確率や統計に関する基本的な概念を理解し、代表的な推定・検定を実行することができる。
講義方法	教科書に沿って基本事項の解説を行い、適宜問題演習と計算機演習を行う。
準備学習	積み上げ型の学習科目であるので、毎回の授業内容はよく復習して理解し、次回の講義に備えること。
成績評価	定期試験、演習のレポート、出席状況により総合的に判断する。

講義構成	[前期] 第1回 確率論の基礎 集合と集合算 第2回 確率論の基礎 確率と確率モデル 第3回 確率論の基礎 確率変数と分布 第4回 確率論の基礎 条件付き確率 第5回 順列と組合せ 2項定理と多項定理 第6回 確率分布と確率密度関数 平均と分散 第7回 確率分布と確率密度関数 変数変換 第8回 確率分布と確率密度関数 多変数分布 第9回 確率分布と確率密度関数 確率変数の独立性と相関係数 第10回 確率分布と確率密度関数 畳み込み積分および積率母関数 第11回 1変数の離散分布と連続分布 2項分布 第12回 1変数の離散分布と連続分布 大数の法則および2項分布の発展 第13回 1変数の離散分布と連続分布 ポアソン分布と幾何分布 第14回 1変数の離散分布と連続分布 一様分布と指数分布 第15回 定期試験 [後期] 第16回 正規分布 スターリングの公式 第17回 正規分布 正規分布の確率計算、規格化変換、偏差値 第18回 正規分布 正規分布とその1次結合 第19回 母集団と標本 復元抽出および非復元抽出 第20回 母集団と標本 標本平均の分布 第21回 母集団と標本 層別比例抽出法と任意抽出法 第22回 母集団と標本 標本分散の平均と不偏分散 第23回 χ^2分布 ガンマ関数と分布の定義および分布に従う例 第24回 F分布とt分布 ベータ関数とF分布の定義およびF分布に従う例 第25回 F分布とt分布 t分布の定義およびt分布に従う例 第26回 推定と検定 母平均の推定と検定(1) 第27回 推定と検定 母平均の推定と検定(2) 第28回 推定と検定 母分散の推定と検定 第29回 推定と検定 その他の検定 第30回 定期試験
教科書	服部雄一 編著、確率統計入門 わかりやすい応用例でまなぶ、培風館

授業コード	71063		
授業科目名	画像工学(前)		
担当者名	北村達也(キタムラ タツヤ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	講義期間の月曜日から金曜日まで随時		

講義の内容	本講義では、静止画像データおよび動画データ処理に関する理論および手法を扱う。ヒトの視覚の生理学的・心理学的特性について理解した後、画像のデータ表現、線形変換、周波数変換、特徴抽出などの画像処理の基礎について学ぶ。そして、Matlabを利用してこれらの処理を行うプログラムを作成したり、OpenGLを利用してコンピュータ・グラフィクスを作成したりする技能を身につける。
到達目標	(1) ヒトの視覚系の生理学的・心理学的特性を理解する。 (2) 画像データを対象にした信号処理の理論を習得し、その処理をMatlabで実行できるようになる。
講義方法	スライド、板書、ビデオ教材、コンピュータ(MatlabおよびC)による演習
準備学習	本講義では演習にMatlabを使用するので、「知能情報学実験及び演習」第1回のMatlab講習を必ず受講すること。また、C言語によるプログラミング技能も必要である。
成績評価	講義期間中の演習課題、レポート、および期末試験の成績等を総合して評価する。
講義構成	第1回 概論 第2回 視覚 第3回 光学、デジタル画像 第4回 幾何学的変換(1)

	第5回 幾何学的変換(2), 2値画像処理(1) 第6回 2値画像処理(2) 第7回 画質改善 第8回 画像の周波数分析(1) 第9回 画像の周波数分析(2) 第10回 画像の特徴抽出 第11回 色 第12回 3次元情報, 動画画像処理 第13回 コンピュータ・グラフィクス 第14回 総括 第15回 試験
教科書	なし. 適宜資料を配付する.
参考書・資料	田村,「コンピュータ画像処理」, オーム社 (2002) 「デジタル画像処理」, CG-ARTS協会 (2006) 村上,「画像処理工学 第2版」, 東京電機大学出版局(2004)
担当者から一言	メディア情報処理の面白さは、処理の結果を自分の目と耳で確認できることにあります。ぜひ、自らプログラムを作成し、実際のデータを処理することを通して、内容の理解を深めてください。
URL	http://basil.is.konan-u.ac.jp/

授業コード	71058		
授業科目名	感覚生理学(後)		
担当者名	前田多章(マエダ カズアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	月曜4限		

講義の内容	生物の情報処理系の重要な働きの一つである感覚情報処理に関して講義する。まず、各感覚器に関する構造と機能を説明し、続いて各感覚の特性を説明する。そして、外界からの刺激を生体が如何に受容し、如何に伝達し、如何に処理しているか、そして刺激に如何に対応しているかについて詳述する。
到達目標	本講義を通して、生体における感覚情報処理の基本特性を理解することを目的とする。特に、視覚情報処理の基本特性をしっかりと理解すること。
講義方法	講義形式で進める。 適宜、図や写真を提示して講義の理解を深める。
準備学習	あらかじめ予習等により、生物の細胞に関する簡単な知識を学び、講義を受けることが望ましい。 特に、ブレインサイエンスの講義を受けていることが望ましい。
成績評価	受講態度と試験の結果で成績評価をする。
講義構成	1. 感覚系の概観 2. 化学感覚系(1) 3. 化学感覚系(2) 4. 末梢視覚系(1) 5. 末梢視覚系(2) 6. 中枢視覚系(1) 7. 中枢視覚系(2) 8. 聴覚と平衡感覚(1) 9. 聴覚と平衡感覚(2) 10. 体性感覚・痛覚(1) 11. 体性感覚・痛覚(2) 12. 味覚 13. 嗅覚 14. まとめ 15. 試験
教科書	なし
参考書・資料	①Rita Carter著:『脳と心の地形図』(原書房, 2000年) ￥2,250 ②William F. Ganong 著:『ギャノン 生理学』原著22版(丸善, 2006年) ￥10,500

	③小澤静司, 本郷利憲, 広重力 著:『標準生理学』第6版(医学書院, 2005年) ¥ 12,600
講義関連事項	質問の時間を持ちますので, どんどん質問して分からないところを解決してください。よくわからないときは, 質問をするのにも苦慮するものですが, 頑張ってください。
担当者から一言	遅刻しないように注意してください。講義進行の妨害となりますので, 原則として遅刻および途中退出を認めません。

授業コード	71020		
授業科目名	幾何学		
担当者名	森元勘治(モリモト カンジ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	現代幾何学の主要な研究対象である多様体に焦点を当てて講義を行う。前期では、非ユークリッド幾何学発見の歴史と多様体概念の誕生を解説し、2次元多様体を中心に、オイラー標数を用いた閉曲面の分類を行う。後期では多様体を代数的にあつかう基本群に焦点を当て、複体の基本群の計算を具体的にを行い、それを用いて、球体上の不動点定理を示す。そして、3次元多様体へと考察の対象を発展させ、特に、4次元空間内の3次元球面を具体的に理解することを目指す。
到達目標	前期は、位相同型という概念を理解し、その範疇において、閉曲面がどのように分類されるかを理解する。その過程において、オイラー標数などを学び、数学的帰納法を用いた証明などの論理を、改めて確かなものとする。後期は、群の基本的概念を理解し、位相的図形を代数的に扱うための道具である基本群を理解する。そして、それを用いて、ブラウアーの不動点定理の証明を理解することにより、幾何と代数に関わる論理を確かなものとする。最後に、3次元球面を考えることにより、4次元空間を深く理解する。
講義方法	黒板への板書を中心に行う。
準備学習	初めて学ぶことがほとんどなので、少し戸惑うかもしれないが、毎回の授業の前に、前回の復習を必ず行うことが、授業理解をよりいっそう深めることであろう。
成績評価	定期試験で評価する。
講義構成	前期] 第1回幾何学の源流とユークリッド原論 第2回ユークリッド幾何と非ユークリッド幾何 第3回数学における一般化について 第4回連続写像と位相同型 第5回開球体とユークリッド空間 第6回多様体の定義 第7回単体的複体と組合せ多様体 第8回1次元多様体 第9回多様体の向き 第10回向き付け可能2次元多様体 第11回向き付け不可能2次元多様体 第12回オイラー標数 第13回閉曲面の文字列表示 第14回閉曲面の分類 第15回前期試験 後期 第16回同値関係 第17回群 第18回準同型定理 第19回道のホモトピー類 第20回道の積とループのホモトピー類 第21回基本群 第22回基本群の位相不変性 第23回連続写像と準同型 第24回単体的複体の折れ線群 第25回折れ線群の計算(1) 第26回折れ線群の計算(2) 第27回ホモトピー同型

	第28回不動点定理 第29回3次元球面 第30回後期試験
教科書	使用しない。
参考書・資料	講義の中で適宜紹介する。
担当者から一言	伝えたいことは、2000年間人類が図形や空間概念をどのように創造し発展させ、これからどのような方向に向かおうとしているかということです。高い集中力で授業に臨んでください。
その他	この科目は、数学の教職を意識した科目ですので、数学の教員志望の学生さんは、特にしっかりと受講してください。

授業コード	71009		
授業科目名	キャリアデザインI (前)		
担当者名	中山一郎(ナカヤマ イチロウ)、I		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	大学生生活を充実させ、将来の進路選択や就職選択に際して必要とされる基本的なチカラを“4つの知恵”(人との関係を築く知恵・情報を収集して活用する知恵・自ら考えて判断や決定をする知恵・自分の将来をイメージして描ける知恵)と名づけ、「雑談&情報交換ペアワーク」「コミュニケーションゲーム」「グループディスカッション」「プレゼンテーション」「ロールプレイング」などといった人間関係を軸としたトレーニングを15回の講義の中で行っていきます。
到達目標	「自己発見(なりたい自分を探す)」をコンセプトに、最終の学習目標としては、きたるべき卒業後の進路選択から就職活動などへ向けて、まずは自らの頭で考え、行動し、選択していけるような態度や姿勢を身につけていきます。
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	授業の中で学んだ知恵・知識・スキルは、授業以外の場においてももどろん実践し活かしていきましょう。
成績評価	キャリアデザインシートの提出(講義の中での気づきや感想などを記入・提出)、キャリアデザインマップの発表と提出(将来の進路選択や就職活動を視野に入れての目標設定と行動企画を作成・発表・提出)、講義への出席(一回一回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場になかった、講義を受けていなかった学生は原則欠席とします)。以上を総合的に評価します。
講義構成	1. オリエンテーションーベーシック・キャリアデザインとは?ー 2. “なりたい私”を探そうⅠ 3. “なりたい私”を探そうⅡ 4. 豊かな人間関係をきずこうⅠ 5. 豊かな人間関係をきずこうⅡ 6. 専門・専攻を進路に活かそうⅠ 7. 専門・専攻を進路に活かそうⅡ 8. 幅広い情報を活用しようⅠ 9. 幅広い情報を活用しようⅡ 10. 考える力を身につけようⅠ 11. 考える力を身につけようⅡ 12. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅠ 13. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅡ 14. “なりたい私”を実現させよう
教科書	「テキスト」は正式な履修登録後の講義で配付します。

担当者から一言	「生き方」や「働き方」の正解がたった一つだけではないという“新しい時代”や“新しい社会”がやってきました。そのような中、皆さん一人ひとりが充実した大学生活を過ごし、さらには“私らしい生き方や働き方”を実践していくためには、いったいどのような教養が必要なのでしょうか。皆さんの「これから」をいっしょに考えていきましょう。
---------	---

授業コード	71010
-------	-------

授業科目名	キャリアデザインⅡ(集中)		
担当者名	若谷彰良(ワカタニ アキヨシ)、田中雅博(タナカ マサヒロ)、新田直也(ニッタ ナオヤ)、笠松貴宏(カサマツ タカヒロ)、井口健司(イグチ ケンジ)、中島雅逸(ナカジマ マサイツ)、今村 誠(イマムラ マコト)、浅田武史(アサダ タケン)、新田昌弘(ニッタ マサヒロ)、I		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	企業など実社会で活躍している非常勤講師を招き、集中講義の形式で実社会の現状を学生に伝え、キャリアデザインを明確にするための講義を行う。具体的には次のテーマを行う。 1.「甲南大学から中学・高校教師へ」 甲南大学を卒業し、現在、中高の教諭をしている。大学での勉学が教育者になるためにどのように役立ったか、甲南大学での生活はどうであったか、受験生を送り出す立場での仕事で考えることなどを講義する。 2.「情報サービス・ソフトウェア産業の構造と将来展望」 次の項目について講義する。 (1)情報サービス・ソフトウェア産業の構造 (2)ソフトウェア開発技術者とは (3)情報サービス・ソフトウェア産業の魅力 (4)就職活動へのアドバイス (5)設計体験 3.「メーカーのソフト開発における大学知識の活かされ方」 本テーマでは学生の皆さんが学んでいる“知識”とメーカー内での“活かされ方”について現場の生の情報を紹介する。特に講師が関わっているソフト開発に焦点を当てる。 4.「仕事としてのゲームプログラミング」 ゲームが動く基本的な仕組みや3次元グラフィックスが見えるまでを説明し、仕事としてのゲームプログラミングについてゲーム制作全体の流れやそのほかの仕事についても触れながら講義する。 5.「電機メーカーにおけるハードウェアの研究開発」 マイクロプロセッサをはじめとする半導体の研究開発の動向と開発現場の現状について紹介し、職務遂行に必要なとされる資質について経験を交えて述べる。 6.「電機メーカーにおける技術文書管理の研究開発」 技術文書管理の研究開発の動向と開発現場の現状について紹介し、職務遂行に必要なとされる資質について経験を交えて述べる。		
到達目標	実社会において必要な人材の資質や能力が理解でき、自分自身の就職活動に必要な準備を認識できて、学生自らのキャリアデザインが明確になる。		
講義方法	マルチメディア教材を用いた講演とそれに対するレポート作成で構成される。		
準備学習	履修条件は特に無いが、新聞や各種雑誌などにより世の中の動向を常にウォッチし、実社会に必要なとされる人材・キャリアについての情報の把握に努めること。		
成績評価	出席状況と提出されたレポートの内容により評価する。なお、無断欠席は成績に大きな影響を与えるのではないこと。		
講義構成	3日間(連続とは限らない)の集中講義の形式で行う。 1日目(第1～5回) 「甲南大学から中学・高校教師へ」「情報サービス・ソフトウェア産業の構造と将来展望」 「レポート作成」 2日目(第6～10回) 「メーカーのソフト開発における大学知識の活かされ方」 「仕事としてのゲームプログラミング」「レポート作成」 3日目(第10～15回) 「電機メーカーにおける技術文書管理の研究開発」 「電機メーカーにおけるハードウェアの研究開発」「レポート作成」 テーマの順番が変わる可能性はあるので、My Konanの連絡・情報などを随時見ておくこと。		
教科書	なし		

その他	講義構成やレポート提出の方法などについて、必要な情報をMy Konanで連絡するので、随時見ること。
-----	--

授業コード	71048		
授業科目名	グラフ理論（前）		
担当者名	風間健一郎（カザマ ケンイチロウ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	ここで言うグラフとは、関数のグラフや統計のグラフのことではない。道路・鉄道網とか、物質の分子構造とか、人の間の友人関係とかを、物と物のつながりかた、という視点から抽象化した概念がグラフである。グラフは簡単な図形として表すことができるため、理解しやすいという側面も持つが、反面、数学の一分野としてたいへん深い研究対象ともなっている。また、特にコンピュータサイエンスの分野では、データ構造やアルゴリズムとも関連して、重要な知識となっている。この講義では、グラフ理論の基本的な事柄を学習していく。		
到達目標	グラフ理論の基本的な用語、定理等について理解すること。		
講義方法	普通の講義。レポート等を課すこともある。		
準備学習	予備知識などは特に必要としない。		
成績評価	定期試験により評価する。レポート等の提出は加点の対象とする。		
講義構成	第1回 はじめに グラフとは何か 第2回 基本的な定義 第3回 例 第4回 連結性 第5回 オイラー・グラフ 第6回 ハミルトン・グラフ 第7回 アルゴリズム 第8回 木の性質 第9回 木の数え上げ 第10回 応用 第11回 平面的グラフ 第12回 オイラーの公式 第13回 曲面上のグラフ 第14回 双対グラフ 第15回 試験		
教科書	「グラフ理論入門」 R. J. ウィルソン著 西関隆夫・西関裕子共訳 近代科学社		

授業コード	71068		
授業科目名	経営情報システム（後）		
担当者名	石倉弘樹（イシクラ ヒロキ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限

講義の内容	経営情報システムとは、組織における運営、マネジメント、分析、および意思決定を支援するために情報を準備する統合的ユーザーマシンシステムである。このため経営情報システムを論じるにはその前提となる経営学と情報技術についての説明が必要となるが、時間的制約があるため、本講義では経営情報システムを理解する上で最も体系だった知識が大切となる意思決定支援を中心に論述する。経営学と情報技術の重要な事柄については、学習の中で具体的な例を通して触れる。将来学んだ内容を容易に利用できるように、広く使われているマイクロソフトExcelを使用する。		
到達目標	PCを用いた意思決定ができるようになること。		
講義方法	PC演習室で、Excelを用いて演習形式で行なう。		
準備学習	PCによく慣れておくこと。		

成績評価	出席、講義時間中の提出物、試験の成績から総合的に判断する。
講義構成	(1)ゴールシークとシナリオ (2)最適生産計画 (3)線形計画問題 (4)非線形計画問題 (5)輸送計画 (6)感度分析 (7)整数計画問題 (8)0-1計画問題 (9)近似曲線 (10)成長曲線 (11)回帰分析 (12)まとめ
教科書	荻田正雄「Excelでできる最適化の実践らくらく読本」同友館

授業コード	71035		
授業科目名	コンパイラ・インタプリタ（後）		
担当者名	若谷彰良（ワカタニ アキヨシ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	プログラミング言語の持っている言語モデルと、OS/コンピュータアーキテクチャの間を、目的に応じて埋めるコンパイラとインタプリタの役割と構成及び実現方法を理解させるとともに、簡単なコンパイラ・インタプリタを作成できる基礎的能力を育成することを目指す。内容は、字句解析、構文解析、コード生成を含む。
到達目標	コンパイラとインタプリタの役割と構成及び実現方法が理解でき、簡単なコンパイラ・インタプリタを作成できる基礎的能力が育成される。
講義方法	講義とともに数回の実習(場所、曜日、時限は別途連絡)を行なう。
準備学習	参考書および新聞・雑誌・webなどから関連する情報の収集に努めること。
成績評価	日頃の出席、随時行う小テスト、実習での課題提出と定期試験により評価する。評価を「欠席」として扱うのは定期試験を受けない場合のみである。
講義構成	第1回 コンパイラ概要とBNF(1) 第2回 コンパイラ概要とBNF(2) 第3回 字句解析とオートマトン(1) 第4回 字句解析とオートマトン(2) 第5回 演算子順位による構文解析 第6回 中間言語と記号表 第7回 下向き構文解析(1) 第8回 下向き構文解析(2) 第9回 コンパイラ・コンパイラ(flex/bisonについて) 第10回 誤り処理 第11回 実行時環境 第12回 レジスタ割り当てとコード生成 第13回 実習1: flex/bisonによる簡易なインタプリタの作成 第14回 実習2: flex/bisonによる簡易なインタプリタの応用 第15回 試験
教科書	なし
参考書・資料	「コンパイラ入門」(サイエンス社、山下義行著、2008年) 「コンパイラの仕組み」(朝倉書店、渡邊坦著、1998年) 「コンパイラの構成と最適化」(朝倉書店、中田育男著、1999年)

担当者から一言	随時、講義の最後に小テスト(QUIZ)を行なう。
ホームページタイトル	{若谷ホームページ, http://pplinux.is.konan-u.ac.jp/~wakatani/ }
URL	http://pplinux.is.konan-u.ac.jp/~wakatani/

授業コード	71027		
授業科目名	コンピュータアーキテクチャ(前)		
担当者名	若谷彰良(ワカタニ アキヨシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	コンピュータシステムにおけるハードウェア構成とソフトウェア機能のトレードオフ設計をコンピュータアーキテクチャ設計としてとらえ、以下の項目にわたる基礎的なコンピュータアーキテクチャについて学習させ、簡単なシミュレータ設計や性能評価を実習として行い、コンピュータアーキテクチャの基礎の理解を目標とする。主な内容は、基本命令セットアーキテクチャ、プロセッサアーキテクチャ、メモリアーキテクチャ、入出力、通信アーキテクチャなどである。
到達目標	コンピュータアーキテクチャの基礎について理解し、ソフトウェア開発に応用できる。
講義方法	講義とともに数回の実習(場所、曜日、時限は別途連絡)を行なう
準備学習	参考書および新聞・雑誌・webなどから関連する情報の収集に努めること。
成績評価	日頃の出席、随時行う小テストと実習課題と定期試験により評価する。評価を「欠席」として扱うのは定期試験を受けない場合のみである。
講義構成	第1回 概説 第2回 コンピュータの歴史と基本方式 第3回 アーキテクチャの評価とデータ表現 第4回 命令セットアーキテクチャ 第5回 固定小数点演算と浮動小数点演算 第6回 記憶装置とキャッシュメモリ 第7回 仮想記憶 第8回 結線論理制御方式 第9回 マイクロプログラム制御方式と割り込み 第10回 並列処理とパイプライン 第11回 パイプラインとハザード 第12回 入出力 第13回 実習1: 時間計測 第14回 実習2: 性能評価 第15回 試験
教科書	なし
参考書・資料	コンピュータアーキテクチャ 改訂2版(オーム社、馬場敬信著、2000-02-25出版、3,700円) コンピュータアーキテクチャ―第2版「基礎から超高速化技術まで」(丸善、富田真治著、2000-09-15出版、4,400円) 見てわかるパソコン解体新書、続、3～5(ソフトバンク、大島篤著)

担当者から一言	随時、講義の最後に小テスト(QUIZ)を行なう。
ホームページタイトル	{若谷ホームページ, http://pplinux.is.konan-u.ac.jp/~wakatani/ }
URL	http://pplinux.is.konan-u.ac.jp/~wakatani/

授業コード	71052		
授業科目名	コンピュータグラフィックス(後)		
担当者名	田村祐一(タムラ ユウイチ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	市販のソフトウェアを利用してコンピュータグラフィックス(CG)を手軽に作成できるようになってきた。一方で、ど
-------	--

	のような原理でCGが作られているのかについては、わからない部分も多い。そこで、CGの基本原理、つまり、コンピュータの中でどのような処理がされ、最終的に私たちが見る美しい画像・映像が作られているかについて述べる。
到達目標	コンピュータグラフィックスは単に3次元の形状モデルをコンピュータで作成するというだけでなく、光の効果や物理現象をモデル化した上で成り立っていることを理解すること。作成されたモデルから画面（スクリーン）上の画像として生成する過程、アルゴリズムについての理解することを目指す。
講義方法	教科書と必要に応じて配布する資料を使って講義する
準備学習	線形代数を履修していること。
成績評価	定期テストと受講状況
講義構成	第1回 CGの概要・導入 第2回 3次元座標系と幾何変換 第3回 座標系変換 第4回 投影変換とビューポート変換 第5回 3次元形状モデリング(1) 第6回 3次元形状モデリング(2) 第7回 レンダリング処理の流れ 第8回 隠面処理と光の性質 第9回 シェーディング(1) 第10回 シェーディング(2)、シャドウイング 第11回 マッピング(1) 第12回 マッピング(2) 第13回 CGアニメーションとバーチャルリアリティ(1) 第14回 CGアニメーションとバーチャルリアリティ(2) 第15回 テスト
教科書	明解 3次元コンピュータグラフィックス 共立出版
担当者から一言	コンピュータグラフィックスを学ぶにはある程度の線形代数と幾何学の知識が必要となります。できれば講義が始まる前に復習しておいてください。

授業コード	71K11		
授業科目名	コンピュータサイエンス (A)(後)		
担当者名	田村祐一(タムラ ユウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
特記事項	知能情報学部		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	コンピュータは様々な理論や技術の集積で構成されている。これらの個々の知識の詳細は今後専門分野を学習することで習得することとなるが、この講義ではそれぞれの項目について深く学ぶのではなく、個々の分野がコンピュータサイエンスのどの分野と関連しているのかを示す。
到達目標	本講義では専門分野を学ぶ前の準備、つまり点で存在する専門分野の内容を線でつなぎ、最終的にハードウェア、ソフトウェア、システム等の観点からコンピュータ全体の概略を理解することを目指す。
講義方法	こちらから提示する資料を中心に講義を進める。知識定着のため、数回小テスト(練習問題)を行う。
準備学習	特に必要なし。
成績評価	期末テストの結果および講義中に行う小テストの結果。
講義構成	第1回: ガイダンス、コンピュータの歴史 第2回: デジタルデータとアナログデータ 第3回: 基数1 第4回: 基数2, 情報の表現 第5回: 論理回路1 第6回: 論理回路2 第7回: 論理回路3 第8回: コンピュータのハードウェア1 第9回: コンピュータのハードウェア2

	第10回:オペレーティングシステム1 第11回:オペレーティングシステム2 第12回:ネットワーク1 第13回:ネットワーク2, Web 第14回:セキュリティ, プログラミング, コンピュータ応用 第15回:テスト
教科書	特になし. 必要な場合にはプリントを配布する.
参考書・資料	理工系のコンピュータ基礎学 稲垣耕作 コロナ社 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生の基本情報技術者教室 技術評論社
担当者から一言	コンピュータサイエンスを学ぶにあたり, 全体の地図を示すことを目的とします. 講義のスピードはどうしても速くなりますので, 遅れずついてきてください.

授業コード	71K12		
授業科目名	コンピュータサイエンス (B)(前)		
担当者名	藤田 靖(フジタ ヤスシ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
特記事項	知能情報学部以外		

講義の内容	昔は、「読み・書き・そろばん」。今は、「読み・書き・コンピュータ」。学生時代も社会に出てからも、コンピュータを使いこなせる能力が必要になります。コンピュータを知るには、コンピュータを使い込むことが必要です。 講義では、コンピュータサイエンスの基本の説明をします。コンピュータを使い込んでいくときに知っておくべきことを説明します。 学生の間に、最低でもITパスポート試験の資格を取ってください。そして、理系の学生なので基本情報技術者試験の資格も目指してください。 講義内では、タイムリーな話題も取り上げる予定です。
到達目標	一人でコンピュータ操作ができ、コンピュータ用語を理解し、調べることができる。
講義方法	本年は、基本情報処理試験問題・初級シスアド試験問題・ITパスポート試験問題を用いた説明も行います。また、インターネットからいろいろな題材を集めた説明もします。
準備学習	IT関連のニュースを日頃から読んでおくこと。
成績評価	(1) 所定の出席日数以上の出席が必要です。 基本的には、毎回課題を提出してもらいます。 (2) 毎日の積み重ねが重要なので、頻繁に、小テストを行い評価します。 期末試験は、行いません。 (3) 成績は、小テストの成績を重視します。このため、必ず小テストを受ける必要があります。 (4) 小テストは、いろいろな情報処理試験の過去問題から出します。 (5) レポート提出もあります。レポートはWebページや友達の資料をコピーするのではなく自分の言葉で記入してください。
講義構成	第 1回 情報処理の単位 第 2回 基数変換 第 3回 負の数の表現 第 4回 固定小数点と浮動小数点・誤差 第 5回 文字データの表現 第 6回 論理演算・論理回路 第 7回 ハードウェア(入力装置・出力装置) 第 8回 ハードウェア(CPU・メモリ) 第 9回 ハードウェア(ハードディスク) 第10回 ソフトウェア OS

	第11回 ソフトウェア プログラム言語 第12回 表計算 第13回 通信の仕組み 第14回 コンピュータネットワーク
教科書	基本情報技術者合格教本 須藤 智 (著)・定平 誠(著)／技術評論社 ISBN－10 4774140872 ISBN－13 978－4774140872
参考書・資料	(1) 基本情報+ITパスポート 計算ドリル 大滝 みや子 著／実教出版／ISBN4-407-31789-2 (2) あなたはコンピュータを理解していますか？ 梅津信幸著／技術評論社／ISBN4-7741-1600-9 (3) プログラムはなぜ動くのか 矢沢久雄著／日経BP社／ISBN4-8222-8101-9
担当者から一言	IT関連には、いろいろな資格があります。IT関連の勉強をして、いろいろな資格試験も受けてほしい。
その他	講義中の私語を禁じます。講義を邪魔する学生には、単位を出しません。

授業コード	71038		
授業科目名	最適化I(後)		
担当者名	中山弘隆(ナカヤマ ヒロタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	月曜3限		

講義の内容	線形計画は経営計画や管理などの意思決定問題の他、機械学習などにおけるツールとして、様々な問題に適用されている。本講では、そのモデリング、基礎的理論および応用について述べるとともに、実際の応用に際しての諸注意を与える。
到達目標	線形計画に関する基礎知識の理解とその数値計算法を修得することが目的である。
講義方法	ノート講義であるが、応用に関してはパソコンによるデモンストレーションを行う。
準備学習	線形代数とくに線形連立方程式に関連する基礎知識(ピボット計算、解の存在条件、ランク等)を修得していることが望ましい。
成績評価	随時講義時間中に行う小テストおよび数回のレポートと定期試験によって評価する。
講義構成	第1回 LPのモデリング 第2回 解の一般的性質 第3回 凸多面体の性質、とくに端点について 第4回 シンプレクス法のアイデア 第5回 pivot演算による逆行列の計算 第6回 シンプレクスタブロー 第7回 2段階法と標準基底形式への変換 第8回 改訂シンプレクス法 第9回 双対原理 第10回 感度解析(1)右辺の変化に関して 第11回 感度解析(2)その他の変化に関して 第12回 内点法 第13回 ゲーム理論との関連 第14回 応用と多目的線形計画法 第15回 試験
教科書	「システム工学」田村坦之著(オーム社 1999年)

参考書・資料	「数理計画入門」福島雅夫著(朝倉書店 1996年) 「最適デザイン」松岡由幸、宮田悟志(共立出版 2008年) 「Excel とLINGOで学ぶ数理計画法」新村秀一(丸善 2008年)
講義関連事項	本講は数理計画Ⅱと密接に関連するので、併せ受講するのが望ましい。
ホームページタイトル	{nakayama,http://it.is.konan-u.ac.jp}
URL	http://it.is.konan-u.ac.jp

授業コード	71057		
授業科目名	最適化Ⅱ(前)		
担当者名	中山弘隆(ナカヤマ ヒロタカ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	月曜日3限		

講義の内容	非線形計画法は工学設計や関数近似等、様々な問題において重要な役割を果たす。本講では、そのモデリング、基礎的理論および数値計算法について述べるとともに、実際の応用に際しての諸注意を与える。
到達目標	非線形最適化に関する基礎知識とその数値計算法の習得が目的である。
講義方法	ノート講義であるが、応用に関してはパソコンによるデモンストレーションを行う。
準備学習	最適化Ⅰを履修していることが望ましい。
成績評価	随時講義時間中に行う小テストおよび数回のレポートと定期試験によって評価する。
講義構成	第1回 非線形計画のモデリング 第2回 勾配法 第3回 共役勾配法、Newton法 第4回 準Newton法 第5回 収束について 第6回 凸解析の基礎1: 凸集合、凸関数の定義と性質 第7回 凸解析の基礎2: 凸集合の分離定理、支持超平面 第8回 Lagrange乗数定理とその一般化 第9回 鞍点定理、その他の性質 第10回 双対定理、感度解析 第11回 制約付き非線形最適の解法 第12回 メタヒューリスティック法: シミュレーティッドアニーリング法、遺伝的アルゴリズム 第13回 多目的計画法 第14回 ファジィ数理計画 第15回 試験
教科書	「システム工学」田村坦之著(オーム社 1999年)
参考書・資料	「数理計画法」山下信夫、福島雅夫著(コロナ社 2008年) 「最適デザイン」松岡由幸、宮田悟志(共立出版 2008年) 「Excel とLINGOで学ぶ数理計画法」新村秀一(丸善 2008年) 「線形代数と凸解析」布川、中山、谷野著(コロナ社 1991年)

ホームページタイトル	{nakayama,http://it.is.konan-u.ac.jp}
URL	http://it.is.konan-u.ac.jp

授業コード	71066		
授業科目名	システム信頼性（後）		
担当者名	中易秀敏（ナカヤス ヒデトシ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限

オフィスアワー	水曜日のお昼休み
講義の内容	信頼性工学が使えるようになることを目的に講義を進めます。主な内容は、信頼度と破損確率、データ解析、構造関数と信頼性、構造信頼性解析、人間信頼性解析など。
到達目標	機械構造の破壊予測に関心を持ちヒューマンエラーにも関心を持つようにする。
講義方法	解説を聞き、実際に問題を解き、理解する。このサイクルを繰り返しながら、信頼性工学のおもしろさを体感してもらう講義です。
準備学習	物理的な故障のみならず人間が関与する故障にも関心を持つ。
成績評価	小テスト、レポート、期末テストの成績に平常点を加味して総合的に評価します。
講義構成	1. 信頼性と信頼性工学 2. 事故例に学ぶ1 3. 事故例に学ぶ2 4. 統計データ処理 5. 確率分布の当てはめ 6. 直列・並列システムの信頼性 7. パス解析とカット解析 8. 故障モード解析とFTA/ETA 9. 機械構造物の破損と材料破壊 10. 安全率と信頼性指標 11. 信頼性指標による設計 12. システムの信頼性評価 13. ヒューマンパフォーマンスモデル 14. オペレータモデルとヒューマンエラー 15. 試験
教科書	室津義定・米澤政昭・邵曉文、システム信頼性工学、共立出版
講義関連事項	確率統計の知識が必要
担当者から一言	信頼性工学はこれまで主に物理システムの故障解析と故障防止の技術が中心でした。本講義では、ヒューマンエラーも含めたマンマシンシステムの信頼性も考えてみます。

授業コード	71039		
授業科目名	システム制御工学（後）		
担当者名	和田昌浩（ワダ マサヒロ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	月曜14:40～16:10 水曜10:40～12:10		

講義の内容	この講義では、「応用システム解析」の内容に加え、より高度なシステムの解析を目的とする。講義では、主に線形定係数の方程式を中心にシステムの諸概念を述べる。また、離散システムと連続システムにおけるカオス現象も考える。一般の非線形系で記述されるカオス現象は連続時間システムである。一方、離散時間で表される系では差分方程式を用いた簡単なシステムで記述することができる。まずは、離散時間におけるカオスシステムを学んでもらい、続いて連続時間におけるカオスの特徴やその解法などを学習する。いくつかのシミュレーションをMATLABやMathematicaなどを用いてデモを行う。
到達目標	数学モデルによる解析やシミュレーションを通して、様々なシステム理論の制御理論や安定性の解析について理解する。
講義方法	配布するプリントを中心に講義を行う。演習問題やレポートも行う。また、実験機材やビデオ教材等を用い、理論だけでなく実際のシステムを用いた授業も行う。
準備学習	1年次に学習する微分積分、線形代数を十分に理解しておくこと。
成績評価	定期試験期間中に行う一回の筆記試験の採点および出席状況、レポートによって評価する。定期試験6、出席・レポート4の割合(予定)で評価する。
講義構成	第1回 伝達関数と入出力関係 第2回 システム構造の記述とその等価変換 第3回 特性方程式とシステムの固有値

	第4回 状態変数変換とシステムの等価性 第5回 システムの固有値と時間応答との関係 第6回 過渡特性と周波数応答の関係 第7回 安定性の定義と安定判別法、特性根と安定性との関係 第8回 安定性1: ラウスの安定判別法 第9回 安定性2: フルビッツの安定判別法 第10回 状態方程式、遷移行列 第11回 状態方程式と伝達関数 第12回 状態方程式とブロック線図 第13回 カオス1: カオスと線形写像 第14回 カオス2: カオスの発生メカニズムと分岐現象 第15回 試験
教科書	特に指定はない。 作成したプリント等を用いる。
参考書・資料	『非線形制御システムの解析』平井一正、池田雅夫著(オーム社) 授業中に参考書を紹介予定。
講義関連事項	特に本講義では、微分積分および線形代数の知識を必要とするため復習をしておくこと。
担当者から一言	本講義では、「応用システム解析」の内容に引き続き、システム理論をより深く学んでいくものである。そのため、「応用システム解析」を受講しており、ある程度内容を理解していることが望ましい。
その他	理工学部情報システム工学科3年次開講科目「応用システム解析2」と同時開講。
ホームページタイトル	{システム制御工学, http://www.is.konan-u.ac.jp/~wada/lecture/system/ }

授業コード	71061		
授業科目名	自然言語処理(後)		
担当者名	永田 亮(ナガタ リョウ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	コンピュータで、日本語や英語などの人間が話す言葉(自然言語)を処理する方法論について学ぶ。本講義は、大きく、(1)導入、(2)基礎、(3)応用 の学習に分かれる。(1)導入では、自然言語の面白さ、難しさを紹介する。また、自然言語処理の理解に必須となる自然言語の性質について学ぶ。更に、自然言語処理の応用例として情報検索システムを紹介する。(2)基礎では、要素技術である「形態素解析」、「統語解析」、「意味解析」について講義を行う。(3)応用では、応用システムについて学ぶ。また、近年発展が著しい統計的自然言語処理とその応用について学ぶ。
到達目標	本講義の到達目標は、次の2点である: ・コンピュータで言語を処理することの難しさとその理由を理解すること ・コンピュータで言語を処理するための基礎的な方法論を理解すること
講義方法	主に板書と口頭による説明で講義を進める。そのほか、適宜、プロジェクタによる資料の提示、デモンストレーションなどを行う。
準備学習	「人工知能」を受講していることが望ましい。 シラバスをよく読み講義の流れをつかんでおくこと。
成績評価	授業態度、試験の成績などで総合的に評価する。
講義構成	第1回 導入: 自然言語処理概論 導入として、自然言語処理の面白さと難しさを紹介する(例:「をから始まる文はない!」)。また、「質問応答システム」と「機械翻訳」を例にして、基礎技術(「形態素解析」、「統語解析」、「意味解析」)が果たす役割とその必要性について説明する。 第2回 導入: 自然言語の性質(1)－ 言語学的性質 － 自然言語処理の学習の準備として、自然言語の言語学的性質を学ぶ。具体的には、学校で習うような文法について講義を行う。ただし、単なる文法の学習ではなく、自然言語処理に関連した文法に重点を置く。特に、文法が自然言語処理にもたらす恩恵と難しさを議論する。 第3回 導入: 自然言語の性質(2)－ 統計的性質 －

	自然言語処理の統計的な性質について学習する。例えば、n-gram統計の取り方とその性質を紹介する。そのほか、Zipfの法則や言語のエントロピーなどを学ぶ。 第4回－5回 基礎:情報検索システム GoogleやYahooの検索で用いられている情報検索の仕組みについて学習する。その上で、形態素解析や統語解析の必要性を知り、以降の授業につなげる。 第6回 基礎:形態素解析 自然言語処理の基礎となる形態素解析の理論について学習する。具体的には、辞書引き、最長一致法など学ぶ。 第7回－8回 基礎:統語解析 統語解析の基礎となる文脈自由文法に基づいた単純な統語解析アルゴリズムを紹介し、その仕組みと問題点について議論する。また、格フレームによる統語解析についても学ぶ。 第9回 基礎:意味解析 自然言語の意味を解析する手法について学習する。はじめに、意味を表現する手法として意味ネットワークやフレームなどを紹介する。その後、それらを用いた意味解析について学習する。 第10回 応用:統計的自然言語処理(1) 統計的自然言語処理の基盤となるコーパス(大量の電子化された文書)について学ぶ。また、統計的自然言語処理で必要となる確率・統計についても学習を行う。 第11回 応用:統計的自然言語処理(2) 統計的自然言語処理を利用した意味解析(語義の曖昧性解消)について学ぶ。例えば、「コート(衣服)」と「コート(試合場)」の意味を判別する統計的手法を学ぶ。 第12回 応用:統計的自然言語処理(3) 統計的形態素解析(品詞解析)について学ぶ。具体的には、隠れマルコフモデルに基づいた形態素解析について学ぶ。 第13回 応用:機械翻訳 自然言語処理の様々な基礎技術を含む機械翻訳について詳しく学ぶ。最初に、各基礎技術を簡単に復習する。その後、各基礎技術を利用して、どのように翻訳を行うかについて学ぶ。 第14回 試験 講義で学んだ内容の理解を問う試験を行う。
教科書	「自然言語処理」 ・著者:天野真家, 石崎俊, 宇津呂武仁, 成田真澄, 福本淳一 ・価格:2625円(本体2500円+税) {http://ssl.ohmsha.co.jp/cgi-bin/menu.cgi?ISBN=978-4-274-20465-4} *必ず購入のこと
参考書・資料	「自然言語処理」, 長尾真, 1998. Natural Language Understanding, J. Allen, 1994
講義関連事項	人工知能を履修していることが望ましい。
担当者から一言	本講義で、「ことば」に興味を持ってもらえたらと思います。
その他	教科書は必ず購入すること 私語を慎み、携帯電話の電源をきっておくこと

授業コード	71062		
授業科目名	実験計画法(前)		
担当者名	中易秀敏(ナカヤス ヒデトシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	水曜日のお昼休み		

講義の内容	製品の設計と生産に関する情報の流れとその設計法について学びます。 内容は実験計画法の基礎理論を学び、時間があれば品質工学や情報積算法についても学習します。
到達目標	実験計画法で実験計画が立てられ、結果の分析が一人でできるようになる。
講義方法	解説を聞き、実際に問題を解き、理解する。このサイクルを繰り返し、より深い理解と興味を深める。
準備学習	確率統計、分布の推定と検定ができること。
成績評価	理解度確認のための小テスト、レポートなどの成績と期末試験の成績を加味して総合的に評価する。
講義構成	1. 設計と生産に関する情報の流れと管理 2－3. 一元配置実験 4－5. 二元配置実験 6－7. 多元配置実験と応用 8－10. 2水準直交配列実験 11－13. 3水準直交配列実験 14. 多水準と擬水準実験 15. まとめ
教科書	永田 靖, 入門実験計画法, 日科技連
参考書・資料	中村義作, よくわかる実験計画法, 近代科学社
講義関連事項	計算演習に必要ですので電卓を必ず持参下さい。 統計解析の推定と検定理論の知識が必要です。
担当者から一言	統計的検定が頻繁に出てくるので、この知識を有していることが大切です。

授業コード	71017		
授業科目名	集合と位相		
担当者名	小林雅子(コバヤシ マサコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(月曜4限)

講義の内容	この科目では、集合の概念・実数の定義・写像の連続性など、高校までの数学の教科書に書いてある項目ではあるが、実は詳しく述べられていなかった内容について改めて定義し直し、数学の基本的概念を再構築します。 また、後半は距離の概念をモチーフに日常現象から数学の本質的な部分を取り出し論理的に思考することを考えます。
到達目標	・集合・論理の記号が正しく使える。 ・実数とは何か、を説明できる。 ・イプシロン-デルタ論法を扱うことができる。 ・ユークリッド空間内の開集合・閉集合とは何か、論述できる。 ・「距離」とは何か、解説できる。
講義方法	1回の授業の中で前半を講義、後半は適宜演習とする。
準備学習	指定テキストを一読し、知らない言葉等を見ておく。 場合によっては高校までの数学の教科書を復習する。とくに基本的な集合の記号や平面上の「不等式であらわされる領域」等の知識は必要です。 演習問題は後日解説するので、できなかった問題も次回までに考えておく。
成績評価	毎回の演習、レポート、数回のテストについての総合評価
講義構成	(前期) 第1回: 命題と論理 第2・3回: 集合 第4・5回: 写像 第6回: 2項関係 第7回: 実数の定義 第8・9回: 集合の濃度 第10回: 実数値連続関数 第11回: ユークリッド空間 第12・13回: ユークリッド空間の開集合と閉集合 第14回: 前期のまとめ

	第15回：前期試験 (後期) 第16回：前期の復習 第17・18回：n次元ユークリッド空間上の連続写像 第19回：n次元ユークリッド空間上の点列 第20回：コンパクト性 第21回：連結性 第22・23回：距離空間の定義と例 第24回：距離空間の開集合・閉集合 第25回：距離空間上の連続写像 第26回：距離空間のコンパクト性 第27・28回：位相と位相空間の定義 第29回：後期のまとめ 第30回：後期試験
教科書	鈴木晋一著「理工基礎演習 集合と位相」(サイエンス社)
参考書・資料	鈴木晋一著「集合と位相への入門ーユークリッド空間の位相」(サイエンス社)
担当者から一言	皆さんが履修した高校以下の算数・数学の教科書ではあまり取り扱われ無かったが、今回の指導要領改定によって復活する予定の「集合・論理の概念」等についても基本的な事項の解説から始めます。 数学の教員志望の学生さんは、特にしっかりと受講してください。
ホームページタイトル	小林雅子の講義関連ページ
URL	http://www.tcn.zaq.ne.jp/masakobayashi

授業コード	71011		
授業科目名	情報英語（後）		
担当者名	竹田 園(タケダ ソノ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	コンピュータやインターネットに関連の深い英語の用語や表現を理解し、また、英語で情報発信ができるよう、話題性の深いトピックスを中心にして情報英語を学ぶ。
到達目標	前半はコンピュータのハードウェア、ソフトウェアに関する基礎知識を英語で読み書きできるようになる。ハードウェアに関しては、コンピュータのコンポーネントやCPUなどの構成、機能、性能と信頼性、及び歴史などを英語で習得する。ソフトウェアに関しては、さまざまな種類のソフトウェアの分類と機能などを英語で学ぶ。 後半はロボット、コンピュータウイルスなどを話題とする。前半、後半を通して英語で情報発信できるようになる。
講義方法	1. 各Unitを先ずは、教師が音読で模範読みをする。音読、黙読の要である読み方、特に「句切り」の要を教えると共に、音読(口答英語での情報交換)の際に不可欠な語と文の強勢(stress)とリズム、音の連結、イントネーション(抑揚)を、世界に通用する情報発信できる、活きた英語として教える。 2. 予習・復習重視で、特に予習では、Unit中の知らない語彙を必ず辞書で調べてくる。 毎回の授業で平常点として当てるので、自主的に挙手して平常点を増やしていく。また、教師側から名簿で平常点の少ない学生はこちらから指名して当てる。予習していない場合はマイナス点となる。 3. 英文に関するどんな質問も受ける。質問も平常点に加える。特に文法などは、教師側から説明をするし、説明できる学生がおれば大いに平常点に加える。知能情報学に関する質問は教師側も調べてくるが、学生側から教示を願う場合もある。 4. 音読・発音に力を入れる。世界に通用する情報英語を発話させる。基本的な英語発音知識をハンドアウトとして配布する。また、英語の授業などで、できる限り、教師は70%以上英語を使用する。学生にも英語使用を促し、できる限り英語で受け応え、及び会話をするため、Classroom Language と The Vocabulary List for English Classなどのハンドアウトを配布する。 5. 知能情報学に関連した興味深い収録番組の録画を見せる。
準備学習	各Unitの必須予習、既習Unit、各種ハンドアウトの必須復習
成績評価	1. 各Unit 復習テスト 50% 2. 出席点(20%)・平常点(30%) 50% * 出席点は、証明の無い欠席が4回になると復習テストや平常点が良くても単位は取得できない。 もちろん定期試験は受験できない。理由無き遅刻は2回で1回の欠席とする。

	3. 定期試験 100% * 上記1. と2. の合計100%(点)と、3. 定期試験 100%(点)を合計して2で割って100点満点評価とする。
講義構成	第1回 Orientation, Classroom Language, The Vocabulary List for English Class, The Handouts for English Pronunciation, and etc. 第2回 Unit 2 Components of Computers 第3回 Unit 2 Components of Computers, Unit 3 English Names and Abbreviations & Symbols 第4回 Unit 2, 3 Review Test, Unit 6 A Brief History of Computing Hardware History Overview 第5回 Unit 6 A Brief History of Computing Hardware History Overview 第6回 Unit 6 A Brief History of Computing Hardware History Overview, Watching a related audio TV program (a part of it) 第7回 Unit 6 Review Test, Unit 15 The Free Software of Definition 第8回 Unit 15 The Free Software Definition 第9回 Unit 15 The Free Software Definition 第10回 Unit 15 The Free Software Definition Review Test, Unit 13 RoboCup 第11回 Unit 13 RoboCup 第12回 Unit 13 RoboCup, Unit 12 Computer Virus 第13回 Unit 12 Computer Virus 第14回 Unit 12 Computer Virus 第15回 定期試験 Unit 13 RoboCup & Unit 12 Computer Virus Review Test
教科書	21世紀の情報英語 The Adventures of ROBO-TA 監修 / 田中雅博 著 / 東 淳一・竹田 園・市川郁子・田中雅博 講談社サイエンティフィク
参考書・資料	自作ハンドアウト
担当者から一言	English is, as you know very well, an international or global common language. Moreover English is one of important media for cross-cultural communication and understanding in the world and for world peace. Through your major, Intelligence and informatics, I do hope and continue praying that you will be able to contribute to our human beings' equal peace and prosperity.
その他	多人数のクラスなどで、ワイヤレスマイクで教室中を歩き回り教えるので、教科書を持っていない学生や忘れた学生をチェックし、マイナス点とする。また、関係のないおしゃべりをしている学生、他の科目をしている学生、眠っている学生、携帯電話の電源オフをしていない学生は、マイナス点とする。

授業コード	71025		
授業科目名	情報解析（後）		
担当者名	北村達也（キタムラ タツヤ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	講義期間中の月曜日から金曜日まで随時.		

講義の内容	本講義では、様々な分野の基礎となるフーリエ解析及び常微分方程式の解法に関する知識を習得し、その応用例を学ぶ。フーリエ解析は信号やシステムの解析に極めて重要なものであり、微分方程式はあらゆる分野の現象の記述に必要不可欠なものである。1年次に学習した微分積分を基礎として、演習を織り交ぜながら講義を進める。
到達目標	(1) 連続時間信号、離散時間信号に対するフーリエ級数展開、フーリエ変換を求める技能を習得する。 (2) 種々の解法を用いて常微分方程式の一般解及び特殊解を求める技能を習得する。
講義方法	スライド、板書、及び演習
準備学習	微積分を多用するため、1年次の「微分積分及び演習」の内容を習得していることが望ましい。
成績評価	定期試験、小テスト
講義構成	第1回 概論 第2回 数列 第3回 級数 第4回 連続時間フーリエ級数展開(1) 第5回 連続時間フーリエ級数展開(2) 第6回 連続時間フーリエ級数展開(3)

	第7回 連続時間フーリエ変換(1) 第8回 連続時間フーリエ変換(2) 第9回 離散時間フーリエ級数展開 第10回 離散時間フーリエ変換と離散フーリエ変換 第11回 微分方程式(1) 第12回 微分方程式(2) 第13回 微分方程式(3) 第14回 総括
教科書	なし. 適宜資料を配布する.
参考書・資料	大石,「フーリエ解析」, 岩波書店(1989) 船越,「キーポイント フーリエ解析」, 岩波書店(1997) 石村,「すぐわかる微分方程式」, 東京図書(1995) 水田,「大学で学ぶやさしい微分方程式」, サイエンス社(2008)
講義関連事項	講義資料は全てMy Konanに掲載する.
担当者から一言	フーリエ解析と微分方程式は理学や工学の様々な分野の基礎となります. 自分の手を動かして理解を深めてください.
URL	http://basil.is.konan-u.ac.jp/

授業コード	71022		
授業科目名	情報社会と情報倫理（前）		
担当者名	古川安航（フルカワ ヤスユキ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	知的財産立国を目指す我が国において、知的財産権の発生から国内外での権利取得、活用についての知識を得ることはその重要性を増してきている。本講義では、受講者が社会における知的財産の重要性を認識することを目的として、知的財産について幅広く解説する。
到達目標	受講者が社会における知的財産の重要性を認識し、知的財産権に関する基本的知識を習得することを目標とする。
講義方法	黒板・プロジェクトを参照しながら、講演形式で行う。
準備学習	担当教員の指示に従って準備学習を行う。
成績評価	出席回数(30%)と期末試験の得点(70%)で評価する。遅刻して講義室に入室した者には、講義を聴くことは認めるが、出席点は認めない。
講義構成	第1回 知的財産権総論 第2回 知的財産権総論 第3回 特許(発明保護の趣旨等) 第4回 特許(登録要件) 第5回 特許(登録要件) 第6回 特許(出願審査・特許権) 第7回 意匠(意匠保護の趣旨等) 第8回 意匠(登録要件・意匠権) 第9回 商標(商標保護の趣旨等) 第10回 商標(登録要件・商標権) 第11回 著作権 第12回 不正競争 第13回 知的財産権管理・特許等情報・特許等調査 第14回 まとめ 第15回 期末試験
教科書	なし
参考書・資料	資料配布は予定していない。

授業コード	71042		
授業科目名	情報セキュリティ(後)		
担当者名	永田 亮(ナガタ リョウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	随時		
講義の内容	情報セキュリティを確保するための方法を学ぶ。情報セキュリティの意義と具体的なイメージがつかめるように、(i)ネットショッピングの会社を立ち上げる、(2)同ネットショッピングサイトのセキュリティを徐々に高める、という想定に沿って講義を進める。本講義は、大きく、(1)導入、(2)基礎、(3)応用に分かれる。(1)導入では、情報セキュリティの概論と情報システム・ネットワークの基礎について学習する。(2)では、情報セキュリティを確保するための基礎技術について学ぶ。(3)では、基礎技術の応用について学ぶ。		
到達目標	どの場面でどのような方法を使用すべきか判断できる能力をつけることを到達目標とする。		
講義方法	主に板書と口頭による説明で講義を進める。そのほか、適宜、プロジェクトによる資料の提示、デモンストレーションなどを行う。また、可能な限り、実習を取り入れる。		
準備学習	「コンピュータサイエンス」を受講していることが望ましい。 演習時に、簡単なLinuxコマンドを使用するので、プログラミング実習で学んだLinuxコマンドを復習しておくこと。		
成績評価	授業態度、試験の成績などで総合的に評価する。		
講義構成	第1回 導入:情報セキュリティ概論 なぜ、情報セキュリティが必要なのか、何から守る必要があるのかを導入で明確にする。 第2回 導入:情報セキュリティの実例 導入として情報セキュリティの実例を実習を通して学ぶ。データ(ファイル)へのアクセス制御の方法、データのバックアップを取る様々な方法を学ぶ。 第3-5回 導入:情報システム・ネットワークの基礎 情報システムやネットワークの構成について学習する。具体的に、ネットショッピングサイトのネットワークとシステム構成を設計する。その後、各システムにおいて、どのような情報セキュリティが必要となるか学ぶ。 第6回 基礎:不正アクセスから守る1 アクセス制御(情報へのアクセスを制限して守る) 不正アクセス防止の基本となるパスワードによる認証について学習する。また、アクセス制御のためのファイアウォールについて学習する。更に、セキュリティチェックのためのパスワードのクラックやポートスキャンについても触れる 第7回 基礎:不正アクセスから守る2 情報の隠ぺい(情報を隠して守る) 重要な情報を攻撃者に対して隠すことで、情報セキュリティを確保する方法について学習する。具体的には、proxyやプライベートネットワークについて説明する。 第8回 基礎:暗号理論概要(秘密情報の流出・盗難を防ぐ) 暗号理論の概要として、様々な暗号手法について体系的に紹介する。本講義は、後の講義で詳細に理論を学ぶ暗号の導入となる。 第9回 基礎:共通鍵暗号(秘密情報を暗号化して守る) 共通鍵暗号の基礎として、シーザー暗号について学習する。バーナム暗号の仕組みについて学ぶ。また、バーナム暗号の抱える問題についても学習を行う。 第10-12回 基礎:公開鍵暗号(秘密情報を暗号化して守る) 公開鍵暗号の代表的なアルゴリズムであるRSAの仕組みを学習する。また、その応用例を紹介する。更に、その他の公開鍵暗号との関係を説明する。 第13回 基礎:情報の不正な書き換えとなりすましを防ぐ(電子的なサイン・印鑑、身分証明) 情報の不正な書き換えやなりすましを防ぐ方法として、電子署名について学ぶ。また、認証局について学ぶ。更に、暗号、電子署名、認証などを応用したネットショッピングサービスの仕組みについて講義を行う。 第14回 試験 講義で学んだ内容の理解を問う試験を行う。		
教科書	特に、指定しない。適宜、資料などを配布する。		
参考書・資料	はじめて学ぶTCP/IP 入門編 小高 知宏(著)		

	{http://www.amazon.co.jp/%E3%81%AF%E3%81%98%E3%82%81%E3%81%A6%E5%AD%A6%E3%81%B6TCP-IP-%E5%85%A5%E9%96%80%E7%B7%A8-%E5%B0%8F%E9%AB%98-%E7%9F%A5%E5%AE%8F/dp/4816336222} インターネット時代の情報セキュリティ―暗号と電子透かし 佐々木 良一 (著) {http://www.amazon.co.jp/%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E6%99%82%E4%BB%A3%E3%81%AE%E6%83%85%E5%A0%B1%E3%82%BB%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%AA%E3%83%86%E3%82%A3%E2%80%95%E6%9A%97%E5%8F%B7%E3%81%A8%E9%9B%BB%E5%AD%90%E9%80%8F%E3%81%8B%E3%81%97%E4%BD%90%E3%80%85%E6%9C%A8-%E8%89%AF%E4%B8%80/dp/4320029917}
講義関連事項	本講義は、「情報通信ネットワークI」および「情報通信ネットワークII」に関係が深い。
担当者から一言	情報処理技術者試験にも関連した講義です。同試験のための勉強にもなると思います。
その他	私語を慎み、携帯電話の電源をきっておくこと

授業コード	71050		
授業科目名	情報通信ネットワークI (前)		
担当者名	岳 五一(ガク ゴイチ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	情報通信ネットワーク I では、急速に発展している情報通信ネットワークについて、伝送技術、交換技術、利用技術など基盤技術をハードウェアとソフトウェアの両面から述べる。主要内容: 情報通信ネットワークの概要、伝送技術と多重化、パケット交換技術、無線通信技術、暗号化と認証技術、光ファイバ伝送技術。
到達目標	高度情報通信社会に生きていく技術者として、情報通信技術の基礎・基本や情報通信ネットワーク技術、インターネットのしくみとインターネットを活用した応用技術などについての知識を身に付け、理解を深め活用する力を身に付けることを到達目標とする。
講義方法	電子教材を利用して講義を進める。
準備学習	特に必要がありません。
成績評価	出席状況、勉学の態度、宿題・レポートの評価点、期末テストの点数を加重平均する。
講義構成	第1回 情報通信の歴史と発達 第2回 通信ネットワーク 第3回 通信技術の基礎 第4回 通信サービス 第5回 有線による通信 第6回 無線による通信 第7回 データ通信技術 第8回 復習と演習 第9回 伝送制御手順 第10回 誤り制御方式 第11回 情報通信ネットワーク技術 第12回 インターネット 第13回 インターネットを利用した技術 第14回 モバイル化したインターネットの利用技術 第15回 まとめと演習
教科書	電子教材「情報通信ネットワークI・II」 岳 五一 著
講義関連事項	(1)「情報通信ネットワークI」と「情報通信ネットワークII」とは深い関連のある科目であり、両方とも履修することを要望する。 (2)出欠は毎回調査する。 (3)宿題・レポートを数回課すことがある。

授業コード	71064
-------	-------

授業科目名	情報通信ネットワークⅡ(後)		
担当者名	岳 五一(ガク ゴイチ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	情報通信ネットワークⅡでは、情報通信ネットワークIと関連して新世代通信ネットワークの展開を中心に、広い視野に立った情報通信ネットワークの現状と今後の展開及び解決すべき課題について述べる。特にLAN、ISDNとマルチメディア技術、インターネットの技術やマルチメディア利用について講述する。主要内容:ブロードバンド情報通信ネットワーク、インターネットの技術、情報セキュリティ技術、モバイルコンピューティングシステム、マルチメディア情報通信、移動体無線通信などである。
到達目標	新世代通信ネットワークの展開を中心に、広い視野に立った情報通信ネットワークの現状と今後の展開及び解決すべき課題、技術、情報とコミュニケーションの技術力(ICT)と応用力を身に付けてもらうことを到達目標とする。
講義方法	電子教材を利用して講義を進める。
準備学習	「情報通信ネットワークI」を復習しておくこと。
成績評価	出席状況、勉学の態度、宿題・レポートの評価点、期末テストの点数を加重平均する。
講義構成	第1回 伝送方式 第2回 通信回線の多重化 第3回 交換方式 第4回 ネットワークアーキテクチャ 第5回 ローカルエリアネットワーク(LAN) 第6回 無線LAN技術 第7回 モバイルコンピューティング 第8回 復習と演習 第9回 マルチメディア情報通信 第10回 セキュリティ技術 第11回 通信アクセス方式I 第12回 通信アクセス方式II 第13回 情報通信ネットワーク性能評価I 第14回 情報通信ネットワーク性能評価II 第15回 まとめと演習
教科書	電子教材「情報通信ネットワークI・II」 岳 五一著
講義関連事項	(1)「情報通信ネットワークI」と「情報通信ネットワークII」とは深い関連のある科目であり、両方とも履修することを要望する。 (2)出欠は毎回調査する。 (3)宿題・レポートを数回課すことがある。

授業コード	71015		
授業科目名	情報理論(後)		
担当者名	岳 五一(ガク ゴイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本講義では、まず情報とは何かについて講義し、情報量やエントロピーの概念について説明する。そして、情報の発生と伝達について述べ、さらに通信路行列、通信容量、各種通信路などについて述べる。
到達目標	主として情報の発生と伝達を取り扱っているシャノンの通信理論に準拠している情報理論について情報とは何かという根源的な問題から出発して、その発生と伝達についての体系的な見方まで体系的に学習してもらうのを到達目標とする。
講義方法	板書による講義。理解の程度を深めるために、授業時間内に講義と練習問題を使った演習を行う。宿題・レポートを課すこともある。

準備学習	全講義にわたって情報を確率という観点から取り扱うため、確率の基礎知識を復習しておくこと。
成績評価	出席状況、勉学の態度、宿題・レポートの評価点、期末テストの点数を加重平均する。
講義構成	第1回 情報理論とは 第2回 事象と記号と確率モデル 第3回 情報の定量化 第4回 情報量とエントロピー 第5回 エントロピーの性質 第6回 エントロピーの性質 第7回 情報の種類と情報源 第8回 復習 第9回 マルコフ情報源 第10回 通信路、通信路行列、通信容量 第11回 雑音の無い通信路 第12回 雑音のある通信路 第13回 能率と冗長度 第14回 符号化と通信路 第15回 まとめと総合復習
教科書	指定しない。
参考書・資料	電子教材「情報理論」、岳五一
講義関連事項	(1) 出欠は毎回調査する。 (2) 理解の程度を深めるために、授業時間内に練習を行うことがある。 (3) 宿題・レポートを数回課す。
その他	電子教材のアドレスとアクセスの仕方は適当なときに知らせる。

授業コード	71029		
授業科目名	人工知能（前）		
担当者名	田村祐一（タムラ ユウイチ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	人工知能は現在の情報科学・情報工学の基礎知識となっている。一方で、数十年の間に蓄積された研究成果によりその分野を大きく広げ、すべての分野を半期の講義で扱うことは不可能なまで枝葉をのばしている。そこで、本講義では特に知識と推論に絞り、知識の表現法および、知識データベースから情報を獲得する推論手法について述べる。
到達目標	本講義の目標は実際に用いられる複雑な理論、応用的な事項については、その他の専門科目で学ぶことを前提として、人工知能の最も基本的な知識表現と推論の部分に重きを置き、人工知能に関する基礎的知識の獲得を目指す。
講義方法	教科書と補足資料の配付
準備学習	特になし。
成績評価	期末テストおよび講義中に行う小テストの結果
講義構成	第1回：人工知能とはなにか。知識の分類。 第2回：問題の表現と探索1 第3回：問題の表現と探索2 第4回：問題の表現と探索3 第5回：ゲーム木の探索 第6回：命題論理1 第7回：命題論理2, 述語論理1 第8回：述語論理2 第9回：述語論理3 第10回：論理型言語, 論理の拡張 第11回：基本的な知識表現と推論1 第12回：基本的な知識表現と推論2 第13回：不完全な知識に基づく推論1

	第14回:不完全な知識に基づく推論2 第14回:機械学習の導入 第15回:テスト
教科書	知識と推論 新田克己 サイエンス社
参考書・資料	人工知能の基礎知識 太原育夫 近代科学社
担当者から一言	ミニテスト等の実施を行うことで知識の定着をはかる

授業コード	71037		
授業科目名	数値計算法 (前)		
担当者名	中山弘隆(ナカヤマ ヒロタカ)、濱井禧价(ハマイ ヨシスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	月曜3限		

講義の内容	コンピュータによる科学技術計算に必要な数値計算法の基礎を講述する。
到達目標	教科書の演習問題が解けること。
講義方法	原則として教科書に従うが、応用に関してはパソコンによるデモンストレーションを行う。
準備学習	特になし。
成績評価	数回のレポートと定期試験によって評価する。
講義構成	第1回 コンピュータと数値の内部表現 第2回 誤差解析 第3回 非線形方程式とNewton法 第4回 連立1次方程式の理論 第5回 pivot演算行列とGauss-Jordan法 第6回 LU分解 第7回 反復法(Jacobi法、Gauss-Seidel法) 第8回 反復法の収束条件 第9回 固有値と固有ベクトル(Jacobi法、Householder法) 第10回 関数近似 第11回 数値積分(1)台形公式、Simpson公式 第12回 数値積分(2)Newton-Cotes型公式 第13回 常微分方程式の数値解法(1)Euler法 第14回 常微分方程式の数値解法(2)Runge-Kutta型公式 第15回 試験
教科書	「数値計算」川上一郎著(岩波書店)
講義関連事項	本講は数理計画Ⅰと密接に関連するので、併せ受講するのが望ましい。

URL	http://it.is.konan-u.ac.jp
-----	---

授業コード	71C11		
授業科目名	線形代数及び演習 (A)		
担当者名	池永彰吾 (イケナガ ショウゴ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限 木曜5限)、後期(木曜4限 木曜5限)
特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆
-------	--

	行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性及従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメル公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	71C12		
授業科目名	線形代数及び演習 (B)		
担当者名	風間健一郎(カザマ ケンイチロウ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限 木曜5限)、後期(木曜4限 木曜5限)

特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること
講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性及従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメルの公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勤治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	71C13
-------	-------

授業科目名	線形代数及び演習 (C)		
担当者名	三枝洋一(サイグサ ヨウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限 木曜5限)、後期(木曜4限 木曜5限)
特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		
講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。		
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性及従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。		
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。		
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。		
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。		
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメルの公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験		
教科書	「基礎 線形代数」森元勤治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)		
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。		

担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。
---------	-----------------------------

授業コード	71C14		
授業科目名	線形代数及び演習 (D)		
担当者名	長瀬昭子(ナガセ テルコ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜1限 金曜2限)、後期(金曜1限 金曜2限)
特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性及従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメル公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ

	第30回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	71C15		
授業科目名	線形代数及び演習 (E)		
担当者名	森元勘治(モリモト カンジ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜1限 金曜2限)、後期(金曜1限 金曜2限)
特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性及従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメル公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数 第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積

	第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勤治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	71C16		
授業科目名	線形代数及び演習 (F)		
担当者名	高橋 正(タカハシ タダシ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜1限 金曜2限)、後期(金曜1限 金曜2限)
特記事項	教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	理工学及び情報科学において必要となる、線形代数の講義と演習を行う。線形代数は、高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、数学のあらゆる分野に関連する、極めて基礎的かつ応用範囲の広い数学である。前期では、行列を用いた連立1次方程式の解法を中心として、行列の計算や変形、および逆行列の計算等に関する講義と演習を行う。後期では、ベクトル空間上の線形写像や、その固有値、さらには行列の対角化による2次曲線の表現等の講義と演習を行う。
到達目標	前期では、行列の基本的な計算を無理なく行うことができるようになること。具体的には、行列の四則演算や階数の計算、行列式および逆行列の計算、さらに応用として、一般連立1次方程式の解法ができるようになること。また、クラメルの公式を理解し、運用できるようになること。 後期では、ベクトルの1次独立性及従属性の概念を理解し、ベクトル空間の基底と次元が理解できるようになること。また、線形写像を行列で表現し、その固有値および固有ベクトルが計算できるようになること。さらに、直交行列を用いて行列を対角化し、2次曲線が表現できるようになること。
講義方法	基本的に、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。しかし、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いることもある。
準備学習	高等学校で学んだベクトル及び行列の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。授業の前に教科書に一通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	前期 第1回 2次行列の計算と逆行列 第2回 連立1次方程式と1次変換 第3回 行列とその表現 第4回 行列の演算 第5回 掃き出し法と基本変形 第6回 行列の簡約化 第7回 行列の階数と連立1次方程式の解 第8回 正則行列と逆行列の求め方 第9回 順列とその符号 第10回 行列式の定義 第11回 行列式の性質 第12回 余因子行列 第13回 クラメルの公式と特殊な形の行列式 第14回 まとめ 第15回 試験 後期 第16回 ベクトルの演算と3重積 第17回 直線と平面の方程式 第18回 ベクトル空間とベクトルの1次独立性 第19回 1次独立なベクトルと行列の階数

	第20回 ベクトル空間の基底と次元 第21回 線形写像と表現行列 第22回 固有値と固有ベクトル 第23回 行列の対角化 第24回 内積 第25回 正規直交基底 第26回 対称行列の対角化 第27回 2次曲線(1) 第28回 2次曲線(2) 第29回 まとめ 第30回 試験
教科書	「基礎 線形代数」森元勘治・松本茂樹 共著(学術図書出版社)
参考書・資料	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	新鮮な気持ちと高い集中力を維持して、受講してください。

授業コード	71043		
授業科目名	センサー工学(後)		
担当者名	梅谷智弘(ウメタニ トモヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限
オフィスアワー	木曜日 10:30～12:00		

講義の内容	何か目的を実現しようとする「対象を知ること」が必要となるが、知るための基本が測ることである。本講義では、「もの」や「できごと」を測るために工学的に実現された「センサー」を取り上げ、計測手法について述べる。特に人工物(システム)にセンサーを取り付けることで、システムの自動化の実現を目的とするため、後の装置に電気的に接続して利用することが多い。そのため、本講義では、システムの自動化を目的とした、計測したときのデータの処理方法、変換方法について述べ、基本的なセンサー、および、それらを用いた計測技術について説明する。
到達目標	センサーによる計測とその応用に関して、以下の事項の理解を目指す。 1. センサーからの出力データに関する誤差など「不確かさ」について、理解、表現できる。 2. 物理的な量のセンサーによる変換、増幅など基本的な情報処理とその応用について、その実現方法を理解でき、基本的な回路を設計できる。 3. 身の回りにある基本的なセンサーについて、その仕組み、情報の抽出法について説明、理解ができる。
講義方法	主に板書と口頭による説明によって講義を進める。
準備学習	微分積分についてよく復習しておくこと。可能なら、高校理科(物理)について復習することが望ましい。同時期に開講されている、確率統計、システム解析、情報解析の知識を利用している。特に、2年次前期の範囲での確率統計の内容をよく復習しておくことが望ましい。
成績評価	演習課題、および、期末試験の成績を総合して評価する。
講義構成	第1回 導入:センシングとは 第2回 単位系とトレーサビリティ、センサデータ 第3回～第5回 センサデータとその誤差 第6回 データ処理手法の基本 第7回、第8回 信号処理回路 第9回 雑音とその処理 第10回～第12回 位置、距離のセンサー素子とシステム 第13回 力、圧力のセンサー素子とシステム 第14回 温度、化学量のセンサー素子とシステム 第15回 期末試験
教科書	木下源一郎, 実森彰郎, センシング工学入門. コロナ社, 2007.
参考書・資料	山崎弘郎, 田中充, 計測技術の基礎. コロナ社, 2009.

担当者から一言	「計測」と「制御」は両輪であり、対となるものです。世界の状況を計算機が知るための基礎となる科目です。関連領域が多いので、確実な修得が望まれます。講義内容は、計測の方法、データの扱いなど(主にテキスト前半部)に重きをおいています。個々のセンサーの
---------	--

	扱いだけでなく、センサー素子を構成することで、「なぜ」はかることができるのかに、注意してください。授業の扱う範囲は非常に広いので、注意すること。
--	--

授業コード	71053		
授業科目名	ソフトウェア工学（前）		
担当者名	新田直也（ニッタ ナオヤ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	在席中ならいつでもかまいません		

講義の内容	大規模ソフトウェアが持つ手に負えない複雑性に対し、技術的に対応しようとする取り組みの総体がソフトウェア工学である。本講義ではソフトウェア工学の発展状況に対応するため、UMLやデザインパターン、アジャイル開発手法といった現在産業界で注目されている比較的新しいトピックに重点を置いて講述するが、「何故このような考え方が出てきたのか」といった歴史的背景の理解や知識の体系化を促す意味で古典的な手法についても一通り紹介する。
到達目標	ソフトウェア開発がどのように難しいのかを理解し、その困難に対処するためにどのような工夫がなされてきたかを知ること。また、ソフトウェア開発の実務に役立つ知識として、オブジェクト指向モデリングの概念とUMLなどの記法の関係を正確に理解すること。
講義方法	配布資料をもとに講義を行う。
準備学習	特に必要ないが、Javaなどのプログラミング言語の知識があると理解の助けになる。
成績評価	実習、レポート、試験をもとに評価する。
講義構成	第1回 ソフトウェア危機とソフトウェア工学 第2回 ソフトウェア開発プロセスモデル 第3回 ソフトウェア分析設計モデル 第4回 テスト、保守、コスト見積もりモデル 第5回 演習 第6回 オブジェクト指向の概念(1) 第7回 オブジェクト指向の概念(2) 第8回 オブジェクト指向の概念(3) 第9回 UMLに基づく開発手法(1) 第10回 UMLに基づく開発手法(2) 第11回 演習 第12回 デザインパターン 第13回 アジャイル開発手法とリファクタリング 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	特に指定しない
参考書・資料	1.「ソフトウェア工学 理論と実践」シャリ・ローレンス・ブリーガー著 (ピアソン・エデュケーション) 2.「ソフトウェア工学の基礎」玉井哲雄著 (岩波書店) 3.「人月の神話 新装版」フレデリック・P・ブルックス, Jr.著 (ピアソンエデュケーション)
担当者から一言	教科書的な知識よりも、「実際のところどうなのか」といった現実問題に焦点を当てて(講師の体験も交えつつ)説明を行う。
ホームページタイトル	「ソフトウェア工学(A)(後)」ホームページ, http://www.syllabus.konan-u.ac.jp/customer/01/index.jsp?toc=3531

授業コード	71L11		
授業科目名	代数学 (A)		
担当者名	高橋 正(タカハシ タダシ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜1限)、後期(月曜1限)
特記事項	情報システム工学科・知能情報学部		

オフィスアワー	随時
講義の内容	代数学の基礎となる概念と、数学の標準的な理論の講義を行う。そして、抽象的な概念になれるよう、群、環、体などの具体例を紹介し、様々な応用面の講義と演習を行う。
到達目標	前期では、代数学の基礎的なテーマである群論の学習から始め、環論、体論を学習する。群論の内容としては、置換群、対称群、直積、部分群、正規部分群、剰余類群、準同型、自己同型などを理解する。 後期では、多項式イデアルの理論であるグレブナ基底理論を学習し、イデアルの所属問題、連立方程式の解を求める問題、陰関数表示化の問題、数学定理の証明問題、デザイン技術への応用(ペジエ曲線への応用)等を習得する。
講義方法	前期は、通常の黒板を用いた板書中心の講義を行う。後期は、必要に応じてコンピュータなどの機器を用いる演習を行う。
準備学習	線形代数学及び微分積分学の延長線上にある学問であり、それらの基本的な知識があることが望ましい。それらの教科書に通り目を通しておくと、授業理解が進むであろう。
成績評価	授業への出席、演習、試験、及びレポート等の総合評価による。
講義構成	前期 第1回 集合と写像 第2回 演算と演算法則 第3回 半群とモノイド、群 第4回 環と体 第5回 多項式環 第6回 部分群(生成元・位数) 第7回 剰余類 第8回 剰余群 第9回 巡回群 第10回 正規部分群 第11回 同型と準同型 第12回 シローの定理 第13回 直積 第14回 アーベル群 第15回 試験 後期 第16回 環論:イデアルと剰余環 第17回 環論:準同型定理, 素イデアルと極大イデアル 第18回 環論:環の直和, 商環と局所化 第19回 体論:標数 第20回 体論:拡大体の基礎概念 第21回 体論:代数的閉包 第22回 グレブナ基底理論:単項式の順序付け 第23回 グレブナ基底理論:割り算アルゴリズム(1) 第24回 グレブナ基底理論:割り算アルゴリズム(2) 第25回 グレブナ基底理論:グレブナ基底の性質(1) 第26回 グレブナ基底理論:グレブナ基底の性質(2) 第27回 グレブナ基底の応用演習(1) 第28回 グレブナ基底の応用演習(2) 第29回 グレブナ基底の応用演習(3) 第30回 試験
教科書	講義の中で、適宜参考書等を紹介する。
担当者から一言	基本的な問題が解けるようになることが大切です。問題を考えることを通して、代数学のよさを感じ取れるようにしてください。

授業コード	71L12		
授業科目名	代数学 (B)		
担当者名	平井崇晴(ヒライ タカハル)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜1限)、後期(火曜1限)

特記事項	情報システム工学科・知能情報学部以外		
講義の内容	主に群論について概説する。 学期のはじめは群論を学ぶための準備に充てる。 集合や2項関係から始めて、必要最小限の概念や数学記法を用意する。 その後、群の定義を与えて本論に入るが、いくつかの例や剰余類など初歩的な内容にとどめる。 その代わり、大学数学がどのように作られていくのかが実感できるような授業展開を予定している。 数以外の集合を対象とする対称群や交代群、正多面体群、巡回群なども扱い、 群論が広く一般に活躍する理論であることを実感させるような内容である。 さらに実用的な応用として公開鍵暗号 (RSA 暗号) を簡単に紹介する。 一見無関係と思われるあみだくじやスライドパズル、ルービックキューブなどの問題解決に 群論が一役買っていることも紹介する。 原則として毎回演習を行い、学習の定着を目指す。 また、原則として毎回演習を行い、学習の定着を目指す。		
到達目標	大学の専門数学は内容が抽象的になるため、面食らう学生も多いと思われる。 そこで、内容を厳選する代わりに、本講義で習う記法を数学言語として意のままに操れること、 抽象的な概念をイメージできることを到達目標とする。 その上で群論を実感し、身近に感じることを授業のテーマである。 無味乾燥な事務的処理の習得をさせるつもりは全くない。 ボリュームが極めて少ない代わりに、きっちりできるようになって頂く。		
講義方法	講義及びミニ演習		
準備学習	{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/algtop.html のデジタル教材(パワーポイント等)や返却された演習、サブノートの間、定義や表記法をこまめに復習すること。		
成績評価	前期試験と後期試験、演習成績による。試験だけで評価を得るのは困難かも知れないので、万が一に備え、演習成績をあげておくこと。出席点はない(から出席しても理解して帰らなければ意味がない)。		
講義構成	前期 1) 準備 (集合, 演算など) 2) 群とは 3) 剰余について 4) 九去法 5) 加法群・乗法群 6) 公開鍵暗号 後期 7) 対称群, 正多面体群, 交代群 8) 同型写像・準同型写像 9) 部分群, 類別 10) 立方体回転パズル 11) あみだくじ・スライドパズル 12) 巡回群 13) 軌道		
教科書	サブノート(プリントを冊子にしたもの): 生協で販売(予定)。 詳細は{公式ホームページ,http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/algtop.html]を参照のこと。		
参考書・資料	{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/algtop.html]や講義で紹介する予定。		
担当者から一言	定義や定理が無味乾燥なものではなく、それらの「心」に触れ感動を伝える講義を目指す。「できないまま何とか単位を取ろうとする」学生が多いがそうはさせない。		
その他	詳細・最新情報など{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/algtop.html]は必見！		
ホームページタイトル	{代数学(B) 公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/algtop.html }		

授業コード	71056		
授業科目名	知能化技術 (前)		
担当者名	渡邊栄治(ワタナベ エイジ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	本講義では、パターン分類や関数近似などの分野に適用されている階層型ニューラルネットワークの基礎的な原理と応用方法について講述する。また、簡単な人間同士のゲームを例として取り上げ、統計的な分析を行うとともに、階層型ニューラルネットワークによる戦略の生成の可能性についても論じる。
到達目標	入出力関係が未知な環境下において、入力及び出力からその関係を導くための技法や推定された関係の評価を行うことができる知識を習得することが望ましい。
講義方法	講義形式。プロジェクトと板書を併用し講義を進める。
準備学習	統計に関する基礎知識を習得していることが望ましい。
成績評価	各回におけるsummary(各自の講義ノートのまとめ)と定期試験の成績を含めて総合的に評価する。
講義構成	第1回 階層型ネットワークの概要 第2回 人間同士のゲーム(データ収集) 第3回 人間同士のゲーム(データ分析) 第4回 ニューロンモデル 第5回 階層型ネットワークの構造 第6回 誤差逆伝搬法(1) 第7回 誤差逆伝搬法(2) 第8回 階層型ネットワークの応用例(工学的な問題) 第9回 階層型ネットワークの応用例(人間同士のゲーム)(1) 第10回 階層型ネットワークの応用例(人間同士のゲーム)(2) 第11回 階層型ネットワークの応用例(人間同士のゲーム)(3) 第12回 階層型ネットワークと多変量解析の関係(1) 第13回 階層型ネットワークと多変量解析の関係(2) 第14回 まとめ 第15回 試験日
教科書	なし
参考書・資料	―「非線形多変量解析 ―ニューラルネットによるアプローチ― 豊田 秀樹(朝倉書店 1996年) ―「多変量解析法入門」 永田 靖・棟近 雅彦(サイエンス社 2001年)
講義関連事項	与えられる情報が少ないために、各自で考えることが必要である。

授業コード	71001		
授業科目名	知能情報学概論及び基礎演習（前）		
担当者名	松本茂樹(マツモト シゲキ)、中山弘隆(ナカヤマ ヒロタカ)、中易秀敏(ナカヤス ヒデトシ)、岳 五一(ガク ゴイチ)、田中雅博(タナカ マサヒロ)、前田多章(マエダ カズアキ)、渡邊栄治(ワタナベ エイジ)、若谷彰良(ワカタニ アキヨシ)、和田昌浩(ワダ マサヒロ)、森元勤治(モリモト カンジ)、新田直也(ニッタ ナオヤ)、北村達也(キタムラ タツヤ)、梅谷智弘(ウメタニ トモヒロ)、永田 亮(ナガタ リョウ)、灘本明代(ナダモト アキヨ)、阪本邦夫(サカモト クニオ)、田村祐一(タムラ ユウイチ)、小出武(コイデ タケシ)、高橋 正(タカハシ タダシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	知能情報学部専任教員がそれぞれの研究分野や教育分野のダイジェストを紹介することで、新入生は知能情報学部のイメージを具体化し、今後の学習や将来の進路への展望が開けるようにする。 基礎演習は、教員や少人数の同級生と対話を行うことにより、大学の雰囲気慣れ、大学生にふさわしいマナーや自己表現力を培うことを目的とする。
到達目標	知能情報学部のイメージを具体化し、今後の学習や将来の進路への展望が開けるようにする
講義方法	最初の10回は、知能情報学部専任教員が、それぞれの研究分野について講義形式で紹介を行う。 そのあとの4回程度は、6～7名ずつが1人の教員に割り当てられ、基礎演習を行う。基礎演習は、教員や少人数の同級生と対話を行う形態。

	なお、 (1)出欠は毎回調査する。 (2)レポートは毎回課す。
準備学習	情報科学一般に対する基礎知識。
成績評価	出席状況、レポートの質、学習態度、演習及び議論への貢献度などを総合的に評価する。
講義構成	第1回目から10回目は、担当の教員名を示す。講義内容は、それぞれの教員の専門分野あるいは教育分野の内容のダイジェスト。 11回目から14回目は、学生は、6～7名ずつが1人の教員に割り当てられ、少人数による対話からなる演習を行う。内容はたとえば以下のようなものであるが、教員によってやり方は異なる。 11回目 教員と学生全員の自己紹介 12回目 コースやカリキュラムについて議論を行い、知識を補充する 13回目～14回目 プレーンストーミングや研修ゲームを行い、親睦をはかりながら活発なやり取りを行う 15回目（予備日）
教科書	用いない。
参考書・資料	使用する場合は、担当教員から指示をする。
担当者から一言	本講義は産業界で活躍できるための基礎力となる人間力及び問題解決能力の育成を目的とした科目の一つである。受身の学習ではなく、自ら進んで大学の雰囲気慣れ、大学生にふさわしいマナーや自己表現力を培う目的とした科目であることを十分に理解した上で受講してほしい。
その他	11回目からの演習場所は、学生によって異なるから、各自の場所はしっかり自分で確認をし、遅れないように行くこと。

授業コード	71007		
授業科目名	知能情報学実験及び演習（前）		
担当者名	前田多章（マエダ カズアキ）、中山弘隆（ナカヤマ ヒロタカ）、中易秀敏（ナカヤス ヒデトシ）、松本茂樹（マツモト シゲキ）、岳 五一（ガク ゴイチ）、田中雅博（タナカ マサヒロ）、渡邊栄治（ワタナベ エイジ）、若谷彰良（ワカタニ アキヨシ）、和田昌浩（ワダ マサヒロ）、森元勘治（モリモト カンジ）、新田直也（ニッタ ナオヤ）、北村達也（キタムラ タツヤ）、梅谷智弘（ウメタニ トモヒロ）、永田 亮（ナガタ リョウ）、灘本明代（ナダモト アキヨ）、阪本邦夫（サカモト クニオ）、田村祐一（タムラ ユウイチ）、小出武（コイデ タケシ）、高橋 正（タカハシ タダシ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限
特記事項	事前に許可を得た者のみが履修できる		
オフィスアワー	随時		
講義の内容	この科目は、「卒業研究及び演習」(4年次配当, 必修), 「知能情報学セミナー」(3年次配当, 必修)を行う上での基礎知識の獲得を考慮して開講される。したがって, 当該研究室における「卒業研究及び演習」および「知能情報学セミナー」の履修(研究室配属)を希望する者は, 当該教員が実施する実験及び演習のテーマを履修することが望ましい。		
到達目標	少人数クラスで, 3つの基礎的研究テーマを連続して受講することにより, 知能情報学の基礎的な研究課題を深く理解し, 卒業研究につながる基礎力を身につける。		
講義方法	受講者は, 許可された3つのテーマ(1テーマあたり4週間)を, 前期期間中の定められた日程にしたがって受講する。これらのテーマはテーマごとに, (i)情報教育研究センター実習室(2号館, 13号館), (ii)講義室, および (iii)13号館の実験室に分かれて実施されるので, それぞれのテーマの実施場所によく注意すること。		
準備学習	テーマごとに指示するので, 各テーマの担当教員に確認のこと。		
成績評価	出席状況, 実験態度, および報告書をもとに総合的に評価する。		
講義構成	[テーマ名・担当教員] (1) MATLABによる機械学習プログラミング(中山) (2) 情報通信ネットワークや分散情報処理システムに関するシミュレーション(岳) (3) 知覚と認知実験(中易) (4) OpenCVによるコンピュータビジョン(田中) (5) 数式処理システムを用いたプログラミング(松本)		

	(6) 実験的数理学ためしてガッテン(森元) (7) 階層型ニューラルネットワークの学習法と画像処理への応用(渡邊) (8) 画像処理の応用と並列処理の基礎(若谷) (9) 連立方程式の解法を考えよう(高橋) (10) 脳波計による脳内情報処理過程の観察(前田) (11) MATLABによる音声情報処理の基礎演習(北村) (12) Webに関する演習(灘本) (13) メディアアートとインタラクション(阪本) (14) OpenGLを使ったアニメーションの作成(田村) (15) マルチエージェントシミュレーション(小出) (16) LEGOとMATLABによるロボットシミュレーション(和田) (17) eclipseを用いたオブジェクト指向プログラムの開発(新田) (18) 物理シミュレータを用いたロボット動作の理解(梅谷) (19) 言語処理技術を利用した迷惑メールフィルタ／文書分類器の作成(永田)
教科書	テーマごとに指定する。
参考書・資料	テーマごとに指定する。
講義関連事項	なし
担当者から一言	本科目の履修を希望する者は、前年度後期に実施される説明会に出席しなければならない。
その他	なし
ホームページタイトル	知能情報学実験及び演習

授業コード	71J01		
授業科目名	知能情報学セミナー（中山）(後)		
担当者名	中山弘隆（ナカヤマ ヒロタカ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	卒業研究のためのゼミの初年度として、各研究室に所属し、研究を実施していくための基礎、すなわち、論文の読み方や書き方、研究の進め方、プレゼンテーションの仕方などについて学習する。さらに、研究室で実施されている研究の詳細を知り、自分の研究テーマの模索をする。なお、事前に希望調査を行い所属先研究室を決定する。
到達目標	卒業研究を行うために必要となる能力の基礎的な部分（上述、論文の読み方、研究の進め方など）を身につけることを到達目標とする。また、関連研究の詳細を知ることにも到達目標とする。
講義方法	研究室ごとに少人数で研究を行う。各研究室により、研究の方法は様々であり、指導教員の方針に従って行う。本研究室では受講生自ら定めた研究テーマに関し、3週に1回の割合で進捗状況を全員の前で発表し、議論をしながら、研究を進める。
準備学習	配属を希望する研究室を熟考すること。研究テーマは、知能情報学実験及び演習（3年前期実施）、各研究室への訪問などにより知ることが可能である。本研究室に配属後は自ら定めた研究テーマについて3週に1回の割合で発表があり、そのために十分に準備をしておくこと。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論などにより、総合的に評価する。
講義構成	研究テーマは受講生自ら定める。3週に1回の割合で進捗状況を発表する。全員で議論しながら研究を進める。
教科書	各研究室において、指導教員が必要に応じて指示する。本研究室では研究テーマ毎に決める。
講義関連事項	「知能情報学実験及び演習」は本講義の準備となる講義である。また、本講義は4年次の「卒業研究および演習」につながる重要な講義である。
URL	http://it.is.konan-u.ac.jp

授業コード	71J02
-------	-------

授業科目名	知能情報学セミナー（岳）(後)		
担当者名	岳 五一（ガク ゴイチ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		

講義の内容	卒業研究のためのゼミの初年度として、各研究室に所属し、研究を実施していくための基礎、すなわち、論文の読み方や書き方、研究の進め方、プレゼンテーションの仕方などについて学習する。さらに、研究室で実施されている研究の詳細を知り、自分の研究テーマの模索をする。なお、事前に希望調査を行い所属先研究室を決定する。
到達目標	卒業研究を行うために必要となる能力の基礎的な部分（上述、論文の読み方、研究の進め方など）を身につけることを到達目標とする。また、関連研究の詳細を知ることにも到達目標とする。
講義方法	研究室ごとに少人数で研究を行う。各研究室により、研究の方法は様々であり、指導教員の方針に従って行う。
準備学習	配属を希望する研究室を熟考すること。研究テーマは、知能情報学実験及び演習（3年前期実施）、各研究室への訪問などにより知ることが可能である。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論などにより、総合的に評価する。
講義構成	情報通信ネットワークに関する教科書や参考書などの輪読を中心に文献調査と討論を繰り返し進める。また4年次の「卒業研究および演習」につながる課題を与え、その課題に関して調査及び実験などの結果を持ち寄り議論していく。
教科書	各研究室において、指導教員が必要に応じて指示する。
講義関連事項	「知能情報学実験及び演習」は本講義の準備となる講義である。また、本講義は4年次の「卒業研究および演習」につながる重要な講義である。

授業コード	71J03		
授業科目名	知能情報学セミナー（中易）(後)		
担当者名	中易秀敏（ナカヤス ヒデトシ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		

講義の内容	卒業研究のためのゼミの初年度として、各研究室に所属し、研究を実施していくための基礎、すなわち、論文の読み方や書き方、研究の進め方、プレゼンテーションの仕方などについて学習する。さらに、研究室で実施されている研究の詳細を知り、自分の研究テーマの模索をする。なお、事前に希望調査を行い所属先研究室を決定する。
到達目標	卒業研究を行うために必要となる能力の基礎的な部分（上述、論文の読み方、研究の進め方など）を身につけることを到達目標とする。また、関連研究の詳細を知ることにも到達目標とする。
講義方法	研究室ごとに少人数で研究を行う。各研究室により、研究の方法は様々であり、指導教員の方針に従って行う。 中易研究室の研究テーマ：1)ドライビングシミュレータによる運転特性評価（反応時間、視線移動、その他）、2) ヒューマンインタフェース設計のための認知実験、3)設計生産情報システムや信頼性工学などが主要テーマ。研究テーマ以外の特徴：学習と同時にスポーツ活動レクリエーション（ソフトボールなど）を並行して行い、頭と体を同時に鍛える。頭と体を動かし、社会における安全・安心に役立つものづくりに興味のある人歓迎。
準備学習	配属を希望する研究室を熟考すること。研究テーマは、知能情報学実験及び演習（3年前期実施）、各研究室への訪問などにより知ることが可能である。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論などにより、総合的に評価する。
講義構成	各研究室により、研究や演習の方法は様々であり、指導教員の方針に従って授業を行う。
教科書	各研究室において、指導教員が必要に応じて指示する。
講義関連事項	「知能情報学実験及び演習」は本講義の準備となる講義である。また、本講義は

	4年次の「卒業研究および演習」につながる重要な講義である。
--	-------------------------------

授業コード	71J04		
授業科目名	知能情報学セミナー（田中）(後)		
担当者名	田中雅博(タナカ マサヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		

講義の内容	本セミナーでは、卒業研究の準備段階として、以下のことを行う。 (1) 研究とはどういうものか理解させる (2) 研究を進めていくためのステップについて述べる (3) 研究を進めるに当たっての必要な基礎学力の充実を図る (4) 研究に必要な協力関係の構築		
到達目標	教員およびTAが「講義の内容」に書いた内容の点検を行い、研究としての完成度をチェックする。		
講義方法	基本的には、学生実験室において学生の発表を聞きながらコメントをしあうという形が多いが、latexの使用方法やOpenCVの内容説明などは、教授あるいは大学院生が講義することもある。 また、それらの発表資料をもとに、個別に指導を随時行う。 学生は実験を行うが、授業の時間帯だけでは全く不足しており、日常的に教員と学生、学生同士で、互いに教えあう形をとる。		
準備学習	自分の発表の日の前には、十分な実験結果の整理や手法の説明用スライドの準備などが必要。 また、先輩から後輩、あるいは同級生同士で互いに教えあうことも、卒業研究の重要なポイントである。		
成績評価	日々の学習や研究態度、実験成果などをもとに、研究としてどれだけ充実したものを作り上げたかということ为主体にして評価を行う。		
講義構成	1. 研究室の概要 2. コンピュータビジョンをビデオにより学習(1) 3. コンピュータビジョンをビデオにより学習(2) 4. 論文を読ませる 5. 読んだ論文について発表会 6. 続き 7. ミニテーマを与える 8～10. ミニテーマについて研究を進める 11. 中間発表会 12～14 研究を進める 15. 研究とりまとめ また、互いに親睦を深めることも重要であるため、夏合宿、ゼミ旅行、その他、年に数回の懇親会を行っている。		
教科書	必要に応じて指示する。多くの本は、研究室に常備しているが、プログラミングの本など、手元において常時使う本は自分で購入するよう、指示する場合もある。		

授業コード	71J05		
授業科目名	知能情報学セミナー（松本）(後)		
担当者名	松本茂樹(マツモト シゲキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		
オフィスアワー	水曜・5限		

講義の内容	数式処理システムと人智の融合を目指す実験数学という分野への入門として、Mathematicaプログラミング・パラ		
-------	--	--	--

	ダイムの基本を解き明かしつつ種々の数理科学実験の演習を行う。実験の素材として参加学生の興味・関心の在処に応じて教科書や参考書から適切なものを選択したうえで、機械知と人間知を練り合わせながらテーマを掘り下げ探索を深めていく。
到達目標	Mathematicaプログラミングスタイルを身に付けるとともに担当教員の助言・指導のもとで受講学生各人が選定した研究課題に対する所定の研究成果をあげることを目標とする。目標設定の具体的内容については担当教員と学生が緊密に相談を重ねるなかで確定させる。
講義方法	数式処理システムがインストールされたPCを参加学生ひとりひとりにあてがい当該のソフトウェアを動かしながら討論と演習を積み重ねていく。
準備学習	専門科目「Web数式処理」の内容を理解し身に付けていることが望ましい。受講の学生同士が情報交換することにより知識・理解の不足分を補い合うよう努められたい。
成績評価	研究課題に対する研究成果の完成度の高さを重視するが、平素の受講態度の真摯さや一緒に学ぶ学生達との研究上の協調性も成績評価の対象に含める。
講義構成	講義日程の最初の何回かはMathematicaプログラミングの基本を習得するために充てられるが、それ以降は各自が探索すべき課題を見定めた上で研究に取り組む。進捗状況をみながら成果の中間発表を行ったり、それを踏まえての討論も適宜織り交ぜながら講義を進めていく。
教科書	「実験数学入門」山本芳彦著(岩波書店)
参考書・資料	「コンピュータの数学」ロナルド・L. グレーアム他著(共立出版) 「理工系の教養としての情報科学(新装版)」ローマン・メーダー著(ピアソン・エデュケーション)
担当者から一言	「数学」の教職を目指す学生は高校数学の教材を研究する手法のひとつとしても「実験数学」を習得して貰いたい。高校数学の中からも本講義の趣旨に沿った興味深い研究課題を紡ぎ出すことが可能であることを付記しておこう。

授業コード	71J06		
授業科目名	知能情報学セミナー（森元）(後)		
担当者名	森元勘治（モリモト カンジ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	3年次前期の「知能情報学実験及び演習」の内容をさらに深く追求し発展させ、4年次の「卒業研究及び演習」につながる講義である。従って、様々な数学の話題や問題を紹介し、その解決方法をいろいろな角度から検討する。それらの話題やテーマは、これまでの通常の数学の授業ではあまり取り上げられなかったものであり、学生にとってはより新鮮で親しみやすいものとなるであろう。本研究室における「卒業研究及び演習」のシラバスも、合わせて見ると、内容がより具体的に理解できるであろう。
到達目標	与えられた課題を理解し、自分の力で解決への方向を見いだせるようになること。そして、卒業研究を行うための基礎的な能力を身につけること。
講義方法	与えられた課題に対して、学生が予習してきたことを説明し、教員が解説をするという、セミナー形式で行う。
準備学習	セミナー形式の授業なので、割り当てられた課題をしっかりと考えておくこと。
成績評価	出席及び、授業中の発表、討論、質疑などにより、総合的に評価する。
講義構成	「卒業研究及び演習」につながる数学の様々なテーマに従って、セミナー形式の演習を行う。1つのテーマについて、1回または2回の授業で演習を行い、全体のテーマ数は10程度になるであろう。 第1回 オリエンテーション 第2回－第8回 基礎的な数学の話題とその演習 第9回－第14回 応用的な数学の話題とその演習 第15回 まとめ
教科書	使用しない。
参考書・資料	講義中に適宜紹介する。

担当者から一言	この講義はセミナー形式で行うので、しっかりと予習をしておくこと。
---------	----------------------------------

授業コード	71J07		
授業科目名	知能情報学セミナー（渡邊）(後)		
担当者名	渡邊栄治（ワタナベ エイジ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		

講義の内容	本研究室では、階層型ニューラルネットワークの学習法および画像処理に関する研究に取り組んでいる。具体的には、(1)複数の階層型ニューラルネットワークに対する学習法の構築、(2)複数の計算機を用いた知的な画像処理手法の開発、(3)カメラ画像を基にしたマンマシンインタフェースの開発、(4)画像処理による手書きノートの評価手法の開発、(5)e-Learningなどにおける受講生の興味の有無の判定、(6)iPhone用 Applicationの開発、などのほか、ゼミ生が興味を持った独自の研究テーマも予定している。本科目では、4年次生の配当科目である「卒業研究及び演習」を円滑に進めるために、上記内容に沿った研究テーマの選定や、研究遂行に必要な知識や技術について講述するとともに実験を行う。		
到達目標	4年次生の配当科目である「卒業研究及び演習」を円滑に進めるために必要な知識や技術の習得や発表能力を身につけることが望ましい。		
講義方法	参考となる書籍、論文及び資料等の輪講、C言語を中心とした実習、及び報告会(4年生との合同)などを組み合わせる。		
準備学習	日頃から、各自の研究テーマに関連する世の中の動向などを調べるのが肝要である。		
成績評価	日々の学習や研究態度やレポートなどにより、総合的に評価する。		
講義構成	各テーマにより、研究や演習の方法は様々であるため、進捗状況に対応して、関連論文や資料による知識の習得や実験を織り交ぜる。		
教科書	各研究テーマに応じて指示する。		

授業コード	71J08		
授業科目名	知能情報学セミナー（若谷）(後)		
担当者名	若谷彰良（ワカタニ アキヨシ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		

講義の内容	卒業研究のためのゼミの初年度として、各研究室に分属し、研究を実施していくための基礎、すなわち、論文の読み方や書き方、研究の進め方、プレゼンテーションの仕方などについて学習する。さらに、研究室で実施されている研究の詳細を知り、自分の研究テーマの模索をする。なお、事前に希望調査を行い分属先研究室を決定する。		
到達目標	卒業研究を行うために必要となる能力の基礎的な部分（上述、論文の読み方、研究の進め方など）を身につけることを到達目標とする。また、関連研究の詳細を知ることにも到達目標とする。		
講義方法	研究室ごとに少人数で研究を行う。各研究室により、研究の方法は様々であり、指導教員の方針に従って行う。 研究を実施していくための基礎を学ぶ。PowepointやLaTeXの使い方から応用について実践的に学習する。なお、講義日は受講者と相談の上、随時変更する場合がある。		
準備学習	配属を希望する研究室を熟考すること。研究テーマは、知能情報学実験及び演習（3年前期実施）、各研究室への訪問などにより知ることが可能である。 また、講義時間以外に、課題を作成したり、プレゼンテーションの準備をする必要がある。		
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論などにより、総合的に評価する。		
講義構成	第1回 ガイダンス 第2回 LaTeX による文書作成（その1）		

	第3回 Powerpointを用いた技術紹介プレゼンテーション(その1) 第4回 LaTeX による文書作成(その2) 第5回 Powerpointを用いた技術紹介プレゼンテーション(その2) 第6回 LaTeX による文書作成(その3) 第7回 Powerpointを用いた技術紹介プレゼンテーション(その3) 第8回 LaTeX による文書作成(その4) 第9回 Powerpointを用いた技術紹介プレゼンテーション(その4) 第10回 LaTeX による文書作成(その5) 第11回 Powerpointを用いた技術紹介プレゼンテーション(その5) 第12回 研究発表会聴講とレポート作成(その1) 第13回 研究発表会聴講とレポート作成(その2) 第14回 研究発表会聴講とレポート作成(その3) 第15回 まとめ
教科書	各研究室において、指導教員が必要に応じて指示する。
参考書・資料	本研究室では、[改訂第4版] LaTeX2ε 美文書作成入門(奥村 晴彦(著)、技術評論社、2006/12/12)、を参考書として使用する。
講義関連事項	「知能情報学実験及び演習」は本講義の準備となる講義である。また、本講義は4年次の「卒業研究および演習」につながる重要な講義である。

授業コード	71J09		
授業科目名	知能情報学セミナー(前田)(後)		
担当者名	前田多章(マエダ カズアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		
オフィスアワー	月曜4限		

講義の内容	人間情報領域の専門分野における人間情報に関する研究を進めていくために必要な基礎知識の修得を目指す。
到達目標	研究結果の計画方法、実現手順を理解する。また、計測原理、操作方法、解析方法の基礎を学ぶとともに、『言語処理に関わる脳機能過程』の研究手法を理解する。
講義方法	文献調査や学会聴講により関連の先行研究の問題点を検討し、自分が行う研究の意義と目標を自覚するとともに、具体的な研究計画を練り上げる。
準備学習	ヒトの脳機能に関する基本的な知識(神経細胞の興奮機序、興奮の伝導機序、脳における神経接合等)を予め身につけていること。
成績評価	出席態度を鑑みるとともに、先行研究の調査、研究計画のたてかた、研究に対する理解度、などを中心に総合的に評価する。
講義構成	文献調査と輪読を中心に、研究の進行にあわせて討論を繰り返し進める。具体的には、生体における『言語情報処理』に関わる基本的な知識の習得、研究手法に関する基礎知識の習得を目的に、実験を行う。実験は、与えられた研究テーマに関して、文献調査を行い、実験計画を立てる。実験を行った後、実験結果をプレゼンテーションし、質疑応答によりディスカッションするものである。実験は、基本的に脳波計を用いてヒトの『言語情報処理過程』を調べる。
教科書	なし
参考書・資料	① 大熊輝雄著:臨床脳波『医学書院』(1999). この他、関連文献、適宜研究計画作成や分析および成果のまとめに役立つ資料を利用する。
講義関連事項	生体における『言語情報処理』に関わる基本的な知識を充分理解することが必要である。このため、言語学に関する基本的な学習が要求される。
担当者から一言	実験は、基本的に脳波計を用いるもので、計測より解析に時間がかかります。データ計測を行ったら、必ずその日のうちに解析を行うようにしてください。

授業コード	71J10		
授業科目名	知能情報学セミナー（北村）(後)		
担当者名	北村達也(キタムラ タツヤ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	各自に与えられたテーマに関する予備的検討を行い成果をまとめる。		
到達目標	文献を読み，レポートをまとめる力を身につける。		
講義方法	輪読，研究打合せ		
準備学習	自分の興味のある分野が何なのかを熟考しておく。		
成績評価	出席状況，取り組む姿勢，成果物等により評価する		
講義構成	研究テーマ決定，先行研究調査，レポート執筆		
教科書	中田，理系のための「即効!」卒業論文術，ブルーバックス(2010)		
参考書・資料	木下，理科系の作文技術，中公新書(1981) 阿部，明文術，NTT出版 (2006)		

授業コード	71J11		
授業科目名	知能情報学セミナー（灘本）(後)		
担当者名	灘本明代(ナダモト アキヨ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		

講義の内容	情報検索の基礎となっている技術やWebサーチエンジンの仕組みを理解し，最新の研究動向を理解することを目的とする。		
到達目標	情報検索の基礎技術及びWebサーチエンジンの仕組みを理解し，自ら新しいWebアプリケーションを立案できるようにする。		
講義方法	情報検索の基礎技術を学んだ後，学術論文に掲載されている最先端の情報検索及びWebの検索技術を学ぶ。		
準備学習	インターネットの基礎知識を必要とする。 Webコンピューティングの授業を受講していることが望ましい。		
成績評価	出席とレポートによる評価を行う。		
講義構成	1. 情報検索のモデル 2. 情報検索の適応と評価 3. 索引語の抽出と重み付け 4. ベクトル空間モデル 5. 適合フィードバック 6. Webにおける情報検索Ⅰ 7. Webにおける情報検索Ⅱ 8. Web上のデータマイニング 9. 情報検索最新研究技術Ⅰ 10. 情報検索最新研究技術Ⅱ 11. 情報検索最新研究技術Ⅲ 12. Webサーチの最新研究技術Ⅰ 13. Webサーチの最新研究技術Ⅱ 14. Webサーチの最新研究技術Ⅲ 15. まとめ		
教科書	必要なテキストは随時配布する。		
参考書・資料	「情報検索アルゴリズム」北研二，津田和彦，獅々堀 正幹著 共立出版		

授業コード	71J12		
授業科目名	知能情報学セミナー（阪本）(後)		
担当者名	阪本邦夫（サカモト クニオ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	立体映像、ホログラフィ応用など「飛び出す3D映像」を体感できる立体映像システムや、ヒトとシステムとの関わり（インタフェース）について研究を行い、コンピュータが作り出した3次元映像空間の中で、いつもと変わらないヒトの動作により、立体映像の物体を移動させたり、いろいろと自由に操作ができるインタラクティブ映像メディアの実現を目指す。卒研では、(i)立体映像の生成や表示、(ii)動画像処理・認識による指差し指示や3次元マウス操作、(iii)動画像合成などのマルチメディア処理、(iv)ヒトに優しいシステム構築などに関する分野をテーマに選び、プログラミングまたはモノづくり（工作）を行い、ゲームや遊びを通じた学習・記憶支援など、立体映像・マルチメディアを活用した情報システムを構築する。		
到達目標	・各自の研究テーマを自主的に計画をたて遂行することができる。		
講義方法	・各自の研究テーマを自主的に計画をたて遂行する。		
準備学習	自主的に計画をたてること		
成績評価	日々の勉強・研究態度、発表、討論、演習により総合的に判断する。		
講義構成	・各自の研究テーマを自主的に計画をたて遂行する。		
教科書	なし		
その他	研究室(ゼミ)への配属は3年次に、希望調査にもとづいて決定する。		

授業コード	71J13		
授業科目名	知能情報学セミナー（田村）(後)		
担当者名	田村祐一（タムラ ユウイチ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		

講義の内容	卒業研究のためのゼミの初年度として、各研究室に分属し、研究を実施していくための基礎、すなわち、論文の読み方や書き方、研究の進め方、プレゼンテーションの仕方などについて学習する。さらに、研究室で実施されている研究の詳細を知り、自分の研究テーマの模索をする。 なお、事前に希望調査を行い分属先研究室を決定する。		
到達目標	卒業研究を行うために必要となる能力の基礎的な部分（上述、論文の読み方、研究の進め方など）を身につけることを到達目標とする。また、関連研究の詳細を知ることにも到達目標とする。		
講義方法	研究室ごとに少人数で研究を行う。		
準備学習	配属を希望する研究室を熟考すること。研究テーマは、知能情報学実験及び演習（3年前期実施）、各研究室への訪問などにより知ることが可能である。		
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論などにより、総合的に評価する。		
講義構成	バーチャルリアリティとシミュレーションを軸として、研究を進めている。前者については、没入型のバーチャルリアリティ装置の開発およびバーチャルリアリティ上での様々なコンテンツ作成に関する研究を行う。また、バーチャルリアリティ空間内でのインターフェイスとして、触感覚・力覚情報を提示可能なデバイスの開発およびその評価、応用を進める。後者については、シミュレーション3次元可視化やよりリアリティのある触覚情報提示のためのリアルタイム物理演算手法の研究を行う。		
教科書	なし		

講義関連事項	「知能情報学実験及び演習」は本講義の準備となる講義である。また、本講義は4年次の「卒業研究および演習」につながる重要な講義である。
--------	---

授業コード	71J14		
授業科目名	知能情報学セミナー（小出）(後)		
担当者名	小出武(コイデ タケン)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		

講義の内容	卒業研究のためのゼミの初年度として、各研究室に所属し、研究を実施していくための基礎、すなわち、論文の読み方や書き方、研究の進め方、プレゼンテーションの仕方などについて学習する。さらに、研究室で実施されている研究の詳細を知り、自分の研究テーマの模索をする。なお、事前に希望調査を行い所属先研究室を決定する。
到達目標	卒業研究を行うために必要となる能力の基礎的な部分(上述、論文の読み方、研究の進め方など)を身につけることを到達目標とする。また、関連研究の詳細を知ることにも到達目標とする。
講義方法	研究室ごとに少人数で研究を行う。各研究室により、研究の方法は様々であり、指導教員の方針に従って行う。
準備学習	配属を希望する研究室を熟考すること。研究テーマは、知能情報学実験及び演習(3年前期実施)、各研究室への訪問などにより知ることが可能である。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論などにより、総合的に評価する。
講義構成	本研究室では、数理モデルや統計手法を用いた意思決定問題について研究している。本科目では特に、マルチエージェントシミュレーションによる意思決定と統計解析を題材にして、卒業研究を遂行するための基礎能力を養う。具体的に前者においては、参考書を用いてプログラミングによってシミュレーションモデルを構築し、シミュレーションによる実験と考察を行う。後者においては、参考書に沿って統計解析手法とその適用例を学ぶ。その後、シミュレーションと統計のうち、どちらを卒業研究の題材にするかを選択し、関連文献を調査して、より具体的に卒業研究のテーマを決定する。
教科書	各研究室において、指導教員が必要に応じて指示する。
講義関連事項	「知能情報学実験及び演習」は本講義の準備となる講義である。また、本講義は4年次の「卒業研究および演習」につながる重要な講義である。

授業コード	71J15		
授業科目名	知能情報学セミナー（和田）(後)		
担当者名	和田昌浩(ワダ マサヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		

講義の内容	卒業研究及び演習へと繋がる事前準備として、様々な数学理論やプログラミング技術の習得を目指し、4年次の卒業研究へと繋げる。 1. プログラミング 2. 英語文献の輪読 3. MATLAB 4. 線形力学と非線形力学 5. 工学の応用
到達目標	卒業研究がスムーズに開始できるように、基本的な知識と技術を身につける。
講義方法	各自の好みのテーマに応じて、文献を読んだり、調査研究を行い、レポートにまとめる。 最後に発表を行う。 また、数回程度、4年生と一緒に様々な研究テーマについて議論・討論を行う。

準備学習	カオス・非線形力学、画像処理、ロボティクス、暗号、セキュリティなどの分野から好みのテーマについて事前調査をしておくこと。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論、さらに卒業論文(タイプAの研究室の場合)などにより、総合的に評価する。
講義構成	各自の進捗状況に応じて、柔軟に対応する。
教科書	特に指定しない。

授業コード	71J16		
授業科目名	知能情報学セミナー（新田）(後)		
担当者名	新田直也(ニッタ ナオヤ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		

講義の内容	本研究室では、ソフトウェア開発の進め方やソフトウェア開発で用いる技術についての研究を行っている。知能情報学セミナーでは、卒業研究に臨む上での問題意識の喚起、卒業研究で用いるデータの作成を目的として、全員で協力して1つのソフトウェアの開発を行う。特に、仕様の明確さ、設計の複雑さ、最終成果物の評価の容易さなどの観点から、3Dゲームの開発を行うことを予定している		
到達目標	・オブジェクト指向技術に基づいたソフトウェア開発の進め方について理解する ・ソフトウェア開発の何が難しいのかについて具体的に理解する		
講義方法	講義、演習および実習		
準備学習	特にないが、Javaプログラミングの経験があると作業がより円滑に進む。		
成績評価	実習内容をもとに総合的に評価する。		
講義構成	・JavaおよびEclipseの演習 ・開発対象に関する基礎知識の習得 ・ミーティングによる仕様策定 ・設計及びJavaによるプログラミング		
教科書	特になし		

授業コード	71J17		
授業科目名	知能情報学セミナー（梅谷）(後)		
担当者名	梅谷智弘(ウメタニ トモヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		
オフィスアワー	木曜日 10:30～12:00		

講義の内容	卒業研究のためのゼミの初年度として、各研究室に分属し、研究を実施していくための基礎、すなわち、論文の読み方や書き方、研究の進め方、プレゼンテーションの仕方などについて学習する。さらに、研究室で実施されている研究の詳細を知り、自分の研究テーマの模索をする。 なお、事前に希望調査を行い分属先研究室を決定する。		
到達目標	卒業研究を行うために必要となる能力の基礎的な部分(上述、論文の読み方、研究の進め方など)を身につけることを到達目標とする。また、関連研究の詳細を知ることにも到達目標とする。		
講義方法	研究室ごとに少人数で研究を行う。各研究室により、研究の方法は様々であり、指導教員の方針に従って行う。		
準備学習	配属を希望する研究室を熟考すること。研究テーマは、知能情報学実験及び演習(3年前期実施)、各研究室への訪問などにより知ることが可能である。		

成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論などにより、総合的に評価する。
講義構成	初回:オリエンテーション 2回目以降は、教科書の輪読、ロボットに関する計算機演習、論文調査報告、話題提供を繰り返す行う。
教科書	適宜指示する。
講義関連事項	「知能情報学実験及び演習」は本講義の準備となる講義である。また、本講義は4年次の「卒業研究および演習」につながる重要な講義である。

担当者から一言	本研究室は、ロボットとその応用に関して興味を持っており、身の回りに関する情報処理を中心に研究テーマを設定している。知能情報学セミナーを通して、ロボットに関する基礎的な表現、興味を持つことができればと考える。
---------	---

授業コード	71J18		
授業科目名	知能情報学セミナー（永田）(後)		
担当者名	永田 亮（ナガタ リョウ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	卒業研究のためのゼミの初年度として、各研究室に所属し、研究を実施していくための基礎、すなわち、論文の読み方や書き方、研究の進め方、プレゼンテーションの仕方などについて学習する。さらに、研究室で実施されている研究の詳細を知り、自分の研究テーマの模索をする。なお、事前に希望調査を行い所属先研究室を決定する。
到達目標	卒業研究を行うために必要となる能力の基礎的な部分(上述、論文の読み方、研究の進め方など)を身につけることを到達目標とする。また、関連研究の詳細を知ることにも到達目標とする。
講義方法	研究室ごとに少人数で研究を行う。各研究室により、研究の方法は様々であり、指導教員の方針に従って行う。
準備学習	配属を希望する研究室を熟考すること。研究テーマは、「知能情報学実験及び演習」(3年前期実施)、各研究室への訪問などにより知ることが可能である。講義「自然言語処理」(3年後期実施)を受講することが望ましい。
成績評価	日々の学習や研究態度、及び、演習、発表、討論などにより、総合的に評価する。
講義構成	本研究室では、自然言語処理(コンピュータで人間の言葉を処理する分野)の研究を行う。具体的には、英文の誤りを自動検出する研究、質問に答えるコンピュータなどの研究を行う。本講義では、文献読み、勉強会、基礎的研究活動を通じて自分の研究テーマの模索をする。
教科書	「自然言語処理」 { http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4274204650/naturallangua-22 }
参考書・資料	適宜配布する。
講義関連事項	「知能情報学実験及び演習」は本講義の準備となる講義である。また、本講義は4年次の「卒業研究および演習」につながる重要な講義である。

担当者から一言	コンピュータサイエンスと文系の学問(言語学や文学など)とをうまく融合するところに面白みがある研究室です。
ホームページタイトル	研究室ホームページ
URL	http://nlp.ii.konan-u.ac.jp/

授業コード	71J19
授業科目名	知能情報学セミナー（高橋）(後)
担当者名	高橋 正(タカハシ タダシ)

配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	事前登録		

講義の内容	3年次前期の「知能情報学実験及び演習」の内容を発展させ、4年次の「卒業研究及び演習」につながる講義である。連立方程式の解法について、これまでの数学の学習では考えていなかった視点を備え、それを理論的な見知で理解することが可能となるであろう。
到達目標	与えられた課題に対し、数学の問題としての意義を理解し、自分の力で解決できるようになること。そして、卒業研究を行うための基礎的な能力を身につけること。
講義方法	与えられた課題に対して、学生が予習してきたことを説明し、教員が解説をするという、セミナー形式で行う。
準備学習	セミナー形式の授業なので、割り当てられた課題をしっかりと考えておくこと。
成績評価	出席及び、授業中の発表、討論、質疑などにより、総合的に評価する。
講義構成	「卒業研究及び演習」につながる計算代数学のテーマに従って、セミナー形式の演習を行う。1つのテーマについて、1回または2回の授業で演習を行い、全体のテーマ数は10程度になるであろう。 第1回 オリエンテーション 第2回－第8回 消去理論の話題とその演習 第9回－第14回 証明への応用とその演習 第15回 まとめ
教科書	使用しない。
参考書・資料	講義の中で、適宜紹介する。

担当者から一言	この講義はセミナー形式で行うので、しっかりと予習をしておくこと。
---------	----------------------------------

授業コード	71060		
授業科目名	知能情報処理（後）		
担当者名	田中雅博(タナカ マサヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	金曜日午前中.		

講義の内容	知能情報処理は、単なるアルゴリズムではなく、対象となるシステム、それを解決する手法、そして、それを実現する「高度に知能的な」ソフトウェアの総合的な学問である。 本講義では、コンピュータ内に簡単な構造のロボットを想定し、それを知能化するために必要な手法である、進化計算と強化学習について、代表的な遺伝的アルゴリズムとQ学習をプログラム例を交えながら具体的にわかりやすく解説する。 プログラム例を実際に作成・実行しながら、進化計算と強化学習をロボットへ適用し、その動作を確認する。
到達目標	遺伝的アルゴリズムとQ学習の概念を正確に理解し、かつ、プログラミングができるところまで到達することが目標である。
講義方法	板書を中心に進めるが、コンピュータを用いてプログラムを実際に動かし、具体的にイメージを持たせるようにする。プログラムは主としてExcel VBAである。
準備学習	毎回、教科書をしっかりとよく読み、次の授業の準備を行っておくことが望ましい。予習・復習によりVBAに習熟することを求める。
成績評価	出席、平常点、期末試験の総合評価。
講義構成	1. 知能とは何か 2. 知能ロボット 3. 進化計算とロボット 4. 遺伝的アルゴリズムとは 5. Excelによる実現 6. 適用例 7. 強化学習とロボット 8. Q学習とは 9. Excelを用いたQ学習の実装 10. 遺伝的アルゴリズムのプログラム

	11. キリン型ロボット 12. 各関数の統合とキリン型ロボットへの適用 13. 基本例題 14. 異なる例題への適用 15. 試験
教科書	伊藤一之著「ロボットインテリジェンス. 進化計算と強化学習」, オーム社、2400円

授業コード	71014		
授業科目名	データ構造とアルゴリズムI (前)		
担当者名	新田直也(ニッタ ナオヤ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
オフィスアワー	在席中はいつでもかまいません		

講義の内容	データ構造とアルゴリズムは、情報科学を学ぶ上で習得しておくべき重要な基礎科目である。本講義では、アルゴリズムおよびデータ構造に関する基本的な考え方を習得することを目的とする。特に講義後半で説明するいくつかの探索アルゴリズムの能力差を理解することを具体的な目標とし、基本的なデータ構造とそれを扱う上でのアイデアに重点をおいて説明を行う。講述に当たってはプログラミングに関する知識を極力用いないよう配慮する。
到達目標	アルゴリズムの性能を評価する時間計算量という物差しを理解すること。また、アルゴリズム上のさまざまな工夫が時間計算量を改善するために如何に重要であるかを理解すること。
講義方法	講義及び実習(2回)
準備学習	特に必要ないが、C言語を理解していると理解の助けになる。
成績評価	試験、実習などをもとに総合的に評価する。
講義構成	第1回 アルゴリズムとは 第2回 アルゴリズムの計算量 第3回 基本データ構造(配列、構造体、スタック、キュー) 第4回 連結リスト(1) 第5回 連結リスト(2) 第6回 二分木(1) 第7回 二分木(2) 第8回 実習1 第9回 実習2 第10回 線形探索と二分探索 第11回 二分探索木 第12回 AVL木 第13回 ハッシュ法 第14回 さまざまなアルゴリズム 第15回 試験
教科書	「Cプログラマのためのアルゴリズムとデータ構造」近藤嘉雪著(ソフトバンクパブリッシング社、1998)
参考書・資料	「アルゴリズムとデータ構造」石畑清著(岩波講座ソフトウェア科学3)
ホームページタイトル	{「データ構造とアルゴリズム I (前)」ホームページ, http://www.syllabus.konan-u.ac.jp/customer/01/index.jsp?toc=3152 }

授業コード	71034		
授業科目名	データ構造とアルゴリズムⅡ（後）		
担当者名	渡邊栄治（ワタナベ エイジ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限

オフィスアワー	随時.
講義の内容	「データ構造とアルゴリズムI」の内容を継続し、ソーティングおよび文字列関連のアルゴリズムを取り上げ、ファイル、配列、動的データ構造などを対象とした各種技法について講述する。また、実習に取り組むことで、アルゴリズム構築の実際的な技術を養成する。
到達目標	アルゴリズムを理解することだけでなく、アルゴリズムに関する定量的な評価を行うことができる能力を身につけることが望ましい。
講義方法	講義および実習(2回)
準備学習	C言語の知識だけでなく、他人のプログラムを理解できるように、日頃から、“プログラムを読む”ことに慣れておくことが望ましい。
成績評価	レポートおよび定期試験の成績を総合的に評価する。 レポートと定期試験の比率は、おおよそ、2:3とする。
講義構成	第1回 単純な整列アルゴリズム(1) 第2回 単純な整列アルゴリズム(2) 第3回 単純な整列アルゴリズム(3) 第4回 シェルソート 第5回 クイックソート(1) 第6回 クイックソート(2) 第7回 マージソート 第8回 ヒープソート 第9回 文字列の探索(1) 第10回 文字列の探索(2) 第11回 バックトラック法 第12回 実習: 整列アルゴリズム 第13回 実習: 応用課題 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	「Cプログラマのためのアルゴリズムとデータ構造」 近藤 嘉雪(ソフトバンクパブリッシング社, 1998)
参考書・資料	「プログラミング作法」Brian W.Kernighan and Rob Pike著, 福崎 俊博訳, アスキー

授業コード	71040		
授業科目名	データベース (後)		
担当者名	灘本明代(ナダモト アキヨ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	随時		
講義の内容	Webをはじめとし、様々なシステムにおいてデータベースが使用されている。そのデータベースの基礎及びリレーショナルデータベースの基礎を学び理解する。さらに、データベース問い合わせ言語SQLを学び簡単なシステムを構築する演習を行う。		
到達目標	リレーショナルデータベースの仕組みを理解するとともに、簡単なSQLによりデータベースの操作ができるようになること。		
講義方法	講義を2/3, 演習を1/3の割合で行う。		
準備学習	データ構造とアルゴリズムの理解をしておくこと。		
成績評価	出席、演習成果、定期試験の結果から総合的に評価する。		
講義構成	第1回 データベースとは 第2回 スキーマとデータモデル		

	第3回 グラフとE-Rモデル 第3回 関係代数 第4回 データベース設計理論1 第5回 データベース設計理論2 第6回 データベース言語SQL1 第7回 データベース言語SQL2 第8回 データベース言語SQL3 第9回 データベース言語SQL4 第10回 問い合わせ処理 第11回 同時実行制御と障害回復 第12回 データベースとWeb 第13回 データベースとWeb2 第14回 まとめ 第15回 試験
教科書	データベース 石川博著 森北出版
参考書・資料	リレーショナルデータベース入門 新訂版 増永良文著 サイエンス社 データベースシステム 北川博之著 昭晃堂

授業コード	71067		
授業科目名	データマイニング(後)		
担当者名	阪本邦夫(サカモト クニオ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	データマイニングの目的は大量のデータの中に潜む知識(規則)を発見することであり、宇宙科学や生命科学から企業の販売戦略に至る非常に広範囲な応用が可能である。本講はその基本技術の修得を目的とするが、簡単な応用例まで触れることによりその実質的な意味を把握させる。内容は、各種データの前処理、機械学習、知識の視覚化等である。必要に応じてExcel等の表計算ソフト、SAS等の統計処理ソフト、あるいはMathematicaやMatlabといった数式処理ソフトを用い演習を行う。
到達目標	・データマイニングについての基本的な事項を理解している。 ・データマイニングに関する簡単なプログラミングができる。
講義方法	ノート講義。講義時間中にパソコンを使用して、具体的な事例をもとにデータ解析を行う演習をあわせて実施する。
準備学習	復習を重視する。 課題のプログラムは履修者自身が自らの力で作成すること。(教員作成のプログラム例は一切配布しない)
成績評価	演習レポートおよび定期試験によって総合的に評価する。
講義構成	1. データマイニングとは 2. データマイニングの手順 3. 回帰分析 4. 決定木 5. クラスタ分析 6. 自己組織化マップ 7. 相関ルール 8. 最適化問題の解法 9. 線型計画法 10. 万能解析法、双対尺度法 11. 実験計画法 12. ニューラルネットの活用 13. 統計学的検定の活用 14. まとめ 15. 定期試験
教科書	上田 太郎監修 :「Excelで学ぶデータマイニング入門」, オーム社, ISBN : 4-274-06625-8

担当者から一言	Excelの基本操作, Cプログラミングができること。 定期試験の出題範囲は, C言語によるプログラム作成を含み(すべての設問がCプログラミングの場合もある), Excelの操作は含まない。
---------	--

	定期試験は教科書、ノート、配布資料等の持ち込みなしで実施する。 定期試験は通常の講義と同じ方法で実施する。
--	--

授業コード	71045		
授業科目名	人間工学（前）		
担当者名	阪本邦夫（サカモト クニオ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	人間工学(エルゴノミクス)は人間と人間が扱う機械を一つのシステムと考え、(1)人間の特性、特に生理・心理及び運動面の観察や測定、(2)人間と機械の調和に関する設計を考える学問である。講義の主な構成は以下のようになる。 1)人の感覚とそのしくみ、2)人の形態と運動機能、3)人の評価技術、4)人・時間・速度と作業能、5)人と作業環境、6)マン・マシンシステムの設計、7)人の適性・訓練と作業、8)人と作業安全
到達目標	・人間工学についての基本的な事項を理解している。 ・人間工学に関する簡単なプログラミングができる。
講義方法	ノート講義。講義時間中にパソコンを使用して、人間工学に関連するプログラミング演習をあわせて実施する。
準備学習	復習を重視する。 課題のプログラムは履修者自身が自らの力で作成すること。(教員作成のプログラム例は一切配布しない)
成績評価	演習レポートおよび定期試験によって総合的に評価する。
講義構成	1. 序論 2. 人間の形態的特性1 3. 人間の形態的特性2 4. 人間の感覚・知覚特性1 5. 人間の感覚・知覚特性2 6. 生体の制御・情報1 7. 生体の制御・情報2 8. 人間の知的機能の実現1 9. 人間の知的機能の実現2 10. 感性情報の産業応用1 11. 感性情報の産業応用2 12. 人間とシステムの融合1 13. 人間とシステムの融合2 14. 将来の展望 15. 定期試験
教科書	呉景龍、塚本一義：「現代人間工学」、森北出版、ISBN：4-627-91711-2

担当者から一言	定期試験は教科書、ノート、配布資料等の持ち込みなしで実施する。 定期試験は通常の講義と同じ方法で実施する。
---------	--

授業コード	71030		
授業科目名	認知科学（前）		
担当者名	前田多章（マエダ カズアキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限

講義の内容	ヒトが外界の事物・事象を如何に知覚し、推論・問題解決し、記憶し、そして対処しているのかを、ヒトが『言語』を獲得し運用していく側面から解説し、ヒトの認知メカニズムを講義する。『記憶』はヒトの認知活動に非常に有用な機能ある。 本講義では、認知諸機能の構築に関して「記憶」が「発達」にともないどのように形成され変化していくかという側面から学習する。そして、認知メカニズムを理解することを目的とする。
-------	---

到達目標	本講義を通して、ヒトの記憶の基本的特性を理解し、さらに、記憶が加齢とともにどのように発達し、どのように変化していくかを理解する。
講義方法	講義形式で進める。 適宜、図や写真を提示して講義の理解を深める。
準備学習	教科書を指定するので、予め目を通しておく必要がある。
成績評価	受講態度と試験の結果で成績評価する。
講義構成	1. 記憶の生涯発達心理学概観 2. 乳・幼児の記憶(1) 3. 乳・幼児の記憶(2) 4. 乳・幼児の記憶(3) 5. 児童の記憶(1) 6. 児童の記憶(2) 7. 児童の記憶(3) 8. 青年・成人の記憶(1) 9. 青年・成人の記憶(2) 10. 青年・成人の記憶(3) 11. 高齢者の記憶(1) 12. 高齢者の記憶(2) 13. 高齢者の記憶(3) 14. まとめ 15. 試験
教科書	太田信夫・多鹿秀継編著、『記憶の生涯発達心理学』。北大路書房、2008年。4,200円(税別)
参考書・資料	① 甘利俊一 監修:精神の脳科学, シリーズ脳科学6. 東京大学出版会, 2008. ISBN:979-4-13-06406-1 ② R. Carter 著, 養老孟司 監修:脳と心の地形図. 原書房, 1999. ISBN:978-4-56-203270-9
講義関連事項	あらかじめ予習等により、ヒトの認知機構に関する簡単な知識を学び、講義を受けることが望ましい。

授業コード	71054		
授業科目名	パターン認識（後）		
担当者名	田中雅博(タナカ マサヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	金曜日10:30-12:10		

講義の内容	画像処理とパターン認識の理論と実際を両面から教える。 パターン認識の理論のうちで、実用性の高い事柄を中心に、実際のプログラムとともに紹介されている教科書を用いるため、パターン認識に興味がある学生には非常に魅力的な内容となるだろう。 講義は大人数となることが想定されるため、プログラムを作成させることは避けたいが、教科書に示してあるプログラムはすべて公開されているので、そのプログラムを使って、それぞれの手法を体験的に体得してほしい。
到達目標	パターン認識の基本的な手法をしっかり理解することと、著者から提供されているプログラムを使って画像処理・画像認識のおもしろさを体得することが目標である。 また、プログラムリストが掲載され、ソースも入手できるので、この分野に興味がある学生にはプログラミングのイメージも具体的に体得できる。
講義方法	教科書に従って板書を行う。 コンピュータ実験室での授業となるため、学生は机上にコンピュータがある。このコンピュータで、教科書の付属のプログラムを実際に動かしてみ、画像処理や画像認識の実験を行う。 ただし、授業の中心は「講義」である。プログラミングの実習科目ではないので、誤解がないようにお願いしたい。プログラム作成は行わない予定である。 むしろ、重要なのは、数学である。しっかり授業にでて、数学を理解することが求められる。
準備学習	しっかり教科書を読み、そこに出てくる理論に慣れて、具体的なイメージを持って授業に望んでほしい。
成績評価	レポートと中間試験により評価する。さらに期末試験を行う。
講義構成	1. パターン認識の基礎と必要な数学 2. 画像の前処理(1) 2. 画像の前処理(2)

	2. 画像の前処理(3) 3. 特徴ベクトル 4. テンプレートマッチング 5. オンライン数字認識 6. フーリエ記述子による数字認識(フーリエ変換) 7. フーリエ記述子による数字認識(数字認識実験) 8. 中間試験 9. ニューラルネットによる数字認識 10. 離散コサイン変換と顔認識 11. KL変換による顔認識(1) 12. KL変換による顔認識(2) 13. 応用実験(1) 14. 応用実験(2) 15. 試験
教科書	酒井幸市「画像処理とパターン認識入門 ―基礎からVC#/VC++.NETによるプログラム作成まで―」, 森北出版, 3600円
参考書・資料	講義中に指示する。

授業コード	71A11		
授業科目名	微分積分及び演習 (A)		
担当者名	三枝洋一(サイグサ ヨウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜1限 金曜2限)、後期(金曜1限 金曜2限)
特記事項	知能情報学部 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること 情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		
オフィスアワー	水曜・5限		

講義の内容	知能情報学部の学生を対象として1変数及び多変数の関数の微分積分について講義と演習を行う。
到達目標	1変数及び多変数の微分積分に関する基本的な定理・公式の理解と応用能力の養成を目標とする。また、定理・公式類を種々の応用場面に適用することで、手計算による微積分の高度な計算能力を身に付けることも目標のひとつである。
講義方法	通常の黒板を用いた講義を基本とするが、毎回問題演習(板書での発表や小テストの実施)を行い受講学生の深い理解を促す。
準備学習	高等学校で学んだ微分積分の知識は、大学での微積分の学習にとって不可欠なものであり重要な基盤をなす。高校数学の教科書・参考書を繙き丹念に復習しておくことが強く望まれる。
成績評価	定期試験、講義時に於ける演習(小テスト、発表等)やレポート等の成績を総合的に評価する。
講義構成	前期 第1回 はじめに(高校数学の習得状況の確認し、教科書の最初の節の内容に言及する。) 第2回 実数の連続性と数列の極限 第3回 連続関数の性質 第4回 初等関数、特に逆三角関数の定義と性質について 第5回 微分係数、導関数の定義、合成関数及び逆関数の微分法 第6回 平均値の定理 第7回 高次の導関数 第8回 テーラーの定理 第9回 不定積分と定積分 第10回 置換積分法、部分積分法 第11回 積分の計算(有理式の積分) 第12回 積分の計算(無理関数、三角関数を含む関数の積分) 第13回 広義積分 第14回 区分求積法と定積分の応用 第15回 試験 後期 第16回 多変数の関数

	第17回 合成関数の偏微分 第18回 高次の偏導関数とテーラーの定理 第19回 極値の判定 第20回 陰関数の定理 第21回 ラグランジュの未定乗数法 第22回 重積分と累次積分 第23回 重積分の計算 第24回 重積分の変数変換 第25回 重積分の応用(1) 体積と曲面積 第26回 重積分の応用(2) ガンマ関数とベータ関数 第27回 1階の微分方程式の求積法 第28回 2階の定数係数の線形微分方程式 第29回 高階の線形微分方程式と微分演算子 第30回 試験
教科書	「基礎 微分積分」松本茂樹・森元勘治共著(学術図書出版社)
参考書・資料	参考書については適宜指示し、また、必要な資料はその都度配付する。
担当者から一言	講義ノートは(ルーズ・リーフではなく)綴じられたものを用意し、予習・復習の際にも十二分に活用されたい。また、質問の際には必ず講義ノートを持参すること。

授業コード	71A12		
授業科目名	微分積分及び演習(B)		
担当者名	榎 一郎(エノキ イチロウ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜1限 金曜2限)、後期(金曜1限 金曜2限)
特記事項	知能情報学部 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること 情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		
オフィスアワー	水曜・5限		

講義の内容	知能情報学部の学生を対象として1変数及び多変数の関数の微分積分について講義と演習を行う。
到達目標	1変数及び多変数の微分積分に関する基本的な定理・公式の理解と応用能力の養成を目標とする。また、定理・公式類を種々の応用場面に適用することで、手計算による微積分の高度な計算能力を身に付けることも目標のひとつである。
講義方法	通常の黒板を用いた講義を基本とするが、毎回問題演習(板書での発表や小テストの実施)を行い受講学生の深い理解を促す。
準備学習	高等学校で学んだ微分積分の知識は、大学での微積分の学習にとって不可欠なものであり重要な基盤をなす。高校数学の教科書・参考書を繙き丹念に復習しておくことが強く望まれる。
成績評価	定期試験、講義時に於ける演習(小テスト、発表等)やレポート等の成績を総合的に評価する。
講義構成	前期 第1回 はじめに(高校数学の習得状況の確認し、教科書の最初の節の内容に言及する。) 第2回 実数の連続性と数列の極限 第3回 連続関数の性質 第4回 初等関数、特に逆三角関数の定義と性質について 第5回 微分係数、導関数の定義、合成関数及び逆関数の微分法 第6回 平均値の定理 第7回 高次の導関数 第8回 テーラーの定理 第9回 不定積分と定積分 第10回 置換積分法、部分積分法 第11回 積分の計算(有理式の積分) 第12回 積分の計算(無理関数、三角関数を含む関数の積分) 第13回 広義積分 第14回 区分求積法と定積分の応用 第15回 試験 後期

	第16回 多変数の関数 第17回 合成関数の偏微分 第18回 高次の偏導関数とテーラーの定理 第19回 極値の判定 第20回 陰関数の定理 第21回 ラグランジュの未定乗数法 第22回 重積分と累次積分 第23回 重積分の計算 第24回 重積分の変数変換 第25回 重積分の応用(1) 体積と曲面積 第26回 重積分の応用(2) ガンマ関数とベータ関数 第27回 1階の微分方程式の求積法 第28回 2階の定数係数の線形微分方程式 第29回 高階の線形微分方程式と微分演算子 第30回 試験
教科書	「基礎 微分積分」松本茂樹・森元勘治共著(学術図書出版社)
参考書・資料	参考書については適宜指示し、また、必要な資料はその都度配付する。
担当者から一言	講義ノートは(ルーズ・リーフではなく)綴じられたものを用意し、予習・復習の際にも十二分に活用されたい。また、質問の際には必ず講義ノートを持参すること。

授業コード	71A13		
授業科目名	微分積分及び演習 (C)		
担当者名	和田浩一(ワダ コウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜1限 金曜2限)、後期(金曜1限 金曜2限)
特記事項	知能情報学部 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること 情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		
オフィスアワー	水曜・5限		

講義の内容	知能情報学部の学生を対象として1変数及び多変数の関数の微分積分について講義と演習を行う。
到達目標	1変数及び多変数の微分積分に関する基本的な定理・公式の理解と応用能力の養成を目標とする。また、定理・公式類を種々の応用場面に適用することで、手計算による微積分の高度な計算能力を身に付けることも目標のひとつである。
講義方法	通常の黒板を用いた講義を基本とするが、毎回問題演習(板書での発表や小テストの実施)を行い受講学生の深い理解を促す。
準備学習	高等学校で学んだ微分積分の知識は、大学での微積分の学習にとって不可欠なものであり重要な基盤をなす。高校数学の教科書・参考書を繙き丹念に復習しておくことが強く望まれる。
成績評価	定期試験、講義時に於ける演習(小テスト、発表等)やレポート等の成績を総合的に評価する。
講義構成	前期 第1回 はじめに(高校数学の習得状況の確認し、教科書の最初の節の内容に言及する。) 第2回 実数の連続性と数列の極限 第3回 連続関数の性質 第4回 初等関数、特に逆三角関数の定義と性質について 第5回 微分係数、導関数の定義、合成関数及び逆関数の微分法 第6回 平均値の定理 第7回 高次の導関数 第8回 テーラーの定理 第9回 不定積分と定積分 第10回 置換積分法、部分積分法 第11回 積分の計算(有理式の積分) 第12回 積分の計算(無理関数、三角関数を含む関数の積分) 第13回 広義積分 第14回 区分求積法と定積分の応用 第15回 試験

	後期 第16回 多変数の関数 第17回 合成関数の偏微分 第18回 高次の偏導関数とテーラーの定理 第19回 極値の判定 第20回 陰関数の定理 第21回 ラグランジュの未定乗数法 第22回 重積分と累次積分 第23回 重積分の計算 第24回 重積分の変数変換 第25回 重積分の応用(1) 体積と曲面積 第26回 重積分の応用(2) ガンマ関数とベータ関数 第27回 1階の微分方程式の求積法 第28回 2階の定数係数の線形微分方程式 第29回 高階の線形微分方程式と微分演算子 第30回 試験
教科書	「基礎 微分積分」松本茂樹・森元勘治共著(学術図書出版社)
参考書・資料	参考書については適宜指示し、また、必要な資料はその都度配付する。
担当者から一言	講義ノートは(ルーズ・リーフではなく)綴じられたものを用意し、予習・復習の際にも十二分に活用されたい。また、質問の際には必ず講義ノートを持参すること。

授業コード	71A14		
授業科目名	微分積分及び演習(D)		
担当者名	松本茂樹(マツモト シゲキ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限 木曜5限)、後期(木曜4限 木曜5限)
特記事項	知能情報学部 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること 情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		
オフィスアワー	水曜・5限		

講義の内容	知能情報学部の学生を対象として1変数及び多変数の関数の微分積分について講義と演習を行う。
到達目標	1変数及び多変数の微分積分に関する基本的な定理・公式の理解と応用能力の養成を目標とする。また、定理・公式類を種々の応用場面に適用することで、手計算による微積分の高度な計算能力を身に付けることも目標のひとつである。
講義方法	通常の黒板を用いた講義を基本とするが、毎回問題演習(板書での発表や小テストの実施)を行い受講学生の深い理解を促す。
準備学習	高等学校で学んだ微分積分の知識は、大学での微積分の学習にとって不可欠なものであり重要な基盤をなす。高校数学の教科書・参考書を繙き丹念に復習しておくことが強く望まれる。
成績評価	定期試験、講義時に於ける演習(小テスト、発表等)やレポート等の成績を総合的に評価する。
講義構成	前期 第1回 はじめに(高校数学の習得状況の確認し、教科書の最初の節の内容に言及する。) 第2回 実数の連続性と数列の極限 第3回 連続関数の性質 第4回 初等関数、特に逆三角関数の定義と性質について 第5回 微分係数、導関数の定義、合成関数及び逆関数の微分法 第6回 平均値の定理 第7回 高次の導関数 第8回 テーラーの定理 第9回 不定積分と定積分 第10回 置換積分法、部分積分法 第11回 積分の計算(有理式の積分) 第12回 積分の計算(無理関数、三角関数を含む関数の積分) 第13回 広義積分 第14回 区分求積法と定積分の応用

	第15回 試験 後期 第16回 多変数の関数 第17回 合成関数の偏微分 第18回 高次の偏導関数とテーラーの定理 第19回 極値の判定 第20回 陰関数の定理 第21回 ラグランジュの未定乗数法 第22回 重積分と累次積分 第23回 重積分の計算 第24回 重積分の変数変換 第25回 重積分の応用(1) 体積と曲面積 第26回 重積分の応用(2) ガンマ関数とベータ関数 第27回 1階の微分方程式の求積法 第28回 2階の定数係数の線形微分方程式 第29回 高階の線形微分方程式と微分演算子 第30回 試験
教科書	「基礎 微分積分」松本茂樹・森元勘治共著(学術図書出版社)
参考書・資料	参考書については適宜指示し、また、必要な資料はその都度配付する。
担当者から一言	講義ノートは(ルーズ・リーフではなく)綴じられたものを用意し、予習・復習の際にも十二分に活用されたい。また、質問の際には必ず講義ノートを持参すること。

授業コード	71A15		
授業科目名	微分積分及び演習 (E)		
担当者名	宮本孝志(ミヤモト タカシ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限 木曜5限)、後期(木曜4限 木曜5限)
特記事項	知能情報学部 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること 情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		
オフィスアワー	水曜・5限		

講義の内容	知能情報学部の学生を対象として1変数及び多変数の関数の微分積分について講義と演習を行う。
到達目標	1変数及び多変数の微分積分に関する基本的な定理・公式の理解と応用能力の養成を目標とする。また、定理・公式類を種々の応用場面に適用することで、手計算による微積分の高度な計算能力を身に付けることも目標のひとつである。
講義方法	通常の黒板を用いた講義を基本とするが、毎回問題演習(板書での発表や小テストの実施)を行い受講学生の深い理解を促す。
準備学習	高等学校で学んだ微分積分の知識は、大学での微積分の学習にとって不可欠なものであり重要な基盤をなす。高校数学の教科書・参考書を繙き丹念に復習しておくことが強く望まれる。
成績評価	定期試験、講義時に於ける演習(小テスト、発表等)やレポート等の成績を総合的に評価する。
講義構成	前期 第1回 はじめに(高校数学の習得状況の確認し、教科書の最初の節の内容に言及する。) 第2回 実数の連続性と数列の極限 第3回 連続関数の性質 第4回 初等関数、特に逆三角関数の定義と性質について 第5回 微分係数、導関数の定義、合成関数及び逆関数の微分法 第6回 平均値の定理 第7回 高次の導関数 第8回 テーラーの定理 第9回 不定積分と定積分 第10回 置換積分法、部分積分法 第11回 積分の計算(有理式の積分) 第12回 積分の計算(無理関数、三角関数を含む関数の積分) 第13回 広義積分

	第14回 区分求積法と定積分の応用 第15回 試験 後期 第16回 多変数の関数 第17回 合成関数の偏微分 第18回 高次の偏導関数とテーラーの定理 第19回 極値の判定 第20回 陰関数の定理 第21回 ラグランジュの未定乗数法 第22回 重積分と累次積分 第23回 重積分の計算 第24回 重積分の変数変換 第25回 重積分の応用(1) 体積と曲面積 第26回 重積分の応用(2) ガンマ関数とベータ関数 第27回 1階の微分方程式の求積法 第28回 2階の定数係数の線形微分方程式 第29回 高階の線形微分方程式と微分演算子 第30回 試験
教科書	「基礎 微分積分」松本茂樹・森元勘治共著(学術図書出版社)
参考書・資料	参考書については適宜指示し、また、必要な資料はその都度配付する。
担当者から一言	講義ノートは(ルーズ・リーフではなく)綴じられたものを用意し、予習・復習の際にも十二分に活用されたい。また、質問の際には必ず講義ノートを持参すること。

授業コード	71A16		
授業科目名	微分積分及び演習(F)		
担当者名	長瀬昭子(ナガセ テルコ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限 木曜5限)、後期(木曜4限 木曜5限)
特記事項	知能情報学部 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること 情報システム工学科 いずれのクラスを履修してもよい		
オフィスアワー	水曜・5限		

講義の内容	知能情報学部の学生を対象として1変数及び多変数の関数の微分積分について講義と演習を行う。
到達目標	1変数及び多変数の微分積分に関する基本的な定理・公式の理解と応用能力の養成を目標とする。また、定理・公式類を種々の応用場面に適用することで、手計算による微積分の高度な計算能力を身に付けることも目標のひとつである。
講義方法	通常の黒板を用いた講義を基本とするが、毎回問題演習(板書での発表や小テストの実施)を行い受講学生の深い理解を促す。
準備学習	高等学校で学んだ微分積分の知識は、大学での微積分の学習にとって不可欠なものであり重要な基盤をなす。高校数学の教科書・参考書を繙き丹念に復習しておくことが強く望まれる。
成績評価	定期試験、講義時に於ける演習(小テスト、発表等)やレポート等の成績を総合的に評価する。
講義構成	前期 第1回 はじめに(高校数学の習得状況の確認し、教科書の最初の節の内容に言及する。) 第2回 実数の連続性と数列の極限 第3回 連続関数の性質 第4回 初等関数、特に逆三角関数の定義と性質について 第5回 微分係数、導関数の定義、合成関数及び逆関数の微分法 第6回 平均値の定理 第7回 高次の導関数 第8回 テーラーの定理 第9回 不定積分と定積分 第10回 置換積分法、部分積分法 第11回 積分の計算(有理式の積分) 第12回 積分の計算(無理関数、三角関数を含む関数の積分)

	第13回 広義積分 第14回 区分求積法と定積分の応用 第15回 試験 後期 第16回 多変数の関数 第17回 合成関数の偏微分 第18回 高次の偏導関数とテーラーの定理 第19回 極値の判定 第20回 陰関数の定理 第21回 ラグランジュの未定乗数法 第22回 重積分と累次積分 第23回 重積分の計算 第24回 重積分の変数変換 第25回 重積分の応用(1) 体積と曲面積 第26回 重積分の応用(2) ガンマ関数とベータ関数 第27回 1階の微分方程式の求積法 第28回 2階の定数係数の線形微分方程式 第29回 高階の線形微分方程式と微分演算子 第30回 試験
教科書	「基礎 微分積分」松本茂樹・森元勘治共著(学術図書出版社)
参考書・資料	参考書については適宜指示し、また、必要な資料はその都度配付する。

担当者から一言	講義ノートは(ルーズ・リーフではなく)綴じられたものを用意し、予習・復習の際にも十二分に活用されたい。また、質問の際には必ず講義ノートを持参すること。
---------	---

授業コード	71A17		
授業科目名	微分積分及び演習 (P)		
担当者名	平井崇晴(ヒライ タカハル)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜1限 金曜2限)、後期(金曜1限 金曜2限)
特記事項	情報システム工学科・知能情報学部以外(2006年度以前入学生用) いずれのクラスを履修してもよい		

講義の内容	微積分における1変数および多変数関数の基本的な問題がスラスラ解けるようになることを目的とする。高校数学を再考することから始め、微積分学の入門的な内容を解説する。
到達目標	基礎的な問題を定義や定理を参照しながら短時間に解答できることを到達目標とする。
講義方法	講義と演習
準備学習	毎回の演習を復習し、授業冒頭で行う解説がわかるように準備しておくこと。 また、適宜[公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html]の電子教材(パワーポイント等)で「お話」を把握すること。 余力があれば進んで自主演習にも取り組むこと。
成績評価	前期試験と後期試験、演習成績による。試験だけで評価を得るのは困難のようなので、演習成績をあげておくこと。出席点はない(から出席しても理解して帰らなければ意味がない)。
講義構成	前期 以下の講義に伴ない毎回演習も行なう予定。進捗状況等によって変更されるので詳細は[公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html]を参照のこと。 第1回 ガイダンス([公式HP, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html], 演習申込方法等) 第2回 連続関数 第3回 微分法(微分可能, 導関数) 第4回 微分法(高階導関数) 第5回 Taylor の定理 第6回 無限級数 第7回 べき級数 第8回 関数の級数展開 第9回 無限小, 不定形の極限 第10回 連続関数の積分, 積分の諸性質, 不定積分と原始関数

	第11回 積分の計算 第12回 積分の定義の拡張(広義積分), 連続曲線の長さ 第13回 前期模擬試験 第14回 前期模擬試験解説 第15回 前期試験 後期 第16回 2変数の関数, 極限, 連続 第17回 微分法(偏微分, 全微分) 第18回 高階偏導関数 第19回 Taylor の定理 第20回 極大, 極小 第21回 陰関数とその応用(陰関数の極値) 第22回 陰関数とその応用(条件つき極値) 第23回 面積, 二重積分, 重積分の計算(累次積分) 第24回 重積分の計算(変数の変換) 第25回 重積分の計算 第26回 広義の重積分 第27回 重積分の応用 第28回 後期模擬試験 第29回 後期模擬試験解説 第30回 後期試験
教科書	教科書:「理工系の微積分」石井恵一・田尾洋子共編(学術図書 1998年) 図書館にある解説書, 解答付き演習書などをおおいに利用されたい。
参考書・資料	{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html }]には講義で扱った電子教材が豊富にある。
担当者から一言	定義や定理が無味乾燥なものではなく, それらの「心」に触れ感動を伝える講義を目指す。その上で基本ができるようにわかりやすくビシバシ鍛えるので, 覚悟して受講すること。「できないまま何とか単位を取ろうとする」学生が多いが「無心にできるようになろうとする」よう心がけて頂きたい。 詳細・最新情報など{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html }]は必見！
ホームページタイトル	{微分積分及び演習I・II(P), http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html }

授業コード	71A18		
授業科目名	微分積分及び演習(Q)		
担当者名	小林雅子(コバヤシ マサコ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜1限 金曜2限)、後期(金曜1限 金曜2限)
特記事項	情報システム工学科・知能情報学部以外(2006年度以前入学生用) いずれのクラスを履修してもよい		
オフィスアワー	水曜・5限		

講義の内容	知能情報学部の学生を対象として1変数及び多変数の関数の微分積分について講義と演習を行う。
到達目標	1変数及び多変数の微分積分に関する基本的な定理・公式の理解と応用能力の養成を目標とする。また、定理・公式類を種々の応用場面に適用することで、手計算による微積分の高度な計算能力を身に付けることも目標のひとつである。
講義方法	通常の黒板を用いた講義を基本とするが、毎回問題演習(板書での発表や小テストの実施)を行い受講学生の深い理解を促す。
準備学習	高等学校で学んだ微分積分の知識は、大学での微積分の学習にとって不可欠なものであり重要な基盤をなす。高校数学の教科書・参考書を繙き丹念に復習しておくことが強く望まれる。
成績評価	定期試験、講義時に於ける演習(小テスト、発表等)やレポート等の成績を総合的に評価する。
講義構成	前期 第1回 はじめに(高校数学の習得状況の確認し、教科書の最初の節の内容に言及する。) 第2回 実数の連続性と数列の極限

	第3回 連続関数の性質 第4回 初等関数、特に逆三角関数の定義と性質について 第5回 微分係数、導関数の定義、合成関数及び逆関数の微分法 第6回 平均値の定理 第7回 高次の導関数 第8回 テーラーの定理 第9回 不定積分と定積分 第10回 置換積分法、部分積分法 第11回 積分の計算(有理式の積分) 第12回 積分の計算(無理関数、三角関数を含む関数の積分) 第13回 広義積分 第14回 区分求積法と定積分の応用 第15回 試験 後期 第16回 多変数の関数 第17回 合成関数の偏微分 第18回 高次の偏導関数とテーラーの定理 第19回 極値の判定 第20回 陰関数の定理 第21回 ラグランジュの未定乗数法 第22回 重積分と累次積分 第23回 重積分の計算 第24回 重積分の変数変換 第25回 重積分の応用(1) 体積と曲面積 第26回 重積分の応用(2) ガンマ関数とベータ関数 第27回 1階の微分方程式の求積法 第28回 2階の定数係数の線形微分方程式 第29回 高階の線形微分方程式と微分演算子 第30回 試験
教科書	「基礎 微分積分」松本茂樹・森元勘治共著(学術図書出版社)
参考書・資料	参考書については適宜指示し、また、必要な資料はその都度配付する。
担当者から一言	講義ノートは(ルーズ・リーフではなく)綴じられたものを用意し、予習・復習の際にも十二分に活用されたい。また、質問の際には必ず講義ノートを持参すること。
URL	http://www.tcn.zaq.ne.jp/masakobayashi

授業コード	71N11		
授業科目名	微分積分及び演習I (P)(前)		
担当者名	平井崇晴(ヒライ タカハル)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	生物学科・機能分子化学科(2007年度以降入学生用) 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	微積分における1変数関数の基本的な問題がスラスラ解けるようになることを目的とする。高校数学を再考することから始め、微積分学の入門的な内容を解説する。
到達目標	基礎的な問題を定義や定理を参照しながら短時間に解答できることを到達目標とする。
講義方法	講義と演習
準備学習	毎回の演習を復習し、授業冒頭で行う解説がわかるように準備しておくこと。 また、適宜[公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html]の電子教材(パワーポイント等)で「お話」を把握すること。 余力があれば進んで自主演習にも取り組むこと。
成績評価	前期試験と演習成績による。試験だけで評価を得るのは困難のようなので、演習成績をあげておくこと。出席点はない(から出席しても理解して帰らなければ意味がない)。
講義構成	講義に伴ない毎回演習も行なう予定。進捗状況等によって変更されるので詳細は[公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html]を参照のこと。

	第1回 ガイダンス(公式HP, 演習申込方法等) 第2回 連続関数 第3回 微分法(微分可能, 導関数) 第4回 微分法(高階導関数) 第5回 Taylor の定理 第6回 無限級数 第7回 ベキ級数 第8回 関数の級数展開 第9回 無限小, 不定形の極限 第10回 連続関数の積分, 積分の諸性質, 不定積分と原始関数 第11回 積分の計算 第12回 積分の定義の拡張(広義積分), 連続曲線の長さ 第13回 前期模擬試験 第14回 前期模擬試験解説 第15回 前期試験
教科書	教科書:「理工系の微積分」石井恵一・田尾洋子共編(学術図書 1998年) 図書館にある解説書, 解答付き演習書などをおおいに利用されたい. サブノート(プリントを冊子にしたもの):生協で販売予定. 詳細は[公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html]を参照のこと.
参考書・資料	{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html }]には講義で扱った電子教材が豊富にある.

担当者から一言	定義や定理が無味乾燥なものではなく, それらの「心」に触れ感動を伝える講義を目指す. その上で基本ができるようにわかりやすくビシバシ鍛えるので, 覚悟して受講すること. 「できないまま何とか単位を取ろうとする」学生が多いが「無心にできるようになろうとする」よう心がけて頂きたい. 詳細・最新情報など[公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html]は必見！
ホームページタイトル	{微分積分及び演習I・II(P), http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html }

授業コード	71N12		
授業科目名	微分積分及び演習I (Q)(前)		
担当者名	小林雅子(コバヤシ マサコ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	生物学科・機能分子化学科(2007年度以降入学生用) 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		
オフィスアワー	水曜・5限		

講義の内容	知能情報学部 of 学生を対象として1変数及び多変数の関数の微分積分について講義と演習を行う。
到達目標	1変数及び微分積分に関する基本的な定理・公式の理解と応用能力の養成を目標とする。また、定理・公式類を種々の応用場面に適用することで、手計算による微積分の高度な計算能力を身に付けることも目標のひとつである。
講義方法	通常の黒板を用いた講義を基本とするが、毎回問題演習(板書での発表や小テストの実施)を行い受講学生の深い理解を促す。
準備学習	高等学校で学んだ微分積分の知識は、大学での微積分の学習にとって不可欠なものであり重要な基盤をなす。高校数学の教科書・参考書を繙き丹念に復習しておくことが強く望まれる。
成績評価	定期試験、講義時に於ける演習(小テスト、発表等)やレポート等の成績を総合的に評価する。
講義構成	第1回 はじめに(高校数学の習得状況の確認し、教科書の最初の節の内容に言及する。) 第2回 実数の連続性と数列の極限 第3回 連続関数の性質 第4回 初等関数、特に逆三角関数の定義と性質について 第5回 微分係数、導関数の定義、合成関数及び逆関数の微分法 第6回 平均値の定理 第7回 高次の導関数 第8回 テーラーの定理

	第9回 不定積分と定積分 第10回 置換積分法、部分積分法 第11回 積分の計算(有理式の積分) 第12回 積分の計算(無理関数、三角関数を含む関数の積分) 第13回 広義積分 第14回 区分求積法と定積分の応用 第15回 試験
教科書	「基礎 微分積分」松本茂樹・森元勘治共著(学術図書出版社)
参考書・資料	参考書については適宜指示し、また、必要な資料はその都度配付する。
担当者から一言	講義ノートは(ルーズ・リーフではなく)綴じられたものを用意し、予習・復習の際にも十二分に活用されたい。また、質問の際には必ず講義ノートを持参すること。
URL	http://www.tcn.zaq.ne.jp/masakobayashi

授業コード	71N21		
授業科目名	微分積分及び演習Ⅱ (P)(後)		
担当者名	平井崇晴(ヒライ タカハル)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	生物学科・機能分子化学科(2007年度以降入学生用) 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		

講義の内容	微積分における2変数関数の基本的な問題がスラスラ解けるようになることを目的とする。高校数学を再考することから始め、微積分学の入門的な内容を解説する。
到達目標	基礎的な問題を定義や定理を参照しながら短時間に解答できることを到達目標とする。
講義方法	講義と演習
準備学習	毎回の演習を復習し、授業冒頭で行う解説がわかるように準備しておくこと。 また、適宜[公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html]の電子教材(パワーポイント等)で「お話」を把握すること。 余力があれば進んで自主演習にも取り組むこと。
成績評価	後期試験と演習成績による。試験だけで評価を得るのは困難のようなので、演習成績をあげておくこと。出席点はない(から出席しても理解して帰らなければ意味がない)。
講義構成	講義に伴ない毎回演習も行なう予定。進捗状況等によって変更されるので詳細は[公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html]を参照のこと。 第1回 2変数の関数、極限、連続 第2回 微分法(偏微分、全微分) 第3回 高階偏導関数 第4回 Taylor の定理 第5回 極大、極小 第6回 陰関数とその応用(陰関数の極値) 第7回 陰関数とその応用(条件つき極値) 第8回 面積、二重積分、重積分の計算(累次積分) 第9回 重積分の計算(変数の変換) 第10回 重積分の計算 第11回 広義の重積分 第12回 重積分の応用 第13回 後期模擬試験 第14回 後期模擬試験解説 第15回 後期試験
教科書	教科書:「理工系の微積分」石井恵一・田尾洋子共編(学術図書 1998年) 図書館にある解説書、解答付き演習書などをおおいに利用されたい。 サブノート(プリントを冊子にしたもの):生協で販売予定。 詳細は[公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html]を参照のこと。
参考書・資料	{公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html }には講義で扱った電子教材が豊富にある。

担当者から一言	定義や定理が無味乾燥なものではなく、それらの「心」に触れ感動を伝える講義を目指す。その上で基本ができるようにわかりやすくピンポイントで鍛えるので、覚悟して受講すること。「できないまま何とか単位を取ろうとする」学生が多いが「無心にできるようになろうとする」よう心がけて頂きたい。 詳細・最新情報など[公式ホームページ, http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html]は必見！
ホームページタイトル	{微分積分及び演習I・II(P), http://homepage2.nifty.com/takaharu_hirai/konan/caltop.html }

授業コード	71N22		
授業科目名	微分積分及び演習Ⅱ(Q)(後)		
担当者名	小林雅子(コバヤシ マサコ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限 金曜2限
特記事項	生物学科・機能分子化学科(2007年度以降入学生用) 教務部掲示板に掲示されるクラスを履修すること		
オフィスアワー	水曜・5限		

講義の内容	知能情報学部 of 学生を対象として1変数及び多変数の関数の微分積分について講義と演習を行う。
到達目標	多変数の微分積分に関する基本的な定理・公式の理解と応用能力の養成を目標とする。また、定理・公式類を種々の応用場面に適用することで、手計算による微積分の高度な計算能力を身に付けることも目標のひとつである。
講義方法	通常の黒板を用いた講義を基本とするが、毎回問題演習(板書での発表や小テストの実施)を行い受講学生の深い理解を促す。
準備学習	高等学校で学んだ微分積分の知識は、大学での微積分の学習にとって不可欠なものであり重要な基盤をなす。高校数学の教科書・参考書を繙き丹念に復習しておくことが強く望まれる。
成績評価	定期試験、講義時に於ける演習(小テスト、発表等)やレポート等の成績を総合的に評価する。
講義構成	第1回 多変数の関数 第2回 合成関数の偏微分 第3回 高次の偏導関数とテーラーの定理 第4回 極値の判定 第5回 陰関数の定理 第6回 ラグランジュの未定乗数法 第7回 重積分と累次積分 第8回 重積分の計算 第9回 重積分の変数変換 第10回 重積分の応用(1) 体積と曲面積 第11回 重積分の応用(2) ガンマ関数とベータ関数 第12回 1階の微分方程式の求積法 第13回 2階の定数係数の線形微分方程式 第14回 高階の線形微分方程式と微分演算子 第15回 試験
教科書	「基礎 微分積分」松本茂樹・森元勘治共著(学術図書出版社)
参考書・資料	参考書については適宜指示し、また、必要な資料はその都度配付する。

担当者から一言	講義ノートは(ルーズ・リーフではなく)綴じられたものを用意し、予習・復習の際にも十二分に活用されたい。また、質問の際には必ず講義ノートを持参すること。
URL	http://www.tcn.zaq.ne.jp/masakobayashi

授業コード	71031
授業科目名	ヒューマンインタフェース (後)
担当者名	中易秀敏(ナカヤス ヒデトシ)

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	水曜日のお昼休み		

講義の内容	本講義は、コンピュータと人間との情報交換・情報共有ならびにインタラクションについて学習します。そのためには、インターフェース構築のための技術ばかりでなく人間の情報処理の仕組みも知る必要があります。
到達目標	ヒューマンインタフェースの設計が分かる力を養成する。
講義方法	单元ごと平易に解説し理解度を深めてもらいます。
準備学習	機械と人間の交流技術を理解していること。
成績評価	理解度確認のための小テスト、レポートなどの成績と期末試験の成績を加味して総合的に評価する。
講義構成	1. ヒューマンインタフェースとは 2. インタフェース研究の変遷 3. ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI) 4. ヒューマンインタフェースの位置づけとHCI 5. HCIとシステムズアプローチ 6. HCIの枠組み 7. 認知工学的アプローチ 8. 認知科学の知見とヒューマンインタフェース 9. CARDの人間情報処理モデル 10. 人間の理解モデル 11. 知覚と認識 12. 記憶と学習 13. ヒューマンインタフェース高度化の技術 14. ヒューマンコンピュータ交流技術 15. 試験
教科書	なし。
参考書・資料	西田、メディア工学、朝倉書店 有澤、ヒューマンインタフェース、マグロウヒル 西田・佐伯、ヒューマン・コンピュータ交流技術、オーム社

担当者から一言	新しい分野でまだ学問領域が固まっていない領域ですが、コンピュータサイエンスを志す人にとって、今後ますます大切な技術です。
---------	--

授業コード	71055		
授業科目名	符号理論 (前)		
担当者名	岳 五一(ガク ゴイチ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	符号理論は、広い意味での情報理論の分野である。符号理論には大きく分けて3つの重要なテーマ「効率向上のための符号化」「信頼性向上のための符号化」「セキュリティ向上のための符号化」がある。それぞれのキーワードは「圧縮」「誤り訂正」「暗号」である。符号理論は1948年のシャノンの論文から、現在までに急激な進歩を遂げてきた。この講義では、「信頼性向上のための符号化」に当たる符号理論を中心に、すなわち、誤り訂正符号の理論を中心に進める。さらに圧縮技術や暗号化についても簡単に述べる。
到達目標	通信路符号化と誤り訂正符号の理論、更に、情報源符号化の理論、公開鍵暗号を中心とする現代暗号理論とその社会的役割を理解させ、将来、情報社会の中核的技術者・研究者として活躍するための基礎学力を養うことを到達目標とする。
講義方法	板書による講義。理解の程度を深めるために、授業時間内に講義と練習問題を使った演習を行う。宿題・レポートを課すこともある。
準備学習	2年次の授業科目の「情報理論」(後期)を履修すること。
成績評価	出席状況、勉学の態度、宿題・レポートの評価点、期末テストの点数を加重平均する。
講義構成	第1回 2年次授業「情報理論」の復習

	第2回 通信路符号化 第3回 能率の高い符号化法I 第4回 能率の高い符号化法II 第5回 冗長度を持たせる符号化法I 第6回 冗長度を持たせる符号化法II 第7回 復習 第8回 符号化による誤り検出・誤り訂正の原理I 第9回 符号化による誤り検出・誤り訂正の原理II 第10回 BCH符号とRS(リード・ソロモン)符号 第11回 情報源の符号化 第12回 データの圧縮技術 第13回 暗号技術I 第14回 暗号技術II 第15回 まとめと総合復習
教科書	教科書は使用しない。講義をよくノートすること。
講義関連事項	(1) 出欠は毎回調査する。 (2) 理解の程度を深めるために、授業時間内に練習を行うことがある。 (3) 宿題・レポートを数回課す。

授業コード	71036		
授業科目名	ブレインサイエンス(後)		
担当者名	前田多章(マエダ カズアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	月曜4限		

講義の内容	生物の情報処理系のひとつである神経系(中枢神経, 末梢神経)に関して講義する。まず, 神経系の構造と機能を説明し, 続いて神経細胞の構造と機能を説明する。そして, 外界からの刺激を生体が如何に受容し, 如何に伝達し, 如何に処理しているか, そして刺激に如何に対応しているかについて詳述する。
到達目標	本講義を通して, 生体における神経系の基本特性を理解することを目的とする。特に, ニューロンの興奮機序, シナプスにおける興奮の伝達機序をしっかりと理解すること。
講義方法	講義形式で進める。 適宜, 図や写真を提示して講義の理解を深める。
準備学習	あらかじめ予習等により, 生物の細胞に関する簡単な知識を学び, 講義を受けることが望ましい。
成績評価	受講態度と試験の結果で成績評価をする。
講義構成	1. 神経科学の概観 2. ニューロンとグリア(1) 3. ニューロンとグリア(2) 4. 静止時のニューロン膜(1) 5. 静止時のニューロン膜(2) 6. 活動電位(1) 7. 活動電位(2) 8. シナプス伝達(1) 9. シナプス伝達(2) 10. 神経伝達物質(1) 11. 神経伝達物質(2) 12. 脳の配線(1) 13. 脳の配線(2) 14. まとめ 15. 試験
教科書	なし
参考書・資料	①Rita Carter著:『脳と心の地形図』(原書房, 2000年) ¥2,250 ②William F. Ganong 著:『ギャノン 生理学』原著22版(丸善, 2006年) ¥10,500 ③小澤静司, 本郷利憲, 広重力 著:『標準生理学』第6版(医学書院, 2005年) ¥12,600

講義関連事項	質問の時間を持ちますので、どんどん質問して分からないところを解決してください。よくわからないときは、質問をするのにも苦慮するものですが、頑張ってください。
担当者から一言	遅刻しないように注意してください。講義進行の妨害となりますので、原則として遅刻および途中退出を認めません。

授業コード	71002		
授業科目名	プログラミング実習		
担当者名	梅谷智弘(ウメタニ トモヒロ)、前田多章(マエダ カズアキ)、和田昌浩(ワダ マサヒロ)、永田 亮(ナガタ リョウ)、村尾 元(ムラオ ハジメ)、藤田 靖(フジタ ヤスシ)、辻 稔郎(ツジ トシロウ)、小林 太(コバヤシ フトシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限 月曜3限)、後期(月曜2限 月曜3限)
オフィスアワー	月曜14:40～16:10		

講義の内容	情報工学の根幹をなす、コンピュータのプログラミングを教える科目である。本科目では、コンピュータリテラシーから始めて、Linux上でC言語によるプログラミングの基礎を教える。そのため、Linuxのコマンドやファイルシステムについても簡単に触れる。C言語は、構造体までとし、本格的な応用を『プログラミング』関連の科目や実習で行うために、十分な基礎力をつけることを目指す。
到達目標	コンピュータのプログラミングの基礎科目として、以下の事項の達成を目指す。 1. C言語の基礎を習得し、基本的なプログラムを作成することができる。 2. C言語の基本的なプログラムを読んで内容を理解できる。
講義方法	(1) 教材の提供方法: Webを使って行う。教科書も使用する。 (2) 解説 (3) レポート: 毎回課す。
準備学習	初年次のコンピュータ実習科目として設定される科目であり、コンピュータリテラシーの基礎を含む内容であるため、特に必要としない。
成績評価	(1) 毎回のレポート (30%) (2) 面接試験(前期)と後期試験 (40%) (3) 出席 (20%) (4) 小テスト (10%) (5) 実習中の学習態度が悪いと減点する。
講義構成	(前期) 第1回 Windowsの使い方、システムの起動と終了電子メールの使い方、レポートの書き方 第2回 コンピュータリテラシー(続き)、UNIXにおけるディレクトリ構造、絶対パス、相対パス、unixコマンド1 第3回 C言語の基礎: コンパイルと実行、フローチャートとコーディング 第4回 main関数と変数の型宣言: 整数型、実数型、文字型 第5回 入出力関数: printf, scanf 第6回 演算子と優先順位: 算術演算子と様々な演算子 第7回 インクリメントとデクリメント: i++, i--, i=i±1 第8回 面接試験 第9回 条件文1: if文の構造と関係演算子, 論理演算子 第10回 条件文2: if, else if, else など 第11回 繰り返し文1: for文の構造 第12回 繰り返し文2: for文, breakとcontinue 第13回 繰り返し文3: while, do～while 第14回 まとめ 第15回 面接試験 (後期) 第16回 復習: 前期の復習とUNIXコマンド2 第17回 関数1: 関数の宣言、関数の呼び出しと値の引き渡し 第18回 関数2: 配列、文字列データの渡し方・返し方 第19回 関数3: 再帰関数を用いたプログラム 第20回 関数4: 数学関数、ライブラリ関数 第21回 記憶クラス 第22回 配列1: 1次元配列

	第23回 配列2: 2次元配列, 文字配列 第24回 アドレスとポインタ1 第25回 アドレスとポインタ2 第26回 関数の応用 第27回 構造体 第28回 まとめと小テスト 第29回 総復習 第30回 試験
教科書	「入門ANSI-C(三訂版)」石田晴久著(実教出版)
参考書・資料	(1)「改訂第4版[ANSI C対応]はじめてのC」椋田寛著(技術評論社) (2)「C言語によるプログラミング基礎編」内田智文著(システム計画研究所) (3)「定本明解C言語(入門編)」柴田望洋著(ソフトバンクパブリッシング) (4)「明解C言語入門編一例解演習」柴田望洋, 他著(ソフトバンクパブリッシング) これ以外にも数多くの書籍が刊行されているので, 各自適当なものを参照のこと.
講義関連事項	2年次以降の「アドバンスプログラミング」や関連科目および実習等を受講するにあたり, 「プログラミング実習」で学んだ内容を十分に習得している必要がある.
担当者から一言	実習時間内だけでは習得不可能なので, 自習・復習が必要である.
その他	知能情報学部としての基礎科目であるため, 十分に理解し, 習得しておく必要がある.
ホームページタイトル	プログラミング実習
URL	http://www.center.konan-u.ac.jp/~prog1/

授業コード	71M11		
授業科目名	プロジェクト演習（1クラス)(後)		
担当者名	中山弘隆(ナカヤマ ヒロタカ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限 金曜5限
特記事項	事前登録		
オフィスアワー	月曜日12:20-13:00		

講義の内容	コミュニケーションロボットで「何か」をする。本プロジェクトは、役割分担をしつつもチームとして協力しあって一つのことを成し遂げることを目的としていて、「何をするか」から「どうするか」も自分たちで決め、さらに具体的に作業を行って目的を完遂する。最後には報告書作成及び最終成果発表会を行うことによりプロジェクトの自己評価を行う。
到達目標	チームによる協同作業により、自ら問題を発掘し、目標を立て、解決する力を涵養する。本プロジェクトを通じ、他の人と協力することも学ぶ。
講義方法	毎回冒頭に全体でこれまでの進捗状況の確認とその日の作業の確認を行い、その後、個別作業に入る。最後にはその日の総括を行う。実作業に加え、ディスカッションとプレゼンテーションが主となる。
準備学習	グループごとに目標達成のための工程管理を行い、スムーズに次回の作業に入れるようにすること。
成績評価	個別作業内容とディスカッションおよびプレゼンテーションの内容を総合的に判断して評価する。
講義構成	実施は以下の日程を考えている。 11月12日(金曜)3時限～5時限 11月19日(金曜)3時限～5時限 11月26日(金曜)3時限～5時限 12月3日(金曜)3時限～5時限 12月17日(金曜)3時限～5時限
教科書	必要に応じて定める。
参考書・資料	内容に応じて必要なものは揃える。

担当者から一言	プロジェクト学習によって個々の学習はもちろん、集団の中で人の意見を聞き、かつ自己の意見を主張するなど、社会性を身につけることを目指している。
---------	--

授業コード	71M12		
授業科目名	プロジェクト演習（2クラス）(後)		
担当者名	中易秀敏(ナカヤス ヒデトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限 金曜5限
特記事項	事前登録		
講義の内容	知覚情報と認知に関する実証的研究プロジェクト・チームを結成して、それぞれのチームの独創的な研究プロジェクトテーマを、構成員自らが議論して決定し、準備・計画から実施。データ整理・レポート作成・プレゼンテーションを行う。		
到達目標	自ら問題を解決する力を養う。		
講義方法	チームごとに異なる、「研究テーマ」を決定し、そのテーマにおける人間モデルの仮説を考え、それを実証するための実験・アンケート調査・ヒヤリングなどをチームごとに実施して、結果をまとめて報告する。		
準備学習	関連する先行研究を調査する。		
成績評価	レポートによる		
講義構成	チームの構成員自らが研究テーマを版演習中の時間に議論して決定するが、たとえば以下のようなプロジェクトテーマを参考にして決める。 ・ものの見え方を調べる心理実験プロジェクト ・DS(ドライビングシミュレータ)による人の反応実験プロジェクト ・DSの走行コースシナリオCG作成プロジェクト		
教科書	なし		
参考書・資料	なし		
講義関連事項	この講義は金曜の3, 4, 5限を集中して、小グループである研究対象解明を共同で行います。		
担当者から一言	3, 4, 5限だけでは時間が足らず、5限終了後も延長して放課後学習をするときもあります。よって、講義の後ろもできるだけ予定を入れないようにすることが望ましい。		

授業コード	71M13		
授業科目名	プロジェクト演習（3クラス）(後)		
担当者名	田中雅博(タナカ マサヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限 金曜5限
特記事項	事前登録		
講義の内容	レゴマインドストームは、光センサー、サウンドセンサー、タッチセンサー、超音波センサーなどが付属する、汎用性の高いロボットである。これをチームごとに配布する。各チームでは、まず組み立てを行い、さらに、目的の動作をするよう、チーム内で共同してプログラミングする。 チームごとに異なる、与えられた「課題」に対して、メンバーで共同してプログラムを作り、最後に全体で「発表会」を行う。プログラミングは、教育用NXTソフトウェアを用いて行う。さらに、余力がある場合は、Microsoft Robotics StudioでC#によるプログラミングによるロボットの制御を体験することもできる。		
到達目標	(1) チームの一員として、自分の役割を明確にし、協調作業を行う (2) センサーはロボットを理解する上で重要であるため、それぞれのセンサーの特性をしっかりと把握する (3) 与えられた課題をクリアするような動作ができるようになるまで、辛抱強く努力する (4) 最後のプレゼンテーションでは、発表能力を養う		
講義方法	与えられた資料、テキストを見ながら、必要な情報を自らつかむことを重要な課題としている。そのため、教員から教えるのではなく、学生同士が適切に情報交換をしながら学んでいくスタイルをとる。		
準備学習	教育用レゴ マインドストームNXT 基本キット、教育用レゴ マインドストームNXT 拡張キットとNXTソフトウェアを用いる。 そのため、教材のホームページ http://www.afrel.co.jp/mindstorms/nxt/lineup.html		

	から、必要な情報を把握して、課題のイメージを作っておくことが望ましい。
成績評価	出席、プロジェクトの中での自分の役割に応じた貢献、到達度、リーダーシップなどに基づいて、総合評価する。
講義構成	第1回目 プロジェクト演習の趣旨説明、レゴの組み立て、プロジェクトの役割分担とプロジェクトの立案 第2回目 ソフトウェアの習熟と、プロジェクトの推進 第3回目 プロジェクトの中間チェックとプロジェクトの推進 第4回目 プロジェクトのクロスチェックと修正 第5回目 それぞれのチームでのプロジェクトの完成、当プロジェクト内の発表会、ビデオ撮影、Webでの公開
教科書	資料を配付する。

授業コード	71M14		
授業科目名	プロジェクト演習（4クラス）(後)		
担当者名	渡邊栄治（ワタナベ エイジ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限 金曜5限
特記事項	事前登録		

講義の内容	本プロジェクトにおける内容は、画像処理における基本的な処理、思考型ゲームにおける探索処理などにおいて、計算時間及び記憶容量の削減を図るための手法について検討することである。なお、検討した手法をプログラム(C言語)により実現し、手法の定量的な評価を行う。また、チーム内で協力し、問題分析、分析結果の報告及び意見交換、計画立案、問題解決、報告等のプロセスを経て、本プロジェクトを完遂する。		
到達目標	個々の知識修得や問題解決能力だけでなく、チーム内で他者の意見や進捗状況を考慮に入れながら、協調性を持ってプロジェクトを進めることができる能力を身につけることが望ましい。		
講義方法	講義、実習及び報告会を組合せて実施する。		
準備学習	C言語に関する基礎的な知識を習得していることが望ましい。		
成績評価	取り組む姿勢、報告書及び発表内容を基に総合的に評価する。		
講義構成	第1回 概要説明 第2回 問題分析(1) 第3回 問題分析(2) 第4回 分析結果の報告及び意見交換 第5回 計画立案 第6回 報告等のプロセスを経て 第7回 問題解決(実習) 第8回 問題解決(実習) 第9回 問題解決(実習) 第10回 問題解決(実習) 第11回 問題解決(実習) 第12回 報告書の作成 第13回 報告書の作成 第14回 報告会		
教科書	テーマに応じて、書籍を配布する。		

授業コード	71M15		
授業科目名	プロジェクト演習（5クラス）(後)		
担当者名	灘本明代（ナダモト アキヨ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限 金曜5限
特記事項	事前登録		

講義の内容	5, 6人で1グループを構成し、各グループに分かれて架空の自分たちのお店を宣伝し且つ商品を販売する架空のネット店舗のホームページを作成する。そして最後に参加グループによる小さな仮想商店街を構築することを		
-------	---	--	--

	最終目的とする。具体的には、自分たちのお店や商品を何にするか、また魅力的なホームページのデザインをどのようにするか企画立案を行うと共に、HTML、JavaScriptによりホームページを作成する。さらに、カメラで撮った写真や、音声をホームページに入れたりマルチメディアなホームページを作成し、最後にグループ毎に発表会を行う。
到達目標	プロジェクトの遂行方法を理解すると共に、ホームページ作成の技術を身につける。
講義方法	5、6人で1グループを構成し、グループ活動を行う。
準備学習	インターネットの基礎知識を予習しておくとい。
成績評価	グループ内での活動の様子(積極的に活動しているか、協調性はあるか等)、成果物であるホームページの出来具合、発表の仕方等で総合的に評価する。
講義構成	(1日目)企画立案 (2日目)HTML、JavaScriptの演習 (3日目)ホームページ作成1 (4日目)ホームページ作成2 (5日目)街の構築及び発表
教科書	必要に応じプリント等を配布する。
担当者から一言	仮想の店舗をインターネットを使って宣伝をするプロジェクトの演習を行う。 一人一人が積極的に参加し、インターネットの実用的な技術を身につけ且つ、プロジェクトの遂行の仕方を学んで欲しい。

授業コード	71M16		
授業科目名	プロジェクト演習（6クラス)(後)		
担当者名	田村祐一(タムラ ユウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限 金曜5限
特記事項	事前登録		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	現在様々な3次元コンテンツを見る機会が増えているが、大規模なスクリーンで立体映像を観察する場合に、最も効果的な3次元環境の作成を本講義(プロジェクト)の目的とする。 具体的には、数人程度の小グループに分かれ、それぞれのグループでどのような3次元環境を作るか企画を立てる。(例えば、街並みを歩くような環境の構築や、車の形状作成など、グループで最も効果的と考えるコンテンツ)その企画をもとに、役割分担を決定し、モデルを作成、最終的には知能情報学部にあるバーチャルリアリティ装置に取り込み、構築したモデルを立体的に観察し、最終的に構築した3次元環境に関するプレゼンテーションを行う。
到達目標	本講義の主目的は3次元環境構築の知識や技術を取得することではなく、立体ディスプレイに3次元環境を構築する場合、どのようなコンテンツを作るか、また、効果的にコンテンツを見せるにはどうすればいいかなどを企画・議論・調査し、実現していくことにある。最終的に実現したいものを明確に意識し、深い議論を重ねることで、最終目標にできるだけ近づくことを目的とするとともに、その困難さを学んでもらうことも目的とする。
講義方法	各回最初にその回で到達すべき目標の説明を行うが、基本的には学生間の議論を中心として、主体性を持って進めてもらう。
準備学習	特になし。ただ、担当によってはプログラミングをすることがあるので、C言語の知識を有していることが望ましい。
成績評価	出席状況、プロジェクト達成への貢献度、課題の達成度等を総合して評価する。
講義構成	1. 企画の立案 2. 使用ソフトの説明および簡単な演習 3. CGの作成 4. バーチャルリアリティ空間への投影 5. 成果の発表
教科書	なし。関連資料、議論に必要な資料は授業中に提供する。
担当者から一言	この講義は受け身では目的を達成することはできません。ある程度限定された条件ではありますが、自ら何かを作ろうとする気持ちが重要です。

授業コード	71M17		
授業科目名	プロジェクト演習（7クラス）(後)		
担当者名	新田直也（ニッタ ナオヤ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限 金曜5限
特記事項	事前登録		

講義の内容	新田ゼミで開発された3DゲームフレームワークRadishを用いて、Javaによるゲーム開発の実習を行う。 JavaおよびRadishについては講義の中で簡単に解説する。 5人前後のチームで開発するゲームの内容を決定し、チーム内で分担してプログラミングを行う。		
到達目標	・ソフトウェアを開発するために必要な作業の種類と量を理解する ・チーム内で分担してソフトウェアを開発することの難しさを体感する ・プロジェクトにおけるチームワークの重要性を理解する		
講義方法	演習形式		
準備学習	特にないが、Javaプログラミングの経験があると作業がより円滑に進む。		
成績評価	実習内容をもとに総合的に評価する。		
講義構成	・JavaおよびRadishフレームワークの演習 ・ゲームの仕様策定 ・設計及びJavaによるプログラミング		
教科書	特になし		

授業コード	71049		
授業科目名	メディア情報処理（後）		
担当者名	北村達也（キタムラ タツヤ）		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	講義期間の月曜日から金曜日まで随時		

講義の内容	本講義では、音響データの処理に関する理論および手法を扱う。ヒトの聴覚の生理学的・心理学的特性、音の物理などについて理解した後、線形時不変システム、たたみ込み演算、時間-周波数領域変換、フィルタなどの信号処理の基礎について学ぶ。これらの処理を行うプログラムをMatlabで作成し、実際にデータを処理することを通して、音響データの処理に関する基礎的な技能を身につける。		
到達目標	(1) ヒトの聴覚系の生理学的・心理学的特性を理解する。 (2) 音響データを対象にした信号処理の理論を習得し、そのプログラムをMatlabで作成できるようになる。		
講義方法	スライド、板書、ビデオ教材、コンピュータ(主にMatlab)による演習		
準備学習	日頃からメディア情報処理技術に関するニュース等に関心を持つことが重要である。		
成績評価	講義期間中の演習課題、レポート、および期末試験の成績等を総合して評価する。		
講義構成	第1回 概論 第2回 聴覚器官、聴覚心理、音声知覚 第3回 音声学の基礎 第4回 デシベル 第5回 音の物理 第6回 Matlab 第7回 線形時不変システムとたたみ込み演算(1) 第8回 線形時不変システムとたたみ込み演算(2) 第9回 信号の周波数領域表現(1) 第10回 信号の周波数領域表現(2) 第11回 標本化と量子化		

	第12回 フィルタ(1) 第13回 フィルタ(2) 第14回 総括 第15回 試験
教科書	なし。適宜資料を配付する。
参考書・資料	甘利,「音声・聴覚と神経回路モデル」, オーム社(1990) 日本音響学会編,「音のなんでも小辞典」, 講談社(1996) 古井,「新音響・音声工学」, 近代科学社(2006) 大石,「フーリエ解析」, 岩波書店(1985) 中村,「ビギナーズデジタルフィルタ」, 東京電機大学出版局(1989)
講義関連事項	講義資料は全てMy Konanに掲載する。
担当者から一言	メディア情報処理の面白さは, 処理の結果を自分の目と耳で確認できることにあります。ぜひ, 自らプログラムを作成し, 実際のデータを処理することを通して, 内容の理解を深めてください。
URL	http://basil.is.konan-u.ac.jp/

授業コード	71016		
授業科目名	離散数学(後)		
担当者名	風間健一郎(カザマ ケンイチロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
講義の内容	離散数学はコンピュータサイエンスの基礎をなすものである。そこに現れる事柄のなかには, 高校までの数学やプログラミング等を通して, すでに接しているものもあるであろう。それらをあらためて体系的に学ぶことにより, しっかりとした基礎を習得することがこの授業の目的である。 授業では, 集合、写像、論理など、離散数学の基礎的な事柄について解説する。また、近年注目される暗号と関連する初等整数論などについてもふれたい。		
到達目標	基本的な概念、用語、定理等について、その意味を理解することは当然であるが、さらにそれらを実際の問題に対して応用できるようになることを期待したい。		
講義方法	通常の講義。レポートを課すこともある。		
準備学習	予備知識は特に必要としない。		
成績評価	定期試験により評価する。レポートの提出は加点の対象とする。		
講義構成	第1回 はじめに 第2回 集合と写像(1) 第3回 集合と写像(2) 第4回 集合と写像(3) 第5回 関係 第6回 同値関係と同値類 第7回 論理(1) 第8回 論理(2) 第9回 数え上げ(1) 第10回 数え上げ(2) 第11回 数え上げ(3) 第12回 帰納法 第13回 代数系 第14回 初等整数論 第15回 試験		
教科書	特に使用しない。		
参考書・資料	赤間、玉城、長田「情報数学入門」(共立出版) 小倉久和「離散数学への入門」(近代科学社) など		

授業コード	71046
-------	-------

授業科目名	ロジックデザイン (前)		
担当者名	若谷彰良(ワカタニ アキヨシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	コンピュータのハードウェアは論理素子を結合したものからなっている。本講義では、論理の表現方法を解説し、それを実現するための基本ゲート、組合せ回路、順序回路について述べ、論理設計の基礎と実例の理解を目標とする。また、それぞれの回路の最適化設計手法について論じた後、カウンタや演算器等の回路の実例について言及する。
到達目標	コンピュータ部品としての論理設計・ロジックデザインの基礎が理解でき、その実例が説明できる。
講義方法	講義とともに、随時、講義の最後に小テスト(QUIZ)を実施する。
準備学習	参考書および新聞・雑誌・webなどから関連する情報の収集に努めること。
成績評価	日頃の出席、随時行う小テストや課題提出と定期試験により評価する。評価を「欠席」として扱うのは定期試験を受けない場合のみである。
講義構成	第1回 論理設計と情報処理 第2回 論理と論理代数 第3回 論理式と標準形1 第4回 標準形2と論理回路 第5回 論理ゲートと組み合わせ回路 第6回 組合せ回路の最適化設計 第7回 QM法 第8回 その他の論理最適化とテクノロジマッピング 第9回 組み合わせ回路の実例 第10回 同期式順序回路とフリップフロップ 第11回 同期式順序回路の最適化設計 第12回 状態数の最小化と状態割り当て 第13回 同期式順序回路の実例および非同期式順序回路 第14回 その他の話題 第15回 試験
教科書	「コンピュータサイエンスで学ぶ論理回路とその設計」柴山潔著(近代科学社、1999年)
参考書・資料	「システムLSI設計工学」藤田昌宏著(オーム社、2006年)

担当者から一言	随時、講義の最後に小テスト(QUIZ)を実施する。
ホームページタイトル	{若谷ホームページ, http://pplinux.is.konan-u.ac.jp/~wakatani/ }
URL	http://pplinux.is.konan-u.ac.jp/~wakatani/

授業コード	71047		
授業科目名	ロボティクス (前)		
担当者名	梅谷智弘(ウメタニ トモヒロ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	火曜日 10:30 ~ 12:00		

講義の内容	ロボットは多数の自由度をもつ知能化機械であり、「運動する知能」「行動する知能」として考えられている。近年では、ロボット技術の発展により、ロボットの概念は非常に広がっているが、本講義では、ロボットの「腕」となる、「ロボットアーム」に焦点をあて、ロボットのモデル化、運動の記述の基本的な内容について概説する。とくに、多リンク系の空間座標系の記述、運動、設計法の基礎的な知識に焦点をあて、講義をおこなう。
到達目標	ロボット領域に関連する、以下の基本的な事項の習得を目標とする。 1. 三次元空間での位置、姿勢、座標系に関して基本的な表現ができる。 2. ロボットアームなど、複数連なったリンク系の座標系の記述、運動の数学的な表現を行える。 3. ロボットアームの軌道生成、基本的な構造について理解、モデル化を行える。

講義方法	主に板書と口頭による説明によって講義を進める。必要があれば、適宜演習を行う。
準備学習	線形代数、微分積分、システム制御工学の授業内容を良く復習しておくこと。特に基本的なベクトル演算、行列演算について良く復習しておくこと。
成績評価	期末試験と授業中における演習の結果によって総合的に評価する。
講義構成	第1回 Introduction, ロボティクスの概要 第2回－第4回: ロボット座標系のフレーム表現 第5回－第6回: ロボットアームの順運動学 第7回－第8回: ロボットアームの逆運動学 第9回－第10回: ヤコビ行列, 特異点 第11回－第12回: ロボットアームの動力学の基礎 第13回: ロボットアームの軌道生成の基礎 第14回: ロボットアームの設計の基礎 第15回: 期末試験
教科書	John J. Craig(著), 三浦宏文, 下山勲(訳), ロボティクス—機構・力学・制御—. 共立出版, 1991.
参考書・資料	米田完, 坪内孝司, 大隅久, ここが知りたいロボット創造設計. 講談社, 2005. 米田完, 坪内孝司, 大隅久, はじめてのロボット創造設計. 講談社, 2001.
担当者から一言	ロボティクスという概念は非常に広いですが, 本講義では, 特にロボティクス全般に関連する, 空間座標系の記述や運動学にはじまり, ロボットの「腕」に相当するマニピュレータに焦点を当てて進めます。授業では, 座標系の概念など, 物理に関する知識は想定しませんが, 予習, 復習を行ってください。

授業コード	81L71		
授業科目名	Academic Experience (1クラス)(前)		
担当者名	GONDREE(ゴンドリー エリック)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限 金曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	Students will listen to advanced authentic university lectures and use that information as a starting point for classroom discussions. Students will also increase awareness of cultural differences between the U.S. and Japan in order to prepare for their study abroad.
到達目標	◆ Apply advanced level note-taking skills to authentic university lectures. ◆ Lead/Participate in group and class discussions. ◆ Continue to develop listening/speaking skills and increase confidence through advanced level communicative tasks. ◆ Increase awareness of cultural differences between studying the U.S. and in Japan, as well as issues related to studying abroad. ◆ Practice TOEFL-type speaking/listening as needed.
講義方法	In each lesson cycle, the teacher will introduce a lecture which students will listen to and then discuss. Prior to listening to the lecture, the students will have time to prepare for the topic and study vocabulary.
準備学習	Completion of Academic Listening 1 and Academic Speaking
成績評価	Class participation 25 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 10 points/final exam 15 points
講義構成	This class meets twice a week. The class will cover 6 to 8 lectures during the semester.
教科書	Lecture Ready 2 by Peg Sarosy and Kathy Sherak.(Oxford University Press)
講義関連事項	The teacher will bring in a variety of additional authentic materials (listening and print media) related to American culture.
担当者から一言	This course allows students not only to increase their ability to listen to advanced academic lectures, but also a chance to discuss their concerns related to studying abroad and the adjustment into U.S. culture.

授業コード	81L72		
授業科目名	Academic Experience (2クラス)(前)		
担当者名	MITCHELL(ミッチェル マレン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 金曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	Students will listen to advanced authentic university lectures and use that information as a starting point for classroom discussions. Students will also increase awareness of cultural differences between the U.S. and Japan in order to prepare for their study abroad.		
到達目標	◆ Apply advanced level note-taking skills to authentic university lectures. ◆ Lead/Participate in group and class discussions. ◆ Continue to develop listening/speaking skills and increase confidence through advanced level communicative tasks. ◆ Increase awareness of cultural differences between studying the U.S. and in Japan, as well as issues related to studying abroad. ◆ Practice TOEFL-type speaking/listening as needed.		
講義方法	In each lesson cycle, the teacher will introduce a lecture which students will listen to and then discuss. Prior to listening to the lecture, the students will have time to prepare for the topic and study vocabulary.		
準備学習	Completion of Academic Listening 1 and Academic Speaking		
成績評価	Class participation 25 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 10 points/final exam 15 points		
講義構成	This class meets twice a week. The class will cover 6 to 8 lectures during the semester.		
教科書	Noteworthy:Listening & Notetaking Skills 3rd Edition by Phyllis L. Lim(Cengage)		
講義関連事項	The teacher will bring in a variety of additional authentic materials (listening and print media) related to American culture.		
担当者から一言	This course allows students not only to increase their ability to listen to advanced academic lectures, but also a chance to discuss their concerns related to studying abroad and the adjustment into U.S. culture.		

授業コード	81L51		
授業科目名	Academic Listening I (1クラス)(後)		
担当者名	FREEBORN(フリーボーン ポール)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	Students in this course will listen to live academic lectures and apply lecture listening and notetaking techniques.		
到達目標	◆ Recognize rhetorical forms in academic lectures ◆ Take useful, well-organized notes on the main and supporting ideas using abbreviations and key words ◆ Demonstrate understanding of the lecture through extension activities such as a discussion, quiz, presentation ◆ Practice TOEFL-type listening items, including short conversations.		
講義方法	During each lecture, students will have an opportunity to do authentic listening to campus conversations and academic lectures. They will be required to take notes and discuss the listening with classmates.		
準備学習	Completion of Freshmen Semester 1 Speaking and Listening.		
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm 15 points/ Final 15 points		

講義構成	This course meets twice a week. Each lesson will include a listening to a lecture.
教科書	Key Concepts textbook.
参考書・資料	Students may be required to do supplemental online listening such as podcasts.
担当者から一言	Listening is an active skill. Students should work on really paying attention and listening for key words and information. Outside listening is encouraged.

授業コード	81L52		
授業科目名	Academic Listening I (2クラス)(後)		
担当者名	MITCHELL(ミッチェル マレン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	Students in this course will listen to live academic lectures and apply lecture listening and notetaking techniques.		
到達目標	◆ Recognize rhetorical forms in academic lectures ◆ Take useful, well-organized notes on the main and supporting ideas using abbreviations and key words ◆ Demonstrate understanding of the lecture through extension activities such as a discussion, quiz, presentation ◆ Practice TOEFL-type listening items, including short conversations.		
講義方法	During each lecture, students will have an opportunity to do authentic listening to campus conversations and academic lectures. They will be required to take notes and discuss the listening with classmates.		
準備学習	Completion of Freshmen Semester 1 Speaking and Listening.		
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm 15 points/ Final 15 points		
講義構成	This course meets twice a week. Each lesson will include a listening to a lecture.		
教科書	Key Concepts textbook.		
参考書・資料	Students may be required to do supplemental online listening such as podcasts.		
担当者から一言	Listening is an active skill. Students should work on really paying attention and listening for key words and information. Outside listening is encouraged.		

授業コード	81L53		
授業科目名	Academic Listening I (3クラス)(後)		
担当者名	GONDREE(ゴンドリー エリック)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	Students in this course will listen to live academic lectures and apply lecture listening and notetaking techniques.		
到達目標	◆ Recognize rhetorical forms in academic lectures ◆ Take useful, well-organized notes on the main and supporting ideas using abbreviations and key words ◆ Demonstrate understanding of the lecture through extension activities such as a discussion, quiz, presentation ◆ Practice TOEFL-type listening items, including short conversations.		
講義方法	During each lecture, students will have an opportunity to do authentic listening to campus conversations and academic lectures. They will be required to take notes and discuss the listening with classmates.		

準備学習	Completion of Freshmen Semester 1 Speaking and Listening.
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm 15 points/ Final 15 points
講義構成	This course meets twice a week. Each lesson will include a listening to a lecture.
教科書	Key Concepts textbook.
参考書・資料	Students may be required to do supplemental online listening such as podcasts.
担当者から一言	Listening is an active skill. Students should work on really paying attention and listening for key words and information. Outside listening is encouraged.

授業コード	81L31		
授業科目名	Academic Reading I (1クラス)(後)		
担当者名	LEE Sarah(リー サラ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限 火曜5限 木曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	The aim of this course is the development of fluent, accurate reading of upper intermediate level academic texts, and the use of facts and ideas from reading for communicative purposes.		
到達目標	◆ Build skills in inferring, analyzing, synthesizing, summarizing, and paraphrasing facts and ideas found in texts. ◆ Apply knowledge and usage of common word forms, roots, prefixes, and suffixes and ability to determine vocabulary words from context. ◆ Read advanced academic and authentic reading materials (newspapers/magazines) ◆ Practice TOEFL-type reading items.		
講義方法	Students will collaborate with classmates to develop original responses to reading materials through written and/or spoken pair/small group tasks. Teacher will provide additional explanation on TOEFL-related reading skills.		
準備学習	Students should have completed the first semester of reading and vocabulary and already begun to work on academic reading skills.		
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 15 points/final exam 15 points		
講義構成	This course meets 3 times a week.		
教科書	Reading Matters		
参考書・資料	Students will be required to check out library books.		
講義関連事項	There will be supplementary authentic reading materials brought in by the teacher.		
担当者から一言	Becoming a better reader takes practice. Students should be encouraged to read for pleasure outside of class in order to increase vocabulary and reading speed.		

授業コード	81L32		
授業科目名	Academic Reading I (2クラス)(後)		
担当者名	GONDREE(ゴンドリー エリック)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限 火曜5限 木曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	The aim of this course is the development of fluent, accurate reading of upper intermediate level academic texts, and the use of facts and ideas from reading for communicative purposes.
到達目標	◆ Build skills in inferring, analyzing, synthesizing, summarizing, and paraphrasing facts and ideas found in texts. ◆ Apply knowledge and usage of common word forms, roots, prefixes, and suffixes and ability to determine vocabulary words from context. ◆ Read advanced academic and authentic reading materials (newspapers/magazines) ◆ Practice TOEFL-type reading items.
講義方法	Students will collaborate with classmates to develop original responses to reading materials through written and/or spoken pair/small group tasks. Teacher will provide additional explanation on TOEFL-related reading skills.
準備学習	Students should have completed the first semester of reading and vocabulary and already begun to work on academic reading skills.
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 15 points/final exam 15 points
講義構成	This course meets 3 times a week.
教科書	Reading Matters
参考書・資料	Students will be required to check out library books.
講義関連事項	There will be supplementary authentic reading materials brought in by the teacher.
担当者から一言	Becoming a better reader takes practice. Students should be encouraged to read for pleasure outside of class in order to increase vocabulary and reading speed.

授業コード	81L33		
授業科目名	Academic Reading I（3クラス)(後)		
担当者名	FREEBORN(フリーボーン ポール)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限 火曜5限 木曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	The aim of this course is the development of fluent, accurate reading of upper intermediate level academic texts, and the use of facts and ideas from reading for communicative purposes.
到達目標	◆ Build skills in inferring, analyzing, synthesizing, summarizing, and paraphrasing facts and ideas found in texts. ◆ Apply knowledge and usage of common word forms, roots, prefixes, and suffixes and ability to determine vocabulary words from context. ◆ Read advanced academic and authentic reading materials (newspapers/magazines) ◆ Practice TOEFL-type reading items.
講義方法	Students will collaborate with classmates to develop original responses to reading materials through written and/or spoken pair/small group tasks. Teacher will provide additional explanation on TOEFL-related reading skills.
準備学習	Students should have completed the first semester of reading and vocabulary and already begun to work on academic reading skills.
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 15 points/final exam 15 points
講義構成	This course meets 3 times a week.
教科書	Reading Matters
参考書・資料	Students will be required to check out library books.
講義関連事項	There will be supplementary authentic reading materials brought in by the teacher.

担当者から一言	Becoming a better reader takes practice. Students should be encouraged to read for pleasure outside of class in order to increase vocabulary and reading speed.
---------	---

授業コード	81L41		
授業科目名	Academic Reading II (1クラス)(前)		
担当者名	QUINN B.(クイン ブラドリー)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 金曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	Students will be introduced to authentic and lengthy academic reading materials similar to what they may encounter in an American University.		
到達目標	◆ Practice reading comprehension, notetaking, summarizing and paraphrasing academic texts ◆ Focus on understanding the meaning of advanced academic texts and being able to discuss the concepts presented in the texts. ◆ Continue to build academic vocabulary		
講義方法	Students are expected to be active learners in class. Much of the reading will be assigned for homework so that the class time can be focused on discussing and presenting the ideas from the readings.		
準備学習	Completion of Academic Reading 1.		
成績評価	◆ Class participation 20 points ◆ Quizzes and graded assignments 50 points ◆ Midterm exam 15 points ◆ Final exam 15 points		
講義構成	This class meets twice a week. On the first day of class, the teacher and students will discuss and mutually decide upon the chapters to be covered in the text based upon student interest levels.		
教科書	College Reading 2,HOUGHTON MIFFLIN ENGLISH FOR ACADEMIC SUCCESS by Linda Robinson Fellag (Houghton Mifflin)		

担当者から一言	Students should try to read an English newspaper on a daily basis, such as The Japan Times.
---------	---

授業コード	81L42		
授業科目名	Academic Reading II (2クラス)(前)		
担当者名	FREEBORN(フリーボーン ポール)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 火曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	Students will be introduced to authentic and lengthy academic reading materials similar to what they may encounter in an American University.		
到達目標	◆ Practice reading comprehension, notetaking, summarizing and paraphrasing academic texts ◆ Focus on understanding the meaning of advanced academic texts and being able to discuss the concepts presented in the texts. ◆ Continue to build academic vocabulary		
講義方法	Students are expected to be active learners in class. Much of the reading will be assigned for homework so that the class time can be focused on discussing and presenting the ideas from the readings.		
準備学習	Completion of Academic Reading 1.		
成績評価	◆ Class participation 20 points ◆ Quizzes and graded assignments 50 points ◆ Midterm exam 15 points ◆ Final exam 15 points		

講義構成	This class meets twice a week. On the first day of class, the teacher and students will discuss and mutually decide upon the chapters to be covered in the text based upon student interest levels.
教科書	College Reading 3, ENGLISH FOR ACADEMIC SUCCESS by John D. Avery(THOMSON)
担当者から一言	Students should try to read an English newspaper on a daily basis, such as The Japan Times.

授業コード	81L61		
授業科目名	Academic Speaking (1クラス)(後)		
担当者名	MITCHELL(ミッチェル マレン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	The main aim of this course is the development of academic speaking skills for public speaking. The course emphasizes both individual and group speeches.		
到達目標	◆ Organize a speech using an opening statement (hook), background information, topic sentence, main ideas and supporting details. ◆ Include elements of style such as pauses, repetition, transitions, posture, eye contact and gestures. ◆ Make and utilize appropriate visual aids to support a presentation ◆ Use a variety of speech styles: persuasive, argumentative, descriptive, opinion, and narrative speech ◆ Practice TOEFL-type independent speaking activities		
講義方法	The teacher will introduce a variety of speech styles and assist students in the development and improvement of speaking skills. Active class participation in discussions will be a critical element of the course.		
準備学習	Completion of Speaking and Listening Freshmen Semester 1.		
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 15 points Final exam 15 points		
講義構成	This course meets twice a week. The course will be divided into 4 or 5 units each developed around a particular speech style (narrative, persuasive, argumentative, opinion, descriptive)		
教科書	Dynamic Presentation textbook.		
参考書・資料	The teacher will use supplementary videos to demonstrate speeches.		
担当者から一言	Students should work on developing their personal confidence through giving formal and informal speeches.		

授業コード	81L62		
授業科目名	Academic Speaking (2クラス)(後)		
担当者名	LEE Sarah(リー サラ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	The main aim of this course is the development of academic speaking skills for public speaking. The course emphasizes both individual and group speeches.		
到達目標	◆ Organize a speech using an opening statement (hook), background information, topic sentence, main ideas and supporting details. ◆ Include elements of style such as pauses, repetition, transitions, posture, eye contact and gestures. ◆ Make and utilize appropriate visual aids to support a presentation ◆ Use a variety of speech styles: persuasive, argumentative, descriptive, opinion, and narrative speech ◆ Practice TOEFL-type independent speaking activities		

講義方法	The teacher will introduce a variety of speech styles and assist students in the development and improvement of speaking skills. Active class participation in discussions will be a critical element of the course.
準備学習	Completion of Speaking and Listening Freshmen Semester 1.
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 15 points Final exam 15 points
講義構成	This course meets twice a week. The course will be divided into 4 or 5 units each developed around a particular speech style (narrative, persuasive, argumentative, opinion, descriptive)
教科書	Dynamic Presentation textbook.
参考書・資料	The teacher will use supplementary videos to demonstrate speeches.
担当者から一言	Students should work on developing their personal confidence through giving formal and informal speeches.

授業コード	81L63		
授業科目名	Academic Speaking (3クラス)(後)		
担当者名	QUINN B.(クイン ブラドリー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限 金曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	The main aim of this course is the development of academic speaking skills for public speaking. The course emphasizes both individual and group speeches.
到達目標	◆ Organize a speech using an opening statement (hook), background information, topic sentence, main ideas and supporting details. ◆ Include elements of style such as pauses, repetition, transitions, posture, eye contact and gestures. ◆ Make and utilize appropriate visual aids to support a presentation ◆ Use a variety of speech styles: persuasive, argumentative, descriptive, opinion, and narrative speech ◆ Practice TOEFL-type independent speaking activities
講義方法	The teacher will introduce a variety of speech styles and assist students in the development and improvement of speaking skills. Active class participation in discussions will be a critical element of the course.
準備学習	Completion of Speaking and Listening Freshmen Semester 1.
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 15 points Final exam 15 points
講義構成	This course meets twice a week. The course will be divided into 4 or 5 units each developed around a particular speech style (narrative, persuasive, argumentative, opinion, descriptive)
教科書	Dynamic Presentation textbook.
参考書・資料	The teacher will use supplementary videos to demonstrate speeches.
担当者から一言	Students should work on developing their personal confidence through giving formal and informal speeches.

授業コード	81L11		
授業科目名	Academic Writing I (1クラス)(後)		
担当者名	GONDREE(ゴンドリー エリック)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 水曜1限 木曜2限

特記事項	自動登録科目
講義の内容	In this course, you will develop clear, cocse academic essay writing in several rhetorical styles in addition to creative written expression.
到達目標	◆ Review of paragraph structure ◆ Descriptive Essay ◆ Narrative Essay ◆ Opinion Essay ◆ Comparison Essay ◆ Cause/ Effect Essay
講義方法	Students will practice further developing their academic writing. The teacher will introduce the essay format and students will have opportunities to practice writing in various rhetorical styles. The class will emphasize self-correction and peer correction of errors.
準備学習	Completion of Writing and Grammar and mastery of the paragraph form.
成績評価	Class participation 15 points Quizzes and graded assignments 45 points TOEFL 15 points Midterm exam 10 points Final Exam 15 points
講義構成	This class meets 3 times per week. The course is organized in ifve 3-week segments of practice writing the various forms of essays.
教科書	Effective Academic Writing 3
参考書・資料	It is recommended that students have a good English-English dictionary
担当者から一言	Students should continue to work diligently to refine their writing craft by careful construction and correction of academic essays.

授業コード	81L12		
授業科目名	Academic Writing I (2クラス)(後)		
担当者名	FREEBORN(フリーボーン ポール)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 水曜1限 木曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	In this course, you will develop clear, cocse academic essay writing in several rhetorical styles in addition to creative written expression.
到達目標	◆ Review of paragraph structure ◆ Descriptive Essay ◆ Narrative Essay ◆ Opinion Essay ◆ Comparison Essay ◆ Cause/ Effect Essay
講義方法	Students will practice further developing their academic writing. The teacher will introduce the essay format and students will have opportunities to practice writing in various rhetorical styles. The class will emphasize self-correction and peer correction of errors.
準備学習	Completion of Writing and Grammar and mastery of the paragraph form.
成績評価	Class participation 15 points Quizzes and graded assignments 45 points TOEFL 15 points Midterm exam 10 points Final Exam 15 points
講義構成	This class meets 3 times per week. The course is organized in ifve 3-week segments of practice writing the various forms of essays.

教科書	Effective Academic Writing 3
参考書・資料	It is recommended that students have a good English-English dictionary.
担当者から一言	Students should continue to work diligently to refine their writing craft by careful construction and correction of academic essays.

授業コード	81L13		
授業科目名	Academic Writing I (3クラス)(後)		
担当者名	LEE Sarah (リー サラ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 水曜1限 木曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	In this course, you will develop clear, concise academic essay writing in several rhetorical styles in addition to creative written expression.		
到達目標	◆ Review of paragraph structure ◆ Descriptive Essay ◆ Narrative Essay ◆ Opinion Essay ◆ Comparison Essay ◆ Cause/ Effect Essay		
講義方法	Students will practice further developing their academic writing. The teacher will introduce the essay format and students will have opportunities to practice writing in various rhetorical styles. The class will emphasize self-correction and peer correction of errors.		
準備学習	Completion of Writing and Grammar and mastery of the paragraph form.		
成績評価	Class participation 15 points Quizzes and graded assignments 45 points TOEFL 15 points Midterm exam 10 points Final Exam 15 points		
講義構成	This class meets 3 times per week. The course is organized in five 3-week segments of practice writing the various forms of essays.		
教科書	Effective Academic Writing 3		
参考書・資料	It is recommended that students have a good English-English dictionary.		
担当者から一言	Students should continue to work diligently to refine their writing craft by careful construction and correction of academic essays.		

授業コード	81L21		
授業科目名	Academic Writing II (1クラス)(前)		
担当者名	LEE Sarah (リー サラ)、QUINN B. (クイン ブラドリー)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 火曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	In this course, students will be introduced to the basic components of a research paper.		
到達目標	◆ Practice the development of critical thinking skills and their application to higher concept writing assignments. ◆ Learn how to paraphrase and summarize written academic texts. ◆ Learn the components of a research paper including in-text citing, reference page, and quality resources.		

	◆ Continue grammar refinement and working to identify errors.
講義方法	All study abroad courses require students to be active participants. The teacher will guide students in their search for quality resources and refining their ideas in their quest to write a research paper.
準備学習	Completion of Academic Writing 1
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 15 points/ final exam 15 points
講義構成	This course meets twice a week.
教科書	Writing to Communicate 3: Essays and the Short Research Paper by Cynthia A. Boardman (Pearson Longman)
参考書・資料	The teacher will make writing reference guides available to students to assist them in the writing of a research paper.
担当者から一言	Being able to paraphrase academic texts and cite sources are skills necessary for success in an American University. The students should work hard to understand these central components of research writing in order to succeed at the University of Buffalo.

授業コード	81L22		
授業科目名	Academic Writing II (2クラス)(前)		
担当者名	QUINN B.(クイン ブラドリー)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限 金曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	In this course, students will be introduced to the basic components of a research paper.
到達目標	◆ Practice the development of critical thinking skills and their application to higher concept writing assignments. ◆ Learn how to paraphrase and summarize written academic texts. ◆ Learn the components of a research paper including in-text citing, reference page, and quality resources. ◆ Continue grammar refinement and working to identify errors.
講義方法	All study abroad courses require students to be active participants. The teacher will guide students in their search for quality resources and refining their ideas in their quest to write a research paper.
準備学習	Completion of Academic Writing 1
成績評価	Class participation 20 points Quizzes and graded assignments 50 points Midterm exam 15 points/ final exam 15 points
講義構成	This course meets twice a week.
教科書	Sourcework: Academic Writing from Sources by Nancy E. Dollahite, Julie Haun (Cengage)
参考書・資料	The teacher will make writing reference guides available to students to assist them in the writing of a research paper.

担当者から一言	Being able to paraphrase academic texts and cite sources are skills necessary for success in an American University. The students should work hard to understand these central components of research writing in order to succeed at the University of Buffalo.
---------	---

授業コード	81F11		
授業科目名	Active Listening I (1クラス)(前)		
担当者名	MILLER(ミラー リチャード)		
配当年次	1年次	単位数	1

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	This course introduces key concepts and sub-skills related to improved listening proficiency. A variety of materials and tasks will be used with the aim of developing effective listening strategies for a broad range of contexts. Topics will include contemporary issues that relate to material covered in other courses as well as current happenings in Japan and the world. Extensive reading will also be used as a springboard for classroom discussions.		
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).		
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision		
教科書	Prepared by instructor		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		
担当者から一言	Students will select easy books of their choice to read out of class. After reading a book, they will write a short summary of the story (50 words) and their impressions/opinions (20 ◆ 30 words). Students will record their own reading progress in a Weekly Reading Log and present their book reports in class.		

授業コード	81F12		
授業科目名	Active Listening I (2クラス)(前)		
担当者名	SOWTER(サウター アンドリュウ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	This course introduces key concepts and sub-skills related to improved listening proficiency. A variety of materials and tasks will be used with the aim of developing effective listening strategies for a broad range of contexts. Topics will include contemporary issues that relate to material covered in other courses as well as current happenings in Japan and the world. Extensive reading will also be used as a springboard for classroom discussions.		
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to:		

	a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Students will select easy books of their choice to read out of class. After reading a book, they will write a short summary of the story (50 words) and their impressions/opinions (20 ◆ 30 words). Students will record their own reading progress in a Weekly Reading Log and present their book reports in class.

授業コード	81F13		
授業科目名	Active Listening I (3クラス)(前)		
担当者名	マック(マック トーマス M.)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course introduces key concepts and sub-skills related to improved listening proficiency. A variety of materials and tasks will be used with the aim of developing effective listening strategies for a broad range of contexts. Topics will include contemporary issues that relate to material covered in other courses as well as current happenings in Japan and the world. Extensive reading will also be used as a springboard for classroom discussions.
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.

準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Students will select easy books of their choice to read out of class. After reading a book, they will write a short summary of the story (50 words) and their impressions/opinions (20 ◆ 30 words). Students will record their own reading progress in a Weekly Reading Log and present their book reports in class.
ホームページタイトル	Mach's Website
URL	http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~mach

授業コード	81F14		
授業科目名	Active Listening I (4クラス)(前)		
担当者名	JONES B.(ジョーンズ ブレント)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course introduces key concepts and sub-skills related to improved listening proficiency. A variety of materials and tasks will be used with the aim of developing effective listening strategies for a broad range of contexts. Topics will include contemporary issues that relate to material covered in other courses as well as current happenings in Japan and the world. Extensive reading will also be used as a springboard for classroom discussions.
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor

講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
--------	---

担当者から一言	Students will select easy books of their choice to read out of class. After reading a book, they will write a short summary of the story (50 words) and their impressions/opinions (20 ♦ 30 words). Students will record their own reading progress in a Weekly Reading Log and present their book reports in class.
---------	--

授業コード	81F15		
授業科目名	Active Listening I (5クラス)(前)		
担当者名	MILLER(ミラー リチャード)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course introduces key concepts and sub-skills related to improved listening proficiency. A variety of materials and tasks will be used with the aim of developing effective listening strategies for a broad range of contexts. Topics will include contemporary issues that relate to material covered in other courses as well as current happenings in Japan and the world. Extensive reading will also be used as a springboard for classroom discussions.
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

担当者から一言	Students will select easy books of their choice to read out of class. After reading a book, they will write a short summary of the story (50 words) and their impressions/opinions (20 ♦ 30 words). Students will record their own reading progress in a Weekly Reading Log and present their book reports in class.
---------	--

授業コード	81F16		
授業科目名	Active Listening I (6クラス)(前)		
担当者名	SOWTER(サウター アンドリュウ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course introduces key concepts and sub-skills related to improved listening proficiency. A variety of materials and tasks will be used with the aim of developing effective listening strategies for a broad range of contexts. Topics will include contemporary issues that relate to material covered in other courses as well as current happenings in Japan and the world. Extensive reading will also be used as a springboard for classroom discussions.		
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).		
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision		
教科書	Prepared by instructor		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		
担当者から一言	Students will select easy books of their choice to read out of class. After reading a book, they will write a short summary of the story (50 words) and their impressions/opinions (20 ◆ 30 words). Students will record their own reading progress in a Weekly Reading Log and present their book reports in class.		

授業コード	81F17		
授業科目名	Active Listening I (7クラス)(前)		
担当者名	マック(マック トーマス M.)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	This course introduces key concepts and sub-skills related to improved listening proficiency. A variety of materials and tasks will be used with the aim of developing effective listening strategies for a broad range of		

	contexts. Topics will include contemporary issues that relate to material covered in other courses as well as current happenings in Japan and the world. Extensive reading will also be used as a springboard for classroom discussions.
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Students will select easy books of their choice to read out of class. After reading a book, they will write a short summary of the story (50 words) and their impressions/opinions (20 ◆ 30 words). Students will record their own reading progress in a Weekly Reading Log and present their book reports in class.
ホームページタイトル	Mach's Website
URL	http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~mach

授業コード	81F18		
授業科目名	Active Listening I (8クラス)(前)		
担当者名	JONES B.(ジョーンズ プレント)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course introduces key concepts and sub-skills related to improved listening proficiency. A variety of materials and tasks will be used with the aim of developing effective listening strategies for a broad range of contexts. Topics will include contemporary issues that relate to material covered in other courses as well as current happenings in Japan and the world. Extensive reading will also be used as a springboard for classroom discussions.
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses,

	d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Students will select easy books of their choice to read out of class. After reading a book, they will write a short summary of the story (50 words) and their impressions/opinions (20 ◆ 30 words). Students will record their own reading progress in a Weekly Reading Log and present their book reports in class.

授業コード	81F21		
授業科目名	Active Listening II (1クラス)(後)		
担当者名	MILLER(ミラー リチャード)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on key concepts and sub-skills introduced in Active Listening I. A variety of materials and tasks will again be used to help develop effective listening strategies in a broad range of contexts. Topics will be aligned with material covered in other second semester courses including current global challenges. The main course goals are to help students in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) relating to listening strategies and skills in English. Extensive reading will again be used to stimulate classroom discussion.
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).

成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F22		
授業科目名	Active Listening II (2クラス)(後)		
担当者名	SOWTER(サウター アンドリュウ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on key concepts and sub-skills introduced in Active Listening I. A variety of materials and tasks will again be used to help develop effective listening strategies in a broad range of contexts. Topics will be aligned with material covered in other second semester courses including current global challenges. The main course goals are to help students in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) relating to listening strategies and skills in English. Extensive reading will again be used to stimulate classroom discussion.
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F23		
授業科目名	Active Listening II (3クラス)(後)		
担当者名	マック(マック トーマス M.)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on key concepts and sub-skills introduced in Active Listening I. A variety of materials and tasks will again be used to help develop effective listening strategies in a broad range of contexts. Topics will be aligned with material covered in other second semester courses including current global challenges. The main course goals are to help students in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) relating to listening strategies and skills in English. Extensive reading will again be used to stimulate classroom discussion.
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

ホームページタイトル	Mach's Website
URL	http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~mach

授業コード	81F24		
授業科目名	Active Listening II (4クラス)(後)		
担当者名	JONES B.(ジョーンズ ブレント)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on key concepts and sub-skills introduced in Active Listening I. A variety of materials and tasks will again be used to help develop effective listening strategies in a broad range of contexts. Topics will be aligned with material covered in other second semester courses including current global challenges. The main course goals are to help students in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) relating to listening strategies and skills in English. Extensive reading will again be used to stimulate classroom discussion.
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F25		
授業科目名	Active Listening II (5クラス)(後)		
担当者名	MILLER(ミラー リチャード)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on key concepts and sub-skills introduced in Active Listening I. A variety of materials and tasks will again be used to help develop effective listening strategies in a broad range of contexts. Topics will be aligned with material covered in other second semester courses including current global challenges. The main course goals are to help students in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) relating to listening strategies and skills in English. Extensive reading will again be used to stimulate classroom discussion.
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation,

	e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%)
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F26		
授業科目名	Active Listening II (6クラス)(後)		
担当者名	SOWTER(サウター アンドリュウ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on key concepts and sub-skills introduced in Active Listening I. A variety of materials and tasks will again be used to help develop effective listening strategies in a broad range of contexts. Topics will be aligned with material covered in other second semester courses including current global challenges. The main course goals are to help students in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) relating to listening strategies and skills in English. Extensive reading will again be used to stimulate classroom discussion.
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports

	Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F27		
授業科目名	Active Listening II (7クラス)(後)		
担当者名	PALMER(パーマー ロジャー)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on key concepts and sub-skills introduced in Active Listening I. A variety of materials and tasks will again be used to help develop effective listening strategies in a broad range of contexts. Topics will be aligned with material covered in other second semester courses including current global challenges. The main course goals are to help students in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) relating to listening strategies and skills in English. Extensive reading will again be used to stimulate classroom discussion.
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	valuation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F28
-------	-------

授業科目名	Active Listening II (8クラス)(後)		
担当者名	JONES B.(ジョーンズ ブレント)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on key concepts and sub-skills introduced in Active Listening I. A variety of materials and tasks will again be used to help develop effective listening strategies in a broad range of contexts. Topics will be aligned with material covered in other second semester courses including current global challenges. The main course goals are to help students in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) relating to listening strategies and skills in English. Extensive reading will again be used to stimulate classroom discussion.
到達目標	The main goals of the course are to help students along their path of development in the various learning domains (cognitive, affective and interpersonal) as related to listening strategies and skills in English. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify key points including in short lectures or other presentations, b. employ various strategies related to the listening sub-skills, and c. participate in extended discussions on topics from their other courses, d. write clear notes when listening to a short lecture or presentation, e. read smoothly at their own level and write book reports with summaries and impressions.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific concept or sub-skill related to listening, (2) focused practice on listening sub-skills such as listening for gist, (3) internet searches for listening material on specific topics, (4) mini workshop focused on listening sub-skills and/or concepts, (5) discussions based on student-generated book reports.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework assignments and quizzes (25%), extensive reading (25%) and final project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction to Active Listening / Overview of Extensive Reading Week 2 – 14 Listening Strategies & Skills, Student-led discussions based on book reports Week 15 Course evaluation / Self evaluation / Future vision
教科書	Prepared by instructor
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81C11		
授業科目名	American Studies (1クラス)(前)		
担当者名	WHITE(ホワイト ショーン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	American Studies is a required semester-long course for first year students. This course explores key areas of study related to the Americas, with a focus on historical, political, economic, social and cultural developments in the United States. Students will be challenged to consider developments in America as they relate to Japan and the broader global context.
到達目標	The main goals of the course are to provide students with a basic understanding of a broad range of topics, issues, challenges, etc. as well as develop reading, writing and critical thinking skills that will help them in their

	other studies as well as other future endeavors. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. outline major social and political currents in the U.S., b. employ various strategies related to the reading sub-skills, and c. write well-organized, multiple-paragraph passages on topics of interest in the field of American Studies.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to American Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students will need to have their laptop PC available every week. Students must have their PC software updated before class.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 A New World / Intensive vs. Extensive Reading / Project Overview Weeks 4 – 6 A New Nation / Research Skills / Decide Research Topic Weeks 7 – 9 Years of Growth / Process Writing / Open-book Mid-term exam Weeks 10 – 12 Twentieth Century Americans / Finish & Submit Research Paper Weeks 13 – 15 Superpower / Review / Wrap up
教科書	An Illustrated History of the USA (Bryn O'Callaghan) Longman
参考書・資料	On CUBE Moodle
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Each student will choose a topic of interest for their term research project. They will need to write a proposal and get permission from the teacher before proceeding with the project. The research paper should be 1,000 words and include at least 3 English references. Students will also present their findings in their Speech and Discussion Class.
その他	Students may need to have their laptop PC available every week. Students should also have a USB memory stick with at least 1GB of free space. Class materials and quizzes will be provided online via the CUBE Moodle.

授業コード	81C12		
授業科目名	American Studies (2クラス)(前)		
担当者名	TRUSCOTT(トラスコット ジョージ)、LEECH(シェーン リーチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	American Studies is a required semester-long course for first year students. This course explores key areas of study related to the Americas, with a focus on historical, political, economic, social and cultural developments in the United States. Students will be challenged to consider developments in America as they relate to Japan and the broader global context.
到達目標	The main goals of the course are to provide students with a basic understanding of a broad range of topics, issues, challenges, etc. as well as develop reading, writing and critical thinking skills that will help them in their other studies as well as other future endeavors. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. outline major social and political currents in the U.S., b. employ various strategies related to the reading sub-skills, and c. write well-organized, multiple-paragraph passages on topics of interest in the field of American Studies.

講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to American Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 A New World / Intensive vs. Extensive Reading / Project Overview Weeks 4 – 6 A New Nation / Research Skills / Decide Research Topic Weeks 7 – 9 Years of Growth / Process Writing / Open-book Mid-term exam Weeks 10 – 12 Twentieth Century Americans / Finish & Submit Research Paper Weeks 13 – 15 Superpower / Review / Wrap up
教科書	An Illustrated History of the USA (Bryn O'Callaghan) Longman
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Each student will choose a topic of interest for their term research project. They will need to write a proposal and get permission from the teacher before proceeding with the project. The research paper should be 1,000 words and include at least 3 English references. Students will also present their findings in their Speech and Discussion Class.

授業コード	81C13		
授業科目名	American Studies (3クラス)(前)		
担当者名	PETRUCIONE(ペトルシオン スティーヴン)、SILVER(シルバー リチャード)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	American Studies is a required semester-long course for first year students. This course explores key areas of study related to the Americas, with a focus on historical, political, economic, social and cultural developments in the United States. Students will be challenged to consider developments in America as they relate to Japan and the broader global context.
到達目標	The main goals of the course are to provide students with a basic understanding of a broad range of topics, issues, challenges, etc. as well as develop reading, writing and critical thinking skills that will help them in their other studies as well as other future endeavors. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. outline major social and political currents in the U.S., b. employ various strategies related to the reading sub-skills, and c. write well-organized, multiple-paragraph passages on topics of interest in the field of American Studies.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to American Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), learning portfolio (20%) and a research project (20%).

講義構成	Weeks 1 – 3 A New World / Intensive vs. Extensive Reading / Project Overview Weeks 4 – 6 A New Nation / Research Skills / Decide Research Topic Weeks 7 – 9 Years of Growth / Process Writing / Open-book Mid-term exam Weeks 10 – 12 Twentieth Century Americans / Finish & Submit Research Paper Weeks 13 – 15 Superpower / Review / Wrap up
教科書	An Illustrated History of the USA (Bryn O'Callaghan) Longman
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Each student will choose a topic of interest for their term research project. They will need to write a proposal and get permission from the teacher before proceeding with the project. The research paper should be 1,000 words and include at least 3 English references. Students will also present their findings in their Speech and Discussion Class.

授業コード	81C14		
授業科目名	American Studies (4クラス)(前)		
担当者名	ALTHAUS(アルタス デイヴィッド)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	American Studies is a required semester-long course for first year students. This course explores key areas of study related to the Americas, with a focus on historical, political, economic, social and cultural developments in the United States. Students will be challenged to consider developments in America as they relate to Japan and the broader global context.
到達目標	The main goals of the course are to provide students with a basic understanding of a broad range of topics, issues, challenges, etc. as well as develop reading, writing and critical thinking skills that will help them in their other studies as well as other future endeavors. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. outline major social and political currents in the U.S., b. employ various strategies related to the reading sub-skills, and c. write well-organized, multiple-paragraph passages on topics of interest in the field of American Studies.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to American Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 A New World / Intensive vs. Extensive Reading / Project Overview Weeks 4 – 6 A New Nation / Research Skills / Decide Research Topic Weeks 7 – 9 Years of Growth / Process Writing / Open-book Mid-term exam Weeks 10 – 12 Twentieth Century Americans / Finish & Submit Research Paper Weeks 13 – 15 Superpower / Review / Wrap up
教科書	An Illustrated History of the USA (Bryn O'Callaghan) Longman
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any

	assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Each student will choose a topic of interest for their term research project. They will need to write a proposal and get permission from the teacher before proceeding with the project. The research paper should be 1,000 words and include at least 3 English references. Students will also present their findings in their Speech and Discussion Class.

授業コード	81C15		
授業科目名	American Studies (5クラス)(前)		
担当者名	KINGHORN(キングホーン オリバー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 金曜3限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	American Studies is a required semester-long course for first year students. This course explores key areas of study related to the Americas, with a focus on historical, political, economic, social and cultural developments in the United States. Students will be challenged to consider developments in America as they relate to Japan and the broader global context.
到達目標	The main goals of the course are to provide students with a basic understanding of a broad range of topics, issues, challenges, etc. as well as develop reading, writing and critical thinking skills that will help them in their other studies as well as other future endeavors. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. outline major social and political currents in the U.S., b. employ various strategies related to the reading sub-skills, and c. write well-organized, multiple-paragraph passages on topics of interest in the field of American Studies.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to American Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 A New World / Intensive vs. Extensive Reading / Project Overview Weeks 4 – 6 A New Nation / Research Skills / Decide Research Topic Weeks 7 – 9 Years of Growth / Process Writing / Open-book Mid-term exam Weeks 10 – 12 Twentieth Century Americans / Finish & Submit Research Paper Weeks 13 – 15 Superpower / Review / Wrap up
教科書	An Illustrated History of the USA (Bryn O'Callaghan) Longman
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

担当者から一言	Each student will choose a topic of interest for their term research project. They will need to write a proposal and get permission from the teacher before proceeding with the project. The research paper should be 1,000 words and include at least 3 English references. Students will also present their findings in their Speech and Discussion Class.
---------	--

授業コード	81C16
-------	-------

授業科目名	American Studies (6クラス)(前)		
担当者名	ROUAULT Gregory T.(ルーオー グレゴリー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 金曜3限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	American Studies is a required semester-long course for first year students. This course explores key areas of study related to the Americas, with a focus on historical, political, economic, social and cultural developments in the United States. Students will be challenged to consider developments in America as they relate to Japan and the broader global context.
到達目標	The main goals of the course are to provide students with a basic understanding of a broad range of topics, issues, challenges, etc. as well as develop reading, writing and critical thinking skills that will help them in their other studies as well as other future endeavors. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. outline major social and political currents in the U.S., b. employ various strategies related to the reading sub-skills, and c. write well-organized, multiple-paragraph passages on topics of interest in the field of American Studies.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to American Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 A New World / Intensive vs. Extensive Reading / Project Overview Weeks 4 – 6 A New Nation / Research Skills / Decide Research Topic Weeks 7 – 9 Years of Growth / Process Writing / Open-book Mid-term exam Weeks 10 – 12 Twentieth Century Americans / Finish & Submit Research Paper Weeks 13 – 15 Superpower / Review / Wrap up
教科書	An Illustrated History of the USA (Bryn O’Callaghan) Longman
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Each student will choose a topic of interest for their term research project. They will need to write a proposal and get permission from the teacher before proceeding with the project. The research paper should be 1,000 words and include at least 3 English references. Students will also present their findings in their Speech and Discussion Class.

授業コード	81C17		
授業科目名	American Studies (7クラス)(前)		
担当者名	JONES B.(ジョーンズ プレント)、クック(クック ルイーズ ジェニファー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 金曜3限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	American Studies is a required semester-long course for first year students. This course explores key areas of study related to the Americas, with a focus on historical, political, economic, social and cultural developments in the United States. Students will be challenged to consider developments in America as they
-------	---

	relate to Japan and the broader global context.
到達目標	The main goals of the course are to provide students with a basic understanding of a broad range of topics, issues, challenges, etc. as well as develop reading, writing and critical thinking skills that will help them in their other studies as well as other future endeavors. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. outline major social and political currents in the U.S., b. employ various strategies related to the reading sub-skills, and c. write well-organized, multiple-paragraph passages on topics of interest in the field of American Studies.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to American Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 A New World / Intensive vs. Extensive Reading / Project Overview Weeks 4 – 6 A New Nation / Research Skills / Decide Research Topic Weeks 7 – 9 Years of Growth / Process Writing / Open-book Mid-term exam Weeks 10 – 12 Twentieth Century Americans / Finish & Submit Research Paper Weeks 13 – 15 Superpower / Review / Wrap up
教科書	An Illustrated History of the USA (Bryn O'Callaghan) Longman
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Each student will choose a topic of interest for their term research project. They will need to write a proposal and get permission from the teacher before proceeding with the project. The research paper should be 1,000 words and include at least 3 English references. Students will also present their findings in their Speech and Discussion Class.

授業コード	81C18		
授業科目名	American Studies (8クラス)(前)		
担当者名	PETRUCIONE(ペトルシオン スティーヴン)、MILLER(ミラー リチャード)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 金曜3限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	American Studies is a required semester-long course for first year students. This course explores key areas of study related to the Americas, with a focus on historical, political, economic, social and cultural developments in the United States. Students will be challenged to consider developments in America as they relate to Japan and the broader global context.
到達目標	The main goals of the course are to provide students with a basic understanding of a broad range of topics, issues, challenges, etc. as well as develop reading, writing and critical thinking skills that will help them in their other studies as well as other future endeavors. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. outline major social and political currents in the U.S., b. employ various strategies related to the reading sub-skills, and c. write well-organized, multiple-paragraph passages on topics of interest in the field of American Studies.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to American Studies,

	(2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 A New World / Intensive vs. Extensive Reading / Project Overview Weeks 4 – 6 A New Nation / Research Skills / Decide Research Topic Weeks 7 – 9 Years of Growth / Process Writing / Open-book Mid-term exam Weeks 10 – 12 Twentieth Century Americans / Finish & Submit Research Paper Weeks 13 – 15 Superpower / Review / Wrap up
教科書	An Illustrated History of the USA (Bryn O'Callaghan) Longman
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Each student will choose a topic of interest for their term research project. They will need to write a proposal and get permission from the teacher before proceeding with the project. The research paper should be 1,000 words and include at least 3 English references. Students will also present their findings in their Speech and Discussion Class.

授業コード	81C19		
授業科目名	American Studies (9クラス)(前)		
担当者名	JONES B. (ジョーンズ ブレント)、クック(クック ルイーズ ジェニファー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 金曜3限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	American Studies is a required semester-long course for first year students. This course explores key areas of study related to the Americas, with a focus on historical, political, economic, social and cultural developments in the United States. Students will be challenged to consider developments in America as they relate to Japan and the broader global context.
到達目標	The main goals of the course are to provide students with a basic understanding of a broad range of topics, issues, challenges, etc. as well as develop reading, writing and critical thinking skills that will help them in their other studies as well as other future endeavors. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. outline major social and political currents in the U.S., b. employ various strategies related to the reading sub-skills, and c. write well-organized, multiple-paragraph passages on topics of interest in the field of American Studies.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to American Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 A New World / Intensive vs. Extensive Reading / Project Overview Weeks 4 – 6 A New Nation / Research Skills / Decide Research Topic

	Weeks 7 – 9 Years of Growth / Process Writing / Open-book Mid-term exam Weeks 10 – 12 Twentieth Century Americans / Finish & Submit Research Paper Weeks 13 – 15 Superpower / Review / Wrap up
教科書	An Illustrated History of the USA (Bryn O'Callaghan) Longman
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Each student will choose a topic of interest for their term research project. They will need to write a proposal and get permission from the teacher before proceeding with the project. The research paper should be 1,000 words and include at least 3 English references. Students will also present their findings in their Speech and Discussion Class.

授業コード	81F51		
授業科目名	Business Communication (1クラス)(前)		
担当者名	WHITE(ホワイト ショーン)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This will be a four-skills (reading, writing, speaking and listening) course aimed at preparing students for a variety of international business contexts. With its focus on communication, the productive skills of speaking and writing are particularly emphasized in the course. Students will be involved in both individual and group projects such as researching small and medium-sized companies, and writing and presenting simplified business proposals.
到達目標	Upon completion of this course, students will be able to demonstrate the ability to: – introduce orally and in writing a variety of products and services – give a comprehensive overview of a company or small business (both orally and in writing) – use key communication strategies useful in a variety of business settings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific business-related topic, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence. Students will need to have their laptop PC available every week. Students must have their PC software updated before class.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Week 1 – 3 (Make the first contact, Talk about jobs, Talk about companies) Week 4 – 6 (Giving instructions/directions, Go to a restaurant, Place an order) Week 7 – 9 (Talk about projects, Solve problems, Describe products) Week 10 – 12 (Talk about current activities, Compare and discuss, Interview for a job) Week 13 – 15 (Suggest Ideas, Make arrangements, Predict future trends)
教科書	Intelligent Business Skills Book (Irene Barrall & Nikolas Barrall) Pearson Longman – Elementary: ISBN 978-1-4058-8141-8
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit.

	This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Students will need their laptop in the first class.
その他	Students will need to have their laptop PC available every week. Students should also have a USB memory stick with at least 1GB of free space. Class materials and quizzes will be provided online via the CUBE Moodle.

授業コード	81F52		
授業科目名	Business Communication (2クラス)(前)		
担当者名	ROUAULT Gregory T.(ルーオー グレゴリー)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This will be a four-skills (reading, writing, speaking and listening) course aimed at preparing students for a variety of international business contexts. With its focus on communication, the productive skills of speaking and writing are particularly emphasized in the course. Students will be involved in both individual and group projects such as researching small and medium-sized companies, and writing and presenting simplified business proposals.
到達目標	Upon completion of this course, students will be able to demonstrate the ability to: - introduce orally and in writing a variety of products and services - give a comprehensive overview of a company or small business (both orally and in writing) - use key communication strategies useful in a variety of business settings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific business-related topic, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Week 1 – 3 (Make the first contact, Talk about jobs, Talk about companies) Week 4 – 6 (Giving instructions/directions, Go to a restaurant, Place an order) Week 7 – 9 (Talk about projects, Solve problems, Describe products) Week 10 – 12 (Talk about current activities, Compare and discuss, Interview for a job) Week 13 – 15 (Suggest Ideas, Make arrangements, Predict future trends)
教科書	Intelligent Business Skills Book (Irene Barrall & Nikolas Barrall) Pearson Longman – Elementary: ISBN 978-1-4058-8141-8
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F53
授業科目名	Business Communication (3クラス)(前)
担当者名	SILVER(シルバー リチャード)

配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This will be a four-skills (reading, writing, speaking and listening) course aimed at preparing students for a variety of international business contexts. With its focus on communication, the productive skills of speaking and writing are particularly emphasized in the course. Students will be involved in both individual and group projects such as researching small and medium-sized companies, and writing and presenting simplified business proposals.
到達目標	Upon completion of this course, students will be able to demonstrate the ability to: - introduce orally and in writing a variety of products and services - give a comprehensive overview of a company or small business (both orally and in writing) - use key communication strategies useful in a variety of business settings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific business-related topic, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Week 1 – 3 (Make the first contact, Talk about jobs, Talk about companies) Week 4 – 6 (Giving instructions/directions, Go to a restaurant, Place an order) Week 7 – 9 (Talk about projects, Solve problems, Describe products) Week 10 – 12 (Talk about current activities, Compare and discuss, Interview for a job) Week 13 – 15 (Suggest Ideas, Make arrangements, Predict future trends)
教科書	Intelligent Business Skills Book (Irene Barrall & Nikolas Barrall) Pearson Longman – Elementary: ISBN 978-1-4058-8141-8
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F54		
授業科目名	Business Communication (4クラス)(前)		
担当者名	ALTHAUS(アルタス デイヴィッド)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This will be a four-skills (reading, writing, speaking and listening) course aimed at preparing students for a variety of international business contexts. With its focus on communication, the productive skills of speaking and writing are particularly emphasized in the course. Students will be involved in both individual and group projects such as researching small and medium-sized companies, and writing and presenting simplified business proposals.
到達目標	Upon completion of this course, students will be able to demonstrate the ability to: - introduce orally and in writing a variety of products and services - give a comprehensive overview of a company or small business (both orally and in writing) - use key communication strategies useful in a variety of business settings.

講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific business-related topic, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Week 1 – 3 (Make the first contact, Talk about jobs, Talk about companies) Week 4 – 6 (Giving instructions/directions, Go to a restaurant, Place an order) Week 7 – 9 (Talk about projects, Solve problems, Describe products) Week 10 – 12 (Talk about current activities, Compare and discuss, Interview for a job) Week 13 – 15 (Suggest Ideas, Make arrangements, Predict future trends)
教科書	Intelligent Business Skills Book (Irene Barrall & Nikolas Barrall) Pearson Longman – Pre-Intermediate: ISBN 0-582-84692-7
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F55		
授業科目名	Business Communication (5クラス)(前)		
担当者名	WHITE(ホワイト ショーン)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This will be a four-skills (reading, writing, speaking and listening) course aimed at preparing students for a variety of international business contexts. With its focus on communication, the productive skills of speaking and writing are particularly emphasized in the course. Students will be involved in both individual and group projects such as researching small and medium-sized companies, and writing and presenting simplified business proposals.
到達目標	Upon completion of this course, students will be able to demonstrate the ability to: – introduce orally and in writing a variety of products and services – give a comprehensive overview of a company or small business (both orally and in writing) – use key communication strategies useful in a variety of business settings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific business-related topic, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence. Students will need to have their laptop PC available every week. Students must have their PC software updated before class.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a

	learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Week 1 – 3 (Make the first contact, Talk about jobs, Talk about companies) Week 4 – 6 (Giving instructions/directions, Go to a restaurant, Place an order) Week 7 – 9 (Talk about projects, Solve problems, Describe products) Week 10 – 12 (Talk about current activities, Compare and discuss, Interview for a job) Week 13 – 15 (Suggest Ideas, Make arrangements, Predict future trends)
教科書	Intelligent Business Skills Book (Irene Barrall & Nikolas Barrall) Pearson Longman – Elementary: ISBN 978-1-4058-8141-8
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Students will need their laptop in the first class.
その他	Students will need to have their laptop PC available every week. Students should also have a USB memory stick with at least 1GB of free space. Class materials and quizzes will be provided online via the CUBE Moodle.

授業コード	81F56		
授業科目名	Business Communication (6クラス)(前)		
担当者名	PALMER(パーマー ロジャー)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This will be a four-skills (reading, writing, speaking and listening) course aimed at preparing students for a variety of international business contexts. With its focus on communication, the productive skills of speaking and writing are particularly emphasized in the course. Students will be involved in both individual and group projects such as researching small and medium-sized companies, and writing and presenting simplified business proposals.
到達目標	Upon completion of this course, students will be able to demonstrate the ability to: – introduce orally and in writing a variety of products and services – give a comprehensive overview of a company or small business (both orally and in writing) – use key communication strategies useful in a variety of business settings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific business-related topic, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Week 1 – 3 (Make the first contact, Talk about jobs, Talk about companies) Week 4 – 6 (Giving instructions/directions, Go to a restaurant, Place an order) Week 7 – 9 (Talk about projects, Solve problems, Describe products) Week 10 – 12 (Talk about current activities, Compare and discuss, Interview for a job) Week 13 – 15 (Suggest Ideas, Make arrangements, Predict future trends)
教科書	Intelligent Business Skills Book (Irene Barrall & Nikolas Barrall) Pearson Longman – Elementary: ISBN 978-1-4058-8141-8
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made

	up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
--	--

授業コード	81F57		
授業科目名	Business Communication (7クラス)(前)		
担当者名	SILVER(シルバー リチャード)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This will be a four-skills (reading, writing, speaking and listening) course aimed at preparing students for a variety of international business contexts. With its focus on communication, the productive skills of speaking and writing are particularly emphasized in the course. Students will be involved in both individual and group projects such as researching small and medium-sized companies, and writing and presenting simplified business proposals.		
到達目標	Upon completion of this course, students will be able to demonstrate the ability to: – introduce orally and in writing a variety of products and services – give a comprehensive overview of a company or small business (both orally and in writing) – use key communication strategies useful in a variety of business settings.		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific business-related topic, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).		
講義構成	Week 1 – 3 (Make the first contact, Talk about jobs, Talk about companies) Week 4 – 6 (Giving instructions/directions, Go to a restaurant, Place an order) Week 7 – 9 (Talk about projects, Solve problems, Describe products) Week 10 – 12 (Talk about current activities, Compare and discuss, Interview for a job) Week 13 – 15 (Suggest Ideas, Make arrangements, Predict future trends)		
教科書	Intelligent Business Skills Book (Irene Barrall & Nikolas Barrall) Pearson Longman – Elementary: ISBN 978-1-4058-8141-8		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		

授業コード	81F58		
授業科目名	Business Communication (8クラス)(前)		
担当者名	ALTHAUS(アルタス デイヴィッド)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限

特記事項	自動登録科目
講義の内容	This will be a four-skills (reading, writing, speaking and listening) course aimed at preparing students for a variety of international business contexts. With its focus on communication, the productive skills of speaking and writing are particularly emphasized in the course. Students will be involved in both individual and group projects such as researching small and medium-sized companies, and writing and presenting simplified business proposals.
到達目標	Upon completion of this course, students will be able to demonstrate the ability to: - introduce orally and in writing a variety of products and services - give a comprehensive overview of a company or small business (both orally and in writing) - use key communication strategies useful in a variety of business settings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific business-related topic, (2) focused practice on reading sub-skills such as skimming and scanning, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Week 1 - 3 (Make the first contact, Talk about jobs, Talk about companies) Week 4 - 6 (Giving instructions/directions, Go to a restaurant, Place an order) Week 7 - 9 (Talk about projects, Solve problems, Describe products) Week 10 - 12 (Talk about current activities, Compare and discuss, Interview for a job) Week 13 - 15 (Suggest Ideas, Make arrangements, Predict future trends)
教科書	Intelligent Business Skills Book (Irene Barrall & Nikolas Barrall) Pearson Longman - Pre-Intermediate: ISBN 0-582-84692-7
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81002		
授業科目名	CUBE入門(4～5月)(前)		
担当者名	佐藤治正(サトウ ハルマサ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	本講義は、1年次前期8回とし、本学部の設立趣旨、経緯、そして教育内容を解説することにより、甲南大学および本学部の理念、教育方針に対する学生の理解を深めることを目的としている。「フレッシュマンセミナー」と並行して履修することにより、本学部における教育スタイルやカリキュラムの全体像を理解し、学生の主体的な学習姿勢を滋養する。
到達目標	大教室で講師の講義を聴き、内容を理解する力をつける。CUBEの設立の経緯、目指すミッションに対する理解を深め、CUBE生として自覚を育む。
講義方法	(オムニバス方式) 各テーマに関し、教員あるいはゲストスピーカーが講義を行う。
準備学習	CUBE紹介のパンフレットやwebサイトを通じ、CUBEの基本的な知識を習得しておくこと。
成績評価	出席並びに授業への参加態度等で評価する。レポート等課すこともある。

講義構成	1.〔4月 9日(金)〕 CUBE入門 2.〔4月16日(金)〕 甲南ヒラオイズムとCUBE1 3.〔4月23日(金)〕 甲南ヒラオイズムとCUBE2 4.〔4月30日(金)〕 CUBEの授業とカリキュラム 5.〔5月 7日(金)〕 留学・海外 6.〔5月14日(金)〕 就職・キャリア 7.〔5月21日(金)〕 就職・キャリア 8.〔5月28日(金)〕 働くこと・社会活動等 9.〔6月 4日(金)〕 試験
教科書	特になし。

授業コード	81C41		
授業科目名	Discussion and Debate (1クラス)(後)		
担当者名	KINGHORN(キングホーン オリバー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限 金曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on concepts and skills presented in Speech and Discussion. Attention will shift away from prepared speeches toward more natural and spontaneous interaction. Students will work on developing conversation strategies and skills that can be used in variety of settings, including semi-formal debate. Discussion topics will come from the course textbook as well as the content of the Global Challenges course. Students will also participate in a group deliberative polls project.
到達目標	The main goal of Discussion & Debate is to gain experience and confidence in negotiating increasingly sophisticated discussions as well as semi-formal debate. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. use the various debate principles outlined in the course textbook, b. participate in discussions on a variety of topics using a variety of discourse markers, and c. debate assigned topics with persuasive arguments and respond confidently to counter arguments.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to discussion and/or debate (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific discussion or debate skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity for highlighting specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework (25%), mini quizzes (25%) and a deliberative poll project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction / Course Outline Week 2 – Have an opinion (1 – 17) Week 3 – Explaining your opinion (18 – 31) Week 4 – Supporting your opinion (32 – 47) Week 5 – Review / Deliberative Polls Project Week 6 – Organizing your opinion (48 – 61) Week 7 – Refuting explanations (62 – 75) Week 8 – Challenging Supports (76 – 89) Week 9 – Review / Deliberative Polls Project Week 10 – Organizing your refutation (90 – 103) Week 11 – Debating an opinion (104 – 117) Week 12 – Review / Deliberative Polls Project Week 13 – Discover Debate Week 14 – Deliberative Polls Project Week 15 – Deliberative Polls Project
教科書	Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions (M. Lubetsky, C. LeBeau?, D. Harrington)

	Language Solutions, Inc.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81C42		
授業科目名	Discussion and Debate (2クラス)(後)		
担当者名	ROUAULT Gregory T.(ルーオー グレゴリー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限 金曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on concepts and skills presented in Speech and Discussion. Attention will shift away from prepared speeches toward more natural and spontaneous interaction. Students will work on developing conversation strategies and skills that can be used in variety of settings, including semi-formal debate. Discussion topics will come from the course textbook as well as the content of the Global Challenges course. Students will also participate in a group deliberative polls project.
到達目標	The main goal of Discussion & Debate is to gain experience and confidence in negotiating increasingly sophisticated discussions as well as semi-formal debate. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. use the various debate principles outlined in the course textbook, b. participate in discussions on a variety of topics using a variety of discourse markers, and c. debate assigned topics with persuasive arguments and respond confidently to counter arguments.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to discussion and/or debate (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific discussion or debate skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity for highlighting specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework (25%), mini quizzes (25%) and a deliberative poll project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction / Course Outline Week 2 – Have an opinion (1 – 17) Week 3 – Explaining your opinion (18 – 31) Week 4 – Supporting your opinion (32 – 47) Week 5 – Review / Deliberative Polls Project Week 6 – Organizing your opinion (48 – 61) Week 7 – Refuting explanations (62 – 75) Week 8 – Challenging Supports (76 – 89) Week 9 – Review / Deliberative Polls Project Week 10 – Organizing your refutation (90 – 103) Week 11 – Debating an opinion (104 – 117) Week 12 – Review / Deliberative Polls Project Week 13 – Discover Debate Week 14 – Deliberative Polls Project Week 15 – Deliberative Polls Project
教科書	Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions (M. Lubetsky, C. LeBeau?, D. Harrington) Language Solutions, Inc.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit.

	This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
--	--

授業コード	81C43		
授業科目名	Discussion and Debate (3クラス)(後)		
担当者名	PALMER(パーマー ロジャー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限 金曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on concepts and skills presented in Speech and Discussion. Attention will shift away from prepared speeches toward more natural and spontaneous interaction. Students will work on developing conversation strategies and skills that can be used in variety of settings, including semi-formal debate. Discussion topics will come from the course textbook as well as the content of the Global Challenges course. Students will also participate in a group deliberative polls project.		
到達目標	The main goal of Discussion & Debate is to gain experience and confidence in negotiating increasingly sophisticated discussions as well as semi-formal debate. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. use the various debate principles outlined in the course textbook, b. participate in discussions on a variety of topics using a variety of discourse markers, and c. debate assigned topics with persuasive arguments and respond confidently to counter arguments.		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to discussion and/or debate (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific discussion or debate skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity for highlighting specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework (25%), mini quizzes (25%) and a deliberative poll project (25%).		
講義構成	Week 1 – Introduction / Course Outline Week 2 – Have an opinion (1 – 17) Week 3 – Explaining your opinion (18 – 31) Week 4 – Supporting your opinion (32 – 47) Week 5 – Review / Deliberative Polls Project Week 6 – Organizing your opinion (48 – 61) Week 7 – Refuting explanations (62 – 75) Week 8 – Challenging Supports (76 – 89) Week 9 – Review / Deliberative Polls Project Week 10 – Organizing your refutation (90 – 103) Week 11 – Debating an opinion (104 – 117) Week 12 – Review / Deliberative Polls Project Week 13 – Discover Debate Week 14 – Deliberative Polls Project Week 15 – Deliberative Polls Project		
教科書	Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions (M. Lubetsky, C. LeBeau?, D. Harrington) Language Solutions, Inc.		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		

授業コード	81C44		
授業科目名	Discussion and Debate (4クラス)(後)		
担当者名	PETRUCIONE(ペトルシオン スティーヴン)、MILLER(ミラー リチャード)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限 金曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on concepts and skills presented in Speech and Discussion. Attention will shift away from prepared speeches toward more natural and spontaneous interaction. Students will work on developing conversation strategies and skills that can be used in variety of settings, including semi-formal debate. Discussion topics will come from the course textbook as well as the content of the Global Challenges course. Students will also participate in a group deliberative polls project.		
到達目標	The main goal of Discussion & Debate is to gain experience and confidence in negotiating increasingly sophisticated discussions as well as semi-formal debate. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. use the various debate principles outlined in the course textbook, b. participate in discussions on a variety of topics using a variety of discourse markers, and c. debate assigned topics with persuasive arguments and respond confidently to counter arguments.		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to discussion and/or debate (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific discussion or debate skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity for highlighting specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework (25%), mini quizzes (25%) and a deliberative poll project (25%).		
講義構成	Week 1 – Introduction / Course Outline Week 2 – Have an opinion (1 – 17) Week 3 – Explaining your opinion (18 – 31) Week 4 – Supporting your opinion (32 – 47) Week 5 – Review / Deliberative Polls Project Week 6 – Organizing your opinion (48 – 61) Week 7 – Refuting explanations (62 – 75) Week 8 – Challenging Supports (76 – 89) Week 9 – Review / Deliberative Polls Project Week 10 – Organizing your refutation (90 – 103) Week 11 – Debating an opinion (104 – 117) Week 12 – Review / Deliberative Polls Project Week 13 – Discover Debate Week 14 – Deliberative Polls Project Week 15 – Deliberative Polls Project		
教科書	Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions (M. Lubetsky, C. LeBeau?, D. Harrington) Language Solutions, Inc.		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		

授業コード	81C45
-------	-------

授業科目名	Discussion and Debate (5クラス)(後)		
担当者名	WHITE(ホワイト ショーン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 水曜1限
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	This course builds on concepts and skills presented in Speech and Discussion. Attention will shift away from prepared speeches toward more natural and spontaneous interaction. Students will work on developing conversation strategies and skills that can be used in variety of settings, including semi-formal debate. Discussion topics will come from the course textbook as well as the content of the Global Challenges course. Students will also participate in a group deliberative polls project.		
到達目標	The main goal of Discussion & Debate is to gain experience and confidence in negotiating increasingly sophisticated discussions as well as semi-formal debate. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. use the various debate principles outlined in the course textbook, b. participate in discussions on a variety of topics using a variety of discourse markers, and c. debate assigned topics with persuasive arguments and respond confidently to counter arguments.		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to discussion and/or debate (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific discussion or debate skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity for highlighting specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students may need to have their laptop PC available every week. Students must have their PC software updated before class.		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework (25%), mini quizzes (25%) and a deliberative poll project (25%).		
講義構成	Week 1 – Introduction / Course Outline Week 2 – Have an opinion (1 – 17) Week 3 – Explaining your opinion (18 – 31) Week 4 – Supporting your opinion (32 – 47) Week 5 – Review / Deliberative Polls Project Week 6 – Organizing your opinion (48 – 61) Week 7 – Refuting explanations (62 – 75) Week 8 – Challenging Supports (76 – 89) Week 9 – Review / Deliberative Polls Project Week 10 – Organizing your refutation (90 – 103) Week 11 – Debating an opinion (104 – 117) Week 12 – Review / Deliberative Polls Project Week 13 – Discover Debate Week 14 – Deliberative Polls Project Week 15 – Deliberative Polls Project		
教科書	Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions (M. Lubetsky, C. LeBeau?, D. Harrington) Language Solutions, Inc.		
参考書・資料	On Moodle		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		
担当者から一言	Students will need their laptop in the first class.		
その他	Students should also have a USB memory stick with at least 1GB of free space. Class materials and quizzes will be provided online via the CUBE Moodle.		

授業コード	81C46		
授業科目名	Discussion and Debate (6クラス)(後)		
担当者名	TRUSCOTT(トラスコット ジョージ)、LEECH(シェーン リーチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 水曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on concepts and skills presented in Speech and Discussion. Attention will shift away from prepared speeches toward more natural and spontaneous interaction. Students will work on developing conversation strategies and skills that can be used in variety of settings, including semi-formal debate. Discussion topics will come from the course textbook as well as the content of the Global Challenges course. Students will also participate in a group deliberative polls project.
到達目標	The main goal of Discussion & Debate is to gain experience and confidence in negotiating increasingly sophisticated discussions as well as semi-formal debate. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. use the various debate principles outlined in the course textbook, b. participate in discussions on a variety of topics using a variety of discourse markers, and c. debate assigned topics with persuasive arguments and respond confidently to counter arguments.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to discussion and/or debate (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific discussion or debate skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity for highlighting specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework (25%), mini quizzes (25%) and a deliberative poll project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction / Course Outline Week 2 – Have an opinion (1 – 17) Week 3 – Explaining your opinion (18 – 31) Week 4 – Supporting your opinion (32 – 47) Week 5 – Review / Deliberative Polls Project Week 6 – Organizing your opinion (48 – 61) Week 7 – Refuting explanations (62 – 75) Week 8 – Challenging Supports (76 – 89) Week 9 – Review / Deliberative Polls Project Week 10 – Organizing your refutation (90 – 103) Week 11 – Debating an opinion (104 – 117) Week 12 – Review / Deliberative Polls Project Week 13 – Discover Debate Week 14 – Deliberative Polls Project Week 15 – Deliberative Polls Project
教科書	Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions (M. Lubetsky, C. LeBeau?, D. Harrington) Language Solutions, Inc.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81C47
-------	-------

授業科目名	Discussion and Debate (7クラス)(後)		
担当者名	PETRUCIONE(ペトルシオン スティーヴン)、ROUAULT Gregory T.(ルーオー グレゴリー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 水曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course builds on concepts and skills presented in Speech and Discussion. Attention will shift away from prepared speeches toward more natural and spontaneous interaction. Students will work on developing conversation strategies and skills that can be used in variety of settings, including semi-formal debate. Discussion topics will come from the course textbook as well as the content of the Global Challenges course. Students will also participate in a group deliberative polls project.
到達目標	The main goal of Discussion & Debate is to gain experience and confidence in negotiating increasingly sophisticated discussions as well as semi-formal debate. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. use the various debate principles outlined in the course textbook, b. participate in discussions on a variety of topics using a variety of discourse markers, and c. debate assigned topics with persuasive arguments and respond confidently to counter arguments.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to discussion and/or debate (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific discussion or debate skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity for highlighting specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework (25%), mini quizzes (25%) and a deliberative poll project (25%).
講義構成	Week 1 – Introduction / Course Outline Week 2 – Have an opinion (1 – 17) Week 3 – Explaining your opinion (18 – 31) Week 4 – Supporting your opinion (32 – 47) Week 5 – Review / Deliberative Polls Project Week 6 – Organizing your opinion (48 – 61) Week 7 – Refuting explanations (62 – 75) Week 8 – Challenging Supports (76 – 89) Week 9 – Review / Deliberative Polls Project Week 10 – Organizing your refutation (90 – 103) Week 11 – Debating an opinion (104 – 117) Week 12 – Review / Deliberative Polls Project Week 13 – Discover Debate Week 14 – Deliberative Polls Project Week 15 – Deliberative Polls Project
教科書	Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions (M. Lubetsky, C. LeBeau?, D. Harrington) Language Solutions, Inc.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81C48		
授業科目名	Discussion and Debate (8クラス)(後)		
担当者名	ALTHAUS(アルタス デイヴィッド)		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 水曜1限
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	This course builds on concepts and skills presented in Speech and Discussion. Attention will shift away from prepared speeches toward more natural and spontaneous interaction. Students will work on developing conversation strategies and skills that can be used in variety of settings, including semi-formal debate. Discussion topics will come from the course textbook as well as the content of the Global Challenges course. Students will also participate in a group deliberative polls project.		
到達目標	The main goal of Discussion & Debate is to gain experience and confidence in negotiating increasingly sophisticated discussions as well as semi-formal debate. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. use the various debate principles outlined in the course textbook, b. participate in discussions on a variety of topics using a variety of discourse markers, and c. debate assigned topics with persuasive arguments and respond confidently to counter arguments.		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to discussion and/or debate (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific discussion or debate skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity for highlighting specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework (25%), mini quizzes (25%) and a deliberative poll project (25%).		
講義構成	Week 1 – Introduction / Course Outline Week 2 – Have an opinion (1 – 17) Week 3 – Explaining your opinion (18 – 31) Week 4 – Supporting your opinion (32 – 47) Week 5 – Review / Deliberative Polls Project Week 6 – Organizing your opinion (48 – 61) Week 7 – Refuting explanations (62 – 75) Week 8 – Challenging Supports (76 – 89) Week 9 – Review / Deliberative Polls Project Week 10 – Organizing your refutation (90 – 103) Week 11 – Debating an opinion (104 – 117) Week 12 – Review / Deliberative Polls Project Week 13 – Discover Debate Week 14 – Deliberative Polls Project Week 15 – Deliberative Polls Project		
教科書	Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions (M. Lubetsky, C. LeBeau?, D. Harrington) Language Solutions, Inc.		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		

授業コード	81F41		
授業科目名	European Studies (1クラス)(前)		
担当者名	KINGHORN(キングホーン オリバー)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	This is a survey course offering an overview of cultural, economic, historical, social and political developments		

	in Europe. Representative topics include art and fashion, civilization (the West), class struggle, colonialism, democracy, empires within Europe, film and music, the formation and administration of the EU, the green movement, the industrial revolution, multiculturalism, the old regimes, relations with the US and other superpowers, trade and commerce, and the World Wars. Short lectures, readings and movies will be used as a springboard for group discussions and an independent research project. Moreover, students will hone their ability to put their own opinions about study materials into coherent multiple paragraphs, and present their findings in English.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – show a broad grasp of European themes and developments up to the present day – reveal specific knowledge by comparing and contrasting two European states through a written research project that displays analytical skills by looking at events from different points of view – present their research to the class orally while exhibiting critical judgement and a balanced argument
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to European Studies (2) a mini-workshop for developing specific reading or research skills, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).]Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 Historical Overview Weeks 4 – 6 Art and Culture Weeks 7 – 9 Social and Economic Developments Weeks 10 – 12 Political Movements Weeks 13 – 15 Student Presentations
教科書	The instructor will prepare readings (such as a famous folk tale) on specific European societies to introduce weekly topics.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F42		
授業科目名	European Studies (2クラス)(前)		
担当者名	GONZALEZ(ゴンザレス マリア)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a survey course offering an overview of cultural, economic, historical, social and political developments in Europe. Representative topics include art and fashion, civilization (the West), class struggle, colonialism, democracy, empires within Europe, film and music, the formation and administration of the EU, the green movement, the industrial revolution, multiculturalism, the old regimes, relations with the US and other superpowers, trade and commerce, and the World Wars. Short lectures, readings and movies will be used as a springboard for group discussions and an independent research project. Moreover, students will hone their ability to put their own opinions about study materials into coherent multiple paragraphs, and present their findings in English.
-------	--

到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – show a broad grasp of European themes and developments up to the present day – reveal specific knowledge by comparing and contrasting two European states through a written research project that displays analytical skills by looking at events from different points of view – present their research to the class orally while exhibiting critical judgement and a balanced argument
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to European Studies (2) a mini-workshop for developing specific reading or research skills, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 Historical Overview Weeks 4 – 6 Art and Culture Weeks 7 – 9 Social and Economic Developments Weeks 10 – 12 Political Movements Weeks 13 – 15 Student Presentations
教科書	The instructor will prepare readings (such as a famous folk tale) on specific European societies to introduce weekly topics.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F43		
授業科目名	European Studies (3クラス)(前)		
担当者名	PALMER(パーマー ロジャー)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a survey course offering an overview of cultural, economic, historical, social and political developments in Europe. Representative topics include art and fashion, civilization (the West), class struggle, colonialism, democracy, empires within Europe, film and music, the formation and administration of the EU, the green movement, the industrial revolution, multiculturalism, the old regimes, relations with the US and other superpowers, trade and commerce, and the World Wars. Short lectures, readings and movies will be used as a springboard for group discussions and an independent research project. Moreover, students will hone their ability to put their own opinions about study materials into coherent multiple paragraphs, and present their findings in English.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – show a broad grasp of European themes and developments up to the present day – reveal specific knowledge by comparing and contrasting two European states through a written research project that displays analytical skills by looking at events from different points of view – present their research to the class orally while exhibiting critical judgement and a balanced argument

講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to European Studies (2) a mini-workshop for developing specific reading or research skills, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 Historical Overview Weeks 4 – 6 Art and Culture Weeks 7 – 9 Social and Economic Developments Weeks 10 – 12 Political Movements Weeks 13 – 15 Student Presentations
教科書	The instructor will prepare readings (such as a famous folk tale) on specific European societies to introduce weekly topics.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F44		
授業科目名	European Studies (4クラス)(前)		
担当者名	PETRUCIONE (ペトルシオン スティーヴン)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a survey course offering an overview of cultural, economic, historical, social and political developments in Europe. Representative topics include art and fashion, civilization (the West), class struggle, colonialism, democracy, empires within Europe, film and music, the formation and administration of the EU, the green movement, the industrial revolution, multiculturalism, the old regimes, relations with the US and other superpowers, trade and commerce, and the World Wars. Short lectures, readings and movies will be used as a springboard for group discussions and an independent research project. Moreover, students will hone their ability to put their own opinions about study materials into coherent multiple paragraphs, and present their findings in English.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – show a broad grasp of European themes and developments up to the present day – reveal specific knowledge by comparing and contrasting two European states through a written research project that displays analytical skills by looking at events from different points of view – present their research to the class orally while exhibiting critical judgement and a balanced argument
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to European Studies (2) a mini-workshop for developing specific reading or research skills, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.

準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 Historical Overview Weeks 4 – 6 Art and Culture Weeks 7 – 9 Social and Economic Developments Weeks 10 – 12 Political Movements Weeks 13 – 15 Student Presentations
教科書	The instructor will prepare readings (such as a famous folk tale) on specific European societies to introduce weekly topics.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F45		
授業科目名	European Studies (5クラス)(前)		
担当者名	KINGHORN(キングホーン オリバー)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a survey course offering an overview of cultural, economic, historical, social and political developments in Europe. Representative topics include art and fashion, civilization (the West), class struggle, colonialism, democracy, empires within Europe, film and music, the formation and administration of the EU, the green movement, the industrial revolution, multiculturalism, the old regimes, relations with the US and other superpowers, trade and commerce, and the World Wars. Short lectures, readings and movies will be used as a springboard for group discussions and an independent research project. Moreover, students will hone their ability to put their own opinions about study materials into coherent multiple paragraphs, and present their findings in English.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – show a broad grasp of European themes and developments up to the present day – reveal specific knowledge by comparing and contrasting two European states through a written research project that displays analytical skills by looking at events from different points of view – present their research to the class orally while exhibiting critical judgement and a balanced argument
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to European Studies (2) a mini-workshop for developing specific reading or research skills, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).

講義構成	Weeks 1 – 3 Historical Overview Weeks 4 – 6 Art and Culture Weeks 7 – 9 Social and Economic Developments Weeks 10 – 12 Political Movements Weeks 13 – 15 Student Presentations
教科書	The instructor will prepare readings (such as a famous folk tale) on specific European societies to introduce weekly topics.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F46		
授業科目名	European Studies (6クラス)(前)		
担当者名	GONZALEZ(ゴンザレス マリア)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a survey course offering an overview of cultural, economic, historical, social and political developments in Europe. Representative topics include art and fashion, civilization (the West), class struggle, colonialism, democracy, empires within Europe, film and music, the formation and administration of the EU, the green movement, the industrial revolution, multiculturalism, the old regimes, relations with the US and other superpowers, trade and commerce, and the World Wars. Short lectures, readings and movies will be used as a springboard for group discussions and an independent research project. Moreover, students will hone their ability to put their own opinions about study materials into coherent multiple paragraphs, and present their findings in English.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – show a broad grasp of European themes and developments up to the present day – reveal specific knowledge by comparing and contrasting two European states through a written research project that displays analytical skills by looking at events from different points of view – present their research to the class orally while exhibiting critical judgement and a balanced argument
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to European Studies (2) a mini-workshop for developing specific reading or research skills, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 Historical Overview Weeks 4 – 6 Art and Culture Weeks 7 – 9 Social and Economic Developments

	Weeks 10 – 12 Political Movements Weeks 13 – 15 Student Presentations
教科書	The instructor will prepare readings (such as a famous folk tale) on specific European societies to introduce weekly topics.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F47		
授業科目名	European Studies (7クラス)(前)		
担当者名	JONES B.(ジョーンズ プレント)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a survey course offering an overview of cultural, economic, historical, social and political developments in Europe. Representative topics include art and fashion, civilization (the West), class struggle, colonialism, democracy, empires within Europe, film and music, the formation and administration of the EU, the green movement, the industrial revolution, multiculturalism, the old regimes, relations with the US and other superpowers, trade and commerce, and the World Wars. Short lectures, readings and movies will be used as a springboard for group discussions and an independent research project. Moreover, students will hone their ability to put their own opinions about study materials into coherent multiple paragraphs, and present their findings in English.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – show a broad grasp of European themes and developments up to the present day – reveal specific knowledge by comparing and contrasting two European states through a written research project that displays analytical skills by looking at events from different points of view – present their research to the class orally while exhibiting critical judgement and a balanced argument
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to European Studies (2) a mini-workshop for developing specific reading or research skills, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 Historical Overview Weeks 4 – 6 Art and Culture Weeks 7 – 9 Social and Economic Developments Weeks 10 – 12 Political Movements Weeks 13 – 15 Student Presentations
教科書	The instructor will prepare readings (such as a famous folk tale) on specific European societies to introduce weekly topics.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your

	instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
--	---

授業コード	81F48		
授業科目名	European Studies (8クラス)(前)		
担当者名	ROUAULT Gregory T.(ルーオー グレゴリー)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a survey course offering an overview of cultural, economic, historical, social and political developments in Europe. Representative topics include art and fashion, civilization (the West), class struggle, colonialism, democracy, empires within Europe, film and music, the formation and administration of the EU, the green movement, the industrial revolution, multiculturalism, the old regimes, relations with the US and other superpowers, trade and commerce, and the World Wars. Short lectures, readings and movies will be used as a springboard for group discussions and an independent research project. Moreover, students will hone their ability to put their own opinions about study materials into coherent multiple paragraphs, and present their findings in English.		
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – show a broad grasp of European themes and developments up to the present day – reveal specific knowledge by comparing and contrasting two European states through a written research project that displays analytical skills by looking at events from different points of view – present their research to the class orally while exhibiting critical judgement and a balanced argument		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to European Studies (2) a mini-workshop for developing specific reading or research skills, (3) practice with the writing process, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).		
講義構成	Weeks 1 – 3 Historical Overview Weeks 4 – 6 Art and Culture Weeks 7 – 9 Social and Economic Developments Weeks 10 – 12 Political Movements Weeks 13 – 15 Student Presentations		
教科書	The instructor will prepare readings (such as a famous folk tale) on specific European societies to introduce weekly topics.		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		

授業コード	81C21		
授業科目名	Global Challenge (1クラス)(後)		
担当者名	WHITE(ホワイト ショーン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course will be used to explore some of the major challenges facing the world's inhabitants here in Japan, around the rest of Asia and throughout the world. Assigned readings on key issues such as poverty, ethnic and religious strife, biodiversity and global warming will be analyzed and discussed from various perspectives, especially as these issues relate to economic development, consumerism and mismanagement of resources. Students will be asked to generate and evaluate a range of solutions, both conventional and unique, to various environmental, social and political issues. Material will be introduced through stories, personal histories and case studies.		
到達目標	Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. summarize contributing factors to each of the key global challenges, b. critique short readings on these issues c. organize their opinions and impressions in writing.		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) short lecture on a topic or concept related to global issues (2) case study or role play for exploring specific contexts (3) mini workshop for developing critical and lateral thinking skills (4) guided or open discussion on a specific issue (5) task-based or problem-based activity		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students will need to have their laptop PC available every week. Students must have their PC software updated before class.		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework and mini quizzes (25%), learning portfolio (25%), and group research project (25%).		
講義構成	Week 1 – 2 Getting Started with Global Issues (4 – 18) Week 3 – 4 Understanding Population and Carrying Capacity: History, Trends, and Possibilities (19 –30) Week 5 – 6 Meeting Essential Human Needs: Food, Water, and Energy (31 – 46) Week 7 – 8 Environment: Keeping Our House in Order (47 – 65) Week 9 – 11 Quality of Life: Culture, Health, Education, and Human Rights (66 – 92) Week 12 – 13 Building Sustainability: Governance, Economic Development, and Peace (93 – 122) Week 14 – 15 Possible Futures and Sustainable Solutions (123 – 131)		
教科書	It's All Connected: A Comprehensive Guide to Global Issues and Sustainable Solutions (Facing the Future)		
参考書・資料	On CUBE Moodle		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		
担当者から一言	Students will need their laptop in the first class.		
その他	Students will need to have their laptop PC available every week. Students should also have a USB memory stick with at least 1GB of free space. Class materials and quizzes will be provided online via the CUBE Moodle.		

授業コード	81C22
-------	-------

授業科目名	Global Challenge (2クラス)(後)		
担当者名	TRUSCOTT(トラスコット ジョージ)、LEECH(シェーン リーチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course will be used to explore some of the major challenges facing the world's inhabitants here in Japan, around the rest of Asia and throughout the world. Assigned readings on key issues such as poverty, ethnic and religious strife, biodiversity and global warming will be analyzed and discussed from various perspectives, especially as these issues relate to economic development, consumerism and mismanagement of resources. Students will be asked to generate and evaluate a range of solutions, both conventional and unique, to various environmental, social and political issues. Material will be introduced through stories, personal histories and case studies.		
到達目標	Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. summarize contributing factors to each of the key global challenges, b. critique short readings on these issues c. organize their opinions and impressions in writing.		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) short lecture on a topic or concept related to global issues (2) case study or role play for exploring specific contexts (3) mini workshop for developing critical and lateral thinking skills (4) guided or open discussion on a specific issue (5) task-based or problem-based activity		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework and mini quizzes (25%), learning portfolio (25%), and group research project (25%).		
講義構成	Week 1 – 2 Getting Started with Global Issues (4 – 18) Week 3 – 4 Understanding Population and Carrying Capacity: History, Trends, and Possibilities (19 – 30) Week 5 – 6 Meeting Essential Human Needs: Food, Water, and Energy (31 – 46) Week 7 – 8 Environment: Keeping Our House in Order (47 – 65) Week 9 – 11 Quality of Life: Culture, Health, Education, and Human Rights (66 – 92) Week 12 – 13 Building Sustainability: Governance, Economic Development, and Peace (93 – 122) Week 14 – 15 Possible Futures and Sustainable Solutions (123 – 131)		
教科書	It's All Connected: A Comprehensive Guide to Global Issues and Sustainable Solutions (Facing the Future)		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		

授業コード	81C23		
授業科目名	Global Challenge (3クラス)(後)		
担当者名	PETRUCIONE(ペトルシオン スティーヴン)、SILVER(シルバー リチャード)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course will be used to explore some of the major challenges facing the world's inhabitants here in Japan, around the rest of Asia and throughout the world. Assigned readings on key issues such as poverty, ethnic and religious strife, biodiversity and global warming will be analyzed and discussed from various perspectives, especially as these issues relate to economic development, consumerism and mismanagement of resources. Students will be asked to generate and evaluate a range of solutions, both conventional and unique, to various		
-------	--	--	--

	environmental, social and political issues. Material will be introduced through stories, personal histories and case studies.
到達目標	Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. summarize contributing factors to each of the key global challenges, b. critique short readings on these issues c. organize their opinions and impressions in writing.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) short lecture on a topic or concept related to global issues (2) case study or role play for exploring specific contexts (3) mini workshop for developing critical and lateral thinking skills (4) guided or open discussion on a specific issue (5) task-based or problem-based activity
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework and mini quizzes (25%), learning portfolio (25%), and group research project (25%).
講義構成	Week 1 – 2 Getting Started with Global Issues (4 – 18) Week 3 – 4 Understanding Population and Carrying Capacity: History, Trends, and Possibilities (19 –30) Week 5 – 6 Meeting Essential Human Needs: Food, Water, and Energy (31 – 46) Week 7 – 8 Environment: Keeping Our House in Order (47 – 65) Week 9 – 11 Quality of Life: Culture, Health, Education, and Human Rights (66 – 92) Week 12 – 13 Building Sustainability: Governance, Economic Development, and Peace (93 – 122) Week 14 – 15 Possible Futures and Sustainable Solutions (123 – 131)
教科書	It's All Connected: A Comprehensive Guide to Global Issues and Sustainable Solutions (Facing the Future)
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81C24		
授業科目名	Global Challenge (4クラス)(後)		
担当者名	ALTHAUS(アルタス デイヴィッド)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course will be used to explore some of the major challenges facing the world's inhabitants here in Japan, around the rest of Asia and throughout the world. Assigned readings on key issues such as poverty, ethnic and religious strife, biodiversity and global warming will be analyzed and discussed from various perspectives, especially as these issues relate to economic development, consumerism and mismanagement of resources. Students will be asked to generate and evaluate a range of solutions, both conventional and unique, to various environmental, social and political issues. Material will be introduced through stories, personal histories and case studies.
到達目標	Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. summarize contributing factors to each of the key global challenges, b. critique short readings on these issues c. organize their opinions and impressions in writing.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) short lecture on a topic or concept related to global issues (2) case study or role play for exploring specific contexts (3) mini workshop for developing critical and lateral thinking skills (4) guided or open discussion on a specific issue (5) task-based or problem-based activity

準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework and mini quizzes (25%), learning portfolio (25%), and group research project (25%).
講義構成	Week 1 – 2 Getting Started with Global Issues (4 – 18) Week 3 – 4 Understanding Population and Carrying Capacity: History, Trends, and Possibilities (19 –30) Week 5 – 6 Meeting Essential Human Needs: Food, Water, and Energy (31 – 46) Week 7 – 8 Environment: Keeping Our House in Order (47 – 65) Week 9 – 11 Quality of Life: Culture, Health, Education, and Human Rights (66 – 92) Week 12 – 13 Building Sustainability: Governance, Economic Development, and Peace (93 – 122) Week 14 – 15 Possible Futures and Sustainable Solutions (123 – 131)
教科書	It's All Connected: A Comprehensive Guide to Global Issues and Sustainable Solutions (Facing the Future)
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81C25		
授業科目名	Global Challenge (5クラス)(後)		
担当者名	KINGHORN(キングホーン オリバー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 金曜3限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course will be used to explore some of the major challenges facing the world's inhabitants here in Japan, around the rest of Asia and throughout the world. Assigned readings on key issues such as poverty, ethnic and religious strife, biodiversity and global warming will be analyzed and discussed from various perspectives, especially as these issues relate to economic development, consumerism and mismanagement of resources. Students will be asked to generate and evaluate a range of solutions, both conventional and unique, to various environmental, social and political issues. Material will be introduced through stories, personal histories and case studies.
到達目標	Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. summarize contributing factors to each of the key global challenges, b. critique short readings on these issues c. organize their opinions and impressions in writing.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) short lecture on a topic or concept related to global issues (2) case study or role play for exploring specific contexts (3) mini workshop for developing critical and lateral thinking skills (4) guided or open discussion on a specific issue (5) task-based or problem-based activity
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework and mini quizzes (25%), learning portfolio (25%), and group research project (25%).
講義構成	Week 1 – 2 Getting Started with Global Issues (4 – 18) Week 3 – 4 Understanding Population and Carrying Capacity: History, Trends, and Possibilities (19 –30) Week 5 – 6 Meeting Essential Human Needs: Food, Water, and Energy (31 – 46) Week 7 – 8 Environment: Keeping Our House in Order (47 – 65) Week 9 – 11 Quality of Life: Culture, Health, Education, and Human Rights (66 – 92) Week 12 – 13 Building Sustainability: Governance, Economic Development, and Peace (93 – 122) Week 14 – 15 Possible Futures and Sustainable Solutions (123 – 131)
教科書	It's All Connected: A Comprehensive Guide to Global Issues and Sustainable Solutions (Facing the Future)

講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
--------	---

授業コード	81C26		
授業科目名	Global Challenge (6クラス)(後)		
担当者名	ROUAULT Gregory T.(ルーオー グレゴリー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 金曜3限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course will be used to explore some of the major challenges facing the world's inhabitants here in Japan, around the rest of Asia and throughout the world. Assigned readings on key issues such as poverty, ethnic and religious strife, biodiversity and global warming will be analyzed and discussed from various perspectives, especially as these issues relate to economic development, consumerism and mismanagement of resources. Students will be asked to generate and evaluate a range of solutions, both conventional and unique, to various environmental, social and political issues. Material will be introduced through stories, personal histories and case studies.
到達目標	Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. summarize contributing factors to each of the key global challenges, b. critique short readings on these issues c. organize their opinions and impressions in writing.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) short lecture on a topic or concept related to global issues (2) case study or role play for exploring specific contexts (3) mini workshop for developing critical and lateral thinking skills (4) guided or open discussion on a specific issue (5) task-based or problem-based activity
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework and mini quizzes (25%), learning portfolio (25%), and group research project (25%).
講義構成	Week 1 – 2 Getting Started with Global Issues (4 – 18) Week 3 – 4 Understanding Population and Carrying Capacity: History, Trends, and Possibilities (19 –30) Week 5 – 6 Meeting Essential Human Needs: Food, Water, and Energy (31 – 46) Week 7 – 8 Environment: Keeping Our House in Order (47 – 65) Week 9 – 11 Quality of Life: Culture, Health, Education, and Human Rights (66 – 92) Week 12 – 13 Building Sustainability: Governance, Economic Development, and Peace (93 – 122) Week 14 – 15 Possible Futures and Sustainable Solutions (123 – 131)
教科書	It's All Connected: A Comprehensive Guide to Global Issues and Sustainable Solutions (Facing the Future)
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81C27
授業科目名	Global Challenge (7クラス)(後)
担当者名	JONES B.(ジョーンズ ブレント)、クック(クック ルイーズ ジェニファー)

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 金曜3限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course will be used to explore some of the major challenges facing the world's inhabitants here in Japan, around the rest of Asia and throughout the world. Assigned readings on key issues such as poverty, ethnic and religious strife, biodiversity and global warming will be analyzed and discussed from various perspectives, especially as these issues relate to economic development, consumerism and mismanagement of resources. Students will be asked to generate and evaluate a range of solutions, both conventional and unique, to various environmental, social and political issues. Material will be introduced through stories, personal histories and case studies.
到達目標	Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. summarize contributing factors to each of the key global challenges, b. critique short readings on these issues c. organize their opinions and impressions in writing.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) short lecture on a topic or concept related to global issues (2) case study or role play for exploring specific contexts (3) mini workshop for developing critical and lateral thinking skills (4) guided or open discussion on a specific issue (5) task-based or problem-based activity
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework and mini quizzes (25%), learning portfolio (25%), and group research project (25%).
講義構成	Week 1 – 2 Getting Started with Global Issues (4 – 18) Week 3 – 4 Understanding Population and Carrying Capacity: History, Trends, and Possibilities (19 –30) Week 5 – 6 Meeting Essential Human Needs: Food, Water, and Energy (31 – 46) Week 7 – 8 Environment: Keeping Our House in Order (47 – 65) Week 9 – 11 Quality of Life: Culture, Health, Education, and Human Rights (66 – 92) Week 12 – 13 Building Sustainability: Governance, Economic Development, and Peace (93 – 122) Week 14 – 15 Possible Futures and Sustainable Solutions (123 – 131)
教科書	It's All Connected: A Comprehensive Guide to Global Issues and Sustainable Solutions (Facing the Future)
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81C28		
授業科目名	Global Challenge (8クラス)(後)		
担当者名	PETRUCIONE(ペトルシオン スティーヴン)、MILLER(ミラー リチャード)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 金曜3限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course will be used to explore some of the major challenges facing the world's inhabitants here in Japan, around the rest of Asia and throughout the world. Assigned readings on key issues such as poverty, ethnic and religious strife, biodiversity and global warming will be analyzed and discussed from various perspectives, especially as these issues relate to economic development, consumerism and mismanagement of resources. Students will be asked to generate and evaluate a range of solutions, both conventional and unique, to various environmental, social and political issues. Material will be introduced through stories, personal histories and case studies.
到達目標	Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to:

	a. summarize contributing factors to each of the key global challenges, b. critique short readings on these issues c. organize their opinions and impressions in writing.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) short lecture on a topic or concept related to global issues (2) case study or role play for exploring specific contexts (3) mini workshop for developing critical and lateral thinking skills (4) guided or open discussion on a specific issue (5) task-based or problem-based activity
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), homework and mini quizzes (25%), learning portfolio (25%), and group research project (25%).
講義構成	Week 1 – 2 Getting Started with Global Issues (4 – 18) Week 3 – 4 Understanding Population and Carrying Capacity: History, Trends, and Possibilities (19 – 30) Week 5 – 6 Meeting Essential Human Needs: Food, Water, and Energy (31 – 46) Week 7 – 8 Environment: Keeping Our House in Order (47 – 65) Week 9 – 11 Quality of Life: Culture, Health, Education, and Human Rights (66 – 92) Week 12 – 13 Building Sustainability: Governance, Economic Development, and Peace (93 – 122) Week 14 – 15 Possible Futures and Sustainable Solutions (123 – 131)
教科書	It's All Connected: A Comprehensive Guide to Global Issues and Sustainable Solutions (Facing the Future)
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81A71		
授業科目名	ITベーシック（1クラス）(前)		
担当者名	新谷公朗(シンタニ キミオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本授業では、高度情報化社会における基礎的な素養となる、ICT(Information & Communication Technology)に関する知識と技術を学ぶ。Officeソフトウェア、オペレーティング・システム、ネットワーク(WWW,Mail,SNSなど)の演習を通じて実践的に学習する。また、社会問題となっている、情報倫理、ネットワークセキュリティ、著作権などの情報化社会が抱える課題についても学ぶ。これらの学習を通じて、日々発展するICTを活用するための基本的な情報活用能力を獲得する
到達目標	ワープロ、表計算、プレゼンなどを使いこなし、パソコンを課題解決ツールとして利用できる。
講義方法	パソコンを使った演習(PC教室ならびに個人所有ノートパソコン)
準備学習	個人所有のノートパソコンを使って、パソコンに慣れておくこと。
成績評価	課題、出席、グループワークなどを総合的に判断する
講義構成	1. オリエンテーションとCUBEの情報設備の使い方 2. 情報倫理と情報発信・検索 3. Wordを使っの文章作成(1) 4. Wordを使っの文章作成(2) 5. Wordを使っの文章作成(3) 6. Excelを使っのデータ集計・加工(1) 7. Excelを使っのデータ集計・加工(2) 8. Excelを使っのデータ集計・加工(3) 9. Excelを使っのデータ集計・加工(3) 10. PowerPointを使っのプレゼンテーション(1)

	11. PowerPointを使っのプレゼンテーション(2) 12. グループワーク(1) 13. グループワーク(2) 14. グループワーク(3) 15. グループワーク(4)
教科書	教科書は用いない。電子教材などを使用する。
参考書・資料	授業時に適宜指示する
講義関連事項	課題などの連絡、提出など、授業に関するすべての事柄はMyKONANを利用する

授業コード	81A72		
授業科目名	ITベーシック（2クラス）(前)		
担当者名	井上 明（イノウエ アキラ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本授業では、高度情報化社会における基礎的な素養となる、ICT(Information & Communication Technology)に関する知識と技術を学ぶ。Officeソフトウェア、オペレーティング・システム、ネットワーク(WWW,Mail,SNSなど)の演習を通じて実践的に学習する。また、社会問題となっている、情報倫理、ネットワークセキュリティ、著作権などの情報化社会が抱える課題についても学ぶ。これらの学習を通じて、日々発展するICTを活用するための基本的な情報活用能力を獲得する		
到達目標	ワープロ、表計算、プレゼンなどを使いこなし、パソコンを課題解決ツールとして利用できる。		
講義方法	パソコンを使った演習（PC教室ならびに個人所有ノートパソコン）		
準備学習	個人所有のノートパソコンを使って、パソコンに慣れておくこと。		
成績評価	課題、出席、グループワークなどを総合的に判断する		
講義構成	1. オリエンテーションとCUBEの情報設備の使い方 2. 情報倫理と情報発信・検索 3. Wordを使っの文章作成（1） 4. Wordを使っの文章作成（2） 5. Wordを使っの文章作成（3） 6. Excelを使っのデータ集計・加工（1） 7. Excelを使っのデータ集計・加工（2） 8. Excelを使っのデータ集計・加工（3） 9. Excelを使っのデータ集計・加工（3） 10. PowerPointを使っのプレゼンテーション（1） 11. PowerPointを使っのプレゼンテーション（2） 12. グループワーク（1） 13. グループワーク（2） 14. グループワーク（3） 15. グループワーク（4）		
教科書	教科書は用いない。電子教材などを使用する。		
参考書・資料	授業時に適宜指示する		
講義関連事項	課題などの連絡、提出など、授業に関するすべての事柄はMyKONANを利用する		

授業コード	81A73		
授業科目名	ITベーシック（3クラス）(前)		
担当者名	中川隆広（ナカガワ タカヒロ）		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	随時		
講義の内容	本授業では、高度情報化社会における基礎的な素養となる、ICT(Information & Communication Technology)に関する知識と技術を学ぶ。Officeソフトウェア、オペレーティング・システム、ネットワーク(WWW,Mail,SNSなど)の演習を通じて実践的に学習する。また、社会問題となっている、情報倫理、ネットワークセキュリティ、著作権などの情報化社会が抱える課題についても学ぶ。これらの学習を通じて、日々発展するICTを活用するための基本的な情報活用能力を獲得する		
到達目標	ワープロ、表計算、プレゼンなどを使いこなし、パソコンを課題解決ツールとして利用できる。		
講義方法	パソコンを使った演習(PC教室ならびに個人所有ノートパソコン)		
準備学習	個人所有のノートパソコンを使って、パソコンに慣れておくこと。		
成績評価	課題、出席、グループワークなどを総合的に判断する		
講義構成	1. オリエンテーションとCUBEの情報設備の使い方 2. 情報倫理と情報発信・検索 3. Wordを使つての文章作成(1) 4. Wordを使つての文章作成(2) 5. Wordを使つての文章作成(3) 6. Excelを使つてのデータ集計・加工(1) 7. Excelを使つてのデータ集計・加工(2) 8. Excelを使つてのデータ集計・加工(3) 9. Excelを使つてのデータ集計・加工(3) 10. PowerPointを使つてのプレゼンテーション(1) 11. PowerPointを使つてのプレゼンテーション(2) 12. グループワーク(1) 13. グループワーク(2) 14. グループワーク(3) 15. グループワーク(4)		
教科書	教科書は用いない。電子教材などを使用する。		
参考書・資料	授業時に適宜指示する		
講義関連事項	課題などの連絡、提出など、授業に関するすべての事柄はMyKONANを利用する		

授業コード	81A74		
授業科目名	ITベーシック(4クラス)(前)		
担当者名	中川隆広(ナカガワ タカヒロ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本授業では、高度情報化社会における基礎的な素養となる、ICT(Information & Communication Technology)に関する知識と技術を学ぶ。Officeソフトウェア、オペレーティング・システム、ネットワーク(WWW,Mail,SNSなど)の演習を通じて実践的に学習する。また、社会問題となっている、情報倫理、ネットワークセキュリティ、著作権などの情報化社会が抱える課題についても学ぶ。これらの学習を通じて、日々発展するICTを活用するための基本的な情報活用能力を獲得する		
到達目標	ワープロ、表計算、プレゼンなどを使いこなし、パソコンを課題解決ツールとして利用できる。		
講義方法	パソコンを使った演習(PC教室ならびに個人所有ノートパソコン)		
準備学習	個人所有のノートパソコンを使って、パソコンに慣れておくこと。		
成績評価	課題、出席、グループワークなどを総合的に判断する		
講義構成	1. オリエンテーションとCUBEの情報設備の使い方 2. 情報倫理と情報発信・検索 3. Wordを使つての文章作成(1)		

	4. Wordを使つての文章作成(2) 5. Wordを使つての文章作成(3) 6. Excelを使つてのデータ集計・加工(1) 7. Excelを使つてのデータ集計・加工(2) 8. Excelを使つてのデータ集計・加工(3) 9. Excelを使つてのデータ集計・加工(3) 10. PowerPointを使つてのプレゼンテーション(1) 11. PowerPointを使つてのプレゼンテーション(2) 12. グループワーク(1) 13. グループワーク(2) 14. グループワーク(3) 15. グループワーク(4)
教科書	教科書は用いない。電子教材などを使用する。
参考書・資料	授業時に適宜指示する
講義関連事項	課題などの連絡、提出など、授業に関するすべての事柄はMyKONANを利用する

授業コード	81F31		
授業科目名	Japan Studies (1クラス)(前)		
担当者名	WHITE(ホワイト ショーン)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	In this course, students will be involved in reading, writing and speaking about and listening to a wide variety of Japan-related topics. Topics will include major historical events, cultural comparisons, social issues and economics. The overall aim of the course is to develop overall English language and critical thinking skills through engagement in the course content.
到達目標	Upon completion of the course, students will need to demonstrate the ability to (1) read with comprehension increasingly difficult passages on topics related to Japan Studies, (2) write a cohesive multi-paragraph essay on a Japan-related topic agreed upon with the instructor, (3) critique short passages or classmates' essays in terms of readability, depth of expression and logical reasoning, (4) lead a discussion on a Japan-related topic from the assigned readings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to Japan Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as scanning and skimming, (3) practice with the writing process, (4) a teacher or student-led communicative exercise in pairs or small groups, and (5) a problem or task-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), out-of-class reading and writing assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 Intro to Japan Studies/Multiple Perspectives Textbook chapters 1 – 3 Weeks 4 – 6 Decide Research Theme/Research Skills Textbook chapters 4 – 6 Weeks 7 – 9 Thesis Statement/Outline Textbook chapters 7 – 9 Weeks 10 – 12 Multiple Drafts/Peer Review Textbook chapters 10 – 12 Weeks 13 – 14 Student Presentations/Final Submission
教科書	Insights: Critical Thinking through Cross-Cultural Essays from The Japan Times (Shaules & Miyazoe) Nan'un-do Publishing.

参考書・資料	(1) Shutting Out the Sun: How Japan Created Its Own Lost Generation (M. Zielenziger) (2) The Japanese Mind: Understanding Contemporary Culture (Osamu Ikeno & Roger J. Davies), Other materials may be presented on CUBE Moodle.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Students will need their laptop in the first class.
その他	Students will need to have their laptop PC available every week. Students should also have a USB memory stick with at least 1GB of free space. Class materials and quizzes will be provided online via the CUBE Moodle.

授業コード	81F32		
授業科目名	Japan Studies (2クラス)(前)		
担当者名	TRUSCOTT(トラスコット ジョージ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	In this course, students will be involved in reading, writing and speaking about and listening to a wide variety of Japan-related topics. Topics will include major historical events, cultural comparisons, social issues and economics. The overall aim of the course is to develop overall English language and critical thinking skills through engagement in the course content.
到達目標	Upon completion of the course, students will need to demonstrate the ability to (1) read with comprehension increasingly difficult passages on topics related to Japan Studies, (2) write a cohesive multi-paragraph essay on a Japan-related topic agreed upon with the instructor, (3) critique short passages or classmates' essays in terms of readability, depth of expression and logical reasoning, (4) lead a discussion on a Japan-related topic from the assigned readings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to Japan Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as scanning and skimming, (3) practice with the writing process, (4) a teacher or student-led communicative exercise in pairs or small groups, and (5) a problem or task-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), out-of-class reading and writing assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 Intro to Japan Studies/Multiple Perspectives Textbook chapters 1 – 3 Weeks 4 – 6 Decide Research Theme/Research Skills Textbook chapters 4 – 6 Weeks 7 – 9 Thesis Statement/Outline Textbook chapters 7 – 9 Weeks 10 – 12 Multiple Drafts/Peer Review Textbook chapters 10 – 12 Weeks 13 – 14 Student Presentations/Final Submission
教科書	Insights: Critical Thinking through Cross-Cultural Essays from The Japan Times (Shaules & Miyazoe) Nan'un-do Publishing.
参考書・資料	(1) Shutting Out the Sun: How Japan Created Its Own Lost Generation (M. Zielenziger) (2) The Japanese Mind: Understanding Contemporary Culture (Osamu Ikeno & Roger J. Davies).
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in

	advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
--	---

授業コード	81F33		
授業科目名	Japan Studies (3クラス)(前)		
担当者名	JONES B.(ジョーンズ プレント)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	In this course, students will be involved in reading, writing and speaking about and listening to a wide variety of Japan-related topics. Topics will include major historical events, cultural comparisons, social issues and economics. The overall aim of the course is to develop overall English language and critical thinking skills through engagement in the course content.		
到達目標	Upon completion of the course, students will need to demonstrate the ability to (1) read with comprehension increasingly difficult passages on topics related to Japan Studies, (2) write a cohesive multi-paragraph essay on a Japan-related topic agreed upon with the instructor, (3) critique short passages or classmates' essays in terms of readability, depth of expression and logical reasoning, (4) lead a discussion on a Japan-related topic from the assigned readings.		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to Japan Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as scanning and skimming, (3) practice with the writing process, (4) a teacher or student-led communicative exercise in pairs or small groups, and (5) a problem or task-based activity with presentation of findings.		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), out-of-class reading and writing assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).		
講義構成	Weeks 1 – 3 Intro to Japan Studies/Multiple Perspectives Textbook chapters 1 – 3 Weeks 4 – 6 Decide Research Theme/Research Skills Textbook chapters 4 – 6 Weeks 7 – 9 Thesis Statement/Outline Textbook chapters 7 – 9 Weeks 10 – 12 Multiple Drafts/Peer Review Textbook chapters 10 – 12 Weeks 13 – 14 Student Presentations/Final Submission		
教科書	Insights: Critical Thinking through Cross-Cultural Essays from The Japan Times (Shaules & Miyazoe) Nan'un-do Publishing.		
参考書・資料	(1) Shutting Out the Sun: How Japan Created Its Own Lost Generation (M. Zielenziger) (2) The Japanese Mind: Understanding Contemporary Culture (Osamu Ikeno & Roger J. Davies).		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		

授業コード	81F34
-------	-------

授業科目名	Japan Studies (4クラス)(前)		
担当者名	ALTHAUS(アルタス デイヴィッド)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	In this course, students will be involved in reading, writing and speaking about and listening to a wide variety of Japan-related topics. Topics will include major historical events, cultural comparisons, social issues and economics. The overall aim of the course is to develop overall English language and critical thinking skills through engagement in the course content.
到達目標	Upon completion of the course, students will need to demonstrate the ability to (1) read with comprehension increasingly difficult passages on topics related to Japan Studies, (2) write a cohesive multi-paragraph essay on a Japan-related topic agreed upon with the instructor, (3) critique short passages or classmates' essays in terms of readability, depth of expression and logical reasoning, (4) lead a discussion on a Japan-related topic from the assigned readings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to Japan Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as scanning and skimming, (3) practice with the writing process, (4) a teacher or student-led communicative exercise in pairs or small groups, and (5) a problem or task-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), out-of-class reading and writing assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 Intro to Japan Studies/Multiple Perspectives Textbook chapters 1 – 3 Weeks 4 – 6 Decide Research Theme/Research Skills Textbook chapters 4 – 6 Weeks 7 – 9 Thesis Statement/Outline Textbook chapters 7 – 9 Weeks 10 – 12 Multiple Drafts/Peer Review Textbook chapters 10 – 12 Weeks 13 – 14 Student Presentations/Final Submission
教科書	Insights: Critical Thinking through Cross-Cultural Essays from The Japan Times (Shaules & Miyazoe) Nan'un-do Publishing.
参考書・資料	(1) Shutting Out the Sun: How Japan Created Its Own Lost Generation (M. Zielenziger) (2) The Japanese Mind: Understanding Contemporary Culture (Osamu Ikeno & Roger J. Davies).
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F35		
授業科目名	Japan Studies (5クラス)(前)		
担当者名	WHITE(ホワイト ショーン)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	In this course, students will be involved in reading, writing and speaking about and listening to a wide variety of Japan-related topics. Topics will include major historical events, cultural comparisons, social issues and economics. The overall aim of the course is to develop overall English language and critical thinking skills through engagement in the course content.
到達目標	Upon completion of the course, students will need to demonstrate the ability to (1) read with comprehension increasingly difficult passages on topics related to Japan Studies, (2) write a cohesive multi-paragraph essay on a Japan-related topic agreed upon with the instructor, (3) critique short passages or classmates' essays in terms of readability, depth of expression and logical reasoning, (4) lead a discussion on a Japan-related topic from the assigned readings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to Japan Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as scanning and skimming, (3) practice with the writing process, (4) a teacher or student-led communicative exercise in pairs or small groups, and (5) a problem or task-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), out-of-class reading and writing assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 Intro to Japan Studies/Multiple Perspectives Textbook chapters 1 – 3 Weeks 4 – 6 Decide Research Theme/Research Skills Textbook chapters 4 – 6 Weeks 7 – 9 Thesis Statement/Outline Textbook chapters 7 – 9 Weeks 10 – 12 Multiple Drafts/Peer Review Textbook chapters 10 – 12 Weeks 13 – 14 Student Presentations/Final Submission
教科書	Insights: Critical Thinking through Cross-Cultural Essays from The Japan Times (Shaules & Miyazoe) Nan'un-do Publishing.
参考書・資料	(1) Shutting Out the Sun: How Japan Created Its Own Lost Generation (M. Zielenziger) (2) The Japanese Mind: Understanding Contemporary Culture (Osamu Ikeno & Roger J. Davies), Other materials may be presented on CUBE Moodle.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Students will need their laptop in the first class.
その他	Students will need to have their laptop PC available every week. Students should also have a USB memory stick with at least 1GB of free space. Class materials and quizzes will be provided online via the CUBE Moodle.

授業コード	81F36		
授業科目名	Japan Studies (6クラス)(前)		
担当者名	TRUSCOTT(トラスコット ジョージ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	In this course, students will be involved in reading, writing and speaking about and listening to a wide variety of Japan-related topics. Topics will include major historical events, cultural comparisons, social issues and economics. The overall aim of the course is to develop overall English language and critical thinking skills		

	through engagement in the course content.
到達目標	Upon completion of the course, students will need to demonstrate the ability to (1) read with comprehension increasingly difficult passages on topics related to Japan Studies, (2) write a cohesive multi-paragraph essay on a Japan-related topic agreed upon with the instructor, (3) critique short passages or classmates' essays in terms of readability, depth of expression and logical reasoning, (4) lead a discussion on a Japan-related topic from the assigned readings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to Japan Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as scanning and skimming, (3) practice with the writing process, (4) a teacher or student-led communicative exercise in pairs or small groups, and (5) a problem or task-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), out-of-class reading and writing assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 Intro to Japan Studies/Multiple Perspectives Textbook chapters 1 – 3 Weeks 4 – 6 Decide Research Theme/Research Skills Textbook chapters 4 – 6 Weeks 7 – 9 Thesis Statement/Outline Textbook chapters 7 – 9 Weeks 10 – 12 Multiple Drafts/Peer Review Textbook chapters 10 – 12 Weeks 13 – 14 Student Presentations/Final Submission
教科書	Insights: Critical Thinking through Cross-Cultural Essays from The Japan Times (Shaules & Miyazoe) Nan'un-do Publishing.
参考書・資料	(1) Shutting Out the Sun: How Japan Created Its Own Lost Generation (M. Zielenziger) (2) The Japanese Mind: Understanding Contemporary Culture (Osamu Ikeno & Roger J. Davies).
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F37		
授業科目名	Japan Studies (7クラス)(前)		
担当者名	ROUAULT Gregory T.(ルーオー グレゴリー)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	In this course, students will be involved in reading, writing and speaking about and listening to a wide variety of Japan-related topics. Topics will include major historical events, cultural comparisons, social issues and economics. The overall aim of the course is to develop overall English language and critical thinking skills through engagement in the course content.
到達目標	Upon completion of the course, students will need to demonstrate the ability to (1) read with comprehension increasingly difficult passages on topics related to Japan Studies, (2) write a cohesive multi-paragraph essay on a Japan-related topic agreed upon with the instructor, (3) critique short passages or classmates' essays in terms of readability, depth of expression and logical reasoning, (4) lead a discussion on a Japan-related topic from the assigned readings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following:

	(1) a short lecture on a specific topic related to Japan Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as scanning and skimming, (3) practice with the writing process, (4) a teacher or student-led communicative exercise in pairs or small groups, and (5) a problem or task-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), out-of-class reading and writing assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 Intro to Japan Studies/Multiple Perspectives Textbook chapters 1 – 3 Weeks 4 – 6 Decide Research Theme/Research Skills Textbook chapters 4 – 6 Weeks 7 – 9 Thesis Statement/Outline Textbook chapters 7 – 9 Weeks 10 – 12 Multiple Drafts/Peer Review Textbook chapters 10 – 12 Weeks 13 – 14 Student Presentations/Final Submission
教科書	Insights: Critical Thinking through Cross-Cultural Essays from The Japan Times (Shaules & Miyazoe) Nan'un-do Publishing.
参考書・資料	(1) Shutting Out the Sun: How Japan Created Its Own Lost Generation (M. Zielenziger) (2) The Japanese Mind: Understanding Contemporary Culture (Osamu Ikeno & Roger J. Davies).
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F38		
授業科目名	Japan Studies (8クラス)(前)		
担当者名	ALTHAUS(アルタス デイヴィッド)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	In this course, students will be involved in reading, writing and speaking about and listening to a wide variety of Japan-related topics. Topics will include major historical events, cultural comparisons, social issues and economics. The overall aim of the course is to develop overall English language and critical thinking skills through engagement in the course content.
到達目標	Upon completion of the course, students will need to demonstrate the ability to (1) read with comprehension increasingly difficult passages on topics related to Japan Studies, (2) write a cohesive multi-paragraph essay on a Japan-related topic agreed upon with the instructor, (3) critique short passages or classmates' essays in terms of readability, depth of expression and logical reasoning, (4) lead a discussion on a Japan-related topic from the assigned readings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to Japan Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as scanning and skimming, (3) practice with the writing process, (4) a teacher or student-led communicative exercise in pairs or small groups, and (5) a problem or task-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable

	topic sentence.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), out-of-class reading and writing assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Weeks 1 – 3 Intro to Japan Studies/Multiple Perspectives Textbook chapters 1 – 3 Weeks 4 – 6 Decide Research Theme/Research Skills Textbook chapters 4 – 6 Weeks 7 – 9 Thesis Statement/Outline Textbook chapters 7 – 9 Weeks 10 – 12 Multiple Drafts/Peer Review Textbook chapters 10 – 12 Weeks 13 – 14 Student Presentations/Final Submission
教科書	Insights: Critical Thinking through Cross-Cultural Essays from The Japan Times (Shaules & Miyazoe) Nan'un-do Publishing.
参考書・資料	(1) Shutting Out the Sun: How Japan Created Its Own Lost Generation (M. Zielenziger) (2) The Japanese Mind: Understanding Contemporary Culture (Osamu Ikeno & Roger J. Davies).
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81M11		
授業科目名	Media Studies（1クラス）(後)		
担当者名	ALTHAUS(アルタス デイヴィッド)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	抽選科目		

講義の内容	Film Studies Media Studies acquaints the students with the history and fields of media culture and the methods of media analysis and critique. Different parts of media culture and their development are studied and taught as historical, aesthetic, technological, and social phenomena. This course will challenge students to think about what makes a movie good or bad. This course uses a centralized theme and an Australian angle with the director Peter Weir, to challenge meanings of race, ethnicity and society. The course will follow the early Australian work of Peter Weir from Gallipoli, Picnic at Hanging Rock, The Last Wave, to Hollywood movies, Witness, The Dead Poet's Society and Fearless. The course will 'cover' a movie every 3 weeks, that is, 5 movies over 15 weeks. In addition, the students will also do a close study of one movie for the whole semester.
到達目標	Upon completion of the course, students will need to demonstrate the ability to (1) research and understand film genre, story and plot, characters and setting, (2) show evidence of analytical ability by writing about the issues and themes in reflective notes on the bigger important questions, (3) lead a discussion on an issue or theme arising from one of the movies, (4) critique classmates' online reviews at {http://www.imdb.com/}, (5) communicate an argument, either through a presentation or analysis of a particular film sequence.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to Film Studies, (2) student led discussion of the movie being studied, (3) a short writing piece about the genre, story and plot of the movie assigned, (4) a contextualized viewing of the assigned movie, (5) a problem or task-based activity after each movie.

準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students must make time to watch the movies before class. Students also need to think critically about the issues and themes presented in the films and write a cohesive and well thought out piece of writing.
成績評価	Evaluation will be based on small group classroom led discussion (20%), online review { http://www.imdb.com/ } /mini quizzes (20%), reflective notes (30%) and a presentation or analysis (30%).
講義構成	Weeks 1 – 3 The early years in Australia – Picnic at Hanging Rock Weeks 4 – 6 Australia – The Last Wave / Decide Research Theme Weeks 7 – 9 The last in our series of Australian movies – Gallipoli Weeks 10 – 12 Hollywood – Dead Poet’s Society Weeks 13 – 14 Hollywood – Fearless and Student Presentations/Final Submission NB: Each week we focus on a 15-minute segment. Through weeks 1 ♦ 15 we will do a close study of the film Witness.
教科書	Handouts
参考書・資料	{ http://www.imdb.com/ }
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others’ work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81M12		
授業科目名	Media Studies (2クラス)(後)		
担当者名	PETRUCIONE (ペトルシオン スティーヴン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	抽選科目		

講義の内容	News and the Media Media Studies acquaints the students with the history and fields of media culture and the methods of media analysis and critique. Different parts of media culture and their development are studied and taught as historical, aesthetic, technological, and social phenomena. There will be very current, usually the day of the class, news clips from CBS News and other news programs along with transcripts of those news clips. There will be active listening, reading, writing and discussion activities based on them. There will also be debates based on the news items and presentations by the students of news items of interest to them with question and answer activities.
到達目標	1. To provide students with vocabulary related to current events in the news while improving their listening skills. 2. To provide the students to use this vocabulary in discussions. 3. To give the students the chance to debate current topics in the news. 4. To give students opportunities to report news topics interesting to them. 5. 2-4 above will help students improve speaking skills in front of groups.
講義方法	After a news clip presentation by the teacher, the students will break into groups, discuss the news items, answer questions about them; trying to deepen their understanding of the meaning. There will be chances for the students to improve their English skills by explaining to the class their understanding and thoughts about the issues presented.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). An ability to understand spoken English at

	normal speed to a certain extent and to be able to comprehend the gist of news transcripts.
成績評価	Evaluation will be based on class discussion and presentation of ideas (20%), class debates; arguments and use of logic (20%), development and presentation of news items of interest to classmates (20%) and in class tests (quizzes) on issues discussed, debated and reported in class (30%) and homework (10%).
講義構成	Week 1 will be self-introductions by the teacher to ascertain the students' language ability followed by an explanation of the syllabus, evaluation procedures and a listening activity. Weeks 2-7 will involve listening, reading, discussion activities using current news clips. Weeks 8-10 will focus on debates by the students taking different view of the issues presented. Weeks 11-14 will be for students to give presentations on news topics of personal interest. Week 15 will be a summing up and evaluation of the course.
教科書	There will be news clips supplied by the teacher and handouts of the transcripts.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others' work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
その他	Students will have to be prepared to work hard and spend a good deal of time preparing for the presentations.

授業コード	81M13		
授業科目名	Media Studies (3クラス)(後)		
担当者名	SILVER(シルバー リチャード)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	抽選科目		

講義の内容	Journalism This course has three broad aims. The first is to help students develop and sharpen their critical thinking and analytical skills through authentic English language journalism. The second is to equip students with the knowledge required to be able to use English language newspapers as effective learning materials. The final aim of the course is to develop students' intercultural understanding and awareness through the media. The main focus of study will be English language newspapers, though students might also be exposed to other media outlets such as the internet and television. Students will be required to do reading every week, to complete regular studies of newspaper articles and to make a presentation. This course will have a strong English language environment and students will be expected to communicate in English with classmates and the teacher. However, while strong English skills will help students during this course, a more important quality to have is curiosity towards the instruments of a foreign culture. Students should be open-minded and motivated to expand their experience and understanding through communication with their teacher and their classmates.
到達目標	By the end of this course, students should: -understand the basic structure and style of printed English newspapers and have learned where to find similar materials online -be able to read, understand and critically analyze English language journalism -have expanded their vocabulary so they can both read English language journalism and comment on it -developed presentation and discussion skills learned in first year courses
講義方法	Each class will have a combination of the following: - Student presentations and discussions - Mini lectures - Reading exercises - Writing assignments Outside of class Facebook will be used as a means of furthering classroom discourse.
準備学習	Students are required to attend all classes and submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Student evaluation be based on participation (20%), presentation and discussion (20%), essay tests (20%), mini quizzes (20%), and a writing portfolio (20%).

講義構成	Weeks 1-4: Feeling the news (The front page, how to read a newspaper, how to judge news, politics etc.) Weeks 5-9: Inside the newspaper (the editorial, cartoon messages, photography, advertisements, blogs, comment pages etc.) Weeks 10-12: The back pages (sport etc.) Weeks 13-15: The future of journalism?
教科書	No textbook. The teacher will provide newspapers and handouts.
参考書・資料	The Guardian (UK) { www.theguardian.co.uk } The Daily Telegraph (UK) { www.telegraph.co.uk } The BBC (UK) { www.bbc.co.uk } Asahi { http://www.asahi.com/english/english.html } Japan Times { http://www.japantimes.co.jp/ } Mainichi Daily News { http://mdn.mainichi-msn.co.jp/ } Herald Tribune (US) { http://www.ihl.com } The New York Times (US) { http://www.nytimes.com } ABC (Australia) { www.abc.net.au }
担当者から一言	I am happy to answer any queries regarding this course at any time. Please write to silver@center.konan-u.ac.jp

授業コード	81M14		
授業科目名	Media Studies (4クラス)(後)		
担当者名	ALTHAUS(アルタス デイヴィッド)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	抽選科目		

講義の内容	Film Studies Media Studies acquaints the students with the history and fields of media culture and the methods of media analysis and critique. Different parts of media culture and their development are studied and taught as historical, aesthetic, technological, and social phenomena. This course will challenge students to think about what makes a movie good or bad. This course uses a centralized theme and an Australian angle with the director Peter Weir, to challenge meanings of race, ethnicity and society. The course will follow the early Australian work of Peter Weir from Gallipoli, Picnic at Hanging Rock, The Last Wave, to Hollywood movies, Witness, The Dead Poet's Society and Fearless. The course will 'cover' a movie every 3 weeks, that is, 5 movies over 15 weeks. In addition, the students will also do a close study of one movie for the whole semester.
到達目標	Upon completion of the course, students will need to demonstrate the ability to (1) research and understand film genre, story and plot, characters and setting, (2) show evidence of analytical ability by writing about the issues and themes in reflective notes on the bigger important questions, (3) lead a discussion on an issue or theme arising from one of the movies, (4) critique classmates' online reviews at { http://www.imdb.com/ }, (5) communicate an argument, either through a presentation or analysis of a particular film sequence.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to Film Studies, (2) student led discussion of the movie being studied, (3) a short writing piece about the genre, story and plot of the movie assigned, (4) a contextualized viewing of the assigned movie, (5) a problem or task-based activity after each movie.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students must make time to watch the movies before class. Students also need to think critically about the issues and themes presented in the films

	and write a cohesive and well thought out piece of writing.
成績評価	Evaluation will be based on small group classroom led discussion (20%), online review (http://www.imdb.com/) /mini quizzes (20%), reflective notes (30%) and a presentation or analysis (30%).
講義構成	(tentative) Weeks 1 – 3 The early years in Australia – Picnic at Hanging Rock Weeks 4 – 6 Australia – The Last Wave / Decide Research Theme Weeks 7 – 9 The last in our series of Australian movies – Gallipoli Weeks 10 – 12 Hollywood – Dead Poet’s Society Weeks 13 – 14 Hollywood – Fearless and Student Presentations/Final Submission NB: Each week we focus on a 15-minute segment. Through weeks 1 – 15 we will do a close study of the film Witness.
教科書	Handouts
参考書・資料	{ http://www.imdb.com/ }
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others’ work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81M15		
授業科目名	Media Studies (5クラス)(後)		
担当者名	WHITE(ホワイト ショーン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	抽選科目		

講義の内容	Media, Communication Strategies and Web 2.0 Media Studies acquaints the students with the history and fields of media culture and the methods of media analysis and critique. Different parts of media culture and their development are studied and taught as historical, aesthetic, technological, and social phenomena. The Communication Strategies and Web 2.0 course introduces students to a wide variety of online communication tools and explores how these technologies impact human interaction. The overall aim of the course is to develop communicative confidence and competence.
到達目標	The main goals of the course are to provide students with an overview of media in historic and modern terms, as well as develop the critical thinking skills that will help them evaluate content from an international perspective. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. identify major developments in both modern web media and traditional media b. evaluate media content with an international perspective c. write basic critical commentary on topics of interest in the field of media, particularly Internet media.
講義方法	Each meeting will include a combination of parts of the following: (1) a short discussion or introduction of a specific topic, (2) a focused reading, listening or research query employing language skills, (3) a group summary or worksheet relating content to overall themes, (4) and communicative exercises in small groups.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students will need to have their laptop PC available every week. Students must have their PC software updated before class. All work on the PC must

	be done in English, an English version of Firefox is required and must be used for class work.
成績評価	Evaluation of class participation (20%), reading, listening and research assignments (20%), quizzes (20%), individual writing in forums (20%) and a group research summary project (20%).
講義構成	Weeks 1 ◆ 3 Media and Advertising / Affects on Health Worldwide Weeks 4 ◆ 6 New Media / Cell Phones in modern life and the developing world Weeks 7 ◆ 9 Globalization or Internationalization / The Politics behind Media Weeks 10 ◆ 12 Traditional Media vs. Movies and the Internet / The Role of Piracy Weeks 13 ◆ 15 Putting it all Together / Predicting the Future? / Final Project
教科書	All materials will be provided online via Moodle
参考書・資料	Also on Moodle
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others' work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Content is accessible outside of class time online. Homework is required and actively evaluated by website access.
その他	Students will need to have their laptop PC available every week. Students should also have a USB memory stick with at least 1GB of free space. Class materials and quizzes will be provided online via the CUBE Moodle.

授業コード	81M16		
授業科目名	Media Studies (6クラス)(後)		
担当者名	クック(クック ルイーズ ジェニファー)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	抽選科目		

講義の内容	News and the Media Media Studies acquaints the students with the history and fields of media culture and the methods of media analysis and critique. Different parts of media culture and their development are studied and taught as historical, aesthetic, technological, and social phenomena. There will be very current, usually the day of the class, news clips from CBS News and other news programs along with transcripts of those news clips. There will be active listening, reading, writing and discussion activities based on them. There will also be informal debates based on the news items and presentations by the students of news items of interest to them with question and answer activities.
到達目標	One important goal of this course is to develop students' critical thinking skills. Through exposure to print and televised news, and in discussion with classmates, students will gain a deeper understanding of the forces that shape the news we receive. Another goal is to develop students' fluency and confidence in English, through discussion-based activities.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: - a focused reading, with question sheets - a televised news program/video presentation, with listening practice worksheets - group discussion and presentation - self-assessments (written) on class performance. - English exercises, to develop vocabulary and discussion strategies
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). An ability to understand spoken English at normal speed to a certain extent and to be able to comprehend the gist of news transcripts. Since reading and other homework assignments will often be the basis for class work, it is important that students complete all homework in order to participate fully. Students should also be able or ready to discuss topics in small groups, and to lead such discussions.
成績評価	Evaluation will be based on discussion participation (30%), homework/written assignments (30%), quizzes (20%), independent research/ presentations (10%), and self-

	assessments (10%).
講義構成	(Note: The following schedule is subject to review, and may change according to the needs and interests of the students.) Week 1: Introductions and course overview Weeks 2 – 4: Understanding the news in English/ Print media Weeks 5–7: Cross-cultural comparisons/TV news Weeks 8–9: Biases in the news Week10: Traditional media and the internet/blogging Weeks 11–13: News and the role of advertising Weeks 14–15: Independent research project presentations
教科書	Materials will be provided as handouts.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others' work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81J21		
授業科目名	Reading and Vocabulary (1クラス)(前)		
担当者名	GONDREE(ゴンドリー エリック)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限 火曜3限 木曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	The course will focus on an introduction to academic reading skills and vocabulary development. Students will read from a variety of sources including textbook, graded readers, newspapers, magazines and more.
到達目標	Students will be able to: ◆ Recognize the difference between academic and non-academic written materials. ◆ Predict information, identify main & supporting points, skim to get a general understanding of a reading, understand text organization, scan a reading for specific details, and distinguish between fact vs. opinion. ◆ Paraphrase and summarize information from written texts. ◆ Analyze and develop skills needed to increase overall accuracy and reading speed. ◆ Collaborate with classmates to share knowledge, opinions, ideas, and concepts drawn from assigned readings. ◆ Develop receptive & active vocabulary through studying word forms, roots, prefixes/suffixes, antonyms/synonyms, and guessing meaning from context Practice TOEFL-type reading items.
講義方法	Study Abroad English courses are taught using a communicative approach where all students are expected to be active learners and participants in class. Therefore, reading will be done primarily as homework and in class, students will use the ideas and vocabulary from the text in a variety of speaking and writing exercises.
準備学習	This is the first freshmen reading class, so there are no prerequisites for entering this class. Students should expect to do both academic and pleasure reading outside of class so that they may participate fully in the class activities.
成績評価	Class participation = 20 points Quizzes and graded assignments = 20 points Midterm Exam = 15 points/ Final Exam = 15 points. TOTAL: 100 points.
講義構成	This class meets three times per week. The student textbook serves as the primary text, plus there are additional supplementary readings throughout the course in order to expose students to a variety of types of reading material. 1st class = orientation and receive the class syllabus 2nd ◆ 7th week = reading and preparation for midterm in week 8. 9th ◆ 14th week = reading and preparation for final project in week 15.
教科書	Reading Matters 1. by Mary Lee Wholey.(Cengage) Longman Preparation Course for the TOEFL Test:iBT Reading by Deborah Phillips(Pearson Longman)

参考書・資料	Students will be required to check out graded readers (Penguin books) from the Konan University CUBE library.
講義関連事項	Teacher will pass out additional handouts in class. It is important to have a good notebook to keep these handouts in.
担当者から一言	In this course, you will increase your confidence in reading by building academic vocabulary and studying academic texts. You will also increase your reading speed through extensive fluency practice.

授業コード	81J22		
授業科目名	Reading and Vocabulary (2クラス)(前)		
担当者名	MITCHELL(ミッチェル マレン)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限 火曜3限 木曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	The course will focus on an introduction to academic reading skills and vocabulary development. Students will read from a variety of sources including textbook, graded readers, newspapers, magazines and more.
到達目標	Students will be able to: ◆ Recognize the difference between academic and non-academic written materials. ◆ Predict information, identify main & supporting points, skim to get a general understanding of a reading, understand text organization, scan a reading for specific details, and distinguish between fact vs. opinion. ◆ Paraphrase and summarize information from written texts. ◆ Analyze and develop skills needed to increase overall accuracy and reading speed. ◆ Collaborate with classmates to share knowledge, opinions, ideas, and concepts drawn from assigned readings. ◆ Develop receptive & active vocabulary through studying word forms, roots, prefixes/suffixes, antonyms/synonyms, and guessing meaning from context Practice TOEFL-type reading items.
講義方法	Study Abroad English courses are taught using a communicative approach where all students are expected to be active learners and participants in class. Therefore, reading will be done primarily as homework and in class, students will use the ideas and vocabulary from the text in a variety of speaking and writing exercises.
準備学習	This is the first freshmen reading class, so there are no prerequisites for entering this class. Students should expect to do both academic and pleasure reading outside of class so that they may participate fully in the class activities.
成績評価	Class participation = 20 points Quizzes and graded assignments = 20 points Midterm Exam = 15 points/ Final Exam = 15 points. TOTAL: 100 points.
講義構成	This class meets three times per week. The student textbook serves as the primary text, plus there are additional supplementary readings throughout the course in order to expose students to a variety of types of reading material. 1st class = orientation and receive the class syllabus 2nd ◆ 7th week = reading and preparation for midterm in week 8. 9th ◆ 14th week = reading and preparation for final project in week 15.
教科書	Reading Matters 2.by Mary Lee Wholey.(Cengage) Longman Preparation Course for the TOEFL Test: iBT Reading by Deborah Phillips(Pearson Longman)
参考書・資料	Students will be required to check out graded readers (Penguin books) from the Konan University CUBE library.
講義関連事項	Teacher will pass out additional handouts in class. It is important to have a good notebook to keep these handouts in.
担当者から一言	In this course, you will increase your confidence in reading by building academic vocabulary and studying academic texts. You will also increase your reading speed through extensive fluency practice.

授業コード	81J23		
授業科目名	Reading and Vocabulary (3クラス)(前)		
担当者名	LEE Sarah (リー サラ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限 火曜3限 木曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	The course will focus on an introduction to academic reading skills and vocabulary development. Students will read from a variety of sources including textbook, graded readers, newspapers, magazines and more.		
到達目標	Students will be able to: ◆ Recognize the difference between academic and non-academic written materials. ◆ Predict information, identify main & supporting points, skim to get a general understanding of a reading, understand text organization, scan a reading for specific details, and distinguish between fact vs. opinion. ◆ Paraphrase and summarize information from written texts. ◆ Analyze and develop skills needed to increase overall accuracy and reading speed. ◆ Collaborate with classmates to share knowledge, opinions, ideas, and concepts drawn from assigned readings. ◆ Develop receptive & active vocabulary through studying word forms, roots, prefixes/suffixes, antonyms/synonyms, and guessing meaning from context Practice TOEFL-type reading items.		
講義方法	Study Abroad English courses are taught using a communicative approach where all students are expected to be active learners and participants in class. Therefore, reading will be done primarily as homework and in class, students will use the ideas and vocabulary from the text in a variety of speaking and writing exercises.		
準備学習	This is the first freshmen reading class, so there are no prerequisites for entering this class. Students should expect to do both academic and pleasure reading outside of class so that they may participate fully in the class activities.		
成績評価	Class participation = 20 points Quizzes and graded assignments = 20 points Midterm Exam = 15 points/ Final Exam = 15 points. TOTAL: 100 points.		
講義構成	This class meets three times per week. The student textbook serves as the primary text, plus there are additional supplementary readings throughout the course in order to expose students to a variety of types of reading material. 1st class = orientation and receive the class syllabus 2nd ◆ 7th week = reading and preparation for midterm in week 8. 9th ◆ 14th week = reading and preparation for final project in week 15.		
教科書	Reading Matters 2.by Mary Lee Wholey.(Cengage) Longman Preparation Course for the TOEFL Test:iBT Reading by Deborah Phillips(Pearson Longman)		
参考書・資料	Students will be required to check out graded readers (Penguin books) from the Konan University CUBE library.		
講義関連事項	Teacher will pass out additional handouts in class. It is important to have a good notebook to keep these handouts in.		

担当者から一言	In this course, you will increase your confidence in reading by building academic vocabulary and studying academic texts. You will also increase your reading speed through extensive fluency practice.
---------	---

授業コード	81M21		
授業科目名	Regional Studies (1クラス)(後)		
担当者名	ALTHAUS (アルタス デイヴィッド)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限
特記事項	抽選科目		

講義の内容	Australia and Oceania		
-------	-----------------------	--	--

	This is a survey course offering an overview of cultural, economic, historical, linguistic, social and political developments in key regions of the world. Topics will include (but will not be limited to) art and fashion, civilization, colonialism, democracy, environment and geology, film and music, government, industrial development, multiculturalism, relations with Japan, trade and commerce, and wars, nationalist movements and revolution. The aim is to familiarize students with various aspects of contemporary Australian society together with the necessary geographical and historical background. This course will also look at the links between Australia and Oceania. Thus, a secondary aim is to investigate the area collectively called Oceania and usually divided into Melanesia, Micronesia and Polynesia. Beginning with first contact between Aborigines and the white man the course will look at the history of government policies towards Aborigines. In particular, the government policies of extermination, protection, establishment, assimilation, self-determination and reconciliation. Comparisons to current Immigration policies will be made in terms of the population debate. The meaty part of the course looks at the infamous case of Azaria Chamberlain. It is also the springboard for contemporary Australian topics. These include wildlife, contemporary Australia lifestyle, Australian English, Australian Food, The Melbourne Cup and finishing with Christmas down under. Having looked at Australian history and society in some detail, the final part of the course suggests some tentative links between Australia and her neighbours. The overall aim is for the students to develop a nuanced understanding of Australia and Oceania through engagement in the course content.		
到達目標	Students will need to demonstrate the ability to (1) complete moderately difficult reading passages and worksheets on topics related to Australia and Oceania Studies, (2) demonstrate depth of thinking by writing 3 reflective notes on Australian and Oceania-related themes agreed upon with the instructor, (3) lead a discussion on an Australian and Oceania-related topic from the readings, (4) Further develop presentation and critical thinking skills.		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a mini lecture on a specific topic related to Australian and Oceania-related Studies, (2) focused practice on reading sub-skills such as scanning and skimming, (3) completing reading worksheets from assigned/web based readings, (4) student-led communicative exercise in pairs or small groups, and (5) a problem or task-based activity with presentation of findings.		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to write reflective notes that show depth of thinking.		
成績評価	Evaluation will be based on small group classroom led discussion (20%), out-of-class reading and worksheets/mini quizzes (20%), reflective notes (30%) and a presentation (30%).		
講義構成	Weeks 1 – Overview of Australia and Oceania Studies – students decide on small groups and presentation topics Weeks 2 – 6 First contact ◆ Aborigines and government policies on Immigration Textbook Rabbit-Proof Fence and handouts Weeks 7 – 12 Azaria Chamberlain and contemporary topics – Australian English, Wildlife, Australian Food, The Melbourne Cup and Christmas down under Textbook Factfiles: Australia and New Zealand and handouts Weeks 12 – 13 Links between Australia and her neighbours Weeks 13 – 14 Student Presentations/Final Submission Course		
教科書	(1) Rabbit-Proof Fence (Doris Pilkington Garimara) Oxford Bookworms (2) Factfiles: Australia and New Zealand (Christine Lindop) Oxford Bookworms		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others' work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		

授業コード	81M22		
授業科目名	Regional Studies (2クラス)(後)		
担当者名	GONZALEZ(ゴンザレス マリア)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
特記事項	抽選科目		
講義の内容	A Cultural Look at Spain		

	This course intends to offer an overview of Spain through historical, sociological, artistic and cultural themes, ranging from perceived images of Spain in Japan to such diverse topics as gastronomy, Latin America, architecture, contemporary lifestyle, Islamic Spain or football.		
到達目標	Upon completion of this course, students will be able to: a. identify some of the main historical and geographical factors that shaped Spanish culture, b. compare and contrast Spanish culture with their own, c. recognise Spanish manifestations of cultural identity, d. articulate ideas about the culture of Spain and its language,		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to Language and Culture of Spain, (2) a reading worksheet, (3) a workshop-based activity/discussion of the topic being studied, (4) Spanish language tasks and practice, (5) oral reports and presentations		
準備学習	Students are required to attend all classes and submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio ♦ notebook, electronic media from class presentations, research paper drafts (20%), and the final submission of a research paper (20%).		
講義構成	Week 1 ♦ Images of Spain. Japan and Spain Week 2 –Overview of Spanish History (I): the Roman Conquest and the Middle Ages Islamic Spain Week 3: Islamic Spain Week 4 ♦ Overview of Spanish History (II): the Spanish Golden Age, Colonial Spain, Crisis and Decadence, the Spanish Civil War Week 5: The New Spain Week 6 ♦ Linguistic and Cultural Diversity of present-day Spain Week 7 ♦ The Country of “Fiesta”! : Festivals and Cultural Traditions Week 8 ♦ Spain through Art: Velázquez, Goya Picasso, Dalí, Miró Week 9– Cultural Tourism and Architecture : Barcelona and Gaudí Week 10 ♦ Gastronomy of Spain–The Mediterranean Diet Week 11 ♦ Family in Spain Today Week 12 ♦ Music and Dance: flamenco and beyond Week 13 ♦ Football, Politics and National Identity: FC Barcelona and Real Madrid Week 14 ♦ Current Issues: Immigration, Unemployment, Social Changes. Week 15 ♦ Group Presentations: Presentation on a specific topic related to Spain		
教科書	The instructor will provide the necessary handouts.		
参考書・資料	Students will be directed towards appropriate resources by the instructor as required by the course schedule.		
講義関連事項	This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		
担当者から一言	Due to the extensive nature of the subject, students will be asked to prepare the topics in advance and check the language unit to be studied before each session.		
その他	Students will need to bring a bilingual dictionary.		

授業コード	81M23		
授業科目名	Regional Studies (3クラス)(後)		
担当者名	GONZALEZ (ゴンザレス マリア)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	抽選科目		
講義の内容	Asian Neighbours		

	This course examines the international relations of Japan with its Asian neighbours, focusing on China, Korea and Taiwan. We will take a look at key historical moments and the socio-political, economic and cultural interaction among those countries. The class will also include the South East Asian neighbours (Burma, Cambodia, Indonesia, Malaysia, the Philippines, Singapore, Thailand and Viet Nam) through student presentations.
到達目標	Upon completion of this course, students will be able to: a. acquire a basic knowledge and understanding of the diversity and complexity of Japan's neighbours, b. discuss and compare social, political, economic, historical and cultural aspects of other Asian countries as in relation to Japan, c. demonstrate a critical approach to the region's issues,
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to Asian Neighbours, (2) a reading worksheet, (3) a workshop-based activity/discussion of the topic being studied, and (4) oral reports and presentations.
準備学習	Students are required to attend all classes and submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio ♦ notebook, electronic media from class presentations, research paper drafts (20%), and the final submission of a research paper (20%).
講義構成	Week 1 ♦ What is Asia? Asia and the world Week 2 ♦ China, at the centre: Historical Overview Week 3- China and Japan Today Week 4 ♦ China and The World Week 5 ♦ Korea: Pre-Modern Korean Tradition, Korean Sensitivity to the Experiences Under Japanese Colonial Rule Week 6: Modern Korean Culture and Society Week 7 ♦ Taiwan: Historical Overview Week 8 ♦ Divided Nations: China / Taiwan; Korean Peninsula. Week 9 ♦ Trade Relations / Asian Presence in Japan Week 10 ♦ South East Asia: General Overview Of The Region Week 11 ♦ A Colonial Past: European Powers in Asia. Case Studies Week 12 ♦ Japan Cool in Asia and Asian Cool in Japan: Trends Week 13 ♦ Current Issues in Asia Week 14 ♦ Group Presentations: Presentation on Asian countries not included in the main syllabus. Week 15 ♦ Group Presentations: Presentation on Asian countries not included in the main syllabus.
教科書	The instructor will provide the necessary handouts for the class.
参考書・資料	Students will be directed towards appropriate resources by the instructor as required by the course schedule.
講義関連事項	This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	Due to the extensive nature of the subject, students will be asked to prepare the topics in advance.

授業コード	81J31		
授業科目名	Speaking and Listening (1クラス)(前)		
担当者名	FREEBORN(フリーボーン ポール)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course is intended to help students develop their ability to speak English naturally for the purposes of communication, with the goal of using English 100% of the time for their CUBE Study Abroad English classes. There will be an added emphasis on listening to short conversation and lectures on academic topics similar to TOEFL iBT.
到達目標	♦ Build fluency through guided opportunities for authentic, natural communication ♦ Increase knowledge and use of vocabulary and idiomatic expressions for increased listening

	comprehension and conversation. ◆ Practice identifying the main ideas, supporting details, and key vocabulary words in a TOEFL iBT listening ◆ Increase confidence in applying critical listening skills and using English to communicate orally. ◆ Introduce basic presentation skills.
講義方法	The lecture will follow the textbook, covering the majority of the topics presented in the text. The teacher will supplement the text with additional speaking and listening material related to that topic. There will be multiple opportunities to practice listening and speaking for the TOEFL iBT.
準備学習	All students must be committed to speaking English only in the classroom.
成績評価	Class participation = 20 points Quizzes and graded assignments = 50 points Midterm Exam = 15 points Final Exam/Presentation = 15 points
講義構成	This class meets twice a week on 5th period Monday and 2nd period Wednesday.
教科書	NorthStar Building Skill for the TOEFL iBT Intermediate with Audio CD by John Beaumont. (Pearson Longman)
担当者から一言	Although it is intimidating to speak only English in the class at first, the students in the class should encourage each other to create a 100% English environment in the classroom.

授業コード	81J32		
授業科目名	Speaking and Listening (2クラス)(前)		
担当者名	LEE Sarah(リー サラ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course is intended to help students develop their ability to speak English naturally for the purposes of communication, with the goal of using English 100% of the time for their CUBE Study Abroad English classes. There will be an added emphasis on listening to short conversation and lectures on academic topics similar to TOEFL iBT.
到達目標	◆ Build fluency through guided opportunities for authentic, natural communication ◆ Increase knowledge and use of vocabulary and idiomatic expressions for increased listening comprehension and conversation. ◆ Practice identifying the main ideas, supporting details, and key vocabulary words in a TOEFL iBT listening ◆ Increase confidence in applying critical listening skills and using English to communicate orally. ◆ Introduce basic presentation skills.
講義方法	The lecture will follow the textbook, covering the majority of the topics presented in the text. The teacher will supplement the text with additional speaking and listening material related to that topic. There will be multiple opportunities to practice listening and speaking for the TOEFL iBT.
準備学習	All students must be committed to speaking English only in the classroom.
成績評価	Class participation = 20 points Quizzes and graded assignments = 50 points Midterm Exam = 15 points Final Exam/Presentation = 15 points
講義構成	This class meets twice a week on 5th period Monday and 2nd period Wednesday.
教科書	NorthStar Building Skill for the TOEFL iBT Intermediate with Audio CD by John Beaumont (Pearson Longman)
担当者から一言	Although it is intimidating to speak only English in the class at first, the students in the class should encourage each other to create a 100% English environment in the classroom.

授業コード	81J33
-------	-------

授業科目名	Speaking and Listening (3クラス)(前)		
担当者名	GONDREE(ゴンドリー エリック)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 水曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course is intended to help students develop their ability to speak English naturally for the purposes of communication, with the goal of using English 100% of the time for their CUBE Study Abroad English classes. There will be an added emphasis on listening to short conversation and lectures on academic topics similar to TOEFL iBT.
到達目標	◆ Build fluency through guided opportunities for authentic, natural communication ◆ Increase knowledge and use of vocabulary and idiomatic expressions for increased listening comprehension and conversation. ◆ Practice identifying the main ideas, supporting details, and key vocabulary words in a TOEFL iBT listening ◆ Increase confidence in applying critical listening skills and using English to communicate orally. ◆ Introduce basic presentation skills.
講義方法	The lecture will follow the textbook, covering the majority of the topics presented in the text. The teacher will supplement the text with additional speaking and listening material related to that topic. There will be multiple opportunities to practice listening and speaking for the TOEFL iBT.
準備学習	All students must be committed to speaking English only in the classroom.
成績評価	Class participation = 20 points Quizzes and graded assignments = 50 points Midterm Exam = 15 points Final Exam/Presentation = 15 points
講義構成	This class meets twice a week on 5th period Monday and 2nd period Wednesday.
教科書	NorthStar Building Skill for the TOEFL iBT High Intermediate with Audio CD by Helen S. Solorzano. (Pearson Longman)

担当者から一言	Although it is intimidating to speak only English in the class at first, the students in the class should encourage each other to create a 100% English environment in the classroom.
---------	---

授業コード	81J34		
授業科目名	Speaking and Listening (4クラス)		
担当者名	FREEBORN(フリーボーン ポール)、LEE Sarah(リー サラ)		
配当年次		単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜5限 水曜2限)、後期(木曜1限)
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course is intended to help students develop their ability to speak English naturally for the purposes of communication, with the goal of using English 100% of the time for their CUBE Study Abroad English classes. There will be an added emphasis on listening to short conversation and lectures on academic topics similar to TOEFL iBT.
到達目標	◆ Build fluency through guided opportunities for authentic, natural communication ◆ Increase knowledge and use of vocabulary and idiomatic expressions for increased listening comprehension and conversation. ◆ Practice identifying the main ideas, supporting details, and key vocabulary words in a TOEFL iBT listening ◆ Increase confidence in applying critical listening skills and using English to communicate orally. ◆ Introduce basic presentation skills.
講義方法	The lecture will follow the textbook, covering the majority of the topics presented in the text. The teacher will supplement the text with additional speaking and listening material related to that topic. There will be multiple opportunities to practice listening and speaking for the TOEFL iBT.
準備学習	All students must be committed to speaking English only in the classroom.

成績評価	Class participation = 20 points Quizzes and graded assignments = 50 points Midterm Exam = 15 points Final Exam/Presentation = 15 points
講義構成	This class meets twice a week on 5th period Monday and 2nd period Wednesday.
教科書	NorthStar Building Skill for the TOEFL iBT Intermediate with Audio CD by John Beaumont. (Pearson Longman)
担当者から一言	Although it is intimidating to speak only English in the class at first, the students in the class should encourage each other to create a 100% English environment in the classroom.

授業コード	81C31		
授業科目名	Speech and Discussion (1クラス)(前)		
担当者名	KINGHORN(キングホーン オリバー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限 金曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course introduces key concepts and skills related to public speaking and other forms of communication. Students will prepare and deliver short speeches (informative, persuasive and entertainment) on topics of their choice. Attention will be focused on both content and delivery. Students will also practice group discussions as well as extemporaneous and impromptu speeches.
到達目標	The main goal of the course is to build both confidence and a solid foundation of knowledge and skills required to prepare and deliver effective oral presentations. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. explain the key concepts such as the various purposes of public speaking, b. deliver well-organized speeches with various forms of visual support c. use various delivery strategies related to both the voice and body.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to public speaking (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific public speaking skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity to highlight specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), deliverables (20%), class speeches (20%) poster presentation (40%).
講義構成	Week 1 – 4 The Physical Message / Introduction to Speech Week 5 – 8 The Visual Message / Speech Practice / Discussion Principles & Strategies Week 9 – 13 The Story Message / Poster Project Week 14 – 15 Poster Presentations / Review / Wrap up
教科書	Speaking of Speech, David Harrington and Charles LeBeau? (MacMillan?)
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81C32
-------	-------

授業科目名	Speech and Discussion (2クラス)(前)		
担当者名	ROUAULT Gregory T.(ルーオー グレゴリー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限 金曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course introduces key concepts and skills related to public speaking and other forms of communication. Students will prepare and deliver short speeches (informative, persuasive and entertainment) on topics of their choice. Attention will be focused on both content and delivery. Students will also practice group discussions as well as extemporaneous and impromptu speeches.
到達目標	The main goal of the course is to build both confidence and a solid foundation of knowledge and skills required to prepare and deliver effective oral presentations. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. explain the key concepts such as the various purposes of public speaking, b. deliver well-organized speeches with various forms of visual support c. use various delivery strategies related to both the voice and body.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to public speaking (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific public speaking skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity to highlight specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), deliverables (20%), class speeches (20%) poster presentation (40%).
講義構成	Week 1 – 4 The Physical Message / Introduction to Speech Week 5 – 8 The Visual Message / Speech Practice / Discussion Principles & Strategies Week 9 – 13 The Story Message / Poster Project Week 14 – 15 Poster Presentations / Review / Wrap up
教科書	Speaking of Speech, David Harrington and Charles LeBeau? (MacMillan?)
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81C33		
授業科目名	Speech and Discussion (3クラス)(前)		
担当者名	PALMER(パーマー ロジャー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限 金曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course introduces key concepts and skills related to public speaking and other forms of communication. Students will prepare and deliver short speeches (informative, persuasive and entertainment) on topics of their choice. Attention will be focused on both content and delivery. Students will also practice group discussions as well as extemporaneous and impromptu speeches.
到達目標	The main goal of the course is to build both confidence and a solid foundation of knowledge and skills required to prepare and deliver effective oral presentations. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. explain the key concepts such as the various purposes of public speaking, b. deliver well-organized speeches with various forms of visual support

	c. use various delivery strategies related to both the voice and body.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to public speaking (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific public speaking skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity to highlight specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.
準備学習	Evaluation will be based on classroom participation (20%), deliverables (20%), class speeches (20%) poster presentation (40%).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), deliverables (20%), class speeches (20%) poster presentation (40%).
講義構成	Week 1 – 4 The Physical Message / Introduction to Speech Week 5 – 8 The Visual Message / Speech Practice / Discussion Principles & Strategies Week 9 – 13 The Story Message / Poster Project Week 14 – 15 Poster Presentations / Review / Wrap up
教科書	Speaking of Speech, David Harrington and Charles LeBeau? (MacMillan?)
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81C34		
授業科目名	Speech and Discussion (4クラス)(前)		
担当者名	PETRUCIONE(ペトルシオン スティーヴン)、MILLER(ミラー リチャード)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限 金曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course introduces key concepts and skills related to public speaking and other forms of communication. Students will prepare and deliver short speeches (informative, persuasive and entertainment) on topics of their choice. Attention will be focused on both content and delivery. Students will also practice group discussions as well as extemporaneous and impromptu speeches.
到達目標	The main goal of the course is to build both confidence and a solid foundation of knowledge and skills required to prepare and deliver effective oral presentations. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. explain the key concepts such as the various purposes of public speaking, b. deliver well-organized speeches with various forms of visual support c. use various delivery strategies related to both the voice and body.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to public speaking (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific public speaking skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity to highlight specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), deliverables (20%), class speeches (20%) poster presentation (40%).
講義構成	Week 1 – 4 The Physical Message / Introduction to Speech Week 5 – 8 The Visual Message / Speech Practice / Discussion Principles & Strategies Week 9 – 13 The Story Message / Poster Project Week 14 – 15 Poster Presentations / Review / Wrap up

教科書	Speaking of Speech, David Harrington and Charles LeBeau? (MacMillan?)
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81C35		
授業科目名	Speech and Discussion (5クラス)(前)		
担当者名	WHITE(ホワイト ショーン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限 水曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course introduces key concepts and skills related to public speaking and other forms of communication. Students will prepare and deliver short speeches (informative, persuasive and entertainment) on topics of their choice. Attention will be focused on both content and delivery. Students will also practice group discussions as well as extemporaneous and impromptu speeches.
到達目標	The main goal of the course is to build both confidence and a solid foundation of knowledge and skills required to prepare and deliver effective oral presentations. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. explain the key concepts such as the various purposes of public speaking, b. deliver well-organized speeches with various forms of visual support c. use various delivery strategies related to both the voice and body.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to public speaking (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific public speaking skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity to highlight specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students may need to have their laptop PC available every week. Students must have their PC software updated before class.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), deliverables (20%), class speeches (20%) poster presentation (40%).
講義構成	Week 1 – 4 The Physical Message / Introduction to Speech Week 5 – 8 The Visual Message / Speech Practice / Discussion Principles & Strategies Week 9 – 13 The Story Message / Poster Project Week 14 – 15 Poster Presentations / Review / Wrap up
教科書	Speaking of Speech, David Harrington and Charles LeBeau? (MacMillan?)
参考書・資料	On CUBE Moodle
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

担当者から一言	Students will need their laptop in the first class.
その他	Students will need to have their laptop PC available every week. Students should also have a USB memory stick with at least 1GB of free space. Class materials and quizzes will be provided online via the CUBE Moodle.

授業コード	81C36		
授業科目名	Speech and Discussion (6クラス)(前)		
担当者名	TRUSCOTT(トラスコット ジョージ)、LEECH(シェーン リーチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限 水曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course introduces key concepts and skills related to public speaking and other forms of communication. Students will prepare and deliver short speeches (informative, persuasive and entertainment) on topics of their choice. Attention will be focused on both content and delivery. Students will also practice group discussions as well as extemporaneous and impromptu speeches.		
到達目標	The main goal of the course is to build both confidence and a solid foundation of knowledge and skills required to prepare and deliver effective oral presentations. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. explain the key concepts such as the various purposes of public speaking, b. deliver well-organized speeches with various forms of visual support c. use various delivery strategies related to both the voice and body.		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to public speaking (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific public speaking skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity to highlight specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), deliverables (20%), class speeches (20%) poster presentation (40%).		
講義構成	Week 1 – 4 The Physical Message / Introduction to Speech Week 5 – 8 The Visual Message / Speech Practice / Discussion Principles & Strategies Week 9 – 13 The Story Message / Poster Project Week 14 – 15 Poster Presentations / Review / Wrap up		
教科書	Speaking of Speech, David Harrington and Charles LeBeau? (MacMillan?)		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		

授業コード	81C37		
授業科目名	Speech and Discussion (7クラス)(前)		
担当者名	PETRUCIONE(ペトルシオン スティーヴン)、ROUAULT Gregory T.(ルーオー グレゴリー)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限 水曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course introduces key concepts and skills related to public speaking and other forms of communication. Students will prepare and deliver short speeches (informative, persuasive and entertainment) on topics of their choice. Attention will be focused on both content and delivery. Students will also practice group discussions as well as extemporaneous and impromptu speeches.		
到達目標	The main goal of the course is to build both confidence and a solid foundation of knowledge and skills required to prepare and deliver effective oral presentations. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to:		

	a. explain the key concepts such as the various purposes of public speaking, b. deliver well-organized speeches with various forms of visual support c. use various delivery strategies related to both the voice and body.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to public speaking (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific public speaking skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity to highlight specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), deliverables (20%), class speeches (20%) poster presentation (40%).
講義構成	Week 1 – 4 The Physical Message / Introduction to Speech Week 5 – 8 The Visual Message / Speech Practice / Discussion Principles & Strategies Week 9 – 13 The Story Message / Poster Project Week 14 – 15 Poster Presentations / Review / Wrap up
教科書	Speaking of Speech, David Harrington and Charles LeBeau? (MacMillan?)
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81C38		
授業科目名	Speech and Discussion (8クラス)(前)		
担当者名	ALTHAUS(アルタス デイヴィッド)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限 水曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This course introduces key concepts and skills related to public speaking and other forms of communication. Students will prepare and deliver short speeches (informative, persuasive and entertainment) on topics of their choice. Attention will be focused on both content and delivery. Students will also practice group discussions as well as extemporaneous and impromptu speeches.
到達目標	The main goal of the course is to build both confidence and a solid foundation of knowledge and skills required to prepare and deliver effective oral presentations. Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to: a. explain the key concepts such as the various purposes of public speaking, b. deliver well-organized speeches with various forms of visual support c. use various delivery strategies related to both the voice and body.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to public speaking (2) a communicative exercise in pairs or small groups (3) a mini workshop for developing specific public speaking skills (4) student presentations with peer review (5) task-based activity to highlight specific concepts such as the use of anecdotes, metaphor, etc.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), deliverables (20%), class speeches (20%) poster presentation (40%).
講義構成	Week 1 – 4 The Physical Message / Introduction to Speech Week 5 – 8 The Visual Message / Speech Practice / Discussion Principles & Strategies Week 9 – 13 The Story Message / Poster Project

	Week 14 – 15 Poster Presentations / Review / Wrap up
教科書	Speaking of Speech, David Harrington and Charles LeBeau? (MacMillan?)
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81K11		
授業科目名	TOEFL Preparation I (1クラス)(前)		
担当者名	QUINN B.(クイン ブラドリー)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	Although grammar is not a section itself on the new TOEFL iBT, an understanding of grammar is critical to all of the sections of the TOEFL iBT. This TOEFL preparation course focuses on helping students increase their awareness of grammar as presented on the TOEFL iBT. Key grammar points are explained and reviewed through reading, writing, listening, and speaking section iBT material.
到達目標	This course will cover the following grammar points: ◆ Parts of speech ◆ Verb tenses ◆ Noun, Adjective, and Adverb clauses ◆ Etc.
講義方法	The textbook will serve as the primary focus for the course. Students will work on practice TOEFL activities inside and outside of class and have active discussions regarding how they have found the answer. The focus is on the process of using grammar as a guide to identifying the correct answer in the various sections of the iBT.
準備学習	All study abroad courses are taught with a communicative approach. Therefore, students are required to be active participants in the class. There will be many opportunities for discussion and debate in class.
成績評価	Class participation = 30 points Quizzes/Homework Assignments = 40 points Midterm Exam = 15 points/ Final Exam = 15 points
講義構成	This class meets once a week at 3rd period on Fridays. Each class will cover a different grammar point and students will be required to do homework related to that grammar point.
教科書	Delta's Key to the Next Generation TOEFL Test: Essential Grammar for the iBT by Nancy Gallagher.
参考書・資料	Students may want to have an additional grammar reference book in Japanese to assist with understanding the textbook material.
講義関連事項	The teacher will provide the audio CDs for the listening sections. Students only need to have the textbook.
担当者から一言	Practicing TOEFL-type questions will be a primary focus of this course. Students should not feel shy about getting the wrong answer. They should try to learn how to get the correct answer. Learning from mistakes is very important, so students will not be penalized for making mistakes.

授業コード	81K12		
授業科目名	TOEFL Preparation I (2クラス)(前)		
担当者名	FREEBORN(フリーボーン ポール)		
配当年次	1年次	単位数	1

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	Although grammar is not a section itself on the new TOEFL iBT, an understanding of grammar is critical to all of the sections of the TOEFL iBT. This TOEFL preparation course focuses on helping students increase their awareness of grammar as presented on the TOEFL iBT. Key grammar points are explained and reviewed through reading, writing, listening, and speaking section iBT material.		
到達目標	This course will cover the following grammar points: ◆ Parts of speech ◆ Verb tenses ◆ Noun, Adjective, and Adverb clauses ◆ Etc.		
講義方法	The textbook will serve as the primary focus for the course. Students will work on practice TOEFL activities inside and outside of class and have active discussions regarding how they have found the answer. The focus is on the process of using grammar as a guide to identifying the correct answer in the various sections of the iBT.		
準備学習	All study abroad courses are taught with a communicative approach. Therefore, students are required to be active participants in the class. There will be many opportunities for discussion and debate in class.		
成績評価	Class participation = 30 points Quizzes/Homework Assignments = 40 points Midterm Exam = 15 points/ Final Exam = 15 points		
講義構成	This class meets once a week at 3rd period on Fridays. Each class will cover a different grammar point and students will be required to do homework related to that grammar point.		
教科書	Delta's Key to the Next Generation TOEFL Test: Essential Grammar for the iBT by Nancy Gallagher.		
参考書・資料	Students may want to have an additional grammar reference book in Japanese to assist with understanding the textbook material.		
講義関連事項	The teacher will provide the audio CDs for the listening sections. Students only need to have the textbook.		
担当者から一言	Practicing TOEFL-type questions will be a primary focus of this course. Students should not feel shy about getting the wrong answer. They should try to learn how to get the correct answer. Learning from mistakes is very important, so students will not be penalized for making mistakes.		

授業コード	81K13		
授業科目名	TOEFL Preparation I (3クラス)(前)		
担当者名	MITCHELL(ミッチェル マレン)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	Although grammar is not a section itself on the new TOEFL iBT, an understanding of grammar is critical to all of the sections of the TOEFL iBT. This TOEFL preparation course focuses on helping students increase their awareness of grammar as presented on the TOEFL iBT. Key grammar points are explained and reviewed through reading, writing, listening, and speaking section iBT material.		
到達目標	This course will cover the following grammar points: ◆ Parts of speech ◆ Verb tenses ◆ Noun, Adjective, and Adverb clauses ◆ Etc.		
講義方法	The textbook will serve as the primary focus for the course. Students will work on practice TOEFL activities inside and outside of class and have active discussions regarding how they have found the answer. The focus is on the process of using grammar as a guide to identifying the correct answer in the various sections of the iBT.		

準備学習	All study abroad courses are taught with a communicative approach. Therefore, students are required to be active participants in the class. There will be many opportunities for discussion and debate in class.
成績評価	Class participation = 30 points Quizzes/Homework Assignments = 40 points Midterm Exam = 15 points/ Final Exam = 15 points
講義構成	This class meets once a week at 3rd period on Fridays. Each class will cover a different grammar point and students will be required to do homework related to that grammar point.
教科書	Delta's Key to the Next Generation TOEFL Test: Essential Grammar for the iBT by Nancy Gallagher.
参考書・資料	Students may want to have an additional grammar reference book in Japanese to assist with understanding the textbook material.
講義関連事項	The teacher will provide the audio CDs for the listening sections. Students only need to have the textbook.
担当者から一言	Practicing TOEFL-type questions will be a primary focus of this course. Students should not feel shy about getting the wrong answer. They should try to learn how to get the correct answer. Learning from mistakes is very important, so students will not be penalized for making mistakes.

授業コード	81K21		
授業科目名	TOEFL Preparation II (1クラス)(後)		
担当者名	FREEBORN(フリーボーン ポール)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This TOEFL preparation course focuses on helping students improve their ability to compare and discuss a reading and listening passage. Students will be required to give written and spoken responses to TOEFL items.
到達目標	Students will improve their ability to quickly read and listen to short passages and lectures and then use that information to formulate a spoken or written response similar to the Integrated sections on the iBT. There will be emphasis on synthesizing ideas and outlining an organized response to academic material.
講義方法	The textbook will serve as the primary focus for the course. Students will work on practice TOEFL activities inside and outside of class and have active discussion regarding the material.
準備学習	All study abroad courses are taught with a communicative approach. Therefore, students are required to be active participants in the class. There will be many opportunities for discussion and debate in class.
成績評価	Class participation = 30 points Quizzes/Homework Assignments = 40 points Midterm Exam = 15 points/ Final Exam = 15 points
講義構成	This class meets once a week. In each class, students will have a chance to listen to and read academic material similar to what will be presented in an American university classroom.
教科書	Academic Connections
講義関連事項	There is an online lab component to the course. Students will use the online lab to supplement their learning and practice for the integrated portions of the TOEFL iBT.
担当者から一言	Practicing TOEFL-type questions will be a primary focus of this course. Students should not feel shy about getting the wrong answer. They should try to learn how to get the correct answer. Learning from mistakes is very important, so students will not be penalized for making mistakes.

授業コード	81K22
授業科目名	TOEFL Preparation II (2クラス)(後)
担当者名	MITCHELL(ミッチェル マレン)

配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This TOEFL preparation course focuses on helping students improve their ability to compare and discuss a reading and listening passage. Students will be required to give written and spoken responses to TOEFL items.
到達目標	Students will improve their ability to quickly read and listen to short passages and lectures and then use that information to formulate a spoken or written response similar to the Integrated sections on the iBT. There will be emphasis on synthesizing ideas and outlining an organized response to academic material.
講義方法	The textbook will serve as the primary focus for the course. Students will work on practice TOEFL activities inside and outside of class and have active discussion regarding the material.
準備学習	All study abroad courses are taught with a communicative approach. Therefore, students are required to be active participants in the class. There will be many opportunities for discussion and debate in class.
成績評価	Class participation = 30 points Quizzes/Homework Assignments = 40 points Midterm Exam = 15 points/ Final Exam = 15 points
講義構成	This class meets once a week. In each class, students will have a chance to listen to and read academic material similar to what will be presented in an American university classroom.
教科書	Academic Connections
講義関連事項	There is an online lab component to the course. Students will use the online lab to supplement their learning and practice for the integrated portions of the TOEFL iBT.
担当者から一言	Practicing TOEFL-type questions will be a primary focus of this course. Students should not feel shy about getting the wrong answer. They should try to learn how to get the correct answer. Learning from mistakes is very important, so students will not be penalized for making mistakes.

授業コード	81K23		
授業科目名	TOEFL Preparation II (3クラス)(後)		
担当者名	GONDREE(ゴンドリー エリック)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This TOEFL preparation course focuses on helping students improve their ability to compare and discuss a reading and listening passage. Students will be required to give written and spoken responses to TOEFL items.
到達目標	Students will improve their ability to quickly read and listen to short passages and lectures and then use that information to formulate a spoken or written response similar to the Integrated sections on the iBT. There will be emphasis on synthesizing ideas and outlining an organized response to academic material.
講義方法	The textbook will serve as the primary focus for the course. Students will work on practice TOEFL activities inside and outside of class and have active discussion regarding the material.
準備学習	All study abroad courses are taught with a communicative approach. Therefore, students are required to be active participants in the class. There will be many opportunities for discussion and debate in class.
成績評価	Class participation = 30 points Quizzes/Homework Assignments = 40 points Midterm Exam = 15 points/ Final Exam = 15 points
講義構成	This class meets once a week. In each class, students will have a chance to listen to and read academic material similar to what will be presented in an American university classroom.
教科書	Academic Connections
講義関連事項	There is an online lab component to the course. Students will use the online lab to supplement their learning and practice for the integrated portions of the TOEFL iBT.

担当者から一言	Practicing TOEFL-type questions will be a primary focus of this course. Students should not feel shy about getting the wrong answer. They should try to learn how to get the correct answer. Learning from mistakes is very important, so students will not be penalized for making mistakes.
---------	---

授業コード	81F61		
授業科目名	TOEFL/TOEIC (1クラス)(前)		
担当者名	GONZALEZ(ゴンザレス マリア)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a test preparation course, with special emphasis on the TOEIC and TOEFL tests. Students will be shown how to prepare for these tests and introduced to various test taking strategies and skills. Example sections and questions will be used to highlight successful approaches and potential trouble spots.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: - recognize and explain what is expected in each section of both tests - develop their own self-preparation plan - recognize and explain why specific answers are right or wrong in each section of both tests
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a test-related topic or strategy (2) a mini-workshop for developing specific test-taking skills, (3) practice in a specific section of one of the tests, (4) debriefing on why specific answers are right or wrong.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), mini quizzes (25%), a learning portfolio (25%) and homework assignments (25%).
講義構成	Week 1 – 3 Overviews of each test and each section, Meta strategies Week 4 – 6 TOEFL iBT Reading & Listening Sections, TOEIC Incomplete Sentences Week 7 – 9 TOEFL iBT Speaking & Writing Sections, TOEIC Text Completion Week 10 – 12 TOEFL iBT Vocabulary & Grammar, TOEIC Reading Comprehension Week 13 – 15 Review & Practice
教科書	Academic Connections 1 (Betsy Cassriel , Marit Ter Mate-Martinsen).Rearson Longman
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F62		
授業科目名	TOEFL/TOEIC (2クラス)(前)		
担当者名	MILLER(ミラー リチャード)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a test preparation course, with special emphasis on the TOEIC and TOEFL tests. Students will be shown how to prepare for these tests and introduced to various test taking strategies and skills. Example sections and questions will be used to highlight successful approaches and potential trouble spots.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to:

	– recognize and explain what is expected in each section of both tests – develop their own self-preparation plan – recognize and explain why specific answers are right or wrong in each section of both tests
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a test-related topic or strategy (2) a mini-workshop for developing specific test-taking skills, (3) practice in a specific section of one of the tests, (4) debriefing on why specific answers are right or wrong.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), mini quizzes (25%), a learning portfolio (25%) and homework assignments (25%).
講義構成	Week 1 – 3 Overviews of each test and each section, Meta strategies Week 4 – 6 TOEFL iBT Reading & Listening Sections, TOEIC Incomplete Sentences Week 7 – 9 TOEFL iBT Speaking & Writing Sections, TOEIC Text Completion Week 10 – 12 TOEFL iBT Vocabulary & Grammar, TOEIC Reading Comprehension Week 13 – 15 Review & Practice
教科書	Academic Connections 1 (Betsy Cassriel , Marit Ter Mate-Martinsen).Rearson Longman
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F63		
授業科目名	TOEFL/TOEIC (3クラス)(前)		
担当者名	クック(クック ルイーズ ジェニファー)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a test preparation course, with special emphasis on the TOEIC and TOEFL tests. Students will be shown how to prepare for these tests and introduced to various test taking strategies and skills. Example sections and questions will be used to highlight successful approaches and potential trouble spots.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – recognize and explain what is expected in each section of both tests – develop their own self-preparation plan – recognize and explain why specific answers are right or wrong in each section of both tests
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a test-related topic or strategy (2) a mini-workshop for developing specific test-taking skills, (3) practice in a specific section of one of the tests, (4) debriefing on why specific answers are right or wrong.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), mini quizzes (25%), a learning portfolio (25%) and homework assignments (25%).
講義構成	Week 1 – 3 Overviews of each test and each section, Meta strategies Week 4 – 6 TOEFL iBT Reading & Listening Sections, TOEIC Incomplete Sentences Week 7 – 9 TOEFL iBT Speaking & Writing Sections, TOEIC Text Completion Week 10 – 12 TOEFL iBT Vocabulary & Grammar, TOEIC Reading Comprehension Week 13 – 15 Review & Practice
教科書	Achieve TOEFL iBT Test-preparation (Renald Rilcy & Rawdon Wyatt). Marshall Cavendish

講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		
--------	---	--	--

授業コード	81F64		
授業科目名	TOEFL/TOEIC (4クラス)(前)		
担当者名	PALMER(パーマー ロジャー)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a test preparation course, with special emphasis on the TOEIC and TOEFL tests. Students will be shown how to prepare for these tests and introduced to various test taking strategies and skills. Example sections and questions will be used to highlight successful approaches and potential trouble spots.		
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: - recognize and explain what is expected in each section of both tests - develop their own self-preparation plan - recognize and explain why specific answers are right or wrong in each section of both tests		
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a test-related topic or strategy (2) a mini-workshop for developing specific test-taking skills, (3) practice in a specific section of one of the tests, (4) debriefing on why specific answers are right or wrong.		
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).		
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), mini quizzes (25%), a learning portfolio (25%) and homework assignments (25%).		
講義構成	Week 1 – 3 Overviews of each test and each section, Meta strategies Week 4 – 6 TOEFL iBT Reading & Listening Sections, TOEIC Incomplete Sentences Week 7 – 9 TOEFL iBT Speaking & Writing Sections, TOEIC Text Completion Week 10 – 12 TOEFL iBT Vocabulary & Grammar, TOEIC Reading Comprehension Week 13 – 15 Review & Practice		
教科書	Academic Connections 1 (Betsy Cassriel , Marit Ter Mate-Martinsen).Rearson Longman		
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.		

授業コード	81F65		
授業科目名	TOEFL/TOEIC (5クラス)(前)		
担当者名	GONZALEZ(ゴンザレス マリア)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a test preparation course, with special emphasis on the TOEIC and TOEFL tests. Students will be shown how to prepare for these tests and introduced to various test taking strategies and skills. Example		
-------	---	--	--

	sections and questions will be used to highlight successful approaches and potential trouble spots.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – recognize and explain what is expected in each section of both tests – develop their own self-preparation plan – recognize and explain why specific answers are right or wrong in each section of both tests
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a test-related topic or strategy (2) a mini-workshop for developing specific test-taking skills, (3) practice in a specific section of one of the tests, (4) debriefing on why specific answers are right or wrong.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), mini quizzes (25%), a learning portfolio (25%) and homework assignments (25%).
講義構成	Week 1 – 3 Overviews of each test and each section, Meta strategies Week 4 – 6 TOEFL iBT Reading & Listening Sections, TOEIC Incomplete Sentences Week 7 – 9 TOEFL iBT Speaking & Writing Sections, TOEIC Text Completion Week 10 – 12 TOEFL iBT Vocabulary & Grammar, TOEIC Reading Comprehension Week 13 – 15 Review & Practice
教科書	Academic Connections 1 (Betsy Cassriel , Marit Ter Mate-Martinsen).Rearson Longman
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F66		
授業科目名	TOEFL/TOEIC (6クラス)(前)		
担当者名	MILLER(ミラー リチャード)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a test preparation course, with special emphasis on the TOEIC and TOEFL tests. Students will be shown how to prepare for these tests and introduced to various test taking strategies and skills. Example sections and questions will be used to highlight successful approaches and potential trouble spots.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – recognize and explain what is expected in each section of both tests – develop their own self-preparation plan – recognize and explain why specific answers are right or wrong in each section of both tests
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a test-related topic or strategy (2) a mini-workshop for developing specific test-taking skills, (3) practice in a specific section of one of the tests, (4) debriefing on why specific answers are right or wrong.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), mini quizzes (25%), a learning portfolio (25%) and homework assignments (25%).
講義構成	Week 1 – 3 Overviews of each test and each section, Meta strategies Week 4 – 6 TOEFL iBT Reading & Listening Sections, TOEIC Incomplete Sentences Week 7 – 9 TOEFL iBT Speaking & Writing Sections, TOEIC Text Completion Week 10 – 12 TOEFL iBT Vocabulary & Grammar, TOEIC Reading Comprehension Week 13 – 15 Review & Practice

教科書	Academic Connections 1 (Betsy Cassriel , Marit Ter Mate-Martinsen).Rearson Longman
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F67		
授業科目名	TOEFL/TOEIC (7クラス)(前)		
担当者名	クック(クック ルイーズ ジェニファー)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a test preparation course, with special emphasis on the TOEIC and TOEFL tests. Students will be shown how to prepare for these tests and introduced to various test taking strategies and skills. Example sections and questions will be used to highlight successful approaches and potential trouble spots.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: - recognize and explain what is expected in each section of both tests - develop their own self-preparation plan - recognize and explain why specific answers are right or wrong in each section of both tests
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a test-related topic or strategy (2) a mini-workshop for developing specific test-taking skills, (3) practice in a specific section of one of the tests, (4) debriefing on why specific answers are right or wrong.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), mini quizzes (25%), a learning portfolio (25%) and homework assignments (25%).
講義構成	Week 1 – 3 Overviews of each test and each section, Meta strategies Week 4 – 6 TOEFL iBT Reading & Listening Sections, TOEIC Incomplete Sentences Week 7 – 9 TOEFL iBT Speaking & Writing Sections, TOEIC Text Completion Week 10 – 12 TOEFL iBT Vocabulary & Grammar, TOEIC Reading Comprehension Week 13 – 15 Review & Practice
教科書	Achieve TOEFL iBT Test-preparation (Renald Rilcy & Rawdon Wyatt). Marshall Cavendish
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81F68		
授業科目名	TOEFL/TOEIC (8クラス)(前)		
担当者名	ROUAULT Gregory T.(ルーオー グレゴリー)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	This is a test preparation course, with special emphasis on the TOEIC and TOEFL tests. Students will be
-------	---

	shown how to prepare for these tests and introduced to various test taking strategies and skills. Example sections and questions will be used to highlight successful approaches and potential trouble spots.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – recognize and explain what is expected in each section of both tests – develop their own self-preparation plan – recognize and explain why specific answers are right or wrong in each section of both tests
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a test-related topic or strategy (2) a mini-workshop for developing specific test-taking skills, (3) practice in a specific section of one of the tests, (4) debriefing on why specific answers are right or wrong.
準備学習	Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), mini quizzes (25%), a learning portfolio (25%) and homework assignments (25%).
講義構成	Week 1 – 3 Overviews of each test and each section, Meta strategies Week 4 – 6 TOEFL iBT Reading & Listening Sections, TOEIC Incomplete Sentences Week 7 – 9 TOEFL iBT Speaking & Writing Sections, TOEIC Text Completion Week 10 – 12 TOEFL iBT Vocabulary & Grammar, TOEIC Reading Comprehension Week 13 – 15 Review & Practice
教科書	Academic Connections 1 (Betsy Cassriel , Marit Ter Mate-Martinsen).Rearson Longman
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81A81		
授業科目名	WEBベーシック（1クラス)(後)		
担当者名	新谷公朗(シタニ キミオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本授業では、インターネットを利用した情報の発信とコミュニケーションについて学習する。実際に、Webページの制作、画像の加工、動画、アニメーションといった各種メディアを利用した情報発信の方法と実施するためのスキルについて学ぶ。また、発信した情報を起点としたコミュニケーションの実態や課題についても議論する。
到達目標	静止画、動画、アニメーションといったマルチメディアの性質・特徴を理解する。また、実際にそれらを加工・編集・制作できるスキルを身につける。
講義方法	パソコンを使った演習(PC教室)
準備学習	特に必要無い
成績評価	課題、出席、グループワークなどを総合的に判断する
講義構成	1.オリエンテーション 2. Webページ制作(1) 3. Webページ制作(2) 4. Webページ制作(3) 5. Photoshopを使つての画像加工(1) 6. Photoshopを使つての画像加工(2) 7. Photoshop課題 8. Flashを使つたアニメーション作製(1) 9. Flashを使つたアニメーション作製(2) 10. Flash課題

	11. Flash課題 12. ムービーメーカーを使った動画編集(1) 13. ムービーメーカーを使った動画編集(2) 14. ムービーメーカー課題 15. 最終課題
教科書	教科書は用いない。電子教材などを使用する。
参考書・資料	授業時に適宜指示する
講義関連事項	課題などの連絡、提出など、授業に関するすべての事柄はMyKONANを利用する
その他	この授業では、PC教室のパソコンを利用します。個人所有のノートパソコンは使いません。

授業コード	81A82		
授業科目名	WEBベーシック（2クラス)(後)		
担当者名	前田洋樹(マエタ ヒロキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本授業では、インターネットを利用した情報の発信とコミュニケーションについて学習する。実際に、Webページの制作、画像の加工、動画、アニメーションといった各種メディアを利用した情報発信の方法と実施するためのスキルについて学ぶ。また、発信した情報を起点としたコミュニケーションの実態や課題についても議論する。
到達目標	静止画、動画、アニメーションといったマルチメディアの性質・特徴を理解する。また、実際にそれらを加工・編集・制作できるスキルを身につける。
講義方法	パソコンを使った演習（PC教室）
準備学習	特に必要無い
成績評価	課題、出席、グループワークなどを総合的に判断する
講義構成	1.オリエンテーション 2. Webページ制作(1) 3. Webページ制作(2) 4. Webページ制作(3) 5. Photoshopを使つての画像加工(1) 6. Photoshopを使つての画像加工(2) 7. Photoshop課題 8. Flashを使ったアニメーション作製(1) 9. Flashを使ったアニメーション作製(2) 10. Flash課題 11. Flash課題 12. ムービーメーカーを使った動画編集(1) 13. ムービーメーカーを使った動画編集(2) 14. ムービーメーカー課題 15. 最終課題
教科書	教科書は用いない。電子教材などを使用する。
参考書・資料	授業時に適宜指示する
講義関連事項	課題などの連絡、提出など、授業に関するすべての事柄はMyKONANを利用する
その他	この授業では、PC教室のパソコンを利用します。個人所有のノートパソコンは使いません。

授業コード	81A83
授業科目名	WEBベーシック（3クラス）(後)
担当者名	井上 明（イノウエ アキラ）

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本授業では、インターネットを利用した情報の発信とコミュニケーションについて学習する。実際に、Webページの制作、画像の加工、動画、アニメーションといった各種メディアを利用した情報発信の方法と実施するためのスキルについて学ぶ。また、発信した情報を起点としたコミュニケーションの実態や課題についても議論する。
到達目標	静止画、動画、アニメーションといったマルチメディアの性質・特徴を理解する。また、実際にそれらを加工・編集・制作できるスキルを身につける。
講義方法	パソコンを使った演習(PC教室)
準備学習	特に必要無い
成績評価	課題、出席、グループワークなどを総合的に判断する
講義構成	1.オリエンテーション 2. Webページ制作(1) 3. Webページ制作(2) 4. Webページ制作(3) 5. Photoshopを使つての画像加工(1) 6. Photoshopを使つての画像加工(2) 7. Photoshop課題 8. Flashを使つたアニメーション作製(1) 9. Flashを使つたアニメーション作製(2) 10. Flash課題 11. Flash課題 12. ムービーメーカーを使つた動画編集(1) 13. ムービーメーカーを使つた動画編集(2) 14. ムービーメーカー課題 15. 最終課題
教科書	教科書は用いない。電子教材などを使用する。
参考書・資料	授業時に適宜指示する
講義関連事項	課題などの連絡、提出など、授業に関するすべての事柄はMyKONANを利用する
その他	この授業では、PC教室のパソコンを利用します。個人所有のノートパソコンは使いません。

授業コード	81A84		
授業科目名	WEBベーシック(4クラス)(後)		
担当者名	前田洋樹(マエタ ヒロキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本授業では、インターネットを利用した情報の発信とコミュニケーションについて学習する。実際に、Webページの制作、画像の加工、動画、アニメーションといった各種メディアを利用した情報発信の方法と実施するためのスキルについて学ぶ。また、発信した情報を起点としたコミュニケーションの実態や課題についても議論する。
到達目標	静止画、動画、アニメーションといったマルチメディアの性質・特徴を理解する。また、実際にそれらを加工・編集・制作できるスキルを身につける。
講義方法	パソコンを使った演習(PC教室)
準備学習	特に必要無い
成績評価	課題、出席、グループワークなどを総合的に判断する
講義構成	1.オリエンテーション 2. Webページ制作(1)

	3. Webページ制作(2) 4. Webページ制作(3) 5. Photoshopを使つての画像加工(1) 6. Photoshopを使つての画像加工(2) 7. Photoshop課題 8. Flashを使つたアニメーション作製(1) 9. Flashを使つたアニメーション作製(2) 10. Flash課題 11. Flash課題 12. ムービーメーカーを使つた動画編集(1) 13. ムービーメーカーを使つた動画編集(2) 14. ムービーメーカー課題 15. 最終課題
教科書	教科書は用いない。電子教材などを使用する。
参考書・資料	授業時に適宜指示する
講義関連事項	課題などの連絡、提出など、授業に関するすべての事柄はMyKONANを利用する
その他	この授業では、PC教室のパソコンを利用します。個人所有のノートパソコンは使いません。

授業コード	81A85		
授業科目名	WEBベーシック(5クラス)(前)		
担当者名	新谷公朗(シタニ キミオ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録科目 2009年度入学生用		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本授業では、インターネットを利用した情報の発信とコミュニケーションについて学習する。実際に、Webページの制作、画像の加工、動画、アニメーションといった各種メディアを利用した情報発信の方法と実施するためのスキルについて学ぶ。また、発信した情報を起点としたコミュニケーションの実態や課題についても議論する。
到達目標	静止画、動画、アニメーションといったマルチメディアの性質・特徴を理解する。また、実際にそれらを加工・編集・制作できるスキルを身につける。
講義方法	パソコンを使つた演習(PC教室)
準備学習	特に必要無い
成績評価	課題、出席、グループワークなどを総合的に判断する
講義構成	1.オリエンテーション 2. Webページ制作(1) 3. Webページ制作(2) 4. Webページ制作(3) 5. Photoshopを使つての画像加工(1) 6. Photoshopを使つての画像加工(2) 7. Photoshop課題 8. Flashを使つたアニメーション作製(1) 9. Flashを使つたアニメーション作製(2) 10. Flash課題 11. Flash課題 12. ムービーメーカーを使つた動画編集(1) 13. ムービーメーカーを使つた動画編集(2) 14. ムービーメーカー課題 15. 最終課題
教科書	教科書は用いない。電子教材などを使用する。
参考書・資料	授業時に適宜指示する
講義関連事項	課題などの連絡、提出など、授業に関するすべての事柄はMyKONANを利用する

その他	この授業では、PC教室のパソコンを利用します。個人所有のノートパソコンは使いません。
-----	--

授業コード	81J11		
授業科目名	Writing and Grammar (1クラス)(前)		
担当者名	LEE Sarah (リー サラ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 水曜1限 木曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	The main aim of the course is the development of clear, concise academic paragraph writing in several rhetorical styles in addition to creative written expression. Grammar is taught to support students' writing skills and to improve general accuracy and knowledge of grammatical form.
到達目標	◆ Write well organized and developed paragraphs incorporating brainstorming, outlining, and revised drafts. ◆ Be able to understand and use: topic sentence, main idea, supporting details, and introduction, body and conclusion ◆ Apply error analysis techniques to individual writing as well as peer editing. ◆ Write creatively for self-expression and language development through the use of journals, self-reflection, etc. ◆ Review basic grammar components needed for writing a variety of types of paragraphs. ◆ Be able to write a paragraph in a limited amount of time with a focus on both form and content in order to prepare for the independent Writing section of the TOEFL iBT.
講義方法	Study Abroad courses are taught with a communicative approach and all students are required to be active learners and participants. Throughout the course, students will work on writing a variety of styles of paragraphs which they will compile and refine in their writing portfolio. Using examples from the textbook, the teacher will explain the various writing styles and help students to develop their own writing.
準備学習	Students will be expected to work on writing a rough draft and then refining that rough draft into a final product. The writing class is a workshop style where students are encouraged to develop their writing craft through extensive opportunities for practice and feedback from their peers and the teacher.
成績評価	Class Participation: 15 % Quizzes and graded assignments: 45% Midterm Exam 15% Final Exam: 15% TOEFL: 10%
講義構成	This class meets three times per week. The class will be divided into four 4-week segments during which you will develop 4 types of paragraphs: descriptive, opinion, process, and narrative. The last several weeks of class may also include an introducing the essay.
教科書	Effective Academic Writing 1:The Paragraph By Alice Savage and Masoud Shafiei. (Oxford)
参考書・資料	The teacher may bring in additional writing samples to help students understand the various rhetorical forms.
講義関連事項	The teacher will provide each student with a journal and a writing portfolio which they will use throughout the semester to collect their writing.
担当者から一言	Writing is a craft that is developed through practice. In this class, you will learn a variety of forms of writing and have extensive opportunity to practice writing those forms and do self-editing and peer editing in order to learn how to correct your own writing.

授業コード	81J12		
授業科目名	Writing and Grammar (2クラス)(前)		
担当者名	GONDREE(ゴンドリー エリック)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 水曜1限 木曜1限

特記事項	自動登録科目
講義の内容	The main aim of the course is the development of clear, concise academic paragraph writing in several rhetorical styles in addition to creative written expression. Grammar is taught to support students' writing skills and to improve general accuracy and knowledge of grammatical form.
到達目標	◆ Write well organized and developed paragraphs incorporating brainstorming, outlining, and revised drafts. ◆ Be able to understand and use: topic sentence, main idea, supporting details, and introduction, body and conclusion ◆ Apply error analysis techniques to individual writing as well as peer editing. ◆ Write creatively for self-expression and language development through the use of journals, self-reflection, etc. ◆ Review basic grammar components needed for writing a variety of types of paragraphs. ◆ Be able to write a paragraph in a limited amount of time with a focus on both form and content in order to prepare for the independent Writing section of the TOEFL iBT.
講義方法	Study Abroad courses are taught with a communicative approach and all students are required to be active learners and participants. Throughout the course, students will work on writing a variety of styles of paragraphs which they will compile and refine in their writing portfolio. Using examples from the textbook, the teacher will explain the various writing styles and help students to develop their own writing.
準備学習	Students will be expected to work on writing a rough draft and then refining that rough draft into a final product. The writing class is a workshop style where students are encouraged to develop their writing craft through extensive opportunities for practice and feedback from their peers and the teacher.
成績評価	Class Participation: 15 % Quizzes and graded assignments: 45% Midterm Exam 15% Final Exam: 15% TOEFL: 10%
講義構成	This class meets three times per week. The class will be divided into four 4-week segments during which you will develop 4 types of paragraphs: descriptive, opinion, process, and narrative. The last several weeks of class may also include an introducing the essay.
教科書	First Step in Academic Writing 2nd edition By Ann Hogue (Pearson Longman)
参考書・資料	The teacher may bring in additional writing samples to help students understand the various rhetorical forms.
講義関連事項	The teacher will provide each student with a journal and a writing portfolio which they will use throughout the semester to collect their writing.
担当者から一言	Writing is a craft that is developed through practice. In this class, you will learn a variety of forms of writing and have extensive opportunity to practice writing those forms and do self-editing and peer editing in order to learn how to correct your own writing.

授業コード	81J13		
授業科目名	Writing and Grammar (3クラス)(前)		
担当者名	FREEBORN(フリーボーン ポール)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 水曜1限 木曜1限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	The main aim of the course is the development of clear, concise academic paragraph writing in several rhetorical styles in addition to creative written expression. Grammar is taught to support students' writing skills and to improve general accuracy and knowledge of grammatical form.
到達目標	◆ Write well organized and developed paragraphs incorporating brainstorming, outlining, and revised drafts. ◆ Be able to understand and use: topic sentence, main idea, supporting details, and introduction, body and conclusion ◆ Apply error analysis techniques to individual writing as well as peer editing. ◆ Write creatively for self-expression and language development through the use of journals, self-reflection, etc. ◆ Review basic grammar components needed for writing a variety of types of paragraphs.

	◆ Be able to write a paragraph in a limited amount of time with a focus on both form and content in order to prepare for the independent Writing section of the TOEFL iBT.
講義方法	Study Abroad courses are taught with a communicative approach and all students are required to be active learners and participants. Throughout the course, students will work on writing a variety of styles of paragraphs which they will compile and refine in their writing portfolio. Using examples from the textbook, the teacher will explain the various writing styles and help students to develop their own writing.
準備学習	Students will be expected to work on writing a rough draft and then refining that rough draft into a final product. The writing class is a workshop style where students are encouraged to develop their writing craft through extensive opportunities for practice and feedback from their peers and the teacher.
成績評価	Class Participation: 15 % Quizzes and graded assignments: 45% Midterm Exam 15% Final Exam: 15% TOEFL: 10%
講義構成	This class meets three times per week. The class will be divided into four 4-week segments during which you will develop 4 types of paragraphs: descriptive, opinion, process, and narrative. The last several weeks of class may also include an introducing the essay.
教科書	Great Paragraphs 2 by Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, Elena Vestri Solomon (Cengage).
参考書・資料	The teacher may bring in additional writing samples to help students understand the various rhetorical forms.
講義関連事項	The teacher will provide each student with a journal and a writing portfolio which they will use throughout the semester to collect their writing.
担当者から一言	Writing is a craft that is developed through practice. In this class, you will learn a variety of forms of writing and have extensive opportunity to practice writing those forms and do self-editing and peer editing in order to learn how to correct your own writing.

授業コード	81040		
授業科目名	科学技術と倫理（後）		
担当者名	太田雅久(オオタ マサヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜5限

講義の内容	科学技術を支える背景にある自然科学の主たるいくつかの分野について、社会的意義および将来性といった観点からの理解を深める。たとえば、産業革命を含む時代の古典的な物理学の発展を、その時代の経済発展と関連して考察する。1900年以降の量子力学を基盤とした科学技術の発展については、現在の科学技術社会との関連において、科学の先端部門(ナノ物理、分子生物など)のもろ刃の剣としての性質や、それを応用するに際しての人類の福祉の側面を考える。
到達目標	日本の科学技術及びその政策・動向と科学技術にかかわる倫理性の基本的な問題点を理解すること。
講義方法	資料、参考書に沿って講義と討論を併用して行う。
準備学習	授業の終わりに、予習する項目を指定する。
成績評価	期末試験において、与えられた問題に対する論述内容で評価する。
講義構成	1. 日本の科学技術基本計画に関して(1) 2. 日本の科学技術基本計画に関して(2) 3. 科学技術人材育成について 4. 科学技術イノベーションのための環境 5. 科学倫理について 6. 科学技術における倫理 7. 人間と技術 8. 現代の技術文明 9. 科学におけるパラダイムシフト 10. 科学技術と近代社会 11. 近代科学技術の特徴 12. 医療技術と倫理 13. 科学技術と市民生活 14. 科学の発展と自然観の変遷

	15. 予備
教科書	後日指定。
参考書・資料	授業で紹介。

授業コード	81046		
授業科目名	環境と社会（後）		
担当者名	島本憲一（シマモト ケンイチ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	様々な環境問題に関して、政策学的なアプローチを学習する。はじめに環境倫理や環境政策の基礎を学び、次にその応用政策について知識を深めることにする。取り扱う環境分野は、主に廃棄物関連、土地利用関連となる。		
到達目標	さまざまな環境問題に関して、政策学からの視点を習得することを目指す。		
講義方法	講義および討論		
準備学習	授業で講義するので特になし。		
成績評価	定期試験100%		
講義構成	第1部 環境倫理 第2部 環境政策全般（環境法、環境影響評価等） 第3部 廃棄物関連政策（廃棄物、リサイクル） 第4部 土地利用政策（国土、都市開発、自然公園、河川、海浜、森林）		
教科書	MyKonanでノート配布。		
担当者から一言	講義の約70%が、環境を政策の視点からアプローチすることになるので、政策学に関心のある人に向いているかもしれない。		

授業コード	81049		
授業科目名	企業と経営I（前）		
担当者名	BOYLES（ボイルズ コリン）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	火曜日Ⅲ限		

講義の内容	人的資源管理に関する理論と現状について講義する。会社にとって、人材の確保・育成・動機づけは中心的なテーマである。外的な制約を理解しながら、人事制度の種々のパーツ（採用方、配置と昇進、査定と賃金制度、能力開発、雇用調整のあり方、労使関係）をどのように組み立て、互いに関係づければ効果的な制度として機能するのかについて考える。		
到達目標	人的資源管理の基礎知識を修得し、人事制度とその運営を経済学的視点で説明することができる。		
講義方法	主に講義形式で進める。授業中にワークシートやショート・ペーパーを提出してもらうこともある。		
準備学習	テキストの予習、テキスト・配布プリント等の復習。		
成績評価	定期試験 70% 授業参加 15% レポート（労働ニュース・スクラップブック）15%		
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回～第3回 人的資源管理の歴史と役割 第4回 採用管理 第5回～第6回 報酬体系と報酬 第7回 配置・移動・昇進		

	第8回～第9回 人材育成 第9回～第10回 労働時間と就業環境 第11回 退職管理 第12回 労使関係 第13回 安全衛生 第14回 就業形態の多様化 第15回 総括
教科書	安藤史江(2008).『コア・テキスト 人的資源管理』 東京:新世社.
参考書・資料	その都度指示する.
担当者から一言	自分のためにも世の中のしくみを知ろう.

授業コード	81050		
授業科目名	企業と経営Ⅲ（前）		
担当者名	桐畑哲也（キリハタ テツヤ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	現代の産業技術の発展とベンチャー・ビジネスに関する社会的動向を理解し、起業、ベンチャー・ビジネス経営についての理解を深め、アントレプレナーシップ(企業家精神)の涵養を目指す。 起業、ベンチャービジネスの現状や実例をケーススタディとして、経営組織、経営戦略を始め、様々な経営上の視点から、起業に必要な基礎的な知識を習得する。
到達目標	アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。受講生が、ビジネスパーソンとして新規事業を提案できる基礎力の養成を目的とする。
講義方法	受講生のグループディスカッションをベースとした演習形式
準備学習	特になし。
成績評価	出席、報告、レポート、さらに、グループディスカッション等での貢献を総合的に判断する。
講義構成	教科書を基にした文献学習及びアントレプレナーのケーススタディ演習で構成される。
教科書	William D. Bygrave, Andrew Zacharakis (2007) Entrepreneurship, J. Wiley & Sons, (アントレプレナーシップ, 高橋徳行・田代泰久・鈴木正明訳, 日経BP, 2009年).
参考書・資料	クラスで、随時指示する。

授業コード	81A21		
授業科目名	基礎リテラシー（6～1月）（1クラス）		
担当者名	太田雅久（オオタ マサヒサ）、BOYLES（ボイルズ コリン）、新井康平（アライ コウヘイ）		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限 水曜5限）、後期（水曜4限 水曜5限）
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	2年次以降始まるプロジェクト学習における導入。「自ら学び、共に学ぶ」、「自ら考え行動する」を体験する。授業は三つのフェーズに分かれ、最終的には、フェーズⅢにおいて、二つのテーマに関し、各クラスから選抜されたチームによるプレゼンテーション大会を実施する。
到達目標	プロジェクト型の学習方法を理解し、それを進めていくために必要となる基礎的スキルを涵養する。
講義方法	[フェーズⅠ] フェーズⅡ、Ⅲでは、具体的なテーマについて、ストーリーを作りプレゼンテーションをし、質疑に答えるという実践的な課題が与えられる。フェーズⅠは、フェーズⅡ、Ⅲのための準備期間であり、「調べる」、「考える」、「発表する」、「質問する」、そして「議論する」といった基礎的な能力の育成と、特に「自らから学び、共に学ぶ」ことの楽

	しさ、難しさを体験する。また、授業では、原則、フィールド調査を実施する。 [フェーズⅡ] 自らテーマを見つけ、調べ、考え、発表し、質問に応える。フェーズⅠで編成した各クラスのチーム毎に、関心あるテーマについて、プレゼンテーションの準備をする。フェーズⅡの最後の2週間は、他のクラスに出向き、プレゼンテーションをし、質問に応える。 [フェーズⅢ] 共通テーマを二つが提示される。一つは経済・経営系のテーマ、もう一つはグローバルスタディや地域・社会問題のテーマである。各クラスはテーマ毎に複数のチームを編成し、プレゼンテーションの準備をする。最終的に各テーマについてクラスを代表するベストチームをクラス内で選考する。フェーズⅢにおいては、1月にテーマ毎に選考された各クラスの代表チームによるプレゼンテーション大会(各クラスの代表4チーム)で、1年間の勉強の成果を示すことが最大の目標となる。プレゼンテーション大会はテーマ毎に実施し、各チームは招待客を含めた学生、教職員全員の前でプレゼンテーションを行い、その後質問に応える。テーマ毎に最優秀チームが選ばれ、表彰されることになる。
準備学習	新聞やテレビのニュース・特集を見る等、日常的に、経済・経営・社会問題に関心・疑問を持ち、一つ深く考える姿勢を身につけること。
成績評価	すべて出席すること。出席、授業への参加態度、クラス貢献度並びにレポート・プレゼンテーション等により評価する。
講義構成	[フェーズⅠ] 1週目【6/2 5限のみ】: オリエンテーション、自己紹介等 2～5週目【6/9 6/16 6/23 6/30】: 以下のスキル・能力を総合的に育成する。 ・情報探索力:調べる ・企画立案力:テーマを見つけ、ストーリーを作る ・調査実践力:現場・現実から学ぶ ・コラボレーション力:チームで仕事をする ・情報発信力:プレゼンテーション技術、質問する・質問に答える ・考える力:問題を見つめる、答えに近づく力 6週目【7/7】: フェーズⅡの準備として、各クラスで6つのチームを編成し、テーマ選びに関する議論を始める。 7週目【7/14】: フェーズⅡのテーマ選び、ストーリー作り。 8週目【7/21】: フェーズⅡのスケジュールを確定し、夏休みの課題を与える。 [フェーズⅡ] 9週目～11週目【9/22 9/29 10/6】: プレゼンテーションの準備。 12週目【10/13】: 各クラスの3チームが他のクラスに出向き、プレゼンテーションと質疑を体験する。 13週目【10/20】: 各クラスの3チームが他のクラスに出向き、プレゼンテーションと質疑を体験する。 (最後にフェーズⅢの共通テーマが発表される。) [フェーズⅢ] 14週目【10/27】: フェーズⅢの共通テーマ毎に、各クラス内で複数のチームを編成、準備を始める。 15～21週目【11/10 11/17 11/24 12/1 12/8 12/15 12/22】: 各チーム、プレゼンテーションの準備。 (各クラス内でテーマ毎に代表チームを選考する。) 22・23週目【1/12 1/19】: テーマ毎に1日ずつプレゼンテーション大会を実施し、最優秀チームを選考する。 (プレゼンテーション大会は、講義実施日以外の日に開催される場合がある。)
教科書	特になし。

授業コード	81A22		
授業科目名	基礎リテラシー (6～1月)(2クラス)		
担当者名	井上 明(イノウエ アキラ)、桐畑哲也(キリハタ テツヤ)、大窪敦子(オオクボ アツコ)、林美玉(イム ミオク)、倉本宜史(クラモト タカシ)		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	後期(水曜4限 水曜5限)、前期(水曜4限 水曜5限)
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	2年次以降始まるプロジェクト学習における導入。「自ら学び、共に学ぶ」、「自ら考え行動する」を体験する。授		

	業は三つのフェーズに分かれ、最終的には、フェーズⅢにおいて、二つのテーマに関し、各クラスから選抜されたチームによるプレゼンテーション大会を実施する。
到達目標	プロジェクト型の学習方法を理解し、それを進めていくために必要となる基礎的スキルを涵養する。
講義方法	[フェーズⅠ] フェーズⅡ、Ⅲでは、具体的なテーマについて、ストーリーを作りプレゼンテーションをし、質疑に答えるという実践的な課題が与えられる。フェーズⅠは、フェーズⅡ、Ⅲのための準備期間であり、「調べる」、「考える」、「発表する」、「質問する」、そして「議論する」といった基礎的な能力の育成と、特に「自らから学び、共に学ぶ」ことの楽しさ、難しさを体験する。また、授業では、原則、フィールド調査を実施する。 [フェーズⅡ] 自らテーマを見つけ、調べ、考え、発表し、質問に答える。フェーズⅠで編成した各クラスのチーム毎に、関心あるテーマについて、プレゼンテーションの準備をする。フェーズⅡの最後の2週間は、他のクラスに出向き、プレゼンテーションをし、質問に答える。 [フェーズⅢ] 共通テーマを二つが提示される。一つは経済・経営系のテーマ、もう一つはグローバルスタディや地域・社会問題のテーマである。各クラスはテーマ毎に複数のチームを編成し、プレゼンテーションの準備をする。最終的に各テーマについてクラスを代表するベストチームをクラス内で選考する。フェーズⅢにおいては、1月にテーマ毎に選考された各クラスの代表チームによるプレゼンテーション大会(各クラスの代表4チーム)で、1年間の勉強の成果を示すことが最大の目標となる。プレゼンテーション大会はテーマ毎に実施し、各チームは招待客を含めた学生、教職員全員の前でプレゼンテーションを行い、その後質問に答える。テーマ毎に最優秀チームが選ばれ、表彰されることになる。
準備学習	新聞やテレビのニュース・特集を見る等、日常的に、経済・経営・社会問題に関心・疑問を持ち、一つ深く考える姿勢を身につけること。
成績評価	すべて出席すること。出席、授業への参加態度、クラス貢献度並びにレポート・プレゼンテーション等により評価する。
講義構成	[フェーズⅠ] 1週目【6/2 5限のみ】: オリエンテーション、自己紹介等 2～5週目【6/9 6/16 6/23 6/30】: 以下のスキル・能力を総合的に育成する。 ・情報探索力:調べる ・企画立案力:テーマを見つけ、ストーリーを作る ・調査実践力:現場・現実から学ぶ ・コラボレーション力:チームで仕事をする ・情報発信力:プレゼンテーション技術、質問する・質問に答える ・考える力:問題を見つめる、答えに近づく力 6週目【7/7】: フェーズⅡの準備として、各クラスで6つのチームを編成し、テーマ選びに関する議論を始める。 7週目【7/14】: フェーズⅡのテーマ選び、ストーリー作り。 8週目【7/21】: フェーズⅡのスケジュールを確定し、夏休みの課題を与える。 [フェーズⅡ] 9週目～11週目【9/22 9/29 10/6】: プレゼンテーションの準備。 12週目【10/13】: 各クラスの3チームが他のクラスに出向き、プレゼンテーションと質疑を体験する。 13週目【10/20】: 各クラスの3チームが他のクラスに出向き、プレゼンテーションと質疑を体験する。 (最後にフェーズⅢの共通テーマが発表される。) [フェーズⅢ] 14週目【10/27】: フェーズⅢの共通テーマ毎に、各クラス内で複数のチームを編成、準備を始める。 15～21週目【11/10 11/17 11/24 12/1 12/8 12/15 12/22】: 各チーム、プレゼンテーションの準備。 (各クラス内でテーマ毎に代表チームを選考する。) 22・23週目【1/12 1/19】: テーマ毎に1日ずつプレゼンテーション大会を実施し、最優秀チームを選考する。 (プレゼンテーション大会は、講義実施日以外の日に開催される場合がある。)
教科書	特になし。

授業コード	81A23		
授業科目名	基礎リテラシー（6～1月）（3クラス）		
担当者名	佐伯邦夫（サエキ クニオ）、高永才（コウ ヨンゼ）、倉本宜史（クラモト タカシ）		
配当年次	1年次	単位数	6

開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜4限 水曜5限)、後期(水曜4限 水曜5限)
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	2年次以降始まるプロジェクト学習における導入。「自ら学び、共に学ぶ」、「自ら考え行動する」を体験する。授業は三つのフェーズに分かれ、最終的には、フェーズⅢにおいて、二つのテーマに関し、各クラスから選抜されたチームによるプレゼンテーション大会を実施する。		
到達目標	プロジェクト型の学習方法を理解し、それを進めていくために必要となる基礎的スキルを涵養する。		
講義方法	[フェーズⅠ] フェーズⅡ、Ⅲでは、具体的なテーマについて、ストーリーを作りプレゼンテーションをし、質疑に答えるという実践的な課題が与えられる。フェーズⅠは、フェーズⅡ、Ⅲのための準備期間であり、「調べる」、「考える」、「発表する」、「質問する」、そして「議論する」といった基礎的な能力の育成と、特に「自らから学び、共に学ぶ」ことの楽しさ、難しさを体験する。また、授業では、原則、フィールド調査を実施する。 [フェーズⅡ] 自らテーマを見つけ、調べ、考え、発表し、質問に答える。フェーズⅠで編成した各クラスのチーム毎に、関心あるテーマについて、プレゼンテーションの準備をする。フェーズⅡの最後の2週間は、他のクラスに出向き、プレゼンテーションをし、質問に答える。 [フェーズⅢ] 共通テーマを二つが提示される。一つは経済・経営系のテーマ、もう一つはグローバルスタディや地域・社会問題のテーマである。各クラスはテーマ毎に複数のチームを編成し、プレゼンテーションの準備をする。最終的に各テーマについてクラスを代表するベストチームをクラス内で選考する。フェーズⅢにおいては、1月にテーマ毎に選考された各クラスの代表チームによるプレゼンテーション大会(各クラスの代表4チーム)で、1年間の勉強の成果を示すことが最大の目標となる。プレゼンテーション大会はテーマ毎に実施し、各チームは招待客を含めた学生、教職員全員の前でプレゼンテーションを行い、その後質問に答える。テーマ毎に最優秀チームが選ばれ、表彰されることになる。		
準備学習	新聞やテレビのニュース・特集を見る等、日常的に、経済・経営・社会問題に関心・疑問を持ち、一つ深く考える姿勢を身につけること。		
成績評価	すべて出席すること。出席、授業への参加態度、クラス貢献度並びにレポート・プレゼンテーション等により評価する。		
講義構成	[フェーズⅠ] 1週目【6/2 5限のみ】: オリエンテーション、自己紹介等 2～5週目【6/9 6/16 6/23 6/30】: 以下のスキル・能力を総合的に育成する。 ・情報探索力:調べる ・企画立案力:テーマを見つけ、ストーリーを作る ・調査実践力:現場・現実から学ぶ ・コラボレーション力:チームで仕事をする ・情報発信力:プレゼンテーション技術、質問する・質問に答える ・考える力:問題を見つける、答えに近づく力 6週目【7/7】: フェーズⅡの準備として、各クラスで6つのチームを編成し、テーマ選びに関する議論を始める。 7週目【7/14】: フェーズⅡのテーマ選び、ストーリー作り。 8週目【7/21】: フェーズⅡのスケジュールを確定し、夏休みの課題を与える。 [フェーズⅡ] 9週目～11週目【9/22 9/29 10/6】: プレゼンテーションの準備。 12週目【10/13】: 各クラスの3チームが他のクラスに出向き、プレゼンテーションと質疑を体験する。 13週目【10/20】: 各クラスの3チームが他のクラスに出向き、プレゼンテーションと質疑を体験する。 (最後にフェーズⅢの共通テーマが発表される。) [フェーズⅢ] 14週目【10/27】: フェーズⅢの共通テーマ毎に、各クラス内で複数のチームを編成、準備を始める。 15～21週目【11/10 11/17 11/24 12/1 12/8 12/15 12/22】: 各チーム、プレゼンテーションの準備。 (各クラス内でテーマ毎に代表チームを選考する。) 22・23週目【1/12 1/19】: テーマ毎に1日ずつプレゼンテーション大会を実施し、最優秀チームを選考する。 (プレゼンテーション大会は、講義実施日以外の日に開催される場合がある。)		
教科書	特になし。		

授業コード	81A24		
授業科目名	基礎リテラシー（6～1月）（4クラス）		
担当者名	中村聡一（ナカムラ ソウイチ）、島本憲一（シマモト ケンイチ）、桐畑哲也（キリハタ テツヤ）		
配当年次	1年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜4限 水曜5限）、後期（水曜4限 水曜5限）
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	2年次以降始まるプロジェクト学習における導入。「自ら学び、共に学ぶ」、「自ら考え行動する」を体験する。授業は三つのフェーズに分かれ、最終的には、フェーズⅢにおいて、二つのテーマに関し、各クラスから選抜されたチームによるプレゼンテーション大会を実施する。
到達目標	プロジェクト型の学習方法を理解し、それを進めていくために必要となる基礎的スキルを涵養する。
講義方法	[フェーズⅠ] フェーズⅡ、Ⅲでは、具体的なテーマについて、ストーリーを作りプレゼンテーションをし、質疑に答えるという実践的な課題が与えられる。フェーズⅠは、フェーズⅡ、Ⅲのための準備期間であり、「調べる」、「考える」、「発表する」、「質問する」、そして「議論する」といった基礎的な能力の育成と、特に「自らから学び、共に学ぶ」ことの楽しさ、難しさを体験する。また、授業では、原則、フィールド調査を実施する。 [フェーズⅡ] 自らテーマを見つけ、調べ、考え、発表し、質問に答える。フェーズⅠで編成した各クラスのチーム毎に、関心あるテーマについて、プレゼンテーションの準備をする。フェーズⅡの最後の2週間は、他のクラスに出向き、プレゼンテーションをし、質問に答える。 [フェーズⅢ] 共通テーマを二つが提示される。一つは経済・経営系のテーマ、もう一つはグローバルスタディや地域・社会問題のテーマである。各クラスはテーマ毎に複数のチームを編成し、プレゼンテーションの準備をする。最終的に各テーマについてクラスを代表するベストチームをクラス内で選考する。フェーズⅢにおいては、1月にテーマ毎に選考された各クラスの代表チームによるプレゼンテーション大会（各クラスの代表4チーム）で、1年間の勉強の成果を示すことが最大の目標となる。プレゼンテーション大会はテーマ毎に実施し、各チームは招待客を含めた学生、教職員全員の前でプレゼンテーションを行い、その後質問に答える。テーマ毎に最優秀チームが選ばれ、表彰されることになる。
準備学習	新聞やテレビのニュース・特集を見る等、日常的に、経済・経営・社会問題に関心・疑問を持ち、一つ深く考える姿勢を身につけること。
成績評価	すべて出席すること。出席、授業への参加態度、クラス貢献度並びにレポート・プレゼンテーション等により評価する。
講義構成	[フェーズⅠ] 1週目【6/2 5限のみ】： オリエンテーション、自己紹介等 2～5週目【6/9 6/16 6/23 6/30】： 以下のスキル・能力を総合的に育成する。 ・情報探索力：調べる ・企画立案力：テーマを見つけ、ストーリーを作る ・調査実践力：現場・現実から学ぶ ・コラボレーション力：チームで仕事をする ・情報発信力：プレゼンテーション技術、質問する・質問に答える ・考える力：問題を見つめる、答えに近づく力 6週目【7/7】： フェーズⅡの準備として、各クラスで6つのチームを編成し、テーマ選びに関する議論を始める。 7週目【7/14】： フェーズⅡのテーマ選び、ストーリー作り。 8週目【7/21】： フェーズⅡのスケジュールを確定し、夏休みの課題を与える。 [フェーズⅡ] 9週目～11週目【9/22 9/29 10/6】： プレゼンテーションの準備。 12週目【10/13】： 各クラスの3チームが他のクラスに出向き、プレゼンテーションと質疑を体験する。 13週目【10/20】： 各クラスの3チームが他のクラスに出向き、プレゼンテーションと質疑を体験する。（最後にフェーズⅢの共通テーマが発表される。） [フェーズⅢ] 14週目【10/27】： フェーズⅢの共通テーマ毎に、各クラス内で複数のチームを編成、準備を始める。 15～21週目【11/10 11/17 11/24 12/1 12/8 12/15 12/22】： 各チーム、プレゼンテーションの準備。（各クラス内でテーマ毎に代表チームを選考する。） 22・23週目【1/12 1/19】： テーマ毎に1日ずつプレゼンテーション大会を実施し、最優秀チームを選考する。

	(プレゼンテーション大会は、講義実施日以外の日に開催される場合がある。)
教科書	特になし。

授業コード	81064		
授業科目名	教養実践II (後)		
担当者名	高永才(コウ ヨンゼ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	松下幸之助やアルフレッド・スローンといった優れた経営者とと呼ばれる人々は、一体何が優れていたのだろうか。ただ、多くの利益を稼ぎ企業を発展させただけでは、歴史に名を残す経営者とはならないだろう。 この講義では、優れた経営者とと呼ばれる人達がどのような時代を生き、その時代背景の中で、普段何を考え、どのように行動し、企業経営についてどのような持論を有していたのかを明らかにする。さらには、これを踏まえて、優れた経営者の条件及び時代の変化によって異なる経営手法の差を理解する。		
到達目標	①すぐれた経営者達の経歴や功績を時代背景と共に学習する。 ②すぐれた経営者達の功績をヒントに、企業管理において、さらには、自らリーディングシップを取る局面においてどこに焦点を置き、どのように行動すれば良いのか、自分なりの理論を構築する。		
講義方法	①経営者、経営者の行動、時代背景に対する基本的な知識を提供し、それらに対し分析を行う。 ②その後、各自、優れた経営者と考えた人物を調査しその内容に対しグループワークまたはクラス全体でディスカッションを行う。 具体的な内容に関しては、初回の授業中に説明する。		
準備学習	『経営学入門』の内容を理解していること。		
成績評価	出席、課題、発言、授業態度を総合的に評価する。 具体的な内容は、初回の授業時に提示する。		
講義構成	第1週 イン트로ダクション 第2週-第8週 優れた経営者とは？(国内外の優れた経営者の業績と歴史的背景を学習する) 第9週-第11週 自ら優れた経営者と思う人物を調査、分析しなぜそうであるのか発表/Discussion 第12週-第15週 優れた経営者が創立した企業の分析(戦略、組織体制、財務体制等)		
教科書	初回の授業時に指定する。		

授業コード	81M31		
授業科目名	教養実践III (1クラス)(後)		
担当者名	TRUSCOTT(トラスコット ジョージ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限

講義の内容	Sports in Literature These workshops focus on the meaning of literature, principally British and American but also including literature written in English throughout other regions of the world. It explores how we respond to what we read, whether novels, poems, songs or other printed media. The aim is to improve reading comprehension and critical thinking skills. These workshops should also help to improve analytical and discussion skills in English. This course will be divided into several subtopics (i.e. racism in sport, gender issues of sport, cheating in sport, etc.) with each subtopic lasting about 2-3 weeks. This course is primarily a discussion and reading based course. In order to discuss the topics effectively, you will be asked to complete several readings with worksheets. Students will be exposed to various issues of sport with the purpose of developing critical thinking of sport as an institution within society.		
到達目標	Students will be challenged to develop in the following areas: - gathering and synthesizing information from a variety of sources - analyzing key and underlying messages conveyed in sports literature		

	– critical and creative thinking – communicating your ideas persuasively in writing and verbally
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a related topic, (2) focused reading of sports literature, (3) practice with the writing process, (4) a teacher or student-led communicative exercise in pairs or small groups (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students are required to attend all classes and submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students will be expected to attend all class meetings, prepare readings and homework prior to class and discuss the topics of the course.
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), article and video report (20%), homework & quizzes (30%), presentation (30%).
講義構成	Week 1 Course Overview & Introduction to the issues of sport Weeks 2-4 Racism in sport Weeks 5 – 6 Gender Issues of Sport & Choose presentation topic Weeks 7 – 9 Cheating in Sport (including drug use) Weeks 10 – 13 Student Presentations plus Positive/Negative Values of sport & Violence in sport Weeks 14-15 People of sport who made a difference
教科書	Articles and handouts prepared by instructor, various videos, and library readings on reserve
参考書・資料	TBA
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.
担当者から一言	After this course, students will have a different view of sport and how it relates to society. This course is for students who have an interest in sport and want to study sport as an academic topic.

授業コード	81M32		
授業科目名	教養実践Ⅲ（2クラス）(後)		
担当者名	KINGHORN(キングホーン オリバー)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	History of European Thought This is a content-based course introducing the work of the poets, playwrights, novelists, painters, philosophers and social scientists who have influenced European thought and culture from Greek antiquity to the present day. Representative topics include the Greek thinkers, epic Greek poetry, Roman fables, folk stories and poems from the Middle Ages, artists and poets of the Renaissance, Elizabethan drama, the 'Age of Enlightenment', the temptations of Marxism, Descartes and the 'Age of Reason', the Romance poets, Impressionism, Surrealism, Cubism, and Abstract Expressionism in the visual arts. Short lectures, readings and movies will be used as a springboard for in-class group discussions and an independent research project which is expected to be completed in student's own time.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – understand and critically appreciate the work of several major European thinkers, writers, and artists up to the present day. – demonstrate a deeper understanding of one significant novel/poem/essay/drama/artwork through a written research project that displays critical thinking skills by looking at the history, content, literary/artistic quality, and impact of a major work in the history of European thought.

	– develop confidence in presenting their research to the class orally and through multimedia to demonstrate on a class-by-class basis an understanding of course content and a critical interpretation of major themes and individuals in the history of European thought.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic related to the history of European thought. (2) a workshop-based activity challenging students to reflect on and respond to content in the course in the form of a skit or mini-performance. (3) instruction in the academic writing process and academic standard presentation of a research paper. (4) a task-based communicative activity in pairs or small groups. (5) an oral presentation of findings from the previous class and student-led discussion.
準備學習	Students are required to attend all classes and submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused). Students should be able to read somewhat fluently in English. Students will be expected to attend all class meetings, prepare readings and homework prior to class and discuss the topics of the course.
成績評估	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio – notebook, electronic media from class presentations, research paper drafts (20%), and the final submission of a research paper (20%).
講義構成	Week 1 – Course outline, Literary, Artistic and Philosophical Timeline of European History Week 2 – Greek Antiquity – Socrates – Ancient Greek culture – epic literature – The Illiad, Odyssey Week 3 – The Romans – fables and heroic stories of Ancient Rome – Satyricon – Confessions Week 4 – Medieval Literature – The Church in Europe – Anglo-Saxon epic poetry – Beowulf – Dante’s Divine Comedy – folk literature, stories and myths Week 5 – The Renaissance – Italian city states – artistic patronage – Machiavelli – Michelangelo – D Vinci – Petrarch Week 6 – Elizabethan Drama – Shakespeare – Tragedy, Comedy, History Week 7 – Movie and Readings – Romeo and Juliet Week 8 – Enlightenment in Europe – the Age of Reason – Descartes – Hobbes – satirical literature – Voltaire’s Candide Week 9 – The Age of Ideologies I – Romanticism and Revolution – Goethe – Beethoven – Mary Shelley’s Frankenstein Week 10 – The Age of Ideologies II – Marxism – The Communist Manifesto – Darwin – Origin of The Species – Victor Hugo – Les Miserables – Freud and Jung Week 11 – European Modernisms I – Impressionism, Fauvism, Cubism, Abstract Expressionism in painting – Monet, Van Gogh, Matisse, Picasso, Braque – Dadaism and Surrealism in performance – Dali Week 12 – European Modernisms II – emergence of modern literature – Joyce, Woolf, T.S.Eliot, Kafka, Orwell Week 13 – Creative writing workshop Week 14 – Decolonization – Immigrant literature – Hanif Kureishi The Buddha Of Suburbia Week 15 – Oral presentation of research paper in class
教科書	The instructor will prepare readings on specific European writers, artists and thinkers to introduce weekly topics. Simplified readers based on all major texts in the syllabus will encourage students to access the ideas and key content in all works cited in the course schedule.
參考書・資料	Students will be directed towards appropriate English language web-based resources by the instructor as per the requirements of the course schedule.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of other’s work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit. Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

担当者から一言	Students must bring a notebook, clear pocket file, and electronic dictionary to every class.
---------	--

授業コード	81N61		
授業科目名	グローバル研究プロジェクトI (G04)(前)		
担当者名	大窪敦子(オオクボ アツコ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限 木曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【グローバル化と国際取引規範の変化】 輸送や通信技術の発展により、国境の壁がますます低くなり、人、物、貨幣がより簡単に国を越えて移動する。そして、ますます多くの企業が多国籍企業として事業活動を行っている。その収入がある一国のGDPを上回り、国際的にも多大な経済的影響力を持つ企業も多数出現している。こういったグローバル化が進む中で、貿易や金融、サービスを含むあらゆる分野での国際取引のあり方が変化してきている。そこで、本コースでは、国際取引の歴史的変遷を踏まえながら、近年更に加速するグローバル化に先導された、国際取引の規範の変化を学習。そして、社会の変化と共に生じる、国境を越えた取引や企業活動に関する様々な問題を検証し、その改善法を研究、提案する。		
到達目標	- 国際取引に係わる基本的な枠組みや規範を体系的に理解する。 - 国際取引に纏わって生じる様々な問題を理解、解釈し、その解決方法を提案しうる能力の素地を養う。		
講義方法	講義、調査、グループワーク、サブゼミ、討論会を交えて進める。また、適宜、学習◆研究成果をレポートに纏める。期末にはプロジェクト発表、討論会を行う。 参考案: ア. 講義(週1回:(90分×1)×1回×15週=15コマ) イ. 調査(フィールドワーク:90分×5回=5コマ) ウ. サブゼミ(90分×20回=20コマ) エ. プロジェクト発表会(期末90分×5回) 上記は、参考情報であり、実際の内容は、学習・研究の興味や進捗状態により、フレキシブルに行う。		
準備学習	My Konanに、受講をするにあたって、事前に目を通しておくべき資料等、連絡事項を掲載しているので、毎回必ずチェックしてから授業に出席すること。		
成績評価	プロジェクト(40%)、レポート(20%)、平常点(40%) 平常点は、授業への出席及び、サブゼミ、討論会や授業における発表、議論や質疑応答への貢献度によって総合的に評価する。		
講義構成	1. 国際取引概要 2. 国際取引慣行及びルールの歴史的考察 (ア) 近代の成立 (イ) 帝国主義戦争とブロック経済 (ウ) 第二次世界大戦後の国際経済システム 3. グローバル化とは? 4. 国際機関の役割 5. 企業の多国籍化 6. 通商 7. 金融取引 8. 労働者の移動 9. 情報、サービス、知的財産 10. ガバナンスと公正取引 11. 経済格差 12. 環境問題 13. 人権問題 上記は、参考情報であり、実際の内容は、学習・研究の興味や進捗状態により、フレキシブルに行う。		
教科書	教科書: 伊藤正直『国際社会のルール2・国際化する経済を学ぶ』(旬報社、2007)		
参考書・資料	授業で随時紹介		

講義関連事項	「経営学入門」及び「経済学入門」を修得していることが望ましい。 「国際通商」を同時に履修することが望ましい。
--------	---

授業コード	81N62		
授業科目名	グローバル研究プロジェクトI (G11)(前)		
担当者名	島本憲一(シマモト ケンイチ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限 木曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【環境と経済】 主にグローバルな視点から環境と経済についての基礎概念と実践を学ぶ。
到達目標	環境と経済に関連する基礎概念や実践を、グローバルな視点からアプローチできるスキルを習得する。
講義方法	講義、グループ討論、グループ発表、フィールドワーク、個人研究、個人発表。
準備学習	各週の内容について、各自予習すること。
成績評価	グループ発表(70%)、個人発表(30%)
講義構成	第1部 環境とグローバリゼーションの基礎学習 第2部 環境とグローバリゼーションに関する企画プロジェクト
教科書	講義を行うので特になし。
講義関連事項	・環境経済学にある程度関心のある人が望ましい。 ・NGO/NPO、国家/地方/国際公務員、市民向け。 ・使用する主なスキルは、ミクロ経済学、環境経済学、プレゼン力、ディベート力、文書作成力。その他に逐次必要なスキルはコースの中で指導する。

授業コード	81N63		
授業科目名	グローバル研究プロジェクトI (G14)(前)		
担当者名	PALMER(パーマー ロジャー)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限 木曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【La France】 This project introduces France, a non-English-speaking foreign culture and the world's primary tourist destination. Special emphasis is placed on the regions, their traditions, customs and lifestyles, which underpin France's success at marketing itself abroad. The project forms an in-depth exploration of themes selected from cultural, economic, historical, political and social features of France. Project members will select areas to explore, which are likely to include art and fashion, the establishment of the EU, film and music, gastronomy, influence around the world, multiculturalism, the nuclear industry, the old regime and Napoleon, philosophy, recovery from the World Wars, regionalism and the departments, republicanism and the French Revolution, social revolution, tourism, and trade and commerce (global brands). Fieldwork is a key element of project-based work in small groups, culminating in presentations of research results.
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: - display broad knowledge about contemporary France including basic French greetings - reveal specific knowledge about a specific aspect of France based on firsthand investigation through fieldwork - understand the process of planning a project and seeing it through to completion - create an original project portfolio outlining the results of fieldwork and research, i.e. the product of the research project process

	–present research to the class orally with a case study which lends credible support to the arguments laid out This project will help students develop their language skills, vocational (especially tourist industry) skills, and broaden their knowledge of French history and culture (gastronomic, artistic, etc.), computer skills for database, and organizational skills for a French event (food fair, fashion fair, etc.). It is anticipated that students taking this course may want to work in connection with France in the future.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a topic or concept related to La France including language work when and where necessary (2) a mini-workshop for developing specific project or research skills, (3) project work (4) fieldwork to gather data for projects (5) presentation of findings as continuous assessment
準備学習	Reading around the subject is a course requirement. This means finding out about France and French events in Kansai, learning about the geography of France, reading French novels and magazines, etc. Some French expressions will be introduced and assigned for practice outside class. Students are expected to come to class ready to present the findings of their research, fieldwork and reading to the class. The information will be added to the database.
成績評価	Evaluation will be based on participation (25%), fieldwork (25%), a project portfolio (25%) and presentation of results (25%).
講義構成	Weeks 1 – 3: Culture and civilisation – art and fashion, film and music, gastronomy and wine-growing Weeks 4 – 6: Economy – nuclear industry, tourism, trade and commerce (global brands) Weeks 7 – 9: History – influence around the world and colonial legacy, the old regime and Napoleon, recovery from the World Wars Weeks 10 – 12: Politics – establishing the EU, philosophy, republicanism and the French Revolution Weeks 13 – 15: Social structure – multiculturalism, regions and departments, social revolution
教科書	Prepared by instructor
参考書・資料	French/Japanese/English electronic dictionary; French guidebook for background reading
講義関連事項	Participation in this project will require a passing grade in all first-year Management or Study Abroad English courses. Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points.
その他	Fieldwork will include visits to and participation in French events in Kansai and creating a database accessible to CUBE students. Students will organise and host a French event, such as a food fair or fashion fair.

授業コード	81N71		
授業科目名	グローバル研究プロジェクトII (G54)(後)		
担当者名	大窪敦子(オオクボ アツコ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限 木曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【国際取引と環境】 近年、気候変動、オゾン層破壊、砂漠化、生物多様性の損失、海洋汚染、化学物質・有害廃棄物の越境移動等、様々な地球環境問題が深刻化している。こうした地球環境問題は、一国の努力では対応が困難であり、国境を越えた取り組みが必要である。それに対応すべく、各国が環境条約の締結を通して、問題に取り組んでいる。その一方で、地球環境問題は、企業活動を含む幅広い経済活動に深く関係しており、世界貿易機関(WTO)
-------	---

	やカーボン取引をはじめとする、国際取引・通商の環境保護に対する関わりが注目されている。そこで本コースでは、様々な環境問題に対する世界的な取り組みと、そこに関わる国際取引の役割を検証、提案する。
到達目標	- 企業活動を含む、国際経済活動と環境とのかかわりを理解する。 - 民間の参加を含めた、環境問題に対する世界的な取り組みとシステムを理解する。 - 国際取引に纏わって生じる環境問題を理解、解釈し、その解決方法を提案する能力の素地を養う。
講義方法	講義、調査、グループワーク、サブゼミ、討論会を交えて進める。また、適宜、学習◆研究成果をレポートに纏める。期末にはプロジェクト発表、討論会を行う。
準備学習	My Konanに、受講をするにあたって、事前に目を通しておくべき資料等、連絡事項を掲載しているので、毎回必ずチェックしてから授業に出席すること。
成績評価	プロジェクト(35%)、レポート(25%)、平常点(40%) 平常点は、授業への出席及び、サブゼミ、討論会や授業における発表、議論や質疑応答への貢献度によって総合的に評価する。
講義構成	1. 国際的枠組み概略 3. 企業の責任と国家の責任 4. 予防原則的アプローチ 5. 技術開発の普及、促進 6. 環境と貿易 7. 環境と投資 8. 海洋汚染 9. 大気汚染 10. 化学物質・有害廃棄物の越境移動 11. 気候変動(1):温室効果ガス排出削減 12. 気候変動(2):カーボン取引 13. 生物多様性の保全 14. 遺伝子組み換え作物 15. 総括 参考案: ア. 講義(週1回:(90分×1)×1回×15週=15コマ) イ. 調査(フィールドワーク:90分×5回=5コマ) ウ. サブゼミ(90分×20回=20コマ; 太田先生に温室効果ガスの排出に関する定量的解説などについての、特別サブゼミを依頼予定) エ. プロジェクト発表会(期末90分×5回) 上記は、参考情報であり、実際の内容は、学習・研究の興味や進捗状態により、フレキシブルに行う。
教科書	後日連絡する。
参考書・資料	随時、授業で紹介する。
講義関連事項	「経営学入門」及び「経済学入門」を修得していることが望ましい。 「地球環境政策」、「国際通商」、及び「国際協力と開発」を修得、または同時に履修することが望ましい。

授業コード	81N73		
授業科目名	グローバル研究プロジェクトII (G62)(後)		
担当者名	JONES B.(ジョーンズ プレント)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限 木曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【Oral Histories Project】 This project will introduce students to the topic of oral histories and involve them in designing and conducting their own oral history project. The course will start with an exploration of what oral histories are and move on to looking at various examples. Eventually, students will identify a theme they would like to focus on, and then design their project. They will collect oral histories on digital recorders and transcribe the interviews. Finally, they will write up and present a report of their findings.
到達目標	The main goals of the course are to help students understand what oral histories are, how to conduct them,

	and how to present their findings. Upon completion of the course, students will demonstrate an understanding of (1) oral histories as a useful ethnography tool, (2) how to design and develop interview protocol, (3) conduct oral history interviews with relevant follow up questions, and (4) write up and present clear, coherent findings.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: – a short lecture related to oral histories, – critical reading of oral histories in English and Japanese, – interview skills workshops – fieldwork and observation notes
準備学習	Participation in this project will require a passing grade in all first-year English courses (American Studies, Speech and Discussion, Active Listening I, Global Challenges, Discussion and Debate, Active Listening II).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), reading and writing assignments (25%), term project and presentations (50%).
講義構成	Week 1 ◆ 3 What are oral histories, examples Week 4 ◆ 6 Preparation for field work Week 7 ◆ 9 Fieldwork: oral history interviews Week 10 ◆ 12 Follow up, transcription Week 13 ◆ 15 Presentation of findings, evaluation and future vision
教科書	To be provided by instructor
参考書・資料	Working (Studs Terkel) The good war: An oral history of world war II (Studs Terkel)
講義関連事項	Links to online resources will be provided by the instructor
担当者から一言	We hope to make this an ongoing project at CUBE and this first time will be important for establishing a solid foundation on which to build.
その他	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance for any absences and arrange for make-up work. Two or more unexcused absences will result in a lowering of your score by 20%. Four or more unexcused absences will result in no credit.

授業コード	81N74		
授業科目名	グローバル研究プロジェクトII (G64)(後)		
担当者名	PALMER(パーマー ロジャー)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限 木曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【CUBE Magazine】 This project involves CUBE students creating a magazine of interest to them and a wider audience. Within the production side of the project, emphasis is placed on the process of discovering and gathering content, assembling and creating the content, and publishing the content to spread the ideas. However, other broad areas of creating and publishing a magazine touch on the financial and marketing skills without which the project cannot be sustained or termed a success. Creative solutions will be sought to establish a CUBE identity for the project within a strategic design to see the project through to its conclusion. Within the project, there will be many opportunities for fieldwork in groups, culminating in presentation of the published magazine (written and oral).
到達目標	Upon completion of this course, students are expected to demonstrate the ability to: – read magazine articles in Japanese and English for ideas and as a research skill – write and edit magazine articles using tables, charts and other graphics – plan and execute a magazine project including layout and design – create survey questions and carry out interviews – work independently and in groups to meet deadlines – run a magazine as an environmentally-friendly business taking into account financial, marketing and production considerations
講義方法	Each meeting will include a combination of the following:

	(1) a short lecture on a topic or concept related to the strategic design of the magazine (2) a mini-workshop for developing integrated skills for the project as well as research skills, (3) project work (4) fieldwork to gather data for projects (5) presentation of findings as continuous assessment
準備学習	Students must be prepared to spend time reading articles and writing articles outside class. They will carry out fieldwork (such as advertising and marketing the magazine) and interviews. Success of the project depends on keeping to deadlines and group working time in addition to class meeting times. It requires commitment by all project group members.
成績評価	Evaluation will be based on participation (20%), fieldwork (20%), the magazine (40%) and presentation of results (20%).
講義構成	Weeks 1 – 2: Establish goals/plan/generate ideas/think of features Weeks 3 – 5: Start fieldwork/Identify the audience/editorial direction/begin writing features/ conducting interviews/research. Weeks 6 – 8: Determine a brand image/work on design, layout, photos/proofreading Weeks 9 – 11: Implement the project/make the design mesh with the strategy/print or publish online/advertise/generate revenue Weeks 12 – 14: Distribute first versions/collect feedback to measure success/improve based on feedback Week 15: Publication/completion/presentation of results/review
教科書	Prepared by instructor
参考書・資料	Obtain and read as many magazines as possible, including different published media such as paper-based, PDF, blogs, etc.
講義関連事項	Participation in this project will require a passing grade in all first-year Management or Study Abroad English courses. Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points.

授業コード	81N75		
授業科目名	グローバル研究プロジェクトII (G65)(後)		
担当者名	BOYLES(ボイルズ コリン)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限 木曜6限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	火曜日Ⅲ限		

講義の内容	The theme of this class is 【Labour Issues in the Global Economy】. Awareness and better understanding of these issues are important for international cooperation, and for improving the way companies conduct their global business activities. English will be the main language of instruction and study.
到達目標	To be able to set out guidelines for responsible companies and global citizens and formulate proposals for raising awareness of global labour issues.
講義方法	This is a project based class. Together we will study the basics of global labour issues and students, either singly or in groups, will conduct research into individual issues.
準備学習	Students are expected to pay attention to news relating to global labour issues and to be prepared for active participation in class discussions.
成績評価	Students will be evaluated on the quality of their course participation (70%) and written assignments (30%).

講義構成	The main topic areas will be international labour standards, child labour and the use of foreign workers. The time allocated to individual topics will vary with the interests of the class but the overall plan is as follows: class study and groupwork (90 mins × 2) × 15 fieldwork and preparation 90 mins × 10 project presentations 90 mins × 5
教科書	No requirement to purchase a textbook.
参考書・資料	No requirement to purchase other materials. When hardcopy is required, reading materials will be handed out in class or placed in the Media Center.
講義関連事項	「経済学入門」を修得していること。
担当者から一言	Please help to make this class a memorable and meaningful experience for us all.

授業コード	81A51		
授業科目名	経営学入門 (4～11月)(1クラス)		
担当者名	林美玉(イム ミオク)、高永才(コウ ヨンゼ)、新井康平(アライ コウヘイ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜5限)、後期(金曜5限)
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	広義の経営学は、マーケティング、会計学、組織論、戦略論などの領域から構成されている。我々が複数の領域を『経営学入門』という一つの枠組みで取り扱う理由は、それぞれが企業のマネジメントにおいて必要不可欠な内容であり、且つ、各領域における仕事に関連性を持つことで企業が存続するためである。 よって、本講義では、第一に各領域のマネジメント理論の概要を学習することを目指し、第二に各領域の関連性を理解することで経営学の全体像を理解することを目指す。こうした内容は、2年次以降の専門教育科目の学習の基礎的知識を獲得となる。
到達目標	経営学を構成するマーケティング、会計学、組織論、戦略論などの各領域に対する理解を深めることで経営学の全体像を理解する。
講義方法	CUBEにおける学びの特徴である、問題の発見と解決のサイクルを実施するために、本講義は次のような講義編成を取る。それは、会社が誕生して存続し、時にはその役目を終え市場から撤退する間に直面する典型的な問題をテーマとして取り上げ、経営学がそれら問題を解決するためにどのような理論を生み出してきたのかを学ぶのである。 また、各領域のテーマごとに、実践についての理解を踏まえた上での講義を実施する。就業経験がない学生が企業経営の実践を理解しやすいように、実践家のゲストスピーカー、演習用の事例、DVDなどの視覚教材、新聞記事などの時事教材、そしてWWWを適宜用いることになる。
準備学習	1年生の必須科目であるため特になし。
成績評価	1. 成績評価に関して ①講義は、大きく3つの領域(マーケティング:林担当/会計学:新井担当/組織論、戦略論:高担当)からなる。それぞれのパートごとに30%の割合で評価を実施する。各領域の評価方法の詳細はそれぞれ異なるため、授業の冒頭で担当教員より説明がある。なお、具体的な評価は小テスト、レポートなどによる。また、出席点は3つの領域を合わせて10%となる。 評価は、甲南大学の評定方法にのっとり、秀、優、良、可、および不可の評定をつける。 ②不可の場合(素点で59点以下の場合→但し、基準点は今後変わる可能性あり)は、12月以降に開講される追試やレポート又は補講の対象となる。追試やレポート、補講により不可→可となる場合もあるが、それでも59点に満たない場合は不可→次年度再履修 注)ただし、3人の教員の総合評価により普段の授業態度が悪く、テストやレポート等の課題に対する努力を怠ったことから60点に満たなかったと判断した場合、又は欠席回数が全講義回数の1/3に満たない場合は、追試やレポート又は補講の対象としない。(但し、病欠・入院等、特別な事情がある場合は考慮する。)又、補習や追試の内容は、該当者ごとに異なるので注意すること。

	2. 出欠に関して ①出席点10点は、皆勤の学生に与える。1回だけの欠席者は5点与える。2回以上の欠席者は0点とする。 ②病欠・入院の場合、入院や病欠を証明する公的な書類を提出すれば、欠席扱いとはしない ③講義内で実施される試験、小テスト、グループワークにおける欠席者については、欠席した部分の得点は、原則として0点とする。 ただし、病欠・入院等のやむを得ない事情があり、さらにそれを証明することが出来たものには、担当教員が特別な代替案を提案することがある。
講義構成	〔経営学入門は3クラスにわかれて開講されるが、講義の順序がクラスで異なるので注意すること。下記の内容は3つのクラスのうち、あるクラスにおける講義の例である。〕 1. イントロダクション：第1講 2. 組織論、戦略論(担当、高)：第2講から第8講 3. 会計学(担当、新井)：第9講から第15講 4. マーケティング(担当、林)：第16講から第22講 5. 講義のまとめ：第23講
教科書	教科書及び参考書は、初回の講義にて各領域の担当教員より提示される予定である。

授業コード	81A52		
授業科目名	経営学入門(4～11月)(2クラス)		
担当者名	高永才(コウ ヨンゼ)、林美玉(イム ミオク)、新井康平(アライ コウヘイ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜5限)、後期(金曜5限)
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	広義の経営学は、マーケティング、会計学、組織論、戦略論などの領域から構成されている。我々が複数の領域を『経営学入門』という一つの枠組みで取り扱う理由は、それぞれが企業のマネジメントにおいて必要不可欠な内容であり、且つ、各領域における仕事に関連性を持つことで企業が存続するためである。 よって、本講義では、第一に各領域のマネジメント理論の概要を学習することを目指し、第二に各領域の関連性を理解することで経営学の全体像を理解することを目指す。こうした内容は、2年次以降の専門教育科目の学習の基礎的知識を獲得となる。
到達目標	経営学を構成するマーケティング、会計学、組織論、戦略論などの各領域に対する理解を深めることで経営学の全体像を理解する。
講義方法	CUBEにおける学びの特徴である、問題の発見と解決のサイクルを実施するために、本講義は次のような講義編成を取る。それは、会社が誕生して存続し、時にはその役目を終え市場から撤退する間に直面する典型的な問題をテーマとして取り上げ、経営学がそれら問題を解決するためにどのような理論を生み出してきたのかを学ぶのである。 また、各領域のテーマごとに、実践についての理解を踏まえた上での講義を実施する。就業経験がない学生が企業経営の実践を理解しやすいように、実践家のゲストスピーカー、演習用の事例、DVDなどの視覚教材、新聞記事などの時事教材、そしてWWWを適宜用いることになる。
準備学習	1年生の必須科目であるため特になし。
成績評価	1. 成績評価に関して ①講義は、大きく3つの領域(マーケティング:林担当/会計学:新井担当/組織論、戦略論:高担当)からなる。それぞれのパートごとに30%の割合で評価を実施する。各領域の評価方法の詳細はそれぞれ異なるため、授業の冒頭で担当教員より説明がある。なお、具体的な評価は小テスト、レポートなどによる。また、出席点は3つの領域を合わせて10%となる。 評価は、甲南大学の評定方法にのっとり、秀、優、良、可、および不可の評定をつける。 ②不可の場合(素点で59点以下の場合→但し、基準点は今後変わる可能性あり)は、12月以降に開講される追試やレポート又は補講の対象となる。追試やレポート、補講により不可→可となる場合もあるが、それでも59点

	に満たない場合は不可→次年度再履修 注)ただし、3人の教員の総合評価により普段の授業態度が悪く、テストやレポート等の課題に対する努力を怠ったことから60点に満たなかったと判断した場合、又は欠席回数が全講義回数の1/3に満たない場合は、追試やレポート又は補講の対象としない。(但し、病欠・入院等、特別な事情がある場合は考慮する。)又、補習や追試の内容は、該当者ごとに異なるので注意すること。 2. 出欠に関して ①出席点10点は、皆勤の学生に与える。1回だけの欠席者は5点を与える。2回以上の欠席者は0点とする。 ②病欠・入院の場合、入院や病欠を証明する公的な書類を提出すれば、欠席扱いとはしない。 ③講義内で実施される試験、小テスト、グループワークにおける欠席者については、欠席した部分の得点は、原則として0点とする。 ただし、病欠・入院等のやむを得ない事情があり、さらにそれを証明することが出来たものには、担当教員が特別な代替案を提案することがある。
講義構成	〔経営学入門は3クラスにわかれて開講されるが、講義の順序がクラスで異なるので注意すること。下記の内容は3つのクラスのうち、あるクラスにおける講義の例である。〕 1. イントロダクション：第1講 2. 組織論、戦略論(担当、高)：第2講から第8講 3. 会計学(担当、新井)：第9講から第15講 4. マーケティング(担当、林)：第16講から第22講 5. 講義のまとめ：第23講
教科書	教科書及び参考書は、初回の講義にて各領域の担当教員より提示される予定である。

授業コード	81A53		
授業科目名	経営学入門(4～11月)(3クラス)		
担当者名	新井康平(アライ コウヘイ)、林美玉(イム ミオク)、高永才(コウ ヨンゼ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜5限)、後期(金曜5限)
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	広義の経営学は、マーケティング、会計学、組織論、戦略論などの領域から構成されている。我々が複数の領域を『経営学入門』という一つの枠組みで取り扱う理由は、それぞれが企業のマネジメントにおいて必要不可欠な内容であり、且つ、各領域における仕事に関連性を持つことで企業が存続するためである。 よって、本講義では、第一に各領域のマネジメント理論の概要を学習することを目指し、第二に各領域の関連性を理解することで経営学の全体像を理解することを目指す。こうした内容は、2年次以降の専門教育科目の学習の基礎的知識を獲得となる。
到達目標	経営学を構成するマーケティング、会計学、組織論、戦略論などの各領域に対する理解を深めることで経営学の全体像を理解する。
講義方法	CUBEにおける学びの特徴である、問題の発見と解決のサイクルを実施するために、本講義は次のような講義編成を取る。それは、会社が誕生して存続し、時にはその役目を終え市場から撤退する間に直面する典型的な問題をテーマとして取り上げ、経営学がそれら問題を解決するためにどのような理論を生み出してきたのかを学ぶのである。 また、各領域のテーマごとに、実践についての理解を踏まえた上での講義を実施する。就業経験がない学生が企業経営の実践を理解しやすいように、実践家のゲストスピーカー、演習用の事例、DVDなどの視覚教材、新聞記事などの時事教材、そしてWWWを適宜用いることになる。
準備学習	1年生の必須科目であるため特になし。
成績評価	1. 成績評価に関して ①講義は、大きく3つの領域(マーケティング:林担当/会計学:新井担当/組織論、戦略論:高担当)からなる。そ

	それぞれのパートごとに30%の割合で評価を実施する。各領域の評価方法の詳細はそれぞれ異なるため、授業の冒頭で担当教員より説明がある。なお、具体的な評価は小テスト、レポートなどによる。また、出席点は3つの領域を合わせて10%となる。 評価は、甲南大学の評定方法にのっとり、秀、優、良、可、および不可の評定をつける。 ②不可の場合(素点で59点以下の場合→但し、基準点は今後変わる可能性あり)は、12月以降に開講される追試やレポート又は補講の対象となる。追試やレポート、補講により不可→可となる場合もあるが、それでも59点に満たない場合は不可→次年度再履修 注)ただし、3人の教員の総合評価により普段の授業態度が悪く、テストやレポート等の課題に対する努力を怠ったことから60点に満たなかったと判断した場合、又は欠席回数が全講義回数の1/3に満たない場合は、追試やレポート又は補講の対象としない。(但し、病欠・入院等、特別な事情がある場合は考慮する。)又、補習や追試の内容は、該当者ごとに異なるので注意すること。 2. 出欠に関して ①出席点10点は、皆勤の学生に与える。1回だけの欠席者は5点を与える。2回以上の欠席者は0点とする。 ②病欠・入院の場合、入院や病欠を証明する公的な書類を提出すれば、欠席扱いとはしない。 ③講義内で実施される試験、小テスト、グループワークにおける欠席者については、欠席した部分の得点は、原則として0点とする。 ただし、病欠・入院等のやむを得ない事情があり、さらにそれを証明することが出来たものには、担当教員が特別な代替案を提案することがある。
講義構成	〔経営学入門は3クラスにわかれて開講されるが、講義の順序がクラスで異なるので注意すること。下記の内容は3つのクラスのうち、あるクラスにおける講義の例である。〕 1. イントロダクション：第1講 2. 組織論、戦略論(担当、高)：第2講から第8講 3. 会計学(担当、新井)：第9講から第15講 4. マーケティング(担当、林)：第16講から第22講 5. 講義のまとめ：第23講
教科書	教科書及び参考書は、初回の講義にて各領域の担当教員より提示される予定である。

授業コード	81047		
授業科目名	経営戦略の手法I(前)		
担当者名	中西倭夫(ナカニシ シズオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	月曜16時から17時まで事前にアポイントが必要		

講義の内容	企業や公的組織・非営利組織においては、経営管理やガバナンス、経営戦略の策定のために会計情報が重要な役割を果たす。この講義では、会計情報とは何か、どのようなときに会計情報が用いられるのか、会計情報を用いて経営管理を行ううえでの留意点などを身につけることを目的とする。具体的には、財務諸表の分析方法、予算の作成と業績評価の方法、損益分岐点分析と利益計画の作成方法などについての講義を通じて、会計情報の特徴を理解する。
到達目標	現代社会で実際に開示されている実績会計情報及び予測会計情報の作成プロセスを理解し、投資や経営に生かせる基礎を固めることが目標となります。
講義方法	講義資料を電子資料として提供し、各自のPCに保存した上で、クラスの共同作業として液晶プロジェクターで投影した電子資料に基づき講義をすすめます。課題等の準備は各人が個別又はグループ別に行い、当番制で発表しクラス討議を行います。現代の経営管理にパソコンは必需品となっています。講義では積極的にパソコンを利用して作業しますので必ずパソコンを持参してください。
準備学習	授業をより実りあるものにするため受講者は課題または予習を必ずしてから授業に参加することを想定しています。課題や予習は授業ごとに毎回指示し、My KONAN に開示します。講義資料も事前にアップしますので、各自のPCに保存しておいてください。

成績評価	授業への参加が何より大切ですので、出席、課題の提出、授業での発表などと期末テストを総合して評価します。但し期末試験の配点は50%とします。
講義構成	1 はじめに会計が分かるための準備 2 簿記のシステムと精算表 3 財務諸表の開示の現状(EDINETで実際の有価証券報告書に含まれる財務諸表を検索する) 4 有価証券報告書開示項目の解説と討議 5 経営分析 収益性、安全性等 6 原価計算とCVP(損益分岐点分析) 7 公開されている業績予告データの入手と分析 8 エクセルによる業績予測の集計手法の紹介と解説 9 エクセルによる業績予測の修正演習 10 エクセルによる独自の業績予測と中期経営計画の策定解説 11 中期経営計画の必要性和投資プロジェクト評価 12 経済環境の変化と業績の変化の予想へのチャレンジ 13 中期経営計画の策定演習 14 まとめと総復習
教科書	パワーポイントやエクセルなどで作成した独自教材。 「らくらく会計入門」 茂木 喜久雄 株式会社週刊住宅新聞社 「Excelで学ぶ原価計算」 長坂悦敬
参考書・資料	EDINETで提供される有価証券報告書
講義関連事項	授業でエクセルを使用しますので、基本的なエクセルの操作については各自でマスターしておいてください。
担当者から一言	経済社会の基礎となる経営戦略を確かな形にするのに最も必要な財務会計の基礎を学んでより客観的に経済社会を見る目を養いましょう。

授業コード	81048		
授業科目名	経営戦略の手法Ⅱ(前)		
担当者名	佐伯邦夫(サエキ クニオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜6限
講義の内容	本講義では、市場、競争、顧客に焦点を当て、マーケティングの手法、分析、戦略構築ツール等を内外の具体的な製品、競争戦略、顧客へのアプローチを事例として使用しながら、学習する。学習対象は主として企業・営利組織であるが、非営利組織対象のソーシャル・マーケティングも実例を伴い学習する。 市場の理解、競争戦略、消費者へのアプローチは、マーケティングの基本的理解の後、テーマを設定し、資料・市場調査、分析、製品差別化、流通手法、価格、宣伝・販促、顧客満足の獲得を実践的に経験することで、経営の戦略的思考を体感させる。		
到達目標	経営/事業戦略の構築のためのアプローチ、ツールを理解し、市場・競合・顧客の現状理解、環境の変化を念頭に、持続的競争優位を達成するためのポジショニングを構築することを学ぶ。 主としてマーケティングとイノベーションを意識した競争戦略を理解することにより、今日的な経営を学ぶ。		
講義方法	90分X15回 戦略的経営を行う視点、戦略構築のアプローチ、ロードマップの作成等を指導教官の経験を含めて事例を使いながら理解。		
準備学習	日経新聞を読む、経営学入門を復習するなど、経営学のアウトラインを理解しておいてください。		
成績評価	授業への出席、姿勢が前提。 評価は授業内容の記憶ではなく、それを基礎にした分析・思考力。 1. 講義への貢献(質問、意見、受講態度) 2. 宿題、レポート等における戦略的思考/発想力 3. 試験における環境把握力、戦略的思考力		
講義構成	1～5回:基本的な市場・競合・顧客の理解。競争戦略の概念把握。企業の責任・義務の理解 6～10回:マーケティングとイノベーションの内容・機能の理解。 11回以降:事例の研究(GE、テスコ、エーボン、グーグル、デンソー)		
教科書	指導教官による資料に基づく		

授業コード	81A41		
授業科目名	経済学入門(4～12月)(1クラス)		
担当者名	佐藤治正(サトウ ハルマサ)、倉本宜史(クラモト タカシ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	経済学的な分析ツールの初歩として、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ。ミクロ経済学では、個々の経済主体(家計、企業)の行動の分析と政府の役割について、基礎的な事項を習得する。マクロ経済学では、経済システム全体の活動水準やその成長がどのようにして決まるかについてのメカニズムの基礎を習得する。		
到達目標	2年生以降のプロジェクト科目において、経済・社会問題の解決策を学び、考える際に必要な能力を身につける。		
講義方法	講義は2部構成で行われる。第1部では、経済学と経済学的な考え方を紹介する中で、分析道具としての基本的なミクロ経済学を講義する。また、現実の経済・社会問題と経済学との関連を理解することを目的とする。第2部では、ミクロ経済学の知識を前提とし、分析道具としての基本的なマクロ経済学を講義する。また、現実経済の説明、問題解決の手段を解説する。		
準備学習	受講開始までに、高校数学の復習をしておくこと。CUBE(マネジメント創造学部)では、「分からないことは、知る必要があるものならば、今から学べばよい」という方針で学習する。したがって、数学が苦手な学生は友人同士や先輩と勉強会を開くなどの工夫で、学ぶことが望ましい。講義開始後に「数学を習っていないから出来ない」という言い訳はしないほしい。 なお、講義開始後は常に復習を求める。テスト前になって慌てて準備をすることはやめてもらいたい。したがって、テスト前の「初めから教えてください」という質問にはお答えしない。「常に備えよ」という言葉があるように、常に復習し、テストに備えてもらいたい。		
成績評価	講義の前半(ミクロ経済学)と後半(マクロ経済学)それぞれについて3つのクラスで共通試験を実施する。なお、成績はミクロ経済学とマクロ経済学の2つの試験結果それぞれで可否を判定し、ともに合格した学生に対して総合評価で判断する。		
講義構成	前期(第1部) 経済学とは。ミクロ経済学の考え方とは。 (1)「経済学・経済学的な考え方(「〇〇経済学」って何。何を対象にする学問なの・・・。) (2)～(4)市場の理論:需要と供給(経済主体、経済学的前提、専門用語の解説、市場均衡) (5)～(7)消費者の最適消費行動(我々は「何をどれだけ買うのか」を説明:価値と価格と消費者選択) (8)～(10)生産者の最適生産行動(企業は「何をどのように生産するのか」を説明:生産と費用) (11)中間試験 (12)競争市場と独占市場(企業は「何をどれだけ供給するのか」を説明part2) (13)ミクロ経済学試験 後期(第2部)マクロ経済学の考え方とは。 (1)～(2)マクロ経済学で日本を考える(国民経済計算:GDPや利率などの用語とそのイメージを身近な例で解説) →ミクロ経済学とマクロ経済学の違いを解説、新聞やテレビでよく見かける数字から日本経済を知る力を付ける (3)物価の測り方 (4)中間試験 (5)経済の成長 (6)労働市場と失業 (7)消費と貯蓄 (8)～(9)企業の投資行動と資金市場 (10)～(11)財・サービス市場 (12)貨幣市場 (13)マクロ経済学試験		
教科書	ミクロ経済学編:『グラフィック ミクロ経済学(第2版)』 金谷貞男 吉田真理子、新世社 マクロ経済学編:『グラフィック マクロ経済学』 宮川努、新世社		

授業コード	81A42		
授業科目名	経済学入門(4～12月)(2クラス)		
担当者名	王 凌(ワン リン)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	経済学的な分析ツールの初歩として、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ。ミクロ経済学では、個々の経済主体(家計、企業)の行動の分析と政府の役割について、基礎的な事項を習得する。マクロ経済学では、経済システム全体の活動水準やその成長がどのようにして決まるかについてのメカニズムの基礎を習得する。
到達目標	2年生以降のプロジェクト科目において、経済・社会問題の解決策を学び、考える際に必要な能力を身につける。
講義方法	講義は2部構成で行われる。第1部では、経済学と経済学的な考え方を紹介する中で、分析道具としての基本的なミクロ経済学を講義する。また、現実の経済・社会問題と経済学との関連を理解することを目的とする。第2部では、ミクロ経済学の知識を前提とし、分析道具としての基本的なマクロ経済学を講義する。また、現実経済の説明、問題解決の手段を解説する。
準備学習	受講開始までに、高校数学の復習をしておくこと。CUBE(マネジメント創造学部)では、「分からないことは、知る必要があるものならば、今から学べばよい」という方針で学習する。したがって、数学が苦手な学生は友人同士や先輩と勉強会を開くなどの工夫で、学ぶことが望ましい。講義開始後に「数学を習っていないから出来ない」という言い訳はしないほしい。 なお、講義開始後は常に復習を求める。テスト前になって慌てて準備をすることはやめてもらいたい。したがって、テスト前の「初めから教えてください」という質問にはお答えしない。「常に備えよ」という言葉があるように、常に復習し、テストに備えてもらいたい。
成績評価	講義の前半(ミクロ経済学)と後半(マクロ経済学)それぞれについて3つのクラスで共通試験を実施する。なお、成績はミクロ経済学とマクロ経済学の2つの試験結果それぞれで合否を判定し、ともに合格した学生に対して総合評価で判断する。
講義構成	前期(第1部) 経済学とは。ミクロ経済学の考え方とは。 (1)「経済学・経済学的な考え方(「〇〇経済学」って何。何を対象にする学問なの・・・。) (2)～(4)市場の理論: 需要と供給(経済主体、経済学の前提、専門用語の解説、市場均衡) (5)～(7)消費者の最適消費行動(我々は「何をどれだけ買うのか」を説明: 価値と価格と消費者選択) (8)～(10)生産者の最適生産行動(企業は「何をどのように生産するのか」を説明: 生産と費用) (11)中間試験 (12)競争市場と独占市場(企業は「何をどれだけ供給するのか」を説明part2) (13)ミクロ経済学試験 後期(第2部) マクロ経済学の考え方とは。 (1)～(2)マクロ経済学で日本を考える(国民経済計算: GDPや利率などの用語とそのイメージを身近な例で解説) →ミクロ経済学とマクロ経済学の違いを解説、新聞やテレビでよく見かける数字から日本経済を知る力を付ける (3)物価の測り方 (4)中間試験 (5)経済の成長 (6)労働市場と失業 (7)消費と貯蓄 (8)～(9)企業の投資行動と資金市場 (10)～(11)財・サービス市場 (12)貨幣市場 (13)マクロ経済学試験
教科書	ミクロ経済学編:『グラフィック ミクロ経済学(第2版)』 金谷貞男 吉田真理子、新世社 マクロ経済学編:『グラフィック マクロ経済学』 宮川努、新世社

授業コード	81A43
-------	-------

授業科目名	経済学入門 (4～12月)(3クラス)		
担当者名	小嶋寿史(コジマ ヒサシ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	経済学的な分析ツールの初歩として、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ。ミクロ経済学では、個々の経済主体(家計、企業)の行動の分析と政府の役割について、基礎的な事項を習得する。マクロ経済学では、経済システム全体の活動水準やその成長がどのようにして決まるかについてのメカニズムの基礎を習得する。
到達目標	2年生以降のプロジェクト科目において、経済・社会問題の解決策を学び、考える際に必要な能力を身につける。
講義方法	講義は2部構成で行われる。第1部では、経済学と経済学的な考え方を紹介する中で、分析道具としての基本的なミクロ経済学を講義する。また、現実の経済・社会問題と経済学との関連を理解することを目的とする。第2部では、ミクロ経済学の知識を前提とし、分析道具としての基本的なマクロ経済学を講義する。また、現実経済の説明、問題解決の手段を解説する。
準備学習	受講開始までに、高校数学の復習をしておくこと。CUBE(マネジメント創造学部)では、「分からないことは、知る必要があるものならば、今から学べばよい」という方針で学習する。したがって、数学が苦手な学生は友人同士や先輩と勉強会を開くなどの工夫で、学ぶことが望ましい。講義開始後に「数学を習っていないから出来ない」という言い訳はしないほしい。 なお、講義開始後は常に復習を求める。テスト前になって慌てて準備をすることはやめてもらいたい。したがって、テスト前の「初めから教えてください」という質問にはお答えしない。「常に備えよ」という言葉があるように、常に復習し、テストに備えてもらいたい。
成績評価	講義の前半(ミクロ経済学)と後半(マクロ経済学)それぞれについて3つのクラスで共通試験を実施する。なお、成績はミクロ経済学とマクロ経済学の2つの試験結果それぞれで合否を判定し、ともに合格した学生に対して総合評価で判断する。
講義構成	前期(第1部) 経済学とは。ミクロ経済学の考え方とは。 (1)「経済学・経済学的な考え方(「〇〇経済学」って何。何を対象にする学問なの・・・。) (2)～(4)市場の理論:需要と供給(経済主体、経済学の前提、専門用語の解説、市場均衡) (5)～(7)消費者の最適消費行動(我々は「何をどれだけ買うのか」を説明:価値と価格と消費者選択) (8)～(10)生産者の最適生産行動(企業は「何をどのように生産するのか」を説明:生産と費用) (11)中間試験 (12)競争市場と独占市場(企業は「何をどれだけ供給するのか」を説明part2) (13)ミクロ経済学試験 後期(第2部)マクロ経済学の考え方とは。 (1)～(2)マクロ経済学で日本を考える(国民経済計算:GDPや利子率などの用語とそのイメージを身近な例で解説) →ミクロ経済学とマクロ経済学の違いを解説、新聞やテレビでよく見かける数字から日本経済を知る力を付ける (3)物価の測り方 (4)中間試験 (5)経済の成長 (6)労働市場と失業 (7)消費と貯蓄 (8)～(9)企業の投資行動と資金市場 (10)～(11)財・サービス市場 (12)貨幣市場 (13)マクロ経済学試験
教科書	ミクロ経済学編:『グラフィック ミクロ経済学 (第2版)』 金谷貞男 吉田真理子、新世社 マクロ経済学編:『グラフィック マクロ経済学』 宮川努、新世社

授業コード	81042
授業科目名	経済と社会 (後)
担当者名	藤田昌久(フジタ マサヒサ)、佐藤治正(サトウ ハルマサ)

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
講義の内容	本講義では、歴史・文化・技術・制度といった実社会の背景を成す属性との係わりで、全体としての経済社会と個人・企業との関係を、経済学的なアプローチを中心として議論・解説する。 具体的には、「空間経済学」の基礎理論の平易な解説に引き続き、その理論を背景として、IT革命とグローバル化のもとに進展している世界経済社会のダイナミズムな変化について学ぶ。さらに、この激変する世界の下での日本の経済社会の課題と将来の方向、および地域政策のあり方について、みんなで一緒に検討しながら学ぶ。 ここに、「空間経済学」とは、2008年にノーベル経済学賞を受賞した米国プリンストン大学のポール・クルーグマン教授らを中心として開発された、都市・地域・国際経済システムのダイナミックな変遷を分析する、経済学の新しい分野である。 なお、授業は特別な教科書を用いず、配布するプリント類を中心として平易に進めるが、歴史的な視野を広げるために、司馬遼太郎『菜の花の沖』を副読本として用い、授業と並行して、みんなで一緒に読んで行く。この本は、江戸後期の日本と世界における商品経済の発達を背景として、淡路出身で兵庫の港を根城として活躍した偉大な船頭・商人である高田屋嘉兵衛を主人公とする、雄大な歴史小説である。		
到達目標	①激変する世界の中における日本の経済社会の課題と将来について、自分なりの見解を述べることができる。 ②さらに、その激動する世界・日本の中で、自分が将来どのように行動・活躍するか、そのためには、大学を卒業するまでに何を自分で学ぶべきかについて、方針を持つことができる。		
講義方法	●毎回の授業を、その日のテーマについて、講義半分、学生とのディスカッション半分で進める。 ●毎回授業の後半において、司馬遼太郎『菜の花の沖』の決められた部分について、当授業の全体としてのテーマとできるだけ関連させながら、みんなで一緒に討議する。		
準備学習	●新聞・雑誌の経済・産業・企業の欄を日頃から読み、世界・アジア・日本の経済社会の変化について注目すること。 ●授業プリント類の復習 ●副読本『菜の花の沖』を読破すること。		
成績評価	●授業への積極的関与度(50%)と提出されたレポートの内容(50%)により評価します。 ●10回以上授業に出席しなければ成績を評価しない。		
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回～第5回 空間経済学の基礎を実例を通して学ぶ 第6回～第9回 グローバル化と世界・アジアの経済社会の変化について学ぶ 第10回～第13回 日本の経済社会と地域政策について学ぶ 第14回・15回 各学生のレポートのテーマと内容についての相談と、レポートの実際の作成		
教科書	●教科書は特になし。授業は配布するプリント類を中心として進める。 ●ただし、司馬遼太郎『菜の花の沖』 文春文庫 第一巻～第六巻を副読本として用いる。		
参考書・資料	(特になし)		
講義関連事項	(特になし)		
担当者から一言	日本の将来は自分達が担うという自負のもとに、クラス全員で一緒に学び、『菜の花の沖』主人公の高田屋嘉兵衛のごとく、世界に勇飛して行く準備をしましょう。		

授業コード	81004
授業科目名	研究プロジェクト概論(前)
担当者名	井上 明(イノウエ アキラ)

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	この講義は、研究プロジェクト科目の諸テーマについての概説を行うことで、「プロジェクト」形式での研究スタイルの考え方や方法を学ぶことを目的とし、プロジェクト科目群の導入に位置づけられる。講義に加え、プロジェクト参加学生によるプレゼンテーションなどを組み込ことで、理念や目的のみならず、グループでの企画立案や調査研究、目的達成に至るプロセスの実際を学び、プロジェクト型学習への積極的な参加意識を高める。
到達目標	プロジェクト型学習の目的、意義を理解できる。プロジェクトを効果的に進めるためのプロセス、考え方を理解できる。
講義方法	講義と演習
準備学習	1年時の基礎リテラシーで実践したプロジェクトを再度思い返し、自分なりに活動を評価しておくこと。
成績評価	出席、演習時の活動状況、成果物などを総合的に評価する
講義構成	○プロジェクト型学習を理解する→講義(第1回～3回) プロジェクト型学習とは何か PBLの学びの特徴 PBLとSBL(講義型授業)の違い ファシリテータの役割と意義 プロジェクト型学習での学習評価 ○プロジェクトを効率的に進める方法論を理解する→講義+演習(第4回～第10回) 知的生産・創造に役立つ思考方法(フレームワーク)を理解する。 [全体像をつかむ] プロセスマッピング、ペイオフマトリックスなど [分析的に考える] フォースフィールド分析、ステークホルダーズ分析など [別の視点から考える] プロコン分析、コントロール可能・不可能分類など ○自分たちが取り組んでいるプロジェクトの紹介、発表→演習+発表。(第11回～第15回) 2回生プロジェクトで何を学んでいるのか、そのプロジェクトの意義・効果、などについてPREP法を使って発表する(論理的プレゼンを行う)
教科書	教科書は用いない

授業コード	81051		
授業科目名	公共経営の先端I(前)		
担当者名	宮垣 元(ミヤガキ ゲン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	岡本キャンパスでは、前期火・水曜の12時10分～13時がオフィスアワーですので、自由に来て頂いて結構です。CUBEでは、講義終了後に必要に応じ時間を設けます。それ以外の時間については、事前にメールで連絡してください。		

講義の内容	まちづくりや福祉、教育、環境、文化、国際支援など、多くの公共分野では、民間非営利組織(NPO)や民間非政府組織(NGO)の存在が欠かせない時代となっている。本講義では、こうしたNPO／NGOなどの公共的な活動を行う市民組織について、その意義と可能性について考える。国際的な動向、日本と海外との比較、分野による違いを踏まえ、実際の組織マネジメントや行政との協働のあり方を、事例や実践を通じて学ぶ。また、社会的企業やコミュニティビジネスなど、近年の動向も取り上げる。
到達目標	NPO/NGOの運営ノウハウや制度的知識よりも、これらの活動や組織が、なぜ存在し、どのような有効性や可能性を持つかという点を自ら考え、広い視野から理解することを目標としたい。

講義方法	1つのテーマについて1～2回程度の講義を行います。並行して、個人発表、グループワークなどを行いたいと考えています(形態は受講者数により決定します)。具体的な進め方などは、第1回の授業でお話ししますので、履修者は必ず第1回目に出席してください。また、可能であれば、ゲストスピーカーにも来て頂くことも検討しています。
準備学習	学習という意味での予習は特に必要としませんが、グループワークでの作業がそれにあたります。なお、NPO/NGOの全体を15回の講義ですべて網羅することは困難であるため、講義ではいくつかの重要なポイントに絞って進めます。講義で紹介できない事例については、参考文献なども活用して下さい。
成績評価	数回の中間レポートと期末試験もしくは期末レポート(受講者数により決定)により総合的に行います。発表、グループワーク、ゲストスピーカーなど、授業への参加についても加味します。
講義構成	授業では以下のテーマを扱います。なお、講義の進行、グループワークの進捗などにより順序が入れ替わる可能性があります。 1. ボランティア元年からNPO・NGOへ(イントロ) ・NPOの概要と関連概念の基本的な考え方 ・NPO法と社会的基盤、中間支援組織 2. NPOとは何か ・理論的背景と「non」の悲劇 ・社会学におけるNPO ・経済学におけるNPO、など 3. NPOの現状 ・NPOの歴史(市民的公益活動の系譜) ・NPOの現状(NPO法人数の推移、活動分野ほか) ・NPOと組織(NPOの組織構造) 4. 事例から学ぶ ・ボランティアとNPO ・ヒューマンサービス分野のNPO ・まちづくりとNPO、など 5. NPOの設立・運営・評価 ～実践から学ぶ～ ・NPOをつくる ・NPOをマネジメントする ・NPOを評価する 6. 情報社会におけるNPOの意義と課題(まとめ)
教科書	教科書は特に指定しませんので、配布資料などは各自ファイルするようにして下さい。参考文献・資料などは講義でも随時紹介します。
参考書・資料	宮垣が執筆に関わったものとして以下の三冊を参考書としてあげておきます。 ・宮垣元『ヒューマンサービスと信頼：福祉NPOの理論と実証』慶應義塾大学出版会 ・平松・鶴飼・宮垣・星『社会ネットワークのリサーチメソッド』ミネルヴァ書房 ・P. F. ドラッカー・G. J. スターン『非営利組織の成果重視マネジメント』ダイヤモンド社 また、講義では直接取り扱いませんが、入門書としては以下をおすすめします。 ・上條茉莉子・椎野修平編『NPO解体新書』公人社 ・山岡義典編『NPO基礎講座』ぎょうせい ・山岡義典編『NPO基礎講座2』ぎょうせい ・山岡義典編『NPO実践講座』ぎょうせい ・山岡義典編『NPO実践講座2』ぎょうせい ・山岡義典編『NPO実践講座3』ぎょうせい ・谷本寛治・田尾雅夫ほか編『シリーズ・NPO』ミネルヴァ書房
担当者から一言	ひとことで言うと「やることの多い授業」です。そのことをよく理解して受講してください。NPOやNGO、ボランティアに関心がある人、参加したい人など、意欲のある人を歓迎します。
ホームページタイトル	codeプロジェクト：甲南大学の地域活動取材活動のページです。実際の活動に関する調査活動に関心のある人は参考にして下さい。
URL	http://www.code.glab.org/

授業コード	81057		
授業科目名	公共政策（前）		
担当者名	倉本宜史（クラモト タカシ）		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
講義の内容	公共政策の基本的なロジックを理解するために、経済における公共部門の活動に関する経済学的根拠を明らかにする。また、実際の政策決定プロセス・行財政システム・国と地方自体の関係などの基本的な構造を解説することで、各政策課題を本格的に学ぶための基礎知識の習得を行う。		
到達目標	講義では、「公共政策とは何か?」、「市場に任せた経済活動とどのように関連しているのか?」、「なぜ公共政策が求められるのか?」、「現代において、公共政策を通じての目的はどのようなものがあるか?」、「そのための手段には何があり、どのように用いられるのか?」、以上のような問題を考察してゆくことを目標としている。そして、公共政策に関する基礎概念の理解を経済学を用いて学び、用語の使い方を習熟することで、論理的思考をもって、「今必要な公共政策と市場ができること」を考えられる力を身に付ける。 特に、キーワードを挙げておくと、「制度、データ、理論」となる。制度は国家予算の原則や租税制度といった、公共政策(財政システム)を学ぶことが主な目的になる。データは実際に公共部門のお金の流れを過去の資料や他国と比較して、現在の日本でどのくらいのお金を使っているかを知ることが目的とする。そして、理論は数式を用いて租税の効果や公共財の供給の仕組みを論理的に理解することを目的としている。 これら3つの要素に関しては、制度は法学や政治学、データは会計学や統計学、理論は経済学と様々な学問領域と密接に関わってくる内容になる。 本講義「公共政策」はその体系の導入部、基礎的分野を論ずるものである。		
講義方法	指定したテキストと用意した講義ノートに基づき、スライドや板書を用いて講じてゆく。まとまった小単元が終わる度に「復習問題」を提示することで、講義のポイントとなることを示唆するとともに、復習の手助けにする。		
準備学習	本講義ではミクロ経済学とマクロ経済学の基礎知識を必要とする。 各自、1年時に使用した教科書に書いてある内容は、講義で解説したかどうか、試験に出たかどうかに関わらず、必ず理解しておくこと。 なお、「具体的にどのような準備が必要か?」についての質問は、シラバス配布後(講義が始まる前まで)に随時受け付けるので、興味のある(orやる気のある)学生は遠慮せずに研究室を尋ねてほしい。 そのときに、各自の学習進捗を聞き、具体的な準備をお知らせする。		
成績評価	期末試験:80%、宿題等の課題:20%で成績を付ける。 なお、60点以下が不可となる。		
講義構成	(1)~(2) 財政と財政学の基本的考え方 (3)~(5) 公共財の定義と最適供給条件 (6)~(8) 租税の基礎 (9)~(11) 公債とは? (12)~(14) 国と地方の財政関係 (15) 復習 (16) 期末テスト		
教科書	『コンパクト 財政学』 上村敏之 新世社		

授業コード	81058		
授業科目名	公共政策の実践I(前)		
担当者名	後藤 励(ゴトウ レイ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜6限
オフィスアワー	講義の前後		

講義の内容	少子高齢化の進む日本の活力を保つためには、病気や失業など、生きる上でのさまざまなリスクに対処するための社会保障政策を持続可能な形で設計することが不可欠である。年金・医療・介護・母子児童福祉・生活保護などの各社会保障政策の現状とそれぞれを取り巻く問題点を学び、国際比較も交えながら効率的な制度設計のための方策について学ぶ。
到達目標	医療や介護を中心とした社会保障政策や健康を保つ(害する)のに関与する産業についての基礎的な知識を習得する
講義方法	基本的には担当者による講義形式で行う。皆さんの理解を助けるために、講義トピックに関するテレビ番組などを見ていただくこともある。

準備学習	健康を保つ(害する)のに関与する財やサービスにはどのようなものがあるのかを考える。
成績評価	期末試験による評価を中心とするが、登録人数によっては平常点も考慮する。
講義構成	講義で取り扱うトピックは以下を含む。 1. 健康とはなにか？ 2. 健康経済で取り扱う財やサービスは普通の財やサービスとどのように違うのか？ 3. 医療制度の現状と問題点 4. 介護制度の現状と問題点 5. 健康食品や健康スポーツなどの健康関連産業の現状と問題点 6. 健康を害するモノをなぜ消費するのか？ 7. 健康に関する産業・社会制度と日本経済 8. 健康の不平等
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	小塩隆士「社会保障の経済学」日本評論社 橋本俊詔「安心の経済学—ライフサイクルのリスクにどう対処するか」岩波書店 池上直己「ベーシック医療問題」日経文庫 西村周三「医療と福祉の経済システム」ちくま新書 河口洋行「医療の経済学」日本評論社 田村祐一郎「いのりの経済学」千倉書房 真野俊樹「日本の医療はそんなに悪いのか」薬事日報社 依田高典 後藤励 西村周三「健康行動経済学」日本評論社
担当者から一言	今年基礎リテラシーの最終プレゼンで審査をさせていただきました。みなさんの努力に感動しました。履修人数によらず、双方向のコミュニケーションの密な講義を目指したいと思っています。

授業コード	81059		
授業科目名	公共政策の実践Ⅲ(後)		
担当者名	倉本宜史(クラモト タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	快適な環境と住宅で生活を実現するための公的機関の役割は何であろうか。住宅・環境・景観・交通機関といった都市機能に関する諸問題に関し、本講義では、先進的な諸外国の事例も参考にしながら、都市問題と都市政策について解説する。また、公共交通やその他公共的サービスについて、公共政策として、また公的機関の経営として、多面的な議論をする。
到達目標	現代の「公共政策」は国、地方自治体の他に、地方公営企業や第3セクター、地方公社といった官と民の中間に位置する主体のほか、民間主体の行う非営利(NPO)活動も対象としている。 これら広義の「公共政策」は経済学の中でも「財政学」や「金融論」、「政治の経済分析」、「福祉政策論」、「社会保障論」といった様々な学問分野で議論されてきたものであり、膨大な研究結果を基に教育もなされている。 このような広い概念である「公共政策」を学ぶ中で、本講義では「世界の都市で取り組まれている官民協働のまちづくり」をテーマに、具体的な公共政策の制度、データ、理論の3つについて理解することを目標とする。 また、本講義ではマネジメント創造学部において教育の根幹となる「プロジェクト」科目において必ず必要となる「資料を探して、読解し、まとめる」力を付けることも目標とする。 (そのために、ただ単に講義を聞くだけでなく、実際に調査レポートを作ってもらう。)
講義方法	指定したテキストと用意した講義ノートに基づき、スライドや板書を用いて講じてゆく。まとまった小単元が終わる度に「復習問題」を提示することで、講義のポイントとなることを示唆するとともに、復習の手助けにする。
準備学習	本講義ではミクロ経済学とマクロ経済学の基礎知識を必要とする。 各自、1年時に使用した教科書に書いてある内容は、講義で解説したかどうか、試験に出たかどうかに関わらず、必ず理解しておくこと。 なお、「具体的にどのような準備が必要か？」についての質問は、シラバス配布後(講義が始まる前まで)に随時受け付けるので、興味のある(orやる気のある)学生は遠慮せずに研究室を尋ねてほしい。 そのときに、各自の学習進捗を聞き、具体的な準備をお知らせする。

	また、海外の公共政策に興味のある学生は事前に旅行雑誌やインターネットを利用して興味のある国や都市の情報を集めておくことをお勧めする。
成績評価	期末試験：80%、宿題等の課題：20%で成績を付ける。 なお、60点以下が不可となる。
講義構成	理論編 (1)~(2) 市場と政府の活動 (3)~(4) 公共財と外部性 (5)~(7) 都市の形成 (8)~(10) 都市規模 データ・制度編 (11) 世界の都市(国内都市を含む)政策(調べ方の解説) (12)~(13) 調査ポイントの確認 (14)~(15) 調査プレゼンテーション(成績対象) (16) 筆記試験
教科書	理論面：『公共経済学と都市政策』 中川雅之 日本評論社 制度面、データ面に関する教科書(参考書)は最新年度のものを扱う必要があるため、講義中に紹介する。

授業コード	81062		
授業科目名	国際協力と開発(後)		
担当者名	大窪敦子(オオクボ アツコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限

講義の内容	本講義では、国際開発とは何か、なぜ国際援助◆協力が必要なのか、そして、それをどの様に向上できるか、といった問題を学習する。これらの問題の理解を深めるあたり、まず開発に関する様々な考え方を学習する。そして、グローバル化による環境の変化や持続可能性等の問題を取り上げ、「発展の権利」や「共通だが差異ある責任」「国際公共財」など、国際開発・協力に関連して生まれてきた概念を考察する。更に、国際協力の枠組みや、及び、国際開発に携わる様々なアクターの活動を検討する。そして、開発・援助を進めるに際して直面する、環境、健康、教育、ガバナンス、企業社会責任、等の様々な問題を議論する。
到達目標	- 国際開発に関する基本的な概念と国際的枠組みを体系的に理解する。 - 国際社会の動きを理解し、国際開発及び国際協力における問題の所在を見出し、課題を整理し、その解決方法を提案しうる能力の素地を養う。
講義方法	基本的には講義形式を主体に行うが、可能な限りにおいて、講義中での対話、意見交換や、グループ討議などを取り入れていく。事前に学習した資料及び講義内容を踏まえての、活発な意見交換が望ましい。
準備学習	My Konanに、受講をするにあたって、事前に目を通しておくべき資料等、連絡事項を掲載しているので、毎回必ずチェックしてから授業に出席すること。
成績評価	定期試験(50%)、レポート(30%)、平常点(20%) 平常点は、授業への出席及び、授業での質疑応答や議論への貢献度によって評価する。
講義構成	1. 経済開発の歴史的展開 2. 戦後の国際的枠組み a) 国際法の基本原則 b) 国際連合 c) ブレトン・ウッズ体制 3. 開発をめぐる様々な考え方 4. 途上国支援アプローチの変化(1) a) 南北問題の登場 b) 新国際経済秩序 c) 途上国債務危機と構造調整アプローチ 5. 途上国支援アプローチの変化(2) a) 持続可能な開発 b) 人間安全保障 c) 包括的開発枠組 d) ミレニアム開発目標 6. 政府開発援助、NGOの役割 7. 貿易

	8. 投資、金融 9. 技術の発展、情報や人の移動 10. 健康、教育 11. ガバナンス 12. 国境を越えた資源の利用、地球環境問題 13. 地域紛争 14. 多国籍企業と企業社会責任 15. 総括 上記は、参考情報であり、実際の内容は、後日連絡。
教科書	後日連絡
参考書・資料	授業で随時紹介

授業コード	81045		
授業科目名	国際社会と日本（前）		
担当者名	中村耕二（ナカムラ コウジ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	Tuesday from 4:30-5:30 Office 6612		

講義の内容	この授業では、急速なグローバリゼーションの影響を受ける21世紀の国際社会を経済・政治・社会・文化・教育の観点から観察しながら、日本を再考する。まず、GlobalizationとLocalizationの二項対立を、南北の経済格差・教育格差・グローバルな相互依存関係などに焦点を当てながら考察する。次に、世界がグローバル・スタンダードに収斂される功罪を議論しながら、グローバルな格差解消のための、国際機関・NGO・政府・企業によるパートナーシップ(Partnership)について議論する。次に、国際社会やアジアの中の日本のプレゼンスと役割を、科学技術、伝統文化、国家アイデンティティの観点から考察する。この授業では、衝撃的な映像や統計資料に基づく問題提起に始まり、問題の因果関係を双方向で議論し、最終的には受講者各自が国際社会と日本に関するリサーチ・ペーパーを完成させ、調査研究を口頭発表する。授業における使用言語は英語と日本語とする。
到達目標	この講義の到達目標は、受講学生のGlobal Literacy（国際理解・国際対話能力）、Cross-cultural Literacy（異文化間調整能力）そして Cultural Literacy（自文化に対する理解力）Cultural Identity（文化アイデンティティ）を養成し、世界観のある教養ある日本人を目指すことである。
講義方法	一方的な教師指導型の講義ではなく、各テーマに関する講義資料、パワーポイント配布資料、映像などに関して、受講生と議論しながら、講義を進めていく。常に受講学生の質問や意見を尊重し、意見発表することを要求する。基本的に欧米の講義スタイルで進める。 毎回講義の内容に関して、5分程度、その日に学んだこと、講義内容に関する自分の意見や批判を書いて提出する。
準備学習	テーマ別のグローバルな問題や日本文化について、各自、インターネットや図書館で調べ、テーマに関する基本的な背景知識を持って講義に参加すること。また自分の考え意見も整理しておくこと。
成績評価	講義への出席率 30% 講義への参加態度と講義メモ 20% 質疑応答や口頭発表 20% リサーチ・ペーパー 30%
講義構成	1 グローバリゼーションの功罪と 南北問題（経済・教育格差・食料事情） 2 児童強制労働と人権（子供の権利条約、少年兵） 3 アフリカの飢餓、貧困・ストリートチルドレンとNGO （国境なき医師団・地雷禁止国際キャンペーン・Oxfamのパートナーシップ） 4 第二次世界大戦・アジア・太平洋戦争再考 日本のアジア侵略の歴史とサイドの（オリエンタリズム） 5 広島・長崎・沖縄での現実：原爆の因果関係 映像：White Light Black Rain 6 平和の出発点・広島・長崎の意義、原爆詩 7 日本の独立と 日米安保条約一日米協定一平和憲法：憲法9条 8 人間の連帯感・人類愛・ヒューマニズム：マザーテレサ、キング牧師・オバマ大統領の就任演説 9 英国人の生き方と価値観：チャリティ・多文化主義・ナショナルトラストなど 10 文化アイデンティティの国際比較とEU市民権とAU（アジア連合）の可能性 アジア出身のJICA研修員の意見

	11 俳句の心と日本の美意識 日本文化・文学の心(もののあはれ、無常観、自然観) 12 日本人論(日本社会の不変性と可変性、日本の近代化の要因) 和魂洋才 13 世界の教育 比較教育: 北米、フィンランド、英国、日本 14 国際社会と日本のまとめ 受講生の意見発表
教科書	国際社会と日本 (International Society and Japan) 中村耕二 (甲南生協:印刷センター)
参考書・資料	(Koji's Desk On Line) http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/ 中村耕二のウェブサイトにある論文
講義関連事項	英語でグローバルな問題や日本の文化に関する自分の意見を書いたり、発表することに慣れていない人は、以下の本を参考にしてください。著者をはじめ、甲南大学の先輩達のお手本や、プロセスを追って英語のエッセイやスピーチ原稿を書く手順や手法が学べます。 グローバル時代の英語教育 Content-based Process Writing for Oral Presentation 英宝社 中村耕二著 ([333 頁])

担当者から一言	講義は内容に応じて、英語と日本語の両方で行う。
その他	Use it or lose it. Now or never.
ホームページタイトル	(Koji's Desk On Line) http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/
URL	http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/

授業コード	81063		
授業科目名	国際通商（前）		
担当者名	大窪敦子(オオクボ アツコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限

講義の内容	物、人、サービスが国境を越えてより自由に移動するようになり、経済のグローバル化が企業や消費者にますます大きな影響を及ぼすようになっている。そこで、本授業では、国際通商体制の枠組みを学習し、それに係わる様々な国際問題への取り組みを議論する。関税貿易一般協定(GATT)及び世界貿易機関(WTO)は、戦後の国際通商体制の柱として、多角的な自由貿易体制を支えてきた。一方で、近年では、WTO下での多角的な通商交渉が難航しているのに対し、地域的な経済連携への動きが活発化している。そこで、本授業では、GATTとWTOの役割とルールを中心に学習する一方で、後半には、日本のアジア等の国々との取り組みを含む、様々な貿易協定、地域経済連携、統合について学習する。更に、環境、人権、知的財産権保護等の問題と貿易との関わりを検討し、これらの国境を越えた問題にどのよう対応していくべきかを議論する。これらの議論は、先進国と発展途上国との格差問題を含む途上国の抱える問題も考察しながら進めていく。
到達目標	- 貿易をはじめとする国際的な経済取引の枠組み、及びWTOを中心とした国際的ルールを体系的に理解する。 - 国際経済社会に生じうる、国際通商に纏わる様々な問題を理解、解釈し、その解決方法を提案しうる能力の素地を養う。
講義方法	基本的には講義形式を主体に行うが、可能な限りにおいて、講義中での対話、意見交換や、グループ討議などを取り入れていく。事前に学習した資料及び講義内容を踏まえての、活発な意見交換が望ましい。
準備学習	My Konanに、受講をするにあたって、事前に目を通しておくべき資料等、連絡事項を掲載しているので、毎回必ずチェックしてから授業に出席すること。
成績評価	定期試験(50%)、レポート(30%)、平常点(20%) 平常点は、授業への出席及び、授業での質疑応答や議論への貢献度によって評価する。
講義構成	1. 国際経済システムの概略 2. 貿易の仕組み 3. GATTとWTOの歴史、仕組み 4. GATTの諸原則(最恵国待遇の原則、内国民待遇の原則等) 5. 関税および非関税障壁;通商救済制度 6. 農業と貿易

	7. サービスと貿易 8. 国際投資、競争 9. 知的財産権と国際取引 10. 貿易と環境、 11. 貿易と安全、貿易と労働 12. 貿易と途上国 13. 多角的貿易体制と地域経済統合 14. アジアの地域連携◆統合 15. 総括
教科書	UFJ総合研究所新戦略部通商政策ユニット編『WTO入門』（日本評論社、2004）
参考書・資料	田村次郎『WTOガイドブック』（弘文堂、2006） 小室程夫『ゼミナール国際経済法入門』（日本経済新聞社、2003） 他、授業で随時紹介

授業コード	81037		
授業科目名	ことばと文学（後）		
担当者名	都染直也（ツゾメ ナオヤ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	必要があれば、講義後の教室で行なう。		

講義の内容	「国語」という内からではなく、「日本」という外からの視点で「ことばと文学」を捉える。具体的には、母語である日本語を客観的に一言語と捉え、時間軸(歴史)と空間軸(地理)に社会軸(年齢・性別等)を加え、3次元的に分析する。また、ことばの芸術としての文学がどのように発展・展開しているのか、各時代の主要作品を中心に日本文化の凝縮された姿として再評価を試みる。
到達目標	一言語として日本語を客観的にとらえ、分析する観点を養う。 日本文学の主要な作品について、言語資料としての観点到に立ちつつ分析する。
講義方法	担当者の提示するテーマに沿った講義を3回行ない、次の回はそれまでに提示されたテーマに対する受講者の発表を中心とする。
準備学習	各回で提示されるテーマについて各自の考えをまとめておく。 3回終了した翌週は、受講者による発表とするので、その準備をする。
成績評価	学期末レポート・各回での発表・出席状況等、総合的に評価する。
講義構成	1:ガイダンス 2:日本語の文字について(ローマ字) 3:日本語の文字について(漢字) 4:日本語の文字について(仮名) 5:受講者による発表 I 6:日本語の方言について 7:日本語方言の動態・動向について 8:近大文学作品における方言使用について 9:受講者による発表 II 10:万葉仮名で読む『万葉集』 11:変体仮名資料による古典文学作品購読 12:古典文学作品にみられる言語変化について 13:受講者による発表 III 14:全体のまとめ
教科書	使用せず、毎時必要な資料を配付する。
参考書・資料	ガイダンスで指示する。

担当者から一言	高校までの「国語」では扱われなかった日本語・日本文学に接してください。
---------	-------------------------------------

授業コード	81M51
-------	-------

授業科目名	コミュニケーション支援I (1クラス)(後)		
担当者名	GONZALEZ(ゴンザレス マリア)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	抽選科目		

講義の内容	Cross Cultural Communication Courses in this category involve learning about the cultural background and history of European and Asian languages in the age of globalization, and the sense of values and world view in each linguistic and cultural area. Students will be expected to participate actively and teach each other through their own research. The main objective of this course is an understanding of cultural diversity, aiming at developing the students' appreciation for cultural differences and their sensitivity regarding cross cultural interactions. In our study of intercultural communication, we will discuss and identify the problems arising when people from different cultures engage in face-to-face communication as well as discussing cultural self-awareness, stereotypes, cultural perception, prejudice and non-verbal communication. This course will focus on cross cultural communication as related to Spain and the Spanish language. Each session will include the teaching and practice of basic Spanish language skills.
到達目標	Upon completion of this course, students should be able to: -display an effective command of basic Spanish conversation skills, -discuss communication patterns common to Spanish and compare them with their own, -analyze new cultural settings beyond stereotypes, -describe knowledge, skills and attitudes necessary to enhance cross-cultural communication and verify causes of unsuccessful communication, and -embrace cross-cultural skills as a key competency.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to cross-cultural studies, (2) a reading worksheet, (3) a workshop-based activity/discussion of the topic being studied, and (4) a problem or task-based activity in pairs or small groups, (5) oral reports and presentations.
準備学習	Students are required to attend all classes and submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio ◆ notebook, electronic media from class presentations, research paper drafts (20%), and the final submission of a research paper (20%).
講義構成	Weeks 1 – 2 ◆ What is culture? – Why is Cross-cultural communication important? Weeks 3 – 4 ◆ “Language is Culture and Culture is Language” Weeks 5 –6 ◆ Culture and Conflict (Religion, Gender Issues, Human Rights, Environment) – Mediation Skills. Week 7 – 8 ◆ Verbal and Non-Verbal Communication Week 9 – 10 ◆ Cultural Identity Week 11 – 12 – Perception, Stereotypes and Prejudices. Week 13 – 14 ◆ Group Presentations: Presentation on a specific Spanish-speaking culture. Week 15 ◆ Wrap up and Future Vision
教科書	The instructor will provide the necessary handouts for the cultural component. For the language component, we will use “Aventura” (Tateiwa & Gonz·lez) Dogakusha Publishing.
参考書・資料	Students will be directed towards appropriate resources by the instructor as required by the course schedule.
講義関連事項	This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81M52		
授業科目名	コミュニケーション支援I (2クラス)(後)		
担当者名	GONZALEZ(ゴンザレス マリア)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	抽選科目		

講義の内容	Cross Cultural Communication Courses in this category involve learning about the cultural background and history of European and Asian languages in the age of globalization, and the sense of values and world view in each linguistic and cultural area. Students will be expected to participate actively and teach each other through their own research. The main objective of this course is an understanding of cultural diversity, aiming at developing the students' appreciation for cultural differences and their sensitivity regarding cross cultural interactions. In our study of intercultural communication, we will discuss and identify the problems arising when people from different cultures engage in face-to-face communication as well as discussing cultural self-awareness, stereotypes, cultural perception, prejudice and non-verbal communication. This course will focus on cross cultural communication as related to Spain and the Spanish language. Each session will include the teaching and practice of basic Spanish language skills.
到達目標	Upon completion of this course, students should be able to: -display an effective command of basic Spanish conversation skills, -discuss communication patterns common to Spanish and compare them with their own, -analyze new cultural settings beyond stereotypes, -describe knowledge, skills and attitudes necessary to enhance cross-cultural communication and verify causes of unsuccessful communication, and -embrace cross-cultural skills as a key competency.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific topic related to cross-cultural studies, (2) a reading worksheet, (3) a workshop-based activity/discussion of the topic being studied, and (4) a problem or task-based activity in pairs or small groups, (5) oral reports and presentations.
準備学習	Students are required to attend all classes and submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio ♦ notebook, electronic media from class presentations, research paper drafts (20%), and the final submission of a research paper (20%).
講義構成	Weeks 1 – 2 ♦ What is culture? – Why is Cross-cultural communication important? Weeks 3 – 4 ♦ “Language is Culture and Culture is Language” Weeks 5 –6 ♦ Culture and Conflict (Religion, Gender Issues, Human Rights, Environment) – Mediation Skills. Week 7 – 8 ♦ Verbal and Non-Verbal Communication Week 9 – 10 ♦ Cultural Identity Week 11 – 12 – Perception, Stereotypes and Prejudices. Week 13 – 14 ♦ Group Presentations: Presentation on a specific Spanish-speaking culture. Week 15 ♦ Wrap up and Future Vision
教科書	The instructor will provide the necessary handouts for the cultural component. For the language component, we will use “Aventura” (Tateiwa & Gonz·lez) Dogakusha Publishing.
参考書・資料	Students will be directed towards appropriate resources by the instructor as required by the course schedule.
講義関連事項	This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81074		
授業科目名	コミュニケーション支援Ⅲ（後）		
担当者名	新谷公朗（シタニ キミオ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	抽選科目 定員40名		

講義の内容	本科目では、メディア・コミュニケーションを支援するための知識と技術を学ぶ。具体的には、情報の伝達・表現に焦点をあてる。まず、コミュニケーションメディアとしての、デジタル・コンテンツの目的・意義など理論的意味を理解したうえで、実際にデジタル・コンテンツの制作と評価をおこなう。実際のビジネスシーンを想定したWebサービスの企画、開発を通してその実現方法について学習する。
到達目標	Webサイトのコンセプト企画、Webデザイン、設計などの理論と技術を学び、高度情報化社会における新たなコミュニケーションの在り方を理解する。

講義方法	講義は、理論の理解(前半)と課題制作(後半)で構成し行う。 前半では、デジタル・コンテンツの理論的意味、WEBサービスの概念等についてゲストスピーカーを交えて議論を深める。 後半は、前半での議論を踏まえて実際のWEBサービスの企画、開発、評価を通して、デジタルコンテンツのコミュニケーションに果たす役割を理解する
準備学習	WEBベーシックで学習したWEBページの作成(ホームページビルダー)について復習しておいて下さい。
成績評価	課題、出席、グループワークなどを総合的に判断する。
講義構成	1.オリエンテーション 2.デジタル・コンテンツとは、WEBサービスの概念 3.ビジネスに実装されているWEBサービスの現状 4.WEBディレクションとは -コンテンツの企画と提案- 5.WEBデザイン -ページナビゲーションとユーザビリティ 6.WEBサービスの企画 (1) 7.WEBサービスの企画 (2) 8. WEBサービスの企画 (3) 9. WEBサービスの企画 (4) 10. ページデザイン (1) 11. ページデザイン(2) 12. ページデザイン(3) 13. ページデザイン(4) 14. サービスの提案、企画の発表 15 まとめ
教科書	教科書は用いない。電子教材などを使用する。
参考書・資料	授業時に適宜指示する。
講義関連事項	課題などの連絡、提出など、授業に関するすべての事柄はMyKONANを利用する。
担当者から一言	本講義では、実際に現場で活躍されているWEBコンテンツの開発者、WEBデザイナーをゲストスピーカーに迎え、実際にWEBサービスの企画、開発をととしてWEBディレクションの知識と技術を深めたいと考えています。

授業コード	81075		
授業科目名	コミュニケーション支援Ⅳ(前)		
担当者名	松崎孝行(マツザキ タカユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	本科目では、ヒューマン・コミュニケーションを行うための知識と技術を学ぶ。特に、プレゼンテーションに焦点をあて、課題の立て方、論理的なシナリオの構築、プレゼンテーションのためのビジュアル資料の作成などの理論とスキルを学ぶ。また、あるテーマに沿ったプレゼンテーションを実際に行うことで、ヒューマン・コミュニケーションの経験と実践力を養う。
到達目標	①コミュニケーションスキルの習得。 ②コミュニケーションがヒトと組織のパフォーマンスを上げる重要な手段であるという問題意識を持つこと。 ③ビジネスのシーンでは、株主、債権者、従業員、顧客、地域住民等様々な利害関係者が存在します。株主は配当に、債権者は返済能力に、従業員は給与や福利厚生に関心があるというように、利害が対立する利害関係者に対して、『1つの事柄に関心の異なる利害関係者にいかに伝えるか』(≒会社は誰のものか?)というテーマについて自分なりの考え方を持つことが最終的な目標です。
講義方法	実務知識に関する講義形式と、グループディスカッションなどの演習形式を併用します。
準備学習	教科書は2冊とも入門編の内容ですので、講義前に一読して、バランススコアカードとはどのようなものか? コーティングとはどのようなものか? の概略を把握しておいてください。
成績評価	出席、授業への参加態度、グループワークなどを総合的に判断します。
講義構成	1、オリエンテーションとBSC(バランススコアカード)の概略 2、戦略の組織への浸透とコミュニケーション 3、チームリーダーの選出とチーム編成 4、与えられた戦略を『顧客』の視点からの分析とプレゼンテーション

	5、与えられた戦略を『内部プロセス』の視点からの分析とプレゼンテーション 6、与えられた戦略を『学習と成長』の視点からの分析とプレゼンテーション 7、戦略実施項目の策定と戦略の個人への落とし込み 8、総括・・・戦略マネジメントシステムとコミュニケーション
教科書	・『完全図解 バランス・スコアカード実践ワークブック』 中野明著 秀和システム 1050円 ISBN978-4-7980-2443-1 ・『図解 コーチングマネジメント』 伊藤守著 ディスカヴァー 1050円 ISBN978-4-88759-375-6
参考書・資料	『組織行動の考え方』 金井壽宏＋高橋潔著 東洋経済 2520円 ISBN978-4-492-52146-5
担当者から一言	経営管理、特にBSC(バランススコアカード)を通してコミュニケーションを学びます。策定した経営戦略を組織に浸透させるためには『コミュニケーション能力』が必要です。将来、起業を考える学生及び企業の中間管理職やリーダーとして活躍する事を目指す学生に役に立つ講座を目指します。将来、経営者及び経営幹部を目指す方は是非、第2講でチームリーダーに立候補して下さい。
その他	毎回、講義時間中に課題を設定します。次の授業までにグループで課題について話し合い、次の授業で発表(プレゼン)するスタイルで授業を進行します。 この講座を通じて受講生が『経営戦略』『経営管理』『組織行動学』などに関心を持つことと、実務家講師として『実際に役に立つ経営学』を意識して講座を担当します。

授業コード	81076		
授業科目名	コミュニケーション支援Ⅴ（後）		
担当者名	中山一郎（ナカヤマ イチロウ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	これからの“新しい時代”や“新しい社会”を生きていくために必要とされる知恵やスキルのことを「キャリアデザイン」とよびます。この「キャリアデザイン」とよばれる知恵やスキルを4つの力(「コミュニケーション力」「情報収集力」「思考力」「行動力」)に集約し、その一つひとつを実際に参加・体験しながら学んでいきます。さらには自分の専門・専攻を実際の社会や職業や仕事の中でどのように活かしていくかについても考え、事例紹介などもおこなっていきます。最終の学習目標としては、きたるべき卒業後の進路選択から就職活動などへ向けて、まずは自らの頭で考え、行動し、選択していけるような態度や姿勢を身に付けることです。“自己を確立して大人になる”ための講義です。
到達目標	「自己発見(なりたい自分を探す)」をコンセプトに、最終の学習目標としては、きたるべき卒業後の進路選択から就職活動などへ向けて、まずは自らの頭で考え、行動し、選択していけるような態度や姿勢を身につけていきます。
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	授業の中で学んだ知恵・スキルは、授業以外の場においてもどんどん実践し活かしていきましょう。
成績評価	キャリアデザインシートの提出(講義の中での気づきや感想などを記入・提出)、キャリアデザインマップの発表と提出(将来の進路選択や就職活動を視野に入れての目標設定と行動企画を作成・発表・提出)、講義への出席(一回一回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場になかった、講義を受けていなかった学生は原則欠席とします)。講義への参加姿勢および参加態度。以上を総合的に評価します。
講義構成	1. オリエンテーションーベーシック・キャリアデザインとは？ー 2. “なりたい私”を探そうⅠ 3. “なりたい私”を探そうⅡ 4. 豊かな人間関係をきずこうⅠ 5. 豊かな人間関係をきずこうⅡ 6. 専門・専攻を進路に活かそうⅠ 7. 専門・専攻を進路に活かそうⅡ 8. 物語力・関係構築力をつけよう 9. 幅広い情報を活用しようⅠ 10. 幅広い情報を活用しようⅡ 11. 考える力を身につけようⅠ 12. 考える力を身につけようⅡ 13. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅠ 14. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅡ 15. “なりたい私”を実現させよう

教科書	「テキスト」は正式な履修登録後の講義で配付します。
参考書・資料	適宜紹介します。
担当者から一言	「生き方」や「働き方」の正解がたった一つだけではないという“新しい時代”や“新しい社会”がやってきました。そのような中、皆さん一人ひとりが充実した大学生活を過ごし、さらには“私らしい生き方や働き方”を実践していくためには、いったいどのような知恵やスキルが必要なのでしょうか。皆さんの「これから」をいっしょに考えていきましょう。

授業コード	81053		
授業科目名	産業と経済I (後)		
担当者名	桐畑 哲也 (キリハタ テツヤ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	生産財、消費者対象の耐久消費財、一般消費財の各分野における産業、メーカーを例に、身近でなじみのある産業や企業の構造、ビジネスモデルを明らかにしていく。 自社技術に求められる特性、顧客及び顧客の購買行動と特性を理解することにより、産業・市場・顧客の特性と、企業が競争優位に立てる要件を統合的に調査・分析し、産業及び参入各社の特性、課題を討議する。
到達目標	生産財、消費者対象の耐久消費財、一般消費財の各分野における産業、メーカーの事例研究を通して、企業、業界分析の基礎を学ぶ。
講義方法	受講生のグループディスカッションをベースとした演習形式
準備学習	特になし。
成績評価	出席、報告、レポート、さらに、グループディスカッション等での貢献を総合的に判断する。
講義構成	教科書を基にした文献学習及び企業のケーススタディ演習で構成される。
教科書	Porter Michael E.(1998)On Competition, Boston, Mass. : Harvard Business School Publishing.(竹内弘高訳『競争戦略論』,ダイヤモンド社,1999年)
参考書・資料	クラスで、随時指示する。

授業コード	81054		
授業科目名	産業と経済II (後)		
担当者名	佐伯 邦夫 (サエキ クニオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜6限

講義の内容	サービス即ち効用・満足を提供する第三次産業の中での3業種を扱う。単に業態、産業構成条件等を論じるのではなく、その業種の歴史的進化、その背景、特にテクノロジー、競争、消費者ニーズ等の変化を夫々代表的参入企業を事例としながら議論する。運輸は特に鉄道や航空、飲食はファーストフード、流通は量販店を中心に小売の業態の進化について討議する。講義の中では、グループによる課題研究も組み込み、産業と、選択した企業の特性と課題、特に市場の競争構造と顧客のインサイトの理解をグループ毎に研究・発表する。
到達目標	内需を拡大させるためには第三次産業の発展がカギとなる。その中でも交通、飲食、小売りの3業種は基幹の業種である。 受講生が社会人となると、これらの産業とは、ビジネス上あるいは生活上関わりが生まれる。これらのサービス業はその誕生から今日まで、フォーマット/ビジネスモデルのエボリューションが顕著であり、今後も変革して行く。固定的に理解するのではなく、その変革のプロセス、そして途上としての現状、現在、そして今後への課題をダイナミックに理解することを目的とする。
講義方法	航空機、ファーストフードチェーン、量販店を中心に事例をベースに講義。 3業種とも、現在のデフレ/収縮経済のインパクトの中、特に運営システムとそこで発生する高コストに苦しんでいる。JAL, マクドナルド及びケンタッキーフライドチキン、イオングループを対象に、海外、日本における競争力高いブランドを比較対象として、ドメイン(生存領域)、競争戦略、提供価値、課題等を考える。

	4分の1をそれぞれ3業種に配分し、残りの4分の1でサービスブランドに関して言及する。
準備学習	特に無し。日経新聞を読むことを勧める。
成績評価	出席と授業態度は前提。 試験かレポートはまだ決めていないが、授業内容の理解だけでなく、洞察力を問います。
講義構成	第1回: ガイダンス(授業構成、成績評価、学生へ期待する事の説明)及びイントロ 2～5回: トラベルインダストリー、特にエアライン(国内、海外路線)の顧客、競合、収益性、マーケティングの理解。 6～9回: ファーストフードの日本での歴史とブランドの戦略。市場の構造と機会(1980年代、現在、今後)。 10～13回: 日本における小売り量販店の発展。なぜイオン、セブンイレブンが勝ち残ったか。テスコ、ウォルマートの戦略は？ 14回以降: サービス業種におけるブランドとその戦略(グローバルブランドを中心としたブランドの競争戦略)
教科書	使用しません。

授業コード	81055		
授業科目名	産業と経済Ⅲ（前）		
担当者名	佐藤治正（サトウ ハルマサ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	この授業は、寄附講座であり、各分野の現場で活躍する外部講師を毎月招聘する予定である。 対象分野は、通信・放送等情報通信産業、エネルギー産業並びに交通業といった政府規制産業・公益事業分野が中心で、当該産業の制度・政策から市場、企業そしてビジネスモデルまでを解説する。特に、各業界の政策の論点やビジネスモデルに関しては、ゲストを招いた講演と質疑形式の講義を実施する。
到達目標	日経新聞に掲載される当該分野に関する記事に関し、基本的なところを理解し、何らかの形で自分の考え・意見を示すことができる。
講義方法	各業界の概要並びに現実問題に関し、解説する。寄付講座であるので、各分野の外部講師を多く招聘し、各業界の現実問題について議論する機会を多く作る。
準備学習	普段から新聞(日本経済新聞)に目を通し、現実問題に関心をもつことが大事。
成績評価	出席、授業態度並びに試験。人数によっては、小テストあるいはレポート・課題を課すこともある。
講義構成	通信、放送、エネルギー、交通という形で、典型的な規制産業・公益事業分野について、分野ごとあるいはテーマ毎に解説を行う。
教科書	特になし。新聞記事等、必要に応じ、配布する。

授業コード	81056		
授業科目名	産業と経済Ⅳ（前）		
担当者名	中村聡一（ナカムラ ソウイチ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限

講義の内容	金融業界について、金融理論基礎、制度・政策から金融業界それぞれについて、市場、企業、競争並びにビジネスモデルを総合的に解説する。特に、後半は、ゲストスピーカーを招き、銀行業、証券業、保険業等、各業界ごとに当該産業とビジネスの実践を議論し、産業の全体像が外観できるよう解説する。
到達目標	○ 教科書の予習復習並びに講義を通じて必要知識を吸収する。 ○ ゲストスピーカーの方々の現場に通ずる知識や人と成りに触れる。 ○ ビジネス経済系の教養素養としての金融について外観を理解できるようになる。
講義方法	講義並びにゲストスピーカーの講演
準備学習	経営学並びに経済学入門
成績評価	期末テスト(75%)、出席と授業態度(25%)

講義構成	授業初日にオリエンテーションを行う
教科書	『金融読本』 呉文二、島村高嘉、中島真志 著 東洋経済新報社
担当者から一言	ゲストスピーカーには多くの第一線の方々を予定しており、ライブドアによるニッポン放送の買収やリーマンブラザーズ・ショックにて注目を浴びたリーマンブラザーズ証券株式会社の桂木明夫社長もお話をくださるそうです。
その他	本講義は三年次以降のファイナンス系科目の講義やプロジェクト履修条件に予定します。

授業コード	81041		
授業科目名	情報とメディア（前）		
担当者名	町田 徹（マチダ テツ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限

講義の内容	「情報とは何か」「なぜ情報が大切なのか」を学び、情報を得る手段である「メディア」の特性を知り、「ジャーナリズムの使命」や「広告の役割」を理解する。そのうえで「受け手」として、「送り手」として、文系学部卒の人材として現代社会を生き抜くために情報と付き合う力を修得する。
到達目標	学生生活だけでなく、就職活動や社会生活にもらんで、様々なメディアの中から、必要かつ信頼に足る情報を取得する知識とノウハウを身につけ、自由自在に活用できることを目指す。
講義方法	理解を深めて応用力を高めるため、講師のレクチャーを受身で聴くだけでなく、受講生たちができるだけ多く自分の意見を述べたり、議論したりする機会を設ける。
準備学習	本講義は「情報とメディア」を学ぶ者にとっての入門編である。履修条件として、あらかじめ特別な授業を受講して、その単位を取得しておく必要はない。重要なのは、積極的に学ぶ意欲を自分で高めて、各回の授業に臨むことである。
成績評価	授業への出席状況、要点を十分理解しているか、意見の発表姿勢・内容はどうか、積極的に議論に参加しているかなどを中心に評価を受けるものとする。定期試験の有無は現在のところ未定。受講者の人数や日頃の授業の進捗状況を見て、講師が必要性を判断する。
講義構成	基礎編 ①「情報」とは何か(どんな情報があり、なぜ大切なのか)、「メディア」とは何か。 ②「新聞の読み方」と「ジャーナリズム」の使命 ③「放送の成り立ち」「広告の機能」(エピソード) 広告モデルとコンテンツモデル ④「宣伝」の力 (エピソード) ナチスと大本営 中級編 ⑤世論形成とマスコミ (エピソード) ポーツマス条約と日比谷焼き討ち事件 ⑥客観報道の真実 (エピソード) 小沢一郎氏の「政治とカネ」 ⑦メディアのビジネス・モデル (エピソード) ドコモvs SBのスマップ争奪戦 詳細編 ⑧新聞 (エピソード) かわら版から電子新聞へ ⑨雑誌 (エピソード) 新聞とどう闘うか ⑩ラジオ (エピソード) 放送のさきがけ 強い親和性とコミュニティ色 ⑪映画 (エピソード) ハリウッドの隆盛と日本映画の復興、50歳のミッキーマウス ⑫テレビ (エピソード) デジタル化と多チャンネル化に直面するメディアの王様 ⑬音楽 (エピソード) 著作権ビジネスの占める位置 ⑭インターネット (エピソード) メディアの新旗手の強みと弱み ⑮経済ジャーナリスト町田徹のジャーナリスト的取材・ジャーナリスト的レポートの肝
教科書	開講後、必要に応じて指示する。

担当者から一言	ジャーナリストを目指す学生がいれば、遠慮なく申し出て下さい。喜んで、卒業までの学習法、就職情報の収集の仕方などの相談に応じます。
その他	プロジェクト内容に関する質問は、 http://www.tetsu-machida.com/ から電子メールで。「甲南大学 プロジェクト履修検討中」と明記のこと。
ホームページタイトル	「経済ジャーナリスト町田徹のホームページへようこそ」
URL	http://www.tetsu-machida.com/

授業コード	81036		
授業科目名	心理学と現代社会（前）		
担当者名	友久茂子(トモヒサ シゲコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	月曜日12時10分～17時(前期は14時～15時30分の授業時間を除く)に学生相談室に来室して下さい。		

講義の内容	本講義は、前半では心理学の基礎について、その科学的理解の枠組みや、主要な領域の概略を解説する。後半では、心理学が現代社会において実際にどのような役割を果たしているかを、できるだけ体験的に学習することでその意義を理解し、併せて青年期における自己や他者の心理学的理解を深める。
到達目標	「一般」や「常識」と言われる、人間の行動や心の働きを理解するとともに、それにとらわれない多様な価値観をもった、心理学的視点を身につけること
講義方法	講義形式に加え、心理テスト、身体体験等、実習も実施する。
準備学習	授業内容と関連した文献等を読んでおくこと
成績評価	体験を重視するので、出席と、毎回実施する小レポートにより評価する。
講義構成	第1回（4月12日）心理学とは 第2回（4月19日）動物としての人間 第3回（4月26日）言語とイメージ——イメージ画を通して （5月 8日）（出張のため休講） （5月10日）（出張のため休講） 第4回（5月17日）認知と記憶 第5回（5月24日）感覚と感情 第6回（5月31日）無意識の発見——風景画を描いて体験する 第7回（6月 7日）心の構造とパーソナリティ 第8回（6月14日）心の発達とライフサイクル 第9回（6月21日）ゲスト講師による心と体の体験(狂言師：茂山千三郎先生) （茂山先生のHPなどを参考にして狂言について予習をしておくこと） 第10回（6月28日）青年期とイニシエーション 第11回（7月 5日）青年期の病と癒し 第12回（7月12日）適応とコミュニケーション 第13回（7月17日）ゲスト講師による産業心理学講義(大阪経済大学教授：松田幸弘先生) （松田先生のHPを参照して、先生の著書を先に読んでおくと、理解しやすいと思います） 第14回（7月26日）まとめ(試験期間であるが講義を行い、その後小テストを実施する)
教科書	特に指定はしない。必要に応じて紹介をする。
参考書・資料	必要に応じて配布する。
講義関連事項	ゲスト講師による「心と体の体験」では、日本の伝統文化である狂言を体験することで、自らの心のありようや、体の感覚に耳をすまし、自己理解を促進する。また、伝統文化に触れることで、「日本人」の心性についても考える機会にしてほしい。 担当者の講義だけでは心理学について網羅することはできない。第14回の「ゲスト講師による産業心理学」では担当者の欠落した部分(マネージメント創造学部としては必須)を、熱く濃く語っていただけるので、しっかり受講してほしい。

担当者から一言	私はカウンセラーなので心理学を教えるという発想はありません。それは心の問題に正解がないことを体験的に理解しているからです。この授業では、人間の心の問題に目を向けることを通して、社会の問題に気づき、自らの生き方を一緒にじっくりと考えたいと思います。授業以外にも、毎週月曜日、学生相談室に来ています。どんな些細な問題でも、一人で考えず、一緒に考えましょう。
---------	--

授業コード	81A61
-------	-------

授業科目名	数学的論理思考（1クラス）(前)		
担当者名	太田雅久(オオタ マサヒサ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	講義後(木曜5限)やその他の時間に質問などは受け付ける。太田、新井のどちらの教員に連絡をしても構わない。		

講義の内容	『数学的論理思考』とは、CUBEで4年間かけて経済・経営・グローバルを学んでいく上で、身につけておかなければならない基本的な数学的な思考法を学ぶ科目である。前提とする数学的な知識は、高校でいうところの数学Iおよび数学Aとなる。 もちろん、まったく数学Iおよび数学Aの授業を高校時代に受けていない人がいても、心配はいらない。その場合は、我々教員に適宜質問に来るようにすること。これは、CUBEでは、基本的には受身の講義は期待されていないため、学生が自主的に質問を教員に持ってくる、という思想を反映し、補講時間などを敢えて設定していないことによる。		
到達目標	人間的で感情にあふれた心を基礎に持ちつつも、冷静に物事の本質を見極めて論理的な思考のできる人間となることを目指す。		
講義方法	予習を前提とした講義形式をとる。		
準備学習	レクチャーノートの該当部分の読了及び理解した範囲、理解出来なかった範囲の整理。 なお、予習範囲の整理と【予習CHALLENGE】問題の回答は、A4のレポート用紙にまとめ、第二回以降の各講義の最初に提出することを義務付ける。		
成績評価	最終試験:70% グループワークおよびレポート:30% で素点を作る。実際の成績評価は、この素点をもとにした相対評価である。		
講義構成	第1回 はじめに:数学的論理思考へようこそ 第2回 一般的に考える(1):数字に慣れる 第3回 一般的に考える(2):数の並びに慣れる 第4回 一般的に考える(3): Σ の導入 第5回 一般的に考える(4): $\log$ の導入 第6回 一般的に考える(5):無限への拡張 第7回 一般的に考える(6):論理的かつ柔軟に考えること 第8回 一般的に考える(7):モデル化して問題を解くということ 第9回 確率的に考える(1):確率世界のルール 第10回 確率的に考える(2):現実の事象を確率的に理解すること 第11回 確率的に考える(3):データを視覚的に認識すること 第12回 微分して考える(1):接線を考える 第13回 微分して考える(2):最適化を考える 第14回 ラップアップ(1):論理的思考の応用可能性を議論する 第15回 ラップアップ(2):総括		
教科書	レクチャーノートを、CUBE内KIOSKで販売する。購入すること。		
参考書・資料	相談に応じて、あなた方の力量に応じて教えます。		

担当者から一言	ここで扱う論理的な思考のプロセスは、ごく常識的な事柄です。数学の授業であると意識せずに臨んでください。今までに見かけなかった事柄でも、「習ってません」と言わないで、定義と仮定と手順を頼りに自分の頭で処理してください。気がつけば正解にたどり着いています。
---------	--

授業コード	81A62		
授業科目名	数学的論理思考（2クラス）(前)		
担当者名	新井康平(アライ コウヘイ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

特記事項	自動登録科目
オフィスアワー	講義後(木曜5限)やその他の時間に質問などは受け付ける。太田, 新井のどちらの教員に連絡をしても構わない。
講義の内容	『数学的論理思考』とは, CUBE で 4 年間かけて経済・経営・グローバルを学んでいく上で, 身につけておかなければならない基本的な数学的な思考法を学ぶ科目である。前提とする数学的な知識は, 高校でいうところの数学Iおよび数学 A となる。 もちろん, まったく数学 I および数学 A の授業を高校時代に受けていない人がいても, 心配はいらない。その場合は, 我々教員に適宜質問に来るようにすること。これは, CUBE では, 基本的には受身の講義は期待されていないため, 学生が自主的に質問を教員に持ってくる, という思想を反映し, 補講時間などを敢えて設定していないことによる。
到達目標	人間的で感情にあふれた心を基礎に持ちつつも, 冷静に物事の本質を見極めて論理的な思考のできる人間となることを目指す。
講義方法	予習を前提とした講義形式をとる。
準備学習	レクチャーノートの該当部分の読了及び理解した範囲, 理解出来なかった範囲の整理。 なお, 予習範囲の整理と【予習CHALLENGE】問題の回答は, A4のレポート用紙にまとめ, 第二回以降の各講義の最初に提出することを義務付ける。
成績評価	最終試験: 70% グループワークおよびレポート: 30% で素点を作る。実際の成績評価は, この素点をもとにした相対評価である。
講義構成	第1回 はじめに: 数学的論理思考へようこそ 第2回 一般的に考える(1): 数字に慣れる 第3回 一般的に考える(2): 数の並びに慣れる 第4回 一般的に考える(3): Σ の導入 第5回 一般的に考える(4): $\log$ の導入 第6回 一般的に考える(5): 無限への拡張 第7回 一般的に考える(6): 論理的かつ柔軟に考えること 第8回 一般的に考える(7): モデル化して問題を解くということ 第9回 確率的に考える(1): 確率世界のルール 第10回 確率的に考える(2): 現実の事象を確率的に理解すること 第11回 確率的に考える(3): データを視覚的に認識すること 第12回 微分して考える(1): 接線を考える 第13回 微分して考える(2): 最適化を考える 第14回 ラップアップ(1): 論理的思考の応用可能性を議論する 第15回 ラップアップ(2): 総括
教科書	レクチャーノートを, CUBE内KIOSKで販売する。購入すること。

授業コード	81A63		
授業科目名	数学的論理思考（3クラス)(前)		
担当者名	太田雅久(オオタ マサヒサ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	講義後(木曜5限)やその他の時間に質問などは受け付ける。太田, 新井のどちらの教員に連絡をしても構わない。		
講義の内容	『数学的論理思考』とは, CUBE で 4 年間かけて経済・経営・グローバルを学んでいく上で, 身につけておかなければならない基本的な数学的な思考法を学ぶ科目である。前提とする数学的な知識は, 高校でいうところの数学Iおよび数学 A となる。 もちろん, まったく数学 I および数学 A の授業を高校時代に受けていない人がいても, 心配はいらない。その場合は, 我々教員に適宜質問に来るようにすること。これは, CUBE では, 基本的には受身の講義は期待されていないため, 学生が自主的に質問を教員に持ってくる, という思想を反映し, 補講時間などを敢え		

	て設定していないことによる。
到達目標	人間的で感情にあふれた心を基礎に持ちつつも、冷静に物事の本質を見極めて論理的な思考のできる人間となることを目指す。
講義方法	予習を前提とした講義形式をとる。
準備学習	レクチャーノートの該当部分の読了及び理解した範囲、理解出来なかった範囲の整理。 なお、予習範囲の整理と【予習CHALLENGE】問題の回答は、A4のレポート用紙にまとめ、第二回以降の各講義の最初に提出することを義務付ける。
成績評価	最終試験：70% グループワークおよびレポート：30% で素点を作る。実際の成績評価は、この素点をもとにした相対評価である。
講義構成	第1回 はじめに：数学的論理思考へようこそ 第2回 一般的に考える(1)：数字に慣れる 第3回 一般的に考える(2)：数の並びに慣れる 第4回 一般的に考える(3)：Σ の導入 第5回 一般的に考える(4)：$\log$ の導入 第6回 一般的に考える(5)：無限への拡張 第7回 一般的に考える(6)：論理的かつ柔軟に考えること 第8回 一般的に考える(7)：モデル化して問題を解くということ 第9回 確率的に考える(1)：確率世界のルール 第10回 確率的に考える(2)：現実の事象を確率的に理解すること 第11回 確率的に考える(3)：データを視覚的に認識すること 第12回 微分して考える(1)：接線を考える 第13回 微分して考える(2)：最適化を考える 第14回 ラップアップ(1)：論理的思考の応用可能性を議論する 第15回 ラップアップ(2)：総括
教科書	レクチャーノートを、CUBE内KIOSKで販売する。購入すること。
参考書・資料	相談に応じて、あなた方の力量に応じて教えます。
担当者から一言	ここで扱う論理的な思考のプロセスは、ごく常識的な事柄です。数学の授業であると意識せずに臨んでください。今までに見かけなかった事柄でも、「習ってません」と言わないで、定義と仮定と手順を頼りに自分の頭で処理してください。気がつけば正解にたどり着いています。

授業コード	81A64		
授業科目名	数学的論理思考（4クラス）(前)		
担当者名	新井康平(アライ コウヘイ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	講義後(木曜5限)やその他の時間に質問などは受け付ける。太田、新井のどちらの教員に連絡をしても構わない。		

講義の内容	『数学的論理思考』とは、CUBE で 4 年間かけて経済・経営・グローバルを学んでいく上で、身につけておかねばならない基本的な数学的な思考法を学ぶ科目である。前提とする数学的な知識は、高校でいうところの数学Iおよび数学 Aとなる。 もちろん、まったく数学 I および数学 A の授業を高校時代に受けていない人がいても、心配はいらない。その場合は、我々教員に適宜質問に来るようにすること。これは、CUBE では、基本的には受身の講義は期待されていないため、学生が自主的に質問を教員に持ってくる、という思想を反映し、補講時間などを敢えて設定していないことによる。
到達目標	人間的で感情にあふれた心を基礎に持ちつつも、冷静に物事の本質を見極めて論理的な思考のできる人間となることを目指す。
講義方法	予習を前提とした講義形式をとる。
準備学習	レクチャーノートの該当部分の読了及び理解した範囲、理解出来なかった範囲の整理。 なお、予習範囲の整理と【予習CHALLENGE】問題の回答は、A4のレポート用紙にまとめ、第二回以降の各講義の最初に提出することを義務付ける。

成績評価	最終試験: 70% グループワークおよびレポート: 30% で素点を作る。実際の成績評価は、この素点をもとにした相対評価である。
講義構成	第1回 はじめに: 数学的論理思考へようこそ 第2回 一般的に考える(1): 数字に慣れる 第3回 一般的に考える(2): 数の並びに慣れる 第4回 一般的に考える(3): Σ の導入 第5回 一般的に考える(4): $\log$ の導入 第6回 一般的に考える(5): 無限への拡張 第7回 一般的に考える(6): 論理的かつ柔軟に考えること 第8回 一般的に考える(7): モデル化して問題を解くということ 第9回 確率的に考える(1): 確率世界のルール 第10回 確率的に考える(2): 現実の事象を確率的に理解すること 第11回 確率的に考える(3): データを視覚的に認識すること 第12回 微分して考える(1): 接線を考える 第13回 微分して考える(2): 最適化を考える 第14回 ラップアップ(1): 論理的思考の応用可能性を議論する 第15回 ラップアップ(2): 総括
教科書	レクチャーノートを、CUBE内KIOSKで販売する。購入すること。

授業コード	81039		
授業科目名	数学の世界（前）		
担当者名	太田雅久(オオタ マサヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜5限
オフィスアワー	随時、研究室に来てください。		

講義の内容	株価の変動、景気不景気のサイクル、何に制御されているのか、アダム・スミスのいう「隠れた手」とは何か、予測不可能なことがたくさんあります。また、イスラム系の人を見ればテロリストとすぐに結びつけたり、一つの事故が起こると連鎖的に起こると考えてみたり、私たちは偏見に満ちた直観を持っています。情報通信の機密保持に素数が関与していること、私たちが目にする色々な物体の大きさがフィボナッチ数に関係していることなど、数字を改めて見直してみる今まで知らなかったことの多さに驚きます。ここでは、数学の世界で話題になったことを私たちの身に周りの減少と結びつけて考えていきます。そして最後に、現代の高度科学技術社会の基盤を支えている物理学のお話を少しします。
到達目標	数学の世界と私たちの日常生活の雑多な事柄とどんな結びつきがあるのか知ること。 数学的な思考を楽しめること。 未知の分野に足を踏み入れるきっかけを作ること。
講義方法	講義70%、演習30%。
準備学習	特になし。 授業時間内に集中して考えること。
成績評価	欠席5回で自動的に不可となります。
講義構成	第1回: ゴールデンルール(黄金分割)、統計学の基礎 (私たちの図形に関する感覚は?) 第2回: 数字の話と0の発見 (ゼロの発見は私たちの生活にどんな貢献をしているのか?) 第3回: ゼノンのパラドックス、「無限」や「連続」という概念 (アキレスは亀を追い越せたのか?) 第4回: 機密情報は素数で守られている (それってどんなこと? 大変大きな数字の話) 第5回: 四色問題のお話 (トポロジーはどんなことを研究する学問? ネットワークの持つ奇妙な性質とは?) 第6回: フラクタルの世界 (特徴的な長さをもつ図形、もたない図形) 第7回: 通信網のお話と優劣の問題

	(野球でどのチームが強い? 相撲で誰が強い? その他、ひも結びのお話も) 第8回: ベクトル、ベクトル空間、双対空間 (方向性のある量、ない量) 第9回: 線形・非線形の考え方 (ブラジルの奥地でのチョウの羽ばたきが増幅されてハリケーンになる?) 第10-11回: 決めつけをしないための確率論の勉強 (日常の思い違いを確かめましょう) 第12-13回: ランダムウォークの世界 (私たちの社会の動きは何で決まるの? 乱数ってどんな働きをするの?) 第14回: 微分と積分の考えを使ったお話 第15回: 量子力学と相対性理論の基本的な考え方
教科書	特になし。随時、資料を配布します。
参考書・資料	講義中に紹介します。

授業コード	81Q11		
授業科目名	スポーツ(1クラス)(前)		
担当者名	曾我部晋哉(ソガベ アキトシ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	実施場所: 岡本講堂兼体育館または六甲アイランド体育施設、講義室、トレーニングルーム、山御影ゴルフセンター		

講義の内容	生活の中に定期的に運動を取り入れながら、自分の身体について学び、体力やフィジカル・コンディショニングの知識を深める。まず、体力測定を実施した後、スポーツ施設を活用しながら数種目の実技と講義を行う。
到達目標	この授業を通して、フィジカル・マネージメントができる姿勢を身に付けるとともに、スポーツを通してコミュニケーション力を高めることを目指す。
講義方法	体力測定、トレーニング講習会、講義、実技を組み合わせ実施する。
準備学習	久しぶりに体を動かす人は、積極的に体を動かしておいてください。
成績評価	出席状況、レポート、技能・態度・習熟度で評価する。 授業実施回数(休講は回数から除く)の3/4以上出席した者を、評価対象者とする。
講義構成	第1回: ガイダンス(西宮校地、2クラス合同) 第2、3、4回: 硬式テニス(六甲アイランド校地・テニスコート) 第5回: 新体力測定(六甲アイランド校地) 第6回: 講義: 新体力測定の結果から自分の体力を分析(西宮校地) 第7、8回: ゴルフ(山御影ゴルフセンター) 第9、10、11回: フットサル(六甲アイランド校地・南Gインフィールド) 第12回: トレーニング講習会<トレーニングルーム利用証発行>(西宮校地、2クラス合同) 第13回: トレーニング(六甲アイランド校地・トレーニングルーム) 第14、15回: 体育館種目(岡本校地・講堂兼体育館)
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』、「基礎体育学演習」と「生涯スポーツ」の手引き(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)

その他	※荒天の場合、六甲アイランドの種目は、場所を変更し六甲アイランド体育施設内の屋内施設等を使用して授業を行う。六甲アイランド掲示板等を確認のこと。 ※実技の際は、スポーツウエア、トレーニングシューズ(体育館や六甲アイランドトレーニングルームの場合は体育館専
-----	---

	用シューズ)を着用すること。適正な服装・シューズの着用が無い場合、授業に参加できない場合もある。
--	--

授業コード	81Q12		
授業科目名	スポーツI (2クラス)(前)		
担当者名	曾我部晋哉(ソガベ アキトシ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	実施場所: 岡本講堂兼体育館または六甲アイランド体育施設、講義室、トレーニングルーム、山御影ゴルフセンター		

講義の内容	生活の中に定期的に運動を取り入れながら、自分の身体について学び、体力やフィジカル・コンディショニングの知識を深める。 まず、体力測定を実施した後、スポーツ施設を活用しながら数種目の実技と講義を行う。		
到達目標	この授業を通して、フィジカル・マネージメントができる姿勢を身に付けるとともに、スポーツを通してコミュニケーション力を高めることを目指す。		
講義方法	体力測定、トレーニング講習会、講義、実技を組み合わせる実施する。		
準備学習	久しぶりに体を動かす人は、積極的に体を動かしておくこと。		
成績評価	出席状況、レポート、技能・態度・習熟度で評価する。 授業実施回数(休講は回数から除く)の3/4以上出席した者を、評価対象者とする。		
講義構成	第1回: ガイダンス(西宮校地、2クラス合同) 第2、3、4回: 硬式テニス(六甲アイランド校地・テニスコート) 第5回: 新体力測定(六甲アイランド校地) 第6回: 講義:新体力測定の結果から自分の体力を分析(西宮校地) 第7、8回: ゴルフ(山御影ゴルフセンター) 第9、10、11回: フットサル(六甲アイランド校地・南Gインフィールド) 第12回: トレーニング講習会<トレーニングルーム利用証発行>(西宮校地、2クラス合同) 第13回: トレーニング(六甲アイランド校地・トレーニングルーム) 第14、15回: 体育館種目(岡本校地・講堂兼体育館)		
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)		
講義関連事項	実技の際は、スポーツウエア、トレーニングシューズ(体育館や六甲アイランドトレーニングルームの場合は体育館専用シューズ)を着用すること。適正な服装・シューズの着用が無い場合、授業に参加できない場合もある。		
その他	※荒天の場合、六甲アイランドの種目は場所を変更し、六甲アイランド体育施設内の屋内施設等を使用して授業を行う。六甲アイランド掲示板等を確認のこと。		

授業コード	81Q13		
授業科目名	スポーツI (3クラス)(前)		
担当者名	桂 豊(カツラ ユタカ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
特記事項	実施場所: 岡本講堂兼体育館または六甲アイランド体育施設、講義室、トレーニングルーム、山御影ゴルフセンター		

講義の内容	生活の中に定期的に運動を取り入れながら、自分の身体について学び、体力やフィジカル・コンディショニングの知識を深める。 まず、体力測定を実施した後、スポーツ施設を活用しながら数種目の実技と講義を行う。
到達目標	この授業を通して、フィジカル・マネージメントができる姿勢を身に付けるとともに、スポーツを通してコミュニケーション力を高めることを目指す。
講義方法	体力測定、トレーニング講習会、講義、実技を組み合わせ実施する。
準備学習	久しぶりに体を動かす人は、積極的に体を動かしておくこと。
成績評価	出席状況、レポート、技能・態度・習熟度で評価する。 授業実施回数(休講は回数から除く)の3/4以上出席した者を、評価対象者とする。
講義構成	第1回: ガイダンス(西宮校地、2クラス合同) 第2、3、4回: 硬式テニス(六甲アイランド校地・テニスコート) 第5回: 新体力測定(六甲アイランド校地) 第6回: 講義:新体力測定の結果から自分の体力を分析(西宮校地) 第7、8回: ゴルフ(山御影ゴルフセンター) 第9、10、11回: フットサル(六甲アイランド校地・南Gインフィールド) 第12回: トレーニング講習会<トレーニングルーム利用証発行>(西宮校地、2クラス合同) 第13回: トレーニング(六甲アイランド校地・トレーニングルーム) 第14回、第15回: 体育館種目(岡本校地・講堂兼体育館)
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
講義関連事項	実技の際は、スポーツウエア、トレーニングシューズ(体育館や六甲アイランドトレーニングルームの場合は体育館専用シューズ)を着用すること。適正な服装・シューズの着用が無い場合、授業に参加できない場合もある。
その他	※荒天の場合、六甲アイランドの種目は場所を変更し、六甲アイランド体育施設内の屋内施設等を使用して授業を行う。六甲アイランド掲示板等を確認のこと。

授業コード	81Q14		
授業科目名	スポーツI(4クラス)(前)		
担当者名	橋本 恒(ハシモト ヒサシ)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	実施場所:岡本講堂兼体育館または六甲アイランド体育施設、講義室、トレーニングルーム、山御影ゴルフセンター		

講義の内容	生活の中に定期的に運動を取り入れながら、自分の身体について学び、体力やフィジカル・コンディショニングの知識を深める。 まず、体力測定を実施した後、スポーツ施設を活用しながら数種目の実技と講義を行う。
到達目標	この授業を通して、フィジカル・マネージメントができる姿勢を身に付けるとともに、スポーツを通してコミュニケーション力を高めることを目指す。
講義方法	体力測定、トレーニング講習会、講義、実技を組み合わせ実施する。
準備学習	久しぶりに体を動かす人は、積極的に体を動かしておくこと。
成績評価	出席状況、レポート、技能・態度・習熟度で評価する。 授業実施回数(休講は回数から除く)の3/4以上出席した者を、評価対象者とする。
講義構成	第1回: ガイダンス(西宮校地、2クラス合同)

	第2、3、4回： 硬式テニス(六甲アイランド校地・テニスコート) 第5回： 新体力測定(六甲アイランド校地) 第6回： 講義:新体力測定の結果から自分の体力を分析(西宮校地) 第7、8回： ゴルフ(山御影ゴルフセンター) 第9、10、11回： フットサル(六甲アイランド校地・南Gインフィールド) 第12回： トレーニング講習会<トレーニングルーム利用証発行>(西宮校地、2クラス合同) 第13回： トレーニング(六甲アイランド校地・トレーニングルーム) 第14、15回： 体育館種目(岡本校地・講堂兼体育館)
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
講義関連事項	実技の際は、スポーツウエア、トレーニングシューズ(体育館や六甲イトレーニングルームの場合は体育館専用シューズ)を着用すること。適正な服装・シューズの着用が無い場合、授業に参加できない場合もある。
その他	※荒天の場合、六甲アイランドの種目は場所を変更し、六甲アイランド体育施設内の屋内施設等を使用して授業を行う。六甲アイランド掲示板等を確認のこと。

授業コード	81R01		
授業科目名	スポーツⅡ(硬式テニスⅠ)(前)		
担当者名	渡邊義克(ワタナベ ヨシカツ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	実施場所:岡本校地テニスコート		

講義の内容	世の中は便利になり過ぎ、体を動かす事が少なく、それが原因による体力の低下、又、精神的ストレスの増大が今の現状です。若い時に生涯続ける事の出来る種目を身につける事によって上記の事柄が回避されるのではないのでしょうか。その一種目として、楽しいテニスを基本から実戦まで能力に応じて指導します。
到達目標	各々技術的に差があるので、少なくとも履修前よりも各々がステップアップしている事が目標となります。具体的には、初級者は自分の得意な所(技術)を認識してそれを伸ばして行き、上級者は不得意な技術を認識してそれを克服するという事です。 テニスを楽しみながら健康維持や仲間作りを積極的に行い、生涯スポーツのきっかけとしてください。
講義方法	2面のクレートコートを使用して、能力別2グループに分かれて指導します。 初級者は基礎からゲームが出来るようになるまで、上級者は自分の目標とする技術のレベルアップを目指します。 前半は全員で基礎的なトレーニングを行います。 後半の流れとしては、初級者はトレーニング・ドリル(反復練習)、5回目頃からは、ゲームを取り入れます。 上級者はゲーム中心に各々のテクニックの精度を高めながら、ゲーム感覚を養っていきます。 尚、雨天の場合は講堂兼体育館でミニテニスの予定です。 ※事前にMy KONANとスポーツ・健康科学教育研究センター事務室前で掲示連絡します。
準備学習	特にありません。
成績評価	出席状況は勿論、授業に積極的に参加しているかで評価します。
講義構成	第1回： 用具の説明、ボール・ラケットの感触体験 第2、3回： バックハンドストローク 第4、5回： フォアハンドストローク 第6、7回： 近距離でのボレー、ミニゲーム 第8回：

	サービス・スマッシュ、ネット際のボレー 第9、10回： ハーフコートゲーム 第11回： ダブルスゲーム、ルールの説明 第12回： ダブルスコンビネーション 第13回： ダブルスコンビネーション 第14、15回： ダブルスゲーム
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）
講義関連事項	テニスのしやすい服装とテニスシューズを準備してください。 ※雨天の場合は体育館シューズが必要です。
担当者から一言	技術向上を目的とする者や健康維持のためテニスにチャレンジする者など、動機は違っていても、出席した時は体を思い切り動かして下さい。

授業コード	81R02		
授業科目名	スポーツⅡ(硬式テニスⅡ)(後)		
担当者名	渡邊義克(ワタナベ ヨシカツ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	実施場所:岡本校地テニスコート		

講義の内容	世の中は便利になり過ぎ、体を動かす事が少なく、それが原因による体力の低下、又、精神的ストレスの増大が今の現状です。若い時に生涯続ける事の出来る種目を身につける事によって上記の事柄が回避されるのではないのでしょうか。その一種目として、楽しいテニスを基本から実戦まで能力に応じて指導します。
到達目標	各々技術的に差があるので、少なくとも履修前よりも各々がステップアップしている事が目標となります。具体的には、初級者は自分の得意な所(技術)を認識してそれを伸ばして行き、上級者は不得意な技術を認識してそれを克服するということです。 テニスを楽しみながら健康維持や仲間作りを積極的に行い、生涯スポーツのきっかけとしてください。
講義方法	2面のクレーコートを使用して、能力別2グループに分かれて指導します。 初級者は基礎からゲームが出来るようになるまで、上級者は自分の目標とする技術のレベルアップを目指します。 前半は全員で基礎的なトレーニングを行います。 後半の流れとしては、初級者はトレーニング・ドリル(反復練習)、5回目頃からは、ゲームを取り入れます。 上級者はゲーム中心に各々のテクニックの精度を高めながら、ゲーム感覚を養っていきます。 尚、雨天の場合は講堂兼体育館でミニテニスの予定です。 ※事前にMy KONANとスポーツ・健康科学教育研究センター事務室前で掲示連絡します。
準備学習	特にありません。
成績評価	出席状況は勿論、授業に積極的に参加しているかで評価します。
講義構成	第1回： 用具の説明、ボール・ラケットの感触体験 第2、3回： バックハンドストローク 第4、5回： フォアハンドストローク 第6、7回： 近距離でのボレー、ミニゲーム 第8回： サービス・スマッシュ、ネット際のボレー 第9、10回： ハーフコートゲーム 第11回： ダブルスゲーム、ルールの説明

	第12回： ダブルスコンビネーション 第13回： ダブルスコンビネーション 第14、15回： ダブルスゲーム
教科書	『スポーツ＆健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）
講義関連事項	テニスのしやすい服装とテニスシューズを準備してください。 ※雨天の場合は体育館シューズが必要です。
担当者から一言	技術向上を目的とする者や健康維持のためテニスにチャレンジする者など、動機は違っていても、出席した時は体を思い切り動かして下さい。

授業コード	81R03		
授業科目名	スポーツⅡ(エアロビクスⅠ)(1クラス)(前)		
担当者名	栗山陽子(クリヤマ ヨウコ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	実施場所:岡本小体育館		

講義の内容	音楽に合わせて仲間と楽しく気持ち良く体を動かしましょう。エアロビクスは有酸素性運動を中心とした筋力・筋持久力を高める筋コンディショニング、柔軟性を高めるストレッチング、そして精神的ストレスを癒すためのリラクゼーションまでもを含んだトータルフィットネスプログラムです。このエアロビクスダンスを通じて体を鍛え心もリフレッシュ！そして新たな仲間との交流を生み出しているようなそんな授業を進めて行きます。 運動する楽しさ、汗をかく爽快感、新たな仲間との出会いを楽しんで下さい。それがきっとあなたの生涯スポーツへのきっかけの基礎となるでしょう。
到達目標	1. ベーシックなステップの正しい動き方を理解し、音楽に合わせて動くことが出来るようになります。 2. 2つ以上のステップを組み合わせて正しく音楽に合わせて動くことが出来るようになります。
講義方法	・レッスン形式で行います。 ・講師のキューイング(指導)で音楽に合わせて参加者全員一緒に動きます。
準備学習	授業前に、教科書『スポーツ＆健康科学BOOK』に目を通しておいってください。
成績評価	出席状況、授業に自分に前向きに取り組んでいるかななどで評価します。
講義構成	第1回： オリエンテーション 内容・服装・健康状態などの確認 第2回： BW1ー基本ステップの練習を中心に 第3回： BW2ー同上 第4回： BW3ーステップを組み合わせたエクササイズ 第5回： BW4ー同上 第6回： BW5ー同上 第7回： BW6ー同上 第8回： BJ1ー基本ステップの練習を中心に 第9回： BJ2ー同上 第10回： BJ3ーステップを組み合わせたエクササイズ 第11回： BJ4ー同上 第12回： BJ5ー同上

	第13回： BJ6ー同上 第14、15回： まとめ BW：ベーシック・ウオーク、BJ：ベーシック・ジョグ ※気候・季節により授業内容がヨガまたはピラティスに変更になる場合があります。
教科書	『スポーツ＆健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）
担当者から一言	楽しみましょう！

授業コード	81R04		
授業科目名	スポーツII (エアロビクス I)(2クラス)(後)		
担当者名	栗山陽子(クリヤマ ヨウコ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	実施場所:岡本小体育館		

講義の内容	音楽に合わせて仲間と楽しく気持ち良く体を動かしましょう。エアロビクスは有酸素性運動を中心とした筋力・筋持久力を高める筋コンデショニング、柔軟性を高めるストレッチング、そして精神的ストレスを癒すためのリラクゼーションまでもを含んだトータルフィットネスプログラムです。このエアロビクスダンスを通じて体を鍛え心もリフレッシュ！そして新たな仲間との交流を生み出しているようなそんな授業を進めて行きます。 運動する楽しさ、汗をかく爽快感、新たな仲間との出会いを楽しんで下さい。それがきっとあなたの生涯スポーツへのきっかけの基礎となるでしょう。
到達目標	1. ベーシックなステップの正しい動き方を理解し、音楽に合わせて動くことが出来るようになります。 2. 2つ以上のステップを組み合わせて正しく音楽に合わせて動くことが出来るようになります。
講義方法	・レッスン形式で行います。 ・講師のキューイング(指導)で音楽に合わせて参加者全員一緒に動きます。
準備学習	授業前に、教科書『スポーツ＆健康科学BOOK』に目を通しておいください。
成績評価	出席状況、授業に自分に前向きに取り組んでいるかななどで評価します。
講義構成	第1回： オリエンテーション 内容・服装・健康状態などの確認 第2回： BW1ー基本ステップの練習を中心に 第3回： BW2ー同上 第4回： BW3ーステップを組み合わせたのエクササイズ 第5回： BW4ー同上 第6回： BW5ー同上 第7回： BW6ー同上 第8回： BJ1ー基本ステップの練習を中心に 第9回： BJ2ー同上 第10回： BJ3ーステップを組み合わせたのエクササイズ 第11回： BJ4ー同上 第12回： BJ5ー同上 第13回： BJ6ー同上 第14、15回： まとめ

	BW：ベーシック・ウオーク、BJ：ベーシック・ジョグ ※気候・季節により授業内容がヨガまたはピラティスに変更になる場合があります。
教科書	『スポーツ＆健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）
担当者から一言	楽しみましょう！

授業コード	81R05		
授業科目名	スポーツⅡ（バレーボールⅠ）(前)		
担当者名	中西康人(ナカニシ ヤスト)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	実施場所: 岡本講堂兼体育館		

講義の内容	バレーボールは、簡単なパスゲームから高度なコンビネーションプレイまで、プレイする人の能力に応じた多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは同じ人が続けて2度以上ボールに触れてはいけないと言うゲームの性格上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。 本授業では、基本的な個人技術、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、個人技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレイを成功させて、仲間と喜びを分かち合うバレーボールの持つ楽しさを味わうことを目的とする。
到達目標	種目のルール・マナーや必要な知識を学ぶこと。 生涯スポーツに向け、種目を楽しむために必要な技術を身につけること。 仲間とのコミュニケーションを図り、本種目を安全に楽しむことができること。
講義方法	バレーボールの理論と実践を中心に展開していく。
準備学習	本種目に興味を持ち、日頃からルールや技術について情報を収集することように努める。
成績評価	参加点60%、技能・理解点30%、受講態度点10%を目安として総合的に評価する。
講義構成	[第1回] オリエンテーション [第2回～第6回] グループ編成 パス・スパイク・サーブ等の個人技能練習 グループ練習（ストライクパス、パス抜けラリー） ミニコートゲーム（4人制ゲーム） [第7回] ルールおよびフォーメーション学習 [第8回～第10回] ゲーム・グループ練習（シートレシーブ・フォーメーション練習）を通じてルール・戦術に対する理解を深め、実践力を養う [第11回～第15回] 総当たりリーグ戦 ※ 但し、上記の授業展開は授業数、及び、受講者の習熟状況等により変更される場合がある。
教科書	特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等を配布する。
参考書・資料	「詳解6人制バレーボールのルールと審判法」 山岸 紀郎・下山 隆志（大修館書店） ￥1,575
担当者から一言	運動に適した服装を準備（ジーンズは認めない）し、体育館シューズを忘れないように。 授業を作り上げるのはみなさんです。熱い心でボールを追い、バレーボールを楽しみましょう。

授業コード	81R06
-------	-------

授業科目名	スポーツⅡ(バレーボールⅡ)(後)		
担当者名	水澤克子(ミズサワ カツコ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	実施場所:岡本講堂兼体育館		
オフィスアワー	月～金 9:00～17:00		

講義の内容	半期間を通して、バレーボールを楽しむ。様々な練習方法、ゲーム形式を経験する。
到達目標	お互いに声を掛け合って、バレーボールのゲームを楽しめるようになる。
講義方法	実技。
準備学習	特になし。
成績評価	出席状況(基本的に授業回数の3/4以上の出席が必要)、受講態度、技能の習熟度等を総合的に評価する。
講義構成	第1回 ・オリエンテーションと体ならし ※1回目の授業から実技を行うので、運動の出来る服装と体育館シューズを用意すること。 ※受講希望者が多い場合は、この日に抽選を行う。 受講希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。 やむを得ない理由で欠席する場合は、あらかじめ届け出ること。 第2回～第5回 ・個々の技術練習とミニ・バレーボール(バドミントンコートの広さ、ネットの高さは2m15cm程度、1チーム2～3人) 第6回～第9回 ・6人制バレーボールを楽しむために必要な技術練習 ・連係プレイとチームの約束の確認 第10回～ ・リーグ戦
教科書	特に指定なし。
講義関連事項	服装やシューズの指定はない。バレーボールにふさわしい服装および、体育館シューズを必ず着用すること。 ジーンズやコットンパンツは認めない。 受講者のバレーボールの技術レベルは問わない。

担当者から一言	受講者が全員で作りにあげていく授業である。お互いにコミュニケーションをとりながらバレーボールを楽しもう、という気持ちが一番大切である。 チームゲームであるので、休まずに出席すること。
その他	第1回目の授業から実技を行うので、運動のできる服装、シューズを着用の上、岡本の講堂兼体育館に集合すること。 受講希望者は必ず1回目の授業に出席すること。やむを得ない理由で出席できない場合は、あらかじめ連絡すること。 受講希望者が多い場合は、第1回目の授業時に抽選を行うことがある。

授業コード	81R07		
授業科目名	スポーツⅡ(健康柔道Ⅰ)(前)		
担当者名	山崎俊輔(ヤマサキ シュンスケ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	実施場所:岡本小体育館		

講義の内容	柔道は、日本の文化財としての特徴をもちつつ、世界のスポーツとしての特色も持っている。さらに、教育として、また機械文明による人間本性の退化を防ぐ意味でも重要視されている。本講義では、これらの柔道の特性を追求しつつ、心身の健康を維持増進し、気軽に楽しく行える柔道を目指して授業を進める。
-------	--

	なお、本講義中に講道館初段修得の可能性もあり、例年、数名の受講生が初段を修得している。また、公務員試験(警察官、消防士、教員等)の受検希望者に対しては、実技(運動能力)試験に対応できる体力の向上も視野に入れた内容とする。 健康柔道Ⅱは、健康柔道Ⅰをより発展させた授業内容とし、各学生の能力や体力、また、それぞれの目的に応じた指導を行う。 男女ともに、経験の有無を問わず、誰でも受講されることを希望する。
到達目標	各自の能力に応じ、基本技術を習得し、自由練習・試合等が出来るように務める。また、希望者には講道館柔道初段を習得する機会を与える。
講義方法	実習形式。
準備学習	日々の生活の中で健康管理に留意し、規則正しい生活と自分の能力に応じた運動をするよう心がける。
成績評価	出席状況、態度、意欲、修得度合等、総合的に評価する。
講義構成	第1回： オリエンテーション、基本動作 第2～5回： 基本動作、袈裟固、横四方固、上四方固、膝車、支釣込足、大腰、簡単な自由練習 第6～9回： 縦四方固、釣込腰、体落、大内刈、小内刈、小外刈、自由練習 第10～15回 絞技、関節技の説明、背負投、一本背負投、払腰、内股、跳腰、自由練習、試合練習 ※技の説明の種類、順序は受講生の習熟度合によって変更することがある。
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
講義関連事項	女子はTシャツを用意すること。※柔道着は大学で準備する。

授業コード	81R08		
授業科目名	スポーツⅡ(フットサルⅡ)(後)		
担当者名	桂 豊(カツラ ユタカ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	実施場所:岡本講堂兼体育館		

講義の内容	基本的技術練習から基本戦術、応用戦術迄レベルに合わせて授業は進み、毎週ゲーム形式のトレーニングを行い、クラス内でのフットサルリーグ戦を実施する。
到達目標	フットサルをととしての心身のトレーニングを狙いとする。ルールも理解し、生涯にわたりフットサルに親しむことができる姿勢をこの授業をととして身につけてもらいたい。
講義方法	初心者、経験者などフットサル経験に応じてグループ分け。女子も受講可。
準備学習	本気でやるととてもハードな競技です。体を動かしておいてください。
成績評価	出席点をベースに授業中の取り組みや態度、技術の習熟度を考慮の上、単位を認定する。積極的姿勢の見られない学生は、認定しない。
講義構成	第1回:オリエンテーション、DVD鑑賞、ルール解説 第2回:ルールの理解、基本技術、ゲーム形式 第3回:基本技術・戦術、ゲーム形式 第4回:基本技術・戦術、ゲーム形式 第5回:基本技術・戦術、ゲーム形式 第6回:ボールポゼッション、ゲーム形式 第7回:ボールポゼッション、ゲーム形式 第8回:守備の原則、ゲーム形式 第9回:攻撃の原則、ゲーム形式 第10回:セットプレー①、ゲーム形式 第11回:セットプレー②、ゲーム形式 第12回:チーム戦術、ゲーム形式 第13回:フットサル・リーグ戦① 第14回:フットサル・リーグ戦② 第15回:フットサル・リーグ戦③

教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター) フットサルに関する本なら何でも参考にして下さい。
参考書・資料	フットサルルールに関する資料は配布します。
担当者から一言	キングオブスポーツといわれるサッカーは、世界で色々なかたちで行われ発展してきました。オフシーズンには世界各地でインドアサッカーも盛んに行われています。そして現在は5vs5で行うミニサッカーをフットサルとしてルールを統一し、大人から子供まで老若男女を問わず人気です。私の専門はコーチ学(サッカー)です。初心者から経験者、女子学生まで受講大歓迎です。半年で必ず上達します。

授業コード	81R09		
授業科目名	スポーツII (フィットネス実習 I)(後)		
担当者名	曾我部晋哉(ソガベ アキトシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	実施場所: 岡本トレーニングルーム		

講義の内容	現代社会では、私たちは日常的に様々なストレスに晒(さら)されており、身体は知らず知らずのうちにそれらのストレスに適応しようとしています。「最近、お腹が出てきた」「最近体の調子が悪い」と感じる時、体のどこかに歪(ひず)みが生じている可能性があります。それには自分の体を心配する前に、どこにその原因があるのか突き止め、適切な(科学的な)対策を図ることが大切です。本講義では、半期における到達目標(ダイエット、筋力アップなど)を設定し、その目標に到達できるようにプログラムを実施していきます。講義の中でも、先端の機器を利用し体脂肪や筋肉量を測定し、定期的にフィードバックしていきます。
到達目標	各自の到達目標(ダイエット、筋力アップなど)値を設定し、その目標に到達できるように科学的な理論を学習すると同時に実践していきます。
講義方法	毎回の講義前半に理論を学習し、後半は実技を実施していきます。
準備学習	作成したプログラムを日々の生活の中で実践するよう心がけていただきます。
成績評価	席状況、取り組みの姿勢、知識の理解度により総合判断します。
講義構成	第1回: 私たちを取り巻く環境(社会・病気・健康)について(オリエンテーション) 第2回: 自分の身体を知る:身体計測 第3回: 自分の心身を知る:POMS(精神的コンディショニング評価)、身体改善プログラム作成 第4回: 科学的ダイエット方法①:METSによる簡易のカロリー計算、食事と運動の関係 第5回: 科学的ダイエット方法②:基礎代謝向上プログラム 第6回: ゆがみ・姿勢を改善する:バランスボールなどを使用したトレーニング的アプローチ 第7回: 身体を鍛える①:上半身(ウェイト器具を使用しない) 第8回: 身体を鍛える②:下半身(ウェイト器具を使用しない) 第9回: 身体を鍛える③:神経系 第10回: バランスを鍛える:バランスボール、ストレッチポールなどを使用 第11回: 脂肪を燃焼させる:ウォーキング 第12回: 疲労を回復させる①:積極的疲労回復法(軽運動) 第13回: 疲労を回復させる②:ストレッチ、マッサージ的アプローチ 第14回: 健康で楽しくアクティブな人生を送るために① 第15回: 健康で楽しくアクティブな人生を送るために②(総論)
教科書	資料を配布します。

担当者から一言	普段の生活の中でも実践できる内容の講義にしていきたいと思います。運動やスポーツが苦手だという人も、逆に得意だという人も、基礎的な知識から最新の研究内容まで幅広く網羅していきますので気軽に参加してください。この講義を通じて、体のしくみについて少しでも理解してもらえればと思います。
---------	---

授業コード	81R10		
授業科目名	スポーツII (トレーニング実習 I)(1クラス)(前)		
担当者名	小林義樹(コバヤシヨシキ)		
配当年次	2年次	単位数	1

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	実施場所:岡本トレーニングルーム		
講義の内容	現在は”トレーニング方法”において色々な情報が溢れている。それがきっかけで何を一体どれだけすればいいのかわかっている人も少なくないはずである。そう感じている人は今回このトレーニング実習を通じて”なるほどこれならできるぞ!”と感じてほしいと思う。週一回の講義だが、トレーニング器具の使い方とトレーニング方法の基礎を学び、トレーニングを安全に行うことができるように学習し、健康な体作りや競技力向上など、それぞれの目的達成のために役立てて欲しいと思う。		
到達目標	各種トレーニング器具の使い方を覚え、安全にトレーニングをすることができることを目標とする。 そのためには、下記のことにも必要になってくる。 1. 日常的に行われる動作を分析的に視ることに慣れること。 2. 分析的に視ることの拠り所としての『スポーツバイオメカニクス(力学・物理学含む)』に多少なりとも慣れること。 3. 学問的視点が現場での視点とつなげられるようになること。 4. 生涯スポーツとして継続的にスポーツ(トレーニングを含む)を行えるようになること。 5. 楽しくスポーツを行えるようになること。		
講義方法	器具の使い方、安全上の注意事項などの説明をした後に、実際にトレーニングを行う。		
準備学習	日常から身体を動かすことに興味を持つ。 体育会系クラブ、もしくはサークルなどで日頃から身体を動かしている学生は、どのようにトレーニングをすれば傷害予防やパフォーマンス向上に結びつか考える。		
成績評価	出席状況、受講態度などを総合的に評価する。トレーニングを通じて健康な体作りは継続が大切です。		
講義構成	1. ガイダンス、ウエイト・トレーニングの基礎について 2. ショルダープレス(肩周りの筋力トレーニング)、自転車の使い方(有酸素運動) 3. チェストプレス(胸周りの筋力トレーニング)、トレッドミルの使い方(有酸素運動) 4. フライ(胸周りの筋力トレーニング)、ステアマスターの使い方(有酸素運動) 5. ラットプルダウン(背中周りのトレーニング)、ヒップ(股関節周囲の筋力トレーニング) 6. レッグエクステンション、レッグカール(膝関節周囲の筋力トレーニング) 7. レッグプレス、バックエクステンション(腰背部・臀部の筋力トレーニング) 8. アブドミナルカール(腹部・腰背部の筋力トレーニング) 9. テスト(実技と筆記テスト) 10. トレーニング(総合) 11. トレーニング(総合) 12. トレーニング(総合) 13. 体力測定について・トレーニング 14. 体力測定・トレーニング 15. トレーニング まとめ		
教科書	「基礎体育学演習」と「生涯スポーツ」の手引き(甲南大学スポーツ・健康教育科学センター)		
担当者から一言	トレーニングを安全にしかも一連の流れでできるように頑張りましょう。		
その他	服装は運動着、トレーニングシューズ(上履き用)を持参。 *この授業の単位を取得した学生は、岡本および六甲アイランドのトレーニングルーム、トレーナールームでトレーニング・アシスタント・スタッフとしてウエイト・トレーニング指導、体力測定補助などのインターン活動がでる予定(登録制)。		

授業コード	81R11		
授業科目名	スポーツII(トレーニング実習 I)(2クラス)(前)		
担当者名	橋本 恒(ハシモト ヒサシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	実施場所:岡本トレーニングルーム		
講義の内容	現在は”トレーニング方法”において色々な情報が溢れている。それがきっかけで何を一体どれだけすればいいのかわかっている人も少なくないはずである。そう感じている人は今回このトレーニング実習を通じて”なるほどこれならできるぞ!”と感じてほしいと思う。週一回の講義だが、トレーニング器具の使い方とトレーニング方法の基礎を学び、トレーニングを安全に行うことができるように学習し、健康な体作りや競技力向上など、それ		

	それぞれの目的達成のために役立てて欲しいと思う。
到達目標	各種トレーニング器具の使い方を覚え、安全にトレーニングをすることができることを目標とする。 そのためには、下記のことも必要になってくる。 1. 日常的に行われる動作を分析的に視ることに慣れること。 2. 分析的に視ることの拠り所としての『スポーツバイオメカニクス(力学・物理学含む)』に多少なりとも慣れること。 3. 学問的視点が現場での視点とつながられるようになること。 4. 生涯スポーツとして継続的にスポーツ(トレーニングを含む)を行えるようになること。 5. 楽しくスポーツを行えるようになること。
講義方法	器具の使い方、安全上の注意事項などの説明をした後に、実際にトレーニングを行う。
準備学習	日常から身体を動かすことに興味を持つ。 体育会系クラブ、もしくはサークルなどで日頃から身体を動かしている学生は、どのようにトレーニングをすれば傷害予防やパフォーマンス向上に結びつか考える。
成績評価	出席状況、受講態度などを総合的に評価する。トレーニングを通じて健康な体作りは継続が大切です。
講義構成	1. ガイダンス、ウエイト・トレーニングの基礎について 2. ショルダープレス(肩周りの筋力トレーニング)、自転車の使い方(有酸素運動) 3. チェストプレス(胸周りの筋力トレーニング)、トレッドミルの使い方(有酸素運動) 4. フライ(胸周りの筋力トレーニング)、ステアマスターの使い方(有酸素運動) 5. ラットプルダウン(背中周りのトレーニング)、ヒップ(股関節周囲の筋力トレーニング) 6. レッグエクステンション、レッグカール(膝関節周囲の筋力トレーニング) 7. レッグプレス、バックエクステンション(腰背部・臀部の筋力トレーニング) 8. アブドミナルカール(腹部・腰背部の筋力トレーニング) 9. テスト(実技と筆記テスト) 10. トレーニング(総合) 11. トレーニング(総合) 12. トレーニング(総合) 13. 体力測定について・トレーニング 14. 体力測定・トレーニング 15. トレーニング まとめ
教科書	「基礎体育学演習」と「生涯スポーツ」の手引き(甲南大学スポーツ・健康教育科学センター)
担当者から一言	トレーニングを安全にしかも一連の流れでできるように頑張りましょう。
その他	服装は運動着、トレーニングシューズ(上履き用)を持参。 *この授業の単位を取得した学生は、岡本および六甲アイランドのトレーニングルーム、トレーナールームでトレーニング・アシスタント・スタッフとしてウエイト・トレーニング指導、体力測定補助などのインターン活動が予定(登録制)。

授業コード	81R12		
授業科目名	スポーツII (トレーニング実習 I)(3クラス)(後)		
担当者名	橋本 恒(ハシモト ヒサシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	実施場所: 岡本トレーニングルーム		

講義の内容	現在は”トレーニング方法”において色々な情報が溢れている。それがきっかけで何を一体どれだけすればいいのかわかっている人も少なくないはずである。そう感じている人は今回このトレーニング実習を通じて”なるほどこれならできるぞ!”と感じてほしいと思う。週一回の講義だが、トレーニング器具の使い方とトレーニング方法の基礎を学び、トレーニングを安全に行うことができるように学習し、健康な体作りや競技力向上など、それぞれの目的達成のために役立てて欲しいと思う。
到達目標	各種トレーニング器具の使い方を覚え、安全にトレーニングをすることができることを目標とする。 そのためには、下記のことも必要になってくる。 1. 日常的に行われる動作を分析的に視ることに慣れること。 2. 分析的に視ることの拠り所としての『スポーツバイオメカニクス(力学・物理学含む)』に多少なりとも慣れること。

	3. 学問的視点が現場での視点とつながられるようになること。 4. 生涯スポーツとして継続的にスポーツ(トレーニングを含む)を行えるようになること。 5. 楽しくスポーツを行えるようになること。
講義方法	器具の使い方、安全上の注意事項などの説明をした後に、実際にトレーニングを行う。
準備学習	日常から身体を動かすことに興味を持つ。 体育会系クラブ、もしくはサークルなどで日頃から身体を動かしている学生は、どのようにトレーニングをすれば傷害予防やパフォーマンス向上に結びつくか考える。
成績評価	出席状況、受講態度などを総合的に評価する。トレーニングを通じて健康な体作りは継続が大切です。
講義構成	1. ガイダンス、ウエイト・トレーニングの基礎について 2. ショルダープレス(肩周りの筋力トレーニング)、自転車の使い方(有酸素運動) 3. チェストプレス(胸周りの筋力トレーニング)、トレッドミルの使い方(有酸素運動) 4. フライ(胸周りの筋力トレーニング)、ステアマスターの使い方(有酸素運動) 5. ラットプルダウン(背中周りのトレーニング)、ヒップ(股関節周囲の筋力トレーニング) 6. レッグエクステンション、レッグカール(膝関節周囲の筋力トレーニング) 7. レッグプレス、バックエクステンション(腰背部・臀部の筋力トレーニング) 8. アブドミナルカール(腹部・腰背部の筋力トレーニング) 9. テスト(実技と筆記テスト) 10. トレーニング(総合) 11. トレーニング(総合) 12. トレーニング(総合) 13. 体力測定について・トレーニング 14. 体力測定・トレーニング 15. トレーニング まとめ
教科書	「基礎体育学演習」と「生涯スポーツ」の手引き(甲南大学スポーツ・健康教育科学センター)
担当者から一言	トレーニングを安全にしかも一連の流れでできるように頑張りましょう。
その他	服装は運動着、トレーニングシューズ(上履き用)を持参。 *この授業の単位を取得した学生は、岡本および六甲アイランドのトレーニングルーム、トレーナールームでトレーニング・アシスタント・スタッフとしてウエイト・トレーニング指導、体力測定補助などのインターン活動ができる予定(登録制)。

授業コード	81R13		
授業科目名	スポーツII(トレーナー実習I)(後)		
担当者名	小林義樹(コバヤシヨシキ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	実施場所: 岡本トレーニングルーム		
講義の内容	適切に身体を動かすことはとても気持ちよく健康な身体を維持するのにとても大切である。しかし、残念なことにアクシデントによるケガが起きることも事実である。適切な処置をしないとケガが完治するのに長くなり、せっかくの楽しみから長い期間遠ざかることになってしまう。私達トレーナーが普段スポーツ選手に対して行なうケアの仕方を学び、自分に対するケアは勿論、スポーツ仲間にも適切なアドバイスができるようになってもらいたい。この講義では、ケガの予防や受傷後のケアについて学び、トレーナーの役割を理解するとともに、健康管理に興味のある人は是非参加してほしいと思う。		
到達目標	授業で学んだ知識とスキルをスポーツ現場で活用できることを目標とする。		
講義方法	それぞれのテーマごとに内容を説明した後、実技を行う。		
準備学習	日常から身体を動かすことに興味を持つ。 体育会系クラブ、もしくはサークルなどで日頃から身体を動かしている学生は、どのようにトレーニングをすれば傷害予防やパフォーマンス向上に結びつくか考える。		
成績評価	出席状況、受講態度などを総合的に評価する。		

講義構成	1. ガイダンス、トレーナーの仕事について 2. 応急処置について、ケガ(外傷)の応急処置(R. I. C. E.)の実技 3. 解剖(学)について(筋肉)、ストレッチについて 4. ストレッチ (下肢) 5. ストレッチ (上肢) 6. ストレッチ (全体) 7. テスト 8. チューブトレーニング 9. チューブトレーニング 10. チューブトレーニング 11. 徒手抵抗運動 12. バランストレーニング(フィジオバランストレーニング) 13. バランストレーニング(バランスボードなど) 14. バランストレーニング 15. テスト
教科書	「基礎体育学演習」と「生涯スポーツ」の手引き(甲南大学スポーツ・健康教育科学センター)
担当者から一言	服装は運動着、トレーニングシューズ持参。筆記用具持参です。
その他	この授業の単位を取得した学生は、トレーナー・アシスタント・スタッフとして、選手のケアを中心に岡本・六甲アイランドのトレーニングルーム、トレーナールームでインターン活動ができる予定(登録制)。

授業コード	81R14		
授業科目名	スポーツII (バスケットボール I)(前)		
担当者名	大前 拓(オオマエ タク)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	実施場所: 岡本講堂兼体育館		

講義の内容	国民の健康志向の高まりは、年々強くなっている。しかし、生活習慣病やメタボリック症候群などは若年層にも拡大しつつあり、予防・改善の対策が必要と考えられている。大学生も同様の傾向にあり、身体を動かす機会は減少し、不規則な生活習慣が健康を損なう原因となっている。 この授業では、バスケットボールに必要な動作(走る、跳ぶ、投げる)を通じて、体力の維持向上や日頃の運動不足解消など、積極的に身体を動かすことを目的とする。
到達目標	前半は、ドリブルやパス、シュートなど基本的な動作の習得と、1対1や3対3の練習を通じて、試合に必要なオフェンスとディフェンスの動きを習得することを目標とする。 後半は、いくつかのチームを編成してリーグ戦形式で試合を行い、個人の技術やチームプレイを発揮しながら、最終的な順位を決定する。
講義方法	実技中心に行い、必要に応じて資料を配布する。
準備学習	各自、ルールの確認をする。
成績評価	出席状況、授業参加の積極性、指導内容の理解度等を総合的に評価する。
講義構成	第1回 基礎技術の習得(ドリブル、パス、シュート) 第2回 基礎技術の習得(ドリブル、パス、シュート) 第3回 オフェンスの基礎(セットプレイ、速攻) 第4回 オフェンスの基礎(セットプレイ、速攻) 第5回 ディフェンスの基礎(マンツーマン、ゾーン) 第6回 ディフェンスの基礎(マンツーマン、ゾーン) 第7回 実践(1vs1、2vs1、3vs2) 第8回 実践(2vs1、3vs2、3vs3) 第9回 練習ゲーム(チームわけ) 第10回 リーグ戦 第1節 第11回 リーグ戦 第2節 第12回 リーグ戦 第3節 第13回 リーグ戦 第4節 第14回 リーグ戦 第5節 第15回 リーグ戦 最終節 順位決定

教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）
講義関連事項	障害予防のため、バスケットボールシューズを用意することが望ましい。

授業コード	81R15		
授業科目名	スポーツⅡ（バスケットボールⅡ）（後）		
担当者名	大前 拓（オオマエ タク）		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	実施場所：岡本講堂兼体育館		

講義の内容	国民の健康志向の高まりは、年々強くなっている。しかし、生活習慣病やメタボリック症候群などは若年層にも拡大しつつあり、予防・改善の対策が必要と考えられている。大学生も同様の傾向にあり、身体を動かす機会は減少し、不規則な生活習慣が健康を損なう原因となっている。 この授業では、バスケットボールに必要な動作（走る、跳ぶ、投げる）を通じて、体力の維持向上や日頃の運動不足解消など、積極的に身体を動かすことを目的とする。		
到達目標	前半は、ドリブルやパス、シュートなど基本的な動作の習得と、1対1や3対3の練習を通じて、試合に必要なオフェンスとディフェンスの動きを習得することを目標とする。 後半は、いくつかのチームを編成してリーグ戦形式で試合を行い、個人の技術やチームプレイを発揮しながら、最終的な順位を決定する。		
講義方法	実技中心に行い、必要に応じて資料を配布する。		
準備学習	各自、ルールの確認をする。		
成績評価	出席状況、授業参加の積極性、指導内容の理解度等を総合的に評価する。		
講義構成	第1回 基礎技術の習得（ドリブル、パス、シュート） 第2回 基礎技術の習得（ドリブル、パス、シュート） 第3回 オフェンスの基礎（セットプレイ、速攻） 第4回 オフェンスの基礎（セットプレイ、速攻） 第5回 ディフェンスの基礎（マンツーマン、ゾーン） 第6回 ディフェンスの基礎（マンツーマン、ゾーン） 第7回 実践（1vs1、2vs1、3vs2） 第8回 実践（2vs1、3vs2、3vs3） 第9回 練習ゲーム（チームわけ） 第10回 リーグ戦 第1節 第11回 リーグ戦 第2節 第12回 リーグ戦 第3節 第13回 リーグ戦 第4節 第14回 リーグ戦 第5節 第15回 リーグ戦 最終節 順位決定		
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）		
講義関連事項	障害予防のため、バスケットボールシューズを用意することが望ましい。		

授業コード	81R16		
授業科目名	スポーツⅡ（卓球Ⅰ）（1クラス）（前）		
担当者名	水野千津子（ミズノ チヅコ）		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	実施場所：岡本講堂兼体育館		

講義の内容	テーマ：みんなで卓球 老若男女を問わず、誰にでも手軽に楽しめる卓球の特徴を踏まえ、「見るスポーツ」ではなく「やるスポーツ」としての卓球の基礎技術の習得を目指す。		
-------	--	--	--

	また、学校体育の最終段階における大学体育は、まさに生涯体育・スポーツにつながるべきものである。ここでは、卓球というスポーツを通し、その特性を知った上で技術を習得し、ゲームをすることによって体を動かす楽しさを味わい、「生涯スポーツ」の素地を養いたい。そして更に、学校期以降もスポーツに好感を持って積極的に取り組む姿勢の土台作りとするものである。 個人スポーツではあるが、団体戦をすることによって、チームプレーの楽しさも味わいたい。 また、初心者と経験者の対戦でも白熱した試合が出来るように、ハンディを付けた特別ルールを実施していく。
到達目標	基本技術を習得し、ラリー出来る楽しさを味わい、試合を通して技術のレベルアップを図る。
講義方法	実技形式で行う。
準備学習	『スポーツ&健康科学BOOK』の「卓球」のところを読んでおくこと。
成績評価	出席を重視し、個人差のある技能よりもむしろ、意欲的に取り組む学習態度を重視する。その結果としての個体内の技能の進歩を認める。
講義構成	1オリエンテーション 2ラケットの種類、持ち方、フォーム、サーブなど 3フォアロングの練習 4フォアロングでラリー 5バックショットの練習 6フォアロング、バックショット、フットワークでラリー 7シングルの試合の仕方(ルール、審判法も含む) 8ダブルスの試合の仕方(ルール、審判法も含む) 9グループ対抗戦(主に試合の流し方を学習) 10グループ対抗戦(動き方に重点) 11グループ対抗戦(効果的な試合運び) 12グループ対抗戦(勝つための方法) 13グループ対抗戦(技術のレベルアップを確認) 14、15まとめ 一生懸命スポーツとしての卓球
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
担当者から一言	暗いスポーツのイメージは捨てて、大いに盛り上げたい。

授業コード	81R17		
授業科目名	スポーツⅡ(卓球Ⅰ)(2クラス)(後)		
担当者名	水野千津子(ミズノ チツコ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	実施場所:岡本小体育館		

講義の内容	テーマ:みんなで卓球 老若男女を問わず、誰にでも手軽に楽しめる卓球の特徴を踏まえ、「見るスポーツ」ではなく「やるスポーツ」としての卓球の基礎技術の習得を目指す。 また、学校体育の最終段階における大学体育は、まさに生涯体育・スポーツにつながるべきものである。ここでは、卓球というスポーツを通し、その特性を知った上で技術を習得し、ゲームをすることによって体を動かす楽しさを味わい、「生涯スポーツ」の素地を養いたい。そして更に、学校期以降もスポーツに好感を持って積極的に取り組む姿勢の土台作りとするものである。 個人スポーツではあるが、団体戦をすることによって、チームプレーの楽しさも味わいたい。 また、初心者と経験者の対戦でも白熱した試合が出来るように、ハンディを付けた特別ルールを実施していく。
到達目標	基本技術を習得し、ラリー出来る楽しさを味わい、試合を通して技術のレベルアップを図る。
講義方法	実技形式で行う。
準備学習	『スポーツ&健康科学BOOK』の「卓球」のところを読んでおくこと。
成績評価	出席を重視し、個人差のある技能よりもむしろ、意欲的に取り組む学習態度を重視する。その結果としての個体内の技能の進歩を認める。
講義構成	1オリエンテーション 2ラケットの種類、持ち方、フォーム、サーブなど 3フォアロングの練習 4フォアロングでラリー 5バックショットの練習

	6フォアロング、バックショート、フットワークでラリー 7シングルの試合の仕方(ルール、審判法も含む) 8ダブルスの試合の仕方(ルール、審判法も含む) 9グループ対抗戦(主に試合の流し方を学習) 10グループ対抗戦(動き方に重点) 11グループ対抗戦(効果的な試合運び) 12グループ対抗戦(勝つための方法) 13グループ対抗戦(技術のレベルアップを確認) 14、15まとめ 一生懸命スポーツとしての卓球
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
担当者から一言	暗いスポーツのイメージは捨てて、大いに盛り上げたい。

授業コード	81R18		
授業科目名	スポーツⅡ(バドミントンⅡ)(後)		
担当者名	鵜木千加子(イカルギ チカコ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	実施場所:岡本講堂兼体育館		
オフィスアワー	授業終了後30分		

講義の内容	将来的に”生涯スポーツ”としても親しむことができるように、「ルールを覚える」「基本的な打ち方を身に付ける」「ゲームを楽しんでできる場を創る」ことを行っていきます。まずは色々なフライト(シャトルの飛び方)の打ち分けを練習します。打ち分けができるようになった人は、ダブルスのフォーメーション(陣形)に挑戦します。
到達目標	フライトの打ち分けができるようになり、ねらいを持ってゲームができるようになること。また、様々な状況で楽しくプレイできる場を創る方法を開拓していくことを目指します。
講義方法	技術や体力レベルに応じたグループ分けによる授業、全員が混ざって行う授業、それらを組み合わせて授業を行っていきます。
準備学習	体調を整えておいてください。
成績評価	出席を重視します(7割以上出席すること)。また、技術の習得や取組の姿勢も成績評価に加えます。
講義構成	1. バドミントンに慣れよう 2. ルールを覚えよう 3. スキルアップしよう 4. コミュニケーション力をアップさせよう 5. バドミントンができた歴史にふれよう 基本的な打ち方として、ドライブ、クリアー、ヘアピン、ドロップ、ロブ、スマッシュなどのフライトが打ち分けられるように練習します。また、フットワークを練習します。 ステップアップのための練習としては、フライトを組合せたパターン練習やフットワークを取り入れ、ゲームがレベルアップするよう練習します。 試合は、リーグ戦、トーナメント戦、チーム対抗戦を行います。ハンデキャップを取り入れるなど、色々な方法で試合を楽しむ方法を開拓していきましょう。 スポーツを楽しむには、コミュニケーション力が大切です。学部、学年、性別を超えてプレイしていきます。また、技術レベルが同じ者と、あるいは違う者と、様々な形でプレイする機会をつくります。 なお、履修者数や履修者のレベルに応じて内容を変更することもあります。
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
担当者から一言	授業の中でどれだけ上達できるかどうか、自分の可能性に挑戦して下さい。また、前向きにコミュニケーションをはかり、和やかな雰囲気の良い場にして頂いて下さい。環境は与えられるものではなく創るもの。楽しむには創る力が不可欠です。

授業コード	81R19
-------	-------

授業科目名	スポーツII (レクリエーションスポーツ I)(集中)		
担当者名	伊東浩司(イトウ コウジ)、北岡 守(キタオカ マモル)、山崎俊輔(ヤマサキ シュンスケ)、桂 豊(カツラ ユタカ)、水澤克子(ミズサワ カツコ)、鵜木千加子(イカルギ チカコ)、曽我部晋哉(ソガベ アキトシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	実施場所: 六甲アイランド体育施設 第1回講義 4月10日(土)のガイダンスは、CUBE302教室で3限(12:20～13:50)に行います。		

講義の内容	余暇の時間を使って楽しむスポーツをレクリエーションスポーツといいます。 勝敗でなく、楽しむことが目的で、無理のない範囲で、ルールも性別や体力などで臨機応変に対応しています。日常生活でのストレス解消や運動不足解消を目的に、学内の体育施設でより多くのスポーツと学外演習(ハイキング)の実技を行うとともに、授業実施期間の最初と最後に体力及び身体組成測定を行います。身体組成とは、体脂肪、筋肉、骨、水分など身体を構成する組成成分です。自分の身体組成の状態を知り、日常生活を見直していきましょう。なお、学外演習(ハイキング)及び学内での実技種目及び実施場所については、生涯スポーツオリエンテーション(ガイダンス)と第一回講義にて詳しく指示をします。
到達目標	体力の維持増進、またコミュニケーション力を高め、調和のとれた心身の発達を目指します。
講義方法	体力及び身体組成測定と実技を組み合わせ実施します。
準備学習	授業が受けられるようにしっかりと、睡眠・栄養を取るように心がけてください。
成績評価	出席重視します。詳しくは、生涯スポーツ・オリエンテーション(ガイダンス)と第一回講義にて詳しく説明します。
講義構成	第1回:オリエンテーション・・・講義のすすめ方など 第2回:実技演習 第3回:体力及び身体組成測定 第4回:体力及び身体組成測定 第5回:レポート作成 第6回:学外演習 第7回:学外演習 第8回:学外演習 第9回:学外演習 第10回:実技(六甲アイランドもしくは岡本の学内体育施設) 第11回:実技(六甲アイランドもしくは岡本の学内体育施設) 第12回:実技(六甲アイランドもしくは岡本の学内体育施設) 第13回:実技(六甲アイランドもしくは岡本の学内体育施設) 第14回:体力及び身体組成測定 第15回:レポート作成
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
講義関連事項	運動に適した服装、室内で行うの種目は、安全面からも上履きの使用を義務付けます。

授業コード	81R20		
授業科目名	スポーツII (ゴルフ I)(集中)		
担当者名	北岡 守(キタオカ マモル)、桂 豊(カツラ ユタカ)、伊東浩司(イトウ コウジ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	実施場所: (2009年度実績) 山御影ゴルフセンター、作州武蔵カントリー倶楽部		

講義の内容	前半はゴルフ練習場でショートアイアンからドライバーまでのクラブを使用してコースをラウンドする為の準備をし、後半は1泊2日のゴルフ場本コースでのラウンドを経験します。
到達目標	生涯スポーツとしてゴルフを実践する上で必要な、ショートアイアンからドライバーまでのショットの技術を学び、またコースをラウンドするときに必要なルール、マナーを身に付けます。
講義方法	学内事前授業1回 ゴルフ練習場6回 ゴルフ場本コース1泊2日

準備学習	夏休みの猛暑の中での6日間のゴルフ練習や1泊2日のラウンドは非常にハードです。しっかり身体を動かして慣らしておいてください。
成績評価	事前授業と現地での練習及び本コースラウンドに参加した者に限り、出席点・技術点・態度で評価します。
講義構成	第1回:オリエンテーション・・・ルール、マナー、心構え 第2回:スウィングをするための基本のグリップと構え方 第3回:スタンス、クラブフェイス 第4回:身体とクラブ、ボールの位置関係 第5回:回転軸と体重移動について 第6回:コースをラウンドするにあたって 第7回:コースをラウンドするにあたって 1泊2日で本コースをラウンド
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
担当者から一言	ゴルフの欠点は、おもしろすぎることである。

授業コード	81R21		
授業科目名	スポーツⅡ(スキーⅠ)(集中)		
担当者名	北岡 守(キタオカ マモル)、山崎俊輔(ヤマサキ シュンスケ)、桂 豊(カツラ ユタカ)、鵜木千加子(イカルギ チカコ)、曾我部晋哉(ソガベ アキトシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	実施場所:(2009年度実績)学内事前授業計3回、志賀高原スキー場		

講義の内容	集中スキーコースでは、ウィンタースポーツの一つとしてスキーを体験します。授業は集中講義形式で、学内事前授業3回と、スキー場での合宿から成ります。
到達目標	学内事前授業では、年々新しくなるスキー用具やそれに伴って変わってきた技術理論、安全について学びます。そして最新のスキー用具や技術について認識を新たにし、個々のレベルに応じたスキー技術習得・向上、安全なスキーにチャレンジします。また、大自然の中に身を置き、団体生活を学びます。
講義方法	第1～3回目は事前授業 第4～15回目として、4泊5日での合宿形式の実習(志賀高原で実施予定)
準備学習	スキーは、やり方によっては大変ハードなスポーツです。合宿は朝から晩まで「スキー漬け」になります。体を動かすこと、規則正しい生活リズムに体を慣らしておくこと等により体調を整えて参加して下さい。
成績評価	原則として全日程出席者を評価対象者とします。技能・態度・習熟度で評価します。
講義構成	第1回目:「集中スキーコース全般について」講義、事務連絡 第2回目:「スキーの用具と技術について」講義、事務連絡 第3回目:「スキーと安全について」講義、事務連絡 ■ 班分け・・・自己申請と初日の班分けテストに基づき、1班10人程度のレベル別班分けを実施する(初心者、初級者、中級者、上級者)。希望者が10名程度そろえばテレマーク班をつくる。 ■ 班毎にレベルに応じて実習 「初心者」・・・靴の履き方など準備について→道具に慣れる→ブルークターンで滑ることを目指す。 「初級者」・・・ブルークターンの復習→最終日にはパラレルで滑ることを目指す。 「中級者」・・・ブルークターン、シュテムターンの技術を安定させ、色々な斜面に挑戦する。 「上級者」・・・全ての滑りを洗練したものへ。
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
講義関連事項	学内で定められた健康診断(内科検診、レントゲン、検尿)を受診済みであることが参加条件です。
担当者から一言	この機会にウィンタースポーツの一つとして、生涯続けていくことのできるスポーツの一つとして、是非スキーを加えて下さい。

授業コード	81R22
-------	-------

授業科目名	スポーツⅡ(スキーⅡ)(集中)		
担当者名	北岡 守(キタオカ マモル)、山崎俊輔(ヤマサキ シュンスケ)、桂 豊(カツラ ユタカ)、鶴木千加子(イカルギ チカコ)、曾我部晋哉(ソガベ アキトシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	実施場所:(2009年度実績)学内事前授業計3回、志賀高原スキー場		

講義の内容	集中スキーコースでは、ウィンタースポーツの一つとしてスキーを体験します。授業は集中講義形式で、学内事前授業3回と、スキー場での合宿から成ります。
到達目標	学内事前授業では、年々新くなるスキー用具やそれに伴って変わってきた技術理論、安全について学びます。そして最新のスキー用具や技術について認識を新たにし、個々のレベルに応じたスキー技術習得・向上、安全なスキーにチャレンジします。また、大自然の中に身を置き、団体生活を学びます。
講義方法	第1～3回目は事前授業 第4～15回目として、4泊5日での合宿形式の実習(志賀高原で実施予定)
準備学習	スキーは、やり方によっては大変ハードなスポーツです。合宿は朝から晩まで「スキー漬け」になります。体を動かすこと、規則正しい生活リズムに体を慣らしておくこと等により体調を整えて参加して下さい。
成績評価	原則として全日程出席者を評価対象者とします。技能・態度・習熟度で評価します。
講義構成	第1回目:「集中スキーコース全般について」講義、事務連絡 第2回目:「スキーの用具と技術について」講義、事務連絡 第3回目:「スキーと安全について」講義、事務連絡 ■ 班分け……自己申請と初日の班分けテストに基づき、1班10人程度のレベル別班分けを実施する(初心者、初級者、中級者、上級者)。希望者が10名程度そろえばテレマーク班をつくる。 ■ 班毎にレベルに応じて実習 「初心者」……靴の履き方など準備について→道具に慣れる→ブルークターンで滑ることを目指す。 「初級者」……ブルークターンの復習→最終日にはパラレルで滑ることを目指す。 「中級者」……ブルークターン、シュテムターンの技術を安定させ、色々な斜面に挑戦する。 「上級者」……全ての滑りを洗練したものへ。
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
講義関連事項	学内で定められた健康診断(内科検診、レントゲン、検尿)を受診済みであることが参加条件です。
担当者から一言	この機会にウィンタースポーツの一つとして、生涯続けていくことのできるスポーツの一つとして、是非スキーを加えて下さい。

授業コード	81T01		
授業科目名	スポーツⅢ(硬式テニスⅠ)(前)		
担当者名	渡邊義克(ワタナベ ヨシカツ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	実施場所:岡本校地テニスコート		

講義の内容	世の中は便利になり過ぎ、体を動かす事が少なく、それが原因による体力の低下、又、精神的ストレスの増大が今の現状です。若い時に生涯続ける事の出来る種目を身につける事によって上記の事柄が回避されるのではないのでしょうか。その一種目として、楽しいテニスを基本から実践まで能力に応じて指導します。
到達目標	各々技術的に差があるので、少なくとも履修前よりも各々がステップアップしている事が目標となります。具体的には、初級者は自分の得意な所(技術)を認識してそれを伸ばして行き、上級者は不得意な技術を認識してそれを克服するということです。 テニスを楽しみながら健康維持や仲間作りを積極的に行い、生涯スポーツのきっかけとしてください。
講義方法	2面のクレーコートを使用して、能力別2グループに分かれて指導します。 初級者は基礎からゲームが出来るようになるまで、上級者は自分の目標とする技術のレベルアップを目指します。 前半は全員で基礎的なトレーニングを行います。 後半の流れとしては、初級者はトレーニング・ドリル(反復練習)、5回目頃からは、ゲームを取り入れます。上級者はゲーム中心に各々のテクニックの精度を高めながら、ゲーム感覚を養っていきます。

	尚、雨天の場合は講堂兼体育館でミニテニスの予定です。 ※事前にMy KONANとスポーツ・健康科学教育研究センター事務室前で掲示連絡します。
準備学習	特にありません。
成績評価	出席状況は勿論、授業に積極的に参加しているかで評価します。
講義構成	第1回： 用具の説明、ボール・ラケットの感触体験 第2、3回： バックハンドストローク 第4、5回： フォアハンドストローク 第6、7回： 近距離でのボレー、ミニゲーム 第8回： サービス・スマッシュ、ネット際のボレー 第9、10回： ハーフコートゲーム 第11回： ダブルスゲーム、ルールの説明 第12回： ダブルスコンビネーション 第13回： ダブルスコンビネーション 第14、15回： ダブルスゲーム
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）
講義関連事項	テニスのしやすい服装とテニスシューズを準備してください。 ※雨天の場合は体育館シューズが必要です。
担当者から一言	技術向上を目的とする者や健康維持のためテニスにチャレンジする者など、動機は違っていても、出席した時は体を思い切り動かして下さい。

授業コード	81T02		
授業科目名	スポーツⅢ（硬式テニスⅡ）（後）		
担当者名	渡邊義克（ワタナベ ヨシカツ）		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	実施場所：岡本校地テニスコート		

講義の内容	世の中は便利になり過ぎ、体を動かす事が少なく、それが原因による体力の低下、又、精神的ストレスの増大が今の現状です。若い時に生涯続ける事の出来る種目を身につける事によって上記の事柄が回避されるのではないのでしょうか。その一種目として、楽しいテニスを基本から実戦まで能力に応じて指導します。
到達目標	各々技術的に差があるので、少なくとも履修前よりも各々がステップアップしている事が目標となります。具体的には、初級者は自分の得意な所（技術）を認識してそれを伸ばして行き、上級者は不得意な技術を認識してそれを克服するということです。 テニスを楽しみながら健康維持や仲間作りを積極的に行い、生涯スポーツのきっかけとしてください。
講義方法	2面のクレイコートを使用して、能力別2グループに分かれて指導します。 初級者は基礎からゲームが出来るようになるまで、上級者は自分の目標とする技術のレベルアップを目指します。 前半は全員で基礎的なトレーニングを行います。 後半の流れとしては、初級者はトレーニング・ドリル（反復練習）、5回目頃からは、ゲームを取り入れます。 上級者はゲーム中心に各々のテクニックの精度を高めながら、ゲーム感覚を養っていきます。 尚、雨天の場合は講堂兼体育館でミニテニスの予定です。 ※事前にMy KONANとスポーツ・健康科学教育研究センター事務室前で掲示連絡します。
準備学習	特にありません。
成績評価	出席状況は勿論、授業に積極的に参加しているかで評価します。

講義構成	第1回： 用具の説明、ボール・ラケットの感触体験 第2、3回： バックハンドストローク 第4、5回： フォアハンドストローク 第6、7回： 近距離でのボレー、ミニゲーム 第8回： サービス・スマッシュ、ネット際のボレー 第9、10回： ハーフコートゲーム 第11回： ダブルスゲーム、ルールの説明 第12回： ダブルスコンビネーション 第13回： ダブルスコンビネーション 第14、15回： ダブルスゲーム
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）
講義関連事項	テニスのしやすい服装とテニスシューズを準備してください。 ※雨天の場合は体育館シューズが必要です。
担当者から一言	技術向上を目的とする者や健康維持のためテニスにチャレンジする者など、動機は違っていても、出席した時は体を思い切り動かして下さい。

授業コード	81T03		
授業科目名	スポーツⅢ（エアロビクスⅠ）（1クラス）（前）		
担当者名	栗山陽子（クリヤマ ヨウコ）		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	実施場所：岡本小体育館		

講義の内容	音楽に合わせて仲間と楽しく気持ち良く体を動かしましょう。エアロビクスは有酸素性運動を中心とした筋力・筋持久力を高める筋コンディショニング、柔軟性を高めるストレッチング、そして精神的ストレスを癒すためのリラクゼーションまでもを含んだトータルフィットネスプログラムです。このエアロビクスダンスを通じて体を鍛え心もリフレッシュ！そして新たな仲間との交流を生み出しているようなそんな授業を進めて行きます。 運動する楽しさ、汗をかく爽快感、新たな仲間との出会いを楽しんで下さい。それがきっとあなたの生涯スポーツへのきっかけの基礎となるでしょう。
到達目標	1. ベーシックなステップの正しい動き方を理解し、音楽に合わせて動くことが出来るようになります。 2. 2つ以上のステップを組み合わせて正しく音楽に合わせて動くことが出来るようになります。
講義方法	・レッスン形式で行います。 ・講師のキューイング（指導）で音楽に合わせて参加者全員一緒に動きます。
準備学習	授業前に、教科書『スポーツ&健康科学BOOK』に目を通しておいってください。
成績評価	出席状況、授業に自分に前向きに取り組んでいるかななどで評価します。
講義構成	第1回： オリエンテーション 内容・服装・健康状態などの確認 第2回： BW1－基本ステップの練習を中心に 第3回： BW2－同上 第4回： BW3－ステップを組み合わせてのエクササイズ 第5回： BW4－同上

	第6回： BW5－同上 第7回： BW6－同上 第8回： BJ1－基本ステップの練習を中心に 第9回： BJ2－同上 第10回： BJ3－ステップを組み合わせてのエクササイズ 第11回： BJ4－同上 第12回： BJ5－同上 第13回： BJ6－同上 第14、15回： まとめ BW：ベーシック・ウォーク、BJ：ベーシック・ジョグ ※気候・季節により授業内容がヨガまたはピラティスに変更になる場合があります。
教科書	『スポーツ＆健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）
担当者から一言	楽しみましょう！

授業コード	81T04		
授業科目名	スポーツⅢ（エアロビクスⅠ）（2クラス）（後）		
担当者名	栗山陽子（クリヤマ ヨウコ）		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	実施場所：岡本小体育館		

講義の内容	音楽に合わせて仲間と楽しく気持ち良く体を動かしましょう。エアロビクスは有酸素性運動を中心とした筋力・筋持久力を高める筋コンディショニング、柔軟性を高めるストレッチング、そして精神的ストレスを癒すためのリラクゼーションまでもを含んだトータルフィットネスプログラムです。このエアロビクスダンスを通じて体を鍛え心もリフレッシュ！そして新たな仲間との交流を生み出しているようなそんな授業を進めていきます。 運動する楽しさ、汗をかく爽快感、新たな仲間との出会いを楽しんで下さい。それがきっとあなたの生涯スポーツへのきっかけの基礎となるでしょう。
到達目標	1. ベーシックなステップの正しい動き方を理解し、音楽に合わせて動くことが出来るようになります。 2. 2つ以上のステップを組み合わせて正しく音楽に合わせて動くことが出来るようになります。
講義方法	・レッスン形式で行います。 ・講師のキューイング（指導）で音楽に合わせて参加者全員一緒に動きます。
準備学習	授業前に、教科書『スポーツ＆健康科学BOOK』に目を通しておいください。
成績評価	出席状況、授業に自分に前向きに取り組んでいるかななどで評価します。
講義構成	第1回： オリエンテーション 内容・服装・健康状態などの確認 第2回： BW1－基本ステップの練習を中心に 第3回： BW2－同上 第4回： BW3－ステップを組み合わせてのエクササイズ 第5回： BW4－同上 第6回： BW5－同上 第7回： BW6－同上

	第8回： BJ1－基本ステップの練習を中心に 第9回： BJ2－同上 第10回： BJ3－ステップを組み合わせてのエクササイズ 第11回： BJ4－同上 第12回： BJ5－同上 第13回： BJ6－同上 第14、15回： まとめ BW：ベーシック・ウォーク、BJ：ベーシック・ジョグ ※気候・季節により授業内容がヨガまたはピラティスに変更になる場合があります。
教科書	『スポーツ＆健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）

担当者から一言	楽しみましょう！
---------	----------

授業コード	81T05		
授業科目名	スポーツⅢ（バレーボールⅠ）(前)		
担当者名	中西康人（ナカニシ ヤスト）		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	実施場所：岡本講堂兼体育館		

講義の内容	バレーボールは、簡単なパスゲームから高度なコンビネーションプレイまで、プレイする人の能力に応じた多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは同じ人が続けて2度以上ボールに触れてはいけないと言うゲームの性格上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。 本授業では、基本的な個人技術、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、個人技能を高め、ゲームにおける相互の連係プレイを成功させて、仲間と喜びを分かち合うバレーボールの持つ楽しさを味わうことを目的とする。
到達目標	種目のルール・マナーや必要な知識を学ぶこと。 生涯スポーツに向け、種目を楽しむために必要な技術を身につけること。 仲間とのコミュニケーションを図り、本種目を安全に楽しむことができること。
講義方法	バレーボールの理論と実践を中心に展開していく。
準備学習	本種目に関心を持ち、日頃からルールや技術について情報を収集することように努める。
成績評価	参加点60%、技能・理解点30%、受講態度点10%を目安として総合的に評価する。
講義構成	[第1回] オリエンテーション [第2回～第6回] グループ編成 パス・スパイク・サーブ等の個人技能練習 グループ練習（ストライクパス、パス抜けラリー） ミニコートゲーム（4人制ゲーム） [第7回] ルールおよびフォーメーション学習 [第8回～第10回] ゲーム・グループ練習（シートレシーブ・フォーメーション練習）を通じてルール・戦術に対する理解を深め、実践力を養う [第11回～第15回] 総当たりリーグ戦

	※ 但し、上記の授業展開は授業数、及び、受講者の習熟状況等により変更される場合がある。
教科書	特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等を配布する。
参考書・資料	「詳解6人制バレーボールのルールと審判法」 山岸 紀郎・下山 隆志(大修館書店) ￥1,575
担当者から一言	運動に適した服装を準備(ジーンズは認めない)し、体育館シューズを忘れないように。 授業を作り上げるのはみなさんです。熱い心でボールを追ひ、バレーボールを楽しみましょう。

授業コード	81T06		
授業科目名	スポーツⅢ(バレーボールⅡ)(後)		
担当者名	水澤克子(ミズサワ カツコ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	実施場所:岡本講堂兼体育館		
オフィスアワー	月～金 9:00～17:00		

講義の内容	半期間を通して、バレーボールを楽しむ。様々な練習方法、ゲーム形式を経験する。
到達目標	お互いに声を掛け合って、バレーボールのゲームを楽しめるようになる。
講義方法	実技。
準備学習	特になし。
成績評価	出席状況(基本的に授業回数の3/4以上の出席が必要)、受講態度、技能の習熟度等を総合的に評価する。
講義構成	第1回 ・オリエンテーションと体ならし ※1回目の授業から実技を行うので、運動の出来る服装と体育館シューズを用意すること。 ※受講希望者が多い場合は、この日に抽選を行う。 受講希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。 やむを得ない理由で欠席する場合は、あらかじめ届け出ること。 第2回～第5回 ・個々の技術練習とミニ・バレーボール(バドミントンコートの広さ、ネットの高さは2m15cm程度、1チーム2～3人) 第6回～第9回 ・6人制バレーボールを楽しむために必要な技術練習 ・連係プレイとチームの約束の確認 第10回～ ・リーグ戦
教科書	特に指定なし。
講義関連事項	服装やシューズの指定はない。バレーボールにふさわしい服装および、体育館シューズを必ず着用すること。 ジーンズやコットンパンツは認めない。 受講者のバレーボールの技術レベルは問わない。

担当者から一言	受講者が全員で作りにあげていく授業である。お互いにコミュニケーションをとりながらバレーボールを楽しもう、という気持ちが一番大切である。 チームゲームであるので、休まずに出席すること。
その他	第1回目の授業から実技を行うので、運動のできる服装、シューズを着用の上、岡本の講堂兼体育館に集合すること。 受講希望者は必ず1回目の授業に出席すること。やむを得ない理由で出席できない場合は、あらかじめ連絡すること。 受講希望者が多い場合は、第1回目の授業時に抽選を行うことがある。

授業コード	81T07
-------	-------

授業科目名	スポーツⅢ(健康柔道Ⅰ)(前)		
担当者名	山崎俊輔(ヤマサキ シュンスケ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	実施場所:岡本小体育館		

講義の内容	柔道は、日本の文化財としての特徴をもちつつ、世界のスポーツとしての特色も持っている。さらに、教育として、また機械文明による人間本性の退化を防ぐ意味でも重要視されている。本講義では、これらの柔道の特性を追求しつつ、心身の健康を維持増進し、気軽に楽しく行える柔道を目指して授業を進める。 なお、本講義中に講道館初段修得の可能性もあり、例年、数名の受講生が初段を修得している。また、公務員試験(警察官、消防士、教員等)の受検希望者に対しては、実技(運動能力)試験に対応できる体力の向上も視野に入れた内容とする。 健康柔道Ⅱは、健康柔道Ⅰをより発展させた授業内容とし、各学生の能力や体力、また、それぞれの目的に応じた指導を行う。 男女ともに、経験の有無を問わず、誰でも受講されることを希望する。
到達目標	各自の能力に応じ、基本技術を習得し、自由練習・試合等が出来るように務める。また、希望者には講道館柔道初段を習得する機会を与える。
講義方法	実習形式。
準備学習	日々の生活の中で健康管理に留意し、規則正しい生活と自分の能力に応じた運動をするよう心がける。
成績評価	出席状況、態度、意欲、修得度合等、総合的に評価する。
講義構成	第1回: オリエンテーション、基本動作 第2～5回: 基本動作、袈裟固、横四方固、上四方固、膝車、支釣込足、大腰、簡単な自由練習 第6～9回: 縦四方固、釣込腰、体落、大内刈、小内刈、小外刈、自由練習 第10～15回 絞技、関節技の説明、背負投、一本背負投、払腰、内股、跳腰、自由練習、試合練習 ※技の説明の種類、順序は受講生の習熟度合によって変更することがある。
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
講義関連事項	女子はTシャツを用意すること。※柔道着は大学で準備する。

授業コード	81T08		
授業科目名	スポーツⅢ(フットサルⅡ)(後)		
担当者名	桂 豊(カツラ ユタカ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	実施場所:岡本講堂兼体育館		

講義の内容	基本的技術練習から基本戦術、応用戦術迄レベルに合わせて授業は進み、毎週ゲーム形式のトレーニングを行い、クラス内でのフットサルリーグ戦を実施する。
到達目標	フットサルをとおしての心身のトレーニングを狙いとする。ルールも理解し、生涯にわたりフットサルに親しむことができる姿勢をこの授業をとおして身につけてもらいたい。
講義方法	初心者、経験者などフットサル経験に応じてグループ分け。女子も受講可。
準備学習	本気でやるととてもハードな競技です。体を動かしておいてください。
成績評価	出席点をベースに授業中の取り組みや態度、技術の習熟度を考慮の上、単位を認定する。積極的姿勢の見られない学生は、認定しない。
講義構成	第1回:オリエンテーション、DVD鑑賞、ルール解説 第2回:ルールの理解、基本技術、ゲーム形式 第3回:基本技術・戦術、ゲーム形式 第4回:基本技術・戦術、ゲーム形式

	第5回: 基本技術・戦術、ゲーム形式 第6回: ボールポゼッション、ゲーム形式 第7回: ボールポゼッション、ゲーム形式 第8回: 守備の原則、ゲーム形式 第9回: 攻撃の原則、ゲーム形式 第10回: セットプレー①、ゲーム形式 第11回: セットプレー②、ゲーム形式 第12回: チーム戦術、ゲーム形式 第13回: フットサル・リーグ戦① 第14回: フットサル・リーグ戦② 第15回: フットサル・リーグ戦③
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター) フットサルに関する本なら何でも参考にして下さい。
参考書・資料	フットサルルールに関する資料は配布します。
担当者から一言	キングオブスポーツといわれるサッカーは、世界で色々なかたちで行われ発展してきました。オフシーズンには世界各地でインドアサッカーも盛んに行われています。そして現在は5vs5で行うミニサッカーをフットサルとしてルールを統一し、大人から子供まで老若男女を問わず大人気です。私の専門はコーチ学(サッカー)です。初心者から経験者、女子学生まで受講大歓迎です。半年で必ず上達します。

授業コード	81T09		
授業科目名	スポーツⅢ(フィットネス実習Ⅰ)(後)		
担当者名	曾我部晋哉(ソガベ アキトシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	実施場所: 岡本トレーニングルーム		

講義の内容	現代社会では、私たちは日常的に様々なストレスに晒(さら)されており、身体は知らず知らずのうちにそれらのストレスに適応しようとしています。「最近、お腹が出てきた」「最近体の調子が悪い」と感じる時、体のどこかに歪(ひず)みが生じている可能性があります。それには自分の体を心配する前に、どこにその原因があるのか突き止め、適切な(科学的な)対策を図ることが大切です。本講義では、半期における到達目標(ダイエット、筋力アップなど)を設定し、その目標に到達できるようにプログラムを実施していきます。講義の中でも、先端の機器を利用し体脂肪や筋肉量を測定し、定期的にフィードバックしていきます。
到達目標	各自の到達目標(ダイエット、筋力アップなど)値を設定し、その目標に到達できるように科学的な理論を学習すると同時に実践していきます。
講義方法	毎回の講義前半に理論を学習し、後半は実技を実施していきます。
準備学習	作成したプログラムを日々の生活の中で実践するよう心がけていただきます。
成績評価	席状況、取り組みの姿勢、知識の理解度により総合判断します。
講義構成	第1回: 私たちを取り巻く環境(社会・病気・健康)について(オリエンテーション) 第2回: 自分の身体を知る: 身体計測 第3回: 自分の心身を知る: POMS(精神的コンディショニング評価)、身体改善プログラム作成 第4回: 科学的ダイエット方法①: METSによる簡易のカロリー計算、食事と運動の関係 第5回: 科学的ダイエット方法②: 基礎代謝向上プログラム 第6回: ゆがみ・姿勢を改善する: バランスボールなどを使用したトレーニング的アプローチ 第7回: 身体を鍛える①: 上半身(ウェイト器具を使用しない) 第8回: 身体を鍛える②: 下半身(ウェイト器具を使用しない) 第9回: 身体を鍛える③: 神経系 第10回: バランスを鍛える: バランスボール、ストレッチポールなどを使用 第11回: 脂肪を燃焼させる: ウォーキング 第12回: 疲労を回復させる①: 積極的疲労回復法(軽運動) 第13回: 疲労を回復させる②: ストレッチ、マッサージ的アプローチ 第14回: 健康で楽しくアクティブな人生を送るために① 第15回: 健康で楽しくアクティブな人生を送るために②(総論)
教科書	資料を配布します。
担当者から一言	普段の生活の中でも実践できる内容の講義にしていきたいと思います。運動やスポーツが苦手だという人も、

	逆に得意だという人も、基礎的な知識から最新の研究内容まで幅広く網羅していきますので気軽に参加してください。この講義を通じて、体のしくみについて少しでも理解してもらえればと思います。
--	--

授業コード	81T10		
授業科目名	スポーツⅢ(トレーニング実習Ⅰ)(1クラス)(前)		
担当者名	小林義樹(コバヤシヨシキ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	実施場所:岡本トレーニングルーム		

講義の内容	現在は”トレーニング方法”において色々な情報が溢れている。それがきっかけで何を一体どれだけすればいいのかわかっている人も少なくないはずである。そう感じている人は今回このトレーニング実習を通じて”なるほどこれならできるぞ!”と感じてほしいと思う。週一回の講義だが、トレーニング器具の使い方とトレーニング方法の基礎を学び、トレーニングを安全に行うことができるように学習し、健康な体作りや競技力向上など、それぞれの目的達成のために役立てて欲しいと思う。
到達目標	各種トレーニング器具の使い方を覚え、安全にトレーニングをすることができることを目標とする。 そのためには、下記のことも必要になってくる。 1. 日常的に行われる動作を分析的に視ることに慣れること。 2. 分析的に視ることの拠り所としての『スポーツバイオメカニクス(力学・物理学含む)』に多少なりとも慣れること。 3. 学問的視点が現場での視点とつながられるようになること。 4. 生涯スポーツとして継続的にスポーツ(トレーニングを含む)を行えるようになること。 5. 楽しくスポーツを行えるようになること。
講義方法	器具の使い方、安全上の注意事項などの説明をした後に、実際にトレーニングを行う。
準備学習	日常から身体を動かすことに興味を持つ。 体育会系クラブ、もしくはサークルなどで日頃から身体を動かしている学生は、どのようにトレーニングをすれば傷害予防やパフォーマンス向上に結びつくか考える。
成績評価	出席状況、受講態度などを総合的に評価する。トレーニングを通じて健康な体作りは継続が大切です。
講義構成	1. ガイダンス、ウエイト・トレーニングの基礎について 2. ショルダープレス(肩周りの筋力トレーニング)、自転車の使い方(有酸素運動) 3. チェストプレス(胸周りの筋力トレーニング)、トレッドミルの使い方(有酸素運動) 4. フライ(胸周りの筋力トレーニング)、ステアマスターの使い方(有酸素運動) 5. ラットプルダウン(背中周りのトレーニング)、ヒップ(股関節周囲の筋力トレーニング) 6. レッグエクステンション、レッグカール(膝関節周囲の筋力トレーニング) 7. レッグプレス、バックエクステンション(腰背部・臀部の筋力トレーニング) 8. アブドミナルカール(腹部・腰背部の筋力トレーニング) 9. テスト(実技と筆記テスト) 10. トレーニング(総合) 11. トレーニング(総合) 12. トレーニング(総合) 13. 体力測定について・トレーニング 14. 体力測定・トレーニング 15. トレーニング まとめ
教科書	「基礎体育学演習」と「生涯スポーツ」の手引き(甲南大学スポーツ・健康教育科学センター)

担当者から一言	トレーニングを安全にしかも一連の流れでできるように頑張りましょう。
その他	服装は運動着、トレーニングシューズ(上履き用)を持参。 *この授業の単位を取得した学生は、岡本および六甲アイランドのトレーニングルーム、トレーナールームでトレーニング・アシスタント・スタッフとしてウエイト・トレーニング指導、体力測定補助などのインターン活動がでる予定(登録制)。

授業コード	81T11
-------	-------

授業科目名	スポーツⅢ(トレーニング実習Ⅰ)(2クラス)(前)		
担当者名	橋本 恒(ハシモト ヒサシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	実施場所:岡本トレーニングルーム		

講義の内容	現在は”トレーニング方法”において色々な情報が溢れている。それがきっかけで何を一体どれだけすればいいのかが疑問に感じている人も少なくないはずである。そう感じている人は今回このトレーニング実習を通じて”なるほどこれならできるぞ!”と感じてほしいと思う。週一回の講義だが、トレーニング器具の使い方とトレーニング方法の基礎を学び、トレーニングを安全に行うことができるように学習し、健康な体作りや競技力向上など、それぞれの目的達成のために役立てて欲しいと思う。
到達目標	各種トレーニング器具の使い方を覚え、安全にトレーニングをすることができることを目標とする。 そのためには、下記のことにも必要になってくる。 1. 日常的に行われる動作を分析的に視ることに慣れること。 2. 分析的に視ることの拠り所としての『スポーツバイオメカニクス(力学・物理学含む)』に多少なりとも慣れること。 3. 学問的視点が現場での視点とつながられるようになること。 4. 生涯スポーツとして継続的にスポーツ(トレーニングを含む)を行えるようになること。 5. 楽しくスポーツを行えるようになること。
講義方法	器具の使い方、安全上の注意事項などの説明をした後に、実際にトレーニングを行う。
準備学習	日常から身体を動かすことに興味を持つ。 体育会系クラブ、もしくはサークルなどで日頃から身体を動かしている学生は、どのようにトレーニングをすれば傷害予防やパフォーマンス向上に結びつくか考える。
成績評価	出席状況、受講態度などを総合的に評価する。トレーニングを通じて健康な体作りは継続が大切です。
講義構成	1. ガイダンス、ウエイト・トレーニングの基礎について 2. ショルダープレス(肩周りの筋力トレーニング)、自転車の使い方(有酸素運動) 3. チェストプレス(胸周りの筋力トレーニング)、トレッドミルの使い方(有酸素運動) 4. フライ(胸周りの筋力トレーニング)、ステアマスターの使い方(有酸素運動) 5. ラットプルダウン(背中周りのトレーニング)、ヒップ(股関節周囲の筋力トレーニング) 6. レッグエクステンション、レッグカール(膝関節周囲の筋力トレーニング) 7. レッグプレス、バックエクステンション(腰背部・臀部の筋力トレーニング) 8. アブドミナルカール(腹部・腰背部の筋力トレーニング) 9. テスト(実技と筆記テスト) 10. トレーニング(総合) 11. トレーニング(総合) 12. トレーニング(総合) 13. 体力測定について・トレーニング 14. 体力測定・トレーニング 15. トレーニング まとめ
教科書	「基礎体育学演習」と「生涯スポーツ」の手引き(甲南大学スポーツ・健康教育科学センター)

担当者から一言	トレーニングを安全にしかも一連の流れでできるように頑張りましょう。
その他	服装は運動着、トレーニングシューズ(上履き用)を持参。 *この授業の単位を取得した学生は、岡本および六甲アイランドのトレーニングルーム、トレーナールームでトレーニング・アシスタント・スタッフとしてウエイト・トレーニング指導、体力測定補助などのインターン活動がでる予定(登録制)。

授業コード	81T12		
授業科目名	スポーツⅢ(トレーニング実習Ⅰ)(3クラス)(後)		
担当者名	橋本 恒(ハシモト ヒサシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	実施場所:岡本トレーニングルーム		

講義の内容	現在は”トレーニング方法”において色々な情報が溢れている。それがきっかけで何を一体どれだけすればいいのかわかっている人も少なくないはずである。そう感じている人は今回このトレーニング実習を通じて”なるほどこれならできるぞ！”と感じてほしいと思う。週一回の講義だが、トレーニング器具の使い方とトレーニング方法の基礎を学び、トレーニングを安全に行うことができるように学習し、健康な体作りや競技力向上など、それぞれの目的達成のために役立てて欲しいと思う。
到達目標	各種トレーニング器具の使い方を覚え、安全にトレーニングをすることができることを目標とする。 そのためには、下記のことにも必要になってくる。 1. 日常的に行われる動作を分析的に視ることに慣れること。 2. 分析的に視ることの拠り所としての『スポーツバイオメカニクス(力学・物理学含む)』に多少なりとも慣れること。 3. 学問的視点が現場での視点とつながられるようになること。 4. 生涯スポーツとして継続的にスポーツ(トレーニングを含む)を行えるようになること。 5. 楽しくスポーツを行えるようになること。
講義方法	器具の使い方、安全上の注意事項などの説明をした後に、実際にトレーニングを行う。
準備学習	日常から身体を動かすことに興味を持つ。 体育会系クラブ、もしくはサークルなどで日頃から身体を動かしている学生は、どのようにトレーニングをすれば傷害予防やパフォーマンス向上に結びつくか考える。
成績評価	出席状況、受講態度などを総合的に評価する。トレーニングを通じて健康な体作りは継続が大切です。
講義構成	1. ガイダンス、ウエイト・トレーニングの基礎について 2. ショルダープレス(肩周りの筋力トレーニング)、自転車の使い方(有酸素運動) 3. チェストプレス(胸周りの筋力トレーニング)、トレッドミルの使い方(有酸素運動) 4. フライ(胸周りの筋力トレーニング)、ステアマスターの使い方(有酸素運動) 5. ラットプルダウン(背中周りのトレーニング)、ヒップ(股関節周囲の筋力トレーニング) 6. レッグエクステンション、レッグカール(膝関節周囲の筋力トレーニング) 7. レッグプレス、バックエクステンション(腰背部・臀部の筋力トレーニング) 8. アブドミナルカール(腹部・腰背部の筋力トレーニング) 9. テスト(実技と筆記テスト) 10. トレーニング(総合) 11. トレーニング(総合) 12. トレーニング(総合) 13. 体力測定について・トレーニング 14. 体力測定・トレーニング 15. トレーニング まとめ
教科書	「基礎体育学演習」と「生涯スポーツ」の手引き(甲南大学スポーツ・健康教育科学センター)
担当者から一言	トレーニングを安全にしかも一連の流れでできるように頑張りましょう。
その他	服装は運動着、トレーニングシューズ(上履き用)を持参。 *この授業の単位を取得した学生は、岡本および六甲アイランドのトレーニングルーム、トレーナールームでトレーニング・アシスタント・スタッフとしてウエイト・トレーニング指導、体力測定補助などのインターン活動ができる予定(登録制)。

授業コード	81T13		
授業科目名	スポーツⅢ(トレーナー実習Ⅰ)(後)		
担当者名	小林義樹(コバヤシヨシキ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	実施場所:岡本トレーニングルーム		

講義の内容	適切に身体を動かすことはとても気持ちよく健康な身体を維持するのにとても大切である。しかし、残念なことにアクシデントによるケガが起きることも事実である。適切な処置をしないとケガが完治するのに長くかかり、せっかくの楽しみから長い期間遠ざかることになってしまう。私達トレーナーが普段スポーツ選手に対して行なうケアの仕方を学び、自分に対するケアは勿論、スポーツ仲間にも適切なアドバイスができるようになってもらいたい。この講義では、ケガの予防や受傷後のケアについて学び、トレーナーの役割を理解するとともに、健康管理に興味のある人は是非参加してほしいと思う。
-------	---

到達目標	授業で学んだ知識とスキルをスポーツ現場で活用できることを目標とする。
講義方法	それぞれのテーマごとに内容を説明した後、実技を行う。
準備学習	日常から身体を動かすことに興味を持つ。 体育会系クラブ、もしくはサークルなどで日頃から身体を動かしている学生は、どのようにトレーニングをすれば傷害予防やパフォーマンス向上に結びつくか考える。
成績評価	出席状況、受講態度などを総合的に評価する。
講義構成	1. ガイダンス、トレーナーの仕事について 2. 応急処置について、ケガ(外傷)の応急処置(R. I. C. E.)の実技 3. 解剖(学)について(筋肉)、ストレッチについて 4. ストレッチ (下肢) 5. ストレッチ (上肢) 6. ストレッチ (全体) 7. テスト 8. チューブトレーニング 9. チューブトレーニング 10. チューブトレーニング 11. 徒手抵抗運動 12. バランストレーニング(フィジオバランストレーニング) 13. バランストレーニング(バランスボードなど) 14. バランストレーニング 15. テスト
教科書	「基礎体育学演習」と「生涯スポーツ」の手引き(甲南大学スポーツ・健康教育科学センター)
担当者から一言	服装は運動着、トレーニングシューズ持参。筆記用具持参です。
その他	この授業の単位を取得した学生は、トレーナー・アシスタント・スタッフとして、選手のケアを中心に岡本・六甲アイランドのトレーニングルーム、トレーナールームでインターン活動ができる予定(登録制)。

授業コード	81T14		
授業科目名	スポーツⅢ(バスケットボールⅠ)(前)		
担当者名	大前 拓(オオマエ タク)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	実施場所:岡本講堂兼体育館		

講義の内容	国民の健康志向の高まりは、年々強くなっている。しかし、生活習慣病やメタボリック症候群などは若年層にも拡大しつつあり、予防・改善の対策が必要と考えられている。大学生も同様の傾向にあり、身体を動かす機会は減少し、不規則な生活習慣が健康を損なう原因となっている。 この授業では、バスケットボールに必要な動作(走る、跳ぶ、投げる)を通じて、体力の維持向上や日頃の運動不足解消など、積極的に身体を動かすことを目的とする。
到達目標	前半は、ドリブルやパス、シュートなど基本的な動作の習得と、1対1や3対3の練習を通じて、試合に必要なオフェンスとディフェンスの動きを習得することを目標とする。 後半は、いくつかのチームを編成してリーグ戦形式で試合を行い、個人の技術やチームプレイを発揮しながら、最終的な順位を決定する。
講義方法	実技中心に行い、必要に応じて資料を配布する。
準備学習	各自、ルールの確認をする。
成績評価	出席状況、授業参加の積極性、指導内容の理解度等を総合的に評価する。
講義構成	第1回 基礎技術の習得(ドリブル、パス、シュート) 第2回 基礎技術の習得(ドリブル、パス、シュート) 第3回 オフェンスの基礎(セットプレイ、速攻) 第4回 オフェンスの基礎(セットプレイ、速攻)

	第5回 ディフェンスの基礎(マンツーマン、ゾーン) 第6回 ディフェンスの基礎(マンツーマン、ゾーン) 第7回 実践(1vs1、2vs1、3vs2) 第8回 実践(2vs1、3vs2、3vs3) 第9回 練習ゲーム(チームわけ) 第10回 リーグ戦 第1節 第11回 リーグ戦 第2節 第12回 リーグ戦 第3節 第13回 リーグ戦 第4節 第14回 リーグ戦 第5節 第15回 リーグ戦 最終節 順位決定
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
講義関連事項	障害予防のため、バスケットボールシューズを用意することが望ましい。

授業コード	81T15		
授業科目名	スポーツⅢ(バスケットボールⅡ)(後)		
担当者名	大前 拓(オオマエ タク)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
特記事項	実施場所:岡本講堂兼体育館		

講義の内容	国民の健康志向の高まりは、年々強くなっている。しかし、生活習慣病やメタボリック症候群などは若年層にも拡大しつつあり、予防・改善の対策が必要と考えられている。大学生も同様の傾向にあり、身体を動かす機会は減少し、不規則な生活習慣が健康を損なう原因となっている。 この授業では、バスケットボールに必要な動作(走る、跳ぶ、投げる)を通じて、体力の維持向上や日頃の運動不足解消など、積極的に身体を動かすことを目的とする。
到達目標	前半は、ドリブルやパス、シュートなど基本的な動作の習得と、1対1や3対3の練習を通じて、試合に必要なオフェンスとディフェンスの動きを習得することを目標とする。 後半は、いくつかのチームを編成してリーグ戦形式で試合を行い、個人の技術やチームプレイを発揮しながら、最終的な順位を決定する。
講義方法	実技中心に行い、必要に応じて資料を配布する。
準備学習	各自、ルールの確認をする。
成績評価	出席状況、授業参加の積極性、指導内容の理解度等を総合的に評価する。
講義構成	第1回 基礎技術の習得(ドリブル、パス、シュート) 第2回 基礎技術の習得(ドリブル、パス、シュート) 第3回 オフェンスの基礎(セットプレイ、速攻) 第4回 オフェンスの基礎(セットプレイ、速攻) 第5回 ディフェンスの基礎(マンツーマン、ゾーン) 第6回 ディフェンスの基礎(マンツーマン、ゾーン) 第7回 実践(1vs1、2vs1、3vs2) 第8回 実践(2vs1、3vs2、3vs3) 第9回 練習ゲーム(チームわけ) 第10回 リーグ戦 第1節 第11回 リーグ戦 第2節 第12回 リーグ戦 第3節 第13回 リーグ戦 第4節 第14回 リーグ戦 第5節 第15回 リーグ戦 最終節 順位決定
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
講義関連事項	障害予防のため、バスケットボールシューズを用意することが望ましい。

授業コード	81T16
-------	-------

授業科目名	スポーツⅢ(卓球Ⅰ)(1クラス)(前)		
担当者名	水野千津子(ミズノ チツコ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	実施場所: 岡本講堂兼体育館		

講義の内容	テーマ: みんなで卓球 老若男女を問わず、誰にでも手軽に楽しめる卓球の特徴を踏まえ、「見るスポーツ」ではなく「やるスポーツ」としての卓球の基礎技術の習得を目指す。 また、学校体育の最終段階における大学体育は、まさに生涯体育・スポーツにつながるべきものである。ここでは、卓球というスポーツを通し、その特性を知った上で技術を習得し、ゲームをすることによって体を動かす楽しさを味わい、「生涯スポーツ」の素地を養いたい。そして更に、学校期以降もスポーツに好感を持って積極的に取り組む姿勢の土台作りとするものである。 個人スポーツではあるが、団体戦をすることによって、チームプレーの楽しさも味わいたい。 また、初心者と経験者の対戦でも白熱した試合が出来るように、ハンディを付けた特別ルールを実施していく。
到達目標	基本技術を習得し、ラリー出来る楽しさを味わい、試合を通して技術のレベルアップを図る。
講義方法	実技形式で行う。
準備学習	『スポーツ&健康科学BOOK』の「卓球」のところを読んでおくこと。
成績評価	出席を重視し、個人差のある技能よりもむしろ、意欲的に取り組む学習態度を重視する。その結果としての個体内の技能の進歩を認める。
講義構成	1オリエンテーション 2ラケットの種類、持ち方、フォーム、サーブなど 3フォアロングの練習 4フォアロングでラリー 5バックショート練習 6フォアロング、バックショート、フットワークでラリー 7シングルの試合の仕方(ルール、審判法も含む) 8ダブルスの試合の仕方(ルール、審判法も含む) 9グループ対抗戦(主に試合の流し方を学習) 10グループ対抗戦(動き方に重点) 11グループ対抗戦(効果的な試合運び) 12グループ対抗戦(勝つための方法) 13グループ対抗戦(技術のレベルアップを確認) 14、15まとめ 一生懸命スポーツとしての卓球
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)

担当者から一言	暗いスポーツのイメージは捨てて、大いに盛り上げたい。
---------	----------------------------

授業コード	81T17		
授業科目名	スポーツⅢ(卓球Ⅰ)(2クラス)(後)		
担当者名	水野千津子(ミズノ チツコ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	実施場所: 岡本小体育館		

講義の内容	テーマ: みんなで卓球 老若男女を問わず、誰にでも手軽に楽しめる卓球の特徴を踏まえ、「見るスポーツ」ではなく「やるスポーツ」としての卓球の基礎技術の習得を目指す。 また、学校体育の最終段階における大学体育は、まさに生涯体育・スポーツにつながるべきものである。ここでは、卓球というスポーツを通し、その特性を知った上で技術を習得し、ゲームをすることによって体を動かす楽しさを味わい、「生涯スポーツ」の素地を養いたい。そして更に、学校期以降もスポーツに好感を持って積極的に取り組む姿勢の土台作りとするものである。 個人スポーツではあるが、団体戦をすることによって、チームプレーの楽しさも味わいたい。 また、初心者と経験者の対戦でも白熱した試合が出来るように、ハンディを付けた特別ルールを実施していく。
-------	--

到達目標	基本技術を習得し、ラリー出来る楽しさを味わい、試合を通して技術のレベルアップを図る。
講義方法	実技形式で行う。
準備学習	『スポーツ&健康科学BOOK』の「卓球」のところを読んでおくこと。
成績評価	出席を重視し、個人差のある技能よりもむしろ、意欲的に取り組む学習態度を重視する。その結果としての個体内の技能の進歩を認める。
講義構成	1オリエンテーション 2ラケットの種類、持ち方、フォーム、サーブなど 3フォアロングの練習 4フォアロングでラリー 5バックショットの練習 6フォアロング、バックショット、フットワークでラリー 7シングルの試合の仕方(ルール、審判法も含む) 8ダブルスの試合の仕方(ルール、審判法も含む) 9グループ対抗戦(主に試合の流し方を学習) 10グループ対抗戦(動き方に重点) 11グループ対抗戦(効果的な試合運び) 12グループ対抗戦(勝つための方法) 13グループ対抗戦(技術のレベルアップを確認) 14、15まとめ 一生懸命スポーツとしての卓球
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)
担当者から一言	暗いスポーツのイメージは捨てて、大いに盛り上げたい。

授業コード	81T18		
授業科目名	スポーツⅢ(バドミントンⅡ)(後)		
担当者名	鵜木千加子(イカルギ チカコ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	実施場所: 岡本講堂兼体育館		
オフィスアワー	授業終了後30分		

講義の内容	将来的に”生涯スポーツ”としても親しむことができるように、「ルールを覚える」「基本的な打ち方を身に付ける」「ゲームを楽しんでできる場を創る」ことを行っていきます。まずは色々なフライト(シャトルの飛び方)の打ち分けを練習します。打ち分けができるようになった人は、ダブルスのフォーメーション(陣形)に挑戦します。
到達目標	フライトの打ち分けができるようになり、ねらいを持ってゲームができるようになること。また、様々な状況で楽しくプレイできる場を創る方法を開拓していくことを目指します。
講義方法	技術や体力レベルに応じたグループ分けによる授業、全員が混ざって行う授業、それらを組み合わせて授業を行います。
準備学習	体調を整えておいてください。
成績評価	出席を重視します(7割以上出席すること)。また、技術の習得や取組の姿勢も成績評価に加えます。
講義構成	1. バドミントンに慣れよう 2. ルールを覚えよう 3. スキルアップしよう 4. コミュニケーション力をアップさせよう 5. バドミントンができた歴史にふれよう 基本的な打ち方として、ドライブ、クリアー、ヘアピン、ドロップ、ロブ、スマッシュなどのフライトが打ち分けられるように練習します。また、フットワークを練習します。 ステップアップのための練習としては、フライトを組合せたパターン練習やフットワークを取り入れ、ゲームがレベルアップするよう練習します。 試合は、リーグ戦、トーナメント戦、チーム対抗戦を行います。ハンデキャップを取り入れるなど、色々な方法で試合を楽しむ方法を開拓していきましょう。 スポーツを楽しむには、コミュニケーション力が大切です。学部、学年、性別を超えてプレイしていきます。また、技術レベルが同じ者と、あるいは違う者と、様々な形でプレイする機会をつくります。

	なお、履修者数や履修者のレベルに応じて内容を変更することもあります。
教科書	『スポーツ＆健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）
担当者から一言	授業の中でどれだけ上達できるかどうか、自分の可能性に挑戦して下さい。また、前向きにコミュニケーションをはかり、和やかな雰囲気の良い場にしていて下さい。環境は与えられるものではなく創るもの。楽しむには創る力が不可欠です。

授業コード	81T19		
授業科目名	スポーツⅢ (レクリエーションスポーツⅠ)(集中)		
担当者名	伊東浩司(イトウ コウジ)、北岡 守(キタオカ マモル)、山崎俊輔(ヤマサキ シュンスケ)、桂 豊(カツラ ユタカ)、水澤克子(ミズサワ カツコ)、鵜木千加子(イカルギ チカコ)、曾我部晋哉(ソガベ アキトシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	実施場所: 六甲アイランド体育施設 第1回講義 4月10日(土)のガイダンスは、CUBE302教室で3限(12:20～13:50)に行います。		

講義の内容	余暇の時間を使って楽しむスポーツをレクリエーションスポーツといいます。 勝敗でなく、楽しむことが目的で、無理のない範囲で、ルールも性別や体力などで臨機応変に対応しています。日常生活でのストレス解消や運動不足解消を目的に、学内の体育施設でより多くのスポーツと学外演習（ハイキング）の実技を行うとともに、授業実施期間の最初と最後に体力及び身体組成測定を行います。身体組成とは、体脂肪、筋肉、骨、水分など身体を構成する組成成分です。自分の身体組成の状態を知り、日常生活を見直していきましょう。なお、学外演習（ハイキング）及び学内での実技種目及び実施場所については、生涯スポーツオリエンテーション（ガイダンス）と第一回講義にて詳しく指示をします。
到達目標	体力の維持増進、またコミュニケーション力を高め、調和のとれた心身の発達を目指します。
講義方法	体力及び身体組成測定と実技を組み合わせ実施します。
準備学習	授業が受けられるようにしっかり、睡眠・栄養を取るように心がけてください。
成績評価	出席重視します。詳しくは、生涯スポーツ・オリエンテーション（ガイダンス）と第一回講義にて詳しく説明します。
講義構成	第1回：オリエンテーション・・・講義のすすめ方など 第2回：実技演習 第3回：体力及び身体組成測定 第4回：体力及び身体組成測定 第5回：レポート作成 第6回：学外演習 第7回：学外演習 第8回：学外演習 第9回：学外演習 第10回：実技（六甲アイランドもしくは岡本の学内体育施設） 第11回：実技（六甲アイランドもしくは岡本の学内体育施設） 第12回：実技（六甲アイランドもしくは岡本の学内体育施設） 第13回：実技（六甲アイランドもしくは岡本の学内体育施設） 第14回：体力及び身体組成測定 第15回：レポート作成
教科書	『スポーツ＆健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）
講義関連事項	運動に適した服装、室内で行うの種目は、安全面からも上履きの使用を義務付けます。

授業コード	81T20		
授業科目名	スポーツⅢ(ゴルフⅠ)(集中)		
担当者名	北岡 守(キタオカ マモル)、桂 豊(カツラ ユタカ)、伊東浩司(イトウ コウジ)		
配当年次	2年次	単位数	1

開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	実施場所: (2009年度実績) 山御影ゴルフセンター、作州武蔵カントリー倶楽部		
講義の内容	前半はゴルフ練習場でショートアイアンからドライバーまでのクラブを使用してコースをラウンドする為の準備をし、後半は1泊2日のゴルフ場本コースでのラウンドを経験します。		
到達目標	生涯スポーツとしてゴルフを実践する上で必要な、ショートアイアンからドライバーまでのショットの技術を学び、またコースをラウンドするときに必要なルール、マナーを身に付けます。		
講義方法	学内事前授業1回 ゴルフ練習場6回 ゴルフ場本コース1泊2日		
準備学習	夏休みの猛暑の中での6日間のゴルフ練習や1泊2日のラウンドは非常にハードです。しっかり身体を動かして慣らしておいてください。		
成績評価	事前授業と現地での練習及び本コースラウンドに参加した者に限り、出席点・技術点・態度で評価します。		
講義構成	第1回: オリエンテーション・・・ルール、マナー、心構え 第2回: スウィングをするための基本のグリップと構え方 第3回: スタンス、クラブフェイス 第4回: 身体とクラブ、ボールの位置関係 第5回: 回転軸と体重移動について 第6回: コースをラウンドするにあたって 第7回: コースをラウンドするにあたって 1泊2日で本コースをラウンド		
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター)		
担当者から一言	ゴルフの欠点は、おもしろすぎることである。		

授業コード	81T21		
授業科目名	スポーツⅢ(スキーⅠ)(集中)		
担当者名	北岡 守(キタオカ マモル)、山崎俊輔(ヤマサキ シュンスケ)、桂 豊(カツラ ユタカ)、鶴木千加子(イカルギ チカコ)、曾我部晋哉(ソガベ アキトシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	実施場所: (2009年度実績) 学内事前授業計3回、志賀高原スキー場		

講義の内容	集中スキーコースでは、ウィンタースポーツの一つとしてスキーを体験します。授業は集中講義形式で、学内事前授業3回と、スキー場での合宿から成ります。
到達目標	学内事前授業では、年々新しくなるスキー用具やそれに伴って変わってきた技術理論、安全について学びます。そして最新のスキー用具や技術について認識を新たにし、個々のレベルに応じたスキー技術習得・向上、安全なスキーにチャレンジします。また、大自然の中に身を置き、団体生活を学びます。
講義方法	第1～3回目は事前授業 第4～15回目として、4泊5日での合宿形式の実習(志賀高原で実施予定)
準備学習	スキーは、やり方によっては大変ハードなスポーツです。合宿は朝から晩まで「スキー漬け」になります。体を動かすこと、規則正しい生活リズムに体を慣らしておくこと等により体調を整えて参加して下さい。
成績評価	原則として全日程出席者を評価対象者とします。技能・態度・習熟度で評価します。
講義構成	第1回目: 「集中スキーコース全般について」講義、事務連絡 第2回目: 「スキーの用具と技術について」講義、事務連絡 第3回目: 「スキーと安全について」講義、事務連絡 ■ 班分け・・・自己申請と初日の班分けテストに基づき、1班10人程度のレベル別班分けを実施する(初心者、初級者、中級者、上級者)。希望者が10名程度そろえばテレマーク班をつくる。 ■ 班毎にレベルに応じて実習 「初心者」・・・靴の履き方など準備について→道具に慣れる→プルークターンで滑ることを目指す。 「初級者」・・・プルークターンの復習→最終日にはパラレルで滑ることを目指す。 「中級者」・・・プルークターン、シュテムターンの技術を安定させ、色々な斜面に挑戦する。 「上級者」・・・全ての滑りを洗練したものへ。

教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）
講義関連事項	学内で定められた健康診断（内科検診、レントゲン、検尿）を受診済みであることが参加条件です。
担当者から一言	この機会にウインタースポーツの一つとして、生涯続けていくことのできるスポーツの一つとして、是非スキーを加えて下さい。

授業コード	81T22		
授業科目名	スポーツⅢ（スキーⅡ）(集中)		
担当者名	北岡 守(キタオカ マモル)、山崎俊輔(ヤマサキ シュンスケ)、桂 豊(カツラ ユタカ)、鵜木千加子(イカルギ チカコ)、曾我部晋哉(ソガベ アキトシ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	実施場所：(2009年度実績)学内事前授業計3回、志賀高原スキー場		

講義の内容	集中スキーコースでは、ウインタースポーツの一つとしてスキーを体験します。授業は集中講義形式で、学内事前授業3回と、スキー場での合宿から成ります。
到達目標	学内事前授業では、年々新しくなるスキー用具やそれに伴って変わってきた技術理論、安全について学びます。そして最新のスキー用具や技術について認識を新たにし、個々のレベルに応じたスキー技術習得・向上、安全なスキーにチャレンジします。また、大自然の中に身を置き、団体生活を学びます。
講義方法	第1～3回目は事前授業 第4～15回目として、4泊5日での合宿形式の実習（志賀高原で実施予定）
準備学習	スキーは、やり方によっては大変ハードなスポーツです。合宿は朝から晩まで「スキー漬け」になります。体を動かすこと、規則正しい生活リズムに体を慣らしておくこと等により体調を整えて参加して下さい。
成績評価	原則として全日程出席者を評価対象者とします。技能・態度・習熟度で評価します。
講義構成	第1回目：「集中スキーコース全般について」講義、事務連絡 第2回目：「スキーの用具と技術について」講義、事務連絡 第3回目：「スキーと安全について」講義、事務連絡 ■ 班分け……自己申請と初日の班分けテストに基づき、1班10人程度のレベル別班分けを実施する（初心者、初級者、中級者、上級者）。希望者が10名程度そろえばテレマーク班をつくる。 ■ 班毎にレベルに応じて実習 「初心者」……靴の履き方など準備について→道具に慣れる→ブルークターンで滑ることを目指す。 「初級者」……ブルークターンの復習→最終日にはパラレルで滑ることを目指す。 「中級者」……ブルークターン、シュテムターンの技術を安定させ、色々な斜面に挑戦する。 「上級者」……全ての滑りを洗練したものへ。
教科書	『スポーツ&健康科学BOOK』（甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター）
講義関連事項	学内で定められた健康診断（内科検診、レントゲン、検尿）を受診済みであることが参加条件です。
担当者から一言	この機会にウインタースポーツの一つとして、生涯続けていくことのできるスポーツの一つとして、是非スキーを加えて下さい。

授業コード	81044		
授業科目名	スポーツと健康（前）		
担当者名	伊東浩司（イトウ コウジ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	講義終了後10分程度（講義室にて）		

講義の内容	スポーツは 私たちの生活に活力と潤いなどを与えてくれる。スポーツに関心をもつ人の数は、近年飛躍的に増えてきている。2007年世界陸上大阪大会をはじめ、各種国内外の競技会が国内にて開催されている。このような時代の中で、競技スポーツをする人、見る人に加えて、多くの人が日常の生活の中で、健康や娯楽を求めスポーツに取り組むようになってきている。この講義では、健康や運動をめぐる基本的な知識を提供すると同時
-------	---

	に、トップアスリートのトレーニング（方法、メンタル、戦術）などを映像をみることによって、現状理解を深める内容を提供したいと思う。		
到達目標	健康や運動をめぐる基本的な知識、アスリートのトレーニング（方法、メンタル、戦術）などを知り、現状理解を深めることを到達目標とする。		
講義方法	映像と配布資料などを中心に行う。		
準備学習	スポーツに関するニュース（新聞・テレビ・インターネット）を確認し、スポーツに対する認識を深めておくこと。		
成績評価	原則として期末試験の成績で評価をする。（授業の中で詳しく述べる）		
講義構成	第1回目 オリエンテーション 第2回目 トップアスリート 第3回目 トップアスリート・オリンピックについて 第4回目 オリンピックについて 第5回目 オリンピックについて 第6回目 現代社会とスポーツ 第7回目 健康について 第8回目 体力とトレーニング 第9回目 体力とトレーニング 第10回目 運動技能とトレーニング方法 第11回目 運動技能とトレーニング方法 第12回目 スポーツマネジメント・コーチング 第13回目 コーチング 第14回目 コーチング 第15回目 まとめ		
教科書	特にありません。		
参考書・資料	伊東 浩司「疾風になりたい」 出版芸術社 伊東 浩司「最強ランナーの法則」 MCプレス社 伊東 浩司「最速の走り方」 西東社		
担当者から一言	映像を出来るだけ多くみて、アスリートの創意工夫を少しでも知ることで、よりスポーツを楽しく感じとることができると思います。映像を多く取り入れることで、シラバスと流れが異なることもあることだけ、ご理解をいただきたいと思います。		
URL	http://homepage2.nifty.com/itokoji/index.html		

授業コード	81060		
授業科目名	地球環境政策（前）		
担当者名	島本憲一（シマモト ケンイチ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
講義の内容	はじめに、環境問題に関連するミクロ経済学の基本的な考え方について学習する。次に、これらの考え方を踏まえ、様々な環境問題や環境政策について学習を行う。環境問題に関しては、主に再生可能な資源、再生不可能な資源について、環境政策に関しては、主に環境税、環境助成金、排出権、直接規制について、取り扱うことにする。		
到達目標	さまざまな地球環境問題に関して、基本的な経済学的アプローチの習得を目指す。		
講義方法	講義および討論の形式		
準備学習	授業で講義するので特になし。		
成績評価	定期試験100%		
講義構成	第1部 ミクロ経済基礎（余剰、パレート効率、公共財、外部性） 第2部 環境政策（環境税、直接規制、補助金、排出権取引、自主規制等） 第3部 再生可能資源& 再生不可能資源		
教科書	MyKonanでノート配布のため、特になし。		
担当者から一言	講義内容の80-90%が経済学的アプローチになるので、経済学に自信・関心のない人にとっては、ハードかもしれ		

	ない。
--	-----

授業コード	81N81		
授業科目名	超領域研究プロジェクトI (E05)(前)		
担当者名	太田雅久(オオタ マサヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限 火曜6限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	随時、研究室に来てください。		

講義の内容	【“Study on Socratic Way of Dialog” 「ソクラテス対話法の研究」】 「徳は教えられうるか」というメノンの問いは、ソクラテスによって、その前に把握されるべき「徳とはそもそも何であるか」という問いに置き換えられ、「徳」の定義への試みが始まる。プラトンの「メノン」、「テアイテトス」、「ソクラテスの弁明」、「国家」などに出てくる、ソクラテス特有の論法を個別のテーマごとに精読し、論法を解明し、理解するとともに、哲学的論議の基本を読書感覚で学ぶ。最後に、いろんな分野で注目されている「ソクラテスの対話法」というラベルで学んだことをまとめる。		
到達目標	およそ2300年前に書かれた古典を読みます。従って、現代までの時の経過を埋める読み方、つまり、批判的に読めるように自身の読書力を鍛えること。 ソクラテスの対話法の特徴を理解すること。		
講義方法	基本的には、輪読形式(分担部分の報告)＋基本事項や項目に関する(全員での)議論と(私の)解説＋(各自での)要点のまとめと発表。”Cultivating Humanity”(by M.Nussbaum)のソクラテス対話法の有効性について論じた一節を読む。臨時的に大窪先生にディベートや国際的な交渉力などについて紹介をお願いする。		
準備学習	授業で議論する話題に関して、あらかじめ教材を読んでおくこと。 予習の仕方に関する資料を最初の授業で配布します。		
成績評価	1/3の欠席は不可となります。 日常の討論の様子から判断します。		
講義構成	教材、「国家」をできる限り読み進む。		
教科書	プラトン「国家」岩波文庫。		
参考書・資料	「メノン」「ソクラテスの弁明」(岩波文庫)、 ”Great Dialogues of Plato”, translated by W.H.D.Rouse ”Introduction” by Melissa Lane in “The Republic” Penguin Classics 2007 ”The Open Society and Its Enemy” by Karl Popper 2009 Rourledge ”Plato’s Republic” edited by G.R.F.Ferrare 2007 Cambridge University Press 「プラトン政治哲学批判序説」、永井健晴著、風行社 これらの文献で議論に関係するところに適宜目を配ります。		
講義関連事項	Critical reading, critical thinking の素養を身につけたい学生の受講が望ましい。		

担当者から一言	ついてきてください。必ず何かを身につけてあげます。
---------	---------------------------

授業コード	81N82		
授業科目名	超領域研究プロジェクトI (E12)(前)		
担当者名	JONES B.(ジョーンズ プレント)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限 木曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【What is creativity?】 This project will be used to get students to think about (1) What is creativity? (2) Where can we find		
-------	--	--	--

	creativity? And (3) How can we promote/develop creativity? Starting with our own personal experiences, we will look at and discuss various parts of life that involve creativity and why creativity is an important element of human existence. We will also investigate what experts in Japan and from around the world have to say about creativity. Moving forward, we will look for examples of creativity in our community and beyond. The term project will be negotiated, but should be a creative display of the student's understanding and presentation to a wider audience.
到達目標	The main goals of this project are to help students develop a sense of curiosity about creativity in their own lives and understand the increasingly important role creativity will play in achieving personal success (both in the workplace and beyond). Upon completion of the course, students will demonstrate the ability to (1) outline key concepts and theories related to creativity, (2) explain orally and in writing their own philosophy of creativity, (3) participate in extended discussions in Japanese and English on topics related to creativity, and (4) express their understanding of creativity via a lecture or presentation, using examples from a wide variety of sources.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: - a short lecture on a specific concept or theory related to creativity, - critical reading about creativity in English and Japanese, - creativity workshops - movies or video clips followed by group discussion - fieldwork and observation notes
準備学習	Participation in this project will require a passing grade in all first-year English courses (American Studies, Speech and Discussion, Active Listening I, Global Challenges, Discussion and Debate, Active Listening II).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (25%), reading and writing assignments (25%), term project and presentations (50%).
講義構成	Week 1 ◆ 3 A critical look at creativity Week 4 ◆ 6 Who are the experts and what do they say? Week 7 ◆ 9 Examples of creativity Week 10 ◆ 12 Term Project Week 13 ◆ 15 Presentation of findings, evaluation and future vision
教科書	Provided by instructor
参考書・資料	Creativity: Flow and the psychology of discovery and invention (Mihaly Csikszentmihalyi) Unlock your creative genius (Bernard Golden) Out of our minds: Learning to be creative (Ken Robinson)
講義関連事項	Links to online resources will be compiled at { http://www.brentjones.com }
担当者から一言	Come with an open mind and a healthy dose of curiosity.
その他	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. Please e-mail your instructor in advance for any absences and arrange for make-up work. Two or more unexcused absences will result in a lowering of your score by 20%. Four or more unexcused absences will result in no credit.

授業コード	81084		
授業科目名	超領域研究プロジェクトII (E63)(後)		
担当者名	中村聡一(ナカムラ ソウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限 火曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【アスリートの問題解決思考・頭脳ある肉体】 実践者思想の研究プロジェクトの「非」経済経営ジャンル版。やることは基本的に「経営者研究」のプロジェクトと同じだが、スタディ・フォーカスを、スポーツ選手など、経済経営以外のジャンルで活躍する方々におく。
到達目標	常に進歩を目指すことが習わしとなる。そんな勝負の世界に生きる人たちの意識に触れ、自分たちの生き方やあり方を考えてみる。
講義方法	スポーツ選手など、経済経営以外のジャンルで活躍する方々の考え方や人となりに触れたり、自分たちでそうした方々へのヒアリングや講演会などを企画しつつ、成果物としてDVD映像資料を作成する。実践者思想の研究という意味で同じ趣旨であるが、異なるジャンルでこれを見ていく。(＊担当教員による「テニス」の実技指導も場

	合によってはあるかも知れない！)
準備学習	基礎リテラシー
成績評価	プロジェクトへの貢献や学習態度を総合的に判断する
講義構成	授業初日にオリエンテーションを行う
教科書	適宜、参考書籍や資料を配布するが、独自の調査や資料収集が基本

授業コード	81085		
授業科目名	超領域研究プロジェクトⅢ (E82)(後)		
担当者名	町田 徹(マチダ テツ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限 金曜5限 金曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【インターネット時代のメディアとジャーナリズム】 本格的なインターネット時代を迎えた今、「第4の権力」と称され、健全な民主主義社会の維持・発展に不可欠だったメディア(ジャーナリズム)は、市場構造や規模の激変に直面し変革を迫られている。 プロジェクトではまず、メディアの生い立ちと使命、2つの代表的ビジネスモデル(コンテンツモデルと広告モデル)、テレビ、新聞、雑誌、ラジオの4大メディアの個別特性といった基礎を学び、これらにインターネットが与える影響を検証したうえで、新しいメディアのあり方を考えることになる。 この講義を受講者が履修する意義は3つある。第1は、全員が文系学生として、メディアの特性を理解し、効率的かつ正確に利用する方法を学べること。第2に、受講者が卒業後、政策立案、経営、マーケティング、広告、宣伝などに関連した職種に就くことを想定した場合、「情報の出し手」としての基本姿勢を学べること。そして、第3に、メディアに糧道を求める受講者には、現役ジャーナリストの生の経験に直接触れる機会が得られるメリットもある。
到達目標	各人がインターネット時代のメディアのあり方や利用法について、各人なりの理解・持論を持ち、日常生活にそれらを活用できるようにする。
講義方法	楽しく、知的かつエネルギーに、チャレンジする訓練を受ける。レクチャーと調査発表を併用し、自らひとりで、あるいは仲間と協力して情報を集め、仮説を立てて検証し、その結果を平易に筋道を立てて第3者にプレゼンテーションするという3つの能力の開発が重視される。
準備学習	やる気か、興味(野次馬根性)があること。2010年前期開講の「情報とメディア」を履修していることが望ましい。
成績評価	授業への出席状況、要点を十分理解しているか、意見の発表姿勢・内容はどうか、積極的に議論に参加しているかなどを中心に評価を受けるものとする。 定期試験を実施しない可能性があるため、受講生は、十分に講義の内容を習熟したことを日頃の授業の場で積極的に示すことが重要になる。
講義構成	報道機関の見学を検討している。 12月24日(金)は授業を実施しない。その代わりに10月16日(土)に授業を実施する。 詳細は別途指示する。
教科書	必要に応じて指示する。
講義関連事項	プロジェクト内容に関する質問は、 http://www.tetsu-machida.com/ から電子メールで。「甲南大学 プロジェクト履修検討中」と明記のこと。
担当者から一言	現役ジャーナリストとして、ジャーナリズムの現場の生の姿を知って貰い、今後の人生・生活に役立ててほしいと思っています。
ホームページタイトル	経済ジャーナリスト町田徹のホームページへようこそ
URL	http://www.tetsu-machida.com/

授業コード	81N11
授業科目名	パブリック研究プロジェクトⅠ (P10)(前)
担当者名	佐藤治正(サトウ ハルマサ)

配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 月曜6限 月曜7限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【経済と社会】 日経新聞やTV番組を資料として活用し、現代の経済問題・社会問題を議論する。後半は、複数のグループに分け、グループ毎に経済・社会問題についてのテーマを選択し、プレゼンの準備を行う。
到達目標	日経新聞に掲載される経済・経営に関する記事・内容をそれなりに理解し、ひとつ深く考え、自分の意見・考えを表現する力を身につける。経済・経営あるいは社会問題に中から、自分の関心あるテーマを見つけ、調べ、考え、何らかの意見・結論を、論理的にプレゼンテーションする力を身につける。
講義方法	1. 講義：新聞記事等を使ったディスカッション・スモールトーク 2. プレゼン準備：テーマ毎に勉強を深め、プレゼン準備を行う 3. サブゼミ：必要に応じ経済学や統計処理の基礎を学習する
準備学習	プロジェクト参加者に対し、事前に通知します。
成績評価	プロジェクトへの出席、参加度合い、学習の姿勢等を総合的に評価します。
講義構成	1チーム2人で毎回2チームがスモールトークを準備する(8週) 1チーム2人で毎回2チームが今週の政治経済の発表(毎週) 毎月の課題研究が出ます。1チーム3人で毎回2チーム その他(DVD、グループワークあるいはゲストスピーカーを迎えディスカッション等。学生の関心と必要に応じ、ミクロ経済学、エクセル、SPSS等の復習・実習を行う。) 1回：スモールトーク・政治経済・その他 2回：スモールトーク・政治経済・その他 3回：スモールトーク・政治経済・その他 4回：スモールトーク・政治経済・その他 5回：スモールトーク・政治経済・課題研究発表 6回：スモールトーク・政治経済・課題研究発表 7回：スモールトーク・政治経済・課題研究発表 8回：スモールトーク・政治経済・課題研究発表 9回：政治経済・その他 10回：政治経済・その他 11回：政治経済・その他 12回：課題研究発表準備 13回：課題研究発表準備 14回：課題研究発表準備 15回：プレゼン大会
教科書	テーマと学習内容毎に指示します。
講義関連事項	「経済学入門」及び「経営学入門」を修得していることが望ましい。

授業コード	81N12		
授業科目名	パブリック研究プロジェクトI (P02)(前)		
担当者名	井上 明(イノウエ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 月曜6限 月曜7限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【リアルとバーチャルを繋ぐWebサービスの提案】 目的：単に見るだけのWebページではなく、リアルワールドとバーチャルワールドを繋ぎ、人々の生活を変化させるようなWebサイト、Webサービスを企画する。これらの学習活動から、Internetの新たな可能性、社会変革について理解する。 たとえば以下のようなWebサービスが参考になる。↓
-------	--

	・「Bookcrossing-世界中の街中を図書館に！」 読み終わった本に、BCID番号を記入したステッカーを本に貼り、友達に渡す、ベンチなどに置く。本を手にした人が、本に書かれているBCID番号をBookCrossing.jpのウェブサイトで検索すると、どんな旅をしてきたかが分かる。現在位置や本の感想(ジャーナル)をウェブサイトで報告して、また本を世界に解き放つ。そして、本は旅を続けていく…。(引用: http://www.bookcrossing.jp/about.asp) ・無職の人が集まって情報交換するイベント『Laid Off Camp』 http://laidoffcamp.com/ 無職(とフリーランス)の人が集まり(正社員として雇用されている人以外)、この時代を生き抜くための情報交換を行っている。少ない予算で生活していくにはどうしたらいいか、自分のブランドをどう高めていけばよいか、そうした議論がされている。(引用: http://www.100shiki.com/archives/2009/03) 学習内容: Webページ設計法、コミュニケーション支援、Webサービス設計
到達目標	本プロジェクトを通じて、Webサービスの目的と意義を理解する
講義方法	講義と演習
準備学習	現在どのようなWebサービスがあるか興味を持って調べておくこと
成績評価	出席、課題、成果物、プレゼンを総合的に評価する
講義構成	ア. 講義(週1回: (90分×2)×1回×15週=30コマ) イ. 演習(90分×6回=6コマ) ウ. サブゼミ(90分×4回=4コマ) エ. プロジェクト発表会(期末90分×5回)
教科書	教科書は用いない。参考図書を授業中に指示する。
講義関連事項	毎回必ずノートパソコンを持参すること。

授業コード	81N13		
授業科目名	パブリック研究プロジェクトI (P07)(前)		
担当者名	倉本宜史(クラモト タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 月曜6限 月曜7限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	月曜4限		

講義の内容	【ゲーム理論を使って経済活動の謎を探る】 「ゲーム理論」は経済学や経営学などのアカデミックな世界以外に、実社会、特にビジネスの世界でも人々の意思決定を分析する重要なツールである。ゲーム理論を学ぶことで、CUBEの学生が卒業後に企業で店舗の出店や完全競争にない世界での価格の設定などの意思決を行う責任者となった際に戦略的・論理的な判断を下せるようなトレーニングをこの講義で行う。また、実際に人々の戦略的行動や意思決定の下での経済の動きを理解するために、生花市場や中古車市場の視察のほか、冷戦時代の核開発競争や企業買収の実例を映像や新聞等の資料から確認、学生の力で現実社会をゲーム理論を使ってモデル化できる力をつける。また、実際に西宮市、ならびに兵庫県内、関西地域といった身近な場所において、個別経済主体の戦略的行動が経済全体にどのような影響をもたらしているかについて調査し、悪影響がある場合はその解決策を考察する。調査・考察結果は最終的にプレゼン発表をしてもらう。
到達目標	ゲーム理論を、現実の経済・社会問題を理解する一つの切り口として理解できるようになる。
講義方法	5限目: 指定したテキストと用意した講義ノートに基づき、スライドや板書を用いて講じてゆく。まとまった小単元が終わる度に「復習問題」を提示することで、授業のポイントとなることを示唆するとともに、復習の手助けにする。 6限目: 個人の参考書づくり。学生一人一人にその日の講義内容の理解を含めてもらうために講義内容に沿った例題を各自で作ってもらい、プレゼンテーションする。 サブゼミ: グループ課題。グループに分かれ、グループで決めた目的を達成するために必要なことを考え、実践する。
準備学習	新聞、雑誌、テレビ等、情報源さえ確かであれば方法は何でも良いので、興味のある社会問題、自分たちの身近な話題についての情報を出来るだけ詳細に入手しておいてください。
成績評価	(1)講義に対する出席態度とペーパーテスト、プレゼン発表会に向けてのグループ内の協力姿勢、 (2)サブゼミへの積極的参加姿勢(毎回、指定の教科書の各章について順番に担当学生がレジュメを作成し、内容を解説する)、

	(3)講義 & サブゼミ時間以外の準備態度をもって判断する。
講義構成	(1)講義(週1回2コマ×15週=30コマ:ヒアリング調査(2回、4コマ分)+プレゼン発表(1回、2コマ分)を含む)=30コマ (2)サブゼミ形式(週1回1コマ×15週:ミクロ経済学の復習、数学の復習) *(2)に関しては、(1)の初回講義時間において、受講者が全員都合のよい時間帯で決める。また、(3)急に準備時間を作ってもらうこともある。
教科書	『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』 梶井厚志、松井彰彦 日本評論社
講義関連事項	「経済学入門」、「数学的論理思考」を修得し、かつ、「数学的論理思考」が「良」以上であること。 「公共経営の先端Ⅲ」、「公共政策」、「政策評価の手法」、「公共政策の実践Ⅲ」を同時に、または本プロジェクト終了後に履修することが望ましい。
担当者から一言	この講義では数学的論理思考を使って経済活動を解き明かしていくことになる。数学が苦手でもよいので、嫌いでない学生の履修を望む。また、自分の人生設計・マネジメントを論理的に考えた上で行動できるようになりたいと望む学生は大歓迎である。 また、本プロジェクトは遊びではない。本業である学業を優先できない者に対しては、本プロジェクトは講義時間以外の準備時間を多く使うために、受講をお勧めできない。急な時間の確保により準備をしてもらう際にも、「バイト」、「部活」、「サークル」を理由とした不参加は一切認めない。(ただし、他の講義がある場合には急な時間の確保はせず、講義を優先していただきたい。また、特段の事情がある場合のみ「バイト」を理由とした不参加を認める。履修を決める前に相談しておくこと。)

授業コード	81N14		
授業科目名	パブリック研究プロジェクトI (P11)(前)		
担当者名	島本憲一(シマモト ケンイチ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限 木曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【環境と経済】 主にグローバルな視点から環境と経済についての基礎概念と実践を学ぶ。
到達目標	環境と経済に関連する基礎概念や実践を、グローバルな視点からアプローチできるスキルを習得する。
講義方法	講義、グループ討論、グループ発表、フィールドワーク、個人研究、個人発表。
準備学習	各週の内容について、各自予習すること。
成績評価	グループ発表(70%)、個人発表(30%)
講義構成	第1部 環境とグローバリゼーションの基礎学習 第2部 環境とグローバリゼーションに関する企画プロジェクト
教科書	講義を行うので特になし。
講義関連事項	環境経済学にある程度関心のある人が望ましい。 ・NGO/NPO、国家/地方/国際公務員、市民向け。 ・使用する主なスキルは、ミクロ経済学、環境経済学、プレゼン力、ディベート力、文書作成力。その他に逐次必要なスキルはコースの中で指導する。

授業コード	81N15		
授業科目名	パブリック研究プロジェクトI (P15)(前)		
担当者名	BOYLES(ボイルズ コリン)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限 木曜6限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	火曜日Ⅲ限		

講義の内容	テーマ:【日本の職場改革 ― いきいきと働くために】 皆さんは数年後に、雇用社会の一員になる。日本の職場が抱える問題の現状や背景、関連する法律などを学び、労働者が高い仕事意欲を持ちながら私的な人生も充実させるためには、今どのような職場改革が必要なのかを考える。
到達目標	労働問題の基本的な基礎知識を修得し、調査などを行ない、日本の職場を改善のための提案(提言)をまとめる。また、自分はどんな働き方をしたいのか、どのような雇用社会を望むのかについて思考を深める。
講義方法	プロジェクト型授業である。基礎知識のための講義を最小限にし、より多くの時間では配布される文献および資料を皆で検討し、ディスカッションをする。グループワーク、社会見学なども行う。
準備学習	新聞などで労働問題のニュースに注目すること。 指定された文献・資料に親しむこと。
成績評価	授業への積極的関与度と提出されたレポートの内容により評価する。
講義構成	予定しているトピック: 雇用社会および人事管理の進化 労働問題の現状と関連法律 賃金格差(男女間、正社員／非正社員間) 偽装請負 派遣切り 名ばかり管理職 サービス残業 長時間労働によるうつや過労死など ワークライフバランス 予定している時間配分: 講義およびグループワークなど((90分×2)×15回) 社会見学・調査およびその準備(90分×10回) プロジェクト発表会(90分×5回)
教科書	指定しない。
参考書・資料	必要に応じて指示する。(購入する必要はない。)
講義関連事項	「経済学入門」を修得し、「企業と経営Ⅰ」を同時に履修すること。
担当者から一言	一緒に充実した時間を過ごそう。

授業コード	81N21		
授業科目名	パブリック研究プロジェクトⅡ(P60)(後)		
担当者名	佐藤治正(サトウ ハルマサ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 月曜5限 月曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【メディア・マネジメント】 新聞・放送等既存メディアの市場環境変化とビジネスモデルについて議論していく。 経営の視点、制度政策といった経済学的視点から、メディア産業における各企業が直面する課題について、また各企業の意思決定に影響を与える政策(例えば、放送通信融合法制・コンテンツ規制等)について調べ、議論を進める。
到達目標	第一に、新聞や雑誌に掲載されるメディア関連の記事が理解できる知識レベルを獲得する。さらに、メディア業界をケースとし、市場が縮小するあるいは競争が激化する市場環境変化に対し、具体的な事例として各企業の経営戦略、政府の政策的対応を理解・議論できる力を身につける。
講義方法	一部講義をするが、多くは、学生の課題研究とプレゼンテーションを通じ、議論を深めていく。 グループワークが多い。最終的には、複数のチームにわけ、チーム毎にテーマを決め、プレゼンテーションを繰り返し実施することになる。
準備学習	特にないが、普段から日本経済新聞に目を通し、メディア、情報通信関連の記事を読んでおくこと。

成績評価	プロジェクトへの出席・参加・貢献度合いを総合的に評価。
講義構成	1～6回：講義とグループワークを中心に、既存メディアの現状をまとめる (新聞、放送、インターネット等分野別にグループを分け、産業・企業(ビジネスモデル)・制度政策並びに企業の広告モデル等の現状についてチームで研究し発表する。) 7～10回：第一回目のプレゼン準備(新たに現実問題をテーマとした、研究発表準備) 学生の関心、チームで選択したテーマに関連したゲストスピーカーとの議論の場を作る。 必要に応じ、企業訪問等フィールドワークを実施する。 11～12回：研究発表プレゼン 13～14回：最終プレゼン準備 15回：最終プレゼン大会
教科書	新聞記事や雑誌記事を中心に、読むべき資料を事前に指示する。
講義関連事項	「経済学入門」及び「経営学入門」を修得していることが望ましい。 「産業と経済Ⅲ」を履修することが望ましい。

授業コード	81N22		
授業科目名	パブリック研究プロジェクトⅡ (P57)(後)		
担当者名	倉本宜史(クラモト タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 月曜5限 月曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【関西地域活性化の方策を探る】 ここ数年内に道州制の導入について本格的に検討されることが予想される。甲南大学のある関西も道州を構成する一つの地域として考えられている。しかし、関西の道州制導入の議論はほとんど進んでいない。本プロジェクトでは、そもそも関西はどのような地域なのかを知ること、すなわち関西の特徴を財政の現状、産業構成、歴史的経緯について調査することから始める。そして、関西地域の活性化のために必要なものを探っていく。調査結果は、他大学の大学生とともに民間シンクタンクでの報告会を予定している。
到達目標	企画力、問題発見能力、文章読解力、分析力、文章作成能力、プレゼンテーション能力を1年時よりも上げ、科学的根拠をもって政策提言を出来るまでになる。
講義方法	最初の講義時に、学問として調査・研究を行う際の手順を講義し、工程表を作成する。 その後は随時工程表に沿って作業を進めてもらう。 毎回の講義の最初の1時間は全体ミーティングを行い、現在の進行状況と講義時間内に行う作業を確認する。 最後の30分も全体ミーティングを行い、講義時間内の進捗状況と、次回の講義までに行う作業を確認する。 ミーティング以外の講義時間は作業を行ってもらうが、基本的にこの時間内に質問を受け付ける。 具体的な作業内容については、最初の講義時に説明するとともに、随時全体ミーティングでお知らせする。
準備学習	講義の開始前：1年時の勉強の復讐 講義の開始後：グループワークに貢献できるように、空いた時間で資料収集や必要な学問内容の学習を勧める。 次の講義までに必要だと認識している仕事をしてこない学生は、グループワークへの邪魔をしているとみなし、特段の理由がない限り、評価の対象としない。
成績評価	(1)講義に対する出席態度、プレゼン発表会に向けてのグループ内の協力姿勢、 (2)サブゼミへの積極的参加姿勢(毎回、指定の教科書の各章について順番に担当学生がレジュメを作成し、内容を解説する)、 (3)講義&サブゼミ時間以外の準備態度をもって判断する。
講義構成	(1)講義(週1回2コマ×15週＝30コマ：ヒアリング調査(2回、4コマ分)＋プレゼン発表(1回、2コマ分)を含む)＝30コマ (2)サブゼミ形式(週1回1コマ×15週：財政学の基礎講義、統計学の基礎演習) * (2)に関しては、(1)の初回講義時間において、受講者が全員都合のよい時間帯で決める。また、急に(3)準備時間を作ってもらふこともある。
教科書	特に指定はしないが、以下の4冊を参考文献として挙げておく。講義の理解に役立つ書籍なので、読んでおくこと

	を勧める。 『エコノメトリックス(新版)』 伴金美 中村二郎 跡田直澄、有斐閣 『ゼミナール 経済政策入門』 岩田規久男 飯田泰之、日本経済新聞社 『公共経済学と都市政策』 中川雅之、日本評論社 『地方財政論入門』 佐藤主光、新世社 なお、『経済財政白書』の最新年度版も目を通しておいてもらいたい。(ウェブ版が内閣府のホームページから閲覧可能)
講義関連事項	「経済学入門」、「ITベーシック」、「数学的論理思考」を修得し、かつ、「ITベーシック」、「数学的論理思考」のいずれかが「良」以上であること。 (「ITベーシック」を1年生時にカリキュラム上の理由で受講できなかった学生は、2年生時に受講することで代替できるものとする。) 「公共経営の先端Ⅲ」、「公共政策」、「政策評価の手法」、「公共政策の実践Ⅲ」を同時に、または本プロジェクト終了後に履修することが望ましい。
担当者から一言	学外の人と直接会うことやメール等で連絡を取るようになるので、「礼儀正しく」、「挨拶の出来る」学生の履修を望む。また、本プロジェクトは遊びではない。本業である学業を優先できない者に対しては、本プロジェクトは講義時間以外の準備時間を多く使うために、受講をお勧めできない。急な時間の確保により準備をしてもらう際にも、「バイト」、「部活」、「サークル」を理由とした不参加は一切認めない。(ただし、他の講義がある場合には急な時間の確保はせず、講義を優先していただきたい。また、特段の事情がある場合のみ「バイト」を理由とした不参加を認める。履修を決める前に相談しておくこと。)

授業コード	81N23		
授業科目名	パブリック研究プロジェクトⅡ (P61)(後)		
担当者名	島本憲一(シマモト ケンイチ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限 木曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【サステナブルな社会づくり】 持続可能な社会づくりの実践に関して、行政や企業などの取り組みについて学ぶ。
到達目標	サステナブルな街づくり、具体的には環境にやさしく美しい街づくりが実現できるための基礎を自習自得する。
講義方法	講義、フィールドワーク、グループ討論、グループ発表、個人研究、個人発表
準備学習	各週の内容について、各自予習すること。
成績評価	グループ発表(70%)、個人発表(30%)
講義構成	第1部 環境とまちづくりに関する基礎知識の習得(建物、広告、公園、街路地、ごみ問題、観光等) 第2部 環境とまちづくりに関する企画プロジェクト
教科書	MyKonanでノート配布するので特になし。
講義関連事項	・環境・文化や地域発展に関心があり、感性が豊かな人が望ましい。 ・企業(地域開発、観光、その他一般)、NGO/NPO、国家/地方公務員、市民向け ・使用する主なスキルは、読解力、企画力、フィールド調査力、文書作成力、プレゼン力。その他に逐次必要なスキルはコースの中で指導する。

授業コード	81N31		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトⅠ (B06)(前)		
担当者名	桐畑哲也(キリハタ テツヤ)		
配当年次	2年次	単位数	6

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 月曜6限 月曜7限
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	【ニュービジネスの基礎】 ニュービジネスをいかに創造するのかについて学ぶ。受講生が、ビジネスパーソンとして新規事業を提案できる基礎力の養成を目的とする。 講義は、経営者による講義及び受講生を交えたディスカッション、さらには、受講生のグループディスカッションをベースとした演習形式とする。 また、フィールドワークも受講生の希望に基づき実施。起業家講演、インタビュー、公的起業支援担当者の講演、インタビュー、また、他教育機関の教育プログラムへの参加、連携等を想定している。 講義目的、教授法については、上記方針でフィックスするが、講義で取り上げるコンテンツについては、外部の連携先の意向、受講生の希望によりフレキシブルに変更する。		
到達目標	ニュービジネスをいかに創造するのかについて学ぶ。受講生が、ビジネスパーソンとして新規事業を提案できる基礎力の養成を目的とする。		
講義方法	講義は、経営者による講義及び受講生を交えたディスカッション、さらには、受講生のグループディスカッションをベースとした演習形式とする。		
準備学習	特になし。		
成績評価	出席、報告、レポート、さらに、グループディスカッション等での貢献を総合的に判断する。		
講義構成	(1)演習(週1回:(90分×2)×1回×15週=30コマ) (2) フィールドワーク(90分×15回=15コマ)		
教科書	特になし。		
講義関連事項	予備知識は必要としないが、起業家活動に強い関心を有していること。 また、演習、フィールドワークにおける積極的な発言、関与を必須とする。		

授業コード	81N32		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクト(B08)(前)		
担当者名	高永才(コウ ヨンゼ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限 火曜6限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	火曜日 11:30～13:30 事前に申し出ること		

講義の内容	【企業経営を支える経営戦略・組織論の視点】 目的:企業経営を分析するにあたって必要な戦略論、組織論の基礎となる理論を学習する。さらに、それらが相互に関連性を持っていることを理解する。一方で、フィールドワークを通して、これら、過去の事例をもとに作られた理論に限界が存在することも理解する。		
到達目標	企業における組織と戦略の意義を理解する。		
講義方法	内容: (1)戦略論・組織論の違いを理解するために、それぞれの領域がどのような歴史を通して構築されたのか学習する。 (2)(1)の後、各領域の理論をマッピングし、各領域の関係性および理論間の関係性を理解する。 (3)戦略論、組織論の基礎となるようなテキストを輪読(レジュメ:テキストを読み、要旨、質問、議論したいこと(A4用紙 1枚～2枚にまとめる)を課す毎回課す。 (4)事例調査・フィールドワーク・分析		
準備学習	経営学入門で学習した内容を理解していること		
成績評価	初回の授業時に提示する。		
講義構成	90分×2コマ×15回 輪読 90分×1コマ×15回 事例調査・フィールドワーク		

教科書	【テキスト及び参考図書】 『ゼミナール経営学入門』伊丹敬之、加護野忠男著、日本経済新聞出版社 『競争戦略論』青島矢一・加藤俊彦著、東洋経済 『経営学入門(上)・(下)』榊原清則、日本経済新聞出版社 『組織デザイン』沼上幹、日本経済新聞出版社 『経営組織』金井壽宏、日本経済新聞出版社 のいずれか2つをテキストとして採用、後は、参考図書として随時使用
講義関連事項	「経営学入門」、「経済学入門」のいずれかが「良」以上であること。 「経営戦略の手法Ⅰ」、「経営戦略の手法Ⅱ」、「企業と経営Ⅰ」、「企業と経営Ⅱ」、「企業と経営Ⅲ」、「教養実践Ⅱ」を履修することが望ましい。

授業コード	81N33		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトI (B01)(前)		
担当者名	新井康平(アライ コウヘイ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限 火曜6限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	火曜7限とする。		

講義の内容	【統計的経営分析の理論と実際】 財務諸表分析に代表される経営分析について、近年、革新的な分析手法が登場している。このプロジェクトでは、基本的な財務諸表分析から始まり、高度な統計的な手法を用いた経営分析までをマスターし、企業が公開する情報を比較検討するための能力を身につけることを目的としている。		
到達目標	具体的には、 1. 財務諸表の指標分析 2. 財務諸表の統計的分析 3. アニュアルレポートの質的情報のマイニング の3点を習得することを目的としている。 学生は、このプロジェクトを履修することにより、次のような場面で役立つ能力を身につけることが出来るだろう。 1. 競合他社の動向に対する自社の位置づけを、統計的に算出可能となる。 2. 投資家として、株や社債などの投資先を判定する際の基本的な情報を手に入れることが出来る		
講義方法	プロジェクトは、レクチャーと分析実習を繰り返して進める。統計的な解析、およびテキストマイニングには、無料の統計ソフトの「R」を利用するため、毎回PCを持参する必要がある。		
準備学習	教科書の指定箇所の読了と整理、PCでの統計実習の準備が必要となる。		
成績評価	2回のマイルストーン試験に合格した上で、最終レポートを提出したものに単位を与える。単位取得者の成績評価は、レポート内容による。		
講義構成	4月および5月は、教科書の輪読と、統計的処理の演習にあてる。6月以降は、経営分析実習およびレポートの作成にあてる。 なお、おそくとも5月までにビジネス会計検定3級程度の会計学の知識を独習することが必要である。		
教科書	パレブ・ヒーリー・バーナード(2001)『企業分析入門 第2版』東京大学出版会。		
講義関連事項	「経営戦略の手法Ⅰ」及び「数学の世界」を同時に履修することが望ましい。		

授業コード	81N34		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトI (B04)(前)		
担当者名	大窪敦子(オオクボ アツコ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限 木曜6限

特記事項	自動登録科目
講義の内容	【グローバル化と国際取引規範の変化】 輸送や通信技術の発展により、国境の壁がますます低くなり、人、物、貨幣がより簡単に国を越えて移動する。そして、ますます多くの企業が多国籍企業として事業活動を行っている。その収入がある一国のGDPを上回り、国際的にも多大な経済的影響力を持つ企業も多数出現している。こういったグローバル化が進む中で、貿易や金融、サービスを含むあらゆる分野での国際取引のあり方が変化してきている。そこで、本コースでは、国際取引の歴史の変遷を踏まえながら、近年更に加速するグローバル化に先導された、国際取引の規範の変化を学習。そして、社会の変化と共に生じる、国境を越えた取引や企業活動に関する様々な問題を検証し、その改善法を研究、提案する。
到達目標	－ 国際取引に係わる基本的な枠組みや規範を体系的に理解する。 － 国際取引に纏わって生じる様々な問題を理解、解釈し、その解決方法を提案しうる能力の素地を養う。
講義方法	講義、調査、グループワーク、サブゼミ、討論会を交えて進める。また、適宜、学習◆研究成果をレポートに纏める。期末にはプロジェクト発表、討論会を行う。 参考案： ア. 講義(週1回：(90分×1)×1回×15週＝15コマ) イ. 調査(フィールドワーク：90分×5回＝5コマ) ウ. サブゼミ(90分×20回＝20コマ) エ. プロジェクト発表会(期末90分×5回) 上記は、参考情報であり、実際の内容は、学習・研究の興味や進捗状態により、フレキシブルに行う。
準備学習	My Konanに、受講をするにあたって、事前に目を通しておくべき資料等、連絡事項を掲載しているので、毎回必ずチェックしてから授業に出席すること。
成績評価	プロジェクト(40%)、レポート(20%)、平常点(40%) 平常点は、授業への出席及び、サブゼミ、討論会や授業における発表、議論や質疑応答への貢献度によって総合的に評価する。
講義構成	1. 国際取引概要 2. 国際取引慣行及びルールの歴史的考察 (ア) 近代の成立 (イ) 帝国主義戦争とブロック経済 (ウ) 第二次世界大戦後の国際経済システム 3. グローバル化とは？ 4. 国際機関の役割 5. 企業の多国籍化 6. 通商 7. 金融取引 8. 労働者の移動 9. 情報、サービス、知的財産 10. ガバナンスと公正取引 11. 経済格差 12. 環境問題 13. 人権問題 上記は、参考情報であり、実際の内容は、学習・研究の興味や進捗状態により、フレキシブルに行う。
教科書	教科書：伊藤正直『国際社会のルール2・国際化する経済を学ぶ』（旬報社、2007）
参考書・資料	授業で随時紹介
講義関連事項	「経営学入門」及び「経済学入門」を修得していることが望ましい。 「国際通商」を同時に履修することが望ましい。

授業コード	81N35		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトI (B09)(前)		
担当者名	佐伯邦夫(サエキ クニオ)		
配当年次	2年次	単位数	6

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限 火曜6限
特記事項	自動登録科目		
講義の内容	【売れない商品のリフォーム】 授業のアイデアとしては新製品を空想的に考えさせるのではなく、Yesterday's hero、即ちかつて人気があった商品だが最近目にしなくなった、人気が落ちている商品に注目し、どうすれば再び売れるようになるかを考えます。テーマの設定はグループあるいは個人で設定してもらいます。指導教官と合意の上、最終決定とします。この講義でカバーするのは、市場の変化、競争構造の理解、当該ブランドの現状理解、市場・購買ターゲットのインサイトを理解し、ブランドのリポジジョン、そして具体的な再活性化プログラムを作成することです。講義は、全体で上記の各分野の理解、そしてチーム/個人別に設定したテーマ企業/ブランドへの適用、理解をし、各テーマに指導教官とともに取り組む構成です。成果物は最終プレゼンテーションおよび報告書です。		
到達目標	具体的、かつ親しみある企業/商品を対象として、マーケティングの各ツールやアプローチを実際に使用しながら、ブランド戦略を理解し、体現する。 個別の知識に加え、体系的に調査/観察、分析、インサイトの獲得、課題の発見、解決案の構築、プレゼンテーションの作成、実施を一貫して行う。		
講義方法	基本は講義＋グループワークです。90分X3/日 X15回 最初の90分は講義 次の90分はグループワーク 次の90分はグループワークの続行プラス各チーム20分程度で教官と討議 最初の2回：各チーム毎のテーマ、各人の役割を仮決定 最終決定は第4回終了までに 第5回開始までに各チーム毎のロードマップ（達成予定進行表）作成 10回目に授業は各チーム中間発表 15回の270分はプレゼンテーション。全て君達の時間です。 出席は各チーム毎に代表者からレポートして貰います。		
準備学習	特になし		
成績評価	出席、授業態度は前提ですが、評価はチームとしての最終成果物が中心となります。チームとともに、個人としての貢献は評価対象とします。 評価のポイントは； 1. チーム全員での総合力 2. 調査・観察・分析の質 3. アイディアの独自性と最終結論までの一貫性 4. オーディエンス・フレンドリーなプレゼンテーション 5. おもわず買いたくなるような解決案 6. プレゼンテーション/報告書の構成、出来栄 プラス個人の貢献		
講義構成	1回：経営・マーケティング・セリングの違いの理解 2回：競争戦略 3回：市場とターゲット顧客 4回：消費行動、消費者の心理/価値観 5回：ブランドとブランド構築 6回：マーケティングとイノベーション 7回：マーケティングとイノベーション（2） 8回：ビジョン・プロミス・戦略 9回：リポジジョンおよびその成功事例 10回：マーケティングツール 11回：マーケティングツール（2） 12回：市場・消費者・コミュニケーションパラダイムの変化 13回：マスからセグメント、そしてOne2Oneへ 14回：ストラテジック・マーケティングとは		

	を最初の90分で講義
教科書	舞い時間教官が教材は用意します。
参考書・資料	マーケティング10の大罪(フィリップ・コトラー著 東洋経済)

授業コード	81N36		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトI (B13)(通年隔週)		
担当者名	中村聡一(ナカムラ ソウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限 木曜5限 木曜6限)、後期(木曜4限 木曜5限 木曜6限)
特記事項	自動登録科目、隔週開講		

講義の内容	【経営者研究・市場で闘う人たち】 経済・経営ジャンルの実践者思想の研究プロジェクト。		
到達目標	ビジネス経済のソフトな部分にスポットをあて、素養を高めていく		
講義方法	経営者の方々の考え方や人となりに触れたり、自分たちでそうした方々へのヒアリングや講演会などを企画しつつ、成果物としてDVD映像資料を作成する。第一線の経営の場での経験を持つ甲南OBの方々にご協力を仰ぐ予定である。		
準備学習	基礎リテラシー		
成績評価	プロジェクトへの貢献具合や学習態度により総合的に判断する		
講義構成	授業初日にオリエンテーションを行う		
教科書	適宜、参考書籍や資料を配布するが、独自の調査や資料収集が基本		
講義関連事項	通年(前期・後期)を隔週で開講するため、講義日程を確認し履修すること。		

授業コード	81N41		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトII (B52)(後)		
担当者名	井上 明(イノウエ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 月曜5限 月曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【ケータイ・コンテンツの企画と開発】 目的:我が国では、2006年を境に、携帯電話等の移動端末からのインターネット利用者が、パソコンからのネット利用者を超えている。 このプロジェクトでは、インターネットの最大の利用環境となった携帯電話など移動端末をターゲットとしたWebコンテンツの企画・開発を行う。 ケータイ・WebコンテンツとPCのWebコンテンツの違い、利用者層、利用シーンの相違、などの現状調査から始まり、ユーザの利用が確実に見込めるケータイコンテンツの企画・開発を行う。 ここで企画、開発されたケータイ・コンテンツは、ケータイコンテンツ開発企業への企画提案を予定している。 学習内容:ケータイコンテンツ設計法、Webサービス設計		
到達目標	PC向けWebサービスと携帯向けWebサービスの違いを理解する。また、それぞれに適したWebサービスを企画・提案できる。		
講義方法	講義と演習		
準備学習	現在どのようなWebサービスがあるか興味を持って調べておくこと		
成績評価	出席、課題、成果物、プレゼンを総合的に評価する		
講義構成	ア. 講義(週1回:(90分×2)×1回×15週=30コマ)		

	イ. 演習(90分×6回＝6コマ) ウ. サブゼミ(90分×4回＝4コマ) エ. プロジェクト発表会(期末90分×5回)
教科書	教科書は用いない。授業の中で参考図書を指示する。
講義関連事項	毎回必ずノートパソコンを持参すること。

授業コード	81N42		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトII (B81)(後)		
担当者名	松谷年郎(マツタニ トシオ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 月曜5限 月曜6限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	随時アポイントメントによる。		

講義の内容	【ファッションビジネス経営戦略】 ファッションビジネスが“生活文化提案産業”と言われるのは、単にモノを売るのではなく、ライフスタイルを提案し、ビジネスにつなげることにあります。そして、それを実践するための商品やサービスを提供することです。当然、このライフスタイルは時代ごとに変化するものであり、変化があるからビジネス・チャンスが生まれ、商業が成り立ち、工業が成り立ちます。 そしてファッションビジネスの醍醐味は「商」(ビジネス)、「工」(テクノロジー)、及び「創」(デザイン・クリエイション・感性)という重要な3つの要素のバランスを取りながらマネジメントして行く事です。 この講義では現在のファッションビジネスを取り巻く急激な環境の変化の中で生き残り、成長している企業の経営戦略を実証的に検証し、さらに進化していくための新しいビジネスモデルの企画立案を、現役の経営者である講師の指導でシミュレーションすることにより、より深く、より現実的に研究します。 さらに講義内容に合わせ、実践で活躍している専門分野に詳しい数名のゲストスピーカーを招聘し、理論が実践でいかに生かされているかを理解します。
到達目標	1)ファッションビジネス構造の現状を理解することが出来る。 2)経営戦略理論を使ってファッションビジネス企業の経営戦略を、企業が出している資料等や文献から分析できるようになる。 3)ファッションビジネス企業の戦略をマーケットリサーチすることにより分析できるようになる。 4)上記分析結果を下に新しいビジネスモデルを作成できるようになる。
講義方法	このプロジェクトは3段階のステップに分けます。ステップ1では主にファッションビジネスの構造を学びますが、ステップ2、ステップ3では講師の指導の下、学生自らが街に出て既存及び新しいビジネスモデルのマーケットリサーチをします。このマーケットリサーチをもとに、独自のビジネスモデル作成を試みます。ビジネスモデルにはマーケティング戦略、マーチャンダイジング戦略、財務戦略、組織人事戦略等を含みます。 90分×3コマ×15回(グループワークが基本、都度グループ発表&レポート提出、最終個人レポート提出の予定)
準備学習	「経営学入門」を修得していること。 「経営戦略の手法Ⅱ」、「企業と経営Ⅰ」を同時に、または履修していることが望ましい。
成績評価	授業出席率・参加率 :30% プレゼンテーション及びレポート提出:70%
講義構成	第1講 ・オリエンテーション ・ファッションビジネスの構造① 第2講 ・ファッションビジネスの構造② 第3講 ・ファッションビジネスの構造③ ・経営戦略の理論(戦略策定プロセス)① 第4講 ・経営戦略の理論(経営戦略プロセス)② 第5～8講

	・本講義で使用する企業経営戦略リサーチの方法 ・経営戦略リサーチ(企業1) ・経営戦略リサーチ結果発表(企業1) ・マーケットリサーチ(企業1) ・マーケットリサーチ結果発表(企業1) 第9～10講 ・経営戦略・マーケットリサーチ(企業2) ・経営戦略・マーケットリサーチ結果発表(企業2) 第11～12講 ・経営戦略・マーケットリサーチ(企業3) ・経営戦略・マーケットリサーチ結果発表(企業3) 第13～14講 ・新ビジネスモデル作成の手法 ・新ビジネスモデル作成 第15講 ・新ビジネスモデル提案・発表 * 講義スケジュールは授業の進み具合により変更されることがあります。
教科書	未定
参考書・資料	IFIビジネススクール「ファッションビジネスの構造」
講義関連事項	特になし。

担当者から一言	このプロジェクトで大切なことは、学生自ら考え、自ら生み出す努力をすることです。講師は学生のそれらのプロセスを応援し一緒に考えます。
その他	応募時に志望理由書を提出すること。

授業コード	81N43		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトII (B56)(後)		
担当者名	桐畑哲也(キリハタ テツヤ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 月曜5限 月曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【知的財産の基礎】 企業経営における知的な創作物である知的財産の果たすべき機能について、学ぶ。受講生が、知的な創作物である知的財産を適正に評価でき、且、自ら知的創造活動ができるビジネスパーソンとなるための基礎力の養成を目的とする。 講義は、経営者による講義及び受講生を交えたディスカッション、さらには、受講生のグループディスカッションをベースとした演習形式とする。 また、フィールドワークも受講生の希望に基づき実施。知的財産セミナー、インタビュー、また、他教育機関の教育プログラムへの参加、連携等を想定している。 講義目的、教授法については、上記方針でフィックスするが、講義で取り上げるコンテンツについては、外部の連携先の意向、受講生の希望によりフレキシブルに変更する。
到達目標	企業経営における知的な創作物である知的財産の果たすべき機能について、学ぶ。受講生が、知的な創作物である知的財産を適正に評価でき、且、自ら知的創造活動ができるビジネスパーソンとなるための基礎力の養成を目的とする。
講義方法	講義は、経営者による講義及び受講生を交えたディスカッション、さらには、受講生のグループディスカッションをベースとした演習形式とする。
準備学習	特になし。
成績評価	出席、報告、レポート、さらに、グループディスカッション等での貢献を総合的に判断する。
講義構成	(1)演習(週1回:(90分×2)×1回×15週=30コマ) (2)フィールドワーク(90分×15回=15コマ)
教科書	経済産業省 特許庁編(2009)『産業財産権標準テキスト』

	※全員に、初回時、配布する。
参考書・資料	クラスで、随時指示する。
講義関連事項	予備知識は必要としないが、知的財産(知的な創造物)に強い関心を有していること。 また、講義、フィールドワークにおける積極的な発言、関与を必須とする。

授業コード	81N44		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトII (B53)(後)		
担当者名	林美玉(イム ミオク)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限 月曜5限 月曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【マーケティング・リサーチ】 本プロジェクトでは、企業のマーケティング戦略立案の前過程であるマーケティング・リサーチの理論の実習を扱う。マーケティング・リサーチとは、マーケティング戦略立案に役立つ情報を提供するためのすべての情報を含むが、とりわけ、市場、消費者の意識と行動を理解するためのマーケティング・リサーチの理論を学ぶとともに、コンピュータ実習を通じて、入門レベルの情報収集・加工・分析を経験してもらう。
到達目標	本プロジェクトでは、マーケティング・リサーチでよく用いられる代表的な統計解析の基本的な考え方と適用方法を習得する。
講義方法	90分×2コマ×15回 講義・演習／90分×1コマ×10回 調査／発表会
準備学習	マーケティングおよび統計学の基本知識が求められるため、「リサーチスキルIV」「」の予習・復習を心掛けること。
成績評価	出席日数2/3以上の学生を評価の対象とする。平常点(積極性、グループワークへの参加など)を40%、レポート・プレゼンを40%、出席を20%のウエイトで評価する。
講義構成	授業では、統計解析の理論や基本的な考え方を講義した上で、ExcelおよびSPSSを用いた演習を通じて各手法の適用方法についても理解を深める。最後に、実際の調査データを分析し、レポートを作成する。 第1回:ガイダンス、グループ分け 第2回:テーマの選定、調査問題の検討 第3回:仮説の構成、調査企画の立案 第4回:調査票の作成、標本抽出の方法 第5回:調査の実施 第6回:相関分析の考え方と実際 第7回:重回帰分析の考え方と実際(1):最小2乗法と決定係数 第8回:重回帰分析の考え方と実際(2):回帰モデルの仮説検定 第9回:因子分析の考え方と実際 第10回:分散分析の考え方と実際 第11回:調査データを用いた分析(1) 第12回:調査データを用いた分析(2) 第13回:レポートの作成(1) 第14回:レポートの作成(2) 第15回:総括
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	高田博和ら(2008)、『マーケティングリサーチ入門』、PHP研究所。 酒井隆(2004)、『マーケティングリサーチハンドブックーリサーチ理論・実務手順から需要予測・統計解析まで』、日本能率協会マネジメントセンター。
講義関連事項	「リサーチスキルIV」を履修することが望ましい。 マーケティングおよび統計学についての基礎知識があることが望ましい。

授業コード	81N45
-------	-------

授業科目名	ビジネス研究プロジェクトII (B58)(後)		
担当者名	高永才(コウ ヨンゼ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限 火曜6限
特記事項	自動登録科目		
オフィスアワー	火曜日 11:00～13:30 事前に訪問することを申し出ること		

講義の内容	【『イノベーション・マネジメントの理論と実践』から学ぶ経営】 目的:イノベーションとは何か、企業がイノベーションを起こし企業の成長に結びつけるプロセスにおいて考慮すべき要素とは？これらの問いに対する解を戦略論・組織論をベースに事例を交えて議論する。
到達目標	世の中に存在する様々なイノベーションがどのようなプロセスを経て具現化されたのか、さらに、それらが我々の生活にどのような影響を与えているのかを学習する。 これらの内容を学ぶことで、将来関わるであろう、ものづくりや企業経営、企業管理の分野の内容とそれらの仕事が生社会的に与える影響を理解するベースを提供することを目的とする。
講義方法	(1)『イノベーション・マネジメント入門』(仮)をテキストとして輪読 毎回レジュメ: 要旨および疑問・論点(A4用紙1~2枚で提出)を課す。 (2)事例を調査することで理論の必要性和実践における課題を理解する。 注】初回の授業時に詳細な内容を説明する予定である。
準備学習	経営組織論、戦略論に関連する基本的な知識を必要とする。 (自主学習でも良い)
成績評価	出席、課題、授業態度を持って総合評価する。 具体的な内容は、初回の授業時に提示する。
講義構成	90分×2コマ×15回 輪読 90分×1コマ×15回 事例調査・フィールドワーク・分析 【テキストの構成:授業予定の章のみ記述】 第1章イノベーション・マネジメントとは 第2章イノベーションの歴史 第3章イノベーションのパターン 第4章イノベーションと企業の栄枯盛衰 第5章イノベーションと企業戦略 第6章新製品開発のマネジメント 第7章イノベーションと企業間システム 第8章創造的技術者の理論とパーソナリティ 第9章イノベーションご熟練 第10章イノベーションと経済発展 第11章技術政策 第12章知的財産権とイノベーション
教科書	『イノベーションマネジメント入門』一橋大学イノベーション研究センター著
講義関連事項	「経営学入門」、「経済学入門」のいずれかが「良」以上であること。 「経営戦略の手法Ⅰ」、「経営戦略の手法Ⅱ」、「企業と経営Ⅰ」、「企業と経営Ⅱ」、「企業と経営Ⅲ」、「教養実践Ⅱ」を履修するなど、経営戦略・組織論に対する基礎的知識があることが望ましい(自主学習でも良い)。

授業コード	81N46		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトII (B51)(後)		
担当者名	新井康平(アライ コウヘイ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限 火曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	モチベーション、キャリア、コミットメント、そして心理的契約。このプロジェクトでは、企業の中で管理者以上になることを想定している学生に対して、組織内で発生する心理学的、人間的な問題をとりあげ、その理解を深めることを目的としている。具体的には、モチベーション、キャリア、コミットメント、そして心理的契約、といった概念をとりあげ、それらが組織内のどのような状況で個人的に問題となり、組織にどのような帰結をもたらすのかを明らかにする
到達目標	学生は、このプロジェクトを履修することにより、次のような場面で役立つ能力を身につけることが出来るだろう。 1. 自身が、組織などに入社してから直面する心理学的な事象を、理論的に理解出来る。 2. 将来、企業を管理する側にたった際に発生すると予想される問題に対処可能になる。
講義方法	プロジェクトは、レクチャーとフィールドワーク、そして招待講演などで進める。心理学的な分析には統計学の知識が不可欠なので、その分析のために無料統計ソフトの「R」を利用するため、毎回PCを持参する必要がある。
準備学習	教科書の該当部分の読了を毎週準備学習として指示する。また、フィールド調査、実験、アンケートなどを課題として指示することがある。
成績評価	単位取得レポートの内容により成績をつける。 なお、単位取得レポートは、フィールド調査、実験、アンケート調査のいずれかの統計的な分析方法を含んでいることを条件とする。
講義構成	モチベーション、コミットメント、キャリア、心理的契約といったテーマごとに、教科書の輪読および実習をくりかえす。およそ一月ごとにテーマが変わる予定である。
教科書	スティーブン・ロビンズ『【新版】組織行動のマネジメント―入門から実践へ』ダイヤモンド社。 緒賀郷志『RIによる心理・調査データ解析』東京書籍。
講義関連事項	「数学の世界」を履修することが望ましい。

授業コード	81N47		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトII (B59)(後)		
担当者名	佐伯邦夫(サエキ クニオ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限 火曜5限 火曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【スポーツビジネス、スポーツマーケティング】 スポーツはエンターテインメント産業の一翼です。しかもプロスポーツを中心として、試合入場者収入、放送収入以外にその他のマーケティング政策より生まれる収入が価値を増大させるブランドビジネスとなっている。巨人どころか、ヤンキース、それ以上にマンチェスター・ユナイテッドがブランドとしての価値をベースに巨大エンタープライズとなっている。米国のスーパーボウル、ワールドシリーズ、ゴルフのマスターズ、そしてワールドカップはその視聴人口も全世界にわたり、大きな収入を上げる。 かつてのスポーツ、特にプロスポーツは媒体社を中心に本業への広告等であればよい、という認識が日本にはあった。サッポロに日本ハム、新潟のある美レックス等地域のコミュニティに根ざして事業として成立するスポーツが日本においても生まれつつある。このスポーツビジネス、スポーツマーケティングを新たな事業機会として実証的に勉強する。
到達目標	日ごろ親しみ、TVあるいはスタジアム等で観戦しているエンターテインメントとしてのスポーツが、単に入場収入だけではなく、多くの収益機会を可能とし、事業としても成り立ちうる点、そしてそのビジネスモデルを理解する。
講義方法	スポーツビジネスを選手側からでなく、企業として、あるいは行政の面から理解する視点に立つ。 オリンピックは、国家の威信というよりは、LA大会以降巨大グローバルスポンサーの関わるビジネスになったかもしれない。オリンピック、ワールドカップ等の国際競技大会、あるいはプロスポーツのビジネスとしての側面を研究し、さらに自分たちでさらに詳細な実態を調べ発表する。 初期は講義中心。中期以降はグループに分け、スポーツのビジネス的側面を自ら調べ、問題点/懸念材料と機会、そして自分たちなら、の戦略を討議し発表する。
準備学習	特に無し。自分が研究したい、あるいは興味のある分野、あるいはチームに関する基礎知識を事前に整理しておく。
成績評価	出席、授業態度は前提ですが、評価は個人及び チームとしての最終成果物が中心となります。チームとともに、個人としての貢献は評価対象とします。 評価 のポイントは;

	1. チーム全員での総合力 2. 調査・観察・分析の質 3. 分析・見解の独自性と最終結論までの一貫性 4. プレゼンテーション/報告書の構成、出来栄え プラス個人の貢献
講義構成	スポーツビジネスを日本、米国(野球、ゴルフ)、世界市場(サッカー)、米国(アメフト、バスケットボール、ホッケー等)の中で、入場料収入と放映権、グッズ、肖像権、ロイヤリティ等の実態、どこにビジネスチャンスがあるか、どのようなマーケティングを実施しているかを学習。 1回目: 90分×2コマ:講義全体の構成、授業での達成目標等のガイダンス 90分:チーム別テーマ及びチーム編成の相談 2回目:プロスポーツのエボリューション1(180分) 各チーム別テーマの決定、チーム編成(90分) 3回目:各チームの決定、プロジェクトの目標、ロードマップの作成(270分) 4回目以降初めの90分はスポーツビジネス、スポーツマーケティングの講義(特にMLB,NFL, NHL, NBA等の米国のプロリーグ、マンチェスター・ユナイテッド、米国カレッジフットボール、米国・日本のゴルフトーナメント等を事例に挙げ、それぞれの理念、運営、ビジネスモデル等を考える。ゴルフトーナメント、阪神タイガース等の運営をゲスト講師に講演してもらう予定。) 10回目に途中発表。 最終講義においてチーム別プレゼンテーションを行う。
教科書	参考書は第一回目授業にて案内します。
講義関連事項	授業中の態度、課題提出の有無と内容によっては、授業に参加できない場合があるので注意すること。会計学、特にコストアカウンティングを理解することが前提。

授業コード	81N48		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトII (B54)(後)		
担当者名	大窪敦子(オオクボ アツコ)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限 木曜6限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	【国際取引と環境】 近年、気候変動、オゾン層破壊、砂漠化、生物多様性の損失、海洋汚染、化学物質・有害廃棄物の越境移動等、様々な地球環境問題が深刻化している。こうした地球環境問題は、一国の努力では対応が困難であり、国境を越えた取り組みが必要である。それに対応すべく、各国が環境条約の締結を通して、問題に取り組んでいる。その一方で、地球環境問題は、企業活動を含む幅広い経済活動に深く関係しており、世界貿易機関(WTO)やカーボン取引をはじめとする、国際取引・通商の環境保護に対する関わりが注目されている。そこで本コースでは、様々な環境問題に対する世界的な取り組みと、そこに関わる国際取引の役割を検証、提案する。
到達目標	- 企業活動を含む、国際経済活動と環境とのかかわりを理解する。 - 民間の参加を含めた、環境問題に対する世界的な取り組みとシステムを理解する。 - 国際取引に纏わって生じる環境問題を理解、解釈し、その解決方法を提案しうる能力の素地を養う。
講義方法	講義、調査、グループワーク、サブゼミ、討論会を交えて進める。また、適宜、学習◆研究成果をレポートに纏める。期末にはプロジェクト発表、討論会を行う。
準備学習	My Konanに、受講をするにあたって、事前に目を通しておくべき資料等、連絡事項を掲載しているので、毎回必ずチェックしてから授業に出席すること。
成績評価	プロジェクト(35%)、レポート(25%)、平常点(40%) 平常点は、授業への出席及び、サブゼミ、討論会や授業における発表、議論や質疑応答への貢献度によって総合的に評価する。
講義構成	1. 国際的枠組み概略 3. 企業の責任と国家の責任 4. 予防原則的アプローチ 5. 技術開発の普及、促進 6. 環境と貿易 7. 環境と投資 8. 海洋汚染

	9. 大気汚染 10. 化学物質・有害廃棄物の越境移動 11. 気候変動(1):温室効果ガス排出削減 12. 気候変動(2):カーボン取引 13. 生物多様性の保全 14. 遺伝子組み換え作物 15. 総括 参考案: ア. 講義(週1回:(90分×1)×1回×15週=15コマ) イ. 調査(フィールドワーク:90分×5回=5コマ) ウ. サブゼミ(90分×20回=20コマ;太田先生に温室効果ガスの排出に関する定量的解説などについての、特別サブゼミを依頼予定) エ. プロジェクト発表会(期末90分×5回) 上記は、参考情報であり、実際の内容は、学習・研究の興味や進捗状態により、フレキシブルに行う。
教科書	後日連絡する。
参考書・資料	随時、授業で紹介する。
講義関連事項	「経営学入門」及び「経済学入門」を修得していることが望ましい。 「地球環境政策」、「国際通商」、及び「国際協力と開発」を修得、または同時に履修することが望ましい。

授業コード	81N50		
授業科目名	ビジネス研究プロジェクトII (B93)(後)		
担当者名	林美玉(イム ミオク)		
配当年次	2年次	単位数	6
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録科目、変則日程		

講義の内容	【商品企画プロジェクト】 各グループをある業界への新規参入を目指すベンチャー企業として位置づけ、その新製品開発における商品企画のプロセスを経験してもらう。 業界調査やSTP、MMなどを通じて実際の製品を具現化することを目指す。
到達目標	マーケティング論の基本的なフレームに沿って、マーケティング戦略(ビジネスプラン)を立案する。
講義方法	90分×1コマ×30回／夏期集中(コンペのプレゼン準備)／10月のコンペ本選
準備学習	次回の授業に必要な情報をインターネット、雑誌、新聞やテレビなどを用いて収集しておく。
成績評価	出席日数2/3以上の学生を評価の対象とする。平常点(積極性、グループワークへの参加など)を40%、レポート・プレゼンを40%、出席を20%のウエイトで評価する。
講義構成	2年次後期:商品カテゴリーを選定し、業界分析を徹底する。 第1回:ガイダンス 第2回:商品カテゴリーの選定 第3-5回:市場分析(PLC) 第5-7回:競合分析／市場地位の類型 第8-10回:顧客分析／市場細分化／STP 第11-13回:自社分析／SWOT分析 第14-15回:業界分析の発表会 3年次前期:業界分析に基づき、商品の企画を立案し、各自ポートフォリオ作成する。 第16回:ガイダンス 第17-19回:商品コンセプト(プロダクトコーン理論) 第20-25回:マーケティング・ミックス戦略 第26-28回:企画書の作成 第29-30回:企画書の発表会
教科書	特に指定しない。
参考書・資料	和田 充夫、三浦 俊彦、恩蔵 直人(2006)、『マーケティング戦略』、有斐閣。 沼上幹(2008)、『わかりやすいマーケティング戦略 新版』、有斐閣。

	フィリップ・コトラー、ケビン・レーン ケラー (2008)、『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 第12版』、Pearson Education Japan for JP。
講義関連事項	・外部コンペへの挑戦を目標とするプロジェクト。 ・特別留学コース学生は、3年次後期から4年次前期に履修することができる。 ・変則日程であるため講義日程を確認し履修すること。

授業コード	81068		
授業科目名	ビジネススキルI (前)		
担当者名	井上 明(イノウエ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限

講義の内容	与えられた問題を変数などで表現でき、代数方程式、微分、積分、確率論などの基礎をもとにして解決していく訓練をする。また、多変量データ解析の基本的な処方、すなわち、極値問題としてのラグランジュ未定定数法や変分法、回帰分析、主成分分析、因子分析など、経営工学に必要な基本スキルを修得する。
到達目標	SPSSを利用して、重回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析などが行える
講義方法	講義と演習
準備学習	特に必要ない
成績評価	授業中の課題、および最終課題によって評価する
講義構成	1.SPSSを使ってみる 2.平均値、分散、標準偏差 3.共分散と相関係数 4.回帰分析(1) 5.回帰分析(2) 6.判別分析 7.中間テスト 8.クラスター分析(1) 9.クラスター分析(2) 10.因子分析(1) 11.因子分析(1) 12.主成分分析(1) 13.主成分分析(2) 14.仮説検定 15.最終課題
教科書	内藤統也、秋川卓也、「文系のためのSPSS超入門」、プレアデス出版、2007年、1600円。 ISBN978-4-903814-03-2

授業コード	81069		
授業科目名	ビジネススキルII (後)		
担当者名	MILLER(ミラー リチャード)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限

講義の内容	Advanced Business The aim of this course is to develop a broad range of practical skills that can be used in various business settings. Emphasis will be placed on organizational strategies, negotiation strategies, presentation in business contexts, face-to-face interaction as well as web-based communication. The training addresses four broad themes: (1) communication, (2) planning, (3) productivity, and (4) creativity.
到達目標	Upon completion of this course, students will demonstrate the ability to: - effectively communicate their ideas and opinions in a variety of face-to-face and online business settings,

	– organize and plan projects at both the macro and micro level, – implement a variety of strategies in time management, personal and team productivity, and leadership, – express creativity at a variety of levels.
講義方法	Each meeting will include a combination of the following: (1) a short lecture on a specific business-related topic, (2) focused practice on specific communication skills, (3) case study highlighting specific strategies and/or skills, (4) a communicative exercise in pairs or small groups, and (5) problem-based activity with presentation of findings.
準備学習	Students should be able to read somewhat fluently in English. Students should also be able to construct cohesive paragraphs with a clearly identifiable topic sentence. Students are required to submit all homework and other assignments on time. Contact your instructor regarding make up for any missed classes (excused or unexcused).
成績評価	Evaluation will be based on classroom participation (20%), reading assignments (20%), mini quizzes (20%), a learning portfolio (20%) and a research project (20%).
講義構成	Week 1 Introduction to communications and persuasion, planning business messages Week 2 Persuasive communication styles, writing routine and positive messages Week 3 Written persuasive communications, e-mail and business correspondence Week 4 Case Study 1 Problems with communications in the workplace and solving the problems, Week 5 communicating inter-culturally Week 6 Problem solving cases given. Week 7 Persuading the audience through speeches/presentations Week 8 Speech/Presentation Skills 1 Week 9 Speech/Presentation Skills 2 Week 10 Class Presentations Week 11 Case Study 2 (Business Start-ups) Business Plans 1 Week 12 Business Plans 2 and resume writing Week 13 Negotiation/non-verbal communication skills Week 14 Telephone and other communications business skills Week 15 Final Project
教科書	Materials will be provided by the instructor.
講義関連事項	Students are expected to attend all class meetings and arrive on time. In the event of absence, e-mail your instructor in advance and arrange for make-up work. Each absence (unexcused or excused) that is not made up will result in a lowering of your grade by 2 points. Five or more unexcused absences will result in no credit. This and all CUBE English courses have a zero-tolerance policy on plagiarism (copying of others work). Any assignment that is judged to have been copied will be graded as zero. Repeat offenses will result in no credit.

授業コード	81070		
授業科目名	ビジネススキルⅢ(後)		
担当者名	新井康平(アライ コウヘイ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	水曜日の3限相当の時間をオフィスアワーとする。		

講義の内容	会計は、自然言語(日本語や英語)、人工言語(情報処理/プログラミング言語)に次ぐ、ビジネスにおける3番目の言語である。この講義では、会計言語を用いて企業のマネジメントを行うための基本的な知識を習得するための講義及び訓練を行う。
到達目標	将来的に管理者になった際に、 1. 適切な被管理者の評価をするための計算方法を理解する 2. その計算結果がもたらす経済的・行動的帰結を理解する ことが出来る人材となること。
講義方法	履修者がおおよそ14名以下の場合: 輪読形式をとり、割り当てられた章の報告及び討論を行う。

	履修者が15名以上の場合: 講義形式をとる。講義の後半はケースを用いた事例分析を行う。
準備学習	教科書の該当部分の読了。 特に、理解出来た部分と出来なかった部分を峻別してくることが望まれる。
成績評価	講義の参加度合い(演習結果、議論など):60点 レポート:20点×2 なお、如何なる理由であれ、欠席が5回以上となったものは、成績評価の対象とならない。遅刻は、欠席の半分とカウントする。
講義構成	1. 管理会計の意義と問題:人間を計算可能にして統治すること 2. 戦略遂行の数理システム:戦略を視覚化し、実施すること 3. 財務情報の分析方法:数字の背景を読み取ること 4. 短期利益計画の設計:費用・生産量・利益の線形関係 5. 予算による管理:管理可能な責任を負わせるということ 6. キャッシュフロー管理の技法:倒産を防ぐために資金を管理すること 7. 差額原価・収益の計算と分析と是正活動:意思決定局面において財務・非財務情報を計算すること 8. 投資決定:投資を決定するために財務・非財務情報を計算すること 9. 活動基準の会計技法:活動基準原価計算、活動基準原価管理、そして活動基準予算管理を実施すること 10. 生産管理のための会計情報:生産や在庫の管理において財務情報はどのような機能と副作用を持っているのか 11. 原価維持・原価企画:原価を過去の行為の結果ではなく、目指すべきものとして考えること 12. 品質管理会計:品質のシグナルとしての財務・非財務情報 13. グループ経営および分権的組織の業績評価:事業部制やカンパニー制を管理すること 14. 環境と経営を見越した管理会計技法:マテリアルフローコスト会計を実践すること 15. マネジメントコントロールのための管理会計:人間を計算可能にすることとはどのようなことだったか
教科書	管理会計—価値創出をめざして:上埜 進 スタンダード管理会計:清水孝、長谷川恵一、小林啓孝、伊藤嘉博 エッセンシャル管理会計:谷武幸 エキサイティング管理会計:小林啓孝 上記4冊のテキストのうちから1冊をテキストとして選出する。履修者の状況を勘案して、初回の講義の際にテキストを決定するので、テキストの持参は2回目からで良い。
参考書・資料	問題集としては、新井も著者として参加している、 インサイト管理会計:加登豊編 を参考にあげておく。ただし、講義において購入する必要は全くない。
講義関連事項	実際の工場や店舗でどのように財務・非財務情報が扱われているのかを明らかにするため、フィールドスタディを行う可能性があることを了承しておいて欲しい。なお、前後の時間に影響が出るため、フィールドスタディへの参加は義務ではない。
担当者から一言	会計とは、この社会や組織、そして個人を計算可能にするための技術です。マネジメントの本質でもある「測定出来ないものは、管理出来ない」という状況は、まだまだ皆さんの経験からは「遠い」もののように感じるかもしれませんが、この講義でその本質の一端にでも触れることが出来ればと考えています。

授業コード	81071		
授業科目名	ビジネススキルⅣ(後)		
担当者名	根岸 哲(ネギシ アキラ)、冷水登紀代(シミズ トキヨ)、北村 真(キタムラ マコト)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜6限
講義の内容	ビジネスと法とは、日常的に、不即不離の関係にある。ビジネスに関わる者がどのように法と関わるのか、その関わり方と法的な考え方の基本について、具体的な諸事例を通じて明らかにする。		
到達目標	ビジネスに関わる者が身につけるべき法的な考え方の基本を理解することを到達目標とする。		
講義方法	一方的な講義ではなく、具体的な諸事例について、法的でない考え方も法的な考え方も含めて、受講生と相互		

	に議論しながら検討する方法による。
準備学習	取り上げる具体的な事例について、あらかじめ、法的でない考え方も法的な考え方も含めて、各自の考え方をある程度まとめておく。
成績評価	期末試験の成績のほか、出欠状況、授業態度、授業への参加度などを考慮して評価する。
講義構成	I ビジネスと法律の関わりについて、具体的な事例や状況を設定して、その場で考えてもらう(北村)。 1 法律とは何か! 身の回りにある問題について法律はどのように関わっているのか。ステレオを買った。バイトに行った。交通事故に遭った。ネットのオークションでモノを買った。このような身近な問題に法律はどのように関わっているのか、そして、法律はどのような解決の道筋を立てているのか、考えてみよう。 2 事業を始めよう! 自分が事業を始めようとしたとき、どんな問題が出てくるか。何か商売を始める。どんな商売を始めるか。まず、何をしなければならないか。個人であるのと会社(企業)であるのとではどのように違うか。そもそも会社とは何なのか。会社を設立してみよう。 3 ビジネスを始めた(1) 会社を設立してビジネスを始めた。様々な問題が生じる。どう対応したらよいのか。契約とは何か。契約はいつ成立するのか。約束したモノが届かない。壊れていた。違うモノだった。お金を払ってくれない。お金を払いたくない。お金が足りない。お金の支払いを待ってもらえないか。クレームが来た。さあ、どのように対応するか。 4 ビジネスを始めた(2) トラブルは次から次へと起こってくる。どうしよう。給料の支払いが遅れそう。従業員がケガをした。従業員が行方不明になった。売掛金が回収できない。取引先が倒産した。売った商品に欠陥があることが分かった。売上ノルマが課せられた。売れ残った商品を何とか売りたい。赤字会社では銀行は融資してくれない。セクハラだ! どうしよう。 5 ついに会社が倒産した! 会社が倒産することになった。どんな問題が起こってくるか。債権者が来た。在庫商品がある。未回収の売掛金がある。どのような手続をとったらよい。未払給料がある。保証人になっていた。どうしたらよい。 II ある消費者が企業と取引した場合に生じる法的問題を考える(冷水)。 6 売買契約と特定商取引法・割賦販売法 あるモノを購入して、「こんなモノいなかった。」と後悔したことはないか。百貨店でモノを購入した場合と通信販売・訪問販売などでモノを購入した場合とでは、その後の対応に違いが出てくる。それはなぜかを含めて、それぞれみてみよう。 7 錯誤・詐欺・強迫と消費者契約法 本当は1万円の価値もしないモノを店員に勧められるままに10万円で購入してしまった。民法上の錯誤・詐欺・強迫と消費者契約法との関係を考えよう。 8 利息に関する法律(民法・商法・利息制限法・出資法) 最近CMなどで聞く「払いすぎた利息は返してもらえないかもしれない。」という一言。なぜ、このようなことが生じるのか。利息に関する諸法規を考えてみよう。 9 不法行為と使用者責任 「OX株式会社」と車体部分に大きく書かれた自動車にはねられた。被害者はどのようなことを求めることができるか。被害者と自動車の運転手や「OX株式会社」との間には、取引関係など法的関係はない。取引活動を行うために多数の従業員を使用する企業は被害者にどのような責任を負うか。 10 瑕疵担保責任、不法行為と製造物責任法 「自宅にある〇〇式の湯沸器を無料で回収します。」こんなCMを見たことある? なぜ、企業は莫大な費用を投じてこのようなことをするのか。販売店、製造元と消費者の間に生じる法的問題を考えてみよう。 III 国際的な企業活動と競争の基本ルールを定める世界の各国競争法とのせめぎ合いを考える(根岸)。 11 マイクロソフトのライセンス戦略と世界各国の競争法との闘い マイクロソフトのライセンス戦略によるパソコン用基本ソフト(ウインドウズ)の独占の維持・拡大に対し、世界各国の競争法(米国反トラスト法(Antitrust Laws)、EU競争法(Competition Law)、日本の独禁法など)は、絶えず

	る闘いを挑んできた。このことは、マイクロソフトの「勲章」でもある。 12 国際カルテルに対する世界各国の競争法の闘い 世界各国の競争法は、カルテルは、消費者の財布からひそかにお金を盗み取る悪質・重大な犯罪であるとして、国際的な価格引き上げカルテル、市場分割カルテル、入札談合に対し、「仲間を売る」ことを奨励して摘発率を高めるとともに、カルテルに関与した個人を刑務所に送り込み、企業を倒産に追い込むほど厳しい制裁を科している。 13 国際的な企業買収による独占化に対する世界各国の競争法の闘い パナソニックによる三洋電機のTOB(株式の公開買付)は、リチウム電池などで世界各国の市場を独占することになるとして、豪英系のBHPビリトンによるリオテイントの株式取得は、鉄鋼原料(鉄鉱石、原料炭)で独占的な価格引き上げをねらうものであるとして、日・米・欧のほか中国、韓国などの各競争当局が厳しい審査を行った。 14 企業による競争法コンプライアンス(compliance)体制整備の必要 日・米・欧を含む100を超える国々が競争法を有しており、国際的な企業活動を展開する上では、競争法コンプライアンス(法令遵守)体制を整備しておくことが不可欠となっている。競争法違反は、企業に巨額の金銭的負担を強いるだけでなく、その社会的信用を失わせ、従業員の一生を左右しかねないからである。 企業の競争法コンプライアンス体制整備においては、企業の法務部および顧問弁護士を含む弁護士の果たす役割は極めて大きい。 15 まとめ 「ビジネススキルⅣ」の全体のまとめ。
教科書	教科書は使用しない。必要に応じて、レジュメ、資料を配付する。
担当者から一言	企業活動と法の関わりについての毎日の報道、記事に関心を持って授業に臨んでほしい。

授業コード	81072		
授業科目名	ビジネススキルⅤ(後)		
担当者名	佐伯邦夫(サエキ クニオ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	企業・団体において経営判断を下す際のカギとなるのは情報の収集と分析である。これをインテリジェンスという。経営・マーケティングは実はインテリジェンスの戦いである。情報は別して、公にされている資料や記事・分析レポート等の収集・分析と、市場や消費者の調査、そして観察等がある。インテリジェンスというと、スパイ活動も意味的には含まれるが、諜報活動はコンプライアンス上行ってはならない。公正な手段で収集した情報を分析し、意思決定への判断材料とする調査の手法を学ぶ。 一般的市場調査とは、市場、顧客のことを理解する手段で、企業がマーケティングを実行する際の土台となる情報となる。定量調査と定性調査に大別し、定量調査は調査票の設計、実査(対面インタビュー、自記入、インターネット調査等の手法)、集計、解析の各ステップを、定性の場合はグループインタビューと深層心理調査の手法を系統的に理解する。実際に演習として、調査を企画、実施、分析することにより、消費者の理解を深めることを講義の目的とする。同時に個人情報、手法としてのインターネット調査への信頼性、それに代わる最近のアプローチ等にも言及したい。
到達目標	今後の授業、そして卒業後企業等で情報の収集、分析、活用を的確に実施できるような意思決定の際の判断のクライテリアの設定、情報収集の目的、情報収集のデザイン、分析手法を学ぶ。 情報収集・分析の目的、手法、分析法等を体系的に理解し、意思決定へどのように生かすかをマーケティング担当者としての立場で理解する。
講義方法	講義中心だが、後半にグループを編成し、課題として調査のプログラムを作成してもらう。 なるべく担当教官が経験してきた事例も混ぜながら、説明ではなく具体的アクションプランとしての情報収集・分析プログラムを体系的に理解してもらう。 市場調査の専門家に講義をお願いする事も考慮。
準備学習	学期の初めに参考となる読本は紹介します。
成績評価	出席、授業態度は前提ですが、評価は個人のクラスへの貢献とチームとしての提出物が中心となります。 評価のポイント: 1. チーム全員での総合力 2. 調査・観察・分析への理解力と質 3. 視点とプログラムの一貫性

	4. /報告書/プログラムの構成、出来栄え プラス個人の貢献と授業期間での進捗度
講義構成	1.意思決定の際の判断のクライテリア 2.情報収集の目的 3.情報収集のデザイン 4.情報分析手法 5. 調査の手法 6. 定量調査と定性調査 7. ターゲットを調べるか、ターゲットから聴くか。 8. データベースマーケティング、CRM,CMR? 9.インテリジェンスの戦い 10. 実践
教科書	無し。資料は教官が準備。

授業コード	81086		
授業科目名	フィールドワークⅡ(集中)		
担当者名	佐藤治正(サトウ ハルマサ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	インターンシップを行った者で、単位修得を希望する者にのみ単位認定を行うので、年度初めの受講登録は不要である。		

講義の内容	海外における活動も視野に入れ、企業・団体・地域社会と連携した直接的な社会体験・就業体験により、社会人としての基本的なマナーや、社会で求められる知識や能力について把握する。
到達目標	働くことの意味や重要性を理解することで、職業意識や就労意識を形成し、自己の適職及びそれに必要な専門的能力を確認するとともに、責任感をもって自ら考え行動する姿勢を培う。
講義方法	事前・事後指導及びインターンシップ(職業体験)
準備学習	フィールドワーク(インターンシップ)ガイダンスに参加し、事前・事後学習を含めたスケジュール等を十分に理解すること。
成績評価	インターンシップを通じて学んだ知識や経験は、インターンシップ活動そのものだけでなく、受け入れ企業等からの報告書及び活動に関するレポートや発表等を総合的に審査し単位認定する。
講義構成	事前研修(1) コンプライアンス 事前研修(2) その他(企業研究・業界研究を授業の中で実施(予定)) 7月～8月 ビジネスマナー講座 インターンシップ実施 事後研修 10月頃 10月中旬 単位申請を西宮キャンパス事務室に提出 11月～12月 報告会を実施、レポート作成(10,000字以上)
教科書	特になし。

授業コード	81087		
授業科目名	フィールドワークⅢ(集中)		
担当者名	佐藤治正(サトウ ハルマサ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	ボランティアを体験した者で、単位修得を希望する者にのみ単位認定を行うので、年度初めの受講登録は不要		

	である。
講義の内容	本講義は、事前・事後指導を含め、一定の期間(時間数)実施するなどの条件を満たし、本学部で認められたボランティア体験に対して、単位を認定する科目である。
到達目標	ボランティアなどの地域活動や地域のイベント等の企画や実施に積極的にに関わり、地域活動への理解と活動を通じ、人と人との結びつきや社会の仕組みに関心を持ち、地域の文化や歴史の理解や、社会や地域貢献の重要性を学び、ボランティアに対する理解と認識を深めることを目的とする。特にキャンパスの所在地である西宮市との連携を積極的に進める予定である。
講義方法	事前・事後指導及びボランティア体験
準備学習	事前・事後学習を含めたスケジュール等を十分に理解すること。
成績評価	ボランティア体験を通じて学んだ知識や経験は、ボランティア体験そのものだけでなく、受け入れ先等からの報告及び活動に関するレポートや発表等を総合的に審査し単位認定する。
講義構成	事前研修 コンプライアンス 7月～8月 ビジネスマナー講座 ボランティア体験 事後研修 10月頃 10月中旬 単位申請を西宮キャンパス事務室に提出 11月～12月 報告会を実施、レポート作成(10,000字以上)
教科書	特になし。

授業コード	81088		
授業科目名	フィールドワークⅣ(集中)		
担当者名	佐藤治正(サトウ ハルマサ)、大窪敦子(オオクボ アツコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	インターンシップおよびボランティアを行った者で、単位修得を希望する者にのみ単位認定を行うので、年度初めの受講登録は不要である。		

講義の内容	フィールドワークⅣは、海外留学中に自らテーマを設定し、留学中の講義とは別に、渡航先の地域・企業研究や歴史・文化の調査をするなどの活動に対して単位を認めるものです。
到達目標	【単位認定用科目】
講義方法	【単位認定用科目】
準備学習	【単位認定用科目】
成績評価	事前・事後の指導及び現地での研究・調査活動を総合的に成績評価します。 フィールドワークの単位認定には、以下の条件を満たさなければなりません。 1)事前・事後を含め120時間以上の指導及び自主活動が実施されること。 2)事前レポート、中間レポート、最終レポート(成果物等を含む)がすべて提出期限までに提出されること。 3)指導担当教員の指導を受け、留学中も指導担当教員へ定期的にE-Mail等で状況を報告し指導を受けること。
講義構成	1)留学2ヶ月前までフィールドワークⅣ申込書を提出 指導担当教員の決定 2)留学1ヶ月前まで 指導担当教員と相談し、研究計画書を作成 3)渡航前1ヶ月事前調査・研究を開始 4)留学直前 事前レポートを提出 5)留学中調査・研究を実施 中間報告日までに中間レポートを提出(E-Mail) ◆留学中もMy KONANを確認すること。 ◆週一回は指導担当教員に状況報告をすること。(E-Mail等) 6)帰国後 1ヶ月以内指導担当教員と相談し、最終レポートを作成

	最終レポートを提出 ◆プレゼンテーションの実施、WEBページの作成などを組み合わせても良い。 7)提出後 単位認定及び成績評価
教科書	【単位認定用科目】

授業コード	81089		
授業科目名	フィールドワークVI (集中)		
担当者名	佐藤治正(サトウ ハルマサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	インターンシップを行った者で、単位修得を希望する者にのみ単位認定を行うので、年度初めの受講登録は不要である。		

講義の内容	海外における活動も視野に入れ、企業・団体・地域社会と連携した直接的な社会体験・就業体験により、社会人としての基本的なマナーや、社会で求められる知識や能力について把握する。		
到達目標	働くことの意味や重要性を理解することで、職業意識や就労意識を形成し、自己の適職及びそれに必要な専門的能力を確認するとともに、責任感をもって自ら考え行動する姿勢を培う。		
講義方法	事前・事後指導及びインターンシップ(職業体験)		
準備学習	フィールドワーク(インターンシップ)ガイダンスに参加し、事前・事後学習を含めたスケジュール等を十分に理解すること。		
成績評価	インターンシップを通じて学んだ知識や経験は、インターンシップ活動そのものだけでなく、受け入れ企業等からの報告書及び活動に関するレポートや発表等を総合的に審査し単位認定する。		
講義構成	インターンシッププログラム (1)4月中旬 インターンシップガイダンス (2)5月中旬 インターンシップ登録書提出 (3)5月下旬 インターンシップ参加申込書提出→面接→選考→決定 (4)6月～7月 事前研修1 心構え 事前研修2 コンプライアンス (5)7月～8月 ビジネスマナー講座 (6)8月～9月 インターンシップ企業等受入研修 (7)10月 インターンシップ事後研修 単位申請 (1)10月中旬 単位申請を西宮キャンパス事務室に提出 (2)11月～12月 報告会を実施、レポート作成(10,000字以上)		
教科書	特になし。		

授業コード	81090		
授業科目名	フィールドワークVII (集中)		
担当者名	佐藤治正(サトウ ハルマサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	ボランティアを体験した者で、単位修得を希望する者にのみ単位認定を行うので、年度初めの受講登録は不要である。		

講義の内容	本講義は、事前・事後指導を含め、一定の期間(時間数)実施するなどの条件を満たし、本学部で認められたボランティア体験に対して、単位を認定する科目である。		
-------	---	--	--

到達目標	ボランティアなどの地域活動や地域のイベント等の企画や実施に積極的にに関わり、地域活動への理解と活動を通じ、人と人との結びつきや社会の仕組みに関心を持ち、地域の文化や歴史の理解や、社会や地域貢献の重要性を学び、ボランティアに対する理解と認識を深めることを目的とする。特にキャンパスの所在地である西宮市との連携を積極的に進める予定である。
講義方法	事前・事後指導及びボランティア体験
準備学習	事前・事後学習を含めたスケジュール等を十分に理解すること。
成績評価	ボランティアを通じて学んだ知識や経験は、ボランティア体験そのものだけでなく、受け入れ先等からの報告及び活動に関するレポートや発表等を総合的に審査し単位認定する。
講義構成	ボランティアプログラム (1)4月中旬 ボランティアガイダンス (2)5月中旬 ボランティア登録書提出 (3)5月下旬 ボランティア団体等に直接エントリーする (4)6月～7月 事前研修1 心構え 事前研修2 コンプライアンス (5)7月～8月 ビジネスマナー講座 (6)8月～9月 ボランティア体験 (7)10月 ボランティア事後研修 単位申請 (1)10月中旬 単位申請を西宮キャンパス事務室に提出 (2)11月～12月 報告会を実施、レポート作成(10,000字以上)
教科書	特になし。

授業コード	81A11		
授業科目名	フレッシュマンセミナー(4～6月)(1クラス)(前)		
担当者名	太田雅久(オオタ マサヒサ)、佐藤治正(サトウ ハルマサ)、佐伯邦夫(サエキ クニオ)、BOYLES(ボイルズ コリン)、中村聡一(ナカムラ ソウイチ)、島本憲一(シマモト ケンイチ)、桐畑哲也(キリハタ テツヤ)、林美玉(イム ミオク)、高永才(コウ ヨンゼ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	「自ら学び共に学ぶ」CUBEにおける学びのスタイルを実践する。
到達目標	毎回、担当する教員が学生の議論・参加しやすいテーマを準備してくるので、与えられたテーマに関し、問題・課題を把握し、自分の考え・意見を整理し、他人と議論を通じよりよい答えに近づく力を育む。
講義方法	原則的に、教員は、毎回、異なるクラスに出向き、自分紹介を兼ねた学びの紹介を行い、併せて用意したテーマ(グループワーク等)で、学生に、考える、自分の意見を言う、他人と議論するといったCUBEスタイルの学びを実践させる。各教員は、自分の専門に近い内容を講義するのではなく、学生が関心を持てるテーマ、議論しやすい内容を準備し、学生が積極的に議論等に参加するよう支援する。
準備学習	特に準備すべきことはないが、積極的授業に参加すること。授業が終わると、Learning Journalを各授業ごと書いてもらうことになります。
成績評価	出席とLearning Journal並びに授業への参加態度等で評価する。レポート等の課題を課すこともある。
講義構成	1回目: クラス担当教員による講義内容、スケジュール等のガイダンス並びに学生同士の自己紹介。 2～10回: 各教員による授業(グループワーク等)。 11回～15回: 担当クラス毎に、学生によるプレゼン、グループワーク等を指導する。
教科書	特になし。

授業コード	81A12
-------	-------

授業科目名	フレッシュマンセミナー (4～6月)(2クラス)(前)		
担当者名	佐伯邦夫(サエキ クニオ)、太田雅久(オオタ マサヒサ)、佐藤治正(サトウ ハルマサ)、BOYLES(ボイルズ コリン)、中村聡一(ナカムラ ソウイチ)、島本憲一(シマモト ケンイチ)、桐畑哲也(キリハタ テツヤ)、林美玉(イム ミオク)、高永才(コウ ヨンゼ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	「自ら学び共に学ぶ」CUBEにおける学びのスタイルを実践する。		
到達目標	毎回、担当する教員が学生の議論・参加しやすいテーマを準備してくるので、与えられたテーマに関し、問題・課題を把握し、自分の考え・意見を整理し、他人と議論を通じよりよい答えに近づく力を育む。		
講義方法	原則的に、教員は、毎回、異なるクラスに出向き、自己紹介を兼ねた学びの紹介を行い、併せて用意したテーマ(グループワーク等)で、学生に、考える、自分の意見を言う、他人と議論するといったCUBEスタイルの学びを実践させる。各教員は、自分の専門に近い内容を講義するのではなく、学生が関心を持てるテーマ、議論しやすい内容を準備し、学生が積極的に議論等に参加するよう支援する。		
準備学習	特に準備すべきことはないが、積極的授業に参加すること。授業が終わると、Learning Journalを各授業ごと書いてもらうことになります。		
成績評価	出席とLearning Journal並びに授業への参加態度等で評価する。レポート等の課題を課すこともある。		
講義構成	1回目:クラス担当教員による講義内容、スケジュール等のガイダンス並びに学生同士の自己紹介。 2～10回:各教員による授業(グループワーク等)。 11回～15回:担当クラス毎に、学生によるプレゼン、グループワーク等を指導する。		
教科書	特になし。		

授業コード	81A13		
授業科目名	フレッシュマンセミナー (4～6月)(3クラス)(前)		
担当者名	BOYLES(ボイルズ コリン)、太田雅久(オオタ マサヒサ)、佐藤治正(サトウ ハルマサ)、佐伯邦夫(サエキ クニオ)、中村聡一(ナカムラ ソウイチ)、島本憲一(シマモト ケンイチ)、桐畑哲也(キリハタ テツヤ)、林美玉(イム ミオク)、高永才(コウ ヨンゼ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	「自ら学び共に学ぶ」CUBEにおける学びのスタイルを実践する。		
到達目標	毎回、担当する教員が学生の議論・参加しやすいテーマを準備してくるので、与えられたテーマに関し、問題・課題を把握し、自分の考え・意見を整理し、他人と議論を通じよりよい答えに近づく力を育む。		
講義方法	原則的に、教員は、毎回、異なるクラスに出向き、自己紹介を兼ねた学びの紹介を行い、併せて用意したテーマ(グループワーク等)で、学生に、考える、自分の意見を言う、他人と議論するといったCUBEスタイルの学びを実践させる。各教員は、自分の専門に近い内容を講義するのではなく、学生が関心を持てるテーマ、議論しやすい内容を準備し、学生が積極的に議論等に参加するよう支援する。		
準備学習	特に準備すべきことはないが、積極的授業に参加すること。授業が終わると、Learning Journalを各授業ごと書いてもらうことになります。		
成績評価	出席とLearning Journal並びに授業への参加態度等で評価する。レポート等の課題を課すこともある。		
講義構成	1回目:クラス担当教員による講義内容、スケジュール等のガイダンス並びに学生同士の自己紹介。 2～10回:各教員による授業(グループワーク等)。 11回～15回:担当クラス毎に、学生によるプレゼン、グループワーク等を指導する。		
教科書	特になし。		

授業コード	81A14
-------	-------

授業科目名	フレッシュマンセミナー (4～6月)(4クラス)(前)		
担当者名	中村聡一(ナカムラ ソウイチ)、太田雅久(オオタ マサヒサ)、佐藤治正(サトウ ハルマサ)、佐伯邦夫(サエキ クニオ)、BOYLES(ボイルズ コリン)、島本憲一(シマモト ケンイチ)、桐畑哲也(キリハタ テツヤ)、林美玉(イム ミオク)、高永才(コウ ヨンゼ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	「自ら学び共に学ぶ」CUBEにおける学びのスタイルを実践する。		
到達目標	毎回、担当する教員が学生の議論・参加しやすいテーマを準備してくるので、与えられたテーマに関し、問題・課題を把握し、自分の考え・意見を整理し、他人と議論を通じよりよい答えに近づく力を育む。		
講義方法	原則的に、教員は、毎回、異なるクラスに出向き、自己紹介を兼ねた学びの紹介を行い、併せて用意したテーマ(グループワーク等)で、学生に、考える、自分の意見を言う、他人と議論するといったCUBEスタイルの学びを実践させる。各教員は、自分の専門に近い内容を講義するのではなく、学生が関心を持てるテーマ、議論しやすい内容を準備し、学生が積極的に議論等に参加するよう支援する。		
準備学習	特に準備すべきことはないが、積極的授業に参加すること。授業が終わると、Learning Journalを各授業ごと書いてもらうことになります。		
成績評価	出席とLearning Journal並びに授業への参加態度等で評価する。レポート等の課題を課すこともある。		
講義構成	1回目:クラス担当教員による講義内容、スケジュール等のガイダンス並びに学生同士の自己紹介。 2～10回:各教員による授業(グループワーク等)。 11回～15回:担当クラス毎に、学生によるプレゼン、グループワーク等を指導する。		
教科書	特になし。		

授業コード	81A15		
授業科目名	フレッシュマンセミナー (4～6月)(5クラス)(前)		
担当者名	桐畑哲也(キリハタ テツヤ)、太田雅久(オオタ マサヒサ)、佐藤治正(サトウ ハルマサ)、佐伯邦夫(サエキ クニオ)、BOYLES(ボイルズ コリン)、中村聡一(ナカムラ ソウイチ)、島本憲一(シマモト ケンイチ)、林美玉(イム ミオク)、高永才(コウ ヨンゼ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	「自ら学び共に学ぶ」CUBEにおける学びのスタイルを実践する。		
到達目標	毎回、担当する教員が学生の議論・参加しやすいテーマを準備してくるので、与えられたテーマに関し、問題・課題を把握し、自分の考え・意見を整理し、他人と議論を通じよりよい答えに近づく力を育む。		
講義方法	原則的に、教員は、毎回、異なるクラスに出向き、自己紹介を兼ねた学びの紹介を行い、併せて用意したテーマ(グループワーク等)で、学生に、考える、自分の意見を言う、他人と議論するといったCUBEスタイルの学びを実践させる。各教員は、自分の専門に近い内容を講義するのではなく、学生が関心を持てるテーマ、議論しやすい内容を準備し、学生が積極的に議論等に参加するよう支援する。		
準備学習	特に準備すべきことはないが、積極的授業に参加すること。授業が終わると、Learning Journalを各授業ごと書いてもらうことになります。		
成績評価	出席とLearning Journal並びに授業への参加態度等で評価する。レポート等の課題を課すこともある。		
講義構成	1回目:クラス担当教員による講義内容、スケジュール等のガイダンス並びに学生同士の自己紹介。 2～10回:各教員による授業(グループワーク等)。 11回～15回:担当クラス毎に、学生によるプレゼン、グループワーク等を指導する。		
教科書	特になし。		

授業コード	81A16
-------	-------

授業科目名	フレッシュマンセミナー (4～6月)(6クラス)(前)		
担当者名	島本憲一(シマモト ケンイチ)、太田雅久(オオタ マサヒサ)、佐藤治正(サトウ ハルマサ)、佐伯邦夫(サエキ クニオ)、BOYLES(ボイルズ コリン)、中村聡一(ナカムラ ソウイチ)、桐畑哲也(キリハタ テツヤ)、林美玉(イム ミオク)、高永才(コウ ヨンゼ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	「自ら学び共に学ぶ」CUBEにおける学びのスタイルを実践する。		
到達目標	毎回、担当する教員が学生の議論・参加しやすいテーマを準備してくるので、与えられたテーマに関し、問題・課題を把握し、自分の考え・意見を整理し、他人と議論を通じよりよい答えに近づく力を育む。		
講義方法	原則的に、教員は、毎回、異なるクラスに出向き、自己紹介を兼ねた学びの紹介を行い、併せて用意したテーマ(グループワーク等)で、学生に、考える、自分の意見を言う、他人と議論するといったCUBEスタイルの学びを実践させる。各教員は、自分の専門に近い内容を講義するのではなく、学生が関心を持てるテーマ、議論しやすい内容を準備し、学生が積極的に議論等に参加するよう支援する。		
準備学習	特に準備すべきことはないが、積極的授業に参加すること。授業が終わると、Learning Journalを各授業ごと書いてもらうことになります。		
成績評価	出席とLearning Journal並びに授業への参加態度等で評価する。レポート等の課題を課すこともある。		
講義構成	1回目:クラス担当教員による講義内容、スケジュール等のガイダンス並びに学生同士の自己紹介。 2～10回:各教員による授業(グループワーク等)。 11回～15回:担当クラス毎に、学生によるプレゼン、グループワーク等を指導する。		
教科書	特になし。		

授業コード	81A17		
授業科目名	フレッシュマンセミナー (4～6月)(7クラス)(前)		
担当者名	林美玉(イム ミオク)、太田雅久(オオタ マサヒサ)、佐藤治正(サトウ ハルマサ)、佐伯邦夫(サエキ クニオ)、BOYLES(ボイルズ コリン)、中村聡一(ナカムラ ソウイチ)、島本憲一(シマモト ケンイチ)、桐畑哲也(キリハタ テツヤ)、高永才(コウ ヨンゼ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	「自ら学び共に学ぶ」CUBEにおける学びのスタイルを実践する。		
到達目標	毎回、担当する教員が学生の議論・参加しやすいテーマを準備してくるので、与えられたテーマに関し、問題・課題を把握し、自分の考え・意見を整理し、他人と議論を通じよりよい答えに近づく力を育む。		
講義方法	原則的に、教員は、毎回、異なるクラスに出向き、自己紹介を兼ねた学びの紹介を行い、併せて用意したテーマ(グループワーク等)で、学生に、考える、自分の意見を言う、他人と議論するといったCUBEスタイルの学びを実践させる。各教員は、自分の専門に近い内容を講義するのではなく、学生が関心を持てるテーマ、議論しやすい内容を準備し、学生が積極的に議論等に参加するよう支援する。		
準備学習	特に準備すべきことはないが、積極的授業に参加すること。授業が終わると、Learning Journalを各授業ごと書いてもらうことになります。		
成績評価	出席とLearning Journal並びに授業への参加態度等で評価する。レポート等の課題を課すこともある。		
講義構成	1回目:クラス担当教員による講義内容、スケジュール等のガイダンス並びに学生同士の自己紹介。 2～10回:各教員による授業(グループワーク等)。 11回～15回:担当クラス毎に、学生によるプレゼン、グループワーク等を指導する。		
教科書	特になし。		

授業コード	81A18
-------	-------

授業科目名	フレッシュマンセミナー (4～6月)(8クラス)(前)		
担当者名	高永才(コウ ヨンゼ)、太田雅久(オオタ マサヒサ)、佐藤治正(サトウ ハルマサ)、佐伯邦夫(サエキ クニオ)、BOYLES(ボイルズ コリン)、中村聡一(ナカムラ ソウイチ)、島本憲一(シマモト ケンイチ)、桐畑哲也(キリハタ テツヤ)、林美玉(イム ミオク)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	「自ら学び共に学ぶ」CUBEにおける学びのスタイルを実践する。
到達目標	毎回、担当する教員が学生の議論・参加しやすいテーマを準備してくるので、与えられたテーマに関し、問題・課題を把握し、自分の考え・意見を整理し、他人と議論を通じよりよい答えに近づく力を育む。
講義方法	原則的に、教員は、毎回、異なるクラスに出向き、自己紹介を兼ねた学びの紹介を行い、併せて用意したテーマ(グループワーク等)で、学生に、考える、自分の意見を言う、他人と議論するといったCUBEスタイルの学びを実践させる。各教員は、自分の専門に近い内容を講義するのではなく、学生が関心を持てるテーマ、議論しやすい内容を準備し、学生が積極的に議論等に参加するよう支援する。
準備学習	特に準備すべきことはないが、積極的授業に参加すること。授業が終わると、Learning Journalを各授業ごと書いてもらうことになります。
成績評価	出席とLearning Journal並びに授業への参加態度等で評価する。レポート等の課題を課すこともある。
講義構成	1回目:クラス担当教員による講義内容、スケジュール等のガイダンス並びに学生同士の自己紹介。 2～10回:各教員による授業(グループワーク等)。 11回～15回:担当クラス毎に、学生によるプレゼン、グループワーク等を指導する。
教科書	特になし。

授業コード	81A19		
授業科目名	フレッシュマンセミナー (4～6月)(9クラス)(前)		
担当者名	佐藤治正(サトウ ハルマサ)、太田雅久(オオタ マサヒサ)、佐伯邦夫(サエキ クニオ)、BOYLES(ボイルズ コリン)、中村聡一(ナカムラ ソウイチ)、島本憲一(シマモト ケンイチ)、桐畑哲也(キリハタ テツヤ)、林美玉(イム ミオク)、高永才(コウ ヨンゼ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限 水曜5限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	「自ら学び共に学ぶ」CUBEにおける学びのスタイルを実践する。
到達目標	毎回、担当する教員が学生の議論・参加しやすいテーマを準備してくるので、与えられたテーマに関し、問題・課題を把握し、自分の考え・意見を整理し、他人と議論を通じよりよい答えに近づく力を育む。
講義方法	原則的に、教員は、毎回、異なるクラスに出向き、自己紹介を兼ねた学びの紹介を行い、併せて用意したテーマ(グループワーク等)で、学生に、考える、自分の意見を言う、他人と議論するといったCUBEスタイルの学びを実践させる。各教員は、自分の専門に近い内容を講義するのではなく、学生が関心を持てるテーマ、議論しやすい内容を準備し、学生が積極的に議論等に参加するよう支援する。
準備学習	特に準備すべきことはないが、積極的授業に参加すること。授業が終わると、Learning Journalを各授業ごと書いてもらうことになります。
成績評価	出席とLearning Journal並びに授業への参加態度等で評価する。レポート等の課題を課すこともある。
講義構成	1回目:クラス担当教員による講義内容、スケジュール等のガイダンス並びに学生同士の自己紹介。 2～10回:各教員による授業(グループワーク等)。 11回～15回:担当クラス毎に、学生によるプレゼン、グループワーク等を指導する。
教科書	特になし。

授業コード	81A20
-------	-------

授業科目名	フレッシュマンセミナー（10クラス）(前)		
担当者名	佐藤治正（サトウ ハルマサ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	「自ら学び共に学ぶ」CUBEにおける学びのスタイルを実践する。		
到達目標	毎回、担当する教員が学生の議論・参加しやすいテーマを準備してくるので、与えられたテーマに関し、問題・課題を把握し、自分の考え・意見を整理し、他人と議論を通じよりよい答えに近づく力を育む。		
講義方法	原則的に、教員は、毎回、異なるクラスに出向き、自己紹介を兼ねた学びの紹介を行い、併せて用意したテーマ（グループワーク等）で、学生に、考える、自分の意見を言う、他人と議論するといったCUBEスタイルの学びを実践させる。各教員は、自分の専門に近い内容を講義するのではなく、学生が関心を持てるテーマ、議論しやすい内容を準備し、学生が積極的に議論等に参加するよう支援する。		
準備学習	特に準備すべきことはないが、積極的授業に参加すること。授業が終わると、Learning Journalを各授業ごと書いてもらうことになります。		
成績評価	出席とLearning Journal並びに授業への参加態度等で評価する。レポート等の課題を課すこともある。		
講義構成	1回目：クラス担当教員による講義内容、スケジュール等のガイダンス並びに学生同士の自己紹介。 2～10回：各教員による授業（グループワーク等）。 11回～15回：担当クラス毎に、学生によるプレゼン、グループワーク等を指導する。		
教科書	特になし。		

授業コード	81038		
授業科目名	文化と歴史（後）		
担当者名	堀 直（ホリ スナオ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	中央ユーラシアの文化と歴史 普遍的な価値基準とされているものも、文化と歴史の所産の一つにしか過ぎない。このことを、農耕や都市といったシステムとは別の文明に基く歴史を展開した中央ユーラシアで検証する。		
到達目標	文化を異にする人々との交流で常に留意すべき「差異の尊重」の必要性を理解し会得する。		
講義方法	講談形式。		
準備学習	予習は不要であるが、指示された参考資料などの閲読が期待される。		
成績評価	主に、期末試験の得点。		
講義構成	第1～3回 環境と文化 ― 農耕と牧畜 ― 第4～6回 文明の発生 ― 文字と都市 ― 第7～9回 文化と歴史 ― 遊牧と軍事 ― 第10～12回 世界史の成立 ― 大砲と帆船 ― 第13～15回 文化と共存 ― 持続可能性の世界 ―		
教科書	指定しない。		
参考書・資料	講義中、適宜指示したり配付する。		
講義関連事項	私語する者、出席するべからず。ノートをとること。		

担当者から一言	質問の沢山出る講義としたい。
---------	----------------

授業コード	81043
-------	-------

授業科目名	法と政治（後）		
担当者名	渡辺 颯修（ワタナベ ギシュウ）、馬場 優（ババ マサル）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
特記事項	変則日程		

講義の内容	広い視野に立って、現代における法律と政治について客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力を涵養する。		
到達目標	【法律部分】 刑法と刑事裁判を材料にして、「法の考え方」を学ぶ。例えば、殺意とはなにか、責任能力とはなにかなど。また、裁判員裁判の意味も模擬裁判を通じて考える。 【政治部分】 政治学の基礎的知識を習得し、現代日本の政治状況が理解できるようにする。		
講義方法	【法律部分】 ■10月 9日（土）：第1回。映画『評議』をみながら裁判員裁判を考える。 ■10月23日（土）：第2回～第5回（4回分）。岡本キャンパス、法科大学院棟、4階、法廷教室で、模擬裁判をやりながら、「法の意味」を考える。 ■日程未定：刑事裁判傍聴。受講生と相談して、刑事裁判（できれば、裁判員裁判）を傍聴する。 【政治部分】 第1部では政治学の基礎的内容を取り上げる。その知識を土台にして、第2部では現代日本政治の状況について検討し、第3部では日本以外の国家の政治制度及び政治状況を取り上げる。		
準備学習	【法律部分】 （1）新聞記事チェック。開講時まで新聞をおりおりみて、興味の湧く、「犯罪、刑事裁判、刑務所、裁判員裁判」などに関する記事を3件切り抜きをしておくこと。 （2）ホームページチェック。最高裁のHPをみて、裁判員裁判とはなにか調べておくこと。 【政治部分】 特に予習というものは要求されないものの、日々の政治の動向に注目し、現在何が問題になっているのかを考えておいてほしい。		
成績評価	【法律部分】 100点中、その1／3を渡辺が評価する。レポートと模擬裁判などのプレゼンによって判断する。具体的内容は講義のときに指示する。 【政治部分】 100点中、その2／3を定期試験で評価する。詳しくは第1回目の講義の際に言及する。		
講義構成	【法律部分】 10月 9日（土）：第1回。映画『評議』をみながら裁判員裁判を考える。 10月23日（土）：第2回～第5回（4回分）。岡本キャンパス、法科大学院棟、4階、法廷教室で、模擬裁判をやりながら、「法の意味」を考える。 ■甲南大学法科大学院出身弁護士を囲むミーティングを行う。 【政治部分】 10月18日（月）：第1回 自由と平等 10月25日（月）：第2回 政治のアクター（1） 11月 1日（月）：第3回 政治のアクター（2） 11月 8日（月）：第4回 集権と分権 11月15日（月）：第5回 選挙制度と投票行動 11月22日（月）：第6回 自民党政治とは何だったのか 11月29日（月）：第7回 2009年の政権交代を考える 12月 6日（月）：第8回 民主党政権成立以後の日本政治 12月13日（月）：第9回 欧米の政治制度・政治状況（1） 12月20日（月）：第10回 欧米の政治制度・政治状況（2）		
教科書	【法律部分】 井田良『基礎から学ぶ刑事法』（有斐閣） 【政治部分】 使用しない。毎回レジュメを配布する。		
参考書・資料	随時紹介する。		

担当者から一言	渡辺より、「楽しいプレゼンを学ぶ講義にします」。
ホームページタイトル	■法、刑事裁判、言語を考えるー法律学者と言語学者のコラボのブロッグー
URL	http://blogs.dion.ne.jp/justice_justice/

授業コード	81M41		
授業科目名	リサーチスキルI (1クラス)(前)		
担当者名	BOYLES(ボイルズ コリン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	火曜日 Ⅲ限		

講義の内容	Theme: Public Issues in Economics In each class we will read about and discuss an example of a public issue. Readings will be based on economic research and analyses in economic newspapers, texts and journals.
到達目標	To be able to think like an economist about public issues. To be able to participate meaningfully in discussions about public issues in English.
講義方法	This will be an interactive class. We will discuss a series of readings on public issues, with a focus on understanding how these issues are analyzed using basic economic ideas. From time to time students may be asked to hand in short pieces of written work.
準備学習	Please make an effort to regularly read an English newspaper or news website. When pre-reading is required for a class, materials will be handed out or uploaded to MyKonan in advance.
成績評価	Evaluation of quality of class participation 70%. Homework and written assignments 30%.
講義構成	1-3 introduction to basic concepts 4 trade policy 5-7 health and safety 8-9 the environment 10-11 public goods and services 12-14 economic development 15 review
教科書	No requirement to purchase a textbook.
担当者から一言	Bring your dictionary and your natural curiosity about the world!

授業コード	81M42		
授業科目名	リサーチスキルI (2クラス)(前)		
担当者名	佐藤治正(サトウ ハルマサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
講義の内容	経済学入門で学んだミクロ経済学の基礎知識を前提として、消費者・企業・政府の行動に関する理論的な分析を深めていく。さらに、個別の産業・業界に特有の企業行動や価格戦略、政府の規制について、実例をもとにして分析していく。		
到達目標	ミクロ経済学の基本的考え方を身につけ、現実問題を一つ深く考え、自分の意見を示すことができるようになる。		
講義方法	ミクロ経済学の一步進んだ講義と、グループワーク形式で現実問題を議論する。		
準備学習	特に、準備はいりませんが、日常的に企業や消費者の意思決定、経済的社会問題に関心を持つよう心がけて下さい。		

成績評価	授業への参加と貢献を評価する。人数によっては小テストを実施する。
講義構成	講義は、ミクロ経済学テキストの典型的な目次に従う。需要と供給、消費の意思決定、生産の意思決定、企業と市場、市場の失敗等である。グループワークは、各商品・サービスの価格戦略等、消費者・企業・政府の意思決定について事例研究をする。
教科書	初回の授業で、テキストなり参考書なりを指示する。

授業コード	81067		
授業科目名	リサーチスキルⅣ（前）		
担当者名	林美玉（イム ミオク）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	本講義では、まず、典型的な定性調査の事例を取り上げ、質的データの解釈について理解を深める。続いて、定量調査に必要となる統計学の基本的な部分、特に一変量および二変量のデータ分析に焦点を当て、統計データの読み方、図表化の方法、基本統計量の算出方法について学んでいく。		
到達目標	本講義は、データ分析の基本的な知識を習得することを目的とする。		
講義方法	基本的には講義形式で行い、毎回確認課題を課す。		
準備学習	My Konanで毎回の講義資料をダウンロードし持参すること。		
成績評価	出席日数2/3以上の学生を評価の対象とする。毎回の授業で確認課題を課し、確認課題を40%、小テストを40%、出席を20%のウエイトで評価する。		
講義構成	第1回：授業ガイダンス：統計学とは 第2回：調査方法とデータの種類：定性調査と定量調査、質的データと量的データ 第3回：定性調査 第4回：定量調査 第5回：基本統計量：代表値 第6回：基本等計量：ちらばり 第7回：度数分布表とヒストグラム 第8回：正規分布 第9回：様々な図表化 第10回：クロス集計表 第11回：散布図と相関分析 第12回：因果関係と相関関係 第13回：疑似相関 第14回：単回帰分析 第15回：まとめ		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	小島寛之（2006）、『統計学入門』、ダイヤモンド社。		
講義関連事項	日頃、新聞などに掲載されている統計データを解釈してみる。		

授業コード	81A31		
授業科目名	リベラルアーツ入門（1クラス）（後）		
担当者名	太田雅久（オオタ マサヒサ）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	2年次には「リベラル教育科目」群が割り当てられています。それらの科目を履修する準備として、人文・社会・自然系の導入部分にあたるお話をします。専門家の講演（星印）を聞く前には原則として、その講演を十分に聞きこなせるように、準備に対応する講義があります。講演を「聞く耳」を養う講義です。（ただし、講演は順序が入れ		
-------	--	--	--

	替わることがあります。)
到達目標	2年時のリベラル科目を主体的に選択して受講することのできる姿勢を身につけること。
講義方法	1. 担当教員による講義 2. 専門家による講演(担当教員が同席します)
準備学習	準備は要りませんが、ノートを取って復讐に力を入れて下さい。
成績評価	欠席しないこと。2回以上の無断欠席は20点減点、5回以上は単位がありません。欠席する場合は必ず理由をつけたメールを、1日前に担当者に送ること。また、欠席した場合は、学習したことをクラスメートに聞き、復習して担当者に報告すること。ノートは、毎回授業終了に提出していただいて、チェックし、それによって出席を確認します。
講義構成	日時、内容については変更することがあります。変更があった場合、別途連絡します。 1. 9月30日(太田雅久)「教養」論と「大学の使命」 グローバル化と開発途上国の強大な力の中で、世界が大きく次の一步を踏み出そうとしているとき、大学の使命とは何か。Nussbaumによる新しい教養教育と1940年のオルテガによる「大学の使命」を現代流に解釈する。 ・「移りゆく教養」 荻部 直、日本＜現代＞シリーズ5(NTT出版) ・「Mission of the University」 J.Ortega originally published in 1944. ・「Cultivating Humanity」 C.Nussbaum 1997, Harvard University Press 2. 10月7日(太田雅久)「読書」論と「New liberal education」 読書が人間形成にどのように役立つというのか？現代の新しい人文教育との関係を探る。 ・「Cultivating Humanity」 C.Nussbaum 1997, Harvard University Press ・「文学入門」桑原武夫、岩波新書 ・「読書力」斎藤孝、岩波新書 ・「読書の腕前」岡崎武志、光文社新書 ・「小説の読み方」平野啓一郎、PHP新書 ・「読書案内」サマセット・モーム、岩波文庫 ・「世界十大小説」サマセット・モーム、岩波文庫 ・「読書のすすめ」岩波文庫編 ・「世界文学を読みほく」池澤夏樹、新潮選書 3. 10月14日(太田雅久)人類は「宇宙」をどのように考えてきたか 2500年前のギリシャ人が考えたことから話を進め、自然科学的なものの見方とはいかなるものかを理解してみよう。 ・「The Big bang」 Sighmon Shing 2005 4. 10月21日(太田雅久)物理学が作り上げた「宇宙」の描像 現代科学技術社会を席卷する物理学的ものの見方とはいかなるものか。量子力学に代表されるミクロな世界の物理学的理解の基本を理解する。 ・「科学革命の構造」トーマス・クーン(中山茂訳)、みすず書房 ・「量子力学的世界像」朝永振一郎、弘文堂 5★10月28日「生命とは何か」 生命化学的な見地から、生命の発現について、生命とは何かについて、本学フロンティアサイエンス学部の先生にお話しいただく。 6★. 11月11日(林家染雀)「古典落語」「話す」こと、その究極の技法とは 話しのプロフェッショナル、林家染雀を講師に招いて、古典落語に基づいて、語りによる表現の妙を話してもらう。 7. 11月18日(武者小路千家家元)「茶の心」 日本独特の伝統文化である「茶の湯」の心とは何か、洗練された京文化の達人にお話を聞く。 8. 11月25日(太田雅久)「絵画鑑賞にまつわるお話し」(鑑賞実習にむけて) 人生の初期において、恵まれた境遇になく、絵画への執念のために日常を省みず、自身の生命をも省みず、美の真髄を追い求めた画家、ゴッホ、ゴーギャンの美の表現について解説する。 原典から読み取る芸術家の真実あるものへの、又自分の理解への真摯な姿勢と、生命をかけて作り上げたいとする不屈の精神について。 ・参考文献「ゴッホの手紙」 裕訳(岩波文庫) 「月と六ペンス」 モーム(岩波文庫)

	「生れ出づる悩み」有島武郎 「近代絵画」 小林 秀夫(新潮文庫) 9★. 12月2日(白石知雄)「西洋芸術音楽Ⅰ」 単旋律で歌われるローマ・カトリック教会のグレゴリオ聖歌から始まって、ゴシック風の教会とともに発展し、ルネッサンスにおける人間中心主義を謳歌する音楽、それにつづく古典派・ロマン派音楽までを、宗教・社会・絵画とのかかわりの中で解説する。 ・「西洋音楽史」岡田暁生、中公新書 10★. 12月9日(畑 儀文)「歌曲とドイツ音楽(冬の旅)」 シューベルトの三大歌曲集の一つ、「冬の旅」を部分的に歌っていただいて、ドイツ音楽の特徴を講演してもらう。 11★. 12月16日(堀 直)「歴史とはなにかⅠ」 歴史的なものの見方とは何か？2年からの教養科目を受け持ってもらい堀先生に歴史学の基本的考え方を教えてもらう。 12★. 12月18日(安達俊英)「キリスト教と仏教について」 仏教大学文学部人文学科准教授、安達俊英氏を招いてキリスト教と仏教の違いから、宗教についての考える基礎を学習する。 13★. 1月6日(堀 直)「歴史とはなにかⅡ」 14★. 1月13日(白石知雄)「西洋芸術音楽Ⅱ」 オペラの歴史に関して、鑑賞しながら解説を受ける。 15. 11月20日(太田雅久)「総まとめ」
教科書	テーマによっては指定することがある。
参考書・資料	講義構成を参照のこと

授業コード	81A32		
授業科目名	リベラルアーツ入門（2クラス)(後)		
担当者名	太田雅久(オオタ マサヒサ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜5限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	2年次には「リベラル教育科目」群が割り当てられています。それらの科目を履修する準備として、人文・社会・自然系の導入部分にあたるお話をします。専門家の講演(星印)を聞く前には原則として、その講演を十分に聞きこなせるように、準備に対応する講義があります。講演を「聞く耳」を養う講義です。(ただし、講演は順序が入れ替わることがあります。)
到達目標	2年時のリベラル科目を主体的に選択して受講することのできる姿勢を身につけること。
講義方法	1. 担当教員による講義 2. 専門家による講演(担当教員が同席します)
準備学習	準備は要りませんが、ノートを取って復讐に力を入れて下さい。
成績評価	欠席しないこと。2回以上の無断欠席は20点減点、5回以上は単位がありません。欠席する場合は必ず理由をつけたメールを、1日前に担当者に送ること。また、欠席した場合は、学習したことをクラスメートに聞き、復習して担当者に報告すること。ノートは、毎回授業終了に提出していただいて、チェックし、それによって出席を確認します。
講義構成	日時、内容については変更することがあります。変更があった場合、別途連絡します。 1. 9月30日(太田雅久)「教養」論と「大学の使命」

	グローバル化と開発途上国の強大な力の中で、世界が大きく次の一步を踏み出そうとしているとき、大学の使命とは何か。Nussbaumによる新しい教養教育と1940年のオルテガによる「大学の使命」を現代流に解釈する。 ・「移りゆく教養」 荻部 直、日本＜現代＞シリーズ5 (NTT出版) ・「Mission of the University」 J.Ortega originally published in 1944. ・「Cultivating Humanity」 C.Nussbaum 1997, Harvard University Press 2. 10月7日(太田雅久)「読書」論と「New liberal education」 読書が人間形成にどのように役立つというのか？現代の新しい人文教育との関係を探る。 ・「Cultivating Humanity」 C.Nussbaum 1997, Harvard University Press ・「文学入門」桑原武夫、岩波新書 ・「読書力」斎藤孝、岩波新書 ・「読書の腕前」岡崎武志、光文社新書 ・「小説の読み方」平野啓一郎、PHP新書 ・「読書案内」サマセット・モーム、岩波文庫 ・「世界十大小説」サマセット・モーム、岩波文庫 ・「読書のすすめ」岩波文庫編 ・「世界文学を読みほどく」池澤夏樹、新潮選書 3. 10月14日(太田雅久)人類は「宇宙」をどのように考えてきたか 2500年前のギリシャ人が考えたことから話を進め、自然科学的なものの見方とはいかなるものかを理解してみよう。 ・「The Big bang」Sighmon Shing 2005 4. 10月21日(太田雅久)物理学が作り上げた「宇宙」の描像 現代科学技術社会を席卷する物理学のものの見方とはいかなるものか。量子力学に代表されるミクロな世界の物理学的理解の基本を理解する。 ・「科学革命の構造」トーマス・クーン(中山茂訳)、みすず書房 ・「量子力学的世界像」朝永振一郎、弘文堂 5★10月28日「生命とは何か」 生命化学的な見地から、生命の発現について、生命とは何かについて、本学フロンティアサイエンス学部先生にお話しいただく。 6★. 11月11日(林家染雀)「古典落語」「話す」こと、その究極の技法とは 話しのプロフェッショナル、林家染雀を講師に招いて、古典落語に基づいて、語りによる表現の妙を話してもらう。 7. 11月18日(武者小路千家家元)「茶の心」 日本独特の伝統文化である「茶の湯」の心とは何か、洗練された京文化の達人にお話を聞く。 8. 11月25日(太田雅久)「絵画鑑賞にまつわるお話し」(鑑賞実習にむけて) 人生の初期において、恵まれた境遇になく、絵画への執念のために日常を省みず、自身の生命をも省みず、美の真髄を追い求めた画家、ゴッホ、ゴーギャンの美の表現について解説する。 原典から読み取る芸術家の真実あるものへの、又自分の理解への真摯な姿勢と、生命をかけて作り上げたいとする不屈の精神について。 ・参考文献「ゴッホの手紙」 裕訳(岩波文庫) 「月と六ペンス」 モーム(岩波文庫) 「生れ出づる悩み」有島武郎 「近代絵画」 小林 秀夫(新潮文庫) 9★. 12月2日(白石知雄)「西洋芸術音楽Ⅰ」 単旋律で歌われるローマ・カトリック教会のグレゴリオ聖歌から始まって、ゴシック風の教会とともに発展し、ルネッサンスにおける人間中心主義を謳歌する音楽、それにつづく古典派・ロマン派音楽までを、宗教・社会・絵画とのかかわりの中で解説する。 ・「西洋音楽史」岡田暁生、中公新書 10★. 12月9日(畑 儀文)「歌曲とドイツ音楽(冬の旅)」 シューベルトの三大歌曲集の一つ、「冬の旅」を部分的に歌っていただいて、ドイツ音楽の特徴を講演してもらう。 11★. 12月16日(堀 直)「歴史とはなにかⅠ」 歴史的なものの見方とは何か？2年からの教養科目を受け持ってもらおう堀先生に歴史学の基本的考え方を教え
--	---

	てもらう。 12★. 12月18日(安達俊英)「キリスト教と仏教について」 仏教大学文学部人文学科准教授、安達俊英氏を招いてキリスト教と仏教の違いから、宗教についての考える基礎を学習する。 13★. 1月6日(堀 直)「歴史とはなにかⅡ」 14★. 1月13日(白石知雄)「西洋芸術音楽Ⅱ」 オペラの歴史に関して、鑑賞しながら解説を受ける。 15. 11月20日(太田雅久)「総まとめ」
教科書	テーマによっては指定することがある。
参考書・資料	講義構成を参照のこと

授業コード	81A33		
授業科目名	リベラルアーツ入門（3クラス)(前)		
担当者名	太田雅久(オオタ マサヒサ)、大窪敦子(オオクボ アツコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
特記事項	自動登録科目		

講義の内容	2年次には「リベラル教育科目」群が割り当てられています。それらの科目を履修する準備として、人文・社会・自然系の導入部分にあたるお話をします。専門家の講演を聞く前には原則として、その講演を十分に聞きこなせるように、準備に対応する講義があります。講演を「聞く耳」を養う講義です。(ただし、講演は順序が入れ替わることがあります。) また、特別留学コースは2年次後期より1年間の留学を原則必須としていますので、英語でのReadingを中心とした以下の内容を履修します。 人文・社会・自然の分野で、古典ではないが定評のある原本から、特定のテーマに関する事項を抜き出して、輪読する。この科目の主たる目的は、教養的知識を原本より学び、同時に英語の読書能力を推進するのに役立つことである。また、様々な分野での語彙力を増やすことにも役立てる。 よって、本講義は、マネジメントコースと共通の指定された10回の講義と2010年前期に開講される5回の特別講義の二部構成とする。
到達目標	人文・社会・自然の分野での、幅広い教養的知識を身につけ、その様な情報や知識を英語でも理解、表現できる基礎能力を養う。
講義方法	1. 担当教員による講義 2. 専門家による講演(担当教員が同席します)
準備学習	My Konanに、受講をするにあたって、事前に目を通しておくべき資料等、連絡事項を掲載しているので、毎回必ずチェックしてから授業に出席すること。
成績評価	欠席に関しては、2回以上の無断欠席は20点減点。15回を通して5回以上の無断欠席は単位がありません。欠席する場合は必ず理由をつけたメールを、事前に担当者に送ること。また、欠席した場合は、学習したことをクラスメートに聞き、復習して担当者に報告すること。講義項目から一つのテーマを選んで英語で600語程度のレポートを提出し、それに関して、個別に3分間スピーチを聞き、その内容での評価を含む。
講義構成	2010年度特別講義 1. “Big Bang” by Simon Singh (2004) 宇宙物理におけるパラダイムシフトに陰から貢献した一女性の研究姿勢を読む。 “The Elegant Universe” by Brian Greene (1999) 量子力学の本質を読む。 2. “In Search of Excellence” by Thomas I. Peters, Robert H. Waterman Jr. (1981) 超優良企業の成功の秘訣を抜粋して読む。 3. “The World is Flat: A Brief History of the Twenty-First Century” by Thomas L. Friedman (1997)

	グローバリゼーションへの考察を抜粋して読む。 4. “Black Swan: The Impact of the Highly Improbable” by Nassim Nicholas Taleb (2007) (仮) 不確実性やリスクと人間の思考の欠陥を説く「ブラック・スワン理論」を抜粋して読む。 5. “Development as Freedom” by Amartya Sen (1999) 個人の自由という観点からとらえた開発理論を抜粋して読む。 以下はマネジメントコース学生と共通で履修した内容である。 1. 「教養」論と「大学の使命」 グローバル化と開発途上国の強大な力の中で、世界が大きく次の一步を踏み出そうとしているとき、大学の使命とは何か。Nussbaumによる新しい教養教育と1940年のオルテガによる「大学の使命」を現代流に解釈する。 2. 「読書」論と「New liberal education」 読書が人間形成にどのように役立つというのか？現代の新しい人文教育との関係を探る。 3. 人類は「宇宙」をどのように考えてきたか 2500年前のギリシャ人が考えたことから話を進め、自然科学的なものの見方とはいかなるものかを理解してみよう。 4. 物理学が作り上げた「宇宙」の描像 現代科学技術社会を席巻する物理学のものの見方とはいかなるものか。量子力学に代表されるミクロな世界の物理学的理解の基本と、マクロな領域を記述する相対論の基礎を理解する。 5. 「古典落語」「話す」こと、その究極の技法とは 話しのプロフェッショナル、林家染雀を講師に招いて、古典落語に基づいて、語りによる表現の妙を話してもらう。 6. 「西洋芸術音楽Ⅰ・Ⅱ」 単旋律で歌われるローマ・カトリック教会のグレゴリオ聖歌から始まって、ゴシック風の教会とともに発展し、ルネッサンスにおける人間中心主義を謳歌する音楽、それにつづく古典派・ロマン派音楽までを、宗教・社会・絵画とのかかわりの中で解説する。 7. 「ベルリンフィルとカラヤン」 名演奏とはいかなるものか？W. ベッチャー(カラヤン時代のベルリンフィルでの首席チェリスト)を招いて、オーケストラ芸術、弦楽器による音楽芸術について、実演をまじえて語ってもらう。 8. 「歴史とはなにかⅠ」 歴史的なものの見方とは何か？2年からの教養科目を受け持ってもらい堀先生に歴史学の基本的考え方を教えてもらう。 9. 「インド哲学と日本の宗教(宗教の役割について)」 哲学と宗教。仏教大学文学部人文学科准教授、安達俊英氏を招いてインド哲学と日本の宗教、及びオリエンタリズムについて話していただく。 10. 第8回の講義に関連して、実際の絵画展で絵画を鑑賞。(特定の書式で選択した絵画について作者の経歴、社会背景及び色調や構成など絵画の様式についてレポートを書く。)
教科書	講義構成を参照のこと。また、学習すべき書物、参考資料などは、MyKonan 及び授業で随時紹介。

授業コード	81003		
授業科目名	ワークショップ概論（集中）		
担当者名	井上 明（イノウエ アキラ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）
特記事項	自動登録科目		

	以下のスケジュールで開講するので各位注意すること。 7月30日(金)9:00～12:10、13:00～14:30、 9月18日(土)9:00～12:10、13:00～14:30、9月25日(土)9:00～12:10、13:00～14:30、 1月28日(金)9:00～12:10、13:00～14:30、1月29日(土)9:00～12:10、13:00～14:30
講義の内容	この講義では、研究や実務を進めるにあたり具体的に必要となるリサーチスキルやビジネススキル、コミュニケーションスキルそれぞれの関連性、重要性を学び、プロジェクト遂行上で必要となるスキルを明確にすることを目的とする。また、学生が参加しながら学ぶという「ワークショップ」形式のスタイルを実践・理解することで、ワークショップ科目の導入に位置づけられる。
到達目標	リサーチスキル、ビジネススキル、コミュニケーションスキルを理解し、プロジェクトやワークショップで各種スキルを使うことができる。
講義方法	講義と演習
準備学習	これまで実践したプロジェクトを再度思い返し、自分なりに活動を評価しておくこと。
成績評価	出席、演習時の活動状況、成果物などを総合的に評価する
講義構成	○コミュニケーションに関わる知識・技法を学ぶ 組織内コミュニケーションのメカニズムを理解し、「対人対応力」を強化する。相手に好感・信頼感を与える「人間性」を育む。これらにかかわる方法論を理解する ・ワークショップ ケーススタディ、ロールプレイングを通して、他者とのコミュニケーションを円滑に行う実践的スキルを体得する ○リサーチスキルを学ぶ リサーチ・スキルとは必要な情報を探し出し、そこから重要な情報を識別する能力である。特にインターネットなどで膨大な情報が常に配信される現代において大切なスキルとなっている。リサーチ・スキルをもとに他の情報や知識と関連づける力を養う。 ・ワークショップ あるテーマについてネット・書籍での情報検索を行う ○ビジネススキルを理解する ビジネススキルにおける基礎的スキルである、タスクプランニング、ビジュアルプレゼンテーションについて理解する。 ・ワークショップ タスクプランニング、ビジュアルプレゼンテーションの演習を行う ○総合ワークショップ1 これまで学んだ知識を使ってワークショップを実践する ○総合ワークショップ2 これまで学んだ知識を使ってワークショップを実践する
教科書	教科書は用いない

授業コード	91040		
授業科目名	アドバンストマテリアル(11～1月)(後)		
担当者名	赤松謙祐(アカマツ ケンスケ)、林 高史(ハヤシ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限 金曜2限
特記事項	クォーター科目(D期)		

講義の内容	本講義では、将来実用化が期待される機能材料の合成法、構造および機能について述べ、特に最先端のナノ構造材料に関する応用例について、無機および生体機能性材料に分けて講述する。 (赤松 謙祐／8回) 有用な機能を有する人工材料は単体でその機能を十分に発揮するものは比較的少なく、通常いくつかの材料を組み合わせた複合材料として用いられる場合が多い。これら材料の機械的、熱的、化学的、光学的光学および電気的を利用して高度な機能を発現する機能性材料の合成法、機能発現のメカニズムおよびその応用について
-------	---

	解説する。特にセラミックス、ナノ粒子などの機能性材料を例に口述する。 (林 高史／7回) 色素は、我々日常の生活に欠かせない素材である。一方、自然界を眺めても様々な色素が存在する。たとえば、植物の葉の緑色や我々の血液の赤色はクロロフィルやポルフィリンと呼ばれる大環状芳香族化合物に由来する。さらにこれらの色素は金属イオンに対する配位能を有し、単に色を呈するだけでなく、様々な機能を発現している。本講義では、生体内に多く存在する色素の基本構造であるポルフィリンの有機化学・錯体化学的な解説とともに、ポルフィリン骨格を含む天然の色素の機能と構造を分子レベルで説明した上で、生体機能材料への応用について紹介する。
到達目標	様々な機能を有する無機材料、生体有機材料のナノ構造と機能の相関について原子・分子レベルで理解するとともに、将来的に実用化が望まれる材料の機能、模索されている合成手法等に関する知識を習得する。
講義方法	講義
準備学習	配布資料を基に予習することが望ましいが、事後学習により注力することが肝要。
成績評価	出席、レポート提出および期末試験により総合的に評価する。
講義構成	赤松(8回) 1. 序論「無機機能性材料」 2. 材料合成手法 3. 複合化による機能発現 4. 無機ナノ粒子:合成と機能 5. 機能材料1:無機半導体と発光材料 6. 機能材料2:記録材料、センサー、電池 7. 機能材料3:有機・無機ハイブリッド 8. 次世代機能性材料の動向と展望 林(7回) 1. 序論「生体機能性材料」 2. 生体内色素の紹介:ヘム、クロロフィル、ビタミンB12 3. 酸素保持タンパク質ミオグロビン・ヘモグロビンと人工血液の将来性 4. 光合成のしくみ 5. 人工光合成系構築への挑戦 6. 天然色素を有する酵素の紹介 7. 次世代生体機能性材料の動向と展望
教科書	なし
参考書・資料	必要に応じて適宜配布する

授業コード	91018		
授業科目名	遺伝子工学・バイオテクノロジー (9～11月)(後)		
担当者名	川上純司(カワカミ ジュンジ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限 木曜2限
特記事項	クォーター科目(C期)		

講義の内容	マクロに生命体を扱う生物学から、ミクロに生命現象を見る分子生物学が派生し、飛躍的な発展を遂げている。本講義では分子生物学の技術的側面に焦点をあて、強力に研究を押し進める原動力となったバイオテクノロジーについて、機能性蛋白質や機能性核酸の研究における遺伝子工学的な技術を中心に、基礎・応用を学ぶ。
到達目標	遺伝子組換え実験の基礎知識をベースに、遺伝子工学を実際に利用するために必要な事項を理解する。
講義方法	講義
準備学習	蛋白質や核酸の化合物としての性質ならびに組換え実験の基礎は、他の講義の履修あるいは自習によって理解しておくこと。
成績評価	講義中の質疑応答、出席状況、小テスト、期末試験の結果を総合的に評価する。
講義構成	1. 遺伝子工学のコンセプト:工業利用から遺伝子治療まで 2. 宿主と形質転換 3. 遺伝子操作のツール1:酵素 4. 遺伝子操作のツール2:ベクター 5. 遺伝子解析の基礎技術 6. ライブラリー構築とクローニング

	7. 遺伝子発現1:レポーター蛋白質と融合蛋白質 8. 遺伝子発現2:遺伝子と遺伝子産物の機能解析 9. 宿主としてのヒト:遺伝子治療 10. 機能的核酸の研究1:リボザイム・アプタマー・アンチセンス 11. 機能的核酸の研究2:新規な機能的核酸の開発 12. 遺伝子鑑定と遺伝子診断 13. 遺伝子組換え作物 14. ポストゲノムとゲノム医療 15. まとめ
教科書	「ゲノム工学の基礎」 野島博／著（東京化学同人） 「イラスト生理学」 照井直人／編（羊土社）
講義関連事項	遺伝子組換え実験の基礎知識は「分子生物学」で修得する内容であるので、分子生物学を履修しておくことが望ましい。

授業コード	91007		
授業科目名	英語及び演習		
担当者名	北村有人(キタムラ ユウジン)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)

講義の内容	We will review basic English from high school and junior high school, and use them in class. The activities for practicing English in class will be by: 1. making questions and answers, and 2. giving presentations in English. Listening exercises are planned to improve communications skills. There may be occasional writing assignments. It is a highly participatory and entertaining class. The class will be held only in English. 高等教育で学んだ英語を復習しながら、授業で使っていく。 授業での英語の練習方法は 1. 質疑応答 2. 英語でのプレゼンテーション である。 コミュニケーション力を上げるために、リスニング練習を行う予定である。また、ライティングの課題を出すこともある。高度な参加型で、楽しい授業である。授業は英語のみで行われる。		
到達目標	You will be able to review and use English which you have already learned. As a result, you should obtain skills for basic communication. 今まで習った英語を復習し、実際に使うことができる。結果的に、基本的なコミュニケーション力を身につけられる。		
講義方法	Lectures and practices (student presentations) 講義及び演習(学生によるプレゼンテーション)		
準備学習	You will have to prepare short presentations in English with a computer. Listening assignments are planned. パソコンで英語のプレゼンテーションを用意する。リスニングの課題も予定している。		
成績評価	In-class assignments 40%, homework assignments 40%, final exams 20 % 授業課題40%、授業外課題40%、定期試験20%		
講義構成	Lesson1-10: We will practice how to ask questions and answers in the beginning of the year. Lesson 11-30: Then we will review and practice English grammar by giving presentations. Every presentation is accompanied by a question and answer by a student. 第1回～第10回 前半は質疑応答の練習に取り組む。 第11回～第30回 その後、プレゼンテーションを通して英語の文法を練習する。すべてのプレゼンテーションにおいて、学生による一対の質疑応答を行う。		
教科書	Text books will be notified at a later date. 後日連絡		
参考書・資料	Computer, English-Japanese and Japanese-English dictionary are required. パソコンおよび英和・和英辞書は必須。		

担当者から一言	I am looking forward to study with you!
---------	---

授業コード	91002		
授業科目名	科学英語コミュニケーション1 (前)		
担当者名	松井 淳(マツイ ジュン)		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	科学技術に携わる研究者として、科学英語のリーディング及びライティングに必須である英文法、英語構文について解説するとともに、専門科目等の講義や実験に登場する専門用語(英単語)の習得を行う。同時に、英語で書かれた文献や参考書をもとに専門的内容を理解し、自らの実験内容を英語で記述するといった実践的トレーニングを行う。
到達目標	科学英語コミュニケーション1～4の最終目標は、自らの研究内容を文書あるいは口頭で伝え、また、相手の研究内容を同方法によって理解する能力を養うことである。1年次に開講される本演習は、その第一段階として、普段の講義や実験の内容を英語で理解、および、表現できるようになることを目的とする。
講義方法	演習
準備学習	教科書を一読して、科学的内容について理解が十分でない箇所をピックアップし、できる限り事前にその内容について調べておくこと。
成績評価	出席状況およびレポートをもとに評価する。
講義構成	1. 科学英語の学び方 2. 原子とモル 3. 化学反応式とつりあわせ 4. 共有結合／ルイス構造式 5. 分子構造 6. 溶液とモル濃度 7. pH 8. 分子間力 9. 気体 10. ボーアの原子モデル 11. 電子配置 12. 次元解析 13. 熱 14. 生成熱 15. 有効数字と科学的表記
教科書	Let's Start ケミストリー(プレイヤー智子・築部浩 共編、三共出版)
担当者から一言	できるだけ序論や実験科目と連携しながら演習を進めていきます。また、科学英語力を身につけるには継続的な努力が必要になります。教科書にはCD-ROMが付いていますので、演習の時間だけではなく、マイラボを活用するなど、自発的な取り組みを通じて科学英語に慣れていくようにして下さい。

授業コード	91003		
授業科目名	科学英語コミュニケーション2 (前)		
担当者名	中野修一(ナカノ シュウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	科学英語コミュニケーション1で得られた知識を発展させて、科学英語に関する英単語、英文法、英語構文についてさらなるブラッシュアップを図ることを目的とする。英文の解説書を教材として用い、科学英語、文法、構文を習得する。基礎化学と基礎生物学に関する英文を読むことで、化学と生物学で用いられる英単語を学ぶとともに、英文の科学論文にも触れることで、科学英語によるコミュニケーション力を高める。
到達目標	科学英語コミュニケーション1で学んだ科学英語の理解力と表現力をさらに高め、基本的な科学英語の読み書きのスキルを体得することを目的とする。とくに、英文の解説書や論文を全訳せずに理解し、要旨を英語で表現で

	きる力を身につける。
講義方法	演習
準備学習	次回の講義で学ぶプリント内容の予習は不可欠。
成績評価	試験結果、および出席状況と演習の点数をもとに評価する。なお、出席回数が少ない場合や、十分な予習をしていないと判断される場合は成績を評価しない。
講義構成	1. 科学英語の特徴(イントロダクション) 2. 生化学に関する解説文の読解 3. 生化学に関する解説文の読解 4. 生化学に関する解説文の読解 5. 解説文の作成(生化学の内容) 6. 生命化学に関する解説文の読解 7. 生命化学に関する解説文の読解 8. 生命化学に関する解説文の読解 9. 解説文の作成(生命化学の内容) 10. 分子生物学に関する解説文の読解 11. 分子生物学に関する解説文の読解 12. 分子生物学に関する解説文の読解 13. 解説文の作成(分子生物学の内容) 14. 研究論文の読解 15. 研究論文の読解 16. 試験
教科書	特に指定しない(配布プリントを教材にする)
参考書・資料	Schaum's easy outlines: Molecular and Cell Biology (McGraw Hill) Schaum's easy outlines: Biochemistry (McGraw Hill) 第2版 科学英語のセンスを磨く(化学同人)
担当者から一言	英語教材で用いられる専門用語を学ぶ「読解編」と、英語の解説文を作成してもらう「作成編」を行います。科学英語の読み書きのスキルを高めるために、自発的な取り組みによって普段から英語に慣れるように努めて下さい。

授業コード	91047		
授業科目名	科学とエネルギー・環境（集中）		
担当者名	川嶋文人(カワシマ アヤト)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	これまでの大量生産、大量消費、コスト・効率優先の産業活動により、地球温暖化や化石資源の枯渇、地球環境の汚染など多くの問題が顕在化している。本講義では、この地球環境の現状とその課題ならびにこれらに対するさまざまな取り組みに触れながら、環境と調和した産業のあり方及び循環型社会の未来像を考える。
到達目標	現在の地球環境問題、エネルギー問題の現状と対策について具体例をあげて説明することができる。
講義方法	講義での解説とともに、グループワークによる課題の分析、発表を行う。
準備学習	新聞やインターネットの産業、経済欄を日頃から読み、地球環境、エネルギーに関する日本、世界の動向に注目しておく。
成績評価	授業への積極的関与度と提出されたレポートの内容により評価します。
講義構成	第1回～第5回 環境汚染の現状と対策についての講義とグループワーク 第6回～第10回 地球温暖化と化石資源の枯渇の現状と対策についての講義とグループワーク 第11回～第15回 グリーンテクノロジーの現状と対策についての講義とグループワーク
教科書	特になし
担当者から一言	環境、エネルギー問題は21世紀の最重要課題の一つです。みんなでこれからの未来について考えてみましょう。

授業コード	91048
-------	-------

授業科目名	科学と芸術・哲学（後）		
担当者名	越智裕二郎（オチ ユウジロウ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	ヨーロッパでは17世紀初めにヴンダーカマー（驚異の部屋）というものが国王や皇帝の宮廷に生れ、驚き、発見、知の喜びという点で科学と芸術が同居していた。現代ではそれぞれに発展を遂げ、今は照応しあうことも稀である。 本講座では16世紀以降、美術が社会の中で果たしてきた役割をたどりつつ、その時代の名作の意味をさまざまな角度から解いていく。また学生諸君が今生きている現代という中で、美術がどのような様相をみせているのかということにも触れていく。 優れた展覧会が開催されているときには、会場にも訪れ、解説する。
到達目標	ヨーロッパで科学が大きく発展した17世紀初めから、同様に大きく発展してきた美術の流れ・歴史が、社会の流れとともに、ひととおり理解できるようになる。
講義方法	スライド（パワーポイント）を用い、講義が主体だが、適宜、ディスカッションする。
準備学習	とくになし。
成績評価	数回のレポートを課します。 10回以上、授業に出席しなければ、成績を評価しません。
講義構成	第1回 17世紀初め、科学と美術が同居した時代。ルネサンス美術とバロックの初期の皇帝コレクション。 第2～4回 バロックという時代。オランダの輝き。 第5～7回 フランス革命は社会と美術をどう変えたか。 第8～10回 資本主義と写実主義 第11～13回 印象派は絵画の革命だった。 第14回 現代美術 第15回 まとめ。レポート提出。 多少ズレがあっても上記の流れで進めます。美術にとって重要な意味を持つ美術館・博物館についても適宜解説を入れます。講義時期に、講義内容に相応しい展覧会があれば、現地にの講義・解説に振り替えます。
教科書	とくになし。
参考書・資料	授業にて、その都度紹介します。
担当者から一言	サイエンティストといえども欧米では美術に深い理解があります。欧米でも彼らとお付き合いが出来る程度の教養を届けます。美術リテラシーというべきでしょうか。楽しさがあるよう心がけます。
その他	講義を聞く以上、私語と携帯は禁止します。目に余る場合は退室してもらいます。

授業コード	91045		
授業科目名	科学と健康（前）		
担当者名	曾我部晋哉（ソガベ アキトシ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	身体の健康を維持するための生理学的なメカニズムについて学習します。健康を左右する基礎的な内容を網羅するとともに最新の科学論文に基づいた知見にも触れていきます。
到達目標	系統的に学習することで、自分自身の身体を生涯にわたり計画的にマネジメントできるような知識を身につけることを目標とします。
講義方法	講義形式で行います。
準備学習	配布資料を熟読し、講義に臨むように心がけてください。
成績評価	出席率及び授業態度、定期試験により評価します。
講義構成	第1回：健康と社会

	第2回: 寿命の科学 第3回: 細胞と健康(1) 第4回: 細胞と健康(2) 第5回: 細胞と健康(3) 第6回: 運動生理学の基礎 第7回: 最新の運動生理学 第8回: 運動の適応(1) 第9回: 運動の適応(2) 第10回: 運動の適応(3) 第11回: 運動と内科的疾患 第12回: 運動と整形外科的疾患 第13回: 脳と運動の基礎 第14回: 最新の脳と運動の関連性 第15回: 超高齢化社会を迎えるにあたり
教科書	資料を配布します。

担当者から一言	人間の体は、刺激に対して適応します。どのような刺激を定期的に与えているかにより、生涯快適な体で過ごせるかが決まるといっても過言ではありません。再度、人間の体についてじっくり考えてみてはいかがでしょうか。
---------	---

授業コード	91046		
授業科目名	科学と情報技術（後）		
担当者名	前田洋樹（マエタ ヒロキ）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	大学生活において、パソコンやネットワークは必要不可欠と言っても過言ではない。これらはますます便利になる一方で、トラブルに見舞われるなどのリスクも増大している。それゆえ、単に操作できるだけでなく、一歩進んだ知識が必要とされる。この講義では、①パソコンの仕組み、②ネットワークの仕組み、③情報倫理の3つを柱として、情報技術の基本事項を中心に学習する。講義を通じて、大学生活だけでなく日常生活においても、仕組みやルールを理解した上でパソコンやネットワークを活用できるようになることを目標とする。
到達目標	コンピュータやネットワークに関する知識を深めることができること。 インターネットや電子メールなどの仕組みを理解できること。 情報の世界におけるルールを理解できること。
講義方法	講義は原則としてPowerPointや板書、口頭での説明に基づいて進める。 しかし、教員が一方向的に説明するだけの講義になることはできるだけ避け、受講者のみなさんにも積極的に参加してもらえようという講義にしたいと思っている。 資料は必要に応じて配布する。
準備学習	毎回の講義の理解の積み重ねが重要であるため、とりわけ復習をしっかりとすること。 コンピュータ、インターネット、電子メールなどの「仕組み」に関心を持つこと。
成績評価	期末試験の成績に基づいて評価する(100%)。 ただし、講義における発表や、予告なしにその日の講義のまとめや確認問題を解いたもの等を提出してもらうなど、通常の講義時の頑張り(単なる「出席」ではない)も平常点(出席点ではない)として成績評価に加味する予定である(最大20%程度)。
講義構成	以下のような内容を予定している。 第1回 ガイダンス 第2回 入力装置 第3回 出力装置 第4回～第5回 記憶装置 第6回 演算装置・制御装置 第7回 ソフトウェア 第8回 インターネットの歴史／インターネットの接続方式 第9回 ネットワークの種類／OSI基本参照モデル 第10回～第11回 IPアドレスとサブネットマスク 第12回 Webページ閲覧と電子メール送受信の仕組み 第13回 情報倫理 第14回～第15回 ネットワークセキュリティ

教科書	特に指定しない予定である。
参考書・資料	参考書は必要に応じて適宜紹介しますが、例えば以下のような本を挙げておく。 ・栢木厚『栢木先生のITパスポート試験教室』技術評論社
担当者から一言	コンピュータ、インターネット、電子メールなどの「使い方」ではなく「仕組み」を扱う講義であるため、単位取得だけを目的として履修すると少々つらいと思われます。なぜ履修するのかをよく考えてください。 講義では、知っている役に立つような内容を、できるだけわかりやすく説明するように心がけ、楽しい講義を目指したいと思います。そのためには、教員だけでなく、受講者のみなさんが講義に積極的に参加（単なる「出席」ではありません）してくれることも大事です。みなさんの頑張りに期待しています。
その他	講義中、他の人に迷惑をかけるような行為（私語など）は厳に慎むこと。そのような行為に対しては、厳格に対処する。

授業コード	91043		
授業科目名	企業戦略・テクノロジー概論（後）		
担当者名	芋野兵衛(オノ ヒョウエ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	研究成果は事業化され、商品となって初めて完成されたものとなる。この過程では「死の谷」と呼ばれる多くの課題が存在する。本講では、企業における技術戦略の策定から研究・開発・製造・商品化にいたる事例とこれらを効率的に遂行するために開発された各種のマネジメント手法を概説する。また、企業における組織と人事・評価制度から企業人としての要件、個人や組織間でのコミュニケーションに言及する。
到達目標	研究・開発・製造等に関連した各種のマネジメント手法を理解したうえで、企業活動の実際を知ることにより、研究・開発の重要性と効率化の必要性を認識し、イノベーションへの対応力を涵養する。
講義方法	講義
準備学習	関心のある企業のホームページを開き、企業理念、製品、組織などを見て、企業についてのおよその概念をつかんでおくこと。
成績評価	出席および小レポート。
講義構成	1. 企業経営と技術戦略 2. 技術戦略（1） 3. 技術戦略（2） 4. コアテクノロジー 5. 研究・開発組織（1） 6. 研究・開発組織（2） 7. 研究・開発のマネジメント（1） 8. 研究・開発のマネジメント（2） 9. 技術提携 10. 産学連携 11. 生産管理技術（1） 12. 生産管理技術（2） 13. 人材育成と人事評価（1） 14. 人材育成と人事評価（2） 15. 特許戦略
教科書	パワーポイント、配布資料
参考書・資料	「企業戦略論」（上） ジェイ・B・バーニー著、ダイヤモンド社 「技術経営論」 丹羽 清著、東京大学出版会
担当者から一言	企業で自分のやりたい研究をするには何が必要か考えてみよう。

授業コード	91012
-------	-------

授業科目名	ケミカルサイエンス序論(前)		
担当者名	村嶋貴之(ムラシマ タカン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	私たちの身の回りは有機化合物であふれている。有機化学は薬品や材料の多くが有機化合物であることから有機化学の重要性は明らかであるが、それを支えているのは有機化合物の多様性である。有機化学は炭素化合物の化学であるから、有機化学を理解するために、まず、炭素－炭素結合がどのようにしてできているのかを解説する。さらに、多様な有機化合物を系統的に分類し、その構造と性質の関連を学ぶとともに基本的な有機反応について概説する。
到達目標	目的:有機化学の基本原理を修得し、それに基づいて論理的に考察することで多くの反応が理解できることを体感する。 ・共有結合の成り立ちを電子の軌道から考察する ・化学反応が起こるきっかけは何か、を理解する ・結合の切断と新しい結合の生成を考察する ・基本的な有機反応の反応機構が説明できる
講義方法	講義(適宜演習を行う)
準備学習	有機化学の初歩から始めるが、高等学校の化学の教科書の内容は復習して理解しておくこと。
成績評価	期末試験(70%)、小テスト及びレポート(30%)から評価する。
講義構成	1. 身の回りにある有機化合物 2. 有機化学を学ぶことの意義 3. 電子の軌道と共有結合 4. シグマ結合とパイ結合 5. 結合の分極と開裂 6. 官能基の種類と分極 7. 官能基による分極 8. 有機化学における酸と塩基 9. ハロゲン化合物 10. 炭化水素 11. 芳香族化合物 12. カルボニル化合物 13. 立体化学 14. ラジカル反応 15. まとめ
教科書	ジョーンズ有機化学(上、下)第3版(東京化学同人)
参考書・資料	特にないが、毎回プリントを配布する
担当者から一言	有機化学はわずかな基本原理を理解すれば、多くの反応を理解することができる。決して暗記の学問ではないことを念頭に置いて、この講義を、化学反応を覚えるのではなく考えるトレーニングの第一歩としてほしい。

授業コード	91035		
授業科目名	構造有機化学(4～5月)(前)		
担当者名	甲元一也(コウモト カズヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 金曜2限
特記事項	クォーター科目(A期)		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	有機化合物は、原子間の電子の共有(共有結合)によって形成され、その構造は各原子における混成軌道の組み合わせによって決定される。本講義では、分子における電子配置と分子軌道の基礎的概念を理解し、化学構造式から有機化合物の立体構造を洞察できる思考を身につける。また、立体構造によって生じる不斉炭素や構造異性体について学習する。さらに、有機化合物に対する一般的な名称の付け方についても学習する。
到達目標	有機化合物の立体構造を理解し、イメージできる理論と“眼”を身につける。

	・電子と共有結合について理解する ・化学構造式から分子の立体構造をイメージできる ・立体化学と不斉について理解する ・一般的な有機化合物の名称がわかる
講義方法	配布プリントに沿って、講義をすすめる。
準備学習	講義はジョーンズ有機化学(上)に沿って行う。 予習には、ジョーンズ有機化学(上)を用い、講義構成にあわせて事前に内容を読んでくること。また、復習にはジョーンズ有機化学(上)に加えて、講義で配布したプリントを活用すること。
成績評価	試験(70%)、レポート(30%)から評価する。
講義構成	1. 科学における有機化学の役割 2. 原子と分子(1)－軌道と共有結合－ 3. 原子と分子(2)－Lewis電子式とオクテット則－ 4. 原子と分子(3)－共鳴構造式－ 5. アルカン、アルケン、アルキン－混成軌道－ 6. アルカン－コンフォメーション異性体とNewman投影式－ 7. 有機化合物の命名法(1)－アルカンの命名－ 8. アルケン、アルキン－π結合と幾何異性体－ 9. 有機化合物の命名法(2)－異性体の命名－ 10. 立体化学(1)－光学異性体とR/S表示法－ 11. 立体化学(2)－エナンチオマーとジアステレオマー－ 12. 環状化合物(1)－環状化合物の構造－ 13. 環状化合物(2)－安定コンフォメーション－ 14. 共鳴と反応性(1)－立体化学と共鳴・共役－ 15. 共鳴と反応性(2)－電子の偏りと酸塩基の強さ－
教科書	ジョーンズ有機化学(上)第3版(東京化学同人)
参考書・資料	ライフサイエンス有機化学(立体化学・生体分子・物質代謝)共立出版
担当者から一言	高等学校の化学を履修していない学生にもわかるよう、基礎的な部分から授業を開始し、補足資料やレポートによって理解を深められるよう工夫しながら授業を進めます。

授業コード	91020		
授業科目名	細胞工学 (6～7月)(前)		
担当者名	西方敬人(ニシカタ タカヒト)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限 木曜1限
特記事項	クォーター科目 (B期)		

講義の内容	生物によって発現される高次機能や遺伝子化学工学を中心とした細胞化学工学の基本と応用について理解する。培養細胞技術の概要とその応用例、ES細胞やトランスジェニックマウスの作製方法とその応用技術、成体の多くの組織に存在する多能性幹細胞研究の実際、遺伝子組換え技術と細胞培養を組み合わせた最新の細胞加工技術を利用した再生医療研究などを詳細に解説するとともに、それらの基礎となる遺伝子機能や生体内分子メカニズムを詳説する。
到達目標	目的:細胞内での遺伝子メカニズムの詳細を理解するとともに、細胞や個体の取扱い、遺伝子メカニズムを明らかにするための基本的な実験技法とその原理を理解する。 ・細胞機能解析の基礎概念を理解する ・遺伝子機能解析の基礎概念を理解する ・発生工学・細胞工学の基礎概念を理解する
講義方法	講義
準備学習	バイオサイエンス序論, 生化学, 分子生物学の講義内容を良く理解しておくこと。
成績評価	講義中のレポート課題および期末試験により評価する。
講義構成	1. 細胞の基礎:細胞の構造、細胞小器官の機能、細胞分裂メカニズム 2. 細胞培養技術:培養に必要な器具、試薬、培養技法 3. 細胞機能解析I:活性測定、阻害剤 4. 細胞機能解析II:フローサイトメトリー 5. 遺伝子の基礎:ゲノム構造、遺伝子発現調節

	6. 遺伝子機能解析I: 遺伝子機能亢進 7. 遺伝子機能解析II: 遺伝子機能抑制 8. 遺伝子機能解析III: RNAi 9. 細胞の可視化: 蛍光染色 10. 細胞の可視化: 抗体染色 11. 胚操作I: マイクロマニピュレーション 12. 胚操作II: クローン動物、トランスジェニック動物 13. 細胞加工I: 初代培養、組織培養 14. 細胞加工II: ES細胞、iPS細胞 15. まとめ: 細胞技術の可能性
教科書	特に定めない。講義中に適宜プリントを配布する。

授業コード	91006		
授業科目名	数学及び演習（前）		
担当者名	臼井健二（ウスイ ケンジ）		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限 木曜2限

講義の内容	ナノバイオ分野の基礎となる物理化学の理解と応用に欠かせない数式に慣れ、使いこなす能力を習得させることを目的とする。特に、物理化学分野の諸問題（熱力学、分子運動論、統計力学、化学反応速度論、電気化学、分光學、量子力学など）に対応できるよう、行列・行列式、微分方程式、ベクトル解析、関数等の基本について解説することによって、数式の運算、微積分、変数変換、行列式の計算等の実践的な能力の習得を目指す。なお、本科目は2コマ連続で開講し、講義と演習を織り交ぜた形式で実施する。
到達目標	高校までの数学を復習し、理解することが第一の目標である。それを踏まえて、微分積分や線形代数などの基本事項を理解し、初等的な応用展開ができることを第二の目標とする。また、ナノバイオ分野で用いられる基礎数学を実践できる能力の取得を目指す。
講義方法	講義及び演習
準備学習	授業は高校数学の復習から始まる。予習として、高校数学のポイントを整理するために高校教科書を読み返すことを薦める。また、高校教科書や問題集の問題を解いておき、高校時代に習ったことをよく思い出しておくことが望ましい。高校数ⅢCの範囲を履修していない者は、高校数ⅢCの予習も心がけてほしい。
成績評価	出席、演習、レポート、期末試験を総合して評価する。
講義構成	1. 基礎数学(1) 化学と数学／関数とグラフ 2. 基礎数学(2) 指数関数と対数関数 3. 基礎数学(3) 三角関数 4. 基礎数学(4) 複素数 / 線形代数(1) ベクトル 5. 線形代数(2) 行列 6. 線形代数(3) 連立一次方程式 7. 線形代数(4) 行列式 8. 基礎数学(5) 数列と極限 9. 微分積分(1) 様々な関数の微分 10. 微分積分(2) 関数の増減 11. 微分積分(3) 速度と近似式 12. 微分積分(4) 偏微分 13. 微分積分(5) 不定積分 14. 微分積分(6) 積分の応用 15. 微分積分(7) 微分方程式
教科書	「理工系学生のための基礎数学」 堤香代子著（理工図書）
参考書・資料	高等学校の教科書、微分積分や線形代数の入門書など
担当者から一言	高校数学などの基礎的な内容から授業を開始し、補足資料や演習によって理解を深めながら、大学数学の初等までを無理なく習得できるよう授業を進めます。

授業コード	91019
-------	-------

授業科目名	生化学 (9～11月)(後)		
担当者名	臼井健二(ウスイ ケンジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限 金曜4限
特記事項	クォーター科目(C期)		

講義の内容	本講義では、蛋白質や糖質あるいは脂質といった生物の構成成分を化学的に取り扱う。生命現象にかかわる分子の構造を学び、生体内におけるこれらの分子の役割を学ぶ。アミノ酸、ヌクレオチド、脂質などの各種生命分子の生合成を学び、生体中における物質合成の知識を得る。また、糖、グリコーゲン、脂肪酸などの代謝の仕組みから、生命分子の物質変換を通じたエネルギー産生を理解する。さらに、酵素の機能と生体内での活性発現を取り扱い、補酵素やビタミン或いは金属元素等の重要性を学習する。
到達目標	生命分子と生命現象を結びつける生化学の基礎を身につける。生命現象を分子とそれに関わる化学反応で捉える目を養い、生命維持システムを化学的に説明できるようにする。 ● 生体を構成する基本的な分子(アミノ酸、核酸、糖質、脂質など)の構造を知る。 ● 生命現象を維持する構成要素とその役割を理解する。 ● 代謝を学び、生体エネルギー産生を理解する。
講義方法	プロジェクターによる映写、プリント資料および板書による。演習も行う。
準備学習	高校での生物、化学を復習しておくことが望ましい。また、バイオサイエンス序論(前)及びナノバイオサイエンス序論(前)も復習しておく。
成績評価	出席、演習、レポート、期末試験を総合して評価する。 なお、出席は毎回行う予定の小テストやレポートの提出および返却(授業開始時と終了時)で確認する。 小テストやレポートの提出がなかった者や、返却時に不在の者については、点呼し確認ののち、なお不在と認められる場合に「欠席」とする。
講義構成	1. 序論 2. 生体分子の構造と機能(1) アミノ酸とペプチド 3. 生体分子の構造と機能(2) タンパク質の高次構造 4. 生体分子の構造と機能(3) タンパク質の機能 5. 生体分子の構造と機能(4) 酵素、補酵素、ビタミン 6. 生体分子の構造と機能(5) 酵素反応の速度論 7. 生体分子の構造と機能(6) 糖質 8. 代謝と生体エネルギー論(1) 解糖、糖新生、グリコーゲン代謝 9. 代謝と生体エネルギー論(2) クエン酸回路 10. 代謝と生体エネルギー論(3) 電子伝達とATP合成 11. 生体分子の構造と機能(7) 脂質と生体膜 12. 代謝と生体エネルギー論(4) 脂質代謝とアミノ酸代謝 13. 生体分子の構造と機能(8) 核酸 14. 代謝と生体エネルギー論(5) ヌクレオチド代謝 15. 代謝と生体エネルギー論(6) 光合成
教科書	「ホートン 生化学(第4版)」ホートンほか著 (東京化学同人)
参考書・資料	「ヴォート基礎生化学」D. ヴォートほか著 (東京化学同人)などの生化学の教科書や、 「Biochemistry」Donald Voetほか著(Wiley)、「Principles of Biochemistry」Robert H. Hortonほか著(Prentice-Hall)などの英語で書かれた生化学の教科書
担当者から一言	高校生物や高校化学の復習も行いながら、大学レベルの生化学の基礎を無理なく習得できるよう授業を進めます。

授業コード	91028		
授業科目名	生物無機化学 (11～1月)(後)		
担当者名	藤井敏司(フジイ サトシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 金曜1限
特記事項	クォーター科目(D期)		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	生物は核酸、アミノ酸、タンパク質などの有機物を主成分としているが、多くの重要な生体反応過程において、金属イオンが必須因子として関与している。また、自然には生体中にみられない金属イオンが治療薬、診断薬として用いられている。生物無機化学はこのような生物中にある金属イオンの振る舞いを対象とする化学と生物学の接点にある境界領域の学問であり、合成化学、分子分光化学、電気化学、理論化学、生化学、分子生物学など幅広い領域に関係する。本講義では、生物無機化学を理解するうえで重要な化学・生物学の基礎および応用について概説する。
到達目標	・ 配位化学の基礎について理解する ・ タンパク質や核酸と金属イオンの相互作用を調べる物理化学的手法に馴染む ・ 電子移動、加水分解、酸化還元各反応の基礎を理解する ・ 金属イオンが関与する疾病、薬剤についての基礎を理解する
講義方法	板書、パワーポイントを利用して講義する。プリントなども適宜配付する。
準備学習	1年次に「無機化学」、「量子物理化学」、「生化学」を、また2年次前期に「生物有機化学」を履修していることが望ましいが、履修していなくても理解できるよう、基礎から講義をする。
成績評価	定期試験(70%)、レポート(30%)
講義構成	1. 序論「生物無機化学」とは 2. 無機溶液化学の基礎 HSAB理論・安定度定数 3. 配位化学の基礎 電子配置と立体構造・配位子場安定化エネルギー 4. 生体分子の性質 タンパク質・核酸・金属結合生体分子 5. 物理化学的手法 X線、磁気共鳴、電子及び振動分光法、酸化還元電位 6. 輸送と貯蔵 細胞中の金属イオン濃度の制御と利用 7. 生体分子の折りたたみと架橋 構造の安定化 8. アルカリ金属とアルカリ土類金属 膜輸送・核酸との錯体 9. 金属タンパク質と金属酵素1:電子伝達タンパク質 10. 金属タンパク質と金属酵素2:酸素運搬体と加水分解酵素 11. 金属タンパク質と金属酵素3:酸化還元の化学1 12. 金属タンパク質と金属酵素4:酸化還元の化学2 13. 金属タンパク質と金属酵素5:酸化還元の化学3 14. 細胞毒と化学療法 15. 構造及び反応性のプローブとしての金属錯体
教科書	「生物無機化学」S. J. Lippard & J. M. Berg著(松本和子監訳)、東京化学同人
参考書・資料	「生物無機化学—金属元素と生命の関わり」増田秀樹ら著、三共出版
担当者から一言	生物無機化学は、無機化学、生化学、物理化学、微生物学、生理学など非常に多様な学問の境界領域にある学問です。生命中の金属イオンの働きを中心に生命現象の多様さ、その仕組みの素晴らしさに触れてみましょう。
その他	携帯電話の電源はオフにすること。 他人に迷惑のかかる程の私語は慎むこと。

授業コード	91037		
授業科目名	生物有機化学(6～7月)(前)		
担当者名	甲元一也(コウモト カズヤ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限 金曜1限
特記事項	クォーター科目(B期)		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	生体内の化学反応の多くは、20種類のアミノ酸を重合して作られた蛋白質(酵素)によって触媒され起こる。酵素の類い希なる分子認識能と触媒活性、特に、有機反応が不利な水中においてすら効率的に進むその反応性は、特徴的な立体構造と側鎖の官能基がもたらしている。本講義では、酵素が起こす種々の化学反応を、有機化学の視点から眺め、触媒反応が起こるメカニズムを学習する。また、核酸、蛋白質、糖鎖の人工合成を例に出し、天然系と合成系の違いや人工系ならではの工夫を学習する。
到達目標	本講義では、生物と化学の融合分野を化学の視点から眺め、化学、生物の講義で独立に学んだ知識を融合し、総合的に理解・活用できるようになることを目指す。 ・ 酵素反応を有機化学的な視点から考えることができる

	・生体分子の構造と機能を理解する ・生体分子の合成機構を理解する ・人工的に生体分子を合成するための有機化学の工夫を知る
講義方法	プリントを配布し、それに沿って授業をすすめる。
準備学習	必要な予習に関しては、授業中に適宜、指示を出す。
成績評価	試験(80%)、レポート(20%)から評価する。
講義構成	1. 生体を構成する分子とその機能 2. アミノ酸、ペプチドとタンパク質の化学 3. タンパク質の高次構造 4. 溶媒の役割 5. 有機化学と溶媒 6. 触媒反応と遷移状態の安定化 7. 相互作用とタンパク質の構造と機能 8. 構造安定性や酸化還元反応に関わる金属イオンや補酵素 9. 酵素触媒機構1 10. 酵素触媒機構2 11. 生体高分子の化学合成(1) 一液相合成と固相合成 12. 生体高分子の化学合成(2) 一逐次合成法と保護、脱保護 13. 生体高分子に化学合成(3) 一縮合剤と活性エステル 14. ペプチドの化学合成 15. 核酸の化学合成
教科書	なし
参考書・資料	「ジョーンズ有機化学(上、下)第3版」(東京化学同人) 「ライフサイエンス有機化学」、飯田隆著、共立出版 「入門 酵素と補酵素の化学」(T.D.H.Bugg著、井上國世訳、Springer出版) 「酵素反応機構」、E. ゼフレン・P. L. ホール著、学会出版センター 「分子認識と生体機能」、小宮山真・荒木孝二著、朝倉書店
講義関連事項	本講義を履修する前に、「構造有機化学」「有機電子論」「有機反応各論」「生化学」等を受講していることが望ましい。

授業コード	91029		
授業科目名	生命物理化学 (9～11月)(後)		
担当者名	中野修一(ナカノ シュウイチ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 水曜1限
特記事項	クォーター科目(C期)		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	生命現象の原理原則を理解するには、原子や分子の物理化学的な性質を考慮する必要がある。生命現象は様々な化学変化によって引き起こされることから、講義では化学変化を静的側面から捉える熱力学的な概念と、動的側面から捉える化学反応速度式の取り扱い方法に重点を置いて、バイオ関連分子が行う化学反応の物理化学的な側面を解説する。
到達目標	生命現象と物理化学の関連性を理解し、物理化学の考え方や基礎知識を身につける。
講義方法	講義
準備学習	物理に関する知識は必ずしも必要ないが、高校の化学で学んだ反応熱や気体の状態方程式に関する内容は理解していることが望ましい。
成績評価	試験結果をもとに評価する。なお、出席回数が極端に少ない場合は成績を評価しない。
講義構成	1. 物理化学から見た生体反応 2. 分子運動と温度 3. 分子の運動エネルギーと速度分布 4. 化学反応と反応熱 5. エンタルピーと熱力学の法則 6. エンタルピーと化学反応

	7. 静電相互作用 8. 生体分子反応と分子間力 9. バイオ分子の相互作用 10. エントロピーと熱力学の法則 11. エントロピーと化学反応 12. 自由エネルギー 13. 化学平衡と生体反応 14. 化学反応の速度論 15. 触媒と酵素反応 16. 試験
教科書	生命科学系のための物理化学(東京化学同人)

授業コード	91032		
授業科目名	生命分析化学 (4～5月)(前)		
担当者名	三好大輔(ミヨシ ダイスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 水曜2限
特記事項	クォーター科目(A期)		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	生体を構成する多種多様な分子は、互いに協調することで高度な機能を発揮し、生命を構成・維持している。そのため、生命を理解するためには、分子の諸性質を理解する必要がある。核酸やタンパク質を中心に、生命を構成する分子の構造や働きについて、化学的側面から解説する。このような知見をもとに、研究の遂行に必要なとなるバイオ分子や細胞の分析法について、その原理と方法を学ぶ。
到達目標	多様な生命分子の化学的・物理的物性、さらには生物学的な役割について理解する。さらに、生命分子の試料作製、及び配列・構造・諸性質の分析方法について理解する。また、多様な分析・測定方法を実践するために必要な原理と知識を習得することを目標とする。
講義方法	講義
準備学習	講義内容は生命物理化学やXXと関連するが、履修済みである必要はない。
成績評価	出席、レポート、期末試験を総合して評価する。 また、講義内容に関する理解度を確認する小テストを行う場合がある。 (総合的に見て履修を放棄したと判断できる場合は欠席として評価する)
講義構成	1. 生命分子の分析とは 2. 定性分析と定量分析 3. 生命分子の化学平衡 1: 酸と塩基 4. 生命分子の化学平衡 2: 沈殿、錯形成 5. 生命分子の化学平衡 3: 酸化・還元 6. 生命分子の紫外可視吸光度法 7. 生命分子の蛍光・化学発光分析法 8. 生命分子の分離分析法1: クロマトグラフィー 9. 生命分子の分離分析法2: 電気泳動 10. 生命分子を活用する分析方法: 酵素を用いた分析法 11. 生命分子を活用する分析方法: 免疫測定法 12. オームプロジェクト: 生命分子の配列解析 13. バイオイメージング: X線、NMR、超音波、放射性核種 14. 生命分子間の相互作用の分析方法 15. まとめ
教科書	なし

授業コード	91023
-------	-------

授業科目名	電気化学 (4～5月)(前)		
担当者名	縄舟秀美(ナワフネ ヒデミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限 木曜2限
特記事項	クォーター科目 (A期)		

講義の内容	電池や燃料電池のような電気化学的エネルギー変換・貯蔵システムがクリーンで効率のよいシステムとして、現代社会が直面する環境とエネルギー資源の問題を解決するための有効な方策の一つとして注目されている。一方、電気化学は、各種金属や無機・有機化合物の製造・合成、表面処理などの幅広い基幹産業において応用されている。さらに、酸化チタンなどの光電気化学反応による環境浄化および水素製造システムも電気化学の重要な分野である。本講義では、電気化学の基礎および電気化学を基礎とする科学・技術について講述する。
到達目標	現代社会が直面する環境とエネルギー資源問題を、科学的な視点で説明することができる。また、電気化学は幅広い基幹産業の要素技術でもあることから、社会的なニーズを評価することができる。
講義方法	教科書を使用する。講義ノートの完成を促すレジュメを配布する。
準備学習	講義内容の理解には、「無機化学」、「量子物理化学」を修得していることが望ましい。未修得者は、事前に教科書を熟読すること。また、電気化学は社会的ニーズと関連が深いことから、新聞の経済・産業の欄を日常的に読むことを習慣づける。
成績評価	出席が前提であり、定期試験と演習問題とレポートにより総合的に評価する。
講義構成	1. 序論「電気化学」への招待 2. 電気化学システム(電気分解と電池) 3. 電解質溶液の性質 4. 電極／電解液界面の構成 5. ファラデーの法則と物質質量 6. 標準電極電位と電極電位 7. 電池の起電力 8. 電極電位とギブスの自由エネルギー 9. 電荷移動過程と物質移動過程 10. 電気化学測定法 11. 電解合成 12. 有機電極反応 13. 生体の機能と電気化学 14. 光電気化学 15. 半導体電極と半導体の光触媒反応
教科書	「電気化学」小久見善八 編(オーム社)
参考書・資料	「電気化学の基礎と応用」美浦 隆、佐藤祐一、神谷信行、奥山 優、縄舟秀美、湯浅 真 著(朝倉書店) 「電気化学概論」松田好晴、岩倉千秋 著(丸善)

担当者から一言	電気化学の基礎の理解のみならず、社会的ニーズの把握に努めてください。進路探索の第一歩となるでしょう。
---------	--

授業コード	91010		
授業科目名	ナノサイエンス序論 (前)		
担当者名	赤松謙祐(アカマツ ケンスケ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	物質の構造や機能は、物質の種類によって一義的に決まるものではなく、作製方法や大きさによって大きく異なることが知られている。特にナノメートルサイズの領域で起こる種々の現象は、自然界における基本原理の根幹をなす場合が多い。現在ではナノレベルでの材料科学・技術の発展が著しく、研究開発が世界的規模で急速に展開している。本講義では、ナノサイエンス・ナノテクノロジーを理解する上で基礎となる事項、最新の動向、および将来展望について、特に材料化学の観点から概説する。 目的: ナノサイエンスの概要を理解し、ナノサイエンスを基礎とする産業分野との関連を将来展望としてイメージする。 ● ナノサイエンスの基礎構築
-------	---

	● ナノテクノロジーと材料化学 ● ナノテクノロジーの最新動向と将来展望
到達目標	ナノサイエンスに関する物理、化学の基礎知識について学び、既存の専門分野との関連性とナノサイエンス分野の位置づけについて理解する。
講義方法	講義
準備学習	参考書に目を通すことが望ましいが、事後学習を充分に行うことが肝要。
成績評価	出席が前提であり、試験、レポートにより総合的に評価する。
講義構成	1. ナノの世界 2. ナノサイエンスとナノテクノロジー 3. 国際的動向1 応用分野 4. 国際的動向2 特許・市場規模 5. 物質のサイズ領域 マクロ・メソ・ミクロ 6. ナノの世界で発現する現象 7. ナノ構造作製技術 トップダウンとボトムアップ 8. コンピュータ技術とナノテクノロジー 9. LSI技術 10. 半導体微細加工と超LSI 11. IT産業におけるナノテクノロジー 12. バイオ産業におけるナノテクノロジー 13. 環境問題におけるナノテクノロジー 14. ナノサイエンス・ナノテクノロジーの将来展望(1) 15. ナノサイエンス・ナノテクノロジーの将来展望(2)
教科書	なし
参考書・資料	「ナノテクノロジー入門」川合知二 著、オーム社 「ナノテクノロジー・ハンドブック」日経BP社

担当者から一言	大学での学習が、将来どのように生かされる可能性があるかを把握することは、特に大切なことです。
---------	--

授業コード	91027		
授業科目名	ナノテクノロジー (6～7月)(前)		
担当者名	赤松謙祐(アカマツ ケンスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限 木曜2限
特記事項	クォーター科目(B期)		

講義の内容	物質のサイズがナノスケールになると体積に対して表面の占める割合が著しく増加し、さらに電子構造も変化するため通常では見られない特異な物性が発現する。近年の材料技術の発展において、先端材料と呼ばれる材料のサイズはナノメートルサイズに近づきつつあり、このナノサイズ物質が示す性質を利用した先進技術「ナノテクノロジー」は21世紀を支える根幹技術となりえる。今後ナノテクノロジーを様々な既存技術と融合、発展させる場合に、ナノサイズ領域で発現する様々な現象の本質的理解は重要である。本講義では、このサイズ領域で発現する種々の現象や起源および応用例について概説する。
到達目標	目的：物質のサイズ効果について理解し、テクノロジーと材料スケールの関係についての素養を身につける。 理解・達成目標： 1. 固体構造と電気・光物性について理解する 2. 金属・半導体・磁性体のサイズ効果がわかる 3. 微細加工技術を微細構造観察技術についての基礎を身につける
講義方法	講義
準備学習	参考書に目を通すことが望ましいが、事後学習により注力することが肝要。
成績評価	出席、レポート提出および期末試験により総合的に評価する。
講義構成	1. 序論「ナノテクノロジー」とは 2. 原子・分子・バルク材料の構造 3. ナノサイズ物質の電子構造「金属・半導体・絶縁体・磁性体」 4. 表面効果1「融点降下、易焼結性とその応用」 5. 表面効果2「触媒活性の増大とその応用」

	6. サイズ効果1「金属ナノ粒子の表面プラズモン共鳴」 7. サイズ効果2「半導体ナノ粒子の発光」 8. サイズ効果3「磁性ナノ粒子の性質」 9. ナノ材料を用いたバイオセンサー 10. 微細加工技術「リソグラフ・2次元、3次元造形」 11. 微細構造観察技術「電子顕微鏡、原子間力顕微鏡」 12. 光・電子材料への応用「光ディスク・導波路・単電子トランジスタ」 13. 記録材料への応用「テラビット磁気メモリ」 14. エネルギー変換材料への応用 15. ナノテクノロジーの実用化への課題と将来展望
教科書	なし
参考書・資料	「ナノテクノロジーの基礎科学」M. Wilson他 著、小藺井薫 訳、NTS出版 「図解 ナノテクノロジーのすべて」、川合知二監修、工業調査会

授業コード	91011		
授業科目名	ナノバイオサイエンス序論（前）		
担当者名	三好大輔(ミヨシ ダイスケ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	随時、質問やリクエストを受け付ける。		

講義の内容	生命は細胞の集合体であり、細胞は分子の集合体である。すなわち、生命体は、非常に精巧に形づくられた分子集合体である。このような非常に精巧な生命（バイオ）に学び、ナノスケールの新材料を開発することが、ナノバイオサイエンスにおける目標の一つにある。また、ナノテクノロジーを用いて、生命体の仕組みを理解したり、医療・健康・食品などに貢献することもナノバイオサイエンスに課された課題である。本講義では、ナノとバイオの基礎となる分子を学ぶことにより、バイオでナノに貢献する、ナノでバイオを解明する方法を学ぶ。
到達目標	ナノサイエンスとバイオサイエンス、さらにそれらを融合したナノバイオサイエンスを理解するために必要な基礎的な知識を習得する。そのためには、ナノとバイオの共通点や相違点について理解する必要がある。さらに、ナノバイオの広範な学問・研究領域において、自らが考え研究していくために必要な視点や概念について理解することを目標とする。
講義方法	講義
準備学習	講義の内容について復習することで、次週の講義の準備となる。 講義のポイントを明示するので、そのポイントを調べ、理解を深める。
成績評価	出席、レポート、期末試験を総合して評価する。 また、講義内容に関する理解度を確認する小テストを行う場合がある。 （総合的に見て履修を放棄したと判断できる場合は欠席として評価する）
講義構成	1. ナノバイオサイエンスとは 2. バイオに見るナノの世界 3. バイオを構成する分子 4. バイオ分子の特徴 5. バイオ分子の相互作用1: バイオ分子とエネルギー 6. バイオ分子の相互作用2: 核酸 7. バイオ分子の相互作用3: タンパク質、糖鎖、脂質 8. バイオ分子の相互作用4: バイオ分子システム 9. 前半のまとめ 10. バイオ分子を用いたナノテクノロジー 11. ナノバイオサイエンスの実際1: バイオセンサーとバイオイメージング 12. ナノバイオサイエンスの実際2: 超分子科学 13. ナノバイオサイエンスの実際3: ドラッグデリバリーシステム 14. ナノバイオサイエンスの実際4: 分子デバイスと分子材料 15. まとめ
教科書	なし
参考書・資料	ナノテクのためのバイオ入門 荻野 俊郎、宇理須 恒雄、日本表面科学会 編集 共立出版 「医療ナノテクノロジー」片岡一則監修 杏林図書 ナノバイオテクノロジー 丸山厚 監訳 NTS

担当者から一言	講義内容は非常に広範にわたります。有用な材料や素子を開発することを目的とするナノサイエンスの立場から、生命やバイオの面白さと有用性を見直してみましょう。逆に、複雑な情報と機能を研究するバイオサイエンスの立場から、新しいナノ材料やナノ素子を考えてみましょう。
---------	--

授業コード	91015		
授業科目名	ナノバイオラボ1A (前)		
担当者名	村嶋貴之(ムラシマ タカシ)、西方敬人(ニシカタ タカヒト)、川上純司(カワカミ ジュンジ)、藤井敏司(フジイ サトシ)、三好大輔(ミヨシ ダイスケ)、長濱宏治(ナガハマ コウジ)、臼井健二(ウスイ ケンジ)、鶴岡孝章(ツルオカ タカアキ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限 水曜4限 水曜5限 木曜3限 木曜4限 木曜5限

講義の内容	ナノバイオラボベーシックで習得した知識と技能をもとにして、ナノサイエンス系、バイオサイエンス系、ナノバイオサイエンス系のより専門性の高い実験を行う。ナノサイエンス系実験では、物質の合成等に関してより詳細な条件設定及び検討を伴った比較的高度な化学合成の技術を習得する。バイオサイエンス系実験では、遺伝子の単離、増幅・解析、胚発生過程の観察・解析等を行う。ナノバイオサイエンス系の実験では、固相合成等、研究段階で実際に使われている生命分子合成の操作と原理を学ぶ。なお、各実験課題について、その専門性から適任と判断できる複数教員が指導にあたる。
到達目標	ナノバイオ: 研究で実際に行われているペプチドの固相合成を通じて、生体関連物質に関する合成及び分析の原理・方法・操作を復習、習得する。 ナノ: ナノバイオラボベーシックAで学んだ操作をもとにして一般的な有機合成反応を行い、有機化合物を合成し、単離精製する技術を習得する。また、核磁気共鳴スペクトル、赤外吸収スペクトル、紫外可視吸収スペクトル等から化合物を同定する知識・経験を体系的に身につける。 バイオ: ナノバイオラボベーシックAで学んだ内容をさらに発展させ、試薬の調整から条件検討、データの解析まで、分子生物学実験をひとりでやっていける能力を習得する。その中で、実験に際して何が重要かを徹底的に学ぶ。
講義方法	実験
準備学習	各実験の操作とその意味について事前に把握しておくこと。実験室に来てからテキストを読み始めるのでは、その日の実験を行うことはできない。
成績評価	出席、レポート等から総合的に評価する。
講義構成	(ナノバイオ: 臼井 健二、三好 大輔) 1. ペプチドの固相合成 2. ペプチドの固相合成 3. 脱樹脂・脱保護 4. ペプチドの精製と分析 5. ペプチドサンプルを用いた機器分析 (ナノ: 村嶋 貴之、鶴岡 孝章) 6. 置換反応と脱離反応 7. アルドール縮合 8. 芳香族ニトロ化反応 9. Williamson合成 10. アゾカップリング反応 (バイオ: 西方 敬人、川上 純司、藤井 敏司、長濱 宏治) 11. 無菌操作と大腸菌培養の実践 12. コンピテントセルの作製と形質転換 13. タンパク質の発現条件の検討と発現 14. タンパク質の電気泳動と解析 15. 融合タンパク質の利用
教科書	秀潤社「バイオ実験イラストレイテッド①分子生物学実験の基礎」(ISBN:978-4879621481) 秀潤社「バイオ実験イラストレイテッド②遺伝子解析の基礎」(ISBN:978-4879621498) その他、適宜、配付あるいは紹介する

授業コード	91016		
授業科目名	ナノバイオラボ1B (後)		
担当者名	川上純司(カワカミ ジュンジ)、西方敬人(ニシカタ タカヒト)、藤井敏司(フジイ サトシ)、赤松謙祐(アカマツ ケンスケ)、三好大輔(ミヨシ ダイスケ)、甲元一也(コウモト カズヤ)、長濱宏治(ナガハマ コウジ)、臼井健二(ウスイ ケンジ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限 水曜4限 水曜5限 木曜3限 木曜4限 木曜5限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	ナノバイオラボ1Aで習得した知識と技能や、合成した物質等を活かして、関連する内容をさらに深く学ぶ。ナノサイエンス系実験では、さらに多様な反応機構について取扱い、合成条件の検討、反応装置の組み立て、生成物の同定や単離といった合成技術全般についての習熟を図る。バイオサイエンス系実験では、培養細胞を用いた実験の基礎的な手技・手法を修得するとともに、培養細胞を用いることでどのようなことが明らかにできるのかを学ぶ。ナノバイオサイエンス系の実験では、これまでに合成した生体関連物質と、酵素等との間に起こる反応について調べ、生命分子間反応の物理化学的側面を学ぶ。なお、各実験課題について、その専門性から適任と判断できる複数教員が指導にあたる。
到達目標	ナノバイオ：核酸に関する化学的研究に必要な操作と測定方法について学ぶ。さらに、生体分子間の相互作用を測定、解析することで、精度よく実験を進めるために重要な事柄を理解する。 ナノ：金属ナノ粒子を合成し、電子顕微鏡および元素分析装置などを用いたナノ材料評価手法を学ぶ。さらに、データ解析を通じてナノ材料の解析に必要な基礎技術を習得する。 バイオ：無菌操作やクリーンベンチでの操作、種々の細胞動態の解析、遺伝子解析などの基本的手技・手法を習得するとともにそれらのデータの解析法を学ぶ。その中で、培養細胞を用いた実験に際して何が重要かを徹底的に学ぶ。
講義方法	学生を3つのグループに分け、ナノバイオ、ナノ、バイオの3つのテーマを5週ずつ順番にすべて受講する。
準備学習	配布されるテキストに基づいて、事前に使用する器具類、試薬、実験の原理等を調べてから実験に臨むこと。
成績評価	出席、レポート等から総合的に評価する。
講義構成	(ナノバイオ：三好 大輔、臼井 健二) 1. 核酸の合成と精製 2. 核酸の精製と定量 3. 核酸の分光測定 4. 核酸とペプチドの相互作用の測定 5. 核酸とペプチドの相互作用の解析 (ナノ：赤松 謙祐、甲元 一也) 6. 金ナノ粒子の合成 7. ナノ粒子の精製と分光学的評価 8. 走査型電子顕微鏡観察 9. 透過型電子顕微鏡観察 10. サイズ評価とスペクトル解析 (バイオ：西方 敬人、川上 純司、藤井 敏司、長濱 宏治) 11. 細胞培養の基本操作 12. 付着細胞の取扱と植え継ぎ 13. 蛍光抗体染色法と蛍光顕微鏡の使い方 14. 細胞への遺伝子導入 15. 細胞応答の解析
教科書	適宜、配付、紹介する。

授業コード	91013		
授業科目名	ナノバイオラボベーシックA (前)		
担当者名	甲元一也(コウモト カズヤ)、西方敬人(ニシカタ タカヒト)、川上純司(カワカミ ジュンジ)、松井 淳(マツイ ジュン)、藤井敏司(フジイ サトシ)、赤松謙祐(アカマツ ケンスケ)、中野修一(ナカノ シュウイチ)、長濱宏治(ナガハマ コウジ)		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限 火曜5限
オフィスアワー	随時		
講義の内容	基礎的な有機・無機化学実験及び定量分析実験を通して、ガラス器具および化学薬品の扱い方を習得する。また、生命科学分野の実験を安全かつ正確に行うための基礎と基本実験操作を身につけることを目的として、生物・生化学試料の調製法、実体顕微鏡・電子顕微鏡の使用法、無菌操作法等を習得する。さらに、測定データの統計処理、観察事実の記録、有効数字の取扱い、考察等を含めた実験ノート及び実験レポート作成の基礎を身につけることを目標とする。なお、各実験課題について、その専門性から適任と判断できる複数教員が指導にあたる。		
到達目標	ナノバイオ：生化学実験で用いられる緩衝溶液の作製方法を習得するとともに、有機・無機化合物の酸解離定数の算出、並びに検量線の作成を通して測定データの解析方法を学ぶ。 ナノ：有機化学実験におけるガラス器具や薬品の取扱いについて学ぶとともに合成化学実験における基本操作を習得する。 バイオ：遺伝子組換えによる組換えタンパク質の大量合成の流れに沿って実験を進め、分子生物学実験の基礎を習得するとともに、遺伝子組換えの実際を学ぶ。		
講義方法	学生を3つのグループに分け、ナノバイオ、ナノ、バイオの3つのテーマを5週ずつ順番にすべて受講する。		
準備学習	配布されるテキストに基づいて、事前に使用する器具類、試薬、実験の原理等を調べてから実験に臨むこと。		
成績評価	出席、レポート等から総合的に評価する。		
講義構成	(ナノバイオ：松井 淳、中野 修一) 1. 概要説明とpHメータの校正 2. 緩衝溶液の調製とpH測定 3. 各種緩衝剤の酸解離定数の算出 4. 緩衝溶液の分光測定と検量線の作成 5. 検量線を使った未知溶液のpH決定 (ナノ：赤松 謙祐、甲元 一也) 6. 有機化学実験に関する説明 7. クロマトグラフィー 8. 蒸留 9. 分液 10. 再結晶・再沈殿 (バイオ：西方 敬人、川上 純司、藤井 敏司、長濱 宏治) 11. 大腸菌の培養と簡易無菌操作 12. ミニプレップとアガロース電気泳動 13. 大腸菌の形質転換 14. 大腸菌によるタンパク質の発現 15. タンパク質の電気泳動		
教科書	実験を安全に行うために(化学同人) 続実験を安全に行うために(化学同人) その他、必要であればプリントの配布や教科書の紹介を行う 秀潤社「バイオ実験イラストレイテッド①分子生物学実験の基礎」(ISBN:978-4879621481) 秀潤社「バイオ実験イラストレイテッド②遺伝子解析の基礎」(ISBN:978-4879621498)		

授業コード	91014		
授業科目名	ナノバイオリボベーシックB(後)		
担当者名	西方敬人(ニシカタ タカヒト)、川上純司(カワカミ ジュンジ)、松井 淳(マツイ ジュン)、藤井敏司(フジイ サトシ)、村嶋貴之(ムラシマ タカシ)、中野修一(ナカノ シュウイチ)、長濱宏治(ナガハマ コウジ)、鶴岡孝章(ツルオカ タカアキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限 火曜4限 火曜5限

講義の内容	ナノバイオリボベーシックAで習得した基礎知識と技能をもとにして、より本格的な物質の合成、定量分析、生物学実験に取り組む。物質の合成と定量分析に関しては、化学反応を反応機構別に整理し、それぞれに関する合成実験を行うことにより化合物の性質や反応性に関する体系的理解を図ると同時に、合成反応及び化合物の同定・定量に関する原理と操作を身につける。さらに、生物科学に関連する実験技術の習得を目的として、細胞計測、培養、生体成分の分析等を行う。なお、各実験課題について、その専門性から適任と判断できる複数教員が指導にあたる。
-------	--

到達目標	ナノバイオ:ナノバイオ:アミノ酸の分析やペプチドの合成を通じて、生物有機化学実験の基本となる実験操作とその原理を学ぶ。 ナノ:ゾルーゲル法、CVD法、固定化、めっき法を学び、ナノテクノロジーの基本となる表面修飾の技術を習得する。 バイオ:光学顕微鏡、光学実体顕微鏡、位相差顕微鏡を用いて、顕微鏡下の解剖も含めた様々な手技と生物学的実験の基礎を習得するとともに、生物の比較形態、細胞分裂、化学物質への細胞応答などを直接観察することで、生物の生きた姿と進化の過程を理解する。
講義方法	実験・実習。学生を3つのグループに分け、ナノ、バイオ、ナノバイオの3つのテーマを順番にそれぞれ受講する。
準備学習	配布されるテキストに基づいて、事前に使用する器具類、試薬、実験の原理等を調べてから実験に臨むこと。
成績評価	出席、レポート等から総合的に評価する
講義構成	(ナノバイオ:松井 淳、中野 修一、三好 大輔、臼井 健二) 1. クロマトグラフィー分析(TLC, HPLC) 2. アミノ酸の誘導体化1(エステル化) 3. アミノ酸の誘導体化2(アニリド化) 4. ペプチドの合成1(ホモカップリング) 5. ペプチドの合成2(ヘテロカップリング) (ナノ:村嶋 貴之、赤松 謙祐、甲元 一也、鶴岡 孝章) 6. 無機化学実験に関する説明 7. ゾルーゲル法による表面修飾 8. CVD法による表面修飾 9. 表面のパターニングとナノ粒子の固定化 10. 金めっきによる導電化処理 (バイオ:西方 敬人、川上 純司、藤井 敏司、長濱 宏治) 11. 光学顕微鏡の使い方と皮膚切片の観察 12. 唾液腺染色体の観察と実体顕微鏡の使い方 13. ホヤの解剖と観察および脊索動物の理解 14. 線虫の観察と初期卵割のリアルタイム観察 15. 環形動物およびエビの解剖と比較形態観察
教科書	「実験を安全に行うために」(化学同人) 続「実験を安全に行うために」(化学同人)
参考書・資料	配付資料に記載の予定

授業コード	91008		
授業科目名	日本語表現及び演習(後)		
担当者名	佐々木聖佳(ササキ ミカ)		
配当年次	1年次	単位数	3
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限 月曜4限
講義の内容	科学を学ぶ上で、また実生活で知識や技能を生かす上で、論理的な思考力と他者に自分の考えを伝える表現力とは不可欠です。そしてその根幹をなすのは日本語による言語表現能力です。本科目では、実際に書く作業を通じて、基礎的な文章作成能力を鍛錬し、言葉を自在に使う思考し表現する力を身につけていきます。また、グループによる課題解決学習、討議、発表を行うことで、自己の意見を確立すると同時に、多面的で幅広い視野を持って人とコミュニケーションしていける能力を培っていきます。		
到達目標	日本語による基礎的な文章作成能力を確実に身につけ、論理的な思考力とコミュニケーション能力を培うことを到達目標とします。		
講義方法	2コマ連続で開講し、講義と演習を織り交ぜた形式で実施します。文章表現に関する基礎事項は講義形式で行いますが、中心は演習になります。個人で作成する課題(作文、論説文)のほか、オリジナル辞書作り、ラジオCM企画のようにグループで話し合って作成する課題、ディベート、プレゼンのようにグループで発表する課題などがあります。		
準備学習	日頃から、いろんなジャンルの本を読んで、いろんな世代の人と話をし、好奇心をもって過ごしてください。そんな中から表現が生まれてきます。		
成績評価	出席、各課題の内容、平常点(課題への取り組み、提出状況等)により総合的に評価します。出席していても課題が提出されなければ評価しません。		

講義構成	第1回 文章表現概説 第2回 書く技術・伝える技術 第3回 考える技術—ブレーンストーミング 第4回 作文—原稿用紙の使い方、作文の構成 第5回 作文—作文を書く 第6回 オリジナル辞書作り① 第7回 オリジナル辞書作り② 第8回 論説文—論説文の構成、分析と考察をする 第9回 論説文—論説文を書く① 第10回 論説文—論説文を書く② 第11回 ディベート—ディベートの方法 作戦会議 第12回 ディベート—ディベートをする 意見文にまとめる 第13回 ラジオCM企画—メディアの表現 第14回 ラジオCM企画プレゼン—プレゼンの方法 第15回 表現の現場から
教科書	教科書は用いず、プリントを配布して講じます
参考書・資料	講義の中で紹介します
担当者から一言	自分の考えや思いを人に伝え理解してもらうことは、難しいことですが、努力する価値のあることです。課題に楽しんで取り組んでもらえたらと思います。面白くて、力のつく、そして皆さんを刺激することのできる教材を考えていきます。

授業コード	91044		
授業科目名	バイオ・食品関連研究開発論（後）		
担当者名	岡 茂範(オカ シゲノリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
講義の内容	バイオテクノロジーによって食品を効率的に製造したり、食品の機能を高めたりすることが期待されている。本科目では、このような食や健康などに関わるバイオテクノロジーについて、基礎的事項(炭水化物・脂質・アミノ酸・ビタミン・ミネラル、その他の生理活性物質などの構造と性質、およびそれらの働きなど)を解説するとともに、機能性・嗜好性食品、バイオ化粧品、創薬開発に関するライフサイエンス分野の研究開発・技術について論じる。		
到達目標	・食品および化粧品の分類、薬事法など、食品および化粧品をとりまく法令・規制を理解する。 ・生理物質の化学構造と物性を理解する。 ・生理物質の機能および作用メカニズムを理解する。 ・食品および化粧品の研究開発・製造プロセスについて理解する。		
講義方法	・講義形式 ・教材としてプリントを用意します。		
準備学習	・生化学、病態生理学、薬学と関連する内容となります。事前学習を必要としますが、聴講後にこれら分野の参考書を読むことで理解が深まります。 ・身近な実際の市場(スーパーやコンビニなど)で食品、機能性食品および化粧品に注目することで、本科目にさらに興味が持てると思います。		
成績評価	レポート、および小テスト(予定)。		
講義構成	(予定) 1-2: 食品および化粧品の分類、薬事法など、食品および化粧品をとりまく法令・規制 3-5: 生理物質の化学構造と物性 6-9: 生理物質の機能および作用メカニズム 10-14: 食品および化粧品の研究開発・製造プロセス 15: 関連トピックス		
教科書	指定しない。		
担当者から一言	民間企業で研究開発を担当しています。現場の生きた情報が提供できればと思います。よろしくお願いいたします。		

授業コード	91031		
授業科目名	バイオ計測工学 (6～7月)(前)		
担当者名	中野修一(ナカノ シュウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 水曜2限
特記事項	クォーター科目(B期)		
オフィスアワー	随時		

講義の内容	世の中には様々な科学測定装置があるが、その中でもバイオ関連分子を対象とする測定装置には、いかに少ないサンプル量で高感度な測定結果が得られるかが重要視される。講義では、バイオ関連分子の構造や物性を調べるために汎用されている測定機器の化学的・工学的原理を解説するとともに、測定データの解析法についても説明する。
到達目標	バイオ実験で用いられる代表的な科学測定装置に関する知識を習得し、実験データの取り扱い方法を身につける。
講義方法	講義
準備学習	「生命物理化学」が履修済みであることが望ましい。
成績評価	試験結果をもとに評価する。なお、出席回数が極端に少ない場合は成績を評価しない。
講義構成	1. バイオ分子の計測から得られる情報 2. 結合データの測定 3. 電位差測定 4. 結合データの解析法 5. 統計熱力学に基づく結合データ解析 6. 化学ポテンシャルと溶液理論 7. 高分子電解質と膜電位 8. 分子の輸送過程と流体理論 9. 非平衡状態での測定 10. 分離装置による測定 11. 反応速度の測定 12. 酵素反応データの解析法 13. 放射線を使った測定 14. 測定データの取り扱い 15. 測定データの回帰分析 16. 試験
教科書	特に指定しない
参考書・資料	生命科学系のための物理化学(東京化学同人) 実験データを正しく扱うために(化学同人)

担当者から一言	教科書は指定しませんが、自分にあった教材(専門書)を手に入れてください。
---------	--------------------------------------

授業コード	91030		
授業科目名	バイオ高分子化学 (11～1月)(後)		
担当者名	長濱宏治(ナガハマ コウジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 水曜1限
特記事項	クォーター科目(D期)		
オフィスアワー	月曜日～金曜日:9時～20時		

講義の内容	私達の身の回りや生体内ではたらく機能性分子のほとんどは高分子化合物である。本科目では、代表的な合成(人工)高分子化合物について、その性質、反応、機能に関する基礎を詳しく解説する。さらに、タンパク質、核酸、糖鎖等、代表的な生体高分子の役割を高分子化学的側面から解説し、生命現象を分子レベルで視るための基礎能力を養うとともに、生体高分子の医療、食品、材料等、さまざまな分野の最先端技術との関わりについて触れる。
-------	---

到達目標	本講では、合成(人工)高分子ならびに生体高分子の構造と性質についての基本概念と用語の意味を理解し、それら高分子が作り出す構造体(集合組織体)と機能発現について分子レベルでイメージできるようになることを目的とする。
講義方法	講義のはじめにプリントを配り、その内容に関してパワーポイントを使ったスライドおよび板書により解説する。
準備学習	講義がはじまる前に、指定した教科書を一通り読んでおくことが望ましい。
成績評価	授業中に指示する「レポート」「演習」および「期末試験」の成績を合わせて総合評価する。 期末試験を受けない場合、「欠席」と評価する。 5回以上欠席をした場合、「欠席」と評価する。
講義構成	1. 合成(人工)高分子と日常生活 2. 高性能高分子材料(医療分野への応用を中心に) 3. 高分子の特徴 4. 高分子の性質(熱的および力学的性質を中心に) 5. 高分子の一次構造 6. 高分子間相互作用 7. 高分子の高次構造 8. 高分子の集合組織体形成と機能発現 9. 合成(人工)高分子の合成技術 10. 超分子化合物 11. タンパク質・核酸の構造とはたらき 12. 糖質の構造とはたらき 13. 生体高分子の合成技術 14. ナノテクノロジーと高分子 15. バイオテクノロジーと高分子
教科書	「改訂 高分子化学入門 ―高分子の面白さはどこからくるか―」蒲池幹治 著(エヌ・ティー・エス社 2006年)
参考書・資料	「基礎高分子科学」高分子学会 編(東京化学同人 2006年) 「ライフサイエンス系の高分子化学」宮下徳治 編著(三共出版 2004年)
担当者から一言	ライフサイエンスやバイオテクノロジーの研究の舞台は言うまでもなく生物ですが、研究を進め、結果を理解し評価するためには、そこに登場する分子についての化学的知識が必要不可欠です。本講では高分子化学の基礎的な部分から解説し、合成高分子ならびに生体高分子の構造、性質、機能までを体系的に講述することにより、理解を深められるよう工夫しながら授業を進めます。また、液晶プロジェクターを活用し、機能性高分子の多彩な分野、特に医療分野における応用展開の最前線についても適宜紹介します。

授業コード	91009		
授業科目名	バイオサイエンス序論（前）		
担当者名	西方敬人（ニシカタ タカヒト）		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	細胞を生命の最小単位として、細胞内で起こる化学反応と細胞機能について概説する。生物の分類、細胞の構造、細胞分裂、生体高分子、代謝、光合成、物質輸送、細胞内輸送、シャペロン、細胞内情報伝達、細胞分化、アポトーシス、免疫、遺伝子発現、ゲノム等、分子細胞生物学を中心に生物学を広く見渡し、最新の知見から生命とはどのようなものとして理解されているかを学ぶ。
到達目標	目的: 遺伝子から細胞、細胞から個体、そして進化まで。生命とは何か? 生物とは何か? に対する最新の理解を概括する。 ・遺伝子レベルの基礎概念を理解する ・細胞レベルの基礎概念を理解する ・形態形成の基礎概念を理解する ・進化の基礎概念を理解する
講義方法	講義
準備学習	教科書を一読しておくこと、ならびに課題を着実にこなすこと。
成績評価	講義中に出すレポート課題および期末試験、出席を総合的に評価する。
講義構成	1. 生物と生体高分子 2. 核酸の生化学的性質とゲノム 3. 複製

	4. セントラルドグマと遺伝子発現 5. 転写 6. 翻訳 7. 遺伝子を理解する例題 8. 代謝 9. 細胞骨格 10. 細胞膜と膜輸送 11. タンパク質の輸送 12. 細胞間情報伝達 13. 細胞周期 14. 発生と細胞の一生 15. 免疫
教科書	羊土社 「生命科学」改訂第3版 (ISBN: 978-4758120005) 羊土社 「はじめの一歩のイラスト生理学」(ISBN: 978-4758107129)

担当者から一言	高校で生物を選択しなかった人には、新しい用語の氾濫でとまどうかも知れません。言葉を覚えるよりも、そこにあるメカニズムをしっかりと理解してください。そのため、教科書を一読して講義に臨み、講義中は講義の流れを理解するように努めてください。また、講義中でもそれ以外の時間でも、積極的に質問をしてください。
---------	---

授業コード	91039		
授業科目名	バイオセンシングと環境 (9～11月)(後)		
担当者名	松井 淳(マツイ ジュン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限 金曜1限
特記事項	クォーター科目(C期)		

講義の内容	酵素や抗体の持つ高い分子認識機能を利用して、さまざまな選択的かつ高感度なセンシング手法(バイオセンシング)が実現されている。それらの手法として生体材料をデバイスとして利用する方法、及び生体材料をまねた人工材料を利用する方法について解説する。また、バイオセンシングと深く関連する医療・診断技術に加えて、食品や美容などに関する各種センサー技術、環境負荷物質のモニタリングなどについて、化学的側面から講義する。
到達目標	バイオセンシングを題材として、生物および生物関連分子が持つ能力が、医学や工学にいかにより有用であるかを知り、さらに、役に立つ応用を生み出すための考え方を身につける。
講義方法	講義
準備学習	バイオ高分子、酵素反応、電気化学(酸化・還元)、化学平衡、熱力学の中から、以前に学習したものに関しては、その内容をよく理解しておくこと。
成績評価	期末試験を中心に、出席状況やレポートを加味して評価する。
講義構成	1. バイオセンシングとは？ 2. 生体内の物質と分子認識 3. バイオセンサーの基礎 4. 医療用バイオセンサー 5. 食品用バイオセンサー 6. 環境用バイオセンサー1 7. 環境用バイオセンサー2 8. バイオセンサー以外の環境分析法 9. 環境負荷物質の認識と捕捉 10. 環境・エネルギー問題とバイオテクノロジー 11. バイオアッセイ 12. バイオセンサーの集積化 13. バイオチップ1(DNAチップ) 14. バイオチップ2(プロテインチップ) 15. まとめ
教科書	使用しない。適宜資料を配付する。

授業コード	91022		
授業科目名	発生学 (4～5月)(前)		
担当者名	西方敬人(ニシカタ タカヒト)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限 木曜1限
特記事項	クォーター科目(A期)		

講義の内容	卵から親の形を作り上げる過程の分子メカニズムを理解し、それらメカニズムの解明手法を理解することを目指して学習する。生殖細胞の形成、受精、卵割、中期胞胚遷移、のう胚形成、神経胚形成、器官形成、変態、パターン形成、四肢形成など、動物の発生過程の分子メカニズムを詳説する。これらのメカニズムは発生過程だけにとどまらず、ガン、再生、ストレス応答、細胞死、寿命など人間を取り巻くさまざまなイベントにおけるメカニズムと直接関連しており、生体内におけるあらゆる生命活動、細胞応答を理解するための基礎として重要である。
到達目標	目的: 初期発生過程の分子メカニズムを理解する。特に「転写調節」による形態形成の調節メカニズムの詳細を理解し、遺伝子が生物を形づくるメカニズムの全体像への理解を深める。 ・発生分野の基本概念や用語を理解する ・発生と遺伝子発現制御とのつながりを理解する ・発生とシグナル伝達とのつながりを理解する ・エポ・デボの基本概念を理解する
講義方法	講義
準備学習	バイオサイエンス序論, 生化学, 分子生物学の講義内容を良く理解しておくこと。
成績評価	講義中のレポート課題および期末試験により評価する。
講義構成	1. 発生学とは 2. 受精と生殖 3. 卵割と不等分裂メカニズム 4. のう胚形成と神経形成 5. 細胞分化と形態形成 6. 細胞の運命と決定 7. 形づくりの基本メカニズム 8. カエルの初期発生 9. 中期胞胚遷移(MBT)と遺伝子発現 10. ツメガエルにおける中胚葉誘導 11. ショウジョウバエの初期発生 12. ショウジョウバエの前後軸形成メカニズム 13. ホメオティック遺伝子とホメオボックス遺伝子 14. 性決定・性分化、遺伝子量補正 15. 遺伝子組換えとエピジェネティクス
教科書	特に定めない。講義中に適宜プリントを配布する。

授業コード	91024		
授業科目名	半導体・デバイス科学 (4～5月)(前)		
担当者名	赤松謙祐(アカマツ ケンスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限 金曜1限
特記事項	クォーター科目(A期)		

講義の内容	現在使用されているテレビや携帯電話などの電子機器を作動させているのは一連の半導体素子である。これらの素子は集合体となって大規模集積回路(LSI)や論理演算素子(IC)などを構成し、コンピュータ、ディスプレイおよび生体分子センサーにいたるまで様々な電子機器の心臓部となっている。本講義では、これら半導体を中心とした素子の構造、作動原理および作製方法と、ディスプレイ、生体分子センサー、バイオチップなどへの応用例や得られたデータの解釈について概説する。
到達目標	目的: 電子機器の構成材料の構造と機能を理解し、作製手法についての知識を深める。 理解、達成目標: 1. 固体材料の構造と電気的特性を理解する

	2. 電子材料に使用される一般的な材料が分かる 3. 様々な電子部品の作製法について理解する
講義方法	講義
準備学習	参考書に目を通すことが望ましいが、事後学習により注力することが肝要。
成績評価	出席、レポート提出および期末試験により総合的に評価する。
講義構成	1. 序論「デバイス」とは 2. 半導体材料の構造と特徴 3. 無機半導体材料 4. 有機半導体材料 5. トランジスタの構造 6. トランジスタの利用 7. 新しいトランジスタ「電界効果トランジスタ、単電子トランジスタ」 8. その他の能動・受動素子 9. バイオセンサー・バイオチップ 10. マイクロアレイと生体分子検出 11. ケミカルセンサー 12. ディスプレイ 13. 光・磁気記録素子 14. エネルギー変換デバイス 15. 次世代デバイス
教科書	なし
参考書・資料	「半導体物性」小長井誠 著、培風館 「半導体デバイスの基礎」松本智 著、培風館

授業コード	91004		
授業科目名	プレゼンテーション演習1（後）		
担当者名	赤松謙祐（アカマツ ケンスケ）		
配当年次	1年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	情報収集、情報整理、情報視覚化など、プレゼンテーションの準備と実施にはコンピュータの使用が欠かせない。本科目では、コンピュータ操作の基礎から、Word、Excel、PowerPointといった基本ソフトウェアの使い方を習得することを目的とする。また、自らが行っている実験の操作、結果、考察、結論等について視覚資料を作成することにより、身につけた基礎的技能の習熟を図る。
到達目標	講義や実験においてコンピュータを活用し、レポート作成や情報収集などを効率よく行えるようになるための基礎知識と基礎技術を習得することを目的とする。また、自身が行った実験内容を的確に他人に伝えるためのプレゼンテーション技法を身につける。
講義方法	演習
準備学習	プレゼン資料作成に注力することが望ましい。
成績評価	出席状況に加えて、レポートならびに提出資料をもとに評価する
講義構成	1. パーソナルコンピュータ(PC)の基本操作 2. コンピュータリテラシー 3. 情報リテラシー 4. 基本ソフトウェアの操作1(文書作成基礎) 5. 基本ソフトウェアの操作2(文書作成応用) 6. 基本ソフトウェアの操作3(表作成) 7. 基本ソフトウェアの操作4(表計算) 8. 基本ソフトウェアの操作5(スライド作成) 9. 科学レポートの作成1(緒言、実験操作) 10. 科学レポートの作成2(結果、考察) 11. 科学レポートの作成3(図表の取り扱い) 12. 科学プレゼンテーション資料の作成1(実験操作) 13. 科学プレゼンテーション資料の作成2(実験結果) 14. 科学プレゼンテーション資料の作成3(緒言、結論、展望)

	15. 科学プレゼンテーションの実際(発表)
教科書	なし(適宜資料を配付する)
参考書・資料	各自のスキルに応じて適切な参考書を紹介します
担当者から一言	他の講義や実験科目と連携しながら演習を進めていきます。また、プレゼンテーション資料の作成は、指示されたことをこなすだけでは十分ではなく、どうしたら相手によく伝わるかを深く考えて構成や図表を練り上げていく必要があります。したがって、本演習ではマイラボを活用するなど、授業以外の時間にも課題に取り組んで貰うことが前提となります。

授業コード	91005		
授業科目名	プレゼンテーション演習2（後）		
担当者名	甲元一也(コウモト カズヤ)、苧野兵衛(オノ ヒョウエ)		
配当年次	2年次	単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	プレゼンテーション演習1で習得した基礎知識と技術をもとに、科学的内容に関するプレゼンテーションが行えるようになることを目標とする。自らの実験内容に関して視覚資料を作成し、さらにその資料をもとに発表・質疑応答を行うことによって、プレゼンテーションの準備から実践までを通して体験し、総合的なプレゼンテーション能力を養成する。また、シンポジウムなどへの参加を通じて、習得内容が実際に活用されている場面に接することによって効果的なプレゼンテーションのあり方について学ぶ。
到達目標	プレゼンテーション演習1で学んだコンピュータの活用法やプレゼン資料の構成法を、実際にプレゼン資料を作成し、発表することで実践的に学ぶ。 ・プレゼンテーションのテーマに応じて論理的な展開でプレゼンテーション資料を作成することができる。 ・資料を活用した説明が行える。 ・質問された内容を把握し、的確に回答することができる。
講義方法	設定するテーマに関してプレゼンテーション資料を作成してもらい、作成した資料を使って、実際に発表し、質疑応答を受けながらプレゼンテーションの技術を実践的に身につける。
準備学習	本演習ではマイラボを活用するなど、授業以外の時間にもプレゼンテーションに使用する資料作成等の課題に取り組んでもらいます。
成績評価	出席状況、提出資料、プレゼンテーションをもとに評価する。
講義構成	1. 効果的なプレゼンテーションをするために 2. 自己紹介に関する資料を作成 3. 実践プレゼンテーション1(自己紹介1) 4. 実践プレゼンテーション2(自己紹介2) 5. 実践プレゼンテーション3(自己紹介3) 6. 科学的テーマに関する資料を作成(環境) 7. 実践プレゼンテーション4(環境1) 8. 実践プレゼンテーション5(環境2) 9. 実践プレゼンテーション6(環境3) 10. 実践プレゼンテーション7(環境4) 11. 科学的テーマに関する資料を作成(生命) 12. 実践プレゼンテーション8(生命1) 13. 実践プレゼンテーション9(生命2) 14. 実践プレゼンテーション10(生命3) 15. 実践プレゼンテーション11(生命4)
教科書	「学生・研究者のためのPowerPointスライドデザイン」宮野公樹著 化学同人
担当者から一言	実際に発表することで、また、人の発表を聞くことからプレゼンテーションにはどのようなことが必要かを、皆さん自身が工夫しながら勉強していきます。また、本演習ではマイラボを活用するなど、授業以外の時間にも課題に取り組んで貰うことが前提となります。

授業コード	91001
-------	-------

授業科目名	フロントランナー講座(後)		
担当者名	荻野兵衛(オノ ヒョウエ)、縄舟秀美(ナワフネ ヒデミ)、杉本直己(スギモト ナオキ)、中野修一(ナカノ シュウイチ)、鶴岡孝章(ツルオカ タカアキ)、上島達司(ウエシマ タツシ)、安福幸雄(ヤスフク ユキオ)、市川典男(イチカワ ノリオ)、稲垣嗣夫(イナガキ ツグオ)、能村光太郎(ノムラ コウタロウ)、西河紀男(ニシカワ ノリ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本講義では、産業界をリードする企業の経営者や世界で活躍する第一線の研究者、新進気鋭の起業家など、社会の第一線で活躍する方々を講師として招き、先駆者(フロントランナー)としての“ものの捉え方”、“斬新な考え方”、“成功の秘話や教訓”などを、講義を通じてお話いただくオムニバス形式のリレー講義です。 社会の第一線で活躍する方々の考え方や生き方を学び、自分の将来に活かすことを目的とする。受講者は、演者から学び、自分の大学生活や夢を実現するためのヒントを得ることを期待する。
到達目標	講義内容を租借し、深く考察することにより、自己の将来の目標を考える糧とする。
講義方法	講義(オムニバス形式)
準備学習	「新 平生飢三郎のこぼし」を読んでおくこと。
成績評価	出席を前提とし、授業への取り組みの姿勢やレポートによって総合的に評価する。
講義構成	第1回 甲南に学ぶー私の原点ー 第2回 日常生活発想のものづくり 第3回 先人の知恵を学ぶ 第4回 神戸をバイオのシリコンバレーにー灘五郷は今も日本一の酒どころー 第5回 「UCCの変遷とコーヒー産業発展に向けて」～第1章:時代背景と経営の歴史～ 第6回 企業における「地域との共生」について 第7回 社会の変化を読む 第8回 失敗から学ぶ 第9回 「UCCの変遷とコーヒー産業発展に向けて」～第2章:コーヒー市場の拡大を目指して～ 第10回 学問、人格の両立を 第11回 日系企業海外進出について 第12回 “日本の常識は世界の非常識”だから成功した日本 第13回 天・地・人と風林火山 第14回 世界に通用する人物にー平生飢三郎の教育と生き方ー 第15回 死の谷を越え、ダーウィンの海を渡る
教科書	なし
参考書・資料	小川守正、上村多恵子著「平生飢三郎伝」燃焼社
講義関連事項	必要に応じて、資料配布、パワーポイントを利用。

担当者から一言	質問時間を設けますので、疑問点や自分の考えを述べて相互の理解を深めましょう。
---------	--

授業コード	91017		
授業科目名	分子生物学(11～1月)(後)		
担当者名	遠藤玉樹(エンドウ タマキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限 金曜4限
特記事項	クォーター科目(D期)		

講義の内容	生物学の根本原理を分子レベルで理解することを目的とする。クロマチン構造を含めたゲノム情報から、セントラルドグマに沿った遺伝子発現の仕組みを解説する。遺伝子修復や遺伝子発現制御の様々なメカニズムを通して、遺伝情報の保持と伝達を理解してもらう。また、遺伝子組み換えを中心に、生物の遺伝子発現システムを工学的に利用する技術についても解説する。
到達目標	目的: 遺伝情報の保存から生命としての機能発現までの流れにおいて、細胞内の機能性分子が、どのような関連性を持ち、いかに合理的に役割を果たしているのかを理解する。 ◆ 遺伝情報の保持と発現における、真核生物と原核生物での違いを理解する。

講義方法	講義(板書)
準備学習	1年次(Ⅲ期)の生化学を受講していることが望ましい。
成績評価	期末試験、レポート、出席、を総合的に評価する。
講義構成	1. 分子生物学への導入(細胞内で働く機能分子) 2. 染色体の構造と構成分子 3. セントラルドグマ 1. DNAの複製 4. セントラルドグマ 2. 転写とその調節 5. セントラルドグマ 3. RNAプロセッシング 6. セントラルドグマ 4. 翻訳とその調節 7. セントラルドグマ 5. 翻訳後タンパク質の修飾 8. 真核生物におけるセントラルドグマ 9. DNAの修復と修飾 10. 遺伝子組み換え技術 1. 大腸菌の分子生物学 11. 遺伝子組み換え技術 2. ウイルス、ファージ、プラスミド 12. 遺伝子組み換え技術 3. 遺伝子クローニング 13. DNA配列解析手法とゲノムプロジェクト 14. タンパク質解析技術 1. 外来遺伝子の発現 15. タンパク質解析技術 2. タンパク質機能の解析
教科書	ベーシックマスター 分子生物学 (オーム社) ゲノム工学の基礎 (東京化学同人)
参考書・資料	工学のための遺伝子工学 (講談社サイエンティフィク) 細胞の分子生物学 (Newton Press)
担当者から一言	DNA、RNA、タンパク質といった分子は、単純な化学構造が連なっただけの分子に過ぎない。それらが、細胞という空間の中で複雑に関わりながら機能を果たしたときに、生命活動という現象が生じる不思議さをイメージしてもらいたい。

授業コード	55A91		
授業科目名	ベーシック・キャリアデザイン (FIRST)(前)		
担当者名	中野修一(ナカノ シュウイチ)、中山一郎(ナカヤマ イチロウ)、I		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	大学生活を充実させ、将来の進路選択や就職選択に際して必要とされる基本的なチカラを“4つの知恵”(人と人との関係を築く知恵・情報を収集して活用する知恵・自ら考えて判断や決定をする知恵・自分の将来をイメージして描ける知恵)と名づけ、「雑談&情報交換ペアワーク」「コミュニケーションゲーム」「グループディスカッション」「プレゼンテーション」「ロールプレイング」などといった人間関係を軸としたトレーニングを15回の講義の中で行っていきます。
到達目標	「自己発見(なりたい自分を探す)」をコンセプトに、最終の学習目標としては、きたるべき卒業後の進路選択から就職活動などへ向けて、まずは自らの頭で考え、行動し、選択していけるような態度や姿勢を身につけていきます。
講義方法	講義・ペアワーク・グループディスカッション・ゲーム・ロールプレイング・プレゼンテーション
準備学習	授業の中で学んだ知恵・知識・スキルは、授業以外の場においてもどんどん実践し活かしていきましょう。
成績評価	キャリアデザインシートの提出(講義の中での気づきや感想などを記入・提出)、キャリアデザインマップの発表と提出(将来の進路選択や就職活動を視野に入れての目標設定と行動企画を作成・発表・提出)、講義への出席(一回一回の出席を重視。いかなる理由があっても、講義の場になかった、講義を受けていなかった学生は原則欠席とします)。以上を総合的に評価します。
講義構成	1. オリエンテーションーベーシック・キャリアデザインとは？ー 2. “なりたい私”を探そうⅠ 3. “なりたい私”を探そうⅡ 4. 豊かな人間関係をきずこうⅠ 5. 豊かな人間関係をきずこうⅡ 6. 専門・専攻を進路に活かそうⅠ 7. 専門・専攻を進路に活かそうⅡ 8. 物語力・関係構築力をつけよう

	9. 幅広い情報を活用しようⅠ 10. 幅広い情報を活用しようⅡ 11. 考える力を身につけようⅠ 12. 考える力を身につけようⅡ 13. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅠ 14. 「キャリアデザインマップ」を作成しようⅡ 15. “なりたい私”を実現させよう
教科書	「テキスト」は正式な履修登録後の講義で配付します。
参考書・資料	適宜紹介します。
担当者から一言	「生き方」や「働き方」の正解がたった一つだけではないという“新しい時代”や“新しい社会”がやってきました。そのような中、皆さん一人ひとりが充実した大学生活を過ごし、さらには“私らしい生き方や働き方”を実践していくためには、いったいどのような教養が必要なのでしょうか。皆さんの「これから」をいっしょに考えていきましょう。

授業コード	91025		
授業科目名	無機化学 (9～11月)(後)		
担当者名	縄舟秀美(ナワフネ ヒデミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限 木曜1限
特記事項	クォーター科目(C期)		

講義の内容	化学全般の理解に必要な原子・分子に関する基本概念について学ぶ。無機化学はすべての元素が関与する物質の構造や性質、反応を取り扱う学問である。したがって、原子・分子の性質や反応性を理解することは、化合物の合成、構造、物性の系統的な理解につながるキーポイントでもある。これらの事項を理解するためには量子力学が必要になるが、数式の使用は必要最小限にとどめ、問題を本質的にとらえられるように配慮する。
到達目標	無機化学の基礎(原子と分子、化学結合、化合物、および溶液化学)の基礎的な知識を修得し、化学を深化するための第一歩を固める。
講義方法	教科書を使用する。講義ノートの完成を促すレジュメを配布する。
準備学習	テキストの予習、授業プリントの復習、および演習問題の自答を心がける。
成績評価	講義への出席を前提とする。定期試験、演習、レポートにより総合的に評価する。
講義構成	1. 原子の構造と電子配置 2. 電子軌道と量子数とボーアモデル 3. 電子配置のルール 4. 元素の一般的性質と周期性 5. 有効核電荷と原子・イオンの大きさ 6. イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度 7. 化学結合 8. 分子軌道に基づく共有結合の考え方 9. 等核二原子分子の分子軌道 10. プレストッド酸および塩基 11. 化学平衡 12. 酸化と還元 13. 標準電極電位と電極電位とネルンストの式 14. 固体の結晶構造 15. 格子エネルギー
教科書	「理工学基礎レクチャー 無機化学」鵜沼英郎、尾形健明著(化学同人)
参考書・資料	「無機化学-その現代的アプローチ-」平尾一之、田中勝久、中平 敦著(東京化学同人) 「演習無機化学」平尾一之、田中勝久、中平 敦 他著(東京化学同人)
担当者から一言	高等学校で学んだ化学のイメージとは異なる部分が多いでしょうが、化学の理解を深化するためには避けては通ることのできない難関の一つです。決してあきらめないでください。

授業コード	91041
-------	-------

授業科目名	メディカルサイエンス概論（A期・集中）		
担当者名	藤井敏司（フジイ サトシ）、三宅正人（ミヤケ マサト）		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（水曜1限）、後期（集中講義）
特記事項	クォーター科目（A期）・集中		
オフィスアワー	藤井 随時、 三宅 集中講義時		

講義の内容	藤井 生体内に存在する分子の働きや、分子間の関わり合い（ネットワーク）に関する情報は、ひとの健康や医療を考える上で欠かせないものである。本講義では血圧調整・記憶形成などにおけるシグナル伝達物質として知られる一酸化窒素（NO）と、遺伝情報や細胞内の性質を支配する核酸（DNAなど）やタンパク質に注目しこれら物質の化学的・生理学的側面から、研究の最前線（生体内分子イメージング、DNAチップ、プロテインチップなど）、さらには創薬・医療への応用までを幅広く解説し、科学から医療や健康を捉える視点を養う。 三宅 健康・医療産業には数多くの細胞生物学やゲノム科学の知識が応用されています。その結果、細胞を用いた再生医療や個人の体質に合わせた個別化医療等の未来の医療の姿も見えてきています。本講義では、創薬や診断、その他の産業に応用されているゲノム解析技術、細胞解析技術について最近の新聞記事等に取り上げられた事例なども含め概説する予定です。本講義を通して、これからの医療や健康産業の在り方、技術開発の方向性等を考えるための視点を養うことを目指します。
到達目標	藤井 医療・健康産業に関係する基礎科学を理解し、応用出来る基盤技術の基礎を身につけること。 活性酸素、一酸化窒素の生理作用について理解すること。 核酸、タンパク質の関係する疾患について基礎を理解すること。 三宅 創薬や診断技術を理解するために必要な専門用語が説明できるようになること。 創薬や診断技術に応用されている生物化学的原理が説明できるようになること。
講義方法	パワーポイントを用いた講義 理解を深めるための意見交換、講義内容を確認するためのテストを含む。
準備学習	製薬企業や医療機関の取り組みに関わる最近の新聞記事を探し、創薬や診断の動向を可能な範囲で捉えておくこと。
成績評価	藤井 レポート及び講義内で行う確認テストによって評価する。 三宅 講義内で行う確認テストによって評価する。 最終成績は藤井分(50%)、三宅分(50%)を総合して評価する。
講義構成	藤井 1. 医学を科学として考える 2. 活性酸素について：活性酸素とは。活性酸素と疾患。活性酸素と健康 3. 一酸化窒素について（1）：一酸化窒素の生理作用。 4. 一酸化窒素について（2）：一酸化窒素の関与する疾患。 5. 核酸と疾患：活性酸素の関与 6. タンパク質と疾患：活性酸素との相互作用。コンフォメーション病 7. 生体内分子イメージング：蛍光、磁気共鳴、PET 8. チップ化技術 三宅 2日間（午前・午後）の集中講義。 9月16日：ゲノム解析技術と創薬、診断、産業応用。 （ゲノム配列解析、ジェノタイピング、発現解析等） 確認試験。 9月17日：細胞解析技術と創薬、診断、産業応用。 （一細胞解析、システム生物学的アプローチ等） 確認試験。
教科書	なし
講義関連事項	A期と集中講義に分かれているが、併せて一つの講義科目なので、履修する人は注意してください。どちらかー

	方だけ履修した場合は、欠席扱いになります。
担当者から一言	医学を科学としてとらえてみましょう。我々の学部は医学部ではないので、実際に患者さんに対する医療行為はできませんが、基礎医学的な部分、医用工学的な部分では医療に貢献することが可能です。これらの分野の基礎的な部分を学んでみましょう。

授業コード	91042		
授業科目名	メディカルバイオテクノロジー (後)		
担当者名	長濱宏治(ナガハマ コウジ)、水谷健一(ミズタニ ケンイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	月曜日～金曜日:9時～20時		

講義の内容	この講義では、近年の医学の劇的な進歩を支えているバイオテクノロジーの新展開及び関連する基礎的事項について解説する。それに伴って、先端テクノロジーがひとの健康の増進と深く関連しているだけでなく、健康(診断や医療等の概念も含む)への欲求が新しいテクノロジーを生み出す原動力となっていることを実感し、医療関連のバイオテクノロジーの将来展望について考えることを目的とする。なお、講義は、バイオテクノロジーを主に物質面から捉えるパートと、主に生体面から捉えるパートに分けオムニバス方式で開講する。 (長濱 宏治／8回) バイオテクノロジーの医療への応用を支える機能性分子、高分子材料、ナノ材料等の化学的側面について解説し、医療関連の種々のバイオテクノロジーを分子レベルで理解させることを目的とする。特にバイオテクノロジーの応用が期待されているゲノム創薬、遺伝子診断、遺伝子治療、再生医療、ドラッグデリバリーシステム等については、要素技術の現状と化学的取り組みについて紹介する。 (水谷 健一／7回) 私たち一人ひとりが持っている、数万個の遺伝子。それらが、どのように協調しあって高度に秩序だった組織、臓器を造りあげるのか。この疑問に答えることができれば、損傷を受けた組織の再生さえも現実性を帯びてくる。本講義では、神経発生学と再生医学への応用に焦点を当て、受精卵を出発点とした緻密な発生プログラムによって、如何に高度な機能を担う脳(中枢神経系)ができあがり、この分子機構を理解することが、如何に脳卒中やパーキンソン病等で障害を受けた脳の再生を可能にするかについて講述する。		
到達目標	本講では、現在の先端医療を支えるバイオマテリアルに関する基礎的な要素技術を理解し、これら技術の基盤となる機能性分子のふるまいを化学的に理解してもらうことを目的としている。		
講義方法	講義(オムニバス方式)		
準備学習	指定した教科書を開講までに一読し、疑問点などをまとめてから講義に臨むことが望ましい。		
成績評価	授業中に指示する「レポート」および「期末試験」の成績を合わせて総合評価する。 5回以上欠席をした場合、「欠席」と評価する。		
講義構成	1. 新しい医療の中のバイオマテリアル(長濱担当) 2. バイオマテリアルの種類:高分子材料を中心に(長濱担当) 3. 生体適合性材料の設計(長濱担当) 4. 生体機能を代行する人工臓器(長濱担当) 5. 組織工学のための高分子材料(長濱担当) 6. 高分子集合体によるドラッグデリバリーシステム(長濱担当) 7. 遺伝子ベクターの開発と遺伝子治療への応用(長濱担当) 8. 遺伝子検出による新しい医療(長濱担当) 9. 発生生物学の基礎(水谷担当) 10. 脳(中枢神経系)の解剖学(水谷担当) 11. 脳は如何にして造られるのか?(水谷担当) 12. 大脳皮質の細胞構築(水谷担当) 13. 大脳皮質の回路形成(水谷担当) 14. 脳(中枢神経系)の疾患(水谷担当) 15. 発生生物学を応用した再生医学の可能性(水谷担当)		
教科書	「バイオマテリアルサイエンス」石原一彦 著(東京化学同人 2003年) 「脳・神経科学入門 上巻」渡辺雅彦著(羊土社2002年)		
参考書・資料	「ナノバイオエンジニアリング」杉本直己 著(化学同人 2004年) 「バイオナノテクノロジー」堀池靖浩/片岡一則 著(オーム社 2003年) 「脳・神経科学入門 下巻」渡辺雅彦著(羊土社2002年)		

	「エッセンシャル発生生物学」Jonathan Slack著(羊土社2002年)
担当者から一言	(長濱 宏治) 今日までの医療工学の発展が多くの人々の健康を支えてきましたが、克服すべき課題はまだ残っています。近年、医学と工学の連携が頻繁に行なわれるようになり、科学の最先端技術を医療に応用しようという試みがなされるようになってきました。まだ見ぬ新しい医療技術を自らの手で世に送り出すためにも、バイオマテリアルは是非とも学んでおくべき分野です。 (水谷 健一) 2006年の誘導多能性幹細胞(iPS細胞)の発見以来、再生医学の発展に期待が集まっています。しかしながら、脳(中枢神経系)の様に、数万種の細胞型から構築されている非常に複雑な組織を再生するためには、発生生物学の小さな発見から成る基礎的知見の積み重ねが必要不可欠で、未解明の問題が数多く残されています。基礎研究から医学応用への扉を開くのは、皆さんの世代の研究者の仕事です。

授業コード	91021		
授業科目名	薬理学(11～1月)(後)		
担当者名	川上純司(カワカミ ジュンジ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限 木曜2限
特記事項	クォーター科目(D期)		

講義の内容	薬とは何か?というところから出発し、医薬品がどのように働くのかを、生命分子との相互作用を中心に解説する。代表的な医薬品に関して標的分子と薬剤の基本骨格を学び、官能基レベルでの相互作用が薬効と副作用にどのような影響を及ぼすかを理解する。更に、病気の発症メカニズムを知ること、どのような生命分子を標的とした薬剤が医薬品になりうるかを考察する。
到達目標	相互作用を基本とした薬剤の作用メカニズムを通して、創薬研究のためにどのような知識と考え方が必要であるかを理解する。
講義方法	講義
準備学習	薬理学を理解するために、生理学の基本的事項を自習しておいてほしい。
成績評価	講義中の質疑応答、出席状況、小テスト、期末試験の結果を総合的に判断する。
講義構成	1. 序論:薬とは何か? 2. 医薬品の作用機序:分子間相互作用と薬理活性 3. 薬理活性の発現1:アゴニストとアンタゴニスト 4. 薬理活性の発現2:相互作用様式, 結合速度と解離速度 5. 薬理活性の発現3:結合定数, 薬効と副作用(高親和性と特異性) 6. 薬理活性の発現4:結合エネルギーによる相互作用の解釈 7. レセプターとシグナル伝達 8. 神経系作用薬1 9. 神経系作用薬2 10. 抗炎症薬 11. 代表的な医薬品と標的:泌尿器系, 循環器系, 消化器系, 呼吸器系 12. 抗ガン剤・抗ウイルス薬 13. 農薬 14. 新規医薬品開発:標的分子, 医薬品の基本骨格とパーツ 15. まとめ
教科書	「くすりの地図帳」伊賀立二・小瀧一・沢田康文/監修 (講談社) 「イラスト生理学」照井直人/編 (羊土社)

授業コード	91036		
授業科目名	有機化学と分光法(9～11月)(後)		
担当者名	藤井敏司(フジイ サトシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限 木曜2限

特記事項	クォーター科目(C期)
オフィスアワー	随時
講義の内容	有機化合物・生体分子の構造や電子状態に関する情報は生命科学の研究を進めるうえで、必要不可欠な情報である。原子・分子レベルでの構造・電子状態の情報を得る手段には大別して回折法と分光法があるが、本講義では分光法に焦点を合わせて、紫外・可視吸収、赤外吸収、ラマン、円二色性、質量分析、核磁気共鳴、電子スピン共鳴などの各分光法の基本原理と、有機化合物・生体分子の実際のスペクトルからどのような情報が得られるか、について解説する。
到達目標	有機化合物・生体分子の構造を調べるための手法について、基本原理を理解し、スペクトルから構造情報を引き出すための基礎を身につける。 ● 分光法の理論的基礎を習得する ● 実際のスペクトルから有機化合物の構造情報を得られるようにする
講義方法	講義
準備学習	前期に「構造有機化学」、「有機電子論」を履修しておくこと。
成績評価	試験(60)、レポート(40)
講義構成	1. 分光法とは 2. 分子のエネルギーと分光法1 エネルギーとは、エネルギー保存則 3. 分子のエネルギーと分光法2 原子軌道・分子軌道とエネルギー 4. 紫外・可視分光法1 物質と光の相互作用 Beer-Lambertの法則 5. 紫外・可視分光法2 分子構造と吸収帯 6. 赤外分光法1 分子振動と赤外吸収 7. 赤外分光法2 特性基吸収帯と分子構造 8. ラマン分光法 ラマン散乱、共鳴ラマン 9. 円偏光二色性分光法 基本原理、光学異性体と円偏光 10. 質量分析法 基本原理、フラグメンテーションと分子構造 11. 磁気共鳴法1 核磁気共鳴法の基本原理 12. 磁気共鳴法2 反磁性シフトと化学シフト 13. 磁気共鳴法3 スピンスピンカップリング 14. 磁気共鳴法4 ^{13}C の核磁気共鳴 15. スペクトル解析総合
教科書	「わかる有機化学シリーズ3 有機スペクトル解析」齋藤勝裕著 東京化学同人
参考書・資料	「有機化学のためのスペクトル解析法」M.Hesseら著(馬場章夫ほか訳)、化学同人 「有機化合物のスペクトル解析入門 UV, IR, NMR, MS」L.M.ハーウッドら著(岡田恵次ほか訳)、化学同人 「有機化合物のスペクトルによる同定法—MS,IR,NMRの併用 第7版」Silversteinら著、東京化学同人
担当者から一言	パイオ指向の人も実験で必ず何か分光法を使いますので、2年次以降もカリキュラムに余裕があれば、履修してみてください。また、この講義では時間の関係上あまり詳しく取り扱えませんが、原子、分子の電子状態について興味のある人は「量子物理化学」で理解を深めましょう。どんな分野に進んでもきっと役に立つはずです。

授業コード	91038		
授業科目名	有機合成化学 (9～11月)(後)		
担当者名	村嶋貴之 (ムラシマ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限 金曜2限
特記事項	クォーター科目 (C期)		

講義の内容	近年の有機合成化学の発展により、現在では望みの化合物を既に知られている反応を組み合わせることで、かなり自由に合成することが可能である。こうした最新の有機合成の方法論を、有機電子論で学んだ知識を元に理解できるよう、解説する。さらに、有機化合物の構造、反応性を理解したうえで、複雑な化合物をどのように合成するのか、既知の反応を組み合わせることで合成経路を組み立てる「逆合成解析」の方法論について学習する。
到達目標	目的:これまでに学んだ有機化学の知識を総動員して、実際に行われている有機合成化学の方法論を理解する。 ・有機反応において最も重要な炭素—炭素結合生成反応について理解する

	・官能基変換による目的化合物の合成について学ぶ ・必要なものだけを作る工夫を知る ・酸化・還元反応を修得する
講義方法	講義(適宜演習を行う)
準備学習	基本的な有機反応を理解しておく(有機電子論、有機反応各論等の復習)。
成績評価	期末試験(70%)、小テスト及びレポート(30%)から評価する。
講義構成	1. 有機合成化学における位置・官能基・立体選択性 2. 炭素－炭素結合生成反応1「C=Xへの付加」 3. 炭素－炭素結合生成反応2「C=Cへの付加」 4. 炭素－炭素結合生成反応3「sp³, sp², sp炭素における置換」 5. 転位反応と脱離反応 6. 官能基変換1「還元」 7. 官能基変換2「酸化1」 8. 官能基変換3「酸化2」 9. 不斉合成 10. 保護基と脱保護 11. 逆合成解析の基礎 12. 官能基変換による逆合成 13. 骨格変換による逆合成 14. 実例「Holtonのタキソール合成」 15. まとめ
教科書	「ジョーンズ有機化学(上、下)第3版」(東京化学同人)
参考書・資料	「コンセプトで学ぶ有機化学」井上将彦、柳 日馨 編著、化学同人 「人名反応に学ぶ有機合成戦略」、La' szlo' Ku' rti, Barbara Czako' 著、富岡 清 訳、化学同人
担当者から一言	有機合成化学は知的な芸術である。複雑な化合物を簡単な反応の組み合わせでどのようにして作り上げていくのか、先人の考え方や方法論を楽しみながら味わいましょう。

授業コード	91033		
授業科目名	有機電子論 (6～7月)(前)		
担当者名	村嶋貴之(ムラシマ タカシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限 金曜2限
特記事項	クォーター科目(B期)		
講義の内容	有機反応はそれぞれを羅列しただけでは、複雑で理解困難な物のように見える。しかし、これを修得するには膨大な量の反応式を憶える必要はない。ほとんどの有機反応は電子の動きや電荷の偏りで説明することができる。本講義では、多種多様な有機反応を電子論の立場から整理・分類して、反応の起こる仕組みについて解説する。このようなプロセスで有機反応を理解することで、初めて出会った反応でも反応機構について考察できることを目指す		
到達目標	目的: 基本的な有機反応を、有機電子論の立場から理解し、どのような有機反応がどのような反応機構で進行するかを理解する。 ・求核置換反応の特徴、反応機構などが説明できる ・求電子付加反応の特徴、反応機構などが説明できる ・芳香族化合物の特徴、とその反応について説明できる ・カルボニル化合物の反応の特徴、反応機構などが説明できる		
講義方法	講義(適宜演習を行う)		
準備学習	高等学校の化学の復習。A期に開講される構造有機化学の復習。		
成績評価	試験(70%)、小テストおよびレポート(30%)から評価する。		
講義構成	1. 有機反応の形式 2. カチオンとアニオン 3. 脂肪族求核置換反応1 4. 脂肪族求核置換反応2 5. 求電子付加反応1 6. 求電子付加反応2		

	7. 芳香族求電子置換反応1 8. 芳香族求電子置換反応2 9. 求核付加反応1 10. 求核付加反応2 11. 求核アシル置換反応1 12. 求核アシル置換反応2 13. カルボニルの α 置換反応 14. カルボニル縮合反応 15. まとめ
教科書	ジョーンズ有機化学(上、下)第3版(東京化学同人)
参考書・資料	「有機反応論」加納航治 著、三共出版 「有機電子論解説ー有機化学の基礎」、井本 稔 著、東京化学同人 なお、講義ではプリントを配布する
担当者から一言	これまでに膨大な数の有機反応が開発されてきたが、それらは有機電子論に基づいて整理すれば、そのほとんどが体系的に説明・理解できる。覚えることではなく、考えることに時間と頭を使おう。

授業コード	91034		
授業科目名	有機反応各論(11～1月)(後)		
担当者名	松井 淳(マツイ ジュン)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限 木曜2限
特記事項	クォーター科目(D期)		

講義の内容	有機化学を学ぶ究極の目的は、望みの物質をできるだけ効率よく合成する手段を見出す、あるいは開発する能力を身につけることである。本講義では、そのような能力の習得に欠かせない各種有機化合物の反応性を学ぶことを目的として、さまざまな有機反応を系統的に列挙しながら、その反応機構を解説し、各種有機化合物の物性や反応性を決定づける官能基の構造と性質について網羅的に解説する。さらに、実際によく使われる有機反応を例説しながら、身につけた知識を組み合わせ、医薬品や新素材などの役に立つ有機化合物の合成に活かす能力の基礎を養う。
到達目標	求核付加反応、求核置換反応、脱離反応などに関する機構を理解し、生成物の推定や、生成物から反応経路を考案できるようになることを目標とする。
講義方法	講義
準備学習	構造有機化学や有機電子論の内容を理解していることを前提として講義を進めるので、同科目を修得しているか否かに関わらず、その内容を各自が再確認しておくこと。
成績評価	期末試験を中心に、レポートなどを加味して評価する。
講義構成	1. 講義の進め方、化学反応の基礎 2. 求核置換反応、ハロゲンをもつ化合物 3. 酸と塩基(1)、脱離基 4. Grignard試薬の反応 5. アルコールの性質と反応 6. エーテルの性質と反応 7. アミンの性質と反応 8. 脱離反応 9. アルデヒド、ケトンの性質と反応 10. カルボン酸およびその誘導体の性質と反応 11. 酸と塩基(2) 12. ケト-エノール互変異性 13. アルドール反応、Claisen反応 14. 炭素-炭素結合を生成する反応 15. アルコール、カルボン酸誘導体の合成法
教科書	ジョーンズ 有機化学(上・下)東京化学同人 3版

授業コード	91026		
授業科目名	量子物理化学 (11～1月)(後)		
担当者名	鶴岡孝章(ツルオカ タカアキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限 木曜1限
特記事項	クォーター科目(D期)		

講義の内容	物質の性質を決定する根本である電子状態について学び、それを原子や分子に応用することで化学結合を量子論的に取り扱う。特に電子の軌道、エネルギー準位に関する概念および理論について概説するとともに、原子および分子の電子状態や反応性について述べる。また、それらの集合体としての性質、特に金属、半導体および絶縁体の分類と電子状態との関係について解説する。
到達目標	物質の構造を理解し、ミクロな量子論的立場から物質の性質をとらえる方法を身につける。 原子構造と電子状態を理解する。 物質の性質と電子状態の相関を理解する
講義方法	講義
準備学習	基本的に必要としない。 ただし、復習に関しては行うことが望ましい。
成績評価	出席を前提とし、レポートおよび期末試験の結果により評価する。 期末試験を受けなかった場合、「欠席」と評価する。
講義構成	1. 物質量の単位 (SI単位系) 2. 量子論 3. 原子の構造 4. 原子モデル 5. 水素原子のスペクトル 6. 電子の二重性：波動性と粒子性 7. 状態の共存、不確定性原理 8. シュレーディンガー方程式 9. 一次元の井戸型ポテンシャル 10. 軌道と電子状態 11. 分子軌道法 12. 固体の電子構造 13. 物質の電気的性質 14. 物質の光学的性質 15. 物質の磁気的性質
教科書	「化学結合の基礎」、松林玄悦著、三共出版
参考書・資料	「したしむ電子物性」、志村忠夫著、朝倉書店

担当者から一言	「量子物理化学」は化学や生物学のみならず現代科学のあらゆる分野で必須の知識であり、その基礎を理解しておくことは重要です。ただし、厳密に取り扱うと非常に難しい内容になりますので、まず基礎を身につけ、理解を深められるよう講義を行います。
---------	--

授業コード	W1037		
授業科目名	国語科教育研究Ⅰ(前)		
担当者名	植山俊宏(ウエヤマ トシヒロ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜1限

講義の内容	国語科教育について原論及び基礎論をふまえて、教材論、授業論について考究する。講義に加えて、教材分析、実践記録分析、授業計画・構想の演習も行う。校種を限定せず、小学校、中学校、高校にわたり、連続的、連携的な視点で広く国語科教育をとらえていくことにする。教材としては、主に文学的文章教材及び古典教材を扱う。
到達目標	①国語科教育について理論的な背景をふまえた把握ができる。 ②教材論と授業論を適切に関連付けて国語科授業を構想できる。

	③実地の演習を通して教材分析、実践記録分析の方法を習得できる。 ④文学的文章教材を用いた授業計画を立案できる。
講義方法	授業方法、進行計画などについてオリエンテーションを行った後、授業者により示範の教材分析例の発表を行い、以後の担当者による演習発表の準備方法、資料作成などを教授する。ついで、授業計画に基づき、担当者ごとに指定された教材について分析を行い、発表し、討議により深めていく。授業の終結として授業者による補説を行う。最終授業では授業全体を総括する。
準備学習	演習発表担当者は、決められた作業を行い、発表用の資料を作成する。それ以外の受講生は、討議参加ができるように事前の分析を行っておく。また授業時間において紹介された文献等を読んで、理論的な学習を行っておくことも必要である。
成績評価	担当する演習の発表(40%)、毎時間の討議参加(30%、10回以上出席・討議参加しなければ成績を評価しない。)、最終レポート(30%)。
講義構成	①オリエンテーション 国語科教育の概念・内容・方法について講じる。授業の進行方法、演習担当予定を決める。 ②小学校中学年教材「白いぼうし」の示範演習と討議、及び補説。 ③小学校中学年教材「ごんぎつね」の演習発表と討議、及び補説。 ④小学校高学年教材「きつねの窓」の演習発表と討議、及び補説。 ⑤中学校教材「ゼブラ」の演習発表と討議、及び補説。 ⑥高校教材「羅生門」の演習発表と討議、及び補説。 ⑦高校教材「ころも」の演習発表と討議、及び補説。 ⑧小学校・中学校・高校を通じた連続的、連携的な文学指導論の講義。 ⑨中学校古典教材「竹取物語」の教科書教材例の分析と討議、及び補説。 ⑩中学校古典教材「竹取物語」の単元構想の演習発表と討議、及び補説。 ⑪高校古典教材「伊勢物語」の教科書教材例の分析と討議、及び補説。 ⑫高校古典教材「伊勢物語」の単元構想の演習発表と討議、及び補説。 ⑬高校古典教材「徒然草」の教科書教材例の分析と討議、及び補説。 ⑭高校古典教材「徒然草」の単元構想の演習発表と討議、及び補説。 ⑮小学校・中学校・高校を通じた連続的、連携的な古典指導論の講義。 ⑯総括
教科書	授業で使用する教材については、授業者がプリントを用意する。
講義関連事項	理論的な基盤・背景についても扱うが、特に専門的な内容とはしない。教材分析及びその内容をめぐる討議が重要である。基本的な教材研究法を習得することをめざす。
担当者から一言	受講に関して事前の専門的な知識は必要ない。国語科授業を充実させるための教材研究法を習得しようと努めてほしい。
その他	私語は禁止するが討議に関しては活発な参加が望ましい。授業開始前に携帯電話のスイッチをオフにしておくこと。

授業コード	W1038		
授業科目名	国語科教育研究Ⅱ（集中）		
担当者名	植山俊宏（ウエヤマ トシヒロ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）

講義の内容	国語科教育について原論及び基礎論をふまえつつ、教材論、授業論について考究する。講義に加えて、教材分析、実践記録分析、授業計画・構想の演習も行う。校種を限定せず、小学校、中学校、高校にわたり、連続的、連携的な視点で広く国語科教育をとらえていくことにする。教材としては、主に説明的文章教材を扱う。
到達目標	①国語科教育について理論的な背景をふまえた把握ができる。 ②教材論と授業論を適切に関連付けて国語科授業を構想できる。 ③実地の演習を通して教材分析、実践記録分析の方法を習得できる。 ④説明的文章教材を用いた授業計画を立案できる。
講義方法	授業方法、進行計画などについてオリエンテーションを行った後、授業者により示範の教材分析例の発表を行い、以後の担当者による演習発表の準備方法、資料作成などを教授する。ついで、授業計画に基づき、担当者ごとに指定された教材について分析を行い、発表し、討議により深めていく。授業の終結として授業者による補説を行う。最終授業では授業全体を総括する。
準備学習	演習発表担当者は、決められた作業を行い、発表用の資料を作成する。それ以外の受講生は、討議参加がで

	きるように事前の分析を行っておく。また授業時間において紹介された文献等を読んで、理論的な学習を行っておくことも必要である。
成績評価	担当する演習の発表(40%)、毎時間の討議参加(30%、10回以上出席・討議参加しなければ成績を評価しない。)、最終レポート(30%)。
講義構成	①オリエンテーション 国語科教育の概念・内容・方法について講じる。授業の進行方法、演習担当予定を決める。 ②新学習指導要領及び主要教材を元に小学校の国語科教育の内容と方法を講じる。 ③新学習指導要領及び主要教材を元に中学校の国語科教育の内容と方法を講じる。 ④新学習指導要領及び主要教材を元に高校の国語科教育の内容と方法を講じる。 ⑤小学校低学年教材「たんぽぽのちえ」「すみれとあり」の示範演習と討議、及び補説。 ⑥小学校中学年教材「ありの行列」の演習発表と討議、及び補説。 ⑦小学校中学年教材「動物の体」の演習発表と討議、及び補説。 ⑧小学校高学年教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」の演習発表と討議、及び補説。 ⑨小学校高学年教材「平和のとりでを築く」の演習発表と討議、及び補説。 ⑩中学校教材「クジラたちの声」の演習発表と討議、及び補説。 ⑪中学校教材「未来をひらく微生物」の演習発表と討議、及び補説。 ⑫中学校教材「モアイは語る」の演習発表と討議、及び補説。 ⑬高校教材「水の東西」の演習発表と討議、及び補説。 ⑭高校教材「じぶん・この不思議な存在」の演習発表と討議、及び補説。 ⑮総括
教科書	授業で使用する教材については、授業者がプリントを用意する。
講義関連事項	理論的な基盤・背景についても扱うが、特に専門的な内容とはしない。教材分析及びその内容をめぐる討議が重要である。基本的な教材研究法を習得することをめざす。
担当者から一言	受講に関して事前の専門的な知識は必要ない。国語科授業を充実させるための教材研究法を習得しようと努めてほしい。
その他	私語は禁止するが討議に関しては活発な参加が望ましい。授業開始前に携帯電話のスイッチをオフにしておくこと。

授業コード	W1041		
授業科目名	日本近現代文学基礎研究Ⅰ(前)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	この授業では、幻想的なものの芸術作品における現れを歴史的な流れにおいて比較検討すると同時に、それを精神分析の中の対象関係論という分野のモデルと比較して考えていきます。何回かの説明の後、宮部みゆきの『龍は眠る』、長野まゆみ『少年アリス』などを読んでいきます。第1部を読んでいなくても授業が理解できるように配慮する予定です。文学作品以外に映画・漫画・音楽などの他のジャンル・メディアの作品も参照しながら、芸術作品と人間の内的世界の関わりについて考えていきます。授業中に意見をきくことが多いので、はじめは大変かもしれませんが、しばらくすると慣れて楽しめるとと思います。
到達目標	作品を通して、言葉を使いながらも言葉におさまりきらない人間存在の奥の深さを理解する。
講義方法	作品を順に細かく読んでいきます。その週に検討する部分について、出席者に意見を求め、それにコメントを加えていきます。必要に応じ、パワーポイントやプリントで解説します。
準備学習	授業の範囲を精読し、コメントを考える。
成績評価	レポートを中心に、出席、授業中のコメント等を加味
講義構成	1.近代文学における幻想的なものの位置づけについて 2.ロマン主義、象徴主義、シュルレアリスムなど 3.日常性と狂気 4.前エディプス期の精神内界と芸術 5.宮部みゆき『龍は眠る』 6.長野まゆみ『少年アリス』 なるべく多くの国、多くのジャンルの作品を参照していきたいと思っています。

教科書	宮部みゆき『龍は眠る』、予言する鳥編(新潮文庫)、長野まゆみ『少年アリス』(河出文庫)
-----	---

授業コード	W1C11		
授業科目名	日本語学演習 Ia (前)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日3時間目・火曜4時間目、その他適宜。なるべく前もって連絡すること		

講義の内容	文学をはじめ、各種の言語資料をもとに、国語学的事項について、分析を進め、考察を加える。		
到達目標	国語資料を使って日本語に関する分析と考察を行う。		
講義方法	研究発表を主とする		
準備学習	各種の言語資料の講読		
成績評価	発表による		
講義構成	上代文学をはじめとする文学作品について、解釈した上で、文体や表現、について、分析を進めていく。		
教科書	授業開始時に相談する。		
参考書・資料	自主的に探すこと。 甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室 大阪府立図書館、兵庫県立図書館などに はやく慣れておくこと。		

授業コード	W1C12		
授業科目名	日本語学演習 Ia (前)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	「現代日本語の社会言語学的研究」 方言を中心とする現代日本語の社会言語学的研究による修士論文作成のための具体的研究指導を行なう。		
到達目標	当該分野に必要な知識を身につけ、文献を収集し、論文作成のための能力を養う。		
講義方法	課題に対する受講者の発表をもとに進める。		
準備学習	毎時終了時に、次回に向けての課題を提示する、		
成績評価	出席・課題に対する発表等、平常点によって評価する。		
講義構成	受講者と相談のうえ、発表内容・回数、発表時期を決定する。		
教科書	教科書は使用せず、その都度必要な文献を指示する。		

授業コード	W1C13		
授業科目名	日本語学演習 Ia (前)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		

配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	木曜日12:30～14:30		

講義の内容	現代日本語の文法や類義表現に関して、各自の研究課題に沿った内容の考察、研究発表を行う。
到達目標	各自の興味に沿ったテーマを設定し、先行研究を詳細に調べることによって、研究の方向を定める。
講義方法	演習形式で討議をしながら進行する。
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を備えておくこと。
成績評価	発表内容、レポート。
講義構成	履修者の研究課題に沿った論文の精読、研究発表によって構成する。
教科書	教科書を指定せず、配布資料を用いる。
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学に関する講義。

担当者から一言	自分自身でテーマを見つけ出し、考える力を身につけてください。
その他	意欲的な参加を望みます。

授業コード	W1C21		
授業科目名	日本語学演習 Ib (後)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日3時間目・火曜4時間目、その他適宜。なるべく前もって連絡すること		

講義の内容	文学作品をはじめ、各種の言語資料をもとに、 国語学的事項について、分析を進め、考察を加える。
到達目標	国語資料を使って日本語に関する分析と考察を行う。
講義方法	研究発表を主とし、 レポートを課す。
準備学習	各種の言語資料の講読
成績評価	発表による
講義構成	上代文学をはじめとする文学作品について、解釈した上で、文体や表現、について、分析を進めていく。
教科書	授業開始時に相談の上、決定する。
参考書・資料	自主的に探すこと。 甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室 大阪府立図書館、兵庫県立図書館などに はやく慣れておくこと。

授業コード	W1C22		
授業科目名	日本語学演習 Ib (後)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

オフィスアワー	金曜日昼休み
講義の内容	「現代日本語の社会言語学的研究」 方言を中心とする現代日本語の社会言語学的研究による修士論文作成のための具体的研究指導を行なう。
到達目標	当該分野に必要な知識を身につけ、文献を収集し、論文作成のための能力を養う。
講義方法	課題に対する受講者の発表をもとに進める。
準備学習	毎時終了時に、次回に向けての課題を提示する、
成績評価	出席・課題に対する発表等、平常点によって評価する。
講義構成	受講者と相談のうえ、発表内容・回数、発表時期を決定する。
教科書	教科書は使用せず、その都度必要な文献を指示する。

授業コード	W1C23		
授業科目名	日本語学演習 Ib (後)		
担当者名	中島孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	現代日本語の文法や類義表現に関して、各自の研究課題に沿った内容の考察、研究発表を行う。
到達目標	修士論文執筆に向けてテーマを設定し、具体的作業を進行させること。
講義方法	担当者を決め、その発表をめぐり討議する。
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を備えておくこと。
成績評価	発表内容、レポート。
講義構成	履修者の研究課題に沿った論文精読、研究発表によって構成する。
教科書	プリント資料を用いる。
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学に関する講義。

担当者から一言	自分自身でテーマを見つけ出し、考える力を身につけてください。
その他	積極的な参加を望みます。

授業コード	W1C31		
授業科目名	日本語学演習 IIa (前)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜～金曜、ただし電話などで時間を予約すること。		

講義の内容	文学をはじめ、各種の言語資料をもとに、国語学的事項について、分析を進め、考察を加える。
到達目標	国語資料を使って日本語に関する分析と考察を行う。
講義方法	研究発表を主とする
準備学習	国語資料の扱い方に慣れる。
成績評価	発表による

講義構成	文体についての分析を進めていく。
教科書	年度の授業開始時に相談の上決める。

授業コード	W1C32		
授業科目名	日本語学演習 IIa (前)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	「現代日本語の社会言語学的研究」 方言を中心とする現代日本語の社会言語学的研究による修士論文作成のための具体的研究指導を行なう。		
到達目標	当該分野に必要な知識を身につけ、文献を収集し、論文作成のための能力を養う。		
講義方法	課題に対する受講者の発表をもとに進める。		
準備学習	毎時終了時に、次回に向けての課題を提示する、		
成績評価	出席・課題に対する発表等、平常点によって評価する。		
講義構成	受講者と相談のうえ、発表内容・回数、発表時期を決定する。		
教科書	教科書は使用せず、その都度必要な文献を指示する。		

授業コード	W1C33		
授業科目名	日本語学演習 IIa (前)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	木曜日12:30～14:30		

講義の内容	現代日本語の文法や類義表現に関して、各自の研究課題に沿った内容の考察、研究発表を行う。		
到達目標	各自の興味に沿ったテーマを設定し、先行研究を詳細に調べることによって、研究の方向を定める。		
講義方法	演習形式で討議をしながら進行する。		
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を備えておくこと。		
成績評価	発表内容、レポート。		
講義構成	履修者の研究課題に沿った論文の精読、研究発表によって構成する。		
教科書	教科書を指定せず、配布資料を用いる。		
参考書・資料	授業時間中に指示する。		
講義関連事項	日本語学に関する講義。		

担当者から一言	自分自身でテーマを見つけ出し、考える力を身につけてください。
その他	意欲的な参加を望みます。

授業コード	W1C41		
授業科目名	日本語学演習 IIb (後)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次		単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日3時間目・火曜4時間目、その他適宜。なるべく前もって連絡すること		
講義の内容	文学作品をはじめ、各種の言語資料をもとに、 国語学的事項について、分析を進め、考察を加える。		
到達目標	国語資料を使って日本語に関する分析と考察を行う。		
講義方法	研究発表を主とし、 レポートを課す。		
準備学習	各種の言語資料の講読		
成績評価	発表による		
講義構成	上代文学をはじめとする文学作品について、解釈した上で、文体や表現、について、分析を進めていく。		
教科書	授業開始時に相談		
参考書・資料	自主的に探すこと。 甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室 大阪府立図書館、兵庫県立図書館などに はやく慣れておくこと。 映画、まんが、CM、ケータイ、掲示板、アニメなど、 ことばがあれば、それを「ことば」と意識すれば、何でも 日本語学の研究資料となる。		

授業コード	W1C42		
授業科目名	日本語学演習 IIb (後)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	「現代日本語の社会言語学的研究」 方言を中心とする現代日本語の社会言語学的研究による修士論文作成のための具体的研究指導を行なう。		
到達目標	当該分野に必要な知識を身につけ、文献を収集し、論文作成のための能力を養う。		
講義方法	課題に対する受講者の発表をもとに進める。		
準備学習	毎時終了時に、次回に向けての課題を提示する、		
成績評価	出席・課題に対する発表等、平常点によって評価する。		
講義構成	受講者と相談のうえ、発表内容・回数、発表時期を決定する。		
教科書	教科書は使用せず、その都度必要な文献を指示する。		

授業コード	W1C43		
授業科目名	日本語学演習 IIb (後)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	現代日本語の文法や類義表現に関して、各自の研究課題に沿った内容の考察、研究発表を行う。
到達目標	修士論文執筆に向けてテーマを設定し、具体的作業を進行させること。
講義方法	担当者を決め、その発表をめぐり討議する。
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を備えておくこと。
成績評価	発表内容、レポート。
講義構成	履修者の研究課題に沿った論文精読、研究発表によって構成する。
教科書	プリント資料を用いる。
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学に関する講義。

担当者から一言	自分自身でテーマを見つけ出し、考える力を身につけてください。
その他	積極的な参加を望みます。

授業コード	W1K11		
授業科目名	日本語学演習Ⅲa（前）		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	火曜日4時間目、その他適宜、連絡すること		

講義の内容	各種の言語資料をもとに、国語学的事項について、分析を進め、考察を加える。		
到達目標	国語資料を使って日本語に関する分析と考察を行う。		
講義方法	研究発表を主とする		
準備学習	各種の言語資料の講読		
成績評価	発表による		
講義構成	文体についての分析を進めていく。		
教科書	授業開始時に相談の上、決定する。		
参考書・資料	甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室 大阪府立図書館、兵庫県立図書館などに はやく慣れておくこと。		

授業コード	W1K12		
授業科目名	日本語学演習Ⅲa（前）		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	「現代日本語の社会言語学的研究」 方言を中心とする現代日本語の社会言語学的研究による修士論文作成のための具体的研究指導を行なう。
到達目標	当該分野に必要な知識を身につけ、文献を収集し、論文作成のための能力を養う。
講義方法	課題に対する受講者の発表をもとに進める。

準備学習	毎時終了時に、次回に向けての課題を提示する、
成績評価	出席・課題に対する発表等、平常点によって評価する。
講義構成	受講者と相談のうえ、発表内容・回数、発表時期を決定する。
教科書	教科書は使用せず、その都度必要な文献を指示する。

授業コード	W1K13		
授業科目名	日本語学演習Ⅲa（前）		
担当者名	中畠孝幸（ナカハタ タカユキ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	木曜日12:30～14:30		

講義の内容	現代日本語の文法や類義表現に関して、各自の研究課題に沿った内容の考察、研究発表を行う。
到達目標	各自の興味に沿ったテーマを設定し、先行研究を詳細に調べることによって、研究の方向を定める。
講義方法	演習形式で討議をしながら進行する。
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を備えておくこと。
成績評価	発表内容、レポート。
講義構成	履修者の研究課題に沿った論文の精読、研究発表によって構成する。
教科書	教科書を指定せず、配布資料を用いる。
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学に関する講義。

担当者から一言	自分自身でテーマを見つけ出し、考える力を身につけてください。
その他	意欲的な参加を望みます。

授業コード	W1K21		
授業科目名	日本語学演習Ⅲb（後）		
担当者名	小谷博泰（コタニ ヒロヤス）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	月曜日3・4時間目、その他適宜、連絡すること		

講義の内容	各種の言語資料をもとに、国語学的事項について、分析を進め、考察を加える。
到達目標	国語資料を使って日本語に関する分析と考察を行う。
講義方法	研究発表を主とする
準備学習	各種の言語資料の講読
成績評価	発表による
講義構成	文体についての分析を進めていく。 なお、4年次生は、11月の中ごろまでに卒業論文の下書きの段階に入るよう、12月中旬には一応の下書きを仕上げるよう望まれる。 そのためには、9月末までに、夏休みの宿題として、中間報告をまとめておくこと。

教科書	授業開始時に相談する。
参考書・資料	甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室 大阪府立図書館、兵庫県立図書館などに はやく慣れておくこと。 映画、まんが、CM、ケータイ、掲示板、アニメなど、 ことばがあれば、それを「ことば」と意識すれば、何でも 日本語学の研究資料となる。

授業コード	W1K22		
授業科目名	日本語学演習IIIb（後）		
担当者名	都染直也（ツゾメ ナオヤ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	「現代日本語の社会言語学的研究」 方言を中心とする現代日本語の社会言語学的研究による修士論文作成のための具体的研究指導を行なう。
到達目標	当該分野に必要な知識を身につけ、文献を収集し、論文作成のための能力を養う。
講義方法	課題に対する受講者の発表をもとに進める。
準備学習	毎時終了時に、次回に向けての課題を提示する、
成績評価	出席・課題に対する発表等、平常点によって評価する。
講義構成	受講者と相談のうえ、発表内容・回数、発表時期を決定する。
教科書	教科書は使用せず、その都度必要な文献を指示する。

授業コード	W1K23		
授業科目名	日本語学演習IIIb（後）		
担当者名	中畠孝幸（ナカハタ タカユキ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	現代日本語の文法や類義表現に関して、各自の研究課題に沿った内容の考察、研究発表を行う。
到達目標	修士論文執筆に向けてテーマを設定し、具体的作業を進行させること。
講義方法	担当者を決め、その発表をめぐり討議する。
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を備えておくこと。
成績評価	発表内容、レポート。
講義構成	履修者の研究課題に沿った論文精読、研究発表によって構成する。
教科書	プリント資料を用いる。
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学に関する講義。

担当者から一言	自分自身でテーマを見つけ出し、考える力を身につけてください。
その他	積極的な参加を望みます。

授業コード	W1042		
授業科目名	日本語学基礎研究Ⅰ(前)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	なるべく前もってメールで相談のこと。		

講義の内容	各種言語資料の国語学的研究		
到達目標	レポートの作成。研究課題の設定。		
講義方法	各自の口頭発表を主とする 発表は自分の設定したテーマによって行う		
準備学習	国語資料の講読と分析		
成績評価	発表による		
講義構成	研究発表と研究についての相談 学部3・4年生の発表も併行して行われるので、適宜、助言・質問などをするよう望まれる。		
教科書	甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室 大阪府立図書館、兵庫県立図書館などに はやく慣れておくこと。		
参考書・資料	授業の中で適宜、紹介する。		

授業コード	W1043		
授業科目名	日本語学基礎研究Ⅱ(後)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	月曜日3・4時間目		

講義の内容	文学作品、および各種言語資料の国語学的研究		
到達目標	レポートの作成。研究課題の設定。		
講義方法	作品分析の実習、および各自の口頭発表		
準備学習	国語資料の講読と分析		
成績評価	発表とレポートによる。		
講義構成	テキストにより、文章・文体についての国語学的な調べ方を学ぶ。 日本の近代現代、古典の文学作品や、各種の非文学的言語資料について、国語学的な側面から調べて考察する。 必要に応じ、文学的研究、歴史学的研究も参考にし、文化、民俗、環境などとの関係も考えながら調べを進めたい。		
教科書	『スタイルの文学史』大屋幸世 東京堂出版 2200円		

その他	欠席する場合は、あらかじめメールなどの方法で連絡すること。		
-----	-------------------------------	--	--

授業コード	W1L11		
授業科目名	日本語学研究 Ia (前)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	現代日本語の社会言語学的研究における諸問題について考える		
到達目標	現代日本語における諸問題について正しい認識を持ち、それらの問題に対する各自の明確な姿勢を持てるようにする。		
講義方法	論文講読を中心とする。		
準備学習	講義終了時に、次回への課題を提示する。		
成績評価	平常点と学期末レポートによって評価する		
講義構成	受講者と相談のうえ開講時に指示する		
教科書	教科書は指定せず、受講者と協議し取り扱う論文を決定する。		

授業コード	W1L12		
授業科目名	日本語学研究 Ia (前)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日 12:30～14:30		

講義の内容	現代日本語の文法上の諸問題について、外国人の誤用を題材にして考察する。		
到達目標	日本語の研究を行う際に日本語学習者の誤用がどのように役立つか理解し、それを研究に応用すること。		
講義方法	各回の担当者が発表を行い、それに基づいて討議しながら進める。		
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を習得しておくこと。		
成績評価	発表内容、レポート。		
講義構成	テキストに沿って順に文法項目を取り上げる。		
教科書	森田良行著『外国人の誤用から分かる日本語の問題』(明治書院)		
参考書・資料	授業時間中に指示する。		
講義関連事項	日本語学、日本語教育学に関する講義。		

担当者から一言	研究の方法を身につけてください。		
その他	意欲的な参加を望みます。		

授業コード	W1L21		
授業科目名	日本語学研究 Ib (後)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	現代日本語の社会言語学的研究における諸問題について考える
到達目標	現代日本語における諸問題について正しい認識を持ち、それらの問題に対する各自の明確な姿勢を持てるようにする。
講義方法	論文講読を中心とする。
準備学習	講義終了時に、次回への課題を提示する。
成績評価	平常点と学期末レポートによって評価する
講義構成	受講者と相談のうえ開講時に指示する
教科書	教科書は指定せず、受講者と協議し取り扱う論文を決定する。

授業コード	W1L22		
授業科目名	日本語学研究 Ib (後)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日12:30～14:30		

講義の内容	現代日本語の文法上の諸問題について、外国人の誤用を題材にして考察する。
到達目標	日本語の研究を行う際に日本語学習者の誤用がどのように役立つか理解し、それを研究に応用すること。
講義方法	各回の担当者が発表を行い、それに基づいて討議しながら進める。
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を習得しておくこと。日本語教育における文法の扱いについて知っておくこと。
成績評価	発表内容、レポート。
講義構成	テキストに沿って順に文法項目を取り上げる。
教科書	森田良行著『外国人の誤用から分かる日本語の問題』(明治書院)
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学、日本語教育学に関する講義。

担当者から一言	研究の方法を身につけてください。
その他	継続して意欲的な参加を望みます。

授業コード	W1L31		
授業科目名	日本語学研究 II a (前)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	現代日本語の社会言語学的研究における諸問題について考える
到達目標	現代日本語における諸問題について正しい認識を持ち、それらの問題に対する各自の明確な姿勢を持てるようにする。
講義方法	論文講読を中心とする。
準備学習	講義終了時に、次回への課題を提示する。
成績評価	平常点と学期末レポートによって評価する
講義構成	受講者と相談のうえ開講時に指示する
教科書	教科書は指定せず、受講者と協議し取り扱う論文を決定する。

授業コード	W1L32		
授業科目名	日本語学研究 II a (前)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日12:30～14:30		

講義の内容	現代日本語の文法上の諸問題について、外国人の誤用を題材にして考察する。
到達目標	日本語の研究を行う際に日本語学習者の誤用がどのように役立つか理解し、それを研究に応用すること。
講義方法	各回の担当者が発表を行い、それに基づいて討議しながら進める。
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を習得しておくこと。
成績評価	発表内容、レポート。
講義構成	テキストに沿って順に文法項目を取り上げる。
教科書	森田良行著『外国人の誤用から分かる日本語の問題』(明治書院)
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学、日本語教育学に関する講義。

担当者から一言	研究の方法を身につけてください。
その他	意欲的な参加を望みます。

授業コード	W1L41		
授業科目名	日本語学研究 IIb (後)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	現代日本語の社会言語学的研究における諸問題について考える
到達目標	現代日本語における諸問題について正しい認識を持ち、それらの問題に対する各自の明確な姿勢を持てるようにする。
講義方法	論文講読を中心とする。
準備学習	講義終了時に、次回への課題を提示する。
成績評価	平常点と学期末レポートによって評価する
講義構成	受講者と相談のうえ開講時に指示する
教科書	教科書は指定せず、受講者と協議し取り扱う論文を決定する。

授業コード	W1L42		
授業科目名	日本語学研究 IIb (後)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日12:30～14:30		

講義の内容	現代日本語の文法上の諸問題について、外国人の誤用を題材にして考察する。
到達目標	日本語の研究を行う際に日本語学習者の誤用がどのように役立つか理解し、それを研究に応用すること。
講義方法	各回の担当者が発表を行い、それに基づいて討議しながら進める。
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を習得しておくこと。日本語教育における文法の扱いについて知っておくこと。
成績評価	発表内容、レポート。
講義構成	テキストに沿って順に文法項目を取り上げる。
教科書	森田良行著『外国人の誤用から分かる日本語の問題』(明治書院)
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学、日本語教育学に関する講義。
担当者から一言	研究の方法を身につけてください。
その他	継続して意欲的な参加を望みます。

授業コード	W1L51		
授業科目名	日本語学研究 IIIa (前)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	現代日本語の社会言語学的研究における諸問題について考える		
到達目標	現代日本語における諸問題について正しい認識を持ち、それらの問題に対する各自の明確な姿勢を持てるようにする。		
講義方法	論文講読を中心とする。		
準備学習	講義終了時に、次回への課題を提示する。		
成績評価	平常点と学期末レポートによって評価する		
講義構成	受講者と相談のうえ開講時に指示する		
教科書	教科書は指定せず、受講者と協議し取り扱う論文を決定する。		

授業コード	W1L52		
授業科目名	日本語学研究 IIIa (前)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日12:30～14:30		

講義の内容	現代日本語の文法上の諸問題について、外国人の誤用を題材にして考察する。		
到達目標	日本語の研究を行う際に日本語学習者の誤用がどのように役立つか理解し、それを研究に応用すること。		
講義方法	各回の担当者が発表を行い、それに基づいて討議しながら進める。		
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を習得しておくこと。		
成績評価	発表内容、レポート。		
講義構成	テキストに沿って順に文法項目を取り上げる。		
教科書	森田良行著『外国人の誤用から分かる日本語の問題』(明治書院)		

参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学、日本語教育学に関する講義。
担当者から一言	研究の方法を身につけてください。
その他	意欲的な参加を望みます。

授業コード	W1L61		
授業科目名	日本語学研究 IIIb (後)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	現代日本語の社会言語学的研究における諸問題について考える		
到達目標	現代日本語における諸問題について正しい認識を持ち、それらの問題に対する各自の明確な姿勢を持てるようにする。		
講義方法	論文講読を中心とする。		
準備学習	講義終了時に、次回への課題を提示する。		
成績評価	平常点と学期末レポートによって評価する		
講義構成	受講者と相談のうえ開講時に指示する		
教科書	教科書は指定せず、受講者と協議し取り扱う論文を決定する。		

授業コード	W1L62		
授業科目名	日本語学研究 IIIb (後)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日12:30～14:30		

講義の内容	現代日本語の文法上の諸問題について、外国人の誤用を題材にして考察する。		
到達目標	日本語の研究を行う際に日本語学習者の誤用がどのように役立つか理解し、それを研究に応用すること。		
講義方法	各回の担当者が発表を行い、それに基づいて討議しながら進める。		
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を習得しておくこと。日本語教育における文法の扱いについて知っておくこと。		
成績評価	発表内容、レポート。		
講義構成	テキストに沿って順に文法項目を取り上げる。		
教科書	森田良行著『外国人の誤用から分かる日本語の問題』(明治書院)		
参考書・資料	授業時間中に指示する。		
講義関連事項	日本語学、日本語教育学に関する講義。		

担当者から一言	研究の方法を身につけてください。
その他	継続して意欲的な参加を望みます。

授業コード	W1L71
-------	-------

授業科目名	日本語学研究 IVa (前)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	現代日本語の社会言語学的研究における諸問題について考える
到達目標	現代日本語における諸問題について正しい認識を持ち、それらの問題に対する各自の明確な姿勢を持てるようにする。
講義方法	論文講読を中心とする。
準備学習	講義終了時に、次回への課題を提示する。
成績評価	平常点と学期末レポートによって評価する
講義構成	受講者と相談のうえ開講時に指示する
教科書	教科書は指定せず、受講者と協議し取り扱う論文を決定する。

授業コード	W1L72		
授業科目名	日本語学研究 IVa (前)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日 12:30～14:30		

講義の内容	現代日本語の文法上の諸問題について、外国人の誤用を題材にして考察する。
到達目標	日本語の研究を行う際に日本語学習者の誤用がどのように役立つか理解し、それを研究に応用すること。
講義方法	各回の担当者が発表を行い、それに基づいて討議しながら進める。
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を習得しておくこと。
成績評価	発表内容、レポート。
講義構成	テキストに沿って順に文法項目を取り上げる。
教科書	森田良行著『外国人の誤用から分かる日本語の問題』(明治書院)
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学、日本語教育学に関する講義。

担当者から一言	研究の方法を身につけてください。
その他	意欲的な参加を望みます。

授業コード	W1L81		
授業科目名	日本語学研究 IVb (後)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	現代日本語の社会言語学的研究における諸問題について考える
到達目標	現代日本語における諸問題について正しい認識を持ち、それらの問題に対する各自の明確な姿勢を持てるようにする。

講義方法	論文講読を中心とする。
準備学習	講義終了時に、次回への課題を提示する。
成績評価	平常点と学期末レポートによって評価する
講義構成	受講者と相談のうえ開講時に指示する
教科書	教科書は指定せず、受講者と協議し取り扱う論文を決定する。

授業コード	W1L82		
授業科目名	日本語学研究 IVb (後)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日12:30～14:30		

講義の内容	現代日本語の文法上の諸問題について、外国人の誤用を題材にして考察する。
到達目標	日本語の研究を行う際に日本語学習者の誤用がどのように役立つか理解し、それを研究に応用すること。
講義方法	各回の担当者が発表を行い、それに基づいて討議しながら進める。
準備学習	日本語文法の各分野に関する基礎的知識を習得しておくこと。日本語教育における文法の扱いについて知っておくこと。
成績評価	発表内容、レポート。
講義構成	テキストに沿って順に文法項目を取り上げる。
教科書	森田良行著『外国人の誤用から分かる日本語の問題』(明治書院)
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学、日本語教育学に関する講義。

担当者から一言	研究の方法を身につけてください。
その他	継続して意欲的な参加を望みます。

授業コード	W1033		
授業科目名	日本語学特殊講義 1a (前)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
オフィスアワー	月曜日～金曜日 前もって予約すること。		

講義の内容	上代の日本語に関して、課題を解きながら、講義を進めて行く。
到達目標	上代語の文献を国語学的手続きを行った上で読む。
講義方法	講義に資料分析などの作業を加える。
準備学習	用字・用語などについて調べる。
成績評価	レポートと発表による。
講義構成	上代の文学作品について、国語学的な分析と考察を行い、かつ、文学や文化、歴史の研究にも触れながら、その調べ方や解釈のしかた、研究の方法などを学習する。 あわせて、日本語の歴史について、知識を豊かにしたい。
教科書	授業開始時に相談の上、決定する。
参考書・資料	自分で積極的に探すこと。
講義関連事項	甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室

	大阪府立図書館、兵庫県立図書館などにはやく慣れておくこと。
担当者から一言	資料収集・情報収集になれること。 文学作品に親しむこと

授業コード	W1034		
授業科目名	日本語学特殊講義 Ib (後)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限

講義の内容	上代の日本語に関して、課題を解きながら、講義を進めて行く。
到達目標	国語学資料の分析と講読
講義方法	講義に資料分析などの作業を加える。
準備学習	各種の言語資料の講読
成績評価	レポートと発表による。
講義構成	上代の文学作品について、国語学的な分析と考察を行い、かつ、文学や文化、歴史の研究にも触れながら、その調べ方や解釈のしかた、研究の方法などを学習する。 あわせて、日本語の歴史について、知識を豊かにしたい。
教科書	授業開始時に相談の上、決定する。
参考書・資料	自分で積極的に探すこと。
講義関連事項	甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室 大阪府立図書館、兵庫県立図書館などにはやく慣れておくこと。

担当者から一言	資料収集・情報収集になれること。 文学作品に親しむこと
---------	--------------------------------

授業コード	W1035		
授業科目名	日本語学特殊講義 IIa (前)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限

講義の内容	上代の日本語に関して、課題を解きながら、講義を進めて行く。
到達目標	上代文献の分析と講読
講義方法	講義に資料分析などの作業を加える。
準備学習	索引類や古辞書の検索
成績評価	レポートと発表による。
講義構成	上代の文学作品について、国語学的な分析と考察を行い、かつ、文学や文化、歴史の研究にも触れながら、その調べ方や解釈のしかた、研究の方法などを学習する。 あわせて、日本語の歴史について、知識を豊かにしたい。
教科書	授業開始時に相談の上、決定する。
参考書・資料	自分で積極的に探すこと。
講義関連事項	甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室 大阪府立図書館、兵庫県立図書館などにはやく慣れておくこと。

担当者から一言	資料収集・情報収集になれること。 文学作品に親しむこと
---------	--------------------------------

授業コード	W1036		
授業科目名	日本語学特殊講義 IIb (後)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限

講義の内容	上代の日本語に関して、課題を解きながら、講義を進めて行く。
到達目標	学会発表、論文作成
講義方法	講義に資料分析などの作業を加える。
準備学習	各種の言語資料の講読
成績評価	レポートと発表による。
講義構成	上代の文学作品について、国語学的な分析と考察を行い、かつ、文学や文化、歴史の研究にも触れながら、その調べ方や解釈のしかた、研究の方法などを学習する。 あわせて、日本語の歴史について、知識を豊かにしたい。
教科書	授業開始時に相談の上、決定する。
参考書・資料	自分で積極的に探すこと。
講義関連事項	甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室 大阪府立図書館、兵庫県立図書館などに はやく慣れておくこと。

担当者から一言	資料収集・情報収集になれること。 文学作品に親しむこと
---------	--------------------------------

授業コード	W1044		
授業科目名	日本語教育基礎研究 I (前)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	日本語に関する論文を精読する。担当者を決めて、論文の内容について発表を行ってもらう。論文のテーマは、日本語の文法に関するものだけでなく、ことばの意味に関わるものや、さらに、社会言語学的なものも扱う予定である。
到達目標	研究テーマを設定できるようになること。また、論文の形式に習熟し、論文作成の方法を身につけること。
講義方法	その日の発表者を中心に、全体で討議をしながら進める。
準備学習	日本語学に関する基礎的知識を身につけておくこと。また、各回扱う論文を読み、疑問点を見つけておくこと。
成績評価	平常の授業への参加状況と、学年末のレポート。
講義構成	次のようなテーマに関する論文を順に精読する。 (1)受身・使役について (2)授受表現について (3)コ・ソ・アについて (4)複合辞について (5)自動詞・他動詞について (6)副詞について (7)擬音語・擬態語について (8)待遇表現について (9)人物呼称について (10)多言語表示について
教科書	印刷物を配布する。
参考書・資料	授業中に指示する。
講義関連事項	日本語学・日本語教育に関わる他の科目。

担当者から一言	本科目は、学部の「演習Ⅱ」に大学院生が加わり単位を修得することができるようにしたものである。
その他	履修者は事前に担当教員に相談してください。

授業コード	W1045		
授業科目名	日本語教育基礎研究Ⅱ(後)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	日本語に関する論文を精読する。担当者を決めて、論文の内容について発表を行ってもらう。論文のテーマは、日本語の文法に関するものだけでなく、ことばの意味に関わるものや、さらに、社会言語学的なものも扱う予定である。
到達目標	研究テーマを設定できるようになること。また、論文の形式に習熟し、論文作成の方法を身につけること。
講義方法	その日の発表者を中心に、全体で討議をしながら進める。
準備学習	日本語学に関する基礎的知識を身につけておくこと。また、各回扱う論文を読み、疑問点を見つけておくこと。
成績評価	平常の授業への参加状況と、学年末のレポート。
講義構成	次のようなテーマに関する論文を順に精読する。 (1)受身・使役について (2)授受表現について (3)コ・ソ・アについて (4)複合辞について (5)自動詞・他動詞について (6)副詞について (7)擬音語・擬態語について (8)待遇表現について (9)人物呼称について (10)多言語表示について
教科書	印刷物を配布する。
参考書・資料	授業中に指示する。
講義関連事項	日本語学・日本語教育に関わる他の科目。

担当者から一言	本科目は、学部の「演習Ⅱ」に大学院生が加わり単位を修得することができるようにしたものである。
その他	履修者は事前に担当教員に相談してください。

授業コード	W1039		
授業科目名	日本古典文学基礎研究Ⅰ(前)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	日本上代文学の『万葉集』に載る作品を読むことをとおして、日本の文化についての知見を広めそして深めるための実践的な講義。古典作品を深く読む楽しさも味わってほしい。 今期は、『万葉集』の第三期の歌人、大伴旅人と山上憶良の作品を読む。
到達目標	『万葉集』の作品の作歌方法を理解すること。
講義方法	毎回配付するプリントに基づいて講義する。ひとつひとつの作品を丁寧に解説し、また、写本の複製本やデジタルカメラの画像なども示しながら、分かりやすい形で進めていく。
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。
成績評価	定期試験の成績に拠る。
講義構成	○「筑紫文学圏」について 大伴旅人について 山上憶良について 旅人と憶良 ○「筑紫文学圏」の作品について

	大伴旅人の作品をく読む 山上憶良の作品をく読む
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『萬葉集』(おうふう)
参考書・資料	講義の進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	作品をく読むことの「楽しさ」を共に見出そう。そして日本文化についての知見を共に広め深めよう。

授業コード	W1040		
授業科目名	日本古典文学基礎研究Ⅱ(前)		
担当者名	佐藤愛弓(サトウ アユミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	＊文学部開講の「中世文学研究」と同時開講。		

講義の内容	説話文学にはさまざまな研究方法がある。この授業では、説話作品をその研究方法とともに紹介し、それによってどのようなことが明らかになるのか解説する。
到達目標	授業で紹介した4つの研究手法を参考にして、それぞれが具体的に説話作品を分析し、期末レポートにまとめる。
講義方法	講義
準備学習	とくになし。
成績評価	期末レポート85%、平常点15% (但し全授業数の3分の1を欠席した場合は、期末レポートの提出を認めません)
講義構成	1 オリエンテーション 2 【研究方法その一】同話、類話と詳細に比較する。 3 『今昔物語集』の蟬丸説話 4 蟬丸説話の変遷 5 【研究方法その二】資料の性質から考える。 6 袈裟功德説話の構造 7 袈裟曼荼羅について 8 【研究方法その三】歴史資料に関連記事をさがす。 9 真夜中の殺害事件 10 被害者を調べる。 11 加害者を調べる。 12 事件の顛末 13 【研究方法その四】前後の話から考える。 14 空飛ぶ亀の話 15 亀の正体
教科書	授業中にプリントを配布します。

授業コード	W1A11		
授業科目名	日本文学演習Ⅰa(前)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	別途指示する。		

講義の内容	近代日本文学の表現を「精読」する。 短編小説を取り上げ、研究上の問題点を見出す。
到達目標	精読によって研究対象から問題点を見出す能力を身につける。
講義方法	対象とする表現について、担当箇所を決め、資料を準備した報告・討議によってすすめる。

準備学習	文学理論や、研究方法にふだんから関心をもつこと。
成績評価	報告、資料、レポート、出席等によって評価する。
講義構成	取り上げる表現についての研究報告と討議によって、深く読む実践を重ねてゆく。
教科書	適宜、指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
担当者から一言	研究のための基礎的事項を習得することをめざしたい。

授業コード	W1A12		
授業科目名	日本文学演習 Ia (前)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	平安末期の歌学書である『俊頼髓脳』を巻頭から精密に読む。本書は源俊頼の手になるものだが、単なる歌学理論だけでなく、豊富な説話が含まれることで知られる。和歌や歌学と説話とがどのようにつながってゆくかを、平安末期という「中世」の黎明期の歴史的文脈にそって読み解いて行く。
到達目標	諸本の対校による本文批判の方法が身につく、説話と和歌との関係を理解できるようになること。
講義方法	第一回目の授業において『俊頼髓脳』についての概論を講義し、次回からは受講者の報告を中心に進める。
準備学習	演習発表が自分の順番でなくても、毎回テキストを熟読し、わからないことは簡単でよいので調べておくこと。
成績評価	日常の勉学態度(演習の内容、50パーセント)、年度末のレポート(40パーセント)、出席点(10パーセント)で評価する。
講義構成	1, 概説 2, 受講者による報告とそれに対する討議(以下、同じ) 3, 年度末には全体のまとめを行う。
教科書	『関西大学図書館蔵 俊秘抄』和泉書院(和泉古典文庫10)、本体1800円 * 必ず授業前に購入しておくこと。 なお、『俊頼髓脳』の注釈は、小学館日本古典全集「歌論集」に入っている。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	和歌の授業ではなく説話を読むのが目的であるが、基本的な和歌や歌学の知識は必要である。 『新編国歌大観』、『和歌文学大系』、『私家集大成』、『日本歌学大系』などを用いるので、使い方をマスターしておくこと。

担当者から一言	古典文学の基礎的な研究方法を熟知していることが前提である。 また、印象批評ではなく、論理を押さえた討論が出来るように心がけてほしい。
---------	---

授業コード	W1A13		
授業科目名	日本文学演習 Ia (前)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	文学作品などに見られる外的現実と内的現実の混じり合ったような世界の意味について、作品に即して考えます。演習では、参加者の選んできた素材を検討する作業が主になります。
到達目標	自分で問題を設定し、レポートなどにまとめる。
講義方法	主として発表とディスカッション

準備学習	発表の準備
成績評価	出席、授業中のコメント等
講義構成	1.イントロダクション 2.各自の発表
教科書	講義時に指示

授業コード	W1A14		
授業科目名	日本文学演習 Ia (前)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この演習は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをとおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした演習である。
到達目標	日本文学・日本文化について、自らの視点で論じる力を習得すること。
講義方法	参加者各自の発表、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。適宜、講義もおこなう。また、重要な先行研究についての輪読もおこなう。さらに、関係故地への実地踏査も予定している。
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。
成績評価	各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。
講義構成	○『万葉集』に載る作品についての基本的かつ重要な論文の輪読。 ○『万葉集』の作品を読む実例（廣川が発表する）。 ○参加者各自による担当箇所の発表、および、参加者間の討議。 ※資料の集め方、論文の書き方についても指導する。 ※関係故地への実地踏査もおこなう予定。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『萬葉集』（おうふう）
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を少しでも多く得てもらいたいと思っている。受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	W1A21		
授業科目名	日本文学演習 Ib (後)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	別途指示する。		

講義の内容	近代日本文学の表現を「精読」する。 短編小説を取り上げ、研究上の問題点を見出す。
到達目標	精読によって研究対象から問題点を見出す能力を身につける。
講義方法	対象とする表現について、担当箇所を決め、資料を準備した報告・討議によってすすめる。
準備学習	文学理論や、研究方法にふだんから関心をもつこと。
成績評価	報告、資料、レポート、出席等によって評価する。
講義構成	取り上げる表現についての研究報告と討議によって、深く読む実践を重ねてゆく。

教科書	適宜、指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
担当者から一言	研究のための基礎的事項を習得することをめざしたい。

授業コード	W1A22		
授業科目名	日本文学演習 Ib (後)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	平安末期の歌学書である『俊頼髓脳』を巻頭から精密に読む。本書は源俊頼の手になるものだが、単なる歌学理論だけでなく、豊富な説話が含まれることで知られる。和歌や歌学と説話とがどのようにつながってゆくかを、平安末期という「中世」の黎明期の歴史的な文脈にそって読み解いて行く。
到達目標	諸本の対校による本文批判の方法が身につく、説話と和歌との関係を理解できるようになること。
講義方法	第一回目の授業において『俊頼髓脳』についての概論を講義し、次回からは受講者の報告を中心に進める。
準備学習	演習発表が自分の順番でなくても、毎回テキストを熟読し、わからないことは簡単でよいので調べておくこと。
成績評価	日常の勉学態度(演習の内容、50パーセント)、年度末のレポート(40パーセント)、出席点(10パーセント)で評価する。
講義構成	1. 概説 2. 受講者による報告とそれに対する討議(以下、同じ) 3. 年度末には全体のまとめを行う。
教科書	『関西大学図書館蔵 俊秘抄』 和泉書院(和泉古典文庫10)、本体1800円 * 必ず授業前に購入しておくこと。 なお、『俊頼髓脳』の注釈は、小学館日本古典全集「歌論集」に入っている。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	和歌の授業ではなく説話を読むのが目的であるが、基本的な和歌や歌学の知識は必要である。 『新編国歌大観』、『和歌文学大系』、『私家集大成』、『日本歌学大系』などを用いるので、使い方をマスターしておくこと。

担当者から一言	古典文学の基礎的な研究方法を熟知していることが前提である。 また、印象批評ではなく、論理を押さえた討論が出来るように心がけてほしい。
---------	---

授業コード	W1A23		
授業科目名	日本文学演習 Ib (後)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	文学作品などに見られる外的現実と内的現実の混じり合ったような世界の意味について、作品に即して考えます。演習では、参加者の選んできた素材を検討する作業が主になります。
到達目標	自分で問題を設定し、レポートなどにまとめる。
講義方法	主として発表とディスカッション
準備学習	作品を精読し、意見をまとめる
成績評価	出席、授業中のコメント等
講義構成	1.イントロダクション 2.各自の発表

教科書	講義時に指示
-----	--------

授業コード	W1A24		
授業科目名	日本文学演習 Ib (後)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この演習は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをとおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした演習である。
到達目標	日本文学・日本文化について、自らの視点で論じる力を習得すること。
講義方法	参加者各自の発表、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。適宜、講義もおこなう。また、重要な先行研究についての輪読もおこなう。さらに、関係故地への実地踏査も予定している。
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。
成績評価	各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。
講義構成	○『万葉集』に載る作品についての基本的かつ重要な論文の輪読。 ○『万葉集』の作品を読む実例(廣川が発表する)。 ○参加者各自による担当箇所での発表、および、参加者間の討議。 ※資料の集め方、論文の書き方についても指導する。 ※関係故地への実地踏査もおこなう予定。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『万葉集』(おうふう)
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を少しでも多く得てもらいたいと思っている。受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	W1A31		
授業科目名	日本文学演習 IIa (前)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	別途指示する。		

講義の内容	近代日本文学の表現を「精読」する。 短編小説を取り上げ、研究上の問題点を見出す。
到達目標	精読によって研究対象から問題点を見出す能力を身につける。
講義方法	対象とする表現について、担当箇所を決め、資料を準備した報告・討議によってすすめる。
準備学習	文学理論や、研究方法にふだんから関心をもつこと。
成績評価	報告、資料、レポート、出席等によって評価する。
講義構成	取り上げる表現についての研究報告と討議によって、深く読む実践を重ねてゆく。
教科書	適宜、指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
担当者から一言	研究のための基礎的事項を習得することをめざしたい。

授業コード	W1A32		
授業科目名	日本文学演習 IIa (前)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	平安末期の歌学書である『俊頼髓脳』を巻頭から精密に読む。本書は源俊頼の手になるものだが、単なる歌学理論だけでなく、豊富な説話が含まれることで知られる。和歌や歌学と説話とがどのようにつながってゆくかを、平安末期という「中世」の黎明期の歴史的な文脈にそって読み解いて行く。
到達目標	諸本の対校による本文批判の方法が身につく、説話と和歌との関係を理解できるようになること。
講義方法	第一回目の授業において『俊頼髓脳』についての概論を講義し、次回からは受講者の報告を中心に進める。
準備学習	演習発表が自分の順番でなくても、毎回テキストを熟読し、わからないことは簡単でよいので調べておくこと。
成績評価	日常の勉強態度(演習の内容、50パーセント)、年度末のレポート(40パーセント)、出席点(10パーセント)で評価する。
講義構成	1. 概説 2. 受講者による報告とそれに対する討議(以下、同じ) 3. 年度末には全体のまとめを行う。
教科書	『関西大学図書館蔵 俊秘抄』 和泉書院(和泉古典文庫10)、本体1800円 * 必ず授業前に購入しておくこと。 なお、『俊頼髓脳』の注釈は、小学館日本古典全集「歌論集」に入っている。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	和歌の授業ではなく説話を読むのが目的であるが、基本的な和歌や歌学の知識は必要である。 『新編国歌大観』、『和歌文学大系』、『私家集大成』、『日本歌学大系』などを用いるので、使い方をマスターしておくこと。
担当者から一言	古典文学の基礎的な研究方法を熟知していることが前提である。 また、印象批評ではなく、論理を押さえた討論が出来るように心がけてほしい。

授業コード	W1A33		
授業科目名	日本文学演習 IIa (前)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	文学作品などに見られる外的現実と内的現実の混じり合ったような世界の意味について、作品に即して考えます。演習では、参加者の選んできた素材を検討する作業が主になります。
到達目標	自分で問題を設定し、レポートなどにまとめる。
講義方法	主として発表とディスカッション
準備学習	作品を精読し、意見をまとめる
成績評価	出席、授業中のコメント等
講義構成	1.イントロダクション 2.各自の発表
教科書	講義時に指示

授業コード	W1A34
-------	-------

授業科目名	日本文学演習 IIa (前)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この演習は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをとおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした演習である。
到達目標	日本文学・日本文化について自らの視点で分析し得る力の、いっそうの習得を目指す。
講義方法	参加者各自の発表、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。適宜、講義もおこなう。また、重要な先行研究についての輪読もおこなう。さらに、関係故地への実地踏査も予定している。
準備学習	演習で発表し得る自らの視点を得るべく、『万葉集』の作品を精読しておくこと。
成績評価	各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。
講義構成	○『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品についての基本的な論文の輪読。 ○『万葉集』の作品を読む実例(廣川が発表する)。 ○参加者各自の担当箇所での発表、および、参加者間の討議。 ※資料の集め方、論文の書き方についても指導する。 ※関係故地への実地踏査もおこなう予定。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『萬葉集』(おうふう)
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を少しでも多く得てもらいたいと思っている。受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	W1A41		
授業科目名	日本文学演習 IIb (後)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	別途指示する。		

講義の内容	近代日本文学の表現を「精読」する。 短編小説を取り上げ、研究上の問題点を見出す。
到達目標	精読によって研究対象から問題点を見出す能力を身につける。
講義方法	対象とする表現について、担当箇所を決め、資料を準備した報告・討議によってすすめる。
準備学習	文学理論や、研究方法にふだんから関心をもつこと。
成績評価	報告、資料、レポート、出席等によって評価する。
講義構成	取り上げる表現についての研究報告と討議によって、深く読む実践を重ねてゆく。
教科書	適宜、指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
担当者から一言	研究のための基礎的事項を習得することをめざしたい。

授業コード	W1A42		
授業科目名	日本文学演習 IIb (後)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		

配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	平安末期の歌学書である『俊頼髓脳』を巻頭から精密に読む。本書は源俊頼の手になるものだが、単なる歌学理論だけでなく、豊富な説話が含まれることで知られる。和歌や歌学と説話とがどのようにつながってゆくかを、平安末期という「中世」の黎明期の歴史的な文脈にそって読み解いて行く。
到達目標	諸本の対校による本文批判の方法が身につく、説話と和歌との関係を理解できるようになること。
講義方法	第一回目の授業において『俊頼髓脳』についての概論を講義し、次回からは受講者の報告を中心に進める。
準備学習	演習発表が自分の順番でなくても、毎回テキストを熟読し、わからないことは簡単でよいので調べておくこと。
成績評価	日常の勉強態度(演習の内容、50パーセント)、年度末のレポート(40パーセント)、出席点(10パーセント)で評価する。
講義構成	1, 概説 2, 受講者による報告とそれに対する討議(以下、同じ) 3, 年度末には全体のまとめを行う。
教科書	『関西大学図書館蔵 俊秘抄』和泉書院(和泉古典文庫10)、本体1800円 * 必ず授業前に購入しておくこと。 なお、『俊頼髓脳』の注釈は、小学館日本古典全集「歌論集」に入っている。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	和歌の授業ではなく説話を読むのが目的であるが、基本的な和歌や歌学の知識は必要である。 『新編国歌大観』、『和歌文学大系』、『私家集大成』、『日本歌学大系』などを用いるので、使い方をマスターしておくこと。
担当者から一言	古典文学の基礎的な研究方法を熟知していることが前提である。 また、印象批評ではなく、論理を押さえた討論が出来るように心がけてほしい。

授業コード	W1A43		
授業科目名	日本文学演習 IIb (後)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	文学作品などに見られる外的現実と内的現実の混じり合ったような世界の意味について、作品に即して考えます。演習では、参加者の選んできた素材を検討する作業が主になります。
到達目標	自分で問題を設定し、レポートなどにまとめる。
講義方法	主として発表とディスカッション
準備学習	作品を精読し、意見をまとめる
成績評価	出席、授業中のコメント等
講義構成	1.イントロダクション 2.各自の発表
教科書	講義時に指示

授業コード	W1A44		
授業科目名	日本文学演習 IIb (後)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限

オフィスアワー	水曜日9:40～10:40
講義の内容	この演習は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをとおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした演習である。
到達目標	日本文学・日本文化について自らの視点で分析し得る力の、いっそうの習得を目指す。
講義方法	参加者各自の発表、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。適宜、講義もおこなう。また、重要な先行研究についての輪読もおこなう。さらに、関係故地への実地踏査も予定している。
準備学習	演習で発表し得る自らの視点を得るべく、『万葉集』の作品を精読しておくこと。
成績評価	各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。
講義構成	○『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品についての基本的な論文の輪読。 ○『万葉集』の作品を読む実例（廣川が発表する）。 ○参加者各自の担当箇所の発表、および、参加者間の討議。 ※資料の集め方、論文の書き方についても指導する。 ※関係故地への実地踏査もおこなう予定。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『万葉集』（おうふう）
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を少しでも多く得てもらいたいと思っている。受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	W1F11		
授業科目名	日本文学演習Ⅲa（前）		
担当者名	木股知史（キマタ サトシ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	別途指示する。		

講義の内容	近代日本文学の表現を「精読」する。 短編小説を取り上げ、研究上の問題点を見出す。		
到達目標	精読によって研究対象から問題点を見出す能力を身につける。		
講義方法	対象とする表現について、担当箇所を決め、資料を準備した報告・討議によってすすめる。		
準備学習	文学理論や、研究方法にふだんから関心をもつこと。		
成績評価	報告、資料、レポート、出席等によって評価する。		
講義構成	取り上げる表現についての研究報告と討議によって、深く読む実践を重ねてゆく。		
教科書	適宜、指示する。		
参考書・資料	適宜指示する。		
担当者から一言	研究のための基礎的事項を習得することをめざしたい。		

授業コード	W1F12		
授業科目名	日本文学演習Ⅲa（前）		
担当者名	田中貴子（タナカ タカコ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	平安末期の歌学書である『俊賴髓脳』を巻頭から精密に読む。本書は源俊賴の手になるものだが、単なる歌学
-------	---

	理論だけでなく、豊富な説話が含まれることで知られる。和歌や歌学と説話とがどのようにつながってゆくかを、平安末期という「中世」の黎明期の歴史的な文脈にそって読み解いて行く。
到達目標	諸本の対校による本文批判の方法が身につく、説話と和歌との関係を理解できるようになること。
講義方法	第一回目の授業において『俊頼髓脳』についての概論を講義し、次回からは受講者の報告を中心に進める。
準備学習	演習発表が自分の順番でなくても、毎回テキストを熟読し、わからないことは簡単でよいので調べておくこと。
成績評価	日常の勉強態度（演習の内容、50パーセント）、年度末のレポート（40パーセント）、出席点（10パーセント）で評価する。
講義構成	1, 概説 2, 受講者による報告とそれに対する討議（以下、同じ） 3, 年度末には全体のまとめを行う。
教科書	『関西大学図書館蔵 俊秘抄』 和泉書院（和泉古典文庫10）、本体1800円 * 必ず授業前に購入しておくこと。 なお、『俊頼髓脳』の注釈は、小学館日本古典全集「歌論集」に入っている。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	和歌の授業ではなく説話を読むのが目的であるが、基本的な和歌や歌学の知識は必要である。 『新編国歌大観』、『和歌文学大系』、『私家集大成』、『日本歌学大系』などを用いるので、使い方をマスターしておくこと。

担当者から一言	古典文学の基礎的な研究方法を熟知していることが前提である。 また、印象批評ではなく、論理を押さえた討論が出来るように心がけてほしい。
---------	---

授業コード	W1F13		
授業科目名	日本文学演習Ⅲa（前）		
担当者名	廣川晶輝（ヒロカワ アキテル）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この演習は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをとおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした演習である。
到達目標	日本文学・日本文化について自らの視点で分析し得る力の、いっそうの習得を目指す。
講義方法	参加者各自の発表、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。 適宜、講義もおこなう。また、重要な先行研究についての輪読もおこなう。さらに、関係故地への実地踏査も予定している。
準備学習	演習で発表し得る自らの視点を得るべく、『万葉集』の作品を精読しておくこと。
成績評価	各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。
講義構成	○『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品についての基本的な論文の輪読。 ○『万葉集』の作品を読む実例（廣川が発表する）。 ○参加者各自の担当箇所での発表、および、参加者間の討議。 ※資料の集め方、論文の書き方についても指導する。 ※関係故地への実地踏査もおこなう予定。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『万葉集』（おうふう）
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を少しでも多く得てもらいたいと思っている。 受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	W1F21
-------	-------

授業科目名	日本文学演習IIIb (後)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	別途指示する。		

講義の内容	近代日本文学の表現を「精読」する。 短編小説を取り上げ、研究上の問題点を見出す。
到達目標	精読によって研究対象から問題点を見出す能力を身につける。
講義方法	対象とする表現について、担当箇所を決め、資料を準備した報告・討議によってすすめる。
準備学習	文学理論や、研究方法にふだんから関心をもつこと。
成績評価	報告、資料、レポート、出席等によって評価する。
講義構成	取り上げる表現についての研究報告と討議によって、深く読む実践を重ねてゆく。
教科書	適宜、指示する。
参考書・資料	適宜指示する。

担当者から一言	研究のための基礎的事項を習得することをめざしたい。
---------	---------------------------

授業コード	W1F22		
授業科目名	日本文学演習IIIb (後)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	平安末期の歌学書である『俊頼髓脳』を巻頭から精密に読む。本書は源俊頼の手になるものだが、単なる歌学理論だけでなく、豊富な説話が含まれることで知られる。和歌や歌学と説話とがどのようにつながってゆくかを、平安末期という「中世」の黎明期の歴史的な文脈にそって読み解いて行く。
到達目標	諸本の対校による本文批判の方法が身につく、説話と和歌との関係を理解できるようになること。
講義方法	第一回目の授業において『俊頼髓脳』についての概論を講義し、次回からは受講者の報告を中心に進める。
準備学習	演習発表が自分の順番でなくても、毎回テキストを熟読し、わからないことは簡単でよいので調べておくこと。
成績評価	日常の勉学態度(演習の内容、50パーセント)、年度末のレポート(40パーセント)、出席点(10パーセント)で評価する。
講義構成	1, 概説 2, 受講者による報告とそれに対する討議(以下、同じ) 3, 年度末には全体のまとめを行う。
教科書	『関西大学図書館蔵 俊秘抄』 和泉書院(和泉古典文庫10)、本体1800円 * 必ず授業前に購入しておくこと。 なお、『俊頼髓脳』の注釈は、小学館日本古典全集「歌論集」に入っている。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	和歌の授業ではなく説話を読むのが目的であるが、基本的な和歌や歌学の知識は必要である。 『新編国歌大観』、『和歌文学大系』、『私家集大成』、『日本歌学大系』などを用いるので、使い方をマスターしておくこと。

担当者から一言	古典文学の基礎的な研究方法を熟知していることが前提である。 また、印象批評ではなく、論理を押さえた討論が出来るように心がけてほしい。
---------	---

授業コード	W1F23
-------	-------

授業科目名	日本文学演習IIIb (後)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この演習は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをとおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした演習である。
到達目標	日本文学・日本文化について自らの視点で分析し得る力の、いっそうの習得を目指す。
講義方法	参加者各自の発表、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。適宜、講義もおこなう。また、重要な先行研究についての輪読もおこなう。さらに、関係故地への実地踏査も予定している。
準備学習	演習で発表し得る自らの視点を得るべく、『万葉集』の作品を精読しておくこと。
成績評価	各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。
講義構成	○『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品についての基本的な論文の輪読。 ○『万葉集』の作品を読む実例(廣川が発表する)。 ○参加者各自の担当箇所の発表、および、参加者間の討議。 ※資料の集め方、論文の書き方についても指導する。 ※関係故地への実地踏査もおこなう予定。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『万葉集』(おうふう)
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を少しでも多く得てもらいたいと思っている。受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	W1J11		
授業科目名	日本文学研究 Ia (前)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	金曜4限		

講義の内容	日本近代文学における、美術と文学の交流について考察する。文芸雑誌における図版の意味、文学作品に取り上げられた絵画・画家の意味について分析する
到達目標	研究史を踏まえて、新たな問題点を発見する能力をきたえる。 文学と美術というジャンルの異なる表現について、考察、分析する方法を身につける。
講義方法	講義形式を基本とするが、受講者の発表をもとめることもある。
準備学習	講義時に示した参考図書、関連情報に関心を持つこと。 次回の講義時に必要な準備作業をおこなうこと。
成績評価	レポート、出席等によって評価する。
講義構成	1 文学と美術の交流をめぐる研究の前提と諸問題 2 森鷗外と美術 小説『天龍』をめぐって 3 芥川龍之介『地獄変』
教科書	適宜、指示する。
参考書・資料	適宜指示する。

講義関連事項	特になし。
担当者から一言	受講者の専攻分野、関心によって、若干、講義構成を変更することがある。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	W1J12		
授業科目名	日本文学研究 Ia (前)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	今年度のテーマは「文学と歴史学」である。従来、古典文学研究には歴史学の知識が欠かせないとされてきたが、同じ資料を扱っても導き出される結果はまったく異なる場合が多い。その違いを理解し、よりよい文学研究の道を模索することを目指す。授業では、受講者各自が網野善彦(中世史学者)の本を一冊選び、その内容についてレポートしたうえで文学研究との関連を考察し発表する形式で進める。網野善彦について知らない人は予め調べ、氏の歴史学における位置を理解しておくこと。
到達目標	文学研究と他分野とのかかわりについて理解でき、実際の研究に応用できるようになること。
講義方法	毎回、順番に受講生の研究報告とそれに関する指導を中心とする。
準備学習	発表担当に当たってなくても、図書館等で当日扱われる本に目を通しておくことは最低必要である。
成績評価	日常の受講態度と研究成果の進展状況により判断する。修士一年次生には期末にレポートを課する。
講義構成	講義の内容・目的の項目を参照されたし。
教科書	受講者が自分の関心により網野氏の本を選んで購入しておくこと。誰かとバツティングしてもかまわない。
参考書・資料	適宜授業で紹介する。指示した参考文献は必読と心得るべし。
講義関連事項	資料調査や論文の探し方などの基礎的事項は、学部において学んでいるものと見なす。

担当者から一言	教員の専門は中世の散文であるが、そのほかの専攻者も受講も歓迎する。ただし、専攻によって指導に差が生じるわけではない。万一、報告に当たっていた日に急病などで欠席をするときは、早急に担当者に連絡すること。連絡方法は受講者のみに教える。 授業は田中貴子研究室にて行う。開始時間が変動する可能性があるので、研究室前のホワイトボードを適宜確認しておくこと。
その他	特になし。
ホームページタイトル	HPIはなし。

授業コード	W1J13		
授業科目名	日本文学研究 Ia (前)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	文学作品などに見られる外的現実と内的現実の混じり合ったような世界の意味について、作品に即して考えます。
到達目標	扱っている作品について自分の考えを論理化し、討議できるようになる。
講義方法	テーマは「文学作品と同一化」。まずはこのテーマについて明確にするための話をし、その後参加者が各自関心のある作家・作品について発表していきます。
準備学習	作品を精読し、意見をまとめる。
成績評価	出席、授業中のコメント等

講義構成	1.イントロダクション 2.各自の発表
教科書	講義時に指示

授業コード	W1J14		
授業科目名	日本文学研究 Ia (前)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	近代の作家を一人取り上げ、歴史的・文化的背景、文学的影響関係、作家の生涯などにも留意しながら、いくつかの作品を輪読する。授業のなかで出てきた疑問や課題について、調査し報告する。口頭発表もおこなう。
到達目標	幅広く文献を調査し、必要な情報を収集できること。作品を読み解く新たな視点を探求することができること。
講義方法	作品1輪読、受講者による発表と調査報告、論文の精読、などをおこないます。
準備学習	取り上げる作品を事前に読んでおく。授業で出てきた疑問や課題について調査研究する。口頭発表の準備をする。
成績評価	出席、講義への取り組み方によって、総合的に評価します。
講義構成	○作品輪読 ○調査報告 ○口頭発表
教科書	講義時に指示します。
参考書・資料	適宜紹介します。
講義関連事項	なし

担当者から一言	授業は教員研究室でおこないます。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	W1J15		
授業科目名	日本文学研究 Ia (前)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この講義は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをとおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした講義である。
到達目標	日本文学・日本文化について、分析し得る問題点を新たに見出すこと。
講義方法	『万葉集』の研究の蓄積における基本論文の輪読を行なう。また、適宜プリントも配布し、そのプリントに基づいて講義する。また、参加者の発表に基づいての討議もおこなう。
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。
成績評価	講義への取り組み方に拠って総合的に評価する。

講義構成	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を研究するうえでの基礎的事項の把握を目指す。そのために、現在までの研究の蓄積における基本論文の輪読などをおして知見を深めてゆくことにも留意したい。 また、確認した基礎的事項にもとづいて、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を実際に読んでゆく。その過程で、研究方法の実際を示したい。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『萬葉集』(おうふう)
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を得てもらいたいと思っている。

授業コード	W1J21		
授業科目名	日本文学研究 Ib (後)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	金曜4限		

講義の内容	日本近代文学における、美術と文学の交流について考察する。文芸雑誌における図版の意味、文学作品に取り上げられた絵画・画家の意味について分析する
到達目標	研究史を踏まえて、新たな問題点を発見する能力をきたえる。 文学と美術というジャンルの異なる表現について、考察、分析する方法を身につける。
講義方法	講義形式を基本とするが、受講者の発表をもとめることもある。
準備学習	講義時に示した参考図書、関連情報に関心を持つこと。 次回の講義時に必要な準備作業をおこなうこと。
成績評価	レポート、出席等によって評価する。
講義構成	1 雑誌『ホトギス』と美術 2 夏目漱石『三四郎』 3 第二次『明星』と文化のネットワーク
教科書	適宜、指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。

担当者から一言	受講者の専攻分野、関心によって、若干、講義構成を変更することがある。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	W1J22		
授業科目名	日本文学研究 Ib (後)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	今年度のテーマは「文学と歴史学」である。従来、古典文学研究には歴史学の知識が欠かせないとされてきたが、同じ資料を扱っても導き出される結果はまったく異なる場合が多い。その違いを理解し、よりよい文学研究の道を模索することを目指す。授業では、受講者各自が網野善彦(中世史学者)の本を一冊選び、その内容に
-------	--

	ついてレポートしたうえで文学研究との関連を考察し発表する形式で進める。網野善彦について知らない人は予め調べ、氏の歴史学における位置を理解しておくこと。
到達目標	文学研究と他分野とのかかわりについて理解でき、実際の研究に応用できるようになること。
講義方法	毎回、順番に受講生の研究報告とそれに関する指導を中心とする。
準備学習	発表担当に当たってなくても、図書館等で当日扱われる本に目を通しておくことは最低必要である。
成績評価	日常の受講態度と研究成果の進展状況により判断する。修士一年次生には期末にレポートを課する。
講義構成	講義の内容・目的の項目を参照されたい。
教科書	受講者が自分の関心により網野氏の本を選んで購入しておくこと。誰かとバツティングしてもかまわない。
参考書・資料	適宜授業で紹介する。指示した参考文献は必読と心得るべし。
講義関連事項	資料調査や論文の探し方などの基礎的事項は、学部において学んでいるものと見なす。

担当者から一言	教員の専門は中世の散文であるが、そのほかの専攻者も受講も歓迎する。ただし、専攻によって指導に差が生じるわけではない。万一、報告に当たっていた日に急病などで欠席をするときは、早急に担当者に連絡すること。連絡方法は受講者のみに教える。 授業は田中貴子研究室にて行う。開始時間が変動する可能性があるので、研究室前のホワイトボードを適宜確認しておくこと。
その他	特になし。
ホームページタイトル	HPIはなし。

授業コード	W1J23		
授業科目名	日本文学研究 Ib (後)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	文学作品などに見られる外的現実と内的現実の混じり合ったような世界の意味について、作品に即して考えます。
到達目標	扱っている作品について自分の考えを論理化し、討議できるようになる。
講義方法	テーマは「文学作品と同一化」。まずはこのテーマについて明確にするための話をし、その後参加者が各自関心のある作家・作品について発表していきます。
準備学習	作品を精読し、意見をまとめる。
成績評価	出席、授業中のコメント等
講義構成	1.イントロダクション 2.各自の発表
教科書	講義時に指示

授業コード	W1J24		
授業科目名	日本文学研究 Ib (後)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	近代の作家を一人取り上げ、歴史的・文化的背景、文学的影響関係、作家の生涯などにも留意しながら、いくつかの作品を輪読する。授業のなかで出てきた疑問や課題について、調査し報告する。口頭発表もおこなう。
-------	--

到達目標	幅広く文献を調査し、必要な情報を収集できること。作品を読み解く新たな視点を探求することができること。
講義方法	作品輪読、受講者による発表と調査報告、論文の精読、などをおこないます。
準備学習	取り上げる作品を事前に読んでおく。授業で出てきた疑問や課題について調査研究する。口頭発表の準備をする。
成績評価	出席、講義への取り組み方によって、総合的に評価します。
講義構成	○作品輪読 ○調査報告 ○口頭発表
教科書	講義時に指示します。
参考書・資料	適宜紹介します。
講義関連事項	なし

担当者から一言	授業は教員研究室でおこないます。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	W1J25		
授業科目名	日本文学研究 Ib (後)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この講義は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした講義である。
到達目標	日本文学・日本文化について、分析し得る問題点を新たに見出すこと。
講義方法	『万葉集』の研究の蓄積における基本論文の輪読を行なう。また、適宜プリントも配布し、そのプリントに基づいて講義する。また、参加者の発表に基づいての討議もおこなう。
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。
成績評価	講義への取り組み方に拠って総合的に評価する。
講義構成	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を研究するうえでの基礎的事項の把握を目指す。そのために、現在までの研究の蓄積における基本論文の輪読などをおして知見を深めてゆくことにも留意したい。 また、確認した基礎的事項にもとづいて、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を実際に読んでゆく。その過程で、研究方法の体得を目指す。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『万葉集』(おうふう)
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を得てもらいたいと思っている。

授業コード	W1J31		
授業科目名	日本文学研究 IIa (前)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	金曜4限		

講義の内容	日本近代文学における、美術と文学の交流について考察する。文芸雑誌における図版の意味、文学作品に取り
-------	---

	上げられた絵画・画家の意味について分析する
到達目標	研究史を踏まえて、新たな問題点を発見する能力をきたえる。 文学と美術というジャンルの異なる表現について、考察、分析する方法を身につける。
講義方法	講義形式を基本とするが、受講者の発表をもとめることもある。
準備学習	講義時に示した参考図書、関連情報に関心を持つこと。 次回の講義時に必要な準備作業をおこなうこと。
成績評価	レポート、出席等によって評価する。
講義構成	1 文学と美術の交流をめぐる研究の前提と諸問題 2 森鷗外と美術 小説『天龍』をめぐる 3 芥川龍之介『地獄変』
教科書	適宜、指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。

担当者から一言	受講者の専攻分野、関心によって、若干、講義構成を変更することがある。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	W1J32		
授業科目名	日本文学研究 IIa (前)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	今年度のテーマは「文学と歴史学」である。従来、古典文学研究には歴史学の知識が欠かせないとされてきたが、同じ資料を扱っても導き出される結果はまったく異なる場合が多い。その違いを理解し、よりよい文学研究の道を模索することを目指す。授業では、受講者各自が網野善彦(中世史学者)の本を一冊選び、その内容についてレポートしたうえで文学研究との関連を考察し発表する形式で進める。網野善彦について知らない人は予め調べ、氏の歴史学における位置を理解しておくこと。
到達目標	文学研究と他分野とのかかわりについて理解でき、実際の研究に応用できるようになること。
講義方法	毎回、順番に受講生の研究報告とそれに関する指導を中心とする。
準備学習	発表担当に当たっていても、図書館等で当日扱われる本に目を通しておくことは最低必要である。
成績評価	日常の受講態度と研究成果の進展状況により判断する。修士一年次生には期末にレポートを課する。
講義構成	講義の内容・目的の項目を参照されたい。
教科書	受講者が自分の関心により網野氏の本を選んで購入しておくこと。誰かとバツティングしてもかまわない。
参考書・資料	適宜授業で紹介する。指示した参考文献は必読と心得るべし。
講義関連事項	資料調査や論文の探し方などの基礎的事項は、学部において学んでいるものと見なす。

担当者から一言	教員の専門は中世の散文であるが、そのほかの専攻者も受講も歓迎する。ただし、専攻によって指導に差が生じるわけではない。万一、報告に当たっていた日に急病などで欠席をするときは、早急に担当者に連絡すること。連絡方法は受講者のみに教える。 授業は田中貴子研究室にて行う。開始時間が変動する可能性があるので、研究室前のホワイトボードを適宜確認しておくこと。
その他	特になし。
ホームページタイトル	HPIはなし。

授業コード	W1J33		
授業科目名	日本文学研究 IIa (前)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	講義終了後		

講義の内容	文学作品などに見られる外的現実と内的現実の混じり合ったような世界の意味について、作品に即して考えます。		
到達目標	扱っている作品について自分の考えを論理化し、討議できるようになる。		
講義方法	テーマは「文学作品と同一化」。まずはこのテーマについて明確にするための話をし、その後参加者が各自関心のある作家・作品について発表していきます。		
準備学習	作品を精読し、意見をまとめる。		
成績評価	出席、授業中のコメント等		
講義構成	1.イントロダクション 2.各自の発表		
教科書	講義時に指示		

授業コード	W1J34		
授業科目名	日本文学研究 IIa (前)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	近代の作家を一人取り上げ、歴史的・文化的背景、文学的影響関係、作家の生涯などにも留意しながら、いくつかの作品を輪読する。授業のなかで出てきた疑問や課題について、調査し報告する。口頭発表もおこなう。		
到達目標	幅広く文献を調査し、必要な情報を収集できること。作品を読み解く新たな視点を探求することができること。		
講義方法	作品輪読、受講者による発表と調査報告、論文の精読、などをおこないます。		
準備学習	取り上げる作品を事前に読んでおく。授業で出てきた疑問や課題について調査研究する。口頭発表の準備をする。		
成績評価	出席、講義への取り組み方によって、総合的に評価します。		
講義構成	○作品輪読 ○調査報告 ○口頭発表		
教科書	講義時に指示します。		
参考書・資料	適宜紹介します。		
講義関連事項	なし		

担当者から一言	授業は教員研究室でおこないます。		
その他	なし		
ホームページタイトル	なし		

授業コード	W1J35		
授業科目名	日本文学研究 IIa (前)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この講義は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした講義である。
到達目標	日本文学・日本文化について、分析し得る問題点を新たに見出すこと。
講義方法	『万葉集』の研究の蓄積における基本論文の輪読を行なう。また、適宜プリントも配布し、そのプリントに基づいて講義する。また、参加者の発表に基づいての討議もおこなう。
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。
成績評価	講義への取り組み方に拠って総合的に評価する。
講義構成	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を研究するうえでの基礎的事項の把握を目指す。そのために、現在までの研究の蓄積における基本論文の輪読などをおして知見を深めてゆくことにも留意したい。 また、確認した基礎的事項にもとづいて、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を実際に読んでゆく。その過程で、研究方法の実際を示したい。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『萬葉集』(おうふう)
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。

担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を少しでも多く得てもらいたいと思っている。 受身ではない積極的な参加を望む。
---------	--

授業コード	W1J41		
授業科目名	日本文学研究 IIb (後)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	金曜4限		

講義の内容	日本近代文学における、美術と文学の交流について考察する。文芸雑誌における図版の意味、文学作品に取り上げられた絵画・画家の意味について分析する
到達目標	研究史を踏まえて、新たな問題点を発見する能力をきたえる。 文学と美術というジャンルの異なる表現について、考察、分析する方法を身につける。
講義方法	講義形式を基本とするが、受講者の発表をもとめることもある。
準備学習	講義時に示した参考図書、関連情報に関心を持つこと。 次回の講義時に必要な準備作業をおこなうこと。
成績評価	レポート、出席等によって評価する。
講義構成	1 雑誌『ホトギス』と美術 2 夏目漱石『三四郎』 3 第二次『明星』と文化のネットワーク
教科書	適宜、指示する。
参考書・資料	適宜指示する。

講義関連事項	特になし。
担当者から一言	受講者の専攻分野、関心によって、若干、講義構成を変更することがある。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	W1J42		
授業科目名	日本文学研究 IIb (後)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	今年度のテーマは「文学と歴史学」である。従来、古典文学研究には歴史学の知識が欠かせないとされてきたが、同じ資料を扱っても導き出される結果はまったく異なる場合が多い。その違いを理解し、よりよい文学研究の道を模索することを目指す。授業では、受講者各自が網野善彦(中世史学者)の本を一冊選び、その内容についてレポートしたうえで文学研究との関連を考察し発表する形式で進める。網野善彦について知らない人は予め調べ、氏の歴史学における位置を理解しておくこと。
到達目標	文学研究と他分野とのかかわりについて理解でき、実際の研究に応用できるようになること。
講義方法	毎回、順番に受講生の研究報告とそれに関する指導を中心とする。
準備学習	発表担当に当たってなくても、図書館等で当日扱われる本に目を通しておくことは最低必要である。
成績評価	日常の受講態度と研究成果の進展状況により判断する。修士一年次生には期末にレポートを課する。
講義構成	講義の内容・目的の項目を参照されたし。
教科書	受講者が自分の関心により網野氏の本を選んで購入しておくこと。誰かとバツティングしてもかまわない。
参考書・資料	適宜授業で紹介する。指示した参考文献は必読と心得るべし。
講義関連事項	資料調査や論文の探し方などの基礎的事項は、学部において学んでいるものと見なす。

担当者から一言	教員の専門は中世の散文であるが、そのほかの専攻者も受講も歓迎する。ただし、専攻によって指導に差が生じるわけではない。万一、報告に当たっていた日に急病などで欠席をするときは、早急に担当者に連絡すること。連絡方法は受講者のみに教える。 授業は田中貴子研究室にて行う。開始時間が変動する可能性があるので、研究室前のホワイトボードを適宜確認しておくこと。
その他	特になし。
ホームページタイトル	HPIはなし。

授業コード	W1J43		
授業科目名	日本文学研究 IIb (後)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	文学作品などに見られる外的現実と内的現実の混じり合ったような世界の意味について、作品に即して考えます。
到達目標	扱っている作品について自分の考えを論理化し、討議できるようになる。
講義方法	テーマは「文学作品と同一化」。まずはこのテーマについて明確にするための話をし、その後参加者が各自関心のある作家・作品について発表していきます。
準備学習	作品を精読し、意見をまとめる。
成績評価	出席、授業中のコメント等

講義構成	1.イントロダクション 2.各自の発表
教科書	講義時に指示

授業コード	W1J44		
授業科目名	日本文学研究 IIb (後)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	近代の作家を一人取り上げ、歴史的・文化的背景、文学的影響関係、作家の生涯などにも留意しながら、いくつかの作品を輪読する。授業のなかで出てきた疑問や課題について、調査し報告する。口頭発表もおこなう。		
到達目標	幅広く文献を調査し、必要な情報を収集できること。作品を読み解く新たな視点を探求することができること。		
講義方法	作品輪読、受講者による発表と調査報告、論文の精読、などをおこないます。		
準備学習	取り上げる作品を事前に読んでおく。授業で出てきた疑問や課題について調査研究する。口頭発表の準備をする。		
成績評価	出席、講義への取り組み方によって、総合的に評価します。		
講義構成	○作品輪読 ○調査報告 ○口頭発表		
教科書	講義時に指示します。		
参考書・資料	適宜紹介します。		
講義関連事項	なし		

担当者から一言	授業は教員研究室でおこないます。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	W1J45		
授業科目名	日本文学研究 IIb (後)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この講義は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをとおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした講義である。		
到達目標	日本文学・日本文化について、分析し得る問題点を新たに見出すこと。		
講義方法	『万葉集』の研究の蓄積における基本論文の輪読を行なう。また、適宜プリントも配布し、そのプリントに基づいて講義する。また、参加者の発表に基づいての討議もおこなう。		
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。		
成績評価	講義への取り組み方に拠って総合的に評価する。		

講義構成	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を研究するうえでの基礎的事項の把握を目指す。そのために、現在までの研究の蓄積における基本論文の輪読などをおして知見を深めてゆくことにも留意したい。 また、確認した基礎的事項にもとづいて、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を実際に読んでゆく。その過程で、研究方法の体得を目指す。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『万葉集』(おうふう)
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を少しでも多く得てもらいたいと思っている。 受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	W1J51		
授業科目名	日本文学研究 IIIa (前)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	金曜4限		

講義の内容	日本近代文学における、美術と文学の交流について考察する。文芸雑誌における図版の意味、文学作品に取り上げられた絵画・画家の意味について分析する
到達目標	研究史を踏まえて、新たな問題点を発見する能力をきたえる。 文学と美術というジャンルの異なる表現について、考察、分析する方法を身につける。
講義方法	講義形式を基本とするが、受講者の発表をもとめることもある。
準備学習	講義時に示した参考図書、関連情報に関心を持つこと。 次回の講義時に必要な準備作業をおこなうこと。
成績評価	レポート、出席等によって評価する。
講義構成	1 文学と美術の交流をめぐる研究の前提と諸問題 2 森鷗外と美術 小説『天寵』をめぐって 3 芥川龍之介『地獄変』
教科書	適宜、指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。

担当者から一言	受講者の専攻分野、関心によって、若干、講義構成を変更することがある。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	W1J52		
授業科目名	日本文学研究 IIIa (前)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	今年度のテーマは「文学と歴史学」である。従来、古典文学研究には歴史学の知識が欠かせないとされてきたが、同じ資料を扱っても導き出される結果はまったく異なる場合が多い。その違いを理解し、よりよい文学研究の
-------	--

	道を模索することを目標とする。授業では、受講者各自が網野善彦（中世史学者）の本を一冊選び、その内容についてレポートしたうえで文学研究との関連を考察し発表する形式で進める。網野善彦について知らない人は予め調べ、氏の歴史学における位置を理解しておくこと。
到達目標	文学研究と他分野とのかかわりについて理解でき、実際の研究に応用できるようになること。
講義方法	毎回、順番に受講生の研究報告とそれに関する指導を中心とする。
準備学習	発表担当に当たっていなくても、図書館等で当日扱われる本に目を通しておくことは最低必要である。
成績評価	日常の受講態度と研究成果の進展状況により判断する。修士一年次生には期末にレポートを課する。
講義構成	講義の内容・目的の項目を参照されたい。
教科書	受講者が自分の関心により網野氏の本を選んで購入しておくこと。誰かとバツティングしてもかまわない。
参考書・資料	適宜授業で紹介する。指示した参考文献は必読と心得るべし。
講義関連事項	資料調査や論文の探し方などの基礎的事項は、学部において学んでいるものと見なす。
担当者から一言	教員の専門は中世の散文であるが、そのほかの専攻者も受講も歓迎する。ただし、専攻によって指導に差が生じるわけではない。万一、報告に当たっていた日に急病などで欠席をするときは、早急に担当者に連絡すること。連絡方法は受講者のみに教える。 授業は田中貴子研究室にて行う。開始時間が変動する可能性があるので、研究室前のホワイトボードを適宜確認しておくこと。
その他	特になし。
ホームページタイトル	HPIはなし。

授業コード	W1J53		
授業科目名	日本文学研究 IIIa（前）		
担当者名	田中雅史（タナカ マサシ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	文学作品などに見られる外的現実と内的現実の混じり合ったような世界の意味について、作品に即して考えます。
到達目標	扱っている作品について自分の考えを論理化し、討議できるようになる。
講義方法	テーマは「文学作品と同一化」。まずはこのテーマについて明確にするための話をし、その後参加者が各自関心のある作家・作品について発表していきます。
準備学習	作品を精読し、意見をまとめる。
成績評価	出席、授業中のコメント等
講義構成	1.イントロダクション 2.各自の発表
教科書	講義時に指示

授業コード	W1J54		
授業科目名	日本文学研究 IIIa（前）		
担当者名	塚本章子（ツカモト アキコ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	近代の作家を一人取り上げ、歴史的・文化的背景、文学的影響関係、作家の生涯などにも留意しながら、いくつかの作品を輪読する。授業のなかで出てきた疑問や課題について、調査し報告する。口頭発表もおこなう。
-------	--

到達目標	幅広く文献を調査し、必要な情報を収集できること。作品を読み解く新たな視点を探求することができること。
講義方法	作品輪読、受講者による発表と調査報告、論文の精読、などをおこないます。
準備学習	取り上げる作品を事前に読んでおく。授業で出てきた疑問や課題について調査研究する。口頭発表の準備をする。
成績評価	出席、講義への取り組み方によって、総合的に評価します。
講義構成	○作品輪読 ○調査報告 ○口頭発表
教科書	講義時に指示します。
参考書・資料	適宜紹介します。
講義関連事項	なし

担当者から一言	授業は教員研究室でおこないます。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	W1J55		
授業科目名	日本文学研究 IIIa (前)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この講義は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをとおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした講義である。
到達目標	日本文学・日本文化について、分析し得る問題点を新たに見出すこと。
講義方法	『万葉集』の研究の蓄積における基本論文の輪読を行なう。また、適宜プリントも配布し、そのプリントに基づいて講義する。また、参加者の発表に基づいての討議もおこなう。
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。
成績評価	講義への取り組み方に拠って総合的に評価する。
講義構成	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を研究するうえでの基礎的事項の把握を目指す。そのために、現在までの研究の蓄積における基本論文の輪読などをおして知見を深めてゆくことにも留意したい。 また、確認した基礎的事項にもとづいて、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を実際に読んでゆく。その過程で、研究方法の実際を示したい。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『萬葉集』(おうふう)
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を少しでも多く得てもらいたいと思っている。 受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	W1J61		
授業科目名	日本文学研究 IIIb (後)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

オフィスアワー	金曜4限
講義の内容	日本近代文学における、美術と文学の交流について考察する。文芸雑誌における図版の意味、文学作品に取り上げられた絵画・画家の意味について分析する
到達目標	研究史を踏まえて、新たな問題点を発見する能力をきたえる。 文学と美術というジャンルの異なる表現について、考察、分析する方法を身につける。
講義方法	講義形式を基本とするが、受講者の発表をもとめることもある。
準備学習	講義時に示した参考図書、関連情報に関心を持つこと。 次回の講義時に必要な準備作業をおこなうこと。
成績評価	レポート、出席等によって評価する。
講義構成	1 雑誌『ホトギス』と美術 2 夏目漱石『三四郎』 3 第二次『明星』と文化のネットワーク
教科書	適宜、指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。
担当者から一言	受講者の専攻分野、関心によって、若干、講義構成を変更することがある。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	W1J62		
授業科目名	日本文学研究 IIIb (後)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	今年度のテーマは「文学と歴史学」である。従来、古典文学研究には歴史学の知識が欠かせないとされてきたが、同じ資料を扱っても導き出される結果はまったく異なる場合が多い。その違いを理解し、よりよい文学研究の道を模索することを目指す。授業では、受講者各自が網野善彦(中世史学者)の本を一冊選び、その内容についてレポートしたうえで文学研究との関連を考察し発表する形式で進める。網野善彦について知らない人は予め調べ、氏の歴史学における位置を理解しておくこと。
到達目標	文学研究と他分野とのかかわりについて理解でき、実際の研究に応用できるようになること。
講義方法	毎回、順番に受講生の研究報告とそれに関する指導を中心とする。
準備学習	発表担当に当たってなくても、図書館等で当日扱われる本に目を通しておくことは最低必要である。
成績評価	日常の受講態度と研究成果の進展状況により判断する。修士一年次生には期末にレポートを課する。
講義構成	講義の内容・目的の項目を参照されたい。
教科書	受講者が自分の関心により網野氏の本を選んで購入しておくこと。誰かとバツティングしてもかまわない。
参考書・資料	適宜授業で紹介する。指示した参考文献は必読と心得るべし。
講義関連事項	資料調査や論文の探し方などの基礎的事項は、学部において学んでいるものと見なす。

担当者から一言	教員の専門は中世の散文であるが、そのほかの専攻者も受講も歓迎する。ただし、専攻によって指導に差が生じるわけではない。万一、報告に当たっていた日に急病などで欠席をするときは、早急に担当者に連絡すること。連絡方法は受講者のみに教える。 授業は田中貴子研究室にて行う。開始時間が変動する可能性があるため、研究室前のホワイトボードを適宜確認しておくこと。
---------	--

その他	特になし。
ホームページタイトル	HPIはなし。

授業コード	W1J63		
授業科目名	日本文学研究 IIIb (後)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	文学作品などに見られる外的現実と内的現実の混じり合ったような世界の意味について、作品に即して考えます。
到達目標	扱っている作品について自分の考えを論理化し、討議できるようになる。
講義方法	テーマは「文学作品と同一化」。まずはこのテーマについて明確にするための話をし、その後参加者が各自関心のある作家・作品について発表していきます。
準備学習	作品を精読し、意見をまとめる。
成績評価	出席、授業中のコメント等
講義構成	1.イントロダクション 2.各自の発表
教科書	講義時に指示

授業コード	W1J64		
授業科目名	日本文学研究 IIIb (後)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	近代の作家を一人取り上げ、歴史的・文化的背景、文学的影響関係、作家の生涯などにも留意しながら、いくつかの作品を輪読する。授業のなかで出てきた疑問や課題について、調査し報告する。口頭発表もおこなう。
到達目標	幅広く文献を調査し、必要な情報を収集できること。作品を読み解く新たな視点を探求することができること。
講義方法	作品輪読、受講者による発表と調査報告、論文の精読、などをおこないます。
準備学習	取り上げる作品を事前に読んでおく。授業で出てきた疑問や課題について調査研究する。口頭発表の準備をする。
成績評価	出席、講義への取り組み方によって、総合的に評価します。
講義構成	○作品輪読 ○調査報告 ○口頭発表
教科書	講義時に指示します。
参考書・資料	適宜紹介します。
講義関連事項	なし

担当者から一言	授業は教員研究室でおこないます。
その他	なし

ホームページタイトル	なし
------------	----

授業コード	W1J65		
授業科目名	日本文学研究 IIIb (後)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この講義は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをとおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした講義である。
到達目標	日本文学・日本文化について、分析し得る問題点を新たに見出すこと。
講義方法	『万葉集』の研究の蓄積における基本論文の輪読を行なう。また、適宜プリントも配布し、そのプリントに基づいて講義する。また、参加者の発表に基づいての討議もおこなう。
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。
成績評価	講義への取り組み方に拠って総合的に評価する。
講義構成	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を研究するうえでの基礎的事項の把握を目指す。そのために、現在までの研究の蓄積における基本論文の輪読などをおして知見を深めてゆくことにも留意したい。 また、確認した基礎的事項にもとづいて、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を実際に読んでゆく。その過程で、研究方法の体得を目指す。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『万葉集』(おうふう)
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を少しでも多く得てもらいたいと思っている。 受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	W1J71		
授業科目名	日本文学研究 IVa (前)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	金曜4限		

講義の内容	日本近代文学における、美術と文学の交流について考察する。文芸雑誌における図版の意味、文学作品に取り上げられた絵画・画家の意味について分析する
到達目標	研究史を踏まえて、新たな問題点を発見する能力をきたえる。 文学と美術というジャンルの異なる表現について、考察、分析する方法を身につける。
講義方法	講義形式を基本とするが、受講者の発表をもとめることもある。
準備学習	講義時に示した参考図書、関連情報に関心を持つこと。 次回の講義時に必要な準備作業をおこなうこと。
成績評価	レポート、出席等によって評価する。
講義構成	1 文学と美術の交流をめぐる研究の前提と諸問題 2 森鷗外と美術 小説『天龍』をめぐる 3 芥川龍之介『地獄変』
教科書	適宜、指示する。

参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。
担当者から一言	受講者の専攻分野、関心によって、若干、講義構成を変更することがある。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	W1J72		
授業科目名	日本文学研究 IVa (前)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	今年度のテーマは「文学と歴史学」である。従来、古典文学研究には歴史学の知識が欠かせないとされてきたが、同じ資料を扱っても導き出される結果はまったく異なる場合が多い。その違いを理解し、よりよい文学研究の道を模索することを目指す。授業では、受講者各自が網野善彦(中世史学者)の本を一冊選び、その内容についてレポートしたうえで文学研究との関連を考察し発表する形式で進める。網野善彦について知らない人は予め調べ、氏の歴史学における位置を理解しておくこと。
到達目標	文学研究と他分野とのかかわりについて理解でき、実際の研究に応用できるようになること。
講義方法	毎回、順番に受講生の研究報告とそれに関する指導を中心とする。
準備学習	発表担当に当たってなくても、図書館等で当日扱われる本に目を通しておくことは最低必要である。
成績評価	日常の受講態度と研究成果の進展状況により判断する。修士一年次生には期末にレポートを課する。
講義構成	講義の内容・目的の項目を参照されたし。
教科書	受講者が自分の関心により網野氏の本を選んで購入しておくこと。誰かとバツティングしてもかまわない。
参考書・資料	適宜授業で紹介する。指示した参考文献は必読と心得るべし。
講義関連事項	資料調査や論文の探し方などの基礎的事項は、学部において学んでいるものと見なす。

担当者から一言	教員の専門は中世の散文であるが、そのほかの専攻者も受講も歓迎する。ただし、専攻によって指導に差が生じるわけではない。万一、報告に当たっていた日に急病などで欠席をするときは、早急に担当者に連絡すること。連絡方法は受講者のみに教える。 授業は田中貴子研究室にて行う。開始時間が変動する可能性があるので、研究室前のホワイトボードを適宜確認しておくこと。
その他	特になし。
ホームページタイトル	HPIはなし。

授業コード	W1J73		
授業科目名	日本文学研究 IVa (前)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	文学作品などに見られる外的現実と内的現実の混じり合ったような世界の意味について、作品に即して考えます。
到達目標	扱っている作品について自分の考えを論理化し、討議できるようになる。
講義方法	テーマは「文学作品と同一化」。まずはこのテーマについて明確にするための話をし、その後参加者が各自関心のある作家・作品について発表していきます。
準備学習	作品を精読し、意見をまとめる。

成績評価	出席、授業中のコメント等
講義構成	1.イントロダクション 2.各自の発表
教科書	講義時に指示

授業コード	W1J74		
授業科目名	日本文学研究 IVa (前)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	近代の作家を一人取り上げ、歴史的・文化的背景、文学的影響関係、作家の生涯などにも留意しながら、いくつかの作品を輪読する。授業のなかで出てきた疑問や課題について、調査し報告する。口頭発表もおこなう。		
到達目標	幅広く文献を調査し、必要な情報を収集できること。作品を読み解く新たな視点を探求することができること。		
講義方法	作品輪読、受講者による発表と調査報告、論文の精読、などをおこないます。		
準備学習	取り上げる作品を事前に読んでおく。授業で出てきた疑問や課題について調査研究する。口頭発表の準備をする。		
成績評価	出席、講義への取り組み方によって、総合的に評価します。		
講義構成	○作品輪読 ○調査報告 ○口頭発表		
教科書	講義時に指示します。		
参考書・資料	適宜紹介します。		
講義関連事項	なし		

担当者から一言	授業は教員研究室でおこないます。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	W1J75		
授業科目名	日本文学研究 IVa (前)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この講義は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをとおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした講義である。		
到達目標	日本文学・日本文化について、分析し得る問題点を新たに見出すこと。		
講義方法	『万葉集』の研究の蓄積における基本論文の輪読を行なう。また、適宜プリントも配布し、そのプリントに基づいて講義する。また、参加者の発表に基づいての討議もおこなう。		
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。		

成績評価	講義への取り組み方に拠って総合的に評価する。
講義構成	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を研究するうえでの基礎的事項の把握を目指す。そのために、現在までの研究の蓄積における基本論文の輪読などをおして知見を深めてゆくことにも留意したい。 また、確認した基礎的事項にもとづいて、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を実際に読んでゆく。その過程で、研究方法の実際を示したい。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『万葉集』(おうふう)
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を少しでも多く得てもらいたいと思っている。 受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	W1J81		
授業科目名	日本文学研究 IVb (後)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	金曜4限		

講義の内容	日本近代文学における、美術と文学の交流について考察する。文芸雑誌における図版の意味、文学作品に取り上げられた絵画・画家の意味について分析する
到達目標	研究史を踏まえて、新たな問題点を発見する能力をきたえる。 文学と美術というジャンルの異なる表現について、考察、分析する方法を身につける。
講義方法	講義形式を基本とするが、受講者の発表をもとめることもある。
準備学習	講義時に示した参考図書、関連情報に関心を持つこと。 次回の講義時に必要な準備作業をおこなうこと。
成績評価	レポート、出席等によって評価する。
講義構成	1 雑誌『ホトギス』と美術 2 夏目漱石『三四郎』 3 第二次『明星』と文化のネットワーク
教科書	適宜、指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。

担当者から一言	受講者の専攻分野、関心によって、若干、講義構成を変更することがある。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	W1J82		
授業科目名	日本文学研究 IVb (後)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	今年度のテーマは「文学と歴史学」である。従来、古典文学研究には歴史学の知識が欠かせないとされてきた
-------	---

	が、同じ資料を扱っても導き出される結果はまったく異なる場合が多い。その違いを理解し、よりよい文学研究の道を模索することを目指す。授業では、受講者各自が網野善彦（中世史学者）の本を一冊選び、その内容についてレポートしたうえで文学研究との関連を考察し発表する形式で進める。網野善彦について知らない人は予め調べ、氏の歴史学における位置を理解しておくこと。
到達目標	文学研究と他分野とのかかわりについて理解でき、実際の研究に応用できるようになること。
講義方法	毎回、順番に受講生の研究報告とそれに関する指導を中心とする。
準備学習	発表担当に当たっていなくても、図書館等で当日扱われる本に目を通しておくことは最低必要である。
成績評価	日常の受講態度と研究成果の進展状況により判断する。修士一年次生には期末にレポートを課する。
講義構成	講義の内容・目的の項目を参照されたい。
教科書	受講者が自分の関心により網野氏の本を選んで購入しておくこと。誰かとバッチングしてもかまわない。
参考書・資料	適宜授業で紹介する。指示した参考文献は必読と心得るべし。
講義関連事項	資料調査や論文の探し方などの基礎的事項は、学部において学んでいるものと見なす。

担当者から一言	教員の専門は中世の散文であるが、そのほかの専攻者も受講も歓迎する。ただし、専攻によって指導に差が生じるわけではない。万一、報告に当たっていた日に急病などで欠席をするときは、早急に担当者に連絡すること。連絡方法は受講者のみに教える。 授業は田中貴子研究室にて行う。開始時間が変動する可能性があるので、研究室前のホワイトボードを適宜確認しておくこと。
その他	特になし。
ホームページタイトル	HPIはなし。

授業コード	W1J83		
授業科目名	日本文学研究 IVb（後）		
担当者名	田中雅史（タナカ マサシ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	文学作品などに見られる外的現実と内的現実の混じり合ったような世界の意味について、作品に即して考えます。
到達目標	扱っている作品について自分の考えを論理化し、討議できるようになる。
講義方法	テーマは「文学作品と同一化」。まずはこのテーマについて明確にするための話をし、その後参加者が各自関心のある作家・作品について発表していきます。
準備学習	作品を精読し、意見をまとめる。
成績評価	出席、授業中のコメント等
講義構成	1.イントロダクション 2.各自の発表
教科書	講義時に指示

授業コード	W1J84		
授業科目名	日本文学研究 IVb（後）		
担当者名	塚本章子（ツカモト アキコ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	近代の作家を一人取り上げ、歴史的・文化的背景、文学的影響関係、作家の生涯などにも留意しながら、いくつかの作品を輪読する。授業のなかで出てきた疑問や課題について、調査し報告する。口頭発表もおこなう。
-------	--

到達目標	幅広く文献を調査し、必要な情報を収集できること。作品を読み解く新たな視点を探求することができること。
講義方法	作品輪読、受講者による発表と調査報告、論文の精読、などをおこないます。
準備学習	取り上げる作品を事前に読んでおく。授業で出てきた疑問や課題について調査研究する。口頭発表の準備をする。
成績評価	出席、講義への取り組み方によって、総合的に評価します。
講義構成	○作品輪読 ○調査報告 ○口頭発表
教科書	講義時に指示します。
参考書・資料	適宜紹介します。
講義関連事項	なし

担当者から一言	授業は教員研究室でおこないます。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	W1J85		
授業科目名	日本文学研究 IVb (後)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	この講義は、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を読解することをおして日本文学・日本文化への理解を深めることを目的とした講義である。
到達目標	日本文学・日本文化について、分析し得る問題点を新たに見出すこと。
講義方法	『万葉集』の研究の蓄積における基本論文の輪読を行なう。また、適宜プリントも配布し、そのプリントに基づいて講義する。また、参加者の発表に基づいての討議もおこなう。
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。
成績評価	講義への取り組み方に拠って総合的に評価する。
講義構成	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を研究するうえでの基礎的事項の把握を目指す。そのために、現在までの研究の蓄積における基本論文の輪読などをおして知見を深めてゆくことにも留意したい。 また、確認した基礎的事項にもとづいて、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品を実際に読んでゆく。その過程で、研究方法の体得を目指す。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『万葉集』(おうふう)
参考書・資料	進行に合わせて、適宜紹介する。

担当者から一言	自らの研究を論理的に進めることの「ヒント」を少しでも多く得てもらいたいと思っている。 受身ではない積極的な参加を望む。
---------	--

授業コード	W1019		
授業科目名	日本文学特殊講義 Ia (前)		
担当者名	上田 博(ウエダ ヒロシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	森鷗外の文芸 鑑賞と研究 森鷗外の小説、詩歌などを鑑賞する
到達目標	近代文学史上の巨人に「従学」すること
講義方法	受講する人、担当する者（上田）、同列で、作品を輪講する形ですすめる。
準備学習	森鷗外の作品を繰り返し読むこと
成績評価	発表の内容、毎時の授業への参加のようすなどを総合して評価する。
講義構成	「半日」 「鶏」 「独身」 「カズイシチカ」 「吃逆」 「藤棚」 「二人の友」 初回時に、各自の担当箇所を相談して決める。 毎時、発表者が、担当箇所についての発表を行なう。 受講生全員によって、発表について検討する。
教科書	受講する人と相談して決めます。
参考書・資料	その都度、適当なものを紹介します。
担当者から一言	自分自身の人間経験として作品に向き合ってくださいよう希望します。

授業コード	W1020		
授業科目名	日本文学特殊講義 Ib（後）		
担当者名	上田 博(ウエダ ヒロシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	森鷗外の文芸 鑑賞と研究 森鷗外の小説、詩歌などを鑑賞する
到達目標	近代文学史上の巨人に従学すること。
講義方法	受講する人、担当する者（上田）同列で、作品を輪講する形ですすめる。
準備学習	森鷗外の作品を繰り返し読むこと。
成績評価	発表の内容、毎時の授業への参加のようすなどを総合して評価する。
講義構成	「最後の一句」 「高瀬舟」 「津下四郎左衛門」 「妄想」 初回に、各自の担当箇所を相談して決める。 毎時、発表者が、担当箇所についての発表を行なう。 受講生全員で、発表について検討する。
教科書	受講する人と相談して決めます。
参考書・資料	その都度、適当なものを紹介します。
担当者から一言	自分自身の人間経験として作品に向き合ってくださいように希望します。

授業コード	W1021
-------	-------

授業科目名	日本文学特殊講義 IIa (前)		
担当者名	上田 博(ウエダ ヒロシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	森鷗外の文芸 鑑賞と研究 鷗外の小説、詩歌などを鑑賞する
到達目標	近代文学史上の巨人に従学すること。
講義方法	受講する人、担当する者(上田)、同列で、作品を輪講する形ですすめる。
準備学習	森鷗外の作品を繰り返し読むこと。
成績評価	発表の内容、毎時の授業への参加のようすなどを総合して評価する。
講義構成	「半日」 「鶏」 「独身」 「カズイシチカ」 「吃逆」 「藤棚」 「二人の友」 初回時に、各自の担当箇所を相談して決める。 毎時、発表者が、担当箇所についての発表を行なう。 受講生全員によって、発表について検討する。
教科書	受講する人と相談して決めます。
参考書・資料	その都度、適当なものを紹介します。

担当者から一言	自分自身の人間経験として作品に向き合ってくださいよう希望します。
---------	----------------------------------

授業コード	W1022		
授業科目名	日本文学特殊講義 IIb (後)		
担当者名	上田 博(ウエダ ヒロシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	森鷗外の文芸 鑑賞と研究
到達目標	近代文学史上の巨人に従学すること。
講義方法	受講する人、担当する者(上田)同列で、作品を輪講する形ですすめる。
準備学習	森鷗外の作品を繰り返し読むこと。
成績評価	発表の内容、毎時の授業への参加のようすなどを総合して評価する。
講義構成	「最後の一句」 「高瀬舟」 「津下四郎左衛門」 「妄想」 初回時に、各自の担当箇所を相談して決める。 毎時、発表者が、担当箇所についての発表を行なう。 受講生全員によって、発表について検討する。
教科書	受講する人と相談して決定します。
参考書・資料	その都度、適当なものを紹介します。

担当者から一言	自分自身の人間経験として作品に向き合ってくださいように希望します。
---------	-----------------------------------

授業コード	W2041		
授業科目名	アカデミック・ライティングⅠ		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
オフィスアワー	By appointment.		

講義の内容	This class will try to build on the experience of students gained in producing their graduation theses to strengthen and refine their ability to write intelligently about texts and themes in literary and cultural studies in the graduate school. The class will be of particular help to students planning to present their Master's thesis in English by introducing ideas from modern critical theory and helping students to familiarize themselves with appropriate terminology, but should also benefit those whose major is not English, but who will have to read research papers and publish their research in English.
到達目標	The goal of the class is to support students who will be writing their Masters' theses in English. Students will learn how to use academic expressions, structure an argument, marshal evidence and give references correctly.
講義方法	Studying literary texts closely will be the most important activity of the class, but on occasions other materials may be introduced (for example videos, pictures and music) when appropriate. Short extracts from books which explain various aspects of modern critical theory will also be studied.
準備学習	Students will sometimes have to prepare texts which will be used in the class. Regular written assignments will be given. Some will take the form of exercises, and others will require a longer piece of critical writing to be submitted.
成績評価	A conscientious approach to written assignments plus a cheerful and positive contribution to discussion will ensure a good grade.
講義構成	Details to be given in the class.
教科書	No text book will be required, but books and duplicated materials will be provided by the instructor

授業コード	W2043		
授業科目名	アカデミック・ライティングⅠa (前)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次		単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	By appointment.		

講義の内容	This class will try to build on the experience of students gained in producing their graduation theses to strengthen and refine their ability to write intelligently about texts and themes in literary and cultural studies in the graduate school. The class will be of particular help to students planning to present their Master's thesis in English by introducing ideas from modern critical theory and helping students to familiarize themselves with appropriate terminology, but should also benefit those whose major is not English, but who will have to read research papers and publish their research in English.
到達目標	The goal of the class is to support students who will be writing their Masters' theses in English. Students will learn how to use academic expressions, structure an argument, marshal evidence and give references correctly.
講義方法	Studying literary texts closely will be the most important activity of the class, but on occasions other materials may be introduced (for example videos, pictures and music) when appropriate. Short extracts from books which explain various aspects of modern critical theory will also be studied.
準備学習	Students will sometimes have to prepare texts which will be used in the class. Regular written assignments will be given. Some will take the form of exercises, and others will require a longer piece of critical writing to be submitted.
成績評価	A conscientious approach to written assignments plus a cheerful and positive contribution to discussion will ensure a good grade.

講義構成	Details to be given in the class.
教科書	No text book will be required, but books and duplicated materials will be provided by the instructor

授業コード	W2044		
授業科目名	アカデミック・ライティングIb (後)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次		単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	By appointment.		

講義の内容	This class will try to build on the experience of students gained in producing their graduation theses to strengthen and refine their ability to write intelligently about texts and themes in literary and cultural studies in the graduate school. The class will be of particular help to students planning to present their Master's thesis in English by introducing ideas from modern critical theory and helping students to familiarize themselves with appropriate terminology, but should also benefit those whose major is not English, but who will have to read research papers and publish their research in English.		
到達目標	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
講義方法	Studying literary texts closely will be the most important activity of the class, but on occasions other materials may be introduced (for example videos, pictures and music) when appropriate. Short extracts from books which explain various aspects of modern critical theory will also be studied.		
準備学習	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
成績評価	A conscientious approach to written assignments plus a cheerful and positive contribution to discussion will ensure a good grade.		
講義構成	Details to be given in the class.		
教科書	No text book will be required, but books and duplicated materials will be provided by the instructor		

授業コード	W2042		
授業科目名	アカデミック・ライティング II		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
オフィスアワー	By appointment.		

講義の内容	This class will try to build on the experience of students gained in producing their graduation theses to strengthen and refine their ability to write intelligently about texts and themes in literary and cultural studies in the graduate school. The class will be of particular help to students planning to present their Master's thesis in English by introducing ideas from modern critical theory and helping students to familiarize themselves with appropriate terminology, but should also benefit those whose major is not English, but who will have to read research papers and publish their research in English.		
到達目標	The goal of the class is to support students who will be writing their Masters' theses in English. Students will learn how to use academic expressions, structure an argument, marshal evidence and give references correctly.		
講義方法	Studying literary texts closely will be the most important activity of the class, but on occasions other materials may be introduced (for example videos, pictures and music) when appropriate. Short extracts from books which explain various aspects of modern critical theory will also be studied.		
準備学習	Students will sometimes have to prepare texts which will be used in the class. Regular written assignments will be given. Some will take the form of exercises, and others will require a longer piece of critical writing to be submitted.		
成績評価	A conscientious approach to written assignments plus a cheerful and positive contribution to discussion will ensure a good grade.		

講義構成	Details to be given in the class.
教科書	No text book will be required, but books and duplicated materials will be provided by the instructor

授業コード	W2045		
授業科目名	アカデミック・ライティングIIa (前)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次		単位数	1
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	By appointment.		

講義の内容	This class will try to build on the experience of students gained in producing their graduation theses to strengthen and refine their ability to write intelligently about texts and themes in literary and cultural studies in the graduate school. The class will be of particular help to students planning to present their Master's thesis in English by introducing ideas from modern critical theory and helping students to familiarize themselves with appropriate terminology, but should also benefit those whose major is not English, but who will have to read research papers and publish their research in English.		
到達目標	The goal of the class is to support students who will be writing their Masters' theses in English. Students will learn how to use academic expressions, structure an argument, marshal evidence and give references correctly.		
講義方法	Studying literary texts closely will be the most important activity of the class, but on occasions other materials may be introduced (for example videos, pictures and music) when appropriate. Short extracts from books which explain various aspects of modern critical theory will also be studied.		
準備学習	Students will sometimes have to prepare texts which will be used in the class. Regular written assignments will be given. Some will take the form of exercises, and others will require a longer piece of critical writing to be submitted.		
成績評価	A conscientious approach to written assignments plus a cheerful and positive contribution to discussion will ensure a good grade.		
講義構成	Details to be given in the class.		
教科書	No text book will be required, but books and duplicated materials will be provided by the instructor		

授業コード	W2046		
授業科目名	アカデミック・ライティングIIb (後)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次		単位数	1
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	By appointment.		

講義の内容	This class will try to build on the experience of students gained in producing their graduation theses to strengthen and refine their ability to write intelligently about texts and themes in literary and cultural studies in the graduate school. The class will be of particular help to students planning to present their Master's thesis in English by introducing ideas from modern critical theory and helping students to familiarize themselves with appropriate terminology, but should also benefit those whose major is not English, but who will have to read research papers and publish their research in English.		
到達目標	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
講義方法	Studying literary texts closely will be the most important activity of the class, but on occasions other materials may be introduced (for example videos, pictures and music) when appropriate. Short extracts from books which explain various aspects of modern critical theory will also be studied.		
準備学習	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
成績評価	A conscientious approach to written assignments plus a cheerful and positive contribution to discussion will ensure a good grade.		

講義構成	Details to be given in the class.
教科書	No text book will be required, but books and duplicated materials will be provided by the instructor

授業コード	W2C11		
授業科目名	英語学演習 Ia (前)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜2限
オフィスアワー	木曜日 12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。		
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。		
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。		
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。		
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。		
講義構成	Chapter 1“Overview”に当る部分は講義形式で説明し、Chapter 2 “Syntactic Categories”を受講生が中心になって講読する。		
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).		
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京:研究社)		

担当者から一言	しっかりと読み、しっかりと考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。		
---------	--	--	--

授業コード	W2C12		
授業科目名	英語学演習 Ia (前)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	語用論の最近の動向についての知識を広める。一つはロンドン大学を中心とする関連性理論について見てみる、関連性理論の文献は非常に多方面にわたるので、Robin Carstonの論文を特に選んで読む。もう一つはいわゆるneo-Griceanと呼ばれる人たち(S. Levinson, L. Horn)の論文を読む。		
到達目標	意味論、語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。さらに、自分が取り組むテーマについて問題点を整理できる知識と能力を身につける。		
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。		
準備学習	授業で扱うテキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。また、授業で互いに議論すべき問題点を整理しておく。		
成績評価	Lingua, The Journal of Linguistics, The Journal of Pragmaticsなどの雑誌から講義内容のテーマに関連した論文を読んでまとめてもらう。さらに各自が興味を持つトピックについてエッセイを書いてもらう。その際どちらの立場に立つかを明確にして論じて欲しい。成績はこれら二つを50%、50%の割合で総合的に評価する。		
講義構成	講義内容であげた人たちの最近の論文をいくつか読む。発表者は特に関連性理論とneo-Gricean的な考え方の違いについて注意し、それぞれの問題点と優れた点を比較ながら論点を整理して発表する。また、第三者的な立場からの検討ではなく、各自が賛同する立場をに立って議論をし理解を深めて行きたい。		
教科書	1. Carston, R. (2003) Truth-conditional content and conversational implicature. UCL Working Papers in Linguistics 15: 35-69. 2. Carston, R. (2005) Relevance Theory, Grice and the neo-Griceans: A response to Laurence Horn's 'Current		

	issues in neo-Gricean pragmatics' 3. Horn, L. (2005) The Border Wars: A neo-Gricean perspective.
参考書・資料	Carston, R. (2002) Thoughts and Utterances. Oxford: Blackwell. Grice, Paul (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press Horn, Laurence, (1989) A Natural History of Negation. Chicago: Chicago University Press. Handbook of Pragmatics. Blackwell.

授業コード	W2C13		
授業科目名	英語学演習 Ia (前)		
担当者名	中谷健太郎 (ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	語と統語のインターフェースという観点から語の意味を考察する。文法的な文を構築する際、語の意味が与える影響は小さくないし、また出来上がった文の論理形式を考える上でも、構成性の原理から、語の意味を度外視することはできない。文法のなかで我々の「語の意味」の知識はどのような位置を占めるのか。「語の意味」を構成するものは何か。この問題を掘り下げる。		
到達目標	言語の背後にある目に見えない「意味」や「概念」を、統語的ふるまいから観察する能力、および、言語データ収集能力を身につける。		
講義方法	英語で書かれた論文を正しく理解することができなければ何も始まらないので、原則的に購読演習形式で講義を進め、必要に応じて補助的な講義を行う。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。		
準備学習	学部レベルの統語論および意味論の授業が履修済であることが望ましい。		
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。		
講義構成	1. Introduction 2. The nature of lexical knowledge 3. Semantic structure 4. The logical problem of polysemy 5. The generative lexicon		
教科書	都度資料配布する。		
参考書・資料	Pustejovsky, James (1995) The Generative Lexicon. MIT Press. Bouillon, P. and Busa, F. (2001) The Language of Word Meaning. Pinker, S. (1989) Learnability and Cognition. Jackendoff, J. (1990) Semantic structures. Levin, B. (1993) English Verb Classes and Alternations.		

授業コード	W2C21		
授業科目名	英語学演習 Ib (後)		
担当者名	有村兼彬 (アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限
オフィスアワー	木曜日 12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。		
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。		
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。		
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。		

成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。
講義構成	Chapter 3 “Basic sentential structure”, Chapter 4 “Phrasal categories”, Chapter 7 “Complex clauses: raising and control”を受講生が中心になって講読する。
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京:研究社)
担当者から一言	しっかり読み、しっかり考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。

授業コード	W2C22		
授業科目名	英語学演習 Ib (後)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	語用論の最近の動向についての知識を広める。一つはロンドン大学を中心とする関連性理論について見てみる。関連性理論の文献は非常に多方面にわたるので、Robin Carstonの論文を特に選んで読む。もう一つはいわゆるneo-Griceanと呼ばれる人々(S. Levinson, L. Horn)の論文を読む。
到達目標	意味論、語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。さらに、自分が取り組むテーマについて問題点を整理できる知識と能力を身につける。
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。
準備学習	授業で扱うテキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。また、授業で互いに議論すべき問題点を整理しておく。
成績評価	Lingua, The Journal of Linguistics, The Journal of Pragmaticsなどの雑誌から講義内容のテーマに関連した論文を読んでまとめてもらう。さらに各自が興味を持つトピックについてエッセイを書いてもらう。その際どちらの立場に立つかを明確にして論じて欲しい。成績はこれら二つを50%、50%の割合で総合的に評価する。
講義構成	講義内容であげた人たちの最近の論文をいくつか読む。発表者は特に関連性理論とneo-Gricean的な考え方の違いについて注意し、それぞれの問題点と優れた点を比較ながら論点を整理して発表する。また、第三者的な立場からの検討ではなく、各自が賛同する立場をに立って議論をし理解を深めて行きたい。
教科書	1. Carston, R. (2003) Truth-conditional content and conversational implicature. UCL Working Papers in Linguistics 15: 35-69. 2. Carston, R. (2005) Relevance Theory, Grice and the neo-Griceans: A response to Laurence Horn's 'Current issues in neo-Gricean pragmatics' 3. Horn, L. (2005) The Border Wars: A neo-Gricean perspective.
参考書・資料	Carston, R. (2002) Thoughts and Utterances. Oxford: Blackwell. Grice, Paul (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press Horn, Laurence, (1989) A Natural History of Negation. Chicago: Chicago University Press. Handbook of Pragmatics. Blackwell.

授業コード	W2C23		
授業科目名	英語学演習 Ib (後)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	語と統語のインターフェースという観点から語の意味を考察する。文法的な文を構築する際、語の意味が与える影響は小さくないし、また出来上がった文の論理形式を考える上でも、構成性の原理から、語の意味を度外視することはできない。文法のなかで我々の「語の意味」の知識はどのような位置を占めるのか。「語の意味」を構成するものは何か。この問題を掘り下げる。
-------	--

到達目標	言語の背後にある目に見えない「意味」や「概念」を、統語的ふるまいから観察する能力、および、言語データ収集能力を身につける。
講義方法	英語で書かれた論文を正しく理解することができなければ何も始まらないので、原則的に購読演習形式で講義を進め、必要に応じて補助的な講義を行う。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。
準備学習	学部レベルの統語論および意味論の授業が履修済であることが望ましい。
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。
講義構成	「英語学演習 Ia」の続きを行う。
教科書	都度資料配布する。
参考書・資料	Pustejovsky, James (1995) The Generative Lexicon. MIT Press. Bouillon, P. and Busa, F. (2001) The Language of Word Meaning. Pinker, S. (1989) Learnability and Cognition. Jackendoff, J. (1990) Semantic structures. Levin, B. (1993) English Verb Classes and Alternations.

授業コード	W2C31		
授業科目名	英語学演習 IIa (前)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜2限
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。		
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。		
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。		
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。		
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。		
講義構成	Chapter 1“Overview”に当る部分は講義形式で説明し、Chapter 2 “Syntactic Categories”を受講生が中心になって講読する。		
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).		
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京:研究社)		

担当者から一言	しっかりと読み、しっかりと考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。
---------	--

授業コード	W2C32		
授業科目名	英語学演習 IIa (前)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	語用論の最近の動向についての知識を広める。一つはロンドン大学を中心とする関連性理論について見てみる。が、関連性理論の文献は非常に多方面にわたるので、Robin Carstonの論文を特に選んで読む。もう一つはいわゆるneo-Griceanと呼ばれる人たち(S. Levinson, L. Horn)の論文を読む。		
到達目標	意味論、語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。さらに、自分が取り組むテーマについて問題点を整理できる知識と能力を身につける。		
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。		

準備学習	授業で扱うテキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。また、授業で互いに議論すべき問題点を整理しておく。
成績評価	Lingua, The Journal of Linguistics, The Journal of Pragmaticsなどの雑誌から講義内容のテーマに関連した論文を読んでまとめてもらう。さらに各自が興味を持つトピックについてエッセイを書いてもらう。その際どちらの立場に立つかを明確にして論じて欲しい。成績はこれら二つを50%、50%の割合で総合的に評価する。
講義構成	講義内容であげた人たちの最近の論文をいくつか読む。発表者は特に関連性理論とneo-Gricean的な考え方の違いについて注意し、それぞれの問題点と優れた点を比較ながら論点を整理して発表する。また、第三者的な立場からの検討ではなく、各自が賛同する立場をに立って議論をし理解を深めて行きたい。
教科書	1. Carston, R. (2003) Truth-conditional content and conversational implicature. UCL Working Papers in Linguistics 15: 35-69. 2. Carston, R. (2005) Relevance Theory, Grice and the neo-Griceans: A response to Laurence Horn's 'Current issues in neo-Gricean pragmatics' 3. Horn, L. (2005) The Border Wars: A neo-Gricean perspective.
参考書・資料	Carston, R. (2002) Thoughts and Utterances. Oxford: Blackwell. Grice, Paul (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press Horn, Laurence, (1989) A Natural History of Negation. Chicago: Chicago University Press. Handbook of Pragmatics. Blackwell.

授業コード	W2C33		
授業科目名	英語学演習 IIa (前)		
担当者名	中谷健太郎 (ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	語と統語のインターフェースという観点から語の意味を考察する。文法的な文を構築する際、語の意味が与える影響は小さくないし、また出来上がった文の論理形式を考える上でも、構成性の原理から、語の意味を度外視することはできない。文法のなかで我々の「語の意味」の知識はどのような位置を占めるのか。「語の意味」を構成するものは何か。この問題を掘り下げる。
到達目標	言語の背後にある目に見えない「意味」や「概念」を、統語的ふるまいから観察する能力、および、言語データ収集能力を身につける。
講義方法	英語で書かれた論文を正しく理解することができなければ何も始まらないので、原則的に購読演習形式で講義を進め、必要に応じて補助的な講義を行う。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。
準備学習	学部レベルの統語論および意味論の授業が履修済であることが望ましい。
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。
講義構成	1. Introduction 2. The nature of lexical knowledge 3. Semantic structure 4. The logical problem of polysemy 5. The generative lexicon
教科書	都度資料配布する。
参考書・資料	Pustejovsky, James (1995) The Generative Lexicon. MIT Press. Bouillon, P. and Busa, F. (2001) The Language of Word Meaning. Pinker, S. (1989) Learnability and Cognition. Jackendoff, J. (1990) Semantic structures. Levin, B. (1993) English Verb Classes and Alternations.

授業コード	W2C41		
授業科目名	英語学演習 IIb (後)		
担当者名	有村兼彬 (アリムラ カネアキ)		

配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		
講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。		
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。		
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。		
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。		
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。		
講義構成	Chapter 3 “Basic sentential structure”, Chapter 4 “Phrasal categories”, Chapter 7 “Complex clauses: raising and control” を受講生が中心になって講読する。		
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).		
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京:研究社)		
担当者から一言	しっかりと読み、しっかりと考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。		

授業コード	W2C42		
授業科目名	英語学演習 IIb (後)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
講義の内容	語用論の最近の動向についての知識を広める。一つはロンドン大学を中心とする関連性理論について見てみる。関連性理論の文献は非常に多方面にわたるので、Robin Carstonの論文を特に選んで読む。もう一つはいわゆるneo-Griceanと呼ばれる人たち(S. Levinson, L. Horn)の論文を読む。		
到達目標	意味論、語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。さらに、自分が取り組むテーマについて問題点を整理できる知識と能力を身につける。		
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。		
準備学習	授業で扱うテキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。また、授業で互いに議論すべき問題点を整理しておく。		
成績評価	Lingua, The Journal of Linguistics, The Journal of Pragmaticsなどの雑誌から講義内容のテーマに関連した論文を読んでまとめてもらう。さらに各自が興味を持つトピックについてエッセイを書いてもらう。その際どちらの立場に立つかを明確にして論じて欲しい。成績はこれら二つを50%、50%の割合で総合的に評価する。		
講義構成	講義内容であげた人たちの最近の論文をいくつか読む。発表者は特に関連性理論とneo-Gricean的な考え方の違いについて注意し、それぞれの問題点と優れた点を比較ながら論点を整理して発表する。また、第三者的な立場からの検討ではなく、各自が賛同する立場をに立って議論をし理解を深めて行きたい。		
教科書	1. Carston, R. (2003) Truth-conditional content and conversational implicature. UCL Working Papers in Linguistics 15: 35-69. 2. Carston, R. (2005) Relevance Theory, Grice and the neo-Griceans: A response to Laurence Horn's 'Current issues in neo-Gricean pragmatics' 3. Horn, L. (2005) The Border Wars: A neo-Gricean perspective.		
参考書・資料	Carston, R. (2002) Thoughts and Utterances. Oxford: Blackwell. Grice, Paul (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press Horn, Laurence, (1989) A Natural History of Negation. Chicago: Chicago University Press. Handbook of Pragmatics. Blackwell.		

授業コード	W2C43
-------	-------

授業科目名	英語学演習 IIb (後)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	語と統語のインターフェースという観点から語の意味を考察する。文法的な文を構築する際、語の意味が与える影響は小さくないし、また出来上がった文の論理形式を考える上でも、構成性の原理から、語の意味を度外視することはできない。文法のなかで我々の「語の意味」の知識はどのような位置を占めるのか。「語の意味」を構成するものは何か。この問題を掘り下げる。
到達目標	言語の背後にある目に見えない「意味」や「概念」を、統語的ふるまいから観察する能力、および、言語データ収集能力を身につける。
講義方法	英語で書かれた論文を正しく理解することができなければ何も始まらないので、原則的に購読演習形式で講義を進め、必要に応じて補助的な講義を行う。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。
準備学習	学部レベルの統語論および意味論の授業が履修済であることが望ましい。
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。
講義構成	「英語学演習 IIa」の続きを行う。
教科書	都度資料配布する。
参考書・資料	Pustejovsky, James (1995) The Generative Lexicon. MIT Press. Bouillon, P. and Busa, F. (2001) The Language of Word Meaning. Pinker, S. (1989) Learnability and Cognition. Jackendoff, J. (1990) Semantic structures. Levin, B. (1993) English Verb Classes and Alternations.

授業コード	W2C51		
授業科目名	英語学演習 IIIa (前)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜2限
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。
講義構成	Chapter 1“Overview”に当る部分は講義形式で説明し、Chapter 2 “Syntactic Categories”を受講生が中心になって講読する。
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京:研究社)

担当者から一言	しっかり読み、しっかり考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。
---------	--

授業コード	W2C52
-------	-------

授業科目名	英語学演習 IIIa (前)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	語用論の最近の動向についての知識を広める。一つはロンドン大学を中心とする関連性理論について見てみる が、関連性理論の文献は非常に多方面にわたるので、Robin Carstonの論文を特に選んで読む。もう一つはい わゆるneo-Griceanと呼ばれる人たち(S. Levinson, L. Horn)の論文を読む。
到達目標	意味論、語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。さらに、自分が取り組むテーマについて 問題点を整理できる知識と能力を身につける。
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。
準備学習	授業で扱うテキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。また、授業で互いに議論すべき問 題点を整理しておく。
成績評価	Lingua, The Journal of Linguistics, The Journal of Pragmaticsなどの雑誌から講義内容のテーマに関連した論 文を読んでまとめてもらう。さらに各自が興味を持つトピックについてエッセイを書いてもらう。その際どちらの立 場に立つかを明確にして論じて欲しい。成績はこれら二つを50%、50%の割合で総合的に評価する。
講義構成	講義内容であげた人たちの最近の論文をいくつか読む。発表者は特に関連性理論とneo-Gricean的な考え方の 違いについて注意し、それぞれの問題点と優れた点を比較ながら論点を整理して発表する。また、第三者的な 立場からの検討ではなく、各自が賛同する立場をに立って議論をし理解を深めて行きたい。
教科書	1. Carston, R. (2003) Truth-conditional content and conversational implicature. UCL Working Papers in Linguistics 15: 35-69. 2. Carston, R. (2005) Relevance Theory, Grice and the neo-Griceans: A response to Laurence Horn's 'Current issues in neo-Gricean pragmatics' 3. Horn, L. (2005) The Border Wars: A neo-Gricean perspective.
参考書・資料	Carston, R. (2002) Thoughts and Utterances. Oxford: Blackwell. Grice, Paul (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press Horn, Laurence, (1989) A Natural History of Negation. Chicago: Chicago University Press. Handbook of Pragmatics. Blackwell.

授業コード	W2C53		
授業科目名	英語学演習 IIIa (前)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	語と統語のインターフェースという観点から語の意味を考察する。文法的な文を構築する際、語の意味が与える 影響は小さくないし、また出来上がった文の論理形式を考える上でも、構成性の原理から、語の意味を度外視す ることはできない。文法のなかで我々の「語の意味」の知識はどのような位置を占めるのか。「語の意味」を構成す るものは何か。この問題を掘り下げる。
到達目標	言語の背後にある目に見えない「意味」や「概念」を、統語的ふるまいから観察する能力、および、言語データ収 集能力を身につける。
講義方法	英語で書かれた論文を正しく理解することができなければ何も始まらないので、原則的に購読演習形式で講義 を進め、必要に応じて補助的な講義を行う。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。
準備学習	学部レベルの統語論および意味論の授業が履修済であることが望ましい。
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。
講義構成	1. Introduction 2. The nature of lexical knowledge 3. Semantic structure 4. The logical problem of polysemy 5. The generative lexicon

教科書	都度資料配布する。
参考書・資料	Pustejovsky, James (1995) The Generative Lexicon. MIT Press. Bouillon, P. and Busa, F. (2001) The Language of Word Meaning. Pinker, S. (1989) Learnability and Cognition. Jackendoff, J. (1990) Semantic structures. Levin, B. (1993) English Verb Classes and Alternations.

授業コード	W2C61		
授業科目名	英語学演習 IIIb (後)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。		
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。		
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。		
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。		
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。		
講義構成	Chapter 3 “Basic sentential structure”, Chapter 4 “Phrasal categories”, Chapter 7 “Complex clauses: raising and control”を受講生が中心になって講読する。		
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).		
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京:研究社)		
担当者から一言	しっかりと読み、しっかりと考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。		

授業コード	W2C62		
授業科目名	英語学演習 IIIb (後)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	語用論の最近の動向についての知識を広める。一つはロンドン大学を中心とする関連性理論について見てみる。関連性理論の文献は非常に多方面にわたるので、Robin Carstonの論文を特に選んで読む。もう一つはいわゆるneo-Griceanと呼ばれる人たち(S. Levinson, L. Horn)の論文を読む。		
到達目標	意味論、語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。さらに、自分が取り組むテーマについて問題点を整理できる知識と能力を身につける。		
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。		
準備学習	授業で扱うテキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。また、授業で互いに議論すべき問題点を整理しておく。		
成績評価	Lingua, The Journal of Linguistics, The Journal of Pragmaticsなどの雑誌から講義内容のテーマに関連した論文を読んでまとめてもらう。さらに各自が興味を持つトピックについてエッセイを書いてもらう。その際どちらの立場に立つかを明確にして論じて欲しい。成績はこれら二つを50%、50%の割合で総合的に評価する。		
講義構成	講義内容であげた人たちの最近の論文をいくつか読む。発表者は特に関連性理論とneo-Gricean的な考え方の違いについて注意し、それぞれの問題点と優れた点を比較ながら論点を整理して発表する。また、第三者的な立場からの検討ではなく、各自が賛同する立場をに立って議論をし理解を深めて行きたい。		

教科書	1. Carston, R. (2003) Truth-conditional content and conversational implicature. UCL Working Papers in Linguistics 15: 35-69. 2. Carston, R. (2005) Relevance Theory, Grice and the neo-Griceans: A response to Laurence Horn's 'Current issues in neo-Gricean pragmatics' 3. Horn, L. (2005) The Border Wars: A neo-Gricean perspective.
参考書・資料	Carston, R. (2002) Thoughts and Utterances. Oxford: Blackwell. Grice, Paul (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press Horn, Laurence, (1989) A Natural History of Negation. Chicago: Chicago University Press. Handbook of Pragmatics. Blackwell.

授業コード	W2C63		
授業科目名	英語学演習 IIIb (後)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	語と統語のインターフェースという観点から語の意味を考察する。文法的な文を構築する際、語の意味が与える影響は小さくないし、また出来上がった文の論理形式を考える上でも、構成性の原理から、語の意味を度外視することはできない。文法のなかで我々の「語の意味」の知識はどのような位置を占めるのか。「語の意味」を構成するものは何か。この問題を掘り下げる。		
到達目標	言語の背後にある目に見えない「意味」や「概念」を、統語的ふるまいから観察する能力、および、言語データ収集能力を身につける。		
講義方法	英語で書かれた論文を正しく理解することができなければ何も始まらないので、原則的に購読演習形式で講義を進め、必要に応じて補助的な講義を行う。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。		
準備学習	学部レベルの統語論および意味論の授業が履修済であることが望ましい。		
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。		
講義構成	「英語学演習 IIIa」の続きを行う。		
教科書	都度資料配布する。		
参考書・資料	Pustejovsky, James (1995) The Generative Lexicon. MIT Press. Bouillon, P. and Busa, F. (2001) The Language of Word Meaning. Pinker, S. (1989) Learnability and Cognition. Jackendoff, J. (1990) Semantic structures. Levin, B. (1993) English Verb Classes and Alternations.		

授業コード	W2C71		
授業科目名	英語学演習 IVa (前)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜2限
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。		
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。		
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。		
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。		

成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。
講義構成	Chapter 1“Overview”に当る部分は講義形式で説明し、Chapter 2 “Syntactic Categories”を受講生が中心になって講読する。
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京:研究社)
担当者から一言	しっかり読み、しっかり考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。

授業コード	W2C72		
授業科目名	英語学演習 IVa (前)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	語用論の最近の動向についての知識を広める。一つはロンドン大学を中心とする関連性理論について見てみるが、関連性理論の文献は非常に多方面にわたるので、Robin Carstonの論文を特に選んで読む。もう一つはいわゆるneo-Griceanと呼ばれる人々(S. Levinson, L. Horn)の論文を読む。
到達目標	意味論、語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。さらに、自分が取り組むテーマについて問題点を整理できる知識と能力を身につける。
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。
準備学習	授業で扱うテキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。また、授業で互いに議論すべき問題点を整理しておく。
成績評価	Lingua, The Journal of Linguistics, The Journal of Pragmaticsなどの雑誌から講義内容のテーマに関連した論文を読んでまとめてもらう。さらに各自が興味を持つトピックについてエッセイを書いてもらう。その際どちらの立場に立つかを明確にして論じて欲しい。成績はこれら二つを50%、50%の割合で総合的に評価する。
講義構成	講義内容であげた人たちの最近の論文をいくつか読む。発表者は特に関連性理論とneo-Gricean的な考え方の違いについて注意し、それぞれの問題点と優れた点を比較ながら論点を整理して発表する。また、第三者的な立場からの検討ではなく、各自が賛同する立場をに立って議論をし理解を深めて行きたい。
教科書	1. Carston, R. (2003) Truth-conditional content and conversational implicature. UCL Working Papers in Linguistics 15: 35-69. 2. Carston, R. (2005) Relevance Theory, Grice and the neo-Griceans: A response to Laurence Horn's 'Current issues in neo-Gricean pragmatics' 3. Horn, L. (2005) The Border Wars: A neo-Gricean perspective.
参考書・資料	Carston, R. (2002) Thoughts and Utterances. Oxford: Blackwell. Grice, Paul (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press Horn, Laurence, (1989) A Natural History of Negation. Chicago: Chicago University Press. Handbook of Pragmatics. Blackwell.

授業コード	W2C73		
授業科目名	英語学演習 IVa (前)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	語と統語のインターフェースという観点から語の意味を考察する。文法的な文を構築する際、語の意味が与える影響は小さくないし、また出来上がった文の論理形式を考える上でも、構成性の原理から、語の意味を度外視することはできない。文法のなかで我々の「語の意味」の知識はどのような位置を占めるのか。「語の意味」を構成するものは何か。この問題を掘り下げる。
-------	--

到達目標	言語の背後にある目に見えない「意味」や「概念」を、統語的ふるまいから観察する能力、および、言語データ収集能力を身につける。
講義方法	英語で書かれた論文を正しく理解することができなければ何も始まらないので、原則的に購読演習形式で講義を進め、必要に応じて補助的な講義を行う。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。
準備学習	学部レベルの統語論および意味論の授業が履修済であることが望ましい。
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。
講義構成	1. Introduction 2. The nature of lexical knowledge 3. Semantic structure 4. The logical problem of polysemy 5. The generative lexicon
教科書	都度資料配布する。
参考書・資料	Pustejovsky, James (1995) The Generative Lexicon. MIT Press. Bouillon, P. and Busa, F. (2001) The Language of Word Meaning. Pinker, S. (1989) Learnability and Cognition. Jackendoff, J. (1990) Semantic structures. Levin, B. (1993) English Verb Classes and Alternations.

授業コード	W2C81		
授業科目名	英語学演習 IVb (後)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。
講義構成	Chapter 3 “Basic sentential structure”, Chapter 4 “Phrasal categories”, Chapter 7 “Complex clauses: raising and control”を受講生が中心になって講読する。
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京:研究社)

担当者から一言	しっかりと読み、しっかりと考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。
---------	--

授業コード	W2C82		
授業科目名	英語学演習 IVb (後)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	語用論の最近の動向についての知識を広める。一つはロンドン大学を中心とする関連性理論について見てみるが、関連性理論の文献は非常に多方面にわたるので、Robin Carstonの論文を特に選んで読む。もう一つはいわゆるneo-Griceanと呼ばれる人達(S. Levinson, L. Horn)の論文を読む。
-------	--

到達目標	意味論、語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。さらに、自分が取り組むテーマについて問題点を整理できる知識と能力を身につける。
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。
準備学習	授業で扱うテキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。また、授業で互いに議論すべき問題点を整理しておく。
成績評価	Lingua, The Journal of Linguistics, The Journal of Pragmaticsなどの雑誌から講義内容のテーマに関連した論文を読んでまとめてもらう。さらに各自が興味を持つトピックについてエッセイを書いてもらう。その際どちらの立場に立つかを明確にして論じて欲しい。成績はこれら二つを50%、50%の割合で総合的に評価する。
講義構成	講義内容であげた人たちの最近の論文をいくつか読む。発表者は特に関連性理論とneo-Gricean的な考え方の違いについて注意し、それぞれの問題点と優れた点を比較ながら論点を整理して発表する。また、第三者的な立場からの検討ではなく、各自が賛同する立場をに立って議論をし理解を深めて行きたい。
教科書	1. Carston, R. (2003) Truth-conditional content and conversational implicature. UCL Working Papers in Linguistics 15: 35-69. 2. Carston, R. (2005) Relevance Theory, Grice and the neo-Griceans: A response to Laurence Horn's 'Current issues in neo-Gricean pragmatics' 3. Horn, L. (2005) The Border Wars: A neo-Gricean perspective.
参考書・資料	Carston, R. (2002) Thoughts and Utterances. Oxford: Blackwell. Grice, Paul (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press Horn, Laurence, (1989) A Natural History of Negation. Chicago: Chicago University Press. Handbook of Pragmatics. Blackwell.

授業コード	W2C83		
授業科目名	英語学演習 IVb (後)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	語と統語のインターフェースという観点から語の意味を考察する。文法的な文を構築する際、語の意味が与える影響は小さくないし、また出来上がった文の論理形式を考える上でも、構成性の原理から、語の意味を度外視することはできない。文法のなかで我々の「語の意味」の知識はどのような位置を占めるのか。「語の意味」を構成するものは何か。この問題を掘り下げる。
到達目標	言語の背後にある目に見えない「意味」や「概念」を、統語的ふるまいから観察する能力、および、言語データ収集能力を身につける。
講義方法	英語で書かれた論文を正しく理解することができなければ何も始まらないので、原則的に購読演習形式で講義を進め、必要に応じて補助的な講義を行う。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。
準備学習	学部レベルの統語論および意味論の授業が履修済であることが望ましい。
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。
講義構成	「英語学演習 IVa」の続きを行う。
教科書	都度資料配布する。
参考書・資料	Pustejovsky, James (1995) The Generative Lexicon. MIT Press. Bouillon, P. and Busa, F. (2001) The Language of Word Meaning. Pinker, S. (1989) Learnability and Cognition. Jackendoff, J. (1990) Semantic structures. Levin, B. (1993) English Verb Classes and Alternations.

授業コード	W2F11		
授業科目名	英語学特殊講義 Ia (前)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜3限
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		
講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。		
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。		
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。		
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。		
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。		
講義構成	Chapter 1“Overview”に当る部分は講義形式で説明し、Chapter 2 “Syntactic Categories”を受講生が中心になって講読する。		
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).		
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京: 研究社)		
担当者から一言	しっかりと読み、しっかりと考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。		

授業コード	W2F12		
授業科目名	英語学特殊講義 1a (前)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	語用論における中心的な三つの分野である前提、発話行為、会話の含意についての理解を深める。Austin と Searleは人間が言語を用いて行う社会的行為としての発話行為を分類記述することによって体系づけたが、そうした発話行為を再検討する。		
到達目標	語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。		
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。		
準備学習	テキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。		
成績評価	レポートと授業での発表をもとに評価する。		
講義構成	次のようなトピックを扱う。 1. Dixis and distance 2. Reference and inference 3. Presupposition and entailment 4. Cooperation and implicature 5. Speech acts and events 6. Politeness and interaction		
教科書	George Yule (1996) Pragmatics Oxford University Press		
参考書・資料	J. L. Austin (1962) How to Do Things with Words, Oxford University Press P. Grice (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press J. Mey (2001) Pragmatics : An Introduction Blackwell G. N. Leech (1983) Principles of Pragmatics. Longman J. R. Searle (1969) Speech Acts, Cambridge University Press S. Levinson (1983) Pragmatics Cambridge University Press		

授業コード	W2F13		
授業科目名	英語学特殊講義 1a (前)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		

配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	人間の言語知識の研究には長い歴史があるが、人間が実際にそれをどのように運用しているかについての本格的な研究は、始まってまだ半世紀も経っていない。しかし、近年の精力的な研究により、人間が実際に言語を理解したり産出したりする際には、単に「知識を使う」の一言ではすまされない複雑かつ非常に高速な言語運用システムが関わっていることが明らかになりつつある。本講義では主に「理解」に焦点をあて、人間が言語を処理するとき、脳内で何が起きているのかを考察する。
到達目標	実験研究の手法の基礎、およびこれまでの研究の歴史を理解し、未解決の問題に光を当てるような実験デザインができるようになること。
講義方法	人間言語理解の研究分野において影響力のある論文を購読演習形式で読み進める。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。
準備学習	学部レベルの統語論、および心理言語学の授業を履修済であることが望ましい。
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。
講義構成	以下のトピックに沿って関連論文を読み、批判的に検証する。この分野の研究のほとんどは実験研究である。実験研究には「仮説・デザイン・結果・解釈」といった複層的なフェーズが存在する。「こういう結果が出ればこうだ」ということが一義的に決まるとは限らない。論文を読むときは常に批判的に「本当にそうだろうか、他の解釈可能性はないだろうか」といった問題意識で向かう必要がある。 1. Introduction: On the mental design of sentence processing 2. Minimal attachment and other related theories 3. Context and comprehension 4. Plausibility and comprehension 5. Theories on reanalysis 6. Memory and comprehension
教科書	随時指定、配布する

授業コード	W2F14		
授業科目名	英語学特殊講義 Ia (前)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	火曜日 12: 10~1:00		

講義の内容	言語音声の研究の二大柱として「音声学」と「音韻論」がある。この内、音声学は言語音声の実体を記述する学問領域であり、一方の音韻論は音声学を通して明らかになった言語音声の実体をインプットとして、言語音声の機能を明らかにする学問領域である。つまり、適切な音声記述が適切な音韻論の土台となるのである。そこで本講義では下記の教科書を用い、言語音声の記述に必要な知識、能力を養うことを目的としたい。
到達目標	国際音声字母(International Phonetic Alphabet)に慣れ、綴り字に依らない音声記述能力の基礎を固める。
講義方法	前もって指定されたセクションを受講生がサマライズしたものに対して、コメント／質問をしながら進めていく。
準備学習	担当を任されたセクションを丹念に読み、まとめておくこと。
成績評価	毎時間の受講生の発表(70%)と期末レポート(30%)で評価する。
講義構成	1. 国際音声字母を用いた英語の音素表記練習 2. 教科書の第1章: Articulation and Acoustics 3. 教科書の第2章: Phonology and Phonetic Transcription 4. 教科書の第3章: The Consonants of English 5. 教科書の第4章: English Vowels 6. 教科書の第5章: English Words and Sentences
教科書	Peter Ladefoged, Keith Johnson (2011) A Course in Phonetics
参考書・資料	John Wells (2008) Longman Pronunciation Dictionary

--	--

授業コード	W2F21		
授業科目名	英語学特殊講義 Ib (後)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜3限
オフィスアワー	木曜日 12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。		
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。		
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。		
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。		
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。		
講義構成	Chapter 3 “Basic sentential structure”, Chapter 4 “Phrasal categories”, Chapter 7 “Complex clauses: raising and control”を受講生が中心になって講読する。		
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).		
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京:研究社)		
担当者から一言	しっかりと読み、しっかりと考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。		

授業コード	W2F22		
授業科目名	英語学特殊講義 Ib (後)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	語用論における中心的な三つの分野である前提、発話行為、会話の含意についての理解を深める。Austin と Searleは人間が言語を用いて行う社会的行為としての発話行為を分類記述することによって体系づけたが、そうした発話行為を再検討する。		
到達目標	語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。		
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。		
準備学習	テキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。		
成績評価	レポートと授業での発表をもとに評価する。		
講義構成	次のようなトピックを扱う。 1. Dixis and distance 2. Reference and inference 3. Presupposition and entailment 4. Cooperation and implicature 5. Speech acts and events 6. Politeness and interaction		
教科書	George Yule (1996) Pragmatics Oxford University Press		
参考書・資料	J. L. Austin (1962) How to Do Things with Words, Oxford University Press P. Grice (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press J. Mey (2001) Pragmatics : An Introduction Blackwell G. N. Leech (1983) Principles of Pragmatics. Longman		

	J. R. Searle (1969) Speech Acts, Cambridge University Press S. Levinson (1983) Pragmatics Cambridge University Press
--	---

授業コード	W2F23		
授業科目名	英語学特殊講義 Ib (後)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	人間の言語知識の研究には長い歴史があるが、人間が実際にそれをどのように運用しているかについての本格的な研究は、始まってまだ半世紀も経っていない。しかし、近年の精力的な研究により、人間が実際に言語を理解したり産出したりする際には、単に「知識を使う」の一言ではすまされない複雑かつ非常に高速な言語運用システムが関わっていることが明らかになりつつある。本講義では主に「理解」に焦点をあて、人間が言語を処理するとき、脳内で何が起きているのかを考察する。		
到達目標	実験研究の手法の基礎、およびこれまでの研究の歴史を理解し、未解決の問題に光を当てるような実験デザインができるようになること。		
講義方法	人間言語理解の研究分野において影響力のある論文を購読演習形式で読み進める。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。		
準備学習	学部レベルの統語論、および心理言語学の授業を履修済であることが望ましい。		
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。		
講義構成	「英語学特殊講義 Ia」の続きを行う。		
教科書	随時指定、配布する		

授業コード	W2F24		
授業科目名	英語学特殊講義 Ib (後)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	火曜日 12: 10~1:00		

講義の内容	言語音声の研究の二大柱として「音声学」と「音韻論」がある。この内、音声学は言語音声の実体を記述する学問領域であり、一方の音韻論は音声学を通して明らかになった言語音声の実体をインプットとして、言語音声の機能を明らかにする学問領域である。つまり、適切な音声記述が適切な音韻論の土台となるのである。そこで本講義では下記の教科書を用い、言語音声の記述に必要な知識、能力を養うことを目的としたい。		
到達目標	国際音声字母(International Phonetic Alphabet)に慣れ、綴り字に依らない音声記述能力の基礎を固める。		
講義方法	前もって指定されたセクションを受講生がサマライズしたものに対して、コメント／質問をしながら進めていく。		
準備学習	担当を任されたセクションを丹念に読み、まとめておくこと。		
成績評価	毎時間の受講生の発表(70%)と期末レポート(30%)で評価する。		
講義構成	1. 教科書の第6章: Airstream Mechanisms and Phonation Types 2. 教科書の第7章: Consonantal Gestures 3. 教科書の第9章: Vowels and Vowel-like Articulations 4. 教科書の第10章: Syllables and Suprasegmental Features 5. 教科書の第11章: Linguistic Phonetics		
教科書	Peter Ladefoged, Keith Johnson (2011) A Course in Phonetics		
参考書・資料	John Wells (2008) Longman Pronunciation Dictionary		

授業コード	W2F31		
授業科目名	英語学特殊講義 IIa (前)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜3限
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。		
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。		
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。		
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。		
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。		
講義構成	Chapter 1“Overview”に当る部分は講義形式で説明し、Chapter 2 “Syntactic Categories”を受講生が中心になって講読する。		
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).		
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京:研究社)		

担当者から一言	しっかりと読み、しっかりと考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。		
---------	--	--	--

授業コード	W2F32		
授業科目名	英語学特殊講義 IIa (前)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	語用論における中心的な三つの分野である前提、発話行為、会話の含意についての理解を深める。Austin と Searleは人間が言語を用いて行う社会的行為としての発話行為を分類記述することによって体系づけたが、そうした発話行為を再検討する。		
到達目標	語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。		
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。		
準備学習	テキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。		
成績評価	レポートと授業での発表をもとに評価する。		
講義構成	次のようなトピックを扱う。 1. Dixis and distance 2. Reference and inference 3. Presupposition and entailment 4. Cooperation and implicature 5. Speech acts and events 6. Politeness and interaction		
教科書	George Yule (1996) Pragmatics Oxford University Press		
参考書・資料	J. L. Austin (1962) How to Do Things with Words, Oxford University Press P. Grice (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press J. Mey (2001) Pragmatics : An Introduction Blackwell G. N. Leech (1983) Principles of Pragmatics. Longman J. R. Searle (1969) Speech Acts, Cambridge Univiersity Press		

	S. Levinson (1983) Pragmatics Cambridge University Press
--	--

授業コード	W2F33		
授業科目名	英語学特殊講義 IIa（前）		
担当者名	中谷健太郎（ナカタニ ケンタロウ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	人間の言語知識の研究には長い歴史があるが、人間が実際にそれをどのように運用しているかについての本格的な研究は、始まってまだ半世紀も経っていない。しかし、近年の精力的な研究により、人間が実際に言語を理解したり産出したりする際には、単に「知識を使う」の一言ではすまされない複雑かつ非常に高速な言語運用システムが関わっていることが明らかになりつつある。本講義では主に「理解」に焦点をあて、人間が言語を処理するとき、脳内で何が起きているのかを考察する。
到達目標	実験研究の手法の基礎、およびこれまでの研究の歴史を理解し、未解決の問題に光を当てるような実験デザインができるようになること。
講義方法	人間言語理解の研究分野において影響力のある論文を購読演習形式で読み進める。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。
準備学習	学部レベルの統語論、および心理言語学の授業を履修済であることが望ましい。
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。
講義構成	以下のトピックに沿って関連論文を読み、批判的に検証する。この分野の研究のほとんどは実験研究である。実験研究には「仮説・デザイン・結果・解釈」といった複層的なフェーズが存在する。「こういう結果が出ればこうだ」ということが一義的に決まるとは限らない。論文を読むときは常に批判的に「本当にそうだろうか、他の解釈可能性はないだろうか」といった問題意識で向かう必要がある。 1. Introduction: On the mental design of sentence processing 2. Minimal attachment and other related theories 3. Context and comprehension 4. Plausibility and comprehension 5. Theories on reanalysis 6. Memory and comprehension
教科書	随時指定、配布する

授業コード	W2F34		
授業科目名	英語学特殊講義 IIa（前）		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	火曜日 12: 10~1:00		

講義の内容	言語音声の研究の二大柱として「音声学」と「音韻論」がある。この内、音声学は言語音声の実体を記述する学問領域であり、一方の音韻論は音声学を通して明らかになった言語音声の実体をインプットとして、言語音声の機能を明らかにする学問領域である。つまり、適切な音声記述が適切な音韻論の土台となるのである。そこで本講義では下記の教科書を用い、言語音声の記述に必要な知識、能力を養うことを目的としたい。
到達目標	国際音声字母(International Phonetic Alphabet)に慣れ、綴り字に依らない音声記述能力の基礎を固める。
講義方法	前もって指定されたセクションを受講生がサマライズしたものに対して、コメント／質問をしながら進めていく。
準備学習	担当を任されたセクションを丹念に読み、まとめておくこと。
成績評価	毎時間の受講生の発表(70%)と期末レポート(30%)で評価する。
講義構成	1. 国際音声字母を用いた英語の音素表記練習

	2. 教科書の第1章: Articulation and Acoustics 3. 教科書の第2章: Phonology and Phonetic Transcription 4. 教科書の第3章: The Consonants of English 5. 教科書の第4章: English Vowels 6. 教科書の第5章: English Words and Sentences
教科書	Peter Ladefoged, Keith Johnson (2011) A Course in Phonetics
参考書・資料	John Wells (2008) Longman Pronunciation Dictionary

授業コード	W2F41		
授業科目名	英語学特殊講義 II b (後)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜3限
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。
講義構成	Chapter 3 “Basic sentential structure”, Chapter 4 “Phrasal categories”, Chapter 7 “Complex clauses: raising and control” を受講生が中心になって講読する。
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京: 研究社)

担当者から一言	しっかり読み、しっかり考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。
---------	--

授業コード	W2F42		
授業科目名	英語学特殊講義 II b (後)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	語用論における中心的な三つの分野である前提、発話行為、会話の含意についての理解を深める。Austin と Searleは人間が言語を用いて行う社会的行為としての発話行為を分類記述することによって体系づけたが、そうした発話行為を再検討する。
到達目標	語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。
準備学習	テキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。
成績評価	レポートと授業での発表をもとに評価する。
講義構成	次のようなトピックを扱う。 1. Dixis and distance 2. Reference and inference 3. Presupposition and entailment

	4. Cooperation and implicature 5. Speech acts and events 6. Politeness and interaction
教科書	George Yule (1996) Pragmatics Oxford University Press
参考書・資料	J. L. Austin (1962) How to Do Things with Words, Oxford University Press P. Grice (1988) Studies in the Way of Words, Harvard University Press J. Mey (2001) Pragmatics : An Introduction Blackwell G. N. Leech (1983) Principles of Pragmatics, Longman J. R. Searle (1969) Speech Acts, Cambridge University Press S. Levinson (1983) Pragmatics Cambridge University Press

授業コード	W2F43		
授業科目名	英語学特殊講義 II b (後)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	人間の言語知識の研究には長い歴史があるが、人間が実際にそれをどのように運用しているかについての本格的な研究は、始まってまだ半世紀も経っていない。しかし、近年の精力的な研究により、人間が実際に言語を理解したり産出したりする際には、単に「知識を使う」の一言ではすまされない複雑かつ非常に高速な言語運用システムが関わっていることが明らかになりつつある。本講義では主に「理解」に焦点をあて、人間が言語を処理するとき、脳内で何が起きているのかを考察する。
到達目標	実験研究の手法の基礎、およびこれまでの研究の歴史を理解し、未解決の問題に光を当てるような実験デザインができるようになること。
講義方法	人間言語理解の研究分野において影響力のある論文を購読演習形式で読み進める。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。
準備学習	学部レベルの統語論、および心理言語学の授業を履修済であることが望ましい。
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。
講義構成	「英語学特殊講義 IIa」の続きを行う。
教科書	随時指定、配布する

授業コード	W2F44		
授業科目名	英語学特殊講義 II b (後)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	火曜日 12: 10~1:00		

講義の内容	言語音声の研究の二大柱として「音声学」と「音韻論」がある。この内、音声学は言語音声の実体を記述する学問領域であり、一方の音韻論は音声学を通して明らかになった言語音声の実体をインプットとして、言語音声の機能を明らかにする学問領域である。つまり、適切な音声記述が適切な音韻論の土台となるのである。そこで本講義では下記の教科書を用い、言語音声の記述に必要な知識、能力を養うことを目的としたい。
到達目標	国際音声字母(International Phonetic Alphabet)に慣れ、綴り字に依らない音声記述能力の基礎を固める。
講義方法	前もって指定されたセクションを受講生がサマライズしたものに対して、コメント／質問をしながら進めていく。
準備学習	担当を任されたセクションを丹念に読み、まとめておくこと。
成績評価	毎時間の受講生の発表(70%)と期末レポート(30%)で評価する。

講義構成	1. 教科書の第6章: Airstream Mechanisms and Phonation Types 2. 教科書の第7章: Consonantal Gestures 3. 教科書の第9章: Vowels and Vowel-like Articulations 4. 教科書の第10章: Syllables and Suprasegmental Features 5. 教科書の第11章: Linguistic Phonetics
教科書	Peter Ladefoged, Keith Johnson (2011) A Course in Phonetics
参考書・資料	John Wells (2008) Longman Pronunciation Dictionary

授業コード	W2F51		
授業科目名	英語学特殊講義 IIIa (前)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜3限
オフィスアワー	木曜日 12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。		
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。		
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。		
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。		
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。		
講義構成	Chapter 1“Overview”に当る部分は講義形式で説明し、Chapter 2 “Syntactic Categories”を受講生が中心になって講読する。		
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).		
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京: 研究社)		
担当者から一言	しっかりと読み、しっかりと考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。		

授業コード	W2F52		
授業科目名	英語学特殊講義 IIIa (前)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	語用論における中心的な三つの分野である前提、発話行為、会話の含意についての理解を深める。Austin と Searleは人間が言語を用いて行う社会的行為としての発話行為を分類記述することによって体系づけたが、そうした発話行為を再検討する。		
到達目標	語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。		
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。		
準備学習	テキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。		
成績評価	レポートと授業での発表をもとに評価する。		
講義構成	次のようなトピックを扱う。 1. Dixis and distance 2. Reference and inference 3. Presupposition and entailment 4. Cooperation and implicature		

	5. Speech acts and events 6. Politeness and interaction
教科書	George Yule (1996) Pragmatics Oxford University Press
参考書・資料	J. L. Austin (1962) How to Do Things with Words, Oxford University Press P. Grice (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press J. Mey (2001) Pragmatics : An Introduction Blackwell G. N. Leech (1983) Principles of Pragmatics. Longman J. R. Searle (1969) Speech Acts, Cambridge University Press S. Levinson (1983) Pragmatics Cambridge University Press

授業コード	W2F53		
授業科目名	英語学特殊講義 IIIa (前)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	人間の言語知識の研究には長い歴史があるが、人間が実際にそれをどのように運用しているかについての本格的な研究は、始まってまだ半世紀も経っていない。しかし、近年の精力的な研究により、人間が実際に言語を理解したり産出したりする際には、単に「知識を使う」の一言ではすまされない複雑かつ非常に高速な言語運用システムが関わっていることが明らかになりつつある。本講義では主に「理解」に焦点をあて、人間が言語を処理するとき、脳内で何が起きているのかを考察する。
到達目標	実験研究の手法の基礎、およびこれまでの研究の歴史を理解し、未解決の問題に光を当てるような実験デザインができるようになること。
講義方法	人間言語理解の研究分野において影響力のある論文を購読演習形式で読み進める。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。
準備学習	学部レベルの統語論、および心理言語学の授業を履修済であることが望ましい。
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。
講義構成	以下のトピックに沿って関連論文を読み、批判的に検証する。この分野の研究のほとんどは実験研究である。実験研究には「仮説・デザイン・結果・解釈」といった複層的なフェーズが存在する。「こういう結果が出ればこうだ」ということが一義的に決まるとは限らない。論文を読むときは常に批判的に「本当にそうだろうか、他の解釈可能性はないだろうか」といった問題意識で向かう必要がある。 1. Introduction: On the mental design of sentence processing 2. Minimal attachment and other related theories 3. Context and comprehension 4. Plausibility and comprehension 5. Theories on reanalysis 6. Memory and comprehension
教科書	随時指定、配布する

授業コード	W2F54		
授業科目名	英語学特殊講義 IIIa (前)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	火曜日 12: 10~1:00		

講義の内容	言語音声の研究の二大柱として「音声学」と「音韻論」がある。この内、音声学は言語音声の実体を記述する学問領域であり、一方の音韻論は音声学を通して明らかになった言語音声の実体をインプットとして、言語音声の機能を明らかにする学問領域である。つまり、適切な音声記述が適切な音韻論の土台となるのである。そこで本
-------	--

	講義では下記の教科書を用い、言語音声の記述に必要な知識、能力を養うことを目的としたい。
到達目標	国際音声字母(International Phonetic Alphabet)に慣れ、綴り字に依らない音声記述能力の基礎を固める。
講義方法	前もって指定されたセクションを受講生がサマライズしたものに対して、コメント／質問をしながら進めていく。
準備学習	担当を任されたセクションを丹念に読み、まとめておくこと。
成績評価	毎時間の受講生の発表(70%)と期末レポート(30%)で評価する。
講義構成	1. 国際音声字母を用いた英語の音素表記練習 2. 教科書の第1章: Articulation and Acoustics 3. 教科書の第2章: Phonology and Phonetic Transcription 4. 教科書の第3章: The Consonants of English 5. 教科書の第4章: English Vowels 6. 教科書の第5章: English Words and Sentences
教科書	Peter Ladefoged, Keith Johnson (2011) A Course in Phonetics
参考書・資料	John Wells (2008) Longman Pronunciation Dictionary

授業コード	W2F61		
授業科目名	英語学特殊講義 IIIb (後)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜3限
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。
講義構成	Chapter 3 “Basic sentential structure”, Chapter 4 “Phrasal categories”, Chapter 7 “Complex clauses: raising and control”を受講生が中心になって講読する。
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京:研究社)

担当者から一言	しっかり読み、しっかり考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。
---------	--

授業コード	W2F62		
授業科目名	英語学特殊講義 IIIb (後)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	語用論における中心的な三つの分野である前提、発話行為、会話の含意についての理解を深める。Austin と Searleは人間が言語を用いて行う社会的行為としての発話行為を分類記述することによって体系づけたが、そうした発話行為を再検討する。
-------	---

到達目標	語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。
準備学習	テキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。
成績評価	レポートと授業での発表をもとに評価する。
講義構成	次のようなトピックを扱う。 1. Dixis and distance 2. Reference and inference 3. Presupposition and entailment 4. Cooperation and implicature 5. Speech acts and events 6. Politeness and interaction
教科書	George Yule (1996) Pragmatics Oxford University Press
参考書・資料	J. L. Austin (1962) How to Do Things with Words, Oxford University Press P. Grice (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press J. Mey (2001) Pragmatics : An Introduction Blackwell G. N. Leech (1983) Principles of Pragmatics. Longman J. R. Searle (1969) Speech Acts, Cambridge University Press S. Levinson (1983) Pragmatics Cambridge University Press

授業コード	W2F63		
授業科目名	英語学特殊講義 IIIb (後)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	人間の言語知識の研究には長い歴史があるが、人間が実際にそれをどのように運用しているかについての本格的な研究は、始まってまだ半世紀も経っていない。しかし、近年の精力的な研究により、人間が実際に言語を理解したり産出したりする際には、単に「知識を使う」の一言ではすまされない複雑かつ非常に高速な言語運用システムが関わっていることが明らかになりつつある。本講義では主に「理解」に焦点をあて、人間が言語を処理するとき、脳内で何が起きているのかを考察する。		
到達目標	実験研究の手法の基礎、およびこれまでの研究の歴史を理解し、未解決の問題に光を当てるような実験デザインができるようになること。		
講義方法	人間言語理解の研究分野において影響力のある論文を購読演習形式で読み進める。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。		
準備学習	学部レベルの統語論、および心理言語学の授業を履修済であることが望ましい。		
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。		
講義構成	「英語学特殊講義 IIIa」の続きを行う。		
教科書	随時指定、配布する		

授業コード	W2F64		
授業科目名	英語学特殊講義 IIIb (後)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	火曜日 12: 10~1:00		

講義の内容	言語音声の研究の二大柱として「音声学」と「音韻論」がある。この内、音声学は言語音声の実体を記述する学
-------	--

	問領域であり、一方の音韻論は音声学を通して明らかになった言語音声の実体をインプットとして、言語音声の機能を明らかにする学問領域である。つまり、適切な音声記述が適切な音韻論の土台となるのである。そこで本講義では下記の教科書を用い、言語音声の記述に必要な知識、能力を養うことを目的としたい。
到達目標	国際音声字母(International Phonetic Alphabet)に慣れ、綴り字に依らない音声記述能力の基礎を固める。
講義方法	前もって指定されたセクションを受講生がサマライズしたものに対して、コメント／質問をしながら進めていく。
準備学習	担当を任されたセクションを丹念に読み、まとめておくこと。
成績評価	毎時間の受講生の発表(70%)と期末レポート(30%)で評価する。
講義構成	1. 教科書の第6章: Airstream Mechanisms and Phonation Types 2. 教科書の第7章: Consonantal Gestures 3. 教科書の第9章: Vowels and Vowel-like Articulations 4. 教科書の第10章: Syllables and Suprasegmental Features 5. 教科書の第11章: Linguistic Phonetics
教科書	Peter Ladefoged, Keith Johnson (2011) A Course in Phonetics
参考書・資料	John Wells (2008) Longman Pronunciation Dictionary

授業コード	W2F71		
授業科目名	英語学特殊講義 IVa (前)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜3限
オフィスアワー	木曜日12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。
講義構成	Chapter 1“Overview”に当る部分は講義形式で説明し、Chapter 2 “Syntactic Categories”を受講生が中心になって講読する。
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京: 研究社)

担当者から一言	しっかりと読み、しっかりと考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。
---------	--

授業コード	W2F72		
授業科目名	英語学特殊講義 IVa (前)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	語用論における中心的な三つの分野である前提、発話行為、会話の含意についての理解を深める。Austin と Searleは人間が言語を用いて行う社会的行為としての発話行為を分類記述することによって体系づけたが、そうした発話行為を再検討する。
到達目標	語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。

講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。
準備学習	テキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。
成績評価	レポートと授業での発表をもとに評価する。
講義構成	次のようなトピックを扱う。 1. Dixis and distance 2. Reference and inference 3. Presupposition and entailment 4. Cooperation and implicature 5. Speech acts and events 6. Politeness and interaction
教科書	George Yule (1996) Pragmatics Oxford University Press
参考書・資料	J. L. Austin (1962) How to Do Things with Words, Oxford University Press P. Grice (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press J. Mey (2001) Pragmatics : An Introduction Blackwell G. N. Leech (1983) Principles of Pragmatics. Longman J. R. Searle (1969) Speech Acts, Cambridge University Press S. Levinson (1983) Pragmatics Cambridge University Press

授業コード	W2F73		
授業科目名	英語学特殊講義 IVa (前)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	人間の言語知識の研究には長い歴史があるが、人間が実際にそれをどのように運用しているかについての本格的な研究は、始まってまだ半世紀も経っていない。しかし、近年の精力的な研究により、人間が実際に言語を理解したり産出したりする際には、単に「知識を使う」の一言ではすまされない複雑かつ非常に高速な言語運用システムが関わっていることが明らかになりつつある。本講義では主に「理解」に焦点をあて、人間が言語を処理するとき、脳内で何が起きているのかを考察する。
到達目標	実験研究の手法の基礎、およびこれまでの研究の歴史を理解し、未解決の問題に光を当てるような実験デザインができるようになること。
講義方法	人間言語理解の研究分野において影響力のある論文を購読演習形式で読み進める。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。
準備学習	学部レベルの統語論、および心理言語学の授業を履修済であることが望ましい。
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。
講義構成	以下のトピックに沿って関連論文を読み、批判的に検証する。この分野の研究のほとんどは実験研究である。実験研究には「仮説・デザイン・結果・解釈」といった複層的なフェーズが存在する。「こういう結果が出ればこうだ」ということが一義的に決まるとは限らない。論文を読むときは常に批判的に「本当にそうだろうか、他の解釈可能性はないだろうか」といった問題意識で向かう必要がある。 1. Introduction: On the mental design of sentence processing 2. Minimal attachment and other related theories 3. Context and comprehension 4. Plausibility and comprehension 5. Theories on reanalysis 6. Memory and comprehension
教科書	随時指定、配布する

授業コード	W2F74
-------	-------

授業科目名	英語学特殊講義 IVa (前)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	火曜日 12: 10~1:00		

講義の内容	言語音声の研究の二大柱として「音声学」と「音韻論」がある。この内、音声学は言語音声の実体を記述する学問領域であり、一方の音韻論は音声学を通して明らかになった言語音声の実体をインプットとして、言語音声の機能を明らかにする学問領域である。つまり、適切な音声記述が適切な音韻論の土台となるのである。そこで本講義では下記の教科書を用い、言語音声の記述に必要な知識、能力を養うことを目的としたい。
到達目標	国際音声字母(International Phonetic Alphabet)に慣れ、綴り字に依らない音声記述能力の基礎を固める。
講義方法	前もって指定されたセクションを受講生がサマライズしたものに対して、コメント／質問をしながら進めていく。
準備学習	担当を任されたセクションを丹念に読み、まとめておくこと。
成績評価	毎時間の受講生の発表(70%)と期末レポート(30%)で評価する。
講義構成	1. 国際音声字母を用いた英語の音素表記練習 2. 教科書の第1章: Articulation and Acoustics 3. 教科書の第2章: Phonology and Phonetic Transcription 4. 教科書の第3章: The Consonants of English 5. 教科書の第4章: English Vowels 6. 教科書の第5章: English Words and Sentences
教科書	Peter Ladefoged, Keith Johnson (2011) A Course in Phonetics
参考書・資料	John Wells (2008) Longman Pronunciation Dictionary

授業コード	W2F81		
授業科目名	英語学特殊講義 IVb (後)		
担当者名	有村兼彬(アリムラ カネアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜3限
オフィスアワー	木曜日 12:10-13:00		

講義の内容	生成文法理論の理解を深めると同時に修士論文作成に向けて準備する。
到達目標	英語の統語現象をしっかりと捉え、それについてどのような観点から切り込むか考える。そして最終的に修士論文を作成する。
講義方法	下記の本を講読する。全体の外観をした後に、受講生がレポートする。
準備学習	担当部分をしっかりと読んで、著者の意図を余す所なく解釈する。理論の理解は素直に著者の考えに耳を傾けることから始まります。
成績評価	毎回の発表50%、出席25%、レポート25%。
講義構成	Chapter 3 “Basic sentential structure”, Chapter 4 “Phrasal categories”, Chapter 7 “Complex clauses: raising and control”を受講生が中心になって講読する。
教科書	Culicover, Peter, W. (2009) Natural Language Syntax (Oxford: Oxford University Press).
参考書・資料	原口庄輔・中村捷(編)(1992)『チョムスキー理論辞典』(東京:研究社)

担当者から一言	しっかり読み、しっかり考えて、論理立った議論ができるように務めて下さい。まずは素直に著者の見解に耳を傾け、ちゃんと理解する習慣を身につけて欲しいですね。
---------	--

授業コード	W2F82		
授業科目名	英語学特殊講義 IVb (後)		
担当者名	中島信夫(ナカシマ ノブオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	語用論における中心的な三つの分野である前提、発話行為、会話の含意についての理解を深める。Austin と Searleは人間が言語を用いて行う社会的行為としての発話行為を分類記述することによって体系づけたが、そうした発話行為を再検討する。
到達目標	語用論の論文を独力で読みこなせる知識と能力を身につける。
講義方法	演習形式で行い担当を決めて毎回発表してもらう。
準備学習	テキストをあらかじめ読んで疑問点を言語学事典等で調べておく。
成績評価	レポートと授業での発表をもとに評価する。
講義構成	次のようなトピックを扱う。 1. Dixis and distance 2. Reference and inference 3. Presupposition and entailment 4. Cooperation and implicature 5. Speech acts and events 6. Politeness and interaction
教科書	George Yule (1996) Pragmatics Oxford University Press
参考書・資料	J. L. Austin (1962) How to Do Things with Words, Oxford University Press P. Grice (1988) Studies in the Way of Words. Harvard University Press J. Mey (2001) Pragmatics : An Introduction Blackwell G. N. Leech (1983) Principles of Pragmatics. Longman J. R. Searle (1969) Speech Acts, Cambridge University Press S. Levinson (1983) Pragmatics Cambridge University Press

授業コード	W2F83		
授業科目名	英語学特殊講義 IVb (後)		
担当者名	中谷健太郎(ナカタニ ケンタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	月曜5時限		

講義の内容	人間の言語知識の研究には長い歴史があるが、人間が実際にそれをどのように運用しているかについての本格的な研究は、始まってまだ半世紀も経っていない。しかし、近年の精力的な研究により、人間が実際に言語を理解したり産出したりする際には、単に「知識を使う」の一言ではすまされない複雑かつ非常に高速な言語運用システムが関わっていることが明らかになりつつある。本講義では主に「理解」に焦点をあて、人間が言語を処理するとき、脳内で何が起きているのかを考察する。
到達目標	実験研究の手法の基礎、およびこれまでの研究の歴史を理解し、未解決の問題に光を当てるような実験デザインができるようになること。
講義方法	人間言語理解の研究分野において影響力のある論文を購読演習形式で読み進める。期末にはサマリーペーパーを書いてもらう。
準備学習	学部レベルの統語論、および心理言語学の授業を履修済であることが望ましい。
成績評価	各授業への貢献度と提出されたペーパーの質をもとに総合的に判断する。
講義構成	「英語学特殊講義 IVa」の続きを行う。
教科書	随時指定、配布する

授業コード	W2F84		
授業科目名	英語学特殊講義 IVb (後)		
担当者名	福島彰利(フクシマ アキトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	火曜日 12: 10~1:00		

講義の内容	言語音声の研究の二大柱として「音声学」と「音韻論」がある。この内、音声学は言語音声の実体を記述する学問領域であり、一方の音韻論は音声学を通して明らかになった言語音声の実体をインプットとして、言語音声の機能を明らかにする学問領域である。つまり、適切な音声記述が適切な音韻論の土台となるのである。そこで本講義では下記の教科書を用い、言語音声の記述に必要な知識、能力を養うことを目的としたい。		
到達目標	国際音声字母(International Phonetic Alphabet)に慣れ、綴り字に依らない音声記述能力の基礎を固める。		
講義方法	前もって指定されたセクションを受講生がサマライズしたものに対して、コメント／質問をしながら進めていく。		
準備学習	担当を任されたセクションを丹念に読み、まとめておくこと。		
成績評価	毎時間の受講生の発表(70%)と期末レポート(30%)で評価する。		
講義構成	1. 教科書の第6章: Airstream Mechanisms and Phonation Types 2. 教科書の第7章: Consonantal Gestures 3. 教科書の第9章: Vowels and Vowel-like Articulations 4. 教科書の第10章: Syllables and Suprasegmental Features 5. 教科書の第11章: Linguistic Phonetics		
教科書	Peter Ladefoged, Keith Johnson (2011) A Course in Phonetics		
参考書・資料	John Wells (2008) Longman Pronunciation Dictionary		

授業コード	W2009		
授業科目名	英米文化演習 Ia (前)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	水曜日 12:15-12:45		

講義の内容	下記のテキストを熟読し、歴史をめぐる謝罪に関する理論的枠組みを得るとともに、「帝国だった過去」をもつイギリスの歴史と文化を再考する。		
到達目標	イギリスのみならず、世界各地、そして日本でも論議を呼んでいる歴史的出来事に対する謝罪と和解について、本講義でその議論の枠組みを得るとともに、この問題をめぐる自分の意見を自分の言葉で語れるようになる。		
講義方法	全員でテキストを徹底して読み込みながら、テキストのなかで提起されている論点を研究動向のなかにどう位置づけるべきかについても考えていく。同時に、先行研究の整理もおこなう。		
準備学習	下記テキストを各章ごとにまとめて読み込み、段落ごとにその内容をまとめ、要約を授業で提示する。その際、各段落で提示された論点を明確化して、それも授業で議論することとする。		
成績評価	予習して出席し、テキストの中身に対する議論を深めていっているかどうか、出席時の「読みの中身」を最大の評価ポイントとする。		
講義構成	受講生の進行状況の合わせながら、適宜提示する。		
教科書	Melissa Nobles, The Politics of Official Apologies, Cambridge University Press, 2008.		
参考書・資料	適宜指示する。		

担当者から一言	日本でも「歴史的事実に対する謝罪」は、歴史認識とともに、頻繁にとりあげられている。この問題を他人事ではなく、「自分事」とするためにも、たえず世界のニュースに気をつけてほしい。		
---------	---	--	--

授業コード	W2010		
授業科目名	英米文化演習 Ib (後)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	水曜日12:15～12:45(10号館8階井野瀬研究室)		

講義の内容	下記のテキストを熟読し、歴史をめぐる謝罪に関する理論的枠組みを得るとともに、「帝国だった過去」をもつイギリスの歴史と文化を再考する。
到達目標	イギリスのみならず、世界各地、そして日本でも論議を呼んでいる歴史的出来事に対する謝罪と和解について、本講義でその議論の枠組みを得るとともに、この問題をめぐる自分の意見を自分の言葉で語れるようになる。
講義方法	全員でテキストを徹底して読み込みながら、テキストのなかで提起されている論点を研究動向のなかにどう位置づけるべきかについても考えていく。同時に、先行研究の整理もおこないたい。
準備学習	下記テキストを各章ごとにまとめて読み込み、段落ごとにその内容をまとめ、要約を授業で提示する。その際、各段落で提示された論点を明確化して、それも授業で議論することとする。
成績評価	予習して出席し、テキストの中身に対する議論を深めていっているかどうか、出席時の「読みの中身」を最大の評価ポイントとする。
講義構成	受講生の進行状況の合わせながら、適宜提示する。
教科書	Melissa Nobles, The Politics of Official Apologies, Cambridge University Press, 2008.
参考書・資料	適宜指示する。

担当者から一言	日本でも「歴史的事実に対する謝罪」は、歴史認識とともに、頻繁にとりあげられている。この問題を他人事ではなく、「自分事」とするためにも、たえず世界のニュースに気をつけてほしい。
---------	---

授業コード	W2011		
授業科目名	英米文化演習 IIa (前)		
担当者名	安武留美(ヤスタケ ルミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	女性の視点で見るアメリカ社会 1
到達目標	アメリカの歴史的体験をを女性の視座から語るにあたって、知っておくべき用語、理論、文献の基礎を学び、取り組むべき修士論文の課題を見つける。
講義方法	学生による文献要旨の発表やそれに基づくディスカッションを中心に進めていく。
準備学習	課題文献をしっかりと読み込んでおく。
成績評価	授業内での発表やディスカッションへの貢献と、学期末に提出するレポートによって総合的に評価する。
講義構成	時代の流れに沿い、各時代のテーマや論点を示してくれる文献に基づいて進められる。
教科書	課題文献リストを開講時に配布する。

授業コード	W2012		
授業科目名	英米文化演習 IIb (後)		
担当者名	安武留美(ヤスタケ ルミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	女性の視点で見るアメリカ社会 2
-------	------------------

到達目標	アメリカの歴史的体験をを女性の視座から語るにあたって、知っておくべき用語、理論、文献の基礎を学び、取り組むべき修士論文の課題を見つける。
講義方法	学生による文献要旨の発表やそれに基づくディスカッションを中心に進めていく。
準備学習	課題文献をしっかりと読み込んでおく。
成績評価	授業内での発表やディスカッションへの貢献と、学期末に提出するレポートによって総合的に評価する。
講義構成	時代の流れに沿い、各時代のテーマや論点を示してくれる文献に基づいて進められる。
教科書	課題文献リストを開講時に配布する。

授業コード	W2A11		
授業科目名	英米文学演習 Ia (前)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	歴史・文化・宗教的背景に留意しながらNathaniel HawthorneのThe Scarlet Letterを精読する。		
到達目標	論文作成。		
講義方法	1週1章のペースでテキストを精読する。		
準備学習	毎週予定の章並びに指示する資料をを読んでおくこと。		
成績評価	平常点並びにレポートに基づいて評価する。		
講義構成	基本的に1週1章のペースでテキストを精読する。		
教科書	Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter (Norton)		

授業コード	W2A12		
授業科目名	英米文学演習 Ia (前)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	水曜12:20～13:00		

講義の内容	Benjamin Alire Saenz の短編集 Flowers for the Broken(1992) を精読する。Saenz は米墨の国境都市エルパソに住む作家・詩人である。「ボーダー」はアメリカの社会問題としても頻繁に取り上げられるテーマであるが、その「ボーダー」を生活の場とする作家らしく、Saenzの作品では文化の混交や衝突が文学的に形象化される。上記短編集を技法面にも注意を向けつつ精読し、アメリカ国境地帯の現状と歴史について検討する。		
到達目標	英文読解力の向上はもちろんのこと、複雑さを増しつつ変わりゆくアメリカへの理解を深める。		
講義方法	輪読形式で進める。少人数と見込まれる受講生は、ほぼ毎回一定のページ数について自分の「読み」を発表することになる。その発表を契機にしてディスカッションへと展開したい。		
準備学習	テキストの予習が必須であることは言うまでもない。加えて、作品理解の助けとなるよう、近年のアメリカ事情や文化についてのさまざまな分野の研究書に触れることも有益である。		
成績評価	授業への参加度と発表の出来具合(70%)、レポート(30%)		
講義構成	第1回 イントロダクション/オリエンテーション 第2回～5回 Saenz の短編作品の精読を始める前に、歴史的背景を知るために歴史家David J. Webber 著 The Spanish Frontier in North Americaの“Introduction”を、4回を費やして読む。 以下、前期は3つの作品を次の順番で読む。 第6回～8回 “Exile” 第9回～12回 “Cebolleros”		

	第13回～15回 “Flowers for the Broken”
教科書	上に挙げたとおり。受講者が確定した時点で担当者が手配する。

授業コード	W2A13		
授業科目名	英米文学演習 Ia (前)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	予約の上随時		

講義の内容	単なる読解に終始するのではなく、どのような視座で解釈するのか、たえず能動的に働きかけていく習慣をつけよう。たとえばテキストを翻案してみたり、台本に変えてみたりするくらいの意欲をつちかっていこう。これまでの英語力、思考力をさらに伸ばす授業になるはず。そして何よりも考える楽しさと言葉の力を学ぶことになるでしょう。
到達目標	自分の力で思考し、わかりやすい言葉でその考えたことを伝えることができるように目指そう。
講義方法	テキストのニュアンスを最大限に拾い上げるやり方で、ともに読みこなしていこう。
準備学習	まずテキストのニュアンスを全身を全開させてとらえてみましょう。行間の意味が必ずわきあがってきます。
成績評価	レポートなどの平常点100%で評価します。
講義構成	次の点に留意して授業を進めていきます。 1. ノンセンス文学 2. 言葉とノンセンス 3. 視覚芸術と言葉 4. 子供の「誕生」 5. 解釈の方法 6. テクストの受容
教科書	Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland (The Centenary Edition, Penguin Books)
参考書・資料	授業中に指示します。

担当者から一言	将来の目標を見定めてください。
---------	-----------------

授業コード	W2A14		
授業科目名	英米文学演習 Ia (前)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜昼		

講義の内容	Paul Auster の最新作 Invisible (Henry Holt, 2009)を読む。
到達目標	ポストモダン小説の「現在」への理解。
講義方法	精読および発表
準備学習	毎回の範囲を必ず読んでくること。
成績評価	受講姿勢を重視した上でレポートを課す。
講義構成	1. イントロ 2. 作家紹介 3. 講読 4. 解釈
教科書	Paul Auster, Invisible (henry Holt, 2009)

授業コード	W2A21		
授業科目名	英米文学演習 Ib (後)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	歴史・文化・宗教的背景に留意しながらNathaniel HawthorneのThe Scarlet Letterを精読する。		
到達目標	論文作成。		
講義方法	1週1章のペースでテキストを精読する。		
準備学習	毎週予定の章並びに指示する資料をを読んでおくこと。		
成績評価	平常点並びにレポートに基づいて評価する。		
講義構成	基本的に1週1章のペースでテキストを精読する。		
教科書	Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter (Norton)		

授業コード	W2A22		
授業科目名	英米文学演習 Ib (後)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	水曜12:20～13:00		

講義の内容	Benjamin Alire Saenz の短編集 Flowers for the Broken(1992) を精読する。Saenz は米墨の国境都市エルパソに住む作家・詩人である。「ボーダー」はアメリカの社会問題としても頻繁に取り上げられるテーマであるが、その「ボーダー」を生活の場とする作家らしく、Saenzの作品では文化の混交や衝突が文学的に形象化される。上記短編集を技法面にも注意を向けつつ精読し、アメリカ国境地帯の現状と歴史について検討する。		
到達目標	英文読解力の向上はもちろんのこと、複雑さを増しつつ変わりゆくアメリカへの理解を深める。		
講義方法	輪読形式で進める。少人数と見込まれる受講生は、ほぼ毎回一定のページ数について自分の「読み」を発表することになる。その発表を契機にしてディスカッションへと展開したい。		
準備学習	テキストの予習が必須であることは言うまでもない。加えて、作品理解の助けとなるよう、近年のアメリカ事情や文化についてのさまざまな分野の研究書に触れることも有益である。		
成績評価	授業への参加度と発表の出来具合(70%)、レポート(30%)		
講義構成	前期に引き続き、Flowers for the Brokenから以下の作品を読み進める。 第1回～4回 “Obliterate the Night” 第5回～8回 “Kill the Poor” 第9回～11回 “Alligator Park” 第12回～14回 “Holy Week” 第15回 “Between Worlds”(epilogue)		
教科書	上記の通り前期と同様。		

授業コード	W2A23		
授業科目名	英米文学演習 Ib (後)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		

配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	予約の上随時		

講義の内容	単なる読解に終始するのではなく、どのような視座で解釈するのか、たえず能動的に働きかけていく習慣をつけよう。たとえばテキストを翻案してみたり、台本に変えてみたりするくらいの意欲をつちかっていこう。これまでの英語力、思考力をさらに伸ばす授業になるはず。そして何よりも考える楽しさと言葉の力を学ぶことになるでしょう。
到達目標	自分の力で思考し、わかりやすい言葉でその考えたことを伝えることができるように目指そう。
講義方法	テキストのニュアンスを最大限に拾い上げるやり方で、ともに読みこなしていこう。
準備学習	まずテキストのニュアンスを全身を全開させてとらえてみましょう。行間の意味が必ずわきあがってきます。
成績評価	レポートなどの平常点100%で評価します。
講義構成	次の点に留意して授業を進めていきます。 1. ノンセンス文学 2. 言葉とノンセンス 3. 視覚芸術と言葉 4. 子供の「誕生」 5. 解釈の方法 6. テキストの受容
教科書	Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland (The Centenary Edition, Penguin Books)
参考書・資料	授業中に指示します。
担当者から一言	将来の目標を見定めてください。

授業コード	W2A24		
授業科目名	英米文学演習 Ib (後)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜昼		

講義の内容	Paul Auster の最新作 Invisible (Henry Holt, 2009)を読む。		
到達目標	ポストモダン小説の「現在」への理解。		
講義方法	精読および発表		
準備学習	毎回の範囲を必ず読んでくること。		
成績評価	受講姿勢を重視した上でレポートを課す。		
講義構成	1. イントロ 2. 作家紹介 3. 講読 4. 解釈		
教科書	Paul Auster, Invisible (henry Holt, 2009)		

授業コード	W2A31		
授業科目名	英米文学演習 IIa (前)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限

オフィスアワー	火曜日昼休み
講義の内容	歴史・文化・宗教的背景に留意しながらNathaniel HawthorneのThe Scarlet Letterを精読する。
到達目標	論文作成。
講義方法	1週1章のペースでテキストを精読する。
準備学習	毎週予定の章並びに指示する資料をを読んでおくこと。
成績評価	平常点並びにレポートに基づいて評価する。
講義構成	基本的に1週1章のペースでテキストを精読する。
教科書	Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter (Norton)

授業コード	W2A32		
授業科目名	英米文学演習 IIa (前)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	水曜12:20～13:00		

講義の内容	Benjamin Alire Saenz の短編集 Flowers for the Broken(1992) を精読する。Saenz は米墨の国境都市エルパソに住む作家・詩人である。「ボーダー」はアメリカの社会問題としても頻繁に取り上げられるテーマであるが、その「ボーダー」を生活の場とする作家らしく、Saenzの作品では文化の混交や衝突が文学的に形象化される。上記短編集を技法面にも注意を向けつつ精読し、アメリカ国境地帯の現状と歴史について検討する。
到達目標	英文読解力の向上はもちろんのこと、複雑さを増しつつ変わりゆくアメリカへの理解を深める。
講義方法	輪読形式で進める。少人数と見込まれる受講生は、ほぼ毎回一定のページ数について自分の「読み」を発表することになる。その発表を契機にしてディスカッションへと展開したい。
準備学習	テキストの予習が必須であることは言うまでもない。加えて、作品理解の助けとなるよう、近年のアメリカ事情や文化についてのさまざまな分野の研究書に触れることも有益である。
成績評価	授業への参加度と発表の出来具合(70%)、レポート(30%)
講義構成	第1回 イントロダクション/オリエンテーション 第2回～5回 Saenz の短編作品の精読を始める前に、歴史的背景を知るために歴史家David J. Webber 著 The Spanish Frontier in North Americaの“Introduction” を、4回を費やして読む。 以下、前期は3つの作品を次の順番で読む。 第6回～8回 “Exile” 第9回～12回 “Cebolleros” 第13回～15回 “Flowers for the Broken”
教科書	上に挙げたとおり。受講者が確定した時点で担当者が手配する。

授業コード	W2A33		
授業科目名	英米文学演習 IIa (前)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	予約の上随時		

講義の内容	単なる読解に終始するのではなく、どのような視座で解釈するのか、たえず能動的に働きかけていく習慣をつけよう。たとえばテキストを翻案してみたり、台本に変えてみたりするくらいの意欲をつちかていこう。これまでの英語力、思考力をさらに伸ばす授業になるはず。そして何よりも考える楽しさと言葉の力を学ぶことになる。
-------	--

	しょう。
到達目標	自分の力で思考し、わかりやすい言葉でその考えたことを伝えることができるように目指そう。
講義方法	テキストのニュアンスを最大限に拾い上げるやり方で、ともに読みこなしていこう。
準備学習	テキストのニュアンスを最大限に拾い上げるやり方で、ともに読みこなしていこう。
成績評価	平常点100%で評価します。
講義構成	次の点に留意して授業を進めていきます。 1. ノンセンス文学 2. 言葉とノンセンス 3. 視覚芸術と言葉 4. 子供の「誕生」 5. 解釈の方法 6. テキストの受容
教科書	Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland (The Centenary Edition, Penguin Books)
参考書・資料	授業中に指示します。

授業コード	W2A34		
授業科目名	英米文学演習 IIa (前)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜昼		

講義の内容	Paul Auster の最新作 Invisible (Henry Holt, 2009)を読む。
到達目標	ポストモダン小説の「現在」への理解。
講義方法	精読および発表
準備学習	毎回の範囲を必ず読んでくること。
成績評価	受講姿勢を重視した上でレポートを課す。
講義構成	1. イントロ 2. 作家紹介 3. 講読 4. 解釈
教科書	Paul Auster, Invisible (henry Holt, 2009)

授業コード	W2A41		
授業科目名	英米文学演習 IIb (後)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	歴史・文化・宗教的背景に留意しながらNathaniel HawthorneのThe Scarlet Letterを精読する。
到達目標	論文作成。
講義方法	1週1章のペースでテキストを精読する。
準備学習	毎週予定の章並びに指示する資料をを読んでおくこと。

成績評価	平常点並びにレポートに基づいて評価する。
講義構成	基本的に1週1章のペースでテキストを精読する。
教科書	Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter (Norton)

授業コード	W2A42		
授業科目名	英米文学演習 IIb (後)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	水曜12:20～13:00		

講義の内容	Benjamin Alire Saenz の短編集 Flowers for the Broken(1992) を精読する。Saenz は米墨の国境都市エルパソに住む作家・詩人である。「ボーダー」はアメリカの社会問題としても頻繁に取り上げられるテーマであるが、その「ボーダー」を生活の場とする作家らしく、Saenzの作品では文化の混交や衝突が文学的に形象化される。上記短編集を技法面にも注意を向けつつ精読し、アメリカ国境地帯の現状と歴史について検討する。
到達目標	英文読解力の向上はもちろんのこと、複雑さを増しつつ変わりゆくアメリカへの理解を深める。
講義方法	輪読形式で進める。少人数と見込まれる受講生は、ほぼ毎回一定のページ数について自分の「読み」を発表することになる。その発表を契機にしてディスカッションへと展開したい。
準備学習	テキストの予習が必須であることは言うまでもない。加えて、作品理解の助けとなるよう、近年のアメリカ事情や文化についてのさまざまな分野の研究書に触れることも有益である。
成績評価	授業への参加度と発表の出来具合(70%)、レポート(30%)
講義構成	前期に引き続き、Flowers for the Brokenから以下の作品を読み進める。 第1回～4回 “Obliterate the Night” 第5回～8回 “Kill the Poor” 第9回～11回 “Alligator Park” 第12回～14回 “Holy Week” 第15回 “Between Worlds”(epilogue)
教科書	上記の通り前期と同様。

授業コード	W2A43		
授業科目名	英米文学演習 IIb (後)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	予約の上随時		

講義の内容	単なる読解に終始するのではなく、どのような視座で解釈するのか、たえず能動的に働きかけていく習慣をつけよう。たとえばテキストを翻案してみたり、台本に変えてみたりするくらいの意欲をつちかていこう。これまでの英語力、思考力をさらに伸ばす授業になるはず。そして何よりも考える楽しさと言葉の力を学ぶことになるでしょう。
到達目標	自分の力で思考し、わかりやすい言葉でその考えたことを伝えることができるように目指そう。
講義方法	テキストのニュアンスを最大限に拾い上げるやり方で、ともに読みこなしていこう。
準備学習	まずテキストのニュアンスを全身を全開させてとらえてみましょう。行間の意味が必ずわきあがってきます。
成績評価	レポートなどの平常点100%で評価します。
講義構成	次の点に留意して授業を進めていきます。 1. ノンセンス文学

	2. 言葉とノンセンス 3. 視覚芸術と言葉 4. 子供の「誕生」 5. 解釈の方法 6. テキストの受容
教科書	Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland (The Centenary Edition, Penguin Books)
参考書・資料	授業中に指示します。
担当者から一言	将来の目標を見定めてください。

授業コード	W2A44		
授業科目名	英米文学演習 IIb (後)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜昼		

講義の内容	Paul Auster の最新作 Invisible (Henry Holt, 2009)を読む。		
到達目標	ポストモダン小説の「現在」への理解。		
講義方法	精読および発表		
準備学習	毎回の範囲を必ず読んでくること。		
成績評価	受講姿勢を重視した上でレポートを課す。		
講義構成	1. イントロ 2. 作家紹介 3. 講読 4. 解釈		
教科書	Paul Auster, Invisible (henry Holt, 2009)		

授業コード	W2A51		
授業科目名	英米文学演習 IIIa (前)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	歴史・文化・宗教的背景に留意しながらNathaniel HawthorneのThe Scarlet Letterを精読する。		
到達目標	論文作成。		
講義方法	1週1章のペースでテキストを精読する。		
準備学習	毎週予定の章並びに指示する資料をを読んでおくこと。		
成績評価	平常点並びにレポートに基づいて評価する。		
講義構成	基本的に1週1章のペースでテキストを精読する。		
教科書	Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter (Norton)		

授業コード	W2A52
-------	-------

授業科目名	英米文学演習 IIIa (前)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	水曜12:20～13:00		

講義の内容	Benjamin Alire Saenz の短編集 Flowers for the Broken(1992) を精読する。Saenz は米墨の国境都市エルパソに住む作家・詩人である。「ボーダー」はアメリカの社会問題としても頻繁に取り上げられるテーマであるが、その「ボーダー」を生活の場とする作家らしく、Saenzの作品では文化の混交や衝突が文学的に形象化される。上記短編集を技法面にも注意を向けつつ精読し、アメリカ国境地帯の現状と歴史について検討する。
到達目標	英文読解力の向上はもちろんのこと、複雑さを増しつつ変わりゆくアメリカへの理解を深める。
講義方法	輪読形式で進める。少人数と見込まれる受講生は、ほぼ毎回一定のページ数について自分の「読み」を発表することになろう。その発表を契機にしてディスカッションへと展開したい。
準備学習	テキストの予習が必須であることは言うまでもない。加えて、作品理解の助けとなるよう、近年のアメリカ事情や文化についてのさまざまな分野の研究書に触れることも有益である。
成績評価	授業への参加度と発表の出来具合(70%)、レポート(30%)
講義構成	第1回 イントロダクション/オリエンテーション 第2回～5回 Saenz の短編作品の精読を始める前に、歴史的背景を知るために歴史家David J. Webber 著 The Spanish Frontier in North Americaの“Introduction” を、4回を費やして読む。 以下、前期は3つの作品を次の順番で読む。 第6回～8回 “Exile” 第9回～12回 “Cebolleros” 第13回～15回 “Flowers for the Broken”
教科書	上に挙げたとおり。受講者が確定した時点で担当者が手配する。

授業コード	W2A53		
授業科目名	英米文学演習 IIIa (前)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	予約の上随時		

講義の内容	単なる読解に終始するのではなく、どのような視座で解釈するのか、たえず能動的に働きかけていく習慣をつけよう。たとえばテキストを翻案してみたり、台本に変えてみたりするくらいの意欲をつちかていこう。これまでの英語力、思考力をさらに伸ばす授業になるはず。そして何よりも考える楽しさと言葉の力を学ぶことになるでしょう。
到達目標	自分の力で思考し、わかりやすい言葉でその考えたことを伝えることができるように目指そう。
講義方法	テキストのニュアンスを最大限に拾い上げるやり方で、ともに読みこなしていこう。
準備学習	まずテキストのニュアンスを全身を全開させてとらえてみましょう。行間の意味が必ずわきあがってきます。
成績評価	平常点100%で評価します。
講義構成	次の点に留意して授業を進めていきます。 1. ノンセンス文学 2. 言葉とノンセンス 3. 視覚芸術と言葉 4. 子供の「誕生」 5. 解釈の方法 6. テキストの受容

教科書	Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland (The Centenary Edition, Penguin Books)
参考書・資料	授業中に指示します。
担当者から一言	将来の目標を見定めてください。

授業コード	W2A54		
授業科目名	英米文学演習 IIIa (前)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜昼		

講義の内容	Paul Auster の最新作 Invisible (Henry Holt, 2009)を読む。		
到達目標	ポストモダン小説の「現在」への理解。		
講義方法	精読および発表		
準備学習	毎回の範囲を必ず読んでくること。		
成績評価	受講姿勢を重視した上でレポートを課す。		
講義構成	1. イントロ 2. 作家紹介 3. 講読 4. 解釈		
教科書	Paul Auster, Invisible (henry Holt, 2009)		

授業コード	W2A61		
授業科目名	英米文学演習 IIIb (後)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	歴史・文化・宗教的背景に留意しながらNathaniel HawthorneのThe Scarlet Letterを精読する。		
到達目標	論文作成。		
講義方法	1週1章のペースでテキストを精読する。		
準備学習	毎週予定の章並びに指示する資料をを読んでおくこと。		
成績評価	平常点並びにレポートに基づいて評価する。		
講義構成	基本的に1週1章のペースでテキストを精読する。		
教科書	Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter (Norton)		

授業コード	W2A62		
授業科目名	英米文学演習 IIIb (後)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限

オフィスアワー	水曜12:20～13:00
講義の内容	Benjamin Alire Saenz の短編集 Flowers for the Broken(1992) を精読する。Saenz は米墨の国境都市エルパソに住む作家・詩人である。「ボーダー」はアメリカの社会問題としても頻繁に取り上げられるテーマであるが、その「ボーダー」を生活の場とする作家らしく、Saenzの作品では文化の混交や衝突が文学的に形象化される。上記短編集を技法面にも注意を向けつつ精読し、アメリカ国境地帯の現状と歴史について検討する。
到達目標	英文読解力の向上はもちろんのこと、複雑さを増しつつ変わりゆくアメリカへの理解を深める。
講義方法	輪読形式で進める。少人数と見込まれる受講生は、ほぼ毎回一定のページ数について自分の「読み」を発表することになろう。その発表を契機にしてディスカッションへと展開したい。
準備学習	テキストの予習が必須であることは言うまでもない。加えて、作品理解の助けとなるよう、近年のアメリカ事情や文化についてのさまざまな分野の研究書に触れることも有益である。
成績評価	授業への参加度と発表の出来具合(70%)、レポート(30%)
講義構成	前期に引き続き、Flowers for the Brokenから 以下の作品を読み進める。 第1回～4回 “Obliterate the Night” 第5回～8回 “Kill the Poor” 第9回～11回 “Alligator Park” 第12回～14回 “Holy Week” 第15回 “Between Worlds”(epilogue)
教科書	上記の通り前期と同様。

授業コード	W2A63		
授業科目名	英米文学演習 IIIb (後)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	予約の上随時		

講義の内容	単なる読解に終始するのではなく、どのような視座で解釈するのか、たえず能動的に働きかけていく習慣をつけよう。たとえばテキストを翻案してみたり、台本に変えてみたりするくらいの意欲をつちかていこう。これまでの英語力、思考力をさらに伸ばす授業になるはず。そして何よりも考える楽しさと言葉の力を学ぶことになるでしょう。
到達目標	自分の力で思考し、わかりやすい言葉でその考えたことを伝えることができるように目指そう。
講義方法	テキストのニュアンスを最大限に拾い上げるやり方で、ともに読みこなしていこう。
準備学習	まずテキストのニュアンスを全身を全開させてとらえてみましょう。行間の意味が必ずわきあがってきます。
成績評価	レポートなどの平常点100%で評価します。
講義構成	次の点に留意して授業を進めていきます。 1. ノンセンス文学 2. 言葉とノンセンス 3. 視覚芸術と言葉 4. 子供の「誕生」 5. 解釈の方法 6. テキストの受容
教科書	Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland (The Centenary Edition, Penguin Books)
参考書・資料	授業中に指示します。
担当者から一言	将来の目標を見定めてください。

授業コード	W2A64
-------	-------

授業科目名	英米文学演習 IIIb (後)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜昼		

講義の内容	Paul Auster の最新作 Invisible (Henry Holt, 2009)を読む。		
到達目標	ポストモダン小説の「現在」への理解。		
講義方法	精読および発表		
準備学習	毎回の範囲を必ず読んでくること。		
成績評価	受講姿勢を重視した上でレポートを課す。		
講義構成	1. イントロ 2. 作家紹介 3. 講読 4. 解釈		
教科書	Paul Auster, Invisible (henry Holt, 2009)		

授業コード	W2A71		
授業科目名	英米文学演習 IVa (前)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	歴史・文化・宗教的背景に留意しながらNathaniel HawthorneのThe Scarlet Letterを精読する。		
到達目標	論文作成。		
講義方法	1週1章のペースでテキストを精読する。		
準備学習	毎週予定の章並びに指示する資料をを読んでおくこと。		
成績評価	平常点並びにレポートに基づいて評価する。		
講義構成	基本的に1週1章のペースでテキストを精読する。		
教科書	Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter (Norton)		

授業コード	W2A72		
授業科目名	英米文学演習 IVa (前)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	水曜12:20~13:00		

講義の内容	Benjamin Alire Saenz の短編集 Flowers for the Broken(1992) を精読する。Saenz は米墨の国境都市エルパソに住む作家・詩人である。「ボーダー」はアメリカの社会問題としても頻繁に取り上げられるテーマであるが、その「ボーダー」を生活の場とする作家らしく、Saenzの作品では文化の混交や衝突が文学的に形象化される。上記短編集を技法面にも注意を向けつつ精読し、アメリカ国境地帯の現状と歴史について検討する。		
-------	--	--	--

到達目標	英文読解力の向上はもちろんのこと、複雑さを増しつつ変わりゆくアメリカへの理解を深める。
講義方法	輪読形式で進める。少人数と見込まれる受講生は、ほぼ毎回一定のページ数について自分の「読み」を発表することになろう。その発表を契機にしてディスカッションへと展開したい。
準備学習	テキストの予習が必須であることは言うまでもない。加えて、作品理解の助けとなるよう、近年のアメリカ事情や文化についてのさまざまな分野の研究書に触れることも有益である。
成績評価	授業への参加度と発表の出来具合(70%)、レポート(30%)
講義構成	第1回 イントロダクション/オリエンテーション 第2回～5回 Saenz の短編作品の精読を始める前に、歴史的背景を知るために歴史家David J. Webber 著 The Spanish Frontier in North Americaの“Introduction”を、4回を費やして読む。 以下、前期は3つの作品を次の順番で読む。 第6回～8回 “Exile” 第9回～12回 “Cebolleros” 第13回～15回 “Flowers for the Broken”
教科書	上に挙げたとおり。受講者が確定した時点で担当者が手配する。

授業コード	W2A73		
授業科目名	英米文学演習 IVa (前)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	予約の上随時		

講義の内容	単なる読解に終始するのではなく、どのような視座で解釈するのか、たえず能動的に働きかけていく習慣をつけよう。たとえばテキストを翻案してみたり、台本に変えてみたりするくらいの意欲をつちかていこう。これまでの英語力、思考力をさらに伸ばす授業になるはずです。そして何よりも考える楽しさと言葉の力を学ぶことになるでしょう。		
到達目標	自分の力で思考し、わかりやすい言葉でその考えたことを伝えることができるように目指そう。		
講義方法	テキストのニュアンスを最大限に拾い上げるやり方で、ともに読みこなしていこう。		
準備学習	まずテキストのニュアンスを全身を全開させてとらえてみましょう。行間の意味が必ずわきあがってきます。		
成績評価	レポートなどの平常点100%で評価します。		
講義構成	次の点に留意して授業を進めていきます。 1. ノンセンス文学 2. 言葉とノンセンス 3. 視覚芸術と言葉 4. 子供の「誕生」 5. 解釈の方法 6. テクストの受容		
教科書	Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland (The Centenary Edition, Penguin Books)		
参考書・資料	授業中に指示します。		

授業コード	W2A74		
授業科目名	英米文学演習 IVa (前)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限

オフィスアワー	金曜昼
講義の内容	Paul Auster の最新作 Invisible (Henry Holt, 2009)を読む。
到達目標	ポストモダン小説の「現在」への理解。
講義方法	精読および発表
準備学習	毎回の範囲を必ず読んでくること。
成績評価	受講姿勢を重視した上でレポートを課す。
講義構成	1. イントロ 2. 作家紹介 3. 講読 4. 解釈
教科書	Paul Auster, Invisible (henry Holt, 2009)

授業コード	W2A81		
授業科目名	英米文学演習 IVb (後)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	歴史・文化・宗教的背景に留意しながらNathaniel HawthorneのThe Scarlet Letterを精読する。
到達目標	論文作成。
講義方法	1週1章のペースでテキストを精読する。
準備学習	毎週予定の章並びに指示する資料をを読んでおくこと。
成績評価	平常点並びにレポートに基づいて評価する。
講義構成	基本的に1週1章のペースでテキストを精読する。
教科書	Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter (Norton)

授業コード	W2A82		
授業科目名	英米文学演習 IVb (後)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	水曜12:20～13:00		

講義の内容	Benjamin Alire Saenz の短編集 Flowers for the Broken(1992) を精読する。Saenz は米墨の国境都市エルパソに住む作家・詩人である。「ボーダー」はアメリカの社会問題としても頻繁に取り上げられるテーマであるが、その「ボーダー」を生活の場とする作家らしく、Saenzの作品では文化の混交や衝突が文学的に形象化される。上記短編集を技法面にも注意を向けつつ精読し、アメリカ国境地帯の現状と歴史について検討する。
到達目標	英文読解力の向上はもちろんのこと、複雑さを増しつつ変わりゆくアメリカへの理解を深める。
講義方法	輪読形式で進める。少人数と見込まれる受講生は、ほぼ毎回一定のページ数について自分の「読み」を発表することになる。その発表を契機にしてディスカッションへと展開したい。
準備学習	テキストの予習が必須であることは言うまでもない。加えて、作品理解の助けとなるよう、近年のアメリカ事情や文化についてのさまざまな分野の研究書に触れることも有益である。
成績評価	授業への参加度と発表の出来具合(70%)、レポート(30%)
講義構成	前期に引き続き、Flowers for the Brokenから 以下の作品を読み進める。

	第1回～4回 “Obliterate the Night” 第5回～8回 “Kill the Poor” 第9回～11回 “Alligator Park” 第12回～14回 “Holy Week” 第15回 “Between Worlds”(epilogue)
教科書	上記の通り前期と同様。

授業コード	W2A83		
授業科目名	英米文学演習 IVb (後)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	予約の上随時		

講義の内容	単なる読解に終始するのではなく、どのような視座で解釈するのか、たえず能動的に働きかけていく習慣をつけよう。たとえばテキストを翻案してみたり、台本に変えてみたりするくらいの意欲をつちかっていこう。これまでの英語力、思考力をさらに伸ばす授業になるはず。そして何よりも考える楽しさと言葉の力を学ぶことになるでしょう。
到達目標	自分の力で思考し、わかりやすい言葉でその考えたことを伝えることができるように目指そう。
講義方法	テキストのニュアンスを最大限に拾い上げるやり方で、ともに読みこなしていこう。
準備学習	まずテキストのニュアンスを全身を全開させてとらえてみましょう。行間の意味が必ずわきあがってきます。
成績評価	レポートなどの平常点100%で評価します。
講義構成	次の点に留意して授業を進めていきます。 1. ノンセンス文学 2. 言葉とノンセンス 3. 視覚芸術と言葉 4. 子供の「誕生」 5. 解釈の方法 6. テキストの受容
教科書	Lewis Carroll, Alice's Adventures in Wonderland (The Centenary Edition, Penguin Books)
参考書・資料	授業中に指示します。
担当者から一言	将来の目標を見定めてください。

授業コード	W2A84		
授業科目名	英米文学演習 IVb (後)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜昼		

講義の内容	Paul Auster の最新作 Invisible (Henry Holt, 2009)を読む。
到達目標	ポストモダン小説の「現在」への理解。
講義方法	精読および発表
準備学習	毎回の範囲を必ず読んでくること。
成績評価	受講姿勢を重視した上でレポートを課す。
講義構成	1. イントロ

	2. 作家紹介 3. 講読 4. 解釈
教科書	Paul Auster, Invisible (henry Holt, 2009)

授業コード	W2J11		
授業科目名	英米文学研究 Ia (前)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	スヌーピーに描かれたキリスト教教義を研究する。		
到達目標	西洋の文化を理解する上で必須のキリスト教の予備知識を修得する。		
講義方法	スヌーピーにおける神学を論じたテキストを読みながらキリスト教の予備知識を学ぶ。		
準備学習	毎週予定の個所を予め読んでおくこと。		
成績評価	平常点並びにレポートに基づいて評価する。		
講義構成	罪と救済の観点から基礎的なキリスト教教義を学ぶ。		
教科書	Robert L. Short, The Gospel According to Peanuts (Westminster John Knox Press)		

授業コード	W2J12		
授業科目名	英米文学研究 Ia (前)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	水曜12:20～13:00		

講義の内容	Laurence W. Levine の The Opening of the American Mind (1997) を読む。Levineは歴史家であるが、1980年代、90年代のアメリカを特徴づける「正典」(canon) 論争や「多文化主義」論争を、歴史的観点のもとに要領よく整理しながら自説を展開している。文学および文学研究の流れにもしばしば言及しているので、アメリカ文学研究の立場からLevine の論を検討し、Culture Wars と呼ばれた上記の論争を再考する。		
到達目標	英語読解力を向上させると同時に、多様性をかかえたアメリカ社会の歴史と文学について理解を深める。		
講義方法	輪読形式で行なう。受講生には章ごとの内容をまとめて発表してもらう。その発表に基づいてディスカッションへと発展させたい。		
準備学習	テキストの予習は言うまでもないが、広く読まれ邦訳もある Arthur Schlesinger, Jr. の The Disuniting of America や Allan Bloom の The Closing of the American Mind などの関連書を併せて読むことが望ましい。詳細は授業で指示する。		
成績評価	授業への参加度と発表の出来具合(70%)、レポート(30%)		
講義構成	第1回 イントロダクション / オリエンテーション 以下、必ずしも本の順番どおりではないが、前期は次の章を読む。 第2回～4回 Prologue 第5回～8回 From the Melting Pot to the Pluralist Vision 第9回～12回 The Ethnic Dynamic 第13回～15回 Multiculturalism: Historians, Universities, and the Emerging Nation		
教科書	上に挙げたとおり。受講者が確定した時点で担当者が手配する。		

授業コード	W2J13		
授業科目名	英米文学研究 Ia (前)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	水曜日12時15分から13時まで		

講義の内容	ワーズワスの妹ドロシーの「日記」を読み、18世紀末のイギリス社会の動向、変遷を読みとっていきたい。この「日記」は「女性史」の格好のテキストとなりうるので、ロマン派文学が照射する、現在に通じる諸問題を浮き上がらせてくれるはずである。		
到達目標	自分の思考をわかりやすい言葉で伝えることができるようにしましょう。		
講義方法	あらゆる疑問を提示し、詳しく読んでいきたいと思います。		
準備学習	William Wordsworth, Selected Poemsからできるだけ多くの詩を読んでおきましょう。		
成績評価	レポートのみの成績評価とし、定期試験は実施しません。		
講義構成	授業の進行は受講生と話し合いたいと思います。		
教科書	Dorothy Wordsworth, The Grasmere and Alfoxden Journals (Oxford World's Classics)		
参考書・資料	講義時に随時指定します。		

授業コード	W2J14		
授業科目名	英米文学研究 Ia (前)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	Major British authors will be offered. Possibilities include Shakespeare Studies, including the reception of Shakespeare in Japan, Charles Dickens, continuing the strong tradition of Dickens Studies at Konan, and Children's Literature from a historical, psychological or literary perspective. Students with a particular interest in some other aspect of British Literature are invited to discuss the possibility of studying it in this class.		
到達目標	Understanding literature depends primarily on a deep understanding of the text, and the immediate goal of this class will be to analyze and discuss the chosen text, and then to study it in relation to other works and the period in which it was written. Some students may choose to write their Masters' thesis on a British author, and that will then be their primary goal.		
講義方法	Some classes will be in lecture style, and cover aspects of the themes and background of the works under study. Others will take the form of a seminar in which students will be expected to participate actively in discussion. If appropriate, videos will be used to illustrate how studying the play in production or a film version of a novel can help to illuminate the critical issues involved.		
準備学習	Students will be expected to prepare sections of the text before the class so that they can participate actively in contribution to discussion. Extensive background reading will be expected.		
成績評価	The most important thing is for students to show commitment to their research. Substantial papers will be required. Thorough preparation and active participation in discussion will be give credit.		
講義構成	Details to be given in the class.		
教科書	Particular texts will be recommended and in some cases provided by the instructor. Duplicated materials will also be provided by the instructor.		

授業コード	W2J15		
-------	-------	--	--

授業科目名	英米文学研究 Ia (前)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	専門的文学研究の初歩として批評理論を概観し、批評するための道具を身につける。
到達目標	特定の批評理論に与するのではなく、理論を使って作品の読解を実践できるようになることを目標とする。
講義方法	批評理論に関する英文の入門書を精読する。発表も取り入れたい。
準備学習	テキストの予習は必須。そのうえで可能な限り参考文献を読むこと。
成績評価	受講姿勢を重視した上でレポートを課す。
講義構成	1. イントロ 2. 批評理論とは？ 3. 精神分析批評 4. マルクス主義批評 5. フェミニスト批評 6. 新批評 7. 読者反応論批評 8. 構造主義 9. 脱構築 10. ニューヒストリシズム/カルチュラルスタディーズ 11. クイア批評 12. ポストコロニアル批評
教科書	Lois Tyson, Critical Theory Today (Routledge, 2006)
参考書・資料	講義中に適宜指示する。
担当者から一言	専門的に批評をするための理論を身につけます。それは文学作品だけではなく、この世界を読み解くためのツールともなるはずです。 英文のテキストを使いますが、それ以上に自分でどれくらい参考文献を読むかが重要になります。

授業コード	W2J21		
授業科目名	英米文学研究 Ib (後)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	スヌーピーに描かれたキリスト教教義を研究する。
到達目標	西洋の文化を理解する上で必須のキリスト教の予備知識を修得する。
講義方法	スヌーピーにおける神学を論じたテキストを読みながらキリスト教の予備知識を学ぶ。
準備学習	毎週予定の箇所を予め読んでおくこと。
成績評価	平常点並びにレポートに基づいて評価する。
講義構成	罪と救済の観点から基礎的なキリスト教教義を学ぶ。
教科書	Robert L. Short, The Gospel According to Peanuts (Westminster John Knox Press)

授業コード	W2J22
-------	-------

授業科目名	英米文学研究 Ib (後)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	水曜12:20～13:00		

講義の内容	Laurence W. Levine の The Opening of the American Mind (1997) を読む。Levineは歴史家であるが、1980年代、90年代のアメリカを特徴づける「正典」(canon) 論争や「多文化主義」論争を、歴史的観点のもとに要領よく整理しながら自説を展開している。文学および文学研究の流れにもしばしば言及しているので、アメリカ文学研究の立場からLevine の論を検討し、Culture Wars と呼ばれた上記の論争を再考する。
到達目標	英語読解力を向上させると同時に、多様性をかかえたアメリカ社会の歴史と文学について理解を深める。
講義方法	輪読形式で行なう。受講生には章ごとの内容をまとめて発表してもらう。その発表に基づいてディスカッションへと発展させたい。
準備学習	テキストの予習は言うまでもないが、広く読まれ邦訳もある Arthur Schlesinger, Jr. の The Disuniting of America や Allan Bloom の The Closing of the American Mind などの関連書を併せて読むことが望ましい。詳細は授業で指示する。
成績評価	授業への参加度と発表の出来具合(70%)、レポート(30%)
講義構成	前期に引き続き後期は以下の章を読む。 第1回～5回 Through the Looking Glass 第6回～9回 English and American: A Tale of Two Literatures 第10回～13回 Canons and Culture 第14回 Epilogue 第15回 まとめ
教科書	上に挙げたとおり。受講者が確定した時点で担当者が手配する。

授業コード	W2J23		
授業科目名	英米文学研究 Ib (後)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	水曜日12時15分から13時まで		

講義の内容	ワーズワスの妹ドロシーの「日記」を読み、18世紀末のイギリス社会の動向、変遷を読みとっていきたい。この「日記」は「女性史」の格好のテキストとなりうるので、ロマン派文学が照射する、現在に通じる諸問題を浮き上がらせてくれるはずである。
到達目標	自分の思考をわかりやすい言葉で伝えることができるようにしましょう。
講義方法	あらゆる疑問を提示し、詳しく読んでいきたいと思います。
準備学習	William Wordsworth, Selected Poemsからできるだけ多くの詩を読んでおきましょう。
成績評価	レポートのみの成績評価とし、定期試験は実施しません。
講義構成	授業の進行は受講生と話し合いたいと思います。
教科書	Dorothy Wordsworth, The Grasmere and Alfoxden Journals (Oxford World's Classics)
参考書・資料	講義時に随時指定します。

授業コード	W2J24		
授業科目名	英米文学研究 Ib (後)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		

配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
講義の内容	Major British authors will be offered. Possibilities include Shakespeare Studies, including the reception of Shakespeare in Japan, Charles Dickens, continuing the strong tradition of Dickens Studies at Konan, and Children's Literature from a historical, psychological or literary perspective. Students with a particular interest in some other aspect of British Literature are invited to discuss the possibility of studying it in this class.		
到達目標	Understanding literature depends primarily on a deep understanding of the text, and the immediate goal of this class will be to analyze and discuss the chosen text, and then to study it in relation to other works and the period in which it was written. Some students may choose to write their Masters' thesis on a British author, and that will then be their primary goal.		
講義方法	Some classes will be in lecture style, and cover aspects of the themes and background of the works under study. Others will take the form of a seminar in which students will be expected to participate actively in discussion. If appropriate, videos will be used to illustrate how studying the play in production or a film version of a novel can help to illuminate the critical issues involved.		
準備学習	Students will be expected to prepare sections of the text before the class so that they can participate actively in contribution to discussion. Extensive background reading will be expected.		
成績評価	The most important thing is for students to show commitment to their research. Substantial papers will be required. Thorough preparation and active participation in discussion will be give credit.		
講義構成	Details to be given in the class.		
教科書	Particular texts will be recommended and in some cases provided by the instructor. Duplicated materials will also be provided by the instructor.		

授業コード	W2J25		
授業科目名	英米文学研究 Ib (後)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	専門的文学研究の初歩として批評理論を概観し、批評するための道具を身につける。		
到達目標	特定の批評理論に与するのではなく、理論を使って作品の読解を実践できるようになることを目標とする。		
講義方法	批評理論に関する英文の入門書を精読する。発表も取り入れたい。		
準備学習	テキストの予習は必須。そのうえで可能な限り参考文献を読むこと。		
成績評価	受講姿勢を重視した上でレポートを課す。		
講義構成	1. イントロ 2. 批評理論とは？ 3. 精神分析批評 4. マルクス主義批評 5. フェミニスト批評 6. 新批評 7. 読者反応論批評 8. 構造主義 9. 脱構築 10. ニューヒストリシズム/カルチュラルスタディーズ 11. クイア批評 12. ポストコロニアル批評		
教科書	Lois Tyson, Critical Theory Today (Routledge, 2006)		
参考書・資料	講義中に適宜指示する。		

担当者から一言	専門的に批評をするための理論を身につけます。それは文学作品だけではなく、この世界を読み解くためのツールともなるはずです。
---------	--

	英文のテキストを使いますが、それ以上に自分でどれくらい参考文献を読むかが重要になります。
--	--

授業コード	W2J31		
授業科目名	英米文学研究 IIa (前)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	スヌーピーに描かれたキリスト教教義を研究する。		
到達目標	西洋の文化を理解する上で必須のキリスト教の予備知識を修得する。		
講義方法	スヌーピーにおける神学を論じたテキストを読みながらキリスト教の予備知識を学ぶ。		
準備学習	毎週予定の個所を予め読んでおくこと。		
成績評価	平常点並びにレポートに基づいて評価する。		
講義構成	罪と救済の観点から基礎的なキリスト教教義を学ぶ。		
教科書	Robert L. Short, The Gospel According to Peanuts (Westminster John Knox Press)		

授業コード	W2J32		
授業科目名	英米文学研究 IIa (前)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	水曜12:20～13:00		

講義の内容	Laurence W. Levine の The Opening of the American Mind (1997) を読む。Levineは歴史家であるが、1980年代、90年代のアメリカを特徴づける「正典」(canon) 論争や「多文化主義」論争を、歴史的観点のもとに要領よく整理しながら自説を展開している。文学および文学研究の流れにもしばしば言及しているので、アメリカ文学研究の立場からLevine の論を検討し、Culture Wars と呼ばれた上記の論争を再考する。		
到達目標	英語読解力を向上させると同時に、多様性をかかえたアメリカ社会の歴史と文学について理解を深める。		
講義方法	輪読形式で行なう。受講生には章ごとの内容をまとめて発表してもらう。その発表に基づいてディスカッションへと発展させたい。		
準備学習	テキストの予習は言うまでもないが、広く読まれ邦訳もある Arthur Schlesinger, Jr. の The Disuniting of America や Allan Bloom の The Closing of the American Mind などの関連書を併せて読むことが望ましい。詳細は授業で指示する。		
成績評価	授業への参加度と発表の出来具合(70%)、レポート(30%)		
講義構成	第1回 イントロダクション / オリエンテーション 以下、必ずしも本の順番どおりではないが、前期は次の章を読む。 第2回～4回 Prologue 第5回～8回 From the Melting Pot to the Pluralist Vision 第9回～12回 The Ethnic Dynamic 第13回～15回 Multiculturalism: Historians, Universities, and the Emerging Nation		
教科書	上に挙げたとおり。受講者が確定した時点で担当者が手配する。		

授業コード	W2J33		
-------	-------	--	--

授業科目名	英米文学研究 IIa (前)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	水曜日12時15分から13時まで		

講義の内容	ワーズワスの妹ドロシーの「日記」を読み、18世紀末のイギリス社会の動向、変遷を読みとっていきたい。この「日記」は「女性史」の格好のテキストとなりうるので、ロマン派文学が照射する、現在に通じる諸問題を浮き上がらせてくれるはずである。
到達目標	自分の思考をわかりやすい言葉で伝えることができるようにしましょう。
講義方法	あらゆる疑問を提示し、詳しく読んでいきたいと思います。
準備学習	William Wordsworth, Selected Poemsからできるだけ多くの詩を読んでおきましょう。
成績評価	レポートのみの成績評価とし、定期試験は実施しません。
講義構成	授業の進行は受講生と話し合いたいと思います。
教科書	Dorothy Wordsworth, The Grasmere and Alfoxden Journals (Oxford World's Classics)
参考書・資料	講義時に随時指定します。

授業コード	W2J34		
授業科目名	英米文学研究 IIa (前)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	Major British authors will be offered. Possibilities include Shakespeare Studies, including the reception of Shakespeare in Japan, Charles Dickens, continuing the strong tradition of Dickens Studies at Konan, and Children's Literature from a historical, psychological or literary perspective. Students with a particular interest in some other aspect of British Literature are invited to discuss the possibility of studying it in this class.
到達目標	Understanding literature depends primarily on a deep understanding of the text, and the immediate goal of this class will be to analyze and discuss the chosen text, and then to study it in relation to other works and the period in which it was written. Some students may choose to write their Masters' thesis on a British author, and that will then be their primary goal.
講義方法	Some classes will be in lecture style, and cover aspects of the themes and background of the works under study. Others will take the form of a seminar in which students will be expected to participate actively in discussion. If appropriate, videos will be used to illustrate how studying the play in production or a film version of a novel can help to illuminate the critical issues involved.
準備学習	Students will be expected to prepare sections of the text before the class so that they can participate actively in contribution to discussion. Extensive background reading will be expected.
成績評価	The most important thing is for students to show commitment to their research. Substantial papers will be required. Thorough preparation and active participation in discussion will be give credit.
講義構成	Details to be given in the class.
教科書	Particular texts will be recommended and in some cases provided by the instructor. Duplicated materials will also be provided by the instructor.

授業コード	W2J35		
授業科目名	英米文学研究 IIa (前)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		

配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	専門的文学研究の初歩として批評理論を概観し、批評するための道具を身につける。
到達目標	特定の批評理論に与するのではなく、理論を使って作品の読解を実践できるようになることを目標とする。
講義方法	批評理論に関する英文の入門書を精読する。発表も取り入れたい。
準備学習	テキストの予習は必須。そのうえで可能な限り参考文献を読むこと。
成績評価	受講姿勢を重視した上でレポートを課す。
講義構成	1. イントロ 2. 批評理論とは？ 3. 精神分析批評 4. マルクス主義批評 5. フェミニスト批評 6. 新批評 7. 読者反応論批評 8. 構造主義 9. 脱構築 10. ニューヒストリシズム/カルチュラルスタディーズ 11. クイア批評 12. ポストコロニアル批評
教科書	Lois Tyson, Critical Theory Today (Routledge, 2006)
参考書・資料	講義中に適宜指示する。
担当者から一言	専門的に批評をするための理論を身につけます。それは文学作品だけではなく、この世界を読み解くためのツールともなるはずです。 英文のテキストを使いますが、それ以上に自分でどれくらい参考文献を読むかが重要になります。

授業コード	W2J41		
授業科目名	英米文学研究 IIb (後)		
担当者名	青山義孝(アオヤマ ヨシタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	火曜日昼休み		
講義の内容	スヌーピーに描かれたキリスト教教義を研究する。		
到達目標	西洋の文化を理解する上で必須のキリスト教の予備知識を修得する。		
講義方法	スヌーピーにおける神学を論じたテキストを読みながらキリスト教の予備知識を学ぶ。		
準備学習	毎週予定の箇所を予め読んでおくこと。		
成績評価	平常点並びにレポートに基づいて評価する。		
講義構成	罪と救済の観点から基礎的なキリスト教教義を学ぶ。		
教科書	Robert L. Short, The Gospel According to Peanuts (Westminster John Knox Press)		

授業コード	W2J42		
授業科目名	英米文学研究 IIb (後)		
担当者名	大森義彦(オオモリ ヨシヒコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限

オフィスアワー	水曜12:20～13:00
講義の内容	Laurence W. Levine の The Opening of the American Mind (1997) を読む。Levineは歴史家であるが、1980年代、90年代のアメリカを特徴づける「正典」(canon) 論争や「多文化主義」論争を、歴史的観点のもとに要領よく整理しながら自説を展開している。文学および文学研究の流れにもしばしば言及しているので、アメリカ文学研究の立場からLevine の論を検討し、Culture Wars と呼ばれた上記の論争を再考する。
到達目標	英語読解力を向上させると同時に、多様性をかかえたアメリカ社会の歴史と文学について理解を深める。
講義方法	輪読形式で行なう。受講生には章ごとの内容をまとめて発表してもらう。その発表に基づいてディスカッションへと発展させたい。
準備学習	テキストの予習は言うまでもないが、広く読まれ邦訳もある Arthur Schlesinger, Jr. の The Disuniting of America や Allan Bloom の The Closing of the American Mind などの関連書を併せて読むことが望ましい。詳細は授業で指示する。
成績評価	授業への参加度と発表の出来具合(70%)、レポート(30%)
講義構成	前期に引き続き後期は以下の章を読む。 第1回～5回 Through the Looking Glass 第6回～9回 English and American: A Tale of Two Literatures 第10回～13回 Canons and Culture 第14回 Epilogue 第15回 まとめ
教科書	上に挙げたとおり。受講者が確定した時点で担当者が手配する。

授業コード	W2J43		
授業科目名	英米文学研究 IIb (後)		
担当者名	中島俊郎(ナカジマ トシロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	水曜日12時15分から13時まで		

講義の内容	ワーズワスの妹ドロシーの「日記」を読み、18世紀末のイギリス社会の動向、変遷を読みとっていききたい。この「日記」は「女性史」の格好のテキストとなりうるので、ロマン派文学が照射する、現在に通じる諸問題を浮き上がらせてくれるはずである。
到達目標	自分の思考をわかりやすい言葉で伝えることができるようにしましょう。
講義方法	あらゆる疑問を提示し、詳しく読んでいきたいと思います。
準備学習	William Wordsworth, Selected Poemsからできるだけ多くの詩を読んでおきましょう。
成績評価	レポートのみの成績評価とし、定期試験は実施しません。
講義構成	授業の進行は受講生と話し合いたいと思います。
教科書	Dorothy Wordsworth, The Grasmere and Alfoxden Journals (Oxford World's Classics)
参考書・資料	講義時に随時指定します。

授業コード	W2J44		
授業科目名	英米文学研究 IIb (後)		
担当者名	ライクロフト(ライクロフト デビッド w.)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	Major British authors will be offered. Possibilities include Shakespeare Studies, including the reception of Shakespeare in Japan, Charles Dickens, continuing the strong tradition of Dickens Studies at Konan, and Children's Literature from a historical, psychological or literary perspective. Students with a particular
-------	---

	interest in some other aspect of British Literature are invited to discuss the possibility of studying it in this class.
到達目標	Understanding literature depends primarily on a deep understanding of the text, and the immediate goal of this class will be to analyze and discuss the chosen text, and then to study it in relation to other works and the period in which it was written. Some students may choose to write their Masters' thesis on a British author, and that will then be their primary goal.
講義方法	Some classes will be in lecture style, and cover aspects of the themes and background of the works under study. Others will take the form of a seminar in which students will be expected to participate actively in discussion. If appropriate, videos will be used to illustrate how studying the play in production or a film version of a novel can help to illuminate the critical issues involved.
準備学習	Students will be expected to prepare sections of the text before the class so that they can participate actively in contribution to discussion. Extensive background reading will be expected.
成績評価	The most important thing is for students to show commitment to their research. Substantial papers will be required. Thorough preparation and active participation in discussion will be give credit.
講義構成	Details to be given in the class.
教科書	Particular texts will be recommended and in some cases provided by the instructor. Duplicated materials will also be provided by the instructor.

授業コード	W2J45		
授業科目名	英米文学研究 IIb (後)		
担当者名	秋元孝文(アキモト タカフミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	専門的文学研究の初歩として批評理論を概観し、批評するための道具を身につける。
到達目標	特定の批評理論に与するのではなく、理論を使って作品の読解を実践できるようになることを目標とする。
講義方法	批評理論に関する英文の入門書を精読する。発表も取り入れたい。
準備学習	テキストの予習は必須。そのうえで可能な限り参考文献を読むこと。
成績評価	受講姿勢を重視した上でレポートを課す。
講義構成	1. イントロ 2. 批評理論とは？ 3. 精神分析批評 4. マルクス主義批評 5. フェミニスト批評 6. 新批評 7. 読者反応論批評 8. 構造主義 9. 脱構築 10. ニューヒストリシズム/カルチュラルスタディーズ 11. クイア批評 12. ポストコロニアル批評
教科書	Lois Tyson, Critical Theory Today (Routledge, 2006)
参考書・資料	講義中に適宜指示する。
担当者から一言	専門的に批評をするための理論を身につけます。それは文学作品だけではなく、この世界を読み解くためのツールともなるはずです。 英文のテキストを使いますが、それ以上に自分でどれくらい参考文献を読むかが重要になります。

授業コード	W2021
-------	-------

授業科目名	英米文学特殊講義 Ia (前)		
担当者名	R.ケリー (ケリー リチャード J.)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	By appointment.		

講義の内容	Jonathan Swift's Gulliver's Travels. This course aims to give students the skill of appreciating English literary texts through experiencing the strange and unusual travels of Gulliver to different parts of the world.		
到達目標	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
講義方法	The course will be conducted interactively.		
準備学習	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
成績評価	Class participation: 40% Class projects: 30% End-of-semester Evaluation: 30% Total: 100%		
講義構成	Gulliver's Travels Voyage 1 Gulliver's Travels Voyage 2		
教科書	There is no set textbook for this course. Materials will be made available to students through downloading Adobe PDF files.		
参考書・資料	An e-dictionary is a requirement.		
講義関連事項	Reference material will be made available to students through URL recommendations.		

担当者から一言	Regular attendance at the classes is an essential part of this course.
ホームページタイトル	Recommended Websites will be announced in the classes.

授業コード	W2022		
授業科目名	英米文学特殊講義 Ib (後)		
担当者名	R.ケリー (ケリー リチャード J.)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	By appointment.		

講義の内容	Jonathan Swift's Gulliver's Travels. This course aims to give students the skill of appreciating English literary texts through experiencing the strange and unusual travels of Gulliver to different parts of the world.		
到達目標	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
講義方法	This course will be conducted interactively.		
準備学習	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
成績評価	Class participation: 40% Class projects: 30% End-of-semester Evaluation: 30% Total: 100%		
講義構成	Gulliver's Travels Voyage 3 Gulliver's Travels Voyage 4		
教科書	There is no set textbook for this course. Materials will be made available to students through downloading Adobe PDF files.		
参考書・資料	An e-dictionary is a requirement.		

講義関連事項	Reference material will be made available to students through URL recommendations.
担当者から一言	Regular attendance at the classes is essential for this course.
ホームページタイトル	Recommended Websites will be announced in the classes.

授業コード	W2023		
授業科目名	英米文学特殊講義 IIa (前)		
担当者名	R.ケリー (ケリー リチャード J.)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	By appointment.		

講義の内容	Jonathan Swift's Gulliver's Travels. This course aims to give students the skill of appreciating English literary texts through experiencing the strange and unusual travels of Gulliver to different parts of the world.
到達目標	開講時までにWEBシラバスを確認してください。
講義方法	The course will be conducted interactively.
準備学習	開講時までにWEBシラバスを確認してください。
成績評価	Class participation: 40% Class projects: 30% End-of-semester Evaluation: 30% Total: 100%
講義構成	Gulliver's Travels Voyage 1 Gulliver's Travels Voyage 2
教科書	There is no set textbook for this course. Materials will be made available to students through downloading Adobe PDF files.
参考書・資料	An e-dictionary is a requirement.
講義関連事項	Reference material will be made available to students through URL recommendations.

担当者から一言	Regular attendance at the classes is an essential part of this course.
ホームページタイトル	Recommended Websites will be announced in the classes.

授業コード	W2024		
授業科目名	英米文学特殊講義 IIb (後)		
担当者名	R.ケリー (ケリー リチャード J.)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	By appointment.		

講義の内容	Jonathan Swift's Gulliver's Travels. This course aims to give students the skill of appreciating English literary texts through experiencing the strange and unusual travels of Gulliver to different parts of the world.
到達目標	開講時までにWEBシラバスを確認してください。
講義方法	The course will be conducted interactively.
準備学習	開講時までにWEBシラバスを確認してください。
成績評価	Class participation: 40% Class projects: 30% End-of-semester Evaluation: 30%

	Total: 100%
講義構成	Gulliver's Travels Voyage 3 Gulliver's Travels Voyage 4
教科書	There is no set textbook for this course. Materials will be made available to students through downloading Adobe PDF files.
参考書・資料	An e-dictionary is an essential requirement.
講義関連事項	Reference material will be made available to students through URL recommendations.
担当者から一言	Regular attendance at the classes is essential part of this course.
ホームページタイトル	Recommended Websites will be announced in the classes.

授業コード	W2037		
授業科目名	英米文化研究 Ia (前)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	水曜日12:15～12:45(10号館8階井野瀬研究室)		

講義の内容	下記のテキストを熟読し、イギリスが有する「帝国だった過去」を再考するとともに、その過去が今のイギリスのアイデンティティ形成、および現代世界が抱えるmodern slaveryの現実に対して持つ意味を考える。
到達目標	まずは英文をじっくりと正確に読めるようになること。その内容を消化したうえで、関連する資料を集める手法を講義の中で学び、テキストの議論をさらに進めて、1807年にイギリス議会を通過し、大英帝国内部で実施に移された「奴隷貿易廃止」とはつまるところ何だったのか、自分なりにその正確な意味をつかむ。
講義方法	全員でテキストを徹底して読み込みながら、テキストのなかで提起されている論点を研究動向のなかにどう位置づけるべきかについても考えていく。同時に、先行研究の整理もおこないたい。
準備学習	下記テキストを各章ごとにまとめて読み込み、段落ごとにその内容をまとめ、要約を授業で提示する。その際、各段落で提示された論点を明確化しておくことがポイントである。
成績評価	予習して出席し、テキストの中身に対する議論を深めていっているかどうか、出席時の「読みの中身」を最大の評価ポイントとする。
講義構成	適宜指示する。
教科書	Marika Sherwood, After Abolition, New York: I.B.Tauris & Co., 2008.
参考書・資料	適宜指示する。

担当者から一言	2007年は奴隷貿易廃止法案がイギリス議会を通過して200周年であり、多くのイベントがおこなわれ、関連著作もたくさん出版された。歴史が過去と現在との対話で成り立つものであることを意識しながら、それから3年が過ぎた今、この本を読みながら、何が議論され、何が議論されないままに残されているのか、考えてほしい。
---------	--

授業コード	W2038		
授業科目名	英米文化研究 Ib (後)		
担当者名	井野瀬久美恵(イノセ クミエ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	水曜日12:15～12:45(10号館8階井野瀬研究室)		

講義の内容	下記のテキストを熟読し、イギリスが有する「帝国だった過去」を再考するとともに、その過去が今のイギリスのアイデンティティ形成、および現代世界が抱えるmodern slaveryの現実に対して持つ意味を考える。
到達目標	まずは英文をじっくりと正確に読めるようになること。その内容を消化したうえで、関連する資料を集める手法を講義の中で学び、テキストの議論をさらに進めて、1807年にイギリス議会を通過し、大英帝国内部で実施に移さ

	れた「奴隷貿易廃止」とはつまるところ何だったのか、自分なりにその正確な意味をつかむ。
講義方法	全員でテキストを徹底して読み込みながら、テキストのなかで提起されている論点を研究動向のなかにどう位置づけるべきかについても考えていく。同時に、先行研究の整理もおこないたい。
準備学習	下記テキストを各章ごとにまとめて読み込み、段落ごとにその内容をまとめ、要約を授業で提示する。その際、各段落で提示された論点を明確化しておくことがポイントである。
成績評価	予習して出席し、テキストの中身に対する議論を深めていっているかどうか、出席時の「読みの中身」を最大の評価ポイントとする。
講義構成	適宜指示する。
教科書	Marika Sherwood, After Abolition, New York: I.B.Tauris & Co., 2008.
参考書・資料	適宜指示する。
担当者から一言	2007年は奴隷貿易廃止法案がイギリス議会を通過して200周年であり、多くのイベントがおこなわれ、関連著作もたくさん出版された。歴史が過去と現在との対話で成り立つものであることを意識しながら、それから3年が過ぎた今、この本を読みながら、何が議論され、何が議論されないままに残されているのか、考えてほしい。

授業コード	W2039		
授業科目名	英米文化研究 IIa（前）		
担当者名	安武留美（ヤスタケ ルミ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限

講義の内容	グローバルな視点で見るアメリカ社会
到達目標	最近、色々な場所から移り住んだ人々が織りなすアメリカ文化のルーツおよび影響を、アメリカ国内にとどまらず海外へもたどって理解しようとする試みが行われている。本講では、アメリカの歴史や文化を国境を越えたグローバルな視点で見直そうとするそのような研究動向や手法に触れること目的とする。
講義方法	“transnational,” “global,” “world-perspective” といった概念や研究手法を用いた、研究論文を読み解きながら、学生による文献のサマリーやそれに基づく議論を中心に進めていく。
準備学習	課題文献をしっかりと読み込んでおく。
成績評価	授業内での発表やディスカッションへの貢献と、学期末にレポートによって総合的に評価する。
講義構成	人の移動や交流、また文化、活動、制度の拡大を、グローバルな視点で分析する論文に基づいて、進められる。
教科書	開講時に指示する。

授業コード	W2040		
授業科目名	英米文化研究 IIb (後)		
担当者名	安武留美(ヤスタケ ルミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限

講義の内容	グローバルな視点で見るアメリカ社会 2
到達目標	最近、色々な場所から移り住んだ人々が織りなすアメリカ文化のルーツおよび影響を、アメリカ国内にとどまらず海外へもたどって理解しようとする試みが行われている。本講では、アメリカの歴史や文化を国境を越えたグローバルな視点で見直そうとするそのような研究動向や手法に触れること目的とする。
講義方法	“transnational,” “global,” “world-perspective” といった概念や研究手法を用いた、研究論文を読み解きながら、学生による文献のサマリーやそれに基づく議論を中心に進めていく。
準備学習	課題文献をしっかりと読み込んでおく。
成績評価	授業内での発表やディスカッションへの貢献と、学期末にレポートによって総合的に評価する。

講義構成	人の移動や交流、また文化、活動、制度の拡大を、グローバルな視点で分析する論文に基づいて、進められる。
教科書	開講時に指示する。

授業コード	W3A11		
授業科目名	応用社会学演習Ⅰ(前)		
担当者名	西川麦子(ニシカワ ムギコ)、野々山久也(ノノヤマ ヒサヤ)、大津真作(オオツ シンサク)、菅 康弘(スガ ヤスヒロ)、宮垣 元(ミヤガキ ゲン)、中里英樹(ナカザト ヒデキ)、田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	受講生の関心をふまえ、修士課程において研究を開始するにあたりまず必要となる作業を行う。テーマ設定と議論の組み立て方、研究計画書の作成、先行研究へのアクセスと把握、文献リストの作成と文献購読、発表・記述の方法など、学術論文の執筆に向けての“海図”を描くことを目的とする。また、プレゼンテーションの方法や議論の進め方についても、実践的に学習していく。		
到達目標	受講生の研究テーマに関する先行研究の概要と問題点をまとめ、各自の問題意識、着眼点を明らかにしていく。		
講義方法	受講生による発表と、教員を含めた全体での議論が中心となる。		
準備学習	各自の研究テーマに関連する国内外の情報を検索し、基礎となる文献を収集する。		
成績評価	出席と発表内容、研究・調査計画書等の提出による評価を行う。		
講義構成	必要に応じて指示する。		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	必要に応じて随時に紹介する。		

授業コード	W3A21		
授業科目名	応用社会学演習Ⅱ(後)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)、野々山久也(ノノヤマ ヒサヤ)、森田三郎(モリタ サブロウ)、菅 康弘(スガ ヤスヒロ)、中里英樹(ナカザト ヒデキ)、田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	受講生の関心をふまえ、修士課程において研究を開始するにあたりまず必要となる作業を行う。テーマ設定と議論の組み立て方、研究計画書の作成、先行研究へのアクセスと把握、文献リストの作成と文献購読、発表・記述の方法など、学術論文の執筆に向けての“海図”を描くことを目的とする。また、プレゼンテーションの方法や議論の進め方についても、実践的に学習していく。		
到達目標	研究調査の目的、対象、方法を明らかにし、研究調査を企画、実施する。		
講義方法	受講生による発表と、教員を含めた全体での議論が中心となる。		
準備学習	研究調査を企画するための予備的な調査を行う。		
成績評価	出席と発表内容、研究・調査計画書等の提出による評価を行う。		
講義構成	必要に応じて指示する。		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	必要に応じて随時に紹介する。		

授業コード	W3A31		
授業科目名	応用社会学演習 III (前)		
担当者名	西川麦子(ニシカワ ムギコ)、野々山久也(ノノヤマ ヒサヤ)、大津真作(オオツ シンサク)、菅 康弘(スガ ヤスヒロ)、宮垣 元(ミヤガキ ゲン)、中里英樹(ナカザト ヒデキ)、田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	受講生のテーマにそって、研究調査を企画、実施し、収集した情報を整理、分析する。その経緯と成果を報告し、そこでの議論をとおして、論拠を明示し適切な分析と独自の考察を展開し、研究成果を論理的に伝える方法を実践的に学習しながら、学術論文の執筆をすすめていく。		
到達目標	各自の研究テーマにそって、研究調査の課題を明確にして情報収集を行い、資料を整理し、分析する。		
講義方法	受講生による発表と、教員を含めた全体での議論が中心となる。		
準備学習	各自のこれまでの研究調査の成果をまとめ、先行研究を参考にしながら、本調査、補充調査の課題を明確にしていく。		
成績評価	出席と発表内容、研究・調査報告書等の提出による評価を行う。		
講義構成	必要に応じて指示する。		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	必要に応じて随時に紹介する。		

授業コード	W3A41		
授業科目名	応用社会学演習 IV (後)		
担当者名	大津真作(オオツ シンサク)、野々山久也(ノノヤマ ヒサヤ)、森田三郎(モリタ サブロウ)、菅 康弘(スガ ヤスヒロ)、中里英樹(ナカザト ヒデキ)、田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜5限
オフィスアワー	火曜日昼休み		

講義の内容	受講生のテーマにそって、研究調査を企画、実施し、収集した情報を整理、分析する。その経緯と成果を報告し、そこでの議論をとおして、論拠を明示し適切な分析と独自の考察を展開し、研究成果を論理的に伝える方法を実践的に学習しながら、学術論文の執筆をすすめていく。		
到達目標	論理的構成、多角的データ提示、明確な考察、説得力のある表現に留意して、研究調査の成果を論文にまとめる。		
講義方法	受講生による発表と、教員を含めた全体での議論が中心となる。		
準備学習	これまでに集めた資料を整理し、先行研究をふまえたうえで、各自の論点を明確にしていく。		
成績評価	出席と発表内容、研究・調査報告書等の提出による評価を行う。		
講義構成	必要に応じて指示する。		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	必要に応じて随時に紹介する。		

授業コード	W3031		
授業科目名	応用社会学特殊講義 I (前)		
担当者名	中里英樹(ナカザト ヒデキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限

講義の内容	仕事と生活のあり方にかかわる社会学および関連諸領域の研究動向を学ぶとともに、教員自身の研究成果を紹介し受講生と議論する。
到達目標	仕事と生活のあり方にかかわる社会学および関連諸領域の学術的な論点を理解する。 この分野の研究が生み出される経過を身近なものとして体感する。
講義方法	(1)関連分野の文献を受講者全員が読んだ上で簡単な課題を提出し、関連するトピックについて議論する。 (2)教員自身の最新の研究について講義し、議論する。
準備学習	2010年度用 新規項目(2009年度以前は対象外。)
成績評価	提出課題及び授業中の発言(40%)および最終レポート(60%)
講義構成	当該テーマの中で、受講生の関心に応じてさらに具体的な講義内容を決定する。
教科書	テキストは用いず、適宜資料を配付する。
参考書・資料	受講生の関心に応じて随時紹介する。

授業コード	W3032		
授業科目名	家族社会学特殊講義(前)		
担当者名	野々山久也(ノノヤマ ヒサヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限
オフィスアワー	月・火(12:10~13:00)。必要があれば、電話078-435-2379やメール:nonoyama@konan-u.ac.jpなどにて予約してください。		

講義の内容	家族ライフスタイル論について学習する。
到達目標	現代家族社会学のなかでも特に注目されてきている家族ライフスタイル論について学習する。到達目標は、内外の家族ライフスタイル論の習得と研究課題、ならびに今後の展望について知識を深める。
講義方法	外国文献などを数冊、読みながら学習していく。
準備学習	毎回、かなりのスピードで英語文献を読破していくので、予習を怠りなく、ついてきて欲しい。
成績評価	授業での発表や討論への参加、それにレポート提出を中心にして総合評価する。
講義構成	1. 家族制度、2. 家族集団、そして3. 家族ライフスタイルについて、文献を紹介しながら、講義を進めていく。このほかには、4. 家族変動論、5. 家族ダイナミックスなども学習していく。
教科書	特定の教科書は、特にない。
参考書・資料	つど指示していく。

授業コード	W3C11		
授業科目名	史学地理学民俗学演習I		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
オフィスアワー	月曜日12:20~13:00 木曜日12:20~13:00		

講義の内容	中国およびその周辺地域の歴史に関する文献(漢文・現代漢語などをふくむ)を精読する。とりあげる文献については受講者の関心を考慮して決める。
到達目標	東アジア史についての史料・文献の概要を理解するとともに、各自の研究テーマに必要な史料・文献の読解力を身につける。
講義方法	講読方式による。
準備学習	次に読む部分について下調べをしてくること。
成績評価	平常点(70%)および年度末のレポート(30%)によって評価する。

講義構成	第1回をオリエンテーションの時間とし、そのときに指示する。
教科書	使用しない。
参考書・資料	必要に応じて随時紹介する。

授業コード	W3C12		
授業科目名	史学地理学民俗学演習I		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜5限)、後期(火曜5限)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	史料、文献を講読しながら、アメリカの政治文化の本質について理解を深めます。とくに、アメリカ民主主義、アメリカ・ポピュリズム、現代アメリカ国家などに焦点を当てます。
到達目標	アメリカ政治の本質を歴史的に把握すること。
講義方法	配布史料を講読し、議論によって理解を深めます。
準備学習	英語文献を読むこともあるので、英語読解力を錬磨しておくこと。
成績評価	出席、授業中のパフォーマンスなどを中心に平常点評価を行います。
講義構成	1. 導入、分担確認 2～7. 講読、討論 8. 中間総括 9～14. 講読、討論 15. まとめ
教科書	特にありません。
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。

担当者から一言	出席は厳密に取ります。発表のドタキャンは厳禁です。
---------	---------------------------

授業コード	W3C13		
授業科目名	史学地理学民俗学演習I		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
オフィスアワー	木曜日の昼休み		

講義の内容	西洋史に関する基本的な研究文献を読みこみながら、その背景を解説します。
到達目標	歴史学の研究方法を習得すること。
講義方法	英文による資料文献を配布します。
準備学習	事前に文献を読み込むこと。
成績評価	出席をふくむ平常点と学期末のレポートなどを総合して評価する。
講義構成	文献購読・報告・講義を併用する。
教科書	開講時に指示します。

授業コード	W3C14		
-------	-------	--	--

授業科目名	史学地理学民俗学演習I		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	日本古代・中世史料の基礎的研究 日本史の古代・中世史を研究するために必要な史料の読解、歴史像の構築について、基本的な訓練を行う。		
到達目標	古記録読解の基本を身につける		
講義方法	史料の輪読。担当箇所を現代語訳し、調べたことを発表する。		
準備学習	基本的な漢文訓読法の復習		
成績評価	平常点およびレポート。		
講義構成	大日本古記録『小右記』を最初から読む。なお、受講生の専門領域に応じ、使用するテキストを変更する場合がある。		
教科書	大日本古記録『小右記』		
参考書・資料	『桃裕行著作集』4巻・5巻		

担当者から一言	漢文訓読の基本を習得済みであることを前提にした演習です。担当者だけでなく受講生すべて、毎週しっかりと調べてくることを義務とします。		
---------	---	--	--

授業コード	W3C15		
授業科目名	史学地理学民俗学演習I		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜1限)、後期(火曜1限)
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	本演習では、民俗・地理学の見地から現代日本の生活文化を調査研究するのがねらいである。受講生にあわせ、文献研究や現地調査方法の実践的指導をおこなうとともに、受講生が策定したテーマにむけて、修士論文作成に不可欠な専門知識と調査能力の双方を鍛錬していく。		
到達目標	修論あるいはその後の夢の実現につながるフィールドでの実践的研究をものにする。		
講義方法	受講生のテーマ策定にむけての方法と材料の提示と討議指導、研究成果の発表とその討論ならびに指導。		
準備学習	関連文献の検索と読解、ならびにフィールド実習をつねに往還する。		
成績評価	レポートと授業への参加度により評価。		
講義構成	1. 文献研究とその発表・討論 2. 現地調査報告とその発表・討論 3. 論文指導		
教科書	受講生のテーマに即してきめる。		
参考書・資料	適宜指示する。		
講義関連事項	民俗文化特殊講義(本年度不開講) 人文地理学特殊講義		

担当者から一言	主体的に問題意識をもち、文献研究・野外調査研究双方を能動的に実践してもらい。柔かな頭とまなざし、五感をフルに発揮し、とことん勉学にいそしんでください。		
---------	---	--	--

授業コード	W3C21		
-------	-------	--	--

授業科目名	史学地理学民俗学演習Ⅱ		
担当者名	稲田清一(イナダ セイイチ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
オフィスアワー	月曜日12:20～13:00 木曜日12:20～13:00		

講義の内容	中国およびその周辺地域の歴史に関する文献(漢文・現代漢語などをふくむ)を精読する。とりあげる文献については受講者の関心を考慮して決める。
到達目標	東アジア史についての史料・文献の概要を理解するとともに、各自の研究テーマに必要な史料・文献の読解力を身につける。
講義方法	講読方式による。
準備学習	次に読む部分について下調べをしてくること。
成績評価	平常点(70%)および年度末のレポート(30%)によって評価する。
講義構成	第1回をオリエンテーションの時間とし、そのときに指示する。
教科書	使用しない。
参考書・資料	必要に応じて随時紹介する。

授業コード	W3C22		
授業科目名	史学地理学民俗学演習Ⅱ		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜5限)、後期(火曜5限)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	史料、文献を講読しながら、アメリカの政治文化の本質について理解を深めます。とくに、アメリカ民主主義、アメリカ・ポピュリズム、現代アメリカ国家などに焦点を当てます。
到達目標	アメリカ政治の本質を歴史学的に把握すること。
講義方法	配布史料を講読し、議論によって理解を深めます。
準備学習	英語文献を読むこともあるので、英語読解力を錬磨しておくことが望ましい。
成績評価	出席、授業中のパフォーマンスなどを中心に平常点評価を行います。
講義構成	1. 導入、分担確認 2～7. 講読、討論 8. 中間総括 9～14. 講読、討論 15. まとめ
教科書	特にありません。
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。

担当者から一言	出席は厳密に取ります。発表のドタキャンは厳禁です。
---------	---------------------------

授業コード	W3C23		
授業科目名	史学地理学民俗学演習Ⅱ		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
オフィスアワー	木曜日の昼休み		

講義の内容	西洋史に関する基本的な研究文献を読みこみながら、その背景を解説します。
到達目標	歴史学の研究方法を習得すること。
講義方法	英文による資料文献を配布します。
準備学習	事前に文献を読み込むこと。
成績評価	出席をふくむ平常点と学期末のレポートなどを総合して評価する。
講義構成	文献購読・報告・講義を併用する。
教科書	開講時に指示します。

授業コード	W3C24		
授業科目名	史学地理学民俗学演習Ⅱ		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	日本古代・中世史料の基礎的研究 日本史の古代・中世史を研究するために必要な史料の読解、歴史像の構築について、基本的な訓練を行う。		
到達目標	古記録読解の基本を身につける		
講義方法	史料の輪読。担当箇所を現代語訳し、調べたことを発表する。		
準備学習	基本的な漢文訓読法の復習		
成績評価	平常点およびレポート。		
講義構成	大日本古記録『小右記』を最初から読む。なお、受講生の専門領域に応じ、使用するテキストを変更する場合があります。		
教科書	大日本古記録『小右記』		
参考書・資料	『桃裕行著作集』4巻・5巻		
担当者から一言	漢文訓読の基本を習得済みであることを前提にした演習です。担当者だけでなく受講生すべて、毎週しっかりと調べてくることを義務とします。		

授業コード	W3C25		
授業科目名	史学地理学民俗学演習Ⅱ		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜1限)、後期(火曜1限)
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	本演習では、民俗・地理学の見地から現代日本の生活文化を調査研究するのがねらいである。受講生にあわせ、文献研究や現地調査方法の実践的指導をおこなうとともに、受講生が策定したテーマにむけて、修士論文作成に不可欠な専門知識と調査能力の双方を鍛錬していく。		
到達目標	修論あるいはその後の夢の実現につながるフィールドでの実践的研究をものにすること。		
講義方法	受講生のテーマ策定にむけての方法と材料の提示と討議指導、研究成果の発表とその討論ならびに指導。		
準備学習	関連文献の検索と読解、ならびにフィールド実習をつねに往還する。		
成績評価	レポートと授業への参加度により評価。		
講義構成	1. 文献研究とその発表・討論		

	2. 現地調査報告とその発表・討論 3. 論文指導
教科書	受講生のテーマに即してきめる。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	民俗文化特殊講義(本年度不開講) 人文地理学特殊講義
担当者から一言	主体的に問題意識をもち、文献研究・野外調査研究双方を能動的に実践してもらう。柔かな頭とまなざし、五感をフルに発揮し、とことん勉学にいそしんでください。

授業コード	W3042		
授業科目名	史学特殊講義I		
担当者名	佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜2限)、後期(水曜2限)

講義の内容	撰関期の研究 日本における10・11世紀の貴族社会の特質について多面的に検討する。
到達目標	当該テーマについての基本的な知見を得て、研究課題を見出す。
講義方法	配付資料を用いた講義。
準備学習	撰関期についての主要な研究文献・主要学説について理解していること。
成績評価	レポート
講義構成	1:過差禁制について 2:服飾史の再検討 3:殿上受領について (講義構成は変更することがあります)
教科書	なし
参考書・資料	講義時に指示します。
担当者から一言	基本的な漢文訓読を身につけておいてください。

授業コード	W3043		
授業科目名	史学特殊講義II		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
オフィスアワー	月曜日・金曜日の昼休み		

講義の内容	近世ヨーロッパの対外膨張に関する問題を考察する。
到達目標	歴史学の研究方法を習得すること。
講義方法	英語の研究文献ないし一次史料を配布し、それらをもとに読解と解説を進める。
準備学習	事前に文献を読み込むこと。
成績評価	開講時までWEBシラバスを確認してください。
講義構成	開講時までWEBシラバスを確認してください。
教科書	適宜資料を配付する。

授業コード	W3044
-------	-------

授業科目名	史学特殊講義Ⅳ		
担当者名	稲田清一（イナダ セイイチ）		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（月曜4限）、後期（月曜4限）
オフィスアワー	月曜日および木曜日12:20～13:00		

講義の内容	「近代中国農村社会史の研究」 明清時代以降の中国における地域社会について、主として農村社会史の視角から考察する。		
到達目標	中国農村社会史の研究史の概略を知るとともに、研究視角と研究手法について理解を深めること。		
講義方法	上記の内容に関する文献（現代漢語をふくむ）を読み、討論する。		
準備学習	指定された文献を読み、レジュメを作成してくること。		
成績評価	平常点（60%）と期末レポート（40%）により評価する。		
講義構成	第1回をオリエンテーションの時間とし、そのときに指示する。		
教科書	使用しない。		
参考書・資料	適宜紹介するとともに、プリントを配布する。		

授業コード	W3040		
授業科目名	思想文化特殊講義（後）		
担当者名	大津真作（オオツ シンサク）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	文化唯物論の考え方を学ぶ。先史社会と農業社会を比較する。国家の発生を考える。		
到達目標	文化社会の発展法則を理解する力がつく		
講義方法	テキスト講読		
準備学習	文化人類学の基礎知識が必要		
成績評価	テキスト購読力を演習中に見る。		
講義構成	第1回：生命の進化 第2回：人類の進化 第3回：人間性の特徴 第4回：狩猟社会の形成 第5回：狩猟社会の特質 第6回：母系制社会の特質 第7回：父系制社会の特質 第8回：狩猟社会の崩壊 第9回：先史社会の人口 第10回：農業社会への移行 第11回：農業社会の特質 第12回：農業社会のタンパク質問題 第13回：狩猟社会と農業社会の比較 第14回：社会のリーダー 第15回：国家の形成		
教科書	M.Harris,E.Ross:Death,sex,and fertility		
担当者から一言	下調べをしっかりとってほしい。		

授業コード	W3046
-------	-------

授業科目名	社会史特殊講義I (前)		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	アメリカ・ポピュリズムの歴史的展開を辿ることによってアメリカ政治の特質を理解することを目的とします。
到達目標	アメリカ◆ポピュリズムについての基本的理解の獲得。
講義方法	配布史料を参考にしながら、受講学生との議論も交えつつ講義を進めます。
準備学習	英語読解力の涵養。
成績評価	出席、授業中のパフォーマンスを中心に平常点評価を行います。
講義構成	1. イントロダクション 2. ポピュリズムとは何か？ 3. アメリカ◆ポピュリズムの誕生 4. アメリカ◆ポピュリズムの歴史的展開 5. ポピュリスト党の闘い(1) 6. ポピュリスト党の闘い(2) 7. ポピュリスト党の闘い(3) 8. ポピュリズム党の敗北と現代アメリカ国家 9. 1920年代のポピュリズム 10. 大恐慌・ニューディール期のポピュリズム 11. 現代のポピュリズム(1) 12. 現代のポピュリズム(2) 13. ポピュリズムの国際比較(1) 14. ポピュリズムの国際比較(2) 15. まとめ
教科書	特にありません。
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。
担当者から一言	出席は厳格に取ります。

授業コード	W3047		
授業科目名	社会史特殊講義II (後)		
担当者名	横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	アメリカ◆ポピュリズムの歴史的展開を辿ることによってアメリカ政治の特質を理解することを目的とします。
到達目標	アメリカ◆ポピュリズムについての基本的理解の獲得。
講義方法	配布史料を参考にしながら、受講学生との議論も交えつつ講義を進めます。
準備学習	英語読解力の涵養。
成績評価	出席、授業中のパフォーマンスを中心に平常点評価を行います。
講義構成	1. イントロダクション 2. ポピュリズムとは何か？ 3. アメリカ◆ポピュリズムの誕生 4. アメリカ◆ポピュリズムの歴史的展開 5. ポピュリスト党の闘い(1) 6. ポピュリスト党の闘い(2) 7. ポピュリスト党の闘い(3) 8. ポピュリズム党の敗北と現代アメリカ国家 9. 1920年代のポピュリズム

	10. 大恐慌・ニューディール期のポピュリズム 11. 現代のポピュリズム(1) 12. 現代のポピュリズム(2) 13. ポピュリズムの国際比較(1) 14. ポピュリズムの国際比較(2) 15. まとめ
教科書	特にありません。
参考書・資料	適宜、紹介、配布します。
担当者から一言	出席は厳格に取ります。

授業コード	W3045		
授業科目名	人文地理学特殊講義		
担当者名	出口晶子(デグチ アキコ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
オフィスアワー	木曜昼休み		

講義の内容	本講義では、現代の河海・湖の暮らしと人間の時間・空間移動のつながりについて、瀬戸内海や琵琶湖、島嶼世界などの事例を中心に、民俗地理学の見地から講義する。現場にたつこと、時間を旅し、空間を旅することの奥深い記憶のつながりを、講義を聴くだけでなく、みずからが旅をすることでつかみとってほしい。受講生には講義をふまえ、各自関心のあるテーマに即して文献リストの作成と読解、現地調査にもとづく成果を発表し、授業中に討議する。		
到達目標	フィールドでの経験で語ること、論じることが重要目標とし、その方法をものにすること		
講義方法	講義と発表、討論により構成する。内容は受講生が取り組んでいるテーマにあわせ、一部変更する。野外実習も実施します。		
準備学習	旅をしてください。大いに旅をすることです。それがだいじな準備学習になります。		
成績評価	討論と巡検活動、レポートにより総合的に評価する		
講義構成	1. 現代の民俗文化と地理学 2. 瀬戸内海の島世界と海のネットワーク 3. 内水面(川・湖)の暮らしと景観 4. 暮らしの記録と人間の時間と空間移動の旅 5. 現地調査の方法とその取り組みかた		
教科書	教科書は追って指示する。		
参考書・資料	適宜授業中に指示する。 映像も適宜使用。		
担当者から一言	旅について、旅をしながら、考えましょう。ナショナル・ジェオグラフィックな世界についても。		

授業コード	W3038		
授業科目名	人類学特殊講義I(後)		
担当者名	森田三郎(モリタ サブロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
講義の内容	自分の研究対象に関するフィールドワークとドキュメンタリー・ビデオ作品の制作を行なう。フィールドにおける動画資料の収集と編集作業を、シナリオ作成から、ロケハン、撮影、編集にいたるまで体験することにより、学ぶ。		
到達目標	受講生の研究テーマに直接関連する映像資料を収集。作成し、作品に仕上げる。		
講義方法	はじめの5回は、映像に関するテキストおよび映像作品を検討する。次に受講生が借りテーマを設定し、シナリ		

	オ制作、撮影、編集などの作業を実施する。
準備学習	段階に応じて準備することは異なる。最初のシナリオの作成棚機では、撮影機器の準備は不用であるが、映写機器については身体を使って作業をする。実際に作成過程にはいると、フィールドワークのための準備が必要であるし、映写・撮影機器の操作にも習熟する必要がある。
成績評価	シナリオ(50%)および作品(50%)を評価する。
講義構成	1)文献およびビジュアル資料の収集と解析(5回) 2)身近な生活の中から小テーマを設定し、シナリオおよび絵コンテの制作(3回) 3)フィールドワーク・インタビュー(2回) 4)撮影及びコンテンツの書き出しの記述(2回) 5)編集・ナレーションなど(2回) 6)ミニ作品完成・鑑賞・検討(1回) を必要に応じて組み合わせながら、ドキュメンタリー・ビデオを制作する。
教科書	なし
参考書・資料	必要な資料や参考書は、授業において紹介する。

授業コード	W3039		
授業科目名	人類学特殊講義II(集中)		
担当者名	大森康宏(オオモリ ヤスヒロ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	今日の高度な情報社会を支える映像の発達について、20世紀の映像文化を理解しつつ精神世界の変革を受講生自身が映像製作実習を通して会得することを目的とする。そのため映像リテラシーをさまざまな角度から考察する。		
到達目標	実際の映像制作ができるまでの理論と方法を修得する。		
講義方法	映像製作実習をしつつ、映像文化の背景を探究する。これにより、受講生自身も含めた文化変容を再考してみたい。		
準備学習	民族学、人類学に関する書籍を読むこと。テレビや映画などで記録映画を視聴すること。		
成績評価	レポートと小さな映像の作品による。		
講義構成	民族誌映画を上映して、1作品ごとに文化要素、社会関係、多民族との比較などをしながら、研究し、生徒が自発的に問題を提起し、論考を重ねる。これを集中的に実行し、民族学のさまざまな課題を視覚的に認識していく。映像製作の実習もする。		
教科書	特になし。		
講義関連事項	夏期に映像製作実習あるいは編集などによって、実験映像製作にもかかわるようにする。		
URL	http://www.minpaku.ac.jp/staff/omori/02html		

授業コード	W3029		
授業科目名	総合演習I(集中)		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)、稲田清一(イナダ セイイチ)、佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、出口晶子(デグチ アキコ)、横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	佐藤(木曜日昼休み)		
講義の内容	院生・教員など専攻全体場で研究報告を行い、意見を交換する。 大学院において計画的・段階的に研究を進めてゆくために、各期に数回づつ時期を定め集中的に開催する。受講生は各自の研究の進捗状況を確認するとともに、隣接する学問分野との交流を通して、開かれた視野のもとに柔軟な思考や方法を学ぶことを目的とする。あわせて、プレゼンテーションの方法や議論の進め方について		

	も、実践的に学習する。
到達目標	研究報告の内容と方法を高めること。
講義方法	受講生による発表と、教員をも含めた全体での議論を中心とする研究会ないしシンポジウム形式となる。
準備学習	研究を整理し提示方法を錬磨すること。
成績評価	出席および発表や議論の内容などを総合して評価する。
講義構成	研究計画の発表と質疑 研究の中間報告と討論 研究の報告と討論 (詳しくは講義開始時に伝えます)
教科書	開講時に指示します。

授業コード	W3030		
授業科目名	総合演習Ⅱ(集中)		
担当者名	合田昌史(ゴウダ マサフミ)、稲田清一(イナダ セイイチ)、佐藤泰弘(サトウ ヤスヒロ)、出口晶子(デグチ アキコ)、横山 良(ヨコヤマ リョウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	佐藤(木曜日昼休み)		

講義の内容	院生・教員など専攻全体場で研究報告を行い、意見を交換する。 大学院において計画的・段階的に研究を進めてゆくために、各期に数回づつ時期を定め集中的に開催する。 受講生は各自の研究の進捗状況を確認するとともに、隣接する学問分野との交流を通して、開かれた視野のもとに柔軟な思考や方法を学ぶことを目的とする。あわせて、プレゼンテーションの方法や議論の進め方についても、実践的に学習する。
到達目標	研究報告の内容と方法を高めること。
講義方法	受講生による発表と、教員をも含めた全体での議論を中心とする研究会ないしシンポジウム形式となる。
準備学習	研究を整理し提示方法を錬磨すること。
成績評価	出席および発表や議論の内容などを総合して評価する。
講義構成	研究計画の発表と質疑 研究の中間報告と討論 研究の報告と討論 (詳しくは講義開始時に伝えます)
教科書	開講時までにWEBシラバスを確認してください。

授業コード	W3041		
授業科目名	地域文化特殊講義（後）		
担当者名	菅 康弘(スガ ヤスヒロ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	sugar@center.konan-u.ac.jpへご連絡下さい。都合のいい時間を応談。		

講義の内容	近代社会の諸相、現代文化の諸問題を、特に都市・地域・観光・空間・表象などの観点から探求する。狭い意味での社会学に限定せず、人類学・地理学・表象論や、さまざまな地域研究・モノグラフなど、多様な論考を読み解き、各自の問題関心の深め多角化する。
到達目標	空間を所与のものとするやり方を払拭し、人の動きや想念、まなざしにより生成されるものとする思考を身につけること。そして、この観点から、旅や住ばかりでなく、地域におけるさまざまな創成活動を分析し、有効に行動できる術を身につけること。
講義方法	受講生自身の研究テーマを核に、内容を広めるために、テーマを深めるために、関心に即した論考や、教員が

	提示する関連論考の講読および発表を主とする
準備学習	・事前に提示される文献、資料、論考を熟読すること ・小説、映画、TV番組など、講義で使用する作品を、「語る」という観点から干渉すること
成績評価	平常点、発表内容により評価を行う
講義構成	第1回～第8回：空間に織り込まれた人々のまなざし 第9回～第16回：定住のまなざしと旅のまなざし などを念頭に、都市・地域・観光・空間・表象関連の諸論考を読み解きながら、時代の諸相・その時々の大衆文化へアプローチする。 あわせて、フィールドワークを数回実施する。
教科書	特定の教科書には依拠せず、さまざまな論考や資料を使用する
参考書・資料	随時指示する
担当者から一言	限定された領域ではあるが、そのすそ野は広い。文化を探究するためには、あらゆる情報に差別をつけることなく、自分なりの何かを核にしながら‘戯れる’ことが重要である
その他	登録を考える者は事前に「sugar@center.konan-u.ac.jp」に必ず連絡すること

授業コード	W3005		
授業科目名	特定研究I(前)		
担当者名	菅 康弘(スガ ヤスヒロ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜5限
オフィスアワー	sugar@center.konan-u.ac.jpにて、時間を応談。		

講義の内容	最終的な修士論文作成に向け、 ・各自のテーマのさらなる深化 ・多様な周辺知識の習得 ・よりの確なデータの選択 ・論文作成の留意事項 などを、具体的な書式やタイトル選択、論文構成、文献リストの作成、引用や註の使用法など、実践的に指導する。
到達目標	最低限、修士論文の構成を作成する。そして、必要なデータや資料を取り揃えておく。
講義方法	各自がそれぞれのテーマに基づき発表することが主体となる。その上で受講生全体でざっくばらんに質疑応答し、ポイントが絞られつつも視野の広い論文の作成をめざし、個別指導をする。
準備学習	修士論文の方向性にもとづき、教員が指摘した論考・資料を熟読しておくこと。また、関連する作品から「何を語るか」を考えておく。
成績評価	出席と発表内容により評価をおこなう
講義構成	各回、修士論文に向けての発表が中心となるが、最新の知見に触れるため学会の聴講を引き続き実施する。同時に関連論文の購読もおこなう。 前期は、購読と各自の研究発表を交互に実施し、1～2回の学会聴講をおこなう。後期では、最終的な修士論文作成に向け、個別指導とディスカッションをおこなう。
教科書	使用しない。随時、参考となる文献・記事・サイト・番組などを紹介する。ただ、広い意味では日常のさりげない出来事の連続が‘教科書’である。アンテナを張っておくことをお忘れなく！
参考書・資料	各自の関心とそれに基づく発表を考慮し、随時支持する

授業コード	W3006		
授業科目名	特定研究II(後)		
担当者名	菅 康弘(スガ ヤスヒロ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜5限

オフィスアワー	sugar@center.konan-u.ac.jpにて、時間を応談。
講義の内容	最終的な修士論文作成に向け、 ・各自のテーマのさらなる深化 ・多様な周辺知識の習得 ・よりの確なデータの選択 ・論文作成の留意事項 などを、具体的な書式やタイトル選択、論文構成、文献リストの作成、引用や注の使用法など、実践的に指導する。
到達目標	・関連研究のレビュー ・テーマに即したデータの呈示 ・明確な構成 などにもとづく、修士論文の完成を目指し、各自で研究テーマを深化させ、その学問的意義をよく把握した論の完成を目指す。
講義方法	各自がそれぞれのテーマに基づき発表することが主体となる。その上で受講生全体でざっばらんに質疑応答し、ポイントが絞られつつも視野の広い論文を作成をめざし、個別指導をする。
準備学習	修士論文の完成をめざすものなので、研究テーマについて、より深化した形での「語り口」を考え、同時に関連のテーマにも目配りすること。
成績評価	出席と発表内容により評価をおこなう
講義構成	各回、修士論文に向けての発表が中心となるが、最新の知見に触れるため学会の聴講を引き続き実施する。同時に関連論文の購読もおこなう。 前期は、購読と各自の研究発表を交互に実施し、1～2回の学会聴講をおこなう。後期では、最終的な修士論文作成に向け、個別指導とディスカッションをおこなう。
教科書	使用しない。随時、参考となる文献・記事・サイト・番組などを紹介する。ただ、広い意味では日常のさりげない出来事の連続が「教科書」である。アンテナを張っておくことをお忘れなく！
参考書・資料	各自の関心とそれに基づく発表を考慮し、随時支持する

授業コード	W3033		
授業科目名	表象文化特殊講義（後）		
担当者名	田野大輔(タノ ダイスケ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	水曜・木曜の昼休み、および木曜5限。必要な場合はメールで連絡すること。dtano@nifty.com		

講義の内容	現代政治における権力と表象の関係について、様々な歴史的事例から考察し、表象文化の実践的な分析手法を習得する。
到達目標	表象文化の実践的な分析手法の習得。
講義方法	いくつかの研究テーマを設定し、グループワーク形式でイメージ分析・テキスト分析を行うことによって、実践的な研究方法の習得をめざす。
準備学習	イメージ分析・テキスト分析を課題として指示する場合がある。
成績評価	期末レポート70点、小レポート30点とし、講義内容の理解度、および問題意識の深さを評価する。
講義構成	研究テーマは受講生の関心をふまえて設定するが、参考例としては「ヒトラーのメディア戦略」、「大統領選挙と広告代理店」、「映画のなかのベトナム戦争」、「大阪万博に見るユートピア」、「小泉劇場とメディア」といったものを考えている。
教科書	必要に応じて指示する。
参考書・資料	必要に応じて指示する。

担当者から一言	明確な問題意識と綿密な資料調査なしには、すぐれた論文は書けない。そのためには労を惜しまないこと。
---------	--

授業コード	W3034
-------	-------

授業科目名	方法論研究Ⅰ(前)		
担当者名	平松 闊(ヒラマツ ヒロシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限

講義の内容	この授業では、計量的な社会調査を実際に企画・設計、実施し、集計さらに分析をおこなうための実践的かつ高度な知識と能力を、調査倫理とともに習得することを目的とする。調査票による量的調査の実施とそのデータの基本的な分析方法について学ぶ。
到達目標	量的調査の集計さらに分析をおこなうための実践的かつ高度な知識と能力を身につけ、それを実際に自ら調査を行い、分析できなければならない。そのための計量的、統計的解析の実践的力を修得する。
講義方法	多変量解析を主に解説、講義を行うが、ほとんどは自らのテーマに基づいた調査を実施するか、すでにあるデータを使って多変量解析の演習を行い、自ら分析、解釈をおこない、報告書を作成するところまで行う。
準備学習	この講義・演習を受講するためには、学部での「社会調査士」を取得しているか、取得できる能力を身に付けていなければならない。さらに「多変量解析」のための統計学の知識も要求される。十分にそのための学習をおこなってきてほしいし、多くは時間中にそうした学習も行うが、時間外学習が必要な場合もある。
成績評価	平常点40点、最終レポート60点 合計100点で評価をおこなう。
講義構成	(01) 各参加者の研究テーマを明確にするための討議 (02) 当該研究分野における先行研究の検討、および新たな仮説の構成 (03) 各自のオリジナルな調査の企画と方法の決定、および倫理的妥当性のチェック (04) 調査票の作成 (05) 調査票の完成と印刷 (06) サンプルング方法の検討 (07) サンプルングの実施 (08) 調査現地での下調べと調査依頼 (09) 調査の実施 (10) 調査データの整理(エディティング、コーディング、クリーニング) (11) 調査データの入力、コーディングの修正 (12) 記述的統計による基礎集計、調査結果のプロフィールの検討 (13) クロス集計や相関係数による仮説の検証 (14) 集計・分析結果のグラフ化・プレゼンテーション (15) 中間報告書の作成
教科書	教科書なし
参考書・資料	盛山和夫『統計学入門』、西平重喜『統計法調査法』、土田昭司『社会調査のためのデータ解析入門』JGSS 2003年データなど
講義関連事項	文学部社会学科の学部科目、社会調査基礎演習Ⅰ・Ⅱと社会調査法Ⅰ・Ⅱを履修済であるか、あるいは社会調査士資格を取得していることを、受講の要件とする。 専門調査士資格のための必修科目なので、資格申請を希望する院生は必ず受講し、この単位を取得しなければならない。

担当者から一言	自ら最後までやり遂げる気概が必要である。
---------	----------------------

授業コード	W3035		
授業科目名	方法論研究Ⅱ(後)		
担当者名	平松 闊(ヒラマツ ヒロシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限

講義の内容	この授業では、計量的な社会調査を実際に企画・設計、実施し、集計さらに分析をおこなうための実践的かつ高度な知識と能力を、調査倫理とともに習得することを目的とする。この講義では、量的調査のデータをベースに、社会現象を計量モデルを使って分析するための理論と実際を学ぶ。
-------	---

	多変量解析(主に、重回帰分析、分散分析、主成分(因子)分析、クラスター分析、ログリニア分析など)を駆使したデータ解析が主となる。すでにある調査データのみならず、自ら実施した調査データに関して、統計理論的な考察と同時に、コンピュータを使った分析、解釈をおこなう。
到達目標	多変量解析(おもに、重回帰分析、分散分析、主成分分析、クラスター分析、ログリニア分析など)の手法を十分に使えるようになり、そしてそれらを使って、データ解析を行い、1つの報告書を書き上げることが目標である。
講義方法	多変量解析を主に解説、講義を行うが、ほとんどは自らのテーマに基づいた調査を実施するか、すでにあるデータを使って多変量解析の演習を行い、自ら分析、解釈をおこない、報告書を作成するところまで行う。
準備学習	本講義の受講のためには、学部での「社会調査士」資格を取得しているか、そのための能力を道付けており、さらに「方法論講義Ⅰ」を取得していることが前提である。したがって、そうしたことはこの講義の準備学習として十分である。
成績評価	平常点及び最終レポートで評価。 40:60で評価するが、3分の1以上の欠席では、単位は認められない。
講義構成	1) サンプルと母集団の関係に関する統計学(推測統計の基礎) (2) 推定の理論と実際(1) 正規分布とX(ギリシャ文字のカイ)2分布 (3) 推定の理論と実際(2) X(ギリシャ文字のカイ)2検定の実際 (4) 多変量解析(1) 3重クロス分析 (5) 変量解析(2) 重回帰分析 (6) 多変量解析(3) 分散分析 (7) 多変量解析(4) ログリニア分析 (8) 多変量解析(5) 主成分分析 (9) 多変量解析(6) 因子分析 (10) 多変量解析(7) クラスター分析 (11) 多変量解析(8) 判別分析 (12) 多変量解析(9) 数量化理論 (13) JGSSデータをいくつかの多変量解析で解析する (14) 多変量解析を使ったデータ解析をまとめる (15) JGSSデータに関して分析したものを「報告書」にする
教科書	教科書は使わない
参考書・資料	配布資料が中心になるが、MYKONANの講義資料にデータなどアップすることがあるので、注意しておくこと。
講義関連事項	これは専門調査士のための必修科目であるので、学部での「社会調査士資格」をもっていることが基本になります。ただ、本大学院で、現在取得中のものも、基本的には統計学をマスターしている学生は受講可能である。

授業コード	W3036		
授業科目名	方法論研究Ⅲ（前）		
担当者名	西川麦子（ニシカワ ムギコ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
オフィスアワー	木曜日昼休み		

講義の内容	フィールドワークは、構想・企画、調査設計、情報収集、記録・整理、解釈・分析、論文・作品化、発信・交信といったプロセスを幾度も重ねて展開していく。講義では、日本や海外での調査事例を具体的に紹介し、調査研究のプロセスと情報収集・記録の技法を学びながら、フィールドワークを行うことや書くこと、発信することの政治性について議論していく。
到達目標	受講生が、各自の研究テーマに沿って、フィールドワークを企画、実施し、そこから方法論について再考できるようになること。
講義方法	講義と参加者のあいだでの議論
準備学習	受講生は、社会調査に関する基本的な知識、技法を習得し、修士課程における各自の研究に活用できるようにしておくこと。
成績評価	レポート
講義構成	1. フィールドワークとは

	2. 問を発見しながら課題を追求する 3. 複数の時間感覚をもつ 4. 「異文化」調査—二重のカルチャーショック 5. ポジショナリティー存在と関係の政治性 6. 調査者—仕掛ける、つなぐ 7. 調査研究のプロセス—部分と連繋 8. テーマを立体的にとらえる—多角的なアプローチ 9. 調査課題—現場からの視点へ 10. 実践のための準備—資金と道具と自己紹介 11. 情報収集と記録作成 12. データ整理と提示—解釈と発見 13. 調査の展開—途中だからこそ伝える 14. 作品—目的、媒体、責任 15. 発信—関係の連鎖、未知との協同
教科書	西川麦子『フィールドワーク探求術～気づきのプロセス、伝えるチカラ』ミネルヴァ書房、2010
参考書・資料	随時紹介
講義関連事項	文学部社会学科の学部科目、社会調査基礎演習Ⅰ・Ⅱと社会調査法Ⅰ・Ⅱを履修済みであるか、あるいは社会調査士資格を取得していることを、受講の要件とする。

担当者から一言	本科目は、専門社会調査士資格取得のJ科目である。受講生は、社会調査に関する基本的な知識、技法を習得し、調査経験があることを前提としている。受講希望者は履修登録前に西川にご相談ください。
ホームページタイトル	{社会調査工房オンライン、社会調査の方法、5フィールドワーク,http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/05/0.html}
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/05/frame.html

授業コード	W3037		
授業科目名	方法論研究Ⅳ（前）		
担当者名	宮垣 元(ミヤガキ ゲン)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	前期火・水曜の12時10分～13時がオフィスアワーですので、この時間は自由に来て頂いて結構です。それ以外の時間については、メールで事前に連絡をしてください。		

講義の内容	受講生の関心を踏まえ、修士研究において必要となる「方法論」について学ぶ。ここでは、研究立案の段階に比重をおき、研究テーマの設定と研究目的の立て方から、その目的に対しどのような作業(調査や理論構築)が必要となるかまでの過程について、個々の関心に基づき考える。具体的には、研究テーマの考え方、先行研究サーベイから学ぶこと、仮説検証と問題発見について、理論と実証の関係、社会調査の多様性と方法について、など。また、受講生数によりグループワークやプロジェクト形式を取り入れ、研究方法としてそれらを会得することも考えたい。
到達目標	研究における「方法」とはどのようなことなのかについてを、自らの研究テーマに置き換えて明確にできるようになることが目標である。このことは、それぞれの研究において、何が目的であり、何が手段であるかの対応関係を理解することを意味する。
講義方法	受講生による発表と議論が中心となる。必要に応じ文献購読も行う。
準備学習	個人、グループによる発表が主体となるので、そのための毎週の準備(調査、まとめ、プレゼンテーションの準備など)が求められる。
成績評価	出席と発表内容により評価を行う。
講義構成	スケジュールと内容、方法、発表担当などは初回に説明します
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書・資料	・平松閣・鶴飼孝造・宮垣元・星敦士、2010『社会ネットワークのリサーチ・デザイン』ミネルヴァ書房。 ・工藤保則・寺岡伸吾・宮垣元、2010『質的調査の方法』法律文化社。

ホームページタイトル	社会調査工房オンライン
URL	http://kccn.konan-u.ac.jp/sociology/research/

授業コード	W4021		
授業科目名	環境教育学特論（前）		
担当者名	谷口文章（タニグチ フミアキ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	環境問題を解決する方策の一つとして、環境教育が推進される必要がある。従来のテーマが「自然環境」や「社会環境」の破壊に焦点が合わされてきた。しかし、現在の社会状況を考えると、さらに「精神や心の環境」の問題にまで、環境教育のテーマは拡張されねばならない。 「環境教育」は、学校教育で近年盛んにおこなわれてきている。しかし、それは総合的学習という性格を有するため、指導者、個人個人において異なる方法論で実施されている。子どもの可能性を伸ばす意味で「総合的な学習の時間」は、一方において可能性を秘めた魅力的なものでありつつも、他方において評価や内容に関して方向づけが十分でない。そのために、理論的枠組みを与える「環境教育学」の確立が望まれる。それは、環境教育についての哲学であり、環境教育についての教育原理である。 さらに、Think globally, act locallyといわれるように、地域的な環境活動とともに、e-ラーニングによる地球規模の環境教育ネットワークを拡げることも経験したい。タイ・プラナコーン＝ラジャバト大学や中国・北京大学、マレーシア・マラヤ大学ともリアルタイムに結びつけて講義をする予定である。
到達目標	環境教育に関する理論研究を行なうとともに、その応用ともなる実践研究を実証することができる。
講義方法	ノート講義
準備学習	講義内容の復習を行なうこと。また講義内で紹介した参考文献を熟読するなど予習を行なうこと。
成績評価	レポート
講義構成	1. 環境教育学の展望 2. 「総合的な学習の時間」と生涯学習－環境教育学の具体的展開－ 3. 国際的環境教育の動向と地域における環境教育 4. 環境教育の国際的ガイドラインの構築 5. 環境教育の国際・国内ネットワーク化
教科書	谷口文章『環境教育の哲学－環境教育学序説－』（ミネルヴァ書房）【印刷中】
参考書・資料	鳥越皓之編『環境とライフスタイル』（有斐閣）
担当者から一言	現在までの講義内容をまとめて、環境教育学の確立をめざしたいと考えています。子どもや花・動物の好きな人は大歓迎です。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室, http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/ }
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	W4005		
授業科目名	環境倫理研究（後）		
担当者名	河村 厚（カワムラ コウ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
講義の内容	アルネ・ネスにより創始された現代の環境思想ディープ・エコロジーの魅力は、深い存在論的基礎とあくまで現状を変えようとする現実主義的情熱の双方を備えていることだと思います。しかし、このディープ・エコロジーは国内外でさまざまな批判と誤解に晒されてきました。本講義では、まずネスのディープ・エコロジーの基本思想を正確に理解し、次に、エコフェミニズムのディープ・エコロジー批判を検討し、最後に、国内のいくつかのディープ・エコロジー批判の妥当性を検討します。		
到達目標	開講時に指示します。		
講義方法	講義と発表。		
準備学習	受講者は参考書の一番目に掲げた本を(最低でも第五章までは)第一回目の講義の時までに予習しておくこと。		

成績評価	出席、発表、最終レポートを総合して評価する。
講義構成	①アルネ・ネスのディープ・エコロジーの基本思想の紹介 ②エコフェミニズムのディープ・エコロジー批判の検討 ③最近のいくつかのディープ・エコロジー批判の検討 ④受講生による発表
教科書	毎回プリントを配布します。
参考書・資料	①アラン・ドレングソン、井上有一（共編）『ディープ・エコロジー 生き方から考える環境の思想』（昭和堂）、 ②アルネ・ネス『ディープ・エコロジーとは何かーエコロジー・共同体・ライフスタイルー』（文化書房博文社）

授業コード	W4018		
授業科目名	芸術思想特論（前）		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	授業終了後の昼休み+金曜3限終了後(前期)		

講義の内容	近代・現代の芸術界の動向を紹介しつつ、同時代の思想や社会との関連を幅広く考察していく。少人数制で毎回何らかのトピックスについて意見を交換する。
到達目標	各自が関心をもつ研究対象に関して、芸術学的な観点や方法論からのアプローチの仕方を身につける。また、各自の専門分野での研究・修士論文などにも、それを応用できるようになってもらえると嬉しい。
講義方法	講義ではスライドなどを使用する。学生によるレポートの発表をもとにしたディスカッションも行う。
準備学習	できれば、美術館や画廊などでできるだけ多くの芸術作品に触れておいて欲しい。
成績評価	発表するレポートの内容と平素の授業への参加を評価する。試験はしない。
講義構成	・精神分析学と芸術学の関わり ・都市型環境芸術（パブリック・アート） ・芸術におけるイメージの引用について ・フェミニズム・アートの動向 ・自然環境と芸術表現 ……など。 受講者の専門内容や関心事について、初回にアンケートを実施し、それをもとに授業テーマを決めていくこととする。 参加する学生の興味や、各自の研究内容になるべく合うような授業内容を、学期の初めに、参加者と相談して決めたいと思う。
教科書	その都度プリントを配布する。

担当者から一言	各自、積極的に発言し関わってほしい。
---------	--------------------

授業コード	W4022		
授業科目名	現代芸術思想特論（前）		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	月曜日お昼休みほか随時（メールでアポイントメントをとってください）		

講義の内容	人間が現実や他者との係わりの中で自らをどのように意味付け、行動や発言を選択してゆくか、古典的文学テクストの人物造形に基づいて考察する講義。文学表現が人間の運命、自由、正義をどのように扱っているかに特に留意しながら、自我の状態、性質、現実の関係を分析してゆく。
到達目標	自分自身の感性に対する批判的視点を確立すること。

講義方法	例年一つの文学作品（おそらくはシェイクスピアの戯曲）を選び、毎回、重要と思われる部分を探り上げて論点を提示し、有益と思われる文献を参照したり映像で複数の演出を比較したりしながら討論をおこなう。
準備学習	必要としない
成績評価	試験は行わず、出席、小レポート、発表などの平常点によって評価する。
講義構成	参加者の関心によって作品を選ぶことになるが、今のところ2010年度は『ハムレット』もしくは『ヴェニスの商人』を考えている。その場合の主な論点としては、以下のようなものが考えられる。どの論点を追求するか、どのような他の作品と比較考察してゆくかは、授業の展開によって決定される。 ・狂気とメランコリア ・公的権力と家族愛 ・母／息子と父／息子 ・言葉とジェンダー ・物語と狂気 ・罪と許し ・愛／誠実／嫌悪／侮蔑の関係性
教科書	必要に応じてプリントを配布する。

授業コード	W4038		
授業科目名	現代芸術思想特論（2クラス）(前)		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	月曜日お昼休みほか随時（メールでアポイントメントをとってください）		

講義の内容	人間が現実や他者との係わりの中で自らをどのように意味付け、行動や発言を選択してゆくか、古典的文学テクストの人物造形に基づいて考察する講義。文学表現が人間の運命、自由、正義をどのように扱っているかに特に留意しながら、自我の状態、性質、現実の関係を分析してゆく。
到達目標	自分自身の感性に対する批判的視点を確立すること。
講義方法	例年一つの文学作品（おそらくはシェイクスピアの戯曲）を選び、毎回、重要と思われる部分を探り上げて論点を提示し、有益と思われる文献を参照したり映像で複数の演出を比較したりしながら討論をおこなう。
準備学習	必要としない
成績評価	試験は行わず、出席、小レポート、発表などの平常点によって評価する。
講義構成	参加者の関心によって作品を選ぶことになるが、今のところ2010年度は『ハムレット』もしくは『ヴェニスの商人』を考えている。その場合の主な論点としては、以下のようなものが考えられる。どの論点を追求するか、どのような他の作品と比較考察してゆくかは、授業の展開によって決定される。 ・狂気とメランコリア ・公的権力と家族愛 ・母／息子と父／息子 ・言葉とジェンダー ・物語と狂気 ・罪と許し ・愛／誠実／嫌悪／侮蔑の関係性
教科書	必要に応じてプリントを配布する。

授業コード	W4004		
授業科目名	現代思想研究（後）		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限
オフィスアワー	金曜日16:30分以降		

講義の内容	内容は「人間科学思想研究」を引き継ぎ、精神分析と社会との関係を問い直す。
到達目標	外国語の購読を通じて、しっかりした思考力を身につける。
講義方法	文献購読。
準備学習	特になし。
成績評価	参加の度合いによって評価する。
講義構成	「人間科学思想研究」を引き継ぎ、精神分析と社会との諸問題を問い直す。
教科書	「人間科学思想研究」を引き継ぐ。

授業コード	W4023		
授業科目名	現代社会と表現（後）		
担当者名	西 欣也（ニシ キンヤ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	月曜日昼休みほか随時（メールでアポイントメントをとってください）		

講義の内容	我々の生きる時代の社会状況や意識状況を広く見渡ししながら、そのなかで表現行為の果たすべき役割とその可能性について検討する。特に小説、映画、演劇などの創造と受容における物語の作用の仕方に注目し、物語するという行為を軸にして現実世界と表現世界との係わりを問うことをあわせて試みる。		
到達目標	同時代に対する批判的視点を確立すること。		
講義方法	毎回、一つのテーマを採り上げ、有益と思われる文献を参照しながら討論をおこなう。		
準備学習	必要としない		
成績評価	試験は行わず、毎回の出席、小レポート、討議への積極的参加などによって評価する。		
講義構成	概ね以下のような内容を予定しているが、参加者の関心によって変更しうる。 ・ナラティブ、プロット、リアリティ ・物語と自己 ・ドキュメンタリーと報道の描写と表現 ・歴史的事実と文学 ・マイノリティと表現		
教科書	教科書は使用しない		
参考書・資料	授業内でプリントを配布する		

授業コード	W4039		
授業科目名	現代社会と表現（2クラス）(後)		
担当者名	西 欣也（ニシ キンヤ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	月曜日昼休みほか随時（メールでアポイントメントをとってください）		

講義の内容	我々の生きる時代の社会状況や意識状況を広く見渡ししながら、そのなかで表現行為の果たすべき役割とその可能性について検討する。特に小説、映画、演劇などの創造と受容における物語の作用の仕方に注目し、物語するという行為を軸にして現実世界と表現世界との係わりを問うことをあわせて試みる。		
到達目標	同時代に対する批判的視点を確立すること。		
講義方法	毎回、一つのテーマを採り上げ、有益と思われる文献を参照しながら討論をおこなう。		
準備学習	必要としない		
成績評価	試験は行わず、毎回の出席、小レポート、討議への積極的参加などによって評価する。		

講義構成	概ね以下のような内容を予定しているが、参加者の関心によって変更しうる。 ・ナラティブ、プロット、リアリティ ・物語と自己 ・ドキュメンタリーと報道の描写と表現 ・歴史的事実と文学 ・マイノリティと表現
教科書	教科書は使用しない
参考書・資料	授業内でプリントを配布する

授業コード	W4007		
授業科目名	国際環境ネットワーク(前)(隔週)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、シュレスタ(シュレスタ マノジュ L.)、西 欣也(ニシ キンヤ)、浅野能昭(アサノ ヨシアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜1限 土曜2限
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	地球環境問題の解決のためには、「グローバルに考え、ローカルに活動する」ことが重要である。そのため、本講義においては、グローバルな視野から海外の環境情報や環境教育の現状について知るために、テレビ会議システムを利用し、ラジャバト＝プラナコーン大学(タイ)、北京大学(中国)、マラヤ大学(マレーシア)、環境省、国土交通省等と甲南大学を結び、リアルタイムのe-Learning(遠隔授業)を行う。それぞれの大学や機関はゲストとして、メッセージや情報を送ってもらう予定である。海外との講義は英語で行なう。なお、本講義は教職科目、学芸員科目にも充当できる。
到達目標	国外における環境問題やその取組について理解し、英語によるディスカッションに参加できること。
講義方法	インターネットを使用した遠隔講義
準備学習	国内外の環境問題やその取組状況について事前に調べ、比較研究をしておくこと。またディスカッションや質問ができるように準備しておくこと。
成績評価	レポートと出席点
講義構成	第1回 オリエンテーション:「本講義が目指すネットワーク」:担当者(谷口) 第2回 環境省からのメッセージと国際環境政策:担当者(谷口、環境省きんき環境館) 第3回 農業と環境:担当者(ゲスト) 第4回 タイにおける地球温暖化活動:担当者(谷口、チナタ・ナガシンハ:プラナコーン大学) 第5回 地球環境問題とチベットの環境教育:担当者(シュレスタ) 第6回 タイの農業と環境:担当者(谷口、シリワット・スンダロトック:プラナコーン大学) 第7回 自然観の比較文化論:担当者(西) 第8回 国営あいな里山公園(「あいなの郷」創造活動):担当者(谷口、西、国土交通省) 第9回 中国の環境教育の政策と北京大学の環境教育:担当者(谷口:北京大学) 第10回 タイ・中国・日本の環境教育ネットワーク:担当者(谷口、チナタ・ナガシンハ:プラナコーン大学) 第11回 北海道と九州の国立公園の環境保全活動:担当者(谷口、浅野:環境省) 第12回 マレーシア・日本の環境教育ネットワーク:担当者(谷口、バハルディン) 第13回 まとめー地球環境問題の解決に向けてー:担当者(谷口) 第14回 TV国際シンポジウム:担当者(谷口、スンダロトック、ナガシンハ)
教科書	配布プリント。また参考文献・資料などは適宜提示します。
担当者から一言	甲南大学が世界へと環境教育の情報を発信するフォーカル・ポイントの大学として本講義は展開されます。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	W4008
-------	-------

授業科目名	国内環境ネットワーク(後)(隔週)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、西 欣也(ニシ キンヤ)、今井佐金吾(イマイ サキンゴ)、浅野能昭(アサノ ヨシアキ)、高阪 薫(タカサカ カオル)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜1限 土曜2限
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	地球環境問題の解決のためには、「グローバルに考え、ローカルに活動する」ことが重要である。本講義においては、日本におけるローカルな活動を主として学ぶ。そのために、テレビ会議システムを使用し、宮城教育大学、広島修道院大学、環境省きんき環境館、国土交通省等と甲南大学のネットワークを結び、リアルタイムでのe-Learning(遠隔授業)を行い、各大学や研究機関で行なわれている環境教育について学ぶ。それぞれがゲストとしてメッセージや情報を送ってもらう予定である。なお、本講義は教職科目、学芸員科目にも充当できる。
到達目標	各領域における環境問題やその取組状況について理解し、ディスカッションに積極的に参加できること。学際的な研究領域での情報収集ができるようにする。
講義方法	通常講義と学外とのe-ラーニング講義。
準備学習	環境をめぐる各テーマについて事前に調べ、情報収集をしておくこと。
成績評価	レポートと出席点
講義構成	第1回 オリエンテーション:本講義が目指すネットワーク:担当者(谷口) 第2回 環境省からのメッセージと国内における環境政策:担当者(谷口/環境省きんき環境館) 第3回 日本における林野政策と森林環境教育(谷口/ゲスト) 第4回 北海道・九州の国立公園におけるマネジメント:担当者(谷口・浅野) 第5回 地方環境行政における環境政策:担当者(谷口/大阪府) 第6回 国営あいな里山公園(「あいな里山」復元活動):担当者(谷口/国土交通省) 第7回 大気汚染・ダイオキシン・環境ホルモン問題:担当者(谷口/今井:広修大) 第8回 広島修道大学における環境教育の取組:担当者(谷口/今井:広修大) 第9回 環境問題と化学物質(今井:広修大) 第10回 宮城教育大学における環境教育のアーカイブ化の展開:担当者(谷口/宮教大) 第11回 コメと環境文学:担当者(高阪) 第12回 沖縄の環境にみる伝統文化:担当者(高阪) 第13回 環境芸術文化論:担当者(西) 第14回 まとめ:国際環境ネットワークと国内環境ネットワークとのリンク担当者(谷口)
教科書	配布プリント
参考書・資料	講義のなかでその都度提示します。

担当者から一言	地域連携の科目でもあり、甲南大学からe-Learningによって全国に発信したいと予定しています。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室,http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/}

授業コード	W4012		
授業科目名	深層心理学研究I(集中)		
担当者名	森岡正芳(モリオカ マサヨシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	出来事や関係の適切な表象・再現化が問題解決や人格変容につながるのはなぜだろう。この授業ではこのような問題意識から、心理療法の実例をもとに検討する。文化と癒しに関わる諸問題を議論したい。さらに保健医療学校教育領域における臨床心理学の可能性を探索する。各領域で話題になっているナラティブアプローチを軸にして、健康と病い、心身のトータルケアを目標とした実践について議論したい。適宜実習などを行う予定である。
到達目標	ナラティブアプローチを軸にして、健康と病い、心身のトータルケアを目標とした実践の技法を学び、理解を深める。

講義方法	講義及び演習
準備学習	臨床心理学の基本的な知識を前提として、講義をすすめる。
成績評価	数回の小レポートがある。講義の最終回には大レポートがある。以上による総合評価。
講義構成	1オリエンテーション 2内的生活史の記述について 3-4ナラティブアプローチと臨床的聴取プロセス 5夢・遊び・物語による体験の変形作用 6イメージと言葉の関係について 7-8ナラティブ・セラピーの実践例 9-10コラボレーションのアプローチについて 11学校や家族臨床における適用 12-13健康と病いについての新しい視点 14心身相関の理解 15まとめ
教科書	とくに指定しない。適宜資料を配付する。
参考書・資料	森岡正芳『物語としての面接』（新曜社） 森岡正芳『うつし 臨床の詩学』（みすず書房） 森岡正芳（編）『ナラティブと心理療法』（金剛出版）

担当者から一言	アドレスは morioka@crystal.kobe-u.ac.jp
---------	---------------------------------------

授業コード	W4013		
授業科目名	深層心理学研究II(集中)		
担当者名	一丸藤太郎(イチマル トウタロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	深層心理学について、精神分析学の考え方や概念、精神分析療法の実践について、臨床事例を用いて理解を深め、さらに解離性障害について検討する。
到達目標	開講時に指示する。
講義方法	教科書に沿って臨床事例、映画、ビデオなどを用いて講義し、討議する。
準備学習	開講時に指示する。
成績評価	レポートによる。
講義構成	以下のようなテーマから構成される。 1、精神分析療法の目的、基本的考え 2、精神分析療法の始まり、目標、治療構造 3、精神分析療法の深まり、転移、逆転移、抵抗、逆抵抗 4、夢の理解と臨床的活用 5、解釈と洞察、徹底操作 6、精神分析療法の終結 7、解離性障害の理解と心理療法 8、心理臨床における倫理
教科書	鎌幹八郎監修『精神分析的心理療法の手引き』誠信書房
参考書・資料	フロムーライヒマン・F『積極的心理療法』誠信書房
担当者から一言	討論への積極的な参加を期待する。

授業コード	W4035
-------	-------

授業科目名	心理学統計法（前）		
担当者名	浅川潔司（アサカワ キヨシ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	心理学とは比較的短い歴史は資料の収集と、その分析の過程であるともいえる。何をどのように測定すればよいのか、そしてどのような分析を施せば研究の目的にかなうのかという問題意識が心理学の展開を支えてきたようである。しかしながらその一方、細分化し専門化する方法論のせいで、心理学的研究の理解の前に、研究法や統計法の理解が大きく立ちはだかるという現象も招いている。 本講義では、研究法や統計法を学習し、そしてコンピュータによる分析を習得することでこの障壁を取り除き、より円滑に研究を進めることを目的としている。
到達目標	開講時に指示します。
講義方法	開講時に指示します。
準備学習	開講時に指示します。
成績評価	出席・発表・レポート等により総合的に評価
講義構成	開講時に指示します。
教科書	テキスト: 倉智 佐一・山上暁（編著） 新版要説 心理統計法 取り扱い先: 甲南大学生協 価格: 3000円
参考書・資料	参考文献: 森敏昭・吉田寿夫 心理学のためのデータ解析テクニカルブック 北大路書房 松田文子・伯彦 新版教育心理学研究法ハンドブック 北大路書房

授業コード	W4036		
授業科目名	心理療法特論（前）		
担当者名	北川 恵（キタガワ メグミ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
オフィスアワー	オンデマンドで		

講義の内容	心理療法の訓練生が経験しがちな実際問題について、テキストを手がかりとしながら、参加者全員で討論する。
到達目標	心理療法における実際問題に対して、自分で考え、対処するための手掛かりを得る。
講義方法	発表と討論
準備学習	教科書を事前に読んで授業に臨むこと。
成績評価	授業への参加、発表、討論、レポート
講義構成	心理療法を始めるにあたって（初心者への期待など）、初回面接と見立て（準備、面接、報告など）、心理療法の過程（開始、進め方、危機、終結、記録など）、他の治療形態への応用（子どもと家族など）といったテーマを扱う。
教科書	『心理療法入門: 初心者のためのガイド』J.S.ザロ他著／森野礼一・倉光修共訳（誠信書房）

授業コード	W4016		
授業科目名	神話学特論（前）		
担当者名	上村くにこ（ウエムラ クニコ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	授業終了後随時、あるいは火曜日12時20分～13時30分		

講義の内容	ユング派の研究者(アン・ベアリング、ジュールズ・キャッシュフォード)による女神論『世界女神大全1』(森雅子訳)を皆で一緒に読む。
到達目標	女神という表象がどのようにして生まれ、そしてどのようにその価値を喪失していったかを理解する。
講義方法	各自テキストの担当部分を決め(20ページほど)、この部分の要約と問題点などを発表する。学生は発表について質問する。教員は必要に応じて説明や解説を加える。
準備学習	輪読部分を必ず読んでくること。 また担当する部分についてはレジュメを皆に配布し、わかりやすいように発表する。
成績評価	平常点による。
講義構成	第一回目は教員が本書を解説し、半年分の担当を決め、担当者に 担当部分に関する参考文献を指示しつつ、日程表を作成する。 テーマの順番は以下のとおりである。 1)旧石器時代の母神 2)新石器時代の天空・大地・水界の女神 3)クレタ文明の女神 4)青銅器時代の母神・息子・愛人 5)イナンナとイシュタル 6)エジプトのイシス 7)バビロンのティアマト
教科書	プリントを配布する
参考書・資料	都度指示する。
講義関連事項	神話とジェンダー
担当者から一言	素朴な疑問を学問にまで結びつける視点をこの授業で獲得してほしいです。

授業コード	W4017		
授業科目名	神話とジェンダー（後）		
担当者名	上村くにこ（ウエムラ クニコ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	授業終了後、あるいは火曜日12時20分～13時30分		

講義の内容	ユング派の研究者(アン・ベアリング、ジュールズ・キャッシュフォード)による女神論『世界女神大全 I・II』(森雅子・藤原達也訳)を踏まえた上で、各自に自分のテーマを選んでもらい、それをもとに独自に問題をたて、それについての議論を順次発表してもらう(2000字～2500字)。それについて、皆でディスカッションする。
到達目標	女神という表象を、広い意味で自分の研究分野とリンクさせる。
講義方法	各自順番に研究し、それを皆で議論するというゼミ形式でおこなう。
準備学習	上記の本を熟読し、論文作成に力を注いでもらう。
成績評価	平常点による。
講義構成	第一回の授業のときに日程を決める。
教科書	アン・ベアリング、ジュールズ・キャッシュフォード著『世界女神大全 I・II』、原書房、2007年。
参考書・資料	都度、指示する。
講義関連事項	神話学特論
担当者から一言	素朴な疑問を学問にまで結びつける視点をこの授業で獲得してほしいです。

授業コード	W4F11		
授業科目名	精神医学特論 (1クラス)(隔週)		
担当者名	幸地芳朗(コウチ ヨシロウ)		
配当年次		単位数	2

開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜1限)、後期(木曜1限)
講義の内容	精神科病院(兵庫県立光風病院)における実習。精神医療の現場に触れることを目的とする。		
到達目標	授業の際に適宜指示する。		
講義方法	病院スタッフ(医師、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士など)の協力を得て、現場の体験をする。		
準備学習	授業の際に適宜指示する。		
成績評価	病院実習のレポートを提出		
講義構成	外来や病棟、作業施設、デイケア施設などの現場で講義		
教科書	適宜指示する。		

授業コード	W4F12		
授業科目名	精神医学特論(2クラス)(隔週)		
担当者名	幸地芳朗(コウチ ヨシロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜1限)、後期(木曜1限)

講義の内容	精神科病院(兵庫県立光風病院)における実習。精神医療の現場に触れることを目的とする。		
到達目標	授業の際に適宜指示する。		
講義方法	病院スタッフ(医師、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士など)の協力を得て、現場の体験をする。		
準備学習	授業の際に適宜指示する。		
成績評価	病院実習のレポートを提出		
講義構成	外来や病棟、作業施設、デイケア施設などの現場で講義		
教科書	適宜指示する。		

授業コード	W4006		
授業科目名	生命倫理研究(前)		
担当者名	中川 晶(ナカガワ アキラ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	現代医学において「癒し」という用語が用いられることは希である。専ら「治療」という言葉が使われる。治療と癒しの違いは何かというと働きかける対象が異なるということである。すなわち「治療」の対象が客観的な生物学的過程である「疾病」(Disease)であるのに対して「癒し」の対象は主観的な心理、社会的過程である「病い」(Illness)やもっと広い意味に取れば「患い」(Suffering)ということになる。 現代医学は生物科学を基礎において著しい発展をとげ、その応用として医療を位置づけてきた。確かに急性疾患や外傷に対して現代医学はその有効性、卓越性は疑うべくもない。しかし、慢性疾患・神経症・心身症といった病気に対しては突如切れ味が悪くなる。何故かという、これらの疾患では主観が病気に深く関わっている、客観的であることを旨とする生物科学は立ち往生してしまうからである。主観的なものを客観的な方法で扱うことには無理が生じる。結局、病気の客観化できる部分にだけ焦点を当てた治療が行われることになり、その他の部分は切り捨てられることになる。 本講義は現代医学を批判的に扱いながら、現代医学が忘れかけている「癒し」をもう一度医療のなかに発展的に位置づけようという試みである。		
到達目標	開講時に指示する。		
講義方法	開講時に指示する。		
準備学習	開講時に指示する。		

成績評価	レポートと出席による。
講義構成	各回に下記のようなテーマを設定し講義し、質問を混ぜながら議論を進める。 第1回 「癒し」とは何か 第2回 身体と心(Ⅰ) 第3回 身体と心(Ⅱ) 第4回 生命科学と医学(Ⅰ) 第5回 生命科学と医学(Ⅱ) 第6回 医者と癒し人(ヒーラー) 第7回 心身医療(Ⅰ) 第8回 心身医療(Ⅱ) 第9回 救急医療(Ⅰ) 第10回 救急医療(Ⅱ) 第11回 終末医療(Ⅰ) 第12回 終末医療(Ⅱ) 第13回 代替医療から統合医療へ
教科書	開講時に指示する。
参考書・資料	1.「医学の不確実性」中川米造 日本評論社 2.「ナラティブ・ベイスト・メディスン」トリシャ・グリーンハル 金剛出版 3.「心理療法」頼藤和寛・中川晶・中尾和久 朱鷺書房 4.「医療行為の論理」中川米造 医療図書出版社

授業コード	W401A		
授業科目名	人間科学演習		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次		単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)
オフィスアワー	アポイントによって、あるいは火曜日12時20分～13時30分		

講義の内容	神話学に関するさまざまなテキストを英語あるいは仏語で精読する。
到達目標	文献を精読することによって、思考力をつける。
講義方法	輪読形式とし、ディスカッションを重視する。
準備学習	必ず論文を読んでくること。
成績評価	平常点による。
講義構成	最初の授業はオリエンテーションとし、2回目に日程表を渡す。
教科書	都度指示する。
参考書・資料	都度指示する。
講義関連事項	神話学特論、ジェンダーと神話。

担当者から一言	なによりもディスカッションの力をつけることを心がけてください。
---------	---------------------------------

授業コード	W402A		
授業科目名	人間科学演習		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)		
配当年次		単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)
オフィスアワー	オンデマンドで		

講義の内容	学生の事例のスーパーヴィジョンを毎回行い、ユングのドリームセミナーを英文で読む。
-------	--

到達目標	ユングの夢理論について学ぶ。
講義方法	1パラグラフを学生に読んで訳してもらい後は討論を中心とする。
準備学習	ユングのドリームセイナーの予習をすること。
成績評価	出席と関与することを重視。
講義構成	輪読と討論。
教科書	ユング ドリームセミナー、必要な分コピーしてもらう。
参考書・資料	ユング心理学を中心として、心理学一般の専門書、精神医学の参考書、神話論などの関連書物。
担当者から一言	事例に興味を持ち、ユング心理学に惹かれる人を歓迎。

授業コード	W403A		
授業科目名	人間科学演習		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次		単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜5限)、後期(金曜5限)
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	人間・環境学を中心とした本演習では、一方で人間と環境についての新しい理論を研究しつつ、他方で臨床的・フィールド的な身体的知恵を培っていく。このような理論の探求では、人間をめぐる環境倫理と生命倫理の研究が必要となる。 そこでまず、パーソナリティと心の形成のメカニズムを明らかにする。次に、人間が地球環境の破壊をもたらした原因を追求し、環境倫理学の構築をめざす。さらに、環境の主体である生命の概念と深くかかわる医療環境や脳死・臓器移植そして癒しの諸問題を、生命倫理学の立場からとりあげる。 また、フィールドのアクティビティ(甲南大学環境教育野外施設のフィールド活動や国営明石海峡公園「あいな里山公園の創造」[国土交通省]のような環境活動など)を通じて、人生の諸問題を解決する能力である「知恵」をみがく。さらに、例えば自然環境において身体行為を伴った環境教育をおこなうことによって、心に病いをもつ現代人を健全なものにする試みも実施する。
到達目標	文献研究を行ない理論的な思考能力を身につけ、プレゼンテーション、質問ができるようにする。さらに実践研究によって裏づけされた理論が展開できるようにする。
講義方法	ノート講義・文献研究
準備学習	毎回、予習・復習を行なうこと
成績評価	レポート、出席
講義構成	1. 環境に関する古典の文献研究 2. フィールドワーク体験の研究 3. 修士論文指導
教科書	谷口文章『環境教育の哲学－環境教育学序説－』(ミネルヴァ書房)
担当者から一言	人間と環境をめぐる生命倫理学も環境倫理学も、さらに環境教育学も基本的には応用哲学の分野です。したがって現代社会の身近で具体的な諸課題を理論化して取り上げるつもりです。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室, http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/ }

授業コード	W404A		
授業科目名	人間科学演習		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次		単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)
オフィスアワー	金曜日16:30分以降		
講義の内容	脱構築とは何かを、テキスト資料を読みながら、徹底して討論し理解を深める。		

到達目標	演習とは元来、ものの読み方を学ぶところであるため、外国語を含めて様々な読み方に対応できる能力を身につける。
講義方法	参加者との発表と討論で進める。
準備学習	初回以前に準備学習をする必要はない。
成績評価	参加の程度によって評価する。
講義構成	現前の形而上学とは何か？ 主体の概念は無垢か？ 責任と他者との関係はいかにあるか。
教科書	テキストは、参加者との相談で決める。
参考書・資料	そのつど指示する。

授業コード	W405A		
授業科目名	人間科学演習		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次		単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
オフィスアワー	金曜昼休み		

講義の内容	受講生の研究発表と討論を通じて、各自の研究テーマを発展させ深めていく。受講生が担当している事例を参加者が共有し、相互に支えあう場とする。 扱うテーマは、子どもの心理臨床を中心とする。養護施設における臨床心理学的援助、虐待を受けた子どもの治療、学童期、思春期のさまざまな問題などである。また、トラウマ臨床の理論と実践も一つの核とする。		
到達目標	修士号取得のために必要な、文献収集、資料収集、問題設定、研究計画、分析、考察の能力および、臨床実践能力を身につける。		
講義方法	受講生の発表と、文献の購読をまじえて行う。		
準備学習	授業中に指定する。		
成績評価	授業への参加による。		
講義構成	受講生と相談のうえ決定する。		
教科書	なし。夏季休暇の課題図書は授業中に指定する。		
参考書・資料	森茂起『トラウマの発見』講談社		

授業コード	W406A		
授業科目名	人間科学演習		
担当者名	羽下大信(ハゲ ダイシン)		
配当年次		単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)
オフィスアワー	授業の前後に実施		

講義の内容	以下のことをキーワードとして演習を進めていく。 「心の発達、対人援助、環境・コミュニティ」発達に関しては精神分析的な発達諸理論を基礎にし、対人援助とは狭義の心理療法に限らず、介護や看護、教育、専門的・非専門的なケア・サポートにかかわる活動を含み、環境・コミュニティとは身体・言語・習慣・ストレス・地域などを意味する。これらのキーワードが重なる領域での理論研究・調査・フィールドワークを、本演習の取り扱う範囲としたい。		
到達目標	初回講義にて指示する		
講義方法	各自のテーマをもとに指導する		
準備学習	初回講義にて指示する		

成績評価	レポートおよび発表により評価する
講義構成	初回講義にて指示する
教科書	なし
参考書・資料	必要に応じて配布する

授業コード	W407A		
授業科目名	人間科学演習		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次		単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)
オフィスアワー	金曜昼休み		

講義の内容	参加者の研究発表と討論。各自が研究テーマにそって発表し、参加者全員で討論することを通じて、テーマを深め発展させていく。		
到達目標	修士論文執筆のために必要な、文献収集、資料収集、問題設定、研究計画、考察力などを身につける。		
講義方法	参加者の研究発表と討論。また、関連文献の購読も行う可能性がある。		
準備学習	授業中に各参加者に対して個々に指定する。		
成績評価	授業への参加による。		
講義構成	研究発表の順番などは、参加者と相談のうえで決定する。		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	必要に応じて、その都度指示する。		

授業コード	W408A		
授業科目名	人間科学演習		
担当者名	福井義一(フクイ ヨシカズ)		
配当年次		単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)

講義の内容	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
到達目標	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
講義方法	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
準備学習	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
成績評価	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
講義構成	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		
教科書	開講時までにWEBシラバスを確認してください。		

授業コード	W409A		
授業科目名	人間科学演習		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次		単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)
オフィスアワー	月曜日お昼休みほか随時(メールでアポイントメントをとってください)		

講義の内容	哲学・文学の様々なテキストを参照しながら、人間精神の活動の意味と制約について可能なかぎり多様な角度から考察を行う。
到達目標	批判的かつ多面的な思考の訓練をすること。
講義方法	参加者との討議による。
準備学習	必要としない
成績評価	試験は行わず平常点によって評価する。
講義構成	参加者の関心に応じて、真理、想像力、時間と空間、個と共同体、信仰、芸術、歴史性、愛、美など様々なトピックをとり上げ、文献を出発点として議論する。
教科書	教科書は用いない。
参考書・資料	講義中にプリントを配布する。

授業コード	W410A		
授業科目名	人間科学演習		
担当者名	北川 恵(キタガワ メグミ)		
配当年次		単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)
オフィスアワー	オンデマンドで		

講義の内容	心理学の実証研究は、剰余変数を統制した客観的な手続きのもとで人間の原理・原則を追及するものであり、かたや、臨床実践は多くの要因のなかに生きる人間の個性に寄り添う営みである。心理臨床家は、これらの2つの視点を統合的に発展させることが必要であろう。本ゼミでは、人間の人格発達やメンタルヘルスへの重要な基盤となる「アタッチメント(愛着)」について、実証研究と臨床実践それぞれの視点から学びたい。
到達目標	アタッチメントの基礎知識を共有するとともに、各自の研究テーマに沿った研究を進める。
講義方法	受講生と相談の上決める。
準備学習	教科書を読んでおくことが望ましい。 また、各自の研究テーマについて、研究計画を立てておく。
成績評価	授業への参加、発表、討論、レポートなど。
講義構成	ゼミ共通の文献講読や、各自の研究発表、討論などによる。
教科書	『アタッチメント:生涯にわたる絆』数井みゆき・遠藤利彦編著(ミネルヴァ書房) 『アタッチメントと臨床領域』数井みゆき・遠藤利彦編著(ミネルヴァ書房) その他、授業中に紹介する。

授業コード	W411A		
授業科目名	人間科学演習（集中）		
担当者名	穂苅千恵（ホカリ チエ）		
配当年次		単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）

講義の内容	心理臨床の実践感覚を育てるうえで意味があると思われる素材を通して、クライアントおよびセラピストに関わる現象について考える。
到達目標	授業の際に適宜指示する。
講義方法	個人やグループによる発表と討論。
準備学習	授業の際に適宜指示する。
成績評価	発表とレポート
講義構成	1)文献講読と討論

	器質的脆弱性(発達障害・高次脳機能障害など)、幼児期の主体形成、児童期の子どもにとっての自己感や宇宙観、親への刺激としての子どもなどのテーマから、受講生と相談して決定する。 2)イメージの視点から事例を理解する試み 事例検討の方法は、面接の経過をおいながら事例を理解していくアプローチとは限らない。この演習では、事例に関する具体的情報の提示を募り、その情報をイメージとして扱うことから全員で議論を深め、事例の本質的な問題にアプローチしてみたい。 提供情報としては、数十行の逐語記録、一枚の描画、繰り返されるプレイ、面接中にセラピストが思い出す心象風景、印象的な夢など、発表者が一度じっくり考えてみたいと思っている素材で具体的な提示が可能なものであれば制限はない。継続中の事例だけではなく、中断事例や面接開始には至らなかった事例との電話でのやりとりなどもOK。
教科書	適宜指示する。
講義関連事項	初回の出席者と相談しながら、発表の順番や購読テキストを決めます。
担当者から一言	渾沌一スリルーパッションー静寂を漂流しながら、食・遊・働・眠を保持するコツをつかんでください。

授業コード	W4003		
授業科目名	人間科学思想研究(前)		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	金曜日16:30分以降		

講義の内容	臨床心理学、とりわけ精神分析とは何か、それが人間にとって、社会にとってもつ意味を探るため、精神分析と現代思想の両者に関係する文献を読みながら、現在の心理臨床が直面している問題の思想的意味や、社会にとっての心理学の意味を問い直す。		
到達目標	外国語の読解を通じて、しっかりとした思考力を身につける。		
講義方法	文献購読。		
準備学習	特になし。		
成績評価	参加の度合いによって評価する。		
講義構成	「現代思想研究」につながる形で、通年で一つの文献を読む。		
教科書	参加者との相談の上で決定する。		
参考書・資料	そのつど指示する。		

授業コード	W4001		
授業科目名	人間科学総論		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
オフィスアワー	金曜日16:30分以降		

講義の内容	前期は19世紀から現在にいたる、人間科学の認識論的変遷を講義し、後期は文学作品の読み方をとおして、人間科学の可能性を探る。		
到達目標	自分たちが専門としている学問がどのような位置にあるのかを徹底して理解する。		
講義方法	講義、討論、発表を組み合わせる。		
準備学習	自らが専門とする分野の「古典」と呼ばれる著作を読んでおくこと。		
成績評価	参加の程度によって評価する。		

講義構成	人間科学の認識論上の諸問題。 文学作品と人間科学の関わりから浮かび上がる、人間諸科学のあり方。
教科書	特になし。
参考書・資料	そのつど指示する。

授業コード	W4020		
授業科目名	人間・環境学特論（後）		
担当者名	谷口文章（タニグチ フミアキ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	第一に、「人間」については、自己の生成について考える。人間の精神と心の形成は自己関係を基本とする。しかしながら自己関係における「自己の確立」を考察すると、現代社会では自我の確立どころか自己概念の把握も充分ではなく、現実には浮遊した「自分」が散在している傾向がある。そのために自己の再確立をめざして哲学的・心理学的レベルで人間の全体像を環境との関係を通じて分析する。言うまでもなく人間の形成には、自己関係だけでなく、自己関係が必要である。この場合の「他」を他人でなく「環境」にまで拡張する必要がある。 第二に、「環境」学に関しては、各生命主体において他者としての“環境のリズム”と自己としての“内的リズム”が合致する方法を検討する。つまり、人間の全体的能力を発揮するために外界と内界のリズムが一致しなければ、人間が健全な状態で生きていくことはできないからである。 最終的には、人間の形成を自己関係（精神・心の形成）と自己関係（人間と環境の相互作用）の視点から明らかにした上で、人間存在についての環境問題を考察する。		
到達目標	理論的な思考能力を身につけ、プレゼンテーション、質問ができるようにする。		
講義方法	ノート講義、フィールドワーク		
準備学習	予習・復習を行なうこと。		
成績評価	レポート、出席		
講義構成	1. 現代の人間像 2. 持続可能な環境システム論 3. 21世紀における人間と環境の検討		
教科書	里見軍之・谷口文章 共編『現代哲学の潮流』（ミネルヴァ書房）		
講義関連事項	「国際環境教育ネットワーク」「国内環境教育ネットワーク」（以上学部専門科目）		
担当者から一言	まず、認知心理学を検討します。ギブソンの認知心理学をどのように生態学的に適用するかを示す。その後、持続可能な環境と人間の未来を考えていこうと思います。		
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室, http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/ }		

授業コード	W4C11		
授業科目名	人間関係トレーニング（前・集中）		
担当者名	宮川貴美子（ミヤガワ キミコ）、磯田雄二郎（イソダ ユウジロウ）		
配当年次		単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（木曜3限 木曜4限）、後期（集中講義）
講義の内容	心理臨床家を目指すものとして、自らへの気づきを深めることが大切であることはいまでもない。臨床の分野ではスーパーヴィジョン、あるいは教育分析がこの役割を果たしているが、対人関係の中に生きる存在として援助的な役割を担うための基礎となるのは自己理解、他者理解である。個人またはグループによるさまざまな実習を通して、そこでの自己の気づきの言語化、相互フィードバックを主として進めていく。自分を伝え、他者を受容することを体験的に学び、自らの気づきを深める。自己理解、他者理解を深めるために必要な感受性を体験的に学び、他者援助やコミュニケーションについて考える。		
到達目標	初回講義（4月8日）において概要を説明します。		

講義方法	主としてグループ・ワークの形式をとる。ラボラトリー方式による体験学習のスタイルで、毎回、実習、ふりかえり（メンバー間でのフィードバック）、理論化のための講義をワンセットにして進めていく。実習の素材は自分自身である。
準備学習	適宜指示します。
成績評価	毎回の授業への参加とレポートにより総合的に評価する。この授業は、自分自身を素材とした自らの体験によって何を学び、どう気づき、どのように変化したかを問うものである。したがって受講者が体験・参加することが基本条件である。原則として遅刻、早退は認めない。
講義構成	毎回なんらかの「実習」→「個人でのふりかえり」→「グループでのシェアリング」の順で構成される。一回の授業は3時限と4時限の2コマ連続で行うため、設定は隔週となる。毎回の授業は以下の予定で行う。 ※初回講義：4月8日（木） 第1回 オープニング：お互いに知り合うための実習 第2回 課題解決実習 第3回 イメージ交換実習 第4回 コミュニケーション実習①：一方通行と双方通行のコミュニケーションを体験する 第5回 コミュニケーション実習②：「聴けない」実習 第6回 コミュニケーション実習③：「聴かない」実習 第7回 コミュニケーション実習④：自分の聴き方に気づく 第8回 コミュニケーション実習⑤：「聴く」ことはどういうことを学ぶ 第9回 コミュニケーション実習⑥：無言の作業によるグループワークを体験する 第10回 コミュニケーション実習⑦：ノンバーバルコミュニケーションを考える 第11回 コンセンサス実習①：物語Aを素材としてコンセンサスを行い自分の価値観を知る 第12回 コンセンサス実習②：物語Aを素材としてコンセンサスを行い他者との相違点に気づく 第13回 コンセンサス実習③：物語Bを素材としてコンセンサスを行い自分の価値観を知る 第14回 コンセンサス実習④：物語Bを素材としてコンセンサスを行い他者との相違点に気づく 第15回 まとめ：クロージング
教科書	教科書は特に指定しない。

授業コード	W4C12		
授業科目名	人間関係トレーニングⅠ（前）		
担当者名	宮川貴美子(ミヤガワ キミコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限 木曜4限

講義の内容	心理臨床家を目指すものとして、自らへの気づきを深めることが大切であることはいうまでもない。臨床の分野ではスーパーヴィジョン、あるいは教育分析がこの役割を果たしている。さらに対人関係の中に生きる存在として援助的な役割を担うための基礎となるのは自己理解、他者理解である。本講義では、さまざまなグループワークを通して自己理解、他者理解を深めるための感受性を体験的に学ぶことを目的とする。
到達目標	初回講義（4月8日）において概要を説明します。
講義方法	主としてグループ・ワークの形式をとる。ラボラトリー方式による体験学習のスタイルで、毎回、実習、ふりかえり（メンバー間でのフィードバック）、理論化のための講義をワンセットにして進めていく。実習の素材は自分自身である。
準備学習	適宜指示します。
成績評価	毎回の授業への参加とレポートにより総合的に評価する。この授業は、自分自身を素材とした自らの体験によって何を学び、どう気づき、どのように変化したかを問うものである。したがって受講者が体験・参加することが基本条件である。原則として遅刻、早退は認めない。
講義構成	毎回なんらかの「実習」→「個人でのふりかえり」→「グループでのシェアリング」の順で構成される。一回の授業は3時限と4時限の2コマ連続で行うため、設定は隔週となる。毎回の授業は以下の予定で行う。 ※初回講義：4月8日（木） 1. オープニング：お互いに知り合う／課題解決実習 2. コミュニケーション実習（1）／「イメージ交換」実習 3. コミュニケーション実習（2） 4. コミュニケーション実習（3） 5. コミュニケーション実習（4） 6. コンセンサス実習（1） 7. コンセンサス実習（2）

	8. クロージング(3時限のみ)
教科書	教科書は特に指定しない。

授業コード	W4C13		
授業科目名	人間関係トレーニングⅡ（集中）		
担当者名	磯田雄二郎（イソダ ユウジロウ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（集中講義）、後期（集中講義）

講義の内容	集団での行動についてその基本的な原理を学び、理解をすることから集団に振り回されるのではなく、集団を活用する方法論を身に着ける。
到達目標	開講時に指示します。
講義方法	最も困難である人間関係における技術を習得し、より適応的な行動を取れるように訓練をする。具体的には集団での行動を通して集団内での振る舞いの根本にある個人の力動および集団の力動について学ぶことで、よりよく適応的な行動ができるように訓練をする。
準備学習	開講時に指示します。
成績評価	出席 20% レポート 30% 試験 50%
講義構成	第一回: 集団についての基本的な理解 第二回: 集団の作成について、その原理 第三回: 集団作りの演習(1) 初歩的な技法 第四回: 集団作りの演習(2) 高等な技法 第五回: まとめと討論 第六回: 集団の測定について 第七回: 集団の測定の演習 第八回: 集団における役割の意味とシステム論的役割理論 第九回: 集団における役割の演習(1): ソーシャルアトム 第十回: 集団における役割の演習(2): カルチュラルアトム 第十一回: 集団における役割の演習(3): 家族関係の理解 第十二回: 集団における役割の演習(4): ロールトレーニング 第十三回: 集団における役割の演習(5): サイコドラマ 第十四回: 集団における役割の演習(6): ソシオドラマ 第十五回: まとめと討論
教科書	磯田監訳「エッセンシャル・モレノ」(金剛出版)
参考書・資料	特になし

授業コード	W4019		
授業科目名	美学思想特論（後）		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	授業終了後の昼休み+金曜3限終了後（前期）		

講義の内容	近代・現代の美学思想を紹介しつつ、同時代の思想や社会との関連を幅広く考察していく。少人数制で毎回何らかのトピックスについて意見を交換する。
到達目標	各自が関心をもつ研究対象に関して、美学あるいは芸術学的な観点からのアプローチの仕方を身につける。また、各自の専門分野での研究・修士論文などにも、それを応用できるようになってもらえると嬉しい。
講義方法	講義ではスライドなどを使用する。学生によるレポートの発表をもとにしたディスカッションも行う。
準備学習	できれば、美術館や画廊などでできるだけ多くの芸術作品に触れておいて欲しい。
成績評価	発表するレポートの内容と平素の授業への参加を評価する。試験はしない。

講義構成	受講者の専門内容や関心事について、初回にアンケートを実施し、それをもとにして、授業テーマを決めていく。参加する学生の興味や、各自の研究内容になるべく合うような授業内容を、学期の初めに、参加者と相談して決めたいと思う。
教科書	その都度プリントを配布する。
担当者から一言	各自、積極的に発言し関わってほしい。

授業コード	W4024		
授業科目名	フィールドワーク特論 Ia (前)(隔週)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜1限 土曜2限
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	地球温暖化などにみられるように今日地球環境問題は、深刻化している。その解決方法の一つとして、環境問題を見る眼を養うためには、フィールドワークに基づく調査がベースとなる。森林や里山景観の変化を観察することによって、山－川－海－森の生態系の連関を知ることができる。また教室の中で培った「知識 knowledge」は、フィールドにおいて「知恵 wisdom」へと転化させる必要がある。これらのことを目指して、国営明石海峡公園(国土交通省)「あいな里山公園」において、里山の現状と生態系、また伝統文化の保存について調査する。
到達目標	環境を軸に展開される調査研究の内容論、目的論、方法論とその評価を習得すること。
講義方法	①隔週土曜2限連続の調査を、あいな里山公園にて実施する ②フィールド調査 ③グループ・ディスカッション ④プレゼンテーション
準備学習	各回で展開される調査方法を習熟し、レポートを作成すること。
成績評価	活動に関する調査レポートおよび出席状況等により評価を決定する。
講義構成	・次のテーマを中心に、フィールド調査を実施 【1】生物多様性と稀少種の問題 【2】地域再生の問題と文化保存をめぐる問題 【3】公園にどのように環境教育を導入するかの検討 ・グループ・ディスカッションなどを通じて、最後の講義では、調査の成果を各自発表する
教科書	講義中に資料・文献をその都度提示します。
参考書・資料	・国営明石海峡公園「あいな里山公園」 http://www.kobe.kkr.mlit.go.jp/

ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	W4025		
授業科目名	フィールドワーク特論 Ib (集中)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	地球温暖化などにみられるように今日地球環境問題は、深刻化している。その解決方法の一つとして、地球環境問題を見る眼を養うためには、フィールドワークに基づく調査がベースとなる。本講義では海外の環境調査を集中講義で行なう。隔年ごとにタイ・プラナコーン＝ラジャバト大学、マレーシア・マラヤ大学、カナダ・ヴィクトリア大学、中国・北京大学のいずれか一大学を訪問する予定である。 海外にでない隔年は甲南大学を拠点に、北京大学などの学生を受け入れ、日本国内の環境関連施設や地域へのフィールド調査を実施する。
-------	--

	本年度は、甲南大学に海外の大学の大学院生と本学の学生がともに国営明石海峡公園「あいな里山公園」の里山再生活動に参加する予定である。
到達目標	フィールド調査を行ない、実地にもとづいた情報の収集能力を身につける。フィールドワークの実践によって得た情報・知識を社会的・経済的・文化的・歴史的な文脈によって裏づけしながら理論化できること。
講義方法	【1】10日間の集中講義を実施する。初日と最終日は本学で講義。残りはフィールド調査。 【2】調査場所：あいな里山公園（神戸市北区）、淡路島モンキーセンター（淡路島・洲本市） 【3】日本とアジア・エリアにおける環境教育の比較検討
準備学習	各回の調査記録を整理し、レポートを作成する。
成績評価	活動に関するレポートおよび出席状況等により評価を決定する。
講義構成	・次のテーマを中心に、フィールド調査を実施 【1】国際的な生物多様性と希少種の問題 【2】グローバル視点とローカルな活動 【3】各国にどのような環境教育の共通のガイドラインを導入するかの検討 ・グループ・ディスカッションなどを通じて、最後の講義では、調査の成果を各自発表する
教科書	講義のなかで、文献・資料を適宜提示します。
参考書・資料	・国営明石海峡公園「あいな里山公園」 http://www.kobe.kkr.mlit.go.jp/ ・北京大学 http://www.pku.edu.cn/ ・淡路島モンキーセンター http://monkey-center.com/
講義関連事項	国際環境ネットワーク、国内環境ネットワークも受講すること。
担当者から一言	本年度は協定校である北京大学環境科学工学院との交流を推進する。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	W4026		
授業科目名	フィールドワーク特論Ⅱ(後)(隔週)		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜1限 土曜2限
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	フィールドワーク特論Ⅰa・Ⅰbの成果を基礎として、森林文化を学ぶ。京都府内の里地里山を中心に調査する。また単なる調査にとどまることなく、地域とのパートナーシップを構築するためのコーディネーター、ファシリテーター、プランナーとしての環境教育スキルを学ぶ。
到達目標	フィールド調査の方法論を身につけ、調査内容を理論・実践面より検証できること。
講義方法	【1】フィールド調査と講義によって構成 【2】地域の行政、NPO、他大学の学生とのパートナーシップの構築などをめざす 【3】里山レンジャーとして環境教育プログラムの実施をサポートする
準備学習	各回の調査記録、グループディスカッションの記録をまとめ、レポートを作成する。
成績評価	活動に関するレポートおよび出席状況等により評価を決定する。
講義構成	次のテーマを中心に、フィールド調査を実施し、その調査記録をまとめる。 ・森林の多面的機能についての理解 ・地域再生と文化保存をめぐる問題 ・環境教育の可能性 ・サステナビリティ 毎回のグループディスカッションを通じて、最終回では各自がプレゼンテーションを行なう。
教科書	各回において、参考文献・参考資料を提示します。
参考書・資料	・国営明石海峡公園「あいな里山公園」 http://www.kobe.kkr.mlit.go.jp/
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	W4033		
授業科目名	臨床教育学特論(集中)		
担当者名	高橋 哲(タカハシ サトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	いじめや不登校などの児童生徒の問題行動が、学校教育の重要な課題になっている。ここでは、主に心理臨床の観点からの事例研究を踏まえて、児童生徒の内面的な世界に注目し、現代教育課題としての児童生徒－教師関係及びカウンセリングについて考える。また、教育指導における人間関係の現実をみつめながら、児童生徒の心の教育や教育相談の内容とあり方及び教育システムを考える、新しい臨床教育学の構築を目指す。		
到達目標	講義開始時に指示する。		
講義方法	受講生の発表および討論を基本とする		
準備学習	講義開講時に指示する。		
成績評価	出席およびレポートによる		
講義構成	講義開始時に指示する		
教科書	特になし		
参考書・資料	その都度配布する		

授業コード	W4014		
授業科目名	臨床心理学研究I(前)		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜1限
オフィスアワー	オンデマンドで		

講義の内容	精神病理学、ユング心理学を中心として、無意識の心的内容の理解を深めてもらう。		
到達目標	後期からケースを持つにあつたての精神医学、ユング心理学。精神分析などの基礎知識を身につける。		
講義方法	レジュメにそつての講義		
準備学習	講義を終えるにあたって、次週は何を講義するか述べるので、予習すること。		
成績評価	レポートによる。		
講義構成	1、無意識について。 2、神経症について。 3、人格障害。 4、統合失調症。 5、夢分析。 6、神話。 7、おとぎ話の解釈。 7、その他事例など。		
教科書	なし。		
参考書・資料	ユング心理学、フロイト理論、対象関係論、精神医学などの専門書やし神話論、おとぎ話の解釈論など。		

授業コード	W4015		
授業科目名	臨床心理学研究II(後)		
担当者名	福井義一(フクイ ヨシカズ)		

配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
講義の内容	開講時までWEBシラバスを確認してください。		
到達目標	開講時までWEBシラバスを確認してください。		
講義方法	開講時までWEBシラバスを確認してください。		
準備学習	開講時までWEBシラバスを確認してください。		
成績評価	開講時までWEBシラバスを確認してください。		
講義構成	開講時までWEBシラバスを確認してください。		
教科書	開講時までWEBシラバスを確認してください。		

授業コード	W4034		
授業科目名	臨床心理基礎実習（前）		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)、森 茂起(モリ シゲユキ)、羽下大信(ハゲ ダイシン)、福井義一(フクイ ヨシカズ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限 土曜3限 土曜4限
オフィスアワー	オンデマンド		

講義の内容	実際に事例を持つための基礎訓練としてのロールプレイと事例を持ち始めてからの技法、関係性の持ち方の基礎訓練		
到達目標	実際にクライアントと後期から会うための基礎訓練であるため、関係性のあり方に気をつけつつ、クライアントから情報を集めつつ、何が問題であるかを組み立てることが出来るようになること。		
講義方法	学生の報告と教員のコメント、討論。		
準備学習	ロールプレイの発表者はこれまでもそうであったように、ロールプレイの逐語録、遊戯療法のビデオを準備すること。		
成績評価	修士一回生は必ず出席すること。それによる評価。		
講義構成	ロールプレイは修士一回生がペアーを作り、クライアントと治療者の役割分担をし、その逐語録、ないしはビデオを報告、教員がコメントし、全体で討論する。事例の時は修士二回生、博士後期課程からそれぞれ1名参加してもらう。		
教科書	特に指定はないが、自分の発表する事例の参考文献に目を通すこと。		

授業コード	W4030		
授業科目名	臨床心理査定特論I（前）		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)、羽下大信(ハゲ ダイシン)、北川 恵(キタガワ メグミ)、福井義一(フクイ ヨシカズ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	オンデマンドで		

講義の内容	面接に中での査定を中心に行う。		
到達目標	さまざまな査定、心理テストの講義をリレー式に行う。		
講義方法	レジュメにそっての講義		
準備学習	時間割に沿って前もって予習すること。		
成績評価	出席。		
講義構成	面接での立ち振る舞い、関係性、病態水準、転移／逆転移などについて講義する。		

教科書	なし。
参考書・資料	『臨床心理スーパーヴィジョン』（藤原勝紀編、至文堂）、 横山博「精神科医からみたスーパーヴィジョン」（67-77頁） 『心理臨床大事典』（培風館）横山博「面接による心理アセスメント」（441-445頁）
担当者から一言	リレー式の講義であり、事例を受け持つための基本的なことが講義されるので、ちゃんと出席すること。

授業コード	W4031		
授業科目名	臨床心理査定特論II（後）		
担当者名	羽下大信（ハゲ ダイシン）、北川 恵（キタガワ メグミ）、福井義一（フクイ ヨシカズ）、大西彩子（オオニシ アヤコ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	オンデマンドで		

講義の内容	面接の中での査定を中心に行う。
到達目標	開講時に指示します。
講義方法	レジュメにそっての講義
準備学習	開講時に指示します。
成績評価	出席
講義構成	「発達を軸にしたアセスメントの実際」 「乳児・親を対象とした半構造化面接」 「発達テスト2」 「描画法（HTP、風景構成法）」 「心理テストの有効性と限界」
教科書	なし。
参考書・資料	『臨床心理スーパーヴィジョン』（藤原勝紀編、至文堂）、 横山博「精神科医からみたスーパーヴィジョン」（67-77頁） 『心理臨床大事典』（培風館）横山博「面接による心理アセスメント」（441-445頁）
担当者から一言	リレー式の講義であり、事例を受け持つための基本的なことが講義されるので、ちゃんと出席すること。

授業コード	W4032		
授業科目名	臨床心理査定特論Ⅲ（後）		
担当者名	石川敬子（イシカワ ケイコ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
講義の内容	心理査定は、パーソナリティーを査定するのみではなく、心理療法につなげてゆくものでもある。本講義では、心理検査の中で投影法を代表する「ロールシャッハテスト」の基礎を学びながら、投影法の本質をとらえてゆきたい。 実際の事例を通してロールシャッハテストの施行、結果の整理、解釈を学び、心理療法との関連までを考えたい。		
到達目標	臨床の場で、ロールシャッハテストをとることができ、解釈をすることができるようになる。投影法がどういうものかを実際に知ってゆく。		
講義方法	実際の事例を検討しながら、基本的には、教科書に沿って進める。		
準備学習	それまでに、自分がどの程度までロールシャッハテストに取り組んできたかを確認しておく。		
成績評価	出席と事例レポート		
講義構成	第1回 ロールシャッハテストの歴史、意味づけ		

	第2回 ロールシャッハテストの施行 ① 第3回 ロールシャッハテストの施行 ② 第4回～第8回 記号化 第9回～第11回 結果のまとめ 第10回～第13回 解釈 第14回 心理療法への橋渡し 第15回 質疑、まとめ
教科書	片口 安史著 改訂 新心理診断法 金子書房 9975円
参考書・資料	講義中に適宜紹介する。
担当者から一言	少人数なので、主体的な参加を望みます。質問があれば、臨床実践の現場のお話もしてゆきたいと思います。

授業コード	W4027		
授業科目名	臨床心理実習		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)、森 茂起(モリ シゲユキ)、羽下大信(ハゲ ダイシン)、北川 恵(キタガワ メグミ)、福井義一(フクイ ヨシカズ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜4限)、後期(月曜4限 月曜5限)
オフィスアワー	オンデマンドで		

講義の内容	事例の報告に対するコメントを行い、面接技法、心理療法への理解を深める大学院での中心の講義である。
到達目標	クライアントと面接する際の真摯な態度と想像力の豊かさを身につけること
講義方法	学生の事例報告とコメント、討論。
準備学習	事例発表者は要領よく、自分の討論して欲しいことが伝わるようにまとめること。
成績評価	出席は義務であり、主席しないと単位は与えられない。
講義構成	学生によって報告された担当事例を中心とした討論。守秘義務が厳密に課される。
教科書	なし。
参考書・資料	精神医学、心理学専門書。

担当者から一言	どんな初歩的なことでも必ず自分の意見を述べること。
---------	---------------------------

授業コード	W4028		
授業科目名	臨床心理面接特論I(前)		
担当者名	羽下大信(ハゲ ダイシン)、北川 恵(キタガワ メグミ)、福井義一(フクイ ヨシカズ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	金曜昼休		

講義の内容	心理療法の基礎となる理論的枠組みを講義形式で論じた後、現在の臨床的問題から各自がテーマを選び、文献を収集してまとめ発表する。講義では、ビオンの枠組みを用いながら、「心理療法とは何か」についての一つの考え方を紹介する。
到達目標	開講時に指示します。
講義方法	開講時に指示します。
準備学習	開講時に指示します。
成績評価	発表と小論文による。 小論文:8000字 提出期限はWEBシラバスを確認すること。

	注意:タイトルは各自の関心にしたがって、工夫してつけること。文献の引用形式を整えること(修士論文の形式で)。外国語文献も用いることが望ましい。
講義構成	受講生の発表テーマは年度によって異なることがあるが、参考のために過去の内容を記す。 ①オリエンテーション ②講義:思考の発生と成長(身体、イメージ、気づき、理解) ③講義:グリッド ④講義:言語面接の検討 ⑤講義:治療者の役割(包容containing、L・H・K) ⑥講義:描画法、プレイセラピー ⑦講義:フェレンツィの業績 ⑧発表:暴力の理解と対応 ⑨発表:精神分析の現在 ⑩発表:トラウマへの心理学的援助 ⑪発表:映画のトラウマ論的分析 ⑫発表:解離の心理療法的扱い ⑬発表:子ども虐待の現状と対策
教科書	開講時に指示します。
参考書・資料	J&N. シミントン『ビオン臨床入門』金剛出版。

授業コード	W4037		
授業科目名	臨床心理面接特論I（2クラス）(集中)		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	オンデマンドで		

講義の内容	「心理療法とは何か」を主題に、担当者の基本的考えを講じる。
到達目標	面接過程を分析する際に、「思考のレベル」および「人生史におけるトラウマ的事象」の二つの視点を有効に用いることができるようになる。
講義方法	講義とともに、一部実習を用いる。
準備学習	開講時に指示します。
成績評価	出席およびレポート。
講義構成	以下の順で講じる。 経験と思考の成長(身体、イメージ、気づき) グリッド、治療者の役割(包容、L・H・K) 外傷性記憶(身体・感情・認知)(実習含む) 自伝的記憶と「私」 体験の消化・整理としての心理療法
教科書	なし。
参考書・資料	シミントン『ビオン臨床入門』金剛出版 シャウアー他『ナラティブ・エクスプロージャー・セラピー』金剛出版

授業コード	W4029		
授業科目名	臨床心理面接特論II（後）		
担当者名	羽下大信（ハゲ ダイシン）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
講義の内容	スクールカウンセラーの活動を中心とした学校臨床心理学での、そこでの援助の特異性について詳述する。		

到達目標	初回講義時に指示する
講義方法	適宜資料を提示し、討論形式で進める
準備学習	初回講義時に指示する
成績評価	レポートおよび発表により評価する
講義構成	初回講義時に指示する
教科書	特になし
参考書・資料	必要に応じて配布する

授業コード	W5W01		
授業科目名	知的財産法（前）		
担当者名	山名美加（ヤマナ ミカ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	現代では一般の個人もウェブサイトを開設し、その著作物を世界に送信できる時代である。しかし、それは同時にその著作物が「無数の個人」によって利用され、権利が侵害されうることでもある。近年の技術の急激な進歩と普及は知的財産法制にこれまでにない急速な対応を求めている。 また、現代は、企業、大学、研究所等の組織においても、知的財産の適切な保護・管理と活用が不可欠な時代でもある。本講義においては、理系の学生にとっても重要となる知的財産諸法（著作権法、特許法、商標法、意匠法、不正競争防止法）の基礎的理解を図るとともに、研究成果の移転、技術の流通のあり方についても、欧米の例も交えながら、検討していきたい。
到達目標	受講生の進路を企業や研究機関におけるR&D関連部門と想定し、R&Dに関わる上で最低限必要となるであろう知的財産諸法の基本的枠組みと共に、知的財産ビジネスに関わる知識の習得を目指す。
講義方法	配布したレジュメ、資料、テキスト（『産業財産権標準テキスト』）に沿って講義を行う。
準備学習	準備学習の為に、レジュメは次回講義分も配布するので、目を通した上で参加のこと。
成績評価	課題レポート及び学期末試験の結果を合算して評価する。
講義構成	第1回 情報社会と法（情報社会における知的財産権保護の意義） 第2回 著作権とは、作者の権利 第3回 著作権隣接権、著作権の流通市場と著作権ビジネス 第4回 著作権をめぐる紛争事例 第5回 特許権とは、発明とは 第6回 特許権取得の手続き 第7回 特許をめぐる紛争事例 第8回 産学連携と技術移転 第9回 大学の知的財産ビジネス—欧米の事例から— 第10回 商標権、意匠権とは 第11回 不正競争防止法 第12回 知的財産権の国際的な保護制度① パリ条約、ベルヌ条約 第13回 知的財産権の国際的な保護制度② TRIPs、PCT 第14回 知的財産権をめぐる現代的課題①—P2P技術— 第15回 知的財産権をめぐる現代的課題②—遺伝資源—
教科書	文化庁長官官房著作権課『著作権テキスト—初めて学ぶ人のために—（平成21年度）』各自文化庁のホームページよりダウンロードのこと 特許庁『産業財産権標準テキスト』（特許編、商標編、意匠編）受講生には各1冊配布する
参考書・資料	適宜指示する。
担当者から一言	知的財産権は、産業発展の要です。権利の適切な取得、保護、活用について、これからは理系の学生にもしっかり学んでほしいと思います。

授業コード	W5035		
授業科目名	宇宙線物理学 (前)		
担当者名	村木 綏(ムラキ ヤスシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	朝9時から10時15分		
講義の内容	自然界には4つの基本的な相互作用が存在する。まずそれぞれの相互作用の基本的な特徴を説明し、これらの相互作用が宇宙線のさまざまな現象の中でどのように出現しているかを解説する。そして宇宙線現象の中で未解決の問題を紹介する。これらの未解決な問題に迫るには実験的方法と理論的方法がある。本講義では実験で使用されている基本的な技術について説明したのち、それらをどう組み合わせて未解明の自然現象がどう解明されるかを説明する。様々な仮説がどのように取捨選択され証明されたかについて具体例をあげて紹介する。		
到達目標	人類の知的財産がどのように試行錯誤をしながら作られてきたのかを理解するとともに、修士論文作成に必要な基本的な共通課題を理解する。		
講義方法	黒板に板書するかたちでゆっくり話す。従ってノートに記述するように。できるだけパワーポイントは避けて説明するように心がける。		
準備学習	学部有的时候に、自然科学コースの講義C1を履修していることが望ましい。		
成績評価	出席とレポート		
講義構成	第1◆2回:強い相互作用の現象論 湯川理論からクォーク模型へ、小林・益川模型、漸近的自由、クォークの閉じ込め理論、多重発生現象論 第3◆4回:電磁相互作用 制動放射、電子対創生、シンクロトロン放射(SOR)、逆コンプトン効果、チェレンコフ光、カスケードシャワー理論、EGS4, ミューオンの電離損失と地下実験 第5回 :弱い相互作用 弱い相互作用の歴史、Z・Wの発見、2力の統一 第6回 :暗黒物質問題 ダークマターとは何か? 最近のWMAPの結果 第7◆8回:ニュートリノの質量問題 二重振動子とニュートリノ振動、牧・中川・坂田理論と最近の神岡実験の結果、物質中でのニュートリノ振動と太陽ニュートリノの質量問題 第9回 :大統一理論 陽子崩壊、モノポール、中性子振動、超対称性理論で予言される粒子とLHC実験 第10◆11回:宇宙での粒子加速 太陽、超新星残骸、宇宙空間、宇宙ジェット、雷雲、オーロラ 第12◆13回:素粒子や宇宙を計る測定器 飛跡検出器;放電箱、比例計数管、シンチレータシステム、シンチファイバー測定器、ドリフトチェンバーカロリメータ 回路系設計に係わるknow-how; impedance matching, 差動増幅 TDC、ADC, data acquisition system(DAQ) 第14回 :データの処理法 統計処理の方法、最小二乗法 第15回:CCDカメラとデータの読み出し方		
教科書	講義に必要な資料は毎回copyして配布する。		
参考書・資料	村木 綏著「3つのダークマター」(開成出版)、小田稔、西村純、桜井(編) 宇宙線物理学 (朝倉書店)		
講義関連事項	宇宙からの放射線、宇宙線は発見以来ほぼ百年が経過した。始めの30年間は宇宙線そのものを理解する点に研究者の努力がそそがれた。その後宇宙線を使って素粒子を理解する時代が30年間継続し、少し遅れて宇宙を理解するプローブとして使用される時代になり、今もその努力が営まれている。また最近では素粒子論的宇宙像の研究にも宇宙線研究者の関心が注がれている。本講義では上記の研究でえられた重要ポイントを紹介し、あわせて観測に使用された技術についても解説し諸君の大学院での研究の助けとしたい。		

授業コード	W5031		
授業科目名	宇宙物理学特論I(集中)		
担当者名	須佐 元(スサ ハジメ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	本講義では、宇宙物理学の諸問題のうち、特に膨張宇宙における構造の形成に関して述べる。特に過去10年に著しく発展した初代天体・初代星の形成理論に力点を置く予定である。		
到達目標	膨張宇宙論の基礎を理解するとともに、宇宙で天体がいつどのように現れ始めたのかを大筋で理解することを目標とする。		
講義方法	おもに板書によって行う。必要に応じてパワーポイント用いる。またときどき練習も入れる予定である。		
準備学習	力学、流体力学、量子力学などをよく理解していること。		
成績評価	出席とレポートの内容によって評価する。レポート未提出のものは欠席扱いとする。		
講義構成	1－3:膨張宇宙論 4－6:密度揺らぎの線形進化 7－9:密度揺らぎの非線形進化と初代天体の形成 9－13:初代星の形成と宇宙の再電離、銀河の形成 14:まとめ 15:予備		
教科書	特に用いない。		

授業コード	W5032		
授業科目名	原子核実験物理学I(前)		
担当者名	秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	広い意味での原子核素粒子の反応を議論する。 前半に相対論的量子力学に基づく基本粒子の相互作用を、後半に核子多体系としての原子核の反応を議論する。		
到達目標	講義構成の内容のいくつかの過程について具体的に物理量が計算できるようになること。		
講義方法	板書、プロジェクター、配布資料を用いて行う。		
準備学習	配布する資料を予習しておく。		
成績評価	レポート(50%)、期末試験(50%)		
講義構成	前半 1、核子の構造 2、クォークとレプトン 3、量子電磁力学 4、量子色力学 後半 1、原子核反応の基礎的事項 2、複合核反応過程 3、光学模型 4、直接反応過程		

教科書	特に指定しない
参考書・資料	「クォークとレプトン」 ハルツェン、マーチン 「ゲージ理論入門I、II」 エイチスン、ヘイ 「散乱の量子論」 砂川重信 「原子核反応論」 河合光路、吉田思郎

授業コード	W5034		
授業科目名	高エネルギー宇宙物理学（後）		
担当者名	梶野文義（カジノ フミヨシ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	学問の進展に伴い宇宙をどのような波長またどのような粒子で観測するのかという幅が大きく広がりがつつある。現在それらには、可視光、電波、X線、ガンマ線、ニュートリノ、極高エネルギー宇宙線等がある。宇宙には太陽を始めとする恒星やその末期に起こる超新星爆発、及びその残骸、我々の銀河からはるかかなたに存在する活動銀河等、活発な活動をしている非常に多くの天体が存在する。このような、天体からは高エネルギーのX線やガンマ線およびニュートリノなど多くの粒子が放出されている。 高エネルギー宇宙物理学は宇宙に生起しているこのような高エネルギー現象をあつかう学問であり、宇宙を研究する学問の中でも最も新しい分野で激しく進歩を続けている研究領域の一つである。 この講義では、高エネルギー宇宙物理学の研究領域とする、電波天文学、X線天文学、ガンマ線天文学、超高エネルギーガンマ線天文学、極高エネルギー宇宙線の起源、宇宙のダークマターの存在 等について解説を行う。
到達目標	1) 各波長における観測原理と方法について理解を深める。 2) 宇宙の始まりから現在までの過程について理解を深める。 3) 宇宙における高エネルギー現象の起源と過程について理解を深める。
講義方法	プロジェクトを使用し、講義資料を配布する。
準備学習	特になし。
成績評価	授業への取り組み方、レポート、出席回数により総合的に判断する。
講義構成	・高エネルギー宇宙物理学とは？ ・多波長による宇宙の研究 ・最近のビッグバン宇宙像 ・電波天文学 ・X線天文学 ・ガンマ線天文学 ・赤外線天文学 ・超高エネルギーガンマ線天文学 ・超新星爆発とニュートリノ ・高エネルギー天体现象 ・ガンマ線バースト ・極高エネルギー宇宙線 ・ニュートリノ天文学
教科書	なし
参考書・資料	宇宙線 物理学選書(5) 小田稔(著) 宇宙高エネルギー粒子の物理学—宇宙線・ガンマ線天文学 新物理学シリーズ 木舟正(著) 宇宙線物理学 小田稔(編さん)

授業コード	W5033
授業科目名	高エネルギー粒子物理学（集中）
担当者名	飯嶋 徹（イイジマ トオル）、山崎祐司（ヤマザキ ユウジ）

配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	最高エネルギー陽子衝突実験LHCを例に、エネルギーフロンティアにおける高エネルギー実験の最新の状況について学ぶ。実験が明らかにしようとしている物理を宇宙論との関連を交えながら解説する。加えて、実験の手法、高エネルギー加速器、事象の検出技術、データ収集方法などについての講義を行う。(山崎) Bファクトリー実験やニュートリノ振動実験などの最先端の素粒子実験を具体例として、粒子-反粒子対称性の破れをはじめとする様々な素粒子現象について学び、物質の最小構成要素である素粒子世界に対する現在の我々の理解を深め、今後明らかにすべき課題について議論する。(飯嶋)		
到達目標	小林・益川理論とそれを証明したBファクトリー実験や、ニュートリノ振動実験、LHCなどについて自分の言葉で説明できるようになること。		
講義方法	板書、プロジェクタを用いたスライドを使用する。(山崎) 基本的事項は極力板書で説明し、具体的な実験の紹介等にはスライドを使用する。(飯嶋)		
準備学習	1) 電磁気学、量子力学、特殊相対性理論の基本的な知識があること。 2) 素粒子の標準模型に現れる粒子について講義中に解説するが、あらかじめ知っておくことが望ましい。		
成績評価	出席およびレポートにより行う。		
講義構成	(山崎) 第1回: 素粒子の標準模型とその問題、高エネルギー実験の位置づけ 第2回: TeV スケールでの物理: 質量の起源と Higgs 機構、超対称性 第3回: 陽子衝突実験の原理、加速器 第4回: 粒子の物質中での振る舞い 第5回: 位置検出器とカロリメータ 第6回: トリガーとデータ取得 第7回: 学んだことのまとめ: Higgs 検出を例に (飯嶋) 第8-9回: 基本事項の説明(弱い相互作用、対称性と保存則) 第10-11回: Bファクトリー実験と小林・益川理論の検証 第12回: 荷電レプトン(電子、ミューオン、タウ)の物理 第13-14回: ニュートリノの物理、ニュートリノ振動実験 第15回: これからの素粒子物理学 (各テーマの講義回数の配分には若干の変更の可能性があります。)		
教科書	特に指定しない。		
参考書・資料	・D.H.Perkins, Introduction to High Energy Physics (Addison-Wesley). ・Particle Data Group review, tables and plots (http://ccwww.kek.jp/pdg/) 特に, http://ccwww.kek.jp/pdg/2009/reviews/contents_sports.html の “Experimental methods and colliders” の項。 その他、講義中に必要に応じて紹介する。		
担当者から一言	LHC実験は、これまでの同種の実験に比べ、一気に7倍のエネルギーで陽子を衝突させ、未知の粒子、相互作用を探索します。素粒子や宇宙の理解に革命が起こるかも知れません。実験は始まったばかりです。せっかくですから発見がある前に学んじましょう。(山崎) 物質の最小構成単位であるクォークやレプトンには3世代6種類あり、その種類を“フレーバー”と呼んでいます。このフレーバーに関する様々な現象には、まだ理解できていないことや、チャレンジすべき課題が多く残されています。そのことを少しでも学んで欲しいと思います。(飯嶋)		

授業コード	W5030
授業科目名	光量子エレクトロニクス特論(量子物理学特論)(後)
担当者名	安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)

配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	随時		
講義の内容	光量子エレクトロニクス分野の基礎である「光と電子の相互作用」、「半導体における電子状態」、「線形・非線形光学効果」の3項目に加え、近年発展が著しい「スピン光学」について議論する。		
到達目標	現代の光情報通信の発展を担っているレーザや光変調器等、半導体光機能デバイスの動作原理に関わる物理過程について系統的に論述する。それら物理過程を系統的に整理し、基本概念を理解することが本授業の受講者の到達目標である。		
講義方法	事前に配布した資料をもとに、パワーポイントおよび板書により講義を行う。		
準備学習	学部の3、4年次配当の「レーザ光学」、「光エレクトロニクス」を履修していることが望ましい。		
成績評価	席状況、講義において課されるレポートの内容と期末の最終レポートの成績を総合して評価する。		
講義構成	授業計画第1回：電子と光の相互作用(解析力学) 第2回：古典振動子モデル 第3回：電子2準位系とブロッホ方程式 第4回：電子2準位系におけるコヒーレント光非線形効果 第5回：半導体結晶における電子状態 第6回：Kaneのモデル 第7回：Luttinger-Kohnのモデル 第8回：半導体低次元構造における量子閉じ込め効果 第9回：光学遷移におけるクーロン相互作用の効果 第10回：Hartree-Fock近似 第11回：半導体ブロッホ方程式 第12回：励起子光非線形効果 第13回：半導体におけるスピン光学効果 第14回：半導体における電子スピンの磁場応答特性 第15回：まとめ 定期試験(最終レポート)		
教科書	受講者に講義ノートを配布する。		
参考書・資料	“Quantum theory of the optical properties of semiconductors,” by H. Haug and S. W. Koch (World Scientific) “Physics of Optoelectronic Devices,” by S. L. Chuang (Wiley-Interscience)		

授業コード	W5041		
授業科目名	固体物理学 (前)		
担当者名	青木珠緒(アオキ タマオ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
講義の内容	本講義では、主に物性物理の分野で使われる基礎知識や概念、物性研究手法の習得を目的として、1) 結晶構造や逆格子、2) 結晶結合とフォノン、および3) 自由電子モデルとエネルギーバンドなどの物性物理学・固体物理学の基礎知識・概念やその物理現象について学ぶ。		
到達目標	固体物理学の標準的な教科書である Kittel 固体物理学入門の基本の部分を実に理解すること。また、その後の各論の部分を読みこなす基礎力をつけること。		
講義方法	板書、プロジェクター、プリントを用いて行う。		
準備学習	毎回の授業に先だって、教科書の該当部分を読み、わからないところを明らかにしておくこと。		
成績評価	出席および提出されたレポートの内容を評価する。		
講義構成	第1回：単位構造と結晶構造 第2回：種々の結晶構造 第3回：ブラッグの法則と逆格子ベクトル 第4回：ブリルアン・ゾーン 第5回：単位構造のフーリエ解析 第6回：ファン・デル・ワールス相互作用と凝集エネルギー		

	第7回: イオン結合、共有結合、金属結合 第8回: 音響フォノン 第9回: 光学フォノン 第10回: フォノンの運動量と非弾性散乱 第11回: 自由電子気体 第12回: 金属内の自由電子の運動 第13回: 磁場中の電子の運動とホール効果 第14回: エネルギーバンドとエネルギーギャップ 第15回: クローニッヒ-ペニー・モデルとブロッホ関数
教科書	「固体物理学入門 上」 Kittel(丸善)
参考書・資料	「固体物理学入門 下」 Kittel(丸善) 「固体物理学」花村栄一(裳華房)
担当者から一言	本講義は、理工学系を専攻とする学生に対する基礎科目であり、主に物性物理の分野で使われる基礎知識や概念、物性研究手法の習得を目標とするが、これらは、物性物理の分野だけでなく、物理学一般に広く用いられており、すべての物理学専攻の学生が受講することを期待する。

授業コード	W5029		
授業科目名	半導体物理学特論(後)		
担当者名	杉村 陽(スギムラ アキラ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	1980年ごろからの半導体微細加工技術の進歩には目覚ましいものがあり、半導体物理学においても量子ナノ物理学、メソスコピック系物理学などといわれる新しい分野が大きく台頭してきた。本講義では、これらの分野について、その背景、概要、今後の展開なども含めて講義をおこなう。
到達目標	半導体物理学を舞台にして近年大きく発展してきた量子ナノ物理学、メソスコピック物理学の概要の理解を図る。なかでも、量子ナノ構造における量子状態および量子輸送現象の物理を理解させることを到達目標とする。
講義方法	プリントを配布し講義を行う。
準備学習	特になし。
成績評価	出席状況および課題に対するレポートの内容により評価する。
講義構成	■講義構成 1. 量子ナノ技術の発展 2. ヘテロ界面、量子井戸、量子細線構造の量子状態 3. 量子ドット系の量子状態 4. 量子ドット結合系 5. 微細構造半導体中の電子輸送現象 6. アンダーソン局在とスケーリング理論 7. ランダム系中の電子のホッピング伝導 8. 輸送現象におけるランダウアー公式 9. 電子の量子輸送における熱浴効果
教科書	なし
参考書・資料	伊達宗行監修「大学院物性物理1 ー量子物性」 講談社 伊達宗行監修「大学院物性物理3 ー新物質と新概念」 講談社
担当者から一言	半導体ナノ系の物理は量子力学の本質にも関連しており、興味深い分野です。量子系と古典系のつながりについていろいろと議論がされてきています。

授業コード	W5028
授業科目名	物性物理学特論C(集中)
担当者名	伊藤 正(イトウ タダシ)

配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	本講義では、ナノサイエンス・ナノテクノロジーの立場から、半導体ナノ構造、特に半導体微粒子(量子ドットと呼ばれる)や、半導体薄膜中において空間的に閉じ込められた電子状態とその特異な光応答(光物性)について概説する。その中で、光と電子のかかわりについて考え、微小物質の性質を調べる上で、分光学が果たす役割を説明するとともに、半導体ナノ構造物質が光機能材料としてどのように有用であるかを解説する。 学生諸君には、この講義を通じて、ナノサイエンス・ナノテクノロジーの一端に触れるとともに、「21世紀は光の時代」といわれる光の役割についても考えてもらいたい。		
到達目標	光と物質の相互作用を考える際に、物質が原子中の空間的に局在した電子状態と半導体中の空間的に広がった電子状態ではその取り扱いが大きく異なる。ナノ構造物質はその中間的な電子状態であり、光の特異な現象を引き起こすことを理解し、併せて自ら新材料としての可能性を探ることに興味を持ってほしい。		
講義方法	板書とPCプロジェクターを併用する。数回の講義毎に演習問題やレポートにより課題を考える。最終回には興味を持ったことに関する簡単な発表と全員討論を行う予定である。		
準備学習	電磁気学における電磁波の性質、量子力学における井戸型ポテンシャル中の粒子の運動、固体物理学における電子のバンド構造などの基礎知識を有していることが望まれる。ただし、講義においてもある程度の解説を行うので、必ずしも正確な知識を有していることは必須としなくてよい。 期間中に演習やレポートを併用し理解を深めると共に、配付プリントを用いて復習することにより、最終発表に備えてほしい。		
成績評価	出席、レポート、発表を総合して評価する。		
講義構成	1. ナノサイエンスとナノ粒子 2. ナノ粒子の量子サイズ効果 3. ナノ粒子の光物性 4. ナノ粒子の非線形光学効果 5. ナノ粒子の表面効果と光触媒 6. ナノ粒子のレーザー発振 7. 薄膜の非線形光学効果 8. ナノ構造の超解像分光		
教科書	教科書は用いず、必要に応じて参考資料を配布する。		
参考書・資料	配付資料。 S.V. Gaponenko, Optical Properties of Semiconductor Nanocrystals		
講義関連事項	自身の研究課題以外に、幅広い知識を持つことにより、自分の研究との関連や波及効果を考えてほしい。		
担当者から一言	半導体ナノ粒子の光学的性質とその応用範囲から、ナノサイエンス・ナノテクノロジーの有用性も感じ取ってほしい。 質問事項がある場合は、知識を共有する意味でできるだけ講義時間内に行うことが望まれる。講義時間外は itoh@mp.es.osaka-u.ac.jp に問い合わせること。		

授業コード	W5A11		
授業科目名	物理学研究演習I		
担当者名	梶野文義(カジノ フミヨシ)、宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)、須佐 元(スサ ハジメ)、富永 望(トミナガ ノゾム)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	受講生の研究題目に応じて、内容や方法が決められる。 高度な専門知識の修得と研究能力の向上をはかることを目的とする。		
到達目標	修士論文に関連する論文の基礎的読解能力、および、研究発表能力の修得。さらに、受講生の研究題目に応じて、到達目標が決められる。		
講義方法	論文講読や研究経過報告などを研究室固有の方法で行う。		
準備学習	修士論文に関連する論文の予習、および、研究経過報告の準備。 さらに、受講生の研究題目に応じて、準備学習が決められる。		
成績評価	専門知識の修得状況、研究能力の研鑽状況、研究演習に対する取り組み方、出席状況、課題レポート提出状況などを総合して判断する。		
講義構成	1) 専門分野の論文紹介とそれに基づく議論 2) 研究経過報告とそれに基づく議論 など各研究室固有の講義構成となる。		

教科書	受講生の研究題目に応じて、教科書や参考書が決められる。
-----	-----------------------------

授業コード	W5A12		
授業科目名	物理学研究演習I		
担当者名	梶野文義(カジノ フミヨシ)、山本常夏(ヤマモト トコナツ)、村木 綏(ムラキ ヤスシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	宇宙粒子に関連する研究題目を受講生に応じて、内容や方法が決められる。 高度な専門知識の修得と研究能力の向上をはかることを目的とする。		
到達目標	宇宙粒子に関連する基礎知識と応用能力の修得。		
講義方法	論文講読や研究経過報告などを宇宙粒子研究室固有の方法で行う。		
準備学習	論文紹介や研究経過報告の準備を十分にすること。		
成績評価	専門知識の修得状況、研究能力の研鑽状況、研究演習に対する取り組み方、出席状況、課題レポート提出状況などを総合して判断する。		
講義構成	1) 専門分野の論文紹介とそれに基づく議論 2) 研究経過報告とそれに基づく議論 など宇宙粒子研究室固有の講義構成となる。		
教科書	研究内容と進展状況により適切なものを使用する。		

授業コード	W5A13		
授業科目名	物理学研究演習I		
担当者名	山県民穂(ヤマガタ タミオ)、宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)、秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	受講生の研究題目に応じて、内容や方法が決められる。 高度な専門知識の修得と研究能力の向上をはかることを目的とする。		
到達目標	研究を通じて深く物理学を理解する。		
講義方法	論文講読や研究経過報告などを研究室固有の方法で行う。		
準備学習	毎週の報告会のための準備		
成績評価	専門知識の修得状況、研究能力の研鑽状況、研究演習に対する取り組み方、出席状況、課題レポート提出状況などを総合して判断する。		
講義構成	1) 専門分野の論文紹介とそれに基づく議論 2) 研究経過報告とそれに基づく議論 など各研究室固有の講義構成となる。		
教科書	研究題目に応じて指定する。		

授業コード	W5A14		
授業科目名	物理学研究演習I		
担当者名	安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、市田正夫(イチダ マサオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

オフィスアワー	随時
講義の内容	光・量子エレクトロニクスの専門分野における基礎知識の修得と研究能力の向上をはかることを目的とする。受講生の研究題目に応じて、内容や方法が決められる。
到達目標	光・量子エレクトロニクスの専門分野における基礎知識の習得と当該研究分野における問題の所在の把握。
講義方法	テキスト、論文の講読や研究経過報告などを受講生の研究題目に応じた方法で行う。
準備学習	4年次の卒業研究に熱心かつ自主的に取り組み、研究企画、実行、評価のサイクルを経験していることが望まれる。
成績評価	専門知識の修得状況、研究能力の研鑽状況、研究演習に対する取り組み方、出席状況、課題レポート提出状況などを総合して判断する。
講義構成	1) 研究分野の論文紹介とそれに基づく議論 2) 研究経過報告とそれに基づく議論 など受講生の研究題目に応じた講義構成を取る。
教科書	受講生の研究題目に応じてテキストを指定するとともに、関連論文等の研究資料を配布する。
参考書・資料	「光エレクトロニクス 基礎編」 ヤリーヴ 丸善 「固体物理学入門」 チャールズ・キッテル 丸善
講義関連事項	物理学研究演習Ⅰ・Ⅱはそれぞれ一年毎に評価される。初年度はⅠを受講し、修得したのち次年度にⅡを受講すること。

授業コード	W5A15		
授業科目名	物理学研究演習Ⅰ		
担当者名	水野健一(ミズノ ケンイチ)、青木珠緒(アオキ タマオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	木曜日3時限目		

講義の内容	受講生の研究題目に応じて、内容や方法が決められる。Ⅰ・Ⅱそれぞれ一年毎に評価される。初年度は、Ⅰを受講し、修得したのちⅡを受講すること。 光物性研究室では光物性分野の論文や解説などを読み、研究分野の理解を深める。		
到達目標	論文や解説の着眼点を正しく理解できるようになる		
講義方法	ゼミ形式で行う。		
準備学習	前もってその日に進むであろう範囲を予習しておき、自分の理解した内容を討論の場で発表できるよう準備しておく。		
成績評価	論文発表の能力や研究分野の理解度によって評価する。		
講義構成	芳香族分子性結晶の光物性に関する解説記事、各院生の対象物質に関する英語論文などを読む。学生は各自の担当部分のレジメを作成し、教員の質問や議論をはさみながら読み進める。		
教科書	学生の研究内容により適宜選択する。		
参考書・資料	学生の研究内容に応じて適宜選択し与えるので、理解度により臨機応変に対応する。		
担当者から一言	地道な努力が良い結果を招く。		

授業コード	W5A16		
授業科目名	物理学研究演習Ⅰ		
担当者名	杉村 陽(スギムラ アキラ)、梅津郁朗(ウメヅ イクロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	半導体物理学に関する研究演習を行う。Ⅰ・Ⅱそれぞれ一年毎に評価される。初年度は、Ⅰを受講し、修得したのちⅡを受講すること。
到達目標	半導体物理学の分野の原著論文を読破するのに必要な基礎学力を習得することを目標とする。
講義方法	ゼミナール形式で行う。毎回受講生から演習問題の担当者を決め、担当者が演習問題についての説明と他の学生からの質疑に答える。教員は随時、必要な訂正、補足説明などを行う。
準備学習	受講者は、演習課題についてあらかじめ準備しておく。
成績評価	演習問題担当者の説明、質疑に対する受け応え、担当者以外の学生の質疑、討論、出席率などを総合して評価する。
講義構成	1. 固体電子論と半導体 2. 半導体の光物性 3. アンダーソン局在とメソスコピック系 4. アモルファス物性 5. 多体効果の物理
教科書	特になし。
参考書・資料	「大学院物性物理1 量子物性」伊達宗行監修(講談社) 「大学院物性物理3 新物質と新概念」伊達宗行監修(講談社)

授業コード	W5A17		
授業科目名	物理学研究演習I		
担当者名	杉村 陽(スギムラ アキラ)、安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、小堀裕己(コボリ ヒロミ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	受講生の研究題目に応じて、内容や方法が決められる。 高度な専門知識の修得と研究能力の向上をはかることを目的とする。
到達目標	高度な専門知識と研究テーマの企画・立案能力、研究の実行・解析能力、討論能力、発表能力の修得。
講義方法	論文講読や研究経過報告などを研究室固有の方法で行う。
準備学習	学部で学んだ物性物理学の基礎の復習。 キッテルの「固体物理学入門」の「前半」をすべてマスターしている事が望ましい。
成績評価	専門知識の修得状況、研究能力の研鑽状況、研究演習に対する取り組み方、出席状況、課題レポート提出状況などを総合して判断する。
講義構成	1) 専門分野の論文紹介とそれに基づく議論 2) 研究経過報告とそれに基づく議論 など各研究室固有の講義構成となる。
教科書	「固体物理学入門」チャールズ・キッテル 丸善 「固体物性論の基礎」J.M.ザイマン 丸善 「固体の電子構造と物性」W.A.ハリソン 現代工学社 「大学院物性物理」1～3 伊達宗行編 講談社 「固体の電子論」ス波弘行 丸善
参考書・資料	「固体－構造と物性」岩波講座 現代の物理学7 金森順次郎他著(岩波書店 1994年) 「電子相関」岩波講座 現代の物理学16 山田耕作著(岩波書店 1993年) 「金属絶縁体転移」朝倉物性物理シリーズ1 小野嘉之著(朝倉書店 2002年) 「Lecture Notes on Electron Correlation and Magnetism」Patrik Fazekas (World Scientific 1999) 「Electron Correlations in Molecules and Solids」Peter Fulde (Springer 1995) 「Metal-Insulator Transition」Sir Nevill Mott (Taylor&Francis 1990)

その他	物理学研究演習Ⅰ・Ⅱはそれぞれ一年毎に評価される。初年度は、Ⅰを受講し、修得したのちⅡを受講すること。
-----	---

授業コード	W5A19		
授業科目名	物理学研究演習I		
担当者名	宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	受講生の研究題目に応じて、内容や方法が決められる。 高度な専門知識の修得と研究能力の向上をはかることを目的とする。
到達目標	研究を通じて深く物理学を理解する。
講義方法	論文講読や研究経過報告などを研究室固有の方法で行う。
準備学習	毎週の報告会の準備
成績評価	専門知識の修得状況、研究能力の研鑽状況、研究演習に対する取り組み方、出席状況、課題レポート提出状況などを総合して判断する。
講義構成	1) 専門分野の論文紹介とそれに基づく議論 2) 研究経過報告とそれに基づく議論 など各研究室固有の講義構成となる。
教科書	開講時までにWEBシラバスを確認してください。

授業コード	W5A21		
授業科目名	物理学研究演習II		
担当者名	梶野文義(カジノ フミヨシ)、宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)、須佐 元(スサ ハジメ)、富永 望(トミナガ ノゾム)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	受講生の研究題目に応じて、内容や方法が決められる。 高度な専門知識の修得と研究能力の向上をはかることを目的とする。
到達目標	修士論文に関連する論文のより高度な読解能力、および、研究発表能力の修得。さらに、受講生の研究題目に応じて、到達目標が決められる。
講義方法	論文講読や研究経過報告などを研究室固有の方法で行う。
準備学習	修士論文に関連する論文の予習、および、研究経過報告の準備。さらに、受講生の研究題目に応じて、準備学習が決められる。
成績評価	専門知識の修得状況、研究能力の研鑽状況、研究演習に対する取り組み方、出席状況、課題レポート提出状況などを総合して判断する。
講義構成	1) 専門分野の論文紹介とそれに基づく議論 2) 研究経過報告とそれに基づく議論 など各研究室固有の講義構成となる。
教科書	受講生の研究題目に応じて、教科書や参考書が決められる。

授業コード	W5A22		
授業科目名	物理学研究演習II		
担当者名	梶野文義(カジノ フミヨシ)、山本常夏(ヤマモト トコナツ)、村木 綏(ムラキ ヤスシ)		
配当年次		単位数	2

開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	受講生の研究題目に応じて、内容や方法が決められる。 高度な専門知識の修得と研究能力の向上をはかることを目的とする。		
到達目標	修士論文に関連する論文のより高度な読解能力、および、研究発表能力の修得。さらに、受講生の研究題目に応じて、到達目標が決められる。		
講義方法	論文講読や研究経過報告などを研究室固有の方法で行う。		
準備学習	修士論文に関連する論文の予習、および、研究経過報告の準備。さらに、受講生の研究題目に応じて、準備学習が決められる。		
成績評価	専門知識の修得状況、研究能力の研鑽状況、研究演習に対する取り組み方、出席状況、課題レポート提出状況などを総合して判断する。		
講義構成	1) 専門分野の論文紹介とそれに基づく議論 2) 研究経過報告とそれに基づく議論 など各研究室固有の講義構成となる。		
教科書	受講生の研究題目に応じて、教科書や参考書が決められる。		

授業コード	W5A23		
授業科目名	物理学研究演習II		
担当者名	山県民穂(ヤマガタ タミオ)、宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)、秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	受講生の研究題目に応じて、内容や方法が決められる。 高度な専門知識の修得と研究能力の向上をはかることを目的とする。		
到達目標	研究を通じて深く物理学を理解する。		
講義方法	論文講読や研究経過報告などを研究室固有の方法で行う。		
準備学習	毎週の報告会のための準備		
成績評価	専門知識の修得状況、研究能力の研鑽状況、研究演習に対する取り組み方、出席状況、課題レポート提出状況などを総合して判断する。		
講義構成	1) 専門分野の論文紹介とそれに基づく議論 2) 研究経過報告とそれに基づく議論 など各研究室固有の講義構成となる。		
教科書	研究題目に応じて指定する。		

授業コード	W5A24		
授業科目名	物理学研究演習II		
担当者名	安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、市田正夫(イチダ マサオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	光・量子エレクトロニクス分野および関連するレーザ光学、量子光学、半導体光物性分野における高度な知識を修得することを目的とする。受講生の研究題目に応じて、内容や方法が決められる。		
到達目標	高度な専門知識と研究テーマの企画・立案能力、研究の実行・解析能力、討論能力、発表能力の修得。		
講義方法	テキスト、論文の講読や研究経過報告などを受講生の研究題目に応じた方法で行う。		
準備学習	物理学研究演習Iを履修しておくこと。		
成績評価	輪読の出席状況、輪講で提出するレジュメおよび課題レポート等を総合的に評価して成績を決める。		

講義構成	論文やテキストを輪読する形式で ・半導体量子構造やフラーレン、カーボンナノチューブ等の低次元ナノ物質における光過程と励起子効果 ・励起子系における線形・非線形光学効果 ・高速・高感度光計測法 などについての高度な知識を修得する。
教科書	受講生の研究題目に応じてテキストを指定するとともに、関連論文等の研究資料を配布する。
参考書・資料	「光エレクトロニクス 基礎編」 ヤーリーヴ 丸善 「固体物理学入門」 チャールズ・キッテル 丸善 「固体の場の量子論 上・下」 ハーケン 吉岡書店
講義関連事項	物理学研究演習Ⅰ・Ⅱはそれぞれ一年毎に評価される。初年度はⅠを受講し、修得したのち次年度にⅡを受講すること。

授業コード	W5A25		
授業科目名	物理学研究演習II		
担当者名	水野健一(ミズノ ケンイチ)、青木珠緒(アオキ タマオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	受講生の研究題目に応じて、内容や方法が決められる。 高度な専門知識の修得と研究能力の向上をはかることを目的とする。
到達目標	論文や解説の着眼点を正しく理解できるようになる。
講義方法	論文講読や研究経過報告などを研究室固有の方法で行う。
準備学習	前もってその日に進むであろう範囲を予習しておき、自分の理解した内容を討論の場で発表できるよう準備しておく。
成績評価	専門知識の修得状況、研究能力の研鑽状況、研究演習に対する取り組み方、出席状況、課題レポート提出状況などを総合して判断する。
講義構成	1) 専門分野の論文紹介とそれに基づく議論 2) 研究経過報告とそれに基づく議論 など各研究室固有の講義構成となる。
教科書	学生の研究内容により適宜選択する。
参考書・資料	学生の研究内容により適宜選択し与えるので、理解度により臨機応変に対応する。

授業コード	W5A26		
授業科目名	物理学研究演習II		
担当者名	杉村 陽(スギムラ アキラ)、梅津郁朗(ウメヅ イクロウ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	半導体物理学に関する研究演習を行う。Ⅰ・Ⅱそれぞれ一年毎に評価される。初年度は、Ⅰを受講し、修得したのちⅡを受講すること。
到達目標	半導体物理学の分野の原著論文を読破するのに必要な基礎学力を習得することを目指す。
講義方法	ゼミナール形式で行う。毎回受講生から演習問題の担当者を決め、担当者が演習問題についての説明と他の学生からの質疑に答える。教員は随時、必要な訂正、補足説明などを行う。
準備学習	受講者は、演習課題についてあらかじめ準備しておく。
成績評価	演習問題担当者の説明、質疑に対する受け応え、担当者以外の学生の質疑、討論、出席率などを総合して評価する。

講義構成	1. 固体電子論と半導体 2. 半導体の光物性 3. アンダーソン局在とメソスコピック系 4. アモルファス物性 5. 多体効果の物理
教科書	特になし。
参考書・資料	「大学院物性物理1 量子物性」伊達宗行監修(講談社) 「大学院物性物理3 新物質と新概念」伊達宗行監修(講談社)

授業コード	W5A27		
授業科目名	物理学研究演習II		
担当者名	杉村 陽(スギムラ アキラ)、安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、小堀裕己(コボリ ヒロミ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	受講生の研究題目に応じて、内容や方法が決められる。 高度な専門知識の修得と研究能力の向上をはかることを目的とする。
到達目標	高度な専門知識と研究テーマの企画・立案能力、研究の実行・解析能力、討論能力、発表能力の修得。
講義方法	論文講読や研究経過報告などを研究室固有の方法で行う。
準備学習	学部で学んだ物性物理学の基礎の復習。 キツテルの「固体物理学入門」の「前半」をすべてマスターしている事が望ましい。
成績評価	専門知識の修得状況、研究能力の研鑽状況、研究演習に対する取り組み方、出席状況、課題レポート提出状況などを総合して判断する。
講義構成	1) 専門分野の論文紹介とそれに基づく議論 2) 研究経過報告とそれに基づく議論 など各研究室固有の講義構成となる。
教科書	「固体物理学入門」チャールズ・キツテル 丸善 「固体物性論の基礎」J.M.ザイマン 丸善 「固体の電子構造と物性」W.A.ハリソン 現代工学社 「大学院物性物理」1～3 伊達宗行編 講談社 「固体の電子論」斯波弘行 丸善
参考書・資料	「固体－構造と物性」岩波講座 現代の物理学7 金森順次郎他著(岩波書店 1994年) 「電子相関」岩波講座 現代の物理学16 山田耕作著(岩波書店 1993年) 「金属絶縁体転移」朝倉物性物理シリーズ1 小野嘉之著(朝倉書店 2002年) 「Lecture Notes on Electron Correlation and Magnetism」Patrik Fazekas (World Scientific 1999) 「Electron Correlations in Molecules and Solids」Peter Fulde (Springer 1995) 「Metal-Insulator Transition」Sir Nevill Mott (Taylor&Francis 1990)
その他	物理学研究演習 I・IIはそれぞれ一年毎に評価される。初年度は、Iを受講し、修得したのちIIを受講すること。

授業コード	W5A29		
授業科目名	物理学研究演習II		
担当者名	宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	受講生の研究題目に応じて、高度な専門知識の修得と研究能力の向上をはかることを目的とする。		

到達目標	＞研究を通じて深く物理学を理解する。
講義方法	論文輪読や研究開花報告などを研究室固有の方法で行う。
準備学習	毎週の報告会の準備
成績評価	各研究室、研究グループにおいて固有の方法で行なう。
講義構成	専門知識の修得状況、研究能力の向上の度合、取り組む姿勢、出席状況、コミュニケーション能力、表現力を総合的に判断する。
教科書	特に指定しない。

授業コード	W5037		
授業科目名	物理学特殊講義II (集中)		
担当者名	鮫島俊之 (サメシマ トシユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	基幹産業であるエレクトロニクスを支える半導体物性理論・デバイス・製造プロセス技術を系統的に解説する。そして現代の半導体デバイスの発展について概説する。最先端の半導体テクノロジーの課題が基礎的物性に起因していることを示す。さらに数値解析及び実測の演習を通じて本講義内容の理解を深めることを目的とする。		
到達目標	重要な半導体物性理論の理解。トランジスタプロセスの概要理解。トランジスタ動作原理の理解。及び現在の課題の把握を目標とする。		
講義方法	講義・演習、機材：パワーポイント、エクセル		
準備学習	電磁気学、量子力学の素養を身につけておくことを勧める。		
成績評価	講義出席者を対象に試験を実施する予定		
講義構成	以下の内容を15回の講義にて実施する 1. 物性トピックス1ー移動度 2. 物性トピックス2ー電気伝導率 3. 物性トピックス3ーエネルギーバンド 4. 物性トピックス4ー有効質量 5. 物性トピックス5ー有効状態密度 6. 物性トピックス6ーフェルミレベル 7. 物性トピックス7ードーピング 8. 物性トピックス8ー電氣的欠陥 9. デバイストピックス1ーPN接合 10. デバイストピックス2ーMOSキャパシタ 11. デバイストピックス3ーMOSFET 12. デバイストピックス4ー半導体素子の応用 13. プロセストピックス1ー半導体結晶作成 14. プロセストピックス2ードーピング 15. プロセストピックス3ー絶縁体の作成 16. プロセストピックス4ートランジスタの作成 17. プロセストピックス5ー新しいプロセス技術 18. 演習1計算物理ー半導体の電気伝導率 19. 演習2 計算物理ートランジスタ特性の計算ー 20. 演習3トランジスタ特性計測		
教科書	特に指定しない		
参考書・資料	原子物理学 E・シュポルスキー著 東京図書 固体物理学 H・E・ホール著 共立図書		

	理論物理学 カンパニエーツ 岩波書店 物性物理学のすすめ 近角聡信編 培風館 半導体結合論 J・フィリップス著 吉岡書店 固体の量子論 キッテル著 丸善 アモルファス半導体 清水立生編 培風館 統計物理学 ランダウ・リフシッツ 岩波書店 大学演習熱統計力学 久保亮五編 裳華房 理論電磁気学 砂川重信著 紀伊国屋 半導体デバイスの基礎 グローブ著 丸善 理科年表 東京天文台編纂
--	--

授業コード	W5036		
授業科目名	物理学特殊講義I (集中)		
担当者名	中村文隆(ナカムラ フミタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	太陽のような星は宇宙空間に漂う希薄な星間雲から誕生する。本講義では、星間雲の物理状態について概観し、星間雲から星が誕生する過程について学ぶ。星間雲の構造や進化は、自己重力・星間磁場・星間乱流といった複合的な要因によって決められている。本講義では特に、星形成におけるこれらの要因の役割について、理論的および観測的側面から最新の研究成果を紹介する。		
到達目標	星間物質の諸相・その物理状態を理解し、星間物質から星が誕生する過程を物理的観点から説明できる。		
講義方法	パワーポイント等を活用して講義する。		
準備学習	講義で流体力学の基礎事項について概観するので、流体力学について勉強したことがなくても聴講可であるが、流体力学の基礎事項について事前に予習しておくことが望ましい。(連続の式、運動方程式、音波等)		
成績評価	授業への積極的関与度と提出されたレポートの内容により評価します。		
講義構成	第1回 概観:我々の銀河系の星形成 第2回 星間物質と原始星 星間物質の諸相、分子雲、原始星 第3回～第7回 星間雲の力学状態 圧縮性流体力学 重力不安定 平衡解 相似解 ビリアル定理 第8回～第10回 星間雲における乱流と磁場の役割 第11回～13回 原始星と原始惑星系円盤 第14回 星団形成 第15回 系外銀河における星形成		
教科書	当日資料配布		
参考書・資料	星間物質と星形成 福井編 日本評論社 星間物理学 小暮智一 ごとう書房 宇宙流体力学 坂下志郎、池内了著 培風館 The Formation of Stars, S. Stahler & F. Palla, Wiley-Vch Physical Processes in the interstellar medium, L. spitzer, wiley-interscience		

授業コード	W5038		
授業科目名	物理学特殊講義III (集中)		
担当者名	井頭政之(イガシラ マサユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	「宇宙元素合成と速中性子捕獲反応」と題して、宇宙における元素合成および元素合成過程で重要な役割を演じた速中性子捕獲反応について、最新のトピックスを交えて講義する。具体的には、ビッグバン元素合成過程、恒星中のs-process元素合成過程、超新星爆発時のr-process元素合成過程等を講義し、また、速中性子捕獲反応断面積の測定方法及び捕獲反応機構について講義する。
到達目標	宇宙元素合成については、具体的な元素合成過程を定性的に説明できる。また、速中性子捕獲反応については、直接捕獲反応機構と共鳴捕獲反応機構を定性的に説明できる。
講義方法	4日間の集中講義で、パワーポイントを用いたスライドショーを中心として、学生との質疑応答を交えて行う。希望する学生にはパワーポイントファイルを配布する。
準備学習	原子核反応を題材とするため、原子核および量子力学に関する基礎知識を得ておくことが望ましい。
成績評価	集中講義後に示す課題についてのレポートで成績評価を行う。 10回以上授業に出席しなければ成績を評価しない。
講義構成	第1回～第3回 宇宙における元素合成過程(ビッグバン元素合成、s-過程元素合成、p-過程元素合成、r-過程元素合成) 第4回～第5回 原子核反応理論および理論模型の概要 第6回～第8回 軽い原子核から重い原子核の中性子捕獲反応機構 第9回～第11回 中性子捕獲反応断面積の測定方法 第12回～第14回 軽い原子核の速中性子非共鳴p波中性子捕獲反応 第15回 講義の纏めおよびレポート課題の説明
教科書	特になし。
講義関連事項	特になし。
担当者から一言	私たちの体を含めて、地上の全ての物質は宇宙元素合成の結果です。その神秘を探求しませんか？
その他	特になし。

授業コード	W5C01		
授業科目名	物理学特別研究		
担当者名	梶野文義(カジノ フミヨシ)、宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)、須佐 元(スサ ハジメ)、富永 望(トミナガ ノゾム)		
配当年次		単位数	12
開講期別	2010年度 前期～2011年度 後期	曜日・時限	2010年度 前期(集中講義)、2010年度 後期(集中講義)、2011年度 前期(集中講義)、2011年度 後期(集中講義)

講義の内容	各研究室ごとに行われ、その最終的な成果は、修士論文にまとめること。 高度な専門知識の修得と研究計画の立案・実行・評価能力、討論能力、発表能力などの向上をはかることを目的とする。
到達目標	修士論文の作成と修士論文発表会での発表。さらに、研究に関係する学会での発表や研究論文の作成。
講義方法	研究テーマの企画・設定、研究実施、データ解析、研究評価、研究発表、等の方法について指導する。 研究成果報告会を定期的に実施する。
準備学習	修士論文に関係する論文の読解、および、研究や研究発表の考察。
成績評価	研究計画の立案能力、研究実施状況、研究結果の分析状況、研究に対する理解度、学会や研究会での発表状況、修士論文の内容、修士論文発表会での発表内容と質疑応答などを総合して判断する。
講義構成	1)研究の企画 論文等による研究課題の調査や指導教員との議論による目標設定 2)研究の実行 実験装置等によるデータ取得と解析、理論計算等の実行、および、研究実施のための技術修得 3)研究結果の分析・評価 研究結果の分析・評価、研究発表、論文作成とそれらに関わる技術修得
教科書	受講生の研究題目に応じて、教科書や参考書が決められる。

授業コード	W5C02		
授業科目名	物理学特別研究		
担当者名	梶野文義(カジノ フミヨシ)、山本常夏(ヤマモト トコナツ)、村木 綏(ムラキ ヤスシ)		
配当年次		単位数	12
開講期別	2010年度 前期～2011年度 後期	曜日・時限	2010年度 前期(集中講義)、2010年度 後期(集中講義)、2011年度 前期(集中講義)、2011年度 後期(集中講義)

講義の内容	各研究室ごとに行われ、その最終的な成果は、修士論文にまとめること。 高度な専門知識の修得と研究計画の立案・実行・評価能力、討論能力、発表能力などの向上をはかることを目的とする。		
到達目標	修士論文の作成と修士論文発表会での発表。さらに、研究に関係する学会での発表や研究論文の作成。		
講義方法	研究テーマの企画・設定、研究実施、データ解析、研究評価、研究発表、等の方法について指導する。 研究成果報告会を定期的に実施する。		
準備学習	修士論文に関係する論文の読解、および、研究や研究発表の考察。		
成績評価	研究計画の立案能力、研究実施状況、研究結果の分析状況、研究に対する理解度、学会や研究会での発表状況、修士論文の内容、修士論文発表会での発表内容と質疑応答などを総合して判断する。		
講義構成	1) 研究の企画 論文等による研究課題の調査や指導教員との議論による目標設定 2) 研究の実行 実験装置等によるデータ取得と解析、理論計算等の実行、および、研究実施のための技術修得 3) 研究結果の分析・評価 研究結果の分析・評価、研究発表、論文作成とそれらに関わる技術修得		
教科書	受講生の研究題目に応じて、教科書や参考書が決められる。		

授業コード	W5C03		
授業科目名	物理学特別研究		
担当者名	山県民穂(ヤマガタ タミオ)、宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)、秋宗秀俊(アキムネ ヒデトシ)		
配当年次		単位数	12
開講期別	2010年度 前期～2011年度 後期	曜日・時限	2010年度 前期(集中講義)、2010年度 後期(集中講義)、2011年度 前期(集中講義)、2011年度 後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	各研究室ごとに行われ、その最終的な成果は、修士論文にまとめること。 高度な専門知識の修得と研究計画の立案・実行・評価能力、討論能力、発表能力などの向上をはかることを目的とする。		
到達目標	修士論文を作成する。		
講義方法	研究テーマの企画・設定、研究実施、データ解析、研究評価、研究発表、等の方法について指導する。 研究成果報告会を定期的に実施する。		
準備学習	毎週の報告会の準備		
成績評価	研究計画の立案能力、研究実施状況、研究結果の分析状況、研究に対する理解度、学会や研究会での発表状況、修士論文の内容、修士論文発表会での発表内容と質疑応答などを総合して判断する。		
講義構成	1) 研究の企画 論文等による研究課題の調査や指導教員との議論による目標設定 2) 研究の実行 実験装置等によるデータ取得と解析、理論計算等の実行、および、研究実施のための技術修得 3) 研究結果の分析・評価		

	研究結果の分析・評価、研究発表、論文作成とそれらに関わる技術修得
教科書	研究題目に応じて指定する。

授業コード	W5C04		
授業科目名	物理学特別研究		
担当者名	安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、市田正夫(イチダ マサオ)		
配当年次		単位数	12
開講期別	2010年度 前期～2011年度 後期	曜日・時限	2010年度 前期(集中講義)、2010年度 後期(集中講義)、2011年度 前期(集中講義)、2011年度 後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	高度な専門知識の修得と研究計画の立案・実行・評価能力、討論能力、発表能力などの向上をはかることを目的とする。その最終的な成果は、修士論文にまとめること。
到達目標	高度な専門知識と研究テーマの企画・立案能力、研究の実行・解析能力、討論能力、発表能力の修得。
講義方法	研究テーマの企画・設定、研究実施、データ解析、研究評価、研究発表、等の方法について指導する。研究成果報告会を定期的実施する。
準備学習	4年次の卒業研究に熱心かつ自主的に取り組み、研究企画、実行、評価のサイクルを経験してることが望まれる。
成績評価	研究計画の立案能力、研究実施状況、研究結果の分析状況、研究に対する理解度、学会や研究会での発表状況、修士論文の内容、修士論文発表会での発表内容と質疑応答などを総合して判断する。
講義構成	1) 研究の企画 論文等による研究課題の調査や指導教員との議論による目標設定 2) 研究の実行 実験装置等によるデータ取得と解析、理論計算等の実行、および、研究実施のための技術修得 3) 研究結果の分析・評価 研究結果の分析・評価、研究発表、論文作成とそれらに関わる技術修得
教科書	受講生の研究題目に応じてテキストを指定するとともに、関連論文等の研究資料を配布する。
参考書・資料	「光エレクトロニクス」基礎編 ヤリイヴ 丸善 「固体物理学入門」チャールズ・キッテル 丸善 「固体の場の量子論 上・下」ハーケン 吉岡書店

授業コード	W5C05		
授業科目名	物理学特別研究		
担当者名	水野健一（ミズノ ケンイチ）、青木珠緒（アオキ タマオ）		
配当年次		単位数	12
開講期別	2010年度 前期～2011年度 後期	曜日・時限	2010年度 前期（集中講義）、2010年度 後期（集中講義）、2011年度 前期（集中講義）、2011年度 後期（集中講義）
オフィスアワー	随時		

講義の内容	各研究室ごとに行われ、その最終的な成果は、修士論文にまとめること。標準は2年間で、研究指導も兼ねて受け、2年間で不十分なときは、半年単位で延長しなければならないことがある。 光物性研究室における内容・目的は、結晶育成や微粒子作製などの試料作製、試料の光学測定(測定系の構築などを含む)、測定データの解析、解析結果の考察の過程を経て、物性物理学の光物性分野の基礎的な研究力を身につけることである。
到達目標	試料作製、光学測定、解析、考察の過程を経て、修士論文をまとめる中で、物性物理学の光物性分野の基礎的な研究力を身につけること。
講義方法	研究課題の企画・設定、研究実施、データ解析、研究評価、研究発表、などの方法について指導する。

	研究成果報告会を定期的を実施する。
準備学習	卒業研究で獲得した実験遂行能力、解析能力を前提とする。
成績評価	研究へのとりくみ姿勢、実験・解析などの技術力、該当分野の研究の理解度、修士論文の内容を総合的に判断する。
講義構成	1) 研究の企画 論文等による研究課題の調査や指導教員との議論による目標設定 2) 研究の実行 実験装置等によるデータ取得と解析、理論計算等の実行、および、研究実施のための技術修得 3) 研究結果の分析・評価 研究結果の・評価、研究発表、論文作成とそれらに関わる技術修得
教科書	なし
参考書・資料	なし

授業コード	W5C06		
授業科目名	物理学特別研究		
担当者名	杉村 陽(スギムラ アキラ)、梅津郁朗(ウメヅ イクロウ)		
配当年次		単位数	12
開講期別	2010年度 前期～2011年度 後期	曜日・時限	2010年度 前期(集中講義)、2010年度 後期(集中講義)、2011年度 前期(集中講義)、2011年度 後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	学生は、強相関物質、酸化物、半導体に関する実験およびその結果の理論的解析をする。教員はその研究指導を行う。最終的な成果は、修士論文としてまとめられる。標準は2年間で、2年間で不十分なときは、半年単位で延長しなければならないことがある。
到達目標	修士論文を完成させること。
講義方法	学生には、それぞれ個別の研究テーマを与えられ、教員はそのテーマに沿って随時研究指導を行う。最終的な成果は、修士論文として提出され、口頭発表が義務づけられる。
準備学習	十分に準備すること。
成績評価	実験およびその結果の理論的解析、修士論文、口頭発表、出席率などを総合的に判断して行う。
講義構成	強相関物質、酸化物、半導体に関して、それぞれの学生に対して個別に研究テーマが与えられるので、学生は、研究テーマについての実験および理論的解析を行う。
教科書	特になし。

授業コード	W5C07		
授業科目名	物理学特別研究		
担当者名	杉村 陽(スギムラ アキラ)、安藤弘明(アンドウ ヒロアキ)、小堀裕己(コボリ ヒロミ)、山崎篤志(ヤマサキ アツシ)		
配当年次		単位数	12
開講期別	2010年度 前期～2011年度 後期	曜日・時限	2010年度 前期(集中講義)、2010年度 後期(集中講義)、2011年度 前期(集中講義)、2011年度 後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	高度な専門知識の修得と研究テーマの企画・立案能力、研究の実行・解析能力、討論能力、発表能力などの向上の指導。その最終的な成果は、修士論文にまとめられる。
到達目標	高度な専門知識と研究テーマの企画・立案能力、研究の実行・解析能力、討論能力、発表能力の修得。
講義方法	研究テーマの企画・立案、研究実施、データ解析、研究評価、研究発表、等の方法について指導する。

	研究成果報告会を定期的実施する。
準備学習	学部で学んだ物性物理学の基礎の復習。 Kittelの「固体物理学入門」の「前半」をすべてマスターしている事が望ましい。
成績評価	研究計画の企画・立案、研究実施状況、研究結果の分析状況、研究に対する理解度、学会や研究会での発表状況、修士論文の内容、修士論文発表会での発表内容と質疑応答などを総合して判断する。
講義構成	1) 研究の企画・立案 論文等による研究課題の調査や指導教員との議論による目標設定 2) 研究の実行 実験装置等によるデータ取得と解析、理論計算等の実行、および、研究実施のための技術修得 3) 研究結果の分析、評価 研究結果の分析、評価、研究発表、論文作成とそれらに関わる技術修得
教科書	「固体物理学入門」 チャールズ・キッテル 丸善 「固体物性論の基礎」 J.M.ザイマン 丸善 「固体の電子構造と物性」 W.A.ハリソン 現代工学社 「大学院物性物理」1～3 伊達宗行編 講談社 「固体の電子論」 斯波弘行 丸善
参考書・資料	「固体－構造と物性」岩波講座 現代の物理学7 金森順次郎他著(岩波書店 1994年) 「電子相関」岩波講座 現代の物理学16 山田耕作著(岩波書店 1993年) 「金属絶縁体転移」朝倉物性物理シリーズ1 小野嘉之著(朝倉書店 2002年) 「Lecture Notes on Electron Correlation and Magnetism」 Patrik Fazekas (World Scientific 1999) 「Electron Correlations in Molecules and Solids」 Peter Fulde (Springer 1995) 「Metal-Insulator Transition」 Sir Nevill Mott (Taylor&Francis 1990)

授業コード	W5C09		
授業科目名	物理学特別研究		
担当者名	宇都宮弘章(ウツノミヤ ヒロアキ)		
配当年次		単位数	12
開講期別	2010年度 前期～2011年度 後期	曜日・時限	2010年度 前期(集中講義)、2010年度 後期(集中講義)、2011年度 前期(集中講義)、2011年度 後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	各研究室ごとに行われ、その最終的な成果は、修士論文にまとめること。 高度な専門知識の修得と研究計画の立案・実行・評価能力、討論能力、発表能力などの向上をはかることを目的とする。
到達目標	修士論文を作成する。
講義方法	研究テーマの企画・設定、研究実施、データ解析、研究評価、研究発表、等の方法について指導する。 研究成果報告会を定期的実施する。
準備学習	毎週の報告会の準備
成績評価	研究計画の立案能力、研究実施状況、研究結果の分析状況、研究に対する理解度、学会や研究会での発表状況、修士論文の内容、修士論文発表会での発表内容と質疑応答などを総合して判断する。
講義構成	1) 研究の企画 論文等による研究課題の調査や指導教員との議論による目標設定 2) 研究の実行 実験装置等によるデータ取得と解析、理論計算等の実行、および、研究実施のための技術修得 3) 研究結果の分析・評価 研究結果の分析・評価、研究発表、論文作成とそれらに関わる技術修得
教科書	特に指定しない。

授業コード	W5039
-------	-------

授業科目名	量子力学特論A(後)		
担当者名	佐藤文隆(サトウ フミタカ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	量子力学の数学的、理論的構造について講義する。
到達目標	量子力学でのスピン演算子や状態ベクトルベクトルの演算に習熟する。
講義方法	講義
準備学習	初等の量子力学を勉強しておくこと。
成績評価	出席とレポート
講義構成	1 量子力学の歴史 I 原子・光と作用量子 2 量子力学の歴史II 確立と重なり合い 3 状態と変換作用素 I 4 状態と変換作用素 II 5 2状態I: スピン系 6 連続変換:運動量と角運動量 7 Stern-Gelrach 実験 8. EPR 9. シュレーディンガーの猫 10. entanglement 11. Bell-CHSH 12. delayed-choice 13. BHのエントロピー 14 物理と情報 15 試験またはレポート提出
教科書	なし

授業コード	W5040		
授業科目名	量子力学特論B(集中)		
担当者名	張紀久夫(チョウ キクオ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	1.解析力学, ラグランジアン, ハミルトニアン, 量子化条件, シュレディンガー方程式, 固有状態, 時間依存性と種々の表示, ハイゼンベルク方程式, 行列形式, 各運動量とスピン, 多電子系の量子力学, 密度行列 2. 摂動論: 時間依存性がない場合とある場合, 一般論と計算の実例: 線形応答係数 3. 第2量子化の方法論と計算の実例: a) 金属の基底状態エネルギーの評価, b) 半導体の励起子状態の記述
到達目標	学生が量子力学の基礎から簡単な応用までを理解し, 自らの手である程度の計算を実行できるようにする.
講義方法	スライドと講義ノートで. 毎回質問票を配布し, 次の回に解答する.
準備学習	学部レベルでの量子力学
成績評価	レポートと出席点
講義構成	基礎の復習の後, 応用的なトピックスによって量子論の実際的な使い方を会得させる.
教科書	なし. 講義ノートを配布する.

授業コード	W6001
-------	-------

授業科目名	化学研究演習1		
担当者名	町田信也(マチダ ノブヤ)、重松利彦(シゲマツ トシヒコ)、池田能幸(イケダ ヨシユキ)、宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)、茶山健二(チャヤマ ケンジ)、岩月聡史(イワツキ サトシ)、山本雅博(ヤマモト マサヒロ)、檀上博史(ダンジョウ ヒロシ)、渡邊順司(ワタナベ ジュンジ)、内藤宗幸(ナイトウ ムネユキ)、村上 良(ムラカミ リョウ)		
配当年次		単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	化学専攻の担当者全員による総合講義で、高度な専門知識・技術的な基礎知識を解説・講義するものである。受講生の研究指導題目(受講要項「II. 研究指導」参照)に応じて、内容が決められる。
到達目標	本研究科の受講要項には、『自然科学研究科での教育は、「授業科目」と「研究指導」によって行われる』ならびに、『研究指導は、入学した学生ごとに、指導教授が研究指導題目を定め、指導教授を中心とする本専攻の全教員によって幅広く効果的に行われる。』と記載されている。 本演習では受講生の研究指導題目に応じて、内容が決められる。本演習は、受講生が各々の研究指導題目に関連した学術論文や書籍を精読し、これらの解説を教員から受けることを通して、各々の研究指導題目をより深く理解するとともに、高度な専門的知識と技術を身につけることを目的としている。
講義方法	本演習では受講生の研究指導題目に応じて、内容が決められる。また、本演習の授業計画は、研究指導計画(受講要項「II. 研究指導」参照)に準じて、研究指導題目を定めた指導教授が中心となって立案する。
準備学習	研究指導題目に関連した学術論文や書籍に関する調査を研究指導教員の指導のもとに意欲的に調査すること
成績評価	研究指導題目に関連した学術論文や書籍に関する理解度、ならびに、高度な専門知識・技術的な基礎知識に対する習熟度を、研究指導計画(受講要項「II. 研究指導」参照)に準じて、化学専攻の担当者全員によって評価する。さらに研究指導題目に関連したプレゼンテーションに対する評価も加味される。
講義構成	主に、各々の研究指導題目に関連した学術論文や書籍の精読ならびに、教員からのこれらの解説からなる演習である。また、受講生が研究指導題目の内容を理解するとともに、第三者に対してその内容を説明する能力をつけるために、他の受講生の前での発表を課す場合がある。さらに、各々の研究指導題目に関連したプレゼンテーションに関する演習を行う。また、修士学位論文の審査に先立って行われる研究経過発表会に参加するとともに、研究経過発表会で発表されている講演について、積極的に質問を行うこと。
教科書	特に指定しない。関連ある研究に必要なある文献等を使用する。

授業コード	W6002		
授業科目名	化学研究演習2		
担当者名	町田信也(マチダ ノブヤ)、重松利彦(シゲマツ トシヒコ)、池田能幸(イケダ ヨシユキ)、宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)、茶山健二(チャヤマ ケンジ)、岩月聡史(イワツキ サトシ)、山本雅博(ヤマモト マサヒロ)、檀上博史(ダンジョウ ヒロシ)、渡邊順司(ワタナベ ジュンジ)、内藤宗幸(ナイトウ ムネユキ)、村上 良(ムラカミ リョウ)		
配当年次		単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	化学専攻の担当者全員による総合講義で、高度な専門知識・技術的な基礎知識を解説・講義するものである。受講生の研究指導題目(受講要項「II. 研究指導」参照)に応じて、内容が決められる。
到達目標	近年の科学技術の急速な発展に対応するために、高度な専門的知識と技術を身につけることを目的とする。
講義方法	研究指導計画(受講要項「II. 研究指導」参照)に準じて、一年間の計画がなされる。
準備学習	研究指導題目に関連する最近の学術論文、或いは文献について積極的に調査すること
成績評価	高度な専門知識ならびに技術的な基礎知識に対する習熟度を評価し、研究指導計画(受講要項「II. 研究指導」参照)に準じて、化学専攻の担当者全員によって行う。 特に、修士学位論文の審査に先立って行われる研究経過発表会の内容を含むものであり、研究経過発表会での発表に関する質疑応答を通じて、本専攻の全教員によって行われる指導ならびに評価が重視される。
講義構成	本演習は総合講義に加え、修士学位論文の審査に先立って行われる研究経過発表会の内容を含むものであり、原則として、2年次に履修すること。ただし、1年以上在学し、特に優れた業績をあげて修士課程を修了するも

	のについては、在学期間が2年に満たなくても単位を認めることがある。履修にあたっては、受講要項の「I. 授業科目、担当者及び履修方法」にある「履修について」、「II. 研究指導」ならびに「III. 修士学位論文の審査」の項を参照すること。
教科書	特に指定しない。研究指導教員が指定する参考論文、文献等を使用する。

授業コード	W6A01		
授業科目名	化学研究実験		
担当者名	町田信也(マチダ ノブヤ)、重松利彦(シゲマツ トシヒコ)、池田能幸(イケダ ヨシユキ)、宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)、茶山健二(チャヤマ ケンジ)、岩月聡史(イワツキ サトシ)、山本雅博(ヤマモト マサヒロ)、檀上博史(ダンジョウ ヒロシ)、渡邊順司(ワタナベ ジュンジ)、内藤宗幸(ナイトウ ムネユキ)、村上 良(ムラカミ リョウ)		
配当年次		単位数	12
開講期別	2010年度 前期～2011年度 後期	曜日・時限	2010年度 前期(集中講義)、2010年度 後期(集中講義)、2011年度 前期(集中講義)、2011年度 後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	本研究科の受講要項には、『自然科学研究科での教育は、「授業科目」と「研究指導」によって行われる』ならびに、『研究指導は、入学した学生ごとに、指導教授が研究指導題目を定め、指導教授を中心とする本専攻の全教員によって幅広く効果的に行われる。』と記載されている。 本化学研究実験では、受講生の研究指導題目に応じて、内容が決められる。研究指導題目に関する最新の知見を得るべく、研究・実験を行う。その最終的な成果は修士学位論文としてまとめられる必要がある。2年間の履修に対して12単位とすることを標準とする。なお、修士学位論文の審査については、受講要項「III. 修士学位論文の審査」の項を参照すること。
到達目標	近年の科学技術の急速な発展に対応するために、高度な専門的知識と技術を身につけることを目的とする。
講義方法	受講生の研究指導題目に応じて、内容が決められる。また、本化学研究実験においては、研究指導計画に準じて、指導教授が中心となって2年間の計画を立案する。研究の進捗に合わせて、その後の研究計画の立案、実験条件等の検討、実験の遂行、結果のまとめ、結果の意義付け等、常に指導教授と討論を積み重ねて、研究を進める。さらに、指導教授以外の教員からも随時、アドバイスを研究協力を仰ぎ、研究を展開する。
準備学習	常に詳細な実験計画を立て、研究指導教員と議論を行い実験に備えること
成績評価	高度な専門知識ならびに技術的な基礎知識に対する習熟度を評価するとともに、研究指導計画(受講要項「II. 研究指導」参照)に準じて、日常的な研究態度、定期的実施する研究報告会での報告内容および提出された修士学位論文に対して、化学専攻の担当者全員により、総合的に評価する。
講義構成	本実験では、未知の領域に関する研究実験であるので、実験の内容構成については研究指導教員と実験に関して十分な議論を行い決定する。
教科書	特に指定しない。当該の研究実験に関連する学術論文、文献等を使用する。

授業コード	W6006		
授業科目名	化学特殊講義1（集中）		
担当者名	加納健司(カノウ ケンジ)		
配当年次		単位数	1
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	地球上の酸化還元反応のほとんどは、生体エネルギー変換系としての光合成や代謝に関与しており、その反応様式は、電気化学的には電池の充放電のそれと酷似している。こうした視点から、酵素機能と電極反応を組み合わせた生物電気化学的アプローチが提唱され、糖やアルコールを電気に変えるバイオ電池や、血糖値測定用のバイオセンサが研究されている。本講演では、それらを理解する上での基礎的概念を復習するとともに、生物電気化学に関係する最近の話題を紹介する。
-------	---

到達目標	物理化学, 分析化学, 生化学の基礎的事項を多面的に見直しその本質の理解を深め, 生物電気化学の概念構築へと展開し, バイオ電池やバイオセンサの研究の最先端についての研究動向を理解する基礎知識を身につけることを目的とする。
講義方法	パワーポイントとそれを抜粋した配布資料により講義を進める。 適宜, 討論を行うこともある。
準備学習	物理化学, 電気化学, 分析化学, 生化学の学部レベルの基礎知識を有していることが好ましいが, 必須ではない。
成績評価	出席点とレポートを中心に, 講義中での発言(質問)状況を踏まえ, 評価する。
講義構成	○物理化学基礎 熱力学の知識の復習とその応用について解説する。 速度論のより一般的考え方について解説する。 平衡論と速度論の関係について解説する。 ○分析化学的基礎 誤差の伝播, 精度, エラーバーの付け方を解説する。 重み付き最少二乗法について解説する。 電気分析化学手法の紹介とその物理化学的意味を考察する。 ○生化学基礎 生物的能量変換と代謝・光合成を解説する。 酸化還元酵素とその電気化学について紹介する。 ○生物電気化学と生体エネルギー変換・生体情報変換 酵素触媒電極反応の基本的考え方とその特徴について解説する。 バイオ電池, バイオセンサへの応用について解説する。 イオンチャネルの物理化学的考え方を解説する。 膜のイオン透過に関する考え方を整理し, 脱共役剤等の機能について物理化学的に考察する。
教科書	特になし
URL	http://www.bapc.kais.kyoto-u.ac.jp/

授業コード	W6007		
授業科目名	化学特殊講義2(集中)		
担当者名	古川睦久(フルカワ ムツヒサ)		
配当年次		単位数	1
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	高分子材料は工業材料、医療材料、宇宙材料、日用材料と幅広く用いられ、高分子材料無くして、現在の生活、科学活動は成り立ちません。一方、物性面から見ると、金属材料、無機材料と異なり、高分子材料は粘弾性体であり、物性の温度依存性が大きいことが特徴です。ここでは高分子材料を理解するための粘弾性の基礎とその解析法を学び、その応用として極性高分子の代表であるポリウレタン材料の構造と物性について考えます。		
到達目標	高分子の構造と物性の特徴を説明でき、粘弾性測定法の原理とデータ解析ができること。		
講義方法	パワーポイントを使って講義を進める予定です。		
準備学習	高分子の固体構造と力学物性の基礎の復習		
成績評価	出席の質疑応答(75点)とレポート(25点)。		
講義構成	1.高分子の構造と特徴 2.高分子のレオロジー 粘性・弾性・粘弾性・ゴム弾性 3.粘弾性の解析方法 I 4.粘弾性の解析方法 II 5.ポリウレタンの化学 6.ポリウレタンの凝集構造 7.ポリウレタンの構造と力学物性 8.ポリウレタン研究開発の現状と将来		
教科書	特に指定しません。		

参考書・資料	資料を配付します
担当者から一言	高分子材料の重要性和研究の面白さを伝え、将来に役立つ講義をします
その他	キーワードとして、 高分子 / レオロジー (粘弾性・ゴム弾性) / 物性測定法 / ポリウレタン

授業コード	W6010		
授業科目名	高分子化学特論I (前)		
担当者名	渡邊順司 (ワタナベ ジュンジ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	高分子材料は金属・セラミックスと共に基盤材料として重要視されており、代替可能なものについては、ほとんどのものが高分子材料に置き換わってきたといっても過言ではなくてきている。一方で、高分子特有の化学反応性や材料物性を理解しておくことが先端機能材料への展開に不可欠となっている。本講義では、高分子材料を分子レベルで捉えることにより、多様な材料特性が発現するメカニズムが理解できるように解説する。
到達目標	本講義によって、高分子材料創製のための分子設計、合成反応、構造解析について概観し、高分子の概念が理解できるようになる。 ①高分子特有の考え方についての理解 ②高分子の溶液特性についての理解 ③高分子の表面・界面特性についての理解 ④高分子のバルク特性についての理解
講義方法	ノートとプリントを中心とし、必要に応じて液晶プロジェクターを使用して講義を行う。
準備学習	授業資料(プリント)を配布します。予習の上、講義に持参して下さい。
成績評価	出席(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)。
講義構成	第1回: はじめに(高分子物質と高分子) 第2回: 高分子合成反応 第3回: 分子量と分子量分布 第4回: 高分子のトポロジー 第5回: 高分子の溶液特性 第6回: 高分子電解質 第7回: 高分子集合体 第8回: 高分子の表面修飾 第9回: 表面の親水—疎水性 第10回: 高分子の加水分解特性 第11回: 高分子の多孔質膜 第12回: 高分子の力学特性 第13回: 高分子ブレンド 第14回: 高分子ゲル 第15回: まとめと試験
教科書	特に指定しない
参考書・資料	「分子から材料までどんどんつながる高分子」(丸善 2010年 ISBN 978-4-621-08180-8) 「基礎高分子科学」(東京化学同人 2006年 ISBN: 978-4-807-90635-2)

担当者から一言	多様な性質を付与できる高分子材料について理解を深め、分子レベルで考える力を養いたいと思います。
---------	---

授業コード	W6004		
授業科目名	物理化学特論II (後)		
担当者名	村上 良 (ムラカミ リョウ)		
配当年次		単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
講義の内容	界面・コロイドの物理化学		
到達目標	コロイドを構成する粒子はおおよそ 10^{-9} から 10^{-6} mの大きさを持ち、原子・分子サイズと巨視相サイズの中間に位置する。コロイド系では単位体積当たりの表面積が大きく、コロイド粒子とそれを分散する相との境界(界面)の性質がコロイドの性質に大きな影響を与える。本講義では、界面・コロイド系でみられる現象を理解するための測定方法や理論などを学ぶとともに、実際に身の回りで見られる身近な現象(洗浄、濡れ、凝集など)を物理化学的に理解できるようになることを目標とする。		
講義方法	板書、プリント、液晶プロジェクターによる。		
準備学習	界面・コロイド化学に関する書籍を読み、授業内容の概要をつかむこと。		
成績評価	期末試験の結果、レポートの内容や出席状況、受講態度により評価する。		
講義構成	第1回:身の回りの界面・コロイド 第2回:界面と界面張力 第3回:界面吸着の熱力学 第4回:界面吸着状態 第5回:溶液中での自己組織体形成 第6回:曲界面と毛管現象 第7回:固体界面の吸着 第8回:濡れの界面化学 第9回:組織表面の濡れ 第10回:分子間力と表面力 第11回:界面電気現象 第12回:DLVO理論 第13回:DLVO理論とコロイドの安定性 第14回:エマルションや泡 第15回:まとめ		
教科書	必要に応じてプリントを配布する。		
参考書・資料	“界面・コロイド化学の基礎” 北原文雄, 講談社サイエンティフィック(1999) “生物物理化学” 大島広行, 村松延弘, 牧野公子, 三共出版 (1992) “分子間力と表面力” J. N. Israelachvili著, 近藤 保・大島 広行訳, 朝倉書店 (1996) “Capillarity and Wetting Phenomena: Drops, Bubbles, Pearls, Waves” P.-G. de Gennes, F. Brochard-Wyart, D. Quere Springer (2003)		

授業コード	W6009		
授業科目名	分析化学特論I(後)		
担当者名	茶山健二(チャヤマ ケンジ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	微量分析の方法論及び手法と原理について講述する。近年、材料あるいは環境試料中の微量成分を定量するために用いられる分析化学的手法の理論と実際について幾つかの方法論を例示してその特徴を述べるとともに現代も進歩しつつある手法の現状についてそのトピックスを講義する。		
到達目標	最新の分析化学の知識を涵養し、その原理を理解し実際に応用する際に利用できるようにする。		
講義方法	各項目における要点を資料として配付し、必要に応じてパワーポイントなども使用して資料の演示を行う。		
準備学習	事前に配布する資料を、熟読し調査しておくこと		
成績評価	本講義の理解の度合いを測るためにその項目におけるレポート提出していただく。		
講義構成	1.機器分析について(総論) 2.無機分析化学に用いられる反応と有機試薬 3.包接化合物及び超分子試薬 4.反応の選択特異性と分子認識 5.基礎的な微量化学種定量への応用 6.マイクロフレイディクスへの応用 7.原子スペクトル法への応用 8.分離分析法への応用		

教科書	配付資料
参考書・資料	Modern methods for trace element determination、 Vandecasteele and Block著、John Wiley & Sons

授業コード	W6008		
授業科目名	無機化学特論I (前)		
担当者名	重松利彦(シゲマツ トシヒコ)、内藤宗幸(ナイトウ ムネユキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜1限
オフィスアワー	随時		

講義の内容	無機化学はさまざまな物理的測定手段に依存している。本講では、無機化合物の構造を決定する手段の一つである、回折法について、基礎的な原理と、その解釈について解説する。		
到達目標	X線回折法と電子線回折法から得られた無機固体の構造を、解釈できるようになる。		
講義方法	板書による講義で行う。必要に応じて資料を配布する。		
準備学習	事前に配布した資料を読んでおくこと。		
成績評価	レポートと講義中に数回行う小テストにより総合的に評価する。		
講義構成	1. 並進格子 2. 点群 3－4. 空間群 5－6. 簡単な固体の構造 7. 周期構造と逆格子 8. ブラッグの回折条件式 9. 粉末X線回折 10－12. 透過電子顕微鏡法 13－14. 電子線回折		
教科書	必要に応じて参考資料を紹介、配布する。		

授業コード	W6005		
授業科目名	有機化学特論II (前)		
担当者名	宮澤敏文(ミヤザワ トシフミ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	「環境に優しい、持続可能型の社会のための化学」(green sustainable chemistry)の観点から、有機合成に生体触媒を利用する方法(biotransformations)について、基礎的な事項を理解することを目標とする。まず生体触媒である酵素について、その構造と機能に関する基礎的な事項を解説し、通常の触媒との際だった特徴を明らかにする。その後、光学活性体の合成に関する話題を中心として、酵素が有機合成にどのように有効に利用されているかを紹介する。		
到達目標	有機合成に生体触媒を利用する方法について、基礎的な事項を理解することを目標とする。		
講義方法	板書とプリントによる。下記の参考書も活用してほしい。		
準備学習	本講義を理解するためには学部段階で学んだ有機化学に関する基礎的な知識が必須であるので、必要に応じて復習して講義に臨んでほしい。		
成績評価	試験、レポートおよび出席状況を総合して評価する。		
講義構成	第1回 酵素とは 第2回 酵素の構造(1):タンパク質の構造 第3回 酵素の構造(2):酵素の活性部位とその検索法 第4回 酵素反応の速度(1):酵素反応の速度論		

	第5回 酵素反応の速度(2): 阻害、pHや温度の影響 第6回 酵素反応の立体化学(1): キラリティとプロキラリティ 第7回 酵素反応の立体化学(2): 酸化・還元酵素、アミノ基転移酵素、他 第8回 酵素の作用機構(1): 基本的な触媒機構 第9回 酵素の作用機構(2): 酵素の触媒機構 第10回 酵素反応の有機化学への応用(1): 加水分解 第11回 酵素反応の有機化学への応用(2): 加水分解の逆反応 第12回 酵素反応の有機化学への応用(3): 酸化・還元反応 第13回 酵素反応の有機化学への応用(4): 炭素-炭素結合形成反応、他 第14回 酵素反応の有機化学への応用(5): 糖転移反応、他 第15回 まとめと試験
教科書	なし。必要に応じてプリントを配布する。
参考書・資料	「生体反応論－生体機能の有機化学－」太田博道著(三共出版 1996年) 「生体触媒を使う有機合成」太田博道著(講談社サイエンティフィック 2003年)

授業コード	W7005		
授業科目名	植物生理学（前）		
担当者名	田中 修(タナカ オサム)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	植物生理学上の最近の研究の進展に焦点を当て、その考え方、成果、問題点などを講義し、今後の展望を考察する。
到達目標	学部の授業「植物生理学要論」「植物生長分化論」を基礎に、近年の植物生理学分野での発展を知り、今後を考察できるようになる。
講義方法	配布資料に基づき、パワーポイントで講義を進める。
準備学習	よく復習すること。
成績評価	出席状況と授業中に行う理解度チェックのテストで、評価する。
講義構成	植物生理学分野のトピックスを順次取り上げ、その背景、研究の歴史、近年の発展を講義を講義する。
教科書	なし
参考書・資料	配布する。

授業コード	W7007		
授業科目名	進化生物学(集中)		
担当者名	本多大輔(ホンダ ダイスケ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	随時		

講義の内容	1990年代から急速に発達した分子系統学的手法は、生物の進化の道筋を明らかにしてきたのと同時に、実験材料として扱った生物が、生物界全体の中でどのような位置にあるのかを理解する上での共通尺度として用いられるようになってきている。本講義ではこの分子系統学の基礎とその実際について講義し、各自の研究で得られた塩基やアミノ酸配列から分子系統解析を行い、さらにそれについて考察できるようになることを目標とする。
到達目標	塩基配列やアミノ酸配列を解析して分子系統樹を構築し、その解析結果の妥当性や、系統樹の意味することを正確に考察し、生物の進化の道筋を理解できるようになること。また、遺伝子のもつ機能がどのように変遷したのかについても考察できるようになること。
講義方法	オリジナルのテキストを配布し、それに基づいて「講義構成」で示す内容を講義する。講義したそれぞれの内容に対し、個別のパソコンにソフトウェアをインストールし、それを動作させて実際の解析を行う。最終的に系統樹を導き、それについての考察を行う。

準備学習	各自の研究で得られた遺伝子などの配列情報を整理し、進化、系統学的な解析がなされた論文などを予め理解しておく和良好的。また、各自が扱っている生物の進化的な位置づけを理解し、系統的な比較を行いたい別の生物を選択しておく和良好的。
成績評価	講義の中でパソコンを用いて、実際に系統解析を行い、得られた系統樹を示した上で、その系統樹がどのようなことを示しているのかについて、受講者全員の前でプレゼンテーションを行ってもらふ。まず、この内容について評価する。また、方法や考察の問題点などについては、その場で指摘するので、必要によっては再解析や再考察を行ってレポートを提出してもらい、この内容についても評価する。
講義構成	・分子進化とは ・アラインメント ・進化的距離 ・節約法 ・距離法 ・最尤法 ・系統関係の評価 ・系統樹の評価 ・系統樹が示すことに対する考察
教科書	オリジナルのテキストを配布する
URL	http://syst.bio.konan-u.ac.jp/

授業コード	W7004		
授業科目名	生化学特論（後）		
担当者名	渡辺洋平（ワタナベ ヨウヘイ）		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限

講義の内容	生物は外界からエネルギーを取り入れ、自らを維持し、増殖する。こうした生命活動は、生体を構成する個々の分子が支えている。本講義では、生体を構成する個々の分子の中でも、特に生命活動を直接的に担うタンパク質に注目する。個々のタンパク質の働きや性質が、実際にどのような研究によって明らかにされてきたのか、明らかにされつつあるのかを、原著論文や総説、自らの研究テーマに関する発表、討論などを通して考察する。
到達目標	生化学研究を進める上での考え方や、様々な具体的な研究手法を理解する。また、生化学研究における自らの研究テーマの位置づけ、あるいは、自らの研究テーマと生化学研究の関連を理解する。
講義方法	論文紹介、研究紹介およびそれらに関する討論
準備学習	自らの研究テーマに関連した、生化学研究の原著論文の検索、精読、およびその内容を他の人に紹介するための準備。
成績評価	発表内容や質疑応答を総合的に評価する。
講義構成	第1回～第2回 生化学関連の原著論文の構成と、目的論文の検索方法 第3回～第7回 生化学研究の進め方と様々な研究手法 第8回～第9回 原著論文の内容紹介の方法 第10回～第15回 論文紹介および討論
教科書	特に指定しない

授業コード	W7001		
授業科目名	生物学研究演習I		
担当者名	田中 修(タナカ オサム)、園部治之(ソノベ ハルユキ)、道之前允直(ミチノマエ マサナオ)、石黒順平(イシグロ ジュンペイ)、今井博之(イマイ ヒロユキ)、本多大輔(ホンダ ダイスケ)、渡辺洋平(ワタナベ ヨウヘイ)、向 正則(ムカイ マサノリ)、日下部岳広(クサカベ タケヒロ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	最新の情報を原著論文や総説を輪読しながら、調査研究およびプレゼンテーションを行い、解説や補足説明を		

	加えながら討論を行い、それぞれの研究の意義や内容への理解を深める。
到達目標	生物学、生命科学における基礎学力の充実と高度な専門性、バイオテクノロジーに関する知識の習得を目指す。特に近年この領域での研究の進歩はめざましく、最新の研究成果や研究動向を調査し、理解する。
講義方法	前期では、希望する研究題目について指導教授と協議し、研究題目を遂行するのに必要な学力を養う。また、研究テーマに関連する学術論文の調査等により専門的知識の取得を目指し、学習・研究を行う。 後期は研究テーマと関連する研究領域の動向・将来性などについての専門的知識を一層深め、実験データの解析とその評価を行う能力を養成する。
準備学習	予習・復習
成績評価	原著論文の読解力と内容の理解度を、発表と討論を通して総合的に判定する。担当した原著論文や総説の生物学分野全体での意義づけ等の理解度を評価し、調査研究の質及び量、プレゼンテーションのスキル等も加味する。
講義構成	最初の講義の時間に受講者と相談の上、決定する。
教科書	最初の講義の時間に受講者と相談の上、決定する。

授業コード	W7002		
授業科目名	生物学研究演習II		
担当者名	田中 修(タナカ オサム)、園部治之(ソノベ ハルユキ)、道之前允直(ミチノマエ マサナオ)、石黒順平(イシグロ ジュンペイ)、今井博之(イマイ ヒロユキ)、本多大輔(ホンダ ダイスケ)、渡辺洋平(ワタナベ ヨウヘイ)、向 正則(ムカイ マサノリ)、日下部岳広(クサカベ タケヒロ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
講義の内容	生物学研究演習 I に引き続いて、最新の情報を原著論文や総説を輪読しながら、調査研究およびプレゼンテーションを行い、直接の指導教授や他の担当教員の指導のもとで、学会等でのプレゼンテーション能力や論文作成の技術を修得する。		
到達目標	生物学研究演習 I に引き続いて、生物学、生命科学における基礎学力の充実と高度な専門性、バイオテクノロジーに関する知識、研究テーマに関連する研究領域の動向・将来性などについての専門的知識をより一層深める。		
講義方法	年間を通して、修士論文発表や関係学会等への参加・発表にむけ、具体的かつ詳細に論文の内容が理解できるように指導する。学会等でのプレゼンテーション能力や論文作成技術も修得できるように指導する。		
準備学習	予習・復習		
成績評価	原著論文の読解力と内容の理解度を、発表と討論を通して総合的に判定する。担当した原著論文や総説の生物学分野全体での意義づけ等の理解度を評価し、調査研究の質及び量、プレゼンテーションのスキル等も加味する。		
講義構成	最初の講義の時間に受講者と相談の上、決定する。		
教科書	最初の講義の時間に受講者と相談の上、決定する。		

授業コード	W7A01		
授業科目名	生物学研究実験		
担当者名	田中 修(タナカ オサム)、園部治之(ソノベ ハルユキ)、道之前允直(ミチノマエ マサナオ)、石黒順平(イシグロ ジュンペイ)、今井博之(イマイ ヒロユキ)、本多大輔(ホンダ ダイスケ)、渡辺洋平(ワタナベ ヨウヘイ)、向 正則(ムカイ マサノリ)、日下部岳広(クサカベ タケヒロ)		
配当年次		単位数	16
開講期別	2010年度 前期～2011年度 後期	曜日・時限	2010年度 前期(集中講義)、2010年度 後期(集中講義)、2011年度 前期(集中講義)、2011年度 後期(集中講義)
講義の内容	研究の進捗状況に合わせて、その後の研究計画の立案、実験条件等の検討、実験の遂行、結果のまとめ、結果の意義付け等、常時指導教員と討論を積み重ねて、研究を進める。さらに、指導教員以外の教員からも随		

	時、アドバイスや研究協力をあおぎ、研究を展開する。その結果及び内容は、修士論文としてまとめるとともに、関係学会や関連学術雑誌への発表を目指す。
到達目標	各指導教員の専門分野において、修士論文作成のために、最新の知見を得るべく、研究・実験を行う。その結果及び内容は、他の教員の評価を加え、修士論文としてまとめるとともに、関係学会や関連学術雑誌への発表を目指す。
講義方法	1年次では、指導教授によって修士論文作成のための研究実験に着手可能と判断された場合、指導教授と協議の上、直接の指導教授や他の担当教員の指導のもとで、研究テーマに関連する様々な分析装置の原理や操作方法を学ぶ。2年次では、研究テーマに関する実験データの取得と、データ解析を行う能力を養成し、修士論文を完成する。
準備学習	予習・復習
成績評価	修士論文において、研究実験で得られたデータをどのように解釈し、結論づけているかを詳細に検討する。生物科学研究演習I、IIと生物科学研究実験の集大成である修士論文発表会においては、本専攻の全教員が参加し、質問や質疑を行い、評価を行う。
講義構成	最初の講義の時間に受講生と相談の上、決定する。
教科書	特になし

授業コード	W7008		
授業科目名	生物学特殊講義I (集中)		
担当者名	中川好秋(ナカガワ ヨシアキ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	◆昆虫を中心とした節足動物の脱皮・変態を伴う成長メカニズムとその制御機構の解説。 ◆節足動物の一つであるサソリが持っている毒素の構造および作用メカニズムの解説。 ◆昆虫の脱皮を阻害する化合物の農薬への応用について。		
到達目標	節足動物の脱皮・変態メカニズムに関する基礎知識を習得し、その研究が人間社会にどのように応用されているかを学ぶ。また、節足動物の中には、自己防衛のために毒を使うものがあるが、その分子メカニズムについても理解する。		
講義方法	パワーポイントおよびプリント、あるいは板書		
準備学習	昆虫の生活環に関しての簡単な理解をしておくこと。化学の基礎(大学教養課程もしくは高校化学程度)についても勉強しておくこと。		
成績評価	講義の中で行う複数の小テストの合計		
講義構成	節足動物の中の昆虫 昆虫の成長を制御するホルモン 昆虫の脱皮変態の分子機構 殺虫剤全般 昆虫成育制御剤の構造と機能 サソリの成長と脱皮 サソリの毒の構造と機能		
教科書	特に教科書は使わない。		
参考書・資料	植物を守る(京都大学出版会, 2008年), 昆虫科学が拓く未来(京都大学出版会, 2009年), Insect Hormones (Academic Press, 2005年), Ecdysone; Structures and Functions (Springer, 2009年)		

授業コード	W7009		
授業科目名	生物学特殊講義III (集中)		
担当者名	中野伸一(ナカノ シンイチ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	湖沼や河川などの陸水生態系は、物理・化学・生物・地学等のさまざまなプロセスの複合作用によって成り立つ複雑なシステムであり、陸上生態系に比べて物質循環速度が速く、生物群集の変化がダイナミックである。本講義は、水圏生態系における生物的、化学的、物理的プロセスおよびこれらの相互作用について、基礎的な知識から最新の学術情報までを網羅して講義する。
到達目標	陸水生態系における生態学的プロセスに主眼を置き、水生生物と環境の相互作用に関する基礎知識を習熟し、陸水生態系の構造と機能の理解を通じて、地球環境問題の解決に資する生物観を醸成することを目的とする。受講生が、自然水域において現場環境に関する少ない情報から当該水域の状態、特にそこに生息する生物の生態について、できるだけ正確にかつより多くを把握できることが到達目標である。
講義方法	集中講義形式
準備学習	可能であれば、海、川、湖などに遊びに行き、水環境とはどういう場所か、実感しておいてください。
成績評価	ペーパーテストによる
講義構成	1.プランクトンの紹介 2.水の特性(粘性)と生物の生態 3.水の特性(乱流と層流)と生物の生態(その1) 4.水の特性(乱流と層流)と生物の生態(その2) 5.光・熱と生物の生態 6.植物プランクトンと光環境 7.成層・混合と生物の生態 8.酸素・二酸化炭素と生物の生態 9.植物プランクトンの生態に着目した炭素動態 10.窒素循環と生物の生態(その1) 11.窒素循環と生物の生態(その2) 12.リン循環と生物の生態 13.微生物学的プロセスに着目した酸素・硫黄動態 14.微生物ループの生態学(その1) 15.微生物ループの生態学(その2)
教科書	教科書は指定しません。
参考書・資料	下の教科書から抜粋した内容を講義します。 1.Horne & Goldman著、手塚泰彦訳、「陸水学」、京都大学出版会 2.Lampert & Sommer著、「Limnology」、Oxford 3.Lalli & Parsons著、「Biological Oceanography, an Introduction」、Butterworth Heinemann 4.西條八束・三田村緒佐武著、「湖沼調査法」、講談社サイエンティフィック 5.山中健生著、「環境に関わる微生物学入門」、講談社サイエンティフィック 6.瀬戸昌之著、「環境微生物学入門」、朝倉書店
講義関連事項	特に無し
担当者から一言	特に無し
その他	特に無し
URL	http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/~nakano/index.html

授業コード	W7006		
授業科目名	分子発生生物学(分子発生学)(後)		
担当者名	日下部岳広(クサカベ タケヒロ)		
配当年次		単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
講義の内容	生物(とくに多細胞動物)の形態多様性の背後にある発生調節メカニズムとその進化における役割をゲノム情報の発現制御および遺伝子制御ネットワークの視点から議論する。		
到達目標	生物の形態形成およびその多様性の分子基盤をゲノム情報に基づいて理解する		
講義方法	参考書に基づいて作成した資料を配布する。この配布資料に基づいた講義と、演習課題の予習および発表を通して、当該分野の最新の知識を学ぶとともに、重要な未解決問題に対する認識を深める。		
準備学習	演習課題を口頭発表できるように予習する。		
成績評価	課題発表およびレポート提出により評価する		